R8　シラバス

中国学園大学

　現代生活学部　人間栄養学科

　子ども学部　子ども学科

　国際教養学部　国際教養学科

　大学院　子ども学研究科 子ども学専攻

中国短期大学

　総合生活学科

　保育学科

　情報ビジネス学科

中国学園大学　現代生活学部　人間栄養学科　シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
日本語表現	太田　憲孝	1
心理学	國田　祥子	3
倫理学	井之川　仁	5
社会学	中田　周作	7
日本国憲法	俟野　英二	9
科学の基礎	北島　葉子／楠本　晃子／大桑　浩孝	11
基礎化学	大桑　浩孝	13
基礎生物学	楠本　晃子	15
化学	大桑　浩孝	17
生物学	坪井　誠二	19
生活と情報処理	石原　洋之	21
情報処理演習Ⅰ	小築　康弘	23
情報処理演習Ⅱ	赤木　竜也	25
数理･データサイエンス･AI	平井　安久	27
英語Ⅰ	佐々木　真帆美	29
英語Ⅱ	藤田　香織	31
英語Ⅲ	藤田　香織	33
韓国語	宋　娘沃	35
体育講義（全8回）	溝田　知茂	37
体育実技	梶谷　信之	39
ファーストイヤーセミナー	北島　葉子／古川　愛子／山﨑　真未／小野　尚美／安原　幹成／井之川　仁／高坂　由理／楠本　晃子／大桑　浩孝／坪井　誠二／藤原　三保子／太田　潤	41
健康管理概論	太田　潤	43
社会福祉概論	松井　圭三	45
人と環境	楠本　晃子	47
公衆衛生学Ⅰ	太田　潤	49
公衆衛生学Ⅱ	太田　潤	51
公衆衛生学実習（隔週）	太田　潤	53
介護･看護演習	中野　ひとみ	55
細胞生理化学実験（隔週）	井之川　仁	57
生化学Ⅰ	坪井　誠二	59
解剖生理学Ⅰ	井之川　仁	61
解剖生理学Ⅱ	井之川　仁	64
生化学Ⅱ	坪井　誠二	67
生化学実験（隔週）	坪井　誠二	69
医学概論	太田　潤	71
微生物学	楠本　晃子	73
人間発達学	疋田　基道	75
解剖生理学実験（隔週）	井之川　仁	77
病理学	太田　潤	79
運動生理学	井之川　仁	81
食品学Ⅰ	大桑　浩孝	83
食品学基礎実験 1クラス(隔週)	大桑　浩孝	85
食品学実験 1クラス(隔週)	大桑　浩孝	87
調理学	松井　佳津子	89
調理学実習Ⅰ（隔週）	多田　賢代	91
調理学実習Ⅱ（隔週）	古川　愛子	93
食品学Ⅱ	大桑　浩孝	95
調理学実験（隔週）	多田　賢代	97
食品衛生学	楠本　晃子	99
食品衛生学実験（隔週）	楠本　晃子	101
食品学Ⅲ	大桑　浩孝	103
基礎栄養学Ⅰ	山﨑　真未	105
基礎栄養学Ⅱ	山﨑　真未	107
栄養学実習（隔週）	山﨑　真未	109
応用栄養学Ⅰ	古川　愛子／山﨑　真未／高坂　由理	111
応用栄養学Ⅱ	安原　幹成／藤原　三保子	113
応用栄養学実習（隔週）	多田　賢代	115
応用栄養学Ⅲ	井之川　仁	117
栄養教育論Ⅰ	安原　幹成	119
栄養教育実習Ⅰ（隔週）	安原　幹成	122
栄養教育論Ⅱ	安原　幹成	124
栄養教育実習Ⅱ（隔週）	安原　幹成	127
カウンセリング論	平尾　太亮	129
食行動学	安原　幹成	131
臨床栄養学総論	小野　尚美	133
臨床栄養学各論Ⅰ	古川　愛子	135
臨床栄養学各論Ⅱ	小野　尚美	137
臨床栄養学実習Ⅰ（隔週）	古川　愛子	139
臨床栄養学実習Ⅱ（隔週）	古川　愛子	141
栄養マネジメント	小野　尚美／森光　大／石井　恭子／市川　和子	143
公衆栄養学Ⅰ	高坂　由理	145
公衆栄養学Ⅱ	高坂　由理	147
公衆栄養学実習Ⅰ（隔週）	高坂　由理	149
給食経営管理論Ⅰ	北島　葉子	151
給食経営管理論Ⅱ	北島　葉子	153
給食管理基礎実習（隔週）	北島　葉子	155
給食管理実習Ⅰ（隔週）	北島　葉子	157
食品流通論	北島　葉子／大桑　浩孝	159
管理栄養士実務演習	小野　尚美／北島　葉子／安原　幹成／古川　愛子／藤原　三保子／高坂　由理／山縣　綾香／佐久山　里奈／中野　ひとみ	161
総合演習	坪井　誠二／井之川　仁／太田　潤／小野　尚美／北島　葉子／安原　幹成／大桑　浩孝／古川　愛子／楠本　晃子／高坂　由理	163
給食管理実習Ⅱ	北島　葉子／藤原　三保子	165
臨床栄養学実習Ⅲ	古川　愛子／小野　尚美／安原　幹成	167
給食管理実習Ⅲ	北島　葉子	169
臨床栄養学実習Ⅳ	古川　愛子／小野　尚美／安原　幹成	171
公衆栄養学実習Ⅱ	高坂　由理	173
栄養セミナーⅠ	坪井　誠二／井之川　仁／大桑　浩孝／楠本　晃子	175
食生活論	藤原　三保子	177

食生活演習Ⅰ	小野　尚美	・・・・・・・・	179
食生活演習Ⅱ	藤原　三保子	・・・・・・・・	181
食文化調査演習	北島　葉子	・・・・・・・・	183
栄養セミナーⅡA	北島　葉子／安原　幹成／山縣　綾香／児玉　彩／楠本　晃子／佐久山　里奈／大桑　浩孝／坪井　誠二／太田　潤	・・・・・・・・	185
栄養セミナーⅡB	北島　葉子／安原　幹成／山縣　綾香／楠本　晃子／佐久山　里奈／大桑　浩孝／坪井　誠二／太田　潤	・・・・・・・・	187
栄養セミナーⅢA	古川　愛子／山崎　真未／小野　尚美／井之川　仁／高坂　由理／福島　彩子	・・・・・・・・	189
栄養セミナーⅢB	井之川　仁／小野　尚美／古川　愛子／高坂　由理	・・・・・・・・	191
管理栄養士演習Ⅰ	北島　葉子／安原　幹成／井之川　仁／楠本　晃子／大桑　浩孝／坪井　誠二／太田　潤	・・・・・・・・	193
管理栄養士演習Ⅱ	坪井　誠二／太田　潤／小野　尚美／古川　愛子／楠本　晃子／高坂　由理	・・・・・・・・	194
栄養セミナーⅣA	北島　葉子／古川　愛子／山﨑　真未／小野　尚美／安原　幹成／井之川　仁／楠本　晃子／大桑　浩孝／坪井　誠二	・・・・・・・・	195
栄養セミナーⅣB	坪井　誠二／井之川　仁／小野　尚美／北島　葉子／安原　幹成／大桑　浩孝／古川　愛子／楠本　晃子	・・・・・・・・	197
運動指導論	井之川　仁	・・・・・・・・	199
フードコーディネート論	山﨑　真未	・・・・・・・・	201
管理栄養士専門演習	北島　葉子／古川　愛子／山﨑　真未／小野　尚美／安原　幹成／井之川　仁／高坂　由理／楠本　晃子／大桑　浩孝／坪井　誠二／太田　潤	・・・・・・・・	203
教職概論	小田　真一	・・・・・・・・	205
教育原理	小田　真一	・・・・・・・・	207
教育心理学	國田　祥子	・・・・・・・・	209
教育課程総論	小田　真一	・・・・・・・・	211
教育方法学	住野　好久	・・・・・・・・	213
生徒指導の理論と方法（全8回）	藤井　裕士	・・・・・・・・	215
教育相談	國田　祥子	・・・・・・・・	217
特別支援教育概論	中　典子	・・・・・・・・	219
総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	小田　真一	・・・・・・・・	221
学校栄養教育実習研究	山縣　綾香／藤原　三保子	・・・・・・・・	223
学校栄養教育実習	藤原　三保子	・・・・・・・・	225
教職実践演習（栄養教諭）	藤原　三保子	・・・・・・・・	227
学校栄養教育指導法Ⅰ	藤原　三保子	・・・・・・・・	229
学校栄養教育指導法Ⅱ	山縣　綾香／藤原　三保子	・・・・・・・・	231

科目名	日本語表現			授業番号	NA101	サブタイトル	（音声言語と文章表現）		
教員	太田　憲孝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，「文章表現」を中心に絵本や物語，説明的文章等の言語表現の面白さや特徴を分析し，毎日の生活で使用している日本語表現に対する理解を深めるとともに，日本語表現への関心を高める授業を行う。								
到達目標	絵本や物語，説明的文章等の表現方法を分析し，その特徴を理解することを通して，日本語表現についての基礎的な知識を身に付けるとともに，日本語表現に対する関心を高めることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	身の周りにある様々な日本語表現 「身の周りにある日本語表現を探したり分類したりすることを通して、日本語表現に対して関心をもつ」	
第2回	乳幼児の日本語獲得（１） 「満１歳頃までに行われる「クーイング」「視線」「指さし」などの非言語コミュニケーションについてその意味を理解する。」	
第3回	乳幼児の日本語獲得（２） 「意味を伴う音声による表現の獲得に向けて、その過程や特徴等について理解する。」	
第4回	読者を引きつける絵本のひみつ（１） 「絵本を取り上げ、乳幼児を引き付ける「丸い正面顔」「主人公の位置」等の仕掛けを理解する。」	
第5回	読者を引きつける絵本のひみつ（２） 「読み聞かせの場面を取り上げ、「絵本モンタージュ」の仕組みや「母親の語り掛け」の働きについて理解する。」	
第6回	読者を引きつける物語の仕掛け 「教科書に取り上げられている物語を分析し、「物語の構造」や「虚構」等の読者を引き付ける物語の特徴を理解する。」	
第7回	読者を引きつける物語の表現 「前時に使用した物語を細部の表現について分析し、読者に想像を促す文学的表現のおもしろさを理解する。」	
第8回	主題に迫る物語表現の仕掛け 「前時に使用した物語の終末部を分析し、作者の想を表現した仕掛けのおもしろさを理解する。」	
第9回	身の周りにある説明的表現（広告）の工夫 「身の周りにある広告の表現を分析し、読み手に対する「写真」「色」「キャッチコピー」「レイアウト」等の作り手の工夫を理解する。」	
第10回	身の周りにある説明的表現（取り扱い説明書）の工夫 「身の周りにある「取り扱い説明書」の表現を分析し、読み手に対する「イラスト」「レイアウト」等の作り手の工夫を理解する。」	
第11回	読者を説得する説明的文章の仕掛け 「教科書に取り上げられている説明的文章について分析し、読者を説得しようとする「段落」「結論」「事例」等の仕掛けの工夫を理解する。」	
第12回	読者を説得する説明的文章の表現 「前時に取り上げた説明的文章の事例の表現を分析し、読者にイメージをもたらす文学的表現の工夫を理解する。」	
第13回	言葉を味わう詩的表現 詩を読み味わい、「比喩表現」「象徴的表現」等の詩的表現のおもしろさを理解する。」	
第14回	読者の「予測」を利用した読み物（１） 怪談の表現や仕掛けを分析し、「予測→不安→緊張→出現」という怪談の仕掛けを理解する。」	
第15回	読者の予測を利用した読み物（２） ショート・ショート等の表現や仕掛けを分析し、「予測→タメ→オチ」という予測を外すおもしろさを理解する。」	
授業計画　備考2	補講や天候等により授業内容が前後したり変更になる場合がある。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な学習態度，話し合い活動への参加を評価する。
レポート	30	授業ごとの学習内容の定着度を評価する。提出されたレポートにはコメントを記載して返却し，学習の深まりを確認できるようにする。
小テスト		
定期試験	50	最終的な学習内容の定着度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	授業ごとにまとめ提出するレポートは，配布した資料を写すのではなく，自分で考えたことや深まったことを記述するように努める。
受講の心得	配付資料及びレポートをファイルしておくこと。 学生相互による話し合い活動では，積極的に参加し互いに考えを深めること。
授業外学修	１．事前に配布した資料は目を通し，授業に臨むこと。 ２．授業を通して理解した日本語表現の特徴や面白さをもとに，身の周りの日本語表現に関心を広げること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校・公立中学校国語科教員(27年)，国立附属中学校国語科教員(4年)，市教育委員会指導主事(3年)（太田憲孝）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	絵本，物語や説明的文章等の表現分析

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．文章のジャンルに合せて、日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・様々なジャンルの文章を比較しながら、日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、多様な視点から日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を見つけることはできるが、そのおもしろさを感じるには至らない。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を見つけることが難しい。
知識・理解	２．様々なジャンルにおける日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を身に付けている。	・様々なジャンルにおける日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を十分に身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を十分身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識の定着がやや不十分である。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識の定着が不十分である。
思考・問題解決能力	１．日本語表現のおもしろさを、様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している	・日本語表現のおもしろさを、様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に関心をもって追究している。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における様々な特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究することがやや不十分である。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究することが難しい。
技能	１．文章のジャンルに合せて、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・様々なジャンルにおける文章の特徴を踏まえて、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・取り上げた文種の特徴を踏まえて、日本語表現のおもしろさに関係する様々な工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・取り上げた文種の特徴を踏まえ、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけることがやや不十分である。	・日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけること不十分である。

科目名	心理学			授業番号	NA102	サブタイトル	（心と行動の科学）		
教員	國田　祥子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，心理学全般の基本的な知識，心理学理論による人間理解とその技法の基礎について解説する。								
到達目標	クリティカルシンキングやクリエイティブシンキングなどの心理学的思考法を身につけることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	心理学とは 「不思議」とされる現象を題材に，人の心のしくみについて長年研究を積み重ねてきた心理学の概要を紹介する。	
第2回	予知体験の不思議 「予知」「予言」と呼ばれる現象はなぜ起こるのか，推論のプロセスから解説する。	
第3回	記憶の不思議 「存在しない記憶」を確信を持って思い出してしまうのはなぜ？　不思議な記憶のメカニズムについて解説する。	
第4回	影響されるこころ 意見や態度は変容するものである。しかし「影響されやすい」状況やその特徴を知っておくことは重要かもしれない。	
第5回	揺れうごくこころ 感情が私たちの生活の中でどのような働きをするのか，悪徳商法や，心身に良いとされるものを例に考える。	
第6回	検査で「自分」がわかるのか ネットや雑誌などで目にする「心理テスト」はあてになる？　本物の「心理検査」「パーソナリティ測定」とは。	
第7回	占い・新宗教がもつ現代的意味 占いなどのスピリチュアルな世界に魅力を感じる人は多い。その心理を，背景にある悩みや迷いから紐解いていく。	
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り，理解を確認する。	
第9回	子どもから見た現実と想像の世界 さっきまで鬼を怖がって逃げていた子が，今度は鬼の面を付けて「鬼さん」に変身！　子どもたちが世界をどう捉えているのか考える。	
第10回	「もしかして……」と揺れ動く心の発達 「本当はいない」と分かっていても「いるかもしれない」と思うオバケへの恐怖。想像と現実を行き来する子どもの心を考える。	
第11回	不思議現象に立ち向かう子どもたち 子どもたちは想像の世界に積極的に立ち向かうことで，現実を探求するように。「科学する心」の始まりを解説する。	
第12回	脳とこころの不思議な世界 「金縛り」や「幻覚」はなぜ起こるのか。脳神経系の生理的変化から説明できる心の活動について解説する。	
第13回	科学的に検証するとはどういうことか 目に見えない「心」の存在やその活動を科学的に捉えるには，厳密な実験計画と統計的検定が重要。	
第14回	心理学を学ぶ人のために 分かりやすくもないし簡単でもない，意外と地味な心理学だからこそ学べる「面白さ」。	
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回の内容を振り返り，理解を確認する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
不思議現象　なぜ信じるのかこころの科学入門	菊地　聡・谷口高士・宮元博章（編著）	北大路書房	978-4-7628-2032-8	1900円
不思議現象　子どもの心と教育	菊地　聡・木下孝司（編著）	北大路書房	978-4-7628-2089-2	1900円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．講義内容を多面的かつ十分に理解し，自らの知識として獲得できる	呈示された知識を十分に獲得している	呈示された知識をほぼ獲得し，多少の不十分があっても獲得する努力をしている	知識の獲得は十分とは思われないものの，努力は明らかである	講義内容を十分に理解できているとは思われず，知識獲得への努力も不十分である	講義そのものを理解できておらず，知識を獲得できていない
思考・問題解決能力	２．講義内容を活かして，実際に批判的思考や課題解決に活かすことができる	批判的思考や課題解決を十分に行えている	多少の不十分があるものの批判的思考や課題解決を行う努力をしている	批判的思考や課題解決が十分とは思われないものの，努力は明らかである	批判的思考や課題解決が十分行われておらず，努力も不十分である	講義内容を批判的思考や課題解決に活かせていない

科目名	倫理学			授業番号	NA103	サブタイトル	答えのない問いを考える		
教員	井之川 仁								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	倫理学は「何が正しく、どう生きるべきか」を考察する規範的学問である。本講義では、古今東西の倫理思想を学びながら、現代社会における具体的な倫理的課題（AI、生命倫理、環境倫理、研究倫理など）にもアプローチする。講義で理論や事例を学び、分のワークショップでは少人数グループでの討論・振り返りを行い、自分の言葉で倫理的判断ができる力を育成する。多様なメディアを用いた授業を行う。方法はオンデマンドで行う。毎回の授業の内30分程度をオンデマンドとする予定である。予定は変更されることがあるのでかならずクラスルームで確認すること。								
到達目標	学生は、主要な倫理理論（義務論、功利主義、徳倫理など）を理解し、現代的な倫理課題に応用する力を身につける。他者の価値観と自分の判断を比較・統合しながら、多面的に問題を考察し、自分の倫理的立場を言語化できるようになる。※本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	倫理学とは何かを理解する。道徳・法・倫理の違いや、倫理学の基本的な分類（規範倫理、メタ倫理、応用倫理）を学ぶ。現代における倫理的問題の重要性にも触れる。	
第2回	倫理思想の歴史的展開を理解する。古代ギリシア（ソクラテス、アリストテレス）、近代（カント、功利主義）、東洋（儒教、仏教、武士道）までの流れを学ぶ。	
第3回	カントの義務論を理解する。定言命法、道徳法則、動機と義務という観点から「普遍的に正しい行為」について考察する。	
第4回	功利主義を学ぶ。ベンサムとミルの理論をもとに、行為の結果に基づく善悪の判断基準や、「最大多数の最大幸福」という原理を理解する。	
第5回	徳倫理を学ぶ。アリストテレスの「中庸」や「習慣としての徳」の考え方を通じて、人格的成長と倫理的行動の関係を理解する。	
第6回	正義の理論を学ぶ。ロールズの「無知のヴェール」や分配的正義・手続き的正義といった考え方を通じて、公正な社会のあり方を理解する。	
第7回	ケアの倫理を学ぶ。ギリガンやノディングスの主張をもとに、関係性や感情を重視した倫理観と、正義論との違いを理解する。	
第8回	東洋倫理思想を学ぶ。儒教・仏教・武士道を中心に、日本の伝統的な道徳観や倫理的価値（仁、礼、忠、誠など）を理解する。	
第9回	生命倫理を学ぶ。中絶、尊厳死、臓器移植などを題材に、「命の価値」「自己決定」「医療の限界」といった問題の倫理的側面を理解する。	
第10回	環境倫理を学ぶ。人間中心主義、自然の権利、世代間正義などの考え方を通じて、持続可能な社会と環境保全の倫理的根拠を理解する。	
第11回	情報社会とAIの倫理を学ぶ。プライバシー、監視、SNS、AIによる判断の問題点と責任の所在を理解する。	
第12回	職業倫理・研究倫理を理解する。専門職としての責任や、研究活動における不正（捏造・改ざん・盗用）と倫理審査の必要性を学ぶ。	
第13回	多様性と包摂の倫理を学ぶ。公平性、平等、差別、合理的配慮などの概念を通じて、多様な他者と共に生きる社会の在り方を理解する。	
第14回	倫理的ジレンマを総合的に考察する。自動運転や医療資源配分などの応用事例を用い、これまでの理論を実際の判断に結びつけて理解する。	
第15回	倫理学全体の学びを総括し、自らの倫理的立場を表現する。授業内容を振り返りながら「自分にとっての正しさ」とは何かを再構築する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	ディスカッション等授業における意欲・態度，各授業のコメントペーパー
中間テスト	40	倫理理論（義務論・功利主義・徳倫理）や思想家（カント、ミル、アリストテレスなど）について、基本的な内容を理解しているかを確認する。
定期試験	40	授業で扱った倫理理論・現代的課題・ジレンマの応用について① 倫理理論の理解（知識・理解）② 判断の根拠や論理性（思考・問題解決能力）③ 筋道立てた表現力（技能）について評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	討論を重視するため、互いの意見を尊重しながら発言し、対話を通じて自らの考えを深める姿勢が求められる。正解のない問いに対し、柔軟かつ誠実に向き合う態度が重要である。
授業外学修	各回の講義前に指定された資料（補助プリント等）を読んで問いを考えておくこと（1時間程度）。講義後には30分～1時間程度の振り返り（メモ・課題準備）を行う。週あたり計4時間以上の学修を想定す

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。(必要に応じて講義内で随時紹介する)

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義内で随時，紹介する。
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	倫理学に関する基本的な理論、用語、構造を正確に理解し、他者に説明できるかどうか。	倫理理論（義務論・功利主義・徳倫理など）を正確に理解し、複数の立場の違いを区別して説明できる。歴史的背景や用語も適切に使える。	基本的な理論や用語を理解し、概ね正しく説明できる。部分的に説明の不正確さはあるが、大枠は把握している。	主要な理論の概要を把握しているが、用語の使い方や理論の理解に混同・あいまいさが見られる。	理論の理解が断片的で、説明に多くの誤りや不明瞭さがある。講義内容の整理ができていない。	理論や用語の理解が極めて不十分であり、説明が困難である。学修履歴や成果がほとんど見られない。
態度	倫理的課題や他者の意見に対して関心を持ち、積極的に授業や学修活動に取り組む姿勢があるか。	倫理的テーマに強い関心を示し、講義・討議・課題に自発的・主体的に取り組んでいる。探究心と継続的な学修姿勢が見られる。	授業に継続的に参加し、意欲的に学修・討論に取り組んでいる。他者との協働にも積極的である。	授業には出席しているが、参加や発言にムラがあり、学修への積極性に欠ける場面がある。	関心が薄く、課題・討論・グループワークなどにも受け身で参加している。学修態度に課題がある。	授業に対する関心や責任感が見られず、課題未提出・欠席・不参加などが継続的に見られる。

科目名	社会学			授業番号	NA105	サブタイトル	(配偶者の選択と家族編成の社会的規則)		
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。 現代社会における家族の姿は，多元化する価値意識のもとで，その形態や機能が多様化している。 そのため，本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて，家族編成に関する社会的規則について講義する。								
到達目標	現代社会の家族集団を，より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。 これにより，地域社会の中に存する様々な家族を理解し，実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	配偶者選択をめぐる社会状況の変化 現代社会の現状	
第2回	家族社会学における「家族」の定義 家族集団の特徴と世帯	
第3回	家族を対象とした社会学的アプローチの方法 家族をいかにとらえるか 漫画・映画などに描かれた家族のかたち	
第4回	家族の類型と分類 夫婦家族制・直系家族制・複合家族制の理解	
第5回	青年期の異性交際に関する社会学的意味の考察 日本における青年期の異性交際の現状と国際比較	
第6回	青年期の異性交際の実態 出生力調査にみる実態	
第7回	家族編成の社会的ルールとは何か 配偶者の選択はいかにして行われるか	
第8回	配偶者選択の社会的メカニズム 配偶者の選択と結婚	
第9回	配偶者選択のプロセス 出生力調査における独身者調査と夫婦調査の比較	
第10回	結婚の社会的意味 結婚はどのような意味をもつのか	
第11回	結婚の社会的機能 結婚するとどのようになるのか	
第12回	離婚の社会的意味と機能 離婚に関する意味付け 離婚の現状に関するデータ	
第13回	家族の新しい形 変貌する家族像 多元化する価値観	
第14回	子どもの養育 家族集団における子どもの社会化	
第15回	老親の介護 高齢化社会の中の家族集団	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
最終試験レポート	70	各自で最終レポートを作成し提出する。
コメントペーパー	30	基本的には、毎回、提出する。理解の状況の確認を行う。提出物については、次回の授業の冒頭で共有し、コメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自らの配偶者選択や，家族集団に興味・関心があることが望ましい。 しかしながら，あまりにも身近で現実的な問題であるため，ある程度，客観視できる受講態度が望ましい。
授業外学修	1．配付資料を事前に読んでくること。 文章を読むだけではなく，掲載されている図表の意味するところを考える。 具体的なアプローチの方法は，授業時間内に指示する。 2．最終レポートの課題を探しながら受講すること。 テーマに関するニュースや，身近な出来事に関心をもつこと。 両方の課題を合わせて，週当たり4時間以上，取り組むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。

その他	特になし。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．家族社会学における基礎的な概念を理解できている。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解しており、自分の言葉で説明することができる。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、その関係を理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えている。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えていない。
知識・理解	２．結婚の社会的機能と配偶者選択の規則について理解できている。	教育の歴史に係る重要事項について、その展開と社会的背景について理解している。	教育の歴史に係る重要事項の展開について理解している。	教育の歴史に係る重要事項について理解している。	教育の歴史に係るキーワードを覚えている。	教育の歴史に係るキーワードを覚えていない。
知識・理解	３．青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	関連するデータを踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	社会背景を踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを、ほとんど読み解くことができない。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができない。
思考・問題解決能力	１．データに基づき、家族に関する現状を考察することができる。	家族に関する現状を、複数のデータと社会背景を踏まえて考察を深め、説明することができる。	家族に関する現状を、複数のデータに基づき考察し、説明することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解し、考察することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができない。

科目名	日本国憲法			授業番号	NA206	サブタイトル	（身近な問題から「憲法のちから」を考える）		
教員	俟野　英二								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本科目では、日本国憲法および他国の憲法の沿革、様々な人々の人権について講義する。また、憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し、それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。 具体的にはまず、身近な憲法問題を取り上げて関係する憲法の基本原理及び基礎知識を教員の教育委員会(24年）及び県庁における人権啓発・相談経験（4年）を踏まえて概説する。次に、基本原理等に関する憲法問題について、グループワークを行い各自でワークシートにまとめさせる。そして、各章の小テストを課題としてUniversal Passport上で行い、基礎的な知識の定着を図る。さらに、憲法の基本原理、統治機構、人権に関する発展的な問題を全体で討議し、現代的な問題を分析、考察する。 これらの活動により、問題の全体像の把握と、多面的な分析及び多様な価値観や背景の認識を踏まえた上で、自らの見解の形成や表現の仕方を身に付ける。								
到達目標	憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し，それらを活用して身近な憲法問題を主体的に考えることができるようになることを目標とする。 なお，本科目は，到達目標達成の前提として異なる価値観，文化，背景および相互関係を知り，深い認識と理解の修得を伴うことから，職業人としての高い倫理観と豊かな人間性と社会性の修得とともに，身近な社会問題を憲法の視点から解決に向けた体系的な思考方法を学び，多面的に分析し，自らの見解を形成し、討論により解決に向けた調整を行う能力の修得を目的とするので，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス、この国の基礎にある考え方１ １　学修の目標、評価方法などを説明する。 ２　近代立憲主義について学修する。	
第2回	この国の基礎にある考え方２ １　法の支配について学修する。 ２　土俵の女人規制について考える。 ３　国家機関としての天皇制（明治憲法と天皇）について学修する。	
第3回	この国の基礎にある考え方３ 国家機関としての天皇制（日本国憲法と天皇）について学修する。	
第4回	この国の基礎にある考え方４ 憲法が目指す平和を守る仕組み１（憲法９条の制定と安保条約の締結）について学修する。	
第5回	この国の基礎にある考え方５ 憲法が目指す平和を守る仕組み２（台湾有事と存立危機事態）について学修する。	
第6回	人権を守るための組織１ １　統治機構１（政治と国民、国会議員）について学修する。 ２　若者の投票率の向上策について考える。	
第7回	人権を守るための組織２ 統治機構２（選挙、選挙制度、政党）について学修する。	
第8回	人権を守るための組織３ 統治機構３（国会）について学修する。	
第9回	人権を守るための組織４ 統治機構４（内閣）について学修する。	
第10回	人権を守るための組織５ 統治機構５（地方自治、裁判所）について学修する。	
第11回	身近な問題から考える人権１ 良心をもつ自由、貫く権利について学修する。	
第12回	身近な問題から考える人権２ １　表現の自由と書かれない権利について学修する。 ２　プライバシーについて考える。	
第13回	身近な問題から考える人権３ 営業の自由と消費者の権利について学修する。	
第14回	学校における生徒の人権 １　子どもの教育を受ける権利と教師の教育の自由について学修する。 ２　学校内における生徒の人権について学修する。 ３　旭川いじめ凍死事件からいじめを考える。	
第15回	困らないための権利、差別されている人たちへの配慮 １　憲法25条の歴史的社会的意味及び社会保障制度について学修する。 ２　積極的な格差解消の取り組みの合憲性の判断の仕方について学修する。。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
グループワークの取り組み姿勢/態度	30	講義中のグループワーク時に各自が提出したワークシートに要求された内容が整理されていること。ワークシートを通じて必要に応じ個別指導を行うとともに、講義中に全体講評を行う。
小テスト	30	学修に対する意欲・態度、基本原理及び基礎知識の理解を評価する。回答期限後,Universal Passportに解説を表示する。
定期試験	40	基本原理及び基礎知識を理解し、身近な憲法問題に対して異なる価値観・意見に配慮しながら主体的かつ論理的にこれらを活用して結論を導くことができている。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	１　公民や現代社会が苦手な学生は、あらかじめ高校で使用したテキストや資料集などの日本国憲法に関する部分を読んでおくこと。 ２　事前に授業の範囲のテキストを読み、分からない用語を調べておくこと。 ３　各講義中にワークシートを提出する。それが出席カードも兼ねるとともに成績評価の対象なので必ず提出すること。 ４　各章に対応する小テスト（Universal Passportの課題）を受験すること。
授業外学修	１　事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。 ２　事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、Universal Passportで小テストを受験する。また，小テスト受験後，誤ったり理解が不十分であった箇所について復習する。 ３　ワークシートが返却された後、グループワーク、講義、テキスト、小テスト等を踏まえて再度整理し直し、理解を深めるとともに試験に備える。 事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
憲法のちから―身近な問題から憲法の役割を考える	中富公一	法律文化社	978-4-589-04343-6	2400円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
グラフィック憲法入門第3版	毛利透	新世社	978-4-88384-397-8	
新・判例ハンドブック【憲法】第3版	高橋和之	日本評論社	978-4-535-52793-5	

参考書：自由記載	授業において随時紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	県教育委員会（24年），県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	県教育委員会（24年），県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験から、いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．憲法や法令を使って論理的に問題を考えることができる。	課題に対し，論理的整合性をもち，多角的に考察をしている。	課題に対し，ほぼ論理的整合性をもった考察をしている。	課題に対し，自分の考えを述べることができる。	課題に対し，結論を述べることができる。	課題に対し、結論を述べることができない，または指示事項に沿っていない。
思考・問題解決能力	２．多様な価値観・意見に配慮した思考ができる。	課題に対し，多様な価値観・意見に配慮した考察が論理的整合性をもっている。	課題に対し，多様な価値観・意見に配慮した思考がほぼ論理的整合性をもっている。	課題に対し，多様な価値観・意見の存在を並列的に述べることができる。	課題に対し，不十分ながら複数の価値観・意見の存在を述べることができる。	課題に対し，複数の価値観・意見を述べることができない，または指示事項に沿っていない。
態度	１．グループワークに積極的に参加できる。	調査，質問などを積極的に行い，課題内容を理解した上で，適切なワークシートを提出している。	課題に積極的に臨む姿勢が見受けられ，課題内容を理解した上で，適切なワークシートを提出している。	グループワークに参加し，課題内容を理解した上で，ワークシートを提出している。	グループワークに参加し，ワークシートを提出しているが，課題の理解が不十分である。	グループワークに参加していない。または，グループワークに参加しているがワークシートを提出していない。

科目名	科学の基礎			授業番号	NB101A	サブタイトル			
教員	大桑　浩孝、北島　葉子、楠本　晃子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	管理栄養士養成課程において必要な「化学」、「生物学」、「食物・栄養系」の基本的な内容について問題を解きながら解説する。								
到達目標	・大学生としての学修ができる。 ・管理栄養士養成の専門科目を学習するために必要な「化学」「生物学」「計算力」「文章力」が理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	授業内容および日程の詳細は，前期オリエンテーション期間に説明する。								

回	概要	担当
第1回	計算の基本(1)　小数・分数の四則計算、割合の計算を復習する。	大桑
第2回	計算の基本(2)　一次方程式の解き方を復習する。	楠本
第3回	食材の可食率・廃棄率、調味%について学ぶ。	北島
第4回	化学(1)　元素・原子・分子について解説する。	大桑
第5回	化学(2)　共有結合、イオンの性質、イオン結合について解説する。	大桑
第6回	化学(3)　原子量・分子量・物質量について解説する。	大桑
第7回	化学(4)　質量パーセント濃度、体積パーセント濃度について解説する。	大桑
第8回	生物学(1)　細胞の構造とはたらきについて解説する。	楠本
第9回	生物学(2)　体細胞分裂について解説する。	楠本
第10回	生物学(3)　動物の組織について解説する。	楠本
第11回	生物学(4)　酵素の性質とはたらきについて解説する。	楠本
第12回	栄養・食物系(1)　管理栄養士の仕事について解説する。	北島
第13回	食物・栄養系(2)　わかりやすい文章の作成の方法について解説する。	北島
第14回	食物・栄養系(3)　食と健康について解説する。	北島
第15回	食物・栄養系(4)　管理栄養士の専門科目を学習するために必要な計算手順について解説する。	北島
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	授業中の態度，特に，積極的に取り組む姿勢を評価する。
定期試験	70	「化学」「生物」「食物・栄養系」の学習における基本的な内容について、理解度を確認する。

評価の方法：自由記載	総合評価：授業への取り組みの姿勢/態度　30点、定期試験　70点　合わせて100点とする。
受講の心得	大学生としての基本的姿勢に関する授業であるから，積極的な受講姿勢を求める。 授業後には当日学修したことを見直し，日々の授業に役立てる工夫を各自で行う。
授業外学修	授業内容をノート等に整理すること。 週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	「学問サキドリプログラム」で使用した各科目のテキスト

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	基礎化学、基礎生物学の授業で使用している教科書

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	管理栄養士養成課程について理解している。管理栄養士養成の専門科目を学習するために必要な知識を理解している。	授業内容を完全に理解し、深い洞察力を持って関連付けができる。学んだ情報を体系的に整理し、独自の見解を加えられる。専門用語を正確かつ適切に使用し、応用に結び付けることができる。学んだ情報を体系的に整理し、独自の見解を加えることができる。	授業内容をよく理解し、ほとんどの概念を関連付けられる。専門用語をほぼ正確に使用できる。学んだ情報を適切に整理し、要点をまとめられる。	授業内容の基本的な理解があり、主要な概念を把握している。基本的な専門用語を使用できる。学んだ情報の主要な部分を整理できる。	授業内容の理解に一部不足があり、概念の把握が不完全である。専門用語の使用に誤りがある。学んだ情報の整理が不完全である。	授業内容をほとんど理解できておらず、基本的な概念の把握も困難である。専門用語をほとんど使用できない。学んだ情報をほとんど整理できない。

科目名	基礎化学			授業番号	NB102	サブタイトル			
教員	大桑　浩孝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	化学は，生化学・生命科学を理解する上で必須の学問である。 この講義では，高校卒業までに修得しておくべき基礎科学を中心に，（管理）栄養士として必須となる生化学につながる無機化学全般を取り扱う。 講義のアウトラインは参考書に従うが，独自に作成した配布資料をもとに行う（基本的に板書はしないので，講義で話す必要部分を配布資料に書き加えていくこと）。								
到達目標	物質を構成する元素・分子の構造と性質について説明できる。 物質のとりうる状態について、理解できる。 元素とその化合物について理解できる。 溶液の濃度計算ができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	栄養学と化学 物質と原子（1）物質の成分について解説、演習問題を解く。	
第2回	物質と原子（2）物質の構成要素（元素、同位体、原子、分子、イオン）について解説、演習問題を解く。	
第3回	物質と原子（3）原子の構造について解説、演習問題を解く。	
第4回	化学結合（1）原子間結合について解説、演習問題を解く。	
第5回	化学結合（2）イオンのでき方、イオン結合、共有結合について解説、演習問題を解く。	
第6回	化学結合（3）　配位結合、水素結合、分子間力について解説、演習問題を解く。	
第7回	物質の状態変化 溶液の性質（溶液と溶解のしくみ、蒸気圧降下・沸点上昇・凝固点降下）、浸透圧について解説。	
第8回	溶液の濃度（1） ・重量パーセント濃度について解説、演習問題を解く。 ・物質を数える単位：モルについて解説する。	
第9回	溶液の濃度（2） モル濃度、規定度について解説、演習問題を解く。	
第10回	化学反応 酸と塩基について解説する。 水素イオン濃度とpHについて解説する。	
第11回	中和 緩衝液と緩衝作用とは何か、および使用について解説する。	
第12回	酸化・還元 酸化と還元について解説する。	
第13回	有機化学とは 有機化学の定義と基本について解説する。	
第14回	アルカン・アルケンの化学構造、性質について解説する。	
第15回	アルキンの化学構造、性質について解説する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
課題	10	授業中に指示する課題への取り組みと理解度によって評価する。授業最終日に提出、その後コメントを記載して返却する。
定期試験	90	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	総合評価：課題点10点、定期試験90点を合わせて100点とする。
受講の心得	選択科目であるが、今後栄養学系科目を学ぶ上で重要となるため、必ず履修すること。
授業外学修	教科書・配布資料を用いてよく復習すること。週あたり4時間以上の学修により、内容をよく理解しておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基礎からのやさしい化学	田島　眞　編著	建帛社	978-4-7679-4635-1	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	高校で化学をよく学んでいない学生，もう一度きちんと化学を修得したい学生，今後受講する管理栄養士の基礎科目・専門科目の理解度を深めたい学生は必ず履修すること。

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．原子の構造・化学結合について理解できている	原子の構造や化学結合の基本的な概念や原理について理解し、知識を身に付けている。	原子の構造や化学結合の基本的な概念や原理についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	原子の構造や化学結合の基本的な概念や原理について、基本的な内容は理解している。	原子の構造や化学結合の基本的な概念や原理に関する理解が不十分である。	原子の構造や化学結合の基本的な概念や原理に関してほとんど理解できていない。
知識・理解	２．溶液の濃度計算について理解できている	溶液の質量パーセント濃度、モル濃度、規定濃度について十分理解し、知識を身に着けている。	溶液の質量パーセント濃度、モル濃度、規定濃度についてほぼ理解し、知識を身に着けている。	溶液の質量パーセント濃度、モル濃度、規定濃度について基本的な内容は理解している。	溶液の質量パーセント濃度、モル濃度、規定濃度に関する理解が不十分である。	溶液の質量パーセント濃度、モル濃度、規定濃度についてほとんど理解できていない。
知識・理解	3．酸と塩基について理解できている	酸と塩基について十分理解し、知識を身に付けている。	酸と塩基についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	酸と塩基について基本的な内容は理解している。	酸と塩基に関する理解が不十分である。	酸と塩基についてほとんど理解できていない。
知識・理解	4．酸化と還元について理解できている	酸化と還元について十分理解し、知識を身に付けている。	酸化と還元についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	酸化と還元について基本的な内容は理解している。	酸化と還元に関する理解が不十分である。	酸化と還元についてほとんど理解できていない。
知識・理解	5．炭化水素の基本的な内容を理解できている	炭化水素の構造・性質について十分理解し、知識を身に付けている。	炭化水素の構造・性質についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	炭化水素の構造についてある程度理解している。	炭化水素の基本的な性質について理解が不十分である。	炭化水素の基本的な性質についてほとんど理解できていない。

科目名	基礎生物学			授業番号	NB103	サブタイトル			
教員	楠本　晃子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	生物の基本的な構成単位である細胞のつくり（構造）とはたらき（機能），遺伝情報をもとにさまざまなタンパク質がつくられていく過程，体液の循環と調節のしくみ，病原体などからからだを守るしくみ，呼吸とのかかわり，不要な物質を排出する尿生成について学ぶ。								
到達目標	管理栄養士・栄養士の専門科目（生化学，生理学，栄養学，解剖学等）を学習する上で土台となる生物学の基本的な知識を身につける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	細胞の基本的な構造、および、細胞小器官の機能について学ぶ。	
第2回	細胞膜の構造と機能、細胞膜を介した物質輸送について学ぶ。	
第3回	遺伝情報の発現を中心に、細胞小器官の機能について理解する。	
第4回	タンパク質の合成を中心に、細胞小器官の機能について理解する。	
第5回	体細胞分裂の仕組みと遺伝情報の分配について学ぶ。	
第6回	減数分裂の仕組みと遺伝情報の分配について学ぶ。	
第7回	配偶子の形成過程、受精、胚の発達と組織・器官の分化について学ぶ。	
第8回	血液の機能と組成について学ぶ。	
第9回	血液の循環について学ぶ。	
第10回	腎臓における尿生成の仕組みを学ぶ。	
第11回	リンパ系の機能について学ぶ。	
第12回	生体防御機構について学ぶ。免疫細胞の役割について学ぶ。	
第13回	生体防御機構について学ぶ。免疫細胞の分化について学ぶ。	
第14回	生体防御機構について学ぶ。自然免疫について学ぶ。	
第15回	生体防御機構について学ぶ。獲得免疫について学ぶ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
定期試験	100	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	興味と疑問点をもって積極的に取り組むこと。継続的に復習をすること。
授業外学修	1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，教科書および配布資料を読み，復習する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
生理学・生化学につながる ていねいな生物学	白戸亮吉，小川由香里，鈴木研太	羊土社	978-4-7581-2110-1	

使用テキスト：自由記載	本テキストは「生物学」の授業でも使用。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．細胞の機能と遺伝情報を説明できる	細胞の機能と遺伝情報に関する十分な知識を身につけており、説明することができる	細胞の機能と遺伝情報に関する知識を十分に身につけ、理解している	細胞の機能と遺伝情報に関する知識を身につけており、説明することができる	細胞の機能と遺伝情報に関する知識を身につけてはいるが、不十分である	細胞の機能と遺伝情報に関する知識を身につけていない
知識・理解	２．血液の循環と調節を説明できる	血液の循環と調節に関する十分な知識を身につけており、説明することができる	血液の循環と調節に関する知識を十分に身につけ、理解している	血液の循環と調節に関する知識を身につけており、説明することができる	血液の循環と調節に関する知識を身につけてはいるが、不十分である	血液の循環と調節に関する知識を身につけていない

科目名	化学			授業番号	NB104	サブタイトル			
教員	大桑　浩孝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	有機化学の基本、食品成分や生体成分の化学的性質について講義する。								
到達目標	有機化合物の基本構造と官能基について理解する。 食品成分や生体成分の化学的性質について理解する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	アルカン・アルケン・アルキンの復習	
第2回	アルコール	
第3回	エーテル、カルボニル化合物①	
第4回	カルボニル化合物②	
第5回	カルボン酸、アミン	
第6回	有機化合物に関するまとめ、問題演習	
第7回	炭水化物の化学①（単糖・糖アルコール）	
第8回	炭水化物の化学②（オリゴ糖類・多糖類）	
第9回	炭水化物に関する問題演習	
第10回	アミノ酸の化学	
第11回	タンパク質の化学	
第12回	アミノ酸・タンパク質に関する問題演習	
第13回	脂質の化学①（脂質・脂肪酸）	
第14回	脂質の化学②（油脂の化学的性質）	
第15回	脂質に関する問題演習	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
課題	10	課題への取り組みと理解度によって評価する。授業最終日に提出、その後コメントを記載して返却する。
定期試験	90	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	総合評価：課題点10点、定期試験90点を合わせて100点とする。
受講の心得	選択科目であるが，食品学・生化学・栄養学・生命科学系科目の理解に必要な基本事項も網羅的に含んでいるため，今後の講義を深く理解したいと考える学生は履修すること。 毎回の授業で資料を配布するため、専用ファイルを準備すること。
授業外学修	配布資料・テキストを用いて講義した内容について復習し、週あたり４時間以上の学修を通してをよく理解しておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基礎からのやさしい化学	田島　眞　編著	建帛社	978-4-7679-4635-1	基礎化学の教科書と同じです。
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．芳香族化合物、アルコール、アルデヒド、エーテル、カルボニル化合物、アミンなどの有機化合物の性質について理解できている。	有機化合物の構造と性質について深く理解し、知識を身に付けている。	有機化合物の構造と性質についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	有機化合物の構造と性質についてある程度理解し、知識を身に付けている。	原子の構造や化学結合の基本的な概念や原理に関する理解が不十分である。	原子の構造や化学結合の基本的な概念や原理に関してほとんど理解できていない。
知識・理解	２．炭水化物の化学について	単糖、オリゴ糖、多糖の構造と性質について深く理解し、知識を身に付けた上、専門科目との関連性について十分理解している。	単糖、オリゴ糖、多糖の構造と性質についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	単糖、オリゴ糖、多糖の構造と性質をある程度理解し、知識を身に付けている。	単糖、オリゴ糖、多糖の構造と性質に関する理解が不十分である。	単糖、オリゴ糖、多糖の構造と性質に関する理解がほとんどできていない。
知識・理解	3．タンパク質とアミノ酸の化学について	アミノ酸・タンパク質の化学的性質、タンパク質の構造や機能について深く理解し、日常生活との関連性について理解している。	アミノ酸・タンパク質の化学的性質、タンパク質の構造や機能について理解し、知識を身に着けている。	アミノ酸・タンパク質の化学的性質、タンパク質の構造や機能についてある程度理解している。	アミノ酸・タンパク質に関する理解が不十分である。	アミノ酸・タンパク質に関してほとんど理解できていない。
知識・理解	4．脂質の化学について	脂質の化学構造と性質について深く理解し、日常生活との関連性について理解している。	脂質の化学構造と性質について完全に理解し、知識を身に付けている。	脂質の化学構造と性質についてある程度理解している。	脂質に関する理解が不十分である。	脂質に関してほとんど理解できていない。

科目名	生物学			授業番号	NB105	サブタイトル			
教員	坪井　誠二								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	生命は生物そのものである。生命（生物）を探求する学問（生命科学）の一部が生物学である。 大学を卒業したものが備えておくべき（学士力）幅広い教養の一部としての生物学の講義であるが、高校卒業までに習得しておくべき基礎生物学の復習的な内容も広くカバーする。								
到達目標	栄養学に直結する生物学のごく一部ではなく、生命のミクロな領域からマクロな領域までの幅広い生物学の全容が理解できる。 生命科学の発展してきた経緯が理解でき、既知の事実から未知の事実を発見・証明していく経緯が説明できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	消化・吸収　物理的消化と化学的消化	
第2回	糖質の消化・吸収	
第3回	脂質の消化・吸収	
第4回	タンパク質の消化・吸収	
第5回	栄養素の利用　栄養素からエネルギーへ	
第6回	ATP合成の流れ	
第7回	糖代謝の３つのステップ　解答系	
第8回	糖代謝の３つのステップ　クエン酸回路	
第9回	糖代謝の３つのステップ　電子伝達系	
第10回	その他の糖代謝　糖新生	
第11回	その他の糖代謝　グリコーゲン代謝	
第12回	その他の糖代謝　ペントースリン酸回路	
第13回	脂質も合流してATPに	
第14回	タンパク質も合流してATPに	
第15回	栄養素の代謝のまとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な授業態度、状況によって評価する。
定期試験	80	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	基本的に自筆のノートの持ち込み可で定期試験を行うため，定期試験の成績が評価に大きく影響するが、授業態度も加味して最終評価する。
受講の心得	この講義は選択科目であるが、生化学ⅠおよびⅡの理解に必要な基本事項も網羅的に含んでいるため，（特に高校卒業時までの）生物学の知識習得が不十分だと感じる者は履修すること。
授業外学修	講義は基本的に板書を行う。従って、記憶の新しいうちにノートをまとめておくことが望ましい。 毎回の復習が重要となる。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
生理学・生化学につながるていねいな生物学	白戸亮吉　他	羊土社	978-4-7581-2110-1	2200

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．糖質の消化吸収について理解している。	学修した糖質の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修した糖質の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した糖質に関する知識について、大体述べることができる。	学修した糖質に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した糖質に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	２．脂質の消化吸収について理解している。	学修した脂質の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修した脂質の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した脂質に関する知識について、大体述べることができる。	学修した脂質に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した脂質に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	３．タンパク質の消化吸収について理解している。	学修したタンパク質の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修したタンパク質の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修したタンパク質に関する知識について、大体述べることができる。	学修したタンパク質に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修したタンパク質に関する知識について、全く表現することができない。

科目名	生活と情報処理			授業番号	NC101A	サブタイトル	（超スマート社会の生活術）		
教員	石原　洋之								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	現代社会では，パソコンやスマートフォンなどのICTデバイスの活用が欠かせない。いつでもどこでも情報を利用できる環境が整い，AIの発展によって社会はますます高度化している。このような時代において，情報がどのような役割を果たし，人間とどのように関わるのかを学ぶ。 本授業では，「パソコンの基本操作や仕組み」，「ネットワークやAIの基本的な利用方法」，「情報化社会における情報モラルの課題」を中心に学び、現代社会で必要とされるICTリテラシーを身につけ，社会で活躍するための基礎を養う。								
到達目標	本授業の具体的な目標は，以下である。 (1) 積極的に授業に取組みＩＣＴリテラシー（デジタルな道具を活用する能力）の向上を図るために，新しい知識やスキルを習得しようとする。 (2) パソコンの基本操作と基礎的知識を学び，必要なICTツールが使用できる。 (3) インターネットやAIを利用した情報収集，編集，発信の仕方を学び適切な情報共有が行える。 (4) 情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学び安全な情報共有を理解する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	授業ガイダンスとパソコン操作についての基礎知識Ⅰ まず，ICTの活用と授業の進め方について説明を受け理解する。PC教室の使い方，ログインの仕方(ID，パスワード)，eメールのログインの仕方等パソコン操作の基本について理解する。Google Classroomでの授業テキスト用のファイルの参照方法を知る。	
第2回	パソコン操作についての基礎知識II 演習用課題のファイルのアクセスの仕方，課題の提出の仕方等を理解し，実際に使えるようになるための操作を習得する。Gmail で e-mail 送信も行う。	
第3回	ワードの基礎知識Ⅰ MS WORDの起動，終了，文字入力の基本，印刷等を学び，簡単な文章を入力し，プリントアウトできる技術を習得する。音声読み上げ，画像-文字変換による文章の取り込みを経験する。	
第4回	ネットワークとインターネット利用についての基礎知識Ⅰ LANで構成されたネットワークとインターネットについて説明し，web 検索 を行い 画像を引用するなどの活用法について理解する。また，その際に起こるセキュリティや著作権の問題について理解する。	
第5回	エクセルの基礎知識Ⅰ 表を作成して，グラフの作成を体験する。インターネットで取得可能なデータを利用して操作と簡単なデータ分析を実際に経験する。	
第6回	エクセルの基礎知識Ⅱ セルの値の参照やセル関数を使う。標準偏差を用いて特異データを示す処理方法を理解する。	
第7回	スマートフォンの利用とファイル共有 クラウドサービスとe-mailを使ってスマートフォンとPCでファイル共有する。Gmail，Googleドライブ，Microsoft One Drive の使用方法を学ぶ。	
第8回	ワードの基礎知識Ⅱ 音声読み上げ，画像→文字変換（OCR）による文章の取り込みを経験する。Microsoft(Office) 365 も体験し自己学習方法を習得する。	
第9回	パワーポイントの基礎知識Ⅰ パワーポイントの起動，終了，画像の挿入，図形の作成などパワーポイントの描画機能の基本について理解する。	
第10回	生成AIの活用Ⅰ 一般的なAIの概要説明を行い，要約や翻訳を体験する。さらに対話型AIを使用上の注意点と有効性を理解する。	
第11回	生成AIの活用Ⅱ 適切な画像の挿入やアニメーションの機能を活用し，自己紹介のプレゼンテーション資料を作成する技術を習得する。生成AIでの画像生成も体験する。	
第12回	パワーポイントの基礎知識Ⅱ 適切な画像の挿入やアニメーションの機能を活用し，自己紹介のプレゼンテーション資料を作成する技術を習得する。生成AIでの画像生成も体験する。	
第13回	生成AIの活用Ⅲ 適切な画像の挿入やアニメーションの機能を活用し，自己紹介のプレゼンテーション資料を作成する技術を習得する。生成AIでの画像生成も体験する。	
第14回	生成AIの活用Ⅳ MS WORDで作成した自己紹介ファイルをパワーポイントで読み込み，アウトラインを理解し箇条書き文章から目的のスライドを作成してゆく。アウトラインという構造をまず作成することが，これからのAI活用で重要であることを学修する。	
第15回	情報の倫理とセキュリティ 情報セキュリティの基本的な知識を身に付け，パスワードを適切に設定・管理するなど，コンピュータやインターネットを安全に利用できるような知識・技術を習得する。また，情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち，自他の権利を尊重して，ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりするための学修をする。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	毎回の授業で演習に取り組む態度等を総合的に評価する。
レポート	80	毎回の授業での学修した情報教育の知識及び情報技術等が適正に理解・習得されているか，提出される演習課題等を総合的に評価する。レポートについては，コメントでフィードバックする。

評価の方法：自由記載	毎回授業の初めに「本日の学修目標」を具体的に提示し，その目標が達成されたかどうかについて評価する。したがって，その目標をしっかり意識して演習課題に取り組むこと。
受講の心得	新聞やTV，webサイト等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。 わからないことは質問すること。

授業外学修	1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学習等を行い，考えてくること。 2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いて振り返り，適宜調べ学習や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。 3．Google Classroomを立ち上げ次回の授業の準備資料、復習用資料や連絡等を掲載するので視聴すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	プリントの配布とプレゼンテーション。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	情報通信技術者歴42年。PC-CADシステムの開発。海外アプリケーションの国内販売サポート。国内企業自治体のシステム化支援。ICTを利用したミュージアムの常設システムの設計と施工管理。自治体情報化支援3か月。ICT系学生によるBPL演習における長期インターン指導（13年）。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	システムの開発とインターネット創成期からの利活用及び海外視察と海外企業との提携で養ったICTの実践力と顧客企業のIT化でのITの活用の提案と提供，さらにミュージアムシステムでの教育現場への支援等の経験を生かして，ICTの具体的な活用を紹介しながら学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. ICTツール（アプリ）の機能と用途が理解できている。	多様なICTツールを使いこなし、高度な機能も活用できる。新しいツールにも短時間で習得できる。	複数のICTツールを使いこなすことができ、使い慣れたツールでは高度な機能も活用できる。	必要なICTツールを適切に使いこなすことができる。	特定のツールにしか慣れておらず、他のツールには戸惑う。	ICTツールをほとんど使いこなせない。
知識・理解	2. 基本的な情報共有の方法が理解できている。	多様な情報共有の方法を理解し、状況に応じて最適な方法を選択できる。情報種別を意識した、効果的な情報共有を行うことができる。	複数の情報共有の方法を理解し、使いこなせる。情報共有の際に、必要な情報を漏れなく伝えられる。	基本的な情報共有の方法を理解し、使える。しかし、状況に応じた選択が難しい場合がある。	情報共有の方法が限定的で、状況に応じた選択が難しい。	情報共有の方法を十分に理解しておらず、相手に伝わらないことが多い。
知識・理解	3. 情報セキュリティと倫理を理解している。	情報セキュリティの重要性を深く理解し、実践的な知識を持っている。情報倫理に関する問題点を見抜き、適切な行動をとることができる。	情報セキュリティの知識があり、基本的な対策を講じることができる。情報倫理の重要性を理解している。	情報セキュリティの基礎知識はあるが、実践的な知識は不足している。情報倫理に関する問題点に気づきにくい。	情報セキュリティや情報倫理の重要性を十分に理解していない。	情報セキュリティや情報倫理に関する知識がほとんどない。
思考・問題解決能力	1. 課題を理解し適切に取り組める。	課題の本質を捉え、独創的な解決策を提案できる。効率的な手段を選択し、課題を解決する。	課題の要点を理解し、適切な解決策を提案できる。与えられた情報から必要な情報を抽出し、課題解決に活かす。	指示された範囲内で課題に取り組み、解決を見つけることができる。	課題の意図を正確に把握できず、適切な解決ができない。	課題に取り組む意欲が低く、解決策を見つけることができない。
思考・問題解決能力	2. 効率的な利用や改善方法を見つけ理解の向上が行える。	ICTツールを効率的に使いこなし、作業の効率化を図る。自己学習能力が高く、常に知識を更新しようとする。	ICTツールの機能を理解し、作業の効率化を図る。新しい知識や技術を取り入れることに積極的である。	与えられたICTツールを基本的なレベルで使いこなせる。新しい知識や技術への関心は低い。	ICTツールの使い方がぎこちなく、作業の効率化が図れない。新しい知識や技術を取り入れる意欲がない。	ICTツールをほとんど使いこなせず、作業の効率化が図れない。
技能	1. PCとICTツール（アプリ）を快適に操作できる。	PCの操作に熟練しており、様々なアプリを自在に使いこなせる。トラブルが発生した場合でも、自ら解決できる。	PCの操作に習熟しており、複数のアプリを組み合わせた作業もスムーズに行える。	PCの基本的な操作ができ、指示されたアプリを操作できる。	PCの操作に慣れておらず、簡単な操作でも戸惑うことがある。	PCの操作が極めて不得手で、アプリをほとんど使いこなせない。
技能	2. インターネットの特性を理解したweb 検索や生成AIの活用が行える。	インターネットの仕組みを深く理解し、効率的な情報収集ができる。生成AIを効果的に活用し、創造的な活動が行える。	インターネットの仕組みを理解し、必要な情報を的確に検索できる。生成AIの活用方法を知っている。	インターネット検索の基本的な方法を知っており、必要な情報を見つけ出すことができる。	インターネット検索に慣れておらず、必要な情報を見つけ出すのが難しい。	インターネット検索の経験がほとんどなく、情報収集ができない。
技能	3. 意図したコンテンツの作成及び素材の収集が行える。	創造性豊かに、高度なコンテンツを作成できる。様々な素材を収集し、効果的に活用できる。	目的に合ったコンテンツを作成できる。必要な素材を効率的に収集できる。	指示された内容のコンテンツを作成できる。必要な素材をある程度収集できる。	指示された内容のコンテンツを作成するのが難しい。必要な素材を適切に収集できない。	コンテンツを作成することができず、素材の収集もできない。

科目名	情報処理演習Ⅰ			授業番号	NC102	サブタイトル			
教員	小築　康弘								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本演習では、文書作成ソフトウェアであるMicrosoft Wordの基本的な操作から応用技術までを網羅的に学習する。初めてWordを使用する学生から、さらなるスキルアップを目指す学生まで、幅広いニーズに応える内容となっている。文書の作成、編集、フォーマットの基礎から、テンプレートの活用、効率的な文書管理方法に至るまで、実践的なスキルを身につけることを目指す。								
到達目標	・Wordの基本操作をある程度使いこなせる ・ネット等を活用し、自分の使いたいWordの機能を調べることができる なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜技能＞の修得に貢献する.								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	学習法を探る Google，Copilot，生成AI，YouTubeを活用せよ	
第2回	Web版Word ブラウザEdgeを利用し、Web版WordとAIアシスタントを利用する	
第3回	Wordの基本 起動・終了、文字の入力、ポップアウトヒント、ショートカット、印刷、保存など	
第4回	フォント フォントの大きさと間隔／文字を飾る	
第5回	テンプレート テンプレートの活用	
第6回	レイアウトを整えよ1 「中央揃え」「右揃え」「両端揃え」「行間」	
第7回	レイアウトを整えよ2 「ルーラー」を使う：タブとインデント	
第8回	レイアウトを整えよ3 箇条書きと段落番号	
第9回	校閲 WordやCopilot・生成AIがおかしなところを見つけてくれる	
第10回	レイアウトを整えよ4 見出しと目次作成	
第11回	様々な機能を試す1 テキストボックス、グラフと表の挿入と回り込み	
第12回	様々な機能を試す2 画像・ワードアートなどの挿入	
第13回	様々な機能を試す3 差し込み印刷	
第14回	演習 ここまでに学修した知識・技術を利用し、チラシの作成演習を行う	
第15回	まとめ 授業全体を振り返り、何を体験したのかということを、また、調べることによって様々なケースに対応できることを再実感する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	授業に取り組む姿勢を評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50	授業毎の作成ファイルを評価する。提出された課題は各課題ごとの評価基準により採点し，その結果を返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため，積極的な行動を求める。また，普段の生活の中で情報端末に触れ，慣れることを求める。
授業外学修	1．PCを所有していなくても，スマートホンでMicrosoft WordやGoogle Documentなどのワードプロセッサーを利用できるので、普段から利用すること。 2．PCを利用できる機会がある時は，積極的に使用し，本学を卒業した後に普通にWordを扱えるようになることを意識し親しむこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	１．Wordの基本操作をある程度使いこなせる	応用的な操作ができる	基本操作ができる	基本操作の大半を実行できる	基本操作を部分的に実行できる	基本操作すらできない
技能	２．ネット等を活用し、自分の使いたいWordの機能を調べることができる	有用な情報を得ることができる	情報を得ることができる	情報の大半を得ることができる	情報を部分的に得ることができる	情報を得られない

科目名	情報処理演習Ⅱ			授業番号	NC103	サブタイトル	（表計算）		
教員	赤木　竜也								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ，情報リテラシーの中でも特に学生が苦手である表計算ソフトの基本的かつ応用的な操作方法について学修する。								
到達目標	情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために，表計算ソフトの基礎的技術を学び，情報に応じて適切な表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	初回授業日よりMicrosoft社製Excelおよびインターネットを使用する。授業内でのセットアップ等は行わないので、各自授業開始日までにPCのセットアップを完了しておくこと。また学内Wi-Fiへの接続も完了しておくこと（授業当日困らないよう前日までに完了しておくこと）。なお、2年次以上の履修者については大学のPCを使用するので準備は不用である。								

回	概要	担当
第1回	情報処理とコンピュータの関わり コンピュータにおけるデータの扱い方について学習する。	
第2回	表計算ソフトの基礎知識 表の作成から印刷・保存について学習する。	
第3回	表計算ソフトの基礎知識 基礎的なグラフの作成方法について学習する。	
第4回	ワークシートの活用(1) 表の編集機能および書式設定について学習する。	
第5回	ワークシートの活用(2) 罫線と表のスタイルについて学習する。	
第6回	ワークシートの活用(3) セルの絶対参照と相対参照の違い，属性および表示形式について学習する。	
第7回	ワークシートの活用(4) 基本的な関数について学習する。	
第8回	ワークシートの活用(5) 基本的な関数および条件付き書式について学習する。	
第9回	グラフ(1) グラフ化による利点とその問題点，注意点および基本的なグラフ(棒グラフ)について学習する。	
第10回	グラフ(2) 基本的なグラフ(折れ線グラフ，円グラフ)について学習する。	
第11回	グラフ(3) 応用的なグラフ(複合グラフ，レーダーグラフ)について学習する。	
第12回	データベース データベース機能およびデータベース集計について学習する。	
第13回	Excelの応用(1) より高度な関数について学習する。	
第14回	Excelの応用(2) データベース関数について学習する。	
第15回	総合演習・まとめ 演習問題を通してより表計算について理解･学習する。	

授業計画　備考2	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、課題への取り組み姿勢および復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	70	習熟達成度を評価する。
その他	10	授業中出題する演習問題について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	コンピュータを用いた実習を適宜行うため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学修しておくこと。
授業外学修	授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として4時間以上その都度取り組み，理解度を深めておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間でマスターExcel2019（Windows10対応）	実教出版企画開発部	実教出版	978-4-407-34837-8	1045

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県立烏城高等学校、岡山県立玉野光南高等学校公民・商業・情報科講師（10年），県立高等学校IT講習会講師（1年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ，情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	データの特性について理解している	文字データ・数値データの特性の違いを知解するとともに，適切にデータ変換することができる。	文字データ・数値データの特性の違いを理解することができる。	文字データ・数値データを区別することができる。	数値データの取扱いに難がある。	文字データ・数値データを区別することができない。
知識・理解	表計算ソフトの関数および演算について理解している	絶対参照・相対参照の違いを理解し，正しく関数を使用したり演算したりすることができる。	適宜関数を使用、演算、集計し，わかりやすく表示することができる。	適宜関数を使用したり演算したりすることができる。	データ範囲を間違えたり，関数を正しく使用したりすることができない。	関数を使用することができず，また正しく演算することができない。
知識・理解	グラフの特性について理解している	データの特性に合わせて適切なグラフを選択し，またわかりやすいグラフを作成することができる。	わかりやすいグラフを作成することができる。	数値データからグラフを作成し，グラフ要素を使いこなすことができる。	数値データからグラフを作成することができるが，グラフ要素を適宜使用することができない。	グラフの元となるデータ範囲を理解することができない。
技能	正しくデータ入力をすることができる	文字種を適切に使い分け，早くて正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けるか，早くて正確に入力することができる。	ある程度文字種を使い分け，正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けることができず，また入力正確性に欠ける。	文字種を適切に使い分けることが出来ず，また入力がおぼつかない。
技能	ソフトウェアを操作することができる	目的の機能を手早く処理することができる。	やや複雑な処理をすることができる。	標準的な機能を使用することができる。	目的の機能を見つけられなかったり，操作に手間取ったりする。	目的の機能を見つけられず，また適切に操作することができない。

科目名	数理・データサイエンス・AI			授業番号	NC205	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得するという政府発表の目標を掲げた。この講義では，プログラミング，データサイエンス（社会調査）・AI，データベース（表計算）などの様々な情報分野を学ぶ上で必要とされる基本的な数理的な考え方について学習する。								
到達目標	社会の中でのAIの役割を理解する. データの特徴を読み解き，データの中に潜む特徴を理解できる. データに応じた可視化の手法を選択し，適切に説明ができる. 代表値や統計的検定等の基本的な知識を用いることができる. スプレッドシートを用いてデータの適切な集計・分析をすることができる. なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	社会で起きている変化(1) 情報を使いこなす社会，IoTとは，ビッグデータ	
第2回	社会で起きている変化(2) 多変量解析の手法	
第3回	AI時代の到来(1) AIとは，AIを使いこなす，AI社会	
第4回	AI時代の到来(2) 機械学習の仕組み	
第5回	データを守るための留意事項 情報セキュリティとは，セキュリティの注意点，個人情報の管理	
第6回	データ活用と必要なスキル データと分析結果を対応づける，分析結果の利用，Excelの活用	
第7回	データの準備とデータのタイプ ネットでデータを探す，分析用データと分析結果データ，母集団と標本	
第8回	アンケートデータを要約しよう データの要約とは，Excelで要約，グラフでデータを視覚化する	
第9回	データを比較して仮説を考えよう(1) 質的データを比較する，仮説をもとう，ファインディングを伝える，仮説の検証	
第10回	データを比較して仮説を考えよう(2) 統計的仮説検定とは	
第11回	データを代表値で要約する 平均値を活用する，平均値の計算で分布も確認する，ヒストグラムを活用する	
第12回	量的変数をばらつきで要約する ばらつきを数値化する，売り上げデータを分析する，誤差を加味する	
第13回	平均と標準偏差を活用しよう 新しい変数を作る，異なる単位の変数を比較する，大きなずれに着目する，外れ値を活用する	
第14回	散布図を活用して関係性を分析する 人事評価データを分析する，散布図から似ている評価を特定する，相関分析を応用する	
第15回	データ分析を活用するために知っておきたいポイント データ分析結果を伝える，分析手法の全体像を知る，さらなる学習へ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
課題	30	課題は毎回出される．課題の解説をしながら、進めていく。
定期試験	30	試験により指導内容に関する到達度を評価する.
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積み重ねが重要なので復習を十分行い，分からないところは放置しておかないようにする。
授業外学修	毎週４時間以上，予習・復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめて学ぶ 数理・データサイエンス・AI	富士通ラーニングメディア	富士通ラーニングメディア	978-4-86775-081-0	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．代表値の概念を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	２．２変数間の相関の意味を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	３．仮説検定の概念を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	１．回帰分析を適用する場面を判断できる	十分判断できる	かなり判断できる	平均的に判断できる	部分的に判断できる	判断が不十分である
思考・問題解決能力	２．量的変数のばらつきを数値化する場面を判断できる	十分判断できる	かなり判断できる	平均的に判断できる	部分的に判断できる	判断が不十分である
思考・問題解決能力	３．解決のためのプロセスが見通せる	十分見通せる	かなり見通せる	平均的に見通せる	部分的に見通せる	見通しが不十分である
技能	１．社会調査に関する問題に向き合える	十分向き合える	かなり向き合える	基本的な形で向き合える	補助があれば向き合える	向き合えない
技能	２．国内の種々のデータを読み取る姿勢がある	十分ある	かなりある	基本的にある	部分的にある	姿勢が不十分である
技能	３．調査結果から今後すべきことを議論できる	十分議論できる	かなり議論できる	基本的な形で議論できる	補助があれば議論できる	議論できない

科目名	英語Ⅰ			授業番号	ND101A	サブタイトル	（栄養英語）		
教員	佐々木　真帆美								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	本授業では，食・栄養に関する身近なテーマを英語で説明する力を養う。3回の動画課題（キッチン紹介 / 買い物・食材紹介 / レシピ紹介）を中心に，基礎文法を実践的に活用しながら，専門分野と関連付けた英語表現を習得する。 文法理解に加え，食材の説明，食習慣の表現，調理手順の論理的説明など，人間栄養学科の専門性を意識した発信力を身につけることを目指す。 授業では口頭練習を中心に行い，スクリプト作成および動画撮影は授業外課題とする。発表と振り返りを通して，専門内容を適切に伝える基礎力を育成する。								
到達目標	1. 身近な環境や物事について，整理して分かりやすく英語で説明できる。 2. 食材や食習慣について，具体的な情報を含めて適切に伝えることができる。 3. 手順や行程を論理的な順序で説明することができる。 4. 専門分野に関する内容を，相手を意識しながら発信することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	授業ガイダンスと自己紹介 授業の目的および評価方法を確認する。 自己紹介活動を通して，英語で発信する姿勢を整える。動画課題の全体像を理解する。	
第2回	動画作成の基礎と提出方法 他己紹介動画を作成し，提出方法を確認する。 基本的な話し方や撮影時の注意点を学ぶ。 動画課題①の内容を理解する。	
第3回	There is / There are の理解 There is / There are の基本構造を学び，身近な環境を説明する練習を行う。 肯定文・否定文・疑問文の使い方を確認する。	
第4回	前置詞とキッチン用品語彙 前置詞およびキッチン用品に関する語彙を学び，物の位置関係を正確に説明する練習を行う。 動画課題①に向けて理解を深める。	
第5回	発音と話し方の確認 発音およびイントネーションの基本を確認し，わかりやすい話し方について理解する。 動画発表に向けた準備を行う。	
第6回	動画課題①の鑑賞と評価 動画課題①を鑑賞し，評価を行う。 他者の発表から表現や構成を学び，動画課題②に活かす。	
第7回	可算・不可算名詞の理解 可算名詞と不可算名詞の違いを学び，基本的な数量表現を整理する。 食材説明の基礎を固める。	
第8回	頻度の副詞と食習慣 頻度の副詞の用法を学び，自分の食習慣を英語で説明する練習を行う。 繰り返し練習を行い，表現の定着を図る。	
第9回	数量表現の発展 a bottle of... などの数量表現を学ぶ。 買い物場面を想定した練習を行い，動画課題②に向けて理解を深める。	
第10回	動画課題②の鑑賞と評価 動画課題②を鑑賞し，評価を行う。 動画課題③に向けて，内容を確認する。	
第11回	命令文と調理動詞 命令文の基本構造を学び，調理動詞を用いて手順を説明する練習を行う。 レシピ紹介の基礎を固める。	
第12回	順序語と説明構成 順序語の使い方を学び，手順を論理的に説明する方法を理解する。 構成力の向上を目指す。	
第13回	栄養に関する基本表現 be rich in... などの栄養表現を学び，料理に栄養的な説明を加える練習を行う。 動画③に向けた最終準備を行う。	
第14回	レシピ説明の整理 レシピ説明の構成を確認し，模擬発表を通して改善点を整理する。 動画課題③に向けた最終準備を行う。	
第15回	動画課題③の鑑賞と振り返り 動画課題③を鑑賞し，評価を行う。 学期全体を振り返り，到達目標の達成度を確認する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予習・復習の状況及び授業への貢献度を評価する。
小テスト	20	既習の語彙や文法事項の理解度を評価する。実施後に採点して，解説する。
動画課題①	20	キッチンの様子を具体的かつ分かりやすく説明できているか，内容の明確さ・構成・英語の適切さ・発信態度を総合的に評価する。 動画についてのフィードバックは，授業内で全体に対して行う。
動画課題②	20	食材や買い物内容について具体的な情報を含めて説明できているか，構成の論理性・英語表現の正確さ，発信の明瞭さを総合的に評価する。 動画についてのフィードバックは，授業内で全体に対して行う。
動画課題③	30	調理手順を論理的に説明し，料理の特徴や栄養に言及できているか，内容の充実度・英語運用力・発信態度を総合的に評価する。 動画についてのフィードバックは，授業内で全体に対して行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本授業は発信を重視する授業であるため，毎回の準備および授業外学修に主体的に取り組むこと。 スクリプト作成および動画撮影は授業外で行い，提出期限を厳守すること。完璧さよりも，伝えようとする姿勢と継続的な改善を重視する。 他者の発表を尊重し，建設的な姿勢で相互評価に参加すること。
授業外学修	1. 授業で扱った表現・語彙・例文を復習すること 2. 小テストに備え，重要表現を整理しておくこと 3. 動画課題に向けてスクリプトを作成・修正すること 4. 音読練習を行い，発音やイントネーションを確認すること 5. 動画を撮影し，自己評価を行うこと 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．栄養や食品に関する英語の語彙や英語表現を理解している。	専門的な語彙や表現を正確に理解し，適切に使うことができる。	ほとんどの語彙や表現を理解し，適切に使うことができる。	基本的な語彙や表現を理解しているが，誤用がある。	一部の基本語彙は理解しているが，全体的に曖昧である。	語彙や表現の理解が不十分で適切に使用することができない。
知識・理解	２．英文法を正確に理解し，応用することができる。	文法の誤りがほぼなく，適切に応用することができる。	小さな誤りはあるが，概ね正確に文法を使うことができる。	基本的な文法は理解しているが，誤りが目立つ。	文法の誤りが多く，意味が伝わりにくい。	文法の理解がほとんどなく，文章の構成が難しい。
知識・理解	３．栄養や食品に関して英語で自分の意見を発信することができる。	適切で流暢な英語表現を用いて明確に意見を述べることができる。	多くの場面で適切な英語を使い，自分の意見を伝えることができる。	基本的な表現を使い，ある程度意見を伝えることができる。	簡単な表現しか使えず，意見を十分に伝えることができない。	自分の意見を英語で表現することがほとんどできない。

科目名	英語Ⅱ			授業番号	ND102A	サブタイトル	（栄養英語）		
教員	藤田　香織								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	本演習では，栄養学および食文化に関する英文を通して，英語の語彙力・読解力・文法力を向上させる。単なる読解だけでなく，ディスカッションやペアワークを通じて英語を実際に使う機会を増やし，実践的な英語力の向上を目指す。								
到達目標	1. 栄養・食文化に関する基本的な英語表現を理解する 2. 英文読解力を向上させる 3. 英語での発信力を高める 4. 英文法を正確に理解し応用することができる なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	Unit 1　Energy-Providing Nutrients エネルギー産生栄養素 エネルギー産生栄養素に関する様々な英語表現を学ぶ グループで分担して単語調べ・本文を訳す。	
第2回	Unit 2　Nutrition Science: A Brief History 栄養学：略史 栄養学の略史を英語で読み，関連する英語表現を学ぶ グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第3回	Unit 3 Staple Foods 主食 主食に関する様々な英語表現を学ぶ グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第4回	Unit 4　The Cultural Heritage of Food 食の文化遺産 食の文化遺産に関する様々な英語表現を学ぶ グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第5回	Unit 5　The Art of the Bento Box 弁当箱のアート 弁当に関する様々な英語表現を学ぶ グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第6回	Unit 6　Kyushoku: The Japanese School Lunch 日本の給食制度 給食に関する様々な英語表現を学ぶ グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第7回	Unit 7　Kodomo Shokudo こども食堂 こども食堂に関する様々な英語表現を学ぶ グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第8回	Unit 8　Can Foods Be Super? スーパーフード スーパーフードに関する様々な英語表現を学ぶ グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第9回	Unit 9　Halal Food ハラルフード ハラルフードに関する様々な英語表現を学ぶ グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第10回	Unit 10　How We Taste 味が肝心 味覚に関する様々な英語表現を学ぶ グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第11回	Unit 11　Airline Food 機内食 機内食に関する様々な英語表現を学ぶ グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第12回	Unit 12　Sugar: What You Need to Know 砂糖：知っておくべきこと 砂糖に関する様々な英語表現を学ぶ グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第13回	Unit 13　Sugar Tax 砂糖税 海外の砂糖税に関する様々な英語表現を学ぶ グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	

第14回	Unit 14 Antioxidants 抗酸化物質 抗酸化物質に関する様々な英語表現を学ぶ グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第15回	Unit 15 Genetically Modified Food 遺伝子組み換え食品 / 科目授業全体のまとめ 遺伝子組み換え食品に関する様々な英語表現を学ぶ グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	30	各回の内容において英文の理解度を評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	50	各回の内容において英語の語彙・表現の理解度を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習を前提として進めていくので，テキストの本文を全訳し，練習問題を解いたうえで授業に臨むこと。 ・グループディスカッションを行うので予習段階で内容を理解し，しっかり自分の意見を持って参加すること。
授業外学修	１．予習として，テキストの本文を読み，未知の語句があれば辞書で調べて全訳をしておくこと。また，練習問題も解いておくこと。 ２．復習として，授業で学んだ文法事項と食や栄養に関する英語の語彙や表現を理解し，知識として定着させること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
A Matter of Taste 健康生活に見る食育と栄養＜入門編＞	津田晶子・クリストファー・ヴァルヴォーナ他	南雲堂	978-4-523-17896-5	1，700円+税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校（6年），他大学講師（5年），他大学学習アドバイザー（2年）,専門学校学・日本語学校（2年），塾（6年），英会話講師（1年）オーストラリアでの留学生サポートのコーディネーター（1年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．栄養・食文化に関する英語の語彙や英語表現を理解している。	専門的な語彙や表現を正確に理解し，適切に使うことができる。	ほとんどの語彙や表現を理解し，適切に使うことができる。	基本的な語彙や表現を理解しているが，誤用がある。	一部の基本語彙は理解しているが，全体的に曖昧である。	語彙や表現の理解が不十分で，適切に使うことができない。
知識・理解	2．英文法を正確に理解し，応用することができる。	文法の誤りがほぼなく，適切に応用することができる。	小さな誤りはあるが，概ね正確に文法を使うことができる。	基本的な文法は理解しているが，誤りが目立つ。	文法の誤りが多く，意味が伝わりにくい。	文法の理解がほとんどなく，文章の構成が難しい。
思考・問題解決能力	３．栄養・食文化に関して英語で自分の意見を発信することができる。	適切で流暢な英語表現を用いて明確に意見を述べることができる。	多くの場面で適切な英語を使い，自分の意見を伝えることができる。	基本的な表現を使い，ある程度意見を伝えることができる。	簡単な表現しか使えず，意見を十分に伝えることができない。	自分の意見を英語で表現することがほとんどできない。
技能	4．栄養・食文化に関する英文を読解し，要点をまとめることができる。	複雑な英文も正確に理解し，要点を的確にまとめることができる。	ほとんどの英文を理解し，要点をまとめることができる。	基本的な英文の意味を理解し，要点をある程度まとめることができる。	英文の一部しか理解できず，要点をうまくまとめることができない。	英文の意味をほとんど理解できず，要点をまとめることができない。
態度	栄養の知識を国際的態度をもって使うことができる態度	他の方の意見を聞き意見を聞き入れ，自分の意見がしっかりと伝えられる姿がよく見られる。真面目で積極的活動ができ，他者（教員・職員・学生同士）を思いやる態度が常に見られる。	他の方の意見を聞き意見を聞き入れ，自分の意見がしっかりと伝えられる姿がよく見られる。真面目で積極的活動ができ，他者（教員・職員・学生同士）を思いやる態度が大体見られる。	他の方の意見を聞き意見を聞き入れられる。真面目で積極的活動ができ，他者（教員・職員・学生同士）を思いやる態度がよく見られる。	他の方の意見を聞き意見をあまり聞き入れられない。真面目で積極的活動がほとんどできていない。他者（教員・職員・学生同士）を思いやる態度があまり見られない。	他の方の意見を聞き意見を聞き入れられない。真面目で積極的活動ができていない。他者（教員・職員・学生同士）を思いやる態度が見られない。

科目名	英語Ⅲ			授業番号	ND203	サブタイトル			
教員	藤田　香織								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	栄養士関連の英語を学び、使用し、英語のリスニング、スピーキング、リーディング、ライティングのスキルを養う。英文法，簡単な栄養に関する文章をグループで協力しながら訳し，発音練習しプレゼンテーションします。								
到達目標	栄養士の仕事に関連する英語を使って読む・書く・聞く・話すの4技能を向上させる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	自己紹介、コースの紹介 Unit 1 The ABCMVs of Eating 食事の基本 栄養に関する文章をグループで分担して単語調べし訳す。	
第2回	Unit 2 Determining Whether Your Diet Is Adequate あなたの食事は適切か 栄養に関する文章をグループで調べてきた単語調べや訳を確認し,その内容に対して出された質問に協力して答えたりディスカッションを行う。	
第3回	Unit 3 Keeping Caloric Intake In Check カロリー摂取を抑制する 栄養に関する文章をグループで調べてきた単語調べや訳を確認し,その内容に対して出された質問に協力して答えたりディスカッションを行う。	
第4回	Unit 4 Spicing Up Your Life With Variety 食生活に一味添えよう 栄養に関する文章をグループで調べてきた単語調べや訳を確認し,その内容に対して出された質問に協力して答えたりディスカッションを行う。	
第5回	Unit 5 What's A Body Made Of? からだは何でできている？ 栄養に関する文章をグループで調べてきた単語調べや訳を確認し,その内容に対して出された質問に協力して答えたりディスカッションを行う。	
第6回	Unit 6 Knowing Your Nutrients 栄養素を知ろう 栄養に関する文章をグループで調べてきた単語調べや訳を確認し,その内容に対して出された質問に協力して答えたりディスカッションを行う。	
第7回	Unit 7 Energizing Nutrients: Proteins, Carbs, and Fats エネルギーの源：タンパク質，炭水化物，脂肪 栄養に関する文章をグループで調べてきた単語調べや訳を確認し,その内容に対して出された質問に協力して答えたりディスカッションを行う。	
第8回	Unit 8 Aiding In Body Function: Vitamins and Minerals 身体機能を助ける：ビタミンとミネラル 栄養に関する文章をグループで調べてきた単語調べや訳を確認し,その内容に対して出された質問に協力して答えたりディスカッションを行う。	
第9回	Unit 9 Water: The Most Important Nutrient 水：最も重要な栄養素 栄養に関する文章をグループで調べてきた単語調べや訳を確認し,その内容に対して出された質問に協力して答えたりディスカッションを行う。	
第10回	Unit 10 Binge Drinking: A Behavioral No-No むちゃ飲み：絶対にやってはならない行為 栄養に関する文章をグループで調べてきた単語調べや訳を確認し,その内容に対して出された質問に協力して答えたりディスカッションを行う。	
第11回	Unit 11 Digestion: One Step At A Time 消化：一歩ずつ 栄養に関する文章をグループで調べてきた単語調べや訳を確認し,その内容に対して出された質問に協力して答えたりディスカッションを行う。	
第12回	Unit 12 Eating Disorder 摂食障害 栄養に関する文章をグループで調べてきた単語調べや訳を確認し,その内容に対して出された質問に協力して答えたりディスカッションを行う。	
第13回	Unit 13 Food Allergies 食物アレルギー 栄養に関する文章をグループで調べてきた単語調べや訳を確認し,その内容に対して出された質問に協力して答えたりディスカッションを行う。	
第14回	Unit 14 Controlling Food Contamination 食物汚染を食い止めよう 栄養に関する文章をグループで調べてきた単語調べや訳を確認し,その内容に対して出された質問に協力して答えたりディスカッションを行う。	
第15回	Unit 15 "The Father Of All Vitamins: Casimir Funk" ビタミンの父：カシミール・フンク 栄養に関する文章をグループで調べてきた単語調べや訳を確認し,その内容に対して出された質問に協力して答えたりディスカッションを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
態度	15	英語を使っての授業への積極的参加・予習を評価します。
小テスト	55	本文内容理解・英文法・英単語の理解を評価します。テスト後にフィードバックを行います。
レポート	30	英文の本文を読んで理解し，その問題を解決するレシピ等を考え表現する。英語の書物が理解でき，その情報を活かすことができることを評価します。提出物のチェック・評価が終わり次第フィードバックを口頭で行います。

評価の方法：自由記載		
受講の心得		
授業外学修	学生は週に2時間は予習・復習を行うこと。	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
やさしい栄養英語	中里菜穂子／松浦加寿子	講談社サイエンティフィク	978-4-06-513414-6	1,980円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	高校（6年），他大学講師（5年），他大学学習アドバイザー（2年）,専門学校学・日本語学校（2年），塾（6年），英会話講師（1年）オーストラリアでの留学生サポートのコーディネーター（1年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	わかるまでゆっくり解説します。レベルをアップさせること・スピーキングやライティング要素も学生のニーズに合わせて比重をコントロールします。			

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 文法・本文理解・スピーキング・リスニング4技能を総合的に使うことができる。	コースでカバーされる栄養関連および一般的な英語の語彙と文法・本文内容をすべて理解します。本文内容を使って話す・書くこともできる。	コースでカバーされる栄養関連および一般的な英語の語彙と文法のほとんどを理解します。その内容が英語でゆっくりある程度話せます。	コースで取り上げられる栄養関連および一般的な英語の語彙と文法をほとんどを理解します。	コースで扱われる栄養関連および一般的な英語の語彙と文法はほとんど理解できません。	コースで取り上げられる栄養関連および一般的な英語の語彙や文法をまったく理解していません。
思考・問題解決能力	本文内容の英語を使って別の文献を読み，他の学生とのディスカッションを通じて新たな視点を得て自分の思考を高めることができる。	じっくり本文を読み理解でき，その知識が他の英文の書物を読むことにつながる。他の学生とグループディスカッションを十分に行い，新たな考えを会得でき自分の意見を英語でも発言できる。	本文を読みしっかり理解できる。他の学生とグループディスカッションを十分に行い，新たな考えを会得でき発言できる。	本文を読みある程度理解できる。他の学生とグループディスカッションを十分に行い，新たな考えを会得でき自分の意見を述べることができる。	本文の理解が難しい。他の学生とグループディスカッションがあまり行えない。	本文の理解ができない。他の学生とグループディスカッションが行えない。
技能	英語を学習することにより栄養の知識をより深めることができる。	英語で栄養の本文内容を理解を4技能で深めることができる。	栄養の英語の本文が4技能のうちややすべてにおいてある程度理解を深めることができる。	栄養英語の知識が60%以上理解できる。	栄養英語の知識がありまり理解できていない。	栄養英語の知識がない。理解できない。
態度	前向きに積極的に授業に参加し国際的に活躍できる態度	良くコミュニケーションするために深い予習・復習を欠かさず，積極的に英語を話そうとする姿勢が大いに見られる。様々な学生の意見を受け入れる国際視点に対して開かれた態度を十分に備えている。	良くコミュニケーションするためにある程度予習・復習を欠かさず，何とか英語を話そうとする姿勢がよく見られる。様々な学生の意見を受け入れる国際視点に対して開かれた態度が見られる。	予習・復習をあまりしておらず，英語を話そうとする姿勢があまり見られない。様々な学生の意見を受け入れる国際視点に対して開かれた態度がほとんどない。	良くコミュニケーションするためにある程度予習・復習を欠かさず，何とか英語を話そうとする姿勢。様々な学生の意見を受け入れる国際視点に対して開かれた態度。	予習・復習をしていない。学ぶ姿勢が見られない。様々な学生の意見を受け入れる国際視点が全くない。

科目名	韓国語			授業番号	ND204	サブタイトル	(韓国語の基礎を学ぶ)		
教員	宋　娘沃								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	近年韓国の映画、音楽、食べ物などの文化や社会生活が世界から注目され，韓国への関心が一層高まっている。こうした関心は韓国語の習得につながり，韓国語はどのような仕組みで作られているのかを知っていく必要がある。韓国語と日本語は文法が類似していると同時に，言葉にとって大切な語順がほとんど一致している。本講義は，前半では韓国語学習を習い始める初歩の段階としてハングルの基礎から始まり，韓国語のごく短い文の読み書き，聞き取りを学習する。後半では日常会話として自己紹介，挨拶の言葉，韓国旅行のための簡単な会話など，基本的なやり取りの実践的な力を身につける。また、韓国の若者の意識，韓国の大学生活，エンターテインメント，社会への理解を深めるために，ビデオ鑑賞を行う。								
到達目標	・韓国語の基礎的な文法，発音を理解して活用できる。 ・簡単な韓国語の読み書きができる。 ・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	韓国語とは 韓国語はいつ作られ，どのように作らてたのかをハングルの由来，歴史的な経緯を学習する。	
第2回	文字と発音・母音 韓国語文字や基本構成を学習する。	
第3回	文字と発音・子音 韓国語文字の特徴や文字の基本構成を学び，その仕組みを理解する。	
第4回	激音と農音，パッチム 基本母音字と子音字から表れる激音と濃音の発音の違いについて学習する。	
第5回	韓国語の助詞・動詞 韓国語の一文を完成するための助詞と動詞の仕組みについて学習する。	
第6回	基本文型の過去形の作り方 基本文型の現在，過去，未来がどのように表現されているのかを理解する。	
第7回	感嘆文・疑問文の形式 韓国語の感嘆文・疑問文を簡単な言葉を用いて理解する。	
第8回	基本文型の指示代名詞・助数詞 指示代名詞を事例から説明し，一つの文章を作るようにする。	
第9回	用語の丁寧形・尊敬形 韓国語の丁寧形や尊敬語を具体例から学習する。	
第10回	会話練習・表現 文章の基礎的な仕組みから短い表現を理解する。	
第11回	挨拶・訪問の言葉 基本的な挨拶の言葉を学習する。	
第12回	韓国の大学と若者 韓国の大学と日本の大学の違い，若者の意識について理解する。	
第13回	韓国の食生活と食べ物 韓国の食生活や近年関心が高まっている食べ物について学習する。	
第14回	韓国の映画と文化 韓国のエンターテインメントや映画について理解する。	
第15回	韓国の文化と日常会話 近年のKポップや音楽について，日常会話を用いて学習する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢や態度	20	授業への意欲，質問，課題を積極的に取り組んでいるのかを評価する。
小テスト	40	授業の中間時点で，どの程度内容を理解しているのかを確認する。また，小テストは次週で解説する。
期末テスト	40	授業全体の理解度や言葉の習得ができているのかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み，予習をやってくること。 課題を充実に行うこと。
授業外学修	・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって読むこと。 ・復習として，課題をノートに書いて来ること。 ・韓国語の教科書のCDを聞くようにして，言葉に慣れること。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ゼロから学べる韓国語［文法］トレーニング	木内　明	髙橋書店	978-4-471-11270-7	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．外国語や韓国語の必要性を十分に認識している。	韓国語の必要性をほぼ理解している。	韓国語の文法の仕組みや会話の基本構造をほぼ理解している。	韓国語の文法の仕組みをほぼ理解している。	韓国語は理解しているが，具体的な知識が十分ではない。	あまり外国語に対して興味を持っていない。
知識・理解	2．新しい知識として外国語の必要性を十分に認識している。	言葉の仕組みや子音・母音を十分に理解している。	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる。	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる。	韓国語の文字体系を理解しようとしていない。	外国語や他の国のことを理解していない。
知識・理解	3．韓国語の学ぶ上での韓国の文化や社会のことを認識している。	韓国で起こっている諸問題から対応策を考えられる。	最近の韓国文化に興味を持って勉強に取り組んでいる。	学生自ら進んで，韓国語を学習する能力が備えている。	あまり外国の文化や言葉を理解しようとしていない。	韓国のことや韓国語にあまり関心が少ない。
技能	１．新しい言葉を身につけることで自分の知識が深まる。	韓国語の基礎が出来ており，自ら進んで韓国の文化に関しても勉強している。	韓国語の会話や発音の子音・母音の体系が理解できている。	韓国語の発音の仕組みや会話の基礎が出来ている。	韓国語を学習する目的や基礎知識が理解できていない。	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない。
技能	２．外国語を学ぶことで一層他文化に対する理解が深まる。	韓国語の基礎知識は十分に備え，自ら進んで韓国の文化を勉強している。	韓国語の基礎知識を備えられ，その国のことまで把握できる。	韓国語の会話がほぼ理解でき，韓国の社会に関しても知ろうとしている。	外国語を修得し，１つでも自分の知識を増やすことの重要性が認識できていない。	韓国語を学ぶことの意味と目的が明確ではない。
技能	３．外国語や海外の人や文化を通じて自国のことや自分のことを再考することになる。	韓国語の学習が十分にでき，今日のグローバル社会が理解できる。	韓国語の学習を通じて他の国のことが理解できる。	韓国語の基礎知識が勉強でき，他の語学にも興味を持つことが可能になる。	韓国語の基本の発音体系や会話を身につける意味が認識できていない。	韓国語の内容や発音の体系をどのように理解し，勉強しようかという認識ができていない。

科目名	体育講義 (全8回)			授業番号	NE101	サブタイトル			
教員	溝田　知茂								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	現代社会においては，技術革新に伴う機械化・情報化等が進み，日常生活における身体活動が減少するとともに，食生活のバランスの崩れも伴って，運動不足と生活習慣の乱れが深刻な問題となっている。こうした状況によって，我々の身体は危機的な状況にさえ陥っている場合もある。本講義では，からだと心の仕組みについて，身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身に付ける。								
到達目標	人間のからだと心の仕組みについて，日常生活で何気なく実践している事柄の意味について知ることを目的とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「体力」について考える 「体力」がどのような要素で構成されているか考え理解する。	
第2回	「自律神経」の働きについて考える 人間のからだの自動調節機能である自律神経の仕組みや働きについて考え理解する。	
第3回	「ホルモン」の働きについて考える 眠りのホルモンと呼ばれている「メラトニン」について，分泌の仕組みや働きについて考え理解する。	
第4回	「睡眠障害」について考える 睡眠障害の種類を知ることと，その原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。	
第5回	「高血圧」について考える 高血圧の仕組みを知ること，そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。	
第6回	「目の病気」について考える 目の病気の種類を知ること，そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。	
第7回	「健康診断」で分かることについて考える 普段学校で実施する健康診断で分かること，健康診断で分からないことについて考える。	
第8回	「背筋力」の働きについて考える 二足歩行する上で重要な働きをしている背筋力について測定しながら，生活に必要な背筋力を知る。	
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予習・復習の状況によって評価する。フィードバックは，その時・その場で行う。
レポート		
小テスト		
定期試験	60	各回の主要なポイントの理解度を評価する。テストは，採点をして返却する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・スポーツに関わる知識と理解を深め，スポーツ・運動への志向性を高めることを目指しているので，自らの生活と関連付けながら受講すること。
授業外学修	・「スポーツ」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し，興味関心を高める。 ・各回の授業内容に合わせた情報を収集したり，書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．体育講義の基本的考え方が理解できている。	体育講義の内容が理解できている。	体育講義の内容がほぼ理解できている。	体育講義の基本的な内容が理解できている。	体育講義の基本的な内容の理解が十分ではない。	相談援助の基本的考な内容が理解できていない。
思考・問題解決能力	１．事例に基づいて、道具や簡単な方法でセルフチェックできる。	事例に基づいて，道具や簡単な方法でセルフチェックできる。	事例に基づいて、道具や簡単な方法でほぼセルフチェックできる。	事例に基づいて、簡単にセルフチェックできる。	簡単なセルフチェックの方法についての理解が十分ではない。	簡単なセルフチェックの方法を理解できていない。

科目名	体育実技			授業番号	NE102	サブタイトル	（スポーツに親しもう）		
教員	梶谷　信之								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実技（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	各チームの課題を基にメンバーで協力しながら，各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。								
到達目標	健康的な生活を送るために，運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに，集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	卓球I（シングルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） シングルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にシングルス・ゲームを行います。 1対1で対戦し，リーグ戦方式でゲームを行います。	
第2回	卓球II（シングルスの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） シングルスの基本技術を反復しつつ，シングルス・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第3回	卓球III（ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルスの成績でペアを組み，2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。	
第4回	卓球Ⅳ（ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） ダブルスの基本技術を反復しつつ，ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第5回	バドミントンI（シングルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） シングルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にシングルス・ゲームを行います。 1対1で対戦し，リーグ戦方式でゲームを行います。	
第6回	バドミントンII（シングルスの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） シングルスの基本技術を反復しつつ，シングルス・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第7回	バドミントンIII（ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルスの成績でペアを組み，2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。	
第8回	バドミントンⅣ（ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） ダブルスの基本技術を反復しつつ，ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第9回	ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解およびゲームの導入） 基本的なルールの確認と基本技術の練習を行います。 練習後にグループを作ってゲームを行います。	
第10回	ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第11回	ソフトバレーボールIII（ゲームの展開） 基本技術を反復しつつ，各チームで戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第12回	室内ミニテニスI（シングルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） シングルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に、実際にシングルス・ゲームを行います。 1対1で対戦し，リーグ戦方式でゲームを行います。	
第13回	室内ミニテニスII（シングルスの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） シングルスの基本技術を反復しつつ，シングルス・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第14回	室内ミニテニスIII（ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルスの成績でペアを組み，2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。	
第15回	室内ミニテニスⅣ（ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） ダブルスの基本技術を反復しつつ，ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
授業計画　備考2	受講人数により，他のスポーツ種目に変更することがある。 （バレーボール，バスケットボール，グラウンドゴルフ，など）	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している。 フィードバックは，その時その場で行う。体操服や体育館シューズを忘れた人は見学となり，減点される。授業中に携帯電話を見ていると減点される。
レポート		
小テスト	30	各競技ごとに実施した試合成績を参考にする。フィードバックは，その時その場で行う。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	

受講の心得	運動着を着用し，体育館シューズを使用する。 全員協力の上，準備・片付けをする。 携帯電話は見ない。（すぐに手の届く所へ置かない）
授業外学修	・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。 ・各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、基本的なルールを理解できている。	健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、ルールを細かく理解できている。	健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、ほぼ基本的なルールを理解できている。	運動の大切さを理解し、基本的なルールを理解できている。	運動の大切さを理解しているが、基本的なルールの理解が十分ではない。	運動の大切さや、ルールを理解できていない。
技能	１．運動技能が優れている。	運動技能が優れている。	基本的な運動技能が優れている。	基本的な運動技能が身についている。	基本的な運動技能が十分ではない。	基本的な運動技能が身についていない。

科目名	ファーストイヤーセミナー			授業番号	NF101	サブタイトル			
教員	坪井　誠二、小野　尚美、井之川　仁、北島　葉子、安原　幹成、大桑　浩孝、古川　愛子、楠本　晃子、山﨑　真未、藤原　三保子、髙坂　由理、太田　潤								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業は、人間栄養学科に入学した学生を対象とした導入科目である。管理栄養士養成課程で学ぶ多様な専門科目について、12名の教員がそれぞれの専門領域の基礎や研究内容、社会との関りをわかりやすく紹介する。 栄養学は、基礎科学から臨床、地域保健、食品開発、教育、スポーツ分野まで幅広く展開する学問である。本授業では、各分野の概要を理解するとともに、栄養専門職としての将来像を描き、4年間の学修に向けた動機付けを高めることを目標とする。 また、大学での学び方についても触れ、主体的な学修態度を養う。								
到達目標	・栄養学科における主要な専門分野の概要を説明できる。 ・各分野が、社会や健康にどのように貢献しているかを理解できる。 ・自身の興味・関心と専門分野との関連を考察できる。 ・大学における学修の基本姿勢（主体性、探求心、倫理観）を身につけることができる。 ・将来の進路や専門職としての目標について、初期的なビジョンを描くことができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	授業内容および日程の詳細は，第一回授業で説明する。								

回	概要	担当
第1回	本授業の概要について、及び、図書館の利用方法について講義する。	坪井、大桑
第2回	食品科学の基礎知識について	大桑
第3回	身の回りの微生物の調査	楠本
第4回	睡眠とその仕組み	坪井
第5回	学ぶとは、脳をつくり変えること　― 食と進化からはじめる大学生活 ―	井之川
第6回	代謝をめぐって	太田
第7回	ショウガ摂取による体温上昇の生理的メカニズム～長期摂取による冷え性改善効果～	山﨑
第8回	学生支援セミナー	外部講師（1）
第9回	なぜ栄養について学ぶのか	古川
第10回	医療機関における管理栄養士の役割について	安原
第11回	痩せると減量の違いとは？スポーツ選手の栄養サポートを通して考える	髙坂
第12回	未定	外部講師（2）
第13回	管理栄養士という仕事 ― 病院・介護老人保健施設での実務経験談 ―	北島
第14回	食育について考えよう	小野
第15回	実務経験を活かした管理栄養士による職業講話「栄養教諭」	藤原
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	授業中の態度，特に，積極的に取り組む姿勢を評価する。
レポート	50	課題の理解度を確認する。レポートはコメントを記入し、返却する。

評価の方法：自由記載	総合評価：授業への取り組みの姿勢/態度　50点、レポート　50点　合わせて100点とする。
受講の心得	本授業は、人間栄養学科での4年間の学びの出発点となる導入科目である。各専門分野の教員による講義を通して、栄養学の広がりと社会的役割を理解するとともに、自身の将来像を主体的に考える姿勢を養うことを目的とする。
授業外学修	授業内容をノート等に整理すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	プリント等を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で紹介する。
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	管理栄養士養成課程における各専門分野の基礎的内容を理解してるか。 各分野の社会的役割や相互の関連性を説明できるか。 自分の将来像や学修計画と結び付けて考察できているか。	各専門分野の内容を理解し、分野間の関連性や社会的意義まで説明できる。さらに、自身の将来目標と具体的に関連付けて論理的に考察できる。	各専門分野の基本的内容を概ね正確に理解し、社会との関りについて説明できる。自身の将来との関連も示している。	基本的な内容は理解しているが、説明や関連付けがやや表面的である。	用語や内容の理解が限定的であり、説明が不十分である。	内容の理解が不十分、また、提出物が基準を満たしていない。
態度	授業への主体的参加。 学修への意欲・継続性。	毎回の授業に主体的に取り組み、発言・質問・振り返りが積極的である。	概ね主体的に参加し、誠実に課題へ取り組んでいる。	指示された活動には参加しているが、主体性や積極性は限定的である。	受動的な姿勢が目立つ。	授業参加が著しく不十分、または学修態度に問題がある。

科目名	健康管理概論			授業番号	NJ106	サブタイトル			
教員	太田　潤								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	（１）人々（自身と家族を含む）の心身の健康保持・増進への理解を深める。 （２）保健衛生・医療・福祉の現状と制度等を学び，統計資料を活用する。 （３）生活習慣病，母子・精神・地域・学校保健，感染症対策等を学ぶ。 （４）管理栄養士・栄養士の社会での業務と役割・活躍の場等を学ぶ。								
到達目標	人々（自身・家族を含む）の心身の健康維持と増進，疾病予防への具体的な保健・医療・福祉の現状や制度等を学ぶ。 各種の統計資料や「健康日本21」等々を学び，将来の職場でも実際に患者さんや住民の方々への支援等に活用できる。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	公衆衛生と健康の概念	
第2回	疫学と疫学研究	
第3回	保健統計（人口静態統計・人口動態統計）	
第4回	保健統計（死因）	
第5回	保健統計（疾病）	
第6回	成人保健と健康増進（生活習慣と生活習慣病）	
第7回	成人保健と健康増進（健康日本21）	
第8回	精神保健福祉（メンタルヘルス），障がい者福祉	
第9回	母子保健，健診・検診	
第10回	地域保健，学校保健	
第11回	終末期医療と緩和ケア	
第12回	高齢者保健・介護保険制度・在宅医療	
第13回	感染症対策	
第14回	医療計画・医療制度，社会保障	
第15回	産業保健・職場の健康管理（トータル・ヘルスプロモーション・プラン），まとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
定期試験	100	ルーブリックに記載した評価項目がどの程度達成されているかを評価する。
出席・取り組み		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で紹介する保健・医療・福祉制度や統計資料等は，定期的に更新されます。メディアを通じて発信される様々な国内・国際情報，特に保健・医療・福祉等の情報に日頃から勤めて接するよう努力してください。 私たち自身や家族等の心身の健康問題としてもとらえて取り組んでください。
授業外学修	教科書，配布資料，授業内容及び関連領域に関して週4時間以上の学習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
公衆衛生がみえる 2026-2027	医療情報科学研究所	メディックメディア	978-4-89632-965-0	4,200円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	「国民衛生の動向」厚生労働統計協会 「きょうの健康」NHK出版			
その他	各種統計（人口統計，保健統計，感染症情報等々）が定期的に更新され，厚生労働省等からネット上に公開されます。日ごろから保健・医療・福祉等に関する最新の公開情報へのアクセスを習慣化しましょう。			
備考				

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	健康の維持・増進や疾病予防のための助言ができる知識を身につける。	それらの内容を理解し，明確に説明できる。	それらの内容を理解し，説明できる。	それらの内容を理解しているが，説明が少し足りない。	それらの内容の理解が不十分であり，説明が足りない。	それらの内容の理解と説明が不十分である。
思考・問題解決能力	健康を維持し向上させるため，具体的な保健・医療・福祉の提供体制や制度を活用できるように学ぶ。	それらを理解し，十分に活用できる。	それらを理解し，活用できる。	それらを理解しているが，活用が少し足りない。	それらの理解が不十分であり，活用が足りない。	それらの理解と活用が不十分である。

科目名	社会福祉概論			授業番号	NJ107	サブタイトル	(広義の社会福祉とは何かについて明らかにする。)		
教員	松井　圭三								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	社会福祉の歴史をふまえながら，現代社会における福祉の制度について説明する。								
到達目標	社会福祉の動向を学ぶなかで，利用者本位の支援について理解する。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	私たちの暮らしと社会福祉のポイントを抑える。 わが国の少子高齢化の現状と課題について学ぶ。	
第2回	栄養士が社会福祉を学ぶ意義のポイントを抑える。 栄養士が社会福祉を学ぶ根拠等について学ぶ。	
第3回	社会福祉のあゆみのポイントを抑える。 わが国の社会福祉の沿革について学ぶ。	
第4回	社会福祉の法律のポイントを抑える。 社会福祉関係の法律，制度について学ぶ。	
第5回	社会福祉の行財政のポイントを抑える。 厚生労働省，自治体の社会福祉担当部局や財政について学ぶ。	
第6回	社会福祉の実施体制のポイントを抑える。 児童相談所棟の関係機関，社会福祉施設等について学ぶ。	
第7回	社会福祉における直接的支援のポイントを抑える。 社会福祉における直接支援について概観する。	
第8回	社会福祉における間接的支援のポイントを抑える。 社会福祉における間接支援について概観する。	
第9回	社会福祉の担い手のポイントを抑える。 社会福祉専門職の現状と課題について学ぶ。	
第10回	公的扶助のポイントを抑える。 「生活保護法」，「生活困窮者自立支援法」の制度について学ぶ。	
第11回	児童家庭福祉のポイントを抑える。 児童家庭福祉関係の法律，制度について学ぶ。	
第12回	高齢者福祉のポイントを抑える。 「年金」，「医療」等の制度，サービスについて学ぶ。	
第13回	介護保険のポイントを抑える。 介護保険制度の内容及び課題について学ぶ。	
第14回	障害者福祉のポイントを抑える。 「障害者総合支援法」の内容，課題について学ぶ。	
第15回	社会福祉の課題のポイントを抑える。 これからの社会福祉について学ぶ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予習・復習,課題提出によって評価する。
レポート	90	レポートの課題について的確に解答しているかについて評価する。またレポートの内容を点検し、コメントの表記の上返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業内容の理解を深めるため，授業が始まるまでにワークの内容を読んでおくこと。
授業外学修	授業開始前までに，テキスト，ワークブックの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示すワークブックの課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
NIE社会福祉演習	今井慶宗他	大学教育出版	978-4-86692-247-8	

使用テキスト：自由記載	副教材として今井慶宗他編『新編社会福祉概論』大学教育出版2022年も使用します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	観音寺市シルバー人材センター3年，観音寺市福祉事務所2年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．社会福祉制度を理解する。	社会福祉制度をすべて理解できる。	社会福祉制度を概ね理解できる。	社会福祉制度を理解できる。	社会福祉制度をほとんど理解できない。	社会福祉制度を理解できない。
思考・問題解決能力	１．利用者本位の支援について理解する。	利用者本位のすべてを理解できる。	利用者本位を概ね理解できる。	利用者本位を理解できる。	利用者本位をほとんど理解できない。	利用者本位を理解できない。

科目名	人と環境			授業番号	NJ202	サブタイトル			
教員	楠本　晃子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	気候変動，外来生物，生物多様性，資源・エネルギー問題，大気・水環境汚染，化学物質汚染など，現代の環境問題は私たち現代の人類がその原因を作り，私たち自身に降りかかっている問題である。授業ではこれらの環境問題を，最新の知見，データーをもとに科学的にとらえ，その現状を説明し，改善のためにとるべき対策について考える機会を与える。各自が環境問題を日常生活レベルの問題と認識して研究調査を行い，今後の改善や行動に繋がる具体的なアイデアをスライドを用いて発表する。								
到達目標	・現代環境問題生起の基本的なメカニズムについて修得し理解している。 ・食と栄養の専門家として関わりの大きい環境問題について基礎的知識の習得している。 ・環境問題に関する時事ニュースについて関心を持ち，考えることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げる学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	気候変動の原因とその影響について理解する。気候変動の対策を考える。	
第2回	気候変動の原因とその影響について理解する。気候変動の対策を考える。	
第3回	気候変動の原因とその影響について理解する。気候変動の対策を考える。	
第4回	気候変動の原因とその影響について理解する。気候変動の対策を考える。	
第5回	気候変動の原因とその影響について理解する。気候変動の対策を考える。	
第6回	生物多様性について理解する。生物多様性を脅かす問題，および，生物多様性を守る取り組みについて学ぶ。	
第7回	生物多様性について理解する。生物多様性を脅かす問題，および，生物多様性を守る取り組みについて学ぶ。	
第8回	気候変動で起きている身近な問題について調査し、グループ発表をおこなう。	
第9回	気候変動で起きている身近な問題について調査し、グループ発表をおこなう。	
第10回	外来生物について理解する。外来生物によって起きる問題およびその対策について学ぶ。	
第11回	外来生物について理解する。外来生物によって起きる問題およびその対策について学ぶ。	
第12回	残留性有機汚染物質について学ぶ。残留性有機汚染物質の種類，生物及び環境への影響，規制について学ぶ。	
第13回	四大公害病について学ぶ。それぞれの公害について，原因物質，生物及び環境への影響，規制について学ぶ。	
第14回	生物多様性や外来生物に関する問題について調査し、グループ発表をおこなう。	
第15回	生物多様性や外来生物に関する問題について調査し、グループ発表をおこなう。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
レポート	20	グループ発表の内容および完成度によって評価する。プレゼンテーション後に教員よりコメントを伝え、フィードバックをおこなう。
定期試験	80	最終的な理解度および達成度を評価する。

評価の方法：自由記載	定期試験を公欠した者に対する追試験は実施するが，定期試験で単位不認定となった者（F）および欠席した者（K）に対しての再試験はおこなわない。
受講の心得	日頃より環境問題や生態系に関する時事ニュースに関心を持って目を通しておくこと。
授業外学修	(1)予習として，教科書を読み疑問点を明らかにしておく。 (2)復習として，授業で配布した資料を読み，理解を深める。 (3)発展学修として，環境問題や生態系に関する新聞記事やニュースを読み，地域や最新の話題に関心をもつ。 週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
図解でわかる　14歳から知る気候変動	インフォビジュアル研究所	太田出版	9784778317102	1，650円
図解でわかる　14歳からの生物多様性	インフォビジュアル研究所	太田出版	9784778318321	1，650円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．気候変動、環境問題、生物多様性の問題を理解し、説明することができる	気候変動、環境問題、生物多様性の問題について深く理解し、説明することができる	気候変動、環境問題、生物多様性の問題に関する知識を十分に身につけ、理解している	気候変動、環境問題、生物多様性の問題に関する知識を身につけている	気候変動、環境問題、生物多様性の問題に関する知識を身につけてはいるが、不十分である	気候変動、環境問題、生物多様性の問題に関する知識を身につけていない
思考・問題解決能力	１．気候変動、環境問題、生物多様性について、問題解決に向けて、具体的な活動を提案し、能動的に取り組むことができる	気候変動、環境問題、生物多様性について、自ら問題解決策を考え、能動的に行動することができる	気候変動、環境問題、生物多様性について、自ら問題解決策を考え、行動することができる	気候変動、環境問題、生物多様性について、問題解決策を考えることができる	気候変動、環境問題、生物多様性について、問題解決策を少し考えることができる	気候変動、環境問題、生物多様性について、問題解決策を考えることができない
態度	１．気候変動、環境問題、生物多様性の問題に関する時事ニュースについて関心を持ち、考えることができる	気候変動、環境問題、生物多様性の問題について高い関心を持ち、自分の考えを持つことができる	気候変動、環境問題、生物多様性の問題について高い関心を持っている	気候変動、環境問題、生物多様性の問題について関心を持っている	気候変動、環境問題、生物多様性の問題について少し関心を持っている	気候変動、環境問題、生物多様性の問題について関心を持っていない

科目名	公衆衛生学Ⅰ			授業番号	NJ203	サブタイトル			
教員	太田 潤								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	公衆衛生学は，人びとを疾病から守り，健康の保持・増進をはかることを目的としており，管理栄養士などの医療・健康関連分野を専門とする人びとの基礎となる学問である。学習する内容は，母子保健から老人保健までの年齢で区別される領域と，地域保健，精神保健，環境保健などの集団の社会的特性に関する領域まで，広い範囲にわたっている。そのうちで，公衆衛生学Iでは，疫学，保健統計，社会保障の分野を中心に学習する。								
到達目標	・社会あるいは家庭において，人びとの健康を保持・増進していくための基礎となる保健統計，疫学，社会保障の知識を身につける。 ・公衆衛生活動を行うために必要な信頼度の高い健康情報の収集，分析，情報管理の方法を学び活用できる。 ・管理栄養士国家試験の「社会・環境と健康」の分野での充分な実力を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	公衆衛生と健康の概念（テキスト p.2～p.9）	
第2回	疫学，疫学研究のデザイン（テキスト p.10～p.11，p.19～p.25）	
第3回	EBMの実践（テキスト p.32～p.33）	
第4回	疫学の効果指標（テキスト p.15～p.18）	
第5回	検査の指標とスクリーニング（テキスト p.26～p.29）	
第6回	疾病・死亡の指標，保健統計（テキスト p.12～14，p.38～p.39）	
第7回	保健統計；人口静態統計（テキスト p.40～p.43）	
第8回	保健統計；人口動態統計（テキスト p.44～p.53）	
第9回	保健統計；死因統計（テキスト p.54～p.61）	
第10回	保健統計；疾病統計（テキスト p.62～p.65）	
第11回	社会保障と医療経済；社会保障制度（テキスト p.152～p159）	
第12回	社会保障と医療経済；医療保障制度（テキスト p.160～p.167）	
第13回	社会保障と医療経済；国民医療費（テキスト p.168～p.171）	
第14回	地域保健（テキスト p.172～p.177）	
第15回	まとめ	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	最終的な理解度
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前に教科書で予習しておき，授業では理論・概念の理解に集中し，事後の復習により習得した知識を確実なものとする。
授業外学修	(1)予習として，教科書を読み疑問点を明らかにしておく。 (2)復習として，授業で作成したノートを整理する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
公衆衛生がみえる 2024-2025	医療情報科学研究所	メディックメディア	978-4-89632-928-5	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．公衆衛生と健康の概念について説明できる。	公衆衛生と健康の概念について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	公衆衛生と健康の概念について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	公衆衛生と健康の概念について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	公衆衛生と健康の概念について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	公衆衛生と健康の概念について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	２．わが国の保健統計について説明できる。	わが国の保健統計について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の保健統計について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の保健統計について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の保健統計について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の保健統計について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	３．わが国の社会保障制度について説明できる。	わが国の社会保障制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の社会保障制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の社会保障制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の社会保障制度について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の社会保障制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	4．わが国の地域保健制度について説明できる。	わが国の地域保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の地域保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の地域保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の地域保健制度について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の地域保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	5．わが国の介護保険制度について説明できる。	わが国の介護保険制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の介護保険制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の介護保険制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の介護保険制度について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の介護保険制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	6．わが国の国民健康増進施策について説明できる。	わが国の国民健康増進施策について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の国民健康増進施策について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の国民健康増進施策について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の国民健康増進施策について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の国民健康増進施策について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。

科目名	公衆衛生学Ⅱ			授業番号	NJ204	サブタイトル			
教員	太田　潤								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	公衆衛生学の学習内容は，母子保健から老人保健までの年齢で区別される領域と，地域保健，精神保健，環境保健などの集団の社会的特性に関する領域まで，広い範囲に亘っている。そのうちで，公衆衛生学IIでは，環境と健康，産業保健，学校保健の分野を中心に学習する。								
到達目標	・社会あるいは家庭において，人びとの健康を保持・増進していくための基礎となる環境保健，産業保健，学校保健，高齢者保健，地域保健の知識を身につける。 ・管理栄養士国家試験の「社会・環境と健康」の分野での充分な実力を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーの<知識・理解>の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	成人保健と健康増進；健康増進法，健康日本21（テキスト p.180～p.183）	
第2回	成人保健と健康増進；健康日本21（テキスト p.184～p.192）	
第3回	成人保健と健康増進；生活習慣病対策，特定健康診査・特定保健指導，がん対策，肝炎対策（テキスト p.193～p.199）	
第4回	母子保健，母子保健法（テキスト p.200～p.209）	
第5回	出産・育児に関わる制度，母体保護法，母子保健の統計（テキスト p.210～p.215，p220～229）	
第6回	高齢者保健，老人福祉法，高齢者医療確保法（テキスト p.230～p.235）	
第7回	介護保険法（テキスト p.236～p.249）	
第8回	在宅医療（テキスト p.250～p.253），精神保健福祉（テキスト p.250～p.271）	
第9回	食品保健；食品保健に関する法律，食品の表示，食品の種類と機能（テキスト p.314～p.319）	
第10回	食品保健；食中毒（テキスト p.320～p.331）	
第11回	学校保健（テキスト p.340～p.349）	
第12回	産業保健；産業保健総論，労働基準法，労働安全衛生法（テキスト p.350～p.369）	
第13回	産業保健；労働災害，職業性疾病（テキスト p.370～p.407）	
第14回	環境保健；環境と適応，地球環境の変化と健康影響，環境基本法（テキスト p.408～p.415）	
第15回	まとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	最終的な理解度
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前に教科書で予習しておき，授業では理論・概念の理解に集中し，事後の復習により習得した知識を確実なものとする。
授業外学修	(1)予習として，教科書のを読み疑問点を明らかにしておく。 (2)復習として，授業で作成したノートを整理する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
公衆衛生がみえる 2024-2025	医療情報科学研究所	メディックメディア	978-4-89632-928-5	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．わが国の飲酒に関する法律・制度について説明できる。	わが国の飲酒に関する法律・制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の飲酒に関する法律・制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の飲酒に関する法律・制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の飲酒に関する法律・制度について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の飲酒に関する法律・制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	２．わが国の喫煙に関する法律・制度について説明できる。	わが国の喫煙に関する法律・制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の喫煙に関する法律・制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の喫煙に関する法律・制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の喫煙に関する法律・制度について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の喫煙に関する法律・制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	３．わが国の学校保健制度について説明できる。	わが国の学校保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の学校保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の学校保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の学校保健制度について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の学校保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	4．わが国の産業保健制度について説明できる。	わが国の産業保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	わが国の産業保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	わが国の産業保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	わが国の産業保健制度について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	わが国の産業保健制度について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。
知識・理解	5．疫学研究の結果について説明できる。	疫学研究の結果について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を一般市民にも理解できるように説明できる。	疫学研究の結果について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を事例を用いて適切に説明できる。	疫学研究の結果について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を適切に説明できる。	疫学研究の結果について、その概要は説明できるが、キーワード（専門用語）の意味を適切に説明できない。	疫学研究の結果について、その概要およびキーワード（専門用語）の意味を説明できない。

科目名	公衆衛生学実習 (隔週)			授業番号	NJ205A	サブタイトル			
教員	太田 潤								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	講義（公衆衛生学I・II）で学んだ公衆衛生に関する知識を，実習によってより確かなものとして活用できるようにする。								
到達目標	人口統計：公開データを用いて人口統計の基本的な特徴を理解する。 疫学：疫学指標の基礎的な考え方を理解する。 健康格差：社会経済要因と健康の関連について理解を深める。 健康政策：健康政策の指標を用いた健康状況の把握について理解する。 国際比較：国際的な健康指標を用いた比較の視点を理解する。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	人口統計（実習導入）	
第2回	人口統計（実習）	
第3回	人口統計（実習まとめ）	
第4回	疫学（実習導入）	
第5回	疫学（実習）	
第6回	疫学（実習まとめ）	
第7回	健康格差（実習導入）	
第8回	健康格差（実習）	
第9回	健康格差（実習まとめ）	
第10回	健康政策（実習導入）	
第11回	健康政策（実習）	
第12回	健康政策（実習まとめ）	
第13回	国際比較（実習導入）	
第14回	国際比較（実習）	
第15回	国際比較（実習まとめ）	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	実習内活動への参加状況
レポート	50	各回の内容・ポイントの的確な文章表現力。全体に対して、よかった点や不十分だった点などを解説してフィードバックする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前に，講義（公衆衛生学I・II）の内容のうち，該当部分を予復習しておく。事後に復習し，習得した知識を研究や国家試験問題解答に活用できるようにする。
授業外学修	発展学習として，授業で紹介された参考文献・ホームページを確認する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
公衆衛生がみえる 2024-2025	医療情報科学研究所	メディックメディア	978-4-89632-928-5	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	公開データから人口統計の特徴を把握し説明する力	データの特徴を正確に把握し要点を簡潔に整理して説明できる	データの主要な特徴を正しく把握し説明できる	基本的な特徴を把握し概ね説明できる	特徴の把握に抜けや誤りがあり説明が不十分である	データの読み取りができず特徴を説明できない
知識・理解	疫学指標の概念を理解し適切に説明できる力	指標の概念と用途を深く理解し事例を用いて明確に説明できる	指標の概念を正確に理解し説明できる	指標の基本的な意味を理解し説明できる	指標の理解に誤解や抜けがあり説明が不十分である	指標の概念を理解できておらず説明できない
思考・問題解決能力	社会経済要因と健康の関連を論理的に考察する力	複数の要因を統合して論理的かつ深い考察を示し示唆を提示できる	要因間の関連を適切に整理し妥当な考察を示せる	基本的な関連を整理し説明できる	関連の整理が不十分で考察が浅い	関連を整理できず考察がほとんど示せない
思考・問題解決能力	政策指標を基に状況を整理し示唆を導く力	指標を多面的に解釈し論理的な示唆や改善案を明確に提示できる	指標を適切に解釈し妥当な示唆を提示できる	指標から基本的な状況把握と簡潔な示唆を示せる	指標の解釈に偏りや抜けがあり示唆が弱い	指標の解釈ができず示唆を提示できない
思考・問題解決能力	国際的視点で指標を読み解き考察する力	指標の特徴や前提を踏まえ多角的に考察し示唆を論理的に示せる	指標の特徴を踏まえ妥当な比較と考察を示せる	基本的な比較視点で考察を示せる	比較の視点が限定的で考察が浅い	指標の理解が乏しく比較・考察ができない

科目名	介護・看護演習			授業番号	NJ409	サブタイトル			
教員	中野　ひとみ								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	障害のある方(身体・知的・精神障害)の特性や老化に伴う身体的変化の状態を理解し，必要に応じた具体的な支援方法を演習形式を中心に学ぶ。								
到達目標	(1)障害のある方(身体・知的・精神障害)の特性を理解することができる。 (2)老化に伴う身体的変化を理解することが出来る。 (3)障害のある方や高齢者への安全安楽な支援方法を身につけることができる。 なお，本講義はディプロマ・ポリシーの＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	ディスカッションやグループワークを行う。								

回	概要	担当
第1回	本講義の進め方・留意点について 障害とは何か・老化に伴う身体的変化とは何か，支援の必要性について説明し理解する。	
第2回	安全・安楽な支援方法の重要性について 対象者理解の必要性について理解する。	
第3回	コミュニケーション障害について(1) 具体的な支援方法(発達障害や知的障害)の実際を理解する。 コミュケーション障害の体験と支援者の演習を行う。	
第4回	コミュニケーション障害について(2) 具体的な支援方法(構音障害・失語・難聴)の実際を理解する。 コミュケーション障害の体験と支援者の演習を行う。	
第5回	視覚に障害がある状態について アイマスク体験及び支援方法・注意点を理解する。 視覚障害者支援の体験と支援者の演習を行う。	
第6回	移動が困難な状態について(1) 支援方法(歩行介助・杖やストレッチャー)を理解する。 移動困難者の体験と支援者の演習を行う。	
第7回	移動が困難な状態について(2) 支援方法(車いす)を理解する。 移動困難者の体験と支援者の演習を行う。	
第8回	食事が困難な状態について 食事介助の支援方法を理解する。 食事困難者の体験と支援者の演習を行う。	
第9回	入浴が困難な状態について(1) 部分清拭(足浴)の方法を理解する。 入浴困難者の体験と支援者の演習を行う。	
第10回	入浴が困難な状態について(2) 部分清拭(手浴)の方法を理解する。 入浴困難者の体験と支援者の演習を行う。	
第11回	排泄が困難な状態について(1) 排泄介助の支援方法を理解する。 排泄困難者の体験と支援者の演習を行う。	
第12回	排泄が困難な状態について(2) ストーマや尿路カテーテルの管理方法を理解する。 ストーマや尿路カテーテルの生活上の留意点を理解する。	
第13回	着脱が困難な状態について 衣服交換の支援方法を理解する。 着脱困難者の体験と支援者の演習を行う。	
第14回	バリアフリーや共生社会の定義や概要・地域社会のなかの課題を理解する。 グループワークを行い，それぞれが考える地域共生社会のあり方を発表する。	
第15回	障害の理解・高齢者の理解を確認し，演習や講義のまとめを行う。 これまでの学びを振り返り，実際の関わり時の留意点のまとめを行う。 最終課題の説明を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	演習の取り組み方・授業に集中して取り組むことができているかで評価を行う。
レポート	30	授業内の気づきが記述ができているかで評価を行う。 リアクションペーパーの内容は次回の講義でフィードバックを行う。
小テスト		
定期試験		
その他	40	課題に対して理論的に自分の意見が的確に記述が出来ているかで評価を行う。

評価の方法：自由記載	・毎回の授業終了前に，リアクションペーパーを記述していただきます。(約10分) ・最終評価の課題レポートには，全体を振り返って自分の意見を記述していただきます。 受講態度，リアクションペーパー，最終レポートを参考に総合的に評価する。
受講の心得	本講義は，一コマのなかで前半座学（理論）・後半実技（演習の実際）を中心に進めていきます。 ・動きやすい服装と身だしなみで出席すること。 ・学生同士で演習を行います。支援対象者の気持ちを大切にすることを意識してください。
授業外学修	1.予習として，次週の講義内容に関わる内容について疑問点を明らかにする。 2.復習として，課題のレポートを書く。 3.発展学習として，講義で紹介された参考文献を読む。 大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	レジュメを配布します。 各自でファイリングしてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。認知症キャラバンメイト。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．老化に伴う身体的変化や高齢者の特徴及び障害児・者の特性を理解できる	老化に伴う身体的変化や高齢者の特徴及び障害児・者の特性について理解でき，特徴や留意する事項を述べることができている。	老化に伴う身体的変化や高齢者の特徴及び障害児・者の特性について理解でき，特徴や留意する事項を適切に述べることができている。	老化に伴う身体的変化や高齢者の特徴及び障害児・者の特性について理解できているが，特徴や留意する事項を述べることができていない。	老化に伴う身体的変化や高齢者の特徴及び障害児・者の特性について一部理解できているが，特徴や留意する事項を述べることもできていない。	老化に伴う身体的変化や高齢者の特徴及び障害児・者の特性について特徴や留意する事項を全く述べることができていない。
知識・理解	２．バリアフリーや地域社会における共生社会の課題を理解できる。	バリアフリーや地域共生社会の意味はその必要性や意義について具体的に説明できている	バリアフリーや地域共生社会の意味はやその必要性や意義について説明できている	バリアフリーや地域共生社会の意味はわかるが，その必要性や意義について説明できない。	バリアフリーや地域共生社会の意味は一部わかるが，その必要性や意義について説明できない。	バリアフリーや地域共生社会とは何か理解できていない。
思考・問題解決能力	支援技術が適切な方法であるか考えて実施ができる	安全な支援方法をを実施するための危険予測や課題を見つけることができ，それに対応できる解決策を具体的に述べることができている。	安全な支援方法をを実施するための危険予測や課題を見つけることができ，それに対応できる解決策を述べることができている。	安全な支援方法をを実施するための危険予測や課題を一部見つけることができ，それに対応できる解決策を曖昧だが述べることができている。	安全な支援方法をを実施するための危険予測や課題を一部見つけることができ，それに対応できる解決策を述べることはできない。	安全な支援方法を実施するための危険予測や課題を全く理解できない。
技能	１．各支援方法の実際を手順に則り，安全安楽に留意し実施することができる。	支援を受ける利用者・家族の気持ちを考えることができる。対象者への心理的支援の必要性を考えることができ，適切な声かけや支援方法を見出すことができる。安全安楽への配慮が的確にできている。	支援を受ける利用者・家族の気持ちを考えることができる。対象者への心理的支援の必要性を考えることができ，声かけや支援方法を見出すことができる。安全安楽への配慮ができている。	支援を受ける利用者・家族の気持ちを考えることができる。対象者への心理的支援の必要性を考えることができるが，声かけや支援方法への内容は欠けている。安全安楽への配慮がほぼ行えている。	支援を受ける利用者・家族の気持ちを一部考えることができる。対象者への心理的支援の必要性の一部を考えることができるが，声かけや支援方法は考えることができていない。安全安楽への配慮が乏しい。	支援を受ける利用者・家族の気持ちを考えることができない。また，対象者への心理的支援の必要性や声かけや支援方法を考えることができない。安全安楽への配慮が全くできていない。
態度	介護者として他者を思いやり相手の視点に立ち，支援を行うことができる。	介護者として介護の留意点や相手の視点に立った支援を的確に理解し，必要な支援を考える力が身についている。	介護者として介護の留意点や相手の視点に立った支援を理解し，必要な支援を考える力が身についている。	介護者として介護の留意点や相手の視点に立った支援を理解しているが，必要な支援を考えることはできていない。	介護者として介護の留意点や相手の視点に立った支援は，一部は理解しているが、具体的な必要な支援を考えることはできていない。	介護者として介護の留意点や相手の視点に立った支援を全く理解できていない。

科目名	細胞生理化学実験 (隔週)	授業番号	NK104A	サブタイトル	
教員	井之川 仁				

単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	実験（対面授業科目）	必修・選択	必修

授業概要	人体の組織観察，手羽先の解剖を通して，器官，組織の構成と，それぞれのつながりを理解することで，人体の構造を理解する。浸透圧，たんぱく質，糖質の実験をとおして細胞で行われる反応を理解する。これらの基礎的な実験を行うことで，「解剖生理学実験」，「生化学実験」を行う上での知識と実験技術を習得する。
到達目標	器官，組織，細胞レベルでの構造と構成，それぞれのつながりが視覚的に理解できるとともに，身体で起こる反応の一つ一つが細胞内での反応であることを理解する。 本実験を通して実験を行う上での基礎知識と技術を習得し，次年度以降に開講される解剖生理学実験，生化学実験において習得した知識と技術が生かされるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。
授業計画 備考	

回	概要	担当
第1回	顕微鏡の使用方法 実験の目的，進め方を説明したのち，顕微鏡の使用方法を習得する。	
第2回	顕微鏡の使用方法 実験の目的，進め方を説明したのち，顕微鏡の使用方法を習得する。	
第3回	動物細胞と植物細胞の観察 植物細胞と動物細胞の観察を行う。自ら顕微鏡サンプルを作成し，観察，記録をとり結果の検討を行う。	
第4回	動物細胞と植物細胞の観察 植物細胞と動物細胞の観察を行う。自ら顕微鏡サンプルを作成し，観察，記録をとり結果の検討を行う。	
第5回	細胞の観察と顕微鏡での計測 植物細胞をサンプルに顕微鏡下で細胞の長さを測定する手技を習得する。	
第6回	細胞の観察と顕微鏡での計測 植物細胞をサンプルに顕微鏡下で細胞の長さを測定する手技を習得する。	
第7回	手羽先の解剖　ー動物の組織観察ー 器官，組織の成り立ちを手羽先の解剖を通して理解する。	
第8回	手羽先の解剖　ー動物の組織観察ー 器官，組織の成り立ちを手羽先の解剖を通して理解する。	
第9回	組織を構成する細胞の観察 手羽先の解剖により採取した各組織を用いて顕微鏡観察を行い，細胞レベルで組織の成り立ちを理解する。	
第10回	組織を構成する細胞の観察 手羽先の解剖により採取した各組織を用いて顕微鏡観察を行い，細胞レベルで組織の成り立ちを理解する。	
第11回	糖質の定性反応ー糖質共通の反応 単糖類，二糖類，多糖類の各糖質を用いて糖質の定性実験を行い，それぞれの糖質について違いを理解する。	
第12回	糖質の定性反応ー糖質共通の反応 単糖類，二糖類，多糖類の各糖質を用いて糖質の定性実験を行い，それぞれの糖質について違いを理解する。	
第13回	たんぱく質の定性反応ー凝固・沈殿反応 卵白を用いてたんぱく質の定性実験（凝固・沈殿反応）を行い，たんぱく質の変性について理解する。	
第14回	たんぱく質の定性反応ー凝固・沈殿反応 卵白を用いてたんぱく質の定性実験（凝固・沈殿反応）を行い，たんぱく質の変性について理解する。	
第15回	定性実験のまとめ 糖質の定性，たんぱく質の定性実験を通して得られた結果から栄養素の構造的特徴を理解するとともに，判別に必要な検出方法について理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	積極的な実験に関わる態度によって評価する。
レポート	70	実験の理解度をレポートで評価する。レポートには毎実験課題を設ける。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントを行う。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実験は実際に行って初めて修得できる科目である。正当な理由なしで実験を欠席した者は単位を取得できない。やむを得ない欠席や遅刻の場合は，後日自ら実際に実験すること。
授業外学修	時間外学修をとおして，実験で修得した内容を体系的に理解しておくことが重要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	人間栄養学科編「細胞生理化学実験テキスト」を配布する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
三訂版　視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録	鈴木孝仁 監修	数研出版	978-4-410-28166-2	1，130円＋税

参考書：自由記載	「栄養生理・生化学実験」 近藤義和ほか　編　朝倉書店 「生化学実験」 林淳三　編　建帛社
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．授業内容について理解できている。専門用語を適切に使える。学習内容を適切にまとめる事ができる。	授業内容を完全に理解し、深い洞察力を持って関連付けができる。専門用語を正確かつ適切に使用し、他者に説明できる。学んだ情報を体系的に整理し、独自の見解を加えられる。	授業内容をよく理解し、ほとんどの概念を関連付けられる。専門用語をほぼ正確に使用できる。学んだ情報を適切に整理し、要点をまとめられる。	授業内容の基本的な理解があり、主要な概念を把握している。基本的な専門用語を使用できる。学んだ情報の主要な部分を整理できる。	授業内容の理解に一部不足があり、概念の把握が不完全。専門用語の使用に誤りがある。学んだ情報の整理が不完全。	授業内容をほとんど理解できておらず、基本的な概念の把握も困難。専門用語をほとんど使用できない。学んだ情報をほとんど整理できない。
思考・問題解決能力	１．実験結果をまとめることができる。	実験結果から適切な表やグラフにまとめ、視覚的にも分かりやすい表やグラフを作成することができる。	実験結果から適切な表やグラフにまとめることができる。	実験結果から表やグラフにまとめることができる。	実験結果から何らかの表やグラフを作成することができる。	実験結果を表やグラフにまとめることができない。
思考・問題解決能力	２．実験結果から考察ができる。	実験結果をまとめた表やグラフから目的を考察することができる。また補足や追加の実験などの提案もできる。	実験結果をまとめた表やグラフから自らの意見も含めて考察することができる。	実験結果をまとめた表やグラフから目的を考察できる。	実験結果をまとめた表やグラフから結果をまとめることができる。	実験結果をまとめた表やグラフから何を考察したらよいのか分からない。
技能	１．顕微鏡を用いて実験ができる。	顕微鏡観察が行えるサンプル作成ができ、顕微鏡観察や観察しながらデータ収集もできる。	顕微鏡観察が行えるサンプル作成ができ、より鮮明な顕微鏡観察ができる。	顕微鏡観察が行えるサンプル作成ができ、顕微鏡観察もできる。	顕微鏡観察が行えるサンプル作成はできるが、顕微鏡の操作が困難である。	顕微鏡観察が行えるサンプル作成ができない。

科目名	生化学Ⅰ			授業番号	NK105	サブタイトル			
教員	坪井　誠二								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	生化学とは生命現象を化学的に研究する，化学と生物学の融合した学問である。 生化学Ⅰでは，栄養学的にも非常に重要な成分である糖質，脂質，アミノ酸とタンパク質等の種類や構造・機能について学修する。 タンパク質は生細胞中最も多量に存在する高分子であり、すべての細胞中、また、細胞のすべての部分に含まれている。これらのタンパク質のアミノ酸配列及び立体構造と機能との関連、また、生理作用との関係について分子レベルから考えてみる。さらに機能タンパク質としての酵素の働きについて、構造と反応様式を中心に講述する。さらに、生体で起こっているエネルギー獲得のための糖の基本的な代謝経路についても講述する。								
到達目標	1. 代表的な生体高分子を構成する小分子（アミノ酸、糖、脂質、など）の構造に基づく化学的性質を説明できる。 2.代表的な生体分子（脂肪酸、コレステロールなど）の代謝反応を栄養学の観点から説明できる。 3. アミノ酸を列挙し、その構造に基づいて性質を説明できる。 4. タンパク質の構造（一次、二次、三次、四次構造）と性質を説明できる。 5. 代表的なビタミンの種類、構造、性質、役割を説明できる。 6. タンパク質の細胞内での分解について説明できる。 7. 酵素反応の特性と反応速度論を説明できる。 8. 酵素反応における補酵素、微量金属の役割を説明できる。 9. 代表的な酵素活性調節機構を説明できる。 10. エネルギー代謝の概要を説明できる。 11. 解糖系及び乳酸の生成について説明できる。 12.糖新生について説明できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	アミノ酸の構造	
第2回	アミノ酸の性質	
第3回	アミノ酸とペプチド	
第4回	タンパク質の構造	
第5回	タンパク質の分類と機能	
第6回	タンパク質の成熟と分解、タンパク質解析の基本技術	
第7回	酵素の作用機序	
第8回	酵素反応の速度論	
第9回	酵素反応の阻害、酵素反応における補酵素の働き	
第10回	糖質の種類と分類	
第11回	糖質の構造	
第12回	糖質の代謝（解糖系）	
第13回	糖質の代謝（クエン酸回路）	
第14回	糖質の代謝（電子伝達系他）	
第15回	グルコースの完全酸化	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な授業態度、状況によって評価する。
中間テストおよび定期試験	80	中間テストおよび定期試験により、最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	必須科目であるため，管理栄養士国家試験につながる厳密な評価試験を行う。 定期試験および中間テストの成績を素点とし、授業への取り組み姿勢を加点して評価する。
受講の心得	生化学は，生命現象を化学的に研究する，化学と生物学の融合した学問である。 生化学Ⅰでは，基本的栄養成分や，生体機能を担うタンパク質の基本事項を学習するため，２年次後期以降に開講される管理栄養士・栄養士のための専門科目に向けて理解が必須な科目である。 学習を先送りすることなく，毎回講義内容を身につけていくこと。
授業外学修	必須科目であり，理解には時間を要するかもしれない。 講義は基本的に板書を行う。従って、記憶の新しいうちにノートをまとめておくことが望ましい。 毎回の復習が重要となる。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド　生化学	園田 勝　編	羊土社	978-4-7581-1354-0	2800
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で紹介する。
その他	専門科目の理解のためには，避けて通れない必須科目である。 管理栄養士国家試験の頻出項目を多く含んでいる。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．糖質・脂質・アミノ酸・タンパク質の種類と構造について理解している。	学修した糖質・脂質・アミノ酸・タンパク質の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修した糖質・脂質・アミノ酸・タンパク質の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した糖質・脂質・アミノ酸・タンパク質に関する知識について、大体述べることができる。	学修した糖質・脂質・アミノ酸・タンパク質に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した糖質・脂質・アミノ酸・タンパク質に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	２．酵素の作用機序について理解している。	学修した酵素の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修した酵素の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した酵素に関する知識について、大体述べることができる。	学修した酵素に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した酵素に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	３．糖質の代謝について理解している。	学修した糖質の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修した糖質の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した糖質に関する知識について、大体述べることができる。	学修した糖質に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した糖質に関する知識について、全く表現することができない。

科目名	解剖生理学Ⅰ			授業番号	NK201	サブタイトル			
教員	井之川 仁								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	管理栄養士として栄養指導を行うためには、栄養がどのように人体で利用されるかを知らなければならない。解剖生理学の講義は、身体の深遠な複雑性と栄養の本質について深く理解する上で不可欠であり、身体がどれほど神秘的で複雑な構造と機能を持つかを認識する手段である。身体は単なる機械ではなく、骨格、筋肉、器官、神経などが織り成す一つの芸術品とも言える。解剖生理学を学ぶことで、栄養がどのように身体全体で吸収され、代謝され、エネルギーとなっているかを理解する手助けとなる。身体の構造と栄養の交わりは、個々の細胞から全体の健康へと繋がる。身体の各部位が自然の秩序に従い、連動し、器官や組織は個別に機能するだけでなく、全体としての連携を保ちながら生命の秩序を構築している。このことを理解することは、栄養をもとに心身の全体的な健康を追求する根拠となる。本講義では人体の構造（解剖学）と機能（生理学）についての基礎を中心に講義する。 多様なメディアを用いた授業を行う。方法はオンデマンドで行う。毎回の授業の内30分程度をオンデマンドとする予定である。								
到達目標	"本講義を受講することで、管理栄養士として身につけておくべき人体の構造と機能について各系統レベルでの基礎を学び、理解し説明できるようになる。 ・各系統レベルでの構造の特徴と名称を言える。 ・各系統レベルでの機能を説明できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。"								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	"概要・細胞と組織 解剖生理学は解剖学と生理学の双方を学ぶ講義である。人体の構成要素を解剖学的視点と生理学的視点の両方から理解するためにそれぞれの学問の概要を説明する。さらに、我々の人体を構成する要素とその体系的な働きを理解するために細胞と組織の構造と機能を理解する。"	
第2回	"情報伝達 人体は50兆以上もの多彩な細胞により構成されている。これらの細胞が適切に働くためにはお互いにコミュニケーション（情報伝達）を取る必要がある。細胞間の情報伝達は、相互に依存し合い、共鳴しあう存在の示唆である。各細胞が他の細胞とコミュニケーションをとり、信号を交換することで、生命全体が一つの調和の中で共存していると考えることができる。細胞は異なる方法で情報を共有し、受容しする。細胞膜を通じての物質の取り込みや放出、細胞内でのシグナル伝達などがこれに該当する。本講義では、化学物質を用いて情報伝達を行う基本的な仕組みを理解する。"	
第3回	"神経系Ⅰ 神経系は数多くの神経細胞とシナプスから構成され、それぞれが異なる役割を果たしている。これは統一と多様性が調和する複雑なシステムであり、個体が一体として機能しつつも多彩な経験や視点を持つことを示唆している。脳は私たちの意識の中心であり、神経活動が知覚や思考、感情などを生み出す原動力となっています。神経系を通じて私たちが自己と外部世界との関係を構築し、その意味を追求していると考えることができる。神経系は、情報を伝達し、処理し、統合する複雑なネットワークであり、信号の伝達、情報処理、そして応答の機能を持つ生体の情報処理システムと考えることができる。本講義では、人体を統合的に制御しているのは神経系を構成する神経細胞（ニューロン）と神経膠細胞（グリア細胞）について理解を深める。また、中枢神経、末梢神経の構造および脳神経の構造と機能について理解する。"	
第4回	"神経系Ⅱ 神経系は数多くの神経細胞とシナプスから構成され、それぞれが異なる役割を果たしています。これは統一と多様性が調和する複雑なシステムであり、個体が一体として機能しつつも多彩な経験や視点を持つことを示唆しています。脳は私たちの意識の中心であり、神経活動が知覚や思考、感情などを生み出す原動力となっています。神経系を通じて私たちが自己と外部世界との関係を構築し、その意味を追求していると考えることができます。神経系は、情報を伝達し、処理し、統合する複雑なネットワークであり、信号の伝達、情報処理、そして応答の機能を持つ生体の情報処理システムと考えることができます。本講義では、中枢神経特に大脳の構造と機能や脊髄の反射回路についてその構造と機能の基礎を理解する。"	
第5回	"内分泌系 内分泌細胞が分泌し、極微量でありながら細胞の機能を調節する化学物質をホルモンと呼ぶ。ホルモンは血液中に分泌され、全身を巡るが特定の細胞だけがその作用を受ける。これには受容体と呼ばれるホルモンを受け取る仕組みが関与している。つまり内分泌系は、ホルモンを介して身体の異なる部位や機能との調和を担当している。この系統が円滑に機能することで、個体は成長、発達、繁殖、エネルギー利用などの複雑なプロセスを調整できる。これはまさに生命のシンフォニーであり、内分泌系が指揮棒を振り、各器官や機能がハーモニーを奏でる様子を想像させる。本講義では内分泌の基本的な仕組みと体内の内分泌系について理解する。"	
第6回	"筋・骨格 筋と骨格は動物が自身の身体を移動させるために発達させてきた。骨は骨格として身体を支えるものであるが、働きはそれだけではない。造血やカルシウムの貯蔵庫としての働きもある。筋組織は大別すると骨格筋、心筋、平滑筋３種類があり、それぞれ特徴や役割が異なっている。骨格筋は身体中には約400種類あるといわれており様々な働きを持つ。筋と骨の基本的な構造と機能、関節とともに働く骨格筋の運動機能を理解する。"	
第7回	"消化器系Ⅰ 消化器系は1本の長い管からなる消化管とそれに付属する付属器から構成される。体内を貫く消化管の内部は体内にあっても体外と繋がっており、そこに分泌することを外分泌と呼ぶ。食べ物を消化することは、外部の世界から身体の内部への交流の一環です。食べ物は外部の環境から取り入れられ、身体はこれを内部で受け入れ、変容させていく。消化器系はまた、身体の恒常性を保つ重要な機能を果たする。栄養素やエネルギーの摂取により身体が安定した状態を維持できるように働く消化器系について、消化管とその付属器の構造と基礎的な消化・吸収の働きを理解する。"	
第8回	"消化器系Ⅱ 消化器系は1本の長い管からなる消化管とそれに付属する付属器から構成される。体内を貫く消化管の内部は体内にあっても体外と繋がっており、そこに分泌することを外分泌と呼ぶ。食べ物を消化することは、外部の世界から身体の内部への交流の一環です。食べ物は外部の環境から取り入れられ、身体はこれを内部で受け入れ、変容させていく。消化器系はまた、身体の恒常性を保つ重要な機能を果たする。栄養素やエネルギーの摂取により身体が安定した状態を維持できるように働く消化器系について、消化管とその付属器の構造と基礎的な消化・吸収の働きを理解する。"	

第9回	"血液・リンパ系 血液は血管の中を循環する液体で、多様な生理学的機能を担う重要な組織です。水分が殆どを占めるが、他には血球類、蛋白質、糖質、脂質等の栄養素や無機塩類などが含まれている。血液は栄養素や酸素の供給だけでなく、代謝産物の排出やホルモンの運搬、免疫応答のサポートなど、様々な機能を果たしています。リンパ液は血液がろ過された液体で、免疫に関連する血球類が含まれる。体内の50兆もの細胞に栄養や酸素を届ける血液、そして免疫に関係するリンパ系の構造と機能を理解する。"	
第10回	"循環器系 循環器系は身体に栄養と酸素を供給し、同時に老廃物や二酸化炭素など不要な物質を運搬排出することで、生命の継続と調和を支える重要なシステムです。循環器系は心臓と血管系からなり、血液を循環させる役割を持つ。血液を循環させる心臓および血液を流す血管系、動脈と静脈について構造と働きの基礎を理解する。"	
第11回	呼吸器系 呼吸器系は体内に酸素を取り込み、二酸化炭素を排泄する役割を持つ。酸素および二酸化炭素のガス交換は肺の内部にある肺胞とそれを取り囲む毛細血管との間で行われている。呼吸は生命の営みを象徴し、吸気と呼気の循環は個体の存在そのものを表現しています。呼吸をするために用いられる筋肉、呼吸筋を含め、呼吸器系の構造と機能の基礎を理解する。	
第12回	腎・泌尿器系 腎臓は血液をろ過して老廃物を除去するだけではなく、血圧調節やカルシウム吸収に重要な役割をもつ臓器である。つまり、腎臓は身体の浄化と調和の司令塔といえるでしょう。血液中の老廃物や余分な塩分を取り除き、体内の水分と電解質のバランスを保つことで、腎臓は身体の調和を維持しています。泌尿器系は血液をろ過して生成された尿を貯め、排泄するための臓器である。腎臓・泌尿器系の構造と機能の基礎を学び、尿生成の仕組みについて理解する。	
第13回	"生殖器系 生殖器系は、生命の連綿とした流れを担い、個々の存在が宇宙の中で自身の存在を確立し、その中で一時的ながら永遠のような継続を果たす手段ともいえる。生殖は、単なる生物学的な行為だけでなく、個体が自身の存在や遺伝子を未来へと誇り高く継承していく根源的な行為である。男性と女性という性の違いについて、生殖器の構造と機能の基礎を理解する。"	
第14回	"免疫系 免疫系は身体を守り、異物や病原体から守るための防御システムです。これは、体内に侵入した細菌、ウイルス、真菌などの異物に対抗するために働く複雑な仕組みで構成されています。免疫系はまさに身体の境界線を定め、内部と外部、自己と非自己を区別する。この境界線が曖昧になると、身体は混乱し、異常な免疫応答が引き起こされる。本講義では、免疫系を構成する要素である血球類について基本的な機能を理解する。"	
第15回	"感覚系 感覚系は私たちが存在するということの証拠であり、私たちの経験が現実との交わりの中で築かれていることを示唆しています。色や音、触感などの感覚が私たちにもたらす印象や感情は、私たちが存在し、世界と繋がっていることの証明となります。感覚系は身体が外部からの情報を受け取り、それを処理して知覚や行動に変換する複雑なネットワークです。生体の情報処理システムとして機能し、外界からの刺激をデータとして取り込み、それを解釈して経験を形成する。感覚器はセンサーのようなもので、例えば目、耳、皮膚、舌、鼻などが含まれます。これらの感覚器は外部からの刺激を受け取り、その情報を神経経路を通じて中枢神経系に伝達する。ここでの情報は、電気的な信号として処理され、脳内で統合されます。本講義では、このような感覚系を構成するここの感覚器の構造と機能を理解する。"	
授業計画　備考2	生物学，基礎栄養学で学んだ内容の復習を十分行っておくこと。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	課題の得点と取り組みにより評価する。内容について講評する。
レポート		
小テスト	10	各授業での理解度を確認する小テストを行う。結果について講評する。
定期試験	80	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	人体を構成する器官の構造と機能についての理解を評価する。
受講の心得	高校時代に学習した基礎生物学などの人体に関わる分野を十分復習しておくこと。 予習，復習を十分行うこと。重要な語句などはプリントとして配布するので復習の手がかりとすること。
授業外学修	講義内容の復習と記憶定着のための課題を課す。 毎週最低4時間の講義内容の予習，復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学	志村二三夫他	羊土社	978-4-7581-1362-5	2，900円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『標準生理学』,『現代の生理学』,『医科生理学展望』
その他	図書館には解剖生理学に関する蔵書が取りそろえてあるので、復習に活用すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無

担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	知識	講義で述べた範囲以上について理解し説明できる。知識を健康維持増進と関連付けられる。	講義で述べた範囲について完全に理解し説明できる。	講義で述べた範囲についておおよそ理解し説明できる。	講義で述べた範囲についていくつか理解し説明できる。	講義で述べた範囲について理解しておらず説明できない。
知識・理解	理解度	講義で述べた範囲以上について理解し説明できる。知識を健康維持増進と関連付けられる。	講義で述べた範囲について完全に理解し説明できる。	講義で述べた範囲についておおよそ理解し説明できる。	講義で述べた範囲についていくつか理解し説明できる。	講義で述べた範囲について理解しておらず説明できない。

科目名	解剖生理学Ⅱ			授業番号	NK202	サブタイトル			
教員	井之川 仁								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	管理栄養士として栄養指導を行うためには、栄養がどのように人体で利用されるかを知らなければならない。解剖生理学の講義は、身体の深遠な複雑性と栄養の本質について深く理解する上で不可欠であり、身体がどれほど神秘的で複雑な構造と機能を持つかを認識する手段である。身体は単なる機械ではなく、骨格、筋肉、器官、神経などが織り成す一つの芸術品とも言える。解剖生理学を学ぶことで、栄養がどのように身体全体で吸収され、代謝され、エネルギーとなっているかを理解する手助けとなる。身体の構造と栄養の交わりは、個々の細胞から全体の健康へと繋がる。身体の各部位が自然の秩序に従い、連動し、器官や組織は個別に機能するだけでなく、全体としての連携を保ちながら生命の秩序を構築している。このことを理解することは、栄養をもとに心身の全体的な健康を追求する根拠となる。本講義では人体の構造（解剖学）と機能（生理学）についての基礎となる解剖生理学Ⅰをふまえ恒常性の維持や個体としての統合された生理機能発現の仕組みを中心に講義する。本講義は多様なメディアを用いた講義を行う。方法はオンデマンドで行う。毎回の授業の内30分程度をオンデマンドとする予定である。予定は変更されることがあるのでかならずクラスルームで確認すること。								
到達目標	本講義を受講することで、管理栄養士として身につけておくべき人体の構造と機能について各系統レベルでの基礎に加え、発展的な内容を理解し説明できるようになる。 ・各系統レベルでの機能に加え、他の器官との相互作用を説明できる。 ・個体としての統合された生理機能の仕組みを説明できる。 ・恒常性の破綻が引き起こす幾つかのメカニズムや症状を説明できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち、＜知識・理解＞および＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	"体温 体温は私たちが生きるということの象徴と言える。生命の本質は恒常性を保ちながらも、外部環境に柔軟に対応することである。体温は私たちが存在する限り変化し続け、その変動は生命の流れの一部として捉えられるでしょう。体温とその維持システムは、生体の重要なホメオスタシス（恒常性維持）メカニズムであり、通常は約36.5～37.5度の範囲に保たれる。この範囲を超えると生体の正常な機能が損なわれる可能性がある。体温維持のために全身には温度センサーがあり、その情報をもとにある一定範囲の体温を維持するために様々な器官を調節している。本講義では体温維持のための基本的な機構を理解する。"	
第2回	シナプス伝達 シナプス伝達は神経系において極めて重要なプロセスである。シナプス伝達は神経細胞間で情報を伝達する基本的な仕組みで、神経細胞がシナプスを通じて相互に信号を送り合うことで、感覚情報や運動指令などが効果的かつ迅速に伝達される。また、シナプス伝達は学習と記憶に深く関与している。経験による学習が生じると、シナプス結合の変化が生じ、新しい情報が取り込まれる。この神経可塑性によって、長期的な学習や記憶が可能になる。さらに、シナプス伝達は意識や感情の形成にも関連している。神経活動が感情や思考を生み出し、それがシナプス伝達を通じて他の神経細胞へ影響を与えることで、個体の心理的な側面が形成されると考えられている。本講義ではシナプス伝達の仕組みを中枢神経、神経筋接合部、自律神経系等をモデルにして理解する。またシナプス可塑性についても理解する。	
第3回	"自律神経系・脳神経系 自律神経系は生体の微妙な調和と均衡を司る無言の指揮者であり、不可視の糸で結ばれた二つの相貌、交感神経と副交感神経から成り、この二つの神経系は、体内の環境を適切に調節し、体のバランスを保つために対照的な役割を果たす。 交感神経系は、身体を活性化させる役割をもち、 一方、副交感神経系は、体を落ち着かせる役割を果たす。自律神経系は、生命活動を維持するための基盤となる働きをしている。 脳神経とは、脳から直接出ている神経のことで、主に頭部や首の機能を制御している。全部で12対あり、それぞれの脳神経は特異な機能を持ち、我々の日常生活の中で様々な役割を果たしている。例えば、視覚を司るのが第二脳神経である視神経で、目からの光の情報を脳に伝え、第十二脳神経である舌下神経は舌の筋肉を制御し、話すことや飲食を可能にしている。これらの脳神経は、私たちが感じ、行動し、コミュニケートするために不可欠な要素であり、頭部や首の筋肉の動きはもちろん、視覚、聴覚、嗅覚、味覚といった感覚を制御している。本講義では、自律神経および脳神経の構造と機能を理解する。"	
第4回	"視床下部・延髄による制御 視床下部の機能を学ぶことは、生命の根源的な理解と身体の調和を深め、健康や生活の質を向上させる上で極めて重要である。視床下部は生体内の調節機構を司り、ホメオスタシス（恒常性）を維持する中心的な役割を果たしている。この機能を理解することは、まず、身体がどのように外部環境と対話し、内部の安定を保つのかを理解する一歩である。食欲や摂食制御、体温調節、ホルモンの分泌など、視床下部が関与する生理学的なプロセスは、私たちの日常生活に直結している。視床下部の学習機能は、食事と栄養の理解にも深く関わります。食欲や満腹感を制御するメカニズムの理解は、栄養の適切な摂取と体重管理に寄与する。また、ホルモンの分泌を調節する視床下部は、成長、生殖、代謝など様々な生理的プロセスにも影響を与える。つまり、視床下部の機能を学ぶことは、生命の基本的なメカニズムを理解し、バランスのとれた健康な生活を築くうえで不可欠であり、より良い生活をサポートする知識が得られる。本講義では視床下部および延髄が行う制御機構について理解する。"	
第5回	"内分泌系 甲状腺ホルモンは基礎代謝率やエネルギー生産に影響を与え、体温や体重、細胞の成長と分化が制御される。腎臓はアルドステロンとレニンを分泌し、血圧と電解質バランスを調整する。副腎はコルチゾールやアドレナリンを分泌し、ストレス応答や免疫機能を調節する。精巣は男性の生殖機能に関与し、テストステロンを分泌し、精子の生産や性的特徴の発現に影響を与える。卵巣は女性の生殖機能を担い、エストロゲンとプロゲステロンを分泌し、月経周期、妊娠、骨密度の維持などに関与する。これらの内分泌器官の理解は、栄養学の分野で様々な疾患や健康問題に対処するために不可欠である。これらの器官の働きを理解することで、将来的に患者や一般の人々へのアドバイスや栄養指導において的確なアプローチが可能になる。本講義ではこれらの内分泌系の構造と機能について理解する。また正常な内分泌機能の破綻が引き起こす症状についても理解する。"	
第6回	"骨とカルシウム代謝 骨は絶えずリモデリングされており、新しい骨が生成される一方で、古い骨が分解されている。これにより、骨の形状や強度が維持され、外部の環境や身体のニーズに適応できる。骨のリモデリングは、骨の主要な構成要素であるカルシウムの代謝と強く結びついている。カルシウムは骨の強度と硬度を維持するために必要であると同時に、神経伝達、筋肉収縮、血液凝固などの生体機能にも関与している。また、骨折や骨粗しょう症などの骨の疾患は、骨の健康に関連する問題である。正しい栄養とカルシウム代謝の理解は、これらの疾患の予防や治療に不可欠である。 骨とカルシウム代謝の理解は、成長期から老年期まで、生涯を通じた健康の維持に関連している。特に成長期や妊娠中の十分な栄養とカルシウムは、将来の骨の健康に影響を与える。本講義では骨のリモデリングを踏まえカルシウム代謝の仕組みや他の様々な役割を理解する。"	

第7回	"栄養素の消化吸収 食物は単なる物質ではなく、生命のエネルギーとしての軌跡を描く神秘的な存在である。消化吸収は、食物が物理的な存在から生体を構成する要素や精神を作りだす要素への変換の始まりと言えるだろう。食物の消化吸収は単なる栄養の取り込みではなく、生命の神秘的で深い融合の瞬間であると捉えられる。三大栄養素はエネルギー源として重要で、炭水化物は主にブドウ糖となり、脂質は脂肪酸とグリセロール、たんぱく質はアミノ酸に分解され、これらは代謝によってエネルギーに変換される。また、栄養素の消化吸収は、身体の成長、修復、代謝などの基本的な生理学的プロセスに不可欠である。ビタミンやミネラルも同様に重要で、これらは体内の各種酵素や代謝経路において補因子として機能する。例えば、ビタミンCはコラーゲン合成に必要で、鉄の吸収を促進する。消化吸収の理解はまた、栄養状態や健康状態の評価にも関連する。各栄養素の不足や過剰は栄養失調や慢性疾患の原因となり、例えば、鉄やビタミンDの不足は貧血や骨粗しょう症のリスクを高める。逆に、脂質の摂りすぎは動脈硬化や心臓病のリスクを増大させる。食事の質は生活習慣病や肥満、代謝症候群などの予防や管理にも影響する。栄養素の役割や相互作用を理解することは、将来の栄養指導や健康教育において適切なアドバイスができるようになるために重要である。本講義では、様々な栄養素の消化吸収の仕組みについて、分子レベルから理解する。"	
第8回	"消化器官の統合的調節 消化器官は、単なる食物の取り込みだけでなく、それを栄養素に変換し、体内で利用可能なエネルギーや成分にする複雑なプロセスに関与している。このシステムは、消化管と肝臓、膵臓などの付随する器官とが協力して統合的に働くことで正常な機能を達成している。最初に、口腔内で始まる消化は食道を経て胃に到達し、ここで胃液が分泌され、タンパク質が分解され、小腸に運ばれる。小腸では、胆汁と膵液が分泌され、3大栄養素の消化吸収が起こる。栄養素は、腸管上皮細胞を通じて血液中に取り込まれる。長い消化管と付属器官の共同作業は複雑で、統合的な調節が重要となる。これらの器官は神経系やホルモン系を介して連携し、食物の種類や量に応じて適切に反応する。結果として、消化器官の統合的な働きは、栄養素の適切な取り込みと代謝、エネルギーの制御につながり、体内の調和とバランスを保つ。これによって、生命維持に必要な栄養素が供給され、健康を維持するための基盤が築かれる。本講義では神経系とホルモン系による消化器官の統合的な調節機構を理解する。"	
第9回	"水電解質の調節機構 体液の恒常性は栄養摂取や水分補給とも密接に関連している。正確な栄養と水分管理は、体液のバランスをサポートし、健康な生活を維持するために不可欠である。体液のpHは生体内の酸塩基平衡を維持し、酵素の正確な機能や代謝反応の進行に影響を与える。正確なpHの維持は、細胞内外の環境が生命活動に適していることを確保し、生体内の反応が適切に調整されることを保証する。 浸透圧の調節は、細胞の膨張や収縮を制御し、水分の均衡を保つ。これにより、細胞が正常な形態を維持し、効果的に機能することが可能となる。電解質（ナトリウム、カリウム、カルシウムなど）のバランスは、神経伝達、筋収縮、酵素活性などの生体機能に重要な役割をもち、正常な電解質バランスは、細胞の膜電位を維持し、細胞内外の情報伝達をにも寄与する。体液の恒常性を維持することは、生体内の安定性を確保し、病気や障害の発生を予防する。例えば、酸塩基平衡が崩れると、アシドーシスやアルカローシスなどの健康問題が生じる可能性がある。このように体液の恒常性の理解は生体の機能や健康を理解する上で不可欠であり、健康ケアにおいて非常に重要な基盤を提供する。本講義ではｐH、浸透圧、電解質の恒常性を維持する仕組み、またそれが破綻したときに起こる現象を理解する。"	
第10回	"循環器系 循環器系は、酸素、二酸化炭素、栄養素や老廃物を体中に運搬する役割を果たしている。これにより、細胞内の環境が清潔で健康的な状態を維持できる。この機能を実現している心筋の収縮の仕組み、例えば心筋の性質や、興奮伝導系の理解は心臓の異常なリズムや不整脈発生の仕組みの理解にも繋がる。心電図は心臓の電気的活動を視覚化して解析する事のできる優れた技術である。心電図に現れる現象を理解することで心電図を評価し、心臓の異常の早期発見につながる可能性もあり、心臓疾患の予防にも役立つ。つまり、心臓の活動電位発生機構や心電図を学ぶことは非常に重要であり、生活習慣の改善や健康の維持につながる。 胎児循環を学ぶことは、生命の初期段階における循環系の特異性や発達メカニズムを理解し、新生児および母体の健康に関する知識を深める上で非常に重要である。本講義では心筋の活動電位発生や心電図について、また胎児循環について理解する。"	
第11回	"呼吸器 呼吸器系は生命維持に不可欠な機能を理解する鍵である。肺や気道の構造と機能を知り、酸素の取り込みと二酸化炭素の排出がどのように行われるかを理解することで、体内の代謝プロセスや細胞活動に対する酸素供給の重要性が明確になる。呼吸器系の学習は、健康管理や疾患の予防にも直結する。異常な呼吸機能は多くの病気の原因となり、喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、肺炎などの疾患は呼吸器系に関わるものであり、これらの疾患の原因や治療法を理解することは医療や保健に従事する者にとって極めて重要である。本講義では、呼吸機能の指標である肺機能検査の意義や呼吸の調節機構について理解する。"	
第12回	レニン・アンジオテンシン・アルドステロン RAASは体内の水分と血圧を制御する複雑なシステムであり、その理解は栄養学や健康において不可欠である。この系統は、低血圧や低ナトリウム状態に対処し、適切な水分量を維持するために働く。RAASが正常に機能しない場合、高血圧や浮腫などの健康問題が発生する可能性がある。RAASは腎臓において特に重要であり、腎臓の構造と機能を理解する上で欠かせない。腎臓は血液中の水分や電解質の調節、老廃物の排泄を担当している。RAASが適切に調節されないと、腎臓機能が損なわれ、慢性腎臓病などが引き起こされる可能性がある。さらに、RAASの理解は臨床的な視点からも重要である。高血圧や心不全などの疾患において、RAASを調整する薬物が一般的に使用される。RAASの仕組みを理解することで、これらの薬物の作用機序や副作用を理解し、患者の栄養指導において適切なアプローチを選択できるようになる。総じて、RAASの学習は水分バランス、血圧調節、腎臓機能に関する基本的な知識を提供し、栄養学や臨床医学において専門的なスキルを向上させる重要な一翼を担っている。本講義ではRAASの仕組みおよび腎臓の機能不全が引き起こす症状について理解する。	
第13回	生殖器系 妊娠と出産の理解は、生殖の基本的なプロセスを把握し、新しい生命の創造と成長を理解するために重要である。胎児の発育や母体の変化を学ぶことで、栄養や生活習慣が妊娠に及ぼす影響を理解し、健康な妊娠と安全な出産をサポートする知識が身につく。性の分化の理解は、生殖器の発達やホルモンの役割を通じて、男女の身体的な違いとその生理学的な基盤を理解することを指す。これは個々の健康だけでなく、性に関する健康問題や性教育の提供においても不可欠である。性の分化の理解は、異なる生殖器系の構造と機能、ホルモンの役割を通じて、性と健康の密接な関係を理解する手助けとなる。社会的な観点からも、これらのトピックの理解は重要である。出産と育児は個人だけでなく、社会全体に影響を与える。妊娠と性の分化に関する知識は管理栄養士として、家庭、教育、医療など様々な分野でのプロフェッショナルの役割を果たす際に欠かせないものである。つまり、妊娠と出産、性の分化を学ぶことは、個々の健康と社会的な側面において深い理解を得ることにつながり、将来的に患者や一般のヒトへのサポートや教育を行う際により適切で質の高いアドバイスを提供できるようになる。本講義では妊娠と出産の仕組みや性の分化について構造と機能を理解する。	

第14回	免疫系 免疫系・アレルギーの学習は、身体が異物や感染症に対抗する防御メカニズムを理解する上で極めて重要である。アレルギーの理解は、過剰な免疫応答による過敏症のメカニズムを理解することに繋がりる。アレルギー反応が免疫系の正常な機能を越えて現れる際、アレルギーの症状や治療法を理解し、患者に対するアレルギーの管理や予防策を提供するスキルを身につけられる。自己免疫疾患の学習は、免疫系が誤って自身の組織や細胞を攻撃するメカニズムを理解することになります。これは糖尿病、リウマチ、全身性エリテマトーデスなどの疾患に関連している。自己免疫疾患の基礎知識を獲得することで、これらの疾患の病態生理学を理解し、治療法や管理戦略に関する専門知識を身につけられる。総じて、免疫系・アレルギーと自己免疫疾患の学習は、健康や予防、治療における重要知識と栄養指導のスキルを提供する。本講義では、アレルギーおよび自己免疫疾患の仕組みやそれれが破綻した際の症状を理解する。	
第15回	感覚系 体性感覚の理解は、身体の運動制御や空間認識に不可欠である。筋肉、関節、皮膚などの感覚器官からの情報を統合し、身体の位置や動きを把握することで、日常生活や運動において協調した動作が可能となる。これはスポーツ、ダンス、身体療法などの分野で特に重要である。温感覚と冷感覚の理解は、体温の調節や環境への適切な対応に関連している。皮膚の温度受容体が熱や寒さを検知し、適切な生理学的応答を引き起こす。これにより、体温を維持し、外部の温度変化に適応することが可能となる。寒冷環境での凍傷や暑熱環境での熱中症の予防にも貢献する。感覚の異常は様々な疾患や損傷に関連しており、これを評価し、適切なアセスメントや治療戦略を選択するためには、体性感覚や温冷感覚の知識が必要である。総じて、体性感覚、温感覚、冷感覚の学習は、身体機能の理解を通じて日常生活の質を向上させ、健康と安全に関する重要な情報を提供し、将来の栄養指導において患者やクライアントに対してより効果的かつ適切なアプローチを提供できる。本講義では、体性感覚、温度感覚の受容器の構造や感覚の生理学、感覚伝導路につい理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	課題の得点と取り組みにより評価する。課題の傾向について講評する。
レポート		
小テスト	10	各講義の理解度を評価するため小テストを行う。小テストについての解説講評を行う。
定期試験	70	最終的な理解度を評価する
その他		

評価の方法：自由記載	人体を構成する器官の構造と機能についての理解を評価する。
受講の心得	高校時代に学習した基礎生物学などの人体に関わる分野を十分復習しておくこと。 予習，復習を十分行うこと。重要な語句などはプリントとして配布するので復習の手がかりとすること。
授業外学修	毎週最低4時間は講義内容の復習を行うこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
解剖生理学	志村二三夫 他	羊土社		2900

使用テキスト：自由記載	『解剖生理学』，河田光博・三木健寿，講談社サイエンティフィック

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『標準生理学』，『現代の生理学』，『医科生理学展望』
その他	
備考	解剖生理学を独立した科目と考えず，他の教科と関連づけて学習をすすめてもらいたい。内部環境の恒常性維持（ホメオスタシス）の仕組みを理解することを到達目標とする。 解剖生理学1などの学習内容について，復習をかねて質問するので準備をしておくこと。Active Learningの一環として実施する。
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	知識	講義で述べた範囲以上について理解し説明できる。知識を健康維持増進と関連付けられる。	講義で述べた範囲について完全に理解し説明できる。	講義で述べた範囲についておおよそ理解し説明できる。	講義で述べた範囲についていくつか理解し説明できる。	講義で述べた範囲について理解しておらず説明できない。
知識・理解	理解度	講義で述べた範囲以上について理解し説明できる。知識を健康維持増進と関連付けられる。	講義で述べた範囲について完全に理解し説明できる。	講義で述べた範囲についておおよそ理解し説明できる。	講義で述べた範囲についていくつか理解し説明できる。	講義で述べた範囲について理解しておらず説明できない。
思考・問題解決能力	個体の恒常性を維持する器官の相互作用を説明できる。	恒常性を維持する器官の相互作用について完全に理解し説明でき，恒常性破綻による疾患の理解もしている。	恒常性を維持する器官の相互作用についてほぼ理解ができていて説明ができる。	恒常性を維持する器官の相互作用についておおよそ理解ができていて説明できる。	恒常性を維持する器官の相互作用について最低限度理解ができている。	恒常性を維持する器官の相互作用について理解てきていない。

科目名	生化学Ⅱ			授業番号	NK206	サブタイトル			
教員	坪井　誠二								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	生化学とは生命現象を化学的に研究する化学と生物学の融合した学問である。 生化学Ⅰでは、栄養学的にも非常に重要な成分である糖質、脂質、アミノ酸とタンパク質等の種類や構造・機能、および糖質代謝の一部について学修した。 生化学Ⅱでは，生体で行われているエネルギー獲得のための代謝経路、特に、糖質、脂質及びアミノ酸等の基本的な代謝経路について講述する。更に、この様な生体物質の代謝がホルモン等によりどの様に制御されているのか、また、栄養学との関係についても理解していく。								
到達目標	1. エネルギー代謝の概要を説明できる。 2. クエン酸回路について説明できる。 3. 電子伝達系（酸化的リン酸化）について説明できる。 4. グリコーゲンの代謝について説明できる。 5. 脂肪酸の生合成とβ酸化反応について説明できる。 6. コレステロールの生合成と代謝について説明できる。 7. 飢餓状態のエネルギー代謝（ケトン体の利用など）について説明できる。 8. 余剰のエネルギーを蓄えるしくみを説明できる。 9. アミノ酸分子中の炭素および窒素の代謝（尿素回路など）について説明できる。 10. ペントースリン酸回路について説明できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	糖質の代謝（グリコーゲンの合成と分解）	
第2回	糖質の代謝（糖新生）	
第3回	糖質の代謝（糖の相互変換経路）	
第4回	血糖値の調節	
第5回	糖質の代謝のまとめ	
第6回	脂質の基礎	
第7回	脂質の分類	
第8回	脂質の代謝（脂質の消化、動員、運搬）	
第9回	脂質の代謝（脂肪酸の酸化）	
第10回	脂質の代謝（脂質の生合成）	
第11回	脂質の代謝（ケトン体生成）	
第12回	脂質の代謝（エイコサノイドの生合成）	
第13回	アミノ酸代謝（アミノ基の代謝運命）	
第14回	アミノ酸代謝（窒素排泄と尿素回路）	
第15回	アミノ酸代謝（アミノ酸の分解経路、アミノ酸に由来する分子）	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な授業態度、状況によって評価する。
中間テストおよび定期試験	80	中間テストおよび定期試験により、最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	生化学は、生命現象を化学的に研究する化学と生物学の融合した学問である。 生化学Ⅱでは、生化学Ⅰで学んだ基本的栄養成分・生体機能を担うタンパク質が、代謝・輸送・蓄積・エネルギー産生などを通じてどのように生体の維持に関与しているのかを学ぶ。 管理栄養士・栄養士に必須の知識であり、管理栄養士の国家試験にも多数出題される科目である。 学習を先送りすることなく、毎回講義項目を身につけていくこと。
授業外学修	講義は基本的に板書を行う。従って、記憶の新しいうちにノートをまとめておくことが望ましい。 毎回の復習が重要となる。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
生化学	園田 勝　編	羊土社	978-4-7581-1354-0	2800

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で紹介する。

その他	専門科目の理解のためには、避けて通れない科目である。 管理栄養士国家試験の頻出項目を多く含んでいる。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．糖質の代謝について理解している。	学修した糖質代謝の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修した糖質代謝の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した糖質の代謝に関する知識について、大体述べることができる。	学修した糖質の代謝に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した糖質の代謝に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	２．脂質の代謝について理解している。	学修した脂質代謝の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修した脂質代謝の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した脂質の代謝に関する知識について、大体述べることができる。	学修した脂質の代謝に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した脂質の代謝に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	３．タンパク質の代謝について理解している。	学修したタンパク質代謝の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修したタンパク質代謝の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修したタンパク質の代謝に関する知識について、大体述べることができる。	学修したタンパク質の代謝に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修したタンパク質の代謝に関する知識について、全く表現することができない。

科目名	生化学実験 (隔週)			授業番号	NK207A	サブタイトル			
教員	坪井　誠二								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	生化学実験で汎用する器具・機器の使用法を説明し、反応実験で使用する試薬を調製する。生命科学実験時の生データとなる実験ノートの取り方、レポートのまとめ方（構成）を説明する。酵素の性質を知るための酵素反応実験を行い、生化学の講義で説明した酵素の生化学特性を実体験する。タンパク質を扱う実験では必須となるタンパク質の定量法を説明し、実際に濃度未知試料のタンパク質濃度を決定する。生体試料からのタンパク質の単離法を説明し、実際にタンパク質の単離（分離）を行い目的タンパク質の分子量を測定する。実験操作を行いながら、実験ノートに記録していく技術を身につける。								
到達目標	主にタンパク質に関する生化学の基礎実験（反応・定量・分離）を行い、汎用器具・機器を正しく使用することができる。実験開始前には、他のメンバーとともに実験の手順の手際を考えるとともに、随時変化する状況に臨機応変に対応できる。実験中には、グループの他のメンバーとコミュニケーションをとりながら変化に対応し、かつ正確に実験ノートに方法や過程（変更点）、結果やまとめを記録することができる。実験終了後には、実験ノートの記録をもとに参考文献などからの情報も交えながら結果に考察を加えてレポートにまとまることができる。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、<知識・理解> <思考・問題解決能力> <技能> <態度>の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	酵素に関する基礎的な実験 ― 実験概要の説明、器具・機器の使用法と試薬調製	
第2回	酵素に関する基礎的な実験 ― 実験概要の説明、器具・機器の使用法と試薬調製	
第3回	酵素に関する基礎的な実験 ― オートピペッターによる定量操作	
第4回	酵素に関する基礎的な実験 ― オートピペッターによる定量操作	
第5回	酵素に関する基礎的な実験 ―タンパク質定量の原理と検量線の作成	
第6回	酵素に関する基礎的な実験 ―タンパク質定量の原理と検量線の作成	
第7回	イオン交換カラムを用いた生体資料からのタンパク質の分離	
第8回	イオン交換カラムを用いた生体資料からのタンパク質の分離	
第9回	溶出曲線の作成とタンパク質の定量	
第10回	溶出曲線の作成とタンパク質の定量	
第11回	マイクロコッカス溶菌活性測定	
第12回	マイクロコッカス溶菌活性測定	
第13回	SDS-PAGEによる分子量測定	
第14回	SDS-PAGEによる分子量測定	
第15回	タンパク質の分離・精製と酵素活性測定についてのまとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な授業態度、実験への積極的な参加・取組みによって評価する。
レポート	50	毎回の実験の目的、方法、結果、考察を正確に記述できるかにより評価する。コメントを記入して、返却する。

評価の方法：自由記載	「生化学実験評価ルーブリック」により評価する。
受講の心得	生化学実験では危険な試薬も使用するため積極的かつ真摯に取り組まなければならない。使用・提出する実験ノートは、A4版以外は受け付けないので各自A4版ノートを準備すること。
授業外学修	第1回目に全ての回の実験マニュアルを配布するので十分に予習しておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	プリント（各実験の目的と方法等を記した実験マニュアル）を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「生化学」薗田勝　著　羊土社 自己調査で得られた文献
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．タンパク質に関する生化学の基礎実験（反応・定量・分離）について理解している。	学修したタンパク質に関する生化学の基礎実験の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修したタンパク質に関する生化学の基礎実験の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修したタンパク質に関する生化学の基礎実験に関する知識について、大体述べることができる。	学修したタンパク質に関する生化学の基礎実験に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修したタンパク質に関する生化学の基礎実験に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	２．酵素反応実験について理解している。	学修した酵素反応の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修した酵素反応の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した酵素反応に関する知識について、大体述べることができる。	学修した酵素反応に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した酵素反応に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	３．タンパク質の分子量測定について理解している。	学修したタンパク質の分子量測定の内容について、正確に理解し述べることができる。	学修したタンパク質の分子量測定の内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修したタンパク質の分子量測定に関する知識について、大体述べることができる。	学修したタンパク質の分子量測定に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修したタンパク質の分子量測定に関する知識について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	１．タンパク質の反応、定量、分離について考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
技能	１．タンパク質が定量できる。	実験の目的や全体の流れを意識しながら実験操作ができる。正確さをもって危機の操作ができる。	手順に従って実験操作ができる。機器の使用目的を理解し、使用方法を覚え操作できる。	正確に個々の操作ができる。	実験内容を理解せず実験操作をする。	実験操作をしない。
技能	２．タンパク質が分離・精製できる。	実験の目的や全体の流れを意識しながら実験操作ができる。正確さをもって危機の操作ができる。	手順に従って実験操作ができる。機器の使用目的を理解し、使用方法を覚え操作できる。	正確に個々の操作ができる。	実験内容を理解せず実験操作をする。	実験操作をしない。
技能	３．実験結果をレポートにまとめ報告できる。	実験の目的を理解したうえで、得られた結果に基づき、論理的に解釈や考察が述べられている。	実験の結果に基づき、結果が適切に処理、解析され、読み手を配慮した提示がなされている。	実験の結果に基づき、最低限の解釈や考察が述べられている。	結果の解釈や考察がなされているが、論理展開に飛躍、誤り、不明瞭な点がある。	レポートの提出無し。
態度	１．演習に積極的に参加できる。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	演習に参加しているが、演習内容を十分に理解していない。	演習内容を理解していない。

科目名	医学概論			授業番号	NK208	サブタイトル			
教員	太田 潤								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	傷病者の療養に食・栄養の面から深く関与する管理栄養士としての職務遂行には，解剖生理学・生化学的事項を踏まえた疾病の理解やさまざまな疾患における各種栄養素を中心とした代謝の及ぼす影響に関する十分な知識が不可欠である。本授業は，栄養学的介入を行う上で重要とされる疾患を中心に，基礎医学的事項を踏まえつつ，栄養学的介入を行える力を養えるよう学修する。								
到達目標	1．人体の構造と機能に関連づけながら、各種疾病の成り立ちについて説明できる。 2．各種疾病診断のための検査法およびそれらに対する治療法の概要について説明できる。 3．各種疾患の病態を理解した上で、栄養管理に結び付ける能力がある。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	消化器疾患 消化管疾患 教科書該当箇所 p.115-p.147	
第2回	消化器疾患　肝・胆・膵疾患 教科書該当箇所 p.115-p.147	
第3回	循環器疾患1 教科書該当箇所 p.149-p.177	
第4回	循環器疾患2 教科書該当箇所 p.149-p.177	
第5回	腎・尿路系疾患1 教科書該当箇所 p.179-p.203	
第6回	腎・尿路系疾患2 教科書該当箇所 p.179-p.203	
第7回	内分泌系疾患 教科書該当箇所 p.205-p.222	
第8回	神経系疾患 教科書該当箇所 p.225-p.242	
第9回	呼吸器疾患 教科書該当箇所 p.245-p.263	
第10回	運動器疾患　教科書該当箇所 p.265-p.278	
第11回	生殖器系疾患　教科書該当箇所 p.281-p.306	
第12回	血液疾患 教科書該当箇所 p.309-p.328	
第13回	免疫・アレルギー系疾患 教科書該当箇所 p.331-p.344	
第14回	感染症 教科書該当箇所 p.345-p.359	
第15回	治療に用いられる薬剤とその作用 該当する資料を配布する	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	ルーブリックに記載した評価項目がどの程度達成されているかを評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本授業の内容理解には，解剖生理学，生化学，病理学で学習した内容を系統的に理解している必要があり，学習する各種疾患に応じて関連領域の知識の再確認を行うこと
授業外学修	教科書，配布資料，授業内容及び関連領域に関して週4時間以上の学習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
臨床医学 人体の機能及び疾病の成り立ち 改訂第2版	羽生大起・河出久弥編	南江堂	978-4-524-20663-6	3,400円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	人体の構造と機能に関連づけながら、各種疾病の成り立ちについて説明できる。	全ての学修項目についてほとんど完璧に到達している	全ての学修項目のうち大半が到達目標に達していて一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目一部については完全に到達しているが、一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目について一部到達していない	全ての学修項目のいずれも目標到達していない
知識・理解	各種疾病診断のための検査法およびそれらに対する治療法の概要について説明できる。	全ての学修項目についてほとんど完璧に到達している	全ての学修項目のうち大半が到達目標に達していて一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目一部については完全に到達しているが、一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目について一部到達していない	全ての学修項目のいずれも目標到達していない
思考・問題解決能力	各種疾患の病態を理解した上で、栄養管理に結び付ける能力がある。	全ての学修項目についてほとんど完璧に到達している	全ての学修項目のうち大半が到達目標に達していて一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目一部については完全に到達しているが、一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目について一部到達していない	全ての学修項目のいずれも目標到達していない

科目名	微生物学			授業番号	NK210	サブタイトル			
教員	楠本 晃子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	我々の生活環境には，様々な微生物が存在し，人の生命や生活活動に密接に関わっている。本講義では，人の健康と微生物の相互関係について理解し，管理栄養士・栄養士として必要とされる微生物の知識，感染から発症，防御に至るしくみおよび微生物の利用について学ぶ。								
到達目標	・微生物を分類し，基礎的な特徴を説明できる。 ・微生物による主な感染症の特徴と予防法を説明できる。 ・免疫について説明できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	微生物の概論，微生物学の歴史について学ぶ。	
第2回	微生物の生育とその制御について学ぶ。	
第3回	病原性細菌とその感染症について学ぶ。	
第4回	病原性細菌（グラム陽性細菌）とその感染症について学ぶ。	
第5回	病原性細菌（グラム陰性細菌）とその感染症について学ぶ。	
第6回	病原性細菌（マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア）とその感染症について学ぶ。	
第7回	病原ウイルスとその感染症について学ぶ。	
第8回	病原ウイルスとその感染症について学ぶ。	
第9回	プリオン病について学ぶ。	
第10回	原虫・蠕虫・真菌と，その感染症について学ぶ。	
第11回	感染症の動向，人獣共通感染症，感染症の化学療法，感染症に関する法律について学ぶ。	
第12回	生体防御の仕組みについて学ぶ。	
第13回	自然免疫と獲得免疫について学ぶ。	
第14回	Ⅰ～Ⅳ型アレルギーについて学ぶ。食物アレルギーの発症機序について理解する。	
第15回	膠原病について学ぶ。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
定期試験	100	最終的な理解度を評価する

評価の方法：自由記載	定期試験を公欠した者に対する追試験は実施するが，定期試験で単位不認定となった者（F）および欠席した者（K）に対しての再試験はおこなわない。
受講の心得	世の中の微生物に関する出来事に日頃から関心を持ち，講義に臨むこと。
授業外学修	1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，授業内容をノートにまとめる。 3 発展学修として，微生物に関係する新聞記事を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド 微生物学 改訂第2版	大橋 典男	羊土社	978-4-7581-1373-1	2900円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．微生物を分類し、基礎的な特徴を説明できる	微生物に関する十分な知識を身につけており、微生物を分類し、説明することができる	微生物に関する知識を身につけており、微生物を分類し、説明することができる	主要な微生物に関する知識を身につけており、説明することができる	微生物に関する知識を身につけてはいるが、不十分である	微生物に関する知識を身につけていない
知識・理解	２．微生物による主な感染症の特徴と予防法を説明できる	微生物による主な感染症の特徴と予防法について正しく理解し、説明することができる	微生物による主な感染症の特徴と予防法に関する知識を十分に身につけ、理解している	微生物による主な感染症の特徴と予防法に関する知識を身につけている	微生物による主な感染症の特徴と予防法に関する知識を身につけてはいるが、不十分である	微生物による主な感染症の特徴と予防法に関する知識を身につけていない
知識・理解	３．免疫について説明できる	免疫について正しく理解し、説明することができる	免疫に関する知識を十分に身につけ、理解している	免疫に関する知識を身につけている	免疫に関する知識を身につけてはいるが、不十分である	免疫に関する知識を身につけていない

科目名	人間発達学			授業番号	NK212	サブタイトル			
教員	疋田　基道								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	人間は，時間とともに様々な側面（感覚，感情，認知，社会性など）において変化していく存在である。この講義では，人間が生まれてからどのようなプロセスをたどりながら発達していくのかについて基礎的な知識を身につける。主要な発達理論を参照しながら，胎児期から高齢期まで段階ごとに発達の様相について解説する。								
到達目標	・主要な発達理論について説明できる。 ・各発達段階の特徴について説明できる。 ・発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができる ・なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	発達とは何か―発達理論 基礎的な発達理論について理解し，発達とは何かを学ぶ。	
第2回	胎児期 胎児の発達の特徴と胎内環境について学ぶ。	
第3回	乳児期 乳児期の身体，知覚，情緒，言語，アタッチメントの発達について学ぶ。	
第4回	幼児期(1) 幼児期の探索行動や発達について学ぶ。	
第5回	幼児期(2) 幼児期の遊びの発達や自我の芽生え等について学ぶ。	
第6回	幼児期(3) 幼児期の感情の発達やこころの理論について学ぶ。	
第7回	幼児期(4) 幼児期の観察学習やジェンダー等について学ぶ。	
第8回	児童期(1) 児童期について概観する。	
第9回	児童期(2) 児童期の認知的発達等について学ぶ。	
第10回	児童期（3） 児童期の動機づけや友人関係等について学ぶ。	
第11回	青年期（1） 青年期について概観し，アイデンティティの確立について学ぶ。	
第12回	青年期（2） 第二次反抗期や青年期に求められる力について学ぶ。	
第13回	成人期・高齢期 成人期・高齢期における発達課題について学ぶ。	
第14回	発達の個人差、障害 発達障害を含む様々な発達の個人差について学ぶ。	
第15回	総括 学んできたことを振り返り，まとめを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート		
小テスト	30	授業内容の理解度を評価する。小テスト実施後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
定期試験	40	授業内容の理解度・修得度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受け身の姿勢ではなく，問題意識をもって能動的態度で受講すること。
授業外学修	・資料を基に予習・復習をすること。 ・授業で紹介した本や資料を読むこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
完全カラー図解　よくわかる発達心理学	渡邊弥生　監修	ナツメ社	978-4-8163-7057-1	1600円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				

担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤計18年），大学での学生相談（非常勤，フルタイム計20年）等の実務経験を有する。実務経験の合計は22年。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	人間の発達について、これまでの様々な年代の方々との臨床経験（22年）を通し、各発達期の特性や課題について伝えることができ、実践に活かせる知識と発達課題への対応を考える力を習得させることができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．主要な発達理論や各発達段階の特徴について理解し，説明できる。	主要な発達理論や各発達段階の特徴について理解し，知覚，言語，社会性，アイデンティティなどの具体的な発達についても詳しく説明でき，過去現在未来とつながる自分について説明できる。	主要な発達理論や各発達段階の特徴について基礎的な知識を習得し，それらをもとに現在の自分を説明することができる。	主要な発達理論や各発達段階の特徴について理解している。	ある発達理論やある時期の発達段階の特徴について理解しているが，時期や分野が限られる。	発達理論や各発達段階の特徴について理解できていない。
思考・問題解決能力	１．発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができる。	発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができ，将来の職業選択や人生設計を考えられるとともに，自他の人生の発達課題への対応を考えることができる。	発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができ，将来の職業選択や人生設計を考えることができる。	発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができる。	自分自身について考えることができるが，発達心理学の知見からの考察が乏しい。	発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えることができない。

科目名	解剖生理学実験 (隔週)			授業番号	NK303A	サブタイトル			
教員	井之川 仁								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	実験（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	実験では，模型，生体組織プレパラート，生物（イカ）および受講者自身の身体を用いて，生命現象の解剖学的・生理学的知識と理解を深める。骨・組織・循環・感覚・代謝などを対象に，観察，測定，スケッチ，データ記録，考察を行い，人体の構造と機能を実証的に学ぶ。あわせて，実験器具の適切な取扱い，安全管理，データ整理，基礎的な統計処理，考察の記述を通して，科学的観察力，表現力，批判的思考力を養う。内容は，骨の観察，ヒト組織の顕微鏡観察，血圧測定，スルメイカの解剖，最大酸素摂取量の推定，感覚の実験，血糖値制御機構の観察から構成する。								
到達目標	受講者は，本科目を通して次のことができるようになることを目標とする。 骨・組織・臓器・感覚器・循環・代謝に関する基本的な解剖学的，生理学的特徴を理解し，説明できる。 顕微鏡観察，血圧測定，運動負荷試験，感覚測定，血糖測定などの基本的な実験手法を理解し，安全に実施できる。 観察結果や測定結果を，科学的なスケッチ，表，グラフ，文章で適切に記録し，表現できる。 得られたデータについて平均値や標準偏差などの基礎的な統計量を用いて整理し，生理学的機序と関連づけて考察できる。 実験に主体的に取り組み，他者と協力しながら，安全かつ誠実な態度で学修できる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	骨・組織の観察 人体を構成する骨を観察し，全身骨格の名称と長骨の基本構造を理解する。骨模型や断面構造をもとに，緻密質，海綿質，骨髄腔などを識別し，機能と関連づけて記録する。 骨単位（オステオン）を中心に，骨組織の微細構造を観察する。スケッチとラベリングを通して，骨の支持機能，保護機能，ミネラル貯蔵機能，造血との関係を理解する。	
第2回	骨・組織の観察 人体を構成する骨を観察し，全身骨格の名称と長骨の基本構造を理解する。骨模型や断面構造をもとに，緻密質，海綿質，骨髄腔などを識別し，機能と関連づけて記録する。 骨単位（オステオン）を中心に，骨組織の微細構造を観察する。スケッチとラベリングを通して，骨の支持機能，保護機能，ミネラル貯蔵機能，造血との関係を理解する。	
第3回	血圧測定の原理と方法、生理的変化血圧の生理学的意味，収縮期血圧・拡張期血圧の違い，コロトコフ音の原理を理解する。聴診法による血圧測定の手順を学び，正確な測定のための基本技術を身につける。安静時，深呼吸，冷刺激，運動刺激における血圧と心拍数の変化を測定する。得られたデータを比較し，自律神経系や循環調節機構の観点から考察する。	
第4回	血圧測定の原理と方法、生理的変化血圧の生理学的意味，収縮期血圧・拡張期血圧の違い，コロトコフ音の原理を理解する。聴診法による血圧測定の手順を学び，正確な測定のための基本技術を身につける。安静時，深呼吸，冷刺激，運動刺激における血圧と心拍数の変化を測定する。得られたデータを比較し，自律神経系や循環調節機構の観点から考察する。	
第5回	スルメイカの解剖スルメイカの外観および内臓を観察し，軟体動物の器官配置を理解する。各臓器を同定し，ヒトの器官との共通点と相違点を比較解剖学的に考察する。	
第6回	スルメイカの解剖スルメイカの外観および内臓を観察し，軟体動物の器官配置を理解する。各臓器を同定し，ヒトの器官との共通点と相違点を比較解剖学的に考察する。	
第7回	最大酸素摂取量の推定踏み台昇降運動を用いて心拍応答を測定し，間接法による最大酸素摂取量の推定方法を学ぶ。全身持久力の指標としての意義を理解し，自身の測定値を評価する。	
第8回	最大酸素摂取量の推定踏み台昇降運動を用いて心拍応答を測定し，間接法による最大酸素摂取量の推定方法を学ぶ。全身持久力の指標としての意義を理解し，自身の測定値を評価する。	
第9回	感覚の実験（皮膚感覚） 2点弁別閾の測定を通して，部位ごとの感覚の鋭敏さの違いを学ぶ。受容器の分布や受容野の大きさと関連づけて，皮膚感覚の仕組みを理解する。 片足立ち試験および反応時間測定を行い，平衡感覚と感覚入力，運動出力の関係を理解する。視覚情報の有無や刺激の種類による差を検討し，神経生理学的に考察する。	
第10回	感覚の実験（皮膚感覚） 2点弁別閾の測定を通して，部位ごとの感覚の鋭敏さの違いを学ぶ。受容器の分布や受容野の大きさと関連づけて，皮膚感覚の仕組みを理解する。 片足立ち試験および反応時間測定を行い，平衡感覚と感覚入力，運動出力の関係を理解する。視覚情報の有無や刺激の種類による差を検討し，神経生理学的に考察する。	
第11回	血糖値制御機構食事負荷試験によって血糖値の経時変化を測定し，血糖調節の仕組みを学ぶ。インスリンとグルカゴンの働き，食事摂取順序の違いによる影響を理解する。	
第12回	血糖値制御機構食事負荷試験によって血糖値の経時変化を測定し，血糖調節の仕組みを学ぶ。インスリンとグルカゴンの働き，食事摂取順序の違いによる影響を理解する。	
第13回	ヒトの組織観察 唾液腺，舌，食道を顕微鏡で観察し，組織ごとの構造的特徴を理解する。観察した構造をスケッチし，分泌や消化の導入に関わる機能と結びつけて整理する。胃，小腸，大腸の組織標本を観察し，粘膜構造や細胞の違いを学ぶ。胃小窩，絨毛，杯細胞などを同定し，それぞれの消化・吸収機能を説明できるようにする。肝臓，膵臓，腎臓，骨組織の標本を観察し，各臓器の代表的構造を理解する。中心静脈，ランゲルハンス島，ボウマン嚢，骨単位などを識別し，臓器機能との関連を考察する。	
第14回	ヒトの組織観察唾液腺，舌，食道を顕微鏡で観察し，組織ごとの構造的特徴を理解する。観察した構造をスケッチし，分泌や消化の導入に関わる機能と結びつけて整理する。胃，小腸，大腸の組織標本を観察し，粘膜構造や細胞の違いを学ぶ。胃小窩，絨毛，杯細胞などを同定し，それぞれの消化・吸収機能を説明できるようにする。肝臓，膵臓，腎臓，骨組織の標本を観察し，各臓器の代表的構造を理解する。中心静脈，ランゲルハンス島，ボウマン嚢，骨単位などを識別し，臓器機能との関連を考察する。	
第15回	データ解析とレポート作成これまでの実験データを用いて，平均値，偏差，分散，標準偏差などの基礎的統計量を求める。表やグラフによる可視化の方法を学び，科学的な考察の書き方を整理する。	
授業計画 備考2	全て出席し，積極的に取り組むことを求める。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、発言・討議への参加の状況にって評価する。全体に対して講評する。
レポート	80	テーマごとのレポートを評価する。レポートの評価はルーブリックに準ずる。レポートにコメントあるいは全体に対して講評する。

評価の方法：自由記載	課題およびレポートに対しては，Googleクラスルームまたは提出データ上でコメントを付して返却し，必要に応じて授業内で全体的な傾向と改善点を講評する。

受講の心得	解剖・観察・測定を伴う実験であるため，安全を最優先に行動すること。メスやハサミなどの器具は慎重に扱い，不注意な行動を慎むこと。顕微鏡，血圧計，血糖測定装置などの機器は丁寧に使用し，破損・汚損を防ぐこと。自らが被験者となる実験では，体調管理に留意し，体調不良時は速やかに申し出ること。実験中は私語を慎み，観察・記録・考察に集中すること。スケッチは美術的表現ではなく，科学的情報を正確に伝えるための記録であることを理解し，所定の方法に従って作成すること。
授業外学修	解剖生理学I，IIの復習を十分行なっておくこと。週当たり1時間以上学習すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	専用の実習書を販売する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「解剖生理学実験」川村一男　編，建帛社 「解剖生理学実習」森田規之，河田光博，松田賢一　編，講談社
その他	体調などにより，課題を遂行できない場合は申し出ること。合理的な配慮を施します
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．実験内容の理解	自ら進んで実験に関する内容を調べることができる。	実験内容を十分に理解し，他人に説明できる。	理解に曖昧な点があるが，予習ができている。	あるべき内容をある程度理解している。	やるべきことが理解できていない。
思考・問題解決能力	1．実験レポートの記述	自ら調べた内容を含めることができ，引用や図表の提示も適切である。	観察や結果が適切に記載され，実験から得た自らの考えを伝えることができている。	観察や結果を間違いや欠損なく記載している。自らの考えが多少は記載されている。	レポートの形式を守り，結果や観察が正しく記載されている。	レポートの形式を守れず，最低限度の観察や結果が記載されていない。

科目名	病理学			授業番号	NK309	サブタイトル			
教員	太田 潤								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	傷病者の療養における栄養指導を行うために大切な「疾患のなりたち」を理解する上で必要となる病理学の基礎的事項をまず説明する。さらに，チーム医療の一員としての職務を行う上で重要な診断・治療の概要についても説明する。また，各種栄養素の代謝障害によってもたらされる疾患・病態についても，病理学的事項を踏まえつつ解説する。								
到達目標	1．人体の構造と機能に関連づけながら、疾病の成り立ちについて説明できる。 2．疾病診断のための検査法および各種治療法の概要について説明できる。 3．各種栄養素の代謝障害による疾病の病態生理について，その概要を説明できる。 4．栄養障害の病態を理解した上で、栄養管理に結び付ける能力がある。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	1 加齢による細胞・組織の変化（老化と個体の死) 教科書該当箇所 p.1-p.4, p.17-p.19	
第2回	2 疾患による細胞・組織の変化1 (細胞障害・細胞の死) 教科書該当箇所 p.5-p.8	
第3回	3 傷病による細胞・組織の変化2 (炎症・創傷治癒・循環障害) 教科書該当箇所 p.8-p.13，p.155-p.156	
第4回	4 疾患による細胞・組織の変化3 (再生・腫瘍・遺伝子異常) 教科書該当箇所 p.13-p.17	
第5回	5 疾患診断の概要1（一般的診察・医療面接・全身状態の評価 (バイタルサイン)) 教科書概要箇所 p.21-p.25	
第6回	6 疾患診断の概要2（主な症候) 教科書該当箇所 p.25-p.39	
第7回	7 臨床検査の基本（種類と特性・基準値・一般臨床検査・血液学検査) 教科書該当箇所 p.39-p.41	
第8回	8 臨床検査の概要1（生化学検査・腫瘍マーカー) 教科書該当箇所 p.41-p.47	
第9回	9 臨床検査の概要2（免疫検査・微生物検査・生体機能検査，画像診断) 教科書該当箇所 p.47-p.53	
第10回	10 疾患治療の概要1（治療計画と治療評価の方法・各種治療法の概略1) 教科書該当箇所 p.55-p.63	
第11回	11 疾患治療の概要2（各種治療法の概略2 (移植医療・医療・終末期患者の治療・EBMを含む)) 教科書該当箇所 p.63-p.72	
第12回	12 栄養障害と代謝疾患1（飢餓・PEM・悪液質等) 教科書該当箇所 p.75-p.85	
第13回	13 栄養障害と代謝疾患2 (糖質・脂質代謝異常1・肥満・メタボリック症候群・糖尿病) 教科書該当箇所 p.85-p.97	
第14回	14 栄養障害と代謝疾患3 (糖質脂質代謝異常2・脂質異常症) 教科書該当箇所 p.97-p.103	
第15回	15 栄養障害と代謝疾患4 (痛風・尿酸代謝異常，先天性代謝異常) 教科書該当箇所 p.104-p.112	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	試験問題は，ルーブリックに示した評価項目を踏まえた設問を出題し，その達成程度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本教科は，人体の解剖学，生理学，生化学，基礎栄養学などの基本的な知識を土台にし，疾病を細胞・組織・個体レベルで理解しようとするものである。したがって，2年生前期までに学んだ関連教科の知識を復習し，身につけておくことが重要である。
授業外学修	授業毎に授業計画で示した教科書の該当箇所を通読しておくこと。 本教科の内容を確実に理解するため，上述の予習も含め週当たり4時間以上の学修をおこなうこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
臨床医学　人体の機能及び疾病の成り立ち 改訂第2版	羽生大起・河出久弥 編	南江堂	978-4-524-20663-9	3,400円+税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	人体の構造と機能に関連づけながら、疾病の成り立ちについて理解している	全ての学修項目についてほとんど完璧に到達している	全ての学修項目のうち大半が到達目標に達していて一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目一部については完全に到達しているが、一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目について一部到達していない	全ての学修項目のいずれも目標到達していない
知識・理解	疾病診断のために検査法について理解している	全ての学修項目についてほとんど完璧に到達している	全ての学修項目のうち大半が到達目標に達していて一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目一部については完全に到達しているが、一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目について一部到達していない	全ての学修項目のいずれも目標到達していない
知識・理解	症状者の病態を把握し、それらにに基づく治療法について理解している	全ての学修項目についてほとんど完璧に到達している	全ての学修項目のうち大半が到達目標に達していて一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目一部については完全に到達しているが、一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目について一部到達していない	全ての学修項目のいずれも目標到達していない
思考・問題解決能力	栄養障害の病態を理解した上で、栄養管理に結び付ける能力がある	全ての学修項目についてほとんど完璧に到達している	全ての学修項目のうち大半が到達目標に達していて一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目一部については完全に到達しているが、一部完全でない領域があると見受けられる	全ての学修項目について一部到達していない	全ての学修項目のいずれも目標到達していない

科目名	運動生理学			授業番号	NK411	サブタイトル			
教員	井之川 仁								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義は座学と実習（アクティビティ）を行う集中講義です。アクティビティは土日あるいは長期休暇中に行う予定です。またアクティビティに参加するために別途実費が発生する可能性があります。 本授業は多様なメディアを用いた授業を行います。また演習や実技を安全かつ円滑に行うために、本授業の履修者数を10名程度に制限することがあります。 本講義では、運動生理学を基盤に、運動が人間の健康に及ぼす効果を多角的に学びます。座学に加え、実習を通して様々な運動を体験し、健康増進のための知識・実践能力を養います。 講義では、運動生理学の基礎を築き、有酸素運動、レジスタンス運動が身体へ及ぼす影響、生活習慣病予防、メンタルヘルス、脳機能、免疫機能との関連性について学びます。具体的には、心肺機能や筋力への効果、糖尿病や高血圧等の予防、ストレス軽減、認知機能向上、免疫力強化といったテーマを、最新の研究知見を交えながら解説します。 実習では、体力測定と評価に基づき、個々の体力レベルを把握します。その後、アクティビティを通して運動の実践方法を学びます。アクティビティはハイキング、トレッキング、マリンスポーツなどを行う予定。運動強度やフォーム、栄養補給、休養など、運動効果を高めるための実践的な知識を習得し、安全かつ効果的に運動を行うための基礎を築きます。 本講義を通して、運動と健康の関係性を深く理解し、生涯にわたる健康維持・増進のための運動習慣を確立することを目指します。								
到達目標	運動生理学の基礎知識を習得し、運動が健康に及ぼすメカニズムを理解する。 様々な運動の実践方法を習得し、自身の健康増進に活かせるようになる。 運動に関する情報を取捨選択し、健康的なライフスタイルを構築できるようになる。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	講義は5回を予定しており、下記の内容を学びます。 講義 運動生理学の基礎 運動が身体に与える影響を理解するための基礎知識を学びます。具体的には、筋肉の収縮メカニズム、エネルギー代謝、呼吸循環系の働きなどを解説し、運動がどのように身体の機能に影響を与えるかを学びます。 有酸素性運動と健康 有酸素性運動が心肺機能、循環器系、代謝系に与える効果を学びます。持久力の向上、心疾患リスクの低減、体重管理など、健康増進における有酸素性運動の役割を理解します。 レジスタンス運動と健康 レジスタンス運動が筋力、筋持久力、骨密度に与える効果を学びます。筋肥大のメカニズム、骨粗鬆症予防、加齢に伴う筋力低下の抑制など、健康維持におけるレジスタンス運動の重要性を理解します。 運動と生活習慣病 運動が糖尿病、高血圧、脂質異常症などの生活習慣病予防に与える効果を学びます。運動療法の実際、食事療法との併用、運動処方など、生活習慣病予防における運動の役割を理解します。 運動と脳機能 運動が認知機能、記憶力、集中力などに与える影響について学びます。脳の神経可塑性、神経栄養因子、海馬の役割など、運動が脳機能に与えるメカニズムを理解します。 運動と免疫機能 運動が免疫機能に与える影響について学びます。免疫細胞の活性化、感染症予防、炎症抑制など、運動と免疫の関係性を理解します。実習 体力測定と評価 一次救命処置とAED アクティビティ ハイキング、サイクリング、マリンスポーツなどから行う予定です。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	実技に積極的に参加しているか。質問に答えられるなどを総合的に判断する。
レポート	30	重要項目の理解ができているか、レポートの目的に沿った論理的展開ができているかを評価する。コメントを記入して、返却する。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度により評価する
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	復習を十分行うこと。解剖生理学，臨床栄養学などと関連づけて学習するとよい。 スポーツ栄養に興味を持つ学生には特に受講を薦める 選択科目ではあるが，国家試験を受験するには受講した方が有利である。受講を強く勧める。
授業外学修	解剖生理学I，IIのうち神経，筋，エネルギー代謝に関するを十分行なっておくこと。週当たり４時間以上学習すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない。プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『運動生理学』，岸恭一・上田伸男
その他	
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	知識	講義内容範囲以上について理解し説明できる。知識を健康維持増進と関連付けられる。	人体の解剖・生理学的用語および，運動による変化についてもほぼ説明できる。	人体の解剖・生理学的用語についておおよそ説明でき，運動による変化についてもある程度説明できる。	人体の解剖・生理学的用語についておおよそ説明できる。	人体の解剖・生理学的用語についてほとんど説明できない。
知識・理解	理解度	授業内容を越えた自主的な学修が認められる。総合的に体の変化について説明できる。	総合的な体の変化について理解し、授業内容をほぼ100%理解している。	到達目標は理解しているが、授業内容の理解に不足がある。	到達目標に達していることが認められる。運動による機能別の生理的変化について理解している。	到達目標に達していない。からだの仕組みについて、ほとんど理解できていない。
態度	予習	講義の狙いを完全に理解し説明できる。	講義の狙いをほぼ理解し説明できる。	講義の狙いをおおよそ理解し説明できる。	講義の狙いを示すことができる。	講義の狙いを示すことができない。
態度	復習	復習問題を完全に解答できる。	復習問題をほぼ解答できる。	復習問題をおおよそ解答できる。	復習問題をいくつか解答できる。	復習問題を全く解答できない。

科目名	食品学Ⅰ			授業番号	NL101	サブタイトル			
教員	大桑　浩孝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	食生活について食物の歴史，健康，環境などの観点から解説するとともに，食品の5大栄養素についての化学的特性について説明する。また，食品の化学的・物理的な変化と食品成分の特性，さらに食品の機能性についても説明する。								
到達目標	・食品の主要成分（栄養成分・嗜好成分・機能性成分）の化学的性質を説明できる。 ・食品成分の変化と栄養の関係について説明できる。 ・食品成分による食品の分類について説明できる。 本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	人間と食物 人間と食物の関わりについて解説する。	
第2回	食品中の水分について解説、演習問題を解く。	
第3回	炭水化物（1） 単糖類・誘導糖類の化学構造、性質にについて解説する。	
第4回	炭水化物（2） オリゴ糖類、多糖類、でんぷんの加熱変化について解説する。	
第5回	アミノ酸，ペプチド アミノ酸・ペプチドの化学構造・性質について解説する。	
第6回	たんぱく質 たんぱく質の性質、化学変化について解説する。	
第7回	脂質（1） 脂質の化学的性質について解説する。	
第8回	脂質（2） 脂質の物理的性質、脂質の変化について解説する。	
第9回	ミネラル，ビタミン 食品中に含まれるミネラル・ビタミンについて解説する。	
第10回	嗜好成分（1） 食品中の色素成分について解説する。	
第11回	嗜好成分（2） 食品中の呈味成分・香気成分について解説する。	
第12回	酵素による食品成分の変化 食品中の酵素の作用、および食品加工に利用される酵素について解説する。	
第13回	褐変 酵素的褐変と非酵素的褐変について解説する。	
第14回	食品の物性 食品の物性ついて解説する。	
第15回	総括	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
課題	20	授業中に指示する課題への取り組みと理解度によって評価する。授業最終日に提出、その後コメントを記載して返却する。
定期試験	80	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	総合評価：課題点20点、定期試験80点を合わせて100点とする。
受講の心得	予習により疑問点・不明点を明らかにし，授業に臨むこと。また教科書・配布資料・参考資料を単元ごとに纏めて復習をし，知識の定着を図ること。
授業外学修	1　予習として，授業内容に関わる教科書の箇所を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業内容・配布資料をノートに纏める。 3　発展学修として，授業に関連した参考資料・文献を読み，ノートに纏める。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
三訂　マスター　食品学I	小関正道・鍋谷浩志編著	建帛社	978-4-7679-0697-3	本体2，700円＋税10%
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	化学の授業で使用している教科書			
その他				
備考				

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．人間と食品について	食文化・食生活と健康、食料問題全般について深く理解し、知識を身に着けている。	食文化・食生活と健康、食料問題全般についてあるほぼ理解し、知識を身に付けている。	食文化・食生活と健康、食料問題全般の基本についてある程度理解している。	食文化・食生活と健康、食料問題に関する理解が不十分である。	食文化・食生活と健康、食料問題に関してほとんど理解できていない。
知識・理解	2．食品成分について	食品成分の構造や機能、物性について深く理解し、知識を身に着けて応用分野に対応できる。	食品成分の構造や機能、物性についてほぼ理解し、知識を身に着けている	食品成分の構造や機能、物性の基本についてある程度理解し、知識を身に付けている。	食品成分の構造や機能、物性に関する理解が不十分である。	食文化・食生活と健康、食料問題に関してほとんど理解できていない。
知識・理解	3．食品成分の変化について	食品成分が起こす化学反応について深く理解し、知識を身に着けて応用分野に対応できる。	食品成分が起こす化学含農についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	食品成分が起こす基本的な化学反応についてある程度理解し、知識を身に付けている。	食品成分が起こす化学反応に関して理解が不十分である。	食品成分が起こす化学反応についてほとんど理解できていない。

科目名	食品学基礎実験 1クラス(隔週)	授業番号	NL105A	サブタイトル	
教員	大桑 浩孝				
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期
授業形態	実験（対面授業科目）	必修・選択	必修		
授業概要	試薬，器具等の取り扱い方，測定値の取り扱いなど，食品分析に必要な基礎的概念を習得する。次に，日本食品標準成分表の作成にあたって使用されている分析法を用いて，食品の一般成分の定量分析を行う。				
到達目標	自分で実験することにより，次のことを修得する。 (1) 実験による体験を通じて座学で学んだ知識を確認し，食品に対するより明瞭で深い理解ができる。 (2) 化学実験を通じて科学的・数理的知識と思考方法を修得し，科学の視点で食品を理解することができる。 (3) データや情報のまとめ方を学び，実験レポートの書き方の基本を修得できる。 (4) 得られたデータから結論や仮説を立て，正解のない答えを自分で考えて導き出すことができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。				
授業計画 備考					

回	概要	担当
第1回	食品学基礎実験の概要説明（1） この授業における学習内容と目的について説明する。	
第2回	食品学基礎実験の概要説明（2） 実験における注意点、実験室の使用方法を説明した後、学生同士でも議論する。	
第3回	食品分析に必要な実験器具・理化学機器の取り扱い ガラス器後の取り扱い、測定器具の取り扱いについて解説した後、学生が取り扱いの練習(実演)をする。	
第4回	試薬の調製（1）（重量パーセント濃度） 重量パーセント濃度について解説、および濃度計算の演習を行い、今後の実験で使用する試薬の調製をする。	
第5回	試薬の調製（2）（モル濃度） モル濃度について解説、および濃度計算の演習を行い、今後の実験で使用する試薬の調製をする。	
第6回	試薬の調製（3）（規定濃度） 規定濃度について解説、および濃度計算の演習を行い、今後の実験で使用する試薬の調製をする。	
第7回	食品の一般分析（1）（水分の定量①、灰分の定量②） 食品中の水分の定量法、灰分の定量法について解説し、食品試料の採取や器具の準備を行う。	
第8回	食品の一般分析（2）（脂質の定量①） 食品中の脂質の定量法について解説し、食品試料の採取や器具の準備を行う。	
第9回	食品の一般分析（3）（水分の定量②、灰分の定量②） 食品試料中の水分及び灰分の定量を行う。	
第10回	食品の一般分析（4）（脂質の定量②） 食品試料中の脂質の抽出を行う。	
第11回	食品の一般分析（5）（脂質の定量③） 食品試料中の脂質の定量を行う。	
第12回	実験レポートの作成方法に関する学習 これまでに行った実験（第7回～11回）を例に取り上げ、レポートの作成方法について解説する。	
第13回	中和滴定について解説 反応例を示し、中和滴定とはどのようなことかを解説した後、計算による演習問題を解く。	
第14回	中和滴定ー市販食酢中の酢酸の定量 食酢を用いて第13回の授業で解説した内容で中和滴定の実験を行い、食酢に含まれる酢酸の定量を行う。	
第15回	まとめ、総括 第1～14回までの授業の学習内容を解説し、理解度を確認するためのテストを行う。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	実験への意欲的な取り組み態度により評価する。
レポート・理解度テスト	70	毎回の実験レポートについて，具体的論理的に書かれているかにより評価する。課題レポートはコメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	実験には意欲的に取り組む。またグループで協力して実験に取り組む。毎回実験レポートを課すので，具体的，論理的にレポートを作成する。
受講の心得	安全な服装（白衣，すべりにくい履物）を着用し，配布されたプリントは必ず持参する。
授業外学修	実験の前には，必ず前回の実験内容を確認しておく。実験後には，実験で学んだ手法，得られた結果について，自ら考察を加え，実験ノートを整理する。1時間以上の学修を要する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
第2版 食品学実験・実習 －食品分析・食品加工・食品鑑別・食の安全－	長澤治子	青山社	978-4-88359-361-3	本体2100円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．実験器具の扱い方について	実験器具の名称と用途を正確に理解した上で丁寧な扱い方ができる。	実験器具の名称と用途を正確に理解した上で扱うことができる。	実験器具の名称を覚え、用途をある程度理解した上で扱うことができる。	実験器具の名称は覚えているが、丁寧な扱いができない。	実験器具の名称と用途を理解せず、適当に扱っている。
知識・理解	２．試薬の調製	必要な試薬の濃度計算が正確にできる。調製に必要な器具を正確に準備し、粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがすべて正確にできる。	必要な試薬の濃度計算がほぼできる。調製に必要な器具を正確に準備し、粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがすべて正確にできる。	必要な試薬の濃度計算がほぼできる。調製に必要な器具をほぼ準備し、粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがほぼ正確にできる。	濃度計算が十分ではないが、ある程度はできる。粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがある程度できる。	濃度計算、質量測定、定容などが全般的にできない。
知識・理解	3．食品成分の定量	必要な実験器具・機器の用途、実験試料の正確な重量測定、反応時間等を正確に理解し、正確に実行できる。	必要な実験器具・機器の用途、実験試料の重量測定、反応時間等を理解し、正確に実行できる。	必要な実験器具・機器の用途、実験試料の重量測定、反応時間等を理解し、ある程度実行できる。	必要な実験器具・機器について理解が不十分である。実験試料の重量測定、反応時間等はおおよそに理解しているため、正確に実行できない。	実験内容について全般的に理解できない。
知識・理解	4．レポートの作成	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載し、深く理解した上で正確な考察ができる。	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載し、ほぼ理解した上で考察ができる。	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載し、ある程度理解した上で考察ができる。	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載している。しかし十分な考察ができない。	レポートの記載に必要な項目が記載されていない。
技能	総合的な観点	各回で実施した実験の目的、原理と取り扱った実験器具について正確に理解した上で深く考察できる。	各回で実施した実験の目的、原理と取り扱った実験器具について正確に理解した上で考察できる。	各回で実施した実験の目的、原理と取り扱った実験器具についてある程度理解した上で考察できる。	各回で実施した実験の目的、原理と取り扱った実験器具について十分な理解ができていない。	各回で実施した実験の目的、原理と取り扱った実験器具について全く理解できていない。

科目名	食品学実験 1クラス(隔週)			授業番号	NL106A	サブタイトル			
教員	大桑　浩孝								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	実験（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	食品成分の定性・定量分析および食品の酵素的・非酵素的褐変などの変質要因の分析を行い，食品学の講義の内容と関連付けて実験を行うことで，食品の成分と分析についての相互理解を深める。								
到達目標	・安全かつ正確に実験を遂行するための基本的な操作ができ，実験操作の意味を説明できる。 ・食品成分を分析方法に基づいて定量し，食品成分表の数値を説明できる。 ・官能評価の手法を用いて，食品のおいしさを評価できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	しょうゆ・みそに含まれる塩分の定量 試料中の塩化ナトリウムの定量を行う。	
第2回	しょうゆ・みそに含まれる塩分の定量 試料中の塩化ナトリウムの定量を行う。	
第3回	たんぱく質の定量（ローリー法）① 検量線の作成(1) 検量線とは何か…作成の目的と利用法について具体例を挙げながら解説する。	
第4回	たんぱく質の定量（ローリー法）① 検量線の作成(2) 牛血清アルブミンを用いてたんぱく質濃度による吸光度の変化について検討、及び検量線の作成を行う。	
第5回	たんぱく質の定量（ローリー法）② 卵白に含まれるたんぱく質の定量(1) 卵白からたんぱく質を抽出する。	
第6回	たんぱく質の定量（ローリー法）② 卵白に含まれるたんぱく質の定量(2) 卵白中のたんぱく質について、ローリー法により定量を行う。	
第7回	野菜・果実などに含まれるビタミンC含量を調べる。 何種類かの野菜・果物に含まれるビタミンCの含量について分析し、食品分析表の値と比較検討する。	
第8回	(1) pH試験紙を用いたpHの測定 果実中、せっけん水、水道水のpHをpH試験紙により測定し、pH試験紙の使用法について学ぶ。	
第9回	油脂のヨウ素価について（植物性油脂・動物性油脂を用いて検討する） ヨウ素価とは何か、ヨウ素価の測定方法について解説する。	
第10回	油脂のヨウ素価について（植物性油脂・動物性油脂を用いて検討する） 植物性油脂・動物性油脂を用いてヨウ素価の測定、比較・検討を行う。	
第11回	酵素的褐変について（りんごの酵素的褐変と防止法について検討する）	
第12回	非酵素的褐変について（アミノ酸・糖質の種類、pHと温度による影響について検討する）	
第13回	(1) 小麦粉からグルテンの抽出 (2) 果実からアントシアニン色素の抽出とpHによる色の変化について	
第14回	人工イクラの作製	
第15回	まとめと総合討論	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	実験への意欲的な取り組み態度により評価する。
レポート	70	毎回の実験レポートについて，具体的・論理的に書かれているかにより評価する。課題レポートはコメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実験手順を理解して授業に臨むこと。実験ノートに情報を集約してまとめ，それを基にレポートを作成すること。
授業外学修	1　予習として，教科書に基づいて実験内容を理解し，実験ノートに纏めること。 2　復習として，実験結果・考察を中心に，実験ノートに整理すること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
第2版　食品学実験・実習 ー食品分析・食品加工・食品鑑別・食の安全ー	長澤　治子	青山社	978-4-88359-361-3	2100

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	2022年度改訂
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．実験器具の扱い方について	実験器具の名称と用途を正確に理解した上で丁寧な扱い方ができる。	実験器具の名称と用途を正確に理解した上で扱うことができる。	実験器具の名称を覚え、用途をある程度理解した上で扱うことができる。	実験器具の名称は覚えているが、丁寧な扱いができない。	実験器具の名称と用途を理解せず、適当に扱っている。
思考・問題解決能力	2．試薬の調製	必要な試薬の濃度計算が正確にできる。調製に必要な器具を正確に準備し、粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがすべて正確にできる。	必要な試薬の濃度計算がほぼできる。調製に必要な器具を正確に準備し、粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがすべて正確にできる。	必要な試薬の濃度計算がほぼできる。調製に必要な器具をほぼ準備し、粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがほぼ正確にできる。	濃度計算が十分ではないが、ある程度はできる。粉末試薬の質量測定、溶液の定容などがある程度できる。	濃度計算、質量測定、定容などが全般的にできない。
思考・問題解決能力	3．食品成分の定性・定量	必要な実験器具・機器の用途、実験試料の正確な重量測定、反応時間等を正確に理解し、正確に実行できる。	必要な実験器具・機器の用途、実験試料の重量測定、反応時間等を理解し、正確に実行できる。	必要な実験器具・機器の用途、実験試料の重量測定、反応時間等を理解し、ある程度実行できる。	必要な実験器具・機器について理解が不十分である。実験試料の重量測定、反応時間等はおおよそに理解しているため、正確に実行できない。	実験内容について全般的に理解できない。
思考・問題解決能力	4．食品成分の変化の観察	食品成分が様々な条件による化学反応により変化する過程を理解し、科学的に考察できる知識を身に付けている。また、類似の成分変化についても考察できる知識を身に付けている。	食品成分が様々な条件による化学反応によりは変化する過程を理解し、科学的に考察できる知識を身に付けている。	食品成分が様々な条件による化学反応により変化する過程を考察できる知識を身に付けている。	食品成分の変化について観察できる知識を身に付けている。	実験内容について全般的に理解できない。
思考・問題解決能力	5．レポートの作成	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載し、深く理解した上で正確な考察ができる。	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載し、ほぼ理解した上で考察ができる。	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載し、ある程度理解した上で考察ができる。	目的、序論、実験方法・実験材料、結果を正確に記載している。しかし十分な考察ができない。	レポートの記載に必要な項目が記載されていない。
技能	総合的な理解	各回で実施した実験の目的と原理について正確に理解した上で深く考察できる。	各回で実施した実験の目的と原理について正確に理解した上で考察できる。	各回で実施した実験の目的と原理についてある程度理解した上で考察できる。	各回で実施した実験の目的と原理について十分な理解ができていない。	各回で実施した実験の目的と原理についてほとんど理解ができていない。

科目名	調理学			授業番号	NL107	サブタイトル			
教員	松井　佳津子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	調理とは，食品材料を安全でおいしい食べ物に変えることである。調理学では，食べ物の特性を踏まえた食事設計ができるように，食材の選択，調理・供食までの工程の中での調理の役割について学修する。								
到達目標	・調理操作（非加熱操作・加熱操作）の原理と，加熱操作における熱の伝わり方を理解できる。 ・さまざまな食材の調理特性や，調理過程での食材の組織・物性・成分の変化を化学的に理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	調理の意義・目的，食事設計の基本 調理の意義や調理学の目的，調理を取り巻く環境について理解する。	
第2回	調理と嗜好性 おいしさの直接要因・背景要因の他，基本五味とおいしいさの客観的評価・主観的評価（官能評価）について理解する。	
第3回	非加熱調理操作 「計量」「洗浄」「浸漬」「切砕」など，基本的な非加熱調理操作の目的と仕組みについて理解する。	
第4回	加熱調理操作（伝熱の仕組み） 加熱調理操作における熱の伝わり方（放射・伝導・対流）の仕組みと，加熱操作の種類について理解する。	
第5回	加熱調理操作（加熱調理器具の仕組み） 加熱調理操作に用いられる鍋などの器具，それらの素材による特徴について理解する。	
第6回	植物性食品①　米の調理 日本人の主食である米の嗜好性や，でん粉の糊化と炊飯について理解する。	
第7回	植物性食品②　小麦粉の調理 小麦粉の分類と小麦粉生地（ドウ・バッター）の調製におけるグルテン形成の制御による調理性の違いについて理解する。また，料理によるグルテンの利用についても理解する。	
第8回	植物性食品③　いも，豆，種実類の調理 いも類の煮熟によるペクチンの低分子化（β-脱離）と，豆類の栄養成分による分類と餡の形成について理解する。	
第9回	植物性食品④　野菜の調理 野菜の嗜好特性である色，歯ごたえを調理によって制御する方法を，化学的な視点から理解する。	
第10回	植物性食品⑤　果実，きのこ，藻類の調理 きのこ・藻類の調理性について理解する。また，果実のペクチンのゲル化条件について，化学的に理解する。	
第11回	動物性食品①　獣鳥肉類の調理 肉の調理性と，肉を軟化させる調理法について理解する。また，肉の部位による調理の違いについても理解する。	
第12回	動物性食品②　魚介類の調理 赤身魚，白身魚の筋肉の成分の違いによって，切り方や調理法が異なることを理解する。また，魚類の基本的な調理法についても理解する。	
第13回	動物性食品③　鶏卵，牛乳・乳製品の調理 卵黄・卵白の成分による調理性の違いや，卵液ゲルの性状に調味料が及ぼす影響，生クリームの泡立て条件について理解する。	
第14回	砂糖，油脂の調理 砂糖，油脂の化学的性質が調理にどのように応用されているかを理解する。	
第15回	ゲル化剤の調理 ゲル化剤（寒天・ゼラチン・カラギーナン等）の化学的性質の違いによる，ゲル化条件，ゲルの性状，ゲル取り扱いの注意点を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	他の科目や実習との関連性を把握できるように，復習を必ずしておくこと。授業の理解を深めるため，普段から調理の経験を積んでおくこと。
授業外学修	1．予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2．復習として，授業時間に学んだ範囲の配布プリントをまとめる。 3．発展学修として，関連科目（調理学実習等）の教科書を読み，知識を結びつける。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新調理学プラス　健康を支える食事を実践するために	松本美鈴・平尾和子 編著	光生館	978-4-332-05043-8	2500

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．調理操作（非加熱操作・加熱操作）の原理を理解できている	調理操作についての高度な知識を有し、それに基づいて実際の調理へ応用できる能力を身につけている	調理操作の原理を理解し、実際の調理への応用を考えることができる	実際の調理をイメージしながら、基本的な調理操作の原理を理解できている	調理操作の原理は理解できていないが、それぞれの操作は理解できている	基本的な調理操作の原理を理解できていない
知識・理解	２．加熱操作における熱の伝わり方を理解できている	加熱操作における熱の伝わり方の特徴を十分に理解し、食材を好ましい状態に加熱するための加熱方法や条件を判断することができる	加熱操作における熱の伝わり方を理解し、実際の調理への応用を考えることができる	実際の調理をイメージしながら、加熱操作における熱の伝わり方の特徴を理解できている	加熱操作は理解できているが、熱の伝わり方を理解できていない	基本的な加熱操作や、熱の伝わり方を理解できていない
知識・理解	３．さまざまな食材の調理特性を理解できている	食材の調理特性についての高度な知識を実際の調理に応用することができる	食材のもつ調理特性を理解し、実際の調理への応用を考えることができる	実際の調理操作をイメージしながら、食材ごとの調理特性を理解できている	食材の調理特性は理解できているが、個々の食材を使用した調理操作について理解できていない	食材のもつ基本的な調理特性を理解できていない
知識・理解	４．調理過程での食材の組織・物性・成分の変化を理解できている	調理による食材の組織・物性・成分の変化について、科学的な原理を十分に理解し、食材を好ましい状態に調理するために必要な調理操作を判断することができる	調理過程で生じる科学的な変化に基づいて、食材の組織・物性・成分の変化を理解できている	科学的な原理についてな十分に理解できていないが、調理過程での食材の組織・物性・成分の変化について理解できている	調理過程により食材の組織・物性・成分が変化することは理解できているが、その原理について理解できていない	調理過程での食材の組織・物性・成分の変化について理解できていない

科目名	調理学実習Ⅰ（隔週）			授業番号	NL108A	サブタイトル			
教員	多田　賢代								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	調理に関する知識・技術は，給食経営管理，臨床栄養管理，応用栄養管理など管理栄養士の主要業務の基礎として重要である。 調理学実習Iでは，正しい計量，材料や調理に応じた食品の切り方・扱い方，食品の性質と調理・加工法，季節による食材の特性，廃棄率・調味パーセントの意味と計算方法など，調理の基礎として必要不可欠な事項を学修する。								
到達目標	・衛生的に調理を行うための身支度や調理上の衛生管理についてを理解し，基礎的技術を修得する。 ・切る，潰す，混ぜる，計量するなどの非加熱操作の基礎的技術を修得する。 ・炊く，煮る，蒸す，焼く，揚げるなどの加熱操作の基礎的技術を修得する。 ・廃棄率・調味パーセントなど，食事設計に必要な計算方法の知識を修得する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	調理室の使用に関するガイダンス（使用上の規則，身支度，衛生管理など），調理器具の説明，計量の実際（計量器の種類と用途，調味料の計量），小麦粉の調理 【利休饅頭，煎茶】	
第2回	調理室の使用に関するガイダンス（使用上の規則，身支度，衛生管理など），調理器具の説明，計量の実際（計量器の種類と用途，調味料の計量），小麦粉の調理 【利休饅頭，煎茶】	
第3回	炊飯の基本，包丁の正しい持ち方，乾物などの重量変化，食品の正味重量と廃棄率，根菜の調理法，煮干しだしの基本 【白飯，筑前煮，わかめの酢の物，みそ汁，ブラマンジェ】	
第4回	炊飯の基本，包丁の正しい持ち方，乾物などの重量変化，食品の正味重量と廃棄率，根菜の調理法，煮干しだしの基本 【白飯，筑前煮，わかめの酢の物，みそ汁，ブラマンジェ】	
第5回	献立の基本構成と献立の評価，食器のセッティング，各種調理の調味割合，炊飯の基本，魚のさばき方，揚げ物の基本，混合だしの基本 【白飯，鰺の南蛮漬け，ほうれん草のごま和え，かきたま汁】	
第6回	献立の基本構成と献立の評価，食器のセッティング，各種調理の調味割合，炊飯の基本，魚のさばき方，揚げ物の基本，混合だしの基本 【白飯，鰺の南蛮漬け，ほうれん草のごま和え，かきたま汁】	
第7回	各種調理の調味割合・調味計算，すし飯の基本，野菜の調理（煮物，和え物） 【ちらし寿司，かぼちゃのそぼろあんかけ，しめじと水菜の辛し和え，すまし汁】	
第8回	各種調理の調味割合・調味計算，すし飯の基本，野菜の調理（煮物，和え物） 【ちらし寿司，かぼちゃのそぼろあんかけ，しめじと水菜の辛し和え，すまし汁】	
第9回	各種調理の調味割合・調味計算，煮魚の基本，希釈卵液を使った調理，蒸し物調理の基本 【とうもろこしご飯，かれいの煮つけ，白和え，茶碗蒸し】	
第10回	各種調理の調味割合・調味計算，煮魚の基本，希釈卵液を使った調理，蒸し物調理の基本 【とうもろこしご飯，かれいの煮つけ，白和え，茶碗蒸し】	
第11回	各種調理の調味割合・調味計算，だしの基本，揚げ物調理の基本，寒天の調理特性，豆類の調理（あん） 【白飯，天ぷら，ぬた和え，水ようかん】	
第12回	各種調理の調味割合・調味計算，だしの基本，揚げ物調理の基本，寒天の調理特性，豆類の調理（あん） 【白飯，天ぷら，ぬた和え，水ようかん】	
第13回	西洋料理の食器とセッティング，肉の焼き物料理，いも類の調理，果実中のペクチンのゼリー化について，ゼラチンの調理特性 【パン，ミートローフ，ミモザサラダ，コーンクリームスープ，ヨーグルトゼリー，ジャム】	
第14回	西洋料理の食器とセッティング，肉の焼き物料理，いも類の調理，果実中のペクチンのゼリー化について，ゼラチンの調理特性 【パン，ミートローフ，ミモザサラダ，コーンクリームスープ，ヨーグルトゼリー，ジャム】	
第15回	まとめ，実技試験，大掃除 第1回～第14回までの実習を振り返り、調理上の衛生管理や食事設計に必要な計算方法等をはじめとして、授業で学んだ内容について各自が提出したレポートを通して確認を行う。また、衛生管理の基礎的技術、非加熱操作および加熱操作の基礎的技術の修得状況について、実技試験により確認する。	

授業計画　備考2	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
食材に関するレポート（調べ学習）	20	調理実習で使用する食材や料理について、指定されたテーマでレポートを作成する。 レポートの内容がテーマに沿っているか、調べた内容に対し自分の考えが述べられているかを評価し、コメントを記入して返却する。
家での調理に関するレポート	30	実習した料理を自宅で作り、調理過程や料理の評価をレポートにまとめる。作った料理の写真をレポートに添付する。 初回にレポートの書き方とポイントを示し，そのポイントに沿ってまとめられているかを評価する。レポートはコメントを記して返却する。
実技試験	30	調理に必要な身支度，包丁の基礎的技術，片付けまでを評価する。普段から包丁を素早く正確に扱えるよう、練習をしておくこと。
定期試験	20	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この実習は，「料理を作って食べる」のが目的ではない。 「料理の作り方」を知り，「人に提供できる料理を作るための調理技術を身につける」ことである。 そのため常日頃から調理，食品に興味関心を持って情報収集を行い，課題を通じて調理技術の向上に努めること。
授業外学修	予習として，次回の実習で調理する料理のレシピを熟読しておくこと。 復習として， 1．実習した料理は必ず自宅で作り，食べてもらって評価してもらうこと。 2．課題のレポートを書く。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新 調理学実習 第二版	宮下朋子・村元美代 編著	同文書院	978-4-8103-1457-1	2700
調理のためのベーシックデータ第6版	松本仲子	女子栄養大学出版部	978-4-7895-0323-5	1800
新ベターホームのお料理1年生	ベターホーム協会 編	ベターホーム協会	978-4865860153	1500
八訂食品成分表2025	香川明夫 監修	女子栄養大学出版部	978-4789510257	1800
栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本 裕子, 森 美奈子 編	化学同人	978-4759818260	1600

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
日本食品大事典	杉田浩一・平宏和・田島真・安井明美	医歯薬出版株式会社	978-4-263-70716-6	9000

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	毎回の持参物が多いため，忘れ物には十分に注意すること。 特に白衣・エプロン・帽子・手拭きを忘れた場合は，有料でレンタルあるいは購入することになる。 食物アレルギーのある場合は，事前に担当教員に申し出ること。 この実習ではアクセサリー類は外し，爪は必ず切っておくこと。ジェルネイルや付け爪等，その場で取れない場合は実習不可とする。 授業時間は3～5限であるが，片付けや掃除に時間がかかった場合は18時以降の解散となりうる。そのため，実習の日にはアルバイトや重要な予定はいれないこと。
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	受託給食会社や病院での給食管理業務および臨床栄養管理業務
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．衛生的に調理を行うための身支度や、調理上の衛生管理を理解できている。	調理における衛生管理の重要性を科学的根拠と併せて十分に理解できており、具体的な衛生管理の技術を実践できている。	衛生管理の科学的根拠は十分に理解できていないが、衛生管理の重要性は理解できている。	調理における衛生管理の必要性を理解できている。	身支度については理解できているが、調理上の衛生管理については理解できていない。	身支度や調理上の衛生管理を理解・実践できていない。
知識・理解	２．廃棄率・調味パーセントなど、食事設計に必要な計算方法を理解できている。	食事設計にかかわる計算についての高度な知識を有し、それらを必要に応じて使うことができる。	食事設計に必要な、基本的な計算方法について理解できている。	食事設計に必要な計算式をたてることができる。	食事設計に必要な計算の計算式は理解できているが、計算式の立て方を理解できていない。	食事設計に必要な基本的な計算方法を理解できていない。
技能	１．衛生管理の基礎的技術を習得できている。	衛生管理の基礎的技術を十分に習得できており、学外においても自発的に実践・応用できている。	衛生管理の基礎的技術を習得できており、実習中に実践できている。	調理前後における衛生管理の基礎的技術を習得できている。	手洗い・身支度の技術は習得できているが、調理におけるまな板の使い分けなどの技術は習得できていない。	衛生管理の基礎的技術を習得できていない。
技能	２．非加熱操作の基礎的技術を習得できている。	包丁や計量器具、すり鉢など非加熱操作での使用器具を使いこなし、操作の意味を理解して調理できている。	非加熱操作の基礎的技術を習得できており、実習中に実践できている。	包丁の使い方や基本的な野菜の切り方、計量器具の使い方を習得できている。	計量の技術は習得しているが、包丁の使い方を十分に習得できていない。	非加熱操作の基礎的技術を習得できていない。
技能	３．加熱操作の基礎的技術を習得できている。	効率的な熱の伝え方や加熱調理器具の特徴を理解し、環境に配慮した加熱操作技術を習得できている。	加熱調理中の食材の様子を観察しながら、より好ましい状態になるよう、加熱することができる。	食材の量や鍋の大きさを考慮しながら、レシピの指示通りに加熱することができる。	加熱操作に必要な技術を理解できているが、実践できていない。	加熱操作の基礎的技術を習得できていない。

科目名	調理学実習Ⅱ（隔週）			授業番号	NL109A	サブタイトル			
教員	古川　愛子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	調理学実習IIでは，調理学実習Iで学んだ知識と技術をさらに向上させるとともに，献立作成に関する知識・技術や，調理に関する応用力を身に付けることを目的とする。通常の調理に加え，日本の行事食や西洋料理，中国料理の調理を通じて，それらの調理上の特徴と食文化を学ぶ。								
到達目標	・栄養価計算の手法を身につける。 ・献立の基本構成と，献立立案から作成・評価・見直しまでの一連の流れを理解し，献立全体を評価・見直しする能力を身につける。 ・日本を含む諸外国の食文化や調理の特徴について理解する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	実習は，自作献立についての演習と調理実習の2部構成で行う。 自作献立のメニュー立案，栄養価計算，調味%の計算　　野菜の摂取量を増やす工夫，卵液ゲルの調理 【サンドイッチ，コールスローサラダ，ミネストローネ，カスタードプディング】	
第2回	実習は，自作献立についての演習と調理実習の2部構成で行う。 自作献立のメニュー立案，栄養価計算，調味%の計算　　野菜の摂取量を増やす工夫，卵液ゲルの調理 【サンドイッチ，コールスローサラダ，ミネストローネ，カスタードプディング】	
第3回	自作献立の食材と調味料重量の決定 すしの調理と食文化について 【ちらしずし，白和え，吉野鶏のすまし汁】	
第4回	自作献立の食材と調味料重量の決定 すしの調理と食文化について 【ちらしずし，白和え，吉野鶏のすまし汁】	
第5回	自作献立の栄養価計算 3：1：2お弁当法について，おかずの詰め方の演習 【白飯，魚の照り焼き，鶏肉の竜田揚げ，卵焼き，小松菜のおかか和え，五目豆，きのこのマリネ，さつまいもの甘煮】	
第6回	自作献立の栄養価計算 3：1：2お弁当法について，おかずの詰め方の演習 【白飯，魚の照り焼き，鶏肉の竜田揚げ，卵焼き，小松菜のおかか和え，五目豆，きのこのマリネ，さつまいもの甘煮】	
第7回	自作献立の栄養価の評価と改善 中国料理の特徴と食文化 【白飯，炒肉片（肉と野菜の炒め物），芙蓉蟹（かに玉），玉米羹（とうもろこしのスープ），奶豆腐（牛乳かん）】	
第8回	自作献立の栄養価の評価と改善 中国料理の特徴と食文化 【白飯，炒肉片（肉と野菜の炒め物），芙蓉蟹（かに玉），玉米羹（とうもろこしのスープ），奶豆腐（牛乳かん）】	
第9回	自作献立のレシピ作成，作業工程表の作成，材料購入表の作成 西洋料理の特徴と食文化について 【ロールパン，若鶏ソテー マレンゴ，にんじんグラッセ，マセドアンサラダ，にんじんのポタージュ，ブッシュドノエル】	
第10回	自作献立のレシピ作成，作業工程表の作成，材料購入表の作成 西洋料理の特徴と食文化について 【ロールパン，若鶏ソテー マレンゴ，にんじんグラッセ，マセドアンサラダ，にんじんのポタージュ，ブッシュドノエル】	
第11回	自作献立のプレゼン資料作成，班で作成する献立の決定 日本料理およびおせち料理の特徴と，食文化について 【雑煮，筑前煮，伊達巻，菊花かぶ，手綱こんにゃく，松笠いか，栗きんとん，さやいんげんの青煮】	
第12回	自作献立のプレゼン資料作成，班で作成する献立の決定 日本料理およびおせち料理の特徴と，食文化について 【雑煮，筑前煮，伊達巻，菊花かぶ，手綱こんにゃく，松笠いか，栗きんとん，さやいんげんの青煮】	
第13回	自作献立のプレゼンと調理 自作献立を調理する意義と学びについて	
第14回	自作献立のプレゼンと調理 自作献立を調理する意義と学びについて	
第15回	自作献立反省会およびまとめ，大掃除	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	50	毎回，自作献立作成に向けた課題と，実習で作った料理の栄養価計算を課す。指定された課題がポイントを押さえてまとめられているかを評価し，コメントを記して返却する。
レポート（任意課題）	20	実習で作った料理を家で作りレポートにまとめる，または毎回指定したテーマに沿ったレポートのいずれかを任意の課題として行う。
定期試験	30	1食分の栄養価計算や，実習で学んだ内容について，最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回献立作成についての課題を出すので，常日頃から調理，食品に興味関心を持って情報収集に努めること。

授業外学修	予習として，次回調理する料理のレシピを熟読しておくこと。 復習として， 1．実習で調理した料理の栄養価計算をする。 2．日頃から，食材の重量感覚を養い，1食もしくは1品の料理の分量を意識する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新 調理学実習 第二版	宮下朋子・村元美代 編著	同文書院	978-4-8103-1457-1	調理学実習Ⅰで使用
八訂 食品成分表2025	香川明夫 監修	女子栄養大学出版部	978-4-7895-1021-9	調理学実習Ⅰで使用
新ベターホームのお料理1年生	ベターホーム協会 編	ベターホーム協会	978-4865860153	調理学実習Ⅰで使用
栄養士・管理栄養士を目指す人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子・森美奈子 編	化学同人	978-4-7598-1826-0	調理学実習Ⅰで使用
調理のためのベーシックデータ		女子栄養大学出版部	978-4-7895-0325-9	調理学実習Ⅰで使用

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
日本食品大事典	杉田浩一・平宏和・田島真・安井明美	医歯薬出版株式会社	978-4-263-70716-6	9000

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	基本的な調理技術は身につけた前提で実習を進めるため，前期の調理学実習Ⅰで修得した技能を忘れないように，調理技術の研鑽に努めること。
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．日本を含む諸外国の食文化や調理の特徴を理解できている。	日本や諸外国の食文化や調理の特徴について十分に理解しできており、調理実習で実践することができる。	日本や諸外国の食文化や調理の特徴に由来する風土の特徴を理解できている。	日本や諸外国の食文化や調理の特徴について概ね理解できている。	日本の食文化や調理の特徴について理解劇ているが、諸外国については十分に理解できていない。	日本の食文化について理解できていない。
技能	1．栄養価計算の手法を身につけることができている。	食品成分表の内容も十分に把握できており、計算結果の評価・見直しを前提とした、正確な栄養価計算が素早くできている。	正確で素早い栄養価計算をすることができている。	軽微なミスはみられるが、基本的な栄養価計算の手法については身につけることができている。	栄養価の算出方法は理解できているが、食品成分表における計算に使用する食品の選択について理解できていない。	栄養価計算の手法を理解できていない。
技能	2．献立作成に必要な能力を身につけることができている。	喫食者だけでなく効率よく調理ができるように配慮した献立を作成・評価する能力を身につけることができている。	喫食者へ配慮した献立作成に必要な技術を理解し、献立を作成する能力を身につけることができている。	献立の基本構成や献立立案から評価・見直しまでの一連の流れを理解できている。	献立の基本構成は理解できており、簡単な献立は立案できるが喫食者への配慮に欠けている。	献立の基本構成や配膳など、献立作成に必要な技術が理解できていない。

科目名	食品学Ⅱ			授業番号	NL202	サブタイトル			
教員	大桑　浩孝								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	食品の分類，食品原料（植物性食品，動物性食品）の特性と含有する栄養成分，ならびに各種加工食品（食用油脂，調味料，香辛料，微生物利用食品等）について説明する。								
到達目標	・食品素材における主要成分（栄養成分・嗜好成分・機能性成分）の化学的性質を説明できる。 ・食品加工における成分の変化と栄養の関係について説明できる。 ・食品成分表に基づく食品の分類について説明できる。 なお本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	穀類 米、小麦、大麦、とうもろこし等の穀類の成分やその特徴、利用について解説する。	
第2回	いも類 いも類の成分やその特徴、利用について解説する。	
第3回	豆類 豆類の成分やその特徴、利用について解説する。	
第4回	野菜・果実類 野菜・果実の成分やその特徴、利用について解説する。	
第5回	きのこ類、藻類 きのこ類、藻類の成分やその特徴、利用について解説する。	
第6回	肉類 畜肉類の成分やその特徴、利用について解説する。	
第7回	卵類 鶏卵の成分やその特徴、利用について解説する。	
第8回	乳類 牛乳の成分やその特徴、利用について解説する。	
第9回	魚介類 魚介類の成分やその特徴、利用について解説する。	
第10回	食用油脂 食用油脂の成分やその特徴、利用について解説する。	
第11回	甘味料 甘味料の成分やその特徴、利用について解説する。	
第12回	調味料・香辛料 調味料・香辛料の成分やその特徴、利用について解説する。	
第13回	嗜好飲料 非アルコール飲料・アルコール飲料の成分やその特徴、利用について解説する。	
第14回	微生物利用食品 微生物利用食品の加工法、成分やその特徴について解説する。	
第15回	総括	

授業計画　備考2	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
課題	10	授業中に指示する課題への取り組みと理解度によって評価する。授業最終日に提出、その後コメントを記載して返却する。
定期試験	90	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	総合評価：課題点10点、定期試験90点を合わせて100点とする。
受講の心得	予習により疑問点・不明点を明らかにし，授業に臨むこと。また教科書・配布資料・参考資料を単元ごとに纏めて復習をし，知識の定着を図ること。
授業外学修	1　予習として，授業内容に関わる教科書の箇所を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業内容・配布資料をノートに纏める。 3　発展学修として，授業に関連した参考資料・文献を読み，ノートに纏める。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
三訂マスター食品学II	小関正道	建帛社	978-4-7679-0698-0	2,860円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．植物性食品について	穀類やいも類、その他植物性食品の成分と特徴、貯蔵法について深く理解し、知識を身に付けている。	穀類やいも類、その他植物性食品の成分と特徴、貯蔵法についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	穀類やいも類、その他植物性食品の成分と特徴、貯蔵法についてある程度理解し、知識を身に付けている。	植物性食品に関する理解が不十分である。	植物性食品に関してほとんど理解できない。
知識・理解	２．動物性食品について	肉類や魚介類などの動物性食品の成分と特徴、加工品について深く理解し、知識を身に付けている。	肉類や魚介類などの動物性食品の成分と特徴、加工品についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	肉類や魚介類などの動物性食品の成分と特徴、加工品についてある程度理解し、知識を身に付けている。	動物性食品に関する理解度が不十分である。	動物性食品に関してほとんど理解できていない。
知識・理解	3．油脂・甘味料・調味料・香辛料・嗜好飲料について	油脂・甘味料・調味料・香辛料・嗜好飲料の成分と特徴、製法について深く理解し、知識を身に着けている。	油脂・甘味料・調味料・香辛料・嗜好飲料の成分と特徴、製法についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	油脂・甘味料・調味料・香辛料・嗜好飲料の成分と特徴、製法についてある程度理解し、知識を身に付けている。	油脂・甘味料・調味料・香辛料・嗜好飲料に関する理解度が不十分である。	油脂・甘味料・調味料・香辛料・嗜好飲料に関してほとんど理解できていない。
知識・理解	4．微生物利用食品について	アルコール飲料や発酵調味料などの微生物利用食品の製法と利用する微生物、成分について深く理解し、知識を身に付けている。	アルコール飲料や発酵調味料などの微生物利用食品の製法と利用する微生物、成分についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	アルコール飲料や発酵調味料などの微生物利用食品の製法と利用する微生物、成分についてある程度理解し、知識を身に付けている。	微生物利用食品に関する理解度が不十分である。	微生物利用食品に関してほとんど理解できていない。

科目名	調理学実験 (隔週)			授業番号	NL210A	サブタイトル			
教員	多田　賢代								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実験（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	調理学実験では，食品の調理性や調理中における食品の物性，組織，成分の変化についての実験を通じて，食材をより好ましく調理するために必要な調理技術と科学的メカニズムについて学修する。								
到達目標	実験を通してさまざまな食材の特性を科学的に理解し，調理や献立作成に応用できる力を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	調理学実験の基礎 調理学実験の目的、実験を行うに当たっての知識や注意点を理解し，実験から得られた結果を客観的に評価できるようになる。	
第2回	味覚に関する実験 味覚試験や官能評価の手法について理解する。	
第3回	米・小麦粉に関する実験 米の種類による調理条件や調理方法の特徴について理解する。	
第4回	米・小麦粉に関する実験 小麦粉の膨化調理における膨化剤の種類による蒸しパンの性状への影響について理解する。	
第5回	非加熱操作に関する実験 油の乳化における種類と安定性について理解する。	
第6回	野菜に関する実験 調理条件が野菜の色に及ぼす影響，歯ごたえに及ぼす影響について理解し，野菜の特性を生かした調理条件について理解する。	
第7回	肉・魚に関する実験 肉の加熱調理におけるプロテアーゼ効果、およびハンバーグの副材料が，嗜好性に及ぼす影響について理解する。	
第8回	肉・魚に関する実験 魚のすり身の副材料の効果について理解する。	
第9回	卵・牛乳に関する実験 卵液に加える副材料が卵液ゲルの性状に及ぼす影響を理解する。また，好ましい生クリームの泡立て条件についても理解する。	
第10回	卵・牛乳に関する実験 卵液に加える副材料が卵液ゲルの性状に及ぼす影響を理解する。また，好ましい生クリームの泡立て条件についても理解する。	
第11回	いも・砂糖に関する実験 じゃがいもの調理性の変化について理解する。	
第12回	いも・砂糖に関する実験 砂糖を加熱した時の調理性の変化について理解する。	
第13回	寒天・ゼラチン・カラギーナンに関する実験 各種ゲル化剤の特徴と，ゲルの性状との関係について理解する。また，とろみ剤の種類と特徴について理解する。	
第14回	寒天・ゼラチン・カラギーナンに関する実験 各種ゲル化剤の特徴と，ゲルの性状との関係について理解する。また，とろみ剤の種類と特徴について理解する。	
第15回	まとめ これまでの実験で分かったことが，実際の調理や管理栄養士国家試験に必要な知識であることを理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	欠席や遅刻をすることなく、積極的にグループでの実験に取り組んでいるかどうかを評価する。
レポート	60	レポートは以下の3部構成とする。レポートについては評価した後，コメントを記して返却する。 1.実験：特に考察を重点的に評価する。実験の結果から得られた知見が，調理操作としてどのように応用されているか，教科書等を参考にして記述すること。 2.調理課題：実験で扱った食品の調理性についての知識を，技術として定着させるために，実験に関連した料理を家で作成してレポートを作成する。作った料理は学生証と共に写真を撮り，レポートに添付する。3.国家試験問題解説作成：管理栄養士国家試験の過去問題より，実験のテーマと関連したものを1問とりあげ，解説を作成する。
定期試験	30	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1年次に履修した調理学実習での実習内容について復習を必ずしておくこと。 実験の前には爪を切ってくること。 また，この評価の6割はレポートであるため，提出期限を守らない・レポートの内容が不足している・欠席した場合の減点は取り返せないことを念頭において臨んでほしい。
授業外学修	1．予習として，教科書の実験内容にかかわる部分を読んでおく。 2．復習として，実験のレポートを書く。 3．復習として，実験内容にかかわる料理を作り，レポートを書く。 以上の内容を，週あたり1時間以上学修する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
調理科学実験　第2版	長尾慶子・香西みどり　編著	建帛社	978-4-7679-0623-2	1900
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる調理学	松本 美鈴・平尾 和子	朝倉書店	978-4-254-61117-5	

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	受託給食会社、病院における給食管理業務および臨床栄養管理業務
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．様々な食材の特性を科学的に理解できている。	食材の科学的特性について高度な知識を有しており、調理による科学的反応についても十分に理解できている。	食材の特性を科学的に理解できており、調理操作により引き起こされる化学的変化を理解できている。	食材の科学的特性に基づいた調理操作が行われていることを理解できている。	調理操作については理解できているが、食材の科学的特性を十分に理解できていない。	実験で得られた結果と食材の科学的特性をが結びついていない。
思考・問題解決能力	１．食材の特性を調理や献立作成に応用できる能力を身につけることができている。	実験で取り扱っていない食材についても、その科学的特性を十分に理解したうえで、より好ましい状態に調理・調味する方法を理解し、献立作成に取り入れることができている。	食材の特性を利用してより好ましい状態に調理するための工夫を取り入れた献立を立てることができている。	実験で取り扱った食材の特性を、既存の献立に取り入れることができている。	実験より得られた食材の特性を簡単な調理に取り入れることはできるが、献立作成に応用できていない。	食材の特性を調理や献立に応用できていない。

科目名	食品衛生学			授業番号	NL211	サブタイトル			
教員	楠本 晃子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	食品衛生学は，飲食に起因する衛生上の危害の発生を防止し，健康な生活を確保することを目的とした学問である。食品の生産から加工，流通，貯蔵，調理を経て人に摂取されるまでの過程における安全性の確保について理解する。さらに，食品衛生の概論，食品の安全に関する関連法規，食品衛生行政，食中毒等の健康危害の種類と特徴，食品添加物の有効性と安全性および食品の表示等について学ぶ。管理栄養士，食品衛生管理者，食品衛生監視員になるためにも重要な科目である。								
到達目標	【食の安心・安全の重要性を認識し，「食べ物と健康」に関する知識と理解を深める】 ・食品を介して発生する健康危害要因を説明することができる。 ・食品添加物の種類や機能，必要性を正しく理解し，説明することができる。 ・食品衛生の重要性と食品の安全性確保のための衛生管理方法を説明することができる。 ・食品衛生法，食品安全基本法および食品表示法の概要に関心をもち内容を説明できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	食品衛生と法規（コーデックス， 食品安全基本法，食品衛生法）	
第2回	食品衛生と法規（食品衛生に関する法規）	
第3回	食品の変質（微生物による変質，化学的変質）	
第4回	食中毒と微生物（微生物の概要，微生物の食品への関与）	
第5回	食中毒（食中毒発生状況， 細菌）	
第6回	食中毒（細菌，ウイルス，寄生虫）	
第7回	食中毒（寄生虫，化学物質）	
第8回	食中毒（化学物質，動物・植物性食中毒）	
第9回	食品中の汚染物質（カビ毒，化学物質，有害元素）	
第10回	食品中の汚染物質（放射性物質，異物混入，アレルゲン）	
第11回	食品添加物および残留農薬（食品添加物とは，食品添加物の分類，ポジティブリスト制度）	
第12回	食品衛生管理（一般衛生管理プログラム，HACCPシステム）	
第13回	食品衛生管理（国際標準化機構）	
第14回	食品表示制度（食品表示法の概要，食品表示基準）	
第15回	食品表示制度（特定保健用食品，栄養機能食品，機能性表示食品）	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
定期試験	100	最終的な理解を評価する

評価の方法：自由記載	定期試験を公欠した者に対する追試験は実施するが，定期試験で単位不認定となった者（F）および欠席した者（K）に対しての再試験はおこなわない。
受講の心得	食中毒など食品衛生に関する記事が新聞やニュースに度々出てくるので，世の中の出来事に日頃から関心を持ち，講義に臨むこと。
授業外学修	(1)予習として，教科書を読み疑問点を明らかにしておく。 (2)復習として，授業で配布した資料を読み， 理解を深める。 (3)発展学修として，食品衛生に関する新聞記事やニュースを読み，地域や最新の話題に関心をもつ。 週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド 食品衛生学 第3版	田崎 達明 編	羊土社	978-4-7581-1372-4	2900円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．食品を介して発生する健康危害要因を説明することができる	食品を介して発生する健康危害要因について正しく理解し、説明することができる	食品を介して発生する健康危害要因に関する知識を十分に身につけ、理解している	食品を介して発生する健康危害要因に関する知識を身につけている	食品を介して発生する健康危害要因に関する知識を身につけてはいるが、不十分である	食品を介して発生する健康危害要因に関する知識を身につけていない
知識・理解	２．食品添加物の種類や機能、必要性を正しく理解し、説明することができる	食品添加物について正しく理解し、説明することができる	食品添加物の知識を十分に身につけ、理解している	食品添加物に関する知識を身につけている	食品添加物に関する知識を身につけてはいるが、不十分である	食品添加物に関する知識を身につけていない
知識・理解	３．食品衛生の重要性と食品の安全性確保のための衛生管理方法を説明することができる	食品衛生の重要性と食品の安全性確保のための衛生管理方法について正しく理解し、説明することができる	食品衛生と食品の安全性確保のための衛生管理方法に関する知識を十分に身につけ、理解している	食品衛生と食品の安全性確保のための衛生管理方法に関する知識を身につけている	食品衛生と食品の安全性確保のための衛生管理方法に関する知識を身につけてはいるが、不十分である	食品衛生と食品の安全性確保のための衛生管理方法に関する知識を身につけていない
知識・理解	４．食品衛生法、食品安全基本法および食品表示法の概要を説明できる	食品衛生法、食品安全基本法および食品表示法の概要について正しく理解し、説明することができる	食品衛生法、食品安全基本法および食品表示法に関する知識を十分に身につけ、理解している	食品衛生法、食品安全基本法および食品表示法に関する知識を身につけている	食品衛生法、食品安全基本法および食品表示法に関する知識を身につけてはいるが、不十分である	食品衛生法、食品安全基本法および食品表示法に関する知識を身につけていない

科目名	食品衛生学実験 (隔週)			授業番号	NL212A	サブタイトル			
教員	楠本 晃子								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	実験（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	食品衛生学あるいは微生物学の講義で得た内容をより実践的にするため，微生物に関する検査および実務的な食品衛生検査の手技を実験により習得する。								
到達目標	・食品，器具などの衛生微生物検査における基礎的な技術を説明することができる。 ・実験データおよび文献に基づいて，論理的に思考することができる ・実験データを整理し，レポートにまとめることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考	実験の都合上，既定の授業時間以外にも実験を実施する。実験の日時については初回に指示する。実験を通じて，食品衛生学および微生物学の講義での学びを深める。したがって，単位修得には全回の出席が前提となる。特段の事情のない限り，すべての実験に出席しなければならない。								

回	概要	担当
第1回	食品の寄生虫（アニサキス）検査をおこない，アニサキス食中毒の危険性を学ぶ。細菌の培養の基本的操作を学ぶ。	
第2回	食品の寄生虫（アニサキス）検査をおこない，アニサキス食中毒の危険性を学ぶ。細菌の培養の基本的操作を学ぶ。	
第3回	細菌の培養の基本的操作を学ぶ。手指および体表からの菌を検出する。衛生的手洗いの効果を評価する。	
第4回	細菌の培養の基本的操作を学ぶ。手指および体表からの菌を検出する。衛生的手洗いの効果を評価する。	
第5回	食品中の衛生指標菌（生菌数，大腸菌群）の検査をおこない，食品の微生物リスクについて理解する。	
第6回	食品中の衛生指標菌（生菌数，大腸菌群）の検査をおこない，食品の微生物リスクについて理解する。	
第7回	衛生指標菌（生菌数，大腸菌群）の検査の検査をおこない，食品の微生物リスクについて理解する。	
第8回	衛生指標菌（生菌数，大腸菌群）の検査の検査をおこない，食品の微生物リスクについて理解する。	
第9回	鶏肉におけるサルモネラ属菌の検査をおこない，サルモネラ食中毒のリスクを理解する。	
第10回	鶏肉におけるサルモネラ属菌の検査をおこない，サルモネラ食中毒のリスクを理解する。	
第11回	鶏肉におけるサルモネラ属菌の検査をおこない，サルモネラ食中毒のリスクを理解する。細菌検査の１つであるグラム染色の手法を学ぶ。	
第12回	鶏肉におけるサルモネラ属菌の検査をおこない，サルモネラ食中毒のリスクを理解する。細菌検査の１つであるグラム染色の手法を学ぶ。	
第13回	牡蠣の糞便系大腸菌群の検査をおこない，最確法を学ぶとともに，牡蠣の食中毒リスクについて理解する。	
第14回	牡蠣の糞便系大腸菌群の検査をおこない，最確法を学ぶとともに，牡蠣の食中毒リスクについて理解する。	
第15回	牡蠣の糞便系大腸菌群の検査をおこない，最確法を学ぶとともに，牡蠣の食中毒リスクについて理解する。	

授業計画 備考2	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
レポート	100	レポートの内容および完成度によって評価する。レポートには教員のコメントを記入し返却することで、フィードバックをおこなう。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	細菌や化学物質など危険なものも取り扱うので，十分に説明を聞き真剣に実験に臨むこと。実習冒頭に実験の注意事項を指示するので，遅刻厳禁とする。
授業外学修	実習で配布した資料を熟読し，実験の目的および意義，実験方法，実験結果，考察を復習しながらレポートを作成すること。 復習およびレポート作成には，週当たり2時間以上の時間を要する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．食品微生物検査における基本的な技術を説明することができる。	食品微生物検査における基本的な技術について正しく理解し、説明することができる。	食品微生物検査における基本的な技術に関する知識を十分に身につけ、理解している。	食品微生物検査における基本的な技術に関する知識を身につけている。	食品微生物検査における基本的な技術に関する知識を身につけてはいるが、不十分である。	食品微生物検査における基本的な技術に関する知識を身につけていない。
思考・問題解決能力	１．実験結果および文献に基づいて、論理的に思考することができる。	実験結果に対して、文献を適切に引用しながら、自分の考えを入れた考察を書くことができる。	実験結果に対して、文献を引用しながら、自分の考えを入れた考察を書くことができる。	実験結果に対して、自分の考えを入れた考察を書くことができる。	実験結果に対する考察に論理の破綻が見られる。	実験結果に対した考察が書けない。
技能	１．実験結果を整理し、レポートにまとめることができる。	すべての実験において、目的、方法、結果、考察、参考文献の形式に従って、実験結果を分かりやすくまとめることができる。	目的、方法、結果、考察、参考文献の形式に従って、実験結果を分かりやすくまとめることができる。	目的、方法、結果、考察、参考文献の形式に従って、実験結果をまとめることができる。	一部の実験において、目的、方法、結果、考察、参考文献の形式に従ったレポートを書くことができる。	形式には従っていないが、実験に関するレポートを書くことができる。

科目名	食品学Ⅲ			授業番号	NL403	サブタイトル			
教員	大桑　浩孝								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，農産物，畜産物，水産物の特徴と加工方法と加工適性を学ぶ。さらに，食材・食品が有する機能性（生理的役割），特別用途食品や保健機能食品の制度についても学ぶ。 また、管理栄養士国家試験との関連についても詳しく解説する。								
到達目標	・食品加工に伴う食品成分の化学的・栄養学的・物理的変化を説明できるようになることを目的とする。 ・主な加工食品について，加工原理を説明できるようになることを目的とする。 ・特別用途食品・保健機能食品の制度について理解できることを目的とする。 ・最終的には、管理栄養士国家試験における関連する問題に対応できることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。 ★この授業は選択科目であるが、”管理栄養士国家試験を受験する人は必ず履修すること”。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	食品の保存について 食品の保存方法や殺菌方法などについて解説する。	
第2回	穀類について 米や小麦などの穀類の成分とそれを原料とする加工品に関する解説をする。	
第3回	豆類について 主に大豆・小豆に含まれる成分とそれを原料とする加工品に関する解説をする。	
第4回	いも類・海藻類について いも類・海藻類に含まれる成分とそれを原料とする加工品に関する解説をする。	
第5回	野菜類・きのこ類について 野菜類・きのこ類の分類とそれぞれに含まれる成分、貯蔵法について解説する。	
第6回	果実類について 果実類の分類とそれぞれに含まれる成分、貯蔵法および加工品について解説する。	
第7回	肉類について 肉類に含まれる成分と特徴、食肉加工品の製法と特徴について解説する。	
第8回	卵類について 主に鶏卵の特徴と含まれる成分について解説する解説する。	
第9回	乳類について 主に牛乳に含まれる成分と牛乳を用いた加工品、乳等省令について解説する。	
第10回	魚介類について 魚介類に含まれる成分と特徴、水産物加工品の製法と特徴について解説する。	
第11回	油脂について 油脂の化学的性質と油脂類加工品について解説する。	
第12回	多糖類・調味料および嗜好食品 多糖類を利用した加工品の製法、しょうゆなどの調味料の旨味成分と製法について解説する。	
第13回	嗜好食品 アルコール飲料を含む嗜好食品の製法と特徴について解説する。	
第14回	特別用途食品・保健機能食品の制度 特別用途食品・保健機能食品の制度について解説する。	
第15回	保健機能食品の機能性 特定保健用食品・栄養機能食品の成分と機能性について解説する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
課題	40	授業で毎回配布する課題プリントをノートに問題・解答を記載し、提出してもらいその内容で評価する。提出するだけでは課題点が満点になりません。 授業最終日に提出、その後コメントを記載して返却する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	総合評価：課題点40点、定期試験60点を合わせて100点とする。
受講の心得	予習により疑問点・不明点を明らかにし，授業に臨むこと。また教科書・配布資料・参考資料を単元ごとに纏めて復習をし，知識の定着を図ること。
授業外学修	1　予習として，授業内容に関わる教科書の箇所を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業内容・配布資料をノートに纏める。 3　発展学修として，授業に関連した参考資料・文献を読み，ノートに纏める。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新しい食品加工学（食品の保存・加工・流通と栄養）改訂第3版	高村仁知・森山達哉　編集	南江堂	978-4-524-22851-5	3年次、「食品流通論」で使用した教科書

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
三訂マスター食品学Ⅱ	小関正道・吉川秀樹	建帛社	978-4-7679-0698-0	2年次、「食品学Ⅱ」の授業で使用した教科書

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．特別用途食品・保健機能食品について	特別用途食品、特定保健用食品・栄養機能食品・機能性表示食品の制度、さらに特定保健用食品・栄養機能食品の成分と機能性について深く理解し、知識を身に付けている。	特別用途食品、特定保健用食品・栄養機能食品・機能性表示食品の制度、さらに特定保健用食品・栄養機能食品の成分と機能性についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	特別用途食品、特定保健用食品・栄養機能食品・機能性表示食品の制度、さらに特定保健用食品・栄養機能食品の成分と機能性についてある程度理解し、知識を身に付けている。	特別用途食品・保健機能食品に関する理解が全般的に不十分である。	特別用途食品・保健機能食品に関する理解が全般的にほとんどできていない。
知識・理解	２．食品の保存について	食品保存における様々な方法と原理を深く理解し、知識を身に付けている。	食品保存における様々な方法と原理をほぼ理解し、知識を身に付けている。	食品保存における様々な方法と原理をある程度理解し、知識を身に付けている。	食品保存に関する理解が全般的に不十分である。	食品保存に関する理解が全般的にほとんどできていない。
知識・理解	3．農産物の食品加工について	植物性食品の各成分や特徴を理解した上で、加工法について深く理解し、知識を身に付けている。	植物性食品の各成分や特徴を理解した上で、加工法についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	植物性食品の各成分や特徴を理解した上で、加工法についてある程度理解し、知識を身に付けている。	植物性食品の特徴、加工法に関する理解が全般的に不十分である。	植物性食品の特徴、加工法に関する理解が全般的にほとんどできていない。
知識・理解	4．畜産物の加工について	肉類・卵類・乳類の各成分や特徴を理解した上で、加工法について深く理解し、知識を身に付けている。	肉類・卵類・乳類の各成分や特徴を理解した上で、加工法についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	肉類・卵類・乳類の各成分や特徴を理解した上で、加工法についてある程度理解し、知識を身に着けている。	肉類・卵類・乳類に関する理解が全般的に不十分である。	肉類・卵類・乳類に関する理解が全般的にほとんどできていない。
知識・理解	5．水産物の加工について	魚介類・海藻類の各成分や特徴を理解した上で、加工法について深く理解し、知識を身に付けている。	魚介類・海藻類の各成分や特徴を理解した上で、加工法についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	魚介類・海藻類の各成分や特徴を理解した上で、加工法についてある程度理解し、知識を身に付けている。	魚介類・海藻類に関する理解が全般的に不十分である。	魚介類・海藻類に関する理解が全般的にほとんどできていない。
知識・理解	6．調味料・嗜好食品の加工について	調味料・嗜好飲料の原料、利用する微生物や加工法について深く理解し、知識を身に付けている。	調味料・嗜好飲料の原料、利用する微生物や加工法についてほぼ理解し、知識を身に付けている。	調味料・嗜好飲料の原料、利用する微生物や加工法についてある程度理解し、知識を身に付けている。	調味料・嗜好飲料に関する理解が全般的に不十分である。	調味料・嗜好飲料に関する理解が全般的にほとんどできていない。

科目名	基礎栄養学 I			授業番号	NM101	サブタイトル			
教員	山﨑　真未								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	基礎栄養学は栄養学分野を正しく理解するために必要な基礎知識を習得する。 (1)栄養の概念，生活習慣病発症との関連性について理解する。 (2)摂食調節のしくみと主な摂食調節について理解する。 (3)栄養素の消化吸収と体内動態について理解できる。 (4)ビタミン・ミネラルの構造と機能ついて理解する。 (5)水・電解質の栄養的意義について理解する。								
到達目標	栄養とは何か。食物はどのように体内に取り込まれるのか。栄養素は体内でどのような役割があるのか。またそれらはどのように体外に出るのか。これらの事について栄養学的に理解し，説明できる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	栄養の概念I 「栄養と栄養素」について，栄養素の種類とはたらきを通して概要を理解する。 「遺伝形質と栄養の相互作用」について，遺伝子の構造，遺伝情報の発現と調節，生活習慣病と遺伝子多型について理解する。	
第2回	栄養の概念II 「健康と栄養」，「生活習慣と健康」，「欠乏症と過剰症」について，健康の概念，健康に影響を及ぼす要因，栄養素摂取と健康，生活習慣病，食習慣の問題点を通して概要を理解する。	
第3回	栄養の歴史 現代の栄養学の基礎が築かれた18世紀後半から20世紀前半までの栄養学の歴史を概観する。	
第4回	摂食行動 「摂食行動」について，摂食調節機構，摂食メカニズムに関わる因子について理解し，食物の特性要因，ヒトの特性要因などについて理解する。	
第5回	消化・吸収と栄養素の体内動態I 消化器系の基本的な構造と機能について理解する。また付属器官としての消化腺についても構造と機能，消化管へのかかわり方について理解する。	
第6回	消化・吸収と栄養素の体内動態II 消化・吸収の基本概念を理解する。消化過程（分泌源別の酵素・活性化・基質・終末産物）の唾液腺と胃腺について理解する。	
第7回	消化・吸収と栄養素の体内動態III 消化過程（分泌源別の酵素・活性化・基質・終末産物）の膵液の分泌と成分，中和作用，消化作用について理解する。	
第8回	消化・吸収と栄養素の体内動態IV 消化過程（分泌源別の酵素・活性化・基質・終末産物）の胆嚢の分泌と成分，胆汁の作用，胆汁酸の生成と腸肝循環について理解する。 「管腔内消化と調節」と「膜消化・吸収」について理解する。	
第9回	消化・吸収と栄養素の体内動態V 「栄養素別の消化・吸収」炭水化物，たんぱく質，脂質，ビタミンなどの各栄養素の消化の過程について理解する。	
第10回	消化・吸収と栄養素の体内動態VI 「栄養素別の消化・吸収」ミネラルの消化の過程について理解する。 「栄養素の体内動態」と「生物学的利用度」について理解する。	
第11回	ビタミンの栄養I 「ビタミンの構造と機能」脂溶性ビタミンと水溶性ビタミンの構造と機能について理解する。	
第12回	ビタミンの栄養II 「ビタミンの栄養学的機能」，「ビタミンの生物学的利用度」，「他の栄養素との関係」について理解する。	
第13回	無機質（ミネラル）の栄養I 「ミネラルの分類と栄養学的機能」，「硬組織におけるはたらき」について理解する。	
第14回	無機質（ミネラル）の栄養I 「生体機能の調節機構」，「鉄代謝と栄養」，「ミネラルの生物学的利用度」について理解する。	
第15回	水・電解質の代謝 体内における水の分布，水の機能，水の出納とその調節機構，電解質の分布について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	5	積極的に質問する等，意欲的な受講態度によって評価する。
レポート		
小テスト	5	毎時間の確認問題を実施する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
定期試験	90	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	常に疑問点を持ち授業に臨むこと。ただし疑問点は自己解決できるよう努めること。
授業外学修	1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，授業の内容をノートにまとめる。 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養学科イラストレイテッド基礎栄養学　第5版	田地陽一　編	羊土社	978-4-7581-1377-9	2,900円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．栄養とはについて説明できる	栄養とは何かについて栄養素との違いも含め具体的に説明できる。	栄養とは何かについて具体的に説明できる。	栄養とは何かについて理解できている。	栄養とは何かについて説明できる。	栄養とは何かについて理解が不十分である。
知識・理解	２．消化・吸収について説明できる。	消化・吸収について全体の流れを栄養素ごとに具体的に説明できる。	消化・吸収について全体の流れを具体的に説明できる。	消化・吸収について全体の流れを説明できる。	消化・吸収について全体の流れの理解が不十分である。	消化・吸収について理解していない。
知識・理解	３．ビタミンの栄養について説明できる。	ビタミンの栄養についてそれぞれのビタミンの働きが具体的に説明できる。	ビタミンの栄養についてそれぞれのビタミンの働きが説明できる。	ビタミンの働きについて説明できる。	ビタミンの栄養について理解が不十分である。	ビタミンの栄養について理解していない。
知識・理解	４．ミネラルの栄養について説明できる。	ﾐﾈﾗﾙの栄養についてそれぞれのミネラルの働きが具体的に説明できる。	ミネラルの栄養についてそれぞれのミネラルの働きが説明できる。	ミネラルの働きについて説明できる。	ミネラルの栄養について理解が不十分である。	ミネラルの栄養について理解していない。
思考・問題解決能力	１．自ら積極的に考え疑問を解決することができる。	授業に関連する資料を収集し、自ら疑問を解決し、授業内容を理解している。	質問など積極的に発言し、疑問を解決し、授業内容をほぼ理解している。	質問など発言し、授業内容を理解している。	積極性がなく十分に内容を理解していない。	積極性がなく授業の内容を理解していない。

科目名	基礎栄養学Ⅱ			授業番号	NM202	サブタイトル			
教員	山﨑　真未								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	基礎栄養学は栄養学分野を正しく理解するために必要な基礎知識を習得する。 (1)糖質，脂質，たんぱく質について理解する。 (2)機能性非栄養成分について理解する。 (3)エネルギー代謝について理解する。 (4)遺伝子発現と栄養について理解する。								
到達目標	各栄養素の代謝を中心に，エネルギー代謝，遺伝子発現調節について理解し，説明できることを目標とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	エネルギー代謝Ⅰ 生体におけるエネルギーとは何か，エネルギー消費量として，基礎代謝量，安静時代謝量，睡眠時代謝量について理解する。	
第2回	エネルギー代謝Ⅱ 生体におけるエネルギーとは何か，エネルギー消費量として，活動時代謝量，メッツ・身体活動レベル，食事誘発性熱代謝について理解する。	
第3回	エネルギー代謝Ⅲ 臓器別のエネルギー代謝とエネルギー代謝の測定方法（直接法と間接法）について理解する。	
第4回	糖質（炭水化物）の栄養Ⅰ 糖質とは何か，糖質の摂取と消化について確認し，糖質の代謝について概要を理解する。	
第5回	糖質（炭水化物）の栄養Ⅱ 血糖値の調節について，血糖低下ホルモン，血糖上昇ホルモンを通して調節機構について理解する。	
第6回	糖質（炭水化物）の栄養Ⅲ 糖質の代謝について，解糖系，ピルビン酸の代謝，クエン酸回路，グリコーゲン代謝，糖新生など糖質の代謝について詳細を理解する。	
第7回	機能性非栄養成分 機能性非栄養成分として食物繊維，難消化性糖質の物質と生理作用について理解する。	
第8回	脂質の栄養Ⅰ 脂質とは何か，脂質の種類とはたらきを理解する。	
第9回	脂質の栄養Ⅱ 脂質の臓器間輸送と脂質代謝の，エネルギー源としての脂肪酸（β酸化とクエン酸回路）について理解する。	
第10回	脂質の栄養Ⅲ 貯蔵エネルギーとしての作用や、摂取する脂質の量と質の評価、脂肪酸由来の生理活性物質について理解する。	
第11回	たんぱく質の栄養Ⅰ たんぱく質とは何か，たんぱく質・アミノ酸の化学として構造と分類について理解する。また，たんぱく質・アミノ酸の役割についても理解する。	
第12回	たんぱく質の栄養Ⅱ たんぱく質の代謝として代謝回転，アミノ酸の代謝として尿素の生成とアミノ酸の炭素骨格の代謝について理解する。	
第13回	たんぱく質の栄養Ⅲ たんぱく質の栄養として食品たんぱく質の栄養評価法について生物的評価法と化学的評価法を理解する。	
第14回	炭水化物と脂質の栄養 復習問題を解き、理解を深める。	
第15回	たんぱく質の栄養とエネルギー代謝 復習問題を解き、理解を深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	5	積極的に質問する等，意欲的な受講態度によって評価する。
レポート		
小テスト	10	毎時間の確認問題を実施する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
定期試験	85	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習と復習を行う。特に復習を必ず行うこと。また，疑問点，わからないことは教科書，参考書等でよく調べておくこと。
授業外学修	1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，授業の内容をノートにまとめる。 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養学科イラストレイテッド 基礎栄養学（第5版）	田地陽一／編	羊土社	978-4-7581-1377-9	2,900円
使用テキスト：自由記載	基礎栄養学Ⅰで使用したテキストを使用			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
管理栄養士国家試験受験必須キーワード集（第10版）		女子栄養大学出版部	978-4-7895-2450-6	3,200円

参考書：自由記載	管理栄養士国家試験受験必須キーワード集（第10版）　女子栄養大学出版部
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．糖質の栄養について説明できる	糖質の栄養について代謝とその働きが具体的に説明できる。	糖質の栄養について代謝とその働きが説明できる。	糖質の栄養について働きが説明できる。	糖質の栄養について働きの理解が不十分である。	糖質の栄養について理解していない。
知識・理解	２．脂質の栄養について説明できる。	脂質の栄養について代謝とその働きが具体的に説明できる。	脂質の栄養について代謝とその働きが説明できる。	脂質の栄養について働きが説明できる。	脂質の栄養について働きの理解が不十分である。	脂質の栄養について理解していない。
知識・理解	３．たんぱく質の栄養について説明できる。	たんぱく質の栄養について代謝とその働きが具体的に説明できる。	たんぱく質の栄養について代謝とその働きが説明できる。	たんぱく質の栄養について働きが説明できる。	たんぱく質の栄養について働きの理解が不十分である。	たんぱく質の栄養について理解していない。
知識・理解	４．機能非栄養素成分について説明できる。	機能非栄養素成分についてそれぞれの働きが具体的に説明できる。	機能非栄養素成分についてそれぞれの働きが説明できる。	機能非栄養素成分について説明できる。	機能非栄養素成分とは何かについて理解が不十分である。	機能非栄養素成分について理解していない。
知識・理解	５．水・電解質について説明できる。	水・電解質のそれぞれの働きが具体的に説明できる。	水・電解質のそれぞれの働きが説明できる。	水・電解質の働きについて説明できる。	水・電解質の働きについて理解が不十分である。	水・電解質について理解していない。
思考・問題解決能力	１．授業に積極的に参加できる。	質問など積極的に発言し、自ら疑問を解決し、授業内容を理解している。	質問など積極的に発言し、疑問を解決し、授業内容をほぼ理解している。	質問など発言し、授業内容を理解している。	授業に参加しているが、十分に内容を理解していない。	授業の内容を理解していない。

科目名	栄養学実習 (隔週)			授業番号	NM203A	サブタイトル			
教員	山﨑　真未								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	食事調査や身体計測等測定結果、生活活動調査等のデータを用いて自己分析を行う中で、基礎栄養学で学んだ栄養素と生体の関わり合いを自らを通して確認する。 併せて，身体測定，食事調査，活動量の測定などアセスメントに必要な技術を修得する。								
到達目標	実習を通して科学的なものの考え方を修得すると同時に，実践力を身につける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	食事調査から栄養状態を把握し、問題点を明確化する。 実習の目的と進め方，食事記録と採尿について説明を行う。また、食事調査（BDHQ）を実施する。	
第2回	食事調査から栄養状態を把握し、問題点を明確化する。 実習の目的と進め方，食事記録と採尿について説明を行う。また、食事調査（BDHQ）を実施する。	
第3回	測定方法および測定から得られる事象や指標を理解する。 生活時間調査と生活活動測定（歩数），食事記録についての説明と、身体組成（身長，体重，体脂肪率）と血圧，骨密度，握力，最大酸素摂取量などの測定機器の説明を行う。	
第4回	測定方法および測定から得られる事象や指標を理解する。 生活時間調査と生活活動測定（歩数），食事記録についての説明と、身体組成（身長，体重，体脂肪率）と血圧，骨密度，握力，最大酸素摂取量などの測定機器の説明を行う。	
第5回	測定方法および測定から得られる事象や指標を理解する。 身体組成（身長，体重，体脂肪率）と血圧，骨密度，握力，最大酸素摂取量などの測定を行う。 生活時間調査から生活活動量を算出し，食事摂取状況調査を元に，一日のエネルギー摂取量及び栄養素摂取量を求め，評価する。	
第6回	測定方法および測定から得られる事象や指標を理解する。 身体組成（身長，体重，体脂肪率）と血圧，骨密度，握力，最大酸素摂取量などの測定を行う。 生活時間調査から生活活動量を算出し，食事摂取状況調査を元に，一日のエネルギー摂取量及び栄養素摂取量を求め，評価する。	
第7回	測定方法および測定から得られる事象や指標を理解する。 身体組成（身長，体重，体脂肪率）と血圧，骨密度，握力，最大酸素摂取量などの測定を行う。 生活時間調査から生活活動量を算出し，食事摂取状況調査を元に，一日のエネルギー摂取量及び栄養素摂取量を求め，評価する。	
第8回	測定方法および測定から得られる事象や指標を理解する。 身体組成（身長，体重，体脂肪率）と血圧，骨密度，握力，最大酸素摂取量などの測定を行う。 生活時間調査から生活活動量を算出し，食事摂取状況調査を元に，一日のエネルギー摂取量及び栄養素摂取量を求め，評価する。	
第9回	測定方法および測定から得られる事象や指標を理解する。 身体組成（身長，体重，体脂肪率）と血圧，骨密度，握力，最大酸素摂取量などの測定を行う。 生活時間調査から生活活動量を算出し，食事摂取状況調査を元に，一日のエネルギー摂取量及び栄養素摂取量を求め，評価する。	
第10回	測定方法および測定から得られる事象や指標を理解する。 身体組成（身長，体重，体脂肪率）と血圧，骨密度，握力，最大酸素摂取量などの測定を行う。 生活時間調査から生活活動量を算出し，食事摂取状況調査を元に，一日のエネルギー摂取量及び栄養素摂取量を求め，評価する。	
第11回	データ分析と考察・発表準備 生活時間調査，身体組成の測定結果，食事調査結果，生活活動調査結果から関連性を解析するためにデータ整理を行い，各自の身体組成的特徴，食習慣，生活習慣を抽出する。	
第12回	データ分析と考察・発表準備 生活時間調査，身体組成の測定結果，食事調査結果，生活活動調査結果から関連性を解析するためにデータ整理を行い，各自の身体組成的特徴，食習慣，生活習慣を抽出する。	
第13回	データ分析と考察・発表準備 生活時間調査，身体組成の測定結果，食事調査結果，生活活動調査結果から関連性を解析するためにデータ整理を行い，各自の身体組成的特徴，食習慣，生活習慣を抽出する。	
第14回	データ分析と考察・発表準備 生活時間調査，身体組成の測定結果，食事調査結果，生活活動調査結果から関連性を解析するためにデータ整理を行い，各自の身体組成的特徴，食習慣，生活習慣を抽出する。	
第15回	栄養素と生体の関わり合いについて考察したことを発表する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，予習の状況によって評価する。
レポート	80	自己課題のまとめグループ発表資料の提出によって評価する。提出後、コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	授業終了後にファイル提出をしていただきます。 ファイルも評価の対象です。
受講の心得	実習は実際に行って初めて修得できる科目であり，正当な理由なしの欠席は原則認めない。
授業外学修	1　予習として，各自の調査データを丁寧に集めてくること。 2　復習として，課題のレポートを書く。 以上の内容を週当たり1時間以上学修すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
基礎栄養学	田地陽一／編	羊土社	978-7581-1360-1	

参考書：自由記載	栄養学科イラストレイテッド　基礎栄養学　編／田地陽一　羊土社
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.栄養素と生体の関わり合いを自らを通して理解することができる。	基礎栄養学で学んだ栄養素と生体の関わり合いを自らを通して十分に理解することができている。	基礎栄養学で学んだ栄養素と生体の関わり合いを自らを通して理解することができている。	基礎栄養学で学んだ栄養素と生体の関わり合いを理解することができている。	基礎栄養学で学んだ栄養素と生体の関わり合いについての知識が不十分である。	基礎栄養学で学んだ栄養素と生体の関わり合いについて理解できていない。
思考・問題解決能力	１．データ分析ができる。	得られたデータについて、項目ごとに適切な評価と、分析をすることができる。	得られたデータについて、項目ごとに評価と、分析をすることができる。	得られたデータについて、評価・分析をすることができる。	得られたデータについて、評価することができる。	得られたデータについて、評価・分析ができていない。
思考・問題解決能力	２．データ分析を元に改善計画が作成できる。	得られた分析結果を元に、項目ごとに適切かつ具体的な改善計画を考えることができる。	得られた分析結果を元に、項目ごとに適切な改善計画を考えることができる。	得られた分析結果を元に、適切な改善計画を考えることができる。	得られた分析結果を元に、項目ごとに適切かつ具体的な改善計画を考えることができる。	得られた分析結果を元に、項目ごとに適切かつ具体的な改善計画を考えることができていない。
技能	１．測定及び調査によりデータの収集ができる。	身体測定、食事調査、生活時間調査の測定、調査について測定・調査方法を理解し、適切な手法でデータ収集ができる。	身体測定、食事調査、生活時間調査の測定、調査について、適切な手法でデータ収集ができる。	身体測定、食事調査、生活時間調査の測定、調査について、測定・調査方法を理解し、データ収集ができる。	身体測定、食事調査、生活時間調査の測定、調査について、データ収集ができる。	身体測定、食事調査、生活時間調査の測定、調査について、データ収集ができていない。
技能	２．データのまとめができる。	得られたデータについて、項目ごとにまとめ、適切な手法で表、グラフなど作成ができる。	得られたデータについて、項目ごとにまとめ、表、グラフなど作成ができる。	得られたデータについて、項目ごとにまとめ、表の作成ができる。	得られたデータについて、項目ごとにまとめることができる。	得られたデータについて、項目ごとにまとめができていない。
態度	１．授業に積極的に参加できる。	質問など積極的に発言し、自ら疑問を解決し、授業内容を理解している。	質問など積極的に発言し、疑問を解決し、授業内容をほぼ理解している。	質問など発言し、授業内容を理解している。	授業に参加しているが、十分に内容を理解していない。	授業の内容を理解していない。

科目名	応用栄養学Ⅰ			授業番号	NN201	サブタイトル			
教員	古川　愛子、山﨑　真未、髙坂　由理								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	本講義は，栄養ケアプロセスの基本を学び，食事摂取基準を理解し，ライフステージ等における栄養状態や身体機能の特徴に基づいた栄養ケア・マネジメントについて学ぶことを目的とする。始めに，栄養ケアプロセスと栄養状態の評価判定法について講義し，次いで「日本人の食事摂取基準」の概念および策定の科学的根拠について説明する。その上で，妊娠期，授乳期，乳児期の心身の特性と栄養状態の評価・判定法，栄養上・食生活上の問題点と栄養管理について明らかにする。								
到達目標	管理栄養士業務の基礎となる「栄養ケアプロセス」と「日本人の食事摂取基準」の意義を理解し，妊娠期・授乳期，乳児期の特性と栄養評価，栄養管理について説明できるようになることを目的とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	栄養ケアマネジメント１　「栄養ケアマネジメント」とはなにか、栄養スクリーニングとアセスメント 栄養ケアマネジメントの概念と目的について講義する 栄養スクリーニングの手法について説明する 栄養アセスメントにおける身体状態の評価および食調査法とその活用について講義する	古川
第2回	栄養ケアマネジメント２　栄養診断と栄養ケア計画 栄養アセスメントと栄養診断、栄養ケア計画の考え方について講義する	古川
第3回	発育・発達・加齢と栄養画 身体の形状および体組成、摂食機能、代謝能力、免疫機能における各ライフステージでの特徴について講義する 摂食機能について、発達の過程と老化による低下の過程を講義する	古川
第4回	食事摂取基準1「日本人の食事摂取基準（2025年版）」の策定主旨，概念 食事摂取基準の目的と策定の基本指針と概念について講義する	髙坂
第5回	食事摂取基準2　エネルギーについて 食事摂取基準を用いたエネルギーの評価方法について講義する	髙坂
第6回	食事摂取基準3　たんぱく質について 食事摂取基準の各指標を用い、たんぱく質の評価方法について講義する	髙坂
第7回	食事摂取基準4　脂質について 食事摂取基準の各指標の定義、脂質の評価方法について講義する	髙坂
第8回	食事摂取基準5　炭水化物について 食事摂取基準の各指標の定義、炭水化物の評価方法について講義する	髙坂
第9回	食事摂取基準6　ビタミン，ミネラルについて 食事摂取基準の各指標の定義、ビタミン・ミネラルの評価方法について講義する	髙坂
第10回	妊娠期・授乳期の栄養管理１ 妊娠期、授乳期の栄養管理の基本となる生理的特徴について講義する	山﨑
第11回	妊娠期、授乳期の栄養管理２ 妊娠期、授乳期の栄養ケア・マネジメントについて講義する	山﨑
第12回	妊娠期、授乳期の栄養管理３ 妊娠前の栄養状態が、胎児の発育不全や生活習慣病の発症に及ぼす影響について講義する	山﨑
第13回	新生児期、乳児期の栄養管理１ 新生児期・乳児の定義と生理的特徴について講義する	山﨑
第14回	新生児期、乳児期の栄養管理２ 健全な発育のための、授乳期・離乳期の栄養補給方法について講義する	山﨑
第15回	新生児期、乳児期の栄養管理３ 新生児・乳児の栄養ケア・マネジメントについて講義する	山﨑
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
定期試験	90	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回の授業が，管理栄養士になるための基礎づくりであり，国家試験へ向けての準備であることを念頭において受講する。
授業外学修	1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，ノート整理を行い，小テストの見直しを行う。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド　応用栄養学第3版	柏下淳、上西一弘　編	羊土社	978-4-7581-1379-3	3000+税
『日本人の食事摂取基準（2025年版）』	佐々木敏　監修	第一出版	978-4-8041-14	2800+税
使用テキスト：自由記載	その他適宜資料を配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『栄養ケアプロセス用語マニュアル』	公益社団法人日本栄養士会　監訳	第一出版	978-4-8041-1270-1	3400+税
参考書：自由記載				

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院の管理栄養士5年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	臨床栄養現場における管理栄養士・栄養士業務を通して，栄養ケアマネジメントの実際，妊産婦栄養管理および栄養指導，離乳食相談，幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．栄養管理の概念と基本的事項を理解し、栄養評価に関して理解できている。	栄養管理の概念と基本的事項、栄養評価に関してしっかりとした説明ができる。	栄養管理の概念と基本的事項、栄養評価に関して概要の説明ができる。	栄養管理の概念と基本的事項、栄養評価に関して概要の理解ができている。	栄養管理の概念と基本的事項、栄養評価に関して概要の理解が不十分である。	栄養管理の概念と基本的事項、栄養評価に関して概要の理解に至っていない。
知識・理解	２．食事摂取基準の目的や策定の基本的考え方を理解し、食事摂取基準の活用の理論について理解できている。	食事摂取基準の目的や策定の基本的考え方、および食事摂取基準の活用の理論についてしっかりとした説明ができる。	食事摂取基準の目的や策定の基本的考え方、および食事摂取基準の活用の理論について概要の説明ができる。	食事摂取基準の目的や策定の基本的考え方、および食事摂取基準の活用の理論について概要の理解ができている。	食事摂取基準の目的や策定の基本的考え方、および食事摂取基準の活用の理論について概要の理解が不十分である。	食事摂取基準の目的や策定の基本的考え方、および食事摂取基準の活用の理論について概要の理解に至っていない。
知識・理解	３．妊娠期・授乳期の身体の特徴を理解し、妊娠期・授乳期における栄養管理について理解できている。	妊娠期・授乳期の身体の特徴、妊娠期・授乳期における栄養管理についてしっかりとした説明ができる。	妊娠期・授乳期の身体の特徴、妊娠期・授乳期における栄養管理について概要の説明ができる。	妊娠期・授乳期の身体の特徴、妊娠期・授乳期における栄養管理について概要の理解ができている。	妊娠期・授乳期の身体の特徴、妊娠期・授乳期における栄養管理について概要の理解が不十分である。	妊娠期・授乳期の身体の特徴、妊娠期・授乳期における栄養管理について概要の理解に至っていない。
知識・理解	４．新生児・乳児期の身体の特徴を理解し、新生児・乳児期における栄養管理について理解できている。	新生児・乳児期の身体の特徴、新生児・乳児期における栄養管理についてしっかりとした説明ができる。	新生児・乳児期の身体の特徴、新生児・乳児期における栄養管理について概要の説明ができる。	新生児・乳児期の身体の特徴、新生児・乳児期における栄養管理について概要の理解ができている。	新生児・乳児期の身体の特徴、新生児・乳児期における栄養管理について概要の理解が不十分である。	新生児・乳児期の身体の特徴、新生児・乳児期における栄養管理について概要の理解に至っていない。
思考・問題解決能力	１．対象者により適切な栄養評価項目や方法が選択できる。	対象者により適切な栄養評価項目や方法が選択でき、選択についてしっかりとした説明ができる。	対象者により適切な栄養評価項目や方法が選択でき、選択の概要の説明ができる。	対象者により適切な栄養評価項目や方法が選択できる。	対象者により適切な栄養評価項目や方法の選択が不十分である。	対象者により適切な栄養評価項目や方法の選択ができない。
思考・問題解決能力	２．対象や身体状況別に、食事摂取基準の具体的な活用方法を選択できる。	対象や身体状況別に、食事摂取基準の具体的な活用方法を適切に選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	対象や身体状況別に、食事摂取基準の具体的な活用方法を適切に選択し、選択の概要の説明ができる。	対象や身体状況別に、食事摂取基準の具体的な活用方法を適切に選択できる。	対象や身体状況別に、食事摂取基準の具体的な活用方法の選択が不十分である。	対象や身体状況別に、食事摂取基準の具体的な活用方法の選択ができない。
思考・問題解決能力	３．妊娠期・授乳期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに妊娠期・授乳期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法が選択できる。	妊娠期・授乳期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに妊娠期・授乳期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	妊娠期・授乳期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに妊娠期・授乳期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択し、選択の概要の説明ができる。	妊娠期・授乳期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに妊娠期・授乳期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択できる。	妊娠期・授乳期の健康保持に適した栄養補給法の選択、および妊娠期・授乳期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法C	妊娠期・授乳期の健康保持に適した栄養補給法の選択、および妊娠期・授乳期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法の選択ができない。
思考・問題解決能力	４．新生児・乳児期の発育・健康保持に適した栄養補給法（特に、離乳食）が選択でき、新生児・乳児期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法が選択できる。	新生児・乳児期の発育・健康保持に適した栄養補給法（特に、離乳食）が選択でき、さらに新生児・乳児期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	新生児・乳児期の発育・健康保持に適した栄養補給法（特に、離乳食）が選択でき、さらに新生児・乳児期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択し、選択の概要の説明ができる。	新生児・乳児期の発育・健康保持に適した栄養補給法（特に、離乳食）が選択でき、新生児・乳児期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法が適切に選択できる。	新生児・乳児期の発育・健康保持に適した栄養補給法（特に、離乳食）の選択、および新生児・乳児期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法の選択が不十分である。	新生児・乳児期の発育・健康保持に適した栄養補給法（特に、離乳食）の選択、および新生児・乳児期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法の選択ができない。

科目名	応用栄養学Ⅱ			授業番号	NN202	サブタイトル			
教員	安原　幹成、藤原　三保子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	本講義は応用栄養学Ⅰに引き続き，栄養ケアプロセスの基本を学び，食事摂取基準を理解し，ライフステージ等における栄養状態や身体機能の特徴に基づいた栄養ケア・マネジメントについて講義する。ライフステージは，幼児期から高齢期までの心身の特性と栄養状態の評価・判定，栄養上・食生活上の問題点と栄養管理について明らかにする。								
到達目標	管理栄養士業務の基礎となる「栄養ケアプロセス」と「日本人の食事摂取基準」の意義を理解し，幼児期から高齢期までの特性と栄養評価，栄養管理について説明できるようになることを目的とする。また，運動の生活習慣病予防への効果，様々な環境下における栄養との関係などについても理解する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	幼児期の栄養1 幼児期における身体的および精神的機能の発達の特徴について理解する。	山﨑　真未
第2回	幼児期の栄養2 幼児期の特性を踏まえた栄養ケア・マネジメントの考え方について理解する。	山﨑　真未
第3回	幼児期の栄養3 幼児期にみられる主な疾患およびその予防方法について理解する。 また、食習慣・生活習慣の現状を把握し、適切な改善方法について理解する。	山﨑　真未
第4回	学童期・思春期の栄養1 学童期・思春期の身体的・精神的機能の発達について特徴を理解する（１）	藤原　三保子
第5回	学童期・思春期の栄養２ 学童期・思春期の身体的・精神的機能の発達について特徴を理解する（２）	藤原　三保子
第6回	学童期・思春期の栄養３ 学童期・思春期の健康上の問題点と食事摂取基準を把握し、栄養ケア・マネジメントの考え方について理解する（１）	藤原　三保子
第7回	学童期・思春期の栄養４ 学童期・思春期の健康上の問題点と食事摂取基準を把握し、栄養ケア・マネジメントの考え方について理解する（２）	藤原　三保子
第8回	学童期・思春期の栄養５ 学童期・思春期にみられる疾患とその予防方法について理解する。	藤原　三保子
第9回	学童期・思春期の栄養６ 学童期・思春期の食習慣・生活習慣の現状を把握し、改善方法を理解する。	藤原　三保子
第10回	成人期の栄養1　成人期の身体機能，栄養状態の変化 ＜授業の概要＞ 成人期における加齢および更年期に伴う生理的変化を理解することを目的とする。内分泌系および生殖器系の変化、基礎代謝や体組成の変動を中心に、男女差を含めた更年期特有の代謝機能の変化と健康への影響を整理し、成人期の栄養管理の基礎的視点を形成する。	安原　幹成
第11回	成人期の栄養2　生活習慣病と栄養管理 ＜授業の概要＞ 成人期の生活習慣の特徴を踏まえ、日本人の食事摂取基準を基盤とした栄養マネジメントの考え方を学ぶ。肥満、糖尿病、高血圧、脂質異常症といった主要な生活習慣病の成因と栄養学的課題を理解し、一次予防を目的とした食事管理能力の修得を目指す。	安原　幹成
第12回	更年期の栄養　成人期・更年期の身体機能，栄養状態の変化,生活習慣病と栄養管理 ＜授業の概要＞ 動脈硬化、脳血管疾患、虚血性心疾患、慢性腎臓病などの生活習慣病を中心に、病態と栄養管理の関連を体系的に理解する。更年期障害や骨粗鬆症を含め、疾患進展予防とQOL維持を目的とした栄養マネジメントの実践的視点を養う。	安原　幹成
第13回	高齢期の栄養1　身体状況の変化,栄養状態の変化 ＜授業の概要＞ 高齢期にみられる感覚機能、咀嚼・嚥下機能、消化吸収機能の変化と、たんぱく質・エネルギー代謝の特徴を理解する。身体能力や身体活動量の低下がADLおよびIADLに及ぼす影響を整理し、高齢者の栄養管理の基盤となる生理的特性を把握する。	安原　幹成
第14回	高齢期の栄養2　栄養状態の評価・判定 ＜授業の概要＞ 高齢者に頻発する低栄養、咀嚼・嚥下障害、脱水、便秘の成因と評価方法を学ぶ。身体機能や生活状況を踏まえた栄養アセスメントの重要性を理解し、個別性を考慮した栄養ケア・マネジメントの基本的能力を形成する。	安原　幹成
第15回	高齢期の栄養3　食生活，健康上の問題点と栄養管理 ＜授業の概要＞ フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドロームの概念と栄養学的課題を理解する。転倒・骨折や認知症との関連を踏まえ、高齢者の自立支援と生活機能維持を目的とした栄養介入の考え方を整理し、包括的な栄養ケア能力を養う。	安原　幹成
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	30	講義内容の理解度と取り組み姿勢について、レポートの内容をもとに評価する。 レポートは講義と並行して進める。次回授業時に全体的なまとめを解説する。
小テスト		
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回の授業が，管理栄養士になるための基礎づくりであり，国家試験へ向けての準備であることを念頭において受講する。
授業外学修	１　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 ２　復習として，ノート整理を行い，レポートの作成を行う。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド　応用栄養学　第3版	栢下　淳，上西一弘／編	羊土社	978-4-7581-1379-3	3,000+税
日本人の食事摂取基準（2025年版）	佐々木敏　監修	第一出版	978-4-8041-1492-7	1,900+税
使用テキスト：自由記載	その他、適宜資料を配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	第4回から9回担当者：管理栄養士・栄養教諭：地方自治体（公立小学校・公立中学校）15年 第10回から15回担当者：医療機関における管理栄養士（23年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	第4回から9回担当者：本授業は、教育現場での経験を活かし、現代的な諸課題や子どもの発達段階に合わせた内容を、実践的な技術を取り入れて構成する。 第8回から15回担当者：本授業は、医療機関において管理栄養士として23年間勤務した実務経験を基盤とし、臨床現場で培った知識および実践的視点を取り入れて構成する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児期・学童期、思春期の身体の特徴を理解し、幼児期・学童期、思春期における栄養管理について理解できている。	幼児期・学童期、思春期の身体の特徴を理解し、幼児期・学童期、思春期における栄養管理についてしっかりとした説明ができる。	幼児期・学童期、思春期の身体の特徴を理解し、幼児期・学童期、思春期における栄養管理について概要の説明ができる。	幼児期・学童期、思春期の身体の特徴を理解し、幼児期・学童期、思春期における栄養管理について理解ができている。	幼児期・学童期、思春期の身体の特徴を理解し、幼児期・学童期、思春期における栄養管理について概要の理解が不十分である。	幼児期・学童期、思春期の身体の特徴を理解し、幼児期・学童期、思春期における栄養管理について概要の理解に至っていない。
知識・理解	２．成人期に特徴的な食生活・生活習慣と生活習慣病との関連について理解し、成人期における栄養管理について理解できている。	成人期に特徴的な食生活・生活習慣と生活習慣病との関連について理解し、成人期における栄養管理についてしっかりとした説明ができる。	成人期に特徴的な食生活・生活習慣と生活習慣病との関連について理解し、成人期における栄養管理について概要の説明ができる。	成人期に特徴的な食生活・生活習慣と生活習慣病との関連について理解し、成人期における栄養管理について理解ができている。	成人期に特徴的な食生活・生活習慣と生活習慣病との関連について理解し、成人期における栄養管理について概要の理解が不十分である。	成人期に特徴的な食生活・生活習慣と生活習慣病との関連について理解し、成人期における栄養管理について概要の理解に至っていない。
知識・理解	３．更年期、高齢期における身体諸機能の加齢変化および老化について理解し、更年期、高齢期における栄養管理について理解できている。	更年期、高齢期における身体諸機能の加齢変化および老化について理解し、更年期、高齢期における栄養管理についてしっかりとした説明ができる。	更年期、高齢期における身体諸機能の加齢変化および老化について理解し、更年期、高齢期における栄養管理について概要の説明ができる。	更年期、高齢期における身体諸機能の加齢変化および老化について理解し、更年期、高齢期における栄養管理について理解ができている。	更年期、高齢期における身体諸機能の加齢変化および老化について理解し、更年期、高齢期における栄養管理について概要の理解が不十分である。	更年期、高齢期における身体諸機能の加齢変化および老化について理解し、更年期、高齢期における栄養管理について概要の理解に至っていない。
知識・理解	４．身体活動・運動時のエネルギー代謝および生理的変化の特徴を理解し、生涯を通じた健康管理のための身体活動・運動について理解できている。	身体活動・運動時のエネルギー代謝および生理的変化の特徴を理解し、生涯を通じた健康管理のための身体活動・運動についてしっかりとした説明ができる。	身体活動・運動時のエネルギー代謝および生理的変化の特徴を理解し、生涯を通じた健康管理のための身体活動・運動について概要の説明ができる。	身体活動・運動時のエネルギー代謝および生理的変化の特徴を理解し、生涯を通じた健康管理のための身体活動・運動について理解ができている。	身体活動・運動時のエネルギー代謝および生理的変化の特徴を理解し、生涯を通じた健康管理のための身体活動・運動について概要の理解が不十分である。	身体活動・運動時のエネルギー代謝および生理的変化の特徴を理解し、生涯を通じた健康管理のための身体活動・運動について概要の理解に至っていない。
知識・理解	５．ストレス条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理について理解できている。	ストレス条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理についてしっかりとした説明ができる。	ストレス条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理について概要の説明ができる。	ストレス条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理について理解ができている。	ストレス条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理について概要の理解が不十分である。	ストレス条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理について概要の理解に至っていない。
知識・理解	６．特殊環境条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理について理解できている。	特殊環境条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理についてしっかりとした説明ができる。	特殊環境条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理について概要の説明ができる。	特殊環境条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理について理解ができている。	特殊環境条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理について概要の理解が不十分である。	特殊環境条件下の身体特性について理解し、これに応じた栄養管理について概要の理解に至っていない。
思考・問題解決能力	１．対象や身体状況別（小児、成人、高齢者）に、食事摂取基準の具体的な活用方法を選択できる。	対象や身体状況別（小児、成人、高齢者）に、食事摂取基準の具体的な活用方法を適切に選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	対象や身体状況別（小児、成人、高齢者）に、食事摂取基準の具体的な活用方法を適切に選択し、選択の概要の説明ができる。	対象や身体状況別（小児、成人、高齢者）に、食事摂取基準の具体的な活用方法を適切に選択できる。	対象や身体状況別（小児、成人、高齢者）に、食事摂取基準の具体的な活用方法の選択が不十分である。	対象や身体状況別（小児、成人、高齢者）に、食事摂取基準の具体的な活用方法の選択ができない。
思考・問題解決能力	２．幼児期・学童期、思春期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、幼児期・学童期、思春期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法が選択できる。	幼児期・学童期、思春期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに幼児期・学童期、思春期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	幼児期・学童期、思春期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに幼児期・学童期、思春期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法をを適切に選択し、選択の概要の説明ができる。	幼児期・学童期、思春期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに幼児期・学童期、思春期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択できる。	幼児期・学童期、思春期の健康保持に適した栄養補給法の選択、および幼児期・学童期、思春期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法の選択が不十分である。	幼児期・学童期、思春期の健康保持に適した栄養補給法の選択、および幼児期・学童期、思春期に特徴的な疾病の予防と改善のための栄養介入方法の選択ができない。
思考・問題解決能力	３．成人期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、成人期に特徴的な疾病（特に生活習慣病）の予防と改善のための栄養介入方法が選択できる。	成人期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに成人期に特徴的な疾病（特に生活習慣病）の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	成人期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに成人期に特徴的な疾病（特に生活習慣病）の予防と改善のための栄養介入方法を	成人期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに成人期に特徴的な疾病（特に生活習慣病）の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択できる。	成人期の健康保持に適した栄養補給法の選択、および成人期に特徴的な疾病（特に生活習慣病）の予防と改善のための栄養介入方法の選択が不十分である。	成人期の健康保持に適した栄養補給法の選択、および成人期に特徴的な疾病（特に生活習慣病）の予防と改善のための栄養介入方法の選択ができない。
思考・問題解決能力	４．更年期、高齢期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、更年期、高齢期に特徴的な疾病（特に高齢者ではフレイル）の予防と改善のための栄養介入方法が選択できる。	更年期、高齢期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに更年期、高齢期に特徴的な疾病（特に高齢者ではフレイル）の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	更年期、高齢期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに更年期、高齢期に特徴的な疾病（特に高齢者ではフレイル）の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択し、選択の概要の説明ができる。	更年期、高齢期の健康保持に適した栄養補給法が選択でき、さらに更年期、高齢期に特徴的な疾病（特に高齢者ではフレイル）の予防と改善のための栄養介入方法を適切に選択できる。	更年期、高齢期の健康保持に適した栄養補給法の選択、および更年期、高齢期に特徴的な疾病（特に高齢者ではフレイル）の予防と改善のための栄養介入方法の選択が不十分である。	更年期、高齢期の健康保持に適した栄養補給法の選択、および更年期、高齢期に特徴的な疾病（特に高齢者ではフレイル）の予防と改善のための栄養介入方法の選択ができない。
思考・問題解決能力	５．健康づくりのための身体活動基準および健康づくりのための身体活動指針に沿って、対象に応じた身体活動・運動が選択できる。	健康づくりのための身体活動基準および健康づくりのための身体活動指針に沿って、対象に応じた身体活動・運動を適切に選択し、選択についてしっかりとした説明ができる。	健康づくりのための身体活動基準および健康づくりのための身体活動指針に沿って、対象に応じた身体活動・運動を適切に選択し、選択の概要の説明ができる。	健康づくりのための身体活動基準および健康づくりのための身体活動指針に沿って、対象に応じた身体活動・運動を適切に選択できる。	対象に応じた身体活動・運動の選択が不十分である。	対象に応じた身体活動・運動の選択ができない。

科目名	応用栄養学実習 (隔週)			授業番号	NN203A	サブタイトル			
教員	多田　賢代								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	応用栄養学I，IIで学んだ各ライフステージの身体上，健康・栄養上の特性と栄養アセスメントの方法を基礎知識として，乳児期から高齢期までの各ライフステージの特性に合った具体的な栄養管理方法に関する実際を学び，技能を修得する。								
到達目標	各ライフステージの対象者に対する栄養評価，適正な栄養基準量の設定及び献立作成・調理技術を身につけ，各ライフステージに応じた栄養マネジメントに必要な技術を修得することを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	発育・発達および加齢と栄養との関係について理解するとともに、 栄養マネジメントの方法とその手順について学ぶ。	
第2回	発育・発達および加齢と栄養との関係について理解するとともに、 栄養マネジメントの方法とその手順について学ぶ。	
第3回	新生児期、乳児期における栄養管理について学ぶ。 乳児期における食事と栄養管理について、乳汁期および離乳期（調乳・離乳食）を中心に学ぶ。	
第4回	新生児期、乳児期における栄養管理について学ぶ。 乳児期における食事と栄養管理について、乳汁期および離乳期（調乳・離乳食）を中心に学ぶ。	
第5回	妊娠期、幼児期における栄養管理について学ぶ。 妊娠期の特性と栄養アセスメント、ならびに幼児期の特性と栄養アセスメントについて学ぶ。	
第6回	妊娠期、幼児期における栄養管理について学ぶ。 妊娠期の特性と栄養アセスメント、ならびに幼児期の特性と栄養アセスメントについて学ぶ。	
第7回	妊娠期、幼児期における栄養管理について学ぶ。 妊娠期および幼児期における栄養ケアプランの立案をはじめ、授乳・離乳支援の実際について学ぶ。	
第8回	妊娠期、幼児期における栄養管理について学ぶ。 妊娠期および幼児期における栄養ケアプランの立案をはじめ、授乳・離乳支援の実際について学ぶ。	
第9回	学童期、思春期における栄養管理について学ぶ。 学童期および思春期の特性と栄養アセスメントについて学ぶ。	
第10回	学童期、思春期における栄養管理について学ぶ。 学童期および思春期の特性と栄養アセスメントについて学ぶ。	
第11回	学童期・思春期および成人期における栄養管理について学ぶ。 学童期および思春期の栄養ケアプランの立案と、成人期の特性を踏まえた栄養アセスメントについて学ぶ。	
第12回	学童期・思春期および成人期における栄養管理について学ぶ。 学童期および思春期の栄養ケアプランの立案と、成人期の特性を踏まえた栄養アセスメントについて学ぶ。	
第13回	高齢期の栄養管理を中心に、高齢期の特性を踏まえた栄養アセスメントおよび栄養ケアプラン、 ならびに咀嚼・嚥下機能低下に対する支援について学ぶ。	
第14回	高齢期の栄養管理を中心に、高齢期の特性を踏まえた栄養アセスメントおよび栄養ケアプラン、 ならびに咀嚼・嚥下機能低下に対する支援について学ぶ。	
第15回	妊娠期から高齢期までの各ライフステージにおける栄養の特徴について総合的に理解を深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	80	授業内容のまとめとして出される課題により，技能の修得に役立たすこと。課題については，ファイルに綴じ，提出したものを評価する。 提出後、コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	対象の特性に合った献立作成ができるよう日頃から食品，調理，献立に関心を持ち取り組む。授業前に教科書を通読することと実習終了後に実習記録の記入を必ず行う。共同作業が円滑に行えるよう，班員間のコミュニケーションを密にする。
授業外学修	1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，授業外に学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『応用栄養学実習ーケーススタディーで学ぶマネジメントー』	五関正江，小林三智子 編	建帛社	978-4-7679-0676-8	2800+税
『日本人の食事摂取基準（2025年版）』	伊藤貞嘉，佐々木敏 監修	第一出版	978-4-8041-1492-7	3190

使用テキスト：自由記載	適時，資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	臨床栄養現場や健康づくり啓発普及のための管理栄養士・栄養士業務を通して，栄養ケアマネジメントの実際，妊産婦栄養管理および栄養指導，離乳食相談，幼児期・学童期・思春期・成人期および高齢期における栄養管理等を指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．妊娠期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	妊娠期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、しっかりとした説明ができる。	妊娠期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、概要の説明ができる。	妊娠期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	妊娠期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画が不十分である。	妊娠期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができない。
思考・問題解決能力	２．幼児期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	幼児期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、しっかりとした説明ができる。	幼児期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、概要の説明ができる。	幼児期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	幼児期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画が不十分である。	幼児期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができない。
思考・問題解決能力	３．学童期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	学童期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、しっかりとした説明ができる。	学童期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、概要の説明ができる。	学童期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	学童期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画が不十分である。	学童期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができない。
思考・問題解決能力	４．思春期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	思春期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、しっかりとした説明ができる。	思春期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、概要の説明ができる。	思春期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	思春期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画が不十分である。	思春期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができない。
思考・問題解決能力	５．成人期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	成人期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、しっかりとした説明ができる。	成人期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、概要の説明ができる。	成人期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	成人期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画が不十分である。	成人期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができない。
思考・問題解決能力	６．高齢期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	高齢期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	高齢期の提示された事例に対して栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができ、概要の説明ができる。	高齢期の提示された事例に対して栄養評価を行い、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができる。	高齢期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画が不十分である。	高齢期の提示された事例に対する栄養評価、問題点の抽出、長期・短期目標の設定、栄養補給計画を行うことができない。
技能	１．授乳・離乳支援の実際を行うことができる。	発達段階に応じ、調乳、離乳食の作成、それらの評価を適切に行うことができ、しっかりと説明ができる。	発達段階に応じ、調乳、離乳食の作成、それらの評価を行うことができ、要点の概説ができる。	発達段階に応じ、調乳、離乳食の作成、それらの評価を行うことができる。	発達段階に応じ、調乳、離乳食の作成、それらの評価を行うことにおいて不十分である。	発達段階に応じ、調乳、離乳食の作成、それらの評価を行うことができない。
技能	２．食物アレルギーのある場合の対応ができる。	食物アレルギーのある場合の除去食や代替食品を用いた献立作成などの対応が適切にでき、しっかりと説明ができる。	食物アレルギーのある場合の除去食や代替食品を用いた献立作成などの対応ができ、要点の概説ができる。	食物アレルギーのある場合の除去食や代替食品を用いた献立作成などの対応ができる。	食物アレルギーのある場合の除去食や代替食品を用いた献立作成などの対応において不十分である。	食物アレルギーのある場合の除去食や代替食品を用いた献立作成などの対応ができない。
技能	３．保育所給食の実際を行うことができる。	保育所給食における食事計画、調理、それらの評価を適切に行うことができ、しっかりと説明ができる。	保育所給食における食事計画、調理、それらの評価を行うことができ、要点の概説ができる。	保育所給食における食事計画、調理、それらの評価を行うことができる。	保育所給食における食事計画、調理、それらの評価を行うことにおいて不十分である。	保育所給食における食事計画、調理、それらの評価を行うことができない。
技能	４．妊娠期から高齢期の提示された事例に対して行った栄養補給計画について、献立を立案し、具体的に提案をすることできる。	妊娠期から高齢期の提示された事例に対して行った栄養補給計画について、献立作成、調理、それらの評価を適切に行うことができ、しっかりと説明ができる。	妊娠期から高齢期の提示された事例に対して行った栄養補給計画について、献立作成、調理、それらの評価を行うことができ、要点の概説ができる。	妊娠期から高齢期の提示された事例に対して行った栄養補給計画について、献立作成、調理、それらの評価を行うことができる。	妊娠期から高齢期の提示された事例に対して行った栄養補給計画について、献立作成、調理、それらの評価を行うことにおいて不十分である。	妊娠期から高齢期の提示された事例に対して行った栄養補給計画について、献立作成、調理、それらの評価を行うことができない。
技能	５．咀嚼・嚥下機能低下に対する支援を行うことができる。	咀嚼・嚥下機能低下に対する食品選択、調理、それらの評価を適切に行うことができ、しっかりと説明ができる。	咀嚼・嚥下機能低下に対する食品選択、調理、それらの評価をに行うことができ、要点の概説ができる。	咀嚼・嚥下機能低下に対する食品選択、調理、それらの評価をに行うことができる。	咀嚼・嚥下機能低下に対する食品選択、調理、それらの評価をに行うことにおいて不十分である。	咀嚼・嚥下機能低下に対する食品選択、調理、それらの評価をに行うことができない。

科目名	応用栄養学Ⅲ			授業番号	NN304	サブタイトル			
教員	井之川 仁								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業は、身体活動・スポーツ場面における栄養管理を科学的根拠に基づいて理解し、実践的判断力を養成することを目的とする。 厚生労働省「身体活動・運動ガイド2023」および「日本人の食事摂取基準（2025年版）」を基盤とし、スポーツ栄養、暑熱対策、エネルギー利用可能量（LEA/REDs）、高齢者のサルコペニア、腸脳相関、サプリメント評価などを扱う。グループワークを実施し、一般成人、部活動生、高齢者を想定したケーススタディを通じて、知識を実務判断へと転換する力を養う。多様なメディアを使用した授業を行う。 方法はオンデマンドで、第3回から7回はオンデマンド授業を行う予定である。予定は変更されることがあるのでかならずクラスルームで確認すること。								
到達目標	身体活動量に応じたエネルギー・栄養必要量を説明できる。糖質・たんぱく質・水分補給の戦略を競技特性に応じて設計できる。LEA/REDsや熱中症などのリスクを認識し、安全配慮を含む提案ができる。腸内環境やサプリメントに関する研究を批判的に解釈できる。エビデンスの強度と限界を理解し、根拠を明示した提案ができる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	本授業の目的と到達目標を理解し、運動・スポーツ栄養が健康増進および競技パフォーマンス向上の双方に関わる学問領域であることを確認する。管理栄養士に求められる「安全配慮を含む判断力」について概説する。	
第2回	身体活動基準とエネルギー収支 身体活動・運動ガイド2023を基盤に、身体活動量の評価方法とエネルギー必要量の算出を学ぶ。成人および高齢者における活動量と栄養必要量の関係を理解する。	
第3回	糖質の役割とタイミング戦略 運動時のエネルギー基質利用を理解し、糖質摂取量（体重あたり）および摂取タイミングの考え方を学ぶ。競技特性に応じた補食設計の基本を扱う。 ※オンデマンド	
第4回	回復（リカバリー）栄養 練習後および試合間の回復栄養について、糖質およびたんぱく質摂取の量とタイミングを学ぶ。回復時間が限られる状況における実践的戦略を理解する。 ※オンデマンド	
第5回	水分・電解質・暑熱対策 脱水評価（体重法）とスポーツ飲料の適正濃度を理解し、熱中症予防の観点から水分補給戦略を学ぶ。暑熱環境下における安全管理の基本を扱う。 ※オンデマンド	
第6回	エネルギー利用可能量（LEA）とREDs エネルギー利用可能量の概念とREDs（相対的エネルギー不足症候群）について学ぶ。減量や過度な運動が健康およびパフォーマンスに及ぼす影響を理解する。 ※オンデマンド	
第7回	たんぱく質と筋適応 筋タンパク質合成の基礎を理解し、成人および高齢者におけるたんぱく質摂取戦略を学ぶ。サルコペニア予防の観点も含めて実践的設計を考える。 ※オンデマンド	
第8回	脂質代謝と競技特性 運動強度による脂質・糖質利用の違いを理解し、脂質摂取戦略やLCHF食の利点と限界を批判的に検討する。	
第9回	短鎖脂肪酸（SCFAs）と代謝調節 食物繊維と短鎖脂肪酸の産生機序を理解し、代謝調節および炎症制御との関連を学ぶ。ヒト研究の限界についても整理する。	
第10回	腸脳相関とメンタルヘルス 腸内環境と脳機能の関連について概説し、発酵食品やプロバイオティクスの研究動向と課題を理解する。	
第11回	運動と腸内細菌叢 運動介入研究の知見を整理し、腸内細菌叢の変化と健康・パフォーマンスとの関連を批判的に考察する。	
第12回	サプリメントの科学とリスク サプリメントの有効性とリスクを科学的に評価する方法を学ぶ。国際的枠組みに基づき、適切な意思決定のあり方を理解する。	
第13回	栄養教育と行動変容 栄養教育介入の効果と限界を理解し、行動変容理論に基づく実践的な栄養支援の方法を学ぶ。	
第14回	統合ケース演習 一般成人、部活動生、高齢者を想定したケースを通じて、総合的な栄養管理計画を立案する。安全配慮を含む実践的判断力を養う。	
第15回	まとめと総括 授業全体を総括し、運動・スポーツ栄養における管理栄養士の役割と今後の課題を整理する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	20	授業内容のまとめとして出される課題により，問題解決能力の修得に役立たすこと。課題については，確認し返却をする。
小テスト	10	主要なポイントの理解を評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	課題、レポートやグループワークについては、都度講評しフィードバックを行う。
受講の心得	毎回の授業が，管理栄養士になるための基礎づくりであり，国家試験へ向けての準備であることを念頭において受講する。

授業外学修	1．事前学修各回のテーマに関連する資料（ガイドライン、指定論文、統計資料等）を読み、重要な数値や概念を整理しておくこと。特に以下を重視する。 推奨量（g/kg、%、濃度など）の確認 用語の定義（LEA、REDs、SCFAs等） ガイドラインの背景となる考え方事前に数値や概念を把握しておくことで、授業内のケース演習に主体的に参加できる。2．事後学修授業で扱ったケース演習を振り返り、 自分ならどう改善するか 安全配慮は十分だったか エビデンスの強度は適切だったかを再整理すること。計算を伴う回（糖質量、水分補給、たんぱく質量等）では、再度自力で解き直すことを推奨する。 学修時間の目安 事前学修：各回 約2時間 事後学修：各回 約2時間 レポート準備：合計 約10〜15時間

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	その他適宜資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	糖質・たんぱく質・水分補給の戦略を競技特性に応じて設計できる	競技特性（強度・時間・環境）を考慮し、量・タイミング・食品レベルまで具体的に設計できる	妥当な設計ができるが、条件設定が一部不十分	基本的な設計はできるが、具体性に欠ける	戦略が画一的で競技特性への配慮が弱い	設計が成立していない
思考・問題解決能力	LEA/REDsや熱中症などのリスクを認識し、安全配慮を含む提案ができる	リスクを自発的に指摘し、予防策を具体的に提案できる	主要なリスクを認識し、基本的対応を示せる	一般的注意喚起はできるが具体性に欠ける	リスク認識が限定的	安全配慮がほぼ示されない
思考・問題解決能力	エビデンスの強度と限界を理解し、根拠を明示した提案ができる	エビデンスの階層を理解し、根拠と前提条件を明示した提案ができる	根拠を示した提案ができる	提案はできるが根拠提示が限定的	根拠が曖昧である	根拠を示せない
技能	対象者の条件に応じて，必要量や補給量を算出し，栄養管理計画として具体化できる	身体活動量，競技特性，年齢，環境条件を踏まえ，エネルギー，糖質，たんぱく質，水分・電解質の必要量を適切に算出し，食品・補食レベルまで具体化した実行可能な計画を作成できる	主要な条件を踏まえて必要量や補給量を概ね適切に算出し，栄養管理計画を具体的に作成できる	基本的な算出と計画作成はできるが，数値の正確性や食品レベルでの具体化に一部不十分な点がある	算出や計画作成に誤りがみられ，対象条件に応じた調整が十分にできない	必要量の算出や栄養管理計画の作成がほとんどできない

科目名	栄養教育論Ⅰ			授業番号	NO201	サブタイトル			
教員	安原　幹成								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	栄養教育論Ⅰでは、栄養教育の重要性を多面的に理解し、対象者のパーソナリティ、食環境、食行動、問題点、理解度などの情報を得るために、行動科学を学ぶ。 また、情報を引き出すためには、コミュニケーション力、カウンセリング力、コーチング力が必要であり、これらの力を養えるよう講義に組み込む。 さらに、適切な栄養マネジメントの必要性を理解し、それを実践できる知識と技術を習得する。								
到達目標	栄養教育の概念や理論を正しく理解した上で、栄養教育における行動科学を学修する。 また、栄養教育の理論を基に、総合的な栄養マネジメントを行うための基礎力を習得する。なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げる学士力のうち、＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	栄養教育の概念（1） 栄養教育の定義と目的，栄養教育と健康教育・ヘルスプロモーション ＜講義の概要＞ 本授業では、栄養教育の定義および目的を理解し、栄養教育で扱う人間の食行動の基本的な分類について学ぶ。さらに、栄養教育と健康教育、ヘルスプロモーション、食育との関連性を整理し、食行動が個人要因のみならず、個人間要因や環境要因など複数のレベルの要因によって形成されることを理解する。	
第2回	栄養教育の概念（2） 栄養教育と生態学的モデル ＜講義の概要＞ 本授業では、望ましい食行動に関連する要因を理解し、生態学的モデルの視点から人間の行動を多層的に捉える。個人要因に加え、個人間、環境、社会的要因が食行動に及ぼす影響を学び、食物および情報へのアクセスに対する環境整備の重要性について統合的に理解を深める。	
第3回	栄養教育と人間の行動変容に関する理論(1) 栄養教育と行動科学，行動科学の基礎となる学習理論 ＜講義の概要＞ 本授業では、栄養教育に行動科学が必要とされる理由を理解し、行動変容を支える理論について体系的に学ぶ。学習理論や行動変容理論を基礎に、食行動に関与する個人要因、対人関係要因、環境要因の影響を理解する。さらに、コミュニティを対象とした栄養教育に必要な理論を通して、大規模集団への支援の考え方を修得する。	
第4回	栄養教育と人間の行動変容に関する理論(2) 個人要因に焦点を当てた行動変容の理論 ＜講義の概要＞ 本授業では、行動変容における認知プロセスの重要性を理解し、健康行動が疾病認知や自己効力感、行動結果への期待によって左右されることを学ぶ。さらに、行動変容は段階的に進行し、各段階に応じた支援が必要であることを理論に基づいて理解し、栄養教育への応用力を養う。	
第5回	栄養教育と人間の行動変容に関する理論(3) 対人関係や環境要因に焦点を当てた行動変容の理論，大規模集団や地域レベルの行動変容の理論 ＜授業の概要＞ 本授業では、コミュニティオーガニゼーションを集団的な問題解決学習として捉え、その理論と実践について学ぶ。あわせて、個人・組織・コミュニティ各レベルにおけるエンパワメントの概念を理解し、健康行動や栄養教育の推進における活用方法を考察する。さらに、イノベーション普及理論を通して、新しい商品や考え方が社会に広がる過程と、その普及に影響を及ぼす要因について理解を深める。	
第6回	栄養カウンセリング(1) カウンセリングとは何か，治療者と患者の関係 ＜授業の概要＞ 本授業では、栄養カウンセリングの特徴と基本的な考え方、ならびに基本技法について学ぶ。行動変容理論や行動科学の視点を踏まえ、対象者の状況や心理に配慮した支援の在り方を理解する。さらに、理論に基づいたカウンセリング技法を活用した栄養カウンセリングの実際について学修し、実践的な応用力を養う。	
第7回	栄養カウンセリング(2) 行動カウンセリングの方法論 ＜授業の概要＞ 本授業では、栄養カウンセリングの基本概念と実践的意義について学ぶ。カウンセリングを対人コミュニケーションを通じた問題解決支援のプロセスとして捉え、行動科学に基づく行動カウンセリングの考え方を理解する。行動変容理論を踏まえ、管理栄養士として適切な支援を行うための基礎知識と視点を修得する。	
第8回	栄養カウンセリング(3) カウンセリングの基礎 ＜授業の概要＞ 本授業では、栄養カウンセリングの基礎として、カウンセリングの考え方と支援者の基本姿勢について学ぶ。カウンセリングはクライアント主体の支援であり、指導ではなく傾聴を通じた問題理解と自己気づきを促すプロセスであることを理解する。相手の気持ちに寄り添い、柔軟かつ丁寧に関わる姿勢の重要性を学修する。	
第9回	行動変容のための技法 習慣変容に必要な条件，行動技法と概念 ＜授業の概要＞ 本授業では、栄養アセスメントに基づく目標設定および栄養教育計画の立案から実施、モニタリング、評価までの一連の流れについて学ぶ。対象者のライフステージ、ライフスタイル、健康状態を踏まえた栄養教育の実践方法を理解し、評価結果を基に計画を見直すことで、より質の高い栄養教育につなげる能力の修得を目指す。	
第10回	栄養教育マネジメント(1) 栄養教育マネジメントとは ＜授業の概要＞ 本授業では、管理栄養士が実践する栄養管理の概念を理解し、マネジメントサイクルに基づく栄養活動の体系を学ぶ。特に、個人から小集団を対象とした栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養ケア計画の見直しを通じて、質の高い栄養ケアを継続的に実践するための栄養ケア・マネジメントの基本的考え方と実践力の形成を目指す。	

第11回	栄養教育マネジメント(2) 1.プリシード・プロシードモデル 2.マーケティング・ミックスの活用を理解する。 ＜授業の概要＞ 本授業では、栄養教育の計画・実施・評価を体系的に理解するため、プリシード・プロシードモデルおよびマーケティング・ミックスの考え方を学ぶ。対象者や環境要因を踏まえた栄養教育の企画立案と、効果的な介入方法について理論と実践の両面から理解を深める。	
第12回	栄養教育マネジメント(2) 栄養教育におけるアセスメントの意義と目的 ＜授業の概要＞ 本授業では、栄養教育における栄養アセスメントの意義と目的について学ぶ。栄養アセスメントが栄養教育の基盤として果たす役割を理解し、対象者の栄養状態および問題要因を的確に把握する方法を修得する。あわせて、個人情報保護や守秘義務の重要性を理解し、優先度を考慮した栄養状態の判定の考え方について学ぶ。	
第13回	栄養教育の目標設定と計画立案 ＜授業概要＞ 本授業では、栄養教育における目標設定の考え方を理解し、目的や対象に応じた適切な教育目標を設定する力を養う。また、栄養教育で用いられる学習形態の種類と特徴を学び、教育効果を高めるための教材の選択および作成方法について修得する。	
第14回	栄養教育の目標設定と計画立案(1) プログラム，目標設定 栄養教育方法の選択，学習形態の組み合わせ ＜授業概要＞ 本授業では、栄養教育プログラムを実行するために必要な目標設定と教育内容・教育方法の選択について学ぶ。教育目標との関連性を踏まえ、複数の教育方法を効果的に組み合わせる視点や、人的・物的資源を考慮した実現可能な教育方法の選択について理解を深める。理論と実践の両面から、対象者に適した栄養教育の計画立案能力の修得を目指す。	
第15回	栄養教育に必要とされる教材の目的と選択 ＜授業の概要＞ 本授業では、教育効果を高めるための学習方法の組み合わせや教材の役割について理解を深める。教育目標の達成を支える教材の種類と特徴を学び、学習者の理解や習得を促すための教材選択および作成方法について修得する。学習者の特性や教育内容に応じた適切な教材活用の在り方を学ぶ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト	30	講義の理解度と取り組み姿勢を評価するため、確認テストを実施する。次回授業時に、解説する。
定期試験	70	到達目標への理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	栄養教育論Ⅰは、さまざまな対象者への栄養教育の基盤となる。 講義内容をより深く理解するため、予習・復習を欠かさずに取り組むこと。 また、講義中の私語やスマートフォンの使用は、減点対象となる場合がある。
授業外学修	講義で学んだ内容や不明なキーワードは、正しい情報源を用いて確認し、整理しておくこと。 講義内容については、使用テキストおよび関連資料を活用し、予習・復習を行うこと。以上の学修には、週あたり4時間以上を確保すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養教育論　改訂第5版	武見ゆかり，足達淑子，木村典代，林芙美	南江堂	978-4-524-22677-1	3520円(税込み)

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関の管理栄養士として23年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	本授業は、医療機関において管理栄養士としての実務経験を基盤とし、臨床現場で培った知識および実践的視点を取り入れて構成する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．学修内容全般における理解	学修内容を深く理解し、適切に説明できる	学修内容を十分に理解している	学修内容を概ね理解している	学修内容の理解が不十分である	学修内容をほとんど理解していない
知識・理解	２．栄養教育の目的に対する理解	栄養教育の目的を的確に理解し、詳細に説明できる	栄養教育の目的を理解し、適切に説明できる	栄養教育の目的を十分に理解している	理解が部分的で、不十分である	栄養教育の目的を理解できていない
知識・理解	３．対象者へのカウンセリングと行動変容を起こすための技法への理解	カウンセリングと対象者に適した技法の判断が的確である	カウンセリングと対象者に適した技法を適切に判断できる	カウンセリングと対象者に適した技法を十分に理解している	判断力が不十分である	判断力が著しく不足している
思考・問題解決能力	１．課題に対する思考力	対象者の課題を深く分析し、論理的に考察できる	対象者の課題を適切に考察し、論理的に思考できる	対象者の課題を一定のレベルで考察できる	課題に対する思考が浅く、不十分である	課題について適切に考察できない
思考・問題解決能力	２．課題に対する問題解決能力	対象者の問題を的確に捉え、適切な解決策を提示できる	対象者の問題を把握し、妥当な解決策を考案できる	対象者の問題を理解し、一定の解決策を示せる	問題の把握や解決策の提示が不十分である	問題の把握ができず、解決策を示せない
技能	１．栄養教育の実施能力	対象者に適した指導で柔軟に対応し、効果的に教育できる	一般的な指導方法を適切に活用し、対象者の理解を促せる	基本的な指導はできるが、説明や対応にやや改善の余地があるが十分なレベルである	指導が一方的で、効果が限定的。理解を十分に得られない	指導が困難で、教育の目的を果たせず、理解を促せない
態度	１．受講の準備性	講義前に教科書・ノートなどを準備し、受講の姿勢が整っている	講義開始前には必要なものを準備できている	講義開始時に必要なものを準備している	必要な準備が整っていないことが時々ある	遅刻が多く、必要な準備ができていない
態度	２．受講態度	積極的に受講し、発言や質問が多い	受講態度が良好で、適切に質問に対応できる	受講態度は概ね良好である	受講中に私語やスマホ操作が時々見られる	受講態度が極めて悪く、講義への参加が不十分である

科目名	栄養教育実習Ⅰ（隔週）			授業番号	NO203A	サブタイトル			
教員	安原　幹成								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	栄養教育実習では、実際のさまざまな場面を想定した実習を行う。 本実習では、栄養教育におけるPDCAサイクルを組み込みながら学修する。 また、実習を進めるにあたり、個人ワークやグループワークを通じて、管理栄養士として必要なスキルを習得することを目的とする。 さらに、医療機関における実際の状況や、公共の場での集団教育など、現実に近い環境を想定した模擬訓練を行う。								
到達目標	栄養教育の現場で求められる知識を理解し、習得し、さまざまな教育の場で活用できるようにする。 コミュニケーションスキルとカウンセリング技法を理解し、習得する。 状況に応じた食事調査法の判断力を養い、栄養摂取量の把握、アンケート作成、二次データの活用方法を習得する。なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げる学士力のうち、＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	＜栄養教育のためのアセスメント＞ 初回面接と情報収集，カウンセリング技法の基礎 ＜実習の概要＞ 栄養教育は、対象者の健康維持およびQOL（生活の質）の向上を目的として実施されるものである。 本授業では、食行動および食に対する意識の変容を促すための理論と実践について学ぶ。 特に管理栄養士に求められる支援姿勢として、傾聴・受容・共感の重要性を理解し、対象者との信頼関係を基盤とした継続的な栄養教育の在り方について修得する。	
第2回	＜栄養教育アセスメント＞ ストレス・マネジメント ＜実習の概要＞ 本授業では、ストレスの概念およびストレッサーの特性について理解を深める。 ストレスとは、外傷、寒冷、精神的緊張などの刺激が生体に加わった際に生じる反応であり、ストレッサーとは心身の良好なバランスを崩す要因を指す。 同一のストレッサーであっても、その受け止め方や対処行動は個人によって異なることを踏まえ、人がストレッサーに対して行う認知的評価過程について学修する。 特に、ストレッサーの有害保証や脅威性を判断する一次評価および、その状況に対処可能かを判断する二次評価の理解を通して、個人差を考慮した支援の重要性を理解する。	
第3回	＜習慣的な栄養摂取量の把握（個人）＞ 食事記録を用いたアセスメント ＜実習の概要＞ 本授業では、食事調査法の基礎として、食事記録法および24時間思い出し法の理論と実践について学ぶ。 実際に両調査法を実施し、得られた食事調査結果から栄養素等摂取量を算出し、日本人の食事摂取基準に基づいて評価する力を養う。 さらに、各調査法の特徴や長所・短所を理解した上で、短所を補うための調査法の併用や工夫について理解を深め、栄養評価および改善提案につなげる実践的能力の修得を目指す。	
第4回	＜フォーカスグループインタビュー＞ 得られた情報のプレゼンテーションを行う。 ＜実習の概要＞ 本授業では、質的研究における情報収集の基本的な考え方と方法について学ぶ。 特に、インタビューを中心とした質的データ収集に着目し、学習者にとって話しやすい環境づくりや、 個人間の相互作用を活かしたグループダイナミクスの促進について理解を深める。 さらに、収集した質的データから重要なアイテムおよびカテゴリーを抽出し、課題を整理・構造化する一連のプロセスを通して、実践的な分析力の修得を目指す。	
第5回	＜Googleフォームを利用したアンケートの作成と実施＞ Googleフォームで質問紙を作成する。 一次データから得られた情報を分析し、まとめる。 得られた情報のプレゼンテーションを行う。 ＜実習の概要＞ 本授業では、調査目的および対象者を明確にした上で、適切な調査法・実施法と仮説を設定する方法を学ぶ。 さらに、目的達成に必要な質問項目を立案し、アンケート調査票の作成からプレテスト結果を踏まえた修正までの一連の調査プロセスを理解し、実践的に修得する。	
第6回	＜コミュニケーション技法と二次データを利用したヘルスリテラシーに関する調査＞ 得られた情報のプレゼンテーション ＜実習の概要＞ 1.本授業では、言語・非言語・準言語の三つのコミュニケーションの特徴と役割について理解を深める。実習ではアイスブレイクを通して話しやすい態度や第一印象の重要性を体験的に学び、態度の違いが相手に与える影響を比較・考察することで、対人支援に必要な基本的コミュニケーション能力の向上を図る。 2. 二次データの概念と特徴を理解し、栄養・健康分野における活用方法について学ぶ。政府機関や行政機関等が実施した既存の調査データを例に、調査手順やコスト削減といった利点を理解するとともに、インターネットを用いた情報収集時の留意点や、信頼性を評価する視点を修得する。公的データを中心とした適切なデータ活用能力の養成を目指す。	
第7回	栄養教育の実際（１）　栄養教育計画の立案と教室の実施 ＜実習の概要＞ 本授業では、栄養教育計画立案に必要な基礎知識と方法を学ぶ。 学童、学生、高齢者、疾病予防・治療中の者など対象集団の特性を踏まえ、課題とニーズを整理し、テーマや学習目標を設定する。さらに、伝達内容の明確化、媒体・教材準備、タイムスケジュール作成、進行計画を行い、栄養教室の実践につなげる。	
第8回	まとめ ＜実習の概要＞ 本実習では、第1回から第7回までに学修した内容を振り返り、栄養教育および調査・コミュニケーションに関する重要なポイントについて整理・復習を行う。各実習で身に付けた知識や技能の定着を図るとともに、レポートを通して理解度を確認する。	
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		

第14回		
第15回		
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	積極的な発言，発表状況，態度などから評価する。
レポート	60	レポートから理解度と達成度を評価する。コメントを記入して返却する。また、直接コメントを伝える。
定期試験		
その他	20	グループ単位での取り組み姿勢や内容について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本実習は、個人ワークとグループワークを併用した学修方法を採用する。 特にグループでの協働作業では、個々の負担が偏らないようにし、活発な意見交換を行うこと。 また、日頃から実習に役立つ関連情報を収集しておくことで、実習を円滑に進めることができる。 学修した多くの知識や経験は、臨地実習や社会人としての現場で活かすことができるため、主体的に取り組むこと。
授業外学修	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
三訂マスター栄養教育論実習	佐藤香苗，安達内美子	建帛社	978-4-7679-0785-7	2,750円

使用テキスト：自由記載	栄養教育論の講義で使用している教科書があると円滑に実習を進めることができる。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	実習中にスマートフォンを使用した場合は、減点対象とする。 また、許可のない退室や飲食は禁止とし、常識として厳守すること。
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関における管理栄養士として23年間
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	本授業は、医療機関において管理栄養士として23年間勤務した実務経験を基盤とし、 臨床現場で培った知識および実践的視点を取り入れて構成する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．カウンセリング技法の習得	栄養教育の目的や特徴を深く理解し、適切に活用できる	栄養教育の目的や特徴を理解し、適切に活用できる	栄養教育の目的や特徴を概ね理解している	理解が不十分である	目的や特徴をほとんど理解できていない
知識・理解	2．情報リテラシー（二次データの利用）	エビデンスに基づいた情報を適切に収集・活用できる	エビデンスに基づいた情報を適切に収集し、活用できる	エビデンスに基づいた情報を一定程度活用できる	情報の正確性が不足し、活用が不十分である	正確な情報の収集や活用ができない
知識・理解	3．栄養教育計画への理解	栄養教育計画の基本を深く理解し、対象者ごとに適切な計画を立案できる	栄養教育計画の基本を理解し、適切な計画を立案できる	栄養教育計画の基本を概ね理解し、一定の計画を立案できる	理解が部分的で、計画立案が不十分である	計画の基本を理解できず、適切な立案ができない
思考・問題解決能力	1．思考力	課題を深く分析し、論理的に考察できる	課題を適切に分析し、論理的に思考できる	課題を一定のレベルで考察できる	課題に対する考察が浅く、不十分である	課題について適切に考察できない
思考・問題解決能力	2．問題解決能力	課題を的確に捉え、適切な解決策を提示できる	課題を把握し、妥当な解決策を考案できる	課題を理解し、一定の解決策を示せる	問題の把握や解決策の提示が不十分である	問題を適切に把握できず、解決策を示せない
技能	1．情報の活用能力	エビデンスに基づいた情報を正しく理解し、適切に活用できる	エビデンスに基づいた情報を正しく理解し、活用できる	エビデンスに基づいた情報を一定程度活用できる	正確な情報の活用が不十分である	正確な情報を活用できていない
技能	2．プレゼンテーション資料作成	技能・完成度ともに優れている	技能・完成度が高い	技能・完成度が一定レベルに達している	技能・完成度がやや不十分である	技能・完成度が著しく低い
態度	1．グループでの取り組み	積極的にグループワークを主導できる	積極的にグループワークに参加できる	概ねグループワークに参加できる	指示があれば参加する程度である	グループワークへの参加ができていない。
態度	2．発表時の態度と姿勢	言語・非言語・準言語コミュニケーションが非常に優れている	言語・非言語・準言語コミュニケーションが優れている	言語・非言語・準言語コミュニケーションが十分である	発表時のコミュニケーションがやや不十分である	発表時のコミュニケーションが著しく不十分である
態度	3．受講態度	積極的に参加し、前向きな姿勢で実習に取り組んでいる	受講態度が良好で、前向きに実習に参加している	受講態度は概ね良好である	実習に関係のない行動が時々見られる	実習に関係のない行動が多く、受講態度が著しく悪い

科目名	栄養教育論Ⅱ			授業番号	NO302	サブタイトル			
教員	安原　幹成								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	管理栄養士には、授乳期から高齢期までのあらゆるライフステージにおいて、「食生活」に関する教育と適切な判断力が求められる。 本課程では、課題に対して正しく判断する力を養うとともに、「栄養教育論Ⅰ」で学んだ内容をさらに深め、ライフステージやライフスタイルに応じた栄養教育を学ぶ。 また、各段階の特性を考慮した栄養教育の必要性を理解し、個人および集団を対象とした栄養教育の実践力を習得する。								
到達目標	（1）栄養教育の実施者として必要な技術と方法を理解し、習得する。 （2）栄養教育の評価方法を理解し、適切に評価する力を養う。 （3）ライフステージやライフスタイルごとの健康状態と、それに応じた栄養教育を理解し、習得する。なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げられている学士力のうち、＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	栄養教育の目標設定と計画立案 プログラムの作成 ＜授業の概要＞ 学習者特性が特定された後の栄養教育プログラム作成を扱い、学習目標・行動目標・環境目標、結果目標および実施目標の妥当性を検討する能力を養う。さらに、管理栄養士単独ではなく組織内外の関係者と企画段階から目標と内容を共有し、学校食育を例に全体計画を立案する過程と、制度や評価時期を踏まえた期間・時期設定の考え方を理解する。	
第2回	栄養教育の実施と評価 栄養教育実施 ＜授業の概要＞ 栄養教育計画に基づく実施段階の進め方と評価を扱う。 実施当日の準備、実施記録および報告の意義を理解し、評価の種類と研究デザインを踏まえた評価計画を立案する能力を養う。 さらに、ミーティングやモニタリングを通じた情報共有と連携の重要性を理解し、評価結果を活用した栄養教育プログラムの見直しと改善方法を修得する。	
第3回	栄養教育の目標設定と計画立案 栄養教育の評価(1) <授業の概要> 栄養教育における評価の概念と目的を理解し、目標達成度を基にプログラムの有効性とプロセスを検討する方法を学ぶ。 結果評価、影響評価、経過評価および経済評価の特徴を整理し、アセスメントに基づく結果目標、行動目標、学習目標、環境目標、実施目標の系統的設定と評価指標・評価基準の立案能力を養う。	
第4回	ライフステージ別の栄養教育の展開 栄養教育の評価(2) <授業の概要> 栄養教育プログラムの効果を科学的に検証するための評価方法を扱う。 教育対象者と非対象者の設定や比較の考え方を理解し、得られた結果を批判的に検討する視点を養う。 さらに、評価に用いる研究デザインの違いによる科学的根拠の水準を理解し、適切な分析と評価を行うための基礎的能力を修得する。	
第5回	ライフステージ別の栄養教育の展開 妊娠・授乳期 ＜授業の概要＞ ライフステージ別栄養教育のうち妊娠・授乳期を対象とし、母子の現状と特性を踏まえた支援の在り方を学ぶ。 妊娠・授乳期における栄養・食に関する主体的意思決定を尊重するための支援方法を理解するとともに、母子および家庭を取り巻く他職種との連携・協働の重要性を把握し、個人の特性や状況に応じた専門職連携による栄養教育支援を行う能力を養う。	
第6回	ライフステージ別の栄養教育の展開 乳・幼児期(1) ＜授業の概要＞ 乳幼児期の成長・発達過程を踏まえた栄養教育の目的と方法を学ぶ。 味覚や食行動、生活リズム形成の機序を理解し、保護者支援を含む教育内容の構成力を養う。 さらに、自治体保健事業や保育所等における実践の特徴を理解し、身体発育曲線やカウプ指数等を用いたアセスメントに基づく評価方法を修得する。	
第7回	ライフステージ別の栄養教育の展開 乳・幼児期(2) ＜授業の概要＞ 市町村母子保健事業および保育所等を基盤とした乳幼児期の栄養教育を扱う。 母子の健康保持・増進を目的とする母子保健サービスの特徴を理解し、母子健康手帳を活用した継続的かつ一貫性のある栄養教育支援の意義を学ぶ。 さらに、保育・教育現場における食育の目標設定の考え方を踏まえ、子どもの発達段階に応じた「食を営む力」の基礎を培う栄養教育の在り方を理解する。	
第8回	ライフステージ別の栄養教育の展開 学童期(1) <授業の概要> 学童期における食育および食に関する指導の制度的背景と目的を理解し、栄養教諭の役割を中心とした学校食育の推進体制を学ぶ。 望ましい食習慣の獲得をねらいとした学校を拠点とする食育の方法と特徴を整理し、栄養教諭が学級担任や教科担任等と連携して全体計画を策定し、チーム学校として組織的・計画的に食育を実践するための考え方と実践力を養う。	
第9回	ライフステージ別の栄養教育の展開 思春期 <授業の概要> 思春期の健康・食生活上の課題と生活環境の特徴を踏まえた栄養教育を扱う。 心理・精神的に不安定な時期特性を考慮したアセスメントの重要性を理解し、自己肯定感の低下やリスク行動、摂食行動障害・摂食障害への配慮を含む支援の視点を学ぶ。 さらに、学校等を中心とした栄養教育の場と特徴を整理し、思春期に適した栄養教育の進め方を理解する。	

第10回	ライフステージ別の栄養教育の展開 成人期 ＜授業の概要＞ 成人期における食生活・食習慣および生活習慣の特徴を理解し、生活習慣病との関連を学ぶ。 青年期、壮年期、中年期の区分ごとの健康課題と社会環境の変化を踏まえ、地域・職域・家庭・職場を基盤とした栄養教育の方法と特徴を整理する。 さらに、組織的支援やマスメディア、ICTを活用した働きかけの考え方を理解し、成人期に適した栄養教育支援の在り方を修得する。	
第11回	ライフステージ別の栄養教育の展開 成人期の生活習慣病予防および健康寿命延伸への取り組み ＜授業の概要＞ 成人期を対象とした栄養教育の特徴と留意事項を理解し、生活習慣病予防および健康寿命延伸を目的とした支援の在り方を学ぶ。 特定健康診査・特定保健指導の制度的背景と目的を把握し、メタボリックシンドロームの視点を含む健診結果の活用方法を理解する。 さらに、食生活、身体活動、喫煙等の生活習慣改善を促す行動支援の考え方を修得する。	
第12回	ライフステージ別の栄養教育の展開 成人期の職域における栄養教育 ＜授業の概要＞ 職域における栄養教育の目的と実践を、健康経営、トータル・ヘルス・プロモーション・プランおよびワーク・ライフ・バランスの視点から学ぶ。 成人期勤労者の健康課題や女性特有の健康問題を理解し、職場環境や従業員食堂を活用した食生活改善支援の意義と方法を把握し、組織の活性化と健康増進に資する栄養教育の在り方を理解する。	
第13回	ライフステージ別の栄養教育の展開 高齢期 ＜授業の概要＞ 高齢期の健康・栄養課題および生活背景を踏まえた栄養教育の目的と方法を学ぶ。 平均寿命と健康寿命の差の縮小を視野に、生活習慣病予防と介護予防の重要性を理解し、過栄養と低栄養が混在する高齢者の栄養状態の特徴を把握する。 さらに、高齢者福祉施設や在宅介護の場における支援の特徴を整理し、フレイル、サルコペニア等に配慮した栄養教育の在り方を理解する。	
第14回	ライフステージ別の栄養教育の展開 介護保険制度と栄養教育・まとめ ＜授業の概要＞ 高齢者のQOLの維持・向上を目的に、介護保険制度および地域包括ケアシステムに基づく栄養教育の在り方を学ぶ。 要介護・要支援認定の仕組みと各種サービスの特徴を理解し、施設サービスや在宅・地域における管理栄養士の役割を把握する。 さらに、通いの場等の社会資源を活用した介護予防支援の意義を理解し、地域特性に応じた栄養教育の実践力を養う。	
第15回	ライフステージ別の栄養教育の展開 乳幼児期から高齢期まのでまとめ ＜授業の概要＞ これまでに学修したライフステージを振り返える。 栄養教育の計画、実施、評価の一連の過程を体系的に理解し、科学的根拠に基づく実践力を養う。 ライフステージ別に乳幼児期から高齢期までの健康・栄養課題と社会制度を踏まえ、地域、学校、職域、福祉・医療の場における栄養教育の目的、方法、専門職連携の在り方を総合的に学修する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト	30	講義の理解度と取り組み姿勢を評価するため、確認テストを実施する。次回授業時に解説する。最後の授業時で振り返りを行う。
定期試験	70	到達目標の理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	栄養教育論Ⅱでは、ライフステージやライフスタイル別の対象者への栄養教育について、より具体的に学修する。 講義内容を深く理解するため、予習・復習を欠かさずに取り組むこと。 また、講義中の私語やスマートフォンの使用は、減点対象となる場合がある。
授業外学修	講義で学んだ内容や不明なキーワードは、正しい情報源を用いて確認し、整理しておくこと。 講義内容については、使用テキストおよび関連資料を活用し、予習・復習を行うこと。以上の学修には、週あたり4時間以上を確保すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養教育論　改訂第5版	武見ゆかり,足達淑子,木村典代,林芙美	南江堂	978-4-524-22677-1	3,520円（税込み）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院における管理栄養士（23年間）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	本授業は、医療機関において管理栄養士としての実務経験を基盤とし、臨床現場で培った知識および実践的視点を取り入れて構成する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．学修内容全般における理解	学修内容を深く理解し、適切に説明できる	学修内容を十分に理解している	学修内容を概ね理解している	学修内容の理解が不十分である	学修内容をほとんど理解していない
知識・理解	２．ライフステージにおける知識の理解度	問題点・アセスメント・課題を的確に理解し、適切に説明できる	問題点・アセスメント・課題を理解している	問題点・アセスメント・課題を概ね理解している	理解が部分的で不十分である	問題点・アセスメント・課題の理解ができていない
思考・問題解決能力	１．課題に対する思考力	対象者の課題を深く分析し、論理的に考察できる	対象者の課題を適切に考察し、論理的に思考できる	対象者の課題を一定のレベルで考察できる	課題に対する思考が浅く、不十分である	課題について適切に考察できない
思考・問題解決能力	２．課題に対する問題解決能力	対象者の問題を的確に捉え、適切な解決策を提示できる	対象者の問題を把握し、妥当な解決策を考案できる	対象者の問題を理解し、一定の解決策を示せる	問題の把握や解決策の提示が不十分である	問題の把握ができず、解決策を示せない
技能	１．栄養教育における技能	対象者に応じた栄養教育を適切に実施できる	対象者の状況を踏まえた指導ができる	一般的な指導方法を用いて実施できる	指導に迷いがあり、一貫性に欠ける	指導が不適切で、効果が期待できない
態度	１．受講の準備性	講義前に教科書・ノートなどを準備し、受講の姿勢が整っている	講義開始前には必要なものを準備できている	講義開始時に必要なものを準備している	必要な準備が整っていないことが時々ある	遅刻が多く、必要な準備ができていない
態度	２．受講態度	積極的に受講し、発言や質問が多い	受講態度が良好で、適切に質問に対応できる	受講態度は概ね良好である	受講中に私語やスマホ操作が時々見られる	受講態度が極めて悪く、講義への参加が不十分である

科目名	栄養教育実習Ⅱ（隔週）			授業番号	NO304A	サブタイトル			
教員	安原　幹成								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	栄養教育実習では、実際のさまざまな場面を想定した実習を行う。本実習では、栄養教育におけるPDCAサイクルを組み込みながら学修する。 実習を進めるにあたり、ペアワークやグループワークを通じて、管理栄養士として必要なスキルを習得する。 また、医療機関での対応や公共の場における集団教育など、現実に近い状況を想定した模擬訓練を行う。								
到達目標	ライフステージやライフスタイルの特徴を理解した上で、より効果的な栄養教育法を判断する力を習得する。 また、状況に適した栄養教育方法を実践するための技術を学修する。 なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げる学士力のうち、＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	乳幼児期，学童期（小学生）の栄養教育，思春期（中学生・高校生）の栄養教育 ＜授業の概要＞ 本演習では、乳幼児期、学童期、思春期の各発達段階に応じた栄養教育の実践的理解を目的とする。乳幼児期では身長・体重グラフの作成を通じて成長評価の方法を学び、保育園児を対象とした食物アレルギー調査の実施手法を修得する。学童期では小学生向け食育教材として食育いろはかるたを作成し、思春期では中学生・高校生を対象とした栄養教育計画書の立案を行うことで、対象特性に応じた栄養教育能力を養う。	
第2回	成人期の栄養教育　グループダイナミクスを用いて ＜授業の概要＞ 本演習では、成人期を対象とした集団栄養教育の実践を通じて、計画立案から実施までの一連の流れを理解することを目的とする。栄養教育計画書を作成し、その内容に基づいた教育の実施方法を学ぶことで、成人期の特性を踏まえた効果的な栄養教育を企画・運営する能力を養う。	
第3回	模擬患者を用いた面接技法（SP演習） ＜授業の概要＞ 本演習では、模擬患者を用いた面接技法（SP演習）を通じて、外来、入院、在宅訪問における栄養食事指導の実践力を養う。患者役との対話を通して、病態に伴う心理的・感情的側面への理解を深め、指導後のフィードバックを活用することで、患者および家族との信頼関係形成、適切なエチケット・マナー、会話および非言語情報から必要情報を把握し、栄養アセスメントおよび栄養ケア計画につなげる能力を修得する。	
第4回	カウンセリング技法 ＜授業の概要＞ 本演習では、管理栄養士として求められる適切なカウンセリング技法の修得を目的とする。カウンセラー役、クライアント役、観察者役を設定し、適切な対応と不適切な対応を含む複数のシナリオを体験することで、対人援助における基本的態度や面接技術を比較・検討し、実践的なカウンセリング能力を養う。	
第5回	高齢者の栄養支援（健康教室の計画と実施） ＜授業の概要＞ 本演習では、要介護認定を受け、施設サービスまたは居宅サービスを利用する高齢者を対象とした栄養支援の実践力を養う。要介護3以上の入所高齢者、ならびに要支援および要介護の通所高齢者を学習者と想定し、高齢者施設における健康教室の計画立案および実施を行うことで、対象の生活機能や介護度を踏まえた栄養教育の企画・運営能力を修得する。	
第6回	スポーツ栄養・地域における栄養教育の計画と実施 ＜授業の概要＞ 本演習では、「スポーツと栄養教育」または「地域における栄養教育」のいずれかをテーマとし、健康教室の計画および実施を行う。省庁が公表する報告書等の二次データを活用し、都道府県別の健康・栄養課題を分析した上で、地域特性や対象集団の課題を明確化し、根拠に基づく栄養教育計画を立案・実践する能力を養う。	
第7回	個人食事栄養指導のまとめ ＜授業の概要＞ 本演習では、ライフステージ別の症例を設定し、数値データおよび生活背景を基に栄養アセスメントを行い、課題抽出から目標設定、評価指標の設定までを体系的に学ぶ。個別栄養食事指導計画書の作成、複数回にわたる指導計画および学習指導案、指導媒体の作成を通じて、根拠に基づく栄養食事指導を計画・実践する能力を養う。	
第8回	これまでのまとめ ＜授業の概要＞ 本演習では、栄養教育実習Ⅱで実施した各演習内容を総合的に振り返り、学修成果の整理と深化を図る。生成AIを活用した振り返りおよび教員提示による振り返りを通して、自己の理解や課題を多角的に検討し、その後、最終レポートとして栄養教育実践における知識・技能・態度の到達度を文章化することで、管理栄養士としての専門性と省察力の向上を目指す。	
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	個人およびグループ内での発言、発表の状況、質問などをもとに評価する。
レポート（ファイル）	60	提出されたレポートをもとに、理解度や達成度を評価する。コメントを記入して返却する。直接でもコメントを伝える。
小テスト		
定期試験		

その他	20	グループで取り組んだ内容を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本実習は、実践に近いライフステージ別の内容となるため、それぞれが積極的に発言する機会を持つこと。 また、グループ内で協力し、チームの力を発揮できるよう努めること。 学修した多くの情報は、臨地実習や社会人としての現場で活かすことができるため、主体的に取り組むこと。
授業外学修	実習内容を振り返り、習得したことや課題を復習する。 また、次の実習を円滑に進めるために、関連する情報や提案材料を事前に収集しておく。 これらの学修には、週あたり4時間以上を確保すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
三訂マスター栄養教育論実習	佐藤香苗・安達内美子	建帛社	978-4-7679-0785-7	2,750円(税込)

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	実習中にスマートフォンを使用した場合は、減点対象とする。 また、実習中に許可のない退室、飲食等も常識として厳守すること。
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院における管理栄養士（23年間）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	本授業は、医療機関において管理栄養士として23年間勤務した実務経験を基盤とし、臨床現場で培った知識および実践的視点を取り入れて構成する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．栄養教育に関する知識	栄養教育の目的・特徴を深く理解し、適切に活用できる	栄養教育の目的・特徴を理解し、適切に活用できる	栄養教育の目的・特徴を概ね理解している	栄養教育の目的・特徴など必要な知識の修得が理解できていない。	目的・特徴をほとんど理解できていない
知識・理解	2．ライフステージへの理解	問題点・アセスメント・課題を的確に理解し、適切に説明できる	問題点・アセスメント・課題を理解し、適切に説明できる	問題点・アセスメント・課題を一定程度理解している	理解が部分的で、不十分である	問題点・アセスメント・課題をほとんど理解できていない
思考・問題解決能力	1．思考力	課題を深く分析し、論理的に考察できる	課題を適切に分析し、論理的に思考できる	課題を一定のレベルで考察できる	課題に対する考察が浅く、不十分である	課題について適切に考察できない
思考・問題解決能力	2．問題解決能力	課題を的確に捉え、適切な解決策を提示できる	課題を把握し、妥当な解決策を考案できる	課題を理解し、一定の解決策を示せる	問題の把握や解決策の提示が不十分である	問題を適切に把握できず、解決策を示せない
技能	1．情報の活用能力	エビデンスに基づいた情報を正しく理解し、適切に活用できる	エビデンスに基づいた情報を正しく理解し、活用できる	エビデンスに基づいた情報を一定程度活用できる	正確な情報の活用が不十分である	正確な情報を活用できていない
技能	2．プレゼンテーション資料作成	技能・完成度ともに優れている	技能・完成度が高い	技能・完成度が一定レベルに達している	技能・完成度がやや不十分である	技能・完成度が著しく低い
態度	1．グループでの取り組み	積極的にグループワークを主導できる	積極的にグループワークに参加できる	概ねグループワークに参加できる	指示があれば参加する程度である	ほとんど参加できていない
態度	2．発表時の態度と姿勢	言語・非言語・準言語コミュニケーションが非常に優れている	言語・非言語・準言語コミュニケーションが優れている	言語・非言語・準言語コミュニケーションが十分である	発表時のコミュニケーションがやや不十分である	発表時のコミュニケーションが著しく不十分である
態度	3．受講態度	積極的に参加し、前向きな姿勢で実習に取り組んでいる	受講態度が良好で、前向きに実習に参加している	受講態度は概ね良好である	実習に関係のない行動が時々見られる	実習に関係のない行動が多く、受講態度が著しく悪い

科目名	カウンセリング論			授業番号	NO305	サブタイトル			
教員	平尾　太亮								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	カウンセリングに関わる基礎理論を獲得するとともに，ロールプレイや事例検討を通して，カウンセリングに関する技術の修得を目的とする。								
到達目標	・カウンセリングの知識について，基礎的な知識を獲得する。 ・カウンセリングの基礎的な技法について，実際の場面で使うことができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	カウンセリングとは？	
第2回	カウンセリングの理論1：精神分析療法 精神分析的な考え方について学ぶ。	
第3回	カウンセリングの理論2：認知行動療法，論理療法 行動論的な考え方について学ぶ。	
第4回	カウンセリングの理論3：自己理論 自己理論的な考え方について学ぶ。	
第5回	カウンセリング・マインドについて 専門職におけるカウンセリング・マインドとは何か？について考え、獲得できるようになる。	
第6回	カウンセリングのすすめ方1：インテーク面接 インテーク面接について学ぶ、進め方の実際を知る。	
第7回	カウンセリングのすすめ方2：アセスメント1 アセスメントについて学ぶ。	
第8回	カウンセリングのすすめ方3：アセスメント2 様々なアセスメント方法について学び、体験する。	
第9回	カウンセリングのすすめ方4：介入と終結 介入と集結方法ついて学ぶ。	
第10回	カウンセリングにおける具体的なテクニック1：相づち，反射，開いた質問，閉じた質問 実際のカウンセリングを通して、具体的なテクニックについて学びを深める。	
第11回	カウンセリングにおける具体的なテクニック2：要約，明確化 具体的なテクニックについて学びを深める。	
第12回	事例検討１ 様々な事例を通して、カウンセリングの実際を知る。	
第13回	事例検討２ 様々な事例を通して、カウンセリングの実際を知る。	
第14回	ロールプレイ 実際にカウンセリングを体験してみる。	
第15回	まとめ 全講義を振り返り、カウンセリングの知識について定着を図る。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。
レポート	30	全講義終了後，カウンセリングにおける知識と視点をふまえて総合的に論じることができる。次回授業時にフィードバックを行う。
小テスト		
定期試験		
その他	50	事例検討（30%）やロールプレイ（20%）に積極的に参加し，意見を出すことができる。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。
授業外学修	1．授業内で学修した，カウンセリングに関わる基礎理論を復習すること。 2．事例について，様々な視点から考えられるように深く読み込むこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要であれば，その都度プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	スクールカウンセラー（14年），医療型障害児入所施設職員（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	スクールカウンセラー（14年）の経験を通して得られた様々な事例を通して、多様な困難感を抱える子どもや保護者の気持ちへの寄り添い方や支援方法について考え実践できるようになる

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
態度	1.課題への取り組み	課題の意図を理解し、カウンセリングの知識を踏まえながら具体的に自分の意見を記述することができる。カウンセリングの知識に即しながら、自分なりの新たな意見を記述することができる。	課題の意図を理解し、具体的に自分の意見を記述することができる。	課題の意図を理解し自分の意見を述べられるが、具体的に記述することができない。	課題の意図は理解できているが自分の意見は記述できない。もしくは課題の意図は理解できていないが、自分の意見は記述できる。	課題の意図が理解できていない。自分の意見が記述できてない。
態度	2.グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を具体的に述べることができる。グループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を述べることができる。もしくはグループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて取り組むことができている。	グループ活動に参加しているが、消極的である。	グループ活動に参加していない。

科目名	食行動学			授業番号	NO306	サブタイトル			
教員	安原　幹成								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	人にとっての食行動は、ライフステージやライフワーク、その他の多くの要因によって異なり、影響を受ける。 栄養士・管理栄養士として、重要なアセスメントの一つである食行動について学修する。								
到達目標	食行動に影響を与える要因の分析力を養い、「なぜ人はその行動をとるのか」、また「健康的に望ましくない食行動を変容させるためには何が必要か」を考察する。 本科目では、食行動を多面的に理解することを目標とする。なお、本科目は、ディプロマ・ポリシーに掲げる学士力のうち、＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	食行動は、重要なアセスメントの一つであり、管理栄養士として十分に理解することが求められる。 本講義では、さまざまなライフステージやライフワークにおける特徴を理解し、それらを分析する能力を養うことを目的とする。 日頃から、さまざまな環境下で人の食行動を観察し、興味を持って受講すること。 講義は座学形式で行うが、参加型の要素を含めるため、積極的な発言を期待する。 また、講義内容に沿ったレポートを作成しながら進める。								

回	概要	担当
第1回	食行動とは何かを考える 本授業では、人の生命活動と食行動の関係を基礎として、食行動が生物行動・学習行動・社会文化的行動の側面を併せ持つことを理解する。さらに、何が食物となるかの学習過程や、飢餓感と食欲の相互作用によって食行動が成立・終結する仕組みを整理し、食行動を科学的に捉える基礎的理解力の形成を目指す。	
第2回	食行動と認知 本授業では、食行動における味覚の役割を理解し、味覚が食物の価値判断基準として摂食行動を調節する仕組みを学ぶ。さらに、抹消器官である舌における味覚受容体の機能を基礎に、甘味、うま味、苦味、酸味、塩味からなる基本味の認識過程を整理し、食行動を生理学的に捉える理解力の形成を目指す。	
第3回	食行動と環境要因との関係 本授業では、食行動の対象が食物に関する学習によって形成されることを理解するとともに、感情と食行動の関係を整理する。特に、ネガティブおよびポジティブな感情状態が食行動の様式や摂取行動に及ぼす影響、さらに食器の大きさや形状など環境要因による錯覚が食行動に与える影響を学び、食行動を心理・環境的側面から総合的に捉える基礎的能力の形成を目指す。	
第4回	食行動と心理との関係 本授業では、食行動に影響を及ぼす態度および感情要因について理解を深める。特に、対象に対する評価や感情との結びつきとしての態度の概念を整理し、潜在的態度と質問紙等により測定される顕在的態度の特徴と相違点を学ぶ。さらに、顕在的態度が社会的望ましさの影響を受けやすい点を踏まえ、食行動を心理的側面から適切に捉える基礎的理解力の形成を目指す。	
第5回	食に関する理解の発達 本演習では、これまでに実施した栄養教育実習の内容を基に、学修過程および到達度の振り返りを行う。生成AIを活用した振り返りと教員提示による振り返りを通して自己の理解を整理し、最終レポートとして学習成果や課題を言語化することで、栄養教育実践における知識・技能・態度を統合的に省察する能力を養う。	
第6回	ライフステージにおける食行動の特徴を考える 本講義では、妊娠・授乳期から高齢期に至る各ライフステージにおける食行動の特徴を理解することを目的とする。発達段階や加齢に伴う身体的・心理的・社会的要因が食行動に及ぼす影響を整理し、特に乳幼児期の離乳過程、思春期の食行動障害、成人期の生活習慣、高齢期の栄養摂取量や食環境の変化について学ぶことで、対象特性に応じた栄養支援の基礎的判断力を養う。	
第7回	ライフワークにおける食行動の特徴と考える 本講義では、ライフワークおよび職業生活における食行動の特徴を理解することを目的とする。勤務体系や職種、生活時間帯の違いが食事内容や食行動に及ぼす影響を整理し、深夜勤務や外回り業務等に伴う食行動上の課題を学ぶとともに、嗅覚と食行動の関係について、オルソネーザルおよびレトロネーザル匂い知覚の仕組みを理解することで、生活環境に応じた食行動支援の基礎的視点を養う。	
第8回	行動科学に基づいた栄養教育 本講義では、行動科学の理論に基づき、食行動を感情・認知・行為を含む行動として捉え、栄養教育への応用を学ぶ。刺激統制法、反応妨害・拮抗、行動置換、オペラント強化等の行動変容技法を理解し、具体的事例を通して問題となる食行動の要因分析と、対象に応じた実践的な支援方法を検討する能力を養う。	
第9回	行動分析学に基づく体重減量の方法 本講義では、行動分析学の理論に基づき、体重減量を目的とした行動変容の方法を理解する。刺激性制御、行動契約、自己モニタリング、強化随伴性の考え方を中心に、食事・運動行動と体重変化の関係を整理し、短期的効果と長期的維持の両面から、実生活に適用可能な体重管理支援の基本的視点を修得する。	
第10回	食事療法による生活習慣病の予防 本講義では、食事療法による生活習慣病予防を目的として、肥満に関連する食行動の特徴と心理的要因を理解する。刺激統制法やストレスマネジメント、動機づけ面接の考え方を踏まえ、患者の抵抗や誤った健康認識に配慮した支援方法を学ぶとともに、体重測定や食事観察を活用した行動変容支援を通じて、継続可能な食事療法を実践するための基礎的能力を養う。	
第11回	健康寿命を延伸するために求められる食とは何か 本講義では、健康寿命の延伸を目的として、食行動と地域特性、生活環境との関連を多面的に理解する。平均寿命および健康寿命の差や都道府県別データを基に、食習慣、食環境、運動習慣、地域文化が健康に及ぼす影響を整理し、過剰および不足栄養素の視点から、生活習慣病予防とQOL向上に資する望ましい食生活の在り方を学ぶ。	
第12回	肥満とダイエット関連する食行動と栄養教育 事例検討（メタボリックシンドローム） 本講義では、肥満およびダイエットに関連する食行動を行動科学の視点から理解し、栄養教育への応用を学ぶ。肥満の定義、成因、合併症を整理した上で、脳内報酬系や認知の偏りが食行動に及ぼす影響を把握し、事例検討を通じて減量支援の困難性を考察する。さらに、食事療法と身体活動を組み合わせた介入方法を検討し、個別化した栄養指導の重要性を理解する。	
第13回	事例検討(糖尿病) 本講義では、糖尿病を題材とした事例検討を通じて、食行動と血糖コントロールの関連を理解する。インスリン作用不足の機序や糖尿病の成因を整理した上で、嗜好、摂取量、摂取頻度、入手環境など食行動の特徴を多面的にアセスメントし、問題点に応じた具体的な食事療法および行動変容支援の考え方を学ぶことで、実践的な栄養指導能力を養う。	
第14回	事例検討(CKD：慢性腎臓病)ステージ４～５D 重大性の認知が食行動へ与える影響 本講義では、慢性腎臓病（CKD）ステージ4以降を対象とした事例検討を通じて、食行動と病態進行の関連を理解する。腎機能低下の機序、食事療法の基本的考え方、水分・たんぱく質・食塩・カリウム管理を整理し、透析導入を回避・遅延するための望ましい食行動と、低栄養やサルコペニアを防ぐ栄養支援の視点を養う。	

第15回	食行動学のまとめ 本講義では、食行動学の総括として、人の食行動が生物学的要因、個人の経験、社会・文化的環境の相互作用によって形成されることを理解する。味覚、感情、認知、視覚刺激、環境要因が摂食量や食品選択に及ぼす影響を行動科学の視点から整理し、肥満や生活習慣病、地域差と関連づけて考察することで、科学的根拠に基づき食行動を評価し、栄養教育へ応用するための統合的理解を深める。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／積極的な態度	10	授業と関係ない行為を減点対象とする。能動的な姿勢を評価する。
レポート※欠席回数に応じて減点を行う。	90	講義内容の理解度と取り組み姿勢について、レポートの内容を基に評価する。 レポートは、講義と並行して進める。 次回授業時に、全体的なまとめを解説する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	日頃から、自身を含め他者の食行動を観察すること。 また、自分自身の食行動を振り返り、どのような要因によって変化が生じたのかを整理しておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	毎回の講義内容に沿った資料を提供する。 提供された資料は、ファイルに整理して保管すること。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院における管理栄養士（23年間）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	本授業は、医療機関において管理栄養士として23年間勤務した実務経験を基盤とし、臨床現場で培った知識および実践的視点を取り入れて構成する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．学修内容全般における理解	学修内容を深く理解し、明確に説明できる	学修内容を適切に理解し、説明できる	学修内容を概ね理解している	学修内容の理解が不十分である	学修内容をほとんど理解していない
知識・理解	2．食行動に対する理解	食行動の成り立ちを的確に理解し、詳細に説明できる	食行動の成り立ちを理解し、適切に説明できる	食行動の成り立ちを十分に理解している	食行動の理解が部分的で、不十分である	食行動の成り立ちを理解できていない
思考・問題解決能力	1．課題に対する思考力	課題を深く考察し、創造的かつ論理的に思考できる	課題を適切に分析し、論理的に思考できる	課題に対して一定の思考力を示す	課題に対する思考が不十分である	課題についてほとんど考察できていない
思考・問題解決能力	2．食行動に対する課題への問題解決能力	食行動の課題を的確に捉え、適切な解決策を提示できる	食行動の課題を把握し、妥当な解決策を考案できる	食行動の課題を理解し、一定の解決策を示せる	課題の把握や解決策の提示が不十分である	課題を適切に把握できず、解決策を提示できない

科目名	臨床栄養学総論			授業番号	NP201	サブタイトル	（傷病者の栄養管理の基礎を学ぶ）		
教員	小野　尚美								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	傷病者の病態や栄養状態に基づいた栄養管理を行うために栄養ケアマネジメントが実施される。その流れに沿って，栄養アセスメント，栄養診断，栄養ケア計画の作成・実施，モニタリング・再評価における必要な知識を説明する。さらに，栄養管理を行う上で必要となる他職種との連携（チーム医療），栄養補給（経口栄養・経腸栄養・経静脈栄養），栄養教育の方法および食品と医薬品の相互作用について講義する。								
到達目標	・栄養ケアマネジメントの流れについて説明できる。 ・対象者の栄養状態を評価する方法について説明できる。 ・栄養補給法について知り，その選択ができる。 ・チーム医療について理解し，その中での管理栄養士の役割について説明できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	臨床栄養学の基礎 臨床栄養学の意義，目的について理解する。	
第2回	医療保険制度とチーム医療 医療保険制度の概要およびその制度における入院時食事療養制度や栄養管理に関連する診療報酬について理解する。	
第3回	福祉・介護と在宅医療 介護保険制度の概要および介護サービスにおける栄養管理，食事療養について理解する。	
第4回	栄養ケアマネジメントの概要 栄養ケアマネジメントの必要性やどのような過程で行われるか，また栄養管理プロセスの過程についても理解する。	
第5回	栄養アセスメント(1)フィジカルアセスメント，身体計測 フィジカルアセスメントによりわかる栄養状態について理解する。身体計測より身体構成成分を把握できることを理解する。	
第6回	栄養アセスメント(2)臨床検査 臨床検査の指標の意味を理解する。	
第7回	栄養アセスメント(3)食生活状況の把握，エネルギーおよび栄養素のアセスメント 食生活状況を把握するための調査方法について理解する。	
第8回	栄養ケア計画のプロセス 必要栄養量の設定について理解する。	
第9回	栄養補給の方法(1)経口栄養補給法 病院で提供される治療食について理解する。	
第10回	栄養補給の方法(2)経腸栄養補給法 経腸栄養補給法の投与経路・投与方法について，また経腸栄養剤の種類について理解する。	
第11回	栄養補給の方法(3)経静脈栄養補給法 経静脈栄養補給法の投与方法・経路および経静脈栄養剤について理解する。	
第12回	薬と栄養・食物の相互作用 栄養・食物が医薬品に及ぼす影響について，また医薬品が栄養・食事に及ぼす影響について理解する。	
第13回	栄養ケアの記録 栄養ケアの記録の必要性，SOAP形式で記載した問題志向型診療録（POMR）について理解する。	
第14回	栄養教育の実施 栄養教育（栄養食事指導）の目的，指導方法について理解する。	
第15回	モニタリングと再評価 モニタリングの必要性や項目について理解する。また，モニタリング後の再評価について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	意欲的な学習態度によって評価する。
レポート		
小テスト	25	主要なポイントの理解度を評価する。授業時間に解答，解説する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	医療機関における管理栄養士の役割を知る授業である。事前に講義範囲をテキストで予習しておく。
授業外学修	1　事前に講義範囲をテキストで予習しておく。 2　授業の中で指示された課題等に取り組む。 3　授業後にテキストや配布プリントを読み返し，ポイントを整理する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学　基礎編	本田佳子，土江節子，曽根博仁	羊土社	978-4-7581-0882-9	2，700円+税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．栄養ケアマネジメントの流れについて説明できる	栄養ケアマネジメントの流れ，それぞれについて具体的に説明できる。	栄養ケアマネジメントの流れ，それぞれについて理解できている。	栄養ケアマネジメントの流れについて説明できる。	栄養ケアマネジメントについての理解ができている。	栄養ケアマネジメントについての理解が不十分である。
知識・理解	２．対象者の栄養状態を評価する方法について説明できる。	栄養状態を評価する方法についての理解が十分であり，それを用いて実際に評価できる。	対象者の栄養状態を評価する方法について具体的に説明できる。	対象者の栄養状態を評価する方法について理解できている。	栄養状態を評価する項目が分かる。	栄養状態を評価する項目がわからない。
知識・理解	３．栄養補給法について知り，その選択ができる。	栄養補給法について理解しており，なぜその選択になったかを説明できる。	栄養補給法について理解し，選択ができる。	栄養補給法それぞれを理解できている。	栄養補給法にはどのような方法があり大まかに理解できている。	栄養補給法について理解が不十分である。
知識・理解	４．チーム医療について理解し，その中で管理栄養士の役割について説明できる。	管理栄養士の参加が必要なチーム医療について理解し，そこでの管理栄養士の役割を説明できる。	管理栄養士の参加が必要なチーム医療について理解し，そこでの管理栄養士の役割がわかる。	管理栄養士が必要とされるチーム医療について理解ができている。	チーム医療について大まかに理解できている。	チーム医療についての理解が不十分である。

科目名	臨床栄養学各論Ⅰ			授業番号	NP302	サブタイトル			
教員	古川　愛子								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	各種疾患別に病態と栄養生理を把握し，栄養ケア・マネジメントを実践するために必要な項目について学ぶ。また治療の一部となる栄養食事療法や栄養状態に合わせた栄養管理計画の考え方について講義する。								
到達目標	・疾患ごとの病態について説明できる ・栄養食事療法について説明できる ・栄養状態にあわせた栄養管理計画について説明できる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	糖尿病(1) 疾患の概要，疾患の原因，診断，治療法，栄養生理について説明する	
第2回	糖尿病(2) 栄養食事療法の基本方針，栄養アセスメントとモニタリングの方法，栄養食事管理目標，栄養介入計画の考え方について説明する 栄養食事指導や生活指導の具体的な内容と食品，料理の調整方法について講義する	
第3回	肥満症・メタボリックシンドローム 疾患の概要，診断と治療法，栄養生理について説明する 栄養食事療法の基本方針，栄養アセスメントとモニタリングの方法，栄養食事管理目標について説明する 栄養食事指導や生活指導の具体的な内容と食品，料理の調整方法について講義する	
第4回	脂質異常症 疾患の概要，診断と治療法，栄養生理について説明する 栄養食事療法の基本方針，栄養アセスメントとモニタリングの方法，栄養食事管理目標について説明する 栄養食事指導や生活指導の具体的な内容と食品，料理の調整方法について講義する	
第5回	高尿酸血症 疾患の概要，診断と治療法，栄養生理について説明する 栄養食事療法の基本方針，栄養アセスメントとモニタリングの方法，栄養食事管理目標について説明する 栄養食事指導や生活指導の具体的な内容と食品，料理の調整方法について講義する	
第6回	高血圧 疾患の概要，診断と治療法，栄養生理について説明する 栄養食事療法の基本方針，栄養アセスメントとモニタリングの方法，栄養食事管理目標について説明する 栄養食事指導や生活指導の具体的な内容と食品，料理の調整方法について講義する	
第7回	動脈硬化症，虚血性心疾患，心不全，脳血管疾患 疾患の概要，診断と治療法，栄養生理について説明する 栄養食事療法の基本方針，栄養アセスメントとモニタリングの方法，栄養食事管理目標について説明する 栄養食事指導や生活指導の具体的な内容と食品，料理の調整方法について講義する	
第8回	上部消化肝疾患（胃潰瘍，胃食道逆流症） 疾患の概要，診断と治療法，栄養生理について説明する 栄養食事療法の基本方針，栄養アセスメントとモニタリングの方法，栄養食事管理目標について説明する 栄養食事指導や生活指導の具体的な内容と食品，料理の調整方法について講義する	
第9回	下部消化肝疾患（下痢，便秘，炎症性腸疾患） 疾患の概要，診断と治療法，栄養生理について説明する 栄養食事療法の基本方針，栄養アセスメントとモニタリングの方法，栄養食事管理目標について説明する 栄養食事指導や生活指導の具体的な内容と食品，料理の調整方法について講義する	
第10回	肝疾患(ウイルス性肝炎，アルコール性肝炎，脂肪肝) 疾患の概要，診断と治療法，栄養生理について説明する 栄養食事療法の基本方針，栄養アセスメントとモニタリングの方法，栄養食事管理目標について説明する 栄養食事指導や生活指導の具体的な内容と食品，料理の調整方法について講義する	
第11回	肝疾患（肝硬変） 疾患の概要，診断と治療法，栄養生理について説明する 栄養食事療法の基本方針，栄養アセスメントとモニタリングの方法，栄養食事管理目標について説明する 栄養食事指導や生活指導の具体的な内容と食品，料理の調整方法について講義する	
第12回	膵・胆道系疾患 疾患の概要，診断と治療法，栄養生理について説明する 栄養食事療法の基本方針，栄養アセスメントとモニタリングの方法，栄養食事管理目標について説明する 栄養食事指導や生活指導の具体的な内容と食品，料理の調整方法について講義する	
第13回	腎疾患（糸球体腎炎，ネフローゼ症候群，糖尿病性腎症） 疾患の概要，診断と治療法，栄養生理について説明する 栄養食事療法の基本方針，栄養アセスメントとモニタリングの方法，栄養食事管理目標について説明する 栄養食事指導や生活指導の具体的な内容と食品，料理の調整方法について講義する	
第14回	腎疾患(慢性腎臓病) 疾患の概要，診断と治療法，栄養生理について説明する 栄養食事療法の基本方針，栄養アセスメントとモニタリングの方法，栄養食事管理目標について説明する 栄養食事指導や生活指導の具体的な内容と食品，料理の調整方法について講義する	
第15回	腎疾患(末期腎不全、透析) 疾患の概要，診断と治療法，栄養生理について説明する 栄養食事療法の基本方針，栄養アセスメントとモニタリングの方法，栄養食事管理目標について説明する 栄養食事指導や生活指導の具体的な内容と食品，料理の調整方法について講義する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	10	各項目におけるポイントの理解度を評価する。次回授業時に解説する。
定期試験	90	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	

受講の心得	具体的な栄養管理法を把握するため，事前・事後学習を行う。特別な理由がない限り欠席・遅刻しない。この科目の学習には，人体の構造と機能および疾病の成り立ち（解剖・生化学・病理・医学概論），基礎栄養学を充分理解しておく必要がある。
授業外学修	1.授業に用いる教科書および関連資料を次回授業までに読んでおく。 2.授業の最後に，小テストや授業中の記録用紙の提出を指示する。 3.授業に関連した項目についてレポートを作成する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養学ｲﾗｽﾄﾚｲﾃｯﾄﾞ　臨床栄養学　疾患別編	本田佳子　編	羊土社	978-4-7581-0883-6	2，800円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
臨床医学疾病の成り立ち	田中明　他　編	羊土社	978-4-7581-0870-6	2,800円+税
トレーニーガイド栄養食事療法の実習　栄養ケアマネジメント	本田佳子　編	医歯薬出版	978-4-263-708439	2,800+税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院における栄養士（3年），管理栄養士（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	病院における実務経験を活かし，傷病者の栄養食事療法について講義を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．疾患ごとの病態について説明できる	学修した疾患ごとの病態について，正確に理解し述べることができる	学修した疾患ごとの病態について，正確ではないがほぼ理解し述べることができる	学修した疾患ごとの病態について，だいたい述べることができる	学修した疾患ごとの病態について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる	学修した疾患ごとの病態について，全く理解できていない
知識・理解	２．疾患ごとの栄養食事療法について説明できる	疾患ごとの栄養食事療法について，正確に理解し述べることができる	疾患ごとの栄養食事療法について，正確ではないがほぼ理解し述べることができる	疾患ごとの栄養食事療法について，述べることができる	疾患ごとの栄養食事療法について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる	疾患ごとの栄養食事療法について，全く理解できていない
知識・理解	３．栄養状態にあわせた栄養管理計画について説明できる	栄養状態にあわせた栄養管理計画について，正確に理解し述べることができる	栄養状態にあわせた栄養管理計画について，正確ではないがほぼ理解し述べることができる	栄養状態にあわせた栄養管理計画について，だいたい述べることができる	栄養状態にあわせた栄養管理計画について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる	栄養状態にあわせた栄養管理計画について，全く理解できていない

科目名	臨床栄養学各論Ⅱ			授業番号	NP303	サブタイトル	（傷病者の疾病に応じた栄養管理を学ぶII）		
教員	小野　尚美								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	臨床栄養学各論Iに続いて各種疾患別に病態と栄養生理を把握し，栄養ケアマネジメントを実施するために必要な項目について学ぶ。疾患の原因，症状等を把握した上で治療，特に栄養食事療法をどのように進めていくかについて講義する。								
到達目標	・疾患ごとの病状を説明できる。 ・疾患における傷病者の栄養状態を説明できる。 ・治療において，栄養食事療法の意義を説明できる。 ・疾患ごとの栄養ケア計画を考えることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	運動器（骨格）系疾患(1)骨粗鬆症，くる病，骨軟化症 骨粗鬆症，くる病，骨軟化症のそれぞれの病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第2回	運動器（骨格）系疾患(2)変形性関節症，サルコペニア，ロコモティブシンドローム 変形性関節症，サルコペニア，ロコモティブシンドロームのそれぞれの病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第3回	摂食嚥下障害 摂食嚥下障害の病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第4回	褥瘡 褥瘡の病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第5回	甲状腺機能亢進症・甲状腺機能低下症 甲状腺機能亢進症，甲状腺機能低下症のそれぞれの病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第6回	神経性やせ症，神経性過食症 神経性やせ症，神経性過食症のそれぞれの病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第7回	慢性閉塞性肺疾患 慢性閉塞性肺疾患の病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第8回	貧血 鉄欠乏性貧血，巨赤芽球性貧血，溶血性貧血，再生不良性貧血のそれぞれの病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第9回	アレルギー疾患 食物アレルギーの病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第10回	がんとターミナルケア 消化管がんの病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第11回	周術期の管理 術前・術後の病態生理と栄養ケアについて把握する。	
第12回	クリティカルケア 外傷，熱傷それぞれの病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第13回	先天性代謝異常症 フェニルケトン尿症，メープルシロップ尿症，ホモシスチン尿症，ガラクトース血症，糖原病Ⅰ型それぞれの病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第14回	妊産婦疾患 妊娠高血圧症候群，妊娠糖尿病それぞれの病態生理と栄養ケアについて理解する。	
第15回	てんかん てんかんの概要とケトン食療法について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	積極的な授業態度，予習，復習，質問などにより評価する。
レポート		
小テスト	30	各回の主要なポイントの理解度を評価する。次回授業時に解説する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この授業をより理解するためには，人体の構造と機能および疾病の成り立ち（解剖・生化学・病理・医学概論），基礎栄養学を充分理解していることが重要であるので，復習しておくこと。
授業外学修	・事前に講義範囲をテキストで予習しておく。 ・授業の中で指示された課題等に取り組む。 ・授業後にテキストや配布プリントを読み返し，ポイントを整理する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学　疾患別編　改訂第2版	本田佳子　他　編	羊土社	978-4-7581-0883-6	2，800円+税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
臨床医学疾病の成り立ち	田中　明　他　編	羊土社	978-4-7581-0870-6	2，800円+税

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．疾患ごとの病状を説明できる。	生理機能の変化，代謝の変化についても説明できる。	なぜそのような症状がでるのか説明できる。	疾患の症状について説明できる。	疾患の概要について説明できる。	疾患の概要について理解ができていない。
知識・理解	２．疾患における傷病者の栄養状態を説明できる。	アセスメント項目の数値をみて栄養状態を具体的に説明できる。	アセスメント項目の数値をみて栄養状態が理解できる。	疾患ごとの栄養状態を把握するためのアセスメント項目がわかる。	栄養状態を把握するためのアセスメント項目がわかる。	栄養状態を把握するためのアセスメント項目の理解が不十分である。
知識・理解	３．治療において，栄養食事療法の意義を説明できる。	栄養食事療法の意義を理解した上で，栄養食事療法により改善が予測されることを説明できる。	栄養食事療法の意義を理解し，説明ができる。	栄養食事療法の意義が理解できている。	栄養食事療法の意義が大まかに理解できている。	栄養食事療法の意義に対する理解が不十分である。
知識・理解	４．疾患ごとの栄養ケア計画を考えることができる。	他職種との連携も考慮し，栄養ケア計画を考えることができる。	栄養教育を含めた栄養ケア計画を考えることができる。	栄養補給を中心とした栄養ケア計画を考えることができる。	栄養補給量の計算方法がわかる。	栄養補給量の算出方法が理解できていない。

科目名	臨床栄養学実習Ⅰ（隔週）			授業番号	NP304A	サブタイトル			
教員	古川　愛子								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	栄養ケアプロセスについて学習する。すなわち身体計測や臨床検査，臨床診査，食事調査などから得られた情報をもとに栄養アセスメントを行い，栄養診断に基づいた栄養介入計画を立案する。 栄養管理計画書やPOSに基づいた栄養記録法を学ぶ。 少人数のグループで傷病者の特徴に応じた集団指導の計画を立て実践する。								
到達目標	・ベッドサイドにおける身体計測を実施でき，結果を評価できる ・対象者にあわせた栄養補給法を選択し，投与ルートや投与量を計画できる ・栄養アセスメント項目から，栄養状態を評価し問題点を抽出できる ・POSに基づいた栄養記録を作成できる ・対象者の特徴に配慮した集団指導の計画立案と実践ができる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	傷病者の栄養補給法 経口栄養法，経腸栄養法，経静脈栄養法について理解する 対象者にあった栄養補給法を選択し投与ルートおよび投与量を算出する 対象者にあった栄養必要量の算出について理解する	
第2回	栄養スクリーニング スクリーニングの意義について理解する SGA，MNA-SF，MUST、CONUTを用いてスクリーニングの方法を習得する GLIM基準について理解し，活用する	
第3回	栄養アセスメントの手法 ベッドサイドを含めた身体計測の手技を学ぶ 身体計測，血液検査，栄養素等摂取量などのアセスメント項目から必要な情報を抽出し栄養評価を行う栄養診断の方法 栄養診断コードを用いた栄養診断の方法とPES報告の記載について理解する	
第4回	介入計画の立案 栄養診断に基づいた介入計画の考え方について理解する NCPの記録 POSに基づくSOAPの記録方法について学ぶ栄養管理計画書の作成 症例を基に栄養管理計画書の作成について学ぶ	
第5回	糖尿用交換表の使い方 糖尿病の食事療法について理解する 糖尿病交換表の使い方を理解する	
第6回	エネルギーコントロール食の調理 エネルギーを抑えるための調理技術や食品の選択について学ぶ 低エネルギー甘味料の特徴について学ぶ	
第7回	病院で提供される食事と献立の展開 治療食について理解する 展開食について理解し，常食をエネルギーコントロール食に展開する	
第8回	糖尿病の栄養管理 糖尿病の病態や食事療法について理解する 糖尿病症例について栄養アセスメントを行い，栄養診断，PES報告，栄養介入計画を考える	
第9回	心疾患の栄養管理 心疾患の病態や食事療法について理解する 心不全症例について栄養アセスメントを行い，栄養診断，PES報告，栄養介入計画を考える	
第10回	塩分コントロール食の理解 塩分をコントロールするための調理法や食品の選択について学ぶ 常食を減塩食に展開する	
第11回	肝疾患の栄養管理 肝疾患の病態や食事療法について理解する 肝硬変症例について栄養アセスメントを行い，栄養診断，PES報告，栄養介入計画を考える	
第12回	糖尿病展開食の調理 常食と展開食を調理する 試食し，味つけ，みため，ボリュームなど喫食者としての評価と調理作業工程の評価を行う	
第13回	集団栄養食事指導の準備 集団栄養食事指導の特徴を理解する 糖尿病をテーマとした集団栄養食事指導の計画をたてる	
第14回	集団栄養食事指導の準備 集団栄養食事指導の計画に則って，必要な教材の作成を行う 指導のシュミレーションを行い，改善を行う	
第15回	集団栄養食事指導の発表 計画した集団栄養食事指導を発表する 集団栄養食事指導の計画と発表について自己評価を行う 発表内容について，観察者としての評価を行う	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	グループワークにおける発言や積極的な質問など意欲的な実習態度によって評価する
レポート	50	治療食や疾病を理解し，傷病者の臨床診査，検査値等から正しく栄養状態の評価を行っているか，また問題点を抽出できているかを評価する。 提出されたレポートについては，コメントを記入して返却する。
その他	30	集団指導の計画内容，発表内容が指導の目的を達成しうるものであるか評価する

評価の方法：自由記載	

受講の心得	臨床栄養学総論，臨床栄養学各論で学んだ知識が必要である。復習を十分に行い授業に臨むこと。
授業外学修	1 予習として各疾患の特徴や食事療法について理解しておくこと 2 復習として課題レポートに取り組むこと 以上の内容を週当たり1時間以上学修すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
トレーニーガイド 栄養食事療法の実習	本田佳子 編	医歯薬出版	978-4-263-70651-0	2700+税
糖尿病食事療法のための食品交換表	日本糖尿病学会 編	文光堂	978-4-8306-6046-7	900+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
臨床調理	玉川和子・口羽章子・木地明子 著	医歯薬出版	978-4263706527	2400+税
栄養ケアプロセス用語マニュアル	公益財団法人日本栄養士会	第一出版	978-4804112701	3400
調理のためのベーシックデータ	女子栄養大調理学研究室 監修	女子栄養大出版部	978-4789503259	2200（税込）
参考書：自由記載				

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院における栄養士（3年），管理栄養士（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	病院における実務経験を活かし，傷病者に対する実践的な栄養食事療法について指導します。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．ベッドサイドにおける身体計測を実施でき，結果を評価できる。	身体計測から得られた結果を評価し、論理的に説明できる。	正確な方法で身体計測を実施し，結果を評価できる。	正確な方法で身体計測を実施できるが結果を評価することができない。	正確な方法で身体計測が実施できない。	身体計測を実施する目的が曖昧である。
思考・問題解決能力	2．対象者にあわせた栄養補給法を選択し，投与ルートや投与量を計画できる。	対象者にあわせた栄養補給法を選択し，投与ルートや投与量を計画できる。また，計画内容について説明できる。	対象者にあわせた栄養補給法を選択し，投与ルートや投与量を計画できる。	対象者にあわせた栄養補給法を選択し，投与ルートや投与量を計画できる。	対象者にあわせた栄養補給法は選択できるが，投与ルートや投与量は計画できない。	栄養補給法が理解できていない。
思考・問題解決能力	3．栄養アセスメント項目から，栄養状態を評価し問題点を抽出できる。	栄養アセスメント項目から栄養状態を評価し、見出した問題点について，根拠に基づいて説明できる。	栄養アセスメント項目から栄養状態を評価し，見出した問題点について述べることができる。	栄養アセスメント項目から栄養状態を評価し，問題点を抽出できる。	栄養アセスメント項目を抽出し，総合的に栄養状態を評価できる。	栄養アセスメント項目を抽出できる。
技能	1．POSに基づいた栄養記録を作成できる。	SOAPで記載した内容について説明できる。	SOAPの記載が簡潔明瞭な記録となっている。	SOAPの4項目に分類して記録できる。	POSのうちのSOAP形式について説明できる。	POSとはなにか理解できていない。
技能	2．対象者の特徴に配慮した集団指導を計画立案し，実践できる。	対象者の特徴を理解しエビデンスに基づいた集団指導計画であり，指導計画に沿って実践できている。かつ，プレゼンテーションの方法が適切である。さらに，指導内容についてエビデンスに基づいて説明できる。	対象者の特徴を理解しエビデンスに基づいた集団指導計画であり，指導計画に沿って実践できている。かつ，プレゼンテーションの方法が適切である。	対象者の特徴を理解しエビデンスに基づいた集団指導計画である。また，指導計画に沿って実践できている。	対象者の特徴を理解した集団指導計画である。	対象者の特徴を理解できていない。

科目名	臨床栄養学実習Ⅱ（隔週）			授業番号	NP305A	サブタイトル			
教員	古川　愛子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	傷病者の栄養状態の評価を行い，栄養診断に基づいた栄養ケアプランを作成する。また，栄養ケアプランに基づいた個別栄養指導計画を立案し，臨床の現場を想定した模擬指導を行う。								
到達目標	・栄養診断，PES報告に基づいた栄養介入計画を提案できる ・栄養介入計画に基づいた個別栄養指導を立案し，実践できる ・一般食から病態に応じた献立の展開ができる ・他専門職種との連携について説明できる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	腎臓病食品交換表の使い方 腎臓病食品交換表の使い方を理解する 1日分の献立について腎臓病食品交換表を使って栄養素等を算出する	
第2回	慢性腎臓病の栄養管理 腎臓病の病態や食事療法について理解する 慢性腎臓病症例について栄養アセスメントを行い，栄養診断，PES報告，栄養介入計画を考える 症例における栄養管理計画にたい多職種との連携，モニタリングと評価について考える	
第3回	慢性腎臓病の栄養管理 血液透析の病態や食事療法について理解する 血液透析症例について栄養アセスメントを行い，栄養診断，PES報告，栄養介入計画を考える 症例における栄養管理計画に対し，多職種との連携，モニタリングと評価について考える	
第4回	腎臓病展開食の作成 低たんぱく質コントロール食について学ぶ 腎臓病食品交換表を用いて，常食を腎臓病食に展開する	
第5回	腎臓病における個人栄養指導の計画 慢性腎臓病症例もしくは血液透析症例について，栄養介入計画に基づいて栄養指導計画を立案する	
第6回	腎臓病における個人栄養指導の準備 栄養指導計画に基づき、媒体の作成を行い，模擬指導に向けて指導のシュミレーションを行う	
第7回	腎臓病における個人栄養指導の実践（模擬指導） 個人指導について模擬指導を行う 模擬指導の内容に従って，栄養指導報告書を作成する 個人栄養指導の計画と模擬指導について自己評価を行う 発表内容について，観察者視点で評価を行う	
第8回	低栄養症例の栄養管理 低栄養の病態や食事療法について理解する 低栄養症例について栄養アセスメントを行い，栄養診断，PES報告，栄養介入計画を考える	
第9回	個人栄養指導計画作成 糖尿病，心不全，脂肪肝，クローン病などの疾患から1症例について栄養アセスメントを行い，栄養診断， PES報告，栄養介入計画を考える 介入計画に基づいて，栄養指導計画を立案する	
第10回	個人栄養指導の準備 栄養指導計画に基づき，媒体の作成を行う 模擬指導に向けて指導のシュミレーションを行う	
第11回	個人栄養指導の実践（模擬指導） 第8回、9回に計画した個人栄養指導について模擬指導を行う 模擬指導の内容に従って，栄養指導報告書を作成する 個人栄養指導の計画と模擬指導について自己評価を行う 発表内容について，観察者視点で評価を行う	
第12回	腎臓病展開食調理の準備 展開食の見直しと展開食指示書の作成 必要食材料の算出	
第13回	腎臓病展開食の調理 第2回で作成した腎臓病展開食と常食を調理する 展開食の調理と試食についてレポートを作成する	
第14回	治療用特殊食品の利用と試食 低たんぱく質ごはん，低たんぱく質パンなどの調理と試食を行う エネルギー補助食品の応用について学び，試食を行う	
第15回	摂食・嚥下機能障害の栄養管理 介護保険制度における栄養管理に基づいた摂食・嚥下機能障害の栄養ケア計画を立案する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	グループワークにおける積極的な発言や授業態度，発表内容，質疑などにより評価する。
レポート	40	症例の病態を理解し，適切な栄養ケア計画が立案できているかその根拠を説明できるているか評価する。 提出されたレポートについては，コメントを記入して返却する。
その他：模擬指導	40	対象者の病態や食生活を踏まえた個別栄養指導計画となっているか，また，模擬指導の内容が対象者の栄養上の問題を解決しうる内容となっているかについて評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	各疾患に応じた栄養管理法に基づいて，栄養アセスメント，栄養診断，栄養ケア計画を作成し，実施までを理解した上で受講すること。各事例に応じて，栄養ケアマネジメントの実践および教育媒体の作成やコミュニケーション法についてロールプレイを通じて学ぶため，栄養教育について復習が必要である。

授業外学修	1，授業に用いる教科書および関連資料を次回授業までに読んでおく。 2，授業中の記録用紙に記入し，期日までに提出する。 3，授業に関連した項目についてレポートを作成する。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養食事療法の実習栄養ケアマネジメント	本田佳子編	医歯薬出版	978-4-263-70651-0	2,700円+税
腎臓病交換表	黒川清監修	医歯薬出版	978-4-263706749	1,500＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド 臨床栄養学 疾患別編	本田佳子編	羊土社	978-4-7581-0883-6	2800円+税
栄養管理プロセス	木戸康博 他 編	第一出版	978-4-8041-1385-2	3500+税
調理のためのベーシックデータ	女子栄養大調理学研究室監修	女子栄養大出版部	978-4789503259	2,200（税込）
参考書：自由記載				

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院における栄養士（3年），管理栄養士（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	病院における実務経験を活かし，傷病者に対する実践的な栄養食事療法および栄養食事指導について指導します。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．栄養診断，PES報告に基づいた栄養ケア計画を提案できる。	栄養診断を選択し，PES報告に基づいた栄養介入計画について根拠に基づいて述べることができる。	栄養診断を選択し，PES報告に基づいた栄養介入計画について述べることができる。	栄養診断を選択し，PES報告に基づいた栄養介入計画の提案ができる。	栄養診断は選択できるが，PES報告の記載はできない。	栄養診断を選択できない。
思考・問題解決能力	2．栄養介入計画に基づいた個別栄養指導を立案できる。	個別栄養指導の計画が栄養介入計画に基づいており、エビデンスに基づく内容である。かつ，行動変容を可能にする内容である。	個別栄養指導の計画が栄養介入計画に基づいており，エビデンスに基づく内容である。	個別栄養指導の計画が栄養介入計画に基づいており，患者の背景に基づいた動機づけができている。	個別栄養指導の計画が栄養介入計画に基づいているが，動機づけができていない。	個別栄養指導の計画が栄養介入計画に基づいていない。
思考・問題解決能力	3．他専門職種との連携について説明できる。	多職種連携について理解し，どのような場面でどのような職種と連携をとるか説明できる。	多職種連携について理解し，説明できる。	多職種連携について理解し，自分の言葉で述べることができる。	多職種連携について理解している。	多職種連携がなにか理解できていない。
技能	1．一般治療食から病態に応じた献立の展開ができる。	展開食を理解し，病態に応じた栄養目標量を遵守している。また，調理従事者や喫食者に配慮した展開食となっている。	展開食を理解し，病態に応じた栄養目標量を遵守している。また，喫食者に配慮した展開食となっている。	展開食を理解し，病態に応じた栄養目標量を遵守している。	展開食を理解しているが栄養目標量が遵守できていない。	展開食が理解できていない。
技能	2．アセスメントに基づいた個別模擬栄養指導が実践できる。	患者の行動変容が期待できる内容の指導計画および模擬指導である。	患者の理解を助ける計画内容および模擬指導である。	アセスメントに基づいた計画内容および指導である。	アセスメントに基づいた指導とはいえない。	アセスメントの内容が症例に合致していない。

科目名	栄養マネジメント			授業番号	NP306	サブタイトル			
教員	小野　尚美、森光　大、石井　恭子、市川　和子								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	栄養マネジメントでは，臨床栄養学総論，臨床栄養学各論，臨床栄養学実習で学修した知識をもとに，傷病者の病態や栄養状態に基づいた適切な栄養ケアマネジメント（栄養管理プロセス）について学ぶ。前半は栄養ケアマネジメントをするために必要な知識（スクリーニングの仕方，情報の収集と評価，栄養診断，栄養素量等の設定方法等）について講義する。後半は，各疾患の症例に対する栄養ケアマネジメントについて講義する。								
到達目標	・栄養ケアマネジメント，栄養管理プロセスについて説明できる。 ・栄養スクリーニング，栄養アセスメントができる。 ・症例に対する栄養診断ができる。 ・栄養ケア計画を作成できる。 ・栄養ケア記録にSOAPに基づいた記録ができる 本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	栄養ケアマネジメント（栄養管理プロセス）の概要 「栄養ケアマネジメント」，「栄養管理プロセス」による栄養管理の一連の過程を理解する。	小野尚美
第2回	栄養スクリーニングの実際(1)栄養スクリーニング法の比較 種々のスクリーニングツールについて理解する。	小野尚美
第3回	栄養スクリーニングの実際(2)症例を用いた栄養スクリーニング 症例を用いて，種々のスクリーニングツールによる栄養状態の評価方法を理解する。	小野尚美
第4回	栄養アセスメント 栄養アセスメントの項目について知り，栄養状態の評価方法について理解する。	小野尚美
第5回	栄養状態の判定（栄養診断） 症例を通して，栄養診断の方法を理解する。	小野尚美
第6回	栄養ケア計画の作成(1)目標量の設定方法（エネルギー，たんぱく質） エネルギー量，たんぱく質量の算出方法について理解する。	小野尚美
第7回	栄養ケア計画の作成(2)目標量の設定方法（炭水化物，脂質，水分他） 炭水化物量，脂質量，水分量等の算出方法を理解する。	小野尚美
第8回	糖尿病患者の栄養ケア 糖尿病患者の栄養ケアマネジメントの過程を理解する。	市川和子
第9回	脂質異常症患者の栄養ケア 脂質異常症患者の栄養ケアマネジメントの過程を理解する。	市川和子
第10回	高血圧症患者の栄養ケア 高血圧症患者の栄養ケアマネジメントの過程を理解する。	市川和子
第11回	腎疾患患者の栄養ケア 腎疾患患者の栄養ケアマネジメントの過程を理解する。	市川和子
第12回	高齢者の栄養ケア 高齢者の栄養ケアマネジメントの過程を理解する。	石井恭子
第13回	低栄養患者の栄養ケア 低栄養患者の栄養ケアマネジメントの過程を理解する。	森光　大
第14回	摂食嚥下障害患者の栄養ケア 摂食嚥下障害患者の栄養ケアマネジメントの過程を理解する。	石井恭子
第15回	褥瘡患者の栄養ケア 褥瘡患者の栄養ケアマネジメントの過程を理解する。	森光　大
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な学習態度，レポートの提出状況によって評価する。
レポート	50	課題について，正しく記載されているかを評価する。課題返却後の授業で全体にコメントをする。または，コメントを記入して返却する。
小テスト	30	理解度を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・事前に示す疾患等について十分に学習し授業に臨むこと。
授業外学修	・事前に授業の内容を臨床栄養学総論や臨床栄養学各論で用いたテキストで予習しておく。 ・授業の中で指示された課題等に取り組む。 ・授業中に配布されたプリントやテキストを読み返し，ポイントを整理しておく。 以上の内容を週4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学　基礎編　改訂第2版	本田佳子　他　編	羊土社	978-4-7581-0882-9	2，700円＋税
栄養科学イラストレイテッド臨床栄養学　疾患別編　改訂第2版	本田佳子　他　編	羊土社	978-4-7581-0883-6	2，800円＋税

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	施設の実習指導者(石井 恭子)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学生が管理栄養士に必要な能力を身につけるため高齢者福祉施設の現場の実習指導者の指導の下，高齢者を対象に身体状況や栄養状態を評価することができ，他職種と連携して問題解決のための栄養ケア計画及び栄養指導・支援ができる技能を修得することができる。(石井 恭子)

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．栄養ケアマネジメント，栄養管理プロセスについて説明ができる。	栄養ケアマネジメント，栄養管理プロセスの違いを明らかにしながら説明できる。	栄養ケアマネジメント，栄養管理プロセスについて理解ができており，説明ができる。	栄養ケアマネジメント，栄養管理プロセスについて理解できている。	栄養ケアマネジメント，栄養管理プロセスについて大まかに理解できている。	栄養ケアマネジメント，栄養管理プロセスについて理解が不十分である。
思考・問題解決能力	２．栄養ケア計画を作成できる。	他職種との連携も考慮し，栄養ケア計画を考えることができる。	栄養教育を含めた栄養ケア計画を考えることができる。	栄養補給を中心とした栄養ケア計画を考えることができる。	栄養補給量の計算方法がわかる。	栄養補給量の算出方法が理解できていない。
技能	１．栄養スクリーニング，栄養アセスメントができる。	症例の栄養アセスメントができる。	症例の栄養スクリーニングができる。	栄養アセスメントの項目について説明ができる。	栄養スクリーニング，栄養アセスメントについて説明できる。	栄養スクリーニング，栄養アセスメントについて理解が不十分である。
技能	２．症例に対する栄養診断ができる。	栄養アセスメントを行い，適切な栄養診断ができ，その根拠についての説明ができる。	栄養アセスメントを行い，栄養診断を2，3項目まで絞ることができる。	栄養診断の項目について理解ができている。	栄養診断の項目を知っている。	栄養診断の項目が理解できていない。
技能	３．栄養ケア記録にSOAPに基づいた記録ができる。	わかりやすく適切な記録ができる。	SOAPに分け，記録ができる。	情報の内容を適切にSOAPに分類できる。	SOAPに対応する内容がわかる。	SOAPの理解が不十分である。

科目名	公衆栄養学Ⅰ			授業番号	NQ301	サブタイトル			
教員	髙坂　由理								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	公衆栄養学は，人間集団を対象とする学問であり，公衆栄養活動という実践を伴う学問である。そこで，地域や職域での健康・栄養問題と実践されている公衆栄養活動を知り，栄養政策を知る。								
到達目標	（１）公衆栄養学の概念を知るために，健康・栄養問題の現状と課題について学び，栄養政策を理解できるようになる。 （２）現在展開されている公衆栄養活動の実際を理解するために，その根拠となっている健康増進関係の法律や地方計画について学び，健康づくりにおける行政栄養士の役割を理解できるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	公衆栄養の概念 公衆栄養の意義と目的，生態系と食料・栄養，コミュニティ，公衆栄養活動を理解する。	
第2回	公衆栄養活動（１） 公衆栄養活動の歴史，少子・高齢社会における健康増進を理解する。	
第3回	公衆栄養活動（２） 疾病予防やヘルスプロモーションのための公衆栄養活動，住民参加，ソーシャルキャピタルを理解する。	
第4回	健康・栄養問題の現状と課題（１）食事の変化 エネルギー・栄養素摂取量，食品群別摂取量，料理・食事のパターンの変化を理解する。	
第5回	健康・栄養問題の現状と課題（２）食生活の変化 食行動や食知識，食態度，食スキルの変化を理解する。	
第6回	健康・栄養問題の現状と課題（３）食環境の変化 食品生産・流通面，食情報の提供，保健・健康を目的とした食事・食環境の提供，食料需給表，食料需給率を理解する。	
第7回	健康・栄養問題の現状と課題（４）諸外国の健康・栄養問題の現状と課題 開発途上国の健康・栄養問題，先進国の健康・栄養問題を理解する。	
第8回	栄養政策（１）わが国の公衆栄養活動 健康づくり施策と公衆栄養活動の役割，公衆栄養活動と組織・人材育成を理解する。	
第9回	栄養政策（２）公衆栄養関係法規 地域保健法，健康増進法，食育基本法他の主な法律を理解する。	
第10回	栄養政策（３）管理栄養士・栄養士制度と職業倫理 栄養士法，管理栄養士・栄養士の社会的役割，管理栄養士・栄養士の沿革，職業倫理を理解する。	
第11回	栄養政策（４）国民健康・栄養調査 調査の目的，沿革，方法，内容を理解する。	
第12回	栄養政策（５）実施に関連する指針・ツール 食生活指針，食事バランスガイドを理解する。	
第13回	栄養政策（６）国の健康増進の基本方針と地方計画 基本方針の推進と地方健康増進計画を理解する。	
第14回	栄養政策（６）食育推進基本計画 食育推進基本計画の目的，内容，推進方法，地方食育推進計画を理解する。	
第15回	栄養政策（７）諸外国の健康・栄養政策 国際的な栄養行政組織，諸外国の公衆栄養関連計画等を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な学習態度や毎回行う予習と復習テストにより評価する。
レポート	10	課題を具体的に述べ，考察していることなどを評価する。課題提出後の授業で総括をコメントする。
復習テスト	10	各回の主要なポイントの理解度を評価する。
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	（１）「公衆衛生学」，「栄養学」，「食品学」等の基礎分野の理解を深めておく。 （２）公衆栄養に関する新聞記事等を関心を持って読む。
授業外学修	（１）授業の初めに予習に関するテストを行うので，テキストや参考文献を次回授業までに読んでおく。 （２）前回授業内容に関する復習テストを行うので，２時間以上復習をしておく。 （３）随時出す課題については，教科書以外の知見についても広く集め，考察したレポートを作成する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂カレント公衆栄養学第3版	由田克士・荒井裕介	建帛社	978-4-7679-0757-4	3,080円

使用テキスト：自由記載	『日本人の食事摂取基準』（2025年版）第1出版

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
公衆衛生がみえる	安藤 雄一　他	MEDIC MEDIA	978-4-89632-928-5	

参考書：自由記載	『国民栄養の現状』医学基盤・健康・栄養情報研究会編　第1出版 『国民衛生の動向』財団法人厚生労働統計協会編　発行 『栄養調理六法』栄養調理関係法令研究会編　　新日本法規
その他	
備考	令和7年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．公衆栄養の概念や考え方が理解できている。	学修した公衆栄養の概念や考え方について正確に理解し述べることができる。	学修した公衆栄養の概念や考え方について、正確ではないがほぼ理解し,述べることができる。	学修した公衆栄養の概念と考え方について、大体述べることができる。	学修した公衆栄養の概念と考え方について、正確に述べることはできないが、自分の言葉で表現できる。	学修した公衆栄養の概念や考え方について、全く表現することができない。
知識・理解	２．"健康・栄養問題の現状と課題が理解できている。"	学修した健康・栄養問題の現状と課題について、正確に述べることができる。	学修した健康・栄養問題の現状と課題について、正確ではないがほぼ理解し,述べることができる。	学修した健康・栄養問題の現状と課題について、大体述べることができる。	学修した健康・栄養問題の現状と課題について、正確に述べることはできないが、自分の言葉で表現できる。	学修した健康・栄養問題の現状と課題について、全く言葉で表現できない。
知識・理解	３．栄養政策が理解できている。	栄養政策について、完璧に述べることができる。	栄養政策について、完璧ではないがほぼ理解し,述べることができる。	栄養政策について、ほぼ述べることができる。	栄養政策について、正確に述べることはできないが、自分の言葉で表現できる。	栄養政策について、全く言葉で表現できない。
思考・問題解決能力	１．課題解決のための公衆栄養活動を考えることができる。	課題解決のための論理的整合性を持ち、多角的に考察している。	課題解決のためのほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対し、不十分ではあるが意見を述べることができる。	課題を作成したが、意見を述べることができない。

科目名	公衆栄養学Ⅱ			授業番号	NQ302	サブタイトル			
教員	髙坂　由理								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	栄養疫学の意義や公衆栄養マネージメントの考え方を学び，地域で展開されている公衆栄養活動の展開を理解する。								
到達目標	（１）公衆栄養マネージメントの基本的な考え方を理解するために，公衆栄養のアセスメントの目的や方法について学び，栄養疫学の意義を理解できるようになる。 （２）総合的な視野から公衆栄養活動ができる力を養うために，公衆栄養マネージメントの方法を学び、様々な公衆栄養プログラムによる展開の重要性を理解できるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	栄養疫学（１）栄養疫学の概要 栄養疫学の学問分野，役割，公衆栄養活動への応用を理解する。	
第2回	栄養疫学（２）暴露情報としての食事摂取量 食物と栄養素，食事摂取量の個人内変動と個人間変動，日常的な食事摂取量を理解する。	
第3回	栄養疫学（３）食事摂取量の測定方法 食事記録法と24時間思い出し法，食物摂取頻度調査法と妥当性・再現性，食事摂取量を反映する身体計測値，生化学的指標を理解する。	
第4回	栄養疫学（４）食事摂取量の評価方法 食事調査と食事摂取基準，総エネルギー調整栄養素摂取量，データ処理と解析を理解する。	
第5回	公衆栄養マネージメント（１）公衆栄養マネジメントとアセスメント 地域診断，公衆栄養マネジメントの考え方と過程，公衆栄養アセスメントの目的と方法，食事摂取基準の地域集団への活用，量的調査と質的調査の意義，観察法と活用，質問調査の方法と活用，既存資料の活用と留意点，健康・栄養情報の収集と管理を理解する。	
第6回	公衆栄養マネージメント（２）公衆栄養プログラムの目標設定 改善課題の抽出，課題設定の目的と相互の関連，改善目標の設定，目標設定の優先順位を理解する。	
第7回	公衆栄養マネージメント（３）公衆栄養プログラムの計画，実施，評価 地域社会資源，運営面政策面のアセスメント，計画策定，住民参加，関係者・機関の役割，評価の意義と実際を理解する。	
第8回	公衆栄養プログラムの展開（１）地域特性に対応したプログラムの展開：健康づくりと食育 地域社会の健康づくり，企業・団体・自治体による健康づくり，食育の推進を理解する。	
第9回	公衆栄養プログラムの展開（２）地域特性に対応したプログラムの展開：在宅療養，介護支援 介護保険制度，地域支援事業，地域包括ケアシステム，栄養ケアステーションについて理解する。	
第10回	公衆栄養プログラムの展開（３）地域特性に対応したプログラムの展開：健康食生活の危機管理と食支援 自然災害における栄養・食生活支援を理解する。	
第11回	公衆栄養プログラムの展開（４）食環境づくりのためのプログラムの展開：食物・食情報へのアクセス 食物・食情報へのアクセスと食環境整備栄養成分表示の活用を理解する。	
第12回	公衆栄養プログラムの展開（５）食環境づくりのためのプログラムの展開：特別用途食品・保健機能食品の活用 特別用途食品，特定保健機能食品，栄養機能食品，「健康な食事」の普及啓発を理解する。	
第13回	公衆栄養プログラムの展開（６）地域集団の特性別プログラムの展開：母子保健対策と公衆栄養プログラム 母子保健法に基づく事業，健やか親子２１を理解する。	
第14回	公衆栄養プログラムの展開（７）地域集団の特性別プログラムの展開：母子保健事業と成長期の公衆栄養プログラム 市町村保健センターでの事業やボランティア，保育所との連携，学校給食・栄養教諭・学校での食育を理解する。	
第15回	公衆栄養プログラムの展開（８）地域集団の特性別プログラムの展開：成人期・高齢期の公衆栄養プログラム 成人期や高齢期の食生活の現状と課題，生活習慣病ハイリスク集団への対策，標準的な健診・保健指導プログラムを理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な学習態度や毎回行う予習・復習テストにより評価する。
レポート	10	課題を具体的に述べ，考察していることなどを評価する。課題提出後の授業で総括をコメントする。
復習テスト	10	各回の主要なポイントの理解度を評価する。
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	（１）「公衆衛生学」，「栄養学」，「食品学」，「栄養教育論」，「応用栄養学の栄養マネージメント」等の理解を深めておく。 （２）公衆栄養に関する新聞記事等に関心を持ち読む。

授業外学修	（１）授業の初めに予習に関する小テストを行うので，テキストや参考文献を次回授業までに読んでおく。 （２）前回授業内容に関する復習テストも行うので，2時間以上復習をしておく。 （３）随時授業終了時に出す課題については，教科書以外の知見についても広く集め，考察したレポートを作成する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
カレント公衆栄養学　改訂	由田克士・荒井裕介	建帛社	978-4-7679-0684 -3	2，700円

使用テキスト：自由記載	『日本人の食事摂取基準』（2025年版）第1出版

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『はじめて学ぶやさしい疫学』日本疫学会監修　南江堂 『データ栄養学のすすめ』佐々木敏　著　女子栄養大学出版部 『公衆衛生がみえる』 MEDIC MEDIA
その他	
備考	令和5年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．公衆栄養の概念や考え方が理解できる。	学修した公衆栄養の概念や考え方について正確に理解し、述べることができる。	学修した公衆栄養の概念や考え方について、正確ではないがほぼ理解し、述べることができる。	学修した公衆栄養学の概念と考え方について大体述べることができる。	学修した公衆栄養の概念と考え方について、正確に述べることはできないが、自分の言葉で表現できる。	学修した公衆栄養の概念や考え方について全く表現することができない。
知識・理解	2．健康・栄養問題の現状と課題が理解できている。	学修した健康・栄養問題の現状と課題について、正確に述べていることができる。	学修した健康・栄養問題の現状と課題について、正確ではないがほぼ理解し、述べることができる。	学修した健康・栄養問題の現状と課題について、大体述べることができる。	学修した健康・栄養問題の現状と課題について、正確に述べることはできないが、自分の言葉で表現できる。	学修した健康・栄養問題の現状と課題について、全く言葉で表現できない。
知識・理解	3．栄養政策が理解できている。	栄養政策について、正しく理解し、正確に述べることができる。	栄養政策について正確ではないがほぼ理解し、述べることができる。	栄養政策について、大体述べることができる。	栄養政策について、正確に述べることはできないが、自分の言葉で表現できる。	栄養政策について全く言葉で表現できない。
思考・問題解決能力	1．課題解決のための公衆栄養活動を考えることができる。	問題解決のための論理的整合性を持ち、多角的に考察している。	課題解決のためのほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対し、不十分ではあるが意見を述べることができる。	課題を作成したが、意見を述べることができない。

科目名	公衆栄養学実習Ⅰ（隔週）			授業番号	NQ303A	サブタイトル			
教員	髙坂　由理								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	公衆栄養活動において，健康増進計画や食育推進計画の策定と関連プログラムの企画，立案，評価を，他職種と連携しながら取り組むことが求められている。公衆栄養活動で求められる知識や技術を実習を通して修得し，公衆栄養活動のマネージメント能力を養う。								
到達目標	（１）公衆栄養上の課題を抽出するために，ワークショップや指導媒体の作成などにより，解決方法を考えることができる。 （２）個人，集団の栄養状態の分析，評価，指導計画を作成する力をつけるために食事調査を行い，指導することができる。 （３）公衆栄養マネージメント能力を培うために，調理実習やヘルスチェックなどにより，食事・運動・休養のとり方を考え，一人一人が健康的な生活を送ることができる。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	地域における公衆栄養マネージメント，公衆栄養プログラムの対象 (1)公衆栄養マネジメントの重要性と過程を理解する。 (2)個人や家庭，集団，地域，組織別の公衆栄養プログラムを理解する。	
第2回	地域における公衆栄養マネージメント，公衆栄養プログラムの対象 (1)公衆栄養マネジメントの重要性と過程を理解する。 (2)個人や家庭，集団，地域，組織別の公衆栄養プログラムを理解する。	
第3回	公衆栄養プログラムに関連する機関や組織の役割，食事調査の精度管理 (1)行政機関，医療・福祉・介護関連機関，教育機関，民間企業，関係団体， 非営利団体，地域包括ケアシステムの活動内容を理解する。 (2)食事調査の重量測定と意義を理解する。	
第4回	公衆栄養プログラムに関連する機関や組織の役割，食事調査の精度管理 (1)行政機関，医療・福祉・介護関連機関，教育機関，民間企業，関係団体， 非営利団体，地域包括ケアシステムの活動内容を理解する。 (2)食事調査の重量測定と意義を理解する。	
第5回	栄養・食生活支援と食を通じた社会環境の整備，24時間思い出し法の食事調査 (1)直接的な支援と間接的な支援，食環境整備を理解する。 (2)24時間思い出し法による食事調査と評価を理解する。	
第6回	栄養・食生活支援と食を通じた社会環境の整備，24時間思い出し法の食事調査 (1)直接的な支援と間接的な支援，食環境整備を理解する。 (2)24時間思い出し法による食事調査と評価を理解する。	
第7回	公衆栄養アセスメント，食事記録法による調査 (1)地域診断の方法，既存資料の活用，量的調査と質的調査について理解する。 (2)写真法による食事記録法の食事調査と評価を理解する。	
第8回	公衆栄養アセスメント，食事記録法による調査 (1)地域診断の方法，既存資料の活用，量的調査と質的調査について理解する。 (2)写真法による食事記録法の食事調査と評価を理解する。	
第9回	健康食生活の危機管理と食支援，公衆栄養プログラムの目標設定 (1)災害時の栄養・食生活支援を理解する。 (2)平常時の栄養・食生活準備を理解する。 (3)プリシード，プロシードモデルに沿った目標設定を理解する。	
第10回	健康食生活の危機管理と食支援，公衆栄養プログラムの目標設定 (1)災害時の栄養・食生活支援を理解する。 (2)平常時の栄養・食生活準備を理解する。 (3)プリシード，プロシードモデルに沿った目標設定を理解する。	
第11回	公衆栄養プログラムの計画策定，地域特性に対応した健康づくり，食育，在宅医療，介護支援，食事摂取基準（2020年版）による個人の評価と栄養指導 (1)計画立案のプロセスを理解する。 (2)健康づくり，食育，介護支援の展開を理解する。 (3)認知症予防としての二重課題運動を理解する。 (4)日本人の食事摂取基準（2020年版）による個人の評価と栄養指導を理解する。	
第12回	公衆栄養プログラムの計画策定，地域特性に対応した健康づくり，食育，在宅医療，介護支援，食事摂取基準（2025年版）による個人の評価と栄養指導 (1)計画立案のプロセスを理解する。 (2)健康づくり，食育，介護支援の展開を理解する。 (3)認知症予防としての二重課題運動を理解する。 (4)日本人の食事摂取基準（2020年版）による個人の評価と栄養指導を理解する。	
第13回	地域集団の特性別プログラムの展開：母子保健，学校保健，成人保健，高齢者保健，生活習慣病対策 (1)日本人の食事摂取基準（2025年版）による集団の評価と集団指導を理解する。 (2)学校保健対策の媒体活用を理解する。 (3)生活習慣病予防としての非運動性熱産生（ニート）運動を理解する。	
第14回	地域集団の特性別プログラムの展開：母子保健，学校保健，成人保健，高齢者保健，生活習慣病対策 (1)日本人の食事摂取基準（2025年版）による集団の評価と集団指導を理解する。 (2)学校保健対策の媒体活用を理解する。 (3)生活習慣病予防としての非運動性熱産生（ニート）運動を理解する。	
第15回	岡山県南部健康づくりセンターにてヘルスチェックの体験 (1)公衆栄養の実際を経験し，ヘルスチェックの意義を理解する。 (2)問診票を適切に記入し完成する。 (3)自らの生活を見直し，健康的な生活を実践できる。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	45	実習等への意欲的な学習態度とファイルの適切な活用，毎回行う予習・復習テストにより評価する。
レポート	40	課題を適切に作成し，考察していることなどを評価する。課題提出後の授業で総括をコメントする。

小テスト	15	各回の主要なポイントの理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「公衆栄養学」,「公衆衛生学」,「食品学」,「栄養学」等の基礎分野の理解を深めておく。
授業外学修	（１）授業の初めに予習に関する小テストを行うので，テキストや参考文献を次回授業までに読んでおくこと。 （２）前回授業に関する復習テストも行うので，2時間以上復習をしておくこと。 （３）随時出す課題について，レポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
公衆栄養学実習　改訂	手島哲子，田中久子	同文書院	978-4-8103-1455-7	2，000円

使用テキスト：自由記載	『カレント公衆栄養学』改訂　由田克士・荒井裕介　編著，建帛社 『日本人の食事摂取基準』（2025年版）第1出版

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『食事調査マニュアル・はじめの第1歩から実践応用まで』日本栄養改善学会　監修　南山堂 『公衆衛生がみえる』MEDIC MEDIA
その他	
備考	令和7年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．目的の理解と事前準備	実習の目的や背景を十分に理解し、事前調査や資料準備を自主的に行っている。文献を活用し、根拠を持って説明できる。	実習の目的をよく理解し、基本的な事前準備を行っている。必要な情報を把握しているが、応用的な考察は不足。	実習の目的を概ね理解しているが、事前準備が不十分な部分がある。必要な知識の理解が浅い。	実習の目的を十分に理解しておらず、事前準備に不足が見られる。関連する知識の整理ができていない。	実習の目的をほとんど理解しておらず、事前準備を行っていない。基本的な知識も欠如している。
知識・理解	2．実習態度と協調性	積極的に実習に取り組み、役割分担を的確にこなし、チームワークを発揮できる。他のメンバーと適切に意見を交換し、円滑に進めている。	指示をよく理解し、実習に積極的に参加できる。他のメンバーとの協力も概ね良好であるが、時折受け身になることがある。	指示に従い、基本的な役割を果たしているが、自発的な行動や協力的な態度がやや不足している。	実習に消極的であり、指示待ちの姿勢が目立つ。協調性に欠ける場面が見られる。	実習への参加意欲が低く、協力を拒むような態度が見られる。チームの進行を妨げることがある。
思考・問題解決能力	3．データ分析・考察	収集したデータを論理的に分析し、適切な統計処理を行う。科学的根拠に基づいた考察があり、結果の意義を深く理解している。	データ分析を適切に行い、基本的な考察ができているが、統計処理の活用や深い洞察が不足している。	データ分析に誤りは少ないが、考察が表面的であり、論理性に欠ける部分がある。	データの分析が不十分で、考察が浅い。結果の意義を適切に説明できない。	データの分析ができておらず、考察もほとんどない。結果の解釈が誤っている。
技能	4．プレゼンテーション	声の大きさや話す速度が適切で、聴衆に分かりやすく説明できる。視覚資料を効果的に活用し、質疑応答にも的確に対応できる。	基本的に聞き取りやすく、説明が分かりやすい。視覚資料を活用できているが、やや単調な部分がある	伝えたい内容は理解できるが、説明が不明瞭な部分や聞き取りにくい部分がある。視覚資料の活用が不十分。	声が小さく、説明が分かりにくい。視覚資料が適切でなく、質疑応答への対応も不十分。	説明がまとまっておらず、内容が伝わらない。視覚資料がない、または適切に活用できていない。
技能	5．集団指導・食事調査の技術	集団栄養指導では対象者の特性を考慮し、適切な資料を作成し、分かりやすく指導できる。食事調査では正確な手順に従い、誤差を最小限に抑えてデータを収集できる。	集団栄養指導では概ね適切な資料を作成し、指導ができるが、説明がやや一方的になることがある。食事調査では手順を理解し、基本的には正しく実施できるが、一部記録ミスがある。	集団栄養指導では基本的な指導ができるが、対象者への配慮が不足し、理解度に差がある。食事調査では手順を概ね守れているが、誤差や記録漏れがある。	集団栄養指導では準備不足が見られ、指導の流れが整理されていない。食事調査では手順の理解が不十分で、データの記録に多くの誤りがある。	集団栄養指導が適切に行えず、対象者への情報提供が不十分。食事調査の手順を理解できておらず、正しいデータ収集が困難。機器の誤使用や重大なミスが見られる。

科目名	給食経営管理論Ⅰ			授業番号	NR201	サブタイトル			
教員	北島　葉子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	給食経営管理論では，特定給食施設における利用者の健康や栄養状態の改善・維持・増進等を目標とした栄養食事管理を実践するために，給食運営や関連の資源を判断し，栄養面，安全面，経営管理全般のマネジメントを行う能力を養う。また，マーケティングの原理や応用を理解するとともに，組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を学修する。 Iにおいては，基礎的な学修並びに食事の計画・生産・サービスといった献立管理，材料管理，生産管理，栄養食事管理や安全な食事を提供するための衛生管理など給食サービス提供に関する知識と技術を学ぶ。また，給食の有用性としてどのような製品をつくり，サービスするか，どのように効率的につくるかの仕組みを計画しマネジメントを行うことや安全のための労務・衛生・危機管理などトータルマネジメントを行うための知識と技術を学ぶ。								
到達目標	(1)管理栄養士業務の意義と重要性を認識し，特定給食施設における，利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルを理解できる。 (2)衛生管理について十分に理解できる。 (3)マーケティングの原理や応用を理解するとともに，給食に関わる組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する。 (4)給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し，分析しコストの計画と評価ができる。 (5)管理者に求められる事故や災害時を想定した日常の準備や対策について理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	給食経営管理の理論：給食の目的と役割，給食施設の種類と関連法規，給食施設の経営理念と組織	
第2回	給食システム：給食経営管理におけるシステムの概要 情報管理：給食施設で活用されてる情報管理システム，帳票の種類と管理	
第3回	給食システム：オペレーションシステムと資源の活用	
第4回	栄養・食事管理：栄養食事管理とPDCAサイクル	
第5回	献立管理：献立作成基準と食品構成，日本人の食事摂取基準，献立作成，作業指示書の役割，献立の評価	
第6回	施設・設備管理：作業動線とゾーニング，大量調理機器の種類と特徴，食器・食具	
第7回	材料管理：給食の食材料の特徴，購入業者の選定方法と契約方法，購入計画，食材料の保管方法	
第8回	衛生管理：衛生管理の意義，食中毒と感染症の特徴，食中毒発生時の対応，HACCPの概要	
第9回	衛生管理：大量調理施設衛生管理マニュアル	
第10回	生産管理：大量調理の方法と技術，配膳方法，作業管理	
第11回	給食とマーケティング：マーケティングの定義・基本プロセス・戦略	
第12回	人事管理：給食施設・部門の組織，雇用形態，能力開発	
第13回	原価管理：給食の原価，財務帳表	
第14回	原価管理：費用分析	
第15回	品質管理：設計品質と適合品質，総合品質と満足度，品質と標準化 危機管理：事故対策・自然災害対策と対応 外部委託：契約の種類と概要，施設別の委託状況と関連法規	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予習・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	10	各回の主要なポイントの理解を評価する。小テスト後に解説を行う。
定期試験	80	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	理論のみならず，理論が実際に活かせるよう演習も取り入れるため，積極的に取り組み理解を深めること。また，本科目は他教科と多くの部分で重なり，応用の部分を担っているため，各教科と関連づけて学修すること。
授業外学修	(1)授業計画に合わせて教科書の該当項目を熟読し，予習をしておくこと。 (2)毎回授業終了時に小テストを行い，次の授業で解説を行うので復習をしておくこと。 (3)3年生の給食管理実習Iで提供する給食を試食し，給食経営管理について理解を深めること。 (4)日常の出来事，給食を取り巻く経済情勢の変化などに興味を持ち，幅広い視点で「食」をとらえられるように心がける。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
給食経営管理論　給食と給食経営管理における関連項目の総合的理解	市川陽子／神田知子　編	医歯薬出版		3，000円＋税
管理栄養士　栄養士　必携2026年度版	日本栄養士会　編	第一出版		2，600円＋税
Plan-Do-Check-Actにそった給食運営・経営管理実習のてびき第5版	西川貴子　他	医歯薬出版		2，100円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「給食経営管理論　改訂第3版」，石田裕美／登坂三紀夫／髙橋孝子　編集，南江堂 「給食経営管理論　新しい時代のフードサービスとマネジメント　第5版」，中山玲子，小切間美保　編，化学同人 「給食経営管理論　給食のトータルマネジメント　第4版」，富岡和夫／冨田教代　編著，医歯薬出版株式会社
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院，介護老人保健施設における栄養士・管理栄養士（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	病院および介護老人保健施設における実務経験（3年）を活かして，給食経営管理の実際について指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．管理栄養士業務の意義と重要性を認識し、特定給食施設における、利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルを理解できる	管理栄養士業務の意義と重要性を認識し、特定給食施設における、利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルについて十分に理解できている。	管理栄養士業務の意義と重要性を認識し、特定給食施設における、利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルについて理解できている。	管理栄養士業務の意義と重要性を認識し、特定給食施設における、利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルについて基本は理解できている。	管理栄養士業務の意義と重要性を認識し、特定給食施設における、利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルについての専門的な知識の獲得に取り組んでいるが、理解できていない部分がある。	管理栄養士業務の意義と重要性を認識し、特定給食施設における、利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルについての専門的な知識の獲得に取り組んでおらず、理解できていない。
知識・理解	２．衛生管理について十分に理解できる	衛生管理について十分に理解できている。	衛生管理について理解できている。	衛生管理について基本は理解できている。	衛生管理についての専門的な知識の獲得に取り組んでいるが、理解できていない部分がある。	衛生管理についての専門的な知識の獲得に取り組んでおらず、理解できていない。
知識・理解	３．マーケティングの原理や応用を理解するとともに、給食に関わる組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を修得する	マーケティングの原理や応用を十分に理解することができている。同時に給食に関わる組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法についても十分に理解することができ、修得することができている。	マーケティングの原理や応用を理解することができている。同時に給食に関わる組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法についても理解することができ、修得することができている。	マーケティングの原理や応用の基本は理解することができている。同時に給食に関わる組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法についても理解することができ、修得することができている。	マーケティングの原理や応用についての専門的な知識の獲得に取り組んでいるが、理解できていない部分がある。同時に給食に関わる組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法についても理解に努めているが、理解できていない部分があり、修得度が低い。	マーケティングの原理や応用についての専門的な知識の獲得に取り組んでおらず、理解できていない。同時に給食に関わる組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法についても知識の獲得に取り組んでおらず、修得できていない。
知識・理解	４．給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し、分析しコストの計画と評価ができる	給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し、分析しコストの計画と評価が十分にでき、実践に役立つことができるレベルである。	給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し、分析しコストの計画と評価が十分にできている。	給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成について基本は理解し、分析しコストの計画と評価ができている。	給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成について知識の獲得に取り組んでいるが、理解に欠けることがあり、分析しコストの計画と評価ができていない部分がある。	給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成について知識の獲得に取り組んでおらず、分析しコストの計画と評価ができていない。
知識・理解	５．管理者に求められる事故や災害時を想定した日常の準備や対策について理解できる	管理者に求められる事故や災害時を想定した日常の準備や対策について十分に理解できている。	管理者に求められる事故や災害時を想定した日常の準備や対策について理解できている。	管理者に求められる事故や災害時を想定した日常の準備や対策について基本は理解できている。	管理者に求められる事故や災害時を想定した日常の準備や対策についての専門的な知識の獲得に取り組んでいるが、理解できていない部分がある。	管理者に求められる事故や災害時を想定した日常の準備や対策についての専門的な知識の獲得に取り組んでおらず、理解できていない。

科目名	給食経営管理論Ⅱ			授業番号	NR302	サブタイトル			
教員	北島　葉子								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	給食経営管理論では，特定給食施設における利用者の健康や栄養状態の改善・維持・増進等を目標とした栄養食事管理を実践するために，給食運営や関連の資源を判断し，栄養面，安全面，経営管理全般のマネジメントを行う能力を養う。また，マーケティングの原理や応用を理解するとともに，組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を学修する。 IIにおいては，医療施設，高齢者・介護福祉施設，児童福祉施設，障がい者福祉施設，学校，事業所等の特定給食施設ごとの利用者の特徴，給食の目的，関連法規について学修する。それによるサブシステム（献立管理，材料管理，生産管理，栄養食事管理，衛生管理，原価管理，労務管理，危機管理等）および給食のシステム等について施設の種類ごとの特徴をとらえたマネジメントの考え方や方法を学修する。								
到達目標	(1)各種特定給食施設における給食の意義と役割，経営理念と経営形態を説明できる。 (2)各種特定給食施設の種類別の展開（ライフステージ別の食事計画や具体的な調理特性）を理解できる。 (3)利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルを理解できる。 (4)各種特定給食施設における給食に関わる組織管理などのマネジメントの考え方や方法を修得する。 (5)各種特定給食施設における給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し，分析しコストの計画と評価ができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	医療施設における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性，管理栄養士・栄養士の配置と関連法規，組織・運営形態の特徴	
第2回	医療施設における給食経営管理：献立・食事形態の特徴，給食システムの特徴	
第3回	医療施設における給食経営管理：入院時食事療養制度と入院時生活療養制度と給食費，給食と栄養教育	
第4回	高齢者・介護福祉施設における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性，管理栄養士・栄養士の配置と関連法規，組織・運営形態の特徴	
第5回	高齢者・介護福祉施設における給食経営管理：献立・食事形態の特徴，給食システムの特徴	
第6回	高齢者・介護福祉施設における給食経営管理：給食費，給食と栄養教育	
第7回	児童福祉施設，障がい者福祉施設における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性，管理栄養士・栄養士の配置と関連法規，組織・運営形態の特徴	
第8回	児童福祉施設，障がい者福祉施設における給食経営管理：献立・食事形態の特徴，給食システムの特徴	
第9回	児童福祉施設，障がい者福祉施設における給食経営管理：給食費，給食と栄養教育	
第10回	学校における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性，管理栄養士・栄養士の配置と関連法規，組織・運営形態の特徴	
第11回	学校における給食経営管理：献立・食事形態の特徴，給食システムの特徴	
第12回	学校における給食経営管理：給食費，給食と栄養教育	
第13回	事業所における給食経営管理：給食の意義と対象者の特性，管理栄養士・栄養士の配置と関連法規，組織・運営形態の特徴	
第14回	事業所における給食経営管理：献立・食事形態の特徴，給食システムの特徴	
第15回	事業所における給食経営管理：給食費，給食と栄養教育	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予習・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	10	各回の主要なポイントの理解を評価する。小テスト後に解説を行う。
定期試験	80	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	理論のみならず，理論が実際に活かせるよう演習も取り入れるため，積極的に取り組み理解を深めること。また，本科目は他教科と多くの部分で重なり，応用の部分を担っているため，各教科と関連づけて学修すること。
授業外学修	(1)授業計画に合わせて教科書の該当項目を熟読し，予習をしておくこと。 (2)毎回授業終了時に小テストを行い，次の授業で解説を行うので復習をしておくこと。 (3)日常の出来事，給食を取り巻く経済情勢の変化などに興味を持ち，幅広い視点で「食」をとらえられるように心がける。 (4)給食経営管理論Iの復習をしておくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
給食経営管理論　給食と給食経営管理論における関連項目の総合的理解	市川陽子／神田知子　編	医歯薬出版		3，000円＋税
管理栄養士　栄養士　必携2026年度版	日本栄養士会　編	第一出版		2，600円＋税
Plan-Do-Check-Actにそった給食運営・経営管理実習のてびき第5版	西川貴子　他	医歯薬出版		2，100円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「給食経営管理論　改訂第3版」，石田裕美／登坂三紀夫／髙橋孝子　編集，南江堂 「給食経営管理論　新しい時代のフードサービスとマネジメント　第5版」，中山玲子，小切間美保　編，化学同人 「給食経営管理論　給食のトータルマネジメント　第4版」，富岡和夫／冨田教代　編著，医歯薬出版株式会社
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院，介護老人保健施設における栄養士・管理栄養士（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	病院および介護老人保健施設における実務経験（3年）を活かして，給食経営管理の実際について指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．各種特定給食施設における給食の意義と役割、経営理念と経営形態を説明できる	各種特定給食施設における給食の意義と役割、経営理念と経営形態について十分に理解しており、説明ができる。	各種特定給食施設における給食の意義と役割、経営理念と経営形態について理解しており、説明ができる。	各種特定給食施設における給食の意義と役割、経営理念と経営形態について基本は理解しており、説明ができる。	各種特定給食施設における給食の意義と役割、経営理念と経営形態についての専門的な知識の獲得に取り組んでいるが、説明できていない部分がある。	各種特定給食施設における給食の意義と役割、経営理念と経営形態についての専門的な知識の獲得に取り組んでおらず、説明できない。
知識・理解	２．各種特定給食施設の種類別の展開（ライフステージ別の食事計画や具体的な調理特性）を理解できる	各種特定給食施設の種類別の展開（ライフステージ別の食事計画や具体的な調理特性）について十分に理解できている。	各種特定給食施設の種類別の展開（ライフステージ別の食事計画や具体的な調理特性）について理解できている。	各種特定給食施設の種類別の展開（ライフステージ別の食事計画や具体的な調理特性）について基本は理解できている。	各種特定給食施設の種類別の展開（ライフステージ別の食事計画や具体的な調理特性）についての専門的な知識の獲得に取り組んでいるが、理解できていない部分がある。	各種特定給食施設の種類別の展開（ライフステージ別の食事計画や具体的な調理特性）についての専門的な知識の獲得に取り組んでおらず、理解できていない。
知識・理解	３．利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルを理解できる	利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルについて十分に理解できている。	利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルについて理解できている。	利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルについて基本は理解できている。	利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルについての専門的な知識の獲得に取り組んでいるが、理解できていない部分がある。	利用者の栄養管理を目的とした食事提供を行うための計画・実施・評価・改善のマネジメントサイクルについての専門的な知識の獲得に取り組んでおらず、理解できていない。
知識・理解	４．各種特定給食施設における給食に関わる組織管理などのマネジメントの考え方や方法を修得する	各種特定給食施設における給食に関わる組織管理などのマネジメントの考え方や方法について十分に理解でき、修得することができている。	各種特定給食施設における給食に関わる組織管理などのマネジメントの考え方や方法について理解でき、修得することができている。	各種特定給食施設における給食に関わる組織管理などのマネジメントの考え方や方法について基本は理解でき、修得することができている。	各種特定給食施設における給食に関わる組織管理などのマネジメントの考え方や方法について知識の獲得に取り組んでいるが、理解できていない部分があり、修得度が低い。	各種特定給食施設における給食に関わる組織管理などのマネジメントの考え方や方法について知識の獲得に取り組んでおらず、修得できていない。
知識・理解	５．各種特定給食施設における給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し、分析しコストの計画と評価ができる	各種特定給食施設における給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し、分析しコストの計画と評価が十分にでき、実践に役立つことができるレベルである。	各種特定給食施設における給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成を理解し、分析しコストの計画と評価が十分にできている。	各種特定給食施設における給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成について基本は理解し、分析しコストの計画と評価ができている。	各種特定給食施設における給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成について知識の獲得に取り組んでいるが、理解に欠けることとがあり、分析しコストの計画と評価ができていない部分がある。	各種特定給食施設における給食運営に関わる原価管理を含めた費用構成について知識の獲得に取り組んでおらず、分析しコストの計画と評価ができていない。

科目名	給食管理基礎実習 (隔週)			授業番号	NR303A	サブタイトル			
教員	北島　葉子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	給食経営管理論I及び関連科目（栄養学，食品学，衛生学，調理学等）で学んだ理論と知識・技術をいかして，特定給食施設の利用者を対象とした食事計画，献立管理，調理作業の計画，施設・設備管理，衛生管理等をPDCAサイクル（計画・実施・評価・改善）に沿って学修する。								
到達目標	(1)食事計画，献立，調理作業計画を作成できる。 (2)大量調理機器の取扱い，大量調理の方法，衛生管理の実際について理解できる。 (3)給食管理業務をPDCAサイクルに沿って実践できる。 (4)給食管理実習Iへ活かす基本内容を修得する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	実習オリエンテーション（1） 実習の意義と目的を理解する。また，調理従事者の衛生管理，発注計算と発注書の書き方を理解する。	
第2回	実習オリエンテーション（2） HACCPに準じた給食施設の使い方（給食施設の各作業区域）の実際について理解する。	
第3回	大量調理基礎実習（1） 水質検査の方法，原材料および調理済み食品の保存食採取方法を理解する。また，検収作業，下処理作業，大量調理機器を利用した調理作業の基礎技術を身につける。	
第4回	大量調理基礎実習（2） レディフードシステムのひとつである真空調理システムの特徴を理解する。また，真空調理法の基礎技術を身につける。	
第5回	「給食の運営」計画（1）～栄養目標量および献立作成の基本～ 1日の給与栄養目標量の設定および昼食で提供する目標栄養量の設定法を理解する。 献立作成の基本，手順と留意点を理解する。また，大量調理で使用する食器の種類と材質を把握する。	
第6回	「給食の運営」計画（2）～献立作成～ 衛生面，おいしさ，季節感，食数，調理従事者数，使用機械器具，食器，価格など様々なことを考慮した，なおかつ給与栄養目標量に沿った献立作成の方法を理解する。	
第7回	「給食の運営」計画（3）～栄養価計算～ 予定献立の栄養価計算の方法を理解する。	
第8回	「給食の運営」計画（4）～給食日報の作成および発注計算～ 予定献立の給食日報（大量調理の手順）および試作に向けての発注計算の方法を理解する。	
第9回	「給食の運営」計画（5）～試作～ 予定献立が実施可能か否か（作業進行，衛生面，おいしさなど）の検討および作業工程表を立てる資料を得る方法を理解する。	
第10回	「給食の運営」計画（6）～予定献立の検討・改善～ 予定献立の材料費の計算法を理解する。また，前回検討した作業進行，衛生面，おいしさなどに材料費も加え，献立の改善を行う。	
第11回	「給食の運営」計画（7）～予定献立の決定および給食日報の作成～ 改善した献立の栄養価を計算して，最終調整を行い予定献立を決定する。また，給食日報の大量調理の手順や100食での発注計算の方法などを理解する。	
第12回	「給食の運営」計画（8）～栄養教育媒体の作成～ リーフレット（栄養教育媒体）の作成方法を理解する。	
第13回	「給食の運営」計画（9）～作業工程表の作成～ 作業工程表（調理室）の作成方法を理解する。	
第14回	「給食の運営」計画（10）～作業工程表の作成～ 作業工程表（下処理室・検収室）の作成方法を理解する。	
第15回	包丁研ぎ講習および大量調理基礎実習のまとめ 包丁の研ぎ方を身につける。また，これまでの学修内容を振り返りまとめる。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	意欲的な実習態度によって評価する。
レポート	40	各回のレポート等の提出物と実習ファイル（ノート）が，具体的・理論的に書かれているか，また，実習の内容，得られた結果や記録を整理しまとめることができているか等を評価する。レポート等の提出物やファイルについてはコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	各回の授業の前に，日程表を確認して，実習内容を把握し，自主学修をして臨むこと。また，この実習は，学生たちが主体となって進めるため，自主的に取り組む姿勢が必要である。
授業外学修	(1)給食経営管理論Iの復習をする。特に，大量調理施設衛生管理マニュアルと日本人の食事摂取基準に則した給与栄養目標量の算出方法について復習しておくこと。 (2)食材の旬，価格，分量などを把握するために必要な情報を収集すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Plan-Do-Check-Actにそった給食運営・経営管理実習のてびき第5版	西川貴子　他	医歯薬出版		2，100円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「日本人の食事摂取基準（2025年版）」，菱田明／佐々木敏 監修，第一出版 「大量調理　品質管理と調理の実際」，殿塚婦美子 編著，学建書院 「給食施設のための献立作成マニュアル　第9版」，赤羽正之 他著，医歯薬出版株式会社 「給食マネジメント実習　第2班」，松月弘恵 他著，医歯薬出版株式会社 「八訂　食品成分表」，香川明夫 監修，女子栄養大学出版部
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院，介護老人保健施設における栄養士・管理栄養士（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	病院および介護老人保健施設における実務経験（3年）を活かして，給食経営管理の実際について指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	1．食事計画、献立、調理作業計画を作成できる。	利用者のアセスメントに基づいた食事計画、給与栄養目標量、予算、季節等を考慮した大量調理可能な献立、調理機器や調理従事者の能力、大量調理の特性などを考慮し、HACCPに基づいた調理・作業工程計画について専門的知識を用いて作成することができており、実践に役立てることができる。	利用者のアセスメントに基づいた食事計画、給与栄養目標量、予算、季節等を考慮した大量調理可能な献立、調理機器や調理従事者の能力、大量調理の特性などを考慮し、HACCPに基づいた調理・作業工程計画について専門的知識を用いて作成することができている。	利用者のアセスメントに基づいた食事計画、給与栄養目標量、予算、季節などを考慮した安全で大量調理可能な献立、調理機器や調理従事者の能力、大量調理の特性などを考慮し、HACCPに基づいた調理・作業工程計画について基本は理解しており、作成することができている。	利用者のアセスメントに基づいた食事計画、給与栄養目標量、予算、季節などを考慮した安全で大量調理可能な献立、調理機器や調理従事者の能力、大量調理の特性などを考慮し、HACCPに基づいた調理・作業工程計画の作成について積極的に取り組んでいるが、足りない部分がある。	利用者のアセスメントに基づいた食事計画、給与栄養目標量、予算、季節などを考慮した安全で大量調理可能な献立、調理機器や調理従事者の能力、大量調理の特性などを考慮し、HACCPに基づいた調理・作業工程計画の作成について取り組まず、作成することができていない。
技能	2．大型機器類を使用した大量調理ができる。	大量調理機器の性能・能力を理解しており、料理の種類ごとに、食材料の投入量、調理条件の設定ができ、効率よく時間内に計画どおりの食事を調理することができる。	大量調理機器の性能・能力を理解しており、効率よく時間内に計画どおりの食事を調理することができる。	大量調理機器の性能・能力を理解しており、時間内に計画どおりの食事を調理することができる。	大量調理機器の性能・能力、使い方の把握に努めたり、機器を使用した大量調理に積極的に取り組んでいるが、時間内に計画どおりの食事を調理することができていない。	大量調理機器の性能・能力、使い方の把握に努めず、機器を使用した大量調理にも取り組まず、時間内に計画どおりの食事を調理することができていない。
技能	3．給食に関わる衛生管理の法律と規則を理解し、大量調理施設衛生管理マニュアルに基づいた給食の生産、提供ができる。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法を十分に理解しており、実施することができている。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法を理解しており、実施することができている。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法の基本は理解しており、実施することができている。	給食施設におけるHACCPシステムや大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方、それに基づいた衛生管理の方法の理解に努めているが、実施することができていない部分がある。	給食施設におけるHACCPシステムや大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方、それに基づいた衛生管理の方法の理解に努めず、実施することができていない。
技能	4．給食管理業務をPDCAサイクルに沿って実践できる。	トータルシステムとサブシステムについて十分理解しており、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できる。	トータルシステムとサブシステムについて理解しており、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できる。	トータルシステムとサブシステムについて基本は理解しており、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できる。	トータルシステムとサブシステムについて理解に努めているが、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践することができていない部分がある。	トータルシステムとサブシステムについて理解に努めず、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践することができていない。

科目名	給食管理実習Ⅰ（隔週）			授業番号	NR304A	サブタイトル			
教員	北島　葉子								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	給食経営管理論I・II，給食管理基礎実習及び関連科目（栄養学，食品学，衛生学，調理学等）で学んだ理論と知識・技術をいかして，少人数のグループに分かれ，特定給食施設での給食を想定して学内での模擬給食を実施する。栄養・食事管理，材料管理，生産管理，衛生管理，原価管理，事務管理等，給食管理業務をマネジメントする方法を学修する。								
到達目標	(1)実習計画に基づき各自の給食管理業務を果たしながら，協力，連携，責任の重要性を理解できる。 (2)栄養食事管理，材料管理，生産管理，衛生管理，原価管理等の計画，実施，評価に関わる帳票類の作成ができ，給食業務が遂行できる。 (3)大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理ができる。 (4)給食の管理運営に関する管理栄養士としての実践力を修得する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第1回　実習の進め方（冊子配布），衛生管理，実習全体の献立・料理について説明，実習室整備を行う。 第2～14回　1クラスを2グループ（4班）に分け，各グループが以下の全部の係（作業）を体験できるように編成する。 1）次回管理栄養士係：次回実施予定献立表を試作・検討し，実施献立を決定する。作業計画，発注業務，栄養教育指導媒体の作成を行う。予定献立については，対象者の給与栄養目標量，食品構成，嗜好，季節，コストを考慮し，事前に作成しておく。 2）管理栄養士係：給食全体について責任を担う。作業手順，要点を説明し，給食を実施する。大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った作業管理を行う。作業後，帳票類の整理，調査結果（喫食者アンケート，残食状況）を集計し，各種計画に対する評価・検討を行う。前日に検収，打合わせを実施する。 3）栄養士係：管理栄養士係と共に給食全体について責任を担う。水質検査，保存食の保存を行い，管理栄養士係と共に作業管理を行う。 4）調理（衛生）係：管理栄養士係の指示に従い，調理，給食サービス，後片づけ（器具の洗浄・消毒，清掃），衛生検査等の作業を行う。作業後，実際に作業した立場からその日の作業について評価を行う。 第15回　発表，まとめ，実習ノートを整理し，提出する。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	65	意欲的な実習態度によって評価する。
レポート	35	各回のレポート等の提出物と実習ファイル（ノート）が，具体的・理論的に書かれているか，また，実習の内容，得られた結果や記録を整理しまとめることができているか等を評価する。レポート等の提出物やファイルについてはコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習計画に基づき，各自が分担の作業を果たしながら，協力と責任の重要性を学び，給食運営の手順，方法を体得する実習である。事前準備，事後のまとめなど，時間外に実施しなければならないこともあり，意欲的に取り組む姿勢が必要である。
授業外学修	(1)給食経営管理論I・IIおよび給食管理基礎実習の復習をする。 (2)給食実施における喫食者アセスメント，給与栄養目標量の設定，献立作成，食材料管理，作業工程表の作成，大量調理，食事提供，施設設備管理，衛生管理，給食評価等のポイントの理解を深めておくこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Plan-Do-Check-Actにそった給食運営・経営管理実習のてびき第5版	西川貴子　他	医歯薬出版		2，100円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「日本人の食事摂取基準（2025年版）」，菱田明／佐々木敏監修，第一出版 「大量調理　品質管理と調理の実際」，殿塚婦美子編著，学建書院 「給食施設のための献立作成マニュアル　第9版」，赤羽正之他著，医歯薬出版株式会社 「給食マネジメント実習　第2版」，松月弘恵他著，医歯薬出版株式会社
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院，介護老人保健施設における栄養士・管理栄養士（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	

実務経験をいかした教育内容	病院および介護老人保健施設における実務経験（3年）を活かして，給食経営管理の実際について指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	１．実習計画に基づき各自の給食管理業務を果たしながら、協力、連携、責任の重要性を理解できる。	実習計画に基づき各自の給食管理業務を専門的知識・技術を用いて果たすことができ、同時にグループのメンバーと協力、連携して、責任を持って適切な給食の提供、栄養管理を実践することの重要性を十分に理解できている。	実習計画に基づき各自の給食管理業務を専門的知識・技術を用いて果たすことができ、同時にグループのメンバーと協力、連携して、責任を持って適切な給食の提供、栄養管理を実践することの重要性を理解できている。	実習計画に基づき各自の給食管理業務を基本的知識・技術を用いて果たすことができ、同時にグループのメンバーと協力、連携して、責任を持って適切な給食の提供、栄養管理を実践することの重要性についてを理解できている。	実習計画に基づき各自の給食管理業務を積極的に取り組んでいるが、果たすことができていない部分がある。また、グループのメンバーと協力、連携して、責任を持って適切な給食の提供、栄養管理を実践することの重要性について理解に欠けている部分がある。	実習計画に基づき各自の給食管理業務に取り組む姿勢はなく、果たすことができていない。また、グループのメンバーと協力、連携して、責任を持って適切な給食の提供、栄養管理を実践することの重要性について理解できていない。
技能	２．栄養食事管理、材料管理、生産管理、衛生管理、原価管理等の計画、実施、評価に関わる帳票類の作成ができ、給食業務が遂行できる。	各種帳票類について、専門的知識を用いて作成することができており、実践に役立てることができる。	各種帳票類について、専門的知識を用いて作成することができている。	各種帳票類について、基本は理解しており、作成することができている。	各種帳票類の作成について、積極的に取り組んでいるが、足りない部分がある。	各種帳票類の作成について、取り組む姿勢はなく作成することができていない。
技能	３．大量調理施設衛生管理マニュアルに沿った衛生管理ができる。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法を十分に理解しており、実施することができている。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法を理解しており、実施することができている。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法の基本は理解しており、実施することができている。	給食施設におけるHACCPシステムや大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方、それに基づいた衛生管理の方法の理解に努めているが、実施することができていない部分がある。	給食施設におけるHACCPシステムや大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方、それに基づいた衛生管理の方法の理解に努めず、実施することができていない。
技能	４．給食の管理運営に関する管理栄養士としての実践力を修得する。	各種管理業務について十分理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できる。	各種管理業務について理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できる。	各種管理業務について基本は理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できる。	各種管理業務について理解に努めているが、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践することができていない部分がある。	各種管理業務について理解に努めず、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践することができていない。

科目名	食品流通論			授業番号	NR305	サブタイトル			
教員	北島　葉子、大桑　浩孝								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	本講義では食品が生産され私たち消費者に届くまでの食品保存・流通について学修する。はじめに，食品の生産，加工，流通に関わる産業の概要，主要食品の保存の特徴について学ぶ。次に，わが国の食料需給の現状，流通過程で発生する課題について理解する。さらに，食品産業におけるマーケティング戦略について学ぶ。								
到達目標	（1）食品加工・保存・流通に関連する基礎的な専門用語を理解する。 （2）わが国の食品流通の構造および食品産業の役割を理解し，説明する力を身につける。 （3）フードシステムや食料消費に関連する諸課題について理解し，その課題解決方法について自ら考察，説明する能力を身につける。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の取得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	食品加工の意義、食品保存の原理（1） 食品加工をする意義、さらに水分の制御による食品保存の原理、流通との関連について解説し、問題演習を行う。	大桑　浩孝
第2回	食品保存の原理(2) 温度の操作・浸透圧の制御・pHの制御による食品保存の原理、流通との関連について解説し、問題演習を行う。	大桑　浩孝
第3回	食品保存の原理(3) 高温殺菌・燻煙・環境ガスの調整・放射線照射による食品保存の原理、流通との関連について解説し、問題演習を行う。	大桑　浩孝
第4回	食品の劣化の概要と防止法、流通との関連について解説し、問題演習を行う。	大桑　浩孝
第5回	食品加工の原理、流通との関連について解説し、問題演習を行う。	大桑　浩孝
第6回	加工食品の規格・表示と安全性 食品表示法について解説し、問題演習を行う。	大桑　浩孝
第7回	前半のまとめ これまでの学習内容の確認を行う	大桑　浩孝
第8回	食料の安全保障と食料自給率 食料自給率低下の背景と食料安全保障について理解する。	北島　葉子
第9回	食材料・食品の流通と安全性の確保 食材料・食品の開発の動向、安全保障の仕組み、流通方法を理解する。	北島　葉子
第10回	外食・中食産業および配食サービス 地域の食支援体制として適切な食品に人々がアクセスできるように食環境整備に関する基本的な考え方を理解する。	北島　葉子
第11回	食料消費の課題 食品ロスの実態について理解する。	北島　葉子
第12回	フードシステムの現状 生産から消費に至るフードシステムの現状について理解する。	北島　葉子
第13回	マーケティングの基礎知識（1） マーケティングの意義、目的とその機能を理解する。	北島　葉子
第14回	マーケティングの基礎知識（2） マーケティング戦略と食品企業のマーケティングの実際について理解する。	北島　葉子
第15回	後半のまとめ 第8回～14回までの学習内容の確認を行う。	北島　葉子
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予習・復習の状況によって評価する。
レポート	10	各回の課題により，授業内容の理解度を確認する。授業最終日にコメントを入れ返却する。
小テスト		
定期試験	80	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講義では食料消費や食品加工・保存・流通，食料に関連する今日的課題等を理解し，自らのこととして考え，その考えを説明できる力を身につけることを到達目標とする。そのためには，「食」に関わるニュースや新聞記事，さまざまな情報に日頃から関心を持ち，自ら調べるという姿勢で講義に臨むこと。
授業外学修	（1）復習として，講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。 （2）発展学修として，食品流通など「食」に関わる新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新しい食品加工学（食品の保存・加工・流通と栄養）改訂第3版	高村仁知・森山達哉	南江堂	978-4-524-22851-5	
給食経営管理論　給食と給食経営管理における関連項目の総合的理解	市川陽子・神田知子 編	医歯薬出版株式会社	978-4-263-72050-9	
カレント 公衆栄養学	由田克士・荒井祐介 編	建帛社	978-4-7679-0757-4	

使用テキスト：自由記載	資料を配布する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜，指示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．食品加工・保存・流通に関連する基礎的な専門用語を理解している	食品加工・保存・流通に関連する専門用語を正確に理解し、述べることができる。	食品加工・保存・流通に関連する専門用語をほぼ理解し、述べることができる。	食品加工・保存・流通に関連する専門用語を一定程度理解し、大体述べることができる。	食品加工・保存・流通に関する専門用語について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	基礎的な専門用語を理解できていない。
知識・理解	２．わが国の食品流通の構造および食品産業の役割を理解し、説明する能力を身につけている	食品流通の構造および食品産業の役割について正しく理解をしており詳細に説明することができる。	食品流通の構造および食品産業の役割についてほぼ理解しており、説明することができる。	食品流通の構造および食品産業の役割について一定程度理解しており、説明することができる。	食品流通の構造および食品産業の役割について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	食品流通の構造および食品産業の役割について理解しておらず、説明する力がない。
知識・理解	３．フードシステムや食料消費に関連する諸課題について理解し、課題解決方法について自ら考察、説明する能力を身につけている	諸課題について広範囲にわたり正しく理解し、課題解決方法について理論的に説明することができる。	諸課題についてほぼ理解し、課題解決方法について説得力のある考察することができる。	諸課題について一定程度理解し、課題解決方法について説明することができる。	諸課題について理解がやや不十分であり、課題解決方法について説明する力が乏しい。	諸課題について理解できておらず、自らの考えを提示することができない。

科目名	管理栄養士実務演習			授業番号	NS302	サブタイトル			
教員	小野　尚美、北島　葉子、安原　幹成、古川　愛子、藤原　三保子、髙坂　由理、山縣　綾香、佐久山　里奈、中野　ひとみ								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	臨地実習の内容を十分に知るとともに実習効果を高めるために行う科目であり，事前学習と事後学習に分けて行う。 事前学習では，臨地実習先の施設の状況を十分に知るとともに，そこで実施する課題研究の検討や課題の円滑な実施に向けて事前準備について説明する。また，臨地実習先との円滑なコミュニケーションを図ることができるように心構えや態度について講義する。事後学習では，臨地実習で得た知識や技術，態度をまとめ，報告会に向けて説明する。								
到達目標	・職業人として倫理を身につけ，人権，人格を尊重し行動できるよう支援する。 ・自らが臨地実習で学ぶ課題を選定し，その目的にそった計画，実践ができるよう支援する。 ・臨地実習施設の様々な職種の人とコミュニケーションをはかり，管理栄養士の業務の内容を理解できるよう支援する。 ・自らが学んだことをまとめ，発表することができるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	臨地実習の目的 臨地実習の目的およびその事前学習としての実務演習の役割，取り組みを理解する。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第2回	臨地実習の内容 科目ごとの臨地実習の内容について理解する。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第3回	実習先の確認 実習先を確認し，臨地実習に向けての準備を始める。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第4回	実習課題の設定(1)設定方法の説明 臨地実習科目ごとに実習課題の設定方法について学ぶ。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第5回	実習課題の設定(2)実習課題の検討 臨地実習科目ごとに実習課題を設定し，進め方を検討する。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第6回	実習施設の概要(1)学校 学校における管理栄養士の業務や実習に向けての心構えや準備すべきことを学ぶ。	外部講師（学校の管理栄養士）
第7回	実習施設の概要(2)病院 病院における管理栄養士の業務や実習に向けての心構えや準備すべきことを学ぶ。	外部講師（病院の管理栄養士）
第8回	実習施設の概要(2)福祉施設 福祉施設における管理栄養士の業務や実習に向けての心構えや準備すべきことを学ぶ。	外部講師（福祉施設の管理栄養士）
第9回	実習施設の概要(4)事業所 事業所における管理栄養士の業務や実習に向けての心構えや準備すべきことを学ぶ。	外部講師（事業所の管理栄養士）
第10回	実習施設の概要(5)行政 行政における管理栄養士の業務や実習に向けての心構えや準備すべきことを学ぶ。	外部講師（行政の管理栄養士）
第11回	介護実習(1)食事介助体験 食事介助の方法について学び，体験する。	中野ひとみ（全教員）
第12回	介護実習(1)車いす介助体験 車いす介助の方法について学び，体験する。	中野ひとみ（全教員）
第13回	介護保険制度の概要 介護保険制度について理解を深める。	外部講師
第14回	マナー講座 言葉づかい，電話のかけ方，メールのマナーについて学ぶ。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第15回	面談練習(1)身だしなみ，礼儀作法 実習先を訪問する際の身だしなみや礼儀作法について学ぶ。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第16回	面談練習(2)事前訪問 場面を設定し，面談において必要なマナーを身につける。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第17回	事前訪問(1)実習先訪問 実習先を訪問し，必要な書類，準備物，実習課題を確認する。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第18回	事前訪問(2)報告 事前訪問報告書に記入し，担当教員に報告する。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第19回	献立(1)献立作成の基礎知識 献立を作成するにあたり，知っておくべき知識を確認する。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第20回	献立(2)献立作成 実習先の対象者に合わせた献立作成をする。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第21回	栄養教育指導案の作成 実習先の対象者を考慮した栄養指導案を作成する。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第22回	ＳＰ演習 観察者の学生が見守る中で，管理栄養士役となった学生がシナリオに沿って模擬患者（SP）に栄養指導，食事の聞き取り等のロールプレイを行う。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第23回	直前学習(1)実習準備 必要な書類、物品の準備をし，実習に向けての課題等を仕上げる。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第24回	直前学習(2)実習後のまとめ 課題報告書，実習のまとめの書き方について学ぶ。また、お礼状，実習ファイルやスライドの作成方法について学ぶ。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第25回	直前学習(3)実習期間の諸注意 実習中の体調や身だしなみ等の確認，事故や体調不良の際の対応等を再確認する。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第26回	事後学習(1)臨地実習の報告 担当教員に実習の報告をし，事後学習について確認をする。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第27回	事後学習(2)臨地実習のまとめ，ファイルの作成 実習での学びをまとめ，実習ファイルを完成させる。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第28回	事後学習(3)報告会の準備 報告会に向けて，発表スライドや配布資料を作成する。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第29回	報告会(1)学校，病院 自らの臨地実習を報告するとともに，他施設の実習報告を聞き，管理栄養士業務について理解を深める。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
第30回	報告会(2)福祉施設，事業所 自らの臨地実習を報告するとともに，他施設の実習報告を聞き，管理栄養士業務について理解を深める。	小野，北島，安原，古川，藤原，髙坂，山縣，佐久山
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	積極的な授業態度，発表，報告などにより評価する。
レポート	20	課題について正しく記載されているかを評価する。コメントを記入し返却する。
小テスト	20	常識・漢字テスト等により評価する
定期試験		
その他	50	ファイルの内容，綴じ方が適切であるか評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	臨地実習は管理栄養士の働く現場での学習である。この学習を効果的なものにするために授業時間外に準備したり，復習したりすることが多い。そのためにはグループ内で協調することが必要である。コミュニケーション能力と，自主性のある授業参加と受講意識を求める。また，あいさつ等の態度や服装等，日常の基本的作法を身に付けておくことを求める。
授業外学修	1，実習に向けて，実習施設の概要を把握し，授業で学んだことを復習おく。 2，実習に向けて課題を決め，実施計画を考えておく。 3，授業の最後に，小テストや授業中の記録用紙の提出を指示する。 4，授業に関連した項目について記録を取り，必要に応じてレポートを作成し，提出する。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
臨地実習　実習生のしおり	中国学園大学現代生活学部人間栄養学科 編			

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	学校，市町村，病院等の管理栄養士
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	学校，市町村，病院等実習施設の管理栄養士
実務経験をいかした教育内容	臨地実習指導者から現場の管理栄養士業務に関する基本的知識や技術に関して修得させる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	3年前期まで学修した知識や技術をもとに課題について考えることができ，実習後に臨地実習で得られた課題に対する気づきをまとめることができる。	課題に対して論理的整合性を持ち，多角的に考察することができる。	課題に対して，ほぼ論理的整合性を持った考察を加えることができる。	課題に対して，自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが，指示事項に沿っていない。
技能	実践の場である臨地実習において求められる多様な技術において準備ができ，実習後にそれを定着させることができる。	求められる技術を発揮するための準備が的確にでき，その技術を実習後にしっかりと定着させることができる。	求められる技術を発揮するための準備がほぼでき，その技術を実習後に定着させることができる。	求められる技術を発揮するための準備ができ，実習後に技術の定着も十分ではないができる。	求められる技術を発揮するための準備および実習後における技術の定着とともに十分ではない。	求められる技術を発揮するための準備，および実習後の技術の定着ともにできていない。

科目名	総合演習			授業番号	NS401	サブタイトル	（全科目の復習と模擬試験）		
教員	坪井　誠二、井之川　仁、太田　潤、小野　尚美、北島　葉子、安原　幹成、大桑　浩孝、古川　愛子、楠本　晃子、髙坂　由理								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	4年前期までに学習した全科目を復習し，管理栄養士国家試験合格に向け，さらに知識と理解を深める。自主学習をグループ別に実施し，グループでの知識の確認を行う。必要に応じて教員による講義を実施し，理解不十分な内容について解説する。模擬試験を定期的に実施し，学習到達度を測るとともに，以後の学習計画のための指標とする。								
到達目標	・管理栄養士資格の修得を目指し，知識を統合し，問題解決能力を高める。 ・自律的に学習の計画を立て継続する力を身につける。 ・課題を設定して，問題点，解決法等を文書としてまとめることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第1～15回（全担当者交代） (1)自主学習：栄養セミナーIV等のグループ単位で目標を定め，模擬試験や過去問題の解説・見直し等を行う。 (2)自己学習：模擬試験や過去問題の振り返り，教科書や参考書の見直し等を行う。 (3)講義：各教員により，講義内容の再確認，模擬試験の解説等を行う。 (4)模擬試験：定期的に模擬試験や過去の国家試験問題などの問題を解き，理解度の指標を得る。								
授業計画　備考2	後期オリエンテーション時に本授業での到達目標、各分野の講義スケジュール、到達目標達成のための本授業での取組などについて説明を行う。								

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
模擬試験		
定期試験	100	管理栄養士としての必要な知識・技能の最終的な理解度を評価する
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	大学生活の最終年度にあたることを自覚し，目的達成へ向けて万全の体制で臨むこと。学習に関するスケジュールを立案し，学習計画を自己管理すること。理解できていない内容については教員に積極的に質問し，確実に理解すること。自ら学習する意識を持つこと。社会人となる最終準備段階であるから，欠席・遅刻をしないことは受講の最低条件である。
授業外学修	週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
管理栄養士国家試験過去問解説集	管理栄養士国試対策研究会[編] 著	中央法規出版		3000
管理栄養士国家試験　受験必修キーワード集	女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会	女子栄養大学出版会		3200

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
管理栄養士国家試験の要点	栄養セントラル学院編	中央法規出版		4000
管理栄養士国家試験の傾向と対策	管理栄養士教育研究会 編	南江堂		3800

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	管理栄養士資格取得に向けて、4年前期まで学修した内容について理解している。	管理栄養士資格取得に向けて、4年前期まで学修した内容について、正確に理解し述べることができる。	管理栄養士資格取得に向けて、4年前期まで学修した内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	管理栄養士資格取得に向けて、4年前期まで学修した内容について、大体述べることができる。	管理栄養士資格取得に向けて、4年前期まで学修した内容について、正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	管理栄養士資格取得に向けて、4年前期まで学修した内容について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	4年前期まで学修した知識をもとに健康維持について考えることができる。	課題に対して論理的整合性を持ち、多角的に考察することができる。	課題に対して、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えることができる。	課題に対して、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項に沿っていない。

科目名	給食管理実習Ⅱ			授業番号	NT401	サブタイトル			
教員	北島　葉子、藤原　三保子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	特定給食施設（病院，福祉施設，学校，事業所）における給食の運営・管理について必要な専門的知識および献立作成，材料発注，検収作業，食数管理，大量調理，配膳作業などの基本的業務を実際の管理栄養士の指導の下，学修する。								
到達目標	(1)給食運営のPDCAサイクルの実際について理解できる。 (2)実習施設の栄養・給食業務運営の実際を実践的に学ぶ。 (3)給食施設で行われている衛生管理の実際を理解できる。 (4)施設利用者の状況に応じた給食の配慮や工夫，栄養教育の在り方などから施設の特徴を理解し，対象者に対する理解も深める。 (5)給食の運営のサブシステムの管理状況を評価できる。 (6)アクシデント・インシデント管理の意義を理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	●実習施設の選択 給食管理実習IIを履修するにあたり，必要な科目を修得した者あるいは履修可能であると判断された者を対象として，下記の特定給食施設のうち，1施設を選択の上，実施とする。 ・病　院　国立病院，大学病院，公立病院，その他の病院 ・福祉施設　特別養護老人ホーム，介護老人保健施設，その他の福祉施設 ・学　校　小・中学校又は給食センター ・事 業 所　工場給食やオフィス給食の社員食堂，配食サービス給食センター等 ●実習内容 具体的な実習計画と内容は，実習施設ごとに異なるが，以下の項目について40時間（5日×8時間）実習する。 ・実習施設の組織と運営の理解 ・施設別給食の特徴と給食の目的の理解 ・給食業務の基本的な流れを把握する ・献立作成について学ぶ ・食材料管理について学ぶ ・作業管理，大量調理（盛り付け，配膳を含む）について学ぶ ・衛生管理について学ぶ ・事務管理について学ぶ ・栄養教育媒体の検討および作成 ・各種調査（残食・嗜好など）実施								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	実習施設の指導担当者および学内における評価：基本的態度，実習態度，実習課題，実習内容に対する理解を評価する。
レポート	40	実習・実習課題の内容，得られた結果や記録を整理しまとめること（実習ファイル）ができているか，また，事前に大学で学んだ内容と実習施設で学んだ内容を統合，修得できているか等を評価する。実習ファイルについてはコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他	10	実習に対する取組み姿勢や態度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	日常の業務が行われている管理栄養士・栄養士の職場で実施される実習であるため，社会的常識に則った行動を心がけ，自ら学修すべき課題を発見できる積極的な態度で実習に取り組むこと。実践現場での貴重な体験ができるという意識を維持し，実習に対する明確な目的を持って事前の準備を怠らないこと。
授業外学修	(1)受け入れ実習施設の概要等，その特徴を調べておく。 (2)実習施設での実習内容を十分に把握，認識し，実習先との連絡を行う。 (3)小グループで実習を行う場合は，同一施設のメンバーとコミュニケーションをとり，十分な打ち合わせ，勉強会等，協力をして準備を進める。 (4)実習に向けて，実習課題のテーマ設定を行い，文献や資料を準備する。 以上の内容は，管理栄養士実務演習とも関連しており，授業の一環でもあるため，各自が計画的に取り組み，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	『実習生のしおり』，中国学園大学現代生活学部人間栄養学科編

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『Plan-Do-Seeにそった給食管理実習のてびき』，西川貴子 他著，医歯薬出版 『給食経営管理論』，特定非営利活動法人　日本栄養改善学会監修　石田裕美／冨田教代 編，医歯薬出版株式会社 『八訂　食品成分表　2022』，香川明夫 監修，女子栄養大学出版部 『日本人の食事摂取基準』2020年版，菱田明／佐々木敏　監修，第一出版 『給食施設のための献立作成マニュアル　第9版』，赤羽正之 他著，医歯薬出版
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院，介護老人保健施設における栄養士・管理栄養士（3年）

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	病院，福祉施設，学校，事業所等の管理栄養士（実習指導者）
実務経験をいかした教育内容	特定給食施設の実習指導者からの給食経営管理業務に関する指導の下，課題発見および問題解決を通して知識と技術を修得させる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．給食運営のPDCAサイクルの実際について理解できる	トータルシステムとサブシステムについて十分理解しており、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルの実際について、論理的かつ多角的に考察することができる。	トータルシステムとサブシステムについて理解しており、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルの実際について、ほぼ論理的に考察することができる。	トータルシステムとサブシステムについて基本は理解しており、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルの実際について、自分の考えを述べることができる。	トータルシステムとサブシステムについて理解に努めているが、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルの実際について、自分の考えを述べることができていない部分がある。	トータルシステムとサブシステムについて理解に努めず、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルの実際について、自分の考えを述べることができていない。
思考・問題解決能力	２．実習施設の栄養・給食業務運営の実際を実践的に学ぶ	各種管理業務について十分理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できている。	各種管理業務について理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できている。	各種管理業務について基本は理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できている。	各種管理業務について理解に努めているが、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践することができていない部分がある。	各種管理業務について理解に努めず、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践することができていない。
思考・問題解決能力	３．給食施設で行われている衛生管理の実際を理解できる	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法および実際の給食施設における衛生管理について十分に理解できている。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法および実際の給食施設における衛生管理について理解できている。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法および実際の給食施設における衛生管理の基本は理解できている。	給食施設におけるHACCPシステムや大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方、それに基づいた衛生管理の方法および実際の給食施設における衛生管理の理解に努めているができていない部分がある。	給食施設におけるHACCPシステムや大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方、それに基づいた衛生管理の方法および実際の給食施設における衛生管理の理解に努めていない。
思考・問題解決能力	４．施設利用者の状況に応じた給食の配慮や工夫，栄養教育の在り方などから施設の特徴を理解し，対象者に対する理解も深める	各給食施設の給食の意義・役割を理解しており、ライフステージ別や利用者の状況に応じた食事計画や具体的な調理特性および栄養教育の在り方を十分に説明することができる。	各給食施設の給食の意義・役割を理解しており、ライフステージ別や利用者の状況に応じた食事計画や具体的な調理特性および栄養教育の在り方を説明することができる。	各給食施設の給食の意義・役割を理解しており、ライフステージ別や利用者の状況に応じた食事計画や具体的な調理特性および栄養教育の在り方の基本的なことを説明することができる。	各給食施設の給食の意義・役割について理解に努めているが、ライフステージ別や利用者の状況に応じた食事計画や具体的な調理特性および栄養教育の在り方について説明することができていない部分がある。	各給食施設の給食の意義・役割について理解に努めず、ライフステージ別や利用者の状況に応じた食事計画や具体的な調理特性および栄養教育の在り方について説明することができない。
思考・問題解決能力	5．給食の運営のサブシステムの管理状況を評価できる	給食の運営のサブシステムについて十分理解しており、サブシステムごとに使われる帳票類の種類や概要をまとめ、記録、整理し、サブシステムの管理状況を評価することができている。	給食の運営のサブシステムについて理解しており、サブシステムごとに使われる帳票類の種類や概要をまとめ、記録、整理し、サブシステムの管理状況を評価することができている。	給食の運営のサブシステムについて基本は理解しており、サブシステムごとに使われる帳票類の種類や概要をまとめ、記録、整理し、サブシステムの管理状況を評価することができている。	給食の運営のサブシステムの理解に努めているが、サブシステムごとに使われる帳票類の種類や概要のまとめ、記録、整理、サブシステムの管理状況を評価することができていない部分がある。	給食の運営のサブシステムの理解に努めておらず、サブシステムごとに使われる帳票類の種類や概要のまとめ、記録、整理、サブシステムの管理状況を評価することができていない。
思考・問題解決能力	6．アクシデント・インシデント管理の意義を理解できる	給食施設におけるリスク予想と対策および対応マニュアルの必要性を理解しており、実際の給食施設におけるアクシデント・インシデント管理の意義を十分に説明することができる。	給食施設におけるリスク予想と対策および対応マニュアルの必要性を理解しており、実際の給食施設におけるアクシデント・インシデント管理の意義を説明することができる。	給食施設におけるリスク予想と対策および対応マニュアルの必要性を理解しており、実際の給食施設におけるアクシデント・インシデント管理の意義について基本的なことを説明することができる。	給食施設におけるリスク予想と対策および対応マニュアルの必要性の理解に努めてはいるが、実際の給食施設におけるアクシデント・インシデント管理の意義について説明することができていない部分がある。	給食施設におけるリスク予想と対策および対応マニュアルの必要性の理解に努めず、実際の給食施設におけるアクシデント・インシデント管理の意義について説明することができていない。

科目名	臨床栄養学実習Ⅲ			授業番号	NT402	サブタイトル			
教員	小野　尚美、安原　幹成、古川　愛子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	病院・介護老人保健施設における臨地実習を通し，栄養評価や栄養療法の実際を管理栄養士が指導する。								
到達目標	病院や福祉施設において，患者・高齢者を対象に身体状況や栄養状態を評価することができ，他職種と連携して問題解決のための栄養ケア計画および栄養指導・支援ができる技能を修得する。課題発見を通じて，管理栄養士の指導により解決し，栄養管理の計画・実践・評価の知識・技術を習得できるよう支援する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	各実習病院等において作成された実習計画に従って実習する。 実習内容の1例 1　病院・福祉施設における管理栄養士業務の実際について把握 2　食材料管理，衛生管理，作業管理の実際 3　栄養管理の実際（栄養基準，食品構成，献立作成） 4　特別治療食実習 5　カルテの見方 6　栄養療法の実際 7　栄養評価の実際 8　個人栄養食事指導の実際 9　集団栄養食事指導の実際 10　まとめ，報告書作成								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	実習施設での実習態度，課題への取組や発表，報告を評価する。
レポート	40	実習中の内容についてファイルにまとめた内容について評価する。報告会に向けて必要に応じてコメントする。
小テスト		
定期試験		
その他	10	実習に対する取り組み姿勢や態度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	報告・連絡・相談を実践すると共に，課題発見・問題解決を心がける。
授業外学修	1，関連する教科書および関連資料を実習までに読んでおく。 2，日々，学習した内容をまとめておく。 3，実習に必要な媒体などの準備をし，確認しておく。 以上の内容を含め週1時間以上の学修を行う。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
臨地実習　実習生のしおり	中国学園大学現代生活学部人間栄養学科編			

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養食事療法の実習栄養ケアマネジメント	本田佳子編	医歯薬出版	978-4-263-70651-0	2，700円+税
糖尿病食事療法のための食品交換表|日本糖尿病学会編	日本糖尿病学会編	文光堂	978-4-8306-6046-7	900円+税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院等の管理栄養士

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	病院および福祉施設の管理栄養士（実習指導者）
実務経験をいかした教育内容	臨床現場の実習指導者からの臨床栄養管理業務に関する実際に関する指導の下，課題発見および問題解決を通して知識と技術を修得させる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	病院や福祉施設での業務に関心を持ち，研究課題を設定することができる。	病院や福祉施設での業務について調べ，十分に理解し，研究課題を設定することができる。	病院や福祉施設での業務について調べながら，研究課題を設定することができる。	病院や福祉施設での業務に関心を持ち，研究課題を設定することができる。	研究課題の設定に取り組もうとする。	研究課題を設定することができない。
思考・問題解決能力	研究課題を解決するために事前準備・実施計画ができ，それに基づいて実習中に取り組み，まとめができる。	研究課題を解決するために事前準備・実施計画ができ，それに基づいて実習中に取り組み，学んだこと，自ら調べたことから考察・まとめができる。	研究課題を解決するために事前準備・実施計画ができ，それに基づいて実習中に取り組み，学んだことを活かして考察・まとめができる。	研究課題を解決するために事前準備・実施計画ができ，それに基づいて実習中に取り組み，まとめができる。	研究課題を解決するための事前準備・実施計画が不十分である。	研究課題を解決するための事前準備・実施計画ができない。
技能	他職種との連携のあり方について理解できる。	他職種との連携のあり方について十分理解できており，自分の言葉で説明できる。	他職種との連携のあり方について理解できており，説明できる。	他職種との連携のあり方について理解できている。	他職種との連携のあり方についての理解が不十分である。	他職種との連携のあり方が理解できていない。
技能	食事調査，身体計測，検査値などから栄養評価ができる。	対象者の栄養評価をするために必要な情報収集ができ，それらに基づいて栄養評価ができる。	対象者の栄養評価をするために必要な身体計測，検査値の項目が理解できており，それらに基づいて栄養評価ができる。	食事調査，身体計測，検査値などから栄養評価ができる。	食事調査，身体計測，検査値などから栄養評価に取り組もうとする。	食事調査，身体計測，検査値などから栄養評価ができない。
技能	栄養ケア計画を立て，栄養指導・支援ができる。	対象者をより深く把握して栄養ケア計画を立て，栄養指導・支援ができる。	対象者を把握して栄養ケア計画を立て，栄養指導・支援ができる。	栄養ケア計画を立て，栄養指導・支援ができる。	栄養ケア計画を立て，栄養指導・支援に取り組もうとする。	栄養ケア計画を立て，栄養指導・支援することができない。
態度	興味・関心を持ち，積極的な態度で実習に取り組むことができる。	興味・関心を持ち，これまで学んだことを十分理解した上で，積極的な態度で実習に取り組むことができる。	興味・関心を持ち，これまで学んだことを理解した上で，積極的な態度で実習に取り組むことができる。	興味・関心を持ち，積極的な態度で実習に取り組むことができる。	興味・関心を持ち，実習に取り組もうとする。	興味・関心を持ち，実習に取り組む姿勢が見られない。

科目名	給食管理実習Ⅲ			授業番号	NT403	サブタイトル			
教員	北島　葉子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	特定給食施設（病院，福祉施設，事業所）における給食経営管理について必要な専門的知識および食材・人材に関する衛生管理，栄養管理，給食の安全確保，組織の管理運営，経済的視点の確保と給食経営分析の手法等の給食業務全般のマネジメントについて実際の管理栄養士の指導の下，学修する。								
到達目標	(1)給食運営や関連の資源を総合的に判断し，栄養面・安全面・経済面等を統合したマネジメントの実際を実践的に学ぶ。 (2)実習施設の栄養・給食管理業務，運営，組織管理などの実際を理解できる。 (3)利用者・対象者の状況に応じた栄養ケア，栄養指導（教育）を通して，施設の特徴や在り方について理解を深める。 (4)給食施設における衛生管理および安全管理の実際を理解できる。 (5)給食運営に関わる費用構成について理解し，経営管理の手法を用いた費用分析の方法を理解できる。 なお，本科科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	●実習施設の選択 給食管理実習IIIを履修するにあたり，必要な科目を修得した者あるいは履修可能であると判断された者を対象として，下記の特定給食施設のうち，1施設を選択の上，実施とする。 ・病　院　国立病院，大学病院，公立病院，その他の病院 ・福祉施設　特別養護老人ホーム，介護老人保健施設，その他の福祉施設 ・事 業 所　工場給食やオフィス給食の社員食堂，配食サービス給食センター等 ・学　校　小・中学校又は給食センター ●実習内容 具体的な実習計画と内容は実習施設ごとに異なるが，以下の項目について実習する。 ・実習施設の組織の概要と見学 ・施設別給食部門業務の特徴の理解 ・給食経営管理システムの理解 経営管理，栄養・食事管理について 組織・人事管理，施設・設備管理について 食材料管理，生産管理について 衛生・安全管理，品質管理について 会計・原価管理について ・給食経営管理システムに関する研究発表及び討論 ・テーマ別研究活動及び成果報告と討論								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	実習施設の指導担当者および学内における評価：基本的態度，実習態度，実習課題，実習内容に対する理解を評価する。
レポート	40	実習・実習課題の内容，得られた結果や記録を整理しまとめること（実習ファイル）ができているか，また，事前に大学で学んだ内容と実習施設で学んだ内容を統合，修得できているか等を評価する。実習ファイルについてはコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他	10	実習に対する取組み姿勢や態度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自ら実習課題を設定し，課題の発見と問題解決を経験することにより，管理栄養士の業務をより深く理解することがこの実習のねらいである。事前学習の段階から，実習への関心を深め積極的に取り組むこと。
授業外学修	(1)受け入れ実習施設の概要等，その特徴を調べておく。 (2)実習施設での実習内容を十分に把握，認識し，実習先との連絡を行う。 (3)小グループで実習を行う場合は，同一施設のメンバーとコミュニケーションをとり，十分な打ち合わせ，勉強会等，協力をして準備を進める。 (4)実習に向けて，実習課題のテーマ設定を行い，文献や資料を準備する。 以上の内容は，管理栄養士実務演習とも関連しており，授業の一環でもあるため，各自が計画的に取り組み，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	『実習生のしおり』，中国学園大学現代生活学部人間栄養学科編

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『八訂　食品成分表　2022』，香川明夫 監修，女子栄養大学出版部 『第11巻 給食経営管理論 給食と給食経営管理における関連項目の総合的理解』，特定非営利活動法人　日本栄養改善学会監修　市川陽子／神田知子 編，医歯薬出版株式会社 『給食経営管理実務ガイドブック』，富岡和夫 編，同文書院
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院，介護老人保健施設における栄養士・管理栄養士（3年）

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	病院，福祉施設，学校，事業所等の管理栄養士（実習指導者）
実務経験をいかした教育内容	特定給食施設の実習指導者からの給食経営管理業務に関する指導の下，課題発見および問題解決を通して知識と技術を修得させる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．給食運営や関連の資源を総合的に判断し，栄養面・安全面・経済面等を統合したマネジメントの実際を実践的に学ぶ	各種管理業務について十分理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できている。	各種管理業務について理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できている。	各種管理業務について基本は理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践できている。	各種管理業務について理解に努めているが、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践することができていない部分がある。	各種管理業務について理解に努めず、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養管理を適切に行うための給食の運営全体のマネジメントサイクルを実践することができていない。
思考・問題解決能力	２．実習施設の栄養・給食管理業務，運営，組織管理などの実際を理解できる	各種管理業務について十分理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養・食事管理を適切に行うための給食の運営や組織管理など、給食施設におけるマネジメントの実際を理解することができている。	各種管理業務について理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養・食事管理を適切に行うための給食の運営や組織管理など、給食施設におけるマネジメントの実際を理解することができている。	各種管理業務について基本は理解しており、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養・食事管理を適切に行うための給食の運営や組織管理など、給食施設におけるマネジメントの実際を理解することができている。	各種管理業務について理解に努めているが、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養・食事管理を適切に行うための給食の運営や組織管理など、給食施設におけるマネジメントの実際を理解することができていない部分がある。	各種管理業務について理解に努めず、給食経営の資源を活用して、給食利用者の栄養・食事管理を適切に行うための給食の運営や組織管理など、給食施設におけるマネジメントの実際を理解することができていない。
思考・問題解決能力	３．利用者・対象者の状況に応じた栄養ケア，栄養指導（教育）を通して，施設の特徴や在り方について理解を深める	ライフステージ別や利用者の状況に応じた栄養ケア、栄養指導に積極的に取り組むことで、各給食施設の特徴や在り方について十分に理解を深めることができている。	ライフステージ別や利用者の状況に応じた栄養ケア、栄養指導に取り組むことで、各給食施設の特徴や在り方について理解を深めることができている。	ライフステージ別や利用者の状況に応じた栄養ケア、栄養指導に取り組むことで、各給食施設の特徴や在り方について理解することができている。	ライフステージ別や利用者の状況に応じた栄養ケア、栄養指導に取り組んでいるが、各給食施設の特徴や在り方について理解することができていない部分がある。	ライフステージ別や利用者の状況に応じた栄養ケア、栄養指導に取り組まず、各給食施設の特徴や在り方について理解することができていない。
思考・問題解決能力	4．給食施設における衛生管理および安全管理の実際を理解できる	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法および実際の給食施設における衛生管理について十分に理解できている。また、給食施設におけるリスク予想と対策、および対応マニュアルの必要性を十分に理解しており、対策の提案やマニュアルを作成することができる。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法および実際の給食施設における衛生管理について理解できている。また、給食施設におけるリスク予想と対策、および対応マニュアルの必要性を理解しており、対策の提案やマニュアルを作成することができる。	給食施設におけるHACCPシステムを説明でき、大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方やそれに基づいた衛生管理の方法および実際の給食施設における衛生管理の基本は理解できている。また、給食施設におけるリスク予想と対策、および対応マニュアルの必要性について基本は理解しており、対策の提案やマニュアルを作成することができる。	給食施設におけるHACCPシステムや大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方、それに基づいた衛生管理の方法および実際の給食施設における衛生管理の理解に努めているができていない部分がある。また、給食施設におけるリスク予想と対策、および対応マニュアルの必要性について理解に欠けている部分があり、対策の提案やマニュアルを作成することができていない部分がある。	給食施設におけるHACCPシステムや大量調理施設衛生管理マニュアルの考え方、それに基づいた衛生管理の方法および実際の給食施設における衛生管理の理解に努めていない。また、給食施設におけるリスク予想と対策、および対応マニュアルの必要性について理解できておらず、対策の提案やマニュアルを作成することができていない。
思考・問題解決能力	5．給食運営に関わる費用構成について理解し，経営管理の手法を用いた費用分析の方法を理解できる	給食の原価の構成、給食における収入や食事に関わる費用の算定方法を説明でき、経営管理の手法を用いた費用分析の方法を十分理解することができている。	給食の原価の構成、給食における収入や食事に関わる費用の算定方法を説明でき、経営管理の手法を用いた費用分析の方法を理解することができている。	給食の原価の構成、給食における収入や食事に関わる費用の算定方法を説明でき、経営管理の手法を用いた費用分析の方法の基本は理解することができている。	給食の原価の構成、給食における収入や食事に関わる費用の算定方法の理解に努めているが、経営管理の手法を用いた費用分析の方法を理解できていない部分がある。	給食の原価の構成、給食における収入や食事に関わる費用の算定方法の理解に努めず、経営管理の手法を用いた費用分析の方法を理解することができていない。

科目名	臨床栄養学実習Ⅳ			授業番号	NT404	サブタイトル			
教員	小野　尚美、安原　幹成、古川　愛子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	病院・介護老人保健施設における臨地実習を通し，栄養評価や栄養療法の実際を管理栄養士が指導する。								
到達目標	病院や福祉施設において，患者・高齢者を対象に身体状況や栄養状態を評価することができ，他職種と連携して問題解決のための栄養ケア計画および栄養指導・支援ができる技能を修得する。課題発見を通じて，管理栄養士の指導により解決し，栄養管理の計画・実践・評価の知識・技術を習得できるよう支援する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	各実習病院等において作成された実習計画に従って実習する。 実習内容の1例 1　チーム医療・チームケアと管理栄養士の役割について把握する。 2　カルテの内容を把握する。 3　担当患者の治療方針を理解する。 4　栄養ケアプランを作成する。 5　栄養ケアの実施状況を把握する。 6　栄養ケアの経過を把握する。 7　栄養評価の実際 8　個人栄養食事指導の計画，参加 9　集団栄養食事指導の計画，参加 10　まとめ，報告書作成								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	実習施設での実習態度，発表，報告を評価する。
レポート	40	実習中の内容についてファイルにまとめた内容について評価する。報告会に向けて必要に応じてコメントする。
小テスト		
定期試験		
その他	10	実習に対する取り組み姿勢や態度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	報告・連絡・相談を実践すると共に，課題発見・問題解決を心がける。
授業外学修	1，関連する教科書および関連資料を実習までに読んでおく。 2，日々，学習した内容をまとめておく。 3，実習に必要な媒体などの準備をし，確認しておく。 以上の内容を含め週1時間以上の学修を行う。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
臨地実習　実習生のしおり	中国学園大学現代生活学部人間栄養学科編			

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養食事療法の実習栄養ケアマネジメント	本田佳子編	医歯薬出版	978-4-263-70651-0	2，700円+税
糖尿病食事療法のための食品交換表	日本糖尿病学会編	文光堂	978-4-8306-6046-7	900円+税
栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子，森美奈子	化学同人	978-4-7598-1826-0	1，500円+税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	病院等の管理栄養士

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	病院および福祉施設の管理栄養士（実習指導者）
実務経験をいかした教育内容	臨床現場の実習指導者からの臨床栄養管理業務に関する実際に関する指導の下，課題発見および問題解決を通して知識と技術を修得させる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	病院や福祉施設での業務に関心を持ち，研究課題を設定することができる。	病院や福祉施設での業務について調べ，十分理解し，研究課題を設定することができる。	病院や福祉施設での業務について調べながら，研究課題を設定することができる。	病院や福祉施設での業務に関心を持ち，研究課題を設定することができる。	研究課題の設定に取り組もうとする。	研究課題を設定することができない。
思考・問題解決能力	研究課題を解決するために事前準備・実施計画ができ，それに基づいて実習中に取り組み，まとめができる。	研究課題を解決するために事前準備・実施計画ができ，それに基づいて実習中に取り組み，学んだこと，自ら調べたことから考察・まとめができる。	研究課題を解決するために事前準備・実施計画ができ，それに基づいて実習中に取り組み，学んだことを活かして考察・まとめができる。	研究課題を解決するために事前準備・実施計画ができ，それに基づいて実習中に取り組み、まとめができる。	研究課題を解決するための事前準備・実施計画が不十分である。	研究課題を解決するための事前準備・実施計画ができない。
技能	チーム医療における管理栄養士の役割および意義が理解できている。	チーム医療における管理栄養士の役割および意義が十分理解できており，自分の言葉で説明できる。	チーム医療における管理栄養士の役割および意義が理解できており，説明できる。	チーム医療における管理栄養士の役割および意義が理解できている。	チーム医療における管理栄養士の役割および意義の理解が不十分である。	チーム医療における管理栄養士の役割および意義が理解できていない。
技能	食事調査，身体計測，検査値などから栄養評価ができ，それに基づく栄養ケア計画を立てることができる。	食事調査，身体計測，検査値などから栄養評価ができ，対象者のことを十分考慮した栄養ケア計画を立てることができる。	食事調査，身体計測，検査値などから栄養評価ができ，対象者のことを考慮した栄養ケア計画を立てることができる。	食事調査，身体計測，検査値などから栄養評価ができ，それに基づく栄養ケア計画を立てることができる。	食事調査，身体計測，検査値などから栄養評価をし，それに基づいて栄養ケア計画を立てることが不十分である。	食事調査，身体計測，検査値などから栄養評価をし，それに基づいて栄養ケア計画を立てることができない。
技能	栄養ケア計画，栄養食事指導の効果について理解できる。	栄養ケア計画，栄養食事指導の効果について十分理解できており，自分の言葉で説明できる。	栄養ケア計画，栄養食事指導の効果について理解できており，説明できる。	栄養ケア計画，栄養食事指導の効果について理解できる。	栄養ケア計画，栄養食事指導の効果について理解が不十分である。	栄養ケア計画，栄養食事指導の効果について理解できていない。
態度	興味・関心を持ち，積極的な態度で実習に取り組むことができる。	興味・関心を持ち，これまで学んだことを十分理解した上で，積極的な態度で実習に取り組むことができる。	興味・関心を持ち，これまで学んだことを理解した上で，積極的な態度で実習に取り組むことができる。	興味・関心を持ち，積極的な態度で実習に取り組むことができる。	興味・関心を持ち，実習に取り組もうとする。	興味・関心を持ち，実習に取り組む姿勢が見られない。

科目名	公衆栄養学実習Ⅱ			授業番号	NT405	サブタイトル			
教員	髙坂　由理								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	保健所及び市町村の公衆栄養学分野において，それぞれが果たす役割や業務内容を知る。								
到達目標	（１）公衆栄養マネージメントを理解するために，地域の健康・栄養問題に関する情報の収集・分析を行い，公衆栄養プログラムの評価・判定を行うことができる。 （２）プログラム実施から評価までのマネジメント能力を身につけるために，健康・栄養関連プログラムへの参加を通して，対象に応じた適切な保健サービスの提供プログラムの実践状況を把握することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	1　事前学習 (1)実習先の健康増進計画や食育推進計画などを調べ，健康課題をアセスメントし，個人課題を決める。 (2)実習先を訪問して施設の概要，経路について情報収集し，ファイルにまとめる。 (3)公衆栄養学IとII，公衆栄養学実習Iテキスト，国試過去問，実習生のしおりなどを学習し，クラスルームを活用したテストにより知見を整理する。 (4)自主的な勉強会により，十分な準備と事前学習をチーム内で強化する。 2　事前授業 (1)実習生のしおりにより臨地実習の臨み方について再復習 (2)公衆栄養学についての知見を再整理 (3)新聞などによる時事情報の把握 (4)準公務員としての接遇を学習 (5)実習内容と実習課題等の指示を受け準備 (6)試作やデモンストレーションにより，実習先の課題と個人課題の準備を完了 3　臨地実習 衛生行政，地域保健行政と行政栄養士の役割，保健所・市町村栄養業務および食に係わる様々なボランティア活動を理解する。 （１）保健所における実習概要 ア）保健所管内の現況と管理栄養士業務の概要 イ）公衆栄養に関連する法規の実際 ウ）地域保健における栄養体制の整備として，地域における実態把握と分析，専門的な栄養指導，食生活支援，食環境整備（食に関する情報の整備，栄養成分表示の推進等） エ）特定給食施設への栄養管理指導 オ）市町村に対する栄養改善事業支援と連絡調整 （２）市町村における実習概要 ア）市町村行政栄養士の役割と業務の概要 イ）地域保健栄養体制の整備として，地方健康増進計画や地方食育推進計画並びに地域保健医療計画等への参画，栄養改善事業の計画・評価の理解 ウ）乳幼児健康診査や栄養相談および一般的栄養指導の見学 エ）住民に対する健康教育の企画・実施・評価 オ）地区組織の育成及び支援の見学 4　事後授業 （１）礼状作成と発送 （２）報告会の準備と発表練習 （３）実習先についての情報，授業，臨地実習別のファイルを提出								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	授業への基本的態度や実習態度，実習課題への取組，授業ファイル，臨地担当者評価などにより評価する。
レポート	30	実習姿勢や実習先課題についての記録やまとめ，レポート，臨地実習ファイルなどで評価する。ファイル返却時にコメントする。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	（１）日常の業務が行われ，地域住民の方が来られている職場での実習にて，社会的な常識ある行動を心がけ，自ら学修すべき課題を発見できるよう積極的な態度で取り組む。 （２）実践現場での貴重な体験ができるという意識を持ち，実習に対する明確な目的を持ち，事前の準備を十分に行う。
授業外学修	（１）知見を整理して充実した実習を目指すために，公衆栄養学I、II及び公衆栄養学実習I，地域における行政栄養士による健康づくり及び栄養・食生活改善の基本指針，臨地実習のしおり等を再学修する。 （２）小グループで学修を行う場合は，十分な打ち合わせと勉強会を行いながら，実習施設の概要，特徴を調べる。 （３）日本と実習施設等の概況や健康増進計画，食育推進計画，子育て支援計画，介護保険計画等で健康課題を調べておく。 （４）各自の実習課題のテーマを決め，文献や資料の準備をする。 （５）実習施設での実習内容を十分に把握し，実習先との連絡を行う。 （６）実習施設から指定された課題の準備や用具・媒体，資料等を用意する。 以上の内容を含め，週1時間以上学修する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
公衆栄養学実習テキスト	岡山県保健福祉部健康対策課 監修	岡山県栄養士養成施設協議会 発行		

使用テキスト：自由記載	『臨地実習　実習生のしおり』，中国学園大学現代生活学部人間栄養学科 編 『公衆栄養学実習第三版　事例から学ぶ公衆栄養プログラム』 手嶋哲子、田中久美子　編

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『国民衛生の動向』厚生労働統計協会 編集・発行 『栄養・健康データハンドブック』藤沢良知 編　同文書院 『日本人の食事摂取基準2025』 第一出版 『公衆衛生がみえる』MEDIC MEDIA
その他	
備考	令和7年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	保健所及び市町村の行政栄養士（実習指導者）
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．臨地実習の基本的態度ができている。	時間を守り、実習生からの挨拶や実習生らしい身だしなみ、行動ができている。	時間を守り、実習生からの挨拶や実習生らしい身だしなみができている。	実習生らしい身だしなみができている。	実習生らしい身だしなみに注意を要する。	実習生らしい身だしなみができていない。
知識・理解	２．栄養行政に対する理解ができている。	行政栄養士の役割や公衆栄養活動の意義を深く学ぶことができている。	行政栄養士の役割や公衆栄養活動の意義を学ぶことができている。	行政栄養士の役割や公衆栄養活動を学ぶことができている。	行政栄養士の役割を学ぶことができている。	行政栄養士の役割や公衆栄養活動を学ぶことができない。
思考・問題解決能力	１．事前課題の作成ができている。	事前課題に積極的に取り組み、改善に取り組んでいる。	事前課題に積極的に取り組み、改善に取り組んでいる。	事前課題に取り組み、改善に取り組んでいる。	事前課題に取り組んでいる。	事前課題に取り組めない。
思考・問題解決能力	２．個人課題の作成と考察ができている。	個人課題に積極的に取り組み、解決するように取り組んでいる。	個人課題に積極的に取り組み、解決するように取り組んでいる。	個人課題に取り組み、解決するように取り組んでいる。	個人課題に取り組んでいる。	個人課題に取り組めない。
技能	１．事前準備として、情報把握が十分にができている。	実習前にチーム内にも声かけあって、入念な準備を行うことができている。	実習前に入念な準備を行うことができている。	準備を行うことができている。	注意をしないと準備ができない。	実習前の準備ができない。
技能	２．言葉遣いや礼儀をわきまえた行動ができている。	"電話やメールなどの挨拶が礼儀をわきまえて、的確にできている。"	"電話やメールなどの挨拶が的確にできている。"	"電話やメールなどの挨拶ができている。"	電話やメールなどの挨拶に指摘が多い。	"電話やメールなどの挨拶ができない。"
技能	３．報告会に向けての準備ができている。	報告会に向けての準備を協力しながら、施設のご指導をいただき、進行できている。	報告会に向けての準備を施設のご指導をいただきながら遂行できている。	報告会に向けての準備が遅れている。	報告会に向けての準備を施設のご指導をいただきながら遂行できている。	報告会に向けての準備ができない。
態度	１．臨地実習に積極的に臨むことができる。	興味と関心を持ち、積極的な態度で、感謝の心を持ち、謙虚な態度で実習ができている。	実習に臨み、実習内容を理解したうえで、考察と意見を述べることができる。	実習に臨み、考察と意見を述べている。	実習に臨んではいるが、理解が十分ではない。	意見を述べることができない。
態度	２．コミュニケーションをとりながら、責任感を持って、自分の役割を担当することができている。	コミュニケーションがとれて協調性があり、責任感を持って、自分の役割を担当することができている。	コミュニケーションがとれて協調性があり、自分の役割を担当することができている。	コミュニケーションをとりながら自分の役割を担当することができている。	自分の役割を担当することができている。	コミュニケーションや協調性がない。

科目名	栄養セミナーⅠ			授業番号	NU101	サブタイトル			
教員	坪井　誠二、井之川　仁、大桑　浩孝、楠本　晃子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	この授業では受講者を少人数のグループに分け，各々のグループに担当教員を置く。各グループの日程にしたがい，近隣の施設（犬養木堂記念館，福祉施設等）を訪問することで，地域の歴史を学び，高齢者とのコミュニケーションを体験する。さらに，各グループにあらかじめ設定された課題について，文献・資料を収集，精読し，グループ内討論を行いつつ結論を導き出すことで，他者に配慮しつつ討論を行うことができ，論理的に思考できる能力を養う。								
到達目標	・文献の読み方，調べ方，整理の仕方，情報の収集法と整理の仕方，まとめ方，レポート・論文の書き方，プレゼンテーションの方法などを具体的に経験しながら身につける。 ・グループ学習のスキルを身につける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	授業内容および日程の詳細は，後期オリエンテーション期間に資料を配布して説明する。								

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション。授業の進め方および課題設定等	（全担当者）
第2回	各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。	（全担当者）
第3回	各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）および事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。	（全担当者）
第4回	各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。	（全担当者）
第5回	各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。	（全担当者）
第6回	各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。	（全担当者）
第7回	各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。	（全担当者）
第8回	各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。	（全担当者）
第9回	各々のグループごとに図書館見学(活用法を学ぶ)1回，犬養木堂記念館訪問1回，高齢者福祉施設訪問2回（ボランティア活動）およびそれに対する事前学習1回を行う。それ以外の授業時には各々のグループに設定された課題についての学習を深める。	（全担当者）
第10回	課題研究　文献精読およびグループ内討論	（全担当者）
第11回	課題研究　文献精読およびグループ内討論	（全担当者）
第12回	プレゼンテーションの方法	（全担当者）
第13回	課題研究　文献精読およびグループ内討論	（全担当者）
第14回	課題研究　発表の準備	（全担当者）
第15回	課題発表会	（全担当者）
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	授業への取り組みや，課題発表について評価する
レポート	40	指示されたレポートを作成し提出し，その内容について評価する。内容を確認後、解説する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	グループ内で，他者の意見を聞き，受け入れ，積極的に発言することが求められる。 積極的な姿勢で参加すること。また，学外訪問の前には事前準備，訪問後には事後学習が求められる。
授業外学修	1.次回授業に用いる関連資料を準備・理解しておく。 2.授業中において学んだことなどを，記録用紙に記入し提出する。 3.課題についてまとめ，プレゼンテーションを行う。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	指定しない

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	なし
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	近隣の施設を訪問することで、地域の歴史を学び高齢者とのコミュニケーションを体験する。設定された課題について、文献・資料を収集、精読し論理的に思考できる能力を養う。	設定された課題について、文献・資料を収集、精読し、あらゆる方面から観察し論理的に思考できる。	設定された課題について、文献・資料を収集、精読し論理的に思考できる。	設定された課題について、文献・資料を収集、精読し、部分的ではあるが論理的に思考できる。	設定された課題について、文献・資料を収集、精読するが、論理的に思考できない。	設定された課題について、文献・資料を収集、精読できない。
技能	セミナーに積極的に参加できる。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、セミナーの内容を十分理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、セミナーの内容をほぼ理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、セミナーの内容を理解している。	セミナーに参加しているが、セミナーの内容を十分に理解していない。	セミナーの内容を理解していない。

科目名	食生活論			授業番号	NU108	サブタイトル			
教員	藤原　三保子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	栄養・食に関わる専門職(管理栄養士・栄養士・栄養教諭等)になるための専門教科を学修するに先立ち，人間にとって「食生活」とは何かを包括的に捉え考えるための入門編の科目である。食の成り立ち，食と環境の関わり，食文化，健康的な食生活，食育の推進について等を講義する。								
到達目標	・食生活の歴史や文化と共に現状の課題について理解できるようになる。 ・食育の推進を担う食の専門家として，今後の食文化の形成に関わっていることを理解できるようになる。 ・自身の食生活に興味・関心をもち見直し，より健康的な食生活を営む知識と能力を身に付けることができるようになる。 ・食の専門家を目指す学生として，食育の推進について理解し考えることができるようになる。 　なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	食生活の概念 食生活の概念を知り，理解する。	
第2回	世界の食生活史（１）DVD「食の文明と未来」 世界の食生活史について知り、理解する。	
第3回	世界の食生活史（２）DVD「日本と世界の食文化」／日本の食生活史 日本と世界の食文化について知り、理解する。	
第4回	日本の食文化（１）DVD「かつおだし」 和食のうま味について知り、理解する。	
第5回	味覚・うま味の科学　DVD「おいしさの科学　味覚研究の最先端２・３」 味覚・おいしさについて知り、理解する。	
第6回	日本の食文化（２） 日本の食文化、お茶の伝来について理解する。	
第7回	日本の食生活の変遷（１） 近現代における日本の食生活の変化について知り、理解する。	
第8回	食生活と安全（１） 環境と食の安全について知り、理解する。	
第9回	日本の食生活の変遷（２） 日本の学校給食の歴史、世界の学校給食、栄養教諭の創設と学校給食法について知り、理解する。	
第10回	ライフステージに応じた食育（１）妊娠前～授乳期・乳児期・幼児期 それぞれのライフステージに応じた食育の指針について知り、理解する。	
第11回	食生活と安全（２）食物アレルギー 食の現代的な諸課題を知り、理解を深め考えることができる。	
第12回	ライフステージに応じた食育　（２）学童期～青年期 学校教育と食育、朝食の大切さを知り、食生活を考えることができる。	
第13回	ライフステージに応じた食育　（３）壮年期　DVD「やさしい栄養学　健康と栄養」 生活習慣病の特徴について知り、壮年期の食生活と健康のつながりについて理解を深める。	
第14回	ライフステージに応じた食育　（４）高齢期 高齢期の健康について考える。 これからの食育（１）災害時に向けた食育とSDGS 災害時に備える食の意識を高め、栄養士としての知識を深める。	
第15回	これからの食育（２）情報化社会における食育　まとめ 食の専門家である栄養士を目指す者として，これからの食育の推進について考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表
レポート		
小テスト		
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他	30	提出物

評価の方法：自由記載	
受講の心得	テキストを事前に読んでくること。健康・栄養・料理や食文化など幅広く食生活に関することに関心をもつよう心がけること。
授業外学修	食生活や食育に関心をもち予習・復習をすること。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
食文化論／食育・食生活論	濱口郁枝・富田圭子・小野真実　編	講談社		2800円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介する。DVD「おいしさの科学　味覚研究の最先端」,「かつおだし」,「日本と世界の食文化」 DVD「アクティブに学ぼうVol.1 身近な食生活」「食の文明と未来」 日本の食文化　和食の継承と食育
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	管理栄養士・栄養教諭：地方自治体(公立小学校・公立中学校）15年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	1年次の学生が栄養士・管理栄養士を目指して学修するにあたり、担当教員の実務経験を活かし、食生活の歴史や文化とともに現代の諸課題について理解を深めさせる。また、ライフステージの特徴と食生活についても興味関心を高め、より健康的な食生活を営むための知識と能力をもたせ、食育の推進を担う食の専門家として考えることができるようにさせる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．食生活の歴史や文化と共に現状の課題について理解できている。	食生活の歴史や文化と共に現状の課題について広範かつ詳細に理解できている。	食生活の歴史や文化と共に現状の課題について広範に理解できている。	食生活の歴史や文化と共に現状の課題について基礎的事項を十分に理解できている。	食生活の歴史や文化と共に現状の課題について基礎的事項を十分に理解していない。	食生活の歴史や文化と共に現状の課題について理解していない。
知識・理解	２．食育の推進を担う食の専門家として、今後の食文化の形成に関わっていることを理解できている。	食育の推進を担う食の専門家として、今後の食文化の形成に関わっていることを広範かつ詳細に理解できている。	食育の推進を担う食の専門家として、今後の食文化の形成に関わっていることを広範に理解できている。	食育の推進を担う食の専門家として、今後の食文化の形成に関わっていることを基礎的事項を十分に理解できている。	食育の推進を担う食の専門家として、今後の食文化の形成に関わっていることを基礎的事項を十分に理解していない。	食育の推進を担う食の専門家として、今後の食文化の形成に関わっていることを理解できている。
思考・問題解決能力	１．自身の食生活に興味・関心をもち見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を身に付けることができる。	自身の食生活に興味・関心をもち見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を広範かつ詳細に身に付けることができる。	自身の食生活に興味・関心をもち見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を広範に身に付けることができる。	自身の食生活に興味・関心をもち見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を基礎的事項を十分に身に付けることができる。	自身の食生活に興味・関心をもち見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を十分に身に付けていない。	自身の食生活に興味・関心をもち見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を身に付けていない。
思考・問題解決能力	２．食の専門家を目指す学生として、食育の推進について考えることができる。	食の専門家を目指す学生として、食育の推進について広範かつ詳細に考えることができる。	食の専門家を目指す学生として、食育の推進について広範に考えることができる。	食の専門家を目指す学生として、食育の推進について基礎的事項を十分に考えることができる。	食の専門家を目指す学生として、食育の推進について基礎的事項を十分に考えることができない。	食の専門家を目指す学生として、食育の推進について考えることができない。

科目名	食生活演習Ⅰ			授業番号	NU109A	サブタイトル			
教員	小野　尚美								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	食事はいろいろな食品を用いて作られ，それらにはさまざまな栄養素が含まれている。摂取した食事について，栄養バランスがとれているかどうかを評価する方法や，食品成分表を用いて栄養価計算をする方法について習得する。また，献立を作成　するために必要となる食品の目安量やおいしく感じる基本濃度について学修する。								
到達目標	・栄養バランスがとれているかどうか評価できる。 ・食品成分表を用いて栄養価計算できる。 ・献立作成に必要な基礎知識を理解し，活用することができる。 なお，本科目はデュプロマポリシーに掲げた学士力のうち，＜技能＞の習得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	五大栄養素とその働きを知ろう（1)炭水化物，脂質，たんぱく質 身近な食品に含まれる栄養素について知る。	
第2回	五大栄養素とその働きを知ろう（2)ビタミン，ミネラル 身近な食品に含まれる栄養素について知る。	
第3回	献立に使う食品を知ろう 食品に含まれる栄養素によりグループ分けをした食品群について理解する。	
第4回	一食分の献立を考えよう 献立作成の手順を理解し，作成する。	
第5回	食品の表示について知ろう 「食品表示法」による食品表示について理解する。	
第6回	食品成分表を使ってみよう（1)食品の分類，食品成分表の項目 食品成分表における食品の分類，収載順について理解する。	
第7回	食品成分表を使ってみよう（2)数値の見方，使い方 食品成分表に収載されている成分値の単位や桁数について理解する。また，「廃棄率」を用いた計算について理解する。	
第8回	食品成分表を使ってみよう（3)食品の成分値 食品成分表の成分項目について理解する。	
第9回	食品成分表を使って栄養価計算をしよう（1)計算の仕方 容量を重量に換算する方法を理解する。 栄養価計算の仕方を理解する。	
第10回	食品成分表を使って栄養価計算をしよう（2)食品の選び方 食品成分表から適切な食品の選び方を理解する。	
第11回	献立作成のための基礎知識（1)食品の目安量と数え方 献立作成が適正な量でできるよう食品の目安量を理解する。	
第12回	献立作成のための基礎知識（2)おいしさの基本濃度 おいしいと感じる適正な濃度について理解する。	
第13回	食生活の移り変わり（1)台所の変化 日本人の食生活がどのように変わってきたかを知る。	
第14回	食生活の移り変わり（2)料理（味付け）の変化 料理の食塩相当量を計算し，味付けが変化した背景について考える。	
第15回	食品成分表を使って栄養価計算をしよう（3)まとめ 食品成分表に収載されている数値を用いた計算の再確認と1食分の栄養価計算をして理解を深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な授業態度・ファイルによって評価する。
レポート	30	課題の内容を正しく理解し記載されているかを評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
小テスト	20	理解度を評価する。次回授業時に解説する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	食生活に関する情報に関心をもつこと。常日頃から自分の食事を意識し，何をどれくらい食べたらよいかを考えながら食事を摂るよう心がけること。
授業外学修	1　テーマに沿った内容について自分で調べる 2　演習内容を振り返りノートにまとめる 3　日常生活の中で摂取した食品について栄養量を調べる 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎	坂本裕子，森美奈子	化学同人	978-4-7598-1826-0	1，700円＋税
日本食品成分表2026 八訂	医歯薬出版　編	医歯薬出版	978-4-263-70175-1	1，700円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	栄養価計算には電卓を使用する。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	１．栄養バランスがとれているかどうか評価できる。	栄養バランスを評価でき，その説明が適切にできる。	複数の方法で栄養バランスを評価できる。	栄養バランスがとれているかどうか評価できる。	栄養バランスを評価する方法が理解できている。	栄養バランスを評価する方法が理解できていない。
技能	２．食品成分表を用いて栄養価計算ができる。	正しい食品の選択ができ，正確に栄養価計算ができる。	食品成分表のどの食品を選択すればよいか正しく理解できており，その数値を用いて栄養価計算できる。	食品成分表のどの食品を選択すればよいかほぼ分かり，その数値を用いて栄養価計算できる。	食品成分表のどの食品を選択すればよいかの理解が不十分であるが，栄養価計算はできる。	食品成分表の分類が理解できておらず，食品を探し出すことが困難である。
技能	３．献立作成に必要な基礎知識を理解し，活用することができる。	献立作成に必要な知識を用いて，献立作成ができる。	献立作成に必要な知識を理解し，食材や調味料の適切な量を把握できている。	献立作成に必要な知識を理解し，調味料の計算等ができる。	献立作成をするため必要な基礎知識については理解できている。	献立作成に必要な基礎知識の理解が不十分である。

科目名	食生活演習Ⅱ			授業番号	NU110A	サブタイトル			
教員	藤原　三保子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態		必修・選択	必修
授業概要	演習を中心とした授業になる。食生活演習Iで学んだ知識・理解を深め，技能をさらに向上させるとともに，基本的な食事構成を理解し献立作成を行う。また作成した献立を栄養計算，食事バランスガイドを用いて評価し，改善する。								
到達目標	○料理のレシピについて知識・理解を深め，作成できるようになる。 ○日常食の献立作成の基本を学び，連続した1週間の食事設計ができるようになる。 ○食事バランスガイドを理解し，これを用いた献立の評価ができるようになる。 ○栄養計算に必要な知識・理解を深め，技能を身に付けることができるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	レシピの基礎知識，レシピの作成（１） レシピの基礎を知り，作成する。	
第2回	レシピの基礎知識，レシピの作成（２） レシピの基礎を知り，作成する。	
第3回	献立の考え方，献立計画の作成（主食・主菜・副菜・汁物），郷土料理，行事食（１） 献立の基礎を知り，郷土料理・行事食についても理解を深め，演習する。	
第4回	献立の考え方，献立計画の作成（主食・主菜・副菜・汁物），郷土料理，行事食（２） 献立の基礎を知り，郷土料理・行事食についても理解を深め，演習する。	
第5回	食事バランスガイドの概要，食事バランスガイドを用いた食事内容の評価（１） 食事バランスガイドについて理解し，献立を評価する。	
第6回	食事バランスガイドの概要，食事バランスガイドを用いた食事内容の評価（２） 食事バランスガイドについて理解し，献立を評価する。	
第7回	1週間の連続した献立の作成，評価，修正（１） 連続した1週間の献立を作成することで，食事設計について考え，基礎となる技能を身に付ける。	
第8回	1週間の連続した献立の作成，評価，修正（２） 連続した1週間の献立を作成することで，食事設計について考え，基礎となる技能を身に付ける。	
第9回	食育サットシステムを活用した献立の評価，食事バランスガイドを用いて評価・修正（１） 食育サットシステムを用いて，より健康的な栄養バランスの整った食事について考え，評価し改善する技能を身に付ける。	
第10回	食育サットシステムを活用した献立の評価，食事バランスガイドを用いて評価・修正（２） 食育サットシステムを用いて，より健康的な栄養バランスの整った食事について考え，評価し改善する技能を身に付ける。	
第11回	1日分の献立作成・栄養計算・評価・修正（１） 1日の献立の栄養計算をすることで，評価し改善に向けて考え修正することができる。	
第12回	1日分の献立作成・栄養計算・評価・修正（２） 1日の献立の栄養計算をすることで，評価し改善に向けて考え修正することができる。	
第13回	発表献立の作成，レシピの作成（１） プレゼンテーションするための１日分の食事献立資料を作成する。	
第14回	発表献立の作成，レシピの作成（２） プレゼンテーションするための１日分の食事献立資料を作成する。	
第15回	作成した献立の発表，まとめ 作成した献立資料をプレゼンテーションして，ディスカッションする。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な授業態度
レポート	80	課題の完成度(ワークシート，授業ファイル等)によって評価する評価後はフィードバックとして、コメントを付けて返却する
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	健康・栄養，調理や料理など幅広く食生活に関することに関心をもつこと。
授業外学修	1　食生活演習Iの内容について復習する 2　講義の内容について自分の言葉でノートに整理する 3　授業で取り上げたほかにもどんな料理があるか調べたり，実際に調理をする。 以上の内容を週1時間以上，学修すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
八訂食品成分表(2025)	香川明夫/監修	女子栄養大学出版部	978-4-7895-1021-9	1500円＋税

使用テキスト：自由記載	「一品料理　５００選」「調理・献立作成の基礎」

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・調理学実習	宮下朋子・村本美代編著	同文書院	978-4-8103-1457-1	2700円+税

参考書：自由記載	自宅にある料理本等も参考図書として使用します

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	管理栄養士・栄養教諭：地方自治体（公立小学校・公立中学校） １５年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．献立作成の基本を理解している。	献立作成の基本を広範かつ詳細に理解している。	献立作成の基本を広範に理解している。	献立作成の基本をおおむね理解している。	献立作成の基本をあまり理解していない。	献立作成の基本を理解していない。
知識・理解	２．郷土料理、行事食を知り、理解している。	郷土料理、行事食を知り、広範かつ詳細に理解している。	郷土料理、行事食を知り、広範に理解している。	郷土料理、行事食を知り、おおむね理解している。	郷土料理、行事食を知り、あまり理解していない。	郷土料理、行事食を知り、理解していない。
知識・理解	３．栄養計算に必要な知識・理解を深める。	栄養計算に必要な知識・理解を広範かつ詳細に深める。	栄養計算に必要な知識・理解を広範に深める。	栄養計算に必要な知識・理解を十分に深める。	栄養計算に必要な知識・理解をあまり深めない。	栄養計算に必要な知識・理解を深めない。
知識・理解	４．食事バランスガイドの基礎・基本を理解している。	食事バランスガイドの基礎・基本を広範かつ詳細に理解している。	食事バランスガイドの基礎・基本を広範に理解している。	食事バランスガイドの基礎・基本をおおむね理解している。	食事バランスガイドの基礎・基本をあまり理解していない。	食事バランスガイドの基礎・基本を理解していない。
思考・問題解決能力	１．食事バランスガイドを用いて献立を評価することができる。	食事バランスガイドを用いて献立を広範かつ詳細に評価することができる。	食事バランスガイドを用いて献立を広範に評価することができる。	食事バランスガイドを用いて献立を十分に評価することができる。	食事バランスガイドを用いて献立をあまり評価することができない。	食事バランスガイドを用いて献立を評価することができない。
思考・問題解決能力	２．1週間の献立を評価し、より良いものにするよう工夫する。	1週間の献立を評価し、より良いものにするように、より一層の工夫をする。	1週間の献立を評価し、より良いものにするよう一層の工夫をする。	1週間の献立を評価し、より良いものにするよう、十分に工夫する。	1週間の献立を評価し、より良いものにするよう、あまり工夫しない。	1週間の献立を評価し、より良いものにするよう工夫しない。
思考・問題解決能力	３．1日分の栄養計算を評価・修正できる。	1日分の栄養計算を広範かつ詳細に評価・修正できる。	1日分の栄養計算を広範に評価・修正できる。	1日分の栄養計算を十分に評価・修正できる。	1日分の栄養計算をあまり評価・修正できない。	1日分の栄養計算を評価・修正できない。
技能	１．料理のレシピの基礎を知り、作成することができる。	料理のレシピの基礎を知り、よりよく作成することができる。	料理のレシピの基礎を知り、よく作成することができる。	料理のレシピの基礎を知り、おおむね作成することができる。	料理のレシピの基礎を知り、あまり作成することができない。	料理のレシピの基礎を知り、作成することができない。
技能	２．1週間の献立を工夫し作成することができる。	1週間の献立をより一層工夫し作成することができる。	1週間の献立を一層工夫し作成することができる。	1週間の献立を工夫しおおむね作成することができる。	1週間の献立を工夫しあまり作成することができない。	1週間の献立を工夫し作成することができない。
技能	３．栄養計算の基本的・基礎的な知識を身に付けることができる。	栄養計算の基本的・基礎的な知識をより一層身に付けることができる。	栄養計算の基本的・基礎的な知識を一層身に付けることができる。	栄養計算の基本的・基礎的な知識をおおむね身に付けることができる。	栄養計算の基本的・基礎的な知識をあまり身に付けることができない。	栄養計算の基本的・基礎的な知識を身に付けることができない。

科目名	食文化調査演習			授業番号	NU115	サブタイトル			
教員	北島　葉子								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	人の栄養に関する幅広い知識を身に付けるためには，食に関する視野の広い学習が必要である。そこで，各自が国内外を問わず，その地の食文化に関する見聞をまとめ，提出することでこの科目の履修とする。ただし，事前にテーマ，訪問地域，期間，方法等について担当教員に相談・報告すること。								
到達目標	各自が決めたテーマにそって，地域の食文化を知り，理解することができる。また，一年後期に実施する工場見学，同時に行う研修をまとめて食文化調査演習の一部とすることができる。 自ら主体的に選んだ課題に沿って学習を進めることができる。 なお，本科目はディプロマーポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	履修説明	
第2回	各自が方法や期間を決定	
第3回	各自が方法や期間を決定	
第4回	各自が方法や期間を決定	
第5回	各自が方法や期間を決定	
第6回	各自が方法や期間を決定	
第7回	各自が方法や期間を決定	
第8回	各自が方法や期間を決定	
第9回	各自が方法や期間を決定	
第10回	各自が方法や期間を決定	
第11回	各自が方法や期間を決定	
第12回	各自が方法や期間を決定	
第13回	各自が方法や期間を決定	
第14回	各自が方法や期間を決定	
第15回	各自が方法や期間を決定	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	100	最終的な到達度を計画書，レポートで評価する。レポートはコメントを記入後，返却する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	何を学習するか，事前に関係文献や書物を検索し，よく読んで，計画，実行すること。
授業外学修	週当たり4時間は学習が必要

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	計画に沿って紹介する。
その他	
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	学修した食文化について理解している。	学修した食文化について、正確に理解し述べることができる。	学修した食文化について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した食文化について、大体述べることができる。	学修した食文化について、正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	学修した食文化について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	学修した食文化に関する知識をもとに課題について考えることができる。	課題に対して論理的整合性を持ち、多角的に考察することができる。	課題に対して、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えることができる。	課題に対して、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項に沿っていない。

科目名	栄養セミナーⅡA			授業番号	NU202	サブタイトル			
教員	坪井　誠二、太田　潤、北島　葉子、安原　幹成、大桑　浩孝、楠本　晃子、山縣　綾香、児玉　彩、佐久山　里奈								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	授業は3つの課題で構成される。 ・野菜を栽培し，農作業による食料の生産を体験し，生産から消費までの一連の過程を体験する。 ・グループ単位で，自らが育てた野菜を用いたレシピを考案し，調理を行い提供する。 ・多様な職域の管理栄養士から話を聞く。								
到達目標	・野菜の旬，食物生産の楽しさ，生育過程を理解する。 ・グループで協力して作業を進め，意見・アイデアを出し合う習慣を身につける。 ・管理栄養士業務および職域についての理解を深める。 なお本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	授業の概要・目的の解説，授業の進め方，菜園の紹介	（全担当者）
第2回	施肥作業	（全担当者）
第3回	夏野菜の植え付け(1)	（全担当者）
第4回	夏野菜の植え付け(2)	（全担当者）
第5回	料理コンテストのメニュー考案・菜園作業	（全担当者）
第6回	菜園作業	（全担当者）
第7回	菜園作業	（全担当者）
第8回	菜園作業・料理コンテストのメニュー試作(1)	（全担当者）
第9回	菜園作業	（全担当者）
第10回	菜園作業	（全担当者）
第11回	菜園作業・料理コンテストのメニュー試作(2)	（全担当者）
第12回	菜園作業	（全担当者）
第13回	菜園作業	（全担当者）
第14回	料理コンテスト	（全担当者）
第15回	菜園の片付けおよびグループ別反省会	（全担当者）
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	80	菜園作業，メニュー試作，料理コンテスト，講和への意欲的な参加態度によって評価する。全体に講評を行う。
レポート	20	菜園日誌，各提出物が，テーマに沿って具体的，論理的に書かれているかによって評価する。個別に、あるいは全体への講評を行う。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・グループ内で他者と協力し，積極的に行動すること。 ・日頃の食生活を振り返り，食べ物への関心を深めること。 ・日頃から広く社会に目を向け，多様な職域に関心を持つこと。
授業外学修	1　予習として，夏野菜の栽培について調べ，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，料理の考案・試作，多様な職域の調査を行う。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	指定しない

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
態度	野菜を栽培を通して野菜の旬，食物生産の楽しさ，生育過程を理解する	グループで自ら調べ、野菜の品種の特性に応じた栽培が適切にできる	農業指導員の指導の下、野菜の品種の特性に応じた栽培が適切にできる	農業指導員の指導および援助の下、野菜の品種の特性に応じた栽培ができる	野菜の品種の特性に応じた栽培には、農業指導員による多くの指導・援助が必要である	農業指導員の指導下でも、野菜の品種の特性に応じた栽培が困難である

科目名	栄養セミナーⅡB			授業番号	NU203	サブタイトル			
教員	坪井　誠二、太田　潤、北島　葉子、安原　幹成、大桑　浩孝、楠本　晃子、山縣　綾香、佐久山　里奈								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	この授業は以下の課題で構成される。 ・野菜を栽培し，農作業による食料の生産を体験し，生産から消費までの一連の過程を体験する。 ・自らが育てた野菜の配布，加工を行う。 ・多様な職域の管理栄養士にインタビューを行う。								
到達目標	・野菜の旬，食物生産の楽しさ，難しさを理解する。 ・グループで協力して作業を進め，意見・アイデアを出し合う習慣を身につける。 ・管理栄養士業務および職域についての理解を深める。 なお本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	授業の概要・目的の解説，授業の進め方について	（全担当者）
第2回	施肥作業・冬野菜の植え付け(1)	（全担当者）
第3回	冬野菜の植え付け(2)	（全担当者）
第4回	菜園作業	（全担当者）
第5回	菜園作業	（全担当者）
第6回	菜園作業	（全担当者）
第7回	菜園作業	（全担当者）
第8回	菜園作業	（全担当者）
第9回	菜園作業・インタビューの内容説明	（全担当者）
第10回	菜園作業・インタビューの準備(1)	（全担当者）
第11回	菜園作業・インタビューの準備(2)	（全担当者）
第12回	菜園作業・インタビューの準備(3)	（全担当者）
第13回	菜園の片付け・インタビューの内容確認	（全担当者）
第14回	職域別管理栄養士へのインタビュー	（全担当者）
第15回	インタビュー結果のまとめ	（全担当者）
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	80	菜園作業，インタビュー活動への意欲的な取り組み姿勢により評価する。
レポート	20	菜園日誌，各提出物が，テーマに沿って具体的，論理的に書かれているかによって評価する。内容を確認後、解説する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・グループ内で他者と協力し，積極的に行動すること。 ・日頃の食生活を振り返り，食べ物への関心を深めること。 ・日頃から広く社会に目を向け，多様な職域に関心を持つこと。
授業外学修	1　予習として，冬野菜の栽培について調べ，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，多様な職域の調査，料理の考案を行う。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	指定しない

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
態度	グループで協力して菜園作業・調理を進め、管理栄養士業務及び職域について理解を深める。	積極的に菜園作業・調理を進め、管理栄養士業務及び職域について十分理解している。	積極的に菜園作業・調理を進め、管理栄養士業務及び職域についてほぼ理解している。	菜園作業・調理を進め、管理栄養士業務及び職域について理解している。	菜園作業・調理を進め、管理栄養士業務及び職域について理解していない。	菜園作業・調理に対して消極的であり、管理栄養士業務及び職域について理解していない。

科目名	栄養セミナーⅢA			授業番号	NU304	サブタイトル			
教員	井之川 仁、小野 尚美、古川 愛子、山﨑 真未、髙坂 由理、福島 彩子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	この授業は２人の教員と数人の学生がグループを構成し，地域の人々を対象とした健康・栄養・食生活の講座を企画，準備，実施するという実践的な学習形態の授業である。各グループは3年前期までに修得した知識・技能を活用して，所定の課題に沿って講座を企画し，内容について自主的に学習を進めるとともに，実施に必要な調理，実験等の手技を身につける。この間担当教員は学生の自主性を尊重しつつ，適宜助言を与える。 また，地域住民など外部と関わる際に求められる社会人としてのマナーを身につけるため，マナー講座を実施する。								
到達目標	・課題について理解し，必要な技術が身につく。 ・自主的な学習態度が身につく。 ・グループで協力し，計画的に企画を進める力が身につく。 ・目的を達成することの意義を理解し，実践できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1回 授業の概要・目的の解説，授業の進め方，各グループの課題について （全担当者） 第2～14回 各グループでの企画，準備，実施，マナー講座受講 （全担当者） 想定されるテーマ ・公民館での健康教室など，地域と連携した健康増進啓発活動 ・幼少児に対する食育活動 ・JA全農おかやまとの連携事業 ・岡山市保健所健康づくり課との連携事業 など 第15回 各グループの活動のまとめ （全担当者）								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	意欲的，協力的な受講態度，グループ活動への貢献，発表・討議への参加によって評価する。
レポート	30	授業内容のまとめとして学修記録を作成し，グループ内での意見・活動を踏まえた上で，自分はどのように考えるか，活動するかを記録する。レポートについては，確認し返却をする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	グループ内で，他者と協力し，積極的に行動することが求められる。 授業時間外にも自主的に調査・学習することが求められる。
授業外学修	1 予習として，活動内容に関連する参考文献を読み，活動目的や課題を明らかにする。 2 復習として，活動記録を整理し，記録ノートを書く。 3 発展学修として，後期に開催される公開講座での発表に向け準備を行う。 以上の内容を，授業外に週当たり１時間以上取り組むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	3年前期までに使用した全ての教科書
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	市町村，病院等の管理栄養士
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	市町村の管理栄養士
実務経験をいかした教育内容	地域における管理栄養士の活動に関する基本的知識や技術を修得させる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	2年生後期までに学修した知識や技術をもとに課題について考えることができ、企画、実施することができる。	課題に対して論理的整合性を持ち、多角的に考察し、しっかりと企画、実施ができる。	課題に対して、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えることができる。	課題に対して、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項に沿っていない。
技能	課題についてグループ内の学生と協力して企画、実行することができる。地域など学外団体とも連携し、活動することができる。	グループ内の学生と協力して課題の目的にしっかりと沿って企画、実行することができ、良好なコミュニケーションを通じて、地域など学外団体とも連携し、活動することができる。	グループ内の学生と協力して課題の目的に沿って企画、実行することができ、コミュニケーションを通じて、地域など学外団体とも連携し、活動することができる。	グループ内の学生と協力して課題について企画、実行することができ、コミュニケーションを通じて、地域など学外団体とも連携し、ほぼ活動することができる。	十分ではないが、グループ内で課題についての企画、実行することができるものの、地域など学外団体とは活動し難い。	グループ内で課題についての企画、実行することが難しく、地域など学外団体と活動できない。
態度	演習に積極的に参加できる。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を十分理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	演習に参加しているが、演習内容を十分に理解していない。	演習内容を理解していない。

科目名	栄養セミナーⅢ B			授業番号	NU305	サブタイトル			
教員	井之川 仁、小野 尚美、古川 愛子、髙坂 由理								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	この授業は２人の教員と数人の学生がグループを構成し，地域の人々を対象とした健康・栄養・食生活の講座を企画，準備，実施するという実践的な学習形態の授業である。各グループは3年前期までに修得した知識・技能を活用して，所定の課題に沿って講座を企画し，内容について自主的に学習を進めるとともに，実施に必要な調理，実験等の手技を身につける。この間担当教員は学生の自主性を尊重しつつ，適宜助言を与える。 また，地域住民など外部と関わる際に求められる社会人としてのマナーを身につけるため，マナー講座を実施する。								
到達目標	・課題について理解し，必要な技術が身につく。 ・自主的な学習態度が身につく。 ・グループで協力し，計画的に企画を進める力が身につく。 ・目的を達成することの意義を理解し，実践できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1回 授業の概要・目的の解説，授業の進め方，各グループの課題について （全担当者） 第2～14回 各グループでの企画，準備，実施，マナー講座受講 （全担当者） 想定されるテーマ ・公民館での健康教室など，地域と連携した健康増進啓発活動 ・幼少児に対する食育活動 ・JA全農おかやまとの連携事業 ・岡山市保健所健康づくり課との連携事業 など 第15回 各グループの活動のまとめ （全担当者）								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	意欲的，協力的な受講態度，グループ活動への貢献，発表・討議への参加によって評価する。
レポート	30	授業内容のまとめとして学修記録を作成し，グループ内での意見・活動を踏まえた上で，自分はどのように考えるか，活動するかを記録する。レポートについては，確認し返却をする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	グループ内で，他者と協力し，積極的に行動することが求められる。 授業時間外にも自主的に調査・学習することが求められる。
授業外学修	1 予習として，活動内容に関連する参考文献を読み，活動目的や課題を明らかにする。 2 復習として，活動記録を整理し，記録ノートを書く。 3 発展学修として，後期に開催される公開講座での発表に向け準備を行う。 以上の内容を，授業外に週当たり１時間以上取り組むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	3年前期までに使用した全ての教科書
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	市町村，病院等の管理栄養士
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	市町村の管理栄養士
実務経験をいかした教育内容	地域における管理栄養士の活動に関する基本的知識や技術を修得させる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	3年生前期までに学修した知識や技術をもとに課題について考えることができ、企画、実施することができる。	課題に対して論理的整合性を持ち、多角的に考察し、しっかりと企画、実施ができる。	課題に対して、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えることができる。	課題に対して、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項に沿っていない。
技能	課題についてグループ内の学生と協力して企画、実行することができる。地域など学外団体とも連携し、活動することができる。	グループ内の学生と協力して課題の目的にしっかりと沿って企画、実行することができ、良好なコミュニケーションを通じて、地域など学外団体とも連携し、活動することができる。	グループ内の学生と協力して課題の目的に沿って企画、実行することができ、コミュニケーションを通じて、地域など学外団体とも連携し、活動することができる。	グループ内の学生と協力して課題について企画、実行することができ、コミュニケーションを通じて、地域など学外団体とも連携し、ほぼ活動することができる。	十分ではないが、グループ内で課題についての企画、実行することができるものの、地域など学外団体とは活動し難い。	グループ内で課題についての企画、実行することが難しく、地域など学外団体と活動できない。
態度	演習に積極的に参加できる。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を十分理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	演習に参加しているが、演習内容を十分に理解していない。	演習内容を理解していない。

科目名	管理栄養士演習Ⅰ			授業番号	NU316	サブタイトル	(習得科目の振り返り)		
教員	楠本　晃子、坪井　誠二、井之川　仁、太田　潤、北島　葉子、安原　幹成、大桑　浩孝								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	2年後期までに学修した科目を復習し，管理栄養士国家試験合格に向け，知識と理解を深める。								
到達目標	これまでに学修した事項を復習し，理解と知識を集積する。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	1　自主学習：テキスト，教科書で復習し，その内容に関する試験で知識の確認を行う。 2　講義：各教員により，講義内容の再確認・試験を行う。 1，2の内容について週間スケジュールを作成し，授業を進める。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト	40	各回の主要なポイントの理解を評価する。小テスト後に解説を行う。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	管理栄養士国家試験合格を目指し，自ら学修し理解を深めること。理解が不十分な分野については，教員に積極的に質問し，確実に理解すること。
授業外学修	毎週最低4時間は講義内容に沿った学習を行うこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、2年後期まで学修した内容について理解している。	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、2年後期まで学修した内容について、正確に理解し述べることができる。	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、2年後期まで学修した内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、2年後期まで学修した内容について、大体述べることができる。	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、2年後期まで学修した内容について、正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、2年後期まで学修した内容について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	2年後期まで学修した知識をもとに課題について考えることができる。	課題に対して論理的整合性を持ち、多角的に考察することができる。	課題に対して、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えることができる。	課題に対して、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項に沿っていない。

科目名	管理栄養士演習Ⅱ			授業番号	NU317	サブタイトル	(習得科目の振り返り)		
教員	坪井　誠二、太田　潤、小野　尚美、古川　愛子、楠本　晃子、髙坂　由理								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	2年後期までに学修した科目を復習し，管理栄養士国家試験合格に向け，知識と理解を深める。								
到達目標	これまでに学修した事項を復習し，理解と知識を集積する。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	1　自主学習：テキスト，教科書で復習し，その内容に関する試験で知識の確認を行う。 2　講義：各教員により，講義内容の再確認・試験を行う。 1，2の内容について週間スケジュールを作成し，授業を進める。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト	40	各回の主要なポイントの理解を評価する。小テスト後に解説を行う。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	管理栄養士国家試験合格を目指し，自ら学修し理解を深めること。理解が不十分な分野については，教員に積極的に質問し，確実に理解すること。
授業外学修	毎週最低4時間は講義内容に沿った学習を行うこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、3年前期まで学修した内容について理解している。	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、3年前期まで学修した内容について、正確に理解し述べることができる。	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、3年前期まで学修した内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、3年前期まで学修した内容について、大体述べることができる。	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、3年前期まで学修した内容について、正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	管理栄養士国家試験受験資格取得に向けて、3年前期まで学修した内容について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	3年前期まで学修した知識をもとに課題について考えることができる。	課題に対して論理的整合性を持ち、多角的に考察することができる。	課題に対して、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えることができる。	課題に対して、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項に沿っていない。

科目名	栄養セミナーⅣA			授業番号	NU406	サブタイトル			
教員	坪井　誠二、井之川　仁、小野　尚美、北島　葉子、安原　幹成、大桑　浩孝、古川　愛子、楠本　晃子、山﨑　真未								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	担当教員のもとで教員と共に選んだ課題について課題研究を進める。研究の方法と問題解決方法を学び，自ら学ぶ。 調査・研究成果をまとめて発表する。								
到達目標	・興味あるテーマを深く掘り下げ，仮説を検証する作業を通じて，科学研究の手法を獲得し，研究の意義を理解する。 ・調査・研究した成果についてまとめ，文書・媒体等を用いて発表する力を身につける。 ・本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第1～15回　各卒業研究ゼミでの活動　　（全担当者） 想定されるテーマ ・感染性胃腸炎の発生動向に関する解析 ・食品の機能性 ・微生物利用食品の機能性 ・健康に影響を及ぼす生活習慣と食習慣や栄養素摂取の関連 ・栄養・エネルギーセンサーと生体反応 ・保健統計データの解析 ・広汎性発達障害（自閉症）青年の自立を目指した健康料理教室の開催 ・食文化の継承 ・地域おける健康推進活動 ・米粉の調理性・米粉を利用した料理 ・女子高校生における隠れ肥満と血中脂肪酸組成との関連 ・真空調理								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	学習態度（意欲的か，行動が伴っているかなどを評価する）
レポート	50	課題の理解度（ディスカッション，レポート等から評価する）内容を確認後、解説する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	グループ内で，他者と協力し，積極的に行動することが求められる。 授業時間外にも自主的に調査・学習することが求められる。
授業外学修	毎週最低4時間は授業外学習を行うこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜指示する
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	興味あるテーマを深く掘り下げ、仮説を検証する作業を通じて科学研究の手法を獲得し、研究の意義を理解する。	課題に対して、論理的整合性を持ち、多角的に考察することができる。	課題に対して、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えることができる。	課題に対して、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項に沿っていない。
態度	セミナーに積極的に参加できる。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を十分に理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	演習に参加しているが、演習内容を十分に理解していない。	演習内容を理解していない。

科目名	栄養セミナーⅣB			授業番号	NU407	サブタイトル			
教員	坪井　誠二、井之川　仁、小野　尚美、北島　葉子、安原　幹成、大桑　浩孝、古川　愛子、楠本　晃子								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	この授業は次のテーマからなる ・担当教員のもとで進めた調査・研究成果を文書・媒体にまとめて発表する。発表内容を説明し，質疑に応じる。 ・担当教員のもとで進めた調査・研究成果を最終的に文章として纏め，卒業論文を作成する。 ・卒業後の進路に応じた学習を進め，４年間の学びの集大成を図る。								
到達目標	・調査・研究した成果についてまとめ，文書・媒体等を用いて発表する力と論文作成能力を身につける。 ・自らの将来に対応する学力，知力，技能をまとめ，社会に貢献する人材となる。 ・本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第1～4回　各卒業研究グループでの活動　（全担当者） 第5～15回　各自の進路に応じた学習　（全担当者） (1)自主学習：卒業研究等のグループ単位で学習を進める。 (2)自己学習：卒業後の進路に応じた学習を進め，教科書の見直し等を行い，4年間の学びの集大成を行う。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	卒業研究への取り組み態度で評価する。
レポート	50	卒業研究の提出論文で評価する。発表後にコメントする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	大学生活の集大成であることを自覚し，目的達成のために万全の体制で臨むことが求められる。 中長期の計画を立て，それに従い学習・行動することが必要となる。 グループ学習以外での自己学習により，学力・知力・技能は効率的に集積される。自主学習を強く推奨する。
授業外学修	毎週最低4時間は予習復習を行うこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜指示する
その他	
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	興味あるテーマを深く掘り下げ、仮説を検証する作業を通じて研究の意義を理解する。	課題に対して、論理的整合性を持ち、多角的に考察することができる。	課題に対して、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えることができる。	課題に対して、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項に沿っていない。
態度	セミナーに積極的に参加できる。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を十分に理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容を理解している。	質問などを積極的に行い疑問を解決し、演習内容をほぼ理解している。	演習に参加しているが、演習内容を十分に理解していない。	演習内容を理解していない。

科目名	運動指導論			授業番号	NU411	サブタイトル			
教員	井之川 仁								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	運動の重要性は、生活習慣病の予防にとどまらず、認知機能の維持・向上やメンタルヘルスの改善にも大きく寄与することが再評価されている。特に、フレイルの予防や健康寿命の延伸において、適切な運動の実践は不可欠である。さらに近年の研究により、運動が腸内環境の改善や免疫機能の調整にも関与することが明らかになり、全身の健康維持に果たす役割が一層注目されている。運動習慣の定着が生活の質（QOL）の向上に直結することが科学的に示される中で、運動と栄養の相乗効果を理解し、適切なアドバイスを行うことは、より包括的な健康支援につながる。管理栄養士が運動の基本的な知識を持ち、多職種と連携しながら支援に関与する役割は今後ますます重要になると考えられる。本講義では、スポーツ栄養学と健康運動指導の視点から、最新のエビデンスに基づく運動の健康効果を学び、管理栄養士として適切な運動アドバイスができるための実践的な知識とスキルを習得する。加えて健康教育に関する資格として日本健康マスターの資格取得を目指す。本授業は多様なメディアにより行う。メディアによる授業の回数は5回程度予定している。実施方法はオンライン（オンデマンド）で行う。第2回から第6回はオンデマンドによる授業を行う予定である。予定は変更となることもあるので、かならずクラスルームで確認すること。								
到達目標	健康づくりの指導の一環として，現場で簡単な運動指導ができる力をつけるために，ライフステージ別健康づくりと運動指導について学び，安全で簡単な運動指導法を習得することができる。 本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	"イントロダクション―運動と健康の関係 運動の生理学的・心理学的効果を概観し、健康寿命の延伸や生活習慣病予防における役割を理解する。講義全体の流れを説明し、各ライフステージの特徴と運動の意義について紹介する。"	
第2回	"子どもの運動と成長発達 子どもの運動は骨・筋肉・神経系の発達に大きな影響を与える。本講義では、運動が発育・認知機能・社会性形成に与える影響を学び、適切な運動プログラムを考察する。" ※オンデマンド	
第3回	"女性の健康と運動―ライフステージごとの課題 女性の健康課題（思春期、妊娠、更年期、閉経後）における運動の役割を学ぶ。特に、骨密度・ホルモン・月経周期・妊娠期の運動の影響を中心に解説する。" ※オンデマンド	
第4回	"中年期の運動と健康―生活習慣病予防 中年期における運動の役割を、肥満、糖尿病、高血圧などの生活習慣病予防の観点から学ぶ。また、筋力トレーニングと有酸素運動のバランスについて考察する。" ※オンデマンド	
第5回	"高齢者の運動とフレイル予防 高齢者におけるサルコペニア・フレイルのリスクを軽減するための運動の役割を学ぶ。バランス能力、柔軟性、筋力維持の観点から適切な運動を考察する。" ※オンデマンド	
第6回	"アスリートのコンディショニングとパフォーマンス向上 競技パフォーマンスを最大化するための運動・栄養・休息の科学を学ぶ。エネルギー供給系の役割や、オーバートレーニング症候群の予防策について考察する。" ※オンデマンド	
第7回	"運動と免疫―健康維持のためのエクササイズ 運動は免疫機能にどのように影響を与えるのかを解説し、感染症予防や炎症制御における役割を理解する。過度な運動が免疫を抑制するリスクも考察し、適切な運動量を探る。"	
第8回	"睡眠と運動パフォーマンスの関係 睡眠は身体の回復やパフォーマンス向上に不可欠であり、運動と相互に影響を与える。本講義では、睡眠の生理学、運動が睡眠に及ぼす影響、睡眠不足が運動能力や健康に与える影響を学ぶ。"	
第9回	"栄養と運動―適切なエネルギー摂取の考え方 運動の効果を最大化するための栄養戦略を学ぶ。エネルギーバランス、三大栄養素の役割、運動前後の食事タイミングについて解説し、パフォーマンス向上や疲労回復を目的とした適切な食事法を考察する。"	
第10回	"運動とストレス管理―メンタルヘルスへの影響 運動はストレスホルモンの分泌を調整し、精神的な健康にも良い影響を与える。本講義では、運動がストレスや不安・うつに与える影響を学び、心身の健康を維持するための実践的な方法を学ぶ。"	
第11回	"加齢と認知機能―運動による認知症予防 認知機能の低下を防ぐために運動がどのように役立つのかを解説する。BDNF（脳由来神経栄養因子）の役割や、有酸素運動・筋力トレーニングが認知機能向上に与える影響を学ぶ。"	
第12回	"運動指導の実践―効果的な運動プログラムの組み方 対象者（子ども、成人、高齢者、アスリート）ごとに適した運動プログラムを設計するための基礎知識を学ぶ。運動強度・頻度・時間・種類（FITT原則）を考慮し、科学的根拠に基づいたトレーニング計画を作成する。"	
第13回	"テクノロジーと運動―ウェアラブルデバイスの活用 スマートウォッチやフィットネストラッカーなどのウェアラブルデバイスを活用した運動管理の実例を学ぶ。心拍数、睡眠、活動量のモニタリング方法を考察し、データを活用した健康管理法を理解する。"	
第14回	"社会環境と運動―地域・職場での健康促進 職場や地域社会における運動促進の重要性を学ぶ。企業の健康経営や自治体の運動施策を事例に、社会全体での健康向上の可能性を考察する。"	
第15回	"総括とディスカッション―健康的なライフスタイルの実践 講義全体のまとめを行い、学んだ知識をもとに健康的なライフスタイルをどのように実践するかをディスカッションする。個人ごとの健康目標を設定し、持続可能な健康習慣の形成について考える。"	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	15	各回の主要なポイントの理解度を評価する。解答例を配布し、解説する。
定期試験	85	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	フィードバックの方法。 小テストについては都度講評を行う。
受講の心得	具体的な運動手法を習得するために，実践を学ぶという意識を持って受講すること。
授業外学修	（１）授業の初めに予習に関するテストを行うので，テキストや参考文献を次回学習までに読む。 （２）前回授業内容に関する小テストも行うので復習を行う。 （３）随時に出す課題について取り組む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「100年ヘルスケアバイブル Ⅰ」一般社団法人 日本健康生活推進協会（健康マスター検定協会） 「健康運動実践指導者用テキスト」公益財団法人 健康・体力づくり事業財団事業団発行 「アスリートのための栄養・食事ガイド」小林修平・樋口満　編著者　第一出版
その他	授業内容に応じて，教室を変更する場合がある。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	健康づくりと運動について説明できる。	健康づくりと運動について具体的に説明できる。	健康づくりと運動について説明できる。	健康づくりと運動について理解している。	健康づくりと運動について理解が不十分である。	健康づくりと運動について理解していない。
知識・理解	運動と栄養について説明できる。	運動と栄養について対象者別に具体的に説明できる。	運動と栄養について対象者別に説明できる。	運動と栄養について対象者別に理解している。	運動と栄養について対象者別の理解が不十分である。	運動と栄養について理解していない。
知識・理解	運動指導について説明できる。	運動指導について具体的に説明できる。	運動指導について説明できる。	運動指導について理解している。	運動指導について理解が不十分である。	運動指導について理解していない。
思考・問題解決能力	運動アドバイスの実践的活用ができる。	個々の対象者に応じた適切な運動指導ができ、他職種と連携した健康支援の提案が可能である。	適切な運動アドバイスができ、対象者の状況を考慮した提案ができる。他職種との連携の重要性を理解している。	運動アドバイスの基本的な知識を持ち、一般的な指導ができる。他職種との連携の意義を理解している。	運動アドバイスに関する知識が限定的で、対象者の特性を考慮した指導が難しい。他職種との連携の意識が不十分。	運動アドバイスの知識が乏しく、実践的な応用ができない。他職種との連携の概念も理解できていない。
思考・問題解決能力	課題発見と対応策の立案ができる。	生活習慣病予防、フレイル予防、メンタルヘルス向上など、運動を活用した多様な健康課題を的確に分析し、実践的な解決策を提案できる。	健康課題を的確に分析し、運動を活用した実践的な解決策を考えられる。	健康課題を分析し、基本的な運動による解決策を提案できる。	健康課題の分析が浅く、運動を活用した解決策の具体性に欠ける。	健康課題の把握ができず、運動を活用した解決策を考えることが難しい。

科目名	フードコーディネート論			授業番号	NU414	サブタイトル			
教員	山﨑　真未								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	フードコーディネーターとは，『新しい食の「ブランド」「トレンド」を作る，食の「開発」「出演」「運営」のクリエイターと定義されている。 そこで本講義では，料理を提供する場面で快適な食事ができるための料理・メニュー・食卓・食空間を含めた食（フード）のコーディネートについて講義する。								
到達目標	本講義では，レストランやファストフードをはじめとする外食産業のオープニングからメニュープランニング，ビジネス展開の計画まで，さらに，料理を盛り付ける食器や，テーブルクロス，照明や色彩など快適な食空間をトータルにコーディネートできる力を身につける。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	フードコーディネートとは何か フードコーディネートの概念を理解し、食の「開発」「演出」「運営」に関する基本的な考え方について学ぶ。	
第2回	文化（食文化）「食の歴史と文化と風土」～日本料理～ 日本料理の歴史と食文化について理解を深めるとともに、精進料理、本膳料理、懐石料理、会席料理など、日本料理の種類とその特徴について学ぶ。	
第3回	文化（食文化）「食の歴史と文化と風土」～歴と旬～ 日本の四季および二十四節気の考え方を踏まえ、行事食や郷土料理との関わりについて学ぶ。 季節の移り変わりや地域の特性が食文化にどのように反映されてきたかを理解し、現代の食生活ついて考察する。	
第4回	文化（食文化）「食の歴史と文化と風土」～外国の食事～ 外国の食事を題材に、世界各地の人々の食生活や食文化について学ぶ。 各国の気候、歴史、宗教、社会的背景が食文化に与える影響を理解し、多様な食のあり方について考察する。	
第5回	文化（食文化）「食の歴史と文化と風土」～食品・食材の知識～ 食品・食材に関する基礎的知識として、肉類、魚介類、豆類、きのこ類、野菜類、海藻類、果実類、穀類、乳製品および加工食品、調味料について学ぶ。 各食品の特徴や役割を理解し、食生活への活用について考察する。	
第6回	科学（健康と栄養と安全）～厨房の基礎知識～ 厨房の基礎知識および厨房計画をはじめ、業種・業態、店舗コンセプト、販売数予測、厨房レイアウトについて学ぶ。 これらを通して、飲食店運営におけるフードコーディネーターの役割とその重要性を理解する。	
第7回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～食空間のあり方と内装デザイン～ 食空間の基本要素やデザインコンセプト、外装・内装、図面、設備、音楽を含む店舗計画を学び、開店までの一連の流れについて学ぶ。 あわせて、食空間づくりにおけるフードコーディネーターの役割について理解を深める。	
第8回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～照明計画～ 照明計画をはじめ、照明器具の種類と特徴、輝度・照度、色温度、演色性および光の演出について学ぶ。 照明が空間や食の印象に与える影響を理解し、適切な照明計画の基礎を身につける。	
第9回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～食空間とテーブルコーディネート（中国）～ テーブルコーディネートの基本的理論をはじめ、6W3Hの考え方、料理と器の関係について学ぶ。 食事空間における演出の基礎を理解し、目的や場面に応じたテーブルコーディネートの考え方を身につける。 あわせて、中国料理における食空間の構成や特徴について理解を深める。	
第10回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～食空間とテーブルコーディネート（洋食）～ 洋食のコーディネートアイテムとして、洋食器、パーソナルアイテムおよびパブリックアイテム、カトラリー類、サービスアイテム、グラス、テーブルクロス、食卓装飾品、テーブルセッティングについて学ぶ。 洋食における食卓演出の基本とその特徴を理解する。	
第11回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～食空間とテーブルコーディネート（和食）～ 和食のコーディネートにおける約束事をはじめ、和の食卓、食器、食具について学ぶ。 あわせて、全国各地の器の特徴について理解を深めるとともに、文様や土器・石器の違いなど、素材や表現の多様性について学ぶ。	
第12回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～カラーコーディネート～ 食空間におけるカラーコーディネートをはじめ、色のイメージや心理的効果、色の三属性（色相・明度・彩度）、色調および配色について学ぶ。 色彩が空間や食の印象に与える影響を理解し、適切なカラーコーディネートの基礎を身につける。	
第13回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～テーブルマナーとサービス～ 西洋料理、日本料理、中国料理における食事のマナーをはじめ、飲酒のマナー、茶や菓子のいただき方、サービスとマナーについて学ぶ。 多様な食文化に応じた所作や礼儀を理解し、適切な食事マナーの基礎を身につける。	
第14回	経済・経営（経済的概念と食関連事業経営実務）～フードマネジメント～ フードマネジメントを中心に、食事形態と食市場の動向、マーケティングおよび経営の基礎知識、マネジメントについて学ぶ。 食に関わる事業を運営するための基本的な考え方を理解する。	
第15回	経済・経営（経済的概念と食関連事業経営実務）～食の企画・構成・演出の流れ～ 食品流通とメニュープランニングをはじめ、食のトレンドの読み方、商品開発、食企画の立案から構成・演出までの流れ、企画書の作成について学ぶ。 あわせて、デジタル技術の進展とそれに伴う社会の変化についても学ぶ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
定期試験	100	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	これまでに学んできた専門教育科目の基本的事項の理解と復習を行うこと。また，食に関する新聞記事等に関心をもち，読むなど積極的に学修すること。
授業外学修	(1)予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 (2)復習として，小テストの見直しをする。 (3)発展学修として，食に関する新聞記事等を読み，まとめる。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・フードコーディネーター教本	特定非営利活動法人日本フードコーディネーター協会	柴田書店		3000

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．文化（食文化）「食の歴史と文化と風土」の知識を身につけている	食の歴史と文化と風土について、授業内容を超えて自主的な学修が認められる。	食の歴史と文化と風土についての授業内容をほぼ100%理解し、知識が身についている。	食の歴史と文化と風土について十分な知識を身につけている。	食の歴史と文化と風土についての知識が不十分である。	食の歴史と文化と風土についての知識が身についていない。
知識・理解	２．科学（健康と栄養と安全）「厨房の基礎知識」を身につけている	健康と栄養と安全について、授業内容を超えて自主的な学修が認められる。	健康と栄養と安全についての授業内容をほぼ100%理解し、知識が身についている。	健康と栄養と安全について十分な知識が身についている。	健康と栄養と安全についての知識が不十分である。	健康と栄養と安全についての知識が身についていない。
知識・理解	３．デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）の知識を身につけている	食環境デザインと芸術的創造性について、授業を超えて自主的な学修が認められる。	食環境デザインと芸術的創造性についての授業内容をほぼ100%理解し、知識が身についている。	食環境デザインと芸術的創造性について十分な知識が身についている。	食環境デザインと芸術的創造性についての知識が不十分である。	食環境デザインと芸術的創造性についての知識が身についていない。
知識・理解	４．経済・経営（経済的概念と食関連事業経営実務）の知識を身につけている	経済的概念と食関連事業経営実務について、授業内容を超えて自主的な学修が認められる。	経済的概念と食関連事業経営実務についての授業内容をほぼ100%理解し、知識が身についている。	経済的概念と食関連事業経営実務について十分な知識が身についている。	経済的概念と食関連事業経営実務についての知識が不十分である。	経済的概念と食関連事業経営実務についての知識が身についていない。
態度	１．授業に積極的に取り組むことができている	授業や課題へ積極的に取り組むことができている。さらに、予習・復習に自主的に取り組み、疑問点を明らかにし、質問ができている。	授業や課題へ積極的に取り組むことができている。	授業に出席し、課題にも取り組めている。	授業には出席しているが、課題に十分に取り組めていない。	授業を休み、課題にも取り組めていない。

科目名	管理栄養士専門演習			授業番号	NU418	サブタイトル	（全科目の復習と模擬試験）		
教員	坪井　誠二、井之川　仁、小野　尚美、北島　葉子、安原　幹成、大桑　浩孝、古川　愛子、楠本　晃子、山﨑　真未、髙坂　由理、太田　潤								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	3年後期までに学習した全科目を復習し，管理栄養士国家試験合格に向け，さらに知識と理解を深める。自主学習をグループ別に実施し，グループでの知識の確認を行う。必要に応じて教員による講義を実施し，理解不十分な内容について解説する。模擬試験を定期的に実施し，学習到達度を測るとともに，以後の学習計画のための指標とする。								
到達目標	・管理栄養士資格の取得を目指し，知識を統合し，問題解決能力を高める。 ・専門職として，生涯を通して自律的に学習を継続する力を身につける。 ・本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	前期オリエンテーション時に本授業での到達目標、各分野の講義スケジュール、到達目標達成のための本授業での取組などについて説明を行う。								
授業計画 自由記載	第1～15回（全担当者交代） (1)自主学習：栄養セミナーIV等のグループ単位で目標を定め，模擬試験の解説・見直し等を行う。 (2)自己学習：模擬試験の振り返り，教科書の見直し等を行う。 (3)講義：各教員により，講義内容の再確認，模擬試験の解説等を行う。 (4)模擬試験：定期的に模擬試験や過去の国家試験問題などの問題を解き，理解度の指標を得る。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
模擬試験		
定期試験	100	最終的な理解度を評価する
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	大学生活の最終年度にあたることを自覚し，目的達成へ向けて万全の体制で臨むこと。学習に関するスケジュールを立案し，学習計画を自己管理すること。理解できていない内容については教員に積極的に質問し，確実に理解すること。自ら学習する意識を持つこと。社会人となる最終準備段階であるから，欠席・遅刻をしないことは受講の最低条件である。
授業外学修	毎週最低4時間は講義内容の予習復習を行うこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	『管理栄養士国家試験問題集』，日本給食管理専門学院 編，中央法規 『クエスチョンバンク管理栄養士国家試験問題解説』，医療情報科学研究所 編，MEDIC MEDIA 『受験必修キーワード集』，女子栄養大学管理栄養士国家試験対策委員会 編，女子栄養大学出版部

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『管理栄養士国家試験の要点』，栄養セントラル学院 編，中央法規 『国試の麗人』，RDC管理栄養士センター 監修，RDC管理栄養士センター札幌校 『管理栄養士国家試験の傾向と対策』，管理栄養士教育研究会 編，南江堂
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	3年間で学修した内容を理解している。	3年間で学修した内容について、正確に理解し述べることができる。	3年間で学修した内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	3年間で学修した内容について、大体述べることができる。	3年間で学修した内容について、正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	3年間で学修した内容について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	3年間で学修した知識をもとに健康維持について考えることができる。	課題に対して、論理的整合性を持ち、多角的に考察することができる。	課題に対して、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えることができる。	課題に対して、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが、指示事項に沿っていない。

科目名	教職概論			授業番号	NV101	サブタイトル			
教員	小田　真一								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	教職概論では，教職の意義と内容について学ぶことを目的としている。栄養教諭の免許取得のための最低限の職業論（教職の全体像をつかむとともに，教職に関する基礎的な知識）を学習する。								
到達目標	教育公務員・栄養教諭の役割や職務内容等について，制度的，実体的側面から理解するとともに，必要な法令遵守，社会規範や教職・教育に対する使命，モラル，マナー等を自覚し，実践する態度を身に付ける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの生活と学校 現代の子どもの現状を考えよう	
第2回	学習指導 さまざまな学習指導の内容について知ろう	
第3回	生徒指導・進路指導 新生徒指導提要等から生徒指導の内容を知ろう	
第4回	教育相談 指導に生かす教育相談の手法について知ろう	
第5回	学級経営 子どもが輝く学級経営について知ろう	
第6回	教師に何を求めてきたか考えよう いま何が求められているか考えよう	
第7回	児童生徒と教師 学ぶことと教えることについて考えよう	
第8回	教員養成の制度 教員養成や栄養教諭について考えよう	
第9回	教職課程 教職課程の仕組みと内容について知ろう	
第10回	教員の採用 教員採用の仕組みについて知ろう	
第11回	教員の研修 教員研修の種類と法的根拠等について知ろう	
第12回	教員の地位と身分 地位と身分に関係する法令を知ろう	
第13回	教員の待遇と勤務条件 教員の勤務等について知ろう	
第14回	学校制度 さまざまな学校制度について知ろう	
第15回	学校管理・運営体制 学校の管理体制や運営体制について知ろう	

授業計画　備考2	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表の有無，ノート整理，予習復習の状況によって評価する。
レポート	30	課題に対して意欲的に取り組めているか，自分の考えでまとめられているか等で評価する。提出後、概要について解説する。
小テスト		
確認テスト 学修した内容の理解度等について評価する。	30	全体的な理解度等を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	教育公務員(栄養教諭)の教員免許取得の基礎単位であることから，受講に際しては，教育公務員を志願するにふさわしい言動の在り方を常に考えるとともに，現在の学校教育の課題や教育職員の社会的使命について真剣に考えること。
授業外学修	１．予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点をあらかじめ調べたりしておく。 ２．復習として，課題のレポートやノート整理をする。 ３．発展的学習として，教育に関するニュース収集をし，自分の見解を述べられるようにする。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
教職入門　教師への道	藤本典裕	図書文化	978-4-8100-9720-7	1800

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業において随時紹介する。
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	教員(教頭を含む)28年，小学校校長8年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	教職に関する基礎的な事柄について，教員や学校長としての実践をもとに，より具体的な講義を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	教育公務員の役割や職務内容等について、制度的、実体的側面から理解している。	教育公務員・栄養教諭等の役割や職務内容等について、幅広くかつ深く理解している。	教育公務員・栄養教諭等の役割や職務内容等について、幅広く理解している。	教育公務員・栄養教諭等の役割や職務内容等について、おおむね理解している。	教育公務員・栄養教諭の役割や職務内容等について、基礎的事項を十分理解していない。	教育公務員・栄養教諭等の役割や職務内容等について、基礎的事項を理解していない。
態度	教職を目指す学生として、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等を自覚し、実践しようとしている	教職を目指す学生として、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等を常に自覚し、求められる教師像を目指して生活や学修に実践しようとしている。	教職を目指す学生として、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等を常に自覚し、求められる教師像を目指して実践しようとしている。	教職を目指す学生として、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等を自覚して実践しようとする態度が見られる	教職を目指す学生として、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等について、他のアドバイスやよきモデルがあれば実践しようとしている。	教職を目指す学生として、必要な法令遵守、社会規範や教職・教育に対する使命、モラル、マナー等について、他のアドバイスやよきモデルがあってもなかなか実践できない。

科目名	教育原理			授業番号	NV102	サブタイトル			
教員	小田 真一								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	講義形式で，現代社会における教育課題を踏まえ，これらの問題解決の一助となるよう，今一度，教育という営みの根源に立ち返ることを目的とする。 そのため，将来，教育に携わる者が，最低限，知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について学修する。 また，教育の基本的な事項について学修していく。特に，教育とは何かという根源的な問いと，教育行政や学校教育制度といった，児童・生徒の立場からは察し得ない事象に重点を置いて講義する。								
到達目標	教育の基本的な事項について学び，将来，教育に携わる者が，最低限，知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について理解できるようになる。 教育の目的や教育の歴史，教職という仕事，日本の教育問題等について問題を見出し，解決方法を探究し，次の問題の発見・解決につなげることができるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの発達と教育の目的 子どもの発達・教育の目的を理解する	
第2回	教育とは何か 教育の目的の歴史を理解する	
第3回	教育の歴史(1) 学校の歴史 学校の歴史をを理解する	
第4回	教育の歴史(2) 海外の教育 海外の教育を理解する	
第5回	教育の歴史(3) 海外の教育史(近代の教育思想) 海外の教育思想を理解する	
第6回	教育の歴史(4) 海外の教育史(近代教育学の成立) 海外の近代の教育史を理解する	
第7回	教育の歴史(5) 日本の教育史 日本の教育史を理解する	
第8回	「教える」という仕事(1) 教育課程と授業の計画 教育課程・授業計画を理解する	
第9回	「教える」という仕事(2) 教育課程と授業実践 教育課程・授業実践のあらましを理解する	
第10回	「教える」という仕事(3) 教育評価 教育評価の目的や方法、これからの評価を理解する	
第11回	「教える」という仕事(4) 学校・学級経営 学校経営や学級経営について概要を理解する	
第12回	学び続ける教員となるために 教員として求められる資質・能力について考える	
第13回	社会教育と生涯学習および地域社会と学校 「社会教育や生涯学習」や「学校教育との連携」についてその概要を理解する	
第14回	地域社会と学校 「地域と学校の連携」や「地方創生と学校」についてその概要を理解する	
第15回	現代日本の教育問題 現代の教育に関係する様々な課題やこれからの教育を理解する	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	45	意欲的な受講態度（ワークシートを含む），発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レスポンスシート（レポート課題を含む）	30	講義内容について，要点や自分の考えを記述したレスポンスシート（レポート課題を含む）によって評価する。事後，コメントを記入して返却する。
確認テスト	25	各回の主要なポイントの理解度を評価する。採点後、返却し解説する。
小テスト		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	教育公務員・栄養教諭の教員免許取得の基礎単位であることから，受講に際しては，教育公務員を志願するにふさわしい言動の在り方を常に考えるとともに，現在の学校教育の課題と教育公務員(栄養教諭)の社会的使命について真剣に考えること。 講義の中で自分の考えを自主的に記録するので、テキストを事前に読み，疑問点をあらかじめ調べるなどすること。また、小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。配付したプリント・資料や返却された小テストなどを整理後、ノートに貼付し，復習をすること。
授業外学修	1 予習として，テキスト内の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，関心をもった課題のレポートを書く。なお，分からなかった内容については，オフィスアワーを活用し教員に質問する等して，学修の向上に努めること。 3 発展学習として，講義で扱った内容に関わる資料や参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
教育原理	島田和幸・高宮正貴	ミネルヴァ書房	978-4-623-08176-9	2200
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	『教育六法』（どの出版社のものでも良い）			
その他	授業ノートを用意すること。			
備考				

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校の教員や教頭（28年），校長（8年）としての実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	教諭・主幹教諭や教頭，小学校長としての実務経験（36年)を活かし，教育現場の実際を反映させた実践的な講座としたい。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、問題を見出し、解決方法を探究し、解決につなげることができる	教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、問題を見出し、解決方法を探究し、問題を幅広くかつ深く解決につなげることができる。	講義内容である教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、問題を見出し、解決方法を探究し、問題を幅広く解決につなげることができる。	講義内容である教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、問題を見出し、解決方法を探究し、問題をおおむね解決につなげることができる。	講義内容である教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、問題を見出し、解決方法を探究するが、解決につなげることが十分ではない。	講義内容である教育の目的、教育の歴史、国内外の教育史、現代的教育課題等について、問題を見出し、解決方法を探究し、解決につなげることができない。

科目名	教育心理学			授業番号	NV103	サブタイトル			
教員	國田　祥子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	教育心理学とは，学び手としての子どもを心理学の視点から理解し，支援するための科学である。 この授業では，子どもの学びと適応の支援という視点から，教育に関する心理学的知見を広く扱う。								
到達目標	実際に教育現場に立つ際，児童・生徒の理解を助けるために必要となる，心理学的な視点の基礎を，講義を通じて身につけることを目指す。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育心理学とは 教育心理学とはどのような学問で，教職のための何について学ぶのかを理解する。	
第2回	心身の発達①　乳幼児期の発達 乳幼児期の心身の発達の姿と，発達を支援する教師や保育者のかかわりについて理解する。	
第3回	心身の発達②　児童期・青年期の発達 児童期・青年期の発達の特徴やその個人差，またその背景にあるものを理解し，教師としてかかわることの意味を考える。	
第4回	学びのメカニズム①　学習と知識獲得 心理学で言う「学習」の意味を理解したうえで，どのようなときに学習が生じるのかを考える。	
第5回	学びのメカニズム②　認知情報処理と記憶 人間の心の働きを情報処理になぞらえて捉える認知心理学の視点から，学校における学びを考える。	
第6回	学びのメカニズム③　動機づけと学習 学びにおいて重要な役割を果たす動機付けの理論や機能，また動機づけの高め方について考える。	
第7回	認知発達と学習支援 知識獲得のプロセスを踏まえ，子どもの学びと効果的な学習指導や授業づくりを考える。	
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り，理解を確認する。	
第9回	学級集団と学習支援 学級をはじめとする子どもたちの集団の特徴や人間関係がどのように学習効果に影響するかを理解する。	
第10回	個性や個人差と学習支援 性格や認知特性に関する理論を踏まえて子どもの個性や個人差の捉え方を理解し，学びとの関係を考える。	
第11回	教育評価 教育評価の理論と方法について，また子どもの学力や知能について，考え方や測定方法を理解する。	
第12回	特別な支援と教育心理学①　障害の基本的理解 発達障害の特性のある子どもに対する適切な理解と，それに基づいた配慮のあり方について理解する。	
第13回	特別な支援と教育心理学②　障害児への教育的支援 発達障害の特性のある子どもの苦手なものごとの把握と，適切な手立ての実際について理解する。	
第14回	学校教育を取り巻く諸問題 個々の子どもに起きる学びや適応などについて，第13回までとは異なる視点から取り上げ，紹介する。	
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回の内容を振り返り，理解を確認する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の前にテキストを読み，4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる！教職エクササイズ2 教育心理学	田爪宏二（編著）	ミネルヴァ書房	978-4-623-08177-6	2200円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．講義内容を多面的かつ十分に理解し，さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき，さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し，多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず，必要な知識も不足しているものの，活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず，知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず，知識が獲得されていないため，活用できない

科目名	教育課程総論			授業番号	NV204	サブタイトル			
教員	小田　真一								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	教育課程の意義・編成の方法について学修するとともに，教育課程に関する法令や学習指導要領総則等について学修する。								
到達目標	・教育課程関係の法令や学習指導要領総則について学び，求められる教育課程について理解する。 ・教育課程の意義・編成の方法について問題を見出し，解決方法を探究し，解決につなげることができるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育課程について 意義と定義，教育課程の法的根拠を考える	
第2回	学習指導要領 「前文」について理解する	
第3回	学習指導要領の変遷 変遷についてその特徴を理解しよう	
第4回	学習指導要領の改訂 改訂の経緯を理解しよう	
第5回	学習指導要領の総則1 総則の前半の内容を理解しよう	
第6回	カリキュラム・マネジメント 意義と定義を理解しよう	
第7回	学習指導要領の総則2 学習指導要領の総則の中盤の内容を理解しよう	
第8回	学校経営のサイクルとカリキュラム・マネジメント カリキュラム・マネジメントの各プロセスを理解しよう	
第9回	学習指導要領の総則3 学習指導要領の後半の内容を理解しよう	
第10回	カリキュラムの評価 カリキュラムマネジメントの活性化や重点目標について考える	
第11回	学習指導要領の解説1 解説の前半を理解しよう	
第12回	アクティブ・ラーニングの定義と導入の教育行政的経緯 アクティブ・ラーニングとカリキュラム・マネジメントの連動について	
第13回	学習指導要領の解説2 解説の後半の内容を理解しよう	
第14回	社会に開かれた教育課程 理念とその背景,カリキュラム・マネジメントについて	
第15回	社会に開かれた教育課程 食育による実践を考えよう	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表の有無，ノート整理，予習復習の状況等によって評価する。
レポート・小テスト	30	課題に対して，意欲的に取り組めているか，自分の考えでまとめられているか等で評価する。提出後、概要について解説する。
確認テスト 学修した内容の理解度等について評価する。	30	全体的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	これからの時代に求められる新たな教育環境を創るために，教育課程からカリキュラム・マネジメントまで学びます。 教育課程がわかると学校の教育活動の全体構造を知ることができます。しっかりと学んで下さい。 配付するプリント・資料などはファイルにとじ，整理すること。
授業外学修	1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートやノートを整理する。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校指導要領	文部科学省	東洋出版	978-4-491-03460-7	201
小学校指導要領解説総則編	文部科学省	東洋出版	978-4-491-03461-4	155

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	教員(教頭を含む)28年，小学校校長8年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校教育における教育課程の編成やカリキュラムマネジメントについて，教員や学校長としての実践をもとにした講義を行うこなう

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	教育課程の意義・編成の方法等について問題を見出し、解決方法を探究し、問題を解決することができる。	教育課程の意義・編成の方法等について問題を見出し、解決方法を探究し、問題を幅広くかつ深く解決できる。	教育課程の意義・編成の方法等について問題を見出し、解決方法を探究し、問題を幅広く解決できる。	教育課程の意義・編成の方法等について問題を見出し、解決方法を探究し、問題をおおむね解決できる。	教育課程の意義・編成の方法等について問題を見出し、解決方法を探究するが、問題を十分に解決できない。	教育課程の意義・編成の方法等について問題を見出し、解決方法を探究するが、問題を解決することができない。

科目名	教育方法学			授業番号	NV205	サブタイトル			
教員	住野　好久								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法，技術に関する基礎的な知識・技術を身につける。								
到達目標	1）教育方法の基礎的理論と実践を理解する。 2）これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育方法のあり方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 3）学級・児童・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解する。 4）学習評価の基礎的な考え方を理解する。 5）基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標、内容、教材・教具、授業・保育展開、学習指導形態等を含めた学習指導案を作成することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育の方法(1)　これまで受けてきた教育の方法 これまで受けてきた教育はどのような教育方法であったかを振り返る。	
第2回	教育の方法(2)　教育的な教育の方法とは 教育的に教育するための方法とはどのようなものかを考える。	
第3回	教育の方法(3)　教育方法の歴史(1)ソクラテス 古代から教育の方法は工夫されてきた。ソクラテスが編み出した「産婆術」とはどのような教育方法か？	
第4回	教育の方法(4)　教育方法の歴史(2)ヘルバルト 近代を代表するヘルバルトによる「４段階教授法」とその弟子たちが編み出した「５段階教授法」を学ぶ。	
第5回	教育の方法(5)　教育方法の歴史(3)デューイ 戦後日本の教育方法に大きな影響を及ぼしたデューイの「問題解決学習」を学ぶ。	
第6回	教育の方法(6)　教育方法の歴史(4)プログラム学習からICT活用授業へ 1960年代後半に登場した、コンピュータを活用した教育方法の出発点となった「プログラム学習」から今日のICT活用授業活用授業までの変遷を学ぶ。	
第7回	教育の方法(7)　今求められている教育方法(1) 「主体的、対話的で深い学び」を実現する教育方法を「学習指導要領」等から学ぶ。	
第8回	教育の方法(8)　今求められている教育方法(2) 中央教育審議会が提起した「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に対してICTの活用が有効であることを学ぶ。	
第9回	教育の技術(1)　相互主体的な授業のための技術(1) 今求められる相互主体的な授業を実践するためのポイントを理解する。	
第10回	教育の技術(2)　相互主体的な授業のための技術(2) 今求められる相互主体的な授業を実践するための教育内容の設定の仕方について理解する。	
第11回	教育の技術(3)　相互主体的な授業のための技術(3) 今求められる相互主体的な授業を実践するための教材開発の仕方について理解する。	
第12回	教育の技術(4)　相互主体的な授業のための技術(4) 今求められる相互主体的な授業を実践するための教授行為の工夫の仕方について理解する。	
第13回	教育の技術(5)　指導プランの作成(1) これまで学習してきたことを踏まえて指導プランを作成する。	
第14回	教育の技術(6)　指導プランの作成(2) これまで学習してきたことを踏まえて指導プランを作成する。	
第15回	教育の技術(7)　指導プランの作成(3) これまで学習してきたことを踏まえて作成した指導プランを発表する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
確認テスト	40	毎回の授業で学習したことを正しく理解し，論理的に叙述すること。次時の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
最終レポート	40	本科目で学習したことを踏まえて、提示した課題について論理的に叙述すること。
指導プラン	20	授業の中で作成する指導プランをこの科目で学んだことを踏まえて作成すること。作成過程でコメント・アドバイスをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として毎回の授業の最後に確認テストを行うので、しっかりとノートをとり、内容を理解するようにし、不明な点は遠慮なく質問をすること。配付するプリント・資料などはファイルにとじて整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，配付している資料をあらかじめ読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜，授業の中で紹介する。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。	歴史的な教育方法の発展を理解した上で今日求められる教育方法を説明できる。	歴史的な教育方法の発展を理解した上で今日求められる教育方法を理解している。	歴史的な教育方法の発展も視野に入れて今日求められる教育方法を理解している。	歴史的な教育方法の発展は理解していないが、今日求められる教育方法は理解している。	歴史的な教育方法の発展も今日求められる教育方法も理解していない。
知識・理解	２．教育の目的に適した指導技術を理解する。	教育の目的に適した指導技術を深く理解している。	教育の目的に適した指導技術を理解している。	教育の目的に適した指導技術の基本を理解している。	教育の目的に適した指導技術をだいたい理解している。	教育の目的に適した指導技術を理解していない。
技能	１．学習指導理論を踏まえた学習指導案を作成することができる。	学習指導理論を踏まえた学習指導案を作成することができる基礎的な能力を十分身につけている。	学習指導理論を踏まえた学習指導案を作成することができる基礎的な能力をだいたい身につけている。	学習指導理論を踏まえた学習指導案を作成することができる基礎的な能力を少し身につけている。	学習指導理論を踏まえた学習指導案を作成することができる基礎的な能力を身につけようとしている。	学習指導理論を踏まえた学習指導案を作成することができる基礎的な能力を身につけようとしていない。

科目名	生徒指導の理論と方法 (全8回)			授業番号	NV206	サブタイトル			
教員	藤井　裕士								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	生徒指導の基本的な考え方や進め方，生徒指導に関する法制度，生徒指導上の諸問題への対応について講義し，演習を通して理解を深め問題解決能力を高める。								
到達目標	一人一人の児童生徒の人格を尊重し，個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることを目指し，全教育活動を通して組織的・計画的に行われる生徒指導の基本的な考え方や進め方，生徒指導に関する法制度，問題行動等への対応について理解することができる。また，個別の課題に対する問題解決能力を高める。本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	生徒指導の基礎（１） 生徒指導の意義や目的等について理解を深める。	
第2回	生徒指導の基礎（２） 生徒指導の定義や目的を確認し,生徒指導の構造につい理解する。 学校における栄養教諭の立場を知り,生徒指導上の児童生徒への関わり方を考える。	
第3回	生徒指導の基礎（３） 集団指導と個別指導，カウンセリング等について理解し，演習を通して問題解決能力を高める。	
第4回	チーム学校による生徒指導体制・生徒指導と教育課程 教育課程上の生徒指導の位置づけや各教科等との関連について理解する。	
第5回	生徒指導体制や法制度 生徒指導体制や法制度等について理解する。	
第6回	個別の課題に対する生徒指導（１） いじめ，暴力行為，少年非行について理解し，演習を通して問題解決能力を高める。	
第7回	個別の課題に対する生徒指導（２） 自殺,不登校について理解し，演習を通して問題解決能力を高める。	
第8回	個別の課題に対する生徒指導（３） 多様な背景を持つ児童生徒への対応について理解し,演習を通して問題解決能力を高める。	
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	演習や発表を含め,授業全般に対する意欲的な受講態度によって評価する。
ワークシート	15	ワークシートの提出を行い,記述状況について評価を行う。ワークシートは次回の授業の際に全体的な傾向についてコメントをし,返却する。
最終試験	55	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　事前・事後に配布資料や参考文献を読むこと。 2　発表や討議に積極的に取り組むこと。 3　配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，授業内容にかかわる配布資料を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，配布資料を読み授業内容の理解を深める。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
生徒指導提要	文部科学省	東洋館出版社	9784491051758	990円（税込み）

参考書：自由記載	本授業は,生徒指導提要の内容を中心に取り扱う。必要に応じて参考書を準備すること。購入する場合は,同名の書籍が存在するが，令和4年12月に改訂された最新のものを選択すること。
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	特別支援学校教諭（14年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	特別支援学校教諭（14年）の経験から,生徒指導に関する理解を深めることができるように，学校現場における事例を紹介する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	生徒指導の目的,重要性,及びそれに関連する法制度に関して理解している。	生徒指導の基本理念と関連する法制度について深い理解を持ち,具体的な事例を用いて詳細に説明できる。	生徒指導の基本理念と法制度について正確な理解があり,事例を用いて説明できる。	生徒指導の基本的な理念と法制度を理解しているが,詳細な説明や事例の適用に若干の不足がある。	生徒指導の理念と法制度の理解が不完全で,誤解を含む可能性がある。	生徒指導の基本理念や法制度についての理解がほとんどなく,重要な点を見落としている。
思考・問題解決能力	児童・生徒の問題行動や個別の課題に対する具体的な対応策の考案することができる。	児童・生徒の問題行動に対する深い理解を基に,効果的かつ独創的な対応策を立案し,実践できる。	児童・生徒の問題行動に対して適切な対応策を立案し,実践する能力がある。	児童・生徒の一般的な問題行動への基本的な対応策を知っており,実践できるが,複雑な問題への対応には限界がある。	児童・生徒の基本的な対応策は知っているが,効果的な実践への適用が不十分である。	児童・生徒の問題行動への対応策の理解や実践能力が著しく不足している。

科目名	教育相談			授業番号	NV207	サブタイトル	（カウンセリングを含む）		
教員	國田　祥子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，教育相談についてその理念や基本的な理論を紹介する。								
到達目標	教育相談で扱うさまざまな問題に対し，不適応状態にある子どもやその保護者に教師が対応していく際の考え方や方法について解説し，カウンセリング・マインドを身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育相談とは 教育相談の必要性と意義について理解し，これからの時代の教師に求められる心理的援助の資質について理解を深める。	
第2回	カウンセリングの理論 子どもや保護者の相談対応を行う上で重要となる，カウンセリングの考え方を解説する。	
第3回	カウンセリングの技法 クライエントとのコミュニケーションに有効となる，カウンセリングの基本的な技法を解説する。	
第4回	いじめ・不登校への対応 いじめおよび不登校の現状と構造を理解し，教育相談や支援としてどのようなことができるかを考える力を身につける。	
第5回	学級崩壊・学級経営の問題への対応 学級崩壊の実情と回復ポイントを理解し，学級崩壊にならないための学級経営を考える力を身につける。	
第6回	虐待・いのちの教育への対応 保護者やそれ以外の者によって子どもの命が奪われる事件の現状を知り，必要な対応や支援を考える力を身につける。	
第7回	非行・学校不適応への対応 「問題行動」という言葉が何を指すのか，その概念を紐解きながら非行や学校不適応への理解と対応を考える。	
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回までの内容を振り返り，理解を確認する。	
第9回	発達障害への対応 個別性が非常に高い発達障害について，その対応を共生社会に向けたインクルーシブ教育の観点から解説する。	
第10回	心の病への対応 児童期から青年期にみられる心の病気についてその概要を解説し，教師として何ができるか考える力を身につける。	
第11回	校内・他機関との連携 スクールカウンセラーを始めとする校内のさまざまな立場の職員との連携および他機関との連携について学ぶ。	
第12回	アセスメント：観察・面接 子どもの状態を適切に把握し，支援するアセスメントについて，ここでは行動観察および面接の方法について学ぶ。	
第13回	アセスメント：心理検査 専門機関やスクールカウンセラーなどとの連携を踏まえ，心理検査についての概論および留意点を学ぶ。	
第14回	家庭の理解と保護者への支援 今の親が置かれている状況を理解したうえで，ともに子どもを育てていく方法を考える。	
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回までの内容を振り返り，理解を確認する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の前に，テキストに基づいて4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
教育相談　第2版(よくわかる!教職エクササイズ　3)	森田健宏/田爪宏二/吉田佐治子	ミネルヴァ書房	9784623096114	2500円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．講義内容を多面的かつ十分に理解し，さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき，さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し，多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず，必要な知識も不足しているものの，活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず，知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず，知識が獲得されていないため，活用できない

科目名	特別支援教育概論			授業番号	NV208	サブタイトル			
教員	中　典子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	講義形式で，特別支援教育の基本的なことについて学習する。 特に，幼児や児童生徒に特別な配慮を必要とする状況，保育や教育課程の内容，支援・教育の方法，保育・教育施設や学校と関係機関との連携のあり方について講義する。								
到達目標	保育者・教育者は、特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒が学習の場において将来の自立に向けた学びができるよう，保育・教育していく必要がある。そのために，本講義では，幼児や児童生徒に特別な配慮を必要とする状況，保育や教育課程の内容、支援・教育の方法，保育・教育施設や学校と関係機関との連携のあり方を学び，理解できるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性について理解する。	
第2回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の心身の発達 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒一人一人の心身の発達に関するアセスメントの方法を理解する。	
第3回	特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 障害者総合支援法，障害者の権利に関する条約の内容を理解する。	
第4回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活 保育や授業をするうえで必要とされる配慮を理解する。	
第5回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の教育課程 特別支援教育における教育課程について理解する。	
第6回	発達障害をはじめとする障害のある幼児や児童生徒への合理的配慮の提供 合理的配慮の提供について理解する。	
第7回	「通級指導」と「自立活動」の教育課程上の位置づけ 特別支援教育における指導技術について理解する。	
第8回	「個別指導計画」の意義と方法 「個別指導計画」を実際に記載し，その意義と方法を理解する。	
第9回	「個別指導計画」に基づく指導 「個別指導計画」に基づく指導をDVD視聴に視聴により理解する。	
第10回	「個別教育支援計画」の意義と方法 「個別教育支援計画」を実際に記載し，その意義と方法を理解する。	
第11回	保育・教育施設や学校，家庭と地域の関係機関の連携のあり方 「個別教育支援計画」より，暮らしにおいて必要な社会資源を理解する。 保育・教育施設や学校をとりまく社会資源についての情報を収集し，連携の方法を理解する。	
第12回	多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方 多文化の幼児や児童生徒が置かれている状況を理解する。 多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方を理解する。	
第13回	貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ 子どもの貧困対策について理解する。	
第14回	貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒への教育保障 学習環境を整えるための支援について理解する。	
第15回	多文化や貧困問題により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習支援 幼児や児童生徒に対して学習保障をするためにどのような対応が必要が理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表への参加，予・復習の状況によって評価する。
授業ごとに示す課題	90	毎回の授業で示す課題に対して具体的に述べていること。課題についてはコメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業内容の理解を深めるため，授業開始前までにテキストを読んでおくこと。
授業外学修	授業開始前までに，テキストの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
特別支援教育と障害児の保育・福祉 切れ目や隙間のない支援と配慮	立花直樹他編	ミネルヴァ書房	978-4-623-09570-4	定価 2800＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる。	幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる。	特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる。	特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方が理解できる。	特別な配慮を必要とす保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方の理解が十分でない。	特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校，関係機関との連携のあり方が理解できていない。
思考・問題解決能力	２．幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる。	幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる。	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる。	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の基礎を考えることができる。	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることが十分できていない。	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができていない。

科目名	総合的な学習の時間及び特別活動の指導法	授業番号	NV209	サブタイトル	
教員	小田 真一				

単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択

授業概要	小学校・中学校の教育課程の編成について概観し，総合的な学習の時間及び特別活動の目標，内容を学習指導要領解説に基づき概説する。また，総合的な学習の時間及び特別活動の現代的意義を論議する。さらに，小学校・中学校における学習活動としての総合的な学習の時間及び特別活動の重要性について理解を深め，各内容の実践的課題を整理する。
到達目標	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について理解する。＜知識・理解＞ 小学校・中学校の教師として，総合的な学習の時間及び特別活動（学級・ホームルーム活動や学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を身に付ける。＜思考・問題解決能力＞ なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。
授業計画 備考	

回	概要	担当
第1回	総合的な学習の時間の意義と目標・内容 学習指導要領に示された総合的な学習の時間の意義と目標・内容について理解する。	
第2回	総合的な学習の時間の歴史と学習指導要領におけるその変遷 歴史を通じて見える総合的な学習の時間や、学習指導要領の変遷を踏まえたその理念・内容について理解する。	
第3回	総合的な学習の時間の指導計画 総合的な学習の時間の目標の歴史的変遷や特徴や、指導計画の作成について理解する。	
第4回	総合的な学習の時間の単元計画・学習指導 学習指導要領を踏まえた総合的な学習の時間の単元計画の作成や、その学習指導について理解する。	
第5回	総合的な学習の時間の評価と課題 総合的な学習の時間の評価の目的・方法を習得したり、総合的な学習の時間の充実に必要な条件整備等を理解したりする。	
第6回	総合的な学習の時間の学習環境と各教科等との関連 総合的な学習の時間における学習環境の整備や、各教科や特別活動との関連について理解する。	
第7回	総合的な学習の時間の実際 小学校や中学校における総合的な学習の実践事例をもとに、単元構成の在り方や資質・能力の育成の仕方を習得する。	
第8回	総合的な学習の時間における学修の振り返り 各々の教材研究を持ちより、単元構成や資質・能力の育成についての実践的指導力を習得する。また、これまでの学修について振り返るとともに、総合的な学習の時間における学修の定着度を確認する。	
第9回	特別活動の意義と歴史的変遷 学習指導要領に示された特別活動の意義や、歴史的な特徴・位置づけについて理解する。	
第10回	特別活動と生徒指導 学校の教育活動全体の中に位置づけられた、特別活動と生徒指導の関係を理解する。	
第11回	特別活動と教科教育との関連 学習指導要領にみる特別活動と各教科との関連の必要性や、その実践のポイントについて理解する。	
第12回	特別活動と総合的な学習の時間の関連 特別活動と総合的な学習の時間における共通点・相違点について目標・内容から整理し、それらの本質的な特徴を理解する。	
第13回	特別活動の指導と評価 特別活動のの特質を踏まえた評価のあり方や目的と、評価者としての自覚について理解する。	
第14回	学級活動の理論と実践 学習指導要領に示されている学級活動の目標や内容を踏まえ、指導案や指導過程等について理解する。	
第15回	特別活動における学修の振り返り 学級活動において食育等の題材について教材研究を持ちより，模擬授業を通して実践的指導力を身に付ける。また、特別活動のこれまでの学修について振り返るとともに、定着度を確認する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	45	意欲的な受講態度（ワークシートを含む），発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レスポンスシート（レポート課題を含む）	30	講義内容について，要点や自分の考えを記述したレスポンスシート（レポート課題を含む）によって評価する。事後，コメントを記入して返却する。
確認テスト	25	各回の主要なポイントの理解度を評価する。採点後、返却し解説する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	教育公務員・栄養教諭の教員免許取得の基礎単位であることから，受講に際しては，教育公務員を志願するにふさわしい言動の在り方を常に考えるとともに，現在の学校教育の課題と教育公務員(栄養教諭)の社会的使命について真剣に考えること。 講義の中で自分の考えを自主的に記録するので、テキストを事前に読み，疑問点をあらかじめ調べるなどすること。また、小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。配付したプリント・資料や返却された小テストなどを整理後、ノートに貼付し，復習をすること。
授業外学修	1　予習として，テキスト内の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，関心をもった課題のレポートを書く。なお，分からなかった内容については，オフィスアワーを活用し教員に質問する等して，学修の向上に努めること。 3　発展学習として，講義で扱った内容に関わる資料や参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
総合的な学習の時間	佐藤真ほか	ミネルヴァ書房	987-4-623-08157-8	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
特別活動	吉田武男ほか	ミネルヴァ書房	978-4-623-08780-8	

参考書：自由記載	小学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編　文部科学省 中学校学習指導要領解説　総合的な学習の時間編　文部科学省 小学校学習指導要領解説　特別活動編　文部科学省 中学校学習指導要領解説　特別活動編　文部科学省
その他	授業ノートを用意すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校の教員や教頭（28年），校長（8年）としての実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	教諭・主幹教諭や教頭，小学校長としての実務経験（36年)を活かし，教育現場の実際を反映させた実践的な講座としたい。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について理解できる。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について広範かつ詳細に理解している。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容につい広範に理解している。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を十分理解している。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を十分理解していない。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を理解していない。
思考・問題解決能力	総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動やHR,学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を身に付ける。	総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動やHR,学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を広範かつ詳細に身に付けている。	総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動やHR,学校行事等）における諸問題に対応できる問題解決力を広範に身に付けている。	総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動やHR,学校行事等）における諸問題に対応できる基礎的な問題解決力を十分身に付けている。	総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動やHR,学校行事等）における諸問題に対応できる基礎的な問題解決力を十分身に付けていない。	総合的な学習の時間及び特別活動（学級活動やHR,学校行事等）における諸問題に対応できる基礎的な問題解決力を身に付けていない。

科目名	学校栄養教育実習研究			授業番号	NV410	サブタイトル			
教員	藤原　三保子、山縣　綾香								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	小学校・中学校で行う学校栄養教育実習を有意義かつ充実した学習とするための演習を中心とした科目である。教育実習の実際について学び栄養教諭としての意識を高めるとともに，教材研究・模擬授業などの授業を通し教育実習に向けて実習課題の検討，準備を行う。								
到達目標	・実際の教育現場に入るにあたって心構えができるようになる。 ・教育実習に向けて指導案・指導媒体の作成，授業の進め方等の技能を身に付け，準備することができるようになる。 ・より良い教育実習になるよう模擬授業を通して検討し考え，相互評価ができるようになる。 ・学校栄養教育実習に向けて，ふさわしい態度を養うことができるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	学校栄養教育実習の意義 〇プロとしての栄養教諭について，より理解を深める。	藤原　三保子・山縣　綾香
第2回	学校栄養教育実習の事前指導 〇教育実習の概要・実習課題の検討・実習日誌の書き方・教育実習校との打合せ・連絡 〇教育実習に向けて，前向きに取り組む心構えや具体的な準備をする。	藤原　三保子・山縣　綾香
第3回	個別的な相談指導，クラス経営，学校経営 〇個人差への配慮・食物アレルギー，偏食，肥満・痩身傾向　等・教師の援助の仕方・考え方・小中学校教育・指導の特質 〇栄養教諭として，子ども理解をするための基本的なことを再確認する。	藤原　三保子・山縣　綾香
第4回	個別的な相談指導，クラス経営，学校経営 〇個人差への配慮・食物アレルギー，偏食，肥満・痩身傾向　等・教師の援助の仕方・考え方・小中学校教育・指導の特質 〇栄養教諭として，子ども理解をするための基本的なことを再確認する。	藤原　三保子・山縣　綾香
第5回	学校栄養教育実習の実際 〇教育実習校での食に関する指導の準備(教材研究，学習指導案の作成)，検討，ディスカッション	藤原　三保子・山縣　綾香
第6回	学校栄養教育実習の実際 〇教育実習校での食に関する指導の準備(教材研究，学習指導案の作成)，検討，ディスカッション	藤原　三保子・山縣　綾香
第7回	学校栄養教育実習の実際 〇教育実習校での食に関する指導の準備(教材研究，学習指導案の作成)，検討，ディスカッション	藤原　三保子・山縣　綾香
第8回	学校栄養教育実習の実際 〇教育実習校での食に関する指導の準備(教材研究，学習指導案の作成)，検討，ディスカッション	藤原　三保子・山縣　綾香
第9回	学校栄養教育実習の実際 〇教育実習校での食に関する指導の準備(教材研究，学習指導案の作成)，検討，ディスカッション	藤原　三保子・山縣　綾香
第10回	実習校との打合せ，模擬授業，相互評価，媒体作り 〇栄養教諭一種　教育実習に向けて，大学で学んできた知識・技能や心構えを再確認する。	藤原　三保子・山縣　綾香
第11回	実習校との打合せ，模擬授業，相互評価，媒体作り 〇栄養教諭一種　教育実習に向けて，大学で学んできた知識・技能や心構えを再確認する。	藤原　三保子・山縣　綾香
第12回	実習校との打合せ，模擬授業，相互評価，媒体作り 〇栄養教諭一種　教育実習に向けて，大学で学んできた知識・技能や心構えを再確認する。	藤原　三保子・山縣　綾香
第13回	実習校との打合せ，模擬授業，相互評価，媒体作り 〇栄養教諭一種　教育実習に向けて，大学で学んできた知識・技能や心構えを再確認する。	藤原　三保子・山縣　綾香
第14回	実習校との打合せ，模擬授業，相互評価，媒体作り 〇栄養教諭一種　教育実習に向けて，大学で学んできた知識・技能や心構えを再確認する。	藤原　三保子・山縣　綾香
第15回	実習校との打合せ，模擬授業，相互評価，媒体作り 〇栄養教諭一種　教育実習に向けて，大学で学んできた知識・技能や心構えを再確認する。	藤原　三保子・山縣　綾香

授業計画　備考2	授業形態は演習がメインになるが，教育実習に向けて講義もある。

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	10	栄養教諭の職務についての理解度を評価する。
定期試験		
その他	70	指導案，課題等の提出物の内容を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・栄養教諭を目指す者としての目線に立ち，それぞれの状況を想定しながら積極的に授業に臨むこと。 ・学校栄養教育実習および学校栄養教育指導法IIと深く関連する科目であることを意識して授業に臨むこと。 ・教材研究においては，専門的な様々な知識を活かして臨むこと。 ・学校教育の様々な課題に関心をもち，栄養教諭の社会的使命について考えること。
授業外学修	・教育に関する時事問題に関心をもち，新聞やニュース等を把握しておくこと。 ・小中学校の教育現場を想定して，授業を進めるので課題やテキスト等の予習・復習を必ずしておくこと。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	「学校栄養教育実習書」, 学校栄養教育指導法I，IIで使用したテキスト

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	担当教員が提示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	○管理栄養士・栄養教諭：地方自治体（公立小学校・公立中学校）15年 ○小中高教員，岡山県教育委員会専門的教育職員，小学校教頭・校長　（39年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	担当教員の実務経験を活かし、学生が教育実習に向けて心構え・態度を身に付けることができるようにする。また、教育実習での食に関する指導の実践に向けて指導案・媒体等を準備し授業ができる技能を修得させる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を理解している。	食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を広範かつ詳細に理解している。	食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を広範に理解している。	食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を十分に理解している。	食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を十分に理解していない。	食に関する指導の指導案・媒体等の基礎的・基本的な知識を理解していない。
思考・問題解決能力	１．より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、相互評価ができるようになる。	より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、広範かつ詳細に相互評価ができるようになる。	より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、広範に相互評価ができるようになる。	より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、十分に相互評価ができるようになる。	より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、十分に相互評価ができない。	より良い教育実習となるよう模擬授業を通して検討し考え、相互評価ができない。
技能	１．食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を身に付け準備することができる。	食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を広範かつ適切に身に付け準備することができる。	食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を広範に身に付け準備することができる。	食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を十分に身に付け準備することができる。	食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を十分に身に付け準備することができない。	食に関する指導の指導案・指導媒体等の作成、授業の進め方等の技能を身に付け準備することができない。
態度	１．教育実習に向けて心構えができるようになる。	教育実習に向けて心構えがより一層できるようになる。	教育実習に向けて心構えが一層できるようになる。	教育実習に向けて心構えが十分にできるようになる。	教育実習に向けて心構えがあまりできない。	教育実習に向けて心構えができない。
態度	２．教育実習に向けて、教育実習生となるにふさわしい態度を身に付けることができる。	教育実習に向けて、教育実習生となるにふさわしい態度をよりいっそう身に付けることができる。	教育実習に向けて、教育実習生となるにふさわしい態度をいっそう身に付けることができる。	教育実習に向けて、教育実習生となるにふさわしい態度を十分に身に付けることができる。	教育実習に向けて、教育実習生となるにふさわしい態度を十分に身に付けることができない。	教育実習に向けて、教育実習生となるにふさわしい態度を身に付けることができない。

科目名	学校栄養教育実習			授業番号	NV411	サブタイトル			
教員	藤原　三保子								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	学校栄養教育実習は，大学等で学んだ理論を実践的な検証を通して，栄養教諭の職務の実際を知り理解を深める。教育実習校の現場で生徒指導，教育内容，指導方法を体験・研究する。教育実習中は，実習校の指導のもと食に関する指導について，特別活動や他教科との関連の実際を深く理解すると共に，実際に授業を展開し実践的指導力を身に付ける。大学は実習校と連携して学生の指導にあたる。原則，実習校は出身校とし，1週間（5授業日）以上の教育実習に取り組む。学校栄養教育実習後は，報告会を行う。								
到達目標	・教育現場の実際を知り，教育活動全般について理解を深めることができるようになる。 ・栄養教諭としてふさわしい態度を身に付けることができるようになる。 ・子ども理解を深めることができるようになる。 ・学習の基盤となる学習規律を踏まえ授業を進めることができるようになる。 ・自他の授業を検討し，食に関する指導に生かすことができるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	1　校長，教頭，教務主任による実習受入校での指導(学校経営，校務分掌の理解，服務) 2　給食主任，学級担任，栄養教諭（学校栄養職員）による実習受入校での指導 3　養護教諭による実習受け入れ校での指導 4　校内における連携，調整（校内研修会，職員会議等）の参観，補助 5　配属学級での授業観察を通して，(1)子どもの実態把握・子ども理解を深める，(2)指導案・授業での実際，(3)教師と子どもの関わりの実際を観察する。 6　児童生徒への教科・特別活動等における教育指導の実習 （1）学級活動及び給食時間における指導の参観，補助 （2）食に関する指導の実践（学級活動・給食時間など） （3）児童生徒集会，委員会活動等における指導の参観，補助 7　家庭・地域社会との連携・調整の実際 8　学校栄養教育実習後に報告会，ディスカッション								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	学校栄養教育実習書　他
レポート	70	教育実習校での評価 評価後はフィードバックとして、コメントを付けて返却する
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　教育実習生は，教育者としての責任の重大さを自覚し，使命感・責任感と情熱をもって実習に臨むこと。 2　意欲的，積極的な実習に取り組む。 教育実習は，いわば教育上のインターンシップともいうべき色彩をもっている。様々なことに意欲と積極的な姿勢をもって取り組むこと。 3　研究的な実習に徹し，事前・事後学習に励む。 4　健康と安全に留意し，実りの多い実習となるように努力する。 5　本実習を受ける前には，必ず事前に実習受入校を訪問し，指導教諭等と打ち合わせをしておくこと。 6　教育実習生としての当然のエチケットとして，実習期間中お世話になった指導教諭や校長宛に礼状を出すことを忘れないようにすること。
授業外学修	・事前に実習受入校を訪問し学校長・指導担当者等との打ち合わせができるように準備すること。 ・実習校の指導に従って，教材研究等を行うこと。 ・指導案の作成や教材研究にあたっては，年間の授業計画も視野に入れ，他教科との関連についても考慮し準備を入念にしておく。 ・実習校がある県市町村教育振興基本計画等を調べておくこと。 以上の内容を，週当たり5時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	学校栄養教育実習書，学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト，必要に応じて資料等を用意する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	特になし
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	管理栄養士・栄養教諭：地方自治体（公立小学校・公立中学校）15年

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	○担当教員の実務経験を活かし、学生が食に関する指導について，現代的な諸課題・児童生徒の発達段階に合わせた内容・対応等について実践できる技能を修得させる。 ○栄養教諭に必要な能力を身に付けるため，教育実習指導者の指導の下，学校教育や児童生徒への理解を深め食に関する指導ができる技能を修得させる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．教育現場の実際を知り、教育活動全般について理解を深めることができるようになる。	教育現場の実際を知り、教育活動全般について広範かつ詳細に理解を深めることができるようになる。	教育現場の実際を知り、教育活動全般について広範に理解を深めることができるようになる。	教育現場の実際を知り、教育活動全般について十分に理解を深めることができるようになる。	教育現場の実際を知り、教育活動全般について十分に理解を深めることができない。	教育現場の実際を知り、教育活動全般について理解を深めることができない。
知識・理解	２．子ども理解を深めることができるようになる。	子ども理解を広範かつ詳細に深めることができるようになる。	子ども理解を広範に深めることができるようになる。	子ども理解を十分に深めることができるようになる。	子ども理解を十分に深めることができない。	子ども理解を深めることができない。
知識・理解	３．栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、理解を深める。	栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、広範かつ詳細に理解を深める。	栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、広範に理解を深める。	栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、十分に理解を深める。	栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、十分に理解を深めることができない。	栄養教諭(教諭)の職務の実際を知り、理解を深めることができない。
思考・問題解決能力	１．自他の授業を検討し、食に関する指導に生かすことができるようになる。	自他の授業を広範かつ詳細に検討し、食に関する指導に適切に生かすことができるようになる。	自他の授業を広範に検討し、食に関する指導に適切に生かすことができるようになる。	自他の授業を十分に検討し、食に関する指導に適切生かすことができるようになる。	自他の授業を十分に検討し、食に関する指導に適切に生かすことができない。	自他の授業を検討し、食に関する指導に生かすことができない。
技能	１．学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業を進めることができるようになる。	学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業を適切にスムーズに進めることができるようになる。	学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業をスムーズに進めることができるようになる。	学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業をおおむね進めることができるようになる。	学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業をあまり進めることができない。	学習の基礎となる学習規律を踏まえ授業を進めることができない。
技能	２．実践的指導ができるようになる。	実践的指導が適切にスムーズにできるようになる。	実践的指導がスムーズにできるようになる。	実践的指導がおおむねできるようになる。	実践的指導があまりできない。	実践的指導ができない。
態度	１．栄養教諭としてふさわしい態度を身に付けることができるようになる。	栄養教諭としてふさわしい態度をよりいっそう身に付けることができるようになる。	栄養教諭としてふさわしい態度をいっそう身に付けることができるようになる。	栄養教諭としてふさわしい態度をおおむね身に付けることができるようになる。	栄養教諭としてふさわしい態度をあまり身に付けることができない。	栄養教諭としてふさわしい態度を身に付けることができない。

科目名	教職実践演習（栄養教諭）			授業番号	NV412	サブタイトル	（栄養教諭）		
教員	藤原　三保子								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	栄養教諭として求められる資質・能力（使命感や責任感・教育的愛情，社会性や対人関係能力，児童生徒理解，食に関する指導力）が形成されたかを確認する教職課程最終科目である。主として教育実習のまとめを中心に相互検討及び評価し，課題解決のための演習・ディスカッション等を行い深めていく。また，栄養教諭の専門性に関することを再確認する。								
到達目標	・大学での講義で知り得た教養的および専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を融合し，教員免許保有者としての望ましい資質をより一層高めることができるようになる。 ・教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ，社会人としての優れた識見や対人能力が培われ，豊かな人間性と思いやりを身に付けようとすることができるようになる。 ・栄養教諭の専門性に関すること（給食管理・食に関する指導等）について考え，理解を深めることができるようになる。 ・学習指導の基本的事項(知識・技能など)，板書，話し方，表情など授業を行う上で基本的な表現力を身に付けていることができるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する								
授業計画　備考	演習を中心とするが，講義もある。								

回	概要	担当
第1回	教職実践演習の目的 「教職実践演習」の目的を知り，栄養教諭に求められる資質・能力について履修カルテを使用し自己評価を行う。	
第2回	学校栄養教育実習での研究報告　ディスカッション 学校栄養教諭実習の振り返りを一人ひとり報告し，ディスカッションする。	
第3回	学校栄養教育実習での研究報告　ディスカッション 学校栄養教諭実習の振り返りを一人ひとり報告し，ディスカッションする。	
第4回	栄養教諭に求められる資質能力　ディスカッション グループ討論等で栄養教諭に必要な必要最小限の資質・能力に関する課題について話し合うことで，自己の課題の解決方法等を明らかにする。	
第5回	学校における食育の推進について 学校における食育の推進のためには，具体的になにが必要なのか考える。	
第6回	「学校栄養教育の現状とこれから」（特別講師） 外部講師の講話「栄養教諭の現状とこれから」から，より具体的に自己の課題を考える。	
第7回	指導案・ワークシート・細案の作成 栄養教育実習の経験をもとに，児童生徒の実態や発達段階に応じた「食に関する指導」の指導案，ワークシート，板書計画，細案を作成する。	
第8回	指導案・ワークシート・細案の作成 栄養教育実習の経験をもとに，児童生徒の実態や発達段階に応じた「食に関する指導」の指導案，ワークシート，板書計画，細案を作成する。	
第9回	模擬授業　ディスカッション 作成した指導案等を用いて模擬授業，ディスカッションをすることで，教員としての表現力や授業力，児童生徒の反応を活かした食に関する授業づくり，効果的な指導法を確認する。	
第10回	模擬授業　ディスカッション 作成した指導案等を用いて模擬授業，ディスカッションをすることで，教員としての表現力や授業力，児童生徒の反応を活かした食に関する授業づくり，効果的な指導法を確認する。	
第11回	指導料等の作成（授業，掲示物，家庭や地域への配布　など） 家庭や地域への配付物（給食だより）・掲示物等を作成することで，具体的に連携の意義を再確認する。	
第12回	学校現場で求められる家庭・地域との連携のあり方　ディスカッション 栄養教諭は，専門性を活かして学校内外を通じ，食に関する教育のコーディネータとしての役割があることを再確認する。	
第13回	社会性や対人関係能力について　ディスカッション 食に関する指導の全体計画，食物アレルギーを有する児童生徒が安全に楽しく学校生活を送るために必要なことについて討論する。	
第14回	栄養教諭の専門性，学校給食における危機管理 学校給食実施基準を理解し，児童生徒の成長及び実態を把握した栄養管理ができることを再確認する。 学校給食衛生管理基準の内容を理解し，衛生管理の基本を身に付けていることを再確認する。	
第15回	総合的まとめ 大学で学んだこと・教育実習で学んだことを活かして栄養教諭の職務，資質・能力について再確認する。	

授業計画　備考2	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。
レポート	40	教育実習から見えてきた課題と解決策について，自分の考えを具体的に表現することができるかを評価する。 評価後はフィードバックとして、コメントを付けて返却する
小テスト		
定期試験		
その他	40	学習指導案，模擬授業，提出物 の内容を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習校で学んだ学校・学級経営の中での児童生徒に対する深い理解などを包含した報告や相互検討を行い，各自が将来に栄養教諭となるべく，お互いに高め合うような姿勢で事前・事後学習を十分に行い取り組むこと。
授業外学修	大学で修得した知識技能と教育実習での学びを関連づけて，実践的な演習に臨めるように予習・復習をすること。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト，必要に応じて資料を用意する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	令和5年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	管理栄養士・栄養教諭：（公立小学校・公立中学校）15年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	担当教員の実務経験を活かし、学生が教育実習を通じて得られた知識技能を融合し栄養教諭の専門性や果たすべき職務について理解を深め、栄養教諭に必要な技能を身に付けることができるようにする。また、教員免許保持者としての資質をより高め豊かな人間性と思いやりを身に付けようとする態度をもたせる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．栄養教諭の専門性に関することについて理解を深めることができる。	栄養教諭の専門性に関することについて広範かつ詳細に理解を深めることができる。	栄養教諭の専門性に関することについて広範に理解を深めることができる。	栄養教諭の専門性に関することについて十分に理解を深めることができる。	栄養教諭の専門性に関することについて十分に理解を深めることができない。	栄養教諭の専門性に関することについて理解を深めることができない。
思考・問題解決能力	１．大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を融合することができるようになる。	大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を広範かつ詳細に融合することができるようになる。	大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を広範に融合することができるようになる。	大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を十分に融合することができるようになる。	大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を十分に融合することができない。	大学での講義で知り得た教養的及び専門的知識と教育実習を通じて得られた教育現場での知識・技能を融合することができない。
技能	１．学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を身に付けていることができるようになる。	学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を広範かつ詳細に身に付けていることができるようになる。	学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を広範に身に付けていることができるようになる。	学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を十分に身に付けていることができるようになる。	学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を十分に身に付けていることができない。	学習指導の基本的事項(知識・理解など)、板書、話し方、表情など授業を行う上で基本的な表現力を身に付けていることができない。
態度	１．教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりを身に付けようとすることができる。	教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりをより一層身に付けようとすることができる。	教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりを一層身に付けようとすることができる。	教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりをおおむね身に付けようとすることができる。	教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりをあまり身に付けようとしない。	教諭としての使命感や熱意・愛情にあふれ、社会人としての優れた見識や対人能力が培われ、豊かな人間性と思いやりを身に付けようとすることができない。
態度	２．教員免許保有者としての望ましい資質をより一層高めようと努力する。	教員免許保有者としての望ましい資質をより一層高めようと努力する。	教員免許保有者としての望ましい資質を一層、高めようと努力する。	教員免許保有者としての望ましい資質をおおむね高めようと努力する。	教員免許保有者としての望ましい資質をあまり高めようと努力しない。	教員免許保有者としての望ましい資質を高めようと努力しない。

科目名	学校栄養教育指導法Ⅰ			授業番号	NW301	サブタイトル			
教員	藤原　三保子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	栄養教諭制度創設の経緯を十分に把握した上で，法制度や栄養教諭の職務内容について講義する。児童生徒の発達段階に応じた給食時の指導案の立案・資料等を作成し，模擬授業を実践する。学校・家庭・地域との連携や協働・調整の具体を説明する。栄養教諭として必要な食に関する指導および給食管理について総合的に学修する。								
到達目標	・栄養教諭制度の創設の経緯を把握し，栄養教諭としての社会的使命や職務内容を理解することができるようにする。 ・児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導について理解し，考えることができるようにする。 ・学校給食を教材とし，給食時の食に関する指導の指導案等を作成することができるようにする。 ・学校給食の管理・運営ができる能力を養うことができるようにする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	授業形態は講義，演習になる								

回	概要	担当
第1回	栄養教諭の制度と役割 学校栄養職員の歴史，栄養教諭創設の経緯，栄養教諭の職務内容を正しく理解し，果たすべき役割をとらえる。	
第2回	学校組織と栄養教諭 学校組織と栄養教諭の位置づけについて理解し，学校組織の中で栄養教諭が具体的にどのような働きをしていくかについて理解する。	
第3回	学校給食と日本人の食生活 学校給食は地場産物を活用し，郷土料理や行事食を提供するなど，地域の文化や伝統に対する理解と関心を深めることで教育的効果をもつ教材としての役割を担っていることを理解する。また，学校給食の歴史を理解する。	
第4回	子どもの発達と食生活 児童生徒の体位，体力，健康状態，栄養摂取状況，食生活の実態を把握し，成人期までの成長を見通した食育を実施できるように，学校における給食の位置づけと食育の重要性を理解する。	
第5回	学習指導要領の意義と食育の在り方 学校において食育を推進するにあたっては，学修指導要領の趣旨や内容などをよく理解した上で，教育課程に位置付け，組織的・計画的な取り組みを行う大切さを理解する。	
第6回	食に関する指導の全体計画 食に関する指導の全体計画の必要性や考え方，そして，計画に盛り込むべき内容の作成の手順について理解する。	
第7回	食に関する指導の展開 食に関する指導の全体計画を踏まえて子どもの実態に応じてどのように指導計画を作成すればよいか，教科や特別活動などと関連付けた指導をどのように行えばよいかについて理解を深める。	
第8回	食に関する指導と小学生用食育教材 文部科学省「食育教材」を教材に，発達段階の合わせた食に関する指導の具体的な内容を把握し，食に関する指導について理解する。	
第9回	給食の時間における食に関する指導 学校給食を教材として，給食の時間のおける食に関する指導の特徴や進め方，指導の留意点について理解する。	
第10回	給食の時間における食に関する指導案・板書計画・細案作成・実践 給食の時間の「食に関する指導」の指導案，板書計画，細案の作成を行う。	
第11回	給食の時間における食に関する指導の実践，ディスカッション アクティブラーニングを取り入れ，給食時間の「食に関する指導」を実践する。	
第12回	教科等における食に関する指導（小学校「家庭科」・中学校「技術・家庭科」，生活科，総合的な学習の時間，体育科・保健体育科，道徳，特別活動，総合的な学習時間） 食に関する指導に関連付けられている教科等について学習内容や指導の考えかたを知り，理解を深める。	
第13回	個別栄養相談指導の意義と方法 肥満，痩せ，食物アレルギー，生活習慣の予防，さらに食品や料理の選択，食べ方などが著しく偏っている児童生徒への個別栄養相談指導について理解し考える。	
第14回	家庭・地域との連携，給食だよりの作成・説明 学校と家庭・地域社会との連携を図ることは，児童生徒が地域の良さを理解するとともに，食事の重要性や食事を大切にする心を育てる上で効果があることを理解する。	
第15回	学校給食の管理・運営，まとめ，ディスカッション 学校給食の管理・運営，特に衛生管理についてより理解を深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	10	各回の主要なポイントの理解を評価する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他	10	給食時の指導案，給食だより等，提出物により評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	各回が独立して，15回で1つの流れとなってつながる授業であることから，毎回しっかり学修する態度で事前・事後学修に励み出席すること。栄養教諭を目指す気持ちを確立させてほしい。
授業外学修	・授業予定一覧に沿って，使用テキストを利用した予習・復習をすること。 ・指導案や資料等の作成，教材の準備をすること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
四訂　栄養教諭論－理論と実際－	金田雅代　編著	建帛社	978-4-7679-2116-7	2，800＋税
食に関する指導の手引　第二次改訂版	文部科学省	健学社	978-4-7797-0496-3	1，300＋税
小学校教科書「私たちの家庭科5・6」		開隆堂		
学校給食調理従事者研修マニュアル	文部科学省スポーツ・青少年局学校健康課	株式会社　学建書院	978-4-7624-0884-7	1，800+税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「食育教材」文部科学省
その他	適宜紹介する。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	管理栄養士・栄養教諭：公立小学校・公立中学校）15年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	教育現場での実践的な経験を活かし、学生が栄養教諭に必要な知識をもち理解を深め、思考し問題解決能力を養い必要な技能を修得させる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容を理解することができる。	栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容を広範かつ詳細に理解することができる。	栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容を広範に理解することができる。	栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容の基礎的事項を十分に理解することができる。	栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容の基礎的事項をあまり理解していない。	栄養教諭の創設の経緯を把握し、社会的使命や職務内容を理解していない。
知識・理解	２．児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を広範かつ詳細に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を広範に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を十分に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を基礎的事項をあまり理解していない。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を理解していない。
知識・理解	３．学校給食の管理についての基礎知識を理解することができる。	学校給食の管理についての基礎知識を広範かつ詳細に理解することができる。	学校給食の管理についての基礎知識を広範に理解することができる。	学校給食の管理についての基礎知識を十分に理解することができる。	学校給食の管理についての基礎知識をあまり理解することができない。	学校給食の管理についての基礎知識を理解することができない。
思考・問題解決能力	１．児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を工夫することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を広範かつ詳細に工夫することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を広範に工夫することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を十分に工夫することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導をあまり工夫することができない。	児童生徒の発達段階に合わせた食に関する指導を工夫することができない。
思考・問題解決能力	２．学校給食の管理・運営ができる能力を養おうとすることができる。	学校給食の管理・運営ができる能力を広範かつ詳細に養おうとすることができる。	学校給食の管理・運営ができる能力を広範に養おうとすることができる。	学校給食の管理・運営ができる能力を十分に養おうとすることができる。	学校給食の管理・運営ができる能力を十分に養おうとすることができない。	学校給食の管理・運営ができる能力を養おうとすることができない。
技能	１．学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導案を作成し、模擬授業をすることができる。	学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導について十分に教材研究・展開を考慮した指導案を作成し、模擬授業をすることができる。	学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導について教材研究・展開を考慮した指導案を作成し、模擬授業をすることができる。	学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導について十分に教材研究した指導案を作成し、模擬授業をすることができる。	学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導について十分に教材研究した指導案の作成や模擬授業をすることができない。	学校給食を「生きた教材」として、給食時の「食」に関する指導について指導案の作成や模擬授業をすることができない。

科目名	学校栄養教育指導法Ⅱ			授業番号	NW302	サブタイトル			
教員	藤原　三保子、山縣　綾香								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	学校栄養教育指導法Iで学んだ内容について，実践演習を行う。栄養教諭としての効果的な食に関する指導の学習指導案の作成，模擬授業，ロールプレイング，アクティブラーニングを取り入れ，実践的指導力のスキルの育成を行う。								
到達目標	・児童生徒の心身の発達段階に応じた1単位時間の「食に関する指導」の内容を理解することができるようにする。 ・食に関する指導の指導案の立案，模擬授業等を行うことができるようにする。 ・栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキル等を身に付けることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	学校栄養教育指導法Iを踏まえて（食に関する指導，給食管理） 〇特別活動，給食時間，学級活動における食に関する指導について，発達段階に合わせた題材を知り，自ら考え理解を深める。	藤原　三保子・山縣　綾香
第2回	学校給食の衛生管理基準 〇食に関する指導の題材となる学校給食の衛生管理(学校給食衛生管理基準，食物アレルギー，危機管理)について，具体的な例を知ることで，より一層理解を深める。	藤原　三保子・山縣　綾香
第3回	実践演習（1）　1単位時間の学習指導案の作成の基本 〇学級活動　1単位時間の学習指導案の作成の基礎を知り，理解を深め作成する。	藤原　三保子・山縣　綾香
第4回	実践演習（1）　1単位時間の学習指導案の作成の基本 〇学級活動　1単位時間の学習指導案の作成の基礎を知り，理解を深め作成する。	藤原　三保子・山縣　綾香
第5回	教育現場に勤務するプロとしての栄養教諭 〇現場で働く栄養教諭について理解を深める。(特別講師)	藤原　三保子・山縣　綾香
第6回	実践演習（2）　食に関する指導の学習指導案の作成，指導案の発表，相互批評，指導効果の評価，検討 〇学級活動での食に関する指導案等(指導案，板書計画，ワークシート，事前事後の調査)を作成し，模擬授業をする。相互評価をして指導技能を高める。	藤原　三保子・山縣　綾香
第7回	実践演習（2）　食に関する指導の学習指導案の作成，指導案の発表，相互批評，指導効果の評価，検討 〇学級活動での食に関する指導案等(指導案，板書計画，ワークシート，事前事後の調査)を作成し，模擬授業をする。相互評価をして指導技能を高める。	藤原　三保子・山縣　綾香
第8回	実践演習（2）　食に関する指導の学習指導案の作成，指導案の発表，相互批評，指導効果の評価，検討 〇学級活動での食に関する指導案等(指導案，板書計画，ワークシート，事前事後の調査)を作成し，模擬授業をする。相互評価をして指導技能を高める。	藤原　三保子・山縣　綾香
第9回	実践演習（3）　学習指導案の作成，指導案の発表，相互批評，指導効果の評価，検討 〇 給食時間・学級活動の食に関する指導案等を作成し，模擬授業を行いディスカッションすることで，改善することで，よりよい指導案に仕上げる。	藤原　三保子・山縣　綾香
第10回	実践演習（3）　学習指導案の作成，指導案の発表，相互批評，指導効果の評価，検討 〇 給食時間・学級活動の食に関する指導案等を作成し，模擬授業を行いディスカッションすることで，改善することで，よりよい指導案に仕上げる。	藤原　三保子・山縣　綾香
第11回	実践演習（3）　学習指導案の作成，指導案の発表，相互批評，指導効果の評価，検討 〇 給食時間・学級活動の食に関する指導案等を作成し，模擬授業を行いディスカッションすることで，改善することで，よりよい指導案に仕上げる。	藤原　三保子・山縣　綾香
第12回	実践演習（3）　学習指導案の作成，指導案の発表，相互批評，指導効果の評価，検討 〇 給食時間・学級活動の食に関する指導案等を作成し，模擬授業を行いディスカッションすることで，改善することで，よりよい指導案に仕上げる。	藤原　三保子・山縣　綾香
第13回	実践演習（3）　学習指導案の作成，指導案の発表，相互批評，指導効果の評価，検討 〇 給食時間・学級活動の食に関する指導案等を作成し，模擬授業を行いディスカッションすることで，改善することで，よりよい指導案に仕上げる。	藤原　三保子・山縣　綾香
第14回	実践演習（3）　学習指導案の作成，指導案の発表，相互批評，指導効果の評価，検討 〇 給食時間・学級活動の食に関する指導案等を作成し，模擬授業を行いディスカッションすることで，改善することで，よりよい指導案に仕上げる。	藤原　三保子・山縣　綾香
第15回	学校栄養教育実習の説明，全体のまとめ 〇学校栄養教育実習に向けて，事前訪問・学校栄養教育実習書等について理解を深める。	藤原　三保子・山縣　綾香
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	演習内容，課題への取組を評価する。意欲的な受講態度，ディスカッションへの参加状況によって評価する。
レポート	10	食に関する指導についての理解度を評価する。評価後はフィードバックとして、コメントを付けて返却する
小テスト	20	栄養教諭の職務についての理解度を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	グループでの活動が多いので，この機会をとらえてコミュニケーション能力を養うよう意欲的な態度で臨むこと。学習指導案の立案の際，各自で事前・事後学習に励むこと。
授業外学修	・学校栄養教育指導法Iで使用したテキストを熟読して，予習・復習をすること。 ・教材研究をしておくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。 ・小中学校の公開時を捉え，授業を参観する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	学校栄養教育指導法Iで使用したテキスト，必要に応じて資料を用意する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	担当教員が提示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	○管理栄養士・栄養教諭：（公立小学校・公立中学校）15年　　○小中高教員，岡山県教育委員会専門的教育職員，小学校教頭・校長　（39年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	担当教員の教育現場での経験を活かし、学生自ら栄養教諭の職務である学校給食の管理・食に関する指導について知識・理解を深め、子どもの発達段階を考え学級活動・給食時間で行う食に関する指導を進めるための実践的スキル・技能を修得させる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．児童生徒の発達段階に合わせた1単位時間の食に関する指導の内容を理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた1単位時間の食に関する指導の内容を広範かつ詳細に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた2単位時間の食に関する指導の内容を広範に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた3単位時間の食に関する指導の内容を十分に理解することができる。	児童生徒の発達段階に合わせた4単位時間の食に関する指導の内容を十分に理解することができない。	児童生徒の発達段階に合わせた5単位時間の食に関する指導の内容を理解することができない。
知識・理解	２．学校給食衛生管理基準について理解を深めることができる。	学校給食衛生管理基準について広範かつ詳細に理解を深めることができる。	学校給食衛生管理基準について広範に理解を深めることができる。	学校給食衛生管理基準について十分に理解を深めることができる。	学校給食衛生管理基準について十分に理解することができない。	学校給食衛生管理基準について理解することができない。
思考・問題解決能力	１．学級活動で行う食に関する指導の指導案等を工夫することができる。	学級活動で行う食に関する指導の指導案等を広範かつ詳細に工夫することができる。	学級活動で行う食に関する指導の指導案等を広範に工夫することができる。	学級活動で行う食に関する指導の指導案等を十分に工夫することができる。	学級活動で行う食に関する指導の指導案等を十分に工夫することができない。	学級活動で行う食に関する指導の指導案等を工夫することができない。
思考・問題解決能力	２．1単位時間の食に関する指導を進めることができる。	1単位時間の食に関する指導をよりよく適切に進めることができる。	1単位時間の食に関する指導を適切に進めることができる。	1単位時間の食に関する指導をおおむね進めることができる。	4単位時間の食に関する指導をあまり進めることができない。	5単位時間の食に関する指導を進めることができない。
思考・問題解決能力	３．意欲的にディスカッションすることができる。	より一層、意欲的にディスカッションすることができる。	より意欲的にディスカッションすることができる。	おおむね意欲的にディスカッションすることができる。	あまり意欲的にディスカッションすることができない。	意欲的にディスカッションすることができない。
技能	１．栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを身に付けることができる。	栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを広範かつ詳細身に付けることができる。	栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを広範に身に付けることができる。	栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを十分に身に付けることができる。	栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを十分に身に付けることができない。	栄養教諭に必要な実践的指導力の基礎となるスキルを身に付けることができない。
技能	２．1単位時間の食に関する指導を進めることができる。	1単位時間の食に関する指導をより一層、適切に進めることができる。	単位時間の食に関する指導を適切に進めることができる。	単位時間の食に関する指導をおおむね進めることができる。	単位時間の食に関する指導をあまり進めることができない。	単位時間の食に関する指導を進めることができない。

中国学園大学　子ども学部　子ども学科　シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
日本語表現	太田　憲孝	1
芸術	岡崎　三鈴	3
心理学	國田　祥子	5
倫理学	井之川　仁	7
社会学	中田　周作	9
日本国憲法	俟野　英二	11
人権教育論	小田　真一	13
現代環境論	小築　康弘	15
自然科学概論	清水　憲志	17
生活と情報処理	石原　洋之	19
数理･データサイエンス･AI	平井　安久	21
英語Ⅰ	西田　寛子	23
英語Ⅱ	西田　寛子	25
韓国語	宋　娘沃	27
中国語	杉山　明	29
英語Ⅲ	西田　寛子	31
体育講義（全8回）	溝田　知茂	33
体育実技	梶谷　信之	35
ファーストイヤーセミナー	中田　周作／中　典子／土師　範子／齊藤　佳子／岡崎　三鈴／太田　憲孝／山田　恵子	37
現代子ども学入門	中田　周作／中　典子／溝田　知茂／土師　範子／齊藤　佳子／伊藤　智里／廣畑　まゆ美／川崎　泰子／西田　寛子／岡崎　三鈴／太田　憲孝	39
子ども研究法Ⅰ	中田　周作／中　典子／土師　範子／齊藤　佳子／伊藤　智里／廣畑　まゆ美／西田　寛子／太田　憲孝／山田　恵子	41
子ども研究法Ⅱ	中田　周作／中　典子／國田　祥子／溝田　知茂／土師　範子／齊藤　佳子／廣畑　まゆ美／川崎　泰子／岡崎　三鈴／太田　憲孝／山田　恵子	43
課題研究Ⅰ	中田　周作／中　典子／國田　祥子／溝田　知茂／土師　範子／齊藤　佳子／伊藤　智里／廣畑　まゆ美／川崎　泰子／西田　寛子／太田　憲孝	45
課題研究Ⅱ	中田　周作／中　典子／國田　祥子／溝田　知茂／土師　範子／齊藤　佳子／伊藤　智里／廣畑　まゆ美／川崎　泰子／西田　寛子／太田　憲孝	47
卒業研究Ⅰ	中田　周作／中　典子／國田　祥子／溝田　知茂／土師　範子／齊藤　佳子／伊藤　智里／廣畑　まゆ美／川崎　泰子／西田　寛子／太田　憲孝	49
卒業研究Ⅱ	中田　周作／中　典子／國田　祥子／溝田　知茂／土師　範子／齊藤　佳子／伊藤　智里／廣畑　まゆ美／川崎　泰子／西田　寛子／太田　憲孝	51
基礎学力養成セミナーⅠ	西田　寛子／太田　憲孝／山田　恵子／小田　真一	53
子ども学実践演習Ⅰ	中田　周作／溝田　知茂／土師　範子／伊藤　智里／山田　恵子	55
基礎学力養成セミナーⅡ	中田　周作／西田　寛子／太田　憲孝／山田　恵子	57
子ども学実践演習Ⅱ	中田　周作／溝田　知茂／土師　範子／伊藤　智里／山田　恵子	59
総合教養養成セミナーⅠ	小田　真一	61
総合教養養成セミナーⅡ	中　典子	63
キャリア教育論	溝田　知茂／岡崎　三鈴／太田　憲孝／山田　恵子	65
キャリア教育演習	溝田　知茂／齊藤　佳子／岡崎　三鈴／太田　憲孝／山田　恵子	67
子どもとおやつ（全8回）	齊藤　佳子	69
子どもと楽器	土師　範子／岡崎　三鈴	71
子どもと手芸	齊藤　佳子	73
子どもとダンス 1クラス	土田　豊／溝田　知茂／清水　憲志／大田原　愛美	75
子どもとゲーム	中田　周作	77
障害児援助論	藤井　裕士	79
子ども家庭支援の心理学	國田　祥子	81
子どもの理解と援助	土師　範子	83
幼児理解の理論と方法	國田　祥子	85
教育社会学	中田　周作	87
教育相談	國田　祥子	89
子どもと絵本Ⅰ	住野　好久／山本　房子／伊藤　智里／福澤　惇也／太田　憲孝	91
子どもと絵本Ⅱ	住野　好久／伊藤　智里／廣畑　まゆ美	93
教育社会学演習	中田　周作	95
国語	太田　憲孝	97
算数	岸　誠一	99
生活	齊藤　佳子	101
音楽	川崎　泰子	103
図画工作	伊藤　智里	105
体育	溝田　知茂	107
基礎音楽A	河田　健二／土師　範子／廣畑　まゆ美／川崎　泰子	109
社会	山田　恵子	111
家庭	齊藤　佳子	113
英語	西田　寛子	115
児童英語演習	西田　寛子	117
基礎音楽B	河田　健二／土師　範子／廣畑　まゆ美／川崎　泰子	119
国語科教育法	太田　憲孝	121
社会科教育法	山田　恵子	123
算数科教育法	平井　安久	125
理科教育法	岸　誠一	127
生活科教育法	齊藤　佳子	129
音楽科教育法	川崎　泰子	131
図画工作科教育法	伊藤　智里	133
体育科教育法	溝田　知茂	135
家庭科教育法	齊藤　佳子	137
英語科教育法	西田　寛子	139
道徳教育指導論	重松　恵子	141
小学校教育研究Ⅰ	溝田　知茂／太田　憲孝／山田　恵子	143
小学校教育研究Ⅱ	溝田　知茂／齊藤　佳子／太田　憲孝／山田　恵子	145
小学校教育研究Ⅲ	溝田　知茂／齊藤　佳子／西田　寛子／太田　憲孝／山田　恵子	147
保育実践研究Ⅰ　α(公立の保育職希望者対象)	中　典子／國田　祥子／齊藤　佳子／岡崎　三鈴／大田原　愛美	149
保育実践研究Ⅰ　β(私立の保育職希望者対象)	中　典子／國田　祥子／齊藤　佳子／岡崎　三鈴／大田原　愛美	151
保育実践研究Ⅱ　α(公立の保育職希望者対象)	中　典子／國田　祥子／齊藤　佳子／岡崎　三鈴／大田原　愛美	153
保育実践研究Ⅱ　β(私立の保育職希望者対象)	中　典子／國田　祥子／齊藤　佳子／岡崎　三鈴／大田原　愛美	155
教育原理	中田　周作	157
教育史	住野　好久	159
教育方法学	住野　好久	161
保育者論	岡崎　三鈴	163
教育心理学	國田　祥子	165
教育･保育課程総論	岡崎　三鈴／藤井　裕士	167
保育内容総論 1クラス	岡崎　三鈴	169
特別支援教育	中　典子	171
教職概論	太田　憲孝	173

特別活動・総合的な学習の時間の指導法	太田　憲孝／山田　恵子	……	175
生徒指導・進路指導の理論と方法	住野　好久	……	177
子どもと健康	岡崎　三鈴	……	179
子どもと人間関係	廣畑　まゆ美	……	181
子どもと環境	齊藤　佳子	……	183
子どもと言葉	山本　房子／伊藤　智里	……	185
子どもと表現	土師　範子／伊藤　智里／廣畑　まゆ美	……	187
子どもと音楽	河田　健二／土師　範子／川崎　泰子	……	189
子どもと造形	伊藤　智里	……	191
ICT活用の理論と実践	岸　誠一	……	193
子どもと健康指導法	岡崎　三鈴	……	195
子どもと人間関係指導法	廣畑　まゆ美	……	197
子どもと環境指導法	齊藤　佳子	……	199
子どもと言葉指導法	伊藤　智里	……	201
子どもと表現指導法	土師　範子／伊藤　智里／廣畑　まゆ美	……	204
子どもと音楽研究	土師　範子	……	206
教育実習研究A 1クラス	齊藤　佳子／岡崎　三鈴	……	208
教育実習研究B	溝田　知茂／太田　憲孝／山田　恵子／小田　真一	……	210
保育・教職実践演習（幼・小）	溝田　知茂／土師　範子／齊藤　佳子／岡崎　三鈴／太田　憲孝	……	212
教育実習A	齊藤　佳子／岡崎　三鈴	……	214
教育実習B	溝田　知茂／太田　憲孝／山田　恵子	……	216
社会福祉	中　典子	……	218
子ども家庭支援論	中　典子	……	220
子育て支援 1クラス	中　典子	……	222
子ども家庭福祉	中　典子	……	224
保育原理	伊藤　智里	……	226
社会的養護Ⅰ	中　典子	……	228
子どもの保健	荒谷　友里恵	……	230
子どもの食と栄養Ⅰ	山縣　綾香	……	232
乳児の保育Ⅰ	土師　範子	……	234
障害児保育	藤井　裕士	……	236
地域福祉論	中　典子	……	238
保育計画Ⅰ	岡崎　三鈴	……	240
学童保育論	中田　周作	……	242
学童保育方法論	住野　好久	……	244
社会的養護Ⅱ	青木　幹生	……	246
子どもの健康と安全	梶谷　信之	……	248
子どもの食と栄養Ⅱ（隔週）	古川　愛子／北島　葉子／安原　幹成／髙坂　由理	……	250
乳児の保育Ⅱ	土師　範子	……	252
保育計画Ⅱ	岡崎　三鈴	……	254
保育実習研究Ⅰ 1クラス	土師　範子／廣畑　まゆ美	……	256
施設実習研究	中　典子／西田　寛子	……	258
保育実習研究Ⅱ	中田　周作	……	260
学童保育実習研究（前期:事前指導8回・後期:事後指導7回）	中田　周作／伊藤　智里	……	262
保育所実習Ⅰ	土師　範子／廣畑　まゆ美	……	264
保育所実習Ⅱ	土師　範子／廣畑　まゆ美	……	266
施設実習	中　典子／西田　寛子	……	268
保育実習Ⅲ	中田　周作	……	270
学童保育実習Ⅰ	中田　周作／伊藤　智里	……	272
学童保育実習Ⅱ	中田　周作	……	274

科目名	日本語表現			授業番号	CA201	サブタイトル	（音声言語と文章表現）		
教員	太田　憲孝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，「文章表現」を中心に絵本や物語，説明的文章等の言語表現の面白さや特徴を分析し，毎日の生活で使用している日本語表現に対する理解を深めるとともに，日本語表現への関心を高める授業を行う。								
到達目標	絵本や物語，説明的文章等の表現方法を分析し，その特徴を理解することを通して，日本語表現についての基礎的な知識を身に付けるとともに，日本語表現に対する関心を高めることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	身の周りにある様々な日本語表現 「身の周りにある日本語表現を探して分類したり分析したりすることを通して、日本語表現に対して関心をもつ」	
第2回	乳幼児の日本語獲得（１） 「満１歳頃までに行われる「クーイング」「視線」「指さし」などの非言語コミュニケーションについてその意味を理解する。」	
第3回	乳幼児の日本語獲得（２） 「意味を伴う音声による表現の獲得に向けて、その過程や特徴等について理解する。」	
第4回	読者を引きつける絵本のひみつ（１） 「絵本を取り上げ、乳幼児を引き付ける「丸い正面顔」「主人公の位置」等の仕掛けを理解する。」	
第5回	読者を引きつける絵本のひみつ（２） 「読み聞かせの場面を取り上げ、「絵本モンタージュ」の仕組みや「母親の語り掛け」の働きについて理解する。」	
第6回	読者を引きつける物語の仕掛け 「教科書に取り上げられている物語を分析し、「物語の構造」や「虚構」等の読者を引き付ける物語の特徴を理解する。」	
第7回	読者を引きつける物語の表現 「前時に使用した物語を細部の表現について分析し、読者に想像を促す文学的表現のおもしろさを理解する。」	
第8回	主題に迫る物語表現の仕掛け 「前時に使用した物語の終末部を分析し、作者の想いを表現した仕掛けのおもしろさを理解する。」	
第9回	身の周りにある説明的表現（広告）の工夫 「身の周りにある広告の表現を分析し、読み手に対する「写真」「色」「キャッチコピー」「レイアウト」等の作り手の工夫を理解する。」	
第10回	身の周りにある説明的表現（取り扱い説明書）の工夫 「身の周りにある「取り扱い説明書」の表現を分析し、読み手に対する「イラスト」「レイアウト」等の作り手の工夫を理解する。」	
第11回	読者を説得する説明的文章の仕掛け 「教科書に取り上げられている説明的文章について分析し、読者を説得しようとする「段落」「結論」「事例」等の仕掛けの工夫を理解する。」	
第12回	読者を説得する説明的文章の表現 「前時に取り上げた説明的文章の事例の表現を分析し、読者にイメージをもたらす説明的表現の工夫を理解する。」	
第13回	言葉を味わう詩的表現 詩を読み味わい、「比喩表現」「象徴的表現」等の詩的表現のおもしろさを理解する。」	
第14回	読者の「予測」を利用した読み物（１） 怪談の表現や仕掛けを分析し、「予測→不安→緊張→出現」という怪談の仕掛けを理解する。」	
第15回	読者の予測を利用した読み物（２） ショート・ショート等の表現や仕掛けを分析し、「予測→タメ→オチ」という予測を外すおもしろさを理解する。」	
授業計画　備考2	補講や天候等により授業内容が前後したり変更になる場合がある。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な学習態度やグループ等での話し合い活動への参加姿勢を評価する。
レポート	30	授業ごとの学習内容の定着度を評価する。提出されたレポートにはコメントを記載して返却し、学習の深まりを確認できるようにする。
小テスト		
定期試験	50	最終的な学習内容の定着度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	授業ごとにまとめて提出するレポートは，配布した資料を写すのではなく，自分で考えたことや深まったことを記述するように努める。
受講の心得	配付資料及びレポートをファイルしておくこと。 学生相互による話し合い活動では，積極的に参加し互いに考えを深めること。
授業外学修	１．事前に配布した資料は目を通し，授業に臨むこと。 ２．授業を通して理解した日本語表現の特徴や面白さをもとに，身の周りの日本語表現に関心を広げること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小中学校・小中一貫校国語科教員(27年)，国立附属中学校国語科教員(4年)，市教育委員会指導主事(3年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	絵本，物語や説明的文章等の表現分析

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．文章のジャンルに合せて、日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・様々なジャンルの文章を比較しながら、日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、多様な視点から日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を見つけることはできるが、そのおもしろさを感じるには至らない。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を見つけることが難しい。
知識・理解	２．様々なジャンルにおける日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を身に付けている。	・様々なジャンルにおける日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を十分に身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を十分身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識を身に付けている。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識の定着がやや不十分である。	・取り上げた文種について、日本語表現の特徴を捉え、日本語表現についての基礎的な知識の定着が不十分である。
思考・問題解決能力	１．日本語表現のおもしろさを、様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している	・日本語表現のおもしろさを、様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に関心をもって追究している。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における様々な特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究している。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究することがやや不十分である。	・日本語表現のおもしろさを、取り上げた文種における、特徴的な表現や仕掛けの工夫の中に追究することが難しい。
技能	１．文章のジャンルに合せて、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・様々なジャンルにおける文章の特徴を踏まえて、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・取り上げた文種の特徴を踏まえて、日本語表現のおもしろさに関係する様々な工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・取り上げた文種の特徴を踏まえ、日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけることがやや不十分である。	・日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけること不十分である。

科目名	芸術			授業番号	CA202	サブタイトル	芸術		
教員	岡崎　三鈴								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では、音楽を中心とした芸術表現の多様性を学び、自らの感性を磨くとともに、表現の喜びを体験的に理解します。								
到達目標	【知識・理解】音楽の3要素、西洋およびポピュラー音楽の歴史、楽器の構造、および音楽療法（感覚統合）やSTEAM教育の基本概念を正しく理解している。 【思考・問題解決能力】音楽が持つ表現意図や社会的な背景を分析し、グループワークやICTツールを通じて独自の表現を考案できる。 【技能】各種楽器の基本奏法を習得してアンサンブルを行い、またデジタルツールを用いた直感的な音楽制作の手法を修得している。 【態度】自己表現や他者理解を楽しみ、グループ活動において主体的に貢献しながら、芸術を通じた社会課題（貧困や発達支援）への関心を持ち続ける なお,本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	音楽と人 人と音楽の関係、音楽の起源、講義の進め方と評価	
第2回	自己表現と音楽 特別な意味を持つ曲の紹介を通した自己開示	
第3回	音楽の三要素と体験 メロディー・ハーモニー・リズムの基礎／ハンドベル等の合奏体験	
第4回	メロディー楽器体験 ヴァイオリン：弦楽器の構造理解と基本奏法の実践	
第5回	ハーモニー楽器体験 ウクレレ：撥弦楽器の起源とコード演奏体験	
第6回	リズムの実践Ⅰ 生活にある言葉を使ったリズム遊び／オリジナルリズムの創作	
第7回	リズムの実践Ⅱ リズム学習のグループ発表／ことば楽譜の作成と合奏練習	
第8回	アンサンブルの実践 打楽器等を用いた合奏発表	
第9回	西洋クラシック音楽Ⅰ 鑑賞曲の再考と主要作曲家の探究ワーク	
第10回	西洋クラシック音楽Ⅱ 中世から近現代までの時代区分と主要作曲家の探究ワーク	
第11回	アメリカの音楽と歴史 移民の歴史がポップスに与えた影響	
第12回	音楽の力と健康 心身の健康や回復,QOLの向上を目的として使われる音楽	
第13回	STEAM教育とアート 創造性を引き出すアートの力、貧困問題とアートエンゲージメント	
第14回	ICTを活用した音楽表現 Chrome Music Lab等を用いた直感的な音楽制作と視覚化	
第15回	日本のポピュラー音楽 J-POPの誕生と展開　：日本のポップス史	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な授業態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	30	各回の主要なポイントの理解を提出された課題やレポート等によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
その他	50	ディスカッション等への積極的な参加,発表,提出物により評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	音楽を通じた自己表現と他者への共感を大切にし、楽器体験やグループワークへ主体的に参加することで、芸術を楽しむ豊かな感性を養ってください。
授業外学修	1　予習として，授業内容にかかわる文献等を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，授業で紹介された参考楽曲等に触れる。 以上の内容を，週当たり２時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	音楽の3要素、西洋およびポピュラー音楽の歴史的変遷、楽器の構造、および音楽療法（感覚統合）やSTEAM教育の基本概念を正しく理解している。	音楽の歴史的・理論的背景を深く理解し、それらが現代の社会課題や教育、医学とどう関連しているかを体系的に説明できる。	各時代の主要な作曲家や音楽ジャンルの特徴、楽器の起源や構造を正しく理解し、専門用語を用いて解説できる	音楽の3要素や西洋音楽の時代区分、アメリカ音楽のルーツなど、講義で扱った基礎的な知識を概ね習得している。	芸術・音楽に関する最低限の基礎知識（代表的な楽器名や主要な時代背景など）を習得している。	音楽の基礎知識や用語の理解が著しく不足し、課題の意図を正しく把握できていない。
思考・問題解決能力	音楽の表現意図や背景を分析し、グループワークやICTツール、身体表現を通じて、既存の枠組みにとらわれない独自の表現方法を論理的に考案できる。	音楽と社会（貧困や人種問題等）の関係を鋭く洞察し、ICTやグループ合奏において、他者の感性を刺激する独創的かつ説得力のある表現案を提示できる。	楽曲の構造や歴史的背景を適切に踏まえ、自らの表現意図や、グループでの合奏・創作における工夫を論理的に構築できる。	提示された課題に対し、講義の内容を参考にしながら標準的な解決策や表現方法を妥当に選択・構成できる。	指示された状況下で、最低限の論理性を持ってリズムや旋律、あるいは感想をまとめることができる。	表現の意図が不明確であり、グループワーク等において論理的な思考や提案が見られない。
技能	メロディー楽器やハーモニー楽器の基本奏法を習得してアンサンブルを行い、またデジタルツール等を用いた直感的な音楽制作や楽譜作成ができる。	楽器の特性を最大限に活かした豊かな表現ができ、ICTツールや創作楽譜においても質の高いアウトプットを生み出している。	ヴァイオリンやウクレレ等の基本奏法を正しく習得し、グループと調和した演奏ができる。また、ICTを用いた制作においても適切な操作・表現ができる。	楽器の扱い方やリズムの基礎を習得し、大きな誤りなく演奏や創作・楽譜作成に取り組むことができる。	楽器の操作やデジタルツールの利用において、指示された通りに最低限の音を出す、あるいは制作することができる。	楽器の扱いが極めて不適切である、あるいは技能の習得が著しく遅れ、合奏や制作が成立しない。
態度	自己表現に主体的に取り組み、グループ活動において他者の表現を尊重し協力し合いながら、芸術に対する探究心を深めている。	自己開示に積極的で、グループの議論や合奏練習を献身的にリードし、他者の多様な感性を尊重しながら授業全体の質を高める姿勢がある。	専門職を目指す者としての自覚を持ち、予習・復習、楽器の準備、グループワークに責任を持って取り組んでいる。	受講マナーを遵守し、継続的に楽器練習や創作課題、ディスカッションに参加している。	欠席・遅刻をせず、受動的であっても指示された活動やグループ内での役割をこなしている。	受講態度が不適切（私語、スマホ使用、非協力的な態度）であり、芸術を学ぼうとする意欲が著しく欠如している。

科目名	心理学			授業番号	CA203	サブタイトル	（心と行動の科学）		
教員	國田　祥子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，心理学全般の基本的な知識，心理学理論による人間理解とその技法の基礎について解説する。								
到達目標	クリティカルシンキングやクリエイティブシンキングなどの心理学的思考法を身につけることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	心理学とは 「不思議」とされる現象を題材に，人の心のしくみについて長年研究を積み重ねてきた心理学の概要を紹介する。	
第2回	予知体験の不思議 「予知」「予言」と呼ばれる現象はなぜ起こるのか，推論のプロセスから解説する。	
第3回	記憶の不思議 「存在しない記憶」を確信を持って思い出してしまうのはなぜ？　不思議な記憶のメカニズムについて解説する。	
第4回	影響されるこころ 意見や態度は変容するものである。しかし「影響されやすい」状況やその特徴を知っておくことは重要かもしれない。	
第5回	揺れうごくこころ 感情が私たちの生活の中でどのような働きをするのか，悪徳商法や，心身に良いとされるものを例に考える。	
第6回	検査で「自分」がわかるのか ネットや雑誌などで目にする「心理テスト」はあてになる？　本物の「心理検査」「パーソナリティ測定」とは。	
第7回	占い・新宗教がもつ現代的意味 占いなどのスピリチュアルな世界に魅力を感じる人は多い。その心理を，背景にある悩みや迷いから紐解いていく。	
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り，理解を確認する。	
第9回	子どもから見た現実と想像の世界 さっきまで鬼を怖がって逃げていた子が，今度は鬼の面を付けて「鬼さん」に変身！　子どもたちが世界をどう捉えているのか考える。	
第10回	「もしかして……」と揺れ動く心の発達 「本当はいない」と分かっていても「いるかもしれない」と思うオバケへの恐怖。想像と現実を行き来する子どもの心を考える。	
第11回	不思議現象に立ち向かう子どもたち 子どもたちは想像の世界に積極的に立ち向かうことで，現実を探求するように。「科学する心」の始まりを解説する。	
第12回	脳とこころの不思議な世界 「金縛り」や「幻覚」はなぜ起こるのか。脳神経系の生理的変化から説明できる心の活動について解説する。	
第13回	科学的に検証するとはどういうことか 目に見えない「心」の存在やその活動を科学的に捉えるには，厳密な実験計画と統計的検定が重要。	
第14回	心理学を学ぶ人のために 分かりやすくもないし簡単でもない，意外と地味な心理学だからこそ学べる「面白さ」。	
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回の内容を振り返り，理解を確認する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
不思議現象　なぜ信じるのかこころの科学入門	菊地　聡・谷口高士・宮元博章（編著）	北大路書房	978-4-7628-2032-8	1900円
不思議現象　子どもの心と教育	菊地　聡・木下孝司（編著）	北大路書房	978-4-7628-2089-2	1900円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．講義内容を多面的かつ十分に理解し，自らの知識として獲得できる	呈示された知識を十分に獲得している	呈示された知識をほぼ獲得し，多少の不十分があっても獲得する努力をしている	知識の獲得は十分とは思われないものの，努力は明らかである	講義内容を十分に理解できているとは思われず，知識獲得への努力も不十分である	講義そのものを理解できておらず，知識を獲得できていない
思考・問題解決能力	２．講義内容を活かして，実際に批判的思考や課題解決に活かすことができる	批判的思考や課題解決を十分に行えている	多少の不十分があるものの批判的思考や課題解決を行う努力をしている	批判的思考や課題解決が十分とは思われないものの，努力は明らかである	批判的思考や課題解決が十分行われておらず，努力も不十分である	講義内容を批判的思考や課題解決に活かせていない

科目名	倫理学			授業番号	CA204	サブタイトル	答えのない問いを考える		
教員	井之川 仁								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	倫理学は「何が正しく、どう生きるべきか」を考察する規範的学問である。本講義では、古今東西の倫理思想を学びながら、現代社会における具体的な倫理的課題（AI、生命倫理、環境倫理、研究倫理など）にもアプローチする。講義で理論や事例を学び、分のワークショップでは少人数グループでの討論・振り返りを行い、自分の言葉で倫理的判断ができる力を育成する。多様なメディアを用いた授業を行う。方法はオンデマンドで行う。毎回の授業の内30分程度をオンデマンドとする予定である。予定は変更されることがあるのでかならずクラスルームで確認すること。								
到達目標	学生は、主要な倫理理論（義務論、功利主義、徳倫理など）を理解し、現代的な倫理課題に応用する力を身につける。他者の価値観と自分の判断を比較・統合しながら、多面的に問題を考察し、自分の倫理的立場を言語化できるようになる。※本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	倫理学とは何かを理解する。道徳・法・倫理の違いや、倫理学の基本的な分類（規範倫理、メタ倫理、応用倫理）を学ぶ。現代における倫理的問題の重要性にも触れる。	
第2回	倫理思想の歴史的展開を理解する。古代ギリシア（ソクラテス、アリストテレス）、近代（カント、功利主義）、東洋（儒教、仏教、武士道）までの流れを学ぶ。	
第3回	カントの義務論を理解する。定言命法、道徳法則、動機と義務という観点から「普遍的に正しい行為」について考察する。	
第4回	功利主義を学ぶ。ベンサムとミルの理論をもとに、行為の結果に基づく善悪の判断基準や、「最大多数の最大幸福」という原理を理解する。	
第5回	徳倫理を学ぶ。アリストテレスの「中庸」や「習慣としての徳」の考え方を通じて、人格的成長と倫理的行動の関係を理解する。	
第6回	正義の理論を学ぶ。ロールズの「無知のヴェール」や分配的正義・手続き的正義といった考え方を通じて、公正な社会のあり方を理解する。	
第7回	ケアの倫理を学ぶ。ギリガンやノディングスの主張をもとに、関係性や感情を重視した倫理観と、正義論との違いを理解する。	
第8回	東洋倫理思想を学ぶ。儒教・仏教・武士道を中心に、日本の伝統的な道徳観や倫理的価値（仁、礼、忠、誠など）を理解する。	
第9回	生命倫理を学ぶ。中絶、尊厳死、臓器移植などを題材に、「命の価値」「自己決定」「医療の限界」といった問題の倫理的側面を理解する。	
第10回	環境倫理を学ぶ。人間中心主義、自然の権利、世代間正義などの考え方を通じて、持続可能な社会と環境保全の倫理的根拠を理解する。	
第11回	情報社会とAIの倫理を学ぶ。プライバシー、監視、SNS、AIによる判断の問題点と責任の所在を理解する。	
第12回	職業倫理・研究倫理を理解する。専門職としての責任や、研究活動における不正（捏造・改ざん・盗用）と倫理審査の必要性を学ぶ。	
第13回	多様性と包摂の倫理を学ぶ。公平性、平等、差別、合理的配慮などの概念を通じて、多様な他者と共に生きる社会の在り方を理解する。	
第14回	倫理的ジレンマを総合的に考察する。自動運転や医療資源配分などの応用事例を用い、これまでの理論を実際の判断に結びつけて理解する。	
第15回	倫理学全体の学びを総括し、自らの倫理的立場を表現する。授業内容を振り返りながら「自分にとっての正しさ」とは何かを再構築する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	ディスカッション等授業における意欲・態度，各授業のコメントペーパー
中間テスト	40	倫理理論（義務論・功利主義・徳倫理）や思想家（カント、ミル、アリストテレスなど）について、基本的な内容を理解しているかを確認する。
定期試験	40	授業で扱った倫理理論・現代的課題・ジレンマの応用について① 倫理理論の理解（知識・理解）② 判断の根拠や論理性（思考・問題解決能力）③ 筋道立てた表現力（技能）について評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	討論を重視するため、互いの意見を尊重しながら発言し、対話を通じて自らの考えを深める姿勢が求められる。正解のない問いに対し、柔軟かつ誠実に向き合う態度が重要である。
授業外学修	各回の講義前に指定された資料（補助プリント等）を読んで問いを考えておくこと（1時間程度）。講義後には30分～1時間程度の振り返り（メモ・課題準備）を行う。週あたり計4時間以上の学修を想定す

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。(必要に応じて講義内で随時紹介する)

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義内で随時，紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	倫理学に関する基本的な理論、用語、構造を正確に理解し、他者に説明できるかどうか。	倫理理論（義務論・功利主義・徳倫理など）を正確に理解し、複数の立場の違いを区別して説明できる。歴史的背景や用語も適切に使える。	基本的な理論や用語を理解し、概ね正しく説明できる。部分的に説明の不正確さはあるが、大枠は把握している。	主要な理論の概要を把握しているが、用語の使い方や理論の理解に混同・あいまいさが見られる。	理論の理解が断片的で、説明に多くの誤りや不明瞭さがある。講義内容の整理ができていない。	理論や用語の理解が極めて不十分であり、説明が困難である。学修履歴や成果がほとんど見られない。
態度	倫理的課題や他者の意見に対して関心を持ち、積極的に授業や学修活動に取り組む姿勢があるか。	倫理的テーマに強い関心を示し、講義・討議・課題に自発的・主体的に取り組んでいる。探究心と継続的な学修姿勢が見られる。	授業に継続的に参加し、意欲的に学修・討論に取り組んでいる。他者との協働にも積極的である。	授業には出席しているが、参加や発言にムラがあり、学修への積極性に欠ける場面がある。	関心が薄く、課題・討論・グループワークなどにも受け身で参加している。学修態度に課題がある。	授業に対する関心や責任感が見られず、課題未提出・欠席・不参加などが継続的に見られる。

科目名	社会学			授業番号	CA206	サブタイトル	(配偶者の選択と家族編成の社会的規則)		
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。 現代社会における家族の姿は，多元化する価値意識のもとで，その形態や機能が多様化している。 そのため，本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて，家族編成に関する社会的規則について講義する。								
到達目標	現代社会の家族集団を，より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。 これにより，地域社会の中に存する様々な家族を理解し，実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	配偶者選択をめぐる社会状況の変化 現代社会の現状	
第2回	家族社会学における「家族」の定義 家族集団の特徴と世帯	
第3回	家族を対象とした社会学的アプローチの方法 家族をいかにとらえるか 漫画・映画などに描かれた家族のかたち	
第4回	家族の類型と分類 夫婦家族制・直系家族制・複合家族制の理解	
第5回	青年期の異性交際に関する社会学的意味の考察 日本における青年期の異性交際の現状と国際比較	
第6回	青年期の異性交際の実態 出生力調査にみる実態	
第7回	家族編成の社会的ルールとは何か 配偶者の選択はいかにして行われるか	
第8回	配偶者選択の社会的メカニズム 配偶者の選択と結婚	
第9回	配偶者選択のプロセス 出生力調査における独身者調査と夫婦調査の比較	
第10回	結婚の社会的意味 結婚はどのような意味をもつのか	
第11回	結婚の社会的機能 結婚するとどのようになるのか	
第12回	離婚の社会的意味と機能 離婚に関する意味付け 離婚の現状に関するデータ	
第13回	家族の新しい形 変貌する家族像 多元化する価値観	
第14回	子どもの養育 家族集団における子どもの社会化	
第15回	老親の介護 高齢化社会の中の家族集団	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
最終試験レポート	70	各自で最終レポートを作成し提出する。
コメントペーパー	30	基本的には、毎回、提出する。理解の状況の確認を行う。提出物については、次回の授業の冒頭で共有し、コメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自らの配偶者選択や，家族集団に興味・関心があることが望ましい。 しかしながら，あまりにも身近で現実的な問題であるため，ある程度，客観視できる受講態度が望ましい。
授業外学修	1．配付資料を事前に読んでくること。 文章を読むだけではなく，掲載されている図表の意味するところを考える。 具体的なアプローチの方法は，授業時間内に指示する。 2．最終レポートの課題を探しながら受講すること。 テーマに関するニュースや，身近な出来事に関心をもつこと。 両方の課題を合わせて，週当たり4時間以上，取り組むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。
その他	特になし。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．家族社会学における基礎的な概念を理解できている。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解しており、自分の言葉で説明することができる。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、その関係を理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えている。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えていない。
知識・理解	２．結婚の社会的機能と配偶者選択の規則について理解できている。	教育の歴史に係る重要事項について、その展開と社会的背景について理解している。	教育の歴史に係る重要事項の展開について理解している。	教育の歴史に係る重要事項について理解している。	教育の歴史に係るキーワードを覚えている。	教育の歴史に係るキーワードを覚えていない。
知識・理解	３．青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	関連するデータを踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	社会背景を踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを、ほとんど読み解くことができない。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができない。
思考・問題解決能力	１．データに基づき、家族に関する現状を考察することができる。	家族に関する現状を、複数のデータと社会背景を踏まえて考察を深め、説明することができる。	家族に関する現状を、複数のデータに基づき考察し、説明することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解し、考察することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができない。

科目名	日本国憲法			授業番号	CA207	サブタイトル	（身近な問題から「憲法のちから」を考える）		
教員	俟野　英二								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本科目では、日本国憲法および他国の憲法の沿革、様々な人々の人権について講義する。また、憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し、それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。 具体的にはまず、身近な憲法問題を取り上げて関係する憲法の基本原理及び基礎知識を教員の教育委員会(24年）及び県庁における人権啓発・相談経験（4年）を踏まえて概説する。次に、基本原理等に関する憲法問題について、グループワークを行い各自でワークシートにまとめさせる。そして、各章の小テストを課題としてUniversal Passport上で行い、基礎的な知識の定着を図る。さらに、憲法の基本原理、統治機構、人権に関する発展的な問題を全体で討議し、現代的な問題を分析、考察する。 これらの活動により、問題の全体像の把握と、多面的な分析及び多様な価値観や背景の認識を踏まえた上で、自らの見解の形成や表現の仕方を身に付ける。								
到達目標	憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し，それらを活用して身近な憲法問題を異なる価値観や考えに配慮しながら，主体かつ論理的に考えることができるようになることを目標とする。 なお，本科目は，到達目標達成の前提として異なる価値観，文化，背景および相互関係を知り，深い認識と理解など幅広い教養の修得とともに，子どもに関わる場面を含む様々な場面から主体的に憲法の視点から問題を見いだし、問題解決の方法を思考する力の修得を目的とすることから，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス、この国の基礎にある考え方１ 1　学修の目標、評価方法などを説明する。 2　近代立憲主義について学修する。	
第2回	この国の基礎にある考え方２ 1　法の支配について学修する。 2　士僚の女人規制について考える。 3　国家機関としての天皇制（明治憲法と天皇）について学修する。	
第3回	この国の基礎にある考え方３ 国家機関としての天皇制（日本国憲法と天皇）について学修する。	
第4回	この国の基礎にある考え方４ 憲法が目指す平和を守る仕組み１（憲法9条の制定と安保条約の締結）について学修する。	
第5回	この国の基礎にある考え方５ 憲法が目指す平和を守る仕組み２（台湾有事と存立危機事態）について学修する。	
第6回	人権を守るための組織１ 1　統治機構１（政治と国民、国会議員）について学修する。 2　若者の投票率の向上策について考える。	
第7回	人権を守るための組織２ 統治機構２（選挙、選挙制度、政党）について学修する。	
第8回	人権を守るための組織３ 統治機構３（国会）について学修する。	
第9回	人権を守るための組織４ 統治機構４（内閣）について学修する。	
第10回	人権を守るための組織５ 統治機構５（地方自治、裁判所）について学修する。	
第11回	身近な問題から考える人権１ 良心をもつ自由、貫く権利について学修する。	
第12回	身近な問題から考える人権２ 1　表現の自由と書かれない権利について学修する。 2　プライバシーについて考える。	
第13回	身近な問題から考える人権３ 営業の自由と消費者の権利について学修する。	
第14回	学校における生徒の人権 1　子どもの教育を受ける権利と教師の教育の自由について学修する。 2　学校内における生徒の人権について学修する。 3　旭川いじめ凍死事件からいじめを考える。	
第15回	困らないための権利、差別されている人たちへの配慮 1　憲法25条の歴史的社会的意味及び社会保障制度について学修する。 2　積極的な格差解消の取り組みの合憲性の判断の仕方について学修する。。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
グループワークの取り組み姿勢/態度	30	講義中のグループワーク時に各自が提出したワークシートに要求された内容が整理されていること。ワークシートを通じて必要に応じ個別指導を行うとともに、講義中に全体講評を行う。
小テスト	30	学修に対する意欲・態度、基本原理及び基礎知識の理解を評価する。回答期限後,Universal Passportに解説を表示する。
定期試験	40	基本原理及び基礎知識を理解し、身近な憲法問題に対して異なる価値観・意見に配慮しながら主体的かつ論理的にこれらを活用して結論を導くことができている。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　公民や現代社会が苦手な学生は、あらかじめ高校で使用したテキストや資料集などの日本国憲法に関する部分を読んでおくこと。 2　事前に授業の範囲のテキストを読み、分からない用語を調べておくこと。 3　各講義中にワークシートを提出する。それが出席カードも兼ねるとともに成績評価の対象なので必ず提出すること。 4　各章に対応する小テスト（Universal Passportの課題）を受験すること。
授業外学修	1　事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。 2　事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、Universal Passportで小テストを受験する。また，小テスト受験後，誤ったり理解が不十分であった箇所について復習する。 3　ワークシートが返却された後、グループワーク、講義、テキスト、小テスト等を踏まえて再度整理し直し、理解を深めるとともに試験に備える。 事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
憲法のちから―身近な問題から憲法の役割を考える	中富公一	法律文化社	978-4-589-04343-6	2400円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
グラフィック憲法入門第3版	毛利透	新世社	978-4-88384-397-8	
新・判例ハンドブック【憲法】第3版	高橋和之	日本評論社	978-4-535-52793-5	

参考書：自由記載	授業において随時紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	県教育委員会（24年），県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	県教育委員会（24年），県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験から、いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．憲法に関する基本原理・基礎的事項を理解している。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について,正確に理解し述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，大体述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，全く表現することができない。
知識・理解	２．国際社会・地域社会の多様な価値観・意見を認識し，理解している。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について,正確に理解し述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について,正確にではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，大体述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，全く表現することができない。
思考・問題解決能力	１．憲法や法令を使って論理的に問題を考えることができる。	課題に対し，論理的整合性をもち，多角的に考察をしている。	課題に対し，ほぼ論理的整合性をもった考察をしている。	課題に対し，自分の考えを述べることができる。	課題に対し，結論を述べることができる。	課題に対し、結論を述べることができない，または指示事項に沿っていない。
思考・問題解決能力	２．多様な価値観・意見に配慮した思考ができる。	課題に対し，多様な価値観・意見に配慮した考察が論理的整合性をもっている。	課題に対し，多様な価値観・意見に配慮した思考がほぼ論理的整合性をもっている。	課題に対し，多様な価値観・意見の存在を並列的に述べることができる。	課題に対し，不十分ながら複数の価値観・意見の存在を述べることができる。	課題に対し，複数の価値観・意見を述べることができない，または指示事項に沿っていない。

科目名	人権教育論			授業番号	CA208	サブタイトル			
教員	小田　真一								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	人権問題の現状と課題についての考察を通し，人権の正しい理解を深めるとともに，差別や偏見をなくする手立てとしての人権教育の在り方について考え，人権課題の解決につながる実践力を高める。								
到達目標	課題解決の実践力向上に向け，人権問題について認識を深め，人権教育の重要性を理解する。 あわせて，現代の子どもをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を身に付け，適切な対応ができるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち<知識・理解><態度>の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション 人権教育とは何か 「人権教育」という概念が確立した歴史的背景	
第2回	学校・子ども・人権① 子どもの権利や虐待等について理解する	
第3回	学校・子ども・人権② 外国人の子ども、同和問題等について考えよう	
第4回	人権を学ぶ基礎概念① 「当たり前」、多様性等について考えよう	
第5回	人権を学ぶ基礎概念② 「バイアスを見抜く」について理解する	
第6回	人権を学ぶ基礎概念③ 実践的行動力等について考えよう	
第7回	人権の視点で① 学校を欠席する子や子どもの「荒れ」について理解する	
第8回	人権の視点で② 格差を生む背景や進路保障について理解する	
第9回	生活を通して子どもをつなぐ集団づくり① 子どもの生活背景を踏まえた集団づくりについて理解する	
第10回	生活を通して子どもをつなぐ集団づくり② 教師が子どもとつながる取組について考えよう	
第11回	生活を通して子どもをつなぐ集団づくり③ 子ども同士をつなげる取組について考えよう	
第12回	人権学習をつくる視点と方法① 主体的・対話的な学びや人権を通しての教育について理解する	
第13回	人権学習をつくる視点と方法② 子どもに寄り添う人権学習等について理解する	
第14回	地域とつながる人権教育 子どもの権利保障と地域と連携した人権教育について理解する	
第15回	人権教育の現代的課題 新しい時代を迎える人権教育について理解する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	45	意欲的な受講態度（ワークシートを含む），発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レスポンスシート（レポート課題等を含む）	30	講義内容について，要点や自分の考えを記述したレスポンスシート（レポート課題を含む）によって評価する。事後，コメントを記入して返却する。
確認テスト	25	各回の主要なポイントの理解度を評価する。採点後、返却し解説する。
小テスト		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	人権教育への関心を高め，自らの課題として人権問題の解決に取り組むことができる意欲や実践力を高めようとする前向きで，謙虚な態度で受講すること。 受講に際しては，教育公務員を志願するにふさわしい言動の在り方を常に考えるとともに，現在の学校教育の課題と教育公務員の社会的使命について真剣に考えること。 講義の中で自分の考えを自主的に記録するので、テキストを事前に読み，疑問点を予め調べるなどすること。また、小テストを行うので、前時の復習をして授業に臨むこと。配付したプリント・資料や返却された小テストなどを整理後、ノートに貼付し，復習をすること。
授業外学修	1　予習として，テキスト内の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，関心をもった課題のレポートを書く。なお，分からなかった内容については，オフィスアワーを活用し教員に質問する等して，学修の向上に努めること。 3　発展学習として，講義で扱った内容に関わる資料や参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
人権教育への招待	森実ほか	解放出版社	978-4-7592-2167-1	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業で随時紹介する。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校の教員や教頭（28年），校長（8年）としての実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	教諭・主幹教諭や教頭，小学校長としての実務経験（36年)を活かし，教育現場の実際を反映させた実践的な講座としたい。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	人権問題について認識を深め、人権教育の重要性を理解している。	人権問題について認識を深め、人権教育の重要性を幅広くかつ深く理解している。	人権問題について認識を深め、人権教育の重要性を幅広く理解している。	人権問題について認識を深め、人権教育の重要性をおおむね理解している。	人権問題について認識を深め、人権教育の重要性を理解しているが十分ではない。	人権問題について認識を深め、人権教育の重要性について、基本的な事項が理解できていない。
態度	現代の子どもたちをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を身に付け、適切な対応ができるようになる。	現代の子どもたちをとりまく多様な問題に対応できる高い人権感覚を身に付け、状況に応じ柔軟かつ適切な対応ができるようになる。	現代の子どもたちをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を身に付け、状況に応じ適切な対応ができるようになる。	現代の子どもたちをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を身に付け、適切に対応しようとする態度が見られる。	現代の子どもたちをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を身に付け、適切に対応するときもあるが、十分ではない。	現代の子どもたちをとりまく多様な問題に対応できる人権感覚を身に付けておらず、適切な対応ができない。

科目名	現代環境論			授業番号	CB202	サブタイトル	環境問題を「自分ごと」として考える		
教員	小築　康弘								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業は、現代社会における環境問題を、私たちの身近な生活や社会との関わりの中で理解することを目的とする。環境問題を、自然環境の悪化や自然保護の問題としてだけ捉えるのではなく、日常の暮らし方、消費行動、社会の仕組みと密接に関係する課題として考えることを重視する。環境問題は自然だけの問題ではなく、人間の生活や経済活動、社会の成り立ちと深く結びついていることを踏まえ、個々の問題を断片的に覚えるのではなく、全体像を捉えるための基礎的な考え方を身につけることを目指す。								
到達目標	・現代における環境問題について、基礎的な内容と全体像を理解している。 ・環境問題を自分自身の生活や社会の在り方と結びつけて考え、自分の言葉で説明できる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	イントロダクション：環境問題のイロハ 環境問題とは何を指すのかを整理し、自然保護との違いや、なぜ現代社会で重要な課題となっているのかを概観する。	
第2回	人間と環境の関係の変化 人間の生活様式が歴史的にどのように変化し、それに伴って環境への影響がどのように拡大してきたのかを理解する。	
第3回	人口増加と環境問題 世界人口の増加が、食料・水・資源などの環境問題とどのように結びついているのかを考える。	
第4回	資源は無限ではない：資源問題の基礎 私たちが利用している資源の種類と特徴を整理し、資源の有限性について理解する。	
第5回	エネルギー問題の基本構造 化石燃料、原子力、再生可能エネルギーの特徴を比較し、エネルギー選択の難しさを学ぶ。	
第6回	地球温暖化①：何が起きているのか 地球温暖化の基本的な仕組みを押さえ、なぜ問題視されているのかを理解する。	
第7回	地球温暖化②：社会と生活への影響 気候変動が自然災害や人々の生活、将来世代に与える影響について考察する。	
第8回	ごみ問題とリサイクルの現実 ごみがどのように処理されているのかを知り、リサイクルの役割と限界を理解する。	
第9回	プラスチック問題を考える プラスチックの利便性と環境への影響を整理し、私たちの使い方を見直す。	
第10回	生物多様性と環境 生物多様性の意味を理解し、生き物の減少が人間社会に与える影響を考える。	
第11回	環境問題と経済・ビジネス 環境と経済の関係を整理し、環境に配慮したビジネスや消費行動について考える。	
第12回	環境問題と国際社会 環境問題が国境を越える課題であることを理解し、国際協力の難しさを学ぶ。	
第13回	子どもと環境：次世代への視点 子どもの生活環境や環境教育の重要性を通して、次世代に何を伝えるべきかを考える。	
第14回	私たちにできる環境への関わり方 個人の行動が持つ意味を整理し、無理なく続けられる環境配慮のあり方を考察する。	
第15回	まとめ：現代環境論を振り返る 授業全体を振り返り、環境問題を多面的に捉える視点と、考え続ける姿勢を確認する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	14	次回授業のテーマに関連して、事前のイメージや考え、疑問点などを記述する。調査や専門的知識の正確さよりも、自分の言葉で考えを表現しているかを重視する。レポートは採点し次第、速やかに返却する。
小テスト	30	各回の授業の最後に実施し、当日の授業内容の理解度を確認する。基本的な用語や概念、授業で扱った内容を中心とする。テストは採点し次第、速やかに返却する。
定期試験	56	授業全体を通して扱った内容について、環境問題をどのように理解しているかを確認する。単なる暗記ではなく、授業で学んだ内容を踏まえて説明できるかを評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べるくせをつけること。
授業外学修	1．予習範囲に関するレポートを準備し，提出すること 2．授業内容に関する小テストがあるため，復習をすること 3．全授業終了後に定期試験があるため、その準備をすること 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	現代における環境問題について、基礎的な内容と全体像を理解している	複数の環境問題の内容や相互の関係を正確に理解し、全体像を体系的に説明できる。	主要な環境問題の内容を理解し、それらの関連性や背景を概ね説明できる。	授業で扱った環境問題の基本的な内容を理解し、個別の事項について説明できる。	用語や内容の理解が部分的にとどまり、環境問題の全体像の把握が不十分である。	基礎的な内容の理解が不足しており、環境問題について説明することが困難である。
知識・理解	環境問題を自分自身の生活や社会の在り方と結びつけて考え、自分の言葉で説明できる	環境問題と自分の生活・社会との関係を具体例を挙げて論理的に説明でき、自分の考えが明確に示されている。	環境問題と生活・社会との関係を具体的に捉え、自分の言葉で分かりやすく説明できる。	環境問題と自分の生活との関係に触れながら、基本的な説明ができる。	生活や社会との関係づけが弱く、自分の考えの説明が抽象的または不明確である。	環境問題と自分の生活・社会との関係を示すことができず、説明が成立していない。

科目名	自然科学概論			授業番号	CB203	サブタイトル	体験型授業で自然の魅力を実感しよう		
教員	清水　憲志								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	私たちの日常の関わりの中から，自然を概観する授業を行う。ネイチャーゲームを中心としながら、自然の意義、価値を捉えなおす。その気づきを言語化・可視化する中で日本ならではの季節に起因する自然の豊かさを知る。								
到達目標	私たちの身のまわり，日常の中にある自然に対する向き合い方や捉え方等を再考することを目指す。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	自然案内人とはネイチャーゲームを体験してみよう。	
第2回	身近な自然を見つけよう大学内を散策して、色々な不思議に気づこう。	
第3回	泥団子を作ってみよう泥団子を作って楽しもう。	
第4回	泥団子を極めよう泥団子の理論を理解して，実践してみよう。	
第5回	視覚を塞いで気づく世界とは視覚を使わずに過ごすことで、感じられるものを体験してみよう。	
第6回	自然物を使って遊ぶことで、細やかな気づきを意識しよう落ち葉や石を使いながら、それぞれの良さに気づこう。	
第7回	自然を色々な形で味わい表現してみよう自然の音を感じたり、その日ならではの景色を描いたりして身近な場所から再発見しよう。	
第8回	自然環境と子どもの育ち自然について理解し，子どもの育ちに与える影響を理解する。	
第9回	自分と似ている自然とは？自分を自然に例えることで、自然を身近に捉えよう。	
第10回	自然から感じたことを言語化しよう自然から感じたことをありのままに表現すると共に他者の言葉を受けいれて感性を広げる。	
第11回	自然物の特徴に気づこう触感や視覚を頼りに色々な特徴に気づこう。	
第12回	オリジナルノーズを描こう自分だけのノーズを使って、自然への知識を深めよう。	
第13回	色水遊びをしてみよう多様な色が持つ不思議を再現してみよう。	
第14回	自然の中での擬態するものとは見えるようで、見えない視点を意識的に使ってみよう。	
第15回	自然を感じて遊ぶとはいかなることか。授業全体の振り返りと社会的事象を踏まえながら自然との共生を考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，実習・討議等への参加度等によって評価する。
コメントペーパー	30	授業毎に振り返りペーパーの内容について評価する。返却時に振り返りを行う。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・この授業は，自然を対象にしているため，天候等によって適宜内容を変更することがある。 ・内容に継続性や関連性があるため，授業を欠席しない，遅刻しないようにすること。 ・日頃の生活の中で，四季を意識して五感で感じて楽しむようにすること。 ・地域の自然に興味を持ち，色合いや生長を楽しむこと。
授業外学修	1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。 2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり，適宜調べ学修や実践等を行い， 学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜レジュメを配布する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	ネイチャーゲームリーダーハンドブック理論編　日本シェアリングネイチャー協会発刊

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	ネイチャーゲームリーダー（３年），ネイチャーゲームインストラクター（２年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．身のまわり，日常の中にある自然の向き合い方や捉え方について理解している。	身のまわり，日常の中にある自然の向き合い方や捉え方について十分に理解している。	身のまわり，日常の中にある自然の向き合い方や捉え方について概ね理解している。	身のまわり，日常の中にある自然の向き合い方や捉え方について普通に理解している。	身のまわり，日常の中にある自然の向き合い方や捉え方について理解がやや不十分である。	身のまわり，日常の中にある自然の向き合い方や捉え方について理解できていない。

科目名	生活と情報処理			授業番号	CC201A	サブタイトル	（超スマート社会の生活術）		
教員	石原　洋之								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	現代社会では，パソコンやスマートフォンなどのICTデバイスの活用が欠かせない。いつでもどこでも情報を利用できる環境が整い，AIの発展によって社会はますます高度化している。このような時代において，情報がどのような役割を果たし，人間とどのように関わるのかを学ぶ。 本授業では，「パソコンの基本操作や仕組み」，「ネットワークやAIの基本的な利用方法」，「情報化社会における情報モラルの課題」を中心に学び、現代社会で必要とされるICTリテラシーを身につけ，社会で活躍するための基礎を養う。								
到達目標	本授業の具体的な目標は，以下である。 (1) 積極的に授業に取組みＩＣＴリテラシー（デジタルな道具を活用する能力）の向上を図るために，新しい知識やスキルを習得しようとする。 (2) パソコンの基本操作と基礎的知識を学び，必要なICTツールが使用できる。 (3) インターネットやAIを利用した情報収集，編集，発信の仕方を学び適切な情報共有が行える。 (4) 情報を扱う場合の倫理やセキュリティについて学び安全な情報共有を理解する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	授業ガイダンスとパソコン操作についての基礎知識Ⅰ まず，ICTの活用と授業の進め方について説明を受け理解する。PC教室の使い方，ログインの仕方(ID，パスワード)，eメールのログインの仕方等パソコン操作の基本について理解する。Google Classroomでの 授業テキスト用のファイルの参照方法を知る。	
第2回	パソコン操作についての基礎知識II 演習用課題のファイルのアクセスの仕方，課題の提出の仕方等を理解し，実際に使えるようになるための操作を習得する。Gmail で e-mail 送信も行う。	
第3回	ワードの基礎知識Ⅰ MS WORDの起動，終了，文字入力の基本，印刷等を学び，簡単な文章を入力し，プリントアウトできる技術を習得する。音声読み上げ，画像-文字変換による文章の取り込みを経験する。	
第4回	ネットワークとインターネット利用についての基礎知識Ⅰ LANで構成されたネットワークとインターネットについて説明し，web 検索 を行い 画像を引用するなどの活用法について理解する。また，その際に起こるセキュリティや著作権の問題について理解する。	
第5回	エクセルの基礎知識Ⅰ 表を作成して，グラフの作成を体験する。インターネットで取得可能なデータを利用して操作と簡単なデータ分析を実際に経験する。	
第6回	エクセルの基礎知識Ⅱ セルの値の参照やセル関数を使う。標準偏差を用いて特異データを示す処理方法を理解する。	
第7回	スマートフォンの利用とファイル共有 クラウドサービスとe-mailを使ってスマートフォンとPCでファイル共有する。Gmail，Googleドライブ，Microsoft One Drive の使用方法を学ぶ。	
第8回	ワードの基礎知識Ⅱ 音声読み上げ，画像→文字変換（OCR）による文章の取り込みを経験する。Microsoft(Office) 365 も体験し自己学習方法を習得する。	
第9回	パワーポイントの基礎知識Ⅰ パワーポイントの起動，終了，画像の挿入，図形の作成などパワーポイントの描画機能の基本について理解する。	
第10回	生成AIの活用Ⅰ 一般的なAIの概要説明を行い，要約や翻訳を体験する。さらに対話型AIを使用上の注意点と有効性を理解する。	
第11回	生成AIの活用Ⅱ 適切な画像の挿入やアニメーションの機能を活用し，自己紹介のプレゼンテーション資料を作成する技術を習得する。生成AIでの画像生成も体験する。	
第12回	パワーポイントの基礎知識Ⅱ 適切な画像の挿入やアニメーションの機能を活用し，自己紹介のプレゼンテーション資料を作成する技術を習得する。生成AIでの画像生成も体験する。	
第13回	生成AIの活用Ⅲ 適切な画像の挿入やアニメーションの機能を活用し，自己紹介のプレゼンテーション資料を作成する技術を習得する。生成AIでの画像生成も体験する。	
第14回	生成AIの活用Ⅳ MS WORDで作成した自己紹介ファイルをパワーポイントで読み込み，アウトラインを理解し箇条書き文章から目的のスライドを作成してゆく。アウトラインという構造をまず作成することが，これからのAI活用で重要であることを学修する。	
第15回	情報の倫理とセキュリティ 情報セキュリティの基本的な知識を身に付け，パスワードを適切に設定・管理するなど，コンピュータやインターネットを安全に利用できるような知識・技術を習得する。また，情報社会への参画にあたって自らの行動に責任を持ち，自他の権利を尊重して，ルールやマナーを守って情報を集めたり発信したりするための学修をする。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	毎回の授業で演習に取り組む態度等を総合的に評価する。
レポート	80	毎回の授業での学修した情報教育の知識及び情報技術等が適正に理解・習得されているか，提出される演習課題等を総合的に評価する。レポートについては，コメントでフィードバックする。

評価の方法：自由記載	毎回授業の初めに「本日の学修目標」を具体的に提示し，その目標が達成されたかどうかについて評価する。したがって，その目標をしっかり意識して演習課題に取り組むこと。

受講の心得	新聞やTV，webサイト等で報道される情報に関するニュースやレポートに興味を持ってほしい。 わからないことは質問すること。
授業外学修	1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学習等を行い，考えてくること。 2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いて振り返り，適宜調べ学習や実践等を行い，学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。 3．Google Classroomを立ち上げ次回の授業の準備資料、復習用資料や連絡等を掲載するので視聴すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	プリントの配布とプレゼンテーション。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	情報通信技術者歴42年。PC-CADシステムの開発。海外アプリケーションの国内販売サポート。国内企業自治体のシステム化支援。ICTを利用したミュージアムの常設システムの設計と施工管理。自治体情報化支援3か月。ICT系学生によるBPL演習における長期インターン指導（13年）。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	システムの開発とインターネット創成期からの利活用及び海外視察と海外企業との提携で養ったICTの実践力と顧客企業のIT化でのITの活用の提案と提供，さらにミュージアムシステムでの教育現場への支援等の経験を生かして，ICTの具体的な活用を紹介しながら学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. ICTツール（アプリ）の機能と用途が理解できている。	多様なICTツールを使いこなし、高度な機能も活用できる。新しいツールにも短時間で習得できる。	複数のICTツールを使いこなすことができ、使い慣れたツールでは高度な機能も活用できる。	必要なICTツールを適切に使いこなすことができる。	特定のツールにしか慣れておらず、他のツールには戸惑う。	ICTツールをほとんど使いこなせない。
知識・理解	2. 基本的な情報共有の方法が理解できている。	多様な情報共有の方法を理解し、状況に応じて最適な方法を選択できる。情報種別を意識した、効果的な情報共有を行うことができる。	複数の情報共有の方法を理解し、使いこなせる。情報共有の際に、必要な情報を漏れなく伝えられる。	基本的な情報共有の方法を理解し、使える。しかし、状況に応じた選択が難しい場合がある。	情報共有の方法が限定的で、状況に応じた選択が難しい。	情報共有の方法を十分に理解しておらず、相手に伝わらないことが多い。
知識・理解	3. 情報セキュリティと倫理を理解している。	情報セキュリティの重要性を深く理解し、実践的な知識を持っている。情報倫理に関する問題点を見抜き、適切な行動をとることができる。	情報セキュリティの知識があり、基本的な対策を講じることができる。情報倫理の重要性を理解している。	情報セキュリティの基礎知識はあるが、実践的な知識は不足している。情報倫理に関する問題点に気づきにくい。	情報セキュリティや情報倫理の重要性を十分に理解していない。	情報セキュリティや情報倫理に関する知識がほとんどない。
思考・問題解決能力	1. 課題を理解し適切に取り組める。	課題の本質を捉え、独創的な解決策を提案できる。効率的な手段を選択し、課題を解決する。	課題の要点を理解し、適切な解決策を提案できる。与えられた情報から必要な情報を抽出し、課題解決に活かす。	指示された範囲内で課題に取り組み、解決を見つけることができる。	課題の意図を正確に把握できず、適切な解決ができない。	課題に取り組む意欲が低く、解決策を見つけることができない。
思考・問題解決能力	2. 効率的な利用や改善方法を見つけ理解の向上が行える。	ICTツールを効率的に使いこなし、作業の効率化を図る。自己学習能力が高く、常に知識を更新しようとする。	ICTツールの機能を理解し、作業の効率化を図る。新しい知識や技術を取り入れることに積極的である。	与えられたICTツールを基本的なレベルで使いこなせる。新しい知識や技術への関心は低い。	ICTツールの使い方がぎこちなく、作業の効率化が図れない。新しい知識や技術を取り入れる意欲がない。	ICTツールをほとんど使いこなせず、作業の効率化が図れない。
技能	1. PCとICTツール（アプリ）を快適に操作できる。	PCの操作に熟練しており、様々なアプリを自在に使いこなせる。トラブルが発生した場合でも、自ら解決できる。	PCの操作に習熟しており、複数のアプリを組み合わせた作業もスムーズに行える。	PCの基本的な操作ができ、指示されたアプリを操作できる。	PCの操作に慣れておらず、簡単な操作でも戸惑うことがある。	PCの操作が極めて不得手で、アプリをほとんど使いこなせない。
技能	2. インターネットの特性を理解したweb 検索や生成AIの活用が行える。	インターネットの仕組みを深く理解し、効率的な情報収集ができる。生成AIを効果的に活用し、創造的な活動が行える。	インターネットの仕組みを理解し、必要な情報を的確に検索できる。生成AIの活用方法を知っている。	インターネット検索の基本的な方法を知っており、必要な情報を見つけ出すことができる。	インターネット検索に慣れておらず、必要な情報を見つけ出すのが難しい。	インターネット検索の経験がほとんどなく、情報収集ができない。
技能	3. 意図したコンテンツの作成及び素材の収集が行える。	創造性豊かに、高度なコンテンツを作成できる。様々な素材を収集し、効果的に活用できる。	目的に合ったコンテンツを作成できる。必要な素材を効率的に収集できる。	指示された内容のコンテンツを作成できる。必要な素材をある程度収集できる。	指示された内容のコンテンツを作成するのが難しい。必要な素材を適切に収集できない。	コンテンツを作成することができず、素材の収集もできない。

科目名	数理・データサイエンス・AI			授業番号	CC203	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得するという政府発表の目標を掲げた。この講義では，プログラミング，データサイエンス（社会調査）・AI，データベース（表計算）などの様々な情報分野を学ぶ上で必要とされる基本的な数理的な考え方について学習する。								
到達目標	社会の中でのAIの役割を理解する. データの特徴を読み解き，データの中に潜む特徴を理解できる. データに応じた可視化の手法を選択し，適切に説明ができる. 代表値や統計的検定等の基本的な知識を用いることができる. スプレッドシートを用いてデータの適切な集計・分析をすることができる. なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	社会で起きている変化(1) 情報を使いこなす社会，IoTとは，ビッグデータ	
第2回	社会で起きている変化(2) 多変量解析の手法	
第3回	AI時代の到来(1) AIとは，AIを使いこなす，AI社会	
第4回	AI時代の到来(2) 機械学習の仕組み	
第5回	データを守るための留意事項 情報セキュリティとは，セキュリティの注意点，個人情報の管理	
第6回	データ活用と必要なスキル データと分析結果を対応づける，分析結果の利用，Excelの活用	
第7回	データの準備とデータのタイプ ネットでデータを探す，分析用データと分析結果データ，母集団と標本	
第8回	アンケートデータを要約しよう データの要約とは，Excelで要約，グラフでデータを視覚化する	
第9回	データを比較して仮説を考えよう(1) 質的データを比較する，仮説をもとう，ファインディングを伝える，仮説の検証	
第10回	データを比較して仮説を考えよう(2) 統計的仮説検定とは	
第11回	データを代表値で要約する 平均値を活用する，平均値の計算で分布も確認する，ヒストグラムを活用する	
第12回	量的変数をばらつきで要約する ばらつきを数値化する，売り上げデータを分析する，誤差を加味する	
第13回	平均と標準偏差を活用しよう 新しい変数を作る，異なる単位の変数を比較する，大きなずれに着目する，外れ値を活用する	
第14回	散布図を活用して関係性を分析する 人事評価データを分析する，散布図から似ている評価を特定する，相関分析を応用する	
第15回	データ分析を活用するために知っておきたいポイント データ分析結果を伝える，分析手法の全体像を知る，さらなる学習へ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
課題	30	課題は毎回出される．課題の解説をしながら、進めていく。
定期試験	30	試験により指導内容に関する到達度を評価する.
レポート		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積み重ねが重要なので復習を十分行い，分からないところは放置しておかないようにする。
授業外学修	毎週4時間以上，予習・復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめて学ぶ 数理・データサイエンス・AI	富士通ラーニングメディア	富士通ラーニングメディア	978-4-86775-081-0	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．代表値の概念を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	２．２変数間の相関の意味を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	３．仮説検定の概念を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	１．回帰分析を適用する場面を判断できる	十分判断できる	かなり判断できる	平均的に判断できる	部分的に判断できる	判断が不十分である
思考・問題解決能力	２．量的変数のばらつきを数値化する場面を判断できる	十分判断できる	かなり判断できる	平均的に判断できる	部分的に判断できる	判断が不十分である
思考・問題解決能力	３．解決のためのプロセスが見通せる	十分見通せる	かなり見通せる	平均的に見通せる	部分的に見通せる	見通しが不十分である
技能	１．社会調査に関する問題に向き合える	十分向き合える	かなり向き合える	基本的な形で向き合える	補助があれば向き合える	向き合えない
技能	２．国内の種々のデータを読み取る姿勢がある	十分ある	かなりある	基本的にある	部分的にある	姿勢が不十分である
技能	３．調査結果から今後すべきことを議論できる	十分議論できる	かなり議論できる	基本的な形で議論できる	補助があれば議論できる	議論できない

科目名	英語Ⅰ			授業番号	CD201A	サブタイトル	実践英語Ⅰ		
教員	西田　寛子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	本学の立地する岡山県の観光地，文化，習慣などについて外国人に紹介する対話文を扱い，英語の読解力を高めるとともに岡山についての理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ，最終的には，自ら素材を選んで岡山の紹介文を書き，英語で発表できる力を育成する。また，各自の英語の能力に応じた実用英語技能検定あるいは幼保英語検定の取得を目指す。								
到達目標	・英語の基本的な語彙，文法，文構造を理解できる。 ・英語の対話文を読んだり聞いたりして，その内容を理解できる。 ・日常的な話題や社会的な話題について，適切な表現を用いて伝え合うことができる。 ・地元岡山の文化や生活習慣等についての知識を身に付けている。 ・岡山の紹介文を作成し，Show and Tellの形で発表できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	Introduction: 講座の目標，内容，評価方法を確認する。 1-1-2 Welcome to Okayama：空港でALTを迎える場面での対話の内容を理解する。	
第2回	1-1-4 At Korakuen：後楽園を案内する場面での対話の内容を理解する。	
第3回	1-2-1 Hofukuji and Sesshu：宝福寺と雪舟に関する対話の内容を理解する。	
第4回	1-2-2 Kibiji District：吉備路に関する対話の内容を理解する。	
第5回	1-2-4 Ohara Museum of Art：大原美術館に関する対話の内容を理解する。	
第6回	1-3-1 Hiruzen Height：蒜山高原に関する対話の内容を理解する。 Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。	
第7回	1-3-2 A Trip to Inujima：犬島への旅行に関する対話の内容を理解する。	
第8回	1-3-3 A One-day Trip to Kibitsu Shrine：吉備津神社への日帰り旅行に関する対話の内容を理解する。	
第9回	1-3-5 Yunogo Hot Springs：湯郷温泉に関する対話の内容を理解する。	
第10回	2-1-3 Gift Wrapping：贈り物の包装に関する対話の内容を理解する。	
第11回	2-2-3 Covering Hakuto with Paper Bags：白桃の袋かけに関する対話の内容を理解する。 Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。	
第12回	Introduction Report of Okayama:岡山紹介のレポートを作成する。 Interview and Reading Test①:教員からの英語の質問に答えるとともに，テキストの中からその場で指定された箇所を音読するマンツーマンのテストを受ける。	
第13回	Okayama Introduction Practice:岡山紹介の練習をする。 Interview and Reading Test②:教員からの英語の質問に答えるとともに，テキストの中からその場で指定された箇所を音読するマンツーマンのテストを受ける。	
第14回	Show and Tell of Okayama Introduction：岡山紹介のShow and Tellをする。視聴する学生は聞き取り内容のメモをとり，発表者への質問をする。	
第15回	Future Goals: 将来の夢に関する対話文の内容を理解し，各自の将来の夢について英語で書く。 Summary and Reflection of the Entire Lecture：講義全体のまとめと省察	

授業計画　備考2	・毎時間の最初に，ペアでTopic Talk等のコミュニケーション活動を行い，英語によるコミュニケーション能力を高める。 ・テキストの内容理解後は，毎回ペアやグループで音読練習を行う。

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	・意欲的な受講態度（ペアやグループワークを含む），ノート点検による予習・復習の状況を評価する。＜態度＞
レポート	10	・テーマについて調査・整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。（岡山の紹介）＜技能＞ ＊レポートについてはコメントを記入して返却するとともに，良い例はクラス全体に紹介する。
小テスト	50	・既習事項の中から有用な語彙・表現の理解度を評価する。（到達度確認テスト）＜知識・理解＞ ・授業中のコミュニケーション活動や音読の到達度を確認する。（Interview and Reading Test）＜技能＞

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を心がけ，自らの学びの状況を把握し向上できるよう，自主的で粘り強い学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでのコミュニケーション活動をするので積極的に参加すること。 ・実用英語技能検定あるいは幼保英語検定の問題集を購入し，検定合格を目指して学修すること。
授業外学修	・テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。 ・前時の授業内容については２時間以上復習しておくこと。 ・課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
岡山からハロー	岡山ローバル英語研究会	山陽新聞社	978-4-88197-759-0c00	1，000円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年），公立中高一貫教育校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年），県教育委員会指導主事 （４年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（３８年）を生かし，小学校や乳幼児教育施設等の英語教育に携わる指導者に求められる基礎的な英語力を育成する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．英語の基本的な語彙・文法・文構造の理解	英語の基本的な語彙・文法・文構造を十分正確に理解し，問いに対して9割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を正確に理解し，問いに対して8割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を理解し，問いに対して7割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について，やや理解できていないところもあるが，問いに対して6割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について，あまり理解できておらず，問いに対して6割未満の回答である。
知識・理解	2．対話文の内容理解（Reading）	英語で書かれた対話文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して読み，人物の心情を考えたり，自分の意見と比較したりできる。	英語で書かれた対話文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いて，正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いて，ほぼ正確に読み取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いても，正確に読み取ることができない。
知識・理解	3．対話文の内容理解（Listening）	英語で書かれた対話文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して聞き，人物の心情を考えたり，自分の意見と比較したりできる。	英語で書かれた対話文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いて，正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いて，ほぼ正確に聞き取ることができる。	英語で書かれた対話文の内容について，既習事項を用いても，正確に聞き取ることができない。
知識・理解	4．地元岡山の文化や習慣等についての知識	地元岡山の文化や習慣等に関するテキスト以外の英文も自ら進んで読み，その知識を正確に身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読み，その知識を十分かつ正確に身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読み，その知識を正確に身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読み，その知識をほぼ身に付けている。	地元岡山の文化や習慣等に関するテキストの英文を読むが，その知識が身に付いていない。
技能	１．英語でのやりとり	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，適切な表現を用いて伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができない。
技能	２．英文の音読	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で，感情を込めながら相手に伝わる工夫をして音読できる。	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で，感情を込めて音読できる。	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で音読できる。	ほぼ正確な発音・イントネーションとほぼ適切なポーズ・声量で音読できる。	正確な発音・イントネーションと適切なポーズ・声量で音読できない。
技能	３．発表原稿の作成（書くこと）	未習の語彙・表現は自ら進んで調べ，事実や自分の考え，気持ちを入れる等して，相手に伝わりやすい英文を書くことができる。	未習の語彙・表現は自ら進んで調べ，事実や自分の考え，気持ちを入れる等して書くことができる。	既習の語彙・表現を用いて，事実や自分の考え，気持ちを入れる等して書くことができる。	簡単な語彙・表現を用いて，事実について書くことができる。	簡単な語彙・表現を用いても，事実について書くことができない。
技能	４．Show and Tell（岡山紹介の発表）	適切な声量・アイコンタクト・姿勢で，原稿を見ずに実物や写真を示しながら，聞き手にわかりやすく伝えることができる。	適切な声量・アイコンタクト・姿勢で，あまり原稿を見ずに，実物や写真を示しながら，聞き手にわかりやすく伝えることができる。	適切な声量・姿勢で，実物や写真を示しながら，聞き手にわかりやすく伝えることができる。	適切な声量・姿勢で，実物や写真を示しながら，聞き手に伝えることができる。	聞き手にわかりやすく伝えることができない。
態度	１．ペアやグループでのコミュニケーション活動	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し，適切な表現を用いて対話をしたり，分からない人にアドバイスしたりできる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し，適切な表現を用いて対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加できない。
態度	２．自律的な学び（予習・復習）	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学修し,必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解した上で，自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが，その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	英語Ⅱ			授業番号	CD202A	サブタイトル	実践英語Ⅱ		
教員	西田　寛子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	ニューヨークでの留学生活を描いた映像教材を活用して，英語の４技能をバランスよく用いながら言語活動に取り組む中で，基本的な英文法の復習を行うとともに，コミュニケーション能力の向上を図る。講座の各回において，まず，映像資料を視聴してその内容を把握し，対話文中の文法事項に関する練習問題に取り組む。次に，重要表現の発話練習を行い，抜粋したシーンを使ってペアやグループで対話を行う。そして，その内容に関する各自の意見や感想を記述する。また，ニューヨーク事情やアメリカ文化についても学修する。以上のように，様々な言語活動を行うことを通して，小学校や乳幼児教育施設における英語教育の基礎となる英語運用能力の向上を図る。								
到達目標	・映像資料を視聴し，その内容を理解することができる。 ・映像資料中の基本的な語彙，文法，文構造を理解し，それを用いて英文を作成したり，テーマに沿った英文を書くことができる。 ・映像資料に関連する英文を読み，その概要を理解できる。 ・ペアやグループでのコミュニケーション活動において，自分の考えを的確に表現したり，相手の意見を正確に聞き取ったりできる。 ・予習をして意欲的に授業に臨み，授業後は疑問に思った点や練習すべき事項について復習する等，自律的に学ぶことができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	・Introduction:　本講座の目標，内容，評価方法について理解する。 ・SCENE 1　It's So Nice to Meet You! 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。	
第2回	・SCENE 2　Is He a Popular Professor? 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。	
第3回	・SCENE 3　He Showed Me "a" Way 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。	
第4回	・SCENE 4　For Here or To Go? 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。	
第5回	・SCENE 5　She Is So Beautiful 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。	
第6回	・SCENE 6　Catching a Cab 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。 ・Unit1～6のまとめをする。	
第7回	・SCENE 7　How Romantic! 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。 ・Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。	
第8回	・SCENE 8　I'm Not Feeling Well 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。	
第9回	・SCENE 9　Tickets for a Yankees Game 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。	
第10回	・SCENE 10　What's on the Shopping List? 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。	
第11回	・SCENE 11　MoMA Is Fun! 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。	
第12回	・SCENE 12　The "Fourth of July" Is Coming Up 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。 ・SCENE 7～１２のまとめをする。	
第13回	・SCENE 13　Who Is That Guy?! 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。 ・Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。	
第14回	・SCENE 14　You're My Best Friend 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。	
第15回	・SCENE 15　We're Going to Be Late! 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。 ・講座全体のまとめと省察をする。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，言語活動への積極的な取り組み，課題や予習の取り組み姿勢などを評価する。＜態度＞
言語活動における技能	20	言語活動において，自分の考えを的確に表現できているかどうかを評価する。＜技能＞
小テスト	40	到達度確認テストにおける語彙・表現の理解度ならびにリスニング力を評価する。＜知識・理解＞ ＊テスト返却時に，全体的な傾向や今後の学修のポイントを解説する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・言語活動に積極的に取り組むこと。 ・予習・復習において，音声ファイルをダウンロードして自主的に学修すること。

授業外学修	・予習として，授業で指示された箇所を読み，その問題をしておくこと。 ・復習として，授業で学んだ文法事項と英語表現をノートに書いて練習し，知識として定着させること。また，音声データをダウンロードして音声を確認し，音読すること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Hello New York!	土屋武久 本多吉彦 Braven Smillie	金星堂	978-4-7647-4011-2	2，500円+税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年），公立中高一貫教育校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年），県教育委員会指導主事 （４年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に携わる指導者に求められる総合的な英語運用能力を育成する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．英語の基本的な語彙・文法・文構造の理解	英語の基本的な語彙・文法・文構造を十分正確に理解し，問いに対して9割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を正確に理解し，問いに対して8割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を理解し，問いに対して7割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について，やや理解できていないところもあるが，問いに対して6割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について，あまり理解できておらず，問いに対して6割未満の回答である。
知識・理解	２．英文の内容理解（Reading）	英文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して正確に読み取ったり，自分の意見と比較したりできる。	英文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して正確に読み取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いて，正確に読み取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いて，ほぼ正確に読み取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いても，正確に読み取ることができない。
知識・理解	３．英文の内容理解（Listening）	英文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して正確に聞きとったり，自分の意見と比較したりできる。	英文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して正確に聞き取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いて，正確に聞き取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いて，ほぼ正確に聞き取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いても，正確に聞き取ることができない。
知識・理解	４．異文化理解（アメリカ文化や生活習慣等）	アメリカの文化や習慣等に関するテキスト以外の英文も自ら進んで読み，その知識を正確に身に付けている。	アメリカの文化や生活習慣に関するテキストの英文を読み，その知識を十分かつ正確に身に付けている。	アメリカの文化や習慣等に関するテキストの英文を読み，その知識を正確に身に付けている。	アメリカの文化や習慣等に関するテキストの英文を読み，その知識をほぼ身に付けている。	アメリカの文化や習慣等に関するテキストの英文を読むが，その知識が身に付いていない。
技能	１．英語でのやりとり（Speaking）	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，適切な表現を用いて伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができない。
技能	２．英語での表現（Writing）	目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，適切な表現を用いて正確に書くことができる。	目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，適切な表現を用いて書くことができる。	目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを適切な表現を用いて書くことができる。	日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを書くことができる。	日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを書くことができない。
態度	１．ペアやグループでのコミュニケーション活動（Speaking）	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し，適切な表現を用いて対話をしたり，分からない人にアドバイスしたりできる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し，適切な表現を用いて対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に参加できない。
態度	２．自律的な学び（予習・復習）	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学修し,必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解した上で，自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが，その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	韓国語			授業番号	CD204	サブタイトル	(韓国語の基礎を学ぶ)		
教員	宋　娘沃								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	近年韓国の映画、音楽、食べ物などの文化や社会生活が世界から注目され，韓国への関心が一層高まっている。こうした関心は韓国語の習得につながり，韓国語はどのような仕組みで作られているのかを知っていく必要がある。韓国語と日本語は文法が類似していると同時に，言葉にとって大切な語順がほとんど一致している。本講義は，前半では韓国語学習を習い始める初歩の段階としてハングルの基礎から始まり，韓国語のごく短い文の読み書き，聞き取りを学習する。後半では日常会話として自己紹介，挨拶の言葉，韓国旅行のための簡単な会話など，基本的なやり取りの実践的な力を身につける。また、韓国の若者の意識，韓国の大学生活，エンターテインメント，社会への理解を深めるために，ビデオ鑑賞を行う。								
到達目標	・韓国語の基礎的な文法，発音を理解して活用できる。 ・簡単な韓国語の読み書きができる。 ・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	韓国語とは 韓国語はいつ作られ，どのように作らてたのかをハングルの由来，歴史的な経緯を学習する。	
第2回	文字と発音・母音 韓国語文字や基本構成を学習する。	
第3回	文字と発音・子音 韓国語文字の特徴や文字の基本構成を学び，その仕組みを理解する。	
第4回	激音と農音，パッチム 基本母音字と子音字から表れる激音と濃音の発音の違いについて学習する。	
第5回	韓国語の助詞・動詞 韓国語の一文を完成するための助詞と動詞の仕組みについて学習する。	
第6回	基本文型の過去形の作り方 基本文型の現在，過去，未来がどのように表現されているのかを理解する。	
第7回	感嘆文・疑問文の形式 韓国語の感嘆文・疑問文を簡単な言葉を用いて理解する。	
第8回	基本文型の指示代名詞・助数詞 指示代名詞を事例から説明し，一つの文章を作るようにする。	
第9回	用語の丁寧形・尊敬形 韓国語の丁寧形や尊敬語を具体例から学習する。	
第10回	会話練習・表現 文章の基礎的な仕組みから短い表現を理解する。	
第11回	挨拶・訪問の言葉 基本的な挨拶の言葉を学習する。	
第12回	韓国の大学と若者 韓国の大学と日本の大学の違い，若者の意識について理解する。	
第13回	韓国の食生活と食べ物 韓国の食生活や近年関心が高まっている食べ物について学習する。	
第14回	韓国の映画と文化 韓国のエンターテインメントや映画について理解する。	
第15回	韓国の文化と日常会話 近年のKポップや音楽について，日常会話を用いて学習する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢や態度	20	授業への意欲，質問，課題を積極的に取り組んでいるのかを評価する。
小テスト	40	授業の中間時点で，どの程度内容を理解しているのかを確認する。また，小テストは次週に解説をする。
期末テスト	40	授業全体の理解度や言葉の習得がどの程度できているのかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み，予習をやってくること。 課題を充実に行うこと。
授業外学修	・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって読むこと。 ・復習として，課題をノートに書いて来ること。 ・韓国語の教科書のCDを聞くようにして，言葉に慣れること。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ゼロから学べる［文法］トレーニング	木内　明	髙橋書店	978-4-471-11270-7	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．外国語や韓国語の必要性を十分に認識している。	韓国語の必要性をほぼ理解している。	韓国語の文法の仕組みや会話の基本構造をほぼ理解している。	韓国語の文法の仕組みをほぼ理解している	韓国語は理解しているが、具体的な知識が十分でない。	あまり外国語に対して興味を持ていない。
知識・理解	2．新しい知識として外国語の必要性を十分に認識している。	言葉の仕組みや子音・母音を十分に理解している。	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる。	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる。	韓国語の文字体系を理解しようとしていない	外国語や他の国のことを理解していない。
知識・理解	3．韓国語の学ぶ上での韓国の文化や社会のことを認識している。	韓国で起こっている諸問題から対応策を考えられる。	最近の韓国文化に興味を持って勉強に取り組んでいる。	学生自ら進んで韓国語を学習する能力が備えている。	あまり外国の文化や言葉を理解しようとしていない。	韓国のこと、韓国語にあまり関心が少ない。
技能	１．新しい言葉を身につけることで自分の知識が深まる。	韓国語の基礎が出来ており，自ら進んで韓国の文化に関しても勉強している。	韓国語の会話や発音の子音・母音の体系が理解できている。	韓国語の発音の仕組み，会話の基礎が出来ている。	韓国語を学習する目的や基礎知識が理解できていない	韓国語の基礎的な子音・母音の体系や韓国語の内容が理解できていない。
技能	２．外国語を学ぶことで一層他文化に対する理解が深まる。	韓国語の基礎知識は十分に備え、自ら進んで韓国の文化や言語を勉強している	韓国語の基礎知識を備えられ，その国の社会や文化が理解できる。	韓国語の会話がほぼ理解でき，韓国の社会に関しても知ろうとしている。	外国語を修得し，１つでも自分の知識を増やすことの重要性が認識できていない。	韓国語を学ぶことの意味と目的が明確ではない。
技能	３．外国語や海外の人・文化を通じて自国のことや自分のことを再考することができる。	韓国語の学習が十分にでき，今日のグローバル社会が理解できる。	韓国語の学習を通じて他の国のことが理解できる。	韓国語の基礎知識が勉強でき、他の語学にも興味を持つことが可能になる。	韓国語の基本の発音体系や会話を身につける意味が認識できていない。	韓国語の内容や発音の体系をどのように理解し，勉強しようかという認識ができていない。

科目名	中国語			授業番号	CD205	サブタイトル			
教員	杉山　明								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この授業では中国語の発音・基礎文法に重点を置く。日本人にとって親しみのある漢字を中国語でどう発音するかのなぞを解きながら，基礎的な会話と文型を学んでいくものとする。実践的な「使える中国語」を目指す。								
到達目標	既習内容の発音や単語の定着を目指して基本文型を理解する。いざ中国語による会話をする時，趣味などについて語れる基礎的なコミュニケーション能力を身に付けている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	発音練習と授業計画 学習の進め方を理解し，発音の基礎となる四声，単母音を理解する。テキスト発音編第一課 授業後はテキストの音声教材を使って、よく復習する。	
第2回	発音　ピンイン　複母音　数字 ピンインの読み方を知るとともに，発音編第2課により複母音の発音を練習する。また本文編第1課により数字の読み方を学ぶ。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第3回	発音　鼻母音　子音　「有」の用法 発音編第2課により鼻母音，子音の練習。本文編第1課により動詞「有」の用法を学ぶ。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第4回	発音　有気音と無気音　日付けの言い方　動詞「是」の用法 テキス発音編第2課を見て有気音と無気音の練習，本文編第2課を使いA是Bの構文を学ぶ。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第5回	声調の変化　r化音　曜日の言い方 テキスト発音編第3課により声調の変化，r化音を練習，本文編第3課により曜日の言い方を学習。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第6回	動詞「叫」「姓」の用法　疑問詞の用法 テキスト第3課により動詞文，動作動詞「叫」「姓」の用法及び疑問詞の用法を学ぶ。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第7回	SVOの文型　指示語の学習 テキスト第4課SVOの文型を学び、さらに指示語（こそあど言葉）の使い方を知る。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第8回	中間考査 ここまでの学習を振り返り，中間考査を実施する。次時に返却、解説を行う。	
第9回	中間考査返却と解説　お金の言い方 中間考査の結果を見て，自己の部分を未理解部分を確認する。 また中国のお金の言い方を学ぶ。 授業後は解説を聞き、自分の間違い箇所を訂正する。	
第10回	「在」の用法　重さ，長さの言い方 テキスト第5課により動詞「在」の用法を学び，また重さ，長さの言い方を知る。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第11回	反復疑問文　形容詞の用法 テキスト第5課により反復疑問文の使い方，第６課により形容詞の用法を学ぶ。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第12回	助動詞の用法　時間の言い方 テキスト第6課により助動詞「想」「要」の用法を学び，第7課により時間の言い方を知る。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第13回	可能の助動詞の用法　介詞 テキスト第7課により可能の助動詞「会」「能」「可以」の使い方を学び，さらに介詞「在」「対」の用法を学習する。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第14回	時間量の言い方　完了時制 テキスト第8課により時間量の言い方を知り，さらに完了時制を学習する。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第15回	介詞の用法　定期試験に向けて 第8課により介詞「離」「従」の用法を学び，さらに期末試験へ向けて復習を行う。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組み	30	意欲的な学習態度・発話・聞き取り・予復習の状況によって評価
小テスト	20	20点満点で毎時間実施 返却時に、解説する。
中間・期末試験	50	中間考査・期末考査の平均点の50%

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習，復習をしっかりすること。テキストを必ず持ってくること。 発音練習では声を出して練習すること。音声教材を積極的に利用すること。

授業外学修	1　予習として，次の授業に出る新出単語を覚えておくこと，テキストの問題に目を通しておくこと。 2　復習として，学んだ本文内容や文法を再確認し，発音練習を繰り返すこと。 以上の内容を，週当たり3時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
理系のための中国語・入門	杉山明	好文出版	978-4-87220-202-1	

使用テキスト：自由記載	テキストについては教学・アドミッション課より別途指示

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中国語学習＆異文化理解ハンドブック	杉山明・石下景教	アルク	978-4757420915	

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高等学校での漢文授業（9年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．語彙の使用法	幅広い語彙を会話の中で正確かつ効果的に活用できる	語彙の使用の多様性を示しますが、時折不正確である	基本的な語彙は概ね理解しているが、表現の種類は限られている	語彙の範囲が狭く、単語の選択に苦労する	最小限の語彙しか使用せず、コミュニケーション効果を妨げている
知識・理解	2．文法	文法規則をしっかりと理解し、それらをスピーチなどで正確に適用している	一般的に正しい文法を使用し、理解を妨げない程度の軽微な誤りがある	文法の誤りが目立ち、文の構造と明瞭さにかける	基本的な文法の概念に苦労し、比較的ミスが多い	文法規則の理解が乏しい

科目名	英語Ⅲ			授業番号	CD303A	サブタイトル	実践英語Ⅲ		
教員	西田　寛子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	ロサンゼルスにおける若者の日常生活を描いた映像資料を題材にして，英語の4技能をバランスよく使いながら言語活動に取り組む中で，英語運用能力の向上を図るとともに，アメリカ文化についても学修する。講座の各回においては，まず，映像資料を視聴してその内容について確認し，抜粋したシーンを使って会話表現を練習する。次に，文法項目を確認し，練習問題に取り組む。そして，スライドショーによりアメリカ文化について深く学んだ後，ターゲットセンテンスを用いたライティング活動を行う。以上のように，様々な言語活動を行うことを通して，小学校や乳幼児教育施設における英語教育の基礎となる英語運用能力の向上を図る。								
到達目標	・基本的な語彙，文法，文構造を理解し，テーマに沿った文章の内容を正確に読解したり，リスニングにおいて正確に聞き取ったりできる。 ・映像資料を活用しながら異文化理解を深める。 ・ペアやグループでのコミュニケーション活動において，自分の考えを的確に表現したり，相手の意見を正確に聞き取ったりできる。 ・予習をして意欲的に授業に臨み，授業後は疑問に思った点や練習すべき事項について復習する等，自律的に学ぶことができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	・Introduction: 本講座の目標，内容，評価方法について理解する。 ・Unit 1　Welcome to L.A. 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。	
第2回	・Unit2　I Love Fruit! 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。	
第3回	・Unit 3　Campus Life 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。	
第4回	・Unit 4　Lunchtime 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。	
第5回	・Unit 5　First Date 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。	
第6回	・Unit 6　Where's Linda? 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。 ・Unit1～6のまとめをする。	
第7回	・Unit 7　Andy's News 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。 ・Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。	
第8回	・Unit 8　Shopping in Santa Monica 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。	
第9回	・Unit 9　Moving Day 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。	
第10回	・Unit10　A Beautiful View 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。	
第11回	・Unit11　Sunday Fun 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。	
第12回	・Unit 12　Seeing Stars 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。 ・Unit7～12のまとめをする。	
第13回	・Unit 13　Buying Food for a BBQ 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。 ・Achievement Test: 既習事項の到達度確認テストを受ける。	
第14回	・Unit 14　Putting on a New Face 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。	
第15回	・Unit 15　Nice Surprises 上記トピックに関する映像資料を視聴し，その内容に関する言語活動に英語の4技能を用いて取り組む。 ・講座全体のまとめと省察をする。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，言語活動への積極的な取り組み，課題や予習・復習の取り組み姿勢などを評価する。＜態度＞
言語活動における技能	10	言語活動において，自分の考えを的確に表現できているかどうかを評価する。＜技能＞
小テスト	50	到達度確認テストにおける語彙・表現の理解度ならびにリスニング力を評価する。＜知識・理解＞ ＊テスト返却時に，全体的な傾向や今後の学修のポイントを解説する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・言語活動に積極的に取り組むこと。 ・予習・復習において，音声ファイルをダウンロードして自主的に学修すること。

授業外学修	・予習として，授業で指示された箇所を読み，その問題をしておくこと。 ・復習として，授業で学んだ文法事項と英語表現をノートに書いて練習し，知識として定着させること。また，音声データをダウンロードして音声を確認し，音読すること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
We Love L.A.! ～映像で学ぶ大学基礎英語～	Robert Hickling　臼倉美里	金星堂	978-4-7647-4049-5	2，500円+税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年），公立中高一貫教育校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年），県教育委員会指導主事 （４年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，乳幼児教育施設や小学校等の英語教育に携わる指導者に求められる総合的な英語運用能力を育成する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．英語の基本的な語彙・文法・文構造の理解	英語の基本的な語彙・文法・文構造を十分正確に理解し，問いに対して9割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を正確に理解し，問いに対して8割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造を理解し，問いに対して7割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について，やや理解できていないところもあるが，問いに対して6割以上の回答ができる。	英語の基本的な語彙・文法・文構造について，あまり理解できておらず，問いに対して6割未満の回答である。
知識・理解	２．英文の内容理解（Reading）	英文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して読み，人物の心情を考えたり，自分の意見と比較したりできる。	英文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して正確に読み取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いて，正確に読み取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いて，ほぼ正確に読み取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いても，正確に読み取ることができない。
知識・理解	３．英文の内容理解（Listening）	英文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して聞き，人物の心情を考えたり，自分の意見と比較したりできる。	英文の内容について，未習事項があっても，文の前後関係から類推する等して正確に聞き取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いて，正確に聞き取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いて，ほぼ正確に聞き取ることができる。	英文の内容について，既習事項を用いても，正確に聞き取ることができない。
知識・理解	４．異文化理解（アメリカ文化や生活習慣等）	アメリカの文化や習慣等に関するテキスト以外の英文も自ら進んで読み，その知識を正確に身に付けている。	アメリカの文化や生活習慣に関するテキストの英文を読み，その知識を十分かつ正確に身に付けている。	アメリカの文化や習慣等に関するテキストの英文を読み，その知識を正確に身に付けている。	アメリカの文化や習慣等に関するテキストの英文を読み，その知識をほぼ身に付けている。	アメリカの文化や習慣等に関するテキストの英文を読むが，その知識が身に付いていない。
技能	１．英語でのやりとり	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，適切な表現を用いて伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題や社会的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	コミュニケーションを行う目的や場面，状況などに応じて，日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができる。	日常的な話題について，事実や自分の考え，気持ちなどを，伝え合うことができない。
態度	１．ペアやグループでのコミュニケーション活動	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し，適切な表現を用いて対話をしたり，分からない人にアドバイスしたりできる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加し，適切な表現を用いて対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動にたいへん積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加して対話ができる。	ペアやグループでのコミュニケーション活動に積極的に参加できない。
態度	２．自律的な学び（予習・復習）	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学修し,必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解した上で，自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが，その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	体育講義 (全8回)			授業番号	CE201	サブタイトル			
教員	溝田　知茂								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	現代社会においては，技術革新に伴う機械化・情報化等が進み，日常生活における身体活動が減少するとともに，食生活のバランスの崩れも伴って，運動不足と生活習慣の乱れが深刻な問題となっている。こうした状況によって，我々の身体は危機的な状況にさえ陥っている場合もある。本講義では，からだと心の仕組みについて，身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身に付ける。								
到達目標	人間のからだと心の仕組みについて，日常生活で何気なく実践している事柄の意味について知ることを目的とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「体力」について考える 「体力」がどのような要素で構成されているかを考え理解する。	
第2回	「自律神経」の働きについて考える 人間のからだの自動調節機能である自律神経の仕組みや働きについて考え理解する。	
第3回	「ホルモン」の働きについて考える 眠りのホルモンと呼ばれる「メラトニン」について，分泌の仕組みや働きについて考え理解する。	
第4回	「睡眠障害」について考える 睡眠障害の種類を知ること，そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。	
第5回	「高血圧」について考える 高血圧の仕組みを知ること，そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。	
第6回	「目の病気」について考える。 目の病気の種類を知ること，そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。	
第7回	「健康診断」で分かることについて考える 普段学校で実施する健康診断で分かること，健康診断で分からないことについて考える。	
第8回	「背筋力」の働きについて考える 二足歩行する上で重要な働きをしている背筋力について測定しながら，生活に必要な背筋力を知る。	
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予習・復習の状況によって評価する。フィードバックは，その時その場で行う。
レポート		
小テスト		
定期試験	60	各回の主要なポイントの理解度を評価する。テストは，採点をして返却する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・スポーツに関わる知識と理解を深め，スポーツ・運動への志向性を高めることを目指しているので，自らの生活と関連付けながら受講すること。
授業外学修	・「スポーツ」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し，興味関心を高める。 ・各回の授業内容に合わせた情報を収集したり，書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．体育講義の基本的考え方が理解できている。	体育講義の内容が理解できている。	体育講義の内容がほぼ理解できている。	体育講義の基本的な内容が理解できている。	体育講義の基本的な内容の理解が十分ではない。	相談援助の基本的考な内容が理解できていない。
思考・問題解決能力	１．事例に基づいて、道具や簡単な方法でセルフチェックできる。	事例に基づいて，道具や簡単な方法でセルフチェックできる。	事例に基づいて、道具や簡単な方法でほぼセルフチェックできる。	事例に基づいて、簡単にセルフチェックできる。	簡単なセルフチェックの方法についての理解が十分ではない。	簡単なセルフチェックの方法を理解できていない。

科目名	体育実技			授業番号	CE202A	サブタイトル	（スポーツに親しもう）		
教員	梶谷　信之								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実技（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	各チームの課題を基にメンバーで協力しながら，各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。								
到達目標	健康的な生活を送るために，運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに，集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	卓球I（シングルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） シングルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にシングルス・ゲームを行います。 1対1で対戦し，リーグ戦方式でゲームを行います。	
第2回	卓球II（シングルスの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） シングルスの基本技術を反復しつつ，シングルス・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第3回	卓球III（ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルスの成績でペアを組み，2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。	
第4回	卓球Ⅳ（ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） ダブルスの基本技術を反復しつつ，ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第5回	バドミントンI（シングルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） シングルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にシングルス・ゲームを行います。 1対1で対戦し，リーグ戦方式でゲームを行います。	
第6回	バドミントンII（シングルスの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） シングルスの基本技術を反復しつつ，シングルス・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第7回	バドミントンIII（ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルスの成績でペアを組み，2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。	
第8回	バドミントンⅣ（ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） ダブルスの基本技術を反復しつつ，ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第9回	ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解およびゲームの導入） 基本的なルールの確認と基本技術の練習を行います。 練習後にグループを作ってゲームを行います。	
第10回	ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第11回	ソフトバレーボールIII（ゲームの展開） 基本技術を反復しつつ，各チームで戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第12回	室内ミニテニスI（シングルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） シングルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に、実際にシングルス・ゲームを行います。 1対1で対戦し，リーグ戦方式でゲームを行います。	
第13回	室内ミニテニスII（シングルスの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） シングルスの基本技術を反復しつつ，シングルス・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第14回	室内ミニテニスIII（ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルスの成績でペアを組み，2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。	
第15回	室内ミニテニスⅣ（ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） ダブルスの基本技術を反復しつつ，ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
授業計画　備考2	受講人数により，他のスポーツ種目に変更することがある。 （バレーボール，バスケットボール，グラウンドゴルフ，など）	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している。 フィードバックは，その時その場で行う。体操服や体育館シューズを忘れた人は見学となり，減点される。授業中に携帯電話を見ていると減点される。
レポート		
小テスト	30	各競技ごとに実施した試合成績を参考にする。フィードバックは，その時その場で行う。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	

受講の心得	運動着を着用し，体育館シューズを使用する。 全員協力の上，準備・片付けをする。 携帯電話は見ない。（すぐに手の届く所へ置かない）
授業外学修	・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。 ・各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、基本的なルールを理解できている。	健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、ルールを細かく理解できている。	健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、ほぼ基本的なルールを理解できている。	運動の大切さを理解し、基本的なルールを理解できている。	運動の大切さを理解しているが、基本的なルールの理解が十分ではない。	運動の大切さや、ルールを理解できていない。
技能	１．運動技能が優れている。	運動技能が優れている。	基本的な運動技能が優れている。	基本的な運動技能が身についている。	基本的な運動技能が十分ではない。	基本的な運動技能が身についていない。

科目名	ファーストイヤーセミナー			授業番号	CF101	サブタイトル	（大学生活に慣れよう！）		
教員	齊藤　佳子、中　典子、中田　周作、太田　憲孝、山田　恵子、岡﨑　三鈴、土師　範子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	子ども学部子ども学科の理念・目標，学びの姿勢，図書館の活用，情報倫理，「子ども学」の基礎，社会人としての素養など，将来への展望も含めて，オムニバス形式で講義を行う。								
到達目標	大学生として必要な学ぶ姿勢や情報の活用など，大学活を充実したものとしていくための基礎的な知識や技能を身に付ける。＜知識・理解＞ ＜技能＞ また，将来，保育者・教育者として，子どもの最善の利益を実現できる努力を続ける態度を形成するための素地を養う。＜態度＞ なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	図書館オリエンテーション 大学図書館の使い方や文献検索の方法 について学ぶ。	齊藤，図書館スタッフ
第2回	子ども学部　学部長講義 演題：これからの大学生活	中
第3回	ボランティアとは何か ボランティアとは何か，ボランティア活動の今日的意義について理解する。また，本学部でのボランティア活動について理解する。	齊藤，外部講師
第4回	学校園におけるボランティア活動と心得・マナー 大学生が身につけたいマナーについて考える。	学部講師，山田
第5回	スタディスキルズ 大学生のノートのとり方の基本やテキストの読み方，レポートの書き方や資料の探し方について学ぶ。	太田
第6回	ライフデザイン講座 ライフプラン全体の中で，仕事と結婚，家庭の在り方について理解を深め，自らが希望し選択する将来設計について考える。	外部講師，齊藤
第7回	地域清掃 地域貢献の一環として実施する。	齊藤，子ども学科教員
第8回	人権について 人権教育の全体像について学ぶ。	外部講師，山田
第9回	学生支援セミナー(1) 学生支援セミナーを聴講し，講演を聴く態度やメモの取り方について学ぶ。	齊藤
第10回	金融に関する講座 大学生が理解しておくべき「人生とお金」に関する知恵，金融リテラシーについて学ぶ。	外部講師，岡﨑
第11回	生と性について 大学生の生と性について考える。	岡本，岡﨑
第12回	学生支援セミナー(2) 学生支援セミナーを聴講し，講演を聴く態度やメモの取り方について学ぶ。	齊藤
第13回	インターネットやスマホの安全な活用について SNSの使い方を見直し，インターネットやスマホの安全な活用について考える。	土師
第14回	取得できる免許・資格・大学院進学について 取得できる免許・資格について確認し，将来の進路について考える。	中田
第15回	子ども学部のカリキュラムとコース制について 子ども学部のカリキュラムとコースについて自分の将来像とつなげて考える。	中田
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	80	授業の内容や自分の考えをまとめたコメントペーパーやレポートによって評価する。 レポートやコメントペーパーについてはコメントを記入して返却する。また提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	毎回，授業の内容や自分の考えをコメントペーパーにまとめて，提出する。 コメントペーパーや関連の資料はファイルに綴じ，毎回授業に持参する。 最終回にコメントペーパーや資料を綴じたファイルを提出する。
受講の心得	大学生の基礎的素養として大切な内容であるため，積極的な態度で受講すること。
授業外学修	1　予習として，授業で配付された資料等を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要な資料は，適宜，配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	外部講師等を招聘する場合は，一部，開講時間の変更を行うことがあるので注意すること。 本授業は，子ども学科必修科目として位置づけている。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭（32年）・教頭（3年）・校長（3年），公立幼稚園園長（5年）（山田恵子） 公立小・中学校教諭（27年），市教育委員会指導主事（3年），国立附属学校文部教官（4年）（太田憲孝）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校園，教育委員会等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．大学生活に必要な基礎的な知識を身に付けている。	授業の内容について理解したことやポイントを適切にまとめ，自分の経験や考えを交えたり，よくするための視点を盛り込んだりして書いている。	授業の内容について理解したことやポイントをまとめ，自分の経験や考えを交えて書いている。	授業の内容について理解したことやポイントを書いている。	授業の内容について書いているが，書いている内容が不十分である。	授業の内容について書いていない。書いている内容が不適切である。
技能	１．大学生活に必要な基礎的な技能を身に付けている。	大学生活に必要な基礎的な技能をきわめて身に付けている。	大学生活に必要な基礎的な技能を身に付けている。	大学生活に必要な基礎的な技能を大体身に付けている。	大学生活に必要な基礎的な技能をほとんど身に付けていない。	大学生活に必要な基礎的な技能を全く身に付けていない。
態度	１．授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的に行い，疑問を解決し，授業の内容を理解した上で，適切なコメントペーパーを書いている。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ，授業内容を理解した上で，コメントペーパーを書いている。	授業に出席し，授業の内容を理解した上でコメントペーパーを書いている。	授業に出席し，コメントペーパーを提出しているが，書いている内容が不適切である。	授業を欠席している。授業に出席しているが，コメントペーパーが未提出である。

科目名	現代子ども学入門			授業番号	CL101	サブタイトル			
教員	中田　周作、中　典子、太田　憲孝、西田　寛子、齊藤　佳子、溝田　知茂、伊藤　智里、川崎　泰子、廣畑　まゆ美、岡﨑　三鈴、土師　範子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	子ども学とは，子どもを対象とする学際的かつ実践的な学問である。子どものあり方と子どもを取り巻く問題を，保育士養成および教員養成，放課後児童指導員，認定絵本士といったそれぞれの人材養成の立場から読み解いていく。本講義では，オムニバス形式によって，それぞれの人材養成の立場から多角的に子どもにアプローチすることにより，保育者・教育者養成の基礎となる子ども研究を進めていくための基礎を培う。								
到達目標	保育士養成および教員養成，放課後児童指導員資格，認定絵本士といった人材養成の側面から，子どもにアプローチをすることを通して，子ども研究を進めていくための基礎となる知識や技能を身に付ける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	各回を担当する教員の講義を聞き、毎回、ミニレポートをまとめ、子ども学の多様な領域を学修する。								

回	概要	担当
第1回	現代社会における子ども学	中田周作
第2回	幼小連携とは何か	齊藤佳子
第3回	幼小連携と地域活動	土師範子
第4回	保育者とは	岡﨑三鈴
第5回	保育者の職務内容	岡﨑三鈴
第6回	保育士養成と保育所実習	廣畑まゆ美
第7回	児童福祉と施設実習	中典子
第8回	教員養成と介護等体験	中典子
第9回	幼稚園の教員養成と教育実習	齊藤佳子
第10回	小学校の教員養成と教育実習	太田憲孝
第11回	保育者・教育者の養成と音楽	川崎泰子
第12回	保育者・教育者の養成と英語	西田寛子
第13回	保育者・教育者の養成とスポーツ	溝田知茂
第14回	子どもの発達における絵本の役割	伊藤智里
第15回	放課後における子どもの生活支援	中田周作
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	100	毎回作成するレポートで評価する。確認後、コメントを記入し返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	毎回，授業の内容をコメントペーパーにまとめて，提出する。 コメントペーパーや関連の資料はファイルに綴じ，毎回授業に持参すること。
受講の心得	原則として「ファーストイヤーセミナー」を履修していること。
授業外学修	1　予習として，授業で配付された資料等を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜，指示する。
その他	本授業は，子ども学科の卒業必修科目である。
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	子どものあり方と子どもを取り巻く問題を，保育士養成および教員養成，放課後児童指導員，認定絵本士といったそれぞれの人材養成の立場から読み解いていくことにより，子どもに関する理解を深める。	子どものあり方と子どもを取り巻く問題を，保育士養成および教員養成，放課後児童指導員，認定絵本士といったそれぞれの人材養成の立場から読み解いていくことにより，子どもに関する理解を深めることができる。	子どものあり方と子どもを取り巻く問題を，保育士養成および教員養成の立場から読み解いていくことにより，子どもに関する理解を深めることができる。	子どものあり方と子どもを取り巻く問題を，保育士養成および教員養成，放課後児童指導員，認定絵本士といったそれぞれの人材養成の立場から読み解くことができる。	子どものあり方と子どもを取り巻く問題を，保育士養成および教員養成といったそれぞれの人材養成の立場から読み解いていくことができていない。	子どものあり方や子どもを取り巻く問題を理解できていない。
思考・問題解決能力	子ども学の基礎的知識を修得することにより、現代社会における身近な子どもに関する問題を解決するための思考能力を培うことができる。	子ども学の基礎的知識のうち、①幼小連携、②保育士養成、③児童福祉、④幼稚園教諭の養成、⑤小学校教諭の養成、⑥子どもと音楽、⑦子どもと英語、⑧子どもとスポーツ、⑨子どもと絵本、⑩子どもと放課後の全てを修得することにより、現代社会における身近な子どもに関する問題を解決するための思考能力を培うことができる。	子ども学の基礎的知識のうち、①幼小連携、②保育士養成、③児童福祉、④幼稚園教諭の養成、⑤小学校教諭の養成、⑥子どもと音楽、⑦子どもと英語、⑧子どもとスポーツ、⑨子どもと絵本、⑩子どもと放課後のうち、8つ以上を修得することにより、現代社会における身近な子どもに関する問題を解決するための思考能力を培うことができる。	子ども学の基礎的知識のうち、①幼小連携、②保育士養成、③児童福祉、④幼稚園教諭の養成、⑤小学校教諭の養成、⑥子どもと音楽、⑦子どもと英語、⑧子どもとスポーツ、⑨子どもと絵本、⑩子どもと放課後のうち、6つ以上を修得することにより、現代社会における身近な子どもに関する問題を解決するための思考能力を培うことができる。	子ども学の基礎的知識のうち、①幼小連携、②保育士養成、③児童福祉、④幼稚園教諭の養成、⑤小学校教諭の養成、⑥子どもと音楽、⑦子どもと英語、⑧子どもとスポーツ、⑨子どもと絵本、⑩子どもと放課後のうち、4つ以上を修得することにより、現代社会における身近な子どもに関する問題を解決するための思考能力を培うことができる。	子ども学の基礎的知識のうち、①幼小連携、②保育士養成、③児童福祉、④幼稚園教諭の養成、⑤小学校教諭の養成、⑥子どもと音楽、⑦子どもと英語、⑧子どもとスポーツ、⑨子どもと絵本、⑩子どもと放課後のうち、2つ以上を修得することにより、現代社会における身近な子どもに関する問題を解決するための思考能力を培うことができる。
技能	子ども学の基礎的知識を修得することにより、現代社会における身近な子どもと接するための技能を身につけることができる。	子ども学の基礎的知識のうち、①幼小連携、②保育士養成、③児童福祉、④幼稚園教諭の養成、⑤小学校教諭の養成、⑥子どもと音楽、⑦子どもと英語、⑧子どもとスポーツ、⑨子どもと絵本、⑩子どもと放課後の全てを修得することにより、現代社会における身近な子どもと接するための技能を身につけることができる。	子ども学の基礎的知識のうち、①幼小連携、②保育士養成、③児童福祉、④幼稚園教諭の養成、⑤小学校教諭の養成、⑥子どもと音楽、⑦子どもと英語、⑧子どもとスポーツ、⑨子どもと絵本、⑩子どもと放課後のうち、8つ以上を修得することにより、現代社会における身近な子どもと接するための技能を身につけることができる。	子ども学の基礎的知識のうち、①幼小連携、②保育士養成、③児童福祉、④幼稚園教諭の養成、⑤小学校教諭の養成、⑥子どもと音楽、⑦子どもと英語、⑧子どもとスポーツ、⑨子どもと絵本、⑩子どもと放課後のうち、6つ以上を修得することにより、現代社会における身近な子どもと接するための技能を身につけることができる。	子ども学の基礎的知識のうち、①幼小連携、②保育士養成、③児童福祉、④幼稚園教諭の養成、⑤小学校教諭の養成、⑥子どもと音楽、⑦子どもと英語、⑧子どもとスポーツ、⑨子どもと絵本、⑩子どもと放課後のうち、4つ以上を修得することにより、現代社会における身近な子どもと接するための技能を身につけることができる。	子ども学の基礎的知識のうち、①幼小連携、②保育士養成、③児童福祉、④幼稚園教諭の養成、⑤小学校教諭の養成、⑥子どもと音楽、⑦子どもと英語、⑧子どもとスポーツ、⑨子どもと絵本、⑩子どもと放課後のうち、2つ以上を修得することにより、現代社会における身近な子どもと接するための技能を身につけることができる。

科目名	子ども研究法Ⅰ			授業番号	CL202	サブタイトル			
教員	中　典子、中田　周作、太田　憲孝、西田　寛子、齊藤　佳子、山田　恵子、伊藤　智里、廣畑　まゆ美、土師　範子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，１年次の「現代子ども学入門」を踏まえ，子ども学を構成する教科教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児教育学，保育学について追究するための基礎的・基本的な知識や技能を修得する。								
到達目標	子ども学を探求していくために教科教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児教育学，保育学に関する基礎的・基本的な知識や技能を習得することを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	科学的に考えるには	中
第2回	児童福祉学の研究内容・方法	中
第3回	教育社会学の研究内容・方法	中田
第4回	幼児生活学の研究内容・方法	齊藤
第5回	国語教育学の研究内容・方法	太田
第6回	幼稚園教育実習の意義と方法	齊藤
第7回	小学校教育実習の意義と方法	山田
第8回	学校教育に関わる教師の活動と教育実習	齊藤・山田
第9回	学校・園における現状と課題	斎藤・山田
第10回	教育実習のための学校内諾訪問の説明	斎藤・山田
第11回	英語教育学の研究内容・方法	西田
第12回	保育文化学の研究内容・方法	伊藤
第13回	施設実習（介護等体験含む）の意義と方法	中
第14回	保育の実際（1）	廣畑・土師
第15回	保育の実際（2）	廣畑・土師
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	授業の内容や自分の考えをまとめたコメントペーパーによって評価する。コメントを記入して、返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	毎回，授業の内容や自分の考えをコメントペーパーにまとめて，提出する。 コメントペーパーや関連の資料はファイルに綴じ，毎回授業に持参する。
受講の心得	原則として「現代子ども学入門」を履修していること。
授業外学修	1　予習として，授業で配付された資料等を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜，指示する。
その他	本授業は，子ども学科必修科目として位置づけている。
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭・教育委員会（太田）　　公立中学校指導教諭，教育委員会（西田）　　公立小学校校長・公立幼稚園園長（山田）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を修得する。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を広範かつ詳細に修得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を広範に修得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を十分に修得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を十分に修得していない。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を修得していない。
技能	１．子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を修得する。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を広範かつ詳細に修得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を広範に修得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を十分に修得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を十分に修得していない。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を修得していない。

科目名	子ども研究法Ⅱ			授業番号	CL203	サブタイトル			
教員	中　典子、中田　周作、太田　憲孝、齊藤　佳子、山田　恵子、溝田　知茂、國田　祥子、川崎　泰子、廣畑　まゆ美、岡﨑　三鈴、土師　範子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，「子ども研究法Ⅰ」を踏まえ，子ども学を構成する教科教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児教育学，保育学について追究するための知識や技能を一層深く習得する。								
到達目標	子ども学を探求していくために，教科教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児教育学，保育学に関する知識や技能を一層深く習得することを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	体育科教育学の研究内容・方法	溝田
第2回	基礎心理学の研究内容・方法	國田
第3回	幼児教育学の研究内容・方法	廣畑
第4回	歌唱演奏学の研究内容・方法	川崎
第5回	幼児音楽の研究内容と方法	土師
第6回	研究倫理	太田
第7回	ロケットくれよんによる特別講義	中
第8回	小学校教育実習の実際（１） 幼稚園教育実習の実際（１）	太田・山田・溝田 齊藤・岡﨑
第9回	小学校教育実習の実際（２） 幼稚園教育実習の実際（２）	太田・山田・溝田 齊藤・岡﨑
第10回	施設実習（介護等体験含む）に向けて	中
第11回	小学校教育の実際（１） 幼児教育の実際（１）	太田・山田 齊藤・岡﨑
第12回	小学校教育の実際（２） 幼児教育の実際（２）	太田・山田 齊藤・岡﨑
第13回	子ども研究の成果（１）	溝田
第14回	子ども研究の成果（２）	中
第15回	子ども研究のまとめ	中田
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	授業の内容や自分の考えをまとめたコメントペーパーによって評価する。コメントを記入して、返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	毎回，授業の内容や自分の考えをコメントペーパーにまとめて，提出する。 コメントペーパーや関連の資料はファイルに綴じ，毎回授業に持参する。
受講の心得	原則として「子ども研究法Ⅰ」を履修していること。
授業外学修	1　予習として，授業で配付された資料等を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜，指示する。
その他	本授業は，子ども学科必修科目として位置づけている。
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭，教育委員会（太田）　　公立小学校校長，公立幼稚園園長（山田）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を一層深く習得する。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を広範かつ詳細に一層深く習得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を広範に一層深く習得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を概ね習得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を十分に習得していない。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な知識を習得していない。
技能	１．子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を一層深く習得する。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を広範かつ詳細に一層深く習得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を広範に一層深く習得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を十分に深く習得している。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を十分に習得していない。	子ども学を探求していくために様々な学問分野に関する基礎的・基本的な技能を習得していない。

科目名	課題研究Ⅰ			授業番号	CL304	サブタイトル			
教員	中　典子、中田　周作、太田　憲孝、西田　寛子、齊藤　佳子、溝田　知茂、伊藤　智里、國田　祥子、川崎　泰子、廣畑　まゆ美、土師　範子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	課題研究は，卒業研究へのガイドとしての演習の授業である。卒業論文の執筆にあたって必要とされる先行研究の検討を行う。そのため，当該領域の基礎的知識の獲得や，データの収集方法等を学ぶ。本学科において「子ども学」は，教科教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児教育学，保育学から成り，それぞれに担当教員がいる。学生は，その指導教員のもとで，領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進めていく。								
到達目標	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し，学生自身が自らの研究課題を明確にすることを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	第1回　授業の概要・目的の解説，授業の進め方について。各領域の特性について理解する。 第2回　各領域においての研究課題。 第3回～第15回　指導教員のもとで各領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進める。								
授業計画 自由記載	領域（キーワード） 児童福祉学，教育社会学，幼児生活学，体育教育学，保育文化学，英語教育学，国語科教育学，基礎心理学，幼児教育学，歌唱演奏学，幼児表現学								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	課題への取り組み意欲，取り組む行為から評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	30	課題の理解度と定着度を評価する。各自に対して、アドバイスを行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として「子ども研究法II」を履修していること。
授業外学修	授業で提示された課題を実施し，週当たり2時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要な資料は，随時，提示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭，教育委員会（太田　憲孝）　公立中学校指導教諭，教育委員会（西田　寛子）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し理解することができる。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し広範かつ詳細に理解している。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し広範に理解している。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を整理し十分に理解している。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を十分に理解していない。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を理解していない。
思考・問題解決能力	１．学生自身が自らの研究課題を明確にすることができる。	学生自身が自らの研究課題を広範かつ詳細に整理し，明確にしている。	学生自身が自らの研究課題を広範に明確にしている。	学生自身が自らの研究課題を十分に明確にしている。	学生自身が自らの研究課題を十分に明確にしていない。	学生自身が自らの研究課題を明確にしていない。
技能	１．卒業研究の基礎となる研究手法を身に付けることができる。	卒業研究の基礎となる研究手法を広範かつ詳細に身に付けている。	卒業研究の基礎となる研究手法を広範に身に付けている。	卒業研究の基礎となる研究手法を十分に身に付けている。	卒業研究の基礎となる研究手法を十分に身に付けていない。	卒業研究の基礎となる研究手法を身に付けていない。
態度	１．指導教員のもとで，領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進め，考察することができる。	指導教員のもとで，領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進め，考察することができる。	指導教員のもとで，領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進めることができる。	指導教員のもとで，研究を進めることができる。	指導教員のもとで，研究を進めることが十分にできていない。	指導教員のもとで，研究を進めることができていない。

科目名	課題研究Ⅱ			授業番号	CL305	サブタイトル			
教員	中　典子、中田　周作、太田　憲孝、西田　寛子、齊藤　佳子、溝田　知茂、伊藤　智里、國田　祥子、川崎　泰子、廣畑　まゆ美、土師　範子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	課題研究IIでは，課題研究Iで整理された先行研究をもとに，どのような研究課題があるのか，またどのような研究方法があるのかについて学習していく。 課題研究は，卒業研究へのガイドとしての演習の授業である。卒業論文の執筆にあたって必要とされる先行研究の検討を行う。そのため，当該領域の基礎的知識の獲得や，データの収集方法等を学ぶ。本学科において「子ども学」は，教科教育学，児童福祉学，教育社会学，幼児教育学，保育学，基礎心理学から成り，それぞれに担当教員がいる。学生は，その指導教員のもとで，領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進めていく。								
到達目標	卒業論文の執筆にあたって必要とされる先行研究の検討を行い，卒業研究I･IIへと繋がっていくように研究課題を明らかにすることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	第1回～第15回　指導教員のもとで領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進める。								
授業計画 自由記載	領域（キーワード） 児童福祉学，教育社会学，国語科教育学，英語教育学，幼児生活学，体育教育学，保育文化学，基礎心理学，幼児教育学，歌唱演奏学，幼児表現学								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	課題への取り組み意欲，取り組む行為から評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	30	課題の理解度・定着度を評価する。各自に対して、アドバイスを行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として「課題研究I」と「キャリア教育論」を履修していること。 授業時間外にも調査・文献整理することが求められる。
授業外学修	授業で提示された課題を実施し，週当たり2時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要な資料は，随時，提示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭，教育委員会（太田　憲孝）　公立中学校指導教諭，教育委員会（西田　寛子）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．様々な分野の子どもをめぐる研究課題を一層深く整理し理解することができる。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を一層深く整理し広範かつ詳細に理解している。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を一層深く整理し広範に理解している。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を一層深く整理し十分に理解している。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を十分に理解していない。	様々な分野の子どもをめぐる研究課題を理解していない。
思考・問題解決能力	１．学生自身が自らの研究課題を一層深く明確にすることができる。	学生自身が自らの研究課題を広範かつ詳細に整理し，一層深く明確にしている。	学生自身が自らの研究課題を広範に明確にしている。	学生自身が自らの研究課題を十分に明確にしている。	学生自身が自らの研究課題を十分に明確にしていない。	学生自身が自らの研究課題を明確にしていない。
技能	１．卒業研究の基礎となる研究手法を一層深く身に付けることができる。	卒業研究の基礎となる研究手法を広範かつ詳細に一層深く身に付けている。	卒業研究の基礎となる研究手法を広範に深く身に付けている。	卒業研究の基礎となる研究手法を深く身に付けている。	卒業研究の基礎となる研究手法を十分に身に付けていない。	卒業研究の基礎となる研究手法を身に付けていない。
態度	１．指導教員のもとで，領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進め，考察することができる。	指導教員のもとで，領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進め，考察することができる。	指導教員のもとで，領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進めることができる。	指導教員のもとで，領域の特性に応じて研究を進めることができる。	指導教員のもとで，領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進めることが十分にできていない。	指導教員のもとで，領域の特性に応じた研究方法を用いて研究を進めることができていない。

科目名	卒業研究Ⅰ			授業番号	CL406	サブタイトル			
教員	中　典子、中田　周作、太田　憲孝、西田　寛子、齊藤　佳子、溝田　知茂、伊藤　智里、國田　祥子、川崎　泰子、廣畑　まゆ美、土師　範子								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	卒業研究Iは，課題研究で到達した卒業研究の課題に対して研究をどのように進めるのかを具体的に学修する。課題の設定や研究への着手に先立って，先行研究をレビューし，リサーチクエスチョンを明らかにする。 子ども学には，様々な領域や方法が存在するので，領域の特色に応じた質的研究や量的研究等の研究方法が用いられる。各指導教員の指導計画に沿って計画的に卒業研究がまとめられるように進めていく。								
到達目標	卒業論文のテーマを明らかにし，研究を具体的に進めることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	領域（キーワード） 児童福祉学，教育社会学，国語科教育学，英語教育学，幼児生活学，体育教育学，保育文化学，基礎心理学，幼児教育学，歌唱演奏学，幼児表現学								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	課題への取り組み意欲，取り組む行為から評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50	卒業研究の内容を評価する。発表時に、コメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として「課題研究II」を履修していること。
授業外学修	中期計画及び長期計画の目標に沿った行動をする。授業で提示された課題を実施し，週当たり5時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要な資料は，随時，提示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭，教育委員会（太田　憲孝）　　公立中学校指導教諭，県教育委員会（西田　寛子）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．卒業論文のテーマに関する先行研究を理解することができる。	卒業論文のテーマに関する先行研究を広範かつ詳細に理解している。	卒業論文のテーマに関する先行研究を広範に理解している。	卒業論文のテーマに関する先行研究を十分に理解している。	卒業論文のテーマに関する先行研究を十分に理解していない。	卒業論文のテーマに関する先行研究を理解していない。
思考・問題解決能力	１．卒業論文のテーマを明らかにし，研究を具体的に進めることができる。	卒業論文のテーマを明らかにし，広範かつ詳細に研究を具体的に進めることができる。	卒業論文のテーマを明らかにし，広範に研究を具体的に進めることができる。	卒業論文のテーマを明らかにし，研究を具体的に進めることが十分にできる。	卒業論文のテーマを明らかにし，研究を具体的に進めることが十分にできない。	卒業論文のテーマを明らかにし，研究を具体的に進めることができていない。
技能	１．卒業研究の研究手法を身に付けることができる。	卒業研究の研究手法を広範かつ詳細に身に付けている。	卒業研究の研究手法を広範に身に付けている。	卒業研究の研究手法を十分に身に付けている。	卒業研究の研究手法を十分に身に付けていない。	卒業研究の研究手法を身に付けていない。
態度	１．計画的に卒業研究がまとめられるように進めることができる。	計画的に卒業研究がまとめられるように進めることができる。	計画的に卒業研究がまとめられるように努めている。	卒業研究がまとめられるように努めている。	卒業研究のまとめが十分に進んでいない。	卒業研究のまとめが進んでいない。

科目名	卒業研究Ⅱ			授業番号	CL407	サブタイトル			
教員	中　典子、中田　周作、太田　憲孝、西田　寛子、齊藤　佳子、溝田　知茂、伊藤　智里、國田　祥子、川崎　泰子、廣畑　まゆ美、土師　範子								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	卒業研究IIは，これまで受けてきた卒業研究Iでの指導をもとに，卒業論文の提出を目指して，各自，計画的に研究活動を進めていく。演習形式と個別指導とを適宜，組み合わせて，各自の論文の構想について報告し合いながら具体的な指導を行う。 また，学生が4年間の学びの集大成として，将来への自信を持つことができるように卒業研究の指導を行う。								
到達目標	卒業研究を卒業論文あるいは作品として完成させることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	領域（キーワード） 児童福祉学，教育社会学，国語科教育学，英語教育学，幼児生活学，体育教育学，保育文化学，基礎心理学，幼児教育学，歌唱演奏学，幼児表現学								
授業計画 自由記載									
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	課題への取り組み意欲，取り組む行為から評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50	卒業研究の成果と発表内容。発表時に、コメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として「卒業研究I」を履修していること。
授業外学修	各自が卒業論文を完成させるために，授業で提示された課題を実施し，週当たり5時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要な資料は，随時，提示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭，教育委員会（太田　憲孝）　　公立中学校指導教諭，県教育委員会（西田　寛子）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を理解することができる。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を広範かつ詳細に理解している。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を広範に理解している。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を十分に理解している。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を十分に理解していない。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を理解していない。
思考・問題解決能力	１．卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を問題解決に役立てることができる。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を広範かつ詳細に問題解決に役立てている。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を広範に問題解決に役立てている。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を十分に問題解決に役立てている。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を十分に問題解決に役立てていない。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を問題解決に役立てていない。
技能	１．卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容をわかりやくす発表することができる。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を広範かつ詳細にわかりやくす発表することができる。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を広範にわかりやくす発表することができる。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を十分にわかりやくす発表することができる。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容を十分にわかりやくす発表することができない。	卒業研究として完成させる卒業論文あるいは作品の内容をわかりやくす発表することができない。
態度	１．卒業研究の内容について考察できる。	卒業研究の内容について深く考察できる。	卒業研究の内容について概ね考察できる。	卒業研究の内容について理解できている。	卒業研究の内容についての理解と考察が十分でない。	卒業研究の内容についての理解と考察ができていない。

科目名	基礎学力養成セミナーⅠ			授業番号	CM101A	サブタイトル			
教員	西田　寛子、太田　憲孝、山田　恵子、小田　真一								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	専門的知識を修得するために必要となる教養や学修方法を身に付ける。内容としては，学校教育における主な教科である国語・数学・理科・社会・英語を扱う。								
到達目標	専門的知識を修得するために必要となる教養や学修方法に関する問題を解くことができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	○本講座の目標，内容，評価方法ならびに学修方法についての説明を聞いて理解する。 国語（１） 専門的知識の修得に係る国語の教養について学修する。	（太田）
第2回	国語（２） 専門的知識の修得に係る国語の学修方法について演習する。	（太田）
第3回	国語（３） 専門的知識の修得に係る国語の教養や学修方法に関する問題を解く。	（太田）
第4回	国語（４） 専門的知識の修得に係る国語の教養や学修方法に関する問題を解く。	（太田）
第5回	国語（５） 専門的知識の修得に係る国語の教養や学修方法に関する問題を解く。	（太田）
第6回	英語（１） 専門的知識の修得に係る英語の教養について学修する。	（西田）
第7回	英語（２） 専門的知識の修得に係る英語の学修方法について演習する。	（西田）
第8回	数学（１） 専門的知識の修得に係る数学の教養について学修する。	（小田）
第9回	数学（２） 専門的知識の修得に係る数学の学修方法について演習する。	（小田）
第10回	理科（１） 専門的知識の修得に係る理科の教養について学修する。	（小田）
第11回	理科（２） 専門的知識の修得に係る理科の学修方法について演習する。	（小田）
第12回	理科（３）数学（３） 専門的知識の修得に係る理科・数学の教養や学修方法に関する問題を解く。	（小田）
第13回	社会（１） 専門的知識の修得に係る社会の教養について学修する。	（山田）
第14回	社会（２） 専門的知識の修得に係る社会の学修方法について演習する。	（山田）
第15回	社会（３） 専門的知識の修得に係る社会の教養や学修方法に関する問題を解く。 ○本講座全体のまとめと省察をする。	（山田）
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	25	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	25	レポートの内容と提出状況によって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	50	授業時に行なうテスト（5教科）によって評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲を予習して授業に臨む。授業で学修した内容については，授業内での確認テストによって修得状況をチェックし，フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は，オフィスアワーに各担当教員に質問する等して，専門知識修得の基礎となる教養の向上に努めること。
授業外学修	１．授業で解説された内容について復習をしておくこと。 ２．授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲の予習をしておくこと。 ３．分からない問題や領域については，オフィスアワーに教員に質問に行くこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中国学園大学子ども学部子ども学科 基礎学力養成セミナーⅠⅡ問題集				

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	

その他	本授業科目は，子ども学科必修科目として位置付けている。 特に，小学校で教育実習を希望する学生は，確実に単位を修得すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小中学校・中高一貫校英語科教員（34年），県教育委員会指導主事（４年）での実務経験を有する。（西田寛子） 公立小中学校・小中一貫校国語科教員(27年),国立附属中学校教員(4年)，市教育委員会指導主事(3年)での実務経験を有する。（太田憲孝） 公立小学校（教諭32年，管理職６年）,公立幼稚園（管理職５年）での実務経験を有する。（山田恵子） 公立小学校（教諭26年，管理職10年）での実務経験を有する。（小田真一）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，小学校や乳幼児教育施設等の指導者・保育者に求められる基礎学力を養成する。（西田寛子） 国語科教員・指導主事としての実務経験(34年)を生かし，教育現場において力を発揮することができる基礎学力を養成する。(太田憲孝) 公立小学校（教諭32年，管理職６年），公立幼稚園（管理職５年）での実務経験を基に，小学校や乳幼児教育施設等の指導者・保育者に求められる基礎学力を養成する。（山田恵子） 公立小学校（教諭26年，管理職10年）での実務経験（36年）を基に，小学校や乳幼児教育施設等の指導者・保育者に求められる基礎学力を養成する。（小田真一）

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を解くことができる。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を広範かつ詳細に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を広範に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を十分に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を十分に解いていない。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を解いていない。

科目名	子ども学実践演習Ⅰ			授業番号	CM102	サブタイトル			
教員	中田　周作、山田　恵子、溝田　知茂、伊藤　智里、土師　範子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	「子ども教育学実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では、小学校や保育所、幼稚園、認定こども園等を含む地域社会における子ども支援について実践的に学修する。 授業では、そうした地域社会における様々な子育て支援活動を紹介する。学生は紹介した実践活動に参加し、指導案等の活動計画や、活動を記録する。この記録をもとに発表会を行う。 こうした一連の取り組みを通して、子どもと関わる実践力を高めていく。								
到達目標	「子ども教育学実践演習Ⅰ」では、特に、活動先の紹介をして、学生たちの主体的な地域活動が定着できるよう指導を行う。 また、記録を付けることができるようになることを目指す。 なお、本科目はディプロマポリシーの＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	12時間の学外活動を行う。 主たる活動先は、授業の中で紹介する。								

回	概要	担当
第1回	授業の趣旨説明	中田周作
第2回	保幼に関する活動紹介	土師範子
第3回	小学校に関する活動紹介	溝田知茂・山田恵子
第4回	絵本等に関する活動紹介	伊藤智里・中田周作
第5回	活動記録（授業）	山田恵子
第6回	活動時間（学外活動）	溝田知茂
第7回	活動記録（授業）	伊藤智里
第8回	活動時間（学外活動）	土師範子
第9回	活動発表会	中田周作
第10回	活動記録（授業）	山田恵子
第11回	活動時間（学外活動）	溝田知茂
第12回	活動発表会	中田周作
第13回	活動記録（授業）	伊藤智里
第14回	活動時間（学外活動）	土師範子
第15回	活動発表会	中田周作
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
実践活動とその記録	50	記録をする授業時に適宜、アドバイスをしていく。
活動発表会での発表、資料、質疑応答	50	発表会の準備の時に、資料作成のアドバイスを行う。また、発表会の時に、教員からも質問を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「子ども学実践演習Ⅰ」と「基礎学力養成セミナーⅠ」のいずれかは、卒業必修の単位である（卒業選択必修）。
授業外学修	① 12時間の学外活動を行う。 ② 継続できる活動を見つけること。 ③ 活動終了後は迅速に記録を付けること。 ④ 活動終了後に活動証明書を得ること。 ②③④の作業のため、5-15回目の授業に対して、週1.5時間の授業外学修の時間を定める。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	山田恵子
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	子どもを取り巻く社会環境を理解し、地域社会の中で子どもに関わる活動を知る。 そうした活動に加わり実践経験を積み、活動内容について指導案等を作成したり、活動に関する記録をすることができるようになることを目指す。	子どもを取り巻く社会環境を理解し、地域社会の中で子どもに関わる活動ができる。 活動内容について、子どもも指導者も見通しをもって活動できる指導案等を作成することができる。 活動終了後に迅速に正確な記録ができるようになる。	子どもを取り巻く社会環境を理解し、地域社会の中で子どもに関わる活動ができる。 活動内容について、見通しをもって活動できる指導案等を作成することができる。 活動終了後に迅速に記録ができるようになる。	子どもを取り巻く社会環境を理解し、地域社会の中で子どもに関わる活動ができる。 活動内容について指導案等を作成することができる。 活動に関する記録ができるようになる。	子どもを取り巻く社会環境を理解できていない。地域社会の中で子どもに関わる活動ができていない。 活動内容について指導案等を作成することができる。 活動に関する記録ができるようになる。	子どもを取り巻く社会環境を理解できていない。地域社会の中で子どもに関わる活動ができていない。 活動内容について指導案等を作成することができない。 活動に関する記録ができていない。

科目名	基礎学力養成セミナーⅡ			授業番号	CM103	サブタイトル			
教員	西田　寛子、中田　周作、太田　憲孝、山田　恵子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	専門知識を修得するために必要となる発展的な教養や学修方法を身に付ける。内容としては，学校教育における主な教科である国語・数学・理科・社会・英語を扱う。								
到達目標	専門知識を修得するために必要となる発展的な教養や学修方法に関する問題を解くことができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	○本講座の目標，内容，評価方法ならびに学修方法についての説明を聞いて理解する。 英語（１） 専門的知識の修得に係る英語の発展的な教養について学修する。	（西田）
第2回	英語（２） 専門的知識の修得に係る英語の発展的な学修方法について学修する。	（西田）
第3回	英語（３） 専門的知識の修得に係る英語の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。	（西田）
第4回	国語（１） 専門的知識の修得に係る国語の発展的な教養について学修する。	（太田）
第5回	国語（２） 専門的知識の修得に係る国語の発展的な学修方法について学修する。	（太田）
第6回	国語（３） 専門知識の修得に係る国語の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。	（太田）
第7回	数学（１） 専門的知識の修得に係る数学の発展的な教養について学修する。	（中田）
第8回	数学（２） 専門的知識の修得に係る数学の発展的な学修方法について学修する。	（中田）
第9回	数学（３） 専門知識の修得に係る数学の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。	（中田）
第10回	理科（１） 専門的知識の修得に係る理科の発展的な教養について学修する。	（中田）
第11回	理科（２） 専門的知識の修得に係る理科の発展的な学修方法について学修する。	（中田）
第12回	理科（３） 専門的知識の修得に係る理科の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。	（中田）
第13回	社会（１） 専門的知識の修得に係る社会の発展的な教養について学修する。	（山田）
第14回	社会（２） 専門的知識の修得に係る社会の発展的な学修方法について学修する。	（山田）
第15回	社会（３） 専門的知識の修得に係る社会の発展的な教養や学修方法に関する問題を解く。 ○本講座全体のまとめと省察をする。	（山田）
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	25	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	25	レポートの内容と提出状況によって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	50	授業時に行なうテスト（5教科）によって評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲を予習して授業に臨む。授業で学習した内容については，授業内での確認テストによって習得状況をチェックし，フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は，オフィスアワーに各担当教員に質問するなどして，基礎学力の向上に努めること。
授業外学修	１．授業で解説された内容について復習をしておくこと。 ２．授業で配付した資料（あるいは教材）の指示された範囲の予習をしておくこと。 ３．分からない問題や領域については，オフィスアワーに教員に質問にいくこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中国学園大学子ども学部子ども学科 基礎学力養成セミナーⅠⅡ問題集				

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	本授業科目は，子ども学科必修科目として位置付けている。 特に，小学校で教育実習を希望する学生は，確実に単位を修得すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小中学校・中高一貫校英語科教員（34年），県教育委員会指導主事（４年）での実務経験を有する。（西田寛子） 公立小中学校・小中一貫校国語科教員(27年)，国立附属中学校教員(4年)，市教育委員会指導主事(3年)での実務経験を有する。（太田憲孝） 公立小学校（教諭32年、管理職６年),公立幼稚園（管理職５年)での実務経験を有する。(山田恵)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，小学校や乳幼児教育施設等の指導者・保育者に求められる基礎学力を養成する。（西田寛子） 国語科教員・指導主事としての実務経験(34年)を生かし，教育現場において力を発揮することができる基礎学力を養成する。(太田憲孝) 公立小学校（教諭32年，管理職６年），公立幼稚園（管理職５年）での実務経験を基に，小学校や乳幼児教育施設等の指導者・保育者に求められる基礎学力を養成する。（山田恵子）

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を解くことができる。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を広範かつ詳細に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を広範に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を十分に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を十分に解いていない。	専門知識を習得するために必要な学修方法や教養を学び，基礎学力にかかわる問題を解いていない。

科目名	子ども学実践演習Ⅱ			授業番号	CM104	サブタイトル			
教員	中田　周作、山田　恵子、溝田　知茂、伊藤　智里、土師　範子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	「子ども教育学実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」では、小学校や保育所、幼稚園、認定こども園等を含む地域社会における子ども支援について実践的に学修する。 授業では、そうした地域社会における様々な子育て支援活動を紹介する。学生は紹介した実践活動に参加し、指導案等の活動計画や、活動を記録する。この記録をもとに発表会を行う。 こうした一連の取り組みを通して、子どもと関わる実践力を高めていく。								
到達目標	「子ども教育学実践演習Ⅱ」では、前期から継続して参加している地域活動を、後期も継続できるように指導していく。 また、記録を付けることができるようになることを目指す。 なお、本科目はディプロマポリシーの＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	12時間の学外活動を行う。 主たる活動先は、授業の中で紹介する。								

回	概要	担当
第1回	授業の趣旨説明	中田周作
第2回	保幼に関する活動紹介	土師範子
第3回	小学校に関する活動紹介	溝田知茂・山田恵子
第4回	絵本等に関する活動紹介	伊藤智里・中田周作
第5回	活動記録（授業）	山田恵子
第6回	活動時間（学外活動）	溝田知茂
第7回	活動記録（授業）	伊藤智里
第8回	活動時間（学外活動）	土師範子
第9回	活動発表会	中田周作
第10回	活動記録（授業）	山田恵子
第11回	活動時間（学外活動）	溝田知茂
第12回	活動発表会	中田周作
第13回	活動記録（授業）	伊藤智里
第14回	活動時間（学外活動）	土師範子
第15回	活動発表会	中田周作
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
実践活動とその記録	50	記録をする授業時に適宜、アドバイスをしていく。
活動発表会での発表、資料、質疑応答	50	発表会の準備の時に、資料作成のアドバイスを行う。また、発表会の時に、教員からも質問を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「子ども学実践演習Ⅱ」と「基礎学力養成セミナーⅡ」のいずれかは、卒業必修の単位である（卒業選択必修）。
授業外学修	① 12時間の学外活動を行う。 ② 継続できる活動を見つけること。 ③ 活動終了後は迅速に記録を付けること。 ④ 活動終了後に活動証明書を得ること。 ②③④の作業のため、5-15回目の授業に対して、週1.5時間の授業外学修の時間を定める。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	山田恵子
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	子どもを取り巻く社会環境を理解し、地域社会の中で子どもに関わる活動を知る。 そうした活動に加わり実践経験を積み、活動内容について指導案等を作成したり、活動に関する記録をすることができるようになることを目指す。	子どもを取り巻く社会環境を理解し、地域社会の中で子どもに関わる活動ができる。 活動内容について、子どもも指導者も見通しをもって活動できる指導案等を作成することができる。 活動終了後に迅速に正確な記録ができるようになる。	子どもを取り巻く社会環境を理解し、地域社会の中で子どもに関わる活動ができる。 活動内容について、見通しをもって活動できる指導案等を作成することができる。 活動終了後に迅速に記録ができるようになる。	子どもを取り巻く社会環境を理解し、地域社会の中で子どもに関わる活動ができる。 活動内容について指導案等を作成することができる。 活動に関する記録ができるようになる。	子どもを取り巻く社会環境を理解できていない。地域社会の中で子どもに関わる活動ができていない。 活動内容について指導案等を作成することができる。 活動に関する記録ができるようになる。	子どもを取り巻く社会環境を理解できていない。地域社会の中で子どもに関わる活動ができていない。 活動内容について指導案等を作成することができない。 活動に関する記録ができていない。

科目名	総合教養養成セミナーⅠ			授業番号	CM203	サブタイトル			
教員	小田　真一								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	小学校の教員採用試験における教職教養について講義する。								
到達目標	小学校教員採用試験における教職教養について学び，理解できるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育原理① 教育課程，教育プラン，学習の理論・教授法，学級編成，就学手続きについて理解する。	
第2回	教育原理② 授業形態，校務分掌・職員会議，教員免許状・研修，学校給食，学校保健について理解する。	
第3回	西洋教育史 古代・中世・近世・近代の教育について理解する。	
第4回	日本教育史 古代・中世・近世・近代の教育について理解する。	
第5回	生徒指導 生徒指導の意義と方法について理解する。	
第6回	教育心理① 発達の諸理論について理解する。	
第7回	教育心理② 学習理論について理解する。	
第8回	教育心理③ 発達障害，教育評価について理解する。	
第9回	人権教育 同和問題，人権課題，特別支援教育，児童虐待への対応について理解する。	
第10回	学習指導要領 学習指導要領の趣旨，総則を理解する。	
第11回	教育法規① 教育権・学習権について理解する。	
第12回	教育法規② 日本国憲法について理解する。	
第13回	教育法規③ 教育基本法における教育の目的，義務教育，学校の目的と目標について理解する。	
第14回	教育法規④ 教育基本法における生涯学習，社会教育，家庭教育，幼児教育について理解する。	
第15回	教育法規⑤ 教育委員会の仕事，教職員の服務について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	25	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
ノート提出	25	ノートまとめの状況によって評価する。コメントを記入して，返却する。
授業時の小テスト	50	毎回の授業中の小テストによって評価する。コメントを記入して，返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で学修した内容については，授業内での小テストによって修得状況をチェックし，フィードバックして完全習得を目指すこと。分からなかった問題は，オフィスアワーに教員に質問する等して，教職教養の向上に努めること。
授業外学修	１．授業で解説された内容について復習をしておくこと。 ２．授業で指示された範囲の予習をしておくこと。 ３．分からない問題や領域については，オフィスアワーに教員に質問にいくこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
教職教養新ランナー	東京教友会	TSC出版	9784300117019	

使用テキスト：自由記載	必要な資料は随時配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．専門知識を習得するために必要な学修方法を学び，教職教養にかかわる問題を解くことができる。	専門知識を習得するために必要な学修方法を学び，教職教養にかかわる問題を広範かつ詳細に解き，それを活用しようとしている。	専門知識を習得するために必要な学修方法を学び，教職教養にかかわる問題を広範に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法を学び，教職教養にかかわる問題を十分に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法を学び，教職教養にかかわる問題を十分に解いていない。	専門知識を習得するために必要な学修方法を学び，教職教養にかかわる問題を解いていない。

科目名	総合教養養成セミナーⅡ			授業番号	CM204	サブタイトル			
教員	中　典子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	小学校教員採用試験における小学校全科について講義する。								
到達目標	小学校教員採用試験における小学校全科について学び，理解できるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	国語 学習指導要領，漢字，故事成語，ことわざ，日本文学史について理解する。	
第2回	社会① 学習指導要領，日本地理について理解する。	
第3回	社会② 世界地理について理解する。	
第4回	社会③ 歴史について理解する。	
第5回	社会④ 公民について理解する。	
第6回	算数① 学習指導要領，数と計算，グラフについて理解する。	
第7回	算数② グラフ，図形，場合の数・確率と統計について理解する。	
第8回	理科① 学習指導要領，生命について理解する。	
第9回	理科② 地球について理解する。	
第10回	理科③ 物質とエネルギーについて理解する。 生活 学習指導要領について理解する。	
第11回	音楽 学習指導要領，音階，鑑賞教材について理解する。 図画工作 学習指導要領について理解する。	
第12回	家庭 学習指導要領，衣服，食事，住まいについて理解する。	
第13回	体育 学習指導要領，運動，保健について理解する。	
第14回	外国語 学習指導要領，英語表現について理解する。	
第15回	特別の教科　道徳 総合的な学習の時間 学習指導要領について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	25	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
ノート提出	25	ノートまとめの状況によって評価する。コメントを記入して，返却する。
授業時の小テスト	50	毎回の授業中の小テストによって評価する。コメントを記入して，返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	指示された範囲を予習して授業に臨む。授業で学修した内容については，授業内での小テストによって修得状況をチェックし，フィードバックして完全習得を目指すこと。
授業外学修	１．授業で解説された内容について復習をしておくこと。 ２．授業に指示された範囲の予習をしておくこと。 ３．分からない問題については，オフィスアワーに教員に質問にいくこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校全科新ランナー	東京教友会	TAC出版	9784300117033	

使用テキスト：自由記載	必要な資料は随時配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．専門知識を習得するために必要な学修方法を学び，小学校全科にかかわる問題を解くことができる。	専門知識を習得するために必要な学修方法を学び，小学校全科にかかわる問題を広範かつ詳細に解き，それを活用しようとしている。	専門知識を習得するために必要な学修方法を学び，小学校全科にかかわる問題を広範に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法を学び，小学校全科にかかわる問題を十分に解いている。	専門知識を習得するために必要な学修方法を学び，小学校全科にかかわる問題を十分に解いていない。	専門知識を習得するために必要な学修方法を学び，小学校全科にかかわる問題を解いていない。

科目名	キャリア教育論			授業番号	CM305	サブタイトル			
教員	溝田　知茂、太田　憲孝、山田　恵子、岡﨑　三鈴								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	卒業後，保育士・幼稚園教諭・小学校教諭として進路に向かうために，これらの職業・職業人に関する基礎知識を学習するとともに，望ましい職業観・勤労観を醸成し，社会人基礎力を身に付ける。また，進路選択に必要な能力及び心構えを学ぶ。								
到達目標	職業・職業人に関する基礎知識を習得するとともに，望ましい職業観・勤労観を醸成し，社会人基礎力を身に付ける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	一生涯のキャリアを考える 一生涯のキャリア計画を年代別に考える。	溝田
第2回	教師の心得15 職員として、社会人として	山田
第3回	人権について 社会人として必要な人権について理解し，深める。	山田
第4回	学校支援ボランティアについて 学校支援ボランティアについて理解する	山田
第5回	こどもを見る視点を養う 子どもの表面的な行動（事実）だけを追うのではなく、その行動の裏にある感情や試行錯誤、未知への探求心を推察する「多層的な視点」を養う。	岡崎
第6回	施設や障がい児を受け入れる保育園で働く保育士 ゲストスピーカーから、家庭環境や障害特性など、多様な背景を持つ子どもと家族の人生に深く関わる「福祉の専門職」としての使命と喜びを学ぶ。	岡崎
第7回	私立こども園で働く保育教諭 ゲストスピーカーから、教育と保育が融合した園運営の実際や、地域における園の役割を知る。	岡崎
第8回	公立保育園で働く保育士 ゲストスピーカーから、地域における児童福祉の拠点として、あらゆる家庭を受け入れ、支える公立保育士の責任とやりがいについて、現場の視点から学ぶ。	岡崎
第9回	保育士・幼稚園教諭への道 「保育士・幼稚園教諭としてのキャリアプランの考え方」，「具体的な目標とそれを実現するための方法」，「自分だけの特技を作ろう」，「保育者が持っていると便利な資格」，「就職までにできる準備」等について理解を深める。	岡崎
第10回	保育士・幼稚園教諭の勤務の実際 「公立園，私立園の違いについて」，「保育者の仕事の魅力」，「園での仕事の流れ」，「同僚，先輩とスムーズに仕事をするためには」，「保護者との関わり」等について理解を深める。	岡崎
第11回	保育士・幼稚園教諭への道 「保育士・幼稚園教諭としてのキャリアプランの考え方」，「具体的な目標とそれを実現するための方法」，「自分だけの特技を作ろう」，「保育者が持っていると便利な資格」，「就職までにできる準備」等について理解を深める。	太田
第12回	小学校教諭の勤務の実際 「小学校教諭の仕事の魅力」，「小学校教諭での仕事の流れ」，「保護者との関わり」等について理解を深める。	太田
第13回	就職情報サイトについて 個人個人に合わせた就職情報サイトの利用の仕方について理解する。	溝田
第14回	仕事研究について やりたくないことを見直し，自分にとっての優良企業を見つける。 インターンシップについて インターンシップの基礎知識を理解し，インターン生の心得を学ぶ。	溝田
第15回	人権について考える ハンセン病について考え理解する。	溝田
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	80	意欲的な受講態度，予習・復習の状況によって評価する。フィードバックは，その時その場で行う。
レポート	20	課題内容について十分に理解した上で自分なりの考察を述べること。レポートは，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自らの将来について真摯に考え，取り組むこと。
授業外学修	毎回の授業について，4時間以上を予習復習に充てること。 模擬試験に向けて2時間以上の予習して臨み，その結果を受けて2時間以上復習すること。 また，レポート課題が与えられた際は4時間以上をその作成に充てること。 更に，就職支援センターを1度は訪れ，就職活動の具体を体験すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	授業の中で適宜紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務現場での経験を生かして，キャリアの形成について指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．職業・職業人に関する基礎知識を身に付けることができている。	職業・職業人に関する基礎知識を身に付けることができている。	職業・職業人に関する基礎知識をほぼ身に付けることができている。	職業・職業人に関する基本的な基礎知識を身に付けることができている。	職業・職業人に関する基礎知識を身につけることが十分ではない。	職業・職業人に関する基礎知識を身に付けることができていない。
思考・問題解決能力	１．望ましい職業観・勤労観を理解することができている。	望ましい職業観・勤労観を理解することができている。	望ましい職業観・勤労観をほぼ理解することができている。	望ましい職業観・勤労観を基本的に理解することができている。	望ましい職業観・勤労観を理解が十分ではない。	望ましい職業観・勤労観を理解することができていない。
態度	１．社会人基礎力を身に付けることができている。	社会人基礎力を身に付けることができている。	社会人基礎力をほぼ身に付けることができている。	社会人基礎力を基本的に身に付けることができている。	社会人基礎力が十分ではない。	社会人基礎力を身に付けることができていない。

科目名	キャリア教育演習			授業番号	CM306	サブタイトル			
教員	溝田　知茂、太田　憲孝、齊藤　佳子、山田　恵子、岡﨑　三鈴								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	将来の仕事と生き方を考えるための情報提供をし，具体的な準備と行動について学ぶ。就職活動に先駆けて自己分析・職種研究を行い，自分にあったキャリアプランを作成する。								
到達目標	採用試験・就職試験で行われる面接，筆記試験，実技などに対応できる知識・技能を身に付ける。 上記のように，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	就職活動の流れ 就職活動スタートに向けて，今から何を始めていくか理解する。	
第2回	身だしなみについて 身だしなみを意識して第一印象をアップする。好印象を与えるスーツの着こなし方のポイントを理解する。	
第3回	メイクセミナー ビジネスメイクの必要性を知る。就活メイクのポイントを理解する。	
第4回	履歴書・エントリーシートの作成 履歴書・エントリーシートの基礎・作成のポイントを理解する。	
第5回	面接の受け方 自分の強みを知り，面接の基本や面接官が見ているポイントを知る。面接で，伝える・伝わる話し方を理解する。	
第6回	企業研究 企業研究がなぜ必要なのかその大切さを理解する。世の中の仕事について興味関心を深める。	
第7回	先輩からのメッセージ 先輩の話を聞いて，今から何を始めていくべきか理解する。	
第8回	インターンシップの重要性 インターンシップの基本的な流れを知り，知識を深め，重要性について理解する。	
第9回	企業研究の進め方 企業研究の進め方を知って，幅広く仕事について興味関心を深める。	
第10回	求人票の見方 求人票の見方を知り，就職活動の準備について理解する。	
第11回	一般教養の理解 一般教養の知識を深める。	
第12回	専門教養の理解 専門教養の理解を深める。	
第13回	SPIの理解 SPIの様々な形式・特徴を理解する。	
第14回	市町村が望む保育士・教師像 保育士・幼稚園教諭・小学校教諭としてどのような準備をするべきか理解する。	
第15回	進路決定へ向けて 改めてキャリアプランを考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。フィードバックは，その時その場で行う。
レポート	30	各回の授業で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。レポートは，コメントを記入して返却する。
小テスト	40	各回の主要なポイントの理解度を評価する。小テストは，採点をして返却する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	卒業後の進路を見据えて，積極的な態度で授業に参加することが望ましい。
授業外学修	1　予習として，授業で配付される資料を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	「就活ガイドブック」中国学園大学・中国短期大学就職支援委員会

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業中に適宜紹介する。
その他	プリント等を整理するためクリアファイルを持参すること。

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．将来の仕事と生き方を考えるための情報を理解することができている。	将来の仕事と生き方を考えるための情報を理解することができている。	将来の仕事と生き方を考えるための情報をほぼ理解することができている。	将来の仕事と生き方を考えるための基本的な情報を理解することができている。	将来の仕事と生き方を考えるための情報の理解が十分ではない。	将来の仕事と生き方を考えるための情報を理解することができていない。
知識・理解	２．自己分析・職業研究ができている。	自己分析・職業研究ができている。	自己分析・職業研究がほぼできている。	基本的な自己分析・職業研究ができている。	自己分析・職業研究が十分ではない。	自己分析・職業研究ができていない。
技能	１．自分にあったキャリアプランを作成することができている。	自分にあったキャリアプランを作成することができている。	自分にあったキャリアプランをほぼ作成することができている。	自分にあった基本的なキャリアプランを作成することができている。	自分にあったキャリアプランの作成が十分ではない。	自分にあったキャリアプランを作成することができていない。

科目名	子どもとおやつ (全8回)			授業番号	CN202	サブタイトル			
教員	齊藤　佳子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	幼児期の食事は健康な発達において重要である。その中でも間食は幼児期において不足しがちな栄養素を補うという意義をもち，欠かすことのできないものである。 そこで，この授業では幼児期における補食としてのおやつを作るために必要な基礎知識と基本操作を学ぶ。								
到達目標	・幼児期の栄養の基礎知識を習得することができる ・幼児期における間食の必要性について理解することができる ・間食を調理する上での基礎的な知識と技術を習得することができる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	この授業は全8回の授業である。 履修人数によっては2クラスで隔週開講となる場合がある。								

回	概要	担当
第1回	幼児期の間食の意義 子どもにとっておやつとはどんな存在かについて理解する。	
第2回	子どものおやつ（１） 子どものおやつを作る上で必要な事項（エネルギー，形態など）を理解する。	
第3回	子どものおやつ（２） 子どものおやつとアレルギー（アレルギーの多いもの，食品表示の見方）について理解する。	
第4回	子どものおやつ（３） 子どものおやつの作り方を理解する。	
第5回	子どものおやつ（４） 子どものおやつの作り方を理解する。	
第6回	子どものおやつ（５） 子どものおやつの作り方を理解する。	
第7回	アレルギー対応のおやつ アレルギーをもつ子どものおやつの作り方を理解する。	
第8回	子どもと一緒に作るおやつ 子どもと一緒に作れるおやつについて理解する。	
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度によって評価する。
授業時の提出物（リアクションペーパー）等	20	記述内容（理解度，考察・感想，分量，文章）によって評価する。
小テスト		
定期試験	50	授業の内容の最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	幼児の栄養や，調理の基本操作について自ら積極的に学ぶ姿勢をもって臨むこと。 髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。
授業外学修	1．授業で出てきたポイントを復習すること 2．日頃から子どもと食に関する情報に興味関心をもち，自ら情報収集を行うこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児期の栄養の基礎知識を修得できている	幼児期の栄養の基礎知識を十分に修得できており、不足しがちな栄養素を補うための工夫をすることができる	幼児期の栄養の基礎知識を十分に修得できており、不足しがちな栄養素を補うための工夫を考えることができる	幼児期の栄養の基礎知識を修得できている	幼児期の栄養の基礎知識をやや修得できている	幼児期の栄養の基礎知識を修得できていない
知識・理解	２．幼児期における間食の必要性について理解できている	幼児期における間食の必要性について十分理解でき、子どもに応じたおやつの選択ができる	幼児期における間食の必要性について理解でき、子どもに応じたおやつの選択ができる	幼児期における間食の必要性について理解できている	幼児期における間食の必要性についてやや理解できている	幼児期における間食の必要性について理解できていない
技能	１．間食を調理する上での基礎的な知識と技術が修得できている	間食を調理する上での基礎的な知識と技術が十分に修得できており、自分で間食を作ることができる	間食を調理する上での基礎的な知識と技術が修得できており、自分で間食を作ることができる	間食を調理する上での基礎的な知識と技術が修得できている	間食を調理する上での基礎的な知識と技術がやや修得できている	間食を調理する上での基礎的な知識と技術が修得できていない

科目名	子どもと楽器			授業番号	CN204A	サブタイトル			
教員	土師　範子、岡﨑　三鈴								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園教育要領等について講義を行う。子どもが豊かな音楽表現をするために楽器の種類を知る。 教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解をする。 また，楽器の扱いや奏法，応用の仕方について学ぶ。 子どもの想像力を広げ，身体を使った音楽あそびを通して，「表現の楽しさ」を教える。 子どもの発達段階に応じて，楽器を使用し，表現の幅を広げる指導の方法を学ぶ。								
到達目標	子どもの発達に応じた楽器を理解する。言葉や身体を使ってリズムの理解ができるようになる。楽器やリズムの楽しさを理解する。 子どもに「表現の楽しさ」を教えるには，指導者（保育者）自身がまず，集中して音に耳を傾ける事ができ，子どもの気持ちになって，生き生きと表現することを楽しむことができるようになることが大切である。 そして，それらを教育（保育）現場で生かすことができる知識を身に付けることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の習得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	領域「表現」と楽器の関係 「表現」と音楽表現・楽器の関係について解説する	土師範子
第2回	非言語コミュニケーションの核としての楽器 言語を超えた対話ツールとして，歴史や社会，そして保育の現場で楽器が果たしてきた役割を理解する	岡﨑三鈴
第3回	子どもと楽しむレベル演奏 色分け楽譜や合図の工夫など，導入のアイデア等も理解する。	岡﨑三鈴
第4回	ベルアンサンブルによる共感体験と幼児向けリズム楽譜作成 ・アンサンブルにおける役割分担と責任感を体験する。 ・演奏へのハードルを下げる環境構成としての楽譜作成を習得する。	岡﨑三鈴
第5回	指導者としてのパフォーマンス 子どもたちに語りかけるような明るい表情や，分かりやすい実演(デモンストレーション)を習得してグループ発表を行う。	岡﨑三鈴
第6回	「音をつくる」プロセスを学ぶーヴァイオリン体験ー 一つの音を生み出す喜びと，その難しさ(子どもが初めて楽器触れる時の心境)を理解する。	岡﨑三鈴
第7回	「指一本から始まるハーモニー」主要コードを習得ーウクレレ体験ー 少ない指使いで豊かな和音(コード)を奏でられるウクレレを通じて，演奏のハードルを下げ音楽を身近に引き寄せる体験をする。	岡﨑三鈴
第8回	廃材から生まれる楽器作りとプレゼンテーション 教材研究や安全への配慮の確認を行い，プレゼンテーションを通してアイデアを共有する。	岡﨑三鈴
第9回	ピアノ弾き歌いの実践 子どもの生活と共にあるピアノに改めて着目し，取り組む。	土師範子
第10回	言葉とリズム リズムを言葉におきかけるための，拍を理解し，言葉から音楽へつなげる。	土師範子
第11回	日本の楽器と鑑賞１ 日本の伝統楽器を鑑賞し，実際に演奏を聴く魅力や重要性を体感する。	土師範子
第12回	日本の楽器と鑑賞２ 鑑賞態度を養うとともに，幼児の鑑賞体験について検討する。	土師範子
第13回	日本の楽器と演奏方法１ 日本の伝統楽器の扱い方や演奏方法について理解する。	土師範子
第14回	日本の楽器と演奏方法２ 日本の伝統楽器を用いて幼児が身近に感じられるよう模索する。	土師範子
第15回	子どもと楽器 幼児期の楽器の意義や重要性について理解する。	土師範子
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表・グループ課題への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	30	出された課題で問われている事の意味が理解でき，それに合った内容を述べているかを評価する。提出後に授業内にて講評する。
小テスト・実践発表	30	各回の主要なポイントの理解を評価する。

評価の方法：自由記載	追・再試有り
受講の心得	子ども，指導者の，教育（保育）現場での気持ちを想像すること。 音を出す時，出さない時のメリハリを大切にすること。 学ぶ者同士，お互いに，良い所を認め合うこと。 日常生活の中でも，さまざまな音やリズム遊びの要素を発見し，実践できるようにすること。
授業外学修	１．予習として，子どもの楽器について調べる。 ２．復習として，授業内容を実際の保育現場をイメージして実践する。または，授業の内容を踏まえて課題を行うことで復習とする。 ３．発展学習として，ピアノなどの楽器や，リズムの練習をする。また，単発の授業ではなく，それぞれの講義内容が繋がっていることを踏まえ，授業の内容を理解，発展させていく。 以上の内容を，週あたり4時間以上学修する事。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	「こどものうた100」，講義ごとに必要なプリントを配布します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介します。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	ジュニアオーケストラ講師(岡﨑)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子どもが豊かな音楽表現をするための，楽器の種類を知ることができる。	子どもが豊かな音楽表現をするために，積極的に楽器の種類を知り，それらをの特性を理解し発展することができる。	子どもが豊かな音楽表現をするために，楽器の種類を十分に知ることができている。	子どもが豊かな音楽表現をするために，必要な楽器の種類を理解できている。	子どもが豊かな音楽表現をするために，必要な楽器の種類を理解しようと努力している。	子どもが豊かな音楽表現をするために，必要な楽器の種類を理解しようとしている。
知識・理解	２．教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解をする。	教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解が十分にでき，発展することができる。	教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解が十分にできている。	教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解ができている。	教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解しようと努力している。	教育（保育）現場で望ましい器楽指導を行えるようになるために，身体や言葉，楽器を使ってリズムの理解しようとしている。
思考・問題解決能力	年齢や季節などに沿った曲を思考し，曲に合った楽器を選びリズムの考案や奏法について検討できる。	季節や年齢の発達に応じた楽曲や楽器を十分に考えることができる。また，年齢や楽器に沿ったリズムや奏法について，十分に考えることができる。	季節や年齢の発達に応じた楽曲や楽器をある程度考えることができる。また，年齢や楽器に沿ったリズムや奏法について，ある程度考えることができる。	季節や年齢の発達に応じた楽曲や楽器を選択することができる。また，年齢や楽器に沿ったリズムや奏法を考えることができる。	季節や年齢の発達には相応しくない曲を選択してしまう。また，年齢や楽器に適さないリズムや奏法を検討してしまう。	季節や年齢の発達に応じた楽曲や楽器を選択することができない。リズムや奏法の検討ができない。
技能	曲や楽器に応じたリズム作成や演奏ができる。	曲や楽器に応じて適切なリズムを作成することができ，楽曲に適した表現で大変優れた演奏ができる。	曲や楽器に応じてある程度リズムを作成することができ，楽曲に適した表現で優れた演奏ができる。	曲や楽器に応じてリズムを作成することができ，楽曲に適した演奏ができる。	ある程度リズムを作成することができ，演奏ができる。	リズムの作成も演奏もできない。
態度	音楽に親しみ，演奏を楽しむことができる。	様々な楽器や楽曲に積極的に関わり親しんでおり，自分が演奏するだけでなく他の人の演奏にも関心を持って楽しむことができる。	様々な楽器や楽曲に親しんでおり，自分が演奏するだけでなく他の人とも演奏を楽しむことができる。	様々な楽器や楽曲に取り組み，みんなと演奏することができる。	取り組みが消極的であり，他の人との演奏を楽しむことが苦手である。	取り組みができない。演奏ができない。

科目名	子どもと手芸			授業番号	CN205	サブタイトル			
教員	齊藤　佳子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	乳幼児の年齢と発達や生活に即した布おもちゃの製作に関する知識と技能について講義する。また，製作した布おもちゃの特性を生かした保育への取り入れ方や具体的な保育場面を想定した布おもちゃの活用方法の考察を通して保育実践力を育成する。								
到達目標	・乳幼児の年齢と発達や生活に即した布おもちゃの特徴を理解し，製作することができる。 ・製作した布おもちゃの遊び方を工夫することができる。 ・保育現場で役立つ裁縫に関する知識と技能を身につける。 ・製作を通して，計画的，能動的に作業する態度を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	人形，布製ボール，フェルトのボタン・フォック・スナップ・ファスナー・ひも通し・穴通し・からくり，指人形，布絵本など，さまざまな布おもちゃが考案されている。製作する布おもちゃに関しては，受講者の要望に柔軟に応じる。								

回	概要	担当
第1回	布おもちゃの魅力を探る ・布おもちゃの乳幼児にとっての意義について，現在，保育現場において，どのような布おもちゃが存在しているのか，現状を調べるなどして把握する。 ・乳幼児の年齢と発達や生活に即した布おもちゃの特徴を理解する。 ・製作手順として，計画，製作の準備，製作，仕上げ，片付けといった作業の流れがあり，効率や安全のために作業の順番を決める必要があることを理解する。	
第2回	布おもちゃに関する教材研究 ・布おもちゃ作りの資料収集，題材の選定，製作に必要な材料と用具を準備する。 ・製作に必要な材料として，布の性質に適した糸や製作する物に応じて準備するものが必要であることを理解する。	
第3回	フェルトを用いた指人形の製作，素材の知識 ・布を用いて製作する際，目的や使い方に応じて布の丈夫さや縫いやすさなどの性質を考え，適したものを選ぶことを理解する。	
第4回	布（フェルトなど）を用いた名札・ワッペンづくり(1) ・製作の準備作業として布を裁ち，縫う線にしるしをつけたり，まち針で布と布をとめたりして縫い合わせる。 ・手縫いには，縫い針に糸を通したり，糸端を玉結びや玉どめにしたり，布を合わせて縫ったりすることなどがあることを理解する。	
第5回	布（フェルトなど）を用いた名札・ワッペンづくり(2) ・手縫いとして，なみ縫い，返し縫い，かがり縫い，ブランケットステッチなどの縫い方と特徴を理解し，縫う部分や目的に応じて，適した手縫いを選ぶ必要があることを理解し，できるようにする。 ・縫った後に縫い目を整えたり，糸の始末をしたりする。	
第6回	布おもちゃ作り(1) 布おもちゃ製作の手順，製作計画，型紙の作り方，型紙の写し方 ・製作に必要な材料や手順が分かり，製作計画について理解する。	
第7回	布おもちゃ作り(2) 布の切り方， 基本的な縫い方 ・布の裁ち方や手縫いの仕方，目的に応じた縫い方に関する基礎的・基本的な知識及び技能を理解する。	
第8回	布おもちゃ作り(3) 手芸綿の入れ方 ・綿を入れる際は，かがり縫いやブランケットステッチをして布端をかがることによって綿が出ないように布と布を綴じることを理解する。	
第9回	布おもちゃ作り(4) 顔・体・手・足のつけ方 ・挟み縫いの知識及び技能を習得する。	
第10回	布おもちゃ作り(5) 手芸用ボンド，接着剤の特性 ・手芸用ボンドと接着剤の特性を理解し，使用するメリットとデメリットを考える。	
第11回	布おもちゃ作り(6) 面ファスナー・マジックテープ，ひも，安全ピン，キーホルダーのつけ方 ・面ファスナー・マジックテープの名称を確認し，縫い付け方の知識及び技能を習得する。	
第12回	布おもちゃ作り(7) 製作の工夫，表情のつけ方 ・自分の作品を仕上げるために，授業で身に付けた製作手順や手縫いの技能をより上手く活用できるようにする。	
第13回	布おもちゃ作り(8) 仕上げ ・縫い始めや縫い終わり，角の縫い方を考えた処理の仕方などを確認する。	
第14回	年齢と発達に適した布おもちゃと遊びの展開方法(1) ・製作した作品を活用した保育実践について考える。	
第15回	年齢と発達に適した布おもちゃと遊びの展開方法(2) ・製作した作品を活用した保育実践について発表する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントペーパーにより，評価を行う。 ・布おもちゃの製作に意欲をもって取り組むことができる。 ・製作計画に沿って，製作することができる。 ・布おもちゃを作る楽しさや使う喜びを感じることができる。
レポート	20	布おもちゃ製作の立案から遊び方への展開に関して授業で学修した内容を深めることができたかを評価する。 課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また，課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
小テスト		
定期試験		
その他	60	以下の製作物について，丈夫さや美しさ，保育での使用目的の視点から考え，工夫して製作に取り組むことができたかを評価する。 指人形：15%，名札・ワッペン：15%，布おもちゃ：30%

評価の方法：自由記載	授業ごとに自分で感じたこと，工夫したこと，考えたことについてのレポートを作成して提出する。
受講の心得	・演習中心の授業なので，毎回出席することが大切である。作品だけが評価されるのではなく，授業に取り組む姿勢や態度も重要である。 ・製作において必要となる参考資料や材料等は，各自が必要に応じ自主的に準備するものとする。

授業外学修	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴を理解している。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴について，正確に理解し述べることができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴について，ほぼ正確に理解し述べることができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴について，概ね述べることができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃの特徴について，まったく表現することができない。
知識・理解	２．保育現場で役立つ裁縫に関する知識を理解している。	保育現場で役立つ裁縫に関する知識について，正確に理解し述べることができる。	保育現場で役立つ裁縫に関する知識について，ほぼ正確に理解し述べることができる。	保育現場で役立つ裁縫に関する知識について，概ね述べることができる。	保育現場で役立つ裁縫に関する知識について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	保育現場で役立つ裁縫に関する知識について，まったく表現することができない。
思考・問題解決能力	製作した布おもちゃの遊び方を考え工夫することができる。	製作した布おもちゃの遊び方を多角的に考え工夫することができている。	製作した布おもちゃの遊び方を考え工夫することができている。	製作した布おもちゃの遊び方を考えある程度工夫することができている。	製作した布おもちゃの遊び方を十分に考え工夫することができていない。	製作した布おもちゃの遊び方をまったく考えることができていない。
技能	１．乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃを製作することができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃを大変よく製作することができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃを製作することができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃをある程度製作することができる。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃを十分に製作することができていない。	乳幼児の年齢と発達を考慮した布おもちゃをまったく製作することができていない。
技能	２．保育現場で役立つ裁縫に関する技能を身につけている。	保育現場で役立つ裁縫に関する技能を大変よく身につけている。	保育現場で役立つ裁縫に関する技能を身につけている。	保育現場で役立つ裁縫に関する技能をある程度身につけている。	保育現場で役立つ裁縫に関する技能を十分に身につけていない。	保育現場で役立つ裁縫に関する技能をまったく身につけていない。
態度	１．授業への取り組みの姿勢や態度は意欲的である。	授業への取り組みに非常に意欲的な姿勢や態度がみられ，適切なコメントペーパーやレポートを提出している。	授業への取り組みに意欲的な姿勢や態度がみられ，コメントペーパーやレポートを提出している。	授業への取り組みにある程度意欲的な姿勢や態度がみられ，コメントペーパーやレポートを提出している。	授業への取り組みに十分な意欲的な姿勢や態度がみられず，不適切なコメントペーパーやレポートを提出している。	授業への取り組みに意欲的な姿勢や態度がみられず，コメントペーパーやレポートが未提出である。
態度	２．製作を通して，計画的，能動的に作業する態度を身につけている。	製作を通して，計画的，能動的に作業する態度をしっかり身につけている。	製作を通して，計画的，能動的に作業する態度を身につけている。	製作を通して，計画的，能動的に作業する態度をある程度身につけている。	製作を通して，計画的，能動的に作業する態度を十分に身につけていない。	製作を通して，計画的，能動的に作業する態度をまったく身につけていない。

科目名	子どもとダンス 1クラス			授業番号	CN206A	サブタイトル			
教員	溝田　知茂、土田　豊、清水　憲志、西井　愛美								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	幼児期（児童期）で扱うダンス，踊り，パフォーマンス等を工夫し，それらの適切な指導方法を工夫する。また，幼児（児童）のダンス等について適切に分析する方法を考案し，ダンス等を分析する。その結果から保育・授業を分析・評価する方法を修得する。								
到達目標	（知識・理解） １．幼児期（児童期）に適切なダンス，踊り，パフォーマンスについて理解できている。 ２．幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容を理解できている。 ３．幼児（児童）のダンス等について分析した結果から，保育・授業を分析する方法を理解できている。 （思考・問題解決能力） １．幼児（児童期）のダンス等の保育・授業の発案、また有効性を考えることができる。 （技能） １．幼児期（児童期）に適切なダンス，踊り，パフォーマンスができる。 ２．幼児（児童）のダンス等 について各種の分析ができる。 ３．幼児（児童）のダンス等について計画できる。 （態度） １．授業に積極的に参加できる。 なお本科目はディプロマ・ポリシーの<知識・理解> <思考・問題解決能力><技能><態度>の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	幼児期（児童期）の子どもの身体的発達の過程とその発達過程に沿ったダンス等 幼児期から児童期にかけての身体的発達の特徴と認知的発達段階との関連を考察し，それぞれの時期にふさわしいダンスの在り方について検討する。	溝田
第2回	幼児期（児童期）におけるダンス等の実際と教育的意義(1) 幼児期から児童期にかけての身体的・認知的発達段階を考慮したダンスについて幼児期に育てたい１０の姿や児童期に育成する資質・能力の３つの柱と対応させながら考察する。	溝田
第3回	幼児期（児童期）におけるダンス等の実際と教育的意義(2) 幼児期から児童期にかけてのダンスの歴史的変遷を教育課程の変遷と関連付けながら教育的意義について考察する。	溝田
第4回	保育現場におけるダンスの検討 ダンスと体操の違いを実践しながら、理解し、指定曲を用いて対象年齢に合ったダンスをグループで検討する。	清水
第5回	保育現場におけるダンスの発表 ダンスの中で盛り上がる部分を意識して、グループで実践する。	清水
第6回	バルーンダンス表現（１） バルーンを使った表現方法に関する映像資料を参考にし、実際にどのような表現手法があるのかを理解する。	土田
第7回	バルーンダンス表現（２） 課題曲を聴きながら、グループごとで保育現場で子どもたちとともにバルーンダンスすることを想像しながら動きを組み立てていく。	土田
第8回	バルーンダンス表現（３） 全体の一体感や観客へのアピールポイント等も考えながら発表会に向け、グループごとで練習する。	土田
第9回	バルーンダンス表現（４） これまでの取り組みを発表し合い、お互いの優れている点について意見交換したり、保育現場で展開する上での留意点等についての話し合いをする。	土田
第10回	０～５歳児におけるダンス・身体表現の実際と指導法についての演習 指示したダンス・わらべうたなどを用いた身体表現活動を実践しながら、０～２歳児の発達特性を踏まえた指導上の配慮や留意点について理解を深める。 また、短時間で完結する身体表現プログラムを各グループで創作し、発表する。 指示したダンスを踊りながら、３～５歳児の運動発達を踏まえた難易度設定や声かけ、展開方法について明らかにする。 また、導入ー展開ーまとめの構成を意識し、各グループで年齢設定を明確にしたダンスを創作し発表する。	西井
第11回	幼児期における基本ステップの理解と分解指導の演習・創作ダンスの導入方法と展開技法の演習 幼児が習得可能な基本動作（ステップ）を実践し、動きを段階化して指導する方法を検討する。 できない場合の補助方法や成功体験につなげる声かけを演習を通して理解する。 また、基本動作（ステップ）を組み合わせた短い振付を創作する。 創作ダンスのテーマ提示（例：自然・動物・感情等）から創作へつなげる過程を体験し、模倣→変化→構成という段階的指導法について検討する。 各グループでテーマを設定し、幼児が主体的に参加できる創作過程を含んだプログラムを作成し、発表する。	西井
第12回	衣装・小道具の教育的活用と表現拡張の演習と空間構成・安全管理と指導技術の演習 布・スカーフ・衣装などの小道具を用いた身体表現を体験し、視覚的刺激や達成感が幼児の意欲に与える影響を検討する。 また、年齢に応じた安全配慮を踏まえた衣装・小道具の活用方法を各グループで企画する。 円形配置・散開・隊形移動などの空間構成を実践し、幼児の衝突防止や集中維持のための指導法を理解する。 合図・止め方・場のまとめ方など、現場で必要となる具体的指導法を演習を通して検討する。	西井
第13回	０～５歳児に適切なダンス・パフォーマンスの設定と計画についてとグループ演習（１） グループに分かれ、対象年齢、実施場面（発表会・日常活動・参観日等）、場所を設定し、選曲、創作内容、時間配分、安全面を含めた指導計画を立案する。 必要に応じて衣装・小道具の計画も行う。 グループ演習では、年齢設定に基づいた創作ダンスの構成を深める。 （動きの難易度調整、導入の工夫、声かけの検討、衣装・小道具準備等）	西井
第14回	グループ演習（２） 発表に向けたリハーサルを行い、指導者役と子ども役を交代しながら実践的検討を行う。 （テンポ、展開、指示の明確さの確認等） 最終調整を行い、安全配慮、時間配分、まとめ方について再検討する。 必要に応じて構成の修正を行う。	西井
第15回	グループ創作ダンス発表会とグループ創作ダンス発表会のフィードバック・ディスカッション 対象年齢・ねらい・指導上の工夫を明確にし、各グループが発表する。 各グループで実践内容を分析し、発達段階との適合性、安全面、創造性、指導技術の観点から検討を行う。 結果を共有し、保育現場への応用可能性について考察する。	西井
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な態度、発表・討議への参加、予・復習の状況によって評価する。
その他	50	ダンス，踊り，パフォーマンス等、それに伴った準備過程を含めて評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で修得した内容が次回の授業で表現・発揮できるよう，努力すること。本科目の性質上，開講教室が変動すことがあるので，確認をすること。また，欠席・遅刻がないように体調管理等に注意すること。
授業外学修	1　予習として、幼児期（児童期）向けの音楽、ダンスを調べる。 2　復習として、授業内容をレポートにまとめ、身体を動かし授業内容の確認をする。 3　発展学習として、授業内容に関連した音楽を聴きながらリズムをとること、幼児期（児童期）が好むダンスを踊る。 以上の内容を、週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児期（児童期）に適切なダンス，踊り，パフォーマンスについて理解できている。	学修した幼児期（児童期）に適切なダンス，踊り，パフォーマンスについて理解し、正確に述べることができる。	学修した幼児期（児童期）に適切なダンス，踊り，パフォーマンスについて正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した幼児期（児童期）に適切なダンス，踊り，パフォーマンスについて大体述べることができる。	学修した幼児期（児童期）に適切なダンス，踊り，パフォーマンスについて正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	学修した幼児期（児童期）に適切なダンス，踊り，パフォーマンスについて、全く表現することができない。
知識・理解	２．幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容を理解できている。	幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容について、正確に述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容について、大体述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容について、正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	幼児（児童）のダンス等について各種の分析方法の目的と内容について、全く表現することができない。
知識・理解	３．幼児（児童）のダンス等について分析した結果から，保育・授業を分析する方法を理解できている。	幼児（児童）のダンス等について分析した結果から，保育・授業を分析する方法を、正確に述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について分析した結果から，保育・授業を分析する方法を、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について分析した結果から，保育・授業を分析する方法を、大体述べることができる。	幼児（児童）のダンス等について分析した結果から，保育・授業を分析する方法を、正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	幼児（児童）のダンス等について分析した結果から，保育・授業を分析する方法を、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	１．幼児（児童期）のダンス等の保育・授業の発案、また有効性を考えることができる。	課題に対し、論理的融合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的融合性を持った考察をしている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
技能	１．幼児期（児童期）に適切なダンス，踊り，パフォーマンスができる。	正確に身体をコントロールして豊かに表現することができる。	ほぼ正確に身体をコントロールして表現することができる。	身体をコントロールして表現することができる。	正確ではないが身体で表現することができる。	課題とは異なるが表現をしている。
技能	２．幼児（児童）のダンス等について各種の分析ができる。	ダンス等について分析でき、正確に再現できる。	ダンス等について分析でき、ほぼ正確に再現できる。	ダンス等について分析でき、自分なりに表現できる。	ダンス等について概ね分析でき、自分なりに表現できる。	ダンス等について概ね分析できる。
技能	３．幼児（児童）のダンス等について計画できる。	課題に応じたダンス等の保育・授業計画が正確にできる。	課題に応じたダンス等の保育・授業計画がほぼ正確にできる。	課題に応じたダンス等の保育・授業計画ができる。	課題に応じたダンス等の保育・授業計画ができる。	ダンス等の保育・授業計画はできるが課題に沿っていない。
態度	１．授業に積極的に参加できる。	質問など積極的に行い、疑問を解決し、授業内容を理解した上で、適切な表現ができている。	授業に前向きに望む姿勢が見受けられ、授業内容を理解した上で、表現ができている。	授業に出席し、内容を理解した上で、表現できている。	授業に出席し、表現しているが、理解が十分ではない。	授業に出席しているが、表現をしない。

科目名	子どもとゲーム			授業番号	CN207	サブタイトル			
教員	中田　周作								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この授業では、ゲームを子どもの発達を促す活動であると位置づけ、その実践に取り組む。 地域社会のなかで、子どもと関わる活動を行い、子どもの発達を促すゲームを実践的に行う。 また、そうした活動の計画を立て、記録をとり、発表会を行い情報を共有する。								
到達目標	子どもの発達を促すゲームについて、実践的な計画を立てることができるようになる。 実践したゲームについての記録をとり、次の計画にフィードバックすることができるようになる。 なお,本科目はディプロマポリシーの＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ゲームの定義 子どもの発達促すゲームの定義	
第2回	ゲームの計画 実践活動の場と実践の計画。	
第3回	ゲームの記録 実践の記録と実践の検討、フィードバック	
第4回	実践共有の場としての実践検討会、活動発表会 記録と情報共有、個人情報保護への配慮	
第5回	活動計画（授業） 子どもの発達を促すゲームを含む実践活動の計画	
第6回	活動時間（学外活動） 子どもの発達を促すゲームを含む実践活動を行う。	
第7回	活動計画（授業） 子どもの発達を促すゲームを含む実践活動の計画	
第8回	活動時間（学外活動） 子どもの発達を促すゲームを含む実践活動を行う。	
第9回	活動発表会 実践活動に関する情報の共有とフィードバック	
第10回	活動記録（授業） 子どもの発達を促すゲームを含む実践活動の記録とその活用	
第11回	活動時間（学外活動） 子どもの発達を促すゲームを含む実践活動を行う。	
第12回	活動発表会 実践活動に関する情報の共有とフィードバック	
第13回	活動記録（授業） 子どもの発達を促すゲームを含む実践活動の記録とその活用	
第14回	活動時間（学外活動） 子どもの発達を促すゲームを含む実践活動を行う。	
第15回	活動発表会 実践活動に関する情報の共有とフィードバック	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
実践活動とその記録	50	記録をする授業時に適宜、アドバイスをしていく。
活動発表会での発表、資料、質疑応答。	50	発表会の準備の時に、資料作成のアドバイスを行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	① 12時間の学外活動を行う。 ② 継続できる活動を見つけること。 ③ 活動終了後は迅速に記録を付けること。 ④ 活動終了後に活動証明書を得ること。 ②③④の作業のため、5-15回目の授業に対して、週1.5時間の授業外学修の時間を定める。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	子どもの発達を促すゲームについて理解している。	子どもの発達を促すゲームについて、子ども発達段階や環境を踏まえて理解している。	子どもの発達を促すゲームについて、基本的な知識に基づき理解している。	子どもの発達を促すゲームについて理解している。	子どもの発達を促すゲームについて、あまり理解できていない。	子どもの発達を促すゲームについて、全く理解できていない。
思考・問題解決能力	子どもの発達を促すゲームについての知識を踏まえ、実践的な計画を立てることができる。 実践に関する記録をとり、次の計画にフィードバックすることができる。 記録に基づき、情報共有をすることができる。	子どもの発達を促すゲームについての知識を踏まえ、実践的かつ現実可能な計画を立てることができる。 自らの計画に基づき実践を行い、その記録をとり、次の計画に具体的にフィードバックすることができる。 守秘義務に配慮したうえで、記録に基づいた情報共有をすることができる。	子どもの発達を促すゲームについての知識を踏まえ、実践的な計画を立てることができる。 実践に関する記録をとり、次の計画にフィードバックすることができる。 記録に基づき、情報共有をすることができる。	子どもの発達を促すゲームについての知識を踏まえ、実践的な計画を立てることができる。 実践に関する記録をとり、次の計画にフィードバックすることができる。 記録に基づき、情報共有をすることができない。	子どもの発達を促すゲームについての知識を踏まえ、実践的な計画を立てることができる。 実践に関する記録をとり、次の計画にフィードバックすることができない。 記録に基づき、情報共有をすることができない。	考子どもの発達を促すゲームについての知識を踏まえ、実践的な計画を立てることができない。 実践に関する記録をとり、次の計画にフィードバックすることができない。 記録に基づき、情報共有をすることができない。

科目名	障害児援助論			授業番号	CN208	サブタイトル			
教員	藤井　裕士								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	障害のある子どもとその家庭（保護者）への支援，配慮を具体的に学修する。 特に，知的障害や発達障害のある子どもの実態をアセスメントを通して把握し，エビデンスを基にした支援の計画が立案できるようになることをめざす。								
到達目標	障害のある子どもの障害特性を理解し，それを説明することができる。また,実態に応じた支援を行うため，客観的な見立てを行うことができる。そして,実態に応じた支援を計画することができる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞　の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	障害とは 「障害児・者」とのこれまでの出会いを振り返る中で,障害観を表出する。	
第2回	ICFの理念と自立活動 ICFや合理的配慮の理念について理解する。更に，ATやAACの理念について理解する。困難さへの援助と発達の促進の違いを知る。	
第3回	フォーマルなアセスメントとインフォーマルなアセスメント フォーマルなアセスメントとインフォーマルなアセスメントについて理解し,フォーマルなアセスメントの結果を基にした指導・支援の立案について知る。	
第4回	認知・言語の発達に遅れのある子どものアセスメントと指導・支援① N-Cプログラムによる実態把握方法の概要を知る。,実態把握の結果から指導・支援を考える。	
第5回	認知・言語の発達に遅れのある子どものアセスメントと指導・支援② N-Cプログラムによる実態把握の結果から指導・支援を考える。	
第6回	見る力に困難さのある子どもの指導と支援 見る力に関する実態把握の方法及び、支援や指導について理解する。	
第7回	聞く力に困難さのある子どもの指導と支援 聞く力に関する実態把握の方法及び、支援や指導について理解する。	
第8回	覚える力に困難さのある子どもの指導と支援 覚える力に関する実態把握の方法及び,支援や指導について理解する。	
第9回	認知・言語の発達に遅れのある子どものアセスメントと指導・支援① 太田ステージによる実態把握方法の概要を知る。	
第10回	認知・言語の発達に遅れのある子どものアセスメントと指導・支援② 太田ステージの結果を基にした,支援や指導について知る。	
第11回	自閉症児の指導・支援① ABAの理念と概要を理解する。MASの実施・活用方法について理解し,指導・支援方法について考える。	
第12回	自閉症児の指導・支援② TEACHプログラムの理念と概要を理解する。	
第13回	コミュニケーションの指導・支援 コミュニケーションの表出手段（絵カードや身振り,手話など）に関する技法の指導方法について知る。情報の受容に偏りのある子どもへの伝え方（ソーシャルストーリー,コミック会話）の技法について知る。	
第14回	個別の教育支援計画・個別の指導計画 個別の教育支援計画,個別の指導計画の意義について理解し,作成方法について演習を通して学修する。	
第15回	多様な子どもを含む集団の学級経営 ギフティッドなどの多様な子どもを含む集団の教育について考える。その際,モンテッソーリ教育,イエナプラン教育を例に,クラスづくり・集団づくりの方法,ポイントを学修する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	演習への取組態度を含めて,意欲的な受講態度によって評価する。
ワークシート	20	ワークシートへの記述状況から評価する。（課題提出後の授業で全体的な傾向についてフィードバックする）
最終レポート	50	最終的な理解度を,レポートによって評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1 事前・事後に資料や参考文献を読むこと。 2 発表や演習に積極的に取り組むこと。 3 配布する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1 予習として,配布され資料のうち,授業内容にかかわる部分を読み,疑問を明らかにする。 2 復習として,配布された資料を読み授業内容の理解を深める。 3 発展学習として,授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を,週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	特別支援学校教諭（14年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	特別支援教諭（14年）の経験等を生かして，障害のある子どもの実態把握や支援の計画に関する具体的な方法を教授する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．障害のある子どもの障害特性を理解し，それを説明することができる。	障害特性を，理解し説明することができる。	障害特性を，自分の言葉で一通り説明することができる。	障害特性を，教員の説明通りに一通り説明することができる。	障害特性の一部を説明することができる。	障害特性を，ほとんど説明することができない。
思考・問題解決能力	２．障害特性や現場の状況に応じた支援・配慮を行うため，客観的な見立てを行うことができる。	客観的な見立てを，根拠立てて説明することができる。	客観的な見立てを，自分なりに説明することができる。	客観的な見立てを，教員の説明通りに一通り説明することができる。	見立ての方法の一部を説明することができる。	見立ての方法を，ほとんど説明することができない。
技能	３．エビデンスに基づく支援の計画を立てることができる。	エビデンスに基づく支援の計画を立てることができる。	自分なりに支援の計画を立てることができる。	教員の助言や友人からの助言を得て,支援の計画を立てることができる。	支援の計画の立案がができるときと，できないときがある。	支援の立案を行うことができない。
態度	４．学んだ知識をもとに,支援のために自ら考え行動しようとする。	学んだ知識をもとに,支援のために自ら考え行動しようとする。	支援に関する知識を活かし，積極的に関与しようとする。	指示があれば支援に取り組むことができる。	支援活動に対して消極的で，受け身の姿勢が目立つ。	支援活動への関心が低く,取り組もうとする姿勢がほとんど見られない。

科目名	子ども家庭支援の心理学			授業番号	CN210	サブタイトル			
教員	國田　祥子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，生涯発達の視点から人の一生を捉え，特に発達変化の著しい乳幼児期を中心に，人の生理的・心理的発達について，家族・家庭の影響を踏まえて解説する。								
到達目標	子どもの発達についての基礎知識を身につけ，子どもを取り巻く家族・家庭の意義や機能を理解する。さらに，子どもの心の健康とその課題について理解する なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子ども家庭支援の心理学とは 子どもの育ちとそれに大きな影響を及ぼす家庭環境について，発達段階，保護者の育ちといった視点から解説する。	
第2回	乳幼児期における発達 生涯にわたる心身の土台を形成する重要な時期である乳幼児期について，愛着，応答的な関わり，基本的信頼といったキーワードから解説する。	
第3回	学童期における発達 学童期(いわゆる小学生の時期)の子どもの発達にみられる基本的な特徴と課題について，大きく前期と後期に分けて解説する。	
第4回	青年期における発達 生涯の中で乳幼児期に次いで心身が激しく変化する青年期について，心理的離乳やアイデンティティの獲得といった観点から解説する。	
第5回	成人期・老年期における発達 親としての世代である成人期および老年期において達成されるべき発達課題について理解を深め，家庭支援の視点を養う。	
第6回	家族・家庭の意義と機能 現代の子育て家庭について，家族や家庭の形態の種類や時代や社会による変化，またそれが子どもの育ちにどのように影響するかを解説する。	
第7回	親子関係・家族関係の理解 親子関係や家族関係が子どもに，また子どもの将来にどのように影響するのかを解説し，保育者としての支援について理解する。	
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回までの内容(生涯発達および家族・家庭の理解)を振り返り，学習者の理解を確認する。理解が不十分だった点についてはその場でフィードバックし，復習を促す。	
第9回	子育て家庭に関する現状と課題 少子化，さらには父親・母親の子育ての現状について，ワンオペ育児や父親の育休取得における課題などから解説する。	
第10回	ライフコースと仕事・子育て それぞれの人生の道筋について，その考え方や時代の特徴を理解し，性別役割分業および家庭と仕事のバランスについて保護者支援の視点から解説する。	
第11回	多様な家庭とその理解 子どもの貧困，ひとり親家庭，ステップファミリーといったさまざまな事情をもつ家庭の支援ニーズと子どもに及ぼす影響について解説する。	
第12回	特別な配慮を要する家庭 発達的な課題を有する子どもの家庭，保護者が障害や心の病気を有する家庭，外国にルーツを持つ家庭などの特別な配慮を要する家庭について解説する。	
第13回	子どもの生活・生育環境とその影響 子どもの発達に及ぼす環境の影響について，その理論的背景を理解するとともに，時代的・社会的変化が子どもにもたらす影響について解説する。	
第14回	子どもの心の健康に関わる問題 乳幼児期の子どもに起こりやすい心の健康に関する問題について，心身症および障害を中心に解説する。	
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回までの内容(子育て家庭・子どもの精神保健に関する現状と課題)を振り返り，学習者の理解を確認する。理解が不十分だった点についてはその場でフィードバックし，復習を促す。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
こどもまんなか社会に活かす「子ども家庭支援の心理学」	立花直樹・津田尚子(監修)	晃洋書房	978-4-7710-3901-8	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．講義内容を多面的かつ十分に理解し，自らの知識として獲得できる	呈示された知識を十分に獲得している	呈示された知識をほぼ獲得し，多少の不十分があっても獲得する努力をしている	知識の獲得は十分とは思われないものの，努力は明らかである	授業内容を十分に理解できているとは思われず，知識獲得への努力も不十分である	講義そのものを理解できておらず，知識を獲得できていない

科目名	子どもの理解と援助			授業番号	CN211A	サブタイトル			
教員	土師　範子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	保育実践において実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義についてや，子どもを理解するための具体的な方法，子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できるよう解説する。								
到達目標	１，保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できる。 ２，子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できる。 ３，子どもを理解するための具体的な方法を理解できる。 ４，子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育における子どもの理解の意義 保育者の仕事と子ども理解	
第2回	子どもに対するかかわりと共感的理解 保育における共感的理解	
第3回	子どもの生活や遊び 乳幼児の生活と基本的生活習慣の獲得・乳幼児期の遊び	
第4回	保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 子どもの発達と保育者の役割	
第5回	子ども相互のかかわりと関係づくり ３歳未満児・３歳以上児におけるかかわり	
第6回	集団における経験と育ち クラス集団・遊び集団・異年齢集団における子どもの育ち，保育者の援助	
第7回	発達による葛藤やつまずき いざこざの発達変化と保育者の援助	
第8回	保育の環境の理解と構成 子ども・保育者と環境	
第9回	環境の変化や移行 さまざまな環境の変化や以降の場面	
第10回	子ども理解のための観察・記録と省察・評価 保育における「子ども理解」とは	
第11回	子ども理解のための職員間の対話 保育における対話と協働・保育カンファレンス	
第12回	子ども理解のための保護者との情報共有 保護者との情報共有の意義	
第13回	発達の課題に応じた援助とかかわり 個人差と発達過程	
第14回	特別な配慮を要する子どもの理解と援助 特別な配慮を要する子どもを理解する方法	
第15回	発達の連続性と就学への支援 幼小接続期における子どもの発達と学びの連続性	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	授業内容を理解し、課題に即して(計画・考察など)取り組めているかを評価する。 また、課題やレポートについてはコメントを記入して返却、または、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
定期試験	40	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	追・再試有り
受講の心得	常に自分自身の見方や援助の方法を問いながら，子ども理解に努めること。
授業外学修	予・復習を行い，週当たり２時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業内で適宜紹介する。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できる。	保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について十分に理解でき、発展することができている。	保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について十分に理解できている。	保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について理解できている。	保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義についての理解をしようと努力している。	保育実践において，実態に応じた子どもの一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義についての理解しようとしている。
知識・理解	子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できる。	子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を十分に理解でき、発展することができている。	子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を十分に理解できている。	子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を理解できている。	子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を理解しようと努力している。	子どもの体験や学びの過程において，子どもを理解する上での基本的な考え方を理解しようとしている。
知識・理解	子どもを理解するための具体的な方法を理解できる。	子どもを理解するための具体的な方法を十分に理解でき、発展することができている。	子どもを理解するための具体的な方法を十分に理解できている。	子どもを理解するための具体的な方法を理解できている。	子どもを理解するための具体的な方法を理解しようと努力している。	子どもを理解するための具体的な方法を理解しようとしている。
知識・理解	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できる。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について十分に理解でき、発展することができている。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について十分に理解できている。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解できている。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解しようと努力している。	子どもの理解に基づく保育上の援助や態度の基本について理解しようとしている。
思考・問題解決能力	子どもの理解や援助について問題点を見出すことができ，解決方法等について考えることができているか評価する。	子どもの理解や援助について問題点十分に見出すことができ，解決方法等について授業で学んだことを踏まえながら自分の考えを述べることができている。	子どもの理解や援助について問題点を見出すことができ，解決方法等について自分の考えを述べることができている。	子どもの理解や援助について問題点を考えることができ，解決方法等について授業内容で学んだことをまとめることができる。	子どもの理解や援助について問題点を見つけることができず，解決方法等について述べることができていない。	子どもの理解や援助について理解が不十分であり，問題等について考えることや述べることができていない。
態度	授業内容を理解し，課題に即した積極的な態度や，取り組みについて評価する。	保育現場で役立たせるために，授業内容や意義を十分に理解し，積極的に授業に参加することができる。	保育現場で役立たせるために，授業内容や意義を理解し，授業に参加できている。	授業には参加するが、発表や課題について取り組みが消極的である。	授業内容の理解や、発表などへの参加が不十分である。	授業の欠席や，課題の未提出がある。

科目名	幼児理解の理論と方法			授業番号	CN212	サブタイトル			
教員	國田　祥子								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，特に乳幼児期における子ども達の発達支援に必要な理論および技法について，発達心理学および臨床心理学の観点から解説する。								
到達目標	乳幼児期の子ども達の発達支援に必要な知識および技能を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育における「子ども理解」とは 子どもの見ている世界を共に見て，子どもの側からその「意味」を探る，保育者の子どもを理解する「まなざし」の意味や意義を学ぶ。	
第2回	子どもを取り巻く環境の理解 子どもたちの身を置く周囲の環境との関係の中で，子どもの姿や育ちをとらえていく視点について学ぶ。	
第3回	子ども理解における発達的視点 乳幼児期の発達段階に沿った仲間入りやいざこざ，言葉での伝え合いや協同的な活動について学ぶ。	
第4回	保育カウンセリング(キンダーカウンセリング) 2021年，学校教育法施行規則が改定され，幼稚園にスクールカウンセラーが配置できるように。保育現場におけるカウンセラーの役割とは。	
第5回	子ども理解における保育者の姿勢とカウンセリングマインド 保育者が子どもの気持ちに共感し温かく寄り添うことで，子どもは自分の世界を広げていくことができる。	
第6回	保育における観察と記録の実際 保育の観察や記録においては，正確さや具体性に加え，子どもの気持ちや育ちを読み取ることも必要となる。	
第7回	保育カンファレンス 子どもの姿や自分自身の関りについて自分以外の他者と語り合うことで，新しい視点や手掛かりを得られる。	
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り，理解を確認する。	
第9回	保育における個と集団の関係の理解と援助 1人の子どもが「みんな」と関り合っていくなかで，どのように「個」と「集団」が育ちあっていくのか，その育ち合いを支える保育のあり方について学ぶ。	
第10回	1人1人の子どもの特別なニーズの理解と援助 多様なニーズをもつ子どもたちにとって，それぞれの育ちを支えていくために必要とされる保育のありようを探る。	
第11回	発達臨床の現場 子どもの発達を支える現場として，保育所や幼稚園，認定こども園以外にどのような現場があるのかを解説する。	
第12回	発達臨床にかかわる人々 発達臨床の現場ではどのような人々が働いているのか，保育者以外の主な専門職を紹介する。	
第13回	保護者理解と援助の基本 保護者が子育ての喜びを感じられるよう，子育て中の不安や戸惑いに寄り添い支えることも保育者の重要な役割である。	
第14回	「子ども理解」を深めるための保育共同体 子ども理解を深めていくために求められる保育者間の関係構造について探る。	
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回の内容を振り返り，理解を確認する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの理解と援助演習ブック(よくわかる!保育士エクササイズ8)	松本峰雄/伊藤雄一郎/小山朝子/佐藤信雄/澁谷美枝子/増南太志/村松良太	ミネルヴァ書房	9784623090679	2500円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる臨床発達心理学 第4版	麻生　武・浜田寿美男（編）	ミネルヴァ書房	978-4-623-06326-0	2800円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．講義内容を多面的かつ十分に理解し，さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき，さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し，多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず，必要な知識も不足しているものの，活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず，知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず，知識が獲得されていないため，活用できない

科目名	教育社会学			授業番号	CN213	サブタイトル			
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子どもの発達は，これまで主として，心理学的アプローチにより解明が進められてきたといっても過言ではないだろう。 しかし，大きな社会変動と多元的価値観が錯綜する現代社会において，子どもの発達を解明するためには，子どもを取り巻く社会的環境を注視する必要がある。 そのため，特に社会化エージェントに焦点をあてて講義する。								
到達目標	子どもの発達を社会学的アプローチにより理解できる基礎的素養を習得する。 特に，学校教育に関する社会的事項，学校と地域との連携，学校安全への対応に関する基礎的知識を修得し，子どもに関する問題を自ら分析し，解決に寄与できる能力を身につけることを目標とする。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの発達に対する研究 社会学的アプローチとは	
第2回	教育社会学の研究対象と研究方法 何が学問を規定するのか	
第3回	教育社会学の研究対象としての教育政策 我が国における教育政策の展開と現状	
第4回	教育社会学の研究対象としての諸国の教育事情 国際比較から分かること	
第5回	家族集団と子どもの社会化 家族集団における子どもの社会化の特徴	
第6回	仲間集団と子どもの社会化 仲間集団における子どもの社会化の特徴 遊戯集団と活動集団	
第7回	地域社会と学校教育 地域社会と学校の関係	
第8回	地域社会と子どもの教育 近隣集団と地域集団	
第9回	学校集団の構造と組織 学校とは何か 学校の特徴とは	
第10回	学校集団の社会化機能 学校集団における子どもの社会化の特徴	
第11回	学校の安全に関する現状と課題 学校の安全とは	
第12回	学校の安全と危機管理 学校の危機管理とは	
第13回	子どもの社会化と逸脱行動 逸脱行動とは何か	
第14回	子どもの逸脱行動の現実 逸脱行動と子どもの社会化	
第15回	少年非行 少年非行とは 少年非行をめぐる現状と法令	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
最終試験レポート	70	各自で最終レポートを作成し提出する。
コメントペーパー	30	講義のとき，毎回，コメントペーパーを提出する。提出物については、次回の授業の冒頭で共有し、コメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1）テキスト及び配付資料を事前に読んでくること。 2）最終試験レポートの課題を探しながら受講すること。
授業外学修	事前にテキスト及び配付資料を読んでくることを，週当たり4時間以上行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
変動社会と子どもの発達	住田正樹・高島秀樹	北樹出版	978-4-7793-0469-9	2100

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	酒井朗・多賀太・中村高康編著『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子どもの発達に関する社会学的アプローチが理解できている。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、自分の言葉で説明することができる。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、周辺領域の知識とも関連付けて理解できている。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、概要を理解できている。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点について、キーワードを覚えている。	①子どもの発達に関する社会学的研究、②日本の教育政策、③諸外国の教育事情の3点についてのキーワードを覚えていない。
知識・理解	２．具体的な社会化エージェントと子どもの社会化について理解できている。	家族集団、仲間集団、近隣集団、地域集団、学校集団と子どもの社会化について理解できている。	学校集団を含むいくつかの集団と子どもの社会化について理解できている。	いくつかの集団と子どもの社会化について理解できている。	社会化エージェントと子どもの社会化についてキーワードを覚えている。	社会化エージェントと子どもの社会化に関するキーワードを覚えていない。
知識・理解	３．学校集団の構造について理解できている。	学校集団の構造と組織、学校集団の社会化機能について理解できている。	学校集団の構造と組織もしくは、学校集団の社会化機能について理解できている。	学校集団の構造と組織、学校集団の社会化機能の概略を理解できている。	学校集団の構造と組織、学校集団の社会化機能のキーワードを覚えている。	学校集団の構造と組織、学校集団の社会化機能のキーワードを覚えていない。
知識・理解	４．学校の安全について理解できている。	学校の安全に関する現状と危機管理について理解できている。	学校の安全に関する現状もしくは、危機管理について理解できている。	学校の安全に関する現状と危機管理の概略を理解できている。	学校の安全に関する現状と危機管理に関するキーワードを覚えている。	学校の安全に関する現状と危機管理に関するキーワードを覚えていない。
知識・理解	５．子どもの社会化と逸脱行動について理解できている。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点について、自分の言葉で説明することができる。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点のうちのいずれかについて、自分の言葉で説明することができる。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点の概要を理解している。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点について、キーワードを覚えている。	①少年非行に関する社会学的研究、②児童虐待の現状、③不登校とひきこもりの3点について、キーワードを覚えていない。
思考・問題解決能力	１．社会集団を通した子どもの発達について、考察することができる。	社会集団を通した子どもの発達を考察することにより、自らの実践の質を向上させることができる。	社会集団を通した子どもの発達について、学修内容に照らして考察することができる。	社会集団を通した子どもの発達について、自分の経験に基づき語ることができる。	社会集団を通した子どもの発達について語ることができる。	社会集団を通した子どもの発達について理解することができない。

科目名	教育相談			授業番号	CN215	サブタイトル	（カウンセリングを含む）		
教員	國田　祥子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，教育相談についてその理念や基本的な理論を紹介する。								
到達目標	教育相談で扱うさまざまな問題に対し，不適応状態にある子どもやその保護者に教師が対応していく際の考え方や方法について解説し，カウンセリング・マインドを身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育相談とは 教育相談の必要性と意義について理解し，これからの時代の教師に求められる心理的援助の資質について理解を深める。	
第2回	カウンセリングの理論 子どもや保護者の相談対応を行う上で重要となる，カウンセリングの考え方を解説する。	
第3回	カウンセリングの技法 クライエントとのコミュニケーションに有効となる，カウンセリングの基本的な技法を解説する。	
第4回	いじめ・不登校への対応 いじめおよび不登校の現状と構造を理解し，教育相談や支援としてどのようなことができるかを考える力を身につける。	
第5回	学級崩壊・学級経営の問題への対応 学級崩壊の実情と回復ポイントを理解し，学級崩壊にならないための学級経営を考える力を身につける。	
第6回	虐待・いのちの教育への対応 保護者やそれ以外の者によって子どもの命が奪われる事件の現状を知り，必要な対応や支援を考える力を身につける。	
第7回	非行・学校不適応への対応 「問題行動」という言葉が何を指すのか，その概念を紐解きながら非行や学校不適応への理解と対応を考える。	
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回までの内容を振り返り，理解を確認する。	
第9回	発達障害への対応 個別性が非常に高い発達障害について，その対応を共生社会に向けたインクルーシブ教育の観点から解説する。	
第10回	心の病への対応 児童期から青年期にみられる心の病気についてその概要を解説し，教師として何ができるか考える力を身につける。	
第11回	校内・他機関との連携 スクールカウンセラーを始めとする校内のさまざまな立場の職員との連携および他機関との連携について学ぶ。	
第12回	アセスメント：観察・面接 子どもの状態を適切に把握し，支援するアセスメントについて，ここでは行動観察および面接の方法について学ぶ。	
第13回	アセスメント：心理検査 専門機関やスクールカウンセラーなどとの連携を踏まえ，心理検査についての概論および留意点を学ぶ。	
第14回	家庭の理解と保護者への支援 今の親が置かれている状況を理解したうえで，ともに子どもを育てていく方法を考える。	
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回までの内容を振り返り，理解を確認する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の前に，テキストに基づいて4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
教育相談　第2版(よくわかる!教職エクササイズ　3)	森田健宏/田爪宏二/吉田佐治子	ミネルヴァ書房	9784623096114	2500円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．講義内容を多面的かつ十分に理解し，さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき，さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し，多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず，必要な知識も不足しているものの，活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず，知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず，知識が獲得されていないため，活用できない

科目名	子どもと絵本Ⅰ			授業番号	CN216	サブタイトル			
教員	伊藤　智里、住野　好久、太田　憲孝、山本　房子、福澤　惇也								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本科目は，「認定絵本士」資格取得のための科目である。本科目では，絵本の特徴と子どもの発達にとっての意義を理解した上で，絵本から広がり深まる様々なつながりを生み出す方法について考える。絵本に関する必要な「知識」「技能」「感性」について修得し，認定絵本士に必要な資質・能力（選択力，コーディネート力，企画力，コミュニケーション力，表現力，指導力）を体得する。 認定絵本士養成講座対象科目であるため，次の条件の下に開講する。①受講定員は50名である。 ②「子どもと絵本Ⅰ」「子どもと絵本Ⅱ」の両方を履修し，全授業に出席することを原則とする。								
到達目標	1．絵本に対する知識を多面的に深めることができる。 2．絵本を使う技術を知り，高めることができる。（コーディネート力，コミュニケーション力，選択力，企画力等） 3．絵本を保育・教育の中に取り入れていく具体的な方法が提案できる。（企画をわかりやすく説明する力，感情の共有化，共感する力を修得する） なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	本科目は，認定絵本士養成講座カリキュラムに従い構成される。カリキュラムのコマ名を使用しているため「子どもと絵本Ⅰ」「子どもと絵本Ⅱ」の2科目を通じ，コマ名の通し番号が前後する部分がある。								

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション（日本の読書推進活動） 日本の読書推進活動の施策の経緯について理解し，認定絵本士の役割について確認する	住野・伊藤
第2回	絵本総論（絵本とは何か） 絵本をめぐる行為，絵本の定義や捉え方，絵本の多面性と可能性や課題について理解する	伊藤
第3回	絵本各論①（絵本の歴史，絵本賞について） 日本及び世界の絵本の歴史，絵本賞について理解する	伊藤
第4回	絵本各論②（視覚表現，言語表現から見た絵本） 絵本の視覚表現及び言語表現の特性について理解する	伊藤
第5回	絵本の世界を広げる技術②（ワークショップ） 絵本を活用した表現活動について理解し，表現活動の基礎的技術を体得する	山本・伊藤
第6回	様々なジャンルの絵本①（物語の絵本） 物語を内容とした絵本の特性について理解し，絵本における絵と言葉で語る技法を体得する	山本・伊藤
第7回	様々なジャンルの絵本②（昔話，童話を基にした絵本） 昔話および童話を題材にした絵本の特性，絵本における再話や絵本の質のあり方について理解する	山本・伊藤
第8回	絵本と出会う①（初めての絵本との出会い） 乳幼児を対象とした絵本の特徴を理解し，乳幼児が絵本に触れるための具体的取り組みについて理解する	山本・伊藤
第9回	ホスピタリティに学ぶ（人を楽しませるための手法を学ぼう） 絵本以外で人を楽しませるための手法について理解する 外部講師（竹内）	伊藤
第10回	絵本を紹介する技術②（書評・紹介文の書き方） 絵本の内容および特質を客観的にとらえることを理解し，書評および紹介文の書き方を体得する	太田・伊藤
第11回	様々なジャンルの絵本③（科学絵本等） 自然科学・社会科学に関する絵本の特性について理解し，科学絵本等の活用について理解する　（岸）	伊藤
第12回	絵本各論③（子どもの知的・社会的発達と絵本の関わり） 各年齢期の子どもの発達と絵本との関わりの特性について理解し，絵本が子どもの発達に及ぼす影響に関する学術的知見を理解する	福澤・伊藤
第13回	絵本各論④（メディアとしての絵本の位置づけ） 情報メディアとしての絵本の特性について理解し，著作権，電子書籍と子どもの脳の関係について理解する	福澤・伊藤
第14回	絵本と出会う②（保育・教育の場での出会い） 保育・教育の場における絵本の意義，絵本を用いた活動の具体的取り組みについて理解する	福澤・伊藤
第15回	絵本の持つ力（さまざまな角度から絵本を見る） 絵本の持つ可能性及び相反する力について理解し，絵本が子ども達に与える影響について多面的な視点から見つめることにより，批評力を体得する	福澤・伊藤
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	授業参加のための適切な準備，授業内での活動・実践的なワークの積極的な参加状況，発表の状況によって評価する。
レポート	40	課題について要点をおさえ，自分の考えを具体的に述べていること。コメントをフィードバックする。
その他提出課題	20	レポート以外の提出課題の内容により評価する。提出課題は返却し，コメントをフィードバックする。

評価の方法：自由記載	本科目は「認定絵本士」資格取得に関わる科目であり，全出席を原則とする。事前・事後（指定）レポートの提出も必要である。 なお，認定絵本士は絵本専門士委員会（事務局：独立行政法人国立青少年教育振興機構）の定める資格取得要件に基づき，資格認定される。
受講の心得	絵本そのものについての理解，子どもの理解，プロデュース，絵本を活用する知識など，内容が多岐にわたる。自分が絵本に関して指導を行うことを想定しながら受講してほしい。
授業外学修	1．予習・復習として，課題を課すことがある。 2．テキストを事前に読み，疑問点を明らかにする。 3．発展学習として，授業で紹介された絵本・参考文献を読む。 以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
「認定絵本士養成講座」テキスト2版	絵本専門士委員会独立行政法人国立青少年教育振興機構	中央法規出版	978-4-8243-0056-0	

使用テキスト：自由記載	販売日は別途通知する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	講義内容を多面的に十分に理解し，得られた知識をもとに絵本の活用について考えることができる	提示された講義内容を多面的に十分に理解し，得られた知識をもとに自ら問題意識を持ったことについて調べるなどし，絵本の活用について考えることができる	提示された講義内容を理解し，得られた知識をもとに，絵本の活用について深く考えることができる	提示された講義内容をおおむね理解し，絵本の活用について考えることができる	提示された講義内容を部分的に理解し，十分ではないが絵本の活用について考えることができる	提示された講義内容の理解が不十分であり，絵本の活用について考えるための知識が不足している
技能	絵本の活用するための技術	絵本を活用した表現活動について十分理解し，ワークショップの企画・運営や絵本を紹介する技術について自分が将来行うことを想定した実用的な視点をもって実践ワークをすることができる	絵本を活用した表現活動について十分理解し，ワークショップの企画・運営や絵本を紹介する技術について基礎的な部分を体得した実践ワークをすることができる	絵本を活用した表現活動についておおむね理解し，ワークショップの企画・運営や絵本を紹介する技術について理解した部分を用いて基礎的なことを押さえた実践ワークをすることができる	絵本を活用した表現活動について部分的に理解し，ワークショップの企画・運営や絵本を紹介する技術について理解した部分を用いて実践ワークをすることができる	絵本を活用した表現活動についての理解が不十分であり，ワークショップの企画・運営や絵本を紹介する技術についての実践ワークが成り立たない
技能	レポート作成	レポートを作成する際の基本事項が整い，授業で提示された内容をさらに自分で調べるなどして内容が発展的に充足している	レポートを作成する際の基本事項が整い，授業で提示された内容について自分で調べるなどして工夫して表現されている。	レポートを作成する際の基本事項が整い，授業で提示された内容について適切に表現されている。	レポートを作成する際の基本事項について十分に整っているとはいえないが，授業で提示された内容について部分的に理解して表現されている。	レポートを作成する際の基本事項について十分に整っているとはいえず，授業で提示された内容の表現が不十分である。

科目名	子どもと絵本Ⅱ			授業番号	CN217	サブタイトル			
教員	伊藤　智里、住野　好久、廣畑　まゆ美								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本科目は，「認定絵本士」資格取得のための科目である。本科目では，「子どもと絵本Ⅰ」での学修内容を踏まえながら，絵本の特徴と子どもの発達にとっての意義を理解した上で，絵本から広がり深まる様々なつながりを生み出す方法について考える。絵本に関わる様々な視点や実践事例から，絵本に関する必要な「知識」「技能」「感性」について修得し，認定絵本士に望まれる主な資質・能力（選択力，コーディネート力，企画力，コミュニケーション力，表現力，指導力）を体得する。認定絵本士養成講座対象科目であるため，次の条件の下に開講する。①受講定員は50名である。②「子どもと絵本Ⅰ」「子どもと絵本Ⅱ」の両方を履修し，全授業に出席することを原則とする。								
到達目標	１．絵本を中心とした多様な子ども文化を追体験することができる。 ２．絵本に関する世界の広がりや深まりを生み出す技術を知り，高めることができる。（選択力，コーディネート力，コミュニケーション力，企画力，指導力等） ３．絵本を通して感性を豊かにする体験をすることができる。（表現力等） なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	本科目は，認定絵本士養成講座カリキュラムに従い構成される。カリキュラムのコマ名を使用しているため「子どもと絵本Ⅰ」「子どもと絵本Ⅱ」の２科目を通じ，コマ名の通し番号が前後する部分がある。								

回	概要	担当
第1回	子どもの心をとらえるもの（子どもの心をとらえて離さないもの）　外部講師（浅間）	伊藤・廣畑
第2回	大人の心を豊かにする絵本（人生で３度，絵本を手にする喜び）　外部講師（浅間）	伊藤・廣畑
第3回	絵本と出会う④（書店での出会い）　外部講師（都築）	伊藤・廣畑
第4回	絵本の世界を広げる技術③（絵本コンシェルジュ術）　外部講師（都築）	伊藤・廣畑
第5回	絵本を紹介する技術①（ブックトークの技術）　外部講師（都築）	伊藤・廣畑
第6回	絵本が生まれる現場①（作家の感性に触れる）　外部講師（浅間）	伊藤
第7回	絵本と出会う③（図書館等での出会い-絵本の活用及び地域連携の可能性-）　外部講師（高見）	伊藤
第8回	おはなし会の手法②（おはなし会のテクニック）　外部講師（近間）	伊藤
第9回	絵本のある空間（絵本のある望ましい空間とは）　外部講師（石原）	伊藤
第10回	おはなし会の手法①（おはなし会を開こう）　外部講師（服部）	伊藤
第11回	絵本の世界を広げる技術①（絵本を探す技術）　（茨﨑・遠藤）	伊藤
第12回	絵本が生まれる現場②（絵本の編集）　外部講師（山川）	伊藤
第13回	絵本を紹介する技術③（支援が必要な人々や高齢者への絵本の役割）　外部講師（小坂）	伊藤
第14回	心に寄り添う絵本（心のケアと絵本の可能性）　外部講師（小坂）	伊藤
第15回	ディスカッション（認定絵本士に向けて）	住野・伊藤
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	40	授業参加のための適切な準備，授業内での活動・実践的なワークへの積極的な参加，発表の状況によって評価する。
最終課題レポート	40	課題について要点をおさえ，自分の考えを具体的に述べていること。コメントをフィードバックする。
その他提出課題	20	提出課題の内容の適切さにより評価する。提出課題は返却し，コメントをフィードバックする。

評価の方法：自由記載	本科目は「認定絵本士」資格取得に関わる科目であり，全出席を原則とする。事前・事後レポートの提出も必要である。 なお，認定絵本士は絵本専門士委員会（事務局：独立行政法人国立青少年教育振興機構）の定める資格取得要件に基づき，資格認定される。
受講の心得	絵本や子どもに携わる様々な分野の外部講師の授業を受けることができる，貴重な機会である。自分の絵本への関わり方や将来絵本を使用して指導を行うことを念頭に置きながら，主体的に受講してほしい。
授業外学修	１．予習・復習として，課題を課すことがある。 ２．テキストを事前に読み，疑問点を明らかにする。 ３．発展学修として，授業で紹介された絵本・参考文献等を読む。 以上の内容を，週あたり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
「認定絵本士養成講座」テキスト２版	絵本専門士委員会独立行政法人国立青少年教育振興機構	中央法規出版	978-4-8243-0056-0	

使用テキスト：自由記載	「子どもと絵本Ⅰ」「子どもと絵本Ⅱ」共通のテキストである。販売日は別途通知する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	絵本を活用するための技術	絵本を活用した活動について十分に理解し，おはなし会の企画・運営や絵本を紹介する技術について自分が将来行うことを想定した実用的な視点を持って実践ワークをすることができる。	絵本を活用した活動について十分に理解し，おはなし会の企画・運営や絵本を紹介する技術について基礎的な部分を体得した実践ワークをすることができる。	絵本を活用した活動についておおむね理解し，おはなし会の企画・運営や絵本を紹介する技術について理解した部分を用いて基礎的なことを押さえた実践ワークをすることができる。	絵本を活用した活動について部分的に理解し，おはなし会の企画・運営や絵本を紹介する技術について理解した部分を用いて実践ワークをすることができる。	絵本を活用した活動についての理解が不十分であり，おはなし会の企画・運営や絵本を紹介する技術についての実践ワークが成り立たない。
技能	レポート作成	レポートを作成する際の基本事項が整い，授業で提示された内容をさらに自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。	レポートを作成する際の基本事項が整い，授業で提示された内容について自分で調べるなどして工夫して表現されている。	レポートを作成する際の基本事項が整い，授業で提示された内容について適切に表現されている。	レポートを作成する際の基本事項について十分に整っているとはいえないが，授業で提示された内容について部分的に理解して表現されている。	レポートを作成する際の基本事項について十分に整っているとはいえず，授業で提示された内容の表現が不十分である。

科目名	教育社会学演習			授業番号	CN314	サブタイトル			
教員	中田　周作								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子どもを研究対象とした社会学系統の学術論文を題材とし，社会学の専門用語を確認しながら精読していく。 同時に，子ども学としてコンセンサスの得られる研究対象や研究方法，子ども学の役割についても検討する。								
到達目標	子ども学は未だ発展の途上である。 子ども学の確立を目指すためには，まず，様々な学問分野からのアプローチが必要である。 本演習は，その一助として，社会学系統の学術論文を読むことができるようになることを目標とする。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育社会学の研究対象と方法 授業の目的と方法	
第2回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：子ども社会学の位置付け）	
第3回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：子どもの遊びとは）	
第4回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：実証的アプローチとは）	
第5回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：民間の子育て支援活動）	
第6回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：子どもの仲間集団）	
第7回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：子どもの放課後）	
第8回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：自然体験活動の意義）	
第9回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：マンガと子ども）	
第10回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：子どものイメージ）	
第11回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：地域社会と子ども）	
第12回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：家庭と子ども）	
第13回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：少年非行と子どもの発達）	
第14回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：学歴社会と受験戦争）	
第15回	レジュメ発表と質疑応答 （テーマ：子どもの発達と新しいメディア）	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
作成したレジュメに基づく発表と発表後の修正	70	作成したレジュメ、発表時の内容・態度・姿勢を評価する。発表時に質問形式でフィードバックする。
他者の発表時の質問	30	他者の発表時に必ず質問する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	課題論文を読んでくること。討論に積極的に参加すること。
授業外学修	1．自分の発表前は，レジメの作成をすること。 2．発表後は，発表中に指摘を受けた事項を踏まえて，レジメを修正し、提出すること。 3．他者の発表の前に，テキストの該当箇所を読んで，質問を考えておくこと。 以上，週当たり4時間以上取り組むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
変動社会と子どもの発達	住田正樹・高島秀樹編	北樹出版	978-4-7793-0469-9	2，100円＋税

参考書：自由記載	

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．子ども社会学の観点からの考察と、自らの実践力の向上ができる。	子ども社会学の観点から子どもに関する社会問題を考察することを通して、自らの実践の質を向上させることができる。	子ども社会学の観点から子どもに関する社会問題を考察することができる。	子ども社会学の観点から子どもに関する社会問題について、自分の経験に基づき語ることができる。	子ども社会学の観点から子どもに関する社会問題について語ることができる。	子ども社会学の観点から子どもに関する社会問題を捕捉することができない。

科目名	国語			授業番号	CO201	サブタイトル			
教員	太田　憲孝								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	小学校教員免許の取得に関係して，『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説　国語編』に示されている小学校国語科教育の目標及び内容について，小学校国語教科書に掲載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の教材をもとに具体的に理解し，授業力の基礎を身に付ける。 グループによる話し合い等を通して，各教材及び教科の特質を理解するとともに，教材の見方や教材研究の素地を養う。								
到達目標	教科書に掲載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」の教材等を分析することを通して，各教材の特質を理解するとともに，小学校学習指導要領（平成29年告示）に示されている小学校国語科の目標及び内容を具体的に理解できるようにする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決力〉の修得に貢献する。								
授業計画　備考	一斉学習と小グループでの活動により授業を行う。								

回	概要	担当
第1回	言葉の働き（本科目を学ぶ目的） 「４つの言語活動を確認するとともに、先行研究をもとに言葉の力について理解する。」	
第2回	国語科教育と国語教育 「国語科教育と国語教育について知るとともに、両者の関係を理解する。」	
第3回	文学的文章の指導（１） 「教科書に掲載されている物語を読み、虚構性や物語文法等について物語の特質を理解する。」	
第4回	文学的文章の指導（２） 「前時に取り上げた物語を再度読み、物語の表現や仕掛けと読者との関係を理解する。」	
第5回	文学的文章の指導（３） 「前時に取り上げた物語を再度読み、物語の構造と作者との関係について理解する。」	
第6回	「書くこと」の指導（１） 「教科書に掲載されている教材や小学校学習指導要領を読み、表現過程について理解する。」	
第7回	「書くこと」の指導（２） 「教科書に掲載されている教材を読み、現行の学習指導要領の特徴について具体的に理解する。」	
第8回	「書くこと」の指導（３） 「児童の生活作文を読み、人間形成を促す作文指導について理解する。」	
第9回	「話すこと・聞くこと」の指導（１） 「教科書に掲載されている教材を読み、話し合う活動の目的や方法等について理解する。」	
第10回	「話すこと・聞くこと」の指導（２） 「教科書に取り上げられている教材を読み、スピーチの特質について理解する。」	
第11回	説明的文章の指導（１） 「教科書に掲載されている教材や資料を読み、説明的文章の特質について理解する。」	
第12回	説明的文章の指導（２） 「前時に使用した説明的文章を再度読み、説明的文章の構造について理解する。」	
第13回	説明的文章の指導（３） 「前時に使用した説明的文章を再度読み、説得性や潤色的表現等について理解する。」	
第14回	「主体的・対話的で深い学び」の趣旨と学習過程 「現行の小学校学習指導要領や資料を読み、趣旨や具体的な学習過程のあり方について理解する。」	
第15回	読書指導 「小学校学習指導要領に述べられている指導事項や教科書に掲載されている指導事例を読み、読書指導の意義について理解する。」	

授業計画　備考2	補講や天候等により授業内容が前後したり変更したりする場合がある。

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	予習への取り組み，意欲的な学習態度や話し合い活動への参加を評価する。
レポート	30	授業ごとの学習内容の定着度を評価する。提出されたレポートはコメントを付けて返却し，学習の深まりが理解できるようにする。
小テスト		
定期試験	50	最終的な学習内容の定着度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	レポートは，予習した内容や資料を写すのではなく，その授業において深まった内容や考えたことを記述するよう努力する。
受講の心得	配布資料及びレポートは，整理してファイルしておくこと。 学生相互による話し合い活動では，積極的に参加し互いに考えを深めること。
授業外学修	１．予習として，資料や課題に示された教科書の部分を読み，レポートにまとめ提出すること。 ２．使用した教材をきっかけに，関連する教科書教材に関心を広げること。 ３．日常的に読書に親しむこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめての国語　授業の基礎・基本	茅野正徳・櫛谷孝徳	東洋館出版社	978-4-491-05775-0	1900円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小中学校・小中一貫校国語科教員(27年)，国立附属中学校国語科教員(4年)，市教育委員会指導主事(3年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	小学校学習指導要領の理解，教材分析

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１.教材を分析して、特徴的な表現や仕掛け、内容を捉え、その教材の特質を理解している。	・教材を分析して、それぞれの教材について特徴的な表現や仕掛け、内容等を捉え、その教材の特質や指導内容を構造的に理解している。	・教材を分析して、それぞれの教材について特徴的な表現や仕掛け、内容等を捉え、その教材の特質や指導内容を理解している。	・教材を分析して、それぞれの教材について特徴的な表現や仕掛け、内容の大体を捉え、その教材の特質や指導内容を理解している。	・教材を分析して、関心のある教材について特徴的な表現や仕掛け、内容を捉え、その教材の特質を理解している。	・教材を分析することが難しく、 特徴的な表現や仕掛け、内容を捉えることが難しく、教材の特質を理解することが難しい。
思考・問題解決能力	1.教材分析の方法を身に付け、教材の特質を捉えるとともに、指導内容を明らかにしている。	・多様な教材分析の方法を身に付け、それを駆使して教材の特質を捉えるとともに、指導内容を明らかにすることができる。	・教材分析の方法を身に付け、効果的に活用して教材の特質を捉えるとともに、指導内容を明らかにすることができる。	・教材分析の方法を身に付け、それを活用して教材の特質を捉えるとともに、指導内容を明らかにすることができる。	・教材分析の方法が十分に身に付いていないため、教材の特質を捉えることが難しい。	・教材分析の方法が身に付いていないため、教材の特質を捉えることが難しい。

科目名	算数			授業番号	CO202	サブタイトル			
教員	岸　誠一								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では、単なる計算技術の習得ではなく、数学という学問の背後にある「不思議」や「美しさ」を、実験や制作を通じて体験します。中学生レベルの知識があれば理解できるアプローチで、微分積分や無限といった高度な概念の「本質」に触れ、数学的な見方・考え方を養います。								
到達目標	1．数学の情緒的理解：数学の概念（無限、微分積分、確率など）を、抽象的な数式ではなく、具体的な現象や活動を通じて直感的に説明できる。2．実験と検証の技能：身の回りの事象を数値化・モデル化し、実験やシミュレーションを通じて数学的法則を導き出せる。3．探究的態度：「難しい」と感じる数学的課題に対し、手を動かし、試行錯誤することを楽しもうとする姿勢を持つ。本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	スマホの画面は「美の黄金比」？ 身近なカードや画面の比率を測定し、人間が心地よいと感じる数理の正体を突き止める。	
第2回	満室なのに泊まれる「無限ホテル」の謎 直感に反する「無限」の世界をパズル感覚で解き明かし、数の深淵を体験する。	
第3回	針を落とすだけでπ が求まる！？ 偶然の実験（ビュフォンの針）で円周率を算出し、カオスの中に潜む秩序を発見する。	
第4回	銀行も驚く「魔法の数字e」の正体 複利計算の極限から生まれる自然対数の底eを、電卓を叩いて自分の手で導き出す。	
第5回	折り紙1枚で「不可能」を可能にする 定規では描けない「角の三等分」を折り紙で作成し、幾何学の自由な発想を会得する。	
第6回	綿棒で組み上げる「宇宙の設計図」 5つしかない正多面体を綿棒で制作し、宇宙の法則「オイラーの多面体定理」を検証する。	
第7回	「限りなく近い」をスマホでズームせよ! グラフの接点を極限までズーム撮影し、ε（エプシロン）の壁を直感的に理解する。	
第8回	今度の"ダービー"確率論で大儲け！？ オッズ表から「期待値」を計算し、ギャンブルの裏側にある数理モデルを分析する。	
第9回	1000回のサイコロが語る「必然の運命」 全員の試行データを集計し、偶然が必然（大数の法則）に変わる瞬間の美しさを鑑賞する。	
第10回	空飛ぶ「凧の糸」が描く関数の正体 凧糸のカーブを写真に撮り、放物線とは異なる「懸垂線（カテノリー）」を特定する。	
第11回	スピード違反の証拠は「微分」にあり 動画のコマ送りから「瞬間の速度」を割り出し、変化の一瞬を切り取る数学を実感する。	
第12回	池の面積を「薄切り」にして計り尽くせ 複雑な図形を細い長方形で埋めて面積を推定し、積分の「塵も積もれば」の精神を学ぶ。	
第13回	微分方程式で「100年後の未来」を予言する 人口増加のルールを数式化し、未来の社会がどう変化するかをPCでシミュレーションする。	
第14回	カリフラワーに潜む「無限ループ」の美 自然界の「フラクタル構造」をスケッチし、単純なルールが作る複雑な世界を考察する。	
第15回	「算数嫌い」を卒業する自分への卒業証書 14回の発見をポートフォリオにまとめ、子どもたちに語れる「数学の楽しさ」を再定義する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な学習態度，発表・討議への取り組みの姿勢を評価する。
レポート	30	「授業からの学び」と「自分の気づき」を評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	30	前回の授業の内容の理解を評価する。小テストは採点して返却し、解説する。
その他	20	ノートのまとめ方・算数図形作品を評価する。ノート・作品等はコメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業のはじめに小テストを行うので，前時の復習をして授業に臨むこと。 自分が小学校で経験した算数科の授業を想起しながら，実際に問題を解いたり，教え方を考えたりすること。
授業外学修	1　配付資料や小テスト等を整理して，本時の講義内容をノートにまとめ復習する。 2　発展学習として，授業で興味を持った内容について調べ深める。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
数学の感動	藤原 正彦	文春文庫		「数学の情緒的理解」 を重視する先生のスタンスに非常に近い一冊です。数学が論理だけでなく、いかに美しさや情緒に基づいているかを説いている
ストロガッツ 数学の愉しみ	スティーヴン・ストロガッツ	岩波書店		微分積分や ε (エプシロン) の壁 、カオスの中の秩序　など、高度な概念を直感的かつ鮮やかに解説している

参考書：自由記載	・『無限ホテルへようこそ』(ジョン・D・バロー 著 / 岩波書店) 第2回「無限ホテル」 のテーマである、無限の直感に反する性質をパズル感覚で楽しめる 『オイラーの贈物―人類の至宝 e^in= -1 を学ぶ』(吉田 武 著 / ちくま学芸文庫) 第4回の自然対数の底eや第6回のオイラーの多面体定理 の背景知識を整理するのに適した、数学教育の名著 『折り紙の数理』(トーマス・ハル 著 / 森北出版) 第5回の「角の三等分」 など、折り紙幾何学の数学的背景を詳しく解説している
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	教員(校長を含む)21年、岡山県教育委員会教育職員11年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	公立小学校，教育委員会事務局等での実務経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	数学的概念の本質的理解	無限、微分積分、確率などの概念を、中学生にもわかるよう、身近な現象と結びつけて独創的かつ深く説明できる。	シラバスの各テーマにおける数学的背景を、具体的な事例を用いて概ね正確に説明できる。	授業で扱った数学的概念の基本を、最低限、中学生レベルの言葉で説明できる。	数学的概念の理解が断片的であり、説明に不正確な点が見られる。	数学的概念の本質を全く理解できていない、または説明が困難である。
技能	実験・検証・制作の遂行	ビュフォンの針や綿棒多面体等の実験・制作において、高い精度でデータを収集・分析し、独自の工夫を凝らした成果物を作成できる。	実験やワークシートの作成、模型制作を適切に実行し、論理的な手順で数学的法則を導き出せる。	提示された手順に従い、丁寧かつ正確に実験データの収集や模型制作を行うことができる。	実験や制作の過程で手順の誤りが目立ち、成果物の完成度が不足している。	実験・制作への取り組みが極めて不十分であり、留意点が反映されていない。
態度	探究的姿勢と気づきの表現	困難な課題に対しても試行錯誤を楽しみ、レポート等において自己の深い洞察や独自の発見を極めて豊かに表現できる。	授業や討議に意欲的に参加し、自身の気づきを明確な論理でレポート等にまとめることができる。	授業に積極的に参加し、自分なりの気づきを標準的なレベルでレポート等に表現できる。	参加姿勢が受動的であり、レポートにおける「自分の気づき」の表現が表面にとどまっている。	授業への参加意欲が低く、レポート等に気づきや考察がほとんど見られない。

科目名	生活			授業番号	CO203	サブタイトル	(生活科の基本的内容)		
教員	齊藤　佳子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	(1)学習指導要領の内容を踏まえながら，他の学生と協力し，積極的に小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法などの基本を習得するとともに，具体的にイメージしながらそれらを作り上げる。 (2)「児童の気づきの質」を高めるための具体的内容を学習する。								
到達目標	(1)学習指導要領の内容を踏まえながら，小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法などの基本を習得することができる。 　この内容は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞の習得に貢献する。 (2)「児童の気づきの質」を高めるための具体的な内容を理解することができる。 　この内容は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞の習得に貢献する。 (3)学習指導要領の内容を踏まえながら，小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法等を具体的な授業をイメージしながら作り上げる。 　この内容は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の習得に貢献する。 (4)他の学生と協力しながら積極的に小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法等を作り上げる。 　この内容は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜態度＞の習得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	学習指導要領改善のポイント 「教育課程の示し方の改善」「具体的な教育内容の改善・充実」「学習指導改善・充実や教育環境の充実」「観察カードへのコメント」について	
第2回	生活科が目指すこと 「思いや願いの実現に向けた学習主体の学び」「生活科における資質・能力の育成とその構造」「教育課程の結節点としての生活科」小単元における目標設定等について	
第3回	生活科の内容１ 9項目の内容構成　内容の階層化 「学校と生活」について　関連小単元の目標設定等	
第4回	生活科の内容2 飼育・栽培活動を進めるうえでの具体的な注意点 「家庭と生活」について　関連小単元目標設定等	
第5回	生活科の内容3 安全について 「地域と生活」について　関連小単元目標設定等	
第6回	生活科の内容4 内容構成の具体的な視点 「公共物や公共施設の利用」について　関連小単元目標設定等	
第7回	生活科の内容5 児童の気づきの質を高めるために 「季節の変化と生活」について　関連小単元目標設定等	
第8回	生活科の内容6 比較について 「自然や物を使った遊び」について　関連小単元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等 気付きの質を高めるためのポイントについて	
第9回	生活科の内容7 「動物の飼育・栽培」について　関連小単元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等　気付きの質を高めるためのポイントについて	
第10回	生活科の内容8 保護者，地域人材の活用について 「生活や出来事の伝え合い」について　関連小単元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等　気付きの質を高めるためのポイントについて	
第11回	生活科の内容9 「自分の成長」について　関連小単元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等　気付きの質を高めるためのポイントについて	
第12回	評価について 評価について　評価規準　評価基準　評価の手段等　小単元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等 気付きの質を高めるためのポイントについて	
第13回	指導計画の作成と内容の取扱い 指導計画作成上の配慮事項　小単元目標設定・大まかな授業の流れ・指導法等　気付きの質を高めるためのポイントについて	
第14回	生活科の授業について 生活科と自然環境　小単元目標設定・詳しい授業の流れ・指導法等	
第15回	中学年の各教科への接続 基本的な考え方　社会科との接続　理科との接続　総合的な学習の時間との接続　小単元目標設定・詳しい授業の流れ・指導法等	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	発表内容，意欲的な授業態度
レポート	30	課題に対する授業内容に沿った具体的な例を挙げたレポートであること。なお，レポート提出後の授業で全体的な傾向についてコメントを行う。
小テスト		
定期試験	40	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校で実際に授業ができるよう，より具体的なイメージをもって授業に臨むこと。
授業外学修	(1)身近な自然に親しみ，植物や動物を観察しながら，地域を散策すること。 (2)身近な生活から，生活科の授業にいかせる教材を発見する取り組みをすること。 (3)予習として，教科書のうち，授業内容に関わる部分を読み，積極的に授業に参加できる準備をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校指導要領(平成29年告示)解説　生活科編	文部科学省	株式会社東洋館出版社	9784491034645	
新しい生活　下	田村学ほか84名	東京書籍株式会社	9784487111619	

使用テキスト：自由記載	教材用プリント

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実際の小学校の授業に生かせるポイントを押さえた教育内容

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	学習指導要領の内容を踏まえながら，小単元ごとの目標設定・授業の流れ・ 指導法などの基本を習得することができる。	指導要領の内容を十分踏まえて基本を習得できている。	内容を大まかに踏まえて基本を習得できている、	内容を一部踏まえて基本を習得できている。	一部分基本を習得できている。	習得することができない。
知識・理解	「児童の気づきの質」を高めるための具体的内容を理解することができる。	具体的内容が十分理解できている。	全てではないが，多くの具体的内容が理解できている。	具体的内容は多くはないが理解できている。	具体的ではないが一部分理解できている。	理解できない。
思考・問題解決能力	学習指導要領の内容を踏まえながら，小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法等を具体的な授業をイメージしながら作り上げる。	十分具体的である。	全てではないが，多くの部分が具体的である。	具体的内容は多くはないが，作り上げることができる。	具体的ではないが作り上げることができる。	作り上げることができない。
態度	他の学生と協力しながら積極的に小単元ごとの目標設定・授業の流れ・指導法等を作り上げる。	他の学生と協力しながら積極的に作り上げることができる。	他の学生と協力しながら多くの単元で積極的に作り上げることができる。	他の学生と協力しながらいくつかの単元で積極的に作り上げることができる。	他の学生と協力しながらいくつかの単元で作り上げることができる。	作り上げることができない。

科目名	音楽			授業番号	CO204	サブタイトル	小学校音楽1～6年		
教員	川崎　泰子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	小学校音楽科における音楽科教育の意義を理解するとともに， 授業を構成するために 必要な知識や基礎的な技能等について学ぶ。								
到達目標	小学校音楽科の授業を行うために必要な，基礎的な知識や技能を身に付ける。そのために「器楽・歌唱・創作」における基礎的要素を確認し，それらを応用する知識を身につけ，各人の技能に応じた伴奏法の工夫が出来るようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	小学校における音楽科教育の目標と内容 ①「小学校学習指導要領　第2章　音楽」の読み取りと理解 ②小学校音楽科の意義を理解する	
第2回	表現－歌唱、器楽、創作－　1年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校1年生共通教材弾き歌いについて理解・習得する	
第3回	表現－歌唱、器楽、創作－　2年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校2年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める	
第4回	表現－歌唱、器楽、創作－　3年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校3年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノリコーダー）について指導のポイント等の考察・演習	
第5回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ 1～3年生までの共通教材歌唱成果発表（弾き歌いを含む）、評価について考察する	
第6回	表現－歌唱、器楽、創作－　4年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校4年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノリコーダー）について指導のポイント等の考察・演習	
第7回	表現－歌唱、器楽、創作－　5年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校5年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノリコーダー）について指導のポイント等の考察・演習	
第8回	表現－歌唱、器楽、創作－　6年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校6年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノリコーダー）について指導のポイント等の考察・演習	
第9回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ 3～6年生までの共通教材歌唱成果発表（弾き歌いを含む）、評価について考察する	
第10回	「表現」および「共通教材」～器楽～ ①器楽指導、創作 ②グループに分かれ器楽アンサンブル 楽器の演奏方法、アンサンブルについて理解する ③グループ器楽アンサンブル発表準備	
第11回	「表現」および「共通教材」～器楽～ ①器楽指導、創作 ②グループに分かれ器楽アンサンブル 楽器の演奏方法、アンサンブルについて理解する ③グループ器楽アンサンブル発表、評価について考察する	
第12回	「鑑賞」および「共通教材」1,2,3年生 ①小学校教育における鑑賞指導の意義と目的を理解 ②指導法のポイント及び「ICTの活用」について ③鑑賞曲について	
第13回	「鑑賞」および「共通教材」4,5,6年生 ①小学校教育における鑑賞指導の意義と目的を理解 ②指導法のポイント及び「ICTの活用」について ③鑑賞曲について	
第14回	共通事項　音楽理論の確認 ①「音楽を形づくっている要素」と「それらに関わる音符、休符、記号や用語」 ②楽譜の読み書きに用いる音楽用語を理解し、音階、移調について理解を深める ③小テスト	
第15回	まとめ「表現」および「共通教材」－歌唱、器楽、創作－ 1～6年生までの共通教材弾き歌い、ソプラノリコーダー（課題曲2曲〈重唱含む〉）成果発表 評価について考察する 筆記試験についての説明	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な学習態度，予習及び復習の状況によって評価する。
小テスト	50	各回の主要なポイントの理解を評価する。グループ発表,歌唱成果発表（弾き歌いを含む）などの実技を含む。 実技発表の後、次の授業で全体的なコメントをする。
定期試験	30	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	小テストでは実技も伴うため，授業中に行われる実技ポイントを理解しておくこと。
受講の心得	小学校教員への教職意識を持つこと。 授業内で適宜小テスト（実技を含む）を行うので，前時間の復習をして授業に臨むこと。 配布されたプリントや資料を整理しておくこと。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，予習すること。 課題を実施すること。 上記を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校音楽科教育法		教育芸術社		

使用テキスト：自由記載	小学校音楽1～6年（教育芸術社）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	【楽器の準備】 ソプラノリコーダー（ジャーマン式　ドイツ式、GやDと記されている)を使用する為、授業が始まるまでに準備しておくこと。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校，中学校，私立中学，私立高校講師などの教員歴（20年）、少年少女合唱団主宰【2023年福武教育文化賞受賞】（12年)、数々の学校にて歌唱指導（20年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かし，学校現場の体験（20年）を通して得た知識を伝えると共に，小学校音楽科教育に求められる専門的な知識・技能を深め，学習指導力，実践的な音楽実技指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．楽譜を読む力がある	問題なく音符を理解している	積極的に楽譜を理解しようとしている	時間はかかるが理解しよとしている	楽譜を理解しようとする姿勢があまりみられない	理解する姿勢が感じられない
知識・理解	２．歌唱法が理解できている	小学校歌唱共通教材を通して発声法が理解できている	積極的に発声法を理解しようとする姿勢がみられる	歌唱は苦手ながらも発声法を学ぼうとする姿勢がみられる	発声法を理解しようとする姿勢があまりみられない	歌唱する姿勢が感じられない
知識・理解	３．楽器の特性を理解している	問題なく楽器の特性を理解している	積極的に楽器の特性を理解しようとしている	楽器の特性を学ぼうとする姿勢がみられる	楽器の特性を理解しようとする姿勢があまりみられない	理解する姿勢が感じられない
思考・問題解決能力	１．音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受 しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えている	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を的確に知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて深く考えている	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて概ね考えている	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚しようと努め、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えようと努めている	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚しようと努めるが理解できず、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えることができない	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚しようと努めず、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えようとしない
技能	１．積極的に歌唱することができる	小学校歌唱共通教材を通して歌う力が備わっている	積極的に歌唱しようとする姿勢がみられる	歌唱しようとする姿勢があり、苦手ながらも参加している	苦手意識が高く、声を出すのに補助がいる	歌唱する姿勢が感じられない
技能	２．積極的に弾き歌いすることができる	小学校歌唱共通教材を通して弾き歌いする能力が備わっている	積極的にピアノに触れ、弾き歌いする姿勢がみられる	ピアノが苦手ながらもそれを克服するために積極的に練習している	苦手意識が高くピアノに触れる時間が少ない	弾き歌いする姿勢がみられない
技能	３．積極的に器楽演奏に参加することができる	小学校器楽教材を通して楽器を演奏する能力が備わっている	積極的に楽器に触れ、演奏する姿勢がみられる	楽器が苦手ながらもそれを克服するために積極的に練習している	苦手意識が高く楽器に触れる時間が少ない	器楽演奏する姿勢がみられない
態度	１．グループ発表時に積極的に参加できている	積極的にグループで協働して創作ができ、発表することができる	積極的にグループ演習に参加し、協働する姿勢がみられる	グループ演習に参加し、自分の役割分担を責任を持ってできている	グループ演習には参加するものの協働する姿勢がみられない	グループ発表する姿勢がみられない

科目名	図画工作			授業番号	CO205	サブタイトル			
教員	伊藤　智里								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この講義では，小学校図画工作科で行われる教科書題材を取り上げながら，「造形的な見方・考え方」について講義する。実際の活動を通して，図画工作科で取り扱う様々な素材や技法に触れ,造形活動における基本的な技術を修得し,「造形的な見方・考え方」を身につけることを目的とする。								
到達目標	(1)「造形的な見方・考え方」を身につけることができる。 1)表現及び鑑賞の活動を通して「造形的な見方・考え方」に関して深く理解できる。 2)「感性」や「想像力」をもとに思考することができる。 3)自分にとって新しいものやことをつくりだすように「発想」や「構想」することができる。 (2)表現及び鑑賞の活動を通して，創造的に表現活動ができる。 1)基本的な画材や材料や用具の特性を理解することができる。 2)基本的な画材や材料や用具を適切に取り扱うことができる。 3)題材に対して,「造形的な見方・考え方」を働かせ，表し方などを工夫することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	表現と鑑賞とは 図画工作科の目的と内容	
第2回	図画工作科におけるICT活用 ICTを活用した作品の制作と鑑賞について理解する。	
第3回	造形遊びを通した表現と鑑賞1 色水遊びで色彩を楽しみ，工夫して表現する体験をする。	
第4回	造形遊びを通した表現と鑑賞2 身近な廃材を活用した造形遊びと材料の工夫について理解する。	
第5回	立体にあらわす表現と鑑賞1 粘土を使った感触あそびを体験し，粘土の特性を理解する。	
第6回	立体にあらわす表現と鑑賞2 粘土を使って立体に表す表現について体験し，鑑賞する。	
第7回	立体にあらわす表現と鑑賞3 廃材を工夫して，立体にあらわす表現を体験する。	
第8回	工作にあらわす表現と鑑賞1 はさみと紙を使って表現活動を行い，鑑賞する。	
第9回	工作にあらわす表現と鑑賞2 身近にある紙または紙製品を使い，道具の使い方を理解し作品を作る。	
第10回	工作にあらわす表現と鑑賞3 身近にある紙または紙製品を使い，工夫して工作作品を完成させ，鑑賞を行う。	
第11回	絵にあらわす表現と鑑賞1 パスの基本的な扱いについて理解し，色彩について体験する。	
第12回	絵にあらわす表現と鑑賞2 絵の具の基本的な使い方を理解し，特性を使って作品を作る。	
第13回	絵であらわす表現と鑑賞3 版画について基本的な内容を理解し，作品の構想を練る。	
第14回	絵であらわす表現と鑑賞4 版や刷り等を工夫しながら作品を制作する。	
第15回	絵であらわす表現と鑑賞5 作品の発表，鑑賞と意見交換を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な授業態度，予習・復習の状況によって評価する。
作品・課題	70	各回の主要なポイントの理解を提出された小レポートや作品課題によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。

評価の方法：自由記載	授業に出席し，制作活動を行うことが前提である。
受講の心得	この講義を通して「造形的な見方・考え方」について探求してほしい。
授業外学修	1　復習として，課題を課すことがある。 2　予習として，資料を配布することがある。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ずがこうさく・図画工作（図画工作科用検定済教科書）1～6年上巻		日本文教出版		

使用テキスト：自由記載	教科書の他の資料については，適宜指示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜，提示する。
その他	はさみ，のり，セロハンテープ，クレパス，色鉛筆，水彩絵具，定規，コンパス，カッターなど，様々な画材，素材，道具を使用する。詳しい準備物は適宜授業の中で提示する。 準備物を忘れると活動ができないため，忘れ物がないように注意して持参すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．学習指導要領で示された「造形的な見方・考え方」を理解している	「造形的な見方・考え方」について十分に理解し，図画工作科で育成する資質・能力を具体的に説明することができる	「造形的な見方・考え方」について十分に理解し，図画工作科で育成する資質・能力を説明することができる	「造形的な見方・考え方」について理解し，図画工作科で育成する資質・能力も理解している	「造形的な見方・考え方」について理解しているが，図画工作科で育成する資質・能力の理解は不十分である	「造形的な見方・考え方」や図画工作科で育成する資質・能力を理解していない
思考・問題解決能力	１．各題材について理解している	各題材における自分なりの問題意識を持ち，表現及び鑑賞活動を通して，その解決方法を検討し，改善したり，児童への指導に活かすことができる	各題材における自分なりの問題意識を持ち，表現及び鑑賞活動を通して，その解決方法を検討し，改善することができる	各題材における自分なりの問題意識を持ち，表現及び鑑賞活動を通して，その解決方法を検討することができる	各題材における自分なりの問題意識を持つが，その解決方法の検討が不十分である	各題材に対して，自分なりの問題意識や改善する視点を持っていない
技能	１．教育現場で活用できる実践的な技能を身につけている	基本的な画材や材料の特徴や用具の取り扱いの方法を十分に理解し，それらを適切に取り扱い，表したいことを十分に表現することができる	基本的な画材や材料の特徴や用具の取り扱いの方法を十分に理解し，それらを取り扱い，表したいことを十分に表現することができる	基本的な画材や材料の特徴や用具の取り扱いの方法を理解し，それらを取り扱い，表したいことを表現することができる	基本的な画材や材料の特徴や用具の取り扱いの方法は理解しているが，それらの取り扱い方が不十分である	基本的な画材や材料の特徴や用具の取り扱いの方法を理解しておらず，それらの取り扱い方も不十分である

科目名	体育			授業番号	CO206	サブタイトル			
教員	溝田　知茂								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域について，子どもの「教育的系統」に立脚する立場からその内容について追及する。まず，各種運動領域のそれぞれについて，領域の特性と教材の内容についての理解を図る。次に，運動自体の理解とともに，学習者の側に立ってそれぞれの内容を追求し理解することを企図して授業を行う。								
到達目標	それぞれの教材の技能的特性を理解するとともに，自らも示範することができるようになる。 なお本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	戦後学習指導要領にみる学習内容の変遷 体育における学習内容の改善点について理解する。	
第2回	ボール運動：ゴール型（バスケットボール）の理解と内容 各学年のゴール型（バスケットボール）の行い方を理解するとともに，投げる，受ける，ドリブルをするといったボール操作とボールを持たないときの動き方を考える。	
第3回	ボール運動：ゴール型（バスケットボール）の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて，投げる，受ける，ドリブルをするといったボール操作とボールを持たないときのより良い動き方を考える。	
第4回	ボール運動：ネット型（バドミントン）の理解と内容 ネット型（バトミントン）の行い方を理解するとともに，用具の正しい操作の仕方や動き方を考える。	
第5回	ボール運動：ネット型（バドミントン）の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて，どのように動いたら取りやすく，どこを狙えば決まるかを考える。	
第6回	ボール運動：ネット型（ソフトバレーボール）の理解と内容 ネット型（ソフトバレーボール）の行い方を理解するとともに，ボール操作の仕方と位置取りを考える。	
第7回	ボール運動：ネット型（ソフトバレーボール）の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて，ボール操作の仕方や位置取り・ボールを触らない人の動き方を考える。	
第8回	体つくり運動の理解と内容 体つくりの行い方を理解するとともに，それぞれの構成内容とその動き方を考える。	
第9回	体つくりの運動の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて，どう動いたら楽しさや喜びを味わうことができるか考える。	
第10回	器械運動：マット運動の理解と内容 マット運動の行い方を理解するとともに，各学年の内容の動き方を考える。	
第11回	器械運動：マット運動の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて，どう動いたら，それぞれの技ができる楽しさや喜びを味わうことができるか考える。	
第12回	器械運動：跳び箱運動の理解と内容 跳び箱運動の行い方を理解するとともに，各学年の内容の動き方を考える。	
第13回	器械運動：跳び箱運動の動き方とその実践 考えた動き方で実際に動いて，どう動いたら，それぞれの技ができる楽しさや喜びを味わうことができるか考える。	
第14回	陸上運動：短距離走の理解と内容 短距離走の行い方を理解するとともに，各学年の内容と手・足の動かし方を考える。	
第15回	陸上運動：短距離走の動作の仕方とその実践 実際に走り，手・足の動きを確認しながら、速く走れるか考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表や予習・復習の状況によって評価する。フィードバックは，その時その場で行う。
レポート	30	各領域ごとに学んだことを具体的に述べていること。レポートは，コメントを記入して返却する。
小テスト	30	全15回の授業を踏まえ，レポートを作成する。レポートは，コメントを記入して返却する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実技を伴うので，各運動領域に対して積極的に取り組むこと。
授業外学修	・各領域ごとで取り上げる内容をしっかり教材研究をする。 ・運動に対する興味関心を高め，運動する習慣づくりを心がける。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、理解できている。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、理解できている。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、ほぼ理解できている。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、基本的なところは理解できている。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性についての理解が十分ではない。	小学校学習指導要領に示されている各種運動領域の内容と特性について、理解できていない。
技能	１．運動技能の習得に優れている。	運動技能が優れている。	基本的な運動技能が優れている。	基本的な運動技能が身についている。	基本的な運動技能が十分ではない。	基本的な運動技能が身についていない。

科目名	基礎音楽A			授業番号	CO20701	サブタイトル			
教員	廣畑　まゆ美、川崎　泰子、土師　範子、河田　健二								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子どもの発達と表現を理解し，音楽に関する基本的な知識や技能を，ピアノ弾き歌いを軸として習得することを目的とする。豊かな感性を表現する基礎技法を学び，保育現場において使用する童謡，子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより，確実な技能習得を目指す。授業は習熟度別にグループを組み，個人指導を行う。								
到達目標	楽曲を構成する基本的な知識を理解し，個人の習熟度に応じた演奏ができるようになることを目標とする。 練習を習慣化し，レパートリーを10曲以上作ることを目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの成長と子どもを取りまく音楽環境について…保育者に必要な音楽の知識・技能とは何か	廣畑 まゆ美　川崎泰子　土師範子　　河田健二
第2回	基本的な楽典の知識を習得する 1	廣畑 まゆ美　川崎泰子　土師範子　　河田健二
第3回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 1 基本的な楽典の知識を習得する 2	廣畑 まゆ美　川崎泰子　土師範子　　河田健二
第4回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 2 基本的な楽典の知識を習得する 3	廣畑 まゆ美　川崎泰子　土師範子　　河田健二
第5回	表現法とまとめ 1 ／ 基礎的な発声の練習	廣畑 まゆ美　川崎泰子　土師範子　　河田健二
第6回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 3 基本的な楽典の知識を習得する 4	廣畑 まゆ美　川崎泰子　土師範子　　河田健二
第7回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 4 基本的な楽典の知識を習得する 5	廣畑 まゆ美　川崎泰子　土師範子　　河田健二
第8回	表現法とまとめ 2 ／ 基本的な楽典の知識を習得する 6	廣畑 まゆ美　川崎泰子　土師範子　　河田健二
第9回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 5 基本的な楽典の知識を習得する 7	廣畑 まゆ美　川崎泰子　土師範子　　河田健二
第10回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 6 基本的な楽典の知識を習得する 8	廣畑 まゆ美　川崎泰子　土師範子　　河田健二
第11回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 7 基本的な楽典の知識を習得する 9	廣畑 まゆ美　川崎泰子　土師範子　　河田健二
第12回	表現法とまとめ 3 ／ 基本的な楽典の知識を習得する 10	廣畑 まゆ美　川崎泰子　土師範子　　河田健二
第13回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 8 基本的な楽典の知識を習得する 11	廣畑 まゆ美　川崎泰子　土師範子　　河田健二
第14回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 9 基本的な楽典の知識を習得する 12	廣畑 まゆ美　川崎泰子　土師範子　　河田健二
第15回	表現法とまとめ 4 ／ 基本的な楽典の知識を習得する 13	廣畑 まゆ美　川崎泰子　土師範子　　河田健二
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予習及び復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	72	弾き歌い実技により，学習プロセスを含めた練習成果を定期的に評価する。小テスト実践後は，指導教員から講評を行う。
定期試験	18	楽典の基礎的な知識をペーパーテストで評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次回の授業で表現・発揮できるよう日々努力し，練習を積み重ねること。 授業担当教員から指導された内容は，次回に改善・工夫できるよう，自主的に適宜メモをとること。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，毎日予習すること。 授業で提示された課題を実施すること。授業終了後は，各自，復習を行うこと。 上記の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
いろいろな伴奏で弾ける選曲こどものうた100 (保育実用書シリーズ)	小林美実	チャイルド社	978-4805481868	1600
大人のための音楽ワーク ドリル		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100

使用テキスト：自由記載	高等学校で「こどものうた２００」を使用していた場合は，そちらを継続して使用してもよい。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．読譜	音符・休符の長さや意味を十分理解し，演奏につなげることができている。	音符・休符の長さや意味を理解し，演奏につなげることができている。	音符・休符の長さや意味をおおむね理解し，演奏につなげようとしている。	音符・休符の長さや意味の理解が不十分で，演奏へとつなげることができていない。	音符・休符の長さや意味の理解ができておらず，演奏へとつなげることができていない。
技能	1．弾き歌いの実践	自分の習熟度に応じた伴奏法・楽曲にふさわしい発声法で，流れをとめることなく演奏することができている。	自分の習熟度に応じた伴奏法・楽曲にふさわしい発声法で，演奏することができている。	自分の習熟度に応じた伴奏法・発声法で，演奏することができている。	自分の習熟度に応じた伴奏法・発声法の練習が不十分で，演奏時にミスが生じる。	自分の習熟度に応じた伴奏法・発声法の練習が不十分で，演奏時にミスが多々生じる。
技能	2．表現	曲全体のイメージを丁寧に構築し，考えたことを十分演奏に生かすことができている。	曲全体のイメージを構築し，考えたことを演奏に生かすことができている。	曲全体のイメージを構築しようとし，考えたことを演奏に生かそうとしている。	曲全体のイメージを構築しようとすることが不十分で，イメージと演奏が結びついていない。	曲全体のイメージを構築しようとすることができていない。
技能	3．レパートリー数と完成度	半期で10曲以上のレパートリーを完成させているとともに，演奏内容も非常に優れている。	半期で10曲以上のレパートリーを完成させているとともに，演奏内容も優れている。	10曲には満たないものの，日々練習に向き合っていることが窺える演奏内容である。	10曲に満たないうえ，演奏内容に課題がある。	10曲に満たないうえ，演奏内容に相当の課題がある。
態度	1．演奏に向かう態度	教員の指導を十分理解しようと努め，毎回予習復習を十分に行って授業に参加している。	教員の指導を理解しようと努め，毎回予習復習を行って授業に参加している。	毎回予習復習を行って授業に参加している。	予習復習が不十分な回があり，教員の指摘が修正されていない。	予習復習が毎回不十分で，教員の指摘が修正されていない。

科目名	社会			授業番号	CO209	サブタイトル			
教員	山田　恵子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	小学校社会科は，社会生活（私たちの日々の生活）を広い視野からとらえ総合的に理解することをとおして，市民としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを教科の目標としている。小学校社会科を指導する際，身につけておくべき基礎的な内容（地理・歴史・政治・経済等）を概説する。								
到達目標	小学校社会科を指導する際に必要な基礎的な学力・知識を身に付ける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	小学校社会科の意義と目標 社会科で育つ資質能力について理解する。	
第2回	小学校社会科の全体構造 学年別内容構造の特徴を知り、地理的・歴史的・公民的の基礎的概念を理解する。	
第3回	児童の発達段階と社会科学習 具体的操作期の学習特性について知り、身近な地域から広がる学習構成について理解する。	
第4回	地理的分野①身近な地域の学習 地理的分野の基本的概念を理解する。（身近な地域の調査、観察・見学・聞き取りの指導、地図・写真の活用）	
第5回	地理的分野②日本の国土と地域の特色 地理的分野の基本的概念を理解する。（都道府県・地方区分、産業・自然環境・交通、比較を通した地域理解）	
第6回	地理的分野③地図・資料の活用 地理的分野の基本的概念を理解する。（白地図・統計資料・写真資料、ICTの活用）	
第7回	歴史的分野①歴史学習のねらいと方法 歴史的分野の基本的概念を理解する。（歴史的思考力とは、年表・時代区分の考え方、人物中心の学習構成）	
第8回	歴史的分野②先史～古代の学習 歴史的分野の基本的概念を理解する。（縄文弥生のくらし、資料活用、想像と根拠のバランス）	
第9回	歴史的分野③中世～近世の学習 歴史的分野の基本的概念を理解する。（武士のくらしと政治、くらしと文化の変化、因果関係を考える授業）	
第10回	歴史的分野④近代～現代の学習 歴史的分野の基本的概念を理解する。（明治以降の社会の変化、戦争・平和・民主主義、現代につながる歴史理解）	
第11回	公民的分野①くらしと政治 公民的分野の基本的概念を理解する。（市町村の役割、税・公共施設・選挙）	
第12回	公民的分野②日本国憲法と民主主義 公民的分野の基本的概念を理解する。（憲法の基本原理、人権・平和・主権）	
第13回	社会における探究的学習と評価 問いの設定、評価におけるルーブリックの活用について理解する。	
第14回	社会科授業づくり演習 探究的学習を重視した指導案作成の仕方を理解する。	
第15回	小学校社会科教師に求められる力量と今後の課題 社会科における教師の専門性の大切さについて振り返り、今後の学びへの展望をもつ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な授業への参加態度，グループワーク等の参加状況，毎回のミニレポートによって評価する。ミニレポートはコメントをつけて返却する。
レポート	30	社会科の目標，内容，方法について自分なりに理解し，具体的な事例を挙げながら説明できているかについて評価する。課題やレポートについてはコメントをつけて返却する。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	社会科は社会的事象を教材とする教科である。日常から新聞，ニュース，雑誌，書籍等の情報に留意することが必要である。
授業外学修	1．予習として，次時の授業内容の教科書を読み，それに関わる情報を新聞，ニュース，雑誌等から集めておく。 2．復習として，課題のレポートを書く。 3．発展学習として，地域で社会科教育に関連すると思われる活動に参加して，自分の見解を述べられるようにする。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 社会編	文部科学省	日本文教出版	9784536590099	
小学社会３年		日本文教出版	9784536181822	
小学社会４年		日本文教出版	9784536181839	
小学社会５年		日本文教出版	9784536181846	
小学社会６年		日本文教出版	9784536181853	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業において随時紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校（教諭３２年　教頭３年　校長３年），幼稚園（園長５年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	小学校社会科は，社会生活（私たちの日々の生活）を広い視野からとらえ総合的に理解することをとおして，市民としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを教科の目標としている。小学校社会科を指導する際，身につけておくべき基礎的な内容（地理・歴史・政治・経済等）を小学校勤務経験を活かし概説する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で，地理的分野の学習の理解ができている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で，地理的分野の学習の理解ができている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で，地理的分野の学習の理解がほぼできている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で，地理的分野の学習の基本が理解できている。	学習指導要領の目標・内容・方法は一部しか理解できていないが，地理的分野の学習の基本が理解できている。	地理的分野の学習の基本がほぼ理解できていない。
知識・理解	２．学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で，歴史的分野の学習の理解ができている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で，歴史的分野の学習の理解ができている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で，歴史的分野の学習の理解がほぼできている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で，歴史的分野の学習の基本が理解できている。	学習指導要領の目標・内容・方法は一部しか理解できていないが，歴史的分野の学習の基本が理解できている。	歴史的分野の学習の基本がほぼ理解できていない。
知識・理解	３．学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で，公民的分野の学習の理解ができている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で，公民的分野の学習の理解ができている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で，公民的分野の学習の理解がほぼできている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解した上で，公民的分野の学習の基本が理解できている。	学習指導要領の目標・内容・方法は一部しか理解できていないが，公民的分野の学習の基本が理解できている。	公民的分野の学習の基本がほぼ理解できていない。

科目名	家庭			授業番号	CO211	サブタイトル	家族や家庭，衣食住，消費や環境など生活事象の理解		
教員	齊藤　佳子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	家庭科教育で児童に何を指導し，何を学ばせ，どんな資質・能力を育むのかについて，衣食住などに関する実践的・体験的な学習活動を通して明らかにする。また，小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識及び技能を実習・実験等を通して身につける。								
到達目標	家庭科教育の意義を理解し，家庭生活を中心とした人間の生活を健康で豊かに営むことができる能力と社会の変化に対応できる家庭科力を身につける。また，家庭科に関心をもち，学んだことを生活に生かし，自分の生き方や生活改善に役立てる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	最初の授業日に，学年暦で定められた授業日と回数を示し，各回のテーマや具体的な内容，教室及び準備物を記載した授業予定表を配付する。								

回	概要	担当
第1回	小学校家庭科において育成を目指す資質・能力，小学校家庭科の内容構成 小学校家庭科の学習指導要領を読み，目標や内容について理解する。	
第2回	「A家族・家庭生活」 自分の成長と家族・家庭生活，生活時間，家庭生活と仕事，地域の人々との関わりの指導内容を理解する。	
第3回	「B衣食住の生活」：ねらいと内容構成，基礎縫いとボタンの付け方 「B衣食住の生活」のねらいと内容構成を理解する。 「衣生活」の指導内容を理解し，手縫いの基礎縫いとボタンの付け方における基礎的・基本的な知識及び技能を習得する。	
第4回	「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための製作／フェルトを使った小物作り 「衣生活」の指導内容である手縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な使い方の知識及び技能を習得する。	
第5回	「B衣食住の生活」：緑黄色野菜の調理実験とじゃがいも，ゆで卵のゆで時間による変化 「食生活」の指導内容を理解し，「調理の基礎」の指定題材の青菜やじゃがいものゆで加熱における基礎的・基本的な知識及び技能を習得する。	
第6回	「B衣食住の生活」：材料に適した炒め方 「食生活」の「調理の基礎」の指導内容である材料に適したいため方に関する知識及び技能を習得する。	
第7回	「B衣食住の生活」：米飯及びみそ汁の調理 「食生活」の「調理の基礎」の内容の取扱いを理解し，伝統的な日常食である米飯及びみそ汁の調理，和食の基本となるだしの役割に関する知識及び技能を習得する。	
第8回	「B衣食住の生活」：栄養を考えた食事，１食分の献立作成 「食生活」の「栄養を考えた食事」の指導内容を理解し，栄養素の種類と働き，食品の栄養的な特徴と組み合わせに関する基礎的・基本的な知識を習得する。 献立を構成する要素，１食分の献立作成の方法について理解する。	
第9回	「B衣食住の生活」：衣服の着用と手入れ ・「衣生活」の指導内容である衣服の主な働きや季節や状況に応じた日常着の快適な着方，手入れの仕方に関する基礎的・基本的な知識及び技能を習得する。	
第10回	「B衣食住の生活」「C消費生活・環境」：快適な住まい方，環境に配慮した生活，実験・実習（通風・換気実験） 「住生活」と「環境に配慮した生活」の指導内容を関連付けて理解し，自然の力を活用した季節の変化に合わせた快適な住まい方について考える。	
第11回	「C消費生活・環境」：物や金銭の使い方と買物 「買物の仕組みや消費者の役割」「購入するために必要な情報の収集・整理が適切にできること」に関する知識及び技能を習得する。	
第12回	「B衣食住の生活」：子どもの学びを高めるICTの活用 小・中・高等学校家庭科でのICT教育の指導上の配慮事項について理解し，ICTを活用した学習活動は，どのような学習内容に取り入れると効果が上がるのか考える。	
第13回	「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた物の製作(1)（エコバッグ・手提げバッグ・巾着袋等） 布の特徴について理解し，製作計画や製作に関する知識及び技能を習得する。	
第14回	「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた物の製作(2)（エコバッグ・手提げバッグ・巾着袋等） ミシン縫いの基本やミシンの安全な取り扱い方について知識及び技能を習得する。	
第15回	「B衣食住の生活」：生活を豊かにするための布を用いた物の製作(3)（エコバッグ・手提げバッグ・巾着袋等） ミシン縫いによる生活を豊かにするための布を用いた物の製作についての知識及び技能を習得する。	

授業計画　備考2	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業終了時に当日の講義の要約を記述して摘出を求めるコメントペーパーにより，評価を行う。
レポート	20	授業で学修した内容を深めることができたかを評価する。 課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また，課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他	20	以下の製作した作品について評価する。作品についてはコメントを記入して返却する。 基礎縫い：5%，フェルトの小物：5%，エコバッグ・手提げバッグ・巾着袋等：10%

評価の方法：自由記載	
受講の心得	家庭科は，家庭生活を主な学習対象としている。講義で学んだことを日常生活でも実践するとともに，常に「自分が授業するなら，どの題材を用いて，どのような授業をしたいか」を考えながら受講する。
授業外学修	シラバスで計画的な学修を促すため，授業予定表に，具体的な内容とその内容に該当する小学校家庭科の教科書のページと，中学校家庭科の教科書のページを明記しているので，予習として授業前に読んでおくこと。 授業後に復習として習った箇所のページを再度読んで確認する。この活動を毎回実施すること。 以上の内容を，週当たり2時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
わたしたちの家庭科	著作者代表内野紀子他	開隆堂	9784304080647	274円
小学校学習指導要領解説家庭編	文部科学省	東洋館出版社	9784491023748	103円

使用テキスト：自由記載	「私たちの家庭科」と小学校学習指導要領解説家庭編は絶対必要なテキストである。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新編　新しい技術・家庭（家庭分野）	佐藤文子・金子佳代子他	東京書籍	9784487122820	646円
平成29年改訂小学校教育課程実践講座　家庭	岡　陽子・鈴木明子編著	ぎょうせい	9784324103104	1944円

参考書：自由記載	中学校の家庭科教科書「新編　新しい技術・家庭　家庭分野」は，受講者全員に購入させる必要はないが，採用試験を受験する人は購入して欲しい。採用試験には，中学校の内容からも出題されているからである。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．家庭科教育の意義と目標を理解している。	家庭科教育の意義と目標を正確に理解し述べることができる。	家庭科教育の意義と目的をほぼ理解し述べることができる。	家庭科教育の意義と目的を大体述べることができる。	家庭科教育の意義と目的を正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	家庭科教育の意義や目的をまったく理解できていない。
知識・理解	２．小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識について正確に理解し述べることができる。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識について正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識について大体述べることができる。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識について正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な知識についてまったく表現することができない。
思考・問題解決能力	１．家庭科に関心をもち，学んだことを生活に生かし，自分の生き方や生活改善に役立てることについて考えたり，自分なりに工夫したりしている。	生活について見直し，身近な生活の課題を見付け，その解決を目指して多角的に考察をし工夫している。	生活について見直し，身近な生活の課題を見付け，その解決を目指して考察を加え工夫している。	生活について見直し，身近な生活の課題を見付け，自分の考えを述べることができる。	生活について見直し，身近な生活の課題を見付けることができる。	課題が未提出である。
技能	１．小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能を実習・実験等を通して身につけている。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能を実習・実験等を通して大変よく身につけている。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能を実習・実験等を通して身につけている。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能を実習・実験等を通してある程度身につけている。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能を実習・実験等を通して十分に身につけていない。	小学校家庭科を指導するにあたって必要とされる衣食住や家庭生活及び家族，消費生活や環境に関する基礎的・基本的な技能をまったく身につけていない。
技能	２．布を用いた生活を豊かにする小物の製作に関する基礎的な技能を身につけている。	生活を豊かにする布を用いた作品を正確にきれいに製作できる。	生活を豊かにする布を用いた作品を製作できる。	生活を豊かにする布を用いた作品を大体製作できている。	生活を豊かにする布を用いた作品を十分に製作できていない。	生活を豊かにする布を用いた作品をまったく製作できていない。
態度	意欲的かつ主体的に学修に取り組む姿が見られる。	質問など積極的に行い，疑問を解決し，授業内容を理解した上で，適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ，授業内容を理解した上で，コメントシートを提出している。	授業に出席し，授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に欠席したり，出席しコメントシートを提出したりしているが，理解が不十分である。	授業に欠席，または出席しているが，コメントシートが未提出である。

科目名	英語			授業番号	CO212	サブタイトル			
教員	西田　寛子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講座の全体目標は，小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な「英語運用力」と英語に関する「背景的な知識を」身に付けることである。まず，「英語運用力」を身に付けるために，毎回の講座のペアやグループワークで，言語活動を継続的に行う。その中で，授業実践に必要なClassroom English，Teacher Talk等も，授業場面を想定して練習する。また，講座内で行う言語活動については，小学校の授業での応用について考察する。次に，「背景的な知識」については，事前課題でテキストを読み，そのポイントをレポートにまとめた上で，授業中のグループディスカッションで共有・質疑応答をする。そして，指導者による講義を聞き，理解を深める。さらに，小学校の授業への応用についてグループ討議・考察を行う。								
到達目標	○英語に関する背景的な知識の修得 ・英語に関する基本的な事柄（音声，語彙，文構造，文法，正書法等）について理解している。 ・第二言語習得に関する基本的な事柄を理解している。 ・児童文学（絵本，子供向けの歌や詩等）について理解している。 ・異文化理解に関する事柄について理解している。 ○授業実践に必要な英語力の向上 ・授業実践に必要な英語の４技能（聞く力，話す力(やりとり・発表)，読む力，書く力）を身に付けている。 本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	○イントロダクション ・本講座の目的，内容，評価方法等について確認する。 ・小学校英語教育の変遷を理解し，その成果と課題を考察する。 ○授業実践に必要な英語運用力の向上 ・ペアやグループで言語活動をするとともに，小学校の授業への応用について考察する。	
第2回	○英語運用力の向上 ・授業実践に必要な「聞く力」を身に付けるための言語活動を行う。 ・小学校の授業への応用についてグループ討議，考察する。	
第3回	○英語運用力の向上 ・授業実践に必要な「話す力」を身に付けるための言語活動を行う。 ・小学校の授業への応用についてグループ討議，考察する。	
第4回	○英語運用力の向上 ・授業実践に必要な「読む力」を身に付けるための言語活動を行う。 ・小学校の授業への応用についてグループ討議，考察する。	
第5回	○英語運用力の向上 ・授業実践に必要な「書く力」を身に付けるための言語活動を行う。 ・小学校の授業への応用についてグループ討議，考察する。	
第6回	○英語運用力の向上 ・授業実践に必要な英語の「4技能」を身に付けるために，「領域統合型の言語活動」を行う。 ・小学校の授業への応用についてグループ討議，考察する。	
第7回	○背景的な知識の修得 ・英語の「音声」についての基本的な事柄を理解する。 ・上記理解に基づき，小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上 ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 ＊これ以降の講座では，「背景的な知識の修得」を主活動とし，「英語運用力の向上」に係る活動は講座のウォームアップとして短時間で行う。	
第8回	○背景的な知識の修得 ・英語の「文構造・文法」についての基本的な事柄を理解する。 ・上記理解に基づき，小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。	
第9回	○背景的な知識の修得 ・英語の「語彙」についての基本的な事柄を理解する。 ・上記理解に基づき，小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。	
第10回	○背景的な知識の修得 ・英語の「正書法」についての基本的な事柄を理解する。 ・上記理解に基づき，小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。	
第11回	○背景的な知識の修得 ・第二言語習得に関する基本的な事柄を理解する。 ・上記理解に基づき，小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。	
第12回	○背景的な知識の修得 ・児童文学（絵本）について理解する。 ・上記理解に基づき，絵本の選定，ペアで絵本の読み聞かせを行う。 ○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。	
第13回	○背景的な知識の修得 ・児童文学（子供向けの歌・詩）について理解する。 ・上記理解に基づき，児童向けの歌を歌ったり，詩の朗読を行ったりする。 ○英語力の向上（ウォームアップとして実施） ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。	
第14回	○背景的な知識の修得 ・異文化理解に関する基本的な事柄を理解する。 ・上記理解に基づき，小学校の授業への応用について討議・考察する。 ○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。	
第15回	○英語運用力の向上（ウォームアップとして実施） ・授業実践に必要な「英語運用力」を身に付けるための言語活動を行う。 ○講座全体のまとめ・省察 ・講座全体を振り返って省察し，今後の授業実践への応用について討議・考察する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	授業中の言語活動への取組やグループディスカッションでの発表等の意欲・態度ならびに自律的な学びの姿勢（予習・復習の状況）によって評価する。＜態度＞

レポート	40	レポートに記述された学びの状況を評価する。<知識・理解> ＊レポートはコメントを記入して返却する。また，優れたレポートをモデル例として全体に示し，受講者の今後の学びのポイントを解説する。
その他（英語運用力）	20	授業実践に必要な英語運用力について評価する。<技能>

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・授業中のペアやグループでの言語活動に意欲的に取り組むこと。 ・グループディスカッションでは，積極的に意見を述べたり，質問したりすること。
授業外学修	・事前にテキストを必ず読み，そのポイントや自分の意見をレポートにまとめて授業に臨むこと。 ・英語運用力向上のために，授業前後において，テキストの二次元バーコードで音声や動画を視聴して英語の音声を聞き，繰り返し声に出して練習すること。 ・テキストによる専門的な知識の修得については，小学校の授業への応用を考えレポートに記述すること。 以上の学修を，週4時間以上行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校英語はじめる教科書（改訂第３版）外国語科・外国語活動指導者養成のためにーコア・カリキュラムに沿ってー	小川隆夫・東仁美	mpi	978-4-89643-863-5	2,640円
Crown Jr. 5	酒井英樹 ほか	三省堂	978-4-385-70642-9	337円
Crown Jr. 6	酒井英樹 ほか	三省堂	978-4-385-70643-6	337円
Let's Try!1	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25870-3	255円
Let's Try!2	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25871-0	255円
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編	文部科学省	開隆堂	978-4-304-05168-5	140円

使用テキスト：自由記載	・後期の「英語科教育法」「児童英語演習」は，上記と同じテキストを使用するので，後期に改めて購入の必要はない。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年），公立中高一貫教育校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年），県教育委員会指導主事 （４年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，小学校における外国語活動・外国語の授業実践に必要な英語運用力を育成するとともに，英語に関する背景的な知識の修得を図る。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	英語に関する背景的な知識の修得	小・中学校の接続も踏まえながら，小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識を十分かつ正確に身に付けている。	小・中学校の接続も踏まえながら，小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識を十分に身に付けている。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識を身に付けている。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識の修得についてやや不十分なところがある。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な背景的な知識が身に付いていない。
技能	授業実践に必要な英語運用力の修得	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を，授業場面を意識しながら十分身に付けている。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を，授業場面を意識しながら身に付けている。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力を身に付けている。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力についてやや不十分なところがある。	小学校における外国語活動・外国語科の授業を担当するために必要な実践的な英語運用力が身に付いていない。
態度	１．授業への貢献度	授業内容や関連する事柄に興味・関心をもち,自分の考えを自主的に発言し，クラス全体の学びに常に貢献している。	授業内容や関連する事柄に興味・関心をもち,自分の考えを自主的に発言し，クラス全体の学びに時々貢献している。	指名されれば，自分の考えを発言し，クラス全体の学びに時々貢献している。	指名されれば自分の考えを発言するが，クラス全体の学びに貢献するレベルには達していない。	指名されても自分なりの考えを発言できない。
態度	２．自律的な学び（予習・復習）	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学修し,必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解した上で，自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが，その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	児童英語演習			授業番号	CO226	サブタイトル			
教員	西田　寛子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	授業実践に必要な英語教育の理論的側面を概観し，その理論の実践面への応用を目指す。そのために，小学校の授業観察・分析や受講生による模擬授業・ディスカッションを通して指導の改善を行う。また，幼児英語教育との接続の観点から，こども園での英語の模擬保育も実施する。将来学校現場において，理論に裏打ちされた実践力を備え，自律的に学び続けるリフレクティブな教師となる基本を身に付ける。								
到達目標	（全体目標）小学校英語教育の実態・課題を踏まえて解決策を思考し，実践において解決しようとする態度・能力を身に付ける。 （到達目標）・英語によるコミュニケーションの指導や，ことばへの気づきをもたらす指導ができる。 ・小学生や就学前の子どもの英語学習への意欲・技能の向上を図ることができる。 ・英語で授業を行ったり，ALTとの打ち合わせを英語で実施したりできる。 ・パフォーマンス評価を行うことできる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	・イントロダクション：講座の目標，内容，評価方法を確認する。 ・実践に必要な理論を概観する。（小学校英語教育導入の背景・変遷，外国語活動・外国語科の目標，言語使用を通した言語活動・音声によるインプット，異校（園）種との連携・接続等）	
第2回	・実践に必要な理論を概観する。（学習指導要領の内容とその具現化に向けて等）	
第3回	・実践に必要な理論を概観する。（目的や場面・状況を明確にした言語活動，学習評価，ALTとのTTによる指導の在り方等） ・実践に向けての演習をする。（小学校英語の授業体験）	
第4回	・小学校英語の授業（映像資料）を観察・分析をする。 ・指導の改善に向けたディスカッションを行い，改善案を考察する。	
第5回	・英語による保育（映像資料）を観察・分析する。 ・指導の改善に向けたディスカッションを行い，改善策を考察する。	
第6回	・学習指導案を作成する。	
第7回	・学習指導案の修正・改善を行う。	
第8回	・模擬授業の準備をする。（教材研究・作成，指導・評価の計画作成，授業練習）①	
第9回	・模擬授業の準備をする。（教材研究・作成，指導・評価の計画作成，授業練習）②	
第10回	・模擬授業・振り返り・指導の改善案作成を行う。①	
第11回	・模擬授業・振り返り・指導の改善案作成を行う。②	
第12回	・学外授業（小学校での授業実践）と省察を行う。	
第13回	・学外授業（子ども園での英語保育実践）と省察を行う。	
第14回	・小学校・こども園での指導の省察を行い，指導の改善案を作成する。	
第15回	・講座全体の振り返りとまとめを行い，今後の改善案について討議する。	

授業計画　備考2	＊学外授業については，受け入れ先との日程調整により，実施時期が前後する可能性がある。 上記予定が変更になる場合は，Google ClassroomかG-mailで連絡する。

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	授業への貢献度（ディスカッション等），自律的な学び（予習・復習の状況），実践的な取組への態度を評価する。＜態度＞
レポート	40	小学校英語や子どもに関する学修内容についての考察や，指導・評価計画（学習指導案等）・省察の内容を評価する。＜思考・問題解決能力＞ ＊レポートはコメントを記入して返却するとともに，良い例をクラス全体に紹介する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	学外授業では，児童・園児に対して思いやりをもって接し，授業参観・授業参加では，教師を目指している学生としての自覚のもと，言動に責任をもつこと。
授業外学修	・授業に向けて，指導・評価計画作成や教室英語の練習等の自己研鑽を30時間以上積むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Crown Jr. 5	酒井 英樹 ほか	三省堂	978-4-385-70642-9	337円
Crown Jr. 6	酒井 英樹 ほか	三省堂	978-4-385-70643-6	337円
Let's Try 1	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25870-3	255円
Let's Try 2	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25871-0	255円
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編	文部科学省	開隆堂出版	978-4-304-05168-5	140円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校英語はじめる教科書（改訂第３版）外国語科・外国語活動指導者養成のためにーコア・カリキュラムに沿ってー	小川隆夫・東仁美	mpi	978-4-89643-782-9	2,640円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年），公立中高一貫教育校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年），県教育委員会指導主事 （４年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を活かし，小学校・乳幼児教育施設の英語教育に携わる指導者に求められる英語運用力ならびに指導実践力を育成する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．小学校英語や子どもに関する学修内容についての考察	小学校英語や子どもに関する学修内容について，授業実践に応用する具体策や，現状における課題の解決策を考察し，自分の言葉でわかりやすく説明できる。	小学校英語や子どもに関する学修内容について，授業実践に応用する具体策を考察し，自分の言葉でわかりやすく説明できる。	小学校英語や子どもに関する学修内容について，自分の言葉でわかりやすく説明できる。	小学校英語や子どもに関する学修内容について説明できる。	小学校英語や子どもに関する学修内容について，説明できない。
思考・問題解決能力	２．課題解決に向けた指導技能	現状の課題解決に向け，対象児童に適した模擬授業を計画し，十分に実施できる。	現状の課題解決に向け，対象児童に適した模擬授業を計画し，一定程度実施できる。	現状の課題解決に向けて模擬授業を計画し，一定程度実施できる。	現状の課題解決に向けて模擬授業を計画したが，対象児童に適した指導内容になっていない。	現状の課題解決に向けて模擬授業を計画したり，実施したりできない。
態度	１．授業への貢献度	授業内容や関連する事柄に興味・関心をもち,自分の考えを自主的に発言し，クラス全体の学びに常に貢献している。	授業内容や関連する事柄に興味・関心をもち,自分の考えを自主的に発言し，クラス全体の学びに時々貢献している。	指名されれば，自分の考えを発言し，クラス全体の学びに時々貢献している。	指名されれば自分の考えを発言するが，クラス全体の学びに貢献するレベルには達していない。	指名されても自分なりの考えを発言できない。
態度	２．実践的な取組への態度	学んだ知識や技術を活用して，模擬授業の具体的な立案，実践，省察，改善に意欲的に取り組もうとする。	学んだ知識や技術を活用して，模擬授業の立案，実践，省察，改善に取り組もうとする。	指示やヒントがあれば，模擬授業の立案，実践，省察，改善に一定程度，取り組もうとする。	指示やヒントがあれば，模擬授業の立案，実践，省察，改善に取り組もうとするが，その内容は十分でない。	指示やヒントがあっても，模擬授業の立案，実践，省察，改善に取り組もうとしない。
態度	３．自律的な学び（予習・復習）	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学修し,必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解した上で，自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが，その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	基礎音楽Ｂ			授業番号	CO30801	サブタイトル			
教員	廣畑　まゆ美、川崎　泰子、土師　範子、河田　健二								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子どもの発達と表現を理解し，音楽に関する知識や技能をピアノ弾き歌いを軸として習得することを目的とする。豊かな感性を表現するピアノ基礎技法を学び，保育現場において使用する童謡，子どもの歌等のレパートリーを広げる。練習することを習慣化することにより，確実な技能習得を目指す。授業は習熟度別にグループを組み，個人指導を行う。								
到達目標	既成伴奏及び簡易伴奏，コードを用いた伴奏など様々な伴奏法を体験したうえで，個人の習熟度に応じたものを選択して演奏の完成度を高める。 楽典の応用的な知識を生かしながら曲に対するイメージを作り，深く考察された表現が実践できるようになることを目標とする。 練習を習慣化し，レパートリー10曲以上を目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの成長と子どもを取りまく音楽について…発展的な学修に向けた準備	廣畑　まゆ美，川崎　泰子，土師　範子，河田　健二
第2回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 1 応用的な楽典の知識を習得する 1	廣畑　まゆ美，川崎　泰子，土師　範子，河田　健二
第3回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 2 応用的な楽典の知識を習得する 2	廣畑　まゆ美，川崎　泰子，土師　範子，河田　健二
第4回	表現法とまとめ 1 ／ 応用的な楽典の知識を習得する 3	廣畑　まゆ美，川崎　泰子，土師　範子，河田　健二
第5回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 3 応用的な楽典の知識を習得する 4	廣畑　まゆ美，川崎　泰子，土師　範子，河田　健二
第6回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 4 応用的な楽典の知識を習得する 5	廣畑　まゆ美，川崎　泰子，土師　範子，河田　健二
第7回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 5 応用的な楽典の知識を習得する 6	廣畑　まゆ美，川崎　泰子，土師　範子，河田　健二
第8回	表現法とまとめ 2 ／ 応用的な楽典の知識を習得する 7	廣畑　まゆ美，川崎　泰子，土師　範子，河田　健二
第9回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 6 応用的な楽典の知識を習得する 8	廣畑　まゆ美，川崎　泰子，土師　範子，河田　健二
第10回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 7 応用的な楽典の知識を習得する 9	廣畑　まゆ美，川崎　泰子，土師　範子，河田　健二
第11回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 8 応用的な楽典の知識を習得する 10	廣畑　まゆ美，川崎　泰子，土師　範子，河田　健二
第12回	表現法とまとめ 3 ／ 応用的な楽典の知識を習得する 11	廣畑　まゆ美，川崎　泰子，土師　範子，河田　健二
第13回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 9 応用的な楽典の知識を習得する 12	廣畑　まゆ美，川崎　泰子，土師　範子，河田　健二
第14回	各人の目標とする楽曲を選曲し，ピアノ基礎技法と伴奏法を学ぶ 10 応用的な楽典の知識を習得する 13	廣畑　まゆ美，川崎　泰子，土師　範子，河田　健二
第15回	表現法とまとめ 4 ／ 応用的な楽典の知識を習得する 14	廣畑　まゆ美，川崎　泰子，土師　範子，河田　健二
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予習及び復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	72	実技により学習プロセスを含めた練習成果を定期的に評価する。小テスト実践後は，指導教員から講評を行う。
定期試験	18	ペーパーテストにより習熟度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実技における技術習得のためには毎日の練習が不可欠である。授業で習得した技術が次回の授業で表現・発揮できるよう努力すること。 担当教員から指導された内容は，次回授業までに工夫・改善できるよう，適宜メモをとること。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，予習すること。 授業で提示された課題を実施すること。 授業終了後は，各自復習を行うこと。 上記の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
いろいろな伴奏で弾ける選曲 こどものうた100 (保育実用書シリーズ)	小林美実	チャイルド社	978-4805481868	1600＋税
大人のための音楽ワーク テキスト		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100＋税
大人のための音楽ワーク ドリル		ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス	978-4636801552	1100＋税

使用テキスト：自由記載	※基礎音楽Aと同じテキスト

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
続こどものうた200	小林美実	チャイルド社	978-4805400029	1800＋税
いちばんカンタン! 保育のうたピアノ伴奏	安藤真裕子，　泉まりこ	ナツメ社	978-4816371561	1600＋税

参考書：自由記載	上級者向け副教材として「続こどものうた200」，初心者向けの副教材として「いちばんカンタン！保育のうた」を推奨する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．楽典の知識	音楽の専門的知識を十分理解している。	音楽の専門的知識を理解している。	音楽の専門的知識をおおむね理解している。	音楽の専門的知識の理解が不十分である。	音楽の専門的知識を理解できていない。
思考・問題解決能力	1．知識の実技への応用	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を十分に理解し，考えたことを演奏実践に十分生かすことができている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号を理解し，考えたことを演奏実践に生かすことができている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号をおおむね理解し，考えたことを演奏実践に生かそうとしている。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号への理解が不十分で，考えたことと演奏をつなげることができていない。	楽譜に書かれた強弱記号や発想記号への理解ができておらず，曲に対する考えが深まらない。
技能	1．弾き歌いの実践	楽曲にふさわしい発声法・伴奏法で，楽曲のイメージを丁寧に表現することができている。	習熟度に応じた伴奏法，曲にふさわしい発声法で楽曲のイメージを丁寧に表現することができている。	習熟度に応じた伴奏法・発声法で演奏することができている。	習熟度に応じた伴奏法・発声法を検討することが不十分で，演奏の随所にミスがみられる。	練習が不十分で，演奏の随所にミスがみられる。
技能	2．レパートリー数	半期で10曲以上のレパートリーを完成させているとともに，演奏内容も非常に優れている。	半期で10曲以上のレパートリーを完成させているとともに，演奏内容も優れている。	10曲には満たないものの，日々練習に向き合っていることが窺える演奏内容である。	10曲に満たないうえ，演奏内容に課題がある。	10曲に満たないうえ，演奏内容に相当の課題がある。
態度	1．演奏に向かう態度	教員の指導を十分理解しようと努め，毎回予習復習を十分に行って授業に参加している。	教員の指導を理解しようと努め，毎回予習復習を行って授業に参加している。	毎回予習復習を行って授業に参加している。	予習復習が不十分な回があり，教員の指摘が修正されていない。	予習復習が毎回不十分で，教員の指摘が修正されていない。

科目名	国語科教育法			授業番号	CO313	サブタイトル			
教員	太田　憲孝								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	教科書に記載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」等の教材分析を具体的に行い，それぞれの教材の特質及び指導内容を理解するとともに，それをもとに学習指導案を作成し，模擬授業をするという一連の経験を通して，授業力の基礎を身に付ける。								
到達目標	教科書に記載されている「読むこと」「書くこと」「話すこと・聞くこと」等の教材を具体的に分析し，理解した教材の特質及び指導内容をもとに学習指導案を作成することができるようにする。このことにより，教材を分析する力，単元構想力や単位時間の学習指導案を作成する力を身に付ける。さらに，模擬授業を通して，学習過程に沿って授業を展開する力や学習者に対応する力等の基礎を身に付けることができるようにする。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	授業を支える要素 「授業を支える３要素について知り、授業を構成する教師、教材、子どもの関係を理解する。」	
第2回	基本的な学習過程 「基本的な学習過程について知り、学習過程を構成する導入、展開、終末の役割やつながりを理解する。」	
第3回	学びの深まりと教師の支援 「授業記録を分析し、児童の学びの深まりと教師の支援との関係を理解する。」	
第4回	説明的文章の教材研究（１） 「教科書に掲載されている説明的文章について教材分析を行い、教材の特質について理解する。」	
第5回	説明的文章の教材研究（２） 「模擬授業を行う段落の文章を分析し、指導内容及び本時の学習の流れを構想する。」	
第6回	説明的文章の模擬授業 「実際に模擬授業を行い、学習過程や教師の支援等について授業の基本を理解する。」	
第7回	「話すこと・聞くこと」の教材研究（１） 「教科書に掲載されているインタビュー教材について教材分析を行い、教材の特質について理解する。」	
第8回	「話すこと・聞くこと」の教材研究（２） 「模擬授業を行う学習場面について分析し、指導内容及び本時の学習の流れを構想する。」	
第9回	「話すこと・聞くこと」の模擬授業 「実際に模擬授業を行い、学習過程や教師の支援等について授業の基本を理解する。」	
第10回	物語の教材研究（１） 「教科書に掲載されている物語について教材分析を行い、教材の特質について理解する。」	
第11回	物語の教材研究（２） 「模擬授業を行う学習場面について分析し、指導内容及び本時の学習の流れを構想する。」	
第12回	物語の模擬授業 「実際に模擬授業を行い、学習過程や教師の支援等について授業の基本を理解する。」	
第13回	「言葉の特徴」の教材研究（１） 「教科書に掲載されている「漢字の組み立て」について教材分析を行い、教材の特質について理解する。」	
第14回	「言葉の特徴」の教材研究（２） 「模擬授業を行う学習場面について分析し、指導内容や本時の学習の流れ等について構想する。」	
第15回	「漢字の組み立て」の模擬授業 「実際に模擬授業を行い、学習過程や教師の支援等について授業の基本を理解する。」	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	予習課題の提出，模擬授業への積極的な参加・協力等を評価する。
レポート	30	授業ごとの学習内容の定着度を評価する。提出されたレポートはコメントを記載して返却し，理解の深まりを確認できるようにする。
小テスト		
定期試験	40	最終的な学習内容の定着度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	グループによる教材分析や授業構想，模擬授業等に積極的に参加する姿勢を評価する。これが，授業力及び教師力の向上と深く関係する。
受講の心得	グループの学生と協力して，教材分析，授業の構想，授業準備，模擬授業に積極的に取り組むこと。 教材を繰り返し読み込み，教材の特質を理解するように努めること。 模擬授業を1回は行うこと。
授業外学修	１．事前に配布された資料や指定された教材などをしっかり読み込み，授業に臨むこと。 ２．予習課題は，資料をしっかり読み込み，丁寧に仕上げ必ず提出すること。 ３．模擬授業のリハーサルや準備に積極的に参加すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小中学校・小中一貫校国語科教員(27年)，国立附属中学校国語科教員(4年)，市教育委員会指導主事(3年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	教材研究，学習指導案の作成，模擬授業の実施

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.教材研究の方法を理解している。	・学習指導要領の指導事項を踏まえ、教材の特性や教材を分析する方法を深く理解している。	・教材の特性や教材を分析する方法を深く理解している。	・教材の特性や教材を分析する方法を理解している。	・教材の特性理解が弱く、教材分析の方法理解も乏しい。	・教材の特性理解及び教材分析の方法理解も不十分である。
知識・理解	2.学習指導案の書き方を理解している。	・単元及び本時案の構想、学習過程の意味、学習活動と教師の支援の関係等を踏まえた学習指導案の書き方を十分理解している。	・学習過程の意味を深く理解し、学習活動と教師の支援の関係に留意した学習指導案の書き方を十分理解している。	・学習過程の意味を理解し、学習活動と教師の支援の関係に留意した学習指導案の書き方を理解している。	・学習過程の意味、学習活動と教師の支援の関係等の理解が不十分であり、学習指導案の書き方理解に課題がある。	・学習指導案作成に関係する様々な要素の理解が不十分であり、学習指導案を作成する段階に至っていない。
知識・理解	3.授業の進め方を理解している。	・作成した学習指導案の流れに沿って、発問や補助教材、学習形態等を工夫し、児童の立場に立った効果的な授業の進め方を十分理解している。	・作成した学習指導案の流れに沿って、発問や補助教材、学習形態等を工夫し、児童の立場に立った授業の進め方を理解している。	・作成した学習指導案の流れに沿って、発問や補助教材、学習形態等を工夫して位置づけた授業の進め方を理解している。	・作成した学習指導案の流れに沿っているが、授業の進め方の理解が浅く、学習活動と教師の支援のつながり等に課題がある。	・学習指導案の作成と授業の進め方理解につながりが弱く、学習活動のつながり等に課題がある。
思考・問題解決能力	1.発問や補助資料を工夫して学習指導案を作成し、模擬授業に取り組んでいる。	・深い教材研究をもとに、発問や補助教材等を工夫して学習指導案を作成し、課題意識を持って模擬授業に取り組んでいる。	・深い教材研究をもとに、発問や補助教材等を工夫して学習指導案を作成し、自分の考えを持って模擬授業に取り組んでいる。	・教材研究をもとに、発問や補助教材、学習形態等を工夫した学習指導案を作成し、時間配分に留意しながら模擬授業に取り組んでいる。	・時間配分に留意し模擬授業に取り組んでいるが、教材研究や支援の工夫に自分らしい追究の姿勢が見られない。	・学習指導案の作成、模擬授業への取り組みに、自分らしい追究の姿勢が見られない。
思考・問題解決能力	2.学習過程の意味を理解し、模擬授業の展開を工夫している。	・学習活動や教師の支援を適切に工夫し、分かり易く、深まりのある模擬授業を展開している。	・学習活動や教師の支援を工夫し、分かり易く、深まりのある模擬授業を展開している。	・学習活動や教師の支援を工夫し、分かり易い模擬授業を展開している。	・教師の支援に工夫が乏しく、学習者にとって学習の流れが捉えにくい状況で模擬授業を展開している。	・学習指導案への記述を十分理解していないまま模擬授業を展開している。
技能	1.教材の特性を見抜き、学習者の立場に立った学習指導案（単元構想及び本事案）を作成している。	・中心教材を深く分析するとともに、学習指導要領も参照し、単元及び本時の目標を明確にした学習者の立場に立った学習指導案を作成している。	・中心教材を分析するとともに、学習指導要領も参照し、単元及び本時の目標が明確な、学習者にとって分かり易い学習指導案を作成している。	・中心教材を分析するとともに、学習指導要領も参照し、本時の目標が明確な、学習者にとって分かり易い学習指導案を作成している。	・中心教材の分析が弱く、学習活動と教師の支援の関係等が不明確なまま学習指導案を作成している。	・中心教材の分析が弱く、学習過程の意味も理解されないまま、学習指導案を作成している。
技能	2.学習者のめあて解決の流れに沿って、適切に教師の支援を工夫し、模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れを十分に捉え、適切に支援を工夫しながら、模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れを十分に捉え、支援を工夫しながら、模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れを捉え、支援を工夫しながら、模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れに対する意識が弱いまま、学習指導案に沿って模擬授業を展開している。	・学習者のめあて解決の流れを意識することなく、学習指導案に沿って模擬授業を展開している。

科目名	社会科教育法			授業番号	CO314	サブタイトル			
教員	山田　恵子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	小学校社会科は，社会生活（私たちの日々の生活）を広い視野からとらえ総合的に理解することをとおして，市民としての資質（公民的資質）の基礎を養うことを教科の目標としている。小学校学習指導要領に規定されている社会科教育の目標・内容や指導法及び学習指導案の作成について，模擬授業をとおして基礎的な理解を深め，指導技術を身につけさせる。								
到達目標	小学校社会科の目標・内容・指導法及び学習指導案の作成について理解し，授業展開に関する基礎的な知識と技能を身に付ける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	小学校社会科の意義と役割 社会科の成立と役割、学習指導要領における社会科の位置づけについて理解する。	
第2回	小学校社会科の目標と内容（小学校学習指導要領　社会） 小学校社会科の目標と内容構造を学習指導要領に基づいて理解する。	
第3回	第3学年の目標と内容（地域の社会的事象） 学習指導要領の第3学年の目標と内容について理解する。	
第4回	第４学年の目標と内容（日本の国土と地域の特色） 学習指導要領の第4学年の目標と内容について理解する。	
第5回	第5学年の目標と内容（我が国の産業や国土） 学習指導要領の第5学年の目標と内容について理解する。	
第6回	第6学年の目標と内容（我が国の歴史，政治，国際理解） 学習指導要領の第6学年の目標と内容について理解する。	
第7回	社会科の評価の観点と評価規準 問いの設定や思考・判断・表現の評価について理解する。	
第8回	小学校社会科学習指導案の作成 児童の発達段階に応じた社会科授業を構想できる力を身につける。	
第9回	社会科の多様な学習活動 単元計画・指導案作成を通して探究的な学習方法を探る。	
第10回	模擬授業① 作成した学習指導案をもとに模擬授業をおこない、相互評価をする。	
第11回	模擬授業② 作成した学習指導案をもとに模擬授業をおこない、相互評価をする。	
第12回	模擬授業③ 作成した学習指導案をもとに模擬授業をおこない、相互評価をする。	
第13回	模擬授業④ 作成した学習指導案をもとに模擬授業をおこない、相互評価をする。	
第14回	模擬授業⑤ 作成した学習指導案をもとに模擬授業をおこない、相互評価をする。	
第15回	社会科学習指導法の課題とまとめ 社会科指導法について振り返り、今後の学びへの展望をもつ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な授業への参加態度，グループワーク等の参加状況等を毎回のミニレポートで評価する。ミニレポートはコメントをつけて返却する。
レポート	30	社会科教育に関わる理論を理解できているか，それを科学的な根拠に基づき評価する。レポートについてはコメントをつけて返却する。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「なぜ社会科を学ぶのか」「なぜ学校教育に社会科が必要か」という問いをもって毎時間の授業に臨むこと
授業外学修	１．予習として，課題に必ず取り組む。（各自が取り組んだ課題をもとにグループワークを行う） ２．復習として，課題のレポートを書く。 ３．発展学習として，社会科授業の指導案を読んだり自分で指導案を作成したりする。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説　社会編	文部科学省	日本文教出版	9784536590099	
小学社会3年		日本文教出版	9784536181822	
小学社会4年		日本文教出版	9784536181839	
小学社会5年		日本文教出版	9784536181846	
小学社会6年		日本文教出版	9784536181853	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校（教諭３２年　教頭３年　校長３年），幼稚園（園長５年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	小学校勤務経験を活かし，教科指導の大切さを伝えるとともに，小学校学習指導要領に規定されている社会科教育の目標・内容、指導法及び学習指導案の作成について，模擬授業をとおして基礎的な理解を深め，指導技術を身につけさせられるよう授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．学習指導要領の目標・内容・方法を理解できている。	学習指導要領の目標・内容・方法を理解できている。	学習指導要領の目標・内容・方法をほぼ理解できている。	学習指導要領の目標・内容・方法の基本的な内容を理解できている。	学習指導要領の目標・内容・方法を一部しか理解できていない。	学習指導要領の目標・内容・方法をほぼ理解できていない。
知識・理解	２．指導案を作成するための知識を身につけている。	指導案を作成するための知識を身につけている。	指導案を作成するための知識をほぼ身につけている。	指導案を作成するための知識を簡単に身につけている。	指導案を作成するための知識を一部しか身につけられていない。	指導案を作成するための知識をほぼ身につけられていない。

科目名	算数科教育法			授業番号	CO315	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	算数科の学習指導に関して小学校教員として必要な基礎的な能力を育成するために，小学校算数科の目標や指導内容，教材研究や指導計画，学習評価・学習指導法等について実践的に学習していく。								
到達目標	１）算数科の指導方法や目標，内容，評価等に関する基礎的な事項を理解する。 ２）算数科の教材研究や学習指導案の作成等について知り，授業実践に活かそうとする。 ３）算数科に関する児童の実態及び学習指導についての考えを深める。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	算数教育の意義，目標 「数直線の役割」 算数教育の意義と目標を解説する．続いて具体的な事例として，算数科の各学年にわたって用いられている数直線の使い方や役割について整理する．文章題を解く過程として，"場面→式→答"のステップを考える際に，数直線はどこで機能するかを解説する．	
第2回	「わり算の指導の指導1」 わり算の最初の指導では，当分除と包含除で説明をおこなうことを具体的な事例で確認する．	
第3回	「わり算の指導の指導2」 学年が上がるにつれて，わり算の場面は複雑になっていく．数値に単位をつけて解釈することで，場面の違いをどのように分類すべきかを説明する．	
第4回	「小6等しい比の指導」 比の指導の困難さは，2つの数を用いて1つの関係を表現しようとする点にある．「割合」の単元で学習してきた概念をベースにしながら比の概念を構築するための注意点を説明する．	
第5回	「文章題：似た問題とは」 文章題の構造を見るには，何種類の「単位」が用いられているかを見ることが重要である．かけ算の文章題かわり算の文章題かという判断ではない．低学年から高学年までの算数文章題を通して，単位の付き方に目をつけて場面を考えることを説明する．	
第6回	「関係図の功罪とは」 具体的な乗除の文章題で，関係図を使って問題を解くことを体感する．さらに文章題中の数値に注意をとられると，同じ文章題でも，立式がかけ算になることもわり算になることも起こり得ることにも気づかせたい．	
第7回	「乗除の文章題の分類」 算数科では高学年にいたるまでに多くの文章題にふれる．文章題中に現れる数値に単位をつけることで，文章題（問題場面）を分類することができる．教師としての新たな視点をもつことを解説する．	
第8回	「多様な見方の危険性：小4変わり方の指導」 4年生の変わり方の単元の指導場面を例として，子どもの多様な見方を優先する形の授業進行をすることで，本来授業目標として教えるべき内容が強調できなくなる危険性について解説する．	
第9回	「小1たし算・ひき算ストラテジー」 1年生の児童がたし算・ひき算を学習する段階は，就学以前の計算方法に大きく依存している．指使用か暗算かという単純な仕組みではなく，被加数や加数をどこまで抽象的に記憶できるかのレベルに大きく依存する．結果的に子どものストラテジーとなって現れるという構造を解説する．	
第10回	「文章題：表をつかうストラテジー」 少々難しい文章題を解く場合は，手段として作った表が結果的に役に立つスタイルだったか否かで最終的な正解に結びつくかどうかに影響するという状況を説明する．さらには，立式のレベルにまで進んでしまうこともある点も説明する．	
第11回	「目標にあった授業：小5速さの指導」 5年生の速さの授業では，ともすると「速さくらべ」に力が入り，どのような比べ方を考えるかに時間を費やしてしまう傾向にある．重要なのは，速さが2つの異なる量から作られた新しい量なので，それを表記する仕方や読み方を強調しなければいけない点を説明する．	
第12回	「小数・分数の乗除の特徴」 「問題場面→式→答」という流れをベースにして考え，問題文中の数につく単位の種類を考えることで， 同じ文章題でもことなる意味合いのかけ算（わり算）になることを説明する．	
第13回	「指導案の目標を確認する」 これまでの単元ごとの指導の目標を確認するために，(既に公表されている)実際の本事案事例について，目標や指導手段について確認する．	
第14回	「指導案の的確さを検証する」 前回の授業で，自分で確認した手段や目標について，問題点などを整理し議論できるようにする．	
第15回	「指導案の改善事例を作る」 第13回と14回での活動結果をもとにして，自分なりの授業改善を試みる．授業本事案のスタイルとして完成させる．	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート	30	「授業からの学び」と「自分の気づき」を評価する。レポートの解説をしながら、進めていく。
学習指導案の分析・作成などの努力	30	主要なポイントの理解を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校の教員として，子どもたちに算数科の学習を仕組むときに，どのようなことに留意しなければならないかについて具体的に理解し実践する意志をもって授業に臨むこと。

授業外学修	1　各単元で教えるべき目標や必要な手順があるので，教壇に立つ側の者として理論的に整理できるようにすること. 2　授業内容の研究は教材研究や模擬授業に先駆けて重要な仕事となる．模擬授業ですべてを学ぶことができるかのような勘違いに陥らないことが大切である. 3　教科書の記述にはどの単元でも共通した流れがある．その理屈を自分のことばで説明できるまでになってほしい.

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 算数編	文部科学省			
小学校算数科教科書1年～6年		啓林館		

使用テキスト：自由記載	小学校学習指導要領解説　算数編，小学校算数科教科書1年～6年は，在学中に最終的には揃えておくことが望ましい.

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	無
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項を理解する	指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項をよく理解している。	指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項を概ね理解している。	指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項を普通に理解している。	指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項の理解がやや不十分である。	指導方法や目標、内容、評価等に関する基礎的事項を全く理解していない。
思考・問題解決能力	1．個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考え実践することができる。	個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考え積極的に実践することができる。	個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考え説明することができる。	個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考えることはできるが、自分から進んで実践する態度は見受けられない。	個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考えることはやや不十分であり、自分から進んで実践する態度は見受けられない。	個々の児童の特性を踏まえ、その特性に応じた指導法を考えることは全くできない。また、自分から進んで実践する態度も見受けられない。
技能	1．算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法を理解している。	算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法をよく理解している。	算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法を概ね理解している。	算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法を普通に理解している。	算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法の理解がやや不十分である。	算数科の教材研究や学習指導案の作成等についての技法を全く理解していない。

科目名	理科教育法			授業番号	CO316	サブタイトル			
教員	岸　誠一								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領に示された目標を分析し，育成すべき資質能力について概括する。また，理科の学習内容について教科書に沿って説明する。いくつかの単元を採り上げて，観察・実験の方法を習得し，教材研究の技能を身に付ける。その上で，学習指導案の作成に取りかかり，観察・実験を取り入れた模擬授業を行う。								
到達目標	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び，理科教育において育成を目指す資質・能力について理解する。また，学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに，様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。 本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	小学校理科の目標 学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた理科の目標の示し方について理解する。	
第2回	小学校理科の内容 理科で育成する三つの資質・能力の柱に応じた理科の内容の配列について理解する。	
第3回	理科で育成する資質・能力 学習指導要領改訂の方針に示された三つの資質・能力の柱について理解する。	
第4回	理科の学習理論 理科の学習指導に影響を与えた行動主義，認知主義，構成主義の各学習理論について理解する。	
第5回	理科の学習指導法 各学年の発達段階に応じた学習内容の配列やそれに応じた学習指導法について理解する。	
第6回	問題解決能力の育成 各学年に応じた理科の問題解決の能力が各学年の目標や内容にどのように位置づけられているか理解する。	
第7回	理科教科書での題材の配列 学習指導要領の各学年の内容に示された項目と，理科教科書の各単元の対応について理解する。	
第8回	教材研究の仕方 理科教科書に掲載されている教材について分かりやすい指導のための方法を習得する。	
第9回	学習指導案の作成 国立教育政策研究所や岡山県教育センターから出された学習指導要領の書き方の様式に沿って学習指導案を記述する技能を習得する。	
第10回	物質・エネルギーにかかわる教材研究 理科教科書に掲載されている物質・エネルギーにかかわる教材について分かりやすい指導の方法を習得する。	
第11回	生命・地球にかかわる教材研究 理科教科書に掲載されている生命・地球にかかわる教材について分かりやすい指導の方法を習得する。	
第12回	模擬授業１ 作成した学習指導案で取り上げた単元の教材研究を行い，模擬授業を実施することを通して授業実践の技能を身に付ける。また，自己評価，相互評価を通して授業を振り返る。	
第13回	模擬授業２ 作成した学習指導案で取り上げた単元の教材研究を行い，模擬授業を実施することを通して授業実践の技能を身に付ける。また，自己評価，相互評価を通して授業を振り返る。	
第14回	模擬授業３ 作成した学習指導案で取り上げた単元の教材研究を行い，模擬授業を実施することを通して授業実践の技能を身に付ける。また，自己評価，相互評価を通して授業を振り返る。	
第15回	模擬授業４ 作成した学習指導案で取り上げた単元の教材研究を行い，模擬授業を実施することを通して授業実践の技能を身に付ける。また，自己評価，相互評価を通して授業を振り返る。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，模擬授業，実験・観察に取り組む態度，予習・復習の状況によって評価する。
レポート	10	レポートの内容と提出状況によって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する
小テスト	20	各回の主要なポイントの理解を評価する。小テストは採点して返却し，解説する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回，授業のはじめに小テストを行うので，前時の復習をして授業に臨むこと。また，返却された小テストは，ノートに貼付し，復習をすること。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説　理科編	文部科学省	東洋館出版		111

使用テキスト：自由記載	小学校理科教科書3～6年，「小学校学習指導要領解説　理科編」文部科学省

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭(13年)，公立小学校校長（8年），公立幼稚園長(3年小学校長と兼務)，県生涯学習センター(3年)，県情報教育センター(6年)での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	公立小学校教諭,公立学校園管理職，県生涯学習センター，県情報教育センターでの実務経験を基に教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．小学校学習指導要領に示された理科の目標及び，理科教育において育成を目指す資質・能力について理解できる。	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び，理科教育において育成を目指す資質・能力について広範かつ詳細に理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び，理科教育において育成を目指す資質・能力について広範に理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び，理科教育において育成を目指す資質・能力について基礎的な内容を十分理解している。	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び，理科教育において育成を目指す資質・能力について基礎的な内容を十分に理解していない。	小学校学習指導要領に示された理科の目標及び，理科教育において育成を目指す資質・能力について基礎的な内容を理解していない。
知識・理解	２．学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解できる。	学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて広範かつ詳細に理解している。	学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて広範に理解している。	学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて基礎的な内容を十分理解している。	学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて基礎的な内容を十分に理解していない。	学習指導要領に示された理科の学習内容について背景となる学問領域と関連させて基礎的な内容を理解していない。
技能	１．様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を広範かつ詳細に身に付けている。	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を広範に身に付けている。	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基礎的な方法を十分身に付けている。	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基礎的な方法を十分身に付けていない。	様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う基礎的な方法を身に付けていない。

科目名	生活科教育法			授業番号	CO317	サブタイトル	(学習指導要領を大切にした指導案の作成)		
教員	齊藤　佳子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	(1)学習指導要領の内容を踏まえながら，生活科の教科書に沿って，単元ごとに授業の具体的な内容・事例を検討し，指導案が作成できるようにする。								
到達目標	(1)指導要領解説生活科編を参考に生活科の内容について理解を深めることができるとともに，資質能力の育成についても理解を深めることができる。さらに単元ごとに具体的な指導のポイントを把握することができる。 　この内容は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞の習得に貢献する。 (2)生活科の教科書に沿って単元ごとに具体的な授業内容をイメージすることができ，内容を理解し具体的にイメージしたうえで各小単元の目標を立てることができる。そして，授業についてイメージし目標にそって具体的な指導案を作成することができる。 　この内容は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の習得に貢献する。 (3)上記の内容を踏まえ生活科の教科書に沿って具体的な授業についてイメージし他の学生と協力しながら積極的に単元目標の設定や具体的な指導案の作成を行うことができる。 　この内容は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜態度＞の習得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	学習指導要領　生活科の目標 第２章　教科の目標 第１節　教科目標 教科目標の構成　教科目標の趣旨　資質・能力の三つの柱としての目標の趣旨 観察カードの内容に対するコメントの書き方	
第2回	第２節　学年の目標 学年の目標の設定　学年の目標の趣旨 単元「はなをさかせよう」 小単元「たねをまこう」目標設定等 生活科の栽培活動について	
第3回	第３章　生活科の内容 第１節　内容構成の考え方 内容構成の具体的な視点 内容を構成する具体的な学習活動や学習対象 内容の構成要素と階層性 小単元「はなをそだてよう」「はなのようすをつたえよう」 「たねをとろう」目標設定，指導案の検討等	
第4回	第２節　生活科の内容 生活科の内容（１）～（３）について 単元「なつがやってきた」 小単元「こうていでなつをさがそう」目標設定，指導案の検討等 「評価規準」について	
第5回	第２節　生活科の内容 生活科の内容（４）～（６） 単元「なつがやってきた」 小単元「こうえんでなつをさがそう」 「みずであそぼう」目標設定，指導案の検討等	
第6回	第２節　生活科の内容 生活科の内容（７）～（９） 単元「なつがやってきた」 小単元「なつのことをつたえよう」目標設定，指導案の検討等 「振り返りの活動，交流活動」について	
第7回	第２章　指導計画の作成と内容の取扱い 指導計画作成上の配慮事項その１ 単元「いきものとなかよし」 小単元「むしをさがそう」目標設定，指導案の検討等 「動物飼育」について	
第8回	第２章　指導計画の作成と内容の取扱い 指導計画作成上の配慮事項その２ 単元「いきものとなかよし」 小単元「どうぶつのせわをしよう」目標設定，指導案の検討等 「気づきの質を高めるための板書の構造化」について	
第9回	第２章　指導計画の作成と内容の取扱 指導計画作成上の配慮事項その３ 単元「たのしいあきいっぱい」 小単元「こうていであきをさがそう」目標設定，指導案の検討等 気づきの質を高めるために	
第10回	第５章　指導計画の作成と学習指導 第１節　生活科における指導計画と学習指導の基本的な考え方 単元「たのしいあきいっぱい」 小単元「こうえんであきをさがそう」 「はっぱや　みであそぼう」「あきのおもちゃをつくろう」 「いっしょにあそぼう」目標設定，指導案の検討等 「比較」について	
第11回	第５章　指導計画の作成と学習指導 第２節　生活科における年間指導計画の作成 単元「じぶんでできるよ」 小単元「いえでのせいかつをみつめよう」 「じぶんでできることをしよう」目標設定，指導案の検討等 「実態把握，家庭との連携，家庭環境への配慮」について	
第12回	第５章　指導計画の作成と学習指導 第３節　単元計画の作成 「新しい学習指導が期待するもの」について	
第13回	第５章　指導計画の作成と学習指導 第４節　学習指導の進め方 「スタートカリュキュラム」について１	
第14回	スタートカリュキュラム 単元「どきどきわくわく１ねんせい」 小単元「がっこうのいちにち」 「はじめましてともだち」目標設定，指導案検討等 「スタートカリュキュラム」について２	

第15回	生活科のまとめ 学習内容を振り返るともに重要なポイントを再度確認する。 単元「もうすぐ２ねんせい」 小単元「あたらしい１ねんせいをしょうたいしよう」 「しょうたいしたことをはなしあおう」 「１ねんかんをふりかえろう」について目標設定，指導案の検討等	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な授業態度
レポート	30	課題に対する授業内容に沿った具体的な例を挙げたレポートであること。なお，レポート提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
小テスト		
定期試験	40	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校で実際に授業ができるよう，より具体的なイメージをもって授業を受けること。
授業外学修	(1)身近な自然に親しみ，植物や動物を観察しながら，地域を散策すること。 (2)身近な生活から，生活科の授業にいかせる教材を発見する取り組みをすること。 (3)予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，積極的に授業に参加できる準備をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校指導要領（平成29年告示）解説　生活科編	文部科学省	株式会社東洋館出版社	9784491034645	
新しい生活　上	田村学ほか84名	東京書籍株式会社	9784487106615	
実践・小学校生活科指導法	田村学編著	学文社	9784762032882	

使用テキスト：自由記載	教材用のプリントを用意する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	小学校における授業で実際に生かすことができるポイントを押さえた教育内容

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 指導要領において生活科の内容について理解を深めることができる。	具体的に理解することができる。	理解することができる。	大まかに理解することができる。	いくつかの内容について理解することができる。	理解することができない。
知識・理解	2. 資質能力の育成について理解を深めることができる。	具体的に理解することができる。	理解することができる。	大まかに理解することができる。	少し理解することができる。	理解できない。
知識・理解	3. 単元ごとに具体的な指導のポイントを把握することができる。	具体的な指導のポイントを把握することができる。	指導のポイントを把握することができる。	大まかな指導のポイントを把握することができる。	いくつかの単元で大まかな指導のポイントを把握することができる。	把握することができない。
思考・問題解決能力	1. 生活科の教科書に沿って単元ごとに具体的な授業内容をイメージすることができる。	具体的な授業内容をイメージすることができる。	授業内容をイメージすることができる。	大まかに授業内容をイメージすることができる。	いくつかの単元で大まかに授業内容をイメージすることができる。	イメージすることができない。
思考・問題解決能力	2. 内容を理解し具体的にイメージしたうえで各小単元の目標を立てる。	具体的な目標を立てることができる。	目標を立てることができる。	大まかな目標を立てることができる。	いくつかの単元で大まかな目標を立てることができる。	目標を立てることができない。
思考・問題解決能力	3. 授業についてイメージし目標にそって具体的な指導案を作成することができる。	具体的な指導案を作成することができる。	指導案を作成することができる。	大まかな指導案を作成することができる。	いくつかの単元で大まかな指導案を作成することができる。	指導案を作成することができない。
態度	1. 他の学生と協力しながら積極的に単元目標の設定や具体的な指導案の作成を行うことができる。	他の学生と協力しながら積極的に行うことができる。	他の学生と協力しながら多くの単元で積極的に行うことができる。	他の学生と協力しながらいくつかの単元で積極的に行うことができる。	他の学生と協力しながらいくつかの単元で行うことができる。	行うことができない。

科目名	音楽科教育法			授業番号	CO318	サブタイトル	小学校音楽1～6年		
教員	川崎　泰子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領，小学校における音楽科教育の意義，目標，指導内容について理解を深め，小学校音楽科で育成すべき資質や能力，そのために取り扱う内容，題材の構成(指導計画の作成)，教材の選択と配列及び指導法・評価法について理解する。学習指導案を作成し模擬授業を行う。								
到達目標	小学校学習指導要領の目標を理解した上で，教材研究から指導案・模擬授業への指導の流れを理解する。 (1)小学校学習指導要領について説明することができる。 (2)第1～6学年の系統性を踏まえ，発達段階に対応した教科指導の在り方を検討することができる。 (3)小学校音楽科における学習指導上の基本的な留意点及び「表現」「鑑賞」の各活動における基本的な指導方法について理解し，児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得させるための学習指導案を作成することができる。 (4)上記の理解に基づいて作成した学習指導案を模擬授業において実施できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	学習指導要領に示された小学校音楽科の目的と目標 歌唱演習の発声、声の出し方などを理解する	
第2回	研究教材と指導法　低学年・中学年の歌唱共通教材の歌唱法 歌唱・弾き歌いについて理解を深め演習する	
第3回	研究教材と指導法　中学年・高学年の歌唱共通教材の歌唱法 歌唱・弾き歌いについて理解を深め演習する	
第4回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ 1年生～6年生までの歌唱共通教材において指導する立場での演習（小テストあり） 評価・コメントは演習後個人伝える	
第5回	研究教材と指導法　鑑賞教材の返還と低学年、中学年、高学年の鑑賞曲 鑑賞教材の歴史について理解を深め、鑑賞指導法の考察 ICTを活用した音楽学習の検討	
第6回	リコーダーの扱い方と指導法　課題協の習得と各曲の指導法に理解を深める リコーダーアンサンブルの指導法とリコーダーアンサンブルの教材研究	
第7回	リコーダーアンサンブルの指導法とリコーダーアンサンブルの教材研究 グループでの研究発表と考察（小テストあり）	
第8回	音楽科学習指導案作成にあたって留意点 指導案作成の理解を深める グループに分かれ模擬授業の準備	
第9回	模擬授業準備 弾き歌い・楽器演奏・鑑賞教材についてグループでの検討　協働する力を身に付ける	
第10回	模擬授業の実践とディスカッション：グループⅠ グループに別に模擬授業を行い指導案作成・弾き歌い・指導法などについて理解を深める	
第11回	模擬授業の実践とディスカッション：グループⅡ グループに別に模擬授業を行い指導案作成・弾き歌い・指導法などについて理解を深める	
第12回	模擬授業の実践 模擬授業の実践とディスカッション：グループⅢ グループに別に模擬授業を行い指導案作成・弾き歌い・指導法などについて理解を深める	
第13回	模擬授業の実践とディスカッション：グループⅣ グループに別に模擬授業を行い指導案作成・弾き歌い・指導法などについて理解を深める	
第14回	模擬授業の実践とディスカッション：グループⅤ グループに別に模擬授業を行い指導案作成・弾き歌い・指導法などについて理解を深める	
第15回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ 今までの演習を活かして弾き歌い実技試験１年生～６年生までの歌唱共通教材において課題曲と任意の曲を演奏する 評価・コメントは演習後個人伝える 筆記試験のついての説明	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	弾き歌い・グループ発表などの実技系の小テスト
レポート	10	課題・レポート・指導案の，理解度・定着度。添削後，返却する。
模擬授業発表	40	課題の到達度を評価する。実技を含む。
定期試験	10	知識の理解度・定着度。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校教員への教職意識を持つこと。 使用教科書の『小学校学習指導要領解説 音楽編』に目を通しておくこと。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，予習すること。 授業で提示された課題を実施し，復習すること。 上記の内容を，週当たり4時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領平成29年公示解説　音楽編		平成29年6月，文部科学省		
小学校音楽1～6年		教育芸術社		

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校音楽科教育法		教育芸術社		

参考書：自由記載	
その他	ソプラノリコーダーを持参すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校，中学校，私立中学，私立高校講師などの教員歴（20年）、少年少女合唱団主宰【2023年福武教育文化賞受賞】（12年)、数々の学校にて歌唱指導（20年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かし，学校現場の体験を通して得た知識を伝えると共に，小学校音楽科教育に求められる専門的な知識・技能を深め，学習指導力，実践的な音楽実技指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	音楽科学習指導案の基礎的な内容を理解している	音楽科学習指導案の書き方および歌唱共通教材、器楽教材を理解するとともに、表したい音楽表現を授業で展開する技能が身につく。	音楽科学習指導案い書き方および歌唱共通教材、器楽教材をおおむね理解するとともに、表したい音楽表現を授業で展開するための技能が身につきつつある	音楽科学習指導案の書き方および表したい音楽表現を授業で展開するための技能の必要性を理解しているが、歌唱共通教材、器楽教材について半分程度理解していない。	音楽科学習指導案の書き方および歌唱共通教材は半分くらい理解できるものの、表したい音楽表現を授業で展開する技能が身についていない。	音楽科学習指導案の書き方および歌唱共通教材、器楽教材は半分くらい理解できておらず、表したい音楽表現を授業で展開する技能が身についていない。
思考・問題解決能力	１．音楽表現を考えながら模擬授業を行うことができる	音楽表現を考えて表現に対する思いや意図を持ち、授業づくりに必要な事柄について判断し、歌唱指導や器楽演奏指導を模擬授業として実地することができる。	音楽表現を考えて表現に対する思いや意図を持ち、授業づくりに必要な事柄について判断し、歌唱指導や器楽演奏指導を模擬授業としておおむね実地することができる。	音楽表現や授業づくりに必要な事柄について考え、歌唱指導や器楽演奏指導を模擬授業としてつまずきがあるものの実地することができる。	音楽表現や授業づくりに必要な事柄について考えられないものの、歌唱指導や器楽演奏指導を模擬授業として他者の補助を借りながら実地することができる。	音楽表現や授業づくりに必要な事柄について判断することができず、歌唱指導や器楽演奏指導の模擬授業が成立しない。
技能	１．歌唱表現を行うことができる	楽譜を理解し歌唱表現として申し分ない声で歌えている。	楽譜を理解し歌唱表現として声がでている。	楽譜を理解し歌唱表現として積極的に声を出そうとしている。	楽譜は理解しているが歌唱表現として積極的に声を出せていない。	楽譜を読み取ることができず歌唱表現として声が出せていない。
技能	２．弾き歌いを行うことができる。	楽譜を理解し、ピアノ演奏技法、歌唱表現が申し分ないレベルでできている。	楽譜を理解し、ピアノ演奏技法、歌唱表現ができている。	楽譜を理解し、積極的にピアノ演奏技法、歌唱表現を行おうとしている。	楽譜は理解しているが積極的にピアノ演奏技法、歌唱表現ができていない。	楽譜を読み取ることができずピアノ演奏技法、歌唱表現ができていない。
技能	３．楽器演奏を行うことができる	楽器の特性を理解し演奏技法が申し分ないレベルでできている。	楽器の特性を理解し、止まることなく演奏ができている。	楽器の特性を理解し、止まりながらも積極的に演奏ができている。	楽器の特性を理解しているが、積極的に演奏ができていない。	楽器の特性を理解しているが、演奏ができない。
態度	１．模擬授業に積極的に参加できる。	協働して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に親しむとともに主体的に歌唱指導、器楽演奏指導および模擬授業に参加することができる。	様々な音楽に親しむとともに主体的に歌唱指導、器楽演奏指導および模擬授業に参加することができる。	様々な音楽に親しみながら、歌唱指導、器楽演奏指導および模擬授業に参加することができる。	協働して音楽活動をする楽しさをあまり感じることができないものの、様々な音楽を聞きながら、歌唱指導、器楽演奏指導および模擬授業に参加しようとする様子が見られる。	協働して音楽活動をする楽しさを感じるなどの親近感がなく、主体的に歌唱指導、器楽演奏指導および模擬授業に参加することができない。

科目名	図画工作科教育法			授業番号	CO319	サブタイトル			
教員	伊藤　智里								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この講義では，小学校図画工作科で行われる教科書題材を取り上げながら，「造形的な見方・考え方」を働かせ，生活や社会の中の形や色 などと豊かに関わる資質能力を育成する指導のあり方について講義する。								
到達目標	(1)学習指導要領に示された図画工作科の目標や内容を理解できる。 1)図画工作科の学習指導要領における目標及び主な内容並びに全体構造を理解できる。 2)個別の学習内容について指導上の留意点を理解できる。 3)図画工作科における学習評価の考え方を理解できる。 (2)基礎的な学習理論を理解し，具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。 1)子どもの認識や思考，学力などの実態を視野に入れた授業設計の重要性を理解できる。 2)情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し，授業設計に活用することができる。 3)学習指導案の構成を理解し，具体的な授業を想定した授業設計と学習指導案を作成することができる。 4)模擬授業の実施と振り返りを通して，授業改善の視点を持つことができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	図画工作科の学習指導要領 教科の目標と内容	
第2回	図画工作科の授業構造 図画工作科の活動領域と教科の構造	
第3回	図画工作科における教師の支援 指導上の留意点	
第4回	図画工作科における評価 学習評価の考え方	
第5回	図画工作科における安全指導 題材別の安全指導上の留意点	
第6回	「造形あそび」の授業の組立と支援 教材研究と指導上の留意点	
第7回	「絵にあらわす」の授業の組立と支援 教材研究と指導上の留意点	
第8回	「立体にあらわす」の授業の組立と支援 教材研究と指導上の留意点	
第9回	「工作にあらわす」の授業の組立と支援 教材研究と指導上の留意点	
第10回	「鑑賞」の授業の組立と支援 鑑賞活動の方法とICT，アートカード等教材研究と指導上の留意点	
第11回	図画工作科の学習指導案1 学習指導案の構成の理解	
第12回	図画工作科の学習指導案2 学習指導案の作成	
第13回	図画工作科の学習指導案3 学習指導案の作成，掲示物等の準備	
第14回	模擬授業の実施と振り返り1 参加模擬授業の実践と振り返り，意見交換を行う。	
第15回	模擬授業の実施と振り返り2 参加模擬授業の実践と振り返り，意見交換を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な授業態度，予習・復習の状況によって評価する。
ノート・課題	60	各回の主要なポイントの理解を提出されたノートや課題によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
模擬授業	30	模擬授業の準備・発表，ディスカッション等への参加状況等により評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「造形的な見方・考え方」が活きた授業はどのようにすると実現することができるかについて探求してほしい。
授業外学修	1 復習として，課題を課すことがある。 2 予習として，資料を配布することがある。 3 発展学修として，授業で紹介された参考文献等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 図画工作編		日本文教出版	974536590112	
小学校図画工作科教科書1年～6年上・下巻		日本文教出版		

使用テキスト：自由記載	小学校図画工作科教科書（ずがこうさく・図画工作）の1～6年上巻については、講義「図画工作」のテキストと同じものを使用する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜，提示する。
その他	はさみ，のり，テープ，色鉛筆，水彩絵具，定規，コンパス，カッターなど，様々な画材，素材，道具を使用する。詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．学習指導要領を理解している	学習指導要領に示された図画工作科の全体構造を十分に理解した上で，目標，内容，指導上の留意点，学習評価の考え方について説明することができる	学習指導要領に示された図画工作科の目標，内容，指導上の留意点，学習評価の考え方について理解し，説明することができる	学習指導要領に示された図画工作科の目標,内容,指導上の留意点,学習評価の考え方について理解している	学習指導要領に示された図画工作科の目標，内容は理解できているが，指導上の留意点，学習評価の考え方についての理解が不十分である	学習指導要領に示された図画工作科の目標，内容，指導上の留意点，学習評価の考え方についての理解ができていない
技能	1．図画工作科の授業を設計し実践することができる	学習指導案の構成を十分に理解し，具体的な授業を想定した学習指導案を作成し，実践と振り返りを通して，授業を改善することができる	学習指導案の構成を理解し，具体的な授業を想定した学習指導案を作成し実践し，実践と振り返りを通して，授業改善の視点を持つことができる	学習指導案の構成を理解し，具体的な授業を想定した学習指導案を作成し実践することができる	学習指導案の構成を理解し，具体的な授業を想定した学習指導案を作成できるが，実践することが不十分である	学習指導案の構成を理解しておらず，具体的な授業を想定した学習指導案の作成や実践ができない

科目名	体育科教育法			授業番号	CO320	サブタイトル			
教員	溝田 知茂								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法の変遷を踏まえた上で，現代の子どもたちが抱えているからだと心の問題について体育科が果たすべき役割と責任性について理解する。 また，低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解し，指導案の作成並びに模擬授業，授業評価と授業を展開するうえでの一連の過程を実践する能力を身に付ける。								
到達目標	体育科における，「目標−内容−方法」について理解するとともに，子ども一人ひとりが意欲的に学ぶことのできる授業展開を計画・立案することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	学習指導要領の変遷（総則） 学習指導要領（総則）における改善点について理解する。	
第2回	学習指導要領の変遷（体育科の目標） 学習指導要領（体育科の目標）の改善点について理解する。	
第3回	学習指導要領1・2年生の内容と目標の理解と具体例 学習指導要領1・2年生の内容と目標を理解し，各運動領域の例示を理解できるようにする。	
第4回	学習指導要領3・4年生の内容と目標の理解と具体例 学習指導要領3・4年生の内容と目標を理解し，各運動領域の例示を理解できるようにする。	
第5回	学習指導要領5・6年生の内容と目標の理解と具体例 学習指導要領5・6年生の内容と目標を理解し，各運動領域の例示を理解できるようにする。	
第6回	学習指導要領3〜6年生の保健の内容と目標の理解と具体例 学習指導要領3〜6年生の保健の内容と目標を理解し，各運動領域の例示を理解できるようにする。	
第7回	体育科の年間計画及び指導案作成について 体育科の年間計画を理解するとともに，指導案の作成について学ぶ。	
第8回	指導案の作成 体育教員の立場に立って，配慮事項も踏まえた指導案を作成する。	
第9回	模擬授業打ち合わせ グループに分かれて，体育教員の立場に立った授業の進め方を話し合う。	
第10回	模擬授業（1）1・2年生について 体育教員の立場に立って，配慮事項を踏まえて，模擬授業を行う。	
第11回	模擬授業（2）3・4年生について 体育教員の立場に立って，配慮事項を踏まえて，模擬授業を行う。	
第12回	模擬授業（3）5・6年生について 体育教員の立場に立って，配慮事項を踏まえて，模擬授業を行う。	
第13回	模擬授業（4）3〜6年生の保健について 体育教員の立場に立って，配慮事項を踏まえて，模擬授業を行う。	
第14回	模擬授業の授業評価・修正 それぞれの模擬授業に対して，意見交換をして評価・修正する。	
第15回	授業評価を加味した指導案の作成 修正したことを踏まえて、指導案を作成する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表や予習・復習の状況によって評価する。フィードバックは，その時その場で行う。
レポート	60	指導案の理解・指導要領の理解。レポートは，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他	20	模擬授業の教師としての授業態度を評価する。フィードバックは，模擬授業の後にコメントをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校体育科において，教師が運動の知識を有していることはもちろん，からだと心の仕組み対する理解を深めていくことも重要である。これらの点を踏まえつつ，将来の子どものからだと心を育てていくという強い意欲をもって受講すること。
授業外学修	・授業で行われる領域について「学習指導要領解説　体育編」を授業前に読んでおくこと。 ・事前に模擬授業で取り上げている内容をしっかり教材研究する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説体育編	文部科学省	東洋館出版社		

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性について理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性について理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性についてほぼ理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性について基本的な内容を理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性についての理解が十分ではない。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて、体育科が果たすべき役割と責任性についての理解ができていない。
知識・理解	２．低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解することができている。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解することができている。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性をほぼ理解することができている。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を簡単に理解できている。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性の理解が十分ではない。	低・中・高学年の学習を見通した単元の系統性を理解できていない。
知識・理解	３．指導案を作成するための知識を身につけている。	指導案を作成するための知識を身につけている	指導案を作成するための知識をほぼ身につけている	指導案を作成するための簡単な知識を身につけている	指導案を作成するための知識が十分ではない。	指導案を作成するための知識が身についていない。
思考・問題解決能力	１．配慮が必要な子どもに対して考えることができる。	配慮が必要な子どもに対して考えることができる。	配慮が必要な子どもに対して理解することができる。	配慮が必要な子どもに対して情報収集することができる。	配慮が必要な子どもに対しての理解が十分ではない。	配慮が必要な子どもに対して考えることができていない。
態度	１．教師の立場としての振る舞い。	教師の立場としての振る舞いができている。	教師の立場としての振る舞いがほぼできている。	教師の立場としての基本的な振る舞いができている。	教師の立場としての理解が十分ではない。	教師の立場として考えることができていない。

科目名	家庭科教育法			授業番号	CO321	サブタイトル			
教員	齊藤　佳子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	小学校家庭科の授業を通して，「生きる力」や「確かな学力」を育成するという強い理念をもって，学習指導要領に求められる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」等，学ぶ意欲を児童に身に付けさせる授業を構想することができるようにする。 授業構想を具体化するために学習指導案を作成して模擬授業を実施し，模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身につける。								
到達目標	小学校家庭科の授業開発を通して，児童に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識・技能を確実に修得するためには，どのような学習の工夫が必要かしっかり検討し，効果的な家庭科の授業を模擬授業を通して創造することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	最初の授業日に，学年歴で定められた授業日と回数を示し，各回のテーマや具体的な内容，教室及び準備物を記載した授業予定表を配付する。模擬授業の実施・分析・評価については，模擬授業の実施日が決定した時点で，実施日と授業者の名前を記載したプリントを改めて配付する。								

回	概要	担当
第1回	小学校家庭科の目標 小学校家庭科において育成を目指す資質・能力，目標について理解する。	
第2回	小学校家庭科の内容 小学校家庭科の内容構成のポイントについて理解する。	
第3回	家庭科の年間指導計画と題材指導計画，教育方法 2学年間を見通した指導計画作成のポイントと指導上の留意点について理解する。	
第4回	家庭科の評価と学習指導案の内容 家庭科の評価項目と学習指導案の書き方について理解する。	
第5回	学習指導案の作成と模擬授業，家庭科におけるICT機器の活用 既成の学習指導案を基に，教材研究をして学習指導案を作成する。	
第6回	既成の家庭科指導案を基に細案を作成 細案を作成し，板書計画や教師としてどのように指示を出すか，授業の流れをどのようにつくるかを考察する。	
第7回	細案を基に模擬授業を実施1・2 「Ａ家族・家庭生活」「Ｂ衣食住の生活」(5年生)の内容に関する模擬授業を実施し，模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身につける。	
第8回	細案を基に模擬授業を実施3・4 「Ｂ衣食住の生活」「Ｃ消費生活・環境」(5・6年生)の内容に関する模擬授業を実施し，模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身につける。	
第9回	細案を基に模擬授業を実施5・6 「Ｂ衣食住の生活」「Ｃ消費生活・環境」(5・6年生)の内容に関する模擬授業を実施し，模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身につける。	
第10回	教材研究と学習指導案の作成(1) 「Ａ家族・家庭生活」「Ｂ衣食住の生活」「Ｃ消費生活・環境」領域の内容（5・6年生）を理解し，教材と指導案を考える。	
第11回	教材研究と学習指導案の作成(2) 細案を作成し，板書計画や教師としてどのように指示を出すか，授業の流れをどのようにつくるかを考察する。	
第12回	模擬授業の実施・分析・評価1・2 「Ａ家族・家庭生活」「Ｂ衣食住の生活」(5年生)の内容に関する模擬授業を実施し，模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身につける。	
第13回	模擬授業の実施・分析・評価3・4 「Ｂ衣食住の生活」「Ｃ消費生活・環境」(5年生)の内容に関する模擬授業を実施し，模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身につける。	
第14回	模擬授業の実施・分析・評価5・6 「Ｂ衣食住の生活」「Ｃ消費生活・環境」(6年生)の内容に関する模擬授業を実施し，模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身につける。	
第15回	模擬授業の総括：模擬授業全体の振り返りと授業改善 模擬授業を振り返り，適切な教材を用いたか，よりよい指導法はなかったのかなどその要因を考察し，授業改善を図る。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントペーパーにより，評価を行う。
レポート	20	作成した指導案，模擬授業の振り返りなどの記述を評価する。 課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また，課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
小テスト	10	小学校家庭科の主要なポイントの理解を評価する。
定期試験	50	最終的な理解度について評価する。
その他	10	模擬授業：授業態度，教師としての授業技術及び授業に内容に関する以下の項目について評価する。 授業技術に関する項目：声の大きさ，板書（見やすさ），児童への目線，教材・教具の工夫，話し方等 授業内容に関する項目：導入の工夫，児童への発問の工夫，説明のわかりやすさ，学習活動の工夫，授業の流れのわかりやすさ等

評価の方法：自由記載	
受講の心得	教材研究の深さが学習指導案と密接に関連し，更に児童の学習意欲とも深く関係していることを理解する。また，授業開始時に配付する授業予定表に，授業内容に該当する小学校と中学校の教科書のページを明記しているので，授業の事前・事後に必ず目を通して授業に臨む。
授業外学修	1　事前に，模擬授業で取り上げる内容についてしっかり教材研究をする。 2　模擬授業についての感想を，授業後に数人発表する。 3　模擬授業について，学生に迅速で建設的なフィードバックを行い，次の模擬授業に活かす。 4　模擬授業についての感想を毎時間書かせ，授業者に一言コメントとして，良かった所や改善して欲しい所を書いたプリントを渡す。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
わたしたちの家庭科	著作者代表内野紀子他	開隆堂	9784304080647	274円
小学校学習指導要領解説家庭編	文部科学省	東洋館出版社	9784491023748	103円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新訂　新しい技術・家庭（家庭分野）	佐藤文子・金子佳代子他	東京書籍	9784487122820	646円

参考書：自由記載	中学校の家庭科教科書「新編　新しい技術・家庭　家庭分野」は，採用試験を受験する人は購入して欲しい。採用試験には，中学校の内容からも出題されている。
その他	採用試験には，具体的な指導方法を問う問題が出題される。模擬授業には，「自分ならどうするか」と考えながら参加する。小学校家庭科の内容は，全て実践して身に付けておくことが望ましい。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識を理解している。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識について見につけて，正確に理解し述べることができる。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識を身につけて，正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識について，大体述べることができる。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な知識について，全く表現することができない。
思考・問題解決能力	１．学習指導要領に求められる学ぶ意欲を児童に身につけさせる授業を構想することができる。	課題に対し，論理的整合性を持ち，多角的に考察している。	課題に対し，ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し，自分の考えを述べることができる。	課題に対し，自分の考えを十分に述べることができない。	課題を考察することができていない。
思考・問題解決能力	２．どのような学習の工夫が必要か検討することができる。	課題に対し，論理的整合性を持ち，多角的に検討している。	課題に対し，ほぼ論理的整合性を持った検討をしている。	課題に対し，自分の考えを述べることができる。	課題に対し，自分の考えを十分に述べることができない。	課題に対し，考えていない。
思考・問題解決能力	３．効果的な授業を模擬授業を通して考え創造することができる。	模擬授業を通して課題に見つけ，その解決を目指して論理的整合性を持ち，多角的に考察し工夫している。	模擬授業を通して課題にを見つけ，その解決を目指してほぼ論理的整合性を持った考察を加え工夫している。	模擬授業を通して課題を見つけ，その解決を目指して自分の考えを述べることができる。	模擬授業を通して課題を見つけることができるが，自分の考えを述べることができない。	課題を見つけることができていない。
技能	１．児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能を身につけている。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能を大変よく身につけている。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能を身につけている。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能をある程度身につけている。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能を十分に身につけていない。	児童に身につけさせたい基礎的・基本的な技能をまったく身につけていない。
技能	２．学習指導案を作成できる。	学習指導案を正確に作成できている。	学習指導案をほぼ作成できている。	学習指導案をある程度作成できている。	学習指導案を十分に作成できていない。	学習指導案をまったく作成できていない。
技能	３．模擬授業を実施できる。	模擬授業を大変よく行うことができている。	模擬授業を行うことができている。	模擬授業をある程度行うことができている。	模擬授業十分に行うことができていない。	模擬授業をまったく行うことができていない。
技能	４．模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身につけている。	模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を大変よく身につけている。	模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を身につけている。	模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力をある程度身につけている。	模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力を十分に身につけていない。	模擬授業の評価・分析を通して，授業実践力をまったく身につけていない。
態度	意欲的かつ主体的に学修に取り組む態度が見られる。	質問など積極的に行い，疑問を解決し，授業内容を理解した上で，適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ，授業内容を理解した上で，コメントシートを提出している。	授業に出席し，授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に欠席したり，出席しコメントシートを提出したりしているが，理解が不十分である。	授業に欠席，または出席しているがコメントシートが未提出である。

科目名	英語科教育法			授業番号	CO322	サブタイトル			
教員	西田　寛子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	授業実践に必要な知識・技術を習得するために，事前にテキストを熟読してそのポイントについてまとめ，授業ではそれを指導に生かす具体的な方法についてディスカッションを通して考案する。また，授業づくりに必要な基本的な指導技術を身に付けるために，実際の授業観察や分析を行ったり，指導教員による授業ををを児童の立場で体験したりする。さらに，教師の立場で模擬授業を行い，省察・指導の改善を行うことにより，理論と実践の往還・統合を図る。								
到達目標	・小学校外国語教育に係る背景知識や主教材，小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割，多様な指導環境について理解する。 ・児童期の第二言語習得の特徴を理解し，模擬授業における指導に生かすことができる。 ・実践に必要な基本的な指導技術と実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付ける 本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	・イントロダクション：講座の目標・内容・評価方法を確認する。 ・小学校外国語教育導入の背景・変遷，外国語活動・外国語科，小・中・高等学校の外国語科の目標，内容について理解する。 ・小・中・高等学校の連携と小学校の役割について理解する。 （授業ビデオ視聴とグループディスカッション）	
第2回	・主教材の趣旨，構成，特徴について理解する。 （グループディスカッションで互いの気づきを共有する。） ・様々な指導環境に柔軟に対応するため，児童や学校の多様性について，基礎的な事柄を理解する。	
第3回	・言語使用を通して言語を習得することについて，授業体験を通して理解する。 ・音声によるインプットの内容の類推から理解への進むプロセスを経ることを，授業体験を通して理解する。 （上記の理解を踏まえた具体的な指導法について，ディスカッションを通して考案し，模擬授業に生かす。）	
第4回	・児童の発達段階を踏まえた音声によるインプットの在り方について理解する。 ・コミュニケーションの目的や場面，状況に応じて意味のあるやり取りを行う重要性について，授業体験を通して理解する。 （上記の理解を踏まえた具体的な指導法について，ディスカッションを通して考案し，模擬授業に生かす。）	
第5回	・受信から発信，音声から文字へ進むプロセスを理解する。 ・国語教育との連携等による言葉の面白さや豊かさへの気づきについて理解する。 ・文字言語との出合わせ方，読む活動・書く活動への導き方について理解する。 （上記の理解を踏まえた具体的な指導法について，ディスカッションを通して考案し，模擬授業に生かす。）	
第6回	・児童の発話につながるよう，効果的に英語で語りかける。 ・児童の英語での発話を引き出し，児童とのやり取りを進める。 （授業場面を設定し，マイクロティーチングで上記の活動を行う。 Classroom English, Small Talk, Teacher Talk の練習をする。）	
第7回	・ALT/JTE等とのティームティーチングによる指導の在り方について授業体験の中で理解する。 （授業場面を設定し，マイクロティーチングで上記の活動を行う。 Classroom English, Small Talk, Teacher Talk の練習をする。）	
第8回	・ICT等の効果的な活用の仕方について理解し，活用法を考案する。また，デジタル教科書を指導に活用する。 （上記の理解を踏まえた具体的な指導法について，ディスカッションを通して考案し，模擬授業に生かす。）	
第9回	・学習状況の評価（パフォーマンス評価や学習到達目標の活用を含む）について理解する。 （上記の理解を踏まえた具体的な指導法について，ディスカッションを通して考案し，模擬授業に生かす。）	
第10回	・小学校での授業参観・分析や児童支援を通して，自身の授業構想・教材作成につなげる。	
第11回	・題材選定，教材研究の仕方について理解する。 ・模擬授業に向けて，適切に題材選定，教材研究を行う。	
第12回	・学習到達目標に基づいた指導計画（年間指導計画，単元計画，学習指導案，短時間学習等の授業時間の設定を含めたカリキュラム・マネジメント等）について理解する。 ・模擬授業に向けた学習指導案を立案する。	
第13回	・マイクロティーチング①：これまでの授業における知識・理解に基づき，模擬授業，省察，指導の改善を行う。	
第14回	・マイクロティーチング②：これまでの授業における知識・理解に基づき，模擬授業，省察，指導の改善を行う。	
第15回	・講座全体のまとめ，省察を行い，今後の指導の改善に向けて協議する。	
授業計画　備考2	（講座前半の回）①ウォームアップ：Classroom English，授業で使えるゲームや歌等のアクティビティ　②事前学習としてテキストを読みポイントをまとめたレポートをもとに，トピックに沿ったグループディスカッション　③指導教員による解説　＊授業テーマに沿った授業映像の視聴，指導教員による授業の体験を適宜実施 （講座後半の回）①指導計画の作成（学習指導案の作成　等）　②教材研究　③模擬授業・相互参観（全員）→リフレクション・指導教員によるコメント　→授業改善	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	・授業中のディスカッション，模擬授業実践・省察・指導の改善における意欲的な態度ならびに自律的な学びの姿勢（予習・復習）を評価する。＜態度＞
レポート	40	・理論と実践の往還を図りながら考えたことの記述内容や，指導計画（学習指導案等），指導実践の省察を評価する。＜知識・理解＞ ＊レポートについてはコメントを記入して返却するとともに，良い例はクラス全体に紹介する。
授業実践の技能	20	授業づくり，模擬授業実践における技能を評価する。＜技能＞

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・教師になる自覚と意欲をもって参加すること。 ・事前学習を前提に授業を進めるので，予習を必ずすること。また，授業中のディスカッションでは積極的に発言し，知識・理論を踏まえた指導・実践の具体案を提案すること。 ・授業後は，その日のうちに疑問に思ったことをリサーチしたり，模擬授業に必要となる英語力の増強や具体的な指導方法の考案・記述を行うこと。
授業外学修	・事前にテキストを必ず読み，そのポイントや自分の意見をレポートにまとめて授業に臨むこと。 ・指導案・指導細案の作成や，模擬授業の練習を行うこと。 ・テキストによる専門的な知識や指導法の知識を模擬授業に生かし，テキストの二次元バーコードで音声や動画を視聴して，英語の音声を繰り返し声に出して練習すること。 以上の学修を，週4時間以上行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校英語はじめる教科書（改訂第３版）外国語科・外国語活動指導者養成のためにーコア・カリキュラムに沿ってー	小川隆夫・東仁美	mpi	978-4-89643-863-5	2,640円
Crown Jr. 5	酒井英樹 ほか	三省堂	978-4-385-70642-9	337円
Crown Jr. 6	酒井英樹 ほか	三省堂	978-4-385-70643-6	337円
Let's Try!1	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25870-3	255円
Let's Try!2	文部科学省	東京書籍	978-4-487-25871-0	255円
小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編	文部科学省	開隆堂	978-4-304-05168-5	140円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校教諭・指導教諭（28年），公立中高一貫教育校指導教諭（6年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：1年），県教育委員会指導主事 （4年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，小学校の英語教育に携わる指導者に求められる総合的な英語運用力ならびに指導実践力を育成する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．小学校外国語教育についての基本的な知識・理解	小学校外国語教育に係る背景知識や主教材，小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割，多様な指導環境について十分理解しており，自分の言葉で分かりやすく説明できる。	小学校外国語教育に係る背景知識や主教材，小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割，多様な指導環境について十分理解している。	小学校外国語教育に係る背景知識や主教材，小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割，多様な指導環境について一定程度理解している。	小学校外国語教育に係る背景知識や主教材，小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割，多様な指導環境についての理解にやや不十分なところがある。	小学校外国語教育に係る背景知識や主教材，小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割，多様な指導環境についての理解が不十分である。
知識・理解	２．子供の第二言語修得についての知識と活用	児童期の第二言語修得の特徴について十分理解し，指導に生かす具体的な方法について考察して実践できる。	児童期の第二言語修得の特徴について十分理解し，指導に生かす具体的な方法について考察できる。	児童期の第二言語修得の特徴について十分理解している。	児童期の第二言語修得の特徴についての理解にやや不十分なところがある。	児童期の第二言語修得の特徴についての理解が不十分である。
技能	１．実践に必要な基本的な指導技術の修得	英語での児童への効果的な語りかけや児童とのやりとり，読む・書く活動等への導き方など，実践に必要な基本的な指導技術を十分身に付け，指導に生かすことができる。	英語での児童への効果的な語りかけや児童とのやりとり，読む・書く活動等への導き方など，実践に必要な基本的な指導技術を身に付け，指導に生かすことができる。	英語での児童への効果的な語りかけや児童とのやりとり，読む・書く活動等への導き方など，実践に必要な基本的な指導技術を身に付けている。	英語での児童への効果的な語りかけや児童とのやりとり，読む・書く活動等への導き方など，実践に必要な基本的な指導技術の習得がやや不十分である。	英語での児童への効果的な語りかけや児童とのやりとり，読む・書く活動等への導き方など，実践に必要な基本的な指導技術の習得が不十分である。
技能	２．授業づくりに必要な知識・技術の修得	実際の授業づくりに必要な知識を十分身に付け，指導計画の作成，模擬授業の実施，省察と指導の改善ができる。	実際の授業づくりに必要な知識を身に付け，指導計画の作成，模擬授業の実施，省察と指導の改善ができる。	実際の授業づくりに必要な知識を身に付け，指導計画の作成，模擬授業の実施ができる。	実際の授業づくりに必要な知識をある程度身に付け，指導計画の作成，模擬授業の実施ができるが，その内容が不十分である。	実際の授業づくりに必要な知識の修得が不十分で，指導計画の作成，模擬授業が実施できない。
態度	１．授業への貢献度	授業内容や関連する事柄に興味・関心をもち,自分の考えを自主的に発言し，クラス全体の学びに常に貢献している。	授業内容や関連する事柄に興味・関心をもち,自分の考えを自主的に発言し，クラス全体の学びに時々貢献している。	指名されれば，自分の考えを発言し，クラス全体の学びに時々貢献している。	指名されれば自分の考えを発言するが，クラス全体の学びに貢献するレベルには達していない。	指名されても自分なりの考えを発言できない。
態度	２．自律的な学び（予習・復習）	自ら進んで予習・復習の範囲を越えて学修し,必要に応じてその内容を自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解した上で，自分の言葉で説明できる。	予習・復習の範囲を学修し，その内容を十分に理解している。	予習・復習の範囲を学修するが，その内容が不十分である。	予習・復習の範囲の学修ができていない。

科目名	道徳教育指導論			授業番号	CO323	サブタイトル			
教員	重松　恵子								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	道徳教育は大きな転換期を迎えた。道徳教育の改善・充実を図るため，小学校は平成30年度，中学校は令和元年度から，特別の教科　道徳(「道徳科」)が教科化された。この改訂の内容を踏まえ，道徳教育の意義について全講義を通して明らかにしていく。道徳教育と道徳科の目標や内容・指導について講義する。また，学習指導案作成と模擬授業の演習を通して，指導方法の要点や道徳科の授業について講義し，授業実践力を身に付けることを目的とする。								
到達目標	道徳教育の改訂の要点について理解し，道徳教育の意義について考えることができるようになる。 道徳教育と道徳科の目標・内容・指導について学び，道徳教育指導全般について理解できるようになる。 道徳科の学習指導の在り方や工夫について演習を通して身に付け，授業実践ができるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	道徳とは何か　自分と道徳（1）　道徳教育の歴史　道徳教育の改訂の基本方針・要点 「特別の教科 道徳(道徳科)」への改訂の基本方針・要点・「考え議論する道徳」について理解する。	
第2回	道徳教育と道徳科の関係・つながり　道徳教育の目標　道徳科の目標 学校における道徳教育は道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行うものであるということと，「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」という道徳教育・道徳科の目標について理解する。	
第3回	学校における道徳教育の指導計画及び配慮事項，道徳科の内容の取扱い 道徳教育の指導計画（全体計画・年間指導計画）作成の意義及び配慮事項，道徳科指導の配慮事項，道徳科の教材に求められる内容の観点，評価について理解する。	
第4回	道徳科の内容　内容項目の概要及び道徳性の発達に応じた指導の要点（１） 内容項目「善悪の判断，自律，自由と責任」「正直，誠実」等（内容項目1～12）の発表 内容項目ごとに概要や指導の要点をまとめて発表する活動を通して，道徳性を養う手掛かりとなる内容項目について理解する。	
第5回	道徳科の内容　内容項目の概要及び道徳性の発達に応じた指導の要点（２） 内容項目「公正，公平，社会正義」「勤労，公共の精神」等（内容項目13～22）の発表 内容項目ごとに概要や指導の要点をまとめて発表する活動を通して，道徳性を養う手掛かりとなる内容項目について理解する。	
第6回	道徳科の授業 示範授業に参加し授業を体験することを通して，道徳科学習指導案・一般的な学習指導過程・発問の工夫・板書の工夫など，道徳科の学習指導について理解する。	
第7回	道徳科の特質及び指導方法の工夫 示範授業に参加し授業を体験することを通して，道徳科の特質を生かした指導方法，活動の在り方について理解し、活動の意義について考えることができるようにする。授業実践をする教材を決め，教材の特質について理解する。	
第8回	道徳科の授業のつくりかた（1） 学習指導案の内容，作成の手順について理解する。 内容項目の分析・児童の実態・教材分析・主題名などについて理解し，指導案を作成する。	
第9回	道徳科の授業のつくりかた（2） 教材分析・ねらい・学習課題・学習のまとめ・本時のまとめ・発問の組み立てなどについて理解し，学習指導案を作成する。	
第10回	道徳科の授業のつくりかた（3） 学習指導過程の導入・展開前段・展開後段・終末について理解し，学習指導案を作成する。	
第11回	授業実践　模擬授業（1）　模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して，授業改善の視点(授業の雰囲気づくり・指導方法の工夫など)について理解する。	
第12回	授業実践　模擬授業（2）　模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して，授業改善の視点(教材提示及び学習活動の工夫など)について理解する。	
第13回	授業実践　模擬授業（3）　模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して，授業改善の視点(板書の工夫・児童の反応への対応など)について理解する。	
第14回	授業実践　模擬授業（4）　模擬授業の改善 模擬授業を実施したり参観したりすることを通して，授業改善の視点(個に応じた指導・多様な学習指導・教態など)について理解する。	
第15回	道徳科の評価　よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成　自分と道徳（2） 道徳科における評価の意義や評価の基本的な考えについて理解する。よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うための指導の配慮事項について理解する。 また，全講義内容をまとめる活動を通して，道徳教育の意義や道徳教育指導の理解，授業実践力の変容について明らかにする。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的な受講態度，発表・討議への参加態度，グループ活動における参加・協力的態度によって評価する。
レポート	50	各回の講義の主要なポイントをまとめていること・自分の考えを述べていることで評価する。レポートはコメントを記入して返却し，次の講義で記述内容を紹介したり補足説明をしたりして活用する。
その他	40	内容項目の発表及び模擬授業の学習指導案の内容・より良い指導案にしようとする工夫や模擬授業実践態度で評価する。模擬授業内容については一人一人にコメントを返す。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	様々な事象や出来事に対して自分の意見や考えをもち，授業実践とつないで考え，真剣に受講する。

授業外学修	1　予習として，「小学校学習指導要領解説　特別の教科　道徳編」「4年小学どうとく　生きる力」のうち，次回の授業内容に関わる部分を読み，課題を把握しておくこと。 2　授業後の知識の定着を図るため、復習を欠かさず行うこと。 以上の内容を，週当たり２時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
4年小学どうとく　生きる力		日本文教出版株式会社		
小学校学習指導要領解説特別の教科　道徳編	文部科学省	教育出版		平成29年告示

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	令和6年度改訂（令和8年度版）
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	38年学校教員として従事。公立小学校教諭・教頭・校長，公立幼稚園園長　岡山市教育委員会研修指導員（指導事務嘱託）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	道徳科の授業実践や教職員研修の講師等のこれまでの経験を，講義内容（道徳科授業の指導の在り方，指導方法の工夫，学習指導案作成，模擬授業改善の視点等）に生かして指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割について理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割について理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割についてほぼ理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割について基本的な内容を理解できている。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割についての理解が十分ではない。	小学校学習指導要領に示されている目標・内容・方法を踏まえて道徳教育が果たすべき役割について理解できていない。
知識・理解	2.学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法を理解している。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法を理解することができている。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法をほぼ理解している。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法の基本的なことを理解している。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法の理解が十分ではない。	学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育及びその要となる道徳科の指導計画や指導方法を理解できていない。
知識・理解	３．指導案を作成するための知識を身に付けている。	指導案を作成するための知識を身に付けている。	指導案を作成するための知識をほぼ身に付けている。	指導案を作成するための基本的な知識を身に付けている。	指導案を作成するための知識が十分ではない。	指導案を作成するための知識が身に付いていない。
技能	１．教材研究や学習指導案の作成ができる。	教材研究や学習指導案の作成が十分できる。	教材研究や学習指導案の作成がほぼできる。	教材研究や学習指導案の作成が基本的にできる。	教材研究や学習指導案の作成が十分ではない。	教材研究や学習指導案の作成ができない。
技能	２．内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力，授業力を身に付けている。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力，授業力を十分身に付けている。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力，授業力をほぼ身に付けている。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して基本的な指導力，授業力を身に付けている。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力，授業力が十分身に付いていない。	内容項目の発表や模擬授業の実践を通して指導力，授業力が身に付いていない。

科目名	小学校教育研究Ⅰ			授業番号	CO328	サブタイトル			
教員	太田　憲孝、山田　恵子、溝田　知茂								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	基礎学力セミナーⅠ・Ⅱや総合教養養成セミナーⅠ・Ⅱで身につけた学士力を基盤にして，小学校教員として求められる各教科等の内容に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。								
到達目標	教材の研究や学習指導案の作成等を行い，小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養と実践的指導力を身に付けることができる。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	国語教材研究（１） 国語に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	太田
第2回	社会科教材研究（1） 社会科に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	山田
第3回	社会教材研究（2） 社会に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	山田
第4回	社会教材研究（3） 社会に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	山田
第5回	算数教材研究（１） 算数に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う	山田
第6回	算数教材研究（２） 算数に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	山田
第7回	算数教材研究（３） 算数に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	山田
第8回	理科教材研究（1） 理科に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	山田
第9回	理科教材研究（2） 理科に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	山田
第10回	理科教材研究（3） 理科に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	太田
第11回	国語教材研究（2） 国語に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	太田
第12回	国語教材研究（3） 国語に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	太田
第13回	国語教材研究(4) 国語に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	太田
第14回	国語教材研究（5） 算数に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	太田
第15回	体育教材研究（1） 体育に関する教養と実践的指導力を身につけるため，教材の研究や学習指導案の作成等を行う。	溝田
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	30	各回の授業で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト・模擬授業等	50	各回の主要なポイントの理解度を評価する。小テストは採点して返却する。模擬授業については重要点を解説する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習と復習を必ず行うこと。分からないことは，積極的に調べておくこと。
授業外学修	1　予習として，授業で配付される資料等を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読み、実際に模擬授業等で実践する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
教員採用試験対策参考書専門教科小学校全科	協同教育研究会	協同出版		1650
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他	小学校コースは必ず履修し，確実に単位を修得すること。			

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小・中学校教員，国立附属中学校教員(計31年)，市教育委員会指導主事(3年)（太田憲孝） 公立小教員35年(教頭を含む)，校長3年，公立幼稚園園長5年(山田恵子)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	小中学校教員や指導主事等での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，実践的学習指導力の向上に努める。（太田憲孝） 小学校教員及び管理職の実務経験を生かし，指導技術を身につけられるよう授業を展開する。(山田恵子)

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を広範かつ詳細に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を広範に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を十分に身に付けていない。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する教養を身に付けていない。
技能	１．小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を広範かつ詳細に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を広範に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を十分に身に付けていない。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する実践的指導力を身に付けていない。

科目名	小学校教育研究Ⅱ			授業番号	CO329	サブタイトル			
教員	齊藤　佳子、太田　憲孝、山田　恵子、溝田　知茂								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	小学校教育研究Ⅰで身につけた学士力を基盤にして，小学校教員として求められる各教科等の内容に関する確かな教養と実践的指導力を身につける。								
到達目標	学習指導案の作成や教材研究等を行い，小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養と実践的指導力を身につけることができる。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育実習に向けて：授業スキル　（板書，発問，的確な話し方） 板書，発問，的確な話し方等について授業において実践する方法を修得する。	山田
第2回	教育実習に向けて：教材研究（１） 小学校学習指導要領に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。	山田
第3回	教育実習に向けて：教材研究（２） 小学校学習指導要領に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。	山田
第4回	教育実習を終えて：教材研究の記録（１） 小学校学習指導要領に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。	山田
第5回	教育実習を終えて：教材研究の記録（２） 小学校学習指導要領に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。	山田
第6回	教育実習を終えて：課題探究（１） 小学校学習指導要領に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。 教材研究の記録をもとにして，授業づくりについて学んだことを省察しまとめる。	山田
第7回	教育実習を終えて：課題探究（２） 小学校学習指導要領に示された目標や内容について授業において実践する方法を修得する。 教材研究の記録をもとにして，授業づくりについて学んだことを省察しまとめる。	山田
第8回	教員採用試験に向けて：志願書作成（１）	太田
第9回	教員採用試験に向けて：志願書作成（２）	太田
第10回	教員採用試験に向けて：面接対策のポイント（１）講義	太田
第11回	教員採用試験に向けて：面接対策のポイント（２）演習 実践練習を行う，見る，語ることを繰り返す中で，一人一人の語る力を確実に向上させる。	齊藤
第12回	教員採用試験に向けて：模擬授業（１）講義	齊藤
第13回	教員採用試験に向けて：模擬授業（２）演習 実践練習を行う，見る，語ることを繰り返す中で，一人一人の小学校教師のイメージ力を確実に向上させる。	齊藤
第14回	教員採用試験に向けて：集団活動・グループワーク（１）講義	溝田
第15回	教員採用試験に向けて：集団活動・グループワーク（２）演習 実践練習を行う，見る，語ることを繰り返す中で，一人一人の小学校教師のイメージ力を確実に向上させる。	溝田
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する
レポート	30	各回の授業で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	50	各回の主要なポイントの理解度を評価する。小テストは採点して返却し，解説する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習と復習を必ず行うこと。分からないことは，オフィスアワーの時間を活用して調べておくこと。
授業外学修	1　予習として，授業で配付される資料等を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	小学校コースは必ず履修し，確実に単位を修得すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭（32年）・教頭（3年）・校長（3年），公立幼稚園園長（5年）（山田恵子） 公立小・中学校教諭（27年），市教育委員会指導主事（3年），国立附属学校文部教官（4年）（太田憲孝）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を広範かつ詳細に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を広範に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を十分に身に付けていない。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな教養を身に付けていない。
技能	1．小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を広範かつ詳細に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を広範に身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を身に付けている。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を十分に身に付けていない。	小学校教員に求められる各教科等の内容に関する確かな実践的指導力を身に付けていない。

科目名	小学校教育研究Ⅲ			授業番号	CO430	サブタイトル			
教員	溝田　知茂、太田　憲孝、齊藤　佳子、西田　寛子、山田　恵子								
単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	小学校教育研究IIで身につけた学士力を基盤にして，小学校教員として求められる教職に関する知識や技能を身につけるための学習をする。								
到達目標	新任教員として求められるレベルの専門的な知識や技能を確実に身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	小学校における教科指導（算数1） 算数科教育法での総括をして知識を深める。	太田　溝田
第2回	小学校における教科指導（算数2） 算数科教育法での実践に向けての指導法を理解する。	太田　溝田
第3回	小学校における教科指導（国語1） 国語科教育法での総括をして知識を深める。	太田　溝田
第4回	小学校における教科指導（国語2） 国語科教育法での実践に向けての指導法を理解する。	太田　溝田
第5回	小学校における教科指導（社会1） 社会科教育法での総括をして知識を深める。	太田　溝田
第6回	小学校における教科指導（社会2） 社会科教育法での実践に向けての指導法を理解する。	山田　溝田
第7回	小学校における教科指導（理科1） 理科教育法での総括をして知識を深める。	山田　溝田
第8回	小学校における教科指導（理科2） 理数科教育法での実践に向けての指導法を理解する。	山田　溝田
第9回	小学校における教科指導（音楽） 音楽科教育法での総括をして知識を深め，実践に向けての指導法を理解する。	山田　溝田
第10回	小学校における教科指導（図画工作） 図画工作科教育法での総括をして知識を深め，実践に向けての指導法を理解する。	山田　溝田
第11回	小学校における教科指導（家庭） 家庭科教育法での総括をして知識を深め，実践に向けての指導法を理解する。	西田　齊藤　溝田
第12回	小学校における教科指導（体育） 体育科教育法での総括をして知識を深め，実践に向けての指導法を理解する。	西田　齊藤　溝田
第13回	小学校における教育法規 小学校における教育法規に関する知識を深め，実践に向けての指導法を理解する。	西田　齊藤　溝田
第14回	小学校における危機管理 小学校における危機管理に関する知識を深め，実践に向けての指導法を理解する。	西田　齊藤　溝田
第15回	小学校における現代の教育問題 小学校における現代の教育問題に関する知識を深め，実践に向けての指導法を理解する。	西田　齊藤　溝田
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。フィードバックは，その時その場で行う。
レポート	30	各回の終盤で提示される課題について，自分の考えを具体的に述べていること。レポートは，コメントを記入して返却する。
小テスト	50	各回の主要なポイントの理解度を評価する。（模擬授業、グループワーク、模擬面接）
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習と復習を必ず行うこと。分からないことは，オフィスアワーの時間を活用して調べておくこと。
授業外学修	1　予習として，授業で配付される資料等を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	小学校コースは必ず履修し，確実に単位を修得すること。
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．小学校教員として求められる専門的な知識を身につけることができている。	小学校教員として求められる専門的な知識を身につけることができている。	小学校教員として求められる専門的な知識を身につけることがほぼできている。	小学校教員として求められる基本的な知識を身につけることができている。	小学校教員として求められる知識を身につけることが十分ではない。	小学校教員として求められる知識を身につけることができていない。
技能	１．小学校教員として求められる教職に関する技能を身につけることができている。	小学校教員として求められる教職に関する技能を身につけることができている。	小学校教員として求められる教職に関する技能を身につけることがほぼできている。	小学校教員として求められる教職に関する基本的な技能を身につけることができている。	小学校教員として求められる教職に関する技能が十分ではない。	小学校教員として求められる教職に関する技能を身につけることができていない。

科目名	保育実践研究Ⅰ α(公立の保育職希望者対象)	授業番号	CO431a	サブタイトル	
教員	齊藤　佳子、中　典子、國田　祥子、岡﨑　三鈴、大田原　愛美				

単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択

授業概要	必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ，保育の本質・目的，子ども理解の在り方，保育の内容・方法，保育の表現技術等，子どもの見方や保育教育現場の現状や課題を実践的に研究する。
到達目標	１，保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。 ２，保育に関する現代的課題についての現状分析，考察，検討を行う。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。
授業計画　備考	

回	概要	担当
第1回	保育の理念と概念について 保育職に就くにあたって必須となる保育の理念についての知識を再確認し、社会人・保育者として必要な知識と視点について確認する。	中
第2回	保育者として働くことに関する事項 就職後の自己研鑽等、実習では実践できない内容を知識として再確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。	中
第3回	教育法規 教育基本法、学校教育法、幼稚園教育要領等における教育法規の中にみる幼児教育の基本的事項について再確認し、保育者に求められる資質について検討する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。	中
第4回	保育の心理学 特に乳幼児期において，実践の場でみられる子どもの行動が，認知発達とどのように結びついているのかを理解する。	國田
第5回	保育者の教養(1) 子どもの保育・教育を行う上で必要となる最低限の知識の習得を確認する。 (1)では，数的処理以外の部分でも論理的思考が獲得されているかを確認する。	國田
第6回	保育者の教養(2) 子どもの保育・教育を行う上で必要となる最低限の知識の習得を確認する。 (2)では，数的処理以外の部分でも論理的思考が獲得されているかを確認する。	國田
第7回	子どもに関する福祉の制度・施策と法令 保育者として必要な子どもに関する福祉の制度・施策や法令等についての知識の習得を確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。	齊藤
第8回	子どもの健康と安全 保育者として必要な子どもの発育・発達と保健、疾病と適切な対応等についての知識の習得を確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。	齊藤
第9回	子どもの食と栄養 保育者として必要な子どもの食生活や栄養に関する知識の習得を確認し、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。	齊藤
第10回	保育実践(1) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 ⑴では、各年齢の発達や子どもの育ちに適した運動遊びの紹介と指導法の確認を行う。	岡﨑
第11回	保育実践(2) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 ⑵では、各年齢の発達や子どもの育ちに適したリトミックの紹介と指導法の確認を行う。	岡﨑
第12回	保育実践(3) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 ⑶では、各年齢の発達や子どもの育ちに適した児童文化財を用いた活動の紹介と指導法の確認を行う。	岡﨑
第13回	身体表現(1)幼児と身体表現 幼児の発達過程に合わせた身体表現についての知識を再確認しながら、実際に幼児の身体表現活動を追体験する。	西井
第14回	身体表現(2)リズム表現 リズムに着目した身体表現の指導法について確認し、子どもと行うことができるリズム表現を実践する。	西井
第15回	身体表現(3)音楽と身体表現 子どもの表現は総合的に行われることを理解し、音楽に合わせた身体表現活動について検討し、実践する。	西井
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	課題に対して適切な内容であること。コメントして返却、または授業内でフィードバックを行う。
小テスト	40	各テストのテーマの理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	理論と実践をつなげ，4年間の学びがさらに深まるよう，保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。
授業外学修	予・復習を行い，疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育に関する科目横断的な知識を習得する。	保育に関する科目の内容を横断的に見て関係性を理解し、生涯学習を鑑みて俯瞰した保育の位置づけについて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげることを知り、保育の全体像について理解し、小学校との接続に向けた保育の位置づけについて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげることを知り、保育の全体像について理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的に観る視点が不十分である。
知識・理解	２．保育に関する知識を確認する。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就いたことを想定して具体的・発展的に内容理解を深めることができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就いたことを想定して具体的に内容理解を深めることができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就くことを想定した内容を理解することができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し内容を理解することができる。	保育に関する知識の再確認をしたが知識として定着が不十分である。
思考・問題解決能力	１．保育に関する現代的課題について現状分析、考察、検討を行う。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析、考察を行い、自分なりの解決策を考えることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析、考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べ、現状分析、考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容についての調査、現状分析が不十分である。
技能	１．保育現場で活用できる実践的な技能の活用を行う。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、年齢に合わせて保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識をもとに、保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を用いて子どもと活動する事を想定して実践することができる。	子どもと活動することを想定した保育活動実践が不十分である。
態度	１．主体性を持って、活動することができる。	課外の予習・復習で、発表等の準備を事前に十分に行い、授業に主体性を持って積極的に参加することができる。	課外の予習・復習で発表等の準備を事前に行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の事前準備を行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であるが、授業には積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であり授業への参加も消極的である。

科目名	保育実践研究Ⅰ β(私立の保育職希望者対象)	授業番号	CO431b	サブタイトル	
教員	齊藤　佳子、中　典子、國田　祥子、岡﨑　三鈴、大田原　愛美				

単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択

授業概要	必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ，保育の本質・目的，子ども理解の在り方，保育の内容・方法，保育の表現技術等，子どもの見方や保育教育現場の現状や課題を実践的に研究する。
到達目標	１，保育に関する科目横断的な学習能力を習得する。 ２，保育に関する現代的課題についての現状分析，考察，検討を行う。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。
授業計画　備考	

回	概要	担当
第1回	保育の理念と概念について 保育職に就くにあたって必須となる保育の理念についての知識を再確認し、社会人・保育者として必要な知識と視点について確認する。	中
第2回	保育者として働くことに関する事項 就職後の自己研鑽等、実習では実践できない内容を知識として再確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。	中
第3回	教育法規 教育基本法、学校教育法、幼稚園教育要領等における教育法規の中にみる幼児教育の基本的事項について再確認し、保育者に求められる資質について検討する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。	中
第4回	保育の心理学 特に乳幼児期において，実践の場でみられる子どもの行動が，認知発達とどのように結びついているのかを理解する。	國田
第5回	保育者の教養(1) 子どもの保育・教育を行う上で必要となる最低限の知識の習得を確認する。 (1)では，数的処理以外の部分でも論理的思考が獲得されているかを確認する。	國田
第6回	保育者の教養(2) 子どもの保育・教育を行う上で必要となる最低限の知識の習得を確認する。 (2)では，数的処理以外の部分でも論理的思考が獲得されているかを確認する。	國田
第7回	子どもに関する福祉の制度・施策と法令 保育者として必要な子どもに関する福祉の制度・施策や法令等についての知識の習得を確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。	齊藤
第8回	子どもの健康と安全 保育者として必要な子どもの発育・発達と保健、疾病と適切な対応等についての知識の習得を確認する。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。	齊藤
第9回	子どもの食と栄養 保育者として必要な子どもの食生活や栄養に関する知識の習得を確認し、子どもの発育・発達と食生活の関連について理解を深める。合わせて、保育に必要な基礎的知識を確認する。	齊藤
第10回	保育実践(1) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 ⑴では、各年齢の発達や子どもの育ちに適した運動遊びの紹介と指導法の確認を行う。	岡﨑
第11回	保育実践(2) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 ⑵では、各年齢の発達や子どもの育ちに適したリトミックの紹介と指導法の確認を行う。	岡﨑
第12回	保育実践(3) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践。 ⑶では、各年齢の発達や子どもの育ちに適した児童文化財を用いた活動の紹介と指導法の確認を行う。	岡﨑
第13回	身体表現(1)幼児と身体表現 幼児の発達過程に合わせた身体表現についての知識を再確認しながら、実際に幼児の身体表現活動を追体験する。	西井
第14回	身体表現(2)リズム表現 リズムに着目した身体表現の指導法について確認し、子どもと行うことができるリズム表現を実践する。	西井
第15回	身体表現(3)音楽と身体表現 子どもの表現は総合的に行われることを理解し、音楽に合わせた身体表現活動について検討し、実践する。	西井
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	課題に対して適切な内容であること。コメントして返却、または授業内でフィードバックを行う。
小テスト	40	各テストのテーマの理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	理論と実践をつなげ，4年間の学びがさらに深まるよう，保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。
授業外学修	予・復習を行い，疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育に関する科目横断的な知識を習得する。	保育に関する科目の内容を横断的に見て関係性を理解し、生涯学習を鑑みて俯瞰した保育の位置づけについて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげることを知り、保育の全体像について理解し、小学校との接続に向けた保育の位置づけについて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげることを知り、保育の全体像について理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的につなげて理解することができる。	保育に関する科目の内容を横断的に観る視点が不十分である。
知識・理解	２．保育に関する知識を確認する。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就いたことを想定して具体的・発展的に内容理解を深めることができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就いたことを想定して具体的に内容理解を深めることができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し保育職に就くことを想定した内容を理解することができる。	今までに習得した保育に関する知識について再確認し内容を理解することができる。	保育に関する知識の再確認をしたが知識として定着が不十分である。
思考・問題解決能力	１．保育に関する現代的課題について現状分析、考察、検討を行う。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析、考察を行い、自分なりの解決策を考えることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析、考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べ、現状分析、考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容についての調査、現状分析が不十分である。
技能	１．保育現場で活用できる実践的な技能の活用を行う。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、年齢に合わせて保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を、より実践的な内容に発展させ、保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識をもとに、保育現場で活動することが可能な指導法を確認し実践することができる。	今まで習得してきた保育活動の知識を用いて子どもと活動する事を想定して実践することができる。	子どもと活動することを想定した保育活動実践が不十分である。
態度	１．主体性を持って、活動することができる。	課外の予習・復習で、発表等の準備を事前に十分に行い、授業に主体性を持って積極的に参加することができる。	課外の予習・復習で発表等の準備を事前に行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の事前準備を行うことができ、授業に積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であるが、授業には積極的に参加することができる。	発表等の準備が不十分であり授業への参加も消極的である。

科目名	保育実践研究Ⅱ α(公立の保育職希望者対象)	授業番号	CO432a	サブタイトル	
教員	齊藤　佳子、中　典子、國田　祥子、岡﨑　三鈴、西井　愛美				

単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択

授業概要	必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ，保育者として必要な知識技能を修得したことを確認する。保育実践並びに保育相談，育児相談，園及びクラス運営の在り方，専門機関との連携等について，実践的に研究する。
到達目標	１，問題解決のための対応，判断方法等について学びを深める。 ２，必修科目及び選択科目の履修状況を踏まえ，自らの学びを振り返り，保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。
授業計画　備考	

回	概要	担当
第1回	子どもと身体表現について 保育実践研究Ⅰで行った身体表現活動を評価・改善し、発展的に身体表現活動を行う。	西井
第2回	子どもとわらべ歌について わらべ歌の意義と保育での役割について再確認し、模擬保育を行う。	西井
第3回	手遊びと保育について 手遊びについての知識や実践した内容を再確認し、保育における手遊びについて発展的に実践する。	西井
第4回	資質能力の確認 実習等の学びを踏まえ、保育者として必要な知識技能を習得したことを確認し、保育者になる際の自らの課題について検討する。	中，齊藤
第5回	児童文化財を用いた実践 絵本（物語・紙芝居など）の読み合いの中で、言葉の楽しさや美しさを実感し、幼児の発達に即した実践の在り方を再確認する。	齊藤
第6回	保育相談について 基本的なカウンセリング技法を用いた演習を行い，保育者として保護者や他の保育者の相談に乗るうえで必要となるカウンセリングマインドを理解する。	國田
第7回	外部機関との連携について 実際に自らが将来勤務するだろう地域における福祉施設や行政によるサービスなどを調べ，連携するために知っておくべき基本的知識を確認する。	國田
第8回	保育の総合的支援について 保育現場において問題となりやすいことがらについてモデルケースを用いて検討し，これまで得てきた知識の活用を意識する。	國田
第9回	食育の計画と保育実践 食育について、幼児の食への興味や関心を高めるための様々な指導方法を学ぶ。	齊藤
第10回	幼児のおやつ調理(1)食物アレルギーと調理の衛生管理 幼児のおやつと園での食育活動の展開について、クッキング保育を行う上で必要となる知識・技術を習得する。	齊藤
第11回	幼児のおやつ調理(2)食物アレルギーと調理の衛生管理 幼児のおやつと園での食育活動の展開について、クッキング保育を行う上で必要となる知識・技術を習得する。	齊藤
第12回	保育実践(1) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践 ⑴では、各年齢の発達やこどもの育ちに適した春・夏の行事の紹介と指導法の確認を行う。	岡﨑
第13回	保育実践(2) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践 ⑵では、各年齢の発達やこどもの育ちに適した秋・冬の行事の紹介と指導法の確認を行う。	岡﨑
第14回	保育実践(3) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践 (3)では、各年齢の発達やこどもの育ちに適した通年の行事の紹介と指導法の確認を行う。	岡﨑
第15回	就職に向けて，円滑な人間関係を築くために	中
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	課題に適切な内容で作成していることについて評価する。コメントを記入して返却、または授業でのフィードバックを行う。
小テスト	30	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	理論と実践をつなげ，4年間の学びがさらに深まるよう，保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。
授業外学修	１．予・復習を行い，疑問点を明らかにして授業に臨む。 ２．発表の担当の際には，準備を怠らず分かりやすく報告すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	・幼児のおやつ調理では，材料代として600円程度徴収します。
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを自分なりにまとめ説明することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認し自分なりにまとめることができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返ることが不十分である。
思考・問題解決能力	１．問題解決のための対応、判断方法について学びを深める。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法を元に、自分なりの解決策を考えることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について、自分で調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法について考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法について理解することができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容の問題解決の対応について理解する事ができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容についての対応、判断方法への理解が不十分である。

科目名	保育実践研究Ⅱ β(私立の保育職希望者対象)	授業番号	CO432b	サブタイトル	
教員	齊藤　佳子、中　典子、國田　祥子、岡﨑　三鈴、西井　愛美				

単位数	1単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択

授業概要	必修科目及び選択必修科目の履修状況や保育・教育実習を通しての学び等を踏まえ，保育者として必要な知識技能を修得したことを確認する。保育実践並びに保育相談，育児相談，園及びクラス運営の在り方，専門機関との連携等について，実践的に研究する。
到達目標	１，問題解決のための対応，判断方法等について学びを深める。 ２，必修科目及び選択科目の履修状況を踏まえ，自らの学びを振り返り，保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。
授業計画　備考	

回	概要	担当
第1回	子どもと身体表現について 保育実践研究Ⅰで行った身体表現活動を評価・改善し、発展的に身体表現活動を行う。	西井
第2回	子どもとわらべ歌について わらべ歌の意義と保育での役割について再確認し、模擬保育を行う。	西井
第3回	手遊びと保育について 手遊びについての知識や実践した内容を再確認し、保育における手遊びについて発展的に実践する。	西井
第4回	資質能力の確認 実習等の学びを踏まえ、保育者として必要な知識技能を習得したことを確認し、保育者になる際の自らの課題について検討する。	中，齊藤
第5回	児童文化財を用いた実践 絵本（物語・紙芝居など）の読み合いの中で、言葉の楽しさや美しさを実感し、幼児の発達に即した実践の在り方を再確認する。	齊藤
第6回	保育相談について 基本的なカウンセリング技法を用いた演習を行い，保育者として保護者や他の保育者の相談に乗るうえで必要となるカウンセリングマインドを理解する。	國田
第7回	外部機関との連携について 実際に自らが将来勤務するだろう地域における福祉施設や行政によるサービスなどを調べ，連携するために知っておくべき基本的知識を確認する。	國田
第8回	保育の総合的支援について 保育現場において問題となりやすいことがらについてモデルケースを用いて検討し，これまで得てきた知識の活用を意識する。	國田
第9回	食育の計画と保育実践 食育について、幼児の食への興味や関心を高めるための様々な指導方法を学ぶ。	齊藤
第10回	幼児のおやつ調理(1)食物アレルギーと調理の衛生管理 幼児のおやつと園での食育活動の展開について、クッキング保育を行う上で必要となる知識・技術を習得する。	齊藤
第11回	幼児のおやつ調理(2)食物アレルギーと調理の衛生管理 幼児のおやつと園での食育活動の展開について、クッキング保育を行う上で必要となる知識・技術を習得する。	齊藤
第12回	保育実践(1) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践 ⑴では、各年齢の発達やこどもの育ちに適した春・夏の行事の紹介と指導法の確認を行う。	岡﨑
第13回	保育実践(2) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践 ⑵では、各年齢の発達やこどもの育ちに適した秋・冬の行事の紹介と指導法の確認を行う。	岡﨑
第14回	保育実践(3) 乳幼児の発達的特徴の確認と各年齢にふさわしい保育計画と遊びのプログラム開発・実践 (3)では、各年齢の発達やこどもの育ちに適した通年の行事の紹介と指導法の確認を行う。	岡﨑
第15回	就職に向けて，円滑な人間関係を築くために	中
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	課題に適切な内容で作成していることについて評価する。コメントを記入して返却、または授業でのフィードバックを行う。
小テスト	30	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	理論と実践をつなげ，4年間の学びがさらに深まるよう，保育教育現場の現状や課題等に問題意識を持って積極的に取り組むこと。
授業外学修	１．予・復習を行い，疑問点を明らかにして授業に臨む。 ２．発表の担当の際には，準備を怠らず分かりやすく報告すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	・幼児のおやつ調理では，材料代として600円程度徴収します。
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認する。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを自分なりにまとめ説明することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認し自分なりにまとめることができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、保育者として必要な知識・技能を習得したことを確認することができる。	必修科目及び選択必修科目の履修状況等を踏まえ、自らの学びを振り返ることが不十分である。
思考・問題解決能力	１．問題解決のための対応、判断方法について学びを深める。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容に加えて、自分で調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法を元に、自分なりの解決策を考えることができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について、自分で調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法について考察を行うことができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容について調べ、現状分析を行い、既存の対応、判断方法について理解することができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容の問題解決の対応について理解する事ができる。	保育に関する現代的課題について授業提示した内容についての対応、判断方法への理解が不十分である。

科目名	教育原理			授業番号	CP201	サブタイトル			
教員	中田　周作								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	講義形式で，教育の基本的な事項について学習していく。 特に，教育とは何かという根源的な問いと，教育行政や学校教育制度といった，児童・生徒の立場からは察し得ない事象に重点を置いて講義する。								
到達目標	現代社会における教育問題は，極めて複雑な様相を呈している。歴史的に蓄積された社会構造的な問題もあるだろうし，教育の目指すべき方向を再構築しなければならない問題もあるだろう。 本講義では，こうした社会状況を踏まえつつ，これらの問題解決の一助となるよう，今一度，教育という営みの根源に立ち返ることを目的とする。 そのため，将来，教育に携わる者が，最低限，知っておかなければならない教育学に関する基礎的な事項について学習する。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	現代の教育をめぐる諸問題 「正しい」教育の在り方をめぐる考察	
第2回	教育とは何か 教育の定義・人間と教育	
第3回	教育の思想 西洋にみる教育の思想と実践	
第4回	教育の思想 幼児教育の思想と実践	
第5回	学校教育と学力，家庭 学校教育における学力と家庭の関係	
第6回	教員の養成とは 養成，採用，研修	
第7回	子どもの日常生活 学校，放課後，家庭における教育	
第8回	家族と社会による教育 江戸期以前	
第9回	公教育とは 制度の成立とその思想	
第10回	学制とは 明治期の学校教育制度の成立と展開	
第11回	学校教育制度の成立と展開 明治期から大正期	
第12回	学校教育制度の成立と展開 昭和期から現在	
第13回	教育に関係する主な法律 教育基本法,学校教育法,教育公務員特例法など	
第14回	教育に関係する法令 教育職員免許法,地方教育行政の組織及び運営に関する法律,地方公務員法,いじめ防止対策推進法など	
第15回	現代社会における教育課題 生涯学習社会,令和の日本型学校教育	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
最終試験	70	通常のペーパーテスト。基礎的な事項の学修達成を確認する。
コメントペーパー	30	基本的には、毎回、提出する。理解の状況の確認を行う。提出物については、次回の授業の冒頭で共有し、コメントする。

評価の方法：自由記載	追試の評価は試験・レポートとする。再試の評価は試験のみとする。
受講の心得	テキストを事前に読んでくること。基本的な事項は暗記すること。
授業外学修	週当たり4時間以上，テキストを読むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
コンパス　教育原理	古賀一博ほか編著	建帛社	978-4-7679-5130-0	2090

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『教育六法』（どの出版社のものでも良い）
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．教育の思想を理解できている。	①西洋の教育思想、②日本の教育思想、③幼児や児童に関わる思想や実践の3点について、自分の言葉で説明することができる。	①西洋の教育思想、②日本の教育思想、③幼児や児童に関わる思想や実践の3点について、周辺領域の知識とも関連付けて理解できている。	①西洋の教育思想、②日本の教育思想、③幼児や児童に関わる思想や実践の3点について、概要を理解できている。	①西洋の教育思想、②日本の教育思想、③幼児や児童に関わる思想や実践の3点について、キーワードを覚えている。	①西洋の教育思想、②日本の教育思想、③幼児や児童に関わる思想や実践の3点についてのキーワードを覚えていない。
知識・理解	２．教育の歴史を理解できている。	教育の歴史に係る重要事項について、その展開と社会的背景について理解している。	教育の歴史に係る重要事項の展開について理解している。	教育の歴史に係る重要事項について理解している。	教育の歴史に係るキーワードを覚えている。	教育の歴史に係るキーワードを覚えていない。
知識・理解	３．学校教育の制度について理解できている。	学校教育の制度について、その展開の歴史と根拠となる法令を理解している。	学校教育の制度について、その展開の歴史、もしくは根拠となる法令を理解している。	学校教育の制度に関する重要事項について理解している。	学校教育の制度に関するキーワードを覚えている。	学校教育の制度に関するキーワードを覚えていない。
知識・理解	４．教育に関する法令について理解できている。	教育に関する主要な法令と条文を多数、覚えているとともに、その条文がどのように解釈されているのかを理解している。	教育に関する主要な法令と条文を多数、覚えている。	教育に関する主要な法令と条文をいくつか覚えている。	教育に関する主要な法令の名称を覚えている。	教育に関する主要な法令の名称を覚えていない。
思考・問題解決能力	１．身近な教育問題について考察することができる。	身近な教育問題を考察することを通して、自らの実践の質を向上させることができる。	身近な教育問題について学修内容に照らして考察することができる。	身近な教育問題について、自分の経験に基づき語ることができる。	身近な教育問題について語ることができる。	身近な教育問題を補足することができない。

科目名	教育史			授業番号	CP202	サブタイトル			
教員	住野　好久								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本科目は，教育の歴史に関する基礎的知識を身につけ、これまでの教育及び学校の営みがどのように捉えられ、現代に至るまで変遷してきたのかを理解する科目である。								
到達目標	1）家庭と社会による教育の歴史を理解する。 2）近代教育制度の成立と展開を理解する。 3）現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育への歴史的視点 教育の歴史について知っていることを整理するとともに、この科目の目標・内容・方法を理解する。	
第2回	人類史のなかの教育 人間はいつからどうして教育をはじめたのか考える。	
第3回	中世の西洋教育史 中世に成立した最初の教育機関である「大学」について理解する。	
第4回	中世の日本教育史 古代・中世における日本の教育機関について理解する。	
第5回	17世紀までの西洋教育史 ルネサンス期のヒューマニズムの教育からコメニウスの教育思想までについて理解する。	
第6回	18世紀までの西洋教育史（1） ルソーの教育思想とフランス革命期の公教育改革について理解する。	
第7回	18世紀までの西洋教育史（2） ペスタロッチの教育思想と教育実践について理解する。	
第8回	19世紀までの西洋教育史 ヘルバルトの教育思想について理解する。	
第9回	19世紀までの日本教育史 江戸時代までの教育について理解する。	
第10回	産業革命期の西洋教育史 産業革命が社会・教育にもたらした影響とこの時期の教育思想・学校制度等について理解する。	
第11回	明治時代の日本教育史 明治政府によって進められた公教育の制度化について理解する。	
第12回	20世紀前半までの西洋教育史 J.デューイの教育思想とこの時期の学校・教育改革について理解する。	
第13回	20世紀前半までの日本教育史 戦前の日本の教育制度、教育実践について理解する。	
第14回	戦後教育改革期の日本教育史 第二次世界大戦後の日本の教育、学校改革について理解する。	
第15回	まとめ 教育の過去と現在について，自分の教育経験もふまえて振り返る。最終レポートを作成し，発表する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
確認テスト	50	毎回の授業内容をふまえて、課題に適切に回答する。次時の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
最終レポート	50	この授業科目の内容の理解度を評価する。教育の思想家や実践家の特色と意義を考察できる。 課題提出後、授業の中で全体的な傾向についてコメントをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	適宜，コメント・シート（感想，意見，関心など）を使い，授業を進める。自ら学ぶ姿勢を保持し，授業に臨んでほしい。
授業外学修	予習として，授業内容にかかわる人物や事項を調べる。 復習として，授業で配布したプリントを読み直す。 発展学修として，授業で紹介される参考文献を読む。 以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要に応じ，授業でプリント資料を配布する。 なお，参考書を下記に示すので，読んで関心を広げることを推奨する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	1.尾上雅信他編『新・教職課程演習』教育史（第2巻），協同出版，2022年。 2.田中卓也他編『資料とアクティブラーニングで学ぶ初等・幼児教育』萌文書林，2022年。 3.尾上雅信編『西洋教育史』ミネルヴァ書房，2018年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．西洋における教育の歴史について理解している。	学修した内容について，正確に理解し，述べることができる。	学修した内容について，ほぼ理解し，述べることができる。	学修した内容について，大体述べることができる。	学修した内容について，正確に述べることができないが，自分の言葉で表現できる。	学修した内容について，まったく表現できない。
知識・理解	２．日本における教育の歴史について理解している。	学修した内容について，正確に理解し，述べることができる。	学修した内容について，ほぼ理解し，述べることができる。	学修した内容について，大体述べることができる。	学修した内容について，正確に述べることができないが，自分の言葉で表現できる。	学修した内容について，まったく表現できない。
知識・理解	３．教育の歴史における西洋と日本の関係について理解している。	学修した内容について，正確に理解し，述べることができる。	学修した内容について，ほぼ理解し，述べることができる。	学修した内容について，大体述べることができる。	学修した内容について，正確に述べることができないが，自分の言葉で表現できる。	学修した内容について，まったく表現できない。
思考・問題解決能力	１．現在の教育の状況や問題について，歴史の視点をふまえ，その背景や原因を考えることができる。	課題に対し，論理的的整合性をもち，多角的に考察している。	課題に対し，ほぼ論理的整合性をもった考察を加えている。	課題に対し，自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが，指示事項にそっていない。

科目名	教育方法学			授業番号	CP203	サブタイトル			
教員	住野　好久								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法，技術に関する基礎的な知識・技術を身につける。								
到達目標	1）教育方法の基礎的理論と実践を理解する。 2）これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育方法のあり方（主体的・対話的で深い学びの実現など）を理解する。 3）学級・児童及び生徒・教員・教室・教材など授業・保育を構成する基礎的な要件を理解する。 4）学習評価の基礎的な考え方を理解する。 5）基礎的な学習指導理論を踏まえて、目標、内容、教材・教具、授業・保育展開、学習指導形態等を含めた学習指導案を作成することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育の方法(1)　これまで受けてきた教育の方法 これまで受けてきた教育はどのような教育方法であったかを振り返る。	
第2回	教育の方法(2)　教育的な教育の方法とは 教育的に教育するための方法とはどのようなものかを考える。	
第3回	教育の方法(3)　教育方法の歴史(1)ソクラテス 古代から教育の方法は工夫されてきた。ソクラテスが編み出した「産婆術」とはどのような教育方法か？	
第4回	教育の方法(4)　教育方法の歴史(2)ヘルバルト 近代を代表するヘルバルトによる「４段階教授法」とその弟子たちが編み出した「５段階教授法」を学ぶ。	
第5回	教育の方法(5)　教育方法の歴史(3)デューイ 戦後日本の教育方法に大きな影響を及ぼしたデューイの「問題解決学習」を学ぶ。	
第6回	教育の方法(6)　教育方法の歴史(4)プログラム学習からICT活用授業へ 1960年代後半に登場した、コンピュータを活用した教育方法の出発点となった「プログラム学習」から今日のICT活用授業活用授業までの変遷を学ぶ。	
第7回	教育の方法(7)　今求められている教育方法(1) 「主体的、対話的で深い学び」を実現する教育方法を「学習指導要領」等から学ぶ。	
第8回	教育の方法(8)　今求められている教育方法(2) 中央教育審議会が提起した「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に対してICTの活用が有効であることを学ぶ。	
第9回	教育の技術(1)　相互主体的な授業のための技術(1) 今求められる相互主体的な授業を実践するためのポイントを理解する。	
第10回	教育の技術(2)　相互主体的な授業のための技術(2) 今求められる相互主体的な授業を実践するための教育内容の設定の仕方について理解する。	
第11回	教育の技術(3)　相互主体的な授業のための技術(3) 今求められる相互主体的な授業を実践するための教材開発の仕方について理解する。	
第12回	教育の技術(4)　相互主体的な授業のための技術(4) 今求められる相互主体的な授業を実践するための教授行為の工夫の仕方について理解する。	
第13回	教育の技術(5)　指導プランの作成(1) これまで学習してきたことを踏まえて指導プランを作成する。	
第14回	教育の技術(6)　指導プランの作成(2) これまで学習してきたことを踏まえて指導プランを作成する。	
第15回	教育の技術(7)　指導プランの作成(3) これまで学習してきたことを踏まえて作成した指導プランを発表する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
確認テスト	40	毎回の授業で学習したことを正しく理解し，論理的に叙述すること。次時の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
最終レポート	40	本科目で学習したことを踏まえて、提示した課題について論理的に叙述すること。
指導プラン	20	授業の中で作成する指導プランをこの科目で学んだことを踏まえて作成すること。作成過程でコメント・アドバイスをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として毎回の授業の最後に確認テストを行うので、しっかりとノートをとり、内容を理解するようにし、不明な点は遠慮なく質問をすること。配付するプリント・資料などはファイルにとじて整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，配付している資料をあらかじめ読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週あたり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜，授業の中で紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子どもたちに求められる資質・能力を育むために必要な教育の方法を理解する。	歴史的な教育方法の発展を理解した上で今日求められる教育方法を説明できる。	歴史的な教育方法の発展を理解した上で今日求められる教育方法を理解している。	歴史的な教育方法の発展も視野に入れて今日求められる教育方法を理解している。	歴史的な教育方法の発展は理解していないが、今日求められる教育方法は理解している。	歴史的な教育方法の発展も今日求められる教育方法も理解していない。
知識・理解	２．教育の目的に適した指導技術を理解する。	教育の目的に適した指導技術を深く理解している。	教育の目的に適した指導技術を理解している。	教育の目的に適した指導技術の基本を理解している。	教育の目的に適した指導技術をだいたい理解している。	教育の目的に適した指導技術を理解していない。
技能	１．学習指導理論を踏まえた学習指導案を作成することができる。	学習指導理論を踏まえた学習指導案を作成することができる基礎的な能力を十分身につけている。	学習指導理論を踏まえた学習指導案を作成することができる基礎的な能力をだいたい身につけている。	学習指導理論を踏まえた学習指導案を作成することができる基礎的な能力を少し身につけている。	学習指導理論を踏まえた学習指導案を作成することができる基礎的な能力を身につけようとしている。	学習指導理論を踏まえた学習指導案を作成することができる基礎的な能力を身につけようとしていない。

科目名	保育者論			授業番号	CP204	サブタイトル			
教員	岡崎　三鈴								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では、専門職としての「保育者」の在り方、役割、およびその本質について多角的に探究します。 保育とは、単に子どもの世話をすることではありません。子どもを「自らを自らの手で育てようとする存在」として信頼し、その命がそれぞれに輝くよう、丁寧な関わりを通じて支える高度な専門職です。 知識の習得にとどまらず、グループワークや教材研究を通じ、理論と実践を往還させながら、あなた自身が目指すべき「保育者像」を具体化していくプロセスを重視します。								
到達目標	〈知識・理解〉保育の本質、制度、保育者の役割を正しく理解し、専門職としての責任や倫理、多様な支援の在り方について専門用語を使って説明できる。〈思考・問題解決能力〉子どもの姿に基づいた環境構成や教材活用を論理的に構想でき、自身の省察通じて、専門的成長に向けた課題と目指すべき保育者像を提示できる。 なお本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育者とは 保育の本質とは何か，保育者の特質について理解する。 WORK「よい保育者」「質の高い保育」とは。	
第2回	保育者になるために 保育職の免許制度と専門倫理について理解する。	
第3回	幼稚園教諭の仕事と1日の流れ 一日の流れと具体的な役割について事例から考える。	
第4回	保育士の仕事と1日の流れ 一日の生活と保育士の具体的な役割について事例から考える。	
第5回	子どもの内面や発達を理解する保育者 モノと出会い,コトを通して育っていく子どもを理解する。	
第6回	遊びの援助をする保育者 子どもの興味・意欲に基づく「挑戦」を支える。適切な介入と見守りについて理解する。	
第7回	個と集団を生かす保育者 一人ひとりの受容と、集団の中での育ち合いついて理解する。	
第8回	家庭や地域と連携・支援する保育者 保護者の心情への配慮、地域子育て支援の役割を理解する。	
第9回	多様な子ども理解と支援する保育者 障害児保育や特別な配慮を必要とする子どもの理解と支援の実際について理解する。	
第10回	教材を通して学びを深める保育者（１） 絵本の教材研究。発達や興味に応じた選択。	
第11回	教材を通して学びを深める保育者（２） 教材研究の実践。手作り絵本の創作と表現。	
第12回	教材などを通して学びを深める保育者（３） 環境構成の役割。意欲を継続させる環境の在り方。	
第13回	成長する保育者と同僚性 職場における協力体制。学び合う関係（同僚性）の構築。	
第14回	保育者の専門性 専門職としての「原理・原則」の総括。実践を振り返る内省の技術。	
第15回	まとめ：私の保育者論 目指したい保育者像の構築。	

授業計画　備考2	事前学習・意見発表・グループ討議などを取り入れて，学生自身の保育観の自覚を促していく方法をとる。

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な学習態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	30	授業で提示される課題について，授業内容に関連させ自分の考えを具体的に述べているかを評価し，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	50	本科目の総合的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	提出物（レポートを含む）30%，授業への取組20%，試験50%
受講の心得	本講義は専門職養成の場です。単なる聴講ではなく、自ら問いを立て、クラスメイトと対話し、自身の考えを振り返るプロセスを重視します。一人の保育者としての自覚を持ち、誠実かつ主体的に参加することを期待します。
授業外学修	・テキスト以外の各テーマに関連した情報を収集すること。 ・授業時には自分の考えや他者の考えを踏まえて発表したり，討議したりする。 ・できるだけ幼児と触れ合う経験を積み重ね，社会における保育の課題や保育者の資質について自主的に調べること。 以上の内容を週あたり2時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『アクティベート保育学02保育者論』	大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸	ミネルヴァ書房	9784623084340	2000円＋税

使用テキスト：自由記載	『アクティベート保育学02保育者論』 大豆生田啓友・秋田喜代美・汐見稔幸[編著] ミネルヴァ書房

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	保育所指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を踏まえ、教育・保育過程の作成と日々の保育を工夫し、自らよりよい実践のために学び続ける意欲と資質向上をめざす意思の基礎を培う。	保育の本質を深く理解し、制度、役割、倫理について広範な知識に基づき正確に説明できる。	保育の主要な概念や制度、保育職の役割を正しく理解し、専門用語を用いて概ね過不足なく説明できる。	基本的な用語や職務内容は理解しているが、知識が断片的であったり、説明が一部不十分であったりする。	専門用語の理解が不正確、または限定的であり、保育の本質や役割について最低限の説明にとどまっている。	用語や制度、を全く理解していない、または理解しようとする姿勢が見られない。課題が未提出である。
思考・問題解決能力	「子どもの姿から何を感じ取り、どのような根拠を持って、どのような援助や環境を導き出したか」という実践的ま思考プロセスを重視して評価する。	子どもの姿に基づいた環境・教材案を多角的視点から論理的に構想でき、自己の課題を客観的に分析・省察できる。	子どもの姿に合わせた適切な援助や教材活用を考案でき、自身の保育観を根拠を持って論理的に構想できる。	具体的な案は提示されているが、根拠が主観的であったり、自身の保育観の振り返りが浅かったりする。	環境・教材の提案が大人中心の視点に偏っており、自身の保育観の構築が不十分である。	子どもの尊厳を傷つけるような不適切な関わりを肯定する、あるいは論理的な思考・省察が全く見られない。

科目名	教育心理学			授業番号	CP205	サブタイトル			
教員	國田　祥子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	教育心理学とは，学び手としての子どもを心理学の視点から理解し，支援するための科学である。 この授業では，子どもの学びと適応の支援という視点から，教育に関する心理学的知見を広く扱う。								
到達目標	実際に教育現場に立つ際，児童・生徒の理解を助けるために必要となる，心理学的な視点の基礎を，講義を通じて身につけることを目指す。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の習得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育心理学とは 教育心理学とはどのような学問で，教職のための何について学ぶのかを理解する。	
第2回	心身の発達①　乳幼児期の発達 乳幼児期の心身の発達の姿と，発達を支援する教師や保育者のかかわりについて理解する。	
第3回	心身の発達②　児童期・青年期の発達 児童期・青年期の発達の特徴やその個人差，またその背景にあるものを理解し，教師としてかかわることの意味を考える。	
第4回	学びのメカニズム①　学習と知識獲得 心理学で言う「学習」の意味を理解したうえで，どのようなときに学習が生じるのかを考える。	
第5回	学びのメカニズム②　認知情報処理と記憶 人間の心の働きを情報処理になぞらえて捉える認知心理学の視点から，学校における学びを考える。	
第6回	学びのメカニズム③　動機づけと学習 学びにおいて重要な役割を果たす動機付けの理論や機能，また動機づけの高め方について考える。	
第7回	認知発達と学習支援 知識獲得のプロセスを踏まえ，子どもの学びと効果的な学習指導や授業づくりを考える。	
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り，理解を確認する。	
第9回	学級集団と学習支援 学級をはじめとする子どもたちの集団の特徴や人間関係がどのように学習効果に影響するかを理解する。	
第10回	個性や個人差と学習支援 性格や認知特性に関する理論を踏まえて子どもの個性や個人差の捉え方を理解し，学びとの関係を考える。	
第11回	教育評価 教育評価の理論と方法について，また子どもの学力や知能について，考え方や測定方法を理解する。	
第12回	特別な支援と教育心理学①　障害の基本的理解 発達障害の特性のある子どもに対する適切な理解と，それに基づいた配慮のあり方について理解する。	
第13回	特別な支援と教育心理学②　障害児への教育的支援 発達障害の特性のある子どもの苦手なものごとの把握と，適切な手立ての実際について理解する。	
第14回	学校教育を取り巻く諸問題 個々の子どもに起きる学びや適応などについて，第13回までとは異なる視点から取り上げ，紹介する。	
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回の内容を振り返り，理解を確認する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の前にテキストを読み，4時間以上予習しておくこと。学習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
教育心理学(よくわかる!教職エクササイズ 2)	田爪宏二/森田健宏/田爪宏二	ミネルヴァ書房	9784623081776	2200円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．講義内容を多面的かつ十分に理解し，さまざまな問題とのかかわりの中で得られた知識を活用できる	呈示された知識の理解に基づき，さまざまな問題とのかかわりの中で活用することができる	呈示された知識をほぼ理解し，多少の不十分があっても多面的に理解する努力をした上で活用することができる	理解は十分とは思われず，必要な知識も不足しているものの，活用に向けて努力している	授業内容を十分に理解できているとは思われず，知識の獲得や活用に向けての努力も不足している	講義そのものを理解できておらず，知識が獲得されていないため，活用できない

科目名	教育・保育課程総論			授業番号	CP206	サブタイトル			
教員	岡﨑　三鈴、藤井　裕士								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	第1～7回においては，幼児期の子どもの発達段階に沿った保育・教育課程の在り方について，基本的理念や具体的展開にふれながら講義する。 第8～15回においては，小学校期における学習指導とカリキュラムについて，歴史的展開をたどりながら教育的意義について講義する。								
到達目標	・幼児期の教育と教育課程についての基本的理念を体系的に理解し、それらに基づく年間の指導計画や指導案の構造と作成上の留意点について具体的事例を通して説明できる知識を修得している。 ・児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について，その概要と特質を説明することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育・保育の共通化と施設 3歳以上児の「幼児教育」としての共通化。施設別の名称と資格の体系について理解する。	岡﨑　三鈴
第2回	全体的な計画の意義と教育課程 各施設における教育・保育の根幹となる「全体的な計画」および「教育課程」の意義と編成原理について理解する。	岡﨑　三鈴
第3回	指導計画の作成原理とカリキュラム 発達と生活リズムに応じた「全体」から「個別・クラス」への展開について理解する。	岡﨑　三鈴
第4回	指導計画の具体例と展開 「ねらい」と「環境」を繋ぎ、子どもの期待と意欲を育む計画の実際について理解する。	岡﨑　三鈴
第5回	保育の観察と記録 「やってみたい」の発見と、保育者の想いをのせるエピソード記述について理解する。	岡﨑　三鈴
第6回	保育カンファレンス 「保育カンファレンス」の定義、語り合いの意義、ファシリテーターの役割について理解する。	岡﨑　三鈴
第7回	保育におけるカリキュラム・マネジメント PDCAサイクルによる保育の質の向上、園長を中心としたチームによる組織的な改善プロセスについて理解する。	岡﨑　三鈴
第8回	小学校における教育課程の基準 小学校における「教育課程の意義」や「教育課程に関する法制」について理解する。	藤井　裕士
第9回	小学校教育の基本と教育課程の役割 小学校における「教育課程編成の原則」について理解する。	藤井　裕士
第10回	小学校における,生きる力を育む各学校の特色ある教育活動の展開 小学校教育における「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」や,「育成を目指す資質・能力」について理解する。	藤井　裕士
第11回	小学校教育におけるカリキュラム・マネジメントの充実 小学校におけるカリキュラム・マネジメントの実施上のポイントについて理解する。	藤井　裕士
第12回	小学校における教育課程の編成① 小学校における「各学校の教育目標と教育課程の編成」について理解する。	藤井　裕士
第13回	小学校における教育課程の編成② 小学校の「教育課程編成における共通的事項」や「学校段階等間の接続」について理解する。	藤井　裕士
第14回	小学校における教育課程の実施と学習評価 小学校における「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」や「学習評価」について理解する。	藤井　裕士
第15回	各学校におけるカリキュラム・マネジメント 小学校における,全教職員で取り組むカリキュラム・マネジメントの方法や教育目標を意識した授業づくりについて理解する。	藤井　裕士
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート・ワークシート	20	各回の終盤で提示される課題について、自分の考えを具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。ワークシートについては、次回授業で全体の傾向についてコメントを行う。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	第1～7回においては、レポートについては，コメントを記入して返却する。 第8～15回においては，授業で記入したワークシートの回収を行うため、授業における学修内容を丁寧に記載すること。
授業外学修	・授業で提示された課題のレポートを書く。 ・発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり２時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説 総則編	文部科学省			
幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領		チャイルド社		

使用テキスト：自由記載	「小学校学習指導要領解説　総則編」文部科学省 「保育所指導指針・解説」厚生労働省 「幼稚園教育要領・解説」内閣府・文部科学省・厚生労働省

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	幼児教育の基本的理念や制度や専門用語を正しく理解した上で、「全体的な計画」から各指導案に至る編成の仕組みや対象別の計画構造を把握し、さらに観察・記録・カンファレンスを通じた省察の意義やカリキュラム・マネジメントの理論を修得している。	幼稚園教育要領等の基本理念を正確に記述でき、専門用語を用いて、全体的な計画から日々の指導案に至る一貫した仕組みを他者に詳しく説明できる。	各種指導計画の役割や作成原理、エピソード記述の意義、カリキュラム・マネジメントの概念を正しく理解しており、主要な専門用語の意味を適切に解説できる。	全体的な計画と指導案の関係や、3歳未満児と3歳以上児の計画の違いなど、講義で扱った基本的な構造について概ね理解し、記述できる。	施設による名称や資格の違い、指導計画の名称、記録の種類など、保育者として最低限備えておくべき基礎的な用語や仕組みを理解している。	幼児教育の基本理念や指導計画の体系について理解が不十分であり、専門用語を正しく用いて説明することができない。
知識・理解	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について，その概要と特質を説明することができる。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について，その概要と特質を広範かつ詳細に説明できている。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について，その概要と特質を広範に説明できている。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について，その概要と特質の基礎的な内容を十分に説明できている。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について，その概要と特質の基礎的な内容を十分に説明できていない。	児童期における教育課程の歴史的展開や教育的意義について，その概要と特質の基礎的な内容を説明できていない。

科目名	保育内容総論 1クラス			授業番号	CP207A	サブタイトル			
教員	岡崎　三鈴								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	乳幼児の発達と保育内容の目標を関連付け，5領域のねらい及び内容を理解するとともに，保育の全体的な構造を理解するとともに小学校以降の教育との関連について理解する。また，指導計画について理解し，園生活全体を通して総合的な指導を行うことを理解し，幼児の姿と関連付けて考えることができる。								
到達目標	【知識・理解】保育の基本原則、養護と教育の概念、歴史的変遷、および家庭・地域・小学校との連携の意義を体系的に理解している。 【思考・問題解決能力】子どもの発達や生活実態を分析し、アフォーダンス理論等を活用した環境構成や、多様なニーズに応じた援助方法を論理的に考案できる。なお、この科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の習得に貢献する。								
授業計画　備考	各回のテーマについての基本的事項の理解を深める。さらに，保育内容と保育の構造について総合的に学ぶとともにその具体的内容についてワークシート等の利用により，グループ討議を実施する。								

回	概要	担当
第1回	保育の基本及び保育内容の理解 法律に基づく保育の定義と「養護・教育」の基本目標	
第2回	保育の全体構造と保育内容 「養護」と「教育」の一体的な展開と資質・能力の3つの柱	
第3回	保育内容の歴史的変遷 創設期から現代に至る社会的背景と保育科目の推移	
第4回	子どもの発達の特性と保育内容（5領域）－乳幼児保育，満1歳以上3歳未満児－ 乳児・3歳未満児における応答的な関わりと愛着形成	
第5回	子どもの発達の特性と保育内容（5領域）－3歳以上児，異年齢－ 3歳以上児の生活習慣の自立と異年齢保育の意義	
第6回	個と集団の発達と保育内容（5領域） 一人ひとりを生かした集団形成と自己課題への援助	
第7回	保育における観察と記録 乳幼児の目線に立つ観察の観点と時系列記録	
第8回	養護と教育が一体的に展開する保育の在り方 生命の保持と情緒の安定を基盤とした教育的援助	
第9回	環境を通して行う保育の在り方 アフォーダンス理論に基づく環境構成と直接体験の価値	
第10回	生活や遊びによる総合的な保育の在り方 幼児期にふさわしい生活の展開と「伴走する援助」の在り方	
第11回	遊びや発達の連続性に考慮した保育の在り方 家庭生活と園生活、体験の多様性を支える接続の在り方	
第12回	家庭，地域との連携をふまえた保育 保護者への伴走型支援（見守り・気配り）と社会資源の活用	
第13回	小学校との連携をふまえた保育の在り方 教育方法の違いを理解し「円滑な接続」を図る発想の転換	
第14回	特別な支援を必要とする子どもの保育の在り方 個別の特性理解と専門機関・家庭とのチーム支援	
第15回	多文化共生の保育 多様な文化や背景を持つ子どもと家庭への理解と受容	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	事前学習，テキストの理解，意見交換などに積極的に取り組めたかを評価する。
レポート	30	自主的にワークシートを提出したかを評価し，コメントを記入して返却する。
定期試験	50	振り返りシートを中心に総合的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	発表やグループ討議など，主体的に参加すること。そのための予習，復習を欠かさないこと。
授業外学修	事前学習をして授業に臨む。 授業後は必ず振り返りシートを記入する。 以上の内容を週あたり2時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改定新版マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ保育内容総論	開　仁志　編著	保育出版社	987-4-909378-60-6	2270円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	保育の基本理念（養護と教育の一体性）、歴史的変遷、環境構成の理論、および家庭・地域・小学校・多文化連携に関する専門知識を体系的に理解している。	養護と教育の一体性や幼小接続、多文化共生の理論を深く理解し、それらの関連性を体系的に説明できる	各回の主要な概念を正しく理解し、専門用語を適切に用いて解説できる。	保育の基本用語や歴史、法令の概要を概ね理解しており、標準的な内容を説明できる。	保育者として最低限必要な基礎知識（資質・能力の3本柱など）を習得している。	基礎知識が著しく不足し、保育の目的や内容に関する専門用語を正しく使用できない。
思考・問題解決能力	子どもの発達や遊びの姿を分析し、アフォーダンス理論等を用いて、多様なニーズに応じた適切な保育の在り方を論理的に考案できる。	多様な背景を持つ子どもの姿を鋭く分析し、理論に基づいた独創的かつ説得力のある援助案や環境構成を提示できる。	学んだ発達理論や連携の意義を適切に応用し、子どもの姿に応じた具体的な配慮事項や環境の設定を考案できる。	提示された事例に対し、講義で示された標準的な援助方法や家庭連携の在り方を妥当に選択できる。	指示された状況下で、子どもの安全や発達に配慮した最低限の保育の判断ができる。	子どもの姿や環境の意図を適切に捉えることができず、適切な援助や環境構成を導き出せない

科目名	特別支援教育			授業番号	CP208	サブタイトル			
教員	中　典子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	講義形式で，特別支援教育の基本的なことについて学習する。 特に，幼児や児童生徒に特別な配慮を必要とする状況，保育や教育課程の内容，支援・教育の方法，保育・教育施設や学校と関係機関との連携のあり方について講義する。								
到達目標	保育者・教育者は、特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒が学習の場において将来の自立に向けた学びができるよう，保育・教育していく必要がある。そのために，本講義では，幼児や児童生徒に特別な配慮を必要とする状況，保育や教育課程の内容、支援・教育の方法，保育・教育施設や学校と関係機関との連携のあり方を学び，理解できるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の障害の特性について理解する。	
第2回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の心身の発達 特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒一人一人の心身の発達に関するアセスメントの方法を理解する。	
第3回	特別支援教育に関する制度の理念や仕組み 障害者総合支援法，障害者の権利に関する条約の内容を理解する。	
第4回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活 保育や授業をするうえで必要とされる配慮を理解する。	
第5回	特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の教育課程 特別支援教育における教育課程について理解する。	
第6回	発達障害をはじめとする障害のある幼児や児童生徒への合理的配慮の提供 合理的配慮の提供について理解する。	
第7回	「通級指導」と「自立活動」の教育課程上の位置づけ 特別支援教育における指導技術について理解する。	
第8回	「個別指導計画」の意義と方法 「個別指導計画」を実際に記載し，その意義と方法を理解する。	
第9回	「個別指導計画」に基づく指導 「個別指導計画」に基づく指導をDVD視聴に視聴により理解する。	
第10回	「個別教育支援計画」の意義と方法 「個別教育支援計画」を実際に記載し，その意義と方法を理解する。	
第11回	保育・教育施設や学校，家庭と地域の関係機関の連携のあり方 「個別教育支援計画」より，暮らしにおいて必要な社会資源を理解する。 保育・教育施設や学校をとりまく社会資源についての情報を収集し，連携の方法を理解する。	
第12回	多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方 多文化の幼児や児童生徒が置かれている状況を理解する。 多文化の幼児や児童生徒支援に対する学校と家庭と地域の関係機関との連携のあり方を理解する。	
第13回	貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習や生活のしづらさ 子どもの貧困対策について理解する。	
第14回	貧困により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒への教育保障 学習環境を整えるための支援について理解する。	
第15回	多文化や貧困問題により特別な配慮を必要とする幼児や児童生徒の学習支援 幼児や児童生徒に対して学習保障をするためにどのような対応が必要が理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表への参加，予・復習の状況によって評価する。
授業ごとに示す課題	90	毎回の授業で示す課題に対して具体的に述べていること。課題についてはコメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業内容の理解を深めるため，授業開始前までにテキストを読んでおくこと。
授業外学修	授業開始前までに，テキストの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
特別支援教育と障害児の保育・福祉 切れ目や隙間のない支援と配慮	立花直樹他編	ミネルヴァ書房	978-4-623-09570-4	定価 2800＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる。	幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる。	特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方を考えるために必要なことが理解できる。	特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方が理解できる。	特別な配慮を必要とす保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校、関係機関との連携のあり方の理解が十分でない。	特別な配慮を必要とする保育・教育に対する保育・幼児教育施設や学校，関係機関との連携のあり方が理解できていない。
思考・問題解決能力	２．幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる。	幼児や児童生徒の生活のしづらさを理解し，特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる。	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができる。	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の基礎を考えることができる。	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることが十分できていない。	特別な配慮を必要とする教育に対する学校と関係機関との連携のあり方を考えるために必要な支援の方法を考えることができていない。

科目名	教職概論			授業番号	CP209	サブタイトル			
教員	太田　憲孝								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	教職概論は，子どもの生活と学校，教師の仕事，教師に求められる資質・能力等について，使用するテキスト及び関係する資料をもとに理解する。教職を目指す学生が，職業論（教職の全体像をつかむとともに，教職に関する基礎的な知識）を身に付け，教職に対する意欲を喚起し，専門職としての基礎を身に付ける。								
到達目標	子どもの生活と学校，教師の仕事，教師に求められる資質・能力等の視点から，教職に対する理解を深めるとともに，教師としての使命や責任を知り，教職に対する自らの意欲や適性を見つめ直すことを到達目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	本科目を学ぶ目的 「教師に対する保護者の意識を取り上げた配布資料を読み、教師の道を志すための構えを持つ。」	
第2回	最近の子どもの生活 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、最近の子どもの生活の現状や問題点、課題解決の取り組みについて考えをもつ。」	
第3回	学校の中での子ども（１） 「使用テストの中の関係する頁や配布資料を読み、いじめの現状と問題点、防止の取り組みについて考えをもつ。」	
第4回	学校の中での子ども（２） 「いじめの出現と学級集団のあり方に関係する資料を読み、いじめの出現傾向と防止の方法について考えをもつ。」	
第5回	学習指導の役割と方法 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、学習指導とレディネス、家庭の文化資本等との関係について考えをもつ。」	
第6回	学習指導と指導過程 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、目標設定や学習過程に働く様々な内発的動機付けについて考えをもつ。」	
第7回	学習指導と学習形態 「使用するテキストの中の関係する頁や配布資料を読み、一斉学習や小集団学習等の活用の仕方について考えをもつ。」	
第8回	生徒指導の意義や目的、機能 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、生徒指導の教育的意義や様々な教育活動における機能等について考えをもつ。」	
第9回	生徒指導の方法 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、児童生徒理解の重要さ、集団指導・個別指導を有効に機能させる３つのモデルについて考えをもつ。」	
第10回	キャリア教育の目的と内容 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、キャリア教育の目的や今までに経験した具体的な取り組みについて考えをもつ。」	
第11回	教育相談の目的と方法 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、教育相談の意義や目的、実際に教育相談を行うときの配慮について考えをもつ。」	
第12回	学級経営の内容と方法 「使用テキストの中の関係する頁と配布資料を読み、学級経営の概念や学級経営のあり方について考えをもつ。」	
第13回	学級経営と特別活動 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、小学校特別活動の目的や内容を理解するとともに、よりよい学級づくりについて考えをもつ。」	
第14回	教師に求められる資質・能力 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、子どもと向き合う教師の姿や教師に求められる資質・能力について考えをもつ。」	
第15回	学び続ける教師 「使用テキストの中の関係する頁や配布資料を読み、教育の本質を求め続ける教師の生き方について考えをもつ。」	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な学習態度や予習に対する取り組みを評価する
レポート	30	授業毎の学習内容の理解を評価する。提出されたレポートはコメントを付けて返却し、学びの深まりを理解できるようにする。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	テキストを読んだり，グループで話し合ったりするすることを通して，教職や教師のあり方等について考えを深めること。
授業外学修	１．予習として，使用テキストの授業内容にかかわる部分を読み，課題をレポートにまとめる。 ２．教育に関するニュースに関心をもち，自分の考えや感想を話すことができるようにする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新版（改訂二版）教職入門 教師への道	藤本典裕	図書文化	978-4-8100-9720-7	1980円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業において随時紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小・中学校教員(27年)，国立附属中学校教員(4年)，市教育委員会指導主事(3年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	小・中学校教員や指導主事等での現場体験を通して得た知見を学生に伝えることで，実感を伴った理解を図り，学習指導力，生徒指導力などの実践的指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.最近の子どもの生活や学習の状況、教師の仕事、教師に求められる資質・能力等について理解している。	・最近の子どもの生活や学習の状況、教師の仕事、教師に求められる資質・能力等について、教師の立場に立って深く理解している。	・最近の子どもの生活や学習の状況、教師の仕事、教師の求められる資質・能力等について、深く理解している。	・最近の子どもの生活や学習の状況、教師の仕事、教師に求められる資質・能力等について理解している。	・最近の子どもの生活や学習の状況、教師の仕事、教師に求められる資質・能力についての理解がやや不十分である。	・最近の子どもの生活や学習の状況、教師の仕事、教師に求められる資質・能力の理解が不十分である。
態度	1． 教職に関する基礎的な知識・理解をもとに、教職に対する自らの志や適性を見つめ直そうとしている。	・教職に関する基礎的な知識・理解をもとに、教職に対する志や適性等を見つめ直し、自らの進路を総合的に熟考し判断しようとしている。	・教職に関する基礎的な知識・理解をもとに、教職に対する志や適性等を見つめ直し、自らの進路を総合的に判断しようとしている。	・教職に関する基礎的な知識・理解をもとに、教職に対する志や適性を見つめ直し、自らの進路を判断しようとしている。	・教職に対する基礎的な知識・理解をもとに、教職に対する志や適性を見つめ直すことがやや不十分であり、進路の判断に迷いがある。	・教職に対する基礎的な知識・理解が不十分であり、教職に対する自らの志や適正を見つめ直すことが難しい。

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の指導法	授業番号	CP210	サブタイトル			
教員	太田　憲孝、山田　恵子						
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	特別活動及び総合的な学習の時間の教育的意義，目標，内容，学習過程，指導計画，家庭・地域等との連携，評価について演習を通して講義する。						
到達目標	特別活動及び総合的な学習の時間の教育的意義，目標，内容，学習過程，指導計画，家庭・地域等との連携，評価について理解することができるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。						
授業計画　備考							

回	概要	担当
第1回	教育課程としての特別活動の領域 教育課程における特別活動の内容である学級活動，児童会活動，クラブ活動，学校行事の位置づけについて理解する。	太田
第2回	特別活動の目標と内容 学習指導要領に示された３つの資質・能力の柱と特別活動の目標と内容の関連について理解する。	太田
第3回	特別活動の特質と教育的意義 特別活動を構成する学級活動，児童会活動，クラブ活動，学校行事それぞれの特質と教育上の意義について理解する。	太田
第4回	特別活動と各教科等との関連 各教科や総合的な学習の時間と特別活動で育成する資質・能力の特徴について理解する。	太田
第5回	学級活動の目標と内容 学習指導要領に示された学級活動の目標や内容の特質を理解し，指導する方法を習得する。	太田
第6回	学級活動の指導計画と指導過程 国立教育政策研究所や岡山県教育センターから示された様式に沿って学習指導案を作成する方法を習得する。	太田
第7回	学級活動の模擬授業 作成した学習指導案に基づいて教材研究を行い，模擬授業を実施することを通して実践的指導力を身に付ける。また，自己評価及び相互評価を通して実践を振り返る。	太田
第8回	児童会活動，クラブ活動，学校行事の目標と内容，家庭・地域等との連携 学習指導要領の児童会活動，クラブ活動，学校行事の目標と内容に示された活動の特質について理解する。	太田
第9回	特別活動における評価 特別活動において設定した目標に応じた評価方法（パフォーマンス評価やポートフォリオ評価等）について理解する。	山田
第10回	総合的な学習の時間の意義と教育課程における役割 総合的な学習の時間の歴史的変遷と教育的意義について理解する。	山田
第11回	総合的な学習の時間の目標と内容 学習指導要領に示された総合的な学習の時間の目標と内容の特徴について理解する。	山田
第12回	総合的な学習の時間と各教科等との関連 各教科や特別活動と総合的な学習の時間の関連について理解する。	山田
第13回	総合的な学習の時間の学習過程 総合的な学習の時間の探究の過程に応じた学習指導法を習得する。	山田
第14回	総合的な学習の時間の単元計画と年間指導計画 各学校の特質に応じた総合的な学習の時間の目標の設定方法ついて取得すると共に，単元計画や年間指導計画の立て方について理解する。	山田
第15回	総合的な学習の時間における評価 各学校において設定した総合的な学習の時間の活動の特質に応じた評価の方法を習得する。	山田
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	15	学習指導案作成の適切さを評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	20	各回の主要なポイントの理解を評価する。小テストは採点して返却し解説する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 2　学修したことや自分の考えなどをまとめ，振り返りシートを書くこと。 3　発表や討議に積極的に取り組むこと。 4　配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，テキストやノート，資料を読む。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
小学校学習指導要領解説特別活動編	文部科学省	東洋館出版	978-4-491-03469-0	141円＋税
小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間	文部科学省	東洋館出版	978-4-491-03468-3	126円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業において随時紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小中学校教員(27年)，国立附属中学校教員(4年)，市教育委員会指導主事(3年)（太田）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	教職等の経験を生かし，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。(太田，山田)

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について理解できる。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について広範かつ詳細に理解している。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容につい広範に理解している。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を十分理解している。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を十分に理解していない。	学習指導要領に示された総合的な学習の時間及び特別活動の目標や内容について基礎的事項を理解していない。

科目名	生徒指導・進路指導の理論と方法			授業番号	CP211	サブタイトル			
教員	住野　好久								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	生徒指導・進路指導の意義及び教育課程における位置づけを『生徒指導提要』等を用いて学習するとともに，他の教職員や関係機関と連携しながら集団的・個別的な生徒指導・進路指導を組織的に進めていくために必要な知識・技能を具体的な実践事例を通して学習する。								
到達目標	生徒指導・進路指導の意義及び教育課程における位置づけを理解するとともに，他の教職員や関係機関と連携しながら集団的・個別的な生徒指導・進路指導を，組織的に進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	生徒指導の意義と課題 「生徒指導」とはどのような指導のことかを、自らの体験を踏まえて考える。	
第2回	生徒指導の定義 『生徒指導提要』による生徒指導の定義づけを学ぶ。「進路指導」「キャリア教育」との関係性も学ぶ。	
第3回	生徒指導の実践上の視点 生徒指導実践の４つの視点について学ぶ。	
第4回	生徒指導の構造 『生徒指導提要』が提案する生徒指導の「2軸3類4層構造」を理解する。	
第5回	生徒指導の方法(1) 生徒指導の基本的な方法である「子ども理解」の方法について学ぶ。	
第6回	生徒指導の方法(2) 生徒指導の基本的な方法である「集団指導」「個別指導」について学ぶ。	
第7回	生徒指導の基盤 生徒指導の基盤となる「教職員集団の同僚性」「生徒指導マネジメント」「「家庭や地域の参画」を学ぶ。	
第8回	生徒指導と教育課程(1) 生徒指導と教科指導との関係について理解する。	
第9回	生徒指導と教育課程(2) 生徒指導と道徳教育・総合的な学習の時間との関係について理解する。	
第10回	生徒指導と教育課程(3) 生徒指導と特別活動との関係について理解する。	
第11回	チーム学校による生徒指導体制 生徒指導に取り組む体制、関係機関との連携・協働等について学ぶ。	
第12回	個別の課題に対する生徒指導(1)いじめ いじめ問題の現状といじめに関する生徒指導の重層的支援構造を学ぶ、	
第13回	個別の課題に対する生徒指導(2)暴力行為 暴力問題の現状と暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造を学ぶ、	
第14回	個別の課題に対する生徒指導(3)不登校 不登校問題の現状と不登校に関する生徒指導の重層的支援構造を学ぶ、	
第15回	生徒指導と進路指導を通じた子どもの「生き方指導」 生徒指導は進路指導と結びつき、進路指導は生徒指導と結びつくことで、子どもの生き方い影響を及ぼす効果的なものになることを学ぶ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
最終レポート	50	生徒指導を正しく理解し、生徒指導の内容・方法について適切に論述する。
確認テスト	50	毎回の授業の最後に，授業内容に関する小テストを行う。次時の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1）事前・事後にテキストや参考資料を読むこと。 2）発表や討論に積極的に取り組むこと。 3）配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，テキストのうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
生徒指導提要－令和4年12月－	文部科学省	東洋館出版社	9784491051758	990円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業において随時紹介する。
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．生徒指導・進路指導の意義を理解する。	生徒指導・進路指導の意義・目的・構造・組織等を説明できる。	生徒指導・進路指導の意義・目的・構造・組織等を理解している。	生徒指導・進路指導の意義・目的・構造・組織等をだいたい理解している。	生徒指導・進路指導の意義や目的は理解している。	生徒指導・進路指導の意義や目的を理解していない。
知識・理解	２．生徒指導・進路指導の教育課程における位置づけを理解する。	生徒指導・進路指導の教育課程の全領域における位置づけを説明できる。	生徒指導・進路指導の教育課程の全領域における位置づけをだいたい説明できる。	生徒指導・進路指導の教育課程における位置づけを部分的に説明できる。	生徒指導・進路指導の教育課程における位置づけを部分的に理解している。	生徒指導・進路指導の教育課程における位置づけを理解していない。
知識・理解	３．他の教職員や関係機関と連携することの重要性を理解する。	他の教職員や関係機関とどのように連携すべきかについて説明できる。	他の教職員や関係機関と連携することの重要性を説明できる。	他の教職員や関係機関と連携することの重要性を理解している。	他の教職員や関係機関と連携することの重要性を十分理解していない。	他の教職員や関係機関と連携することの重要性を全く理解していない。
技能	１．集団的・個別的な生徒指導・進路指導の技能を身につける。	集団的・個別的な生徒指導・進路指導の技能を状況に応じて実践できる。	集団的・個別的な生徒指導・進路指導の基本技能について実践できる。	集団的・個別的な生徒指導・進路指導のいくつかの技能を実践できる。	集団的・個別的な生徒指導・進路指導の技能を理解している。	集団的・個別的な生徒指導・進路指導の技能を理解していない。
技能	２．生徒指導を組織的に進めていく技能を身につける。	組織的な生徒指導に求められる技能を実践できる。	組織的な生徒指導に求められる技能のいくつかを実践できる。	組織的な生徒指導に求められる技能を理解している。	組織的な生徒指導に求められる技能のいくつかを理解している。	組織的な生徒指導に求められる技能を理解していない。

科目名	子どもと健康			授業番号	CP212A	サブタイトル			
教員	岡崎　三鈴								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本科目は，保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき，領域「健康」の意図する目標，ねらい及び内容についての理解を深め，保育における「健康」（安全）教育の位置づけを明確にする。また，遊びや生活を通しての幼児の健康な姿や，家庭と園との生活の流れの中での幼児にとっての健康な生活リズムについて，幼児の発達の特徴や健康に関わる指導の観点を明確にし，保育者としてどのような健康観をもち，子どもたちに接するべきか常に考え，実践力ある保育者への意識の向上を図ることを目的とする講義をする。								
到達目標	１．乳幼児の発達、生活習慣、食生活、安全管理、および領域「健康」のねらいと内容を体系的に理解している。 ２．子どもの発達や実態を多角的に分析し、育ちを支えるための適切な援助や環境構成、安全対策を論理的に考えることができる。 ３．領域「健康」の専門的知識に基づき、子どもの意欲を育む指導案の作成や、安全・健康を維持するための具体的な援助・配慮を記述できる。 ４．子どもの命と健康を守る保育者の責任を自覚し、現代社会の課題を捉えながら家庭や小学校と連携して健やかな育ちを支える姿勢を持っている。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「健康」とは何か 授業の概要と、心身両面における健康の定義と概念	
第2回	保育の基本と領域「健康」 幼稚園教育要領・保育所保育指針における領域「健康」のねらい	
第3回	乳幼児期の身体の発達と健康 0歳から3歳未満児における身体的発達の特性と生命の保持	
第4回	乳幼児期の生活リズムと習慣 睡眠、排泄、清潔など、基本的生活習慣の形成と自立	
第5回	乳幼児期の食生活 子どもの食を取り巻く現状と課題	
第6回	乳幼児期の運動発達 運動発達における遊びの重要性	
第7回	乳幼児期の安全 施設内・外での事故防止。ヒヤリハットとリスクマネジメント	
第8回	領域「健康」と保育方法 知識としての健康を、子どもの「育ち」に繋げる援助の理念	
第9回	生活リズム・生活習慣の指導 基本的生活習慣を心地よく身につけるための具体的な援助	
第10回	食育にかかわる指導 「食べる意欲」を育む食育計画と、アレルギー対応	
第11回	運動遊びにかかわる指導 乳児（3歳未満児）と幼児（3歳以上児）の育ちを支える環境構成と援助	
第12回	安全への配慮と安全教育 子ども自身が身を守る力を育む「安全教育」の進め方	
第13回	領域「健康」にかかわる現代的課題と動向 「10の姿」から見る健やかな心身の育ちと小学校への接続	
第14回	特別に支援の必要な子どもの健康指導 個別の発達特性に応じた健康維持と、自立への配慮	
第15回	領域「健康」にかかわる指導案の作成 「ねらい」と「環境構成」を繋ぎ、子どもの育ちを具体化する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業への積極的な態度や取組について評価する。
レポート	30	レポートのテーマに応じた内容や構成について評価し，コメントを記入して返却する。
定期試験	50	領域「健康」に関する知識・理解について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子どもの命を預かる将来の専門職として自覚を持ち、遅刻・欠席をせず真摯な態度で受講してください。講義中の私語やスマホ使用は厳禁です。各回の専門知識を確実に修得し、将来の保育実践の根拠となるよう主体的に学んでください。
授業外学修	1.毎授業の単元について事前に教科書で範囲を熟読すること。 2.授業後に，講義内容の整理をしておくこと。 3.興味を持てた部分を更に自分自身で調べること。 以上の内容を週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育内容「健康」	川邉貴子・鈴木康弘・渡邉英則	ミネルヴァ書房	9784623-085330	2200円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	乳幼児の発達、生活習慣、食生活、安全管理、および領域「健康」のねらいを正しく理解し、小学校への接続や特別な支援を要する子どもへの健康指導の在り方を修得している。	領域「健康」のねらい、乳幼児の発達、食育、安全管理に関する専門用語を正確に理解し、それらの知識を「10の姿」や「小学校との接続」「個別支援」の視点と結びつけて、論理的かつ詳細に説明できる	各回で扱った主要な概念を正しく理解しており、保育者としての具体的な配慮事項を専門用語を用いて適切に記述できる。	乳幼児期の健康に関する基礎的な知識を概ね理解しており、講義で示された標準的な内容について自身の言葉で概説できる。	領域「健康」の基本的な用語、生活習慣の種類、保育所・幼稚園における安全管理の最低限のルールなど、保育者として備えておくべき基礎的な知識を習得している。	乳幼児の健康・安全・発達に関する基本的な理解が著しく不足しており、専門用語を正しく用いて説明することができない。
思考・問題解決能力	子どもの発達特性や個別の実態を分析し、健やかな育ちを支えるための適切な援助方法や安全な環境構成を論理的に考案できる。	子どもの発達特性や生活実態、個別のニーズを多角的に分析し、育ちを支えるための具体的な援助や環境構成、安全対策を、論理性と説得力を持って提示できる	提示された事例や課題に対し、修得した知識を適切に応用して、発達段階に応じた指導の工夫や、リスク回避のための配慮事項を具体的に考案できる。	基本的な保育場面において、領域「健康」のねらいに沿った標準的な援助方法や環境構成を、大きな誤りなく選択・提案できる。	指示された状況下において、保育者として最低限必要な安全配慮や生活習慣への関わりについて、講義内容に沿って妥当な判断ができる。	子どもの姿や状況を適切に捉えることができず、発達や安全に配慮した具体的な援助や対策を導き出すことができない.
態度	子どもの命を預かる保育者の責任を自覚し、心身の健康を支える専門職として、主体的に学び続ける姿勢と高い意識を持って受講している。	子どもの生命と健康の重みを深く理解し、現代的課題や多様なニーズに対して、自ら解決策を模索する極めて意欲的な姿勢が見られる。	講義に積極的に参加し、将来の専門職としての自覚を持って、各回の課題や議論に真摯に取り組んでいる。	受講の心得を遵守し、保育者の責務を理解した上で、標準的な学習態度を維持して取り組んでいる。	欠席や遅刻をせず、最低限の受講マナーを守り、出された課題に対して期限内に取り組んでいる。	受講態度が著しく不良であり、私語やスマホ使用などのマナー違反が見られ、専門職としての自覚が欠如している。

科目名	子どもと人間関係			授業番号	CP214A	サブタイトル			
教員	廣畑　まゆ美								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	保育内容「人間関係」は，人とかかわる力を養う観点から示されている。 この授業では，保育所保育指針等に示された「人間関係」のねらい及び内容について理解し，子どもを取り囲む様々な人間関係を考察するとともに，保育者自身の役割や援助の在り方を実践的に学ぶ。								
到達目標	子どもが人とかかわる力を身に付けていく過程をとらえ，「人とかかわる力の基礎」を理解する。 保育者・教育者に求められる幅広い教養と，保育・教育に関する専門的知識を習得していく。 保育者・教育者として，子どものよきモデルとなることができるよう，明るく・前向きで誠実な態度を身につける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「人間関係」のねらいと内容…幼児期に求められる人間関係について理解する	
第2回	「人間関係」の変遷・・・子どもを取り巻く人的環境の変化	
第3回	子どもの人間関係の発達課題（１）…愛着関係の形成，情緒の形成，自我の発達	
第4回	子どもの人間関係の発達課題（２）…いざこざを通した育ち，いざこざに対する保育者の援助	
第5回	子どもの人間関係の発達課題（３）…道徳性と規範意識の芽生え	
第6回	幼児期の生活や遊びの中での人と関わる力…子どもの姿を個と集団の関係から読み解く	
第7回	遊びと人間関係の発達…遊びを通した様々な交流による人間関係の広がりと深まりについて	
第8回	保育者に求められるもの…カリキュラムマネジメントと関わりの場の生成について	
第9回	子どもの協同性を育む保育者の援助…「あそんでぼくらは人間になる」を視聴，協同から協働へ	
第10回	人間関係を結ぶ保育のあり方（１）…グループワーク①子どもの内面的な成長発達を支える遊びの探求	
第11回	人間関係を結ぶ保育のあり方（２）…グループワーク②子どもを取り巻く人的環境の探求	
第12回	人間関係を結ぶ保育のあり方（３）…グループワーク③保育場面における実践的思考の探求	
第13回	グループ発表（１）…探求に基づいた遊びの計画と実践による「保育者が子どもを見る視点」「子ども同士がかかわること」の考察	
第14回	グループ発表（２）…探求に基づいた遊びの計画と実践による「事実から客観的に子どもを把握すること」の考察	
第15回	子どもの人間関係をめぐる現代的課題　授業まとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業への取組の積極性，発表，予習・復習の状況などによって評価する。
レポート	30	テーマに沿って具体的に述べられているかを評価する。レポートはコメントをつけて返却する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「しっかりと話を聞く」「自分の考えを話す」「記録の整理」を大切にして保育者としての基礎を体得してほしい。 また，演習ではグループワーク等をおこなう。積極的に取り組み，意見交換等から知見を広げてほしい。
授業外学修	復習を欠かさないこと。授業後は授業内容の整理を行い，ノートにまとめておく。配付したプリントは順番にファイリングすること。 授業では，人とかかわる「遊び」の計画を行う。事前の準備や事後の省察を行い，丁寧に記録すること。 このことについて，１時間以上の授業外学修をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育内容「人間関係」第2版	濱名浩　編	株式会社みらい	9784860154455	2100円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育所保育指針（平成29年告示）	厚生労働省	フレーベル館	4577814234	149円＋税

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子どもが人とかかわる力を身につけていく過程の理解	子どもが人とかかわる力を身につけていく過程を十分理解し，具体的に説明することができる。	子どもが人とかかわる力を身につけていく過程を理解し，説明することができる。	子どもが人とかかわる力を身につけていく過程をおおむね理解し，説明することができる。	子どもが人とかかわる力を身につけていく過程への理解が不十分で，あまり説明できない。	子どもが人とかかわる力を身につけていく過程について理解ができておらず，説明できない。
知識・理解	２．保育者・教育者に求められる幅広い教養と知識の習熟	一人ひとりを生かした集団形成のために必要な専門知識を十分理解できており，得た知識を様々な場面で応用できている。	一人ひとりを生かした集団形成のために必要な専門知識を理解できており，得た知識を応用しようとしている。	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識をおおむね理解することができている。	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識への理解が不十分である。	一人一人を生かした集団形成のために必要な専門知識について理解できていない。
思考・問題解決能力	１．事例検討	学修した内容を柔軟に活用しながら事例を考察し，具体的に説明することができている。	学修した内容を活用しながら事例を考察し，説明することができている。	学修した内容を活用しながら事例を考察し，おおむね説明することができている。	学修した内容を活用して考察することが不十分で，あまり説明できていない。	学修した内容を活用した考察ができず，説明もできていない。
技能	１．保育の構想	個々の能力が存分に発揮できる具体的な保育方法を詳細に計画し，柔軟に実践することができている。	個々の能力が存分に発揮できる具体的な保育方法を計画し，実践することができている。	個々の能力が存分に発揮できる保育方法を計画・実践しようとしている。	個々の能力が存分に発揮できる保育方法を計画することについての理解が不十分である。	個々の能力が存分に発揮できる保育方法を計画することについての理解ができていない。
態度	１．授業への参加	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに積極的に取り組む様子が見られ，他者の意見をよく聴いて，論理的な自分の意見を構築することができている。	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに積極的に取り組む様子が見られ，他者の意見をよく聴いて，自分の意見を構築することができている。	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに積極的に取り組む様子が見られ，自分なりの意見を構築することができている。	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに取り組む過程で，自分なりに意見を構築しようとしている。	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに対し積極的に参加しておらず，自分の意見を持つことができていない。

科目名	子どもと環境			授業番号	CP216A	サブタイトル			
教員	齊藤　佳子								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	領域「環境」の指導で必要となる保育内容に関する基礎的な知識・技能について講義する。特に領域「環境」の指導の基盤となる，幼児を取り巻く環境とその現代的課題，幼児と身近な環境との関わりの発達等について説明する。また保育内容について体験的に理解するために，具体的な活動を行い指導のための基礎力を養成する。								
到達目標	下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。 １．「環境」のねらいについて，自分の言葉で語ることができる。 ２．環境の内容について，多様な視点から述べることができる。 ３．環境に関わるいろいろな活動を体験しながら，指導のための基礎力を身につける。 ４．子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に会得する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	(1)領域「環境」についての保育内容，(2)自然を観察する時の基礎力として「理科ソング」，(3)実際の体験としての「工作」・「実技」の３項目を授業で行う。								

回	概要	担当
第1回	幼児教育・保育の基本と「環境」，幼児を取り巻く環境，幼児教育で育みたい資質・能力　・理科ソング「草花」・工作など「手裏剣」 環境を通して行う教育・保育の重要性，幼児を取り巻く環境，幼児教育において育みたい資質・能力について理解する。	
第2回	領域「環境」のねらいと内容，幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）　・理科ソング「七草」・工作など「紙鉄砲」 幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の満３歳以上の子どもと満１歳以上満３歳未満の子どもの領域「環境」のねらいと内容及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」を理解する。	
第3回	領域「環境」の内容の取り扱い　・理科ソング「野菜の歌」・工作など「兜」 幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の満３以上と満１歳以上満３歳未満の子どもの領域「環境」の内容の取り扱いを理解する。	
第4回	領域「環境」における乳児保育のねらい及び内容　・理科ソング「セミの歌」・工作など「紙テープコマ」 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の乳児期の園児の保育及び保育所保育指針の乳児保育に関わる精神的発達に対する視点「身近なものと関わり感性が育つ」について理解する。	
第5回	植物との関わり　・理科ソング「甲虫類」・工作など「紙飛行機」 身近な植物と遊べる草花や木の実，草花や野菜の栽培及び保育者の援助について理解する。	
第6回	植物採集と標本（押し葉）づくり　・理科ソング「むせきつい動物」・栽培「クロッカス」「ヒヤシンス」 草花，落ち葉や木の実等の自然物を使用した遊びについて理解する。標本づくりと花の水栽培を体験的に学ぶ。	
第7回	自然・季節とのかかわり，自然現象，季節をとらえる遊び　・理科ソング「空の雲」 各季節の特徴となる動植物・自然現象や季節を感じる保育の実践について理解する。	
第8回	生き物（小動物・昆虫）との関わり　・理科ソング（復習）　・工作「押し葉絵」 乳幼児の身近な生き物に親しみをもって関わるということ，飼育の意義や目的を理解する。	
第9回	物「素材・道具」との関わり　・理科ソング（復習）　・工作「秋の自然物を使って(1)」 乳幼児の身近な物や道具とのかかわりの意義と実践について理解する。身近な物（素材・道具）や自然物を使用しての製作をする。	
第10回	数量や図形との関わり　・理科ソング（復習）　・工作「秋の自然物を使って(2)」 乳幼児の日常の園環境を通して数量や図形に親しんでいく保育の実践を理解する。身近な物（素材・道具）や自然物を使用しての製作をする。	
第11回	標識や文字との関わり　・理科ソング（復習）　・実技「お手玉」 乳幼児の日常の園環境を通して標識や文字に親しんでいく保育の実践を理解する。お手玉など伝統的な遊びを体験する。	
第12回	文化や伝統，行事などに親しむ　・理科ソング（復習）　・実技「けん玉」 日本の文化や伝統・行事や園生活における行事の意義や活動について理解する。けん玉など伝統的な遊びを体験する。	
第13回	園と地域社会・施設との関わり　・実技「あやとり」 地域社会における園の存在意義及び園・家庭・地域社会との連携・交流について理解する。幼児の生活と身近な施設との関わり方について理解する。 あやとりなど伝統的な遊びを体験する。	
第14回	情報との関わり，幼児教育・保育におけるＩＣＴ機器の活用　・理科ソング（復習）　・工作「節分(1)」 近年の幼児を取り巻く情報環境と幼児教育・保育におけるＩＣＴ等の情報機器の活用について理解する。節分など伝承行事への理解とそれにまつわる製作をする。	
第15回	他の領域や小学校教育とのつながり，領域「環境」全体のまとめ　・理科ソング（復習）・工作「節分(2)」 保幼小の連携・接続の必要性及び小１プロブレム，アプローチカリキュラム，スタートカリキュラム，小学校低学年の学校生活や生活科の具体的な内容との関連について理解する。節分など伝承行事への理解とそれにまつわる製作を行う。	
授業計画　備考2	(1)テキスト　(2)ノート　(3)ハサミ　(4)セロテープ　(5)色マジック　(6)授業時間に指示した物	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントシートにより，評価を行う。
レポート	20	授業で学修した内容を深めることができたか，要点を押さえているか，自分の考えを記述しているかを評価する。 課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また，課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
植物標本，工作物	15	自然物の収集や工作物の出来ばえについて総合的に評価する。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
受講の心得	事前学習としてテキストの該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。 領域「環境」の内容を楽しく体験しながら，子どもの興味・関心，主体性について考えてもらいたい。
授業外学修	・事前に授業の内容をテキストで予習しておく。 ・授業後に講義内容の整理や課題へ取り組む。 ・身近な動植物を意識的に探し，子どもがどのような反応をするか，遊びに使えるかなどを考える。 ・身近な物質で子どもが喜びそうな物を探し工作などをしてみる。 ・季節の変化に注意し言葉で表現する。 ・地域の伝統・文化を探り体験してみる。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新訂　事例で学ぶ保育内容　領域　環境	無藤隆　監修	萌文書林	978-4-89347-258-8	本体2200円+税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．領域「環境」のねらいと内容を理解している。	領域「環境」のねらいと内容を正確に理解し説明できる。	領域「環境」のねらいと内容を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	領域「環境」のねらいと内容について，概ね述べることができる。	領域「環境」のねらいと内容について，正確に説明できないが，自分の言葉では表現できる。	領域「環境」のねらいと内容について，まったく表現することができない。
知識・理解	2．幼児を取り巻く環境と，幼児の発達にとっての意義を理解している。	幼児を取り巻く環境と，幼児の発達にとっての意義を正確に理解し説明できる。	幼児を取り巻く環境と，幼児の発達にとっての意義を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	幼児を取り巻く環境と，幼児の発達にとっての意義について，概ね説明できる。	幼児を取り巻く環境と，幼児の発達にとっての意義について，正確には説明できないが，自分の言葉では表現できる。	幼児を取り巻く環境と，幼児の発達にとっての意義について，まったく表現することができない。
知識・理解	3．乳幼児の物理的，数量・図形，生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心，理解の発達を理解している。	乳幼児の物理的，数量・図形，生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心，理解の発達を正確に理解し説明できる。	乳幼児の物理的，数量・図形，生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心，理解の発達を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	乳幼児の物理的，数量・図形，生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心，理解の発達について，概ね説明できる。	乳幼児の物理的，数量・図形，生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心，理解の発達について，正確には説明できないが，自分の言葉では表現できる。	乳幼児の物理的，数量・図形，生物・自然との関わりの事象に対する興味・関心，理解の発達について，まったく表現することができない。
知識・理解	4．乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方を理解している。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方を正確に理解し説明できる。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方を正確ではないがほぼ理解し説明できる。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について，概ね説明できる。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について，正確には説明できないが，自分の言葉では表現できる。	乳幼児を取り巻く標識・文字等の環境と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について，まったく表現することができない。
知識・理解	5．乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について理解している。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について正確に理解し説明できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について正確ではないがほぼ理解し説明できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について，概ね説明できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について，正確には説明できないが，自分の言葉では表現できる。	乳幼児の生活に関係の深い情報・施設と，それらへの興味・関心，それらとの関わり方について，まったく表現することができない。
思考・問題解決能力	1．「環境」の内容について多様な視点から考えることができる。	課題に対し，多様な視点から考察をし，他者にわかりやすく述べることができる。	課題に対し，多様な視点から考察を加えている。	課題に対し，自分の考えを概ね述べることができる。	課題に対する自分の考えを十分に述べることができていない。	課題の提出をしていない。
思考・問題解決能力	2．「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら，指導のための基礎力を身につけている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を大変よく身につけている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら、指導のための基礎力を身につけている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しながら，指導のための基礎力を概ね身につけている。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験しているが，指導のための基礎力を十分に身につけていない。	「環境」に関わるいろいろな活動を体験していない。
思考・問題解決能力	3．子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを明確かつ十分に体験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントをある程度体験的に会得できている。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導のポイントを体験的に十分に会得できていない。	子どもが好奇心や探求心をもって活動に熱中するための指導を体験していない。
技能	1．植物標本を作成できる。	植物標本を大変よく作成できる。	植物標本を作成できている。	植物標本をある程度作成できている。	植物標本を作成したが，未提出である。	植物標本を作成していない。
技能	2．工作物を作成できる。	工作物が大変よく作成できている。	工作物を作成できている。	工作物をある程度作成できている。	工作物を作成したが，未提出である。	工作物を作成していない。
態度	1．授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的に行い，疑問を解決し，授業内容を理解した上で，適切なコメントペーパーを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ，授業内容を理解した上で記述したコメントペーパーを提出している。	授業に出席し，授業内容を理解した上で記述したコメントペーパーを提出している。	授業に出席し，コメントペーパーを提出しているが，理解したことを記述していない。書いている内容が不適切である。	授業に出席しているが，コメントペーパーが未提出である。

科目名	子どもと言葉			授業番号	CP218A	サブタイトル			
教員	伊藤　智里、山本　房子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	発達にともなう子どもの「言葉」の世界の拡がりについて，テキストから詳しく学び，理解を深める。また，言葉を通して，豊かな表現力の育ちを支えるための具体的な保育実践のあり方について学ぶ。								
到達目標	保育内容領域「言葉」について理解する。幼児が豊かな言葉や表現を身に付け，想像する楽しさを広げるために必要な専門的事項に関する知識を身に付ける。 人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能について説明できる。 言葉遊びなどの言葉の感覚を豊かにする実践について，基礎的な知識を身に付ける。 児童文化財について基礎的知識を身に付け，実践することができる。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育と保育内容領域「言葉」 -人間と言葉- 言葉とは何かについて考え，「話し言葉」と「書き言葉」の主な機能について理解する	伊藤
第2回	乳幼児期の言葉の獲得 子どもには言葉を獲得する力があることを理解し，乳幼児が言葉の仕組みを理解する過程を概観する	伊藤
第3回	乳幼児の発達と言葉 母語である日本語の特徴を理解し，乳幼児が言葉を獲得する手がかりとなる点について知る	伊藤
第4回	言葉の豊かさ-言葉遊び- 日本語の美しさ，豊かさ，美しさを感じ，子どもに伝えたい日本語を言葉遊びで体感する	伊藤
第5回	児童文化財-紙芝居- 紙芝居の歴史，特徴，演じ方の知識を習得し，実際に紙芝居を使って確認する	山本
第6回	児童文化財-紙芝居の実際- 紙芝居の特徴を生かし，演じ方を工夫しながら模擬保育を行い，評価する	山本
第7回	児童文化財-お話- 素話の特徴を知り，保育に取り入れる際の配慮について理解する	山本
第8回	児童文化財-お話の実際- 素話の模擬保育を行い，評価する	山本
第9回	児童文化財-ペープサート- ペープサートの特徴を知り，言葉を育てる視点からねらいを設定してペープサートを制作する	伊藤
第10回	児童文化財-ペープサートの実際- 制作したペープサートを用いた模擬保育を行い，評価する	伊藤
第11回	児童文化財-パネルシアター- パネルシアターの特徴を理解し，言葉を育てる視点からねらいを設定して指導できるように工夫して制作する	伊藤
第12回	児童文化財-パネルシアターの実際- 制作したパネルシアターを用いて模擬保育を行い，評価する	伊藤
第13回	児童文化財-文字あそび-かるた- かるたの歴史，特徴を理解し，文字を育てる視点で工夫してかるたを制作する	伊藤
第14回	児童文化財-かるたの実際- 周囲の人と関わりながら遊ぶことを意識して，制作したかるた遊びを実践する	伊藤
第15回	児童文化財-絵本と子ども- 絵本の歴史，特徴，保育活動と絵本について理解を深め，読み聞かせ実践を行う	伊藤
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業への積極的な取組（体験活動，発表など）の状況によって評価する。
定期試験	50	最終的な理解度について評価する。
制作物/提出物	30	児童文化財の制作物について，保育で使用するものとして適切か評価する。全体的な傾向について，授業内でコメントをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業は自ら学ぶ姿勢でのぞむとともに，保育者・教育者として子どものよいモデルとなることができるよう前向きで誠実な態度でのぞむ。
授業外学修	テキスト及び参考書の授業内容にかかわる部分を予習をして，課題を把握し，授業に出席する。授業後は振り返りをし，記録の整理をする。 様々な児童文化財による実践・演習などの授業前後の準備・振り返りをする。 このことについて，１時間以上の学修をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」	馬見塚昭久/小倉直子	ミネルヴァ書房	978-4-623-09251-2	2400＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」
その他	

備考	令和4年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．保育内容領域「言葉」の理解	保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得し，養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを十分に理解することができている。	保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき，養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができている。	保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき，養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを概ね理解することができている。	保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」について，ねらい及び内容を知識として修得することができている。	保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」について必要な知識を修得することが不十分である。
知識・理解	2．子どもが言葉を獲得するまでの発達過程の理解	人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能について十分に理解し，子どもの発達と具体的な事例を結び付けて説明することができる。	人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能について十分に理解し，子どもの発達を整理して説明することができる。	人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能についておおむね理解し，子どもの発達を整理して説明することができる。	人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能についておおむね理解することができ，その説明をすることができる。	人間にとっての話し言葉や書き言葉の意義と機能についての理解が不十分である。
知識・理解	3．児童文化財の基礎的知識	それぞれの児童文化財の特徴をよく理解し，さらに調べるなどして児童文化財の種類や年齢や場面に合わせた使い方，保育に取り入れる工夫について知識を十分に深めることができる。	それぞれの児童文化財の特徴をよく理解し，さらに調べるなどして児童文化財の種類や年齢や場面に合わせた使い方，保育に取り入れる工夫について知識を深めることができる。	それぞれの児童文化財の特徴をよく理解し，さらに調べるなどして児童文化財の種類や年齢や場面に合わせた使い方，保育に取り入れることについて知識を修得することができる。	それぞれの児童文化財の特徴を理解し，児童文化財の種類や場面に合わせた使い方，保育に取り入れることについて知識を修得することができる。	児童文化財の特徴，使い方等の理解が不十分である。
技能	1．言葉を育てる児童文化財の制作	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく，自分で調べ工夫して，言葉を育てる視点から子どもと使うことを想定して対象年齢を自分なりに設定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく，自分で調べ工夫して，言葉を育てる視点から子どもと使うことを大まかに想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解し，留意点を制作に反映することができ，言葉を育てる視点から子どもと使うことを想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な児童文化財の制作方法を理解しているが，子どもと実際に使うことができる程度の丁寧さが不十分である。	授業提示された基礎的な児童文化財の制作方法の理解が不十分であり，留意点を制作に反映していない。
技能	2．言葉を育てる児童文化財の活動実践	学修したすべての児童文化財で，子どもとの活動を想定した年齢，場面，ねらいに適切な保育活動となるよう，言葉を豊かにする配慮を考えて実践することができる。	8割以上の児童文化財で，子どもとの活動を想定した年齢，場面，ねらいに適切な保育活動となるよう，言葉を豊かにする配慮を考えて実践することができる。	6割以上の児童文化財で，子どもとの活動を想定した年齢，場面，ねらいに適切な保育活動となるよう，言葉を豊かにする配慮を考えて実践することができる。	子どもとの活動を想定した年齢，場面に適切な児童文化財をいくつか選択し，実践することができる。	子どもとの活動を想定した年齢，場面に適切な児童文化財を選択し，実践することが不十分である。
態度	1．グループ活動の取り組み	他人の話を聞き，自分なりの意見を伝え，積極的に話し合いや実践に参加することで，建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話を聞き，自分なりの意見を伝え，建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話を聞き，自分なりの意見を伝え，グループ活動に関わることができる。	自分の意見は言えないが，他人の話を聞き，グループ活動に関わることができる。	グループ活動への参加ができておらず，個人活動となっている。
態度	2．提出物準備や事前の内容学習など，自己学習をすることができる。	課外で予習復習を十分にすることができ，提出物の体裁を適切に整え，発展的な内容を取り入れて制作することができ，期限内に提出することができる。	課外で予習復習を十分にすることができ，提出物の体裁を適切に整え，自分なりに工夫して制作することができ，期限内に提出することができる。	課外での予習復習をすることができ，提出物の体裁を整え，期限内に提出することができる。	課外での予習復習が不十分であるが，提出物をまとめ，期限内に提出することができる。	課外での予習復習が不十分であり，提出ができない。

科目名	子どもと表現			授業番号	CP220A	サブタイトル			
教員	土師　範子、伊藤　智里、廣畑　まゆ美								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して，豊かな感性や表現する力を養い，創造性を豊かにする」ことが領域「表現」の目指すものである。領域「表現」に関する，幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因，幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現あそびや環境の構成などについて実践的に学ぶ。								
到達目標	(1)幼児の表現の姿や，その発達について理解できる。 1)幼児の遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 2)幼児の発達段階を理解した上で,表現を生成する過程について理解できる。 3)幼児の素朴な表現を見出し，受け止め，共感することができる。 (2)身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な技能を学ぶことを通し，幼児の表現活動を支援することができる。 1)様々な表現を感じる・みる・きく・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2)身の周りのものを身体の諸感覚で捉え，素材の特性を活かした表現ができる。 3)表現することの楽しさを実感するとともに，楽しさを生み出す要因について分析することができる。 4)協働して表現することを通し，他者の表現を受け止め共感し，より豊かな表現につなげていくことができる。 5)様々な表現の基礎的な技能を生かし，幼児の表現活動に展開させることができる。 なお，本講義はディプロマ・ポリシーの＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	令和7年度改訂								

回	概要	担当
第1回	乳幼児の生活や遊びにおける領域「表現」の位置づけ ー領域「表現」のねらいや内容・生活や遊びにおける表現とは	土師範子
第2回	子どもの発達と表現 ー模倣と創造に着目して	廣畑まゆ美
第3回	「表現」と「感性」 ー子どもにとって豊かな感性を育むことと表現することについて理解する	伊藤智里
第4回	子どもの自由な表現とは ー"わざ"の概念に着目して	廣畑まゆ美
第5回	身体的な表現 ー身体で表現するとはどういうことか検討する	土師範子
第6回	保育の中の身体表現 ー保育の中の身体表現について検討する	伊藤智里
第7回	造形的な表現 ー乳幼児が素材にかかわり試し感じる力を育む過程についての検討	伊藤智里
第8回	和楽器を用いた表現活動 ー日本の伝統楽器を用いた表現の模索	土師範子
第9回	「わらべうた」を用いた表現活動 ー音楽的な活動の出発点	廣畑まゆ美
第10回	生活から表現へ 子どものさまざまな表現の明確化	土師範子
第11回	自分たちの生活で物語を作る 生活の中から生まれるごっこ遊びから劇遊びにつながる表現遊び	伊藤智里
第12回	普段の遊びから発表会へ① ー子どもの遊びの展開と表現の可能性	廣畑まゆ美
第13回	普段の遊びから発表会へ② ー総合的な活動としての領域複合的な表現の在り方	廣畑まゆ美
第14回	普段の遊びから発表会へ③ ー子どもの豊かな表現を支える保育者の援助の具体を検討する	伊藤智里
第15回	これからの「表現」 子どもの表現を引き出す指導法につなげて	土師範子
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な授業態度,予・復習の状況，毎授業後に提出するコメントペーパーによって評価する。
実践発表	50	各課題に応じたテーマの理解や、内容の取り組みについて評価する。課題提出後に全体的な傾向についてコメントする。
定期試験	30	授業の内容理解を筆記試験で評価する。

評価の方法：自由記載	科目の特性上，再試は設けない。追試は対応する。
受講の心得	「感性や創造性を豊かにする」とはどういうことなのかについて探求してほしい。
授業外学修	1　復習として，課題を課すことがある。 2　予習として，資料を配布することがある。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献等を読む。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	幼稚園教育要領，保育所保育指針，保幼連携型認定こども園教育・保育要領

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜提示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．領域「表現」について理解し，子どもを想定したねらいや内容を考察することができる。	領域「表現」のねらいと内容を理解し,幼児の表現と発達の過程との関連性を十分に考察し，問題提起や問題解決を図ることができる。	領域「表現」のねらいと内容を理解し，幼児の表現と発達の過程の関連性を考察し，問題提起や問題解決が概ね行うことができる。	領域「表現」のねらいと内容を理解し，幼児の表現と発達の過程の関連性を考察し，問題について考えることができる。	領域「表現」のねらいは理解できているが，関連性や問題等について考察が不十分である。	領域「表現」のねらいと内容を理解できておらず，関連性や問題等についての考察が全くできていない。
知識・理解	２．乳幼児期の音楽表現・造形表現・身体表現の特性について理解し，ねらいや内容を考えることができる。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性と乳幼児が表現を生成する過程について十分に理解し,ねらいや内容を十分に考察し，問題意識を持ち，問題解決を図ることができる。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性と乳幼児が表現を生成する過程について理解し，ねらいや内容を概ね考察することができる。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性を理解し，ねらいや内容を考察できる。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性の理解が不十分であり，ねらいや内容を考察することが不十分である。	領域「表現」における音楽表現・造形表現・身体表現の特性を理解しておらず，ねらいや内容を考察することが全くできない。
技能	１．基礎的な表現の技能を修得している。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して,基礎的な表現の技能を十分に修得し，幼児の表現活動を支援することができる。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して,基礎的な表現の技能を修得し,幼児の表現活動を支援することができる。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通して,基礎的な表現の技能を修得している。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通した基礎的な表現の技能の修得が不十分である。	音楽表現・造形表現・身体表現の実践を通した基礎的な表現の技能を修得できていない。

科目名	子どもと音楽			授業番号	CP222	サブタイトル			
教員	川崎　泰子、土師　範子、河田　健二								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	弾き歌いの基礎から応用までを学べる授業です。弾き歌いを通じて教育現場で必要な音楽スキルの基礎を習得し、音楽を通じて子どもたちと心を通わせる力を養い実習先で役立つ音楽能力を学修します。								
到達目標	・子どもの発達を理解し，発達に応じた音楽表現に必要な理論及び音楽的技法を修得する。 ・弾き歌いの必要な知識を習得し，現場で実践できる技能を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	授業説明、発声指導、音楽理論の基礎 授業の説明。楽典の基礎知識を確認する。発声の基礎を習得する。	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第2回	弾き歌い・楽典の復習(１) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン　音楽理論演習	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第3回	弾き歌い・楽典の復習(２) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン　音楽理論演習	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第4回	弾き歌い・楽典の復習(３) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン　音楽理論演習	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第5回	弾き歌い・楽典の復習(４) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン　音楽理論演習	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第6回	弾き歌い・楽典の復習(５) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン　音楽理論演習	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第7回	弾き歌い・楽典の復習(６) 任意の曲の弾き歌い(発声・ピアノ演奏)個別レッスン　音楽理論演習	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第8回	小テスト これまで学習した弾き歌い曲の試験を行う	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第9回	グループに分かれて演習（１） 楽器①、楽器②、合唱　に分かれそれぞれの特性を理解する	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第10回	グループに分かれて演習（２） 楽器①、楽器②、合唱　に分かれそれぞれの特性を理解する	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第11回	グループに分かれて演習（３） 楽器①、楽器②、合唱　に分かれそれぞれの特性を理解する	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第12回	グループに分かれて演習（４） 楽器①、楽器②、合唱　に分かれそれぞれの特性を理解する	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第13回	グループに分かれて演習（５） 楽器①、楽器②、合唱　に分かれそれぞれの特性を理解する	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第14回	グループに分かれて演習（６） 楽器①、楽器②、合唱　に分かれそれぞれの特性を理解する	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
第15回	楽器①、器楽②、合唱　に分かれそれぞれの特性を理解し、練習の成果を発表する 終わり次第、それぞれのグループに対して好評を行う	川崎泰子　河田 健二　土師 範子
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	弾き歌いなどの課題への取り組み。
音楽理論課題解答提出	30	学習内容の理解度および定着度を確認し、講評を付して添削後に返却します。
小テスト（弾き歌い/グループ発表）	40	弾き歌いはそれぞれの課題をクリアしている。グループ発表では協働してそれぞれのグループの目標を達成できている。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう，努力してください。 保育実践者を意識しながら自らが表現することを主眼に置くため，積極的であること。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，予習すること。 授業で提示された課題を実施し，復習すること。 上記の内容を，週当たり1時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	こどものうた100　（小林美実編著，チャイルド本社） 大人のための音楽ワーク・ドリル（ヤマハ出版）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業中に適宜資料を配布する。
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校，中学校，私立中学，私立高校講師などの教員歴（20年）、少年少女合唱団主宰【2023年福武教育文化賞受賞】（12年)、数々の学校にて歌唱指導（20年） 川崎泰子
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かし，学校現場の体験を通して得た知識を伝えると共に，専門的な知識・技能を深め，学習指導力，実践的な音楽実技指導力の向上に努める。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．楽譜を読む力がある	問題なく音符を理解している	積極的に楽譜を理解しようとしている	時間はかかるが理解しよとしている	楽譜を理解しようとする姿勢があまりみられない	理解する姿勢が感じられない
知識・理解	２．歌唱法が理解できている	小学校歌唱共通教材を通して発声法が理解できている	積極的に発声法を理解しようとする姿勢がみられる	歌唱は苦手ながらも発声法を学ぼうとする姿勢がみられる	発声法を理解しようとする姿勢があまりみられない	歌唱する姿勢が感じられない
知識・理解	３，楽器の特性を理解している	問題なく楽器の特性を理解している	積極的に楽器の特性を理解しようとしている	楽器の特性を学ぼうとする姿勢がみられる	楽器の特性を理解しようとする姿勢があまりみられない	理解する姿勢が感じられない
知識・理解	４．楽典の内容を理解している	質問するなど楽典の問題に積極的に取り組んでいる	楽典の問題に時間はかかるが積極的に問題を解こうとする姿勢がみられる	時間はかかるが理解しようとしている	苦手ながらも楽典の問題に取り組もうとしている	理解する姿勢が感じられない
思考・問題解決能力	１．楽曲にふさわしい表現について考えて 判断し、工夫して表現に結びつけている	楽曲にふさわしい表現について考えて判断し、工夫して的確に表現に結びつけている	楽曲にふさわしい表現について考えて判断し、工夫して概ね表現に結びつけている	楽曲にふさわしい表現について考えて判断し、工夫して表現に結びつけようと努めている	楽曲にふさわしい表現について考えるが表現が乏しく、工夫して表現に結びつけようと努めている	楽曲にふさわしい表現について考えず、工夫して表現に結びつけようとしていない
技能	１．歌唱	歌う力が備わっている	積極的に歌唱しようとする姿勢がみられる	歌唱しようとする姿勢があり、苦手ながらも参加している	苦手意識が高く、声を出すのに補助がいる	歌唱する姿勢が感じられない
技能	２．弾き歌い	教育現場で必要なレパートリーが増え弾き歌いできている	積極的にピアノに触れ、弾き歌いする姿勢がみられる	ピアノが苦手ながらもそれを克服するために積極的に練習している	苦手意識が高くピアノに触れる時間が少ない	弾き歌いする姿勢がみられない
技能	３．器楽演奏	楽器を演奏する能力が備わっている	積極的に楽器に触れ、演奏する姿勢がみられる	楽器が苦手ながらもそれを克服するために積極的に練習している	苦手意識が高く楽器に触れる時間が少ない	器楽演奏する姿勢がみられない
態度	１．グループ発表時に積極的に参加できている	積極的にグループで協働して創作ができ、発表することができる	積極的にグループ演習に参加し、協働する姿勢がみられる	グループ演習に参加し、自分の役割分担を責任を持ってできている	グループ演習には参加するものの協働する姿勢がみられない	グループ発表する姿勢がみられない
態度	２．積極的に授業に参加できる	授業目標を意識して積極的に授業に参加し、次授業までに課題を主体的にしてくる	授業目標を意識して積極的に課題をしてくる	授業目標を意識してある程度授業に参加することができる	授業目標を意識して授業に参加することができる	授業目標を意識して授業に参加することができない

科目名	子どもと造形			授業番号	CP224A	サブタイトル			
教員	伊藤　智里								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この講義では，幼児の造形的な「表現とその発達」について理解するとともに，幼児の感性や創造性を豊かにする専門的事項について身につけることを目的とする。								
到達目標	(1)幼児の表現の姿や，その発達について理解する。 1-1)子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。 1-2)子どもの素朴な表現を見出し，受け止め，共感することができる。 (2)造形表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通して，幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。 2-1)様々な表現を感じる・みる・聴く・楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。 2-2)身の周りのものを諸感覚で捉え，素材の特性を活かした表現ができる。 2-3)協働して表現することを通し，他者の表現を受け止め，共感し，より豊かな表現につなげていくことができる。 2-4)様々な表現の基礎的な知識技能を活かし，子どもの表現活動を展開させることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「表現」に出会う －乳・幼児の造形が気づかせてくれる10のこと－ 乳幼児の表現について理解する。	
第2回	ICTの活用、道具との出会い ドキュメンテーションについての理解，はさみ・テープ・のり・ボンドなどの使用について理解する。	
第3回	表現活動と子どもの発達－乳児の発達と造形あそび－ 0,1,2歳の発達過程を理解し，手の感触で味わう造形遊びを体験する。	
第4回	生活での出会いとイメージ－幼児の発達と造形遊び－ 3,4,5歳の発達過程と造形遊びの関係，描画の発達段階について理解する。	
第5回	素材との出会い－紙を知る－ 画用紙，折り紙などの紙の特徴を確かめ、遊ぶ方法を工夫する。	
第6回	画用紙の加工 画用紙を立体にする方法を工夫し体験する。	
第7回	性質の違いを利用して遊ぶ 画材・材料の性質の違いを理解してマーブリングを楽しむ。	
第8回	描画材との出会い1－クレパスを使った造形遊び－ クレパスの特徴を生かしスクラッチ、ステンシルを体験する。	
第9回	描画材との出会い２－絵の具を使った色を楽しむ造形遊び－ 絵の具の特性を感じ、染紙を体験する。	
第10回	いろいろな形を見つけつくり出す遊び 身近なもので行うスタンプ遊びを体験する。	
第11回	伝統と造形遊び 折り紙の5つ折りを使った切り紙で、行事と結びついた造形遊びを体験する。	
第12回	総合的な表現 1－壁面装飾企画－ 壁面装飾の保育での役割を理解し，製作物の企画を行う。	
第13回	総合的な表現 2－壁面装飾制作－ 企画した内容で，壁面装飾を制作する。	
第14回	総合的な表現 3－壁面装飾制作－ 壁面装飾を仕上げ，工夫して完成させる。	
第15回	表現活動の振り返り－表現することと鑑賞すること－ 子どもが表現することと，他者の表現に触れることの意味を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	授業に参加するための準備の適切さ，個人活動およびグループ活動に積極的に参加し，試し，発見し，工夫することができているか評価する。
小テスト	10	知識の理解により評価する。授業内で全体的に解説する。
その他・最終課題	60	提出されたスケッチブックにより評価する。主に材料・画材の特性を理解しているか，第三者が見て同様の活動を行うことができるように作品とともにまとめられているか，やってみた自分の心の動きを記録することができているかについて評価する。採点後，コメントをつけて返却する。

評価の方法：自由記載	最終課題のスケッチブックが提出されていることを採点条件とする。
受講の心得	「感性や創造性を豊かにする」とはどういうことかについて，実際にやってみるなかで探求してほしい。 図工・造形セットは，毎時間持参すること。
授業外学修	1．予習として，資料を配布することがある。 2．復習として，課題を課すことがある。 3．授業内で完成しなかった造形遊び，技法について課外で行うこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修することが望ましい。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜，提示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜，提示する。

その他	造形遊びで体験してできた作品は，指定のスケッチブックに整理して提出する。 はさみ，のり，水彩絵の具，筆洗，筆，クレパス，色鉛筆，定規，テープなどの描画材や道具を使用する。 その他の詳しい授業の準備物は，授業の中で提示する。準備物が多くあるため，忘れ物がないよう注意して受講すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児の表現の視点から捉えた発達について理解する。	幼児の認知的発達，手指を中心とした発達過程について理解し，発達過程に応じてどのような表現方法を用いるかについて根拠ある推測，考察ができる。	幼児の認知的発達，手指を中心とした発達過程について理解し，過程に応じてどのような表現方法を用いるかについて説明することができる。	幼児の認知的発達，手指を中心とした発達過程について理解し，発達過程に応じた適切な表現方法があることを理解し，部分的に説明することができる。	幼児の認知的発達，手指を中心とした発達過程について理解し，幼児なりの表現方法があることを理解することができる。	幼児の認知的発達，手指を中心とした発達過程についての理解と，適切な表現方法があることへの理解が不十分である。
知識・理解	２．子どもの遊びや生活における領域「表現」の位置づけについて説明できる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解し，子どもの遊びや生活においての表現の位置づけを十分に説明することができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解し，子どもの遊びや生活においての表現の位置づけを説明することができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解し，子どもの遊びや生活においての表現の位置づけについて考えることができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通して理解することができる。	領域「表現」のねらい及び内容を乳児の3つの視点から就学前まで通した理解が不十分である。
思考・問題解決能力	１．子どもの造形遊びに対する適切な環境構成を設定することができる。	子どもと活動することを想定して，年齢に合わせて適切に各活動に必要な環境構成を設定することができる。	子どもと活動することを想定して，特定の年齢に合わせて適切に活動に必要な環境構成を設定することができる。	学生視点で活動にあわせて各活動に必要な環境構成を設定することができ，子どもと活動する際に改善する点を考えることができる。	学生視点で活動にあわせて活動に必要な環境構成を設定することができる。	活動に必要な環境構成の設定が不十分である。
技能	１．造形表現の基礎的な技能を身に付ける。	モダンテクニックも含め造形表現の基礎的な技能を身につけることができ，子どもと活動，鑑賞するための造形表現活動を自分で調べたり考えたりして展開することができる。	モダンテクニックも含め造形表現の基礎的な技能を身につけることができ，子どもと活動，鑑賞するための造形表現活動を調べて展開することができる。	モダンテクニックも含め造形表現の基礎的な技能を身につけることができ，子どもと活動，鑑賞するために授業で提示した造形表現活動を展開することができる。	モダンテクニックを含め造形表現の基礎的な技能を身につけることができる。	造形表現の基礎的な技能の修得が不十分である。
技能	２．素材の活用方法を知り，使えるようになる。	子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知り，活動にあわせて子どもの興味関心を高めるような素材の活用方法を考えることができる。	子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知り，子どもの興味関心を高めるような素材の活用方法を考えることができる。	子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知り，素材の活用方法を考えることができる。	子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法を知ることができる。	子どもの造形表現活動に使用される素材の特徴や加工方法の知識の修得が不十分である。
態度	１．積極的に造形活動を行う。	授業で行う造形活動について，工夫をして自分なりの表現をすることに積極的に取り組み，事後に自分で他の展開方法についても実践してみることができる。	授業で行う造形活動について，工夫をして自分なりの表現をすることに積極的に取り組み，事後に自分で他の展開方法について調べることができる。	授業で行う造形活動について，工夫をして自分なりの表現をすることに積極的に取り組むことができる。	授業で行う造形活動について，積極的に取り組むことができる。	授業で行う造形活動の取り組みが消極的である。
態度	２．提出物準備や事前の内容学習など，自己学習をすることができる。	課外で予習復習を十分にすることができ，提出物の体裁を適切に整え，発展的な内容を取り入れて制作することができ，期限内に提出することができる。	課外で予習復習を十分にすることができ，提出物の体裁を適切に整え，自分なりに工夫して制作することができ，期限内に提出することができる。	課外での予習復習をすることができ，提出物の体裁を整え，期限内に提出することができる。	課外での予習復習が不十分であるが，提出物をまとめ，期限内に提出することができる。	提出ができない。

科目名	ＩＣＴ活用の理論と実践			授業番号	CP225	サブタイトル	未来の教室「ICTを活用した学習の進化」		
教員	岸　誠一								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，情報通信技術の意義と基礎的な理論を学ぶとともに，GIGAスクール構想における令和 の日本型学校教育を展開するために必要となる社会的背景や学習指導要領との関連について，具体的な活用事例や演習等を通して学習する。すなわち教育現場におけるICT（情報通信技術）の活用について，その「背景や歴史」「これを活用して育成しようとする資質・能力」，現状および今後の方向性について学修する。授業における児童や教員によるICT活用のほか，授業の準備，学習評価に関する活用，校務の情報化における活用について解説する。 また，情報社会を生きていくための資質・能力である情報活用能力(情報モラルを含む)について，その構成要素および具体的な指導法，教育課程上の位置付けについて体験的に学修する 。								
到達目標	・情報通信技術の活用の意義と理論を理解する。 ・情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方について理解する。 ・児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的な指導法を身に付ける。 ・教育メディアの特性を理解し，教育や保育の現場に応じて，有効なメディアを選択し，活用できる技能を修得する。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞と＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス，現代社会におけるICTの役割 高度情報化社会を生き抜く子どもたちにどのような教育が必要であるか?子どもたちの未来の教室がどのようなものであるか?ICTを活用した学習の進化について学修する。そして，この授業は，ICTの効果的な活用の経験を通して「自分が受けたいと思う理想の授業」を「自分でデザインしていく」授業であり，そういう態度で授業に臨むことを各自理解する。	
第2回	教育方法の基礎的理論と歴史 教育方法の歴史について以下の3つの視点で学修する。 ・変貌する教室，授業の様式（一斉指導から子ども中心のアクティブラーニングへ） ・授業の歴史（コメニウスの「世界図絵」からデジタル教科書まで） ・個別学習やグループ学習の理論と方法	
第3回	AIの活用による校務処理のDX化 AIを活用し、公務処理を迅速かつ的確に行う具体的な方法について演習を通して理解する。また、児童自らAIを活用する場合の課題についても学修する。	
第4回	教育メディアと著作権 様々な学校での著作権の事例をクイズ形式で考えながら学修する。特にSNS等で発信する際に起こりそうな実例を挙げ，著作権の問題を自分の起こりうる問題として認識する。またAIの活用時における著作権の問題についても学修する。	
第5回	対話的な学びを深めるICTの活用 新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」の在り方と，その実現に必要な教師の役割について学ぶ。	
第6回	個別最適な学びを支えるICTの活用 これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力とは何かを検討した上で，主体的・対話的で深い学びを実現するための教育方法を考える。また，個別最適な学びと協働的な学びの実現などICT活用についての意義と在り方について検討する。	
第7回	遠隔授業・遠隔学習と学びの保障 遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムについて学ぶ。学習履歴などの教育データを、指導や学習評価に活用することや校務処理と教育情報セキュリティの重要性について学ぶ。	
第8回	特別支援・幼児教育におけるICT活用 特別の支援を必要とする園児・児童・生徒に対する話法や板書の仕方などの技術を学ぶと共に，ICT活用の意義と活用に当たっての留意点を考える。	
第9回	校務の情報化とICT環境の整備 統合型校務支援システムを含む情報通信技術を効果的に活用した校務の推進について学ぶ。	
第10回	情報モラル・情報セキュリティ教育について インターネットの基本構造と、ソーシャルメディアが個人の生活や社会に与える影響を探る。また，SNS等オンラインコミュニティの形成とその文化的意味につい学修する。後半の講義では，学校現場における情報モラルの指導をどうするか事例をもとに各自考える。自分で模擬授業をするための授業設計を行い，指導案を作成する。	
第11回	プログラミング教育がめざすこと 子ども用プログラミング学習「スクラッチ」体験等を通して，プログラミングを取り入れた教科学習について理解する。また，本学で開発したプログラミング教材「おしゃれなCAT」も体験する。	
第12回	学校の「外」でのICTの活用(学びの場としての美術館) 「大原美術館の見学」という授業の設計を行う。その際授業にICTの活用として盛り込む以下のポイントについて考える。 ・見学前の事前指導でICTをどう活用するか ・見学時に児童はタブレット端末を各自持っているという想定で，美術館の絵の説明や，児童の間での情報の共有等にどう活用するか ・見学したあとの事後指導にどうICTを活用するか そして，実際に児童になりきって大原美術館を見学し，自分が設計した授業について反省する。	
第13回	児童生徒によるICT活用 学習場面に応じたICTを効果的に活用した指導事例(デジタル教材の作成・利用を含む)から，基礎的な指導方法を学ぶ。また，各教科，道徳，特別活動，総合的な学習の時間（以下「各教科等」という。）において，横断的に育成する情報活用能力（情報モラルを含む。）についてもその指導技術・指導法を理解す	
第14回	教育メディアを活用した模擬授業とその評価I 模擬授業のための教育メディア教材作成およびＩＣＴ活用のための指導案（ＩＣＴ活用レシピ）作成について学修し，次の時間に行うICTを活用した模擬授業の企画を行い，ＩＣＴ活用レシピを作成する。	
第15回	教育メディアを活用した模擬授業とその評価II 前回計画したＩＣＴ活用レシピにより模擬授業を行う。その模擬授業演習において，「情報機器を効果的に活用する場面が見られたかどうか 」について学生の相互評価を実施する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。
ミニレポート	30	随時それぞれの受講内容に応じて，ミニレポートの課題を数回出し，授業内容の理解の程度を評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。
模擬授業	20	模擬授業演習において，情報機器を効果的に活用する場面が見られるかどうか評価する。評価内容については模擬授業終了後，口頭でコメントする。
最終レポート	30	この授業の総括として，授業内容の総合的な理解度を評価するために最終レポートを提出する。レポートの具体的な様式・評価項目については授業内で説明する。最終レポートについては，コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	（1）履修者には，授業の進行に応じて出題するミニレポートに取り組んでもらう。(30%)（2）毎時間の発言や取り組み姿勢なども成績評価に加味する。(20%)（3）期末に全員に課す最終レポート（30%）と，模擬授業（20%）を踏まえて総合的に評価する。
受講の心得	本授業では，講義および視聴覚資料による解説・事例紹介と，学生自身が各種ICT機器，環境を活用し，体験的に学修する機会を設けることを基本とする。毎回出席し，課題をきちんと提出すること。分からないことは，質問すること。
授業外学修	1．授業ごとに紹介する参考資料や，eラーニング教材（予習用の動画教材）を次回授業までに熟読したり，しっかり視聴したりして，よく予習をしておくこと。 2．ＰＣの操作技能等を身につけるために，随時復習をすること。 3．模擬授業のための学習指導案および最終レポートを作成すること。 1および2の内容については週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	稲垣忠，佐藤和紀 (編著)（2021）ICT活用の理論と実践: DX時代の教師をめざして，北大路書房 ロバートガニェほか（著）鈴木克明（訳）(2007) インストラクショナルデザインの原理，北大路書房 堀田龍也，佐藤和紀（2019）教職課程コアカリキュラム対応 情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術，三省堂 稲垣忠（編著）（2019）教育の方法と技術: 主体的・対話的で深い学びをつくるインストラクショナルデザイン，北大路書房
その他	パソコンを大切に使用すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校長(8年)，公立幼稚園長(3年※小学校長と兼務)，公立小学校教諭(13年)，岡山県生涯学習センター(岡山県視聴覚ライブラリー担当3年)，岡山県情報教育センター(6年)での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	ICT教育の推進に学校長(幼稚園長)のリーダーシップは欠かせない。自分の校長(園長)時代の具体的な経験をもとにそれについて解説をしていく。また，教諭時代，授業の中でのICTの活用をした経験や，生涯学習センターで各学校のメディア教育担当の教員に対して行っていた研修および情報教育センターにおいて幼・小・中・高の教員対象に「授業における情報通信技術」の活用について行った研修の経験など，様々な内容について指導してきた経験を生かして，「学校現場」を想定した具体的な活用事例を紹介しながら教員志望の学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．教育現場におけるICT活用の意義や理論について理解する	教育現場におけるICT活用の意義や理論について十分に理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について概ね理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について最低限理解している。	教育現場におけるICT活用の意義や理論についてやや理解が不十分。	教育現場におけるICT活用の意義や理論について全く理解していない。
知識・理解	2．ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解する	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について十分理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について概ね理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について普通に理解している。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について理解がやや不十分。	ICTを活用した学習指導や校務の実際と今後の在り方について全く理解していない。
知識・理解	3．情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例を理解し、基礎的な指導法を身に付けている。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を十分理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を概ね理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法を普通に理解している。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について理解が不十分である。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について全く理解していない。
思考・問題解決能力	1．情報活用能力を育成する意義および育成方法を身に付けている。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について課題を複数見つけ、調査し、自分なりの解決策を考え提案することができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について課題を見つけ、調べ、自分なりの解決策を考えることができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について提示された多数ある課題について調べ、自分なりの解決策を考えることができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について多数ある課題のいくつかについて解決策とされていることを調べ、それについて意見を言うことができる。	情報活用能力を育成する意義および育成方法について多数ある課題のいくつかについて考えることが不十分である。
技能	1．ICTを活用した授業のための教材制作ができる	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、子どもと使うことを想定して対象年齢を自分なりに設定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法だけでなく、自分で調べ工夫して、子どもと使うことを大まかに想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的な制作方法を理解し、留意点を制作に反映することができる。そして子どもと使うことを想定して丁寧に作ることができる。	授業提示された基礎的なICT活用の教材制作方法を理解しているが、子どもと実際に使うことができる程度の丁寧さが不足している。	授業提示された基礎的なICT活用の教材制作方法の理解が不十分であり、留意点を制作に反映していない。
技能	2.児童・生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための基礎的な指導技術を身に付けている。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために，自ら意欲的に子どもたちが授業に取組む方法を多様な視点で考え，実際に積極的に試行しようとする。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために，自ら意欲的に子どもたちが授業に取組む方法を考えることができるが，試行はしない。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために，自ら意欲的に子どもたちが授業に取組む方法について少しは考えることができる。	情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するために，自ら意欲的に子どもたちが授業に取組む方法についてあまり考えない。	情報活用能力(情報モラルを含む)について、各教科等の特性に応じた指導事例や基礎的な指導法について全く考えない。

科目名	子どもと健康指導法			授業番号	CP313	サブタイトル			
教員	岡﨑　三鈴								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では、幼稚園教育要領および保育所保育指針等における領域「健康」のねらいと内容に基づき、乳幼児期における健やかな心身の育ちを支えるための理論的背景と指導の在り方を深く学びます。								
到達目標	【知識・理解】領域「健康」の法令上の意義と、乳幼児期の情緒・社会性・身体発達に関する指導理論を体系的に理解している。 【思考・問題解決能力】発達理論に基づき、運動・食育・安全・特別支援における指導上の課題を分析し、適切な援助方法を論理的に考案できる。 【技能】修得した理論的根拠に基づき、子どもの実態に応じた環境構成や言葉掛けを具体化した指導計画を適切に作成できる。 【態度】子どもの心身の健康を支える専門職としての責任を自覚し、多様な発達や現代的課題に対して理論を基に真摯に向き合う姿勢を持っている。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思 考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	領域「健康」の定義 心身の健康の概念について理解する。	
第2回	法令に基づく意義 指針・要領における位置づけについて理解する。	
第3回	幼児の発育・発達 身体的成長のメカニズムについて理解する。	
第4回	乳幼児期の情緒とパーソナリティ 心の安定と健康の相関について理解する。	
第5回	乳幼児の社会性の発達 他者との関わりと健康について理解する。	
第6回	幼児の生活習慣と健康 子どもの生活習慣の現状と課題について理解する。	
第7回	幼児の健康維持・増進のための身体活動 幼児の身体活動の現状と課題について理解する。	
第8回	保育における運動指導と留意点 幼児期に身につけたい基本的動作 について理解する。	
第9回	幼児期における運動遊びの効果 体力・運動能力の向上と意欲的な心を育む。	
第10回	安全管理と安全教育 幼児ののけがや事故の現状と課題。	
第11回	食育に関する指導（３歳未満児を対象として） 養護と教育の一体性に基づく「食べる意欲」の形成	
第12回	食育に関する指導（3歳以上児を対象として） 集団の中での食体験と食文化について理解する。	
第13回	特別な支援の必要な幼児における領域「健康」の指導 個別の特性に応じた環境構成と健康・安全への配慮を理解する。	
第14回	小学校を見通した領域「健康」における指導 領域「健康」と小学校教育のつながりについて理解する。	
第15回	領域「健康」における指導計画の作成と評価 発達理論を実践へと統合するプロセス	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業への積極的な態度や取組について評価する。
レポート	30	講義内容の適確な把握状況を評価し，コメントして返却する。
定期試験	50	領域「健康」の指導法に関する知識・理解について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講義は、子どもの命と健やかな成長を支える「指導の根拠（理論）」を学ぶ場です。将来、子どもたちの前に立つ専門職としての自覚を持ちましょう。
授業外学修	１．毎回，授業に使用するテキストを読み，授業内容の概要を理解すること。 ２．受講後は自身のノートの記載事項を1時間以上かけて整理し，分からないところを明確にしておくこと。 以上の内容を合わせて週4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新時代の保育双書保育内容　健康［第2版］	春日晃章	株式会社みらい		2100円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	領域「健康」の意義と心身の発達理論、生活習慣、食育、安全、および幼小接続に関する専門知識を体系的に理解している。	発達理論から幼小接続まで、各分野の専門知識を深く正確に理解し、それらの関連性を体系的に説明できる。	主要な理論を正しく理解し、専門用語を用いて適切に解説できる。	領域「健康」の基本的な用語や概念を概ね理解しており、標準的な内容を概説できる	保育者として最低限必要な健康・安全に関する基礎知識を習得している。	乳幼児の発達や健康に関する基礎知識が著しく不足し、専門用語を正しく用いることができない
思考・問題解決能力	発達理論や運動遊びの効果に基づき、子どもの実態や現代的課題に応じた適切な指導・援助の在り方を論理的に考案できる。	子どもの「意欲」と「体力」の相関や就学後の姿を分析し、説得力のある指導案を提示できる。	学んだ発達理論や運動効果を適切に応用し、実態に応じた具体的な指導の工夫を考案できる。	基本的な事例に対し、講義で示された標準的な援助方法やリスク管理を妥当に選択できる。	指示された状況において、健康・安全に配慮した最低限の判断ができる。	子どもの姿や状況を適切に捉えることができず、安全や発達を考慮した指導を考案できない
技能	修得した理論を根拠として、子どもの育ちを支える環境構成や言葉掛けを具体化し、実践的な指導計画を適切に作成できる。	理論的根拠が明確で、子どもの姿が具体的に浮かぶ一貫性の高い指導計画を記述できる。	講義の知識を反映させ、発達段階に応じた適切なねらいや環境構成を適切に記述できる。	領域「健康」のねらいに沿って、標準的な活動案や配慮事項を大きな誤りなく記述できる。	基礎的な書式に従い、健康・安全に関する最低限の計画を記述できる。	指導案や配慮事項の記述が極めて不十分であり、指導計画作成の基礎が身についていない。
態度	専門職としての責任感を持ち、子どもの意欲や心身の健康を支える指導の在り方について、主体的かつ真摯に学ぶ姿勢がある。	子どもの生命と健康を守る重みを深く自覚し、自らの課題を模索しながら極めて意欲的に受講している。	専門職としての自覚を持ち、各回の課題や議論に真摯かつ積極的に取り組んでいる。	受講の心得を遵守し、標準的な学習態度を維持して継続的に取り組んでいる。	欠席や遅刻をせず、最低限の受講マナーを守り、課題を期限内に提出している。	受講態度が著しく不良（私語・スマホ使用等）であり、専門職としての倫理観や自覚が欠如している。

科目名	子どもと人間関係指導法			授業番号	CP315	サブタイトル			
教員	廣畑　まゆ美								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本科目は，幼稚園教育要領に基づき，領域「人間関係」の意図する目標，ねらい及び内容についての理解を深め，子どもが「人とかかわる力」を身に付けていくための保育者の援助・指導あり方および保育者の位置づけを明確にする。								
到達目標	幼稚園教育において育みたい資質・能力を理解し，幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	領域「人間関係」とは（1）・・・領域成立の変遷，子どもを取り巻く人的環境の変化	
第2回	領域「人間関係」とは（2）・・・かかわりの「視点」を考察する実践	
第3回	人とのかかわりから見る乳幼児期の発達(1)…愛着形成・感情の分化・自我の育ち	
第4回	人とのかかわりから見る乳幼児期の発達(2)…他者意識の形成	
第5回	遊びの中の人とのかかわりの育ち(1)…遊びとは何か	
第6回	遊びの中の人とのかかわりの育ち(2)…遊びの中で生じるいざこざについて	
第7回	人とのかかわりを支える「保育者の役割」(1)…就学前教育における教育課程のとらえかた	
第8回	人とのかかわりを支える「保育者の役割」(2)…指導計画の作成における留意点	
第9回	人とのかかわりを支える「保育者の役割」(3)…指導計画実践における留意点	
第10回	人とのかかわりで「ちょっと気になる子ども」(1)…事例分析から出発する子ども理解	
第11回	人とのかかわりで「ちょっと気になる子ども」(2)…保育者の視点を考察する	
第12回	人とのかかわりを支え広げる実践(1)…子どもと子どもをつなぐために	
第13回	人とのかかわりを支え広げる実践(2)…子どもとその保護者に対する援助について	
第14回	領域「人間関係」における今日的課題(1)…多文化保育について	
第15回	領域「人間関係」における今日的課題(2)…社会情動的スキルとその育成について	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業に対する積極性，予習・復習への取り組みなどにより評価する。
レポート	30	テーマに沿って根拠とともに具体的に述べられているかを評価する。採点後は全体に向けてフィードバックを行う。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	テキストの授業内容にかかわる予習をして授業に出席する。 授業終了後は，授業中に記録した内容をノートにまとめるなどして復習する。 このことについて，週４時間以上の学修をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
人間関係の指導法 改訂第2版 (保育・幼児教育シリーズ)	若月芳浩・岩田恵子編著	玉川大学出版部	4472405644	2400+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領（平成29年告示）	文部科学省	フレーベル館	4577814226	149円＋税
参考書：自由記載				
その他				

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．教育課程の理解	就学前教育における教育課程を十分理解し，正しく説明できている。	就学前教育における教育課程を理解し，正しく説明できている。	就学前教育における教育課程を理解し，おおむね説明できている。	就学前教育における教育課程の理解が不十分で，説明内容に不確かさがある。	就学前教育における教育課程を理解しておらず，説明できない。
知識・理解	２．幼児の人間関係構築における発達の基礎知識	子どもが人間関係を構築していく過程を十分理解できており，学修内容を様々な場面で応用することができている。	子どもが人間関係を構築していく過程を理解できており，学修内容を様々な場面に生かそうとしている。	子どもが人間関係を構築していく過程をおおむね理解できている。	子どもが人間関係を構築していく過程の理解が不十分である。	子どもが人間関係を構築していく過程を理解できていない。
思考・問題解決能力	１．専門領域と関連させて事例の理解を深める力	学んだ基礎的な知識を十分活用しながら，自分の意見として具体的に説明できている。	学んだ基礎的な知識を活用しながら，自分の意見として説明できている。	学んだ基礎的な知識をいくつか用いて，自分なりの意見として説明できている。	学んだ知識に対する理解・意見の内容が不十分である。	学んだ知識に対する理解が不十分で，意見をまとめることができない。
技能	１．保育を構想する方法	子どもの人間関係の育ちを十分理解し，教育課程と関連させながら，具体的な計画を作成・実践できている。	子どもの人間関係の育ちを理解し，教育課程と関連させながら計画を作成・実践できている。	子どもの人間関係の育ちをおおむね理解し，計画を作成・実践できている。	子どもの人間関係の育ちに対する理解が不十分で，計画の作成・実践にも不十分さがある。	子どもの人間関係の育ちを理解できておらず，計画することができない。
態度	１．授業に向かう姿勢	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに積極的に取り組む様子が見られ，学んだ知識を引用したり，他者の意見をよく聴いて，論理的に自分の意見を構築することができている。	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに積極的に取り組む様子が見られ，学んだ知識を引用したり，他者の意見をよく聴いて，意見を構築することができている。	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに積極的に取り組む様子が見られ，学んだ知識を生かしながら，自分なりに意見を構築することができている。	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに取り組むが，意欲的とはいえず，学修内容と関連づけながら意見を構築することがあまりできない。	グループディスカッション，グループ活動，個人活動などに対し消極的で，学修内容と関連づけながら意見を構築することができない。

科目名	子どもと環境指導法			授業番号	CP317	サブタイトル			
教員	齊藤　佳子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	幼児は身近な環境や自然に好奇心や探求心をもって関わり，発見を楽しんだり考えたり，生活に取り入れる。本授業では，幼児を取り巻く環境についての専門的事項を踏まえ，保育者としての指導に必要な基礎的な知識と技能について講義する。また事例を取り上げ，幼児の発達に即した興味・関心，遊びへの展開を踏まえた環境構成の仕方と保育者の指導上の留意点を理解し，その環境で幼児がどのような活動をするか領域「環境」に関わる具体的な保育場面を想定した保育の構想，指導方法について説明する。								
到達目標	・領域「環境」のねらいと内容についてポイントを押さえて解説することができる。 ・領域「環境」の内容を具体的な事物を使いながら，幼児の活動をイメージすることができる。 ・幼児に考えさせたり，工夫させたりするポイントを明確に指摘することができる。 ・対象物の特性や使用する道具の使い方などの基礎知識を身につけ，どのように指導すればよいかを説明することができる。 ・領域「環境」の活動の楽しさを実感し，幼児にどのように接すればよいかを話すことができる。 ・具体的な指導計画を作成することができる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	【1】領域「環境」の基礎知識の整理（1)幼児を取り巻く環境（2)ねらいと内容（3)園の環境（4)幼児の発達と環境 【2】実際に体験する活動 【3】工夫したり，調べる活動 【4】考える活動 【5】指導計画を作成する								

回	概要	担当
第1回	・幼児教育・保育の基本と環境　・幼児を取り巻く環境 幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された環境を通しての教育・保育の捉え方，遊びを通しての学び，幼児教育の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）を理解する。 幼児を取り巻く環境の諸側面（物的環境，人的環境，社会的環境，安全等）と，幼児の発達におけるそれらの重要性について理解する。	
第2回	・領域「環境」のねらい，内容及び内容の取扱い　・自然とふれあい感動する：春の生活と遊び　（体験する活動） 幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された領域「環境」のねらい，内容及び内容の取扱い並びに全体構造を理解する。 自然の特性や種類を理解し，幼児と自然との関わりの実践について学ぶ。散歩，春の草花探し，フィールドビンゴを体験的な活動として行う。	
第3回	・子どもの発達と領域「環境」・園の環境　・保育の過程と保育計画 幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際について学ぶ。園内で行われる幼児の遊びの事例から，領域「環境」のねらい，内容の展開の実際，保育計画について理解する。	
第4回	・植物との関わり　（体験する活動）（調べる）（考える） 幼児と植物との関わり，有毒な植物，花や野菜の植物栽培について理解する。保育の実際として野菜（カイワレダイコン，ハツカダイコン等）の栽培計画を立案する。	
第5回	・物事の法則性に気づく　・植物の栽培　（体験する活動）（調べる）（考える） 乳幼児期の認知的発達の特徴と筋道，幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する。 植物にふれる保育の実際として野菜（カイワレダイコン，ハツカダイコン等）の栽培活動を行う。	
第6回	・季節感を味わう　・植物栽培の省察　（体験する活動）（調べる）（考える） 乳幼児の夏の生活と遊びについてしゃぼん玉遊びなど具体的な活動から体験的に学ぶ。 植物にふれる保育の実際として野菜（カイワレダイコン，ハツカダイコン等）の栽培活動を行い，実践の振り返りをする。	
第7回	・自然を取り入れて遊ぶ　（体験する活動）（調べる）（考える） 自然に親しみ，季節を生かす保育に関して乳幼児の秋・冬の生活と遊びを中心に理解する。	
第8回	・生き物との関わり　・生命の営みに触れる　・ダムゴムシ探しと飼育　（体験する活動）（調べる）（考える） 乳幼児の生物との関わり，学校園における動物飼育が果たす役割を理解し，具体的な活動として簡単な飼育を体験する。ダンゴムシの飼育計画を立案する。	
第9回	・身のまわりの物に愛着をもつ　（体験する活動）（調べる）（考える） 乳幼児の物や道具と出会い関わる姿からその意味と学びの姿を捉え，園に整えられている物や道具の乳幼児の発達に必要な経験を得るための保育者の意図を理解する。 具体的な活動としてタンゴムシの飼育を体験する。	
第10回	・科学を体感する　・泥だんご，色水遊び　（体験する活動）（調べる）（考える） 乳幼児の思考・科学的概念の発達，自然との関わりの事象に対する興味・関心，理解の発達について理解する。 タンゴムシの飼育活動を行い，実践の振り返りをする。	
第11回	・数量・図形に親しむ　（体験する活動）（調べる）（考える） 園生活や遊びの中で，数量・図形への関心・感覚を豊かにする活動を考える。 図形にふれる活動並びに保育の場における文化や伝統，行事などに親しめる活動として七夕飾りを作る。	
第12回	・標識や文字の必要性を育む　（体験する活動）（調べる）（考える） 園生活や活動，遊びの中で標識・文字にふれる活動を考える。	
第13回	・園外の活動　・身近な情報や施設を生かし，生活を豊かにする　・ITC活用方法　（体験する活動）（調べる）（考える） 園生活や遊びの中で情報にふれる活動を考える。乳幼児の生活に関係の深い施設とそれに関わる具体的な活動を考える。 幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し，保育構想への活用について考える。	
第14回	・指導計画をつくる(1)　・指導形態とカリキュラム　・指導計画作成手順 指導案の構造を理解し，具体的な保育を想定した指導案を作成する。	
第15回	・指導計画をつくる(2) 模擬保育とその振り返りを通して，保育を改善する視点を身につける。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントペーパーにより，評価を行う。

レポート	30	・授業で学修した内容を深めることができたかを評価する。 ・ダンゴムシ飼育，カイワレダイコン等の栽培は観察日記の記述内容を評価する。 ・指導計画（指導案）の記述内容を評価する。 ・課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また，課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
小テスト		
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	・授業ごとに自分で感じたこと，工夫したこと，考えたことについてのレポートを作成して提出する。 ・課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。 ・基礎概念の理解度についての試験を実施する。
受講の心得	・事前学習としてテキストの該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。 ・授業に前向きに取り組み，考えたり，工夫しようとしている姿勢を重視する。
授業外学修	・事前に授業の内容をテキストで予習しておく。 ・授業後に講義内容の整理や課題に取り組む。 ・日常的に環境を意識し，子どもの視点で美しいものや興味を引きそうなものを探し，ノートに記録する。 ・身近なものを使い，子どもが喜びそうな工作を考える。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
実践例から学びを深める 保育内容・領域 環境指導法	小櫃 智子 編著	わかば社	9784907270339	1760円（本体1600+税）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．領域「環境」のねらいと内容について理解している。	領域「環境」のねらいと内容を正確に理解し，わかりやすくポイントを押さえて解説することができる。	領域「環境」のねらいと内容を正確ではないがほぼ理解し，ポイントを押さえて解説することができる。	領域「環境」のねらいと内容を概ね理解し，ある程度ポイントを押さえて解説することができる。	領域「環境」のねらいと内容について，正確に解説できないが，自分の言葉では表現できる。	領域「環境」のねらいと内容について，まったく表現することができない。
知識・理解	２．領域「環境」の内容を具体的な事物を使いながら，子どもの活動をイメージすることができる。	領域「環境」の内容を具体的な事物を使いながら，子どもの活動を大変よくイメージすることができる。	領域「環境」の内容を具体的な事物を使いながら，子どもの活動をイメージすることができる。	領域「環境」の内容を具体的な事物を使いながら，子どもの活動をある程度イメージすることができる。	領域「環境」の内容を具体的な事物を使いながら，子どもの活動を十分にイメージすることができない。	領域「環境」の内容を具体的な事物を使いながら，子どもの活動をまったくイメージすることができない。
思考・問題解決能力	１．領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り，保育構想の向上に取り組むことができる。	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を調べ，保育構想の向上について多角的に考察している。	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を調べ，保育構想の向上について考察している。	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を調べ，自分の考えを述べることができる。	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を調べることができているが，自分の考えを述べることができない。	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を調べることができていない。
技能	１．具体的な保育を想定した指導計画を作成できる	具体的な保育を想定した指導計画を正確に作成できている。	具体的な保育を想定した指導計画をほぼ作成できている。	指導計画をある程度作成することができている。	指導計画を十分に作成することができていない。	指導計画が未提出である。
技能	２．動植物の飼育・栽培に関する活動ができる	課題に対し，写真を貼付する等の工夫をしつつ観察結果と考察を述べることができている。	課題に対し，観察結果と考察を述べることができている。	課題に対し，観察結果と考察をある程度述べることができている。	課題に対し，観察結果と考察を十分に述べることができていない。	課題が未提出である。
態度	１．授業に意欲的に参加できる	質問など積極的に行い，疑問を解決し，授業内容を理解した上で，適切なコメントペーパーを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ，授業内容を理解した上で，コメントペーパーを提出している。	授業に出席し，授業内容を理解した上でコメントペーパーを提出している。	授業に出席し，コメントペーパーを提出しているが，理解が十分ではない。	授業に出席しているが，コメントペーパーの提出をしていない。

科目名	子どもと言葉指導法			授業番号	CP319	サブタイトル			
教員	伊藤　智里								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	模擬保育・事例などを基に，体験したり協議したりして領域「言葉」の視点から，幼児を理解し，環境構成，指導上の留意点及び，保育の構想などを理解する。								
到達目標	授業の到達目標及びテーマ ・幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領における幼稚園教育の基本，領域「言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 ・領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ，幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 ・指導案の構造を理解し，具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 ・模擬保育とその振り返りを通して，保育を改善する視点を身に付けている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育内容領域「言葉」と指導法について 幼児教育の基本を踏まえ，保育内容領域「言葉」のねらい及び内容について理解する	
第2回	前言語期のコミュニケーションと保育 言葉を話す前の乳児の発達と関わり方について理解する	
第3回	子どもの発達と言葉（１） 乳児期の言葉の発達について理解する	
第4回	子どもの発達と言葉（２） 幼児期の言葉の発達について理解する	
第5回	言葉を育てる保育活動を考える 遊びを通した幼児教育実践のための，環境構成，保育者の援助，幼児理解について考えながら日誌・指導案を作成することを理解する	
第6回	児童文化財の活用１ パネルシアターを活用した保育活動を例とした指導案作成について	
第7回	児童文化財の活用2 パネルシアターを活用した保育活動の指導案をもとにした模擬保育について	
第8回	児童文化財の活用3 模擬保育の評価・改善を行い，幼児理解と指導の援助，評価について理解する	
第9回	言葉を育てる児童文化財 様々な児童文化財について知り，領域「言葉」の視点から保育教材としての価値を理解する	
第10回	話し言葉の機能と発達 「話す」ということを理解し，話す力を育てる遊びの視点を持つ	
第11回	書き言葉の発達と保育 文字の読み書きの発達過程を理解し，書き言葉を育てる環境構成を考える	
第12回	配慮を必要とする子どもへの支援について 言語障害の基礎的知識を習得し，必要な支援や配慮について考える	
第13回	多文化共生時代における子どもの支援 外国にルーツのある子どもの現状理解と，その支援について考える	
第14回	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と領域「言葉」 「遊びを通しての総合的な指導」と領域「言葉」の在り方について理解する	
第15回	保幼小接続と領域「言葉」 領域「言葉」の視点から保育・幼児教育と小学校との円滑な接続について理解する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業への積極的な取組，発表などによる評価
レポート	20	提出物が課題・テーマに沿って具体的に述べられたり，整理されていたりすること。課題提出後の授業で全体的な傾向や内容の補足等についてコメントする。
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業は自ら学ぶ姿勢でのぞむとともに，具体的な指導を想定して保育を構想する方法を身に付けることできるよう主体的に受講する。
授業外学修	１．予習としてテキストを読み，疑問点等を自分なりに整理する。 ２．復習として授業の内容をまとめ，課題を作成する。 ３．発展学修として，言葉を育てる子どもの遊びについて文献等で調べる。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」	馬見塚明久/小倉直子	ミネルヴァ書店	7984623092512	

使用テキスト：自由記載	テキストは，演習「子どもと言葉」で使用した『保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」』（馬見塚明久/小倉直子編著，ミネルヴァ書店，ISBN：798-4-623-09251-2）　を使用する。 「子どもと言葉」の未受講者は，準備すること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「保育所保育指針解説」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」を適宜使用する。
その他	

備考	令和4年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．保育内容領域「言葉」の理解	保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得し，養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができている。さらに，育てたい資質・能力，他領域との関係，保幼小接続と合わせて理解することができている。	保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき，養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができている。さらに，幼児期に育てたい資質・能力の繋がりと合わせて理解することができている。	保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の保育内容「言葉」についての知識を修得でき，養護及び教育がそれぞれ関連性を持つことを理解することができている。	保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領のいずれかの保育内容「言葉」について，ねらい及び内容を知識として習得できる。	保育内容「言葉」について必要な知識を修得することが不十分である。
知識・理解	2．言葉の獲得に関する 子どもの発達過程の理解	保育所保育指針における3つの視点，1歳以上3歳未満児および3歳以上児の領域「言葉」を通して子どもの発達過程をとらえ，子どもに対する理解を深め，児童文化財の使用および発達にあわせた環境も含めて保育内容を検討することができている。	保育所保育指針における3つの視点，1歳以上3歳未満児および3歳以上児の領域「言葉」を通して子どもの発達過程に関する知識を修得し，言葉を獲得するために必要な援助と児童文化財を用いた保育について考えることができている。	保育所保育指針における3つの視点，1歳以上3歳未満児および3歳以上児の領域「言葉」を通して子どもの発達過程に関する知識を修得し，言葉を獲得するために必要な援助について理解することができる。	保育所保育指針における3つの視点，1歳以上3歳未満児および3歳以上児の領域「言葉」を通して，子どもが言葉の獲得する発達過程について理解することができる。	言葉の獲得に関する子どもの発達過程について理解が不十分である。
知識・理解	3．指導計画に関する知識及び理解	言葉に関する指導計画を全体計画から日案まで通して計画する必要性を理解し，年齢に応じた日案を計画するための教材や児童文化財等の活用と工夫，計画，実践，記録，省察，評価，改善の一連の保育の過程について十分理解することができる。	言葉に関する指導計画を月案から見通して計画する流れを理解し，年齢に応じた日案を計画するための教材や児童文化財等の活用，計画，実践，記録，省察，評価，改善の一連の保育の過程について理解することができる。	言葉に関する日案を計画する必要性を理解し，年齢に応じた日案を計画するための教材や児童文化財等の活用，計画，実践，記録，省察，評価，改善の一連の保育の過程についておおむね理解することができる。	言葉に関する日案を計画する必要性を理解し，活動に基づいた日案を計画することや，計画，実践，記録，省察，評価，改善の一連の保育の過程について理解することができる。	言葉に関する日案を計画することについての理解，計画作成が不十分である。
思考・問題解決能力	1．子どもの発達過程に合わせた活動を考える	同一の児童文化財を用いた活動において場面や年齢に応じて活動を変化させ，展開した遊びを考えることができる。遊びの中で，子どもが体験していることを想定することができ，保育者の配慮すべき事項を十分検討することができる。	同一の児童文化財を用いた活動を年齢に応じた変化を付けて考えることができ，遊びの中で子どもが体験していることを想定することができ，保育者の配慮すべき事項について検討することができる。	複数の児童文化財において年齢に応じた活動を考えることができる。遊びの中で，子どもが体験していることを想定することができ，保育者の配慮すべき事項について検討することができる。	特定の児童文化財において年齢，場面を設定して活動を考えることができる。遊びの中で，子どもが体験していることを想定することができ，保育者の配慮すべき事項について検討することができる。	保育活動において年齢，児童文化財の特性を考える視点が不十分であり，子どもが体験していることへの想定や保育者の配慮すべき事項についての検討ができていない。
思考・問題解決能力	2．具滝的な保育場面を想定した指導計画を作成する	子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら指導計画を立案することができ，その計画の評価・改善について，年齢，事前準備，環境構成などを意識して適切なねらいと配慮の整合性の取れた改善策を考えることができる。	子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら指導計画を立案することができ，立案した計画の評価・改善について，ねらい，内容，年齢，準備，環境構成，時間，配慮などの問題点を意識して改善策を考えることができる。	子どもの発達過程に即して具体的な保育場面を想定しながら指導計画を立案することができ，立案した計画の評価・改善について，子どもの発達過程を意識した適切なねらいと配慮を再考して改善点を見つけることができる。	具体的な保育場面を想定しながら指導計画を立案することができ，立案した計画について実践することが難しい点を見つけることができる。	保育場面を想定した指導計画の作成が不十分である。
思考・問題解決能力	3．言葉の獲得に関する思考力	言葉の獲得に関する諸問題について主体的な視点で問題点を明らかにし，自分なりの意見や考えを持ち，表現することができる。	言葉の獲得に関する諸問題について主体的な視点でとらえ，自分の考えを持つことができる。	言葉の獲得に関する諸問題について理解し，自分なりの意見や考えを持つことができる。	言葉の獲得に関する諸問題について理解し，授業で提示した一般的な意見や考えを知る。	言葉の獲得に関する諸問題について一般的な情報を知る努力が不十分である。

技能	１．言葉の獲得を中心とした指導案作成	幼児教育・保育の基本，領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ，言葉の獲得を意識し年齢に応じたねらい，内容，配慮等，必要な情報を全て揃えた指導案を作成することができる。幼児が体験し身につけていく内容と指導上の留意点の関係を理解し，整合性を取ることができる。	幼児教育・保育の基本，領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ，言葉の獲得を意識し年齢に応じたねらい，内容，配慮等，必要な情報を全て揃えた指導案を作成することができる。幼児が体験し身につけていく内容と指導上の留意点の関係を理解することができる。	幼児教育・保育の基本，領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ，言葉の獲得を意識し年齢に応じたねらい，内容，配慮等，必要な情報を全て揃えた指導案を作成することができる。	環境構成，時間，配慮など活動に必要な情報が不足しているが幼児教育・保育の基本，領域「言葉」のねらい及び内容をふまえ，一連の活動の最初から最後まで通した指導案を作成することができる。	指導案の内容が全体的に希薄で実践するために不十分である。
技能	２．児童文化財指導の実践	それぞれの児童文化財の特性を十分に理解し，必要な準備や配慮を行って実践することができる。また，年齢に応じた声掛け等，実際の保育を十分に想定することができる。	それぞれの児童文化財の特性を十分に理解し，必要な準備や配慮を行って実践することができる。また，年齢に応じた声掛け等，実際の保育をある程度想定することができる。	それぞれの児童文化財の特性を十分に理解し，必要な準備や配慮を行って実践することができる。	それぞれの児童文化財の特性を理解し，必要な準備を行って実践することができる。	児童文化財を使用した実践の準備が不十分である。
技能	３．レポート作成技術	レポート，指導案などの提出物について，授業提示以外に自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。	レポート，指導案などの提出物について，授業提示以外に自分で調べるなど工夫して表現されている。	レポート，指導案などの提出物について授業提示した内容が適切に表現されている。	レポート，指導案などの提出物について授業提示した内容が不十分であるが部分的に理解して表現されている。	レポート，指導案などの提出物について授業提示した内容が不十分である。
態度	１．グループ活動の主体的な参加	他人の話を聞き，自分なりの意見を伝え，積極的に話し合いや実践に参加することで，建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話を聞き，自分なりの意見を伝え，建設的にグループ活動に関わることができる。	他人の話を聞き，自分なりの意見を伝え，グループ活動に関わることができる。	自分の意見は言えないが，他人の話を聞き，グループ活動に関わることができる。	グループ活動への参加ができておらず，個人活動となっている。
態度	２．提出物準備や事前の内容学習など，自己学習をすることができる	課外で予習復習を十分にすることができ，提出物の体裁を適切に整え，発展的な内容を取り入れて制作することができ，期限内に提出することができる。	課外で予習復習を十分にすることができ，提出物の体裁を適切に整え，自分なりに工夫して制作することができ，期限内に提出することができる。	課外での予習復習をすることができ，提出物の体裁を整え，期限内に提出することができる。	課外での予習復習が不十分であるが，提出物をまとめ，期限内に提出することができる。	提出物の提出ができない。

科目名	子どもと表現指導法			授業番号	CP321	サブタイトル			
教員	土師　範子、伊藤　智里、廣畑　まゆ美								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	幼児教育において育みたい資質・能力や領域「表現」のねらい及び内容について，関連する領域に触れながら講義する。その上で，幼児の発達段階に即して深い学びが実現するよう,具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法や環境の設定などについて説明する。								
到達目標	(1)幼児教育の基本を踏まえ，領域「表現」のねらい及び内容を理解できる。 1)幼児教育の基本，各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2)領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ，幼児が経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。 3)幼児教育における評価の考え方を理解している。 4)領域「表現」に関わる幼児が経験し身につけていく内容の関連性及び小学校の教科とのつながりを理解している。 (2)幼児の発達や学びの過程を理解し，領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身につけている。 1)幼児の心情，認識，思考及び動きなどを視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。 2)領域「表現」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し，保育構想に活用することができる。 3)指導案の構造を理解し，具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4)模擬保育とその振返りを通して，保育を改善する視点を身につけている。 5)領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り，保育構想の向上に取り組むことができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	令和7年度改訂								

回	概要	担当
第1回	領域「表現」とは 保育所保育指針・幼稚園教育要領に基づく領域「表現」について、ねらいや内容を再確認するとともに、指導について検討する。	土師範子
第2回	乳幼児における表現について 子どもが豊かに表現するための音楽を用いた身体表現を理解	土師範子
第3回	乳幼児の身体表現① 日本の伝統文化を用いた楽曲や踊りから、乳幼児への導入方法や重要性を検討	土師範子
第4回	乳幼児の身体表現② 子どもの表現を豊かにする表現活動を具体的に検討し、指導法を考案	土師範子
第5回	子どもの表現を支える保育者の役割 音楽的表現における内的・外的要因の理解	廣畑まゆ美
第6回	子どもの遊びとうた① わらべうたを基盤とした音楽表現の理解	廣畑まゆ美
第7回	子どもの遊びとうた② 創造的・共同的な音楽づくりを通した表現活動の展開	廣畑まゆ美
第8回	鑑賞がひらく表現活動 子どもの体験を豊かにする環境の構成	廣畑まゆ美
第9回	乳幼児の造形表現 乳幼児が心動かされる環境、事象、素材に出合い、想像力を創造力へつなげて表現することへの理解	伊藤智里
第10回	生活の中における子どもの表現① 年齢や季節に応じた表現活動を模索	土師範子
第11回	生活の中における子どもの表現② 年齢や季節に応じた表現活動の指導方法の検討	土師範子
第12回	保育者と表現 子どもが様々な表現を行うために保育者として姿を探る	土師範子
第13回	表現遊びの実際 保育場面を想定した指導法の実践	廣畑まゆ美
第14回	領域「表現」における今日的課題 模擬保育の実践から課題を抽出し検討	廣畑まゆ美
第15回	子どもの感性や創造性を豊かにするための保育者の役割とは何か	廣畑まゆ美
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な授業態度，予・復習の状況，毎授業後に提出するコメントペーパーによって評価する。
定期試験	50	授業の内容理解を筆記試験で評価する。
実践発表	30	模擬保育の準備・発表,ディスカッション等への参加状況等により評価する。

評価の方法：自由記載	追・再試有り
受講の心得	「感性や創造性を豊かにする」とはどういうことなのかについて探求してほしい。
授業外学修	1　復習として，課題を課すことがある。 2　予習として，資料を配布することがある。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	幼稚園教育要領，保育所保育指針，保幼連携型認定こども園教育・保育要領

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜提示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．領域「表現」に関わる内容（音楽・造形・身体）の指導上の留意点を理解し,指導案を作成することができる	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を十分に理解した上で,具体的な指導場面を想定し指導案を作成し,指導上の留意点を説明することができる	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を理解した上で,具体的な指導場面を想定し指導案を作成し,指導上の留意点を理解している	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を理解した上で,具体的な指導場面を想定し指導案を作成することができる	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性は理解しているが,具体的な指導場面を想定し指導案を作成することが不十分である	幼児の発達や学びの過程と表現の関連性を理解できておらず,具体的な指導場面を想定し指導案を作成することができない
思考・問題解決能力	１．実施した模擬保育を保育者としての視点に加えて,子ども役等の視点からも振り返り,課題を見つけ,保育内容や環境を改善することができる	実施した模擬保育を保育者としての視点に加えて,子ども役等の視点からも振り返り,個別の課題を見つけ,保育内容や環境を十分に改善することができる	実施した模擬保育を保育者としての視点に加えて,子ども役等の視点からも振り返り,保育内容や環境を改善することができる	実施した模擬保育を保育者としての視点に加えて,子ども役等の視点からも振り返り,保育内容や環境を改善する視点を持つことができる	実施した模擬保育に対して,保育内容や環境についての省察が不十分である	実施した模擬保育に対して,課題を発見したり改善する視点を持っていない
技能	１．適切な環境を整え模擬保育を実践することができる	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を具体的に想定し,十分な環境設定ができ,幼児の表現意欲を引き出すための適切な援助や表現活動を促す活動ができる	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を想定し,環境設定ができ,幼児の表現意欲を引き出すための適切な援助ができる	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を想定し,環境設定ができ,幼児の表現意欲を引き出すための援助ができる	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を想定した環境設定はできるが,幼児の表現意欲を引き出すための援助が不十分である	音楽表現・造形表現・身体表現活動中の様々な状況を想定した環境設定ができず,幼児の表現意欲を引き出すための援助をすることができない

科目名	子どもと音楽研究			授業番号	CP323	サブタイトル			
教員	土師　範子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	「基礎音楽A・B」で培った技能・経験をもとに，保育やの現場で要求される「表現」と「弾き歌い」の技術と知識を系統的に学習する。また，表現活動に係る教材の活用と具体的な展開を理解する。								
到達目標	・保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を習得する。 ・身体表現，音楽表現，の表現活動に関する知識や技術を習得する。 ・表現活動に係る教材等の活用及び作成と，具体的展開のための技術を習得する。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもと音楽表現について 様々な音楽表現について考える	
第2回	弾き歌いの表現方法１ 幼児期の弾き歌いの楽曲について技術を深める	
第3回	弾き歌いの表現方法２ 幼児期の様々な楽曲に取り組む	
第4回	子どもの歌とピアノ・リズム　1 子どもが歌いやすいようなピアノやリズムについて模索する	
第5回	子どもの歌とピアノ・リズム　2 子どもと音楽表を楽しむためのピアノやリズムの指導技術を深める	
第6回	音楽表現－歌唱１－ 季節行事に応じた歌唱を行う	
第7回	音楽表現－歌唱２－ 幼児向けの歌だけでなく、現代の生活に沿った歌へも取り組む	
第8回	音楽表現－身体表現１－ 様々な身体表現を模索する	
第9回	音楽表現－身体表現２－ 身体表現の簡易化、高度化について検討する	
第10回	音楽表現　－器楽１－ 様々な楽器に取り組む	
第11回	音楽表現　－器楽２－ 日本の楽器に取り組む	
第12回	音楽表現－リズム１－ 様々な楽器を用いたリズム演奏を行う	
第13回	音楽表現－リズム２－ 日本の楽器を用いたリズム演奏を行う	
第14回	音楽表現から発表へ 日々の遊び・取り組みから発表への接続を模索する	
第15回	表現法のまとめと考察	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的に受講しているか。苦手なことでも克服しようと努力をしているか。発表やグループ活動など課題に積極的に参加をしているか。
レポート	30	課題・レポートの，理解度・定着度。添削後，返却する。返却時にコメントを記すか，全体で講評をする。
実践発表	40	学習内容を理解できているか。課題を達成しようと意欲的に努力をしているか。学んだ技術が習得できているか。

評価の方法：自由記載	授業の特性上，再試は行わない。追試は行う。
受講の心得	授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう，日々努力をしてください。 毎回の授業で提案される課題への取り組みが肝要。音楽の理論を理解し，毎日課題を演習することで，子どもと関わるために必要な音楽技法と進歩します。 保育実践者を意識しながら自らが表現することを主眼に置くため，積極的であること。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，予習すること。 授業で提示された課題を実施し，復習すること。 上記の内容を，週当たり2時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	大人のための音楽ワーク「テキスト」及び「ドリル」，『こどものうた100』

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で，その都度紹介します。
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かに展開するために必要な知識を習得できる。	保育の内容を十分に理解し，子どもの遊びを豊かにするために必要な知識を十分に習得し，発展することができる。	保育の内容を十分に理解し，子どもの遊びを豊かにするために必要な知識を十分に習得している。	保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かにするために必要な知識を習得している。	保育の内容を理解しようと努力し，知識を習得しようと努力している。	保育の内容は理解しようとし，知識を習得しようとしている。
知識・理解	身体表現，音楽表現の表現活動に関する知識を習得できる。	身体・音楽表現活動に関する知識を十分に習得し，発展することができる。	身体・音楽表現活動に関する知識を十分に習得している。	身体・音楽表現活動に関する知識を習得している。	身体・音楽表現活動に関する知識を習得しようと努力している。	身体・音楽表現活動に関する知識を習得しようとしている。
思考・問題解決能力	表現活動に係る教材等の活用，及び作成することができる。	子どもの姿や，保育現場での取り組みを想定することができ，表現活動に係る教材等の活用及び作成を十分にすることができる。	表現活動に係る教材等の活用，及び作成を十分にすることができる。	表現活動に係る教材等の活用，及び作成をすることができる。	表現活動に係る教材等の活用，及び作成をしようと努力している。	表現活動に係る教材等の活用，及び作成をしようとしている。
技能	保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かに展開するために必要な技術を習得することができる。	保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かにするために必要な技術を十分に習得し，発展することができる。	保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かにするために必要な技術を十分に習得している。	保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かにするために必要な技術を習得している。	保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かにするために必要な技術を習得しようと努力している。	保育の内容を理解し，子どもの遊びを豊かにするために必要な技術を習得しようとしている。
技能	身体表現，音楽表現の表現活動に関する技術を習得できる。	身体・音楽表現活動に関する技術を十分に習得し，発展させることができる。	身体・音楽表現活動に関する技術を十分に習得している。	身体・音楽表現活動に関する技術を習得している。	身体・音楽表現活動に関する技術を習得しようと努力している。	身体・音楽表現活動に関する技術を習得しようとしている。
技能	表現活動に係る教材等の活用，及び作成することができ，具体的展開のための技術を習得できる。	子どもの姿や，保育現場での取り組みを想定することができ，表現活動に係る教材等の活用，及び作成を十分にすることができ，具体的展開のための技術を十分に習得している。	表現活動に係る教材等の活用，及び作成を十分にすることができ，具体的展開のための技術を十分に習得している。	表現活動に係る教材等の活用，及び作成をすることができ，具体的展開のための技術を習得している。	表現活動に係る教材等の活用，及び作成をすることができ，具体的展開のための技術を習得しようと努力している。	表現活動に係る教材等の活用及び作成をすることができ，具体的展開のための技術を習得しようとしている。
態度	授業の積極的な態度や意欲を，発表への取り組みなどを評価する。	自己課題を明確にし，授業内容が定着するように取り組むことができる。積極的に発表やグループ活動を行い，課題に十分取り組むことができる。	授業内容が定着するように取り組むことができる。積極的に発表やグループ活動を行い，課題に十分取り組むことができる。	授業内容が定着するように取り組むことができる。発表やグループ活動を行い，課題に取り組むことができる。	授業内容が定着するよう努力している。発表やグループ活動に消極的である。	課題の未提出がある。発表やグループ活動へ参加していない。

科目名	教育実習研究A 1クラス	授業番号	CP329A	サブタイトル				
教員	齊藤　佳子、岡崎　三鈴							
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本科目では，教育実習（幼稚園実習）への自己課題を明確にし，教育実習の意義，実習計画と事前準備，心構え，指導案立案，実習日誌の書き方などを学び実習に備える。また，大学で学んだ様々な実践的知識及び技能を応用し，現場の実践と結びつけて考察し，実践へつなげる力を身につける。								
到達目標	下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。なお本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた<知識・理解>＜思考・問題解決能力＞＜技能>の修得に貢献する。 1．幼稚園教育の実際の場に入るにあたって，責任ある立場で子どもに接する者としての在り方を学ぶ。 2．実習のために必要で有効な知識・技能を学び，それを生かして実習できるよう準備する。 3．実習の学習課題を明確にする。 4．実習の体験を踏まえて，将来への希望と今後の学習への意欲を高める。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育実習の計画と準備 ・事前訪問（実習園オリエンテーション）について理解し，学生個人票（下書き）を作成する。 ・実習園への通勤方法の確認（学割の手続き）をする。	
第2回	実習日誌の書き方(1)，実習の目的と意義，目標，実習の心得 教育実習に参加し学ぶ者としての態度と心得について理解する。実習園からの調査票を確認する。	
第3回	教育実習の実際，指導計画（案）の書き方(1) 幼稚園生活の流れと教師の役割，実習生の活動，指導計画（案）作成の手順と内容について確認する。 学生個人票（清書）を作成する。	
第4回	教材研究，指導計画（案）の書き方(2) 絵本を見る活動，自ら選んだ遊び，製作遊び，造形遊び，運動遊び，登園・降園，弁当（給食）等， 部分実習（部分指導）の指導案の立て方について確認し，指導案を作成する。	
第5回	教育実習の進め方，実習の自己課題作成 観察・参加・部分・全日実習についての詳細を理解する。実習へ向けての自己課題を明確にする。	
第6回	実習日誌の書き方(2) 実習の自己課題を実習日誌に記入する。 教育実習計画，実習園の概要，園庭・園舎を平面図を記入する。	
第7回	附属園見学前説明，実習に係る提出書類 見学記録の書き方，誓約書清書，提出書類（休園届、遅刻・早退・欠勤届等），実習における異常気象時の対応，お礼状の書き方を確認する。	
第8回	特別支援教育 特別な配慮を必要とする幼児「気になる子ども」への指導について理解する。	
第9回	幼稚園における教師の役割（援助と環境構成） 現場における保育の実際を見学し，こども園での子どもたちの様子や保育教諭の生活の一端を知り，教職についての意義を知る。	
第10回	幼稚園の役割（学級経営・園生活全般） 保育の場における保育教諭と幼児のかかわり方及び１日の生活の流れを中心に見学をし，幼児教育の目的や総合的な指導について学ぶとともに，具体的な保育教諭の指導を観察し，幼児教育の特徴を捉える。 実習日誌の見学記録を記入する。	
第11回	教育実習の振り返り(1)，お礼状の作成 振り返りのワークシートに取り組み，自己評価を行い，改善の手掛かりをつかむ。 実習中のエピソードや学んだこと，感動したことを整理する。	
第12回	教育実習の振り返り(2)，お礼状の作成 実習終了後，10日以内を目安に実習園へお礼の手紙を書く。	
第13回	教育実習のまとめ(1) 各自が体験した実習内容をもとにグループワーク討議に取り組み，分かりやすく説明する力，他者の体験を聞き取る力や共感する力を身に付けるとともに，様々な園の実態を知り，実習の学びを深める。	
第14回	教育実習のまとめ(2) 教育実習について振り返り，学んだことをグループごとにまとめ，発表準備を行う。	
第15回	教育実習のまとめ(3) 3～5歳クラスの遊びの特徴と教師の役割 教育実習について振り返り，学んだことをグループごとにまとめて報告会で発表する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	授業で説明する実習の目的，意義について説明できる。また，実習に向けて健康管理と心構えをする。
レポート	70	事前及び事前指導時における実習生の学習の内容や程度に関する下記の諸点について評価する。 ・実習前に事前学習する授業内容について事前学習ページに記載する。 ・幼児の具体的な姿をイメージしながら部分指導の指導案を作成する。 ・附属園を訪問して実際の保育場面を観察・記録し，整理することで，理論で理解したことを確認する。 ・実習後には自己課題についてレポートを作成するとともに担当年齢の特徴や遊びの内容についてまとめる。 ・実習における幼児の姿や活動，環境構成，教師の援助の事例について分析・考察し，グループ討議を行い，その結果についてまとめ報告会で発表する。 課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また，課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	日常生活の中で「人を育てる」職業に就くことを意識し，人間として必要な態度・習慣（挨拶・着衣の状況，食生活，生活リズム等）を考えて生活する。また，人間として生まれながらにもつ「五感」を働かせ，生活の中で様々な事柄を感じて過ごし，幼稚園教諭としての感覚を研ぎ澄ますよう努力する。

授業外学修	1．授業で事前学習する内容（実習の目的，意義，実習の内容）について事前学習ページに記載する。 2．実習に必要な教材準備を行う。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
必携　幼稚園教育実習	監修・著：森本眞紀子、編著：小野順子	ふくろう出版	978-4-861-86-880-1	本体価：2,100円+税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
必携　幼稚園教育実習	監修・著　森本眞紀子	ふくろう出版	978-4-86186-880-1	

参考書：自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．実習の目的，意義について理解している。	実習の目的，意義について，正確に理解し，述べることができる。	実習の目的，意義について，正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	実習の目的，意義について，概ね述べることができる。	実習の目的，意義について，正確に述べることができないが，自分の言葉で表現できる。	実習の目的，意義について，まったく表現することができない。
知識・理解	2．事前学習ページをまとめることができる。	事前学習ページをしっかりまとめることができている。	事前学習ページをまとめることができている。	事前学習ページを概ねまとめることができている。	事前学習ページを十分にまとめることができていない。	事前学習ページをまったくまとめることができていない。
知識・理解	3．実習日誌の書き方を理解している。	実習日誌の書き方を大変よく理解できている。	実習日誌の書き方を理解できている。	実習日誌の書き方を概ね理解できている。	実習日誌の書き方を十分に理解できていない。	実習日誌の書き方をまったく理解できていない。
思考・問題解決能力	1．実習に向けて自己課題を明確にできている。	実習に向けて自己課題をきわめて明確にした上で適切に記述できる。	実習に向けて自己課題を明確にした上で記述できる。	実習に向けて自己課題を概ね明確にした上で記述できている。	実習に向けて自己課題を十分に明確にできていない上に，十分に記述できていない。	実習に向けて自己課題をまったく明確にできていない。
思考・問題解決能力	2．自己課題の達成度についてまとめることができる。	自己課題の達成度について大変よくまとめることができている。	自己課題の達成度についてまとめることができている。	自己課題の達成度について概ねまとめることができている。	自己課題の達成度について十分にまとめることができていない。	自己課題の達成度についてまったくまとめることができていない。
思考・問題解決能力	3．担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について考えることができる。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について多角的に考察をしている。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について考察している。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について概ね考えている。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容について十分に考えられていない。	担当年齢児の特徴や生活と遊びの内容についてまったく考えていない。
技能	1．指導計画を作成できる。	指導計画を正確に作成できる。	指導計画を作成できる。	指導計画を概ね作成できる。	指導計画を十分に作成できない。	指導計画をまったく作成できない。
技能	2．学んだ知識を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるようしっかり準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう概ね準備ができている。	学修した知識を現場で実践できるよう十分に準備ができていない。	学修した知識を現場で実践できるようまったく準備ができていない。
技能	3．学んだ技術を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるようしっかり準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう概ね準備ができている。	学修した技術を現場で実践できるよう十分に準備ができていない。	学修した技術を現場で実践できるようまったく準備ができていない。

科目名	教育実習研究Ｂ			授業番号	CP331	サブタイトル			
教員	太田　憲孝、山田　恵子、溝田　知茂、小田　真一								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	小学校教育実習における中心的内容である授業の「設計－実施－評価」のサイクルの中で，授業設計にかかわる学習指導案を作成できるようになることを目標とする。そのための基礎的・基本的事項として，教育実習の意義と目的，計画と準備，心構え，実習記録簿の作成の仕方についての理解を図る。また，教材研究や児童理解に基づいた確かな学習指導案の立案を繰り返すとともに，立案した学習指導案を基に模擬授業を実施する。								
到達目標	学習指導案や板書計画等を作成し，模擬授業を適切に行うことができる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育実習の意義と目的 教育実習の意義・目的・内容を理解し、実習に向けての心構えをつくる。	太田
第2回	「教師の資質」とは何か 教師の資質についての理解を深め、守秘義務、子どもの人権について考える。	太田
第3回	実習記録の意義と方法 実習記録の意義と方法について理解し、記録のとり方と省察方法を会得する。	太田
第4回	学習指導計画の立て方 各教科の学習指導計画の立て方を学修する。	太田
第5回	学習指導案の作成Ⅰ 各教科の学習指導案の作成方法を理解する。	太田
第6回	学習指導案の作成Ⅱ 「導入」「展開」「終末」を意識した学習指導案の作成法を学修する。	太田
第7回	学習指導案の作成Ⅲ 工夫した発問や机間指導を位置づけた学習指導案の作成法を学修する。	山田
第8回	実習日誌の書き方 実習日誌の書き方を理解する。	山田
第9回	実習日誌への記載内容の点検 実習日誌への記載内容の点検の仕方を理解する。	山田
第10回	実習日誌に基づく反省 実習日誌に基づく反省を行い、実習全体を振り返る。	山田
第11回	学校と子どもたちの実態と実習の課題 実習を振り返り、子どもたちの実態から課題を明らかにする。	山田
第12回	実習後の礼状の書き方 実習を振り返り、実習後の礼状の書き方を理解する。	山田
第13回	実習後の成果と課題 実習を振り返り、実習後の成果と課題を明らかにする。	溝田
第14回	小学校教育実習発表会の準備 自らの実習の成果と課題を振り返ってまとめる。	溝田
第15回	小学校教育実習発表会(まとめ) 実習を通した気づきや学びと今後の課題についてまとめる。	溝田
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な態度・模擬授業の準備・実習の準備の状況によって評価する。
レポート	40	教材研究，学習指導案づくりの記載内容・到達度、模擬授業等によって評価する。確認後、コメントを記入し返却する。
その他	30	教育実習日誌への記入・整理等によって評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校教師を志望する強い気持ちで授業に参加すること
授業外学修	1　予習として，授業で配付される資料を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，授業で提示された課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献や資料等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	小学校教育実習日誌

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	4月当初から実習前までの期間に，補講を行う。一人一人が力を付けて自信をもって実習に臨めるようにする。
備考	R4.1改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小中学校，国立附属教育実習校教員，市教育委員会指導主事（太田憲孝） 公立小学校教員，教頭，校長(山田恵子)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校，教育委員会事務局等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について基本的なことを理解する。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について十分に理解している。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について概ね理解している。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について最低限理解している。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等についてやや理解が不十分。	小学校教育実習の事前指導として、小学校教員の基本的な職務内容や児童との関わり等について全く理解していない。
技能	１．学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことができる。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことが大変良くできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことがよくできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことが普通にできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことがあまりできない。	学習指導案や板書計画等を作成し、模擬授業を適切に行うことが全くできない。

科目名	保育・教職実践演習（幼・小）	授業番号	CP428	サブタイトル	（幼・小）		
教員	齊藤　佳子、太田　憲孝、溝田　知茂、岡﨑　三鈴、土師　範子						
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	4年間における個々の科目の履修ならびに各種の実習において修得した専門的な知識・技能を基礎として，教員としての使命感や責任感，教育的愛情等を持って，教育活動の具体的場面で生きて働く知への総合・統合を図る。この過程でのグループ討議の中で対人的なコミュニケーション能力の向上と同僚性の涵養を図っていきたい。また，履修カルテを参照し，個別的に補完指導を行う。								
到達目標	保育士，幼稚園教諭，小学校教諭のいずれにも共通して， (1)子どもを理解する力，(2)保育（授業）をデザインする力，(3)保育（授業）を実践する力，(4)保育（授業）を省察する力の4点を身につけることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の取得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション：「教職実践演習」の目的と授業内容。 「保育者・教師への歩みと足跡」 各自，保育者・教職を目指してきた思いや，履修カルテをもとに これまでの学校生活の振り返りをワークシートにまとめる。	齊藤
第2回	グループワーク：「保育者・教師への歩みと足跡」について，合同グループで発表し，話し合い，自分自身の思いや覚悟を確かめる。	溝田・岡﨑
第3回	グループワーク：「子どもの理解の方法と実際」 保育者として，教師として，子ども理解することについて改めて考え，保育の事例，幼稚園の事例，小学校での事例について，合同グループで話し合い，自分自身の対応について考える。	溝田・岡﨑
第4回	グループワーク：「問題行動の理解と対応」 子どもの問題行動に関して，保育の事例，幼稚園の事例，小学校での事例について，合同グループで話し合い，自分自身の対応について考える。	溝田・岡﨑
第5回	ロールプレイング：「保護者対応」 保護者から苦情電話がかかってきたとの想定で，それぞれの立場でロールプレイングを行い，保護者の思いを共感的に受け止め，問題を整理し，誠実な態度で対応することについて考える。	岡﨑・土師
第6回	模擬保育・模擬授業(1) これまでの学修で身に付いているはずの「保育者・教師としての力」を確認するために，模擬保育・模擬授業を行い，保育実践・教育実践を通して学び合う。	太田・岡﨑・土師
第7回	模擬保育・模擬授業(2) これまでの学修で身に付いているはずの「保育者・教師としての力」を確認するために，模擬保育・模擬授業を行い，保育実践・教育実践を通して学び合う。	太田・岡﨑・土師
第8回	模擬保育・模擬授業(3) これまでの学修で身に付いているはずの「保育者・教師としての力」を確認するために，模擬保育・模擬授業を行い，保育実践・教育実践を通して学び合う。	太田・岡﨑・土師
第9回	ループワーク：「幼保小の接続」　幼保小の相違点，幼保小の接続の在り方，課題，接続期のカリキュラム，接続期の実践の工夫などについて，合同グループで話し合い，保育者・教師として必要な支援について考える。	齊藤・岡﨑
第10回	グループワーク：喫緊の課題(1) 保育・教育の現代的課題を見出し，調べ，報告し，討論する	溝田・齊藤・土師
第11回	グループワーク：喫緊の課題(2) 保育・教育の現代的課題を見出し，調べ，報告し，討論する	溝田・齊藤・土師
第12回	グループワーク：喫緊の課題(3) 保育・教育の現代的課題を見出し，調べ，報告し，討論する。	溝田・齊藤・土師
第13回	「これからの情報教育～保育士・幼稚園教諭・小学校教諭に向けて」 情報教育，ICT教育・プログラミング教育について，今後，保育士，幼稚園教諭，小学校教諭が主体となって取り組んでいかなければならない事柄について考える。	太田・土師
第14回	ロールプレイング：「初めて子どもに出会う日」 初めて子どもたちと出会う日という想定で，子どもたちに，また，子どもと保護者を前に，それぞれの立場でロールプレイングを行い，学級の担当者また，学級担任としての思いをどのように伝えるかについて考え，気持ちを新たにする。	岡﨑・土師
第15回	「私のめざす保育者・教師像と今の自分，これからの自分」 私のめざす保育者・教師像について，教員の講話を聴講し，最終レポートに向けて，自分の夢や決意を固める。	学校園長(齊藤)・太田
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	免許取得者としての意識をもった意欲的な受講態度であるか否かを評価する。
レポート	40	毎回の授業内容レポートの適確な把握状況について，コメントして返却する。
小テスト		
定期試験		
その他	40	模擬保育・模擬授業等の実践力の達成状況を評価する。

評価の方法：自由記載	グループ討論，実技指導，補完指導などの結果を踏まえ，教員及び保育者として最小限必要な資質能力が身に付いていることを確認し，単位認定を行う。
受講の心得	全講義への出席を基本とする。やむを得ず欠席の場合は，その状況・内容を必ず連絡すること。四月から社会人として勤務することを念頭に，向上心を持って授業に臨むこと。
授業外学修	1 予習として，事前に配布された資料を読み，自分の考えを書きまとめておく。 2 復習として，授業内容を通して学んだことを振り返って書きまとめ，提出する。 3 発展学習として，授業に関連した参考資料や書籍を読み，記録に残す。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	随時，必要な資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小中学校教員31年・岐阜県教育委員会文部教官5年（太田憲孝）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子どもについて理解している。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について，正確に理解し説明できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について，正確ではないがほぼ理解し説明できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について，大体述べることができる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について，正確に説明できないが，自分の言葉では表現できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について，まったく表現することができない。
知識・理解	２．保育・授業を想定した保育・教科内容・教育課程に関する基礎的な知識を習得している。	保育・授業を想定した保育・教科内容に関する基礎的な知識について，正確に理解し説明できる。	保育・授業を想定した保育・教科内容に関する基礎的な知識について，正確ではないがほぼ理解し説明できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な知識について，大体述べることができる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な基礎的な知識について，正確に説明できないが，自分の言葉では表現できる。	保育者・教師に必要な子どもに関する基礎的な基礎的な知識について，まったく表現することができない。
知識・理解	３．教職に求められる教養を身に付けている。	教職の意義，教育の理念・教育史・思想の理解，学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について，正確に理解し，説明できる。	教職の意義，教育の理念・教育史・思想の理解，学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について，ほぼ理解し，説明できる。	教職の意義，教育の理念・教育史・思想の理解，学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について大体述べることができる。	教職の意義，教育の理念・教育史・思想の理解，学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について，正確に説明できないが，自分の言葉では表現できる。	教職の意義，教育の理念・教育史・思想の理解，学校教育の社会的・制度的・経営的理解に必要な基礎理論について，まったく表現することができない。
思考・問題解決能力	１．これまでの学修（履修カルテ）を振り返り，各自の課題を明確にし，その解決策について考えることができる。	自分の到達点と課題を的確に自覚し，課題を克服するための自己研鑽に努めている。	自分の到達点と課題を的確に自覚し，課題を克服するための努力をしている。	自分の到達点と課題を自覚し，課題を克服するための努力を始めている。	自分の到達点と課題を自覚している。	履修カルテに記入している。
思考・問題解決能力	２．保育・授業のデザイン・実施・省察の実践的な問題解決全過程において探究を進めていくことができる。	自己の課題を的確に認識し，その解決に向けて，学びつづける姿勢を持ち，自己研鑽に努めている。自分の資質・能力を活かすような，優れた創造力を発揮している。	自己の課題を認識し，その解決に向けて，努力をしている。	自己の課題を認識し，その解決に向けて，努力を始めている。	自己の課題は認識できている。	自己の課題を十分に認識できていない。
思考・問題解決能力	３．保育・教育時事問題についてに関心を持ち，意見を持つことができる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち，正確に理解し意見を持ち，それを説明できる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち，正確ではないがほぼ理解し意見を持ち，それを説明できる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち，自分の意見を持ち，大体述べることができる。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持ち，正確に説明できないが，自分なりに意見を持つことができている。	保育・学校教育に関する新たな課題について関心を持てず，意見を持つことができない。
技能	１．保育・授業の実践的・実務的な技能を身に付けている。	子どもの特徴を把握し，それに対応できる様々な指導上の工夫を行って，すべての子どもに効果的な学びを促すような魅力的な保育・授業を実践することができる。	子どもの特徴を把握し，それに対応できる様々な指導法を用いて，多くの子どもが学べるような保育・授業を実践することができる。	基本的な指導技術を使って，筋の通った１時間の保育・授業を実践することができる。	様々な人に対して，自分の思いや意見を，わかりやすく伝えることができる。	身近な人に対して，自分の思いや意見を伝えることができる。
技能	２．保育者・教師に必要不可欠な子ども，同僚教師などとの適切なコミュニケーション能力，つまり人間関係構築力が身に付いている。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等をよく自覚し，客観的，計画的，かつ積極的にコミュニケーション能力を発揮し，人と関わることができる。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等をよく自覚し，客観的，計画的，かつ積極的にコミュニケーション能力を発揮し，人と関わる努力をしている。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等をよく自覚し，客観的，計画的，かつ積極的にコミュニケーション能力を発揮し，人と関わる努力を始めている。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等をよく自覚している。	自分の好き嫌いや得手不得手などの性格等を分析しようとしている。
態度	１．授業に意欲的に参加できる。	質問など積極的に行い，疑問を解決し，授業内容を理解した上で，適切なコメントシートを提出している。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられ，授業内容を理解した上で，コメントシートを提出している。	授業に出席し，授業内容を理解した上でコメントシートを提出している。	授業に出席し，コメントシートを提出しているが，理解が十分ではない。	授業に出席しているが，コメントシートの提出をしていない。

科目名	教育実習Ａ			授業番号	CP430	サブタイトル			
教員	齊藤　佳子、岡崎　三鈴								
単位数	4単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園での幼児の主体的な活動を基本とし，幼児がよりよい方向へ向かい発達していくことを援助する実際を体験し，幼児と心と心を通わせ，幼児の興味・関心・要求などを汲み取りながら「援助」の意味を実践・体験を通して学び，「自らの意志で学ぶこと」の重要性に気づく力を身に付ける。また，観察実習・参加実習・部分実習・責任実習で幼児の観察記録と指導案を詳細に記述することができ，実践における教師の役割と環境構成の重要性に気付ける感性を養う。								
到達目標	下記の諸点を本科目の到達目標に設定する。本科目はディプロマ・ポリシーの＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 1．幼稚園教育の実際の場を経験し，責任ある立場で子どもと共に生活する体験を得る。 2．これまで学んだ知識・技術を生かして実習することにより，その後の学習課題を明確にする。 3．教員としての将来に希望をもち，その職務への自覚を深め，自己を陶冶する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第1週　観察実習 （1）実習園について理解する。 教育の基本方針，学級の人員構成・担当教諭の学級経営，環境（物的：敷地，建物の構造，配置及び施設設備・人的：職員構成，勤務形態等）を把握する。 （2）観察の仕方を学ぶ。 第2～3週　参加実習 （1）幼児の発達の概要を知る。 （2）幼稚園教育の一日の流れを把握する。 （3）基本的生活習慣の援助や遊びの指導について学び，担当教諭の補助をする。 第3～4週　指導実習（部分実習・責任実習） （1）3歳児から5歳児の各年齢の保育形態を理解する。 （2）幼児の実態と指導計画に準じた環境の構成をする。 （3）様々な環境にかかわって遊ぶ幼児の姿と教師の援助を予想して指導案を立てる。 （4）指導上の技術を生活の指導・遊びの指導の両面から学ぶ。 （5）指導の反省と評価の方法について学ぶ。 （6）幼児の安全への配慮について理解する。（安全指導） （7）保護者とのコミュニケーションの方法について学び，家庭・地域社会との連携について理解する。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	実習園からの評価（評価表の内容）を基準にする。4週間の教育実習における次の8項目の評価により成績をつける。意欲，責任感，研究的態度，協調性，指導計画，指導技術，事務処理，総合評価。
レポート	30	実習日誌の内容，指導案立案（指導案の作成・実施・評価）の資料を基に評価する。 日誌は添削して、返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	教育実習における実習園の評価表，実習日誌，指導案立案，指導実習の準備や成果などを総合的に判断し，実習園での評価点60点以上の者に単位を認定する。
受講の心得	現場での実践に積極的に臨み，自己課題・目標を達成できるよう取り組む。また，今後，社会人として役立つこととして，何を大切にすべきか，互いに協同し合うこととはどのようなことかを学ぶ。
授業外学修	1．幼児の活動と教師の配慮の関係性と実習生としての自分の活動を日誌に記入する。 2．その日の実習のねらいについて一日を振り返り，実習日誌に記入する。 3．指導案等の実習指導計画を作成し，指導にあたっての教材研究をする。 以上の内容を，毎日2時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省　フレーベル館
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有

担当教員以外で指導に関わる実務経験者	幼稚園及び認定こども園等の実習指導者
実務経験をいかした教育内容	学生が幼稚園教諭の職務を体験し必要な知識及び技能を習得できるように，実際の幼児との生活の中で指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	１．指導計画を作成できる。	指導計画を大変よく作成できている。	指導計画を作成できている。	指導計画を概ね作成できている。	指導計画をほぼ作成できていない。	指導計画をまったく作成できていない。
技能	２．指導技術を身につけている。	指導技術を大変よく身につけている。	指導技術を身につけている。	指導技術を概ね身につけている。	指導技術をほとんど身につけていない。	指導技術をまったく身につけていない。
技能	３．事務処理ができる。	事務処理が大変よくできている。	事務処理ができている。	事務処理が概ねできている。	事務処理がほぼできていない。	事務処理がまったくできていない。
態度	１．実習において意欲がみられる。	実習においてひときわ意欲がみられる。	実習において意欲がみられる。	実習において概ね意欲がみられる。	実習において十分な意欲がみられない。	実習においてまったく意欲がみられない。
態度	２．実習において責任感がみられる。	実習においてひときわ責任感がみられる。	実習において責任感がみられる。	実習において概ね責任感がみられる。	実習において十分な責任感がみられない。	実習においてまったく責任感がみられない。
態度	３．実習において研究的態度がみられる。	実習においてきわめて研究的態度がみられる。	実習において研究的態度がみられる。	実習において概ね研究的態度がみられる。	実習において十分な研究的態度がみられない。	実習においてまったく研究的態度がみられない。
態度	４．実習において協調性がみられる。	実習においてひときわ協調性がみられる。	実習において協調性がみられる。	実習において概ね協調性がみられる。	実習において十分な協調性がみられない。	実習においてまったく協調性がみられない。

科目名	教育実習Ｂ			授業番号	CP432	サブタイトル			
教員	太田　憲孝、山田　恵子、溝田　知茂								
単位数	4単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	大学の授業で学んだ理論や身に付けた知識や技能を基にして，実践的指導力（学習指導力」「生徒指導力」「マネジメント力」）を身に付ける。実際に児童の前で授業を展開し，実践を評価・分析することを通して，改善点を見付け，工夫・改善していく。つまりＰＤＣＡサイクルを教育実習の中で繰り返しながら，小学校教師としての実践的指導力を総合的に高めていく。4週間の教育実習の中で，第1週には，観察実習，第2.3週には，授業実践実習，第4週には一日経営実習を行う。また，4週間を貫く教育実習課題を個々に設定し，課題意識を明確にして教育実習に取り組む。								
到達目標	１「学習指導力」として，学習指導案の作成や教材・教具の工夫の仕方，分かりやすい授業のために指導技術などを修得する。 ２「生徒指導力」として，授業規律や生活規律の徹底を図るための指導方法，児童の人間関係づくりの構築方法を修得する。 ３「マネジメント力」として，学級担任になったことを想定して，学級経営の計画を立て，学習活動の組織の仕方を取得する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第1週　観察実習 ・配属学級での授業観察を通して次のことを中心に観察する。 (1)指導案と実際の授業との対応 (2)「教師－児童」の相互作用の実際 (3)学級経営の具体的な取り組み 第2～3週　授業実践実習 ・授業の「設計－展開－評価－（改善）」を各教科等の授業実践を通して実習する。 ＜各段階で求められると想定する技術＞ 設計：指導案を書く技術 展開：児童に学習内容を理解させる技術 評価：授業を観察・記録する技術 ・第3週目に研究授業を実施する。 第4週　一日経営実習 ・一日学級担任として，学級経営を中心に授業（2時間）を実施する。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	100	教育実習校での評価（80%），教育実習日誌（20%）

評価の方法：自由記載	
受講の心得	小学校教師を志望する強い気持ちで教育実習に参加すること
授業外学修	１　予習として，実習校で配付される資料を読み，疑問点を明らかにする。 ２　授業を実践する際に，十分な教材研究を行い，指導計画を立てる。 ３　授業後には，授業実践を振り返る。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	小学校教育実習日誌

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小中学校教員(27年)，国立附属教育実習校教員(4年)，市教育委員会指導主事(3年)　太田
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	山田恵子，溝田知茂
実務経験をいかした教育内容	学校，教育委員会事務局等での経験を生かして，教育現場の実際を反映させた実践的な教育を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価ができる。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価が十分にできる。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価がおおむねできる。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価が不十分である。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価ができない。	より良い教育実習になるよう、教材研究や模擬授業等を通して検討し考え、相互評価できるようになる。
技能	１．学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことができる。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことが大変良くできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことがよくできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことが普通にできる。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことがあまりできない。	学習指導案や板書計画等を作成し、授業実践を適切に行うことが全くできない。
態度	１．小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務等について実践しようとする。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務について十分に実践しようとしている態度が見られる。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務について実践しようとしている態度がおおむねうかがえる。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務について実践しようとしている態度が最低限。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務についてやや実践しようとする態度が不十分。	小学校教育実習において、小学校教員の基本的な職務について全く実践しようとする態度がない。

科目名	社会福祉			授業番号	CQ201	サブタイトル			
教員	中　典子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	社会福祉の歴史をふまえながら，保育士資格に必要な社会福祉の制度・支援方法について講義する。								
到達目標	利用者主体の制度に改正されていく社会福祉の動向を学び，利用者本位の支援とは何かについて理解できるようになることを目的とする。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	社会福祉とは 社会福祉の基本構造・理念・援助、生活支援について学び、人権尊重と社会正義を理解する。	
第2回	欧米における社会福祉のあゆみ イギリス，アメリカの社会福祉の変遷を理解する。	
第3回	日本における社会福祉のあゆみ 日本における社会福祉の変遷を理解する。	
第4回	社会福祉の法律 社会福祉の法体系、主な法制度、関連する法律や条約を理解する。	
第5回	社会福祉の行財政 社会福祉における行政の役割と意義,，福祉財政について理解する。	
第6回	社会福祉の実施体制 社会福祉の事業，施設の種類と目的について理解する。	
第7回	社会福祉の専門職 社会福祉関連の専門職の職種や役割を理解する。	
第8回	社会福祉における相談援助 対人援助において求められる姿勢を理解する。	
第9回	利用者の保護に関わる仕組み 利用者の人権を守るための取り組みを理解する。	
第10回	貧困・差別・孤立に対するネットワークの構築 地域における孤立の現状，地域ネットワークの構築について理解する。	
第11回	子ども家庭福祉 少子化社会と子ども・子育て支援の総合施策について理解する。	
第12回	母子父子寡婦福祉 ひとり親家庭の現状，母子及び父子並びに寡婦福祉法をはじめ，母子父子寡婦福祉に関連する制度を理解する。	
第13回	高齢者福祉 超高齢社会の現状，地域包括ケアシステム，介護保険について理解する。	
第14回	障害者福祉 障害のとらえ方，ノーマライゼーションの理念，障害者総合支援法について理解する。	
第15回	国際化と多様性支援の現状と諸課題 社会福祉における今後の課題について学び，利用者本位の支援とは何かを理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予習・復習によって評価する。
授業終了度に示すワーク	90	各回の主要なポイントの理解を評価する。ワークで毎回の授業内容の復習ができていること。 ワークについては，授業終了後に学びの度合いを発表によって確認するとともに7回目と15回目に提出することを求め，コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業内容の理解を深めるため，授業開始前までにテキストの内容を読んでおくこと。
授業外学修	授業開始前までに，テキストの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版社会福祉ー原理と政策	立花直樹・波田埜英治・家高将明・中典子編集	ミネルヴァ書房	9784623098873	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．利用者主体の制度に改められていく社会福祉の動向を理解できる。	利用者主体の制度に改められていく社会福祉の動向を理解できる。	利用者主体の制度について理解できる。	利用者主体の社会福祉の動向を理解できる。	利用者主体の社会福祉の動向の理解が十分でない。	利用者主体の社会福祉の動向が理解できていない。
思考・問題解決能力	１．利用者本位の支援とは何かについて理解し、考えることができる。	利用者本位の支援のあり方ついて理解し、考えることができる。	利用者本位の支援について理解することができる。	利用者本位の支援について考えることができる。	利用者本位の支援についての理解が十分でない。	利用者本位の支援について考えることができていない。

科目名	子ども家庭支援論			授業番号	CQ202	サブタイトル			
教員	中　典子								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	事例を通して人間が生活するうえで直面する課題に焦点をあてて支援する方法を学び，保育現場における子ども家庭支援の意義を明らかにする。								
到達目標	子ども家庭支援の意義と目的を理解し，支援の方法と内容，専門職倫理について理解を深める。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子ども家庭支援の意義 子ども家庭支援に力を入れなければならない理由を理解する。	
第2回	子ども家庭支援の目的と機能 子ども家庭支援の目的と機能を学び，現代的課題を理解する。	
第3回	保育の専門性を生かした子ども家庭支援とその意義 保育者としての子ども・保護者への支援姿勢や技術を学び，子ども家庭支援の意義を理解する。	
第4回	保育者に求められる基本的態度 保育者と保護者が子どもの育ちを共有する意義と留意点を理解する。	
第5回	保護者とのコミュニケーションのとり方 保護者が子育てを自ら実践するための支援を理解する。	
第6回	保育者に求められる基本的態度 受容的関わり，自己決定の尊重，秘密保持について理解する。	
第7回	多様な家庭の状況に応じた支援 アセスメントの重要性について理解する。	
第8回	子育て家庭をとりまく社会資源 地域にある様々な社会資源の機能と運営について理解する。	
第9回	事例研究1 保育所等を利用する子どもの家庭への支援のあり方を理解する。	
第10回	事例研究2 地域の子育て家庭への支援のあり方を理解する。	
第11回	事例研究3 要保護児童及びその家庭に対する支援のあり方を理解する。	
第12回	事例研究4 低所得世帯の児童や家庭に対する支援のあり方を理解する。	
第13回	事例研究5 障がい，医療的ケア等の特別な配慮を要する児童や保護者に対する支援のあり方を理解する。	
第14回	事例研究6 アレルギー，外国籍等により，特別な配慮を要する児童や保護者に対する支援のあり方を理解する。	
第15回	事例研究7 いじめの現状と子どもや家庭に対する支援のあり方を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表への参加，予・復習の状況によって評価する。
ワーク	90	各回の主要なポイントの理解を評価する。子ども家庭支援論ワークで毎回の授業内容の復習ができていること。 ワークについては，授業終了後に学びの度合いを発表によって確認するとともに7回目と15回目に提出することを求め，コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業内容の理解を深めるため，授業開始前までにワークの内容を読んでおくこと。
授業外学修	授業開始前までに，テキストの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示すワーク課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
こどもまんなか社会に活かす「子ども家庭支援論」	立花直樹・安田誠人監修	晃洋書房	97847710838998	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子ども家庭支援の意義と目的が理解できる。	子ども家庭支援の意義と目的が理解できる。	子ども家庭支援の目的が理解できる。	子ども家庭支援のの基礎が理解できる。	子ども家庭支援の目的の理解が十分でない。	子ども家庭支援の目的の理解ができていない。
思考・問題解決能力	１．支援の方法と内容，専門職倫理について考え，理解することができる。	支援の方法と内容，専門職倫理について考え，理解することができる。	専門職倫理について考え，理解することができる。	専門職倫理について理解することができる。	専門職倫理についての理解が十分でない、	専門職倫理についての理解ができていない。

科目名	子育て支援 1クラス			授業番号	CQ203A	サブタイトル			
教員	中　典子								
単位数	1単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子ども家庭支援論で学んだ内容をもとに事例研究を行い，保育現場において必要な子育て支援について明らかにする。								
到達目標	子育て支援の方法についてロールプレイなどを行い，身につける。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育者が行う子育て支援 保育の特性や保育者の専門性を基盤としながら展開される子育て支援の基本的な考え方を理解する。	
第2回	保護者との相互理解と信頼関係の形成 相互理解と信頼関係を形成するためのポイントを理解する。	
第3回	保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと理解 保護者や家庭の抱えるニーズへの気づきと理解する視点が持てるようになる。	
第4回	子ども・保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供 保護者同士をつなぐための技術について理解する。	
第5回	子どもと保護者に対する状況把握 子育て支援を行うために必要な情報収集や情報活用の方法を理解する。	
第6回	支援計画と環境構成 子育て支援計画の立て方とそれに基づく環境構成の方法を理解する。	
第7回	地域における社会資源の活用 子育て支援をする際に連携することが考えられる社会資源について理解する。	
第8回	子育て支援における職員連携の方法 職員間の連携の重要性を理解する。	
第9回	社会資源の活用と他機関・多職種との連携・協働 地域にある多様な社会資源の活用と他機関・多職種との連携・協働の方法を理解する。	
第10回	事例研究1 保育所における支援を理解する。	
第11回	事例研究2 地域の子育て家庭に対する支援を理解する。	
第12回	事例研究3 障がいのある子どもとその家庭に対する支援を理解する。	
第13回	事例研究4 特別な配慮を要する子どもとその家庭に対する支援を理解する。	
第14回	事例研究5 子ども虐待の予防と対応を理解する。	
第15回	事例研究6 要保護児童とその家庭に対する支援を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	受講中の議論により評価する。授業ごとに，自分が理解したことを整理できているか，疑問点を解決することができているか，それを表現できているか，他者の意見に対して批判的に議論ができているか，という点で評価する。
ワーク	90	子育て支援関連のワークで毎回の授業内容の復習ができていること。ワークについては，授業終了後に提出することを求め，コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業中に提示した課題を期日までに提出するように心がけること。
授業外学修	授業開始前までに，テキストの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（1時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
こどもまんなか社会に活かす「子育て支援」	立花直樹他	晃洋書房	9784771029001	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	１．子育て支援の方法についてロールプレイなどを行い，身につける。	子育て支援の方法についてロールプレイなどを行い，身につけることができる。	子育て支援の方法についてロールプレイに参加することができる。	子育て支援の方法についてロールプレイを通して支援方法が修得できる。	子育て支援の方法についてのロールプレイへの参加が十分でないため技能修得が不十分である。	子育て支援の方法についてのロールプレイへの参加が十分でないため技能が修得できていない。
態度	１．子ども本位の支援を考えた子育て支援の在り方が理解できる。	法制度に基づく子ども本位の支援を考えた子育て支援の在り方が理解できる。	子ども本位の支援を考えた子育て支援の在り方が理解できる。	子ども本位の支援を考えた子育て支援の在り方の基礎が理解できる。	子ども本位の支援を考えた子育て支援の在り方の理解が十分でない。	子ども本位の支援を考えた子育て支援の在り方が理解できていない。

科目名	子ども家庭福祉			授業番号	CQ204	サブタイトル			
教員	中　典子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子どもを発達する生活者として理解し，子どものニーズや権利を知り，その充足のために子どもと環境との関係を望ましいものに整えていくにあたり，必要なことを学ぶ。子ども家庭福祉の意味と目的，子どもを理解する視点，子どもの成長と発達，子ども家庭福祉の歴史，少子・高齢社会の子ども家庭福祉の課題，社会的養護と自立支援，子ども家庭福祉にかかわる公私の組織と施策（母子保健，保育施設，健全育成，障がい児対策，母子父子寡婦福祉対策，子育て支援等），子ども家庭福祉を担う人々，専門職と機関・施設の役割，相談支援活動，地域支援活動等について多面的に学習する。								
到達目標	子ども家庭福祉の制度と実際について理解できるようになる。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子ども家庭福祉の理念と概念 子どもにとっての最善の利益とは何かについて理解する。	
第2回	子どもの人権擁護と現代における子ども家庭福祉の課題 子どもの育ちを支援するために必要なことを理解する。	
第3回	子ども家庭福祉の沿革 日本及び海外の子ども家庭福祉の歴史を理解する。	
第4回	児童福祉法にいちづけられる施設や機関・財政 児童福祉法の内容を理解する。	
第5回	児童福祉法以外の子ども家庭福祉に関連する法律 こども基本法，子ども・子育て支援法，児童虐待の防止等に関する法律等の子ども家庭福祉に関する法律について理解する。	
第6回	子ども家庭福祉の専門性 子育て家庭が求める支援を把握し，専門性の向上に向けて必要なことを理解する。	
第7回	地域の子ども・子育て支援の対策 地域子ども・子育て支援事業を理解する。	
第8回	養育環境に課題のある子どもとその家庭への対策 子どもと保護者に必要な支援を理解する。	
第9回	障害のある子どもとその家庭への対策 障害福祉サービスの種類を理解する。	
第10回	ひとり親家庭の子どもとその家庭への対策 ひとり親家庭に対する支援の種類を理解する。	
第11回	貧困家庭の子どもとその家庭への対策 子どもが安定した暮らしをするために保育者に求められることを理解する。	
第12回	外国籍等の子どもとその家庭への対策 子どもが安定した暮らしをするために保育者に求められることを理解する。	
第13回	子ども虐待・DV(ドメスティックバイオレンス)防止への対策 子どもへの虐待やDVが起こったときにどのような支援機関があるかを理解する。	
第14回	非行問題・情緒障がいのある子どもとその家庭への対策 少年法と児童福祉法での対応の違いを理解する。	
第15回	子ども家庭福祉専門職の在り方 子ども家庭福祉専門職の基本的要件，子ども家庭福祉に携わる専門職を理解する。 児童福祉施設・機関の専門職の職務と資格，専門職に求められる資質を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予習・復習によって評価する。
ワーク	90	各回の主要なポイントの理解を評価する。コメントを記入して，返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回の授業に備えて予習を行っておくこと。
授業外学修	授業開始前までに，テキストの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
第5版 子ども家庭福祉論	田邊哲雄，中典子	晃洋書房	9784771039384	
福祉・保育小六法 2025年版	福祉・保育小六法編集委員会編	みらい	9784860156497	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子ども家庭福祉の制度について理解できる。	子ども家庭福祉の制度について理解できる。	児童福祉法について理解できる。	児童福祉法の主な内容について理解できる。	児童福祉法についての理解が十分でない。	子ども家庭福祉の制度が理解できていない。
思考・問題解決能力	１．子ども家庭福祉の実際について考え，理解することができる。	子ども家庭福祉の実際について考え，理解することができる。	子ども家庭福祉について理解することができる。	児童福祉法に基づく支援について理解することができる。	子ども家庭福祉の実際について考えることが十分でない。	子ども家庭福祉の実際についてイメージできていない。

科目名	保育原理			授業番号	CQ205	サブタイトル			
教員	伊藤　智里								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	保育の基本と歴史的変遷の理解を目指した講義および保育の現状と課題の検討から，保育における基本的概念の修得を図る。								
到達目標	1．保育の歴史を踏まえて，乳幼児観と保育の意義について理解する。 2．乳幼児の発達を踏まえた子ども理解と保育の基本を学び，子どもと向き合う自分の在り方を養う。 3．家庭・地域社会・保育施設の三者による総合的な乳幼児教育・保育の在り方について理解する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育とは何か，を考える 「保育」という言葉の意味と法律における保育の意義について理解する	
第2回	現代社会と保育の関係性 少子化・核家族化・単身化が特徴的な現代社会の状況と保育について理解する	
第3回	保育の制度的位置づけ 保育に関する法令および制度を概観して理解する	
第4回	保育の特性を理解する 子どもの最善の利益を考慮する保育について理解する	
第5回	環境を通して行う保育 保育・幼児教育の基本である環境を通して行う保育の意味を理解する	
第6回	子どもの発達と保育方法 子どもの発達過程に応じた保育の重要性について理解する	
第7回	保育所保育指針の理解 保育所保育指針の第1章を中心に概観し，内容を理解する	
第8回	幼稚園教育要領の理解 幼稚園教育要領の第1章を中心に概観し，内容を理解する	
第9回	幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解 幼保連携型認定こども園教育・保育要領の第1章，3章，4章を中心に概観し，内容を理解する	
第10回	保育の計画と実践 養護と教育（乳児における3つの視点，1歳以上3歳未満児及び3歳以上児の保育内容5領域）の関連性と保育計画について理解する	
第11回	保育実践の振り返り カリキュラムマネジメントについて理解する	
第12回	諸外国における保育の思想・保育施設の歴史 主に西洋の保育・幼児教育の歴史と代表的な人物および施設について理解する	
第13回	日本における保育の思想・保育施設の歴史 日本の保育・幼児教育の歴史と代表的な人物，施設，法令の変遷について理解する	
第14回	保育の現状と課題 近年の子育て支援制度の変遷と保育の課題について理解する	
第15回	幼児期に育てたい資質・能力と保育の未来 アプローチカリキュラムとスタートカリキュラム，架け橋期プログラム，モデルになり得る現在の世界の保育について理解する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業への積極的な参加，予習復習の状況によって評価する。
定期試験	90	授業全体を通した理解を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	保育の基礎知識の理解に努めること。授業に主体的に参加すること。内容が多岐にわたるため，予習，復習を欠かさないこと。
授業外学修	1．授業前にテキストを読み，内容を概観すること。 2．授業後にテキスト，参考書などを読み，講義内容を理解できるようにすること。 3．発展的に授業で紹介された参照資料等を読むこと。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
シードブック三訂　保育原理	大沼良子・榎沢良彦編著	建帛社	978-4-7679-5066-2	2090
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	9784577814475	240
保育所保育指針解説	厚生労働省	フレーベル館	9784577814482	320
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	内閣府・文部科学省・厚生労働省	フレーベル館	9784577814499	350
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育の基本原理の理解	保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領や保育の意義，目的，方法，保育計画，実践について十分理解し，自ら調べ知識を深めている。	保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領や保育の意義，目的，方法，保育計画，実践について繋がりを含め理解している。	保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領や保育の意義，目的，方法，保育計画，実践について個々に理解している。	保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領や保育の目的，方法，保育計画，実践について部分的に理解している。	保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領や保育の目的，方法，保育計画，実践について授業の内容の理解が不十分である。
知識・理解	２．現代社会と保育に関する理解	子どもの最善の利益と保育について，子どもをとりまく社会の現状と課題，子育て支援に関する法規や制度について十分理解し，保育の社会的役割と責任について，自ら調べ知識を深めている。	子どもの最善の利益と保育について，子どもをとりまく社会の現状と課題，子育て支援に関する法規や制度について繋がりを含めて十分理解していている。	子どもの最善の利益と保育について，子どもをとりまく社会の現状と課題，子育て支援に関する法規や制度について授業で提示した内容を理解していている。	子どもの最善の利益と保育について，社会の現状と課題，子育て支援に関する法規や制度について授業で提示した内容を部分的に理解していている。	子どもの最善の利益と保育について，社会の現状と課題，子育て支援に関する法規や制度について授業で提示した内容の理解が不十分である。
知識・理解	３．保育思想，保育施設の歴史の理解	国内・海外の保育思想，保育施設の歴史，保育に関わる主要人物等について授業で示した内容を理解し，さらに自分で調べて知識を深め広げることができる。	国内・海外の保育思想，保育施設の歴史，保育に関わる主要人物等について授業で示した内容を理解し，さらに自分で調べてみることができる。	国内・海外の保育思想，保育施設の歴史，保育に関わる主要人物等について授業で示した内容を理解することができる。	国内・海外の保育思想，保育施設の歴史，保育に関わる主要人物等について授業で示した内容を部分的に理解することができる。	国内・海外の保育思想，保育施設の歴史，保育に関わる主要人物等について授業で示した内容の理解が不十分である。
態度	１．予習復習など自己学習が できる	課外に予習，復習の時間を取り，授業を真摯に受講し，ノートなどに授業提示の内容を十分にまとめ，自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。	課外に予習，復習の時間を取り，授業を真摯に受講しノートなどに授業提示の内容を適切にまとめ，自分で調べるなどして内容が発展的に充足している。	課外に予習，復習の時間を取り，授業を真摯に受講し，ノートなどに授業提示の内容を適切にまとめ，自分で調べるなどして内容が充足している。	授業を真摯に受講し，ノートなどに授業提示の内容を適切にまとめることができている。	授業提示の内容を自分なりにまとめる学習が不十分である。

科目名	社会的養護Ⅰ			授業番号	CQ206	サブタイトル			
教員	中　典子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	社会的養護の意味と目的，子どもの権利擁護と社会的養護との関連，社会的養護の制度と実施体系（制度と法体系，仕組みと実施体系，家庭的養護，施設養護等），社会的養護の歴史，施設養護の基本原理と実際，社会的養護の現状と課題（施設等の運営管理，倫理の確立，施設内虐待の防止対策，社会的養護と地域福祉の関係等），社会的養護の専門職について講義する。								
到達目標	社会的養護の原理や内容について学び，自ら説明できるようになることを目的とする。また，子どもを社会的存在として理解し，養育していくうえで必要な知識と技術，価値観や倫理観について理解できるようになる。なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	社会的養護の理念と概念 社会的養護が目指すものについて理解する。	
第2回	社会的養護の歴史的変遷 日本と海外における社会的養護の変遷について理解する。	
第3回	子どもの人権擁護と社会的養護 子どもの最善の利益について理解する。	
第4回	社会的養護の基本原則 自立に向けた支援のあり方について理解する。	
第5回	社会的養護における保育士等の倫理と責務 施設保育士としての専門性を理解する。	
第6回	社会的養護の制度と法体系 児童福祉法を理解する。	
第7回	社会的養護のしくみと実施体系 社会的養護を利用するまでの手続きを理解する。	
第8回	社会的養護とファミリーソーシャルワーク 親子関係の尊重のあり方について理解する。	
第9回	社会的養護の対象と支援のあり方 社会的養護の対象となる子どもの生活環境について把握し，支援のあり方を理解する。	
第10回	家庭養護と施設養護 家庭養護と施設養護におけるケアについて理解する。	
第11回	社会的養護にかかわる専門職 社会的養護の施設で働く専門職について理解する。	
第12回	社会的養護における支援の展開 自立支援計画の立て方を理解する。	
第13回	施設等の運営管理の現状と課題 児童福祉施設の設備及び運営基準における社会的養護に関する運営管理の内容を理解する。	
第14回	被措置児童等の虐待防止の現状と課題 虐待を受けた子どもに対するケアについて理解する。	
第15回	社会的養護と地域福祉の現状と課題 他機関と連携できるようにするために，地域における社会資源について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかり述べることができるかについて評価する。
ワーク	90	課題に対して，適切な理解ができているかを評価する。課題については，コメントを記入して返却する。学習内容を習得していないと判断した場合には，再提出を課す。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回の授業において，ノートを取り，学びを深めようと意欲的に取り組むこと。また，分からないことは積極的に質問をすること。
授業外学修	授業開始前までに，テキストの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
社会的養護I・II	小宅理沙監修	翔雲社	978-4-434-30257-2	2,780＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて提示する。
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．社会的養護の原理や内容について学び，自ら説明できる。	社会的養護の原理や内容について学び，自ら説明できる。	社会的養護の原理や内容について理解できる。	社会的養護の原理や内容の基礎について理解できる。	社会的養護の原理や内容の基礎についての理解が十分でない。	社会的養護の原理や内容の基礎が理解できていない。
知識・理解	２．子どもを社会的存在として理解し，養育していくうえで必要な知識と技術，価値観や倫理観について理解できる。	子どもを社会的存在として理解し，養育していくうえで必要な知識と技術，価値観や倫理観について理解できる。	子どもを養育していくうえで必要な知識と技術，価値観や倫理観について理解できる。	子どもを養育していくうえで必要な知識と技術，価値観や倫理観についての基礎が理解できる。	子どもを養育していくうえで必要な知識と技術，価値観や倫理観についての理解が十分でない。	子どもを養育していくうえで必要な知識と技術，価値観や倫理観についての理解ができていない。

科目名	子どもの保健			授業番号	CQ208	サブタイトル			
教員	荒谷　友里恵								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子どもの健全な発育を支援するために必要な基礎的知識が修得できるように，子どもの発育・発達と保健について講義する。さらに，さまざまな状況の子どもに適切な対応ができるように，子どもの病気の特徴や主な症状とその対応について講義する。								
到達目標	１．子どもの健康増進を図る保健活動の意義が理解できる。 ２．子どもの発育・発達と保健について理解できる。 ３．子どもの健康状態とその把握の方法について理解できる。 ４．子どもの病気の特徴と適切な対応について理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの心身の健康と保健の意義　生命保持と情緒の安定に関わる保健活動の意義と目的を学ぶ	
第2回	地域における保健活動　現代社会における子どもの健康に関する現状と課題について学ぶ	
第3回	子どもの発育・発達と保健（1）身体発育と運動機能の発達について学ぶ　（生物としての成り立ち、器官の成立を学ぶ）	
第4回	子どもの発育・発達と保健（2）生理機能の発達（呼吸器・循環器・腎泌尿器・感覚器・神経機能の発達について学ぶ）	
第5回	子どもの健康状態の観察と体調不良時によくある症状の把握（発熱・嘔吐・下痢等の子どもによく見られる症状とその対処方法について学ぶ）	
第6回	子どもの病気の特徴と対応　（1）感染症について（ウイルス感染症、細菌感染症について学ぶ）	
第7回	感染症の予防について（感染予防策・スタンダードプリコーションについて学ぶ　手指衛生保持のための手洗い、消毒について実践を通じて学ぶ）	
第8回	子どもの病気の特徴と対応について　（2）救急疾患（熱性痙攣・頭部打撲等、救急対応が必要な疾患とその対応について学ぶ）	
第9回	子どもの病気の特徴と対応　（3）先天性疾患（乳幼児によく見られる先天性疾患と関わり方について学ぶ）	
第10回	子どもの病気の特徴と対応　（4）アレルギー疾患（食物アレルギー、アナフィラキシー時の対応、エピペンの使用方法について学ぶ）	
第11回	子どもの病気の特徴と対応　（5）慢性疾患①内科疾患（糖尿病・ネフローゼ等、乳幼児によく見られる内科的慢性疾患とその関わりについて学ぶ）	
第12回	子どもの病気の特徴と対応　（5）慢性疾患②感覚器の疾患・外科的疾患（乳幼児によく見られる感覚器の疾患・外科的疾患慢性疾患とその関わりについて学ぶ）	
第13回	子育て支援（周産期の母子の健康・乳幼児期の親との関わり、貧困と子育て・虐待・医療的ケア児について学ぶ）	
第14回	子どもの健康診断　・乳幼児期の身体発達（身長・体重・頭囲・胸囲の発達と測定方法　発達曲線　について学ぶ）	
第15回	まとめ（知識の確認）・グループワークを通じて今まで学んだことをまとめ発表する　・まとめの作成を行う	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的に授業に取り組んでいるか，予習復習，意見発表，課題提出で評価する。コメントを記入して、返却する。
レポート		
小テスト		
定期試験	80	本科目の理解度を確認する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	講義形式の授業形態が中心になります。幅広く専門的な知識を修得しなければならないため，既習の知識と合わせて復習を行い，主体的に講義に参加してください。
授業外学修	1.予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2.復習として，授業プリントや教科書を読みなおし，理解を深める。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの保健テキスト	小林美由紀　編著	診断と治療社	978-4-7878-2531-5	本体2200円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの保健	中根　淳子	ななみ書房	978-4-903355-80-1	2,200円＋税

参考書：自由記載	
その他	授業の進行度により授業内容を変更することがある。
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師（10年）としての実務経験の中で小児病棟勤務の実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	小児病棟勤務での看護の経験から、保育現場に必要な基礎的知識を教授する。また，子どもに起こりやすい症状とその対応について，具体的にわかりやすく教授する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子どもの健康増進を図る保健活動の意義についての理解	母子保健に関する統計や実際の保健活動について正しい知識をもち、保育者としての保健活動の意義を理解している。その上で現状の問題点と課題を具体的に述べることができる。	母子保健に関する統計や実際の保健活動について正しい知識をもち、保育者としての保健活動の意義を理解している。また、現状の問題点と課題を大まかに述べることができる。	母子保健に関する統計や実際の保健活動の知識を持ち、保育者としての保健活動の意義を理解している。	母子保健に関する統計や実際の保健活動の知識はあるが、保育者としての保健活動の意義の理解が十分ではない。	母子保健に関する統計や実際の保健活動の知識がなく、保育者としての保健活動の意義の理解ができていない。
知識・理解	２．子どもの発育・発達と保健についての理解	各月齢・年齢の発育・発達についてすべて正確な知識がある。また発達に応じた生活習慣について理解している。	各月齢・年齢の発育・発達について正確な知識がある。また発達に応じた生活習慣について理解している。	各月齢・年齢の発育・発達について知識がある。また発達に応じた生活習慣についてほぼ理解している。	各月齢・年齢の発育・発達について知識が十分ではない。	各月齢・年齢の発育・発達について知識がない。
知識・理解	３．子どもの健康状態とその把握の方法についての理解	子どもの健康状態の把握の方法について正確な知識がある。また、体調不良時にみられる症状とその対処方法について実践できるレベルまで理解している。	子どもの健康状態の把握の方法について正確な知識がある。また、体調不良時にみられる主な症状とその対処方法について理解している。	子どもの健康状態の把握の方法について知識がある。また、体調不良時にみられる主な症状とその対処方法についてほぼ理解している。	子どもの健康状態の把握の方法について知識が十分ではない。また、体調不良時にみられる主な症状とその対処方法の理解が乏しい。	子どもの健康状態とその把握の方法について知識がない。また体調不良時の症状と対処方法を理解していない。
知識・理解	４．子どもの病気の特徴と適切な対応についての理解	子ども特有の病気の特徴についてすべて正確な知識がある。また、適切な対応について正確に理解している。	子ども特有の病気の特徴について正確な知識がある。また、適切な対応について理解している。	子どもの主要な病気の特徴について知識がある。また、適切な対応についてほぼ理解している。	子どもの主要な病気の特徴についての知識が十分ではない。また、適切な対応についての理解が乏しい。	子どもの病気の特徴と適切な対応について理解していない
態度	１．授業への取り組みの姿勢	予習・復習を行い、講義に集中して参加している。また、テーマに沿った内容で正当な意見を積極的に述べることができ、課題にも真摯に取り組むことができる。	復習を行い、講義に集中して参加している。また、テーマに沿った内容で意見や感想を述べることができ、課題にも取り組むことができる。	講義に集中して参加している。また、テーマに対し自分なりの意見や感想を述べることができ、課題にも取り組むことができる。	講義に集中していない時間がある。また、求められたら自分なりの感想を述べることができるが、課題への取り組みも適切でない。	講義に集中していない。求められても感想を述べることができず、課題にも取り組めていない。

科目名	子どもの食と栄養Ⅰ			授業番号	CQ210A	サブタイトル			
教員	山縣　綾香								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子どもの健やかな発育・発達に食生活が重要であることは言うまでもない。しかし，子どもたちを取り巻く食環境には子どもたちの健やかな発育・発達に影響を及ぼすことが多く存在する。子どもの食と栄養Ⅰでは，栄養の基本的な知識とともに，子どもの発育・発達と食生活の関連について講義する。また，家庭や保育所等で推進が求められている食育についても説明する。								
到達目標	・栄養の基本的な内容を理解し，保育場面に活用できる。 ・小児の発育・発達や健康に栄養摂取が大きく関連していることが理解できる。 ・発育・発達に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し，保育場面に活用できる。 ・小児期における食育の重要性が理解できる。 ・健康的な小児の発育発達を促すための食事について考えることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの健康と食生活 子どもの食生活と健康の関りを理解する。	
第2回	子どもの食生活の現状と課題 子どもの食生活の現状、子どもの食に関する社会的問題について理解する。	
第3回	栄養の基本的概念，栄養に関する基本的知識（１）たんぱく質 たんぱく質の代謝と栄養学的意義を理解する。	
第4回	栄養に関する基本的知識（２）糖質（炭水化物），食物繊維 糖質の代謝と栄養学的意義を理解する。	
第5回	栄養に関する基本的知識（３）脂質 脂質の代謝と栄養学的意義を理解する。	
第6回	栄養に関する基本的知識（４）ビタミン，ミネラル 体の構成を助ける栄養素のはたらき、代謝について理解する。	
第7回	食べ物の消化と吸収 各栄養素の体内での消化・吸収過程について理解する。	
第8回	日本人の食事摂取基準 各ライフステージごとの食事摂取基準の意義と活用について理解する。	
第9回	妊娠期と授乳期の食生活 妊娠期、授乳期の身体的変化および、栄養素の重要性について理解する。	
第10回	乳児期・幼児期の発育・発達と食生活 発育・発達に応じた食事（間食）について理解する。	
第11回	学童期・思春期の発育・発達と食生活 「体の発育・発達の特徴」「こころの発達の特徴」「栄養・食生活」を理解する。	
第12回	生涯発達と食生活(１) 食事バランスガイドを用いて、各ライフステージにおける栄養バランスの取り方を理解する。	
第13回	食育の基本と実践 保育所，学校給食における食育の実践について理解する。	
第14回	アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養 食物アレルギーを有する子どもの対応を理解する。	
第15回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 体調不良、疾患の子どもへの対応について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	授業終了時に当日の講義の要約を記述して提出を求めるコメントシートにより，評価を行う。
レポート	10	授業で学修した内容を深めることができたかを評価する。レポートについては、コメントを記入して返却する。
小テスト	10	主要なポイントの理解を評価する。
定期試験	65	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前学習としてテキストの該当範囲をあらかじめ読んでおくこと。
授業外学修	・事前に授業の内容をテキストで予習しておく。 ・授業後に，講義内容の整理や確認問題へ取り組む。 ・興味を持てた部分をさらに自分自身で調べる。 ・自分自身の食生活に関心を持ち，講義で学んだことを各自の食生活で実践する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの食と栄養	児玉浩子	中山書店	978-4-521-74934-1	2100円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて講義中指示する。
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．栄養の基本的な内容を理解している。	学修した栄養に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学修した栄養に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した栄養に関する知識について、大体述べることができる。	学修した栄養に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した栄養に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	２．健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連を理解している。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、正確に述べることができる。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、大体述べることができる。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学修した健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関連について、全く表現することができない。
知識・理解	３．小児期における食育の重要性を理解している。	小児期における食育の重要性ついて、完璧に述べることができる。	小児期における食育の重要性ついて、完璧ではないがほぼ理解し述べることができる。	小児期における食育の重要性ついて、ほぼ述べることができる。	小児期における食育の重要性ついて、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	小児期における食育の重要性ついて、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	１．健康的な小児の発育発達を促すための食事について考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
態度	１．演習に積極的に参加できる。	質問など積極的に行い、疑問を解決し、演習内容を理解した上で、適切なコメントシートを提出している。	演習に前向きに臨む姿勢が見受けられ、演習内容を理解した上で、コメントシートを提出している。	演習に出席し、演習の内容を理解した上でコメントシートを提出している。	演習に出席し、コメントシートを提出しているが、理解が十分ではない。	演習に出席しているが、コメントシートの提出をしていない。

科目名	乳児の保育Ⅰ			授業番号	CQ212	サブタイトル			
教員	土師　範子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	乳児保育の理念と役割，乳児保育における基本的な知識に基づく援助や関わりを解説する。 近代以降の乳児保育の歴史的変遷をふまえつつ，現代社会における「乳児を育てること」について，多角的に理解を深められるよう講義する。 あたたかい愛情で保育することの重要性と，３歳未満児の発育・発達，生活と遊び，具体的な援助や関わりについて理解できるよう講義する。								
到達目標	１．乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解できる。 ２．保育所，保育所以外の児童福祉施設など多様な保育の場における乳幼児の現状と課題について理解できる。 ３．３歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解できる。 ４．乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の習得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	イントロダクション(乳幼児保育の重要性)	
第2回	乳児保育の意義・目的と歴史的変遷 乳児保育の定義・意義・目的，乳児保育の役割	
第3回	乳児保育および子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題 乳児保育への関心の高まりと背景，重要視を考える	
第4回	保育所における乳児保育 保育所の位置づけや役割，乳児保育の現状	
第5回	家庭的保育・小規模保育等における乳児保育 家庭的保育・小規模保育とは，その他地域型休符の保育	
第6回	3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場 子育て支援の現状，子育て支援施設や保育所などの実際	
第7回	3歳未満児の生活と環境 乳児保育における生活のばとしての環境の整え方	
第8回	3歳未満児の遊びと環境 環境を通して行う保育	
第9回	3歳以上児の保育に移行する時期の保育 乳児期の各年齢ごとにおける移行の検討	
第10回	3歳未満児の発育・発達をふまえた保育者による援助やかかわり 保育所保育指針にみる保育の特性と援助の実際	
第11回	3歳未満児の発育・発達をふまえた保育における配慮 保育全般・3歳未満児への配慮事項	
第12回	乳児保育の計画・記録・評価とその意義 保育の計画と実践	
第13回	職員間の連携・協働 乳児保育における保育者の業務と役割	
第14回	保護者との連携・協働 子育て支援の必要性と保育者の役割	
第15回	自治体や地域の関係機関等との連携・協働 保育所と地域の社会資源	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。
レポート	20	乳児の発達にふさわしい内容や援助の仕方であること。 レポートについてはコメントを記入または、授業内で全体的な傾向等を口述して返却する。
授業への取り組みの姿勢/態度	10	意欲的に授業へ臨んでいるか，授業中の態度やノート記述，コメントペーパーなどを評価する。

評価の方法：自由記載	追・再試有り
受講の心得	自分の意見や問題意識を持ち，講義を通して乳児への理解を深め，専門的な知識や思考力を意欲的に習得すること。
授業外学修	次回授業までに，教科書を利用してノートをまとめ学習を深めること(週あたり１時間以上学修すること)。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新基本保育シリーズ15　乳児保育Ⅰ・Ⅱ	児童育成協会	中央法規	9784805857953	2600+税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『保育所保育指針解説書』厚生労働省　フレーベル館 その他，適宜紹介する。
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	乳児保育の意義と目的，現状の課題，発達を踏まえた内容と運営体制，各機関との連携について理解している。	乳児保育の意義と目的，現状の課題，発達を踏まえた内容と運営体制，各機関との連携についてとてもよく理解している。	乳児保育の意義と目的，現状の課題，発達を踏まえた内容と運営体制，各機関との連携についてある程度理解している。	乳児保育の意義と目的，現状の課題，発達を踏まえた内容と運営体制，各機関との連携について理解している。	乳児保育の意義と目的，現状の課題，発達を踏まえた内容と運営体制，各機関との連携についてあまり理解できていない。	乳児保育の意義と目的，現状の課題，発達を踏まえた内容と運営体制，各機関との連携についてほとんど理解できていない。
思考・問題解決能力	乳児保育の重要性について理解しており，学修した知識を用いて問題を見いだし，解決方法を考えることができる。	乳児保育の重要性について十分に理解しており，学修した知識を用いて様々な観点から問題を見いだし，多岐にわたった解決方法を考えることができる。	乳児保育の重要性についてある程度理解しており，学修した知識を用いてある程度問題を見いだし，解決方法を考えることができる。	乳児保育の重要性について理解しており，学修した知識を用いて問題を見いだし，解決方法を考えることができる。	乳児保育の重要性についてあまり理解しておらず，学修した知識を用いて問題を見いだすことや，解決方法を考えることが難しい。	乳児保育の重要性についてほとんど理解しておらず，学修した知識を用いて問題を見いだすことや，解決方法を考えることが困難である。

科目名	障害児保育			授業番号	CQ214A	サブタイトル			
教員	藤井　裕士								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	障害の概念や基本的理念，障害に関する基礎的な知識について,講義や演習を通して理解し,障害のある幼児や家族への支援について学修する。								
到達目標	・様々な障害に関する基礎的な知識を習得する。・基礎的な知識をもとに特性や状況に応じた支援を考えることができる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力 ＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	障害児保育の基礎①「障害観」や「支援観」を深める。	
第2回	障害児保育の基礎② ICFの理念などをもとに「障害」について考える。	
第3回	聴覚障害児の理解と支援 聴覚障害の基礎について学び,体験を通して当事者の困難さを知る。また,聴覚障害児の支援方法について知る。	
第4回	視覚障害児の理解と支援 視覚障害の基礎について学び,体験を通して当事者の困難さを知る。また,視覚障害児の支援方法について知る。	
第5回	肢体不自由児・重症心身障害児・医療的ケア児の理解と支援 肢体不自由・重症心身障害・医療的ケアの基礎について学び,体験を通して当事者の困難さを知る。また,肢体不自由児・重症心身障害児・医療的ケア児の支援方法について知る。	
第6回	知的障害児の理解と支援 知的障害の基礎について学び,体験を通して当事者の困難さを知る。また,知的障害児の支援方法について知る。	
第7回	発達障害の理解と支援 発達障害の基礎について学び,体験を通して当事者の困難さを知る。また,発達障害児の支援方法について知る。	
第8回	言語障害・場面緘黙のある子どもの理解と支援 言語障害のある子ども・場面緘黙のある子どもについて知る。また，言語障害のある子ども・場面緘黙のある子どもの支援方法について知る。	
第9回	ユニバーサルデザインとバリアフリー・コンフリクト ユニバーサルデザインやバリアフリー・コンフリクトついて知り,障害者支援についての理解を深める。	
第10回	子ども同士の関わりと育ちあい 子ども同士が共に成長するための,集団生活の大切さについて理解を深める。	
第11回	個別の（教育）支援計画と個別の指導計画 障害児保育における個別の（教育）支援計画や個別の指導計画について知る。	
第12回	保護者や家族に対する理解と支援 保護者や家族の支援や、連携について知る。	
第13回	障害児支援の制度の理解・外部連携 障害児支援制度について学び,医療機関や療育機関、小学校との連携について知る。また、小学校への接続について理解する。	
第14回	障害児保育の現状と課題特別な配慮を必要とする子どもの保育に関わる現状と課題について知る。	
第15回	事例検討事例検討を通して,障害児への支援を考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	授業全体を通して,演習や事例検討に積極的に参加し，意見を出すことができているかを評価する。
ワークシートの提出	20	講義内でワークシートを使った演習を行い,ワークシートへの記述を評価する。ワークシートの内容については、次回の授業の際に、全体的な傾向についてコメントを行う。
レポート	50	全講義終了後，障害児保育に関する知識と視点をふまえて，総合的に論じることができているかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　事前・事後に資料や参考文献を読むこと。 2　発表や演習に積極的に取り組むこと。 3　配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1．授業内で学修した，障害児支援に関わる基礎理論を復習すること。2．授業内で授業内容の課題があるため，その準備をすること。以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
障害児保育演習ブック	松本峰雄監修、増南太志編著	ミネルヴァ書房		

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	特別支援学校教諭（14年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	障害児への指導経験を基にした,具体事例などを交えながら解説を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．障害のある子どもの障害特性を理解し,それを説明することができる。	障害特性を理解し,説明することができる。	障害特性を自分の言葉で一通り説明することができる。	障害特性を,教員の説明通り説明することができる。	障害特性の一部を説明することができる。	障害特性をほとんど説明することができない。
思考・問題解決能力	２．基礎的な知識をもとに特性や状況に応じた支援を考えることができる。	障害特性や発達に応じた支援方法を，根拠立てて説明することができる。	障害特性や発達に応じた支援方法を，自分の言葉で一通り説明することができる。	障害特性や発達に応じた支援方法を，教員の説明通りに一通り説明することができる。	障害特性や発達に応じた支援方法の一部を説明することができる。	障害特性や発達に応じた支援方法を説明することはほとんどできない。

科目名	地域福祉論			授業番号	CQ215	サブタイトル			
教員	中　典子								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	地域福祉推進に向けて放課後児童クラブ支援員や保育所をはじめとする児童福祉施設の保育者を取り巻く社会資源に関する情報を示し，連携の方法について講義する。								
到達目標	１．子ども家庭福祉における地域福祉の今日的意義と理念を理解することができる。 ２．地域との連携・協働を実現するため，地域の社会資源を調べ，それをまとめることができる。 ３．地域の社会資源を活用し，子ども家庭に関わる地域（生活）課題を解決する方法を理解することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	地域社会と課題 地域・地域社会の意味，地域社会の機能，地域課題を理解する。	
第2回	地域福祉の推進(1) 地域福祉の概念と歴史的展開，地域福祉の推進の意義と理念を理解する。	
第3回	地域福祉の推進(2) 地域共生社会の実現，地域包括ケアシステムの構築の意味と住民を主体とした地域福祉推進の関係性を理解する。	
第4回	地域福祉に関わる法令 社会福祉法における地域福祉の詳細，保育所保育指針等と地域・地域社会の関係性，放課後児童クラブ運営指針と地域・地域社会の関係性，障害（児）関係法令と地域の関係性を理解する。	
第5回	ボランティア活動と福祉教育 ボランティア活動の歴史とボランティア元年，今日のボランティア活動の特徴，福祉教育の意義と現状を理解する。	
第6回	地域課題を探る 子どもと家庭に関わる地域（生活）課題，地域（生活）課題の特徴，傾向を理解する。	
第7回	地域福祉の推進機関・団体（社会福祉協議会） 社会福祉協議会の歴史と今日的意義，社会福祉協議会の活動原則・機能，現在の社会福祉協議会の体制，社会福祉協議会の活動と放課後児童クラブ・保育所等の関係性を理解する。	
第8回	地域福祉の推進機関・団体（国・都道府県・市町村と関係団体） 地域福祉に関わる国の機関の機能，都道府県・政令指定都市の機関，市町村の機，要保護児童対策地域協議会・障害者自立支援協議会の役割を理解する。	
第9回	地域福祉の推進機関・団体（民生委員児童委員・福祉委員） 民生委員児童委員の歴史と役割，主任児童委員の役割と活動，福祉委員の役割と活動，民生委員児童委員・福祉委員の活動と放課後児童クラブ・保育所等の関係性を理解する。	
第10回	地域福祉の推進機関・団体（NPO法人・自治会・中間支援団体・民間企業） 特定非営利活動（NPO）法人の機能と活動，自治会（町内会）の機能と活動，ボランティアセンター・市民活動支援センターの機能と活動，民間企業におけるＣＳＲの現状を理解する。	
第11回	地域福祉を推進する専門職 コミュニティワーカーの役割と専門性，地域支援コーディネーターの役割と専門性，ボランティアコーディネーターの役割と専門性を理解する。	
第12回	地域福祉援助技術（コミュニティワーク） コミュニティオーガニゼーションからコミュニティワーク・コミュニティソーシャルワークに至る歴史的展開と，それぞれの意義と機能を理解する。	
第13回	伴走型支援 地域でつながり続けるための連携のあり方，伴走型支援に向けた体制の整備を理解する。	
第14回	参加支援の推進 包括的支援体制，個別支援と地域支援の統合のあり方を理解する。	
第15回	事例研究 演習事例に基づき，放課後児童クラブ，保育所等における地域(生活)課題解決のあり方，放課後児童クラブの支援員，保育所をはじめとする児童福祉施設の保育者等として地域福祉を推進する意味を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，予習・復習の取り組み状況を評価する。
課題への取り組みの状況／態度	80	課題に対する発表態度やその内容を授業理解度，目標達成度を基準に評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	放課後児童支援員・保育所をはじめとする児童福祉施設で働く保育者が連携可能な社会資源について情報収集し、理解をすること。 授業内容の理解を深めるため，授業開始前までにテキストの内容を読んでおくこと。
授業外学修	授業開始前までに，テキストの内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
社会的孤立へのコミュニティソーシャルワーク実践	加藤昭宏	ミネルヴァ書房	9784623098262	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子ども家庭福祉における地域福祉の今日的意義と理念を説明することができる。	地域福祉の今日的な意義と理念を，根拠立てて説明することができる。	地域福祉の今日的な意義と理念を，自分の言葉で一通り説明することができる。	地域福祉の今日的な意義と理念を，教員の説明通りに一通り説明することができる。	地域福祉の今日的な意義と理念の一部を説明することができる。	地域福祉の今日的な意義と理念を，ほとんど説明することができない。
知識・理解	２．地域の社会資源を調べ，それをまとめることができる。	地域の社会資源を調べ，まとめる方法を合理的に説明することができる。	地域の社会資源を自分自身で調べ，まとめる方法を自分なりに説明することができる。	地域の社会資源を調べ，まとめる方法を教員の説明通りに説明することができる。	地域の社会資源を調べ，まとめる方法を，一部のみ説明することができる。	地域の社会資源を調べ，まとめる方法をほとんど説明することができない。
思考・問題解決能力	１．子どもと家庭に関わる地域（生活）課題を解決，緩和の方法について理解することができる。	子どもと家庭に関わる生活（地域）課題を，根拠立てて考察することができる。	子どもと家庭に関わる生活（地域）課題を，自分なりに考察することができる。	子どもと家庭に関わる生活（地域）課題を，グループで考察することができる。	子どもと家庭に関わる生活（地域）課題を，考察することができるときと，できないときがある。	子どもと家庭に関わる生活（地域）課題を，考察することがほとんどできない。

科目名	保育計画Ⅰ			授業番号	CQ216A	サブタイトル			
教員	岡崎　三鈴								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では、子ども一人ひとりの発達や生活に即した質の高い保育を実践するために不可欠な「保育計画」について学びます。幼稚園教育要領、保育所保育指針等の基本原則を理解した上で、全体的な計画から短期・長期の指導計画、さらには個別の配慮が必要な場合の計画作成まで、その意義と具体的手法を修得します。								
到達目標	【知識・理解】幼稚園・保育所等の各要領・指針における計画の意義と位置づけ、および指導計画の体系を正しく理解している。 【思考・問題解決能力】 乳幼児の発達過程に基づき、適切な「ねらい」を設定し、それらを実現するための「環境構成」や「予想される子どもの姿」を論理的に考察できる。 【技能】 各年齢（乳児から5歳児まで）の特性に応じた短期・長期の指導計画および部分指導案を、適切な形式と表現で作成できる。 【態度】 子どもの最善の利益を保障するために、計画・実践・記録・評価（PDCAサイクル）の重要性を認識し、誠実に計画作成に取り組む姿勢を持つ。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育における計画の意義 なぜ計画が必要か。子どもの育ちを支える羅針盤としての役割。	
第2回	幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の概要 幼稚園・保育所・認定こども園における教育・保育の共通性と特性。	
第3回	幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ 法令に基づく計画作成の義務と、保育の質の向上に向けた法的根拠。	
第4回	指導計画の全体構造について 全体的な計画から年間・月間・週日案まで、各計画の関連性。	
第5回	部分指導案の考え方と作成(1) 短期指導計画の種類と作成原理：活動の構成と時間の流れ。	
第6回	部分指導案の考え方と作成(2) ねらいと内容の設定：子どもの姿から導き出す具体的な意図。	
第7回	乳児の指導計画作成事例と展開 個々の生活リズムを尊重した計画の特性と援助のポイント。	
第8回	乳児の指導計画作成事例と作成 0・1歳児を想定した個別計画およびグループ計画の作成。	
第9回	乳児の指導計画作成事例と作成 2歳児を想定した「個の育ち」と「周囲との関わり」を支える計画。	
第10回	幼児の指導計画作成事例と展開と幼児の指導計画作成事例と作成⑴ 生活習慣の自立と、初めての集団生活を支える計画の立案。	
第11回	幼児の指導計画作成事例と作成⑵ 友だちとの関わりが深まる時期の集団遊びと環境構成。	
第12回	幼児の指導計画作成事例と作成⑶ 共同作業や就学を見通した「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の反映。	
第13回	長期指導計画の作成 年間・期別計画の立て方：季節や行事、発達の見通しを盛り込む。	
第14回	長期指導計画の作成 指導計画の評価と反省：記録に基づいた次期計画への改善策。	
第15回	まとめと小テスト まとめと内容の理解度をはかるための小テストを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	30	三法令に基づき、子どもの実態に合った「ねらい・環境・援助」を正しい書式で具体的に示し、改善への振り返りが適切に記述できているかを評価する。 提出する指導案・レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	50	保育計画に関わる知識・理解について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子どもの最善の利益を保障するため、実習や現場を常に見据え、発達理論に基づいた『生きた計画』を誠実に作成する姿勢を持って臨んでください 。
授業外学修	１，次回授業までに，毎回授業終了時に出す課題を行い，練習すること。 ２，指導案作成の課題については，実際にシミュレーションし，様々な角度から突き詰めて検討すること。 以上の内容を，週当たり２時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『幼保連携型認定こども園教育・保育要領 幼稚園教育要領 保育所保育指針』	内閣府・文部科学省・厚生労働省	チャイルド本社	9784805402283	本体500円＋税
保育の計画と評価	卜田真一郎	ミネルヴァ書房	9784623079650	本体2500円＋税

使用テキスト：自由記載	『幼稚園教育要領解説』文部科学省 フレーベル館 『保育所保育指針解説書』厚生労働省 フレーベル館 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』内閣府　フレーベル館

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	幼稚園教育要領等の三法令における計画の位置づけや、指導計画の体系（全体的な計画、長期・短期計画）に関する専門用語を正しく理解している。	各法令の性格や計画の体系を深く理解し、用語を正しく用いて論理的に説明できる。	各要領・指針の概要と、短期・長期計画の役割を正確に理解している。	保育計画に関する基本的な概念を概ね理解している。	保育者として最低限必要な法令や計画の種類を知っている。	計画の意義や法令上の位置づけが理解できていない。
思考・問題解決能力	乳幼児の発達過程や個々の実態（興味・関心、生活リズム）を的確に分析し、子どもの育ちを支えるために最適な「ねらい」を導き出すとともに、その達成に向けた「環境構成」や「保育者の援助」の在り方を、論理的かつ具体的に考察できる。	子どもの実態・ねらい・環境構成・援助の間に強い整合性があり、「なぜこの援助が必要か」という根拠を発達理論に基づき独創的かつ説得力を持って提示できる。想定外の子どもの姿も予測し、柔軟な対応策まで考案できている。	各年齢の発達特性を正しく捉え、子どもの「育ちの課題」に応じた適切なねらいを設定できている。保育者の援助についても、子どもの主体性を引き出すための工夫が論理的に構築されている。	提示された事例や一般的な発達指標に対し、講義で示された標準的な援助方法や配慮事項を妥当に選択できる。計画の各項目に矛盾がなく、一貫性のある思考ができている。	指示された状況において、健康・安全への配慮など保育として最低限必要な判断ができている。子どもの具体的な姿と「ねらい」の結びつきには乏しいが、標準的な保育の枠組みで考察できている。	子どもの発達段階を無視した活動を計画する、あるいは安全への配慮が欠けるなど、保育者として不適切な判断が見られる。ねらいと援助の内容が乖離しており、論理的な思考ができていない。
技能	三法令（幼稚園教育要領等）に基づき、各年齢（乳児から5歳児まで）の特性に応じた短期・長期の指導計画および部分指導案を、実習や現場で通用する適切な書式、専門用語、および具体的表現を用いて作成できる。	子どもの実態と「ねらい」が極めて論理的に繋がっており、環境構成や保育者の具体的援助（言葉掛けや配慮）が、第三者が読んでも一目で実行可能なレベルで具体的に記述されている。	講義で学んだ発達理論や作成原理を正しく反映させ、各年齢にふさわしい「ねらい」と「内容」を整合性を持って記述できる。専門用語を正確に使い分け、適切な書式で作成されている。	基本的な指導案の書式に従い、各項目（ねらい、環境構成、予想される子どもの姿など）を概ね適切に記述できる。一部に表現の不十分さはあるが、保育の意図は伝わるレベルである。	基礎的な用語や書式を使い、最低限の項目を埋めた計画を作成できる。発達段階への配慮や援助の具体性には欠けるが、指導計画としての最低限の体裁を保っている。	指導案の体裁をなしていない（白紙や極端な未完成）。または、ねらいと内容が著しく乖離している、安全への配慮が欠けているなど、計画作成の基礎技能が身についていない。
態度	子どもの最善の利益を保障するために、計画・実践・記録・評価（PDCAサイクル）の重要性を認識し、誠実に計画作成に取り組む姿勢を持つ。	期限厳守はもちろん、子どもの姿を丁寧に想定しながら主体的に作成に取り組んでいる。	毎回の作成課題に真摯に取り組み、意欲的に技能を習得しようとしている。	授業の心得を守り、継続的に課題に取り組んでいる。	遅刻・欠席をせず、提出物を期限内に提出している。	課題の未提出が目立ち、受講態度が著しく不良である。

科目名	学童保育論			授業番号	CQ229	サブタイトル			
教員	中田　周作								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	現代の日本社会における子育て支援に関する重要な問題のうちの1つは，子育て家庭の保護者の就労支援である。 これを実現するためには，保育所や放課後児童クラブ（学童保育）などの充実が必須である。 しかしながら，これまで政策面からも学術的観点からも学童保育は等閑視されてきた。 そこで学童保育に関する現状や政策，指導員の役割，学童保育の運営について講義する。								
到達目標	本講義では，まず，学童保育の現状と役割を理解することを目標とする（第1～10回）。 次に，学童保育の運営の実態と地域社会との関わりについて理解することを目標とする（第11～15回）。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	学童保育と指導員の資格 放課後児童指導員資格と放課後児童支援員認定資格研修	
第2回	現代社会における子どもを取り巻く社会状況 子どもが育つ社会環境の現状	
第3回	子どもたちの放課後の実態 子どもたちの生活時間	
第4回	学童保育の現状 学童保育と放課後児童健全育成事業は、どのように異なるのか	
第5回	学童保育の役割 子どもが育つ環境とは 放課後児童支援員の役割 育成支援とは	
第6回	学童保育に関する法令 児童福祉法 放課後児童健全育成事業の設備と運営に関する基準 放課後児童クラブ運営指針	
第7回	学童保育に関する制度 放課後児童クラブの運営主体	
第8回	学童保育の歴史 学童保育から放課後児童健全育成事業へ	
第9回	指導員の職務と倫理1 放課後児童クラブの社会的責任と職場倫理	
第10回	指導員の職務と倫理2 要望及び苦情への対応 事業内容向上への取り組み	
第11回	学童保育の運営方式 行政の役割と放課後児童クラブの運営主体	
第12回	指導員の連携と研修 職員体制	
第13回	学童保育と保護者との関わり 保護者との連携	
第14回	学童保育と地域との関わり 学校・保育所・幼稚園等との連携 地域、関係機関との連携 学校、児童館を活用して実施する放課後児童クラブ	
第15回	学童保育と子育て支援 子ども家庭福祉のなかの放課後児童クラブ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
最終レポート	100	レポート作成の途次に適宜、アドバイスをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	児童期の子どもの放課後はどのような実態にあるのか。 他の講義なども参考にしながら，考察を深めること。
授業外学修	本講義は集中講義である。 そのため，集中講義が始まる前までに「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」と「放課後児童クラブ運営指針」を読んでおくこと。 事前の総学修時間は，30時間以上とする。 集中講義終了後の復習総学修時間も，30時間以上とする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版　放課後児童クラブ運営指針解説書	厚生労働省編	フレーベル館	978-4-577-60017-7	440

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．学童保育の制度について理解できている。	学童保育の制度について、その展開の歴史と根拠となる法令を理解している。	学童保育の制度について、その展開の歴史、もしくは根拠となる法令を理解している。	学童保育の制度に関する重要事項について理解している。	学童保育の制度に関するキーワードを覚えている。	学童保育の制度に関するキーワードを覚えていない。
知識・理解	２．学童保育に関する法令について理解できている。	学童保育に関する主要な法令と条文を多数、覚えているとともに、その条文がどのように解釈されているのかを理解している。	学童保育に関する主要な法令と条文を多数、覚えている。	学童保育に関する主要な法令と条文をいくつか覚えている。	学童保育に関する主要な法令の名称を覚えている。	学童保育に関する主要な法令の名称を覚えていない。

科目名	学童保育方法論			授業番号	CQ230	サブタイトル			
教員	住野　好久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	学童保育方法として，「実践の構造」「実践の内容」「実践の方法」「実践の実際」について学習する。これらについて理論的な枠組みに加えて，実際のエピソードも適宜紹介しながら授業を進めていく。 講義を中心としながら，随時グループワーク等も織り交ぜながら取り組んでいく。								
到達目標	学童保育実践の構造，内容，方法を理解するとともに，これらについて実際に活用することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	学童保育実践の構造(1)ー学童保育の目的 「学童保育」は、何のために、何を目指して支援するのかを学ぶ。	
第2回	学童保育実践の構造(2)ー学童保育（育成支援）の要素 学童保育実践を構成する3つの要素「養護」「ケア」「教育」について学ぶ。	
第3回	学童保育実践の内容(1)ー「運営指針」における育成支援の内容 「放課後児童クラブ運営指針」は学童保育では何をすることを求めているのかを学ぶ。	
第4回	学童保育実践の内容(2)ー「運営指針」における育成支援に含まれる内容 「放課後児童クラブ運営指針」が求めている学童保育における育成支援に含まれる内容を学ぶ。	
第5回	学童保育実践の内容(3)ー学童保育と保護者連携 「放課後児童クラブ運営指針」が求めている学童保育と保護者連携について学ぶ。	
第6回	学童保育の対象である児童期の子ども(1)ー児童期の発達の特徴 学童保育の対象である児童期の子どもの発達的特徴について学ぶ。	
第7回	学童保育の対象である児童期の子ども(2)ー小学校低学年の発達の特徴と学童保育 小学校低学年の子どもの発達的特徴を学んだ上で、低学年の学童保育実践について学ぶ。	
第8回	学童保育の対象である児童期の子ども(3)ー小学校中学年の発達の特徴と学童保育 小学校中学年の子どもの発達的特徴を学んだ上で、中学年の学童保育実践について学ぶ。	
第9回	学童保育の対象である児童期の子ども(4)ー小学校高学年の発達の特徴と学童保育 小学校高学年の子どもの発達的特徴を学んだ上で、高学年の学童保育実践について学ぶ。	
第10回	学童保育の対象である児童期の子ども(5)ー異年齢集団における学童保育実践 様々な発達段階の子どもたちが一緒になって遊び・生活する過程を支援する方法を学ぶ。	
第11回	「遊び」を通した学童保育実践(1)ー子どもにとっての「遊び」 子どもの発達における「遊び」の意義、及び、子どもの「遊ぶ権利」について学ぶ。	
第12回	「遊び」を通した学童保育実践(2)ー子どもの遊びと学童保育の環境づくり 子どもの自主的な遊びを引き出し、豊かにする学童保育の環境づくりを学ぶ。	
第13回	「遊び」を通した学童保育実践(3)ー子どもの遊びへの支援の方法 子どもの遊びへの指導員の関わり方について、実践事例を通して考える。	
第14回	健康管理・安全対策・緊急時対応(1)ー健康管理・安全対策 子どもたちの生命と健康を守る学童保育について学ぶ。	
第15回	健康管理・安全対策・緊急時対応(2)ー緊急時対応 学童保育における緊急時の対応について学ぶ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
最終レポート	50	最後に提出するレポートに，学修した内容を的確にまとめられているとともに，自身の見解や経験についても記述できていること。
確認テスト	50	授業で学習したことを理解し，課題に対して適切に回答すること。次時の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	学童保育実践を理解するということは，学童保育指導員を目指す方だけでなく，保育士や小学校教員を目指す方にとっても大いに役立つものである。教職教養を広げるためにも受講してほしい。
授業外学修	テキストを熟読すること。 学童保育に関する情報を，新聞・テレビ・インターネット等を通じて収集すること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂版　放課後児童クラブ運営指針解説書	こども家庭庁	フレーベル館	4577815702	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．学童保育実践の構造，内容，方法を理解する。	法令に基づき、実践をふまえて、学童保育実践の構造，内容，方法を説明できる。	法令に基づいて、学童保育実践の構造，内容，方法を説明できる。	学童保育実践の構造，内容，方法を十分理解している。	学童保育実践の構造，内容，方法をだいたい理解している。	学童保育実践の構造，内容，方法を全く理解していない。
思考・問題解決能力	１．学童保育実践を構想できる。	学童保育の目的・目標と子どもの状況をふまえた学童保育実践をどのように構想すればよいか考えられる。	子どもの状況をふまえた学童保育実践をどのように構想すればよいか考えられる。	学童保育実践をどのように構想すればよいか十分考えられる。	学童保育実践をどのように構想すればよいかおおよそ考えられる。	学童保育実践を全く構想できない。

科目名	社会的養護Ⅱ			授業番号	CQ307A	サブタイトル			
教員	青木　幹生								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	社会的養護を必要とする子どもたちの実態を伝えるとともに，現在抱えている課題について明らかにする。また，子どもの権利保障の立場に立った実践の具体も伝え，実践に役立つ講義をする。								
到達目標	社会的養護を必要とする子ども達が入所している（あるいは利用している）施設において，日常的に展開されている子どもの生活と職員の支援方法について学び，自ら説明できるようになることを目的とする。また，子どもの心身の成長や発達を保障し，支援するために必要な知識や技術を習得し，児童観や施設養護観について理解できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	導入：子どもの権利擁護 社会的養護の全体像と本科目の目的について理解する。 子どもの権利条約を踏まえ、社会的養護において権利擁護がなぜ重要であるのかを学ぶ。	
第2回	社会的養護における子どもの理解 社会的養護を必要とする子どもたちの背景や生活歴について学ぶ。 被虐待経験や分離体験が、子どもの心身の成長や発達に及ぼす影響について理解を深める。	
第3回	社会的養護の内容(1) 日常生活支援 社会的養護における日常生活支援の基本的な考え方について学ぶ。 衣食住を中心とした生活支援が、子どもの発達や安心感の形成に果たす役割を理解する。	
第4回	社会的養護の内容(2) 心理的支援 子どもの心理的課題に対する支援の視点と方法について学ぶ。 日常生活場面における関わりを通した心理的支援の重要性を理解する。	
第5回	社会的養護の内容(3) 自立支援 子どもの将来の自立に向けた支援の考え方について学ぶ。 進学、就労、生活設計などを含めた自立支援の実際と課題を理解する。	
第6回	施設養護の生活特性および実際(1) 乳児院等 乳児院における養育の特徴と専門性について学ぶ。 愛着形成を重視した養育実践と、職員の役割について理解する。	
第7回	施設養護の生活特性および実際(2) 障害児施設等 障害のある子どもを対象とした施設養護の特徴について学ぶ。 子どもの発達特性に応じた支援の工夫や、多職種連携の重要性を理解する。	
第8回	家庭養護の生活特性および実際 里親養育やファミリーホームの意義と役割について学ぶ。 家庭的養護の特性と支援体制の課題について理解を深める。	
第9回	アセスメントと個別支援計画の作成 子どもの状況を多面的に把握するためのアセスメントの視点を学ぶ。 個別支援計画の作成過程と、その活用方法について理解する。	
第10回	記録および自己評価 支援における記録の意義と役割について学ぶ。 記録を通じた支援の振り返りや、自己評価の重要性について理解する。	
第11回	社会的養護における保育の専門性にかかわる知識・技術とその実践 社会的養護の現場における保育士の専門性について学ぶ。 日常生活の中で行われる保育実践の意義と具体的な工夫を理解する。	
第12回	社会的養護にかかわる相談援助の知識・技術とその実践 相談援助の基本的な考え方と技術について学ぶ。 子どもや家庭への相談支援を行う際の留意点を理解する。	
第13回	社会的養護におけるソーシャルワーク（知識・技術とその応用） 社会的養護におけるソーシャルワークの役割について学ぶ。 関係機関との連携や地域資源の活用について理解する。	
第14回	社会的養護における家庭支援 家庭復帰や家庭支援の意義と課題について学ぶ。 保護者支援の視点と実際の取り組みについて理解する。	
第15回	まとめ：今後の社会的養護の課題と展望 これまでの授業内容を振り返り、社会的養護の現状と課題を整理する。 今後の社会的養護のあり方について考察し、学びをまとめる。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかり述べることができるかについて評価する。
レポート	30	課題に対して適切な理解を得ているかについて評価する。共通して見られた到達点や課題を授業内で解説し、全体に向けてフィードバックを行う。必要に応じて、個別の質問や相談にも対応する。
小テスト		
定期試験	40	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・毎回の授業においてしっかりとノートを取り，目的を持って意欲的に取り組むこと。 ・グループワークでは，積極的に自分の意見を述べること。また，他学生の意見について肯定的，あるいは否定的な考え方をもち，根拠ある説明をすること。

授業外学修	・授業中に取った内容を見直し，復習すること。その際，必ず教科書と再度照らし合わせ，足りない文言などを書き足すこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よりそい支える社会的養護II	中山正雄(監修)，浦田雅夫(編著)	教育情報出版	978-4-909378-07-1	1，810円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
社会的養護I・II	小宅理沙(監修)，中典子，潮谷光人，今井慶宗(編著)	翔雲社	978-4-434-26701-7	2,780円＋税
保育内容「人間関係」理論から実践まで	塩野谷 斉	講談社	978-4065373279	2,200円＋税

参考書：自由記載	明日の子供たち（幻冬舎） ぶどうの木（幻冬舎） 図解で学ぶ保育 社会的養護I，II（萌文書林）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	○ 社会福祉法人 理事長 ○ 社会的養育施設 職員（20年） ・現 児童家庭支援センター 及び 児童養護施設 統括施設長 ・歴任 児童養護施設 主任児童指導員，基幹的職員，個別対応職員，里親支援専門相談員，自立支援担当職員，社会的養育支援室 室長，児童養護施設 学園長
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	児童福祉施設等での実務経験（20年）を生かし，現場での支援に近い形での解説を行っていく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．社会的養護の概要を理解している。	社会的養護の概要に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	社会的養護の概要に関する知識について、ほぼ正確に理解し述べることができる。	社会的養護の概要に関する知識について、大体理解し述べることができる。	社会的養護の概要に関する知識について、十分な理解が出来ていない。	社会的養護の概要に関する知識について、全く理解できていない。
知識・理解	２．社会的養護の支援内容を理解している。	社会的養護の支援内容について、正確に理解し述べることができる。	社会的養護の支援内容について、ほぼ正確に理解し述べることができる。	社会的養護の支援内容について、大体理解し述べることができる。	社会的養護の支援内容について、十分な理解が出来ていない。	社会的養護の支援内容について、全く理解できていない。
思考・問題解決能力	1．課題に基づいた支援のあり方を考え理解している。	課題に基づいた支援のあり方について、正確に理解し述べることが出来る。	課題に基づいた支援のあり方について、ほぼ正確に理解し述べることが出来る。	課題に基づいた支援のあり方について、大体理解し述べることが出来る。	課題に基づいた支援のあり方について、十分な理解が出来ていない。	課題に基づいた支援のあり方について、全く理解できていない。
技能	１．子どもの権利保障に基づいた支援を展開することができる。	子どもの権利保障に基づいた支援について、正確に展開することができる。	子どもの権利保障に基づいた支援について、ほぼ正確に展開することができる。	子どもの権利保障に基づいた支援について、大体展開することができる。	子どもの権利保障に基づいた支援について、十分に展開することができない。	子どもの権利保障に基づいた支援について、全く展開することができない。
態度	１．演習に積極的に参加し、学習内容をアウトプットすることができる。	演習内容を、正確にアウトプットできる。	演習内容を、ほぼ正確にアウトプットできる。	演習内容を、大体にアウトプットできる。	演習内容を、十分にアウトプットすることができない。	演習内容を、全くアウトプットすることができない。

科目名	子どもの健康と安全			授業番号	CQ309A	サブタイトル			
教員	梶谷　信之								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子どもの健康増進及び心身の発育・発達を促す保健活動や環境を考えられるようにする。緊急時の対応や事故防止，安全管理について具体的に学べるように，できる限り体験的に学習するよう計画している。								
到達目標	１．子どもと関わる全ての実践の場において，子どもの発達段階にあわせた環境構成・援助ができるようになるとともに，基礎的な技術を身につけることができる。 ２．関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ，衛生管理・感染症対策・事故防止・安全対策・災害対策について，具体的に理解できる。 ３．子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取組や，保健活動の計画及び評価等について，具体的に理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの健康と安全　総論	
第2回	子どもの健康と発育(1)：形態・運動機能・精神生理機能の発達	
第3回	子どもの健康と発育(2)：発育評価	
第4回	子どもの健康と子育てに必要な養護・しつけ(1)：居住環境と基本的生活習慣	
第5回	子どもの健康と子育てに必要な養護・しつけ(2)：日常に必要な養護	
第6回	子どもの事故とその予防(1)：子どもの事故の特徴 【小テスト①】	
第7回	子どもの事故とその予防(2)：保育園・幼稚園で発生する事故やけが	
第8回	子どもの事故とその予防(3)：応急処置	
第9回	子どもの事故とその予防(4)：救急蘇生	
第10回	子どもに多い病状・病気とその対処および予防(1)：感染予防	
第11回	子どもに多い病状・病気とその対処および予防(2)：予防接種	
第12回	子どもに多い病状・病気とその対処および予防(3)：その他の疾患 【小テスト②】	
第13回	障害をもつ子どもと家族へのかかわり方(1)：障害を伴う病気・症状とそのケア	
第14回	障害をもつ子どもと家族へのかかわり方(2)：精神的な障害とそのケア	
第15回	児童虐待，災害の影響から子どもを守る，地域との連携・協働 【小テスト③】	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な授業態度を評価する。
レポート	30	毎回の授業で学修したことを確認しながらレポートを作成し提出する。提出されたレポートは、授業内容を正確に理解しているかどうかを評価し、後日返却する。
小テスト（3回）	60	各回の主要なポイントが十分に理解できているかを評価する。(20点×3回)
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	テキストに沿って進めていくので，テキストを忘れないこと。 自己学習問題の復習をしておくこと。
授業外学修	１．予習として，教科書の授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 ２．学修したことを復習し，ノートなどにまとめること。関連内容を主体的に探し，学修を深掘りすること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの健康と安全	大西文子	中山書店	978-4-521-74777-4	2，200＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
病気がみえるvol.6 免疫・膠原病・感染症	医療情報科学研究所	メディックメディカ	978-4-89632-720-5	3，500＋税

参考書：自由記載	こども家庭庁「保育所における感染症対策ガイドライン」 こども家庭庁「教育・保育施設等における事故防止及び事故発生時の対応のためのガイドライン」 厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」（2019年改訂版）　等
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	発育発達の基本的な内容を理解している。	学習した発育発達に関する知識について，正確に理解し述べることができる。	学習した発育発達に関する知識について，正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学習した発育発達に関する知識について，大体述べることができる。	学習した発育発達に関する知識について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	学習した発育発達に関する知識について，全く表現することができない。
知識・理解	病気や怪我，災害に対する理解	学習した病気や怪我，災害に関する知識について，正確に理解し述べることができる。	学習した病気や怪我，災害に関する知識について，正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学習した病気や怪我，災害に関する知識について，大体述べることができる。	学習した病気や怪我，災害に関する知識について，正確に理解し述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	学習した病気や怪我，災害に関する知識について，全く表現することができない。
思考・問題解決能力	子どもの健康や安全に対する課題を見つけ，その解決方法を考えることができる。	課題に対し，論理的整合性を持ち，多角的に考察している。	課題に対し，ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し，自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
技能	病気や怪我，災害に対する具体的な対処法の技術習得	それぞれの課題に対する全ての対処法導出し，それらの技術を正確に実施することができる。	それぞれの課題に対するほとんどの対処法導出し，それらの技術を実施することができる。	それぞれの課題に対する大体の対処法を抽出し，それらの技術をほとんど実施することができる。	それぞれの課題に対する対処法を十分に抽出できないが，抽出できた技術をほとんど実施することができる。	それぞれの課題に対する対処法を全く抽出できず，技術も実施することができない。

科目名	子どもの食と栄養Ⅱ（隔週）			授業番号	CQ311A	サブタイトル			
教員	古川　愛子、北島　葉子、安原　幹成、髙坂　由理								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	乳幼児期は，心と体の健やかな成長・発育に重要な時期である。前期に習得した栄養の基礎をもとに実習，演習を通して小児の各時期に応じた栄養の実際を学ぶ。								
到達目標	・保育士として必要な「健康と栄養」に関する基礎知識を理解し，保育場面に活用できる。 ・小児の成長発育が栄養摂取と大きく関連していることが理解できる。 ・月齢，年齢に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し，調乳，離乳食，幼児食，おやつなどの調理ができる。 ・幼児期の食の問題に対して，自分の意見を述べることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの食と栄養の学修のすすめ方 前期に学んだ栄養素等の振り返りと実生活での活用方法を学ぶ	安原
第2回	献立作成と食生活の評価 栄養バランスの整った食事の実際を食事バランスガイドを利用し説明できるようにする 食事バランスガイドに関してのレポート提出	安原
第3回	献立作成と食生活の評価 栄養バランスの整った食事の実際を食事バランスガイドを利用し説明できるようにする 食事バランスガイドに関してのレポート提出	安原
第4回	乳児期の栄養について 乳汁栄養（母乳、育児用ミルク）について理解する 離乳期までの口腔内発達を理解し、発達に応じた食事について学ぶ 調乳と市販離乳食の試食 レポート提出	古川
第5回	乳児期の栄養について 乳汁栄養（母乳、育児用ミルク）について理解する 離乳期までの口腔内発達を理解し、発達に応じた食事について学ぶ 調乳と市販離乳食の試食 レポート提出	古川
第6回	離乳期の栄養について 離乳食の必要性、適切な形態、栄養、介助を発達段階に応じて理解する 離乳食の調理と試食 レポート提出	髙坂
第7回	離乳期の栄養について 離乳食の必要性、適切な形態、栄養、介助を発達段階に応じて理解する 離乳食の調理と試食 レポート提出	髙坂
第8回	幼児の栄養、食生活について 幼児期の栄養、食生活について理解する 保育現場で発生する食に関する事故と予防、食に関する問題点とその対策について理解する 幼児食の調理と試食 レポート提出	古川
第9回	幼児の栄養、食生活について 幼児期の栄養、食生活について理解する 保育現場で発生する食に関する事故と予防、食に関する問題点とその対策について理解する 幼児食の調理と試食 レポート提出	古川
第10回	保育所給食について 保育所給食の特徴とお弁当について理解する 食品表示を理解し、適切な選択とは何か考える 幼児にふさわしいお弁当を作成、レポート提出	北島
第11回	保育所給食について 保育所給食の特徴とお弁当について理解する 食品表示を理解し、適切な選択とは何か考える 幼児にふさわしいお弁当を作成、レポート提出	北島
第12回	保育所における食育について 食育基本法、食育推進基本計画を理解する 食物アレルギーについて 機序、アレルゲン、注意等を理解し、予防方法を考える	髙坂
第13回	保育所における食育について 食育基本法、食育推進基本計画を理解する 食物アレルギーについて 機序、アレルゲン、注意等を理解し、予防方法を考える	髙坂
第14回	間食について 幼児期における間食の意義を学ぶ 幼児にふさわしいおやつの調理と試食 レポート提出	北島
第15回	間食について 幼児期における間食の意義を学ぶ 幼児にふさわしいおやつの調理と試食 レポート提出	北島
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
レポート	70	講義内容を正しく理解し、必要項目が全て記載されている事、自分の意見、課題等が書かれている事を評価する。 コメントを記入して返却する。
授業への取り組みの姿勢/態度	30	意欲的な授業態度によって評価する

評価の方法：自由記載		
受講の心得	保育士という専門性の高い職業を目指す学生としての意識を持ち，実習・演習に積極的に参加し，レポートは一つの書類と考え丁寧に書き提出すること。	
授業外学修	指定回のレポートを作成すること。 離乳食，幼児食は学ぶ内容が多岐に渡るのでテキスト，参考資料を読み込み丁寧に復習をすること。 授業のレポート及び課題，次回の授業範囲の予習を週当たり4時間以上行うこと。	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの食と栄養	児玉浩子　他	中山書店	978-4-521-74934-1	子どもの食と栄養1で使用
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	学生が保育士として必要な食の知識，調理技術が保育の現場で実践できるよう各項目に組み入れる。また乳幼児の保護者の視点からも考える力を身に付ける。			

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育士として必要な「健康と栄養」に関する基礎知識を理解し、保育場面に活用できる。	学修した健康と栄養に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学修した健康と栄養に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した健康と栄養に関する知識について、大体述べることができる。	学修した健康と栄養に関する知識について正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	学修した健康と栄養に関する知識について全く表現することができない。
知識・理解	２．小児の成長発育が栄養摂取と大きく関連していることが理解できる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について、正確に理解し述べることができる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について、大体述べることができる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について正確に述べることはできないが、自分の言葉では表現できる。	学修した健康的な小児の成長発育と栄養摂取の関連について、全く表現することができない。
知識・理解	３．月齢、年齢に応じた特性や栄養摂取の重要性を理解し、調乳、離乳食、幼児食、おやつなどの調理ができる。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、正確に理解しており、適切に表現し課題を提出している。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、正確ではないがほぼ理解しており、適切に表現し課題を提出している。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、ほぼ理解しており適切な表現が不十分ではあるが課題を提出している。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、理解、適切な表現がいずれも不十分であり課題を提出していない。	小児の特性や栄養摂取の重要性と実際の食形態について、理解、適切な表現がいずれも不十分ではあるが課題を提出している。
知識・理解	４．食事バランスガイドを理解し、食生活を見直し、適切な食生活に向けて努力できる。	食事バランスガイドについて正確に理解しており、適切に表現し課題を提出している。	食事バランスガイドについて正確ではないがほぼ理解しており、適切に表現し課題を提出している。	食事バランスガイドについてほぼ理解しており、適切な表現が不十分ではあるが課題を提出している。	食事バランスガイドについて理解、適切な表現がいずれも不十分であるが課題を提出している。	食事バランスガイドについて理解、適切な表現がいずれも不十分であり課題を提出していない。

科目名	乳児の保育Ⅱ			授業番号	CQ313A	サブタイトル			
教員	土師　範子								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解できる。 乳児保育における保育の方法や実際の配慮・援助などの技術が身に付けられるよう解説する。								
到達目標	１．3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解できる。 ２．養護及び教育の一体性を踏まえ，3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について，具体的に理解できる。 ３．乳児保育における配慮の実際について，具体的に理解できる。 ４．上記の1～3を踏まえ，乳児保育における計画の作成について，具体的に理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の取得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	乳児保育の基本 子どもと保育者との関係性について	
第2回	子どもの生活の流れ(0歳児クラス) 乳児にふさわしい生活とは	
第3回	子どもの保育環境(0歳児クラス) 乳児が過ごしやすい部屋・玩具	
第4回	子どもの援助の実際(0歳児クラス) 生活援助・遊びの援助の実際	
第5回	子どもの生活の流れ(1歳児クラス) 家庭との連携・トイレトレーニング	
第6回	子どもの保育環境(1歳児クラス) 環境の整備	
第7回	子どもの援助の実際(1歳児クラス) 生活・遊びの援助-着脱・排泄-	
第8回	子どもの生活の流れ(2歳児クラス) 2歳児の発達課題と保育者のかかわり方	
第9回	子どもの保育環境(2歳児クラス) 見立て遊び・手指の発達をうながす遊び	
第10回	子どもの援助の実際(2歳児クラス) 2歳児の育みたい資質・能力について	
第11回	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 健康支援・情緒の発達・災害・事故防止	
第12回	集団での生活における配慮 集団保育と個々への援助	
第13回	環境の変化や以降に対する配慮 3歳未満児の子どもたちの移行とは	
第14回	長期的な指導計画と短期的な指導計画 指導計画について考える	
第15回	個別的な指導計画と集団の指導計画 個別的・集団の計画	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議・実技への参加によって評価する。
小テスト・レポート	40	小テストとして実技試験を行う。レポートでは，理解度を評価する。レポートについてはコメント記載または、評価方法や実技試験での注意点について授業内で口述する。
定期試験	40	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	追・再試有り
受講の心得	自分の意見や問題意識を持ち，講義や討議を通して乳児への理解を深め，専門的な知識と技術を意欲的に習得すること。
授業外学修	次回授業までに，授業終了時に出す課題を行ってくること。 公共の場や身近な乳児の姿に関心を持ち，問題意識をもって情報や知識などを習得していくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新基本保育シリーズ15　乳児保育Ⅰ・Ⅱ	児童育成協会　寺田清美他	中央法規	9784805857953	

使用テキスト：自由記載	「乳児の保育Ⅰ」を履修した際に，このテキストを購入している人は，購入の必要はないです。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『保育所保育指針解説書』厚生労働省　フレーベル館 その他，適宜紹介する。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解できる。	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について十分に理解できている。	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方についてある程度理解できている。	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解できている。	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方についてあまり理解できていない。	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方についてあまり理解が不十分である。
知識・理解	養護及び教育の一体性を踏まえ，3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について，具体的に理解できる。	養護及び教育の一体性を踏まえ，3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について，具体的に十分理解できている。	養護及び教育の一体性を踏まえ，3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について，具体的にある程度理解できている。	養護及び教育の一体性を踏まえ，3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について，具体的に理解できている。	養護及び教育の一体性を踏まえ，3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について，理解しようとしている。	養護及び教育の一体性を踏まえ，3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について，理解が不十分である。
知識・理解	乳児保育における配慮の実際について，具体的に理解できる。	乳児保育における配慮の実際について，具体的に十分理解できている。	乳児保育における配慮の実際について，具体的にある程度理解できている。	乳児保育における配慮の実際について，具体的に理解できている。	乳児保育における配慮の実際について，理解しようとしている。	乳児保育における配慮の実際について，理解が不十分である。
知識・理解	乳児保育における計画の作成について，具体的に理解できる。	乳児保育における計画の作成について，具体的に十分理解できている。	乳児保育における計画の作成について，具体的にある程度理解できている。	乳児保育における計画の作成について，具体的に理解できている。	乳児保育における計画の作成について，理解しようとしている。	乳児保育における計画の作成について，理解が不十分である。
思考・問題解決能力	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方や保育方法及び環境，配慮，計画について問題を見出し，手立て等を考えることができる。	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方や保育方法及び環境，配慮，計画について学んだ知識から十分に問題を見出し，自ら手立て等を考えることができる。	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方や保育方法及び環境，配慮，計画について学んだ知識からある程度問題を見出し，自ら手立て等を考えようとすることができる。	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方や保育方法及び環境，配慮，計画について学んだ知識から問題を見出すことができ，ある程度手立て等を考えることができる。	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方や保育方法及び環境，配慮，計画について問題を見出そうとしており，手立て等を考えようとしている。	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方や保育方法及び環境，配慮，計画について問題が見出せず，手立て等の考えが不十分である。
技能	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方や保育方法及び環境，配慮，計画について学んだことを実行することができる。	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方や保育方法及び環境，配慮，計画について学んだことを，習得し十分に実行することができる。	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方や保育方法及び環境，配慮，計画について学んだことを，ある程度習得し実行することができる。	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方や保育方法及び環境，配慮，計画について学んだことを，実行することができる。	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方や保育方法及び環境，配慮，計画について学んだことを，実行しようとしている。	3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方や保育方法及び環境，配慮，計画について学んだことの習得が不十分であり，実行することが難しい。
態度	授業内容を理解し，課題に即した積極的な態度や，取り組みについて評価する。	乳児と関わる場面で役立たせるために，授業内容や意義を十分に理解し，積極的に授業に参加することができる。	乳児と関わる場面で役立たせるために，授業内容や意義をある程度理解し，意欲的に授業に参加することができる。	授業には参加するが，発表や課題について取り組みが消極的である。	授業内容の理解や，発表などへの参加が不十分である。	授業の欠席や，課題の未提出がある。

科目名	保育計画Ⅱ			授業番号	CQ317A	サブタイトル			
教員	岡﨑　三鈴								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義は、保育における指導計画を具現化し、実践へと繋げる力を養う演習科目です。絵本、わらべうた、季節の製作、伝承遊びといった具体的な保育教材を用い、対象児の発達に応じた指導案の作成と模擬授業、そしてリフレクション（振り返り）を繰り返します。　グループワークを通じた協同的な学びにより、保育の意図（なぜその遊び、言葉掛けが必要か）を明確にし、子どもの姿を想定した「生きた指導案」を作成する技能を修得します。								
到達目標	【知識・理解】各教材（絵本・製作・伝承遊び等）の特性と、それらを保育に取り入れる教育的意義を正しく理解している。 【思考・問題解決能力】子どもの興味・関心や発達段階を分析し、教材を効果的に活用するための「ねらい」や「環境構成」を論理的に考案できる。 【技能】0歳児から異年齢保育まで、対象に応じた指導案を適切な表現で作成し、それに基づいた模擬授業を実践できる。 【態度】グループ内で積極的に発言・協力し、他者との対話を通じて自身の保育観や計画をより良く改善しようとする真摯な姿勢を持つ。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	指導計画の作成の手続き 保育計画を立てる意義（意識化）と模擬保育の体験	
第2回	絵本指導案作成 年齢による絵本の選定基準と、読み聞かせにおけるねらい・配慮事項	
第3回	乳児の模擬保育 乳児期の発達と遊びの実践 身体接触を伴う援助方法など	
第4回	乳児の指導計画の作成 グループワーク：0歳児の生活と遊びを想定した計画立案	
第5回	乳児の模擬保育実践 指導案に基づいた実践と、乳児への言葉掛け・関わり方の省察	
第6回	秋の自然物を使った製作 どんぐりや落ち葉等の素材に触れる体験と造形遊びの展開	
第7回	製作指導案作成（秋） グループワーク：自然物を通した感性の育ちを支える計画	
第8回	クリスマス飾り製作遊び 季節の行事への関心を高める表現活動の展開と技法	
第9回	クリスマス飾り指導案作成 グループワーク：目的・手順・安全管理を明確にした計画	
第10回	指導案作成のポイント これまでの実践を振り返り、評価に基づいた改善点を整理	
第11回	お正月遊び指導案作成 グループワーク：伝統文化に触れる活動のねらいと内容	
第12回	お正月遊び模擬授業 製作や伝承遊びの実践：グループによる指導と評価	
第13回	異年齢保育の指導案作成 異なる発達段階が混在する中での個別の配慮と集団の関わり	
第14回	観察と評価 実践後の記録・分析から次の指導へと繋げるPDCAサイクルの修得	
第15回	まとめ 学びの総括	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議・模擬保育への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	30	提出する指導案複数と模擬保育についてのレポートの内容を評価する。指導案，レポートについてはコメントを記入して返却する。
定期試験	50	保育計画に関する知識・理解について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	保育の意図を意識化し、グループでの協同や模擬保育の準備・練習に主体的に取り組むことで、子どもの育ちを支える生きた指導案作成技能を習得してください。
授業外学修	1，指導案作成の課題については，実際にシミュレーションし，様々な角度から突き詰めて検討すること。 2，模擬保育については，グループ内で協力し合い，準備・練習を入念に行うこと。 以上の内容を，週当たり2時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育の計画と評価	卜田真一郎	ミネルヴァ書房	9784623079650	本体2500＋税

使用テキスト：自由記載	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領，幼稚園教育要領，保育所保育指針』チャイルド本社 『幼稚園教育要領解説書』フレーベル館 『保育所保育指針解説書』フレーベル館

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	各領域の教材の意義や指導計画の基本原則を正しく習得しているか。	教材の意義を深く理解し、それらが子どもの心身の発達や「10の姿」にどう関連するかを体系的に説明できる。	各教材の役割や指導案の各項目（ねらい・内容・環境構成等）の意味を正しく理解し、専門用語を適切に用いて解説できる。	保育計画における基本的な用語や、季節の行事・遊びの意義を概ね理解している。	保育者として最低限必要な基礎知識を習得しており、標準的な指導案の形式を理解している。	教材の教育的意義の理解が著しく不足し、指導案の構成や専門用語を正しく把握できていない。
思考・問題解決能力	対象児の発達段階や季節感を分析し、遊びを豊かにするための「ねらい」や「具体的な援助（言葉掛け）」、安全な「環境構成」を論理的に考案できる。	子どもの多様な反応を多角的に予測し、意図と援助が密接に結びついた、説得力のある独創的な指導計画を構築できる。	0歳児から異年齢保育まで、発達特性に即した適切なねらいを設定し、子どもの主体性を引き出すための環境構成や配慮事項を論理的に考察できる。	提示された事例や教材に対し、講義で示された標準的な援助方法や安全管理の在り方を妥当に選択・判断できる。	指示された状況において、健康・安全に配慮した最低限の保育の展開を考えることができる。	子どもの発達段階を無視した計画を立てる、あるいは安全への配慮が欠けるなど、保育者として不適切な思考が見られる。
技能	対象に応じた指導案を適切な表現で作成し、それに基づいた適切な声のトーンや言葉掛けを伴う模擬授業を実践できる。	第三者が読んでも一目で実行可能なほど具体的で質の高い指導案を記述し、模擬授業では子どもの心を引きつける優れた表現・誘導技術を発揮できる。	発達に応じたねらいや環境構成を適切な書式で明瞭に記述でき、模擬授業において想定した援助を適切に実行できる。	指導案の各項目を大きな誤りなく記述でき、模擬授業において基本的な手順や動作を進めることができる。	基礎的な用語や書式を使い、最低限の項目を埋めた計画を作成できる。模擬授業において最低限の進行ができる。	指導案が未完成である、または模擬授業において保育者としての基本的な立ち居振る舞いや表現が著しく不足している。
態度	グループワークに主体的に貢献し、模擬保育の準備や練習に粘り強く取り組むとともに、他者の意見を取り入れて自身の保育を改善しようとする姿勢を持つ。	グループの議論を積極的にリードし、準備や練習において妥協せず、自己や他者の実践に対して高い省察（振り返り）能力を発揮している。	専門職としての自覚を持ち、グループ内での役割を責任持って果たし、模擬保育の練習や指導案の修正に真摯に取り組んでいる。	授業の心得を遵守し、グループ内での発言や協力、課題提出を継続的に行っている。	遅刻・欠席をせず、最低限の受講マナーを守り、グループワークや課題に受動的であっても参加している。	受講態度が著しく不良（私語・スマホ使用等）である、あるいはグループワークへの非協力や練習不足が顕著に見られる。

科目名	保育実習研究Ⅰ 1クラス			授業番号	CQ320A	サブタイトル			
教員	廣畑 まゆ美、土師 範子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	・保育実習において必要な理論とスキルを講義を通して詳しく学ぶ。 ・実習日誌や指導案の実践的演習を通して，保育の計画・観察・記録および自己評価の方法を理解する。 ・保育士の業務内容や職業倫理について詳しく学ぶ。								
到達目標	保育実習の意義・目的を理解し，実践において必要となる知識・技能を身に付ける。 実習の内容を理解し，自らの課題を明確にする。 実習終了後には反省会を実施し，総括・自己評価をもとにして，新たな学習目標を明確にする。なお，この科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうちの＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の習得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保育実習の意義と目的の理解 ・保育者の専門性とは何か ・保育所にまつわる法律，制度，基本情報の確認	廣畑 まゆ美　土師 範子
第2回	保育実習の概要について ・実習日誌，指導案，提出物について ・実習先での実践内容について ・実習に向けた課題の持ち方について	廣畑 まゆ美　土師 範子
第3回	保育所の役割と機能の理解 ・保育所の生活と一日の流れの理解 ・保育所保育指針の理解と保育の展開	廣畑 まゆ美　土師 範子
第4回	保育内容・保育環境の検討 ・保育の計画に基づく保育内容とは何か ・指導計画作成について ・保育実践における留意点の確認	廣畑 まゆ美　土師 範子
第5回	実習園事前訪問の意義・目的の理解	廣畑 まゆ美　土師 範子
第6回	保育士の倫理観，プライバシーの保護と守秘義務について	廣畑 まゆ美　土師 範子
第7回	年齢・発達に応じた指導案作成における留意点の確認と作成 障害のある子どもの指導について	廣畑 まゆ美　土師 範子
第8回	実習における観察，記録及び評価の仕方について	廣畑 まゆ美　土師 範子
第9回	模擬保育実，保育者に求められる専門性の探求 ・専門家としての実践的思考 ・カリキュラムづくり	廣畑 まゆ美　土師 範子
第10回	実習生の心構えについて 子どもの人権と最善の利益の考慮	廣畑 まゆ美　土師 範子
第11回	実習事後 ・自己評価 ・自己課題の明確化	廣畑 まゆ美　土師 範子
第12回	グループワーク①…実習経験に基づいた子ども理解	廣畑 まゆ美　土師 範子
第13回	グループワーク②…実習経験に基づいた保育者の専門性の探求	廣畑 まゆ美　土師 範子
第14回	実習総括・成果報告発表会①…実践的学修を通したリフレクション	廣畑 まゆ美　土師 範子
第15回	実習総括・成果報告発表会②…ディスカッションを通した対話的学修，今後の課題まとめ	廣畑 まゆ美　土師 範子
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	・1回1回の授業における，主体的に学ぼうとする姿を評価する。 ・保育実習の意義を自分なりに理解し，問題を探求する姿勢を身に付けることができたかを評価する。
課題・レポート	40	・期日，指定様式を守って提出できているかを評価する。 ・学修をふまえて問いを立て，問いに対する具体的な思考ができているかを評価する。 ・指導案・レポートはコメントを記入して、返却する。
その他	20	実習後報告会に積極的に参加し，グループで共同して学びを深め，自分の問題意識や具体的な考察について説得力持って説明できているかを評価する。

評価の方法：自由記載	・授業態度，および実習の事前準備や事後の課題，報告会での成果を総合的に評価し，評価点が60点以上の者に単位を認定する。 ・授業の理解度や主体的な学修姿勢を把握するため，自己評価コメントシートを適宜記入してもらう。 ・提出された課題やレポートはコメントつけて返却する。
受講の心得	・毎回実習に関する重要な課題に取り組むので，欠席しないよう心がけること。 ・実際に子どもたちと関わることを意識し，真剣に授業に取り組むこと。 ・乳幼児の遊びやその指導に関連した情報の収集を常に心がけること。 ・守秘義務他保育士等の倫理規定を十分理解し遵守すること。
授業外学修	実習準備・事前訪問は，授業外の時間を確保して取り組むことになる。また実習生としての振る舞いや礼儀作法は一朝一夕で身につくものではなく，継続的な努力が必要である。 各自時間管理を徹底し，学修時間確保に努めること。 また発展学修として授業で示された参考書や，各自実習先から指示された学習内容に主体的に取り組み，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	岡山県保育士養成協議会資料「保育所実習の手引き」「実習上の心得」※初回授業で配付。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「保育所保育指針解説書」厚生労働省，フレーベル館 その他，適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．事例等の考察	得た知識と事例を関連付けて捉え，他者の意見も踏まえながら，自分なりの考えを述べることができている。	得た知識と事例を関連付け，他者の意見も踏まえながら自分なりの考えを述べようと努力している。	事例を見て思考し，自分なりに考えようとしている。	事例を見て，考えを述べているものの，熟考されていない。	事例に対して具体的なイメージが出来ず，自分なりの意見を述べることが全然できない。
思考・問題解決能力	2．問題意識の持ち方	実践を踏まえて客観性を伴いながら複雑に思考したうえで問いを導き，具体的に解決策を構築することができている。	実践を踏まえて自分なりに思考したうえで問いを導き，具体的に解決策を構築することができている。	自分なりに問いを導き，具体的に解決策を構築しようとしている。	自分なりに問いを導き解決策を構築しようとしているが，問題意識がまとまっていない。	問題意識を構築することができず，解決策を導くところに至っていない。
技能	1．保育内容の計画	子どもの姿を明確に捉えてねらいと内容を計画し，指導案の様式に沿って誤字脱字なく記載することができている。	子どもの姿を捉えてねらいと内容を計画し，指導案の様式に沿って記載することができている。	ねらいと内容を計画し，多少間違いはあるが，指導案の様式に沿って記載することができている。	子どもの姿とねらいと内容が十分に関連づいておらず，再考の余地がある。指導案の様式の意図を十分理解しておらず，間違いがある。	子どもの姿とねらいと内容が関連づいておらず，指導案の様式の意図を理解していない。
態度	1．実習に向けた準備	実習の意義・目的を理解し，課題に対して主体的・意欲的に取り組んでいる。実習生としての心構えや態度を常に意識し，実践できている。	実習の意義・目的を理解しようとしながら課題に取り組んでいる。実習生としての心構えや態度を意識し，実践できている。	課題に取り組み，実習生としての心構えや態度を意識し，おおむね実践できている。	課題に十分に取り組めておらず，実習生としての心構えや態度への意識が及ばず，十分実践できていない。	意欲的な取り組みが見られず，実習生としての心構えや態度に対する理解・実践ともに不十分である。
態度	2．事後の保育観と意欲	保育の意義，保育者の援助のあり方を非常に多角的に考察できる。	保育の意義，保育者の援助のあり方を多角的に考察しようとしている。	保育の意義，保育者の援助のあり方を，学修を踏まえて自分なりに考察しようとしている。	保育の意義，保育者の援助のあり方を，学修を踏まえて自分なりに考察しようとしているが論理的に不十分さが残る。	保育の意義，保育者の援助のあり方を，自分なりにでも考察しようとしていない。

科目名	施設実習研究			授業番号	CQ322A	サブタイトル			
教員	中　典子、西田　寛子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	児童福祉施設や障害者支援施設での実習を望ましいものにするために，本授業では施設実習の意義と目的，実習記録のとり方など，実習指導を受けるための心得について理解する。また，実習終了後には，実習の課題と反省についてまとめ，自己の振り返りをするために研究発表を行い，施設実習で何を学び，どのような技術を身に付けたかについて明らかにする。								
到達目標	施設で暮らしている子どもや障害児・者について，その社会的な背景やその人自身の特性について学び，自ら説明できるようになることを目的とする。また，施設において実習指導を受ける際に学びたいことについて理解できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	施設実習の意義と目的を学ぶ。 実習施設の役割・機能について理解する。	中
第2回	対象となる利用児(者)について理解する。 運営状況について理解する。	中
第3回	人権について学ぶ。 施設保育士の職務内容について把握する。	中
第4回	職員間の役割分担やチームワークを学び，施設保育士としての資質を理解する。	中
第5回	外部講師による講義 施設の一日の流れを理解する。利用児(者)への支援の方法を理解する。	中
第6回	施設実習で学びたいことを考える。 実習先での支援について理解する。	中
第7回	実習期間中の学習計画表を作成する。	中
第8回	実習日誌の書き方について理解する。(デイリープログラムの書き方，利用児・者との関わりについての記載方法)	中
第9回	個人情報保護法について理解する。 施設実習指導を受ける上での留意点を把握する。(実習生としての学びの姿勢について)	中
第10回	実習日誌の書き方について理解する。(本日の実習課題と取り組みのポイント，本日の実習課題を通して考えたことについての記載方法)	中
第11回	事後指導1 施設実習で学んだことをグループで振り返り，施設保育士の役割を理解する。	中
第12回	事後指導2 施設実習で学んだことをグループで報告書にまとめ，施設保育士の役割を理解する。	中
第13回	事後指導3 施設実習報告会の準備をする。（実習中に深く考えさせられたことについての振り返り）	中
第14回	事後指導4　報告会（児童系の施設） 施設での実際の支援を理解する。	中　西田
第15回	事後指導5　報告会（障害児・者系の施設） 施設での実際の支援を理解する。	中　西田
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかり述べることができるかについて評価する。
レポート	50	実習終了後，現場で学んだことを振り返り，事例を踏まえて具体的に述べられているかについて評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	30	事前学習に積極的に取り組んだどうかについて，評価する。実習日誌は，コメントを記入して返却する。学習内容が不十分だと判断した場合には，再提出を課す。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・毎回提示される課題を丁寧に作成すること。 ・授業中は，一言一句聞き逃さないような心構えをもち，真剣な態度で臨むこと。
授業外学修	・授業中に取ったノートや配付したプリントを見直し，復習すること。その際，必ず実習の手引きと再度照らし合わせ，足りない文言などを書き足すこと。(約1時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	・使用するテキストは，『施設実習日誌』『施設実習の手引』（作成：岡山県保育士養成協議会）である。第1回目の授業にて配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・必要に応じて紹介する。
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．施設で暮らしている子どもや障害児・者について，その社会的な背景やその人自身の特性について学び，自ら説明できるようになる。	施設で暮らしている子どもや障害児・者について，その社会的な背景やその人自身の特性について学び，自ら説明できるようになる。	施設で暮らしている子どもや障害児・者について，その社会的な背景やその人自身の特性について理解できる。	施設で暮らしている子どもや障害児・者について理解できる。	施設で暮らしている子どもや障害児・者についての理解が十分でない。	施設で暮らしている子どもや障害児・者についての理解ができていない。
思考・問題解決能力	２．施設において実習指導を受ける際に学びたいことについて考え、説明することができる。	施設において実習指導を受ける際に学びたいことについて考え、説明することができる。	施設において実習指導を受ける際に学びたいことについて概ね説明することができる。	施設実習で学びたいことについて示すことができる。	施設実習の意義についての理解が十分でない。	施設実習指の意義についての理解ができていない。

科目名	保育実習研究Ⅱ			授業番号	CQ324	サブタイトル			
教員	中田　周作								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	児童福祉施設の種類は，大変に多い。そこで，保育所以外の様々な児童福祉施設について改めて講義し，自らの実習先の特徴が確認できるように説明する。また，実習に必要な技能について指導を行う。								
到達目標	保育所以外の児童福祉施設における実習(保育実習III)では，総合的な保育の実践力を身につけるために，学習科目の関連について学び，保育の全体計画，観察，記録，自己評価の方法，職業倫理，保育士の専門性について理解できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育実習の意義と目的	
第2回	保育実習に対する心構え	
第3回	保育実習の計画と準備	
第4回	実習へ向けての自己課題作成	
第5回	実習先への事前訪問	
第6回	乳幼児期の支援	
第7回	児童期の支援	
第8回	中学生・高校生の支援	
第9回	子育て家庭の支援	
第10回	実習日誌の書き方1 日誌と記録の意義	
第11回	実習日誌の書き方2 児童の観察のポイント	
第12回	実習日誌の書き方3 実習の計画と考察	
第13回	保育実習のまとめ1 礼状の書き方と振り返りシートの作成	
第14回	保育実習のまとめ2 グループワークにおける振り返り	
第15回	保育実習のまとめ3 実習報告会の実施	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業中に学習内容を踏まえた積極的な質問，あるいは，既存の意見を踏まえた上での自分の考えをしっかり述べることができるかについて評価する。
レポート	50	実習終了後，現場で学んだことを振り返り，事例を踏まえて具体的に述べられているかについて評価する。確認後、コメントを記入し返却する。
小テスト		
定期試験		
その他	30	実習日誌については，コメントを記入して返却する。学習内容を習得していないと判断した場合には，再提出を課す。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習に関わる重要な授業なので，毎回意欲的に取り組むこと。わからないことがあれば，その都度，積極的に質問すること。また，実習後は自らを振り返り，学び得たことを次に活かせるようにしっかりまとめること。
授業外学修	・授業中に取ったノートや配布したプリントを見直し，復習すること。その際，必ず実習日誌の説明部分と再度照らし合わせ，足りない文言などを書き足すこと。(約1時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし(プリントを配付する)

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．保育事例検討	得た知識と事例を関連付けて捉え，他者の意見も踏まえながら，自分なりの考えを述べることができている。	得た知識と事例を関連付け，他者の意見も踏まえながら自分なりの考えを述べようと努力している。	事例を見て思考し，自分なりに考えようとしている。	事例を見て，考えを述べているものの，熟考されておらず非論理的である。	事例に対して具体的なイメージが出来ず，自分なりの意見を述べることが全然できない。
思考・問題解決能力	2．自己課題設定	学んだことを生かし，現場実践に向けた自己課題を具体的に構築することができている。	学んだことを生かし，現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしている。	現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしている。	現場実践での自己課題を具体的に構築しようとしているが，課題がまとまっていない。	課題が思いつかず，課題が設定できない。

科目名	学童保育実習研究 (前期:事前指導8回・後期:事後指導7回)	授業番号	CQ333	サブタイトル	
教員	中田　周作、伊藤　智里				

単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択

授業概要	この授業では，学童保育実習を履修するために必要な事前・事後指導を行う。 事前指導では，実習において必要とされる基礎的技能および実習にあたっての心得を指導する。 事後指導では，実習内容を省察し，今後の実践力向上に活かすことができるようにする。
到達目標	学童保育実習を有意義なものにするための学修を行う。 また，放課後児童クラブ運営指針に則った育成支援を理解する。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。
授業計画　備考	

回	概要	担当
第1回	放課後児童指導員養成課程における実習の位置づけ −放課後児童支援員認定資格研修との比較考察−	中田周作，伊藤智里
第2回	放課後児童健全育成事業に関する法令の理解 −「放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準」と「放課後児童クラブ運営指針」−	中田周作
第3回	放課後児童クラブ運営指針について −法的位置づけと概要−	中田周作
第4回	育成支援とは何か −放課後児童クラブにおける育成支援の内容−	中田周作
第5回	特別講座（１） 実習先の概要と実習日誌の書き方	中田周作，伊藤智里
第6回	特別講座（２） 実習先の概要と実習全般にわたる注意事項	中田周作，伊藤智里
第7回	実習の心得 −実習に係る書類作成等の確認事項−	中田周作
第8回	指導案と実践記録（１） −指導案と実践記録は何を目指しているのか−	中田周作
第9回	指導案と実践記録（２） −指導案を書いてみよう−	中田周作
第10回	実習修了後の書類作成（１） −お礼状の作成−	中田周作
第11回	実習修了後の書類作成（２） −実習報告書の作成−	中田周作
第12回	実習修了後の書類作成（３） −実習報告書の作成−	中田周作
第13回	実習報告会（１） −発表資料の作成−	中田周作，伊藤智里
第14回	実習報告会（２） −報告と質疑応答−	中田周作，伊藤智里
第15回	実習のまとめ −放課後児童指導員資格の申請手続きの確認−	中田周作，伊藤智里
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	授業中に作成する書類やレポート
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50	実習報告書

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として，「学童保育論」と「学童保育方法論」の両方の単位を修得済である者のみ履修できる。 原則として，「学童保育実習Ⅰ」と同時に履修すること。
授業外学修	実習の事前事後指導については，週当たり1時間以上の予習復習を行うこと。 授業外学修の内容については，毎回異なるので，授業の時に指示する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	１．運営指針が理解できている。	関係法令と関連付けて運営指針が理解できている。	運営指針が理解できている。	運営指針が規定する育成支援について理解できている。	育成支援について、あまり理解できていない。	育成支援が理解できていない。
技能	２．実習生に求められる一般的な資質・能力	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨み、反省や助言に基づいて実践を改善することの重要性を理解している。	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨み、反省や助言に基づいて実践を改善することの必要性を理解している。	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨むことの重要性を理解している。	実習生として、子どもと積極的にかかわることの大切さが理解できていない。	子どもと関わる心構えができていない。
技能	３．実習日誌、指導案について	毎日の実習の様子を実習日誌にまとめることができる。運営指針に基づいた、指導案を作成することができる。指導や助言に基づいて、実習日誌、指導案の改善ができる。	毎日の実習の様子を実習日誌にまとめることができる。運営指針に基づいた、指導案を作成することができる。	実習日誌、指導案が、一通りできている。	実習日誌、指導案が十分に書けていない。	実習日誌、指導案が書けていない。
態度	１．子どもの発達の特徴や発達過程を理解している。	子どもの発達の特徴や発達過程を理解したうえで、自らの育成支援を計画することができる。	子どもの発達の特徴や発達過程を理解したうえで、自らの育成支援を指導案に反映することができる。	子どもの発達の特徴や発達過程を理解したうえで、子どもと関わることができる。	子どもの発達の特徴や発達過程を理解した、子どもと関わりができていない。	子どもの発達の特徴や発達過程を理解していない。

科目名	保育所実習Ⅰ			授業番号	CQ418	サブタイトル			
教員	廣畑　まゆ美、土師　範子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	保育所の役割や機能，保育士の業務内容や職業倫理について実践を通して具体的に学ぶ。 これまでの学修を基盤に，乳幼児に対する望ましい援助の仕方について学ぶ。								
到達目標	・保育内容・機能等を実践現場での体験を通して理解する。 ・観察したり，子どもとのかかわりに参加したりすることで，子どもに対する理解を深める。 ・保育士等の職務内容及び役割，また園の職員とのチームワークなど体験的に把握する。 なおこの科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜技能＞ ＜態度＞の習得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	1）保育所の役割と機能の理解 (1)施設の沿革と保育の基本方針を知る。 (2)乳幼児，保護者，保育士等のかかわりや，保育者の具体的な支援について知る。 (3)物的環境（敷地，建物の構造，配置及び施設・設備）を把握する。 (4)人的環境（職員構成，勤務形態等）を把握する。 2）観察・参加実習の実施 (1)観察・参加の仕方を学ぶ。 (2)乳幼児，保護者に対する理解を深める。 (3)保育の1日の流れを把握する。 (4)基本的生活習慣の自立を援助する。 (5)遊びなどの指導について学び，担当者の補助をする。 (6)実習園の保育課程と指導計画を理解する。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	80	実習園での評価と実習記録・実習保育計画を総合的に評価する。
レポート	20	実習ノートの記述状況，指導を受けたことへの改善や，反省内容の記述状況を評価する。 実習園からコメントをもらい、フィードバックを行う。

評価の方法：自由記載	保育実習における実習園の評価票，実習日誌，指導計画の準備や成果等を総合的に評価し，評価点が60点以上の者に単位を認定する。
受講の心得	実習園では，乳幼児に対して自ら積極的に関わること。 失敗を恐れずに，チャレンジ精神をもって臨むこと。 分からないことは，その都度，謙虚な態度で保育士等に直接質問すること。 指導者に指摘された場合は，指摘内容をよく理解したうえで，改善に向けて努めること。
授業外学修	実習前にボランティアなどで乳幼児とのふれあい体験をしておくことを勧める。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	岡山県保育士養成協議会「保育所実習の手引き」「実習上の心得」 ※初回授業で配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	1．保育所の役割と機能の理解	実習生として必要な知識を十分理解し，実践に生かすことができている。	実習生として必要な知識を理解し，実践に生かすことができている。	実習生として必要な知識を理解し，実践に生かそうとしている。	実習生として必要な知識を十分に理解できていないが，実践に生かそうとしている。	実習生として必要な知識を十分に理解できておらず，実践につなげることができていない。
技能	2．子ども理解	子どもと主体的に関わって感じたこと・考えたことを丁寧にまとめ，そこから考察したことを踏まえて自身の実践や指導計画に十分生かすことができている。	子どもと主体的に関わって感じたこと・考えたことを丁寧にまとめ，そこから考察したことを踏まえて自身の実践に生かすことができている。	子どもと関わって感じたことを自分なりにまとめ，そこから考察したことを踏まえて自身の実践に生かそうとしている。	子どもとあまり関わることができていないが，その中で見つけたことを自分なりにまとめ，自身の実践に生かそうとしている。	子どもと十分に関われておらず，自分なりの考えが構築されていないため，実践につなげることができない。
態度	1．実習の参加状況	実習指導者と意欲的にコミュニケーションを取り，実習日誌に学修したことを丁寧にまとめ，日々の実践に十分に生かすことができている。	実習指導者と意欲的にコミュニケーションを取り，実習日誌に学修したことを丁寧にまとめ，日々の実践に生かすことができている。	実習指導者とコミュニケーションを取り，実習日誌に学修したことをまとめ，日々の実践に生かそうとしている。	実習指導者とあまりコミュニケーションを取ることができておらず，実習日誌に十分な省察がみられないものの，経験したことを日々の実践に生かそうとしている。	実習指導者と十分なコミュニケーションを取ることができておらず，実習日誌に十分な省察がみられない。

科目名	保育所実習Ⅱ			授業番号	CQ419	サブタイトル			
教員	廣畑　まゆ美、土師　範子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	部分実習や責任実習を通して，保育の計画・観察・記録及び自己評価を実践的に理解する。 乳幼児に対する理解を深め，担当する子どもの実態と照らしわせながら具体的に指導を計画する。 実習全体を通して，保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。								
到達目標	実習を通じて，乳幼児の発育・発達状況に応じた具体的な援助の仕方を学ぶ。 保育計画及び指導計画の体系と作成の方法を理解するとともに，記録に基づく省察や自己評価の方法を理解する。 保育記録や保護者とのコミュニーションなどを通して家庭・地域社会との連携を意識し，保育士としての意識を高める。 なお，この科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜技能＞ ＜態度＞の習得に貢献する。								
授業計画　備考	実習生自らが立案した指導計画を用いて保育実践を行う。部分実習や責任実習に取り組み，実践的なスキルを身に付ける。								
授業計画 自由記載	(1)保育全般に参加し，保育技術を習得する。 (2)乳幼児の発達や個人差について理解し，適切な対応方法を学ぶ。 (3)指導計画を立案し，実践する。 (4)子どもの家族とのコミュニケーションの方法について具体的に学ぶ。 (5)地域社会に対する理解を深め，連携の方法について具体的に学ぶ。 (6)子どもの最善の利益の具体化について学びを深める。 (7)保育士としての職業倫理を理解する。 (8)保育士に求められる資質・能力・技術に照らし合わせて，自己の課題を明確にする。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	80	実習園での評価と実習記録・実習計画を総合的に評価する。
レポート	20	実習ノートの記述や，指導を受けた内容の改善状況，自分自身の反省・工夫・改善などを評価する。 実習園からコメントをもらい、フィードバックを行う。

評価の方法：自由記載	保育実習における実習園の評価表，実習日誌，指導案の準備や成果等を総合的に評価し，評価点が60点以上の者に単位を認定する。
受講の心得	・実習園では，乳幼児に対して自ら積極的に関わること。 ・失敗を恐れずに，チャレンジ精神をもって臨むこと。 ・分からないことは，その都度，謙虚な態度で保育士等に直接質問すること。 ・指導者に指摘されたことは，指摘内容を十分理解し，改善に努めること。
授業外学修	実習前にボランティアなどで乳幼児とふれあう体験をしておくことを勧める。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	岡山県保育士養成協議会「保育所実習の手引き」「実習上の心得」

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	1．保育計画及び指導計画	保育施設の全体的な計画を十分把握したうえで，担当する子どもの実態を的確にとらえた指導計画を作成し，子どもの意欲的な活動を支える実践を展開することができている。また実施後は十分な省察ができ，改善点を主体的に次へ生かそうとする。	保育施設の全体的な計画を把握したうえで，担当する子どもの実態を捉えた指導計画を作成し，子どもの意欲的な活動を支える実践を展開することができている。また実施後は省察を行い，改善点を次に生かそうとする。	保育施設の全体的な計画をおおむね把握し，担当する子どもの実態を捉えようとした指導計画を作成しているが十分ではない。子どもが楽しめる活動を展開することができている。また実施後は省察を行い，指摘された改善点を次に生かそうとする。	保育施設の全体的な計画をあまり把握できておらず，担当する子どもの実態を捉えきれていない指導計画を作成していたり，作成できないこともある。実践後は省察を行い，指摘された改善点を次に生かそうとする。	保育施設の全体的な計画を全然把握できておらず，担当する子どもの実態を捉えきれていない指導計画を作成していたり，作成できないこともある。実践後の省察も十分ではなく，指摘された改善点を理解することも難しい。
技能	2．発達に応じた援助	発達段階や個人差を十分に理解し，担当する子どもの実態に応じた援助を工夫し，実践できる。	発達段階や個人差を理解し，担当する子どもの実態に応じた援助を工夫し，実践できる。	発達段階や個人差を理解し，担当する子どもの実態に応じた援助を工夫し，実践しようとしている。	発達段階や個人差に対する理解が十分ではないものの，担当する子どもの実態に応じた援助を工夫しようとしている。	発達段階や個人差に対する理解が十分ではなく，子どもの実態に応じて援助を工夫しない。
態度	1．実習の参加状況	実習指導者と意欲的にコミュニケーションを取り，実習日誌に学修したことを丁寧にまとめ，日々の実践や指導計画の作成に十分に生かすことができている。	実習指導者と意欲的にコミュニケーションを取り，実習日誌に学修したことを丁寧にまとめ，日々の実践や指導計画の作成に生かすことができている。	実習指導者とコミュニケーションを取り，実習日誌に学修したことをまとめ，日々の実践や指導計画の作成に生かそうとしている。	実習指導者とあまりコミュニケーションを取ることができておらず，実習日誌に十分な省察がみられないものの，経験したことを日々の実践や指導計画の作成に生かそうとしている。	実習指導者と十分なコミュニケーションを取ることができておらず，実習日誌に十分な省察がみられない。

科目名	施設実習			授業番号	CQ421	サブタイトル			
教員	中　典子、西田　寛子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	児童福祉施設及び障害者支援施設で実習指導を受けることにより，その種別による目的や機能を認識し，利用児(者)の生活状況を理解し，保育士がどのような立場にあることが望ましいかを明らかにする。								
到達目標	児童福祉施設及び障害者支援施設について学んだ理論が実際の現場でいかに応用されているかを知り，自ら実践できるようになることを目的とする。また，利用児(者)にとって望ましい支援のあり方を理解できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	児童福祉施設・障害者支援施設において10日間の泊まりこみ及び通いで実習指導を受け，下記のことを学ぶ。								
授業計画 自由記載	1．実習施設における一日の流れを体験によって理解する。 2．施設における支援方針が生活の中でどのように展開されているのかを知り，参加する。 3．支援のための計画を理解する。 4．職員の利用児(者)へのかかわり方に基づいて，実際に利用児(者)と関わる。 5．職員の利用児(者)へのかかわり方を通して彼らの思いを理解する。 6．生活支援の一部を担当し，支援のための技術を習得する。 7．利用児(者)の最善の利益に関する配慮を学ぶ。 8．保育士としての職業倫理を理解する。 9．安全及び疾病予防への配慮について理解する。 10．職員間の役割分担とチームワークについて理解する。 11．記録や保護者とのコミュニケーションなどを通して家庭や地域社会を理解する。 12．利用児(者)の生活の安定をもたらす専門職としての資質を修得する。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	30	日誌に実習で学んだことについて具体的に記載されていること，また，学びが日々ステップアップしていることについて評価する。実習日誌については，コメントを記入して返却する。 巡回訪問記録にもとづいて実習態度を評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	70	実習先施設から返却された評価表に基づいて，評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「施設実習研究」で学んだ事をしっかり復習しておくこと。学ぼうとする姿勢で臨み，利用児(者)と積極的に関わること。また，分からないことは，速やかに，かつ謙虚な態度で施設職員に直接質問すること。
授業外学修	毎日，実習終了後は日誌を丁寧に記入すること。下書きはレポート用紙(別紙)に記載し，その都度見直したり，実践の振り返りに役立てること。また，新たに分からないことを発見した場合には，施設職員にわかりやすいように日誌に記載しておくこと。(約4時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	使用するテキストは，『施設実習日誌』『施設実習の手引』（作成：岡山県保育士養成協議会）である。第1回目の「施設実習研究」の授業にて配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・必要に応じて紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	社会福祉関連施設の保育士

実務経験をいかした教育内容	利用者への対応方法について実践を通して理解するように働きかける。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	１．施設の生活と一日の流れの理解	見守りや示唆により十分に達成できた。	見守りや示唆により達成できた。	具体的な助言・指導により達成できた。	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった。	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった。
技能	２．利用児(者)の特性やニーズの理解	見守りや示唆により十分に達成できた。	見守りや示唆により達成できた。	具体的な助言・指導により達成できた。	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった。	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった。
技能	３．利用児(者)の特性やニーズに応じた支援やかかわり	見守りや示唆により十分に達成できた。	見守りや示唆により達成できた。	具体的な助言・指導により達成できた。	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった。	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった。
技能	４．生活環境整備や安全への配慮	見守りや示唆により十分に達成できた。	見守りや示唆により達成できた。	具体的な助言・指導により達成できた。	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった。	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった。
技能	５．利用児(者)との人間関係形成	見守りや示唆により十分に達成できた。	見守りや示唆により達成できた。	具体的な助言・指導により達成できた。	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった。	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった。
技能	６．職員との関係形成	見守りや示唆により十分に達成できた。	見守りや示唆により達成できた。	具体的な助言・指導により達成できた。	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった。	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった。
技能	７．職員の役割や連携の理解	見守りや示唆により十分に達成できた。	見守りや示唆により達成できた。	具体的な助言・指導により達成できた。	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった。	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった。
態度	１．客観的な観察に基づく実習記録と省察	見守りや示唆により十分に達成できた。	見守りや示唆により達成できた。	具体的な助言・指導により達成できた。	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった。	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった。
態度	２．具体的な課題設定と実践	見守りや示唆により十分に達成できた。	見守りや示唆により達成できた。	具体的な助言・指導により達成できた。	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった。	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった。
態度	３．実習生としてのマナーやモラル	見守りや示唆により十分に達成できた。	見守りや示唆により達成できた。	具体的な助言・指導により達成できた。	具体的に助言・指導してもあまり達成できなかった。	具体的に助言・指導しても全く達成できなかった。

科目名	保育実習Ⅲ			授業番号	CQ423	サブタイトル			
教員	中田　周作								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	福祉施設での実習指導を受けることにより，その種別による目的や機能を認識し，その全体系を明らかにする。そして，専門職としての保育士の職務意識を高め，全般的な技術に習熟するための実習を行う。								
到達目標	本実習の目的は，次の4つである。(1)個々の利用児・者に対する援助計画・日常的支援・専門的支援を理解できるようになる。(2)日常的支援の重点を理解し，指導者の助言をもとに援助計画を立案できるようになる。(3)担当者の指導のもとに利用児・者の援助実践を行い，養護技術の具体を知り，自ら実践できるようになる。(4)個々の利用児・者の異なるニーズに対応するサポートシステムを知り，自ら実践できるようになる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	基本的な実習を終えた後，次の段階の処遇活動への参加として計画的援助活動の実施，関わる処遇部門の拡大などもう一段上の実習課題をもつこと。								
授業計画 自由記載	1）援助計画の理解 ・利用児・者の発達段階や年齢に対して配慮する。 ・個々の利用児・者のもつ問題に対応する援助計画，日常的支援，専門的支援を理解する。 2）援助プログラムの立案 ・日常的支援の時間配分や生活，教育，訓練，治療，矯正などの重点のおき方から援助プログラムへの生かし方を理解する。 ・施設の援助計画と実習指導担当者の方針を理解し，その助言を受けて立案する。 3）援助プログラムによる援助実践 ・利用児・者の心身の状況によって臨機応変に対応する。 ・実習指導担当者の助言，実習場面の立ち会い，事後の評価等を受ける。 4）保育士の態度と技術の習得 ・受容と共感という人間的触れ合いの中で信頼関係を体得する。 ・必要な援助を機能的に行っている保育士の態度や技能を学ぶ。 ・援助計画の中にどのように利用児・者の参加を進めようとしているかを学ぶ。 5）多様性と共通性の理解 ・個々の異なるニーズに対応するサービスあるいはサポートシステムを具体的に学習する。 ・種別ごとの特徴と共通する課題が存在することを，施設で実践することで学習する。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	20	実習で学んだことについて具体的に記載されていること，また，学びが日々ステップアップしていることについて評価する。実習日誌については，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他	80	実習先施設から返却された評価票に基づいて，評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「保育実習研究II」で学んだ事を復習しておくこと。学ぼうとする姿勢で臨み，利用児・者と積極的に関わること。また，分からないことは，速やかに，かつ謙虚な態度で施設職員に直接質問すること。
授業外学修	・毎日，実習終了後は日誌を丁寧に記入すること。下書きはレポート用紙(別紙)に記載し，その都度見直したり，実践の振り返りに役立てること。また，新たに分からないことを発見した場合には，施設職員にわかりやすいように日誌に記載しておくこと。(約4時間)

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	・必要に応じて紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	

実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	1．保育計画及び指導計画	保育施設の全体的な計画を十分把握したうえで，担当する子どもの実態を的確にとらえた指導計画を作成し，子どもの意欲的な活動を支える実践を展開することができている。また実施後は十分な省察ができ，改善点を主体的に次へ生かそうとする。	保育施設の全体的な計画を把握したうえで，担当する子どもの実態を捉えた指導計画を作成し，子どもの意欲的な活動を支える実践を展開することができている。また実施後は省察を行い，改善点を次に生かそうとする。	保育施設の全体的な計画をおおむね把握し，担当する子どもの実態を捉えようとした指導計画を作成しているが十分ではない。子どもが楽しめる活動を展開することができている。また実施後は省察を行い，指摘された改善点を次に生かそうとする。	保育施設の全体的な計画をあまり把握できておらず，担当する子どもの実態を捉えきれていない指導計画を作成していたり，作成できないこともある。実践後は省察を行い，指摘された改善点を次に生かそうとする。	保育施設の全体的な計画を全然把握できておらず，担当する子どもの実態を捉えきれていない指導計画を作成していたり，作成できないこともある。実践後の省察も十分ではなく，指摘された改善点を理解することも難しい。
技能	2．発達に応じた援助	発達段階や個人差を十分に理解し，担当する子どもの実態に応じた援助を工夫し，実践できる。	発達段階や個人差を理解し，担当する子どもの実態に応じた援助を工夫し，実践できる。	発達段階や個人差を理解し，担当する子どもの実態に応じた援助を工夫し，実践しようとしている。	発達段階や個人差に対する理解が十分ではないものの，担当する子どもの実態に応じた援助を工夫しようとしている。	発達段階や個人差に対する理解が十分ではなく，子どもの実態に応じて援助を工夫しない。
態度	1．実習の参加状況	実習指導者と意欲的にコミュニケーションを取り，実習日誌に学修したことを丁寧にまとめ，日々の実践や指導計画の作成に十分に生かすことができている。	実習指導者と意欲的にコミュニケーションを取り，実習日誌に学修したことを丁寧にまとめ，日々の実践や指導計画の作成に生かすことができている。	実習指導者とコミュニケーションを取り，実習日誌に学修したことをまとめ，日々の実践や指導計画の作成に生かそうとしている。	実習指導者とあまりコミュニケーションを取ることができておらず，実習日誌に十分な省察がみられないものの，経験したことを日々の実践や指導計画の作成に生かそうとしている。	実習指導者と十分なコミュニケーションを取ることができておらず，実習日誌に十分な省察がみられない。

科目名	学童保育実習Ⅰ			授業番号	CQ431	サブタイトル			
教員	中田　周作、伊藤　智里								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，学童保育所で90時間の実習を実施する。 実習期間は8月中旬から9月中旬である。								
到達目標	学童保育所は，実際には，どのような保育をしているのか，実習を通して経験する。 また，放課後の子どもたちと接することによって，子どもたちの実態を理解する。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	1．実習先 実習研究の時間に配付する学童保育所の一覧より，実習先を配当する。 2．実習期間 おおよそ，次の2つの時期に分けて実施する。 (1)平日の午後に10日間 (2)長期休暇および土曜日に6日間								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	80	実習に関する書類や実習ノート
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	20	実習先の評価

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として次の2つの条件を満たしている者のみ履修できる。 (1) 学童保育論と学童保育方法論の両方を履修済である者。 (2) 学童保育実習研究を同時に履修している者。
授業外学修	運営指針解説書は実習時に携行すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	1.実習日誌、指導案、部分指導について	毎日の実習の様子を実習日誌にまとめることができる。運営指針に基づいた、指導案を作成し、十分に準備した部分指導ができる。指導や助言に基づいて、実習日誌、指導案の改善ができる。	毎日の実習の様子を実習日誌にまとめることができる。運営指針に基づいた、指導案を作成し、十分に準備した部分指導ができる。	実習日誌、指導案、部分指導が、一通りできている。	実習日誌、指導案、部分指導が、十分に書けていない。	実習日誌、指導案、部分指導が書けていない。
技能	2.育成支援について	運営指針第3章1.育成支援の内容①から⑧のうちの全ての事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1.育成支援の内容①から⑧のうちの7つの事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1.育成支援の内容①から⑧のうちの6つの事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1.育成支援の内容①から⑧のうちの4つの事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1.育成支援の内容①から⑧のうちの全ての事項が、実習生に求められているレベルで実践できていない。
態度	1.実習生に求められる一般的な資質・能力	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨み、反省や助言に基づいて実践を改善することができる。	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨むことができる。	実習期間の後半には、実習生として、ふさわしい態度で実習に臨むことができる。	実習生として、子どもと積極的にかかわることができない。	子どもと関わることができていない。

科目名	学童保育実習Ⅱ			授業番号	CQ432	サブタイトル			
教員	中田　周作								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，学童保育所で90時間の実習を実施する。 実習期間は8月中旬から9月中旬である。								
到達目標	学童保育所は，実際には，どのような保育をしているのか，実習を通して経験する。 また，放課後の子どもたちと接することによって，子どもたちの実態を理解する。 なお，本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	1．実習先 実習研究の時間に配付する学童保育所の一覧より，実習先を配当する。 2．実習期間 おおよそ，次の2つの時期に分けて実施する。 (1)平日の午後に10日間 (2)長期休暇および土曜日に6日間 3.振り替え 放課後児童指導員資格を取得するためには，本実習の履修が必要であるが，その他の実習（ただし2単位以上）の単位で振り替えることができる。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	80	実習に関する書類や実習ノート
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	20	実習先の評価

評価の方法：自由記載	
受講の心得	原則として次の2つの条件を満たしている者のみ履修できる。 (1) 学童保育論と学童保育方法論の両方を履修済である者。 (2) 学童保育実習研究を同時に履修している者。
授業外学修	運営指針解説書は実習時に携行すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	1.実習日誌、指導案、部分指導について	毎日の実習の様子を実習日誌にまとめることができる。運営指針に基づいた、指導案を作成し、十分に準備した部分指導ができる。指導や助言に基づいて、実習日誌、指導案の改善ができる。	毎日の実習の様子を実習日誌にまとめることができる。運営指針に基づいた、指導案を作成し、十分に準備した部分指導ができる。	実習日誌、指導案、部分指導が、一通りできている。	実習日誌、指導案、部分指導が、十分に書けていない。	実習日誌、指導案、部分指導が書けていない。
技能	2.育成支援について	運営指針第3章1.育成支援の内容①から⑧のうちの全ての事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1.育成支援の内容①から⑧のうちの7つの事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1.育成支援の内容①から⑧のうちの6つの事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1.育成支援の内容①から⑧のうちの4つの事項が、実習生に求められているレベルで実践できている。	運営指針第3章1.育成支援の内容①から⑧のうちの全ての事項が、実習生に求められているレベルで実践できていない。
態度	1.実習生に求められる一般的な資質・能力	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨み、反省や助言に基づいて実践を改善することができる。	実習生として、ふさわしい態度で実習に臨むことができる。	実習期間の後半には、実習生として、ふさわしい態度で実習に臨むことができる。	実習生として、子どもと積極的にかかわることができない。	子どもと関わることができていない。

中国学園大学　国際教養学部　国際教養学科　シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
心理学	國田 祥子	1
自然科学概論	清水 憲志	3
体育講義（全8回）	溝田 知茂	5
体育実技	梶谷 信之	7
日本国憲法	俟野 英二	9
倫理学	井之川 仁	11
比較文化論	佐々木 真帆美	13
社会学	中田 周作	15
中国語	杉山 明	17
韓国語	宋 娘沃	19
岡山学	加賀 勝	21
実践英語Ⅰ	片山 純子	23
実践英語Ⅱ	藤田 香織	26
数理･データサイエンス･AI	平井 安久	28
ファーストイヤーセミナーⅠ	佐々木 公之／佐々木 真帆美／赫連 茹玉／片山 純子／藤田 香織／稲垣 祐輔／小西 達也	30
ファーストイヤーセミナーⅡ	佐々木 公之／佐々木 真帆美／赫連 茹玉／片山 純子／藤田 香織／稲垣 祐輔／小西 達也	32
経営学入門	宋 娘沃	34
会計学	五百竹 宏明	36
簿記入門	五百竹 宏明	38
観光総論	田村 秀昭	40
観光実務	田村 秀昭	42
日本の伝統文化	土師 範子	45
日本の食文化	小築 康弘	47
国際関係論	赫連 茹玉	49
総合英語	藤代 昇丈	51
社会調査の基礎	稲垣 祐輔	53
観光英語A	佐々木 真帆美	55
ビジネス・イングリッシュ	片山 純子	57
ビジネス・ディスカッション技法	稲垣 祐輔	59
日米関係	藤田 香織	61
現代環境論	小築 康弘	63
日本語教育概論	小西 達也	65
日本語教授法	小西 達也	67
経営学特論	稲垣 祐輔	69
プレゼンテーション技法	片山 純子	71
英語資格演習Ⅱ	藤田 香織	73
日本語学概論	小西 達也	75
日本語教育実践研究	小西 達也	77
日本語教育特論	小西 達也	79
企業倫理論	稲垣 祐輔	81
経営学特論Ⅱ	稲垣 祐輔	83
実践英語Ⅲ	片山 純子	85
実践英語Ⅳ	片山 純子	87
情報処理Ⅰ	赤木 竜也	89
情報処理Ⅰ【外国人留学生初級クラス対象】	赤木 竜也	91
情報処理Ⅱ	赤木 竜也	93
情報処理Ⅱ【外国人留学生初級クラス対象】	赤木 竜也	95
経営戦略論	稲垣 祐輔	97
マーケティング論	宋 娘沃	99
データサイエンス	平井 安久	101
レジャー･リゾート論	田村 秀昭	103
地域経済学	佐々木 公之	106
現代ビジネス論	佐々木 公之	108
ブランド戦略論	宋 娘沃	110
観光経営論	田村 秀昭	112
リーダーシップ論	稲垣 祐輔	114
歌で学ぶ英語	藤代 昇丈	116
映画で学ぶ英語	佐々木 真帆美	118
ライティング	藤田 香織	120
時事英語	藤代 昇丈	122
英語ディスカッション	片山 純子	124
観光英語B	佐々木 真帆美	126
英語プレゼンテーション	藤代 昇丈	128
プロフェッショナル･イングリッシュ	佐々木 真帆美	130
観光産業論	田村 秀昭	132
日･アセアン関係	冨田 暁	134
国際経営論	佐々木 公之	136
食生活論	藤原 三保子	138
アジア食品論	小築 康弘	140
農業政策と環境･資源保全	山根 康史	142
フードマーケティング論	佐々木 公之	144
フードコーディネート論	山﨑 真未	146
専門ゼミⅠ	佐々木 公之／藤代 昇丈／佐々木 真帆美／宋 娘沃／赫連 茹玉／片山 純子／藤田 香織／稲垣 祐輔／小西 達也／杉山 明	148
専門ゼミⅡ	佐々木 公之／藤代 昇丈／佐々木 真帆美／宋 娘沃／赫連 茹玉／片山 純子／藤田 香織／稲垣 祐輔／小西 達也／杉山 明	150
専門ゼミⅢ	佐々木 公之／藤代 昇丈／佐々木 真帆美／宋 娘沃／片山 純子／藤田 香織／稲垣 祐輔／小西 達也	152
専門ゼミⅣ	佐々木 公之／藤代 昇丈／佐々木 真帆美／宋 娘沃／片山 純子／藤田 香織／稲垣 祐輔／小西 達也	154
専門ゼミⅤ	佐々木 公之／藤代 昇丈／佐々木 真帆美／宋 娘沃／片山 純子／藤田 香織／稲垣 祐輔／小西 達也	156
専門ゼミⅥ	佐々木 公之／藤代 昇丈／佐々木 真帆美／宋 娘沃／片山 純子／藤田 香織／稲垣 祐輔／小西 達也	158
卒業研究	佐々木 公之／藤代 昇丈／佐々木 真帆美／宋 娘沃／片山 純子／藤田 香織／稲垣 祐輔／小西 達也	160

キャリア研究論（リーダー講義）	佐々木　公之	・・・・・・・・	162
キャリア・デザイン	佐々木　公之	・・・・・・・・	164
ビジネスプランコンテスト	佐々木　公之	・・・・・・・・	166
インターンシップ（短期）	佐々木　公之	・・・・・・・・	168
インターンシップ（中長期）	佐々木　公之	・・・・・・・・	170
夏季語学留学	佐々木　真帆美	・・・・・・・・	172
春季語学留学	佐々木　真帆美	・・・・・・・・	174
セメスター留学	佐々木　真帆美	・・・・・・・・	176
日本事情（外国人留学生対象科目）	小西　達也／杉山　明	・・・・・・・・	178
アカデミック・ジャパニーズⅠ（外国人留学生対象科目）	赫連　茹玉／小西　達也	・・・・・・・・	181
アカデミック・ジャパニーズⅡ（外国人留学生対象科目）	小西　達也／杉山　明	・・・・・・・・	184

科目名	心理学			授業番号	LA101	サブタイトル	（心と行動の科学）		
教員	國田　祥子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，心理学全般の基本的な知識，心理学理論による人間理解とその技法の基礎について解説する。								
到達目標	クリティカルシンキングやクリエイティブシンキングなどの心理学的思考法を身につけることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	心理学とは 「不思議」とされる現象を題材に，人の心のしくみについて長年研究を積み重ねてきた心理学の概要を紹介する。	
第2回	予知体験の不思議 「予知」「予言」と呼ばれる現象はなぜ起こるのか，推論のプロセスから解説する。	
第3回	記憶の不思議 「存在しない記憶」を確信を持って思い出してしまうのはなぜ？　不思議な記憶のメカニズムについて解説する。	
第4回	影響されるこころ 意見や態度は変容するものである。しかし「影響されやすい」状況やその特徴を知っておくことは重要かもしれない。	
第5回	揺れうごくこころ 感情が私たちの生活の中でどのような働きをするのか，悪徳商法や，心身に良いとされるものを例に考える。	
第6回	検査で「自分」がわかるのか ネットや雑誌などで目にする「心理テスト」はあてになる？　本物の「心理検査」「パーソナリティ測定」とは。	
第7回	占い・新宗教がもつ現代的意味 占いなどのスピリチュアルな世界に魅力を感じる人は多い。その心理を，背景にある悩みや迷いから紐解いていく。	
第8回	中間のまとめ 第1回～第7回の内容を振り返り，理解を確認する。	
第9回	子どもから見た現実と想像の世界 さっきまで鬼を怖がって逃げていた子が，今度は鬼の面を付けて「鬼さん」に変身！　子どもたちが世界をどう捉えているのか考える。	
第10回	「もしかして……」と揺れ動く心の発達 「本当はいない」と分かっていても「いるかもしれない」と思うオバケへの恐怖。想像と現実を行き来する子どもの心を考える。	
第11回	不思議現象に立ち向かう子どもたち 子どもたちは想像の世界に積極的に立ち向かうことで，現実を探求するように。「科学する心」の始まりを解説する。	
第12回	脳とこころの不思議な世界 「金縛り」や「幻覚」はなぜ起こるのか。脳神経系の生理的変化から説明できる心の活動について解説する。	
第13回	科学的に検証するとはどういうことか 目に見えない「心」の存在やその活動を科学的に捉えるには，厳密な実験計画と統計的検定が重要。	
第14回	心理学を学ぶ人のために 分かりやすくもないし簡単でもない，意外と地味な心理学だからこそ学べる「面白さ」。	
第15回	期末のまとめ 第9回～第14回の内容を振り返り，理解を確認する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。
授業外学修	毎回の授業の内容を4時間以上復習しておくこと。復習の成果を第8回および第15回で確認し，不十分な点について再度4時間以上の復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
不思議現象　なぜ信じるのかこころの科学入門	菊地　聡・谷口高士・宮元博章（編著）	北大路書房	978-4-7628-2032-8	1900円
不思議現象　子どもの心と教育	菊地　聡・木下孝司（編著）	北大路書房	978-4-7628-2089-2	1900円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．講義内容を多面的かつ十分に理解し，自らの知識として獲得できる	呈示された知識を十分に獲得している	呈示された知識をほぼ獲得し，多少の不十分があっても獲得する努力をしている	知識の獲得は十分とは思われないものの，努力は明らかである	講義内容を十分に理解できているとは思われず，知識獲得への努力も不十分である	講義そのものを理解できておらず，知識を獲得できていない
思考・問題解決能力	２．講義内容を活かして，実際に批判的思考や課題解決に活かすことができる	批判的思考や課題解決を十分に行えている	多少の不十分があるものの批判的思考や課題解決を行う努力をしている	批判的思考や課題解決が十分とは思われないものの，努力は明らかである	批判的思考や課題解決が十分行われておらず，努力も不十分である	講義内容を批判的思考や課題解決に活かせていない

科目名	自然科学概論			授業番号	LA102	サブタイトル	体験型授業で自然の魅力を実感しよう		
教員	清水　憲志								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	私たちの日常の関わりの中から，自然を概観する授業を行う。ネイチャーゲームを中心としながら、自然の意義、価値を捉えなおす。その気づきを言語化・可視化する中で日本ならではの季節に起因する自然の豊かさを知る。								
到達目標	私たちの身のまわり，日常の中にある自然に対する向き合い方や捉え方等を再考することを目指す。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	自然案内人とはネイチャーゲームを体験してみよう。	
第2回	身近な自然を見つけよう大学内を散策して、色々な不思議に気づこう。	
第3回	泥団子を作ってみよう泥団子を作って楽しもう。	
第4回	泥団子を極めよう泥団子の理論を理解して，実践してみよう。	
第5回	視覚を塞いで気づく世界とは視覚を使わずに過ごすことで、感じられるものを体験してみよう。	
第6回	自然物を使って遊ぶことで、細やかな気づきを意識しよう落ち葉や石を使いながら、それぞれの良さに気づこう。	
第7回	自然を色々な形で味わい表現してみよう自然の音を感じたり、その日ならではの景色を描いたりして身近な場所から再発見しよう。	
第8回	自然環境と子どもの育ち自然について理解し，子どもの育ちに与える影響を理解する。	
第9回	自分と似ている自然とは？自分を自然に例えることで、自然を身近に捉えよう。	
第10回	自然から感じたことを言語化しよう自然から感じたことをありのままに表現すると共に他者の言葉を受けいれて感性を広げる。	
第11回	自然物の特徴に気づこう触感や視覚を頼りに色々な特徴に気づこう。	
第12回	オリジナルノーズを描こう自分だけのノーズを使って、自然への知識を深めよう。	
第13回	色水遊びをしてみよう多様な色が持つ不思議を再現してみよう。	
第14回	自然の中での擬態するものとは見えるようで、見えない視点を意識的に使ってみよう。	
第15回	自然を感じて遊ぶとはいかなることか。授業全体の振り返りと社会的事象を踏まえながら自然との共生を考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，実習・討議等への参加度等によって評価する。
コメントペーパー	30	授業毎に振り返りペーパーの内容について評価する。返却時に振り返りを行う。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・この授業は，自然を対象にしているため，天候等によって適宜内容を変更することがある。 ・内容に継続性や関連性があるため，授業を欠席しない，遅刻しないようにすること。 ・日頃の生活の中で，四季を意識して五感で感じて楽しむようにすること。 ・地域の自然に興味を持ち，色合いや生長を楽しむこと。
授業外学修	1．予習として，授業時間に配付した資料や授業の中で提示した課題等について適宜調べ学修等を行い，考えてくること。 2．復習として，授業時間に配付した資料や授業メモ(記録)等を用いてふりかえり，適宜調べ学修や実践等を行い， 学びを深めていく(探究する)こと。 以上の学修を，授業1回あたり4時間以上行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜レジュメを配布する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	ネイチャーゲームリーダーハンドブック理論編　日本シェアリングネイチャー協会発刊
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	ネイチャーゲームリーダー（3年），ネイチャーゲームインストラクター（2年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．身のまわり，日常の中にある自然の向き合い方や捉え方について理解している。	身のまわり，日常の中にある自然の向き合い方や捉え方について十分に理解している。	身のまわり，日常の中にある自然の向き合い方や捉え方について概ね理解している。	身のまわり，日常の中にある自然の向き合い方や捉え方について普通に理解している。	身のまわり，日常の中にある自然の向き合い方や捉え方について理解がやや不十分である。	身のまわり，日常の中にある自然の向き合い方や捉え方について理解できていない。

科目名	体育講義 (全8回)			授業番号	LA109	サブタイトル			
教員	溝田 知茂								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	現代社会においては，技術革新に伴う機械化・情報化等が進み，日常生活における身体活動が減少するとともに，食生活のバランスの崩れも伴って，運動不足と生活習慣の乱れが深刻な問題となっている。こうした状況によって，我々の身体は危機的な状況にさえ陥っている場合もある。本講義では，からだと心の仕組みについて，身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身に付ける。								
到達目標	人間のからだと心の仕組みについて，日常生活で何気なく実践している事柄の意味について知ることを目的とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	「体力」について考える 「体力」がどのような要素で構成されているかを考え理解する。	
第2回	「自律神経」の働きについて考える 人間のからだの自動調節機能である自律神経の仕組みや働きについて考え理解する。	
第3回	「ホルモン」の働きについて考える 眠りのホルモンと呼ばれる「メラトニン」について，分泌の仕組みや働きについて考え理解する。	
第4回	「睡眠障害」について考える 睡眠障害の種類を知ること，そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。	
第5回	「高血圧」について考える 高血圧の仕組みを知ること，そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。	
第6回	「目の病気」について考える。 目の病気の種類を知ること，そしてその原因と対策について理解し日常生活に取り入れる。	
第7回	「健康診断」で分かることについて考える 普段学校で実施する健康診断で分かること，健康診断で分からないことについて考える。	
第8回	「背筋力」の働きについて考える 二足歩行する上で重要な働きをしている背筋力について測定しながら，生活に必要な背筋力を知る。	
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予習・復習の状況によって評価する。フィードバックは，その時その場で行う。
レポート		
小テスト		
定期試験	60	各回の主要なポイントの理解度を評価する。テストは，採点をして返却する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・スポーツに関わる知識と理解を深め，スポーツ・運動への志向性を高めることを目指しているので，自らの生活と関連付けながら受講すること。
授業外学修	・「スポーツ」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し，興味関心を高める。 ・各回の授業内容に合わせた情報を収集したり，書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．体育講義の基本的考え方が理解できている。	体育講義の内容が理解できている。	体育講義の内容がほぼ理解できている。	体育講義の基本的な内容が理解できている。	体育講義の基本的な内容の理解が十分ではない。	相談援助の基本的考な内容が理解できていない。
思考・問題解決能力	１．事例に基づいて、道具や簡単な方法でセルフチェックできる。	事例に基づいて，道具や簡単な方法でセルフチェックできる。	事例に基づいて、道具や簡単な方法でほぼセルフチェックできる。	事例に基づいて、簡単にセルフチェックできる。	簡単なセルフチェックの方法についての理解が十分ではない。	簡単なセルフチェックの方法を理解できていない。

科目名	体育実技			授業番号	LA110	サブタイトル	（スポーツに親しもう）		
教員	梶谷　信之								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実技（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	各チームの課題を基にメンバーで協力しながら，各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。								
到達目標	健康的な生活を送るために，運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに，集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	卓球I（シングルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） シングルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にシングルス・ゲームを行います。 1対1で対戦し，リーグ戦方式でゲームを行います。	
第2回	卓球II（シングルスの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） シングルスの基本技術を反復しつつ，シングルス・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第3回	卓球III（ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルスの成績でペアを組み，2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。	
第4回	卓球Ⅳ（ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） ダブルスの基本技術を反復しつつ，ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第5回	バドミントンI（シングルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） シングルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にシングルス・ゲームを行います。 1対1で対戦し，リーグ戦方式でゲームを行います。	
第6回	バドミントンII（シングルスの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） シングルスの基本技術を反復しつつ，シングルス・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第7回	バドミントンIII（ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルスの成績でペアを組み，2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。	
第8回	バドミントンⅣ（ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） ダブルスの基本技術を反復しつつ，ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第9回	ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解およびゲームの導入） 基本的なルールの確認と基本技術の練習を行います。 練習後にグループを作ってゲームを行います。	
第10回	ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第11回	ソフトバレーボールIII（ゲームの展開） 基本技術を反復しつつ，各チームで戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第12回	室内ミニテニスI（シングルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） シングルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に、実際にシングルス・ゲームを行います。 1対1で対戦し，リーグ戦方式でゲームを行います。	
第13回	室内ミニテニスII（シングルスの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） シングルスの基本技術を反復しつつ，シングルス・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第14回	室内ミニテニスIII（ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルスの成績でペアを組み，2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。	
第15回	室内ミニテニスⅣ（ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） ダブルスの基本技術を反復しつつ，ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
授業計画　備考2	受講人数により，他のスポーツ種目に変更することがある。 （バレーボール，バスケットボール，グラウンドゴルフ，など）	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している。 フィードバックは，その時その場で行う。体操服や体育館シューズを忘れた人は見学となり，減点される。授業中に携帯電話を見ていると減点される。
レポート		
小テスト	30	各競技ごとに実施した試合成績を参考にする。フィードバックは，その時その場で行う。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	

受講の心得	運動着を着用し，体育館シューズを使用する。 全員協力の上，準備・片付けをする。 携帯電話は見ない。（すぐに手の届く所へ置かない）
授業外学修	・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。 ・各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、基本的なルールを理解できている。	健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、ルールを細かく理解できている。	健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、ほぼ基本的なルールを理解できている。	運動の大切さを理解し、基本的なルールを理解できている。	運動の大切さを理解しているが、基本的なルールの理解が十分ではない。	運動の大切さや、ルールを理解できていない。
技能	１．運動技能が優れている。	運動技能が優れている。	基本的な運動技能が優れている。	基本的な運動技能が身についている。	基本的な運動技能が十分ではない。	基本的な運動技能が身についていない。

科目名	日本国憲法			授業番号	LA201	サブタイトル	（身近な問題から「憲法のちから」を考える）		
教員	俟野　英二								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本科目では、日本国憲法および他国の憲法の沿革、様々な人々の人権について講義する。また、憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し、それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。 具体的にはまず、身近な憲法問題を取り上げて関係する憲法の基本原理及び基礎知識を教員の教育委員会(24年）及び県庁における人権啓発・相談経験（4年）を踏まえて概説する。次に、基本原理等に関する憲法問題について、グループワークを行い各自でワークシートにまとめさせる。そして、各章の小テストを課題としてUniversal Passport上で行い、基礎的な知識の定着を図る。さらに、憲法の基本原理、統治機構、人権に関する発展的な問題を全体で討議し、現代的な問題を分析、考察する。 これらの活動により、問題の全体像の把握と、多面的な分析及び多様な価値観や背景の認識を踏まえた上で、自らの見解の形成や表現の仕方を身に付ける。								
到達目標	憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し，それらを活用して身近な憲法問題を主体的に考えることができるようになることを目標とする。 なお，本科目は，到達目標達成の前提として異なる価値観，文化，背景および相互関係を知り，深い認識と理解の修得を伴うことから，職業人としての高い倫理観と豊かな人間性と社会性の修得とともに，身近な社会問題を憲法の視点から解決に向けた体系的な思考方法を学び，多面的に分析し，自らの見解を形成し、討論により解決に向けた調整を行う能力の修得を目的とするので，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス、この国の基礎にある考え方１ １　学修の目標、評価方法などを説明する。 ２　近代立憲主義について学修する。	
第2回	この国の基礎にある考え方２ １　法の支配について学修する。 ２　士俵の女人規制について考える。 ３　国家機関としての天皇制（明治憲法と天皇）について学修する。	
第3回	この国の基礎にある考え方３ 国家機関としての天皇制（日本国憲法と天皇）について学修する。	
第4回	この国の基礎にある考え方４ 憲法が目指す平和を守る仕組み１（憲法９条の制定と安保条約の締結）について学修する。	
第5回	この国の基礎にある考え方５ 憲法が目指す平和を守る仕組み２（台湾有事と存立危機事態）について学修する。	
第6回	人権を守るための組織１ １　統治機構１（政治と国民、国会議員）について学修する。 ２　若者の投票率の向上策について考える。	
第7回	人権を守るための組織２ 統治機構２（選挙、選挙制度、政党）について学修する。	
第8回	人権を守るための組織３ 統治機構３（国会）について学修する。	
第9回	人権を守るための組織４ 統治機構４（内閣）について学修する。	
第10回	人権を守るための組織５ 統治機構５（地方自治、裁判所）について学修する。	
第11回	身近な問題から考える人権１ 良心をもつ自由、貫く権利について学修する。	
第12回	身近な問題から考える人権２ １　表現の自由と書かれない権利について学修する。 ２　プライバシーについて考える。	
第13回	身近な問題から考える人権３ 営業の自由と消費者の権利について学修する。	
第14回	学校における生徒の人権 １　子どもの教育を受ける権利と教師の教育の自由について学修する。 ２　学校内における生徒の人権について学修する。 ３　旭川いじめ凍死事件からいじめを考える。	
第15回	困らないための権利、差別されている人たちへの配慮 １　憲法25条の歴史的社会的意味及び社会保障制度について学修する。 ２　積極的な格差解消の取り組みの合憲性の判断の仕方について学修する。。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
グループワークの取り組み姿勢/態度	30	講義中のグループワーク時に各自が提出したワークシートに要求された内容が整理されていること。ワークシートを通じて必要に応じ個別指導を行うとともに、講義中に全体講評を行う。
小テスト	30	学修に対する意欲・態度、基本原理及び基礎知識の理解を評価する。 回答期限後,Universal Passportに解説を表示する。
定期試験	40	基本原理及び基礎知識を理解し、身近な憲法問題に対して異なる価値観・意見に配慮しながら主体的かつ論理的にこれらを活用して結論を導くことができている。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	１　公民や現代社会が苦手な学生は、あらかじめ高校で使用したテキストや資料集などの日本国憲法に関する部分を読んでおくこと。 ２　事前に授業の範囲のテキストを読み、分からない用語を調べておくこと。 ３　各講義中にワークシートを提出する。それが出席カードも兼ねるとともに成績評価の対象なので必ず提出すること。 ４　各章に対応する小テスト（Universal Passportの課題）を受験すること。
授業外学修	１　事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。 ２　事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、Universal Passportで小テストを受験する。また，小テスト受験後，誤ったり理解が不十分であった箇所について復習する。 ３　ワークシートが返却された後、グループワーク、講義、テキスト、小テスト等を踏まえて再度整理し直し、理解を深めるとともに試験に備える。 事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
憲法のちから―身近な問題から憲法の役割を考える	中富公一	法律文化社	978-4-589-04343-6	2400円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
グラフィック憲法入門第3版	毛利透	新世社	978-4-88384-397-8	
新・判例ハンドブック【憲法】第3版	高橋和之	日本評論社	978-4-535-52793-5	

参考書：自由記載	授業において随時紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	県教育委員会（24年），県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	県教育委員会（24年），県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験から、いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．憲法や法令を使って論理的に問題を考えることができる。	課題に対し，論理的整合性をもち，多角的に考察をしている。	課題に対し，ほぼ論理的整合性をもった考察をしている。	課題に対し，自分の考えを述べることができる。	課題に対し，結論を述べることができる。	課題に対し、結論を述べることができない，または指示事項に沿っていない。
思考・問題解決能力	２．多様な価値観・意見に配慮した思考ができる。	課題に対し，多様な価値観・意見に配慮した考察が論理的整合性をもっている。	課題に対し，多様な価値観・意見に配慮した思考がほぼ論理的整合性をもっている。	課題に対し，多様な価値観・意見の存在を並列的に述べることができる。	課題に対し，不十分ながら複数の価値観・意見の存在を述べることができる。	課題に対し，複数の価値観・意見を述べることができない，または指示事項に沿っていない。
態度	１．グループワークに積極的に参加できる。	調査，質問などを積極的に行い，課題内容を理解した上で，適切なワークシートを提出している。	課題に積極的に臨む姿勢が見受けられ，課題内容を理解した上で，適切なワークシートを提出している。	グループワークに参加し，課題内容を理解した上で，ワークシートを提出している。	グループワークに参加し，ワークシートを提出しているが，課題の理解が不十分である。	グループワークに参加していない。または，グループワークに参加しているがワークシートを提出していない。

科目名	倫理学			授業番号	LA202	サブタイトル	答えのない問いを考える		
教員	井之川 仁								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	倫理学は「何が正しく、どう生きるべきか」を考察する規範的学問である。本講義では、古今東西の倫理思想を学びながら、現代社会における具体的な倫理的課題（AI、生命倫理、環境倫理、研究倫理など）にもアプローチする。講義で理論や事例を学び、分のワークショップでは少人数グループでの討論・振り返りを行い、自分の言葉で倫理的判断ができる力を育成する。多様なメディアを用いた授業を行う。方法はオンデマンドで行う。毎回の授業の内30分程度をオンデマンドとする予定である。予定は変更されることがあるのでかならずクラスルームで確認すること。								
到達目標	学生は、主要な倫理理論（義務論、功利主義、徳倫理など）を理解し、現代的な倫理課題に応用する力を身につける。他者の価値観と自分の判断を比較・統合しながら、多面的に問題を考察し、自分の倫理的立場を言語化できるようになる。※本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	倫理学とは何かを理解する。道徳・法・倫理の違いや、倫理学の基本的な分類（規範倫理、メタ倫理、応用倫理）を学ぶ。現代における倫理的問題の重要性にも触れる。	
第2回	倫理思想の歴史的展開を理解する。古代ギリシア（ソクラテス、アリストテレス）、近代（カント、功利主義）、東洋（儒教、仏教、武士道）までの流れを学ぶ。	
第3回	カントの義務論を理解する。定言命法、道徳法則、動機と義務という観点から「普遍的に正しい行為」について考察する。	
第4回	功利主義を学ぶ。ベンサムとミルの理論をもとに、行為の結果に基づく善悪の判断基準や、「最大多数の最大幸福」という原理を理解する。	
第5回	徳倫理を学ぶ。アリストテレスの「中庸」や「習慣としての徳」の考え方を通じて、人格的成長と倫理的行動の関係を理解する。	
第6回	正義の理論を学ぶ。ロールズの「無知のヴェール」や分配的正義・手続き的正義といった考え方を通じて、公正な社会のあり方を理解する。	
第7回	ケアの倫理を学ぶ。ギリガンやノディングスの主張をもとに、関係性や感情を重視した倫理観と、正義論との違いを理解する。	
第8回	東洋倫理思想を学ぶ。儒教・仏教・武士道を中心に、日本の伝統的な道徳観や倫理的価値（仁、礼、忠、誠など）を理解する。	
第9回	生命倫理を学ぶ。中絶、尊厳死、臓器移植などを題材に、「命の価値」「自己決定」「医療の限界」といった問題の倫理的側面を理解する。	
第10回	環境倫理を学ぶ。人間中心主義、自然の権利、世代間正義などの考え方を通じて、持続可能な社会と環境保全の倫理的根拠を理解する。	
第11回	情報社会とAIの倫理を学ぶ。プライバシー、監視、SNS、AIによる判断の問題点と責任の所在を理解する。	
第12回	職業倫理・研究倫理を理解する。専門職としての責任や、研究活動における不正（捏造・改ざん・盗用）と倫理審査の必要性を学ぶ。	
第13回	多様性と包摂の倫理を学ぶ。公平性、平等、差別、合理的配慮などの概念を通じて、多様な他者と共に生きる社会の在り方を理解する。	
第14回	倫理的ジレンマを総合的に考察する。自動運転や医療資源配分などの応用事例を用い、これまでの理論を実際の判断に結びつけて理解する。	
第15回	倫理学全体の学びを総括し、自らの倫理的立場を表現する。授業内容を振り返りながら「自分にとっての正しさ」とは何かを再構築する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	ディスカッション等授業における意欲・態度，各授業のコメントペーパー
中間テスト	40	倫理理論（義務論・功利主義・徳倫理）や思想家（カント、ミル、アリストテレスなど）について、基本的な内容を理解しているかを確認する。
定期試験	40	授業で扱った倫理理論・現代的課題・ジレンマの応用について① 倫理理論の理解（知識・理解）② 判断の根拠や論理性（思考・問題解決能力）③ 筋道立てた表現力（技能）について評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	討論を重視するため、互いの意見を尊重しながら発言し、対話を通じて自らの考えを深める姿勢が求められる。正解のない問いに対し、柔軟かつ誠実に向き合う態度が重要である。
授業外学修	各回の講義前に指定された資料（補助プリント等）を読んで問いを考えておくこと（1時間程度）。講義後には30分～1時間程度の振り返り（メモ・課題準備）を行う。週あたり計4時間以上の学修を想定す

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。(必要に応じて講義内で随時紹介する)

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義内で随時，紹介する。
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	倫理学に関する基本的な理論、用語、構造を正確に理解し、他者に説明できるかどうか。	倫理理論（義務論・功利主義・徳倫理など）を正確に理解し、複数の立場の違いを区別して説明できる。歴史的背景や用語も適切に使える。	基本的な理論や用語を理解し、概ね正しく説明できる。部分的に説明の不正確さはあるが、大枠は把握している。	主要な理論の概要を把握しているが、用語の使い方や理論の理解に混同・あいまいさが見られる。	理論の理解が断片的で、説明に多くの誤りや不明瞭さがある。講義内容の整理ができていない。	理論や用語の理解が極めて不十分であり、説明が困難である。学修履歴や成果がほとんど見られない。
態度	倫理的課題や他者の意見に対して関心を持ち、積極的に授業や学修活動に取り組む姿勢があるか。	倫理的テーマに強い関心を示し、講義・討議・課題に自発的・主体的に取り組んでいる。探究心と継続的な学修姿勢が見られる。	授業に継続的に参加し、意欲的に学修・討論に取り組んでいる。他者との協働にも積極的である。	授業には出席しているが、参加や発言にムラがあり、学修への積極性に欠ける場面がある。	関心が薄く、課題・討論・グループワークなどにも受け身で参加している。学修態度に課題がある。	授業に対する関心や責任感が見られず、課題未提出・欠席・不参加などが継続的に見られる。

科目名	比較文化論			授業番号	LA203	サブタイトル			
教員	佐々木 真帆美								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	本授業では，日本と世界の文化を比較しながら，文化の多様性と共通点を理解することを目的とする。食文化，言語，家族間，宗教，ジェンダー，時間感覚，メディアなどの具体的なテーマを取り上げ，映画や実例を用いて考察する。留学生と日本人学生の混合クラスであることを活かし，学生自身の経験や母文化を共有しながら学習を進める。単なる知識理解にとどまらず，「なぜ違うのか」「その違いが社会にどのような影響を与えるのか」を考えることで，異文化理解力と批判的思考力を養う。 最終的には，グループ発表を通して文化比較を論理的に説明できる力を身につける。								
到達目標	1. 日本と多文化の共通点・相違点を具体例を用いて説明できる。 2. 文化の違いが社会や個人に与える影響について考察できる。 3. 自文化と多文化を比較し，自らの価値観を相対化できる。 4. 異文化間の対話において適切に意見を述べることができる。 5. グループで協働し，文化比較の成果を発表できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス / 「文化」とは何か 文化の具体例を挙げながら「文化」の意味を考える。日本人学生と留学生が互いの経験を共有する。	
第2回	言語と文化 言語と価値観の関係を考察する。敬語や表現の違いを具体例から比較する。	
第3回	宗教と生活 宗教が日常生活や祝祭日に与える影響を考察する。	
第4回	食文化 食習慣，宗教と食，食事マナーを比較する。	
第5回	ジェスチャーと非言語コミュニケーション ボディランゲージやパーソナルスペースの違いを実演を交えて学ぶ。	
第6回	家族観とライフスタイル 家族構成，結婚観，親子関係の違いを比較する。	
第7回	時間の感覚 時間厳守の文化，締切意識，仕事観の違いを分析する。	
第8回	ジェンダーと文化 性別役割や社会的期待の違いについて考察する。	
第9回	仕事と社会文化 就職活動，労働観，上下関係の違いを比較する。	
第10回	メディアと文化イメージ アニメ，SNS，ニュースが文化イメージに与える影響を考える。	
第11回	ステレオタイプと偏見 文化的固定観念の形成とその影響を考察する。	
第12回	異文化トラブル事例研究 具体的な異文化摩擦の事例を分析し，解決策を検討する。	
第13回	グループ発表準備① 発表テーマ決定，構成作成，役割分担，資料収集。	
第14回	グループ発表準備② スライド作成，原稿確認，模擬発表。	
第15回	グループ発表 文化比較に関する発表	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業参加・ディスカッション	20	意欲的な受講態度，グループディスカッションへの参加姿勢・貢献度を評価する。
レポート	30	課題のテーマについて適切にまとめているか，構成，事例や資料の活用，文章の明瞭さを評価する。 レポートについてはコメントを記入して返却する。
リアクションペーパー	20	内容の論理性と一貫性，独自の視点や具体例の活用，文章の明瞭さを評価する。 提出されたリアクションペーパーへのフィードバックは，次回の授業の冒頭で全体に対して行う。
グループ発表	30	グループ発表では，文化比較の明確さ，具体例や根拠の活用，考察の深さを総合的に評価する。 また，発表の構成や分かりやすさ，グループ全員の協働姿勢および質疑応答への対応も評価対象とする。 発表のフィードバックは授業時に全体に対して行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・授業中にはペアやグループでのディスカッションを実施するので積極的に参加すること。
授業外学修	1. 予習として，各回のテーマについて事前に関連資料や映像を確認し，基本的な内容を把握したうえで授業に臨むこと。 2. 復習として，授業時に配布した資料やディスカッション内容を振り返り，追加調査を行うこと。疑問点は自分で調べてから教員に質問をすること。 3. グループ発表に向けた情報収集，資料作成，打ち合わせを計画的に実施すること。 以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 異文化の多様性と共通点を理解している。	異文化の多様性と共通点を的確に分析し，背景や歴史的要因まで深く考察できている。	異文化の共通点・相違点を適切に説明できるが，一部考察が不足している。	異文化の基本的な違いを認識できているが，説明が表面的である。	異文化の違いや共通点を部分的に理解しているが，説明が曖昧である。	異文化の違いや共通点をほとんど理解しておらず，説明ができていない。
知識・理解	2. 異文化の多様性や共通点について具体的な事例を用いて比較することができる。	具体的な事例やデータを豊富に活用し，異文化の比較が論理的かつ説得力のあるものになっている。	適切な事例を用いて比較を行っているが，論理的な深掘りがやや不足している。	事例を挙げて説明できているが，関連性が弱い場合がある。	事例が乏しく，比較の視点が限定的である。	事例をほとんど活用できておらず，比較の視点がない。
知識・理解	3. 異文化に対して関心を持ち，理解しようとしている。	異文化に高い関心を持ち，積極的に知識を深めようとしている。	異文化に興味を持ち，理解を深めようとしている。	異文化には興味はあるが，積極的に学ぶ姿勢が弱い。	異文化に対する関心が低く，学ぶ姿勢が消極的である。	異文化への関心がほとんどなく，学ぶ意欲が感じられない。
思考・問題解決能力	1. 異文化理解の視点を養い，自己の価値観との比較ができる。	異文化と自己の文化を比較し，柔軟な視点をもって深く考察できている。	異文化と自己の文化を比較し，一定の考察を行えている。	文化の違いを比較しているが，視点が一面的である。	比較が不十分で，自己の価値観との関連性が曖昧である。	自己の文化と異文化の比較がほとんどできていない。
思考・問題解決能力	2. 文化の相違がもたらす社会的影響について考察することができる。	文化の違いが社会や個人に与える影響を的確に分析し，論理的に説明ができる。	文化の違いと社会的影響の関連を理解し，適切に考察ができている。	文化の違いが社会に与える影響を認識しているが，説明が表面的で具体例が不足している。	文化の違いと社会的影響の関係を十分に説明できず，論理的なつながりが弱い。	文化の相違による社会的影響についての考察がほとんどなく，具体的な説明ができていない。
思考・問題解決能力	3. 文化の相違に対して批判的思考力をもっている。	文化の違いに対して論理的かつ明確な意見を持ち，根拠を示して説明することができる。	論理的意見を述べることができるが，根拠の提示が一部不足している。	自分の意見を述べることはできているが，論理的な裏付けが弱い。	意見の論理的な整合性が不足し，主観的な内容が多い。	批判的に考察することができず，一貫性のない主張が多い。

科目名	社会学			授業番号	LA204	サブタイトル	(配偶者の選択と家族編成の社会的規則)		
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。 現代社会における家族の姿は，多元化する価値意識のもとで，その形態や機能が多様化している。 そのため，本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて，家族編成に関する社会的規則について講義する。								
到達目標	現代社会の家族集団を，より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。 これにより，地域社会の中に存する様々な家族を理解し，実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	配偶者選択をめぐる社会状況の変化 現代社会の現状	
第2回	家族社会学における「家族」の定義 家族集団の特徴と世帯	
第3回	家族を対象とした社会学的アプローチの方法 家族をいかにとらえるか 漫画・映画などに描かれた家族のかたち	
第4回	家族の類型と分類 夫婦家族制・直系家族制・複合家族制の理解	
第5回	青年期の異性交際に関する社会学的意味の考察 日本における青年期の異性交際の現状と国際比較	
第6回	青年期の異性交際の実態 出生力調査にみる実態	
第7回	家族編成の社会的ルールとは何か 配偶者の選択はいかにして行われるか	
第8回	配偶者選択の社会的メカニズム 配偶者の選択と結婚	
第9回	配偶者選択のプロセス 出生力調査における独身者調査と夫婦調査の比較	
第10回	結婚の社会的意味 結婚はどのような意味をもつのか	
第11回	結婚の社会的機能 結婚するとどのようになるのか	
第12回	離婚の社会的意味と機能 離婚に関する意味付け 離婚の現状に関するデータ	
第13回	家族の新しい形 変貌する家族像 多元化する価値観	
第14回	子どもの養育 家族集団における子どもの社会化	
第15回	老親の介護 高齢化社会の中の家族集団	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
最終試験レポート	70	各自で最終レポートを作成し提出する。
コメントペーパー	30	基本的には、毎回、提出する。理解の状況の確認を行う。提出物については、次回の授業の冒頭で共有し、コメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自らの配偶者選択や，家族集団に興味・関心があることが望ましい。 しかしながら，あまりにも身近で現実的な問題であるため，ある程度，客観視できる受講態度が望ましい。
授業外学修	1．配付資料を事前に読んでくること。 文章を読むだけではなく，掲載されている図表の意味するところを考える。 具体的なアプローチの方法は，授業時間内に指示する。 2．最終レポートの課題を探しながら受講すること。 テーマに関するニュースや，身近な出来事に関心をもつこと。 両方の課題を合わせて，週当たり4時間以上，取り組むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。

その他	特になし。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．家族社会学における基礎的な概念を理解できている。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解しており、自分の言葉で説明することができる。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、その関係を理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えている。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えていない。
知識・理解	２．結婚の社会的機能と配偶者選択の規則について理解できている。	教育の歴史に係る重要事項について、その展開と社会的背景について理解している。	教育の歴史に係る重要事項の展開について理解している。	教育の歴史に係る重要事項について理解している。	教育の歴史に係るキーワードを覚えている。	教育の歴史に係るキーワードを覚えていない。
知識・理解	３．青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	関連するデータを踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	社会背景を踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを、ほとんど読み解くことができない。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができない。
思考・問題解決能力	１．データに基づき、家族に関する現状を考察することができる。	家族に関する現状を、複数のデータと社会背景を踏まえて考察を深め、説明することができる。	家族に関する現状を、複数のデータに基づき考察し、説明することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解し、考察することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができない。

科目名	中国語			授業番号	LA301	サブタイトル			
教員	杉山　明								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この授業では中国語の発音・基礎文法に重点を置く。日本人にとって親しみのある漢字を中国語でどう発音するかのなぞを解きながら，基礎的な会話と文型を学んでいくものとする。実践的な「使える中国語」を目指す。								
到達目標	既習内容の発音や単語の定着を目指して基本文型を理解する。いざ中国語による会話をする時，趣味などについて語れる基礎的なコミュニケーション能力を身に付けている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	発音練習と授業計画 学習の進め方を理解し，発音の基礎となる四声，単母音を理解する。テキスト発音編第一課 授業後はテキストの音声教材を使って、よく復習する。	
第2回	発音　ピンイン　複母音　数字 ピンインの読み方を知るとともに，発音編第2課により複母音の発音を練習する。また本文編第1課により数字の読み方を学ぶ。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第3回	発音　鼻母音　子音　「有」の用法 発音編第2課により鼻母音，子音の練習。本文編第１課により動詞「有」の用法を学ぶ。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第4回	発音　有気音と無気音　日付けの言い方　動詞「是」の用法 テキス発音編第2課を見て有気音と無気音の練習，本文編第２課を使いA是Bの構文を学ぶ。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第5回	声調の変化　r化音　曜日の言い方 テキスト発音編第3課により声調の変化，r化音を練習，本文編第３課により曜日の言い方を学習。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第6回	動詞「叫」「姓」の用法　疑問詞の用法 テキスト第3課により動詞文，動作動詞「叫」「姓」の用法及び疑問詞の用法を学ぶ。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第7回	SVOの文型　指示語の学習 テキスト第4課SVOの文型を学び、さらに指示語（こそあど言葉）の使い方を知る。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第8回	中間考査 ここまでの学習を振り返り，中間考査を実施する。次時に返却、解説を行う。	
第9回	中間考査返却と解説　お金の言い方 中間考査の結果を見て，自己の部分を未理解部分を確認する。 また中国のお金の言い方を学ぶ。 授業後は解説を聞き、自分の間違い箇所を訂正する。	
第10回	「在」の用法　重さ，長さの言い方 テキスト第5課により動詞「在」の用法を学び，また重さ，長さの言い方を知る。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第11回	反復疑問文　形容詞の用法 テキスト第5課により反復疑問文の使い方，第6課により形容詞の用法を学ぶ。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第12回	助動詞の用法　時間の言い方 テキスト第6課により助動詞「想」「要」の用法を学び，第7課により時間の言い方を知る。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第13回	可能の助動詞の用法　介詞 テキスト第7課により可能の助動詞「会」「能」「可以」の使い方を学び，さらに介詞「在」「対」の用法を学習する。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第14回	時間量の言い方　完了時制 テキスト第8課により時間量の言い方を知り，さらに完了時制を学習する。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第15回	介詞の用法　定期試験に向けて 第8課により介詞「離」「従」の用法を学び，さらに期末試験へ向けて復習を行う。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組み	30	意欲的な学習態度・発話・聞き取り・予復習の状況によって評価
小テスト	20	20点満点で毎時間実施 返却時に、解説する。
中間・期末試験	50	中間考査・期末考査の平均点の50%

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習，復習をしっかりすること。テキストを必ず持ってくること。 発音練習では声を出して練習すること。音声教材を積極的に利用すること。

授業外学修	1　予習として，次の授業に出る新出単語を覚えておくこと，テキストの問題に目を通しておくこと。 2　復習として，学んだ本文内容や文法を再確認し，発音練習を繰り返すこと。 以上の内容を，週当たり3時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
理系のための中国語・入門	杉山明	好文出版	978-4-87220-202-1	

使用テキスト：自由記載	テキストについては教学・アドミッション課より別途指示

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中国語学習＆異文化理解ハンドブック	杉山明・石下景教	アルク	978-4757420915	

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高等学校での漢文授業（9年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．語彙の使用法	幅広い語彙を会話の中で正確かつ効果的に活用できる	語彙の使用の多様性を示しますが、時折不正確である	基本的な語彙は概ね理解しているが、表現の種類は限られている	語彙の範囲が狭く、単語の選択に苦労する	最小限の語彙しか使用せず、コミュニケーション効果を妨げている
知識・理解	2．文法	文法規則をしっかりと理解し、それらをスピーチなどで正確に適用している	一般的に正しい文法を使用し、理解を妨げない程度の軽微な誤りがある	文法の誤りが目立ち、文の構造と明瞭さにかける	基本的な文法の概念に苦労し、比較的ミスが多い	文法規則の理解が乏しい

科目名	韓国語			授業番号	LA303	サブタイトル	(韓国語の基礎を学ぶ)		
教員	宋　娘沃								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	近年韓国の映画、音楽、食べ物などの文化や社会生活が世界から注目され，韓国への関心が一層高まっている。こうした関心は韓国語の習得につながり，韓国語はどのような仕組みで作られているのかを知っていく必要がある。韓国語と日本語は文法が類似していると同時に，言葉にとって大切な語順がほとんど一致している。本講義は，前半では韓国語学習を習い始める初歩の段階としてハングルの基礎から始まり，韓国語のごく短い文の読み書き，聞き取りを学習する。後半では日常会話として自己紹介，挨拶の言葉，韓国旅行のための簡単な会話など，基本的なやり取りの実践的な力を身につける。また、韓国の若者の意識，大学生活，エンターテインメント，社会への理解を深めるために，ビデオ鑑賞を行う。								
到達目標	・韓国語の基礎的な文法，発音を理解して活用できる。 ・簡単な韓国語の読み書きができる。 ・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	韓国語とは 韓国語はいつ作られ，どのように作らてたのかをハングルの由来，歴史的な経緯を学習する。	
第2回	文字と発音・母音 韓国語文字や基本構成を学習する。	
第3回	文字と発音・子音 韓国語文字の特徴や文字の基本構成を学び，その仕組みを理解する。	
第4回	激音と農音，パッチム 基本母音字と子音字から表れる激音と濃音の発音の違いについて学習する。	
第5回	韓国語の助詞・動詞 韓国語の一文を完成するための助詞と動詞の仕組みについて学習する。	
第6回	基本文型の過去形の作り方 基本文型の現在，過去，未来がどのように表現されているのかを理解する。	
第7回	感嘆文・疑問文の形式 韓国語の感嘆文・疑問文を簡単な言葉を用いて理解する。	
第8回	基本文型の指示代名詞・助数詞 指示代名詞を事例から説明し，一つの文章を作るようにする。	
第9回	用語の丁寧形・尊敬形 韓国語の丁寧形や尊敬語を具体例から学習する。	
第10回	会話練習・表現 文章の基礎的な仕組みから短い表現を理解する。	
第11回	挨拶・訪問の言葉 基本的な挨拶の言葉を学習する。	
第12回	韓国の大学と若者 韓国の大学と日本の大学の違い，若者の意識について理解する。	
第13回	韓国の食生活と食べ物 韓国の食生活や近年関心が高まっている食べ物について学習する。	
第14回	韓国の映画と文化 韓国のエンターテインメントや映画について理解する。	
第15回	韓国の文化と日常会話 近年のKポップや音楽について，日常会話を用いて学習する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢や態度	20	授業への意欲，質問，課題を積極的に取り組んでいるのかを評価する。
小テスト	40	授業の中間時点で，どの程度内容を理解しているのかを確認する。また，小テストは次週で解説する。
期末テスト	40	授業全体の理解度や言葉の習得ができているのかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み，予習をやってくること。 課題を充実に行うこと。
授業外学修	・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって読むこと。 ・復習として，課題をノートに書いて来ること。 ・韓国語の教科書のCDを聞くようにして，言葉に慣れること。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ゼロから学べる韓国語［文法］トレーニング	木内　明	髙橋書店	978-4-471-11270-7	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．外国語や韓国語の必要性を十分に認識している。	韓国語の必要性をほぼ理解している。	韓国語の文法の仕組みや会話の基本構造をほぼ理解している。	韓国語の文法の仕組みをほぼ理解している。	韓国語は理解しているが、具体的な知識が十分でない。	あまり外国語に対して興味を持っていない。
知識・理解	2．新しい知識として外国語の必要性を十分に認識している。	言葉の仕組みや子音・母音を十分に理解している。	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる。	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる。	韓国語の文字体系を理解しようとしていない	外国語や他の国のことを理解していない。
知識・理解	3．韓国語の学ぶ上での韓国の文化や社会のことを認識している。	韓国で起こっている諸問題から対応策を考えられる。	最近の韓国文化に興味を持って勉強に取り組んでいる。	学生自ら進んで韓国語を学習する能力が備えている。	あまり外国の文化や言葉を理解しようとしていない。	韓国のことや韓国語にあまり関心を持っていない。
技能	１．新しい言葉を身につけることで自分の知識が深まる。	韓国語の基礎が出来ており，自ら進んで韓国の文化に関しても勉強している。	韓国語の会話や発音の子音・母音の体系が理解できている。	韓国語の発音の仕組み、会話の基礎が出来ている。	韓国語を学習する目的や基礎知識が理解できていない。	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない。
技能	２．外国語を学ぶことで一層他文化に対する理解が深まる。	韓国語の基礎知識は十分に備え，自ら進んで韓国の文化を勉強している。	韓国語の基礎知識を備えられ，その国の社会や文化が理解できる。	韓国語の会話がほぼ理解でき，韓国の社会や経済に関しても知ろうとしている。	外国語を修得し，１つでも自分の知識を増やすことの重要性が認識できていない。	韓国語を学ぶことの意味と目的が明確ではない。
技能	３．外国語や海外の人や文化を通じて自国のことや自分のことを再考することになる。	韓国語の学習が十分にでき，今日のグローバル社会が理解できる。	韓国語の学習を通じて他の国のことが理解できる。	韓国語の基礎知識が勉強でき，他の語学にも興味を持つことが可能になる。	韓国語の基本の発音体系や会話を身につける意味が認識できていない。	韓国語の内容や発音の体系をどのように理解し，勉強しようかという認識ができていない。

科目名	岡山学			授業番号	LB101	サブタイトル			
教員	加賀　勝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	岡山の歴史、文化、自然、産業、現代の課題までを多角的に学び、地域の魅力や課題について深く考える力を習得する。郷土愛の醸成だけでなく、グローバルな視点とローカルな実践を結びつける「グローカルな視点」を養う。								
到達目標	岡山の歴史、文化、自然、産業、現代の課題までを多角的に学び、地域の魅力や課題について深く考える力を習得することができる。地域理解だけでなく、グローバルな視点とローカルな実践を結びつける「グローカルな視点」を持つことができる。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	岡山学概要 岡山の地形や気候、交通の要衝としての地理的特性等を概観し、地球規模の課題、地域課題、各自の出身地の課題を比較する。	
第2回	古代吉備の国際性 吉備の巨大古墳や鉄器文化を、当時の東アジアとの交流史から読み解く。岡山が古くから国際的なネットワークのハブであったことを学び、広域的な視点で捉え直す。	
第3回	伝統文化の継承とグローバル展開 備前焼や刀剣といった伝統工芸が、海外からどう評価されているかを学ぶ。伝統を守るだけでなく、国際市場へと繋ぐためのブランド戦略とイノベーションの事例を分析する。	
第4回	近世の教育遺産と公共の精神 閑谷学校など岡山が誇る教育の伝統を学ぶ。身分を問わず学問を開放した「公共性」の精神が、日本の近代化を支えるリーダーたちを輩出し、現代社会にどう繋がっているかを考察する。	
第5回	アジアの平和と岡山 犬養毅の政治思想を学ぶ。木堂の「アジア主義」を、当時の国際情勢の中で捉え直し、地域から生まれた普遍的な平和への志をグローバルな視点から考える。	
第6回	繊維の街・世界市場へ 国内初のジーンズ生産を実現した技術革新を辿り、地場産業がグローバルな地位を築くまでの戦略と、環境に配慮したサステナブルな製造プロセスの最前線を学ぶ。	
第7回	岡山ブランド果実と国際競争力 白桃やシャインマスカットを事例に、世界最高峰の品質を支える育種技術と栽培管理を学びぶ。海外市場での模倣品対策やブランド保護など、農業の国際戦略を理解する。	
第8回	瀬戸内国際芸術祭と地域再生 瀬戸内国際芸術祭が地域の過疎化にどう立ち向かったかを学ぶ。アートを触媒とした地域再生モデルが、イタリア等の海外から注目される理由を、グローバルな観光潮流の中で理解する。	
第9回	気候変動と地域のレジリエンス 西日本豪雨の教訓を、世界の異常気象という文脈で捉え直す。気候変動に適応するための防災技術やコミュニティの防災力を、世界に共有すべき地域の知恵として体系化する方法を議論する。	
第10回	交通ハブの利便性と広域連携 中四国の結節点である岡山の地理的優位性を活かした物流・観光戦略を学ぶ。瀬戸大橋を通じた四国との連携や、訪日客（インバウンド）を受け入れる広域観光ルート構築の可能性を検討する。	
第11回	SDGs未来都市と循環型社会 真庭市のバイオマス発電など、岡山のSDGs先進事例を網羅する。地域資源を無駄なく使う循環型社会の構築が、国連の持続可能な開発目標といかに合致し、世界へ発信可能かを議論する。	
第12回	福祉・教育の先駆性と国際貢献 石井十次の孤児救済から続く岡山の福祉精神を学ぶ。弱者を排除しない地域づくりの知恵が、現代の多文化共生社会や、途上国の社会開発にどう応用できるかをグローバルに考察する。	
第13回	地域で進む多文化共生と多様性 岡山の在留外国人の増加を背景に、言語や文化の壁を越えたコミュニティ形成の課題を学ぶ。足元で進むグローバル化に対し、多様性を豊かさに変えるための具体的な実践例を共有する。	
第14回	総括１：岡山から世界を構想する これまでの学びを統合し、「岡山から世界をどう変えるか」を提案する。グローカルな視点を持つことの意義を再確認する。	
第15回	総括２：岡山から世界を構想する 「岡山から世界をどう変えるか」についての提案を受け、グローカルな視点を持つ次世代の地域リーダーとして、自身の役割を明確にする。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予習・復習の状況によって評価する。
発表・議論	40	適切な資料を作成して自分の考えを具体的に発表できているか、発表について適切に議論できているかについて評価する。
レポート	40	この授業で学んだり、調べたりしたことを踏まえて、論理的に記述することができているかを評価する。レポートには、コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	地域のニュースに興味を持ち、グローバルな視点を持って考えること。

授業外学修	1 予習として、予め提示されている課題に取り組んでおくこと 2 復習として、予め提示されている課題に取り組んでおくこと 3 発展学習として、講義で紹介された参考文献などを読むこと 以上の内容を，週当たり 4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	岡山の歴史・文化・産業・自然等の知識を修得し、理解して説明する力を身に付けている。	岡山の歴史・文化・産業・自然等について深い理解があり、適切に説明できる。	岡山について主要な内容を理解しており、概ね説明できる。	岡山について基本的な内容を理解している。	岡山についての理解が不十分で、説明も十分でない。	岡山についての理解が不十分で、説明ができない。
思考・問題解決能力	地域に関する知識を理解し、グローカルな視点で捉えて、それを他者に伝える力を身に付けている。	岡山について深く理解し、グローカルな視点で捉えて、それを他者に伝えることができる。	岡山について理解し、グローカルな視点で捉えて、それを他者に伝えることができる。	岡山について理解し、グローカルな視点で捉えることができる。	岡山について理解し、それを他者に伝えることができる。	岡山について理解が不十分で、他者に伝えることができない。
態度	学んだ知識を深く考察し、課題解決に向けた適切な分析を行う力を身に付けている。	岡山の魅力や課題について、グローカルな視点で論理的に考察する態度を身に付けている。	岡山の魅力や課題について、論理的に考察する態度を身に付けている。	岡山の魅力や課題について、興味を持って考える態度を身に付けている。	岡山の魅力や課題について、興味を持って考える態度が十分に身に付いていない。	岡山の魅力や課題について、考える態度が身に付いていない。

科目名	実践英語Ⅰ			授業番号	LB104	サブタイトル	Practical English Ⅰ		
教員	片山　純子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	本授業は、日常的な場面における英語コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目的とする。多国籍・多文化環境において、英語を共通言語として用いながら、聞く・話す・読む・書くの4技能をバランスよく育成する。ペアワークやグループ活動、短いプレゼンテーションを通して、実践的な英語運用能力と異文化理解を深める。 This course aims to develop basic English communication skills for everyday situations in a multicultural classroom. Through communicative and task-based activities, students will build confidence in using English.								
到達目標	本授業の到達目標は以下の通りである: 身近な話題について、基本的な英語表現を理解し使用できる。 自己紹介や日常生活について、簡単な英語で伝えることができる。 ペア・グループ活動において、基本的な英語でやり取りができる。 英語で短い文章を書くことができる。 英語でコミュニケーションを取ることに対する自信を高める。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 The learning objectives of this course are as follows: Can understand and use basic English expressions about familiar topics. Can introduce oneself and talk about daily life in simple English. Can interact using basic English in pair and group activities. Can write short English passages. Can build confidence in communicating in English.This course contributes to the acquisition of the bachelor's competencies outlined in the diploma policy, specifically in the areas of Knowledge and Understanding, Thinking and Problem-Solving Ability, Skills, and Attitudes.								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション、授業の進め方・評価方法の説明を行う。自己紹介活動を通して英語で話すことに慣れる。 An orientation will be conducted, including explanations of the class format and evaluation methods. Students will become accustomed to speaking in English through self-introduction activities	
第2回	英語レベルチェック（スピーキング・ライティング）を実施し、今後の学習の目標を確認する。 Conduct an English level check (speaking and writing) and confirm future learning goals.	
第3回	Unit 1 Friends and Family 基本語彙と表現を学び、リスニング活動を行う。簡単な自己紹介の表現を確認する。 Learn basic vocabulary and expressions, and engage in listening activities. Review simple self-introduction expressions.	
第4回	Unit 1 Friends and Family ペア活動を通して自己紹介を実践する。グループで他者紹介を行い、表現を定着させる。 Practice self-introductions through pair activities. Introduce others in groups to reinforce expressions.	
第5回	Unit 2 Jobs around the World 職業に関する語彙と表現を学ぶ。リスニングと基本会話の理解を深める。 Learn vocabulary and expressions related to jobs. Deepen understanding through listening and basic conversations.	
第6回	Unit 2 Jobs around the World ペア・グループで職業について話す練習を行う。短い発話を繰り返し練習する。 Practice talking about jobs in pairs and groups. Repeatedly practice short utterances.	
第7回	Unit 3　Houses and Apartments 建物や家に関する語彙と表現を学ぶ。リスニングを通して内容理解を行う。 Learn vocabulary and expressions related to houses and apartments. Develop comprehension through listening.	
第8回	Unit 3 Houses and Apartments 建物や家について話す活動を行う。グループ内で情報共有し、表現を広げる。 Engage in activities to talk about your house or apartment. Share information within groups and expand expressions.	
第9回	Unit 4 Possessions 所有物を説明する表現を学ぶ。形容詞の使い方を確認する。 Learn expressions for describing possssions. Review the use of adjectives.	
第10回	Unit 4　Possessions 短い文章を書く練習を行い、簡単な描写文を作成する。発表活動も行う。 Practice writing short sentences and create simple descriptive texts. Conduct presentation activities.	
第11回	Unit 5 Daily Activities 日常生活を表す基本表現を学ぶ。リスニングと文法の基礎を確認する。 Learn basic expressions for talking about daily activities. Review listening and basic grammar.	
第12回	Unit 5 Daily Activities 日常生活について話す活動を行う。ペアワークで会話を発展させる。 Engage in activities to talk about daily　activities. Develop conversations through pair work.	
第13回	Unit 6 Getting Around 交通手段についての表現を学ぶ。簡単な意見表現を導入する。 Learn expressions for traffic. Introduce simple opinion expressions.	
第14回	Unit 6 Getting Around 交通手段について話す活動を行う。グループディスカッションを行う。 Talk about transportations. Conduct group discussions.	
第15回	中間スピーキング活動を実施する。これまで学んだ内容を用いて簡単な発表を行う。 Conduct a mid-term speaking activity. Give simple presentations using what has been learned so far.	
第16回	Unit 7 Free Time 趣味や興味に関する語彙と表現を学ぶ。リスニングを通して内容理解を行う。 Learn vocabulary and expressions related to hobbies and interests. Develop comprehension through listening.	

第17回	Unit 7 Free Time 自分の趣味について話す活動を行う。グループ内で情報共有し、表現を広げる。 Engage in activities to talk about your own hobbies. Share information within groups and expand expressions.	
第18回	Unit 8 Clothes 服に関する基本表現を学ぶ。簡単な会話例を通して理解する。 Learn basic expressions for clothing. Understand through simple conversation examples.	
第19回	Unit 8 Clothes 服について話す活動を行う。グループ内で情報共有し、表現を広げる。 Engage in activities to talk about your own clothing. Share information within groups and expand expressions.	
第20回	Unit 9 Food 食べ物に関する基本表現を学ぶ。簡単な会話例を通して理解する。 Learn basic expressions for food. Understand through simple conversation examples.	
第21回	Unit 9 Food 食べ物について話す活動を行う。グループ内で情報共有し、表現を広げる。 Engage in activities to talk about your own food. Share information within groups and expand expressions.	
第22回	Unit 10 Health 体の部分や病気に関する基本表現を学ぶ。簡単な会話例を通して理解する。 Learn basic expressions for body parts and health problem. Understand through simple conversation examples.	
第23回	Unit 10 Health 健康問題や薬について話す活動を行う。グループ内で情報共有し、表現を広げる。 Engage in activities to talk about health problem and medicine. Share information within groups and expand expressions.	
第24回	Unit 11 Making Plans 月の名前や休暇に関する基本表現を学ぶ。簡単な会話例を通して理解する。 Learn basic expressions for months of the year and hoilidays. Understand through simple conversation examples.	
第25回	Unit 11 Making Plans 休暇について話す活動を行う。グループ内で情報共有し、表現を広げる。 Engage in activities to talk about your holiday. Share information within groups and expand expressions.	
第26回	Unit 12 On the Move 過去の経験を表す基本表現を学ぶ。リスニングと文法の基礎を確認する。 Learn basic expressions for talking about past experiences. Review listening and basic grammar.	
第27回	Unit 12 On the Move 過去の出来事について話す活動を行う。ペアワークで会話を発展させる。 Engage in activities to talk about past events. Develop conversations through pair work.	
第28回	最終プレゼンテーションを実施する。発表と質疑応答を行う。 Conduct the final presentation. Deliver presentations and participate in a Q&A session.	
第29回	授業内容の復習を行う。重要表現を整理する。 Review the course content. Organize key expressions.	
第30回	授業内容の復習を行う。重要表現を整理する。振り返りと総まとめを行う。今後の英語学習について考える。 Review the course content. Organize key expressions. Reflect on the course and provide an overall summary. Consider future English learning.	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業参加・活動	30	授業内での発言、ペア・グループ活動への参加状況、協働的な姿勢を総合的に評価する。 Evaluation based on participation in class discussions, pair/group activities, and cooperative attitude.
中間スピーキング活動	20	自己紹介や日常的な話題についてのスピーキングを評価する。発話量、明確さ、伝達力を重視する。 Evaluation of speaking on self-introduction and everyday topics, focusing on fluency, clarity, and communicative effectiveness.
最終テスト	25	短いプレゼンテーションを英語で行う。内容の分かりやすさ、英語運用能力、発表態度をルーブリックに基づき評価する。 Short presentation in English; assessed using a rubric based on clarity, English proficiency, and presentation attitude.
課題・小テスト	25	各回の語彙確認テスト（Kahoot）および課題の提出状況を評価する。継続的な学習を重視する。 Vocabulary quizzes (via Kahoot) and assignment submission; emphasis on continuous learning.

評価の方法：自由記載	本授業では、筆記試験・授業内活動・スピーキング・課題を通して総合的に評価する。特に授業への積極的な参加と継続的な努力を重視する。 Students will be evaluated comprehensively through written tests, in-class activities, speaking performance, and assignments, with particular emphasis on active participation and consistent effort.
受講の心得	本授業はコミュニケーション重視の授業であるため、積極的に英語を使う姿勢が求められる。間違いを恐れず発話することを重視し、他者と協力しながら学ぶこと。 This is a communication-focused course; students are expected to actively use English. Making mistakes is encouraged as part of learning, and cooperation with others is essential.
授業外学修	授業外学修として、英語動画（例：Peppa Pig等）を継続的に視聴し、その内容を授業内で共有する。 Students are expected to regularly watch English-language videos (e.g., Peppa Pig) and share their understanding in class.

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
World English Intro (Third Edition)	John Hughes, Becky Tarver Chase and Christien Lee	National Geographic Learning		

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	Kahootによる語彙確認を行うため、毎回スマートフォンまたはタブレットやパソコンを持参すること。 Students must bring a smartphone, tablet, or computer to each class for vocabulary quizzes using Kahoot.
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	学習したトピックを中心に、基本的な語彙や表現、文法の理解度および、それらを適切な場面で正確に使い分けることができるかを評価する。 Evaluates the degree of understanding of basic vocabulary, expressions, and grammar related to the topics studied, as well as the ability to use them accurately and appropriately in different contexts.	基本的な語彙・表現を正確に理解し、適切に使い分けることができる。 Can accurately understand basic vocabulary and expressions and use them appropriately.	多くの場合、語彙・表現を理解し適切に使用できる。 Can understand and appropriately use vocabulary and expressions in most cases.	基本的な理解はあるが使用に不安定さがある。 Has a basic understanding but shows inconsistency in usage.	理解が不十分で適切に使用できない。 Has insufficient understanding and cannot use them appropriately.	理解がほとんど見られない。 Shows little to no understanding.
思考・問題解決能力	学習したトピックを中心に、英語を用いて自分の考えを明確に表現できるか、理由や具体例を用いて内容を発展させることができるか、また課題や質問に柔軟に対応できるかを評価する。 Evaluates the ability to clearly express one's ideas in English based on the topics studied, to develop ideas using reasons and specific examples, and to respond flexibly to tasks and questions.	英語を用いて自分の考えを発展的に表現し、課題に柔軟に対応できる。 Can express and develop ideas effectively in English and respond flexibly to tasks.	英語で自分の考えをある程度表現できる。 Can express ideas in English to some extent.	基本的な内容は表現できるが、発展が難しい。 Can express ideas in English to some extent.	表現が限定的で課題への対応が難しい。 Can express basic ideas but has difficulty developing them further.	自分の考えを表現できない。 Expression is limited and responding to tasks is difficult.
技能	学習したトピックに関連して、発音や話すスピードの明瞭さ、流暢さ、そして相手に意味が伝わるコミュニケーションができるか、また簡単なやり取りが成立するかを評価する。 Evaluates clarity of pronunciation and speaking speed, fluency, the ability to communicate meaning effectively, and the ability to sustain simple interactions related to the topics studied.	英語で明確かつ積極的にコミュニケーションができる。 Can communicate clearly and actively in English.	多くの場合、英語で意思疎通ができる。 Can communicate in English in most situations.	基本的なコミュニケーションができる。 Can handle basic communication.	意思疎通が難しい場面が多い。 Often has difficulty communicating.	英語でのコミュニケーションがほとんどできない。 Can hardly communicate in English.
態度	学習したトピックへの取り組みを含め、授業への積極的な参加、他者との協力姿勢、課題への取り組み、および間違いを恐れず英語で表現しようとする姿勢を総合的に評価する。 Evaluates overall engagement with the topics studied, including active participation in class, willingness to collaborate with others, commitment to assignments, and readiness to express oneself in English without fear of making mistakes.	積極的に参加し、他者と協力して学習に取り組む。 Actively participates and works cooperatively with others.	概ね積極的に参加している。 Generally participates actively.	一部参加しているが消極的な場面がある。 Participates partially but is sometimes passive.	参加が少ない。 Participates infrequently.	ほとんど参加しない。 Rarely participates.

科目名	実践英語Ⅱ			授業番号	LB105	サブタイトル			
教員	藤田　香織								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	これまで学んできた知識を総動員させ，「読む・聞く・書く・話す」を実践的に使う授業です。授業では積極的な態度が求められます。 私が授業内容をリードし，皆さんが作り上げていくスタイルです。時にはグループで活動し，他の方の優れた意見や発表・英語表現を取り入れ，最終的には個人で「読むスキル・書くスキル・話すスキル・聞くスキル」が高まったか評価致します。								
到達目標	話す、聞く、読む、書くことのためといった基本的な一般英語を理解し，使用できる。 ビジネスシーンで英語のスピーチやプレゼンができる。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	自己紹介，コース説明，グループ分け Lesson1　スピーチ・プレゼンテーションの基礎知識 レポート課題1：自己紹介文 文章作成を行う。その後グループで話し合い,リライトする。発音練習を行い,発表する。	
第2回	Lesson2　聞き手を引き付ける始め方 レポート課題2：好きな本の紹介文 文章作成を行う。その後グループで話し合い,リライトする。発音練習を行い,発表する。	
第3回	Lesson3　伝え方の王道「PREP法」 レポート課題3：体調を崩して休むことを担当教員に連絡する文 文章作成を行う。その後グループで話し合い,リライトする。発音練習を行い,発表する。	
第4回	Lesson4　共感を得るストーリーテリング レポート課題4：自分の失敗から学んだことの原稿 文章作成を行う。その後グループで話し合い,リライトする。発音練習を行い,発表する。	
第5回	Lesson4　共感を得るストーリーテリング レポート課題5：自分の失敗から学んだことプレゼンテーション Lesson5　伝わる話し方とジェスチャー 文章作成を行う。その後グループで話し合い,リライトする。発音練習を行い,ジェスチャーに意識して発表する。	
第6回	Lesson6　問題解決型プレゼンの構成 レポート課題6　問題解決とその効果について 原稿の文章作成を行う。その後グループで話し合い,リライトする。	
第7回	Lesson6　問題解決型プレゼンの構成 プレゼン準備日　写真やグラフの準備，発表文の修正，暗記する。	
第8回	Lesson6　問題解決型プレゼンの構成 プレゼンテーション1 プレゼン準備日　写真やグラフの準備，発表文の修正，暗記する。	
第9回	Lesson7　グラフの説明方法 レポート課題7：説明資料探し・グラフ説明の原稿作成①次回の授業で完成提出（個人発表準備）	
第10回	Lesson7　グラフの説明方法 レポート課題7：グラフ説明の原稿②完成提出（個人発表準備）	
第11回	Lesson7　グラフの説明方法 課題：グラフ説明の原稿プレゼン準備（個人発表準備）	
第12回	Lesson10　伝わるスライドの作り方 課題：パワーポイント資料作成	
第13回	Lesson10　伝わるスライドの作り方 課題：パワーポイント資料修正	
第14回	プレゼンテーション発表（準備） 調べ学習,原稿作成,翻訳,発音練習,暗記し準備する。	
第15回	プレゼンテーション発表 発表し,オーディエンスは評価する。良い点をシェアし,準備に取り入れる。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
レポート課題6回（各7点）	42	構成が取れているか，英文法・単語の正し・内容・表現力・量を評価しますが，一番には上達度を評価します。英文が多少間違っても自力で書いていて，他の方の意見を授業中に聞き取り入れて最終的に研鑽を積みレベルアップしていることが（他の方との比較の評価ではなく）評価の対象です。次の授業内で熟達英文の発表を行い，皆さんのレポートの評価をお返しします。毎回前回以上のレベルアップを目指してください。
グループプレゼンテーション	20	原稿10点（英文法・単語の正しさ・内容・表現力・量） 発表10点（声の大きさ・練習量・暗記・自然なジェスチャー・チームワーク） プレゼンテーションは学生同士が評価します。 次の授業内で熟達英文の発表を行い，皆さんのレポートの評価をお返しします。毎回前回以上のレベルアップを目指してください。
個人プレゼンテーション	38	原稿（英文法・単語の正しさ・内容・表現力・量） 発表（声の大きさ・練習量・暗記・自然なジェスチャー・チームワーク） プレゼンテーションは学生同士が評価します。 次の授業内で熟達英文の発表を行い，皆さんのレポートの評価をお返しします。毎回前回以上のレベルアップを目指してください。 この最終評価になる個人プレゼンテーションが一番評価が高くなっています。今まで学習したことの全てを盛り込み，インターネットを使って調べず，自力で行ってください。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この授業はプロジェクトベースでチームで分担してスピーチ原稿を作成し，プレゼン資料をパワーポイントで作成し，発表することが多い。 毎回チーム編成は行うが，遅刻・欠席することで他の学生の負担・迷惑が大変掛かります。（自分の行いが他の学生の成績に影響します。）体調をしっかり管理し，致し方ない欠席は事前に教員だけでなくグループ内に連絡してカーバーし合うようにして下さい。他の学生に迷惑をかけるようなグループプレゼンの発表時の欠席・準備の欠席は減点します。（やむを得ない発表当日の欠席が事前にわかる場合は，準備段階の担当になるようにしてください。（例：原稿作成・プレゼン資料作成・原稿の英文作成を担当する。） 自分の作成した原稿が氏名は伏せますがモデル原稿として使われる可能性があります。学生同士の英文の完成度を見せ合うことで刺激になり、新しい発想や表現をシェアし合うことでレベルアップします。他の人に自分の原稿が公表される可能性があることを了承したうえで，履修登録してください。原稿が見られたくない場合は教員に申し出ること。
授業外学修	英作文レポート作成・プレゼンテーション準備・発音練習・英文暗記等毎回3時間以上の準備が必要です。（テストがなく，実技が評価100%のレッスンであるため自宅学習の時間が非常に大事になります。）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
伝わるスピーチ＆プレゼンテーション	佐伯　卓哉	くろしお出版	978-4-87424-984-0	1980円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校講師（6年），塾講師（6年），英会話講師（1年），専門学校講師（2年），オーストラリアでの旅行業界コーディネーター（1年未満），他大学学習アドバイザー（2年），他大学講師（6年），他大学学習アドバイザー（2年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学習アドバイザー時にIELTSのライティング指導・英検ライティング指導を行った。塾講師の際には国公立大学2次試験のサポートとしてライティング指導を行いました。 モデル英文をふんだんに見せること，学生同士の熟達された英文に多く触れることでアイデアが湧き表現が豊かになります。間違いをしてもいいリラックスした雰囲気の中で，果敢にトライできる雰囲気づくりを行います。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	グループプレゼンテーションで他の学生の思考・工夫・英語力をシェアし刺激しあい，英作文・英語表現・発音レベルを高める。	10点 全員が高いチームワークを発揮し，しっかり聞こえる声の大きさ・堂々としたアイコンタクト・しっかりとしたスムーズな文章の暗記ができており・良い発音ができており，自然なジェスチャーがついている。	9点～8点 おおむねチームワークを発揮し，ある程度の声の大きさ・堂々としたアイコンタクト・十分な文章の暗記・発音練習ができており自然なジェスチャーがある。	7点～6点 チームワークを発揮し，声の大きさ・アイコンタクト・文章の暗記・発音練習を行っている。	5点～3点 チームワークを感じられず，声の大きさ・アイコンタクト・文章の暗記・発音練習が十分でない。	2点～1点 十分な発表がグループでできていない。
思考・問題解決能力	レポート提出 6回　各5点	5点 量も豊富。 今回のテーマ内容だけでなく既習の内容が身についている。 構成が取れている。 正しい英文で書かれている。 工夫（内容）・努力（調べている）が見られる。	4点 量は豊富。 今回のテーマ内容だけでなく既習の内容が身についている。構成が取れている。 おおむね正しい英文で書かれている。 工夫（内容）が見られる。	3点 量は十分（8割）。 今回のテーマ内容が身についている。 構成が取れている。 おおむね正しい英文で書かれている。	2点 量は半分。 今回のテーマ内容が使われている。 なんとか英文で書かれている。	1点 量は不十分。 今回のテーマは使われていない。
思考・問題解決能力	個人プレゼンテーション	原稿13点（量・テーマ・構成・内容・英文法や単語表現の正しさが十分である） パワーポイント5点（見やすさ・基準の以上の情報量・適切な内容・工夫がある） プレゼンテーション10点（声の大きさ・十分な暗唱・発音の流暢さ・アイコンタクト・自然なジェスチャーが十分である）	原稿12点～10点（量・テーマ・構成・内容・英文法や単語表現の正しさがある程度十分である） パワーポイント4点から3点（見やすさ・基準の以上の情報量・適切な内容・工夫がある程度ある） プレゼンテーション9点から8点（声の大きさ・十分な暗唱・発音の流暢さ・アイコンタクト・自然なジェスチャーが十分である）	原稿9点～6点（量・テーマ・構成・内容・英文法や単語表現の正しさがある程度ある） パワーポイント3点から2点（見やすさ・基準の以上の情報量・適切な内容・工夫がある） プレゼンテーション7点から5点（声の大きさ・十分な暗唱・発音の流暢さ・アイコンタクト・自然なジェスチャーがある）	原稿5点～3点（量・テーマ・構成・内容・英文法や単語表現の正しさが十分でない） パワーポイント1点（見やすさ・ある程度の情報量・適切な内容・工夫が足りない） プレゼンテーション4点から3点（声の大きさ・十分な暗唱・発音の流暢さ・アイコンタクト・自然なジェスチャーが少ない）	原稿2点～1点（量・テーマ・構成・内容・英文法や単語表現の正しさが十分でない） パワーポイント1点（見やすさ・ある程度の情報量・適切な内容・工夫が足りない） プレゼンテーション2点から1点（声の大きさ・十分な暗唱・発音の流暢さ・アイコンタクト・自然なジェスチャーが足りない）
技能	グループプレゼンテーションの原稿	10点 今回の学習テーマが盛り込まれている。 これまでの既習内容が使われている。構成が整っている。 正しい英文法・英単語・素晴らしい英語表現である。 内容が素晴らしい。 豊富な分量である。	9点～8点 今回の学習テーマが盛り込まれている。 これまでの既習内容が使われている。構成が整っている。 ミスがあるが英文法・英単語・素晴らしい英語表現である。 内容が素晴らしい。 十分な量を書いている。	7点～6点 今回の学習テーマが盛り込まれている。 これまでの既習内容が使われている。構成が整っている。 ミスがあるが英文法・英単語・英語表現をしっかり考えて書いている。 十分な量を書いている。	5点～3点 今回の学習テーマが盛り込まれている。 これまでの既習内容が使われている。 英文法・英単語・英語表現に多くのミスがある。 十分な量を書けていない。	2点～1点 今回の学習テーマが盛り込まれていない。 英文法・英単語・英語表現に多くのミスがある。 十分な量を書けていない。
態度	国際理解・異文化理解に対する積極的・意欲的な学習態度（発表など自分の意見が他の方と異なる・間違いを恐れない・失敗は大歓迎です）・姿勢（人の意見を受け入れる姿勢）・リーダーシップを個人・グループ発表や講義・レポートで評価します。	積極的な発表・自分の意見と自分の意見を比較しを述べる・人の意見をしっかり自分のものとして吸収する・真剣に全ての課題に取り組んでいる	発表をする・人の意見をしっかり自分のものとして吸収する・全ての課題に真剣に取り組んでいる	発表する・人の意見をしっかり吸収する・毎回課題に取り組んでいる	人の意見を聞く・数回の課題に取り組んでいる	授業に対して後ろ向きな態度・課題の提出がない。授業の課題についてこれていない。

科目名	数理・データサイエンス・AI			授業番号	LB201	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得するという政府発表の目標を掲げた。この講義では，プログラミング，データサイエンス（社会調査）・AI，データベース（表計算）などの様々な情報分野を学ぶ上で必要とされる基本的な数理的な考え方について学習する。								
到達目標	社会の中でのAIの役割を理解する. データの特徴を読み解き，データの中に潜む特徴を理解できる. データに応じた可視化の手法を選択し，適切に説明ができる. 代表値や統計的検定等の基本的な知識を用いることができる. スプレッドシートを用いてデータの適切な集計・分析をすることができる. なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	社会で起きている変化(1) 情報を使いこなす社会，IoTとは，ビッグデータ	
第2回	社会で起きている変化(2) 多変量解析の手法	
第3回	AI時代の到来(1) AIとは，AIを使いこなす，AI社会	
第4回	AI時代の到来(2) 機械学習の仕組み	
第5回	データを守るための留意事項 情報セキュリティとは，セキュリティの注意点，個人情報の管理	
第6回	データ活用と必要なスキル データと分析結果を対応づける，分析結果の利用，Excelの活用	
第7回	データの準備とデータのタイプ ネットでデータを探す，分析用データと分析結果データ，母集団と標本	
第8回	アンケートデータを要約しよう データの要約とは，Excelで要約，グラフでデータを視覚化する	
第9回	データを比較して仮説を考えよう(1) 質的データを比較する，仮説をもとう，ファインディングを伝える，仮説の検証	
第10回	データを比較して仮説を考えよう(2) 統計的仮説検定とは	
第11回	データを代表値で要約する 平均値を活用する，平均値の計算で分布も確認する，ヒストグラムを活用する	
第12回	量的変数をばらつきで要約する ばらつきを数値化する，売り上げデータを分析する，誤差を加味する	
第13回	平均と標準偏差を活用しよう 新しい変数を作る，異なる単位の変数を比較する，大きなずれに着目する，外れ値を活用する	
第14回	散布図を活用して関係性を分析する 人事評価データを分析する，散布図から似ている評価を特定する，相関分析を応用する	
第15回	データ分析を活用するために知っておきたいポイント データ分析結果を伝える，分析手法の全体像を知る，さらなる学習へ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
課題	30	課題は毎回出される．課題の解説をしながら、進めていく。
定期試験	30	試験により指導内容に関する到達度を評価する.
レポート		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積み重ねが重要なので復習を十分行い，分からないところは放置しておかないようにする。
授業外学修	毎週4時間以上，予習・復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめて学ぶ 数理・データサイエンス・AI	富士通ラーニングメディア	富士通ラーニングメディア	978-4-86775-081-0	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．代表値の概念を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	２．2変数間の相関の意味を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	３．仮説検定の概念を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	１．回帰分析を適用する場面を判断できる	十分判断できる	かなり判断できる	平均的に判断できる	部分的に判断できる	判断が不十分である
思考・問題解決能力	２．量的変数のばらつきを数値化する場面を判断できる	十分判断できる	かなり判断できる	平均的に判断できる	部分的に判断できる	判断が不十分である
思考・問題解決能力	３．解決のためのプロセスが見通せる	十分見通せる	かなり見通せる	平均的に見通せる	部分的に見通せる	見通しが不十分である
技能	１．社会調査に関する問題に向き合える	十分向き合える	かなり向き合える	基本的な形で向き合える	補助があれば向き合える	向き合えない
技能	２．国内の種々のデータを読み取る姿勢がある	十分ある	かなりある	基本的にある	部分的にある	姿勢が不十分である
技能	３．調査結果から今後すべきことを議論できる	十分議論できる	かなり議論できる	基本的な形で議論できる	補助があれば議論できる	議論できない

科目名	ファーストイヤーセミナーⅠ	授業番号	LC101	サブタイトル	（学問の方法）		
教員	佐々木　公之、片山　純子、稲垣　祐輔、佐々木　真帆美、小西　達也、藤田　香織、赫連　茹玉						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	導入ゼミIでは，大学生として最低限必要なアカデミックスキルズを身につける。高校と大学とでは，学生に課される課題が大きく異なる。例えば，多くの学生は，レポートを書いた経験が無いと思われるが，大学の大体の授業ではレポートを書くスキルが求められ，それに伴い資料の収集や，限られた時間で集めた資料を読むことが必須となる。しかも，それらを自主的に進めて行くことが求められる。そのため，本セミナーでは，主にレポート作成の課題をどう進めればよいのか，順序立てて指導していく。								
到達目標	本セミナーでは，大学生として必要な学ぶ姿勢や情報の活用など，大学での学修を充実したものとしていくための基礎作りを行う。大学生としての基礎を確実に習熟していくことが目標となる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	・『アカデミックスキルズ』を基本テキストにして，高校までの学びと大学での研究の違いについて学ぶ。 ・演習後半ではレポート作成に取り組み，レポートを実際に書くことで論文の書き方について学ぶ。 ・ビジネスに関する英文を読み暗唱を行う。								

回	概要	担当
第1回	本演習の目的や概要の説明 大学生の学び方を理解する。	全担当教員
第2回	アカデミックスキルズとは ビジネスに関する英文の暗唱	全担当教員
第3回	講義を聴いてノートを取るアカデミックスキルズとは ビジネスに関する英文の暗唱	全担当教員
第4回	情報収集の基礎－図書館とデーターベースの使い方 ビジネスに関する英文の暗唱	全担当教員
第5回	本を読むークリティカル・リーディングの手法 ビジネスに関する英文の暗唱	全担当教員
第6回	情報整理 ビジネスに関する英文の暗唱	全担当教員
第7回	研究成果の発表 ビジネスに関する英文の暗唱	全担当教員
第8回	プレゼンテーションのやり方 ビジネスに関する英文の暗唱	全担当教員
第9回	論文・レポートをまとめる ビジネスに関する英文の暗唱	全担当教員
第10回	書式の手引き ビジネスに関する英文の暗唱コンテスト	全担当教員
第11回	PBL（課題解決型学習）によるグループワーク 論理的思考力とチームビルディングを理解	全担当教員
第12回	PBL（課題解決型学習）によるグループワーク 論理的思考力とチームビルディングを理解	全担当教員
第13回	PBL（課題解決型学習）によるグループワーク 論理的思考力とチームビルディングを理解	全担当教員
第14回	PBL（課題解決型学習）によるグループワーク 論理的思考力とチームビルディングを理解	全担当教員
第15回	PBL（課題解決型学習）によるグループワークのまとめ プレゼンテーションとレポート作成	全担当教員
授業計画　備考2	・『アカデミックスキルズ』を輪読し理解を深める。 ・図書館オリエンテーション，借り出し時間を含む。 ・レポートの課題を設定する。 ・レポートは最終日に提出とプレゼンテーションをする。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	毎回の講義の取組態度を評価する。
レポート	40	課題意識，取組態度を評価する。口頭で解説して、フィードバックを行う。
小テスト		
定期試験		
その他	20	課題プレゼン発表をとおして，取組態度，理解度，表現力を評価する。

評価の方法：自由記載	・演習なので全員の積極的参加を求める。 ・英文の暗唱については授業外でもしっかり時間をかけて取り組むことを求める。 ・レポートについては自身が一番関心の高いテーマを選び自主的に取り組むことを求める。 ・レポートは最終日に提出とプレゼンテーションを求める。
受講の心得	課題は提出期限までに提出し，積極的に各授業に参加すること。
授業外学修	復習，課題，プレゼン準備等のために週当たり4時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・日経新聞を毎日読むこと ・英文の経済誌（紙）を読むこと https://www.nikkei.com/ https://www.ft.com/ https://www.economist.com/ https://www.wsj.com/
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	企業経営コンサルタント(佐々木公之)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校教員および企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．テキストの講読を通じて、アカデミック・スキルズの理解とブックレビューを行える。	テキストの講読を通じて、アカデミック・スキルズを十分に理解できており、ブックレビューも高く評価できる。	テキストの講読を通じて、アカデミック・スキルズを理解できているが、ブックレビューが不十分である。	アカデミック・スキルズの理解が不十分であり、ブックレビューの評価が低いものとなった。	テキスト講読を通じたアカデミック・スキルズの理解が不十分であり、ブックレビューの評価が低いものとなった。	テキスト講読をしたが、ブックレビューができていない。
技能	書籍を読むことで情報収集を行い理解してまとめる技能がある。	情報収集を行い理解してまとめる技能が大変優れている。	情報収集を行い理解してまとめる技能が優れている。	情報収集を行い理解してまとめる技能がある。	自ら情報収集を行い理解すること技能に努力を要する。	自ら情報収集を行い理解すること技能に努力を相当を要する。
態度	自らが考え自主的に、調査やレポート作成や課題に取り組む態度となっている。	自らが考え自主的に、調査やレポート作成や課題に取り組む態度である。	教員の指示により、調査やレポート作成や課題に取り組むことができる。	教員の指示を何度がすれば、調査やレポート作成や課題に取り組むことができる。	教員の指示を徹底すれば、ミスをするが調査やレポート作成や課題に取り組むことができる。	教員の指示でも、調査やレポート作成や課題に取り組むことができない。

科目名	ファーストイヤーセミナーⅡ			授業番号	LC102	サブタイトル	（学問の方法）		
教員	佐々木 公之、片山 純子、稲垣 祐輔、佐々木 真帆美、小西 達也、藤田 香織、赫連 茹玉								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	導入ゼミIIでは，導入ゼミIで学んだ知識を基礎として，実践的に資料収集やレポート執筆を行うことで，その際に生じる学生の質問に答えていく形式をとる。学生同士がお互いに助け合いながら協働的に課題に取り組むことで，学生間の対話の中から一人では気づかなかった観点や，問題への気づきを促す。								
到達目標	情報収集・情報整理の方法，文献の読み方，レポートの書き方，文献引用のしかた，剽窃防止などについて実践的に学び，大学生として必要なアカデミックスキルズを身につけることを目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	本演習の目的と概要 アクティブラーニングとPBLを理解	全担当教員
第2回	ＰＢＬの設定（現状と課題を理解） グループワークよる検討	全担当教員
第3回	調査方法の理解 定量分析と定性分析の理解	全担当教員
第4回	課題の明確化（調査分析）① グループワーク：課題設定の検討	全担当教員
第5回	課題の明確化（調査分析）② グループワーク：課題設定の検討	全担当教員
第6回	フィールドワーク調査① 調査方法を活かしたグループワーク	全担当教員
第7回	フィールドワーク調査② 調査方法を活かしたグループワーク	全担当教員
第8回	フィールドワーク調査③ 調査方法を活かしたグループワーク	全担当教員
第9回	フィールドワーク調査のまとめ① グループワークによる調査結果の検討	全担当教員
第10回	フィールドワーク調査のまとめ② グループワークによる調査結果の検討	全担当教員
第11回	フィールドワーク調査のまとめ③ スライド作成とプレゼンテーション方法の検討	全担当教員
第12回	PBL発表準備（英語と日本語）スピーチ練習① プレゼンテーション発表練習	全担当教員
第13回	PBL発表準備（英語と日本語）スピーチ練習② プレゼンテーション発表練習	全担当教員
第14回	PBL発表準備（英語と日本語）スピーチ練習③ プレゼンテーション発表練習	全担当教員
第15回	PBL発表準備（英語と日本語）スピーチ練習④ プレゼンテーション発表と総括	全担当教員
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	毎回の講義の取組態度を評価する。
レポート	40	課題について明確に理解し、具体的に回答していること。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
小テスト		
定期試験		
その他	20	課題プレゼン発表をとおして，取組態度，理解度，表現力を評価する。

評価の方法：自由記載	・演習への積極的参加を評価する。 ・レポートの内容とプレゼンテーションを評価する。
受講の心得	課題を提出期限までに提出し，積極的に授業に参加すること。調べてきた文献を討議することが求められるため，よく文献を読み込んでくることが求められる。レポートは書き直し作業が重要となるため，教員や学生からのフィードバックを活用して書き直すこと。
授業外学修	予習・復習，課題の作成等のために，週当たり4時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・日経新聞を毎日読むこと ・経済誌（紙）を毎日読むこと https://www.nikkei.com/ https://www.ft.com/ https://www.economist.com/ https://www.wsj.com/

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	企業経営コンサルタント(佐々木公之)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校教員および企業経営コンサルタントの経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	書籍を読むことやフィールドワークを行うことで、情報収集を行い理解してまとめる技能がある。	書籍を読むことやフィールドワークを行うことで、情報収集を行い理解してまとめる技能が大変優れている。	書籍を読むことやフィールドワークを行うことで、情報収集を行い理解してまとめる技能が優れている。	書籍を読むことやフィールドワークを行うことで、情報収集を行い理解してまとめる技能がある。	書籍を読むことやフィールドワークを行うことで、自ら情報収集を行い理解すること技能に努力を要する。	書籍を読むことやフィールドワークを行うことで、自ら情報収集を行い理解すること技能に努力を相当を要する。
思考・問題解決能力	PBL（課題設定解決型学習）で魅力的なプレゼンテーションを行えている。	グループで設定した課題に対して、調査、討論が十分に行われており、魅力的なプレゼンテーションを行えている。	グループで設定した課題に対して、調査、討論は十分に行われているが、魅力的なプレゼンテーションを行えていない。	グループで設定した課題に対して、調査、討論は十分に行われているが、プレゼンテーションを評価が低い。	グループで設定した課題に対して、調査、討論が十分に行われていないため、プレゼンテーションの評価は極めて低い。	課題に対する取り組みが十分に行われていない。プレゼンテーションができなかった。
技能	発表したPBLの成果を英語で表現することもできる。	英語での表現、プレゼンテーションが極めて優秀であった。	英語での表現、プレゼンテーションともに優秀であった。	英語での表現、プレゼンテーションは少し劣るが、伝えようとする意思は強い。	英語での表現、プレゼンテーションは全般的に劣っている。	英語での表現、プレゼンテーションができなかった。
態度	自らが考え自主的に、PBLやグループワーク、英語プレゼンテーションに取り組むことができる。	自らが考え自主的に、PBLやグループワーク、英語プレゼンテーションに取り組む態度である。	教員の指示により、PBLやグループワーク、英語プレゼンテーションに取り組むことができる。	教員の指示を何度がすれば、PBLやグループワーク、英語プレゼンテーションに取り組むことができる。	教員の指示を徹底すれば、PBLやグループワーク、英語プレゼンテーションに取り組むことができる。	教員の指示でも、PBLやグループワーク、英語プレゼンテーションに取り組むことができない。

科目名	経営学入門			授業番号	LC106	サブタイトル	経営学の基礎を学ぶ		
教員	宋　娘沃								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	企業はわたしたちの生活とどのように関わっているのか。企業は新製品を開発したり，製造したり，消費者に販売するため，さまざまな戦略を打ち立てたりしている。経営学とは人，モノ，金，情報が結びつけられ製品やサービスに変換される企業のことを学ぶ学問である。こうした製品やサービスを生み出すために企業の組織や戦略，人材，意思決定はどのように行われ，実践されているのか。今日わたくしたちの生活と密接に関わっている企業の仕組みや組織，戦略，雇用，人材の在り方を学ぶことが必要不可欠である。本講義は，前半では株式会社の仕組みや組織，管理システムに焦点をあてて学習する。後半では実際の企業の事例を取り上げ，企業とわたしたちの生活との関わりを明らかにする。								
到達目標	・経営学の基礎知識を習得することができる。 ・実際の企業の組織，管理システム，企業人材の仕組みを学習することによって，より深い専門知識が習得できる。 ・企業と私たちの生活との関わりを理解することによって，自主的学習能力を高めることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	経営学とは 経営学の歴史，テイラーシステム，生産管理，企業組織	
第2回	企業経営の全体像 顧客の創造，組織のマネジメント，経営資源，企業と社会の関係	
第3回	経営学の全体像（2） 営利追及，広義の経営学，狭義の経営学，学際性	
第4回	企業と会社 株式と株主，議決権，株主総会，取締役会，法人，日本初の株式会社	
第5回	企業と金融資本との関わり 間接金融資本，メインバンク，資金調達，証券取引所，クラウドファンディング	
第6回	企業と労働市場との関わり 採用管理，配置と異動，賃金と昇進，動機づけ，リーダーシップ	
第7回	企業の組織構造と職務設計 組織の仕組み，分業，役割り分担，権限，公式組織	
第8回	企業と製品・サービス市場との関わり 製品，市場競争，波及効果，経営戦略，全社レベル	
第9回	競争戦略のマネジメント 競争要因，新規参入，差別化，代替品の脅威，顧客	
第10回	競争戦略のマネジメント（2） 基本戦略，コスト・リーダーシップ，差別化，集中戦略，変動費，規模の経済	
第11回	多角化戦略のマネジメント（キャノンの事例） 多角化，M&A，戦略的提携，シナジー	
第12回	国際化のマネジメント 国境，多国籍企業，国際貿易，コミュニケーション，経営資源の移動	
第13回	企業組織のマネジメント 年俸制，成果主義，インセンティブ・システム，報酬，リーダーシップ	
第14回	ICT時代の企業組織と人材 人材の国際労働移動，アウトソーシング，人材流出，人材循環	
第15回	企業の社会的責任 SCR，企業倫理，社会市民，SDGs	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢や態度	20	授業への意欲，質問，出席を積極的に取り組んでいるかを評価する。
レポート	30	講義の中間時点で，主要なポイントやキーワードの理解度を評価する。レポートはコメントを加えて返却する。
定期試験	50	授業全体の理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・基本的には講義形式で行うが，必要に応じてレジュメや資料を適宜配布する。 ・関心ある企業や最新の企業活動の動向に関する新聞，雑誌などに目を通して講義に臨むこと。
授業外学修	・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み，疑問点をチェックすること。 ・授業で習った内容の小テストを行うので，必ず復習をする。 ・資料を配布するので，その内容のまとめを課題とする。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
1からの経営学　第3版	加護野忠男・吉村典久編	中央経済社	978-4-502-69610-7	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・片岡信之編著『アドバンスト経営学　理論と現実』中央経済社，2010年。 ・伊藤宗彦編著『1からのサービス経営』中央経済社，2010年。 ・上林憲雄 他編『経験から学ぶ経営学入門 第2版』有斐閣ブックス，2018年。
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．経営学入門の必要性を認識している	経営学入門の必要性をほぼ理解している。	企業の組織や仕組みをほぼ理解している	基本的に経営学を学ぶ意味を理解している。	経営学は理解できているが，具体的な知識が十分ではない。	経営学入門の科目を理解していない。
知識・理解	２．企業と社会の関わりについて理解している。	会社の仕組みや組織を十分に理解している。	洞察力を持って企業の仕組みやプロセスが把握できる。	会社の組織形態や構造を把握している。	具体的な企業形態や組織が理解できていない。	概念や言葉の意味が理解できていない。
知識・理解	３．経営学入門の内容の知識が修得できる。	経営学入門と経済学の違いを理解している。	企業形態の内容やいくつかの事例がまとめられる。	経営学の基礎知識が修得できている。	経営学の内容や企業の仕組みが理解できていない。	内容の理解や文章のまとめができていない。
技能	１．企業組織がどのように形成されているのかが把握できる。	企業組織のあるべき行動はどのようなものであるのかが理解できる。	企業組織の内容をほぼ理解している	企業組織のあり方についてほぼ理解している。	企業の組織構造に対してあまり理解できていない。	企業の組織構造に関してあまり興味を持っていない。
技能	２．企業の形態によって、責任や会社法の違いが理解できる	株式会社の社会的責任を確実に理解している。	会社形態の内容が把握できる。	会社法によって、責任所在が違うことが理解できている	会社法に内容についてあまり理解できていない。	企業形態や会社法についてほぼ理解していない。
技能	３．海外の企業の事例から日本企業の戦略が理解できる。	日本企業の問題点を自分で抽出し，まとめることができる。	日本企業の問題点をほぼ把握できる。	日本企業の海外事業活動の事例を十分に理解している。	日本企業や海外企業の事業活動を理解していない。	海外企業の経営活動が把握できていない。

科目名	会計学			授業番号	LC107	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	簿記会計の初学者を対象として，経済社会と組織における会計情報の役割と機能を説明する。そのために，まずは会計情報（財務諸表）がどのように作成されているかを理解する。 後期開講の「簿記入門」と本科目をセットで学修することにより，日商簿記検定3級の合格に必要な簿記会計に関する知識を身につけることが出来る。								
到達目標	後期開講の「簿記入門」と本科目をセットで学修することにより，日商簿記検定3級の合格に必要な簿記会計に関する知識を身につける。その結果として，経済社会や組織における会計情報の役割を説明できるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【会計情報の機能と役割】 会計情報の情報効果を理解する。	
第2回	【決算】 決算手続きの概要を理解する。	
第3回	【貸倒れと貸倒引当金】 決算における売上債権の会計処理方法を理解する。	
第4回	【減価償却】 有形固定資産の減価償却法について理解する。	
第5回	【法人税等】 法人税等の中間申告と確定申告の会計処理方法を理解する。	
第6回	【費用・収益の前払い・前受け・未払い・未収（1）】 費用の前払いと未払いの会計処理方法について理解する。	
第7回	【費用・収益の前払い・前受け・未払い・未収（2）】 収益の前受け・未収の会計処理方法について理解する。	
第8回	【訂正仕訳】 訂正仕訳の会計処理方法について理解する。	
第9回	【株式会社会計（1）】 株式会社の基本的な仕組みと株式について理解する。	
第10回	【株式会社会計（2）】 株式会社の株主総会と利益処分について理解する。	
第11回	【決算手続（1）】 試算表の作成と勘定の締め切りについて理解する。	
第12回	【決算手続（2）】 精算表について理解する。	
第13回	【決算手続（3）】 財務諸表について理解する。	
第14回	【伝票と証ひょう】 伝票と証ひょうによる会計処理方法について理解する。	
第15回	小テストと解答解説	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	100	小テストの点数 解答を発表して解説する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	前期開講の「簿記入門」とセットで受講することが望ましい。
授業外学修	予習・復習として週当たり4時間以上学修をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
合格テキスト日商簿記3級	TAC簿記検定講座編著	TAC出版		

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１.簿記会計の基礎知識を得られる	財務諸表が自分で読める	財務諸表を自分で作成できる	テキストを参照しながら財務諸表の作成ができる	財務諸表を作成できない	仕訳のルールを理解していない
思考・問題解決能力	会計情報を意思決定に活用できる	会計情報がもつ意味を数値の背景まで含めて理解している	会計情報の数値の意味を理解している	会計情報の数値がわかる	会計情報の数値の意味がわからない	仕訳のルールがわからない

科目名	簿記入門			授業番号	LC108	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	簿記を初めて学ぶ学生を対象に，企業が行う経済取引の会計処理方法（仕訳のルール）を説明する。 この科目と後期開講の「会計学入門」をセットで学修することにより，日商簿記検定3級の出題範囲に対応した簿記会計の知識を身につけることが出来る。								
到達目標	この科目を学修することにより，基本的な経済取引の仕組みと，それらの会計処理方法を理解できるようになる。 具体的には，日商簿記検定3級の合格に必要な仕訳に関する知識を身につけることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【簿記の基礎】 簿記会計の目的，役割を理解する。	
第2回	【商品売買】 三分法，掛取引，クレジット払いを理解する。	
第3回	【現金】 通貨代用証券，現金過不足を理解する。	
第4回	【預金】 普通預金，定期預金，当座預金，当座借越を理解する。	
第5回	【小口現金】 定額資金前渡制度（インプレスト・システム）を理解する。	
第6回	【手形と電子記録債権（債務）】 手形および電子記録債権（債務）の仕組みを理解する。	
第7回	【金銭貸借】 貸付金，借入金，手形貸付金，手形借入金を理解する。	
第8回	小テスト（1） これまでの学修内容の確認と解答解説	
第9回	【その他の債権債務（1）】 商品売買以外の財・サービス取引に関する債権債務を理解する。	
第10回	【その他の債権債務（2）】 福利厚生など従業員との債権債務を理解する。	
第11回	【その他の費用】 費用処理できる税金の会計処理を理解する。	
第12回	【有形固定資産】 有形固定資産の購入に関する会計処理を理解する。	
第13回	【消費税】 消費税の会計処理（税抜き方式）を理解する。	
第14回	【帳簿組織】 会計帳簿の体系について理解する。	
第15回	小テスト（1） これまでの学修内容の確認と解答解説	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト：50点×2回	100	小テストの点数 解答を発表して解説する。
評価の方法：自由記載		
受講の心得	後期開講の「会計学入門」とセットで受講することが望ましい。	
授業外学修	予習・復習として週当たり4時間以上学修をすること。	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
合格テキスト日商簿記3級	TAC簿記検定講座編著	TAC出版		
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．企業活動と会計の関係を理解している	企業活動における会計の重要性を十分に理解している	企業活動における会計の重要性を理解している	企業活動における会計の重要性をある程度理解している	企業活動における会計の重要性を十分に理解していない	企業活動における会計の重要性を理解していない
知識・理解	２．取引を理解している	あらゆる場面で簿記上の取引であるか否かを十分に判断できる	あらゆる場面で簿記上の取引であるか否かを判断できる	基本的な場面で簿記上の取引であるか否かを判断できる	基本的な場面で簿記上の取引であるか否かを十分に判断できない	基本的な場面で簿記上の取引であるか否かを判断できない
知識・理解	３．勘定科目の意味を理解している	日常的に使用される勘定科目の意味を十分に理解している	日常的に使用される勘定科目の意味を理解している	基本的な勘定科目の意味を理解している	基本的な勘定科目の意味を十分に理解していない	基本的な勘定科目の意味を理解していない
技能	１．勘定科目ごとに貸方・借方に分けることができる	日常的に使用される勘定科目を貸方・借方に分けることが十分にできる	日常的に使用される勘定科目を貸方・借方に分けることができる	基本的な勘定科目を貸方・借方に分けることができる	基本的な勘定科目を貸方・借方に分けることが十分にできない	基本的な勘定科目を貸方・借方に分けることができない
技能	２．仕訳をすることができる	日常的な取引は十分に仕分ができる	日常的な取引は仕分ができる	基本的な取引は仕訳ができる	基本的な取引の仕訳が十分にできない	基本的な取引の仕訳ができない

科目名	観光総論			授業番号	LC109	サブタイトル			
教員	田村　秀昭								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	現在，日本における観光の重要性が高まっている。日本政府は観光政策を重視し，また地方の少子高齢化に伴って，観光産業を活用した地域活性化の取り組みが様々な地域で実践されている。こうした状況を踏まえ，本講義では観光に関する諸現象を理解するために，観光の歴史や観光産業の現状，政府や地域の取り組みなど観光学に関する包括的な内容について講義する。								
到達目標	観光に関する包括的な知識を理解し，それを社会の動向に関連付けて考察することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	観光の基礎（1）：観光とは何か 観光の定義や概念について整理し，観光に関する考え方を理解する。	
第2回	観光の基礎（2）：観光の歴史 世界や日本における観光の起源や歴史，特に第２次世界大戦以降の観光の変化を理解する。	
第3回	観光の基礎（3）：観光行動と旅行者 観光の消費者である旅行者の行動や，動機について理解する。	
第4回	観光の基礎（4）：観光産業と統計 観光の生産者である観光産業の概要を把握し，統計を通じて観光の経済的側面を理解する。	
第5回	観光産業の現状（1）：旅行産業 主要な観光産業である旅行産業の概要や現在の状況について理解する。	
第6回	観光産業の現状（2）：宿泊産業 宿泊産業の意義や変化，特徴的な宿泊産業の事例について理解する。	
第7回	観光産業の現状（3）：交通産業 交通産業の中でも鉄道産業や航空産業の特徴や経営上の工夫について理解する。	
第8回	観光産業の現状（4）：博物館とテーマパーク 博物館やテーマパークの現状について，具体的な事例を通じて理解する。	
第9回	観光産業の現状（5）：観光経営と観光商品 観光経営の全般的な特徴を整理し，遺産の商品化について考える。	
第10回	日本の観光政策（1）：観光立国と国際観光 日本政府が実施する観光政策について，特に国際観光の視点から理解する。	
第11回	日本の観光施策（2）：地域観光とまちづくり 日本や地方地自体が実施する観光政策について，まちづくりという観点から理解する。	
第12回	観光地の現状と課題（1）：マスツーリズム時代の観光地-温泉とスキー- かつては盛んであった温泉やスキーの変化を理解し，これらの観光地における課題を考える。	
第13回	観光地の現状と課題（2）：持続可能な観光-エコツーリズムと歴史的町並み観光- 持続可能な観光の概念を理解し，エコツーリズムや歴史的町並み観光の意義について考える。	
第14回	観光地の現状と課題（3）：ニューツーリズムの台頭-コンテンツツーリズムとフードツーリズム- 現代に特徴的な観光として，コンテンツツーリズムやフードツーリズムの現状や課題を考える。	
第15回	観光の展望：今後の観光について 講義のまとめとして，日本における観光の現状を整理し，観光の将来について考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	40	講義で取り上げた内容について，その背景と実社会との関連について具体的に考察していること。課題については次回の講義において講評する。
小テスト		
定期試験	60	各回の講義の内容に関する理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	講義で配付する資料の他，担当教員が口頭で説明する内容をメモすること。
授業外学修	・事前学修：講義の最後に提示する，次回講義のキーワードについて調べておくこと（なお，第1回の事前学修については「観光」の定義について調べておくこと）。 ・事後学修：講義で配付するプリントを読み返すとともに，講義で紹介する参考文献を読んで発展的な学修をしておくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回の講義でプリントを配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	参考書については，講義中に適宜指示する。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．観光の概念について理解できている	観光に関する基本的な概念に加え，その変化や社会との関連性についても理解できている。	観光に関する基本的な概念に加え，観光の定義には様々な考え方があることが理解できている。	観光に関する基本的な概念を理解している。	観光に関する基本的な概念の理解にが十分でない。	観光に関する基本的な概念の理解が全くできていない。
知識・理解	２．観光産業の現状について理解できている	観光産業の現状に加え，その社会的・歴史的背景やについても理解できている。	観光産業の現状に加え，それが社会的な変化と関連していることも理解できている。	観光産業の現状を理解できている。	観光産業の現状を十分に理解できていない。	観光産業の現状を全く理解できていない。
知識・理解	３．日本における観光政策の意義について理解できている	日本における観光政策の意義について，観光の歴史的背景を踏まえて理解できている。	日本における観光政策の意義について，観光の歴史と関連していることも含めて理解できている。	日本における観光政策の意義を理解できている。	日本における観光政策の意義を十分に理解できていない。	日本における観光政策の意義を全く理解できていない。
知識・理解	４．日本における観光地の現状や課題について理解できている	日本における観光地の現状や課題について，観光や社会的背景を踏まえて理解できている。	日本における観光地の現状や課題について，日本の歴史と関連付けて理解できている。	日本における観光地の現状や課題について理解できている。	日本における観光地の現状や課題について十分に理解できていない。	日本における観光地の現状や課題について全く理解できていない。
思考・問題解決能力	１．日本における観光の現状に対して社会の動向に関連付けて考察できている	講義で得た知識を踏まえ，日本における観光の現状に対して社会の動向に関連付けて考察できている。	日本における観光の現状に対して社会の動向に関連付けて考察できているが，講義で得た知識と関連付けられていない。	日本における観光の現状に対して自分なりの考察ができている。	日本における観光の現状に対して考察が十分でない。	日本における観光の現状に対して考察が全くできていない。

科目名	観光実務			授業番号	LC110	サブタイトル	観光・旅行業界の世界を覗いてみよう。どのような能力が必要か見極めよう。		
教員	田村　秀昭								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	現在，世界において観光産業が重視されている。観光産業は旅行業が核となり発展してきたが，国の政策や地域産業において観光との協働・共創が求められることで，直接観光に関わらない産業においても観光に関する知識の理解が必要とされている。また、観光立国推進法の基本理念に基づき、地域の創生事業としての意義を考えた時には行政においても理解と活用をすべき業界ともなっている。こうした状況を踏まえ，本講義では観光に関する実務的な知識として旅行業に関する法律を含め、観光地理、日本・世界遺産などの意義や観光への寄与、観光に携わる人材育成に資する実践的な講義をする。ワークショップやプレゼンテーションなどによりグループワークの進め方などの力もつけていただきたい。								
到達目標	観光・旅行業の実態を知り、その影響を受ける多岐にわたる産業の事例を学ぶことで、社会人として活躍する中で、 この講義が学生の皆さんにとって必要不可欠な授業であったことを想起していただけるものと考える。 なお、講義の中で旅行業務取扱管理者、インバウンド実務主任者、イベント管理士などの業界において必須の資格・認定試験なども紹介してゆくので選挙区的に挑戦して欲しい。 さらに、講義の中でワークショップやプレゼンテーションの機会を数多く持ちますので、社会人への道のりとして能力開発に努めて欲しいと思います。 また、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス：観光実務　旅行、観光とは 旅とは旅行とは。また、観光の定義などを確認し、観光ビジネスの現状を確認します。 旅行業発祥の会社についての考察や、旅行の持つ力などについても理解していただきます。	
第2回	観光・旅行の様々な形態について学習します。旅行業の仕事を学び、旅行業者が扱う「旅行」の形態について考察します。 修学旅行や新婚旅行等、身近な旅行について考えてみましょう。また、海外旅行に行くとした場合に、係る仕事についても考えてみましょう。	
第3回	観光地の特徴と類型 観光資源とは何か。観光地の特徴としてとらえる時に人は何を目的として旅行をするのか。 また、その目的が叶えられる特徴が観光で街づくりをすることに繋がることも考察しましょう。	
第4回	新しい観光の形 マスツーリズムからニューツーリズムへの変遷、そしてニューツーリズムとは。 エコツーリズムやヘルスツーリズムなど多岐にわたる「ツーリズム」について考察します。	
第5回	売れる旅行商品とは 旅行商品とは何か。旅行業とはそもそも何か。その根幹をなす旅行業法についても考察します。 旅行商品の構成、素材についても研究します。	
第6回	旅行商品の定義と特徴 旅行業の種類、旅行業の役割を確認し、その顧客についても考察します。	
第7回	旅行商品の販売 旅行商品を販売するという事。その管理をする旅行業務取扱管理者について、その契約に欠かせない旅行業約款について考察します。 また、旅行販売の最前線である、店頭販売社員、営業社員の仕事を考え、実際にロールプレイングで実務を体験してみましょう。	
第8回	観光資源としての世界遺産 世界遺産とは、そして日本遺産との違いは何か。 観光地理も含めて世界遺産の全体像も見てみましょう。	
第9回	世界のリゾートビジネス ヨーロッパのリゾートの形成の歴史とホテルとの関係などを考察。 また、その旅行を大衆に届けた人物、その会社の果たした役割について学びます。 ハワイが世界最強のリゾートとして人気を誇る理由と歴史を学び、太平洋の島々やアジアのリゾートの成立についても学びます。	
第10回	リゾートツアー商品開発 卒業旅行いついて考察し、自分自身の卒業旅行を考えてみましょう。 旅行中に誰のお世話になるのか、誰が介在しているのか。 あなた自身が旅行をすると想定して創造しましょう。	
第11回	瀬戸内のリゾートツアー タイトル、キャッチコピー、ストーリーをいかに創るか。 リゾートビジネスには何が必要なのか、考察します。 また、世界に誇る日本で最初の国立公園のひとつ「瀬戸内海国立公園」の活用事例のヒントも考えていただきます。	
第12回	ツアープレゼンテーション リゾートビジネス、そして瀬戸内海のリゾートツアーを学びましたが、 そのいずれかを選択して、ツアーを創ったものをプレゼンテーションを全員にしていただきます。 学生の皆さんが創ったツアーのタイトル、キャッチ、ストーリーを交えた売れる商品を発表していただきます。 学生の皆さんにも評価に参加していただき、積極的に質疑応答してください。	
第13回	第一次産業が資源となる旅行商品 農林水産省が推進している「農泊」はインバウンド客が地方分散するに最も効果的な商品となるという事で全国で拡がっています。 その実践事例を考察し、地方創生との関連を見出すことで観光業が多くの産業との連携、協働が必要になっているということを理解していただきます。	
第14回	観光実務のまとめ①	
第15回	観光実務のまとめ②	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	出席し、積極的に授業に参画し、メモを取ること。 リアクションペーパーに講義中理解できなかった、また質問したかったができなかったことや感想などをしっかりと記入すること。 リアクションペーパーの内容については次の講義で皆さんにご紹介し、回答すべきことをお伝えします。
小テスト	10（5×2）	観光地理及び旅行業法の2回
旅行企画（瀬戸内またはリゾート）	10	タイトル、キャッチコピー、ストーリーがきちんと旅行内容と合致しているか。 また、PPTが正確に5枚以内でまとめられているか。
プレゼンテーション	10	発表5分以内、質疑応答3分以内でまとめること。発表態度や声の大きさや、そのストーリーをしっかりと伝える姿勢を評価します。

定期試験	40	試験には配布した資料と自筆のノートは持込可とする。 本講義では教科書がないので、授業内でお伝えしたこと、議論したこと、配布した資料の内容などをテストの出題範囲とします。 出席してノートをとり、議論に参加すること。そして、しっかりと復習し、ノートの整理をしておかないと持込可としても評価できないことになりますので気を付けて下さい。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	講義では教科書の指定をいたしません。よって、講義で配付する資料、説明で使うPPTなど，口頭で説明した内容についてメモを取ることが大切です。 まず出席すること、発表、議論、メモをする、纏めるといった基本的な授業への姿勢が受講の心得です。 講義中に記録した内容を必ずノートに整理し、復習をすること。大切なワードは覚えたうえで説明ができるようにしておきましょう。 また、サービス産業の実務を学ぶ場ですから、講義の前後には全員が起立して互いに礼をするという礼儀を守っていただきます。 観光産業は人を幸せにする、笑顔あふれる世界だと認識しています。そのような学びの場にしたいと思いますのでご協力をお願いします。
授業外学修	・事前学修：シラバスを確認し，次回講義の内容について調べておくこと（なお，第1回の事前学修については「観光産業に必要な知識や技能」について調べておくこと）。 ・事後学修：講義で配付するプリントを読み返すとともに，講義で紹介する発展的な学修に取り組むこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回の講義でプリントを配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
旅行業務入門	JTB総合研修所	JTB総合研修所	05500321	

参考書：自由記載	参考書については，講義中に適宜指示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	1983年日本交通公社（現JTB）入社。福山支店配属以来、広島、岡山、大阪の支店や管理部に所属。業務内容としては店頭販売から渉外営業、営業管理、企画、事業開発などを経験。 教育旅行課長、海外旅行課長、営業統括課長、コンベンション事業局長、交流事業開発室長、エグゼクティブプロデューサー、営業担当部長などを歴任。 2020年2月退職まで営業最前線、特に教育旅行は専門性高く務めた。その実績を評価され、岡山県教育庁の留学コーディネーターの役割をいただき、岡山県立高校と海外の高校の姉妹校を締結する業務を任されたことで、特に台湾の教育関係者や企業オーナーなどとの人脈構築ができた。 公職としては中国経済産業局、中国運輸局、中国四国農政局の審査委員やアドバイザーとして歴任し、2019年には中国運輸局観光功労者局長表彰を受章。 2020年から4年間は岡山県美作市議会議員を一期務め、産業建設委員長、文教厚生委員長、政治倫理審査会長などを歴任し退任。 現在は観光開発プロデューサー、農村プロデューサー（農水省認定）として、地方創生事業としての「農泊」事業や6次産業化事業、インバウンド事業などのコンサル業務を実施している。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	経済がいきものと言われるように、観光産業もその経済活動の中で生かされている産業だと思います。日々「数値」が変動し、期待される水準は日々上昇傾向にあります。一定の教科書では時代遅れの内容を学生たちにお伝えすることになりますので、教科書は無しで、私が経験してきた現場の話。そして、それを基盤とした未来予測を一緒に考えていきたいと思います。毎日1ドルは日本円でいくらなのか、今日はこのホテルはいくらで泊まれるのかなど、刻々と変化してゆく数字の謎解きも楽しいものです。実務を経験したからこその裏情報なども披露したいと思います。観光・旅行というのは楽しくて当たり前のこと。仕事も学びも楽しくなくては良い結果は出せません。楽しい授業となるように皆さんの協力が必要です。積極的に参画してください。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	観光の意義、産業的な立ち位置を理解するという基本的な知識を習得し、それをプレゼンテーションや作文において表現できる。	観光の意義、産業的な立ち位置を理解し、重要な用語の説明が口頭でできる。 実務を学ぶにワークショップなどへは積極的に参加し、その意味を深く理解する。 課題などで、専門用語を駆使して文章を書くことができる。	観光の意義、産業的な立ち位置を理解し、重要な用語の説明が口頭や文章でも十分表現ができる。 実務を学ぶにワークショップなどへは積極的に参加し、その意味を深く理解している。	観光の意義、産業的な立ち位置は理解し、重要な用語などの説明が口頭や文章である程度は表現できる。 実務を学ぶにワークショップなどへは積極的に参加し、その意味を深く理解する努力はしている。	観光の意義、産業的な立ち位置は理解しているが、重要な用語などの説明が口頭ではなかなか難しいが文章である程度は表現できる。 実務を学ぶにワークショップなどへは参加しているが、その意味を深く理解するには厳しい。	観光の意義、産業的な立ち位置を理解できず、重要な用語の説明ができない。 実務を学ぶにワークショップなどへは参加も積極的でなく、その意味を理解するには厳しい。

思考・問題解決能力	地方創生政策が広がる中で、観光が交流人口拡大の基本産業として認知されるようになった。各自治体が誘客、特にインバウンド誘致策などに奔走しているが、果たして観光の意義を理解して進ん営るのか。オーバーツーリズムなどのマイナス面が表面化することで、観光の価値や意味も問われるようになっている。観光客、観光事業者、地域住民・地方自治体の3者が喜ぶ、得をすることが達成しない限り歪な施策となる。このような内容を理解することを含めた中で実務を理解し、「三方良し」の観光実務を実践できるような思考、問題解決能力を育んで欲しい。実務は「観光事業者」の立場で実施する内容ではあるが、このような意識をもって講義を進めてゆきます。	「三方良し」を理解し、観光を地域のために発展させる意識を持ち、地域社会の課題を観光で解決できるような商品開発思考、その商品を広く認知していただけるようなプレゼンテーション能力を身につける。講義中においては疑問に持ったことは即座に質問し、その場で納得できるように努めること。議論に積極的に参画すること。一定の成果をだせるよう努力し、結果に対して反省ができること。	「三方良し」を理解し、観光を地域のために発展させる意識を持ち、地域社会の課題を観光で解決できるような商品開発思考、その商品を広く認知していただけるようなプレゼンテーション能力を身につける。講義中においては疑問に思っても解決に至らないが、リアクションペーパーで質問や意見をぶつけることができ、結果として理解できる。	「三方良し」を理解し、観光を地域のために発展させる意識を持ち、地域社会の課題を観光で解決できるような商品開発思考、その商品を広く認知していただけるようなプレゼンテーション能力を身につける。講義中においてはなかなか参画するまでの積極性が発露できず、疑問に思ったことも理解できずにいることが多い。しかし、ノートを整理する際に再度確認して結果的にその意味を理解することができる。	「三方良し」を理解し、観光を地域のために発展させる意識を持ち、地域社会の課題を観光で解決できるような商品開発思考、その商品を広く認知していただけるようなプレゼンテーション能力を身につける努力はしているが、講義の内容を理解できないままに進めることが多い。	「三方良し」の意味そのものを理解しようとしない。できない。
技能	旅行実務としては接客対応能力などが基本的に求められる。礼儀、挨拶、説明能力能力など。礼儀、挨拶は毎授業時の始まりと終わりの際の互礼で修得していただきます。また、旅行企画、PPTを作成しプレゼンテーションをすることも求められます。ワークショップやグループ討議などでその能力開発を期待します。旅行企画のためには観光地理、とりわけ日本遺産や世界遺産などの知識、旅行業法・約款の知識も求められることから幾度かの小テストは実施します。これらを通して旅行実務を習得していただきます。	礼儀、挨拶については正しい姿勢、適度な声でお互いに挨拶できる。 旅行企画は海外旅行の行程も作成し、それをパンフレットに見立てたPPTを作成、プレゼンテーションができるようになる。 観光地理や旅行業法・約款についての知識を習得するため、幾度かの小テストでマスターする。	礼儀、挨拶については正しい姿勢、適度な声でお互いに挨拶できる。 旅行企画は国内旅行の行程も作成し、それをパンフレットに見立てたPPTを作成、プレゼンテーションができるようになる。 観光地理や旅行業法・約款については小テストで70%以上の得点をあげる。	礼儀、挨拶については正しい姿勢、適度な声でお互いに挨拶できる。 旅行企画は国内旅行の行程も作成し、それをパンフレットに見立てたPPTを作成できるようになる。 観光地理や旅行業法・約款については小テストで６0%以上の得点をあげる。	礼儀、挨拶については正しい姿勢、適度な声でお互いに挨拶できる。 旅行企画は国内旅行の行程は作成できるがPPTへの落とし込みが難しい。 観光地理や旅行業法・約款については小テストで50%程度しか得点できない。	礼儀、挨拶がなかなか身につかず、声も小さい。 旅行企画は助力を得て何とか作成できる。 観光地理や旅行業法・約款については小テストで50%も得点できない。
態度	観光に興味を持ち、観光産業の意義などへの理解をしようとする姿勢がある。 遅刻・早退がなく出席し積極的に授業に参画し、質問に対して正確に即答する姿勢を見せる。 教科書がない講義である以上は正確にノートをとり、疑問点はその日のうちに質問をして理解する姿勢を保つ。 指定した課題は期日までに提出、またはプレゼンテーションなどで表現すること。 ワークショップなどでは積極的にその議論などのリーダーとなり振興に寄与している。	まず、遅刻・早退がなく出席し積極的に授業に参画し、質問に対して正確に即答する姿勢を見せる。 教科書がない講義である以上は正確にノートをとり、疑問点はその日のうちに質問をして理解する姿勢を保つ。 指定した課題は期日までに提出、またはプレゼンテーションなどで表現すること。 ワークショップなどでは積極的にその議論などのリーダーとなり振興に寄与している。	まず、遅刻・早退がなく出席し積極的に授業に参画し、質問に対して正確に即答する姿勢を見せる。 教科書がない講義である以上は正確にノートをとり、疑問点はその日のうちに質問をして理解する姿勢を保つ。 指定した課題は期日までに提出、またはプレゼンテーションなどで表現すること。 ワークショップなどでは積極的にその議論などへ参加して結論を導く努力をする。	まず、遅刻・早退がなく出席し積極的に授業に参画し、質問に対して正確に即答する姿勢を見せる。 教科書がない講義である以上は正確にノートをとり、疑問点はその日のうちに質問をして理解する姿勢を保つ。 指定した課題は期日までに提出するが、プレゼンテーションなどで表現する内容は十分ではないが努力はする。 ワークショップなどでは積極的にその議論などへ参加して結論を導く努力をする。	出席するが積極的にに授業に参画はしない。質問に対しても回答する姿勢の努力が見られない。 ノートのとり方が不十分で、疑問点も理解に及ぶ努力がない。 指定した課題は期日までに提出するが、プレゼンテーションなどで表現する内容は十分ではないが努力はする。 ワークショップなどでは消極的で、議論へ参加する姿勢も不足している。	遅刻・早退が散見され、講義中もノートをとらず、参画の意志も疎い。 課題の提出も中途半端な内容で、積極的な発表もしない。 ワークショップにおいても発言はなく、参画の姿勢がない。

科目名	日本の伝統文化			授業番号	LC116	サブタイトル			
教員	土師　範子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	日本の伝統文化の中でも主に伝統楽器について講義する。 そして，実際に伝統楽器に触れ，技法に挑戦することを通して，伝統文化を体験する。 さらに，日本の伝統文化にまつわる学術的視点をふまえつつ，それぞれの体験をもとにして考察した内容を発表する。同時に，様々な発表内容を共有する。								
到達目標	1　日本の伝統文化の様相を知り，その多様さについて理解ができるようになる。 2　個々の文化財に対して主体的に情報を収集整理し，経験をふまえて考察ができるようになる。 3　日本の伝統文化の一端について，説明ができるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	日本の伝統文化 日本の伝統文化とは，について理解する	
第2回	日本の伝統行事 日本の伝統行事について理解する	
第3回	日本の伝統音楽 日本の伝統音楽について理解する	
第4回	日本の伝統楽器と鑑賞１ 日本の伝統楽器である和太鼓の演奏を鑑賞する	
第5回	日本の伝統楽器と鑑賞２ 和太鼓演奏の鑑賞を行うとともに，鑑賞の魅力・態度について考察する	
第6回	日本の伝統楽器１ 日本の伝統楽器の構造や，歴史的背景・意義について理解する	
第7回	日本の伝統楽器２ 日本の伝統楽器である和太鼓の取扱い方法を学ぶ	
第8回	日本の伝統楽器２ 日本の伝統楽器である和太鼓の演奏方法を学ぶ	
第9回	日本の有形文化財１ 日本の生活に根付いてきた文化財について理解する	
第10回	日本の有形文化財２ 日本の建造物の構造や背景について理解する	
第11回	日本の伝統楽器と現代の融合１ 日本の伝統楽器を用いた発表内容を模索する	
第12回	日本の伝統楽器と現代の融合２ 日本の伝統楽器を用いた発表を行う	
第13回	課題発表１ 日本の伝統文化から関心のあるものを選択し，先行研究の成果を踏まえたうえで現地調査を行う。	
第14回	課題発表２ 現地調査を行い，まとめたものを発表する	
第15回	課題発表３ それぞれが発表した文化財の情報を共有するし，理解を深める	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，講義後のコメントペーパーへの記入内容によって評価する。
レポート	30	レポートについては，学修内容の要点を理解し，整理して記述できているかを評価する。 レポートはコメントを記入または，授業内で口述でし返却する。
実践・課題発表	40	発表にむけて意欲的に取り組んでいる。他者の発表に対して自分なりの考えを述べることができる。

評価の方法：自由記載	追・再試有り
受講の心得	講義内容の理解と同時に，授業外学修も重要視している。 学外においても，伝統文化を探究するために実際に行動を起こす積極性が必要である。
授業外学修	1　予習として，日本の伝統文化についてアンテナを張り、街歩きをする。 2　復習として，レポートや課題に取り組む。 3　課題発表の準備として，相応の施設等を訪問して情報収集し，発表資料を用意し、発表要点をまとめる。 以上の内容を，平均して週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介・配布する
その他	
備考	令和8年度改訂

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．日本の伝統文化についての知識を身に付けている。	学修した日本の伝統文化に関する知識について，正確に適切な言葉で表現することができる。	学修した日本の伝統文化に関する知識について，具体的な言葉で表現することができる。	学修した日本の伝統文化に関する知識について，大まかに表現することができる。	学修した日本の伝統文化に関する知識について，正確に述べることができないが，自分なりに表現しようとしている。	学修した日本の伝統文化に関する知識について，全く表現することができない。
知識・理解	２．日本の伝統文化の多様さについて理解ができるようになる。	日本の伝統文化は多様であり、伝統文化に携わることは未来を創造する営みでもあることをイメージすることができる。	日本の伝統文化について、多様な領域で様々に人間と自然が絡み合ってきたことをイメージすることができる。	日本文化と表象されるものを二つ以上はイメージすることができる。	日本文化と表象されるものを一つはイメージすることができる。	日本の伝統文化の多様さについて、全く言及がない。
思考・問題解決能力	問いを立てて調査し，調査内容をレポートや発表資料として作成することができる。	レポートや発表資料作成のための調査を行い，わかりやすくまとめた資料を作成することができる。	レポートや発表資料作成のための調査を行い，必要最低限の情報量の資料を作成することができる。	レポートや発表資料作成のための調査を行い，調査内容の情報を提示することができる。	レポートや発表資料作成のための調査を行っていない。	レポートや発表資料を作成していない。または提出していない。
技能	和楽器の演奏技術を学ぶことができている。	和楽器の扱い方など積極的に学び，演奏技術を高める努力をしている。	和楽器の扱い方などを学び，演奏技術を高めようとしている。	和楽器の扱い方などを知ろうとし，演奏に親しんでいる。	和楽器について関心が薄く，演奏技術の向上に消極的である。	和楽器に興味関心を示さず，演奏しない。
態度	１．コメントシートに取り組む。	コメントシートに講義の内容を踏まえたうえでの疑問や課題が記入されている。	コメントシートに講義内容を理解したコメントが記入されている。	コメントシートに講義内容に則したコメントが記入されている。	コメントシートに講義への理解が不十分なコメントが記入されている。	コメントシートを記入していない。または提出していない。
態度	２．取り組んだ課題の発表	取り組んだ課題をわかりやすく発表し、テーマに沿ったデスカッションをすることができる。	取り組んだ課題をわかりやすく発表し、質疑に応答することができる。	取り組んだ課題を発表し、質疑に応答することができる。	取り組んだ課題を発表したが、質疑に応答することができない。	課題発表をしていない。

科目名	日本の食文化			授業番号	LC117	サブタイトル			
教員	小築　康弘								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	近年、「和食」はユネスコ無形文化遺産に登録されるなど、国際的な注目を集めている。グローバル社会を生き抜くためには、自国の文化への理解は不可欠である。 本講義では、日本の食文化の歴史、特徴、そして現代における課題について、多角的な視点から学ぶ。単に料理の紹介にとどまらず、食文化と社会、環境、経済、技術などとの関わりを考察することで、日本の文化への深い理解と国際的な視野を養う。								
到達目標	・外国人に対して、日本食についての自分なりのイメージを伝えることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	作法に息づく「和のこころ」を知る(1) 「いただきます」「おかわり」 挨拶について考える。	
第2回	作法に息づく「和のこころ」を知る(2) 「箸」について考える。	
第3回	日本食を形づくる「匠の技」を学ぶ(1) 「米」「巻物料理」について考える。	
第4回	日本食を形づくる「匠の技」を学ぶ(2) いわゆる「おかず」について考える。	
第5回	日本食を形づくる「匠の技」を学ぶ(3) 「ラーメン」について考える。	
第6回	日本食を形づくる「匠の技」を学ぶ(4) 「日本酒」について考える。	
第7回	和食が秘める「効能」を解明する(1) 「漬物」「梅干し」について考える。	
第8回	和食が秘める「効能」を解明する(2) 「懐石料理」「おとそ」について考える。	
第9回	日本料理を生んだ「ルーツ」を探る(1) 「会席料理」「幕の内弁当」について考える。	
第10回	日本料理を生んだ「ルーツ」を探る(2) 「お好み焼き」「もんじゃ焼き」「たこ焼き」について考える。	
第11回	日本料理を生んだ「ルーツ」を探る(3) 「天ぷら」「しゃぶしゃぶ」「カレーライス」など、海外にルーツのある料理について考える。	
第12回	日本料理を生んだ「ルーツ」を探る(4) 「菓子」について考える。	
第13回	食習慣をはぐくんだ「日本人の信仰」に迫る(1) 「お節」について考える。	
第14回	食習慣をはぐくんだ「日本人の信仰」に迫る(2) 「出汁」「餅」 東西の違いについて考える。	
第15回	食習慣をはぐくんだ「日本人の信仰」に迫る(3) 「食べ合わせ」について考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	20	授業で得た知識・イメージをもとにした、自分なりの日本食のイメージを評価する。提出された課題は各課題ごとの評価基準により採点し，その結果を返却する。
小テスト	30	授業内容の復習テストにより，知識の定着度・理解度を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
定期試験	50	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べるくせをつけること。
授業外学修	1．授業内容に関する小テストがあるため，予習・復習をすること 2．日本食に対するイメージを記載するレポートがあるため、普段の食事に際しても想像を巡らすこと。 3．全授業終了後に定期試験があるため、その準備をすること 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
外国人にも話したくなる ビジネスエリートが知っておきたい 教養としての日本食	永山久夫	KADOKAWA	9784046043603	1,540円（税込）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．外国人に対して、日本食についての自分なりのイメージを伝えることができる。	日本食を明確にイメージできる	日本食をイメージできる	日本食を部分的にイメージできる	日本食のイメージが曖昧である	日本食がイメージできない
思考・問題解決能力	１．外国人に対して、日本食についての自分なりのイメージを伝えることができる。	外国人に日本食を明確に説明できる	外国人に日本食を説明できる	外国人に日本食を部分的に説明できる	外国人に日本食を説明できるが、曖昧である	外国人に日本食を説明できない

科目名	国際関係論			授業番号	LC118	サブタイトル			
教員	赫連　茹玉								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業では、国際関係を単なる政治的・軍事的な枠組みで捉えるのではなく、文化、価値観、社会構造、そしてコミュニケーションといった多角的な視点からアプローチする。国家とは何か、なぜ国際的な対立や協力が生じるのか、異なる文化的背景がどのように国際関係に影響を及ぼすのかを探究します。異文化理解や文化的相対主義、ナショナル・アイデンティティといった概念を通して、国際社会での共生と対話の可能性を考察する。 また、現代の国際課題（教育格差、環境問題、移民と包摂など）についても取り上げ、学生が自らの意見を形成し、多様な立場から物事を捉える力を養う。単なる知識習得にとどまらず、国際的視野と批判的思考力の育成を目指す。								
到達目標	1.国際関係の主要概念・理論を理解する。 2.教育格差や気候変動などの現代的なグローバル課題について、多様な立場を比較し、自分の立場から意見を形成することができる。 3.異文化に対する開かれた姿勢と、自文化を相対化する視点を持ち、グローバル社会において他者と協働できる態度を身につける。 4.ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	国際関係とは何か 「国際関係論」が扱う内容を理解する。国際関係＝国家間の政治・戦争だけではなく、文化、価値観、社会問題といった要素が複雑に絡み合って成り立っていることを理解する。	
第2回	国家とは何か：国民・領土・主権 国家の定義と構成要素を学び、国民国家と国際社会の関係を考察する。	
第3回	民族主義・社会主義・資本主義：価値観の衝突 近代の国際関係を方向付けた主要な思想と体制について概観。	
第4回	国際関係理論と文化の視点 国と国の関係を考えるときに、どんな「考え方（理論）」があるのかを知る。そして、文化や価値観も国と国の関係に大きく関わっていることを理解する。	
第5回	ソフトパワーとカルチャー外交 K-POP、アニメ、映画、料理、スポーツなどが国際影響力としてどう活用されるかを学び、文化の役割に注目する。	
第6回	言語と国際関係：コミュニケーションの視点から 言語の役割、多言語環境、国際交渉・通訳の重要性、言語イデオロギーの問題（例：英語の覇権）を考察する。	
第7回	アイデンティティと国際摩擦：歴史認識の問題 国民アイデンティティ・歴史認識・文化的価値観の違いが、国家間の摩擦や誤解にどう関与するかを学ぶ。	
第8回	メディアとステレオタイプ 国際報道やSNSで流通するイメージ（例：戦争・移民・他国の描き方）が国際認識にどう影響するかを理解する。	
第9回	異文化コミュニケーションと国際摩擦 非言語表現や文化的暗黙知が外交や国際協力で誤解を生むことを事例から学ぶ。	
第10回	国際社会における排除と包摂①（難民） 難民問題の国際的背景、政治的対応、文化的・宗教的葛藤を理解し、「包摂とは何か」を問う。	
第11回	国際社会における排除と包摂②（移民・マイノリティ） 移民・少数民族に対する社会的排除と受け入れの構造、偏見や制度的差別に対する国際社会の対応を考える。	
第12回	教育格差と国際的援助 発展途上国における教育の不平等、国際支援の限界と課題を事例を通して学ぶ。	
第13回	気候変動と国際政治 気候変動が国際交渉に与える影響や、各国の利害対立について学ぶ。	
第14回	異文化間の対立と対話 ― 国際社会でどう共に生きるか？ 異なる価値観を持つ社会の間での共生と対話の可能性について事例を通して考察する。	
第15回	受講生による発表 各自が関心を持ったテーマを発表（例：国際援助・難民政策・ソフトパワーなど）する。 一人の発表の持ち時間は受講生の人数によって按分する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，質疑応答への参加によって評価する。
振り返りシート（毎回）	30	授業の内容理解と自分の気づき・意見を簡潔に記述する。提出後、次の授業時に解説する。
プレゼンテーション	40	国際関係のプレゼンテーションでは、構成と論理性、内容の理解の深さ、表現と説明のわかりやすさ 、発表態度と伝え方が求められます。多角的視点を持ち、解決策を提案し、効果的な視覚資料を用いることが重要です。

評価の方法：自由記載	振り返りシートは毎回の講義内容を理解し、自ら考えたことを記載する。 最終プレゼンテーション（第15回の授業）は単位取得の必須要件になる。
受講の心得	この授業では、「国際関係＝政治や戦争だけ」ではなく、文化・価値観・社会のあり方がどのように国と国の関係に影響しているかを考える。特別な専門知識は必要ない。 ・世界のさまざまな社会や文化を知り、「違い」や「多様性」をどう受けとめるかを一緒に学ぶ。 ・一方的に「答え」を覚える授業ではなく、自分の考えを持ち、相手の意見を聞く姿勢が大切である。 ・自分の言葉で考えることを大事にする。
授業外学修	予習として、教材の授業内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにする。 授業中に説明した内容を参考文献を活用して復習し、理解を深める。 授業後に振り返りシートを書きながら、自分が考えたこと・印象に残ったことを整理する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	その他、授業の中で適宜紹介する。
その他	
備考	この授業には、 日本人学生に加えて留学生が履修する可能性がある。異なる文化的背景を持つ学生同士が共に学ぶ機会を活かし、相互理解や多様な視点を尊重する態度を重視する。 授業は日本語で行われるが、資料や補助的な説明に英語を使う場合がある。留学生にとっては日本語の実践練習、日本人学生にとっては異文化理解の機会となる。 授業内では、語学力の優劣ではなく、多様な視点から考えること自体が評価対象になる。
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	担当教員は大学での授業経験（1年間）を通じて、日本人学生および留学生を対象とした授業実践を行ってきた。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	担当教員は、修士と博士課程において社会科教育、とりわけ国際理解教育や多文化共生に関する領域を専門的に研究し、教育実践と理論の架橋に取り組んできた。 本授業では、そうした研究と実践の知見を活かし、以下のような教育内容を展開する： ・国際関係を、国家間の政治・経済だけではなく、文化・価値観・社会構造といった多層的視点から捉える枠組みを提供する。 ・理論と具体的事例（例：文化外交、言語政策、移民・難民問題、ナショナル・アイデンティティ）を取り上げ、複雑な国際課題に対する批判的理解を深める。 ・日本人学生・留学生を問わず、多様な価値観を背景にした国際社会において必要とされる認識力・表現力を育成する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.国際関係の理論的理解	国際関係論の応用的理解ができている	国際関係の理論を正確に説明し、文脈に応じて活用できる。	基本的な理論に触れているが、理解や応用が限定的。	理論の適用に混乱が見られ、説明も曖昧。	理論的知識が乏しく、誤った説明がある。
知識・理解	2.国際関係と文化・社会問題	文化的・社会的課題を国際関係の枠組みで位置づけ、複雑な相互作用を分析できる。	適切な事例と理論を用いて文化・社会問題を説明できている。	基本的なつながりは理解しているが、分析は限定的。	理解が浅く、説明や事例に説得力が欠ける。	国際関係と文化・社会問題の内容を理解できていない。
思考・問題解決能力	3.文化的要因・価値観が国際関係に与える影響の理解・活用	複数の文化的視点や価値観が国際関係に及ぼす影響を理論と事例で深く分析できる。	文化的要素の国際的影響を明確に説明し、理論や事例と結びつけている。	基礎的な内容を概ね理解して、分析がやや表面的である。	理解が浅く、説明や事例に説得力が欠ける。	文化や価値観への言及がない、または的外れである。
思考・問題解決能力	４.多角的・批判的分析力	複数視点から国際課題を批判的かつ独自に分析していることができる。	視点の多様性を意識しつつ、論理的に比較・評価ができている。	一部多角的視点はあるが、比較や批判が弱い。	一面的な分析にとどまり、他視点への理解が浅い。	単一視点に終始し、批判的な思考が見られない。

科目名	総合英語			授業番号	LC119	サブタイトル	(英語で楽しみながら学ぼう)		
教員	藤代 昇丈								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	英語の4技能の力を高めると同時に身近な話題についての英語を通して理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ，最終的には，社会的な話題について簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。								
到達目標	・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。 ・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。 ・英文で扱われている題材について知識を得ることができる。 ・英語の４技能を駆使して情報を収集し発信できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	Unit1 Goals in College Life 「充実した大学生活を送るには」という内容の英文を読み理解する。 語アクセントについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第2回	Unit2 Totoro Travels to Nepal 「ネパールでの国際交流の体験」という内容の英文を読み理解する。 文アクセントについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第3回	Unit3 Sightseeing in London 「国際観光都市ロンドン」という内容の英文を読み理解する。 聞こえなくなる音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第4回	Unit4 Sushi 「世界に誇る和食文化」という内容の英文を読み理解する。 聞こえなくなる音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第5回	Unit5 Fashion Trends 「ファッションを考える」という内容の英文を読み理解する。 弱形と強形について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第6回	Unit6 Shodo 「書道は昔の教養科目」という内容の英文を読み理解する。 音の同化について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第7回	Unit7 The Mississippi River 「アメリカ最長の河」という内容の英文を読み理解する。 無声化と有音化について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第8回	Unit8 Ocean Blue 「洞窟ダイビングの人気スポット」という内容の英文を読み理解する。 連結発音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第9回	Unit9 Studying Abroad及び到達度テスト 「留学する前に考えておくべきことは」という内容の英文を読み理解する。 音のリズムについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第10回	Unit10 The Northern Lights 「カナダのオーロラ観光」という内容の英文を読み理解する。 イントネーションについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第11回	Unit11 The Sound of the Saxophone 「サキソフォンの魅力的な音色」という内容の英文を読み理解する。 紛らわしい音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第12回	Unit12 Communication Tips 「良好な人間関係を築くには」という内容の英文を読み理解する。 半母音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第13回	Unit13 Seasonal Festivals(Sekku) 「9月9日は菊のお節句」という内容の英文を読み理解する。 英語らしい響き(日本語と英語の違い)について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第14回	Unit14 Electric Cars 「環境にやさしい車」という内容の英文を読み理解する。 数字の聞き取りについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第15回	Unit15 The Amazing Brain 及び到達度テスト 「驚異的な脳の働き」という内容の英文を読み理解する。 意味のまとまりで展開を予想して聞くについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	20	課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。
小テスト	40	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。

定期試験		
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。
授業外学修	1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。 2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので2時間以上復習しておくこと。 3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Amazing Visions of the Future -Aspects of Human Activity- 国際社会への英語の扉ーインプットからアウ トプットで学ぶ四技能ー	伊與田洋之，赤塚麻里，土井峻，梶浦眞由美，マリキットG.マナラング，室淳子	南雲堂	9784523178880	2,310

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	県情報教育センター(3年)・県総合教育センター(4年)・県立高等学校英語科教諭(17年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。	英語の基礎的な文法に則って，一定分量の英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで90%以上得点することができる。	英語の基礎的な文法に則って，短い英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで80%程度得点することができる。	短い英文を読んだり，聞いたりしておおよその内容を理解することができる。到達度テストで70%程度得点することができる。	英語の基礎的な文法は理解しているものの，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することが困難である。到達度テストで60%程度の得点である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することができない。到達度テストで50%未満の得点である。
知識・理解	2.よく使われる英語表現を実際に用いることができる。	既習の英単語や英語表現を自由に用いて，相手と話したり，文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を応用して，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて，相手と対話を口頭で再現したり，書いたりすることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて，相手と音読対話練習することはできるが，十分に理解し応用することはできない。	テキストで用いられている英語表現を音読することが難しく，対話練習することも困難である。
知識・理解	3.様々なテーマについて知識を得ることができる	テキストでテーマとなっている世の中の出来事について理解し，自ら調べ，英文で紹介したり，発表することができる。	テキストでテーマとなっている世の中の出来事について理解し，まとめることができる。	テキストでテーマとなっている世の中の出来事について，講義を通して関心をもって議論することができる。	テキストの英文の内容の理解にとどまり，テーマとなっている世の中の出来事について自ら知ろうとしない。	テキストの英文内容のみならず，テーマとなっている世の中の出来事について，全く関心を持たない。

科目名	社会調査の基礎			授業番号	LC203	サブタイトル			
教員	稲垣　祐輔								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	社会調査に関する基本的事項について学習します。社会調査とは何か、目的、歴史、方法論、各種調査方法について学びます。社会の現状を知るため調査方法とツール、フィールドワークによる調査分析、得られたデータでの調査分析と提案書作成を行います。卒業論文作成やビジネスプラン作成などを行おうとする学生に対し、問題意識、社会問題の調査方法、論理的な解決方法などの基本的な考え方を修得してもらうことを念頭に置いています。								
到達目標	・社会調査の基礎について学び、説明できる。 ・調査方法の理論、ITを使った調査方法、フィールドワークなどを行い実践的な社会調査について学び議論し、学んだことを説明できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞、＜思考・問題解決能力＞、＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	前半は、社会調査の基礎・データの取得方法、実際の事例などについて学ぶ。 中盤は、フィールドワークにて調査分析を行う。 後半は、調査結果をまとめ発表を行う。								

回	概要	担当
第1回	ガイダンス 当授業の目的と概要、進め方などの説明	
第2回	社会調査の方法を学ぶ 調べ方とデータのいろいろ	
第3回	社会調査の方法を学ぶ 調査の計画立案と準備	
第4回	社会調査の方法を学ぶ データの分析、データの可視化	
第5回	フィールドワークの準備 調査目的の明確化	
第6回	フィールドワークの準備 事前調査内容の明確化と共有	
第7回	フィールドワーク実施①	
第8回	フィールドワーク実施②	
第9回	フィールドワーク実施③	
第10回	フィールドワーク実施④	
第11回	フィールドワークによる調査のまとめ①	
第12回	フィールドワークによる調査のまとめ②	
第13回	調査結果による提案書の作成①	
第14回	調査結果による提案書の作成②	
第15回	調査結果による提案の発表とまとめ プレゼンテーションと振り返り・まとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
リサーチ調査結果の整理まとめと提案発表の内容	50	調査結果の整理まとめ及びその発表で評価する。発表後に、解説する。
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	日ごろから新聞や経済誌を読み，経済の変化について関心を持ち，下記の紙（誌）等を毎日読むことを推奨する。 日本経済新聞 日経ビジネス 東洋経済
授業外学修	1 予習として，講義内容にかかわる部分を事前に研究しておくこと。 2 復習として，テキストや資料を再度確認すること。 3 発展学修として，講義で紹介された参考文献などを読むこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
実地調査入門　社会調査の第一歩	西山敏樹,常盤拓司,鈴木亮子	慶應義塾大学出版会	4595319525	

使用テキスト：自由記載	資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
アカデミック・スキルズ(第3版)	佐藤望, 湯川武,横山千晶, 近藤明彦	慶應義塾大学出版会	4766426568	

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	経営コンサルタント（20年）大学での産学連携プロジェクトマネジメント（1年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	中小企業を中心に創業やベンチャー企業の変革・改善や再生等経営支援（相談・助言）に携わった経験から、具体例を用いて実践的な指導を行うことができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	社会調査の基礎的な知識について理解できる	社会調査の基礎的な知識を理解して、分かりやすくポイントを押さえて正確に述べることができる	社会調査の基礎的な知識を理解して、ポイントを押さえて正確に述べることができる	社会調査の基礎的な知識を理解して、ポイントを押さえて述べることができる	社会調査の基礎的な知識を理解が不足しており、要点や正確性に欠けながらも、述べることができる	社会調査の基礎的な知識の理解ができず、要点・正確性が相当低く、説明することができない
思考・問題解決能力	調査に関する基礎的な知識、調査対象の知識等の学びを活かして調査し、分析・考察することができる。	学びを活かして調査を進め、分析・考察する力が相当程度あり、根拠をもって要点を押さえて問題・課題や解決策を明らかにすることができる	学びを活かして調査を進め、分析・考察する力が十分以上あり、根拠を示し問題・課題や解決策を明らかにすることができる	学びを活かして調査を進め、分析・考察する力があり、根拠をもって概ね問題・課題や解決策を示すことができる	学びを活かして調査を進め、分析・考察する力が不足し、根拠を示すことができず問題・課題や解決策を提示するも、信頼性に欠ける	学び、それをを活かした調査、分析・考察する力が相当不足し、問題・課題や解決策の提示ができない
技能	チーム（グループ）で協働して取り組むことができる（協働：共通目的をもち、チームメンバーと連携して考え・行動を起こし、目的を果たすこと）	チームの目的、目的達成の方法について共有し、メンバー間の意思疎通を繰り返し、連携して行動し目的を果たすチームづくり	目的の明示・共有し、メンバーの意思疎通を図り、メンバーが行動を起こし相互に補完できる関係づくりし、概ね目的を果たすことができる	目的の明示・共有し、メンバーの意思疎通を図り、メンバーが連携して行動を起こし、目的に向かって前進しある程度の成果が表れている	目的の明示・共有が十分でなく、チーム内の連携が不十分で、限定的な成果に留まっている	目的の明示・共有、チーム内連携がとれず、チームづくりに問題があり、成果を表すことができない
技能	学びを活かした調査、分析や考察を進めることができる	相当程度水準で、学びを活かした調査、分析や考察を進めて、高い信頼性で述べることができる	学びを活かした調査、分析や考察を十分以上進めて、信頼性のある提案・発言ができる	学びを活かした調査、分析や考察を進めて、概ね信頼性のある提案・発言ができる	学びを活かした調査、分析や考察があまりできずに、信頼性に欠ける提案・発言となっている	学びを活かした調査、分析や考察ができずに、全く信頼性の無い提案・発言となっている

科目名	観光英語A			授業番号	LC205	サブタイトル			
教員	佐々木 真帆美								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，海外を旅行する際や外国人を観光案内する際に必要となる知識および観光英語を学ぶ。言語習得には，繰り返し「聞く・話す」練習が不可欠であるため，授業では観光場面を想定した会話練習を重視する。そのため、授業内での実践的活動時間を確保する目的から，テキストを用いた予習を必須とする。また、英語で国内外の観光地を紹介する力を養うため，定期的にプレゼンテーションを実施する。中間試験および期末試験には，プレゼンテーションで取り上げられた国内外の観光地に関する内容も含め，総合的な理解度を評価する。								
到達目標	本講義では，観光に関連したテーマを扱うテキストを用いて，実用的な語彙の増強と日常的な会話表現を含む実践的な英語表現の習得を目指す。英語によるコミュニケーション能力の向上を図るとともに，観光分野に関連する語彙・表現および背景となる海外の旅行地理について理解を深める。さらに定期的に小テストを通して学習内容の定着を確認し，「観光英語検定」対策にもつなげる。最終的には，海外での旅行や観光の場面において，英語で円滑なコミュニケーションができる能力を身につけることを目標とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ツーリズム・イングリッシュとは/観光英語と旅行地理の必要性 観光英語とは何かを理解し，その目的と役割を考える。 観光分野において英語が果たす機能と，旅行地理の基礎知識の重要性について学ぶ。 また，授業の進め方や評価方法について確認する。	
第2回	Unit 1 Travel 旅行の計画を立てる際に使用される英語表現や語彙を学ぶ。 目的地，日程，交通手段などに関する基本的な表現を身につける。 旅行準備に必要な語彙力の強化を図る。	
第3回	Unit 2 Jobs and People 観光業に関わるさまざまな職種とその業務内容について英語で学ぶ。 観光産業の構造を理解し，関連語彙を習得する。 職業に関する説明が英語でできることを目指す。	
第4回	Unit 3 Getting on the Plane 飛行機に搭乗する際に使われる英語表現や語彙を学ぶ。チェックインから搭乗までの流れを理解し，空港でのやり取りを想定した会話練習を行う。 実践的な運用力の向上を図る。	
第5回	Unit 4 At the Immigration and Customs 出入国審査および税関で使用される英語表現や語彙を学ぶ。 手続きの流れを理解し，質問への応答表現を練習する。 実際の場面を想定した応答力の向上を目指す。	
第6回	Unit 5 At the Airport 空港内の施設やサービスに関連する英語表現を学ぶ。 案内表示や施設利用に関する語彙を理解し，空港内でのコミュニケーション能力を高める。	
第7回	中間発表 テーマに合った国内外の観光地の中から１つ選び，英語で紹介する発表を行う。 調査内容を整理し，既習表現を活用して分かりやすく伝えることを目指す。 発表のフィードバックは授業時に全体に対して行う。	
第8回	観光英検にチャレンジ(1) Unit 1～Unit 5の内容を確認し，観光英検形式の問題に取り組む。 語彙・表現の理解度を確認し，試験対策としての基礎力を養う。	
第9回	Unit 6 Hotel(Accommodations) ホテルでのチェックイン・チェックアウト時に使用される英語表現や語彙を学ぶ。 宿泊に関する基本的な会話練習を行い，実践的な応対力を養う。	
第10回	Unit 7 Restaurant(Breakfast and Fast Food) レストランで注文をする際に使用される英語表現や語彙を学ぶ。 食事の注文や要望の伝え方を理解し，実践的な会話練習を行う。	
第11回	Unit 8 Sightseeing 観光ツアーの申込みや観光案内に関連する英語表現を学ぶ。 観光地の特徴を説明する語彙を習得し，簡単な案内表現を身につける。	
第12回	Unit 9 Shopping ショッピング時に使用される英語表現や語彙を学ぶ。 商品の説明や価格確認，支払いに関する会話練習を行い，実用的な応対力を高める。	
第13回	Unit 10 Transportation 交通機関を利用する際に必要な英語表現や語彙を学ぶ。 乗車方法や運賃，時刻案内などの説明表現を理解し，適切に状況を説明できる力を身につける。	
第14回	Unit 11 Problems and Complaints 海外旅行中に起こりうる問題と苦情を伝える英語表現を学ぶ。 トラブル発生時の対応方法を理解し，適切に状況を説明できる力を身につける。	
第15回	期末発表 テーマに沿った国内外の観光地の中から1つ選び，英語で紹介する発表を行う。 調査内容を整理し，既習表現を活用して分かりやすく伝えることを目指す。 発表のフィードバックは授業時に全体に対して行う。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	30	毎授業開始時に前回の授業内容に関して小テストを行う。小テストで観光英語の理解度を評価する。
定期試験	30	中間・期末に授業内容と観光地に関する内容の理解度を評価する。
その他	30	国内外の観光地に関する発表により評価。課題のテーマについて調べ適切にまとめ，わかりやすい発表を行うこと。発表のフィードバックは授業時に全体に対して行う。

評価の方法：自由記載	

受講の心得	背景となる国内外の地理，歴史などに関する知識が必要となるので，日頃から知識獲得に努めること。
授業外学修	1　予習として，テキストを読み，授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにする。 2　復習として，英語および観光の知識として不十分な部分を調べて補強する。調べてもわからない箇所は次の授業時に教員に質問をする。 3　発展学習として，テキストに出てきた国や地域について調べる。 以上の内容に加え発表準備を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
CD付 ステップアップ観光英語 Basic	観光英検センター	三修社	978-4-384-33437-1	2，000円＋税
使用テキスト：自由記載	テキストの使用に加えて適宜プリントも配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	授業で随時紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．観光に関する英語の語彙や英語表現を理解している	観光に関する英語の語彙や表現のニュアンスをしっかり理解し，それを他の場面でも応用して使用することができる。	観光に関する英語の語彙や表現を理解し，例に倣って自分で使用することができる。	観光に関する英語の語彙や表現の意味を覚えている。	観光に関する英語の語彙や表現の意味を一部覚えているが，理解できていない語彙や表現がある。	観光に関する英語の語彙や表現の意味を理解していない。
知識・理解	2．観光に関する英文を読解することができる。	観光に関する英文を読んで理解し，それを基に自らの意見を持ち，ディスカッションすることができる。	観光に関する英文を読んで理解し，それを基に自らの意見を持つことができる。	観光に関する英文を読んで理解することができる。	観光に関する英文を読んで一部を理解することができる。	観光に関する英文を読んで理解することができない。
知識・理解	3．国内外の観光地に関する知識を身につけている	国内外の観光地に関する知識を積極的に得ようとし，自らの言葉で説明することができる。	国内外の観光地について自発的に調べ，理解している。	国内外の観光地について，授業で扱った項目については知識がある。	国内外の観光地について，授業で扱った項目について一部知識がある。	国内外の観光地に関する知識がない。
技能	1．海外旅行で使用する英語表現を使って他者と口頭でコミュニケーションが取れる	既習の語彙や英語表現を活用して，海外旅行に関する内容を英語で自由に表現し，相手の言っていることを理解することができる。	既習の語彙や英語表現を応用して，海外旅行に関する内容を英語で表現し，相手の言っていることを理解することができる。	既習の語彙や英語表現を用いて，海外旅行に関する簡単な内容を英語で伝え，理解することができる。	既習の基礎的な語彙や英語表現を理解し，相手の言っていることは英語で理解できるが，自分の伝えたい内容を英語で表現することができない。	既習の基礎的な語彙や英語表現を理解しておらず，海外旅行について既存の英文を用いても相手とコミュニケーションをとることができない。
技能	2．海外旅行に関する内容について英作文することができる	既習の語彙や英語表現を活用して，海外旅行に関する内容を自由に英作文することができる。	既習の語彙や英語表現を応用して，海外旅行に関する内容を英作文することができる。	既習の語彙や英語表現を用いて，海外旅行に関する簡単な内容を短い文で英作文することができる。	既習の基礎的な語彙や英語表現は理解できるが，短い文であっても英作文することができない。	既習の基礎的な語彙や英語表現でも理解できず，海外旅行について既存の英文を参考にしても英作文することができない。
技能	3．国内外の観光地を英語で紹介することができる	既習の語彙や英語表現を活用して，観光地について英語で自由に説明をすることができる。	既習の語彙や英語表現を応用して文章を作り，観光地について英語で説明をすることができる。	既習の語彙や英語表現を用いて，観光地について簡単な内容を短い英文で伝えることができる。	既習の基礎的な語彙や英語表現は理解できるが，短い英文でも観光地について説明することができない。	既習の基礎的な語彙や英語表現でも理解できず，既存の英文を用いて観光地について説明することができない。

科目名	ビジネス・イングリッシュ			授業番号	LC207	サブタイトル	Business English		
教員	片山　純子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業では、ビジネス場面における英語コミュニケーション能力の基礎を身につけることを目的とする。具体的には、電子メール、電話応対、会議、交渉、プレゼンテーションなど、実際のビジネス場面を想定したタスクを通して、実践的な英語運用能力を養う。また、異文化コミュニケーションの視点から国際的なビジネス環境への理解も深める。 This course aims to develop practical communication skills in business English through task-based activities such as emails, telephone communication, meetings, negotiations, and presentations. Students will also deepen their understanding of cross-cultural communication in global business contexts.								
到達目標	本授業の到達目標は以下の通りである: ビジネス英語の基本的な語彙および表現を理解し、適切に使用できる。 英語で自分の意見や提案を明確に伝えることができる。 会議・メール・プレゼンテーションなどのビジネス場面において基本的なコミュニケーションができる。 異文化環境におけるビジネスコミュニケーションの重要性を理解する。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 The learning objectives of this course are as follows: To understand and appropriately use basic business English vocabulary and expressions. To clearly express one's opinions and proposals in English. To communicate effectively in basic business situations such as meetings, emails, and presentations. To understand the importance of business communication in cross-cultural environments. This course contributes to the acquisition of the bachelor's competencies outlined in the diploma policy, specifically in the areas of Knowledge and Understanding, Skills, and Attitudes.								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	コースの概要を説明する。会社・職種・企業構造に関する語彙を学び、自己紹介のロールプレイおよびミニプレゼンテーション（My Company）を行う。 Overview of Business English. Learn vocabulary related to companies, jobs, and organizational structure. Practice self-introductions and give a short presentation ("My Company").	
第2回	Business Calls 1 ビジネス電話の基本を学ぶ。適切な電話応対、ビデオ会議でのマナー、挨拶や電話の開始方法、伝言の取り方を扱う。 Learn the basics of business calls: effective phone communication, video call etiquette, greetings, opening a call, and taking messages.	
第3回	Business Calls 2 電話の構成、情報の伝達方法、コミュニケーション上の問題への対応、折り返し連絡やアポイントメントの取り方を学ぶ。 Focus on structuring calls, transferring information, handling communication difficulties, returning calls, and making appointments.	
第4回	Business Calls 3 クレーム対応、電話の締めくくり、異文化における電話対応の違い、実践的なビジネスマナーについて学ぶ。 Learn how to handle complaints, close calls, and understand cultural differences in business communication, along with practical business tips.	
第5回	English for Business Writing 1 効果的なビジネスライティングの基礎を学ぶ。情報整理、ビジネスメール、定型表現、契約書やMOUの基礎を扱う。 Introduction to effective business writing: organizing information, writing business emails, using standard expressions, and understanding contracts and MOUs.	
第6回	English for Business Writing 2 販促資料、ビジネスレポート、求人情報、カバーレターや履歴書の書き方、専門的な表現を学ぶ。 Learn how to write promotional materials, business reports, job postings, cover letters, and resumes, including technical language.	
第7回	English for Business Writing 3 テクニカルな表現、接続語、文法・スペルチェック、句読点、進捗報告など実務的なライティングスキルを学ぶ。 Develop practical writing skills: technical language, linking words, grammar and spelling checks, punctuation, and progress reports.	
第8回	English for Business Presentations 1 効果的なプレゼンテーションとは何かを学び、種類、機材、導入、構成（サインポスティング）について理解する。 Learn what makes an effective presentation, including types, equipment, structure, and opening techniques (signposting).	
第9回	English for Business Presentations 2 強調表現、聴衆の引き込み方、視覚資料、ボディランゲージ、説得力のある伝え方を学ぶ。 Focus on highlighting key points, engaging the audience, using visuals, body language, and persuasive communication.	
第10回	English for Business Presentations 3 プレゼンの締め方、質疑応答への対応、異文化プレゼン、実践的なビジネススキルを学ぶ。Learn how to close presentations, handle questions, present across cultures, and apply practical business presentation skills.	
第11回	ビジネスプレゼンテーションの構成とスキルを総合的に確認する。 Review and integrate presentation structure and skills.	
第12回	最終プレゼンテーションに向けた準備（グループワーク）を行う。 Preparation for the final presentation (group work).	
第13回	最終プレゼンテーション（ビジネスプラン／プロダクト提案）を実施する。 Final presentations (business plan or product proposal).	
第14回	最終プレゼンテーション（継続）およびフィードバックを行う。 Continuation of final presentations and feedback.	
第15回	振り返りと総復習を行い、学習内容を整理する。 Reflection and overall review of the course.	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業参加・ロールプレイ	25	授業内での発言回数、ロールプレイへの積極的参加、グループ活動への貢献度を総合的に評価する。 Evaluation is based on the frequency of contributions in class, active participation in role-play activities, and overall contribution to group work.
課題（メール作成など）	20	ビジネスメール課題（依頼・苦情など）を中心に、内容の適切さ、構成、英語表現の正確さを評価する。 Focuses on business email tasks (such as requests and complaints). Assessed based on appropriateness of content, organization, and accuracy of English expressions.
小テスト	30	授業で扱ったビジネス語彙・表現についての確認テストを実施する。 Short quizzes will be conducted to assess understanding of business vocabulary and expressions covered in class.

最終プレゼンテーション	30	ビジネス プレゼンテーションには、コースで取り上げた必要な情報、英語、スキルを含める必要があります。 Your business presentation should include any necessary information, English and skills covered in the course.

評価の方法：自由記載	本授業では、筆記試験だけでなく、ロールプレイやプレゼンテーションなどの実践的活動を通して総合的に評価する。授業への積極的な参加と継続的な課題提出を重視する。 Students will be evaluated comprehensively not only through written examinations but also through practical activities such as role-plays and presentations. Emphasis is placed on active participation in class and consistent submission of assignments.
受講の心得	本授業は実践的なコミュニケーション能力の向上を目的としているため、積極的に発話し、他者と協力しながら学ぶ姿勢が求められる。間違いを恐れず英語で発信することを重視する。 As this course aims to develop practical communication skills, students are expected to actively speak and learn collaboratively with others. Emphasis is placed on expressing oneself in English without fear of making mistakes.
授業外学修	各回の復習および課題（メール作成、語彙学習など）を行うこと。授業内容に関連する英語表現を日常的に確認し、継続的に練習することが求められる（週1〜2時間程度）。 Students are expected to review each lesson and complete assignments (such as email writing and vocabulary study). They should also regularly review and practice English expressions related to the course content on an ongoing basis (approximately 1–2 hours per week).

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Communicating in Business English 1 (Second Edition)	Bob Disnen and Lucas Foster	Compass Publishing	978-1640156227	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	Business English Pod https://www.businessenglishpod.com/
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	学習したトピックを中心に、ビジネス英語の基本的な語彙や表現の理解度および、それらを適切な場面で正確に使い分けることができるかを評価する。 Evaluates the degree of understanding of basic business English vocabulary and expressions related to the topics studied, as well as the ability to use them accurately and appropriately in different contexts.	ビジネス英語の語彙・表現を適切に理解し、場面に応じて使い分けができる。 Demonstrates accurate understanding of business vocabulary and expressions and can use them appropriately in context.	基本的な語彙・表現を理解し、多くの場合適切に使用できる。 Understands basic vocabulary and expressions and can use them appropriately in most cases.	基本的な語彙・表現をある程度理解しているが、使用に不安定さがある。 Shows basic understanding but demonstrates inconsistency in usage.	語彙・表現の理解が不十分で、適切な使用が難しい。 Shows insufficient understanding and has difficulty using them appropriately.	語彙・表現の理解がほとんど見られない。 Shows little to no understanding of vocabulary and expressions.
技能	学習したトピックへの取り組みを含め、授業への積極的な参加、他者との協力姿勢、主体的に学習に取り組む態度を総合的に評価する。 Evaluates the ability to communicate clearly and effectively in English in business contexts such as emails, meetings, and presentations.	ビジネス場面（メール・会議・発表）で明確かつ効果的に英語で伝達できる。 Communicates clearly and effectively in business situations (emails, meetings, presentations)	多くの場合、英語で意思疎通ができる。 Can communicate effectively in most situations.	基本的なコミュニケーションは可能だが、誤解が生じる場合がある。 Can manage basic communication, though misunderstandings may occur.	意思疎通が難しい場面が多い。 Often has difficulty communicating.	英語での意思疎通がほとんどできない。 Can hardly communicate in English.
態度	学習したトピックへの取り組みを含め、授業への積極的な参加、他者との協力姿勢、主体的に学習に取り組む態度を総合的に評価する。 Evaluates overall engagement in the course, including active participation, cooperation with others, and a proactive approach to learning.	積極的に授業に参加し、他者と協力して学習に取り組む。 Actively participates and works cooperatively with others.	概ね積極的に参加している。 Generally participates actively.	一部参加しているが消極的な場面がある。 Participates to some extent but is sometimes passive.	参加が少なく、学習姿勢に課題がある。 Participates infrequently and shows issues in learning attitude.	授業参加や学習意欲がほとんど見られない。 Shows little to no participation or motivation.

科目名	ビジネス・ディスカッション技法			授業番号	LC208	サブタイトル			
教員	稲垣　祐輔								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	社会で働くには、所属する組織内に留まらず組織外の人々とコミュニケーションを図り、役割を担い連携して仕事を進めて、価値の実現を目指すことが重要です。社会では、困難を乗り越え、目的の実現に向けて「協働」といったアプローチを採り、課題解決を進めています。ビジネスでは、他者と話し合い意見交換を図るディスカッションを通じて、気付きや学びをもとに課題解決行動を起こし、より高い価値へとつなげています。この授業では、受講生が、コミュニケーション、輪読とディスカッション、グループディスカッションなどをグループ（個人ワーク有り）で行い、他者とのコミュニケーション及びディスカッションについての学びを深めます。								
到達目標	（１）ビジネス・ディスカッション技法の基礎について学び、説明できる。 （２）ビジネス・ディスカッション技法について理解し、実践を通じて修得する。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の取得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス ・当授業の目的と概要、進め方などの説明	
第2回	社会に出るまでに学ぶこと ・大学で学び身に付けることとコミュニケーション	
第3回	考えの整理と伝達 ・個人ワーク、グループでの意見交換と発表	
第4回	コミュニケーション（1） ・社会スキルについて	
第5回	コミュニケーション（2） ・アサーションについて	
第6回	輪読とディスカッション（１） ・新聞・専門誌の記事、ビジネス書、学術書等の輪読とディスカッション	
第7回	輪読とディスカッション（２） ・新聞・専門誌の記事、ビジネス書、学術書等の輪読とディスカッション	
第8回	輪読とディスカッション（３） ・新聞・専門誌の記事、ビジネス書、学術書等の輪読とディスカッション	
第9回	グループ・ディスカッションとは ・グループ・ディスカッションとは、その進め方 ・その留意点	
第10回	グループ・ディスカッションを進めるポイント（１） ・他者との関係づくり、主な役割、ルール ・ディスカッションと発表	
第11回	グループ・ディスカッションを進めるポイント（２） ・ディスカッションの準備、意見を交わす ・ディスカッションと発表	
第12回	グループ・ディスカッションを進めるポイント（３） ・ディスカッションのプロセスとマネジメント ・ディスカッションと発表	
第13回	グループ・ディスカッションと発表の実践（１） ・ディスカッションと発表	
第14回	グループ・ディスカッションと発表の実践（２） ・ディスカッションと発表	
第15回	グループ・ディスカッションと発表の実践（３） ・ディスカッションと発表 ・まとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	授業への取り組み姿勢、積極的なディスカッション参加、授業への貢献度を評価する。 また、授業で学習した内容を理解できているかについて評価する。
レポート	40	課題のテーマについて、授業での学びを活かして、整理・分析し、具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 口頭で解説してフィードバックする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	ディスカッションは、人と人とのコミュニケーション、自身と他者の尊重で成り立つ取り組みです。他者の意見に耳を傾ける、自ら意見を発するなど、積極的にディスカッションに関わりましょう。また、司会・書記等の役割を担い、どのようなことを感じたか、グループで共有して学び・気付きを明らかにし、協働する力を高めてゆきましょう。社会は変化しています。ニュースや新聞記事，さまざまな情報に日頃から関心を持ち，自ら調べるという姿勢で授業に臨みましょう。
授業外学修	配布資料・自身のノート等を活用し、授業（ワーク含む）の振り返りを行うこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
大学生からのグループ・ディスカッション入門	中野美香	ナカニシヤ出版	9784779512421	1，900＋税
大学1年生からのコミュニケーション入門	中野美香	ナカニシヤ出版	9784779504693	1，900＋税

参考書：自由記載	随時、資料を配付します。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	経営コンサルタント（20年）大学での産学連携プロジェクトマネジメント（1年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	中小企業を中心に創業やベンチャー企業の変革・改善や再生等経営支援に携わった経験から、具体例を用いて実践的な経営・マーケティング等の授業を行うことができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	ビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を理解している	授業で学んだビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を相当程度理解し、分かりやすくポイントを押さえて正確に明示することができる	授業で学んだビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を十分以上理解し、ポイントを押さえて正確に示すことができる	授業で学んだビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を十分理解し、ポイントを押さえて概ね正確に示すことができる	授業で学んだビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識の理解が不足しており、正確さに欠けるが、かろうじて示すことができる	授業で学んだビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識の理解が相当不足しており、説明することができない
思考・問題解決能力	ビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を活かして、個人・グループワークで情報を整理・分析して、問題・課題の提示、解決提案することができる	ビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を活かして、個人・グループワークで情報を整理・分析する相当程度の力があり、要点を押さえて分かりやすく丁寧に問題・課題を提示し、解決提案することができる	ビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を活かして、個人・グループワークで情報を整理・分析する十分以上の力があり、要点を押さえて問題・課題を提示し、解決提案することができる	ビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を活かして、個人・グループワークで情報を整理・分析する十分な力があり、概ね要点を押さえて問題・課題を提示し、解決提案することができる	ビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を活かして、個人・グループワークで情報を整理・分析する力が不足しており、要点に欠けるも問題・課題を提示し、かろうじて解決提案することができる	ビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を活かして、個人・グループワークで情報を整理・分析する力が相当不足しており、問題・課題の提示、及び解決提案することができない
態度	ビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を活かして、他者（チームメンバー）と協働し、ディスカッションのプロセスを支援し、意見のとりまとめ（問題解決の提案など）までのプロセスに貢献することができる	ビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を活かして、他者（チームメンバー）と協働する相当程度の力があり、積極的にディスカッションに参加してメンバーを支えて、意見のとりまとめ（問題解決の提案など）までのプロセスに相当程度貢献することができる	ビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を活かして、他者（チームメンバー）と協働する十分以上の力があり、積極的にディスカッションに参加してメンバーを支えて、意見のとりまとめ（問題解決の提案など）までのプロセスに十分以上貢献することができる	ビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を活かして、他者（チームメンバー）と協働する十分な力があり、積極的にディスカッションに参加して、意見のとりまとめ（問題解決の提案など）までのプロセスに十分貢献することができる	ビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を活かして、他者（チームメンバー）と協働する力が不足しており、積極性に不足するもディスカッションに参加し、意見のとりまとめ（問題解決の提案など）までのプロセスに、かろうじて貢献することができる	ビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を活かして、他者（チームメンバー）と協働する力が相当不足しており、ディスカッションには消極的で、意見のとりまとめ（問題解決の提案など）までのプロセスに貢献できない
態度	ビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を活かして、情報を整理・分析し、発言・提案等ディスカッションのプロセスを支えるなど、積極的に授業参加できる	ビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を活かして、情報を整理・分析し、発言・提案等ディスカッションのプロセスを支える力が相当程度あり、主体性を持ち積極的に授業参加しており、協働を支える力が高い	ビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を活かして、情報を整理・分析し、発言・提案等ディスカッションのプロセスを支える力が十分以上あり、主体性を持ち積極的に授業参加して、明らかに協働を支えている	ビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を活かして、情報を整理・分析し、発言・提案等ディスカッションのプロセスを支える力が十分あり、積極的に授業参加して、協働を支えている	ビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を活かして、情報を整理・分析し、発言・提案等ディスカッションのプロセスを支える力が不十分で、積極性には欠けるが授業参加し、かろうじて協働を支えている	ビジネスディスカッションに関する基礎から実践的な知識を活かして、情報を整理・分析し、発言・提案等ディスカッションのプロセスを支える力が相当不足しており、消極的な授業参加で、協働することが難しい

科目名	日米関係			授業番号	LC209	サブタイトル			
教員	藤田　香織								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，「言葉」と「文化」を切り口として日米関係を分析します。歴史的な演説や公文書，現代のニュース報道、大統領の発言（SNS等）などの英語テキスト（対訳含む）を題材に，歴史的背景やトランプ政権の特徴を読み解きます。また，日米のコミュニケーション・スタイルの違いを実践的に学び，グローバルビジネスの現場で日本企業や個人がどう対応していくべきかを考察します。								
到達目標	学生は，日本とアメリカの二国間関係の歴史的推移，メディアによる両国の表象、現代的な通商問題や安全保障協力など，様々な側面を総合的に学習します。文化の違いが両国の関係にどのように影響しているかについても理解を深めます。 さらに，異文化への理解と感受性を高めることで学生は国際的な文脈においても建設的に関与できる能力を身につけることができます。 本講義はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容の内，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス 「言葉」から日米関係を考える 講義の目的、英語をツールとして社会を読み解く面白さについて。 導入を行い,問題定義をする。その問題について教科書・プリントを読む。次回より事前に読んでくる。わからない語についても調べてくる。その後意見交換し深まった自分の考えをまとめる。	
第2回	国民性の違いと言語構造（ハイコンテクストとローコンテクスト） 「空気を読む」日本語と，「言葉で明確に伝える」英語の違い。 主語（I/We）の使い方の違いから見る個人主義と集団主義。 導入を行い,問題定義をする。グループワークで調べ学習を行い,発表する。その後意見交換し深まった自分の考えをまとめる。教員が解説を行う。	
第3回	アメリカ人とのコミュニケーション①（日常・人間関係構築） スモールトークの重要性、褒め言葉（Compliment）の文化，ファーストネームで呼び合うフラットな人間関係。 導入を行い,問題定義をする。グループワークで調べ学習を行い,発表する。その後意見交換し深まった自分の考えをまとめる。教員が解説を行う。	
第4回	アメリカ人とのコミュニケーション②（ビジネス・主張） 自分の意見を明確に伝える「アサーティブ・コミュニケーション」。角を立てずに反対意見を述べる英語表現とフィードバックの作法。 導入を行い,問題定義をする。グループワークで調べ学習を行い,発表する。その後意見交換し深まった自分の考えをまとめる。教員が解説を行う。	
第5回	第二次世界大戦と占領期（マッカーサーの言葉） マッカーサー元帥の声明や当時のニュース映像のスクリプトを読み解き，占領政策と日本の民主化をどう「英語で」伝えていたかを分析する。 導入を行い,問題定義をする。グループワークで調べ学習を行い,発表する。その後意見交換し深まった自分の考えをまとめる。教員が解説を行う。	
第6回	日米同盟の形成と冷戦（条約の言葉と大統領演説） サンフランシスコ平和条約や日米安全保障条約の基本的理念を確認。cなどの冷戦期の演説から「自由」や「同盟」の概念を学ぶ。 導入を行い,問題定義をする。グループワークで調べ学習を行い,発表する。その後意見交換し深まった自分の考えをまとめる。教員が解説を行う。	
第7回	貿易摩擦からグローバルな同盟へ（メディアの言葉） 1980年代の「ジャパン・バッシング（日本叩き）」時代の米メディアの過激な見出しと，近年のオバマ大統領（広島訪問）や安倍首相（米議会演説）の友好的なスピーチを比較分析する。 導入を行い,問題定義をする。グループワークで調べ学習を行い,発表する。その後意見交換し深まった自分の考えをまとめる。教員が解説を行う。	
第8回	トランプ大統領の「言葉」とレトリック（修辞学） 「America First」に代表される，シンプルで力強い（しかし分断を生む）トランプ氏のスピーチやSNS（X/Truth Social）の投稿を英語で直接分析する。 導入を行い,問題定義をする。グループワークで調べ学習を行い,発表する。その後意見交換し深まった自分の考えをまとめる。教員が解説を行う。	
第9回	アメリカ社会の分断とメディア・リテラシー 保守系メディア（Fox Newsなど）とリベラル系メディア（CNN，NYTなど）で，同じニュース（例：移民問題や日米関係）がどう違う英単語・トーンで報じられるかを比較する。 導入を行い,問題定義をする。グループワークで調べ学習を行い,発表する。その後意見交換し深まった自分の考えをまとめる。教員が解説を行う。	
第10回	トランプ政権の政策特徴（ディスコース分析） 関税引き上げや同盟国への要求について，公式声明とトランプ氏個人の発言の「ズレ」や「本音」を言葉尻から読み取る。 導入を行い,問題定義をする。グループワークで調べ学習を行い,発表する。その後意見交換し深まった自分の考えをまとめる。教員が解説を行う。	
第11回	トランプ政権の政策が日本企業に与える影響（ニュース読解） ウォール・ストリート・ジャーナル（WSJ）などの経済記事（やさしい英語や要約版）を読み，関税リスクや為替の影響を論理的に把握する。 導入を行い,問題定義をする。グループワークで調べ学習を行い,発表する。その後意見交換し深まった自分の考えをまとめる。教員が解説を行う。	
第12回	日本企業の対策①（異文化での交渉・ロビー活動） ワシントンでのロビイング（政治的工作）とは何か。アメリカのビジネスパーソンや政治家を説得するための「英語でのロジックの組み立て方」。 導入を行い,問題定義をする。グループワークで調べ学習を行い,発表する。その後意見交換し深まった自分の考えをまとめる。教員が解説を行う。	
第13回	日本企業の対策②（ビジネス・ロールプレイ） 【実践ワーク】アメリカ企業との合弁事業や，関税引き上げに対する交渉シーンを想定し，これまでに学んだアサーティブな表現を使って英語（または日英交じり）で簡単な交渉をシミュレーションする。 導入を行い,問題定義をする。グループワークで調べ学習を行い,発表する。その後意見交換し深まった自分の考えをまとめる。教員が解説を行う。	
第14回	日米関係の未来（総まとめディスカッション） 言語，文化，歴史，政治を踏まえ，今後の日米関係において日本はどう発信していくべきか。 グループワークで調べ学習を行い,発表する。その後意見交換し深まった自分の考えをまとめる。教員が解説を行う。	
第15回	期末レポートとプレゼンテーション （例：「トランプ氏のスピーチから読み取るアメリカ社会の変化と，日本企業がとるべきコミュニケーション戦略」などのテーマで発表・提出）	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考

授業への取り組みの姿勢／態度 グループワークの参加	30	毎回の授業後のコメントペーパーの提出（授業参加により学んだこと・自分の意見を書く） 出席状況 出席率：授業への出席率が高いか。 遅刻や早退の頻度：遅刻や早退が少ないか。 毎回の授業後のコメントペーパーの提出（授業参加により学んだこと・自分の意見を書く） 集中力 授業中の態度：授業中に集中して取り組んでいるか。 ノートの取り方：授業内容をしっかりとノートに記録しているか 協力姿勢 チームメンバーとの協力：チームメンバーと協力して課題に取り組んでいるか。役割分担の理解と実行：自分の役割を理解し、責任を持って遂行しているか。 貢献度 アイデアの提供：グループの目標達成に向けて有益なアイデアを提供しているか。 タスクの遂行：割り当てられたタスクを期限内に遂行しているか。
レポート	50	理解度の確認;文章の構成と表現：自分の考えを論理的に整理し、明確に表現する能力;授業で学んだ基礎的な知識や概念を正しく理解しているか。新しい情報を仕入れ，日本との比較分析が適格にできているか。レポート回収後の次の授業でフィードバックを行う。
原稿・プレゼンテーション	20	理解度の確認;文章の構成と表現：自分の考えを論理的に整理し、明確に表現する能力;授業で学んだ基礎的な知識や概念を正しく理解しているか。発表練習ができているか。 テーマとの整合性 プレゼンの内容がテーマや目的に沿っているか。 論理的な話の流れ 話の流れが論理的で、聴衆にとって理解しやすいか。 資料の適切なボリューム 資料の量が多すぎず少なすぎず、適切であるか。 時間配分 プレゼンが予定された時間内に収まっているか。 プレゼンの内容適切な課題設定 プレゼンで取り上げた課題や問題が適切であるか。 有益な情報の提供 聴衆にとって有益な情報や知識が提供されているか。 声量・声のトーン 声の大きさやトーンが適切で、聴衆に聞き取りやすいか。 話すスピード 話すスピードが適切で、理解しやすいか。 視線の配り方 聴衆に視線を適切に配り、アイコンタクトを取っているか。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	具体的には，歴史的な出来事やメディアが及ぼす影響，経済関係の動向，政治外交の戦略など，幅広いトピックを取り上げています。これらを総合的に理解することで，学生には日米関係の複雑な構造や相互作用が深く認識できるようになります
授業外学修	【授業外学修】 １予習として プリント記事を読書すること，講義内容に関する疑問点を明らかにしておく。 ２復習として，講義で学んだ事項を各自で再確認する。 ３テクノロジーを使いながらグループワークを参加すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
日本人が知っておくべきアメリカのこと	中林美恵子	辰巳出版	978-4-7778-3230-9	1650円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校（6年），他大学講師（5年），他大学学習アドバイザー（2年）,専門学校学・日本語学校（2年），塾（6年），英会話講師（1年）オーストラリアでの留学生サポートのコーディネーター（1年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	バックパッカー経験が豊富で様々な観点から日米関係を考える提案ができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．講義の内容とテーマを理解できる。	講義の内容とテーマを完全に理解している。	講義の内容とテーマを十分理解している。	講義の内容とテーマを必要とされる程度理解している。	講義の内容とテーマを多少は理解している。	講義の内容とテーマを理解していない。
態度	１．講義の目標を達成するため、授業内外を問わず努力することができ、授業内容、活動に対して前向きな姿勢を持っている。授業中、教職員および他の学生に対して適切かつ礼儀正しく行動できる。	授業内外を問わず、講義の目標を達成するため常に一貫して努力を続けることができる。教職員および他の学生に対して適切かつ礼儀正しく行動できる。	授業内外を問わず、講義の目標を達成するため努力することができる。教職員および他の学生に対して適切に行動できる。	授業中に、講義の目標を達成するため努力することができる。教職員および他の学生に対して適切に行動できる。	講義の目標を達成するために必要な最低限の努力のみをしている。教職員および他の学生に対して適切な行動をとることができない。	講義の目標を達成するために必要な努力をすることができない。教職員および他の学生に対して適切な行動をとることができない。

科目名	現代環境論			授業番号	LC213	サブタイトル	環境問題を「自分ごと」として考える		
教員	小築　康弘								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業は、現代社会における環境問題を、私たちの身近な生活や社会との関わりの中で理解することを目的とする。環境問題を、自然環境の悪化や自然保護の問題としてだけ捉えるのではなく、日常の暮らし方、消費行動、社会の仕組みと密接に関係する課題として考えることを重視する。環境問題は自然だけの問題ではなく、人間の生活や経済活動、社会の成り立ちと深く結びついていることを踏まえ、個々の問題を断片的に覚えるのではなく、全体像を捉えるための基礎的な考え方を身につけることを目指す。								
到達目標	・現代における環境問題について、基礎的な内容と全体像を理解している。 ・環境問題を自分自身の生活や社会の在り方と結びつけて考え、自分の言葉で説明できる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	イントロダクション：環境問題のイロハ 環境問題とは何を指すのかを整理し、自然保護との違いや、なぜ現代社会で重要な課題となっているのかを概観する。	
第2回	人間と環境の関係の変化 人間の生活様式が歴史的にどのように変化し、それに伴って環境への影響がどのように拡大してきたのかを理解する。	
第3回	人口増加と環境問題 世界人口の増加が、食料・水・資源などの環境問題とどのように結びついているのかを考える。	
第4回	資源は無限ではない：資源問題の基礎 私たちが利用している資源の種類と特徴を整理し、資源の有限性について理解する。	
第5回	エネルギー問題の基本構造 化石燃料、原子力、再生可能エネルギーの特徴を比較し、エネルギー選択の難しさを学ぶ。	
第6回	地球温暖化①：何が起きているのか 地球温暖化の基本的な仕組みを押さえ、なぜ問題視されているのかを理解する。	
第7回	地球温暖化②：社会と生活への影響 気候変動が自然災害や人々の生活、将来世代に与える影響について考察する。	
第8回	ごみ問題とリサイクルの現実 ごみがどのように処理されているのかを知り、リサイクルの役割と限界を理解する。	
第9回	プラスチック問題を考える プラスチックの利便性と環境への影響を整理し、私たちの使い方を見直す。	
第10回	生物多様性と環境 生物多様性の意味を理解し、生き物の減少が人間社会に与える影響を考える。	
第11回	環境問題と経済・ビジネス 環境と経済の関係を整理し、環境に配慮したビジネスや消費行動について考える。	
第12回	環境問題と国際社会 環境問題が国境を越える課題であることを理解し、国際協力の難しさを学ぶ。	
第13回	子どもと環境：次世代への視点 子どもの生活環境や環境教育の重要性を通して、次世代に何を伝えるべきかを考える。	
第14回	私たちにできる環境への関わり方 個人の行動が持つ意味を整理し、無理なく続けられる環境配慮のあり方を考察する。	
第15回	まとめ：現代環境論を振り返る 授業全体を振り返り、環境問題を多面的に捉える視点と、考え続ける姿勢を確認する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	14	次回授業のテーマに関連して、事前のイメージや考え、疑問点などを記述する。調査や専門的知識の正確さよりも、自分の言葉で考えを表現しているかを重視する。レポートは採点し次第、速やかに返却する。
小テスト	30	各回の授業の最後に実施し、当日の授業内容の理解度を確認する。基本的な用語や概念、授業で扱った内容を中心とする。テストは採点し次第、速やかに返却する。
定期試験	56	授業全体を通して扱った内容について、環境問題をどのように理解しているかを確認する。単なる暗記ではなく、授業で学んだ内容を踏まえて説明できるかを評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べるくせをつけること。
授業外学修	1．予習範囲に関するレポートを準備し，提出すること 2．授業内容に関する小テストがあるため，復習をすること 3．全授業終了後に定期試験があるため、その準備をすること 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	現代における環境問題について、基礎的な内容と全体像を理解している	複数の環境問題の内容や相互の関係を正確に理解し、全体像を体系的に説明できる。	主要な環境問題の内容を理解し、それらの関連性や背景を概ね説明できる。	授業で扱った環境問題の基本的な内容を理解し、個別の事項について説明できる。	用語や内容の理解が部分的にとどまり、環境問題の全体像の把握が不十分である。	基礎的な内容の理解が不足しており、環境問題について説明することが困難である。
知識・理解	環境問題を自分自身の生活や社会の在り方と結びつけて考え、自分の言葉で説明できる	環境問題と自分の生活・社会との関係を具体例を挙げて論理的に説明でき、自分の考えが明確に示されている。	環境問題と生活・社会との関係を具体的に捉え、自分の言葉で分かりやすく説明できる。	環境問題と自分の生活との関係に触れながら、基本的な説明ができる。	生活や社会との関係づけが弱く、自分の考えの説明が抽象的または不明確である。	環境問題と自分の生活・社会との関係を示すことができず、説明が成立していない。

科目名	日本語教育概論			授業番号	LC214	サブタイトル			
教員	小西　達也								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態		必修・選択	選択
授業概要	日本語教育とは何か，また，日本語教育における人（日本語教師や日本語学習者）に関して学習するとともに，日本語教育の基礎的な知識や現状，問題点に関して包括的な講義， グループワーク，議論を行う。								
到達目標	１．日本語教育とは何かを把握することできる。 ２．日本語に関わる人（日本語教師や日本語学習者）の特徴と，日本語に関わる人と人との関係構築について理解することができる。 ３．日本語教育を取り巻く国内外の現状，問題点を見つけ出すことできる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	私たちの日本語教育（1） どんなところで，どのような人に日本語教育はされているのか，私たちが日本語を教える可能性があるところの日本語教育にはどのような特徴があるのか，これから日本語教育を学び続けるにはどうすればいいのかを説明するとともに，学生自らの考えや経験を出発点とし，議論をしながら理解を深める。	
第2回	私たちの日本語教育（2） 日本語教育は学校教育における国語教育や，英語など他の言語を学ぶ外国語教育とはどのような共通点があり，どのような相違点があるのか， 自分たちがこれまで経験した外国語学習と日本語学習者の日本語学習とどのような共通点があり，どのような相違点があるのかを説明するとともに，学生自らの考えや経験を出発点とし，議論をしながら理解を深める。	
第3回	日本語教育の人と人（1） 日本語教育に登場する人の中で「日本語学習者」に注目し，どのような人が日本語学習者と呼ばれ，どのような特徴があるのかを説明するとともに，自分たちが外国語学習者として，どのような特徴があったのかを省察しながら， 学生自らの考えや経験を出発点とし，議論をしつつ理解を深める。	
第4回	日本語教育の人と人（2） 日本語教育に登場する人の中で「日本語教師」に注目し，日本語教師にはどのような役割があり，どのように日本語学習者と関係を構築すれば良いのかを説明するとともに，学生自らの考えや経験を出発点とし，議論をしつつ理解を深める。	
第5回	日本語教育の場（1） 日本語教育が行われている様々な場の中で，「留学」に注目し，そこでどのような日本語教育が行われ，日本語学習者は何を学び，日本語教師は何をしているのかを説明するとともに，学生自らの考えや経験を出発点とし，議論をしつつ理解を深める。	
第6回	日本語教育の場（2） 日本語教育が行われている様々な場の中で，「就労」に注目し，そこでどのような日本語教育が行われ，日本語学習者は何を学び，日本語教師は何をしているのかを説明するとともに，学生自らの考えや経験を出発点とし，議論をしつつ理解を深める。	
第7回	日本語教育の場（3） 日本語教育が行われている様々な場の中で，「生活」に注目し，そこでどのような日本語教育が行われ，日本語学習者は何を学び，日本語教師は何をしているのかを説明するとともに，学生自らの考えや経験を出発点とし，議論をしつつ理解を深める。	
第8回	日本語教育の場（4） 日本語教育が行われている様々な場の中で，「外国にルーツを持つ子どもたち」に注目し， そこでどのような日本語教育が行われ，日本語学習者は何を学び，日本語教師は何をしているのかを説明するとともに，学生自らの考えや経験を出発点とし，議論をしつつ理解を深める。	
第9回	日本語教育の場（5） 日本語教育が行われている様々な場の中で，「海外の日本語教育」（主に日本語教育が盛んに行われている国・地域）に注目し，そこでどのような日本語教育が行われ，日本語学習者は何を学び，日本語教師は何をしているのかを説明するとともに，学生自らの考えや経験を出発点とし，議論をしつつ理解を深める。	
第10回	日本語教育の場（6） 日本語教育が行われている様々な場の中で，「海外の日本語教育」（主に日本語教育があまり行われていない国・地域）に注目し，そこでどのような日本語教育が行われ，日本語学習者は何を学び，日本語教師は何をしているのかを説明するとともに，学生自らの考えや経験を出発点とし，議論をしつつ理解を深める。	
第11回	日本語の習得（1） 日本語能力とはどのような能力なのか，どのように評価されているのか，それらに問題はないのかを説明するとともに，学生自らの考えや経験を出発点とし，議論をしつつ理解を深める。	
第12回	日本語の習得（2） 日本語学習者はどのように日本語を習得しているのか，習得するのは日本語だけなのか，日本語教師は日本語学習者に対して何ができるのかを説明するとともに，学生自らの考えや経験を出発点とし，議論をしつつ理解を深める。	
第13回	日本語の習得（3） 日本語習得過程にある学習者に対して，日本語教師はどのように関わればいいのか，どのような言葉遣いをすればいいのか，どのようにコミュニケーションを取ればいいのかを，「やさしい日本語」「フォリナートーク」「ティーチャートーク」という観点を中心にして説明するとともに，学生自らの考えや経験を出発点とし，議論をしつつ理解を深める。	
第14回	日本語教師としてのキャリア形成（1） 日本語教師として，将来どのような可能性があるか，どのようにキャリアを形成すれば良いか，国家資格である「登録日本語教員」とは何かを説明するとともに，学生自らの考えや経験を出発点とし，議論をしつつ理解を深める。	
第15回	日本語教師としてのキャリア形成（2） 日本語教育と他分野との関わり，コラボレーションの観点から，日本語教育にどのように従事できるのか，日本語教師にならなくても日本語教育を学ぶ意味を説明するとともに，学生自らの考えや経験を出発点とし，議論をしつつ理解を深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢・態度	30	講義，グループワーク，議論への積極的な参加度によって評価する。

小テスト	40	日本語教育に関する概要を理解し，自分の意見が適切に述べられているかどうかで評価する。 小テストはコメントを加え，返却した後に全員で再確認する。
事後課題	30	学生は授業後にふり返りシートを記入する。授業の内容に関して省察し，言語化して記述できているかで評価する。必要に応じて全体で共有する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この講義では学んだことを省察し，言語化できるようにすること。
授業外学修	1.事前に授業計画で示されたテーマに関するプリントを配布するので，そのプリントをよく読む。 2.講義で学んだ学習内容を再確認し， 言語化できるようにする。 3.グループワーク，議論等の準備をしっかりしておく。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリントを配布する予定

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
超基礎・日本語教育［改訂版］	森篤嗣，太田陽子ほか	くろしお出版	978-4-87424-803-4	
いちばんやさしい日本語教育入門	今井新悟	アスク	978-4-86639-191-5	
教えよう日本語ー考え続ける日本語教師になるためのタスク	河野俊之	凡人社	978-4-89358-909-5	

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	日本語教員（18年），日本語教師養成教員（13年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	日本語教育機関（18年），日本語教師養成教員（13年）での経験から，外国人に対して日本語を指導する知識・技能を身につけられるように授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	日本語教育とは何かを俯瞰し，理解している。また，日本語教育に関わる人，人と人との関係構築を理解し，自分の意見を言語化できる。	日本語教育とは何かを俯瞰し，十分に理解している。また、日本語教育に関わる人，人と人との関係構築を理解し，十分に自分の意見を言語化できる。	日本語教育とは何かを俯瞰し，十分に理解している。また、日本語教育に関わる人，人と人との関係構築を理解し，おおよそ自分の意見を言語化できる。	日本語教育とは何かを俯瞰し，理解している。また，日本語教育に関わる人，人と人との関係構築を理解し，少し自分の意見を言語化できる。	日本語教育とは何かを俯瞰し，理解している。しかし，日本語教育に関わる人，人と人との関係構築を理解することは不十分で，あまり自分の意見を言語化できない。	日本語教育とは何かを俯瞰したが，あまり理解していない。また，日本語教育に関わる人，人と人との関係構築を理解しておらず，自分の意見を言語化できない。
思考・問題解決能力	日本語教育の動向を理解することができ，様々な国内外の情勢を把握することができる。また，日本語教育の問題点を見つけ出し，解決法を模索することができる。	日本語教育の動向を理解することができ，様々な国内外の情勢を把握することができる。また，日本語教育の問題点を見つけ出し，解決法を模索することができる。	日本語教育の動向を理解することができ，様々な国内外の情勢を把握することができる。また、日本語教育の問題点を見つけ出せるが，解決法を模索することができない。	日本語教育の動向を理解することができ，様々な国内外の情勢を把握することができる。また，日本語教育の問題点を見つけ出せず，解決法を模索することができない。	日本語教育の動向を理解することができ，様々な国内外の情勢を把握することができない。また，日本語教育の問題点を見つけ出しせず，解決法を模索することができない。	日本語教育の動向を理解することができない。様々な国内外の情勢を把握することができない。また、日本語教育の問題点を見つけ出しせず，解決法を模索することができない。

科目名	日本語教授法			授業番号	LC215	サブタイトル			
教員	小西　達也								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態		必修・選択	選択
授業概要	日本語を教えるとはどういうことなのか，日本語教師に求められるもの（考え方・教え方・関係構築など）は何かについて説明し，基礎的な日本語の指導法を実際に体験しながら身につけることを目標とする。								
到達目標	1.日本語非母語話者に対する日本語の教え方の基礎を理解することができる。 2.日本語非母語話者に対する日本語教育における教室活動の方法を理解することができる。 3.「日本語教育の参照枠」を正しく理解し、利用することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	日本語を教える・日本語を学ぶこと 日本語教育において誰が，誰に，何を，どのように教えるのか，また，誰が，誰に，何を，どのように学ぶのか、各視点から説明し，学生の意見・経験を出発点として議論を進め，理解を深める。	
第2回	日本語教育の「教室」の出来事 日本語教育における「教室」では，どのようなコミュニケーションが行われているのか，教師と学習者はどのように関係構築をしているのかを説明し，学生の意見・経験を出発点として議論を進め，理解を深める。	
第3回	日本語の「教科書」から見る日本語 日本語学習者はどのような日本語をどのように学んでいるのか，日本語教師はどのように日本語学習者の学びを促進させているのか，日本語の「教科書」を見ながら確認し，学生の意見・経験を出発点として議論を進め，理解を深める。	
第4回	日本語学習の「目標」「目的」と達成過程（1） 「目標」「目的」の重要性を説明するとともに，日本語の授業，カリキュラム，コースにはどのような「目標」「目的」が考えられるのか，実際の授業構成を考えながら，理解を深める。	
第5回	日本語学習の「目標」「目的」と達成過程（2） 日本語の授業の「目標」「目的」から，それを達成するための過程を実際の授業構成を考えながら，理解を深める。	
第6回	日本語の「発音」学習・指導法（1） 日本語学習者はどのように日本語の「発音」（かな学習との関連があるものを中心に）を学んでいるのか，日本語教師はどのように日本語学習者の学びを促進させているのか説明し，学生の意見・経験を出発点として議論を進め，理解を深める。	
第7回	日本語の「文字」学習・指導法（1） 日本語学習者はどのように日本語の「文字」（ひらがな・カタカナ）を学んでいるのか，日本語教師はどのように日本語学習者の学びを促進させているのか説明し，学生の意見・経験を出発点として議論を進め，理解を深める。	
第8回	日本語の「語彙」学習・指導法 日本語学習者はどのような日本語の「語彙」をどのように学んでいるのか，日本語教師はどのように日本語学習者の学びを促進させているのか説明し，学生の意見・経験を出発点として議論を進め，理解を深める。	
第9回	日本語教育における「シラバス」と学習・指導法（1） 日本語教育では何をどのような順番で日本語を教えているのか，シラバスの観点から「構造シラバス」と「場面シラバス」を対比させながら教授法を説明し，日本語教師はどのように日本語学習者の学びを促進させているのかを考え，学生の意見・経験を出発点として議論を進め，理解を深める。	
第10回	日本語教育における「シラバス」と学習・指導法（2） 日本語教育では何をどのような順番で日本語を教えているのか，シラバスの観点から主に「タスクシラバス」「Can-doを用いたシラバス」を取り上げながら教授法を説明し，日本語教師はどのように日本語学習者の学びを促進させているのかを考え，学生の意見・経験を出発点として議論を進め，理解を深める。	
第11回	日本語教育における「数字」「時間」表現と学習・指導法 日本語の「数字」や「時間」に関する表現を日本語学習者はどのように学んでいるのか，日本語教師はどのように日本語学習者の学びを促進させているのか説明し，学生の意見・経験を出発点として議論を進め，理解を深める。	
第12回	日本語教育における「文型」「文法」と学習・指導法（1） 日本語の「文型」「文法」を日本語学習者はどのように学んでいるのか，日本語教師はどのように日本語学習者の学びを促進させているのか説明し，学生の意見・経験を出発点として議論を進め，理解を深める。	
第13回	日本語の「発音」学習・指導法（2） 日本語学習者はどのように日本語の「発音」（語彙，文との関連があるものを中心に）を学んでいるのか，日本語教師はどのように日本語学習者の学びを促進させているのか説明し，学生の意見・経験を出発点として議論を進め，理解を深める。	
第14回	日本語の「文字」学習・指導法（2） 日本語学習者はどのように日本語の「文字」（漢字）を学んでいるのか，日本語教師はどのように日本語学習者の学びを促進させているのか説明し，学生の意見・経験を出発点として議論を進め，理解を深める。	
第15回	CEFRと日本語教育参照枠 認定日本語教育機関では日本語教育参照枠という指標に基づいて日本語教育が行われるように文部科学省・文化庁国語課が規定している。日本語教育参照枠とその元になっているCEFRの考え方を説明し，学生の意見・経験を出発点として議論を進め，理解を深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組み/態度	30	講義，グループワーク，議論の積極的な参加度によって評価する。
小テスト	40	教授法に関する理解度によって評価する。小テストはコメントを加え，返却後，全員で内容を再確認する。
フォトを使用した記録ノート	30	授業内外で授業内容に関わるフォトを撮影し，そのフォトの内容，状況，感情等を言語化して記述できるかどうかで評価する。必要に応じて，授業内で全体共有をする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1.授業計画に基づく事項に関して事前にプリントを配るので，よく読んでおくこと。 2.グループワークや議論には互いに協力し積極的に発言すること。
授業外学修	1.事前に配布するプリントをよく読んでおく。 2.グループワーク，議論のための情報収集をする。 3.フォトを使った記録ノートは省察のためのノートになるので意欲的に取り組む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
日本語を教えるための教授法入門 第2版	深澤のぞみ，本田弘之 その他	くろしお出版	978-4-8011-1002-1	
心ときめくオキテ破りの日本語教授法	五味政信，石黒圭	くろしお出版	978-4-87424-696-2	
日本語教育実践	阿部 祐子，伊東祐郎 その他	凡人社	978-4-13-082021-9	

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	日本語教員（18年），日本語教師養成教員（13年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	日本語教育機関（18年）での経験から外国人に対して日本語を指導する知識・技能を身につけられるように授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	日本語非母語話者の日本語学習，及び日本語非母語話者に対する日本語の教え方の基礎知識を理解し，日本語教育における教室活動の方法（教え方）を理解する。	日本語非母語話者の日本語学習，及び日本語非母語話者に対する日本語の教え方の基礎知識を十分に理解し，かつ日本語教育における教室活動の方法（教え方）も十分に理解している。	日本語非母語話者の日本語学習，及び日本語非母語話者に対する日本語の教え方の基礎知識を十分に理解し，日本語教育における教室活動の方法（教え方）をある程度理解している。	日本語非母語話者の日本語学習，及び日本語非母語話者に対する日本語の教え方の基礎知識を理解し，日本語教育における教室活動の方法（教え方）を少し理解している。	日本語非母語話者の日本語学習，及び日本語非母語話者に対する日本語の教え方の基礎知識をある程度理解しているが，日本語教育における教室活動の方法（教え方）をあまり理解していない。	日本語非母語話者の日本語学習，及び日本語非母語話者に対する日本語の教え方の基礎知識を理解せず，日本語教育における教室活動の方法（教え方）も理解していない。
思考・問題解決能力	日本語非母語話者の日本語学習を促進したり，日本語非母語話者に日本語を教えたりする際に，学習方法・教え方を検討し改善できる。また，「日本語教育の参照枠」を必要に応じて適切に利用することができる。	日本語非母語話者の日本語学習を促進したり，日本語非母語話者に日本語を教えたりする際に，学習方法・教え方を十分に検討し改善できる。また，「日本語教育の参照枠」を必要に応じて適切に利用することができる。	日本語非母語話者の日本語学習を促進したり，日本語非母語話者に日本語を教えたりする際に，学習方法・教え方を検討することはできるが，まだ改善は十分にできない。また，「日本語教育の参照枠」を必要に応じて利用することができる。	日本語非母語話者の日本語学習を促進したり，日本語非母語話者に日本語を教えたりする際に，学習方法・教え方を検討することはある程度できるが，まだ改善は十分にできない。「日本語教育の参照枠」を必要に応じて利用することはあまりできない。	日本語非母語話者の日本語学習を促進したり，日本語非母語話者に日本語を教えたりする際に，学習方法・教え方を検討することは少しできるが，まだ改善は十分にできない。「日本語教育の参照枠」を必要に応じて利用することはほとんどできない。	日本語非母語話者の日本語学習を促進したり，日本語非母語話者に日本語を教えたりする際に，学習方法・教え方を検討することができない。また，「日本語教育の参照枠」を必要に応じて利用することもできない。

科目名	経営学特論			授業番号	LC216	サブタイトル			
教員	稲垣　祐輔								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	企業は、その主役である人・組織による活動を通じて、価値ある商品やサービスを創造し人々に届け、社会に貢献しています。経営を取り巻く環境は激変しており、企業は自らを変化させて主体的に対応することが求められます。この授業では、経営学から経営の基礎・エッセンスを学び、理解を深めるために企業の事例研究に取り組みます。企業は、価値を生み顧客を創造し儲けを出し、自らも成長するために、どのような活動に取り組んでいるのかを学び、経営学の基礎力を身に付けます。個人・ペアやグループのワークで検討を進めて、他者と連携して課題解決する力を培うと共に、プレゼンテーションを通じて他者に伝える力、他者の意見を聞き学ぶ力も培います。								
到達目標	・経営学の基礎的な理論を理解し説明できる。 ・企業は、どのような活動を行っているのか（価値を生み顧客を創造するために）、その概要を説明できる。 ・基礎的な理論と学びを活かして企業の事例研究に取り組み、研究内容を説明できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞、＜思考・問題解決能力＞、＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス 当授業の目的と概要、進め方などの説明	
第2回	ビジネスデザイン ビジネスを始めるための準備：ビジネスの起点、価値提案	
第3回	ビジネスデザイン顧客を選ぶことの重要性、セグメンテーションとターゲッティング	
第4回	ビジネスデザイン売り方・稼ぎ方の設計、外部連携（自社は何をするかの選択）	
第5回	ビジネスデザイン ビジネスを起こし育てるための経営資源・環境の把握	
第6回	ビジネスデザイン ビジネス活動と資金、活動結果と収支	
第7回	事例研究1 ビジネス事例研究（経営者等のゲストスピーカー）	
第8回	組織デザイン 組織メンバーとなる仲間捜しと採用、メンバーのやる気を引き出すには	
第9回	組織デザイン どのようにしてメンバーを引っ張るか（リーダーシップ）	
第10回	組織デザイン 成長（メンバーの増加）と組織、目標の実現に向けたマネジメント、メンバーの業績評価	
第11回	組織デザイン 機能する組織をつくる（組織デザインの原則と課題）、チームによるマネジメント	
第12回	組織デザイン 組織学習と知識創造を通じた変革	
第13回	事例研究2 ビジネス事例研究（以下その2の事前研究）　その1	
第14回	事例研究2 ビジネス事例研究（経営者等ゲストスピーカー）　その2	
第15回	まとめ これまでの講義を振り返り、要点を明確化し、まとめます	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	20	課題のテーマについて調査し、整理・分析し、具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。口頭で解説してフィードバックする。
小テスト	40	各回の内容において重要な内容の理解度を評価する。講義の中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	講義の内容をまとめるレポートや小テストを実施するので，講義内容が理解できるように復習を行うこと。
受講の心得	・日頃より、新聞や雑誌のトピック的企業の特集記事、経営者へのインタビューに目をとおすなど、企業経営に触れる機会をつくり出席すること。 ・授業中にはペアやグループ・ワークを実施するので積極的に参加すること。
授業外学修	・予習として、教科書や配布資料の講義内容に相当する部分を事前に読み、疑問点のチェックなど2時間以上予習すること。 ・毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので2時間以上復習しておくこと。 ・課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
考える経営学	中川 功一、佐々木 将人、服部 泰宏著	有斐閣ストゥディア	978-4-641-15083-6	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・必要に応じて資料を配付する。
その他	
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	経営コンサルタント（20年）大学での産学連携プロジェクトマネジメント（1年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	中小企業を中心に創業やベンチャー企業の変革・改善や再生等経営支援（相談・助言）に携わった経験から、具体例を用いて実践的な指導を行うことができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	企業活動にかかる経営学の基礎的な知識を理解している	授業で学んだ経営学の基礎的な知識を相当程度理解し、分かりやすくポイントを押さえて正確に述べることができる	授業で学んだ経営学の基礎的な知識を十分理解し、ポイントを押さえて正確に述べることができる	授業で学んだ経営学の基礎的な知識を理解し、ポイントを押さえて、概ね正確に述べることができる	授業で学んだ経営学の基礎的な知識の理解度が不足しており、ポイントは十分でなく、正確さに欠けるが、かろうじて述べることができる	授業で学んだ経営学の基礎的な知識の理解度が相当不足しており、要点・正確さも欠けており、述べることができない
思考・問題解決能力	経営学の基礎的な知識を活かして企業活動を捉えて情報を整理・考察し、問題・課題や特徴を明らかにする事ができる	学びを活かした企業活動の情報整理・考察する力が相当程度以上あり、根拠をもって問題・課題を丁寧に明示することができる	学びを活かした企業活動の情報整理・考察する力が十分以上あり、根拠をもって問題・課題を明示することができる	学びを活かした企業活動の情報整理・考察する力が備わっており、ある程度の根拠をもって問題・課題を明示することができる	学びを活かした企業活動の情報整理・考察する力が不足しており、根拠が曖昧で問題・課題の明瞭性に欠いている	学びを活かした企業活動の情報整理・考察する力が相当不足しており、問題・課題の根拠が提示されず、問題・課題が不明瞭である
技能	経営学の基礎的な知識の理解を深めて、知識を事例研究等に活用すること、学びの視点に基づいて企業活動を分析・考察することができる	経営学の基礎的な知識の理解を深めて、相当程度知識の活用が出来ており、学びの視点に基づいて企業活動を相当程度分析・考察することができる	経営学の基礎的な知識の理解を深めて、十分以上な知識の活用が出来ており、学びの視点に基づいて企業活動を十分以上分析・考察することができる	経営学の基礎的な知識の理解を深めて、十分程度の知識の活用が出来ており、学びの視点に基づいて企業活動を十分程度分析・考察することができる	経営学の基礎的な知識の理解が浅く、部分的なの知識の活用に留まり、学びの視点に基づいた企業活動の分析・考察は不十分である	経営学の基礎的な知識の理解が進まず、知識の活用が殆どできず、企業活動を学びが浅く、学びの視点に基づいた分析・考察が殆どできない

科目名	プレゼンテーション技法			授業番号	LC217	サブタイトル			
教員	片山　純子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業では、日本語によるプレゼンテーションの基礎を学び、「分かりやすく伝える力」を養うことを目的とする。前半ではポスター発表を通して情報の整理と視覚的表現を学び、Canva等のツールを用いて実際にポスターを作成する。後半ではスライドを用いたプレゼンテーションの基礎を学び、論理的な構成（結論・理由・具体例）や話し方（声・視線・ジェスチャー）を実践的に習得する。								
到達目標	本授業の到達目標は以下の通りである: 1. 情報を整理し、簡潔にまとめることができる。 2. ポスターやスライドを用いて視覚的に分かりやすく表現できる。 3.「結論・理由・具体例」の構成で話すことができる。 4. 聞き手を意識した発表（声・視線・態度）ができる。 5. 他者の発表を理解し、適切に評価・コメントできる。 本授業は、ディプロマ・ポリシーに掲げる＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	授業概要・評価方法の説明。プレゼンテーションとは何かを理解し、良い例・悪い例を考察する。	
第2回	ポスター発表の特徴と役割を学ぶ。分かりやすいポスターの要素（視認性・情報整理）を理解する。	
第3回	Canvaの基本操作を学ぶ。テンプレートやレイアウト、フォント・色の使い方を実践する。	
第4回	ポスターの内容構成（タイトル・要点・説明）を考え、情報整理を行う。	
第5回	ポスター作成（個人またはペア）。教員によるフィードバックを受けながら修正する。	
第6回	ポスター発表（1分程度）。視覚資料を用いて簡潔に説明する。	
第7回	スライドプレゼンテーションの特徴を学ぶ。ポスターとの違いを理解する。	
第8回	スライド作成の基本（1スライド1メッセージ、文字量、視覚的要素）を学ぶ。	
第9回	CanvaまたはPowerPointの操作方法を学び、スライド作成を開始する。	
第10回	発表構成（結論・理由・具体例）を学び、スライド内容を構築する。	
第11回	スライド作成（個人またはグループ）。内容の整理と改善を行う。	
第12回	発表練習（声・視線・ジェスチャー）。伝え方を意識した練習を行う。	
第13回	最終発表①	
第14回	最終発表②	
第15回	振り返り・自己評価および他者評価を行い、学習成果を確認する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業参加・活動	30	授業内での発言や活動への積極的な参加、グループワークへの貢献度を評価する。
ポスター発表	20	内容の分かりやすさ、情報整理、視覚的表現、簡潔な説明を評価する。
スライド作成	20	構成（結論・理由・具体例）、情報整理、視覚的な分かりやすさを評価する。
最終発表	30	発表内容の明確さ、論理構成、伝達力（声・視線・態度）を総合的に評価する。

評価の方法：自由記載	本授業では、視覚資料の作成能力と口頭による伝達能力の両方を重視し、総合的に評価する。特に、分かりやすく伝える力と継続的な改善を評価対象とする。
受講の心得	本授業は実践的な活動を中心とするため、積極的な参加が求められる。グループワークや発表においては他者を尊重し、協働的に取り組むこと。
授業外学修	ポスターおよびスライドの作成、発表練習を行うこと。各回の準備として内容の整理や資料の修正を行う（週1～2時間程度）。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特定の教科書は使用しない。教員作成資料およびCanva、PowerPoint等のデジタルツールを使用する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	このコースでは、ワークシート、プリント、YouTube ビデオ、Web サイト、PowerPoint などを使用する。
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	発表の目的や主張を明確にし、論理的な構成（導入・本論・結論）を用いて内容を分かりやすく展開できるか、また理由や具体例を用いて説得力のある発表ができるかを評価する。	目的や主張が明確であり、導入・本論・結論が一貫した論理的で分かりやすい構成を示している。	概ね論理的で分かりやすい構成を示している。	基本的な構成（導入・本論・結論）を示すことができる。	構成が不十分であり、論理のつながりが弱い。	構成がほとんど見られず、論理的な展開ができていない。
技能	発音や話す速度、流暢さに加え、視覚資料（スライド等）を適切に用いながら、相手に分かりやすく効果的に内容を伝えることができるかを評価する。	視覚資料と発表内容が効果的に統合されており、非常に分かりやすく伝達できている。	視覚資料と発表内容を用いて概ね分かりやすく伝達できている。	基本的な視覚資料や発表により伝達することができる。	視覚資料や発表の工夫が不十分であり、伝達が十分ではない。	視覚資料や発表による伝達が困難である。

科目名	英語資格演習Ⅱ			授業番号	LC218	サブタイトル			
教員	藤田　香織								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義は英語資格演習とあり，TOEIC内容を中心としたビジネスイングリッシュの資格を主体とした資格試験の演習講義とする。 TOEIC L&Rの公式問題集1を繰り返し学習することで，文法基礎理解・ビジネスイングリッシュ基礎理解（文書理解）・リスニング力の向上を目指す。 学生は事前に予習をしてきて疑問点を明らかにしたうえで、その内容に対して講義を行う。授業内・家庭学習でパターンプラクティスをすることで理解の定着を図る。								
到達目標	まずは英語学習習慣を身に着ける。文法基礎力を身に着けそれが文法問題だけでなく文書問題やリスニング力となる英語の応用力を養う。 数字として自分の現在の到達ポイントを可視化（見える化）し，TOEICの出題傾向を知りそれに合わせた学習方法を行いスコアアップを目指す。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	授業進行説明（授業内容・予習復習の仕方・小テストの内容・評価等） Reading: Part5　短文穴埋め問題に取り組む。 最も出題される品詞問題と5文型の解説と問題演習に取り組む グループ学習・パターンプラクティスを行う	
第2回	Listening：Part1　写真描写問題 写真問題で使われる文法・写真描写問題の解説と問題演習に取り組む Reading：Part5　短文穴埋め問題 準動詞の問題についての解説と問題演習に取り組む グループ学習・パターンプラクティスを行う	
第3回	Listening：Part2　応答問題 短い会話文の解き方の解説と問題演習・学習方法（ディクテーション）の説明 Reading：Part5　短文穴埋め問題 準動詞の問題についての解説と問題演習に取り組む グループ学習・パターンプラクティスを行う	
第4回	Listening：Part2　応答問題 出題傾向・得点のポイント（疑問詞の疑問文）と問題演習に取り組む Reading：Part5　短文穴埋め問題 準動詞についての解説と問題演習に取り組む グループ学習・パターンプラクティスを行う	
第5回	小テスト（45分） Listening：Part3　会話文 出題傾向・学習方法（音読練習）についての解説・問題演習に取り組む グループ学習・パターンプラクティスを行う	
第6回	Listening：Part3会話文 解説と問題演習（ディクテーション）の説明 Reading：Part5　語彙問題 Reading：Part6　長文穴埋め問題 穴埋め問題の解き方と出題傾向の解説と問題演習に取り組む グループ学習・パターンプラクティスを行う	
第7回	Listening：Part3　会話問題 問題の解き方の解説と問題演習に取り組む Reading：Part6　長文穴埋め問題 出題問題の解説と問題演習に取り組む グループ学習・パターンプラクティスを行う	
第8回	Listening：Part4　説明文問題 問題の解き方の解説と問題演習に取り組む Reading：Part7　長文読解問題 出題傾向解説と問題演習に取り組む グループ学習・パターンプラクティスを行う	
第9回	Listening：Part4　説明文問題 問題の解き方の解説と問題演習に取り組む Reading：Part7　長文読解問題 出題問題解説と問題演習に取り組む グループ学習・パターンプラクティスを行う	
第10回	小テスト（45分） Reading：Part7　長文読解問題 出題問題解説と問題演習に取り組む グループ学習・パターンプラクティスを行う	
第11回	Listening：Part4　説明文問題 問題の解き方の解説と問題演習に取り組む Reading：Part7　長文読解問題 出題問題解説と問題演習に取り組む グループ学習・パターンプラクティスを行う	
第12回	Listening：Part4　説明文問題 問題の解き方の解説と問題演習に取り組む Reading：Part7　長文読解問題 出題問題解説と問題演習に取り組む グループ学習・パターンプラクティスを行う	
第13回	復習 Listening：Part1，2 Reading：Part5に取り組む グループ学習・パターンプラクティスを行う	
第14回	復習 Listening：Part3，4 Reading：Part6，7に取り組む グループ活動　ロールプレイングを行う グループ学習・パターンプラクティスを行う	
第15回	小テスト45分 復習Reading：Part6，7に取り組む グループ学習・パターンプラクティスを行う	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業内復習プリント　計11回	11	授業の最初で前回の復習内容（5問）をチェックします。満点で1点
授業内5回ごとの小テスト計3回（各20点）	60	各授業で扱った授業内容の同じ問題を用いて，復習テストを行います。きちんと復習ができていること，各授業のターゲットになる内容理解が理解できている，TOEICの問題の傾向が掴まれていることを評価します。テストの行われた次の授業でフィードバックを行います。
テスト2の問題を解く。計2回（各10点）	20	自分のスコアを知る，振り返り学習を行う，目的を明らかにして目標を立てる，作戦を練る，学習プランを立てる。
積極的な学習態度	9	予習（ノートチェックを行う）・自学自習

評価の方法：自由記載	そのため授業前に毎回予習・復習をしてきたかチェックし、成績評価に入れる。5回ごとの授業で小テストを行い（計3回各20点），最初と最後に本番試験同様の200問の問題を2時間で解いて自分の到達ポイント・自己スコアを知ってください（自己採点・復習・振り返りと目標設定　最初と最後の各10点）。
受講の心得	予習・復習を毎回行い，解けない問題を明らかにして授業に参加してください。 ただ授業を受講するだけでなく，TOEIC受験を意識して目標を立てて学習に取り組んでください。 講義も行いますが，他の学生と教え合いしっかり思考し積極的な意欲溢れる学習態度を求めます。
授業外学修	テキスト指定箇所については授業までに1時間以上予習，30分以上の復習をすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
公式TOEIC Listening & Reading問題集1		一般財団法人　国際ビジネスコミュニケーション協会	978-4-906033-49-2	2800

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高等学校常勤英語講師（6年），塾講師（6年），英会話講師（1年），オーストラリアの旅行業界コーディネーター（1年未満），日本語講師・専門学校英語講師（2年），他大学大学講師（6年）他大学学習アドバイザー（2年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校英語講師経験を踏まえて学生のわからない不安を察知して、スピードや表現を変えてサポートできる。他大学学習アドバイザー時に多くの大学生のTOEICスコアをアップさせている。問題傾向をしっかり説明し、早く回答する方法を解説する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.学習習慣を身に着ける	予習・復習を毎回理解を深めるために徹底的に行い、復習テストは常に満点である。	予習・復習をしっかり行っており、復習テストはほぼ満点である。	毎回予習・復習は必ず行い復習テストは大体満点である。	予習・復習を毎回行う。復習テストでは半分程度の出来である。	予習・復習を行っていない。復習テストでスコアが取れない。
知識・理解	2.TOEICでよく出題される問題傾向を知り，文法・英単語・英語表現を理解し活用できる。	出題傾向・文法・単語・英語表現をしっかり理解し，他の実践問題でも正解しスコアが取れる。	出題傾向・文法・単語・英語表現をしっかり理解し，スコアが取れる。	出題傾向・文法・単語・英語表現をしっかり理解し，繰り返し学習することでスコアが取れる。	出題傾向・文法・単語・英語表現を覚え理解する。	出題傾向・文法・単語・英語表現の理解ができない。
知識・理解	3.実際の試験を想定したうえでスコアを出し自分のスタートポイントを知り，目標設定を行い，実現するための計画を練る。試験問題の間違えた問題の振り返りを行う。	2時間の模擬試験を実践後，答え合わせをし現時点のスコアを知る。十分な振り返りを行うことでTOEICの出題傾向に気づき，自分に合った学修法を選択して継続的に学ぶ。自らの弱点を発見し，改善すべき点に気づき修正することができる。	2時間の模擬試験を実践後，答え合わせをし現時点のスコアを知る。十分な振り返りを行うことでTOEICの出題傾向に気づき，自分に合った学修法を選択して継続的に学ぶ。	2時間の模擬試験を実践後，答え合わせをし現時点のスコアを知る。振り返りを行う。継続的に学習をしている。	継続的に学修することはできるが，TOEICの出題傾向をつかむことができない。誤答を振り返り，改善しようとする意欲が見られない。	模擬試験を実践ができていない。意欲がなく，継続的に学修することができない。
技能	1.スピードが速く，大量の英語リスニングを理解できる。	ビジネスシーンでのリスニング内容を理解することができ、問題に答え他の実践問題も対応できる。	ビジネスシーンでのリスニング内容を理解することができ、間違いなく問題に答えることができる。	ビジネスシーンでのリスニング内容を理解することができ、問題に答えることができる。	ビジネスシーンでのリスニング内容をなんとか理解することができ、時々間違えるが問題に答える。	ビジネスシーンでのリスニング内容を理解することができない。
技能	2.英語文書の理解ができる。	既習の英単語や英語表現を活用して，文書が十分理解でき問題内容に間違いなくしっかり答えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して，文書内容を理解し問題内容に80%答えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して，文書内容を理解し問題内容に70%答えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して，文書内容を理解し問題内容に50%答えることができる。	文書内容を理解し問題内容に答えることができない。
技能	3.文法の理解ができる	よく出題される文法項目を理解し，全ての問題に答えることができ他の応用問題も対応でき英作文・英会話表現ができる。	よく出題される文法項目を理解し，よく問題に答えることができ他の応用問題も解くことができる。	よく出題される文法項目を理解し，文法問題に十分答えることができる。	よく出題される文法項目を理解し，何とか問題に答えることができる。	文法項目を理解できず，問題に答えることができない。

科目名	日本語学概論			授業番号	LC219	サブタイトル			
教員	小西　達也								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	日本語教育における「日本語」がどのような言語であるのかを明らかにしていく。文字・表記，音声・音韻，語彙・意味，文法，文章・談話・社会を概観し，講義する。「日本語」を俯瞰しつつ，これから日本語教育課程を学ぶ基礎を作っていくために，講義だけではなく，「日本語」の具体例や事例を挙げながら，グループワーク，ディスカッションも行う。								
到達目標	・日本語教育における「日本語」がどのような言語か理解する。 ・日々，様々な「日本語」にアンテナを張り，敏感になる。 ・日本語学習者から「日本語」に関する質問を受けたときに，日本語学の知識からどのように答えられるかを検討できるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	文字・表記（かな・カナ） 「日本語」の文字の種類を知り，日本語教育における「ひらがな、カタカナ」の特徴，重要な点を考え，理解する。	
第2回	文字・表記（漢字・その他） 日本語学習者の漢字学習の観点から，日本語教育における「漢字」について，特徴，重要な点を考え，理解する。	
第3回	音声・音韻（母音・子音） 日本語教育における「日本語」の音声・音韻の中で，「母音」と「子音」について，特徴，重要な点を考え，理解する。	
第4回	音声・音韻（音節・拍） 日本語教育における「日本語」の音声・音韻の中で，「音節」と「拍」について，特徴，重要な点を考え，理解する。	
第5回	音声・音韻（アクセント） 日本語教育における「日本語」の音声・音韻の中で，「アクセント」について，特徴，重要な点を考え，理解する。	
第6回	音声・音韻（イントネーション・リズム、その他） 日本語教育における「日本語」の音声・音韻の中で，「イントネーション」や「リズム」について，特徴，重要な点を考え，理解する。	
第7回	語彙・意味（語構成・語種など） 「日本語」の「語」はどのように構成されているのか，どのような種類があるのかを考え，理解する。	
第8回	語彙・意味（類義語・対義語など） 日本語教育における「日本語」の「類義語」や「対義語」について，特徴，重要な点を考え，理解する。	
第9回	日本語教育文法（品詞） 日本語教育における「日本語」の文法の中で，動詞，形容詞，助詞などの「品詞」について，特徴，重要な点を考え，理解する。	
第10回	日本語教育文法（活用） 日本語教育における「日本語」の文法の中で，動詞，形容詞，助詞などの「品詞」について，特徴，重要な点を考え，理解する。	
第11回	日本語教育文法（時間に関わる表現） 日本語教育における「日本語」の文法の中で，「時間に関わる表現」（テンス，アスペクト【ル形】【タ形】【テイル形】など）について，特徴，重要な点を考え，理解する。	
第12回	日本語教育文法（視点に関わる表現） 日本語教育における「日本語」の文法の中で，「視点に関わる表現」（受身，授受表現，自動詞・他動詞など）について，特徴，重要な点を考え，理解する。	
第13回	日本語教育文法（助詞、様々な複文など） 日本語教育における「日本語」の文法の中で，「助詞」と「複文」について，特徴，重要な点を考え，理解する。	
第14回	文章・談話・社会（文体・談話分析） 日本語教育における「日本語」の文体と談話について，特徴，重要な点を考え，理解する。	
第15回	文章・談話・社会（日本語のバリエーション） 様々な「日本語」に触れ，日本語教育にどのようにそれらの「日本語」を取り入れると良いかを考え，理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢・態度	20	講義，グループワーク，ディスカッションの積極的な参加度によって評価する。
事前課題	10	授業を行う前の課題提出によって，評価する。 課題は，主に「日本語」に関する具体例や事例を探してくることとし，授業の中でそれらを確認し，フィードバックをする。
事後課題	20	授業後のふり返りシートによって，評価する。 課題は，授業で学んだことと自分自身が考えたことをまとめ，省察力を高める。必要に応じて，授業中に全体で確認する。
小テスト	30	項目（文字・表記，音声・音韻，語彙・意味，文法，文章・談話・社会）ごとに，具体例・事例を挙げながら，自分の意見が適切に述べられているかで評価する。 小テストはコメントを加え，必要に応じて全員で確認する。
最終レポート	20	文字・表記，音声・音韻，語彙・意味，文法，文章・談話・社会の中から，自分自身が最も関心を持ったものを選び，1200字程度の自分の意見を含めたレポートを作成する。 なぜ関心を持ったのか，具体例・事例，意見を適切に書けているかで評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自分自身が使っている「日本語」，自分の周りが使っている「日本語」，留学生が使っている「日本語」など，様々な「日本語」に関心を持ちながら受講すること。

授業外学修	1 授業ごとに，事前に配布するプリントを読み，事前課題に取り組んでおく。 2 授業ごとに，事後にふり返りシートを書く。 3 発展学修として，学んだ「日本語」の事例・具体例をさらに探したり，紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
超基礎・日本語教育のための日本語学	太田陽子（編）	くろしお出版	978-4-87424-885-0	
基礎日本語学第2版	衣畑智秀（編）	ひつじ書房	978-4-8234-1195-3	
新ここからはじまる日本語学	伊坂淳一	ひつじ書房	978-4-89476-142852	

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	日本語教員（18年），日本語教師養成教員（13年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	日本語教育機関（18年），日本語教師養成教員（13年）での経験から，日本語教育における「日本語学」について基本的知識を身につけられるように授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	日本語教育における「日本語」とはどのような言語かを理解し，日本語学の基礎的な知識を獲得する。また，「日本語」に関して，自ら具体例・事例を挙げることができる。	日本語教育における「日本語」とはどのような言語かを理解し，日本語学の基礎的な知識を獲得する。また，「日本語」に関して，豊富な具体例・事例を挙げることができる。	日本語教育における「日本語」とはどのような言語かを理解し，日本語学の基礎的な知識を獲得する。また，「日本語」に関して，おおよそ具体例・事例を挙げることができる。	日本語教育における「日本語」とはどのような言語かを理解し，日本語学の基礎的な知識を獲得する。また，「日本語」に関して，少しではあるが具体例・事例を挙げることができる。	日本語教育における「日本語」とはどのような言語かを理解し，日本語学の基礎的な知識を獲得する。しかし，「日本語」に関して，具体例・事例を挙げることがほとんどできない。	日本語教育における「日本語」とはどのような言語かを理解せず，日本語学の基礎的な知識を獲得していない。しかし，「日本語」に関して，具体例・事例を挙げることが全くできない。
思考・問題解決能力	「日本語学」の知識を，自分や自分の周りの人，留学生などが用いる日本語と結びつけることができる。また，学習者から「日本語」に関する質問を受けたときに，日本語学の知識からどのように答えられるかを検討できるようになる。	「日本語学」の知識を，自分や自分の周りの人，留学生などが用いる日本語と結びつけることができる。また，日本語学習者から「日本語」に関する質問を受けたときに，日本語学の知識からどのように答えられるかを十分に検討できるようになる。	「日本語学」の知識を，自分や自分の周りの人，留学生などが用いる日本語と結びつけることができる。また，日本語学習者から「日本語」に関する質問を受けたときに，日本語学の知識からどのように答えられるかをおおよそ検討できるようになる。	「日本語学」の知識を，自分や自分の周りの人，留学生などが用いる日本語と結びつけることができる。また，学習者から「日本語」に関する質問を受けたときに，日本語学の知識からどのように答えられるかを一部検討できるようになる。	「日本語学」の知識を，自分や自分の周りの人，留学生などが用いる日本語と結びつけることができる。しかし，日本語学習者から「日本語」に関する質問を受けたときに，日本語学の知識からどのように答えられるかをあまり検討できない。	「日本語学」の知識を，自分や自分の周りの人，留学生などが用いる日本語と結びつけることができない。また，日本語学習者から「日本語」に関する質問を受けたときに，日本語学の知識からどのように答えられるかを全く検討できない。

科目名	日本語教育実践研究			授業番号	LC301	サブタイトル			
教員	小西　達也								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	これまで学習した日本語教育に関する理論を応用し，さまざまな教育方法と実践力についての知識を身につける。また，日本語教育の多様性を理解し，学習目的，対象別の日本語教育を行うために授業計画を立てる。さらに，臨機応変に対応する力，自己省察能力，他者と協働する力を育成する。								
到達目標	１．日本語教育を取り巻く日本語教育の現状を理解することができる。 ２．さまざまな日本語教育機関で求められる基礎的な能力，そして，日本語教育現場において自分で課題を見つけ，解決する力を身につけることができる。 ３．多文化共生に関しても深く理解することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	コース・デザイン(1) 日本語教育における「コース」はどのように考え，作っていけばよいのかを説明し，実際に一つのコースの作成を試みる。	
第2回	コース・デザイン(2) 作成した「コース」を議論して改善し，教科書・教材を検討したのち，どのような授業を考えていけばよいのか方向性を決める。	
第3回	初級日本語教育の実践（1） 作成し，改善をした「コース」を元にして，初級の一つの授業案を考え，議論する。特に，口頭コミュニケーション（聞くこと・話すこと）に重きを置いた授業とする。	
第4回	初級日本語教育の実践（2） 作成した初級の一つの授業案を実践し，省察を経て，改善する。特に，口頭コミュニケーション（聞くこと・話すこと）に重きを置いた授業とする。	
第5回	初級日本語教育の実践（3） 作成し，改善をした「コース」を元にして，初級の一つの授業案を考え，議論する。特に，書記コミュニケーション（書くこと）に重きを置いた授業とする。	
第6回	初級日本語教育の実践（4） 作成した初級の一つの授業案を実践し，省察を経て，改善する。特に，書記コミュニケーション（書くこと）に重きを置いた授業とする。	
第7回	初級日本語教育の実践（5） 作成し，改善をした「コース」を元にして，初級の一つの授業案を考え，議論する。特に，文型・文法に重きを置いた授業とする。	
第8回	初級日本語教育の実践（6） 作成した初級の一つの授業案を実践し，省察を経て，改善する。特に，文型・文法に重きを置いた授業とする。	
第9回	評価方法 これまで作成したコース，授業を元にして，日本語教育における評価について考えるとともに，実際に日本語学習者の日本語に対して評価を試みる。	
第10回	日本語能力の測定（日本語能力試験など） 日本語能力はどのような基準で，どのように測定されているのかを日本語能力試験などから理解を深め，主に初級と中級の違いについて考える。	
第11回	中級日本語教育の実践（1） 中級の一つの授業案を考え，議論する。特に，読解（読むこと）に重きを置いた授業とする。	
第12回	中級日本語教育の実践（2） 作成した中級の一つの授業案を実践し，省察を経て，改善する。特に，読解（読むこと）に重きを置いた授業とする。	
第13回	中級日本語教育の実践（3） 中級の一つの授業案を考え，議論する。特に，作文（書くこと）に重きを置いた授業とする。	
第14回	中級日本語教育の実践（4） 作成した中級の一つの授業案を実践し，省察を経て，改善する。特に，作文（書くこと）に重きを置いた授業とする。	
第15回	日本語教育における「日本文化・日本事情」の実践 これまで学んだ日本語教育の考え方，実践方法を踏まえて，「日本文化・日本事情」の一つの活動案を考え，議論する。実際に日本語学習者を想定して作成する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢・態度	30	議論，グループワークにおける積極度によって評価する。
発表・実践	40	教案に関する発表，実践の成果物によって評価する。授業中にフィードバックを行い，そのフィードバックを元に省察をしたものも評価する。
実践時のフォト記録ノート	30	自己の実践，他者の実践時に気になるところをフォトとして撮影し，それについてなぜそのフォトを撮ったのか，そのフォトからどのようなことを考え，どのようなことが言えるのかを言語化し記述したものを評価する。 一人ずつにコメントをし，返却後，必要に応じて全体で共有する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	１．日本語教育実践を行うにあたって，まずアイデアを考え，他者に聞いてもらい，内容を深めてから実際に活動し，活動後は十分な省察を心がけ，また次の実践へとつながるように意識すること。 ２．機会がある限り，様々なところで日本語教育実践を観ることを推奨する。
授業外学修	１．授業計画で示されているテーマに関して配布する資料をよく読んでおくこと。 ２．教案の作成（検討は授業内，仕上げは授業外中心）を丁寧に行うこと。 ３．実践時のフォト記録ノートを書くこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	授業計画に基づく事項に関するプリントを適宜配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜，授業で案内する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	日本語教員(18年)，日本語教師養成教員13年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	日本語教育機関(18年)での経験から外国人に対して日本語を指導する知識・技能を身につけられるように授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	日本語教育における実践力の重要性と具体的な指導方法を深く理解し，フィールドに合わせた指導法（対象者別，技能別，能力別など）の実践的なアプローチを提案できる。実際の教育現場に即した解決策を自ら考え，応用することができる。	日本語教育における実践力の重要性と具体的な指導方法を深く理解し，フィールドに合わせた指導法（対象者別，技能別，能力別など）の実践的なアプローチを十分に提案できる。実際の教育現場に即した解決策を自ら考え，応用することが十分にできる。	日本語教育における実践力の重要性と具体的な指導方法を理解し，フィールドに合わせた指導法（対象者別，技能別，能力別など）の実践的なアプローチを提案できる。実際の教育現場に即した解決策を自ら考え，応用することにはやや改善の必要がある。	日本語教育における実践力の重要性と具体的な指導方法を理解している。フィールドに合わせた指導法（対象者別，技能別，能力別など）の実践的なアプローチの提案には多少困難があるが不可能ではない。また，実際の教育現場に即した解決策を自ら考え，応用することにも改善の必要がある。	日本語教育における実践力の重要性と具体的な指導方法を理解しているが，フィールドに合わせた指導法（対象者別，技能別，能力別など）の実践的なアプローチの提案はあまりできない。また，実際の教育現場に即した解決策を自ら考え，応用することにも改善の必要がある。	日本語教育における実践力の重要性と具体的な指導方法を理解していない。フィールドに合わせた指導法（対象者別，技能別，能力別など）の実践的なアプローチの提案もできず，実際の教育現場に即した解決策を自ら考え，応用することも不可能である。
思考・問題解決能力	指導法や評価方法などを統合的に理解し，授業内外で発生する課題に対して独自の解決策を提案できる。理論的背景と実践的応用をつなげる力があり，自己の教育観を明確に持つ。	指導法や評価方法などを統合的に十分に理解し，授業内外で発生する課題に対して独自の解決策を提案できる。理論的背景と実践的応用をつなげる力があり，自己の教育観を明確に持ち言語化できる。	指導法や評価方法などを統合的に理解し，授業内外で発生する課題に対して独自の解決策を提案できる。理論的背景と実践的応用をつなげる力はあるが，自己の教育観を明確に持ち言語化できるとまでは言えない。	指導法や評価方法などを統合的に理解し，授業内外で発生する課題に対しておおよその解決策を提案できる。理論的背景と実践的応用をつなげる力はまだあまりない。	指導法や評価方法などを統合的に理解しているが，授業内外で発生する課題に対して解決策はあまり提案できない。理論的背景と実践的応用をつなげる力もまだない。	指導法や評価方法などを統合的に理解していない。授業内外で発生する課題に対して解決策は提案できず，理論的背景と実践的応用をつなげる力も全くない。
技能	初級日本語学習者に対する指導方法を理解し，適切に活用できる能力。	初級学習者向けの指導法を深く理解し，効果的な指導計画を立て，実践で活用できる。	初級学習者向けの指導法について十分に理解し，基本的な指導法を実践できる。	初級学習者向けの指導法について理解しているが，指導計画において実践的な工夫が必要である。	初級学習者向けの指導法についての理解が不十分で，指導計画の立案や実践に難がある。	初級学習者向けの指導法についての理解がほとんどなく，実践に適用できない。
技能	中級日本語学習者に対する指導方法を理解し，効果的に指導できる能力。	中級学習者に適した指導法を深く理解し，学習者のニーズに応じた指導ができる。	中級学習者向けの指導法を理解し，基本的な指導法を実践で活用できる。	中級学習者向けの指導法を理解しているが，学習者のニーズに完全に対応できていない。	中級学習者向けの指導法についての理解が不十分で，指導が実践的でない。	中級学習者向けの指導法に対する理解が不足しており，指導に適用できない。

科目名	日本語教育特論			授業番号	LC302	サブタイトル			
教員	小西　達也								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	日本語教育をめぐる研究がどのような背景や脈絡から生まれてくるのか、さまざまな日本語教育研究はどのように整理することができるか，という問いに対する現段階の答えとして，日本語教育学の構造化に関するワーキンググループが作成した「日本語教育学の俯瞰図」を参照しながら，現在，一般に行われている日本語教育について論文や資料などをもとにして現状に対し，検討を加えていく。また，最近進められている日本語教育の方向性を探るとともに問題点を考える。								
到達目標	１．現在の日本語教育を批判的な目で捉えられる。 ２．日本語教育の動向を知るとともに課題を見つけ出すことができる。 ３．日本語教師として教師オートノミー（自律性）を高める。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育の開発と改善 日本語教育学の俯瞰図（日本語教育学の構造化に関するワーキンググループ作成）の「日本語教育の諸側面」のうち，「教育の開発と改善」に関して，文献購読，講義をするとともに，学生の考え，意見を出発点とし，議論，グループワークを通して，日本語教育学への興味・関心を深める。	
第2回	教育活動 日本語教育学の俯瞰図（日本語教育学の構造化に関するワーキンググループ作成）の「日本語教育の諸側面」のうち，「教育活動」に関して，文献購読，講義をするとともに，学生の考え，意見を出発点とし，議論，グループワークを通して，日本語教育学への興味・関心を深める。	
第3回	評価 日本語教育学の俯瞰図（日本語教育学の構造化に関するワーキンググループ作成）の「日本語教育の諸側面」のうち，「評価」に関して，文献購読，講義をするとともに，学生の考え，意見を出発点とし，議論，グループワークを通して，日本語教育学への興味・関心を深める。	
第4回	学習者 日本語教育学の俯瞰図（日本語教育学の構造化に関するワーキンググループ作成）の「日本語教育の諸側面」のうち，「学習者」に関して，文献購読，講義をするとともに，学生の考え，意見を出発点とし，議論，グループワークを通して，日本語教育学への興味・関心を深める。	
第5回	教師 日本語教育学の俯瞰図（日本語教育学の構造化に関するワーキンググループ作成）の「日本語教育の諸側面」のうち，「教師」に関して，文献購読，講義をするとともに，学生の考え，意見を出発点とし，議論，グループワークを通して，日本語教育学への興味・関心を深める。	
第6回	学習段階 日本語教育学の俯瞰図（日本語教育学の構造化に関するワーキンググループ作成）の「日本語教育の諸側面」のうち，「学習段階」に関して，文献購読，講義をするとともに，学生の考え，意見を出発点とし，議論，グループワークを通して，日本語教育学への興味・関心を深める。	
第7回	ICT活用の言語教育 日本語教育学の俯瞰図（日本語教育学の構造化に関するワーキンググループ作成）の「日本語教育の諸側面」のうち，「ICT活用の言語教育」に関して，文献購読，講義をするとともに，学生の考え，意見を出発点とし，議論，グループワークを通して，日本語教育学への興味・関心を深める。	
第8回	日本語 日本語教育学の俯瞰図（日本語教育学の構造化に関するワーキンググループ作成）の「日本語教育の研究的関心」のうち，「日本語」に関して，文献購読，講義をするとともに，学生の考え，意見を出発点とし，議論，グループワークを通して，日本語教育学への興味・関心を深める。	
第9回	言語 日本語教育学の俯瞰図（日本語教育学の構造化に関するワーキンググループ作成）の「日本語教育の研究的関心」のうち，「言語」に関して，文献購読，講義をするとともに，学生の考え，意見を出発点とし，議論，グループワークを通して，日本語教育学への興味・関心を深める。	
第10回	コミュニケーション 日本語教育学の俯瞰図（日本語教育学の構造化に関するワーキンググループ作成）の「日本語教育の研究的関心」のうち，「コミュニケーション」に関して，文献購読，講義をするとともに，学生の考え，意見を出発点とし，議論，グループワークを通して，日本語教育学への興味・関心を深める。	
第11回	言語教育 日本語教育学の俯瞰図（日本語教育学の構造化に関するワーキンググループ作成）の「日本語教育の研究的関心」のうち，「言語教育」に関して，文献購読，講義をするとともに，学生の考え，意見を出発点とし，議論，グループワークを通して，日本語教育学への興味・関心を深める。	
第12回	学習と教育 日本語教育学の俯瞰図（日本語教育学の構造化に関するワーキンググループ作成）の「日本語教育の研究的関心」のうち，「学習と教育」に関して，文献購読，講義をするとともに，学生の考え，意見を出発点とし，議論，グループワークを通して，日本語教育学への興味・関心を深める。	
第13回	制度・社会・歴史 日本語教育学の俯瞰図（日本語教育学の構造化に関するワーキンググループ作成）の「日本語教育の研究的関心」のうち，「制度・社会・歴史」に関して，文献購読，講義をするとともに，学生の考え，意見を出発点とし，議論，グループワークを通して，日本語教育学への興味・関心を深める。	
第14回	言語の行使と機能 日本語教育学の俯瞰図（日本語教育学の構造化に関するワーキンググループ作成）の「日本語教育の研究的関心」のうち，「言語の行使と機能」に関して，文献購読，講義をするとともに，学生の考え，意見を出発点とし，議論，グループワークを通して，日本語教育学への興味・関心を深める。	
第15回	哲学・思想 日本語教育学の俯瞰図（日本語教育学の構造化に関するワーキンググループ作成）の「日本語教育の研究的関心」のうち，「哲学・思想」に関して，文献購読，講義をするとともに，学生の考え，意見を出発点とし，議論，グループワークを通して，日本語教育学への興味・関心を深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢・態度	20	授業への積極性やグループワーク，議論の参加度によって評価する。
レポート	30	客観的資料をもとに論理的なレポートの完成度によって評価する。授業中に解説して，フィードバックを行う。
小テスト	30	毎回の講義での学習内容を理解した上で，自分の意見と今後の展望を踏まえ，言語化された記述文章によって評価する。
プレゼンテーション	20	データなどの資料をもとにした客観的なプレゼンテーションの完成度によって評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1．事前に指示した文献，配布したプリントをよく読み，理解しておくこと。 2．授業計画に基づく事情について調べておくこと。 3．自分なりに何か問題意識を持って授業に臨み，授業が終わった後は自分が考えたことを言語化できるようにしておくこと。
授業外学修	1．授業に関係する参考文献，論文を読んでおくこと。 2．プレゼンテーションのための準備をすること。 3．指示された問題点について自分なりの解答を用意しておくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜，授業にて案内する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	日本語教員(18年)，日本語教師養成教員(13年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	日本語教育機関(18年)での経験から外国人に対して日本語を指導する知識・技能を身につけられるように授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	日本語教育の現在の課題や動向について深い理解を示し，独自の批判的視点を持って考察でき，考察したことを言語化して他者に対してわかりやすく表現できるようになる。	日本語教育の現在の課題や動向について深い理解を示し，独自の批判的視点を持って十分に考察でき，考察したことを言語化して他者に対してわかりやすく表現できる。	日本語教育の現在の課題や動向について深い理解を示し，独自の批判的視点を持って考察でき，考察したことを言語化して他者に対してある程度表現できる。	日本語教育の現在の課題や動向について理解を示し，批判的視点をある程度持って考察できるが，考察したことを言語化して他者に対して表現することには困難がある。	日本語教育の現在の課題や動向について理解を示し，批判的視点をある程度持って考察できが，考察したことを言語化することは困難である。	日本語教育の現在の課題や動向について理解を示さず，批判的視点を持っていない。考察したことを言語化することも全く困難である。
思考・問題解決能力	日本語教育に関する課題を独自に見つけ出し，具体的かつ実現可能な解決策を提案できる。	日本語教育の課題を独自にはっきりと見つけ出し，具体的かつ実現可能な解決策を十分に提案できる。	日本語教育の課題を独自に見つけ出し，具体的かつ実現可能な解決策をある程度提案できる。	日本語教育の課題を独自に見つけ出しているが，具体的かつ実現可能な解決策を提案するには困難がある。	日本語教育の課題をある程度見つけ出しているが，具体的かつ実現可能な解決策を提案することはできない。	日本語教育の課題を見つけ出しておらず，具体的かつ実現可能な解決策を提案することも全くできない。
技能	日本語教師としての実践的スキルを発揮し，授業を行うことができる。	日本語教師としての実践的スキルを高いレベルで発揮し，教師オートノミー（自律性）を十分に発揮して授業を行うことができる。	日本語教師として基本的な実践力を持ち，教師オートノミー（自律性）を発揮して授業を行うことができる。	日本語教師として基本的な実践力を持っているが，教師オートノミー（自律性）を発揮しながら授業を行うことには困難がある。	日本語教師として基本的な実践力をあまり持たず，授業を行うことにも困難がある。	日本語教師としての実践的な能力がほとんどなく，授業を行うことは不可能である。

科目名	企業倫理論			授業番号	LC303	サブタイトル	現代社会における企業のあるべき姿とは		
教員	稲垣　祐輔								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	企業は社会の中にあり、より良くすることが経営の目的と言えます。企業は、人・組織が主役となって価値を生み出し、顧客に届けています。商品・サービスは、それを提供する企業および消費する顧客において、安心・安全であることが求められています。ビジネス倫理、理念と良心を活かして、持続的な経営を実現するには、どうすればよいでしょうか。この授業では、ビジネス倫理とは何かをはじめ、戦略とビジネス倫理、ダイバーシティマネジメント、CSRやCSVについて学習します。過去から現在に至る企業事例研究により、ビジネス倫理の理解を深めます。								
到達目標	・ビジネス倫理が問われる背景・具体的行為、ビジネス倫理が説明できる ・学びを通じて、ビジネス倫理を活かした経営について説明できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞、＜思考・問題解決能力＞、＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス 当授業の目的と概要、進め方などの説明、ビジネス倫理が問われる背景	
第2回	ビジネス倫理とは何か ビジネス倫理遵守の事例研究（ジョンソン・エンド・ジョンソン、雪印メグミルク）	
第3回	経営戦略とビジネス倫理 経営戦略とビジネス倫理との関係、戦略としての日本のビジネス倫理	
第4回	経営戦略とビジネス倫理 最高意志決定組織とビジネス倫理	
第5回	社会環境の変化とビジネス倫理 企業と環境との関係、企業目線の変化	
第6回	社会環境の変化とビジネス倫理 グローバル企業行動基準とのリンケージ、ダイバーシティマネジメントとビジネス倫理	
第7回	社会環境の変化とビジネス倫理 ダイバーシティマネジメントに関する事例研究	
第8回	これまでのまとめ 学びの振り返りとまとめ	
第9回	今、なぜCSRなのか（企業の社会的責任との関係） 企業の社会的な責任とCSR、攻めのCSRの事例研究	
第10回	今、なぜCSRなのか（企業の社会的責任との関係） CSRからCSVへ、CSVの事例研究	
第11回	経営理念と戦略 事例研究	
第12回	ビジネス倫理 事例研究（過去、品質）	
第13回	ビジネス倫理 事例研究（過去、米国での事件）	
第14回	ビジネス倫理 事例研究（今日的テーマ、決算・下請取引）	
第15回	これまでのまとめ 学びの振り返り、とりまとめ	

授業計画　備考2	毎回の授業で資料を配付する。

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	20	課題のテーマについて調査し・整理・分析し・具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。口頭で解説してフィードバックする。
小テスト	40	各回の内容において重要な内容の理解度を評価する。講義の中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	企業倫理や企業の社会的責任を理解するには、実社会の動向を広く捉えることが重要となるため、新聞やニュースに触れる機会を主体的に増やしておくこと。
授業外学修	・テキスト内容や配布資料については、授業までに2時間以上予習すること。 ・毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので2時間以上復習しておくこと。 ・課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
戦略としてのビジネス倫理入門	高橋浩夫	丸善出版	9784621300558	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	随時、資料を配付します。
その他	
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	経営コンサルタント（20年）大学での産学連携プロジェクトマネジメント（1年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	中小企業を中心に創業やベンチャー企業の変革・改善や再生等経営支援（相談・助言）に携わった経験から、具体例を用いて実践的な指導を行うことができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	企業倫理論に関する基礎的な知識を理解している	授業で学んだ企業倫理に関する基礎的な知識を相当程度理解し、分かりやすくポイントを押さえて正確に述べることができる	授業で学んだ企業倫理に関する基礎的な知識を十分以上理解し、ポイントを押さえて正確に述べることができる	授業で学んだ企業倫理に関する基礎的な知識を十分理解し、ポイントを押さえて概ね正確に述べることができる	授業で学んだ企業倫理に関する基礎的な知識の理解が不足しており、正確さに欠けるが、かろうじて述べることができる	授業で学んだ企業倫理に関する基礎的な知識の理解が相当不足しており、説明ができない
思考・問題解決能力	企業倫理に関する基礎的な知識を活かして情報を整理・考察し、問題・課題を明示することができる	企業倫理に関する基礎的な知識を活かして情報を整理・考察する相当程度の力があり、要点を押さえて丁寧に問題・課題を明示することができる	企業倫理に関する基礎的な知識を活かして情報を整理・考察する十分以上の力があり、要点を押さえて問題・課題を明示することができる	企業倫理に関する基礎的な知識を活かして情報を整理・考察する十分な力があり、概ね要点を押さえて問題・課題を明示することができる	企業倫理に関する基礎的な知識を活かして情報を整理・考察する力が不足しており、要点に欠けるも問題・課題を、かろうじて示すことができる	企業倫理に関する基礎的な知識を活かして情報を整理・考察する力が相当不足しており、問題・課題を示すことができない
態度	学んだ基礎的な知識の理解を活かして分析・考察を進め、積極的に授業に参加できる	学んだ基礎的な知識の理解を活かして分析・考察する力が相当あり、主体性をもち積極的に授業に参加できる	学んだ基礎的な知識の理解を活かして分析・考察する力が十分以上あり、積極的に授業に参加できる	学んだ基礎的な知識の理解を活かして分析・考察する力が十分あり、概ね積極的に授業に参加できる	学んだ基礎的な知識の理解を活かして分析・考察する力が不足しており、時折積極的に授業参加できる	学んだ基礎的な知識の理解を活かして分析・考察する力が相当不足しており、積極的に授業へ参加することができない

科目名	経営学特論Ⅱ			授業番号	LC304	サブタイトル			
教員	稲垣　祐輔								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	激変するビジネス環境のもとで、企業には、自律し主体的な経営を通じた価値創造が重要になっています。この中で、企業で働く人々においては、自律し主体的な行動が期待されています。この授業では、基礎的な経営論等からの学び・視点やフレームワークを活用して、企業は何を目指し、何を行っているのか等事例研究に取り組みます。また、事例研究を通じて経営学を学びます。活きた経営学の基礎力を身に付けることを目指します。 個人・ペアやグループのワークで検討を進めて、他者と連携して課題解決する力を培うと共に、プレゼンテーションを通じて他者に伝える力、他者の意見を聞き学ぶ力も培います。								
到達目標	・経営学の基礎的な理論を学び、理解を深めて、分かりやすく説明できる。 ・企業の価値創造等の活動について、経営学と事例研究による学びを活かして説明できる。 ・経営学の学びを活かした企業の事例研究を行い、何を目指し何を行っているのかを説明できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞、＜思考・問題解決能力＞、＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス 当授業の目的と概要、進め方などの説明	
第2回	ビジネスの基本 経営・マーケティングの基礎	
第3回	事例研究1 ビジネスコンセプト（グローバル企業）　その1	
第4回	事例研究1 ビジネスコンセプト（中小企業の新事業）　その2	
第5回	ビジネスの分析 ビジネスモデルとは何か、ビジネスモデルのフレームワーク	
第6回	事例研究2 ビジネスモデル（大手企業）　その1	
第7回	事例研究2 ビジネスモデル（大手企業）　その2	
第8回	これまでの整理とりまとめ 学びの振り返りとまとめ	
第9回	事例研究3 ビジネスモデル（大手企業）　その1	
第10回	事例研究3 ビジネスモデル（大手企業）　その2	
第11回	事例研究4 グループワークによる事例研究（グループで企業を選択）　その1	
第12回	事例研究4 グループワークによる事例研究（グループで企業を選択）　その2	
第13回	事例研究4 グループワークによる事例研究（グループで企業を選択）　その3	
第14回	事例研究4グループワークによる事例研究（プレゼンテーション）　その4	
第15回	まとめ これまでの授業振り返り、要点を明確化、とりまとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業取り組みの姿勢と態度	30	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	20	課題のテーマについて調査し、整理・分析し、具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。口頭で解説してフィードバックする。
小テスト	40	各回の内容において重要な内容の理解度を評価する。講義の中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	・予習と復習を心がけ、新聞やテキスト等自主的な学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでのワークを実施するので積極的に参加すること。
受講の心得	・日頃から新聞・雑誌に目を通して、関心のある企業動向・トピックス把握すること。 ・企業にかかる今日的なテーマ、大きな話題について、問題意識をもって授業に出席すること。
授業外学修	・授業前に資料を配付するので、授業までに2時間以上予習すること。 ・毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので2時間以上復習しておくこと。 ・課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	事前に資料配布を行います

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・アレックス・オスターワルダー、イヴ・ピニュール著、45カ国の470人の実践者共著、小山龍介訳『ビジネスモデル・ジェネレーション：ビジネスモデル設計書』翔泳社、2012年 ・伊丹敬之著『経営戦略の論理　第4版』日本経済新聞出版社、2012年 ・加護野忠男、井上達彦『事業システム戦略』有斐閣アルマ、2004年 ・嶋口 充輝 ,内田 和成,黒岩 健一郎『1からの戦略論 第2版』中央経済社、2016年
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	経営コンサルタント（20年）、大学での産学連携プロジェクトマネジメント（1年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	中小企業を中心に創業やベンチャー企業の変革・改善や再生等経営支援（相談・助言）に携わった経験から、具体例を用いて実践的な指導を行うことができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	企業活動にかかる経営学の基礎的な知識を理解し、企業活動を見る視点をもっている	授業で学んだ基礎的な知識を相当程度理解し、企業活動を見る明確な視点をもち、分かりやすくポイントを押さえて正確に述べることができる	授業で学んだ基礎的な知識を十分理解し、企業活動を見る視点をもち、ポイントを押さえて正確に述べることができる	授業で学んだ基礎的な知識を理解し、企業活動を見る視点があり、ポイントを押さえて、概ね正確に述べることができる	授業で学んだ基礎的な知識の理解度が不足しており、企業活動を見る視点が曖昧で、ポイント・正確さに欠けるが、かろうじて述べることができる	授業で学んだ基礎的な理解度が相当不足しており、企業活動を見る視点が無く、要点・ 正確さが無く説明することができない
思考・問題解決能力	経営学の知識、企業を見る視点やフレームワークを活かし企業活動を捉えて情報を整理・考察し、問題・課題や特徴を明らかにする事ができる	学びを活かした企業活動の情報整理・考察する力が相当程度以上あり、根拠もって問題・課題を丁寧に明示することができる	学びを活かした企業活動の情報整理・考察する力が十分以上あり、根拠をもって問題・課題を明示することができる	学びを活かした企業活動の情報整理・考察する力が備わっており、ある程度の根拠をもって問題・課題を明示することができる	学びを活かした企業活動の情報整理・考察する力が不足しており、根拠が曖昧で問題・課題の明瞭性に欠いている	学びを活かした企業活動の情報整理・考察する力が相当不足しており、根拠の提示ができず、問題・課題が不明瞭である
技能	経営学の基礎的な知識、企業を見る視点やフレームワークの理解を深めて事例研究に活用して、分析・考察を進めて、説明・発表を行うことが出来る	経営学の基礎的な知識の理解、企業を見る視点やフレームワークの理解を深めて、相当程度の事例研究への活用を図り、相当程度の分析・考察を進めて、説明・発表することができる	経営学の基礎的な知識の理解、企業を見る視点やフレームワークの理解を深めて、その活用が十分を超えて出来ており、十分を超えて分析・考察を進めて、説明・発表することができる	経営学の基礎的な知識の理解、企業を見る視点やフレームワークの理解を深めて、その活用が十分出来ており、十分な分析・考察を進めて、説明・発表することができる	経営学の基礎的な知識の理解、企業を見る視点やフレームワークの理解が不足しており、その活用は部分的で不足しており、分析・考察、説明・発表は不十分である。	経営学の基礎的な知識の理解、及び企業を見る視点やフレームワークの理解が殆どできておらず、その活用も殆どできず、分析・考察、説明・発表は相当不十分な状態である。

科目名	実践英語Ⅲ			授業番号	LC305	サブタイトル	Practical English III		
教員	片山　純子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業では、日常的および身近な社会的話題について英語で理解し、自分の意見を表現する能力を養う。少人数クラスの特性を活かし、ディスカッションやスピーキング活動を中心に授業を行う。World English 1を使用し、各ユニットの内容を基に実践的なコミュニケーション能力を高める。 This course focuses on developing students' communicative competence through active speaking practice. Students will engage in discussions and speaking tasks based on each unit.								
到達目標	本授業の到達目標は以下の通りである。 日常的・社会的な話題について英語で理解し説明できる。 自分の意見や理由を英語で簡単に述べることができる。 英語でディスカッションに参加できる。 英語でのスピーキングテストに対応できる基本的な表現力を身につける。 英語で話すことに対する自信と積極性を高める。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 The learning objectives of this course are as follows: Be able to understand and explain everyday and social topics in English. Be able to express your opinions and reasons in English in a simple way. Be able to participate in discussions in English. Acquire basic expressive skills necessary to handle speaking tests in English. Increase confidence and willingness to speak in English.This course contributes to the acquisition of the bachelor's competencies outlined in the diploma policy, specifically in the areas of Knowledge and Understanding and Skills.								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	コース紹介と自己紹介、簡単なディスカッションを行う。 Conduct a course introduction, self-introduction, and a simple discussion.	
第2回	Unit 1: People 職業、国、国籍、人物描写の形容詞について学ぶ。 Occupations, countries, nationalities, and descriptive adjectives.	
第3回	Unit 2: A Day in the Life 日常活動、パーティーに関する語彙、祝祭に関する表現を学ぶ。 Daily activities, party-related words, and celebrations and festivals.	
第4回	Unit 3: Going Places 旅行に関する表現、プレゼンテーションの構成、旅行書類、場所の説明について学ぶ。 Travel, presentation structure, travel documents, and describing places.	
第5回	Unit 4: Food 食べ物、食品群、食事・食習慣に関する語彙を学ぶ。 Food, food groups, and diets.	
第6回	Unit 5: Sports スポーツ活動、現在時制、チームスポーツと個人スポーツに関する表現を学ぶ。 Sports activities, present tense usage, and team and individual sports.	
第7回	Unit 6: Destinations 旅行活動や強調表現（形容詞）について学ぶ。 Travel-related activities and emphatic adjectives.	
第8回	中間スピーキングテスト（簡単な質問応答および短い発話）。Unit 1～6の内容を活用する。 Midterm speaking test (simple Q&A and short responses), based on Units 1–6.	
第9回	Unit 7: Communication コミュニケーションの方法やトレンド、電子機器、感覚に関する語彙を学ぶ。 Communication methods and trends, electronics, and the senses.	
第10回	Unit 8: Making Plans 短期・長期の計画、エネルギーの種類に関する表現を学ぶ。 Short- and long-term plans and types of energy.	
第11回	Unit 9: Types of Clothing 衣類の種類、買い物、形容詞、素材に関する語彙を学ぶ。 Clothing items, shopping, descriptive adjectives, and materials.	
第12回	Unit 10: Lifestyles 健康的・不健康な生活、習慣、複合形容詞について学ぶ。 Healthy and unhealthy lifestyles, habits, and compound adjectives.	
第13回	Unit 11: Achievements 家事や責任、個人的な達成に関する表現を学ぶ。 Chores, responsibilities, and personal achievements.	
第14回	Unit 12: Decisions 個人の財務、金銭に関する動詞、マネー管理に関する表現を学ぶ。 Personal finance, money-related verbs, and financial tips.	
第15回	終スピーキングテスト（質問応答・短いスピーチ）を実施し、振り返りを行う。 Final speaking test (Q&A and short speech) and course reflection.	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業参加・発話活動	30	授業内での発言回数、ディスカッションへの参加、英語使用の積極性を評価する。 Students are evaluated based on the number of times they speak in class, participation in discussions, and their willingness to actively use English.
中間スピーキングテスト	20	簡単な質問応答および短い発話により、理解力と発話能力を評価する。 Students' comprehension and speaking ability are assessed through simple question-and-answer tasks and short responses.
最終スピーキングテスト	25	質問応答および1分程度のスピーチを行う。内容の明確さ、発話量、伝達力をルーブリックに基づき評価する。 Students will complete a Q&A session and give a speech of about one minute. Evaluation is based on a rubric focusing on clarity of content, amount of speech, and communicative effectiveness.

課題・小テスト	25	語彙確認テスト（Kahoot）および課題の提出状況を評価する。継続的な学習を重視する。 Vocabulary quizzes (e.g., Kahoot) and assignment submission status will be evaluated. Emphasis is placed on continuous learning.

評価の方法：自由記載	本授業では、スピーキング能力を中心に総合的に評価する。特に授業内での発話および継続的な努力を重視する。 In this course, students are evaluated comprehensively with a focus on speaking ability. Particular emphasis is placed on in-class speaking and consistent effort.
受講の心得	本授業は発話中心の授業であるため、積極的に英語を使うことが求められる。間違いを恐れず発話し、他者と協力して学習する姿勢を持つこと。 As this is a speaking-focused course, students are expected to actively use English. They should not be afraid of making mistakes, and should participate with a cooperative attitude toward learning with others.
授業外学修	各ユニットの語彙・表現を復習し、簡単なスピーキング練習や英作文を行うこと。継続的な学習（週1～2時間程度）が望ましい。 Vocabulary quizzes (e.g., Kahoot) and assignment submission status will be evaluated. Emphasis is placed on continuous learning.

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
World English 1 (Third Edition)	John Hughes, Becky Tarver Chase and Christien Lee	Cengage ELT		

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	毎回Kahootによる語彙確認を行うため、スマートフォンまたはタブレットを持参すること。 Students are required to bring a smartphone or tablet, as vocabulary checks will be conducted using Kahoot in every class.
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	学習したトピックを中心に、基本的な語彙や表現、文法の理解度および、それらを適切な場面で正確に使い分けることができるかを評価する。 Evaluates the degree of understanding of basic vocabulary, expressions, and grammar related to the topics studied, as well as the ability to use them accurately and appropriately in different contexts.	基本的な語彙・表現を正確に理解し、適切に使い分けることができる。 Can accurately understand basic vocabulary and expressions and use them appropriately.	多くの場合、語彙・表現を理解し適切に使用できる。 Can understand and appropriately use vocabulary and expressions in most cases.	基本的な理解はあるが使用に不安定さがある。 Has a basic understanding but shows inconsistency in usage.	理解が不十分で適切に使用できない。 Has insufficient understanding and cannot use them appropriately.	理解がほとんど見られない。 Shows little to no understanding.
技能	学習したトピックに関連して、発音や話すスピードの明瞭さ、流暢さ、そして相手に意味が伝わるコミュニケーションができるか、また簡単なやり取りが成立するかを評価する。 Evaluates clarity of pronunciation and speaking speed, fluency, the ability to communicate meaning effectively, and the ability to sustain simple interactions related to the topics studied.	英語で明確かつ積極的にコミュニケーションができる。 Can communicate clearly and actively in English.	多くの場合、英語で意思疎通ができる。 Can communicate in English in most situations.	基本的なコミュニケーションができる。 Can handle basic communication.	意思疎通が難しい場面が多い。 Often has difficulty communicating.	英語でのコミュニケーションがほとんどできない。 Can hardly communicate in English.

科目名	実践英語Ⅳ			授業番号	LC306	サブタイトル	Practical English IV		
教員	片山　純子								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業は、実践英語IIIで培った英語コミュニケーション能力を基盤として、その応用・発展を目指す。日常的および社会的な話題に加え、より抽象的・多面的なテーマについて英語で理解し、自分の考えを論理的に表現する力を養う。少人数クラスの特性を活かし、ディスカッション、プレゼンテーション、意見交換などの活動を中心に授業を行う。教材にはWorld English 2を使用し、各ユニットの内容をもとに、より高度で実践的なコミュニケーション能力の向上を図る。This course builds on the communicative competence developed in Practical English III and aims to further enhance students' ability to use English in more complex and abstract contexts. In addition to everyday and social topics, students will engage with more advanced themes and develop the ability to express their ideas logically and persuasively. Taking advantage of small class sizes, the course emphasizes discussion, presentations, and interactive speaking activities. Using World English 2 as the main textbook, students will strengthen their practical communication skills at a more advanced level.								
到達目標	本授業の到達目標は以下の通りである： ・日常的および社会的な話題に加え、やや抽象的なテーマについて英語で理解し説明できる。 ・自分の意見や考えを、理由や具体例を交えて論理的に述べることができる。 ・英語でのディスカッションにおいて、他者の意見に応答しながら積極的に参加できる。 ・簡単なプレゼンテーションを英語で構成し、発表することができる。 ・より自然で流暢な英語表現を用いてコミュニケーションできる。 ・英語で話すことに対する自信と主体性をさらに高める。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。 The learning objectives of this course are as follows: ・Be able to understand and explain not only everyday and social topics but also more abstract issues in English. ・Be able to express opinions logically with reasons and supporting examples. ・Be able to actively participate in discussions by responding appropriately to others' ideas. ・Be able to organize and deliver short presentations in English. ・Develop more natural and fluent English communication skills. ・Further enhance confidence and autonomy in speaking English. This course contributes to the acquisition of the bachelor's competencies outlined in the diploma policy, specifically in the areas of Knowledge and Understanding and Skills.								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	コース紹介と自己紹介、簡単なディスカッションを行う。 Conduct a course introduction, self-introduction, and a simple discussion.	
第2回	Unit 1: Food for Life 健康的な食生活、食べ物の種類について学ぶ。 Healthy diets and types of food.	
第3回	Unit 2: Express Yourself 文化とコミュニケーション、会話の始め方について学ぶ。 Culture and communication, and how to start a conversation.	
第4回	Unit 3: Cities 都市の変化と都市生活について学ぶ。 Changes in cities and urban life.	
第5回	Unit 4: The Body 人体の器官や日常的な体調不良について学ぶ。 Human organs and common everyday ailments.	
第6回	Unit 5: Challenges 身体的・精神的な課題、および句動詞について学ぶ。Physical and mental challenges, and phrasal verbs.	
第7回	Unit 6: Transitions 人生の出来事の表現や年齢に関する形容詞について学ぶ。 Describing life events and adjectives related to age.	
第8回	中間スピーキングテスト（簡単な質問応答および短い発話）を実施する。Unit 1～6の内容を活用する。 Midterm speaking test (simple question-and-answer and short responses), based on Units 1–6.	
第9回	Unit 7: Things that Matter 消費行動や支出習慣、および不規則過去分詞について学ぶ。 Spending habits and irregular past participles.	
第10回	Unit 8: Conservation 気候変動や様態の副詞について学ぶ。 Climate change and adverbs of manner.	
第11回	Unit 9: Life Now and in the Past 過去の生活と現在の生活の比較、および分離可能な句動詞について学ぶ。 Life in the past and present, and separable phrasal verbs.	
第12回	Unit 10: Travel 旅行の準備や空港でのやり取りについて学ぶ。 Travel preparations and communication at the airport.	
第13回	Unit 11: Careers 職業や仕事、および分詞形容詞について学ぶ。 Careers and jobs, and participial adjectives.	
第14回	Unit 12: Celebrations 祭りや祝日、祝賀に関する表現について学ぶ。 Festivals and holidays, and expressions for celebrations.	
第15回	最終スピーキングテスト（質問応答および短いスピーチ）を実施し、授業全体の振り返りを行う。 Final speaking test (question-and-answer and a short speech), followed by course reflection.	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業参加・発話活動	30	授業内での発言回数、ディスカッションへの参加、英語使用の積極性を評価する。 Students are evaluated based on the number of times they speak in class, participation in discussions, and their willingness to actively use English.
中間スピーキングテスト	20	簡単な質問応答および短い発話により、理解力と発話能力を評価する。 Students' comprehension and speaking ability are assessed through simple question-and-answer tasks and short responses.

最終スピーキングテスト	25	質問応答および1分程度のスピーチを行う。内容の明確さ、発話量、伝達力をルーブリックに基づき評価する。 Students will complete a Q&A session and give a speech of about one minute. Evaluation is based on a rubric focusing on clarity of content, amount of speech, and communicative effectiveness.
課題・小テスト	25	語彙確認テスト（Kahoot）および課題の提出状況を評価する。継続的な学習を重視する。 Vocabulary quizzes (e.g., Kahoot) and assignment submission status will be evaluated. Emphasis is placed on continuous learning.

評価の方法：自由記載	本授業では、スピーキング能力を中心に総合的に評価する。特に授業内での発話および継続的な努力を重視する。 In this course, students are evaluated comprehensively with a focus on speaking ability. Particular emphasis is placed on in-class speaking and consistent effort.
受講の心得	本授業は発話中心の授業であるため、積極的に英語を使うことが求められる。間違いを恐れず発話し、他者と協力して学習する姿勢を持つこと。 As this is a speaking-focused course, students are expected to actively use English. They should not be afraid of making mistakes, and should participate with a cooperative attitude toward learning with others.
授業外学修	各ユニットの語彙・表現を復習し、簡単なスピーキング練習や英作文を行うこと。継続的な学習（週1～2時間程度）が望ましい。 Vocabulary quizzes (e.g., Kahoot) and assignment submission status will be evaluated. Emphasis is placed on continuous learning.

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
World English 2 (Third Edition)	John Hughes, Becky Tarver Chase and Christien Lee	Cengage ELT		

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	毎回Kahootによる語彙確認を行うため、スマートフォンまたはタブレットを持参すること。 Students are required to bring a smartphone or tablet, as vocabulary checks will be conducted using Kahoot in every class.
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	学習したトピックを中心に、基本的な語彙や表現、文法の理解度および、それらを適切な場面で正確に使い分けることができるかを評価する。 Evaluates the degree of understanding of basic vocabulary, expressions, and grammar related to the topics studied, as well as the ability to use them accurately and appropriately in different contexts.	基本的な語彙・表現を正確に理解し、適切に使い分けることができる。 Can accurately understand basic vocabulary and expressions and use them appropriately.	多くの場合、語彙・表現を理解し適切に使用できる。 Can understand and appropriately use vocabulary and expressions in most cases.	基本的な理解はあるが使用に不安定さがある。 Has a basic understanding but shows inconsistency in usage.	理解が不十分で適切に使用できない。 Has insufficient understanding and cannot use them appropriately.	理解がほとんど見られない。 Shows little to no understanding.
技能	学習したトピックに関連して、発音や話すスピードの明瞭さ、流暢さ、そして相手に意味が伝わるコミュニケーションができるか、また簡単なやり取りが成立するかを評価する。 Evaluates clarity of pronunciation and speaking speed, fluency, the ability to communicate meaning effectively, and the ability to sustain simple interactions related to the topics studied.	英語で明確かつ積極的にコミュニケーションができる。 Can communicate clearly and actively in English.	多くの場合、英語で意思疎通ができる。 Can communicate in English in most situations.	基本的なコミュニケーションができる。 Can handle basic communication.	意思疎通が難しい場面が多い。 Often has difficulty communicating.	英語でのコミュニケーションがほとんどできない。 Can hardly communicate in English.

科目名	情報処理Ⅰ			授業番号	LD101	サブタイトル			
教員	赤木　竜也								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ，コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ，表計算ソフトなどを用いて情報処理の基本について学修する。								
到達目標	情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために，日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの基礎的技術を学び，情報に応じて適切な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	初回授業日よりMicrosoft社製Word、Excelおよびインターネットを使用する。授業内でのセットアップ等は行わないので、各自授業開始日までにPCのセットアップを完了しておくこと。また学内Wi-Fiへの接続も完了しておくこと（授業当日困らないよう前日までに完了しておくこと）。								

回	概要	担当
第1回	情報処理とコンピュータの関わり コンピュータにおける情報の扱い方について学習する。	
第2回	コンピュータの基礎知識 コンピュータにおける文字データの扱いについて学習する。	
第3回	ワードプロセッサの基本 基本的な文書の作成方法について学習する。	
第4回	ワードプロセッサの活用(1) 基本的な編集機能について学習する。	
第5回	ワードプロセッサの活用(2) 作表機能について学習する。	
第6回	ワードプロセッサの活用(3) 図形描画機能について学習する。	
第7回	表計算ソフトの基本(1) 基本的な表の作成方法について学習する。	
第8回	表計算ソフトの基本(2) セルの属性(書式設定)について学習する。	
第9回	表計算ソフトの基本(3) 基本的なグラフ(棒グラフ，円グラフ)の作成方法について学習する。	
第10回	表計算ソフトの基本(4) 応用的なグラフ(複合グラフ)の作成方法について学習する。	
第11回	表計算ソフトの応用(1) 基本的な関数について学習する。	
第12回	表計算ソフトの応用(2) 基本的な関数(判定)について学習する。	
第13回	表計算ソフトの応用(3) 基本的な関数(検索)について学習する。	
第14回	表計算ソフトの応用(4) 基本的なデータベース機能について学習する。	
第15回	総合演習・まとめ 演習問題を通してより深くワードプロセッサ，表計算について理解・学習する。	

授業計画　備考2	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、課題への取り組み姿勢および復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	10	授業中出題する演習問題について評価する。
定期試験	70	習熟達成度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	コンピュータを用いた実習を適宜行うため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学修しておくこと。
授業外学修	授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として４時間以上その都度取り組み，理解度を深めておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間でマスター Word&Excel2021（Windows11対応）	実教出版企画開発部	実教出版	978-4-407-35939-8	1100

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県立烏城高等学校、岡山県立玉野光南高等学校公民・商業・情報科講師（10年），県立高等学校IT講習会講師（1年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ，情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	データの特性について理解している	文字データ・数値データの特性の違いを知解するとともに，適切にデータ変換することができる。	文字データ・数値データの特性の違いを理解することができる。	文字データ・数値データを区別することができる。	数値データの取扱いに難がある。	文字データ・数値データを区別することができない。
知識・理解	ビジネス文書について理解している	社内文書・社外文書のフォーマットの違いを理解し，時候の挨拶を適切に扱うことができる。	社内文書・社外文書のフォーマットの違いを理解している。	ビジネス文書のフォーマットについてほぼ理解している。	ビジネス文書のフォーマットを理解していない。	ビジネス文書を全く表現することができない。
知識・理解	表計算ソフトの関数および演算について理解している	絶対参照・相対参照の違いを理解し，正しく関数を使用したり演算したりすることができる。	適宜関数を使用、演算し，わかりやすく表示することができる。	適宜関数を使用したり演算したりすることができる。	データ範囲を間違えたり，関数を正しく使用したりすることができない。	関数を使用することができず，また正しく演算することができない。
知識・理解	グラフの特性について理解している	データの特性に合わせて適切なグラフを選択し，またわかりやすいグラフを作成することができる。	わかりやすいグラフを作成することができる。	数値データからグラフを作成し，グラフ要素を使いこなすことができる。	数値データからグラフを作成することができるが，グラフ要素を適宜使用することができない。	グラフの元となるデータ範囲を理解することができない。
技能	正しくデータ入力をすることができる	文字種を適切に使い分け，早くて正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けるか，早くて正確に入力することができる。	ある程度文字種を使い分け，正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けることができず，また入力正確性に欠ける。	文字種を適切に使い分けることが出来ず，また入力がおぼつかない。
技能	ソフトウェアを操作することができる	目的の機能を手早く処理することができる。	やや複雑な処理をすることができる。	標準的な機能を使用することができる。	目的の機能を見つけられなかったり，操作に手間取ったりする。	目的の機能を見つけられず，また適切に操作することができない。

科目名	情報処理Ⅰ【外国人留学生初級クラス対象】	授業番号	LD101B	サブタイトル	
教員	赤木　竜也				

単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修

授業概要	情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ，コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ，表計算ソフトなどを用いて情報処理の基本について学修する。
到達目標	情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために，日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの基礎的技術を学び，情報に応じて適切な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。
授業計画　備考	初回授業日よりMicrosoft社製Word、Excelおよびインターネットを使用する。授業内でのセットアップ等は行わないので、各自授業開始日までにPCのセットアップを完了しておくこと。また学内Wi-Fiへの接続も完了しておくこと（授業当日困らないよう前日までに完了しておくこと）。

回	概要	担当
第1回	情報処理とコンピュータの関わり コンピュータにおける情報の扱い方について学習する。	
第2回	コンピュータの基礎知識 コンピュータにおける文字データの扱いについて学習する。	
第3回	ワードプロセッサの基本 基本的な文書の作成方法について学習する。	
第4回	ワードプロセッサの活用(1) 基本的な編集機能について学習する。	
第5回	ワードプロセッサの活用(2) 作表機能について学習する。	
第6回	ワードプロセッサの活用(3) 図形描画機能について学習する。	
第7回	表計算ソフトの基本(1) 基本的な表の作成方法について学習する。	
第8回	表計算ソフトの基本(2) セルの属性(書式設定)について学習する。	
第9回	表計算ソフトの基本(3) 基本的なグラフ(棒グラフ，円グラフ)の作成方法について学習する。	
第10回	表計算ソフトの基本(4) 応用的なグラフ(複合グラフ)の作成方法について学習する。	
第11回	表計算ソフトの応用(1) 基本的な関数について学習する。	
第12回	表計算ソフトの応用(2) 基本的な関数(判定)について学習する。	
第13回	表計算ソフトの応用(3) 基本的な関数(検索)について学習する。	
第14回	表計算ソフトの応用(4) 基本的なデータベース機能について学習する。	
第15回	総合演習・まとめ 演習問題を通してより深くワードプロセッサ，表計算について理解・学習する。	

授業計画　備考2	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、課題への取り組み姿勢および復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	10	授業中出題する演習問題について評価する。
定期試験	70	習熟達成度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	コンピュータを用いた実習を適宜行うため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学修しておくこと。
授業外学修	授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として４時間以上その都度取り組み，理解度を深めておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間でマスター Word&Excel2021（Windows11対応）	実教出版企画開発部	実教出版	978-4-407-35939-8	1100

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県立烏城高等学校、岡山県立玉野光南高等学校公民・商業・情報科講師（10年），県立高等学校IT講習会講師（1年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ，情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	データの特性について理解している	文字データ・数値データの特性の違いを知解するとともに，適切にデータ変換することができる。	文字データ・数値データの特性の違いを理解することができる。	文字データ・数値データを区別することができる。	数値データの取扱いに難がある。	文字データ・数値データを区別することができない。
知識・理解	ビジネス文書について理解している	社内文書・社外文書のフォーマットの違いを理解し，時候の挨拶を適切に扱うことができる。	社内文書・社外文書のフォーマットの違いを理解している。	ビジネス文書のフォーマットについてほぼ理解している。	ビジネス文書のフォーマットを理解していない。	ビジネス文書を全く表現することができない。
知識・理解	表計算ソフトの関数および演算について理解している	絶対参照・相対参照の違いを理解し，正しく関数を使用したり演算したりすることができる。	適宜関数を使用、演算し，わかりやすく表示することができる。	適宜関数を使用したり演算したりすることができる。	データ範囲を間違えたり，関数を正しく使用したりすることができない。	関数を使用することができず，また正しく演算することができない。
知識・理解	グラフの特性について理解している	データの特性に合わせて適切なグラフを選択し，またわかりやすいグラフを作成することができる。	わかりやすいグラフを作成することができる。	数値データからグラフを作成し，グラフ要素を使いこなすことができる。	数値データからグラフを作成することができるが，グラフ要素を適宜使用することができない。	グラフの元となるデータ範囲を理解することができない。
技能	正しくデータ入力をすることができる	文字種を適切に使い分け，早くて正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けるか，早くて正確に入力することができる。	ある程度文字種を使い分け，正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けることができず，また入力正確性に欠ける。	文字種を適切に使い分けることが出来ず，また入力がおぼつかない。
技能	ソフトウェアを操作することができる	目的の機能を手早く処理することができる。	やや複雑な処理をすることができる。	標準的な機能を使用することができる。	目的の機能を見つけられなかったり，操作に手間取ったりする。	目的の機能を見つけられず，また適切に操作することができない。

科目名	情報処理Ⅱ			授業番号	LD102	サブタイトル			
教員	赤木　竜也								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報および前期科目「情報処理Ⅰ」を踏まえ，コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ，表計算ソフトなどを用いて情報処理の発展的内容ついて学修する。								
到達目標	情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために，日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの応用的技術を学び，情報に応じてより高度な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	初回授業日よりMicrosoft社製Word、Excelおよびインターネットを使用する。授業内でのセットアップ等は行わないので、各自授業開始日までにPCのセットアップを完了しておくこと。また学内Wi-Fiへの接続も完了しておくこと（授業当日困らないよう前日までに完了しておくこと）。なお、2年次以上の履修者については大学のPCを使用するので準備は不用である。								

回	概要	担当
第1回	ビジネス文書の基礎知識 基本的なビジネス文書の構成とその作成方法について学習する。	
第2回	表の編集とリスト より高度な作表とリストの作成方法について学習する。	
第3回	グラフィック要素の挿入・取り扱いと文書の管理 グラフィック要素の種類とその作成・編集方法および文書の機能について学習する。	
第4回	他のデータの利用 他のアプリケーションデータの取り込み方法について学習する。	
第5回	文書の書式・レイアウトおよびデータのインポート ページレイアウトおよび図形の配置，外部テキストデータの取り込み方法について学習する。	
第6回	表の作成と編集 基本的な表の作成と編集および複数シートの連携について学習する。	
第7回	関数(1) カウント，条件処理関数について学習する。	
第8回	関数(2) 文字列操作関数について学習する。	
第9回	グラフ グラフの作成や変更，書式設定などグラフ機能について学習する。	
第10回	データベース機能の利用 データベースの基礎知識とテーブル機能について学習する。	
第11回	ブック内の移動と表示のカスタマイズ ブック内の効率的な移動や表示のカスタマイズについて学習する。	
第12回	共同作業のための設定方法 印刷や共同作業のための設定方法について学習する。	
第13回	インポートとデータの視覚化 別ファイルからのインポートとわかりやすい表の作成方法について学習する。	
第14回	クロス集計 ピボットテーブルについて学習する。	
第15回	別表の参照とエラー回避 検索関数とエラー表示の回避方法について学習する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、課題への取り組み姿勢および復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	50	習熟達成度を評価する。
その他	30	出題する演習問題について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	コンピュータを用いた実習を適宜行うため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学修しておくこと。
授業外学修	授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として４時間以上その都度取り組み，理解度を深めておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間アカデミック Word&Excel2019	杉本くみ子／大澤栄子	実教出版	978-4-407-34834-7	1540

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県立烏城高等学校、岡山県立玉野光南高等学校公民・商業・情報科講師（10年），県立高等学校IT講習会講師（1年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ，情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	様々な文書の作成方法を理解している	目的に合わせて自在に文書を作成することができる。	図表を用いたビジュアル文書を作成することができる。	レイアウトの整った文書を作成することができる。	レイアウトが崩れていたり，統一性が欠けたりした文書を作成する。	必要な機能を理解しておらず目的の文書を作成することができない。
知識・理解	データの特性に基づき表の作成方法を理解している	データの特性を認識した上で適宜関数や集計機能を利用し，わかりやすい表を作成することができる。	関数や集計機能を利用し，わかりやすい表を作成することができる。	関数や集計機能を利用して表を作成し，正しく表示することができる。	関数や集計機能を利用して表を作成することができるが，正しく表示させることができない。また正しく演算することができない。	関数や集計機能の利用がおぼつかない。また正しく演算することができない。
知識・理解	外部データの取り込み・編集方法を理解している	外部データの特性を理解するとともに，外部データを作成，取り込み、編集することができる。	外部データに合わせて正しく取り込み編集することができる。	外部データを取り込んで編集することができる。	外部データを取り込むことはできるが，データ型を正しく扱うことができない。	外部データを取り込むことができない。
知識・理解	日本語ワープロソフトと表計算ソフトとの連携方法を理解している	日本語ワープロソフトと表計算ソフト間だけにとどまらず，他のソフトウェアとのデータのやりとりをすることができる。	日本語ワープロソフトと表計算ソフト間で最新データのやりとりをすることができる。	日本語ワープロソフトと表計算ソフト間でデータのやりとりをすることができる。	日本語ワープロソフトと表計算ソフト間でデータのやりとりをすることができるが，レイアウトを正しく表示することができない。	日本語ワープロソフトと表計算ソフト間でデータのやりとりをすることができない。
技能	正しくデータ入力をすることができる	文字種を適切に使い分け，早くて正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けるか，早くて正確に入力することができる。	ある程度文字種を使い分け，正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けることができず，また入力正確性に欠ける。	文字種を適切に使い分けることが出来ず，また入力がおぼつかない。
技能	ソフトウェアを操作することができる	目的の機能を手早く処理することができる。	やや複雑な処理をすることができる。	標準的な機能を使用することができる。	目的の機能を見つけられなかったり，操作に手間取ったりする。	目的の機能を見つけられず，また適切に操作することができない。

科目名	情報処理Ⅱ【外国人留学生初級クラス対象】			授業番号	LD102B	サブタイトル			
教員	赤木　竜也								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報および前期科目「情報処理Ⅰ」を踏まえ，コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ，表計算ソフトなどを用いて情報処理の発展的内容ついて学修する。								
到達目標	情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために，日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの応用的技術を学び，情報に応じてより高度な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	初回授業日よりMicrosoft社製Word、Excelおよびインターネットを使用する。授業内でのセットアップ等は行わないので、各自授業開始日までにPCのセットアップを完了しておくこと。また学内Wi-Fiへの接続も完了しておくこと（授業当日困らないよう前日までに完了しておくこと）。なお、2年次以上の履修者については大学のPCを使用するので準備は不用である。								

回	概要	担当
第1回	ビジネス文書の基礎知識 基本的なビジネス文書の構成とその作成方法について学習する。	
第2回	表の編集とリスト より高度な作表とリストの作成方法について学習する。	
第3回	グラフィック要素の挿入・取り扱いと文書の管理 グラフィック要素の種類とその作成・編集方法および文書の機能について学習する。	
第4回	他のデータの利用 他のアプリケーションデータの取り込み方法について学習する。	
第5回	文書の書式・レイアウトおよびデータのインポート ページレイアウトおよび図形の配置，外部テキストデータの取り込み方法について学習する。	
第6回	表の作成と編集 基本的な表の作成と編集および複数シートの連携について学習する。	
第7回	関数(1) カウント，条件処理関数について学習する。	
第8回	関数(2) 文字列操作関数について学習する。	
第9回	グラフ グラフの作成や変更，書式設定などグラフ機能について学習する。	
第10回	データベース機能の利用 データベースの基礎知識とテーブル機能について学習する。	
第11回	ブック内の移動と表示のカスタマイズ ブック内の効率的な移動や表示のカスタマイズについて学習する。	
第12回	共同作業のための設定方法 印刷や共同作業のための設定方法について学習する。	
第13回	インポートとデータの視覚化 別ファイルからのインポートとわかりやすい表の作成方法について学習する。	
第14回	クロス集計 ピボットテーブルについて学習する。	
第15回	別表の参照とエラー回避 検索関数とエラー表示の回避方法について学習する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、課題への取り組み姿勢および復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	50	習熟達成度を評価する。
その他	30	出題する演習問題について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	コンピュータを用いた実習を適宜行うため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学修しておくこと。
授業外学修	授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として４時間以上その都度取り組み，理解度を深めておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間アカデミック Word&Excel2019	杉本くみ子／大澤栄子	実教出版	978-4-407-34834-7	1540

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県立烏城高等学校、岡山県立玉野光南高等学校公民・商業・情報科講師（10年），県立高等学校IT講習会講師（1年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ，情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	様々な文書の作成方法を理解している	目的に合わせて自在に文書を作成することができる。	図表を用いたビジュアル文書を作成することができる。	レイアウトの整った文書を作成することができる。	レイアウトが崩れていたり，統一性が欠けたりした文書を作成する。	必要な機能を理解しておらず目的の文書を作成することができない。
知識・理解	データの特性に基づき表の作成方法を理解している	データの特性を認識した上で適宜関数や集計機能を利用し，わかりやすい表を作成することができる。	関数や集計機能を利用し，わかりやすい表を作成することができる。	関数や集計機能を利用して表を作成し，正しく表示することができる。	関数や集計機能を利用して表を作成することができるが，正しく表示させることができない。また正しく演算することができない。	関数や集計機能の利用がおぼつかない。また正しく演算することができない。
知識・理解	外部データの取り込み・編集方法を理解している	外部データの特性を理解するとともに，外部データを作成，取り込み、編集することができる。	外部データに合わせて正しく取り込み編集することができる。	外部データを取り込んで編集することができる。	外部データを取り込むことはできるが，データ型を正しく扱うことができない。	外部データを取り込むことができない。
知識・理解	日本語ワープロソフトと表計算ソフトとの連携方法を理解している	日本語ワープロソフトと表計算ソフト間だけにとどまらず，他のソフトウェアとのデータのやりとりをすることができる。	日本語ワープロソフトと表計算ソフト間で最新データのやりとりをすることができる。	日本語ワープロソフトと表計算ソフト間でデータのやりとりをすることができる。	日本語ワープロソフトと表計算ソフト間でデータのやりとりをすることができるが，レイアウトを正しく表示することができない。	日本語ワープロソフトと表計算ソフト間でデータのやりとりをすることができない。
技能	正しくデータ入力をすることができる	文字種を適切に使い分け，早くて正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けるか，早くて正確に入力することができる。	ある程度文字種を使い分け，正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けることができず，また入力正確性に欠ける。	文字種を適切に使い分けることが出来ず，また入力がおぼつかない。
技能	ソフトウェアを操作することができる	目的の機能を手早く処理することができる。	やや複雑な処理をすることができる。	標準的な機能を使用することができる。	目的の機能を見つけられなかったり，操作に手間取ったりする。	目的の機能を見つけられず，また適切に操作することができない。

科目名	経営戦略論			授業番号	LE202	サブタイトル			
教員	稲垣　祐輔								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	企業を取り巻く環境は大きく変化しており、変化に主体的に対応するための変革が求められています。このため、企業は、何を目指し、何を行うのか、事業を方向付ける戦略を明らかにして実践することが不可欠となっています。この授業では、企業の活動事例を通じて基礎的な戦略論を学びます。戦略とは何か、戦略を立案する基本的なアプローチを学びます。企業は、戦略を決めることで、すること、しないことを明らかにし、行動にメリハリを付けることになります。限りある資源をいかに活用し目的を具現化するのか、戦略論を学び、企業経営への理解を深めます。個人・ペアやグループのワークで検討を進めて、他者と連携して課題解決する力を培うと共に、プレゼンテーションを通じて他者に伝える力、他者の意見を聞き学ぶ力も培います。								
到達目標	・基礎的な戦略論について説明できる。 ・戦略の基本的なアプローチを説明できる。 ・戦略とは何か、戦略論・事例等からの学びを整理して説明できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞、＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス 当授業の目的と概要、進め方などの説明	
第2回	経営環境：業界の構造 事例（シャープ）、競争戦略	
第3回	経営環境：経営を取り巻く環境 事例（トヨタ自動車）、環境分析	
第4回	事業戦略：基本戦略 事例（しまむら）、3つの基本戦略	
第5回	事業戦略：リソース・ベースト・ビュー 事例（富士フィルム）、経営資源の分析、コア・コンピタンス	
第6回	事業戦略：事業システム 事例（アスクル）、事業システムについて	
第7回	これまでのまとめ 学びの振り返りとまとめ	
第8回	企業戦略：事業領域 事例（ふくや）、事業領域について	
第9回	企業戦略：成長戦略 事例（ニコン）、成長の方向性と方法、シナジー効果	
第10回	企業戦略：資源展開 事例（サントリー）、PPMについて	
第11回	企業戦略：戦略の社会的側面 事例（パタゴニア）、CSRとCSVについて	
第12回	経営組織：組織構造 事例（パナソニック）、組織構造について	
第13回	経営組織：組織文化 事例（資生堂）、組織文化について	
第14回	経営組織：企業変革 事例（コマツ）、変革について	
第15回	まとめ これまでの講義の振り返り、とりまとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	20	課題のテーマについて調査し・整理・分析し・具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。口頭で解説してフィードバックする。
小テスト	40	各回の内容において重要な内容の理解度を評価する。講義の中間期・期末に授業内容の理解度を評価する。
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・日頃より、新聞や雑誌のトピック的企業の特集記事、経営者へのインタビューに目をとおすなど、企業経営に触れる機会をつくり出席すること。 ・授業は、グループ・ワークを行うので積極的に参加すること。
授業外学修	・テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。 ・毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので2時間以上復習しておくこと。 ・課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
1からの戦略論　第2版	嶋口充輝・内田和成・黒岩健一郎編	中央経済社	978-4-502-16741-6	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・ヘンリー・ミンツバーグ, ブルース・アルストランド, ジョセフ・ランベル著 ; 齋藤嘉則監訳『戦略サファリ 第2版 : 戦略マネジメント・コンプリートガイドブック』東洋経済新報社, 2013年 ・伊丹敬之著『経営戦略の論理　第5版』日本経済新聞出版社, 2025年 ・青島矢一, 加藤俊彦著『競争戦略論』東洋経済新報社, 2012年
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	経営コンサルタント（20年）大学での産学連携プロジェクトマネジメント（1年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	中小企業を中心に創業やベンチャー企業の変革・改善や再生等経営支援（相談・助言）に携わった経験から、具体例を用いて実践的な指導を行うことができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	経営戦略論の基礎的な知識を理解している	学んだ経営戦略論の基礎的な知識を相当程度理解し、分かりやすくポイントを押さえて正確に述べることができる	学んだ経営戦略論の基礎的な知識を十分理解し、ポイントを押さえて正確に述べることができる	学んだ経営戦略論の基礎的な知識を理解し、分かりやすくポイントを押さえて概ね正確に述べることができる	学んだ経営戦略論の基礎的な知識の理解度が不足しており、要点・正確さに欠けるも、かろうじて述べることができる	学んだ経営戦略論の基礎的な知識の理解度が相当不足しており、要点・正確さがなく、説明することができない
思考・問題解決能力	経営戦略論の基礎的な知識を活かして企業活動を捉えて、その戦略を採った理由、戦略の特徴、実現への課題を明らかにすることができる	経営戦略論の基礎的な知識を活かして企業活動を捉える力が相当程度有り、その戦略を採った理由、戦略の特徴、実現への課題について、要点を押さえ筋道を立てて丁寧かつ明確に示すことができる	経営戦略論の基礎的な知識を活かして企業活動を捉える力が十分以上有り、その戦略を採った理由、戦略の特徴、実現への課題について、要点を示し筋道を立てて明らかにすることができる	経営戦略論の基礎的な知識を活かして企業活動を捉える力が十分有り、その戦略を採った理由、戦略の特徴、実現への課題について、概ね要点を示し筋道を立てて提示することができる	経営戦略論の基礎的な知識・企業活動を捉える力が不足しており、その戦略を採った理由、戦略の特徴、実現への課題について、要点・筋道に欠けるも、かろうじて示すことができる	経営戦略論の基礎的な知識・企業活動を捉える力が相当欠けており、その戦略を採った理由、戦略の特徴、実現への課題について、示すことが難しい

科目名	マーケティング論			授業番号	LE203	サブタイトル			
教員	宋　娘沃								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	市場では消費者の好みやライフスタイルがますます多様化し，個別化している。マーケティングは単に作った製品を販売するだけではなく，売れる製品をいかにして作るかが求められている。そのためには，消費者のニーズを明確に捉え，それに見合った新製品を開発することが重要な戦略となっている。マーケティングはこうした製品をどのようにターゲット市場に細分化し，宣伝，広告，流通チャネルまでトータルに捉えていくのかが必要不可欠である。本講義では，企業が提供する商品やサービスをどのように消費者に結びつけ購買行動を促進するのか，企業と消費者行動との関係性，いかにしてブランドの構築を行っているのかを考察する。本講義では，具体的な企業の事例を取り上げ，今日のマーケティングの考え方や技法を明らかにする。								
到達目標	・マーケティングに関する基礎知識が修得できる。 ・企業のブランド力や商品やサービスが市場で販売されるまでのプロセスが理解できる。 ・実際の企業のマーケティング戦略を学ぶことによって，実務的な学習能力を培うことができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	マーケティングとは マーケティングがが登場したのは，19世紀から20世紀初頭のアメリカの大量生産技術や大規模生産技術がさまざまな産業で導入された。 マーケティング登場の歴史的な変遷を学習する。	
第2回	マーケティングミックス マーケティング戦略は市場環境や競争環境をといった外部環境を正確に把握することが必要不可欠である。 マーケティングの標的市場と市場細分化について理解する。	
第3回	競争環境・競争要因 企業の外部環境の分析は，市場の競争要因を把握することである。競争構造によって，マーケティング戦略は異なるが，自社の経営資源分析とは何かを学習する。	
第4回	競争対抗戦略と市場環境 競争対抗戦略の類型は市場環境に適合するリーダー企業のマーケティング戦略はどのように構築されているのか。	
第5回	市場環境と消費者行動の捉え方 市場における消費者の購買意思決定過程を理解する。	
第6回	顧客志向のマーケティング 市場で販売されている商品やサービスは顧客志向に合致しているのか，売る手としての企業側の利潤だけに求められているのか。 買い手と売り手との競争要因を学習する。	
第7回	製品ライフサイクル 市場で販売されている商品やサービスは大半製品寿命によって変化する。 市場での商品のライフサイクルはどのように変化していくのか。	
第8回	流通環境と中間業者の役割 商品が市場で販売されるまで，どのような流通経路をたどっていくのか。 中間業者の流通機能，流通系列化，取引の効率化について学習する。	
第9回	消費者行動とマーケティング 今日のインターネット時代のおける消費者行動はどのように変化しているのか。	
第10回	市場環境と購買意思決定の変容 消費者行動の意思決定過程や代替案評価過程はどのようなものなのかを理解する。	
第11回	ブランド構築の基礎 なぜブランドを構築するのか。商品やサービスのどの部分をブランド化するのか。顧客接点型商品ブランドとは何か。	
第12回	マーケティング・レベルのブランド戦略 フォーカス顧客戦略とブランド価値のプロポジション，差別化ポイント	
第13回	価格設定のマーケティング 価格規定要因としての費用，価格規定要因としての需要，競合品・代替品の中での価格設定はどのように構築されるのか。	
第14回	プロモーション政策 プロモーション活動の役割，プロモーションの手段，プロモーションミックス	
第15回	デジタル時代のマーケティング戦略 情報過剰と消費者，社会とユーザーからみたブランドの変化，企業側からみたブランドの変化	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢と態度	20	予習・復習の状況，講義への意欲や質問，課題提出について評価する。
レポート	30	企業の商品や市場での動向を調べ，マーケティングの実体例をまとめる。提出されたレポートは，内容のコメントを加えて返却する。
小テスト	50	キーワードの理解度，講義全体の理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・日常，興味ある商品やサービス，消費に関する新聞や雑誌などに目をとおして，問題意識をもって出席することを望む。 ・適宜，資料の配布があり，そのまとめを書き，提出することがある。
授業外学修	・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって熟読し，疑問点をチェックして来ること。 ・授業で学んだ内容の小テストがあるので，配布プリント，教科書の復習をすること。 ・関心ある商品や企業のマーケティング活動の事例を資料や参考文献で読むこと。 以上の内容を週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
入門・マーケティング戦略	池尾恭一	有斐閣	978-4-641-16485-4	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・石井淳蔵・廣田章光編『１からのマーケティング 第３版』中央経済社，2009年。 ・フィリップ・コトラー著 恩藏直人監訳 大川修二訳『マーケティング・コンセプト』東洋経済新報社，2008年。 ・日本マーケティング協会監修 恩藏直人・三浦俊彦・芳賀康浩・坂下玄哲編『ベーシック・マーケティング』同文舘出版，2010年。 ・田中洋『ブランド戦略 ケースブック2.0』同文舘出版，2021年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．企業のマーケティングの必要性を理解している。	企業だけではなく，生活の上でもマーケティングが影響していることが理解できる。	企業にとって、マーケティング活動とは何かを理解している。	基本的なマーケティング戦略の必要性を理解している。	基礎のマーケティングは理解できているが，具体的な内容が十分に理解できていない。	マーケティング論の科目を理解していない。
知識・理解	２．私たちの生活の中で企業の役割や関わりを理解している。	企業がどのようにして財・サービスを市場に流通させているのかを十分に理解できている。	洞察力を持って企業の具体的な戦略のプロセスが把握できる。	企業の組織構造や社員の行動によって製品の購買力が変化していることが把握できる。	具体的な企業形態や組織の理解できていない。	マーケティングの概念や言葉の意味が理解できていない。
知識・理解	３．戦略の違いによって企業の収益，ブランド力が高まることが把握できる	日本企業や外国企業とのマーケティング戦略の違いをわかるようになる。	海外企業の事例から日本企業との差異を理解することができる。	マーケティング入門の基礎的知識が修得できる。	マーケティング戦略の内容や各テーマが理解できていない。	内容の理解や文章のまとめができていない。
思考・問題解決能力	１．今日の経済社会において消費すること，売り手の企業の役割を理解している。	企業で起こっている諸問題に対する対応策が考えられる	日本企業の問題点を抽出し，まとめることができる。	企業が抱えている問題点を理解している	不十分ながら企業の活動を考えようとしている。	企業が商品販売のために戦略を立てることが理解できていない。
思考・問題解決能力	２．今日の企業の差別化戦略を理解している。	企業や社会の諸問題に対してコメントができる。	企業で起こっている問題の本質を自分で把握できる。	今日の日本企業と海外企業との競争の厳しさが理解できる。	企業の事業活動があまり理解できていない。	なぜ企業でそのようなマーケティング戦略が起こっているのかが理解できていない。
思考・問題解決能力	３．企業の諸問題をどのようにすればよいかを考えている。	企業で起こっていることを自分の問題として把握できる。	企業の戦略の本質を自分でほぼ理解している。	マーケティング入門の基礎知識や諸問題を理解している。	企業が行うマーケティング戦略があまり理解てきていない。	企業で起こっている問題の解決策が考えられない。

科目名	データサイエンス			授業番号	LE204	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	データサイエンスは，私たちの身の回りの様々な場面で活用されている．近年は特に，データサイエンスの知識や考え方を持った人が必要とされている．データサイエンスによって得られた数値に隠された本当の意味を知ることはとても重要なことである．本授業では，データサイエンスで用いられる分析手法を理解することに加え，統計解析ソフトＲを用いて実際にデータ解析を行い，解釈ができる力を身につけることを目指す．								
到達目標	・データサイエンスの重要性を理解でき，数値に隠された本当の意味を考える力を身につけることができる． ・統計解析ソフトRを用いて，データ解析を行うことができる． ・データ解析で得られた結果を自ら解釈でき，理解できる． なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する．								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	社会で利用されているデータ データサイエンスの分野において社会で利用されているデータについて理解できる	
第2回	グラフを用いたデータの視覚化 データの可視化手法やその用途を理解し，作成できる	
第3回	データの集計方法とヒストグラム データの集計方法を理解し，実際にデータの分布を確認できる	
第4回	データの数量化(1変量) 代表値・分散・標準偏差などの基本統計量を算出できる	
第5回	データの数量化と視覚化(1変量) 四分位数・四分位範囲・箱ひげ図・標準化などの散らばり具合を表す統計量を算出できる	
第6回	2変量データの視覚化と数量化(1) 散布図を作成でき，共分散・相関係数などを実際に算出することができる	
第7回	2変量データの視覚化と数量化(2) クロス集計表を作成でき，オッズ比を計算方法を理解できる	
第8回	総合演習(1) これまでの学習内容を確認する	
第9回	記述統計と推測統計，サンプル調査の特徴 記述統計と推測統計の違い，サンプル調査の仕組みを理解できる	
第10回	推測統計の考え方 区間推定の考え方や仮説検定の仮説の立て方と結論の述べ方について理解できる	
第11回	区間推定と統計的仮説検定(1) (母平均の差の検定と区間推定(母分散既知)/母分散の検定と区間推定)	
第12回	区間推定と統計的仮説検定(2) (母平均の差の検定と区間推定(母分散未知)/母比率の検定と区間推定)	
第13回	区間推定と統計的仮説検定(3) (２標本の平均の差の検定/適合度検定)	
第14回	統計的仮説検定(4) クロス集計表と独立性の検定	
第15回	総合演習(2) これまでの学習内容を確認する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する．
レポート	20	2～3回程度のレポート課題を課す．classroomを利用し、評価をフィードバックする．
小テスト	40	2回程度の小テストを行う．実施は事前にアナウンスする．実施後、必要に応じて小テストを返却しフィードバックする．
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	データから有益な結果を導き出す重要性を理解してほしい．また，プログラミング言語を用いてデータ解析をする楽しさを知ってほしい．授業に関してはテキストや配布資料を利用し授業の復習・予習を行い，講義内容をしっかりと理解できるように努めてほしい．
授業外学修	1　予習として，配布資料やテキストを読み，次回の授業内容に関わる部分を整理しておく． 2　復習として，学習した内容を整理し，課題レポートをする． 3　発展学習として，授業で紹介された内容について自ら調べる． 以上の内容を，週当たり4時間以上学習すること．

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
身につく統計学 第1版第3刷	伊藤公紀・伊藤裕康	森北出版	978-4-627-08211-3	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．データサイエンスの重要性について理解できる	日常生活で利活用されているデータサイエンスの技術を理解し、一部活用できる	データサイエンスの技術について理解し、一部利用できる	身の回りにあるデータやグラフなど、データサイエンスが活用されていることを予測できる	データサイエンスについて理解できているが、日常生活に活用されていることが分からない	データサイエンスについて理解できておらず、どのような場面で活用されているか分からない
知識・理解	２．データの可視化の重要性について理解できる	データの可視化の重要性について理解し、Excelを利用し、グラフ作成の手順や地図による表現ができる	データの可視化の重要性について理解し、Excelを利用し、グラフが作成できる	データから可視化の用途別にグラフを作成できる	データ可視化の重要性を理解できていないが、グラフを作成することができる	データ可視化の重要性を理解できておらず、グラフを作成することができない
知識・理解	３．推測統計について理解できる	推測統計について理解し、課題に応じて推定と検定の統計量を正しく算出できる	推測統計についてある程度理解し、推定と検定の統計量を算出できる	推測統計の概要が理解でき、推定と検定の統計量を算出できる	推測統計の概要を理解できていないが、推定と検定の統計量を計算により算出できる	推測統計について理解できておらず、統計量を算出できない
思考・問題解決能力	１．データから統計量を算出し評価できる	データに応じて必要な統計量を選択することができ、算出された統計量を正しく評価できる	データに応じて必要な統計量を選択することができ、統計量を算出できる	データから統計量を算出できる	統計量の種類や用途を理解できていないが、算出はできる	統計量の種類や用途が分からず、算出できない
思考・問題解決能力	２．グラフから全体像を把握できる	データに応じて適切なグラフを選択し、作成・評価ができる	データに応じて適切なグラフを選択し、作成できる	データからグラフを作成することができる	グラフの種類や用途を理解できていないが、作成できる	グラフの種類や用途が分からず、作成できない
思考・問題解決能力	３．推測統計を活用し、課題を解決できる	課題に応じて、推定や検定の手法を選択し、統計量を算出できる。また、結果を正しく判断し評価できる。	課題に応じて、推定や検定の手法を選択し、統計量を算出できる。また、結果から結論を考察できる	推定や検定の手法を理解し、統計量を算出できる	推定や検定の手法について理解しているが、統計量を算出できない	推定や検定の手法について理解できておらず、統計量を算出することができない
技能	１．基本統計量の算出とグラフ作成ができる	Excelを用いて、統計量の算出とグラフ作成ができ、その結果を適切に判断できる。また、その結果を説明できる	Excelを用いて、統計量の算出とグラフ作成ができ、その結果を適切に判断できる	Excelを用いて、統計量の算出とグラフ作成ができる	自らの力でExcelを用いて、統計量の算出とグラフ作成することができない	Excelを用いて、統計量の算出とグラフ作成の方法を知らない
技能	２．区間推定を適用できる	課題に応じて適切な区間推定の手法を選択でき、実際に区間を推定できる。また、その結果を正しく説明できる。	課題に応じて適切な区間推定の手法を選択でき、実際に区間を推定できる。	区間推定の手法を用いて、実際に区間を推定できる	区間推定について理解ができていないが、区間を求めることはできる	区間推定について理解できれおらず、区間を推定できない
技能	３．仮説検定を適用できる	課題に応じて適切な仮説検定の手法を選択でき、実際に検定統計量を算出し、有意かどうか判断できる。また、結果に基づいた解釈ができる。	課題に応じて適切な仮説検定の手法を選択でき、実際に検定統計量を算出し、有意かどうか判断できる。	仮説検定の手法を用いて、実際に検定統計量を算出し、有意かどうか判断できる。	仮説検定について理解できていないが、検定統計量を求め、結果を導くことができる	仮説検定について理解できておらず、検定統計量を正しく算出できない

科目名	レジャー・リゾート論			授業番号	LE206	サブタイトル			
教員	田村　秀昭								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	余暇時間とは。ツーリズム産業は人々が余暇を過ごす余裕があるからこそ成立するビジネスであり，リゾートと称される場所で過ごすことを楽しむことをお手伝いすることがその本質でもあります。日本人の余暇活動は温泉で寛いだり，山や海で自然を満喫したり，あるいはテーマパーク等で遊ぶことが主流となっています。 本講義では日本のレジャーとリゾートの近・現代の流れを理解し，世界のそれとの対比やレジャー・リゾートをビジネスとして成立させてゆくためのマーケティングや企画・運営等について学んでいただきます。また，実際に身近なエリアでのリゾートビジネスについて考察します。 なお，サスティナブルツーリズム、つまり持続可能な観光を支えてゆくためにヘルスツーリズムやグリーンツーリズム，オーバーツーリズムについても考察していただきます。								
到達目標	１，レジャー・リゾートビジネスの概要を理解する ２，レジャー・リゾートビジネスの日本における歴史を理解し，将来像を描く ３，レジャー・リゾートビジネスの実態を知り，その特性を理解する ４，日本の観光政策のなかで「リゾート」がどのような位置を占めているのかを理解する ５，地域経済と結びつけるためのリゾートのあり方について理解する ６，レジャー・リゾートビジネスに関する企画力を習得する なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	レジャー・リゾートビジネスのガイダンス レジャーとは何か、リゾートとは何か。人間が求める余暇活動の中で、リゾートと呼ばれる場所、時間がいかに有効なものか。 シラバスの確認と講義を受けるにあたっての注意事項。提出課題や授業内での資格取得などについて解説する。	
第2回	レジャー・リゾートビジネスの概要 この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 リゾートで生み出されるビジネス等について考察。 また、宿泊業を中心としたリゾートビジネスについての討論。	
第3回	日本のレジャー・リゾートの変遷I この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 日本人の余暇の過ごし方を歴史の観点から振り返る。 日本におけるリゾートの誕生。 リゾート開発と鉄道の関り。	
第4回	日本のレジャー・リゾートの変遷II この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 第2次世界大戦後の日本経済の復興とツーリズムの発展。 高度成長を基軸とした日本のリゾートの観念について考察。	
第5回	世界のリゾートビジネス この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 世界のリゾートの初めについて。 ヨーロッパ貴族のリゾートでの滞在と、そのリゾートの変遷。 産業革命がもたらしたツーリズムの観点。 世界最古の旅行会社の誕生。	
第6回	レジャー・リゾートの商品開発 この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 旅行会社の「ハワイ」行のパンフレットを持参してください。 一緒に中を見ながら、旅行商品のつくり方などを研究します。	
第7回	ハワイ政府観光局主催「ハワイ検定初級」への取組 この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 全員パソコンを持参してください。 ハワイ検定に挑戦していただきます。アメリカ合衆国ハワイ政府観光局認定の公式な資格です。 この授業中に初級合格を目指し、希望者は中級へもチャレンジしてください。	
第8回	「アルプスの少女ハイジ」で読み解くヘルスツーリズムとグリーンツーリズム この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 ヨハンナ・シュピリ作の小説「アルプスの少女ハイジ」を必ず読んでから、この授業に臨んでください。 小説の中にいくつの「ツーリズム」が見つけられるか。５感で感じるツーリズムの基本を考えてみましょう。 また、小説の時代背景を考えながら、ハイジの生きた場所、時間、人との出会いなどを読み込んでください。 本講義終了後に感想文を提出いただきます。	
第9回	日本の観光政策 この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 日本の観光政策を紐解き、成功事例失敗事例などを考えてみましょう。 また、身近な「リゾート」が観光政策によってどう変遷したのかを検証しましょう。	
第10回	レジャー・リゾートと地域の発展 この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 地方創生と観光のまとめ。 地方創生がローカル・アベノミクス政策として登場して12年になります。 また、石破政権下で地方創生2.0が始まりましたが、高市政権に代わり今後の施策は不透明です。 元々は地方の人口減少化による地方都市の疲弊化を防ごうという人口問題が発端でありながら、 なぜ観光に力を入れることが地方創生に繋がるのか。議論しましょう。	
第11回	映画「フラガール」で考察する地方創生と観光 この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 映画「フラガール」を必ず視聴してからこの授業に臨んでください。 YouTubeあるいはAMAZONでの視聴が可能です。 地方創生と観光についての議論にも発展してゆきます。 講義終了後、感想文を提出して頂きます。	
第12回	農村漁村のリゾート化：農泊とコンテンツ 農林水産省の地方創生事業に一つ。農山漁村振興交付金という同省の事業は全国の第一次産業従事者の付加的な収入増加のために、農泊や農家レストランなどを古民家を改装するなどして創り込んでいこうという施策。 この事業の狙いと今後皆さんの身近なところで活用できないかを考察します。 この授業の中で、最終授業の際のプレゼンのネタを研究してください。	

第13回	瀬戸内海地域のサスティナブルツーリズム この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 最終回の授業のプレゼンの参考とするために、私がインドネシア教育大学で講演した内容を皆さんにご覧いただきます。 瀬戸内海をいかにリゾートとしてゆくかを一緒に考えましょう。	
第14回	岡山を舞台にしたリゾートビジネスの企画・プレゼンテーション この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 岡山・瀬戸内を舞台としたリゾートの企画をプレゼンしていただきます。 個人の持ち時間は5分。授業参加者全員で皆さんの計画を議論します。 パワーポイントで5枚程度作成。USBで持参するか、パソコン本体を持ってきて参加してください。 イメージを膨らませ、そのリゾートでの滞在をストーリー付けして説明をして下さい。	
第15回	総括：まとめ この1週間の観光に係るエピソードやニュースなどの解説。 前回授業のふり返りをして、リゾート計画について再考します。 そして、レジャー・リゾート論の総まとめをします。 特にレジャー、リゾートの日本人と海外の方々との考え方の違いや実際の状況など。 日本政府の観光政策についていかにあるべきか。 消費活動を促す工夫や観光のあるべき姿、オーバーツーリズムとサスティナブルツーリズムについても研究します。	
授業計画 備考2	15回の授業の中では学外授業の設定は予定していませんが， 希望者は別途ツーリズム産業の現場でのインターンシップや研修の機会を設定できるように配慮したいと思います。 また、実際に農山漁村振興交付金を利用した案件の成果などについても紹介してゆきます。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	積極的な授業への参画　出席は1回で1点　残り25点は積極的な発言や授業態度。 毎回提出の出席カードへのコメントや感想などを評価します。 そのカードに記載いただいた質問や乾燥に対して、次回の講義冒頭で回答、解説をします。
レポート	20	「アルプスの少女ハイジ」と「フラガール」：レポート（10点×2回） 原稿用紙（配布します）に手書きで800字程度の文章とします。 コメントを入れて返却します。また、皆さんが感想として持っていただいた内容を授業の中で共有します。
小テスト	10	WEB試験：ハワイ検定初級（合格） 実施日には各自パソコンを持参し、受験できるようにしてください。 当日欠席となった場合は自宅学習として受験してください。 アメリカ合衆国ハワイ政府観光局認定の公式な資格です。 ハワイ政府観光局からの認定証のコピーを提出してください。 評価の基本とします。
定期試験	20	期末テストとして実施します。100点満点ですが、20点に圧縮して評価します。 出題は授業に際し配布する資料、レジュメなどからとし、個々の自筆のノート類は持参可能とします。
その他	10	岡山・瀬戸内のリゾート考察：企画提案とプレゼンテーション パワーポイント5枚程度で発表時間は5分程度とします。 授業最終に近い時間での発表となりますが、授業後半にはその要点などをお知らせします。 企画内容、プレゼンの態度や話し方、パワーポイントの出来栄えなどを点数化して評価します。

評価の方法：自由記載	授業への参画意欲，質疑，発言などを積極的にしてほしい。毎回の出席カードも積極的に記入し、質問・感想などをどしどし出してほしい。 それらを評価し、授業への意欲を勘案したいと思います。 参考図書などを明示するので，必ず熟読し，レポートを提出すること。 岡山・瀬戸内のレジャー・リゾートについて研究し，岡山・瀬戸内らしいリゾートについての発表をしていただきます。 平素から観光協会や旅行会社の窓口でパンフレットやマップなどを手に取り、そのキャッチコピーなどを研究してください。 試験は授業において配布した資料や，解説したリゾートなどの中から出題します。 授業中にハワイ検定（WEB）を受験していただきます。合格者を評価します。
受講の心得	平素からホテルやレストランなど，ツーリズム産業に関わる産業をよく観察してほしい。 また，そこに働く人々やその役割を考察してほしい。 リゾートのあり方は環境問題とともに考えることが必要です。 SDGsの考え方もこの授業の中で学びましょう。 講義においてワークショップや議論の機会などをつくります。積極的な発言をお願いします。 また，下欄に記載の「アルプスの少女ハイジ」と「フラガール」の事前学習は必須です。 当該授業の予定日前に読書し，鑑賞を終えておくことをお願いします。
授業外学修	・テキストは指定しませんが，平素からレジャー・リゾートについての参考書，資料等を読み込んでください。 ・毎回の授業内容は必ず復習をしてください。 ・受講において事前に課題を出す場合があります。 ・小説「アルプスの少女ハイジ」を読み，映画「フラガール」を鑑賞してください。 以上の内容を週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	教科書は指定しません。毎回，レジュメや資料を準備する予定です。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
世界のリゾート＆ツーリズム徹底研究	大前研一	(株)master peace		
アルプスの少女ハイジ	ヨハンナ・シュピリ	角川文庫		640円（税別）

参考書：自由記載	旅行会社のパンフレットや観光協会等が発行する資料やパンフレット，映像などを活用する予定です。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有

担当教員の実務経験	JTBで38年のツーリズム業界での実績。国土交通省（観光庁），経済産業省，農林水産省の審査委員などの経験あります。 観光開発プロデューサーとして中国四国エリアの地方創生に絡めた観光での地域創生のお手伝いをしてきました。 また、渡航経験は100回を超え、岡山空港からヨーロッパ、エジプト、アメリカや中国、韓国へのチャーターフライトを企画し、 お客様を案内してきた経験から、世界のリゾートや観光の在り方を見てきました。 なお、農林水産省の農村プロデューサー資格を認定され、瀬戸内・岡山を中心とした農山漁村のリゾート開発などのサポートをしています。 イタリアのアルベルゴディフーゾを目指して、中山間地の再興にも努めています。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	JTBでの38年の経験で，ツーリズム産業の全体像や特にホテルなどリゾート施設などの現状などを伝えていきたいと思います。 また，ここ15年は各省庁の委員などを務め，観光政策の在り方や観光立国日本の将来についての研究もしてきました。 令和元年度の中国運輸局長観光功労者表彰を受けるなどの功績や，インドネシア教育大学での基調講演の内容などを授業の中でお示しします。 せとうちDMO設立の基盤を創った経緯から，DMOやDMCの重要性なども大学の講義などでお話をしています。 さらに、農山漁村の振興開発のサポート実績を皆さんにお伝えしながら、瀬戸内の観光開発に関しての講義に資する予定です。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．レジャー・リゾートビジネスの概要を理解する	世界のレジャー・リゾートビジネスについて説明できる	日本のレジャー・リゾートビジネスについて説明できる	レジャー・リゾートビジネスの概要を説明で説明できる	レジャー・リゾートのビジネスがどのようなものか説明できる	レジャー・リゾートビジネスが何か説明できない
知識・理解	２．レジャー・リゾートビジネスの日本の歴史を理解し、将来像を描く	日本のレジャー・リゾートビジネスの歴史を明確に説明し、将来像を示しながら、その課題を説明できる	日本のレジャー・リゾートビジネスの歴史について説明し、将来像を明確に語ることができる	日本のレジャー・リゾートビジネスの歴史・将来の方向性を説明できる	日本のレジャー・ビジネスの歴史を説明できる	日本のレジャー・リゾートの歴史について説明できない
知識・理解	３．レジャー・リゾートビジネスの実態を知り、その特性を理解する	レジャー・リゾートビジネスの実態を理解し、特性を説明し、課題を説明できる	レジャー・リゾートビジネスの実態を理解し、特性を説明できる	レジャー・リゾートビジネスの実態と特性の概略を説明できる	レジャー・リゾートビジネスの実態を理解する	レジャーリゾートビジネスの実態が理解できない
思考・問題解決能力	１．日本の観光政策の中で「リゾート」がどのような位置を占めているのかを理解する	日本のレジャー・リゾートに係る日本の政策を理解し、課題を説明できる	日本のレジャー・リゾートに係る日本の政策を説明できる	日本のレジャー・リゾートに係る日本の政策を理解する	日本のレジャー・リゾートに係る日本の政策を知っている	政策の存在すら理解できない
技能	１．レジャー・リゾートビジネスの企画力	岡山県のリゾートビジネスの企画を作成し、具体的な提案書としてまとめられる	岡山県のリゾートビジネス企画を作成し、具体的に説明できる	岡山県のリゾートビジネスの企画を作成できる	岡山県のリゾートについて説明できる	岡山県のリゾートを理解できない
技能	２．レジャー・リゾートビジネスのプレゼンテーション	指定時間内いっぱいで、身体全体で表現ができる	指定時間内に明確な発表ができる	指定時間内に発表できる	指定時間を余したり、時間オーバーはするが発表はする	発表ができない、しない
態度	１．授業中の受講態度	姿勢を正し、メモを取り、反応をする	姿勢を正し、メモをきちんと取る	姿勢を正し、常に聴く	姿勢、傾聴が十分でない	居眠り、私語、遅刻・早退等

科目名	地域経済学			授業番号	LE207	サブタイトル			
教員	佐々木 公之								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	技術革新、グローバル化、少子高齢化、生産年齢人口減少など、地域を取り巻く環境は大きく、確実に変化しており、私達の生活はじめ企業経営、地域経済に影響を与えています。企業が活動するには、人・モノ・金・情報とノウハウといった資源が必要で、自社単独でビジネスを完結するのではなく、企業・行政等他者と連携してビジネスに取り組んでいます。この授業では、基礎的な地域経済理論、産地・都市等の地域経済の実態（事例）、岡山県の自治体取り組みなど実際の事例・フィールドワークなどを交えながら学習します。								
到達目標	・基礎的な地域経済論、興味・関心が持てた地域経済の実態事例について簡潔に説明できる ・地域経済論、事例の視点等の学びを用いて、特定の地域の問題・課題や解決策、日本の地域経済政策について説明できる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス 当授業の目的と概要、進め方などの説明	
第2回	地域経済の理論 地域経済循環と地域構造	
第3回	地域経済の実態 地域経済分析手法について学ぶ	
第4回	地域経済の実態① 全国の自治体と地域産業の取り組みについて探る	
第5回	地域経済の実態② 全国の自治体と地域産業の取り組みについて探る	
第6回	地域経済の実態③ 全国の自治体と地域産業の取り組みについて探る	
第7回	地域経済の実態④ 岡山県内自治体と地域産業の取り組みについて探る	
第8回	地域経済の実態⑤ 岡山県内自治体と地域産業の取り組みについて探る	
第9回	岡山県内の実態調査① 岡山県内の地域経済を実践的に探る	
第10回	岡山県内の実態調査② 岡山県内の地域経済を実践的に探る	
第11回	岡山県内の実態調査③ 岡山県内の地域経済を実践的に探る	
第12回	岡山県内の実態調査④ 岡山県内の地域経済を実践的に探る	
第13回	岡山県内の実態調査⑤ 岡山県内の地域経済を実践的に探る	
第14回	岡山県地域経済政策の分析と展望 今後の岡山県内自治体の地域経済政策の展開について分析・検討する	
第15回	これまでのまとめ 学びの振り返り、とりまとめ	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	20	課題のテーマについて調査、整理・分析し、具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。口頭で解説してフィードバックする。
グループプロジェクト	50	フィールドワーク調査による分析と内容の理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	日ごろから新聞や経済誌を読み、経済・経営について関心を持ち，下記の紙（誌）等を毎日読むことを推奨する。 日本経済新聞 日経ビジネス 東洋経済
授業外学修	1 予習として、講義内容にかかわる部分を事前に研究しておくこと。 2 復習として、テキストやノートを再度確認すること。 3 発展学修として、講義で紹介された参考文献などを読むこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
地域経済論入門 改訂版	松原宏	古今書院	9784772253437	

参考書：自由記載	
その他	随時、資料配付します。
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	銀行、経営コンサルタントなどの実務経験あり（10年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	企業経営支援、商工会議所・行政などのアドバイザーとしてに携わった経験から、具体例を用いて実践的な指導を行うことができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	学んだ地域経済学の基本的な知識を理解している	学んだ地域経済学の基本的な知識が相当程度あり、要点を押さえて分かりやすく丁寧に述べることができる	学んだ地域経済学の基本的な知識が十分以上あり、要点を押さえて述べることができる	学んだ地域経済学の基本的な知識が十分あり、概ね要点を押さえて述べることができる	学んだ地域経済学の基本的な知識が不足しており、ポイントに欠けるが、かろうじて述べることができる	学んだ地域経済学の基本的な知識が欠けており、要点・キーワードがなく、提示することができない
思考・問題解決能力	学んだ基礎的な知識を活用して、情報を整理・考察し、問題・課題や特徴を示すことができる	学んだ基礎的な知識を活用して、情報を整理・考察する相当程度の力があり、根拠をもって問題・課題や特徴を丁寧に明示することができる	学んだ基礎的な知識を活用して、情報を整理・考察する十分以上の力があり、根拠をもって問題・課題や特徴を明示することができる	学んだ基礎的な知識を活用して、情報を整理・考察する力があり、ある程度の根拠をもって問題・課題や特徴を示すことができる	学んだ基礎的な知識を活用して、情報を整理・考察する力が不足しており、根拠に欠けるも問題・課題や特徴を、かろうじて示すことができる	学んだ基礎的な知識を活用して、情報を整理・考察する力が欠けており、問題・課題や特徴を、示すことは困難である

科目名	現代ビジネス論			授業番号	LE301	サブタイトル			
教員	佐々木 公之								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	「ビジネス実務士」資格取得のための必修科目である本講義では，組織におけるビジネス実務の概念について基本的な知識，およびビジネス活動の進め方について学んでいく。また，実社会において必要とされる「社会人基礎力」の習得を図り，その力を発揮し応用するレベルまでスキルアップを目指す。ビジネスの基本知識と現代マーケティング理論を習得しながらキャリア形成を考えていく。								
到達目標	「ビジネス概念」「ビジネスの推進力・能力開発」「ビジネス実務の基本的技術等」を身に付け，ケーススタディー等を通じてビジネスの総合的な知識を高め，論理的思考にて判断できる力を養う。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	現代ビジネスの現状と傾向 授業の進め方（アクティブラーニング）について理解	
第2回	会社とビジネス 現代ビジネス環境を学ぶ	
第3回	経営戦略とマネジメント① 事例による現代ビジネスの経営戦略を学ぶ	
第4回	経営戦略とマネジメント② ケーススタディーとアクティブラーニングで学ぶ	
第5回	経営戦略とマネジメント③ ケーススタディーとアクティブラーニングで学ぶ	
第6回	現代ビジネスとマーケティング① マーケティングの基本について学ぶ	
第7回	現代ビジネスとマーケティング② 事例によるマーケティング戦略を検証	
第8回	現代ビジネスとマーケティング③ ケーススタディーによるマーケティング戦略を理解	
第9回	現代ビジネスとマーケティング④ ケーススタディーによるマーケティング戦略を理解	
第10回	分析手法を活かした現代ビジネス SWOT分析による事例企業を理解	
第11回	現代ビジネスと人材マネジメント① ケーススタディによる戦略理解と分析	
第12回	現代ビジネスと人材マネジメント② ケーススタディによる戦略理解と分析	
第13回	現代ビジネスと人材マネジメント③ ケーススタディによる戦略理解と分析	
第14回	現代ビジネスと人材マネジメント④ ケーススタディによる戦略理解と分析	
第15回	現代ビジネスと外部要因 今後の事業戦略について分析	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な授業態度，授業への貢献度を評価する。
レポート		
小テスト（グループワーク）		
定期試験	70	プロジェクトマネジメントを通じて各テーマの主要ポイントを評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「前に出る力」「考え抜く力」「チームワーク力」の意味を知る。ビジネスの基礎，マーケティング理論となる原理，原則を知ると共に企画力，プレゼンテーション力を身に付ける。SNSやブランディング戦略など現代社会での事例を学びながら，実社会において必要とされる「社会人基礎力」の習得を図り，その力を発揮し応用するレベルまでスキルアップを目指す。
授業外学修	1．予習として，授業内容に関わる箇所を読み，疑問点を明らかにする。 2．復習として，課題のレポートを書く。 以上の内容を，週4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ビジネス実務と経営学の基礎を学ぶ教科書ノート	佐々木公之、大田住吉他	銀河書籍	9784866450278	1100

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．ビジネスの理論できる	ビジネスの理論が理解でき、その考え方に対して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	ビジネスの理論を理解し、共感し疑問を持つことができる。	ビジネスの理論と講義の意図が理解することができる。	ビジネスの理論や講義の意図が概ね理解することができる。	ビジネスの理論が理解できない。
思考・問題解決能力	2．現代社会の動向を理解している	信頼できるリソースから、現代社会の動向を調査し学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性に注意して、現代社会の動向を概ね正しい内容かどうかを理解して学習課題に取り組むことができる。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性についての注意が不十分で、学習内容にいくつかの誤りが含まれている。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができない。
思考・問題解決能力	3．チームビルディングでが身に付いてる	チームに臨機応変に応答する即興性、集団で協働して目標を達成することができ、チームメイトとの関係性を育むことができる。	議論をより活発で創造的なものにするため、チームメイトの多様性を配慮・尊重しながら行動することができる	チームメイトとの課題解決に取り組むことができる。	チームメイトとの課題解決のあり方を認識することができる。	チームメイトとの協働作業による問題解決ができない。
思考・問題解決能力	4．コミュニケーションによる問題解決能力が身に付いている	相手とのコミュニケーションを解釈し、相手の感情に応答しながら多様な表現方法にて問題解決ができる。	伝える聞くために、言葉だけでなく、身体表現方法（声やジェスチャーなど）を意識しながらコミュニケーションをとることができる。	相手の話を受容する聴き方を意識しながら、分は何を伝えたいかなど、自分の考えや思いを認識したうえで話すことができる。	相手を否定する聞き方と肯定する聞き方の違いなど、様々な段階や種類があることを認識することができる。	相手の話を聞くこと、話すことができない。

科目名	ブランド戦略論			授業番号	LE302	サブタイトル			
教員	宋　娘沃								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	わたしたちの生活において，ブランドへの関心が年々高まったのは1980年代から1990年代の初めにかけてである。今日ブランドへの関心や競争はますます高くなり，海外のジャーナルや日本国内にもブランドに関するブランド戦略論やブランド・マネジメントの論評が多くなってきている。ブランドはどのように創られ、それを発展させ持続していくのかが最大限の関心ごとである。ブランドは今日，プライベート・ブランド，地域ブランド，グローバル・ブランドなど異なった領域においてブランドの重要性がより一層認識されるようになっている。本講義では，前半でブランドの基礎理論やブランドの機能について解説し，後半ではブランド戦略を駆使し，確実したブランド構築を成し遂げている企業の事例を用いて学習する。								
到達目標	・ブランド戦略に関する基礎理論や歴史が理解できる。 ・企業はどのようにブランド構築に取り組んで，それを持続させているのかが理解できる。 ・事例研究を通じて消費者の観点から価値創出やブランド力行使が理解できるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞に修得に貢献する。								
授業計画　備考	毎回レジュメを配布する。授業の理解度を深めるために，ビデオ鑑賞を行う。								

回	概要	担当
第1回	ブランドとは何か ブランドの語源，商標，ブランドの機能，ブランドの効果と影響力，ブランド・エクイティ	
第2回	ブランドと交換 交換パラダイム，交換価値，信頼財，探索財，等価交換，差異からの価値創出，競争的差異	
第3回	イノベーションとブランド 包装革命とブランド，顧客の創造，新しいパターンの創出，持続的交換関係，ブランド使用	
第4回	ブランド史の構造 ブランドの歴史的構造，近代ブランド，アイデンティティの成立，消費財ブランド，ブランド・マネジメント	
第5回	統合ブランド戦略の基礎 ブランド戦略，ブランド構築，潜在的可能性，戦略マトリクス	
第6回	経営レベルのブランド戦略 ブランド・テリトリー，6C分析，経営資源の意思決定，ブランド・アーキテクチャー，ブランド配置	
第7回	マーケティングレベルのブランド戦略 フォーカス顧客，価値の創造，セグメンテーションの困難，ポジショニング	
第8回	企業ブランド戦略とブランド拡張 企業ブランド，マネジメントの視点，ブランド拡張，動機付け，カテゴリー，パーソナリティ	
第9回	ブランドM&Aとライセンシング ブランドの買収，グローバル企業の買収，ブランド買収の効果	
第10回	グローバルブランド戦略 市場と自社の課題，自覚共通化，ブランド保有，マネジメントの課題解決	
第11回	ブランド経験とブランド信頼 ブランド経験価値，ピーク・エンド法則，信頼概念，意図に対する信頼，ブランド意図	
第12回	食品・飲料ブランドの事例 新ビジネスモデル，ブランド活性化，成熟ブランドの再活性化，市場の転機，競合と自社分析	
第13回	耐久消費財のブランド戦略（ダイソンとティファールの事例） ブランド革新，サイクロン技術，デザインの力，人口減少と高齢化，エコロジー志向	
第14回	ツーリズム・ブランド（ハウステンボスの事例） エンターテインメントブランドの再構築，オンリーワン思考，市場対応，失敗に学ぶ，顧客ニーズ	
第15回	BtoBと企業ブランド 成熟産業，事業革新，事業ドメイン，戦略単位の源泉，酸素繊維，市場の需要	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度，課題作成	30	予習や復習の状況，講義への意欲や質問，課題提出などを評価する
レポート	30	提出されたレポートは，きちんと書かれていたかを検討し，内容のコメントを加えて返却する。
小テスト	40	キーワードの理解度，授業全体の理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	・何回かの授業中での資料を読み，評価する。 ・小テストは授業全体の理解度を評価する。
受講の心得	・日常，興味ある商品やサービス，消費行動に関する内容の新聞，雑誌などに目をとおして，問題意識をもって出席すること。
授業外学修	・予習として，レジュメの講義内容にかかわる部分を前もって塾読し，疑問点をチェックして来ること。 ・小テストのため，配布プリント，資料を復習すること。 ・関心ある商品や企業のブランドに関する参考文献を読むこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ブランド戦略論	田中洋	有斐閣	978-4-641-16510-6	
ベーシック・マーケティング	恩蔵直人編著	同文舘出版	978-4-495-64372-0	

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	企業のブランド構築の必要性を理解している わたしたちの生活の中で企業の役割や関わりを理解している 企業の戦略の違いによって企業の収益、ブランド力が高まることが把握できる	われわれの生活の中で，企業のブランド力が影響していることを理解できる	企業にとって，ブランド力とは何かを理解している われわれ消費者の行動や購買について理解している	生産者としての企業の社会的役割や責任に関する議論ができる 企業のブランドとは何かが把握できる	企業が利益を得るために，不祥事が起こっていることが十分の理解できない	企業の不祥事の際，企業ブランドに大きく影響及ぼしていることが把握できていない
思考・問題解決能力	今日の経済社会においで，消費すること，売り手である企業の役割や戦略が理解できる 今日の企業はブランド構築のために，差別化戦略を遂行していることが把握できる 企業の内部での経営資源をどのようにしてブランド構築に活用しているかが理解できる	企業で起こっている諸問題に対する対応策が議論できる	日本企業の問題点を抽出し，まとめることができる	企業の基本的なブランド構築の必要性を理解している 企業の組織構造や社員の行動によって製品開発や戦略が変化していることが把握できる	基礎的なマーケティングは理解しているが，具体的な内容は十分に理解できていない 具体的な企業の組織構造によって，製品販売の方法が異なっていることが理解できていない	ブランド戦略論の科目を理解していない 企業のブランド構築に関する概念や企業理念が理解できていない

科目名	観光経営論			授業番号	LE303	サブタイトル			
教員	田村　秀昭								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	観光産業ならではの経営上の課題やその対応策などを模索する。 観光経営の基礎知識を習得し，ホテル，旅行，運輸(航空，貸切バスなど)，エンターテ イメントなどの固有の課題を考察し， その解決方法や管理方など対策を講じてゆく。 また，危機管理の観点から災害などからの復興，再建などについて学ぶことでツーリズムをビジネスとしてとらえてゆく。								
到達目標	ツーリズム産業には一般的な企業経営とは違った課題が数多くあり，特に季節・曜日変動，立地条件や流行に左右されやすく， 設備投資額を考えると決して高収益とはならない経営リスクがあることを学んでほしい。 また，ツーリズム産業の中にあっても各業種によりその経営課題は異なるが，この違いなどを理解しながら対応策を考察してゆく力をつけてほしい。 課題を明確にし，協調しながら結論付けたり，発表する力も同時に養ってほしい。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	基本的には座学だが，課題を共有し，ディスカッションの後に集約した意見を発表する場も設定してゆきたい。 まず，講義に出席し，積極的に質問をし，議論に参加して欲しい。 観光経営という分野にとらわれず，学生としての学びの場を広げてゆきたいと思います。 時に脱線もしますが，観光産業で勤めてきた40年の経験を皆さんにお伝えしたいと思います。								

回	概要	担当
第1回	観光経営ガイダンス 観光の定義、経営の定義。 日本におけるホテル経営の初め、旅行業の初めの姿などの歴史を紐解きます。 まず、観光・ツーリズムの世界を知るところから始めてゆきます。	
第2回	観光経営の歴史 観光における経営を論じるとき、基本ベースは宿泊業（ホテル、旅館など）と旅行業は欠かすことができません。 2つの業種の始まりを押さえて、その辿ってきた過程を学びます。	
第3回	観光経営の課題:リスクの理解 旅行を英語でTravelといいますが、その語源はtroubleともいわれています。 トラブル、つまり事故、騒動など困難なことと理解できます。 苦難なことをなぜ人は続けてきたのか。 そして、現在は安心・安全を基本とした旅行・観光の時代になりましたが、 その経営過程においては依然としてtroubleだらけです。 そのリスクを理解し、回避するのはどうしたらよいかを考えてみましょう。	
第4回	季節・曜日変動などの経営課題:稼働率，生産性の考察 世界のバカンスの考え方では日本ほど繁閑の差を意識することはないでしょう。 しかし、日本人は旅行に出かけるといっても1泊か2泊。せいぜい思い切っても1週間どまり。 週末や連休を利用した旅行が多いでしょう。つまり、その時にしか行けないという判断で、 お客様が大変多い時と閑で集客できない時と大きな差があります。 これは稼働率や生産性を考慮すると大変な問題です。 それではどうしたらよいのか、一緒に考えましょう。	
第5回	巨大な設備投資と人的サービスへの傾斜傾向 宿泊業（ホテル・旅館など）や運輸業など、設備投資が先行して必要なうえに、人件費という経費をいかにコントロールするか。 装置産業であり人が資本である観光業の課題などを学びます。	
第6回	ホテル・旅館経営の課題 前週に引き続き、生産性などについて学びます。 宿泊業の課題は繁閑の差を如何に埋めるかなども含めて復習します。	
第7回	旅行業経営の課題（OTAとRTA，クレームとトラブル対策など） 旅行業の課題は生産性の向上とDX対策。収入率の低い産業であり、その誕生の経緯からも薄利多売の体質。 今後はいかに生き残るかを含めて、旅行業現場の経営課題などを学んでいきます。	
第8回	航空業界の課題 一昨年1月2日に羽田空港で発生した航空機の衝突事故をはじめとした、事故への対処という課題を含めて考察します。 航空機という先行投資の装置産業であり、人がその資本である航空業界の課題は何で、どう対応してゆけばよいのか。 一緒に考えてみましょう。	
第9回	鉄道経営と沿線開発の課題 かつて鉄道経営の基本は不動産業（デベロッパー）としての経済活動が中心でした。 都市部から離れた地域にはレジャー施設を展開し、その一方で通勤圏内と思える地区には住宅を建築する不動産投資。 沿線開発の名のもとに行われた都市開発、環境への対処などを一緒に考えましょう。	
第10回	リゾート経営の課題:日本の観光政策の失敗事例 「リゾート法」・「観光圏事業」など、日本の観光政策は厳しい評価を受けるものが多い。 現在では「日本版DMO」の推進をしているが、世界のDMOと比べて何がどう違うのか。 事例研究をする。	
第11回	テーマパーク，遊園地などアミューズメント，コンベンション施設の経営の課題 皆さんも大好きなディズニーリゾートやUSJなどはどのような経営計画を立て、 お客様へのサービス提供をしているのでしょう。リピーターがいかに獲得できるか。 一方で「リゾート法」で全国各地に建設されたのはホテル等宿泊施設のみならず、 レジャー施設も同様に全国に開発されました。その顛末は如何だったのでしょう。 意見交換しながら考察をします。	
第12回	観光経営の事例研究(レポート対象) 本講義の過程において研究すべきテーマを皆さんと考えてゆきます。 それぞれがテーマや対象業種などを研究し、事例を考察してゆきます。 発表後にはレポート提出を求めます。	
第13回	ツーリズムビジネスの将来についての考察:ディスカッションと整理 観光産業の将来はどうなるのか。あるいはどうすれば発展してゆくのかを意見交換をして、纏めてゆきましょう。	
第14回	第13回のまとめと発表 前週意見交換し、纏めていった課題などをPPTで発表していただきます。 その発表に対しての意見交換をします。	
第15回	観光経営論総括 これまでの観光経営についての講義のまとめをします。	

授業計画　備考2	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な授業態度，授業への貢献度を評価する。 出席は1回につき1ポイントとするが、残りの25点は授業に臨む姿勢・態度や発言を評価する。 また、毎回出席カードへのコメントを求めるが、質問や感想などで授業で如何に学習したかを評価の対象とする。
レポート	10	授業の中で課題を出します。それに対してのレポートを求めます。観光産業あるいは観光地の経営について自主学習をしていただきます。
小テスト	10	復習の意味を含めて小テストを数回実施します。基本的には用語の解説などを通して学習した内容を確認します。
定期試験	30	期末試験。授業中に配布した資料や自筆のノートの持ち込みは可とする。100点満点を30点に圧縮して全体評価に加えます。
その他	10	第13・14回のディスカッションとプレゼンテーションの評価をします。積極的に議論に参加し、自身の意見を姿勢よく発表してください。

評価の方法：自由記載	座学を中心とした授業の中でいかに予習をし，復習ができているかを確認しながら進めてゆきます。 また，各単元の中で自発的な発表やレポート提出などを歓迎します。公欠の場合のはレポートの提出を求めます。 授業後にその感想や理解できなかった内容について小レポートを提出して頂きます。その内容について次の授業の冒頭で回答、解説をします。 また、提出いただくレポートなどは赤ペンを入れたうえで返却します。復習に利用してください。
受講の心得	予習と復習を心掛け，授業時に取り上げた用語や内容について書籍などで調べ， 情報収集を行うなどの自主的な学習に努めましょう。 授業中にはペア・グループでの発表活動を実施しますので，積極的に参加してください。 ツーリズム産業を活用した地域振興策を考える習慣をつけてください。 積極的に質問をし，用語などでわからないままに進むことの無いようにしてください。
授業外学修	・講義内容については予習をしましょう。 次回講義のポイントについて毎回お伝えをします。 ・毎回の授業内容は必ず復習し、ノートの整理をしてください。 ・受講において事前に課題を出す場合があります。 以上の内容を週当たり4時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
観光概論	宍戸学ほか	(株)JTB総合研究所		2，477円（税抜き）

参考書：自由記載	市中にある観光パンフレット，旅行商品パンフレット，ホテル・旅館のパンフレットなども参考になります。 講義によっては授業で使用する場合があります。各施設，事業所等で手に入れることを求めることがあります。 また、毎回の授業では新聞掲載の記事や専門誌から抜粋した資料を配布します。 経営学や地域振興のお話も資料を交えてお伝えします。
その他	
備考	試験は期末と講義中に小テストを実施します。 期末テストは配布した資料や自筆のノートは持込を可とします。 小テストは講義の復習を兼ねたものです。
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	(株)JTBでの38年間の実績。中国運輸局，中国経済産業局，中国四国農政局などでの観光関連，まちづくり，地方創生などの委員経験など。 イベント・コンベンション、観光調査、広告宣伝などの事業経験もあります。 台湾の高校の顧問も務めていますので，国際交流などについてもお話しできます。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	なし
実務経験をいかした教育内容	JTBでの多岐に渡る業務経験と実績を元に，「現場」で起こっている，起こる可能性などの事象を具体的にお話します。 行政の委員などの経験をもとに観光行政の在り方や成功・失敗事例の原因なども事例を交えて解説してゆく予定です。 また、元美作市議会議員（2021年4月～2025年4月）の立場でもあり、行政の考え方や政策へいかに活かすかなどのお話もさせていただきます。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．観光産業の経営のリスクを理解する.	観光経営のリスクを説明し、一般経営との差を説明できる	観光経営の基礎知識を習得し説明できる	観光経営の基礎知識習得	観光経営の課題がわかる	観光経営の意味が分からない
知識・理解	2．観光産業の種類によって課題が違うことを理解する	観光産業の４種類以上の課題を説明できる	観光産業の３職種の課題を説明できる	観光産業の課題を説明できる	観光産業に課題があることは知っている	観光産業の課題を見つけられない
知識・理解	3．観光産業の危機管理を理解する	観光産業の危機管理策を纏め、対応を説明できる	観光産業の危機管理を理解し、対応策を説明できる	観光産業の危機管理を理解できる	観光産業に危機管理対応が必要なことを理解する	観光産業の危機管理を理解できない
思考・問題解決能力	1．受講中のディスカッションや課題とする小論文の中での考え方、提案力など	受講時にディスカッションの中心となり積極的に発言をする。文章表現の中に課題解決方法としての提案する力が見られる	ディスカッションに参加し、自らの意見を言う。また、文章表現の中に具体的な提案は見える	ディスカッションには参加し発言はする。また、文章力はあるが具体的な提案には至らない	ディスカッションには参加するが発言は稀。文章表現では抽象的な提案はできる	ディスカッションに参加できない。文章においても課題を見つけることができないので提案も記すことができない
技能	1．課題を明確にし、発表する	課題をPPTに纏めて時間内にプレゼンできる	課題をPPTに纏め、発表できる	課題を纏め、発表できる	課題を纏めることができる	課題を纏められない

科目名	リーダーシップ論			授業番号	LE401	サブタイトル			
教員	稲垣　祐輔								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	今まさに、変化の時代にあるのではないでしょうか。企業の主役は、価値を生み出す人・組織です。人・組織は、自らを変えることで成長することができます。より良い環境で、一人一人が力を発揮するために、リーダーシップ論を学び・考え・理解を深めることは重要です。この授業では、まずはリーダーシップ研究の流れ、次いで新潮流を学びます。また、リーダーシップ教育が求められる背景や教育の事例についても学びます。ビジネスリーダー等の事例研究を通じて、学びを深めます。								
到達目標	・リーダーシップ論の基礎を学び、その概要を説明できる。 ・理論、事例研究の学びから、現代のリーダーシップについて説明できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考	前半はリーダーシップ論の主要理論について学ぶ。 後半は、グループワークにより、リーダーシップに関する事例研究に取り組む。								

回	概要	担当
第1回	ガイダンス 当授業の目的と概要、進め方などの説明	
第2回	リーダーシップ研究の流れ 特性理論	
第3回	リーダーシップ研究の流れ 行動理論	
第4回	リーダーシップ研究の流れ 状況適合理論	
第5回	リーダーシップ研究の流れ 変革型リーダーシップ論	
第6回	リーダーシップ研究の新潮流 リーダーシップ開発論	
第7回	リーダーシップ研究の新潮流 変わりゆくリーダーとメンバーのあり方	
第8回	これまでの授業の整理とりまとめ 学びの振り返りと整理	
第9回	リーダーシップ教育 求められる背景、事例	
第10回	事例研究 ビジネスリーダー　その1	
第11回	事例研究 ビジネスリーダー　その2	
第12回	事例研究 ビジネスリーダー　その3	
第13回	事例研究 ビジネスリーダー　その4	
第14回	事例研究 ビジネスリーダー　その5	
第15回	まとめ これまでの講義を振り返り、とりまとめ	

授業計画　備考2	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度、予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	20	課題のテーマについて調査し、整理・分析し、具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。口頭で解説してフィードバックする。
小テスト	40	各回の内容において重要な内容の理解度を評価する。講義の中間期、期末に授業内容の理解度を評価する。
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	日ごろから新聞や経済誌を読み、経済・経営の変化について関心を持ち、下記の紙（誌）等を毎日読むことを推奨する。 日本経済新聞 日経ビジネス 東洋経済
授業外学修	1 予習として、講義内容にかかわる部分を事前に研究しておくこと。 2 復習として、テキスト・資料と学習ノートを再度確認すること。 3 発展学修として、講義で紹介された参考文献などを読むこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
これからのリーダーシップ: 基本・最新理論から実践事例まで	堀尾志保, 舘野泰一	日本能率協会マネジメントセンター	9784820727842	

使用テキスト：自由記載	レジュメを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
リーダーシップの名著を読む	日本経済新聞社	日経BPマーケティング	978-4532113346	

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	経営コンサルタント（20年）、大学での産学連携プロジェクトマネジメント（1年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	中小企業を中心に創業やベンチャー企業の変革・改善や再生等経営支援（相談・助言）に携わった経験から、具体例を用いて実践的な指導を行うことができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	リーダーシップ論の基礎的な知識を理解できる	リーダーシップ論の基礎的な知識を相当程度理解し、分かりやすくポイントを押さえて正確に述べることができる	リーダーシップ論の基礎的な知識を十分理解し、ポイントを押さえて正確に述べることができる	リーダーシップ論の基礎的な知識を理解し、ポイントを押さえて、概ね正確に述べることができる	リーダーシップ論の基礎的な知識の理解度が不足しており、要点は不十分で、正確さに欠けるが、かろうじて述べることができる	リーダーシップ論の基礎的な知識の理解度が相当不足しており、要点・ 正確さも相当欠けており、述べることができない
思考・問題解決能力	リーダーシップ論の基礎的な知識、経営学の学びを活用して、課題解決を目指し、リーダーとチーム（組織）について考察することができる	相当程度の知識と学びをもち、問題を把握し課題を明らかにする分析する力があり、課題解決を進めるために、リーダーとチーム（組織）の面等から、明確な根拠をもって丁寧に考察することができる	十分以上の知識と学びをもち、概ね問題を把握し課題を明らかにする分析する力が十分以上あり、リーダーとチーム（組織）の面等から根拠をもって考察し、課題解決を目指すことができる	十分な知識と学びをもち、概ね問題を把握し課題を明らかにする分析する力が十分あり、リーダーとチーム（組織）の面等から、概ねの根拠をもって考察し、課題解決を目指すことができる	知識と学びが不足しており、問題把握・課題明示する分析力が不足しており、リーダーとチーム（組織）の面等から、考察が不十分で、課題解決を目指すには難しい	知識と学びが相当足りず、問題把握・課題明示する分析力が殆ど無く、リーダーとチーム（組織）の面等から考察ができず、課題解決を目指すことができない
技能	知識・学びを活かした情報の整理・考察を、チームで進めることができる	チームメンバーの持つ知識・学びを相当程度活用し、チームで情報の整理・考察を、チームで相当程度の力を発揮して進めることができる	チームメンバーの持つ知識・学びを十分以上活用し、チームで情報の整理・考察について、チームで十分以上の力を発揮して進めることができる	チームメンバーの持つ知識・学びを概ね活用し、チームで情報の整理・考察について、チームで十分の力を発揮して進めることができる	チームメンバーの持つ知識・学びの活用が十分できず、チームで情報の整理・考察について、チームの力の発揮が十分でない	チームメンバーの持つ知識・学びの活用が上手くできず、チームで情報の整理・考察について、チームの力の発揮ができない
技能	チームメンバーとの目的共有・コミュニケーションしメンバーと連携した問題解決能力（協働）が身に付いている	チームメンバーとの目的明確化、コミュニケーションによる共有を繰り返して実行し、メンバーと連携して行動を起こす相当程度のチーム力がある	チームメンバーとの目的明確化、コミュニケーションによる共有し、メンバーと十分以上連携して行動を起こすチーム力がある	チームメンバーとの目的明確化、コミュニケーションによる共有し、メンバーと概ね連携して行動を起こすチーム力がある	チームメンバーとの目的明確化が不十分で、コミュニケーションによる共有も十分できておらず、メンバーと連携した行動に欠け、チーム力が十分発揮できない	チームメンバーとの目的明確化ができず、コミュニケーションによる共有もできておらず、メンバーと連携した行動がとれず、チーム力が殆ど発揮できない
態度	リーダーシップ論の基礎的な知識を身につけ、それを行動に活かし、他者と協力する態度である。	リーダーシップ論の基礎的な知識を相当程度身につけ、それを相当程度行動に活かし、他者と協力する態度が相当明確である。	リーダーシップ論の基礎的な知識を十分以上身につけ、それを十分以上行動に活かし、他者と協力する態度が明確である。	リーダーシップ論の基礎的な知識を概ね身につけ、それを概ね行動に活かし、他者と協力する態度が概ね明確である。	リーダーシップ論の基礎的な知識が不十分で、行動に活かすことが十分できず、他者との協力が十分でない態度である。	リーダーシップ論の基礎的な知識に欠け、行動に活かすことができず、他者との協力ができない態度である。

科目名	歌で学ぶ英語			授業番号	LF101	サブタイトル	(歌の歌詞から英語を楽しく学ぼう)		
教員	藤代 昇丈								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	洋楽の歌詞の英語のみならず邦楽の中に含まれる英語を通して、音楽を楽しみながら英語やその背景に触れる。ペアやグループ活動も取り入れ，最終的には，自ら素材を選んで紹介したり，簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。英語の四技能（読む、聞く、書く、話す）を総合的に高める目指す。								
到達目標	・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。 ・楽曲の歌詞の中で用いられている英語表現を理解し、実際に用いることができる。 ・楽曲の背景にある文化等について知識を得ることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	1 アメリカン・ポップスに学ぶ① 80年代のアメリカンポップスの代表的な曲を用いて、歌詞の中の英語表現を理解する。 シンディローパー「True Colors」等	
第2回	2 アメリカン・ポップスに学ぶ② 80年代のアメリカンポップスの代表的な曲を用いて、歌詞の中の英語表現を理解する。 マイケル・ジャクソン「Heal The World」等	
第3回	3 アメリカン・ポップスに学ぶ③ 80年代のアメリカンポップスの代表的な曲を用いて、歌詞の中の英語表現を理解する。 スティービーワンダー「I Just Called to Say I Love You」等	
第4回	4 ブリティッシュ・ポップスに学ぶ① 80年代のブリティッシュ・ポップスの代表的な曲を用いて、歌詞の中の英語表現を理解する。 ノーランズ「I'm in the Mood for Dancing」等	
第5回	5 ブリティッシュ・ポップスに学ぶ② 80年代のブリティッシュ・ポップスの代表的な曲を用いて、歌詞の中の英語表現を理解する。 シーナイーストン「Morning Train（Nine to Five）」等	
第6回	6 ブリティッシュ・ポップスに学ぶ③ 80年代のブリティッシュ・ポップスの代表的な曲を用いて、歌詞の中の英語表現を理解する。 ワム「Morning Train（Nine to Five）」等	
第7回	7 映画音楽に学ぶ① 映画の中で用いられている楽曲を用いて、歌詞の中の英語表現を理解する。 「Under the sea」等	
第8回	8 映画音楽に学ぶ② 映画の中で用いられている楽曲を用いて、歌詞の中の英語表現を理解する。 「This is Halloween」等	
第9回	9 映画音楽に学ぶ③及び到達度テスト 映画の中で用いられている楽曲を用いて、歌詞の中の英語表現を理解する。 「Remember Me」等	
第10回	10 クリスマス・ソングに学ぶ 映画の中で用いられている楽曲を用いて、歌詞の中の英語表現を理解する。 「Last Christmas」「We wish a Merry Christmas」等	
第11回	11 JPOPの中の英語に学ぶ① 邦楽の中で英語が用いられている楽曲を用いて、歌詞の中の英語表現を理解する。	
第12回	12 JPOPの中の英語に学ぶ② 邦楽の中で英語が用いられている楽曲を用いて、歌詞の中の英語表現を理解する。	
第13回	13 KPOPの中の英語に学ぶ① KPOPの中で英語が用いられている楽曲を用いて、歌詞の中の英語表現を理解する。	
第14回	14 KPOPの中の英語に学ぶ② KPOPの中で英語が用いられている楽曲を用いて、歌詞の中の英語表現を理解する。	
第15回	15 We Are The Worldに学ぶ及び到達度テスト 楽曲「We Are The World」が用いられている楽曲を用いて、歌詞の中の英語表現を理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	20	課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。
小テスト	40	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。
定期試験		
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。
授業外学修	1　テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。 2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので2時間以上復習しておくこと。 3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	授業中に教材を配付する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	県情報教育センター(3年)・県総合教育センター(4年)・県立高等学校英語科教諭(17年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。	英語の基礎的な文法に則って，一定分量の英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで90%以上得点することができる。	英語の基礎的な文法に則って，短い英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで80%程度得点することができる。	短い英文を読んだり，聞いたりしておおよその内容を理解することができる。到達度テストで70%程度得点することができる。	英語の基礎的な文法は理解しているものの，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することが困難である。到達度テストで60%程度の得点である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することができない。到達度テストで50%未満の得点である。
知識・理解	2.日常生活でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。	既習の英単語や英語表現を自由に用いて，相手と話したり，文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	楽曲中に用いられている英語表現を応用して，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	楽曲中に用いられている英語表現を用いて，相手と対話を口頭で再現したり，書いたりすることができる。	楽曲中に用いられている英語表現を用いて，相手と音読対話練習することはできるが，十分に理解し応用することはできない。	楽曲中に用いられている英語表現を音読することが難しく，対話練習することも困難である。
知識・理解	3.英語を含む楽曲の背景となる文化等について知識を得ることができる。	英語を含む楽曲の背景となる文化について理解し，自ら調べ，英文で紹介したり，発表することができる。	英語を含む楽曲の背景となる文化について理解し，まとめることができる。	英語を含む楽曲の背景となる文化について，講義を通して関心をもって議論することができる。	楽曲中の英語の内容の理解にとどまり，楽曲の背景となる文化について自ら知ろうとしない。	楽曲中の英語の内容のみならず，楽曲の背景となる文化について，全く関心を持たない。
技能	1. 英語で発表内容を書くことができる。	既習の英単語や英語表現を活用して，文章を書いて，自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して，短い文章を書いたりして，自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて，短い既存の文章を書くことができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが，短い英文でも書くことができない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず，英語として書くことができない。
技能	2. 英語で発表することができる。	既習の英単語や英語表現を活用して，聞き手に対して，自由に英語で自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して文章を作り，聞き手に対して，自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて，聞き手に対して，簡単な内容を伝えることができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが，相手に短い英文でも意思を伝えることができない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず，既存の英文を用いて相手に内容を伝えることもできない。
技能	3. 表現方法を工夫して発表することができる。	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくりと大きな声で、ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくりと大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げてはいるが、話す時には目を上げて、ゆっくりと大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており、目線が常に下向きか、スクリーンの方を向いており、ゆっくりと大きな声ではあるが、聞き手に対して訴えかけているとは言えない。	原稿を読み上げており、目線が常に下向きか、スクリーンの方を向いており、声も小さく、何を発表しているのか分からない。
態度	1. 他の意見に傾聴することでき，柔軟に対応することができる。	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができるが，相手の意見を聞こうという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞こうという態度に欠け，自分の意見を押し通そうとする。
態度	2. 素材となっている楽曲の歌詞や背景に関心を持ち、他の人と協調性をもって協力して協議を行うことができる。	素材となっている楽曲の歌詞や背景を自ら主体的に調べ，グループやペアで協働しまとめることができる。	素材となっている楽曲の歌詞や背景をグループワークやペアで協働して調べ，協力してまとめることができる。	素材となっている楽曲の歌詞や背景に関心をもってグループワークやペアで話し合うことができる。	素材となっている楽曲の歌詞や背景に関心をもてず、グループワークやペアでも協力することができない。	素材となっている楽曲の歌詞や背景に関心をもてず、グループワークやペア活動に参加することができない。
態度	3. 主体性をもちストレスをコントロールしながら学修を実行することができる。	学修を主体的に粘り強く最後まで遂行することができる。	指示された学修を主粘り強く最後まで遂行することができる。	指示された学修を一定レベルまで遂行することができる。	与えられた学修内容を他人任せにし，最後まで遂行することができない。	与えられた学修内容を遂行することができない。

科目名	映画で学ぶ英語			授業番号	LF102	サブタイトル			
教員	佐々木 真帆美								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業では，映画『Zootopia』を教材として，実際に使われている自然な英語表現を学ぶ。映画のセリフを通して，語彙や文法だけでなく，発音・イントネーション・語用論（場面に応じた表現の使い方）も扱い，実践的な英語運用能力の向上を目指す。 また，本作品に描かれる「偏見」「ステレオタイプ」「多様性」といったテーマを通して，言語と文化の関係についても考察する。学生同士が協働しながら意見交換を行うことで，多様な視点を養うことも本授業の重要な目的である。 最終的には，グループで1シーンを選び，英語で再現（演劇）するパフォーマンスを行う。映画を「観る」だけでなく，「分析し，使い，表現する」ことを通して，主体的に英語を運用する力を育成する。								
到達目標	1. 映画内の基本表現およびテーマを理解し，英語で説明できる。 2. 映画のセリフを適切な発音・イントネーションで再現し，自分の言葉に言い換えて表現できる。 3. グループ活動や発表に主体的に参加し，協働しながら英語での表現活動に取り組むことができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション / 夢と目標 授業の進め方，目的，評価方法などを確認し，映画の導入部分を視聴する。 未来表現 (will / want to) を用いて自分の目標について話す。	
第2回	努力と偏見 警察学校の場面を通して助動詞 (can / have to)を学ぶ。 努力や可能性を表す表現を練習する。	
第3回	出会いと第一印象 比較表現や性格を表す形容詞を学ぶ。 登場人物の第一印象について英語で説明する。	
第4回	ステレオタイプ 受動態を用いた表現を学ぶ。 映画に見られるステレオタイプについて簡単に議論する。	
第5回	捜査開始 依頼や命令の表現を学び，丁寧さの違いを理解する。 短い会話を再現する活動を行う。	
第6回	ユーモアと言語 DMVの場面を通してイントネーションや間の取り方を学ぶ。 発音練習とシャドーイングを行う。	
第7回	恐怖とメディア 関係代名詞や理由表現 (because / so) を学ぶ。 メディアと恐怖の関係について意見を書く。	
第8回	失言と責任 間接話法と謝罪表現を学ぶ。 言葉の影響について考え，短い意見を述べる。	
第9回	対立と葛藤 仮定法を学び，感情を表す表現を練習する。 役割演技を通して，対立場面を再現する。	
第10回	再出発 現在完了を用いて経験や変化を表現する。 励ましの表現を使ってスピーキング活動を行う。	
第11回	真相解明 推量表現 (might / must) を学び，状況から推測する練習を行う。 問題解決型ディスカッションを実施する。	
第12回	エンディング 成長を表す表現を学び，Before / Now を使って変化を説明する。 パフォーマンス内容を確認する。	
第13回	パフォーマンス準備① グループでシーンを選び，セリフの意味や発音を確認する。 役割分担と練習を行う。	
第14回	パフォーマンス準備② 通し練習を行い，教員からのフィードバックを受ける。 改善点を修正し完成度を高める。	
第15回	グループパフォーマンス発表 選択したシーンを英語で再現する。 発表後に振り返りと相互評価を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	20	授業で扱った語彙・表現・文法事項を理解し，基本的に運用ができているかを評価する。 実施後に採点して解説をする。
リアクションペーパー	20	映画の内容やテーマを理解し，自分の考えを簡潔な英語で論理的に表現できているかを評価する。 リアクションペーパーはコメントを付けて返却する。
グループパフォーマンス	30	セリフ理解・発音・表現力・協働姿勢を総合的に判断し，英語での再現度と完成度を評価する。 パフォーマンスは、授業内で全体に対して口頭で講評を行う。
最終レポート	20	映画のテーマを踏まえ，英語表現と関連付けながら自分の意見を論理的に述べているかを評価する。 レポートはコメントを付けて返却する。
授業への取り組み姿勢／態度	10	意欲的な受講態度やグループワークの取り組み姿勢などを評価する。
評価の方法：自由記載		

受講の心得	本授業は「映画を楽しむ授業」ではなく，映画を素材として英語を徹底的に練習する授業である。視聴時間は限られており，音読・発話・記述活動が中心となるため，主体的に取り組む姿勢が不可欠である。
授業外学修	1. 授業で扱ったセリフの音読およびシャドーイング練習を行い，発音やイントネーションの定着を図ること 2. 小テストに備えて，授業で扱った語彙・表現・文法事項を復習し，正確に理解しておくこと 3. グループパフォーマンスに向けて，担当シーンのセリフ暗記，発音練習，役割分担の確認などを計画的に進めること 4. 最終レポート作成に向けて，映画のテーマや関連表現を整理し，構成を考えながら準備を進めること 以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	映画の内容・テーマおよび英語表現を理解し説明することができる。	映画の内容・テーマを正確に理解し，英語表現と関連づけて説明することができる。	映画の内容とテーマを概ね理解し，主要表現を説明できる。	基本内容は理解しているが，説明はやや表面的である。	内容理解が不十分で，英語表現の理解に誤りが見られる。	内容や英語表現の理解が著しく不足している。
技能	映画の内容理解に基づき，要点を整理して，簡潔で分かりやすい英語で説明することができる。	映画の内容やテーマを正確に理解し，要点を整理したうえで，明確で論理的な英語で説明することができる。	内容理解に基づき，概ね整理された英語で説明できている。	基本的な内容は理解しているが，説明にやや曖昧さや整理不足が見られる。	内容理解が不十分であり，説明に不明瞭な部分が多い。	内容理解および英語での説明が著しく不足している。
技能	映画のセリフを，適切な発音・アクセント・イントネーション・リズムで再現し，聞き手に伝わる英語として表現できる。	発音・アクセント・イントネーション・リズムが明瞭かつ自然であり，セリフを流暢に再現し，聞き手に十分伝わる英語として表現できている。	発音やイントネーションに大きな問題はなく，概ね自然にセリフを再現できている。	基本的な発音で再現できているが，イントネーションや流暢さに不安定さが見られる。	発音やイントネーションに誤りが目立ち，セリフの再現が不安定である。	発音や再現が著しく不十分で，聞き手に内容がほとんど伝わらない。
技能	学修したセリフや表現を場面に合わせて言い換えたり組み替えたりしながら，自分の意図を英語で適切に伝えることができる。	学修した表現を場面に応じて適切に言い換えたり応用したりしながら，自分の意図を明確に伝えることができる。	学修した表現を適切に用いて，自分の考えを概ね明確に伝えることができる。	基本的な表現を用いることはできるが，応用や言い換えにはやや制限が見られる。	学習した表現の使用が不十分であり，応用や言い換えがほとんど見られない。	学習した表現をほとんど使用できず，自分の意図を英語で表現することが困難である。

科目名	ライティング			授業番号	LF201	サブタイトル			
教員	藤田　香織								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	英文をただ文法を正しく使って英単語を駆使して書くのではなく，構成を意識して例え英文が少し間違っていてもわかりやすく伝わることを意識して書いていき方法を学びます。パラグラフの分け方，自分の意見・主張を根拠をもって説明する方法などを学習します。最終的にはグラフの説明までできるように段階を追って説明しますので他の学生の熟達英文を見ながら新しいアイデアや表現・英文法や英単語の使い方を吸収してください。この講義では英文の正しさよりも，自力で書けるようなることを評価します。インターネットで調べたコピーした複雑な英文より（インターネットからヒントを得て自分の力で書くのは構いません），少しくらい間違いがあっても自分で書く力を身に着けているかが大事になります。そこでクラスのレベルに合わせて評価をしません。個人が前よりレベルが上がったかが評価の対象になります。								
到達目標	この授業では英作文をする際に、構成がしっかり組み立てられるようになることが第一の目標としています。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	理由で押し切る 第1回レポート課題 導入で書き方を確認し,実践する。その後グループワークや他の学生の熟達モデル英文を見たり発表し自分の英文を確認しリライトする。課題を完成させ期日までに完成させて提出。	
第2回	社会現象を説明する 第2回レポート課題 導入で書き方を確認し,実践する。その後グループワークや他の学生の熟達モデル英文を見たり発表し自分の英文を確認しリライトする。課題を完成させ期日までに完成させて提出。	
第3回	原因を追究する 第3回　レポート課題 導入で書き方を確認し,実践する。その後グループワークや他の学生の熟達モデル英文を見たり発表し自分の英文を確認しリライトする。課題を完成させ期日までに完成させて提出。	
第4回	いくつかの説明 第4回レポート課題 導入で書き方を確認し,実践する。その後グループワークや他の学生の熟達モデル英文を見たり発表し自分の英文を確認しリライトする。課題を完成させ期日までに完成させて提出。	
第5回	比較してみよう 第5回レポート課題 導入で書き方を確認し,実践する。その後グループワークや他の学生の熟達モデル英文を見たり発表し自分の英文を確認しリライトする。課題を完成させ期日までに完成させて提出。	
第6回	賛成と反対 第6回レポート課題 導入で書き方を確認し,実践する。その後グループワークや他の学生の熟達モデル英文を見たり発表し自分の英文を確認しリライトする。課題を完成させ期日までに完成させて提出。	
第7回	きちんと分類 第7回レポート課題 導入で書き方を確認し,実践する。その後グループワークや他の学生の熟達モデル英文を見たり発表し自分の英文を確認しリライトする。課題を完成させ期日までに完成させて提出。	
第8回	歴史を知ろう 第8回レポート課題 導入で書き方を確認し,実践する。その後グループワークや他の学生の熟達モデル英文を見たり発表し自分の英文を確認しリライトする。課題を完成させ期日までに完成させて提出。	
第9回	過程を説明 第9回レポート課題 導入で書き方を確認し,実践する。その後グループワークや他の学生の熟達モデル英文を見たり発表し自分の英文を確認しリライトする。課題を完成させ期日までに完成させて提出。	
第10回	原因と結果 第10回レポート課題 導入で書き方を確認し,実践する。その後グループワークや他の学生の熟達モデル英文を見たり発表し自分の英文を確認しリライトする。課題を完成させ期日までに完成させて提出。	
第11回	新しい言葉を説明しよう 第11回レポート課題 導入で書き方を確認し,実践する。その後グループワークや他の学生の熟達モデル英文を見たり発表し自分の英文を確認しリライトする。課題を完成させ期日までに完成させて提出。	
第12回	調査をしよう 第12回レポート課題 導入で書き方を確認し,実践する。その後グループワークや他の学生の熟達モデル英文を見たり発表し自分の英文を確認しリライトする。課題を完成させ期日までに完成させて提出。	
第13回	新製品 第13回レポート課題 導入で書き方を確認し,実践する。その後グループワークや他の学生の熟達モデル英文を見たり発表し自分の英文を確認しリライトする。課題を完成させ期日までに完成させて提出。	
第14回	グラフを読む 第14回レポート課題 導入で書き方を確認し,実践する。その後グループワークや他の学生の熟達モデル英文を見たり発表し自分の英文を確認しリライトする。課題を完成させ期日までに完成させて提出。	
第15回	英検準1級問題にチャレンジ 第15回レポート課題 導入で書き方を確認し,実践する。その後グループワークや他の学生の熟達モデル英文を見たり発表し自分の英文を確認しリライトする。課題を完成させ期日までに完成させて提出。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
レポート課題15回	75	各5点満点　構成・量・英文法の正しさ・内容・工夫が評価の対象です。 授業のテーマに合った構成ができているかが最大の評価ポイントになります。次の授業で学生の中から氏名を伏せて熟達英文を公表させてもらいます。学生同士まなび合い，他の学生ではなくて前の自分より上達しているかがポイントです。レポート提出後の次の授業で課題の返却を行い，全体で皆さんのライティングをフィードバックを行います。
定期試験	25	ビジネス文書の作成（英文の暗唱）　実技（構成・量・英文法の正しさ・内容・工夫）

評価の方法：自由記載	
受講の心得	熟達者のモデル英文紹介から刺激を受けて英作文のレベルがアップすることから，他の学生へ氏名を伏せて公表をする。そこから自分の表現を広げたり，アイデアをもらいレベルアップしてほしい。グループ活動もあります。英作文をしたものを修正するためにインターネット，AIを活用することは認めるがそのままコピーしてはいけない。自分の英語力をアップさせるために3語以上のコピーは減点の対象とする。
授業外学修	レポート課題の提出で単位の取得が可能になるレッスンである。そのため授業外のレポート課題に3時間以上はかけて作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Skills for Better Writing〈Basic〉構造で書く英文エッセイ	石谷由美子	南雲堂	978-4-523-17911-5	2000円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校（6年），他大学講師（5年），専門学校学，日本語学校（2年），塾（6年），英会話講師（1年）オーストラリアでの留学生サポートのコーディネーター（1年）,他大学学習アドバイザー（2年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校，大学，専門学校学，日本語学校，塾，英会話オーストラリアでの留学生サポートのコーディネーターの現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験があります。学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	授業で説明した英文法・英単語・英語表現を習得し表現の幅を増やす。	既習の授業内容も生かし，モデル英文をしっかり理解して実際に正しく使うことができる。	既習の授業内容も生かし，モデル英文を実際に使うことができる。	モデル英文を実際に使うことができる。	英文法，モデル英文の理解ができていない。	英作文ができていない。文法の理解ができない。
思考・問題解決能力	1．レポート課題	5点　構成・量・英文法の正しさ・内容・工夫のどれをとっても十分満たしている。	4点　構成・量・英文法の正しさ・内容の基準を満たしている。	3点　構成・量・英文法の正しさをクリアしている。	2点　構成・量は何とか満たしている。	1点　文章構造の理解がほとんどない。
技能	定期試験でビジネス文書を事前に暗唱し，自分なりにアレンジをして英作文ができる。 これまで行ってきたライティングのスキルを複合的に使って，最終課題にチャレンジする。	英語表現を十分に暗記しており，自分でアレンジができる。 またライティングのスキルを複合的に使って，自己表現を十分にできている。	英語表現を十分に暗記している。 またライティングのスキルを使って，自己表現ができている。	英語表現を暗記している。 英文法のミスはあるが構造がしっかりとれてなんとか自己表現ができている。	英語表現を最後まで暗記できていない。 英文法のミスはあり、構造はできている。	英語表現を最後まで暗記できていない。 英文法のミスはあり、構造も取れていない。

科目名	時事英語			授業番号	LF202	サブタイトル	ニュースの英語		
教員	藤代 昇丈								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	The New York Times等 の論説・記事を扱ったテキストを教材にして，時事英語特有の表現や国際社会で起こっている様々な問題についての理解を深めるとともに，英語の４技能を高める。具体的には，テキストを活用してトピックについての読解力，聴解力を高めるとともに，グループワークやペアワークを通して，自らの意見を口頭や筆記により表現する力を高める。また，CNNやBBCのニュース映像やインターネット上に公開されているニュース記事等を活用して，より新鮮なニュースに触れる機会を設ける。								
到達目標	・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。 ・時事英語，ニュース英語でよく使われる英語表現を理解することができる。 ・英文で扱われている題材について知識を得ることができる。 ・英語の４技能を駆使して情報を収集し発信できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	Unit1 日本は世界の「辺境地帯」になった 世界の中の日本に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第2回	Unit2 2531年には日本人全員が「佐藤」さんに 少子化や夫婦別姓に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第3回	Unit3 京都　過密打破のために観光高速バスサービスを開始予定 オーバーツーリズムに関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第4回	Unit4 ヒトへの臓器移植用の豚　世界で初めて日本で誕生 臓器移植に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第5回	Unit5 マーシャル諸島　核問題で日本との提携を望む 核問題に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第6回	Unit6 外国人消防士　日本政府の官僚的姿勢に息詰まる 官僚的姿勢に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第7回	Unit7 日本でのハラール食品ガイド 食文化の違いに関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第8回	Unit8 パリの空の下　旗翻る パリオリンピックに関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第9回	Unit9 「ゴジラ-1.0」逆境と戦い、アカデミー賞で大勝利 アカデミー賞に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語 到達度テスト（中間）	
第10回	Unit10 ネットで少女を装い、偽デートに大学生を誘い、暴行・強盗で逮捕 ネット詐欺に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第11回	Unit11 宇宙飛行には、おいしい食べ物が不可欠 宇宙食に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第12回	Unit12 富士通　英国郵政公社のスキャンダルで謝罪 英国郵政公社スキャンダルに関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第13回	Unit13 ケニア中部のサイ　絶滅から帰還 絶滅危惧に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第14回	Unit14 16年前に王位を追放されたネパール国王　今復位されそうだ ネパール国王に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語	
第15回	Unit15 「魔術師」小澤征爾の死を世界中が悼む 国際的な指揮者小澤征爾に関する英文を読み、内容理解の確認と演習問題への解答 英語ニュース動画の聞き取りと時事用語 到達度テスト（期末）	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	20	課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。
小テスト	40	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。
定期試験		
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。

授業外学修	1　テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。 2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので２時間以上復習しておくこと。 3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
15章版：ニュースメディアの英語 ―演習と解説2025年度版― 15 Selected Units of English through the News Media –2025 Edition–	高橋優身／伊藤典子／Richard･Powell　編著	朝日出版	978-4-255-15729-0	1,430円（本体1,300円＋税）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	県情報教育センター(3年)･県総合教育センター(4年)･県立高等学校英語科教諭(17年)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。			

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。	英語の基礎的な文法に則って，一定分量のまとまった英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで90%以上得点することができる。	英語の基礎的な文法に則って，やや長い英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで80%程度得点することができる。	短い英文を読んだり，聞いたりしておおよその内容を理解することができる。到達度テストで70%程度得点することができる。	英語の基礎的な文法は理解しているものの，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することが困難である。到達度テストで60%程度の得点である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することができない。到達度テストで50%未満の得点である。
知識・理解	2.時事的なニュースでよく使われる英単語や英語表現を実際に用いることができる。	既習の英単語や英語表現を活用して時事的なニュースに積極的に触れ，ニュース中の含まれる英単語や英語表現を自由に用いて，相手と話したり，文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	時事的なニュースで用いられている英単語や英語表現を応用して，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	時事的なニュースで用いられている英単語や英語表現を用いて，相手と対話を口頭で再現したり，短い文章を書いたりすることができる。	時事的なニュースで用いられている英単語や英語表現を用いて，相手と音読対話練習することはできるが，十分に理解し応用することはできない。	時事的なニュースで用いられている英単語や英語表現を音読することが難しく，対話練習することも困難である。
知識・理解	3.時事的なニュースで報じられている出来事や事象について関心を持ち，自ら調べ理解することができる。	時事的なニュースで報じられている出来事や事象について関心を持ち，自ら積極的に調べ，理解することができる。	時事的なニュースで報じられている出来事や事象について関心を持ち，自ら調べることができる。	時事的なニュースで報じられている出来事や事象について関心を持ち，読んだり聞いたりすることができる。	時事的なニュースで報じられている出来事や事象について関心を持ち，読んだり聞いたりすることができない。	時事的なニュースで報じられている出来事や事象について関心を持てない。
技能	1.英語を読むことができる	英語の基礎的な単語や文法に則って，一定分量のまとまった英文を読んんで内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法に則って，やや長い英文を読んで内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法を用いて，短い英文を読んで，おおよその内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法は理解しているものの，短い英文を読んでも内容を理解することが困難である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で，短い英文を読んでも内容を理解することができない。
技能	2.英語を書くことができる	既習の英単語や英語表現を活用して，文章を書いて，自らの意志を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて，短い既存の文章を書くことができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが，短い英文でも書くことができない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず，英語として書くことができない。
技能	3.英語を聞くことができる	英語の基礎的な単語や文法に則って，一定分量のまとまった英文を聞いて内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法に則って，やや長い英文を聞いて内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法を用いて，短い英文を聞いて，おおよその内容を理解することができる。	英語の基礎的な単語や文法は理解しているものの，短い英文を聞いても内容を理解することが困難である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で，短い英文を聞いても内容を理解することができない。
技能	4.英語を話すことができる	既習の英単語や英語表現を活用して，相手と話して，自らの意志を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して，相手と話したり，短い文章を発話したりして，自らの意志を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて，相手と短い対話をしたり，既存の対話文を相手と再現することができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが，相手と短い対話をしたり，既存の対話を相手と再現することはできない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず，既存の対話を相手と再現することもできない。

科目名	英語ディスカッション			授業番号	LF203	サブタイトル	Discussion in English		
教員	片山 純子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業では、現代社会における様々な課題について英語で考え、意見を述べ、議論する能力を養う。教員作成の教材を用い、要約、意見表現、ディスカッション、ディベートを行う。学生は異なる立場を理解しながら、自らの考えを論理的に発信する力を身につける。 This course aims to develop students' ability to discuss global and social issues in English. Students will read short texts, summarize key points, express opinions, and participate in discussions and debates.								
到達目標	本授業の到達目標は以下の通りである: 短い英文を読み、要点を理解・要約できる。 自分の意見を理由とともに英語で述べることができる。 賛成・反対の立場を英語で適切に表現できる。 英語でディスカッションや簡単なディベートに参加できる。 社会問題について批判的に考える力を養う。なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。 The learning objectives of this course are as follows: Can read short English texts and understand and summarize the main points. Can express their opinions in English with supporting reasons. Can appropriately express agreement and disagreement in English. Can participate in discussions and simple debates in English. Can develop the ability to think critically about social issues.This course contributes to the acquisition of the bachelor's competencies outlined in the diploma policy, specifically in the areas of Knowledge and Understanding, Thinking and Problem-Solving Ability, Skills, and Attitudes.								
授業計画 備考	このコースは、積極的に参加している学生が英語を使い、毎日の関連のトピックについて考えることに依存しています。このコンテンツは、学生が英語およびディスカッションスキルの理解を向上させるのに役立ちます。 This course relies on students participating actively to use English and to think about daily topics. The content will help students to improve their English and discussion skills.								

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション、ディスカッションとは何かを理解する。簡単な意見交換を行う。 Orientation; understand what discussion is. Engage in simple opinion exchange.	
第2回	トピック１：環境活動と芸術。社会問題と表現の関係について意見交換する。 Topic 1: Environmental Activism and Art. Exchange opinions on the relationship between social issues and expression.	
第3回	トピック２：遺伝子編集と倫理。メリット・デメリットを整理し、ディスカッションを行う。 Topic 2: Gene Editing and Ethics. Organize advantages and disadvantages; conduct a discussion.	
第4回	トピック３：文化遺産と宗教。英文を読み要約し、賛否の意見を述べる。 Topic 3: Cultural Heritage and Religion. Read and summarize a text; express opinions for and against.	
第5回	トピック４：AIと創造性。AIの利点と課題について議論する。 Topic 4: AI and Creativity. Discuss the benefits and challenges of AI.	
第6回	トピック５：宇宙開発と格差。科学技術と社会問題の関係を考える。 Topic 5: Space Development and Inequality. Consider the relationship between science/technology and social issues.	
第7回	トピック６：ストリートアートと社会抗議。表現の自由について議論する。 Topic 6: Street Art and Social Protest. Discuss freedom of expression.	
第8回	中間ディスカッション課題。これまでのテーマを基に議論を行う。 Midterm discussion task. Conduct discussions based on topics covered so far.	
第9回	トピック７：捕鯨と文化。文化と倫理の観点から意見を述べる。 Topic 7: Whaling and Culture. Express opinions from cultural and ethical perspectives.	
第10回	トピック８：自動運転と責任。技術と責任のあり方について考える。 Topic 8: Autonomous Driving and Responsibility. Consider the nature of responsibility in technology.	
第11回	トピック９：難民問題と国際責任。グローバルな視点から議論する。 Topic 9: Refugee Issues and International Responsibility. Discuss from a global perspective.	
第12回	トピック１０：ジェンダーと表現の自由。多様性と社会の関係を考える。 Topic 10: Gender and Freedom of Expression. Consider diversity and its relationship to society.	
第13回	トピック１１：AIと未来社会。技術と社会の関係について意見交換する。 Topic 11: AI and Future Society. Exchange opinions on the relationship between technology and society.	
第14回	トピック１２：SNS規制。自由と規制のバランスについて議論する。 Topic 12: Social Media Regulation. Discuss the balance between freedom and regulation.	
第15回	最終ディベートおよび振り返り。学習内容の整理を行う。 Final debate and reflection. Review and consolidate course content.	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
ディスカッションへの参加 Participation & Discussion	30	発言回数、意見の内容、ディスカッションへの貢献度を総合的に評価する。 Evaluated comprehensively based on frequency of contributions, quality of ideas, and level of engagement in discussions.
毎回の提出課題 Assignments	40	英文の要点を適切にまとめる力および、自分の意見を整理して表現する力を評価する（内容理解・構成・表現）。 Evaluated based on the ability to appropriately summarize the main points of English texts and to organize and express one's own opinions (content understanding, organization, and expression).
中間ディスカッション Midterm Discussion	10	意見表現、理由提示、他者とのやり取りを評価する。 Evaluates expression of opinions, use of supporting reasons, and interaction with others.
最終ディスカッション Final Discussion	20	主張の明確さ、論理性、英語運用能力、議論への参加態度をルーブリックに基づき評価する。 Evaluated based on clarity of arguments, logical structure, English proficiency, and participation in discussion, using a rubric.

評価の方法：自由記載	本授業では、ディスカッション能力および批判的思考力を中心に総合的に評価する。積極的な発話と論理的な意見表現を重視する。 This course evaluates students comprehensively, focusing on discussion skills and critical thinking ability. Active participation and logical expression of ideas are emphasized.
受講の心得	本授業はディスカッション中心のため、積極的に発言することが求められる。異なる意見を尊重しながら、自分の考えを英語で表現する姿勢を持つこと。 As this course is discussion-based, active participation is required. Students should respect differing opinions and be willing to express their own ideas in English.

授業外学修	各トピックについて予習（語彙・内容理解）を行い、要約課題に取り組むこと。また、関連する社会問題について事前に自ら調べること。 Students are expected to prepare for each topic (vocabulary and content understanding) and complete summary assignments. In addition, they should research related social issues in advance.

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
なし				

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	学生は、すべての授業に、必要な準備物（辞書、授業ファイル、ノート、ワークシート、課題など）をすべて持参すること。この授業は、積極的な授業参加と比較的高いレベルの英語を必要とする。 Students should bring their dictionaries, course files, notebooks, worksheets, homework and other necessary materials to every class. This course requires active participation in English and a relatively high level of English.
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	学習したトピックを中心に、内容の理解度および要点を正確に把握・要約することができるかを評価する。 Evaluates the degree of understanding of the content related to the topics studied, as well as the ability to accurately grasp and summarize key points.	内容を正確に理解し、要点を明確に要約できる。 Demonstrates accurate understanding and clearly summarizes key points.	多くの場合、内容を理解し要点を要約できる。 Understands the content and summarizes key points in most cases.	基本的な理解はある。 Shows basic understanding.	内容の理解が不十分である。 Shows insufficient understanding.	理解がほとんど見られない。 Shows little to no understanding.
思考・問題解決能力	学習したトピックを中心に、英語を用いて自分の意見を論理的に表現できるか、理由や具体例を用いて内容を発展させることができるか、また多角的に考えることができるかを評価する。 Evaluates the ability to express one's ideas logically in English, to develop ideas using reasons and examples, and to think from multiple perspectives.	論理的かつ批判的に考え、多角的に意見を発展させて述べられる。 Expresses ideas logically and critically, developing them from multiple perspectives.	理由を伴って意見を説明できる。 Can explain opinions with supporting reasons.	基本的な意見を述べることができる。 Can express basic opinions.	表現が限定的で、意見の展開が不十分である。 Expression is limited and lacks development.	意見を表現することができない。 Cannot express opinions.
技能	学習したトピックに関連して、英語での発話の明瞭さや流暢さ、相手に意味が伝わるコミュニケーションができるか、またディスカッションに適切に参加できるかを評価する。Evaluates clarity and fluency in spoken English, the ability to communicate meaning effectively, and appropriate participation in discussions.	明確かつ積極的に議論に参加し、効果的に意思を伝えられる。 Participates clearly and actively, communicating effectively.	多くの場合、議論に参加し意思疎通ができる。 Participates and communicates effectively in most situations.	基本的な参加と意思疎通ができる。 Demonstrates basic participation and communication.	議論への参加や意思疎通が難しい場面が多い。 Often has difficulty participating and communicating.	ほとんど参加できず、意思疎通が困難である。 Rarely participates and has great difficulty communicating.
態度	学習したトピックへの取り組みを含め、授業への積極的な参加、他者との協力姿勢、異なる意見を尊重する態度、および英語で発言しようとする姿勢を総合的に評価する。 Evaluates overall engagement, including active participation, cooperation with others, respect for different opinions, and willingness to communicate in English.	積極的に発言し、他者の意見を尊重しながら協働できる。 Actively participates and collaborates while respecting others' opinions.	概ね積極的に参加している。 Generally participates actively.	一部参加しているが、消極的な場面がある。 Participates to some extent but is sometimes passive.	参加が少ない。 Participates infrequently.	ほとんど参加しない。 Rarely participates.

科目名	観光英語B			授業番号	LF204	サブタイトル			
教員	佐々木 真帆美								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この講義では観光・ホスピタリティの現場で実際に使用される英語表現を学び，訪日外国人旅行者に対して適切かつ柔軟に対応できる実践的な英語運用能力を養うことを目的とする。教科書に基づいた会話練習・リスニング・ロールプレイの他に，日本の観光地や料理，名産品について英語で紹介をする発表を行う。								
到達目標	1. 観光・接客場面における基本的な英語表現を理解し使用できる。 2. 交通，宿泊，飲食，観光案内などの場面で適切な英語対応ができる。 3. 日本の文化や習慣を簡潔な英語で説明できる。 4. 日本の観光地・料理・名産品を簡潔な英語で紹介することができる。 なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	観光英語とホスピタリティ 授業全体の目的・進め方・評価方法を説明する。 観光英語とホスピタリティの基本的な考え方について理解する。	
第2回	Unit 1 Transportation 公共交通機関を利用する観光客に対する案内表現を学ぶ。 時刻，料金，乗り換え，交通系ICカードなどの説明練習を行う。	
第3回	Unit 2 At a Check-in Counter (hotel) ホテルのチェックイン場面を想定し，予約確認や基本的な接客英語表現を学ぶ。 ロールプレイを通して実践力を養う。	
第4回	Unit 3 Facilities and Services (hotel) ホテルや施設寧の設備・サービスについて説明する英語表現を学ぶ。 利用方法や注意事項の伝え方を練習する。	
第5回	Unit 4 Giving Directions 道案内に必要な基本表現を学ぶ。 地図やランドマークを用いて分かりやすく説明する練習を行う。	
第6回	Unit 5 Recommending Trip 観光客の希望に応じて旅行先や観光プランを提案する表現を学ぶ。 おすすめ理由を英語で説明する力を養う。	
第7回	中間発表 これまでに学習した表現を参考にしながら，テーマに沿った国内の観光地を１つ選び英語で紹介する。 発表後にフィードバックを行う。	
第8回	Unit 6 Dining in Japan ① 相手の要望を理解し，日本の飲食店や料理を提案する表現を学ぶ。 食事制限や好みを尋ねる表現を学び、異文化に配慮した対応力を身につける。	
第9回	Unit 7 Dining in Japan ② 日本食を英語で説明する英語表現を学ぶ。 海外の料理と比較して説明ができるように，日本料理の特徴や文化的背景を英語で説明できるようにする。	
第10回	Unit 8 Arranging a Tour ツアーの手配やスケジュール説明に必要な英語表現を学ぶ。 集合時間や注意事項の伝え方を練習する。	
第11回	Unit 9 Staying at a Ryokan 旅館での滞在を想定し，日本特有の宿泊文化を説明する英語表現を学ぶ。 温泉や和室のルールを英語で説明する。	
第12回	Unit 10 Culture Expression in Japan ① 日本の文化や生活習慣について英語で説明する表現を学ぶ。 観光客に向けたわかりやすい説明を意識する。	
第13回	Unit 11 Culture Expression in Japan ② 日本の年中行事や祭，伝統芸能について英語で説明する表現を学ぶ。 文化的背景や意味を踏まえ，外国人観光客にわかりやすく伝えられるようにする。	
第14回	Unit 12 Japanese Douvenirs 日本のお土産とショッピングの案内の仕方を学ぶ。 商品の特徴や意味を英語で説明し，適切なお土産を提案できるようにする。	
第15回	期末発表 これまでに学習した表現を用いて，テーマに沿った国内の料理・名産品を１つ選び英語で紹介をする。 発表後にフィードバックを行う。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
小テスト	20	毎回授業開始時に前回の授業内容に関する小テストを行う。観光英語に関する理解度を評価する。
定期試験	30	授業全体で学んだ交通，宿泊，飲食，文化紹介などの観光英語について理解度を確認する。 暗記中心の試験ではなく，具体的な場面設定に対して，授業で学んだ内容を踏まえて英語で説明できるかを評価する。
その他	30	課題のテーマについて調べ適切にまとめ，自分の考えを英語で具体的に発表できていること。 発表のフィードバックは授業時に全体に対して行う。

評価の方法：自由記載	

受講の心得	背景となる日本事象全般に関する知識が必要となるので，日頃から知識獲得に努めてほしい。
授業外学修	1　予習として，該当するUnitの内容に目を通し，扱われる語彙や表現を確認すること。また，練習問題には授業前に答えておくこと。 2　復習として，学習した表現や会話例を復習し，実際の観光場面でどのように使われるかを意識して整理すること。また，音声データをダウンロードして音声を確認し，音読すること。 3　発展学習として，関連する観光情報や日本文化について調べ，英語で説明する練習を行うことが望ましい。 以上の内容に加え発表準備を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
現場から学ぶ観光英語の実践レッスン	上杉恵美・阿部佳・渭東史江ほか	金星堂	978-4-7647-4067-9	2，300円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無				
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．観光に関する英語の語彙や表現を理解している	観光に関する英語の語彙や表現のニュアンスをしっかり理解し，それを他の場面でも応用して使用することができる。	観光に関する英語の語彙や表現を理解し，例に倣って自分で使用することができる。	観光に関する英語の語彙や表現の意味を覚えている。	観光に関する英語の語彙や表現の意味を一部覚えているが，理解できていない語彙や表現がある。	観光に関する英語の語彙や表現の意味を理解していない。
知識・理解	２．観光に関する英文を読解することができる	観光に関する英文を読んで理解し，それを基に自らの意見を持ち，ディスカッションすることができる。	観光に関する英文を読んで理解し，それを基に自らの意見を持つことができる。	観光に関する英文を読んで理解することができる。	観光に関する英文を読んで一部を理解することができる。	観光に関する英文を読んだり理解することができない。
知識・理解	３．国内の観光地・名産品に関する知識を身につけている	国内の観光地・名産品に関する知識を積極的に得ようとし，自らの言葉を使って英語で説明することができる。	国内の観光地・名産品について積極的に調べ，理解している。	国内の観光地・名産品について，授業で扱った項目については知識がある。	国内の観光地・名産品について，授業で扱った項目について一部知識がある。	国内の観光地・名産品に関する知識がない。
技能	１．観光に関する英語表現を使って他者と口頭でコミュニケーションをとることができる	既習の語彙や英語表現を活用して，観光に関する内容を英語で自由に表現し，相手の言っていることを理解することができる。	既習の語彙や英語表現を応用して，観光に関する内容を英語で表現し，相手の言っていることを理解することができる。	既習の語彙や英語表現を用いて，観光に関する簡単な内容を英語で伝え，理解することができる。	既習の基礎的な語彙や英語表現、相手の言っていることは英語で理解できるが，自分の伝えたい内容を英語で表現することができない。	既習の基礎的な語彙や英語表現でも理解できず，国内の観光地に関して既存の英文を用いても相手とコミュニケーションをとることができない。
技能	２．国内の観光地・名産品を紹介する文章を英語で作ることができる	既習の英単語や英語表現を活用して，文章を書いて，自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して，短い文章を書いたりして，自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて，短い既存の文章を書くことができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが，短い英文でも書くことができない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず，英語として書くことができない。
技能	３．国内の観光地・名産品について英語で発表することができる	既習の語彙や英語表現を活用して，観光地・名産品について英語で自由に説明をすることができる。	既習の語彙や英語表現を応用して文章を作り，観光地・名産品について英語で説明をすることができる。	既習の語彙や英語表現を用いて，観光地・名産品について簡単な内容を短い英文で伝えることができる。	既習の基礎的な語彙や英語表現は理解できるが，短い英文でも観光地・名産品について説明することができない。	既習の基礎的な語彙や英語表現でも理解できず，既存の英文を用いて観光地・名産品について説明することができない。

科目名	英語プレゼンテーション			授業番号	LF301	サブタイトル	思いを伝える英語プレゼンテーション		
教員	藤代　昇丈								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	事前に配布された新聞記事やニュースを読んだり聞いたりして的確に理解する力の養成に努め，学んだり経験したことに基づいて，その情報や自分の考え方をまとめて発表する演習を行う。また，発表された情報や提案を聞いたり読んだりして，自己の立場に基づいて質問したり意見を述べたりする活動を行う。								
到達目標	英語を通して，事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながらまとまりのある情報や提案を分かり易く伝える能力を養う。また，英語を通して，発表された情報や提案を的確に理解し，自己の立場に基づいて質問したり意見を述べたりする能力を養う。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	意味を知る：英語によるプレゼンテーションとは 「プレゼンテーション」の意味等の基礎知識について解説 プレゼンテーション5つの目的分類、プレゼンテーションとスピーチの違いなどについて解説する。	
第2回	対象と目的を意識する：プレゼンテーションは何のために誰のために 目的を明確にし、必要な事前分析を行うことの必要性について解説する。	
第3回	大切な要素を知る：プレゼンテーション成功のための３要素 「伝える方法」「伝える内容」「伝える順序」について解説する。 プレゼンテーション演習準備（グループ）：発明品	
第4回	方法を考える：伝えたいことをいかに伝えるか 伝達手段と伝える技術（言語と非言語による伝達、表現方法）、違いを生み出すデリバリー技術について解説する。 プレゼンテーション演習準備（グループ）：発明品	
第5回	内容を決める：何を伝えるかを吟味する テーマに応じてプレゼンテーションの内容を決定する グループ・ペアでの議論の仕方：ブレーンストーミング・KJ法について解説する。 プレゼンテーション演習準備（グループ）：発明品	
第6回	実際に英語プレゼンテーションをしてみよう①（グループ発表） 各グループの発明品についてプレゼンテーションを行う。 相互評価及び教師によるコメントにより修正すべき点を確認する。	
第7回	構成を考える：いかに分かりやすく伝えるか 分かりやすい話の組み立て方（「導入」⇒「本論」⇒「結論」）について解説 プレゼンテーション演習準備（個別）：身近な話題・関心のある事	
第8回	磨きをかける：改善のための方法 動画を用いた振り返りとメタ認知について解説。 プレゼンテーション演習準備（個別）：身近な話題・関心のある事	
第9回	評価する：プレゼンテーション評価の規準 評価者の目で自分のプレゼンテーションを見直すこと、他人のプレゼンテーションを評価の観点から見る必要性について解説 プレゼンテーション演習準備（個別）：身近な話題・関心のある事	
第10回	実際に英語プレゼンテーションをしてみよう②（個人発表１：前半） 身近な話題・関心のある事について各個人別に全体発表を行う。 発表の様子を動画で振り返り、相互評価及び教師によるコメントにより修正すべき点を確認する。	
第11回	実際に英語プレゼンテーションをしてみよう②（個人発表２：後半） 身近な話題・関心のある事について各個人別に全体発表を行う。 発表の様子を動画で振り返り、相互評価及び教師によるコメントにより修正すべき点を確認する。	
第12回	プレゼンテーションのテーマについて英語でディスカッションしてみよう１ グループで地元について英語で話し合い、英語でレポートする。 英語のプレゼンテーション動画を真似してみよう TEDの中から1つ動画を選び真似て発表する練習する。 プレゼンテーション演習準備（個別）：社会的な課題について	
第13回	プレゼンテーションのテーマについて英語でディスカッションしてみよう２ グループですきな音楽について英語で話し合い、英語でレポートする。 英語のプレゼンテーション動画を真似してみよう TEDの中から1つ動画を選び真似て発表する練習する。 プレゼンテーション演習準備（個別）：社会的な課題について	
第14回	実際に英語プレゼンテーションをしてみよう③（個人発表１：前半） 社会的な課題について各個人別に全体発表を行う。 発表の様子を動画で振り返り、相互評価及び教師によるコメントにより修正すべき点を確認する。	
第15回	実際に英語プレゼンテーションをしてみよう③（個人発表２：後半） 社会的な課題について各個人別に全体発表を行う。 発表の様子を動画で振り返り、相互評価及び教師によるコメントにより修正すべき点を確認する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する
レポート	30	課題のテーマについて適切にまとめてあるかを評価する。 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。
小テスト		
定期試験		
その他	40	積極的に自分の考えをプレゼン発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・授業中にはペアやグループでの発表活動を実施するので積極的に参加すること。 ・事前準備では辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・知識から実践へと進むことができるように，積極的に授業に参加し，授業外でもしっかり練習をして欲しい。

授業外学修	1　課題については十分に調査してレポートを作成すること。 2　プレゼンテーションについては事前に作成や発表練習を行うこと。 3　ペアやグループで作成する課題についてよく打ち合わせること。 上記に関連して授業までに４時間以上の準備を要する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Successful Presentations -An Interactive Guide	Mark D. Stafford	センゲージ　ラーニング株式会社	9784863124134	2,150円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	県情報教育センター(3年)・県総合教育センター(4年)・県立高等学校英語科教諭(17年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべきプレゼン技術について，ペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1.事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを、様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し、事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマは設定しているが、事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で、事実や意見に対する考えを伝えることができていない。
思考・問題解決能力	2.論理の展開を整えて伝えることができる	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。	自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性があり、論理の展開が明瞭である。	論理構成は荒削りだが、自らが設定したテーマに沿って、論点に一貫性がある。	自らの主張点は理解できるが、論理展開が整っていないため分かりづらい。	論理展開が整っておらず、主張点が分からない。
思考・問題解決能力	3独創性と洞察力に富んだ表現内容である	オリジナリティに富んでおり、テーマや課題を深く、鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で、意見性のある内容である。	テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	テーマに沿って主張しているが、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。	自らの主張点がなく、事実や他人の意見の羅列で構成されており、オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	4.適切な表現方法を選択し、英語で伝えることができる	伝える情報や提案・意見に応じて、プレゼンテーションスライドに限らず、適切な表現方法選択し、適切な英語表現により情報や提案・意見を伝えることができる。	プレゼンテーションスライドを用いて、適切な英語表現により情報や提案・意見を伝えることができる。	プレゼンテーションスライドを用いて、間違った表現を含むものの英語により、情報や提案・意見を伝えることができる。	プレゼンテーションスライドを用いてはいるが、間違った英語表現を多く含むため伝わりづらい。	プレゼンテーションスライドを用いてはいるが、英語で表現できていない。
技能	1.英語で発表内容を書くことができる	既習の英単語や英語表現を活用して，文章を書いて，自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して，短い文章を書いたりして，自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて，短い既存の文章を書くことができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが，短い英文でも書くことができない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず，英語として書くことができない。
技能	2.英語で発表することができる	既習の英単語や英語表現を活用して，聞き手に対して，自由に英語で自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を応用して文章を作り，聞き手に対して，自らの意思を伝えることができる。	既習の英単語や英語表現を用いて，聞き手に対して，簡単な内容を伝えることができる。	既習の基礎的な英単語や英語表現は理解できるが，相手に短い英文でも意思を伝えることができない。	既習の基礎的な英単語や英語表現でも理解できず，既存の英文を用いて相手に内容を伝えることもできない。
技能	3.表現方法を工夫して発表することができる	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくりと大きな声で、ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく、自分の言葉で、ゆっくりと大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げてはいるが、話す時には目を上げて、ゆっくりと大きな声で、聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており、目線が常に下向きか、スクリーンの方を向いており、ゆっくりと大きな声ではあるが、聞き手に対して訴えかけているとは言えない。	原稿を読み上げており、目線が常に下向きか、スクリーンの方を向いており、声も小さく、何を発表しているのか分からない。
技能	4.分かりやすいプレゼンテーションスライドを作成できる	表現方法の一つとして、テーマに沿った分かりやすいプレゼンテーションスライドを作成できる。特に見やすい色使いやフォントサイズ、項目を箇条書きにするなどの工夫ができる。	表現方法の一つとして、テーマに沿ったプレゼンテーションスライドを作成できる。	色使いやフォントサイズなどにやや問題があるが、表現方法の一つとして、プレゼンテーションスライドを作成できる。	テーマには沿っているが、プレゼンテーションスライドが見づらく分かりづらい。	プレゼンテーションソフトを用いてプレゼンテーションスライドを作成することができない。

科目名	プロフェッショナル・イングリッシュ			授業番号	LF302	サブタイトル			
教員	佐々木 真帆美								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この演習では，ビジネス英語を活用しながら英文法の理解を深めることを目的とする。リスニング，リーディング，ペアワーク，プレゼンテーション，ライティングなどの多様な活動を通じて，英語の4技能を総合的に向上させるとともに，ビジネスの現場で求められる実践的なコミュニケーション能力を養う。								
到達目標	１．ビジネス関連の英語の語彙や表現，文法を理解できる。 ２．グローバルな職場で求められる英語力と実用的な知識を身につけることができる。 ３．ビジネス現場を想定したロールプレイングの中で英語でコミュニケーションを取ることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス / Unit 1　Interview with a Supervisor (他動詞・自動詞) 授業の目的・進め方を確認したうえで，新入社員と上司とのインタビュー場面を扱う。 他動詞と自動詞の違いを理解し，目的語の有無によつ文構造の違いを確認する。 ビジネス場面で誤解を生まない正確な文の組み立て方を練習する。	
第2回	Unit 2　Placing Orders (可算名詞・不可算名詞) 商品の発注場面を通して、数量表現に関わる可算名詞・不可算名詞の違いを学ぶ。 some, many, much などの用法を確認し，実際の注文メールや会話に応用する。	
第3回	Unit 3　House-hunting (形容詞) 物件探しの場面を題材に，形容詞の働きと語順を理解する。 限定用法・叙述用法の違いを確認し，物件や条件を具体的に説明する表現を身につける。	
第4回	Unit 4　Talking About Our Company (現在形・過去形) 自社紹介の場面を通して，現在形と過去形の使い分けを学ぶ。 会社の現状説明と沿革説明を区別し，時制の性格な運用を意識したスピーチ練習を行う。	
第5回	Unit 5　Shipment Tracing (進行形) 配送状況確認の場面を扱い，現在進行形・過去進行形の形と意味を理解する。 進行中の出来事や一時的な状況を適切に表現する練習を行う。	
第6回	Unit 6　Client Dinner (未来表現) 取引先との会食場面を通して、will と be going to の意味と違いを学ぶ。 即決の意思と事前計画の区別を理解し，自然な提案・約束表現を身につける。	
第7回	Unit 7　Work-life Balance (副詞) 働き方に関する話題を通して,副詞の働きと位置を確認する。 頻度・程度・様態を表す副詞を用い，意見や状況を具体的に説明する。	
第8回	Unit 8　Business Meeting (比較級・最上級) 会議での議論場面を扱い，比較級・最上級の形と意味を理解する。 複数案の比較や提案を行う際の表現を練習する。	
第9回	Unit 9　Schedule Adjustment (助動詞 can/may) スケジュール調整の場面を通して，can と may の許可・可能の用法を学ぶ。 フォーマルな場面での適切な依頼・許可表現を身につける。	
第10回	Unit 10　Encouragement and Advice (助動詞 must/should/have to) 助言や義務を伝える場面を扱い，must、should、have to の違いを理解する。 強制・義務・助言のニュアンスを区別し，状況に応じた使い分けを練習する。	
第11回	Unit 11　Business Trip (動名詞) 出張準備や業務内容を題材に，動名詞の意味と用法を学ぶ。 動名詞を目的語にとる動詞との組み合わせを確認し，自然な表現を身につける。	
第12回	Unit 12　Transportation (前置詞) 交通手段の説明を通して，時・場所を表す前置詞の用法を学ぶ。 at, in, on などの使い分けを確認し，誤用を防ぐ練習を行う。	
第13回	Unit 13　Preparing a Survey アンケート作成の場面を扱い，不定詞の用法 (名詞的用法・形容詞的用法・副詞的用法)を学ぶ。 目的や意図を明確に伝える文構造を理解する。	
第14回	Unit 14　Farewell Dinner (現在完了形) 送別会の場面を通して，現在完了形の下達と意味を学ぶ。 経験・継続・完了の用法を区別し，ビジネスでの実績や経験を適切に表現する。	
第15回	Unit 15　Debriefing Session (受動態) 報告会の場面を題材に，受動態の形と用法を理解する。 行為者よりも出来事や結果を強調するビジネス表現を学び，報告書や発表で活用する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度や予習の取り組み姿勢などを評価する。
課題	30	既習表現・文法を活用して，適切なビジネス文書を作成すること。課題はコメントを付けて返却する。
小テスト	30	各回の既習事項について語彙や文法項目などの理解度を評価する。実施後に採点して、解説する。
定期試験	30	全体的な授業内容の理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習を前提として進めていくので，テキストの本文を訳し，練習問題を解答したうえで授業に臨むこと。 ・英和辞典を毎回授業に持参すること。電子辞書でも可。

授業外学修	1．予習として，テキストの本文を読み，練習問題を解いておくこと。 2．授業内容の理解を深めるため，授業内で指示された課題を各自で実施すること。 3．復習として，授業で学んだ英語表現を理解し，知識として定着させること。また，音声データをダウンロードして音声を確認し，音読すること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Rising Stars; On-the-job Learning with Grammar Videos	松谷明美、Ann Butler、高橋千佳子	金星堂	978-4-7647-4224-6	2,550+税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	一般企業にて貿易業務に従事した経験（2年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	貿易業務に従事した経験（2年）から，海外の企業とのメールや電話での対応，英語の敬語表現など，実践力が身につくよう授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．ビジネスに関する英語の語彙や英語表現を理解している。	幅広いビジネス用語や表現を正確に理解し，適切に使用できる。	ビジネス用語や表現を適切に理解し，実践的に使用できるが一部細かな誤りが見られる。	基本的なビジネス用語や表現を理解し，使用することができるが，使用に一貫性がない場合がある。	ビジネス用語や表現の理解が不十分で，適切に使用することが難しい。	ビズネス用語や表現がほとんど理解できず，誤用が多い。
知識・理解	2．ビジネスの場で必要となる英文法を習得している。	ビジネスシーンで適切に文法を使いこなし，プロフェッショナルな印象を与えられる。	ビジネスの場面で適切に文法を活用でき，実践的なコミュニケーションが円滑に行える。	基本的なやり取りには対応できるが，フォーマルな場面では不適切な表現が見られることがある。	実際のビジネスの場面で適切に活用するには不安が残る。	ビジネスシーンでの使用が難しく，意思疎通に支障をきたす。
態度	1．グローバルな職場で求められる英語力と実用的な知識を身につけている。	異文化理解を踏まえた適切な英語表現を使い，グローバルな職場で求められる高度なコミュニケーション能力を発揮できる。	異文化を意識しながら適切な英語でコミュニケーションをとることができるが，一部ぎこちない表現が見られる。	基本的な職場の英語表現や異文化理解を活かした対応ができるが，スムーズな対応には課題が残る。	異文化理解や職場英語の活用が十分でなく，実用的なコミュニケーションに苦労する場面が多い。	異文化理解が欠けており，職場で求められる英語力も不足しているため，適切な対応ができない。
態度	2．ビジネス現場を想定したロールプレイングの中で英語でコミュニケーションをとることができる。	ビジネスシーンに即した自然で流暢な英語を使い，状況に応じた適切な対応ができ，説得力のある表現やプロフェッショナルな言い回しも活用できる。	状況に応じた適切な英語でのやりとりができ，基本的なビジネス会話を問題なく行えるが，一部ぎこちない表現が見られる。	基本的なやり取りはできるが，応用的な表現や臨機応変な対応には課題がある。	コミュニケーションに必要な表現が限られており，適切な対応ができない場面が多い。	英語でのコミュニケーションが困難で，意思疎通がほぼ成立しない。

科目名	観光産業論			授業番号	LF303	サブタイトル	観光の力を知り、そのすそ野の広さを知る		
教員	田村　秀昭								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	観光産業の歴史的変遷，旅行業の観光産業内の位置づけ，ホスピタリティ産業としてのホテルの組織運営や経営管理， 観光・レジャー産業について幅広く基礎的知識を学ぶ。 具体的には(1)観光産業の歴史と現状の把握，(2)旅行業の特徴及び交通・宿泊・飲産業との関係，(3)宿泊産業の経営形態とマネジメント (4)観光・レジャー産業の動向その将来像，などについて幅広く学ぶ。 また，観光資源を活用し地創方創生を推進する観光まちづくりに取り組める人材の育成をめざして講義を構成する。 担当教員が40年に及ぶ観光・旅行業界での経験を生かした「現場」の実情を解説します。								
到達目標	・観光産業の概要と社会への影響を理解できる。 ・観光産業の果たす役割と仕組み，及び課題を理解できる。 ・宿泊業におけるホスピタリティと マネジメントについて理解できる。 ・観光を核とした地域活性化等のまちづくり振興方法について理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	観光とは何か(観光産業の概念) 観光の語源、観光の歴史。観光産業の特徴などを考察します。	
第2回	観光産業の歴史 日本の観光の歴史から発生した産業は何か。 宿泊業の発生、そして鉄道経営が観光に与えた力などを学びます。 また、第二次世界大戦後日本の復興の象徴となるイベント、 その後、日本人の体験する観光・旅行の世界を観光産業を通して研究してみましょう。	
第3回	観光の効果，観光産業の構図と経営 観光の持つ力を分析し、旅がもたらす効果などを研究します。 また、観光産業が社会課題を解決する力を持つことから地方創生の糸口ともなっています。 また、日本の観光産業の経営上の課題、脅威と機会を学びます。	
第4回	旅行業の歴史と変遷 観光産業のまとめ役ともいえる旅行業の歴史とその役割について学びます。 その旅行業も脅威にさらされ、特にIT化への対応が今後の成長戦略の柱ともなります。 世界最古の旅行会社の歴史を学んで、その対応策を研究します。	
第5回	旅行会社の業務(アウトバウンド) 旅行会社の本来の仕事は「ここ」にいる人を「そと」にご案内すること。 この本来の仕事がいかに重要であるかと、その役割を果たす旅行業の種類や責務などについて研究します。	
第6回	旅行会社の業務(インバウンドと観光開発) これまではあまり意識してこなかった、「そと」から「ここ」に来るお客であるインバウンドについて学びます。 過去20年で日本のインバウンド政策は大きく変わり、訪日外国人は4,000万人時代になりました。 その消費効果も高く、貿易収支との対比においても、その重要さが際立っています。 今後の旅行会社の新たな業務としての考え方を学びます。 広義の意味でとれば、観光開発などの分野におけるコンサルタント的な業務もその領域となります。	
第7回	宿泊産業の歴史とホテル経営の理念 旅行・観光産業において重要なファクターとなるのが宿泊業。 宿泊産業の歴史とその変遷、役割などを学び、経営に必要な理念などを研究します。	
第8回	ホスピタリティ(ホテル サービスと日本のおもてなし) 2020年（実際はコロナ禍の影響で2021年）東京オリンピックを招致するに際し、 「お・も・て・な・し」というプレゼンで有名になった、日本のおもてなし。 ホスピタリティを学ぶ中で、その違いや日本旅館を中心としたその文化を考察してゆく。	
第9回	宿泊産業の経営形態とマネジメント 宿泊産業の経営資源の特性を学び、経営形態、経営方式を研究する。 その経営の形の中で日本旅館の将来について考察する。 また、ホテル・旅館業という枠を飛び越え、不動産業が観光産業へ介入し、 大きく影響力を持つようにもなってきたことを知る。	
第10回	観光に関わるその他の産業 観光に係る産業は多岐にわたり、産業全体の中でも大きな力を持つまでになった。 地方創生の考え方の中でも、第一産業の農業や漁業あるいは第二次産業などへの影響力も持ち、 全容をとらえると大きな力を持つことが分かる。この力をいかに活かしてゆくかを考察する。	
第11回	地方創生と観光 地方創生と言われ始めて10年が経つ。 地方の人口減少問題が本来の地方創生の考察のポイントだが、 各自治体は観光に力を入れることで地方創生を推進している傾向がみられる。 これはなぜか。なぜ観光産業を地方創生の主たるものとしてとらえるのか考えてみる。	
第12回	旅行商品の着想(発地型から着地型へ) 観光産業の変遷、旅行業の変容を理解し、旅行の在り方や商品構成について考察する。 その中で今後の旅行商品はどうあるべきか、多岐にわたる産業との連携によって新たな商品造成へとつながること を学びます。	
第13回	観光資源の活用(地域の産業と観光との連携) 前回に続き、新たな旅行商品の構成には地域の産業との連携が必要であり、 その観光資源の発掘も観光産業へとつながることを学ぶ。 地域に眠る資源を如何に宝探しをするか。観光の新たな道筋も考察します。	
第14回	観光まちづくりのあり方 多くの観光客を迎え入れることはリスク対策も必要です。 オーバーツーリズムと呼ばれる現象が実際に日本・世界各地で起こっています。 これらの対策のためには観光客を選ぶということも必要です。 誰でもよいからたくさん来ればよいというものではなく、 住まう地域の人々にとって便益を享受できる観光でなくては意味がありません。 観光をベースにしたまちづくりはどうすべきかを考えます。	
第15回	観光産業の課題と展望 多岐にわたる観光産業ですが、その中でも基幹となる旅行業、宿泊業などは多くの課題を抱えています。 その課題をいかに克服し、未来永劫に産業として生き残っていくかを考察します。	

授業計画　備考2	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な授業態度，授業への貢献度を評価する。 出席ごとに1ポイントとし、残り25ポイントは授業中の態度や積極的な発言を評価します。 また、毎回提出して頂くリアクションペーパーへの感想、質問などでその意欲や関心度をポイント化します。
レポート	10	レポート・提出物 観光産業に関して研究をし、レポートを提出して頂きます。 基本的には旅行業に関して考察いただく予定です。
小テスト	10	復習の意味での小テストを実施します。 2回予定し、各5点満点で計10点の評価です。
定期試験	30	期末試験 試験は100点満点ですが、30点に圧縮し全体への評価とします。 授業中に配布した資料や自筆のノートは持込可とします。
その他	10	プレゼンにより積極的に自分の考えを発表できるかを評価します。授業中に指定したタイトルでプレゼンをしていただきます。 授業の進め方、あるいは受講生の関心によりグループワークの実践の様子を評価対象とします。

評価の方法：自由記載	基本的には授業中の姿勢，積極的な発言などを評価します。毎回の授業時に記入提出を求めるリアクションペーパーへの回答や説明を次の講義の冒頭でお話しします。 レポート，小テスト，プレゼンテーションなどにより，授業への参画意識を高めていただき，その一つひとつを評価に加えます。 レポート等は赤ペンを入れて、評価を記載して返却します。 また，定期試験はこの講義のまとめとなりますが，100点満点を30点に圧縮し，全体では30%の評価といたします。
受講の心得	・予習と復習を心がけ，授業時に取り上げた用語や内容についてインターネットや書籍で調べ、情報収集を行うなど，自主的な学習に努めること。 ・授業中にペアあるいはグループでのワークショップや発表活動を実施するので積極的に参加すること。 ・観光・レジャー産業を利用した地域活性化案を考える習慣を付けること。
授業外学修	・観光に関してのニュースや情報には気をとめる癖をつけてください。 ・毎回の授業内容について復習し、ノートの整理をしておくこと。 ・受講において事前に課題を出す場合があります。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
観光産業論	林清	原書房	978-4-562-10130-6	2，800円（税別）

参考書：自由記載	観光経済新聞，トラベルジャーナル誌など観光系の業界紙などに目を通してください。 新聞を読む習慣をつけてください。 また、テレビせとうち（テレビ東京）のニュース番組WBSや「ガイヤの夜明け」・「カンブリア宮殿」という経済番組を視聴してください。 観光産業、政策、インバウンドなどツーリズム関連の番組がたくさんあります。興味を持って視聴していただくことをお勧めします。
その他	旅行会社のパンフレットを見たり、ホテルのラウンジでドリンクを飲むなどの体験で観光産業を身近なものにして下さい。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	(株)JTBでの38年間の旅行業，イベント・コンベンション事業，観光開発コンサル業の実績，中国運輸局・中四国農政局・中国経済産業局等での委員経験など。 台湾の高校の顧問も務めていますので国際交流などについてもお話しできます。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	JTBでの多岐に渡る業務経験と実績を元に，「現場」で起きている事象を例に具体的に講義します。 行政（中国運輸局、中国四国農政局、中国経済産業局、広島県など）の委員経験や 美作市議会議員の経歴（2021年4月～2025年４月）を活かし，観光行政の方向性も示してゆきます。 また、就活の相談なども受けることが多く、機会があれば講義に係る内容の中でアドバイスできれば良いと思っています。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．観光産業の業種と企業	観光産業の業種ごとに代表的な企業名を5つ以上挙げることができる	観光産業の業種ごとに代表的な企業名を3つずつ挙げることができる	観光産業の業種ごとに代表的な企業名を挙げることができる	観光産業の企業名を挙げられる	観光産業の種類も企業も挙げることができない
知識・理解	２．観光産業の課題	観光産業の課題を業種ごとに説明できる	観光産業の課題を3つ以上説明することができる	観光産業の課題を業種ごとに説明することができる	観光産業の課題を何かしら説明できる	観光産業の課題を理解できない
知識・理解	３．宿泊業のホスピタリティとマネジメントの理解	宿泊業のホスピタイティとマネジメントの課題を説明できる	宿泊業のホスピタリティとマネジメントを説明できる	宿泊業の業務内容を説明できる	宿泊業の業務内容の概略は分かる	宿泊業の業務内容が理解できない
思考・問題解決能力	１．観光まちづくり	振興方法の課題が理解できる	振興方法の説明ができる	振興方法の理解ができる	振興方法の存在を知る	振興方法そのものがわからない
技能	１．ディスカッションをコントロールし、結論に導く。	ディスカッションを積極的にリードし、課題解決へ向けた意見集約をすることができる。	ディスカッションには積極的に参加し、意見のとりまとめの努力をする。	ディスカッションへ参加し、リーダーの補助的な立場で意見集約を進める。	ディスカッションに参加し意見は言える。	ディスカッションに参加しない。

科目名	日・アセアン関係			授業番号	LF304	サブタイトル			
教員	冨田　暁								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	アセアン（東南アジア諸国連合）に加盟する11カ国（2026年2月末時点）は相互の主権を重んじ，意思決定はコンセンサスに基づいて行われるが，経済を中心に次第に地域統合の度合いを高めつつある。それに加えて，アセアンという地域連合は国際社会の様々な場で存在感を強めつつある。また，アセアンの総人口は約6.5億人に至り，経済発展の著しい地域でもある。日本にとっても，アセアン諸国との交流は政治・経済・文化などのあらゆる分野において重要性を益々増加させている。本授業では，アセアン加盟諸国および東南アジアの過去から現在までの歴史・政治・経済・文化などの特徴を日本との関係を踏まえつつ概観し，議論を通じて理解を更に深めながら学習する。								
到達目標	アセアン諸国の歴史的な特徴（多様性）や共通性並びに経済発展が大きく進む現在のアセアン諸国及びアセアンの歴史的な形成過程・展開とその潜在力を，日本との関係を踏まえながら，理解して説明できるようになる。そうした理解の上で，アセアン諸国およびアセアンの今後の課題や展望並びに今後の日本との関係について考察・展望できる視点・知見を養うと共に，他者に説明したり議論したりできる能力を養成・強化する。なお，本授業はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	授業全体の進め方として，前半の回は教員によるアセアン加盟諸国（東南アジア諸国）の歴史・文化などに関する説明・解説を行う。その後は，使用テキストに基いて担当箇所を受講生に割り当てた上で，受講生による担当箇所に関する発表と教員および受講生全員による議論によって授業を進める（担当する箇所の割り当ては受講生と相談の上で決定する）。受講生は下記の参考文献なども用いつつプレゼンテーション資料を用意して報告する。								

回	概要	担当
第1回	東南アジアの自然と社会 地理，自然環境，言語，宗教など，東南アジアの自然と社会に関する特徴を取り上げて，東南アジア各国の共通性や固有性を説明する。	
第2回	東南アジアの食文化 食材や料理といった東南アジアの歴史的な食文化を通じて東南アジア各国の共通性や固有性を説明する。	
第3回	古代東南アジアの歴史と文化 東南アジアの歴史と文化に関して，先史時代から初期国家が誕生し展開していく時代の概要を説明する。	
第4回	中世東南アジアの歴史と文化 東南アジアの歴史と文化に関して，「国風文化」の時代または「憲章の時代」などと呼ばれる，外来文化と現地文化が融合・発展した時代を説明する。	
第5回	近世東南アジアの歴史と文化① 東南アジアの歴史と文化に関して，世界的な交易の活発化のもとで社会や文化が発展していく近世前期（15～16世紀）の「交易の時代」を説明する。	
第6回	近世東南アジアの歴史と文化② 東南アジアの歴史と文化に関して，華人，ヨーロッパ人，ブギス人などの域内外の人の移動と活動の影響下で変容していく18世紀の東南アジア社会を説明する。	
第7回	近世大陸部の歴史と文化 近世大陸部に焦点を当て，王朝勢力の統合と解体が繰り返される中で徐々に国家統合が進行し，現在のミャンマー、タイ，ベトナムといった現在の国に繋がる「かたち」が形成されていく様相を説明する。	
第8回	近代東南アジアの歴史と文化① 植民地化が侵攻していく19世紀後半以降の東南アジア社会に焦点を当てて，植民地化が東南アジア社会に何をもたらしたのかを説明する。	
第9回	近代東南アジアの歴史と文化② 東南アジアにおける民族主義やナショナリズムの形成と展開並びに日本占領期に焦点を当てて，当該期の東南アジア社会の変容を説明する。	
第10回	現代東南アジアの歴史と文化 東南アジア各国における独立・国民国家建設などの歴史的過程を取り上げ、現在社会に繋がる東南アジア社会の様相を説明する。	
第11回	①ＡＳＥＡＮ生成発展の歴史 ②ＡＳＥＡＮの制度と機構 担当する受講生が使用テキストなどを用いて内容をまとめて発表し，教員と受講生全員で議論を行う。	
第12回	①ＡＳＥＡＮの理念と規範 ②ＡＳＥＡＮの安全保証問題 担当する受講生が使用テキストなどを用いて内容をまとめて発表し，教員と受講生全員で議論を行う。	
第13回	①ＡＳＥＡＮの経済統合 ②ＡＳＥＡＮの社会文化協力 担当する受講生が使用テキストなどを用いて内容をまとめて発表し，教員と受講生全員で議論を行う。	
第14回	①ＡＳＥＡＮと広域地域秩序 ②ＡＳＥＡＮの対外関係 担当する受講生が使用テキストなどを用いて内容をまとめて発表し，教員と受講生全員で議論を行う。	
第15回	①ＡＳＥＡＮの展望と評価 ②授業とテキストのまとめをした上での総合討論 担当する受講生が使用テキストなどを用いて内容をまとめて発表し，教員と受講生全員で議論を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	毎回の授業における積極性や取り組む態度ならびに発表・議論への参加状況によって評価する。 また，毎回の授業後に授業コメントペーパの内容によっても評価する。コメントペーパーには、質問やコメントなどのほか，教員から指示された内容を記入する。 課題提出後の授業でコメントペーパーに示された内容についてコメントをする
学期末レポート	60	課題として与える学期末レポートの結果を評価する。課題内容について，出典を明記した具体的な根拠に基づき，論理的かつ端的に記述した上で自分の分析・コメントが十分になされていることを評価基準とする。提出された学期末レポートについては教員からの講評をおこなう。 なお，文章の校正などに生成AIを使用すること自体は否定しないが，本授業担当教員の指示や大学の生成AI使用基準から外れた不適切な使用が認められた場合は評価の対象外とする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講にさいしては高校卒後程度または一般常識程度の，歴史，地理，政治経済などの知識を確認しておくことが望ましい。 本授業では，相互学習による理解促進と対話による相互理解進展のためにも，単に講義や発表を聞いて理解するだけではなく，質疑や議論に積極的に参加することが期待される。
授業外学修	配布する資料，使用テキスト，紹介する参考文献をもとに予習復習を行うこと。ニュースやインターネットなどを通じて東南アジアおよびアセアン諸国に関する情報を日々チェックすること。以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ASEANを知るための50章 第2版	黒柳米司（他編著）	明石書店	978-4-7503-5762-1	2000円（税別）
使用テキスト：自由記載	2015年の初版ではなく，2024年に出た第２版の方をテキストに用います。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	今井昭夫（編集代表）『東南アジアを知るための50章』明石書店，2014年。 古田元夫『東南アジア史10講』（岩波新書），岩波書店，2021年。 その他の参考文献は授業中に適宜紹介する。
その他	
備考	身の回りに存在するアセアンに関係する様々な事柄に注目してみることで授業に対する興味関心や理解度が深まります。
注意事項	受講生と相談の上で，講義計画・内容・順序を適宜修正・変更する可能性があります。
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．アセアンおよびアセアン諸国の歴史・文化の特徴と共通性を理解している。	アセアンおよびアセアン諸国の歴史・文化の基本的な特徴と共通性に関する知識について正確に理解し説明できる。	アセアンおよびアセアン諸国の歴史・文化の基本的な特徴と共通性に関する知識について，誤解が若干存在するが，ほぼ正確に理解し説明できる。	アセアンおよびアセアン諸国の歴史・文化の基本的な特徴と共通性に関する知識について概ね正確に理解し説明できる。	アセアンおよびアセアン諸国の歴史・文化の基本的な特徴と共通性に関する知識について，十分な理解を欠くが，自分の言葉で説明できる。	アセアンおよびアセアン諸国の歴史・文化の基本的な特徴と共通性に関する知識について，理解が不足しており，説明することもできない。
知識・理解	２．アセアンおよびアセアン諸国の現代的な状況や課題を理解している。	アセアンおよびアセアン諸国の現代的な状況や課題について正確に理解し説明できる。	アセアンおよびアセアン諸国の現代的な状況や課題について，誤解が若干存在するが，ほぼ正確に理解し説明できる。	アセアンおよびアセアン諸国の現代的な状況や課題について概ね正確に理解し説明できる。	アセアン諸国の現代的な状況や課題について，理解は不十分であるが，自分の言葉で説明できる。	アセアン諸国の現代的な状況や課題について，理解が不足しており，説明することが全くできない。
知識・理解	３．アセアンおよびアセアン諸国と日本との関係を理解している。	アセアンおよびアセアン諸国と日本との関係について正確に理解し説明できる。	アセアンおよびアセアン諸国と日本との関係について，誤解が若干存在するが，ほぼ正確に理解し説明できる。	アセアンおよびアセアン諸国と日本との関係について概ね正確に理解し説明できる。	アセアンおよびアセアン諸国と日本との関係について，理解は不十分であるが，自分の言葉で説明できる。	アセアンおよびアセアン諸国と日本との関係について，理解が不足しており，説明することが全くできない。
思考・問題解決能力	1．アセアンおよびアセアン諸国の現代的な課題・展望について論拠を示して分析し考察することができる。	課題について，十分な論拠と分析に基づき，論理的かつ多角的で視野の広い考察をしている。	課題について，論拠に基づいた論理的な分析・考察をしている。	課題について，論拠や分析に不十分な点はあるが，概して論理的に自分の考察を述べている。	課題について，論拠も分析も不足したまま自分の意見を述べている。	課題について，論拠も分析・考察も全く欠如している。
思考・問題解決能力	2．アセアンおよびアセアン諸国と日本との関係やその課題・展望について考えることができる。	課題について，十分な論拠に基づき，論理的・多角的に視野の広い分析・考察をしている。	課題について，論拠に基づいた論理的な分析・考察をしている。	課題について，論拠や分析に不十分な点はあるが，概して論理的に自分の考察を述べている。	課題について，論拠も分析も不足したまま自分の意見を述べている。	課題について，論拠も分析・考察も全く欠如している。
態度	１．授業に積極的に参加できる。	質問や討論に自ら積極的であり，授業内容を理解した上で適切な内容を記したコメントペーパーを提出している。	指名時のみに質問や討論に参加し，授業内容を理解した上で適切な内容を記したコメントペーパーを提出している。	授業に出席し授業の内容を理解した上で適切な内容を記したコメントペーパーを提出している。	授業に出席しコメントペーパーを提出しているが，授業内容の理解が十分ではない。	授業に出席しているが，コメントペーパーを提出していない。

科目名	国際経営論			授業番号	LF404	サブタイトル			
教員	佐々木 公之								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義の目的は，国際経営の実態を理解することである。本講義ではまず，国際経営活動について学ぶ。具体的には，輸出，海外生産，海外研究開発，輸入，技術導入，外国企業との合併などの活動である。次に，現代の国際経営に至るまでの歴史的なプロセスについて学ぶ。そのうえで，現代の国際経営ではどのような課題が見られるか，国際経営の今後の展望はどうであるかに，ついても見ていく。 更には，国内経営と比較した場合の国際経営の特徴も把握する。国際経営の個別的な事実だけでなく，国際経営の全体像，達成した成果，残されている課題についても理解しながら講義を進める。 授業では，積極的に事例を盛り込むことで，国際経営という広い領域についても，具体的にイメージできるようにする。								
到達目標	本講義の到達目標は，国際経営における基礎知識を理解し，日本企業の国際経営の課題を考えながら実態を把握することである。具体的には，国際経営に関する本や雑誌，記事を読み内容をわかった上で，その内容について他人に説明ができるようになることである。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	国際経営環境の新しい動き：外部環境の新しい動き	
第2回	国際経営とは：多国籍企業の経営	
第3回	国際経営戦略(1)：国際経営戦略の歴史的展開	
第4回	国際経営戦略(2)：ケーススタディ（日本企業）	
第5回	国際マーケティング(1)：輸出マーケティングと国際調達	
第6回	国際マーケティング(2)：グローバル・サプライチェーン・マネジメント	
第7回	海外生産(1)：海外生産の発展と日本的生産のグローバル展開	
第8回	海外生産(2)：ケーススタディ（国際企業）	
第9回	技術移転と海外研究開発：技術の国際移転，海外研究開発とソフトウェアの海外開発	
第10回	国際経営マネジメント：国際経営を行ううえでの論点と対応策	
第11回	北米・欧州のなかの日本企業：北米と欧州	
第12回	アジアのなかの日本企業：アジアと中国，インド＆ケーススタディ（アジアにおけるグローバル小売競争の展開）	
第13回	新興国市場と日本企業：新興国市場と新興国戦略	
第14回	サービス企業の海外進出：サービス企業の特徴と海外進出	
第15回	国際経営の新展開：国際経営戦略の新しい動きと国際経営マネジメントの革新	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	発言による授業の進行に対する貢献度を評価する（発言内容のレベルは問わない）
レポート	20	講義内容の正しい把握ができているかを評価する（自分の言葉による論理的な説明を求める） 口頭で解説して、フィードバックを行う。
小テスト		
定期試験（プレゼンテーションを含む）	50	授業で取り扱った視点，論理を用いて，論理的に表現ができているかを評価する（記述試験を予定）
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前学習は不要であるが，既習の経営学の中にある「ビジネスの海外展開」に関して，理解があいまいな場合は，再度学習をしておくこと。 毎回，事後学習として，授業で実施した内容について，復習をして欲しい。復習のポイントは，授業中に指示をする。 また，「国際経営」に関する新聞等の記事を読み，テーマ・主要論点・ポイントをまとめることを望む。
授業外学修	上記，復習，新聞記事のまとめなどに週当たり4時間以上を充てること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『ケースに学ぶ国際経営』（2013）	吉原英樹編，白木三秀編，新宅純二郎編，浅川和宏編	有斐閣	4641184151	3024円

参考書：自由記載	

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．社会動向を理解している	信頼できるリソースから、社会動向を調査し学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性に注意して、社会動向を概ね正しい内容かどうかを理解して学習課題に取り組むことができる。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性についての注意が不十分で、学習内容にいくつかの誤りが含まれている。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができない。
知識・理解	２．経営学の理論できる	経営学の理論が理解でき、その考え方に対して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	経営学の理論を理解し、共感し疑問を持つことができる。	経営学の理論と講義の意図が理解することができる。	経営学の理論や講義の意図が概ね理解することができる。	経営学の理論が理解できない。
知識・理解	３．国際的な知識が理解している。	国際的な知識があり、学習課題に取り組むことができる。	国際的な知識を概ね理解して学習課題に取り組むことができる。	国際的な知識を調査を行うことで、学習課題に取り組むことができる。	国際的な知識が不十分で、学習内容にいくつかの誤りが含まれている。	国際的な知識が乏しく、学習課題に取り組むことができない。

科目名	食生活論			授業番号	LG101	サブタイトル			
教員	藤原　三保子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	栄養・食に関わる専門職(管理栄養士・栄養士・栄養教諭等)になるための専門教科を学修するに先立ち，人間にとって「食生活」とは何かを包括的に捉え考えるための入門編の科目である。食の成り立ち，食と環境の関わり，食文化，健康的な食生活，食育の推進について等を講義する。								
到達目標	・食生活の歴史や文化と共に現状の課題について理解できるようになる。 ・食育の推進を担う食の専門家として，今後の食文化の形成に関わっていることを理解できるようになる。 ・自身の食生活に興味・関心をもち見直し，より健康的な食生活を営む知識と能力を身に付けることができるようになる。 ・食の専門家を目指す学生として，食育の推進について理解し考えることができるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	食生活の概念 食生活の概念を知り，理解する。	
第2回	世界の食生活史　（１）DVD「食の文明と未来」 世界の食生活史について知り、理解する。	
第3回	世界の食生活史（２）DVD「日本と世界の食文化」／日本の食生活史 日本と世界の食文化について知り、理解する。	
第4回	日本の食文化（１）DVD「かつおだし」 和食のうま味について知り、理解する。	
第5回	味覚・うま味の科学　DVD「おいしさの科学　味覚研究の最先端２・３」 味覚・おいしさについて知り、理解する。	
第6回	日本の食文化（２） 日本の食文化、お茶の伝来について理解する。	
第7回	日本の食生活の変遷（１） 近現代における日本の食生活の変化について知り、理解する。	
第8回	食生活と安全（１） 環境と食の安全について知り、理解する。	
第9回	日本の食生活の変遷（２） 日本の学校給食の歴史、世界の学校給食、栄養教諭の創設と学校給食法について知り、理解する。	
第10回	ライフステージに応じた食育（１）妊娠前～授乳期・乳児期・幼児期 それぞれのライフステージに応じた食育の指針について知り、理解する。	
第11回	食生活と安全（２）食物アレルギー 食の現代的な諸課題を知り、理解を深め考えることができる。	
第12回	ライフステージに応じた食育　（２）学童期～青年期 学校教育と食育、朝食の大切さを知り、食生活を考えることができる。	
第13回	ライフステージに応じた食育　（３）壮年期　DVD「やさしい栄養学　健康と栄養」 生活習慣病の特徴について知り、壮年期の食生活と健康のつながりについて理解を深める。	
第14回	ライフステージに応じた食育　（４）高齢期 高齢期の健康について考える。 これからの食育（１）災害時に向けた食育とSDGS 災害時に備える食の意識を高め、栄養士としての知識を深める。	
第15回	これからの食育（２）情報化社会における食育　まとめ 食の専門家である栄養士を目指す者として，これからの食育の推進について考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表
レポート		
小テスト		
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他	30	提出物

評価の方法：自由記載	
受講の心得	テキストを事前に読んでくること。健康・栄養・料理や食文化など幅広く食生活に関することに関心をもつよう心がけること。
授業外学修	食生活や食育に関心をもち予習・復習をすること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
食文化論／食育・食生活論	濱口郁枝・富田圭子・小野真実　編	講談社		2800円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介する。DVD「おいしさの科学　味覚研究の最先端」，「かつおだし」，「日本と世界の食文化」 DVD「アクティブに学ぼうVol.1 身近な食生活」「食の文明と未来」 日本の食文化　和食の継承と食育
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	管理栄養士・栄養教諭：地方自治体(公立小学校・公立中学校) 15年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	1年次の学生が栄養士・管理栄養士を目指して学修するにあたり、担当教員の実務経験を活かし、食生活の歴史や文化とともに現代の諸課題について理解を深めさせる。また、ライフステージの特徴と食生活についても興味関心を高め、より健康的な食生活を営むための知識と能力をもたせ、食育の推進を担う食の専門家として考えることができるようにさせる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．食生活の歴史や文化と共に現状の課題について理解できている。	食生活の歴史や文化と共に現状の課題について広範かつ詳細に理解できている。	食生活の歴史や文化と共に現状の課題について広範に理解できている。	食生活の歴史や文化と共に現状の課題について基礎的事項を十分に理解できている。	食生活の歴史や文化と共に現状の課題について基礎的事項を十分に理解していない。	食生活の歴史や文化と共に現状の課題について理解していない。
知識・理解	２．食育の推進を担う食の専門家として、今後の食文化の形成に関わっていることを理解できている。	食育の推進を担う食の専門家として、今後の食文化の形成に関わっていることを広範かつ詳細に理解できている。	食育の推進を担う食の専門家として、今後の食文化の形成に関わっていることを広範に理解できている。	食育の推進を担う食の専門家として、今後の食文化の形成に関わっていることを基礎的事項を十分に理解できている。	食育の推進を担う食の専門家として、今後の食文化の形成に関わっていることを基礎的事項を十分に理解していない。	食育の推進を担う食の専門家として、今後の食文化の形成に関わっていることを理解できている。
思考・問題解決能力	１．自身の食生活に興味・関心をもち見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を身に付けることができる。	自身の食生活に興味・関心をもち見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を広範かつ詳細に身に付けることができる。	自身の食生活に興味・関心をもち見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を広範に身に付けることができる。	自身の食生活に興味・関心をもち見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を基礎的事項を十分に身に付けることができる。	自身の食生活に興味・関心をもち見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を十分に身に付けていない。	自身の食生活に興味・関心をもち見直し、より健康的な食生活を営む知識と能力を身に付けていない。
思考・問題解決能力	２．食の専門家を目指す学生として、食育の推進について考えることができる。	食の専門家を目指す学生として、食育の推進について広範かつ詳細に考えることができる。	食の専門家を目指す学生として、食育の推進について広範に考えることができる。	食の専門家を目指す学生として、食育の推進について基礎的事項を十分に考えることができる。	食の専門家を目指す学生として、食育の推進について基礎的事項を十分に考えることができない。	食の専門家を目指す学生として、食育の推進について考えることができない。

科目名	アジア食品論			授業番号	LG201	サブタイトル			
教員	小築　康弘								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業は、アジア各国の食品を学び、各国の文化や歴史的背景を理解する講義である。東アジア、東南アジア、南アジア、中央・西アジアといった地域ごとの食品や調理法、食習慣を事例として取り上げ、文化的特徴や社会的背景を探求する。また、食品を切り口に地域および国際的な課題について考察し、解決策の可能性を検討することで、柔軟かつ論理的な思考・問題解決能力の習得に貢献することを目指す。								
到達目標	・アジアの食品を通じて、各国の文化や背景を理解し、その知見に基づいて地域や国際的な課題を考察し、解決策の可能性を検討できる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	アジアの食品の概要 基本概念と背景	
第2回	アジアの多様性と食文化 地理的・歴史的背景と食品	
第3回	歴史とアジアの食品 歴史的要因がアジアに与えた影響について考える	
第4回	東アジアの食文化 日本・中国・韓国の食品	
第5回	東南アジアの食文化 タイ・ベトナム・マレーシア・インドネシアの食品	
第6回	南アジアの食文化 インド・パキスタン・バングラディッシュの食品	
第7回	中央・西アジアの食文化 トルコ、イラン、アフガニスタン、ウズベキスタンの食品	
第8回	宗教と食品 各宗教が食文化に及ぼす影響を検証する	
第9回	グローバリゼーションとアジア食品 グローバル化による伝統食品の変容とフュージョン料理の動向を考察する	
第10回	食品と健康ー伝統医学から現代栄養学まで 食品と健康・医療の関係性を伝統的知識と現代科学の両面から	
第11回	アジア食品産業と経済的側面 経済面から食品を考察する	
第12回	路上の台所 ストリートフードの文化的意義と社会背景	
第13回	アジアの飲料文化 各地域の独自の飲料文化	
第14回	食を通じたアイデンティティと国際交流 食が国民・地域のアイデンティティや外交、ソフトパワーとして機能する仕組みを考察する	
第15回	まとめ 授業全体を振り返る	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	授業への参加度を、授業の内容ごとの課題により判定する。
レポート	30	アジア地域の課題・問題に対する解決案を評価する。採点後、結果を返却する。
小テスト		
定期試験	40	アジアの食品に関する課題への解決案を問う。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多いので，すぐに調べておくせをつけること。
授業外学修	1. アジア地域に関心を持ち、情報に触れること 2. 日々の生活でアジアの様々な食材に触れること 3. 定期試験に向け、準備をすること 以上の内容を、週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	アジアの食品を通じて、各国の文化や背景を理解し、その知見に基づいて地域や国際的な課題を考察し、解決策の可能性を検討できる	アジア地域の食品・文化を深く理解し、この地域における課題の有効な解決案を提示できる	アジア地域の食品・文化を理解し、この地域における課題の解決案を提示できる	アジア地域の食品・文化をイメージでき、この地域における課題の解決案を提示できる	アジア地域の食品・文化を一部イメージでき、この地域における課題の有効ではないが解決案を提示できる	アジア地域の食品・文化のイメージが甘く、この地域における課題の解決案を提示できない

科目名	農業政策と環境・資源保全			授業番号	LG303	サブタイトル			
教員	山根　康史								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	世界人口は急激な増加傾向にある。一方，食料生産に不可欠な農地や水資源は，質的劣化や量的不足が大きな問題となっている。また，大気中の二酸化炭素増加による地球温暖化現象により，食料生産は不安定化している。本講義では，食料安定供給を可能とする経済システム構築や，農業生産と環境・土壌・水資源保全等に関する問題点・課題の把握と解決策立案ができるようにする。そのため，農業問題・環境問題に関わる「専門知識」や「思考力・判断力・表現力」を養い，問題解決に積極的に取り組む「主体性・態度」を身につけさせる。								
到達目標	１）我が国経済全体の中で，農業生産部門が担っている役割について理解できる。 ２）食料生産と地域資源（土地資源・水資源・農村景観・森林資源など）との関連を理解し，政府が実施している農業政策の意味を理解できる。 ３）世界レベルでみた農地・水資源問題と食料・人口問題との関係が理解できる。 ４）我が国における農業・農村の問題を理解すると同時に，問題解決に向けた政策提案ができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉および〈思考・問題解決能力〉を習得するのに貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	わが国の食料・農業・農村の動向 日本の食料・農業事情について，過去から現在まで世界の状況と対比させて理解する。	
第2回	わが国の食料消費構造の変化 日本の食料消費の状況とその構造の変化について，過去から現在まで世界の状況と対比させて理解する。	
第3回	わが国の戦後農業政策の展開（１） 日本の農業の歴史、現在までの農業政策の変遷について理解し，日本の農業の特徴について考える。	
第4回	わが国の戦後農業政策の展開（２） 日本の農業の歴史，現在までの農業政策の変遷について理解し，日本の農業の特徴について考える。	
第5回	食料自給率の推移と農業 日本の食料需給，食料消費の現状と課題について理解し，その課題解決の方策について考える。	
第6回	農業生産と水資源問題 日本の農業生産の状況について，特定地域の現状と課題について水資源・環境問題と関連させて考える。	
第7回	農業就業人口と農村問題 農業従事者の減少と高齢化等，わが国の農業をめぐる問題について理解し，その課題解決の方策について考える。	
第8回	中間まとめ【ディスカッション❶】 「農業政策と環境・資源保全を学んで気付いたこと」	
第9回	過疎化と農業・農村問題 都市化集中と地方の過疎化の現状と課題について理解し，農業や産業と関連させてその課題解決の方策について考える。	
第10回	環境保全型農業の展開 持続的な食料供給と環境や地域社会の形成・維持について理解し，農業・農村の多面的機能を活かした今後の方策について考える。	
第11回	世界の有機農業 持続的な食料供給と環境や地域社会の形成・維持について，地球規模の視点からその現状と課題について調べ，今後の在り方について考える。	
第12回	食料安全保障と環境問題 持続的な食料供給と環境や地域社会の形成・維持について，世界の中でのわが国の在り方について考える。	
第13回	自然災害と農林業 地球温暖化の問題と自然災害の現状について調べ，農林業との関わりについて考える。	
第14回	食料安全保障政策の必要性 持続的な食料供給と環境や地域社会の形成・維持について，世界の中でのわが国の在り方について考える。	
第15回	まとめ【ディスカッション❷】 「日本の農業政策への私の提言」	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，毎時間内のワークへの取組状況，ディスカッションでの発言による授業の進行に対する貢献度により評価する。
レポート	30	毎時間内に課すレポートにより，講義内容の正しい把握ができているかを評価する。（自分の言葉による論理的な説明を求める）レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	40	授業で取り扱った視点，論理を用いて，論理的に表現ができているかを評価する。（記述式のレポート試験を予定）
その他		

評価の方法：自由記載	講義内容と関連する社会問題について，新聞，インターネット等で調べ，疑問等を講義中に質問することを勧める。
受講の心得	「食料安全保障」という言葉は，あまりなじみのない言葉だと思います。しかしながら，皆さんが毎日，安心して食べ物を食べることが出来るということは大変「有り難い」ことなのです。地球上の人口は，約78億4千万人ですが，そのうち，8億2千万人は食料不足により「死」に直面しています。そのことを心に留めて講義に参加してください。毎日，十分な食料を確保でき，それを食することが出来ることの有り難さを考えて欲しい。受講生は，授業で提供する資料・データに留まらず，農業・食料問題について，食生活、環境問題等の身近な事象に対して自ら関連付けて考察するように努めること。
授業外学修	講義中に課題をだすので，インターネット等を活用して，世界における食料問題や人口問題および食料生産に必要不可欠な農地・水資源問題に関係する記事を読んでおくこと。理解度を確認するため，講義中に質問をする。以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	教科書は使用しない。毎回，講義担当者が作成した資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	特に指定しないが，必要に応じて，必要部分を資料として配付する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	農業高校における教諭経験（16年），同管理職経験（12年），県教委事務局員（8年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	農業高校における教諭経験（16年）及び管理職経験（12年）から農業の基礎的知識，産業としての役割機能，経済的側面など，また県教委事務局（8年）での経験及び農林行政とのかかわりから，農業を取り巻く現状と課題，国や県行政の施策等について，具体的な事例を交えて授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．日本農業の動向と農業政策の流れを理解できている。	日本農業の動向と農業政策の流れを明確に理解できており，施策の評価を具体例を挙げて述べることができる。	日本農業の動向と農業政策の流れをほぼ理解し，施策の評価についてわかりやすく述べることができる。	日本農業の動向と農業政策の流れについて大体述べることができ，施策の評価について自分の言葉で表現しようとしている。	日本農業の動向と農業政策の流れについて正確に述べることができないが，自分の言葉で表現できる。	日本農業の動向も農業政策の流れも理解できておらず，まったく表現することができない。
思考・問題解決能力	２．特定地域における農業の現状と問題点を理解し，その解決策の提言を行うことができる。	特定地域を設定し調査を行い，農業の現状と問題点を明確に理解できており，その解決策の提言を具体的に述べることができる。	特定地域を設定し調査を行い，農業の現状と問題点をほぼ理解し，その解決策の提言をわかりやすく述べることができる。	特定地域を設定し調査を行い，農業の現状と問題点，事例に対する解決策の提言を含めて，自分の言葉で大体述べることができる。	特定地域を設定し調査を行い，農業の現状と問題点について，正確に述べることはできないが，自分の言葉では表現できる。	調査を行っていない。

科目名	フードマーケティング論			授業番号	LG304	サブタイトル			
教員	佐々木 公之								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，まずマーケティング理論の基礎について理解する。その上で，わが国の農産物や加工食品におけるマーケティング戦略について実際の事例から学修する。さらに食品産業の中でも外食産業（飲食店）のマーケティング戦略について学修する。								
到達目標	（1）マーケティング理論に関する基本的な知識を修得すること。 （2）加工食品・農産物に関係するマーケティング戦略がどのように行われているか理解し、考察、説明する能力を身につける。 （3）飲食店における店舗運営やマーケティング戦略について基礎的な知識を修得し、課題解決策を提案することができる。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞の取得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション/マーケティング発想の経営と成り立ち 現在の食市場について概説する。マーケティングとは何か、マーケティングの成り立ちについて理解する。	
第2回	マーケティングの基礎概念 実際の事例を基にSTPと４Pについて理解する。	
第3回	フードマーケティングの事例① 製品のマネジメントについて理解する。	
第4回	フードマーケティングの事例② 価格のマネジメントについて理解する	
第5回	フードマーケティングの事例③ チャネルのマネジメントについて理解する。	
第6回	フードマーケティングの事例④ 営業のマネジメントについて理解する。	
第7回	フードマーケティングの事例⑤ ブランド構築のマネジメントについて理解する。	
第8回	フードマーケティングの事例⑥ 食品製造業が行う総合的なマーケティング戦略について理解する。	
第9回	フードマーケティングの事例⑦ 食品製造業が行う総合的なマーケティング戦略について理解する。	
第10回	フードマーケティングの事例⑧ 農業協同組合が行うマーケティング戦略について理解する。	
第11回	フードマーケティングの事例⑨ 農業生産法人が行うマーケティング戦略について理解する。	
第12回	外食産業（飲食店）における経営とマーケティング 飲食店の経営の実際と計数管理を理解する。	
第13回	飲食店におけるメニュープランニング メニュープランニングについて理解する。	
第14回	飲食店のマーケティング演習 事例を基に実際に飲食店の改善計画・メニュープランニングを実施する。	
第15回	全体のまとめと発表 フード業界について理解と検証結果	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度や取り組み（発表）によって評価する。
レポート	60	複数回のレポート内容で評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講義ではマーケティングの基礎を理解するとともに，食に関わるマーケティングがどのように行われているかを学ぶことで，食品産業等で行われるマーケティング戦略を理解，説明できることを到達目標とする。そのためには，身近に存在する「食」に関わるニュースや新聞記事，さまざまな情報に日頃から関心を持ち，自ら調べるという姿勢で講義に臨むこと。
授業外学修	（1）復習として，講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。 （2）講義内容に関連するレポートを課すため、これらを意欲的に取り組むこと。 （3）発展学修として，食に関連したマーケティングやフードビジネスに関する新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	資料を配布する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・フードコーディネーター教本（2026）	日本フードコーディネーター協会	柴田書店	9784388154647	
フード・マーケティング論	藤島廣二・宮部和幸・木島実・平尾正之・岩崎邦彦	筑波書房	978-4-8119-0482-5	

参考書：自由記載	

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．マーケティング理論に関する基本的な知識を修得している	マーケティング理論を正確に理解し、述べることができる。	マーケティング理論をほぼ理解し、述べることができる。	マーケティング理論を一定程度理解し、大体述べることができる。	マーケティング理論について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	マーケティング理論について基礎的な専門用語を理解できていない。
知識・理解	２．加工食品・農産物に関係するマーケティング戦略がどのように行われているか理解し、考察、説明する能力を身につけている	加工食品・農産物のマーケティングについて正しい理解をしており詳細に考察し、説明することができる。	加工食品・農産物のマーケティングについてほぼ理解しており、説明することができる。	加工食品・農産物のマーケティングについて一定程度理解しており、説明することができる。	加工食品・農産物のマーケティングについて理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	加工食品・農産物のマーケティングについて理解しておらず、説明する力がない。
知識・理解	３．飲食店における店舗運営やマーケティング戦略について基礎的な知識を修得し、課題解決策を提案することができる	店舗経営やそのマーケティング戦略について深い理解をしており、課題解決策についても理論的に考察し、独自の提案ができる。	店舗経営やそのマーケティング戦略について理解をしており、課題解決策についても自らの言葉として提案ができる。	店舗経営やそのマーケティング戦略について一定程度の理解をしており、課題解決策についても提案ができる。	店舗経営やそのマーケティング戦略について理解がやや不十分であり、考察、提案する力が乏しい。	店舗経営やそのマーケティング戦略について理解しておらず、提案する力がない。

科目名	フードコーディネート論			授業番号	LG402	サブタイトル			
教員	山﨑　真未								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	フードコーディネーターとは，『新しい食の「ブランド」「トレンド」を作る，食の「開発」「出演」「運営」のクリエイターと定義されている。 そこで本講義では，料理を提供する場面で快適な食事ができるための料理・メニュー・食卓・食空間を含めた食（フード）のコーディネートについて講義する。								
到達目標	本講義では，レストランやファストフードをはじめとする外食産業のオープニングからメニュープランニング，ビジネス展開の計画まで，さらに，料理を盛り付ける食器や，テーブルクロス，照明や色彩など快適な食空間をトータルにコーディネートできる力を身につける。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	フードコーディネートとは何か フードコーディネートの概念を理解し、食の「開発」「演出」「運営」に関する基本的な考え方について学ぶ。	
第2回	文化（食文化）「食の歴史と文化と風土」～日本料理～ 日本料理の歴史と食文化について理解を深めるとともに、精進料理、本膳料理、懐石料理、会席料理など、日本料理の種類とその特徴について学ぶ。	
第3回	文化（食文化）「食の歴史と文化と風土」～歴と旬～ 日本の四季および二十四節気の考え方を踏まえ、行事食や郷土料理との関わりについて学ぶ。 季節の移り変わりや地域の特性が食文化にどのように反映されてきたかを理解し、現代の食生活ついて考察する。	
第4回	文化（食文化）「食の歴史と文化と風土」～外国の食事～ 外国の食事を題材に、世界各地の人々の食生活や食文化について学ぶ。 各国の気候、歴史、宗教、社会的背景が食文化に与える影響を理解し、多様な食のあり方について考察する。	
第5回	文化（食文化）「食の歴史と文化と風土」～食品・食材の知識～ 食品・食材に関する基礎的知識として、肉類、魚介類、豆類、きのこ類、野菜類、海藻類、果実類、穀類、乳製品および加工食品、調味料について学ぶ。 各食品の特徴や役割を理解し、食生活への活用について考察する。	
第6回	科学（健康と栄養と安全）～厨房の基礎知識～ 厨房の基礎知識および厨房計画をはじめ、業種・業態、店舗コンセプト、販売数予測、厨房レイアウトについて学ぶ。 これらを通して、飲食店運営におけるフードコーディネーターの役割とその重要性を理解する。	
第7回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～食空間のあり方と内装デザイン～ 食空間の基本要素やデザインコンセプト、外装・内装、図面、設備、音楽を含む店舗計画を学び、開店までの一連の流れについて学ぶ。 あわせて、食空間づくりにおけるフードコーディネーターの役割について理解を深める。	
第8回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～照明計画～ 照明計画をはじめ、照明器具の種類と特徴、輝度・照度、色温度、演色性および光の演出について学ぶ。 照明が空間や食の印象に与える影響を理解し、適切な照明計画の基礎を身につける。	
第9回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～食空間とテーブルコーディネート（中国）～ テーブルコーディネートの基本的理論をはじめ、6W3Hの考え方、料理と器の関係について学ぶ。 食事空間における演出の基礎を理解し、目的や場面に応じたテーブルコーディネートの考え方を身につける。 あわせて、中国料理における食空間の構成や特徴について理解を深める。	
第10回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～食空間とテーブルコーディネート（洋食）～ 洋食のコーディネートアイテムとして、洋食器、パーソナルアイテムおよびパブリックアイテム、カトラリー類、サービスアイテム、グラス、テーブルクロス、食卓装飾品、テーブルセッティングについて学ぶ。 洋食における食卓演出の基本とその特徴を理解する。	
第11回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～食空間とテーブルコーディネート（和食）～ 和食のコーディネートにおける約束事をはじめ、和の食卓、食器、食具について学ぶ。 あわせて、全国各地の器の特徴について理解を深めるとともに、文様や土器・石器の違いなど、素材や表現の多様性について学ぶ。	
第12回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～カラーコーディネート～ 食空間におけるカラーコーディネートをはじめ、色のイメージや心理的効果、色の三属性（色相・明度・彩度）、色調および配色について学ぶ。 色彩が空間や食の印象に与える影響を理解し、適切なカラーコーディネートの基礎を身につける。	
第13回	デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）～テーブルマナーとサービス～ 西洋料理、日本料理、中国料理における食事のマナーをはじめ、飲酒のマナー、茶や菓子のいただき方、サービスとマナーについて学ぶ。 多様な食文化に応じた所作や礼儀を理解し、適切な食事マナーの基礎を身につける。	
第14回	経済・経営（経済的概念と食関連事業経営実務）～フードマネジメント～ フードマネジメントを中心に、食事形態と食市場の動向、マーケティングおよび経営の基礎知識、マネジメントについて学ぶ。 食に関わる事業を運営するための基本的な考え方を理解する。	
第15回	経済・経営（経済的概念と食関連事業経営実務）～食の企画・構成・演出の流れ～ 食品流通とメニュープランニングをはじめ、食のトレンドの読み方、商品開発、食企画の立案から構成・演出までの流れ、企画書の作成について学ぶ。 あわせて、デジタル技術の進展とそれに伴う社会の変化についても学ぶ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
定期試験	100	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	これまでに学んできた専門教育科目の基本的事項の理解と復習を行うこと。また，食に関する新聞記事等に関心をもち，読むなど積極的に学修すること。
授業外学修	(1)予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 (2)復習として，小テストの見直しをする。 (3)発展学修として，食に関する新聞記事等を読み，まとめる。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・フードコーディネーター教本	特定非営利活動法人日本フードコーディネーター協会	柴田書店		3000

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．文化（食文化）「食の歴史と文化と風土」の知識を身につけている	食の歴史と文化と風土について、授業内容を超えて自主的な学修が認められる。	食の歴史と文化と風土についての授業内容をほぼ100%理解し、知識が身についている。	食の歴史と文化と風土について十分な知識を身につけている。	食の歴史と文化と風土についての知識が不十分である。	食の歴史と文化と風土についての知識が身についていない。
知識・理解	２．科学（健康と栄養と安全）「厨房の基礎知識」を身につけている	健康と栄養と安全について、授業内容を超えて自主的な学修が認められる。	健康と栄養と安全についての授業内容をほぼ100%理解し、知識が身についている。	健康と栄養と安全について十分な知識が身についている。	健康と栄養と安全についての知識が不十分である。	健康と栄養と安全についての知識が身についていない。
知識・理解	３．デザイン・アート（食環境デザインと芸術的創造性）の知識を身につけている	食環境デザインと芸術的創造性について、授業を超えて自主的な学修が認められる。	食環境デザインと芸術的創造性についての授業内容をほぼ100%理解し、知識が身についている。	食環境デザインと芸術的創造性について十分な知識が身についている。	食環境デザインと芸術的創造性についての知識が不十分である。	食環境デザインと芸術的創造性についての知識が身についていない。
知識・理解	４．経済・経営（経済的概念と食関連事業経営実務）の知識を身につけている	経済的概念と食関連事業経営実務について、授業内容を超えて自主的な学修が認められる。	経済的概念と食関連事業経営実務についての授業内容をほぼ100%理解し、知識が身についている。	経済的概念と食関連事業経営実務について十分な知識が身についている。	経済的概念と食関連事業経営実務についての知識が不十分である。	経済的概念と食関連事業経営実務についての知識が身についていない。
態度	１．授業に積極的に取り組むことができている	授業や課題へ積極的に取り組むことができている。さらに、予習・復習に自主的に取り組み、疑問点を明らかにし、質問ができている。	授業や課題へ積極的に取り組むことができている。	授業に出席し、課題にも取り組めている。	授業には出席しているが、課題に十分に取り組めていない。	授業を休み、課題にも取り組めていない。

科目名	専門ゼミⅠ			授業番号	LH201	サブタイトル			
教員	藤代　昇丈、佐々木　公之、杉山　明、宋　娘沃、片山　純子、稲垣　祐輔、佐々木　真帆美、赫連　茹玉、藤田　香織、小西　達也								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	自ら設定した（見出した，あるいは選択した）課題について，文献を収集し，文献内容の要約を含めたデータベースを作成する方法を学習することで，これまでの研究によって蓄積された情報・知識を修得する。それらの成果はその都度ゼミで発表し，意見交換を通じて理解を深める。また，特定のテキストを精読するゼミ，フィールドワークを実施するゼミなどがあるが，それぞれの場合も研究に必要な基礎的方法を学び，それらの成果を報告（書評，調査結果報告）することで，プレゼンテーションの技能を高める。								
到達目標	自ら取り上げた課題に関する文献リストを作成し，主要文献について，その内容の要旨を作成して，これまでの研究成果をレビューする。フィールドワークを実施した場合には，ポスター発表を行う。本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	15回								
授業計画 自由記載	○第1回　ゼミ概要紹介 関心のあるテーマや課題発見の方法、レポートの作成方法について解説 各コース分野に関する講義○第2回　文献収集とリスト作成の方法 各コース分野に関する講義 テーマ設定のための文献収集及びリスト作成方法について解説 図書館等での資料収集などを行う。また、ゼミ単位で個別ディスカッションを深めテーマ設定の準備をする。○第3回～第13回　文献データベース作成と文献精読あるいはフィールドワーク 各コース分野に関する講義 ゼミ単位で個別指導を行い、テーマ設定及び先行研究を進める。また、テーマ関連のブックレポートを課す。○第14回～第15回　ブックレポート及び調査結果報告書の作成 各コース分野に関する講義 後期の専門ゼミⅡへの接続に向けた指示								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	意欲的な受講態度，発表討議への参加よって評価する。
レポート	40	提出されたレジメ，レポート，ポスターで評価。課題やレポート提出後、コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	各人がそれぞれの問題関心に基づいて取り上げたテーマであっても，ゼミで意見・アイディアを交換し，集団で作品を作成する楽しさを覚える。
授業外学修	1．図書館を利用して文献収集に努める。 2．文献内容の要約に努める。 3．フィールドワークに当たっては，様々な情報源から情報を収集する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義のなかで適宜紹介。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校教諭及び指導主事(藤代昇丈)(24年)，企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)，一般企業(佐々木真帆美)(2年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校教諭・指導主事および企業経営者，企業コンサルタント，一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	研究を行う上で大切な手順や方法について，導入ゼミで学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに応用することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，導入ゼミで学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，導入ゼミで学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，導入ゼミで学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができない。	研究を行う上で大切な手順や方法について，導入ゼミで学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。
知識・理解	2.先行研究を通して課題について理解することができ，自らのテーマを設定することができる。	自らの関心のある事について，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，文章を書いたり，自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について，文献を参考に自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりすることができる。	自らの関心のある事について，相手と話したり，短い文章を書いたりすることはできるが，自らの課題について十分に理解し文献などを参照し自らのテーマを設定することはできない。	自らの関心のある事について，相手と話したり，短い文章を書いたりすることが難しく，自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	3.自らのテーマについて様々な手段で調査し，論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。質が高く信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	自らのテーマについて理解することはでき，資料を参照することはできるが，自ら調べることはできない。	自らのテーマについて理解することができず，調べることもできない。
思考・問題解決能力	1.事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを，様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマは設定しているが，事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で，事実や意見に対する考えを伝えることができていない。
思考・問題解決能力	2.独創性と洞察力に富んでおり，論理の展開を整えて伝えることができる	自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。また，オリジナリティに富んでおり，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性があり，論理の展開が明瞭である。また，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	論理構成は荒削りだが，自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性がある。また，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	自らの主張点は理解できるが，論理展開が整っていないため分かりづらい。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	論理展開が整っておらず，主張点が分からない。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	3.テーマや課題に対してゼミメイトと協働し適切な解決方法を提案できる	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，それぞれの役割を意識しながら，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約することができる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を行い，協力することはできるが，意見を集約することはできない。	テーマや課題に対して，グループワークやペアで協働することができない。
技能	1.論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	構成が整っており，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	テーマに沿って主張しているが，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	自らの主張点がなく，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
技能	2.わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げてはいるが，話す時には目を上げて，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，ゆっくりと大きな声ではあるが，聞き手に対して訴えかけているとは言えない。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，声も小さく，何を発表しているのか分からない。
技能	3.調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後，十分な統計の知識をもって統計ソフト等を活用して分析し，結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析することができる。	調査によって得られたデータを集計することはできるが，統計ソフト等を活用して分析することはできない。	調査によって得られたデータを集計することができず，結果の傾向を示すことができない。
態度	1.他の意見に傾聴することでき，柔軟に対応することができる	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができるが，相手の意見を聞こうという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞こうという態度に欠け，自分の意見を押し通そうとする。
態度	2.他の人と協調性をもって協力して協議，研究を行うことができる	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，相手の意見をよく聞き，合意の元で協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，十分話し合い協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，自らのやり方にこだわる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，参加しない。
態度	3. 主体性をもちストレスをコントロールしながら計画を実行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，粘り強く最後まで計画を遂行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにし，最後まで計画を遂行することができない。	与えられた計画を他人任せにし，計画に参加しない。

科目名	専門ゼミⅡ			授業番号	LH202	サブタイトル			
教員	藤代　昇丈、佐々木　公之、杉山　明、宋　娘沃、片山　純子、稲垣　祐輔、佐々木　真帆美、小西　達也、藤田　香織、赫連　茹玉								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	専門ゼミIに引き続き，文献収集を進め，文献リストの充実を計る。先行研究の文献レビューを行うために，文献の分類整理を行う。フィールドワークを行うゼミの場合には，調査を引き続き進め。専門ゼミIで不足していた部分を再調査して補充し，調査報告書を作成する。								
到達目標	文献レビューおよび調査報告書の作成・提出を目標とする。また，作成された作品について，ゼミで討議し，内容をブラシュアップする。本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	15回								
授業計画 自由記載	第1回　専門ゼミIの成果の確認 各コース分野に関する講義 専門ゼミⅠを受けて、今後のテーマについて確認第2回～第13回　文献レビューおよびフィールドワークを実施 各コース分野に関する講義 ゼミ単位で個別指導を行い、テーマ設定及び先行研究・調査を進める。また、テーマ関連のブックレポートを課す。第14回～第15回　ブックレポートおよび調査報告書を作成し，発表する。 各コース分野に関する講義 次年度の専門ゼミⅢへの接続に向けた指示								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	意欲的な受講態度，発表討議への参加によって評価する。
レポート	40	発表レジメ，報告書などで評価する。課題やレポート提出後、コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	ゼミで積極的に意見交換することに努める。グループで知識・技能・アイデアを共有するように心がける。
授業外学修	1．図書館を利用して文献収集に努める。 2．文献内容を要約し，それをデータベースにして保管する習慣を身につける。 3．フィールドワークにおける情報収集の方法を実践する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校教諭及び指導主事(藤代昇丈)(24年)，企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)，一般企業(佐々木真帆美)(2年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校教諭・指導主事および企業経営者，企業コンサルタント，一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅠで学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに応用することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅠで学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅠで学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅠで学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができない。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅠで学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。
知識・理解	2.先行研究を通して課題について理解することができ，自らのテーマを設定することができる。	自らの関心のある事について，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，文章を書いたり，自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について，文献を参考に自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりすることができる。	自らの関心のある事について，相手と話したり，短い文章を書いたりすることはできるが，自らの課題について十分に理解し文献などを参照し自らのテーマを設定することはできない。	自らの関心のある事について，相手と話したり，短い文章を書いたりすることが難しく，自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	3.自らのテーマについて様々な手段で調査し，論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。質が高く信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	自らのテーマについて理解することはでき，資料を参照することはできるが，自ら調べることはできない。	自らのテーマについて理解することができず，調べることもできない。
思考・問題解決能力	1.事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを，様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマは設定しているが，事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で，事実や意見に対する考えを伝えることができていない。
思考・問題解決能力	2.独創性と洞察力に富んでおり，論理の展開を整えて伝えることができる	自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。また，オリジナリティに富んでおり，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性があり，論理の展開が明瞭である。また，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	論理構成は荒削りだが，自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性がある。また，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	自らの主張点は理解できるが，論理展開が整っていないため分かりづらい。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	論理展開が整っておらず，主張点が分からない。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	3..テーマや課題に対してゼミメイトと協働し適切な解決方法を提案できる	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，それぞれの役割を意識しながら，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約することができる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を行い，協力することはできるが，意見を集約することはできない。	テーマや課題に対して，グループワークやペアで協働することができない。
技能	1.論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	構成が整っており，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	テーマに沿って主張しているが，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	自らの主張点がなく，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
技能	2.わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げてはいるが，話す時には目を上げて，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，ゆっくりと大きな声ではあるが，聞き手に対して訴えかけているとは言えない。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，声も小さく，何を発表しているのか分からない。
技能	3.調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後，十分な統計の知識をもって統計ソフト等を活用して分析し，結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析することができる。	調査によって得られたデータを集計することはできるが，統計ソフト等を活用して分析することはできない。	調査によって得られたデータを集計することができず，結果の傾向を示すことができない。
態度	1.他の意見に傾聴することでき，柔軟に対応することができる	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができるが，相手の意見を聞こうという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞こうという態度に欠け，自分の意見を押し通そうとする。
態度	2.他の人と協調性をもって協力して協議，研究を行うことができる	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，相手の意見をよく聞き，合意の元で協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，十分話し合い協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，自らのやり方にこだわる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，参加しない。
態度	3. 主体性をもちストレスをコントロールしながら計画を実行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，粘り強く最後まで計画を遂行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにし，最後まで計画を遂行することができない。	与えられた計画を他人任せにし，計画に参加しない。

科目名	専門ゼミⅢ			授業番号	LH301	サブタイトル			
教員	藤代　昇丈、佐々木　公之、宋　娘沃、片山　純子、稲垣　祐輔、佐々木　真帆美、小西　達也、藤田　香織								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	専門ゼミIIIでは，専門ゼミI，IIで培った知識・技能に基づいて，学術研究に適したテーマを設定し，卒業研究につなげる研究方法の理解・修得を進めるとともに，論文執筆の仕方についても学術論文の講読を通して学修する。また，取上げたテーマについての作業過程をその都度報告し，ゼミの構成員の間でディスカッションし，作業の進め方などをチェック・調整する。ゼミでのディスカッションを通じて，ゼミ構成員は他のメンバーが取り組んでいる研究テーマについても知識を共有して，集団で研究を進めることを学ぶ。								
到達目標	卒業研究に必要となる学術論文の作成に必要となる分析方法，議論の仕方，書き方などを修得する。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>，<思考・問題解決能力>，<技能>，<態度>の修得に貢献する。								
授業計画　備考	15回								
授業計画 自由記載	第1回　卒業論文とは 第2回～第13回　文献の収集，作業過程の報告とディスカッション 第14回～第15回　成果のまとめと発表								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，発表討議への参加，および積極的な意見・情報・アイデア提供などで評価する。
レポート	50	発表レジメおよび報告書などで評価する。各自に対して、フィードバックを行う。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	ゼミでのディスカッションに積極的に参加し，自分の考えを論理的に説明できるように努力する。
授業外学修	１．自分が取り上げたテーマに関する文献や情報を幅広く収集する。 ２．ゼミで修得した知見や方法を身につけるために，関連文献などにも当たって自習する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。適宜資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校教諭及び指導主事(藤代昇丈)(24年)，企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)，一般企業(佐々木真帆美)(2年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校教諭・指導主事および企業経営者，企業コンサルタント，一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅡ知識をもとにより高度に応用することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅡで学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅡで学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅡで学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができない。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅡで学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。
知識・理解	先行研究を通して課題について理解することができ，自らのテーマを設定することができる。	自らの関心のある事について，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，文章を書いたり，自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について，文献を参考に自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりすることができる。	自らの関心のある事について，相手と話したり，短い文章を書いたりすることはできるが，自らの課題について十分に理解し文献などを参照し自らのテーマを設定することはできない。	自らの関心のある事について，相手と話したり，短い文章を書いたりすることが難しく，自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	自らのテーマについて様々な手段で調査し，論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。質が高く信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	自らのテーマについて理解することはでき，資料を参照することはできるが，自ら調べることはできない。	自らのテーマについて理解することができず，調べることもできない。
思考・問題解決能力	事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを，様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマは設定しているが，事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で，事実や意見に対する考えを伝えることができていない。
思考・問題解決能力	独創性と洞察力に富んでおり，論理の展開を整えて伝えることができる	自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。また，オリジナリティに富んでおり，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性があり，論理の展開が明瞭である。また，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	論理構成は荒削りだが，自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性がある。また，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	自らの主張点は理解できるが，論理展開が整っていないため分かりづらい。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	論理展開が整っておらず，主張点が分からない。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	テーマや課題に対してゼミメイトと協働し適切な解決方法を提案できる	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，それぞれの役割を意識しながら，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約することができる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を行い，協力することはできるが，意見を集約することはできない。	テーマや課題に対して，グループワークやペアで協働することができない。
技能	論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	構成が整っており，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	テーマに沿って主張しているが，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	自らの主張点がなく，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
技能	わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げてはいるが，話す時には目を上げて，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，ゆっくりと大きな声ではあるが，聞き手に対して訴えかけているとは言えない。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，声も小さく，何を発表しているのか分からない。
技能	調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後，十分な統計の知識をもって統計ソフト等を活用して分析し，結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析することができる。	調査によって得られたデータを集計することはできるが，統計ソフト等を活用して分析することはできない。	調査によって得られたデータを集計することができず，結果の傾向を示すことができない。
態度	他の意見に傾聴することでき，柔軟に対応することができる。	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができるが，相手の意見を聞こうという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞こうという態度に欠け，自分の意見を押し通そうとする。
態度	他の人と協調性をもって協力して協議，研究を行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，相手の意見をよく聞き，合意の元で協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，十分話し合い協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，自らのやり方にこだわる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，参加しない。
態度	主体性をもちストレスをコントロールしながら計画を実行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，粘り強く最後まで計画を遂行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにし，最後まで計画を遂行することができない。	与えられた計画を他人任せにし，計画に参加しない。

科目名	専門ゼミIV			授業番号	LH302	サブタイトル			
教員	藤代　昇丈、佐々木　公之、宋　娘沃、片山　純子、稲垣　祐輔、佐々木　真帆美、小西　達也、藤田　香織								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	専門ゼミIVでは，専門ゼミI～IIIで取り組んだ内容をさらに発展させ，学術論文の体裁を備えた成果物を作成できるように，論文構成の立て方，分析手法，文献レビューなどについての理解を深める。その間，ゼミで繰り返し作業過程を報告し，ディスカッションを通じて自分の考えを論理的なものにする。								
到達目標	卒業研究のテーマを設定し，研究計画を作成できるようにする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第1回　専門ゼミI～IIIの成果を再確認し，卒業研究に向けての現時点の状態を把握。 第2回～第15回　研究作業の途中経過の報告と点検								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，発表討議への参加，および積極的な意見・情報・アイデア提供などで評価する。
レポート	50	発表レジメおよび文献レビューなどで評価する。各自に対して、フィードバックを行う。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	ゼミでは，研究作業の報告とディスカッションが中心になる。そのため，研究作業の中間報告を決められたスケジュールで発表できるようにする。それと，ゼミでは積極的に発言し，アイデアを提供するとともに，自分の考えを明確する態度を養う。
授業外学修	１．ゼミには，文献を熟読し，作業結果を吟味して，自分の立脚点や論点を明らかにして臨む。 ２．ディスカッションで学んだ事項を再確認し，今後の作業に活かす努力をする。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。適宜資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校教諭及び指導主事(藤代昇丈)(24年)，企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)，一般企業(佐々木真帆美)(2年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校教諭・指導主事および企業経営者，企業コンサルタント，一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅢで学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとにより高度に応用することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅢで学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅢで学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができる。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅢで学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができない。	研究を行う上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅢで学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。
知識・理解	先行研究を通して課題について理解することができ，自らのテーマを設定することができる。	自らの関心のある事について，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，文章を書いたり，自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	自らの関心のある事について，文献を参考に自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりすることができる。	自らの関心のある事について，相手と話したり，短い文章を書いたりすることはできるが，自らの課題について十分に理解し文献などを参照し自らのテーマを設定することはできない。	自らの関心のある事について，相手と話したり，短い文章を書いたりすることが難しく，自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	.自らのテーマについて様々な手段で調査し，論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。質が高く信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らのテーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	自らのテーマについて理解することはでき，資料を参照することはできるが，自ら調べることはできない。	自らのテーマについて理解することができず，調べることもできない。
思考・問題解決能力	事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを，様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマを設定し，事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてテーマは設定しているが，事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で，事実や意見に対する考えを伝えることができていない。
思考・問題解決能力	独創性と洞察力に富んでおり，論理の展開を整えて伝えることができる。	自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。また，オリジナリティに富んでおり，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性があり，論理の展開が明瞭である。また，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	論理構成は荒削りだが，自らが設定したテーマに沿って，論点に一貫性がある。また，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	自らの主張点は理解できるが，論理展開が整っていないため分かりづらい。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	論理展開が整っておらず，主張点が分からない。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	テーマや課題に対してゼミメイトと協働し適切な解決方法を提案できる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，それぞれの役割を意識しながら，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約することができる。	テーマや課題に対して，グループワークやペア活動を行い，協力することはできるが，意見を集約することはできない。	テーマや課題に対して，グループワークやペアで協働することができない。
技能	論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	構成が整っており，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	テーマに沿って主張しているが，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	自らの主張点がなく，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
技能	わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げてはいるが，話す時には目を上げて，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，ゆっくりと大きな声ではあるが，聞き手に対して訴えかけているとは言えない。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，声も小さく，何を発表しているのか分からない。
技能	調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後，十分な統計の知識をもって統計ソフト等を活用して分析し，結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析することができる。	調査によって得られたデータを集計することはできるが，統計ソフト等を活用して分析することはできない。	調査によって得られたデータを集計することができず，結果の傾向を示すことができない。
態度	他の意見に傾聴することでき，柔軟に対応することができる。	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができるが，相手の意見を聞こうという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞こうという態度に欠け，自分の意見を押し通そうとする。
態度	他の人と協調性をもって協力して協議，研究を行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，相手の意見をよく聞き，合意の元で協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，十分話し合い協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，自らのやり方にこだわる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，参加しない。
態度	主体性をもちストレスをコントロールしながら計画を実行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，粘り強く最後まで計画を遂行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにし，最後まで計画を遂行することができない。	与えられた計画を他人任せにし，計画に参加しない。

科目名	専門ゼミV			授業番号	LH401	サブタイトル			
教員	藤代　昇丈、佐々木　公之、宋　娘沃、片山　純子、稲垣　祐輔、佐々木　真帆美、小西　達也、藤田　香織								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	専門ゼミVでは，専門ゼミI～IVの成果として提出される研究テーマおよび研究計画を基に，卒業論文作成のための調査・文献精読を開始する。ゼミでは，研究の進捗をチェックするために，自身の見解の裏付けとなる資料を用意し，提示・説明する。同時に，今後さらに補充の必要がある部分を明確にし，そのための取り組みを始める。								
到達目標	卒業論文執筆に移るために必要な文献・資料等を整える。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	第1回専門ゼミI～IVの成果に基づいて設定した研究テーマおよび研究計画の説明 第2回～第15回　研究計画に基づいた文献精読，調査・分析を進め，中間報告する。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表討議への参加および積極的な意見・情報・アイデアの提供などで評価する。
レポート	60	発表レジメおよび報告書などで評価する。各自に対して、フィードバックを行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	卒業研究を着実に進められるように研究計画を絶えずチェックしながら作業を進める。
授業外学修	１．文献レビューなどは執筆作業を進める。 ２．間接的なデータを含めて資料の補充に努める。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。適宜資料を紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校教諭及び指導主事(藤代昇丈)(24年)，企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)，一般企業(佐々木真帆美)(2年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校教諭・指導主事および企業経営者，企業コンサルタント，一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅣまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとにより高度に応用することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅣまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅣまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅣまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができない。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅣまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。
知識・理解	先行研究を通して課題について理解することができ，自らのテーマを設定することができる。	自らの研究テーマについて，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，文章を書いたり，自らの意志を伝えることができる。	自らの研究テーマについて，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	自らの研究テーマについて，文献を参考に自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりすることができる。	自らの研究テーマについて，相手と話したり，短い文章を書いたりすることはできるが，自らの課題について十分に理解し文献などを参照し自らのテーマを設定することはできない。	自らの研究テーマについて，相手と話したり，短い文章を書いたりすることが難しく，自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	自らのテーマについて様々な手段で調査し，論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らの研究テーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。質が高く信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らの研究テーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らの研究テーマについてて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	自らの研究テーマについて理解することはでき，資料を参照することはできるが，自ら調べることはできない。	自らの研究テーマについて理解することができず，調べることもできない。
思考・問題解決能力	事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し，事実や意見に対する考えを，様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し，事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し，事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマは設定しているが，事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で，事実や意見に対する考えを伝えることができず卒業研究のテーマも設定できていない。
思考・問題解決能力	独創性と洞察力に富んでおり，論理の展開を整えて伝えることができる。	自らが設定した卒業研究テーマに沿って，論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。また，オリジナリティに富んでおり，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定した卒業研究テーマに沿って，論点に一貫性があり，論理の展開が明瞭である。また，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	論理構成は荒削りだが，自らが設定した卒業研究テーマに沿って，論点に一貫性がある。また，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	自らの主張点は理解できるが，論理展開が整っていないため分かりづらい。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	論理展開が整っておらず，主張点が分からない。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	テーマや課題に対してゼミメイトと協働し適切な解決方法を提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，それぞれの役割を意識しながら，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約することができる。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を行い，協力することはできるが，意見を集約することはできない。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペアで協働することができない。
技能	論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，卒業研究のテーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，卒業研究のテーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	構成が整っており，卒業研究のテーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	卒業研究のテーマに沿って主張しているが，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	卒業研究について自らの主張点がなく，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
技能	わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げてはいるが，話す時には目を上げて，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，ゆっくりと大きな声ではあるが，聞き手に対して訴えかけているとは言えない。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，声も小さく，何を発表しているのか分からない。
技能	調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後，十分な統計の知識をもって統計ソフト等を活用して分析し，結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析することができる。	調査によって得られたデータを集計することはできるが，統計ソフト等を活用して分析することはできない。	調査によって得られたデータを集計することができず，結果の傾向を示すことができない。
態度	他の意見に傾聴することでき，柔軟に対応することができる。	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができるが，相手の意見を聞こうという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞こうという態度に欠け，自分の意見を押し通そうとする。
態度	他の人と協調性をもって協力して協議，研究を行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，相手の意見をよく聞き，合意の元で協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，十分話し合い協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，自らのやり方にこだわる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，参加しない。
態度	主体性をもちストレスをコントロールしながら計画を実行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，粘り強く最後まで計画を遂行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにし，最後まで計画を遂行することができない。	与えられた計画を他人任せにし，計画に参加しない。

科目名	専門ゼミVI			授業番号	LH402	サブタイトル			
教員	藤代　昇丈、佐々木　公之、宋　娘沃、片山　純子、稲垣　祐輔、佐々木　真帆美、小西　達也、藤田　香織								
単位数	2単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	専門ゼミVIは，これまでに収集検討した文献・資料に基づいて論文執筆を進めるためのゼミである。教員からのコメントに加えて，学生間でお互いの論文を点検し合うことにより，内容の修正や文章の校正を行っていく。								
到達目標	卒業論文を完成させる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>，<思考・問題解決能力>，<技能>，<態度>の修得に貢献する。								
授業計画　備考	15回								
授業計画 自由記載	第1回　論文作成の計画の再点検 第2回～第14回　執筆できた部分を報告し，ゼミで検討する。それを参考にして文章を推敲する。 第15回　ゼミでのプレゼンテーション								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表討議への参加および積極的な意見・情報・アイデアの提供などで評価する。
レポート	60	発表レジメおよび報告書などで評価する。各自に対して、フィードバックを行う。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的に授業に参加すること。調べてきた文献を討議することが求められるため，よく文献を読み込んでくることが求められる。計画的に論文執筆に取り組み，質問等あれば教員に相談すること。
授業外学修	１．文献レビューなどは執筆作業を進める。 ２．間接的なデータを含めて資料の補充に努める。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。適宜資料・文献を紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校教諭及び指導主事(藤代昇丈)(24年)，企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)，一般企業(佐々木真帆美)(2年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校教諭・指導主事および企業経営者，企業コンサルタント，一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅤまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとにより高度に応用することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅤまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅤまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができる。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅤまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができない。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミⅤまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。
知識・理解	先行研究を通して課題について理解することができ，自らのテーマを設定することができる。	自らの研究テーマについて，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，文章を書いたり，自らの意志を伝えることができる。	自らの研究テーマについて，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	自らの研究テーマについて，文献を参考に自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりすることができる。	自らの研究テーマについて，相手と話したり，短い文章を書いたりすることはできるが，自らの課題について十分に理解し文献などを参照し自らのテーマを設定することはできない。	自らの研究テーマについて，相手と話したり，短い文章を書いたりすることが難しく，自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	自らのテーマについて様々な手段で調査し，論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らの研究テーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。質が高く信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らの研究テーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らの研究テーマについてて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができる。	自らの研究テーマについて理解することはでき，資料を参照することはできるが，自ら調べることはできない。	自らの研究テーマについて理解することができず，調べることもできない。
思考・問題解決能力	事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し，事実や意見に対する考えを，様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し，事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し，事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマは設定しているが，事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で，事実や意見に対する考えを伝えることができず卒業研究のテーマも設定できていない。
思考・問題解決能力	独創性と洞察力に富んでおり，論理の展開を整えて伝えることができる。	自らが設定した卒業研究テーマに沿って，論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。また，オリジナリティに富んでおり，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定した卒業研究テーマに沿って，論点に一貫性があり，論理の展開が明瞭である。また，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	論理構成は荒削りだが，自らが設定した卒業研究テーマに沿って，論点に一貫性がある。また，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	自らの主張点は理解できるが，論理展開が整っていないため分かりづらい。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	論理展開が整っておらず，主張点が分からない。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	テーマや課題に対してゼミメイトと協働し適切な解決方法を提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，それぞれの役割を意識しながら，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約することができる。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を行い，協力することはできるが，意見を集約することはできない。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペアで協働することができない。
技能	論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，卒業研究のテーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，卒業研究のテーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	構成が整っており，卒業研究のテーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	卒業研究のテーマに沿って主張しているが，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	卒業研究について自らの主張点がなく，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
技能	わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げてはいるが，話す時には目を上げて，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，ゆっくりと大きな声ではあるが，聞き手に対して訴えかけているとは言えない。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，声も小さく，何を発表しているのか分からない。
技能	調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後，十分な統計の知識をもって統計ソフト等を活用して分析し，結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができる。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析することができる。	調査によって得られたデータを集計することはできるが，統計ソフト等を活用して分析することはできない。	調査によって得られたデータを集計することができず，結果の傾向を示すことができない。
態度	他の意見に傾聴することでき，柔軟に対応することができる。	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができるが，相手の意見を聞こうという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞こうという態度に欠け，自分の意見を押し通そうとする。
態度	他の人と協調性をもって協力して協議，研究を行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，相手の意見をよく聞き，合意の元で協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，十分話し合い協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，自らのやり方にこだわる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，参加しない。
態度	主体性をもちストレスをコントロールしながら計画を実行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，粘り強く最後まで計画を遂行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにし，最後まで計画を遂行することができない。	与えられた計画を他人任せにし，計画に参加しない。

科目名	卒業研究			授業番号	LH403	サブタイトル			
教員	藤代　昇丈、佐々木　公之、宋　娘沃、片山　純子、稲垣　祐輔、佐々木　真帆美、小西　達也、藤田　香織								
単位数	4単位	開講年次	4年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	本授業では，ゼミ担当教員等からのフィードバックを基に推敲した卒業論文を完成させ提出する。研究内容については，卒業論文中間発表会・最終発表会で口頭発表および質疑応答を行う。								
到達目標	卒業論文を完成させ，指導教員等の助言を基に推敲した論文を提出する。卒業論文発表会では，口頭発表および質疑応答を行う。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	卒業論文の内容で評価する。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	100	卒業論文の内容で評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	卒業研究では，ゼミでの討論や発表会での議論を反映させ，自主的かつ積極的な態度で臨み，知識・理解，思考・問題解決能力，技能のすべてを注力して取り組むこと。
授業外学修	週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しない。適宜資料・文献を紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校教諭及び指導主事(藤代昇丈)(24年)，企業経営コンサルタント(佐々木公之)(10年)，一般企業(佐々木真帆美)(2年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校教諭・指導主事および企業経営者，企業コンサルタント，一般企業勤務の経験を活かした問題解決型の教育を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	調査・研究の仕方等の基本的なアカデミックスキルについての知識がある。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミVIまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとにより高度に応用することができている。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミVIまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識をもとに調査を実施することができている。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミVIまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができている。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミVIまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を意識することができていない。	卒業研究を完成させる上で大切な手順や方法について，専門ゼミVIまでに学んだアカデミックスキルの基礎知識を理解できていない。
知識・理解	先行研究を通して課題について理解することができ，自らのテーマを設定することができる。	自らの研究テーマについて，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，文章を書いたり，自らの意志を伝えることができている。	自らの研究テーマについて，文献を読み解き，課題を発見して自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができている。	自らの研究テーマについて，文献を参考に自らのテーマを設定し，相手と話したり，短い文章を書いたりすることができている。	自らの研究テーマについて，相手と話したり，短い文章を書いたりすることはできるが，自らの課題について十分に理解し文献などを参照し自らのテーマを設定することはできていない。	自らの研究テーマについて，相手と話したり，短い文章を書いたりすることが難しく，自分の意見を言うことも困難である。
知識・理解	自らのテーマについて様々な手段で調査し，論拠となる資料の情報を精査することができる。	自らの研究テーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができている。質が高く信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できる。	自らの研究テーマについて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができている。信頼ができる資料，関連性のある資料を精査した上で使用できている。	自らの研究テーマについてて理解し，文献やインターネットのみならず，調査を行うなど様々な手段で自ら調べることができている。	自らの研究テーマについて理解することはでき，資料を参照することはできるが，自ら調べることはできていない。	自らの研究テーマについて理解することができず，調べることもできていない。
思考・問題解決能力	事実や意見などを多様な観点から根拠に基づいて考察できる。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し，事実や意見に対する考えを，様々な観点から経験やデータといった客観的根拠を示しながら伝えることができている。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し，事実や意見に対する考えを何らかの客観的根拠を示しながら伝えることができている。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマを設定し，事実や意見に対する考えを理由を添えて伝えることができている。	自らの問題意識に基づいて卒業研究のテーマは設定しているが，事実や意見に対する考えやその根拠を伝えることができていない。	自らの問題意識が不明瞭で，事実や意見に対する考えを伝えることができず卒業研究のテーマも設定できていない。
思考・問題解決能力	独創性と洞察力に富んでおり，論理の展開を整えて伝えることができる。	自らが設定した卒業研究テーマに沿って，論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っている。また，オリジナリティに富んでおり，テーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	自らが設定した卒業研究テーマに沿って，論点に一貫性があり，論理の展開が明瞭である。また，テーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	論理構成は荒削りだが，自らが設定した卒業研究テーマに沿って，論点に一貫性がある。また，テーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	自らの主張点は理解できるが，論理展開が整っていないため分かりづらい。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	論理展開が整っておらず，主張点が分からない。また，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
思考・問題解決能力	テーマや課題に対してゼミメイトと協働し適切な解決方法を提案できる。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，それぞれの役割を意識しながら，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できている。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約して適切な解決方法をまとめ，提案できている。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を通して協働し，意見を集約することができている。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペア活動を行い，協力することはできるが，意見を集約することはできていない。	卒業研究のテーマや課題に対して，グループワークやペアで協働することができていない。
技能	論理の展開が整った文章を書くことができる。	論点に一貫性があり，序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，卒業研究のテーマや課題を深く，鋭く観察した洞察力に富んだ内容である。	序論・本論・結論等しっかりと構成が整っており，卒業研究のテーマに関してオリジナリティに富んだ内容で，意見性のある内容である。	構成が整っており，卒業研究のテーマに関してオリジナリティのある内容となっている。	卒業研究のテーマに沿って主張しているが，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。	卒業研究について自らの主張点がなく，事実や他人の意見の羅列で構成されており，オリジナリティに欠ける。
技能	わかりやすく伝えるプレゼンテーション力がある。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，ボディランゲージやアイコンタクトなどを用いて聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げるのではなく，自分の言葉で，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げてはいるが，話す時には目を上げて，ゆっくりと大きな声で，聞き手に対して訴えかけることができる。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，ゆっくりと大きな声ではあるが，聞き手に対して訴えかけているとは言えない。	原稿を読み上げており，目線が常に下向きか，スクリーンの方を向いており，声も小さく，何を発表しているのか分からない。
技能	調査結果を分析することができる。	調査によって得られたデータを集計した後，十分な統計の知識をもって統計ソフト等を活用して分析し，結果をまとめることができている。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析し結果をまとめることができている。	調査によって得られたデータを集計した後，統計ソフト等を活用して分析することができている。	調査によって得られたデータを集計することはできるが，統計ソフト等を活用して分析することはできていない。	調査によって得られたデータを集計することができず，結果の傾向を示すことができていない。
態度	他の意見に傾聴することでき，柔軟に対応することができる。	他者から受ける助言を丁寧に聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に相手の言わんとするところを理解する力がある。	他者から受ける助言を聴くことができ，他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができる。	他者と意見の食い違いがある場合に十分時間をとって話し合うことができるが，相手の意見を聞こうという態度に欠ける。	他者と意見の食い違いがある場合に相手の意見を聞こういう態度に欠け，自分の意見を押し通そうとする。
態度	他の人と協調性をもって協力して協議，研究を行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，相手の意見をよく聞き，合意の元で協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，十分話し合い協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，協力して行うことができる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，自らのやり方にこだわる。	グループワークやペア活動でゼミメイトと協働作業する際に，他人と協力することができず，参加しない。
態度	主体性をもちストレスをコントロールしながら計画を実行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，粘り強く最後まで計画を遂行することができる。	自ら計画を立て他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにすることなく，最後まで計画を遂行することができる。	与えられた計画を他人任せにし，最後まで計画を遂行することができない。	与えられた計画を他人任せにし，計画に参加しない。

科目名	キャリア研究論（リーダー講義）	授業番号	LI101	サブタイトル	
教員	佐々木 公之				

単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択

授業概要	各業界で活躍されるトップリーダー（経営者・起業家・専門家等）を招き業界のしくみ，求める人物像を講義・ケーススタディー・ディスカッション・アクティブラーニングを交えながら最先端の業界の動向や夢実現への必要なスキルの直接指導を受けます。
到達目標	・岡山地域を中心に各業界でご活躍されるリーダーから直接，社会で必要な知識，社会的スキル，また考え方について講義を通じて直接指導を受け，職業理解を高め，将来の目指す方向，大学生活で何をすべきかについて考え動機づけを行う。 ・将来の目標が明確に言えることができる。 ・学生時代にチャレンジすることが年次ごとに具体的に述べられることができる なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。
授業計画 備考	

回	概要	担当
第1回	トップリーダーとは 復習 トップリーダーについてまとめ	佐々木
第2回	アクティブラーニング演習 予習 アクティブラーニング練習課題 復習 レポート作成	佐々木
第3回	トップリーダー講義(1) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成	外部講師+佐々木
第4回	トップリーダー講義(2) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成	外部講師+佐々木
第5回	トップリーダー講義(3) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成	外部講師+佐々木
第6回	トップリーダー講義(4) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成	外部講師+佐々木
第7回	トップリーダー講義(5) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成	外部講師+佐々木
第8回	トップリーダーの気質と特徴 ロールモデルによる分析	佐々木
第9回	トップリーダー講義(6) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成	外部講師+佐々木
第10回	トップリーダー講義(7) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成	外部講師+佐々木
第11回	トップリーダー講義(8) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成	外部講師+佐々木
第12回	トップリーダー講義(9) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成	外部講師+佐々木
第13回	トップリーダー講義(10) 業界のリーダーによる現状と社会的スキルの指導 予習 リーダーの業界を調査 復習 講義レポート作成	外部講師+佐々木
第14回	トップリーダーと業界分析(1) 4年間の学びとキャリアデザインについて検討	佐々木
第15回	トップリーダーと業界分析(2) 4年間の学びとキャリアデザインについて検討	佐々木
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	70	各業界の特徴や自分自身が今後どうすべきなどが具体的に述べてあること。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
小テスト		
定期試験		
その他	10	プレゼンテーションをとおして最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講前に，業界について事前に調査を行い，受講後，復習を必ず行い理解を高めることを強く勧める。
授業外学修	1 予習として，各リーダーの業界を毎回調査し分析すること。 2 復習として，課題のレポートを書く。 3 発展学修として，講師・授業で紹介された参考文献・記事などを読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	配布プリント

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜配布
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	企業（銀行・都市ガス会社），自営（企業コンサルティング経験），会社役員など経営戦略に携わる経験
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	企業等からの講師による指導を実施
実務経験をいかした教育内容	企業コンサルティング経験を生かして，学生の社会人基礎力向上の指導などを行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．トップリーダーの意思、考え方が理解できる	トップリーダーの考え方が理解でき、その考え方に対して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	トップリーダーの考え方を理解し、共感し疑問を持つことができる。	トップリーダーの考え方と講義の意図が理解することができる。	トップリーダーの考え方や講義の意図が概ね理解することができる。	トップリーダーの言っていることが理解できない。
思考・問題解決能力	2．社会動向を理解している	信頼できるリソースから、社会動向を調査し学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性に注意して、社会動向を概ね正しい内容かどうかを理解して学習課題に取り組むことができる。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性についての注意が不十分で、学習内容にいくつかの誤りが含まれている。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができない。
思考・問題解決能力	3．他者を理解し問題解決が出来る	他者と自分との共通点や違いを認識したうえで、他者の考えや思いを多角的に想像し、共感することができる。	他者のことばや身体表現だけでなく、これまでの経験や取り巻く環境を想像しながら、他者の思いを想像することができる。	他者のことばや身体表現から、その人の考えや思いの一面を想像することができる。	他者は、それぞれに感じ方や考え方が多様であることを認識している。	他者の考え方や思いが理解できない。
思考・問題解決能力	4．チームビルディングが身に付いてる	チームに臨機応変に応答する即興性、集団で協働して目標を達成することができ、チームメイトとの関係性を育むことができる。	議論をより活発で創造的なものにするため、チームメイトの多様性を配慮・尊重しながら行動することができる	チームメイトとの課題解決に取り組むことができる。	チームメイトとの課題解決のあり方を認識することができる。	チームメイトとの協働作業による問題解決ができない。
思考・問題解決能力	5．コミュニケーションによる問題解決能力が身に付いている	相手とのコミュニケーションを解釈し、相手の感情に応答しながら多様な表現方法にて問題解決ができる。	伝える聞くために、言葉だけでなく、身体表現方法（声やジェスチャーなど）を意識しながらコミュニケーションをとることができる。	相手の話を受容する聴き方を意識しながら、分は何を伝えたいかなど、自分の考えや思いを認識したうえで話すことができる。	相手を否定する聞き方と肯定する聞き方の違いなど、様々な段階や種類があることを認識することができる。	相手の話を聞くこと、話すことができない。

科目名	キャリア・デザイン			授業番号	LI301	サブタイトル			
教員	佐々木 公之								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	「将来の自分が何をしたいのか？」「どの様な学生生活で成長するのか？」、就職活動や結婚などを将来の設計を考えた自分のあるべき姿を考え，大学での学び，どの様な資格にチャレンジするか人生設計を企て大局的な視野に立って考える。各業界のエキスパートである外部講師を交えて、グループワーク、ビジネスマナーなど、大学３年間の集大成として卒業後を見据えたアクションプランの作成を行う。								
到達目標	将来の人生設計を考えた4年間の学生生活の過ごし方と職業理解を高める。現時点での，自分自身を理解した上で，社会現状，各業界・業種の特徴，ワークスタイルなど考えながら将来に対して大学生活で何をすべきかについて考え動機づけを行う。授業を通じて，将来の自分を見据えたキャリアデザインを描き，そこに到達するまでの4年間の行動方針の設定を目指す。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	キャリアデザインとは：講師のキャリアを通じて重要性を理解する 就職支援課より配布される就活ガイドBook、授業中に配布される資料の事前・事後チェック	
第2回	ライフコースを知ろう ～将来のキャリアと大学教育～：教材を読みキャリアの重要性を理解する 履歴書の作成・ES対策について検討する 教科書の事前・事後チェック	
第3回	働くことを考える：教材を通じて働くことの意義を理解する。 就職活動での面接対策指導を行う。 教科書の事前・事後チェック	
第4回	変化のなかの若者と意識：教材を通じて現代社会の若者動向について考える 配布資料の事前・事後チェック	
第5回	社会が求める人物像：グループ討議により社会的スキルについて考える 配布資料の事前・事後チェック	
第6回	大学から労働への移行：実社会で求める人物像についてグループ討議 配布資料の事前・事後チェック	
第7回	企業のフレキシビリティと労働者のキャリア：労働環境・労働形態について学ぶ 配布資料の事前・事後チェック	
第8回	日本の雇用制度とワーク・ライフ・バランス：日本的な雇用形態を理解する 配布資料の事前・事後チェック	
第9回	世界をみすえたキャリアのあり方：ローモデル教育として世界で活躍する人物について考える 配布資料の事前・事後チェック	
第10回	キャリアとビジネススキル(1) ～挨拶・言葉遣い～：社会的スキルとして事例にて学ぶ 配布資料の事前・事後チェック	
第11回	キャリアとビジネススキル(2) ～ビジネス文書の書き方～：ビジネスに必要な基礎知識を学ぶ 配布資料の事前・事後チェック	
第12回	キャリアとビジネススキル(3) ～チームビルディング～：キャリアについてグループ討議 討議内容について準備と振り返り	
第13回	人生ロードマップ作成：目標と夢の明確化を行う レポート作成と振り返り	
第14回	大学4年間のアクションプラン作成：4年間のアクションプランを発表する 事前に発表準備と振り返り	
第15回	大学生活とキャリアデザイン：年次ごとの目標を明確化しアクションプランを考える 事後でのレポート作成	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	40	夢・目標・アクションプランが具体的に述べてあること。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする
小テスト		
定期試験	30	ビジネスマナーが習得できているかを評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・事前にトピックについて予習を行い，事後学習として講義のまとめを行うことを強く勧める。 ・受講前に，教科書を読み理解して授業に臨むこと ・グループワークでは積極的に授業に参加すること ・授業中に他学生に迷惑を掛けないように受講すること
授業外学修	1 授業毎に紹介する教科書，参考文献を次回授業までに読んでおくこと。 2 復習として，グループワーク，課題のレポートを書く。 3 発展学修として，授業で紹介された記事などを読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	別途指示

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	小野田博之著「自分のキャリアを自分で考えるためのワークブック」（日本能率協会マネジメントセンター，2005）
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	企業（銀行・都市ガス会社），自営（企業コンサルティング経験），会社役員など経営戦略に携わる経験
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	企業コンサルティング経験を生かして，学生の社会人基礎力向上の指導などを行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．キャリアデザイン考え方が理解できる	キャリアデザインの考え方が理解でき、その考え方に対して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	キャリアデザインの考え方を理解し、共感し疑問を持つことができる。	キャリアデザインの考え方と講義の意図が理解することができる。	キャリアデザインの考え方や講義の意図が概ね理解することができる。	キャリアデザインの考え方が理解できない。
思考・問題解決能力	2．社会動向を理解している	信頼できるリソースから、社会動向を調査し学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性に注意して、社会動向を概ね正しい内容かどうかを理解して学習課題に取り組むことができる。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性についての注意が不十分で、学習内容にいくつかの誤りが含まれている。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができない。
思考・問題解決能力	３．他者を理解し問題解決が出来る	他者と自分との共通点や違いを認識したうえで、他者の考えや思いを多角的に想像し、共感することができる。	他者のことばや身体表現だけでなく、これまでの経験や取り巻く環境を想像しながら、他者の思いを想像することができる。	他者のことばや身体表現から、その人の考えや思いの一面を想像することができる。	他者は、それぞれに感じ方や考え方が多様であることを認識している。	他者の考え方や思いが理解できない。
思考・問題解決能力	４．チームビルディングでが身に付いてる	チームに臨機応変に応答する即興性、集団で協働して目標を達成することができ、チームメイトとの関係性を育むことができる。	議論をより活発で創造的なものにするため、チームメイトの多様性を配慮・尊重しながら行動することができる	チームメイトとの課題解決に取り組むことができる。	チームメイトとの課題解決のあり方を認識することができる。	チームメイトとの協働作業による問題解決ができない。
思考・問題解決能力	５．コミュニケーションによる問題解決能力が身に付いている	相手とのコミュニケーションを解釈し、相手の感情に応答しながら多様な表現方法にて問題解決ができる。	伝える聞くために、言葉だけでなく、身体表現方法（声やジェスチャーなど）を意識しながらコミュニケーションをとることができる。	相手の話を受容する聴き方を意識しながら、分は何を伝えたいかなど、自分の考えや思いを認識したうえで話すことができる。	相手を否定する聞き方と肯定する聞き方の違いなど、様々な段階や種類があることを認識することができる。	相手の話を聞くこと、話すことができない。

科目名	ビジネスプランコンテスト			授業番号	LI302	サブタイトル			
教員	佐々木 公之								
単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	・ビジネスプラン（事業計画書）の概念を学ぶことで，企業経営の経営計画・起業の本質を理解する。 ・ビジネスプラン作成に必要な手順，方法等について学ぶ。 ・ベンチャー企業の実例をもとに，成功・失敗の要因などについて考察する。								
到達目標	・ビジネスプラン（事業計画書）の概念と，社会におけるその重要性を，他者に説明できるようになる。 ・ビジネスプラン（事業計画書）を通じて，経営者・起業家の気持ちが持てるようになる）。 ・広義の起業家精神を持って勉学，社会生活に臨むことができるようになる。 ・身近なベンチャー企業の例を複数挙げられる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ビジネスプラン作成とは何か 自身のアイデアを明確にする	
第2回	良いビジネスプランを作成する準備（１） -ビジネスプランの作成目的-	
第3回	良いビジネスプランを作成する準備（２） -ビジネスプランの進め方-	
第4回	ビジネスプラン作成のフレームワーク（１） -顧客分析の進め方-	
第5回	ビジネスプラン作成のフレームワーク（２） -競合分析の進め方-	
第6回	ビジネスプラン作成のフレームワーク（３） -自社分析の進め方-	
第7回	ビジネスプラン作成のポイント（１） -誰がやるのか-	
第8回	ビジネスプラン作成のポイント（２） -いかに儲かる仕組みを創るか-	
第9回	ビジネスプランの構成と書き方（１） -ビジネスプランの事業概要-	
第10回	ビジネスプランの構成と書き方（２） -基本戦略-	
第11回	ビジネスプランの構成と書き方（３） -財務計画(1)-	
第12回	ビジネスプランの構成と書き方（４） -財務計画(2)-	
第13回	ビジネスプランとアプトプット（１） -プレゼンテーション技法-	
第14回	ビジネスプランとアプトプット（２） -ビジネスプラン発表-	
第15回	ビジネスプランとアプトプット（３） -ビジネスプランの総括-	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講時の発言等の積極性を評価する。
レポート	20	修了レポートの内容レベルを評価する。レポート内容を確認後、コメントを付けてフィードバックを行う。
小テスト		
定期試験	50	ビジネスプランの内容レベルを評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・ビジネスプラン作成は，単なる知識の一方的伝達ではなく，双方向の議論を重視する。普段から問題意識を持ち，質問その他，幅広く発言できるようにしておくこと。
授業外学修	1　予習として，講義での指示やシラバス，テキストを参照し，授業内容にかかわる部分の疑問点を明らかにしておくこと。 2　広く新聞，雑誌・書籍，TV・ラジオ，ウエブサイト等から社会経済の新しい動向の把握に努めること。 3　関連機関の行う講習・講演会，見学会，起業家との触れ合いなどの機会を積極的に探して参加する努力をすること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ビジネス実務と経営学の基礎を学ぶ教科書ノート	佐々木公之、大田住吉他	銀河書籍	9784866450278	1100
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ベンチャー企業	松田修一	日本経済新聞社	978-4-532-11303-2	1000
参考書：自由記載				
その他				
備考				

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	経営コンサルタントとして起業家に向けビジネスプラン作成の指導実績あり
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	企業コンサルティングの経験を生かして，ビジネスプラン作成や論理的思考力向上などの指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．ビジネスプランの考え方が理解できる	キャリアデザインの考え方が理解でき、その考え方に対して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	ビジネスプランの考え方を理解し、共感し疑問を持つことができる。	ビジネスプランの考え方と講義の意図が理解することができる。	ビジネスプランの考え方や講義の意図が概ね理解することができる。	ビジネスプランの考え方が理解できない。
思考・問題解決能力	2．社会動向を理解している	信頼できるリソースから、社会動向を調査し学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性に注意して、社会動向を概ね正しい内容かどうかを理解して学習課題に取り組むことができる。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができる。	リソースの信頼性についての注意が不十分で、学習内容にいくつかの誤りが含まれている。	リソースを用いて、学習課題に取り組むことができない。
思考・問題解決能力	3．ビジネス課題を理解し問題解決が出来る	ビジネス課題を多角的に想像し、ビジネスアイデアを形式知化できる。	ビジネス課題を想像しながら、アイデアの思いを想像することができる。	ビジネス課題を想像することができる。	ビジネス課題が多様であることを認識している。	ビジネス課題が理解できない。
技能	1．チームビルディングでが身に付いてる	チームに臨機応変に応答する即興性、集団で協働して目標を達成することができ、チームメイトとの関係性を育むことができる。	議論をより活発で創造的なものにするため、チームメイトの多様性を配慮・尊重しながら行動することができる	チームメイトとの課題解決に取り組むことができる。	チームメイトとの課題解決のあり方を認識することができる。	チームメイトとの協働作業による問題解決ができない。
技能	2．コミュニケーションによる問題解決能力が身に付いている	相手とのコミュニケーションを解釈し、相手の感情に応答しながら多様な表現方法にて問題解決ができる。	伝える聞くために、言葉だけでなく、身体表現方法（声やジェスチャーなど）を意識しながらコミュニケーションをとることができる。	相手の話を受容する聴き方を意識しながら、分は何を伝えたいかなど、自分の考えや思いを認識したうえで話すことができる。	相手を否定する聞き方と肯定する聞き方の違いなど、様々な段階や種類があることを認識することができる。	相手の話を聞くこと、話すことができない。

科目名	インターンシップ（短期）	授業番号	LI303	サブタイトル	
教員	佐々木 公之				

単位数	2単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択

授業概要	約2週間に亘って，将来のキャリアを念頭に入れ企業・行政・NPOにて就業体験を行う制度である。職場の実情を知り体感することで職業理解，実務能力を向上させるだけでなく，自己の職業適性について考える契機となる。学内にて事前研修を行った後，実際9-10日間のインターンシップを経験する。期間中は，「インターンシップ実施日誌」，受け入れ先からの実習の態度，意欲，成果について評価された「インターンシップ実施評価報告書」，インターンシップ終了後の「体験報告書」にて総合的に精査し評価される。
到達目標	・職業，勤労をより実践的に理解する。 ・仕事を遂行する上での様々な技能を実践的に習得する。 ・自己の将来を見据えて人間的な成長を図る。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。
授業計画 備考	
授業計画 自由記載	第1回 社会とインターンシップ 第2回 ソーシャルマナー 第3回 応募先決定・応募 第4～28回 インターンシップ実習 第29回 実習体験報告 第30回 インターンシップふりかえり
授業計画 備考2	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	実習受け入れ先からのフィードバックを基づき評価を行う。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	30	学内での取組み状況・体験報告会を通じて評価を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講前に，インターンシップ先の業界の外部環境を調査しビジネススキルを磨いておくこと。
授業外学修	1　予習として，希望インターンシップ先の業界調査を行うこと。 2　復習として，インターンシップでの実習を通じて得られたことなをレポートとして書く。 3　発展学修として，講師・インターンシップ先より紹介された参考文献・記事・ニュースなどを理解すること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	体験報告書等

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜配布
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	企業で社員教育・インターンシップ受け入れなどの経験
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	企業等からの講師による指導を実施
実務経験をいかした教育内容	企業でのインターンシップを受け入れた経験を生かして，学生の適応力，マナー，挨拶などの社会人基礎力向上にいかす。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．インターンシップ先の考え方が理解できる	インターンシップ先の考え方が理解でき、その考え方に対して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	インターンシップ先の考え方を理解し、共感し疑問を持つことができる。	インターンシップ先の考え方と講義の意図が理解することができる。	インターンシップ先の考え方や講義の意図が概ね理解することができる。	インターンシップ先の考え方が理解できない。
思考・問題解決能力	2．社会人としてのマナーを身に付いている。	社会人に必要なビジネスマナーが身に付いて、インターンシップに取り組むことができる。	社会人に必要なビジネスマナーが概ね身に付いて、インターンシップに取り組むことができる。	ビジネスマナーの心構えを持って、インターンシップに取り組むことができる。	社会人に必要なビジネスマナーの心構えが不十分で、インターンシップ先にミスがある。	社会人に必要なビジネスマナーの身に付いておらず、インターンシップ先にうまく取り組めない。
思考・問題解決能力	３．他者を理解し問題解決が出来る	他者と自分との共通点や違いを認識したうえで、他者の考えや思いを多角的に想像し、共感することができる。	他者のことばや身体表現だけでなく、これまでの経験や取り巻く環境を想像しながら、他者の思いを想像することができる。	他者のことばや身体表現から、その人の考えや思いの一面を想像することができる。	他者は、それぞれに感じ方や考え方が多様であることを認識している。	他者の考え方や思いが理解できない。
思考・問題解決能力	４．チームビルディングでが身に付いてる	チームに臨機応変に応答する即興性、集団で協働して目標を達成することができ、チームメイトとの関係性を育むことができる。	議論をより活発で創造的なものにするため、チームメイトの多様性を配慮・尊重しながら行動することができる	チームメイトとの課題解決に取り組むことができる。	チームメイトとの課題解決のあり方を認識することができる。	チームメイトとの協働作業による問題解決ができない。
思考・問題解決能力	５．コミュニケーションによる問題解決能力が身に付いている	相手とのコミュニケーションを解釈し、相手の感情に応答しながら多様な表現方法にて問題解決ができる。	伝える聞くために、言葉だけでなく、身体表現方法（声やジェスチャーなど）を意識しながらコミュニケーションをとることができる。	相手の話を受容する聴き方を意識しながら、分は何を伝えたいかなど、自分の考えや思いを認識したうえで話すことができる。	相手を否定する聞き方と肯定する聞き方の違いなど、様々な段階や種類があることを認識することができる。	相手の話を聞くこと、話すことができない。

科目名	インターンシップ（中長期）			授業番号	LI304	サブタイトル			
教員	佐々木 公之								
単位数	4単位	開講年次	3年	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	1ヵ月～2ヵ月に亘って，将来のキャリアを考え国内外にて就業体験を企業・行政・NPOにて行う制度である。国内企業にて長期間の就業体験を積むことで職業理解，実務能力向上を目指す。海外インターンシップでは海外での就業体験にて，異文化理解だけでなく，語学力の向上にて国際的視野に立った人材育成が図られる。学内にて事前研修を行った後，実際20−50日間のインターンシップを経験する。期間中は，「インターンシップ実施日誌」，受け入れ先からの実習の態度，意欲，成果について評価された「インターンシップ実施評価報告書」，インターンシップ終了後の「体験報告書」にて総合的に精査し評価される。								
到達目標	・職業，勤労をより実践的に理解する。 ・仕事を遂行する上での様々な技能を中長期間掛けて実践的に習得する。 ・自己の将来を見据えて人間的な成長を図る。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1回 社会とインターンシップ 第2回 ソーシャルマナー 第3回応募先決定・応募 第4～98回 インターンシップ実習 第99回 実習体験報告 第100回 インターンシップふりかえり								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	実習受け入れ先からのフィードバックを基づき評価を行う。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	30	学内での取組み状況・体験報告会を通じて評価を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講前に，インターンシップ先の業界の外部環境を調査しビジネススキルを磨いておくこと。
授業外学修	1 予習として，希望インターンシップ先の業界調査を行うこと。 2 復習として，インターンシップでの実習を通じて得られたことなをレポートとして書く。 3 発展学修として，講師・インターンシップ先より紹介された参考文献・記事・ニュースなどを理解すること。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	体験報告書等

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜配布
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	企業で社員教育・インターンシップ受け入れなどの経験
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	企業等からの講師による指導を実施
実務経験をいかした教育内容	企業でのインターンシップを受け入れた経験を生かして，学生の適応力，マナー，挨拶などの社会人基礎力向上にいかす。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．インターンシップ先の考え方が理解できる	インターンシップ先の考え方が理解でき、その考え方に対して共感、疑問を持ちディスカッションできる。	インターンシップ先の考え方を理解し、共感し疑問を持つことができる。	インターンシップ先の考え方と講義の意図が理解することができる。	インターンシップ先の考え方や講義の意図が概ね理解することができる。	インターンシップ先の考え方が理解できない。
思考・問題解決能力	2．社会人としてのマナーを身に付いている。	社会人に必要なビジネスマナーが身に付いて、インターンシップに取り組むことができる。	社会人に必要なビジネスマナーが概ね身に付いて、インターンシップに取り組むことができる。	ビジネスマナーの心構えを持って、インターンシップに取り組むことができる。	社会人に必要なビジネスマナーの心構えが不十分で、インターンシップ先にミスがある。	社会人に必要なビジネスマナーの身に付いておらず、インターンシップ先にうまく取り組めない。
思考・問題解決能力	３．他者を理解し問題解決が出来る	他者と自分との共通点や違いを認識したうえで、他者の考えや思いを多角的に想像し、共感することができる。	他者のことばや身体表現だけでなく、これまでの経験や取り巻く環境を想像しながら、他者の思いを想像することができる。	他者のことばや身体表現から、その人の考えや思いの一面を想像することができる。	他者は、それぞれに感じ方や考え方が多様であることを認識している。	他者の考え方や思いが理解できない。
思考・問題解決能力	４．チームビルディングでが身に付いてる	チームに臨機応変に応答する即興性、集団で協働して目標を達成することができ、チームメイトとの関係性を育むことができる。	議論をより活発で創造的なものにするため、チームメイトの多様性を配慮・尊重しながら行動することができる	チームメイトとの課題解決に取り組むことができる。	チームメイトとの課題解決のあり方を認識することができる。	チームメイトとの協働作業による問題解決ができない。
思考・問題解決能力	５．コミュニケーションによる問題解決能力が身に付いている	相手とのコミュニケーションを解釈し、相手の感情に応答しながら多様な表現方法にて問題解決ができる。	伝える聞くために、言葉だけでなく、身体表現方法（声やジェスチャーなど）を意識しながらコミュニケーションをとることができる。	相手の話を受容する聴き方を意識しながら、分は何を伝えたいかなど、自分の考えや思いを認識したうえで話すことができる。	相手を否定する聞き方と肯定する聞き方の違いなど、様々な段階や種類があることを認識することができる。	相手の話を聞くこと、話すことができない。

科目名	夏季語学留学			授業番号	LJ101	サブタイトル			
教員	佐々木 真帆美								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	英語圏での語学研修や現地での滞在を通して英語力とコミュニケーションスキルに加え異文化で生きる力を集中して高めたい学生を対象にした留学プログラムである。夏休み（8月下旬～9月上旬）期間中にカナダのバンクーバーアイランドのEF校で週26レッスンの英語学習を課す。								
到達目標	１．留学で日常生活に必要な英語の語彙， 表現を理解できる。 ２．語学学校や日常生活の様々なアクティビティを通して， 英語の4技能をバランスよく向上させることができる。 ３．簡単な日常会話であれば外国人とコミュニケーションを取ることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	・事前指導では， 留学前に英語学習や留学先について調べてレポートを提出すること。 ・事後指導では， 留学後に留学で得られたものについてレポートを提出すること。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	100	事前事後学習の課題を総合的に評価する。なお，フィードバックは返却時に個別に行う。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	中国学園を代表して研修に参加するものとし，留学中は本学の学生として恥ずかしくない振る舞いを心がけること。
授業外学修	留学期間中は，語学学校で出された課題について1日2時間程度を予習・復習の授業外学修に費やすこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	EF校で指定されたテキストを使用する（留学費用の中にテキスト代は含まれている）。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	なし
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．留学で日常生活に必要な英語の語彙，表現を理解できる。	日常生活に必要な英語の語彙や表現のニュアンスをしっかり理解し，応用して使用することができる。	日常生活に必要な英語の語彙や表現を理解し，使用することができる。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を理解している。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を一部覚えているが，理解できていない語彙や表現がある。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を理解していない。
知識・理解	２．日常生活に関する事柄について，英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について，既習の英単語・英語表現・文法事項を活用して，英語で自由にコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について，既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて，英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について，既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて，簡単な英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について，語彙選びや文法的ミスがあるものの，簡単な英語であれば概ねコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について，語彙選びや文法的ミスが多く，簡単な英語であってもコミュニケーションを取ることができない。
知識・理解	３．言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解している。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを明確に理解したうえで，他者との違いを調整しコミュニケーションをとることができる。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解したうえで，他者との違いを調整しようする。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解し，その違いを説明することができる。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いがあることは認識しているが，その違いを明確に説明することができない。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを認識できていない。
技能	１．英語を聞いたり読んだりして，その内容を理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして，その内容を的確に理解し，それを自分の言葉で正確に説明することができる。	英語を聞いたり読んだりして，その内容を理解し，その概要を自分の言葉で説明することができる。	英語を聞いたり読んだりして，その内容を概ね理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして，その内容の一部を理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして，その内容を理解することができない。
技能	２．自分が伝えたい内容を英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を活用して，自分が伝えたい内容を英語で的確に表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して，自分が伝えたい内容を短い英文を用いて表現することができる。	既存の英文を参考にして自分が伝えたい内容を英語で表現することができる。	既存の英文を参考にして自分が伝えたい内容を英語で表現しようとするが，一部間違いがあり内容が伝わりにくい。	既存の英文を参考にしても自分が伝えたい内容を英語で表現することができない。
技能	３．他の言語や文化に興味をもち，異なる文化をもつ人とコミュニケーションをとることができる。	他の言語や文化について自発的に調べ，異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場に積極的に入って行くことができる。	他の言語や文化について興味をもち，異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場に入って行くことができる。	他の言語や文化について興味をもち，異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場が設定されればコミュニケーションをとることができる。	他の言語や文化について興味はあるが，異なる文化をもつ人とコミュニケーションをとろうとしない。	他の言語や文化について興味をもたず，異なる文化をもつ人とのコミュニケーションをとろうとしない。

科目名	春季語学留学			授業番号	LJ102	サブタイトル			
教員	佐々木 真帆美								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	英語圏での語学研修や現地での滞在を通して英語力とコミュニケーションスキルに加え異文化で生きる力を集中して高めたい学生を対象にした留学プログラムである。春休み(2月下旬から3月上旬)期間中にオーストラリア・シドニーのEF校で週26レッスンの英語学習を課す。								
到達目標	1.留学で日常生活に必要な英語の語彙， 表現を理解できる。 2.語学学校や日常生活の様々なアクティビティを通して， 英語の4技能をバランスよく向上させることができる。 3.簡単な日常会話であれば外国人とコミュニケーションを取ることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解>，<技能>の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	・事前指導では， 留学前に英語学習や留学先について調べてレポートを提出すること。 ・事後指導では， 留学後に留学で得られたものについてレポートを提出すること。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	100	事前事後学習の課題を総合的に評価する。なお，フィードバックは返却時に個別に行う。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	中国学園を代表して研修に参加するものとし，留学中は本学の学生として恥ずかしくない振る舞いを心がけること。
授業外学修	留学期間中は，語学学校で出された課題について1日2時間程度を予習・復習の授業外学修に費やすこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	EF校で指定されたテキストを使用 する(留学費用の中にテキスト代は含まれている)。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	なし
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．留学で日常生活に必要な英語の語彙，表現を理解できる。	日常生活に必要な英語の語彙や表現のニュアンスをしっかり理解し，応用して使用することができる。	日常生活に必要な英語の語彙や表現を理解し，使用することができる。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を理解している。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を一部覚えているが，理解できていない語彙や表現がある。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を理解していない。
知識・理解	２．日常生活に関する事柄について，英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について，既習の英単語・英語表現・文法事項を活用して，英語で自由にコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について，既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて，英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について，既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて，簡単な英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について，語彙選びや文法的ミスがあるものの，簡単な英語であれば概ねコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について，語彙選びや文法的ミスが多く，簡単な英語であってもコミュニケーションを取ることができない。
知識・理解	３．言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解している。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを明確に理解したうえで，他者との違いを調整しコミュニケーションをとることができる。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解したうえで，他者との違いを調整しようする。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解し，説明することができる。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いがあることは認識しているが，その違いを明確に説明することができない。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを認識できていない。
技能	１．英語を聞いたり読んだりして，その内容を理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして，その内容を的確に理解し，それを自分の言葉で正確に説明することができる。	英語を聞いたり読んだりして，その内容を理解し，その概要を自分の言葉で説明することができる。	英語を聞いたり読んだりして，その内容を概ね理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして，その内容の一部を理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして，その内容を理解することができない。
技能	２．自分が伝えたい内容を英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を活用して，自分が伝えたい内容を英語で的確に表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して、自分が伝えたい内容を短い英文を用いて表現することができる。	既存の英文を参考にして自分が伝えたい内容を英語で表現することができる。	既存の英文を参考にして自分が伝えたい内容を英語で表現しようとするが，一部間違いがあり内容が伝わりにくい。	既存の英文を参考にしても自分が伝えたい内容を英語で表現することができない。
技能	３．他の言語や文化に興味をもち，異なる文化をもつ人とコミュニケーションをとることができる。	他の言語や文化について自発的に調べ，異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場に積極的に入って行くことができる。	他の言語や文化について興味をもち，異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場に入って行くことができる。	他の言語や文化について興味をもち，異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場が設定されればコミュニケーションをとることができる。	他の言語や文化について興味はあるが，異なる文化をもつ人とコミュニケーションをとろうとしない。	他の言語や文化について興味をもたず，異なる文化をもつ人とのコミュニケーションをとろうとしない。

科目名	セメスター留学			授業番号	LJ201	サブタイトル			
教員	佐々木 真帆美								
単位数	12単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	英語圏での語学研修や現地での滞在を通して英語力とコミュニケーションスキルに加え異文化で生きる力を集中して高めたい学生を対象にしたプログラムである。2年後期（9月末～1月中旬）期間中に北米，ヨーロッパ，オセアニア，アジアのさまざまな会場等のESL（English as a Second Language）プログラムにて週30時間以上の英語学習を課した留学プログラムである。								
到達目標	各留学先で提供されるプログラムを合格点で修了させること。分野別に授業が実施されることになるが，全ての授業で合格点を獲得しなければ，所定12単位は取得できないので注意すること。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	留学先ごとに若干の差があるが，Listening， Speaking， Reading， Writing， Vocabulary， Grammar， Spelling， Pronunciationの分野から現地でのESLの授業が行われる。いずれの留学先においても，ESLの授業クラスはレベル分けされており，プレースメント・テスト等により所属クラスが決定される。								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	100	留学先から送付される各授業の成績や担当教員の所感等を総合的に判断して評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	中国学園を代表して研修に参加するものとし，留学中は本学の学生として恥ずかしくない振る舞いを心がけること。
授業外学修	留学期間中は，1日3時間程度を予習・復習の授業外学修に費やし，残りの時間は帰国後（12月末）から学期が終了する1月下旬まで，帰国プレゼンテーションのための資料づくりや報告書の作成等に費やすことで，必要な時間数を確保することに努める。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	留学先にて指定されたものを購入する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	なし
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．留学で日常生活に必要な英語の語彙，表現を理解できる。	日常生活に必要な英語の語彙や表現のニュアンスをしっかり理解し，応用して使用することができる。	日常生活に必要な英語の語彙や表現を理解し，使用することができる。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を理解している。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を一部覚えているが，理解できていない語彙や表現がある。	日常生活に必要な英語の語彙や英語表現の意味を理解していない。
知識・理解	２．日常生活に関する事柄について，英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について，既習の英単語・英語表現・文法事項を活用して，英語で自由にコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について，既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて，英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について，既習の英単語・英語表現・文法事項を用いて，簡単な英語でコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について，語彙選びや文法的ミスがあるものの，簡単な英語であれば概ねコミュニケーションを取ることができる。	日常生活に関する事柄について，語彙選びや文法的ミスが多く，簡単な英語であってもコミュニケーションを取ることができない。
知識・理解	３．言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解している。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを明確に理解したうえで，他者との違いを調整しコミュニケーションをとることができる。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解したうえで，他者との違いを調整しようする。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを理解し，説明することができる。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いがあることは認識しているが，その違いを明確に説明することができない。	言語・非言語コミュニケーションに関する文化的違いを認識できていない。
技能	１．日常生活において英語を聞いたり読んだりして，その内容を理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして，その内容を的確に理解し，それを自分の言葉で正確に説明することができる。	英語を聞いたり読んだりして，その内容を理解し，その概要を自分の言葉で説明することができる。	英語を聞いたり読んだりして，その内容を概ね理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして，その内容の一部を理解することができる。	英語を聞いたり読んだりして，その内容を理解することができない。
技能	２．日常生活において自分が伝えたい内容を英語で表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を活用して自分が伝えたい内容を英語で的確に表現することができる。	既習の英単語・英語表現・文法事項を応用して自分が伝えたい内容を短い英文を用いて表現することができる。	既存の英文を参考にして自分が伝えたい内容を英語で表現することができる。	既存の英文を参考にして自分が伝えたい内容を英語で表現しようとするが，一部間違いがあり内容が伝わりにくい。	既存の英文を参考にしても，自分が伝えたい内容を英語で表現することができない。
技能	３．他の言語や文化に興味をもち，異なる文化をもつ人とコミュニケーションをとることができる。	他の言語や文化について自発的に調べ，異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場に積極的に入って行くことができる。	他の言語や文化について興味をもち，異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場に入って行くことができる。	他の言語や文化について興味をもち，異なる文化をもつ人とのコミュニケーションの場が設定されればコミュニケーションをとることができる。	他の言語や文化について興味はあるが，異なる文化をもつ人とコミュニケーションをとろうとしない。	他の言語や文化について興味をもたず，異なる文化をもつ人とのコミュニケーションをとろうとしない。

科目名	日本事情 (外国人留学生対象科目)	授業番号	LK101	サブタイトル				
教員	小西　達也、杉山　明							
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	『初中級からはじめる日本語プロジェクト・ワーク』（くろしお出版）のテーマを参照し，日本の社会的，文化的，習慣的なテーマについて幅広く学習し，日本人のものの見方，考え方を知ることによって日本での生活に適応できる能力を身につける。また，個人やグループで文章作成，発表などを行い，日本語でアウトプットし，発信できる能力を養う。								
到達目標	１．日本の文化や社会について自国の事情と比較しつつ知識を深めることができる。 ２．日本や日本人を正しく理解することができる。 ３．日本や日本人が関わるコミュニティーに参加できるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	自己紹介・自国紹介 これから日本事情を学ぶにあたって，自分がどのような人間で，どのような立場に立ち物事を考えているのかを自己分析しながら，グループで伝え合う。また，今後日本と自国を比較できるように，自国のことを分析し，他者にわかりやすく伝えることを目指す。 ・課題：「アニメから日本の生活を見てみる」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第2回	自己紹介・自国紹介 これから日本事情を学ぶにあたって，自分がどのような人間で，どのような立場に立ち物事を考えているのかを自己分析しながら，グループで伝え合う。また，今後日本と自国を比較できるように，自国のことを分析し，他者にわかりやすく伝えることを目指す。 ・課題：「アニメから日本の生活を見てみる」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第3回	アニメから日本の生活を見てみる（1） 日本の家や生活について，時代ごとに比較をしながら説明する。また，自国の家や生活についてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国の家や生活を比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第4回	アニメから日本の生活を見てみる（1） 日本の家や生活について，時代ごとに比較をしながら説明する。また，自国の家や生活についてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国の家や生活を比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第5回	アニメから日本の生活を見てみる（2） 日本と自国の家や生活について，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本の家や生活を知るために，グループで日本の家や生活について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 ・課題：「日本の伝統文化にふれる」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第6回	アニメから日本の生活を見てみる（2） 日本と自国の家や生活について，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本の家や生活を知るために，グループで日本の家や生活について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 ・課題：「日本の伝統文化にふれる」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第7回	日本の伝統文化にふれる（1） 日本の伝統文化について，伝統文化ごとに背景や歴史などを交えながら説明する。また，自国の伝統文化についてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国の伝統文化を比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第8回	日本の伝統文化にふれる（1） 日本の伝統文化について，伝統文化ごとに背景や歴史などを交えながら説明する。また，自国の伝統文化についてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国の伝統文化を比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第9回	日本の伝統文化にふれる（2） 日本と自国の伝統文化について，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本の伝統文化を知るために，グループで日本の家や生活について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 ・課題：日本人に日本の伝統文化に関するインタビューを行う。	小西　達也、杉山　明
第10回	日本の伝統文化にふれる（2） 日本と自国の伝統文化について，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本の伝統文化を知るために，グループで日本の家や生活について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 ・課題：日本人に日本の伝統文化に関するインタビューを行う。	小西　達也、杉山　明
第11回	日本の伝統文化にふれる（3） 日本の伝統文化について，日本人にインタビューした内容・結果を全体でグループ発表をする。グループ発表後，全体で議論を行う。 ・課題：「いろいろな食文化を知る」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第12回	日本の伝統文化にふれる（3） 日本の伝統文化について，日本人にインタビューした内容・結果を全体でグループ発表をする。グループ発表後，全体で議論を行う。 ・課題：「いろいろな食文化を知る」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第13回	いろいろな食文化を知る（1） 日本の食文化について，料理や食材から理解が深められるように説明する。また，自国の食文化についてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国の食文化を比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第14回	いろいろな食文化を知る（1） 日本の食文化について，料理や食材から理解が深められるように説明する。また，自国の食文化についてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国の食文化を比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第15回	いろいろな食文化を知る（2） 日本と自国の食文化について，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本の食文化を知るために，グループで食文化について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 ・課題：「地震から身を守る」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明

第16回	いろいろな食文化を知る（2） 日本と自国の食文化について，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本の食文化を知るために，グループで食文化について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 ・課題：「地震から身を守る」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第17回	地震から身を守る（1） 地震について，地震に備える方法や地震が起きたときの困難点などを説明する。また，地震やその他の災害についてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国の地震やその他の災害を比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第18回	地震から身を守る（1） 地震について，地震に備える方法や地震が起きたときの困難点などを説明する。また，地震やその他の災害についてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国の地震やその他の災害を比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第19回	地震から身を守る（2） 日本と自国の地震やその他の災害について，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本の地震やその他の災害を知るために，グループで地震やその他の災害について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 ・課題：「教育を考える」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第20回	地震から身を守る（2） 日本と自国の地震やその他の災害について，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本の地震やその他の災害を知るために，グループで地震やその他の災害について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 ・課題：「教育を考える」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第21回	教育を考える（1） 日本の教育について，問題点や自己肯定感を高める教育などを説明する。また，日本の教育についてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国の教育を比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第22回	教育を考える（1） 日本の教育について，問題点や自己肯定感を高める教育などを説明する。また，日本の教育についてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国の教育を比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第23回	教育を考える（2） 日本の教育について，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本の教育を知るために，グループで教育について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 課題：日本人に日本の教育に関するインタビューを行う。	小西　達也、杉山　明
第24回	教育を考える（2） 日本の教育について，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本の教育を知るために，グループで教育について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 課題：日本人に日本の教育に関するインタビューを行う。	小西　達也、杉山　明
第25回	教育を考える（3） 日本の教育について，日本人にインタビューした内容・結果を全体でグループ発表をする。グループ発表後，見つかった「教育の問題点」について全体で解決案を出すための議論を行う。 ・課題：「リサイクルを考える」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第26回	教育を考える（3） 日本の教育について，日本人にインタビューした内容・結果を全体でグループ発表をする。グループ発表後，見つかった「教育の問題点」について全体で解決案を出すための議論を行う。 ・課題：「リサイクルを考える」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第27回	リサイクルを考える（1） 日本のリサイクルについて，ゴミを減らす方法や歴史などを説明する。また，日本のリサイクルについてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国のリサイクルを比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第28回	リサイクルを考える（1） 日本のリサイクルについて，ゴミを減らす方法や歴史などを説明する。また，日本のリサイクルについてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国のリサイクルを比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第29回	リサイクルを考える（2） 日本のリサイクルについて，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本のリサイクルを知るために，グループで教育について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 最終課題：これまでに学んだ日本事情，あるいは自身が関心ある日本事情に関して調べ，日本人にインタビューした内容も含めてスライドに内容をまとめて、音声もそのスライドに入れる。	小西　達也、杉山　明
第30回	リサイクルを考える（2） 日本のリサイクルについて，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本のリサイクルを知るために，グループで教育について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 最終課題：これまでに学んだ日本事情，あるいは自身が関心ある日本事情に関して調べ，日本人にインタビューした内容も含めてスライドに内容をまとめて、音声もそのスライドに入れる。	小西　達也、杉山　明
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢・態度	20	積極的な受講態度，グループワークへの参加で評価する。
事後課題	40	・文章作成の課題がテーマに沿った内容になっており，指示の内容を理解し適切に文章が書かれているかで評価する。 課題提出後に，コメントを加え，授業内でグループで共有する。 ・インタビューの課題は指示の内容を理解し適切にインタビューが実施できたかで評価する。 インタビュー実施後に，授業内で共有する。
小テスト	20	学習内容を理解しているかどうかで評価する。必要に応じて，適宜授業でフィードバックを行う。
最終課題	20	指示の内容を理解し適切にスライド，音声録音授業内ができているかで評価する。課題提出後，必要に応じてコメントをし，返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1.資料を読んだり，グループで話し合いをしたりするので，積極的に発言すること。 2.テーマに関することばを事前に調べておくこと。 3.グループ発表の準備をよくしておくこと。
授業外学修	1.テーマに関する語彙を調べておくこと。 2.テキストの内容を資料などを使って調べておくこと。 3.学習した内容と自分の考えなどをまとめて文章にすること。 4.資料を探し，発表の練習をすること。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	その他，適宜プリントも配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
初中級からはじめる日本語プロジェクトワーク	幸松英恵，渡辺陽子	くろしお出版	978-4-87424-939-0	

参考書：自由記載	適宜，プリントを配布する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	日本語教員(18年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	日本語教員(18年)での経験から外国人に対して日本事情を日本の生活に役立てるように指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	日本や日本人について正しく理解することができる。	日本や日本人について自身の意見を述べながら他者との協働を通して正しく理解することができる。	日本や日本人について自身の意見を述べることができ，他者の意見を聞きながら正しく理解することができる。	日本や日本人についてある程度自分の意見を述べることができ，他者の意見を聞きながら正しく理解することができる。	日本や日本人について何かを拠り所にしなければ，あまり理解することができない。	日本や日本人について何を拠り所にしても，ほとんど理解することができない。
思考・問題解決能力	日本の文化的・社会的・習慣的な事情について自国の事情と比較しつつ，知識を深めることができる	自らの問題意識に基づいて日本の文化的・社会的・習慣的な事情について十分に理解し，自国の事情と比較しながら他者と議論できる。	自らの問題意識に基づいて日本の文化的・社会的・習慣的な事情について理解し，自国の事情と比較しながら他者に伝えることができる。	自らの問題意識に基づいているものの，日本の文化的・社会的・習慣的な事情について何かを拠り所にすれば，自国の事情を他者に伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてはいるものの，日本の文化的・社会的・習慣的な事情について十分に理解できておらず，自国の事情と比較することができない。	自らの問題意識を設定することができず，日本の文化や社会，習慣について理解できていない。自国の事情とも比較することができない。
技能	日本や日本人が関わるコミュニティに参加できる。	自分から話題を提供し，日本や日本人が関わるコミュニティに参加することができる。	他者から話題を提供されれば，日本や日本人が関わるコミュニティに参加できる。	他者の誘いがあれば，日本や日本人が関わるコミュニティに参加できる。	他者から話題を提供され，話題を提供されれば，日本や日本人が関わるコミュニティに何とか参加できる。	日本や日本人が関わるコミュニティに参加できない。

科目名	アカデミック・ジャパニーズⅠ（外国人留学生対象科目）	授業番号	LK102	サブタイトル	
教員	小西　達也、赫連　茹玉				
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期
授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択		
授業概要	『できる日本語　中級』又は『できる日本語　初中級』（アルク）を習熟度に合わせて教科書として使用し，日本語の四技能（聞く・話す・読む・書く）の力を総合的に伸ばしていく。また，日本で生活したり，大学生活を送るために必要な考えや行動も身につけることを目的とする。				
到達目標	１．中上級レベルの日本語能力（聞く・話す・読む・書く）を身につける。 ２．一連の質問に，ある程度流暢に，自然に対応ができる。話を聞く，あるいは話をする際に聞き手にも自分にも余分な負荷をかけることはないようにする。 ３．自己で学習目標を立て，その目標に沿って計画を遂行できるようにするために，学習者オートノミーを発揮できるようにする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。				
授業計画　備考					

回	概要	担当
第1回	第１課「新たな出会い」（1） ・新しい環境に自分から挑戦して，その環境で印象的に自己紹介することができる。 パート1：興味のあるお知らせの情報を読み取ることができる。 パート2：参加するイベントの内容を話して友達を誘うことができる。	
第2回	第１課「新たな出会い」（1） ・新しい環境に自分から挑戦して，その環境で印象的に自己紹介することができる。 パート1：興味のあるお知らせの情報を読み取ることができる。 パート2：参加するイベントの内容を話して友達を誘うことができる。	
第3回	第1課「新たな出会い」（2） ・新しい環境に自分から挑戦して，その環境で印象的に自己紹介することができる。 パート3：天気予報を読み取って自分の行動を決めることができる。 パート4：覚えてもらえるように印象的に自己紹介することができる。	
第4回	第1課「新たな出会い」（2） ・新しい環境に自分から挑戦して，その環境で印象的に自己紹介することができる。 パート3：天気予報を読み取って自分の行動を決めることができる。 パート4：覚えてもらえるように印象的に自己紹介することができる。	
第5回	第2課「楽しい食事・上手な買い物」（1） ・周りからいろいろな情報を得たり，自分の希望を伝えたりして、満足のいく食事や買い物をすることができる。 パート1：レストランの紹介を聞いて，お得な情報を得ることができる。 パート2：友達に希望を聞いて，おすすめの情報と情報の探し方を紹介することができる。	
第6回	第2課「楽しい食事・上手な買い物」（1） ・周りからいろいろな情報を得たり，自分の希望を伝えたりして、満足のいく食事や買い物をすることができる。 パート1：レストランの紹介を聞いて，お得な情報を得ることができる。 パート2：友達に希望を聞いて，おすすめの情報と情報の探し方を紹介することができる。	
第7回	第2課「楽しい食事・上手な買い物」（2） ・周りからいろいろな情報を得たり，自分の希望を伝えたりして，満足のいく食事や買い物をすることができる。 パート3：看板やポスターを見て，どんな内容が書いてあるか理解して情報を得ることができる。 パート4：店の人に希望を伝えて依頼することができる。 パート5：買い物についての経験談を周りの人と共有し，自分の買い物に役立てることができる。	
第8回	第2課「楽しい食事・上手な買い物」（2） ・周りからいろいろな情報を得たり，自分の希望を伝えたりして，満足のいく食事や買い物をすることができる。 パート3：看板やポスターを見て，どんな内容が書いてあるか理解して情報を得ることができる。 パート4：店の人に希望を伝えて依頼することができる。 パート5：買い物についての経験談を周りの人と共有し，自分の買い物に役立てることができる。	
第9回	第3課「時間を生かす」（1） ・これからの自分にとって有意義な過ごし方を考えて，周りの人と生活の工夫や時間の使い方などの情報をやりとりすることができる。 パート1：時間の使い方について書かれた雑誌の記事を読んで，情報を得ることができる。 パート2：生活のリズムについて友達の話を聞いて，どんな工夫をしているか知ることができる。	
第10回	第3課「時間を生かす」（1） ・これからの自分にとって有意義な過ごし方を考えて，周りの人と生活の工夫や時間の使い方などの情報をやりとりすることができる。 パート1：時間の使い方について書かれた雑誌の記事を読んで，情報を得ることができる。 パート2：生活のリズムについて友達の話を聞いて，どんな工夫をしているか知ることができる。	
第11回	第3課「時間を生かす」（2） ・これからの自分にとって有意義な過ごし方を考えて，周りの人と生活の工夫や時間の使い方などの情報をやりとりすることができる。 パート3：今の時間を将来の目標を実現するための時間として，どのように活用しているか周りの人と共有することができる。 パート4：日本の生活を充実させるために，何かしている人から情報を得ることができる。	
第12回	第3課「時間を生かす」（2） ・これからの自分にとって有意義な過ごし方を考えて，周りの人と生活の工夫や時間の使い方などの情報をやりとりすることができる。 パート3：今の時間を将来の目標を実現するための時間として，どのように活用しているか周りの人と共有することができる。 パート4：日本の生活を充実させるために，何かしている人から情報を得ることができる。	
第13回	第4課「地域を知って生活する」（1） ・地域の暮らしに必要な情報を得て，快適な生活を送ることができる。 パート1：施設を利用するのにわからないことがあったとき，職員の説明を聞き取ることができる。 パート2：困っていることを管理人に説明し，解決してもらえるように頼むことができる。	
第14回	第4課「地域を知って生活する」（1） ・地域の暮らしに必要な情報を得て，快適な生活を送ることができる。 パート1：施設を利用するのにわからないことがあったとき，職員の説明を聞き取ることができる。 パート2：困っていることを管理人に説明し，解決してもらえるように頼むことができる。	

第15回	第4課「地域を知って生活する」(2) ・地域の暮らしに必要な情報を得て，快適な生活を送ることができる。 パート3：地域にある施設の利用案内を読んで情報を得ることができる。 パート4：よく利用する施設の様子や特徴（便利な点、設備…）などについて紹介することができる。 パート5：電話で道順をメモしながら行き方を知ることができる。	
第16回	第4課「地域を知って生活する」(2) ・地域の暮らしに必要な情報を得て，快適な生活を送ることができる。 パート3：地域にある施設の利用案内を読んで情報を得ることができる。 パート4：よく利用する施設の様子や特徴（便利な点、設備…）などについて紹介することができる。 パート5：電話で道順をメモしながら行き方を知ることができる。	
第17回	第1課～第4課復習，アカデミックライティング	
第18回	第1課～第4課復習，アカデミックライティング	
第19回	第5課「緊急事態」(1) ・予期しないことが起きたとき，状況を理解して適切な行動を取ることができる。また，緊急の事態が起こって経験したことについて話すことができる。 パート1：地震や台風などの速報を聞いたとき，必要な情報を得ることができる。 パート2：こんなときどうする約束の時間に間に合わないとき，状況を説明して指示を受けることができる。	
第20回	第5課「緊急事態」(1) ・予期しないことが起きたとき，状況を理解して適切な行動を取ることができる。また，緊急の事態が起こって経験したことについて話すことができる。 パート1：地震や台風などの速報を聞いたとき，必要な情報を得ることができる。 パート2：こんなときどうする約束の時間に間に合わないとき，状況を説明して指示を受けることができる。	
第21回	第5課「緊急事態」(2) ・予期しないことが起きたとき，状況を理解して適切な行動を取ることができる。また，緊急の事態が起こって経験したことについて話すことができる。 パート3：けがをしたときの状況と今の状態を説明することができる。 パート4：避難の際の注意事項を読んで，情報を得ることができる。 パート5：緊急の事態が起こって経験したことを周りの人と共有することができる。	
第22回	第5課「緊急事態」(2) ・予期しないことが起きたとき，状況を理解して適切な行動を取ることができる。また，緊急の事態が起こって経験したことについて話すことができる。 パート3：けがをしたときの状況と今の状態を説明することができる。 パート4：避難の際の注意事項を読んで，情報を得ることができる。 パート5：緊急の事態が起こって経験したことを周りの人と共有することができる。	
第23回	第6課「地図を広げる」(1) ・ふるさとや住んだことがある場所の地理や気候に合わせた生活を紹介して，お互いの理解を深めることができる。 パート1：説明を読んで，日本の地理や町の様子，気候について知ることができる。 パート2：説明を聞いて，気候に合わせた建物の特徴を知ることができる。	
第24回	第6課「地図を広げる」(1) ・ふるさとや住んだことがある場所の地理や気候に合わせた生活を紹介して，お互いの理解を深めることができる。 パート1：説明を読んで，日本の地理や町の様子，気候について知ることができる。 パート2：説明を聞いて，気候に合わせた建物の特徴を知ることができる。	
第25回	第6課「地図を広げる」(2) ・ふるさとや住んだことがある場所の地理や気候に合わせた生活を紹介して，お互いの理解を深めることができる。 パート3：気候が合わなくて体調を崩した友達の話を聞いて，アドバイスすることができる。 パート4：説明を読んで，町の特徴や歴史などについて知ることができる。 パート5：国・ふるさとの地形や気候を利用した名物や風物詩を紹介することができる。	
第26回	第6課「地図を広げる」(2) ・ふるさとや住んだことがある場所の地理や気候に合わせた生活を紹介して，お互いの理解を深めることができる。 パート3：気候が合わなくて体調を崩した友達の話を聞いて，アドバイスすることができる。 パート4：説明を読んで，町の特徴や歴史などについて知ることができる。 パート5：国・ふるさとの地形や気候を利用した名物や風物詩を紹介することができる。	
第27回	第7課「世代を超えた交流」(1) ・異なる背景を持つ人々との交流を通して自分の視野を広げることができる。 パート1：新しい活動に参加する前に参加者の体験談を読んで，活動の内容や様子についての情報を得ることができる。 パート2：相手の都合や好みを考えながら，自分が興味を持って参加するイベントに誘うことができる。	
第28回	第7課「世代を超えた交流」(1) ・異なる背景を持つ人々との交流を通して自分の視野を広げることができる。 パート1：新しい活動に参加する前に参加者の体験談を読んで，活動の内容や様子についての情報を得ることができる。 パート2：相手の都合や好みを考えながら，自分が興味を持って参加するイベントに誘うことができる。	
第29回	第7課「世代を超えた交流」(2) ・異なる背景を持つ人々との交流を通して自分の視野を広げることができる。 パート3：世代や性別で違いがある話し方を聞いて理解することができる。 パート4：出会った人々との交流について話すことができる。	
第30回	第7課「世代を超えた交流」(2) ・異なる背景を持つ人々との交流を通して自分の視野を広げることができる。 パート3：世代や性別で違いがある話し方を聞いて理解することができる。 パート4：出会った人々との交流について話すことができる。	

授業計画　備考2	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢・態度	20	積極的な受講態度，ペアワークやグループワークへの参加度合，予習復習の成果で評価する。
小テスト	60	・語彙小テスト（課が始まるとき） これから学修する課の語彙を意味，使い方を予習し，理解できているかで評価する。 ・表現・小テスト（課が終わるとき） 学修した文法・表現の正確な理解ができているかで評価する。 ・漢字小テスト（第1課～第4課が終わった後，第5課～第7課が終わった後） 学修した漢字の正確な理解ができているか，適切に使用できるかで評価する。 いずれの小テストも修正し，コメントを加え，返却する。返却後，必要に応じて全体でフィードバックをする。
自主課題ノート	20	学期開始時に自分自身の目標を立て，それに沿った学習課題を自身で設定する。その課題の達成度によって評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前にわからない語彙の意味・用法を調べておくこと。 自ら学習目標を立て，それを実行しようとする姿勢が必要となる。
授業外学修	1.課ごとの語彙・表現を事前に調べておくこと。 2.授業時に配布した教材を復習として課ごとに取り組むこと。 3.授業の内容とは別に学習目標を自ら立て，それが達成できるように取り組むこと。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
できる日本語中級本冊	できる日本語教材開発プロジェクト	アルク	978-4-7574-4267-2	クラス分けによって使用する教科書が異なります。
できる日本語初中級本冊	できる日本語教材開発プロジェクト	アルク	978-4-7574-4266-5	クラス分けによって使用する教科書が異なります。

使用テキスト：自由記載	適宜，プリントも配布する予定。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
漢字たまご　初中級	有山優樹，落合知春など	凡人社	978-4-89358-832-6	
わたしのことばノート	できる日本語教材開発プロジェクト	凡人社	978-4-89358-848-7	
わたしの文法ノート	できる日本語教材開発プロジェクト	凡人社	978-4-89358-837-1	

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	第8課～第10課は夏季休暇中の課題とする予定
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	日本語教員(18年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	日本語教員(18年)の経験から学生が大学生活，日常生活で日本語を使用してコミュニケーションが取れるようにする。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	日本で大学生活，日常生活を送る上で，中級レベル以上に相応しい日本語の語彙・表現を使うことができる。	日本で大学生活，日常生活を送る上で，中級レベル以上に相応しい日本語の語彙・表現を十分に使うことができる。	日本で大学生活，日常生活を送る上で，中級レベル以上に相応しい日本語の語彙・表現をおおよそ使うことができる。	日本で大学生活，日常生活を送る上で，中級レベル以上に相応しい日本語の語彙・表現をある程度使うことができる。	日本で大学生活，日常生活を送る上で，中級レベル以上に相応しい日本語の語彙・表現をあまり使うことができない。	日本で大学生活，日常生活を送る上で，中級レベル以上に相応しい日本語の語彙・表現をほとんど使うことができない。
技能	論理的思考を駆使し，中級以上の漢字を用いながら自分の考えていることを文章で表現できる。	論理的思考を駆使し，中級以上の漢字を用いながら自分の考えていることを文章で自由に表現できる。	論理的思考を駆使し，中級以上の漢字を用いながら自分の考えていることを文章でおおよそ表現できる。	論理的思考を駆使し，中級以上の漢字を用いながら自分の考えていることを文章である程度表現できる。	論理的思考を駆使し，中級以上の漢字を用いながら自分の考えていることを文章で何とか表現できる。	論理的思考を駆使し，中級以上の漢字を用いながら自分の考えていることを文章でほとんど表現できない。

科目名	アカデミック・ジャパニーズⅡ（外国人留学生対象科目）	授業番号	LK103	サブタイトル	
教員	小西　達也、杉山　明				

単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択

授業概要	『できる日本語　中級』又は「できる日本語　初中級』（アルク）を習熟度に合わせて教科書として使用し，日本語の四技能（聞く・話す・読む・書く）の力を総合的に伸ばしていく。また，日本で生活したり，大学生活を送るために必要な考えや行動も身につけることを目的とする。
到達目標	１．中上級レベルの日本語能力（聞く・話す・読む・書く）を身につける。 ２．一連の質問に，ある程度流暢に，自然に対応ができる。話を聞く，あるいは話をする際に聞き手にも自分にも余分な負荷をかけることはないようにする。 ３．自己で学習目標を立て，その目標に沿って計画を遂行できるようにするために，学習者オートノミーを発揮できるようにする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。
授業計画　備考	

回	概要	担当
第1回	第11課「ライフスタイル」（1） ・さまざまな人のライフスタイルを知って，自分の生活観について改めて考え，視野を広げることができる。 パート1：テレビのニュース番組で調査結果の解説を聞いて，日本の大学生の平均的な生活について知ることができる。 パート2：情報誌を読んで，衣食住について最近話題になっていることを知ることができる。	小西　達也、杉山　明
第2回	第11課「ライフスタイル」（1） ・さまざまな人のライフスタイルを知って，自分の生活観について改めて考え，視野を広げることができる。 パート1：テレビのニュース番組で調査結果の解説を聞いて，日本の大学生の平均的な生活について知ることができる。 パート2：情報誌を読んで，衣食住について最近話題になっていることを知ることができる。	小西　達也、杉山　明
第3回	第11課「ライフスタイル」（2） ・さまざまな人のライフスタイルを知って，自分の生活観について改めて考え，視野を広げることができる。 パート3：親しい人との約束を，事情を説明してキャンセルすることができる。 パート4：結婚に関する記事を読んで，自分の考えを話すことができる。	小西　達也、杉山　明
第4回	第11課「ライフスタイル」（2） ・さまざまな人のライフスタイルを知って，自分の生活観について改めて考え，視野を広げることができる。 パート3：親しい人との約束を，事情を説明してキャンセルすることができる。 パート4：結婚に関する記事を読んで，自分の考えを話すことができる。	小西　達也、杉山　明
第5回	第12課「心と体の健康」（1） ・異なる環境において自分の目標を達成するために，心と体の健康を保って生活することができる。 パート1：気持ちが落ち込んだとき，身近な人に状況を話してアドバイスをもらうことができる。 パート2：情報番組を見て，運動習慣と体力にどのような関係があるかについて知ることができる。	小西　達也、杉山　明
第6回	第12課「心と体の健康」（1） ・異なる環境において自分の目標を達成するために，心と体の健康を保って生活することができる。 パート1：気持ちが落ち込んだとき，身近な人に状況を話してアドバイスをもらうことができる。 パート2：情報番組を見て，運動習慣と体力にどのような関係があるかについて知ることができる。	小西　達也、杉山　明
第7回	第12課「心と体の健康」（2） ・異なる環境において自分の目標を達成するために，心と体の健康を保って生活することができる。 パート3：記事を読んで，睡眠に関する情報を得ることができる。 パート4：日本語を使う楽しさや難しさについて，経験をもとに話すことができる。 パート5：新聞の投書欄を読んで，健康について自分の意見を言うことができる。	小西　達也、杉山　明
第8回	第12課「心と体の健康」（2） ・異なる環境において自分の目標を達成するために，心と体の健康を保って生活することができる。 パート3：記事を読んで，睡眠に関する情報を得ることができる。 パート4：日本語を使う楽しさや難しさについて，経験をもとに話すことができる。 パート5：新聞の投書欄を読んで，健康について自分の意見を言うことができる。	小西　達也、杉山　明
第9回	第13課「トレンドに乗ってつながる」（1） ・社会の流行やトレンドについて知り，その中で興味のあることを話題に取り入れて周囲の人々とやりとりすることができる。 パート1：自分と同じことに興味を持っている人の体験談を読んで情報を得ることができる。 パート2：好きな作品（映画・ドラマ・アニメ…）の大まかなストーリーと見どころを紹介することができる。	小西　達也、杉山　明
第10回	第13課「トレンドに乗ってつながる」（1） ・社会の流行やトレンドについて知り，その中で興味のあることを話題に取り入れて周囲の人々とやりとりすることができる。 パート1：自分と同じことに興味を持っている人の体験談を読んで情報を得ることができる。 パート2：好きな作品（映画・ドラマ・アニメ…）の大まかなストーリーと見どころを紹介することができる。	小西　達也、杉山　明
第11回	第13課「トレンドに乗ってつながる」（1） ・社会の流行やトレンドについて知り，その中で興味のあることを話題に取り入れて周囲の人々とやりとりすることができる。 パート3：今，話題のこと，物が社会でどのように広がっているかを知ることができる。 パート4：大切にしている物について，修理を依頼することができる。 パート5：イベントの開催地からのリポートを聞いて，情報を得ることができる。	小西　達也、杉山　明
第12回	第13課「トレンドに乗ってつながる」（1） ・社会の流行やトレンドについて知り，その中で興味のあることを話題に取り入れて周囲の人々とやりとりすることができる。 パート3：今，話題のこと，物が社会でどのように広がっているかを知ることができる。 パート4：大切にしている物について，修理を依頼することができる。 パート5：イベントの開催地からのリポートを聞いて，情報を得ることができる。	小西　達也、杉山　明
第13回	第14課「カルチャーショック」（1） ・異なる社会の中で生活習慣や発想の違いについて気が付いたことを周りの人と共有し，生活を楽しむことができる。 パート1：投書を読んで，自分と異なる習慣などについて理解することができる。 パート2：客からの無理な注文に対して，それができない事情を説明し，丁寧に対応することができる。	小西　達也、杉山　明

第14回	第14課「カルチャーショック」(1) ・異なる社会の中で生活習慣や発想の違いについて気が付いたことを周りの人と共有し，生活を楽しむことができる。 パート1：投書を読んで，自分と異なる習慣などについて理解することができる。 パート2：客からの無理な注文に対して，それができない事情を説明し，丁寧に対応することができる。	小西 達也、杉山 明
第15回	第14課「カルチャーショック」(2) ・異なる社会の中で生活習慣や発想の違いについて気が付いたことを周りの人と共有し，生活を楽しむことができる。 パート3：異文化適応についての解説を聞き，グラフを見ながら心の変化について理解することができる。 パート4：出身地や住んだことがある場所と日本との違いについて様子や状況を少し詳しく描写することができる。	小西 達也、杉山 明
第16回	第14課「カルチャーショック」(2) ・異なる社会の中で生活習慣や発想の違いについて気が付いたことを周りの人と共有し，生活を楽しむことができる。 パート3：異文化適応についての解説を聞き，グラフを見ながら心の変化について理解することができる。 パート4：出身地や住んだことがある場所と日本との違いについて様子や状況を少し詳しく描写することができる。	小西 達也、杉山 明
第17回	第11課～第14課復習，アカデミックライティング	小西 達也、杉山 明
第18回	第11課～第14課復習，アカデミックライティング	小西 達也、杉山 明
第19回	第15課「情報社会に生きる」(1) ・情報とは何かやメディアの特性について知り，自分の考えを持つことができる。 パート1：情報を集めるのにメディアをどのように使い分けているか，理由とともに述べることができる。 パート2：記事を読んでソーシャルメディアのマイナス面を知ることができる。	小西 達也、杉山 明
第20回	第15課「情報社会に生きる」(1) ・情報とは何かやメディアの特性について知り，自分の考えを持つことができる。 パート1：情報を集めるのにメディアをどのように使い分けているか，理由とともに述べることができる。 パート2：記事を読んでソーシャルメディアのマイナス面を知ることができる。	小西 達也、杉山 明
第21回	第15課「情報社会に生きる」(2) ・情報とは何かやメディアの特性について知り，自分の考えを持つことができる。 パート3：ラジオ番組を聞いて個人情報について考えるきっかけを得ることができる。 パート4：自分だけでは判断できないことに対して理由を言って断ることができる。	小西 達也、杉山 明
第22回	第15課「情報社会に生きる」(2) ・情報とは何かやメディアの特性について知り，自分の考えを持つことができる。 パート3：ラジオ番組を聞いて個人情報について考えるきっかけを得ることができる。 パート4：自分だけでは判断できないことに対して理由を言って断ることができる。	小西 達也、杉山 明
第23回	第16課「学校生活」(1) ・国や地域による学校事情の違いや教育に関して話題になっていることを知り，自国と比較したり自分自身の経験を振り返ったりして，意見を述べることができる。 パート1：学校生活の思い出を話しているのを聞いて，日本の学校生活の一部を知ることができる。 パート2：インターネットの書き込みを見て，学校生活について自分の意見を言うことができる。	小西 達也、杉山 明
第24回	第16課「学校生活」(1) ・国や地域による学校事情の違いや教育に関して話題になっていることを知り，自国と比較したり自分自身の経験を振り返ったりして，意見を述べることができる。 パート1：学校生活の思い出を話しているのを聞いて，日本の学校生活の一部を知ることができる。 パート2：インターネットの書き込みを見て，学校生活について自分の意見を言うことができる。	小西 達也、杉山 明
第25回	第16課「学校生活」(2) ・国や地域による学校事情の違いや教育に関して話題になっていることを知り，自国と比較したり自分自身の経験を振り返ったりして，意見を述べることができる。 パート3：受験関連の話題を伝える記事を読んで，情報を得ることができる。 パート4：自分の経験を交えて，友達の気持ちを後押しすることができる。 パート5：教育に関して話題になっていることについて，解説を読んでその特徴を読み取ることができる。	小西 達也、杉山 明
第26回	第16課「学校生活」(2) ・国や地域による学校事情の違いや教育に関して話題になっていることを知り，自国と比較したり自分自身の経験を振り返ったりして，意見を述べることができる。 パート3：受験関連の話題を伝える記事を読んで，情報を得ることができる。 パート4：自分の経験を交えて，友達の気持ちを後押しすることができる。 パート5：教育に関して話題になっていることについて，解説を読んでその特徴を読み取ることができる。	小西 達也、杉山 明
第27回	第17課「働くということ」(1) ・自分の将来について考えるために，仕事に対する考えを周りの人と共有したり，就職のために情報を集めたりすることができる。 パート1：他の人の仕事に対する考えを聞いて，自分の意見を言うことができる。 パート2：留学生向けに書かれた就職活動のパンフレットを読んで，内容を理解し情報を得ることができる。	小西 達也、杉山 明
第28回	第17課「働くということ」(1) ・自分の将来について考えるために，仕事に対する考えを周りの人と共有したり，就職のために情報を集めたりすることができる。 パート1：他の人の仕事に対する考えを聞いて，自分の意見を言うことができる。 パート2：留学生向けに書かれた就職活動のパンフレットを読んで，内容を理解し情報を得ることができる。	小西 達也、杉山 明
第29回	第17課「働くということ」(2) ・自分の将来について考えるために，仕事に対する考えを周りの人と共有したり，就職のために情報を集めたりすることができる。 パート3：先輩の話を聞いて，就職活動に関する情報を得ることができる。 パート4：目上の人にメールで丁寧に依頼することができる。 パート5：初めて会う人に電話をして，相手の都合を聞きながら，会う約束をすることができる。	小西 達也、杉山 明
第30回	第17課「働くということ」(2) ・自分の将来について考えるために，仕事に対する考えを周りの人と共有したり，就職のために情報を集めたりすることができる。 パート3：先輩の話を聞いて，就職活動に関する情報を得ることができる。 パート4：目上の人にメールで丁寧に依頼することができる。 パート5：初めて会う人に電話をして，相手の都合を聞きながら，会う約束をすることができる。	小西 達也、杉山 明
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢・態度	20	積極的な受講態度，ペアワークやグループワークへの参加度合，予習復習の成果で評価する。
小テスト	60	・語彙小テスト（課が始まるとき） これから学修する課の語彙を意味，使い方を予習し，理解できているかで評価する。 ・表現・小テスト（課が終わるとき） 学修した文法・表現の正確な理解ができているかで評価する。 ・漢字小テスト（第11課～第14課が終わった後，第15課～第17課が終わった後） 学修した漢字の正確な理解ができているか，適切に使用できるかで評価する。 いずれの小テストも修正し，コメントを加え，返却する。返却後，必要に応じて全体でフィードバックをする。
自主課題ノート	20	学期開始時に自分自身の目標を立て，それに沿った学習課題を自身で設定する。その課題の達成度によって評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前にわからない語彙の意味・用法を調べておくこと。 自ら学習目標を立て，それを実行しようとする姿勢が必要となる。
授業外学修	1.課ごとの語彙・文法を事前に調べておくこと。 2.授業時に配布した教材を復習として課ごとに取り組むこと。 3.授業の内容とは別に学習目標を自ら立て，それが達成できるように取り組むこと。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
できる日本語中級本冊	できる日本語教材開発プロジェクト	アルク	978-4-7574-2278-0	クラス分けによって使用する教科書が異なります。
できる日本語初中級本冊	できる日本語教材開発プロジェクト	アルク	978-4-7574-2278-0	クラス分けによって使用する教科書が異なります。

使用テキスト：自由記載	適宜，プリントを配布する予定。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
漢字たまご 初中級	有山優樹，落合知春など	凡人社	978-4-89358-832-6	
わたしのことばノート	できる日本語教材開発プロジェクト	凡人社	978-4-89358-848-7	
わたしの文法ノート	できる日本語教材開発プロジェクト	凡人社	978-4-89358-837-1	

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	日本語教員(18年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	日本語教員(18年)の経験から，学生が大学生活，日常生活で日本語を使用してコミュニケーションが取れるように指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	日本で大学生活，日常生活を送る上で，中上級以上に相応しい日本語の語彙・表現を使うことができる。	日本で大学生活，日常生活を送る上で，中上級以上に相応しい日本語の語彙・表現を十分に使うことができる。	日本で大学生活，日常生活を送る上で，中上級以上に相応しい日本語の語彙・表現をおおよそ使うことができる。	日本で大学生活，日常生活を送る上で，中上級以上に相応しい日本語の語彙・表現をある程度使うことができる。	日本で大学生活，日常生活を送る上で，中上級以上に相応しい日本語の語彙・表現をあまり使うことができない。	日本で大学生活，日常生活を送る上で，中上級以上に相応しい日本語の語彙・表現をほとんど使うことができない。
思考・問題解決能力	論理的思考を駆使し，中上級以上の漢字を用いながら自分の考えていることを文章で表現できる。	論理的思考を駆使し，中上級以上の漢字を用いながら自分の考えていることを文章で十分に表現できる。	論理的思考を駆使し，中上級以上の漢字を用いながら自分の考えていることを文章でおおよそ表現できる。	論理的思考を駆使し，中上級以上の漢字を用いながら自分の考えていることを文章である程度表現できる。	論理的思考を駆使し，中上級以上の漢字を用いながら自分の考えていることを文章で何とか表現できる。	論理的思考を駆使し，中上級以上の漢字を用いながら自分の考えていることを文章でほとんど表現できない。
技能	中上級以上の日本語の表現で大学生活・日常生活において，他者に相談したり，他者の相談を受けたりし，コミュニティの中で良好な関係を構築できる。	中上級以上の日本語の表現で大学生活・日常生活において，他者に相談したり，他者の相談を受けたりし，コミュニティの中で十分に良好な関係を構築できる。	中上級以上の日本語の表現で大学生活・日常生活において，他者に相談したり，他者の相談を受けたりし，コミュニティの中でおおよそ良好な関係を構築できる。	中上級以上の日本語の表現で大学生活・日常生活において，他者に相談したり，他者の相談を受けたりし，コミュニティの中である程度良好な関係を構築できる。	中上級以上の日本語の表現で大学生活・日常生活において，他者に相談したり，他者の相談を受けたりし，コミュニティの中で良好な関係を構築することはあまりできない。	中上級以上の日本語の表現で大学生活・日常生活において，他者に相談したり，他者の相談を受けたりし，コミュニティの中で良好な関係を構築することはほとんどできない。

中国学園大学　大学院　子ども学研究科 子ども学専攻　シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
保育・幼児教育学特論	伊藤　智里	1
学校教育学特論	西田　寛子	3
教育方法学特論	住野　好久	5
子どもと音楽演習	川崎　泰子	7
子どもと英語演習	西田　寛子	9
子どもと理科演習	岸　誠一	11
子どもと算数演習	平井　安久	13
子どもと国語演習	太田　憲孝	15
子どもと表現演習	伊藤　智里	17
子どもと健康演習	加賀　勝	19
子どもと環境演習	齊藤　佳子	21
子どもと人間関係演習	廣畑　まゆ美	23
教育心理学特論	國田　祥子	25
子ども社会学特論	中田　周作	27
相談・援助特論	中　典子	29
発達障害児支援特論	原田　新	31
子どもの認知と学習特論	國田　祥子	33
子どもとメディア特論	岸　誠一	35
地域教育社会学特論	中田　周作	37
地域教育福祉特論	中　典子	39
子どもと放課後特論	住野　好久	41
子ども学特別研究	中田　周作／中　典子／國田　祥子／齊藤　佳子／伊藤　智里／西田　寛子／加賀　勝	43

科目名	保育・幼児教育学特論			授業番号	MA301	サブタイトル			
教員	伊藤　智里								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講座では，子ども社会を実践的に読み解いていくための保育・幼児教育論について学ぶ。その過程で制度的な変遷と現在の課題について明らかにするとともに，諸外国との比較をしながら，幼児期の教育の課題や実践の方法について考察する。さらに，子どもを取り巻く家庭や地域の現状や保育者の専門性に対しての理解力を高め，保育の実力を深めていく。								
到達目標	子どもの視点に立ちながら，より高度な活動の理解と解釈を可能にするために，保育・幼児教育の法令変遷について理解し，諸外国との比較も踏まえ日本の保育・幼児教育の課題を明確にするとともにそのあり方について考察することを目標とする。 また最新の保育制度や情報について深く理解し活用する。この科目の内容はディプロマポリシーに掲げる高度な専門性を備えた保育者の育成に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育・幼児教育の基本 現在の保育・幼児教育の基本的事項について確認する	
第2回	日本の保育・幼児教育の制度１ 日本の保育（福祉系）の制度について概観し，課題を検討する	
第3回	日本の保育・幼児教育の制度２ 現在の幼児教育（教育系）の制度について概観し，課題を検討する	
第4回	保幼小接続の仕組み 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校の接続について，架け橋プログラムをもとに現状と課題を理解する	
第5回	幼児教育の歴史的変遷１ 幼児教育について，海外および日本の歴史的変遷を概観する	
第6回	保育・幼児教育の歴史的変遷２ 保育・養護の側面から海外および日本の歴史的変遷を概観する	
第7回	保育所・幼稚園・こども園の保育の比較と課題 保育所・幼稚園・認定こども園の各機関の役割の整理と現状の課題について検討する	
第8回	外国の保育・幼児教育１ フィンランド，デンマークの幼児教育について概観する	
第9回	外国の保育・幼児教育２ ニュージーランド，イタリアの幼児教育について概観する	
第10回	外国の保育・幼児教育３ 海外の保育・幼児教育について概観する	
第11回	保育・幼児教育思想１ フレーベル，倉橋惣三が目指した幼児教育について検討する	
第12回	保育・幼児教育思想２ モンテッソリー，シュタイナーが目指した保育について検討する	
第13回	保育・幼児教育思想3 現在に至るまでの教育・保育の思想家について確認する	
第14回	保育者の専門性１ 保育者が持つべき専門性について検討する	
第15回	保育者の専門性２ 今後の保育者に求められる専門性について検討する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	自主的に調査結果を発表し討議できたかを評価する。
最終課題レポート	60	自分の得た知識や技術をさらに発展させることができるような記述内容であるかを評価する。 内容についてのコメントは，授業内または後日フィードバックする。

評価の方法：自由記載	予習や意見発表など講義への取り組みの積極性と，レポートの論理性を基準に評価を行う。
受講の心得	授業内容を理解し課題を行う中で，自分はどう考えるかについて周囲に伝えられるようにすることを心がける。
授業外学修	１．授業前に発表できる準備を行うこと。 ２．授業後に討論した内容について，まとめること。 以上の内容を週当たり4時間以上学修することが望ましい。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜資料を提示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「保育用語辞典」「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	学校教育学特論			授業番号	MA302	サブタイトル			
教員	西田　寛子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	学校教育を多面的に捉え、教育理論・教育政策・学校組織・授業実践・評価・教師の専門性・学習者支援などの観点から総合的に検討する。教育実践の改善を理論的に説明できる力量の形成を目指す。								
到達目標	学校教育に関する主要理論・概念を理解し説明できる。 理論と教育実践・教育政策との関係を論じることができる。 学校教育に関わる課題を研究的視点から分析できる。 自身の教育観・実践観を理論的根拠に基づき再構築できる。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス・学校教育学の視座 学校教育学の対象領域および本講座の目的・方法を理解する。あわせて、受講者自身の問題関心や研究課題を明確化する。	
第2回	学校教育を支える教育理論 学校教育を支える主要な教育理論および学習観の変遷を理解する。特に、構成主義的学習観の意義について検討する。	
第3回	現代学校教育の課題 現代の学校教育が直面する諸課題を整理し、その背景にある教育観・学習観の変容について理解を深める。	
第4回	教育政策と学校教育 教育政策および学習指導要領の理念を理解する。政策と教育実践との関係や課題について検討する。	
第5回	学校組織と教育実践 学校組織の特性および組織的教育改善の視点を理解する。学校組織と授業実践との関連について考察する。	
第6回	教師の専門性と成長 教師の専門職性および力量形成に関する理論を理解する。教師の成長をどのように捉えるかについて検討する。	
第7回	授業研究の理論 授業研究の意義および授業分析の視点を理解する。理論的視座から授業を検討する枠組みを把握する。	
第8回	学習評価の理論 学習評価の基本的な考え方および評価観の転換を理解する。評価と学習との関係について検討する。	
第9回	学習者理解と動機づけ 学習者理解および動機づけ理論の基礎を理解する。学習支援の理論的背景について考察する。	
第10回	自己調整学習と学校教育 自己調整学習理論の基本的枠組みを理解する。自己調整学習と授業設計との関係について検討する。	
第11回	学習環境デザイン 学習環境に関する理論的視点を理解する。学級・授業環境の設計原理について考察する。	
第12回	エビデンスに基づく教育改善 教育実践の改善におけるエビデンスの意義を理解する。実践研究およびデータ活用の考え方について検討する。	
第13回	学校教育研究の方法 学校教育研究における研究方法の基礎を理解する。質的研究・量的研究・実践研究の特徴について整理する。	
第14回	受講者発表・理論的検討 受講者による研究関心の発表を通して、学校教育学の理論的枠組みに基づく検討を行う。	
第15回	総括・学校教育観の再構築 講座全体で扱った理論および概念を統合的に理解する。自身の学校教育観および研究視座を再構築する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
発表・討議への貢献	40	意欲的な受講態度、発表・討議への参加の状況によって評価する。
課題レポート	30	課題について要点をおさえ、自分の考えを述べたレポートによって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。
最終レポート	30	学校教育に関する任意のテーマについて、学校教育学の理論的枠組みに基づき論述されていることを評価の基本とする。評価にあたっては、単なる意見表明や経験的感想ではなく、学術的視点に立脚した論理的考察が展開されているかを重視する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受講にあたっては、知識の受動的習得ではなく、理論的根拠に基づく主体的な思考と討議への積極的参加が求められる。授業では、意見や経験の提示にとどまらず、概念・理論・論理による説明を重視する。また、討議型授業のため、指定文献・資料を事前に読解したうえで出席すること。
授業外学修	事前学修として、指定文献・資料を読み、主要概念および論点を整理すること。事後学修として、授業内容や議論を踏まえ、自身の理解を再構成すること。最終レポート作成に向けては、授業で扱った理論の統合的理解を図ること。授業外学修時間の目安は各回2～3時間とする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	授業の中で適宜資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
教育「変革」の時代の羅針盤：「教育DX×個別最適な学び」の光と影	石井英真	教育出版社		
授業づくりの深め方：「よい授業」をデザインするための５つのツボ	石井英真	ミネルバ書房		
新版 学校を改革する―学びの共同体の構想と実践	佐藤学	岩波書店		
学力テスト改革を読み解く！「確かな学力」を保障するパフォーマンス評価	西岡加名恵	明示図書		
信頼ベースの学級づくりの理論と実践	久我直人	ふくろう出版		
自己調整学習の成立過程 学習方略と動機づけの役割	伊藤崇達	北大路書房		

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小中学校・中高一貫教育校教員（34年），県教育委員会指導主事 （４年）の実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場ならびに県教育委員会での実務経験（38年）を生かし，学校現場の教育改善を理論的に説明できる力量の形成を目指す。

科目名	教育方法学特論			授業番号	MB301	サブタイトル			
教員	住野　好久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法及び技術に関する研究の到達点を学び，それを実践するための力量を身につける。								
到達目標	これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法及び技術に関する研究の到達点を理解すること。それに基づく教育実践を創造する力量を身につけること。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた＜高度な専門性を備えた教育者＞の育成に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育方法学研究の全体像 教育方法学研究の歴史的変遷から現代的な課題について概括する。	
第2回	教育方法学研究の歴史(1)−コメニウス 教育方法学の歴史をたどり，実質陶冶の始祖としてのコメニウスの業績について検討する。	
第3回	教育方法学研究の歴史(2)−ヘルバルト 教育方法学の歴史をたどり，現在の学習指導につながるヘルバルトの5段階教授法について検討する。	
第4回	教育方法学研究の歴史(3)−デューイ 教育方法学の歴史をたどり，子ども中心の新教育への変革を唱えたデューイの教育方法について検討する。	
第5回	教育方法学研究の歴史(4)−戦後新教育 日本における戦後の教育方法学の歴史をたどり，民主主義の発展を企図した新教育運動について検討する。	
第6回	教育方法学研究の歴史(5)−教育の現代化 日本における戦後の教育方法学の歴史をたどり，スプートニクショックを起点とした教育の現代化について検討する。	
第7回	教育方法学研究の歴史(6)−集団学習法 学習者を小グループに分け討論などを用いて行う教育方法であるバズ学習やジグソー学習などについて検討する。	
第8回	教育方法学研究の歴史(7)−学びの共同体論 学習者主体の協働・共同的な学習を実現するための学びの共同体論について議論する。	
第9回	教育方法学研究の歴史(8)−アクティブ・ラーニング 平成29年告示の学習指導要領において授業改善の視点として取り入れられたアクティブ・ラーニングの理念と方法について検討する。	
第10回	教育方法学研究の実践課題(1)−学力・資質能力論 平成29年告示の学習指導要領において示された学校教育において育成する資質・能力の3つの柱について学力論の観点から検討する。	
第11回	教育方法学研究の実践課題(2)−教授と学習 教育の根幹をなす教授と学習についてその原理や方法について行動主義や認知主義，構成主義の学習論の立場から検討する。	
第12回	教育方法学研究の実践課題(3)−指導と評価の一体化 学習指導の表裏一体となる学習評価について，形成的評価や総括的評価などの評価論を用いながら指導と評価の一体化について議論する。	
第13回	教育方法学研究の実践課題(4)−授業づくりと学級づくり 学級経営の視点をもった各教科等の授業づくりの意義と方法について検討する。	
第14回	教育方法学研究の到達点を踏まえた実践構想の発表（第1回） これまでの授業での学修内容を踏まえ，教育方法学の立場から今後の授業の在り方について検討する。	
第15回	教育方法学研究の到達点を踏まえた実践構想の発表（第2回） これまでの授業での学修内容を踏まえ，教育方法学の立場から今後の授業の在り方について検討し，実践構想を発表する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表・討議への参加・貢献，予・復習の状況によって評価する。
レポート	60	講義内容を深く理解したうえで，教育方法学の実践化のための知見を示すこと。レポートについてはコメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	教育実習等での経験と講義内容とを結びつけながら学修すること。 授業で配付するプリント・資料などを整理し，講義ノートを詳細にとること。
授業外学修	1　予習：配付された資料を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習：ノートの内容を確認し，プリント・資料などを整理する。 3　発展学習：紹介された参考文献を読む。可能な範囲で教育実践に活用する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	随時，プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子どもと音楽演習			授業番号	MB302	サブタイトル	小学校音楽1～6年		
教員	川崎　泰子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子どもと音楽の関係や年齢に応じた音楽活動についての知識を整理する。次に，現場における自らの実践事例記録などで観察される様々な課題を分析し改善することを通して，子どもと音楽の関係性に対する理解を深める。その上で，実践的な表現方法のあり方を考察し，より発展的な表現技法や表現形態についても考察を進める。								
到達目標	子どもの発達において音楽的感性や表現力を培うことは重要なことである。本授業では，子どもの音楽的成長と発達について理解し，子どもの感性を育むための音楽の役割について理解することを目標とする。また，子どもと関わる保育者・教師自身による豊かな音楽的感性や表現力を身につける。さらに，子どもが豊かな音楽表現を身につけるためには，どのような音楽的活動を経験させ，どのような指導・援助を行うことが望ましいのかについて多面的に考察する。加えて，教育現場における具体的課題への接近方法を探究する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	小学校の音楽科教育の現状と課題 小学校における音楽科教育の意義と内容／音楽科学習指導要領	
第2回	表現－歌唱、器楽、創作－　1年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校1年生共通教材弾き歌いについて理解・習得する	
第3回	表現－歌唱、器楽、創作－　2年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校2年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める	
第4回	表現－歌唱、器楽、創作－　3年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校3年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノリコーダー）について指導のポイント等の考察・演習	
第5回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ 1～3年生までの共通教材歌唱成果発表（弾き歌いを含む）、評価について考察する	
第6回	表現－歌唱、器楽、創作－　4年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校4年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノリコーダー）について指導のポイント等の考察・演習	
第7回	表現－歌唱、器楽、創作－　5年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校5年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノリコーダー）について指導のポイント等の考察・演習	
第8回	表現－歌唱、器楽、創作－　6年生 ①発声の技法、表現、ソルフェージュ（移動ド唱法を含む） ②共通教材の教材研究について指導のポイント等の考察・演習 ③小学校6年生共通教材弾き歌いについて演習し理解を深める ④器楽（ソプラノリコーダー）について指導のポイント等の考察・演習	
第9回	「表現」および「共通教材」～歌唱～ 3～6年生までの共通教材歌唱成果発表（弾き歌いを含む）、評価について考察する	
第10回	「表現」および「共通教材」～器楽～ ①器楽指導、創作 ②グループに分かれ器楽アンサンブル 楽器の演奏方法、アンサンブルについて理解する ③グループ器楽アンサンブル発表準備	
第11回	「表現」および「共通教材」～器楽～ ①器楽指導、創作 ②グループに分かれ器楽アンサンブル 楽器の演奏方法、アンサンブルについて理解する ③グループ器楽アンサンブル発表、評価について考察する	
第12回	「鑑賞」および「共通教材」1,2,3年生 ①小学校教育における鑑賞指導の意義と目的を理解 ②指導法のポイント及び「ICTの活用」について ③鑑賞曲について	
第13回	「鑑賞」および「共通教材」4,5,6年生 ①小学校教育における鑑賞指導の意義と目的を理解 ②指導法のポイント及び「ICTの活用」について ③鑑賞曲について	
第14回	共通事項　音楽理論の確認 ①「音楽を形づくっている要素」と「それらに関わる音符、休符、記号や用語」 ②楽譜の読み書きに用いる音楽用語を理解し、音階、移調について理解を深める ③小テスト	
第15回	まとめ「表現」および「共通教材」－歌唱、器楽、創作－ 1～6年生までの共通教材弾き歌い、ソプラノリコーダー（課題曲2曲〈重唱含む〉）成果発表 評価について考察する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習及び復習の状況により評価する。
レポート	20	レポート課題は、学習内容の理解度・定着度を評価基準として添削を行い、講評を付して返却する。
小テスト（実技試験、グループ発表）	50	最終的な理解度定着度を評価する

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で習得した理論や技術が次回の授業で表出・発揮できるよう，努力してください。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，予習すること。 授業で提示された課題を実施し，復習すること。 上記の内容を，週当たり4時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	小学校音楽1～6年

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	小学校音楽1～6年 小学校学習指導要領「音楽」
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校，中学校，私立中学，私立高校講師などの教員歴（20年）、少年少女合唱団主宰【2023年福武教育文化賞受賞】（12年)、数々の学校にて歌唱指導（20年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かしての音楽的指導，音楽実技，またはそれらに必要な音楽的知識や理解を深め，実践的指導力の向上に努める。

科目名	子どもと英語演習			授業番号	MB303	サブタイトル			
教員	西田　寛子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	英語教育に関する先行研究ならびに先行実践について検討し，理論に基づく指導の改善について考察する。また，英語教育の課題解決に向けた指導と評価の在り方について探究する。								
到達目標	・英語教育に関する理論と実践について考察し，現状における課題の解決に向けた指導と評価の在り方について探究できる。 ・具体的な実践・評価構想について論究できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた〈高度な専門性を備えた教育者の育成〉に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	英語教育の現状について議論する。	
第2回	英語教育の課題について議論する。	
第3回	課題解決のための理論研究（１）：自己調整学習の理論に基づく指導の改善について論究する。	
第4回	課題解決のための理論研究（２）：学校組織開発理論に基づく指導の改善について論究する。	
第5回	課題解決のための理論研究（３）：自己調整学習の理論と学校組織開発理論の融合理論に基づく指導の改善について論究する。	
第6回	実践研究の方法論（１）：「聞くこと」についての指導と評価について論究する。	
第7回	実践研究の方法論（２）：「話すこと（やり取り・発表）」についての指導と評価について論究する。	
第8回	実践研究の方法論（３）：「読むこと」についての指導と評価について論究する。	
第9回	実践研究の方法論（４）：「書くこと」についての指導と評価について論究する。	
第10回	実践研究の方法論（５）：「主体的・対話的で深い学び」の在り方について論究する。	
第11回	実践研究の方法論（６）：「ティーム・ティーチング」の在り方について論究する。	
第12回	実践研究の方法論（７）：「視聴覚教材・ICT」の効果的な活用について論究する。	
第13回	実践研究の方法論（８）：「他教科等との連携」「異校（園）種間連携」の在り方について論究する。	
第14回	理論に基づく実践構想の発表（プレゼンテーション）を行う。	
第15回	発表の振り返りと改善策の考案・まとめを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，発表・討議への参加・貢献，課題解決に向けた積極的な姿勢等を評価する。
レポート	50	理論に基づく具体的な実践構想について，レポート（紙媒体）ならびにプレゼンテーションで評価する。 レポートについては，コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・ 授業で配布される資料について予習・復習をすること。 ・ 疑問点や課題について，自ら進んでリサーチし，その解決策について探究すること。 ・ 授業中は積極的に発言すること。
授業外学修	・予習として，配付資料を読み，疑問点を明らかにして受講する。 ・復習として，課題のレポートを書く。 ・授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週あたり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	資料を授業で配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業で紹介する。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	公立中学校教諭・指導教諭（28年），公立中高一貫教育校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年），県教育委員会指導主事 （４年）での実務経験を有する。
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，学校・園等の英語教育に携わる指導者に求められる高度な実践力を育成する。

科目名	子どもと理科演習			授業番号	MB304	サブタイトル			
教員	岸　誠一								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	小学校学習指導要領に示された目標や内容について分析し、育成すべき資質能力について概括する。また、理科の指導と評価の一体化について理解する。更に、いくつかの単元について、観察・実験の方法を習得し、教材研究の技能を身に付ける。								
到達目標	・小学校学習指導要領に示された理科の目標や内容に基づき、理科の効果的な学習指導の方法について理解する。 ・具体的な授業場面を想定した教材研究及び観察・実験の技能を身に付ける								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	小学校理科の学習指導要領を読み解く-1 平成29年度に告示された小学校学習指導要領理科編の第１章総説に示された改定の基本方針を社会の現状と合わせて理解する。	
第2回	小学校理科の学習指導要領を読み解く-2 第1回に引き続き小学校学習指導要領理科編に示された理科の目標や内容について理解する。	
第3回	理科で育成する資質・能力 小学校学習指導要領理科に示された育成すべき三つの資質能力及び問題解決能力について理解する。	
第4回	理科の指導と評価について 平成29年度に告示された学習指導要領にある評価の観点と趣旨について理解する。	
第5回	観察および実験と児童生徒の認知について 観察する対象や実験結果について、全員が同じように見えているのか事例を基に考察する。	
第6回	小学校理科におけるICT活用について 小学校理科の授業においてタブレットを活用した事例やプログラミングを取り入れた事例からどのように活用すれば理科の目標に沿って効果を上げることができるか検討する。	
第7回	物理領域にかかわる教材研究-1 小学校理科の「A　物質・エネルギー」の物理領域に係る効果的な教材や指導法について具体的な事例を基に考察する。	
第8回	物理領域にかかわる教材研究-2 小学校理科の「A　物質・エネルギー」の物理領域に係る効果的な教材や指導法について考察し提案する。	
第9回	化学領域にかかわる教材研究-1 小学校理科の「A　物質・エネルギー」の化学領域に係る効果的な教材や指導法について具体的な事例を基に考察する。	
第10回	化学領域にかかわる教材研究-2 小学校理科の「A　物質・エネルギー」の化学領域に係る効果的な教材や指導法について考察し提案する。	
第11回	生物領域にかかわる教材研究-1 小学校理科の「B　生命・地球」の生物領域に係る効果的な教材や指導法について具体的な事例を基に考察する。	
第12回	生物領域にかかわる教材研究-2 小学校理科の「B　生命・地球」の生物領域に係る効果的な教材や指導法について考察し提案する。	
第13回	地学領域にかかわる教材研究-1 小学校理科の「B　生命・地球」の地学領域に係る効果的な教材や指導法について具体的な事例を基に考察する。	
第14回	地学領域にかかわる教材研究-2 小学校理科の「B　生命・地球」の地学領域に係る効果的な教材や指導法について考察し提案する。	
第15回	1時間の学習展開を考え提案する 講義内容の第6回から14回で取り扱った事例について１つ選び、自分が授業を行うことを想定して学習展開を考え、発表して議論する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	60	課題について要点をおさえ，自分の考えを述べたレポートによって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	扱う内容について予習をして質問する事項をまとめておくこと。 授業で行った内容および資料を復習して整理し第１５回で活用できるようにまとめておくこと。
授業外学修	１．次回の演習内容について予習をしておくこと。 ２．授業で解説された内容について復習をしておくこと。 ３．指示された回にレポートを提出すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新しい理科3年～6年		東京書籍		111
小学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省	東京書籍	978-4487287048	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校理科）	国立教育政策研究所 編			

参考書：自由記載	シラバスにある「指導と評価の一体化」 を具現化するための必読資料です。文部科学省のウェブサイトでも公開されていますが、書籍版は手元にあると便利です。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭(13年)，公立小学校長(8年)での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	公立小学校教諭(13年)，公立小学校長(8年)での実務経験を基に教育現場で必要とされる自然科学を中心とした教養が養われるよう指導する。

科目名	子どもと算数演習			授業番号	MB305	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	算数学習の内容論的考察と方法論的考察を理解し，算数教育の研究課題について検討することから，算数学習・算数教育のあり方について考察する。								
到達目標	1　算数学習の内容論的考察と方法論的考察について理解することができる。 2　算数教育の研究課題を探究することができる。 3　算数学習・算数教育のあり方について考察することができる。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	算数学習の内容論的考察（数と計算）	
第2回	算数学習の内容論的考察（図形）	
第3回	算数学習の内容論的考察（測定，変化と関係）	
第4回	算数学習の内容論的考察（データの活用）	
第5回	算数学習の方法論的考察（認知プロセスとしての数学的活動）	
第6回	算数学習の方法論的考察（数学的推論と操作的証明）	
第7回	算数学習の方法論的考察（数学史と数学的活動）	
第8回	算数学習の方法論的考察（教授パラダイムと教師の専門性）	
第9回	算数教育の研究課題（達成度調査の国際比較）	
第10回	算数教育の研究課題（世界と日本の授業研究）	
第11回	算数教育の研究課題（問題解決型の授業）	
第12回	算数教育の研究課題（発達段階と学習指導）	
第13回	算数教育の研究課題（コミュニケーションの役割と機能）	
第14回	算数教育の研究課題（教科書の変遷）	
第15回	算数学習・算数教育のあり方	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，発表・討議への参加の状況を評価する。
レポート	60	演習の要点を理解し，自分の考えを述べた内容を評価する。レポートの解説をしながら、進めていく。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付する資料等について予習・復習し，自分の疑問や意見をもって授業に臨むこと。
授業外学修	1　復習として，授業内容をノートにまとめて整理すること。 2　予習として，配付した資料等を熟読し，自分の疑問や意見をもつこと。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは特に指定しない．必要な資料を各回用意する．

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要な文献・資料等を各回紹介する．
その他	
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子どもと国語演習			授業番号	MB306	サブタイトル			
教員	太田　憲孝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	国語科教育に関する先行文献及び先行実践の研究、小学校国語科教科書に掲載されている教材の特質の理解を通して、国語科教育についての確かな教科観及び指導観等を身に付け、今日的課題に即した授業構想を検討する。								
到達目標	国語科教育に関する先行文献や先行実践を研究したり、教科書に掲載されている教材を分析し教材の特質を捉えたりして，国語科教育に対する確かな学力観及び指導観等を身に付けるとともに，今日的課題に即した授業のあり方を具現化することを目標とする。 この科目は，ディプロマポリシーに掲げた確かな専門性を備えた保育者，教育者，研究者の育成に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	国語科教育の現状と課題 「国語科教育に関する先行文献や先行実践を検討し、今日の国語科教育の現状と課題を明らかにする。」	
第2回	小学校における文学的文章の指導（１） 「教科書に掲載されている物語を分析し、読者を引き付ける物語の構造や仕掛けを理解する。」	
第3回	小学校における文学的文章の指導（２） 「教科書に掲載されている物語を分析し、読者を引き付ける文学的表現を理解する。」	
第4回	小学校における文学的文章の指導（３） 「語り手が顕在化している物語を分析し、作者の想を理解する。」	
第5回	小学校における文学的文章指導のあり方 「文学的文章の特質を整理し、指導のあり方を構想する。」	
第6回	小学校における説明的文章の指導（１） 「説明的文章の指導に関する先行文献及び先行実践を検討し、現状と課題を理解する。」	
第7回	小学校における説明的文章の指導（２） 「教科書に掲載されている説明的文章を分析し、読者を説得する文章の構造や仕掛けについて理解する。」	
第8回	小学校における説明的文章の指導（３） 「教科書に掲載されている説明的文章を分析し、読者を説得する説明的言語と文学的言語について理解する。」	
第9回	小学校における説明的文章の指導（４） 「説明的文章の特質を整理し、説明的文章の指導のあり方を構想する。」	
第10回	小学校における「書くこと」の指導（１） 「「書くこと」に関する先行文献及び先行実践、現行の学習指導要領を検討し、現状と課題を理解する。」	
第11回	小学校における「書くこと」の指導（２） 「教科書に掲載されている教材を分析し、実用的文章指導の実際を理解する。」	
第12回	小学校における「書くこと」の指導（３） 「生活綴り方において実践された作文を分析し、人格形成に資する作文指導を理解する。」	
第13回	小学校における「書くこと」の指導（４） 「「書くこと」に関する指導の傾向を整理し、「書くこと」の指導のあり方を構想する。」	
第14回	「主体的・対話的で深い学び」の授業改善（１） 「「主体的・対話的で深い学び」について、先行文献を調べ、その趣旨や課題を理解する。」	
第15回	「主体的・対話的で深い学び」の授業改善（２） 「先行実践を調べ、「主体的・対話的で深い学び」の改善点を検討する。」	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	予習及び討論への参加の状況によって評価する。
レポート	50	授業内容の理解度をレポート及び発表によって評価する。提出されたレポートは、授業の中で読み合い、学びの深まりを確認する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	授業及び研究と向き合う姿勢が重要である。
受講の心得	資料の読み合わせ及び討論に積極的に参加し，研究の深まりや楽しさを実感すること。 予習では，授業で用いる資料を深く読み込み，自分の考えをもって授業に臨むこと。
授業外学修	１．授業内容は，ファイルやノートに整理しておくこと。 ２．予習として，授業で用いる文献を熟読しておくこと。 ３．授業での学びをきっかけにして，関係する文献を調べ研究を充実させること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	公立小中学校・小中一貫校国語科教員(27年)，国立附属中学校国語科教員(4年)，市教育委員会指導主事(3年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	小学校学習指導要領の理解，教材分析

科目名	子どもと表現演習			授業番号	MB307	サブタイトル			
教員	伊藤　智里								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子どもと表現に関する先行実践を学び，表現に関する指導や環境の在り方について検討する。また,様々な表現ツールを用いながら，その特徴や面白さや課題を確認する。その上で表現の指導に関する自身の問題意識を明らかにし，具体的な指導場面を想定し課題解決に向けた指導や教材の在り方について探究する。								
到達目標	1.子どもの表現に関する基本を踏まえ，育成すべき資質・能力について理解できる。 2.子どもの表現を支える様々な取り組みを研究し，指導の構想に活用することができる。 3.子どもの発達や学びの過程を理解し，素材や環境要素を研究し，自身の問題意識を持ちながら教材化することができる。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	表現とは1 幼児の表現に関する事例研究	
第2回	表現とは2 児童の表現に関する事例研究	
第3回	表現とは3 子どもの表現に関する事例研究（企業・自治体の取り組み）	
第4回	表現とは4 子どもの表現に関する事例研究（海外の取り組み）	
第5回	表現とは5 子どもの表現に関する研究の概観（日本で注目される子どもの表現）	
第6回	表現方法について1 子どもと造形表現について考える	
第7回	表現方法について2 子どもと音楽表現について考える	
第8回	表現方法について3 子どもと身体表現について考える	
第9回	表現方法について4 子どもと自然環境の関係と表現の方法について考える	
第10回	鑑賞について1 幼児と鑑賞活動	
第11回	鑑賞について2 児童と鑑賞活動	
第12回	教材の研究1 教材を活用した活動のねらい及び内容について	
第13回	教材の研究2 表現活動の環境について	
第14回	教材の研究3 教材の制作	
第15回	教材の研究4 教材の発表,振り返り	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	50	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート・課題	50	課題について要点をおさえ，自分の考えを具体的に述べていること。レポート・課題はコメントをつけて返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	1　予習として，資料のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	授業時に配布する資料を使用する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	教材研究では，はさみ，のり，テープ，色鉛筆，水彩絵具，クレパス，定規，コンパス，カッターなど，様々な画材，素材，道具を使用する。詳しい授業の準備物は授業の中で提示する。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子どもと健康演習			授業番号	MB308	サブタイトル			
教員	加賀　勝								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子どもと健康の現状と課題について講義し，学術論文等の文献について議論・要約・発表する。 子どもの身心の発育・発達についての現状と課題について講義し，学術論文等の文献について議論・要約・発表する。								
到達目標	下記の２点を本科目の到達目標に設定する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた＜保育所，幼稚園，認定こども園，小学校，地域社会，家庭などのあらゆる領域における子育て支援，保育，教育等の子どもに関わる営みの中で生じる様々な課題に対して，多様な視点からアプローチし，理論化を図る＞ことに貢献する。 1．子どもと健康に関する現状と課題について，論理的思考を持ち，課題解決することができる。 2．子どもの発育・発達に関する現状と課題について理解し，課題への対応策を導き出すことができる。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの発育・発達 子どもの形態的（身体的）発育と機能的発達に関する文献から理解を深め，課題について議論する。	
第2回	子どもの発育に関係する諸要因 子どもの形態的（身体的）発育に関係する要因について，文献を精読して議論する。	
第3回	子どもの発達に関係する諸要因 子どもの機能的発達に関係する要因について，文献を精読して議論する。	
第4回	子どもの健康と運動 子どもの健康に及ぼす要因の一つである運動について理解を深め，課題について議論する。	
第5回	子どもの健康と栄養 子どもの健康に及ぼす要因の一つである栄養について理解を深め，課題について議論する。	
第6回	子どもの健康、発育に関する文献・論文の講読と討論 子どもの健康及び発育に関する文献から理解を深め，課題について議論する。	
第7回	子どもの健康、発育に関する文献・論文の要約と討論 子どもの健康及び発育に関する文献を精読し，その要約を作成して議論する。	
第8回	子どもの健康、発育に関する文献・論文の要約と発表 子どもの健康及び発育に関する文献を要約し，発表資料を作成して議論する。	
第9回	子どもの健康、発達に関する文献・論文の講読と討論 子どもの健康及び発達に関する文献から理解を深め，課題について議論する。	
第10回	子どもの健康、発達に関する文献・論文の要約と討論 子どもの健康及び発育に関する文献を精読し，その要約を作成して議論する。	
第11回	子どもの健康、発達に関する文献・論文の要約と発表 子どもの健康及び発育に関する文献を要約し，発表資料を作成して議論する。	
第12回	子どもの健康、栄養に関する文献・論文の講読と討論 子どもの健康及び発達に関する文献から理解を深め，課題について議論する。	
第13回	子どもの健康、栄養に関する文献・論文の要約と討論 子どもの健康及び発育に関する文献を精読し，その要約を作成して議論する。	
第14回	子どもの健康、栄養に関する文献・論文の要約と発表 子どもの健康及び栄養に関する文献を要約し，発表資料を作成して議論する。	
第15回	子どもの健康に関するまとめ 子どもと健康に関する現状と課題について，論理的な課題解決の方策を提案する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	論理的思考や主体的な発話ができる。さらに，自己の興味・関心に基づき探究し，具現化（レポート等）することができる。 課題やレポートについてはコメントを記入し返却する。
レポート	50	子どもの健康、発育・発達の特性を捉え，理論的に発表したり，レポート作成ができる。 課題やレポートについてはコメントを記入し返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1．子どもの健康に関する知見やその研究データなどを収集し，解決にむけた方法を探る。 2．子どもの心身の発育・発達についての先行研究を集約し，研究方法について理解する。
授業外学修	1．子どもを対象とした健康に関する学術論文や文献を集め，そのポイントを記載する。 2．具体的な子どもの心身の発育・発達を促す運動や場面について，生活の中でエピソードを収集する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子どもと環境演習			授業番号	MB309	サブタイトル			
教員	齊藤　佳子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子どもが周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わるには，指導者はどのような準備をし，どのように子どもに接すればよいか，ポイントを明確にしながら内容ごとに具体的に探っていく。 また子どもが体験したことを生活に取り入れていくためには，どのような活動を展開したらよいかを実際の指導場面を考慮しながら考え，明らかにしていく。								
到達目標	・子どもが身近な環境に親しみ，自然とふれあい，様々な事象に興味・関心をもつためには，指導者はどのような準備，仕掛け，声かけをすれば良いかポイントを述べることができる。 ・子どもが身近な環境に自分から関わり，発見を楽しんだり，考えたりし，それを生活に取り入れている具体的な子どもの活動をイメージすることができる。そのためにはどうすれば良いかを具体的に述べることができる。 ・物の性質や数量，文字などに対する感覚を豊かにするためには，どのような遊び・活動が効果的なのかを具体例を挙げながら述べることができる。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	領域「環境」のねらいと内容 領域「環境」のねらいと内容，内容の取扱いについて要点を考察する。	
第2回	子どもの身近な環境とは何か，自然とは何か，子どもが興味・関心を持つためには，どうすれば良いか考え，まとめる。	
第3回	子どもが身近な環境に自分から関わるにはどうすれば良いか，発見を楽しむとはどういうことか，子どもはどのような場面で何を考えるか考え，まとめる。	
第4回	「(1)自然に触れて生活し，その大きさ，美しさ，不思議さなどに気付く」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第5回	「(2)生活の中で，様々な物に触れ，その性質や仕組みに興味や関心をもつ。」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第6回	「(3)季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第7回	「(4)自然などの身近な事象に関心をもち，取り入れて遊ぶ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第8回	「(5)身近な動植物に親しみをもって接し，生命の尊さに気付き，いたわったり大切にしたりする」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第9回	「(6)日常生活の中で我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第10回	「(7)身近な物を大切にする」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第11回	「(8)身近な物や遊具に興味をもって関わり，自分なりに比べたり，関連付けたりしながら考えたり，試したりして工夫して遊ぶ」どのような場面設定・準備・言葉掛けをしたら良いか，イメージして，まとめる。	
第12回	「(9)日常生活の中で数量や図形などに関心をもつ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第13回	「（10）日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第14回	「（11）生活に関係の深い情報や施設などに興味や関心をもつ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
第15回	「(12)幼稚園内外の行事において国旗に親しむ」どのような場面設定をし，準備し，言葉掛けをしたら良いか，子どもの活動を具体的にイメージして，まとめる。	
授業計画　備考2	・授業の前半で資料を集め，思索を深め，子どもの具体的な活動をイメージする。 ・授業の後半は，ポイントを押さえたレポートを作成する。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	25	全授業を通じて，学修内容の様子や気付きをまとめ，学生自身の学びが可視化されたものを中心に，学びの過程を評価する。
レポート	75	授業で学修した内容を深めることができたか，考え・発想・イメージの独自性，記述内容など，学びの成果を評価する。 課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。また，課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	・学生の考え，発想，イメージを尊重する。 ・課題やレポートについてはコメントを記入して返却する。
受講の心得	・「子どもと環境」について，深く根本的なことについて考え，イメージしていく。既成概念にこだわらない自由な考えを述べること。生き生きとした子どもの活動がイメージできたらよい。 ・授業で出た感想や疑問などをあらかじめ共有し，次回授業において議論するなど，各回の内容が有機的につながるよう工夫する。
授業外学修	「興味・関心」「自分から関わる」「発見を楽しむ」「考える」「生活に取り入れる」などのキーワードを日頃から意識し，見識を深めていくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	幼稚園教育要領解説，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子どもと人間関係演習			授業番号	MB310	サブタイトル			
教員	廣畑　まゆ美								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業は授業前に調べ学習を行い，授業は議論中心に行う。具体的には，幼児の仲間関係に関する研究のあり方について理解を深めるための先行研究レビューを行う。また，そのための質的研究方法論についての理解も深める。								
到達目標	・領域「人間関係」に関する研究の動向と課題を理解する。 ・研究の位置づけの方法やレビューの方法や幼児の人間関係にアプローチする質的研究方法論について理解する。 ・先行研究のまとめ方，議論の方法を身に付ける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた＜高度な専門性を備えた教育者＞の育成に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「人間関係」に関する研究とは何か　…　発達研究と実践研究について理解を深める	
第2回	「幼児の仲間関係の動向と課題」を知る　…　仲間関係研究の現状と課題を整理して議論する	
第3回	「保育者を介した幼児の仲間関係の多様性」に関する先行研究の報告と議論　…　受講生の発表と議論	
第4回	「幼児の協同的活動」に関する先行研究の報告と議論　…　受講生の発表と議論	
第5回	「障害がある幼児がいるクラスの仲間関係」に関する先行研究の報告と議論　…　受講生の発表と議論	
第6回	「保育者の人間関係に関する援助」に関する先行研究の報告と議論　…　受講生の発表と議論	
第7回	幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのエピソード記述…『エピソード記述入門』の紹介と議論	
第8回	幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としての事例研究…『発達心理学研究』における「事例研究」を扱った論文のまとめの発表と議論	
第9回	幼児の仲間関係を記録するドキュメンテーションと研究のあり方…ドキュメンテーションの紹介と議論	
第10回	質的研究方法について理解を深める・・・様々な研究手法の理解と実践	
第11回	質を分析する評価尺度の可能性と課題に関する議論	
第12回	幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのM-GTA…「子どもの経験を質的に描き出す試み：M-GTAとTEMの比較」の報告と議論	
第13回	幼児の仲間関係を捉える質的研究方法論としてのエスノグラフィ…『子どもエスノグラフィ入門』の紹介と議論	
第14回	エスノグラフィで幼児の仲間関係をどのように描けるか…『幼稚園で子どもはどう育つか』の紹介と議論	
第15回	幼児の仲間関係に関するテーマを基にした議論　…　各受講者の関心のあるテーマを基に議論	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	80	各回の授業で提示される課題について，自分の主張をいくつかの根拠にもとづいて明確に述べられているかを評価する。課題はコメントをつけて返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で配付された資料を予習して授業に臨むこと。配付するプリント・資料などを整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，配付された資料を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題レポートを書く。 3　発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	使用しない。適宜資料を配布する。ファイリングするとともに，予習・復習に活用すること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	使用しない。
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	教育心理学特論			授業番号	MC301	サブタイトル			
教員	國田　祥子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	教育心理学とは，学び手としての子どもを心理学の視点から理解し，支援するための科学である。この授業では，学習者の認知過程についての知見をふまえた，新たな授業実践のあり方を解説する。								
到達目標	教授学習過程に関するこれまでの心理学的知見を学ぶことで，児童・生徒の理解を助けるために必要となる力を養う。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教授学習過程とは 学習科学の研究成果と教育実践のつながり	
第2回	学習科学：思弁から科学へ カリキュラム，教授法，教育評価などへのアプローチ	
第3回	熟達　ー熟達者と初心者の違いは何かー 記憶方略，推論，問題解決などの認知過程に対する熟達の影響	
第4回	転移　ー学んだことを活用するためにー 学習の転移が生じるために必要な「教育」とは	
第5回	認知発達　ー子どもはいかに学ぶのかー 幼児教育から学校教育へスムーズに移行するには	
第6回	神経科学　ー学習を支える脳のメカニズムー 神経科学と認知科学から得られた学習メカニズムに関する知見	
第7回	学習環境　ー学びの環境をデザインするー 何をいかに教え，どう評価するかについて改めて検討する	
第8回	算数教育　ー意味を理解させるー 就学前の子どもは数に対して生得的な興味を持っている	
第9回	理科教育　ーブラックボックスの内部を探るー 理科を学び，実践する際の心的過程を理解する	
第10回	読みの指導　ー大きな構図を見るー 熟練した読みに関する詳細な認知モデルを知る	
第11回	作文教育　ー知識の陳述から知識の変換へー 文章を書くという課題は「不良構造化問題」の解決を強いる	
第12回	教育評価　ー指導と評価を一体化するー 指導と評価を「相関」ではなく「因果」から捉える	
第13回	教師の学習　ー教師の成長を支援するー 教師に求められる役割の変化と，その変化への対応	
第14回	情報教育　ー学習を支える情報テクノロジーー 学校に情報テクノロジーを導入する際のガイドラインを知る	
第15回	学習科学の現状 教育実践上の具体的な問題を解決するために	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	100	発表内容および討議への参加，予・復習の状況によって評価する。発表後に、コメントする。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。毎回必ず1回は意見や見解を述べること。
授業外学修	有意義な討議を行うため，必ず予習してから毎回の授業に臨むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
授業が変わる　認知心理学と教育実践が手を結ぶとき	松田文子・森　敏昭(監訳)	北大路書房	4-7628-2088-1	3200円
授業を変える　認知心理学のさらなる挑戦	森　敏昭・秋田喜代美(監訳)	北大路書房	978-4-7628-2275-9	3800円

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子ども社会学特論			授業番号	MC302	サブタイトル			
教員	中田　周作								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業は，下記のテーマにしたがって進めていく。 受講学生は，順番に担当部分についての発表資料を作成し，その作成した資料にもとづいて発表を行う。 その発表に関しては，学生たち自身が質疑応答や討論をする。 教員は，この議論について適宜，補足説明をしたり，必要な事項について講義する。								
到達目標	現代社会における教育現象は，決して単純なものではない。教育分野における社会学的アプローチの有効性のひとつは，こうした複雑な社会現象を読み解くための枠組みを提供することである。 そこで，本授業では，現代社会のなかで生きる子どもや子どもを取り巻く社会集団等に関するテーマを取り上げ，社会学の方法を用いて分析する。 このような学習を積み重ねることにより，教育者・保育者として，社会現象としての教育について的確な理解ができる実践者となることを目標とする。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子ども社会学の位置づけ −子ども社会学のパラダイム展開−	
第2回	子ども社会学の研究対象と研究方法 −子どもという研究対象の特徴を踏まえた研究の方法とは−	
第3回	子どもの発達と子どもの「居場所」 −「居場所」の定義と「居場所」に関する政策−	
第4回	子どもの「居場所」と臨床教育社会学 −子どもの「居場所」をどのように研究するのか−	
第5回	子どもの逸脱行動 −逸脱理論の展開−	
第6回	「いじめ」の定義の再検討 −「いじめ」の構造−	
第7回	学校と地域社会の連携 −学校運営協議会と地域学校協働本部−	
第8回	母親の育児不安と父親の育児態度 −育児不安の実態調査と分析−	
第9回	母親の育児不安と育児サークル −地域社会はどのように子育てを支援するのか−	
第10回	現代日本の子ども観 −子どもに対する態度を決定するものは何か−	
第11回	子どもの仲間集団 −子どもの仲間集団の実態と構造−	
第12回	子どもの放課後と学童保育 −現状と課題−	
第13回	子ども研究の方法 −フォーカス・グループ・インタビュー−	
第14回	子ども研究の方法 −テクスト分析−	
第15回	子ども研究の方法 −SCAT　Steps for Coding And Theorization−	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	作成したレジュメ及びその修正
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	40	発表及び質問

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な姿勢で臨むこと。
授業外学修	発表資料の作成

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子ども社会学の現在	住田正樹	九州大学出版会	978-4-7985-0135-2	3800

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	住田正樹・高島秀樹 編著『変動社会と子どもの発達』北樹出版 住田正樹・多賀太編『子どもへの現代的視点』北樹出版 酒井朗，多賀太，中村高康『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房 浜島朗ほか『社会学小辞典』有斐閣 近藤博之ほか『教育の社会学』放送大学教育振興会 日本子ども社会学会 編『いま，子ども社会に何がおこっているか』北大路書房 永井聖二・加藤　理 編『消費社会と子どもの文化』学文社

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	相談・援助特論			授業番号	ME301	サブタイトル			
教員	中　典子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	相談援助の進め方や実際について社会福祉の立場から講義し，ソーシャルワークやカウンセリング技術の学びを促し，子どもを取り巻く環境に働きかける支援について講義する。事例を通して子どもが生活する上で直面する課題に焦点をあてて支援する方法を学び，保育・教育現場における相談援助について説明する。								
到達目標	1．相談援助の基本的考え方を把握できるようになる。 2．子どもと子どもを取り巻く環境の相互作用に焦点を当てた支援の実際を理解できるようになる。 3．事例研究にもとづいて，アセスメントの方法が理解できるようになる。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	相談援助の構造 子ども家庭支援のシステムを理解する。	
第2回	相談援助の理論・意義・機能 子ども家庭支援の意義と必要性を理解する。	
第3回	相談援助における技術 子ども家庭支援の目的と機能を理解する。	
第4回	相談援助の対象・プロセス 保育の専門性を生かした支援プロセスを理解する。	
第5回	相談援助の方法と技術 信頼関係を築くための保護者や子どもへの対応方法を理解する。	
第6回	関係機関との連携 子どもや保護者が利用している社会資源との連携の必要性を理解する。	
第7回	保育・教育相談援助の基本「子どもの福祉と最善の利益の遵守」 子どもの権利条約に基づく対人相談援助ついて理解する。	
第8回	保育・教育相談援助の基本「子どもの成長と喜びの共有」 保護者との情報共有の必要性を理解する。	
第9回	保育・教育相談援助の基本「保護者の養育力の向上と支援」 保育者に求められる資質を理解する。	
第10回	保育・教育相談援助の基本「受容，自己決定，秘密保持の遵守」 バイステックの対人援助の7原則を理解する。	
第11回	保育・教育相談援助の実際1 保育所を利用する子どもへの家庭支援の方法を理解する。	
第12回	保育・教育相談援助の実際2 地域の子育て家庭への支援の方法を理解する。	
第13回	保育・教育相談援助の実際3 要保護の子どもと家庭への支援の方法を理解する。	
第14回	保育・教育相談援助の実際4 障がいのある子どもと保護者への支援の方法を理解する。	
第15回	保育・教育相談援助の実際5 虐待の予防に向けての保護者への支援の方法を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲のある受講態度，発表や討議への参加，予習・復習の状況によって評価する。
レポート	50	事例研究にもとづいて保育・教育現場における相談援助の方法について具体的に述べられているかによって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業中に提示した課題を期日までに提出するように心がけること。
授業外学修	授業開始前までに，事前配付資料の内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	杉本敏夫監修	ミネルヴァ書房	9784623098170	2,400円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて紹介する。
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	発達障害児支援特論			授業番号	ME302	サブタイトル			
教員	原田　新								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	障害概念および発達障害の基礎知識を学んだ上で，二次障害の予防を見据えたインクルーシブ教育の環境，発達障害児への具体的な支援方法や関わり方，また家族支援の方法について身につけることを目指す。								
到達目標	各種の発達障害特性や支援方法について理解することで，発達障害児およびその家族が日常で直面する困難さにアプローチできる為の視点を身につけると共に，子育て支援，保育，教育等の現場に対して身につけた知識や方法を還元できるようになること。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	障害とは：障害の社会モデル，障害者差別解消法，差別，合理的配慮等についての基本的な考え方を理解する。	
第2回	発達障害の理解(1)：発達障害におけるスペクトラムの考え方について理解する。	
第3回	発達障害の理解(2)：自閉スペクトラム症の基礎知識について理解する。	
第4回	発達障害の理解(3)：注意欠如・多動症，限局的学習症の基礎知識について理解する。	
第5回	発達障害と二次障害：二次障害をもたらす悪循環や，その予防・回復のために必要なことについて理解する。	
第6回	インクルーシブ教育(1)：インクルーシブ教育についての基礎知識について理解する。	
第7回	インクルーシブ教育(2)：インクルーシブ教育や多様性について，事例から考える。	
第8回	インクルーシブ教育(3)：インクルーシブ教育や多様性について，事例から考える。	
第9回	インクルーシブ教育(4)：インクルーシブ教育や多様性について，事例から考える。	
第10回	発達障害児の見方と関わり方(1)：リフレーミングの基礎知識について理解する。	
第11回	発達障害児の見方と関わり方(2)：分かりやすい声かけや指示の仕方について理解する。	
第12回	発達障害児の家族支援(1)：ペアレント・プログラムの概要について理解する。	
第13回	発達障害児の家族支援(2)：ペアレント・プログラムにおける現状把握表の基礎的な書き方について理解する。	
第14回	発達障害児の家族支援(3)：ペアレント・プログラムにおける現状把握表の応用的な書き方について理解する。	
第15回	まとめ：これまでの授業内容について振り返ると共に，今後どのような形で活かせるかについて，話し合う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	80	授業内での討論や演習等への参加状況，授業外での取り組み状況，授業内で作成する成果物を総合的に評価する。
レポート	20	授業に関わるテーマの小レポート（2回）を評価する。小レポートについては，その後の授業で発表してもらうと共に，教員からコメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	シラバスに基づいて入念に予習を行って授業に臨むと共に，授業中に行う討論や演習等に参加すること。
授業外学修	授業で配布する資料や，参考文献等を参照しながら，予習，復習を行うとともに，小レポートを作成すること。以上の内容を，計60時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高等教育機関における障害学生支援（11年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高等教育機関における発達障害学生支援の実例も交えながら説明する。

科目名	子どもの認知と学習特論			授業番号	ME303	サブタイトル			
教員	國田　祥子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	人の行動は内的な認知過程に依存しており，その過程は感情や意識，経験や知識などによって変化する。こうした認知機能と，それが子どもの学習過程にもたらす影響について学ぶ。								
到達目標	子どもの学習過程を認知的側面から捉えるための基礎知識および方法論を身に着ける。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	学習および認知について 知識獲得のメカニズムについて解説する。	
第2回	古典的条件づけ 「刺激」と「反応」の連合によって学習を説明する理論を解説する。	
第3回	道具的条件づけ 生起した行動への「報酬／罰」による生起頻度の変化について解説する。	
第4回	技能学習 楽器演奏，スポーツ技能，ドライブ技術など，動作や技術の習得について解説する。	
第5回	社会的学習 他人の経験や体験を見聞することによる学習のメカニズムについて解説する。	
第6回	問題解決と推理 問題解決過程について説明し，その中で重要な役割を果たす推理について解説する。	
第7回	概念過程と言語獲得 人間がどのように概念や言語を獲得し，用いるかという問題について解説する。	
第8回	記憶のしくみ 「記銘」-「保持」-「想起」から成る記憶のプロセスのうち，「記銘」について解説する。	
第9回	情報の検索と忘却 記憶過程を経て貯蔵された情報を「検索」するしくみについて解説する。	
第10回	知識と表象 人の中に保持されている知識について，どのように記憶されているのかを解説する。	
第11回	イメージと空間の情報処理 画像的記憶の特徴について，さらにその表象である視覚イメージについて解説する。	
第12回	認知の制御過程 人間の認知的活動を円滑に進めるための制御の過程について，注意のメカニズムを中心に紹介する。	
第13回	文章の理解と記憶 文章理解がどのようになされているのか，またその意味をどのように記憶しているのかについて解説する。	
第14回	意思決定 意思決定という判断を私たちはどのように行っているのか，先行研究に基づいて解説する。	
第15回	日常世界の記憶 日常世界での認知活動と実験室で観察される認知活動のかかわりについて解説する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	100	発表内容および討議への参加，予・復習の状況によって評価する。フィードバックは討議の中で行う。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な受講態度を期待します。毎回必ず1回は意見や見解を述べること。
授業外学修	有意義な討議を行うため，必ず予習してから毎回の授業に臨むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
グラフィック学習心理学	山内光哉・春木　豊（編著）	サイエンス社	978-4-7819-0977-9	2550円
グラフィック認知心理学	森　敏昭・井上　毅・松井孝雄（共著）	サイエンス社	978-4-7819-0776-8	2400円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子どもとメディア特論			授業番号	MF301	サブタイトル			
教員	岸　誠一								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子どもを取り巻く情報メディア環境は、1人1台端末やスマートフォン使用の低年齢化が進むことにより、大きく様変わりつつある。そのため、社会全体が、子どもに対する適切な情報環境をどのように整備・構築するかが求められている。 本授業では、前半部分でメディア教育の基礎理論およびその歴史と変遷および社会のメディアに変化について学修し、後半部分では主に学校教育でのメディア教育の現状を理解し児童生徒にどのように学ばせればよいのか検討する。								
到達目標	授業で学んだメディア教育の歴史やそれを取り巻く社会の状況、学校教育の実践を理解し、教育活動を行うときの考え方のベースを養う。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	メディア教育の重要性について-1 予測困難でかつ情報が氾濫している現代社会において、メディア教育が果たす役割とはまた課題は何か現状検討する。	
第2回	メディア教育とは何かと定義された時代のとらえ方と教育の状況を理解 国際映画テレビ協会(IFTC)が1973年に「メディア教育とは」なにかと定義した時代から10年を経て教育現場はどのように捉えどのような課題を抱えていたか理解する。	
第3回	メディア教育の歴史-1　コンピュータが出現するまでの視聴覚教育について 戦後「視聴覚教育」が社会教育と学校教育の2つに分かれて行われてきた時代に、教育現場でどのように実践されてを理解する。また現場の教員の指導の中心施設であった「視聴覚ライブラリー」の機能についても学修する。	
第4回	メディア教育の歴史-2　コンピュータが教育現場で使われ出してからインターネットが普及する前まで CMIやCAIとして初期のコンピュータ活用を行ってきた当時の教育現場の状況について、資料を参照しながら学修する。	
第5回	メディア教育の歴史-3（インターネットとメディア教育）インターネットが普及してから現在まで インターネットの基本構造と、学校教育にどのようにして導入されまたどのように活用されてきたか学修する。	
第6回	メディア教育の歴史-4（インターネットとメディア教育）インターネットが普及してから現在まで インターネットの基本構造と、ソーシャルメディアが個人の生活や社会に与える影響を探る。	
第7回	Society1.0～ 5.0という考え方を理解し長期的視点に立ってメディア教育の在り方を考える-1 Society4.0の現在を1.0（狩猟時代）から順次理解し今後あるべき社会の姿を考えることを通して現在のメディア教育の在り方を考える。	
第8回	Society1.0～ 5.0という考え方を理解し長期的視点に立ってメディア教育の在り方を考える-2 第7回の内容を踏まえてSociety4.0の現在を1.0（狩猟時代）から順次理解し今後あるべき社会の姿を考えることを通して今後のメディア教育の在り方を考える。	
第9回	一人1台端末時代に求められるメディアリテラシーとは-1 学校現場および家庭において情報端末の仕様に関する課題について現状分析を行う。	
第10回	一人1台端末時代に求められるメディアリテラシーとは-2 第9回の分析から、学校現場および家庭においてどのように課題を解決すればよいのか検討を行う。	
第11回	小学校教育現場におけるICT活用-1 現在小学校においてどのようなメディア教育が行われているか事例を分析し整理する。	
第12回	小学校教育現場におけるICT活用-2 第11回の分析を基にどのような活用が効果的か考え提案する。	
第13回	中学校教育現場におけるICT活用 中学校現場においてどのようなメディア教育が行われいているか事例を分析し理解する。	
第14回	生成AIの教育現場でのガイドラインを理解し、活用事例を分析検討 事例については、リーディングDXスクール生成AIパイロット校の報告等を参照する。	
第15回	メディア教育の重要性について-2 講義全体の内容を踏まえて、公立学校においてメディア教育が果たすべき役割は何か、課題にどう対応すべきか視点を決めて提案する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度、発表・討議への参加、予習・復習の状況によって評価する。
レポート	50	課題について要点をおさえ、視点を決めて自分の考えを述べたレポートかどうかによって評価する。レポートについてはコメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で行った内容および資料を復習して次授業に臨む。指示された回にレポートを作成すること。なお、レポート作成にあたっては時代的背景を考慮する場合は、できるだけその時代の価値観で考察すること。
授業外学修	1．授業で解説された内容について復習をしておくこと。 2．指示された回にレポートを提出すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要な資料は随時配布する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	メディア・リテラシーー吟味思考(クリティカル・シンキング)を育む（坂本旬 著、世界思想社） AI時代の教育ー「人間ならではの力」をどう育てるか（佐藤昌宏 著、実務教育出版） 1人1台端末時代の授業づくりとICT活用（堀田龍也・佐藤和紀 編著、ぎょうせい） 科学教育と情報教育（日本科学教育学会 編集）
その他	学内LANにつながる端末を用意しておくこと。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校長(8年)，公立幼稚園長(3年※小学校長と兼務)，公立小学校教諭(13年)，岡山県生涯学習センター(岡山県視聴覚ライブラリー担当3年)，岡山県情報教育センター(6年)での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	ICT教育の推進に学校長(幼稚園長)のリーダーシップは欠かせない。自分の校長(園長)時代の具体的な経験をもとにそれについて解説をしていく。また，教諭時代，授業の中でのICTの活用をした経験や，生涯学習センターで各学校のメディア教育担当の教員に対して行っていた研修および情報教育センターにおいて幼・小・中・高の教員対象に「授業における情報通信技術」の活用について行った研修の経験など，様々な内容について指導してきた経験を生かして，「学校現場」を想定した具体的な活用事例を紹介しながら大学院の学生に必要な思考力・実践力が身に付けられるような授業を展開していく。

科目名	地域教育社会学特論			授業番号	MF302	サブタイトル			
教員	中田　周作								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業は，下記のテーマにしたがって進めていく。 受講学生は，順番に担当部分についての発表資料を作成し，その作成した資料にもとづいて発表を行う。 その発表に関しては，学生たち自身が質疑応答や討論をする。 教員は，この議論について適宜，補足説明をしたり，必要な事項について講義する。								
到達目標	現代社会における教育現象は，決して単純なものではない。教育分野における社会学的アプローチの有効性のひとつは，こうした複雑な社会現象を読み解くための枠組みを提供することである。 そこで，本授業では，地域社会のなかで生きる子どもや子どもを取り巻く社会集団等に関するテーマを取り上げ，社会学の方法を用いて分析する。 このような学習を積み重ねることにより，教育者・保育者として，社会現象としての地域教育について的確な理解ができる実践者となることを目標とする。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの社会化とは何か	
第2回	現代日本の子ども観 (1)子ども観の定義と統計データから見る子ども観	
第3回	現代日本の子ども観 (2)課題図書に見る子ども観	
第4回	現代日本の子ども観 (3)地域住民の子ども観	
第5回	子ども社会化エージェント (1)子どもの仲間集団における社会化の特徴	
第6回	子ども社会化エージェント (2)近隣集団・地域集団における社会化の特徴	
第7回	子ども社会化エージェント (3)家族集団における社会化の特徴	
第8回	現代社会における子育て支援 (1)母親の育児不安の実態	
第9回	現代社会における子育て支援 (2)放課後子ども教室と学童保育	
第10回	現代社会における子育て支援 (3)近隣集団と地域集団の活動	
第11回	現代社会における子育て支援 (4)子どもとインターネット，ケータイ	
第12回	地域における子育て支援活動の現実 (1)放課後子どもプラン	
第13回	地域における子育て支援活動の現実 (2)教育支援人材の育成	
第14回	地域における子育て支援活動の現実 (3)地域集団における子育て支援活動(1)	
第15回	地域における子育て支援活動の現実 (4)地域集団における子育て支援活動(2)	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	作成したレジュメ及びその修正
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	40	発表及び質問

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積極的な姿勢で臨むこと。
授業外学修	発表資料の作成

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもへの現代的視点	住田正樹・多賀太	北樹出版	4-7793-0076-2	2800

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	住田正樹・高島秀樹編『変動社会と子どもの発達』北樹出版 住田正樹『子ども社会学の現在』九州大学出版会 酒井朗，多賀太，中村高康『よくわかる教育社会学』ミネルヴァ書房 浜島朗ほか『社会学小辞典』有斐閣 近藤博之ほか『教育の社会学』放送大学教育振興会
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	地域教育福祉特論			授業番号	MF303	サブタイトル			
教員	中　典子								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	現代社会における子どもを取り巻く環境を把握したうえで，子どもの教育環境・子ども家庭福祉政策の実態とその重要性について講義する。その際，「地域におけるネットワーク形成」に着目し，コミュニティワークの特質やそのあり方について説明する。また，院生自身が事例を読み解き，自らプレゼンテーションをする時間を設ける。								
到達目標	現代社会における子どもとその家族を取り巻く課題に対して，地域福祉・地域教育からのアプローチの方法とその特徴を理解できるようになる。子ども，家族に関する理解を前提に，子どもの権利を守る活動として地域福祉・地域教育実践を分析，考察することができるようになる。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもをめぐる現状と課題 子どもをとりまく環境を理解する。	
第2回	「子どもの権利条約」からみた教育・福祉 児童の権利に関する条約の内容を理解する。	
第3回	地域ネットワークとは 地域の社会福祉に関する機関や施設の連携・協働の必要性を理解する。	
第4回	子育ての現状と子育てネットワーク 子育て支援関連の社会資源を理解する。	
第5回	保育・幼児教育施設における子育て支援 保育所保育指針，幼稚園教育要領，幼保連携型認定こども園教育・保育要領における子育て支援の内容を理解する。	
第6回	児童館で展開される子育てネットワーク 児童館での子育て支援を理解する。	
第7回	学校現場を中心にみたネットワーク1 スクールソーシャルワークを理解する。	
第8回	学校現場を中心にみたネットワーク2 スクールソーシャルワーカーの役割を理解する。	
第9回	市町村における子どもの専門機関のネットワーク 行政における子育て支援対策を理解する。	
第10回	子どもの貧困対策に対する支援1 子どもの教育を保障するために行われている支援を理解する。	
第11回	子どもの貧困対策に対する支援2 子どもの教育を保障するために行われている保護者への支援を理解する。	
第12回	外国籍等の子どもに対する支援1 子どもの教育を保障するために行われている支援を理解する。	
第13回	外国籍等の子どもに対する支援2 子どもの教育を保障するために行われている保護者への支援を理解する。	
第14回	子どもをめぐるネットワークとは 子ども支援のために構築されているネットワークを理解する。	
第15回	地域教育・地域福祉の今後の展望と課題 子どもの教育を保障するためにどのような暮らしの支援が必要かを理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，発表・討議への参加，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	出題に対して適切な分析力，表現力，また，参考文献・資料などの活用力などについて評価する。コメントを記入して、返却する。
その他	30	プレゼンテーションについては，「他者によく分かる授業」を観点として評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前に提示した資料をよく読んでくること。毎回の授業において，他学生としっかりディスカッションをすることにより学びを深めようと意欲的に取り組むこと。また，分からないところは自ら文献や先行研究論文を探し，他学生に提示できるように努力すること。
授業外学修	授業開始前までに，事前配付資料の内容を読んでおくこと。（1時間） 授業後に示す課題を次回の授業開始前までに仕上げておくこと。（2時間） 授業で学んだ内容を振り返り，必要と考えることをノートにまとめておくこと。（1時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
地域がつくる子どもの居場所	西垣順子他	晃洋書房	9784771039957	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて提示する。
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子どもと放課後特論			授業番号	MF304	サブタイトル			
教員	住野　好久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	現代における子どもの放課後対策の中心となっている放課後児童クラブ（学童保育）について、日本学童保育学会設立10周年記念誌『学童保育研究の課題と展望』に所収の論考を批判的に分析することを通じて学ぶ。								
到達目標	・現代における子どもの放課後対策の中心となっている放課後児童クラブ（学童保育）の現状と、その研究動向を理解する。 ・放課後における子どもの教育と福祉のあり方及び学校教育との連携のあり方について考える。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの放課後対策の現状 現代日本における子どもの放課後対策について全体像を理解する。	
第2回	子どもの放課後対策の課題 現代日本における子どもの放課後対策が抱えている課題を理解する。	
第3回	放課後児童健全育成事業（学童保育）政策の概要 現代における子どもの放課後対策の中心となっている放課後児童クラブ（学童保育）制度とその現状を理解する。	
第4回	放課後児童健全育成事業（学童保育）と子どもの生活保障 テキスト「第一部第1章　生活保障としての学童保育」を批判的に検討する。	
第5回	放課後児童健全育成事業（学童保育）と地域づくり テキスト「第一部第3章『大きな家族』としての学童保育から地域づくりへ」を批判的に検討する。	
第6回	放課後児童健全育成事業（学童保育）と子どもの権利保障 テキスト「第一部第4章　子どもの権利と学童保育の子ども観・子育て観」を批判的に検討する。	
第7回	放課後児童健全育成事業（学童保育）と学校教育 テキスト「第一部第2章　学童保育と学校教育の現在と未来」を批判的に検討する。	
第8回	学童保育実践の特質と構造 テキスト「第二部第1章　学童保育実践の特質と構造」を批判的に検討する。	
第9回	学童保育指導員・支援員の職務と専門性 テキスト「第二部第2章　学童保育指導員・支援員の職務と専門性」を批判的に検討する。	
第10回	学童保育指導員の同僚性 テキスト「第二部第5章　実践者たちの同僚性と組織的な専門性向上」を批判的に検討する。	
第11回	学童保育実践と子どもたちの発達保障 テキスト「第三部第1章　今日の子どもたちの発達保障と学童保育実践」を批判的に検討する。	
第12回	学童保育実践とインクルーシブ子どもたちの発達保障 テキスト「第三部第2章『特別な教育的ニーズ』のある子どもとインクルーシブ学童保育」を批判的に検討する。	
第13回	学童保育実践と家族支援 テキスト「第三部第3章　貧困・児童虐待問題と学童保育における家族支援」を批判的に検討する。	
第14回	学童保育研究の課題と展望 テキスト「第一部第5章　日本の学童保育史研究の課題と展望」を批判的に検討する。	
第15回	子どもの放課後対策の未来 子どもの放課後に対する総合的な対策の方向性を、海外の取組を踏まえて考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
最終レポート	50	本科目の学習を理解した上で，子どもの放課後対策及び学童保育に関する考えを論述すること。
小テスト		
定期試験		
授業での発表	50	テキストの内容理解及び批判的検討について発表する内容の妥当性。授業の中で発表内容についてコメントをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子どもの発達保障を広い視野で考える思考様式を持って，積極的に討論に参画すること。
授業外学修	1）テキスト及び配付資料を熟読すること。 2）学校外の子どもを対象とした様々な事業に参加したり，そうした事業に関する新聞記事を収集したりすること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
学童保育研究の課題と展望	日本学童保育学会	明誠出版	4909942165	3080

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	厚生労働省「放課後児童クラブ運営指針解説書」
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

科目名	子ども学特別研究			授業番号	MH401	サブタイトル			
教員	中　典子、加賀　勝、中田　周作、齊藤　佳子、西田　寛子、伊藤　智里、國田　祥子								
単位数	8単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	入学後，院生は研究指導教員と話し合い，ディプロマポリシーにふさわしい研究テーマを設定し，修士論文としてまとめる。目安として，1年次では主として研究テーマに沿った先行研究の文献や資料を収集することで研究分野に関する理解を深め，具体的な研究計画を完成させる。1年次後半から2年次にかけてデータや資料を収集，解析し，修士論文の執筆を進める。現職の社会人や実践経験のある院生の場合は，自ら体験した事例や，現場で集めたデータを基に研究を進めることもできる。2年次後半で研究の仕上げを行い，修士論文を完成させる。								
到達目標	子ども学の本質・内容・方法に関する専門的知識に基づいて， ・子ども学の専門的な知識や研究手法を理解する。 ・事象を分析し，問題点を見出し問題解決を行う。 ・論理的で普遍性のある文章およびプレゼンテーションにより表現する。 ・科学者としての研究倫理を踏まえて研究を進める。 以上を踏まえたうえで修士論文を完成させる。修士論文審査の評価基準は別途配付する。								
授業計画　備考	授業時間外にも調査・文献整理することが求められる。								
授業計画 自由記載	加賀　勝：スポーツ科学及び健康科学に関する研究指導を行う。 中　典子：事例研究の手法を用いてソーシャルワークプロセスに関する研究指導を行う。 中田周作：教育社会学における理論的・実証的な研究指導を行う。 齊藤佳子：生活学、家政学における教育、児童学に関する理論的・実証的な研究指導を行う。 西田寛子：マネジメントの手法を用いて，英語科や外国語活動に関する理論的・実証的研究の指導を行う。 伊藤智里：幼児教育の歴史，現在の保育・幼児教育に関する問題等に関する研究指導を行う。 國田祥子：表示メディアと読みの関係，音読の効果，頻度と注意の関係等に関する研究指導を行う。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度によって評価する。
その他	90	執筆された論文を学位審査委員会で審査する。

評価の方法：自由記載	論文は，受講中の討論や中間発表での議論が反映されていることと，高度専門職業人や研究者としての問題解決の基礎的能力を身に付けていると認定できることが求められる。表現系の場合は作品や実演を審査の対象とすることができる。
受講の心得	教育や保育の実践の改善に資するテーマを探究すること。先行研究のレビューを行い，教育や保育の実践上の問題点を明確にし，研究課題の新規性を説明できるようにしておくこと。
授業外学修	授業で提示される次回の内容について，予習すること。 授業で提示された課題を実施し，復習すること。 上記の内容を，週当たり8時間程度学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立中学校英語科教諭・指導教諭（28年），県教育委員会指導主事（４年），公立中高一貫校指導教諭（６年），公立小学校指導教諭（公立中学校指導教諭との兼務：１年）（西田寛子）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	英語科教員・指導主事としての実務経験（38年）を生かし，教育現場の実態を踏まえて，その課題を解決するための実践的な指導を行う。（西田寛子）

中国短期大学　総合生活学科　シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
フレッシャーズセミナー	仁宮　崇／韓　在都／松井　圭三／中野　ひとみ／森田　裕之／三宅　真未	1
韓国語	宋　娘沃	3
中国語	杉山　明	5
日本国憲法	俟野　英二	7
人間の尊厳と自立	住野　好久	9
体育実技	梶谷　信之	11
英語A	藤田　香織	13
日本語表現	太田　憲孝	15
心理学	疋田　基道	17
社会保障論	松井　圭三	19
社会学	中田　周作	21
芸術	岡崎　三鈴	23
人間関係とコミュニケーション	疋田　基道	25
英語B	藤代　昇丈	27
法学概論	馬場　幸三 他	29
時事問題	倉田　致知	31
数理・データサイエンス・AI	平井　安久	33
生活とデザイン	三宅　真未	35
色彩学	三宅　真未	37
生活デザイン実習（135分）	三宅　真未	39
調理演習	児玉　彩	41
食と生活	小築　康弘	43
食品の世界	小築　康弘	45
食と健康	小築　康弘	47
食空間と調理	児玉　彩／石田　有美枝	49
調理実習Ⅰ	児玉　彩	51
フードマーケティング論	児玉　彩	53
食生活演習（6月上旬まで）	小築　康弘	55
フードコーディネート実習	小築　康弘／石田　有美枝	57
食品加工実習	小築　康弘	59
応用調理演習	児玉　彩	61
調理実習Ⅱ	児玉　彩	63
生活学概論A 生活創造・医療事務コース卒業必修科目	小築　康弘／仁宮　崇	65
生活コミュニケーション論	疋田　基道	67
生活コミュニケーション演習A（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝにおける聴くこと）生創・医療卒必	疋田　基道	69
生活学概論B 生活創造・医療事務コース卒業必修科目	三宅　真未	71
ホスピタリティとマナー	仁宮　崇／韓　在都／児玉　彩	73
生活学概論C 生活創造・医療事務コース卒業必修科目	小築　康弘／韓　在都／仁宮　崇	75
生活学概論D 生活創造・医療事務コース卒業必修科目	疋田　基道／韓　在都／児玉　彩	77
キャリア開発演習	仁宮　崇／韓　在都／三宅　真未	79
生活情報演習A	小築　康弘	81
生活コミュニケーション演習B（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝとﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ）生創・医療卒必	疋田　基道	83
生活情報演習B	古谷　俊爾	85
生活コミュニケーション演習C（自己理解とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ）	疋田　基道	87
生活コミュニケーション演習D（集団におけるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ）	疋田　基道	89
メンタルヘルス学	仁宮　崇	91
総合生活学セミナーA（食の情報:ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ情報の評価と活用）	小築　康弘	93
総合生活学セミナーB（心の探究学）	疋田　基道	95
総合生活学セミナーC（現代のﾀﾞｲｴｯﾄ:ﾀﾞｲｴｯﾄ法の批判的考察）	小築　康弘	97
総合生活学セミナーD（ファッション演出企画）	三宅　真未	99
応用メンタルヘルス学	仁宮　崇	101
特別研究	中野　ひとみ／森田　裕之	103
診療報酬請求事務Ⅰ	仁宮　崇	106
診療報酬請求事務演習Ⅰ	仁宮　崇	108
医事コンピュータ演習Ⅰ	仁宮　崇	110
医療管理事務総論A	仁宮　崇	112
秘書学	仁宮　崇	114
医療管理事務総論B	仁宮　崇	116
診療報酬請求事務Ⅱ	仁宮　崇	118
医事コンピュータ演習Ⅱ	仁宮　崇	120
診療報酬請求事務演習Ⅱ	仁宮　崇	122
接遇演習	仁宮　崇	124
ファッションと生活	三宅　真未	126
ファッションビジネス	三宅　真未	128
アパレル基礎実習（135分）	三宅　真未	130

アパレル企画実習（135分）	三宅　真未	・・・・・・・・	132
ファッションコーディネート演習	三宅　真未	・・・・・・・・	134
地域共生社会論	中野　ひとみ	・・・・・・・・	136
地域福祉論	松井　圭三	・・・・・・・・	138
社会福祉論	松井　圭三	・・・・・・・・	140
ヒューマンケア ①　シラバス用	韓　在都／森田　裕之	・・・・・・・・	142
ヒューマンケア ②　シラバス用	韓　在都／中野　ひとみ／森田　裕之	・・・・・・・・	144
ヒューマンケア ③　シラバス用	韓　在都／中野　ひとみ／森田　裕之	・・・・・・・・	146
介護概論	松井　圭三	・・・・・・・・	148
介護の基本Ⅰ	森田　裕之	・・・・・・・・	150
認知症の理解Ⅰ	中野　ひとみ	・・・・・・・・	152
人間発達学	疋田　基道	・・・・・・・・	154
障害者支援論	藤井　裕士	・・・・・・・・	156
医学一般	太田　潤	・・・・・・・・	158
リスクマネジメント論	森田　裕之	・・・・・・・・	160
生活支援技術Ⅰ 生活福祉コース卒業必修科目	森田　裕之	・・・・・・・・	162
生活家事支援技術	森田　裕之	・・・・・・・・	164
生活余暇支援技術 生活福祉コース卒業必修科目	森田　裕之	・・・・・・・・	166
総合生活学セミナーKⅠ	森田　裕之／韓　在都／松井　圭三／中野　ひとみ	・・・・・・・・	168
総合生活学セミナーKⅡ	森田　裕之／韓　在都／松井　圭三／中野　ひとみ	・・・・・・・・	170
介護過程Ⅰ	韓　在都	・・・・・・・・	172
介護過程Ⅱ	森田　裕之	・・・・・・・・	174
介護実習Ⅰ－①	森田　裕之／韓　在都／松井　圭三／中野　ひとみ	・・・・・・・・	176
介護実習Ⅰ－②	森田　裕之／韓　在都／中野　ひとみ	・・・・・・・・	178
ヒューマンケア ④　シラバス用	韓　在都／中野　ひとみ	・・・・・・・・	180
ヒューマンケア ⑤　シラバス用	韓　在都	・・・・・・・・	182
介護の基本Ⅱ－A	韓　在都	・・・・・・・・	185
介護の基本Ⅱ－B	韓　在都	・・・・・・・・	187
認知症の理解Ⅱ	韓　在都	・・・・・・・・	189
発達と老化の理解	中野　ひとみ	・・・・・・・・	191
障害の理解	中野　ひとみ	・・・・・・・・	193
こころとからだのしくみⅠ	中野　ひとみ	・・・・・・・・	195
こころとからだのしくみⅡ	韓　在都	・・・・・・・・	197
生活コミュニケーション特論演習A 生活福祉コース卒業必修科目	森田　裕之	・・・・・・・・	199
生活支援技術Ⅱ 生活福祉コース卒業必修科目	森田　裕之	・・・・・・・・	201
生活支援技術Ⅲ 生活福祉コース卒業必修科目	韓　在都	・・・・・・・・	203
総合生活学セミナーKⅢ	森田　裕之／韓　在都／松井　圭三／中野　ひとみ	・・・・・・・・	206
総合生活学セミナーKⅣ	森田　裕之／韓　在都／松井　圭三／中野　ひとみ	・・・・・・・・	208
介護過程Ⅲ	韓　在都	・・・・・・・・	210
介護実習Ⅰ－③	中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之	・・・・・・・・	212
医療的ケアⅠ	中野　ひとみ	・・・・・・・・	214
生活コミュニケーション特論演習B 生活福祉コース卒業必修科目	森田　裕之	・・・・・・・・	217
生活支援技術論 生活福祉コース卒業必修科目	中野　ひとみ／森田　裕之	・・・・・・・・	219
介護実習Ⅱ	中野　ひとみ／韓　在都／森田　裕之	・・・・・・・・	221
医療的ケアⅡ	中野　ひとみ	・・・・・・・・	223

科目名	フレッシャーズセミナー			授業番号	HA101	サブタイトル	(大学における学修方法を身につける)		
教員	仁宮　崇、韓　在都、松井　圭三、中野　ひとみ、森田　裕之、三宅　真未								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	学生生活を始めるにあたり，授業の予習復習，メモ，ノートのとり方，定期試験や資格試験の勉強方法等ついて学修する。また、学内施設を知る等，2年間を有意義に過ごすための学びも実践する。 学生支援セミナーや就職ガイダンスにも参加して話をよく聴き，メモを取る習慣を身につける。								
到達目標	・授業の受け方，メモをとることの重要性，レポートの書き方の基礎について理解している。 ・授業を通して他者との関係が良好であるように努めることができる。 ・学内の施設について，利用方法を知っている。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げている学士力の＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	日々の学修について 学生としての授業の受け方，予習復習，メモやノートの取り方，勉強方法について理解する。	仁宮
第2回	笑顔学ー人と触れ合う生活のために育む教養ー コミュニケーションの基本である笑顔を学ぶ。	韓
第3回	就職ガイダンス（1） 就職支援センター紹介，リクナビ登録・AIの正しい使い方について理解する。	松井，就職支援センター
第4回	学生生活とストレス対策 ストレス対策の基礎知識，悩みを相談することの大切さを学ぶ。	仁宮
第5回	知っているようでしらない対話の基本 話すとき，話しを聴くときのポイント，正しい言葉遣い，コミュニケーションの前提にある自己理解を学ぶ。	中野
第6回	図書館の利用 図書館の利用方法，蔵書検索の仕方を知り，図書館を有効活用できるようにする。	松井，中野，森田，図書館
第7回	就職ガイダンス（2） 仕事研究，インターンシップ，就職情報サイトの利用について理解する。	仁宮，韓，三宅，就職支援センター
第8回	レポートの書き方説明（1） レポートの書き方作成について，常体と敬体，主語と述語の意識，話し言葉と書き言葉，文章を書く注意点を理解する。	仁宮（講義），韓，松井，中野，森田，三宅（採点講評）
第9回	学生支援セミナー（1） 目上の方のお話を態度良く聴いて，しっかりメモを取る。	三宅，学生部
第10回	公的年金の動向と概要 国民年金，厚生年金の概要及び老齢，障害，遺族年金制度のポイントについて理解する。	松井
第11回	就職ガイダンス（3） OB・OG，就活サポーターの活用について理解する。	仁宮，就職支援センター
第12回	レポートの書き方説明（2） 前回のレポート課題の反省を活かしてレポート作成の流れを学び，序論本論結論を意識して書く能力を向上させる。	仁宮（講義），韓，松井，中野，森田，三宅（採点講評）
第13回	勉強方法 入学して初めての定期試験や資格試験の勉強方法について理解する。	仁宮
第14回	学生支援セミナー（2） 目上の方のお話を態度良く聴いて，しっかりメモを取る。	森田，学生部
第15回	レポート採点と講評・授業の振り返り レポート採点結果と各教員の講評を伝える。授業の振り返りをする。	仁宮
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	授業への取り組む姿勢，感想の質と量で評価する。
レポート	40	指示されたルールを守ってレポートを作成し，期限までに提出できるかで評価する。提出された課題は評価し，コメントを付して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	授業への取り組みの姿勢／態度　60点　4点×15回=60点 レポート　40点　20点×2回=40点
受講の心得	授業で学んだことを2年間意識して学生生活に活かすこと。
授業外学修	・課題として出されるレポートの作成をする。 ・授業で得た学生としての学修を様々な場面で実践する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．授業の受け方，メモをとることの重要性，レポートの書き方の基礎について理解している。	授業の受け方，メモをとることの重要性，レポートの書き方の基礎についてよく理解している。	授業の受け方，メモをとることの重要性，レポートの書き方の基礎についてほぼ理解している。	授業の受け方，メモをとることの重要性，レポートの書き方の基礎について基本的に理解している。	不十分ながら授業の受け方，メモをとることの重要性，レポートの書き方の基礎について理解している。	授業の受け方，メモをとることの重要性，レポートの書き方の基礎について理解していない。
知識・理解	２．学内の施設について，利用方法を知っている。	学内の施設について，利用方法をよく知っている。	学内の施設について，利用方法をほぼ知っている。	学内の施設について，基本的な利用方法を知っている。	不十分ながら学内の施設について，基本的な利用方法を知っている。	学内の施設について，利用方法を知らない。
態度	１．授業を通して他者との関係が良好であるように努めることができる。	授業を通して他者との関係が良好であるように努めることが大変よくできる。	授業を通して他者との関係が良好であるように努めることが十分できる。	授業を通して他者との関係が良好であるように努めることができる。	授業を通して他者との関係が良好であるように努めることがあまりできない。	授業を通して他者との関係が良好であるように努めることができない。

科目名	韓国語			授業番号	HA102	サブタイトル	(韓国語の基礎を学ぶ)		
教員	宋　娘沃								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	近年韓国の映画、音楽、食べ物などの文化や社会生活が世界から注目され，韓国への関心が一層高まっている。こうした関心は韓国語の習得につながり，韓国語はどのような仕組みで作られているのかを知っていく必要がある。韓国語と日本語は文法が類似していると同時に，言葉にとって大切な語順がほとんど一致している。本講義は，前半では韓国語学習を習い始める初歩の段階としてハングルの基礎から始まり，韓国語のごく短い文の読み書き，聞き取りを学習する。後半では日常会話として自己紹介，挨拶の言葉，韓国旅行のための簡単な会話など，基本的なやり取りの実践的な力を身につける。また、韓国の若者の意識，大学生活，エンターテインメント，社会への理解を深めるために，ビデオ鑑賞を行う。								
到達目標	・韓国語の基礎的な文字，発音を理解して活用できる。 ・簡単な韓国語の読み書きができる。 ・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	韓国語とは 韓国語はいつ作られ，どのように作られたのかをハングルの由来，歴史的な経緯を学習する。	
第2回	文字と発音・母音 韓国語の特徴や文字の基本構成を学習する。	
第3回	文字と発音・子音 韓国語の特徴や文字の基本構成を学習する。	
第4回	激音と農音，パッチム 基本母音字と子音字から表れる激音と濃音の発音の違いについて学習する。	
第5回	韓国語の助詞・動詞 韓国語の一文を完成するための助詞と動詞の仕組みについて学習する。	
第6回	基本文型の過去形の作り方 基本文型の現在，過去，未来はどのように表現されているのかを学習する。	
第7回	感嘆文・疑問文の形式 韓国語の感嘆文・疑問文を簡単な言葉を用いて学習する。	
第8回	基本文型の指示代名詞・助数詞 指示代名詞を事例の文章から説明し，一つの文章を作るようにする。	
第9回	用語の丁寧形や尊敬語 韓国語の丁寧形や尊敬語を具体例から学び，理解する。	
第10回	会話練習・表現 文章の基礎的な仕組みをから短い表現を理解する。	
第11回	挨拶・訪問の言葉 基本的な挨拶の言葉を学習する。	
第12回	韓国の大学と若者 韓国の大学と日本の大学との近い，若者の意識について理解する。	
第13回	韓国の食生活と食べ物 韓国の食生活・食文化や近年関心が高まっている食べ物について学習する。	
第14回	韓国の映画と文化 韓国のエンターテインメントや映画について理解する。	
第15回	韓国の音楽と日常会話 近年のKポップや音楽について，日常会話を用いて学習する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢や態度	20	授業への意欲，質問，課題を積極的に取り組んでいるのかを評価する。
小テスト	40	授業の中間時点で，どの程度内容を理解しているのかを確認する。また，小テストは次週で解説する。
期末テスト	40	授業全体の理解度や言葉の習得ができているのかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・毎回教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み，予習をやって来ること。 ・課題を充実に行うこと。
授業外学修	・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって読むこと。 ・復習として，課題をノートに書いて来ること。 ・韓国語の教科書のCDを聞くようにして，言葉に慣れること。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ゼロから学べる韓国語［文法］トレーニング	木内　明	髙橋書店	978-4-471-11270-7	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．外国語や韓国語の必要性を十分に認識している.。	韓国語の必要性をほぼ理解している。	韓国語の文法の仕組みや会話の基本構造をほぼ理解している。	韓国語の文法の仕組みをほぼ理解している。	韓国語は理解しているが，具体的な知識が十分できていない。	あまり外国語に対して興味をもっていない。
知識・理解	2．新しい知識として外国語の必要性を十分に認識している。	言葉の仕組みや子音・母音を十分に理解している。	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる。	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる。	韓国語の文字体系を理解しようとしていない。	外国語や他の国のことを理解していない。
知識・理解	3．韓国語の学ぶ上での韓国の文化や社会のことを認識している。	韓国で起こっている諸問題から対応策を考えられる。	最近の韓国文化に興味を持って勉強に取り組んでいる。	学生自ら進んで韓国語を学習する能力が備えている。	あまり外国の文化や言葉に興味を持っていない。	韓国のことや韓国語にあまり関心を持っていない。
技能	1．新しい言葉を身につけることで自分の知識が深まる。	韓国語の基礎が出来ており，自ら進んで韓国の文化に関しても勉強している。	韓国語の会話や発音の子音・母音の体系が理解できている。	韓国語の発音の仕組み，会話の基礎が出来ている。	韓国語を学習する目的や基礎知識が理解できていない。	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない。
技能	2．外国語を学ぶことで一層他文化に対する理解が深まる。	韓国語の基礎知識は十分に備え，自ら進んで韓国の文化を勉強している。	韓国語の基礎知識を備えられ，その国の社会や文化が理解できる。	韓国語の会話がほぼ理解でき，韓国の社会に関しても知ろうとしている。	外国語を修得し，１つでも自分の知識を増やすことの重要性が認識できていない。	韓国語を学ぶことの意味と目的が明確ではない。
技能	3．外国語や海外の人や文化を通じて，自国のことや自分のことを再考することになる。	韓国語の学習が十分にでき，今日のグローバル社会が理解できる。	韓国語の学習を通じて他の国のことが理解できる。	韓国語の基礎知識が勉強でき，他の語学にも興味を持つようになる。	韓国語の基本の発音体系や会話を身につける意味が認識できていない。	韓国語の内容や発音の体系をどのように理解し，勉強しようかという認識ができていない。

科目名	中国語			授業番号	HA104	サブタイトル			
教員	杉山　明								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この授業では中国語の発音・基礎文法に重点を置く。日本人にとって親しみのある漢字を中国語でどう発音するかのなぞを解きながら，基礎的な会話と文型を学んでいくものとする。実践的な「使える中国語」を目指す。								
到達目標	既習内容の発音や単語の定着を目指して基本文型を理解する。いざ中国語による会話をする時，趣味などについて語れる基礎的なコミュニケーション能力を身に付けている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	発音練習と授業計画 学習の進め方を理解し，発音の基礎となる四声，単母音を理解する。テキスト発音編第一課 授業後はテキストの音声教材を使って、よく復習する。	
第2回	発音　ピンイン　複母音　数字 ピンインの読み方を知るとともに，発音編第２課により複母音の発音を練習する。また本文編第１課により数字の読み方を学ぶ。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第3回	発音　鼻母音　子音　「有」の用法 発音編第２課により鼻母音，子音の練習。本文編第１課により動詞「有」の用法を学ぶ。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第4回	発音　有気音と無気音　日付けの言い方　動詞「是」の用法 テキス発音編第２課を見て有気音と無気音の練習，本文編第２課を使いA是Bの構文を学ぶ。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第5回	声調の変化　r化音　曜日の言い方 テキスト発音編第３課により声調の変化，r化音を練習，本文編第３課により曜日の言い方を学習。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第6回	動詞「叫」「姓」の用法　疑問詞の用法 テキスト第３課により動詞文，動作動詞「叫」「姓」の用法及び疑問詞の用法を学ぶ。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第7回	SVOの文型　指示語の学習 テキスト第４課SVOの文型を学び、さらに指示語（こそあど言葉）の使い方を知る。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第8回	中間考査 ここまでの学習を振り返り，中間考査を実施する。次時に返却、解説を行う。	
第9回	中間考査返却と解説　お金の言い方 中間考査の結果を見て，自己の部分を未理解部分を確認する。 また中国のお金の言い方を学ぶ。 授業後は解説を聞き、自分の間違い箇所を訂正する。	
第10回	「在」の用法　重さ，長さの言い方 テキスト第５課により動詞「在」の用法を学び，また重さ，長さの言い方を知る。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第11回	反復疑問文　形容詞の用法 テキスト第５課により反復疑問文の使い方，第６課により形容詞の用法を学ぶ。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第12回	助動詞の用法　時間の言い方 テキスト第６課により助動詞「想」「要」の用法を学び，第７課により時間の言い方を知る。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第13回	可能の助動詞の用法　介詞 テキスト第７課により可能の助動詞「会」「能」「可以」の使い方を学び，さらに介詞「在」「対」の用法を学習する。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第14回	時間量の言い方　完了時制 テキスト第８課により時間量の言い方を知り，さらに完了時制を学習する。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第15回	介詞の用法　定期試験に向けて 第８課により介詞「離」「従」の用法を学び，さらに期末試験へ向けて復習を行う。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組み	30	意欲的な学習態度・発話・聞き取り・予復習の状況によって評価
小テスト	20	20点満点で毎時間実施　返却時に、解説する。
中間・期末試験	50	中間考査・期末考査の平均点の50%

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習，復習をしっかりすること。テキストを必ず持ってくること。 発音練習では声を出して練習すること。音声教材を積極的に利用すること。
授業外学修	1　予習として，次の授業に出る新出単語を覚えておくこと，テキストの問題に目を通しておくこと。 2　復習として，学んだ本文内容や文法を再確認し，発音練習を繰り返すこと。 以上の内容を，週当たり3時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
理系のための中国語・入門	杉山明	好文出版	978-4-87220-202-1	
使用テキスト：自由記載	テキストについては教学・アドミッション課より別途指示			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中国語学習＆異文化理解ハンドブック	杉山明・石下景教	アルク	978-4757420915	
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	高等学校での漢文授業（9年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．語彙の使用法	幅広い語彙を会話の中で正確かつ効果的に活用できる	語彙の使用の多様性を示しすが、時折不正確である	基本的な語彙は概ね理解しているが、表現の種類は限られている	語彙の範囲が狭く、単語の選択に苦労する	最小限の語彙しか使用せず、コミュニケーション効果を妨げている
知識・理解	2．文法	文法規則をしっかりと理解し、それらをスピーチなどで正確に適用している	一般的に正しい文法を使用し、理解を妨げない程度の軽微な誤りがある	文法の誤りが目立ち、文の構造と明瞭さにかける	基本的な文法の概念に苦労し、比較的ミスが多い	文法規則の理解が乏しい

科目名	日本国憲法			授業番号	HA201	サブタイトル	（身近な問題から「憲法のちから」を考える）		
教員	俟野　英二								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本科目では、日本国憲法および他国の憲法の沿革、様々な人々の人権について講義する。また、憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し、それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。 具体的にはまず、身近な憲法問題を取り上げて関係する憲法の基本原理及び基礎知識を教員の教育委員会(24年）及び県庁における人権啓発・相談経験（4年）を踏まえて概説する。次に、基本原理等に関する憲法問題について、グループワークを行い各自でワークシートにまとめさせる。そして、各章の小テストを課題としてUniversal Passport上で行い、基礎的な知識の定着を図る。さらに、憲法の基本原理、統治機構、人権に関する発展的な問題を全体で討議し、現代的な問題を分析、考察する。 これらの活動により、問題の全体像の把握と、多面的な分析及び多様な価値観や背景の認識を踏まえた上で、自らの見解の形成や表現の仕方を身に付ける。								
到達目標	憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し，それらを活用して身近な憲法問題を異なる価値観や考えに配慮しながら，主体かつ論理的に考えることができるようになることを目標とする。 なお，本科目は，到達目標達成の前提として異なる価値観，文化，背景及び相互関係を知り，深い認識と理解の修得を伴うので，幅広い教養のうち、特に変化の激しい現代生活に対応できる幅広い知識の修得に貢献する。また、グループワークや全体での討議を通じて，他者の有する異なる価値観や考えの存在を尊重しつつ協力して課題を解決する作業を行うことから，他者との関係が良好であるように努めるとともに、継続して学習意欲を持ち続ける態度の修得に貢献する。以上のようにこの科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容の＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス、この国の基礎にある考え方１ １　学修の目標、評価方法などを説明する。 ２　近代立憲主義について学修する。	
第2回	この国の基礎にある考え方２ １　法の支配について学修する。 ２　士俵の女人規制について考える。 ３　国家機関としての天皇制（明治憲法と天皇）について学修する。	
第3回	この国の基礎にある考え方３ 国家機関としての天皇制（日本国憲法と天皇）について学修する。	
第4回	この国の基礎にある考え方４ 憲法が目指す平和を守る仕組み１（憲法９条の制定と安保条約の締結）について学修する。	
第5回	この国の基礎にある考え方５ 憲法が目指す平和を守る仕組み２（台湾有事と存立危機事態）について学修する。	
第6回	人権を守るための組織１ １　統治機構１（政治と国民、国会議員）について学修する。 ２　若者の投票率の向上策について考える。	
第7回	人権を守るための組織２ 統治機構２（選挙、選挙制度、政党）について学修する。	
第8回	人権を守るための組織３ 統治機構３（国会）について学修する。	
第9回	人権を守るための組織４ 統治機構４（内閣）について学修する。	
第10回	人権を守るための組織５ 統治機構５（地方自治、裁判所）について学修する。	
第11回	身近な問題から考える人権１ 良心をもつ自由、貫く権利について学修する。	
第12回	身近な問題から考える人権２ １　表現の自由と書かれない権利について学修する。 ２　プライバシーについて考える。	
第13回	身近な問題から考える人権３ 営業の自由と消費者の権利について学修する。	
第14回	学校における生徒の人権 １　子どもの教育を受ける権利と教師の教育の自由について学修する。 ２　学校内における生徒の人権について学修する。 ３　旭川いじめ凍死事件からいじめを考える。	
第15回	困らないための権利、差別されている人たちへの配慮 １　憲法25条の歴史的社会的意味及び社会保障制度について学修する。 ２　積極的な格差解消の取り組みの合憲性の判断の仕方について学修する。。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
グループワークの取り組み姿勢/態度	30	講義中のグループワーク時に各自が提出したワークシートに要求された内容が整理されていること。ワークシートを通じて必要に応じ個別指導を行うとともに、講義中に全体講評を行う。
小テスト	30	学修に対する意欲・態度、基本原理及び基礎知識の理解を評価する。回答期限後,Universal Passportに解説を表示する。
定期試験	40	基本原理及び基礎知識を理解し、身近な憲法問題に対して異なる価値観・意見に配慮しながら主体的かつ論理的にこれらを活用して結論を導くことができている。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　公民や現代社会が苦手な学生は、あらかじめ高校で使用したテキストや資料集などの日本国憲法に関する部分を読んでおくこと。 2　事前に授業の範囲のテキストを読み、分からない用語を調べておくこと。 3　各講義中にワークシートを提出する。それが出席カードも兼ねるとともに成績評価の対象なので必ず提出すること。 4　各章に対応する小テスト（Universal Passportの課題）を受験すること。
授業外学修	1　事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。 2　事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、Universal Passportで小テストを受験する。また，小テスト受験後，誤ったり理解が不十分であった箇所について復習する。 3　ワークシートが返却された後、グループワーク、講義、テキスト、小テスト等を踏まえて再度整理し直し、理解を深めるとともに試験に備える。 事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
憲法のちから―身近な問題から憲法の役割を考える	中富公一	法律文化社	978-4-589-04343-6	2400円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
グラフィック憲法入門第3版	毛利透	新世社	978-4-88384-397-8	
新・判例ハンドブック【憲法】第3版	高橋和之	日本評論社	978-4-535-52793-5	

参考書：自由記載	授業において随時紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	県教育委員会（24年），県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	県教育委員会（24年），県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験から、いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．憲法に関する基本原理・基礎的事項を理解している。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について,正確に理解し述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，大体述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，全く表現することができない。
知識・理解	2．国際社会・地域社会の多様な価値観・意見を認識し，理解している。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について,正確に理解し述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について,正確にではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，大体述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，全く表現することができない。
思考・問題解決能力	1．憲法や法令を使って論理的に問題を考えることができる。	課題に対し，論理的整合性をもち，多角的に考察をしている。	課題に対し，ほぼ論理的整合性をもった考察をしている。	課題に対し，自分の考えを述べることができる。	課題に対し，結論を述べることができる。	課題に対し、結論を述べることができない，または指示事項に沿っていない。
思考・問題解決能力	2．多様な価値観・意見に配慮した思考ができる。	課題に対し，多様な価値観・意見に配慮した考察が論理的整合性をもっている。	課題に対し，多様な価値観・意見に配慮した思考がほぼ論理的整合性をもっている。	課題に対し，多様な価値観・意見の存在を並列的に述べることができる。	課題に対し，不十分ながら複数の価値観・意見の存在を述べることができる。	課題に対し，複数の価値観・意見を述べることができない，または指示事項に沿っていない。
態度	1．グループワークに積極的に参加できる。	調査，質問などを積極的に行い，課題内容を理解した上で，適切なワークシートを提出している。	課題に積極的に臨む姿勢が見受けられ，課題内容を理解した上で，適切なワークシートを提出している。	グループワークに参加し，課題内容を理解した上で，ワークシートを提出している。	グループワークに参加し，ワークシートを提出しているが，課題の理解が不十分である。	グループワークに参加していない。または，グループワークに参加しているがワークシートを提出していない。

科目名	人間の尊厳と自立			授業番号	HA202	サブタイトル			
教員	住野　好久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	介護福祉を実践するために必要な人間に対する基本的理解を養う。さらに，人権思想・福祉理念の歴史的変遷を学び，人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養う。また，本人主体の観点から自立の考え方や自立生活の理念を学び，その生活を支える必要性を理解する。								
到達目標	１）人権思想・福祉理念の歴史的変遷を理解し，人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を身に付ける。 ２）人間にとっての自立の意味と，本人主体の観点から尊厳の保持や自己決定の考え方を理解する。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	人間の尊厳(1)人間が生きるということ 「生きる」とは「心臓が動いていること」だけではない。「生きる」とはどういうことかを考える。	
第2回	人間の尊厳(2)人間が死ぬということ 「死ぬ」とは「心臓が止まること」ではない。どのような状態になると「死」と判断するのか。	
第3回	人間の尊厳(3)人間の尊厳とは 障がいがあっても、子どもでも、高齢者でも、等しく人間の尊厳が尊重されるとはどういうことか。	
第4回	人権思想の歴史的展開(1)近代 「人間の権利」という考え方はいつから始まったのか。どのように発展してきたのか。	
第5回	人権思想の歴史的展開(2)現代 戦争という人類最大の人権侵害行為を乗り越えて、現代の人権思想がどのように発展してきたのか。	
第6回	福祉理念の変遷(1)近代 人権思想の発展とともに「福祉」という考え方がどのように発展してきたのか。	
第7回	福祉理念の変遷(2)現代 現代における積極的な福祉の捉え方を考える。	
第8回	ノーマライゼーションの思想と運動 障がいの有無にかかわらず人権を尊重する社会ゃどのように模索されてきたのか。	
第9回	人間の尊厳と生命倫理 「生きる権利」と「死ぬ権利」について考える。	
第10回	ＱＯＬと利用者主体の福祉 「生きる権利」を保障する福祉の考え方を学ぶ。	
第11回	自立の理念(1)自立と依存 「自立」とはどのようなことか。「一人でする」ということなのか。	
第12回	自立の理念(2)自立生活の理念と意義 「自立」とはどういうことか。自立して生活するとはどういうことか。	
第13回	自立の理念(3)自己選択・自己決定 「自立」に欠かせない要素である「自己選択・自己決定」について考える。	
第14回	自立と支援(1)インフォームド・コンセント 利用者の「自立」を支える支援に欠かせない要素である「インフォームド・コンセント」について考える。	
第15回	自立と支援(2)自立支援・アドボカシー 利用者の「自立」を支える支援に欠かせない要素である「アドボカシー」について考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
確認テスト	50	毎回の授業で学習した内容を理解し，課題に対し適切に回答すること。次時の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
最終レポート	50	本科目の学習内容をふまえ，人間の尊厳を尊重し、自立を支援することについて論理的に叙述すること。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	1．予習のためにテキストを熟読しておくこと 2．復習のためにテキストを熟読すること 3．新聞やＴＶ＆ネットのニュースで，国内外の人権問題についてリサーチすること 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新・介護福祉士養成講座　1　人間の理解	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版		
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．人権思想・福祉理念の歴史的変遷を理解する。	法令や個人名を使って人権思想・福祉理念の歴史的変遷をわかりやすく説明できる。	主な法令や個人名を出して人権思想・福祉理念の歴史的変遷を説明できる。	人権思想・福祉理念の歴史的変遷の概要を説明できる。	人権思想・福祉理念の歴史的変遷を部分的に説明できる。	人権思想・福祉理念の歴史的変遷を全く説明できない。
知識・理解	２．人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を身に付ける。	人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を日常的に活用できるほど理解している。	人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を介護に活用できるほど理解している。	人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を説明できる。	人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方の基礎を理解している。	人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を理解できない。
知識・理解	３．人間にとっての自立の意味を理解する。	自立の意味を理解して、具体的な事例を用いて説明できる。	自立の意味を説明できる。	自立の意味を理解している。	自立の意味をだいたい理解している。	自立の意味を理解していない。
知識・理解	４．本人主体の観点から尊厳の保持や自己決定について考えることの大切さを理解する。	本人主体の観点から尊厳の保持や自己決定について考えることの大切さを深く理解して思考・判断できる。	本人主体の観点から尊厳の保持や自己決定について考えることの大切さを十分理解している。	本人主体の観点から尊厳の保持や自己決定について考えることの大切さを理解している。	本人主体の観点から尊厳の保持や自己決定について考えることの意味がわからない。	「本人主体の観点」とはどのようなものか理解できていない。
態度	１．他者の人権を尊重して接することができる。	人権を尊重して誰に対しても接している。	人権を尊重して誰に対しても接しようとする。	人権を尊重して身近な人に接している。	人権を尊重して身近な人に接しようとする。	人権を尊重して他者に接することができない。
態度	２．利用者の自立を大切にして介護行為ができる。	いつも利用者の自立を大切にして介護行為が十分できる。	いつも利用者の自立を大切にして介護行為ができる。	時々利用者の自立を大切にして介護行為ができる。	利用者の自立を大切にして介護行為をしようとする。	利用者の自立を大切にして介護行為をしようとしない。

科目名	体育実技			授業番号	HA204	サブタイトル	（スポーツに親しもう）		
教員	梶谷　信之								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	実技（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	各チームの課題を基にメンバーで協力しながら，各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。								
到達目標	健康的な生活を送るために，運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに，集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	卓球I（シングルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） シングルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にシングルス・ゲームを行います。 1対1で対戦し，リーグ戦方式でゲームを行います。	
第2回	卓球II（シングルスの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） シングルスの基本技術を反復しつつ，シングルス・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第3回	卓球III（ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルスの成績でペアを組み，2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。	
第4回	卓球IV（ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） ダブルスの基本技術を反復しつつ，ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第5回	バドミントンI（シングルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） シングルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にシングルス・ゲームを行います。 1対1で対戦し，リーグ戦方式でゲームを行います。	
第6回	バドミントンII（シングルスの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） シングルスの基本技術を反復しつつ，シングルス・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第7回	バドミントンIII（ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルスの成績でペアを組み，2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。	
第8回	バドミントンIV（ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） ダブルスの基本技術を反復しつつ，ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第9回	ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解およびゲームの導入） 基本的なルールの確認と基本技術の練習を行います。 練習後にグループを作ってゲームを行います。	
第10回	ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第11回	ソフトバレーボールIII（ゲームの展開） 基本技術を反復しつつ，各チームで戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第12回	室内ミニテニスI（シングルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） シングルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に、実際にシングルス・ゲームを行います。 1対1で対戦し，リーグ戦方式でゲームを行います。	
第13回	室内ミニテニスII（シングルスの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） シングルスの基本技術を反復しつつ，シングルス・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第14回	室内ミニテニスIII（ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルスの成績でペアを組み，2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。	
第15回	室内ミニテニスIV（ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） ダブルスの基本技術を反復しつつ，ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
授業計画　備考2	受講人数により，他のスポーツ種目に変更することがある。 （バレーボール，バスケットボール，グラウンドゴルフ，など）	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している。 フィードバックは，その時その場で行う。体操服や体育館シューズを忘れた人は見学となり，減点される。授業中に携帯電話を見ていると減点される。
レポート		
小テスト	30	各競技ごとに実施した試合成績を参考にする。 フィードバックは，その時その場で行う。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	運動着を着用し，体育館シューズを使用する。 全員協力の上，準備・片付けをする。 携帯電話は見ない。（すぐに手の届く所へ置かない）
授業外学修	・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。 ・各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、基本的なルールを理解できている。	健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、ルールを細かく理解できている。	健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、ほぼ基本的なルールを理解できている。	運動の大切さを理解し、基本的なルールを理解できている。	運動の大切さを理解しているが、基本的なルールの理解が十分ではない。	運動の大切さや、ルールを理解できていない。
技能	１．運動技能が優れている。	運動技能が優れている。	基本的な運動技能が優れている。	基本的な運動技能が身についている。	基本的な運動技能が十分ではない。	基本的な運動技能が身についていない。

科目名	英語A			授業番号	HA205A	サブタイトル			
教員	藤田　香織								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	生活・科学の内容の英文を読み,グループで訳し,リスニング練習を行う。そしてペアワークを行い話せる・書けるとアウトプットまで学ぶ。 基本文法を復習し健康・福祉・生活などの専門の英単語を強化し,理解し文章内容についてアイデアをシェアしプレゼンテーションを行う。								
到達目標	健康化科学について4技能の基礎（読む・書く・話す・聞く）を向上させ,生活で使えること・知識を増やすこと・思考力を高めること目指す。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス 1 Making Connections 導入で今回のテーマのイメージ出しを行った後、グループで分担して単語調べ・訳を行う。	
第2回	1 Making Connections Comprehensionを行い,Dialogueを作成しペアワークを行う。 Date Analysisを使ってディスカッションのActivityを行う。	
第3回	2 Welfare for the Elderly 導入で今回のテーマのイメージ出しを行った後、グループ内で単語調べ・訳を確認し合う。その後その内容についてグループでComprehensionを行い,Dialogueを作成しペアワークを行う。Activityを使ってディスカッションを行う。	
第4回	3 Allergies 導入で今回のテーマのイメージ出しを行った後、グループ内で単語調べ・訳を確認し合う。その後その内容についてグループでComprehensionを行い,Dialogueを作成しペアワークを行う。Activityを使ってディスカッションを行う。	
第5回	小テスト 4 The STD Family 導入で今回のテーマのイメージ出しを行った後、グループで分担して単語調べ・訳を行う。	
第6回	4 The STD Family グループでComprehensionを行い,Dialogueを作成しペアワークを行う。Activityを使ってディスカッションを行う。 5 ADHD and ADD 導入で今回のテーマのイメージ出しを行った後、グループ内で単語調べ・訳を確認し合う。	
第7回	5 ADHD and ADD グループでComprehensionを行い,Dialogueを作成しペアワークを行う。Activityを使ってディスカッションを行う。 6 Dementia and Alzheimer's Disease 導入で今回のテーマのイメージ出しを行った後、グループ内で単語調べ・訳を確認し合う。	
第8回	6 Dementia and Alzheimer's Disease グループでComprehensionを行い,Dialogueを作成しペアワークを行う。Activityを使ってディスカッションを行う。 7 Hospices and Palliative Care 導入で今回のテーマのイメージ出しを行った後、グループ内で単語調べ・訳を確認し合う。	
第9回	7 Hospices and Palliative Care グループでComprehensionを行い,Dialogueを作成しペアワークを行う。Activityを使ってディスカッションを行う。 8 Physical Therapists 導入で今回のテーマのイメージ出しを行った後、グループ内で単語調べ・訳を確認し合う。	
第10回	小テスト 8 Physical Therapists グループでComprehensionを行い,Dialogueを作成しペアワークを行う。Activityを使ってディスカッションを行う。	
第11回	9 Overweight and Obesity 導入で今回のテーマのイメージ出しを行った後、グループ内で単語調べ・訳を確認し合う。 グループでComprehensionを行い,Dialogueを作成しペアワークを行う。Activityを使ってディスカッションを行う。	
第12回	10 Genetic Testing and Technology 導入で今回のテーマのイメージ出しを行った後、グループ内で単語調べ・訳を確認し合う。 グループでComprehensionを行い,Dialogueを作成しペアワークを行う。Activityを使ってディスカッションを行う。	
第13回	グループ活動　分担して今までのテーマ内容の中で深く調べ英語でプレゼンテーションする準備　下調べ・原稿作成・英語翻訳・発音練習・プレゼン練習	
第14回	グループ活動　今までのテーマ内容の中で深く調べ英語でプレゼンテーションする準備　下調べ・原稿作成・英語翻訳・発音練習・プレゼン練習 プレゼンテーション	
第15回	小テスト グループ活動の今までのテーマ内容の中で深く調べ英語でプレゼンテーションした内容についてふり返りを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業態度	15	授業の貢献度を評価します。積極的な発表・グループ活動・発音練習・予習を評価します。評価する前に伝えますし、評価後にフィードバックします。
授業内の小テスト	60	復習小テストを行います。小テスト採点後の授業でフィードバックします。
プレゼンテーション	25	原稿（内容・英文作成） 発表（発音・アイコンタクト・協力・説得力など）

評価の方法：自由記載	
受講の心得	グループ活動にしっかり参加し，予習復習をしっかり行ってください。授業での活動を重視しております。
授業外学修	テキスト内容については授業までに2時間以上予習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
２１世紀の健康・福祉・環境 Making Connections	Bruce Allen / 宍戸　真 著	成美堂	9784791900664	1,980円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校（6年），他大学講師（5年），専門学校，日本語学校（2年），塾（6年），英会話講師（1年）オーストラリアでの留学生サポートのコーディネーター（1年）,他大学学習アドバイザー（2年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校，大学，専門学校学，日本語学校，塾，英会話オーストラリアでの留学生サポートのコーディネーターの現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験があります。学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．コースで扱われる語彙・文法を理解している。	コースで教えられるすべての英語の語彙と文法をしっかり100%理解している。	コースで教えられる英語の語彙と文法のほとんど90%を理解している。	コースで教えられる英語の語彙と文法の一部70%を理解している。	コースで教えられる英語の語彙と文法をほとんど理解していない。	コースで取り上げられる英語の語彙や文法をまったく理解していない。
知識・理解	2. 本文内容を読んで内容を理解し,思考を深める。	本文をよく理解し,英語の質問に英語で答えられる。グループ活動で訳し,意見交換で自分の意見が述べられ,他の学生の意見を取り入れることができる。 習った内容を使って似たような内容で違う文章を読んで理解できる。	本文をよく理解し,英語の質問に答えられる。グループ活動で訳し,意見交換で自分の意見が述べられ,他の学生の意見を取り入れることができる。	本文を大体理解し,英語の質問に英語で答えられる。グループ活動で訳し,意見交換で自分の意見が述べられ,他の学生の意見を取り入れることができる。	グループ活動が難しく,分担した内容の意見交換で自分の意見が述べられない。	グループ活動で訳し,意見交換で自分の意見が述べられない。訳せない。他の学生の意見を取り入れらない。

科目名	日本語表現			授業番号	HA206	サブタイトル	（音声言語と文章表現）		
教員	太田　憲孝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，「文章表現」を中心に絵本や物語，説明的文章等の言語表現の面白さや特徴を分析し，毎日の生活で使用している日本語表現に対する理解を深めるとともに，日本語表現への関心を高める授業を行う。								
到達目標	絵本や物語，説明的文章等の表現方法を分析し，その特徴を理解することを通して，日本語表現についての基礎的な知識を身に付けるとともに，日本語表現に対する関心を高めることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	身の周りにある様々な日本語表現 「身の周りにある日本語表現を探したり分類したりすることを通して，日本語表現に対して関心をもつ」	
第2回	乳幼児の日本語獲得 「満１歳頃までに行われる「クーイング」「視線」「指さし」などの非言語コミュニケーションについてその意味を理解する。」	
第3回	伝統的な日本語表現 「俳句の約束や魅力について理解する。」	
第4回	読者を引きつける絵本のひみつ（１） 「絵本を取り上げ，乳幼児を引き付ける「丸い正面顔」「主人公の位置」等の仕掛けを理解する。」	
第5回	読者を引きつける絵本のひみつ（２） 「絵本の文章の魅力と謎について理解する。」	
第6回	読者を引きつける物語の仕掛け 「教科書に取り上げられている物語を分析し，「物語の構造」や「虚構」等の読者を引き付ける物語の特徴を理解する。」	
第7回	読者を引きつける物語の表現 「前時に使用した物語を細部の表現について分析し，読者に想像を促す文学的表現のおもしろさを理解する。」	
第8回	主題に迫る物語表現の仕掛け 「前時に使用した物語の終末部を分析し，作者の想を表現した仕掛けのおもしろさを理解する。」	
第9回	身の周りにある説明的表現（広告）の工夫 「身の周りにある広告の表現を分析し，読み手に対する「写真」「色」「キャッチコピー」「レイアウト」等の作り手の工夫を理解する。」	
第10回	身の周りにある説明的表現（取り扱い説明書）の工夫 「身の周りにある「取り扱い説明書」の表現を分析し、読み手に対する「イラスト」「レイアウト」等の作り手の工夫を理解する。」	
第11回	読者を説得する説明的文章の仕掛け 「教科書に取り上げられている説明的文章について分析し，読者を説得しようとする「段落」「結論」「事例」等の仕掛けの工夫を理解する。」	
第12回	読者を説得する説明的文章の表現 「前時に取り上げた説明的文章の事例の表現を分析し，読者にイメージをもたらす文学的表現の工夫を理解する。」	
第13回	言葉を味わう詩的表現 詩を読み味わい，「比喩表現」「象徴的表現」等の詩的表現のおもしろさを理解する。」	
第14回	読者の「予測」を利用した読み物（１） 怪談の表現や仕掛けを分析し，「予測→不安→緊張→出現」という怪談の仕掛けを理解する。」	
第15回	読者の予測を利用した読み物（２） ショート・ショート等の表現や仕掛けを分析し，「予測→タメ→オチ」という予測を外すおもしろさを理解する。」	
授業計画　備考2	補講や天候等により授業内容が前後したり変更になる場合がある。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な学習態度，授業中の課題への取り組みや提出状況などを評価する。
レポート	30	授業ごとの学習内容の定着度を評価する。提出されたレポートにはコメントを記載して返却し，学習の深まりを確認できるようにする。
小テスト	40	学習内容のまとまりごとにその定着度を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	授業ごとにまとめ提出するレポートは，配布した資料を写すのではなく，自分で考えたことや深まったことを記述するように努める。
受講の心得	配付資料及びレポートをファイルしておくこと。 学生相互による話し合い活動では，積極的に参加し互いに考えを深めること。
授業外学修	1．事前に配布した資料は目を通し，授業に臨むこと。 2．授業を通して理解した日本語表現の特徴や面白さをもとに，身の周りの日本語表現に関心を広げること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小中学校・小中一貫校国語科教員(27年)，国立附属中学校国語科教員(4年)，市教育委員会指導主事(3年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	絵本，物語や説明的文章等の表現分析

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．文章のジャンルに合せて，日本語表現の特徴を捉え，そのおもしろさを理解している。	・様々なジャンルの文章を比較しながら，日本語表現の特徴を捉え，そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について，多様な視点から日本語表現の特徴を捉え，そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を捉え，そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を見つけることはできるが，そのおもしろさを感じるには至らない。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を見つけることが難しい。
知識・理解	2．様々なジャンルにおける日本語表現の特徴を捉え，日本語表現についての基礎的な知識を身に付けている。	・様々なジャンルにおける日本語表現の特徴を捉え，日本語表現についての基礎的な知識を十分に身に付けている。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を捉え，日本語表現についての基礎的な知識を十分身に付けている。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を捉え，日本語表現についての基礎的な知識を身に付けている。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を捉え，日本語表現についての基礎的な知識の定着がやや不十分である。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を捉え，日本語表現についての基礎的な知識の定着が不十分である。
技能	3．文章のジャンルに合せて，日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・様々なジャンルにおける文章の特徴を踏まえて，日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・取り上げた文種の特徴を踏まえて，日本語表現のおもしろさに関係する様々な工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・取り上げた文種の特徴を踏まえ，日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけることがやや不十分である。	・日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけること不十分である。
態度	4．日本語表現に興味・関心をもち，様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫を理解して表現活動に生かそうとしている。	・様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫を十分に身に付け，創意工夫して表現活動を行っている。	・様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫を十分に身に付け，適切な分量の文章で表現活動を行っている。	・様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫を身に付け，それを生かした表現活動を行っている。	・様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫を身に付けることと，それを踏まえた表現活動がやや不十分である。	・様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫を身に付けることと，それを踏まえた表現活動を行うことが難しい。

科目名	心理学			授業番号	HA207	サブタイトル	（心を科学的に理解する）		
教員	疋田　基道								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	心理学は，心について科学的に研究する学問であり，その範囲は人間の心に関わるあらゆる領域におよぶ。この授業では，心理学全般の基礎的な内容を解説し，心について科学的に理解することを目的とする。 また，この科目は「こころ検定®4級」合格を目指す授業でもある（受験は任意）。								
到達目標	・心理学の基礎的理論を理解できる。 ・心理学の基礎知識をもとに，実生活における自他の心について考えを深める。 ・本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	学習心理学（1） 心理学とは何か、特に学習心理学とは何かついて学ぶ。	
第2回	学習心理学（2） こころと行動の関係について学ぶ。	
第3回	認知心理学（1） 認知心理学とは何かについて学ぶ。	
第4回	認知心理学（2） 記憶や思考について学ぶ。	
第5回	生理心理学（1） 生理心理学とは何かについて学ぶ。	
第6回	生理心理学（2） 睡眠やストレスについて学ぶ。	
第7回	知覚心理学（1） 知覚心理学とは何かについて学ぶ。	
第8回	知覚心理学（2） 視覚や聴覚と心の関係について学ぶ。	
第9回	社会心理学（1） 社会心理学とは何かについて学ぶ。	
第10回	社会心理学（2） コミュニケーションや集団と心の関係について学ぶ。	
第11回	感情心理学（1） 気持ちとは何かについて学ぶ。	
第12回	感情心理学（2） 気持ちと体の関係や動機づけについて学ぶ。	
第13回	知能について（1） 知能とは何か、知能の構造について学ぶ。	
第14回	知能について（2） 生活と知能についてや知能を測定する方法について学ぶ。	
第15回	総括 学んできたことを演習問題等を通して振り返り，まとめを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度によって評価する
レポート		
小テスト	30	授業内容の理解度を評価する。小テスト実施後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
定期試験	40	授業内容の理解度・修得度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	・配布資料を基に予習・復習をすること ・授業で紹介した本や資料を読むこと 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
日本学術会議協力学術研究団体メンタルケア学術学会監修 文部科学省後援こころ検定®4級公式テキスト	教育ナビゲーション株式会社編集	教育ナビゲーション株式会社	978-4-9907775-2-4	2500円＋税

使用テキスト：自由記載	この授業のテキストは学内の教科書販売とは別日程で購入することになります。詳細は授業の中でお伝えします。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
実線につながる新しい教養の心理学	大浦賢治編著	ミネルヴァ書房	978-4-623-09266-6	2800円＋税

参考書：自由記載	
その他	
備考	２年前期に総合生活学セミナーBの受講を希望する場合は，本科目を履修し，心理学の基礎を学習することを（必須ではないが）推奨する。
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤計18年），大学での学生相談（非常勤、フルタイム計20年）等の実務経験を有する。実務経験の合計は22年。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	心理学の基礎的な内容について、これまでの臨床経験（22年）を通し、人のこころについての実践的な知識や対処法について伝えることができ、実生活で活かせる心理学の知識や、自他の心について理解する力を習得させることができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．心理学の基礎的理論を理解できる。	心理学はこころについて科学的に研究する学問であることを理解し，認知や生理，知覚，感情など心理学が扱う様々な領域について基礎的理論を習得し，説明することができる。	心理学はこころについて科学的に研究する学問であることを理解し，身近な分野の心理学の基礎知識を習得している。	心理学の基礎的な理論や概念を理解できる。	心理学の基礎的な理論を理解しているが，特定の領域に限られる。	心理学の基礎的理論を理解できていない。
知識・理解	２．心理学の基礎知識をもとに，実生活における自他の心について考えることができる。	心理学の基礎知識をもとに，実生活における自他の心について考え理解することができ，自己理解を深めるとともに，自他の心理的な課題に対して対応策を考える力がある。	心理学の基礎知識をもとに，実生活における自他の心について考えることができ，自己理解を深める力がある。	心理学の基礎知識をもとに，自他の心について考えることができる力がある。	心理学の基礎知識をもとに，自他の心について考えることができるが，考えられる視野が限られる。	心理学の基礎知識をもとに，自他の心について考えることができない。

科目名	社会保障論			授業番号	HA208	サブタイトル	(介護福祉士養成の必修教科であり、社会保障制度を概観する。)		
教員	松井　圭三								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	社会保障の基礎知識，年金，医療，介護，雇用保険，労災保険等の基礎知識について理解する。 また，社会保障の概念，社会保障の沿革，年金，医療，介護，雇用，労災の社会保険の基本を学ぶ。								
到達目標	福祉現場で役に立つ社会保障の制度，サービスの知識等を修得し，説明できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	社会保障のポイントを抑える。 社会保障とは何か、その現状と課題について学ぶ。	
第2回	少子高齢化の現状と課題を抑える。 わが国の少子高齢化社会の現状と課題について学ぶ。	
第3回	西欧の社会保障の沿革を抑える。 イギリスの社会福祉の沿革について学ぶ。	
第4回	わが国の社会保障の沿革のポイントを抑える。 わが国の社会福祉の沿革を学ぶ。	
第5回	公的年金の基礎を抑える。 公的年金制度の動向とサービスについて学ぶ。	
第6回	公的年金の課題のポイントを抑える。 公的年金制度の課題について学ぶ。	
第7回	医療保険の基礎を抑える。 医療保険の動向とサービスについて学ぶ。	
第8回	医療保険の課題のポイントを抑える。 医療保険の課題について学ぶ。	
第9回	介護実践に関する諸制度のポイントを抑える。 介護保険制度の動向とサービスについて学ぶ。	
第10回	介護保険の課題のポイントを抑える。 介護保険制度の課題について学ぶ。	
第11回	雇用保険の基礎のポイントを抑える。 雇用保険制度の制度、サービスについて学ぶ。	
第12回	労災保険の基礎のポイントを抑える。 労災保険の制度、サービスについて学ぶ。	
第13回	民間保険の基礎のポイントを抑える。 民間保険のサービス内容について学ぶ。	
第14回	公的扶助の基礎のポイントを抑える。 公的扶助の制度、サービスについて学ぶ。	
第15回	社会保障の展望のポイントを抑える。 社会保障のこれからと展望について学ぶ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表，グループワークでの参加，予習，復習，課題提出によって評価する。
レポート	90	レポートの課題に的確に解答しているかについて評価する。またレポートの内容を点検し、コメントを標記の上返却する。

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験により総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式とグループワークで授業を展開します。 ・予習と授業中の積極的発言を求めます。 ・自分で考えることをベースに授業に参加してください。 ・介護福祉士の国家試験対策を講じます。
授業外学修	・予習として，授業に関係した教科書を精読し，内容を理解する。 ・復習として，授業のレポートを書く。 ・授業で紹介された参考文献を精読する。 短期大学の設置基準では１単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本授業では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業買い学修が必要となる。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
社会保障論	松井圭三他	大学図書出版	978-4-907166-25-0	2800円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
社会福祉概論	小田兼三他	勁草書房	978-4-326-70095-0	2800円＋税

参考書：自由記載	随時紹介します。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	観音寺市シルバー人材センター職員3年，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司2年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者保健福祉分野において実務経験を踏まえた授業を実践している。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．社会保障制度を理解する。	社会保障制度をすべて理解できる。	社会保障制度を概ね理解できる。	社会保障制度を理解できる。	社会保障制度をほとんど理解できない。	社会保障制度を理解できない。

科目名	社会学			授業番号	HA209	サブタイトル	(配偶者の選択と家族編成の社会的規則)		
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。 現代社会における家族の姿は，多元化する価値意識のもとで，その形態や機能が多様化している。 そのため，本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて，家族編成に関する社会的規則について講義する。								
到達目標	現代社会の家族集団を，より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。 これにより，地域社会の中に存する様々な家族を理解し，実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	配偶者選択をめぐる社会状況の変化 現代社会の現状	
第2回	家族社会学における「家族」の定義 家族集団の特徴と世帯	
第3回	家族を対象とした社会学的アプローチの方法 家族をいかにとらえるか 漫画・映画などに描かれた家族のかたち	
第4回	家族の類型と分類 夫婦家族制・直系家族制・複合家族制の理解	
第5回	青年期の異性交際に関する社会学的意味の考察 日本における青年期の異性交際の現状と国際比較	
第6回	青年期の異性交際の実態 出生力調査にみる実態	
第7回	家族編成の社会的ルールとは何か 配偶者の選択はいかにして行われるか	
第8回	配偶者選択の社会的メカニズム 配偶者の選択と結婚	
第9回	配偶者選択のプロセス 出生力調査における独身者調査と夫婦調査の比較	
第10回	結婚の社会的意味 結婚はどのような意味をもつのか	
第11回	結婚の社会的機能 結婚するとどのようになるのか	
第12回	離婚の社会的意味と機能 離婚に関する意味付け 離婚の現状に関するデータ	
第13回	家族の新しい形 変貌する家族像 多元化する価値観	
第14回	子どもの養育 家族集団における子どもの社会化	
第15回	老親の介護 高齢化社会の中の家族集団	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
最終試験レポート	70	各自で最終レポートを作成し提出する。
コメントペーパー	30	基本的には、毎回、提出する。理解の状況の確認を行う。提出物については、次回の授業の冒頭で共有し、コメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自らの配偶者選択や，家族集団に興味・関心があることが望ましい。 しかしながら，あまりにも身近で現実的な問題であるため，ある程度，客観視できる受講態度が望ましい。
授業外学修	1．配付資料を事前に読んでくること。 文章を読むだけではなく，掲載されている図表の意味するところを考える。 具体的なアプローチの方法は，授業時間内に指示する。 2．最終レポートの課題を探しながら受講すること。 テーマに関するニュースや，身近な出来事に関心をもつこと。 両方の課題を合わせて，週当たり4時間以上，取り組むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。
その他	特になし。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．家族社会学における基礎的な概念を理解できている。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解しており、自分の言葉で説明することができる。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、その関係を理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えている。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えていない。
知識・理解	2．結婚の社会的機能と配偶者選択の規則について理解できている。	教育の歴史に係る重要事項について、その展開と社会的背景について理解している。	教育の歴史に係る重要事項の展開について理解している。	教育の歴史に係る重要事項について理解している。	教育の歴史に係るキーワードを覚えている。	教育の歴史に係るキーワードを覚えていない。
知識・理解	3．青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	関連するデータを踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	社会背景を踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを、ほとんど読み解くことができない。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができない。
思考・問題解決能力	1．データに基づき、家族に関する現状を考察することができる。	家族に関する現状を、複数のデータと社会背景を踏まえて考察を深め、説明することができる。	家族に関する現状を、複数のデータに基づき考察し、説明することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解し、考察することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができない。

科目名	芸術			授業番号	HA210	サブタイトル	芸術		
教員	岡﨑　三鈴								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では、音楽を中心とした芸術表現の多様性を学び、自らの感性を磨くとともに、表現の喜びを体験的に理解します。								
到達目標	【知識・理解】音楽の3要素、西洋およびポピュラー音楽の歴史、楽器の構造、および音楽療法（感覚統合）やSTEAM教育の基本概念を正しく理解している。 【思考・問題解決能力】音楽が持つ表現意図や社会的な背景を分析し、グループワークやICTツールを通じて独自の表現を考案できる。 【技能】各種楽器の基本奏法を習得してアンサンブルを行い、またデジタルツールを用いた直感的な音楽制作の手法を修得している。 【態度】自己表現や他者理解を楽しみ、グループ活動において主体的に貢献しながら、芸術を通じた社会課題（貧困や発達支援）への関心を持ち続ける なお,本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	音楽と人 人と音楽の関係、音楽の起源、講義の進め方と評価	
第2回	自己表現と音楽 特別な意味を持つ曲の紹介を通した自己開示	
第3回	音楽の三要素と体験 メロディー・ハーモニー・リズムの基礎／ハンドベル等の合奏体験	
第4回	メロディー楽器体験 ヴァイオリン：弦楽器の構造理解と基本奏法の実践	
第5回	ハーモニー楽器体験 ウクレレ：撥弦楽器の起源とコード演奏体験	
第6回	リズムの実践Ⅰ 生活にある言葉を使ったリズム遊び／オリジナルリズムの創作	
第7回	リズムの実践Ⅱ リズム学習のグループ発表／ことば楽譜の作成と合奏練習	
第8回	アンサンブルの実践 打楽器等を用いた合奏発表	
第9回	西洋クラシック音楽Ⅰ 鑑賞曲の再考と主要作曲家の探究ワーク	
第10回	西洋クラシック音楽Ⅱ 中世から近現代までの時代区分と主要作曲家の探究ワーク	
第11回	アメリカの音楽と歴史 移民の歴史がポップスに与えた影響	
第12回	音楽の力と健康 心身の健康や回復,QOLの向上を目的として使われる音楽	
第13回	STEAM教育とアート 創造性を引き出すアートの力、貧困問題とアートエンゲージメント	
第14回	ICTを活用した音楽表現 Chrome Music Lab等を用いた直感的な音楽制作と視覚化	
第15回	日本のポピュラー音楽 J-POPの誕生と展開　：日本のポップス史	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な授業態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	30	各回の主要なポイントの理解を提出された課題やレポート等によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
その他	50	ディスカッション等への積極的な参加,発表,提出物により評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	音楽を通じた自己表現と他者への共感を大切にし、楽器体験やグループワークへ主体的に参加することで、芸術を楽しむ豊かな感性を養ってください。
授業外学修	1　予習として，授業内容にかかわる文献等を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，授業で紹介された参考楽曲等に触れる。 以上の内容を，週当たり２時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	音楽の3要素、西洋およびポピュラー音楽の歴史的変遷、楽器の構造、および音楽療法（感覚統合）やSTEAM教育の基本概念を正しく理解している。	音楽の歴史的・理論的背景を深く理解し、それらが現代の社会課題や教育、医学とどう関連しているかを体系的に説明できる。	各時代の主要な作曲家や音楽ジャンルの特徴、楽器の起源や構造を正しく理解し、専門用語を用いて解説できる	音楽の3要素や西洋音楽の時代区分、アメリカ音楽のルーツなど、講義で扱った基礎的な知識を概ね習得している。	芸術・音楽に関する最低限の基礎知識（代表的な楽器名や主要な時代背景など）を習得している。	音楽の基礎知識や用語の理解が著しく不足し、課題の意図を正しく把握できていない。
思考・問題解決能力	音楽の表現意図や背景を分析し、グループワークやICTツール、身体表現を通じて、既存の枠組みにとらわれない独自の表現方法を論理的に考案できる。	音楽と社会（貧困や人種問題等）の関係を鋭く洞察し、ICTやグループ合奏において、他者の感性を刺激する独創的かつ説得力のある表現案を提示できる。	楽曲の構造や歴史的背景を適切に踏まえ、自らの表現意図や、グループでの合奏・創作における工夫を論理的に構築できる。	提示された課題に対し、講義の内容を参考にしながら標準的な解決策や表現方法を妥当に選択・構成できる。	指示された状況下で、最低限の論理性を持ってリズムや旋律、あるいは感想をまとめることができる。	表現の意図が不明確であり、グループワーク等において論理的な思考や提案が見られない。
技能	メロディー楽器やハーモニー楽器の基本奏法を習得してアンサンブルを行い、またデジタルツール等を用いた直感的な音楽制作や楽譜作成ができる。	楽器の特性を最大限に活かした豊かな表現ができ、ICTツールや創作楽譜においても質の高いアウトプットを生み出している。	ヴァイオリンやウクレレ等の基本奏法を正しく習得し、グループと調和した演奏ができる。また、ICTを用いた制作においても適切な操作・表現ができる。	楽器の扱い方やリズムの基礎を習得し、大きな誤りなく演奏や創作・楽譜作成に取り組むことができる。	楽器の操作やデジタルツールの利用において、指示された通りに最低限の音を出す、あるいは制作することができる。	楽器の扱いが極めて不適切である、あるいは技能の習得が著しく遅れ、合奏や制作が成立しない。
態度	自己表現に主体的に取り組み、グループ活動において他者の表現を尊重し協力し合いながら、芸術に対する探究心を深めている。	自己開示に積極的で、グループの議論や合奏練習を献身的にリードし、他者の多様な感性を尊重しながら授業全体の質を高める姿勢がある。	専門職を目指す者としての自覚を持ち、予習・復習、楽器の準備、グループワークに責任を持って取り組んでいる。	受講マナーを遵守し、継続的に楽器練習や創作課題、ディスカッションに参加している。	欠席・遅刻をせず、受動的であっても指示された活動やグループ内での役割をこなしている。	受講態度が不適切（私語、スマホ使用、非協力的な態度）であり、芸術を学ぼうとする意欲が著しく欠如している。

科目名	人間関係とコミュニケーション			授業番号	HA211	サブタイトル	（良好な人間関係を築くために）		
教員	疋田　基道								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	良好な人間関係を構築し，豊かなコミュニケーションをとることは，質の高い仕事やパフォーマンスを行うために不可欠である。この授業では，コミュニケーションの基礎となる自己理解や対人援助の技術，組織やチームにおけるコミュニケーションについて学び，社会人として良好な人間関係を築くための幅広い知識を身につけることを目的とする。								
到達目標	・コミュニケーションにおける自己理解の重要性や，自己理解の枠組みを説明できる ・対人援助技術に関する基礎的知識を身に着けている ・組織やチームにおけるコミュニケーションの特徴を説明できる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	人間関係とコミュニケーションの基本 人間関係とコミュニケーションの基本について理解し，学習内容を概観する	
第2回	良好な人間関係を築くために（1） 自立について学び、理解を深める。	
第3回	良好な人間関係を築くために（2） 良好な人間関係を築くための共感や同期運動について学びを深める	
第4回	良好な人間関係を築くために（3） ストレスとその対処について学ぶ。	
第5回	良好な人間関係を築くために（4） 適切な自己主張や怒りの対処について学ぶ。	
第6回	自他の援助の技術（1） 対人援助における基本的な態度について学ぶ。 自己受容について理解を深める。	
第7回	自他の援助の技術（2） ソーシャルサポートや援助的人間関係について学ぶ。	
第8回	社会人としての基礎力 社会や他者に積極的に働きかけていく方法を学ぶ。	
第9回	組織で良好な人間関係を築くために（1） 組織の人間関係において重要なワークモチベーションの重要性を学ぶ	
第10回	組織で良好な人間関係を築くために（2） 自身のワークモチベーションへの理解を深めるワークに取り組み，学びを深める	
第11回	組織で良好な人間関係を築くために（3） 組織の人間関係において重要なリーダーシップの重要性を学ぶ	
第12回	組織で良好な人間関係を築くために（4） 組織の人間関係において重要なリーダーシップの重要性をワークを通して学ぶ	
第13回	組織で良好な人間関係を築くために（5） 組織におけるコミュニケーションの手段、特徴について学ぶ	
第14回	職場のストレスとメンタルヘルス 職場の人間関係で生じやすいストレスとメンタルヘルス維持の工夫について学ぶ	
第15回	組織におけるコミュニケーション・総括 学んできたことを振り返り，まとめを行う	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度によって評価する
レポート	40	授業内容の理解度・修得度を評価する。実施後、UNIPA等にて全体的な傾向についてコメントする。
小テスト	30	授業内容の理解度を評価する。小スト実施後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・授業内で行うワークやディスカッションに積極的に参加すること ・授業で学ぶコミュニケーションの知識を自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること
授業外学修	・配布資料を基に予習・復習をすること ・授業で紹介した本や資料を読むこと 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
キャリア開発の産業・組織心理学ワークブック〔第2版〕	石橋里美	ナカニシヤ出版	978-4779510557	2750円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
職場に活かす心理学	今城志保	東洋経済新報社	978-4-492-53268-7	2000＋税
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤計18年），大学での学生相談（非常勤，フルタイム計20年）等の実務経験を有する。実務経験の合計は22年。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	コミュニケーションの知識や力が良好な人間関係を築くために必要であることを、臨床現場での経験（22年）を通し、対人援助の技術、組織での人間関係等について具体的に紹介し教えることができ、実践に即したコミュニケーション力を習得させることができる。			

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．コミュニケーションにおける自己理解の重要性を理解できている。	コミュニケーションにおける自己理解の重要性を理解し、自分の性格や感情等々自己理解を深めることができる。	コミュニケーションにおける自己理解の重要性を理解し、自己理解の方法が分かる。	コミュニケーションにおける自己理解の重要性を理解できる。	コミュニケーションの重要性は理解できるが、自己理解が不十分である。	コミュニケーションにおける自己理解の重要性が理解できない。
知識・理解	２．自他の援助に関する基礎的知識や組織におけるコミュニケーションについて理解できている。	自他の援助に関する基礎的知識や組織におけるコミュニケーションについて様々な場面に応じた理解ができている。	自他の援助に関する基礎的知識や組織におけるコミュニケーションについて理解できている。	自他の援助や組織のコミュニケーションについて理解できている。	組織の中でのコミュニケーションについて経験的に知っている。	自他の援助や組織のコミュニケーションについて理解できていない。
知識・理解	３．社会人として良好な人間関係を築くための幅広い知識を身につけ、状況を理解し、状況に応じた対応に活かすことができる。	社会人として良好な人間関係を築くための幅広い知識を身につけ、状況に応じた理解ができ、対応に活かすことができる。	社会人として良好な人間関係を築くための知識を身につけて、状況に応じた理解ができる。	社会人として良好な人間関係を築くための知識を身に着けている。	良好な人間関係を築くため知識はあるが、社会人への応用力が乏しい。	良好な人間関係を築くため知識が身についていない。

科目名	英語B			授業番号	HA213	サブタイトル	(英語で楽しみながら学ぼう)		
教員	藤代 昇丈								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	英語の4技能の力を高めると同時に身近な話題についての英語を通して理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ，最終的には，社会的な話題について簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。								
到達目標	・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。 ・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。 ・英文で扱われている題材について知識を得ることができる。 ・英語の４技能を駆使して情報を収集し発信できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	Unit1 Goals in College Life 「充実した大学生活を送るには」という内容の英文を読み理解する。 語アクセントについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第2回	Unit2 Totoro Travels to Nepal 「ネパールでの国際交流の体験」という内容の英文を読み理解する。 文アクセントについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第3回	Unit3 Sightseeing in London 「国際観光都市ロンドン」という内容の英文を読み理解する。 聞こえなくなる音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第4回	Unit4 Sushi 「世界に誇る和食文化」という内容の英文を読み理解する。 聞こえなくなる音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第5回	Unit5 Fashion Trends 「ファッションを考える」という内容の英文を読み理解する。 弱形と強形について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第6回	Unit6 Shodo 「書道は昔の教養科目」という内容の英文を読み理解する。 音の同化について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第7回	Unit7 The Mississippi River 「アメリカ最長の河」という内容の英文を読み理解する。 無声化と有音化について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第8回	Unit8 Ocean Blue 「洞窟ダイビングの人気スポット」という内容の英文を読み理解する。 連結発音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第9回	Unit9 Studying Abroad及び到達度テスト 「留学する前に考えておくべきことは」という内容の英文を読み理解する。 音のリズムについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第10回	Unit10 The Northern Lights 「カナダのオーロラ観光」という内容の英文を読み理解する。 イントネーションについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第11回	Unit11 The Sound of the Saxophone 「サキソフォンの魅力的な音色」という内容の英文を読み理解する。 紛らわしい音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第12回	Unit12 Communication Tips 「良好な人間関係を築くには」という内容の英文を読み理解する。 半母音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第13回	Unit13 Seasonal Festivals(Sekku) 「9月9日は菊のお節句」という内容の英文を読み理解する。 英語らしい響き(日本語と英語の違い)について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第14回	Unit14 Electric Cars 「環境にやさしい車」という内容の英文を読み理解する。 数字の聞き取りについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第15回	Unit15 The Amazing Brain 及び到達度テスト 「驚異的な脳の働き」という内容の英文を読み理解する。 意味のまとまりで展開を予想して聞くについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	20	課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。
小テスト	40	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。
定期試験		
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。
授業外学修	1　テキスト内容については授業までに 2 時間以上予習すること。 2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので 2 時間以上復習しておくこと。 3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Amazing Visions of the Future -Aspects of Human Activity- 国際社会への英語の扉ーインプットからアウトプットで学ぶ四技能ー	伊與田洋之，赤塚麻里，土井峻，梶浦眞由美，マリキットG.マナラング，室淳子	南雲堂	9784523178880	2,310

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	県情報教育センター(３年)・県総合教育センター(４年)・県立高等学校英語科教諭(17年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。	英語の基礎的な文法に則って，一定分量の英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで90%以上得点することができる。	英語の基礎的な文法に則って，短い英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで80%程度得点することができる。	短い英文を読んだり，聞いたりしておおよその内容を理解することができる。到達度テストで70%程度得点することができる。	英語の基礎的な文法は理解しているものの，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することが困難である。到達度テストで60%程度の得点である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することができない。到達度テストで50%未満の得点である。
知識・理解	2.よく使われる英語表現を実際に用いることができる。	既習の英単語や英語表現を自由に用いて，相手と話したり，文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を応用して，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて，相手と対話を口頭で再現したり，書いたりすることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて，相手と音読対話練習することはできるが，十分に理解し応用することはできない。	テキストで用いられている英語表現を音読することが難しく，対話練習することも困難である。
知識・理解	3.様々なテーマについて知識を得ることができる	テキストでテーマとなっている世の中の出来事について理解し，自ら調べ，英文で紹介したり，発表することができる。	テキストでテーマとなっている世の中の出来事について理解し，まとめることができる。	テキストでテーマとなっている世の中の出来事について，講義を通して関心をもって議論することができる。	テキストの英文の内容の理解にとどまり，テーマとなっている世の中の出来事について自ら知ろうとしない。	テキストの英文内容のみならず，テーマとなっている世の中の出来事について，全く関心を持たない。

科目名	法学概論			授業番号	HA214	サブタイトル	(学生のための法律)		
教員	馬場　幸三 他								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	弁護士による学生のための法律の授業である。身近な問題を通じて、法によって権利・義務が発生することを理解し、法を使うことのできる社会人となってもらうために行う。授業の中で、裁判手続きを深めるために、実際に裁判を傍聴してもらう予定である（その関係で授業計画が変更することがあるが、その場合は事前に知らせるものとする）。								
到達目標	受講により、大学生の身の回りで起こる問題について、法的問題として深く考える法的思考を養成し、社会人となったときにも役立つ法的知識を修得している。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション。 法学の総論。法律とは何か、なぜ法律を学ぶのかについて考える。 テキスト「本書を読む前に（ⅳ頁）」、第14章	馬場　幸三　弁護士
第2回	大学・授業でのトラブルとサークルでのトラブルについて、気をつけるべき点を学ぶ。 テキスト　第1章	福田　力希斗　弁護士
第3回	日常生活で発生しうるお金のトラブルを知り、日常生活の中での気を付けるべき点を学ぶ。 テキスト　第2章	谷口　怜司　弁護士
第4回	日常生活において特に身近な事象（アパートの賃借やＳＮＳトラブル）に関する諸問題を学ぶ。 テキスト　第3章1、3	馬場　幸三　弁護士
第5回	著作権について学ぶ。	髙瀬　鈴香　弁護士
第6回	交際相手等とのトラブルについての知識、対処法を学ぶ。	髙瀬　鈴香　弁護士
第7回	我が国の民法における家族関係の規律のなかから、夫婦関係（婚姻、離婚）、子どもの権利等について学ぶ。	青田　夢　弁護士
第8回	働くとはなにか。アルバイトや正社員などの労働契約の成立から終了までを学ぶ。 テキスト　第3章2、第4章、第6章	谷口　怜司　弁護士
第9回	旅行トラブルと就職活動でのトラブルに対する対処法について学ぶ。 テキスト　第5章	山本　愛子　弁護士
第10回	裁判傍聴を通じて、実際の裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。 テキスト　第10章	玉井　康太郎　弁護士
第11回	裁判傍聴を通じて、実際の裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。 テキスト　第10章	玉井　康太郎　弁護士
第12回	刑事裁判手続き（裁判員裁判、被害者参加を含む）の流れ及びその内容について学ぶ。 テキスト　第10章【裁判傍聴予備日】	玉井　康太郎　弁護士
第13回	民事裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。	青田　夢　弁護士
第14回	交通事故に遭遇した場合の3つの責任（民事責任・刑事責任・行政責任）等について学ぶ。 テキスト　第11章	福田　力希斗　弁護士
第15回	我が国の民法における家族関係の規律のなかから、相続について学ぶ。 テキスト　第13章	髙瀬　鈴香　弁護士
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度、発表・討議への参加等によって評価する。
レポート	50	毎回提示するレポート（400字以上）の内容・提出期限・最低字数の厳守等によって評価する。 レポートについては、課題提出後の授業で全体的な傾向等についてコメントする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業時の携帯電話等の使用は禁止する。
授業外学修	(1)予習として、テキストの内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにしておくこと。 (2)予習・復習として配布するプリントをよく読むこと。 (3)日常的に新聞・テレビニュースによく接しておくこと。 以上(1)～(3)を、週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新版　学生が知っておきたい生活の中の法律	細川幸一	慶応義塾大学出版社	978-4-7664-2815-5	1800円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	弁護士(馬場幸三17年),弁護士(谷口怜司15年),弁護士(山本愛子15年),弁護士（青田夢10年）,弁護士(髙瀬鈴香5年),弁護士(福田力希斗3年),弁護士(玉井康太郎2年)			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	法律事務所に勤務する弁護士が、実際の事例や相談内容を踏まえた講義を行う。			

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	各授業のテーマに関わる法律の基本的な内容を理解している。	学習した法律に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学習した法律に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる	学習した法律に関する知識について、概ね述べることができる。	学習した法律に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した法律に関する知識について、理解が乏しく自分の言葉で表現することができない。
態度	授業に積極的に参加できる。	自ら発言し、疑問を解決するなど授業に積極的に臨む姿勢が見受けられる。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられる。	授業に出席し、授業内容を理解しようとしている。	授業に出席しているが、授業内容を理解しようとする態度が不十分である。	授業に出席しているが、授業内容を理解しようとする意欲が感じられない。

科目名	時事問題			授業番号	HA215	サブタイトル			
教員	倉田　致知								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	ラジオ、新聞、テレビ、SNS、などを通して、政治、経済、経営、などについてのニュースが日々流れている。本講義では、これらの領域におけるニュースを取り上げ、その状況ならびにその背景や理由を解説する。基礎的な専門用語のみならず、ニュースの背景や理由を理解することにより、社会現象を多角的に捉えることができ、且つ予測できない時代において人生を切り開いていくために必要な力の涵養に繋がる。								
到達目標	政治、経済、経営に関する時事について関心を持ち，社会と自己の接点を見出しながら、専門用語、背景や理由、解決策の内容、などについて客観的に説明できるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	物価と税について理解しよう①：GDP、GNI、デフレーション、インフレーション、スタグネーション、スタグフレーション、名目と実質、消費税、所得税、住民税、社会保険料、消費者物価指数、企業物価指数、東京一極集中、物価上昇率推移、可処分所得の推移、など。	
第2回	物価と税について理解しよう②：GDP、GNI、デフレーション、インフレーション、スタグネーション、スタグフレーション、名目と実質、消費税、所得税、住民税、社会保険料、消費者物価指数、企業物価指数、東京一極集中、物価上昇率推移、可処分所得の推移、など。	
第3回	選挙、議員、公務員について知ろう①：政治、衆議院と参議院、比例代表、小選挙区、選挙権、被選挙権、直接民主制と間接民主制、政党政治、1票の格差、公職選挙法、期日前投票、贈収賄（収賄、贈賄、賄賂）、地方選挙、地方議員、議員の報酬、世襲議員、国会の役割、三権分立、衆議院の優越、国家公務員、官僚、地方公務員、など。	
第4回	選挙、議員、公務員について知ろう②：政治、衆議院と参議院、比例代表、小選挙区、選挙権、被選挙権、直接民主制と間接民主制、政党政治、1票の格差、公職選挙法、期日前投票、贈収賄（収賄、贈賄、賄賂）、地方選挙、地方議員、議員の報酬、世襲議員、国会の役割、三権分立、衆議院の優越、国家公務員、官僚、地方公務員、など。	
第5回	世界を見よう①：国際収支、経常収支、金融収支、資本移転等収支、誤差漏洩、対外資産負債残高、逆輸入、直接投資、ボーン・グローバル企業、ＥＵ、NATO、WTO、FTAとEPA、ASEAN、APEC、RCEP、TPP、CPTPP、BRICS、PKO、PKF、NGO、SDGs、JICA、など。	
第6回	世界を見よう②：国際収支、経常収支、金融収支、資本移転等収支、誤差漏洩、対外資産負債残高、逆輸入、直接投資、ボーン・グローバル企業、ＥＵ、NATO、WTO、FTAとEPA、ASEAN、APEC、RCEP、TPP、CPTPP、BRICS、PKO、PKF、NGO、SDGs、JICA、など。	
第7回	世界を見よう③：国際収支、経常収支、金融収支、資本移転等収支、誤差漏洩、対外資産負債残高、逆輸入、直接投資、ボーン・グローバル企業、ＥＵ、NATO、WTO、FTAとEPA、ASEAN、APEC、RCEP、TPP、CPTPP、BRICS、PKO、PKF、NGO、SDGs、JICA、など。	
第8回	失われた30年について把捉しよう①　：財政、国債、債務残高、国の一般会計と特別会計、バブル経済とその崩壊：昔の公定歩合、昔の預金利息、プラザ合意、円高ドル安、投機、デフレスパイラル、不良債権、貸し渋り、貸しはがし、土地神話、失われた30年、など。	
第9回	失われた30年について把捉しよう②　：財政、国債、債務残高、国の一般会計と特別会計、バブル経済とその崩壊：昔の公定歩合、昔の預金利息、プラザ合意、円高ドル安、投機、デフレスパイラル、不良債権、貸し渋り、貸しはがし、土地神話、失われた30年、など。	
第10回	格差や労働市場について知ろう①。中央値と平均値、金融資産、金融資産格差、世代別資産格差、ローレンツ曲線、ジニ係数、実質賃金、名目賃金、賃金収入格差、男女間賃金格差、企業規模別賃金収入格差、氷河期世代、派遣労働、失業率、失業の定義、物価上昇率、消費税、所得税、住民税、社会保険料、手取りと額面、など。	
第11回	格差や労働市場について知ろう②。中央値と平均値、金融資産、金融資産格差、世代別資産格差、ローレンツ曲線、ジニ係数、実質賃金、名目賃金、賃金収入格差、男女間賃金格差、企業規模別賃金収入格差、氷河期世代、派遣労働、失業率、失業の定義、物価上昇率、消費税、所得税、住民税、社会保険料、手取りと額面、など。	
第12回	証券市場を理解しよう①。日経平均、TOPIX、通貨、為替、円高と円安、上場企業と非上場企業、株式取引、証券取引所、証券会社、配当、株主優待、プライム、スタンダード、グロース、Tokyo Pro、ダウ・ジョーンズ工業株価平均、ナスダック総合指数、など。	
第13回	証券市場を理解しよう②。日経平均、TOPIX、通貨、為替、円高と円安、上場企業と非上場企業、株式取引、証券取引所、証券会社、配当、株主優待、プライム、スタンダード、グロース、Tokyo Pro、ダウ・ジョーンズ工業株価平均、ナスダック総合指数、など。	
第14回	投資を考えよう①。若年層の資産形成の現状、現物取引、信用取引、ETF・ETN、REIT、投資信託の仕組み、FX（Foreign Exchange：外国為替証拠金取引）、暗号資産(仮想通過)、ビットコイン、ブロックチェーン、債券と金利の関係、アクティブファンドとインデックスファンド、信託報酬の意味、インカムゲインとキャピタルゲイン、複利効果、新NISA投資、iDeCo、など。	
第15回	投資を考えよう②。若年層の資産形成の現状、現物取引、信用取引、ETF・ETN、REIT、投資信託の仕組み、FX（Foreign Exchange：外国為替証拠金取引）、暗号資産(仮想通過)、ビットコイン、ブロックチェーン、債券と金利の関係、アクティブファンドとインデックスファンド、信託報酬の意味、インカムゲインとキャピタルゲイン、複利効果、新NISA投資、iDeCo、など。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業や小テストへの取り組みの姿勢・態度	10	小テストの取り組み姿勢、予習・復習、提出物の状況、授業資料のファイリング状況、など。
小テスト	60	単元毎あるいは毎回、専門用語の理解度やニュースの背景について小テストが実施される。ユニパのテスト機能を使う。
学期末課題	30	専門用語そのものの意味、解決策の内容やその影響、理由や背景などの把握を目的とした学期末課題（ニュース時事能力検定試験の3級レベルを想定）に取り組む。

評価の方法：自由記載	項目ごとの評価の割合は変更することがある。
受講の心得	1．日頃より環境問題，政治・経済に関する時事ニュースに関心を持って目を通しておくこと。 2．授業態度は，礼儀正しい態度で臨むこと。 3．授業資料を適時、配布する。かなりの量になるので必ずファイルリングすること。
授業外学修	1．予習として，授業ごとに該当する項目を熟読し，疑問点を明らかにしておく。 2．復習として，授業で学んだことを教科書を見で再度学修しておく。 3．授業で紹介した事例を新聞・インターネット等で確認する。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要に応じ，授業に際しプリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要の都度，随時紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	『政治・経済・経営における基礎的な専門用語の理解度』	政治・経済・経営における基礎的な専門用語を完全に理解している。	政治・経済・経営における基礎的な専門用語をある程度理解している。	偏りは気になるが、特定の領域については、専門用語を完全に理解している。	偏りは気になるが、特定の領域については、専門用語をある程度理解している。	どの領域についても基礎的な専門用語を理解していない、あるいはそもそも読めない。
知識・理解	『背景や理由の理解度』	政治、経済、経営の領域におけるニュースの背景や理由を完全に理解している。	政治、経済、経営の領域におけるニュースの背景や理由をある程度理解している。	偏りは気になるが、特定の領域については、ニュースの背景や理由を完全に理解している。	偏りは気になるが、特定の領域については、ニュースの背景や理由をある程度理解している。	どの領域についても背景や理由に関心が無い。
思考・問題解決能力	『対策や影響の把握』	講じられた対策の内容やその効果、あるいは副作用的な影響を十分に説明できる。	講じられた対策の内容やその効果、あるいは副作用的な影響をある程度説明できる。	偏りがあるが、特定の領域については、少なくとも講じられた対策の内容を完全に説明できる。	偏りがあるが、特定の領域については、少なくとも講じられた対策の内容をある程度説明できる。	講じられた対策の内容やその効果、あるいは副作用的な影響などに関心が無い。
思考・問題解決能力	『解決手法適用能力』	資料を見ずに、解決手法を完全に適用てきている。	資料を見ながら、解決手法を完全に適用てきている。	資料を見るだけでは難しいが、教員や友人に確認しつつならば、解決手法を完全に適用てきている。	資料を見るだけでは難しいが、教員や友人に確認しつつならば、ある程度解決手法を適用てきている。	資料さえ見ない。解決手法を適用する気も無い。
態度	『授業や課題への姿勢や意欲』	予習や復習に十分に時間を費やし、課題に対して計画的に取り組んでいる。	予習や復習に十分に時間を費やし、課題に対してある程度計画的に取り組んでいる。	予習や復習の領域と時間に偏りがあるが、課題に対してある程度計画的に取り組んでいる。	予習や復習の領域と時間に偏りがあり、どこの何を見れば良いのかが十分には分かってはいないが、定められた日時までに課題に取り組んでいる。	予習や復習に時間を費やしていない。そもそも授業資料さえも持っていない。何が課題か分かっていない。

科目名	数理･データサイエンス･AI			授業番号	HA216	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修･選択	選択
授業概要	初級レベルの数理･データサイエンス･AIを習得するという政府発表の目標を掲げた。この講義では，プログラミング，データサイエンス（社会調査）･AI，データベース（表計算）などの様々な情報分野を学ぶ上で必要とされる基本的な数理的な考え方について学習する。								
到達目標	社会の中でのAIの役割を理解する. データの特徴を読み解き，データの中に潜む特徴を理解できる. データに応じた可視化の手法を選択し，適切に説明ができる. 代表値や統計的検定等の基本的な知識を用いることができる. スプレッドシートを用いてデータの適切な集計･分析をすることができる. なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識･理解＞ ＜思考･問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	社会で起きている変化(1) 情報を使いこなす社会，IoTとは，ビッグデータ	
第2回	社会で起きている変化(2) 多変量解析の手法	
第3回	AI時代の到来(1) AIとは，AIを使いこなす，AI社会	
第4回	AI時代の到来(2) 機械学習の仕組み	
第5回	データを守るための留意事項 情報セキュリティとは，セキュリティの注意点，個人情報の管理	
第6回	データ活用と必要なスキル データと分析結果を対応づける，分析結果の利用，Excelの活用	
第7回	データの準備とデータのタイプ ネットでデータを探す，分析用データと分析結果データ，母集団と標本	
第8回	アンケートデータを要約しよう データの要約とは，Excelで要約，グラフでデータを視覚化する	
第9回	データを比較して仮説を考えよう(1) 質的データを比較する，仮説をもとう，ファインディングを伝える，仮説の検証	
第10回	データを比較して仮説を考えよう(2) 統計的仮説検定とは	
第11回	データを代表値で要約する 平均値を活用する，平均値の計算で分布も確認する，ヒストグラムを活用する	
第12回	量的変数をばらつきで要約する ばらつきを数値化する，売り上げデータを分析する，誤差を加味する	
第13回	平均と標準偏差を活用しよう 新しい変数を作る，異なる単位の変数を比較する，大きなずれに着目する，外れ値を活用する	
第14回	散布図を活用して関係性を分析する 人事評価データを分析する，散布図から似ている評価を特定する，相関分析を応用する	
第15回	データ分析を活用するために知っておきたいポイント データ分析結果を伝える，分析手法の全体像を知る，さらなる学習へ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準･その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予･復習の状況によって評価する。
課題	30	課題は毎回出される．課題の解説をしながら、進めていく。
定期試験	30	試験により指導内容に関する到達度を評価する.
レポート		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積み重ねが重要なので復習を十分行い，分からないところは放置しておかないようにする。
授業外学修	毎週４時間以上，予習・復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめて学ぶ 数理・データサイエンス・AI	富士通ラーニングメディア	富士通ラーニングメディア	978-4-86775-081-0	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．代表値の概念を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	２．２変数間の相関の意味を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	３．仮説検定の概念を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	１．回帰分析を適用する場面を判断できる	十分判断できる	かなり判断できる	平均的に判断できる	部分的に判断できる	判断が不十分である
思考・問題解決能力	２．量的変数のばらつきを数値化する場面を判断できる	十分判断できる	かなり判断できる	平均的に判断できる	部分的に判断できる	判断が不十分である
思考・問題解決能力	３．解決のためのプロセスが見通せる	十分見通せる	かなり見通せる	平均的に見通せる	部分的に見通せる	見通しが不十分である
技能	１．元データから代表値を計算することができる	十分計算できる	かなり計算できる	基本的な形で計算できる	補助があれば計算できる	計算できない
技能	２．元データからヒストグラムを作成することができる	十分作成できる	かなり作成できる	基本的な部分は作成できる	補助があれば作成できる	作成できない
技能	３．元データから散布図が作成できる	十分作成できる	かなり作成できる	基本的な形で作成できる	補助があれば作成できる	作成できない

科目名	生活とデザイン			授業番号	HD101	サブタイトル			
教員	三宅　真未								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	どのようなデザインが人々の間で受け入れられ，広まっていくのかは時代や文化，生活様式によってさまざまである。本講義では，主に西洋の服飾デザインに着目し，19世紀末から現代までの変遷を辿る。そして，各時代においていかなるデザインが人々の生活の中で受容されたのかを解説し，デザインと社会構造との関係性について考えを深めていく。								
到達目標	多角的な視野からデザインの歴史を学び，デザインに対する様々なアプローチを知ることができる。また，19世紀末から現代までの服飾デザインの歴史について，各時代の社会構造や文化を踏まえながら時系列的に説明することができると同時に，今日の身近なデザインに関する事象についても分析する姿勢を身に付けることができる。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション：デザインとは デザイン，ファッション，アートの各定義を確認する	
第2回	デザイナーの起源 デザイナーが誕生した歴史を辿り，現代の生活にどのような影響を及ぼしたのかを考察する	
第3回	アール・ヌーヴォーのデザイン 19世紀末～1910年までの服飾デザインについて学ぶ，アール・ヌーヴォー様式の特徴を理解する	
第4回	アール・デコのデザイン① 1914年から1920年代までの服飾デザインについて学ぶ，アール・デコ様式の特徴を理解する	
第5回	アール・デコのデザイン② 1920年代に活躍したデザイナーの功績を辿り，現代のファッション・服飾デザインに及ぼした影響を考察する	
第6回	ファッションとアートの接近 1930年代に活躍したデザイナーの事例をもとに，芸術分野からインスパイアされた服飾のデザインやアイテムがどのようにして生まれたのかを理解する	
第7回	戦前と戦後のデザイン 第二次世界大戦中の服飾産業の様子と大戦後の服飾デザインについて学ぶ	
第8回	1960年代のデザイン①：女性の社会進出とパンツルック 女性のパンツスタイルがいかにして広まっていったのかを学ぶ	
第9回	1960年代のデザイン②：若者発信によるミニルック ミニスカートが登場した社会背景を辿るとともに，ミニスカートの普及に貢献したデザイナーの事例を学ぶ	
第10回	1970年代のデザイン オートクチュールからプレタポルテへの移行の流れを学ぶとともに，「パンク」と服飾デザインの関係性を辿る	
第11回	1980年代のデザイン①プレタポルテで活躍したデザイナーによる服飾デザインについて学ぶ	
第12回	1980年代のデザイン② 日本人デザイナーによる服飾デザインが，西洋にいかなる影響を与えたのかについて考察するとともに，現代の日本ブランドの動向についても探る	
第13回	1990年代のデザイン 「グランジ」について学び，社会情勢が反映されたデザインについて理解する	
第14回	2000年代のデザイン 日本のサブカルチャーや「カワイイ」デザインが世界にどのようにして広まっていったのかを理解するとともに，2000年代と現代の服飾デザインの繋がりについて考察する	
第15回	まとめ 今後どのようなデザインが受容されていくのか，または必要になってくるのかについて考察する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予習・復習の状況によって評価する。
レポート	40	「理解度」「独創性」「分析力」「論理性」「完成度」の5点から評価する。提出後には全体の傾向を明らかにしたうえで講評を行う。
その他	20	授業内で行う課題・ワークシートの内容によって授業の理解度を評価する。提出後には全体の傾向を明らかにした上で講評を行う。

評価の方法：自由記載	上記の評価基準をもとに総合評価を行う。なお，課題提出後には全体の傾向を明らかにした上で講評を行う。
受講の心得	服飾デザインに関する基本的な知識を学ぶために，身のまわりのあらゆるデザインについて，よく観察しておくこと。
授業外学修	1.事前学修として，講義終了時に次回内容を紹介するので，その内容について調べること。（2時間以上） 2.事後学修として，講義時に配布された資料を再読し，講義で学んだ内容を整理すること。（2時間以上）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．服飾デザインの歴史に関する基礎的な知識を習得している。	服飾デザインの歴史に関する基礎知識を十分に身につけ，知識を応用しながら今日の服飾デザインに関する事象について分析することができる。	服飾デザインの歴史に関する基礎知識を身につけ，今日の服飾デザインに関する事象について分析する姿勢がある。	服飾デザインの歴史に関する基礎的な知識を習得している。	授業を十分に理解しておらず，基礎知識の習得に欠ける。	授業を理解せず，基礎知識を身に付けられていない。
知識・理解	2．服飾デザインと生活との関わりを理解している。	人々の生活様式によって受容される服飾デザインが変化することを十分に理解し，今日の服飾デザインと生活様式との関係性を分析し，自身で考察を深めることができる。	人々の生活様式によって受容される服飾デザインが変化することを理解し，今日の服飾デザインと生活様式との関係性を分析することができる。	服飾デザインと人々の生活様式との関わりが深いことを理解している。	服飾デザインと生活との関わりを認識している。	服飾デザインと生活との関係性を理解していない。

科目名	色彩学			授業番号	HD102	サブタイトル			
教員	三宅　真未								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，日常生活と密接な関わりを持つ「色」を知覚や心理などのさまざまな視点から捉え，その意味や役割を学ぶ。具体的には，「色の表示」や「色彩心理」，「色彩調和」など色彩の基礎的な知識を身につけ，色の性質を理解する。また適宜，カラーカードを用いて配色について演習を行う。これらを通じて，色彩の効果を理解し，目的に応じた配色をつくる姿勢を身につける。 なお，本講義は色彩検定協会（AFT）が主催する色彩検定3級の内容に準拠している。								
到達目標	１.色彩に関する基礎的な知識を修得しその知識を活用できる。 ２.色彩検定協会（AFT）が主催する色彩検定3級の取得に向けた目標を持つことができる。 本科目はディプロマポリシーに掲げている学士力の＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	授業にはカラーカードによる配色演習が含まれます。そのため，使用テキストに対応した「新配色カード199a」（税込￥1,375）および「新配色カード199用演習台紙」（税込￥330）の購入が別途必要となります。この点については初回授業で説明します。								

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション：色のはたらき 身の回りの色についてのはたらき・役割について知る	
第2回	光と色①色はなぜ見えるのか 光の基本的な性質や眼のしくみを学ぶ	
第3回	光と色②混色とは 色の組み合わせによって異なる色をつくりだすことを理解する	
第4回	表色系① 色の分類と三属性について学ぶ	
第5回	表色系② PCCSとトーンを理解する	
第6回	色彩心理① 色の心理効果を理解する	
第7回	色彩心理② 色の視覚効果を理解する	
第8回	色彩調和① 配色の基本的な考え方・カラーダイヤルについて学ぶ	
第9回	色彩調和② 色相を手掛かりにした配色を学ぶ	
第10回	色彩調和③ トーンを手掛かりにした配色を学ぶ	
第11回	配色の技法とイメージ 配色の基本的な技法および色の三属性とトーンから成る配色のイメージについて学ぶ	
第12回	ファッションと色彩 ファッションコディネートにおける色彩の活用法について理解する	
第13回	インテリアと色彩 インテリアデザインや空間における色彩の心理効果について理解する	
第14回	慣用色名 さまざまなマンセル値の色に付けられた名前について学ぶ	
第15回	まとめ これまでの総復習と検定に向けてー「色の表示」「色彩心理」「色彩調和」についての知識を整理するー	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，予習，復習の状況によって評価する。
レポート	40	「理解度」「独自性」「分析力」「論理性」「完成度」の5点から評価する。提出後には全体の傾向を明らかにしたうえで講評を行う。
小テスト	30	授業内容の理解度を計る。
授業内課題	10	授業内で行う課題に，「理解度」「完成度」の2点で評価する。提出後には全体の傾向を明らかにしたうえで講評を行う。

評価の方法：自由記載	上記の評価基準をもとに総合評価を行う。なお，課題の提出後には全体の傾向を明らかにしたうえで講評を行う。
受講の心得	必須ではないが，授業で得た知識を生かして積極的にAFT主催の色彩検定3級にチャレンジすること。
授業外学修	1.事前学修は，日常生活の中で目にする様々な色彩について関心を持ち，テキストを一読し，分からない用語等は調べて毎回，予習しておくこと。（2時間以上） 2.事後学修は，毎回，テキストでのワークシートや講義で行った演習などの色彩理論や課題などを振り返り，理解して覚える。また，講義時間内に指定された箇所までのワークシートが仕上がらない場合は，次回講義時までに指定された箇所まで完成させておくこと。（2時間以上）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
色彩検定 公式テキスト 3級編		内閣府認定 公益社団法人色彩検定協会	978-4909928030	
使用テキスト：自由記載	使用テキストに対応した「新配色カード199a」（税込￥1,375）の購入が必要になります。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．色彩に関する基礎的な知識を修得しその方法を活用できる。	授業以上に自身で理解を深め，デザインに関する基礎知識を身に付け，応用できる。	授業以上に自身で理解を深め，デザインに関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解し，デザインに関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解しているが，基礎知識が身に付けられていない。	授業を理解しきれていない。
知識・理解	2．色をさまざまな視点から捉え，その意味や役割を学ぶ。	学んだ知識を十分に理解し，色を知覚や心理などさまざまな視点から捉え，その意味や役割を自身の観点で考え活用することが出来る。	学んだ知識を十分に理解し，色を知覚や心理などさまざまな視点から捉え，その意味や役割を自身の観点で考えることが出来る。	学んだ知識を十分に理解し，その意味や役割を自身の観点で考えることが出来る。	学んだ知識を理解しているが，自身の観点で捉えることは難しい。	学んだ知識を理解しているが，自身の観点で考えることに欠ける。

科目名	生活デザイン実習 (135分)			授業番号	HD201	サブタイトル			
教員	三宅　真未								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	コンセプトからイメージを起こし，グラフィックデザイン，アレンジを通じてオリジナルＴシャツを制作する。 「テーマに沿ってデザイン的なアプローチを習得する」「自分のオリジナルデザインを現実のものとする」を目標とし，与えられたテーマに沿って独自の視点を持って構想し，自身の手で制作する。								
到達目標	適切にテーマを理解し，独自性のあるイメージを構想した上で，そのイメージを完成品として実現させること，また計画的な制作能力を得ることが出来る。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	授業計画に沿って制作を進められるよう，授業時間内に課題が終わらない場合は持ち帰って作業し，次の授業までに進めておくことが必要となります。								

回	概要	担当
第1回	授業全体の説明 Tシャツについて：Tシャツの歴史，Tシャツの形・素材・ディテールなどを学ぶ。	
第2回	Tシャツデザインについて：市場の多様なTシャツのデザインを学ぶ。	
第3回	コンセプトの設定① ファッションイメージを選択し，マインドマップという手法で構想を広げる。	
第4回	コンセプトの設定② ファッションイメージを選択し，マインドマップという手法で構想を広げる。	
第5回	コンセプトの設定③ マインドマップからムードボードを作成し，ビジュアルで構想を表現する。	
第6回	コンセプトの設定④ マインドマップからムードボードを作成し，ビジュアルで構想を表現する。	
第7回	グラフィックデザイン①：イメージビジュアルからグラフィックデザインへ落とし込む。各自のデザインによって,コンピューター,スマートフォン,手描きなどの手法を用いて表現する。	
第8回	グラフィックデザイン②：イメージビジュアルからグラフィックデザインへ落とし込む。各自のデザインによって,コンピューター,スマートフォン,手描きなどの手法を用いて表現する。	
第9回	グラフィックデザイン③：プリントするTシャツの型番,サイズ,カラー,プリント位置やサイズを決め,業者へ発注をする。	
第10回	アレンジデザイン：アレンジのデザインを構想し，必要な材料や手順を確認する。	
第11回	アレンジ①：それぞれのデザインに合わせて,刺繍,カッティング,パッチワーク,ダメージ加工などでアレンジを加える。	
第12回	アレンジ②：それぞれのデザインに合わせて,刺繍,カッティング,パッチワーク,ダメージ加工などでアレンジを加える。	
第13回	アレンジ③：それぞれのデザインに合わせて,刺繍,カッティング,パッチワーク,ダメージ加工などでアレンジを加える。	
第14回	アレンジ④：それぞれのデザインに合わせて,刺繍,カッティング,パッチワーク,ダメージ加工などでアレンジを加える。	
第15回	作品発表・相互評価 完成した作品をマネキンへ着せ付け，一人ずつ発表を行う。また，発表後には相互評価を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な授業態度,積極的に課題へ取り組みスケジュールに沿って制作を進めているかを評価する。
作品	40	作品については,コンセプト・デザイン・プロセスでの,「構想力」「独創性」「完成度」の3点に点数をつけて評価する。
発表	30	プレゼンテーションは「説得力」「独創性」「論理性」「表現力」「時間配分」の5点に点数をつけて評価する。

評価の方法：自由記載	上記の評価基準をもとに総合評価を行う。なお，作品提出および発表後には講評を実施する。
受講の心得	日常のあらゆるデザインについて興味を示し,作り手の視点を持つこと。自由な発想を持ちながら，作品制作に真摯に取り組むこと。
授業外学修	次の内容のリサーチ（予習１時間）,翌週までに課題を終了させておくこと。（復習１時間）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．テーマを理解し正しく提案できている。	テーマを十分に理解した上で，授業以上に自身で理解を深め，クオリティの高い作品を制作する視点を身につけている。	テーマを十分に理解し，クオリティの高い作品を制作する視点を身につけている。	テーマを十分に理解し，作品を制作できる。	テーマは理解出来ているが，作品へ十分に反映出来ていない。	テーマが理解できていない。
知識・理解	２．制作における手順を理解出来ている。	制作の手順を理解し，制作工程の内容を踏まえて自身で工夫ができている。	制作の手順を理解し，制作工程の内容を深く理解できている。	制作の手順を理解し，制作工程の理解できている。	制作手順は理解出来ているが，十分に成果に反映されていない。	制作の手順が理解できていない。
技能	１．独自のデザインを構想し，創作物として完成させることができる。	独創性に富んだデザインを構想し，そのデザインに沿いながら，高度なアレンジを加えた創作物として完成させることができる。	独創性に富んだデザインを構想し，デザインに沿いながら，アレンジを加えた創作物として完成させることができる。	独自のデザインを構想し，創作物として完成させることができる。	一つの創作物として完成させることができるものの，デザイン案の独創性に欠けるとともに，制作に対する熱意を感じられない。	デザイン案の独創性に欠けるとともに，作品が未完成である。
技能	２．魅力的なプレゼンテーションが出来ている。	声のトーンやボリュームが適切で分かり易く，聞いている人を惹き込むための工夫が見られ，魅力的な説明ができている。内容の取捨選択ができており時間通りにプレゼンができる。	声のトーンやボリュームが適切で分かり易く，魅力的な説明ができている。内容の取捨選択ができており時間通りにプレゼンができる。	分かり易く説明ができている。内容の取捨選択ができており時間通りにプレゼンができる。	分かり易く説明できているが，精度に欠ける。	分かり易く説明ができていない。

科目名	調理演習			授業番号	HF101	サブタイトル			
教員	児玉　彩								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	食材の切り方や調理法・衛生管理など，調理の基礎となる事柄を学ぶ。基礎を学んだ上で簡単な献立を自ら計画・実践することで調理をする上での初歩的な調理操作を身に付けることを目的とする。								
到達目標	調理の基礎となる食材の下ごしらえの仕方・切り方・加熱などの初歩的な調理方法と知識を身に付けることができる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	調理室の使い方，調理器具の使い方，基本操作について 調理室の使い方，衛生面に関する注意点について，および調理の基本となる切り方，加熱の方法などの基本を理解する。	
第2回	調理の基本操作１ 基本的な切り方を例にして，食材を切りながら包丁を安全に扱う方法を理解する。	
第3回	調理の基本操作２ 基本的な切り方を例にして，食材を切りながら包丁を安全に扱う方法を理解する。	
第4回	調理の基本操作３ 基本的な切り方を例にして，食材を切りながら包丁を安全に扱う方法を理解する。	
第5回	調理の基本操作４ 基本的な野菜の切り方を実際に調理をしながら学び，理解する。	
第6回	調理の基本操作５ 基本的な野菜の切り方を実際に調理をしながら学び，理解する。	
第7回	調理の基本操作６ 基本的な野菜の切り方を実際に調理をしながら学び，理解する。	
第8回	調理の基本操作７ 茹でる，焼く，等の基本的な調理操作を理解する。	
第9回	調理の基本操作８ 茹でる，焼く，等の基本的な調理操作を理解する。	
第10回	調理の基本操作９ 茹でる，焼く，等の基本的な調理操作を理解する。	
第11回	調理の基本操作１０ 茹でる，焼く，等の基本的な調理操作を理解する。	
第12回	調理の基本操作１１ 茹でる，焼く，等の基本的な調理操作を理解する。	
第13回	調理の基本操作１２ 寒天，ゼラチンなどのゲル化剤を用いて，その特性について理解する。	
第14回	調理の計画１ 調理操作をイメージしながら，時間内に作ることのできる献立を立てることが出来る。	
第15回	調理の実践２ 自分たちで計画をした献立を時間内に調理することが出来る。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	45	実習にふさわしい身支度を整え，衛生面に配慮しながら実習に取り組めたか等，意欲的な受講態度によって評価する。
レポート	25	自ら考えたメニューのレシピをまとめ，その料理を作る上での注意事項などについて考察し提出すること。レポート課題はコメントを付けて返却する。
小テスト	30	授業の中で説明した調理に関する事項について主要なポイントの理解を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。
授業外学修	1．授業で出てきたポイントを復習すること 2．日頃から食に関する情報に興味関心をもち，自ら情報収集を行うこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．調理の基礎となる食材の切り方・加熱の仕方など初歩的な事柄が理解できている	調理の基礎となる基本的な知識を十分に理解することができている	調理の基礎となる基本的な知識をおおよそ理解することができている	調理の基礎となる基本的な知識を理解することができている	調理の基礎となる基本的な知識をやや理解することができている	調理の基礎となる基本的な知識を理解することができていない
思考・問題解決能力	1．調理に関する初歩的な知識を身につけ、自分自身でメニューを考えることが出来る	調理操作を理解したうえで、自分自身でメニューを考えることが出来る	自分自身でメニューを考えることが出来る	資料等を参考にしながら、自分自身でメニューを考えることが出来る	資料等を参考にしながら、自分自身でメニューをおおよそ考えることが出来る	自分自身でメニューを考えることが出来る
技能	1．調理の基礎となる食材の切り方・加熱の仕方など初歩的な調理操作を行うことが出来る	調理の基礎となる食材の切り方・加熱の仕方など初歩的な調理操作を自らすすんで行うことが出来る	調理の基礎となる食材の切り方・加熱の仕方など初歩的な調理操作を行うことが出来る	資料等を参考にしながら調理の基礎となる食材の切り方・加熱の仕方など初歩的な調理操作を行うことが出来る	資料等を参考にしながら調理の基礎となる食材の切り方・加熱の仕方など初歩的な調理操作をおおよそ行うことが出来る	資料等を参考にしても調理の基礎となる食材の切り方・加熱の仕方など初歩的な調理操作を行うことができない

科目名	食と生活			授業番号	HF201	サブタイトル			
教員	小築　康弘								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	標準的な日本人は一日に３回の食事を行う。単純すぎる計算であるが，人生が80年で毎日３回の食事をすると仮定すると，87，600回の食事を生涯にわたってすることになる。このことからも分かるように，我々が生活を営んで行く上で「食」は重要な要素である。そこで，本教科は生活の中における「食」を広く学び，「食」に対する考えを構築することを目的とする。 なお，本教科はフードコーディネーター３級資格取得のために必要な科目である。								
到達目標	・「食」に対するイメージを自身の中に思い描くことができる ・日本および世界の食生活に関する基礎的な知識，および食の安全に関わる初歩的な知識を有している なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	日本の食文化(1) 縄文時代～平安時代	
第2回	日本の食文化(2) 鎌倉時代～現代	
第3回	日本の食文化(3) 日本料理の種類	
第4回	日本の食文化(4) 暦と旬	
第5回	日本の食文化(5) 行事食と郷土食	
第6回	世界の食文化(1) 中国料理の概論	
第7回	世界の食文化(2) フランス料理を中心とした西洋料理の歴史：古代～17世紀	
第8回	世界の食文化(3) フランス料理を中心とした西洋料理の歴史：17世紀～現代	
第9回	世界の食文化(4) 西洋料理：菓子・デザート・パン	
第10回	世界の食文化(5) イギリス料理・イタリア料理などフランス料理以外の料理の紹介	
第11回	栄養素 栄養素についての概要	
第12回	食の安全(1) 衛生微生物の概論	
第13回	食の安全(2) 食中毒・寄生虫の概論	
第14回	食の安全(3) 食品異物／食品添加物／食品の腐敗／食品衛生対策	
第15回	食の安全(4) 食品の品質表示制度／食物アレルギー	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	14	予習範囲の課題に対する対応を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
小テスト	30	授業毎の復習テストを行い，知識の定着度・理解度を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
定期試験	56	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べておくくせをつけること。
授業外学修	1．予習範囲に関するレポートを準備し，提出すること 2．授業内容に関する小テストがあるため，復習をすること 3．全授業終了後に定期試験があるため、その準備をすること 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・フードコーディネーター教本2026	日本フードコーディネーター協会	柴田書店	978-4-388-15464-7	3520円（税込）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．「食」に対するイメージを自身の中に思い描くことができる	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	与えられた情報の多くを身につけている	基礎的な知識が身についている	知識として欠けている部分が少なくない	知識が身についていない
知識・理解	2．日本および世界の食生活に関する基礎的な知識，および食の安全に関わる初歩的な知識を有している	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	与えられた情報の多くを身につけている	基礎的な知識が身についている	知識として欠けている部分が少なくない	知識が身についていない

科目名	食品の世界			授業番号	HF202	サブタイトル			
教員	小築　康弘								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	ヒトが食用にする品物の総称を食品というが，実際にどのようなものがあり，どのようなものを含み，どのような性質があるのだろうか。そこで，本教科では食材に関する知識，食材に含まれる食品成分についての知識を得ることを目的とする。 なお，本教科はフードコーディネーター３級資格取得のために必要な科目である。								
到達目標	・食材についての基礎的な知識を有している ・食品成分についての基礎的な知識を有している なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	食品とは：　食品の定義 食品成分：水分　食品中の水分の性質	
第2回	食品成分：タンパク質(1)　概説／アミノ酸 食材：肉(1)　肉の特徴	
第3回	食品成分：タンパク質(2)　ペプチド／タンパク質の変性 食材：肉(2)　畜肉類	
第4回	食品成分：タンパク質(3)　タンパク質の分類と消化吸収 食材：肉(3)　鳥肉類	
第5回	食品成分：炭水化物(1)　概説／単糖類 食材：肉(4)　畜肉加工品／その他の肉	
第6回	食品成分：炭水化物(2) オリゴ糖 食材：魚(1)　概説／魚類	
第7回	食品成分：炭水化物(3)　多糖類 食材：魚(2)　貝類・甲殻類	
第8回	食品成分：脂質(1)　概説／脂肪酸 食材：魚(3) イカ・タコ類／水産加工品／その他魚介類	
第9回	食品成分：脂質(2)　中性脂肪／食用油脂／その他の脂質 食材：野菜・きのこ・海藻(1)　豆類／葉菜類	
第10回	食品成分：脂質(3)　脂質の生理作用 食材：野菜・きのこ・海藻(2)　鱗茎菜類／果菜・花菜類／根菜類／きのこ類／藻菜類	
第11回	食品成分：ビタミン(1)　概説／脂溶性ビタミン 食材：野菜・きのこ・海藻(3)　果実・種実／その他の野菜	
第12回	食品成分：ビタミン(2)　水溶性ビタミン 食品成分：ミネラル(1)　概説 食材：乳・乳製品・卵　概説と各論	
第13回	食品成分：ミネラル(2)　各論 食材：穀類　概説と各論 食材：酒・ドリンク類　概説と各論	
第14回	食品成分：食品成分間反応(1)　糖・デンプンの加熱変化／褐変反応／亜硝酸塩 食材：調味料・香辛料　概説と各論	
第15回	食品成分：食品成分間反応(2)　油脂の酸化と加熱劣化 食材：加工食品　概説と各論	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	14	予習範囲の課題に対する対応を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
小テスト	30	授業内容の復習テストにより，知識の定着度・理解度を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
定期試験	56	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べておくくせをつけること。
授業外学修	1．予習範囲に関するレポートを準備し，提出すること 2．授業内容に関する小テストがあるため，復習をすること 3．全授業終了後に定期試験があるため、その準備をすること 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
栄養科学シリーズNEXT　食品学総論　食べ物と健康　第５版	渡邊浩幸・竹内弘幸・古場一哲・重村泰毅　編	講談社	978-4-06-541626-6	3080円（税込）
新・フードコーディネーター教本2026	日本フードコーディネーター協会	柴田書店	978-4-388-15464-7	3520円（税込）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．食材についての基礎的な知識を有している	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	与えられた情報の多くを身につけている	基礎的な知識が身についている	知識として欠けている部分が少なくない	知識が身についていない
知識・理解	２．食品成分についての基礎的な知識を有している	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	与えられた情報の多くを身につけている	基礎的な知識が身についている	知識として欠けている部分が少なくない	知識が身についていない

科目名	食と健康			授業番号	HF203	サブタイトル			
教員	小築　康弘								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	健康を保つのに必要な要素はいくつかあるが，その大事な一つは「食」である。この教科では，われわれヒトを含む動物が生きていくために必ず必要とする，食品に含まれる物質である「栄養素」を学ぶことにより，「食」と健康の関わりについて理解する。あわせて，栄養素以外の物質（非栄養素）にも健康に貢献する効果（食品機能）があるため，そのような物質についても学ぶ。 なお，本教科はフードコーディネーター３級資格取得のために必要な科目である。								
到達目標	・糖質（炭水化物）・脂質・たんぱく質・ビタミン・ミネラルについての基礎的な知識を身につけている ・食物繊維などの非栄養素と健康との関わりについて基礎的な知識を身につけている ・食の安全に関わる事項のうち，食品の表示，食品添加物，食物アレルギーに関する基礎的な知識を身につけている なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	栄養とは 栄養・栄養素の定義／現代日本人の栄養状況	
第2回	タンパク質(1) タンパク質の定義／アミノ酸／タンパク質の物理化学的性質	
第3回	タンパク質(2) タンパク質の体内での働きと消化吸収	
第4回	脂質(1) 脂質の定義／中性脂肪・アミノ酸・その他の脂質／脂質の体内での働き	
第5回	脂質(2) 脂質の消化吸収と代謝／脂質と疾病	
第6回	炭水化物(1) 炭水化物の定義／単糖・オリゴ糖・多糖／炭水化物の体内での働き	
第7回	炭水化物(2) 炭水化物の消化吸収／食物繊維	
第8回	ミネラル ミネラルの総論と主要ミネラルの各論	
第9回	ビタミン ビタミンの総論と主要ビタミンの各論	
第10回	食品表示制度(1) 栄養成分表示／機能性の表示	
第11回	食品表示制度(2) アレルゲンを含む食品の原材料表示／遺伝子組み換え食品の表示	
第12回	食品表示制度(3) 生鮮食品の表示／加工食品の表示	
第13回	食品添加物 概説／食品添加物の必要性と安全性の確認	
第14回	食物アレルギー(1) 概説／アナフィラキシー／食物アレルギーと間違えられる症状	
第15回	食物アレルギー(2) 即時型食物アレルギーの概説と対策／加工食品のアレルゲン表示	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	14	予習範囲の課題に対する対応を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
小テスト	30	授業毎の復習テストで知識の定着度・理解度を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
定期試験	56	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多いので，すぐに調べておくくせをつけること。
授業外学修	1．予習範囲に関するレポートを準備し，提出すること 2．授業内容に関する小テストがあるため，復習をすること 3．全授業終了後に定期試験があるため、その準備をすること 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
わかりやすい栄養学 改定7版	吉田　勉　編	三共出版	978-4-7827-0841-5	2750円（税込）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．糖質（炭水化物）・脂質・たんぱく質・ビタミン・ミネラルについての基礎的な知識を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている
知識・理解	2．食物繊維などの非栄養素と健康との関わりについて基礎的な知識を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている
知識・理解	3．食の安全に関わる事項のうち，食品の表示，食品添加物，食物アレルギーに関する基礎的な知識を身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	与えられた情報の多くを身につけている	基礎的な知識が身についている	知識として欠けている部分が少なくない	知識として欠けている部分が少なくない

科目名	食空間と調理			授業番号	HF204	サブタイトル			
教員	児玉　彩、石田　有美枝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	食空間における厨房とその計画，内装デザインに加えテーブルマナーなどについて講義を行い，それらに関する基本的な知識の修得を目的とする。 本科目はフードコーディネーター3級養成科目の一つである。								
到達目標	厨房計画や内装デザイン，テーブルマナーの基礎知識について学び，理解することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	食空間のあり方 食空間のあり方について理解する。	児玉　彩
第2回	テーブルマナーとサービス1 洋食のテーブルマナーの基本について理解する	児玉　彩
第3回	テーブルマナーとサービス2 洋食のテーブルマナーの基本について理解する②	児玉　彩
第4回	テーブルマナーとサービス3 日本料理のテーブルマナーの基本について理解する	児玉　彩
第5回	テーブルマナーとサービス4 中国料理のテーブルマナーの基本について理解する	児玉　彩
第6回	テーブルマナーとサービス5 お酒、お茶、お菓子などのテーブルマナーの基本について理解する	児玉　彩
第7回	テーブルマナーとサービス6 サービスの基本について理解する	児玉　彩
第8回	食空間と内装デザイン計画の基礎1 食空間を作る上で必要な事柄について理解する	石田　有美枝
第9回	食空間と内装デザイン計画の基礎2 食空間を作る上で必要な事柄について理解する	石田　有美枝
第10回	食空間と内装デザイン計画の基礎3 食空間を作る上で必要な事柄について理解する	石田　有美枝
第11回	食空間と内装デザイン計画の基礎4 食空間を作る上で必要な事柄について理解する	石田　有美枝
第12回	厨房の基礎知識・概説 厨房を作る上で基本となる事項について理解する	児玉　彩
第13回	厨房計画とメニュー１ 厨房づくりとメニューがどのようにかかわっているかを理解する	児玉　彩
第14回	厨房計画とメニュー２ 厨房づくりとメニューがどのようにかかわっているかを理解する	児玉　彩
第15回	キッチンスタイルの基本 キッチンスタイルの基本とその利点と欠点を理解する	児玉　彩
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート		
小テスト	70	主要なポイントの理解を評価する。解答を配布し、フィードバックする。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	毎回授業の初めに，前回の授業の内容に関する小テストを行うので１週間に４時間以上の復習をしておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・フードコーディネーター教本2026	特定非営利活動法人日本フードコーディネーター協会	柴田書店	9784388154647	3300円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	フラワーコーディネート及びテーブルコーディネートの実務経験（21年）（石田　有美枝）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	フラワーコディネートおよびテーブルコーディネートの実務経験（21年）を活かして指導を行う。			

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．厨房計画や内装デザインについての知識を身につけることができている	厨房計画や内装デザインについての知識を生かして、最適な厨房レイアウトや内装デザインを考えることができる	厨房計画や内装デザインについての知識を生かして、適切な厨房レイアウトや内装デザインを考えることができる	厨房計画や内装デザインについての知識を生かして、厨房レイアウトや内装デザインを考えることができる	厨房計画や内装デザインに関する知識を有している	厨房計画や内装デザインに関する知識が全く身についていない
知識・理解	２．テーブルマナーの基礎知識について学び，理解することができている	テーブルマナーについて学び、マナーを適切に守りながら実践することができる	テーブルマナーについて学び、適切に実践することができる	テーブルマナーについて学び、実践することができる	テーブルマナーについて学んでいるが十分に身についていない	テーブルマナーについて学んでいるが全く身についていない

科目名	調理実習Ⅰ			授業番号	HF205	サブタイトル			
教員	児玉　彩								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	調理の基本となる材料や料理に応じた切り方や調理法，衛生管理など，調理の基礎となる事柄を学ぶ。実習を通して，繰り返し学習することで基本的な調理操作を身に付けることを目的とする。								
到達目標	調理の基礎となる食材の下ごしらえの仕方・切り方・加熱などの初歩的な調理方法と知識を身に付つけることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	調理の基本１，実習に関するガイダンス（調理室の使用上の注意，身支度等），調理器具の説明，計量 調理をする上でのルール（衛生面）を理解し，基本的な調理を行う。	
第2回	調理の基本２ 切る，茹でる，などの基本的な調理操作および器具の使い方を理解する。	
第3回	調理の基本３ 切る，茹でる，などの基本的な調理操作および器具の使い方を理解する。	
第4回	焼き物の調理 調理操作の中の焼き物について理解する。	
第5回	炒め物の調理① 調理操作の中の炒め物について理解する。	
第6回	炒め物の調理② 調理操作の中の炒め物について理解する。	
第7回	揚げ物の調理 調理操作の中の揚げ物について理解する。	
第8回	蒸し物の調理 調理操作の中の蒸し物について理解する。	
第9回	複数の調理法を用いた調理① これまで学んできた調理操作を使って，効率よく調理を実践する。	
第10回	数の調理法を用いた調理② これまで学んできた調理操作を使って，効率よく調理を実践する。	
第11回	簡単なおやつ作り お菓子作りを通して，お菓子特有の器具などの使い方，お菓子の作り方について理解する。	
第12回	簡単なおやつ作り② お菓子作りを通して，お菓子特有の器具などの使い方，お菓子の作り方について理解する。	
第13回	献立作成① 料理のコンセプトを考え，献立を作成する	
第14回	献立作成② 料理のコンセプトを考え，献立を作成する。	
第15回	献立の実践 自分たちで立てた献立をもとに調理実習を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	45	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート		
小テスト	15	授業で学んだ調理に関する基礎的な知識を評価する。解答を配布し、フィードバックする。
定期試験		
その他　実技試験	40	献立の実践を通して，基本的な調理技術が身に付いたか確認する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。
授業外学修	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『調理と理論』，山崎清子　他共著，同文書院 『新ビジュアル食品成分表　増補版』，新しい食生活を考える会　編，大修館書店
その他	材料入手の都合により，実習内容の変更や実習時期の変更をする場合があります。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．調理の基礎となる初歩的な知識を身につけることができている	調理の基礎となる初歩的な知識を十分に身につけることができている	調理の基礎となる初歩的な知識をおおよそ身につけることができている	調理の基礎となる初歩的な知識を身につけることができている	調理の基礎となる初歩的な知識をやや身につけることができている	調理の基礎となる初歩的な知識を身につけることができていない
技能	１．調理の基礎となる初歩的な調理技術を身につけることができている	調理の基礎となる初歩的な調理技術を十分に身につけることができている	調理の基礎となる初歩的な調理技術をおおよそ身につけることができている	調理の基礎となる初歩的な調理技術を身につけることができている	調理の基礎となる初歩的な調理技術をやや身につけることができている	調理の基礎となる初歩的な調理技術を身につけることができていない

科目名	フードマーケティング論			授業番号	HF207	サブタイトル			
教員	児玉　彩								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，前半はマーケティング理論の基礎知識について理解する。後半では修得したマーケティング理論を活用し，飲食店の出店計画からメニュープランニングといった出店業務およびフードコーディネーターとしての食の「開発」「演出」「運営」について学修する。								
到達目標	（1）マーケティング理論に関する基本的な知識を修得することができる。 （2）食品産業におけるマーケティング戦略の知識を修得することができる。 （3）外食産業（飲食店）における出店業務の流れと食の「開発」「演出」「運営」に関する知識を修得することができる。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の取得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	フードマーケティング論の対象領域と課題-何を学ぶのか- 授業の概要と全体の流れを紹介する。	
第2回	現代の食事形態と食市場 内食，中食，外食と食市場について理解する。	
第3回	食市場とマーケティング マーケティングの定義や手法について理解する。	
第4回	マーケティングの基礎知識（1） 製品戦略について理解する。	
第5回	マーケティングの基礎知識（2） 価格戦略について理解する。	
第6回	マーケティングの基礎知識（3） チャネル戦略について理解する。	
第7回	マーケティングの基礎知識（4） プロモーション戦略について理解する。	
第8回	事例分析（1） 食品製造業で行われているマーケティング戦略について理解する。	
第9回	事例分析（2） 食品製造業で行われているマーケティング戦略について理解する。	
第10回	前半のまとめ これまでの学習内容の確認を行う。	
第11回	外食産業の特徴と経営の基礎知識（1） 外食産業の特徴について理解する。マネジメントの基礎と飲食店の出店業務について理解する。	
第12回	経営の基礎知識（2） 経営の計数管理や財務諸表について理解する。	
第13回	メニュープランニング メニュープランニングの流れや方法について理解する。	
第14回	メニュープランニング演習 メニュープランニングを理解し，実際に飲食店のメニューを考案する。	
第15回	食の企画・構成・演出の流れ/まとめ 食の企画の流れや方法について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	意欲的な受講態度によって評価する。
小テスト	40	授業内容の理解度について評価を行う。解答を配布し、フィードバックする。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講義ではマーケティングの基礎を理解するとともに，食に関わるマーケティングがどのように行われているかを学ぶことで，食品産業等で行われるマーケティング戦略を理解できることを到達目標とする。そのためには，身近に存在する「食」に関わるニュースや新聞記事，さまざまな情報に日頃から関心を持ち，自ら調べるという姿勢で講義に臨むこと。
授業外学修	（1）予習として，テキストを読み，疑問点を明らかにしておくこと。 （2）復習として，講義内容および配布資料の整理とまとめを行うこと。 （3）発展学修として，食に関連したマーケティングやフードビジネスに関する新聞・ニュース等を積極的に収集し読んでおくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・フードコーディネーター教本2025 3級資格認定試験対応テキスト	日本フードコーディネーター協会	株式会社　光邦		3，000円+税

使用テキスト：自由記載	適時資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
フード・マーケティング論	藤島廣二他	筑波書房	978-4-8119-0482-5	2，500+税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．マーケティング理論に関する基本的な知識を修得している	マーケティング理論を正確に理解し、述べることができる。	マーケティング理論をほぼ理解し、述べることができる。	マーケティング理論を一定程度理解し、大体述べることができる。	マーケティング理論について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	マーケティング理論について基礎的な専門用語を理解できていない。
知識・理解	２．食品産業におけるマーケティング戦略の知識を修得している	食品産業のマーケティング戦略について正確に理解をしており、詳細に説明することができる。	食品産業のマーケティング戦略についてほぼ理解しており、説明することができる。	食品産業のマーケティング戦略について一定程度理解しており、説明することができる。	食品産業のマーケティング戦略について理解がやや不十分であり、説明する力が乏しい。	食品産業のマーケティング戦略ついて理解しておらず、説明する力がない。
知識・理解	３．外食産業（飲食店）における出店業務の流れと食の「開発」「演出」「運営」に関する知識を修得している	飲食店の出店業務について深い理解をしており、食の「開発」「演出」「運営」について理論的に説明することができる。	出店業務について理解しており、食の「開発」「演出」「運営」について、説得力のある説明をすることができる。	出店業務について一定程度理解しており、食の「開発」「演出」「運営」について、説明することができる。	飲食店の出店業務について理解がやや不十分であり、食の「開発」「演出」「運営」について説明する力が乏しい。	飲食店の出店業務について理解できておらず、自らの食の「開発」「演出」「運営」について説明することができない。

科目名	食生活演習 (6月上旬まで)			授業番号	HF208	サブタイトル			
教員	小築　康弘								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	食生活に関する基礎知識（栄養・食品・食文化・消費生活など）を幅広く学び、生活者・消費者として適切に食を選択できる基礎的リテラシーを身につけることを目的とする。 本授業は食生活アドバイザー®3級の試験範囲に対応している。 なお、週2回授業があるので、履修に関しては注意すること。								
到達目標	・生活者・消費者として適切な食生活を送るための基礎的知識を理解しているなお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	生活者とは何か 生活者とは何か，生活者として生活するとはどういうことかを理解する。	
第2回	体を育もう① 味覚、歯の構造、栄養素、献立、食のアレルギー、健康、運動、休養などについて理解する。	
第3回	体を育もう② 味覚、歯の構造、栄養素、献立、食のアレルギー、健康、運動、休養などについて理解する。 知を育もう① 行事食、伝統食、旬、世界の食文化、調理と料理、調理道具、食事のマナーなどについて理解する。	
第4回	知を育もう② 行事食、伝統食、旬、世界の食文化、調理と料理、調理道具、食事のマナーなどについて理解する。	
第5回	徳を育もう① 食材と食品、食品表示、食品の選び方、食品マーク、農産物の栽培法、食の原産地、食環境などについて理解する。	
第6回	徳を育もう② 食材と食品、食品表示、食品の選び方、食品マーク、農産物の栽培法、食の原産地、食環境などについて理解する。 才を育もう① 食中毒、食中毒予防、食と法律、食品廃棄物、食品リサイクル、食料自給率、食のことわざなどについて理解する。	
第7回	才を育もう② 食中毒、食中毒予防、食と法律、食品廃棄物、食品リサイクル、食料自給率、食のことわざなどについて理解する。	
第8回	学修内容の総括 これまで学んできた内容を振り返り、理解を深める。	
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	30	授業初回に受講目標を設定し、最終回に学修内容を振り返って自己評価を行うレポートを提出する。記述の具体性、授業内容との関連、文章構成を総合的に評価する。
小テスト	70	授業毎の復習テストを行い，知識の定着度・理解度を評価する。提出された解答は採点し，その結果を返却する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	この科目は食生活アドバイザー®3級対応の科目である。検定試験を受けるか否かに関わらず，しっかりと受講し，授業後は復習に取り組むこと。
授業外学修	1．授業で学んだ知識を普段の食生活で実践する 2．授業の復習をする 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
2026-2027年版【公式】食生活アドバイザー®3級テキスト＆問題集	一般社団法人FLAネットワーク協会	日本能率協会マネジメントセンター	9784800593825	1980

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．生活者・消費者として適切な食生活を送るための基礎的知識を理解している。	食生活に関する基礎的知識（栄養・食品・食文化など）を十分に理解しており、その内容を具体例を挙げて説明できる。	食生活に関する基礎的知識を概ね理解しており、主要な内容を説明できる。	食生活に関する基礎的知識を基本的な水準で理解している。	食生活に関する基礎的知識の理解が不十分であり、基本事項の説明が十分にできない。	食生活に関する基礎的知識の理解が著しく不足している。

科目名	フードコーディネート実習			授業番号	HF301	サブタイトル			
教員	小築　康弘、石田　有美枝								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業では，今日的なライフスタイルに合わせた，人々の食を豊かにするための食のコーディネート技法について学修する。具体的には，テーブルコーディネートを中心に据え，テーブルマナー及び食品素材について，実習により体得することを目的とする。 本科目は，フードコーディネーター資格3級のための必要な科目の１つである。								
到達目標	・テーブルコーディネートの技法を知り，実践できる ・テーブルマナーの基礎を身につけるとともに，和食のマナーを実践できる ・食材に関するいくつかの知識を実習を持って身につけている なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	授業のねらい・到達目標の説明：授業全体の説明 食品と衛生 ～手洗い～：　食品を扱う上での手洗いの重要性を理解する	小築康弘
第2回	食材の実体験(1)：品種と味・食感 ジャガイモの各品種の味・食感を官能試験により判定する	小築康弘
第3回	食材の実体験(2)：品種と甘さ 苺の各品種の味・食感を官能試験により判定する	小築康弘
第4回	食材の実体験(3)：うま味の相乗効果 うま味の相乗効果に関する実験をする	小築康弘
第5回	洋食・和食のマナーの基礎 洋食・和食のマナーの基礎知識を学ぶ	小築康弘
第6回	和食のマナーの実践 和食のマナーを実践し，自己評価をする	小築康弘
第7回	食空間の構成(1) 洋食のテーブルセッティング	石田有美枝
第8回	食空間の構成(2) 和の食卓	石田有美枝
第9回	食空間の構成(3) 中国料理のテーブルセッティング	石田有美枝
第10回	テーブルコーディネート(1) 正月のテーブルコーディネート	石田有美枝
第11回	テーブルコーディネート(2) クリスマスのテーブルコーディネート	石田有美枝
第12回	テーブルコーディネート(3) バレンタインデーのテーブルコーディネート	石田有美枝
第13回	テーブルコーディネート(4) ワインを楽しむテーブルコーディネート	石田有美枝
第14回	テーブルコーディネート(5) テーマ別コーディネート：　行事や場面を想定してテーブルコーディネートをします。内容はその時の話題・気候等を考慮して決めます。	石田有美枝
第15回	まとめ 授業の各内容を振り返ります。	小築康弘
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	実習中の取り組む姿勢を評価する。
レポート	60	各回の内容についての理解度を判定する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため，積極的な行動を求める。
授業外学修	1．次回の内容について予習をし，スムーズに実習に移れるようにしておくこと 2．レポートの作成をすること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・フードコーディネーター教本2024	日本フードコーディネーター協会	柴田書店	978-4-388-15458-6	3300円（税込）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	フラワーコーディネート及びテーブルコーディネートの実践及び指導（フリーランス：石田有美枝）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	食空間の構成の基礎知識修得とテーブルコーディネートの実践を指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．テーブルコーディネートの技法を知り，実践できる	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	与えられた情報の多くを身につけている	基礎的な知識が身についている	知識として欠けている部分が少なくない	知識が身についていない
知識・理解	2．テーブルマナーの基礎を身につけるとともに，和食のマナーを実践できる	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	与えられた情報の多くを身につけている	基礎的な知識が身についている	知識として欠けている部分が少なくない	知識が身についていない
知識・理解	3．食材に関するいくつかの知識を実習を持って身につけている	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	与えられた情報の多くを身につけている	基礎的な知識が身についている	知識として欠けている部分が少なくない	知識が身についていない
思考・問題解決能力	1．テーブルマナーの基礎を身につけるとともに，和食のマナーを実践できる	テーブルマナーの基礎を習得し、実践できる上に、他者に配慮しながら、食事ができる	テーブルマナーの基礎を習得し、実践できる	テーブルマナーの基礎の大半を習得し、実践できる	テーブルマナーの基礎の習得、実践のうちで、いくつかが欠けている	テーブルマナーの基礎の習得、実践のうちで、大半が欠けている
技能	1．テーブルコーディネートの技法を知り，実践できる	他の人の感性に訴えかけるテーブルコーディネートを実践できる	テーブルコーディネートを実践できる	テーブルコーディネートを完成させることを目指し、取り組むことができる	テーブルコーディネートの実践において欠けている部分がある	テーブルコーディネートを実践できない
技能	2．テーブルマナーの基礎を身につけるとともに，和食のマナーを実践できる	テーブルマナーの基礎を習得し、実践できる上に、所作が美しい	テーブルマナーの基礎を習得し、実践できる	テーブルマナーの基礎の大半を習得し、実践できる	テーブルマナーの基礎の習得、実践のうちで、いくつかが欠けている	テーブルマナーの基礎の習得、実践のうちで、大半が欠けている
態度	1．テーブルマナーの基礎を身につけるとともに，和食のマナーを実践できる	テーブルマナーの基礎を習得し、実践できる上に、他者に配慮しながら、食事ができる	テーブルマナーの基礎を習得し、実践できる	テーブルマナーの基礎の大半を習得し、実践できる	テーブルマナーの基礎の習得、実践のうちで、いくつかが欠けている	テーブルマナーの基礎の習得、実践のうちで、大半が欠けている

科目名	食品加工実習			授業番号	HF302	サブタイトル			
教員	小築　康弘								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	われわれは日常の食生活において様々な加工食品を利用している。本授業では，身近で代表的な加工食品の加工原理を学ぶとともに，それらを試作し，基礎的加工技術を修得する。実習を通じて，加工食品の安全性や利便性についての理解を深め，適正な選択や利用について考える。								
到達目標	・食品加工の原理のいくつかを理解し，それら原理を利用した加工食品を製造できる ・基礎的加工技術を身につけている なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	食品をなぜ加工するのか？ 上記内容について講義する	
第2回	シラップ漬の製造 柑橘類のシラップ漬けの製造をする	
第3回	ジャムの製造 いちごジャムの製造をする	
第4回	マーマレードの製造 柑橘のマーマレードを製造する	
第5回	なめたけの製造 なめたけを製造する	
第6回	マヨネーズの製造 マヨネーズを製造する	
第7回	キャラメルの製造 キャラメルを製造する	
第8回	酸乳飲料・ヨーグルトの製造 酸乳飲料・ヨーグルトを製造する	
第9回	グルテンの理解 ビスケットの製造を通し、グルテンの特性を理解する	
第10回	うどんの製造 うどんの製造をする	
第11回	中華麺の製造 中華麺の製造をする	
第12回	生パスタの製造 生パスタを製造する	
第13回	手洗いと衛生 手の洗い方・水気の拭き取り方の違いによる手のひら上の生菌数を実験により確認する	
第14回	褐変反応の実験 桃の褐変反応の様子を観察する。	
第15回	まとめ 授業全体を振り返り、食品加工を通じて学修したことを再認識する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	45	授業への取り組む姿勢を評価する。
レポート	55	各回の内容についての理解度を判定する。また，実習で自身が作成した製品の商品的価値についても述べていること。提出物は採点して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため，積極的な行動を求める。また，衛生面・安全面に十分配慮し，計画的に行うこと。
授業外学修	普段の生活の中で、得た知識・技術を活かすこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる食品加工学 ー理論・実習・実験ー	谷口亜樹子　編著	朝倉書店	978-4-254-61113-7	2970円（税込）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．食品加工の原理のいくつかを理解し，それら原理を利用した加工食品を製造できる	授業で扱った全ての食品加工の原理を理解している	授業で扱った大半の食品加工の原理を理解している	授業で扱ったいくつかの食品加工の原理を理解している	授業で扱った食品加工の原理を理解度が低い	授業で扱った全ての食品加工の原理を理解していない
技能	１．食品加工の原理のいくつかを理解し，それら原理を利用した加工食品を製造できる	加工食品を効率よく製造できる	加工食品を製造できる	仲間と協力して、加工食品を製造できる	加工食品の製造に不安が伴う	加工食品の製造ができない
技能	２．基礎的加工技術を身につけている	授業で扱った技術を駆使することができる	授業で扱った技術を利用できる	授業で扱った大半の技術を利用できる	授業で扱った数個の技術を利用できる	授業で扱った大半の技術を利用できない

科目名	応用調理演習			授業番号	HF303	サブタイトル			
教員	児玉　彩								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	多くの人は食材を調理・加工し，生きる上で必要なエネルギーおよび栄養素を得る。しかし，社会人として働き，生活していく中で調理のために使える時間は限られていくことが予想される。 そこで通常の調理に加えて，調理の時間短縮になどにより，限られた時間の中で効率よく調理ができる能力を身に付けるために様々な調理家電を用いて調理実習を行う。								
到達目標	・通常の調理操作を行うだけでなく，様々な調理家電を用いることで調理の時間短縮につなげることができる。 ・限られた時間の中で効率よく調理ができる能力を身につけることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞　＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	調理の基本 調理に関する基本的な事項を理解する。	
第2回	時短調理１ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第3回	時短調理２ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第4回	時短調理３ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第5回	時短調理４ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第6回	時短調理５ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第7回	時短調理６ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第8回	時短調理７ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第9回	時短調理８ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第10回	時短調理９ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第11回	時短調理１０ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第12回	時短調理１１ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第13回	時短調理１２ 様々な調理家電を用いて加熱する方法を理解する。	
第14回	献立計画 これまで学んだ調理方法を活かして，自分自身でレシピを考えることが出来る。	
第15回	献立の実践 自分自身で考えた献立で調理を行うことが出来る。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	45	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート	55	授業の中で学んだ知識を活かして，メニューレシピを作成し，まとめて提出する。レポート課題はコメントを付けて返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。
授業外学修	1．授業で出てきたポイントを復習すること 2．日頃から食に関する情報に興味関心をもち，自ら情報収集を行うこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．調理家電を適切に使用するための知識を身につけている。	知識を十分に身に着けており，生活に生かせている。	知識を身に着けており，生活に生かせている。	調理家電の使用について知識があり，生活に生かせている。	調理家電の使用についてやや知識がある。	調理家電の使用について知識がある。
思考・問題解決能力	1．自ら考えたメニューをもとに，その問題点を模索し，改善することができる。	レシピを考え実践し，問題点を見つけ，自分自身で解決することが出来る。	レシピを考え実践し，問題点を見つけ，周りと協力しながら解決することが出来る。	レシピを考え実践し，問題点を見つけ，周りと協力したり自ら調べながら解決することが出来る。	レシピを考え実践し，問題点を見つけることができる。	レシピを考え実践したが，問題点がある場合でも見つけて，解決することが出来なかった。
技能	1．様々な調理家電の特徴を理解して使用し，料理を作ることが出来る。	様々な調理家電を使用し，効率よく自分で考えて料理を作ることが出来る。	様々な調理家電を使用し，自分で考えて料理を作ることが出来る。	様々な調理家電を使用し，料理を作ることが出来る。	様々な調理家電を使用し，やや料理を作ることが出来る。	様々な調理家電を使用し，料理を作ることが出来ない。

科目名	調理実習Ⅱ			授業番号	HF304	サブタイトル			
教員	児玉　彩								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	特別講師による和・洋・中の調理実習を通して，それぞれの食文化やテーブルマナーについてさらに発展的な内容を学ぶ。 本科目はフードコーディネーター３級資格取得のために必要な科目の一つである。 なお，授業効果を高めるために，1年後期開講の調理実習Iを履修しておくことを必須とする。								
到達目標	・料理をより美しく，そして美味しく作るための発展的な技法を身に付けている ・和食，中華，西洋，世界の料理の食の文化について理解を深めている なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	実習の概要説明，調理の基礎について 調理に関する基本的な事項について理解する。	児玉　彩
第2回	和食の調理 調理実習を通して，和食の作るときの注意点を理解する。	児玉　彩
第3回	和食の調理と食の文化 調理実習を通して和食に対する理解を深める。	児玉　彩
第4回	和食の調理とテーブルコーディネート 調理実習を通して器の選び方などを理解する。	児玉　彩
第5回	和食とテーブルマナー 調理実習を通して和食について理解を深める。	児玉　彩
第6回	中華料理の調理 調理実習を通して中華料理を作るときの注意点を理解する。	山田　伸介
第7回	中華料理の基本と食の文化 調理実習を通して中華料理に対する理解を深める。	山田　伸介
第8回	中華料理の実習とテーブルコーディネート 調理実習を通して器の選び方などを理解する。	山田　伸介
第9回	中華料理の実習とテーブルマナー 調理実習を通して中華料理について理解を深める。	児玉　彩
第10回	西洋料理の基本と食の文化 調理実習を通して西洋料理に対する理解を深める。	岡　久
第11回	西洋料理の実習とテーブルコーディネート 調理実習を通して器の選び方などを理解する。	岡　久
第12回	西洋料理の実習とテーブルマナー 調理実習を通して西洋料理について理解を深める。	岡　久
第13回	西洋料理の実習と各国料理の歴史 調理実習を通して西洋料理について理解を深める。	児玉　彩
第14回	世界の料理 西洋料理を通して他国の料理について理解を深める。	児玉　彩
第15回	製菓 調理実習を通して，お菓子作りのポイントについて理解する。	児玉　彩
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	45	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート	55	調理のポイントについてまとめ，なぜそれがポイントとなるのか具体的に述べていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	髪を結ぶ，爪を切る，マニキュアは落とす，ピアス，ネックレスなどのアクセサリー類を外す等，実習にふさわしい身支度を整え，安全面・衛生面に十分配慮して実習を行うこと。
授業外学修	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	プリント（各講師作成）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	フードコーディネーター教本2025
その他	食材の入荷状況等によって実習内容が変更になる場合あり。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	ホテルの厨房（岡久）での実務経験（47年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	ホテルの厨房（岡久）などの調理経験（47年）を活かして指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．食材の下処理、加熱などの調理技術が理解できている	調理に関する高度な知識を有している	調理に関する高度な知識をやや有している	基本的な調理技術について理解している	基本的な調理技術について大まかに理解できている	基本的な調理技術について理解できていない
知識・理解	２．各種料理の文化について理解を深めることができている	各種料理の文化についてよく理解している	各種料理の文化についてやや理解している	各種料理の文化について理解を深めようと努力している	各種料理の文化について理解していない	各種料理の文化について理解しようとしていない
技能	１．食材に適切な下処理を行い、調理をすることができている	下処理について理解し、自分自身で問題なく行うことが出来る	下処理について大体理解し、自分自身で問題なく行うことが出来る	最低限の下処理を自分自身で行うことが出来る	下処理について理解はしているが自分で行うことができない	下処理ができていない
技能	２．出来上がった料理を美しく盛り付けることが出来る	完成した料理に合わせた食器を選択し、美しく盛り付けることが自らできる	完成した料理に合わせた食器を選択し、美しく盛り付けることを意識しながら盛り付けができる	自分で食器を選択し、美しく盛り付けることを意識しながら盛り付けができる	料理に合わせて食器を選ぶことができないが、丁寧に盛り付けようとしている	美しく盛り付けようとする意識が感じられない
態度	１．世界の食文化に関して自ら積極的に学ぶ姿勢をもっている	大変積極的に学ぶ姿勢がみられる	概ね積極的に学ぶ姿勢がみられる	積極的に学ぶ姿勢がみられる	学ぶ姿勢がみられるが積極性に欠ける	積極的に学ぶ姿勢がみられない

科目名	生活学概論 A 生活創造･医療事務コース卒業必修科目	授業番号	HG101	サブタイトル	
教員	小築 康弘、仁宮 崇				

単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修･選択	選択

授業概要	豊かな生活を作り上げていくには，生活に関わる様々なことを理解し，自身の生活の場で実践していく必要がある。『生活学概論』ではそのために必要な知識を身に付けることを目的とする。生活学概論Aでは生活の中の食，環境，情報について学び，これらの基礎知識を身につけるのが，本講義の目的である。
到達目標	･生活の中の「食」「環境」「情報」の基礎知識を有し，発展的な学修においてそれら知識を利用することができる なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識･理解＞の修得に貢献する。
授業計画 備考	

回	概要	担当
第1回	パソコン･スマートフォン･周辺機器の仕組み パソコン，スマートフォン，入力装置，記憶装置，出力装置といった周辺機器の特徴について理解する。	仁宮 崇
第2回	アプリケーションソフト･ネットワーク アプリケーションソフトの種類や機能，インターネットの仕組みについて理解する。	仁宮 崇
第3回	情報セキュリティ(1) 情報セキュリティのリスク，コンピュータウイルスの特徴について理解する。	仁宮 崇
第4回	情報セキュリティ(2) コンピュータウイルス感染経路と対策，パスワード管理について理解する。	仁宮 崇
第5回	個人情報保護 個人情報保護法における個人情報の定義，情報の収集や取り扱い，漏洩事例と対策について理解する。	仁宮 崇
第6回	食の機能と栄養機能 「食」の持つ機能の概論と，その１つである栄養機能について理解する。	小築康弘
第7回	食と生活リズム／食の精神的機能 サーカディアンリズムと食のリズムの関係，食による精神的満足感，共食の重要性を理解する。	小築康弘
第8回	食事形態の選択 外食･中食･内食，食文化の継承等について考える。	小築康弘
第9回	食事に対する価値観／食べ物の安全と安心の概念 食事に対する価値観を考察するとともに，食べ物に対する「安全」「安心」について考える。	小築康弘
第10回	食中毒 細菌性およびウイルス性食中毒を中心に，食中毒の概要を理解する。	小築康弘
第11回	人々の生活と災害 災害に対する先人の知恵を知るとともに，現在問題になっている「集中豪雨」について考える。	小築康弘
第12回	水質問題と生態系 水質問題の事例，それらに対する環境省（旧環境庁）の対処の概要を理解する。	小築康弘
第13回	エネルギーと温暖化 化石エネルギーによる生活，温暖化，集中豪雨，台風について考える。	小築康弘
第14回	環境問題 現在主に問題になっている環境問題の事例について考える。	小築康弘
第15回	生活の持続可能性 Sustainability(持続可能性)について，生活との関連性の中で考える。	小築康弘
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準･その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	［仁宮］受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート	10	［小築］予習範囲の課題に対する対応を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
小テスト	10	［小築］授業内容の復習テストにより，知識の定着度･理解度を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
定期試験	70	［小築･仁宮］全講義終了後の知識の定着度･理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べる「くせ」をつけること。
授業外学修	［仁宮］ 1．講義資料を配布するので，資料の問題演習をすること 2．参考になる書籍やサイトの紹介をするので，それも読み，予習復習をすること ［小築］ 3．予習範囲に関するレポートを準備し，提出すること 4．授業内容に関する小テストがあるため，復習をすること ［共通］ 5．全授業終了後に定期試験があるため、その準備をすること 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
人と生活	「生活する力を育てる」ための研究会　編	建帛社	978-4-7679-1446-6	2，000＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
生活と環境	藤城敏幸	東京教学社	978-4- 8082-5012-6	1，900円+税
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	病院事務（仁宮崇）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	医療情報システムの管理運用，電子カルテ運用保守，ヘルプデスク，レセプトデータ集計，DPCデータ分析，情報セキュリティ対策，医療従事者への個人情報保護教育等の経験をいかして指導する。			

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．生活の中の「食」「環境」「情報」の基礎知識を有し，発展的な学修においてそれら知識を利用することができる	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	与えられた情報の多くを身につけている	基礎的な知識が身についている	知識として欠けている部分が少なくない	知識が身についていない

科目名	生活コミュニケーション論			授業番号	HG105	サブタイトル			
教員	疋田　基道								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	人が社会の中で生きていく上で，互いの思いを伝え理解し合うためのコミュニケーションは欠かせないものである。この授業では，コミュニケーションとは何か，どのように成り立つのかについて基礎的な知識を身につける。また，心理学的援助について基本的な理論を学び，他者とのコミュニケーションを通して他者を心理的に支えるための知識を身に着ける。								
到達目標	・コミュニケーションに関する基礎的内容について説明できる ・コミュニケーションに関する基礎知識をもとに，実生活における人間関係について考えることができる ・心理学的援助に関する基本な理論をもとに，場面に応じた心理的な援助を考えることができる ・様々なコミュニケーションの基礎的な技能と心理学援助に関する技術を身に着け，実践できる なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	コミュニケーションを学ぶ意義 コミュニケーションを学ぶ意義，２年間で学修するコミュニケーション分野の学びについて概観する	
第2回	自己理解 コミュニケーションにおける自己理解の重要性とその方法を学ぶ	
第3回	信頼関係の構築 コミュニケーションにおける信頼関係の構築の重要性とその方法を学ぶ	
第4回	傾聴と共感 傾聴と共感の重要性とその方法を学ぶ	
第5回	聞く技術と聞いてもらう技術 相談を受けるときの聞き方，および相談したいときに話を聞いてもらうための方法について学ぶ	
第6回	非言語的コミュニケーション 非言語的コミュニケーションの種類と方法を学ぶ	
第7回	家族、親子とのコミュニケーション 家族、親子のコミュニケーションの特徴について発達も踏まえ学ぶ	
第8回	友人とのコミュニケーション 友人とのコミュニケーションの特徴について発達も踏まえ学ぶ	
第9回	組織におけるコミュニケーション 組織におけるコミュニケーションの特徴について学ぶ	
第10回	心理学的援助について① 心理学的援助についての基本的な理論を学ぶ	
第11回	心理学的援助について② 精神力動的アプローチについて学ぶ	
第12回	心理学的援助について③ 認知行動的アプローチについて学ぶ	
第13回	心理学的援助について④ フォーカシングやパーソン・センタード・アプローチ等について学ぶ	
第14回	心理学的援助について⑤ その他の心理療法について学ぶ	
第15回	総括 学んできたことを振り返り，まとめを行う	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート	40	授業内容の理解度・修得度を評価する。実施後、UNIPA等にて全体的な傾向についてコメントする。
小テスト	30	授業内容の理解度を評価する。小テスト実施後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業で学ぶコミュニケーションの知識を自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること。
授業外学修	・資料を基に予習・復習をすること ・授業で紹介した本や資料を読むこと 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
大学生の生活のためのソーシャルスキル	橋本 剛 著	サイエンス社	978-4-7819-1183-0	1，782円（税込）
聞く技術 聞いてもらう技術	東畑開人 著	ちくま新書	978-4-480-07509-3	2，860円＋税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤計18年），大学での学生相談（非常勤，フルタイム計20年）等の実務経験を有する。実務経験の合計は22年。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	コミュニケーションの基礎的な力を身に着けるために，臨床現場での経験（22年）を通し，コミュニケーションの基盤となるものや様々なコミュニケーション場面や方法，心理学的援助に関する理論について具体的に紹介し教えることができ，実生活や将来の仕事に活かすことができる知識やスキルを習得させることができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．コミュニケーションに関する基礎的内容について理解している。	コミュニケーションとは何か，どのように成り立つのかについて基礎的な知識を理解し，様々なコミュニケーション手段や，様々な人間関係におけるコミュニケーションについて理解している。	聞くこと，伝えることの基礎的内容を理解し，様々なコミュニケーション手段とその方法について理解している。	様々なコミュニケーション手段とその方法について理解している。	いくつかのコミュニケーション手段とその方法について理解している。	様々なコミュニケーション手段があることについて理解できていない。
思考・問題解決能力	１．コミュニケーションに関する基礎知識をもとに，実生活における人間関係について考えることができる。	コミュニケーションに関する基礎知識をもとに，実生活での様々な課題や想定される課題について状況に応じたコミュニケーションを通して改善を図ったり対応策を考えることができる。	コミュニケーションに関する基礎知識をもとに，身近な課題について状況に応じたコミュニケーションの方法を考えることができる。	実生活での人とのかかわりにおいて状況に応じたコミュニケーションの方法を考えることができる。	状況に応じたコミュニケーションの方法を考えることができるが，考えられる方法のバリエーションが少ない。	状況に応じたコミュニケーションの方法を考えることができない。
技能	１．様々なコミュニケーションの基礎的な技能と心理学援助に関する技術を身に着け，実践できる。	聞く技術，話を聞いてもらうための技術，非言語的コミュニケーション技術，心理学的援助に関する技術などを身に着け，実践することができる。	様々な状況，様々な手段でのコミュニケーション技術を身に着け，実践できる。	様々な手段での基礎的なコミュニケーション技術を身に着け，実践できる。	様々な手段での基礎的なコミュニケーション技術を理解できているが，実践できる領域が限られる。	様々な手段での基礎的なコミュニケーション技術を身に着けていない。
態度	１．心理学的援助に関する基本な理論をもとに，場面に応じた心理的な援助を考えることができる。	実生活のなかでコミュニケーションを通して良好な関係を築くことができ，さらには心理学的援助に関する基本的な理論をもとに他者の相談を親身に聞き、場面に応じた援助方法を考えることができる。	実生活のなかでコミュニケーションを通して良好な関係を築くことができ，さらには心理学的援助に関する基本的な理論をもとに他者の相談を親身に聞き，援助方法を考えることができる。	実生活のなかでコミュニケーションを通して良好な関係を築くことができ，さらには心理学的援助に関する基本的な理論をもとに他者の相談を親身に聞くことができる。	実生活のなかでコミュニケーションを通して良好な関係を築くことができ，他者の相談を親身に聞くことができる。	コミュニケーションを通して良好な関係を築こうとしたり，他者の相談に乗ろうという姿勢があまりない。

科目名	生活コミュニケーション演習 A（ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝにおける聴くこと)生創･医療卒必	授業番号	HG106	サブタイトル	
教員	疋田　基道				

単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修･選択	選択

授業概要	コミュニケーションの基本として，他者の話を「聞く／聴く／訊く」ことに関する基礎的知識を身につける。情報を正確に聞きとることや，傾聴を通して相手の考えや気持ちを理解し援助すること，より積極的に対象を知るための適切なきき方について学ぶ。表面的なスキルにとどまらず，真に相手を知り，理解しようとする姿勢を身につける。この授業は後期の生活コミュニケーション演習Bと合わせて、コミュニケーション検定上級の合格を目指す授業でもある（受験は任意）。
到達目標	･コミュニケーションにおけるきくことの重要性を理解し，様々なきき方に関する基礎的知識を身につけている ･ワークやディスカッションを通じて，様々なきき方の基本的スキルを身につけている。 ･コミュニケーションにおけるきくスキルを積極的に実生活に活かすことができる なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識･理解＞＜思考･問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。
授業計画　備考	

回	概要	担当
第1回	いろいろなきき方ー聞くhear，聴くlisten，訊くinquire コミュニケーションのもつ力を学び、様々な「きく」の特徴について学ぶ	
第2回	傾聴（listen）の重要性（１） 傾聴とは何か，その特徴とスキルについて学ぶ	
第3回	傾聴（listen）の重要性（２） 聴き上手になるためのスキルについて学ぶ	
第4回	傾聴の技法 傾聴の技法について具体的な事例を通して学ぶ	
第5回	傾聴訓練（1） 傾聴スキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める	
第6回	傾聴訓練（2） 傾聴スキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める	
第7回	傾聴訓練（3） 傾聴スキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める	
第8回	訊くこと（inquire）の重要性 訊くこと，質問の特徴とスキルについて学ぶ	
第9回	質問の技法 よい質問の特徴とスキルについて学ぶ	
第10回	質問訓練（1） 質問のスキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める	
第11回	質問訓練（2） 質問のスキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める	
第12回	質問訓練（3） 質問のスキルを伸ばすためのワークに取り組み，学びを深める	
第13回	伝える技術（１） 話す力や話の組み立て方について学び、ワークに取り組み学びを深める	
第14回	伝える技術（2） 言葉の選び方や表現･伝達について学び、ワークに取り組み学びを深める	
第15回	総括 学んできたことを振り返り，まとめを行う	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準･その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，演習への取り組みで評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	70	演習課題により授業内容の理解度･修得度を評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むこと ・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること
授業外学修	・資料を基に予習・復習をすること ・授業で紹介した本や資料を読むこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
コミュニケーション検定上級 公式ガイドブック＆問題集	サーティファイ コミュニケーション能力認定委員会	株式会社サーティファイ	978-4-907-893-92-7	2100円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
対人援助の現場で使える聴く・伝える・共感する技術便利帖	大谷佳子	翔泳社	978-4-7981-5255-4	1800円＋税
対人援助の現場で使える質問する技術便利帖	大谷佳子	翔泳社	978-4-7981-5988-1	1800円＋税
プロカウンセラーの面接の技術	杉原保史	創元社	978-4-422-11813-0	1650円＋税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤計18年），大学での学生相談（非常勤，フルタイム計19年）等の実務経験を有する。実務経験の合計は21年。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	傾聴し相手の考えや気持ちを理解し援助することについて、臨床現場での経験（22年）を通し、その意義や方法について具体的に紹介し教えることができ、実生活や仕事に活かすことができるスキルを習得させることができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．様々なきき方に関する基礎的知識を身につけている。	コミュニケーションにおけるきくことの重要性を理解し，様々なきき方に関する基礎的知識を身につけており，その知識をもとにどのような場面でどのようなきき方が望ましいか説明できる。	コミュニケーションにおけるきくことの重要性を理解し，様々なきき方に関する基礎的知識を身につけている。	様々なきき方に関する基礎的知識を身につけている。	きき方に関する知識を身に着けているが，きき方の種類が限られる。	きき方に関する知識を身に着けていない。
思考・問題解決能力	1．様々なきき方の基本的スキルを身につけ，状況を踏まえて実生活での問題解決に活かすことができる。	ワークやディスカッションを通じて，様々なきき方のスキルを身につけ，他者との円滑なコミュニケーションがとれ，実生活や将来の仕事で想定される問題解決に活かすことができる。	様々なきき方のスキルを身につけ，状況に応じて他者の話のきき方を考えることができ，ワークや実生活でも活かすことができる。	様々なきき方の基本的スキルを身につけ，状況に応じて考えることができる。	様々なきき方の基本的スキルを身につけているが，実際の状況では柔軟に考えられない。	様々なきき方の基本的スキルが身についておらず，状況に応じて考えたり対処したりすることができない。
技能	1．コミュニケーションにおける聴く/訊く（質問する）技術を身に着けて，実生活に活かすことができる。	コミュニケーションにおける聴く/訊く（質問する）技術を身に着けることができ，演習で複数の表現を用いて積極的に活用し，実生活においても活かすことができる。	コミュニケーションにおける聴く/訊く（質問する）技術を身に着けることができ，演習で複数の表現を用いて活かすことができる。	コミュニケーションにおける聴く/訊く（質問する）技術を身に着けることができ，演習で活かすことができる。	コミュニケーションにおける聴く/訊く（質問する）技術のどちらかを身に着けることができ，演習で活かすことができる。	コミュニケーションにおける聴く/訊く（質問する）技術を身に着けることができていない。
態度	1．演習に積極的に参加できる。	演習内容を理解し，積極的に自分の意見を言え，質問も行い，疑問を解決することができる。	演習内容を理解し，前向きに演習に向かおうとする姿勢が向けられる。	演習内容を理解し，演習に参加することができる。	演習には参加しているが，発言や質問が少ない。	演習には参加しているが，受け身的に参加していることが多い。

科目名	生活学概論 B 生活創造･医療事務コース卒業必修科目			授業番号	HG107	サブタイトル			
教員	三宅 真未								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修･選択	選択
授業概要	より良い生活とは何か，を考えていくためには日常生活にまつわる様々な事象を理解し，生活上の諸問題に対して解決法を見出す必要がある。 本講義では，人間が生活する上で欠かせない要素となる衣食住の基礎知識を学び，衣食住の観点から，環境問題やジェンダー格差，情報社会，高齢化社会など身の回りで起こる様々な事柄について深く考え，自身にとって豊かな生活とは何かを捉え直す力を身に付けることを目指す。								
到達目標	衣食住に関する基礎知識を身に付けた上で，自分自身の生活を取り巻く環境を分析し，これからの生活を展望することができる。 なお，本科目はディプロマ･ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識･理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	生活とは：生活に関する学問にはどのようなものがあるかを把握し，自身の生活を振り返る	
第2回	衣生活①：衣服の機能 衣服の機能について学び，自身にとって衣服を着る上で重視していることは何かを考える	
第3回	衣生活②：雑誌のゆくえ ファッション雑誌の起源を辿るとともに，情報化社会、AIの進歩が目覚ましい現代におけるファッション雑誌のあり方について考察する	
第4回	衣生活③： ファストファッションについて考える ファストファッションが私たちの生活にもたらした恩恵と，ファストファッションが抱える問題について考察する	
第5回	衣生活④：衣服における倫理的消費 衣服のライフサイクルフローの流れを知り，広い視野で衣服の消費について捉え直す	
第6回	衣生活⑤：衣服における性差 ジェンダー規範と服装について考える	
第7回	食生活①：現代の食生活 ひとが生きる上での根幹である「食べる」という営みについて健康･持続可能･安全の観点から考察する	
第8回	食生活②：栄養素の働きと食事 食べ物や栄養に関する正しい知識を取り入れ，身体の健康を守る食事について考える	
第9回	食生活③：食事空間の変化 高齢社会，女性就労率の上昇，家族形態の変化とともに食事空間がどのように変化してきたのかを辿り，現代社会の食事内容や食事形式について考察する	
第10回	食生活④：食卓とジェンダー 食卓での家族団らんがどのように普及したのかを学び，またこれからの食卓のあり方についてジェンダーの視座から考察する	
第11回	住生活①：住まいの権利 適切な住まいに住む権利について学び，居住の問題を解決する際の糸口を身に付ける	
第12回	住生活②：心地よい住まいとは 高性能住宅とは何かを学び，自身にとってより良い住まいとはどのようなものかを考える	
第13回	住生活③：高齢期と住まい 高齢期に豊かな生活を営むことと，地域と繋がりを持ちながら暮らすこととの関係について考察する	
第14回	住生活④：暮らし方とインテリア 日本以外の住生活に目を向け，家庭での心地よさを実現する糸口を得る	
第15回	まとめ：これからの生活 授業で得た知識をもとに，今後の生活を心地よいものにするにはどのようにしたらよいかを考える	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準･その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度,予習,復習の状況によって評価する。
レポート	40	授業内容の最終的理解度，発展的思考を評価する。提出後には全体の傾向を明らかにしたうえで講評を行う。
小テスト		
定期試験		
その他	20	各講義の振り返りワークシートの提出状況および内容によって評価する。提出後には全体の傾向を明らかにしたうえで講評を行う。

評価の方法：自由記載	授業の理解度は，各講義の振り返りワークシートおよびレポートの提出と内容によって計られる。最終評価については上記の評価基準をもとに総合評価を行う。
受講の心得	現代社会における諸問題に関心を持つとともに，物事を多面的に捉える習慣を身につけておくこと。
授業外学修	1．事前学修として，講義終了時に次回内容を紹介するので，その内容について調べる。 2．事後学修として，講義時に配布されたレジュメを読み，講義で学んだ内容を整理し，理解を深める。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・家政学のじかん編集委員会編『育もう家政学』開隆堂、2024年。 ・「生活する力を育てる」ための研究会編『人と生活』建帛社、2019年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．衣食住に関する基礎知識を習得し，自らの考察によって理解を深めることができる。	衣食住に関する基礎知識を十分に習得し，その知識を応用させながら自らの考察によって理解を深めることができる。	衣食住に関する基礎知識を習得し，その知識を応用させながら自らの考察によって理解を深めることができる。	衣食住に関する基礎知識を習得し，理解している。	衣食住の基礎知識を十分に理解しきれていない。	衣食住の基礎知識を理解できていない。

科目名	ホスピタリティとマナー			授業番号	HG108	サブタイトル			
教員	仁宮　崇、韓　在都、児玉　彩								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	ホスピタリティは，笑顔で話す，温かい声かけをするだけでなく，相手の立場に立って考え，行動することが大切である。マナーは，相手の立場に立って考え，相手を不快にさせないためにあるものである。人間が生活する中で，人と人との繋がりは必要不可欠であり，良好な人間関係を築いていく中でもホスピタリティおよびマナーは重要である。本科目は，人生をより良く豊かに生きるために，確実に身につけておきたいホスピタリティとマナーについて考えていく。								
到達目標	・各回で学んだ基本的なホスピタリティやマナーの知識が理解できる。 ・ホスピタリティやマナーを今後生活者としてどのように活かしたいかを考え，述べることができる。 ・授業で学んだ食事のマナー等を生活の中で実践し，行動に繋げていくことができる。 ・学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ホスピタリティとマナーを学ぶ意義：ホスピタリティとマナーの意味，なぜ学ぶ必要があるかについて理解する。 時間のマナー，ネットのマナーについても考える。	仁宮
第2回	テーブルサービスとマナー（1） 箸の正しい使い方を中心に，和食における基本的なテーブルマナーについて理解する。	児玉
第3回	テーブルサービスとマナー（2） 洋食における基本的なテーブルマナーやナイフ・フォークなどの使い方について理解する。	児玉
第4回	テーブルサービスとマナー（3） 接待や宴会における基本的なマナーを理解し，相手に配慮した立ち居振る舞いについて学ぶ。	児玉
第5回	訪問時・来客時のマナー 訪問するとき，来客をお迎えするときの基本的なマナーについて理解する。	仁宮
第6回	冠婚葬祭のマナー 冠婚葬祭で必要な基本的なマナーを理解する。	仁宮
第7回	人権とマナー：多様性を考える 様々な人権問題を知り，自身は人権をどのように考え，どのように振る舞うかを考える。	韓
第8回	ホスピタリティの実践：好感・満足・感動～最高のホスピタリティとは何か～，ホスピタリティの3つのステップを理解する。	仁宮
第9回	ホスピタリティの意義：サービスとホスピタリティについて，事例をもとに意義について考える。	仁宮
第10回	対人関係とホスピタリティ（1）：電話・手紙・メール，ホスピタリティと日常使用する通信方法について考える。	仁宮
第11回	対人関係とホスピタリティ（2）：座席・立ち居振る舞い・身だしなみ，席次を理解した上でのホスピタリティ，相手をおもてなしする応対について学ぶ。	仁宮
第12回	ホスピタリティの事例（1）：ホスピタリティで有名な宿泊施設の事例を参考に，ホスピタリティの在り方について学ぶ。	仁宮
第13回	ホスピタリティの事例（2）：ホスピタリティで有名な宿泊施設の事例を参考に，ホスピタリティの在り方について学ぶ。	仁宮
第14回	ホスピタリティの事例（3）：医療機関での接遇を例に医療現場でのホスピタリティの在り方について学ぶ。	仁宮
第15回	ホスピタリティとマナーのまとめ・小テスト：これまでの授業を振り返り，ホスピタリティとマナーをより身につけられるように日常生活に取り入れることを考える。	仁宮　児玉
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	受講態度，提出する感想の量と質で評価する。
レポート	20	レポート課題の期限や指示を守って書いたかを評価する。（韓） 確認し、コメントを記入して返却する。
小テスト	20	授業の理解度を評価する（仁宮）。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	【評価の方法1：種別】 授業への取り組みの姿勢／態度の内訳 4点×15回 合計60点
受講の心得	授業名通り，相手を不快にさせず，他者への気遣いを意識した受講態度で臨むこと。ホスピタリティもマナーも実践することに意味があるため，学んだことを日常生活でも取り入れること。
授業外学修	1. 授業で学んだホスピタリティ，マナーを日常生活の中で実践する。 2. サービスを受ける側になった際，サービス提供者の行動をみて，気くばりや心くばりを参考にする。 3. 発展学修として紹介した参考文献を読む。 以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	講義資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「ホスピタリティの教科書」あさ出版 「ホスピタリティ コミュニケーション力」日本医療企画 「レッツホスピタリティ」経済法令研究会
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 各回で学んだ基本的なホスピタリティやマナーの知識が理解できる。	各回で学んだ基本的なホスピタリティやマナーの知識を大変よく理解している。	各回で学んだ基本的なホスピタリティやマナーの知識を十分理解している。	各回で学んだ基本的なホスピタリティやマナーの知識を理解している。	各回で学んだ基本的なホスピタリティやマナーの知識の理解が不十分である。	各回で学んだ基本的なホスピタリティやマナーの知識を理解していない。
思考・問題解決能力	1. ホスピタリティやマナーを今後生活者としてどのように活かしたいかを考え，述べることができる。	ホスピタリティやマナーを今後生活者としてどのように活かしたいかを考え，述べることが大変よくできている。	ホスピタリティやマナーを今後生活者としてどのように活かしたいかを考え，述べることが十分できている。	ホスピタリティやマナーを今後生活者としてどのように活かしたいかを考え，述べることができている。	ホスピタリティやマナーを今後生活者としてどのように活かしたいかを考え，述べることがあまりできていない。	ホスピタリティやマナーを今後生活者としてどのように活かしたいかを考え，述べることができていない。
技能	1. 授業で学んだ食事のマナー等を生活の中で実践し，行動に繋げていくことができる。	授業で学んだ食事のマナー等を生活の中で実践し，行動に繋げていくことが大変よくできている。	授業で学んだ食事のマナー等を生活の中で実践し，行動に繋げていくことが十分できている。	授業で学んだ食事のマナー等を生活の中で実践し，行動に繋げていくことができている。	授業で学んだ食事のマナー等を生活の中で実践し，行動に繋げていくことがあまりできていない。	授業で学んだ食事のマナー等を生活の中で実践し，行動に繋げていくことができていない。
態度	1. 学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることができる。	学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることが大変よくできる。	学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることが十分できる。	学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることができる。	学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることがあまりできない。	学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることができない。

科目名	生活学概論C 生活創造･医療事務コース卒業必修科目			授業番号	HG110	サブタイトル			
教員	小築 康弘、韓 在都、仁宮 崇								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修･選択	選択
授業概要	豊かな生活を作り上げていくには，生活に関わる様々なことを理解し，自身の生活の場で実践していく必要がある。『生活学概論』ではそのために必要な知識を身に付けることを目的とする。生活学概論Cでは生活の中の住，介護，医療について学び，これらの基礎知識を身につけるのが，本講義の目的である。								
到達目標	･生活の中の「住」「介護」「医療」の基礎知識を有し，発展的な学修においてそれら知識を利用することができる なお，本科目はディプロマ･ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識･理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	住居の機能 住居は住む場所であるのは当然であるが，その他の機能も含め理解する。	小築康弘
第2回	住まいの快適さ 住まいの快適さに関わる要因を理解する。	小築康弘
第3回	住まいの安全性 住居そのものの安全性，気候や災害に対する安全性を考える。	小築康弘
第4回	ライフサイクルと住生活 ライフステージにより，住生活に求める要件は変わることを理解する。	小築康弘
第5回	住環境 我々が住む場所の自然環境と住生活との関わりについて１年時に習った内容を再度考察する。	小築康弘
第6回	患者として知っておくべき医療制度 医療機関の特徴，診療費，かかりつけ医，患者として知っておくべきインフォームドコンセントやセカンドオピニオンといった用語について理解する。	仁宮 崇
第7回	救急車の適正利用と救命処置 救急医療の現状，救急車の適正利用，救命処置を知っておくことの必要性，熱中症対策について理解する。	仁宮 崇
第8回	身体に起こる不調：いわゆる「病気」「けが」など 「病気」「けが」と我々は気軽にいうが，実際にはどのような状態なのかを理解する。	小築康弘
第9回	病気やけがの治療 (1) 捻挫等のいわゆる「けが」の治療の実際を中心に考える。	小築康弘
第10回	病気やけがの治療 (2) いわゆる「風邪」などの感染症の治療の実際を中心に考える。	小築康弘
第11回	人権と正義 人権と倫理について学ぶ	韓 在都
第12回	笑顔と健康 人と触れ合うための教養について学ぶ	韓 在都
第13回	障害とICF 障害福祉の理念や制度について学ぶ	韓 在都
第14回	老化と認知症 老化や認知症の現状を学ぶ	韓 在都
第15回	介護を必要とする人の生活 生活のしづらさの理解とその支援について学ぶ	韓 在都
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準･その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	14	［韓･仁宮］受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート	8	［小築］予習範囲の課題に対する対応を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
小テスト	8	［小築］授業内容の復習テストにより，知識の定着度･理解度を評価する。提出された課題は採点し，その結果を返却する。
定期試験	70	［小築･韓･仁宮］全講義終了後の知識の定着度･理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	わからないことが積み重なると後で手がつけられない状態になることが多い。すぐに調べる「くせ」をつけること。
授業外学修	1．講義資料を配布するので，資料の問題演習をすること 2．参考になる書籍やサイトの紹介をするので，それも読み，予習復習をすること 3．予習範囲に関するレポートを準備し，提出すること 4．授業内容に関する小テストがあるため，復習をすること 5．全授業終了後に定期試験があるため、その準備をすること 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
人と生活	「生活する力を育てる」ための研究会　編	建帛社	978-4-7679-1446-6	2000＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考	令和5年度改訂			
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	介護職員・訪問介護員（韓在都），病院事務（仁宮崇）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設や医療現場等における経験をいかして指導する。			

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．生活の中の「住」「介護」「医療」の基礎知識を有し，発展的な学修においてそれら知識を利用することができる	基礎的な知識のみではなく、発展的な知識の一部を身につけている	与えられた情報の多くを身につけている	基礎的な知識が身についている	知識として欠けている部分が少なくない	知識が身についていない

科目名	生活学概論D 生活創造･医療事務コース卒業必修科目	授業番号	HG111	サブタイトル	
教員	疋田　基道、韓　在都、児玉　彩				

単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修･選択	選択

授業概要	豊かな生活を作り上げていくには，生活に関わる様々なことを理解し，自身の生活の場で実践していく必要がある。『生活学概論』ではそのために必要な知識を身に付けることを目的とする。本科目では，生活の主体として生きるために，生活の仕組みと営みを学び，変化し続ける生活構造や意識，それらに対応するために必要なライフスキル，生活設計等の理論を学ぶ。
到達目標	･現代の生活構造･意識を理解し，その特徴を理解できる ･生活学の知識を基に，現代社会の問題やその解決方法について考えを深める。 ･家族･社会･環境との関連において，共生と自立を目指した心豊かな生活設計ができる。 ･生活学の知識を用いて，主体的に生活設計に取り組むことができる。 なお，本科目はディプロマ･ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識･理解＞＜思考･問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。
授業計画　備考	受講者の興味関心に応じて，参考文献や配布資料を変え，内容を一部変更することもある。

回	概要	担当
第1回	生活の主体としての生活者と生活環境（1） 主体的に生きるということについて理解する。	疋田
第2回	生活の主体としての生活者と生活環境（2） 消費者としてどう主体的に生きるかについて学ぶ。	疋田
第3回	生活の主体としての生活者と生活環境（3） 欺瞞や噂について学び、生活の中にある噂や嘘を主体的に判断できるようにする	疋田
第4回	変化する生活構造と生活意識（1） ICT技術等の発達に伴うコミュニケーションの変化について学び、メリット･デメリットを考えられるようにする。	疋田
第5回	変化する生活構造と生活意識（2） 人とのつながりが希薄化している社会と生活意識の変化や教育について学ぶ。	疋田
第6回	協働･共生のためのライフスキル（1） 多様な年代、多様な価値観とともに生きていくスキルを理解する。	疋田
第7回	協働･共生のためのライフスキル（2） 各役割が分化、専門化していくなかで協働するスキルを理解する。	疋田
第8回	お金の基礎とライフプラン ～将来設計とお金の関係を理解する～	韓
第9回	資産形成と投資の基本 ～貯蓄と投資の違いを理解し、リスクとリターンを学ぶ～	韓
第10回	金融トラブルと意思決定 ～トラブルを防ぐ知識を身につけて正しい判断力を養う～	韓
第11回	私たちと生活 私たちの生活を守るための就業に関するルールを理解する	児玉
第12回	私たちと生活設計(1) 生活とは何か，生活を創る仕組みを理解する	児玉
第13回	私たちと生活設計(2) 私たちのこれからの生活を考える	児玉
第14回	私たちと循環型の生活 SDGsについて理解し，SDGsがどのように私たちの生活の中に存在しているのか理解する	児玉
第15回	私たちと生活設計(3) 私たちはこれからどう生きていくかを考える	児玉
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準･その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート		
小テスト	70	授業内容の理解度を評価する。次回授業時に、全体的な傾向について解説する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業内容を自分自身の問題としてよく考えながら受講すること。
授業外学修	･授業中に紹介した参考文献を積極的に読む。 ･授業中に配布した資料を繰り返し読み、復習する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
生活を創るライフスキルー生活経営論	内藤道子･中間美砂子他共著	建帛社	978-4-7696-1440-4	1800＋税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．現代の生活構造・意識を理解し，その特徴を理解できる。	生活の主体として生きるために生活の仕組みと営みを理解し，多様性や食、健康、就業等について，そして変化し続ける生活構造や意識，それらに対応するために必要なライフスキル，生活設計等についての知識がある。	生活の主体として生きるということについてや，現代の生活構造・意識について，生活にまつわるいくつかの視点からその特徴を理解できる。	生活の主体として生きるということについてや，現代の生活構造・意識について，その特徴を理解できる。	現代の生活構造・意識について，その特徴を理解できているが，実生活にあまり結びついていない。	現代の生活構造・意識について理解できていない。
思考・問題解決能力	１．生活学の知識を基に，現代社会の問題やその解決方法について考えを深める。	生活学の知識を基に，現代社会の問題や，将来起こりうる問題を想定でき，問題の原因を探り，様々な観点から解決方法を考える力がある。	生活学の知識を基に，現代社会の問題や，将来起こり得る問題を想定でき，その解決方法を考える力がある。	生活学の知識を基に，現代社会の問題やその解決方法について考えを深める力がある。	現代社会の問題やその解決方法について考えることができるが，根本的な解決策までには至らない。	現代社会の問題やその解決方法について考えることができない。
技能	１．家族・社会・環境との関連において，共生と自立を目指した心豊かな生活設計ができる。	多くの人々と関わる技能や現代社会の様々な問題をとらえる技能があり，かつ，多くの価値観を理解し共に生きていく中で，自分自身の自己実現を目指すとともに，皆が持続可能な形で生活設計しそれを表現する技能がある。	多くの人々と関わる技能があり，家族・社会・環境との関連を自覚し，共生と自立を目指して心豊かな人生設計ができそれを表現できる技能がある。	家族・社会・環境との関連において，共生と自立を目指した心豊かな生活設計ができ，そのことを言葉などで表現できる技能がある。	共生と自立を目指した生活設計ができるが，具体的な形で表現する技能がない。	家族・社会・環境との関連において，共生と自立を目指した心豊かな生活設計ができない。
態度	１．生活学の知識を用いて，主体的に生活設計に取り組むことができる。	自分自身の生活設計に向け，生活学の知識を用いて自覚と責任をもって主体的に考え，現代社会の課題点を自ら捉え解決しようという態度がある。	自分自身の生活設計に向け，生活学の知識を用いて主体的に考えようとする態度がある。	主体的に生活設計に取り組もうとする態度がある。	主体的に生活設計に取り組もうとする態度があるが，持続的に取り組むことができない。	主体的に生活設計に取り組もうとする態度がない。

科目名	キャリア開発演習			授業番号	HG112	サブタイトル			
教員	仁宮　崇、韓　在都、三宅　真未								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	学生が主体的に進路選択し，積極的な姿勢で就職活動に取り組むために必要な知識の修得を行うことを目的としている。 学生が自らのキャリアデザインを描き，実現のために何が必要か働く意味について考える。さらに自己分析にて自己を知り，職務適正テストの実施，基本的な履歴書，エントリーシートの記載方法，個人面接対策を行う。また，随時に適切な就職情報も提供する。								
到達目標	・働くことの意味を自ら考えて，キャリアデザインを描くことができる。 ・進路選択に必要な基本知識を身につけ，自ら情報収集ができる。 ・就職実践力の基礎能力を修得することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	スタートアップ就活準備(1) 「働く」とは何か，「何のために働く」のか？エンゲージメントカードゲームで学ぶ。	仁宮，就職支援センター
第2回	スタートアップ就活準備(2) 「働く」とは何か、「何のために働く」のか？正規社員・非正規社員の働き方の違いについて学ぶ。	仁宮，就職支援センター
第3回	就職活動と身だしなみ 就職活動における身だしなみ,メイクについて学ぶ。	仁宮，就職支援センター
第4回	適性診断の実施 Match plusを用いて、自分の適性を知る。Match plusの結果の活用法。	仁宮，就職支援センター
第5回	履歴書・エントリーシートについて(1) 履歴書やエントリーシートを書く時のポイントについて学ぶ。	仁宮，就職支援センター
第6回	面接について(1) 面接のマナーの基本を把握し，面接を理解する	仁宮，就職支援センター
第7回	企業研究(1) 企業研究の方法について学ぶ。	仁宮，就職支援センター
第8回	就職活動について学ぶ 先輩からのメッセージを聞き，就職活動を具体的にイメージする。	仁宮，就職支援センター
第9回	履歴書・エントリーシートについて(2) 就職ガイダンスの説明をもとに，実際に履歴書を記入する。	仁宮
第10回	履歴書・エントリーシートについて(3) 記入した履歴書を添削し，内容の見直しをしてより良い履歴書が書けるようにする。	仁宮，韓，三宅
第11回	履歴書・エントリーシートについて(4) 記入した履歴書を添削し，内容の見直しをしてより良い履歴書が書けるようにする。	仁宮，韓，三宅
第12回	面接について(2) 動画で就職活動の面接試験の様子を見て、受け答えの内容を考える。	仁宮
第13回	模擬面接の実施 模擬面接を行い，　面接の基本について理解を深める。	仁宮，韓，三宅
第14回	企業研究(2) 企業研究を行い，自分に合う企業について考える。	仁宮，就職支援センター
第15回	求人票検索システムの使用準備と説明／求人票の見方 就職活動をする上で必要な求人票検索システムおよび求人票の見方について学ぶ。	仁宮，就職支援センター
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	意欲的な受講態度，討議への参加，復習の状況，就職ガイダンスの参加状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	40	提出物（履歴書）によって評価する。コメントを記入して、返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自らの人生と職業について友人や家族と話し合う機会を持ち，積極的な姿勢で授業に臨むとともに，授業で指示する課題については，そのつど真剣に取り組むこと。
授業外学修	各授業で学んだ内容を整理し復習を毎回行うこと。（1時間以上）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	本学就職支援センター編『就活ガイドBOOK2027』、資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．就職実践力の基礎能力を修得することができる。	就職活動に関する知識を十分に有している。	就職活動に関する知識を概ね有している。	就職活動に関する知識を有している。	就職活動に関する知識をやや有している。	就職活動に関する知識を有していない。
知識・理解	２．自己分析にて自己を知り，基本的な履歴書・自己紹介書，エントリーシートの記載方法（就職実践力）を身につけることができている。	就職実践力の知識の幅広い教養を十分に身についている。	就職実践力の知識の内容を理解している。	就職実践力の知識に関して一定程度の理解ができている。	就職実践力の知識の内容理解が不十分である。	就職実践力の知識の内容を理解できていない。
知識・理解	３．働くことの意味を自ら考えて，キャリアデザインを描くことができる。	期待以上に主体的に取り組み，現場の求めるレベルに十分達している。	主体的に取り組み，現場の求めるレベルに達している。	キャリアデザインの内容に関して一定程度の理解ができている。	おおむね積極的に取り組んでいるが，場面によって物足りなさがある。	積極性に欠け，現場で通用するレベルには達していない。
技能	１．グループワークに必要な知識を理解し、実践できている。	常に周囲の人と積極的に関わり，バランス良く行動し,職場における協調性は十分である。	周囲の人と進んで関わる姿が見られ，協調性が感じられた。	グループワークに必要な内容を理解し一定程度の実践ができている。	周囲の人と関わろうとする努力は見えたが，取り立てて素晴らしいと言えるレベルではない。	積極的に人と関わろうとせず，孤立する場面が見られた。
態度	１．多くの職種や就職状況から進んで仕事を見つけることや就職実践力の諸問題について，周りと協力しながら自ら解決しようとすることができる。	期待以上に自ら進んで仕事を見つけ解決する場面が多々あった。	仕事を見つけることや就職実践力の諸問題について，周りと協力しながら自ら解決しようとすることができた。	仕事を見つけることや就職実践力の諸問題について，周りと協力しながら自ら解決しようと努力することができた。	仕事を見つけることや就職実践力の諸問題について,気が付くことはできた。	仕事を見つけることや就職実践力の諸問題について気が付くことができなかった。

科目名	生活情報演習 A			授業番号	HG202A	サブタイトル			
教員	小築　康弘								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本演習では、文書作成ソフトウェアであるMicrosoft Wordの基本的な操作から応用技術までを網羅的に学習する。初めてWordを使用する学生から、さらなるスキルアップを目指す学生まで、幅広いニーズに応える内容となっている。文書の作成、編集、フォーマットの基礎から、テンプレートの活用、効率的な文書管理方法に至るまで、実践的なスキルを身につけることを目指す。								
到達目標	・Wordの基本操作をある程度使いこなせる ・ネット等を活用し、自分の使いたいWordの機能を調べることができる なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞の修得に貢献する.								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	学習法を探る Google，Copilot，生成AI，YouTubeを活用せよ	
第2回	Web版Word ブラウザEdgeを利用し、Web版WordとAIアシスタントを利用する	
第3回	Wordの基本 起動・終了、文字の入力、ポップアウトヒント、ショートカット、印刷、保存など	
第4回	フォント フォントの大きさと間隔／文字を飾る	
第5回	テンプレート テンプレートの活用	
第6回	レイアウトを整えよ1 「中央揃え」「右揃え」「両端揃え」「行間」	
第7回	レイアウトを整えよ2 「ルーラー」を使う：タブとインデント	
第8回	レイアウトを整えよ3 箇条書きと段落番号	
第9回	校閲 WordやCopilot・生成AIがおかしなところを見つけてくれる	
第10回	レイアウトを整えよ4 見出しと目次作成	
第11回	様々な機能を試す1 テキストボックス、グラフと表の挿入と回り込み	
第12回	様々な機能を試す2 画像・ワードアートなどの挿入	
第13回	様々な機能を試す3 差し込み印刷	
第14回	演習 ここまでに学修した知識・技術を利用し、チラシの作成演習を行う	
第15回	まとめ 授業全体を振り返り、何を体験したのかということを、また、調べることによって様々なケースに対応できることを再実感する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	授業に取り組む姿勢を評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50	授業毎の作成ファイルを評価する。提出された課題は各課題ごとの評価基準により採点し，その結果を返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自身の行動を持って体得することに主眼を置く授業であるため，積極的な行動を求める。また，普段の生活の中で情報端末に触れ，慣れることを求める。
授業外学修	1．PCを所有していなくても，スマートホンでMicrosoft WordやGoogle Documentなどのワードプロセッサーを利用できるので、普段から利用すること。 2．PCを利用できる機会がある時は，積極的に使用し，本学を卒業した後に普通にWordを扱えるようになることを意識し親しむこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．Wordの基本操作をある程度使いこなせる	応用的な操作ができる	基本操作ができる	基本操作の大半を実行できる	基本操作を部分的に実行できる	基本操作すらできない
知識・理解	2．ネット等を活用し、自分の使いたいWordの機能を調べることができる	有用な情報を得ることができる	情報を得ることができる	情報の大半を得ることができる	情報を部分的に得ることができる	情報を得られない

科目名	生活コミュニケーション演習 B (ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝとﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ) 生創･医療卒必	授業番号	HG204	サブタイトル			
教員	疋田　基道						
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修･選択	選択
授業概要	コミュニケーションの基本として，「伝える，表現する」ことを学ぶ。相手に分かりやすい伝え方や，自分の意見を適切に表現するスキルについて学び，円滑な人間関係を構築･維持するためのスキルを身につける。会話，文章，図表など，様々な方法による幅広い表現の仕方を学ぶ。この授業は前期の生活コミュニケーション演習Aと合わせて、「コミュニケーション検定上級」合格を目指す授業でもある（受験は任意）。								
到達目標	･コミュニケーションにおける自己表現の重要性について説明できる ･様々な自己表現や伝え方のスキルの基礎が身についている ･コミュニケーションにおける伝えるスキルを積極的に実生活に活かすことができる なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識･理解＞＜思考･問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	伝えること･表現することの基本 伝えること･表現することの基本とは何かについて学ぶ うまく伝わらない状況を考え，分析する	
第2回	伝える工夫（1） 来客対応、電話対応について学ぶ	
第3回	伝える工夫（2） いろいろなコミュニケーション手段，場面（アポイントメント･訪問･挨拶）を学ぶ	
第4回	伝える工夫（3） 説明の仕方，表現･伝達すること，情報共有について学ぶ	
第5回	非言語的表現 言葉以外の方法で伝える技術を学ぶ	
第6回	非言語的表現（２）とチームコミュニケーション 様々な非言語的表現について学ぶ チームコミュニケーションについて学ぶ	
第7回	書いて伝える 書いて伝える技術を学ぶ	
第8回	分かりやすく伝える 分かりやすい伝え方を学ぶ	
第9回	接客･営業とクレーム対応 接客･営業とクレーム対応について学ぶ	
第10回	会議･取材と面接 会議･取材･ヒアリングおよび面接について学ぶ	
第11回	プレゼンテーション（1） プレゼンテーションについて学ぶ	
第12回	プレゼンテーション（２） プレゼンテーションについて学び，ワークを通して学びを深める。	
第13回	プレゼンテーション（３） プレゼンテーションについて学び，ワークを通して学びを深める。	
第14回	総括（１） 学んできたことを振り返り，演習問題を通して理解を深める。	
第15回	総括（２） 学んできたことを振り返り，演習問題を通して理解を深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準･その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，演習への取り組みで評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	70	演習課題により，授業内容の理解度･修得度を評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むこと ・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること
授業外学修	・資料を基に予習・復習をすること ・授業で紹介した本や資料を読むこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
コミュニケーション検定上級 公式ガイドブック＆問題集	サーティファイ コミュニケーション能力認定委員会	株式会社サーティファイ	978-4-907-893-92-7	2100円＋税

使用テキスト：自由記載	この授業の教科書は1年前期の生活コミュニケーション演習Aの教科書と同じです。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
図解「伝える」技術 ルール10 話して伝える 書いて伝える 図表で伝える	藤沢晃治	講談社	978-4062134132	952円
対人援助の現場で使える言葉＜以外＞で伝える技術便利帖	大谷佳子	翔泳社	978-4-7981-7147-0	1800円＋税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤計18年），大学での学生相談（非常勤，フルタイム計20年）等の実務経験を有する。実務経験の合計は22年。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	コミュニケーションにおける「伝える，表現する」力について，臨床現場での経験（22年）を通し，その意義や方法について具体的に紹介し教えることができ，実生活や将来の仕事に活かすことができるスキルを習得させることができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．様々な自己表現や伝え方の手段の知識がある。	コミュニケーションにおける自己表現の重要性について理解し，様々な自己表現や伝え方の手段を理解し，その方法や意義を他者に説明できる。	コミュニケーションにおける自己表現の重要性について理解し，様々な自己表現や伝え方の手段の知識がある。	様々な自己表現や伝え方の手段を理解している。	自己表現することができるが，伝える手段の知識が乏しい。	自己表現したり思いを伝える手段の知識がない。
思考・問題解決能力	1．会話，文章，図表など，様々な方法による幅広い表現の仕方を考えることができる。	ワークやディスカッションにおいて会話，文章，図表など，様々な方法による幅広い表現の仕方を考え，使い分け，実生活での問題解決に活かすことができる。	会話，文章，図表など，様々な方法による幅広い表現の仕方を考え，状況や場面に応じた使い分けを考えることができる。	会話，文章，図表など，様々な方法による幅広い表現の仕方を考えることができる。	表現の仕方を考えることができるが，考えられる手段の幅が限られている。	様々な表現の仕方を考えることができない。
技能	1．コミュニケーションにおける「伝える，表現する」技術を身に着け，実生活に活かすことができる。	コミュニケーションにおける「伝える，表現する」技術を身に着けることができ，演習で複数の表現を用いて積極的に活用し，実生活においても活かすことができる。	コミュニケーションにおける「伝える，表現する」技術を身に着けることができ，演習で複数の表現を用いて活かすことができる。	コミュニケーションにおける「伝える，表現する」技術を身に着けることができ，演習で活かすことができる。	コミュニケーションにおける「伝える，表現する」技術のどちらかを身に着けることができ，演習で活かすことができる。	コミュニケーションにおける「伝える，表現する」技術を身に着けることができていない。
態度	1．演習に積極的に参加できる。	演習内容を理解し，積極的に自分の意見を言え，質問も行い，疑問を解決することができる。	演習内容を理解し，前向きに演習に向かおうとする姿勢が向けられる。	演習内容を理解し，演習に参加することができる。	演習には参加しているが，発言や質問が少ない。	演習には参加しているが，受け身的に参加していることが多い。

科目名	生活情報演習Ｂ			授業番号	HG205A	サブタイトル			
教員	古谷　俊爾								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本演習では，表計算ソフトウェアであるMicrosoft Excelの基本的な操作から応用技術までを網羅的に学習する。初めてExcelを使用する学生から，さらなるスキルアップを目指す学生まで，幅広いニーズに応える内容となっている。表の作成，演算，関数の利用からピボットテーブルによる集計に至るまで，実践的な知識を身につけることを目指す。								
到達目標	表計算ソフトウェアMicrosoft Excelを活用できるようになる。具体的には次のことを身につける。 1.効率的なデータ入力や書式の適用により表が作成できる知識 2.数式や関数が活用できる知識 3.適切なグラフが作成できる知識 4.データベース機能やピボットテーブル機能を適切に活用できる知識 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	Excelの基本操作 Excelの画面構成，セル・行・列の概念，範囲選択を理解する。	
第2回	データの入力と編集　データを入力・修正・移動・コピーする方法を理解する。 オートフィル機能により連続するデータを入力する方法を理解する。	
第3回	ブックやシートの管理　ブック・ワークシートの操作を理解する。 複数のウィンドウ操作を理解する。	
第4回	表の作成1　見栄えのする表の作成できるよう，基本的な書式設定およびそのコピー・クリア方法を理解する。	
第5回	表の作成2 入力規則の設定，検索・置換，条件付き書式を理解する。	
第6回	ページ設定と印刷 ページ設定の方法を理解する 複数ページにわたる表の印刷について理解する。	
第7回	数式と参照 数式の入力方法，相対参照と絶対参照を理解する。 表示形式の変更方法を理解する。	
第8回	関数の基礎 基本的な関数の使い方を理解する。 条件に応じた処理，数値の端数処理を理解する。	
第9回	関数の応用 検索して値を表示する方法を理解する。 エラーを回避する方法を理解する。	
第10回	グラフの作成1　表データを元に様々なグラフを作成・編集する方法を理解する。	
第11回	グラフの作成2　スパークラインの作成方法を理解する。	
第12回	複数ワークシートの管理　複数のワークシートに同時に書式を設定する方法を理解する。 複数のワークシートの値を集計する方法を理解する。	
第13回	データベースの活用　データベース（テーブル）の作成方法を理解する。 並べ替え・抽出・小計機能を理解する。	
第14回	ピボットテーブル ピボットテーブルを理解する ピボットグラフの作成方法を理解する。	
第15回	その他の機能 Excel for the webほかの紹介	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講姿勢，予・復習の状況によって評価する。
レポート	50	複数回，練習問題を課しファイルを提出していただく。学んだ内容が十分に活かせているかによって評価する。 提出後に全体的な傾向について授業でコメントをする。個々の詳細なコメントを希望する学生は研究室にお越しいただきたい。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照などの「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。 2. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2. 復習として，授業や教科書の内容を必要なだけ繰り返し演習し確実に理解する。 3. 発展学修として，Web等で授業で扱った以外のExcelの機能を知る。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
世界一わかりやすい Excelテキスト 2024/2021/2019/365対応版	土岐順子	技術評論社	978-4-297-15000-6	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアの職務(7年)における表計算ソフトウェアの実務での活用・マクロ開発経験から，実践に基づいた活用・操作方法について指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.効率的なデータ入力や書式の適用により表が作成できる知識	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している。	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2.数式や関数が活用できる	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している。	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	3.適切なグラフが作成できる	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している。	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	4.データベース機能やピボットテーブル機能を適切に活用できる	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している。	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。

科目名	生活コミュニケーション演習 C（自己理解とｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ）	授業番号	HG206	サブタイトル				
教員	疋田　基道							
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	コミュニケーションについて理解を深め，スキルを育むためには，「自分を知る」ことが大切である。自己理解を深めることは，自分と異なる存在である他者を理解し，互いに尊重し合うための基盤となる。また他者理解を通して自己の理解も深まる。この演習では，様々なワークやグループディスカッションを通じて自他の理解や心のアセスメントについての理解を深め，他者とより良い関係を築き，他者を支援する方法を考える。								
到達目標	・コミュニケーションにおける自己理解の重要性や，自己理解の枠組みを説明できる ・ワークやディスカッションを通じて自他の理解を深めている ・心のアセスメントについて理解を深め，対人支援に活かすことができる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	コミュニケーションにおける自己理解の重要性 文学などの作品を通して，自己理解の重要性について学ぶ	
第2回	「好き」から捉える自己について理解を深めるワークに取り組み，学びを深める	
第3回	自己像を描くためのワークに取り組み，学びを深める	
第4回	自己肯定感を育むためのワークに取り組み，学びを深める	
第5回	他者から見た自分ー心の窓について理解を深めるワークに取り組み，他者理解と自己理解を深める	
第6回	自分の価値観を知るためのワークに取り組み，学びを深める	
第7回	自我状態を知るー心理検査について理解を深めるワークに取り組み，検査を通して自己理解と他者理解を深める。	
第8回	自分の感情を知るためのワークに取り組み，学びを深める	
第9回	自分をとりまく人間関係，友人関係について理解を深めるワークに取り組み，学びを深める	
第10回	ストレスと対処法について理解を深めるワークに取り組み，人や状況に応じたストレス対処法についての学びを深める	
第11回	自他の心を力動的に捉える① 心を力動的に理解する基本的な理論について学ぶ	
第12回	自他の心を力動的に捉える② 心を力動的に理解する基本的な理論について学ぶ	
第13回	心のアセスメントについて① 自他の心のアセスメント，特に精神力動的なアセスメントについて学ぶ	
第14回	心のアセスメントについて② 自他の心のアセスメント，特に精神力動的なアセスメントについて学ぶ	
第15回	総括 学んできたことを振り返り，まとめを行う	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，演習への取り組みで評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	70	演習課題により，授業内容の理解度・修得度を評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・ワークやグループディスカッションに積極的に取り組むこと ・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること
授業外学修	・参考書や配布資料を基に予習・復習をすること ・授業で紹介した本や資料を読むこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中学生・高校生・大学生のための自己理解ワーク	丹治光浩	ナカニシヤ出版	978-4-7795-0543-0	1600円+税
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤計、18年），大学での学生相談（非常勤，フルタイム計20年）等の実務経験を有する。実務経験の合計は22年。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	自分を知ることを通して、自分を表現し伝えるコミュニケーションの力が培われていくことを、臨床現場での経験（22年）から具体的に紹介し指導することができ、コミュニケーションの知識と自分について考える力、コミュニケーションの力を習得させることができる。			

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．コミュニケーションにおける自己理解の重要性を理解できている。	コミュニケーションにおける自己理解の重要性を理解し，自分の性格や感情等々自己理解を深めることができる。	コミュニケーションにおける自己理解の重要性を理解し，自己理解の方法が分かる。	コミュニケーションにおける自己理解の重要性を理解できる。	コミュニケーションの重要性は理解できるが，自己理解が不十分である。	コミュニケーションにおける自己理解の重要性が理解できない。
思考・問題解決能力	1．自己理解を深め，コミュニケーションに活かすことができる。	自己理解を深め，他者との関係や社会の中で自分を生かすためにはどうすればよいか考えることができ，グループワークや実生活で実践できる。	自己理解を深め，他者との関係や社会の中で自分を生かすためにはどうすればよいか考えることができる。	自己理解を深め，コミュニケーションに活かすことができる。	他者との情報のやりとりはできるが，自分の思いや感情の表現が少ない。	自分を知り，自分の思いや感情を他者に伝えることができない。
技能	1．心のアセスメントについて理解を深め，対人支援に活かすことができる。	心のアセスメントについての知識や技術があり，他者の心理を力動的に定式化でき対人支援に活かすことができる。	心のアセスメントについての知識や技術があり，他者の心理を力動的に定式化できる。	心のアセスメントについての理解や技術があり，対人支援に活かすことができる。	心理学的には十分アセスメントできないが，対人支援のために他者を理解しようとする姿勢がある。	心のアセスメントについての知識や技術が身についておらず，対人支援に活かすことができない。
態度	1．演習に積極的に参加できる。	演習内容を理解し，積極的に自分の意見を言え，質問も行い，疑問を解決することができる。	演習内容を理解し，前向きに演習に向かおうとする姿勢が向けられる。	演習内容を理解し，演習に参加することができる。	演習には参加しているが，発言や質問が少ない。	演習には参加しているが，受け身的に参加していることが多い。

科目名	生活コミュニケーション演習Ｄ（集団におけるｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ）			授業番号	HG207	サブタイトル			
教員	疋田　基道								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	集団や組織での問題解決，ディスカッション，集団における心理学的援助の技術を実践的に学ぶ。 自分の意見を持ち，他者に分かりやすく伝える力や，他者の意見に耳を傾け人間の考えの個人差や多様性について理解すること，および受容的な集団を育てる力を体験的に学ぶ。 また，幅広いテーマを取り上げることを通して，豊かなコミュニケーションの素地となる教養を豊かなものにしていくことも目指す。								
到達目標	・集団や組織における問題解決や集団での心理学的援助について説明できる ・コミュニケーションにおいて伝達される意志・感情・思考などの「情報」の重要性を理解している。 ・自分の意見を持ち，他者に伝わるように述べることができる ・人間の考え方の個人差や多様性を理解でき、受容的な集団を育てることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	集団・組織におけるコミュニケーション（1） コンセンサスゲームを体験し，集団・組織におけるコミュニケーションの特徴を学ぶ	
第2回	集団・組織におけるコミュニケーション（2） コンセンサスゲームおよび映画等の作品を通して，集団・組織における問題解決について学ぶ	
第3回	集団・組織におけるコミュニケーション（3） 映画等の作品を通して，集団・組織における問題解決について学ぶ	
第4回	集団・組織におけるコミュニケーション（4） リーダーシップについて学ぶ ディベートのねらいと方法について学ぶ	
第5回	集団・組織におけるコミュニケーション（5） 周りを元気にするコーチングについて学ぶ	
第6回	集団・組織におけるコミュニケーション（6） 集団での心理学的援助の技術を学ぶ①	
第7回	集団・組織におけるコミュニケーション（7） 集団での心理学的援助の技術を学ぶ②	
第8回	集団・組織におけるコミュニケーション（8） ディベートのねらいと方法について学び，模擬ディベートを行う	
第9回	集団・組織におけるコミュニケーション（9） ディベートのねらいと方法について学び、論題について検討する。	
第10回	ディベート（1） グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。	
第11回	ディベート（2） グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。	
第12回	ディベート（3） グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。	
第13回	ディベート（4） グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。	
第14回	ディベート（5） グループごとに設定テーマについて調べて発表し，クラス全体でディベートを行う。	
第15回	総括 学んできたことを振り返り，まとめを行う	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な授業態度によって評価する。
レポート	40	授業内容の理解度・修得度を評価する。実施後、UNIPA等にて全体的な傾向についてコメントする。
小テスト		
定期試験		
その他	30	ディベートの発表内容により評価する。発表後にフィードバックを行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・ディベートに積極的に取り組むこと ・授業で学ぶコミュニケーションの知識やスキルを自分の生活や体験に照らし合わせ，実際に生かすよう心がけること
授業外学修	・資料を基に予習・復習をすること ・授業で紹介した本や資料を読むこと 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤計18年），大学での学生相談（非常勤，フルタイム計20年）等の実務経験を有する。実務経験の合計は22年。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	集団や組織で問題を解決していく力について，これまでの臨床経験（22年）を通し，自分の意見を持ちそれを他者に分かりやすく伝えることや，他者の意見や気持ちを理解し，問題を解決していく方法や意義ついて伝えることができ，様々な問題に他者と協力して対応していく力を習得させることができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．集団や組織における問題解決や集団での心理学的援助について理解でき，コミュニケーションにおいて伝達される意志・感情・思考などの「情報」の重要性を理解できる。	集団や組織における問題解決の知識を習得し，相手の意志・感情・思考の重要性を理解し，複数の意見があることを理解でき，心理学的援助に応用できる。	集団や組織における問題解決の方法や重要性を十分に理解し，集団での心理学的援助について説明することができる。	集団や組織における問題解決の方法や重要性を理解している。	集団や組織における問題解決の重要性を理解しているが，その方法までは十分理解できていない。	集団や組織における問題解決の方法や重要性を理解していない。
思考・問題解決能力	１．自分の意見を持ち，ディベートやディスカッションの中で，他者に伝わるように述べる力がある。	ディベートやディスカッションの中で，自分の意見を他者に伝わるように述べる力があり，他者の意見を尊重しながら，合意形成を図ることができる。	ディベートやディスカッションの中で，他者の意見を理解したうえで，自分の意見を他者に伝わるように述べる力がある。	ディベートやディスカッションの中で，自分の意見を他者に伝わるように述べる力がある。	ディベートやディスカッションの中で，やや消極的ではあるが自分の意見を述べることができる。	ディベートやディスカッションの中で，自分の意見を述べることができない。
技能	１．コミュニケーションにおける「集団におけるコミュニケーション」技術を身に着けて，実生活に活かすことができる。	コミュニケーションにおける「集団におけるコミュニケーション」技術を身に着けることができ，演習で受容的な集団を育むことができ，実生活においても活かすことができる。	コミュニケーションにおける「集団におけるコミュニケーション」技術を身に着けることができ，演習で受容的な集団を育むことができる。	コミュニケーションにおける「集団におけるコミュニケーション」技術をおおむね身に着けることができ，演習で活かすことができる。	コミュニケーションにおける「集団におけるコミュニケーション」技術を理解することはできているが，演習で活かすことができない。	コミュニケーションにおける「集団におけるコミュニケーション」技術を身に着けることができていない。
態度	１．演習に積極的に参加できる。	演習内容を理解し，積極的に自分の意見を言え，質問も行い，疑問を解決することができる。	演習内容を理解し，前向きに演習に向かおうとする姿勢が向けられる。	演習内容を理解し，演習に参加することができる。	演習には参加しているが，発言や質問が少ない。	演習には参加しているが，受け身的に参加していることが多い。

科目名	メンタルヘルス学			授業番号	HG208	サブタイトル			
教員	仁宮　崇								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	現代はストレス社会であり，ストレスは日常生活，社会で働く上で向き合わなければならない問題である。メンタルヘルス不調を未然に防止するため，ストレスやセルフケアに関する知識，自分に合ったストレス解消方法を身に付ける。これから社会に出る者としてのストレス対処能力を考えていく。 また，この科目は「メンタルヘルス・マネジメント®検定III種」合格を目指す授業でもあり，受験申込者数が10名以上になれば団体特別試験として本学で受験することが可能になる。本学で試験を実施する場合は1月中旬，下旬の休日を試験日とする予定である。								
到達目標	・ストレスと心身の健康との関連性を理解できる。 ・メンタルヘルス不調を未然に防止するための知識を身に付ける。 ・コミュニケーション，人間関係の学修を通して他者を思いやる心を身につける。 ・変化し続ける現代社会に対応するため，自分に合ったストレス解消方法を探し，実践することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	メンタルヘルスケアの意義（1） ストレスチェック制度，労働者のストレスの現状について理解する。	
第2回	メンタルヘルスケアの意義（2） メンタルヘルスケアの方針と計画，メンタルヘルス方針とセルフケアについて理解する。	
第3回	ストレスの基礎知識（1） ストレスについて，ストレスによる健康障害のメカニズム，産業ストレスについて理解する。	
第4回	ストレスの基礎知識（2） ライフサイクル，労働，雇用形態とストレス，ワーク・エンゲイジメントについて理解する。	
第5回	メンタルヘルスの基礎知識 メンタルヘルスの不調，様々な精神疾患・心身症について理解する。	
第6回	心の健康問題の正しい態度 心の健康問題は自分とは関係ないという誤解，睡眠を削って残業をがんばるのは"美徳"という誤解，その他の誤解と対策について理解する。	
第7回	セルフケアの重要性 過重労働の健康への影響，自己保険義務，早期対処の重要性について理解する。	
第8回	ストレスへの気づき方 注意すべきリスク要因，仕事以外のストレス，自分の変化に気づく，ストレスのセルフチェックについて理解する。	
第9回	ストレスへの対処（1） ストレスの軽減方法，休養・睡眠，運動・食事等，生活におけるストレス対処について理解する。	
第10回	ストレスへの対処（2） ソーシャルサポートとコーピングの知識，自発的な相談の有用性について理解する。	
第11回	ストレスへの対処（3） コーピング活用方法とアサーティブな表現について，事例を交えて理解する。	
第12回	自発的な相談の有用性 コミュニケーション・スキル，話すことの意味（カウンセリングの意味），同僚のケアについて理解する。	
第13回	社内外資源の活用（1） 相談できるスタッフの種類と特徴，相談窓口について理解する。	
第14回	社内外資源の活用（2） 専門相談機関の知識，医療機関の種類と選び方，受診のポイント，治療の実際について理解する。	
第15回	歴史上の人物から学ぶストレス対処 メンタルヘルスに関する歴史上の人物の考え方や言葉を読み，これからのストレス対策に繋げる。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他	10	課題への取り組み，完成度を評価する。課題提出後、全体的な傾向について授業内でコメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	ストレスに関する専門用語が多く出るため，自分で調べて理解する習慣が必要である。学んだストレス対策に効果があるかも検証する必要があるため，実践すること。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読む。 2. 復習として，教科書を読み返し，課題や問題演習に取り組む。 3. メンタルヘルスに関する新聞記事やホームページを読む習慣をもつ。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキストIII種 セルフケアコース 第５版	大阪商工会議所	中央経済社	978-4-502-38831-6	2，000円 + 税
メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅲ種セルフケアコース過去問題集 ２０２６年度版	春日　未歩子	中央経済社	未定	未定

使用テキスト：自由記載	講義資料

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	ストレスに負けない技術ーコーピングで仕事も人生もうまくいく！(日本実業出版社)　マンガでわかりやすい ストレス・マネジメントーストレスを味方にする心理術(きずな出版)　ミニドラマで学ぶメンタルヘルス（コミュニケーション編）(DVD：第一法規)　ミニドラマで学ぶメンタルヘルス対策 未然予防 セルフケア編(DVD：第一法規)
その他	
備考	※メンタルヘルス・マネジメント®検定は大阪商工会議所の登録商標です。
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. ストレスと心身の健康との関連性を理解できる。	ストレスと心身の健康との関連性を大変よく理解している。	ストレスと心身の健康との関連性を十分理解している。	ストレスと心身の健康との関連性を理解している。	ストレスと心身の健康との関連性の理解が不十分である。	ストレスと心身の健康との関連性を理解していない。
知識・理解	2. メンタルヘルス不調を未然に防止するための知識を身に付ける。	メンタルヘルス不調を未然に防止するための知識を大変よく身に付けている。	メンタルヘルス不調を未然に防止するための知識が十分身に付いている。	メンタルヘルス不調を未然に防止するための知識を身に付けている。	メンタルヘルス不調を未然に防止するための知識の身に付きが不十分である。	メンタルヘルス不調を未然に防止するための知識が身に付いていない。
思考・問題解決能力	1. コミュニケーション，人間関係の学修を通して他者を思いやる心を身につけようと努めている。	コミュニケーション，人間関係の学修を通して他者を思いやる心を身につけようと大変よく努めている。	コミュニケーション，人間関係の学修を通して他者を思いやる心を身につけようと十分努めている。	コミュニケーション，人間関係の学修を通して他者を思いやる心を身につけようと努めている。	コミュニケーション，人間関係の学修を通して他者を思いやる心を身につけようとあまり努めていない。	コミュニケーション，人間関係の学修を通して他者を思いやる心を身につけようと努めていない。
態度	1. 変化し続ける現代社会に対応するため，自分に合ったストレス解消方法を探し，実践することができる。	変化し続ける現代社会に対応するため，自分に合ったストレス解消方法を探し，実践することが大変よくできている。	変化し続ける現代社会に対応するため，自分に合ったストレス解消方法を探し，実践することが十分できている。	変化し続ける現代社会に対応するため，自分に合ったストレス解消方法を探し，実践することができている。	変化し続ける現代社会に対応するため，自分に合ったストレス解消方法を探し，実践することがあまりできていない。	変化し続ける現代社会に対応するため，自分に合ったストレス解消方法を探し，実践することができていない。

科目名	総合生活学セミナーA（食の情報:ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ情報の評価と活用)	授業番号	HG301	サブタイトル	
教員	小築　康弘				

単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択

授業概要	本セミナーでは，「食とインターネット」をテーマに演習を行う。具体的には，国立健康・栄養研究所のホームページなど有用なホームページやデータベースを利用し，世に広まる様々な食の情報の信用度について考察する授業である。
到達目標	・インターネットを活用し，「食」に関する信用度の高い情報を集めることができる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。
授業計画　備考	

回	概要	担当
第1回	Chromeがあれば他国の情報を結構読めるブラウザーの翻訳機能や生成AIを利用して、日本語ではない情報を得る	
第2回	Google Scholar を利用するGoogle Scholarで学術研究を調べる	
第3回	国立健康・栄養研究所（国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所）この研究開発法人が運用するサイトから情報を得る	
第4回	食品に関わる省庁 厚生労働省、消費者庁等のサイトから情報を得る	
第5回	食中毒 厚生労働省等のサイトから食中毒の情報を得る	
第6回	情報の信憑性 活字であれば信じて良いのかを考える	
第7回	料理の情報 ｸｯｸﾊﾟｯﾄﾞから情報を引き出す	
第8回	消費者庁の情報 食品表示、特に、栄養成分表示、保健機能食品の情報を引き出す	
第9回	実践調査演習(1) これまでに学修した知識を利用し、調査演習をする	
第10回	実践調査演習(2) これまでに学修した知識を利用し、調査演習をする	
第11回	レビューを読み込む Amazonのカスタマーレビューを批判的・分析的に読む	
第12回	食ベログ 食ベログの順位と星の評価以外の部分に注目し、情報を引き出す	
第13回	Wikipediaを読む Wikipediaの情報を批判的に読む	
第14回	実践調査演習(3) これまでに学修した知識を利用し、調査演習をする	
第15回	実践調査演習(4) これまでに学修した知識を利用し、調査演習をする	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	情報収集に対する積極性を評価する。
レポート	40	授業毎の収集結果を評価する。提出された課題は各課題ごとの評価基準により採点し，その結果を返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本セミナーは，情報端末を操作し，情報を収集する。時を無意味に過ごすことなく，情報収集の手段や情報の質の判定のために大事な時を当ててほしい。 スマートフォンを活用するので，本機器を所有していることが望ましい。
授業外学修	・普段から気にしている「食」の情報をインターネットで調べる 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．インターネットを活用し，「食」に関する信用度の高い情報を集めることができる	授業で習うインターネット活用法を高いレベルで実践できる	授業で習うインターネット活用法を実践できる	授業で習うインターネット活用法の大半を実践できる	授業で習うインターネット活用法の数個を実践できる	授業で習うインターネット活用法を実践できない
技能	１．インターネットを活用し，「食」に関する信用度の高い情報を集めることができる	一人でもインターネットを活用し，「食」に関する信用度の高い情報を集めることができる	一人でもインターネットを活用し，「食」に関する情報を集めることができる	周りの人と協力し、インターネットを活用し，「食」に関する情報を集めることができる	周りの助けがあっても、インターネットを活用し，「食」に関する信用度の高い情報を集めることに困難が伴う	情報を集められない

科目名	総合生活学セミナーB（心の探究学）	授業番号	HG302	サブタイトル	（心の探求学）		
教員	疋田　基道						
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	心理学とは，科学的な手法と枠組みを用いて心について理解する学問である。この授業では，心理学分野でも特に発達、性格、教育について取り上げる。またストレスと心の関係についても取り上げ，その上で，他者の相談を聞き，援助する技術について具体的に学ぶ。なおこの科目は「こころ検定®3級」合格を目指す授業でもある（受験は任意）。								
到達目標	・ストレス，こころの測定，心理学的援助についての基礎概念について説明できる。 ・相談を聞き援助する技術を身に着け，実際の場面で対応策を考え，実践することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	こころの成長① 発達心理学とは何かについて学ぶ。	
第2回	こころの成長② 成長と共に発達するこころについて学ぶ。	
第3回	性格とこころ① パーソナリティ心理学とは何かについて学ぶ。	
第4回	性格とこころ② パーソナリティを測定する方法を学ぶ。	
第5回	教育心理学① 教育心理学とは何かについて学ぶ。	
第6回	教育心理学② 教育とこころの関係について学ぶ。	
第7回	ストレスとこころ① 適応や不適応とは何かについて学ぶ。	
第8回	ストレスとこころ② ストレスの測定やストレスマネジメントについて学ぶ。	
第9回	こころの測定① 検査学とは何かついて学ぶ。	
第10回	こころの測定② こころを測定する方法について学ぶ。	
第11回	心理学的援助スキル① 傾聴、共感、受容、繰り返し等について学ぶ。	
第12回	心理学的援助スキル② 質問の仕方、明確化や言い換えについて学ぶ。	
第13回	心理学的援助スキル③ 要約、指示、助言について学ぶ。	
第14回	心理学的援助スキル④ 解釈、直面化、緊急時の支援について学ぶ。	
第15回	総括 授業内容を振り返り、基礎概念の理解を深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	意欲的な受講態度，演習への取り組みを評価する。
レポート	40	授業内容の理解度・修得度を評価する。（最終レポート）
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受け身の姿勢ではなく、問題意識をもって能動的態度で受講すること。
授業外学修	・関連図書や関連資料をもとに予習・復習をすること 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
日本学術会議協力学術研究団体メンタルケア学術学会監修 文部科学省後援こころ検定®3級公式テキスト	教育ナビゲーション株式会社編集	教育ナビゲーション株式会社	978-4-9907775-3-1	2500円＋税

使用テキスト：自由記載	この授業のテキストは学内の教科書販売とは別日程で購入することになります。詳細は授業の中でお伝えします。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤18年），大学での学生相談（非常勤，フルタイム計20年）等の実務経験を有する。実務経験の合計は22年。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学生が心理学や心理学的援助の技術を学ぶため、臨床現場での経験（22年）から様々な場面や年代での特徴と対応を具体的に紹介、検討することができ、心理学の理解と実践に即した対応を考える力を習得させることができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．心と発達や教育、性格、ストレス，こころの測定，心理学的援助の基礎概念について理解できている。	心と発達や教育、性格、ストレス，こころの測定，心理学的援助の基礎概念について深く理解しており，説明でき，実践に役立てることができる。	心と発達や教育、性格、ストレス，こころの測定，心理学的援助の基礎概念について理解しており，説明できる。	心と発達や教育、性格、ストレス，こころの測定，心理学的援助の基礎概念について理解している。	心と発達や教育、性格、ストレス，こころの測定，心理学的援助の基礎概念のいずれかの項目で十分に理解できていない。	心と発達や教育、性格、ストレス，こころの測定，心理学的援助の基礎概念のいずれについても理解できていない。
思考・問題解決能力	１．心理学における発達や教育、ストレス，こころの測定について日常生活や対人援助等の場面ごとに考えることができる。	心理学における発達や教育、ストレス，こころの測定について具体的な多くの場面について課題を見つけて自ら多面的に考えることができる。	心理学における発達や教育、ストレス，こころの測定について，具体的な対応，支援について複数考えることができる。	心理学における発達や教育、ストレス，こころの測定について具体的な対応，支援の案を考えることができる。	心理学における発達や教育、ストレス，こころの測定のいずれかについて具体的場面に即して考えることができる。	心理学における発達や教育、ストレス，こころの測定について具体的に考えることができない。

科目名	総合生活学セミナーC (現代のﾀﾞｲｴｯﾄ:ﾀﾞｲｴｯﾄ法の批判的考察)	授業番号	HG304	サブタイトル	
教員	小築　康弘				

単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択

授業概要	本セミナーは，世に広まるダイエット法について考察する授業である。ダイエット（diet）とは，本来『（通常の）食事』を表す言葉であったが，そこから次第に食餌療法・食餌制限の意味でも使われるようになった言葉である。本セミナーでは，この食餌療法・食餌制限の概念を意識し，『食事と減量』という観点から世に広まるダイエット法について考察する。
到達目標	・様々なダイエット法を批判的に考察できる ・ダイエットに対する自身の概念を構築できる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。
授業計画　備考	

回	概要	担当
第1回	基本用語 ダイエットにおける基本用語の確認	
第2回	なぜ体重が減らなくなるのか このテーマについて考える	
第3回	筋トレ vs 有酸素運動 筋肉トレーニングと有酸素運動のダイエットにおける効果を考える	
第4回	運動と代謝 ダイエットの観点から、運動と代謝の関係を考える	
第5回	NEAT 非運動性活動によるエネルギー消費の重要性を認識する	
第6回	食事報酬 食事報酬について考える	
第7回	フードトラップ ジャンクフードを食べ過ぎてしまう要因を考える	
第8回	演習(1) 条件に合うダイエットプログラムを考える	
第9回	満腹感 満腹感に影響を与える要因を考える	
第10回	ダイエット対策検証（1） 様々なダイエット方法を検証する	
第11回	ダイエット対策検証（2） 様々なダイエット方法を検証する	
第12回	演習(2) 条件に合うダイエットプログラムを考える	
第13回	習慣化 ダイエットの習慣化について考える	
第14回	振り返り これまで学修した内容を振り返り、ダイエットに対する自信の概念を明確化する	
第15回	ダイエットの実際 巷に溢れるダイエット神話の検証をする	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	授業への積極的な参加を評価する。
レポート	40	ダイエットに対する自身の考えを評価する。提出された課題は各課題ごとの評価基準により採点し，その結果を返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	情報を鵜呑みにする精神を求めない。本授業の担当者である小築に対しても例外ではなく、情報に対して批判的に評価することを望む。
授業外学修	・世の中に広がる様々なダイエット法に注目し，「言われていることは本当だろうか？」と批判的に分析する 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．ダイエットに対する自身の概念を構築できる	情報機器を使いこなし、外国語の情報にもアクセスし、理解しようと試み、自身のダイエットの概念を深めることができる	自らも情報を取り入れ、自身のダイエットの概念を深めることができる	与えられた情報を理解し、自身のダイエットの概念を構築できる	与えられた情報であるにもかかわらず理解が浅いが、自身のダイエットの概念を構築できる	自身のダイエットの概念が構築できない
思考・問題解決能力	１．様々なダイエット法を批判的に考察できる	周りとの意見交換も活かし、批判的にダイエット法を評価できる	周りとの意見交換を試みることで、批判的にダイエット法を評価できる	情報を鵜呑みにせずに、批判的にダイエット法を評価できる	情報を鵜呑みする傾向もあるが、批判的にダイエット法を評価しようと試みている	批判的に評価することができない
態度	１．様々なダイエット法を批判的に考察できる	継続的にテーマに取り組み、新たな情報を手に入れ、ダイエット法を考察できる	継続的にテーマに取り組み、新たな情報を手に入れようと試み、ダイエット法を考察できる	継続的にテーマに取り組み、ダイエット法を考察できる	ダイエット法を考察できる	ダイエット法を考察できない

科目名	総合生活学セミナーD (ファッション演出企画)	授業番号	HG305	サブタイトル	
教員	三宅　真未				

単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択

授業概要	ファッションショーについて取り扱う授業である。ファッションショーの運営企画には，スタイリング，演出，設営，台本製作，プログラム・パンフレット制作，記録，フィッティング，情報・コンピューター担当，作品管理，衣裳制作，ナレーター，ポスター・チラシ制作，など多様な業務が含まれる。本授業の前半では，それらの業務やファッションショーの役割や効果などの基礎的な知識を学ぶとともに，様々なファッションショーの事例を分析する。後半では，前半の授業で得た知識をもとにファッションショーを企画し，企画内容のプレゼンテーションを行う。
到達目標	ファッションショーの役割，構成要素，効果を理解し，実際に企画をすることが出来るようになる。また，企画を第三者へ伝えるためのプレゼンテーションができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。
授業計画　備考	

回	概要	担当
第1回	ファッションショーとは ファッションショーの起源を辿るとともに，ファッションショーの役割や効果を理解する	
第2回	ファッションショーにおける構成要素 ファッションショーに関わる職種や，空間・照明・音響効果について学ぶ	
第3回	トレンドの理解と情報収集 ファッション業界における情報収集の手段について学び，トレンドを理解する	
第4回	ファッションショー分析① ファッションウィークに参加するブランドのコレクションショーを観察し分析する	
第5回	ファッションショー分析② ファッションウィークに参加するブランドのコレクションショーの制作過程を学ぶ	
第6回	オリジナルファッションショー企画 テーマ・コンセプト・ターゲットの設定とリサーチ	
第7回	オリジナルファッションショー企画 スタイリング選出①	
第8回	オリジナルファッションショー企画 スタイリング選出②	
第9回	オリジナルファッションショー企画 スタイリング選出③	
第10回	オリジナルファッションショー企画 ヘア・メイクの設定	
第11回	オリジナルファッションショー企画 会場・会場アレンジ設定	
第12回	オリジナルファッションショー企画 照明・音響構成	
第13回	オリジナルファッションショー企画 ポスター広告作成	
第14回	オリジナルファッションショー企画 企画書まとめ	
第15回	オリジナルファッションショー企画 最終発表	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な授業態度,積極的に課題へ取り組みスケジュールに沿って制作を進めているかを評価する。
最終課題	30	企画内容については，理解度・独創性・新規性・具体性・完成度の5つの観点から評価する。
プレゼンテーション	40	最終発表は「説得力」「独創性」「論理性」「表現力」「時間配分」の5つに点数をつけて評価する。発表終了後には講評を行う。

評価の方法：自由記載	上記の評価基準をもとに総合評価を行う。
受講の心得	さまざまなブランド・団体・機関で開催されているファッションショーに関心を持ち，インターネットやファッション雑誌などの各メディアを参考にして，企画したいファッションショーをイメージしておくこと。
授業外学修	・予習として，課題に沿ったファッションショー提案についてメディア等の情報を参考にイメージトレーニングをしておくこと。 ・復習として，前半の授業では配布資料を再読し，自分なりに内容を整理してまとめ，後半の授業では進行中の企画内容を振り返り，課題点や改善点があるかどうかを明らかにしておくこと。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．ファッションショーの基礎的な知識を修得している	授業以上に自身で理解を深め，ファッションショーに関する基礎知識を身に付け，応用できる。	授業以上に自身で理解を深め，ファッションショーに関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解し，ファッションショーに関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解しているが、基礎知識が身に付けられていない。	授業を理解しきれていない。
思考・問題解決能力	1．独自の視点を反映できている	テーマを俯瞰して捉え，授業以上に自習で理解を深め，新規性のある独自の視点を持った提案ができている。	テーマを俯瞰して捉え，授業以上に自習で理解を深め，独自の視点を持った提案ができている。	テーマを俯瞰して捉え，独自の視点を持った提案ができている。	独自の視点を持った提案ができているが新規性に欠ける。	テーマを理解せず，独自の提案ができていない。
技能	1．魅力的なプレゼンテーションができる	声のトーンやボリュームが適切で分かり易く，聞いている人を惹き込むための工夫が見られ，魅力的な説明ができている。内容の取捨選択ができており時間通りにプレゼンができる。	声のトーンやボリュームが適切で分かり易く，魅力的な説明ができている。内容の取捨選択ができており時間通りにプレゼンができる。	声のトーンやボリュームが適切で，時間通りにプレゼンができる。	分かりやすく説明はできているが，精度に欠ける。	分かりやすく説明できていない。
技能	2．企画内容の精度	課題内容を十分に理解し，独創性に溢れ，完成度の高く，優れた企画に仕上がっている。	課題内容を理解し，独創性に溢れ，優れた企画に仕上がっている。	課題内容を理解し，具体的な企画内容に仕上がっている。	課題内容を理解しているが，独創性や完成度の精度が欠ける。	授業内容全てを理解できておらず，十分な企画が出来ていない。
態度	1．積極的に授業に参加している	毎授業積極的に参加し，内容以上に自身で咀嚼しながら知識を広げることができる。	毎授業積極的に参加し，内容を十分に学習することができる。	積極的に参加し，内容を理解することができる。	授業に参加しているが，理解が及んでいない。	授業に積極的に参加せず，理解が及んでいない。

科目名	応用メンタルヘルス学			授業番号	HG306	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	1年生で学んだ「メンタルヘルス学」の知識に加え、2年生では「部門内，上司としての部下のメンタルヘルス対策の推進」について学ぶ。自身の健康を守るだけでなく，部門内の職員がメンタル不調にならないために気にかけ，時には安全配慮義務に則った対応ができるようになるための知識を学ぶ。そのため，この授業は1年後期のメンタルヘルス学の内容を理解していることを前提に展開する。 また，この科目は「メンタルヘルス・マネジメント®検定Ⅱ種」合格を目指す授業でもあり，受験申込者数が10名以上になれば団体特別試験として本学で受験することが可能になる。								
到達目標	・メンタルヘルスケアの意義と管理監督者の役割について理解している。 ・ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識を理解している。 ・個々の労働者への配慮，労働者からの相談への対応方法を把握している。 ・変化し続ける現代社会に対応するため，自他のこころの健康を保てるように学修意欲を持つことができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識（1） ストレス，健康障害メカニズム等について学ぶ。	
第2回	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識（2） メンタルヘルス不調の知識，心の健康問題の正しい態度等について学ぶ。	
第3回	職場環境等の評価および改善の方法（1） ストレスの原因となる職場環境，ストレスの評価方法等について学ぶ。	
第4回	職場環境等の評価および改善の方法（2） ラインによる職場環境改善と具体的な進め方について学ぶ。	
第5回	個々の労働者への配慮（1） 部下のストレスへの気づき，管理監督者が注意すべきストレス要因等について学ぶ。	
第6回	個々の労働者への配慮（2） ストレスの予防，ストレスへの対処，職場によるサポート等について学ぶ。	
第7回	労働者からの相談への対応（1） 相談対応の基本，早期発見のポイント等について学ぶ。	
第8回	労働者からの相談への対応（2） 管理監督者が話を聴く意味，不調が疑われたときの話の聴き方等について学ぶ。	
第9回	社内外資源との連携（1） 社内資源，社外資源について学ぶ。	
第10回	社内外資源との連携（2） 医療機関の種類と選び方，連携の必要性と方法等について学ぶ。	
第11回	心の健康問題を持つ復職者への支援の方法（1） 心の健康問題で休業した労働者の職場復帰支援の5つのステップについて学ぶ。	
第12回	心の健康問題を持つ復職者への支援の方法（2） プライバシーの保護，職場復帰支援の注意点，治療と仕事の両立支援等について学ぶ。	
第13回	メンタルヘルスケアの意義と管理監督者の役割（1） 労働者のストレス，ハラスメント問題，過重労働による健康障害の防止等について学ぶ。	
第14回	メンタルヘルスケアの意義と管理監督者の役割（2） ストレスチェック制度，メンタルヘルスケアの方針と計画，ラインによるケアの重要性等について学ぶ。	
第15回	授業の振り返り これから社会に出るうえで、これまでの授業を振り返り，社会人としてのストレス対処について理解を深める。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	ストレス，法律に関する専門用語が多く出るため，自分で調べて理解する習慣が必要である。メンタルヘルス・マネジメント®検定Ⅱ種は社会的認知度や評価が高い検定であり，1人でも多くの受験を推奨する。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読む。 2. 復習として，教科書を読み返し，課題や問題演習に取り組む。 3. メンタルヘルスに関する新聞記事やホームページを読む習慣をもつ。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキストⅡ種ラインケアコース 第５版	大阪商工会議所	中央経済社	978-4-502-38821-7	3，100円 + 税
メンタルヘルス・マネジメント検定試験Ⅱ種ラインケアコース過去問題集 ２０２６年度版	梅澤 志乃	中央経済社	未定	未定

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	ストレスに負けない技術ーコーピングで仕事も人生もうまくいく！(日本実業出版社)　マンガでわかりやすい ストレス・マネジメントーストレスを味方にする心理術(きずな出版)　マンガでわかる! アドラー心理学 折れない心の作り方(宝島社)　ミニドラマで学ぶメンタルヘルス（コミュニケーション編）(DVD：第一法規)　ミニドラマで学ぶメンタルヘルス対策 未然予防 セルフケア編(DVD：第一法規)
その他	
備考	※メンタルヘルス・マネジメント®検定は大阪商工会議所の登録商標です。
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. メンタルヘルスケアの意義と管理監督者の役割を理解できる。	メンタルヘルスケアの意義と管理監督者の役割を大変よく理解している。	メンタルヘルスケアの意義と管理監督者の役割を十分理解している。	メンタルヘルスケアの意義と管理監督者の役割を理解している。	メンタルヘルスケアの意義と管理監督者の役割の理解が不十分である。	メンタルヘルスケアの意義と管理監督者の役割を理解していない。
知識・理解	2. ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識を理解できる。	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識を大変よく理解している。	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識を十分理解している。	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識を理解している。	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識が不十分である。	ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識を理解していない。
思考・問題解決能力	1. 個々の労働者への配慮，労働者からの相談への対応方法を把握できる。	個々の労働者への配慮，労働者からの相談への対応方法を大変よく把握している。	個々の労働者への配慮，労働者からの相談への対応方法を十分把握している。	個々の労働者への配慮，労働者からの相談への対応方法を把握している。	個々の労働者への配慮，労働者からの相談への対応方法の把握が不十分である。	個々の労働者への配慮，労働者からの相談への対応方法の把握ができていない。
態度	1. 変化し続ける現代社会に対応するため，自他のこころの健康を保てるように学修意欲を持つことができる。	変化し続ける現代社会に対応するため，自他のこころの健康を保てるように学修意欲を持つことが大変よくできる。	変化し続ける現代社会に対応するため，自他のこころの健康を保てるように学修意欲を持つことが十分できる。	変化し続ける現代社会に対応するため，自他のこころの健康を保てるように学修意欲を持つことができる。	変化し続ける現代社会に対応するため，自他のこころの健康を保てるように学修意欲を持つことがあまりできない。	変化し続ける現代社会に対応するため，自他のこころの健康を保てるように学修意欲を持つことができない。

科目名	特別研究			授業番号	HG401	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	中野　ひとみ、森田　裕之								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，実習中の利用者との関わりを研究テーマとし，介護過程の手法を用い利用者の課題解決に向けて調査・研究を行う力を身につける。 実習中の事例をまとめ，他者にわかりやすく報告することができる力を修得する。								
到達目標	(1)対象者の生活課題を多角的に判断し，分析することで問題の解決能力を応用できる。 (2)介護過程を理解することができる。 (3)「福祉」に関する課題について多面的・多角的に調査し説明できる。 (4)他者へ自分の意見を説明することができる。 (5) 研究成果をまとめ，表現することが実行できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	実習Ⅱと関連した科目であることを意識して取り組むことが重要である。								

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション 事例研究とは何かを説明し，研究の進め方を理解する。 研究を進めるための資料整理の方法を理解する。	中野
第2回	事例研究とは何か 研究の進め方・準備の方法を理解する。 情報収集のポイントを理解する。	中野
第3回	図書館の活用方法(1) 文献検索方法・引用方法・著作権の注意点などを理解する。その1 CiNii Researchや Google scholar 等を用いての文献検索の方法を理解する。	中野
第4回	図書館の活用方法(2) 文献検索方法・引用方法・著作権の注意点などを理解する。その2 正しい引用・参考文献の活用方法を理解する。	中野
第5回	事例研究テーマの検討・データ収集の注意点などを学ぶ。 事例のテーマ設定の妥当性・研究方法の進め方を理解する。 ※各担当教員の指導	中野　森田　韓
第6回	文献調査・事例研究の方法を理解する。(1) 事例研究の開始し，自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み課題解決を行う。 論文の構成を考える。その１ ※各担当教員の指導	中野　森田　韓
第7回	文献調査・事例研究の方法を理解する。(2) 自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み課題解決を行う。 論文の構成を考える。その２ ※各担当教員の指導	中野　森田　韓
第8回	文献調査・事例研究の方法を理解する。(3) 自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。 データの整理を行い，必要に応じて統計処理や論文中に活用する表や図の作成を行う。その１ ※各担当教員の指導	中野　森田　韓
第9回	文献調査・事例研究の方法を理解する。(4) 自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。 データの整理を行い，必要に応じて統計処理や論文中に活用する表や図の作成及び写真の整理を行う。その２ ※各担当教員の指導	中野　森田　韓
第10回	文献調査・事例研究の方法を理解する。(5) 自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。 論文執筆を開始する。利用者情報の作成に取り掛かる。その1 ※各担当教員の指導	中野　森田　韓
第11回	文献調査・事例研究の方法を理解する。(6) 自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。 論文執筆を開始する。実施内容と評価の整理を行う。その２ ※各担当教員の指導	中野　森田　韓
第12回	文献調査・事例研究の方法を理解する。(7) 自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。 論文執筆を開始する。考察のまとめを行う。その３ ※各担当教員の指導	中野　森田　韓
第13回	文献調査・事例研究の方法を理解する。(8) 自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。 論文執筆を開始する。はじめに，結論，おわりについて構成を行う。その４ ※各担当教員の指導	中野　森田　韓
第14回	文献調査・事例研究の方法を理解する。(9) 自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。 論文執筆を開始する。はじめに，結論，おわりについて構成を行い，必要な文献を活用しまとめを行う。その５ ※各担当教員の指導	中野　森田　韓
第15回	文献調査・事例研究の方法を理解する。(10) 自ら主体的に目的意識を持って研究に取り組み，課題解決を行う。 論文執筆を開始する。全体の構成を確認する。その６ ※各担当教員の指導	中野　森田　韓

第16回	中間発表を行い，事例研究内容再検討の方法を理解する。 研究内容を再確認し，適宜修正を行う。その１ ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第17回	要旨の作成を理解する。 研究内容を確認し，適宜修正を行う。その２ ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第18回	要旨の添削・ディスカッションを行う。(1) 研究内容を確認し，適宜修正を行う。その３ ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第19回	要旨の添削・ディスカッションを行う。(2) 研究内容を確認し，適宜修正を行う。その４ 要旨の提出を期日までに行う。 ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第20回	事例研究発表会（プレゼンテーション）の資料の作成を行う。 各自研究内容を確認し，適宜修正を行う。その５ ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第21回	事例研究発表会（プレゼンテーション）の添削・修正を行う。(1) ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第22回	事例研究発表会（プレゼンテーション）の添削・修正を行う。(2) ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第23回	事例研究発表会の発表練習を行い，自らの課題を見つけ修正することが出来る。 ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第24回	事例研究発表会の発表資料の作成や準備を行う。 ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第25回	事例研究発表会のリハーサルを行い，指導された内容を確認・修正できる。 それぞれが与えらえた役割（座長・タイムキーパー他）を実施することができる。	中野 森田 韓
第26回	事例研究発表会で，自らの研究内容を発表することができる。(1) それぞれが与えらえた役割（座長・タイムキーパー他）を実施することができる。その１	中野 森田 韓
第27回	事例研究発表会で，自らの研究内容を発表することができる。(2) それぞれが与えらえた役割（座長・タイムキーパー他）を実施することができる。その2	中野 森田 韓
第28回	事例研究論文のまとめ・修正を行う。(1) 各自で論文の校正を行う。その１ ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第29回	事例研究論文のまとめ・修正を行う。(2) 各自で論文の校正を行う。その２ ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
第30回	研究論文の仕上げを行う。 指示された記載内容で書いてあるか，誤字脱字がないか最終確認を行い論文をまとめる。研究論文を期日までに提出を行う。 ※各担当教員の指導	中野 森田 韓
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	自分が取り上げた研究内容を文献などを用いまとめる努力しているか評価する。
レポート	30	課題やレポートにコメントを記入して返却する。研究内容が明確であるか，科学的視点やエビデンスに基づいた論文構成が出来ているか評価する。
小テスト		
定期試験		
その他	30	自分の意見を他者に的確に述べるための努力をしているか，また発表資料が適切にまとめられているか，発表態度及びプレゼンテーション資料の完成度によって評価する。

評価の方法：自由記載	・評価の方法：発表会においてプレゼンテーションが出来るとともに，質疑応答に対応できる。 ・課題やレポートにコメントを記入して返却する。 ・「特別研究発表会」でのプレゼンテーション発表を必須とする。 ・研究へ臨む姿勢，取り組み・研究内容・発表方法（プレゼンテーション含む）にて評価する。 ・研究発表日までの取り組み方、論文の構成内容で評価する。 ・最終完成した研究発表会におけるプレゼンテーションおよび研究論文は指定日までに提出を行うこと。
受講の心得	・担当教員により，各回の授業形態や進み具合は様々である。スムーズな取り組みが出来るよう学生は毎回の研究目標をしっかり持ち，臨むこと。 ・実習IIの介護過程実践のまとめとなります。 ・実習での情報収集を的確におこなうことが重要です。また，介護過程I～IIIまでを再度振り返り研究成果としてまとめられるようにしてください。
授業外学修	1週間に8時間以上の研究・調査等の活動を要する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	・使用テキストの指定はないが担当教員の指示をうけること。 ・自分に研究に必要な文献検索や本を図書館などを適宜活用しながらを進めていく。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	・研究成果や論文をまとめるにあたり，授業外での活動も自分自身で調整しながら行っていく必要があります。 ・研究を進めるにあたり，必ず担当教員と連絡を行いながら進めていくこと。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	中野：看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。認知症キャラバンメイト。 森田：通所リハビリテーション介護職員（2年半），訪問介護管理者兼サービス提供責任者(5年半) 韓：介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員5年，訪問介護員として1年の実務経験がある。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	中野：看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。 森田：高齢者や障害者に対する介護経験を活かし、介護福祉士に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する 韓：高齢者や障害者に対する介護経験を活かし、介護職員に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.介護過程を理解することができている。	介護過程のPDCAを理解し，介護問題を個別性に応じた展開ができている。	介護過程の介護問題を見つけアセスメント出来，展開の方法を理解しているが介護計画や目標設定が一部不十分である。	介護過程の介護問題を見つけることができ，アセスメント出来るが内容が不十分であり展開ができない。	介護過程の介護問題を見つけることが出来るアセスメントが浮かばず展開ができない。	介護過程が全く理解できていない。
知識・理解	2.研究論文が課題に対して適切にまとめられている。	研究論文は，介護過程に応じた内容であり，適切な考察及びまとめや今後の課題など内容がぶれることなくまとまり良く書けている。書くための材料は適切に整理されている。	研究論文は，介護過程に応じた内容ではあり問題点と最後のまとめも出来ているが全体の内容がやや浅い。書くための材料は整理されている。	研究論文は，介護過程に応じた内容ではあるが，問題点と最後のまとめの内容がずれている。書くための材料は一部整理されていない。	研究論文は介護過程の展開が出来ていないため書けるため材料が整理されていないが，作成中にまとめようとする努力は見られる。	研究論文が全く書けない。書くための材料が整理されていない。
知識・理解	3.プレゼンテーション機能を用い，自分の研究内容が適切にまとめてられている。	プレゼンテーション内容は，研究内容を的確にまとめた内容でわかりやすい。また，字体・色使い・アニメーションなどが効果的に使用されわかりやすい。スライド枚数も適量で仕上がっている。	プレゼンテーション内容は，研究内容をまとめた内容であり報告内容にずれもない。しかし一部字体・色使い・アニメーションなどが効果的に使用されていない。スライド枚数は適量で仕上がっている。	プレゼンテーション内容は，研究内をある程度まとめたものであるが、報告内容にややずれがある。また字体や色使い・アニメーションなど効果的に用いられていない。スライド枚数が少ない，逆に極端に多い。	発表スライドがわかりにくく，プレゼンテーション機能が効果的に用いられていない。スライド枚数が少ない，逆に極端に多い	プレゼンテーション機能が全く使えない。スライド枚数が極端に少ない。
思考・問題解決能力	1.福祉に関する課題について多面的・多角的に調査し考察できている。	実習中の現場において自らがみつけた福祉課題を的確にアセスメントし，解決方法まで導き出し，文章にすることもできている。論文に一貫性がある。	実習中の現場において自らがみつけた福祉課題をアセスメントまではでき文章にすることもできている。不十分ではあるが解決方法まで一部導き出すことができている。論文に一貫性がややある。	実習中の現場において自らがみつけた福祉課題を不十分ではあるがアセスメントまではでき文章にすることまではできている。解決方法までは，導き出すことができていない。論文に一貫性が不十分である。	実習中の現場において自らがみつけた福祉課題について曖昧なアセスメントまでは浮かぶが文章としてまとめることができていない。論文の一貫性は不十分である。	実習中の福祉課題が全く浮かばない。論文に一貫性が全くなく，書けていない。
思考・問題解決能力	2.研究内容の問題点が明確であり，的確な答えを導きだしている。	研究内容の問題点が明確でに挙げることができ，それを解決するための的確な答えを導きだしている。	研究内容の問題点が明確でに挙げることができ，それを解決するための答えを導きだしている。	研究内容の問題点がやや不明瞭ではあるが，自分なりにそれを解決するための答えを導きだしているが修正が必要である。	研究内容の問題点が内容とずれている。助言をして修正をすることができる。	研究内容の問題点が内容とずれている。また助言をしても修正ができない。
技能	1.倫理的・人権的配慮を行いながら研究を遂行し，研究技法を適切に活用した成果物としてまとめられている。	研究内容に一貫性があり，倫理的・人権配慮も問題なく研究が遂行できている。引用・参考文献の使い方に問題はなく，適切に活用されている。また，データ処理が正しく行われ，図や表に適切にまとめられている。	研究内容に一貫性があり，倫理的・人権配慮も問題なく研究が遂行できている。引用・参考文献の使い方に問題はなく，ある程度活用されている。また，データ処理が正しく行われ，図や表にまとめられている。	研究内容に一貫性があり，倫理的・人権配慮を行いながら研究が遂行できている。引用・参考文献が間違えていたり，一部しか活用されていない。また，データ処理が行われ，図や表に一部まとめられている。	研究内容にやや一貫性があり，倫理的・人権配慮がやや足りていない。引用・参考文献の使い方にが間違えていて，あまり活用ができていない。また，データ処理に一部問題があり，図や表があまりできていない。	研究内容に一貫性がなく，倫理的・人権配慮が足りていない。引用・参考文献が全く活用できていない。また，データ処理に問題があり，図や表が全くできていない。
態度	1.本研究成果をまとめて他者へ自分の意見を述べることができ，表現する力を修得している。	研究成果を他者へ自分の言葉でしっかりと伝える事ができ，まとまりよく質問に対しても的確な応対ができている。また，発表者として学生らしい服装や好感の持てる態度，言葉遣いで表現する力を身につけている。	本研究成果を他者へ自分の言葉でしっかりと伝える事ができ，まとまりよく質問に対しても応対ができている。発表者として学生らしい服装や好感の持てる態度，言葉遣いが一部かけている。	本研究成果を他者へ自分の言葉で伝える事ができているがまとまりに欠け質問には答えられない。また，発表者として学生らしい態度にやや欠けている。	本研究成果を他者へ自分の言葉で伝えようとする努力はしているが，内容にまとまりになく聞き取りずらい。学生らしい服装や言葉遣い，好感の持てる態度も欠けている。	本研究成果が全くまとまりなく話す内容もまとまりがない。また，学生らしい服装や言葉遣い，好感の持てる態度も欠けている。

科目名	診療報酬請求事務Ⅰ			授業番号	HM101	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	わが国の診療報酬請求事務に関する基礎知識，診療報酬明細書作成（外来）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務Ⅰ」を講義形態で学び，「診療報酬請求事務演習Ⅰ」を演習形態で問題を解く，という順番で展開する。よって，本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務演習Ⅰ」も履修すること。前期「医療管理事務総論A」の単位取得が本科目の履修要件である。 また，医療事務の資格試験である医療事務技能認定試験，医療事務管理士®技能認定試験の試験対策科目でもある。医療事務コース選抜に関わる科目である。								
到達目標	・診療報酬制度の仕組みが理解できる。 ・診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を身に付ける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	投薬料 内服薬，頓服薬，外用薬の特徴とそれぞれ算定方法，五捨五超入の公式を用いた計算について理解する。	
第2回	注射料 筋肉内注射，静脈内注射，点滴注射の特徴とそれぞれの算定方法について理解する。	
第3回	処置料・リハビリテーション料 処置とリハビリテーションの算定方法について理解する。	
第4回	レセプト問題説明（1） これまで学んだ算定に関する復習をする。	
第5回	手術料・麻酔料 手術と麻酔の算定方法について理解する。	
第6回	検査料（1）検体検査（尿，血液） 検体検査の尿検査，血液学的検査の算定方法について理解する。	
第7回	検査料（2）検体検査（生化学，免疫学），生体検査 生化学的検査，免疫学的検査等の検体検査および心電図，超音波検査等の生体検査の算定方法について理解する。	
第8回	レセプト問題説明（2） これまで学んだ算定に関する復習をする。	
第9回	画像診断料（1） X-Pの画像診断の算定方法について理解する。	
第10回	画像診断料（2） CT，MRIの画像診断の算定方法について理解する。	
第11回	外来レセプト作成説明（1） これまで学んだ全ての診療行為のレセプト作成方法について理解する。	
第12回	外来レセプト作成説明（2） これまで学んだ全ての診療行為のレセプト作成方法について理解する。	
第13回	入院料（1） 入院料，食事療養費の算定方法について理解する。	
第14回	入院料（2） 加算項目の入った入院料の算定方法について理解する。	
第15回	レセプト総合学習 医療事務技能認定試験の過去問題を解説する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	診療報酬請求事務の知識と技能は，医療事務職員にとって必要不可欠である。わからないことがあると全体の理解度に影響するため，積極的に質問して理解すること。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2. 復習として，練習問題を解く。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
医療事務講座スタンダードコース テキスト3	株式会社ソラスト	株式会社ソラスト	なし	2，000円 + 税
医療事務講座スタンダードコース トレーニングブック	株式会社ソラスト	株式会社ソラスト	なし	2，500円 + 税
医療事務講座 レセプト記載ルール	株式会社ソラスト	株式会社ソラスト	なし	1，000円 + 税
医療事務講座・調剤薬局事務講座 学習用薬価表	株式会社ソラスト	株式会社ソラスト	なし	300円 + 税
医療事務技能認定試験模擬問題集（2026年度版）	株式会社ソラスト	株式会社ソラスト	なし	2，300円 + 税

使用テキスト：自由記載	講義資料

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療機関で事務職員として勤務した経験を活かし，医療保険制度，診療報酬算定の仕組みを理解し，知識と技能を修得できるように指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 診療報酬制度の仕組みが理解できる。	診療報酬制度の仕組みにおいて全診療行為区分で大変よく理解している。	診療報酬制度の仕組みにおいてだいたいの診療行為区分で理解している。	診療報酬制度の仕組みにおいて一部の診療行為区分で理解している。	診療報酬制度の仕組みにおいてほとんどの診療行為区分で理解が不十分である。	診療報酬制度の仕組みにおいて全診療行為区分の理解ができていない。
技能	1. 診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を身に付ける。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を全診療行為区分において大変よく身に付けている。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能をだいたいの診療行為区分において十分に身に付けている。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を一部の診療行為区分において身に付けている。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能がほとんどの診療行為区分において身に付きが不十分である。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能が全診療行為区で身に付いていない。

科目名	診療報酬請求事務演習Ⅰ			授業番号	HM102	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	わが国の診療報酬請求事務に関する基礎知識，診療報酬明細書作成（外来）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務Ⅰ」を講義形態で学び，「診療報酬請求事務演習Ⅰ」を演習形態で問題を解く，という順番で展開する。よって，本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務Ⅰ」も履修すること。前期「医療管理事務総論A」の単位取得が本科目の履修要件である。 また，医療事務の資格試験である医療事務技能認定試験，医療事務管理士®技能認定試験の試験対策科目でもある。医療事務コース選抜に関わる科目である。								
到達目標	・診療報酬制度の仕組みが理解できる。 ・診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を身に付ける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	投薬料 内服薬，頓服薬，外用薬の特徴とそれぞれ算定方法，五捨五超入の公式を用いた計算について演習を通して理解する。	
第2回	注射料 筋肉内注射，静脈内注射，点滴注射の特徴とそれぞれの算定方法について演習を通して理解する。	
第3回	処置料・リハビリテーション料 処置とリハビリテーションの算定方法について演習を通して理解する。	
第4回	レセプト問題演習（1） これまで学んだ算定に関する復習をし，問題を解く。	
第5回	手術料・麻酔料 手術と麻酔の算定方法について演習を通して理解する。	
第6回	検査料（1）検体検査（尿，血液） 検体検査の尿検査，血液学的検査の算定方法について演習を通して理解する。	
第7回	検査料（2）検体検査（生化学，免疫学），生体検査 生化学的検査，免疫学的検査等の検体検査および心電図，超音波検査等の生体検査の算定方法について演習を通して理解する。	
第8回	レセプト問題演習（2） これまで学んだ算定に関する復習をし，問題を解く。	
第9回	画像診断料（1） X-Pの画像診断の算定方法について演習を通して理解する。	
第10回	画像診断料（2） CT，MRIの画像診断の算定方法について演習を通して理解する。	
第11回	外来レセプト作成演習（1） これまで学んだ全ての診療行為のレセプト作成方法について理解し，問題を解く。	
第12回	外来レセプト作成演習（2） これまで学んだ全ての診療行為のレセプト作成方法について理解し，問題を解く。	
第13回	入院料（1） 入院料，食事療養費の算定方法について演習を通して理解する。	
第14回	入院料（2） 加算項目の入った入院料の算定方法について演習を通して理解する。	
第15回	レセプト総合学習 医療事務技能認定試験の過去問題を演習を通して理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	診療報酬請求事務の知識と技能は，医療事務職員にとって必要不可欠である。わからないことがあると全体の理解度に影響するため，積極的に質問して理解すること。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2. 復習として，練習問題を解く。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
医療事務講座スタンダードコース テキスト3	株式会社ソラスト	株式会社ソラスト	なし	2，000円 + 税
医療事務講座スタンダードコース トレーニングブック	株式会社ソラスト	株式会社ソラスト	なし	2，500円 + 税
医療事務講座 レセプト記載ルール	株式会社ソラスト	株式会社ソラスト	なし	1，000円 + 税
医療事務講座・調剤薬局事務講座 学習用薬価表	株式会社ソラスト	株式会社ソラスト	なし	300円 + 税
医療事務技能認定試験模擬問題集（2026年度版）	株式会社ソラスト	株式会社ソラスト	なし	2，300円 + 税

使用テキスト：自由記載	講義資料

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療機関で事務職員として勤務した経験を活かし，医療保険制度，診療報酬算定の仕組みを理解し，知識と技能を修得できるように指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 診療報酬制度の仕組みが理解できる。	診療報酬制度の仕組みにおいて全診療行為区分で大変よく理解している。	診療報酬制度の仕組みにおいてだいたいの診療行為区分で理解している。	診療報酬制度の仕組みにおいて一部の診療行為区分で理解している。	診療報酬制度の仕組みにおいてほとんどの診療行為区分で理解が不十分である。	診療報酬制度の仕組みにおいて全診療行為区分の理解ができていない。
技能	1. 診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を身に付ける。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を全診療行為区分において大変よく身に付けている。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能をだいたいの診療行為区分において十分に身に付けている。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能を一部の診療行為区分において身に付けている。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能がほとんどの診療行為区分において身に付きが不十分である。	診療報酬請求明細書（外来）を作成する技能が全診療行為区で身に付いていない。

科目名	医事コンピュータ演習Ⅰ			授業番号	HM103	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	医療事務職員として必要だと思われるWord，Excelの機能について演習を行う。医療機関の専門用語を用いた文書作成、患者数を用いた統計データの分析，重要な指標である患者満足度の調査に関連してアンケート調査についても学ぶ。								
到達目標	・Wordを使用して医療機関の文書作成ができる。 ・Excelを使用して医事統計資料を作成できる。 ・医事統計資料を作成するために必要な臨床指標，統計学の基礎知識を理解している。 ・アンケート調査，集計，分析方法を理解している。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	医療文書の作成(1)：院内院外メール文章を作成し，社会人としてのメールの書き方を理解する。	
第2回	医療文書の作成(2)：院内通知文書，診療予定表を作成する。	
第3回	医療文書の作成(3)：図表，文字の装飾機能を用いて患者さんにわかりやすい休診日掲示物の作成をする。	
第4回	医療文書の作成(4)：SOAP形式でカルテを作成し，カルテの読み方を理解する。	
第5回	医療文書の作成(5)：Wordの文字や表の挿入を用いて診療情報提供書（紹介状），退院証明書を作成する。	
第6回	医療文書の作成(6)：Wordの文字や表の挿入を用いて手術同意書，診断書を作成する。	
第7回	医療統計(1) ：臨床指標，データの尺度と性質を理解する。	
第8回	医療統計(2)：基本統計量算出方法，グラフの種類について理解する。	
第9回	医療統計(3)：外来・入院患者数集計の練習をする。	
第10回	医療統計(4)：性別・年齢別・地域別・診療科別・疾患別患者数の集計をする。	
第11回	医療統計(5)：散布図と相関分析について理解する。	
第12回	医療データを用いた分析(1)：患者数データを用いて関数，図表で分析し，そのデータが意味することを考える。	
第13回	医療データを用いた分析(2)：患者満足度アンケート作成方法と分析方法を学ぶ。	
第14回	医療データを用いた分析(3)：患者満足度アンケート結果のデータを用いてアンケート集計，ヒストグラムを作成する方法を学ぶ。	
第15回	医療データを用いた分析(4)：アンケート結果のデータを用いてアンケート集計，ピボットテーブルを作成する方法を学ぶ。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，演習への取り組みで評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	70	Wordによる医療関連文書作成，Excelによる図表作成と医療データ集計の完成度で評価し，授業でフィードバックする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	医療事務の仕事をする上で必要なパソコンを用いた演習である。医療事務コースの学生は必ず受講すること。医療機関事務職員のパソコン業務の練習なので，医療機関の業務内容，医療用語の理解に努めること。
授業外学修	1. パソコンの操作練習をする。 2. 授業で出てきた医療専門用語は自分でも調べて復習する。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
医療事務講座　資料ブック	株式会社ソラスト	株式会社ソラスト	なし	2，000円 + 税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	医療機関の受付・会計，データ分析，医療におけるビジネス文書作成等の経験をいかして指導する。			

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．医事統計資料を作成するために必要な臨床指標、統計学の基礎知識を理解している。	医事統計資料を作成するために必要な臨床指標，統計学の基礎知識を大変よく身に付けている。	医事統計資料を作成するために必要な臨床指標，統計学の基礎知識を大変よく身に付けている。	医事統計資料を作成するために必要な臨床指標，統計学の基礎知識をよく身に付けている。	医事統計資料を作成するために必要な臨床指標，統計学の基礎知識が不十分である。	医事統計資料を作成するために必要な臨床指標，統計学の基礎知識が身に付いていない。
知識・理解	２．アンケート調査，集計，分析方法の知識を理解している。	アンケート調査，集計，分析方法の知識を大変よく理解している。	アンケート調査，集計，分析方法の知識をよく理解している。	アンケート調査，集計，分析方法の知識を十分理解している。	アンケート調査，集計，分析方法の知識理解が不十分である。	アンケート調査，集計，分析方法の知識を理解していない。
技能	１．Wordを使用して医療機関の文書作成ができる。	Wordを使用して医療機関の文書作成が大変よくできる。	Wordを使用して医療機関の文書作成がよくできる。	Wordを使用して医療機関の文書作成が十分できる。	Wordを使用して医療機関の文書作成があまりできない。	Wordを使用して医療機関の文書作成がほとんどできない。
技能	２．Excelを使用して医事統計，アンケート集計資料が作成できる。	Excelを使用して医事統計，アンケート集計資料の作成が大変よくできる。	Excelを使用して医事統計，アンケート集計資料の作成がよくできる。	Excelを使用して医事統計，アンケート集計資料の作成が十分できる。	Excelを使用して医事統計，アンケート集計資料の作成があまりできない。	Excelを使用して医事統計，アンケート集計資料の作成がほとんどできない。

科目名	医療管理事務総論A			授業番号	HM201	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	医療機関の特徴，医療機関で働く職員の職種とその業務内容，医療の法律，診療報酬制度について学ぶ。現在の医療費の社会問題についても言及する。 後期「診療報酬請求事務Ⅰ」「診療報酬請求事務演習Ⅰ」の履修要件は本科目の単位取得である。 また，医療事務の資格試験である医療事務技能認定試験，医療事務管理士®技能認定試験の試験対策科目でもある。医療事務コース選抜に関わる科目である。								
到達目標	・医療機関の特徴，医療職種と業務内容を理解できる。 ・医療保険制度，保険給付のしくみについて理解できる。 ・様々な医療保障制度を理解できる。 ・診療報酬制度の基礎について理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	医療の歴史，健康管理 医療の歴史を通して健康管理，疾病予防の基礎知識を理解する。	
第2回	病院の組織と医療職種 医師，看護師，コメディカルといった医療従事者の種類，業務内容を理解する。	
第3回	医療機関の種類 病院と診療所について，かかりつけ医制度について理解する。	
第4回	多職種連携と地域包括ケアシステム 在宅医療を例に紹介した医療職種の連携，地域包括ケアシステムについて理解する。	
第5回	医療保険制度（1） 被用者保険，国民健康保険，後期高齢者医療制度といった保険の種類について理解する。	
第6回	医療保険制度（2） 被用者保険，国民健康保険，後期高齢者医療制度といった各保険の特徴について理解する。	
第7回	保険給付のしくみ 保険給付の範囲と種類，給付割合と患者負担割合，高額療養費，保険外併用療養費について理解する。	
第8回	その他の医療保障制度（1） 公費負担医療制度，生活保護法，難病法，感染症法，労働者災害補償保険法といった法について理解する。	
第9回	その他の医療保障制度（2） 介護保険制度の背景，被保険者の特徴，要介護度認定の流れについて理解する。	
第10回	医療事務の基礎知識（1） 医療従事者としての基本と心構え，医療事務の仕事内容について理解する。	
第11回	医療事務の基礎知識（2） 点数査定の原則，診療報酬点数表，DPC制度について理解する。	
第12回	初・再診料（1） 初診料の定義と算定の規則について理解する。	
第13回	初・再診料（2） 再診料の定義と算定の規則について理解する。	
第14回	医学管理料 医学管理料の算定規則，特定疾患療養管理料，特定疾患治療管理料，診療情報提供料，薬剤情報提供料について理解する。	
第15回	在宅医療料 在宅患者診療・指導料，在宅療養指導管理料，在宅自己注射指導管理料について理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	医療事務職員として就職したい学生にとっては必須の知識が多い。資格試験のみならず，医療機関の就職試験にも出題されることがあるため，就職試験対策にもつながることを意識して受講すること。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読む。 2. 復習として，テキストにある問題を復習する。 3. 医療に関わる新聞記事を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
医療事務講座・調剤薬局事務講座　テキスト1	株式会社ソラスト	株式会社ソラスト	なし	1，500円 + 税
医療事務講座スタンダードコース　テキスト2	株式会社ソラスト	株式会社ソラスト	なし	2，000円 + 税
医療事務講座　資料ブック	株式会社ソラスト	株式会社ソラスト	なし	2，000円 + 税
使用テキスト：自由記載	講義資料			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	マンガでわかる!医療制度・病院のしくみに学ぶ「患者トラブル」防止法(日本医療企画)　よくわかる 図解 病院の学習書（ロギカ書房）　マンガでやさしくわかる病院と医療のしくみ（日本能率協会マネジメントセンター）　マンガ 誰でもわかる医療政策のしくみ vol.1（SCICUS）　マンガ 誰でもわかる医療政策のしくみ vol.2（SCICUS）　マンガ 誰でもわかる医療政策のしくみ vol.3（SCICUS）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療機関で事務職員として勤務した経験を活かし，事務職員の役割，医療保険制度，多職種との連携することの大切さを理解できるように指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 医療機関の特徴，医療職種と業務内容が理解できる。	医療機関の特徴，医療職種と業務内容を大変よく理解している。	医療機関の特徴，医療職種と業務内容を十分理解している。	医療機関の特徴，医療職種と業務内容を理解している。	医療機関の特徴，医療職種と業務内容の理解が不十分である。	医療機関の特徴，医療職種と業務内容において理解していない。
知識・理解	2. 医療保険制度，保険給付のしくみについて理解できる。	医療保険制度，保険給付のしくみについて大変よく理解している。	医療保険制度，保険給付のしくみについて十分理解している。	医療保険制度，保険給付のしくみについて理解している。	医療保険制度，保険給付のしくみについて理解が不十分である。	医療保険制度，保険給付のしくみについて理解していない。
知識・理解	3. 様々な医療保障制度を理解できる。	様々な医療保障制度を大変よく理解している。	様々な医療保障制度を十分理解している。	様々な医療保障制度を理解している。	様々な医療保障制度の理解が不十分である。	様々な医療保障制度を理解していない。
知識・理解	4. 診療報酬制度の基礎について理解できる。	診療報酬制度の基礎について大変よく理解している。	診療報酬制度の基礎について十分理解している。	診療報酬制度の基礎について理解している。	診療報酬制度の基礎について理解が不十分である。	診療報酬制度の基礎について理解していない。
態度	今後も変化していくと思われる医療保険制度への学修意欲を感じられる。	今後も変化していくと思われる医療保険制度への学習意欲を大変よく感じられる。	今後も変化していくと思われる医療保険制度への学習意欲を十分感じられる。	今後も変化していくと思われる医療保険制度への学習意欲を感じられる。	今後も変化していくと思われる医療保険制度への学習意欲をあまり感じられない。	今後も変化していくと思われる医療保険制度への学習意欲を感じられない。

科目名	秘書学			授業番号	HM202	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	秘書という職種に限らず，上司を補佐することは社会人の重要な仕事の一つである。秘書業務を通して社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇，技能について学ぶ。テキストやDVD教材を用いて接遇の視覚的な学修にも重点を置く。2年生後期の「接遇演習」を履修する学生は，本科目の単位取得と成績が履修条件になる。医療事務コース選抜に関わる科目である。								
到達目標	・社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇，技能を学び，秘書検定2級程度の知識を身に付ける。 ・医療機関を事例にした接遇を学ぶことで，来客応対，電話応対の基礎知識を理解する。 ・秘書業務や接遇事例で学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ビジネスマナーの基礎（1） 社会人としての服装，身だしなみ，挨拶，言葉づかいについて理解する。	
第2回	ビジネスマナーの基礎（2） 社会人としての電話，社内，訪問先，接客におけるマナーについて理解する。	
第3回	秘書業務の基本 秘書業務に携わる時の心構え，秘書業務の内容と進め方について理解する。	
第4回	秘書に必要とされる資質（1） 後輩の指導，秘書の仕事の限界，秘書の高度な判断力，企業機密，秘書のパーソナリティー，秘書業務に携わる時の心構えについて理解する。	
第5回	秘書に必要とされる資質（2） 上司の指示の受け方，秘書の身だしなみ，業務の引き継ぎ，心遣い，必要な能力と資質について理解する。	
第6回	職務知識 補佐機能の本質，上司の出張，不意の客の対応，予約のある客の対応について理解する。	
第7回	接遇表現，話し方・電話応対の実際 好感を与える話し方，信頼される電話応対，尊敬語，謙譲語，言葉づかいについて理解する。	
第8回	秘書のマナー・接遇 席次，来客応対，弔辞のマナーと上書き，慶事などの上書きと贈答マナーについて理解する。	
第9回	秘書の技能（1） 宛名，書類の分類方法，弔事，敬称，時候の挨拶，ビジネス文書の慣用句，年齢について秘書検定の問題を解きながら理解する。	
第10回	秘書の技能（2） 社交文書，尊敬語と謙譲語，表書きについて秘書検定の問題を解きながら理解する。	
第11回	秘書の技能（3） 敬語，接遇，社内文書，慣用句，上書き，社外文書，グラフ作成について秘書検定の問題を解きながら理解する。	
第12回	医療機関を事例にした接遇（1） あいさつ，表情，態度，身だしなみ，言葉づかいの事例を見て接遇について理解する。	
第13回	医療機関を事例にした接遇（2） 電話応対，受付応対等の事例を見て接遇について理解する。	
第14回	医療機関を事例にした接遇（3） 感じの良い態度や表情，心配りを示す言葉づかいの事例を見て接遇について理解する。	
第15回	医療機関を事例にした接遇（4） クレームへの対応等の事例を見て接遇について理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	試験は持込不可である。
受講の心得	仕事をする上でのビジネスマナー，接遇の基本を身に付ける気持ちで取り組む。日常生活においても気持ちの良い挨拶，行動を心がけること。一般事務，営業・販売，サービス，医療事務等で就職を考えている学生は，参考になる事例が多い。秘書検定に関心のある学生は，6月，11月，2月に行われる秘書検定3級，2級の試験対策でもあることを意識する。すでに秘書検定2級に合格している学生は，知識や理解をさらに深めて上位級に挑戦することを推奨する。資格試験のみならず，就職試験にも出題されることがあるため，就職試験対策にもつながることを意識して受講すること。
授業外学修	1. テキスト，講義資料を読み，問題を復習する。 2. 会話の中で，尊敬語，謙譲語，丁寧語を意識して正しく使用する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂2版 出る順問題集 秘書検定2級に面白いほど受かる本	佐藤 一明	KADOKAWA/中経出版	978-4046041029	1，400 + 税

使用テキスト：自由記載	講義資料

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	秘書検定2級実問題集（実務技能検定協会）　秘書検定準1級実問題集（実務技能検定協会）　マンガでわかる秘書検定2級直前対策（トレンドプロ）　秘書業務入門（DVD：日本経済新聞出版社）　秘書検定準1級面接合格マニュアル（DVD：実務技能検定協会）　秘書検定1級面接合格マニュアル（DVD：実務技能検定協会）　病医院職員のための接遇マナー講座(DVD：日経ヘルスケア21)　医療スタッフの接遇マニュアル（DVD：日本経済新聞出版社）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療機関での患者・来客応対，電話応対等の接遇経験，上司や医師から指示を受けて業務をしてきた経験をもとに、社会人としてのビジネスマナーを理解できるように授業を展開する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇，技能を学び，秘書検定2級程度の知識を身に付ける。	社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇において大変よく知識が身に付けている。	社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇において十分な知識が身に付いている。	社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇において知識が身に付いている。	社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇において知識が不十分である。	社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇において知識がない。
知識・理解	2. 医療機関を事例にした接遇を学ぶことで，来客応対，電話応対の基礎知識を理解する。	来客応対，電話応対の基礎知識を大変よく理解している。	来客応対，電話応対の基礎知識においてだいたいの流れは十分理解している。	来客応対，電話応対の基礎知識において，理解している。	来客応対，電話応対の基礎知識において，理解が不十分である。	来客応対，電話応対の基礎知識において，応対の流れを理解できていない。
態度	1. 秘書業務や接遇事例で学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることができる。	秘書業務や接遇事例で学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることが大変よくできる。	秘書業務や接遇事例で学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることが十分できる。	秘書業務や接遇事例で学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることができる。	秘書業務や接遇事例で学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることがあまりできない。	秘書業務や接遇事例で学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることができない。

科目名	医療管理事務総論B			授業番号	HM203	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態		必修・選択	選択
授業概要	医療情報システムを導入，運用している医療機関が多くなっている。情報技術の発展に伴う医療安全，個人情報保護，医療文書の知識，電子カルテ，医療情報システムの特徴について学ぶ。また、介護保険制度を理解した上で，介護保険サービスを利用するための要件やサービスの種類，介護報酬の算定方法について学修する。本科目を履修する要件として，「医療管理事務総論A」の単位を取得しておくことが望ましい。								
到達目標	・医療安全，個人情報保護，医療文書の知識を理解している。 ・電子カルテ，医療情報システムの特徴を理解している。 ・介護保険制度の仕組みや背景について理解している。 ・介護報酬算定を理解し，介護レセプトを作成する知識を有している。 ・今後も変化していくと思われる医療情報管理，介護保険制度への学習意欲を有している。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	医療安全管理と対策：安全適切な医療，医療安全とコミュニケーションについて理解する。	
第2回	診療情報と個人情報保護(1)：医療現場での個人情報保護，情報の取り扱いの注意点について理解する。	
第3回	診療情報と個人情報保護(2)：医療現場での個人情報保護，情報漏洩経路と注意点，人的対策について理解する。	
第4回	医療にかかわるさまざまなシステム(1)：電子カルテシステム等の病院情報システムについて理解する。	
第5回	医療にかかわるさまざまなシステム(2)：電子カルテシステム等の病院情報システムについて理解する。	
第6回	医療にかかわるさまざまなシステム(3)：レセプト電算処理システムとオンライン請求，地域医療システムと遠隔医療システム等の情報システムについて理解する。	
第7回	医療にかかわるさまざまなシステム(4)：クラウドを利用した電子カルテシステム等の情報システムについて理解する。	
第8回	医師事務作業補助者の文書作成：医師事務作業補助者，医療機関が交付する文書等について理解する。	
第9回	介護保険制度、介護事務業務：介護保険制度の仕組み，介護事務業務について理解する。	
第10回	レセプト、介護報酬請求事務の基本：介護事務におけるレセプト，介護報酬請求事務の基本について理解する。	
第11回	介護報酬算定の理解：介護報酬サービスコード表を用いた単位計算の方法を理解する。	
第12回	介護レセプト作成(1)：介護レセプトの介護サービスの単位と負担額計算を理解する。	
第13回	介護レセプト作成(2)：介護レセプトの介護サービスの単位と負担額計算を理解する。	
第14回	介護レセプト作成(3)：介護レセプトの介護サービスの単位と負担額計算を理解する。	
第15回	介護レセプト作成(4)：介護レセプトの介護サービスの単位と負担額計算を理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	医療安全，個人情報保護，医療文書，電子カルテ，医療情報システムの知識は，医療機関では一般常識になりつつあり，一般企業にも通じる話もあるので，理解に努める。また，介護保険の知識や介護報酬算定の技能は介護事務の仕事においては当然必須であるが，医療事務の仕事にも求められる時代になってきている。福祉・介護，医療分野への就職を目指す学生は仕事のことも意識して受講すること。
授業外学修	1. 予習として，教科書，講義資料の授業内容にかかわる部分を読む。 2. 復習として，教科書，講義資料の授業内容にかかわる部分，関連する記事，文献等を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新 医療秘書実務シリーズ 3 書籍名三訂 医療情報管理	野田雅司 伊藤敦子	建帛社	978-4767937397	2，100 + 税
'25-'26年版 これならわかる介護事務	小木曽加奈子	株式会社ナツメ社	978-4816376634	1，700 + 税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイドライン　「映像で知る情報セキュリティ」（DVD：情報処理推進機構）　「医療向け個人情報保護法対策」（DVD：東邦薬品）　医療情報システムの安全管理に関するガイドライン 第 6.0 版
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療情報システムの管理運用，電子カルテ運用保守，ヘルプデスク，情報セキュリティ対策，医療従事者への個人情報保護教育等の経験をいかして指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．医療安全，個人情報保護，医療文書の知識を理解している。	医療安全，個人情報保護，医療文書の知識を大変よく理解している。	医療安全，個人情報保護，医療文書の知識をよく理解している。	医療安全，個人情報保護，医療文書の知識を十分理解している。	医療安全，個人情報保護，医療文書の知識の理解が不十分である。	医療安全，個人情報保護，医療文書の知識を理解していない。
知識・理解	2．電子カルテ，医療情報システムの特徴を理解している。	電子カルテ，医療情報システムの特徴を大変よく理解している。	電子カルテ，医療情報システムの特徴をよく理解している。	電子カルテ，医療情報システムの特徴を十分理解している。	電子カルテ，医療情報システムの特徴の理解が不十分である。	電子カルテ，医療情報システムの特徴を理解していない。
知識・理解	3．介護保険制度の仕組みや背景について理解している。	介護保険制度の仕組みや背景について大変よく理解している。	介護保険制度の仕組みや背景についてよく理解している。	介護保険制度の仕組みや背景について十分理解している。	介護保険制度の仕組みや背景について理解が不十分である。	介護保険制度の仕組みや背景について理解していない。
知識・理解	4．介護報酬算定を理解し，介護レセプトを作成する知識を有している。	介護報酬算定を理解し，介護レセプトを作成する知識を大変よく有している。	介護報酬算定を理解し，介護レセプトを作成する知識をよく有している。	介護報酬算定を理解し，介護レセプトを作成する知識を十分有している。	介護報酬算定を理解し，介護レセプトを作成する知識が不十分である。	介護報酬算定を理解し，介護レセプトを作成する知識がない。
態度	1．今後も変化していくと思われる医療情報管理，介護保険制度への学習意欲を感じられる。	今後も変化していくと思われる医療情報管理，介護保険制度への学習意欲を大変よく感じられる。	今後も変化していくと思われる医療情報管理，介護保険制度への学習意欲をよく感じられる。	今後も変化していくと思われる医療情報管理，介護保険制度への学習意欲を十分感じられる。	今後も変化していくと思われる医療情報管理，介護保険制度への学習意欲が不十分である。	今後も変化していくと思われる医療情報管理，介護保険制度への学習意欲を感じられない。

科目名	診療報酬請求事務Ⅱ			授業番号	HM204	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	診療報酬請求事務に関する知識，診療報酬明細書作成（外来・入院）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務II」を講義形態で学び，「診療報酬請求事務演習II」を演習形態で問題を解く，という順番で展開する。よって，本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務演習II」も履修すること。								
到達目標	・診療報酬における入院の算定方法を理解できる。 ・診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を身に付ける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	入院料（1） 入院料，食事療養費の算定方法について理解する。	
第2回	入院料（2） 加算項目の入った入院料の算定方法について理解する。	
第3回	入院レセプト作成 診療行為，食事療養費の入った入院レセプト作成方法について理解する。	
第4回	入院関係診療行為 手術，輸血，麻酔，リハビリテーションといった入院レセプト作成問題で出題される分野の算定方法について理解する。	
第5回	入院レセプト作成問題説明（1） 医療事務管理士®技能認定試験の入院レセプト作成について理解する。	
第6回	入院レセプト作成問題説明（2） 医療事務管理士®技能認定試験の入院レセプト作成について理解する。	
第7回	入院レセプト作成問題説明（3） 医療事務管理士®技能認定試験の入院レセプト作成について理解する。	
第8回	入院レセプト作成問題説明（4） 医療事務管理士®技能認定試験の入院レセプト作成について理解する。	
第9回	入院レセプト作成問題説明（5） 医療事務管理士®技能認定試験の入院レセプト作成について理解する。	
第10回	入院レセプト作成問題説明（6） 医療事務管理士®技能認定試験の入院レセプト作成について理解する。	
第11回	外来レセプト作成問題説明（1） 医療事務管理士®技能認定試験の外来レセプト作成について理解する。	
第12回	外来レセプト作成問題説明（2） 医療事務管理士®技能認定試験の外来レセプト作成について理解する。	
第13回	外来レセプト作成問題説明（3） 医療事務管理士®技能認定試験の外来レセプト作成について理解する。	
第14回	外来レセプト作成問題説明（4） 医療事務管理士®技能認定試験の外来レセプト作成について理解する。	
第15回	外来レセプト作成問題説明（5） 医療事務管理士®技能認定試験の外来レセプト作成について理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	85	総合的な理解度で評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	診療報酬請求事務の知識と技能は，医療事務職員にとって必要不可欠であり，医療事務コースの学生にとって重要科目の一つである。わからないことがあると全体の理解度に影響するため，積極的に質問して理解すること。医療事務管理士®技能認定試験に合格する気持ちで授業に臨むこと。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2. 復習として，練習問題を解く。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
【2024年版】医療事務講座 マスターコース テキスト3	ソラスト	ソラスト	なし	2，000円 + 税
【2024年版】医療事務講座 マスターコース トレーニングブック	ソラスト	ソラスト	なし	3，500円 + 税
【2024年版】医科レセプト集（診療報酬明細書）	ソラスト	ソラスト	なし	800円 + 税
【2024年版】医科診療報酬点数表（社会保険研究所）	社会保険研究所	社会保険研究所	9784789410625	3，000円 + 税
【2024年版】医科医療事務管理士 模擬問題集	ソラスト	ソラスト	なし	1，800円 + 税

使用テキスト：自由記載	講義資料

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療機関で事務職員として勤務した経験を活かし，医療保険制度，診療報酬算定の仕組みを理解し，知識と技能を修得できるように指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 診療報酬における入院の算定方法を理解できる。	診療報酬における入院の算定方法を大変よく理解している。	診療報酬における入院の算定方法を十分理解している。	診療報酬における入院の算定方法を理解している。	診療報酬における入院の算定方法の理解が不十分である。	診療報酬における入院の算定方法を理解していない。
技能	1. 診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を身に付ける。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を大変よく身に付けている。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を十分身に付けている。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を身に付けている。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能が不十分である。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能がない。

科目名	医事コンピュータ演習Ⅱ			授業番号	HM205	サブタイトル			
教員	仁宮　崇								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	Excelを用いて医事コンピュータを疑似体験するシステムを作成して使用する。システム作成を通してExcel関数を学び，医事コンピュータを使用する業務内容について学ぶ。政府統計にある医療に関するデータを利用して分析手法について理解する。医事コンピュータ演習Ⅰから学んできた内容をふまえてPowerPointを用いて発表資料を作成し，プレゼンテーションを行う。								
到達目標	・医事コンピュータシステムを用いた業務内容を理解している。 ・Excelの関数や技を使用して疑似医事コンピュータシステムを作成できる。 ・医療の公開データを用いて分析ができる。 ・PowerPointを用いた発表資料を作成し，プレゼンテーションができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	医事コンピュータ疑似体験(1)：Excel関数を用いて患者登録，受付業務のシステムを作成し，実際に使用してみる。	
第2回	医事コンピュータ疑似体験(2)：Excel関数を用いて患者情報をレセプトに表示するシステムを作成し，実際に使用してみる。	
第3回	医事コンピュータ疑似体験(3)：Excel関数を用いて簡単な診療行為を入力し，外来レセプトに表示するシステムを作成し，実際に使用してみる。	
第4回	医事コンピュータ疑似体験(4)：Excel関数を用いて診療行為を入力し，外来レセプトに表示するシステムを作成し，実際に使用してみる。	
第5回	医事コンピュータ疑似体験(5)：Excel関数を用いて診療行為を入力し，入院レセプトに表示するシステムを作成し，実際に使用してみる。	
第6回	医療データ分析練習(1)：政府統計の総合窓口（ｅ－Ｓｔａｔ）にある「患者調査」のデータを用いてデータを分析する練習を行う。	
第7回	医療データ分析練習(2)：政府統計の総合窓口（ｅ－Ｓｔａｔ）にある「国民生活基礎調査」のデータを用いてデータを分析する練習を行う。	
第8回	医療データ分析練習(3)：厚生労働省が公開している「NDBオープンデータ」の診療行為のデータを用いて分析練習を行う。	
第9回	医療データ分析練習(4)：厚生労働省が公開している「NDBオープンデータ」の特定健診のデータを用いて分析練習を行う。	
第10回	医療データ分析練習(5)：厚生労働省が公開している「介護DBオープンデータ」を用いて分析練習を行う。	
第11回	医療データを用いた資料作成と発表(1)：医療機関で行われる院内発表会の練習として医療データを用いた資料作成を行う。	
第12回	医療データを用いた資料作成と発表(2)：医療機関で行われる院内発表会の練習として医療データを用いた資料作成を行う。	
第13回	医療データを用いた資料作成と発表(3)：医療機関で行われる院内発表会の練習として医療データを用いた資料作成を行う。	
第14回	医療データを用いた資料作成と発表(4)：医療機関で行われる院内発表会の練習として医療データを用いた資料作成を行う。	
第15回	医療データを用いた資料作成と発表(5)：医療機関で行われる院内発表会の練習として医療データを用いた資料で発表を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的に演習に取り組んでいるかを評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	70	疑似医事コンピュータシステム，データ分析，発表資料，プレゼンテーションの完成度で評価し，授業でフィードバックする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	医療事務の仕事をする上で必要なパソコンを用いた演習である。医療事務コースの学生は必ず受講すること。医療機関事務職員のパソコン業務の練習なので，医療機関の業務内容，医療用語の理解に努めること。
授業外学修	1. パソコンの操作練習をする。 2. 授業で出てきた医療専門用語は自分でも調べて復習する。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療機関の受付・会計，データ分析，医療におけるビジネス文書作成，院内院外発表資料作成と学会発表の経験をいかして指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．医事コンピュータシステムを用いた業務内容を理解している。	医事コンピュータシステムを用いた業務内容を大変よく理解している。	医事コンピュータシステムを用いた業務内容をよく理解している。	医事コンピュータシステムを用いた業務内容をほぼ理解している。	医事コンピュータシステムを用いた業務内容の知識理解が不十分である。	医事コンピュータシステムを用いた業務内容を理解していない。
技能	１．Excelの関数や技を使用して疑似医事コンピュータシステムの作成ができる。	Excelの関数や技を使用して疑似医事コンピュータシステムの作成が大変よくできる。	Excelの関数や技を使用して疑似医事コンピュータシステムの作成がよくできる。	Excelの関数や技を使用して疑似医事コンピュータシステムの作成がほぼできる。	Excelの関数や技を使用して疑似医事コンピュータシステムの作成があまりできない。	Excelの関数や技を使用して疑似医事コンピュータシステムの作成ができない。
技能	２．医療の公開データを用いた分析ができる。	医療の公開データを用いた分析が大変よくできる。	医療の公開データを用いた分析がよくできる。	医療の公開データを用いた分析がほぼできる。	医療の公開データを用いた分析があまりできない。	医療の公開データを用いた分析ができない。
技能	３．PowerPointを用いた発表資料を作成し，プレゼンテーションができる。	PowerPointを用いた発表資料を作成し，プレゼンテーションが大変よくできる。	PowerPointを用いた発表資料を作成し，プレゼンテーションがよくできる。	PowerPointを用いた発表資料を作成し，プレゼンテーションがほぼできる。	PowerPointを用いた発表資料を作成し，プレゼンテーションがあまりできない。	PowerPointを用いた発表資料を作成し，プレゼンテーションができない。

科目名	診療報酬請求事務演習Ⅱ	授業番号	HM301	サブタイトル	
教員	仁宮 崇				
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	診療報酬請求事務に関する知識，診療報酬明細書作成（外来・入院）の技能を学ぶ。「診療報酬請求事務II」を講義形態で学び，「診療報酬請求事務演習II」を演習形態で問題を解く，という順番で展開する。よって，本科目を受講する学生は必ず「診療報酬請求事務II」も履修すること。				
到達目標	・診療報酬における入院の算定方法を理解できる。 ・診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を身に付ける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。				
授業計画 備考					

回	概要	担当
第1回	入院料（1） 入院料，食事療養費の算定に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第2回	入院料（2） 加算項目の入った入院料の算定に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第3回	入院レセプト作成 診療行為，食事療養費の入った入院レセプトの算定に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第4回	入院関係診療行為 手術，輸血，麻酔，リハビリテーションといった入院レセプト作成問題で出題される分野の算定に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第5回	入院レセプト作成問題演習（1） 医療事務管理士®技能認定試験の入院レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第6回	入院レセプト作成問題演習（2） 医療事務管理士®技能認定試験の入院レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第7回	入院レセプト作成問題演習（3） 医療事務管理士®技能認定試験の入院レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第8回	入院レセプト作成問題演習（4） 医療事務管理士®技能認定試験の入院レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第9回	入院レセプト作成問題演習（5） 医療事務管理士®技能認定試験の入院レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第10回	入院レセプト作成問題演習（6） 医療事務管理士®技能認定試験の入院レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第11回	外来レセプト作成問題演習（1） 医療事務管理士®技能認定試験の外来レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第12回	外来レセプト作成問題演習（2） 医療事務管理士®技能認定試験の外来レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第13回	外来レセプト作成問題演習（3） 医療事務管理士®技能認定試験の外来レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第14回	外来レセプト作成問題演習（4） 医療事務管理士®技能認定試験の外来レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
第15回	外来レセプト作成問題演習（5） 医療事務管理士®技能認定試験の外来レセプト作成に関して，演習問題を解きながら理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	受講態度，課題への取り組みで評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	85	トレーニングブック，実問題集の理解度で評価し，授業でコメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	診療報酬請求事務の知識と技能は，医療事務職員にとって必要不可欠であり，医療事務コースの学生にとって重要科目の一つである。わからないことがあると全体の理解度に影響するため，積極的に質問して理解すること。医療事務管理士®技能認定試験に合格する気持ちで授業に臨むこと。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2. 復習として，練習問題を解く。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
【2024年版】医療事務講座 マスターコース テキスト3	ソラスト	ソラスト	なし	2，000円 + 税
【2024年版】医療事務講座 マスターコース トレーニングブック	ソラスト	ソラスト	なし	3，500円 + 税
【2024年版】医科レセプト集（診療報酬明細書）	ソラスト	ソラスト	なし	800円 + 税
【2024年版】医科診療報酬点数表（社会保険研究所）	社会保険研究所	社会保険研究所	9784789410625	3，000円 + 税
【2024年版】医科医療事務管理士 模擬問題集	ソラスト	ソラスト	なし	1，800円 + 税

使用テキスト：自由記載	講義資料

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療機関で事務職員として勤務した経験を活かし，医療保険制度，診療報酬算定の仕組みを理解し，知識と技能を修得できるように指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 診療報酬における入院の算定方法を理解できる。	診療報酬における入院の算定方法を大変よく理解している。	診療報酬における入院の算定方法を十分理解している。	診療報酬における入院の算定方法を理解している。	診療報酬における入院の算定方法の理解が不十分である。	診療報酬における入院の算定方法を理解していない。
技能	1. 診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を身に付ける。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を大変よく身に付けている。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を十分身に付けている。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能を身に付けている。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能が不十分である。	診療報酬明細書（外来・入院）を作成する技能がない。

科目名	接遇演習			授業番号	HM304	サブタイトル			
教員	仁宮　崇								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	サービス業への就職を希望する学生が多い中，自ら接遇を練習する機会を増やすことが望まれる。接遇を練習することで，実際の仕事においても言葉，表情，態度に出るようになる。受付役と来客役，電話をかける役と受ける役等，実際に接遇を練習するため，グループワークが多い。 学生の希望に応じて一般企業と医療事務でグループに分かれて演習を行うこともある。本科目の履修要件は「秘書学」「ホスピタリティとマナー」のGPA2.5以上を満たすことである。医療事務の接遇を学びたい学生は，医療用語や診療報酬の説明をする練習も行うので，「医療管理事務総論A」，「診療報酬請求事務I」，「診療報酬請求事務演習I」の単位を取得しておくこと。								
到達目標	・社会人としての来客応対，電話応対の方法を理解している。 ・顧客・患者応対における接遇を理解している。 ・医療事務コースの学生は，医療制度や診療報酬の基礎を理解して，患者に説明することができる。 ・笑顔で感じの良い接遇能力を身に付けている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	サービスマインド・敬語の練習 ホスピタリティ，接遇，敬語について理解を深める。	
第2回	チームワークの重要性・敬語の練習 社会人として働くためにチームワークの重要性を理解する。敬語を正しく使えるように練習する。	
第3回	接遇マナーの基本（1）・報告応対の練習 社会人として就業中マナーを理解する。秘書検定準1級のレベルの報告応対をできるようにする。	
第4回	接遇マナーの基本（2）・報告応対の練習 顧客患者に対して安心感を与える印象について理解する。秘書検定準1級のレベルの報告応対をできるようにする。	
第5回	接遇マナーの基本（3）・感動接客 信頼関係を築く言葉づかい，顧客を感動させる接客について理解する。	
第6回	接遇マナーの基本（4）・感動接客 事例を通して顧客を感動させる接客について理解する。	
第7回	接遇マナーの基本（5）・電話練習 安心感を与える電話の受け方，好印象を与える電話のかけ方について理解する。電話応対の練習を行う。	
第8回	接遇マナーの基本（6）・電話練習 社会人として15秒で決まる電話応対について理解する。電話応対の練習を行う。	
第9回	コミュニケーションの基本と応用 人間関係とコミュニケーション，社会人に必要なコミュニケーションスキル，クレーム対応について理解する。	
第10回	窓口応対・タイプ別応対 受付・会計窓口での応対，患者のご家族への応対について理解する。	
第11回	心のケア ストレスに気づく，心と身体，心のセルフケア，身体のセルフケアについて理解する。	
第12回	接遇練習(1) 一般企業と医療事務の接遇で問題演習をし，グループで接遇練習を行う。	
第13回	接遇練習(2) 一般企業と医療事務の接遇で問題演習をし，グループで接遇練習を行う。	
第14回	接遇練習(3) 一般企業と医療事務の接遇で問題演習をし，グループで接遇練習を行う。	
第15回	実技テスト 接遇の実践テストを行う（スーツ着用）。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	45	意欲的な受講態度や演習への取り組みで評価する。
レポート		
小テスト	30	実践テストの取り組み，応対を評価する。
定期試験		
その他	25	課題への取り組み，完成度を評価し，コメントを送ってフィードバックする。

評価の方法：自由記載	授業への取り組みの姿勢／態度は高い基準を求める。姿勢，言葉遣い，お辞儀の角度，意識して受講すること。
受講の心得	授業態度に厳しい科目であるため，新入職員研修を受けるつもりで臨むこと。お客様・患者様を満足させる接遇を心がけ，日ごろから身だしなみ，言葉遣い，姿勢に気を配る。テキストの種類は医療接遇であるが，一般企業の接遇にも活用できる内容が多いので，接遇能力を高めたい学生は履修することを推奨する。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読む。 2. 復習として，教科書を読んで復習し，演習問題を解く。 3. 日常会話の中で，尊敬語，謙譲語，丁寧語を意識して正しく使用する。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
医療に従事する人のための 改訂版 患者接遇マナー基本テキスト	田中 千恵子	日本能率協会マネジメントセンター	978-4820759539	1，800円 + 税

使用テキスト：自由記載	講義資料配布。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	らくらく合格サービス接遇検定２級＋準1級集中レッスン＆問題集（ナツメ社）　DVDで学ぶできる人のビジネスマナー(DVD：西東社)　秘書検定準1級面接合格マニュアル （DVD：実務技能検定協会）　秘書検定1級面接合格マニュアル （DVD：実務技能検定協会）　病医院職員のための接遇マナー講座(DVD：日経ヘルスケア21)　医療スタッフの接遇マニュアル（DVD：日本経済新聞出版社）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関での接遇経験（5年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療機関での患者・来客応対，電話応対等の接遇経験から，姿勢，言葉遣い，相手に合わせた態度を意識できるような接遇ができるよう授業を展開する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 社会人としての来客応対，電話応対の方法を理解している。	社会人としての来客応対，電話応対の方法を大変よく理解している。	社会人としての来客応対，電話応対の方法を十分理解している。	社会人としての来客応対，電話応対の方法を理解している。	社会人としての来客応対，電話応対の方法の理解が不十分である。	社会人としての来客応対，電話応対の方法を理解していない。
知識・理解	2. 顧客・患者応対における接遇を理解している。	顧客・患者応対における接遇を大変よく理解している。	顧客・患者応対における接遇を十分理解している。	顧客・患者応対における接遇を理解している。	顧客・患者応対における接遇の理解が不十分である。	顧客・患者応対における接遇を理解していない。
思考・問題解決能力	1. 他の学生と協力して演習課題に取り組み，接遇能力を向上させるように努めている。	他の学生と協力して演習課題に取り組み，接遇能力を向上させるように大変よく努めている。	他の学生と協力して演習課題に取り組み，接遇能力を向上させるように十分努めている。	他の学生と協力して演習課題に取り組み，接遇能力を向上させるように努めている。	他の学生と協力して演習課題に取り組み，接遇能力を向上させるようにあまり努めていない。	他の学生と協力して演習課題に取り組み，接遇能力を向上させるように努めていない。
技能	1. 医療事務コースの学生は，医療制度や診療報酬の基礎を理解して，医療用語を患者に説明することができる。	医療事務コースの学生は，医療制度や診療報酬の基礎を理解して，医療用語を患者に説明することが大変よくできる。	医療事務コースの学生は，医療制度や診療報酬の基礎を理解して，医療用語を患者に説明することが十分できる。	医療事務コースの学生は，医療制度や診療報酬の基礎を理解して，医療用語を患者に説明することができる。	医療事務コースの学生は，医療制度や診療報酬の基礎の理解が不十分で，医療用語を患者に説明することがあまりできない。	医療事務コースの学生は，医療制度や診療報酬の基礎を理解ができず，医療用語を患者に説明することができない。
態度	1. 笑顔で感じの良い接遇能力を身に付けている。	笑顔で感じの良い接遇能力を大変よく身に付けている。	笑顔で感じの良い接遇能力を十分身に付けている。	笑顔で感じの良い接遇能力を身に付けている。	笑顔で感じの良い接遇能力の身に付きが不十分である。	笑顔で感じの良い接遇能力が身に付いていない。

科目名	ファッションと生活			授業番号	HT101	サブタイトル			
教員	三宅　真未								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	「ファッション」は人々の生活のなかで生まれ，時代とともに変化していく。本授業では，主に西洋における古代から19世紀までの服飾の変遷を辿りながら，ファッションが持つ社会的・文化的な意味を学び，ファッションと社会生活との関係性を探る。								
到達目標	古代から19世紀までの服飾の歴史について，各時代の社会構造や文化を踏まえながら時系列的に説明することができるとともに，自身の生活における「ファッション」を俯瞰して捉え，時代の変化に気づき，今後の衣生活を考察する力を身につけることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げている学士力の＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	適宜グループワークによる衣装分析を行うので，自由な発想で積極的に発言し，議論を深めて欲しい。								

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション：ファッションとは 「ファッション」とは何か考える	
第2回	衣服の起源 衣服の起源と世界各地の民族衣装について学ぶ	
第3回	古代の服飾 古代ギリシャやローマの人々の美意識・文化と服飾を学ぶ	
第4回	中世の服飾 中世の人々の色彩感情，服飾について理解する	
第5回	16世紀のファッション① ルネサンス期の文化・思想とファッションの関わりについて考察する	
第6回	16世紀のファッション② エリザベス1世の衣装分析・ルネサンス期特有のファッションを理解する	
第7回	17世紀のファッション① バロック期の文化・美意識とファッションの関わりについて考察する	
第8回	17世紀のファッション② バロック期の衣装分析・バロック特有の服飾を理解する	
第9回	18世紀のファッション① ロココ様式の特徴とファッションとの関わりについて考察する	
第10回	18世紀のファッション② マリー・アントワネットの衣装分析・ロココ特有の服飾を学ぶ	
第11回	ヨーロッパの手工レース 手工レースの起源を辿るとともに，ファッションにおけるレースの役割やヨーロッパ各地でつくられたレースの種類・モチーフなどについて学ぶ	
第12回	19世紀前期のファッション 19世紀に新たに登場した美意識とファッションとの関係性について考察する	
第13回	19世紀中期のファッション 19世紀半ばに登場した新たなファッションシステム「オートクチュール」について学ぶ	
第14回	19世紀後期のファッション 女性服のシルエットの変遷，補正下着の意味について考察する	
第15回	まとめ これまでの授業内容を振り返るとともに，ファッションとは何かを再考する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予習，復習の状況によって評価する。
レポート	40	理解度，新規性，独自性，分析力，論理性の5点から評価する。提出後には全体の傾向を明らかにしたうえで講評を行う。
その他	20	授業内で行う課題・ワークシートの内容によって授業の理解度を評価する。提出後には全体の傾向を明らかにしたうえで講評を行う。

評価の方法：自由記載	上記の評価基準をもとに総合評価を行う。なお，課題の提出後には全体の傾向を明らかにしたうえで講評を行う。
受講の心得	日頃からファッションについて興味を持ち，衣服の形・価格・流行などに関して，「なぜそのようになっているのか」という背景について思考する姿勢を身につけておくこと。
授業外学修	事前学修として，講義時に次回内容の要約を説明するので，その内容について調べておくこと。（２時間以上） 事後学修として，講義時に配布されたレジュメや資料を再読して講義で学んだ内容を整理し，理解するために復習を毎回行うこと。（２時間以上）

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・深井晃子監修『世界服飾史』美術出版社、2016年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．ファッションに関する基礎的な知識を習得している。	ファッションに関する基礎知識を身につけたうえで，自分なりの解釈で考察を深め，自身の生活へ応用できる。	ファッションに関する基礎知識を身につけたうえで，自分なりの解釈で考察を深めることができる。	授業を理解し，ファッションに関する基礎知識を身につけている。	授業内容の理解に欠け，ファッションに関する基礎知識の習得が不十分である。	授業を理解しておらず，基礎知識が身につけられていない。
思考・問題解決能力	１．問いに対して独自の視点で考察し，テーマに沿った回答を提示することができる。	授業内容をよく理解したうえで自習によって理解を深め，テーマを俯瞰して捉え，新規性のある独自の視点で問いに対するアプローチができる。	授業内容をよく理解し，テーマを俯瞰して捉え，独自の視点で問いに対するアプローチができる。	授業内容を理解したうえで独自の視点で考察し，問いに対してアプローチをすることができる。	問いに対する考察が不足し，テーマに沿った回答を提案することができない。	授業内容の理解が不十分であり考察に至っていない。
態度	１．積極的に授業に参加している。	授業から十分に知識を得て自分なりに理解を深め，さらにその知識を他者とのコミュニケーションによって広げるなど，授業で得た知識を積極的に活用する姿勢がみられる。	授業から十分に知識を得て，さらにその知識を他者とのコミュニケーションによって広げるなど，授業で得た知識を活用する姿勢がみられる。	授業から知識を得て自分なりに理解を深めることができる。	授業に参加しているが，理解が及んでいない。	授業に積極的に参加せず，理解が及んでいない。

科目名	ファッションビジネス			授業番号	HT201	サブタイトル			
教員	三宅　真未								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	ファッションビジネスにおける基礎知識，すなわちファッションに関わる商品企画から生産・流通・販売促進など広範囲にわたる分野の基本的な知識を身につける。 なお，本授業はファッションビジネス能力検定3級の内容を基に構成している。								
到達目標	1. ファッションビジネスの全体像を把握し、衣生活における消費の基準を持つことができる。 2. 消費者と生産者双方の視座を取り入れ、企画力・創造力など総合的な能力を有することができる。 3. 日本ファッション教育振興協会が主催するファッションビジネス能力検定3級程度の知識を身に付けることができる。 本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ファッションビジネスの概要 ファッションビジネスの定義や特性を理解し，現代のファッションビジネスが抱える課題について把握する	
第2回	ファッションビジネスのあゆみ① 1960年代から1970年代までのファッションビジネスの変遷を辿る	
第3回	ファッションビジネスのあゆみ② 1980年代以降のファッションビジネスの変遷を辿る	
第4回	ファッション生活・ファッション消費 消費者行動とファッション表現について学ぶとともに，ファッションと倫理の問題について考える	
第5回	エシカルファッション ファッション業界が抱える問題に取り組むデザイナーの事例から，今後のファッションのあり方を考察する	
第6回	ライフスタイルとファッション 生活者のライフスタイルとファッションにおける密接な関係性を理解する	
第7回	ファッション産業構造 アパレル産業・アパレルメーカーの業態分類・小売業の概要を学ぶ	
第8回	ファッション産業の職種概要 ファッションビジネスに関わる職種を知り，それぞれの業務内容について理解する	
第9回	ファッション造形知識（ファッション・デザイン・アパレル） 衣服とアパレルデザインの基礎知識を学ぶ−デザインとアートの違い，アパレルデザインの構成要素など−	
第10回	ファッション造形知識（ファッション・コーディネーション） コーディネートの基礎知識を学ぶ−代表的なコーディネート手法，美意識とファッションイメージなど−	
第11回	ファッション造形知識（ファッションビジネスにおける提案） 生活者や顧客に向けて，着こなしの仕方や汎用性などの数多くのファッション情報を発信するための知識を学び，スタイリング提案の基本を理解する	
第12回	ファッションマーケティング① マーケティングの基礎知識について学び，顧客が満足する価値創造のためのプロセスを知る	
第13回	ファッションマーケティング② ファッション企業のマーケティング特性について学ぶ	
第14回	ファッションマーケティング③ 消費者の動向を探るための手法を学び，ファッション業界における市場調査の基礎知識を得る	
第15回	まとめ これまでの総復習と検定に向けて	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	25	意欲的な受講態度，予習，復習の状況によって評価する。
レポート	50	「理解度」，「分析力」，「正確性」，「独創性」，「論理性」の5点で評価する。課題の提出後には全体の傾向を明らかにし，講評を行う。
小テスト	25	理解度を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	上記の評価基準をもとに総合評価を行う。なお，課題の提出後には全体の傾向を明らかにし，講評を行う。
受講の心得	15回の授業ではテキストの内容をすべて扱うことはできないため，検定を受ける場合は授業で触れたトピック以外においても自学自習が必須となる。 また，日頃からストリートや雑誌等でファッションに興味を持つことと，アパレル商品を購入するときにブランドコンセプトや販売方法，流行を意識して感性を磨くこと。
授業外学修	1.事前学修として，講義時に次回内容を説明するので，該当箇所の教科書を読んでおくこと。 2.事後学修として，講義時に配布された資料など利用して，講義で学んだ内容を整理し，理解するために復習を行うこと。 以上の内容を週あたり合計４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『ファッションビジネス3級　新版ファッションビジネス能力検定3級公式テキスト』	一般財団法人　日本ファッション教育振興協会	一般財団法人　日本ファッション教育振興協会	978-4-931378-40-7	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．ファッションビジネスの基礎的な知識を修得している。	授業以上に自身で理解を深め，生活におけるファッションビジネスに関する基礎知識を身に付け，応用できる。	授業以上に自身で理解を深め，生活におけるファッションビジネスに関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解し，生活におけるファッションにビジネス関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解しているが，基礎知識が身に付けられていない。	授業を理解しきれていない。
思考・問題解決能力	１．ファッションビジネスの基礎知識をもとに，今日のファッション産業の動向に目を向け，その特徴を読み取ることができる	ファッションビジネスの基礎知識をもとに，今日のファッション産業の動向に目を向け，その特徴を読み取り，問題点を見出して解決の糸口を思案することができる	ファッションビジネスの基礎知識をもとに，今日のファッション産業の動向に目を向け，その特徴を読み取り，問題点を見出すことができる	ファッションビジネスの基礎知識をもとに，今日のファッション産業の動向に目を向け，その特徴を読み取ることができる	ファッションビジネスの基礎知識をもとに，今日のファッション産業の動向に目を向けられるが，その特徴を把握できていない	ファッションビジネスの基礎知識を有するも，今日のファッション産業の動向に目を向けられていない
技能	１．ファッションビジネスの基礎知識を応用し，市場分析を行うことができる	ファッションビジネスの基礎知識を応用し，市場分析を正確に行うことができ，分析結果の活用法について新たに提案することができる	ファッションビジネスの基礎知識を応用し，市場分析を行うことができ，分析結果の活用法を思案することができる	ファッションビジネスの基礎知識を応用し，市場分析を行うことができる	ファッションビジネスの基礎知識を応用し，市場分析をうまく行うことができない	ファッションビジネスの基礎知識を応用し，市場分析を行うことができない

科目名	アパレル基礎実習 (135分)			授業番号	HT202	サブタイトル			
教員	三宅　真未								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	「エシカルファッション」をキーワードに，基礎的な裁縫技術を習得する。具体的には，古着や端材をリメイクしてオリジナルのPCケースを完成させる。また，リメイクの過程を通じて，アイデアの出し方や創造することの楽しさなど，オリジナル作品を具体化するための知識や技術，思考法を学ぶ。								
到達目標	1.エシカルファッションについての理解を深めることができる 2.自身のアイデア，デザインを作品として表現することができる 3.古着をリメイクしたオリジナルのアイテムを完成させることができる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	授業の履修人数により，授業内容および授業進度を一部変更する場合があります。								

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション：テーマ解説・エシカルファッションとは 本授業における最終課題を明確にするとともに，エシカルファッションとは何かを学ぶ	
第2回	エシカルファッションに対する理解 現代のアパレル業界におけるエシカルファッションについて理解を深めたうえで，自身の衣生活を振り返り，制作に生かす	
第3回	コンセプト設定① アイテムの制作にあたり，マインドマップを作成して構想を広げ，独自のコンセプトを設定する	
第4回	コンセプト設定② アイテムの制作にあたり，マインドマップを作成して構想を広げ，独自のコンセプトを設定する	
第5回	コンセプト設定③ コンセプトに沿ったムードボードを作成する	
第6回	デザイン構想① ムードボードをもとに具体的なデザインを考える	
第7回	デザイン構想② ムードボードをもとに具体的なデザインを考える	
第8回	オリジナルキルト制作① 古着を利用してオリジナルのキルト生地をつくるーカッティングー	
第9回	オリジナルキルト制作② 古着を利用してオリジナルのキルト生地をつくるー配色・配置ー	
第10回	オリジナルキルト制作③ 古着を利用してオリジナルのキルト生地をつくるーミシン縫いー	
第11回	オリジナルキルト制作④ 古着を利用してオリジナルのキルト生地をつくるーミシン縫いー	
第12回	オリジナルキルト制作⑤ キルト生地を用い，PCケースをつくる	
第13回	オリジナルキルト制作⑥ キルト生地を用い，PCケースをつくる	
第14回	ポスター作成，発表準備 作品発表時に使用するポスターを作成する	
第15回	最終プレゼンテーション：作品発表と相互評価 完成した作品について一人ずつ発表を行う。また，発表後には相互評価を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な授業態度，積極的に課題へ取り組みスケジュールに沿って制作を進めているかを評価する。
作品・発表	70	作品（40%）最終発表（30%） 作品については,コンセプト・デザイン・プロセスでの,「創意工夫」「理解度」「完成度」の3点を評価基準とする。 発表は「説得力」「独創性」「論理性」「表現力」「時間配分」の5つに点数をつけて評価する。

評価の方法：自由記載	上記の評価基準をもとに総合評価を行う。なお，作品提出および発表後には講評を実施する。
受講の心得	エシカルファッションに関心を持ち，エシカルファッションと現在のアパレル業界の動向を調べ，自分なりに理解しておくこと。また，自身の衣生活についてよく把握しておくこと。 授業では，作品の完成度だけでなくオリジナリティやテーマの理解度も重視しますので，ぜひ自分なりのアイデアを広げ，好奇心やチャレンジ精神を持って意欲的に制作に取り組んでください。
授業外学修	・配布資料を再読し，授業内容を振り返って理解を深めること。 ・次の内容に関する事柄をリサーチし，授業内課題が残っている場合には翌週までに課題を終了させておくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	エシカルファッションについての知識を深め，デザインの構想ができる	エシカルファッションについての知識を十分に深め，さらに自分なりの解釈を通じて独創性の高いデザイン構想ができる	エシカルファッションについての知識を深め，自分なりの解釈を通じて独創性の高いデザイン構想ができる	エシカルファッションについての知識を深め，デザインの構想ができる	エシカルファッションについて理解はしているが，デザインの構想が不十分である	エシカルファッションへの理解が足らず，デザインの構想も不十分である
技能	自身のアイデア・デザインを作品として表現することができる	独創性の高いアイデア・デザインをもって，クオリティの高い作品をつくることができる	独創性の高いアイデア・デザインをもって，作品をつくることができる	自身のアイデア・デザインを作品として表現することができる	自身のアイデア・デザインを作品として表現することができない	アイデア・デザインの構想が不十分であると同時に，作品を完成させることができない

科目名	アパレル企画実習 (135分)			授業番号	HT301	サブタイトル			
教員	三宅　真未								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業はアパレルに関する企画立案能力，プレゼンテーション技術の習得を目指すものである。 とりわけ本授業では，アパレルのなかでもデニムを取り上げる。アパレル企画は，ディレクターを中心にデザイナーやマーチャンダイザー，マーケターなどが関わり合って業務が遂行される。その際，それぞれの構想を言語化・視覚化しながら共有していく必要がある。 よって，授業前半ではデニムに関する基本的な知識を学び，後半ではグループワークによって企画を立案し，プレゼンテーションを行うことによって企画力を養う。なお，企画に際してはマーケティングの基礎知識をもとに，市場調査や消費者の購買行動の分析を行う。								
到達目標	1.デニムに関する基礎知識を身につけることができる。 2.他者と協同しながら企画を立案することができる。 3.市場調査や消費者の購買行動の分析を行うための基礎知識を身につけ，応用できる。 4.企画内容を明確にプレゼンテーションすることができる。 本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	本科目はグループワークによって授業を進めます。一人ひとり積極的な姿勢で取り組んでください。 なお，履修人数やそれに伴う進度状況に応じて授業内容を一部変更する場合があります。								

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション 本授業における最終課題を明確にするとともに，デニムの基礎知識を学ぶ	
第2回	岡山のジーンズ産業について ジーンズの一大産地として知られる児島地区の衣服関連産業の歴史と，現在のジーンズ産業の動向を理解する	
第3回	ファッションにおけるデニムの理解① 現代のファッションにおいてデニムがどのように活用されているのかを調査し，整理する	
第4回	ファッションにおけるデニムの理解② 現代のファッションにおいてデニムがどのように活用されているのかを調査し，整理する	
第5回	ファッションにおけるデニムの理解③ 現代のファッションにおいてデニムがどのように活用されているのかを調査し，整理する	
第6回	ターゲットとコンセプトの設定① グループワークによってターゲット市場とコンセプトを決定する	
第7回	ターゲットとコンセプトの設定② グループワークによってターゲット市場とコンセプトを決定する	
第8回	ターゲットとコンセプトの設定③ グループワークによってターゲット市場とコンセプトを決定する	
第9回	ムードボードの作成 決定したコンセプトに基づき，ムードボードを作成する	
第10回	サンプル制作 企画内容に基づき，デニム生地の端材を用いた小物を制作する	
第11回	ポスター制作 企画内容を他者に魅力的に伝えるためのポスターを制作する	
第12回	プレゼンテーション準備① 基本的なプレゼンテーション技術について学び，最終発表に向けた準備を行う	
第13回	プレゼンテーション準備② グループ内における役割分担を決定し，最終発表に向けた準備を行う	
第14回	プレゼンテーション準備③ グループ内における役割分担を決定し，最終発表に向けた準備を行う	
第15回	最終発表・相互評価 グループごとに企画内容の発表を行う。発表後には，相互評価を実施する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な授業態度,積極的に課題へ取り組みスケジュールに沿って制作を進めているかを評価する。
制作物	20	「理解度」「創意工夫」「完成度」の3点から評価する。制作物の提出後には講評を実施する。
プレゼンテーション	50	「説得力」「独創性」「論理性」「表現力」「時間配分」の5点に点数をつけて評価する。企画内容の発表後には講評を実施する。

評価の方法：自由記載	上記の評価基準をもとに総合評価を行う。なお，制作物の提出・企画内容の発表後には講評を実施する。
受講の心得	店舗や新聞・雑誌・インターネットを通じてファッション情報を収集し，自らの企画に生かせるように視野を広げておくこと。また，デニムへの関心を高め，身の回りにどのようなデニム商品があるのかを把握しておくこと。
授業外学修	・配布資料を再読し，授業内容を振り返って理解を深めること。 ・次の内容に関する事柄をリサーチし，授業内課題が残っている場合には翌週までに課題を終了させておくこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・服地の基本がわかる テキスタイル事典 ナツメ社 税込2,530円 , ISBN978－４－8163－5602－5 ・ファッションビジネス3級 一般財団法人 日本ファッション教育振興協会 税込3,520円 , ISBN978-4-931378-40-7
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．デニムに関する基礎知識を身につけ，岡山県のデニム産業について理解を深めることができる。	デニムに関する基礎知識を身につけるとともに，岡山県のデニム産業について関心を高め，岡山のデニム産業に関する現状や課題点を把握し，解決策を見出そうとする姿勢がある。	デニムに関する基礎知識を身につけるとともに，岡山県のデニム産業について関心を高め，岡山のデニム産業に関する現状や課題点を把握することができる。	デニムに関する基礎知識を身につけ，岡山県のデニム産業について理解を深めることができる。	デニムに関する基礎知識を身につけられたが，岡山県のデニム産業については理解が不十分である。	デニムに関する基礎知識を身につけられず，岡山県のデニム産業についても理解が不十分である。
思考・問題解決能力	１．他者と協同しながら企画を立案することができる。	積極的に意見を出すとともに相手の意見をうまく取り入れながら企画立案を進め，全体の意見をまとめることができる。	積極的に意見を出すとともに相手の意見をうまく取り入れながら企画立案を進めることができる。	前向きな姿勢で他者と協同しながら企画を立案することができる。	企画立案に参加しているが，他者とのコミュニケーションが不十分である。	他者と協同しながら企画を立案することができない。
思考・問題解決能力	２．市場調査や消費者の購買行動の分析を行うための基礎知識を身につけ，応用できる。	市場調査や消費者の購買行動の分析を行うための基礎知識を応用し，自分なりに調査・分析を行い，調査結果・分析結果を企画に十分に生かすことができる。	市場調査や消費者の購買行動の分析を行うための基礎知識を応用し，企画に生かすことができる。	市場調査や消費者の購買行動の分析を行うための基礎知識を身につけ，応用できる。	市場調査や消費者の購買行動の分析を行うための基礎知識を身につけているが，応用できない。	市場調査や消費者の購買行動の分析を行うための基礎知識を身につけられていない。
技能	１．魅力的なプレゼンテーションが出来ている。	声のトーンやボリュームが適切で分かり易く，聞いている人を惹き込むための工夫が見られ，魅力的な説明ができている。内容の取捨選択ができており時間通りにプレゼンができる。	声のトーンやボリュームが適切で分かり易く，魅力的な説明ができている。内容の取捨選択ができており時間通りにプレゼンができる。	声のトーンやボリュームが適切で分かり易く説明ができている。	分かり易く説明できているが，精度に欠ける。	分かり易く説明できていない。
態度	１．積極的に授業に参加している。	毎授業積極的に参加し，授業内容以上に自身で咀嚼しながら知識を広げ，他者と活発にコミュニケーションを図ることができる。	毎授業積極的に参加し，授業内容を十分に理解し，他者と活発にコミュニケーションを図ることができる。	授業に積極的に参加し，授業内容を理解し，他者とコミュニケーションを図ることができる。	授業参加への積極性に欠け，授業内容の一部を理解している。	授業に積極的に参加せず，理解が及んでいない。

科目名	ファッションコーディネート演習			授業番号	HT302	サブタイトル			
教員	三宅　真未								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業では，ファッション業界における流通・販売促進に不可欠とされるスタイリングの基礎的な知識や流れを学び，装いの目的に応じたコーディネートを完成させる。 具体的には，前半の授業でファッションコーディネートに関する基本的な知識や技術について講義し，後半では受講者が主体となり，4つの場面に応じたコーディネートを組むとともに，それらをまとめたルック・ブックを制作する。								
到達目標	コーディネートの役割や効果を理解し，自身で応用することができる。また，他者に対して自身が組んだコーディネートを魅力的にプレゼンテーションするための技術を得ることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞＜思考・問題解決力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション・ファッションコーディネートとは 授業内容の説明,ライフスタイルとコーディネートの関係性を理解し，ファッションコーディネートの重要性を把握する	
第2回	ファッションコーディネートの楽しみ方 ファッションの楽しみ方，自分らしいスタイルの作り方を考える	
第3回	コーディネートを構成する要素① 色彩の観点から，コーディネートの基本的な技術を学ぶ	
第4回	コーディネートを構成する要素② アイテムの観点から，コーディネートの基本的な技術を学ぶ	
第5回	コーディネートを構成する要素③ 骨格・衣服のサイズなどの観点から，コーディネートの基本的な技術を学ぶ	
第6回	コーディネートの作成① 課題説明とコンセプト設定	
第7回	コーディネートの作成② コンセプトに沿ったファッションコーディネートを組む	
第8回	コーディネートの作成③ コンセプトに沿ったファッションコーディネートを組む	
第9回	コーディネートの作成④ コンセプトに沿ったファッションコーディネートを組む	
第10回	スタイリングブック制作① 場面・コンセプトに沿ったコーディネートを他者に提案するためのスタイリングブックを作成する	
第11回	スタイリングブック制作② 場面・コンセプトに沿ったコーディネートを他者に提案するためのスタイリングブックを作成する	
第12回	スタイリングブック制作③ 場面・コンセプトに沿ったコーディネートを他者に提案するためのスタイリングブックを作成する	
第13回	スタイリングブック制作④ 場面・コンセプトに沿ったコーディネートを他者に提案するためのスタイリングブックを作成する	
第14回	スタイリングブック制作⑤ 場面・コンセプトに沿ったコーディネートを他者に提案するためのスタイリングブックを作成する	
第15回	最終プレゼンテーション スタイリングブックを通じたファッションコーディネート提案	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	課題の意図を理解し,積極的に取り組みスケジュールに沿って制作を進めているかを評価する。
最終制作物	40	理解度・創造性（制作過程における独自の工夫，発想の独創性など）・完成度（作業の丁寧さ，仕上げの美しさなど）の観点で評価する。 なお，作品提出後には講評を実施する。
プレゼンテーション	30	トータルコーディネート提案した制作物について他者にわかりやすく説明する。プレゼン評価は,「説得力」「独創性」「論理性」「表現力」「時間配分」の5つに点数をつけて評価する。発表後には講評を実施する。

評価の方法：自由記載	上記の評価基準をもとに総合評価を行う。なお，作品提出・発表後には講評を実施する。
受講の心得	ファッションコーディネートにかかるシーズンサイクルや社会行事などを意識するとともに，コレクション情報やファッション雑誌，SNS，街頭のショーウインドやショップに対して関心を高めること。
授業外学修	予習として，課題に沿ったコーディネート提案を行うためファッション雑誌やSNSなどを参考にイメージトレーニングをしておくこと。 復習として，前半の授業では配布資料を再読して自分なりに整理し，後半の授業では授業内で考案したコーディネートを振り返り，再考すること。 以上の内容を週あたり合計４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．ファッション流通・販売促進に不可欠とされるスタイリングの基礎的な知識や流れを習得する。	授業以上に自身で理解を深め,スタイリングの基礎的な知識に関する基礎知識を身に付け,応用できる。	授業以上に自身で理解を深め,スタイリングに関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解し,生活におけるスタイリング関する基礎知識を身に付けている。	授業を理解しているが,基礎知識が身に付けられていない。	授業を理解しきれていない。
思考・問題解決能力	１．独自のコンセプトを構想し，それに基づいたコーディネートを完成させている。	独創性の高いコンセプトを構想し，構想を実現するため，授業で得た知識を応用しながら思考を重ねてコーディネートを完成させている。	独創性の高いコンセプトを構想し，構想を実現するため，授業で得た知識を活用しながらコーディネートを完成させている。	独自のコンセプトを構想し，それに基づいたコーディネートを完成させている。	独自のコンセプトを構想しているが，完成したコーディネートにコンセプトがうまく反映できていない。	コンセプトの独創性に欠けるとともに，完成したコーディネートにコンセプトが反映できていない。
技能	１．ルックブックを制作し，コーディネートを魅力的に発信することができる。	制作過程における独自の工夫，発想の独創性など創造性に長け，作業の丁寧さ，仕上げの美しさなどの完成度が高い。	制作過程における独自の工夫，発想の独創性など創造性があり，作業の丁寧さ，仕上げの美しさなどの完成度が高い。	授業内容を理解した制作過程を行い，完成している。	授業内容を理解した制作過程を行い，完成度が低い。	授業内容を理解しておらず，完成度が低い。
態度	１．積極的に授業に参加している。	毎授業積極的に参加し、内容以上に自身で咀嚼しながら知識を広げることができる。	毎授業積極的に参加し、内容を十分に学習することができる。	積極的に参加し、内容を理解することができる。	授業に参加しているが、理解が及んでいない。	授業に積極的に参加せず、理解が及んでいない。

科目名	地域共生社会論			授業番号	HW201	サブタイトル			
教員	中野　ひとみ								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，地域社会を取り巻く環境や，そこに存在する様々な課題を多角的に捉え解決できる力を身につける。 地域における他者との繋がりの重要性について，認知症カフェの運営の実際や日本赤十字社からの災害時の対応方法から学び，実践的な解決方法を見出す力を身につける。 地域福祉の概要を理解し，ボランティアや誰もが暮らしやすい街づくりとはどのようなものか，グループワークを通して共生社会や多様な価値の在り方を修得する。								
到達目標	(1)地域共生社会とはどのようなものか説明できる。 (2)ボランティアの意義について説明できる。 (3)他者と意見を共有し，グループワークに取り組み自らの考えを発表することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	ディスカッションやグループワークを行う。								

回	概要	担当
第1回	地域福祉の概念・地域福祉の構成要素の意味を理解する。 共生の概念を理解し，地域を取り巻く課題について学ぶ。	
第2回	地域福祉の歴史的展開・生活の基本機能を理解する。 社会における地域共生を阻む課題を理解し，解決方法についてグループディスカッションを行う。 地域福祉の充実(コミュティ・ソーシャルワーク・社会福祉協議会・地域福祉計画)を理解する。 コミュニティ・ソーシャルワーカーなど言葉の定義や制度について理解する。	
第3回	地域共生社会を目指す社会的背景・理念を理解する。 地域に暮らす人々が持つ課題を理解する 認知症カフェを通して共生社会の在り方を実践的支援を学ぶ。その1	
第4回	地域共生社会を目指す社会的背景・理念を理解する。 地域に暮らす人々が持つ課題を理解する 地域に暮らす認知症を持つ当事者や家族との関わりを認知症カフェを通して共生社会の在り方を実践的支援を学ぶ。その２	
第5回	ボランティアの定義の意味を理解する。 有償・無償ボランティアの違いを理解する。 災害と地域社会(過去の災害からの学び)を理解する。 阪神淡路大震災・東日本大震災を振り返り，災害時の地域の課題を理解する。	
第6回	災害救助法・福祉避難所の定義を理解する。 法律的定義や避難所の課題を理解する。	
第7回	災害シミュレーション(1) 避難所ゲームを行い，要配慮者の優先順位を考える。 事例を通してグループワークを行い，災害時の課題から解決方法を見つけることが出来る。	
第8回	災害シミュレーション(2) 日本赤十字社から地域災害の実際を学ぶ。 地域で起こる災害を想定し，リスクマネジメントと社会資源の活用方法を理解する。	
第9回	地域共生社会を目指す社会的背景・理念を理解する。 インクルーシブな共生社会実現のための解決方法についてグループディスカッションを行う。	
第10回	地域共生社会を目指す社会的背景・理念を理解する。 地域に暮らす認知症を持つ当事者や家族との関わりを認知症カフェを通して共生社会の在り方を実践的支援を学ぶ。その３	
第11回	地域共生社会を目指すソーシャルインクルージョンとはどのようなものかを理解する。 認知症を持つ人たちの暮らしを理解し，家族や当事者への関わりを認知症カフェを通して実践的支援を学ぶ。 その４	
第12回	地域共生社会実現に向けた取り組みを考える。(まち・地域づくり)(1) 認知症カフェを通した学びを振り返り，グループディスカッションを行い課題と改善策をみつけることが出来る。	
第13回	地域共生社会実現に向けた取り組みを考える。(まち・地域づくり)(2) グループワークディスカッション，課題への解決方法や適切な支援の実際を考えることができる。 社会生活を営む上で、様々な困難を抱える人たちの解決方法を学ぶ。	
第14回	地域共生社会実現に向けた取り組みを考える。(まち・地域づくり)(3) 地域社会の問題点を理解し、解決策を見つけることができる。 社会生活を営む上で、様々な困難を抱える人たちの解決方法を学ぶ。	
第15回	地域包括ケアや地域で支え合う取り組について振り返りを行い，地域共生社会の必要性を理解する。 インクルーシブ社会の実現のための解決方法についてまとめを行う。 社会生活を営む上で、様々な困難を抱える人たちの解決方法を学ぶ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度・参加	40	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
リアクションシートやレポート	20	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
PowerPointでの発表内容とレポートの提出	40	最終的な理解度を評価する。（課題の取り上げ方・発表内容・レポートのまとめ方）

評価の方法：自由記載	受講態度，参加度，課題提出，PowerPointでの発表とレポート内容で総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式とグループ討議で進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・地域や災害など身近な福祉の問題に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。
授業外学修	1.予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2.復習として，課題のレポートを書く。 3.発展学修として，講義で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座２社会の理解	上原千寿子ほか	中央法規出版	978-4-8058-8391-4	2200円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。認知症キャラバンメイト。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	岡山県 県民生活部県民生活交通課 日本赤十字社岡山県支部
実務経験をいかした教育内容	看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．地域共生社会とはどのようなものか理解できている。	地域共生社会の必要性を理解し，社会が抱える問題点とどのように構成されているか具体的に説明ができている。	地域共生社会の必要性を理解し，社会が抱える問題点とどのように構成されているか説明ができている。	地域共生社会の必要性を理解し，社会が抱える問題点が少しは理解できるが，口頭で説明ができない。	地域共生社会の必要性を理解は出来るが，どのような社会が抱える問題点があるのか説明ができない。	地域共生社会の意味を理解できていない。
知識・理解	２．ボランティアの意義について説明できている	ボランティアの種類やその必要性や意義について具体的に説明できている	ボランティアの種類やその必要性や意義について説明できている	ボランティアの種類はわかるが，その必要性や意義について説明できない。	ボランティアの意味は何となくわかるが有償・無償の違いは理解できていない。また，その必要性や意義について説明できない。	ボランティアとは何か理解できていない。
態度	他者と意見を共有し，グループワークに取り組み，発表ができている。	自らの意見もしっかりと述べ他者の意見を尊重しながら内容を共有し，連携しながらグループワークに取り組み，発表ができている。	他者の意見を尊重しながら内容を共有し，連携しながらグループワークに取り組み，発表ができている。	他者の意見を共有し，少し自らの意見を述べ連携しながらグループワークの取り組みができている。	他者と意見を共有し，グループワークに取り組むことができるが，自らの意見を述べることが少ない。	自分の意見も言えない，他者と意見を共有しすることも出来ないため，グループワークとして成立できていない。

科目名	地域福祉論			授業番号	HW202	サブタイトル	(地域福祉とは何かを明らかにします。)		
教員	松井　圭三								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	地域福祉の理念，地域福祉主体の対象，地域福祉の主体と対象，地域福祉の担い手の本質を理解する。 また，地域住民に対する社会資源，地域福祉の現状と課題について学ぶ。								
到達目標	地域福祉計画の概要，地域福祉の現状と課題の知識，技術を知り，説明できる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	現代における地域の特徴のポイントを抑える。 地域福祉の概念、理念について学ぶ。	
第2回	地域福祉の課題のポイントを抑える。 わが国の地域福祉の課題の現状について学ぶ。	
第3回	地域福祉の基本理念と概念のポイントを抑える。 地域福祉の基本理念、概念を概観する。	
第4回	地域福祉の理論のポイントを抑える。 地域福祉の理論について概観する。	
第5回	地域福祉主体と対象のポイントを抑える。 地域福祉の主体と対象について概観する。	
第6回	地域福祉の担い手（１）社会福祉協議会のポイントを抑える。 社会福祉協議会の機能や内容について概観する。	
第7回	地域福祉の担い手（２）民生・児童委員のポイントを抑える。 民生委員・児童委員の機能や概要について学ぶ。	
第8回	地域福祉の担い手（３）民間非営利組織のポイントを抑える。 民間非営利組織の機能や概要について学ぶ。	
第9回	地域福祉の担い手（４）社会福祉施設のポイントを抑える。 社会福祉施設の機能や概要について学ぶ。	
第10回	地域福祉の担い手（５）地方自治体のポイントを抑える。 地方自治体の地域福祉における機能や課題について学ぶ。	
第11回	地域福祉の動向のポイントを抑える。 地域福祉とは何かについて学ぶ。	
第12回	地域福祉計画とはのポイントを抑える。 地域福祉計画について概観する。	
第13回	地域福祉計画の作成の意義のポイントを抑える。 地域福祉計画作成の意義について概観する。	
第14回	地域福祉計画の方法のポイントを抑える。 地域福祉計画の方法について概観する。	
第15回	地域福祉計画の財源のポイントを抑える。 地域福祉計画の財源について概観する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表，グループワークでの参加，予習，復習，課題提出によって評価する。
レポート	90	課題やレポートについて評価する。またレポートの内容を点検し、コメントを標記の上返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講義は講義形式とグループワークで授業をを展開します。 ・予習と授業中の積極的発言を求めます。 ・自分で考えることをベースに授業に参加してください。
授業外学修	・予習として，授業に関係した教科書を精読し，内容を理解する。 ・復習として，授業のレポートを書く。 ・授業で紹介された参考文献を精読する。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本授業では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となる。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
現代地域福祉	高内正子監修	教育情報出版	978-4-905493-06-8	2381円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
社会福祉概論	小田兼三他	勁草書房	978-4-326-70095-0	2800円＋税

参考書：自由記載	随時紹介します。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	観音寺市シルバー人材センター職員3年，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司2年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者保健福祉分野において実践経験を踏まえた授業を実践している。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．地域福祉制度を理解する。	地域福祉制度をすべて理解できる。	地域福祉制度を概ね理解できる。	地域福祉制度を理解できる。	社会福祉制度をほとんど理解できない。	社会福祉制度を理解できない。
態度	1．今日の生活課題を理解する。	今日の生活課題をすべてを理解できる。	今日の生活課題を概ね理解できる。	今日の生活課題を理解できる。	今日の生活課題をほとんど理解できない。	今日の生活課題を理解できない。

科目名	社会福祉論			授業番号	HW203	サブタイトル	(広義の社会福祉の体系を明らかにする。)		
教員	松井　圭三								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講では，福祉現場や地域社会で課題となっている福祉トピックをとりあげながら社会福祉の本質と現状及びこれからの展望について考察していく。具体的には，「社会福祉の概念」，「社会福祉の沿革」，「年金」，「医療」，「介護」，「子育て」，「障害者福祉」，「高齢者福祉」の基礎を学ぶ。								
到達目標	現場で利用できる社会福祉の臨床能力を修得する。また，現代生活に必要な社会福祉の基本的知識を知り，説明できる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	現代社会と社会福祉のポイントを抑える。 わが国の少子高齢化の現状と課題について学ぶ。	
第2回	社会福祉とはのポイントを抑える。 社会福祉の概念理念について学ぶ。	
第3回	社会福祉の歴史（イギリス）Ⅰのポイントを抑える。 イギリスの社会福祉の沿革について学ぶ。（戦前）	
第4回	社会福祉の歴史（イギリス）IIのポイントを抑える。 イギリスの社会福祉の沿革について学ぶ。（戦後）	
第5回	わが国の社会福祉の歴史Iのポイントを抑える。 わが国の社会福祉の沿革について学ぶ。（戦前）	
第6回	わが国の社会福祉の歴史IIのポイントを抑える。 わが国の社会福祉の沿革について学ぶ。（戦後）	
第7回	公的扶助のポイントを抑える。 公的扶助の制度、サービスについて学ぶ。	
第8回	児童家庭福祉Iのポイントを抑える。 「児童福祉法」の概要について学ぶ。	
第9回	児童家庭福祉IIのポイントを抑える。 「児童福祉法」以外の児童家庭福祉関係の法律、制度の概要について学ぶ。	
第10回	障害者福祉Iのポイントを抑える。 「障害者総合支援法」の制度、サービスについて学ぶ。	
第11回	障害者福祉IIのポイントを抑える。 「障害者総合支援法」以外の障害者関連の制度、サービスについて学ぶ。	
第12回	高齢者福祉Iのポイントを抑える。 「介護保険法」、「後期高齢者医療制度」の概要について学ぶ。	
第13回	高齢者福祉IIのポイントを抑える。 「公的年金制度の」の概要について学ぶ。	
第14回	社会福祉のこれからのポイントを抑える。 社会福祉の動向やこれからの展望について学ぶ。	
第15回	全体のまとめのポイントを抑える。 これまでの社会福祉の学習を振り返り、全体を総括する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予習，復習，課題提出によって評価する。
レポート	90	課題の解答が的確かどうかについて評価する。またレポートの内容を点検し、コメントを標記の上返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講座は講義形式とグループ討議で授業を展開します。 ・予習と授業の積極的参加を期待します。 ・他教科と連動して考える力，専門的知識が求められます。 ・自ら考える姿勢で授業に参加してください。
授業外学修	・予習として，教科書のうち，授業内容に関わる章節を読み，疑問点を明らかにする。 ・復習として，課題のレポートを書く ・発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本授業では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となる。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ＮＩＥ社会福祉演習	今井慶宗他	大学教育出版	9784866922478	

使用テキスト：自由記載	今井慶宗他編『新編社会福祉概論』大学教育出版2022年も副教材で使用します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	随時紹介します。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	観音寺市シルバー人材センター，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	シルバー人材センター，福祉事務所の経験を「高齢者福祉」，「障害者福祉」の学習に活かす。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．社会福祉制度を理解する。	社会福祉制度をすべて理解できる。	社会福祉制度を概ね理解できる。	社会福祉制度を理解できる。	社会福祉制度をほとんど理解できない。	社会福祉制度を理解できない。
態度	１．今日の生活問題を理解する。	今日の生活問題をすべて理解できる。	今日の生活問題を概ね理解できる。	今日の生活問題を理解できる。	今日の生活問題をほとんど理解できない。	今日の生活問題を理解できない。

科目名	ヒューマンケア ① シラバス用			授業番号	HW2050	サブタイトル	人権と尊厳を支える介護		
教員	韓 在都、森田 裕之								
単位数	9単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき，職務におけるリスクとその対応策を理解する。 他職種との連携のもと，介護を展開していかなければならないことを理解する。								
到達目標	(1)介護の専門性と職業倫理及び多様なサービスについて理解し，説明することができる。 (2)他職種との連携の重要性について学び，介護職の役割を説明することができる。 (3)虐待の定義，身体拘束及びサービス利用者の尊厳，プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。 (4)介護職の職業倫理の重要性を理解し，介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について， ポイントを列挙できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	多様なサービスの理解１ 介護と介護保険制度の意義や目的を理解する。	韓 在都
第2回	多様なサービスの理解２ 多様なサービスと介護職の仕事内容・働く現場を理解する。	韓 在都
第3回	介護職の仕事内容や働く現場の理解１ 介護職の資格体形の見直しを理解する。	韓 在都
第4回	介護職の仕事内容や働く現場の理解２ 介護職のキャリアパスの全体像を理解する。	韓 在都
第5回	人権と尊厳を支える介護１ 個人の権利を守る制度，介護分野のICFを理解する。	韓 在都
第6回	人権と尊厳を支える介護２ 生活の質とマズローの欲求段階説，ノーマライゼーションについて理解する。	韓 在都
第7回	人権と尊厳を支える介護３ 高齢者虐待予防法・身体拘束禁止について理解する。	韓 在都
第8回	自立に向けた介護１ 専門職として求められる「自立」と「自律」を理解する。	韓 在都
第9回	自立に向けた介護２ 自立支援のための介護予防と健康寿命について理解する。	森田 裕之
第10回	自立に向けた介護３ 介護保険と介護予防，社会的入院について理解する。	森田 裕之
第11回	介護職の役割，専門性と多職種との連携 訪問介護サービス，施設介護サービス，地域包括センターの役割と機能について理解する。	森田 裕之
第12回	介護職の職業倫理 専門職として法令遵守，倫理綱領について理解する。	森田 裕之
第13回	介護における安全の確保の重要性と，リスクマネジメント 緊急時の対応，応急処置，感染症対策について理解する。	森田 裕之
第14回	介護職の安全 介護職の心身の健康管理，腰痛予防，ストレスマネジメントの重要性を理解する。	森田 裕之
第15回	まとめ（特に職業倫理・介護の専門性への理解を深める）	韓 在都
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	第1回～15回の講義内容の理解度を，ペーパー試験で評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	なお，本科目は「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため全出席を原則とする。 本資格取得に関連する5科目について，単位取得後，1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。
受講の心得	各回学んだ介護職員の職業倫理とチームワーク（他職種との連携）を常に意識し，授業に望むことを求める。 また，資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。
授業外学修	1 予習として教科書をよく読み，疑問点を明らかにする。 2 発展学修として授業で紹介した参考文献を次回授業までに読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護職員初任者研修テキスト 第１分冊 理念と基本	公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	978-4-907035-45-7	1000円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験がある。（韓 在都） 通所リハビリテーション介護職員（2年半），訪問介護管理者兼サービス提供責任者(5年半）（森田　裕之）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設における経験（5年），訪問介護員（1年）などの介護福祉士として訪問介護や介護付き老人ホームの勤務の実務経験を活かし，生活支援に必要なからだこころのしくみに関する知識や技術を身につくよう指導する。（韓 在都）高齢者や障害者に対する介護経験を活かし、介護職員に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田　裕之）

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．介護職の専門性と職業倫理を理解し、説明できる。	専門職としての倫理や使命に対し、他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	専門職としての倫理や使命に対し、他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	専門職としての倫理や使命に対し、他者に説明でき、質問に回答できる。	専門職としての倫理や使命に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	専門職としての倫理や使命に対し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	2．介護職務におけるリスクとその対策について理解し、説明できる。	介護職務におけるリスクマネジメントの必要性に対し、他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	介護職務におけるリスクマネジメントの必要性に対し、他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	介護職務におけるリスクマネジメントの必要性に対し、他者に説明でき、質問に回答できる。	介護職務におけるリスクマネジメントの必要性に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護職務におけるリスクマネジメントの必要性に対し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	3．介護職の役割と他職種との連携の重要性を理解し、説明できる。	介護職の役割と他職種との連携の重要性に対し、他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	介護職の役割と他職種との連携の重要性に対し、他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	介護職の役割と他職種との連携の重要性に対し、他者に説明でき、質問に回答できる。	介護職の役割と他職種との連携の重要性に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護職の役割と他職種との連携の重要性に対し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	1．介護福祉の社会化と専門職として倫理や使命を理解し、説明できる。	介護福祉の社会化と職業倫理の意義や日本介護福祉士会倫理綱領について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護福祉の社会化と職業倫理の意義や日本介護福祉士会倫理綱領について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護福祉の社会化と職業倫理の意義や日本介護福祉士会倫理綱領について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護福祉の社会化と職業倫理の意義や日本介護福祉士会倫理綱領について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護福祉の社会化と職業倫理の意義や日本介護福祉士会倫理綱領について他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	2．自立に向けた介護について理解し、説明できる。	ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワーメントの視点からの自立支援について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワーメントの視点からの自立支援について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワーメントの視点からの自立支援について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワーメントの視点からの自立支援について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	ICFの視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワーメントの視点からの自立支援について他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	3．介護における安全の確保とリスクマネジメントについて説明できる	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて他者に説明できるが不十分である。
技能	1．介護福祉の基本理念を説明できる	介護福祉の基本理念について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護福祉の基本理念について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護福祉の基本理念について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護福祉の基本理念について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護福祉の基本理念について他者に説明できるが不十分である。
技能	2．フォーマルサービスとインフォーマルサービスの支援について説明できる。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスについて他者に説明でき、質問に対して回答できる。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスについて他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスについて他者に説明できるが不十分である。
技能	3．介護予防やリハビリテーションの意義と目的を説明できる。	介護予防やリハビリテーションの意義と目的について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護予防やリハビリテーションの意義と目的について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護予防やリハビリテーションの意義と目的について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護予防やリハビリテーションの意義と目的について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護予防やリハビリテーションの意義と目的について他者に説明できるが不十分である。
態度	1．課題に取り組む姿勢。	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	2．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	3．グループワーク作業を分担して他者と協働できる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させる。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げる。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができない。

科目名	ヒューマンケア ② シラバス用			授業番号	HW2051	サブタイトル	介護保険制度とコミュニケーション		
教員	韓 在都、中野 ひとみ、森田 裕之								
単位数	9単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	介護保険制度や，障がい者に関する制度を担う一員として，最低知っておくべき制度の内容，目的，サービス利用の流れ，各専門職の役割・責務について学ぶ。 また介護が必要な人たちの生活（家事，住環境，終末期医療）についても理解する。								
到達目標	(1)介護保険制度や障害者総合支援制度の理念，介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙することができる。 (2)家事援助の基礎知識と生活支援技術を学び，家事援助のポイントを説明することができる。 (3)終末期の基礎知識と利用者の心の援助について説明することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げる学士力のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	介護保険制度１ 介護保険制度の創設の背景・しくみなどを理解する。	森田 裕之
第2回	介護保険制度２ 介護保険制度の財源・組織・役割，医療保険との関わりを理解する。	森田 裕之
第3回	医療との連携とリハビリテーション１ 高齢者の服薬服用と副作用，医療行為，介護職員による服薬介助について理解する。	森田 裕之
第4回	医療との連携とリハビリテーション２ 医療処置の目的と方法，医療処置を行っている人の介護について理解する。	森田 裕之
第5回	障害者に関する制度及びその他の制度１ 日本の法律で定める障害のとらえ方や障害者福祉制度創設の理念・背景と目的について理解する。	韓 在都
第6回	障害者に関する制度及びその他の制度２ 障害者福祉制度のしくみなどの基礎的理解と個人の権利を守る概要について理解する。	韓 在都
第7回	介護におけるコミュニケーション１ コミュニケーションの基本要素，意義，目的，役割，手段と技法について理解する。	韓 在都
第8回	介護におけるコミュニケーション２ 介護におけるコミュニケーションにおける利用者・家族への対応の基礎知識を理解する。	韓 在都
第9回	介護におけるコミュニケーション３ チームのコミュニケーションにおける記録による情報の共有化について理解する。	韓 在都
第10回	介護におけるコミュニケーション４ チームのコミュニケーションにおける報告・連絡・相談について理解する。	韓 在都
第11回	老化に伴うこころとからだの変化と日常１ 老年期の発達と心身の変化の特徴を理解する。	中野 ひとみ
第12回	老化に伴うこころとからだの変化と日常２ 心身の機能の変化と日常生活への影響について理解する。	中野 ひとみ
第13回	高齢者と健康１ 高齢者の疾病（老年症候群）と生活上の留意点（外科系）について理解する。	中野 ひとみ
第14回	高齢者と健康２ 高齢者に多い病気と生活上の留意点（内科系）についてについて理解する。	中野 ひとみ
第15回	認知症を取り巻く状況 認知症ケアの理念やパーソンセンタードケアについて理解する。	韓 在都
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	30	制度や介護が必要な人の気持ちが理解でき，述べていること。提出物は，コメントを記入して返却する。
小テスト	40	知識の定着度・理解度（２回の小テストにより）を評価する。
定期試験		
その他	30	授業中整理した資料等の提出物を評価する。提出物は，コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	なお，本科目は「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目で全出席を原則とする。 本資格取得に関連する5科目について，単位取得後，1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。
受講の心得	介護が必要な人の生活について理解し，学修したことを生活の中で活かすことを求める。 また，資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。
授業外学修	1 予習として教科書をよく読み，疑問点を明らかにする。 2 授業で身につけた知識について復習し，介護が必要な人の気持ちについて振り返る。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護職員初任者研修テキス第2分冊 制度の理解	公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	978-4-907035-46-4	1430円（税込み）
介護職員初任者研修テキス第4分冊 技術と実践	公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	978-4-907035-48-8	2200円（税込み）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員5年，訪問介護員として1年の実務経験がある。（韓 在都） 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野ひとみ） 通所リハビリテーション介護職員（2年半），訪問介護管理者兼サービス提供責任者(5年半) （森田 裕之）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者や障害者に対する介護経験を活かし、介護職員に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（韓 在都）看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野ひとみ） 高齢者や障害者に対する介護経験を活かし、介護職員に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田 裕之）

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．介護保険制度の財源構成と利用料負担について列挙し、説明できる。	介護保険制度の財源構成と利用料負担について列挙し、他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	介護保険制度の財源構成と利用料負担について列挙し、他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	介護保険制度の財源構成と利用料負担について列挙し、他者に説明でき、質問に回答できる。	介護保険制度の財源構成と利用料負担について列挙し、他者に説明できるが質問に対する回答が的確ではない。	介護保険制度の財源構成と利用料負担について列挙し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	２．障害者福祉と障害者保健福祉制度について説明できる。	障害者福祉と障害者保健福祉制度に対し、他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	障害者福祉と障害者保健福祉制度に対し、他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	障害者福祉と障害者保健福祉制度に対し、他者に説明でき、質問に回答できる。	障害者福祉と障害者保健福祉制度に対し、他者に説明できるが質問に対する回答が的確ではない。	障害者福祉と障害者保健福祉制度に対し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	３．家事援助の基礎知識と家事援助のポイントを説明できる。	家事援助の基礎知識と家事援助のポイントに対し、他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	家事援助の基礎知識と家事援助のポイントに対し、他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	家事援助の基礎知識と家事援助のポイントに対し、他者に説明でき、質問に回答できる。	家事援助の基礎知識と家事援助のポイントに対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	家事援助の基礎知識と家事援助のポイントに対し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	１．介護保険制度の目的とサービスの流れを説明できる。	介護保険制度の目的とサービスの流れに対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護保険制度の目的とサービスの流れに対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護保険制度の目的とサービスの流れに対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護保険制度の目的とサービスの流れに対し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護保険制度の目的とサービスの流れに対し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	２．障害者総合支援法の理念や仕組みについて説明できる。	障害者総合支援法について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	障害者総合支援法について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	障害者総合支援法について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	障害者総合支援法について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	障害者総合支援法について他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	３．家事援助の基礎知識を理解し、家事援助のポイントを説明できる。	家事援助の基礎知識を理解し、家事援助のポイントを他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	家事援助の基礎知識を理解し、家事援助のポイントを他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	家事援助の基礎知識を理解し、家事援助のポイントを他者に説明でき、質問に対して回答できる。	家事援助の基礎知識を理解し、家事援助のポイントを他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	家事援助の基礎知識を理解し、家事援助のポイントを他者に説明できるが不十分である。
技能	１．介護保険制度の社会的意義や役割について説明できる	介護保険制度の社会的意義や役割について理解し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護保険制度の社会的意義や役割について理解し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護保険制度の社会的意義や役割について理解し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護保険制度の社会的意義や役割について理解し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護保険制度の社会的意義や役割について理解し、他者に説明できるが不十分である。
技能	２．障害者福祉関連する法律と制度に関する情報をPCを利用して適切なキーワードで検索できる。	PC等を用いて、的確なキーワードで検索でき、必要な情報・データにアクセスでき、PCを利用したプレゼンテーションができる。	PC等を用いて、的確なキーワードで検索でき、必要な情報にアクセスできる。	PC等を用いて、キーワードで必要な情報にアクセスできる。	PC等を用いて、キーワードで検索できるが、必要な情報に適切にアクセスできない。	PC等が適切に使用することができず、的確なキーワードで検索できない。
技能	３生活支援に共通する技術を説明できる。	生活支援に共通する技術を理解し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	生活支援に共通する技術を理解し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	生活支援に共通する技術を理解し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	生活支援に共通する技術を理解し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	生活支援に共通する技術を理解し、他者に説明できるが不十分である。
態度	１．課題に取り組む姿勢。	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	２．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	３．グループワーク作業を分担して他者と協働できる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させる。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げる。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができない。

科目名	ヒューマンケア ③ シラバス用			授業番号	HW2052	サブタイトル	認知症の基礎と健康管理		
教員	韓 在都、中野 ひとみ、森田 裕之								
単位数	9単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なる。その違いを理解する。 また，加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について理解し，その心理的特徴についても学ぶ。								
到達目標	(1)老化・認知症・障がいについて説明することができる。 (2)共感，受容，傾聴的態度，気づきなど基本的なコミュニケーション上のポイントについて説明することができる。 (3)家族の気持ちについて理解し，介護職として持つべき視点を列挙することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 認知症の概念と中核症状，原因疾患の診断，病態，ケアのポイントを理解する。	中野 ひとみ
第2回	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 生活障害，心理，行動の特徴，利用者への対応についてについて理解する。	中野 ひとみ
第3回	家族への支援 認知症への受容過程での援助とレスパイトについて理解する。	韓 在都
第4回	障がいの基礎的理解 障害者福祉の基本理念と国際生活機能分類（ICF）について理解する。	韓 在都
第5回	障害の医学的側面，生活障害，心理・行動の特徴，かかわり支援等の基礎的知識 肢体不自由，内部障害，視覚・聴覚障害，音声・言語・咀嚼機能障害などの障害を持つ人の関わり方を理解する。	中野 ひとみ
第6回	家族の心理，かかわり支援の理解 介護する家族の遭遇するストレスや介護負担の軽減について理解する。	韓 在都
第7回	生活と家事１ 人の暮らし（衣食住の環境）について理解する。	韓 在都
第8回	生活と家事２ 家事援助の基礎知識と家事援助の技法について理解する。	韓 在都
第9回	快適な居住環境整備と介護１ 人と住まい，高齢者に必要な住まいの性能について理解する。	森田 裕之
第10回	快適な居住環境整備と介護２ 介護保険による住宅改修，福祉用具の基礎知識について理解する。	森田 裕之
第11回	死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護１ 住み慣れた場所で最期を迎えるための終末期ケアについて理解する。	韓 在都
第12回	死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護２ 高齢者の死に至るパターンとケアの特徴，終末期の心理状態についてついて理解する。	韓 在都
第13回	ふり返り１ 第4分冊における振りかえりの課題などを学び，自立支援について理解する。	韓 在都
第14回	ふり返り２ 介護現場で求められるOJT，介護職のキャリアにつながるOJT，OJT・Off−JTの実際について理解する。	韓 在都
第15回	就業への備えと研修修了後における継続的な研修 介護職のキャリアップにつながる契機，現任者研修で大切にしたいことについて理解する。	韓 在都
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	40	身につけた知識を，実生活に生かす意欲について述べられていること。提出物は，コメントを記入して返却する。
小テスト	60	老化・認知症・障がいについての知識の理解度（3回の小テストにより）を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	なお，本科目は，「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため全出席を原則とする。 資格取得に関連する5科目について，単位取得後，1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。
受講の心得	高齢者や認知症，障がいがある人に関心をもち，授業で得た知識を普段の生活の中で生かすことを求める。 また，資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。
授業外学修	1 授業で身につけた知識・技能について予習・復習し普段の生活に生かせるようにすること。 2 課されたレポートの作成をすること。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護職員初任者研修テキスト第3分冊 老化・認知症・障害の理解	公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	978-4-907035-47-1	1300＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				

担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験がある。（韓 在都） 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野ひとみ） 通所リハビリテーション介護職員（2年半），訪問介護管理者兼サービス提供責任者(5年半) （森田 裕之）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設における経験（5年），訪問介護員（1年）などの介護福祉士として訪問介護や介護付き老人ホームの勤務の実務経験を活かし，生活支援に必要なからだこころのしくみに関する知識や技術を身につけるよう指導する。（韓 在都）看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野ひとみ） 高齢者や障害者に対する介護経験を活かし、介護職員に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田 裕之）

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．老化・認知症・障害について理解し、加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について説明できる。	老化・認知症・障害について理解し、加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について説明し、質問に的確に回答できる。	老化・認知症・障害について理解し、加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	老化・認知症・障害について理解し、加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について他者に説明でき、質問に回答できる。	老化・認知症・障害について理解し、加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について他者に説明できるが質問に対する回答が的確ではない。	老化・認知症・障害について理解し、加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	2．共感・受容・傾聴的態度など基本的コミュニケーション上のポイントを説明できる。	共感・受容・傾聴的態度など基本的コミュニケーション上のポイントに対し、他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	共感・受容・傾聴的態度など基本的コミュニケーション上のポイントに対し、他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	共感・受容・傾聴的態度など基本的コミュニケーション上のポイントに対し、他者に説明でき、質問に回答できる。	共感・受容・傾聴的態度など基本的コミュニケーション上のポイントに対し、他者に説明できるが質問に対する回答が的確ではない。	共感・受容・傾聴的態度など基本的コミュニケーション上のポイントに対し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	3．家族の気持ちについて理解し、介護職として持つべき視点を列挙できる。	家族の気持ちについて理解し、介護職として持つべき視点に対し、他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	家族の気持ちについて理解し、介護職として持つべき視点に対し、他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	家族の気持ちについて理解し、介護職として持つべき視点に対し、他者に説明でき、質問に回答できる。	家族の気持ちについて理解し、介護職として持つべき視点に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	家族の気持ちについて理解し、介護職として持つべき視点に対し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	1．老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化について説明できる	老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化に対し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化に対し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	2．本人の意思決定を支援するために必要なコミュニケーション技術を活用できる。	本人の意思決定を支援するために必要なコミュニケーション技術に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	本人の意思決定を支援するために必要なコミュニケーション技術に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	本人の意思決定を支援するために必要なコミュニケーション技術に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	本人の意思決定を支援するために必要なコミュニケーション技術に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	本人の意思決定を支援するために必要なコミュニケーション技術に対し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	3．家族とのパートナーシップを構築するために必要なコミュニケーション技術を活用できる。	家族とのパートナーシップを構築するために必要なコミュニケーション技術に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	家族とのパートナーシップを構築するために必要なコミュニケーション技術に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	家族とのパートナーシップを構築するために必要なコミュニケーション技術に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	家族とのパートナーシップを構築するために必要なコミュニケーション技術に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	家族とのパートナーシップを構築するために必要なコミュニケーション技術に対し、他者に説明できるが不十分である。
技能	1．認知症取り巻く状況を理解し、認知症ケアの理念を説明できる。	認知症取り巻く状況を理解し、認知症ケアの理念に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	認知症取り巻く状況を理解し、認知症ケアの理念に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	認知症取り巻く状況を理解し、認知症ケアの理念に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	認知症取り巻く状況を理解し、認知症ケアの理念に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	認知症取り巻く状況を理解し、認知症ケアの理念に対し、他者に説明できるが不十分である。
技能	2．介護における記録による情報の共有化について説明できる。	介護における記録による情報の共有化について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護における記録による情報の共有化について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護における記録による情報の共有化について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護における記録による情報の共有化について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護における記録による情報の共有化について他者に説明できるが不十分である。
技能	3．家族の心理を心理を理解し、かかわる手法を説明できる。	家族の心理を心理を理解し、かかわる手法に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	家族の心理を心理を理解し、かかわる手法に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	家族の心理を心理を理解し、かかわる手法に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	家族の心理を心理を理解し、かかわる手法に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	家族の心理を心理を理解し、かかわる手法に対し、他者に説明できるが不十分である。
態度	1．課題に取り組む姿勢。	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	2．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	3．グループワーク作業を分担して他者と協働できる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させる。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げる。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができない。

科目名	介護概論			授業番号	HW208	サブタイトル	(介護とは何かについて明らかにする。)		
教員	松井　圭三								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	介護の理念，介護の役割と機能，介護他分野の連携の本質を理解する。 また，介護の理念，倫理，対象，介護保険制度の本質と課題について学ぶ。								
到達目標	介護現場での最低限必要な介護の知識，制度等を理解し，その内容が説明できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	介護の成り立ちのポイントを抑える。 介護の概念について学ぶ。	
第2回	介護の基本理念のポイントを抑える。 介護の理念について学ぶ。	
第3回	介護福祉士を取り巻く状況のポイントを抑える。 介護福祉士の資格の現状について学ぶ。	
第4回	「社会福祉士及び介護福祉士法」のポイントを抑える。 「社会福祉士及び介護福祉士法」の概要について学ぶ。	
第5回	介護における専門職団体の活動のポイントを抑える。 介護における専門職団体について概観する。	
第6回	介護福祉士の倫理のポイントを抑える。 介護福祉士の倫理について概観する。	
第7回	自立の考え方のポイントを抑える。 自立とは何かについて学ぶ。	
第8回	ICFの考え方のポイントを抑える。 ICFについて概観する。	
第9回	自立支援とリハビリテーションのポイントを抑える。 自立支援とリハビリテーションについて概観する。	
第10回	自立支援と介護予防のポイントを抑える。 自立支援と介護予防について概観する。	
第11回	介護福祉を必要とする人の理解のポイントを抑える。 介護福祉を必要とする人の理解について概観する。	
第12回	介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみのポイントを抑える。 介護保険制度の内容、課題について学ぶ。	
第13回	介護における安全の確保とリスクマネジメントのポイントを抑える。 介護における安全の確保とリスクマネジメントについて概観する。	
第14回	協働する多職種の機能と役割のポイントを抑える。 医療、保健、福祉の専門職や連携、協働について概観する。	
第15回	介護従事者の安全のポイントを抑える。 介護従事者の安全について概観する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，発表，グループワークの参加，予習，復習，課題提出によって評価する。
レポート	90	レポートの課題に的確に解答しているかについて評価する。またレポートの内容を点検し、コメントを標記し返却する。

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出により総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式とグループワークで授業を展開します。 ・予習と授業中の積極的発言を求めます。 ・自分で考えることをベースに授業に参加してください。
授業外学修	・予習として，授業に関係した教科書を精読し，内容を理解する。 ・復習として，授業のレポートを書く。 ・授業で紹介された参考文献を精読する。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本授業では，時間外学修として，予習，復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となる。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ＮＩＥ介護の基本演習	松井圭三他	大学教育出版	978-4-86692-004-7	2200円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護保険政策集	松井圭三他	大学教育出版	978-4-88730-839-8	1800円＋税

参考書：自由記載	随時紹介します。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	観音寺市シルバー人材センター職員3年，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司2年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者保健福祉分野において実務経験を踏まえた授業を実践している。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．介護の福祉制度を理解する。	介護の福祉制度をすべて理解できる。	介護の福祉制度を概ね理解できる。	介護の福祉制度を理解できる。	介護の福祉制度をほとんど理解できない。	介護の福祉制度を理解できない。
思考・問題解決能力	１．利用者本位の支援について理解する。	利用者本位のすべてを理解できる。	利用者本位を概ね理解できる。	利用者本位を理解できる。	利用者本位をほとんど理解できない。	利用者本位を理解できない。
態度	１．今日の生活課題を理解する。	今日の生活課題をすべてを理解できる。	今日の介護の課題を概ね理解できる。	今日の介護の課題を理解できる。	今日の介護の課題をほとんど理解できない。	今日の介護の課題を理解できない。

科目名	介護の基本Ⅰ			授業番号	HW209	サブタイトル			
教員	森田　裕之								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	わが国の「介護」における社会的状況はめまぐるしく変化している。そのなかで介護福祉士は，多様，複雑，高度な問題を解決できる専門職としての役割を期待されていることを理解する。また，高齢者に対する「尊厳の保持」，「自立支援」，「自律支援」という考え方を理解するとともに，「介護を必要とする人」を生活の観点から捉える。 本講義では，介護福祉の基本となる理念や，地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し，介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学修とする。介護福祉の基本となる理念を理解し，介護福祉士としての倫理に基づき，その役割と機能を理解する。								
到達目標	介護福祉の基本となる理念を理解することができる。 介護福祉士の役割と機能を理解することができる。 介護福祉士の倫理を理解することができる。 自立に向けた支援の必要性を理解することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	介護の成り立ち～専門職による「介護」の展開 介護の歴史や介護福祉士制度の背景について理解する。	
第2回	介護の概念の変遷 社会福祉士及び介護福祉士法やゴールドプラン等をもとに、介護の概念の変遷について理解する。	
第3回	介護福祉の基本理念 「生活の継続性」「自己決定の尊重」「残存能力の活用」といった介護福祉の基本理念について理解する。	
第4回	尊厳・自立を支える介護 尊厳の保持や自立支援について理解する。	
第5回	介護福祉士の活動の場と役割 介護保険制度や障害者総合支援法に基づく施設・事業所について理解する。 また、それぞれの種別における介護福祉士の役割について理解する。	
第6回	社会福祉士及び介護福祉士法 社会福祉士及び介護福祉士法成立の背景や介護福祉士の定義について理解する。	
第7回	介護福祉士養成及び社会福祉専門職に求められる役割の拡大 社会福祉士及び介護福祉士法の法改正から、介護福祉士養成及び社会福祉専門職に求められる役割について理解する。	
第8回	介護福祉士を支える団体 日本介護福祉士会等、介護福祉士を支える団体について理解する。	
第9回	介護福祉士の実践における倫理 日本介護福祉士会倫理綱領をもとに、介護福祉士の実践における倫理を理解する。	
第10回	自立支援の考え方 自立と自律の違い等から、自立支援の基本的な考え方を理解する。	
第11回	ICFの考え方（1） ICIDH（国際障害分類）とICF（国際生活機能分類）について理解する。	
第12回	ICFの考え方（2） ICF（国際生活機能分類）の6つの構成要素である「健康状態」「心身機能・身体構造」「活動」「参加」「環境因子」「個人因子」について理解する。	
第13回	自立支援とリハビリテーション リハビリテーションの基本的な考え方を理解し、自立支援との関連性について学ぶ。	
第14回	自立支援と介護予防 「要介護状態の発生をできる限り防ぐ（遅らせる）こと、そして要介護状態にあってもその悪化をできる限り防ぐこと、さらには軽減を目指すこと」という介護予防の考え方と自立支援のつながりについて理解する。	
第15回	介護福祉の基本理念・まとめ 介護福祉に関する基本理念や知識を統合して、介護福祉について説明することができる。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予・復習状況を評価する。
レポート	20	資料や参考文献を活用したテーマに沿った記述ができているか評価する。 共通して見られた課題や優れた着眼点については、授業内で取り上げて解説し、学生全体の学びに還元する。
小テスト		
定期試験	70	授業内容を理解できているか評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。 ・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力，応用力も求めています。 ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。 ・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自，国家試験対策にも目を通すようにしてください。
授業外学修	１．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 ２．復習として，授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。 ３．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。 ４．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。 ５．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読んでください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は90時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週6時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座３介護の基本I		中央法規出版	978-4-8058-8392-1	2200

使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト その都度，授業資料・参考資料を配布します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	「見て覚える！介護福祉士国試ナビ2024」中央法規出版　（6月頃発行）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員、訪問介護管理者兼サービス提供責任者（森田）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（２年）と訪問介護管理者兼サービス提供責任者（５年）の経験から、介護における基本的な知識を有している。介護の基本である自立支援やICF等の知識を、学生が身につけられるよう授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．介護福祉関連法・尊厳の保持・自立支援など、介護の基礎理論に関する知識を有する。	介護福祉関連法・尊厳の保持・自立支援など、介護の基礎理論に十分に関する知識を有する。	介護福祉関連法・尊厳の保持・自立支援など、介護の基礎理論に関する知識を概ね有する。	介護福祉関連法・尊厳の保持・自立支援など、介護の基礎理論に関する知識をある程度有する。	介護福祉関連法・尊厳の保持・自立支援など、介護の基礎理論に関する知識をあまり有していない。	介護福祉関連法・尊厳の保持・自立支援など、介護の基礎理論に関する知識を有していない。
思考・問題解決能力	２．介護福祉の基本となる知識をもとにした思考力・判断力を有する。	介護福祉の基本となる知識をもとにした思考力・判断力を十分に有する。	介護福祉の基本となる知識をもとにした思考力・判断力を概ね有する。	介護福祉の基本となる知識をもとにした思考力・判断力をある程度有する。	介護福祉の基本となる知識をもとにした思考力・判断力をあまり有していない。	介護福祉の基本となる知識をもとにした思考力・判断力を有していない。
思考・問題解決能力	３．介護福祉士としての専門性・倫理・自立支援をもとに思考し、問題を解決できる能力を有する。	介護福祉士としての専門性・倫理・自立支援をもとに思考し、問題を解決できる能力を十分に有する。	介護福祉士としての専門性・倫理・自立支援をもとに思考し、問題を解決できる能力を概ね有する。	介護福祉士としての専門性・倫理・自立支援をもとに思考し、問題を解決できる能力をある程度有する。	介護福祉士としての専門性・倫理・自立支援をもとに思考し、問題を解決できる能力をあまり有していない。	介護福祉士としての専門性・倫理・自立支援をもとに思考し、問題を解決できる能力を有していない。
態度	４．介護の基本となる倫理観や利用者の尊厳を尊重し、主体的に学び、適切な態度で行動できる。	介護の倫理観を深く理解し、利用者の尊厳を最優先に考え、主体的に学びながら、常に適切で模範的な態度で行動できる。	介護の倫理観を理解し、利用者の尊厳を意識しながら、主体的に学び、適切な態度で行動できる。	介護の倫理観をある程度理解し、利用者の尊厳を考慮しながら、基本的な態度で行動できる。	介護の倫理観の理解が不十分であり、利用者の尊厳を意識した態度や行動が一貫していないことがある。	介護の倫理観を十分に理解できておらず、利用者の尊厳を尊重する態度や行動が見られない。

科目名	認知症の理解Ⅰ			授業番号	HW210	サブタイトル			
教員	中野　ひとみ								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では認知症に関する基礎的知識を習得するとともに，認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解する。 認知症ケアの歴史から認知症を取り巻く状況を理解し，医学的側面から見た認知症の基礎となる知識を身につける。 認知症の人のその治療やケアについて理解を深めるとともに，予防と生活に及ぼす影響について修得する。 認知症の人のみならず，家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を修得する。 また認知症に伴うこころとからだの変化が日常生活に及ぼす影響について事例をもとにロールプレイを行い，認知症の本人や家族の気持ちを理解する力を身につける。								
到達目標	(1)認知症の人の体験，認知症を取り巻く環境，認知症の人の医学，行動，心理，認知症の人の生活について理解し説明できる。 (2)認知症をもつ人と家族の体験を学ぶことにより，自分で考え支援する方法論を説明することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解><思考・問題解決能力><態度>の修得に貢献する。								
授業計画　備考	ディスカッションやグループワークを行う。 本科目は介護福祉士国家試験対応科目である。 ゲストスピーカーの講義は日程調整をして行う。								

回	概要	担当
第1回	認知症とは何か，認知症の人の介護，認知症ケアの理念と視点を理解する。 認知症患者の推移や支援に関わる制度を理解する。	中野
第2回	認知症ケアの歴史，認知症の人の体験とはどのようなものかを理解する。 キノコエスポワールの取り組み（DVD)を視聴し，認知症支援の歴史を理解する。	中野
第3回	認知症による症状，その人らしさを大切する支援の必要性を理解する。 認知症の人たちへの社会的支援方法を学ぶ。 認知症カフェを通して，地域で暮らす認知症を持つ当事者や家族との関わりから実践的支援方法を学ぶ。その１	中野
第4回	認知症の原因となる脳のしくみ・病変(脳のしくみ)を理解する。 脳の解剖生理とその働きを理解する。 認知症と老化の関係(認知症と他の状態との鑑別，うつやせん妄)を理解する。 病態と対応について理解する。	中野
第5回	認知症の人たちへの社会的支援方法を学ぶ。 認知症カフェを通して，地域で暮らす認知症を持つ当事者や家族との関わりから実践的支援方法を学ぶ。 当事者や家族への具体的な支援方法を理解する。その２	中野
第6回	認知症の症状(中核症状・BPSD)を理解する。 記憶・知能・失行・失認を理解する。 中核症状とBPSDの症状と対応について理解する。	中野
第7回	認知症の人たちへの社会的支援方法を学ぶ。 認知症カフェを通して，地域で暮らす認知症を持つ当事者や家族との関わりから実践的支援方法を学ぶ。 当事者や家族への具体的な支援方法を理解する。その３	中野
第8回	認知症の主な原因疾患を理解する。(1) 認知症の概要，神経伝達物質，変性疾患の理解，器質的・機能的変化の違いを理解する。 認知症の主な原因疾患(アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症)を理解する。 病態と対応について理解する。	中野
第9回	認知症の主な原因疾患を理解する。(2) 認知症の主な原因疾患(レビー小体型・前頭側頭型認知症)を理解する。 病態と対応について理解する。	中野
第10回	認知症の主な原因疾患を理解する。(3) その他の認知症)を理解する。 病態と対応について理解する。 若年性認知症の課題について理解する。	中野
第11回	認知症の検査・治療方法・予防を理解する。 長谷川式認知症スケールやMMSEや確定診断に必要な検査を理解する。 認知症治療薬や向精神薬の効果と副作用を理解する。 認知症予防のための日常生活の留意点を理解する。 ヤングケアラー、家族支援の在り方、課題解決の方法についてグループディスカッションを行う。その１	中野
第12回	認知症の人の支援療法についてを理解する。 回想法の実際について学ぶ。 利用者支援に必要な自己覚地・他者理解を理解する。	森重・中野
第13回	認知症を取り巻く社会的問題を理解する。 事例を通して虐待や家族介護の難しさを考える。 ヤングケアラー、家族支援の在り方、課題解決の方法についてグループディスカッションを行う。その２	中野
第14回	認知機能の変化が生活に及ぼす影響や家族支援を理解する。 本人支援や家族へのレスパイトケアを理解する。 認知症カフェを通して，地域で暮らす認知症を持つ当事者や家族との関わりから実践的支援方法を学ぶ。 当事者や家族への具体的な支援方法を理解する。その４	中野
第15回	ヤングケアラー、家族支援の在り方、課題解決の方法についてグループディスカッションを行う。その３ 認知症の人が暮らしやすい社会の実現，環境の調整や生活を続けるために必要な支援を理解する。全体の振り返りとまとめを行う。	中野
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
レポート	10	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式とグループ討議で進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・認知症に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。
授業外学修	1.予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2.復習として，課題のレポートを書く。 3.発展学修として，講義で紹介された参考文献を読むこと。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座 13 認知症の理解	中司登志美ほか	中央法規出版	978-4-8058-5773-1	2200円

使用テキスト：自由記載	視聴覚教材

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。認知症キャラバンメイト。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	森重 功:心療内科における心理臨床(老年期を含む)（25年）大学病院老年科，総合病院精神科における認知症スクリーニング検査（3年）総合病院精神科における認知症高齢者（経度・中等度）を対象としたグループ回想法 ファシリテーター（2年）介護福祉士、社会福祉士、保育士養成課程講師（9年）看護師養成課程講師（10年）
実務経験をいかした教育内容	中野：看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。 森重：認知症の診断にかかわる検査の経験（3年），認知症高齢者を対象とした回想法を運営した経験（2年）に基づいた認知症の理解やかかわりに関する知見を事例を通してお伝えするとともに，さまざまな心理的課題を抱えた来談者とともに歩んできた心理臨床の経験（22年）を通して考えてきた対人理解に関する諸課題（特に治療者の自己理解）について，実践的な観点からお伝えしていく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．認知症の取り巻く環境を理解できている。	社会における認知症の問題を問題意識として捉え，解決方法を考えることができている。	社会における認知症の問題を問題意識として捉えることができている。	社会における認知症の問題に興味・関心を持つことができている。	社会における認知症の問題に少しだけ興味・関心を持つことができている。	社会における認知症の問題を全く理解できていない。
知識・理解	2．認知症の医学的知識を理解できている。	認知症の種類による原因疾患や主症状，脳のメカニズム及び治療方法まで理解することができている。	認知症の種類による原因疾患や主症状や脳のメカニズムを理解することができている。	認知症の種類による原因疾患や主症状を理解することができている。	認知症の種類だけを理解することができているが主症状は判別できていない。	認知症の医学的知識が全く理解できていない。
知識・理解	3．認知症の行動・心理を理解できている。	認知症の行動・心理症状の発症時期を含め，中核症状及び周辺症状が的確に区別と内容を理解できている。	認知症の中核症状及び周辺症状も理解し行動・心理症状の理解もできている。	認知症の中核症状及び周辺症は理解できているが行動・心理症状の区別がつかない。	認知症の主たる症状はわかるがそのほかに出現する症状や行動・心理症状の区別がつかない。	認知症の症状が全く理解できていない。
思考・問題解決能力	1．認知症の人や家族への支援方法を見出すことができる。	認知症の人や家族への支援方法を理解し具体的な声掛けの仕方や支援内容を明確に説明することができている。	認知症の人や家族への支援方法が浮かび簡単に説明することができているが不十分なところもある。	認知症の人や家族への支援方法が曖昧だが浮かぶが明確な説明ができていない。	認知症の人への支援法はわかるが家族への支援方法は浮かばない。	認知症の人や家族への支援方法が全く浮かばない。
思考・問題解決能力	2.認知症のBPSDへの対応方法を見出すことができる。	認知症のBPSDの症状を理解できるが具体的かつ明確な対応方法を答えることができる。	認知症のBPSDの症状を理解でき対応方法を答えることができる。	認知症のBPSDの症状を理解できるがヒントを与えると対応方法が曖昧だが答えることができる。	認知症のBPSDの症状少し理解できるがヒントを与えても具体的な対応方法まで浮かばない。	認知症のBPSDがどのような症状が出現するか理解できていないためヒントを与えても対応方法が全く浮かばない。
態度	1．介護福祉士として認知症の人への対応を理解できている。	介護福祉士として認知症の方や家族にも関わることができそうで，専門的な知識・技術をもって適切な対応できると考えられる。	介護福祉士として認知症の方へ関わることができそうであり，専門的な知識・技術をもって対応できると考えらえる。	介護福祉士として認知症の方へ関わることができそうだが，専門的な知識・技術を持って対応出来そうではあるが，一部不十分なところもある。	介護福祉士として認知症の方へ関わることができそうではあるが、専門的な知識・技術をもって対応するには不十分で努力が必要である。	介護福祉士として専門性を持って認知症の方へ対応できそうもない。

科目名	人間発達学			授業番号	HW211	サブタイトル			
教員	疋田　基道								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	人間は，時間とともに様々な側面（感覚，感情，認知，社会性など）において変化していく存在である。この講義では，人間が生まれてからどのようなプロセスをたどりながら発達していくのかについて基礎的な知識を身につける。主要な発達理論を参照しながら，胎児期から高齢期まで段階ごとに発達の様相について解説する。								
到達目標	・主要な発達理論について説明できる。 ・各発達段階の特徴について説明できる。 ・発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができる ・なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	発達とは何か―発達理論 基礎的な発達理論について理解し，発達とは何かを学ぶ。	
第2回	胎児期 胎児の発達の特徴と胎内環境について学ぶ。	
第3回	乳児期 乳児期の身体，知覚，情緒，言語，アタッチメントの発達について学ぶ。	
第4回	幼児期(1) 幼児期の探索行動や発達について学ぶ。	
第5回	幼児期(2) 幼児期の遊びの発達や自我の芽生え等について学ぶ。	
第6回	幼児期(3) 幼児期の感情の発達やこころの理論について学ぶ。	
第7回	幼児期(4) 幼児期の観察学習やジェンダー等について学ぶ。	
第8回	児童期(1) 児童期について概観する。	
第9回	児童期(2) 児童期の認知的発達等について学ぶ。	
第10回	児童期（3） 児童期の動機づけや友人関係等について学ぶ。	
第11回	青年期（1） 青年期について概観し，アイデンティティの確立について学ぶ。	
第12回	青年期（2） 第二次反抗期や青年期に求められる力について学ぶ。	
第13回	成人期・高齢期 成人期・高齢期における発達課題について学ぶ。	
第14回	発達の個人差、障害 発達障害を含む様々な発達の個人差について学ぶ。	
第15回	総括 学んできたことを振り返り，まとめを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート		
小テスト	30	授業内容の理解度を評価する。小テスト実施後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
定期試験	40	授業内容の理解度・修得度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	受け身の姿勢ではなく，問題意識をもって能動的態度で受講すること。
授業外学修	・資料を基に予習・復習をすること。 ・授業で紹介した本や資料を読むこと。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
完全カラー図解 よくわかる発達心理学	渡邊弥生 監修	ナツメ社	978-4-8163-7057-1	1600円+税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤計18年），大学での学生相談（非常勤，フルタイム計20年）等の実務経験を有する。実務経験の合計は22年。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	人間の発達について、これまでの様々な年代の方々との臨床経験（22年）を通し、各発達期の特性や課題について伝えることができ、実践に活かせる知識と発達課題への対応を考える力を習得させることができる。			

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．主要な発達理論や各発達段階の特徴について理解し，説明できる。	主要な発達理論や各発達段階の特徴について理解し，知覚，言語，社会性，アイデンティティなどの具体的な発達についても詳しく説明でき，過去現在未来とつながる自分について説明できる。	主要な発達理論や各発達段階の特徴について基礎的な知識を習得し，それらをもとに現在の自分を説明することができる。	主要な発達理論や各発達段階の特徴について理解している。	ある発達理論やある時期の発達段階の特徴について理解しているが，時期や分野が限られる。	発達理論や各発達段階の特徴について理解できていない。
思考・問題解決能力	１．発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができる。	発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができ，将来の職業選択や人生設計を考えられるとともに，自他の人生の発達課題への対応を考えることができる。	発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができ，将来の職業選択や人生設計を考えることができる。	発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えを深めることができる。	自分自身について考えることができるが，発達心理学の知見からの考察が乏しい。	発達心理学の知見を基に，自分自身の生活や人生について考えることができない。
態度	１．演習に積極的に参加し，発達心理学について主体的に考えることができる。	授業中の演習課題に対して積極的に取り組み，自ら主体的に調べ，グループワークでは周りとの意見交換も行い，かつ自らの発達も振り返りながら自分自身のこととしても課題を考えることができる。	授業中の演習課題に対して積極的に取り組み，自ら主体的に調べ，自らの発達も振り返りながら自分自身のこととしても課題を考えることができる。	授業中の演習課題に対して積極的に取り組み，自らの発達も振り返りながら自分自身のこととしても課題を考えることができる。	授業中の演習課題に対して積極的に取り組んでいるが，自分自身のこととして考えることができていない。	授業中の演習課題に対して積極的に取り組めていない。

科目名	障害者支援論			授業番号	HW212	サブタイトル			
教員	藤井　裕士								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	障害の概念や基本的理念，障害の基礎的な知識を学び，障害のある人の特性に応じた支援，家族への支援について学ぶ。								
到達目標	・障害のある人の心理や身体機能，社会的側面に関する基礎的な知識を習得することができる。 ・家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得することができる。 ・それらの知識をもとに特性や状況に応じた支援を考えることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	障害者支援の基礎①事例を基に、障害観や支援観を深める。	
第2回	障害者支援の基礎② ICFの理念などをもとに「障害」について考える。	
第3回	聴覚障害の基礎知識聴覚障害の基礎について学び,体験を通して当事者の思いを考える。	
第4回	肢体不自由の基礎知識肢体不自由の基礎について学び,体験を通して当事者の思いを考える。	
第5回	障害者の思い①映像教材を通して,支援を受ける障害者の思いについて考える。	
第6回	障害者の思い②　映像教材を通して,支援を受ける障害者の思いについて考え,発表する。	
第7回	知的障害・発達障害の基礎　及び　家族の思い①知的障害・発達障害の基礎について学び,体験を通して障害についての理解を深める。	
第8回	知的障害・発達障害の基礎　及び　家族の思い②映像教材を通して,知的障害,発達障害について理解を深め,家族の思いについて発表する。	
第9回	視覚障害の基礎視覚障害者の基礎について学び,体験を通して当事者の思いを考える。	
第10回	障害者への支援①映像教材を通して,障害者当事者の支援や家族の支援について考える。	
第11回	障害者への支援②映像教材を通して,障害者当事者の支援や家族の支援について考える。	
第12回	障害者への支援③障害者への支援について,グループで話し合い,具体的な対策を考える。	
第13回	ユニバーサルデザインとバリアフリー・コンフリクトユニバーサルデザインやバリアフリー・コンフリクトついて知り,障害者支援についての理解を深める。	
第14回	障害者への支援④カードゲームを通して障害者への支援を考える。	
第15回	事例検討事例検討を通して,障害者への支援を考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	事例検討や演習を含めて,意欲的な受講態度によって評価する。
ワークシート	20	講義内でワークシートを使った演習を行い,ワークシートへの記述を評価する。また,次回の授業で全体の傾向についてコメントを行う。
レポート	50	全講義終了後，障害者支援における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。
授業外学修	1．授業内で学修した，障害者支援に関わる基礎理論を復習すること。 2．授業内で授業内容の課題があるため，その準備をすること。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要に応じて，プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	身体障害者更生施設職員（1年）,特別支援学校教諭（14年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	身体障害者更生施設での経験（1年）及び特別支援学校での経験（14年）から,肢体不自由,知的障害,発達障害,聴覚障害の理解や支援について,具体的な事例を交えながら授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	障害の概念や,障害者支援における基本理念に関して理解できているか。	障害の概念と種類を深く理解し,その影響を総合的に説明できる。	障害に関する基本的な知識を持ち,その影響について説明できる。	障害の基本的な概念を理解しているが,詳細な説明には限界がある。	障害の一部の概念を理解しているが,全体像を把握するのに苦労している。	障害の基本的な概念や種類の理解が不足している。
思考・問題解決能力	障害のある個人の特性や状況を踏まえ,適切な支援を立案することができるか。	障害のある個人の特性や状況を詳細に理解し,その人にとって最も効果的なカスタマイズされた支援を立案できる。支援は創造的で,個人の潜在能力を最大限に引き出す。	個人の特性をよく理解し,適切な支援を立案できる。支援は効果的であり,個人のニーズに合っているが,Aレベルのような深いカスタマイズや創造性はやや欠ける。	障害のある個人の基本的な特性や状況を理解し,一般的な支援を立案できる。しかし,より具体的なニーズや状況に対する洞察には限界があり,カスタマイズが不十分。	個人の特性や状況の理解が浅く,支援はその人のニーズを完全には満たしていない。基本的な支援は提供できるが,効果は限定的。	障害のある個人の特性や状況の理解が不足しており,不適切または非効果的な支援を立案してしまう。個人のニーズや潜在能力を引き出すことができない。
態度	学んだ知識をもとに、支援のために自ら考え行動しようとする。	学んだ知識をもとに、支援のために自ら考え行動しようとする。	支援に関する知識を活かし、積極的に関与しようとする。	指示があれば支援に取り組むことができる。	支援活動に対して消極的で、受け身の姿勢が目立つ。	支援活動への関心が低く、取り組もうとする姿勢がほとんど見られない。

科目名	医学一般			授業番号	HW213	サブタイトル			
教員	太田 潤								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	介護実践の根拠となる，人間の心理や人体の構造と機能および介護サービス提供時の安全への留意点などについて学ぶ。 （１）人間の心理や人体の構造・機能を理解するための基礎的な知識 （２）生活支援の場面に応じた，心と体のしくみ，心身の老化・機能低下や障がいが，生活に及ぼす影響に関する基礎的な知識 （３）日常生活動作での生活障がいは，どのようなメカニズムで生じるのかを学び，より良い介護実践に生かす。								
到達目標	心身の疾病，老化，生活障がいは，どのようなメカニズムで生じるのかを学び，より良い介護実践に生かす。 要介護者の方へ配慮し，同じ目線の高さで話し対処できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「健康」とは何か	
第2回	心の仕組みを理解する	
第3回	体の仕組みを理解する１	
第4回	体の仕組みを理解する２	
第5回	生命を維持する仕組み	
第6回	移動に関連した心と体の仕組み	
第7回	身じたくに関連した心と体の仕組み	
第8回	食事に関連した心と体の仕組み	
第9回	入浴・清潔保持に関連した心と体の仕組み	
第10回	排泄に関連した心と体の仕組み	
第11回	休息・睡眠に関連した心と体の仕組み	
第12回	人生の最終段階のケアに関連した心と体の仕組み	
第13回	人生の最終段階のケアに関連した心と身体の仕組み（終末期）	
第14回	薬の種類と特徴および高齢者・障がい者への配慮	
第15回	まとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	ルーブリックに記載した評価項目がどの程度達成されているかを評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	介護職として就職すると，すぐに必要な知識・技術です。日々の学びを心がけてください。 健康・疾病・医療・介護・福祉と，私たち自身や家族等の問題としても取り組んでください。
授業外学修	教科書，配布資料，授業内容及び関連領域に関して週4時間以上の学習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新　介護福祉士養成講座11　こころとからだのしくみ	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規出版	978-4-8058-8400-3	2，860円（税込）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	ハートネットTV（NHK） きょうの健康（NHK・NHK出版）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	介護実践の根拠となる，人間の心理や人体の構造と機能および介護サービス提供時の安全への留意点などについて助言ができる知識を身につける。	それらの内容を理解し，明確に説明できる。	それらの内容を理解し，説明できる。	それらの内容を理解しているが，説明が少し足りない。	それらの内容の理解が不十分であり，説明が足りない。	それらの内容の理解と説明が不十分である。
思考・問題解決能力	心身の疾病，老化，生活障がいは，どのようなメカニズムで生じるのかを理解し，より良い介護実践に生かせる。	それらの内容を理解し，十分に介護実践に生かせる。	それらの内容を理解し，介護実践に生かせる。	それらを理解しているが，介護実践への活用が少し足りない。	それらの理解が不十分であり，介護実践への活用が足りない。	それらの理解と介護実践への活用が不十分である。

科目名	リスクマネジメント論			授業番号	HW214	サブタイトル			
教員	森田　裕之								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	リスクマネジメント論では，介護福祉の基本となる理念や，地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し，介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学修とする。 介護を必要とする人が安全に安心して生活できるための，危機管理や事故防止，災害時の支援等リスクマネジメントについて理解を深め，介護実践の基礎となる知識技術を学ぶ。								
到達目標	(1)「予防」「最小化」「是正処置」のサイクルを理解し，リスクマネジメントを展開できる。 (2)災害時における介護の役割を理解するとともに，応急処置・緊急時の対応できる。 (3)「要配慮者」「避難行動要支援者」に対する支援及び，多職種協働を含む包括的な支援を理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	介護における生活の質の保証とリスクマネジメント リスクマネジメント（よくある介護事故の原因を分析し、予防方法を考えること、あるいは事故が発生した際の対応を検討すること）について理解する。	
第2回	介護における安全の確保とリスクマネジメント 事例をもとに、介護における安全の確保について理解する。	
第3回	クオリティインプルーブメントの考え方 クオリティインプルーブメントの「より質の高いサービスを提供することによって多くの事故が未然に回避できる」という考え方を理解する。	
第4回	クオリティインプルーブメントを実践するために クオリティインプルーブメントを実践するために必要な要素について理解する。	
第5回	身体拘束による弊害 身体拘束の定義とその弊害について理解する。	
第6回	在宅における危機管理 利用者の居宅に置いて、どのような危機管理が必要かを理解する。	
第7回	施設における危機管理 介護保険施設等において、どのような危機管理が必要かを理解する。	
第8回	介護現場におけるリスクマネジメントの実際(1) 介護現場でよく起こる事故をもとにした事例から、介護現場におけるリスクマネジメントを理解する。	
第9回	介護現場におけるリスクマネジメントの実際(2) 介護現場でよく起こる事故をもとにした事例から、介護現場におけるリスクマネジメントを理解する。	
第10回	災害時における介護福祉士の役割 避難所でのADL低下を防ぐ等、災害時における介護福祉士の役割について理解する。	
第11回	災害時における介護の実際(1) 東日本大震災での介護福祉士の実際を紹介し、災害時の対応について考える。	
第12回	災害時における介護の実際(2) 東日本大震災での介護福祉士の実際を紹介し、災害時の対応について考える。	
第13回	応急手当の知識と技術 「心肺蘇生」の流れと「AED」の使い方について理解する。	
第14回	応急処置・緊急時の対応 救急処置の4原則を学び、緊急時の対応を考える。	
第15回	介護におけるリスクマネジメントの基本的理解・まとめ 学生自身の今後に生かせるように、リスクマネジメントや災害時の対応等の復習を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予・復習状況を評価する。
レポート	40	テーマに沿った記述ができているか評価する。共通して見られた課題や優れた着眼点については、授業内で取り上げて解説し、学生全体の学びに還元する。
小テスト		
定期試験	50	授業内容を理解できているか評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。 ・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力，応用力も求めています。 ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。 ・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自，国家試験対策にも目を通すようにしてください。
授業外学修	１．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 ２．復習として，授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。 ３．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。 ４．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。 ５．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読んでください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	その都度，授業資料・参考資料を配布します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	通所リハビリテーション介護職員（2年）、訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）と訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の経験から、介護施設や在宅等におけるリスクマネジメントを行うことができる。リスクマネジメントに必要なKYTやハインリッヒの法則等を、学生が身につけられるよう授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．リスクマネジメントに関する基礎知識や災害時・緊急時に必要な知識を有する。	リスクマネジメントに関する基礎知識や災害時・緊急時に必要な知識を十分に有する。	リスクマネジメントに関する基礎知識災害時・緊急時に必要な知識を概ね有する。	リスクマネジメントに関する基礎知識や災害時・緊急時に必要な知識をある程度有する。	リスクマネジメントに関する基礎知識や災害時・緊急時に必要な知識をあまり有していない。	リスクマネジメントに関する基礎知識や災害時・緊急時に必要な知識を有していない。
思考・問題解決能力	２．リスクマネジメントの基礎知識をもとに、一般的な危険予測および対策を考えることができる。	リスクマネジメントの基礎知識をもとに、一般的な危険予測および対策を十分に考えることができる。	リスクマネジメントの基礎知識をもとに、一般的な危険予測および対策を概ね考えることができる。	リスクマネジメントの基礎知識をもとに、一般的な危険予測および対策をある程度考えることができる。	リスクマネジメントの基礎知識をもとに、一般的な危険予測および対策をあまり考えることができない。	リスクマネジメントの基礎知識をもとに、一般的な危険予測および対策を考えることができない。
思考・問題解決能力	３．介護福祉士に必要なリスクマネジメントに関する問題解決能力を有する。	介護福祉士に必要なリスクマネジメントに関する問題解決能力を十分に有する。	介護福祉士に必要なリスクマネジメントに関する問題解決能力を概ね有する。	介護福祉士に必要なリスクマネジメントに関する問題解決能力をある程度有する。	介護福祉士に必要なリスクマネジメントに関する問題解決能力をあまり有していない。	介護福祉士に必要なリスクマネジメントに関する問題解決能力を有していない。
態度	４．リスクマネジメントの重要性を理解し、危機管理意識を持ち、主体的に安全対策に取り組む姿勢を示せる。	リスクマネジメントの重要性を深く理解し、常に高い危機管理意識を持ち、主体的かつ積極的に安全対策や改善策を提案・実行できる。	リスクマネジメントの重要性を理解し、適切な危機管理意識を持ち、安全対策やリスク低減に向けた行動を取ることができる。	リスクマネジメントの基本的な考え方を理解し、指示に従いながら安全対策に取り組むことができる。	リスクマネジメントの理解が不十分であり、危機管理意識が低く、安全対策への取り組みが受動的である。	リスクマネジメントの理解が極めて不足しており、危機管理意識が欠如し、安全対策への関心や取り組みが見られない。

科目名	生活支援技術Ｉ 生活福祉コース卒業必修科目	授業番号	HW215	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田 裕之						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	生活支援技術Iでは，尊厳の保持や自立支援，生活の豊かさの観点から，本人主体の生活が継続できるよう，根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を修得する学修とする。 ＩＣＦの視点を生活支援に活かすことの意義を理解し，自立に向けた居住環境整備，移動，身支度，食事ついて基礎的な知識・技術を学ぶ。								
到達目標	(1)ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解し，生活の豊かさや心身の活性化のための支援について理解できる (2)自立に向けた居住環境の整備について理解することができる (3)自立に向けた移動・身じたく・食事の介護を理解することができる なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	生活支援の基本的な考え方 介護における生活支援の基本的な考え方を理解する。 ボディメカニクスについて理解することができる。	
第2回	生活支援におけるＩＣＦの視点 ICFの視点をもとに、高齢者や障害者の生活支援の基本的な考え方を理解する。	
第3回	生活支援とチームアプローチ チームアプローチの意味と生活支援との関連性について理解する。	
第4回	自立に向けた居住環境の整備(1) 高齢者の居住環境やベッドメイキングについて理解する。	
第5回	自立に向けた居住環境の整備(2) ベッドメイキングを実践することができる。	
第6回	自立に向けた居住環境の整備(3) シーツ交換を実践することができる。	
第7回	自立に向けた移動の介護 移動介助の基本を理解することができる。	
第8回	杖歩行介助(1) 杖歩行の方法や注意点を理解し実践することができる。	
第9回	杖歩行介助(2) 階段昇降等での杖歩行の方法や注意点を理解し実践することができる。	
第10回	車いすの介助(1) 車椅子の部位の名称や使用方法を理解することができる。	
第11回	車いすの介助(2) 車椅子を使用して段差等をこえることができる。	
第12回	生活とバリアフリー（公共施設での支援） バリアフリーとは何かを理解し、生活との関連性について知ることができる。	
第13回	安楽な体位と体位交換(1) 安楽な体位を理解することができ、体位変換を実践することができる。	
第14回	安楽な体位と体位交換(2) クッションなどを使用したポジショニングを行うことができる。 良肢位を理解することができる。	
第15回	移乗の介護(1) 車椅子からベッド、ベッドから車椅子の移乗を行うことができる。	
第16回	移乗の介護(2) ストレッチャーからベッド、ベッドからストレッチャーの移乗を行うことができる。	
第17回	福祉機器・福祉用具を活用した生活支援（1） リフトの使用方法を理解し、実践することができる。	
第18回	福祉機器・福祉用具を活用した生活支援（2） スライドボード、スライドシート、マルチグローブなどの福祉用具について理解し、実践することができる。	
第19回	自立に向けた身じたくの介助 更衣介助について理解し、実践することができる。	
第20回	整容の介助(1) 爪切りや電動髭剃りの使用方法、清拭について理解することができる。	
第21回	整容の介助(2) 爪切りや電動髭剃りの使用方法、清拭について実践することができる。	
第22回	自立に向けた食事の介護 食事介助の留意点（嚥下、誤嚥等）について理解することができる。	
第23回	食事の介護(1) 食事介助の留意点をもとに、実践することができる。	
第24回	食事の介護(2) 安全に配慮した水分・食事介助を行うことができる。	
第25回	自立に向けた口腔ケア 口腔ケアの留意点を理解することができる。	
第26回	口腔ケア(1) 口腔ケアの留意点を踏まえ、実践することができる。	
第27回	口腔ケア(2) 義歯の取り外しや管理について理解し、実践することができる。	
第28回	実技試験に向けて（ベッドメイキング・ボディメカニクス） ベッドメイキングやボディメカニクスについて復習し、各自が実技試験に向けて練習する。	
第29回	実技試験 ボディメカニクスが行えているか、ベッドメイキングのコーナー等を丁寧に行えているか等を確認する。	
第30回	生活支援技術の基本的理解・まとめ 生活支援についてや各介助について、復習を行う。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度・実習の姿勢・協力，予・復習状況を評価する。
レポート	20	実習記録において目的・実施内容・考察等適切に記述できているか評価する。 共通して見られた課題や優れた着眼点については、授業内で取り上げて解説し、学生全体の学びに還元する。
小テスト	20	事例に沿った生活支援技術が実施できるか評価する（実技試験）
定期試験	50	授業の内容が理解できているか評価する
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に演習形式で行い，各生活支援技術の意義・目的・介助方法等理論を学び，実習室での実習で技術を修得していきます。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な行動を求めます。 ・利用者の人権および生命を守るという意識を持ち，緊張感を持って取り組んでください。 ・利用者・介助者双方にとって安全・安楽・安心を意識し，利用者の尊厳の保持し，自立支援ができるようにしましょう。 ・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自，国家試験対策にも目を通すようにしてください。
授業外学修	１．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 ２．復習として，授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。 ３．実技は「１回見た，１回した」だけでは身につきません。実習で実際に利用者支援をする際，不安のないようにしっかり練習してください。 ４．実習記録の課題を出します。感想を書くだけでなく，根拠を元にしっかり考察できるように参考書を見ながら作成しましょう。提出期限をしっかり守ってください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術I		中央法規	978-4-8058-8395-2	2200
最新介護福祉士養成講座 7 生活支援技術II		中央法規	978-4-8058-8396-9	2200

使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	実習日は実習服，室内シューズを持参してください。 頭髪・つめ・装飾品等介護が行える身だしなみを整えてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	通所リハビリテーション介護職員（２年）、訪問介護管理者兼サービス提供責任者（５年）
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（２年）と訪問介護管理者兼サービス提供責任者（５年）の経験から、介護施設等の利用者に対して自立支援や尊厳の保持に配慮した生活支援技術に必要な知識と技術を、学生が身につけられるよう授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．介護を必要とする人の多様な生活から自立に向けた生活支援技術と、尊厳の必要性を説明できる。	介護を必要とする人の多様な生活から自立に向けた生活支援技術と、尊厳の必要性を十分説明できる。	介護を必要とする人の多様な生活から自立に向けた生活支援技術と、尊厳の必要性を概ね説明できる。	介護を必要とする人の多様な生活から自立に向けた生活支援技術と、る尊厳の必要性をある程度説明できる。	介護を必要とする人の多様な生活から自立に向けた生活支援技術と尊厳の必要性をあまり説明できない。	介護を必要とする人の多様な生活から自立に向けた生活支援技術と、尊厳の必要性を説明できない。
思考・問題解決能力	２．生活支援の場面において、利用者の状態や環境を踏まえた上で、適切な支援方法を検討し、論理的に説明できる。	利用者の状態や環境を的確に分析し、多様な選択肢を比較検討した上で、最適な支援方法を論理的かつ明確に説明できる。	利用者の状態や環境を適切に分析し、複数の支援方法を比較しながら、適切な支援方法を論理的に説明できる。	利用者の状態や環境をある程度分析し、適切な支援方法を説明できる。	利用者の状態や環境の分析が不十分であり、支援方法の説明に論理性が欠ける部分がある。	利用者の状態や環境を適切に分析できず、支援方法の説明が不十分である。
技能	１．基本的な介護技術の原理・原則を理解し自立に向けた支援を、利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術が実践できる。	基本的な介護技術の原理・原則を理解し自立に向けた支援を、利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術が正確に実践できる。	基本的な介護技術の原理・原則を理解し自立に向けた支援を、利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術が概ね実践できる。	基本的な介護技術の原理・原則を理解し自立に向けた支援を、利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術がある程度実践できる。	基本的な介護技術の原理・原則を理解し自立に向けた支援を、利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術があまり実践できない。	基本的な介護技術の原理・原則を理解し自立に向けた支援を、利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術が実践できない。
態度	１．講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組み、他学生と協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に積極的に取り組み、他学生と協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組み、他学生と概ね協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組み、他学生とある程度協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組むことや、他学生と協力して臨むことがあまりできない。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組むことや、他学生と協力して臨むことができない。

科目名	生活家事支援技術			授業番号	HW216	サブタイトル			
教員	森田　裕之								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業では，調理技術の習得にとどまらず，食生活支援を「生活支援の一環」として捉え，利用者の状態に応じた適切な食支援のあり方を実践的に学ぶ。 簡単な調理実習を通して基礎的な技術を習得するとともに，介護施設の見学や事例検討を通して，「何を・なぜ提供するのか」を考える意思決定能力を養う。								
到達目標	１．自立に向けた食事・調理支援の基本的知識を理解し，説明できる ２．食生活支援に必要な基本的な調理技術（簡易調理・食形態調整）を実践できる ３．利用者の状態に応じた食事内容や支援方法を考え，選択することができる ４．衛生面に配慮しながら安全に調理・提供を行うことができるなお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション／食生活支援の意義と役割	
第2回	高齢者の食の特徴（低栄養・嚥下・認知症）	
第3回	食事形態の理解（普通食・刻み・ミキサー・とろみ）	
第4回	衛生管理と安全（食中毒予防・調理時の注意）	
第5回	簡単調理①（電子レンジ調理・時短調理）	
第6回	簡単調理①（実習）	
第7回	簡単調理②（市販食品・レトルト活用）	
第8回	簡単調理②（実習）	
第9回	簡単調理③（やわらか食・刻み食）	
第10回	簡単調理③（実習）	
第11回	簡単調理④（とろみ調整・水分管理）	
第12回	簡単調理④（実習）	
第13回	簡単調理⑤（盛り付け・食欲を高める工夫）	
第14回	簡単調理⑤（実習）	
第15回	一人暮らし高齢者の食生活支援	
第16回	買い物・保存・継続可能な食支援	
第17回	見学事前学習（観察ポイントの整理）	
第18回	介護施設見学（特別養護老人ホーム）	
第19回	介護施設見学（特別養護老人ホーム）	
第20回	見学振り返り（比較・グループ討議）	
第21回	介護施設見学（デイサービス）	
第22回	介護施設見学（デイサービス）	
第23回	見学振り返り（比較・グループ討議）	
第24回	ケーススタディ（食支援の判断）	
第25回	献立作成①（対象理解）	
第26回	献立作成②（計画）	
第27回	献立作成③（発表・改善）	
第28回	献立実践①（簡単調理）	
第29回	献立実践②（簡単調理）	
第30回	まとめ・到達度確認	

授業計画　備考2	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート	30	授業で学んだ内容や見学経験をもとに，食生活支援のポイントや判断の根拠を整理して提出する。レポート課題にはコメントを付けて返却する。
定期試験	50	介護福祉士国家試験の内容をもとに、基礎知識・理解を問う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習時は，衛生面・安全面に十分配慮し，適切な身支度（髪を結ぶ，爪を切る，装飾品を外す等）を整えること。 また，見学時には介護現場の一員としての自覚を持ち，礼節ある態度で臨むこと。
授業外学修	1．日常の食事や食品に関心を持ち，観察・記録すること 2．見学内容や授業内容を振り返り，「なぜその支援が行われているか」を考察すること 3．週2時間以上の学修を行うこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座 生活支援技術（１）（第３版）		中央法規出版	9784824303417	2,640円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（2年）、訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）および訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の経験から，利用者一人ひとりの生活状況や身体機能に応じた食生活支援の重要性を理解している。これらの実務経験をもとに，本授業では，単なる調理技術の習得にとどまらず，「誰に・なぜその食事を提供するのか」という視点を重視し，利用者の自立支援や生活の質の向上につながる食支援のあり方を具体的に指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	自立に向けた食事・調理支援に関する基本的知識を理解する	食生活支援の知識を体系的に理解し，現場の状況と関連付けて説明できる	食生活支援の知識を理解し，具体例を挙げて説明できる	食生活支援の基本的知識を理解している	食生活支援の知識の理解が不十分である	食生活支援の知識を理解していない
思考・問題解決能力	利用者の状態に応じて適切な食支援を考え，選択することができる	利用者の身体・生活状況を総合的に捉え，根拠をもって最適な食支援を選択できる	利用者の状態に応じて適切な食支援を考え，理由を説明できる	利用者の状態に応じた食支援を考えることができる	利用者の状態に応じた判断が十分にできない	利用者の状態を考慮せず食支援を選択している
技能	食生活支援に必要な基本的な調理技術を身に付ける	状況に応じて調理方法や食形態を工夫し，自立して調理を行うことができる	基本的な調理技術を身に付け，適切に調理を行うことができる	基本的な調理技術を用いて調理を行うことができる	調理技術が不十分であり，支援が必要である	調理技術をほとんど身に付けていない
技能	衛生面に配慮しながら安全に調理・提供を行うことができる	衛生管理の根拠を理解し，常に適切な行動を主体的に実践できる	衛生管理の重要性を理解し，適切に実践できる	衛生面に配慮して調理を行うことができる	衛生面への配慮が不十分である	衛生面への配慮がほとんどできていない
態度	食生活支援について主体的に学び続ける姿勢を持つことができる	利用者の生活や食に強い関心を持ち，自ら課題を見つけて継続的に学ぼうとする姿勢がみられる	食生活支援に関心を持ち，主体的に学ぼうとする姿勢がみられる	食生活支援について学ぼうとする姿勢がみられる	学習への関心がやや低く，主体性に欠ける	学習への関心が乏しく，受動的である

科目名	生活余暇支援技術 生活福祉コース卒業必修科目			授業番号	HW217	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田　裕之								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	高齢になり心身機能の低下や障害を患っても，今までの生活同様自分らしく楽しい生活を送ることは人の権利である。 介護福祉の専門職として，生きがいの獲得や自己実現に向けた余暇活動支援の知識と能力を学修する。 生活余暇支援技術では，他者交流や社会とのつながりを通し，生活の中の楽しみや生きがいを創出できるように，多様なレクリエーション活動について学ぶ。そして，利用者のニーズに応じた余暇活動の立案・実践する。								
到達目標	利用者の状況・状態に合わせた生活の中での楽しみを計画することができる。 レクリエーション活動の実践を通し生きがいの支援の必要性を理解することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	生活の中の余暇活動支援 余暇活動および余暇活動支援の意味を学び、高齢者や障害者の生活においてどのような意味を持つか理解する。	
第2回	レクリエーション活動の意義と目的 「身体機能や脳機能の活性化」「コミュニケーションの促進」「生活の質の向上」といったレクリエーションの意義や目的を理解する。	
第3回	余暇活動の支援を必要とする人の理解 余暇活動の支援は、高齢者や障害者の生活の質（QOL）を向上させるために必要不可欠な要素ということを理解する。	
第4回	レクリエーション活動の実践 レクリエーションについて調べ、学生同士でレクリエーションを実践することができる。	
第5回	福祉レクリエーション（1） 福祉レクリエーションとは、何らかの形で国家・社会からのシステム的生活援助・支援（公的私的を包含して）を必要としている人々が、その生活や人生過程の中で楽しみや喜びを求めて行なう行為・活動であることを理解する。	
第6回	福祉レクリエーション（2） 身体機能向上、脳の活性化、コミュニケーション促進、QOL向上などを目的としたレクリエーションを計画することができる。	
第7回	創作活動と生活 先を使う 折り紙、おはじき、あやとり、塗り絵、指体操、お菓子作り、書道、おもちゃを作る工作など、創作活動について学ぶ。	
第8回	レクリエーション活動計画の作成(1) 介護実習で使用する様式をもとに、レクリエーション活動計画の作成を理解する。	
第9回	レクリエーション活動計画の作成(2) 介護実習で使用する様式をもとに、レクリエーション活動計画を作成することができる。	
第10回	レクリエーション活動の実践(１)デイサービス デイサービスのレクリエーションを見学し、介護現場のレクリエーションを理解する。	
第11回	レクリエーション活動の実践(２)デイサービス デイサービスのレクリエーションを見学し、介護現場のレクリエーションを理解する。	
第12回	レクリエーション活動の評価と再アセスメント 学生同士で行ったレクリエーションに対して、評価と再アセスメントを行うことができる。	
第13回	回想法の意義と目的 グループを組み、グループのメンバーに対し「自分の過去を話す」回想法について、喜びや満足感を感じ、孤独感をやわらげるといった目的等について理解する。	
第14回	回想法の実践 学生同士で回想法を実践することができる。	
第15回	余暇生活支援の必要性・まとめ レクリエーションや回想法について復習し、介護実習で行うレクリエーション計画を立案することができる。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・グループワークのリーダーシップ，予・復習状況を評価する。
レポート	60	レクリエーション計画書の内容を評価する。 共通して見られた課題や優れた着眼点については、授業内で取り上げて解説し、学生全体の学びに還元する。
その他	20	レクリエーションの実践（発表）を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に講義と演習形式を組み合わせて進めていきます。 ・余暇活動支援について体験的に学べるように，グループ討議や実践を多く取り入れます。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。 ・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力，応用力も求めています。 ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義・演習に臨んでください。 ・対象者に合わせたレクリエーションの立案ができるようになりましょう。
授業外学修	１．予習として，レクリエーション関連の雑誌（レクリエ等）やインターネットから，援助を必要とする方への余暇活動支援，レクリエーション材を集めておく。 ２．復習として，授業後は授業で扱った資料や参考所を照らし合わせ復習し，レクリエーションの実践ができるよう練習しましょう。 ３．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。 ４．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。 ５．発展学修として，講義で紹介された参考文献を読んでください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	プリント配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（2年）、訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学生が介護施設等でレクリエーションを行う際に必要な能力を身につけるため、通所リハビリテーション介護職員（2年）の経験から、高齢者等を対象にした介護現場で行う実践的なレクリエーションが行えるように授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．介護を必要とする人に必要なレクレーションについて説明できる。	介護を必要とする人に必要なレクレーションについて十分に説明できる。	介護を必要とする人に必要なレクレーションについて概ね説明できる。	介護を必要とする人に必要なレクレーションについてある程度説明できる。	介護を必要とする人に必要なレクレーションについてあまり説明できない。	介護を必要とする人に必要なレクレーションについて説明できない。
思考・問題解決能力	２．利用者の特性やニーズを的確に分析し、適切なレクリエーション活動を計画できる。	利用者の特性やニーズを的確に分析し、創造的かつ根拠に基づいたレクリエーション活動を計画できる。	利用者の特性やニーズを適切に分析し、概ね適切なレクリエーション活動を計画できる。	利用者の特性やニーズをある程度分析し、基本的なレクリエーション活動を計画できるが、工夫や適応に課題がある。	利用者の特性やニーズの分析が不十分であり、レクリエーション活動の計画に迷いや誤りが見られることがある。	利用者の特性やニーズを分析できず、適切なレクリエーション活動を計画することができない。
技能	３．基本的なレクレーションの原理・原則を理解したレクレーションが実践できる。	基本的なレクレーションの原理・原則を理解したレクレーションが十分に実践できる。	基本的なレクレーションの原理・原則を理解したレクレーションが概ね実践できる。	基本的なレクレーションの原理・原則を理解したレクレーションがある程度実践できる。	基本的なレクレーションの原理・原則を理解したレクレーションがあまり実践できない。	基本的なレクレーションの原理・原則を理解したレクレーションが実践できない。
態度	４．講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組み、他学生と協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に積極的に取り組み、他学生と協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組み、他学生と概ね協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組み、他学生とある程度協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組むことや、他学生と協力して臨むことがあまりできない。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組むことや、他学生と協力して臨むことができない。

科目名	総合生活学セミナーＫＩ			授業番号	HW218	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田　裕之、韓　在都、松井　圭三、中野　ひとみ								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	総合生活学セミナーKIは，介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに，介護観を形成し，専門職としての態度を養う学修とする。 各領域で学ぶ知識と技術の統合，介護実践の科学的探究を通し，介護実習での学びを深化させるとともに，介護の専門職として思考や態度の形成，自己教育力等を養う総合的な学修とする。また，認知症カフェの活動を組み入れることにより，臨床現場での実践経験を積む機会を得ると同時に，認知症に対する包括的な理解を深め，専門的かつ高度なケア技術の習得を促進する。								
到達目標	標記の介護実習目標が達成できるように，実習の進め方について理解し，介護実習に必要な知識・技術・姿勢を身につけることができる。 また，実習日誌やレクリエーション計画など記録の書き方を修得できる。 (1)介護実習の効果を上げるため，事前に実習する施設や事業所について理解できる。 (2)各領域で学んだ知識と技術を統合し，介護実践につなげることができる。 (3)実習や認知症カフェの経験を振り返り，介護の知識や技術を実践と結びつけて統合，深化できる。 (4)自己の課題を明確にし，専門職としての態度を身につけることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	介護総合演習の位置づけ 介護福祉士養成における、介護総合演習の位置づけを理解する。	森田
第2回	介護実習前の学習の内容と方法 実習先の施設・事業所について理解する。 実習先での態度等について理解する。	森田
第3回	介護実習の意義と目的 「地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケー ションや生活支援を行う基礎的能力を習得する学習とする」といった介護実習の意義と目的について理解する。	森田
第4回	介護実習の種類 介護実習Ⅰ－①～④、介護実習Ⅱについて理解する。 介護実習前・実習中・実習後の実習課題等について、学習の内容と方法を理解する。	森田
第5回	認知症カフェの概要と目的を学び，実際の認知症カフェの見学や参加を通じて、現場での経験を積む。	森田
第6回	認知症の方々とのコミュニケーション方法や対応技術を学び，学生自身が企画・運営した認知症カフェの成果を発表し，フィードバックを受ける。	森田
第7回	実習Iのねらい・実習Iの進め方 中国短期大学の実習の手引きをもとに、実習Iのねらい・実習Iの進め方を理解する。	森田
第8回	実習記録の書き方 卒業生の実習記録の用紙をもとに、実習記録の書き方を理解する。	森田
第9回	通所介護事業所について・通所介護事業所での実習準備 通所介護事業所について理解し、個人調査票作成等の実習準備を行う。	森田
第10回	通所介護事業所での実習後について・礼状の書き方 通所介護事業所での実習後に行う発表についてや礼状の書き方について理解する。	森田
第11回	実習I-(2)A障害福祉実習について 実習I-(2)A障害福祉実習について、就労継続支援や生活介護等の種別を理解する。	森田
第12回	通所介護実習の振り返り・実習報告会 通所介護実習で学んだこと等をパワーポイントにまとめ、発表する。	森田，松井，中野，韓
第13回	実習I-(2)A　障害者施設での実習について 生活介護や就労支援事業所等について理解する。	森田
第14回	障害福祉サービス事業所での実習について	森田
第15回	障害者施設での実習準備 個人調査票や実習目標等を作成する。	森田
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予習・復習を評価する。
レポート	30	実習の必要書類の提出期限の厳守。実習の自己課題，実習のまとめ等提出物と発表を評価する。 共通して見られた課題や優れた着眼点については、授業内で取り上げて解説し、学生全体の学びに還元する。
小テスト		
振り返りの発表	50	学内学修と介護現場での学びを統合し、発表内容や時間等について評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。 ・実習をスムースに進めるための，専門的知識と技術の定着を図れるように，意欲的に取り組んでください。 ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。 ・実習に必要な姿勢・書類等の準備を行います。提出期限の厳守および，実習に臨める姿勢作りを心がけてください。
授業外学修	１．実習をスムースに展開できるために必要な知識・生活支援技術の予習・復習をしてください。 ２．自分が行く実習先の情報を，資料やインターネットなどで調べて施設の概要や特徴を理解しておいてください。 ３．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。 ４．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。 ５．実習で活用できるレクリエーションや回想法などを準備しておいてください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士全書10	介護総合演習・介護実習	中央法規出版	978-4-8058-8399-0	2200

使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト 実習の手引き

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（2年），訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を有する。(森田) 観音寺市シルバー人材センター職員（3年），観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を有する。(松井) 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野） 介護福祉士（11年）として介護老人ホームにて介護職員5年，訪問介護員として1年の実務経験がある。（韓）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）や訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を活かし、介護福祉士に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田） 高齢者福祉，障害者福祉において，観音寺市シルバー人材センター職員（3年）や観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を踏まえた授業を実践している。(松井) 看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野） 介護老人ホーム（5年）や訪問介護員（1年）の実務経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する。（韓）

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．介護実習Ⅰ-①の意義と目的を理解し、実習生として必要な資質を理解できる。	介護実習Ⅰ-①の意義と目的を理解し、実習生として必要な資質を十分理解できる。	介護実習Ⅰ-①の意義と目的を理解し、実習生として必要な資質を概ね理解できる。	介護実習Ⅰ-①の意義と目的を理解し、実習生として必要な資質をある程度理解できる。	介護実習Ⅰ-①の意義と目的を理解し、実習生として必要な資質をあまり理解できない。	介護実習Ⅰ-①の意義と目的を理解できず、実習生として必要な資質を理解できない。
知識・理解	２．利用者の生活と施設・居宅介護の特色を理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を十分理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を概ね理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色をある程度理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色をあまり理解できない。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を理解できない。
思考・問題解決能力	１．自分自身の傾向を把握し、課題解決に努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に十分努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に概ね努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決にある程度努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決にあまり努めることができない。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に努めることができない。
技能	１．高齢者と適切にかかわる基本姿勢が習得できる。	高齢者と適切にかかわる基本姿勢が十分習得できる。	高齢者と適切にかかわる基本姿勢が概ね習得できる。	高齢者と適切にかかわる基本姿勢がある程度習得できる。	高齢者と適切にかかわる基本姿勢があまり習得できない。	高齢者と適切にかかわる基本姿勢が習得できない。
技能	2．実習で学んだことをパワーポイントにまとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントに十分まとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントに概ねまとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントにある程度まとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントにまとめ、発表することがあまりできない。	実習で学んだことをパワーポイントにまとめ、発表することができない。
態度	１．実習のための課題を記録し、期限内に提出することができる。	実習のための課題を正確に記録し、期限内に提出することができる。	実習のための課題を記録し、期限内に概ね提出することができる。	実習のための課題を記録し、期限内にある程度提出することができる。	実習のための課題を記録するが、期限内にあまり提出できない。	実習のための課題を記録できず、期限内に提出できない。

科目名	総合生活学セミナーＫⅡ			授業番号	HW219	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田　裕之、韓　在都、松井　圭三、中野　ひとみ								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	総合生活学セミナーKIIは，介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに，介護観を形成し，専門職としての態度を養う学修とする。 各領域で学ぶ知識と技術の統合，介護実践の科学的探究を通し，実習や認知症カフェでの学びを深化させるとともに，介護の専門職として思考や態度の形成，自己教育力等を養う総合的な学修とする。								
到達目標	標記の介護実習目標が達成できるように，実習の進め方について理解し，介護実習に必要な知識・技術・姿勢を身につけることができる。 また，実習日誌やレクリエーション計画など記録の書き方を修得できる。 (1)介護実習の効果を上げるため，事前に実習する施設や事業所について理解できる。 (2)各領域で学んだ知識と技術を統合し，介護実践につなげることができる。 (3)実習や認知症カフェの経験を振り返り，介護の知識や技術を実践と結びつけて統合，深化できる。 (4)自己の課題を明確にし，専門職としての態度を身につけることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	障害者施設での実習を終えて 障害者施設での実習で学んだことや反省点等をパワーポイントにまとめる。	森田
第2回	障害者施設実習の振り返り・実習報告会 パワーポイントでまとめた内容をもとに発表を行う。	森田，松井，中野，韓
第3回	就労支援と社会参加 障がいのある方等が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう必要な支援や援助について理解する。	森田
第4回	障がい者の自立（自律）について ノーマライゼーションの思想を背景とした、「自己決定に基づいて主体的な生活を営むこと」、「障害を持っていてもその能力を 活用して社会活動に参加すること」について理解する。	森田
第5回	障がい者施設での（実習I-②）実習まとめ パワーポイントで発表した内容をもとに、学生同士で意見を伝え合い、実習の学びを深める。	森田
第6回	介護実習I-③の意義と目的 訪問介護実習の意義と目的を理解する。	森田
第7回	介護実習I-③の学習の内容と方法 訪問介護に関する歴史等について理解する。	森田
第8回	訪問介護事業所について 訪問介護における身体介護・生活介護および特性等について理解する。	森田
第9回	地域の中で生活をする意義 認知症カフェの活動を通して，社会においてお互いが支え合って生活することの重要性や社会で暮らす一員として生活する意義を理解する。①	森田
第10回	地域の中で生活をする意義 認知症カフェの活動を通して，社会においてお互いが支え合って生活することの重要性や社会で暮らす一員として生活する意義を理解する。②	森田
第11回	地域の社会資源について 各種制度、サービス、人材、組織・団体等、地域の社会資源について理解する。	森田
第12回	在宅生活を支えるための多職種協働 看護師やリハビリテーション専門職等が、在宅生活を支えるためにどのような協働を行っているかについて理解する。	森田
第13回	訪問介護事業所での実習準備(1) 個人調査票や実習目標を作成する。	森田
第14回	訪問介護事業所での実習準備(2) 個人調査票や実習目標を作成する。	森田
第15回	訪問介護事業所での実習に向けて（実習中・実習後の予定の確認等） 事前オリエンテーションや実習巡回、お礼状の作成等について理解する。	森田
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予習・復習を評価する。
レポート	30	実習の必要書類の提出期限の厳守。実習の自己課題，実習のまとめ等提出物と発表を評価する。 共通して見られた課題や優れた着眼点については、授業内で取り上げて解説し、学生全体の学びに還元する。
小テスト		
パワーポイントを使用した発表	50	発表内容、発表時間、質疑応答の内容等で評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。 ・実習をスムースに進めるための，専門的知識と技術の定着を図れるように，意欲的に取り組んでください。 ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。 ・実習に必要な姿勢・書類等の準備を行います。提出期限の厳守および，実習に臨める姿勢作りを心がけてください。
授業外学修	１．実習をスムースに展開できるために必要な知識・生活支援技術の予習・復習をしてください。 ２．自分が行く実習先の情報を，資料やインターネットなどで調べて施設の概要や特徴を理解しておいてください。 ３．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。 ４．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。 ５．実習で活用できるレクリエーションや回想法などを準備しておいてください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士全書10	介護総合演習・介護実習	中央法規出版	978-4-8058-8399-0	2200

使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト 実習の手引き

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（2年），訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を有する。(森田) 観音寺市シルバー人材センター職員（3年），観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を有する。(松井) 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野） 介護福祉士（11年）として介護老人ホームにて介護職員5年，訪問介護員として1年の実務経験がある。（韓）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）や訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を活かし、介護福祉士に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田） 高齢者福祉，障害者福祉において，観音寺市シルバー人材センター職員（3年）や観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を踏まえた授業を実践している。(松井) 看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野） 介護老人ホーム（5年）や訪問介護員（1年）の実務経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する。（韓）

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．介護実習Ⅰ-②の意義と目的を理解し、実習生として必要な資質を理解できる。	介護実習Ⅰ-②の意義と目的を理解し、実習生として必要な資質を十分理解できる。	介護実習Ⅰ-②の意義と目的を理解し、実習生として必要な資質を概ね理解できる。	介護実習Ⅰ-②の意義と目的を理解し、実習生として必要な資質をある程度理解できる。	介護実習Ⅰ-②の意義と目的を理解し、実習生として必要な資質をあまり理解できない。	介護実習Ⅰ-②の意義と目的を理解できず、実習生として必要な資質を理解できない。
知識・理解	２．利用者の生活と施設・居宅介護の特色を理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を十分理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を概ね理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色をある程度理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色をあまり理解できない。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を理解できない。
思考・問題解決能力	１．自分自身の傾向を把握し、課題解決に努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に十分努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に概ね努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決にある程度努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決にあまり努めることができない。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に努めることができない。
技能	１．障害者と適切にかかわる基本姿勢が習得できる。	障害者と適切にかかわる基本姿勢が十分習得できる。	障害者と適切にかかわる基本姿勢が概ね習得できる。	障害者と適切にかかわる基本姿勢がある程度習得できる。	障害者と適切にかかわる基本姿勢があまり習得できない。	障害者と適切にかかわる基本姿勢が習得できない。
技能	2．実習で学んだことをパワーポイントにまとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントに十分まとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントに概ねまとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントにある程度まとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントにまとめ、発表することがあまりできない。	実習で学んだことをパワーポイントにまとめ、発表することができない。
態度	１．実習のための課題を記録し、期限内に提出することができる。	実習のための課題を正確に記録し、期限内に提出することができる。	実習のための課題を記録し、期限内に概ね提出することができる。	実習のための課題を記録し、期限内にある程度提出することができる。	実習のための課題を記録するが、期限内にあまり提出できない。	実習のための課題を記録できず、期限内に提出できない。

科目名	介護過程Ⅰ			授業番号	HW220	サブタイトル			
教員	韓　在都								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，介護福祉における介護過程の意義と目的を理解し，基本となる考え方を講義する。 他の教科で学習した知識や技術を統合して，介護過程を展開，介護計画を立案したうえで適切なサービスの提供ができる能力を養うための講義を行う。 介護過程の意義を理解し，介護現場で展開できる力を身につけるための講義を行う。								
到達目標	(1)介護過程の構成要素を列挙することができる。 (2)介護過程の意義を理解し，介護実践に結びつけるポイントの説明ができる。 (3)情報収集，解釈・関連づけ・統合化，課題の明確化に実際を追体験する。 (4)事例を用いて介護過程を展開する目的と効果について説明することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	介護過程とはなにか 介護実践における介護過程の目的と意義を理解し，本人の望む生活を理解する。	
第2回	介護過程の構成要素・意義 介護過程の全体像（アセスメント，介護計画，介護の実施，評価）を理解する。	
第3回	アセスメント１ アセスメントの第1歩である「情報の収集」の方法を多角的視点から理解する。	
第4回	アセスメント２ ICF視点にもとづいて情報を収集することで，利用者の全体像を客観的かつ全人的にとらえることに対して理解する。	
第5回	アセスメント３ 利用者の情報収集の方法について観察力，先入観や偏見などが及ぼす影響について理解する。また、客観的観察と主観的観察，情報の取捨選択の意義を理解する。	
第6回	アセスメント４ 前回まで学習した内容をもとに写真や映像から情報収集の演習をすることで利用者の全体像を理解する。	
第7回	アセスメント５ 多角的視点から得られた情報を「情報の解釈・関連付け・統合化」という作業を通して，利用者の生活課題を明確に理解する。	
第8回	介護計画の立案 アセスメントによって明確にされた生活上の課題を達成し，利用者の希望する生活を実現するための介護計画を理解する。	
第9回	介護の実施 目標達成のために立案された介護計画に沿って，実際に介護を実践する場面の3つの視点「安全性の配慮，快適さへの配慮，自立への配慮」を理解する。	
第10回	評価 介護計画により実践された介護実施に対して，達成されたか，方法は適切であったか，修正は必要かなど評価の意義と目的を理解する。	
第11回	事例研究１ グループホームにおける認知症高齢者の事例をもとに利用者の生活課題を明らかにするまでのアセスメントの過程を理解する。	
第12回	事例研究２ 脳性麻痺のある男性の事例をもとに利用者の生活課題を明らかにするまでのアセスメントの過程を理解する。	
第13回	事例研究３ 在宅における脳血管疾患のある女性の事例をもとに利用者の生活課題を明らかにするまでのアセスメントの過程を理解する。	
第14回	事例研究４ 介護老人福祉施設におけるターミナル期の女性の事例をもとに利用者の生活課題を明らかにするまでのアセスメントの過程を理解する。	
第15回	介護過程とケアマネジメント ケアプランと個別援助計画の関係性を学び，チームとしての介護過程を展開する意義を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
レポート	20	課題のテーマを正確に理解し答えているか，論理的で客観的な根拠があるかを評価し、コメントを記入して返却する。
小テスト（個別ワーク）	20	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	40	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式とグループ討議で進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・他教科との連動して考える力，専門的知識と技術が応用力が求められます。 ・自ら考える姿勢で講義に臨んでください。 ・国家試験対策も含めて講義を展開します。 　実習を含めて，必ず必要となる知識ですので，しっかり習得していきましょう。 　難解な言葉が多くありますが，わからないことは調べるなどして学修を進めていくことが必要です。
授業外学修	１．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 ２．復習として，課題のレポートを書く。 ３．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で15時間とする。週1時間の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護過程	介護福祉士養成講座　9	中央法規	978-4-8058-5769-4	2200（税別）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験がある。（韓 在都）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	介護福祉士として高齢者施設（5年），訪問介護員（1年）などの現場経験を活かし，知識や技術など実践的能力が身につくように指導する。（韓 在都）

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．介護過程の意義、目的を説明できる	介護過程の意義、目的に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護過程の意義、目的に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	介護過程の意義、目的に対し、他者に説明でき、質問に対しての回答ができる。	介護過程の意義、目的に対し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護過程の意義、目的に対し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	2．介護過程の全体像を説明できる	介護過程の全体像について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護過程の全体像について他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	介護過程の全体像について他者に説明でき、質問に対しての回答ができる。	介護過程の全体像について他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護過程の全体像について他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	3．生活支援における介護過程の必要性を説明できる	生活支援における介護過程の必要性を他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	生活支援における介護過程の必要性を他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	生活支援における介護過程の必要性を他者に説明でき、質問に対しての回答ができる。	生活支援における介護過程の必要性を他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	生活支援における介護過程の必要性を他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	1．介護過程におけるアセスメントの思考の流れを説明できる	アセスメントの思考の流れとその因果関係について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	アセスメントの思考の流れとその因果関係について他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	アセスメントの思考の流れとその因果関係について他者に説明でき、質問に対しての回答ができる。	アセスメントの思考の流れとその因果関係について他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	アセスメントの思考の流れとその因果関係について他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	2．ICFの考え方を活用した情報収集の方法を説明できる	ICFの考え方を活用した情報収集の方法について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	ICFの考え方を活用した情報収集の方法について他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	ICFの考え方を活用した情報収集の方法について他者に説明でき、質問に対しての回答ができる。	ICFの考え方を活用した情報収集の方法について他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	ICFの考え方を活用した情報収集の方法について他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	3．ICFと関連付けたアセスメントをもとに介護計画が立案できる	情報収集した関連情報の因果関係を十分分析し、課題を明確し、適切な介護目標をたてている。	情報収集した情報を分析し、課題を明確し、適切な介護目標をたてている。	情報収集した情報を分析し、おおむね適切な課題と介護目標をたてている。	課題と考えられることや介護目標は書いているが、分析や根拠が十分ではない。	情報収集や分析が十分ではなく、課題や介護目標が不適切又は書いていない。
技能	1．情報収集の必要性について説明できる	事例を通して、対象者の状態・状況に応じた情報収集の必要性についてわかりやすく説明でき、質問に対して的確に回答できる。	事例を通して、対象者の状態・状況に応じた情報収集の必要性についてわかりやすく説明でき、質問に対して回答できる。	事例を通して、情報収集の必要性について説明でき、質問に対して回答できる。	事例を通して、情報収集の必要性について説明できるが、質問に対しての回答が的確ではない。	事例を通して、情報収集の必要性について説明が不十分である。
技能	2．介護過程とICFモデルの関連性を説明できる	介護過程とICFの関連性について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護過程とICFの関連性について他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	介護過程とICFの関連性について他者に説明し、質問に対し回答できる。	介護過程とICFの関連性について他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護過程とICFの関連性について他者に説明できるが不十分である。
技能	3．情報の分析・解釈・統合ができる	事例を通して、対象者の状態・状況を把握して得られた情報を対象者の生活環境に合わせて的確に分析し、解釈、統合ができている。	事例を通して、対象者の状態・状況を把握して得られた情報を分析し、解釈、統合ができている。	事例を通して、対象者の状態・状況を把握して得られた情報を分析し、解釈、統合ができている。	事例を通して、対象者の状態・状況を把握して得られた情報の分析、解釈、統合が不十分である。	事例を通して、対象者の状態・状況を把握して得られた情報を整理している。
態度	1．課題に取り組む姿勢	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	2．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	3．グループワーク作業を分担して他者と協働できる	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができなかった。

科目名	介護過程Ⅱ			授業番号	HW221	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田　裕之								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本人の望む生活の実現に向けて，生活課題の分析を行い，根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を修得する学修とする。 介護過程IIでは，個別事例を通じた介護過程の展開の実際について，介護総合演習や介護実習，生活支援技術等他の科目との連動を視野に入れて，介護過程を展開できる能力を養う。								
到達目標	(1)個別の事例を通じて，対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開ができる。 (2)居宅サービス計画・施設サービス計画についても理解し，個別に応じた介護過程の展開が理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	介護過程の実践的展開 介護過程が介護現場でどのように展開されているかを理解する。	
第2回	「介護過程」展開の実際 介護過程が介護現場でどのように展開されているかを、実習等と関連して理解する。	
第3回	事例１における介護過程の展開 事例をもとに、アセスメント・立案を行うことができる。	
第4回	事例２における介護過程の展開 事例をもとに、アセスメント・立案を行うことができる。	
第5回	事例３における介護過程の展開 事例をもとに、アセスメント・立案を行うことができる。	
第6回	事例４における介護過程の展開 事例をもとに、アセスメント・立案を行うことができる。	
第7回	介護過程とケアマネジメントの関係性 介護福祉士が行う介護過程と、介護支援専門員が行うケアマネジメントの関係性を理解する。	
第8回	チームアプローチによる介護福祉士の役割 多職種がかかわるチームアプローチの中で、介護福祉士がどのような役割を担っているかを理解する。	
第9回	利用者のさまざまな生活と介護過程の展開 利用者の生活の違いを介護過程の展開に反映させることができる。	
第10回	事例で考える利用者の生活と介護過程(1) 事例をもとに利用者の全体像を捉えることができる。	
第11回	事例で考える利用者の生活と介護過程(2) 利用者の全体像をもとに、情報の解釈・関連付け・統合化を行うことができる。	
第12回	事例で考える利用者の生活と介護過程(3) 利用者の全体像をもとに、ニーズの抽出を行うことができる。	
第13回	事例で考える利用者の生活と介護過程(4) 利用者の全体像をもとに、計画の立案を行うことができる。	
第14回	事例で考える利用者の生活と介護過程(5) 計画の立案をもとに、実施・評価を行うことができる。	
第15回	介護過程の展開方法・まとめ 利用者の全体像を捉える重要性や、アセスメント・立案・実施・評価といった一連の介護過程について理解できているかを確認する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度・グループワークの参加状況，予・復習状況を評価する。
レポート	40	介護過程の展開で作成した資料を評価する。 共通して見られた課題や優れた着眼点については、授業内で取り上げて解説し、学生全体の学びに還元する。
小テスト		
定期試験	50	授業内容が理解できているか評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本科目は講義・演習形式をとり，個別ワーク・グループワークヲ実施しながら進めていきます。 実習ではひとりで介護過程を展開していくので，介護過程の展開技法を修得してください。 テキストの事例を基に介護過程を展開していくため，期限を守るようにしてください。 積極的に発言し，グループワークを円滑にしてください。 疑問点は必ず質問し，解決して進めてください。 他教科で学んだことを統合し，専門的知識と技術の応用力を求めています。 自分のグループ内の役割を意識しチームビルディングを図ってください。
授業外学修	1．予習として，教科書をしっかり読んで，利用者に応じた介護計画の立案に努めてください。 2．復習として，介護過程の資料を見直し，根拠を考え，的確な資料作りをしてください。 3．この講義は，事例に応じた介護過程の展開を考え，介護計画書を作成します。精度の高い資料の作成は授業時間だけでは完成しません。しっかり授業外学修を行ってください。 4．介護計画書は思いだけで作るのではなく，エビデンスが必要です。他の教科の教科書や参考書から，事実に基づいた記述を心がけてください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士全書９　介護過程		中央法規	978-4-8058-8398-3	2200
使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	通所リハビリテーション介護職員（2年）、訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）と訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の経験から、利用者のニーズに応じた一連の介護過程を行うことができる。一連の介護過程に必要なアセスメントや計画立案を、学生が行うことができるようになるような授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．介護過程を展開するために必要な情報や知識を修得することができる。	介護過程を展開するために必要な情報や知識を十分に修得することができる。	介護過程を展開するために必要な情報や知識を概ね修得することができる。	介護過程を展開するために必要な情報や知識をある程度修得することができる。	介護過程を展開するために必要な情報や知識をあまり修得できていない。	介護過程を展開するために必要な情報や知識を修得できていない。
知識・理解	2．アセスメントや立案の必要性と方法について理解をしている。	アセスメントや立案の必要性と方法について十分理解をしている。	アセスメントや立案の必要性と方法について概ね理解をしている。	アセスメントや立案の必要性と方法についてある程度理解をしている。	アセスメントや立案の必要性と方法についてあまり理解していない。	アセスメントや立案の必要性と方法について理解していない。
思考・問題解決能力	3．収集した情報をICFシートに分類し、整理する能力を有する。	収集した情報をICFシートに分類し、整理する能力を十分に有する。	収集した情報をICFシートに分類し、整理する能力をほぼ有する。	収集した情報をICFシートに分類し、整理する能力をある程度有する。	収集した情報をICFシートに分類し、整理する能力をあまり有していない。	収集した情報をICFシートに分類し、整理する能力を有していない。
思考・問題解決能力	4．整理した情報をもとにニーズを抽出する能力を有する。	整理した情報をもとにニーズを抽出する能力を十分に有する。	整理した情報をもとにニーズを抽出する能力をほぼ有する。	整理した情報をもとにニーズを抽出する能力をある程度有する。	整理した情報をもとにニーズを抽出する能力をあまり有していない。	整理した情報をもとにニーズを抽出する能力を有していない。
技能	5．介護過程の展開に基づき、利用者の個別性や尊厳に配慮した情報収集を行い、適切なアセスメントを行うことができる。	利用者の個別性や尊厳に配慮した情報収集を行い、利用者の状況から的確にアセスメントすることができる。	利用者の尊厳に配慮した情報収集を行い、利用者の状況から適切にアセスメントすることができる。	利用者の尊厳に配慮した情報収集を行い、利用者の状況からある程度アセスメントすることができる。	利用者の情報収集を行い、利用者の状況からある程度アセスメントすることができるが、内容に不備がある。	利用者の情報収集を行うことができず、アセスメントすることができない。
態度	6．専門職としての倫理観を持ち、責任感をもって介護過程（情報収集・アセスメント）を実践する姿勢を示すことができる。	介護専門職として高い倫理観を持ち、責任感をもって自ら主体的に介護過程を実践できる。	介護専門職としての倫理観を理解し、責任を持って適切に介護過程を実践できる。	介護専門職としての基本的な倫理観を備え、指導のもとで介護過程を実践することができる。	倫理観や責任感が不足し、介護過程の実践において受動的な態度が見られる。	倫理観や責任感が著しく欠如し、介護過程の実践に対して無関心または不適切な態度を示す。

科目名	介護実習Ⅰ－①			授業番号	HW222	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田　裕之、韓　在都、松井　圭三、中野　ひとみ								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	地域における様々な場において，対象者の生活を理解し，本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を修得する学修とする。 本人の望む生活の実現に向けて，多職種との協働の中で，介護過程を実践する能力を養う学修とする。 介護実習Iでは，個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し，利用者・家族とのコミュニケーションの実践，生活支援技術の確認，多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。								
到達目標	(1)地域における多様な介護の現場における生活支援について見学し，その特徴や役割を理解できる。 (2)利用者・家族とコミュニケーションを図り，利用者理解を深めることができる。 (3)日常生活援助を見学し，可能な範囲で体験し，介護福祉士の生活支援について理解できる。 (4)他職種の役割と他職種との連携・協働について理解できる。 (5)介護理念・職業倫理について理解を深めることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	実習I－(1) 通所介護事業所（デイサービス・デイケア） 有料老人ホーム その他、介護実習Ⅰに該当する施設 学生の学習目的および希望を踏まえて、適切と認められた施設を含む 1日8時間×10日間（80時間）　7月の第2週～3週に実施 通所介護事業を通し，在宅生活支援における介護サービスについて実習を行なう。 【内容】 通所介護事業所の特徴・役割の理解，介護福祉士の役割・生活支援の理解，介護保険制法の理解， 利用者・家族とのコミュニケーションからの利用者理解，生活支援技術の見学・実践， サービス担当者会議等にて多職種協働の理解，実習の振り返り								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	25	実習への意欲，積極性，誠実性，立ち居振る舞い等実習に取り組む姿勢を評価する。
レポート	25	実習記録が丁寧に記述し，根拠に基づいた考察および意見が述べられているか等記録物を評価する。 実習報告や記録類については、個別面談の場で直接フィードバックを行い、今後の課題や改善方法について助言する。
小テスト		
定期試験		
その他	50（実習担当者25・教員25）	実習担当者と教員が実習目標の達成度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習において「社会福祉士又は介護福祉士法」に基づく倫理条項（誠実義務・信用失墜行為の禁止・秘密保持・連携・資質向上の責務・名称の使用制限等）の遵守を念頭において実習に臨んでください。 (1) 実習期間中は実習施設の服務規程に従い，施設長をはじめ職員の指導を受け，施設の方針を妨げないようにすること。 (2) 疑問に感じたこと，不明なことは必ず質問し，現状を理解した上で判断・行動すること。 (3) 実習生の言動は利用者に影響を与えるものであるから，常に施設職員に準ずる良識に基づいた行動をとらなければならない。 (4) 実習は将来専門職に就くための準備である。学生の本分を忘れず自己研鑽に努めること。 (5) 言葉遣いや態度に気をつけること。 (6) 担当教員には報告・連絡・相談の徹底を図ること。
授業外学修	1．介護保険施設での実習となるため，実習に必要なテキストをしっかり読んで，介護福祉士について学ぶ学生としてふさわしい知識・技術で実習に臨めるように予習・復習をしてください。 2．毎日，実習記録を帰宅後に作成し，1日の出来事を振り返ってください。わからない用語や翌日の実習に必要な事柄について学修し準備してください。 3．レクリエーションや回想法など積極的に活用し，信頼関係の構築，利用者理解が深められるように準備をしてください。 4．実習期間は時間を計画的に使い，体力の回復・健康，学修等自己管理を怠らないようにしてください。 5．実習期間中は，施設職員，実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を実習日誌に記入する。 また，その他介護過程の展開，レクリエーション計画表などを作成する。 以上の内容を，毎日1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習		中央法規	978-4-8058-8399-0	2200

使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト（介護の基本I・II，生活支援技術I・II，介護総合演習・介護実習等） 介護実習の手引き

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	実習ファイルを準備します。書類の管理をしてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有

担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（2年），訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を有する。(森田) 観音寺市シルバー人材センター職員（3年），観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を有する。(松井) 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野） 介護福祉士（11年）として介護老人ホームにて介護職員5年，訪問介護員として1年の実務経験がある。（韓）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	実習指導者（介護福祉士）
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）や訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を活かし、介護福祉士に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田） 高齢者福祉，障害者福祉において，観音寺市シルバー人材センター職員（3年）や観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を踏まえた指導を実践している。(松井) 看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野） 介護老人ホーム（5年）や訪問介護員（1年）の実務経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する。（韓）

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を十分に説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を概ね説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活をある程度説明することができる。	利用者の生活をあまり説明することができない。	利用者の生活を説明することができない。
知識・理解	２．通所介護の業務内容や一日の流れを、理解できる。	通所介護の業務内容や一日の流れを、十分に理解できる。	通所介護の業務内容や一日の流れを、概ね理解できる。	通所介護の業務内容や一日の流れを、ある程度理解できる。	通所介護の業務内容や一日の流れをあまり理解できない。	通所介護の業務内容や一日の流れを理解できない。
思考・問題解決能力	１．実習全体の目標が明確で、それをもとに毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとに明確な毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとにある程度明確な毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとに毎日の目標を立てる能力を有している。	明確な毎日の目標を立てる能力をあまり有していない。	明確な毎日の目標を立てる能力を有していない。
技能	１．高齢者にかかわり、話を聴くことができる。	高齢者に積極的にかかわり、話を聴くことができる。	高齢者にある程度積極的にかかわり、話を聴くことができる。	高齢者にかかわり、話を聴くことができる。	高齢者の話をあまり聴くことができない。	高齢者の話を聴くことができない。
技能	2．自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を的確に記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察をある程度的確に記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することがあまりできない。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができない。
態度	１．実習課題を記録し、期限内に提出することができる。	実習課題を正確に記録し、期限内に提出することができる。	実習課題を記録し、期限内に概ね提出することができる。	実習課題を記録し、期限内にある程度提出することができる。	実習課題を記録するが、期限内にあまり提出できない。	実習課題を記録できず、期限内に提出できない。

科目名	介護実習Ⅰ－②	授業番号	HW223	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田　裕之、韓　在都、中野　ひとみ						
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	地域における様々な場において，対象者の生活を理解し，本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を修得する学修とする。 本人の望む生活の実現に向けて，多職種との協働の中で，介護過程を実践する能力を養う学修とする。 介護実習Iでは，個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し，利用者・家族とのコミュニケーションの実践，生活支援技術の確認，多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。								
到達目標	実習Ａ (1)地域における多様な介護の現場における生活支援について見学し，その特徴や役割を理解できる。 (2)利用者・家族とコミュニケーションを図り，利用者理解を深めることができる。 (3)日常生活援助を見学し，可能な範囲で体験し，介護福祉士の生活支援について理解できる。 (4)他職種の役割と他職種との連携・協働について理解できる。 (5)介護理念・職業倫理について理解を深めることができる。 実習Ｂ (1)地域における多様な介護の現場における生活支援について見学し，その特徴や役割を理解する。 (2)利用者・家族とコミュニケーションを図り，利用者理解を深める。 (3)日常生活援助を見学し，可能な範囲で体験し，介護福祉士の生活支援について理解する。 (4)他職種の役割と他職種との連携・協働について理解する。 (5)介護理念・職業倫理について理解を深めることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	＜実習Ａ＞ 障害福祉事業所（障害者支援施設，就労継続支援A・B型事業所） その他、介護実習Ⅰに該当する施設（学生の学習目的および希望を踏まえて、適切と認められた施設を含む） 1日7.5時間×8日間（60時間）　9月の第2週～3週に実施 障害福祉事業における生活支援及び就労支援を通し障害者支援について実習を行なう。 【内容】 障害者支援事業の特徴・役割の理解，障害者福祉サービスでの生活支援の理解，障害者総合支援法の理解， 障がい者の自立支援・社会参加の理解，生活支援技術の見学・実践，サービス担当者会議等にて多職種協働の理解，実習の振り返り ＜実習Ｂ＞ 訪問介護事業所・定期巡回随時対応型訪問介護看護 その他、介護実習Ⅰに該当する施設（学生の学習目的および希望を踏まえて、適切と認められた施設を含む） 1日6時間×5日間（30時間）　2月の第2・3週に実施 在宅生活継続のためのケアマネジメントにおける介護サービスについて実習を行なう。 【内容】 訪問介護事業所の特徴・役割の理解，訪問介護員の生活支援の理解，介護保険制度・障害者総合支援法の理解， サービス担当者会議等にて多職種協働の理解，実習の振り返り								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	25	実習への意欲，積極性，誠実性，立ち居振る舞い等実習に取り組む姿勢を評価する。
レポート	25	実習記録が丁寧に記述し，根拠に基づいた考察および意見が述べられているか等記録物を評価する。 実習報告や記録類については、個別面談の場で直接フィードバックを行い、今後の課題や改善方法について助言する。
小テスト		
定期試験		
その他	50（実習担当者25・教員25）	実習担当者と教員が実習目標の達成度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習において「社会福祉士又は介護福祉士法」に基づく倫理条項（誠実義務・信用失墜行為の禁止・秘密保持・連携・資質向上の責務・名称の使用制限等）の遵守を念頭において実習に臨んでください。 (1) 実習期間中は実習施設の服務規程に従い，施設長をはじめ職員の指導を受け，施設の方針を妨げないようにすること。 (2) 疑問に感じたこと，不明なことは必ず質問し，現状を理解した上で判断・行動すること。 (3) 実習生の言動は利用者に影響を与えるものであるから，常に施設職員に準ずる良識に基づいた行動をとらなければならない。 (4) 実習は将来専門職に就くための準備である。学生の本分を忘れず自己研鑽に努めること。 (5) 言葉遣いや態度に気をつけること。 (6) 担当教員には報告・連絡・相談の徹底を図ること。
授業外学修	１．介護保険施設での実習となるため，実習に必要なテキストをしっかり読んで，介護福祉士について学ぶ学生としてふさわしい知識・技術で実習に臨めるように予習・復習をしてください。 ２．毎日，実習記録を帰宅後に作成し，1日の出来事を振り返ってください。わからない用語や翌日の実習に必要な事柄について学修し準備してください。 ３．レクリエーションや回想法など積極的に活用し，信頼関係の構築，利用者理解が深められるように準備をしてください。 ４．実習期間は時間を計画的に使い，体力の回復・健康，学修等自己管理を怠らないようにしてください。 ５．実習期間中は，施設職員，実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を実習日誌に記入する。 　また，その他介護過程の展開，レクリエーション計画表などを作成する。 以上の内容を，毎日1時間学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士全書10 介護総合演習・介護実習		中央法規	978-4-8058-8399-0	2200

使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト（介護の基本Ⅰ・Ⅱ，生活支援技術Ⅰ・Ⅱ，介護総合演習・介護実習等） 介護実習の手引き

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	実習ファイルを準備します。書類の管理をしてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（2年），訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を有する。(森田) 観音寺市シルバー人材センター職員（3年），観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を有する。(松井) 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野） 介護福祉士（11年）として介護老人ホームにて介護職員5年，訪問介護員として1年の実務経験がある。（韓）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	実習指導者（介護福祉士）
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）や訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を活かし、介護福祉士に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田） 高齢者福祉，障害者福祉において，観音寺市シルバー人材センター職員（3年）や観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を踏まえた指導を実践している。(松井) 看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野） 介護老人ホーム（5年）や訪問介護員（1年）の実務経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する。（韓）

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を十分に説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を概ね説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活をある程度説明することができる。	利用者の生活をあまり説明することができない。	利用者の生活を説明することができない。
知識・理解	２．障害者施設や訪問介護の業務内容や一日の流れを、理解できる。	障害者施設や訪問介護の業務内容や一日の流れを、十分に理解できる。	障害者施設や訪問介護の業務内容や一日の流れを、概ね理解できる。	障害者施設や訪問介護の業務内容や一日の流れを、ある程度理解できる。	障害者施設や訪問介護の業務内容や一日の流れをあまり理解できない。	障害者施設や訪問介護の業務内容や一日の流れを理解できない。
思考・問題解決能力	１．実習全体の目標が明確で、それをもとに毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとに明確な毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとにある程度明確な毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとに毎日の目標を立てる能力を有している。	明確な毎日の目標を立てる能力をあまり有していない。	明確な毎日の目標を立てる能力を有していない。
技能	１．高齢者や障害者にかかわり、話を聴くことができる。	高齢者や障害者に積極的にかかわり、話を聴くことができる。	高齢者や障害者にある程度積極的にかかわり、話を聴くことができる。	高齢者や障害者にかかわり、話を聴くことができる。	高齢者や障害者の話をあまり聴くことができない。	高齢者や障害者の話を聴くことができない。
技能	2．自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を的確に記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察をある程度的確に記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することがあまりできない。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができない。
態度	１．実習課題を記録し、期限内に提出することができる。	実習課題を正確に記録し、期限内に提出することができる。	実習課題を記録し、期限内に概ね提出することができる。	実習課題を記録し、期限内にある程度提出することができる。	実習課題を記録するが、期限内にあまり提出できない。	実習課題を記録できず、期限内に提出できない。

科目名	ヒューマンケア ④ シラバス用			授業番号	HW301	サブタイトル	こころとからだのしくみ		
教員	韓 在都、中野 ひとみ								
単位数	9単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	介護実践に必要なこころとからだのしくみの基本的な知識を，介護の流れをイメージしながら修得する。 また，介護を必要とする人にとって，生活の充足を味わうためにはどのような介護技術が必要なのかを事例をとおして理解する。								
到達目標	(1)介護の目指す基本的なものは何かについて説明でき，介護の専門性について列挙することができる。 (2)介護技術の基本となる人体の構造や機能に関する知識を修得し，安全な介護サービスが提供できるように準備することができる。 (3)介護過程の展開に必要な構成要素を理解し，介護過程の展開について理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	介護の基本的な考え方 理念に基づいた介護，法的根拠に基づいた介護について理解する。	韓 在都
第2回	介護に関するこころのしくみの基礎的理解１ 感情と意欲に関する基礎知識について理解する。	中野 ひとみ
第3回	介護に関するこころのしくみの基礎的理解２ 自己概念といきがいについて理解する。	中野 ひとみ
第4回	介護に関するこころのしくみの基礎的理解３ 老化や障害を受け入れる適応行動と阻害要因について理解する。	中野 ひとみ
第5回	介護に関するからだのしくみの基礎的理解１ 健康チェックとバイタルサインについて理解する。	中野 ひとみ
第6回	介護に関するからだのしくみの基礎的理解２ 骨，関節，筋肉に関する基礎知識について理解する。	中野 ひとみ
第7回	介護に関するからだのしくみの基礎的理解３ 中枢神経と内部器官に関する基礎知識について理解する。	中野 ひとみ
第8回	介護過程の基礎的理解１ 科学的思考と介護過程について理解する。	韓 在都
第9回	介護過程の基礎的理解２ 介護過程の展開に必要な構成要素（アセスメント①）について理解する。	韓 在都
第10回	介護過程の基礎的理解３ 介護過程の展開に必要な構成要素（アセスメント②）について理解する。	韓 在都
第11回	介護過程の基礎的理解４ 介護過程の展開に必要な構成要素（計画の立案，介護の実施，評価）について理解する。	韓 在都
第12回	総合生活支援技術演習（事例１） 事例による展開（衣服の着脱，移動の介助，食事の介助）について理解する。	韓 在都
第13回	総合生活支援技術演習（事例１） 事例による展開（排泄の介助，入浴の介助）について理解する。	韓 在都
第14回	総合生活支援技術演習（事例２） 事例による展開（衣服の着脱，移動の介助，食事の介助）について理解する。	韓 在都
第15回	総合生活支援技術演習（事例２） 事例による展開（排泄の介助，入浴の介助）について理解する。	韓 在都
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	積極的な発言・筆記・質問を評価する。
レポート	40	こころとからだの仕組みについて身に付けた基本的知識・技術・考え方を，実生活に生かす意欲や方法について述べていること。レポートについては，コメントを記入して返却する。
小テスト	30	基本的知識の定着度・理解度（2回の小テストにより）を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	なお，本科目は「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため，全出席を原則とする。 本資格取得に関連する5科目について，単位取得後，1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。
受講の心得	こころとからだを健康に保ち，気持よく本授業にのぞめるよう，服装や環境整備に留意することを求む。 また，資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。
授業外学修	1 予習として教科書をよく読み，疑問点を明らかにする。 2 授業で身につけた知識・技術について復習し，介護が必要な人のことを考える。 3 発展学修として授業で学んだことを実生活で生かす。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で15時間とする。週1時間の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護職員初任者研修テキスト 第4分冊：技術と実践	公益財団法人 介護労働安定センター	公益財団法人 介護労働安定センター	978-4-907035-48-8	2000＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験がある。（韓 在都） 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野ひとみ）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設における経験（5年），訪問介護員（1年）などの介護福祉士として訪問介護や介護付き老人ホームの勤務の実務経験を活かし，生活支援に必要なからだこころのしくみに関する知識や技術を身につくよう指導する。（韓 在都）看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野ひとみ）

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．介護の専門性について理解し、説明できる。	介護の専門性について他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	介護の専門性について他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	介護の専門性について他者に説明でき、質問に回答できる。	介護の専門性について他者に説明できるが質問に対する回答が的確ではない。	介護の専門性について他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	２．介護実践に必要なこころとからだのしくみの基本的な知識を理解し、介護の流れを説明できる。	介護実践に必要なこころとからだのしくみの基本的な知識や介護の流れに対し、他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	介護実践に必要なこころとからだのしくみの基本的な知識や介護の流れに対し、他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	介護実践に必要なこころとからだのしくみの基本的な知識や介護の流れに対し、他者に説明でき、質問に回答できる。	介護実践に必要なこころとからだのしくみの基本的な知識や介護の流れに対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護実践に必要なこころとからだのしくみの基本的な知識や介護の流れに対し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	３．介護過程の意義と目的、介護過程の展開について説明できる。	介護過程の意義と目的、介護過程の展開について他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	介護過程の意義と目的、介護過程の展開について他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	介護過程の意義と目的、介護過程の展開について他者に説明でき、質問に回答できる。	介護過程の意義と目的、介護過程の展開について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護過程の意義と目的、介護過程の展開について他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	１．介護福祉の基本理念や専門職としての倫理について説明できる。	介護福祉の基本理念や専門職としての倫理に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護福祉の基本理念や専門職としての倫理に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護福祉の基本理念や専門職としての倫理に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護福祉の基本理念や専門職としての倫理に対し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護福祉の基本理念や専門職としての倫理に対し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	２．介護に関するからだのしくみの基礎的理解を説明できる。	介護に関するからだのしくみの基礎的知識を理解し、安全なサービス提供に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護に関するからだのしくみの基礎的知識を理解し、安全なサービス提供に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護に関するからだのしくみの基礎的知識を理解し、安全なサービス提供に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護に関するからだのしくみの基礎的知識を理解し、安全なサービス提供に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護に関するからだのしくみの基礎的知識を理解し、安全なサービス提供に対し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	３．介護過程の展開に必要な構成要素を理解し、一連のプロセスと着眼点について説明できる。	介護過程の展開に必要な構成要素を理解し、一連のプロセスと着眼点に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護過程の展開に必要な構成要素を理解し、一連のプロセスと着眼点に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護過程の展開に必要な構成要素を理解し、一連のプロセスと着眼点に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護過程の展開に必要な構成要素を理解し、一連のプロセスと着眼点に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護過程の展開に必要な構成要素を理解し、一連のプロセスと着眼点に対し、他者に説明できるが不十分である。
技能	１．協働する他職種連携の意義と課題を説明できる。	協働する他職種連携の意義と課題に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	協働する他職種連携の意義と課題に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	協働する他職種連携の意義と課題に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	協働する他職種連携の意義と課題に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	協働する他職種連携の意義と課題に対し、他者に説明できるが不十分である。
技能	２．介護技術の基本となる人体の構造や機能に関する基礎知識を説明できる。	介護技術の基本となる人体の構造や機能に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護技術の基本となる人体の構造や機能に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護技術の基本となる人体の構造や機能に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護技術の基本となる人体の構造や機能に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護技術の基本となる人体の構造や機能に対し、他者に説明できるが不十分である。
技能	３．チームで介護過程を展開することの意義や方法を説明できる。	チームで介護過程を展開することの意義や方法に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	チームで介護過程を展開することの意義や方法に対し、他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	チームで介護過程を展開することの意義や方法に対し、他者に説明でき、質問に対して回答できる。	チームで介護過程を展開することの意義や方法に対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	チームで介護過程を展開することの意義や方法に対し、他者に説明できるが不十分である。
態度	１．課題に取り組む姿勢。	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	２．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	３．グループワーク作業を分担して他者と協働できる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させる。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げる。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができない。

科目名	ヒューマンケア ⑤ シラバス用			授業番号	HW302	サブタイトル	生活支援技術の基本		
教員	韓 在都								
単位数	9単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	介護が必要な人たちの尊厳を保持し，自立及び自律を尊重し，持っている力を発揮できるようなこころとからだのしくみを理解した上で，生活を支える具体的な介護技術を学ぶ。								
到達目標	(1)生活支援技術の基本を習得するための原理を説明することができる。 (2)生活支援技術の知識と実践を統合し，基本となる生活支援技術について説明することができる。 (3)多様性のある利用者の生活を支援するためのさまざまな視点・アプローチのポイントを列挙することができる。 (4)多面的な生活支援を展開するための技能について説明することができる。 なお本科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	整容に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護１ 整容についての意義を，生理的側面，社会的側面，精神的側面から理解する。	
第2回	整容に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護２ 整容の支援技術（爪切り，口腔ケア）について学び，利用者の自立支援にもとづいた介助方法を理解する。	
第3回	整容に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護３ 整容の支援技術（衣服の着脱）について学び，利用者の自立支援にもとづいた介助方法を理解する。	
第4回	整容に関したこころとからだのしくみと自立に向けた介護４ 身体状況に合わせた衣服の着脱について理解する。	
第5回	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護１ 移動・移乗介助の意義・目的を理解する。	
第6回	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護２ 重心・重力の動き，ボディメカニクスの基本原理について理解する。	
第7回	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護３ 福祉用具を活用する意義，福祉用具（杖・歩行器，車いす，下肢装具）の種類とその活用方法について理解する。	
第8回	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護４ 活動の低下が及ぼすこころとからだへの影響（廃用症候群，褥瘡，体位変換）について理解する。	
第9回	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護５ 活動の低下した場合の移動・移乗（移乗の介助，歩行の介助，視覚障害者の移動介助）について学び，自立支援にもとづいた介助を理解する。	
第10回	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護６ 歩行が困難な利用者の移動手段である車いすに操作方法や移動介助の具体的方法を理解する。	
第11回	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護１ 私たちの生活における食事の意味や食事摂取のしくみについて理解する。	
第12回	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護２ 食事に関連した観察のポイントや適切な食事環境について理解する。	
第13回	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護３ さまざまな状態像に合わせた介護方法について理解する。	
第14回	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護４ さまざまな状態像（上肢機能障害，視覚障害，認知機能障害，食事制限）に合わせた介護方法について理解する。	
第15回	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護５ 咀嚼・嚥下状態の観察と確認について理解する。	
第16回	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護６ 食事介護の社会的側面，口腔機能について理解する。	
第17回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護１ 入浴の効果と入浴に関する基礎知識について理解する。	
第18回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護２ 清拭の効果と清拭に関する基礎知識について理解する。	
第19回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護３ シャワー浴・一般浴（片麻痺の場合）の介助方法について理解する。	
第20回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護４ 手浴・足浴の介助方法について理解する。	
第21回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護５ 洗髪・髭剃りの介助方法について理解する。	
第22回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護６ 入浴に際したリスクの対応について理解する。	
第23回	排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護１ 排泄の意義・排泄のメカニズム・排泄障害・失禁の種類について理解する。	
第24回	排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護２ 排泄しやすい環境整備，排泄用具の種類と特徴について理解する。	
第25回	排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護３ ポータブルトイレの介助（片麻痺のある場合）の意義と方法について理解する。	
第26回	排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護４ トイレ内での排泄介助（片麻痺のある場合）の意義と方法について理解する。	
第27回	排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護５ ベッド上での介助（尿器介助）の意義と方法について理解する。	
第28回	排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護６ ベッド上での介助（オムツ交換）の意義と方法について理解する。	
第29回	睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護１ 睡眠の基礎知識と役割について理解する。	
第30回	睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護２ 高齢者の睡眠の特徴，睡眠を阻害する要因について理解する。	

授業計画　備考2	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	100	各回の授業で行う介護技術の修得度を，実技発表の形で毎回確認し評価する。

評価の方法：自由記載	なお，本科目は，「介護職員初任者研修」資格取得に関わる科目のため全出席を原則とする。 本資格取得に関連する5科目について，単位取得後，1時間程度の見極め筆記試験に合格しなければならない。
受講の心得	こころとからだを健康に保ち，気持よく本授業に臨めるよう，服装や環境整備に留意することを求める。 また，資格取得を目指す気持ちで授業を受けることを求める。
授業外学修	1　予習として，教科書をよく読み，疑問点を明らかにする。 2　授業で身につけた知識・技術について復習し，介護が必要な人のことを考える。 3　発展学修として，授業で学んだ技術は練習する。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護職員初任者研修テキスト第4分冊：技術と実践	公益財団法人　介護労働安定センター	公益財団法人　介護労働安定センター	978-4-907035-48-8	2000＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験がある。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設における経験（5年），訪問介護員（1年）などの介護福祉士として訪問介護や介護付き老人ホームの勤務の実務経験を活かし，生活支援に必要なからだこころのしくみに関する知識や技術を身につくよう指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．生活支援技術の基本を習得するための原理を説明できる。	生活支援技術の基本を習得するための原理について他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	生活支援技術の基本を習得するための原理について他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	生活支援技術の基本を習得するための原理について他者に説明でき、質問に回答できる。	生活支援技術の基本を習得するための原理について他者に説明できるが質問に対する回答が的確ではない。	生活支援技術の基本を習得するための原理について他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	2．生活支援技術の知識と実践を統合し、基本となる生活支援技術について説明できる。	生活支援技術の知識と実践を統合し、基本となる生活支援技術について他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	生活支援技術の知識と実践を統合し、基本となる生活支援技術について他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	生活支援技術の知識と実践を統合し、基本となる生活支援技術について他者に説明でき、質問に回答できる。	生活支援技術の知識と実践を統合し、基本となる生活支援技術について他者に説明できるが質問に対する回答が的確ではない。	生活支援技術の知識と実践を統合し、基本となる生活支援技術について他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	3．多様性のある利用者の生活を支援するためのさまざまな視点・アプローチのポイントを列挙できる。	多様性のある利用者の生活を支援するためのさまざまな視点・アプローチのポイントに対し、他者にわかりやすく説明し、質問に的確に回答できる。	多様性のある利用者の生活を支援するためのさまざまな視点・アプローチのポイントに対し、他者にわかりやすく説明し、質問に回答できる。	多様性のある利用者の生活を支援するためのさまざまな視点・アプローチのポイントに対し、他者に説明でき、質問に回答できる。	多様性のある利用者の生活を支援するためのさまざまな視点・アプローチのポイントに対し、他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	多様性のある利用者の生活を支援するためのさまざまな視点・アプローチのポイントに対し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	1．生活支援の意義や目的について説明できる。	生活支援の意義や目的について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	生活支援の意義や目的について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	生活支援の意義や目的について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	生活支援の意義や目的について他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	生活支援の意義や目的について他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	2．生活に活かすICFについて説明できる。	生活に活かすICFについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	生活に活かすICFについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	生活に活かすICFについて他者に説明でき、質問に対して回答できる。	生活に活かすICFについて他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	生活に活かすICFについて他者に説明できるが不十分である。

思考・問題解決能力	３．介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基本的な知識・技術について説明できる。	介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基本的な知識・技術について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基本的な知識・技術について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基本的な知識・技術について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基本的な知識・技術について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護を実践する対象、場によらず、様々な場面に必要とされる介護の基本的な知識・技術について他者に説明できるが不十分である。
技能	１．介護技術実践の根拠について説明できる。	介護技術実践の根拠について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護技術実践の根拠について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	介護技術実践の根拠について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	介護技術実践の根拠について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	介護技術実践の根拠について他者に説明できるが不十分である。
技能	２．対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を継続するための介護過程について説明できる。	対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を継続するための介護過程について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を継続するための介護過程について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を継続するための介護過程について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を継続するための介護過程について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	対象となる人の能力を引き出し、本人主体の生活を継続するための介護過程について他者に説明できるが不十分である。
技能	３．観察、アセスメント、考察について説明できる。	観察、アセスメント、考察について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	観察、アセスメント、考察について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	観察、アセスメント、考察について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	観察、アセスメント、考察について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	観察、アセスメント、考察について他者に説明できるが不十分である。
態度	１．課題に取り組む姿勢。	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	２．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	３．グループワーク作業を分担して他者と協働できる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させる。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げる。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができない。

科目名	介護の基本Ⅱ－A			授業番号	HW303	サブタイトル			
教員	韓　在都								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本科目は介護領域の基盤となる科目です。介護を必要とする人の生活を支援する視点から，介護福祉を必要とする人の理解，介護福祉を必要とする人の生活を支えるしくみ，介護における安全の確保とリスクマネジメントについて学ぶ。								
到達目標	(1)日常の生活を構成する重要な要素について説明することができる。 (2)介護福祉を必要とする人たちの多様性について説明することができる。 (3)リスクマネジメントの必要性とその方法について説明することができる。 (4)地域連携や感染症予防のポイントを列挙することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	私たちの生活の理解１ 私たちの生活は「時間」，「空間」，「生活のリズム」が相互に関連し，構成されていることを理解する。	
第2回	私たちの生活の理解２ 私たちの生活にとって大切な要素（家庭・地域・社会）と生活の特性を理解する。	
第3回	私たちの生活の理解３ 介護福祉を必要とする人たちの暮らしの多様性を理解する。	
第4回	介護福祉を必要とする人たちの暮らし１ 利用者の暮らし（歴史）とその多様性を理解する。	
第5回	介護福祉を必要とする人たちの暮らし２ 介護福祉を必要とする高齢者の事例（特別養護老人ホームに3年前から入所しているAさんのケース）。	
第6回	介護福祉を必要とする人たちの暮らし３ 介護福祉を必要とする高齢者の事例（身体障害をもち，介護福祉サービス等を利用しながら働くBさんのケース）。	
第7回	生活のしづらさの理解とその支援 介護を必要とする人の生活のしづらさの視点について学び，家族介護者とその支援について理解する。	
第8回	利用者の生活を支えるしくみ 地域共生社会や地域包括ケアシステムについて理解する。	
第9回	生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）とは 高齢者や障害者の生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）を理解する。	
第10回	生活を支えるインフォーマルサービス（私的サービス）とは 高齢者や障害者の生活を支えるインフォーマルサービス（私的サービス）を理解する。	
第11回	地域連携１ 地域連携の意義と目的について学び，地域連携にかかわる機関の理解。	
第12回	地域連携２ 利用者を取り巻く地域連携の実際（重度の障害のあるAさんの事例）。	
第13回	介護における安全の確保１ セーフティーマネジメントの考え方を学び，安全な暮らしの支援が，利用者の尊厳の保持に結び付くことの重要性を理解する。	
第14回	介護における安全の確保２ 尊厳のある暮らしの継続のためのリスクマネジメント（事故・苦情・身体拘束）を理解する。	
第15回	介護における安全の確保３ 事故防止・予防のための対策について学び，安全に暮らすための生活環境づくりの重要性を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業態度，グループワーク参加姿勢を評価する。
レポート	30	グループワークによるレポート，発表を評価する。発表後、アドバイスしてフィードバックを行う。
小テスト		
定期試験	50	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	本科目は，アクティブラーニングを基本する。グループワーク等の演習によるレポート作成，発表にて評価とする。
受講の心得	将来，介護福祉士として大切な心得を学ぶ科目です。知識や技術を身に着けるだけではなく，介護のプロとしての価値観を確立できるように努めること。
授業外学修	1．講義資料を配布するので，資料の問題演習をすること 2．参考になる書籍やサイトの紹介をするので，それも読み，予習復習をすること 3．授業内で前回授業内容の小テストがあるため，復習をすること 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護福祉士養成講座４　介護の基本II	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規	978-4-8058-5764-9	2420円（税込み）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験がある。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設における経験（5年），訪問介護員（1年）などの現場経験を活かし実践的能力が身につくように指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．介護福祉を必要とする人たちの暮らしを理解し、説明できる。	生活にとって大切な要素を理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	生活にとって大切な要素を理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	生活にとって大切な要素を理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	生活にとって大切な要素を理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	生活にとって大切な要素に対し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	２．その人らしさと生活ニーズを理解し、説明できる。	その人らしさや生活ニーズを理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	その人らしさや生活ニーズを理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	その人らしさや生活ニーズを理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	その人らしさや生活ニーズを理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	その人らしさや生活ニーズを理解し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	３．生活を支えるフォーマルサービスとインフォーマルサービスを理解し、説明できる。	生活を支えるフォーマルサービスとインフォーマルサービスを理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	生活を支えるフォーマルサービスとインフォーマルサービスを理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	生活を支えるフォーマルサービスとインフォーマルサービスを理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	生活を支えるフォーマルサービスとインフォーマルサービスを理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	生活を支えるフォーマルサービスとインフォーマルサービスを理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	１．生活や暮らしの特性について説明できる。	生活や暮らしの特性を理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	生活や暮らしの特性を理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	生活や暮らしの特性を理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	生活や暮らしの特性を理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	生活や暮らしの特性を理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	２．生活ニーズを理解し、説明できる。	生活のしずらさを理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	生活のしずらさを理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	生活のしずらさを理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	生活のしずらさを理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	生活のしずらさを理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	３．フォーマルサービスとインフォーマルサービスを理解し、説明できる。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係を理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係を理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係を理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係を理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	フォーマルサービスとインフォーマルサービスの関係を理解し、他者に説明できるが不十分である。
態度	１．課題に取り組む姿勢。	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	２．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	３．グループワーク作業を分担して他者と協働できる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができなかった。

科目名	介護の基本Ⅱ－B			授業番号	HW304	サブタイトル			
教員	韓　在都								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本科目は，多職種協働による介護実践のために，医療・保健・福祉機関に関する，他の専門職との連携，協力及び必要に応じた対応能力を養う。また，介護従事者自身が心身ともに健康に介護を実践するための健康管理や労働環境の管理を理解する。本科目は，アクティブラーニングを基本とし，講義内にてグループワークを行います。								
到達目標	(1)多職種連携・協働の必要性や目的・効果について説明することができる。 (2)多職種協働におけるコミュニケーション能力の重要性について説明することができる。 (3)働く人の健康や生活を守る法制度を理解し，説明することができる。 (4)保健・医療・福祉職の役割と機能のポイントを列挙できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	感染症対策１ 介護福祉職に必要な感染に関する正しい知識（感染症対策の3原則・手洗い）を学び，感染を予防するための具体的な方法を理解する。	
第2回	感染症対策２ 介護福祉職に必要な感染に関する正しい知識（標準予防策・施設内清潔保持・多職種連携）を学び，安全な薬物療法を支える視点・連携を理解する。	
第3回	多職種連携・協働の必要性 多職種連携・協働の必要性のについて学び，多職種連携・協働の効果を理解する。	
第4回	多職種連携・協働に求められる基本的な能力 介護実践の場で多職種連携・協働が必要とされる意義について学び，問題解決に対する多職種のかかわりには，多様な視点と受容が必要であることを理解する。	
第5回	保健・医療・福祉職の役割と機能 多職種協働が機能する大前提として，専門職同士が自分以外の専門職のことをしっかり学び，仲間の専門性と力を信頼するという専門職を理解する。	
第6回	多職種連携・協働の実際１ 専門職連携実践（IPW）の内容と実践タイプを学び，介護福祉職からみる連携の実態から専門性を理解する。	
第7回	多職種連携・協働の実際２ 特別養護老人ホームの連携の実態調査から，介護福祉職の観察情報の提供後の（各専門職の診察・観察，おむつ交換，食事介助，口腔ケア）を理解する。	
第8回	多職種連携・協働の実際３ 自立支援介護における多職種連携の実際（有料老人ホーム，特別養護老人ホームの事例から）を理解する。	
第9回	健康管理の意義と目的 働く人の健康や生活を守る法制度（労働基準法，労働安全衛生法，労働者災害補償保険法）を学び，かいごに従事することで生じやすい健康問題を理解する。	
第10回	こころの健康管理 ストレスとこころの健康との関係について学び，介護従事者のこころの病気について理解する。	
第11回	身体の健康管理 介護従事者の身体の健康障害（腰痛・頸肩腕障害）の原因を学び，健康障害の予防と対策について理解する。	
第12回	労働環境の整備１ 介護従事者の生活や健康，安全に影響する労働環境と，健康や安全を守るための整備方法を理解する。	
第13回	労働環境の整備２ 介護従事者の労働災害（熱中症・転倒・転落・激突）について学び，事故やけがの予防のしくみを理解する。	
第14回	介護福祉の基本理念と継続的支援１ 介護の基本Ⅱの全体を振り返り，介護福祉の基本となる理念や，地域を基盤とした生活の継続性を支援するための仕組みを理解する。	
第15回	介護福祉の基本理念と継続的支援２ 介護の基本Ⅱの全体を振り返り，国家試験対策のための総まとめとして介護福祉の基本を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業態度，グループワーク参加姿勢を評価する。
レポート	30	グループワークによるレポート，発表を評価する。発表後、アドバイスしてフィードバックを行う。
小テスト		
定期試験	50	全講義終了後の知識の定着度・理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	本科目は，アクティブラーニングを基本する。グループワーク等の演習によるレポート作成，発表にて評価とする。
受講の心得	本科目は，アクティブラーニングを基本とし，講義内にてグループワークを行う。積極的なコミュニケーションを試みること。
授業外学修	1．講義資料を配布するので，資料の問題演習をすること。 2．参考になる書籍やサイトの紹介をするので，それも読み，予習復習をすること。 3．授業内で前回授業内容の小テストがあるため，復習をすること。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護福祉士養成講座４　介護の基本II	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規	978-4-8058-5764-9	2200

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験がある。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設における経験（5年），訪問介護員（1年）などの現場経験を活かし実践的能力が身につくように指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解し、説明できる。	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護における安全の確保とリスクマネジメントについて理解し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	２．協働する多職種の機能と役割を理解し、説明できる。	協働する多職種の機能と役割を理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	協働する多職種の機能と役割を理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	協働する多職種の機能と役割を理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	協働する多職種の機能と役割を理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	協働する多職種の機能と役割を理解し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	３．介護従事者について理解し、説明できる。	介護従事者について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	介護従事者について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	介護従事者について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	介護従事者について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護従事者について理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	１．介護現場におけるセーフティマネジメントについて説明できる。	介護現場におけるセーフティマネジメントについて他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	介護現場におけるセーフティマネジメントについて他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	介護現場におけるセーフティマネジメントについて他者に説明でき、質問に対し回答できる。	介護現場におけるセーフティマネジメントについて他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護現場におけるセーフティマネジメントについて他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	２．多職種連携・協働に求められる基本的な能力を理解し、説明できる。	多職種連携・協働に求められる基本的な能力を理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	多職種連携・協働に求められる基本的な能力を理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	多職種連携・協働に求められる基本的な能力を理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	多職種連携・協働に求められる基本的な能力を理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	多職種連携・協働に求められる基本的な能力を理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	３．介護労働環境や健康管理について理解し、説明できる。	介護労働環境や健康管理について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	介護労働環境や健康管理について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	介護労働環境や健康管理について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	介護労働環境や健康管理について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護労働環境や健康管理について理解し、他者に説明できるが不十分である。
態度	１．課題に取り組む姿勢。	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	２．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	３．グループワーク作業を分担して他者と協働できる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができなかった。

科目名	認知症の理解Ⅱ			授業番号	HW305	サブタイトル			
教員	韓　在都								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では認知症に関する基礎的知識をもとに，認知症ケアに関する内容を具体的に講義する。 認知症の方への支援だけではなく家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得するための講義を行う。 介護実習IIの実践と関連づけながら，認知症ケアの基本的な考え方を身につけるための講義を行う。 ケアマネジメントの視点で介護が展開できるように，具体的な事例に対して，認知症の家族への支援や権利を守るための取り組みについて説明する。								
到達目標	(1)認知症ケアの実際について基本的な考え方や姿勢について具体的に説明することができる。 (2)認知症の人とのコミュニケーションを理解し，基本的な方法を列挙することができる。 (3)認知症の人へのさまざまなアプローチの方法を理解し，その方法について説明することができる。 (4)認知症の人の生活支援技術を理解し，介護過程の展開ができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	認知症ケアの実際 パーソン・センタード・ケア実践のための3つのステップを学び，認知症の人の心理的ニーズを理解する。	
第2回	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール１ 認知症の人を理解するための多方面からのアプローチ方式の中で，センター方式の理念や共通の5つの視点を理解する。	
第3回	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール２ 認知症の人を理解するための多方面からのアプローチ方式の中で，利用者の背景要因の言動からひも解くためのツールであるひもときシートを理解する。	
第4回	認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール３ 認知症の人を理解するためのアプローチで方式である健康状態のアセスメントの特徴や3つのステップを理解する。	
第5回	認知症ケアの実際１ 認知症の人とのコミュニケーションにおける留意点を学び，コミュニケーションの実際を理解する。	
第6回	認知症ケアの実際２ 認知症の早期から生じるIADL・ADL障害（食事・服薬管理・ごみの処理・排泄・入浴）のケアについて学び，認知症の人の生活障害へのケアについて理解する。	
第7回	認知症ケアの実際３ 認知症の早期から生じるIADL・ADL障害（休息と睡眠・活動,いきがい・BPSD）のケアについて学び，認知症の人の生活障害へのケアについて理解する。	
第8回	認知症の人へのさまざまなアプローチ１ 認知症介護の方法である「ユマニチュード」に関する4つの柱や5つのステップを学ぶ。またアルツハイマー型認知症および類似認知症の高齢者とのコミュニケーション方法であるバリデーションの3つの柱を理解する。	
第9回	認知症の人へのさまざまなアプローチ１ 認知症介護の方法である「ユマニチュード」に関する4つの柱や5つのステップを学ぶ。またアルツハイマー型認知症および類似認知症の高齢者とのコミュニケーション方法であるバリデーションの3つの柱を理解する。	
第10回	認知症の人へのさまざまなアプローチ２ 認知症高齢者のアプローチ方法である「脳活性化リハビリテーション5原則」，「リアリティオリエンテーション」，「回想法」，「音楽療法と芸術療法」,「アロマテラピーとタッチケア」,「園芸療法」などを理解する。	
第11回	認知症の人の終末期医療と介護 終末期における高齢者や認知症の人に関する終末期医療と介護の特徴を学び，生活の主な課題を理解する。	
第12回	環境づくり 認知症の人にとっての自宅や施設における環境の要素を理解し，さまざまな環境づくりの具体的な工夫を理解する。	
第13回	介護者支援 認知症高齢者の介護者である家族への支援に活用できるフォーマルやインフォーマルなレスパイトサービスを学ぶ。また、働きやすい職場環境の整備により介護福祉士職への支援を理解する。	
第14回	認知症の人の地域生活支援 地域包括ケアシステムにおける認知症ケアの概要を学ぶとともに地域生活支援の機関やサービスを理解する。	
第15回	多職種連携と協働 認知症の人が地域で継続して暮らすための多職種連携と協働の基本的な考え方を学び，多職種連携と協働の必要性を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
レポート	30	課題のテーマを正確に理解し答えているか，論理的で客観的な根拠があるかを評価し、コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	50	授業内容の理解度を総合的に評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式をグループ討議で進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・認知症に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。 ・認知症の支援は専門的知識と技術が応用力が求められます。自ら考える姿勢で講義に臨んでください。
授業外学修	１．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 ２．復習として，課題のレポートを書く。 ３．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護福祉士養成講座13　認知症の理解	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規	978-4-8058-5773-1	2420（税込み）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験がある。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設（5年），訪問介護員（1年）などの現場経験を活かし，知識や技術など実践的能力が身につくように指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールとコミュニケーション能力について理解し、説明できる。	認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールとコミュニケーション能力について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールとコミュニケーション能力について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールとコミュニケーション能力について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールとコミュニケーション能力について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツールとコミュニケーション能力について理解し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	2．介護者支援について理解し、説明できる。	介護者支援について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	介護者支援について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	介護者支援について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	介護者支援について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護者支援について理解し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	3．認知症の人の地域生活支援について理解し、説明できる。	認知症の人の地域生活支援について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	認知症の人の地域生活支援について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	認知症の人の地域生活支援について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	認知症の人の地域生活支援について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	認知症の人の地域生活支援について理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	1．アセスメントツールを用いた認知症の人へのケアについて理解し、説明できる。	アセスメントツールを用いた認知症の人へのケアについて理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	アセスメントツールを用いた認知症の人へのケアについて理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	アセスメントツールを用いた認知症の人へのケアについて理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	アセスメントツールを用いた認知症の人へのケアについて理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	アセスメントツールを用いた認知症の人へのケアについて理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	2．介護者（家族・介護福祉職）への支援を理解し、説明できる。	介護者（家族・介護福祉職）への支援を理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	介護者（家族・介護福祉職）への支援を理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	介護者（家族・介護福祉職）への支援を理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	介護者（家族・介護福祉職）への支援を理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護者（家族・介護福祉職）への支援を理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	3．制度、サービス、機関、地域づくりについて理解し、説明できる。	制度、サービス、機関、地域づくりについて理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	制度、サービス、機関、地域づくりについて理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	制度、サービス、機関、地域づくりについて理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	制度、サービス、機関、地域づくりについて理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	制度、サービス、機関、地域づくりについて理解し、他者に説明できるが不十分である。
態度	1．課題に取り組む姿勢。	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	2．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	3．グループワーク作業を分担して他者と協働できる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができなかった。

科目名	発達と老化の理解			授業番号	HW306	サブタイトル			
教員	中野　ひとみ								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，人間の発達段階に応じたこころとからだのしくみを理解する。 特に発達の観点から，人間が老化することによって起きる身機能の変化と特徴，成人期以降に発症しやすい生活習慣病をはじめとする代表的な疾患に関する医学的基礎的知識を修得する。								
到達目標	(1)老化に伴うこころとからだの変化と日常生活及び高齢者の健康，医療との連携について説明できる。 (2)人間の発達の観点から成長と発達について基礎的理解を持ち，説明できる。 (3)老年期の発達課題や心理を理解し，対象者に応じた医療や介護の場で応用実践できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	ディスカッションやグループワークを行う。 本科目は医療機関や福祉施設での就職を希望する学生への対応科目である。専門的医学知識を学び，患者や利用者の健康とQOL向上を目指すための科目だと心得てほしい。 また，本科目は介護福祉士国家試験受験対応科目である。								

回	概要	担当
第1回	人間の成長と発達・ライフサイクルを理解する。 小児期から高齢期までの各期の発達課題を理解する。	
第2回	人間の老化に伴う心理的・身体的・知的機能の変化と日常生活を理解する。 脳の仕組みを理解する。 発達に伴う記憶・知能の変化について理解する。	
第3回	高齢期に多い症状・訴えとその留意点(1) 生理的機能・身体的機能の低下を理解する。 身体的・精神的・社会的変化を理解する。	
第4回	高齢期に多い症状・訴えとその留意点(2) エイジング・慢性疾患を理解する。 各エイジングの定義を理解する。 急性疾患と慢性疾患の違いを理解する。	
第5回	成人期に多い病気とその日常生活の留意点(1) 3大生活習慣病(糖尿病）の病態を理解する。 Ⅰ型・Ⅱ型糖尿病を理解し，３大合併症を理解する。	
第6回	成人期に多い病気とその日常生活の留意点(2) 3大生活習慣病（高血圧・脂質異常症）の病態を理解する。 高血圧の定義と生活習慣で気をつける点について理解する。 脂質異常症が齎す影響について理解する。	
第7回	成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点(3)骨・関節系の病気，歯・口腔の病気を理解する。	
第8回	成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点(4) 眼の病気・耳の病気を理解する。	
第9回	成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点(5) 皮膚の病気・呼吸器の病気を理解する。	
第10回	成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点(6) 腎・泌尿器の病気を理解する。	
第11回	成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点(7) 消化器系疾患・循環器系疾患を理解する。	
第12回	成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点(8) 感染症・精神・神経疾患を理解する。	
第13回	成人期以降に多い病気とその日常生活の留意点(9) 第3回～12回まで学習した各疾患の総合的なまとめ及び捕捉を行う。 発達課題から多くの疾患を振り返り，まとめを行う。	
第14回	保健医療チームとの連携のポイントについて理解する。(1) 医療・介護現場でどのような職種が連携し，情報を共有しているのかを理解する。	
第15回	保健医療職との連携のポイントについて理解・まとめを行う。(2)事例を用いて，チーム連携を円滑に行う方法についてグループディスカッションを行う。全体の振り返りとまとめを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
レポート	10	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式を中心として進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・講義を聴講するだけではなく，大切なところはメモを取り，疑問点は明らかにする。 ・高齢者問題に関するニュースなどにも関心を持つように心がけてください。 ・難解な医療専門用語が講義中に多く出てきます。テキストには必ず眼を通しておいてください。
授業外学修	1.予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2.復習として，課題のレポートを書く。 3.発展学修として，講義で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座 12　発達と老化の理解	秋山昌江ほか	中央法規出版	978-4-8058-5772-4	2200円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。 自分の将来のため，目的意識を持ち受講態度で臨むように努めてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。認知症キャラバンメイト。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．老化に伴うこころの変化を理解できている。	高齢期のこころの変化により出現しやすい症状を理解し，質問に的確に答え支援方法まで考えることができる。	高齢期のこころの変化により出現しやすい症状を理解し，質問に答えることができる。	高齢期のこころの変化により出現しやすい症状を理解し質問に答えることができるが，回答が不十分である。	高齢期のこころの変化により出現しやすい症状を少し理解できているが，質問に答えられない。	高齢期のこころの変化により出現しやすい症状を理解ができていない。
知識・理解	２．老化に伴うからだの変化を理解できている	高齢期のからだの変化により出現しやすい症状を理解し，質問に的確に答え支援方法まで考えることができる。	高齢期のからだの変化により出現しやすい症状を理解し，質問に的確に答えることができる。	高齢期のからだの変化により出現しやすい症状を理解し質問に答えることができるが，回答が不十分である。	高齢期のからだの変化により出現しやすい症状を少し理解できているが，質問には答えられない。	高齢期のからだの変化により出現しやすい症状を理解ができていない。
知識・理解	３．高齢者の健康保持・促進と医療との連携について理解できている。	社会における高齢者の問題を問題意識として捉え，解決方法を考えることができ，的確に述べることができる。	社会における高齢者の問題を問題意識として捉えることができ，述べることができる。	社会における高齢者の問題に興味・関心を持つことができ，課題を答えることができる。	社会における高齢者の問題に少しだけ興味・関心を持つことができているが，明確に答えられない。	社会における高齢者の問題を全く理解できていない。
知識・理解	４．老年期の発達課題を理解することができている。	老年期の発達課題や心理を理解し，対象者に応じた個別支援内容まで明確に述べることができる。	老年期の発達課題に興味・関心を持つことができ，課題や心理状態を少しだけ答えることができるが，個別支援内容は一部浮かぶが具体的ではない。	老年期の発達課題に興味・関心を持つことができ，課題や心理状態を少しだけ答えることができている。個別支援内容はヒントを与えると一部浮かぶが具体的ではない。	老年期の発達課題に少し興味・関心をもつことが出来ているが明確に答えられない。個別支援内容はヒントを与えても浮かばない。	老年期の発達課題が全く理解できていない。個別支援内容がヒントを与えても全くわからない。
思考・問題解決能力	1．人間の成長発達の課題を見出し，説明することができている。	人間の成長発達段階やライフステージごとの課題を理解し，その段階ごとの問題点を的確に捉えることができ，回答も明確である。	人間の成長発達段階やライフステージごとの課題を理解し，その段階ごとの問題点をいくつか捉えることができ答えることもできているが，不十分である。	人間の成長発達段階やライフステージの意味を理解することができているが，問題点の答えに答える努力をしているが，不十分である。	人間の成長発達段階やライフステージの意味を理解出きていないが，曖昧だか問題点が浮かぶが，答えられない。	人間の成長発達段階やライフステージの意味が全く理解できない。
思考・問題解決能力	２．老年期にある対象者に応じた介護実践を考えることができている。	老年期における対象者の状況及び出現しやすい症状や身体の変化に応じた支援内容を個別性まで考慮でき，考えることができている。	老年期における対象者の状況及び出現しやすい症状や身体の変化に応じた支援内容を不十分であるが，考えることができている。	老年期における対象者の状況及び出現しやすい症状や身体の変化は理解できているが，支援方法までは考えつかない。	老年期における対象者の状況の理解は乏しいが出現しやすい症状や身体の変化を少しだけ理解できている。	老年期における対象者の状況や出現しやすい症状や身体の変化が全くイメージすることができていない。
態度	介護福祉として疾患を持つ人や高齢者への対応を理解できている。	介護福祉として疾患を持つ人や高齢者やその家族にも関わることができそうで，専門的な知識・技術をもって適切な対応できると考えられる。	介護福祉として疾患を持つ人や高齢者へ関わることができそうであり，専門的な知識・技術をもって対応できると考えらえる。	介護福祉として疾患を持つ人や高齢者へ関わることができそうだが，専門的な知識・技術を持って対応出来そうではあるが，一部不十分でなところもある。	介護福祉として疾患を持つ人や高齢者へ関わることができそうではあるが，専門的な知識・技術をもって対応するには不十分で努力が必要である。	介護福祉として専門性を持って疾患を持つ人や高齢者への対応ができそうもない。

科目名	障害の理解			授業番号	HW307	サブタイトル			
教員	中野　ひとみ								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，障害のある人だけではなく，その家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を理解する。 また，障害の基礎的理解や医学的側面の両方を身につけ，生活支援へ必要な課題解決能力を身につける。								
到達目標	(1)障害者支援の基礎的な知識・技術について理解し，各障害に応じた介護の留意点が説明できる。 (2)障害者福祉の理念について理解し，介護の基本的視点について説明できる。 (3)障害がある人を取り巻く家族の支援のあり方について説明ができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，<知識・理解><思考・問題解決能力><態度>の修得に貢献する。								
授業計画　備考	ディスカッションやグループワークを行う。 本科目は介護福祉士国家試験受験対応科目である。 ゲストスピーカーの講義は補講期間に行う。								

回	概要	担当
第1回	障害の概要・基本的な考え方・自己概念を理解する。 障害児・者への支援方法の基本やICFを理解する。 障害者福祉の基本的理念を理解する。 ノーマライゼーション・リハビリテーション・インクルージョンを理解する。	中野
第2回	老化に伴う心身の変化による生活の障壁及び身体的・心理的障害を持つ人たちへの関りの実際を学ぶことができる。 地域のふれあいカフェを通して、多様な社会、障害当事者と家族支援のありかたを学ぶことができる。その１	中野
第3回	障害者の権利条約を理解する。 制度の概要・関連制度を理解する。 障害に対する様々な障壁を理解する。 障害のある人の基本的視点を理解する。 援助の原則・権利擁護・医学モデルと社会モデル・エンパワメントを理解する。	中野
第4回	老化に伴う心身の変化による生活の障壁及び身体的・心理的障害を持つ人たちへの関りの実際を学ぶことができる。 地域のふれあいカフェを通して、多様な社会、障害当事者と家族支援のありかたを学ぶことができる。その２	中野
第5回	障害にかかわる疾患や症状を理解する。(1) 肢体不自由を理解する。	中野
第6回	障害にかかわる疾患や症状を理解する。(2) （内部障害）呼吸器機能障害・循環器障害を理解する。	中野
第7回	障害にかかわる疾患や症状を理解する。(3) （内部障害）腎臓機能障害・肝臓機能障害・小腸機能障害を理解する。	中野
第8回	障害にかかわる疾患や症状を理解する。(4) （内部障害）大腸・膀胱機能障害・後天性免疫障害を理解する。	中野
第9回	障害にかかわる疾患や症状を理解する。(5) 聴覚・言語障害を理解する。	中野
第10回	障害にかかわる疾患や症状を理解する。(6) 発達障害を理解する。	中野
第11回	障害にかかわる疾患や症状を理解する。(7) 精神障害・高次脳機能障害を理解する。	中野
第12回	障害にかかわる疾患や症状を理解する。(8) 難病・その他の障害を理解する。 第5回～第12回までの障害に関わる疾患について振り返り，まとめを行う。	中野
第13回	障害にかかわる疾患や症状を理解する。(9) 視覚障害者の現状や日常生活を理解する。	福原　中野
第14回	障害にかかわる疾患や症状を理解する。(10) 視覚障害者の支援方法の理解と点字の実際を行う。 視覚障害者の特性や症状の理解と社会的課題について理解する。	福原　中野
第15回	地域のふれあいカフェを通して、多様な社会、障害当事者と家族支援のありかたを学ぶことができる。その３ 障害を持つ人及び家族への支援方法についてグループディスカッションを行う。障害者を支えるための連携と協働・家族への支援方法を理解し，全体のまとめを行う。	中野
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
レポート	10	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式を中心として進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・テキストの授業該当部分を読んでおくこと。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・障害者の支援は専門的知識と技術が応用力が求められます。自ら考える姿勢で講義に臨んでください。
授業外学修	1．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2．復習として，課題のレポートを書く。 3．発展学修として，講義で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座 14 障害の理解	川井太加子	中央法規出版	978-4-8058-4	2200円

使用テキスト：自由記載	視聴覚教材

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。認知症キャラバンメイト。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	福原隆行：鍼師，灸師、あんまマッサージ指圧師として病院勤務（6年)を経て，2006年4月に城東台治療院ふくはらを開業（18年）の実務経験を有する。(公社)岡山県鍼灸師会では、青年部担当理事（10年）として，親子スキンタッチ教室という小児鍼を生かした子育て活動や，スポーツ鍼灸トレーナー活動、災害鍼灸などのボランティアに関わってきた。また，（社福)岡山県視覚障害者協会では，2008年から青年部担当理事や，岡山市視覚障害者協会で副会長として視覚障害者をとりまく諸問題に取り組み，会運営にあたっている(16年)。視覚障害当事者として，小学校や高校での、点字や生活についての講演を行ってきた。
実務経験をいかした教育内容	中野：看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。 福原：視覚障害団体での経験(16年），また自身の生活から視覚障害当事者としての現状や具体的な生活での諸問題を考えたり，点字の講習も交え講義を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	各障害の症状や疾患について理解できている。	各障害の症状や疾患について理解でき，特徴や留意する事項を述べることができている。	各障害の症状や疾患について理解でき，特徴や留意する事項を適切に述べることができている。	各障害の症状や疾患について理解できているが，特徴や留意する事項を述べることができていない。	各障害の症状や疾患について一部理解出来ているが、特徴や留意する事項を述べることもできていない。	各障害の症状や疾患について，特徴や留意する事項を全く述べることができていない。
知識・理解	障害者福祉の理念について理解し，介護の基本的視点について説明することができるようになる。	障害者福祉の理念について理解し，介護の基本的視点について自分の言葉で説明することができる。	障害者福祉の理念について理解し，介護の基本的視点について少し説明することができる。	障害者福祉の理念について一部理解しているが，介護の基本的視点についての説明は曖昧である。	障害者福祉の理念について一部理解しているが，介護の基本的視点についての説明は全くできていない。	障害者福祉の理念について全く理解できていない。
思考・問題解決能力	障害のある方の社会におけるバリアについて理解し，それを除去するため支援方法を説明することができている。	社会におけるバリアについて十分に理解し，それを除去するため支援方法を説明することができている。	社会におけるバリアについて理解し，それを除去するため支援方法を説明することができている。	社会におけるバリアについて一部理解し，それを除去するため支援方法を少しだけ理解することができている。	社会におけるバリアについて一部理解できているが，それを除去するための支援方法を見出すことができていない。	社会におけるバリアについて全く理解できていない。
思考・問題解決能力	障害がある人を取り巻く家族の支援のあり方について説明ができるようになる。	障害がある人を取り巻く社会の課題と家族の支援方法を明確に理解できている。	障害がある人を取り巻く社会の課題と家族の支援方法を理解できている。	障害がある人を取り巻く社会の課題を一部だけ理解できるが家族の支援方法までは浮かばない。	障害がある人を取り巻く社会の課題を具体的に述べることが出来ない。また家族の支援方法までは浮かばない。	障害がある人を取り巻く社会の課題が全く理解できない。また家族の支援方法も全く浮かばない。
態度	1．介護福祉士として各障害の症状や疾患に応じた介護の留意点を理解し支援する力が身についている。	介護福祉士として各障害の症状や疾患に応じた介護の留意点を的確に理解し必要な支援を考える力が身についている。	介護福祉士として各障害の症状や疾患に応じた介護の留意点を理解し必要な支援を考える力が身についている。	介護福祉士として各障害の症状や疾患に応じた介護の留意点を理解しているが，必要な支援を考えることはできていない。	介護福祉士として各障害の症状や疾患に応じた介護の留意点の一部は理解しているが，必要な支援を考えることはできていない。	介護福祉士として各障害の症状や疾患に応じた介護の留意点を全く理解できていない。
態度	２．介護福祉士として障害児・者への対応を理解できている。	介護福祉士として障害児・者や家族にも関わることができ，専門的な知識・技術をもって適切な対応できると考えられる。	介護福祉士として障害児・者へ関わることができそうではあり，門的な知識・技術をもって対応できると考えらえる。	介護福祉士として障害児・者へ関わることができそうではあり専門的な知識・技術を持って対応出来そうではあるが，一部不十分でなところもある。	介護福祉士として障害児・者へ関わることができそうではあるが，専門的な知識・技術をもって対応するには不十分で努力が必要である。	介護福祉士として専門性を持って障害児・者へ対応できそうもない。

科目名	こころとからだのしくみⅠ			授業番号	HW308	サブタイトル			
教員	中野　ひとみ								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，介護福祉士として人体の構造やこころのしくみについて学び，利用者のこころの状態や身体的状態を適切に判断し状況に応じた支援内容を理解する。 人間のこころとからだのしくみを理解し，より質の高いサービスの仕方について習得する。 こころのしくみ に関する諸理論や，感情のしくみ，からだのしくみ，ボディメカニクス，身じたく，排泄，食事，睡眠等について理解する。								
到達目標	(1)生活支援に必要なこころとからだのしくみについて説明できる。 (2)身体的機能低下，障害によってもたらされるこころとからだの変化と生活に及ぼす影響について説明できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	本科目は介護福祉士国家試験受験対応科目である。 ディスカッションやグループワークを行う								

回	概要	担当
第1回	こころとからだの基礎 人間の基本的欲求・生命の維持・恒常性・バイタルサイン・人体各部の名所・ボディメカニクス・関節可動域を理解する。	
第2回	移動に関連したこころとからだのしくみ(1) 移動行為に関わる重心の移動・バランスについて理解する。 身体の解剖生理のしくみを理解する。	
第3回	移動に関連したこころとからだのしくみ(2) 機能低下・障害が移動に及ぼす影響を理解する。 運動機能障害や廃用症候群，褥瘡について理解する。	
第4回	身じたくに関連したこころとからだのしくみ(1) 身じたくの行為に関わる爪，毛髪，口腔の解剖生理を理解する。 身じたくに関わる個人の価値の尊重や身体を清潔に保つ支援方法を理解する。	
第5回	身じたくに関連したこころとからだのしくみ(2) 機能低下・障害が身じたくに及ぼす影響を理解する。 着脱や整容に影響する疾患や症状を理解し，その支援方法を学ぶ。	
第6回	食事に関連したこころとからだのしくみ(1) 栄養素・水分量・食べることの生理的意味を理解する。 口腔・食道の解剖生理を理解する。	
第7回	食事に関連したこころとからだのしくみ(2) 機能低下・障害が食事に及ぼす影響を理解する。 高齢者や障害者が起こしやすい誤嚥・誤飲・低栄養・脱水について理解する。	
第8回	入浴に関連したこころとからだのしくみ(1) 皮膚の解剖生理と入浴作用について理解する。 清潔が保てない人の心理・清潔保持を理解する。 清潔が保てない人への支援方法を理解する。	
第9回	入浴に関連したこころとからだのしくみ(2) 機能低下・障害が移入浴に及ぼす影響を理解する。 入浴の作用や，疾患や障害を持つ人の入浴時の留意点を理解する。	
第10回	排泄に関連したこころとからだのしくみ(1) 排泄のメカニズム・排泄障害の種類を理解する。 排泄に関わる解剖生理を理解する。	
第11回	排泄に関連したこころとからだのしくみ(2) 機能低下・障害が移排泄に及ぼす影響を理解する。 便秘や下痢の症状，疾患に伴う機能障害を理解する。	
第12回	睡眠に関連したこころとからだのしくみ(1) 睡眠とは何か，睡眠障害を理解する。 睡眠の仕組みと睡眠障害の特徴を理解する。	
第13回	睡眠に関連したこころとからだのしくみ(2) 機能低下・障害が睡眠に及ぼす影響を理解する。 サーカディアンリズムや睡眠リズム，安眠への支援方法について理解する。	
第14回	終末期に関連したこころとからだのしくみ(1) 死について・からだの変化を理解する。 生物学的・法律的・臨床的死とは何かを理解する。 臓器移植について，その仕組みを理解する。	
第15回	終末期に関連したこころとからだのしくみ(2) 死に対するこころの理解・家族支援・医療職との連携・まとめを行う。 家族への支援方法を理解する。 リビングウェルやデスカンファレンス，グリーフケアについて理解する。 エンゼルケアについて理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
レポート	10	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式とグループ討議で進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・疾患に関するニュースにも関心を持つように心がけてください。

授業外学修	1.予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2.復習として，課題のレポートを書く。 3.発展学修として，講義で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座 11 こころとからだのしくみ	秋山昌江	中央法規出版	978-4-8058-5771-7	2600円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。認知症キャラバンメイト。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．生活支援に必要なこころの仕組みを理解できている。	生活支援に必要な人間のこころの仕組みの全体を理解でき，口頭でも十分説明することができる。	生活支援に必要な人間のこころの仕組みの全体を理解できているが，口頭での説明が一部曖昧な部分もある。	生活支援に必要な人間のこころの仕組みの全体を理解できているが，口頭での説明が不十分である。	生活支援に必要な人間のこころの仕組みの一部のみ理解しているが不十分である。	生活支援に必要な人間のこころの仕組みを理解できていない。
知識・理解	2．生活支援に必要なからだの仕組みについて理解できている。	生活支援に必要な疾患や症状を理解でき，医学的知識の質問にも十分で的確な回答をすることができる。	生活支援に必要な疾患や症状を理解できているが，医学的知識の質問への回答は答えらえるが一部曖昧な部分もある。	生活支援に必要な疾患や症状を理解できているが，医学的知識の質問への回答に努力は感じられるが内容が不十分である。	生活支援に必要な主疾患のイメージはつくが，医学的知識を十分理解できていないため答えられない。	生活支援に必要な医学的知識が全く理解できていない
思考・問題解決能力	1．機能低下・障害によってもたらされるからだの変化が理解できる。	機能低下・障害によってもたらされるからだの変化が正確に理解でき，具体的な対応方法まで口頭で説明ができる。	機能低下・障害によってもたらされるからだの変化が理解でき，対応方法まで口頭で説明ができる。	機能低下・障害によってもたらされるからだの変化が理解でき対応方法のイメージは浮かぶが、口頭での説明は不十分である。	機能低下・障害によってもたらされるからだの変化は曖昧だがイメージできるが，対応方法は全く浮かばない。	機能低下・障害によってもたらされるからだの変化が理解できていない。
思考・問題解決能力	2．機能低下・障害によってもたらされる生活に及ぼす影響について理解できる。	機能低下・障害によってもたらされる生活に及ぼす影響について正確に理解でき，具体的な対応方法まで説明ができる。	機能低下・障害によってもたらされる生活に及ぼす影響について理解でき，対応方法まで口頭での説明ができる。	機能低下・障害によってもたらされる生活に及ぼす影響について理解でき，対応方法のイメージは浮かぶが口頭での説明が不十分である。	機能低下・障害によってもたらされる生活に及ぼす影響について曖昧だが，イメージできるが対応方法は全く浮かばない。	機能低下、障害によってもたらされる生活の変化が理解できない。
態度	1．介護福祉士としてADLに課題がある人への対応を理解できている。	介護福祉士としてADLに課題がある人やその家族にも関わることができ，専門的な知識・技術をもって適切な対応できる。	介護福祉士としてADLに課題がある人へ関わることができ，専門的な知識・技術をもって対応できる。	介護福祉士としてADLに課題がある人へ関わることができ専門的な知識・技術を持って対応出来そうではあるが，一部不十分なところもある。	介護福祉士としADLに課題がある人へ関わることができそうだが，専門的な知識・技術をもって対応するには不十分で努力が必要である。	介護福祉士として専門性を持って疾患を持つ人やADLに課題がある人への対応ができそうもない。

科目名	こころとからだのしくみⅡ			授業番号	HW309	サブタイトル			
教員	韓　在都								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，介護福祉士として対象者の生活支援の根拠となる人体の構造やこころのしくみについて講義を行う。 介護福祉士として利用者のこころの状態や身体的状態を適切に判断し状況に応じた支援内容の講義を行う。 介護福祉士として利用者の生活を的確に支援するために，介護技術の根拠となる基本的事項の講義を行う。								
到達目標	(1)生活支援技術とこころとからだのしくみを関連づけて説明することができる。 (2)機能低下や障害によってもたらされる，こころとからだの変化について説明することができる。 (3)介護の対象が持つ心身面の背景を理解するための視点を説明することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	移動に関連したこころとからだのしくみ１ 人が移動する必要性や移動の効果を学び，移動にともなう身体の仕組みを理解する。	
第2回	移動に関連したこころとからだのしくみ２ 心身の機能低下が移動に及ぼす影響を学び，移動が不自由になると生じる状態（廃用症候群・褥瘡）などを理解する。	
第3回	身じたくに関連したこころとからだのしくみ１ 生活のなかで行われている身じたくの行為（生理的意味・爪，毛髪，耳，歯，口腔の清潔など）に関するこころとからだのしくみを理解する。	
第4回	身じたくに関連したこころとからだのしくみ２ 精神機能の低下や身体機能の低下が身じたくに及ぼす影響を学び，身じたくを整えることをさまたげる要因について理解する。	
第5回	食事に関連したこころとからだのしくみ１ 人間に必要不可欠栄養素と働きを学び、摂食・嚥下障害などを理解する。	
第6回	食事に関連したこころとからだのしくみ２ 精神機能の低下や身体機能の低下が食事に及ぼす影響を学び，食事動作を整えることをさまたげる要因について理解する。	
第7回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ１ 入浴と清潔がもたらす心身への効果や皮膚の仕組み，発汗の仕組みなどについて理解する。	
第8回	入浴・清潔保持に関連したこころとからだのしくみ２ 精神機能の低下や身体機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響を学び，清潔保持の機会に確認できる心身の状態を理解する。	
第9回	排泄に関連したこころとからだのしくみ１ 排泄に必要な行為や蓄尿と尿排出，蓄便と便排出の仕組みを理解する。	
第10回	排泄に関連したこころとからだのしくみ２ 排泄障害の種類（認知症・ストレスが及ぼす排泄障害）や便失禁の原因などを学び，排泄の観察のポイントや観察方法を理解する。	
第11回	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ１ 休息・睡眠のしくみ（レム睡眠・ノンレム睡眠）を学び，良質な睡眠のための環境条件や生活習慣を理解する。	
第12回	休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ２ 休息・睡眠に影響を及ぼす心身機能（加齢・予備能力・疾患）の低下を学び，睡眠での医療職と連携のポイントを理解する。	
第13回	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ１ 人生の最終段階に関する「死」のとらえ方を学び、看取りでの尊厳の保持の意味を理解する。	
第14回	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ２ 「死」を受容する段階や家族が「死」を受容できるための支援を理解する。	
第15回	人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ３ 終末期から危篤状態，死後のからだの特徴，終末期における医療職との連携を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
レポート		
小テスト	30	各回の主要ポイントの理解を評価する。解答例を配布し、フィードバックを行う。
定期試験	50	授業内容の理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。
受講の心得	本講義は講義形式と事例演習（グループワーク）で進めていきます。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・テキストの授業該当部分を読んでおくこと。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・自分のこころとからだに関連させながら学んでください。
授業外学修	１．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 ２．復習として，課題のレポートを書く。 ３．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護福祉士養成講座11　こころとからだのしくみ	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規	978-4-8058-5771-7	2600＋税

使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト 視聴覚教材

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験がある。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設における経験（5年），訪問介護員（1年）などの介護福祉士として訪問介護や介護付き老人ホームの勤務の実務経験を活かし，生活支援に必要なからだこころのしくみに関する知識や技術を身につけるよう指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．移動・身じたく・食事にのしくみについて理解し、説明できる。	移動・身じたく・食事のしくみについて理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	移動・身じたく・食事のしくみについて理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	移動・身じたく・食事のしくみについて理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	移動・身じたく・食事のしくみについて理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	移動・身じたく・食事のしくみについて理解し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	2．入浴・排泄・休息のしくみについて理解し、説明できる。	入浴・排泄・休息のしくみについて理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	入浴・排泄・休息のしくみについて理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	入浴・排泄・休息のしくみについて理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	入浴・排泄・休息のしくみについて理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	入浴・排泄・休息のしくみについて理解し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	3．人生の最終段階のケアのしくみについて理解し、説明できる。	人生の最終段階のケアのしくみについて理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	人生の最終段階のケアのしくみについて理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	人生の最終段階のケアのしくみについて理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	人生の最終段階のケアのしくみについて理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	人生の最終段階のケアのしくみについて理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	1．精神・身体機能の低下が移動・身じたく・食事に及ぼす影響について理解し、説明できる。	精神・身体機能の低下が移動・身じたく・食事に及ぼす影響について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	精神・身体機能の低下が移動・身じたく・食事に及ぼす影響について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	精神・身体機能の低下が移動・身じたく・食事に及ぼす影響について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	精神・身体機能の低下が移動・身じたく・食事に及ぼす影響について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	精神・身体機能の低下が移動・身じたく・食事に及ぼす影響について理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	2．精神・身体機能の低下が入浴・排泄・休息に及ぼす影響について理解し、説明できる	精神・身体機能の低下が入浴・排泄・休息に及ぼす影響について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	精神・身体機能の低下が入浴・排泄・休息に及ぼす影響について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	精神・身体機能の低下が入浴・排泄・休息に及ぼす影響について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	精神・身体機能の低下が入浴・排泄・休息に及ぼす影響について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	精神・身体機能の低下が入浴・排泄・休息に及ぼす影響について理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	3．人生の最終段階に関する「死」のとらえ方について理解し、説明できる	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	人生の最終段階に関する「死」のとらえ方について理解し、他者に説明できるが不十分である。
態度	1．課題に取り組む姿勢。	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	2．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	3．グループワーク作業を分担して他者と協働できる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができなかった。

科目名	生活コミュニケーション特論演習A 生活福祉コース卒業必修科目	授業番号	HW310	サブタイトル	
教員	森田 裕之				

単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択

授業概要	対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び，介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う。 生活コミュニケーション特論では，本人及び家族とのよりよい関係性の構築や障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な知識・技術を修得する。介護におけるチームのコミュニケーションについて，情報共有の意義，活用，管理などに関する基本知識・技術について理解する。
到達目標	(1)コミュニケーション障害について理解し，対象者の状況に応じたコミュニケーションを図り，信頼関係の構築ができる。 (2)障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的技術が身につけることができる。 (3)多職種協働におけるチームのコミュニケーションが図れるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。
授業計画 備考	

回	概要	担当
第1回	介護におけるコミュニケーションの基本 受容・共感・傾聴等、介護におけるコミュニケーションの基本を理解する。	
第2回	介護におけるコミュニケーションの対象・援助関係とコミュニケーション 介護におけるコミュニケーションの対象である、高齢者や障害者との援助関係について理解する。	
第3回	言語コミュニケーション 会話や電話・メールといった言葉を用いて意思を伝える言語コミュニケーションについて理解する。	
第4回	非言語コミュニケーション 身振り手振り・ジェスチャー・表情・目の動きといった非言語コミュニケーションについて理解する。	
第5回	介護現場におけるコミュニケーションの実際 介護現場で行われているコミュニケーションについて、教員の実体験や学生の実習での実体験等をもとに説明する。	
第6回	コミュニケーション障害への対応の基本的姿勢 利用者の障害特性に応じた対応が必要であることを理解する。	
第7回	視覚障害に応じたコミュニケーション 閉ざされた質問の活用、抽象的な言葉を使用しない等、視覚障害に応じたコミュニケーションを理解する。	
第8回	聴覚・言語障害に応じたコミュニケーション 障害の原因疾患に応じたコミュニケーション方法を理解する。	
第9回	精神障害に応じたコミュニケーション 自分からうまく話せない、話がうまくまとまらないといった精神障害に応じたコミュニケーションについて理解する。	
第10回	高次脳機能障害・認知症に応じたコミュニケーション 失語症や記憶障害等、症状に応じたコミュニケーション方法を理解する。	
第11回	知的・発達障害に応じたコミュニケーション 「はっきり」「短く」「具体的」に話すといった知的・発達障害に応じたコミュニケーションを理解する。	
第12回	身体障害に応じたコミュニケーション 身体障害について理解し、利用者の身体障害に応じたコミュニケーション方法を理解する。	
第13回	家族とのコミュニケーション 積極的に傾聴する等、家族とのコミュニケーション方法を理解する。	
第14回	多職種協働におけるコミュニケーション 介護福祉士と異なる専門職の専門性を理解しお互いに 尊重し合うといった、多職種協働におけるコミュニケーションの基本について理解する。	
第15回	介護におけるコミュニケーションの基本・まとめ 疾患や症状別のコミュニケーション方法を復習するとともに、国家試験の内容も関連して学ぶ。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予・復習状況を評価する。
レポート	30	テーマに沿った記述ができているか評価する。 共通して見られた課題や優れた着眼点については、授業内で取り上げて解説し、学生全体の学びに還元する。
小テスト		
定期試験	50	授業内容が理解できているか評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。 ・しっかりと予習・予習し授業中は積極的な発言を求めます。 ・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力，応用力も求めています。 ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。 ・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自，国家試験対策にも目を通すようにしてください。
授業外学修	１．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 ２．復習として，授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。 ３．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。 ４．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。 ５．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読んでください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	その都度，授業資料・参考資料を配布します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（2年）、訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）と訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の経験から、多様な疾患や障害をもった高齢者や障害者に対してコミュニケーションを図ることができる。多様な疾患や障害をもった高齢者や障害者とのコミュニケーションに必要な知識や技術を、学生が身につけられるよう授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーションについて理解できている。	学習した高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーションについて正確に理解できている。	学習した高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーションについて概ね理解できている。	学習した高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーションについてある程度理解できている。	学習した高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーションについてあまり理解できていない。	学習した高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーションについて理解できていない。
思考・問題解決能力	２．対象者や家族、チームメンバーとの関係性やコミュニケーション上の課題を的確に捉え、適切な解決策を論理的に考察できる。	対象者や家族、チームメンバーとの関係性やコミュニケーションの課題を的確に分析し、根拠に基づいた解決策を論理的かつ明確に説明できる。	コミュニケーションの課題を適切に分析し、具体的な解決策を論理的に説明できる	コミュニケーションの課題をある程度分析し、解決策を示すことができるが、論理性に欠ける部分がある。	コミュニケーションの課題の分析が不十分であり、解決策の提示が曖昧である。	コミュニケーションの課題を適切に捉えられず、解決策の提示ができない。
技能	３．高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーション技法を身につけている。	学習した高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーション技法を十分に身につけている。	学習した高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーション技法を概ね身につけている。	学習した高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーション技法をある程度身につけている。	学習した高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーション技法をあまり身につけていない。	学習した高齢者に多い疾患や障害等に応じたコミュニケーション技法を身につけていない。
態度	４．対象者や家族、チームメンバーとの関係性を大切にし、適切なコミュニケーションを通じて良好な支援関係を築こうとする姿勢を示せる。	対象者や家族、チームメンバーとの関係性を深く理解し、積極的に適切なコミュニケーションを図りながら、信頼関係を築く姿勢を常に示せる。	関係性の重要性を理解し、適切なコミュニケーションを通じて良好な支援関係を築こうとする姿勢を示せる。	関係性を意識し、基本的なコミュニケーションをとることができるが、積極性に欠ける部分がある。	関係性の意識が不十分であり、適切なコミュニケーションが取れていない場面が見られる。	関係性を意識したコミュニケーションがほとんど見られず、支援関係を築く姿勢が欠けている。

科目名	生活支援技術Ⅱ 生活福祉コース卒業必修科目			授業番号	HW311	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田　裕之								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	生活支援技術IIでは，尊厳の保持や自立支援，生活の豊かさの観点から，本人主体の生活が継続できるよう，根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を修得する学修とする。 自立に向けた入浴・清潔保持，排せつ，休息・睡眠，人生の最終段階における介護ついて基礎的な知識・技術を学ぶ。								
到達目標	(1)自立に向けた入浴・清潔保持の介護を理解することができる。 (2)自立に向けた排泄の介護を理解することができる。 (3)休息・睡眠の介護を理解することができる。 (4)人生の最終段階における介護を理解することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	自立に向けた衣服の着脱介助 できる部分は自身で着脱してもらうといった自立支援を意識して衣服の着脱を行うことができる。	
第2回	座位での着脱介助 車椅子等に座った状態で、脱健着患を意識した着脱介助を行うことができる。	
第3回	臥位での着脱介助（1） ベッド等に臥床している状態で、脱健着患を意識した着脱介助を行うことができる。	
第4回	臥位での着脱介助（2） ベッド等に臥床している状態で、脱健着患を意識した着脱介助を行うことができる。	
第5回	自立に向けた入浴・清潔保持の介護 利用者の可動域等に留意し自立を支援した入浴・清潔保持を行うことができる。	
第6回	清拭の介助(1) 顔を拭くときの、目頭から目尻を拭き、上まぶた、下まぶたの順で拭くといった手順を、根拠をもって行うことができる。	
第7回	清拭の介助(2) 全身清拭の手順を、根拠をもって行うことができる。	
第8回	洗髪・洗身の介助(1) 洗髪介助を、根拠をもって行うことができる。	
第9回	洗髪・洗身の介助(2) 洗身介助を、根拠をもって行うことができる。	
第10回	洗髪・洗身の介助(3) 臥床した状態の利用者に対し、洗髪・洗身の介助を行うことができる。	
第11回	特殊浴槽の介助(1) 特殊浴槽の使用方法や留意点について理解する。	
第12回	特殊浴槽の介助(2) 特殊浴槽を使用し、安全に入浴することができる。	
第13回	入浴・清潔保持の介護における多職種協働 入浴・清潔保持の介護において、看護師やリハビリテーション専門職等、多職種との協働について理解する。	
第14回	自立に向けた排泄の介護 自分で行えることを把握するための声掛け等、自立に向けた排泄介助を行うことができる。	
第15回	排泄用具を活用した排泄介助 尿便器など等、排泄用具を活用した排泄介助を行うことができる。	
第16回	トイレでの排泄介助 トイレ内での移乗等、安全に留意した排泄介助を行うことができる。	
第17回	ポータブルトイレでの排泄介助(1) ポータブルトイレを置く位置や留意点等を理解する。	
第18回	ポータブルトイレでの排泄介助(2) ポータブルトイレを活用した排泄介助を行うことができる。	
第19回	ベット上での排泄介助(1) ベッドで臥床している利用者の、おむつ交換の手順や留意点を理解する。	
第20回	ベット上での排泄介助(2) ベッドで臥床している利用者の、おむつ交換の手順や留意点を踏まえ、排泄介助を行うことができる。	
第21回	ベット上での排泄介助(3) ベッドで臥床している利用者のおむつ交換等、排泄介助を行うことができる。	
第22回	自立に向けた休息・睡眠の介護 高齢になると、寝つきが悪く、浅い眠りになりやすいこと等を理解する。	
第23回	休息・睡眠の介護における多職種協働 高齢者や障害者の休息・睡眠において、看護師やリハビリテーション専門職等との多職種協働について理解する。	
第24回	人生の最終段階における介護 人生の最終段階における意思決定支援や本人の意思に基づく医療・介護の提供について理解する。	
第25回	人生の最終段階の意義と介護の役割 どういった内容の医療・ケアを受けたいかや、自分で意思表示できない場合には誰に意思推定を委ねたいか等、人生の最終段階の意義と介護の役割について理解する。	
第26回	人生の最終段階における生活支援技術 「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」をもとに、必要な生活支援技術について理解する。	
第27回	人生の最終段階の介護における多職種協働 人生の最終段階の介護において、看護師やリハビリテーション専門職等との多職種協働について理解する。	
第28回	実技試験に向けて（移動・衣服の着脱・排せつ介助等） 過去の介護福祉士国家試験問題（実技）をもとに、実技試験の内容や留意点について理解する。	
第29回	実技試験 実技試験を行い、良い点や改善点等を学生同士で指摘し合い、学びを深める。	
第30回	自立に向けた生活支援・まとめ 今まで学んだ生活支援技術に関する復習を、介護福祉士国家試験をもとに行う。	

授業計画　備考2	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度・実習の姿勢・協力，予・復習状況を評価する。
レポート	20	実習記録において目的・実施内容・考察等適切に記述できているか評価する。 共通して見られた課題や優れた着眼点については、授業内で取り上げて解説し、学生全体の学びに還元する。
小テスト	20	事例に沿った生活支援技術が実施できるか評価する（実技試験）
定期試験	50	授業の内容が理解できているか評価する
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に演習形式で行い，各生活支援技術の意義・目的・介助方法等理論を学び，実習室での実習で技術を修得していきます。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な行動を求めます。 ・利用者の人権および生命を守るという意識を持ち，緊張感を持って取り組んでください。 ・利用者・介助者双方にとって安全・安楽・安心を意識し，利用者の尊厳の保持し，自立支援ができるようにしましょう。 ・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自，国家試験対策にも目を通すようにしてください。
授業外学修	１．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 ２．復習として，授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。 ３．実技は「１回見た，１回した」だけでは身につきません。実習で実際に利用者支援をする際，不安のないようにしっかり練習してください。 ４．実習記録の課題を出します。感想を書くだけでなく，根拠を元にしっかり考察できるように参考書を見ながら作成しましょう。提出期限をしっかり守ってください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座 7　生活支援技術II		中央法規	978-4-8058-8396-9	2200
最新介護福祉士養成講座 6 生活支援技術I		中央法規	978-4-8058-8395-2	2200

使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	実習日は実習服，室内シューズを持参してください。 頭髪・つめ・装飾品等介護が行える身だしなみを整えてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（２年）、訪問介護管理者兼サービス提供責任者（５年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（２年）と訪問介護管理者兼サービス提供責任者（５年）の経験から、介護施設等の利用者に対して自立支援や尊厳の保持に配慮した生活支援技術に必要な知識と技術を、学生が身につけられるよう授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．利用者の状態に応じた介護が実践可能か、知識や生活習慣等から総合的に考えることができる。	利用者の状態に応じた介護が実践可能か、知識や生活習慣等から総合的に考えることが十分できる。	利用者の状態に応じた介護が実践可能か、知識や生活習慣等から総合的に考えることが概ねできる。	利用者の状態に応じた介護が実践可能か、知識や生活習慣等から総合的に考えることがある程度できる。	利用者の状態に応じた介護が実践可能か、知識や生活習慣等から総合的に考えることがあまりできない。	利用者の状態に応じた介護が実践可能か、知識や生活習慣等から総合的に考えることができない。
思考・問題解決能力	２．利用者の生活状況やニーズを的確に分析し、根拠に基づいた生活支援技術を選択・実践できる。	利用者の生活状況やニーズを的確に分析し、科学的根拠に基づいた適切な生活支援技術を柔軟に選択・実践できる。	利用者の生活状況やニーズを適切に分析し、概ね妥当な生活支援技術を選択・実践できる。	利用者の生活状況やニーズをある程度分析し、基本的な生活支援技術を選択・実践できるが、不十分な点がある。	利用者の生活状況やニーズの分析が不十分であり、支援技術の選択や実践に迷いや誤りが見られることがある。	利用者の生活状況やニーズを分析できず、適切な生活支援技術を選択・実践することができない。
技能	３．応用的な介護技術を理解し自立に向けた支援を利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術が実践できる。	応用的な介護技術を理解し自立に向けた支援を利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術が正確に実践できる。	応用的な介護技術を理解し自立に向けた支援を利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術が概ね実践できる。	応用的な介護技術を理解し自立に向けた支援を利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術がある程度実践できる。	応用的な介護技術を理解し自立に向けた支援を利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術があまり実践できない。	応用的な介護技術を理解し自立に向けた支援を利用者に説明し、安全・安楽に配慮した介護技術が実践できない。
態度	４．講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組み、他学生と協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に積極的に取り組み、他学生と協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組み、他学生と概ね協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組み、他学生とある程度協力して臨むことができる。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組むことや、他学生と協力して臨むことがあまりできない。	講義・演習共に予習復習や課題提出に取り組むことや、他学生と協力して臨むことができない。

科目名	生活支援技術Ⅲ 生活福祉コース卒業必修科目			授業番号	HW312	サブタイトル			
教員	韓　在都								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	「生活支援技術III」では，障害や疾病のある人について，医学的・心理的側面から理解するとともに生活上の困り事を理解する。また，障害や疾病のある人の生活を支援するために介護福祉職が果たすべき役割を理解する。特に各障害や疾病の原因や症状をを学ぶことによって具体的な支援方法や内容を学ぶ。								
到達目標	(1)介護を必要とする人の障害や疾病内容を説明することができる。 (2)生活上の困りごとの観察ができる。 (3)障害者や高齢者の身体の状況に合わせた介護，環境整備について説明することができる。 (4)障害者や高齢者がその人らしい生き方を継続する為にどのような支援が必要か説明することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	障害・高齢者の状態・状況に応じた生活支援技術とは 障害や疾病とともに生活する人の背景について学び，生活支援を行う意義を理解する。	
第2回	肢体不自由に応じた介護１ 肢体不自由のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第3回	肢体不自由に応じた介護２ 肢体不自由のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第4回	視覚障害に応じた介護１ 視覚障害のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第5回	視覚障害に応じた介護２ 視覚障害のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第6回	聴覚・言語障害に応じた介護１ 聴覚・言語障害のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第7回	聴覚・言語障害に応じた介護２ 聴覚・言語障害のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第8回	重複障害（盲ろう）に応じた介護１ 重複障害（盲ろう）のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第9回	重複障害（盲ろう）に応じた介護２ 重複障害（盲ろう）のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第10回	心身機能障害に応じた介護１ 心身機能障害のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第11回	心身機能障害に応じた介護２ 心身機能障害のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第12回	呼吸器機能障害に応じた介護１ 呼吸器機能障害のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第13回	呼吸器機能障害に応じた介護２ 呼吸器機能障害のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第14回	腎臓機能障害に応じた介護１ 腎臓機能障害のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第15回	腎臓機能障害に応じた介護２ 腎臓機能障害のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第16回	膀胱・直腸機能障害に応じた介護１ 膀胱・直腸機能障害のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第17回	膀胱・直腸機能障害に応じた介護２ 膀胱・直腸機能障害のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第18回	小腸機能障害に応じた介護１ 小腸機能障害のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第19回	小腸機能障害に応じた介護２ 小腸機能障害のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第20回	高次脳機能障害に応じた介護１ 高次脳機能障害のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第21回	高次脳機能障害に応じた介護２ 高次脳機能障害のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第22回	発達障害に応じた介護１ 発達障害のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第23回	発達障害に応じた介護２ 発達障害のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第24回	筋委縮性側索硬化症（ALS）に応じた介護１ 筋委縮性側索硬化症（ALS）のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第25回	筋委縮性側索硬化症（ALS）に応じた介護２ 筋委縮性側索硬化症（ALS）のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第26回	パーキンソン病に応じた介護１ パーキンソン病のある人の生活上の困りごとを理解する。	
第27回	パーキンソン病に応じた介護２ パーキンソン病のある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	

第28回	悪性関節リウマチに応じた介護１ 悪性関節リウマチのある人の生活上の困りごとを理解する。	
第29回	悪性関節リウマチに応じた介護２ 悪性関節リウマチのある人への支援において，多職種連携のなかで介護福祉士が果たすべき役割を理解する。	
第30回	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）の生活支援技術の方法や注意点について振り返る。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・実習の姿勢・協力，予・復習状況を評価する。
小テスト	30	障害の内容や支援方法などの授業の内容が理解できているか評価する。採点後に、解説をする。
支援技術テスト（実技）	50	障害の内容を理解し、障害に応じた技術の展開が適切に行われるかを評価する。最後に実践をして、フィードバックを行う。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に障害や疾病の概要の基礎的知識を学び，その具体的な支援内容や支援方法を修得します。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な行動を求めます。 ・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自国家試験対策にも目を通すようにしてください。
授業外学修	１．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 ２．復習として，授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。 ３．演習記録の課題を出します。感想を書くだけでなく，根拠を元にしっかり考察できるように参考書を見ながら作成しましょう。提出期限をしっかり守ってください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新・介護福祉士養成講座８　生活支援技術III	介護福祉士養成講座編集委員会	中央法規	978-4-8058-8397-6	2420（税込み）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設における経験（5年），訪問介護員（1年）などの現場経験を活かし実践的能力が身につくように指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の目的や意義について理解し、説明できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の目的や意義について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の目的や意義について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の目的や意義について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の目的や意義について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の目的や意義について理解し、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	２．障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）に応じた生活支援技術について理解し、説明できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）に応じた生活支援技術について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）に応じた生活支援技術について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）に応じた生活支援技術について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）に応じた生活支援技術について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）に応じた生活支援技術について理解し、他者に説明できるが不十分である。

知識・理解	３．障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）に応じた生活支援技術について理解し、説明できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）に応じた生活支援技術について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）に応じた生活支援技術について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）に応じた生活支援技術について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）に応じた生活支援技術について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）に応じた生活支援技術について理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	１．利用者の状態・状況に応じた生活支援技術での他職種連携について理解し、説明できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術での他職種連携について理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術での他職種連携について理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術での他職種連携について理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術での他職種連携について理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術での他職種連携について理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	２．障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）による生活上の困りごとについて理解し、説明できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）による生活上の困りごとについて理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）による生活上の困りごとについて理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）による生活上の困りごとについて理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）による生活上の困りごとについて理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）による生活上の困りごとについて理解し、他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	３．障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）による生活上の困りごとについて理解し、説明できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）による生活上の困りごとについて理解し、他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）による生活上の困りごとについて理解し、他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）による生活上の困りごとについて理解し、他者に説明でき、質問に対し回答できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）による生活上の困りごとについて理解し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）による生活上の困りごとについて理解し、他者に説明できるが不十分である。
技能	１．利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の方法や注意点について説明できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の方法や注意点について他者にわかりやすく的確に説明でき、質問に対し的確に回答できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の方法や注意点について他者に的確に説明でき、質問に対し回答できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の方法や注意点について他者に説明でき、質問に対し回答できる。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の方法や注意点について他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術の方法や注意点について他者に説明できるが不十分である。
技能	２．障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）の生活支援技術の方法や注意点について説明できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）の生活支援技術の方法や注意点について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）の生活支援技術の方法や注意点について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）の生活支援技術の方法や注意点について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）の生活支援技術の方法や注意点について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	障害（肢体不自由、視覚・聴覚障害、内部障害）の生活支援技術の方法や注意点について他者に説明できるが不十分である。
技能	３．障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）の生活支援技術の方法や注意点について説明できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）の生活支援技術の方法や注意点について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）の生活支援技術の方法や注意点について他者に分かりやすく説明し、質問に対して回答できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）の生活支援技術の方法や注意点について他者に説明でき、質問に対して回答できる。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）の生活支援技術の方法や注意点について他者に説明できるが質問に対して回答が的確ではない。	障害（知的障害、高次脳機能障害、難病）の生活支援技術の方法や注意点について他者に説明できるが不十分である。
態度	１．課題に取り組む姿勢。	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	２．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	３．グループワーク作業を分担して他者と協働できる。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができなかった。

科目名	総合生活学セミナーＫⅢ			授業番号	HW313	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田　裕之、韓　在都、松井　圭三、中野　ひとみ								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	総合生活学セミナーKIIIは，介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに，介護観を形成し，専門職としての態度を養う学修とする。 各領域で学ぶ知識と技術の統合，介護実践の科学的探究を通し，介護実習と認知症カフェでの学びを深化させるとともに，介護の専門職として思考や態度の形成，自己教育力等を養う総合的な学修とする。								
到達目標	標記の介護実習目標が達成できるように，実習の進め方について理解し，介護実習に必要な知識・技術・姿勢を身につけることができる。 また，実習日誌やレクリエーション計画など記録の書き方を修得できる。 (1)介護介護実習の効果を上げるため，事前に実習する施設や事業所について理解できる。 (2)各領域で学んだ知識と技術を統合し，介護実践につなげることができる。 (3)実習や認知症カフェの活動を振り返り，介護の知識や技術を実践と結びつけて統合，深化できる。 (4)自己の課題を明確にし，専門職としての態度を身につけることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	訪問介護事業所の実習を終えて 訪問介護事業所の実習で学んだことや気づいたこと等をパワーポイントにまとめる。	森田
第2回	訪問介護実習の振り返り・実習報告会 パワーポイントにまとめた、訪問介護事業所の実習で学んだことや気づいたことを発表する。	森田，松井，中野，韓
第3回	訪問介護実習での（実習I-2B）実習まとめ パワーポイントでの発表に関する総評や改善点等を学生と共有する。	森田
第4回	介護実習I-(3)の意義と目的 地域密着型サービス（小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護）の意義と目的を理解する。	森田
第5回	地域密着型施設について 地域密着型の、高齢者が中重度の要介護状態となっても、可能な限り住み慣れた自宅又は地域で生活を継続できるようにするため、身近な市町村で提供されるといった特色を理解する。	森田
第6回	認知症対応型共同生活介護・小規模多機能型居宅介護での実習準備 個人調査票や実習課題を作成する。	森田
第7回	地域密着型施設での実習を終えて 地域密着型施設の実習で学んだことや気づいたこと等をパワーポイントにまとめる。	森田
第8回	地域密着型実習の振り返り・実習報告会 パワーポイントにまとめた内容を発表する。	森田，松井，中野，韓
第9回	施設・在宅・地域での生活支援技術について　① 施設と在宅で行われる、生活支援技術の違いについて理解する。 地域の認知症カフェの場で必要となる介護技術を学ぶ。	森田
第10回	施設・在宅・地域での生活支援技術について　② 施設と在宅で行われる、生活支援技術の違いについて理解する。 地域の認知症カフェの場で必要となる介護技術を学ぶ。	森田
第11回	介護実習Iまとめ 通所サービス、障害サービス、訪問サービス、地域密着型サービスそれぞれの特色や違いについて理解する。	森田
第12回	実習IIのねらい・進め方 介護老人福祉施設・介護老人保健施設の特色について理解する。 遅出・早出・夜勤等、変則勤務について理解する。	森田
第13回	実習における介護過程の展開 介護実習Ⅱでは、対象利用者を1人選び、一連の介護過程を行う必要があることを理解する。	森田
第14回	実習IIにおける個別支援計画の作成 アセスメント（情報収集、情報の解釈関連付け統合化、課題抽出）、計画立案、実施、評価について理解しているか確認する。	森田
第15回	実習IIに向けて・まとめ 介護保険施設についてや変則勤務、一連の介護過程等、今までの実習との違いを中心に復習を行う。	森田
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予習・復習を評価する。
レポート	30	実習の必要書類の提出期限の厳守。実習の自己課題，実習のまとめ等提出物と実習反省会等の発表を評価する。 共通して見られた課題や優れた着眼点については、授業内で取り上げて解説し、学生全体の学びに還元する。
パワーポイントを用いた発表	50	実習報告における発表内容について、内容・時間・質疑応答の受け答え等で評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。 ・実習をスムースに進めるための，専門的知識と技術の定着を図れるように，意欲的に取り組んでください。 ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。 ・実習に必要な姿勢・書類等の準備を行います。提出期限の厳守および，実習に臨める姿勢作りを心がけてください。
授業外学修	１．実習をスムースに展開できるために必要な知識・生活支援技術の予習・復習をしてください。 ２．自分が行く実習先の情報を，資料やインターネットなどで調べて施設の概要や特徴を理解しておいてください。 ３．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。 ４．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。 ５．実習で活用できるレクリエーションや回想法などを準備しておいてください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士全書10	介護総合演習・介護実習	中央法規出版	978-4-8058-5770-0	2200

使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト 実習の手引き

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（2年），訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を有する。(森田) 観音寺市シルバー人材センター職員（3年），観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を有する。(松井) 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野） 介護福祉士（11年）として介護老人ホームにて介護職員5年，訪問介護員として1年の実務経験がある。（韓）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）や訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を活かし、介護福祉士に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田） 高齢者福祉，障害者福祉において，観音寺市シルバー人材センター職員（3年）や観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を踏まえた授業を実践している。(松井) 看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野） 介護老人ホーム（5年）や訪問介護員（1年）の実務経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する。（韓）

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．介護実習Ⅰ-③、介護実習Ⅱの意義と目的を理解し、実習生として必要な資質を理解できる。	介護実習Ⅰ-③、介護実習Ⅱの意義と目的を理解し、実習生として必要な資質を十分理解できる。	介護実習Ⅰ-③、介護実習Ⅱの意義と目的を理解し、実習生として必要な資質を概ね理解できる。	介護実習Ⅰ-③、介護実習Ⅱの意義と目的を理解し、実習生として必要な資質をある程度理解できる。	介護実習Ⅰ-③、介護実習Ⅱの意義と目的を理解し、実習生として必要な資質をあまり理解できない。	介護実習Ⅰ-③、介護実習Ⅱの意義と目的を理解できず、実習生として必要な資質を理解できない。
知識・理解	２．利用者の生活と施設・居宅介護の特色を理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を十分理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を概ね理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色をある程度理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色をあまり理解できない。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を理解できない。
思考・問題解決能力	１．自分自身の傾向を把握し、課題解決に努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に十分努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に概ね努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決にある程度努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決にあまり努めることができない。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に努めることができない。
技能	１．高齢者と適切にかかわるために必要な能力が習得できる。	高齢者と適切にかかわるために必要な能力が十分習得できる。	高齢者と適切にかかわるために必要な能力が概ね習得できる。	高齢者と適切にかかわるために必要な能力がある程度習得できる。	高齢者と適切にかかわるために必要な能力があまり習得できない。	高齢者と適切にかかわるために必要な能力が習得できない。
技能	2．実習で学んだことをパワーポイントにまとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントに十分まとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントに概ねまとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントにある程度まとめ、発表することができる。	実習で学んだことをパワーポイントにまとめ、発表することがあまりできない。	実習で学んだことをパワーポイントにまとめ、発表することができない。
態度	１．実習のための課題を記録し、期限内に提出することができる。	実習のための課題を正確に記録し、期限内に提出することができる。	実習のための課題を記録し、期限内に概ね提出することができる。	実習のための課題を記録し、期限内にある程度提出することができる。	実習のための課題を記録するが、期限内にあまり提出できない。	実習のための課題を記録できず、期限内に提出できない。

科目名	総合生活学セミナーＫⅣ			授業番号	HW314	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田　裕之、韓　在都、松井　圭三、中野　ひとみ								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	総合生活学セミナーKIVは，介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに，介護観を形成し，専門職としての態度を養う学修とする。 各領域で学ぶ知識と技術の統合，介護実践の科学的探究を通し，介護実習や認知症カフェでの学びを深化させるとともに，介護の専門職として思考や態度の形成，自己教育力等を養う総合的な学修とする。								
到達目標	標記の介護実習目標が達成できるように，実習の進め方について理解し，介護実習に必要な知識・技術・姿勢を身につけることができる。 また，実習日誌やレクリエーション計画など記録の書き方を修得できる。 (1)介護介護実習の効果を上げるため，事前に実習する施設や事業所について理解できる。 (2)各領域で学んだ知識と技術を統合し，介護実践につなげることができる。 (3)実習や認知症カフェの活動を振り返り，介護の知識や技術を実践と結びつけて統合，深化できる。 (4)自己の課題を明確にし，専門職としての態度を身につけることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	実習IIにおける介護過程の展開方法(1) 実習Ⅱで行う、対象利用者の決定・アセスメント・立案・実施・評価について理解する。	森田　松井　韓　中野
第2回	実習IIにおける介護過程の展開方法(2) 実習Ⅱで行う、対象利用者の決定・アセスメント・立案・実施・評価について理解する。	森田　松井　韓　中野
第3回	実習IIにおける記録について 実習記録について、利用者にとってより良い介護とは何かを考える考察について理解する。	森田　松井　韓　中野
第4回	実習IIの準備 個人調査票や実習目標等を作成する。	森田　松井　韓　中野
第5回	実習II（介護保険施設実習）を終えて 実習Ⅱで学んだことや反省点等をパワーポイントにまとめる。	森田　松井　韓　中野
第6回	自己評価と客観的評価 学生の自己評価と実習施設の客観的評価を照らし合わせて、自身の課題等を考える。	森田　松井　韓　中野
第7回	実習のまとめ パワーポイントで作成した資料をもとに、学生間で報告を行う。	森田　松井　韓　中野
第8回	学びの共有・深化 学生それぞれが、学んだことや反省点を共有し、話し合うことで深化させる。 学生それぞれの課題を考え、それにどう向き合っていくかを考える。また、学生自身がどのような就職先を望むのか、将来どうなりたいか等を考える。	森田　松井　韓　中野
第9回	認知症カフェでの活動を通じて、認知症ケアにおける科学的探究や問題解決の方法を学ぶ。①	森田　松井　韓　中野
第10回	認知症カフェでの活動を通じて、認知症ケアにおける科学的探究や問題解決の方法を学ぶ。②	森田　松井　韓　中野
第11回	介護実践の研究 介護実習Ⅱで行った介護過程をもとに、介護研究を行う。 ケアの質の向上等、介護研究の意義と目的について理解する。	森田　松井　韓　中野
第12回	研究方法の理解　① ある具体的な事例について、それを詳しく調べ、分析・研究して、その背後にある原理や法則性などを究明し、一般的な法則・理論を発見するといった、事例研究の方法について理解する。	森田　松井　韓　中野
第13回	研究方法の理解　② ある具体的な事例について、それを詳しく調べ、分析・研究して、その背後にある原理や法則性などを究明し、一般的な法則・理論を発見するといった、事例研究の方法について理解する。	森田　松井　韓　中野
第14回	倫理的配慮　① 研究する際に研究者が責任をもって守るべきルールと、行うべき配慮について理解する。	森田　松井　韓　中野
第15回	倫理的配慮　② 先行研究の調べ方，意義，引用方法等について理解する。	森田　松井　韓　中野
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予習・復習を評価する。
レポート	30	実習の必要書類の提出期限の厳守。実習の自己課題，実習のまとめ等提出物と発表を評価する。 共通して見られた課題や優れた着眼点については、授業内で取り上げて解説し、学生全体の学びに還元する。
テスト	50	今までの実習や認知症カフェの活動等で学んだ介護に関する基本的な理論や技術等を統合した内容の筆記試験を行う。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。 ・しっかりと予習・復習し授業中は積極的な発言を求めます。 ・実習をスムースに進めるための，専門的知識と技術の定着を図れるように，意欲的に取り組んでください。 ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。 ・実習に必要な姿勢・書類等の準備を行います。提出期限の厳守および，実習に臨める姿勢作りを心がけてください。
授業外学修	１．実習をスムースに展開できるために必要な知識・生活支援技術の予習・復習をしてください。 ２．自分が行く実習先の情報を，資料やインターネットなどで調べて施設の概要や特徴を理解しておいてください。 ３．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。 ４．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。 ５．実習で活用できるレクリエーションや回想法などを準備しておいてください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で15時間とする。週1時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士全書10	介護総合演習・介護実習	中央法規出版	978-4-8058-5770-0	2200

使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト 実習の手引き

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（2年），訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を有する。(森田) 観音寺市シルバー人材センター職員（3年），観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を有する。(松井) 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野） 介護福祉士（11年）として介護老人ホームにて介護職員5年，訪問介護員として1年の実務経験がある。（韓）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）や訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を活かし、介護福祉士に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田） 高齢者福祉，障害者福祉において，観音寺市シルバー人材センター職員（3年）や観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を踏まえた授業を実践している。(松井) 看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野） 介護老人ホーム（5年）や訪問介護員（1年）の実務経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する。（韓）

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．利用者の全体像をＩＣＦの視点から捉え、理解できる。	利用者の全体像をＩＣＦの視点から捉え、十分理解できる。	利用者の全体像をＩＣＦの視点から捉え、概ね理解できる。	利用者の全体像をＩＣＦの視点から捉え、ある程度理解できる。	利用者の全体像をあまり理解できない。	利用者の全体像を理解できない。
知識・理解	２．利用者の生活と施設・居宅介護の特色を理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を十分理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を概ね理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色をある程度理解できる。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色をあまり理解できない。	利用者の生活と施設・居宅介護の特色を理解できない。
思考・問題解決能力	１．自分自身の傾向を把握し、課題解決に努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に十分努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に概ね努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決にある程度努めることができる。	自分自身の傾向を把握し、課題解決にあまり努めることができない。	自分自身の傾向を把握し、課題解決に努めることができない。
技能	1．実習で行った一連の介護過程をもとに、事例研究を行うことができる。	実習で行った一連の介護過程をもとに、十分な事例研究を行うことができる。	実習で行った一連の介護過程をもとに、ある程度十分な事例研究を行うことができる。	実習で行った一連の介護過程をもとに、ある程度の事例研究を行うことができる。	実習で行った一連の介護過程をもとに、事例研究をあまり行うことができない。	実習で行った一連の介護過程をもとに、事例研究を行うことができない。
態度	１．実習のための課題を記録し、期限内に提出することができる。	実習のための課題を正確に記録し、期限内に提出することができる。	実習のための課題を記録し、期限内に概ね提出することができる。	実習のための課題を記録し、期限内にある程度提出することができる。	実習のための課題を記録するが、期限内にあまり提出できない。	実習のための課題を記録できず、期限内に提出できない。

科目名	介護過程Ⅲ			授業番号	HW315	サブタイトル			
教員	韓　在都								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	介護計画を立案して適切なサービスを提供するためには，ケアマネジメント過程の中で，多職種連携や社会資源などの利用によるチームアプローチが必要なことを学ぶ。 介護過程IIに引き続き，事例を通して介護過程の展開を実施し，介護実習で体験した事例を振り返りながら介護実践の評価の方法を学ぶ。介護過程の展開が適切に展開できることを目標とする。								
到達目標	(1)介護過程I，IIで学習した内容を活用し，介護過程の展開について説明することができる。 (2)様々な事例を通して適切な介護計画を立案する際に根拠に基づいた思考ができる。 (3)どのような利用者についても適切に介護過程を展開できる力を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	介護過程の意義と目的 介護過程の意義と目的をしっかり把握することで根拠に基づいた介護の実践へとつながることの理解を深める。	
第2回	介護過程の視点 ＩＣＦの視点に基づく利用者の把握，尊厳を守るケアの実践，個別ケアの実施，根拠に基づく介護の実践と的確な記録の理解を深める。	
第3回	介護過程の4つのプロセス 介護過程の「アセスメント」，「計画の立案」，「実施」，「評価」の４つのプロセスの理解を深める。	
第4回	介護過程の展開の理解１ 情報収集の方法についてICFの視点から学び，フェイスシート・ICFシートによる情報収集の方法の理解を深める。	
第5回	介護過程の展開の理解２ 情報の分析による解釈，関連付けの過程を，アセスメントシートに抽出する過程の理解を深める。	
第6回	介護過程の展開の理解３ 情報の解釈，関連付けした情報を，統合化による生活課題の明確化する過程の理解を深める。	
第7回	介護過程の展開の理解４ 利用者に寄り添う介護の実践のために，5W1Hの視点にもとづく計画立案（個別援助計画）の理解を深める。	
第8回	介護過程の展開の理解５ 援助内容と実践方法についてPDCAサイクルの視点とICFの視点から学び，利用者に寄り添った支援の理解を深める。	
第9回	介護過程の展開の理解６ 介護実践における経過記録の理解を深める。	
第10回	介護過程の展開の理解７ 介護実践による評価の意義と展開（評価の内容や項目，修正など）を理解する。	
第11回	介護過程の展開の理解８ 介護実践による評価の意義と展開（5W1HとICFの視点とPDCAサイクルの視点）を理解する。	
第12回	介護過程の展開の理解９ 介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別援助計画との関連性，チームとして介護過程を展開することの意義や方法の理解を深める。	
第13回	介護過程の展開の理解10 個別の事例（介護老人保健施設の場合）を通じて，対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につながる方法の理解を深める。	
第14回	介護過程の展開の理解11 個別の事例（介護老人保健施設の場合）を通じて，対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につながる方法の理解を深める。	
第15回	介護過程の展開の理解12 個別の事例（介護老人保健施設の場合）を通じて，対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につながる方法の理解を深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的に授業に取り組めたか，提出状況，指導教員との質疑応答等を評価する。
レポート（記録物）	30	記録シートの記入において根拠に基づく事例研究ができたか評価する。コメントを記入して、フィードバックする。
小テスト		
定期試験	50	介護過程における評価の確認ため、介護技術に関する実技試験を行う。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	介護福祉士コースの1年間を学習して得た知識と介護実習の体験をもとに，介護現場でフールに活用できる専門的知識・技術を深める科目です。 介護福祉士は介護過程に沿った介護実践を行い，評価することで，自己を振り返り，新たな課題を発見することが日々の援助です。 常に問題意識を持って，探究する楽しさを感じ意欲的に取り組んでください。
授業外学修	１．この科目は事例をもとに対人援助の基本的な知識を学ぶことが目標です。 ２．今までの学んできた知識や経験を活かしながら，対人援助についてより深い知識を重ねる，介護の集大成的な科目であることを理解してください。 ３．授業中に行われるグループディスカッションに積極的に参加してください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として予習・復習で15時間とする。週1時間の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
介護過程	介護福祉士養成講座　9	中央法規	978-4-8058-8398-3	2200円（税別）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	その他授業の中で参考図書を紹介します
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	介護福祉士として介護老人ホームにて介護職員（5年），訪問介護員として（1年）の実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者施設における経験（5年），訪問介護員（1年）などの高齢者施設や障害者施設での経験を活かし，介護現場の現状を伝えながら，基本的知識・技術を学習し，介護福祉士に求められる実践的能力を身につけるように指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．介護過程の実践的展開について説明できる	介護過程の実践的展開について、他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護過程の実践的展開について他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	介護過程の実践的展開について、他者に説明でき、質問に対しての回答ができる。	介護過程の実践的展開について、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護過程の実践的展開について、他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	２．介護過程の全体像を説明できる	介護過程の全体像について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護過程の全体像について他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	介護過程の全体像について他者に説明でき、質問に対しての回答ができる。	介護過程の全体像について他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護過程の全体像について他者に説明できるが不十分である。
知識・理解	３．介護を必要とする人の生活の個別性、多様性、社会とのかかわりについて説明できる	介護を必要とする人の生活の個別性、多様性、社会とのかかわりについて他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	介護を必要とする人の生活の個別性、多様性、社会とのかかわりについて他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	介護を必要とする人の生活の個別性、多様性、社会とのかかわりについて他者に説明でき、質問に対しての回答ができる。	介護を必要とする人の生活の個別性、多様性、社会とのかかわりについて他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護を必要とする人の生活の個別性、多様性、社会とのかかわりについて他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	１．介護過程におけるアセスメントの思考の流れを説明できる	アセスメントの思考の流れとその因果関係について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	アセスメントの思考の流れとその因果関係について他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	アセスメントの思考の流れとその因果関係について他者に説明でき、質問に対しての回答ができる。	アセスメントの思考の流れとその因果関係について他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	アセスメントの思考の流れとその因果関係について他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	２．ICFの考え方を活用した情報収集の方法を説明できる	ICFの考え方を活用した情報収集の方法について他者に分かりやすく説明し、質問に対して的確に回答できる。	ICFの考え方を活用した情報収集の方法について他者に分かりやすく説明し、質問に対し回答できる。	ICFの考え方を活用した情報収集の方法について他者に説明でき、質問に対しての回答ができる。	ICFの考え方を活用した情報収集の方法について他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	ICFの考え方を活用した情報収集の方法について他者に説明できるが不十分である。
思考・問題解決能力	３．ICFと関連付けたアセスメントをもとに介護計画の立案ができる	ICFと関連付けたアセスメントをもとに介護計画の立案が利用者に適した計画にできている。	ICFと関連付けたアセスメントをもとに介護計画の立案ができる。	ICFと関連付けたアセスメントをもとに介護計画の立案がおおむねできている。	ICFと関連付けたアセスメントをもとに介護計画の立案ができているが、分析や根拠が十分ではない。	ICFと関連付けたアセスメントをもとに介護計画の立案が利用者の目線ではなく、情報収集や分析が不十分である。
技能	１．アセスメントの必要性について説明できる	事例を通して、対象者の状態・状況に応じた情報収集の必要性についてわかりやすく説明でき、質問に対して的確に回答できる。また、事例の三つ以上の課題を的確に見つけ、優先順位をつけることができる。	事例を通して、対象者の状態・状況に応じた情報収集の必要性についてわかりやすく説明でき、質問に対して回答できる。また、事例の三つ以上の課題を見つけ、優先順位をつけることができる。	事例を通して、情報収集の必要性について説明でき、質問に対して回答できる。また、事例の三つ以上の課題を見つけることができる。	事例を通して、情報収集の必要性について説明できるが、質問に対しての回答が的確ではない。また、事例の課題を見つけることができるが不十分である。	事例を通して、情報収集の必要性について説明が不十分である。また、課題を見つけることができない。
技能	２．情報の分析・解釈・統合ができる	事例を通して、対象者の状態・状況を把握して得られた情報を対象者の生活環境に合わせて的確に分析し、解釈、統合ができている。	事例を通して、対象者の状態・状況を把握して得られた情報を分析し、解釈、統合ができている。	事例を通して、対象者の状態・状況を把握して得られた情報を分析し、解釈、統合ができている。	事例を通して、対象者の状態・状況を把握して得られた情報の分析、解釈、統合が不十分である。	事例を通して、対象者の状態・状況を把握して得られた情報を整理している。
技能	３．介護過程とチームアプローチについて説明できる	介護実践における情報共有の意義を理解し、情報管理ができ、他者に分かりやすく説明し、質問に対し明確に回答できる。	介護実践における情報共有の意義を理解し、他者にわかりやすく説明し、質問に対し回答できる。	介護実践における情報共有の意義を理解し、他者に説明し、質問に対し回答できる。	介護実践における情報共有の意義に対し、他者に説明できるが質問に対しての回答が的確ではない。	介護実践における情報共有の意義に対し、他者に説明できるが不十分である。
態度	１．課題に取り組む姿勢	見通しや予想を立て、必要な課題解決方法（図書、インタビュー、インターネット等）を考え、連続性・具体性をもって計画を立てている。	見通しや予想を立て、多様な解決方法を考え、連続性をもって課題解決の計画を立てている。	見通しや予想を立て、課題の解決方法を考え、計画を立てている。	疑問や思いをもとに課題解決方法を設定している。	課題解決の方法を考えることができない。
態度	２．グループワークにおいて発言力、コミュニケーション力の活用ができる	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献できる。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見だけではなく、周囲の意見を求められる。議論を収束させ、結論を出すことに貢献していない。	議論の流れを読み、議論を進めるような発言ができる。自分の意見ばかり主張しがちであるか、あるいは、周囲の意見に同意してばかりである。	発言はあるものの、議論の流れが読めず、議論を進めるような発言ができない。	発言をしない。
態度	３．グループワーク作業を分担して他者と協働できる	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、各自の要望や得意分野を生かした作業分担を行い、一部の人に負担がかかることなく協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、一部の人に負担がかかる場面はあったが概ね協力して完成させた。	話し合いや電子メール、SNSなどのコミュニケーション手段により、一部の人にとっては要望通りでなく得意分野ではなかったが作業分担を行い、ほとんど一部の人にやってもらった面はあるが完成させた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担を行ったが機能せず、一部の人がなんとか発表できる形に仕上げた。	話し合いやコミュニケーション手段をとらず、作業分担も行わないまま、課題も完成させることができなかった。

科目名	介護実習Ⅰ－③			授業番号	HW316	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田　裕之、韓　在都、中野　ひとみ								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	地域における様々な場において，対象者の生活を理解し，本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を修得する学修とする。 本人の望む生活の実現に向けて，多職種との協働の中で，介護過程を実践する能力を養う学修とする。 介護実習Iでは，個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し，利用者・家族とのコミュニケーションの実践，生活支援技術の確認，多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する。								
到達目標	(1)地域における多様な介護の現場における生活支援について見学し，その特徴や役割を理解できる。 (2)利用者・家族とコミュニケーションを図り，利用者理解を深めることができる。 (3)日常生活援助を見学し，可能な範囲で体験し，介護福祉士の生活支援について理解できる。 (4)他職種の役割と他職種との連携・協働について理解できる。 (5)介護理念・職業倫理について理解を深めることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	実習I－(3)　地域密着型施設（小規模多機能型居宅介護・認知症対応型共同生活介護） その他、介護実習Ⅰに該当する施設（学生の学習目的および希望を踏まえて、適切と認められた施設を含む） 1日8時間×10日間（80時間）　2年次5月の第4週～5週に実施 地域密着型施設における地域に根ざした介護サービスについて実習を行う。 【内容】 地域密着型施設の特徴・役割の理解，地域密着型施設での生活支援の理解，介護保険制度の理解， 介護過程の展開（アセスメント，計画の立案）生活支援技術の実践，サービス担当者会議等にて多職種協働の理解，実習の振り返り								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	25	実習への意欲，積極性，誠実性，立ち居振る舞い等実習に取り組む姿勢を評価する。
レポート	25	実習記録が丁寧に記述し，根拠に基づいた考察および意見が述べられているか等記録物を評価する。 実習報告や記録類については、個別面談の場で直接フィードバックを行い、今後の課題や改善方法について助言する。
小テスト		
定期試験		
その他	50（実習担当者25・教員25）	実習担当者と教員が実習目標の達成度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習において「社会福祉士又は介護福祉士法」に基づく倫理条項（誠実義務・信用失墜行為の禁止・秘密保持・連携・資質向上の責務・名称の使用制限等）の遵守を念頭において実習に臨んでください。 (1) 実習期間中は実習施設の服務規程に従い，施設長をはじめ職員の指導を受け，施設の方針を妨げないようにすること。 (2) 疑問に感じたこと，不明なことは必ず質問し，現状を理解した上で判断・行動すること。 (3) 実習生の言動は利用者に影響を与えるものであるから，常に施設職員に準ずる良識に基づいた行動をとらなければならない。 (4) 実習は将来専門職に就くための準備である。学生の本分を忘れず自己研鑽に努めること。 (5) 言葉遣いや態度に気をつけること。 (6) 担当教員には報告・連絡・相談の徹底を図ること。
授業外学修	1．介護保険施設での実習となるため，実習に必要なテキストをしっかり読んで，介護福祉士について学ぶ学生としてふさわしい知識・技術で実習に臨めるように予習・復習をしてください。 2．毎日，実習記録を帰宅後に作成し，1日の出来事を振り返ってください。わからない用語や翌日の実習に必要な事柄について学修し準備してください。 3．レクリエーションや回想法など積極的に活用し，信頼関係の構築，利用者理解が深められるように準備をしてください。 4．実習期間は時間を計画的に使い，体力の回復・健康，学修等自己管理を怠らないようにしてください。 5．実習期間中は，施設職員，実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を実習日誌に記入する。 また，その他介護過程の展開，レクリエーション計画表などを作成する。 以上の内容を，毎日1時間学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士全書10　介護総合演習・介護実習		中央法規	978-4-8058-5770-0	2200

使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト（介護の基本I・II，生活支援技術I・II，介護総合演習・介護実習等） 介護実習の手引き

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	実習ファイルを準備します。書類の管理をしてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	観音寺市シルバー人材センター職員，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司(松井)，病院（救命救急，重症熱傷ユニット，脳外科，手術室ほか看護師） 市役所（母子保健課，看護師） 高齢者入所施設（看護師・介護支援専門員）（中野），高齢者施設（訪問介護員）（韓）

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	通所リハビリテーション介護職員（2年），訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を有する。(森田) 観音寺市シルバー人材センター職員（3年），観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を有する。(松井) 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野） 介護福祉士（11年）として介護老人ホームにて介護職員5年，訪問介護員として1年の実務経験がある。（韓）
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）や訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を活かし、介護福祉士に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田） 高齢者福祉，障害者福祉において，観音寺市シルバー人材センター職員（3年）や観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を踏まえた指導を実践している。(松井) 看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野） 介護老人ホーム（5年）や訪問介護員（1年）の実務経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する。（韓）

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を十分に説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を概ね説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活をある程度説明することができる。	利用者の生活をあまり説明することができない。	利用者の生活を説明することができない。
知識・理解	２．地域密着型サービスの業務内容や一日の流れを、理解できる。	地域密着型サービスの業務内容や一日の流れを、十分に理解できる。	地域密着型サービスの業務内容や一日の流れを、概ね理解できる。	地域密着型サービスの業務内容や一日の流れを、ある程度理解できる。	地域密着型サービスの業務内容や一日の流れをあまり理解できない。	地域密着型サービスの業務内容や一日の流れを理解できない。
思考・問題解決能力	１．実習全体の目標が明確で、それをもとに毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとに明確な毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとにある程度明確な毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとに毎日の目標を立てる能力を有している。	明確な毎日の目標を立てる能力をあまり有していない。	明確な毎日の目標を立てる能力を有していない。
技能	１．高齢者にかかわり、話を聴き情報収集をすることができる。	高齢者や高齢者に積極的にかかわり、話を聴き情報収集をすることができる。	高齢者や高齢者にある程度積極的にかかわり、話を聴き情報収集をすることができる。	高齢者や高齢者にかかわり、話を聴き情報収集をすることができる。	高齢者や高齢者の話をあまり聴くことができず、情報収集をすることがあまりできない。	高齢者や高齢者の話を聴くことができず、情報収集をすることができない。
技能	2．自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を的確に記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察をある程度的確に記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することがあまりできない。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができない。
態度	１．実習課題を記録し、期限内に提出することができる。	実習課題を正確に記録し、期限内に提出することができる。	実習課題を記録し、期限内に概ね提出することができる。	実習課題を記録し、期限内にある程度提出することができる。	実習課題を記録するが、期限内にあまり提出できない。	実習課題を記録できず、期限内に提出できない。

科目名	医療的ケアⅠ			授業番号	HW317	サブタイトル			
教員	中野　ひとみ								
単位数	4単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では医療を必要とする人の安全と生活を守るための基礎的知識を修得するための講義を行う。 「人間と社会」,「保健医療制度とチーム医療」,「安全な療養生活」,「清潔保持と感染」,「健康状態の保持」について説明する。								
到達目標	・介護福祉士としての倫理的配慮ができ，必要な喀痰吸引，経管栄養を中心とした医療的ケアを安全かつ適切に行うための知識・技術を習得することができる。 ・介護福祉士として安全に医療的ケアを実施するために，必要な基本的知識を身につけることができる。 ・喀痰吸引，経管栄養を受ける利用者・家族の気持ちを考えることができ必要な支援をい行うことができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉〈態度〉の修得に貢献する。								
授業計画　備考	本講義は厚生労働省の規定による基本研修によるものであり，講義時間50時間以上で構成されている。 授業計画（34回） ディスカッションとグループワークを行う。								

回	概要	担当
第1回	人間と社会 個人の尊厳・医療と介護の倫理・個人情報と守秘義務を理解する。 人間の尊厳とは何か，倫理とは何かグループディスカッションを行う。	
第2回	人間と社会 医療的ケアを受ける利用者の対応・介護，看護の立場・生活支援を理解する。 事例から医療的ケアを受ける人たちについて理解を深める。	
第3回	保健医療制度とチーム医療医療(1) 保健医療に関する諸制度・医行為に関する法律を理解する。 医行為と医療的ケアの違いについて理解する。	
第4回	保健医療制度とチーム医療医療(2) 喀痰吸引と経管栄養についての介護の連携を理解する。 介護福祉士ができる医療的ケアの範囲について理解する。	
第5回	安全な療養生活(1) 喀痰吸引や経管栄養の安全な実施・リスクマネージメントを理解する。 医療事故がなぜ起きるのかを学び，医療や介護現場に潜むリスクについて理解する。	
第6回	安全な療養生活(2) ヒヤリハットとアクシデント・救急蘇生を理解する。 KYTシートを用いて，グループディスカッションを行う。	
第7回	安全な療養生活(3) AEDの実際と救急蘇生を理解する。 緊急時の対応方法と，AEDの使用方法の実際を行う。	
第8回	清潔保持と感染予防(1) 標準予防策・手洗い・うがい・手指消毒等を理解する。 スタンダードプリコーションについて理解する。	
第9回	清潔保持と感染予防(2) 職員の感染予防対策・生活環境を理解する。 予防接種の種類と体調不良時の対応方法について学ぶ。	
第10回	清潔保持と感染予防(3) 医療廃棄物の取り扱い方を理解する。 医療廃棄物の廃棄方法と消毒効果について理解する。	
第11回	健康状態の把握(1) 平常時の健康状態の把握・健康の観察法を理解する。 WHOの健康の定義を理解する。 観察のポイントを理解する。	
第12回	健康状態の把握(2) バイタルサインの実際を理解する。 バイタルサインとは何かを理解する。 緊急時の優先順位を理解する。	
第13回	健康状態の把握(3) バイタルサインの正常と異常を理解する。 バイタルサイン測定の実際と正常と異常の値を理解する。	
第14回	健康状態の把握(4) 急変時の把握とその対応・準備を理解する。 介護現場で起きる急変や事故の対応方法について理解する。	
第15回	高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(1) 呼吸器の解剖整理と呼吸のしくみとはたらきを理解する。	
第16回	高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(2) 呼吸の変化と呼吸のしくみとその働きを理解する。	
第17回	高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(3) 喀痰吸引とは何かを理解する。 吸引で使う物品を理解し，吸引時の留意点を理解する。	
第18回	高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(4) 人工呼吸器装着者の留意点と吸引方法を理解する。	
第19回	高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(5) 子どもの吸引方法を理解する。 家族への対応について理解する。	
第20回	高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(6) 利用者や家族の気持ちを理解する。 事例を用いてグループディスカッションを行う。	
第21回	高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(7) 呼吸器系の感染と予防を理解する。	
第22回	高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(8) 実施手順と留意点を理解する。	
第23回	高齢者及び障害者・児の喀痰吸引(9) 喀痰吸引に伴うケアを理解する。 体位ドレナージ・排痰について理解する。	

第24回	高齢者及び障害者・児の経管栄養(1) 消化器系の解剖整理としくみを理解する。	
第25回	高齢者及び障害者・児の経管栄養(2) 消化器系の症状とその働きを理解する。	
第26回	高齢者及び障害者・児の経管栄養(3) 経管栄養とは何かを理解する。 経管栄養で使う物品を理解し，注入時の留意点を理解する。	
第27回	高齢者及び障害者・児の経管栄養(4) 注入注入する内容について理解する。	
第28回	高齢者及び障害者・児の経管栄養(5) 実施するうえでの留意点を理解する。	
第29回	高齢者及び障害者・児の経管栄養(6) 子どもの経管栄養を理解する。 家族への対応について理解する。	
第30回	高齢者及び障害者・児の経管栄養(7) 緊急時の対応を理解する。	
第31回	高齢者及び障害者・児の経管栄養(8) 実施手順の留意点を理解する。	
第32回	高齢者及び障害者・児の経管栄養(9) 経管栄養に必要なケアを理解する。 体位の工夫・皮膚の消毒やテープ固定について理解する。	
第33回	喀痰吸引や経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちを対応を理解する。 事例を用いてグループディスカッションを行う。	
第34回	急変・事故発生時の対応と報告・記録の必要性を理解する。 第1~34回の振り返りとまとめを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
レポート	10	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
小テスト	10	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，定期試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。 なお大学評価により60点以上で単位認定とはなるが，厚生労働省の規定により，小テスト・定期試験共に9割以上を合格とする。
受講の心得	本講義は講義形式と事例演習（グループワーク）で進めていきます。 また，各単元ごとに小テストを実施します。 テキストの内容を中心としながら参考資料を活用し講義を展開します。 ・テキストの授業該当部分を読んでおくこと。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。
授業外学修	1.予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2.復習として，課題のレポートを書く。 3.発展学修として，講義で紹介された参考文献を読む。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座15医療的ケア	川井太加子他	中央法規出版	978-4-8058-8404-1	2200円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	その都度参考資料を配布します。ファイリングしてください。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。認知症キャラバンメイト。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．介護福祉士としての医療的ケアに必要な倫理的配慮の必要性を理解できている。	介護福祉士としての医療的ケアに必要な倫理的配慮の必要性を十分に理解でき，具体的に説明することができている。	介護福祉士としての医療的ケアに必要な倫理的配慮の必要性を理解でき説明することができている。	介護福祉士としての医療的ケアに必要な倫理的配慮の必要性の一部を理解できているが説明することは不十分である。	介護福祉士としての医療的ケアに必要な倫理的配慮の必要性を一部理解出来ているが説明することはできない。	介護福祉士としての医療的ケアに必要な倫理的配慮の必要性を全く理解できていない。
知識・理解	2．喀痰吸引，経管栄養を中心とした医療的ケアを安全かつ適切に行うための知識・技術を習得することができるようになる。	喀痰吸引，経管栄養を中心とした医療的ケアを安全な実施方法や適切に行うための知識・技術の方法を具体的に説明することが出来ている。	喀痰吸引，経管栄養を中心とした医療的ケアを安全な実施方法や適切に行うための知識・技術の方法を説明することが出来ている。	喀痰吸引，経管栄養を中心とした医療的ケアを安全な実施方法や適切に行うための知識・技術の方法の一部を説明することが出来ているが不十分なところもある。	喀痰吸引，経管栄養を中心とした医療的ケアを安全な実施方法や適切に行うための知識・技術の方法を少し説明することが出来ているが不十分である。	喀痰吸引，経管栄養を中心とした医療的ケアを安全かつ適切に行うための知識・技術を習得する理解が全くされていない。
思考・問題解決能力	介護福祉士として安全に医療的ケアを実施するために，必要な基本的知識を身につけることができるようになる	介護福祉士として安全に医療的ケアを実施するための危険予測や課題を見つけることができ，それに対応できる解決策を具体的に述べることができている。	介護福祉士として安全に医療的ケアを実施するための危険予測や課題を見つけることができ，それに対応できる解決策を述べることができている。	介護福祉士として安全に医療的ケアを実施するための危険予測や課題を一部見つけることができ，それに対応できる解決策を曖昧だが述べることができている。	介護福祉士として安全に医療的ケアを実施するための危険予測や課題を一部見つけることができ，それに対応できる解決策を述べることはできない。	介護福祉士として安全に医療的ケアを実施するための危険予測や課題を全く理解できない。
技能	喀痰吸引，経管栄養を受ける利用者・家族の気持ちを考えることができ必要な支援を行うことが出来るようになる。	喀痰吸引，経管栄養を受ける利用者・家族の気持ちを考えるや対象者への心理的支援の必要性を考えることができ，適切な声かけや支援方法を見出すことができる。	喀痰吸引，経管栄養を受ける利用者・家族の気持ちを考えるや対象者への心理的支援の必要性を考えることができ，声かけや支援方法を見出すことができる。	喀痰吸引，経管栄養を受ける利用者・家族の気持ちを考えるや対象者への心理的支援の必要性を考えることができるが，声かけや支援方法への内容は欠けている。	喀痰吸引，経管栄養を受ける利用者・家族の気持ちを考えることや対象者への心理的支援の必要性の一部を考えることができるが，声かけや支援方法は考えることができていない。	喀痰吸引，経管栄養を受ける利用者・家族の気持ちを考えることが全くできない。また，対象者への心理的支援の必要性や声かけや支援方法を考えることができない。
態度	１．介護福祉士として患者・利用者の安全に留意しながら対応する力が身についている。	介護福祉士として患者・利用者の安全を最優先し、きめ細やかな配慮や危険の伴わない実施方法の力が身についている。	介護福祉士として患者・利用者の安全を最優先し声かけ危険の伴わないや実施方法の力が身についている。	介護福祉士として患者・利用者の安全に配慮する声かけや実施内容にも留意しながら行っているが，やや危険性が感じられる。	介護福祉士として患者・利用者の安全に配慮する声かけなどは少しみられるが，実施内容に危険が伴っている。	介護福祉士として患者・利用者の安全に対して全ての配慮に欠けている。
態度	２．介護福祉として対象者の安全安楽に配慮した支援方法を考える力が身についている。	利用者・患者の安全安楽の確認や医療的ケアに伴うリスク管理の重要性を的確に考えることまでができている。	利用者・患者の安全安楽の確認や医療的ケアに伴うリスク管理まで考えることができている。	利用者・患者の安全安楽の確認や医療的ケアに伴うリスク管理まで考えるところにまで少しできている。	利用者・患者の安全安楽の確認や医療的ケアに伴うリスク管理まで考えるところにまで到達できていない。	利用者・患者の安全安楽の確認や医療的ケアに伴うリスク管理の必要性の認識も全くできていない。

科目名	生活コミュニケーション特論演習 B 生活福祉コース卒業必修科目	授業番号	HW318	サブタイトル	
教員	森田　裕之				

単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択

授業概要	生活コミュニケーション特論演習Bでは、演習Aで学んだ基礎的なコミュニケーションの知識・技術を踏まえ、より高度で実践的なコミュニケーション能力の習得を目指す。対象者の生活背景や価値観を踏まえた個別支援のコミュニケーション、家族支援における協働的アプローチ、さらに多職種チームにおける合意形成や意思決定支援など、介護現場で求められる応用的なコミュニケーション技法を学ぶ。また、ケーススタディやロールプレイを通して、困難事例への対応、感情調整、葛藤場面での対話、組織内コミュニケーションの改善など、実践的課題に取り組む。情報共有の質を高めるための記録・報告・連絡の方法、チーム内でのフィードバック技法、組織的なコミュニケーション環境の整備についても理解を深める。 本演習を通じて、介護職として求められる高度なコミュニケーション能力を体系的に身につけ、対象者・家族・チームが協働してより良いケアを創り出すための実践力を養う。
到達目標	(1) 多様なコミュニケーション障害や複合的課題をもつ対象者について、生活背景・価値観・環境要因を踏まえた高度なコミュニケーション支援を実践できる。 (2) 障害特性に応じたコミュニケーション技術を応用し、困難場面や葛藤場面においても適切な対応・調整ができる。 (3) 多職種協働における意思決定支援、合意形成、情報共有の質向上を図るための実践的コミュニケーション能力を身につける。 (4) 対象者・家族・チームが協働してより良いケアを創出するために、記録・報告・フィードバックなどの組織的コミュニケーションを主体的に活用できる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の発展的修得に貢献する。
授業計画　備考	

回	概要	担当
第1回	ロールプレイ：介護における基本的な対応と受容・共感・傾聴の実践	
第2回	ケース検討：援助関係の構築と課題	
第3回	言語・非言語コミュニケーションの違いと適応方法の分析	
第4回	実習報告をもとにしたコミュニケーション課題の検討	
第5回	視覚障害者への対応ロールプレイ	
第6回	聴覚・言語障害者への対応ロールプレイ	
第7回	精神障害者への接し方と対応訓練	
第8回	高次脳機能障害・認知症に対する支援方法の応用	
第9回	知的・発達障害者に対する適切な言葉の使い方と支援技法	
第10回	身体障害への理解と具体的な配慮	
第11回	家族とのコミュニケーション演習（相談・説明・共有）	
第12回	情報共有の演習（記録・申し送り・報告）	
第13回	チームカンファレンスの模擬体験	
第14回	他職種との連携に関する演習とフィードバック	
第15回	実践的な事例をもとにした総合演習（現場対応・多職種協働）	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加状況，予・復習状況を評価する。
レポート	30	テーマに沿った記述ができているか評価する。 共通して見られた課題や優れた着眼点については、授業内で取り上げて解説し、学生全体の学びに還元する。
定期試験	50	授業内容が理解できているか評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。 ・しっかりと予習・予習し授業中は積極的な発言を求めます。 ・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力，応用力も求めています。 ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。 ・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自，国家試験対策にも目を通すようにしてください。
授業外学修	１．予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 ２．復習として，授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。 ３．レポートは感想だけを述べるのではなく，参考資料や関連事項を調べ主旨を理解し記述するように努めてください。 ４．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。 ５．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読んでください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	その都度，授業資料・参考資料を配布します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（2年）、訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）と訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の経験から、多様な疾患や障害をもった高齢者や障害者に対してコミュニケーションを図ることができる。多様な疾患や障害をもった高齢者や障害者とのコミュニケーションに必要な知識や技術を、学生が身につけられるよう授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	高齢者に多い疾患・障害の特性や生活背景を踏まえた、より高度で個別性の高いコミュニケーション支援について理解を深める。 対象者・家族・チームの状況に応じたコミュニケーション理論や支援技法を体系的に理解し、実践に応用できる知識基盤を形成する。	高齢者に多い疾患・障害の特性や生活背景を深く理解し、それらを踏まえた高度で個別性の高いコミュニケーション支援を理論と実践の両面から説明できる。対象者・家族・チームの状況に応じたコミュニケーション理論や支援技法を体系的に把握し、実践へ的確に応用できる知識基盤を十分に備えている。	疾患・障害の特性や生活背景を踏まえたコミュニケーション支援についてよく理解しており、状況に応じた理論や技法を適切に説明できる。実践への応用も概ね可能で、知識を柔軟に活用できる。	高齢者に多い疾患・障害に応じたコミュニケーション支援について基本的な理解があり、主要な理論や技法を把握している。実践への応用は可能だが、場面によっては知識の活用に不十分な点がみられる。	疾患・障害の特性や生活背景に基づくコミュニケーション支援の理解が限定的であり、理論や技法の把握に不足がある。実践への応用が難しく、知識の整理や理解の深化が必要である。	高齢者に多い疾患・障害に応じたコミュニケーション支援についての理解が不十分で、理論や技法を説明したり実践に活用したりすることが困難である。基礎的な知識の習得から取り組む必要がある。
思考・問題解決能力	対象者・家族・チームメンバーとの関係性やコミュニケーション上の課題を多角的に捉え、根拠に基づいた解決策を論理的に構築する能力を養う。 特に、複雑なコミュニケーション課題や葛藤場面に対して、状況分析・意思決定支援・合意形成などの高度な問題解決プロセスを実践できる力を育成する。	対象者・家族・チームメンバーとの関係性やコミュニケーション上の課題を多角的かつ深く分析し、根拠に基づいた解決策を論理的に構築できる。複雑な葛藤場面においても、状況分析・意思決定支援・合意形成のプロセスを的確に実践し、高度な問題解決能力を発揮している。	関係性やコミュニケーションの課題を適切に捉え、根拠に基づく解決策を論理的に示すことができる。複雑な場面にも概ね対応でき、状況分析や合意形成のプロセスを適切に活用している。	コミュニケーション上の課題を基本的に理解し、一定の分析と解決策の提示ができる。状況分析や意思決定支援のプロセスを実践できるが、場面によっては論理性や深さに不足がみられる。	課題の分析が不十分で、解決策の提示に曖昧さが残る。状況分析や合意形成のプロセスを適切に活用できず、問題解決に必要な論理的思考が十分に発揮されていない。	コミュニケーション上の課題を適切に捉えることができず、解決策を構築することが困難である。状況分析や意思決定支援のプロセスが理解できておらず、問題解決に向けた思考が成立していない。
技能	高齢者に多い疾患・障害に応じたコミュニケーション技法を応用し、困難事例や多職種協働の場面で適切に活用できる実践的技能を身につける。 ロールプレイ、ケーススタディ、記録・報告・連絡の演習を通じて、現場で即応できるコミュニケーションスキルを高める。	高齢者に多い疾患・障害に応じたコミュニケーション技法を高度に応用し、困難事例や多職種協働の場面でも的確に活用できる。ロールプレイやケーススタディでの実践力が極めて高く、記録・報告・連絡も的確で、現場で即応できるレベルの技能を十分に備えている。	疾患・障害に応じたコミュニケーション技法を適切に応用でき、困難場面にも概ね対応できる。演習での実践も安定しており、記録・報告・連絡の技能も良好で、現場で活用できるレベルに達している。	基本的なコミュニケーション技法を理解し、状況に応じて一定程度活用できる。ロールプレイやケーススタディでの実践も概ね可能で、記録・報告・連絡の技能も必要最低限の水準にある。	コミュニケーション技法の活用が不十分で、困難事例や協働場面で適切に対応することが難しい。演習での実践にも課題があり、記録・報告・連絡の技能にも改善が必要である。	疾患・障害に応じたコミュニケーション技法を身につけられておらず、実践場面で活用することが困難である。ロールプレイやケーススタディでの対応も不十分で、記録・報告・連絡の基本的技能も欠けている。
態度	対象者・家族・チームメンバーとの関係性を尊重し、協働的で倫理的なコミュニケーションを通じて良好な支援関係を築こうとする姿勢を涵養する。 特に、相手の価値観や感情に配慮しながら、主体的に信頼関係を構築しようとする専門職としての態度を重視する。	対象者・家族・チームメンバーとの関係性を深く理解し、相手の価値観や感情に丁寧に配慮しながら、主体的かつ継続的に信頼関係を築こうとする姿勢を一貫して示している。協働的で倫理的なコミュニケーションを積極的に実践し、周囲に良い影響を与える専門職としての態度が確立している。	関係性の重要性を十分に理解し、相手への配慮をもって適切なコミュニケーションを行い、良好な支援関係を築こうとする姿勢が安定して見られる。協働的な態度も概ね発揮されており、専門職としての倫理性も保たれている。	関係性を意識し、基本的な配慮をもってコミュニケーションを行うことができる。信頼関係の構築に向けた姿勢は見られるが、主体性や積極性にやや不足があり、場面によっては対応にばらつきがある。	関係性への意識が十分でなく、相手の価値観や感情への配慮が不十分な場面が見られる。協働的なコミュニケーションが安定して行えず、支援関係の構築に課題が残る。	関係性を尊重する姿勢がほとんど見られず、相手への配慮や倫理的なコミュニケーションが欠けている。信頼関係の構築が困難で、専門職としての態度の形成に大きな改善が必要である。

科目名	生活支援技術論 生活福祉コース卒業必修科目	授業番号	HW319	サブタイトル	
教員	森田　裕之、中野　ひとみ				

単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択

授業概要	ICF（国際生活機能分類）の視点や倫理的配慮等の介護福祉士としての視点をふまえた生活支援の基本的理解を確認しながら、具体的な介護場面を想定した事例学習や、介護福祉士国家試験の過去問題・模擬問題を活用して、思考力・判断力・知識の定着を図る。また、技術と知識を有機的に結びつけることで、根拠ある介護実践のための「考える力」を育成する。演習・グループワーク・振り返りを通して、現場において応用可能な知識と技能を確実に身につける。
到達目標	1. 生活支援技術の各領域（居住環境、移動、食事、更衣、整容、排泄、口腔ケア等）に関する国家試験問題に対応できる基礎知識と応用力を身につけることができる。 2.ICFや生活モデルに基づく介護実践の視点をもって問題を読み取り、根拠に基づいた判断・解答ができる。 3.過去問題や模擬問題に取り組む中で、自らの理解の深さや苦手領域を把握し、改善に取り組む姿勢を持つことができる。 4.チーム支援や多職種連携、福祉用具の活用など、多様な視点から生活支援を考える力を養うことができる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞ の発展的修得に貢献する。
授業計画　備考	

回	概要	担当
第1回	ガイダンス・国家試験の出題傾向と対策（試験の出題傾向を把握し、学修の目的と方法を理解する）	森田
第2回	生活支援の理念とICFの視点（尊厳の保持、自立支援、ICFモデルの理解と活用）	森田
第3回	環境整備・ベッドメイキング（環境整備の目的と手順を国家試験問題から考える）	森田
第4回	ボディメカニクスと移乗介助（効果的な身体の使い方と移乗介助の基本から応用）	森田
第5回	杖歩行・階段昇降の支援（歩行支援の留意点を選択肢から見抜く力を養う）	森田
第6回	車いすの介助と段差越え（正しい使用方法・移動介助の注意点の理解）	森田
第7回	バリアフリーと公共空間での支援（障害者・高齢者にやさしい環境整備の視点）	森田
第8回	安楽な体位・体位交換・ポジショニング（体位変換の意義とクッション使用の工夫）	森田
第9回	更衣・整容・身だしなみ支援（個人の尊厳を尊重した援助技術を学ぶ）	中野
第10回	食事介助・嚥下障害と誤嚥予防（食事支援における安全確保の考え方）	中野
第11回	入浴介助・口腔ケアと義歯の管理（清潔保持・誤嚥予防・QOL向上の視点）	中野
第12回	福祉用具の活用と安全配慮（リフト、スライディングボードなど福祉用具の活用）	中野
第13回	過去問題演習①（知識の再確認と誤答の原因分析①）	中野
第14回	過去問題演習②（知識の再確認と誤答の原因分析②）	中野
第15回	模擬試験・振り返り（総合力の確認）	中野
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度・実習の姿勢・協力，予・復習状況を評価する。
小テスト	20	事例に沿った生活支援技術の留意点等が理解できているかを評価する
定期試験	70	介護福祉士国家試験の内容が理解できているか評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・本科目は主に講義形式で行い，グループ討議や演習も組み合わせ進めていきます。 ・しっかりと予習・予習し授業中は積極的な発言を求めます。 ・専門的知識と技術をベースに他教科と連動して考える力，応用力も求めています。 ・自ら考える姿勢や問題意識をもって講義に臨んでください。 ・国家試験対策も含めて講義を展開するので，各自，国家試験対策にも目を通すようにしてください。
授業外学修	１．予習として，生活支援技術Ⅰ・Ⅱの教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 ２．復習として，授業後は授業で扱った資料と教科書を照らし合わせ復習してください。 ３．グループ課題や個別課題は提出日を考え，計画的に取り組み提出期限を厳守してください。 ４．発展学習として，講義で紹介された参考文献を読んでください。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	その都度，授業資料・参考資料を配布します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	森田：通所リハビリテーション介護職員（２年）、訪問介護管理者兼サービス提供責任者（５年）中野：看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	森田：通所リハビリテーション介護職員（２年）と訪問介護管理者兼サービス提供責任者（５年）を通して培った、生活支援に関する幅広い知識と実践的視点を基盤として、学生が生活支援技術を応用的に理解し、実践的に考える力を身につけられるよう授業を展開していく。中野：看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	生活支援技術Ⅰ～Ⅲで習得した基礎的知識を土台として、介護福祉士国家試験で問われる生活支援技術の内容を体系的に理解する。 生活の質の向上、尊厳の保持、自立支援といった介護の基本理念に基づき、生活支援に必要な知識を再確認しながら、各設問の背景にある根拠や理論を理解できる。	生活支援技術Ⅰ～Ⅲで習得した基礎的知識を十分に土台として、介護福祉士国家試験で問われる生活支援技術の内容を体系的かつ深く理解している。生活の質の向上、尊厳の保持、自立支援といった介護の基本理念と各設問の内容を結びつけて説明でき、設問の背景にある根拠や理論を明確に示すことができる。	国家試験で問われる生活支援技術の内容を概ね体系的に理解している。 介護の基本理念を踏まえて設問の内容を捉えることができ、背景となる根拠や理論についてもおおむね説明できるが、細部の理解に一部不十分な点がみられる。	生活支援技術に関する主要な知識を理解しており、国家試験の設問内容を基本的には把握できている。 介護の基本理念との関連も理解しているが、設問の背景にある根拠や理論の説明にはやや浅さや不正確さがみられる。	生活支援技術に関する知識の理解が部分的であり、国家試験の設問内容を十分に捉えきれていない。 介護の基本理念との結びつきが弱く、設問の背景にある根拠や理論を説明することが難しい場面が多い。	生活支援技術Ⅰ～Ⅲで習得した基礎的知識の定着が不十分で、国家試験で問われる内容を理解できていない。 介護の基本理念との関連づけができず、設問の背景や根拠・理論を説明することがほとんどできない。
思考・問題解決能力	国家試験の設問を分析し、生活支援技術に関する課題を論理的に捉え、根拠に基づいた判断ができる力を養う。 生活場面における課題やリスクを多角的に考察し、適切な支援方法を選択・説明できる応用的な思考力を身につける。	国家試験の設問を多角的かつ論理的に分析し、生活支援技術に関する課題を的確に捉えられる。介護の基本理念や根拠を踏まえた判断が一貫してでき、複数の選択肢の中から最も適切な支援方法を明確な理由とともに説明できる。実践場面を想定した問題解決プロセスも高度に展開できる。	設問の内容を適切に分析し、生活支援技術に関する課題を論理的に捉えることができる。 根拠に基づいた判断が概ねでき、選択理由も明確に説明できるが、複雑な場面では分析の深さにやや不足がみられる。	設問の基本的な分析ができ、生活支援技術に関する課題を一定程度理解している。 判断の根拠も示すことができるが、論理性や説明の明確さにばらつきがあり、応用的な問題では不十分な点がみられる。	設問の分析が不十分で、生活支援技術に関する課題を適切に捉えられない場面が多い。 判断の根拠が曖昧で、選択理由の説明にも論理性が欠け、問題解決のプロセスが成立しにくい。	設問の内容を分析することが困難で、生活支援技術に関する課題を理解できていない。 根拠に基づく判断ができず、選択理由の説明もほとんどできないため、問題解決能力の基礎からの学習が必要である。
技能	技術演習、グループワーク、過去問題演習を通して、生活支援技術を実践的に活用する力を高める。 国家試験で求められる生活支援技術の知識を実践場面に結びつけ、状況に応じた支援方法を選択・実行できる技能を身につける。	生活支援技術Ⅰ～Ⅲで習得した基礎技術を十分に応用し、国家試験で問われる生活支援技術を実践的に活用できる。 技術演習・グループワーク・過去問題演習において高い実践力を発揮し、状況に応じた適切な支援方法を根拠をもって選択・実行できる。現場を想定した対応も的確で、即応性が高い。	生活支援技術を適切に活用でき、国家試験レベルの設問にも概ね対応できる。 演習での実践も安定しており、状況に応じた支援方法を選択・実行できるが、複雑な場面では技術の応用にやや不足がみられる。	生活支援技術の基本的な技能を身につけており、標準的な場面では適切に対応できる。 演習での実践も概ね可能で、国家試験の設問に対しても基本的な技術の選択ができるが、応用的な場面では判断や実行に不安定さがみられる。	生活支援技術の活用が不十分で、演習や設問において適切な技術選択や実行が難しい場面が多い。 状況判断に基づく技術の応用が弱く、国家試験レベルの問題に対応するためには技能の強化が必要である。	生活支援技術の基礎的技能が身についておらず、演習や設問において適切な技術を選択・実行することが困難である。 状況判断も不十分で、技能の基礎からの学習が必要な段階にある。
態度	技術演習・グループワーク・過去問題演習を通して、利用者の尊厳を尊重する姿勢をもち、専門職として主体的かつ協働的に学習に取り組む態度を身につける。 国家試験で求められる生活支援技術を、倫理観と根拠に基づいて考察し、自己の課題を振り返りながら向上しようとする姿勢を養う。	演習・グループワークにおいて常に主体的に参加し、利用者の尊厳や安全への配慮を最優先に考えた発言・行動ができる。 他者の意見を尊重しながら建設的に議論を深め、根拠に基づいた姿勢で学習に取り組んでいる。 自己の課題を的確に把握し、積極的に改善しようとする態度が顕著である。	主体的に演習へ参加し、利用者尊重の姿勢をもって学習に取り組んでいる。 他者の意見を受け入れ、協働的に課題解決を図ることができる。 自己の振り返りも概ねできており、向上心がみられる。	演習やグループワークに参加し、基本的な倫理的配慮はできている。 協働的な姿勢は概ねみられるが、自ら学びを深めようとする積極性にはやや不足がある。 振り返りは行っているが、課題の明確化や改善への具体性に弱さがある。	演習やグループワークへの参加が消極的であり、利用者尊重や安全への配慮に対する意識が不十分である。 他者との協働姿勢に課題があり、自己の振り返りや改善への取り組みも限定的である。	演習への参加姿勢が不十分で、専門職として求められる倫理観や責任感が身についていない。 利用者尊厳への理解や協働的態度が欠けており、基礎的な態度形成からの指導が必要な段階にある。

科目名	介護実習Ⅱ			授業番号	HW401	サブタイトル	生活福祉コース対象		
教員	森田　裕之、韓　在都、中野　ひとみ								
単位数	5単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	地域における様々な場において，対象者の生活を理解し，本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を修得する学修とする。 本人の望む生活の実現に向けて，多職種との協働の中で，介護過程を実践する能力を養う学修とする。 実習IIでは，個別ケアを行うために，個々の生活リズムや個性を理解し，利用者のニーズに沿って利用者ごとの介護計画の作成，実施，実施後の評価，計画の修正といった一連の介護過程を展開し，他科目で学習した知識や技術を総合して，具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を身につける。								
到達目標	(1)介護保険制度における入所施設の役割及び生活支援について理解できる。 (2)利用者・家族とのかかわりをとおしてコミュニケーションを図り，個別に応じた生活支援技術について理解できる。 (3)対象利用者の個別ニーズを把握し，利用者の望む生活に向けた支援を展開できる。 (4)介護過程に取り組み，個別介護計画の立案・実践・評価・修正を行うことができる。 (5)介護過程の展開における他職種の役割と多職種協働について理解できる。 (6)介護理念・職業倫理について理解を深め，介護観を明確にすることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞，＜技能＞，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	実習II　高齢者入所施設（介護老人福祉施設・介護老人保健施設）、障害者支援施設　など 1日8時間×25日（200時間）　2年次後期　10月第3週～11月第2週に実施 介護施設において，対象利用者を決め，一連の介護過程を展開の実習を行なう。 【内容】 介護施設の特徴・役割の理解，介護施設での生活支援の理解，介護保険制度の理解，生活支援技術の実践， 中間の振り返り，介護過程の展開（アセスメント，計画の立案・実践・評価・再アセスメント）， サービス担当者会議等にて多職種協働の理解，実習最終カンファレンス								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	25	実習への意欲，積極性，誠実性，立ち居振る舞い等実習に取り組む姿勢を評価する。
レポート	25	実習記録が丁寧に記述し，根拠に基づいた考察および意見が述べられているか等記録物を評価する。特に介護過程の展開内容の記録に重点を置いて評価する。 実習報告や記録類については、個別面談の場で直接フィードバックを行い、今後の課題や改善方法について助言する。
小テスト		
定期試験		
その他	50（実習担当者25・教員25）	実習担当者と教員が実習目標の達成度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習において「社会福祉士又は介護福祉士法」に基づく倫理条項（誠実義務・信用失墜行為の禁止・秘密保持・連携・資質向上の責務・名称の使用制限）の遵守を念頭において実習に望んでください。 (1) 実習期間中は実習施設の服務規程に従い，施設長をはじめ職員の指導を受け，施設の方針を妨げないようにすること。 (2) 疑問に感じたこと，不明なことは必ず質問し，現状を理解した上で判断・行動すること。 (3) 実習生の言動は利用者に影響を与えるものであるから，常に施設職員に準ずる良識に基づいた行動をとらなければならない。 (4) 実習は将来専門職に就くための準備である。学生の本分を忘れず自己研鑽に努めること。 (5) 言葉遣いや態度に気をつけること。 (6) 担当教員には報告・連絡・相談の徹底を図ること。
授業外学修	1．介護保険施設での実習となるため，実習に必要なテキストをしっかり読んで，介護福祉士について学ぶ学生としてふさわしい知識・技術で実習に望めるように予習・復習をしてください。 2．毎日，実習記録を帰宅後に作成し，1日の出来事を振り返ってください。わからない用語や翌日の実習に必要な事柄について学修し準備してください。 3．レクリエーションや回想法など積極的に活用し，信頼関係の構築，利用者理解が深められるように準備をしてください。 4．実習期間は時間を計画的に使い，体力の回復・健康，学修等自己管理を怠らないようにしてください。 5．実習期間中は，施設職員，実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を実習日誌に記入する。 また，その他介護過程の展開，レクリエーション計画表などを作成する。 以上の内容を，毎日1時間学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座10　介護総合演習・介護実習		中央法規	978-4-8058-5770-0	2200

使用テキスト：自由記載	介護福祉士養成テキスト（介護の基本I・II，生活支援技術I・II，介護総合演習・介護実習等） 介護実習の手引き

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	通所リハビリテーション介護職員（2年），訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を有する。(森田) 観音寺市シルバー人材センター職員（3年），観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を有する。(松井) 看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。（中野） 介護福祉士（11年）として介護老人ホームにて介護職員5年，訪問介護員として1年の実務経験がある。（韓）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	実習指導者（介護福祉士）
実務経験をいかした教育内容	通所リハビリテーション介護職員（2年）や訪問介護管理者兼サービス提供責任者（5年）の実務経験を活かし、介護福祉士に必要な生活に関する知識や技術を身につけられるよう指導する。（森田） 高齢者福祉，障害者福祉において，観音寺市シルバー人材センター職員（3年）や観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司（2年）の実務経験を踏まえた指導を実践している。(松井) 看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。（中野） 介護老人ホーム（5年）や訪問介護員（1年）の実務経験を活かし，在宅介護における介護福祉士の役割について実践的に指導する。（韓）

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を十分に説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活を概ね説明することができる。	利用者の一日の生活の流れや生活歴などから、利用者の生活をある程度説明することができる。	利用者の生活をあまり説明することができない。	利用者の生活を説明することができない。
知識・理解	２．介護保険施設の業務内容や一日の流れを、理解できる。	介護保険施設の業務内容や一日の流れを、十分に理解できる。	介護保険施設の業務内容や一日の流れを、概ね理解できる。	介護保険施設の業務内容や一日の流れを、ある程度理解できる。	介護保険施設の業務内容や一日の流れをあまり理解できない。	介護保険施設の業務内容や一日の流れを理解できない。
思考・問題解決能力	１．実習全体の目標が明確で、それをもとに毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとに明確な毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとにある程度明確な毎日の目標を立てる能力を有している。	実習全体の目標が明確で、それをもとに毎日の目標を立てる能力を有している。	明確な毎日の目標を立てる能力をあまり有していない。	明確な毎日の目標を立てる能力を有していない。
技能	１．高齢者にかかわり、一連の介護過程を行うことができる。	高齢者にかかわり、一連の介護過程を十分に行うことができる。	高齢者にかかわり、一連の介護過程を概ね行うことができる。	高齢者にかかわり、一連の介護過程をある程度行うことができる。	高齢者にかかわり、一連の介護過程をあまり行うことができない。	高齢者にかかわり、一連の介護過程を行うことができない。
技能	2．自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を的確に記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察をある程度的確に記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができる。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することがあまりできない。	自分の立てた毎日の目標に沿って実習内容および考察を記録することができない。
態度	１．実習課題を記録し、期限内に提出することができる。	実習課題を正確に記録し、期限内に提出することができる。	実習課題を記録し、期限内に概ね提出することができる。	実習課題を記録し、期限内にある程度提出することができる。	実習課題を記録するが、期限内にあまり提出できない。	実習課題を記録できず、期限内に提出できない。

科目名	医療的ケアⅡ			授業番号	HW402	サブタイトル			
教員	中野　ひとみ								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義は，介護福祉士がその業務として喀痰吸引等の行為を実施するために必要な基礎知識について修得するための講義を行う。 喀痰吸引および経管栄養を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得し実践できるための講義を行う。								
到達目標	・介護福祉士として医療的ケアである「喀痰吸引」「経管栄養」の実施手順に基づき安全・適切に行うことができる。 ・医療的ケアを実施する手順・留意点を述べることができる。 ・喀痰吸引を安全・適切に実施することができる。 ・経管栄養を安全・適切に実施することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	本講義は，厚生労働省が規定する医療的ケアの基本研修であり省令で定める修得すべきすべての行為ごとの回数以上の演習を実施する。								

回	概要	担当
第1回	喀痰吸引の演習の進め方・注意事項のオリエンテーションを行う。 医療物品の管理の重要性について理解する。 各グループで使用する物品の管理方法をまとめる。 喀痰吸引のデモンストレーションを行う。	
第2回	喀痰吸引演習(1)（口腔） 各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と吸引実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第3回	喀痰吸引演習(2)（口腔） 各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と吸引実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第4回	喀痰吸引演習(3)（口腔） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と吸引実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第5回	喀痰吸引演習(4)（口腔） 各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と吸引実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第6回	喀痰吸引演習(5)（鼻腔） 各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と吸引実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第7回	喀痰吸引演習(6)（鼻腔） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と吸引実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第8回	喀痰吸引演習(7)（鼻腔） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と吸引実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第9回	喀痰吸引演習(8)（鼻腔） 各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と吸引実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第10回	喀痰吸引実技確認試験（口腔）を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と吸引実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第11回	喀痰吸引実技確認試験（鼻腔）を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と吸引実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第12回	喀痰吸引演習(9)（気管カニューレ） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と吸引実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第13回	喀痰吸引演習(10)（気管カニューレ） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と吸引実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第14回	喀痰吸引演習(11)（気管カニューレ） 各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と吸引実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第15回	喀痰吸引演習(12)（気管カニューレ） 各3回以上演習実施を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と吸引実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第16回	喀痰吸引実技確認試験（気管カニューレ）を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と吸引実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第17回	喀痰吸引実技確認試験（気管カニューレ） 試験終了後，経管栄栄養法の演習の進め方・注意事項などオリエンテーションを行う。 経管栄栄養法のデモンストレーションを行う。	
第18回	経経管栄養法演習(1)（胃ろう） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と経管栄養実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第19回	経管栄養法演習(2)（胃ろう） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と経管栄養実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第20回	経管栄養法演習(3)（胃ろう） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と経管栄養実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第21回	経管栄養法演習(4)（胃ろう） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と経管栄養実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第22回	経管栄養法演習(5)（経鼻） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と経管栄養実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	

第23回	経管栄養法演習(6)（経鼻） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と経管栄養実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第24回	経管栄養法演習(7)（経鼻） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と経管栄養実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第25回	経管栄養法演習(8)（経鼻） 各3回以上実施演習を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と経管栄養実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第26回	経管栄養法実技試験(1)（胃ろう）を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と経管栄養実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第27回	経管栄養法実技試験(2)（経鼻）を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と経管栄養実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第28回	経管栄養法実技試験(3)（胃ろう・経鼻）を行い，手技を理解する。 指定された時間内での手技と経管栄養実施時の留意すべき点に気をつけて実施を行う。	
第29回	緊急時の対応の仕方(1) 講義およびDVD学習を行い，手技を理解する。 AED時の留意すべき点に気をつけ実施する。	
第30回	緊急時の対応の仕方(2) AEDの実際・演習を行い，その留意点を理解する。 演習全体のまとめを行い，医療物品の整理を行う。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予・復習によって評価する。
レポート	20	課題やレポートにコメントを記入して返却する。
小テスト	30	各回の主要ポイントの理解を評価する。
定期試験	30	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	受講態度，課題提出，実技試験およびリアクションペーパーを参考に総合的に評価する。 なお，大学評価により60点以上で単位認定とはなるが，厚生労働省の規定により，実技試験の8割以上を合格とする。 各単元ごとに技能修得判定を行う。なお，演習の修了が認められなかったものについては再度演習の課程を受講する必要がある。
受講の心得	本講義は実技演習をグループごとで進めていきます。 また，各単元ごとに小テストを実施します。 ・テキストの授業該当部分を読み復習を行うこと。 ・確実な実技の修得のため自己学修を行うこと。 ・演習は必ず指定された実習着，靴を着用すること。
授業外学修	1.予習として，教科書のうち，講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2.復習として，課題のレポートを書く。 3.確実なる実技の修得に向けて練習を重ねること。 短期大学設置基準では1単位の修得に必要な学修時間は45時間と定められている。 本講義では，時間外学修時間として，予習・復習で60時間とする。週4時間程度の授業外学修が必要となっている。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
最新介護福祉士養成講座15医療的ケア	川井太加子	中央法規出版	978-4-8058-8404-1	2200円

使用テキスト：自由記載	使用テキストとは別に演習時は「医療的ケア演習要綱」の冊子が必ず必要である。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	単元ごとの実技確認試験の後は，「リアクションシート」と「実習要綱」に必要事項を記載のうえ，試験終了後に速やかに提出すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師として総合病院（救命救急，急性期病棟）および病院（脳神経外科，手術室）等の医療機関で12年6か月，行政機関において障害児支援や母子相談支援（母子保健課）2年，高齢者施設 （介護支援専門員兼務）1年，計15年6か月の臨床実務経験がある。また，臨床実習指導者や教育管理者として7年の実務経験がある。その他，高等学校看護科の教諭として看護師養成教育や学生指導など5年の教育実務経験がある。認知症キャラバンメイト。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	看護師での様々な臨床実務経験（15年6か月）を活かし，医学的知識(12年6か月)や子どもや障害児・者福祉(2年)，および高齢者福祉(1年)の視点をまじえ，社会的に支援が必要な人たちへの実践的な関わり方や課題解決方法を「自らで考える力」が培われるよう講義の展開を行う。また，臨床指導者や教育管理者（7年）および高校教諭（5年）としての教育指導実務経験を活かし，わかりやすい丁寧な指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．医療的ケアを実施する手順・留意点を述べることができている。	医療的ケアを実施する手順・留意点をチェックリストの通りに的確に述べることができている。	医療的ケアを実施する手順・留意点をチェックリストの通りにだいたい述べることができている。	医療的ケアを実施する手順・留意点をチェックリストの重要部分のみ述べることができている。	医療的ケアを実施する手順・留意点をチェックリスト重要部分が浮かぶが正確に述べることができていない。	医療的ケアを実施する手順・留意点を全く理解ができていない。
思考・問題解決能力	１．医療的ケアで起こる緊急の症状や事故防止について問題解決方法を考えることができている。	医療的ケアで起こる緊急の症状や事故防止がなぜ起きるのか，その原因と問題解決方法や対応を的確に説明することができている。	医療的ケアで起きる緊急時の症状や事故は浮かび，問題解決方法や対応方法を説明できるが，一部不十分である。	医療的ケアで起きる緊急時の症状や事故は浮かぶが問題解決方法は浮かぶが，対応方法の説明内容が不十分で曖昧である。	医療的ケアで起きる緊急時の症状や事故は多少浮かぶが問題解決方法や対応まではわからない。	医療的ケアで起きる緊急の症状や事故がどのようなものか全く理解できていない。
技能	１．経管栄養を適切に実施することができるようになる。	手順に則り，正確に経管栄養を実施することができている。対象者への声かけはインフォームドコンセントになっているが，清潔操作が問題なくできている。	手順に則り，正確に経管栄養の実施ができている。対象者への声かけはインフォームドコンセントになっているが，清潔操作が一部不十分である。	こちら側の声かけなく手順に則り，やや正確さに欠けるが経管栄養の実施は最後までできている。対象者への声かけがインフォームドコンセントになっていない，また清潔操作が不十分である。	こちら側の声かけで何とか手順通り経管栄養を行うことができるが，最後まで適切に行えず全体的に不十分である。対象者への声かけや清潔操作は明らかに不十分である。	こちら側が声かけしても経管栄養の手順が全く理解できていない。象者への声かけや清潔操作は全く不十分である。
技能	２．喀痰吸引を適切に実施することができるようになる。	手順に則り，正確に喀痰吸引を実施することができている。対象者への声かけはインフォームドコンセントになっているが，清潔操作が問題なくできている。	手順に則り，正確に喀痰吸引の実施ができている。対象者への声かけはインフォームドコンセントになっているが，清潔操作が一部不十分である。	こちら側の声かけなく手順に則り，やや正確さに欠けるが喀痰吸引の実施ができている。対象者への声かけがインフォームドコンセントになっていない，また清潔操作が不十分である。	こちら側の声かけで何とか手順通り喀痰吸引を行うことができるが，全体的に不十分である。対象者への声かけや清潔操作は明らかに不十分である。	こちら側が声かけしても喀痰吸引の手順が全く理解出来ていない。対象者への声かけや清潔操作は全く不十分である。
態度	１．介護福祉士として患者・利用者の安全に留意しながら対応する力が身についている。	介護福祉士として患者・利用者の安全を最優先しきめ細やかな配慮や危険の伴わない実施方法の力が身についている。利用者・患者の安全安楽の確認や医療的ケアに伴うリスク管理の重要性を考えることまでができている。	介護福祉士として患者・利用者の安全を最優先し声かけ危険の伴わないや実施方法の力が身についている。医療的ケアに伴うリスク管理まで考えるところまで到達できていない。	介護福祉士として患者・利用者の安全に配慮する声かけや実施内容にも留意しながら行っているが，やや危険性が感じられる。	介護福祉士として患者・利用者の安全に配慮する声かけなどは少しみられるが実施内容に危険が伴っている。	介護福祉士として患者・利用者の安全に対して全ての配慮に欠けている。
態度	２．介護福祉士として医療的ケアが必要な人への対応を理解できている。	介護福祉士として医療的ケアが必要な人やその家族にも関わることができ，専門的な知識・技術をもって適切な対応できると考えられる。	介護福祉士として医療的ケアが必要な人へ関わることができ，専門的な知識・技術をもって対応できると考えらえる。	介護福祉士として医療的ケアが必要な人へ関わることができそうだが，専門的な知識・技術を持って対応出来そうではあるが，一部不十分でなところもある。	介護福祉士とし医療的ケアが必要な人へ関わることができそうではあるが，専門的な知識・技術をもって対応するには不十分で努力が必要である。	介護福祉士として医療的ケアが必要な人への対応ができそうもない。

中国短期大学　保育学科　シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
フレッシャーズセミナー	土田　豊／平尾　太亮／鳥越　亜矢／山本　房子／福澤　惇也／清水　憲志／藤井　裕士／岡本　美幸／荒谷　友里恵／武田　恵美	1
日本語表現	太田　憲孝	3
芸術	岡崎　三鈴	5
日本国憲法	俟野　英二	7
社会学	中田　周作	9
情報処理概論 1年1クラス	赤木　竜也	11
情報処理概論 2年1クラス	赤木　竜也	13
体育講義（全8回）	土田　豊	15
体育実技 1クラス	土田　豊	17
数理・データサイエンス・AI	平井　安久	19
英語A	藤田　香織	21
英語B	藤代　昇丈	23
保育者基礎演習	土田　豊／平尾　太亮／鳥越　亜矢／山本　房子／福澤　惇也／清水　憲志／藤井　裕士／岡本　美幸／荒谷　友里恵／武田　恵美	25
教育原理	藤井　裕士	27
保育原理	岡本　美幸	29
子ども家庭福祉	松井　圭三	31
社会福祉	松井　圭三	33
子ども家庭支援論	松井　圭三	35
社会的養護Ⅰ	松井　圭三	37
保育者論	山本　房子	39
教育心理学	平尾　太亮	41
子ども家庭支援の心理学	平尾　太亮	43
子どもの理解と援助 1クラス	山本　房子	45
子どもの保健	荒谷　友里恵	47
子どもの食と栄養A 1クラス	山崎　真未／児玉　彩	49
子どもの食と栄養B 1クラス	山崎　真未／児玉　彩	51
教育相談	藤井　裕士	53
子どもと防災（全8回）	山本　房子	55
教育・保育課程論	藤井　裕士	57
保育内容総論 1クラス	福澤　惇也	59
（保育内容）健康 1クラス	土田　豊	61
（保育内容）人間関係 1クラス	福澤　惇也	63
（保育内容）環境 1クラス	清水　憲志	65
（保育内容）言葉 1クラス	山本　房子	67
（保育内容）表現 1クラス	鳥越　亜矢／武田　恵美	69
保育内容の理解と方法A 1クラス	鳥越　亜矢	71
保育内容の理解と方法B 1クラス	鳥越　亜矢	73
乳児保育Ⅰ	岡本　美幸	75
子どもの健康と安全 1クラス	荒谷　友里恵	77
特別支援教育入門 1クラス	平尾　太亮	79
社会的養護Ⅱ 1クラス	津嶋　悟	81
子育て支援 1クラス	平尾　太亮	83
健康の指導法 1クラス	荒谷　友里恵／土田　豊	85
人間関係の指導法	岡本　美幸	87
環境の指導法 1クラス	清水　憲志	89
言葉の指導法	福澤　惇也	91
表現の指導法	武田　恵美	93
教育・保育技術論 1クラス	鳥越　亜矢	95
音楽基礎演習A 1クラス	河田　健二／廣畑　まゆ美／武田　恵美	97
音楽基礎演習B 1クラス	河田　健二／廣畑　まゆ美／武田　恵美	99
保育内容の理解と方法C 1クラス	土田　豊／清水　憲志	101
乳児保育Ⅱ 1クラス	岡本　美幸／荒谷　友里恵	103
親子ふれあい演習A	土田　豊／福澤　惇也／清水　憲志	105
親子ふれあい演習B	土田　豊／福澤　惇也／藤井　裕士	107
音楽実践演習A 1クラス	廣畑　まゆ美／武田　恵美	109
音楽実践演習B 1クラス	廣畑　まゆ美／武田　恵美	111
保育者対話実践演習（全8回）	藤井　裕士	113
保育教材および表現の研究	鳥越　亜矢	115
保育内容の理解と方法D	土田　豊／鳥越　亜矢／福澤　惇也／保育A	117
保育実習指導A 1クラス	平尾　太亮	119
保育実習指導B	岡本　美幸	121
保育実習指導C 1クラス	岡本　美幸	123
保育実習指導D	荒谷　友里恵	125
保育実習A	平尾　太亮／荒谷　友里恵	127
保育実習B	清水　憲志／岡本　美幸	129
保育実習C	清水　憲志／岡本　美幸	131
保育実習D	荒谷　友里恵	133
教育実習	山本　房子／福澤　惇也	135
教育実習指導 1クラス	山本　房子	137
保育・教職実践演習（幼稚園）	土田　豊／福澤　惇也／清水　憲志／藤井　裕士／荒谷　友里恵	139

科目名	フレッシャーズセミナー			授業番号	EA101	サブタイトル	(大学における学修方法を身につける)		
教員	土田　豊、鳥越　亜矢、山本　房子、岡本　美幸、平尾　太亮、藤井　裕士、清水　憲志、荒谷　友里恵、福澤　惇也、武田　恵美								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	導入教育を目的として開講される本科目では，新入生が学生生活を有意義なものとするため，大学生として必要な勉学の進め方や，自立した生活の基礎を学ぶ。各種オリエンテーションや研修等の様々な活動を通じて，教職員と学生，学生相互のコミュニケーションを図る。								
到達目標	大学生として必要な勉学の進め方や自立した生活の基礎を学び実行できるようになる。また，教職員と学生，学生相互のコミュニケーションを図ることができるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	大学の魅力を知る（本学の理念，歴史，学科の目標，地域社会での役割など）。	土`田 豊　鳥越 亜矢　山本 房子　岡本美幸　平尾 太亮　武田恵美　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也 武田　恵美
第2回	大学のしくみを知る（履修の仕方，ポートフォリオの作成の仕方など）。	土`田 豊　鳥越 亜矢　山本 房子　岡本美幸　平尾 太亮　武田恵美　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也 武田　恵美
第3回	大学のしくみを知る（絵本ファイルの作成の仕方について）。	土`田 豊　鳥越 亜矢　山本 房子　岡本美幸　平尾 太亮　武田恵美　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也 武田　恵美
第4回	大学の施設を知る（図書館の利用の仕方について）。	土`田 豊　鳥越 亜矢　山本 房子　岡本美幸　平尾 太亮　武田恵美　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也 武田　恵美
第5回	大学のしくみを知る（必携パソコンの活用方法について）。	土`田 豊　鳥越 亜矢　山本 房子　岡本美幸　平尾 太亮　武田恵美　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也 武田　恵美
第6回	第2回学生支援セミナー（大学生生活を円滑に進める方法を学ぶ）。	学生課
第7回	第3回学生支援セミナー（大学生生活を円滑に進める方法を学ぶ）。	学生課
第8回	ボランティア活動の意義を知る（学内でのボランティアの進め方について）。	土`田 豊　鳥越 亜矢　山本 房子　岡本美幸　平尾 太亮　武田恵美　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也 武田　恵美
第9回	ボランティア活動の意義を知る（学外でのボランティアの進め方について）。	土`田 豊　鳥越 亜矢　山本 房子　岡本美幸　平尾 太亮　武田恵美　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也 武田　恵美
第10回	ボランティア活動の進め方を知る（電話のかけ方、ボランティアのマナー、報告書の書き方等）	土`田 豊　鳥越 亜矢　山本 房子　岡本美幸　平尾 太亮　武田恵美　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也 武田　恵美
第11回	先輩の体験談から学ぶ（本科の卒業生を講師として招き、学生生活でやっておくべき事柄や就職活動のポイント等について講演いただく）。	土`田 豊　鳥越 亜矢　山本 房子　岡本美幸　平尾 太亮　武田恵美　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也 武田　恵美
第12回	幼稚園実習について知る（実習希望園の絞り方や内諾のもらい方等について）。	土`田 豊　鳥越 亜矢　山本 房子　岡本美幸　平尾 太亮　武田恵美　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也 武田　恵美
第13回	保育所実習について知る（実習希望園の絞り方や内諾のもらい方等について）。	土`田 豊　鳥越 亜矢　山本 房子　岡本美幸　平尾 太亮　武田恵美　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也 武田　恵美
第14回	施設実習について知る（実習希望園の絞り方や内諾のもらい方等について）。	土`田 豊　鳥越 亜矢　山本 房子　岡本美幸　平尾 太亮　武田恵美　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也 武田　恵美
第15回	就職活動の進め方について知る。	土`田 豊　鳥越 亜矢　山本 房子　岡本美幸　平尾 太亮　武田恵美　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也 武田　恵美
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度，発表への参加によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50	毎時間学んだことを専用のファイルに綴じて，提出できる。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本科目の性質上，時間を変更して行う場合もあるので，各自で実施日程を確認すること。遅刻欠席のないよう注意すること。
授業外学修	課題の予習，復習を必ず行う。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし。 入学当初のガイダンスには，【学生手帳・授業概要】を持参すること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校教諭（土田豊）10年　６年　保育士（岡本美幸）15年　保育士（清水憲志）8年　幼稚園教諭（山本房子）19年　幼稚園教諭（福澤惇也）1年　医療型障害児入所施設職員（平尾太亮）3年　特別支援学校（藤井裕士）14年　看護師(荒谷友里恵）10年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	保育士や幼稚園教諭を目指す学生に，勤務経験を元にした説明をし，学生生活をより有意義なものにするための心掛けと具体的な行動を修得させる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	勉学の進め方について	習得した知識と、それによって生じた新たな疑問や関心に基づき、意欲的に調べたり、発言したり、十分に記述したりすることができる。	習得した知識と、それによって生じた新たな疑問や関心に基づき、意欲的に調べたり、発言したり、記述したりすることができる。	習得した知識と、それによって生じた新たな疑問や関心について、調べたり、発言したり、記述したりすることができる。	習得した知識と、それによって生じた新たな疑問や関心について調べたことをやや記述することができる。	習得した知識と、それによって生じた新たな疑問や関心について、調べたり、発言したり、記述したりすることができない。
態度	1．学生生活の基礎を構築する力	大学生活における自らの責任を自覚し、目標の実現に向けて毎回自己課題を見出し、その解決に向けた自分なりの結論を出すことができる。	大学生活における自らの責任を自覚し、目標の実現に向けて自己課題を見出し、その解決に向けた自分なりの結論を出すことができる。	大学生活における自らの責任を自覚し、目標の実現に向けて自己課題を見出すことができる。	大学生活における自らの責任を自覚しようとし、目標の実現に向けて取り組もうとするが、自己課題を見出すところまでには至らない。	大学生活における自らの責任を自覚しようとせず、目標の実現に向けて取り組もうとしないため、自己課題も見出すことができない。
態度	2．教職員と学生・学生相互のコミュニケーションの取り方	課題意図を理解して取り組み、自分なりの知見や深く考えた意見を毎回発表，または記述できる。	課題意図を理解して取り組み、自分なりの知見や意見をほぼ毎回発表，または記述できる。	課題意図を理解して取り組み、自分なりの知見や意見を発表，または記述できる。	課題意図を理解して取り組もうとし、自分なりの知見や意見を発表，または記述しようとする。	課題意図の理解ができないまま取り組み、自分なりの知見や考えた意見を発表，または記述できない。

科目名	日本語表現			授業番号	EA201	サブタイトル	（音声言語と文章表現）		
教員	太田　憲孝								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，「文章表現」を中心に絵本や物語，説明的文章等の言語表現の面白さや特徴を分析し，毎日の生活で使用している日本語表現に対する理解を深めるとともに，日本語表現への関心を高める授業を行う。								
到達目標	絵本や物語，説明的文章等の表現方法を分析し，その特徴を理解することを通して，日本語表現についての基礎的な知識を身に付けるとともに，日本語表現に対する関心を高めることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	身の周りにある様々な日本語表現 「身の周りにある日本語表現を探したり分類したりすることを通して，日本語表現に対して関心をもつ」	
第2回	乳幼児の日本語獲得 「満１歳頃までに行われる「クーイング」「視線」「指さし」などの非言語コミュニケーションについてその意味を理解する。」	
第3回	伝統的な日本語表現 「俳句の約束や魅力について理解する。」	
第4回	読者を引きつける絵本のひみつ（１） 「絵本を取り上げ，乳幼児を引き付ける「丸い正面顔」「主人公の位置」等の仕掛けを理解する。」	
第5回	読者を引きつける絵本のひみつ（２） 「絵本の文章の魅力と謎について理解する。」	
第6回	読者を引きつける物語の仕掛け 「教科書に取り上げられている物語を分析し，「物語の構造」や「虚構」等の読者を引き付ける物語の特徴を理解する。」	
第7回	読者を引きつける物語の表現 「前時に使用した物語を細部の表現について分析し，読者に想像を促す文学的表現のおもしろさを理解する。」	
第8回	主題に迫る物語表現の仕掛け 「前時に使用した物語の終末部を分析し，作者の想を表現した仕掛けのおもしろさを理解する。」	
第9回	身の周りにある説明的表現（広告）の工夫 「身の周りにある広告の表現を分析し，読み手に対する「写真」「色」「キャッチコピー」「レイアウト」等の作り手の工夫を理解する。」	
第10回	身の周りにある説明的表現（取り扱い説明書）の工夫 「身の周りにある「取り扱い説明書」の表現を分析し、読み手に対する「イラスト」「レイアウト」等の作り手の工夫を理解する。」	
第11回	読者を説得する説明的文章の仕掛け 「教科書に取り上げられている説明的文章について分析し，読者を説得しようとする「段落」「結論」「事例」等の仕掛けの工夫を理解する。」	
第12回	読者を説得する説明的文章の表現 「前時に取り上げた説明的文章の事例の表現を分析し，読者にイメージをもたらす文学的表現の工夫を理解する。」	
第13回	言葉を味わう詩的表現 詩を読み味わい，「比喩表現」「象徴的表現」等の詩的表現のおもしろさを理解する。」	
第14回	読者の「予測」を利用した読み物（１） 怪談の表現や仕掛けを分析し，「予測→不安→緊張→出現」という怪談の仕掛けを理解する。」	
第15回	読者の予測を利用した読み物（２） ショート・ショート等の表現や仕掛けを分析し，「予測→タメ→オチ」という予測を外すおもしろさを理解する。」	
授業計画　備考2	補講や天候等により授業内容が前後したり変更になる場合がある。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な学習態度，授業中の課題への取り組みや提出状況などを評価する。
レポート	30	授業ごとの学習内容の定着度を評価する。提出されたレポートにはコメントを記載して返却し，学習の深まりを確認できるようにする。
小テスト	40	学習内容のまとまりごとにその定着度を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	授業ごとにまとめ提出するレポートは，配布した資料を写すのではなく，自分で考えたことや深まったことを記述するように努める。
受講の心得	配付資料及びレポートをファイルしておくこと。 学生相互による話し合い活動では，積極的に参加し互いに考えを深めること。
授業外学修	1．事前に配布した資料は目を通し，授業に臨むこと。 2．授業を通して理解した日本語表現の特徴や面白さをもとに，身の周りの日本語表現に関心を広げること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小中学校・小中一貫校国語科教員(27年)，国立附属中学校国語科教員(4年)，市教育委員会指導主事(3年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	絵本，物語や説明的文章等の表現分析

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．文章のジャンルに合せて，日本語表現の特徴を捉え，そのおもしろさを理解している。	・様々なジャンルの文章を比較しながら，日本語表現の特徴を捉え，そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について，多様な視点から日本語表現の特徴を捉え，そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を捉え，そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を見つけることはできるが，そのおもしろさを感じるには至らない。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を見つけることが難しい。
知識・理解	2．様々なジャンルにおける日本語表現の特徴を捉え，日本語表現についての基礎的な知識を身に付けている。	・様々なジャンルにおける日本語表現の特徴を捉え，日本語表現についての基礎的な知識を十分に身に付けている。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を捉え，日本語表現についての基礎的な知識を十分身に付けている。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を捉え，日本語表現についての基礎的な知識を身に付けている。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を捉え，日本語表現についての基礎的な知識の定着がやや不十分である。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を捉え，日本語表現についての基礎的な知識の定着が不十分である。
技能	3．文章のジャンルに合せて，日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・様々なジャンルにおける文章の特徴を踏まえて，日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・取り上げた文種の特徴を踏まえて，日本語表現のおもしろさに関係する様々な工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・取り上げた文種の特徴を踏まえ，日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけることがやや不十分である。	・日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけること不十分である。
態度	4．日本語表現に興味・関心をもち，様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫を理解して表現活動に生かそうとしている。	・様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫を十分に身に付け，創意工夫して表現活動を行っている。	・様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫を十分に身に付け，適切な分量の文章で表現活動を行っている。	・様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫を身に付け，それを生かした表現活動を行っている。	・様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫を身に付けることと，それを踏まえた表現活動がやや不十分である。	・様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫を身に付けることと，それを踏まえた表現活動を行うことが難しい。

科目名	芸術			授業番号	EA202	サブタイトル	芸術		
教員	岡崎　三鈴								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では、音楽を中心とした芸術表現の多様性を学び、自らの感性を磨くとともに、表現の喜びを体験的に理解します。								
到達目標	【知識・理解】音楽の3要素、西洋およびポピュラー音楽の歴史、楽器の構造、および音楽療法（感覚統合）やSTEAM教育の基本概念を正しく理解している。 【思考・問題解決能力】音楽が持つ表現意図や社会的な背景を分析し、グループワークやICTツールを通じて独自の表現を考案できる。 【技能】各種楽器の基本奏法を習得してアンサンブルを行い、またデジタルツールを用いた直感的な音楽制作の手法を修得している。 【態度】自己表現や他者理解を楽しみ、グループ活動において主体的に貢献しながら、芸術を通じた社会課題（貧困や発達支援）への関心を持ち続ける なお,本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	音楽と人 人と音楽の関係、音楽の起源、講義の進め方と評価	
第2回	自己表現と音楽 特別な意味を持つ曲の紹介を通した自己開示	
第3回	音楽の三要素と体験 メロディー・ハーモニー・リズムの基礎／ハンドベル等の合奏体験	
第4回	メロディー楽器体験 ヴァイオリン：弦楽器の構造理解と基本奏法の実践	
第5回	ハーモニー楽器体験 ウクレレ：撥弦楽器の起源とコード演奏体験	
第6回	リズムの実践Ⅰ 生活にある言葉を使ったリズム遊び／オリジナルリズムの創作	
第7回	リズムの実践Ⅱ リズム学習のグループ発表／ことば楽譜の作成と合奏練習	
第8回	アンサンブルの実践 打楽器等を用いた合奏発表	
第9回	西洋クラシック音楽Ⅰ 鑑賞曲の再考と主要作曲家の探究ワーク	
第10回	西洋クラシック音楽Ⅱ 中世から近現代までの時代区分と主要作曲家の探究ワーク	
第11回	アメリカの音楽と歴史 移民の歴史がポップスに与えた影響	
第12回	音楽の力と健康 心身の健康や回復,QOLの向上を目的として使われる音楽	
第13回	STEAM教育とアート 創造性を引き出すアートの力、貧困問題とアートエンゲージメント	
第14回	ICTを活用した音楽表現 Chrome Music Lab等を用いた直感的な音楽制作と視覚化	
第15回	日本のポピュラー音楽 J-POPの誕生と展開　：日本のポップス史	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	20	意欲的な授業態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	30	各回の主要なポイントの理解を提出された課題やレポート等によって評価する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
その他	50	ディスカッション等への積極的な参加,発表,提出物により評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	音楽を通じた自己表現と他者への共感を大切にし、楽器体験やグループワークへ主体的に参加することで、芸術を楽しむ豊かな感性を養ってください。
授業外学修	1　予習として，授業内容にかかわる文献等を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，課題のレポートを書く。 3　発展学修として，授業で紹介された参考楽曲等に触れる。 以上の内容を，週当たり２時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	音楽の3要素、西洋およびポピュラー音楽の歴史的変遷、楽器の構造、および音楽療法（感覚統合）やSTEAM教育の基本概念を正しく理解している。	音楽の歴史的・理論的背景を深く理解し、それらが現代の社会課題や教育、医学とどう関連しているかを体系的に説明できる。	各時代の主要な作曲家や音楽ジャンルの特徴、楽器の起源や構造を正しく理解し、専門用語を用いて解説できる	音楽の3要素や西洋音楽の時代区分、アメリカ音楽のルーツなど、講義で扱った基礎的な知識を概ね習得している。	芸術・音楽に関する最低限の基礎知識（代表的な楽器名や主要な時代背景など）を習得している。	音楽の基礎知識や用語の理解が著しく不足し、課題の意図を正しく把握できていない。
思考・問題解決能力	音楽の表現意図や背景を分析し、グループワークやICTツール、身体表現を通じて、既存の枠組みにとらわれない独自の表現方法を論理的に考案できる。	音楽と社会（貧困や人種問題等）の関係を鋭く洞察し、ICTやグループ合奏において、他者の感性を刺激する独創的かつ説得力のある表現案を提示できる。	楽曲の構造や歴史的背景を適切に踏まえ、自らの表現意図や、グループでの合奏・創作における工夫を論理的に構築できる。	提示された課題に対し、講義の内容を参考にしながら標準的な解決策や表現方法を妥当に選択・構成できる。	指示された状況下で、最低限の論理性を持ってリズムや旋律、あるいは感想をまとめることができる。	表現の意図が不明確であり、グループワーク等において論理的な思考や提案が見られない。
技能	メロディー楽器やハーモニー楽器の基本奏法を習得してアンサンブルを行い、またデジタルツール等を用いた直感的な音楽制作や楽譜作成ができる。	楽器の特性を最大限に活かした豊かな表現ができ、ICTツールや創作楽譜においても質の高いアウトプットを生み出している。	ヴァイオリンやウクレレ等の基本奏法を正しく習得し、グループと調和した演奏ができる。また、ICTを用いた制作においても適切な操作・表現ができる。	楽器の扱い方やリズムの基礎を習得し、大きな誤りなく演奏や創作・楽譜作成に取り組むことができる。	楽器の操作やデジタルツールの利用において、指示された通りに最低限の音を出す、あるいは制作することができる。	楽器の扱いが極めて不適切である、あるいは技能の習得が著しく遅れ、合奏や制作が成立しない。
態度	自己表現に主体的に取り組み、グループ活動において他者の表現を尊重し協力し合いながら、芸術に対する探究心を深めている。	自己開示に積極的で、グループの議論や合奏練習を献身的にリードし、他者の多様な感性を尊重しながら授業全体の質を高める姿勢がある。	専門職を目指す者としての自覚を持ち、予習・復習、楽器の準備、グループワークに責任を持って取り組んでいる。	受講マナーを遵守し、継続的に楽器練習や創作課題、ディスカッションに参加している。	欠席・遅刻をせず、受動的であっても指示された活動やグループ内での役割をこなしている。	受講態度が不適切（私語、スマホ使用、非協力的な態度）であり、芸術を学ぼうとする意欲が著しく欠如している。

科目名	日本国憲法			授業番号	EA203	サブタイトル	（身近な問題から「憲法のちから」を考える）		
教員	俟野　英二								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本科目では、日本国憲法および他国の憲法の沿革、様々な人々の人権について講義する。また、憲法原理とともに体系的な思考方法を概説し、それらを活用して身近な現代的問題を分析・考察する。 具体的にはまず、身近な憲法問題を取り上げて関係する憲法の基本原理及び基礎知識を教員の教育委員会(24年）及び県庁における人権啓発・相談経験（4年）を踏まえて概説する。次に、基本原理等に関する憲法問題について、グループワークを行い各自でワークシートにまとめさせる。そして、各章の小テストを課題としてUniversal Passport上で行い、基礎的な知識の定着を図る。さらに、憲法の基本原理、統治機構、人権に関する発展的な問題を全体で討議し、現代的な問題を分析、考察する。 これらの活動により、問題の全体像の把握と、多面的な分析及び多様な価値観や背景の認識を踏まえた上で、自らの見解の形成や表現の仕方を身に付ける。								
到達目標	憲法の基本原理・原則および基礎知識を理解し，それらを活用して身近な憲法問題を異なる価値観や考えに配慮しながら，主体かつ論理的に考えることができるようになることを目標とする。 なお，本科目は，到達目標達成の前提として異なる価値観，文化，背景及び相互関係を知り，深い認識と理解の修得を伴うので，幅広い教養のうち、特に変化の激しい現代生活に対応できる幅広い知識の修得に貢献する。また、グループワークや全体での討議を通じて，他者の有する異なる価値観や考えの存在を尊重しつつ協力して課題を解決する作業を行うことから，他者との関係が良好であるように努めるとともに、継続して学習意欲を持ち続ける態度の修得に貢献する。以上のようにこの科目は，ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容の＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス、この国の基礎にある考え方１ １　学修の目標、評価方法などを説明する。 ２　近代立憲主義について学修する。	
第2回	この国の基礎にある考え方２ １　法の支配について学修する。 ２　士俵の女人規制について考える。 ３　国家機関としての天皇制（明治憲法と天皇）について学修する。	
第3回	この国の基礎にある考え方３ 国家機関としての天皇制（日本国憲法と天皇）について学修する。	
第4回	この国の基礎にある考え方４ 憲法が目指す平和を守る仕組み１（憲法９条の制定と安保条約の締結）について学修する。	
第5回	この国の基礎にある考え方５ 憲法が目指す平和を守る仕組み２（台湾有事と存立危機事態）について学修する。	
第6回	人権を守るための組織１ １　統治機構１（政治と国民、国会議員）について学修する。 ２　若者の投票率の向上策について考える。	
第7回	人権を守るための組織２ 統治機構２（選挙、選挙制度、政党）について学修する。	
第8回	人権を守るための組織３ 統治機構３（国会）について学修する。	
第9回	人権を守るための組織４ 統治機構４（内閣）について学修する。	
第10回	人権を守るための組織５ 統治機構５（地方自治、裁判所）について学修する。	
第11回	身近な問題から考える人権１ 良心をもつ自由、貫く権利について学修する。	
第12回	身近な問題から考える人権２ １　表現の自由と書かれない権利について学修する。 ２　プライバシーについて考える。	
第13回	身近な問題から考える人権３ 営業の自由と消費者の権利について学修する。	
第14回	学校における生徒の人権 １　子どもの教育を受ける権利と教師の教育の自由について学修する。 ２　学校内における生徒の人権について学修する。 ３　旭川いじめ凍死事件からいじめを考える。	
第15回	困らないための権利、差別されている人たちへの配慮 １　憲法25条の歴史的社会的意味及び社会保障制度について学修する。 ２　積極的な格差解消の取り組みの合憲性の判断の仕方について学修する。。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
グループワークの取り組み姿勢/態度	30	講義中のグループワーク時に各自が提出したワークシートに要求された内容が整理されていること。ワークシートを通じて必要に応じ個別指導を行うとともに、講義中に全体講評を行う。
小テスト	30	学修に対する意欲・態度、基本原理及び基礎知識の理解を評価する。回答期限後,Universal Passportに解説を表示する。
定期試験	40	基本原理及び基礎知識を理解し、身近な憲法問題に対して異なる価値観・意見に配慮しながら主体的かつ論理的にこれらを活用して結論を導くことができている。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　公民や現代社会が苦手な学生は、あらかじめ高校で使用したテキストや資料集などの日本国憲法に関する部分を読んでおくこと。 2　事前に授業の範囲のテキストを読み、分からない用語を調べておくこと。 3　各講義中にワークシートを提出する。それが出席カードも兼ねるとともに成績評価の対象なので必ず提出すること。 4　各章に対応する小テスト（Universal Passportの課題）を受験すること。
授業外学修	1　事前学習：テキスト及び講義資料の予定範囲を読み、意味の分からない用語についてインターネットや辞書を使って調べておく。 2　事後学習：前回の講義において学修した基本原理や基礎知識を復習する。理解が不十分であったところをテキストや講義資料を読み返して理解を深め、Universal Passportで小テストを受験する。また，小テスト受験後，誤ったり理解が不十分であった箇所について復習する。 3　ワークシートが返却された後、グループワーク、講義、テキスト、小テスト等を踏まえて再度整理し直し、理解を深めるとともに試験に備える。 事前学習及び事後学習を合わせて、1週間に4時間程度必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
憲法のちから―身近な問題から憲法の役割を考える	中富公一	法律文化社	978-4-589-04343-6	2400円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
グラフィック憲法入門第3版	毛利透	新世社	978-4-88384-397-8	
新・判例ハンドブック【憲法】第3版	高橋和之	日本評論社	978-4-535-52793-5	

参考書：自由記載	授業において随時紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	県教育委員会（24年），県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	県教育委員会（24年），県（人権・同和政策課）（4年）の実務経験から、いじめや学校内の人権問題など学生に身近な人権問題および統治の仕組みを学生の目線で憲法の基本原理から説明する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．憲法に関する基本原理・基礎的事項を理解している。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について,正確に理解し述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，正確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，大体述べることができる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	学修した憲法に関する基本原理・基礎的事項について，全く表現することができない。
知識・理解	2．国際社会・地域社会の多様な価値観・意見を認識し，理解している。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について,正確に理解し述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について,正確にではないがほぼ理解し述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，大体述べることができる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，正確に述べることができないが，自分の言葉では表現できる。	学修した憲法問題に関する価値観・意見の対立について，全く表現することができない。
思考・問題解決能力	1．憲法や法令を使って論理的に問題を考えることができる。	課題に対し，論理的整合性をもち，多角的に考察をしている。	課題に対し，ほぼ論理的整合性をもった考察をしている。	課題に対し，自分の考えを述べることができる。	課題に対し，結論を述べることができる。	課題に対し、結論を述べることができない，または指示事項に沿っていない。
思考・問題解決能力	2．多様な価値観・意見に配慮した思考ができる。	課題に対し，多様な価値観・意見に配慮した考察が論理的整合性をもっている。	課題に対し，多様な価値観・意見に配慮した思考がほぼ論理的整合性をもっている。	課題に対し，多様な価値観・意見の存在を並列的に述べることができる。	課題に対し，不十分ながら複数の価値観・意見の存在を述べることができる。	課題に対し，複数の価値観・意見を述べることができない，または指示事項に沿っていない。
態度	1．グループワークに積極的に参加できる。	調査，質問などを積極的に行い，課題内容を理解した上で，適切なワークシートを提出している。	課題に積極的に臨む姿勢が見受けられ，課題内容を理解した上で，適切なワークシートを提出している。	グループワークに参加し，課題内容を理解した上で，ワークシートを提出している。	グループワークに参加し，ワークシートを提出しているが，課題の理解が不十分である。	グループワークに参加していない。または，グループワークに参加しているがワークシートを提出していない。

科目名	社会学			授業番号	EA204	サブタイトル	(配偶者の選択と家族編成の社会的規則)		
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。 現代社会における家族の姿は，多元化する価値意識のもとで，その形態や機能が多様化している。 そのため，本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて，家族編成に関する社会的規則について講義する。								
到達目標	現代社会の家族集団を，より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。 これにより，地域社会の中に存する様々な家族を理解し，実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	配偶者選択をめぐる社会状況の変化 現代社会の現状	
第2回	家族社会学における「家族」の定義 家族集団の特徴と世帯	
第3回	家族を対象とした社会学的アプローチの方法 家族をいかにとらえるか 漫画・映画などに描かれた家族のかたち	
第4回	家族の類型と分類 夫婦家族制・直系家族制・複合家族制の理解	
第5回	青年期の異性交際に関する社会学的意味の考察 日本における青年期の異性交際の現状と国際比較	
第6回	青年期の異性交際の実態 出生力調査にみる実態	
第7回	家族編成の社会的ルールとは何か 配偶者の選択はいかにして行われるか	
第8回	配偶者選択の社会的メカニズム 配偶者の選択と結婚	
第9回	配偶者選択のプロセス 出生力調査における独身者調査と夫婦調査の比較	
第10回	結婚の社会的意味 結婚はどのような意味をもつのか	
第11回	結婚の社会的機能 結婚するとどのようになるのか	
第12回	離婚の社会的意味と機能 離婚に関する意味付け 離婚の現状に関するデータ	
第13回	家族の新しい形 変貌する家族像 多元化する価値観	
第14回	子どもの養育 家族集団における子どもの社会化	
第15回	老親の介護 高齢化社会の中の家族集団	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
最終試験レポート	70	各自で最終レポートを作成し提出する。
コメントペーパー	30	基本的には、毎回、提出する。理解の状況の確認を行う。提出物については、次回の授業の冒頭で共有し、コメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自らの配偶者選択や，家族集団に興味・関心があることが望ましい。 しかしながら，あまりにも身近で現実的な問題であるため，ある程度，客観視できる受講態度が望ましい。
授業外学修	1．配付資料を事前に読んでくること。 文章を読むだけではなく，掲載されている図表の意味するところを考える。 具体的なアプローチの方法は，授業時間内に指示する。 2．最終レポートの課題を探しながら受講すること。 テーマに関するニュースや，身近な出来事に関心をもつこと。 両方の課題を合わせて，週当たり4時間以上，取り組むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。
その他	特になし。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．家族社会学における基礎的な概念を理解できている。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解しており、自分の言葉で説明することができる。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、その関係を理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えている。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えていない。
知識・理解	2．結婚の社会的機能と配偶者選択の規則について理解できている。	教育の歴史に係る重要事項について、その展開と社会的背景について理解している。	教育の歴史に係る重要事項の展開について理解している。	教育の歴史に係る重要事項について理解している。	教育の歴史に係るキーワードを覚えている。	教育の歴史に係るキーワードを覚えていない。
知識・理解	3．青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	関連するデータを踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	社会背景を踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを、ほとんど読み解くことができない。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができない。
思考・問題解決能力	1．データに基づき、家族に関する現状を考察することができる。	家族に関する現状を、複数のデータと社会背景を踏まえて考察を深め、説明することができる。	家族に関する現状を、複数のデータに基づき考察し、説明することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解し、考察することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができない。

科目名	情報処理概論 1年1クラス			授業番号	EA206A	サブタイトル	（コンピュータの基礎知識）		
教員	赤木　竜也								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ，コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ，表計算ソフトなどを用いて情報処理の基本について学修する。なお，本授業は教職必修科目である。								
到達目標	情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために，日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの基礎的技術を学び，情報に応じて適切な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	初回授業日よりMicrosoft社製Word、Excelおよびインターネットを使用する。授業内でのセットアップ等は行わないので、各自授業開始日までにPCのセットアップを完了しておくこと。また学内Wi-Fiへの接続も完了しておくこと（授業当日困らないよう前日までに完了しておくこと）。								

回	概要	担当
第1回	情報処理とコンピュータの関わり コンピュータにおける情報の扱い方について学習する。	
第2回	コンピュータの基礎知識 コンピュータにおける文字データについて学習する。	
第3回	ワードプロセッサの基本 基本的な文書の作成方法について学習する。	
第4回	ワードプロセッサの活用(1) 基本的な編集機能について学習する。	
第5回	ワードプロセッサの活用(2) 作表機能について学習する。	
第6回	ワードプロセッサの活用(3) 図形描画機能について学習する。	
第7回	表計算ソフトの基本(1) 基本的な表の作成方法について学習する。	
第8回	表計算ソフトの基本(2) セルの属性(書式設定)について学習する。	
第9回	表計算ソフトの基本(3) 基本的なグラフ(棒グラフ，円グラフ)の作成方法について学習する。	
第10回	表計算ソフトの基本(4) 応用的なグラフ(複合グラフ)の作成方法について学習する。	
第11回	表計算ソフトの応用(1) 基本的な関数について学習する。	
第12回	表計算ソフトの応用(2) 基本的な関数(判定)について学習する。	
第13回	表計算ソフトの応用(3) 基本的な関数(検索)について学習する。	
第14回	表計算ソフトの応用(4) 基本的なデータベース機能について学習する。	
第15回	総合演習・まとめ 演習問題を通してより深くワードプロセッサ，表計算について理解・学習する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、課題への取り組み姿勢および復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	10	授業中出題する演習問題について評価する。
定期試験	60	習熟達成度を評価する。
その他	10	授業中出題する演習問題について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	コンピュータを用いた実習を適宜行うため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学修しておくこと。
授業外学修	授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として4時間以上その都度取り組み，理解度を深めておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間でマスター Word&Excel2021（Windows11対応）	実教出版企画開発部	実教出版	978-4-407-35939-8	1100
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	岡山県立烏城高等学校、岡山県立玉野光南高等学校公民・商業・情報科講師（10年），県立高等学校IT講習会講師（1年）での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ，情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。			

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．データの特性について理解している。	文字データ・数値データの特性の違いを知解するとともに，適切にデータ変換することができる。	文字データ・数値データの特性の違いを理解することができる。	文字データ・数値データを区別することができる。	数値データの取扱いに難がある。	文字データ・数値データを区別することができない。
知識・理解	２．ビジネス文書について理解している。	社内文書・社外文書のフォーマットの違いを理解し，時候の挨拶を適切に扱うことができる。	社内文書・社外文書のフォーマットの違いを理解している。	ビジネス文書のフォーマットについてほぼ理解している。	ビジネス文書のフォーマットを理解していない。	ビジネス文書を全く表現することができない。
知識・理解	３．表計算ソフトの関数および演算について理解している。	絶対参照・相対参照の違いを理解し，正しく関数を使用したり演算したりすることができる。	適宜関数を使用，演算し，わかりやすく表示することができる。	適宜関数を使用したり演算したりすることができる。	データ範囲を間違えたり，関数を正しく使用したりすることができない。	関数を使用することができず，また正しく演算することができない。
知識・理解	４．グラフの特性について理解している。	データの特性に合わせて適切なグラフを選択し，またわかりやすいグラフを作成することができる。	わかりやすいグラフを作成することができる。	数値データからグラフを作成し，グラフ要素を使いこなすことができる。	数値データからグラフを作成することができるが，グラフ要素を適宜使用することができない。	グラフの元となるデータ範囲を理解することができない。
技能	１．正しくデータ入力をすることができる。	文字種を適切に使い分け，早くて正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けるか，早くて正確に入力することができる。	ある程度文字種を使い分け，正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けることができず，また入力正確性に欠ける。	文字種を適切に使い分けることが出来ず，また入力がおぼつかない。
技能	２．ソフトウェアを操作することができる。	目的の機能を手早く処理することができる。	やや複雑な処理をすることができる。	標準的な機能を使用することができる。	目的の機能を見つけられなかったり，操作に手間取ったりする。	目的の機能を見つけられず，また適切に操作することができない。

科目名	情報処理概論 2年1クラス			授業番号	EA206C	サブタイトル	（コンピュータの基礎知識）		
教員	赤木　竜也								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	情報社会における様々な情報を扱う上で今や必須となったコンピュータ。本講義では高等学校で必修となった普通教科情報を踏まえ，コンピュータを利用した情報処理の一環としてワードプロセッサ，表計算ソフトなどを用いて情報処理の基本について学修する。なお，本授業は教職必修科目である。								
到達目標	情報の分析・加工・発信能力をさらに高めるために，日本語ワープロソフトおよび表計算ソフトの基礎的技術を学び，情報に応じて適切な文書や表・グラフの作成および分析ができるようになることを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	情報処理とコンピュータの関わり コンピュータにおける情報の扱い方について学習する。	
第2回	コンピュータの基礎知識 コンピュータにおける文字データについて学習する。	
第3回	ワードプロセッサの基本 基本的な文書の作成方法について学習する。	
第4回	ワードプロセッサの活用(1) 基本的な編集機能について学習する。	
第5回	ワードプロセッサの活用(2) 作表機能について学習する。	
第6回	ワードプロセッサの活用(3) 図形描画機能について学習する。	
第7回	表計算ソフトの基本(1) 基本的な表の作成方法について学習する。	
第8回	表計算ソフトの基本(2) セルの属性(書式設定)について学習する。	
第9回	表計算ソフトの基本(3) 基本的なグラフ(棒グラフ，円グラフ)の作成方法について学習する。	
第10回	表計算ソフトの基本(4) 応用的なグラフ(複合グラフ)の作成方法について学習する。	
第11回	表計算ソフトの応用(1) 基本的な関数について学習する。	
第12回	表計算ソフトの応用(2) 基本的な関数(判定)について学習する。	
第13回	表計算ソフトの応用(3) 基本的な関数(検索)について学習する。	
第14回	表計算ソフトの応用(4) 基本的なデータベース機能について学習する。	
第15回	総合演習・まとめ 演習問題を通してより深くワードプロセッサ，表計算について理解・学習する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度、課題への取り組み姿勢および復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト	10	授業中出題する演習問題について評価する。
定期試験	60	習熟達成度を評価する。
その他	10	授業中出題する演習問題について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	コンピュータを用いた実習を適宜行うため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し学修しておくこと。
授業外学修	授業時間の都合上，テキストに掲載されているすべての演習問題を授業中にすることが困難なため，授業中出題されなかった他の演習問題を事後学修として4時間以上その都度取り組み，理解度を深めておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
30時間でマスター Word&Excel2021（Windows11対応）	実教出版企画開発部	実教出版	978-4-407-35939-8	1100
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	岡山県立烏城高等学校、岡山県立玉野光南高等学校公民・商業・情報科講師（10年），県立高等学校IT講習会講師（1年）での実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	高等学校で情報科（普通教科情報・専門教科情報）を担当した経験を踏まえ，情報リテラシーのスキルアップを目指した知識・技術を指導する。			

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．データの特性について理解している。	文字データ・数値データの特性の違いを知解するとともに，適切にデータ変換することができる。	文字データ・数値データの特性の違いを理解することができる。	文字データ・数値データを区別することができる。	数値データの取扱いに難がある。	文字データ・数値データを区別することができない。
知識・理解	２．ビジネス文書について理解している。	社内文書・社外文書のフォーマットの違いを理解し，時候の挨拶を適切に扱うことができる。	社内文書・社外文書のフォーマットの違いを理解している。	ビジネス文書のフォーマットについてほぼ理解している。	ビジネス文書のフォーマットを理解していない。	ビジネス文書を全く表現することができない。
知識・理解	３．表計算ソフトの関数および演算について理解している。	絶対参照・相対参照の違いを理解し，正しく関数を使用したり演算したりすることができる。	適宜関数を使用，演算し，わかりやすく表示することができる。	適宜関数を使用したり演算したりすることができる。	データ範囲を間違えたり，関数を正しく使用したりすることができない。	関数を使用することができず，また正しく演算することができない。
知識・理解	４．グラフの特性について理解している。	データの特性に合わせて適切なグラフを選択し，またわかりやすいグラフを作成することができる。	わかりやすいグラフを作成することができる。	数値データからグラフを作成し，グラフ要素を使いこなすことができる。	数値データからグラフを作成することができるが，グラフ要素を適宜使用することができない。	グラフの元となるデータ範囲を理解することができない。
技能	１．正しくデータ入力をすることができる。	文字種を適切に使い分け，早くて正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けるか，早くて正確に入力することができる。	ある程度文字種を使い分け，正確に入力することができる。	文字種を適切に使い分けることができず，また入力正確性に欠ける。	文字種を適切に使い分けることが出来ず，また入力がおぼつかない。
技能	２．ソフトウェアを操作することができる。	目的の機能を手早く処理することができる。	やや複雑な処理をすることができる。	標準的な機能を使用することができる。	目的の機能を見つけられなかったり，操作に手間取ったりする。	目的の機能を見つけられず，また適切に操作することができない。

科目名	体育講義 (全8回)			授業番号	EA207	サブタイトル	(子どものからだと心の健康)		
教員	土田　豊								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義 (対面授業科目)	必修・選択	選択
授業概要	知っているようで知らないからだと心の仕組みについて講義し，身近にある道具や簡単な方法でセルフチェックできる力を身につけます。また，セルフチェックで得られた結果を客観的に評価し，対処法についても学びます。								
到達目標	人間のからだと心の仕組みについて理解し，保育・教育の現場に出た際，子どもたちのからだと心の異変に気づき，適切に対処できる力を養うことを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「体力」について考える 「体力」がどのような要素で構成されているのかじっくりと考えます。	
第2回	「ホルモン」のはたらきについて考える 眠りのホルモンと呼ばれている「メラトニン」について，分泌の仕組みや働きについて考えます。	
第3回	「自律神経」のはたらきについて考える 人間のからだの自動調節機能である自律神経の仕組みや働きについて考えます。	
第4回	「土踏まず」のはたらきについて考える 人間が，二足歩行する上で重要な働きをしている土踏まずについてじっくり考えます。	
第5回	「背筋力」のはたらきについて考える 土踏まず同様人間が，二足歩行する上で重要な働きをしている背筋力について測定しながら考えます。	
第6回	「健康診断」で分かることについて考える 普段学校で実施する健康診断で分かること，健康診断では分からないことについて考えます。	
第7回	「前頭葉」のはたらきについて考える 人間の感情や記憶，想像力などの中枢である前頭葉の仕組みや育て方について考えます。	
第8回	「子どものからだと心を元気にする方法」について考える 30泊31日キャンプが，子どものからだと心を元気にする理由について映像も見ながら考えます。	
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度・発表等授業への参加状況を評価する。毎回配布するワークシートに授業に沿った記録がされていたり，発表できたりすることを加点対象とする。
レポート	40	事前学習や授業で学んだことを踏まえ，自分自身の問題として具体的に述べていること。授業内容を理解し，具体的な事例として捉えられている度合いに応じて得点化する。レポートは，コメントを記入して返却することで，学びのフィードバックとする。
小テスト	30	全８回の授業内容を踏まえ，子どものからだと心の問題にどう対応していくかということについてのレポートを作成する。自分の考えが具体的に記述されている度合いに応じて，得点化する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	1．「子ども」「からだと心」などをキーワードとした新聞記事やニュースを常に意識し，情報を収集すること。 2．各回の授業内容に合わせた情報を収集したり，書籍等を読んで予備知識を得ておくこと。 3．授業で学んだことを日常生活で実践したり，保育現場で見聞きした子どもの状態も想起しながら学習内容を深く理解すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	その都度プリントを準備する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場や自然体験施設での経験を生かして，体の仕組みや健康を維持する方法などについて指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.人間のからだと心の仕組みの理解	人間のからだと心の仕組みや育ちについてメディア、文献等から情報取を集し、自分のからだと心の状態に重ね合わせて理解し、記述できている。	人間のからだと心の仕組みや育ちについてメディア、文献等から情報取を集し、より深く理解し、記述できている。	人間のからだと心の仕組みや育ちについてある程度理解し、記述できている。	人間のからだと心の仕組みや育ちに興味を持つことができているが、理解したことの記述が不十分である。	人間のからだと心の仕組みや育ちについて理解できず、記述もできていない。
知識・理解	2.現代の子どもたちが抱えているからだと心の問題についての理解	現代の子どもたちが抱えているからだと心の問題に興味や関心を持ち、文献やインターネットで調べ、解決方法についての自分の考えを記述することができている。	現代の子どもたちが抱えているからだと心の問題について、文献やインターネットで調べ、より深く理解し、記述できている。	現代の子どもたちが抱えているからだと心の問題についてある程度理解し、記述できている。	現代の子どもたちが抱えているからだと心の問題について関心を持つことができているが、理解したことの記述が不十分である。	現代の子どもたちが抱えているからだと心の問題について理解できず、記述もできていない。
思考・問題解決能力	1.からだと心の問題の解決方法の模索	からだと心の問題に対する解決方法について複数の視点から考え、具体的な方法について発表することができる。	からだと心の問題に対する解決方法について複数の視点から考え、発表することができる。	からだと心の問題に対する解決方法について考え、発表することができる。	からだと心の問題に対する解決方法について考えることはできているが、発表に対して消極的である。	からだと心の問題に対する解決方法について考えることができず、発表することもできない。
思考・問題解決能力	2.子どもたちと接した経験の中での問題を把握と解決策の創造	子どもたちと接した経験から、からだと心の問題について深く考え、具体的な解決策を考え発言することができる。	子どもたちと接した経験から、からだと心の問題について深く考え、解決策を考え発言することができる。	子どもたちと接した経験から、からだと心の問題について考え、解決策を考え発言することができる。	子どもたちと接した経験から、からだと心の問題について考えることはできているが、解決策を考え、発言することが不十分である。	子どもたちと接した経験から、からだと心の問題について考え、発言することができない。

科目名	体育実技 1クラス			授業番号	EA208A	サブタイトル	（適切な運動実践）		
教員	土田　豊								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	実技（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	各チームの課題を基にメンバーで協力しながら，各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。								
到達目標	バレーボールやバドミントンなどの基本的なルールを理解し，チームのメンバーと楽しく活動することを目的とする。生涯に渡って身体を動かす習慣の礎とするため各種目のスキルアップを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	体力テスト グループ分けの参考資料として6種目の体力テスト実施します。	
第2回	バレーボールI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第3回	バレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，実際にゲームを体験します。	
第4回	バレーボールIII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第5回	バレーボールIV（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し、ゲームに反映していきます。	
第6回	バレーボールV（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し、ゲームに反映していきます。	
第7回	バドミントンI（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第8回	バドミントンII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第9回	バドミントンIII（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第10回	バドミントンIV（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し、ゲームに反映していきます。	
第11回	バドミントンV（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し、ゲームに反映していきます。	
第12回	卓球I（ルールと基本技術の理解） 基本的なルールの確認と基本技術の練習をします。	
第13回	卓球II（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第14回	卓球Ⅲ（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。	
第15回	卓球Ⅳ（ゲームの展開） チームに分かれ，リーグ戦方式でゲームをします。これまでの結果からチームの改善点を導き出し、ゲームに反映していきます。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，メンバーと協力しながらスキルアップしようとしている等の授業への参加状況を評価する。授業に休まず出席し，練習・試合に意欲的に取り組む姿が確認できれば加点対象とする。また，メンバーに声を掛けたり，援助などができておれば加点対象とする。
レポート	20	各種目の最終回に自分の上達度やゲームを終えての感想等をフォームで回答し，コメント入力後返却する。
小テスト	30	バレーボールにおいては，トス，サーブの到達度に応じて得点化する実技テストを実施する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	運動着を着用し，体育館シューズを使用する。 全員協力の上，準備・片付けをする。
授業外学修	１．日頃から自らの健康に対する興味関心や体力増進に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりをすること。 ２．各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない（作成資料を活用）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭　10年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での経験を生かして，日常的に体を動かすことの大切さを伝えながら指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．各種目のルールに対する理解	各種目のルールがある程度理解でき、楽しく活動できるのに加え、友だちにもルールをアドバイスできている。	各種目のルールがある程度理解できており、楽しく活動することができている。	各種目のルールがある程度理解して活動できる。	特定の種目のルールについては、ある程度理解して活動できる。	各種目のルールが、ほとんど理解できず、活動することもできない。
知識・理解	２．各種目のポイントや練習方法の共有	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解でき、メンバーにも上達する方法をアドバイスしながら楽しく活動できている。	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解できており、メンバーと楽しく活動できている。	各種目のポイントや練習の仕方がある程度理解して活動できる。	特定の種目についてはポイントや練習の仕方がある程度理解して活動できる。	各種目のポイントや練習の仕方が理解できず、活動することもできない。
思考・問題解決能力	１．チームの課題に対する取り組み姿勢	チームの課題を見つけ、その解決策について考え、メンバーと共に解決に向けて積極的に取り組むことができている。	チームの課題を見つけ、その解決策について考え、メンバーに提案することができている。	チームの課題を見つけ、その解決策について考えることができている。	チームの課題を見つけることはできているが、その解決策について考えることが不十分である。	チームの課題を見つけることができない。
技能	１．各種目に対するスキルアップの方法	各種目を楽しむことのできる技能が、十分備わっているのに加え、チーム全体のレベルアップにも寄与できている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ある程度備わっているのに加え、さらに高めることができている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ある程度備わっている。	特定の種目に対しては、楽しむことのできる技能が備わっている。	各種目を楽しむことのできる技能が、ほとんど備わっていない。
態度	１．グループ活動への取り組み姿勢	リーダーシップ、メンバーシップをどちらも十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮できていないが、グループでやるべき目標には取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮することができず、グループでやるべき目標に取り組めていない。
態度	２．活動に取り組む意欲	どの種目に対しても、積極に体を動かそうとする姿勢が見られ、自分だけでなく、みんなで楽しめる雰囲気作りができている。	どの種目に対しても、積極に体を動かそうとする姿勢が見られ、場の雰囲気を盛り上げようとする態度も感じられる。	どの種目に対しても、積極に体を動かそうとする姿勢が見られる。	特定の種目については、積極的に体を動かそうとする姿勢が見られる。	体を動かすことに対して消極的で、活動に対する意欲が感じられない。

科目名	数理･データサイエンス･AI			授業番号	EA209	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修･選択	選択
授業概要	初級レベルの数理･データサイエンス･AIを習得するという政府発表の目標を掲げた。この講義では，プログラミング，データサイエンス（社会調査）･AI，データベース（表計算）などの様々な情報分野を学ぶ上で必要とされる基本的な数理的な考え方について学習する。								
到達目標	社会の中でのAIの役割を理解する. データの特徴を読み解き，データの中に潜む特徴を理解できる. データに応じた可視化の手法を選択し，適切に説明ができる. 代表値や統計的検定等の基本的な知識を用いることができる. スプレッドシートを用いてデータの適切な集計･分析をすることができる. なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識･理解＞ ＜思考･問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	社会で起きている変化(1) 情報を使いこなす社会，IoTとは，ビッグデータ	
第2回	社会で起きている変化(2) 多変量解析の手法	
第3回	AI時代の到来(1) AIとは，AIを使いこなす，AI社会	
第4回	AI時代の到来(2) 機械学習の仕組み	
第5回	データを守るための留意事項 情報セキュリティとは，セキュリティの注意点，個人情報の管理	
第6回	データ活用と必要なスキル データと分析結果を対応づける，分析結果の利用，Excelの活用	
第7回	データの準備とデータのタイプ ネットでデータを探す，分析用データと分析結果データ，母集団と標本	
第8回	アンケートデータを要約しよう データの要約とは，Excelで要約，グラフでデータを視覚化する	
第9回	データを比較して仮説を考えよう(1) 質的データを比較する，仮説をもとう，ファインディングを伝える，仮説の検証	
第10回	データを比較して仮説を考えよう(2) 統計的仮説検定とは	
第11回	データを代表値で要約する 平均値を活用する，平均値の計算で分布も確認する，ヒストグラムを活用する	
第12回	量的変数をばらつきで要約する ばらつきを数値化する，売り上げデータを分析する，誤差を加味する	
第13回	平均と標準偏差を活用しよう 新しい変数を作る，異なる単位の変数を比較する，大きなずれに着目する，外れ値を活用する	
第14回	散布図を活用して関係性を分析する 人事評価データを分析する，散布図から似ている評価を特定する，相関分析を応用する	
第15回	データ分析を活用するために知っておきたいポイント データ分析結果を伝える，分析手法の全体像を知る，さらなる学習へ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準･その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予･復習の状況によって評価する。
課題	30	課題は毎回出される．課題の解説をしながら、進めていく。
定期試験	30	試験により指導内容に関する到達度を評価する.
レポート		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積み重ねが重要なので復習を十分行い，分からないところは放置しておかないようにする。
授業外学修	毎週４時間以上，予習・復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめて学ぶ 数理・データサイエンス・AI	富士通ラーニングメディア	富士通ラーニングメディア	978-4-86775-081-0	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．代表値の概念を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	２．２変数間の相関の意味を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	３．仮説検定の概念を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	１．回帰分析を適用する場面を判断できる	十分判断できる	かなり判断できる	平均的に判断できる	部分的に判断できる	判断が不十分である
思考・問題解決能力	２．量的変数のばらつきを数値化する場面を判断できる	十分判断できる	かなり判断できる	平均的に判断できる	部分的に判断できる	判断が不十分である
思考・問題解決能力	３．解決のためのプロセスが見通せる	十分見通せる	かなり見通せる	平均的に見通せる	部分的に見通せる	見通しが不十分である
技能	１．元データから代表値を計算することができる	十分計算できる	かなり計算できる	基本的な形で計算できる	補助があれば計算できる	計算できない
技能	２．元データからヒストグラムを作成することができる	十分作成できる	かなり作成できる	基本的な部分は作成できる	補助があれば作成できる	作成できない
技能	３．元データから散布図が作成できる	十分作成できる	かなり作成できる	基本的な形で作成できる	補助があれば作成できる	作成できない

科目名	英語A			授業番号	EA211A	サブタイトル	保育の英語		
教員	藤田　香織								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	グローバル人材を育成するため，多くの幼稚園・保育園で英語が導入されている。保育園での1年間を通して，使用される必要な語句・表現を説明する。実際に現場で役立つと思われる英語絵本・歌・ゲームなどの指導法も実習させる。								
到達目標	児童を支援できる人になれるよう，基礎的な語彙・文法事項を理解し，その知識を使って身の回りのことについて英語で説明でき，基礎的内容の会話を聞き取り理解できるようになることを目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ガイダンス 1 The School Year Begins グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。	
第2回	2 Arrival 3 Playtime in the Classroom グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第3回	4 In the Sandbox 5 In the Playground グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第4回	Grammar1 文法を学習し,パターンプラクティスを行う。	
第5回	6 Lunchtime 7 Changing Clothes and Story time グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第6回	8 Nap Time 9 Blowing Bubbles グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第7回	10 A Sick Child 11 Preparation for the Sports Day グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第8回	Grammar 2 文法を学習し,パターンプラクティスを行う。	
第9回	12 The Sports Day 13 Going for a Walk グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第10回	14 Discovering Autumn 15 Drawing & Letter Writing グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第11回	Grammar3 文法を学習し,パターンプラクティスを行う。	
第12回	16 Snow Diary 17 Leaving for Home グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第13回	18 School Diary 19 Bean-Throwing Day グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	

第14回	20 With Thanks for a Wonderful School Year グループで分担して単語調べ・本文を訳す。その後内容理解を確認し,その内容についてディスカッションを行う。そのテキストの英文を使って新しい英文を作成し,学生のモデル英文を紹介しより良い英文に作成し直す。その英文を発表練習する。	
第15回	Grammar4 文法を学習し,パターンプラクティスを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	20	課題のテーマであるお手紙・書類・張り紙づくりの提出・訳 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。
授業内文法テスト	20	文法の理解度を評価する。授業内容の理解度を評価する。
定期テスト	20	授業の扱った本文内容の理解を評価します。授業内の小テスト内容を中心に出題します。フィードバックは授業内の小テストで扱っております。
授業内小テスト	30	毎回授業の最初に小テストを行う。毎回の授業後の復習を行うこと。文法・表現・絵本の訳・幼稚園で使う言葉テストを理解し,覚え,使えることを評価する。小テスト後でフィードバックを行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。
授業外学修	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・保育の英語	森田和子	三修社	ISBN10-4384333994	2090円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	高校（6年），他大学講師（5年），他大学学習アドバイザー（2年）,専門学校学・日本語学校（2年），塾（6年），英会話講師（1年）オーストラリアでの留学生サポートのコーディネーター（1年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校，大学，専門学校学，日本語学校，塾，英会話オーストラリアでの留学生サポートのコーディネーターの現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験があります。学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。本文・単語の理解がよくできている。	英語の基礎的な文法に則って，一定分量の英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。	英語の基礎的な文法に則って，短い英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。	短い英文を読んだり，聞いたりしておおよその内容を理解することができる。	英語の基礎的な文法は理解しているものの，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することが困難である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することができない。
知識・理解	2.対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。	既習の英単語や英語表現を自由に用いて，相手と話したり，文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を応用して，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて，相手と対話を口頭で再現したり，書いたりすることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて，相手と音読対話練習することはできるが，十分に理解し応用することはできない。	テキストで用いられている英語表現を音読することが難しく，対話練習することも困難である。

科目名	英語B			授業番号	EA212	サブタイトル	(英語で楽しみながら学ぼう)		
教員	藤代 昇丈								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	英語の4技能の力を高めると同時に身近な話題についての英語を通して理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ，最終的には，社会的な話題について簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。								
到達目標	・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。 ・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。 ・英文で扱われている題材について知識を得ることができる。 ・英語の４技能を駆使して情報を収集し発信できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	Unit1 Goals in College Life 「充実した大学生活を送るには」という内容の英文を読み理解する。 語アクセントについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第2回	Unit2 Totoro Travels to Nepal 「ネパールでの国際交流の体験」という内容の英文を読み理解する。 文アクセントについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第3回	Unit3 Sightseeing in London 「国際観光都市ロンドン」という内容の英文を読み理解する。 聞こえなくなる音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第4回	Unit4 Sushi 「世界に誇る和食文化」という内容の英文を読み理解する。 聞こえなくなる音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第5回	Unit5 Fashion Trends 「ファッションを考える」という内容の英文を読み理解する。 弱形と強形について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第6回	Unit6 Shodo 「書道は昔の教養科目」という内容の英文を読み理解する。 音の同化について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第7回	Unit7 The Mississippi River 「アメリカ最長の河」という内容の英文を読み理解する。 無声化と有音化について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第8回	Unit8 Ocean Blue 「洞窟ダイビングの人気スポット」という内容の英文を読み理解する。 連結発音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第9回	Unit9 Studying Abroad及び到達度テスト 「留学する前に考えておくべきことは」という内容の英文を読み理解する。 音のリズムについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第10回	Unit10 The Northern Lights 「カナダのオーロラ観光」という内容の英文を読み理解する。 イントネーションについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第11回	Unit11 The Sound of the Saxophone 「サキソフォンの魅力的な音色」という内容の英文を読み理解する。 紛らわしい音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第12回	Unit12 Communication Tips 「良好な人間関係を築くには」という内容の英文を読み理解する。 半母音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第13回	Unit13 Seasonal Festivals(Sekku) 「9月9日は菊のお節句」という内容の英文を読み理解する。 英語らしい響き(日本語と英語の違い)について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第14回	Unit14 Electric Cars 「環境にやさしい車」という内容の英文を読み理解する。 数字の聞き取りについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第15回	Unit15 The Amazing Brain 及び到達度テスト 「驚異的な脳の働き」という内容の英文を読み理解する。 意味のまとまりで展開を予想して聞くについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	20	課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。
小テスト	40	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。

定期試験		
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。
授業外学修	1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。 2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので２時間以上復習しておくこと。 3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Amazing Visions of the Future -Aspects of Human Activity- 国際社会への英語の扉ーインプットからアウ トプットで学ぶ四技能ー	伊與田洋之，赤塚麻里，土井峻，梶浦眞由美，マリキ ットG.マナラング，室淳子	南雲堂	9784523178880	2,310

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	県情報教育センター(３年)・県総合教育センター(４年)・県立高等学校英語科教諭(17年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。	英語の基礎的な文法に則って，一定分量の英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで90%以上得点することができる。	英語の基礎的な文法に則って，短い英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで80%程度得点することができる。	短い英文を読んだり，聞いたりしておおよその内容を理解することができる。到達度テストで70%程度得点することができる。	英語の基礎的な文法は理解しているものの，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することが困難である。到達度テストで60%程度の得点である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することができない。到達度テストで50%未満の得点である。
知識・理解	2.よく使われる英語表現を実際に用いることができる。	既習の英単語や英語表現を自由に用いて，相手と話したり，文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を応用して，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて，相手と対話を口頭で再現したり，書いたりすることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて，相手と音読対話練習することはできるが，十分に理解し応用することはできない。	テキストで用いられている英語表現を音読することが難しく，対話練習することも困難である。
知識・理解	3.様々なテーマについて知識を得ることができる	テキストでテーマとなっている世の中の出来事について理解し，自ら調べ，英文で紹介したり，発表することができる。	テキストでテーマとなっている世の中の出来事について理解し，まとめることができる。	テキストでテーマとなっている世の中の出来事について，講義を通して関心をもって議論することができる。	テキストの英文の内容の理解にとどまり，テーマとなっている世の中の出来事について自ら知ろうとしない。	テキストの英文内容のみならず，テーマとなっている世の中の出来事について，全く関心を持たない。

科目名	保育者基礎演習			授業番号	EB101	サブタイトル			
教員	土田　豊、鳥越　亜矢、山本　房子、岡本　美幸、平尾　太亮、藤井　裕士、清水　憲志、荒谷　友里恵、福澤　惇也、武田　恵美								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	保育学科の実習（施設・保育所・幼稚園）では，乳幼児や障がい児（者）だけでなく教職員との人間関係が基礎となる。そこで，各実習に先駆けて，それらに共通する自己理解と他者理解・コミュニケーション技術・保育技術・保育現場の実際について，演習や見学などを通して体験的に学んでいく。10人程度を１グループとし，オムニバス形式で以下の内容を網羅する。								
到達目標	保育者としての心豊かな人間性や自主学習力，人間関係を築く上で必要なコミュニケーション力を身につけることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	本授業の目的や内容、約束事について学ぶ。 所属するグループを確認し、授業で使用するファイルを作成する。園見学の服装や態度、持ち物について理解する。	土`田 豊　鳥越 亜矢　山本 房子　岡本美幸　平尾 太亮　武田恵美　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也 武田　恵美
第2回	友達と一緒にふれあい遊びを体験する。 これから活動を共にするグループごとで学内をオリエンテーリング形式で回りながら、グループ内の親交を深める。	土`田 豊　鳥越 亜矢　山本 房子　岡本美幸　平尾 太亮　武田恵美　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也 武田　恵美
第3回	造形活動を通した仲間づくりを体験する。 グループ内のメンバー同士でお互いの顔を切り絵で表現する。	土`田 豊　鳥越 亜矢　山本 房子　岡本美幸　平尾 太亮　武田恵美　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也 武田　恵美
第4回	名札づくりを体験する。 ボランティアや実習等で使用する名札を手作りで製作する。	土`田 豊　鳥越 亜矢　山本 房子　岡本美幸　平尾 太亮　武田恵美　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也 武田　恵美
第5回	生活者としてのたしなみを学ぶ。 社会人としてのマナー、環境を清潔に保つ方法について学ぶ。	荒谷友里恵
第6回	「できる」保育者としての言語表現を学ぶ。 信頼される保育者にふさわしい言語表現の基本，挨拶，敬語の使い方など。	鳥越亜矢
第7回	ネイチャーゲームを体験する。 自然の中で子どもたちと楽しむことのできるゲームを体験する。	土`田豊
第8回	こども園で3歳以上児と触れ合う。 3歳以上児クラスの保育を観察したり、子どもと実際に関わったりする体験を通じて、保育や保育職の魅力に触れる。	福澤惇也
第9回	絵本のおもしろさを体験する。 色々な絵本を読み合う中で、子どもに読むための技法や保育者としての意図を体験しよう。	清水憲志
第10回	やさしい日本語を知ろる。 相手に伝わる言葉としての「やさしい日本語」を学びます。	山本房子
第11回	子どもの楽器の演奏方法を知り、アンサンブルを体験する。 保育・教育現場で用いられる楽器およびその演奏方法を知り、簡単な打楽器アンサンブルを行う。	武田恵美
第12回	施設の生活を知る。 施設の生活を理解し，支援方法を学ぶ。	平尾太亮
第13回	手話でコミュニケーションする。 ゲーム、歌などを通して手話の世界を体験する。	藤井裕士
第14回	こども園で3歳未満児の保育や子どもの生活を知る。 3歳未満児クラスの保育を観察したり子どもと実際に関わったりする体験を通じて、保育の魅力に触れる。	岡本美幸
第15回	これまでの学習から得たことを確認する。 保育者基礎演習を通して学んだことをグループメンバーと共有する。	土`田 豊　鳥越 亜矢　山本 房子　岡本美幸　平尾 太亮　武田恵美　藤井裕士　清水 憲志　荒谷友里恵　福澤 惇也 武田　恵美
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	意欲的な受講態度、討議への参加状況を評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	40	毎回，振り返りシートに学んだことをまとめて提出でき，15回目にすべてをファイルに綴じて提出できるかを評価する。振り返りシートについては，授業者が押印して返却する。課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	保育者（保育士・幼稚園教諭）を目指す者は，必ず受講すること。
授業外学修	以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校教諭（土田豊）10年　保育士（岡本美幸）15年　保育士（清水憲志）8年　幼稚園教諭（山本房子）19年　幼稚園教諭（福澤惇也）1年　医療型障害児入所施設職員（平尾太亮）3年　特別支援学校（藤井裕士）14年　看護師(荒谷友里恵）10年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	保育士や幼稚園教諭を目指す学生に各教員が勤務経験を元にした説明をし，学生生活をより有意義なものにするための心掛けと具体的な行動を指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	テーマの理解	グループ全員がテーマについて様々な視点から考察し、テーマの理解を深める意見を活発に交換することができる。	グループ全員がテーマについて考察し、テーマの理解を深める意見を活発に交換することができる。	グループ全員がテーマについて考察し、テーマの理解を深める意見を交換することができる。	グループ内でテーマについて考察し、テーマの理解につながる意見を交換することができる。	グループ内の多くがテーマについて考察できず、テーマの理解につながる意見を交換することができない。
思考・問題解決能力	課題の完成度	テーマに興味を持ち、問題点を調べ、一人一人が具体的な意見を出し合い、課題をまとめることができる。	テーマに興味を持ち、問題点を調べ、一人一人が意見を出し合い、課題をまとめることができる。	テーマに興味を持ち、問題点を調べ、意見を出して、課題をまとめることができる。	テーマに興味を持ち、問題点を調べ、意見を出して、課題をほぼまとめることができる。	テーマに興味を持てず、問題点を調べたり、意見を出したりして、課題をまとめることができない。
態度	1．グループ活動での行動	一人一人が責任をもって活動内容の理解に努めており、グループ内の他メンバーに対しても理解を深め、他者の発言や意見を十分受容して行動することができる。	一人一人が責任をもって活動内容の理解に努めており、グループ内の他メンバーに対しても理解を深め、他者の発言や意見を受容して行動することができる。	一人一人が活動内容の理解に努めており、グループ内の他メンバーに対しても理解を深めようとして、他者の発言や意見を受容して行動することができる。	多くのメンバーが活動内容の理解に努めようとしており、グループ内の他メンバーに対しても理解を深めようとして、他者の発言や意見を概ね受容して行動することができる。	多くのメンバーが活動内容の理解に努めようとしないうえ、グループ内の他メンバーに対しても理解を深めようとせず、他者の発言や意見を受容して行動することができない。
態度	2．課題への向き合い方	グループのメンバーそれぞれが互いの意見を尊重しあい、課題に前向きに取り組む。	グループのメンバーそれぞれが互いの意見を尊重しあい、課題に取り組む。	グループのメンバーそれぞれが互いの意見を聞き、課題に取り組む。	グループのメンバーの多くが互いの意見を聞き、課題に取り組む。	グループのメンバーが互いの意見を聞き、課題に取り組むことができない。

科目名	教育原理			授業番号	EC101	サブタイトル			
教員	藤井　裕士								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	教育の意義・目的及び子ども家庭福祉などとの関わり，教育の思想と歴史的変遷，教育の制度，教育実践の取組，生涯学習社会における教育の現状と課題についての基本的な考え方や内容について，映像教材等を交えながら講義する。								
到達目標	教育の意義・目的及び子ども家庭福祉などとの関わり，教育の思想と歴史的変遷，教育の制度，教育実践の取組，生涯学習社会における教育の現状と課題について理解を深めると共に，学修を通して自分なりの教育観をもつことができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育の意義・目的（1）「どんな先生になりたいか」という問いのもと,自身の教育観を言語化する。	
第2回	教育の意義目的（2） 教育の意義・目的について理解する。	
第3回	乳幼児期の保育の教育の特性乳幼児期の発達や，幼児教育で育む「資質・能力」について理解する。	
第4回	教育と子ども家庭福祉の関連性児童福祉法や子育て支援等について理解する。	
第5回	人間形成と家庭・地域社会家庭，地域社会の変化する現状について理解する。	
第6回	諸外国の教育思想フレーベルやペスタロッチ等の諸外国の教育思想について理解する。	
第7回	学校教育の意義①「学校は必要か」という問いのもと,学校教育の意義について検討する。	
第8回	諸外国の教育の歴史諸外国における公教育の歴史について理解する。	
第9回	日本の教育思想・歴史及び,海外の教育思想国内や海外の教育思想や歴史を理解する。	
第10回	さまざまな教育実践①フレーベル理論に基づく教育について理解する。	
第11回	さまざまな教育実践②モンテッソーリ理論に基づく教育について理解する。	
第12回	さまざまな教育実践③シュタイナー教育について理解する。	
第13回	教育の意義の再考①映像教材をもとに,教育の意義について考える。	
第14回	教育の意義の再考② 映像教材をもとに,教育の意義について考える。	
第15回	教育にまつわる諸制度 教育に関する制度,法律を理解する。生涯学習の概念やこれからの教育政策について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	意欲的な受講態度によって評価する。
振り返りシート	15	各回の主要なポイントの理解を，授業後に行う振り返りシートにより評価する。振り返りシートはチェックを行い，次回の授業で返却し,全体的な傾向についてコメントする。
定期試験	55	最終的な理解度を評価する。
その他	15	発表や演習に対する意欲・態度によって評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　事前・事後にテキストや参考文献を読むこと。 2　発表や討議に積極的に取り組むこと。 3　配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1　配布資料を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，資料を読み直す。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新基本保育シリーズ2　教育原理	矢藤誠慈郎，北野幸子	中央法規	978-4-8058-5782-3	

参考書：自由記載	授業の多くは,参考書の内容に触れている。必要な場合は,インターネットなどで個人で購入すること。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	特別支援学校教諭（14年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	特別支援学校での経験（14年）から教育思想,教育実践等について具体例を交えながら説明を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．教育の基本的な意義と目的について深い理解を持ち,具体的な例を用いて説明できる。	教育の意義と目的について深い理解を示し,多様な教育現場での適用例を豊富に提供できる。	基本的な意義と目的を正確に理解し,一般的な例を用いて説明できる。	教育の意義と目的の基本を理解しているが,具体例の提供には限界がある。	意義と目的の理解が不完全で,適用例の説明が不十分。	教育の意義と目的についての基本的な理解が欠けている。

科目名	保育原理			授業番号	EC102	サブタイトル			
教員	岡本　美幸								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	保育の意義及び目的について理解し，現在の保育実践がどのような子ども観や発達観，保育観を基礎として構築されてきたか，保育の思想や保育の歴史から解説する 保育所保育指針に書かれている内容を学び，理解を深めることを目指す。そのうえで，近年の保育制度や保育の動向にふれ，今後の保育のあり方を考察し，保育に対する関心を深めながら，自分なりの保育観をもてるようにする。								
到達目標	・保育の意義や 保育に関する法令及び制度を理解する。 ・保育所保育指針における保育の基本を踏まえ，保育目標や内容・方法を理解する。 ・保育の思想と歴史の変遷を理解し，これからの保育の現状や課題について理解する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げる学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育の理念と概念 「保育とは」を，保育の社会的意義や諸法令等からみて保育の原理を理解する。	
第2回	保育の基本 「保育」という営みの前提となる，子どもの最善の利益や発達観を理解する。	
第3回	保育における「子ども理解」 「こども」について考え，保育における「子ども観」や「子ども理解」について理解する。	
第4回	保育思想とその歴史的変遷(1) 諸外国における保育の思想や歴史から保育を理解する。	
第5回	保育思想とその歴史的変遷(2) 江戸から昭和期における日本の保育について理解する。	
第6回	保育所保育指針における養護 保育における養護と教育の意味，保育者に求められる専門性を理解する。	
第7回	保育所保育指針における保育の目標 指針や教育・保育要領を比較し，その変遷や保育の目標・目的・ねらいについて理解する。	
第8回	保育所保育指針における保育の方法と環境 環境を通して行う保育，生活や遊びを通して総合的な行う保育について理解する。	
第9回	保育実践の基本的構造(1) 0～2歳ころの子どもの姿と保育の内容について理解する。	
第10回	保育実践の基本的構造(2) 3～6歳ころの子どもの姿と保育の内容について理解する。	
第11回	保育の計画 計画（全体的な計画と指導計画）および，その実践・記録・評価・改善の過程の循環の重要性を理解する。	
第12回	さまざまな子育て支援 保護者に対する支援や地域社会との連携の必要性について理解する。	
第13回	多様な子どもの育ちを支える保育（個と集団への配慮） 健康および安全・食育・多様な子どもへの支援について理解する。	
第14回	保育者の専門性 倫理観に裏付けられた子どもと向き合う保育者の専門性，保護者への支援について理解する。	
第15回	日本の保育の現状と今日的課題及び総括 これまでの内容を総括した上で現状と課題を整理する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業への参加・貢献度，受講態度，授業の振り返りシート提出等を，総合的に評価する。
レポート	20	3回の課題レポートを行う。テーマに沿って、理解度を評価する。コメントをつけてそれぞれに返却する。
小テスト	20	「知識」・理解」「思考・問題解決能力」の理解を深めるために，ルーブリックを踏まえて2回の小テストを行う。返却時に授業内で復習を兼ねて解説する。
定期試験	50	授業全般の内容について，理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	※ 総合評価は，「定期試験」を受けることが前提条件であり，その上にその他の評価を加える。
受講の心得	保育における基本や歴史，現状と課題などに目を向け，一人一人のが子ども観や発達観，保育観を基礎を構築できるよう，積極的かつ自発的にしっかりと学ぶ姿勢で授業に取り組むこと。
授業外学修	・毎回，授業終了時に本授業における学びを確認するための，振り返りレポートを課す。 ・事前・事後学習として，テキストや配布資料の指定範囲を週あたり2時間以上の予習・復習すること。 ・課題提出は必ず行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新しい保育原理	広岡義之/熊田凡子	ミネルヴァ書房	978-4-623-09736-4	2，200円
使用テキスト：自由記載	『保育所保育指針解説』厚生労働省 (編集)，フレーベル館，2018.　320円 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 』内閣府 (著)，文部科学省 (著)，厚生労働省 (著)，フレーベル館，2018.　350円 『幼稚園教育要領解説』文部科学省 (著)，フレーベル館，2018．240円			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	その他，授業中に適宜資料を配付する。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立保育所における保育士の実務経験を有する。（15年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	公立保育所における保育士の経験（１５年）を活かして，具体的な事例を交えながら保育に対する関心を深め自分なりの保育観をもてるように，授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．指針や教育・保育要領等の諸法令に記述する内容の理解	保育の意義や 保育に関する法令及び制度を十分に理解している。	保育の意義や 保育に関する法令及び制度を理解している。	保育の意義や 保育に関する法令及び制度をおおむね理解している。	保育の意義や 保育に関する法令及び制度をあまり理解していない。	保育の意義や 保育に関する法令及び制度を，全く理解していない。
知識・理解	２．保育の歴史や人物についての理解	歴史上の人物や様々な保育の方法を十分に理解している。	歴史上の人物や様々な保育の方法を理解している。	歴史上の人物や様々な保育の方法をおおむね理解している。	歴史上の人物や様々な保育の方法をあまり理解していない。	歴史上の人物や様々な保育の方法を全く理解していない。
思考・問題解決能力	１．子ども一人一人の発達に応じた援助及び環境構成	子どもの発達を理解し，環境構成をしたり，適切な援助ができたりして主体的に保育ができる。	子どもの発達を理解し，環境構成をしたり，適切な援助ができたりして保育ができる。	子どもの発達を理解し，環境構成をしたり，適切な援助ができたりして保育がおおむねできる。	子どもの発達を理解し，環境構成や適切な援助などの保育があまりできない。	子どもの発達を理解し，環境構成や適切な援助などの保育が全くできない。
思考・問題解決能力	２．発達を理解し，子ども達の遊びの意味を読み取る	子どもの発達を理解し，子ども達の遊ぶ様子から必要な援助などがよく読み取れ，育ちにつなげられる。	子どもの発達を理解し，子ども達の遊ぶ様子から必要な援助などがよく読み取れる。	子どもの発達を理解し，子ども達の遊ぶ様子から必要な援助などが読み取れる。	子どもの発達を理解し，子ども達の遊ぶ様子から必要な援助などがあまり読み取れない。	子どもの発達を理解し，子ども達の遊ぶ様子から必要な援助などが全く読み取れない。
思考・問題解決能力	3．これからの保育の現状や課題	これからの保育の現状や課題を考え，問題解決に向けてた方法を考察し，理解を大変深めている。	これからの保育の現状や課題を考え，問題解決に向けてた方法を考察し，理解を深めている。	これからの保育の現状や課題を考え，問題解決に向けてた方法を考察し，理解をおおむね深めている。	これからの保育の現状や課題を考え，問題解決に向けてた方法を考察し，理解をあまり深めていない。	これからの保育の現状や課題を考え，問題解決に向けてた方法を，全く理解していない。

科目名	子ども家庭福祉			授業番号	EC201	サブタイトル	(子ども家庭福祉とは何かを明らかにする。)		
教員	松井　圭三								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義の目的は下記の通りである。 (1) 現代の日本社会における児童福祉問題を社会科学の視点より自ら考察できるようになること。 (2) 児童福祉に関する基礎的知識を習得すること。こうした基礎知識を活用し，児童福祉問題に関するレポートを作成できるようになること。 (3) 子ども家庭福祉の観点を学習すること。 (4) 児童福祉関連法を学習すること。								
到達目標	・児童福祉の実践能力を修得し，説明できる。 ・保育者として専門性を高めるための基本的知識を修得し，説明できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子ども家庭福祉の理念と概念のポイントを抑える。 子ども家庭福祉の理念、概念について学ぶ。	
第2回	子ども家庭福祉の歴史的変遷のポイントを抑える。 わが国の子ども家庭福祉の沿革について学習する。	
第3回	現代社会と子ども家庭福祉のポイントを抑える。 現代社会と子ども家庭福祉の現状と課題について学ぶ。	
第4回	子どもの人権擁護の歴史的変遷のポイントを抑える。 わが国の子どもの人権擁護の沿革について学ぶ。	
第5回	児童の権利に関する条約のポイントを抑える。 児童の権利に関する条約の概要について学ぶ。	
第6回	子どもの人権擁護と現代社会における課題のポイントを抑える。 わが国の人権擁護と現代社会の課題の現状について学ぶ。	
第7回	子ども家庭福祉の制度と法体系のポイントを抑える。 子ども家庭福祉に関係した法律、制度の概要について学ぶ。	
第8回	子ども家庭福祉の実施体系のポイントを抑える。 子ども家庭福祉の国、自治体の行政機関等について学ぶ。	
第9回	児童家庭福祉施設のポイントを抑える。 わが国の児童家庭福祉の施設の現状と課題について学ぶ。	
第10回	子ども家庭福祉の専門職のポイントを抑える。 子どもを取り巻く医療、保健、福祉の専門職の現状について学ぶ。	
第11回	少子化と地域子育て支援のポイントを抑える。 わが国の少子化と子育て支援の現状と課題について学ぶ。	
第12回	母子保健と子どもの健全育成のポイントを抑える。 母子保健と子ども健全育成とは何か、その現状と課題について学ぶ。	
第13回	子ども虐待・ＤＶとその防止のポイントを抑える。 DV、子ども虐待の現状と制度、課題等について学ぶ。	
第14回	障害のある子どもへの対応のポイントを抑える。 障害がある子どもの現状と制度、サービスについて学ぶ。	
第15回	貧困家庭，外国籍の子どもとその家族への対応，子ども家庭福祉の動向と課題のポイントを抑える。 子ども家庭福祉のの動向や展望、課題について学ぶ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度。発表，グループワークでの参加，予習，復習，課題提出によって評価する。
レポート	90	レポート課題に対し的確に解答しているかについて評価する。またレポートの内容を点検し、コメントを標記の上返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本授業は授業形式とグループ討議で進めていきます。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・他教科と連動して考える力，専門的知識の応用力が求められます。 ・自ら考える姿勢で授業に臨んでください。 ・レポートの提出期限を遵守する。
授業外学修	・予習として，教科書のうち，授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 ・復習として，課題のレポートを書く。 ・発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 大学設置基準では１単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本授業では，週4時間程度の授業外学習が必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子ども家庭福祉	小倉毅ほか	大学教育出版	978-4-86692-207-2	1800円
NIE子ども家庭福祉演習	今井慶宗ほか	大学教育出版社		2300円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義時に適宜紹介します。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	観音寺市シルバー人材センター3年，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司2年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	人権分野において実務経験を踏まえた授業を実践している。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子ども福祉制度を理解する。	子ども福祉制度をすべて理解できる。	子ども福祉制度を概ね理解できる。	子ども福祉制度を理解できる。	子ども福祉制度をほとんど理解できない。	子ども福祉制度を理解できない。
知識・理解	２．家庭福祉制度を理解する。	家庭福祉制度をすべて理解できる。	家庭福祉制度を概ね理解できる。	家庭福祉制度を理解できる。	家庭福祉制度をほとんど理解できない。	家庭福祉制度を理解できない。
思考・問題解決能力	１．子ども本位の支援について理解する。	子ども本位のすべてを理解できる。	子ども本位を概ね理解できる。	子ども本位を理解できる。	子ども本位をほとんど理解できない。	子ども本位を理解できない。

科目名	社会福祉			授業番号	EC202	サブタイトル	(広義の社会福祉の沿革、制度、サービスのポイントを抑える。)		
教員	松井　圭三								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	社会福祉に関する基礎知識を学ぶことが本講の目的である。特に，社会福祉の歴史・法律・組織・制度・施設・技術・資格・課題・展望等を学ぶことを主眼としている。また，社会福祉は生きたものであるので社会福祉の動向についてもふれていく。具体的には，ゴールドプラン・新ゴールドプラン・エンジェルプラン・障害者プラン等今日の社会福祉政策や介護保険について言及する。ゆえに，社会福祉の基礎知識を学習すると言っても，そのメニューはきわめて多いので予習して授業に臨んでいただければと思う。 最後に，社会福祉関係に従事しようとするものは専門知識だけでなく倫理や哲学といった人格や人間性も重要になってくる。本講ではそのような観点から現代の社会福祉問題を取り上げ，自分ならどう考えるか，どのようにして援助していくのかについても考察していく。								
到達目標	・現場で利用できる社会福祉の臨床能力を修得し，その概要が説明できる。 ・保育の専門性を高めるための社会福祉の専門的知識を修得し，その内容が説明できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	山陽新聞記者から4月，5月，6月，7月において各1回特別授業を受講する。「新聞とは何か」，「新聞記事の読む方」，「レポート，文章の書き方」，「プレゼンテーションの仕方」等について解説をする。また，新聞を3か月分使用し，社会福祉関係の記事のスクラップや要約，感想等を事前に準備し，授業でグループワークを行う予定である。								

回	概要	担当
第1回	現代社会と社会福祉のポイントを抑える。 わが国の少子高齢社会の現状と課題について学習する。	
第2回	社会福祉の歴史のポイントを抑える。 イギリスの社会福祉の沿革とわが国の社会福祉の沿革のポイントについて学習する。	
第3回	社会福祉のしくみを抑える。 国や自治体の行政機関、社会福祉施設等について学習する。	
第4回	社会福祉援助技術のポイントを抑える。 ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク等の社会福祉方法論について学ぶ。	
第5回	社会福祉に働く人々のポイントを抑える。 医療、保健、福祉の専門職の現状について学習する。	
第6回	生活保護のポイントを抑える。 「生活保護法」、「生活困窮者自立支援法」の概要について学ぶ。	
第7回	児童家庭福祉のポイントを抑える。 児童家庭福祉の現状、制度、課題について学ぶ。	
第8回	障害者保健福祉のポイントを抑える。 障害者保健福祉の制度、サービスについて学ぶ。	
第9回	高齢者保健福祉のポイントを抑える。 高齢者保健福祉サービスの制度について学ぶ。	
第10回	母子保健福祉のポイントを抑える。 母子保健福祉サービスの制度について学ぶ。	
第11回	地域福祉のポイントを抑える。 地域福祉とは何か、その現状と課題について学ぶ。	
第12回	医療保健福祉のポイントを抑える。 医療保健福祉とは何か、その現状と課題について学ぶ。	
第13回	国際福祉のポイントを抑える。 国際福祉とは何か、その現状と課題について学ぶ。	
第14回	これからの社会福祉のポイントを抑える。 今後の社会福祉の動向や今後の展望について学ぶ。	
第15回	まとめ、社会福祉全体のポイントを抑える。 社会福祉全体を概観し、これまでの学習を総括する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予習，復習，課題提出によって評価する。
レポート	90	レポート課題に的確に解答しているかどうかを評価する。またレポートの内容を点検し、コメントを標記の上返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本授業は講義形式とグループワーク討議を行います。 ・予習と授業中の積極的な参加を期待します。 ・他教科と連動して考える力，専門的知識が求められます。 ・自ら考える姿勢で授業に参加してください。 ・レポートの提出期限を遵守する。 ・社会福祉の基礎知識を学習するといっても，そのメニューは極めて多いので予習して授業を受けること。
授業外学修	・予習として，教科書のうち，授業内容に関する章節を読み，課題点を明らかにする。 ・復習として，課題のレポートを書く。 ・発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本授業では，週4時間程度の授業外学習が必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新聞教材費				6400円

使用テキスト：自由記載	新聞を教材に使用します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業において，随時紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	観音寺市シルバー人材センター3年，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司2年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高齢者福祉，障害者福祉において実務経験を踏まえた授業を実践している。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．社会福祉制度を理解する。	社会福祉制度をすべて理解できる。	社会福祉制度を概ね理解できる。	社会福祉制度を理解できる。	社会福祉制度をほとんど理解できない。	社会福祉制度を理解できない。

科目名	子ども家庭支援論			授業番号	EC203	サブタイトル	子ども家庭支援とは何かを明らかにし、ポイントについて学習する。		
教員	松井　圭三								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	家族，家庭の概念と子育て支援や関係機関，専門職の連携を学習する。また専門職倫理をもとに事例研究を行い，保育現場において必要な社会資源，制度，法律，サービス等の知識を習得する。								
到達目標	１．子育て家庭に対する支援の意義・目的を理解し，説明できる。２．保育の専門性を活かした子ども家庭支援の意義と基本について理解し，説明できる。 ３．子育て家庭に対する支援の体制について理解し，説明できる。４．子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と子ども家庭支援の現状，課題について理解し，説明できる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	家族の意義と役割について 家族の機能や課題について学ぶ。	
第2回	家庭支援の必要性について 家庭支援の制度やサービス、事例について学ぶ。	
第3回	現代の家庭における人間関係について 親子関係、兄弟、姉妹関係の現状と課題について学ぶ。	
第4回	地域社会の変容と家庭支援について 地域社会の機能と扶養能力の弱体化及びこれからの地域福祉のあり方について学ぶ。	
第5回	保育と相談援助について 保育所の子育て支援の制度や現状、課題について学ぶ。	
第6回	男女共同参画社会とワークライフバランスについて 今日のジェンダーの現状及び男女共同参画基本の理念、仕事と子育ての調和の現状について学ぶ。	
第7回	子育て家庭の福祉を図るための社会資源について 子育て家庭を支援する公的な制度、サービス、またNPO等の民間のサービスについて学ぶ。	
第8回	子育て支援施策について 子育て支援における具体的な事例について学ぶ。	
第9回	保育所入所児童の家庭への支援について 2025年から施行した「子ども子育て新制度」の概要について学ぶ。	
第10回	地域の子育て家庭への支援について ここでは、地域の子育て家庭支援の探求学習を行い、その後グループワークを実施する。	
第11回	子育て支援における関係機との連携について 子育て支援における福祉、医療、保健、教育等の連絡調整等の現状と課題について学ぶ。	
第12回	要保護児童および家庭に対する支援について 社会的養護の施設養護、家庭養護の現状と課題について学ぶ。	
第13回	多様な家族形態と子どもたちの育ちについて 家族形態の現状と子どもたちの生活等の現状と課題について学ぶ。	
第14回	結婚，家族の事例研究 このテーマについて探求学習を行い、グループワークを実施する。	
第15回	保育士による子ども家庭支援の意義と基本について 保育士の家庭支援の事例について学び、グループワークを実施する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予習，復習、課題提出によって評価する。
レポート	90	レポート課題に的確に解答しているかについて評価する。またレポートの内容を点検し、コメントを標記の上返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本授業は授業形式とグループ討議で進めていきます。 ・予習と授業中の積極的な発言を求めます。 ・他教科と連動して考える力，専門的知識が求められます。 ・自ら考える姿勢で授業に臨んでください。 ・レポート提出期限を遵守する。
授業外学修	・予習として，教科書のうち，授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 ・復習として，課題のレポートを書く。 ・発展学習として，授業で紹介された参考文献を読む。 大学設置基準では1単位の修得に必要な学習時間は45時間と定められている。 本授業では，週1時間程度の授業外学習が必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
NIE家庭支援演習	松井圭三他	大学教育出版	978-4-86429-501-7	2700円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
家庭支援論	松井圭三	大学教育出版		1800円

参考書：自由記載	必要に応じて紹介します。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育の専門性を生かした子ども家庭支援の意義と基本を理解できる。	子ども家庭支援の意義をすべてを理解できる。	子ども家庭支援の意義を概ね理解できる。	子ども家庭支援の意義を理解できる。	子ども家庭支援の意義をほとんど理解できない。	子ども家庭支援の意義を理解できない。
知識・理解	２．子ども家庭に対する支援の体制について理解できる。	子ども支援の体制をすべて理解できる。	子ども支援の体制を概ね理解できる。	子ども支援の体制を理解できる。	子ども支援の体制をほとんど理解できない。	子ども支援の体制を理解できない。
思考・問題解決能力	１．子育て家庭の現状と課題を理解できる。	子育て家庭の現状と課題をすべて理解できる。	子育て家庭の現状と課題を概ね理解できる。	子育て家庭の現状と課題を理解できる。	子育て家庭の現状と課題をほとんど理解できない。	子育て家庭の現状と課題を理解できない。

科目名	社会的養護Ⅰ			授業番号	EC204	サブタイトル	(社会的養護とは何かについて明らかにする。)		
教員	松井　圭三								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	社会的養護の意義と歴史的変遷，児童福祉や児童の権利擁護，社会的養護の制度や実施体系，児童の人権擁護及び自立支援等の現状と課題について学ぶ。								
到達目標	・社会的養護の歴史的変遷と現状の課題についての知識を獲得し，その内容が説明できる。 ・現代社会における社会的養護の果たす役割についての知識を獲得し，その内容が説明できる。 ・社会的養護の制度や実施体系についての知識を獲得し，その内容が説明できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	社会的養護の理念と概念のポイントを抑える。 社会的養護の理念、概念について概観する。	
第2回	社会的養護の歴史的変遷のポイントを抑える。 わが国の社会的養護の沿革について学ぶ。	
第3回	児童家庭福祉の一分野としての社会的養護のポイントを抑える。 児童家庭福祉と社会的養護の関係について学ぶ。	
第4回	児童の権利擁護と社会的養護のポイントを抑える。 児童の権利擁護について概観する。	
第5回	社会的養護の制度と法体系のポイントを抑える。 社会的養護に関係した法律、制度等について学ぶ。	
第6回	社会的養護の仕組みと実施体系のポイントを抑える。 社会的養護における関係機関、児童福祉施設、サービス等について学ぶ。	
第7回	家庭養護と施設養護のポイントを抑える。 里親、特別養子縁組、乳児院、児童養護施設の概要について学ぶ。	
第8回	社会的養護における保育士等の倫理と責務のポイントを抑える。 社会的養護における保育士の役割について概観する。	
第9回	家庭養護と施設養護の基本原理のポイントを抑える。 家庭養護と施設養護の基本原理を概観する。	
第10回	家庭養護と施設養護の実際のポイントを抑える。 家庭養護、施設養護の事例について学ぶ。	
第11回	施設養護とソーシャルワークのポイントを抑える。 施設養護とソーシャルワークについて概観する。	
第12回	施設等の運営管理の現状と課題のポイントを抑える。 施設等の運営管理について概観する。	
第13回	倫理の確立のポイントを抑える。 福祉職の倫理、道徳について学ぶ。	
第14回	被措置児童等の虐待防止の現状と課題のポイントを抑える。 虐待を受けた子供たちの現状と課題について学ぶ。	
第15回	社会的養護と地域福祉の現状と課題のポイントを抑える。 社会的養護と地域福祉の現状と課題について概観する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。
レポート	90	レポートの課題に的確に解答しているかについて評価委する。またレポートの内容を点検し、コメントを標記の上返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。
授業外学修	１．授業内で学修した，社会的養護に関わる諸知識を復習すること。 ２．教科書のうち，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
NIE社会的養護演習I，II	松井圭三他	大学教育出版	978-48669-21266	2200円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育福祉小六法	保育福祉小六法編集委員会	みらい	978-4-86015-473-8	1700円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	観音寺市シルバー人材センター職員2年，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司3年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	子どもや障害児の人権分野において実務経験を踏まえた授業を実践している。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．社会的養護の歴史的変遷について理解する。	社会的養護の歴史的変遷をすべてを理解できる。	社会的養護の歴史的変遷を概ね理解できる。	社会的養護の歴史的変遷を理解できる。	社会的養護の歴史的変遷をほとんど理解できない。	社会的養護の歴史的変遷を理解できない。
知識・理解	２．社会的養護の役割について理解する。	社会的養護の役割をすべて理解できる。	社会的養護の役割を概ね理解できる。	社会的養護の役割を理解できる。	社会的養護の役割をほとんど理解できない。	社会的養護の役割を理解できない。
思考・問題解決能力	１．社会的養護の現状と課題を理解できる。	社会的養護の現状と課題をすべて理解できる。	社会的養護の現状と課題を概ね理解できる。	社会的養護の現状と課題を理解できる。	社会的養護の現状と課題をほとんど理解できない。	社会的養護の現状と課題を理解できない。

科目名	保育者論			授業番号	EC205	サブタイトル			
教員	山本　房子								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	人格形成の基礎を培う乳幼児期に関わる保育者の果たす役割は大きく，保育者の人間性や専門性の向上が求められる。そうした今日求められている保育者の役割や資質能力について学ぶとともに，学生が自らの課題を認識したうえで，保育者としての意欲や自覚を高めることを目標に講義する。								
到達目標	・保育者に求められる役割や資質能力を理解できる。 ・保育者の人間性や専門性について考察し，理解できる。 ・保育者の連携・協働の必要性について理解できる。 ・保育者の資質向上とキャリア形成について理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育者とは 保育者とはどのような人なのか，自身の目指す保育者，高めたい資質や能力について考える	
第2回	保育者になるための免許・資格について法律や法令をもとに学ぶ	
第3回	保育者の専門職倫理と職業倫理について 適切・不適切な保育について考える	
第4回	保育者の専門性について 保育士・幼稚園教諭・保育教諭の資質能力について考える	
第5回	保育者の役割① 子どもの遊びにおける保育者の果たす役割について理解する	
第6回	保育者の役割② 環境を通した保育における保育者の果たす役割について理解する	
第7回	保育者の子どもの発達を捉える視点 保育者の子どもを見る視点について，事例を通して学ぶとともに，自身の子どもを見る視点を意識する。	
第8回	保育及び保育者の質の向上について、事例をもとに考える ＮＣＴ（ノンコンタクトタイム）について理解する	
第9回	保育を担う組織づくり 保育実践における協働について，事例やＤＶＤ資料をもとに考える	
第10回	成長する保育者と同僚性について，同僚性の意味や重要性について学ぶ	
第11回	家庭や地域と連携･支援する保育者の役割について学ぶ	
第12回	保育者のキャリアとは 保育者のキャリア形成及び段階について理解するとともに，自身の保育者としてのキャリアプランについて考える	
第13回	現代の子どもたちの様子とその背景にある多様な要因について学ぶ	
第14回	保育者の歴史や諸外国の保育や幼児教育について学ぶ	
第15回	これからの保育者に求められること これまでの学修をふまえて，今後社会から求められる保育者像，自身が目指す保育者像について考える	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業における発表・討議への参加態度や課題の取り組み意欲，予･復習の状況によって評価する。
レポート	30	課題に対し，授業の要点を押さえたうえで，自分の考えを分かりやすく記入できていること。レポートはコメント等を記入して返却する。
定期試験	50	到達目標に示している内容に関する試験を行い，理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	保育者を志す学生として自覚をもって授業に取り組むこと。
授業外学修	・予習として，授業にかかわる視点について教科書の指定された部分を読み，疑問点を明らかにする。 ・復習として，授業を振り返り，ノートの記入，配布物資料の整理をする。 ・発展学修として，授業で紹介された参考文献や資料を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新しい時代の保育者論	須藤　麻紀	教育情報出版		税込み2000円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ノンコンタクトタイムの導入に先駆けて	福澤　惇也	ななみ書房	978-4-910973-06-7	税込み1200円
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（18年)としての実務経験を有する。			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭として実務経験（18年）・幼児教育アドバイザーとしての経験（１年）をもつ教員が，保育現場の実際をふまえた授業を行う。			

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育者の役割に関する理解	保育者像や教師観の変遷を深く理解した上で,今日の保育者に求められる役割について具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者像や教師観の変遷を踏まえた上で,今日の保育者に求められる役割について具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者像や教師観の変遷を踏まえた上で,今日の保育者に求められる役割について具体的に説明することができる。	今日の保育者に求められる役割について具体的に説明することができる。	今日の保育者に求められる役割について具体的に説明することができにくい。
知識・理解	２．保育者の資質能力・専門性に関する理解	今日の保育者に求められる資質能力・専門性について深く理解した上で,自身の課題と照らし合わせながら具体的かつ建設的に説明することができる。	今日の保育者に求められる資質能力・専門性について理解した上で,自身の課題と照らし合わせながら具体的かつ建設的に説明することができる。	今日の保育者に求められる資質能力・専門性について理解した上で,自身の課題と照らし合わせながら具体的に説明することができる。	今日の保育者に求められる資質能力・専門性について理解した上で,具体的に説明することができる。	今日の保育者に求められる資質能力・専門性についての理解が不十分で,説明もできにくい。
知識・理解	３．保育者の連携や協働の理解	保育者の連携や協働の重要性について深く理解し,課題等も明らかにした上で,具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者の連携や協働の重要性について理解し,課題等も明らかにした上で,具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者の連携や協働の重要性について理解した上で,具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者の連携や協働の重要性について理解した上で,具体的に説明することができる。	保育者の連携や協働の重要性についての理解が不十分で,具体的に説明することができにくい。
知識・理解	４．保育者の資質向上やキャリア形成に関する理解	保育者の資質向上やキャリア形成の必要性について深く理解し,自身の資質向上やキャリア形成を想定した上で,具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者の資質向上やキャリア形成の必要性について理解し,自身の資質向上やキャリア形成を想定した上で,具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者の資質向上やキャリア形成の必要性について理解し,具体的かつ建設的に説明することができる。	保育者の資質向上やキャリア形成の必要性について理解し,具体的に説明することができる。	保育者の資質向上やキャリア形成の必要性についての理解が不十分で,具体的に説明することができにくい。
思考・問題解決能力	１．課題発見能力	保育者の質向上や質の高い保育に向けて,その課題及び課題解決の手立てについて明らかにするとともに,授業で得た情報をもとに自主的に探求することができる。	保育者の質向上や質の高い保育に向けて,その課題及び課題解決の手立てについて,授業で得た情報をもとに明らかにすることができる。	保育者の質向上や質の高い保育に向けて,その課題及び課題解決の手立てについて,授業で得た情報を整理して考えることができる。	保育者の質向上や質の高い保育に向けて,その課題及び課題解決の手立てについて,授業で得た情報を整理することができる。	保育者の質向上や質の高い保育に向けて,その課題及び課題解決の手立てについて,授業で得た情報を整理することができにくい。

科目名	教育心理学			授業番号	ED201	サブタイトル			
教員	平尾　太亮								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	教育心理学の基本的な概念や理論への理解を深めるとともに，保育や教育現場における指導や援助の実践に役立つ視点を習得させることを目的とする。								
到達目標	・教育心理学の基本的な概念や理論を知り，教育心理学についての知識を習得する。 ・心理学的な視点や考え方を，保育・教育の場面でいかせるようにする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育心理学とは？ 教育心理学の意義や目的について理解する。	
第2回	子どもの発達 ピアジェの発達理論等,発達に関する諸理論を参考に子どもの発達を理解することができる。	
第3回	大人の発達 ライフサイクル理論等，発達の諸理論を参考に大人の発達について理解することができる。	
第4回	学習とは？(1) 学習理論や動機づけについて理解することができる。	
第5回	学習とは？(2) 事例を通して、学習理論の実際について理解し自己効力感の効果や学習生無力感について考えることができる。	
第6回	頭が良いとは？ 知能について，知識獲得や理解の過程、問題解決など諸理論を参考に理解することができる。	
第7回	記憶力が良いとは？ 記憶の方法やワーキングメモリ等の記憶の種類、忘却など諸理論を参考に記憶について理解することができる。	
第8回	性格とは？(1) 性格について，諸理論を参考に理解することができる。	
第9回	性格とは？(2) 自分の性格について知り,自己理解とともに他者理解を深めることができるようになる。	
第10回	集団とは？ 集団の力について理解し、保育現場における集団の成立や相互作用、協働学習を通した集団づくりについて考えることができる。	
第11回	評価とアセスメント 評価とアセスメントについて，諸理論を参考に理解することができる。	
第12回	子どもの心の問題(1) 発達の課題や心身症など、子どもの発達を通してみられる心の問題について理解することができる。	
第13回	子どもの心の問題(2) 事例を通して、子どもの心の問題に理解を深めることができる。	
第14回	カウンセリングとは？ カウンセリング諸理論を通して、カウンセリングの実際に触れることができる。	
第15回	まとめ 授業全体を振り返り、教育心理学の基本的な概念や理論を知り，教育心理学についての知識の定着を図る。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。
レポート		
小テスト	25	Googleクラスルーム内で課題を実施し到達度を評価する（5%×5回）課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントする。
定期試験	55	全講義終了後，教育心理学における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	様々な気付きが得られるように，積極的な態度で授業に臨むこと。
授業外学修	1．授業内で学修した，教育心理学に関わる基礎理論を復習すること。 2．授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要であれば，その都度プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	スクールカウンセラー（13年），医療型障害児入所施設職員（3年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	スクールカウンセラー（13年）でのカウンセリング業務を通して，子どもの性格や特性，集団に対してのアセスメントの方法や，子どもの心の問題，カウンセリングについて実例を交えながら教示する。 施設職員の経験（3年）では，生涯発達やライフサイクル，特別支援といった成長・発達に関する知見を伝える。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.教育心理学に関する知識	教育心理学に関する具体的な知識を深く習得している。	教育心理学に関する具体的な知識を習得している。	教育心理学に関する知識を習得している。	教育心理学に関する知識の習得が不十分である。	教育心理学に関する知識が習得できていない。
思考・問題解決能力	1.課題への取り組み	課題の意図を理解し、教育心理学の知識を踏まえながら具体的に自分の意見を記述することができる。教育心理学の知識に即しながら、自分なりの新たな意見を記述することができる。	課題の意図を理解し、具体的に自分の意見を記述することができる。	課題の意図を理解し自分の意見を述べられるが、具体的に記述することができない。	課題の意図は理解できているが自分の意見は記述できない。もしくは課題の意図は理解できていないが、自分の意見は記述できる。	課題の意図が理解できていない。自分の意見が記述できてない。
思考・問題解決能力	2.グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を具体的に述べることができる。グループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を述べることができる。もしくはグループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて取り組むことができている。	グループ活動に参加しているが、消極的である。	グループ活動に参加していない。

科目名	子ども家庭支援の心理学			授業番号	ED202	サブタイトル			
教員	平尾　太亮								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	本授業では，生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し，初期経験の重要性と獲得すべき発達課題等について理解する。また，家族・家庭の意義や機能を理解するとともに，親子関係や家族関係等について発達的な視点から理解し，子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。併せて，子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題についても理解を深める。さらに，子どもの精神保健とその課題についても考察しながら，生育環境が子どもに与える影響についての理解を深める。								
到達目標	1.生涯発達に関する心理学の基礎知識を習得し，初期経験の重要性や発達過程等を理解できる。 2.親子関係や家族関係を発達的な視点で理解し，子どもとその家庭を包括的に捉える観点を習得できる。 3.子育て家庭をめぐる現代の社会的状況や，子どもの精神保健について学び，その課題を理解できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	生涯発達(1) 乳児期の発達 新生児期・乳児期／言葉の発達／アタッチメント	
第2回	生涯発達(2) 幼児期の発達 認知発達／言語発達／社会性の発達／自我の発達／初期経験の重要性／遊びの発達	
第3回	生涯発達(3) 学童期の発達 認知発達／社会性の発達／自己の発達／学童期の諸問題と教育支援	
第4回	生涯発達(4) 青年期の発達 身体の発達／認知発達／自己の発達／対人関係の変化／臨床的課題と支援	
第5回	生涯発達(5) 成人期・中年期の発達 職業キャリアの発達／結婚と子育て／中年期危機（自己・職業・家庭）	
第6回	生涯発達(6) 高齢期の発達 高齢期の心と体の発達／超高齢社会の高齢者／高齢者福祉（認知症対策）／支援・介護と世代間交流	
第7回	家族・家庭の理解(1) 意義の機能 家庭・親族・世帯とは／家族の定義・機能の変化／環境としての家庭／諸問題と支援	
第8回	家族・家庭の理解(2) 家族関係・親子関係の理解 家族のライフサイクル／家族・夫婦・親子の関係を理解する（ジェノグラム）／親子・家族支援	
第9回	家族・家庭の理解(3) 子育ての経験と親としての育ち 妊娠期間中の親／初めての子育てと親としての育ち／子育て支援と相談援助／諸問題と支援	
第10回	子育て家庭に関する現状と課題(1) 子育てを取り巻く社会的状況 晩婚化・非婚化／出産・子育てをめぐる社会的状況／要保護児童と家庭への支援	
第11回	子育て家庭に関する現状と課題(2) ライフコースと仕事・子育て 男女のライフコースの特徴／諸問題（性役割分業・男性の育児参加・ダブルケア）／親のライフコースにおける子育ての位置づけ	
第12回	子育て家庭に関する現状と課題(3) 多様な家庭とその理解 多様な家庭・家族について／子ども家庭を取り巻く様々な諸問題／多様な家族への支援	
第13回	子育て家庭に関する現状と課題(4) 特別な配慮を要する家庭 養育者のメンタルヘルス／子どもや家族の障害／不適切な養育・家族の機能不全／心理的な問題とケア	
第14回	子どもの精神保健と課題(1) 子どもの生活・生育環境とその影響 生育環境の諸問題／特殊な環境で育つ子どもへの支援・保護者サポート	
第15回	子どもの精神保健と課題(2) 子どもの心の健康にかかわる問題 心身の健康に関する諸問題／気になる子どもと発達障害	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，積極的なグループ討論と発表等によって評価する。
レポート	30	課題に対して適切な解答が得られていること。課題やレポートについては評価の後，返却する。
小テスト		
定期試験	50	課題を理解し，それについての見解が述べられていること。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業前後に教科書や配布資料を読み，理解を深めること。
授業外学修	下記の1～3の内容を，週あたり4時間以上学修すること。 1.復習として，教科書を参考に，授業配布プリントや自作ノートをまとめ，学んだことを整理する。 2.予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読んで問題点を明らかにする。 3.発展学習として，教科書の各章のSTEP3を読み，保育や子育てを取巻く現代の最先端の知識や課題を把握する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新基本保育シリーズ(9)子ども家庭支援の心理学	白川佳子・福丸由佳	中央法規	978-4-8058-5789-2	2，000（税別）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業中に適宜紹介する。
その他	授業で配布するレジュメ，資料等をファイルするホルダーを用意すること。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	児童福祉施設職員（3年） スクールカウンセラー（14年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	施設職員の経験（3年）を活かし，各障がいに対して具体的な事例を交えながら教示する。 カウンセリング経験（14年）から，様々な困難感を抱え，特別な支援を必要としている子どもや，特別な支援を必要をする子どもを持つ保護者の気持ちへの寄り添い方について，具体的な事例を通して考えることで，実践力を養う.

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．生涯発達に関する心理学の基礎知識の習得ができている。	生涯発達に関する心理学の基礎的知識の習得が90%以上できている。	生涯発達に関する心理学の基礎的知識の習得が80%程度できている。	生涯発達に関する心理学の基礎的知識の習得が70%程度できている。	生涯発達に関する心理学の基礎的知識の習得が60%程度できている。	生涯発達に関する心理学の基礎的知識の習得が60%未満である。
知識・理解	2．親子関係や家族関係を発達的な視点で理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点の習得ができている。	親子関係や家族関係を発達的な視点で理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点の習得が90%以上できている。	親子関係や家族関係を発達的な視点で理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点の習得が80%程度できている。	親子関係や家族関係を発達的な視点で理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点の習得が70%程度できている。	親子関係や家族関係を発達的な視点で理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点の習得が60%程度できている。	親子関係や家族関係を発達的な視点で理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点の習得が60%未満である。
知識・理解	3．子育て家庭をめぐる現代の社会的状況とその課題を理解できる。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況とその課題の理解が90%以上できている。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況とその課題の理解が80%程度できている。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況とその課題の理解が70%程度できている。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況とその課題の理解が60%程度できている。	子育て家庭をめぐる現代の社会的状況とその課題の理解が60%未満である。
知識・理解	4．子どもの精神保健の知識を習得し、その課題を理解できる。	子どもの精神保健やその課題の理解が90%以上できている。	子どもの精神保健やその課題の理解が80%程度できている。	子どもの精神保健やその課題の理解が70%程度できている。	子どもの精神保健やその課題の理解が60%程度できている。	子どもの精神保健やその課題の理解が60%未満である。
思考・問題解決能力	1．生涯発達の観点から成長過程を考えることができ、乳幼児期の初期経験の重要性に気づいたり、発達過程の諸問題を考える力がある。	生涯発達の観点から成長過程を考えることができ、乳幼児期の初期経験の重要性に気づいたり、発達過程の諸問題を考える力が90%以上ある。	生涯発達の観点から成長過程を考えることができ、乳幼児期の初期経験の重要性に気づいたり、発達過程の諸問題を考える力が80%程度ある。	生涯発達の観点から成長過程を考えることができ、乳幼児期の初期経験の重要性に気づいたり、発達過程の諸問題を考える力が70%程度ある。	生涯発達の観点から成長過程を考えることができ、乳幼児期の初期経験の重要性に気づいたり、発達過程の諸問題を考える力が60%程度ある。	生涯発達の観点から成長過程を考えることができ、乳幼児期の初期経験の重要性に気づいたり、発達過程の諸問題を考える力が80%未満である。
思考・問題解決能力	2．親子関係や家族関係を発達的な視点で捉えて考えることができる。	親子関係や家族関係を発達的な視点で考える力が90%以上ある。	親子関係や家族関係を発達的な視点で考える力が80%程度ある。	親子関係や家族関係を発達的な視点で考える力が70%程度ある。	親子関係や家族関係を発達的な視点で考える力が60%程度ある。	親子関係や家族関係を発達的な視点で考える力が60%未満である。
思考・問題解決能力	3．子育てをめぐる現代社会の状況を把握し、子育ての課題に対し保育者として何ができるかを考える力がある。	子育てをめぐる現代社会の状況を把握し、子育ての課題に対し保育者として何ができるかを考える力が90%以上ある。	子育てをめぐる現代社会の状況を把握し、子育ての課題に対し保育者として何ができるかを考える力が80%程度ある。	子育てをめぐる現代社会の状況を把握し、子育ての課題に対し保育者として何ができるかを考える力が70%程度ある。	子育てをめぐる現代社会の状況を把握し、子育ての課題に対し保育者として何ができるかを考える力が60%程度ある。	子育てをめぐる現代社会の状況を把握し、子育ての課題に対し保育者として何ができるかを考える力が60%未満である。
思考・問題解決能力	4．子どもの精神保健に関する問題に関して、支援を考える力がある。	子どもの精神保健に関する問題に関して、支援を考える力が90%以上ある。	子どもの精神保健に関する問題に関して、支援を考える力が80%以上ある。	子どもの精神保健に関する問題に関して、支援を考える力が70%以上ある。	子どもの精神保健に関する問題に関して、支援を考える力が60%以上ある。	子どもの精神保健に関する問題に関して、支援を考える力が60%未満である。

科目名	子どもの理解と援助 1クラス			授業番号	ED203A	サブタイトル			
教員	山本　房子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	保育における子どもの理解の意義と重要性を踏まえた上で，子どもを理解する視点や方法を知る。また，保育者（保育士や幼稚園教諭等）が，子ども理解に基づき具体的にどのような援助や環境構成等を行っているのか，その基本について学ぶ。								
到達目標	・保育における子ども理解の意義や重要性を理解できる。 ・子どもを理解するための基本的な考え方や具体的な方法について理解できる。 ・子ども理解を深めるための，保育者の姿勢や援助について理解できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子ども理解とは 保育における子ども理解の意義や目的について、これまでの経験をもとに考える	
第2回	保育者の姿勢や態度について 子どもを理解しようとする保育者の姿勢や態度について、これまでの経験をもとに考える	
第3回	子どもを理解するための視点「子どもの生活・遊び」 保育者は，子どもの生活や遊びをどのようにデザインし子どもを理解しようとしているのか，その実際についてＤＶＤ資料から学ぶ	
第4回	子どもを理解するための視点「集団の中での子ども」 保育者の集団へのかかわりと個へのかかわりについて，事例をもとに学ぶ	
第5回	子どもを理解するための視点「トラブル」 トラブル場面の事例をもとに，発達段階によるトラブルのちがいや保育者の対応方法について学ぶ	
第6回	子どもを理解するための視点「葛藤やつまずき」 葛藤場面の事例をもとに，子どもの内面や保育者の対応方法について学ぶ	
第7回	子どもを理解する方法「保育の環境の理解と構成」 事例をもとに，環境がもたらす子どもの言動及び育ちの違いについて学ぶ	
第8回	子どもを理解する方法「観察・記録・振り返りの実際」 保育における観察，記録，振り返りの重要性について理解するとともに，そのあり方について事例をもとに学ぶ	
第9回	保育における評価について 評価の種類やそれぞれの目的，意義について理解する	
第10回	保育カンファレンスについて 保育カンファレンスの実際をDVD資料で知るとともに、保育カンファレンスの在り方について考える	
第11回	子ども理解に基づく保育者の援助について 実習での経験をふまえた事例（エピソード）をもとに，様々な対応方法を考える	
第12回	小学校との連携・接続について 保育における子どもの学びと小学校以降の学びのちがいについて理解するとともに，連携・接続のありかたについて具体例をもとに考える	
第13回	子育て支援・家庭支援について 子どもを理解するための子育て支援や家庭支援，保護者へのかかわり方について，事例をもとに学ぶ	
第14回	特別な配慮を要する子どもへの理解と援助について 事例をもとに子どもを理解する視点や方法，専門機関との連携等について考える	
第15回	子ども理解とこれからの保育 子どもを理解するための保育者の専門性について考える	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	授業における発表・討議への参加態度や課題の取り組み意欲，予・復習の状況によって評価する。
レポート	20	子ども理解の必要性や重要性について，これまでの実習等の経験や講義の視点をふまえて具体的に論述できていること。レポートはコメント等を記入して返却する。
小テスト		
定期試験	50	到達目標に示している内容に関する試験を行い，理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子どもを理解するためには，自身のもつ子ども観や保育観を意識した上で，子どもの何を見つめ（視点），どのようにとらえ（考察），実践に生かしていくのかを多様な側面から考えていくことが求められる。 自分ならばどうするのかを考たり，自分の言葉で表現したりしながら、主体的に授業に参加すること。授業担当者の説明や講義資料だけでなく、他の学生の気付きや考えからも積極的に学びとってほしい。
授業外学修	1　予習として授業にかかわる視点について，実習での経験や配布資料等をもとに考え，疑問点を明らかにする。 2　復習としてノートの記入，配布資料の整理をする。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献や資料を読む。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	随時，資料を配布する

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼児理解に基づいた評価	文部科学省	チャイルド本社	978-4805402832	275円
ノンコンタクトタイムの導入に先駆けて	福澤惇也　山本房子　請川滋大	ななみ書房	978-4-910973-06-7	1200円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（18年）及び幼児教育アドバイザー（１年）としての実務経験を有する
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭として実務経験（18年）・幼児教育アドバイザーとしての経験（１年）をもつ教員が，保育現場の実際をふまえた授業を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．保育における子ども理解の意義	保育における子ども理解の意義について,自身の経験や知識,現代の保育の課題等も踏まえた上で具体的かつ論理的に述べることができる。	保育における子ども理解の意義について,自身の経験や知識を踏まえた上で具体的かつ論理的に述べることができる。	保育における子ども理解の意義について,自身の経験や知識を取り入れながら具体的に述べることができる。	保育における子ども理解の意義について述べることができる。	保育における子ども理解の意義について述べることができにくい。
知識・理解	2．子ども理解の基本	既存の知識や自身の実習等の経験を踏まえた上で,子どもを理解するための基本的な考え方について具体的に述べることができる。	自身の実習等の経験を踏まえた上で,子どもを理解するための基本的な考え方について具体的に述べることができる。	子どもを理解するための基本的な考え方について具体的に述べることができる。	子どもを理解するための基本的な考え方について述べることができる。	子どもを理解するための基本的な考えについて述べることができにくい。
知識・理解	3．保育者の姿勢や援助	既存の知識や自身の実習等の経験を踏まえた上で,子どもを理解するための保育者の姿勢や援助について具体的かつ建設的に述べることができる。	自身の実習等の経験を踏まえて,子どもを理解するための保育者の姿勢や援助について具体的かつ建設的に述べることができる。	子どもを理解するための保育者の姿勢や援助について具体的に述べることができる。	子どもを理解するための保育者の姿勢や援助について述べることができる。	子どもを理解するための保育者の姿勢や援助について述べることができにくい。
思考・問題解決能力	1．研究的態度	子どもを理解するための様々な視点や方法について,探究心をもって取り組み明らかにしようとする。	子どもを理解するための様々な視点や方法について,探究心をもって取り組むことができる。	子どもを理解するための様々な視点や方法について,問題意識をもって考えることができる。	担当教員の指示があれば,子どもを理解するための方法等について調べることができる。	担当教員の指示があっても,子どもを理解するための方法等について調べることができにくい。
技能	1．事例分析	事例をもとに,子どもや保育者の言動,場の状況等を読み取った上で,子どもの内面や保育者としての姿勢を多面的に考えることができる。	事例をもとに,子どもや保育者の言動,場の状況等を読み取った上で,子どもの内面や保育者としての姿勢を検討することができる。	事例の情報から,子どもや保育者の言動を読み取るとともに,子どもの内面や保育者のかかわりに気付くことができる。	事例の情報から,子どもの言動や保育者の関わりを読み取ることができる。	事例の情報から,子どもの言動や保育者の関わりを読み取ることができにくい。
技能	2．レポートの作成・提出	提出期限を守り,決められた様式に従い論理的なレポートを作成できる。	提出期限を守り,決められた様式に従ってレポートを作成できる。	提出期限を守り,決められた様式に従ってレポートを作成できているが,数箇所誤字脱字等が見られる。	レポートを作成し期限を守って提出しているが,誤字脱字が見られたり,決められた様式と異なった様式で作成している。	提出期限を守ることができない。決められた様式で作成できない。

科目名	子どもの保健			授業番号	ED204	サブタイトル			
教員	荒谷　友里恵								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子どもの心身の成長発達について学び，健康の保持増進のための保健活動について学ぶ。								
到達目標	１．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解して，それを論述できる。 ２．子どもの身体発育や生理機能・運動機能・精神機能の発達と保健について理解して，それを論述できる。 ３．小児期に起こりやすい病気と怪我について，予防法と適切な対応が理解して，それを論述できる。 本科目は，本学科ディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの心身の健康と保健の意義について学ぶ。	
第2回	子どもの保健の諸統計について学ぶ。	
第3回	子どもの心身の発達とその評価について学ぶ。	
第4回	子どもの生理機能の発達として呼吸，体温，循環について学ぶ。	
第5回	子どもの生理機能の発達として消化機能，排泄機能，睡眠について学ぶ。	
第6回	「早寝早起き朝ごはん」運動と子どもの睡眠について学ぶ。	
第7回	子どもの脳神経，運動機能の発達について学ぶ。	
第8回	子どもの感覚の発達とその評価について学ぶ。	
第9回	子どもの病気　先天異常，呼吸器疾患の予防，手当てについて学ぶ。	
第10回	子どもの病気　消化器，血液疾患の予防，手当てについて学ぶ。	
第11回	子どもの病気　泌尿器，皮膚疾患の予防，手当てについて学ぶ。	
第12回	子どもの保健と感染症ガイドライン，アレルギー性疾患への対応について学ぶ。	
第13回	子どもの体調不良等の健康観察と支援について学ぶ。	
第14回	子どもの支援，病棟保育士について学ぶ。DVDの視聴を行う。	
第15回	子どもの健康と安全管理の実施体制と保育者の役割について学ぶ。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	集中して授業に取り組み，授業内に提出する課題の記述内容が的確である。コメントを記入して、返却する。
レポート		
小テスト		
定期試験	80	到達目標1･2･3の理解度・定着度について評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	保育者を目指す学生として，まず自分の健康の保持増進に関心をもつこと 小児保健に関するニュースに関心をもつこと 保育所・幼稚園などでボランティア活動をおこない，子どもの理解に努めること
授業外学修	授業内容に関するテキスト内容を読んだり，それ以外の資料を調べてノート整理すること 小テストを行うので，復習を行うこと。小テストの実施については授業内で連絡する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの保健と安全演習ブック	松本峰雄	ミネルヴァ書房	978-4-623-08910-9	2,500円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	授業の進行度により、授業内容を変更することがある。

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師（10年）としての実務経験の中で小児病棟勤務の実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	小児病棟勤務での看護の経験から、保育の現場に必要な基礎的知識を教授する。また、子どもに起こりやすい症状とその対応について、具体的にわかりやすく教授する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保健活動に関する意義理解	保育者が担う役割としての保健活動の重要性について、統計的側面や活動の実際的側面について正しい知識をもち、現状の問題点と課題を具体的に整理して述べることができる。	保育者が担う役割としての保健活動の重要性について統計的側面や活動の実際的側面について正しい知識をもち、現状の問題点と課題を具体的に言える。	保育者が担う役割としての保健活動の重要性について統計的側面や活動の実際的側面について正しい知識をもち、現状の問題点と課題を部分的に言える。	保育者が担う役割としての保健活動の重要性について知識をもっているが、統計的側面や活動の実際的側面についての知識は十分ではない。	保育者が担う役割としての保健活動の重要性、統計的側面や活動の実際的側面についての知識が全くない。
知識・理解	２．子どもの発育に関する理解	各月齢・年齢の成長発達について、すべて正確な知識がある。	各月齢・年齢の成長発達について、正確な知識がある。	各月齢・年齢の成長発達について、ほぼ正確な知識がある。	各月齢・年齢の成長発達について、正確な知識がやや乏しい。	各月齢・年齢の成長発達について、正確な知識が全くない。
知識・理解	３．小児期に起こりやすい病気と怪我等に関する理解	小児期に起こりやすい病気と怪我について、すべて正確な知識がある。また、それらに関する予防法と適切な対応についてすべて正確な知識がある。	小児期に起こりやすい病気と怪我について、ほぼすべて正確な知識がある。また、それらに関する予防法と適切な対応について、ほぼすべて正確な知識がある。	小児期に起こりやすい病気と怪我について、半分程度は正確な知識がある。また、それらに関する予防法と適切な対応について半分程度は正確な知識がある。	小児期に起こりやすい病気と怪我について、正確な知識が乏しい。また、それらに関する予防法と適切な対応について半分程度は正確な知識が乏しい。	小児期に起こりやすい病気と怪我、予防法と対応についての正確な知識が全くない。
思考・問題解決能力	１．健康の保持増進に関する考察力	睡眠リズム表や排便チェック表を使った課題に積極的に取り組むことができる。自分の生活習慣や生活リズムを客観視したうえで、適確な考察をし、健康の保持増進のためにすべきことを考察できる。	睡眠リズム表や排便チェック表を使った課題に積極的に取り組むことができる。自分の生活習慣や生活リズムを客観視したうえで、自分なりに考察をし、健康の保持増進のためにすべきことを考察できる。	睡眠リズム表や排便チェック表を使った課題に取り組むことができる。自分の生活習慣や生活リズムを客観視したうえで、自分なりに考察をし、健康の保持増進のためにすべきことを考察できる。	睡眠リズム表や排便チェック表を使った課題への取り組みが消極的である。自分の生活習慣や生活リズムを客観視した考察が浅く、今後の改善点も考察が十分ではない。	睡眠リズム表や排便チェック表を使った課題への取り組みができていないか、不完全である。そのため、それを題材とした考察ができないか、不完全である。
技能	１．バイタルサイン測定方法の手技の取得	乳幼児のバイタルサイン測定の手順一つひとつの意味を十分理解したうえで、的確にに行うことができる。正常値と異常値を理解し、バイタルサインから児の状態を判断し次に必要な行動が何か説明できる。	乳幼児のバイタルサイン測定の手順一つひとつの意味を十分理解したうえで、的確に行うことができる。正常値と異常値を理解している。	乳幼児のバイタルサイン測定の手順一つひとつの意味を十分理解したうえで、的確に行うことができる。正常値、異常値は理解できているが、状態の把握のための観察項目が一部不十分である。	乳幼児のバイタルサイン測定のはひととおり行うが、手順一つひとつの意味を十分理解しておらず、手技が不十分である。正常値、異常値は理解できているが、状態の把握のための観察項目が不十分である。	乳幼児のバイタルサイン測定の手順一つひとつの意味を十分理解しておらず、手技が不十分である。正常値、異常値も理解でいていない。
態度	１．課題への取り組み	毎回意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を的確に述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。	ほぼ毎回意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。	意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、知識の定着が見られる。	テーマに沿った内容で意見・感想を述べることができる。また、やや知識の定着が見られる。	意欲的な態度が見られず、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができない。また、知識の定着も見られない。

科目名	子どもの食と栄養 A 1クラス			授業番号	ED205A	サブタイトル			
教員	児玉　彩、山﨑　真未								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子どもの栄養と食生活は、心身の発育・発達に影響を及ぼすだけでなく、生涯にわたる健康の基礎となる。本授業では、健康における食生活の意義や栄養に関する基本的知識を修得し、実際の保育・教育に役立つ食育の実践力を習得する。								
到達目標	・栄養の基本的な内容、子どもの発育・発達や健康に栄養摂取が大きく関連していることを理解する。 ・健康的な子どもの発育発達を促すための食の大切さ、食の面白さ、食べることの楽しさを説明できる。 ・バランスの良い食事内容を理解し、自身の食生活にも知識を取り入れ、保育者として就職後に幼児の保護者に説明・指導ができる。 なお、本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの健康と食生活の意義 「日本人の健康問題と食事の関連」「子どもの食生活の現状」について理解する。	児玉
第2回	栄養に関する基礎知識(1) 基礎的概念と栄養素（三大栄養素）の種類と役割を理解する。	山﨑
第3回	栄養に関する基礎知識(2) 栄養素（ビタミン・ミネラル）の種類と役割を理解する。	児玉
第4回	栄養に関する基礎知識(3) 栄養素の消化・吸収および、消化器系のはたらきを理解する。	山﨑
第5回	妊娠期と授乳期の食生活 妊娠期と授乳期の身体的変化と食生活について理解する。	児玉
第6回	乳児期の食生活(1) 授乳の意義、母乳栄養と人工栄養について理解する。	山﨑
第7回	乳児期の食生活(2) 離乳の定義、発達に応じた離乳食の進め方について理解する。	児玉
第8回	幼児期の発育・発達と食生活 幼児期の発育・発達に応じた食事（間食）について理解する。	山﨑
第9回	アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養 食物アレルギーの基礎知識、保育所での食物アレルギー対応を理解する。	児玉
第10回	学童期・思春期の発育・発達と食生活 学童期・思春期の栄養管理、食育の必要性について理解する。	山﨑
第11回	栄養に関する制度 食に関わる指針・方針、食育の基本について理解する。	児玉
第12回	生涯発達と食生活 各ライフステージにおける健康課題を理解し、予防のための食生活を理解する。	山﨑
第13回	食育の基本と内容 保育所保育指針、食育の実践について理解する。	山﨑
第14回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養 児童福祉施設における給食の提供にかかわる職種の役割と連携を理解する。	児玉
第15回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 体調不良、疾患をもつ子どもへの対応について理解する。	山﨑
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	20	集中して講義を聴き、授業終了時に当日の講義の要約および感想を、記述して提出を求めるコメントシートにより、評価をおこなう。 提出後、コメントを記入して返却する。
定期試験	80	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	集中して講義を聴き，受講内容をノートにまとめる。積極的に質問に答え，授業に参加する。
授業外学修	・事前に教科書の該当箇所を熟読しておくこと。 ・授業後に授業内容を整理・理解し、必要な部分を自分自身の食生活に活かす。 ・興味を持った内容をさらに自分で調べたり、疑問点は更に質問し、解決して理解を深める。 上記の内容を週当たり３時間以上学習すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの食と栄養第３版	太田百合子、堤ちはる	羊土社	978-4-7581-0911-6	2860円
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて、図書・資料を紹介する。
その他	
備考	
注意事項	１．到達目標の達成には教科書を用いて自学自習をする必要があるため、必ず用意すること。 ２．講義の進捗により、また実習室の使用状況等で計画に記載した組み合わせや順序を変更して行う場合がある。
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．栄養の基本的な内容を理解している。	学習した栄養に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学習した栄養に関する知識について、理解し述べることができる。	学習した栄養に関する知識について、ほぼ理解し述べることができる。	学習した栄養に関する知識について、自分の言葉では述べることができる。	学習した栄養に関する知識について、全く述べることができない。
知識・理解	２．健康的な小児の発育発達と栄養摂取の関係を理解している。	健康的な小児の発育発達と栄養摂取について、正確に理解し述べることができる。	健康的な小児の発育発達と栄養摂取について、理解し述べることができる。	健康的な小児の発育発達と栄養摂取について、ほぼ理解し述べることができる。	健康的な小児の発育発達と栄養摂取について、自分の言葉では表現できる。	健康的な小児の発育発達と栄養摂取について、全く表現できない。
知識・理解	３．小児期における食育の重要性を理解している。	小児期における食育の重要性について、正確に理解し述べることができる。	小児期における食育の重要性について、理解し述べることができる。	小児期における食育の重要性について、ほぼ理解し述べることが出来る。	小児期における食育の重要性について、自分の言葉では表現できる。	小児期における食育の重要性について、全く表現できない。
思考・問題解決能力	１．健康的な小児の食育発達を促すための食事・おやつについて考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について多角的に考察をして、数多くの適切な食事・おやつを考えて、伝えることができる。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、ある程度の適切な食事・おやつを考えて伝えることができる。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、いくつかの食事・おやつを考えることができる。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、適切とは言えないが、いくつかの食事を考えることができる。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、適切とは言えない食事・おやつしか考えることができない。
技能	1．バランスの良い食事について理解し、幼児の保護者に説明・指導ができる。	バランスの良い食事について理解し、自分自身が実践でき、幼児の保護者に説明・指導することができる。	バランスの良い食事について理解し、自分自身が実践でき、幼児の保護者に説明することができる。	バランスの良い食事について理解し、幼児の保護者に説明することができる。	バランスの良い食事について理解しているが、幼児の保護者に適切な説明・指導をすることはできない。	バランスの良い食事について理解していないため、幼児の保護者に適切な説明・指導をすることができない。
態度	１．講義を真面目に聴き、講義内容を理解している。	講義を真剣に聴いて講義内容を理解し、重要な内容はノートにまとめ、疑問点は口頭で質問解決している。また、授業終了時には適切なコメントシートを提出している。	講義を真面目に聴いて講義内容を理解し、講義内容に即した適切なコメントシートを提出している。疑問点はコメントシートで質問解決している。	講義を聞いていて講義内容を理解し、講義内容に即したコメントシートを提出している。	講義を聞いてはいるが、提出したコメントシートが講義内容を理解している内容ではない。	講義を聞かず、提出したコメントシートが講義内容を理解している内容で全くはない。

科目名	子どもの食と栄養Ｂ 1クラス			授業番号	ED206A	サブタイトル			
教員	児玉　彩、山﨑　真未								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子どもの発達段階に応じた適切な食事や栄養摂取の方法について学び、保育士としての実践的な対応方法を修得する。また、保育所での食事の在り方、食育について具体的な実践や事例に基づき検討する。								
到達目標	・子どもの栄養の特性、問題点、栄養管理について説明できる。 ・子どもの食生活の現状から課題を見出し、食育を実践するために必要な指導計画の考案および媒体を作成し、効果的に活用することができるようにする。 ・アレルギーや特別な配慮を要する子どもに対して、食事に関しての適切な対応ができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの健康と食生活の意義 成長曲線を用いて、栄養摂取の適正範囲や食生活の課題を抽出し、適切な食事計画を立案する。	児玉
第2回	食事バランスガイドの演習 食事バランスガイドを用いて、栄養バランスの取り方を理解する。	山﨑
第3回	栄養に関する基礎知識 子ども向けの簡単で栄養バランスの良い献立を立案する。	児玉
第4回	食育の実践(１) 保育現場での食育活動の導入方法について理解し、栄養素に関する具体的な食育プランを立案する。	児玉
第5回	妊娠期の食事作り 妊婦向けの栄養バランスを考慮した食事を調理し、妊娠期の栄養と食事について理解を深める。	児玉
第6回	乳児期の食生活(１)調乳 調乳法・授乳法について理解を深める。	山﨑
第7回	乳児期の食生活(２)離乳食 月齢に応じた離乳食の調理方法を習得する。	児玉
第8回	幼児期の発育・発達と食生活 子どもが喜んで食べる安全でバランスの良い弁当を考案し、栄養バランスの取り方、食の安全・衛生面について理解を深める。	山﨑
第9回	アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養 アレルギー除去メニューの調理を行い、調理時の衛生管理と安全対策について理解を深める。	児玉
第10回	学童期・思春期の発育・発達と食生活 子どもが不足しがちな栄養素を補うための簡単レシピの調理方法を習得し、栄養素を効率よく摂取できる調理方法を理解する。	山﨑
第11回	食育の実践(２) 班ごとに立案した食育プランを発表し、計画した食育活動の成果と課題をまとめる。	児玉
第12回	生涯発達と食生活 食育SATシステムを用いて栄養バランスチェックを行い、実際の食育活動における適切な評価方法について理解を深める。	山﨑・児玉
第13回	食育の基本と内容 子どもの食・健康課題の解決に向けた食育計画を立案し、考察する。	山﨑
第14回	家庭や児童福祉施設における食事と栄養 児童福祉施設における給食の提供について実践事例を調査し、多職種連携・衛生管理について考察する。	児玉
第15回	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 体調に配慮した食事の調理を通して、体調不良・疾患をもつ子どもへの対処法について理解を深める。	山﨑
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢、態度	40	調理実習やグループワークでの意欲的な実習態度とチームワークにより評価する。
レポート	60	課題を適切に作成し、考察していることなどを評価する。レポートについては、コメントを記入して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習形式ですすめるので，講師の指示に従い、積極的に参加すること。 調理実習の際は、ふさわしい身だしなみを忘れずに心掛けること。
授業外学修	実習内容を自宅にて再度調理し，料理技術の向上に努める。 以上の内容を，週当たり3時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの食と栄養第３版	太田百合子、堤ちはる	羊土社	978-4-7581-1380-9	2860
使用テキスト：自由記載	適宜、レシピ・資料を配布する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．小児期における食育の重要性を理解している。	小児期における食育の重要性について、完璧に述べることが出来る。	小児期における食育の重要性について、完璧ではないがほぼ理解し、述べることができる。	小児期における食育の重要性について、ほぼ述べることが出来る。	小児期における食育の重要性について、完璧ではないが、自分の言葉では表現できる。	小児期における育育の重要性について全く表現できてない。
思考・問題解決能力	１．健康的な小児の食育発達を促すための食事について考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、多角的に柔軟に考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、柔軟に考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、少しではあるが考えることが出来る。	健康的な小児の食育発達を促すための食事について、全く考えることが出来ない。
技能	１．子どもの食事を作る調理技術が身に付いている。	包丁で食材を適切に切り、適切な水・調味料を加えて、適切な火加減で、子どもが食べやすくおいしい料理を作ることが出来る。	包丁で食材を切り、適切な水・調味料を加えて、子どもが食べやすい料理を作ることが出来る。	包丁で食材を切り、適切な水・調味料を加えて、料理を作ることが出来る。	包丁で食材を切り、水・調味料を加えて、料理を作ることが出来る。	料理を作ることが出来ない。
態度	１．調理手順の説明・デモンストレーションを理解して、適切に調理することが出来る。	調理手順の説明・デモンストレーションを見聞きし、きちんと理解した上で、班のメンバーと協力してスムーズに適切に調理することが出来る。	調理手順の説明・デモンストレーションを見聞きし、理解して、班のメンバーと協力して調理することが出来る。	調理手順の説明・デモンストレーションを見聞きし、班のメンバーと調理することが出来る。	調理手順の説明・デモンストレーションを見聞きし、なんとか調理することが出来る。	調理手順の説明・デモンストレーションを見聞きせず、適切に調理することが出来ない。

科目名	教育相談			授業番号	ED207	サブタイトル			
教員	藤井　裕士								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	教育相談・カウンセリングの理論と方法，基本的な応答の仕方について講義や演習を行う。								
到達目標	子どもの発達への援助，保護者への子育て支援の重要さやカウンセリング・マインドの大切さを理解し，子どもや保護者に対する基本的な応答の仕方を身につけることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	教育相談とは 教育相談の全体像について理解する。	
第2回	カウンセリング・マインド カウンセリング・マインドについて演習を通して理解する。	
第3回	保育場面でのカウンセリング技法の活用（１） カウンセリングの基礎理論（受容,共感,自己一致,傾聴）を,演習を通して理解する。	
第4回	保育場面でのカウンセリング技法の活用（２） カウンセリングの基礎理論（受容,繰り返し,明確化,支持,質問）を,演習を通して理解する。	
第5回	保育場面でのカウンセリング技法の活用（３） カウンセリングの基礎理論を,演習（トーキングゲーム）を通して理解する。	
第6回	保育者の自己理解 文章完成法,HSPチェックリスト等を用いて自己理解を行う。	
第7回	保育者の自己理解（２） 陰性感情について知り,自身の陰性感情への対処法について考える。	
第8回	保育者のメンタルヘルス 保育者自身のメンタルヘルスについて理解し，ストレスの軽減方法を考える。	
第9回	基礎的対人関係（１） 子育て支援，トラブル解消策，保護者からの相談場面における「言葉の言い換え」について演習を通して理解する。	
第10回	基礎的対人関係（２） 他者と良好な人間関係を形成するための条件として,「他者の視点に立つ」ことを演習を通して理解する。	
第11回	保護者への対応（1） 個人情報保護や子育て支援,面談場面での保護者対応など,保護者への対応の基本事項について理解する。	
第12回	保護者への対応（２） 発達障害などの気になる子どもの保護者の対応について演習を通して理解する。	
第13回	保護者への対応（３） ギフティッドなどの気になる子どもの保護者の対応について演習を通して理解する。	
第14回	園・地域における専門家との連携による相談・支援 園・地域における専門家や社会資源について理解し，それらの連携や相談・支援について事例検討を通して理解を深める。	
第15回	問題状況への対処 これまでに学修した知識を使って,問題状況への対処方法について考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	演習への参加などを含めて,授業への意欲的な受講態度によって評価する。
意欲	15	振り返りシートへの記述状況から評価する。次回の授業の際に,全体の傾向についてコメントする。
最終試験	55	最終的な理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　事前・事後に参考文献等を読むこと。 2　発表や討議に積極的に取り組むこと。 3　配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，配布された資料を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，配布された資料を読み授業内容の理解を深める。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの理解と保育・教育相談	小田豊ほか	みらい		

参考書：自由記載	授業において随時紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	特別支援学校教諭（14年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	特別支援学校教諭（14年）の経験から,子どもや保護者に対する相談支援について具体例を交えながら解説する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	教育相談の目的,カウンセリングの基本理念や方法に関して理解できたか。	教育相談に関する理論,方法,実践例について豊富な知識を持ち,具体例を交えて深い理解を示せる。	基本的な理論や方法は理解しており,実践例を挙げて説明できるが,Aレベルほどの詳細さはない。	教育相談の基本的な理論や方法については理解しているが,具体例の使用が限定的。	基本的な理論や方法の理解に不備があり,実践例を適切に用いることができない。	教育相談の基本的な理論や方法についての理解が不足している。
技能	具体的な教育相談の事例を分析し,適切な対応策を立案できるか。	相談者のニーズを正確に理解し,効果的な支援計画を立案・実施できる。高度なコミュニケーション能力を示す。	相談者のニーズを理解し,適切な支援計画を立案・実施できるが,Aレベルほどの洞察力や創造性はない。	基本的な相談技能は持っているが,複雑なケースに対する対応には限界がある。	相談技能の基本は理解しているが,実践の際に不十分な面が見られる。	相談技能が不足しており,相談者のニーズに適切に対応できない。

科目名	子どもと防災 (全8回)			授業番号	ED301	サブタイトル			
教員	山本 房子								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業は，2021年度からの岡山市消防局と本学との協定事業による実践活動をもとに，以下の子どもと防災における知識及び能力の向上に向けて，防災の専門職員である消防局員と保育学科教員とが共同して実施する授業である。・ 防災に関する基本的な知識を身につけるとともに，災害時に求められる行動について学ぶ・ 岡山市消防局開発（一部保育学科考案）の防火カード等を活用し，防災や日常の危険から身を守る行動について子どもに指導する方法を学ぶ・ 家庭、保育所・幼稚園・こども園（職場），地域等の身近なコミュニティでの防災意識の向上の取り組について考える・ 災害が起こった際の避難の方法や乳幼児への救命措置等について学ぶ 履修人数は20名程度とする								
到達目標	防災について基礎的な知識を習得する。 防火カード等を用いた子どもへの防災教育について考え，実践することができる。 乳幼児への心肺蘇生法を習得する。 地域の防災に対する取り組みに関心をもち，学生自ら行動しようとする意欲や態度を育成する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	子どもと防災について 災害及び日常の危険について子ども（乳幼児）の視点から考える 幼児向け防災教育用カードゲーム「ぼうさいダック」を使って学ぶ	山本
第2回	防火教育について 防火カードを使用した子どもへの防災（防火）教育について，実践方法を学ぶ	山本，岡山市消防局
第3回	防災活動とは① 地域で行われている防災活動（避難所マップ、ハザードマップ）について学ぶ	山本，岡山市危機管理室
第4回	避難訓練について 保育所・幼稚園・こども園での避難訓練について，法的根拠，目的，実践方法を知る	山本，岡山市消防局
第5回	防災活動とは② 岡山市における防災活動について消防団の取り組みから学ぶとともに，自分のできる防災活動について考える	山本，岡山市消防局
第6回	乳幼児の命を守る 普通救命講習に参加し，知識，方法を学ぶ	山本，岡山市消防局
第7回	火災の現状と火災の予防対策について 火災の現状と火災の発生要因を理解し，火災予防について学ぶとともに，電気実習盤を使用した演習に参加する	山本，岡山市消防局
第8回	まとめ・振り返り普通救命講習（実技）に参加するとともに，乳幼児に対する心配蘇生法，けが等の応急手当の方法を知る今できる防災活動について具体的に考える	担当 山本，岡山市消防局
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，活動への参加の状況について，ルーブリックをもとに評価する。
レポート	50	毎回，授業に関するミニレポートを課す。授業内容をもとに，自己の考えを記述しているかどうかを各回担当の教員，消防局員とともに評価する。レポートはコメントをつけて返却する。
その他	20	岡山市消防局実施の防災活動，企画等への参加状況や参加態度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業及び消防局実施の活動に積極的，意欲的に参加すること。
授業外学修	１．防火カードなどの防災教育教材に関心をもち，その活用方法を考えるとともに，ボランティア活動や実習前体験学習などで実践できるようにすること。 ２．身近なコミュニティ（家庭、アルバイト先、地域等）で防災意識を高めるための活動について，調べたり考えたりすること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	参考資料「子どもと防災」岡山県作成
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（18年）を生かし，保育現場の実際を反映させた授業を行う。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭（18年）としての経験を生かすとともに，消防局等の職員と連携をとりながら，必要な知識・実践力が身につくように授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．防災についての基礎知識	学修した防災に関する基礎知識について,正確に理解し分かりやすく述べることができる。	学修した防災に関する基礎知識について,正確に理解し述べることができる。	学修した防災に関する基礎知識について,ほぼ理解し述べることができる。	学修した防災に関する基礎知識について,自分の言葉で表現することができる。	学修した防災に関する基礎知識について,全く表現することができない。
知識・理解	２．防災教育教材（防火カードなど）を用いた防災教育の方法	学修した防災教育教材を用いた防災教育の方法について,正確かつ複数の方法を理解している。	学修した防災教育教材を用いた防災教育の方法について,正確に理解している。	学修した防災教育教材を用いた防災教育の方法について,ほぼ理解している。	学修した防災教育教材を用いた防災教育の方法について知っている。	学修した防災教育教材を用いた防災教育の方法について関心がない。
知識・理解	３．普通救命講習の知識	学修した普通救命講習に関する知識について,正確に理解し分かりやすく述べることができる。	学修した普通救命講習に関する基礎知識について,正確に理解し述べることができる。	学修した普通救命講習に関する基礎知識について,ほぼ理解し述べることができる。	学修した普通救命講習に関する基礎知識について,自分の言葉で表現することができる。	学修した普通救命講習に関する基礎知識について,全く表現することができない。
思考・問題解決能力	１．課題への対処	子どもと防災に関する保育現場及び地域の課題を明らかにするとともに,具体的な改善策を他者と相談しながら見出し解決に導くことができる。	子どもと防災に関する保育現場及び地域の課題を明らかにするとともに,具体的な改善策を他者と相談しながら見出すことができる。	子どもと防災に関する保育現場及び地域の課題を明らかにするとともに,具体的な改善策を挙げることができる。	子どもと防災に関する保育現場及び地域の課題を知っているが,具体的な改善策を挙げることはできない。	子どもと防災に関する保育現場及び地域の課題が分からない。
態度	１．活動への参加状況	活動に積極的に参加したり,自分から質問を行ったりするとともに,適切なミニレポートを提出している。	活動に前向きに参加し,適切なミニレポートを提出している。	活動に参加し,活動内容に応じたミニレポートを提出している。	活動に参加し,ミニレポートを提出している。	活動に参加しない,ミニレポートを提出しないことがある。

科目名	教育・保育課程論			授業番号	EE201	サブタイトル			
教員	藤井　裕士								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	幼稚園における教育課程，保育所における全体計画の編成，実施，評価，改善のカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や内容，また教育課程や全体的な計画に基づく指導計画の作成，実施，評価，改善の基本的な考え方や内容等について講義と演習を行う。								
到達目標	幼稚園における教育課程，保育所における全体計画の編成，実施，評価，改善のカリキュラム・マネジメントの基本的な考え方や内容，また教育課程や全体的な計画に基づく指導計画の作成，実施，評価，改善の基本的な考え方や内容等を知り，指導計画等を自分なりに作成できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	めざす子ども像 理想のめざす子ども像を考え,意見交換を行う。	
第2回	めざす子ども像を共有する理由 めざす子ども像を保育者間で共有する理由について知る。 カリキュラムについて知る。	
第3回	園でのよりよい意思決定方法とは 園全体での意思決定の方法論について知る。投票や多数決,対話,トップダウン,ボトムアップなどのメリット,デメリットについて理解する。	
第4回	教育課程・全体的な計画について 教育課程や全体的な計画について理解する。	
第5回	教育課程・全体的な計画,指導計画を考える上で必要なこと 教育課程・全体的な計画,指導計画を考える上での留意事項を理解する。	
第6回	教育課程の編成から長期・短期の指導計画へ 教育課程の編成から長期指導計画,短期指導計画へのつながりを理解する。	
第7回	指導計画の実践 指導計画の実践と改善について理解する。	
第8回	保育実践に関するPDCA 自身の保育実践を振り返ると共に、実行可能な改善の計画を考える。	
第9回	カリキュラム・マネジメントの具体 附属こども園の事例を中心に、先行事例からカリキュラム・マネジメントの具体例について知る。	
第10回	教育課程・全体的な計画に関わる物的環境・人的環境の検討① マンダラートを活用して,理想のめざす子ども像を実現する,理想の園の条件を考える。	
第11回	教育課程・全体的な計画に関わる物的環境・人的環境の検討② 理想のめざす子ども像を実現する,理想の園の条件をまとめる。	
第12回	理想の園の指導計画の作成① めざす子ども像との関連に焦点化し，個人で指導計画（日案or部分指導案）のねらいや内容を設定する。	
第13回	理想の園の指導計画の作成② めざす子ども像との関連に焦点化し，個人で指導計画（日案or部分指導案）のねらいや内容を設定する。	
第14回	指導案の発表・意見交換 めざす子ども像と指導計画の関連性を示しながら，発表・意見交換を行う。	
第15回	まとめ 教育課程,全体的な計画の編成と実践・評価への一体的な取組について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢／態度	30	演習を含めた,意欲的な受講態度によって評価する。
中間レポート	20	自身の保育実践を振り返り、PDCAサイクルの観点からレポートを作成する。（課題提出後の授業で全体的な傾向についてフィードバックする）
最終レポート	50	提出された課題から，授業内容が理解できているか，自身の考えを表現できているかを評価する。（課題提出後の授業で全体的な傾向についてフィードバックする）

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　事前・事後に参考文献を読むこと。 2　課題について追究したことや自分の考えをまとめ，レポートを書くこと。 3　発表や討議に積極的に取り組むこと。 4　配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，配布された資料のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習として，配布された資料を読み授業内容の理解を深める。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	平成29年告示幼稚園教育要領，保育所保育指針，幼保連携型認定こども園教育・保育要領
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	特別支援学校教諭（14年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	特別支援学校幼稚部（10年）での経験を基に，具体的な事例なども踏まえながら解説を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．教育・保育課程を計画，実施,評価,改善する過程での基本的な考え方や手法を理解している。	教育・保育課程の基本理念,目的,内容について深い理解を示し,具体的な例を用いて複雑な概念を説明できる。	基本理念や目的は正確に理解しており,内容についても具体的な知識があるが,Aレベルほどの深い洞察は示せない。	基本的な理念,目的,内容の理解があり,簡単な説明ができるが,深い分析や批判的な考察には至らない。	理念や目的の理解に誤解が見られ,内容についての知識も表面的である。	教育・保育課程の基本理念や目的の理解が不足しており,重要な内容についての知識がほとんどない。
知識・理解	２．めざす子ども像の達成を意識した指導計画を作成することができる。	めざす子ども像に基づいた包括的かつ創造的な指導計画を作成。計画は具体的,実践的であり,多様な学習ニーズに応える。	めざす子ども像を適切に理解し,それに基づく実践的な指導計画を作成。しかし,Aレベルほどの詳細さや創造性はない。	めざす子ども像の達成に向けた指導計画を作成できるが,応用や多様性に欠ける場合がある。	指導計画には目標が含まれているが,計画の具体性や実践性に不足。めざす子ども像の達成に必要な要素が欠けている。	めざす子ども像に対する理解不足から,適切な指導計画を作成できない。計画には目標の達成に向けた具体的な方策が不足している。
思考・問題解決能力	１．与えられた目的や条件の下で,効果的な教育・保育計画を立案できる。	実践的な課題に対して独自の解決策を提案し,その実施計画を詳細に立案できる。批判的思考と創造性を見せる。	具体的な課題に対して適切な解決策を提案でき,その実施についても計画を立てることができるが,Aレベルのような独創性はやや欠ける。	一般的な問題解決のアプローチを理解しており,基本的な解決策を提案できるが,複雑な問題に対する深い洞察には至らない。	問題解決のアプローチが一部理解できているが,具体的な計画立案や実施の方法に誤りがある。	問題を認識することはできるが,効果的な解決策の提案や計画立案ができない。

科目名	保育内容総論 1クラス			授業番号	EE202A	サブタイトル			
教員	福澤　惇也								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	アクティブ・ラーニングや視聴覚教材を使った演習を行う。また，保育構想→具体的な指導案→模擬保育→振り返り→指導案の改善という一連の流れを経験することで目標が達成できるようにする。								
到達目標	幼稚園教育要領・保育所保育指針で述べられている，園全体を通して総合的に指導するという考え方を具体的に考えることができる。 教育・保育の環境を構成し実践するために必要な知識をまとめることができる。 以上のことを目的とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	養護と教育が一体的に展開する保育と遊びを通した指導について学ぶ。	
第2回	子どもの遊びを分析して，どのような経験しているのかを話し合う。	
第3回	教育・保育における環境を通した実践について学ぶ。	
第4回	環境構成を分析して，物的環境や人的環境との関わりについて話し合う。	
第5回	要領・指針における5領域のねらい及び内容のつながりについて学ぶ。	
第6回	子どもを取り巻く環境の変化と子どもの生活について学ぶ。	
第7回	支援を必要とする子ども理解とクラス運営について学ぶ。	
第8回	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながりについて学ぶ。	
第9回	活動を分析し，保育の多様な展開について具体的に学ぶ。	
第10回	教育・保育における教育課程・指導計画について学ぶ。	
第11回	教育・保育における長期指導計画・短期指導計画の特徴について学ぶ。	
第12回	運動会に向けての長期指導計画・短期指導計画について学ぶ。	
第13回	「初めてのお弁当日」をどのように指導するのかについて日案を作成する。	
第14回	模擬保育を目指して指導案を作成する。	
第15回	模擬保育をグループで実施する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的かつ主体的な受講態度，課題に対して協働する態度，講義内容に関する積極的な質疑によって評価する。
レポート	10	講義の最後に与えられた課題について， 様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については， 次回の講義冒頭で解説を加える。
小テスト		
定期試験	80	子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	テキストをよく読み，内容の把握に努めること。講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。 グループワークを中心とするので，積極的態度で受講すること。 講義を通して， 少しずつ自らが描く保育者像の輪郭が鮮明になるよう思考を巡らせること。
授業外学修	テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき，疑問点を明白にしておくこと。 講義後はテキストや配布された資料をよく読み，知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。 課題発表の資料を準備すること。 1週間あたり5時間を目安とする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4-577-81447-5	240円
保育所保育指針解説	厚生労働省	フレーベル館	978-4-577-81448-2	320円
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	内閣府・文部科学省・厚生労働省	フレーベル館	978-4-577-81449-9	350円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ノンコンタクトタイムの導入に先駆けて	福澤惇也・山本房子・請川滋大	ななみ書房	978-4-910973-06-7	1,320円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭の経験を生かし，現場の実際を反映させた授業を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼稚園教育要領および保育所保育指針に基づいて保育の内容を理解できている。	幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容に関して高度な知識を有し、保育の計画について具体的に考えることができる。	幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容に関して高度な知識を有し、保育の計画について考えることができる。	幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容に関して知識を有し、保育の計画について考えることができる。	幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容に関して知識を有してはいるが、保育の計画を考えるには至らない場合がある。	幼稚園教育要領や保育所保育指針の内容に関して知識を有してはいるが、保育の計画を考えるには至らない。
知識・理解	２．乳幼児の発達に即した保育内容の基本的な考え方を理解できている。	乳幼児の発達に関して高度な知識を有し、発達に即した保育計画について具体的に考えることができる。	乳幼児の発達に関して高度な知識を有し、発達に即した保育計画について考えることができる。	乳幼児の発達に関して知識を有し、発達に即した保育計画について考えることができる。	乳幼児の発達に関して知識を有してはいるが、発達に即した保育計画にまで考えが及ばない場合がある。	乳幼児の発達に関して知識を有してはいるが、発達に即した保育計画にまで考えが及ばない。
知識・理解	３．環境を通して行う保育の内容を理解できている。	環境を通して行う保育に関して高度な知識を有し、環境の構成について具体的に考えることができる。	環境を通して行う保育に関して高度な知識を有し、環境の構成について考えることができる。	環境を通して行う保育に関して知識を有し、環境の構成について考えることができる。	環境を通して行う保育に関して知識を有してはいるが、環境の構成にまで考えが及ばない場合がある。	環境を通して行う保育に関して知識を有してはいるが、環境の構成にまで考えが及ばない。
知識・理解	４．生活や遊びによる総合的な保育の内容を理解できている。	生活や遊びによる総合的な保育の内容に関して高度な知識を有し、保育の計画について具体的に考えることができる。	生活や遊びによる総合的な保育の内容に関して高度な知識を有し、保育の計画について考えることができる。	生活や遊びによる総合的な保育の内容に関して知識を有し、保育の計画について考えることができる。	生活や遊びによる総合的な保育の内容に関して知識を有してはいるが、保育の計画を考えるには至らない場合がある。	生活や遊びによる総合的な保育の内容に関して知識を有してはいるが、保育の計画を考えるには至らない。
知識・理解	５．家庭や地域等との連携をふまえた保育のあり方を理解できている。	家庭や地域等との連携に関して高度な知識を有し、家庭支援や地域連携の方法について具体的に考えることができる。	家庭や地域等との連携に関して高度な知識を有し、家庭支援や地域連携の方法について考えることができる。	家庭や地域等との連携に関して知識を有し、家庭支援や地域連携の方法について考えることができる。	家庭や地域等との連携に関して知識を有してはいるが、家庭支援や地域連携の方法にまで考えが及ばない場合がある。	家庭や地域等との連携に関して知識を有してはいるが、家庭支援や地域連携の方法にまで考えが及ばない。
知識・理解	６．小学校との連携や接続をふまえた保育のあり方を理解できている。	小学校との連携や接続に関して高度な知識を有し、子どもの就学を援助できる保育計画について具体的に考えることができる。	小学校との連携や接続に関して高度な知識を有し、子どもの就学を援助できる保育計画について考えることができる。	小学校との連携や接続に関して知識を有し、子どもの就学を援助できる保育計画について考えることができる。	小学校との連携や接続に関して知識を有してはいるが、子どもの就学を援助できる保育計画にまで考えが及ばない場合がある。	小学校との連携や接続に関して知識を有してはいるが、子どもの就学を援助できる保育計画にまで考えが及ばない。
思考・問題解決能力	１．適切な情報処理と知識の応用に基づく有機的な判断ができる。	保育内容に関する数多の情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解した上で、高度な知識を活用して具体的な保育計画を考えることができる。	保育内容に関する数多の情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解した上で、高度な知識を活用して保育計画を考えることができる。	保育内容に関する数多の情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解した上で、知識を活用して保育計画を考えることができる。	保育内容に関する情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解してはいるが、保育の計画を考えるには至らない場合がある。	保育内容に関する情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解してはいるが、保育の計画を考えるには至らない。

科目名	（保育内容）健康 1クラス			授業番号	EE203A	サブタイトル			
教員	土田　豊								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	乳幼児期の発育発達の過程や個人差に合わせた支援の必要性や，現代社会における子どものからだと心の育ちに関する問題点について学習し，乳幼児期における身体活動の重要性について理解する。								
到達目標	現代の子どもたちが抱えている健康に関わる諸問題を理解し，その解決に向けた保育者としての支援の技能や環境づくりを実践できるようになる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	領域「健康」とは 子どものからだと心の現状について様々なデータを見ながら，客観的かつ具体的に把握する。	
第2回	「幼児期における運動遊びの必要性」 なぜ，幼児期に体を動かすことが必要なのかについて理論的に理解する。	
第3回	「運動遊びと健康（1）」 集団遊びいろいろなジャンケン遊びを通して，子どもたちが体を動かしたくなる環境について理解する。	
第4回	「運動遊びと健康（2）」 身近にある材料である風船や新聞紙を使った遊びを通して，子どもたちが体を動かしたくなる環境について理解する。	
第5回	「運動遊びと健康（3）」 サーキット遊びを通して，子どもたちが様々な動きを獲得できる環境について理解する。	
第6回	「運動遊びと健康（4）」 リバーシーゲームの体験を通して，楽しく体を動かすことの大切さを理解する。	
第7回	「運動遊びと健康（5）」 ボールを使ったサーキット遊びを通して，物を操作する動きを獲得できる環境について理解する。	
第8回	「運動遊びと健康（6）」 伝承遊びの体験を通して，伝承遊びで高められる力について理解する。	
第9回	「運動遊びと健康（7）」 いろいろな玉入れ遊び体験を通して，遊びのバリエーションの広げ方について理解する。	
第10回	「運動遊びと健康（8）」 いろいろな陣取り遊び体験を通して，遊びのバリエーションの広げ方について理解する。	
第11回	「運動遊びと健康（9）」 リズムダンスや手遊びの体験を通して，楽しく体を動かしたくなる環境について理解する。	
第12回	「模擬保育　運動会の計画と準備」 保育の現場で行われる運動会をイメージしながら種目や内容，役割分担等について計画する。	
第13回	「模擬保育　運動会(1)」 自分たちが計画した運動会を実践し，振り返りを含めて今後に生かせるようにする。	
第14回	「模擬保育　運動会(2)」 自分たちが計画した運動会を実践し，振り返りを含めて今後に生かせるようにする。	
第15回	「家庭との連携・まとめ」 運動遊びの必要性について園での取り組みに加え，家庭との連携の仕方について考える。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度・発表・グループ活動への参加状況を評価する。望ましい服装で授業に取り組めていない場合は，減点対象とする。一方，授業中の発表やグループ内での発表状況等，積極的な言動が確認できた場合は，加点対象とする。
レポート	30	授業で体験したことを踏まえ，実際の保育場面を想像しながら述べていること。保育現場で，子どもたちと運動遊びを展開していることが想起できる場合，内容に応じて得点化する。レポートは，コメントを記入して返却することで学習のフィードバックとする。
小テスト		
定期試験		
その他	50	領域「健康」のねらいや幼児期運動指針に示されている内容を考慮して，模擬保育を実施し，その理解度や保育への展開具合を得点化する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・運動着を着用する ・室内用シューズを履く ・貴重品は自己管理する ・装飾品は身につけない（髪は結わえる） ・全員協力の上，準備・片付けをする ・日常生活においても課題を見つけ積極的に取り組む
授業外学修	・自宅周辺で遊んでいる子どもたちの年齢や遊びの内容について観察したり，新聞やニュースで子どもの体力・運動能力に関する情報を入手しておくこと。 ・保育所や幼稚園等でのボランティアを通して，保育現場で行われている運動遊びについて，対象年齢と遊びの内容を考えあわせながら観察すること。 ・書籍や映像資料等で幼児期の運動遊びについての情報を集め，指導案として反映できるようにすること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼児期運動指針ガイドブック	文部科学省	サン・ライフ企画	978-4-904011-47-8	1300

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭　10年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学校現場での経験を生かして，幼児期に体を動かす子との大切さや方法などについて指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．運動習慣づくりの重要性	幼児期から運動習慣を形成していくことの重要性について、発達の観点から十分理解し、その解決策について自分の考えを具現化し、発言することができている。	幼児期から運動習慣を形成していくことの重要性を十分理解し、その解決策について自分の考えを具現化し、発言することができている。	幼児期から運動習慣を形成していくことの重要性を概ね理解し、その解決策について自分の考えを発言することができている。	幼児期から運動習慣を形成していくことの重要性をあるていど理解できているが、その解決策について考え、発言することができていない。	幼児期から運動習慣を形成していくことの重要性が理解できず、発言もできない。
知識・理解	２．幼児期に経験することが望ましい運動	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについて十分理解し、自らからだを動かす運動を考え、授業の中で実践することができている。	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについて十分理解し、自らからだを動かす運動を考え、実践することができている。	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについて授業を通して、ある程度理解し、様々な運動に興味を持って実践することができている。	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについてある程度理解できているが、自らからだを動かすことに対する興味を持つことができていない。	幼児期にどんな運動を経験しておくことが大切かについての理解ができず、自らからだを動かすこともできていない。
技能	１．身の回りにある遊具や道具を活用した運動遊びの創造	身の回りにある遊具や道具を活用し、子どもたちが意欲的に取り組むことができる環境を考えながら、運動遊びを実践することができている。	身の回りにある遊具や道具を活用し、自分なりのアレンジを加えながら、運動遊びを実践することができている。	身の回りにある遊具や道具を活用して、運動遊びを実践することができている。	身の回りにある遊具や道具を活用して、運動遊びを実践しようとしているが、行動に写すことができていない。	身の回りにある遊具や道具を活用して、運動遊びを実践することができていない。
技能	２．子どもたちの個人差や発達段階に合わせた運動遊びの創造	子どもたちの個人差や発達段階に合わせて、興味関心を引き出す手立ても考えながら、運動遊びの難易度調節ができている。	子どもたちの個人差や発達段階に合わせて、動きも想像しながら、運動遊びの難易度調節ができている。	子どもたちの個人差や発達段階に合わせて、運動遊びの難易度調節ができている。	子どもたちの個人差や発達段階に合わせた運動遊びを考えることはできているが、難易度調節はできていない。	子どもたちの個人差や発達段階に合わせた運動遊びを考え、実践することができていない。

科目名	（保育内容）人間関係 1クラス	授業番号	EE204A	サブタイトル	
教員	福澤　惇也				

単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修

授業概要	幼児の人間関係に関する現状と課題についての基礎知識を理解する。そして幼稚園教育要領に示されている「人間関係」のねらい及び内容を理解するとともに，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定し，保育を構想し実践する力を身に付ける。
到達目標	幼児の人間関係に関する現代的課題の基礎知識を身に付け，幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について，背景となる専門領域と関連させて理解を深める。 その上で，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて，具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。
授業計画　備考	

回	概要	担当
第1回	現代社会と幼児の人間関係を相対的に捉えて理解する	
第2回	家庭や地域の人間関係の実情を確認する	
第3回	3歳未満児における人間関係の発達（１）－発達段階に応じた子どもの姿を確認する－	
第4回	3歳未満児における人間関係の発達（２）－愛着を形成する人間関係のあり方を学ぶ－	
第5回	幼児期の遊びや生活の中で見られる他者と関わる力の育ちを学ぶ	
第6回	幼児期の遊びや生活の中で見られる個と集団の育ちを事例から考える	
第7回	乳幼児期の自立心の育ち（１）－自我の形成を事例から理解する－	
第8回	乳幼児期の自立心の育ち（２）－大人と子どもの関係性の変化を学ぶ－	
第9回	幼児期の協同性の育ち（１）－人間関係を基盤にしたウェルビーイングを学ぶ－	
第10回	幼児期の協同性の育ち（２）－児童期を見据えた人格形成の基礎としての人間関係を学ぶ－	
第11回	幼児期の道徳性・規律意識の芽生えと育ち（１）－道徳的な発達段階を事例から学ぶ－	
第12回	幼児期の道徳性・規律意識の芽生えと育ち（２）－道徳的な発達段階をワークショップから学ぶ－	
第13回	乳幼児期の人間関係のひろがり－居場所の拡大に伴う価値観の形成や変化を学ぶ－	
第14回	乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながり－全人格形成の基礎的概念として人間関係を位置付ける－	
第15回	幼児期に育みたい資質・能力と人間関係－現代的課題をふまえたアントレプレナーシップに関する捉え方を学ぶ－	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業内でのワークショップ等への参加態度および授業内課題への取り組み方を評価する。
レポート	10	講義の最後に与えられた課題について， 様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については， 次回の講義冒頭で解説を加える。
小テスト		
定期試験	80	子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	テキストや配付資料についてはよく読み，内容を把握し，授業で学んだことを整理しておくこと。 講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。講義の中で課題や疑問を積極的にみつけること。 「自分が保育者だったら」という想定で講義の内容や講義中の課題に取り組むよう努めること。
授業外学修	テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき，疑問点を明白にしておくこと。 講義後はテキストや配布された資料をよく読み，知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。 課題発表の資料を準備すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・保育と人間関係－理論と実践をつなぐために－	柏まり・小林みどり	嵯峨野書院	978-7823-0621-5	2,475円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭の経験を生かし，現場の実際を反映させた授業を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育者と幼児の人間関係について理解できている。	保育者と幼児における人間関係に関して高度な知識を有し、人間関係の構築や配慮について具体的に考えることができる。	保育者と幼児における人間関係に関して高度な知識を有し、人間関係の構築や配慮について考えることができる。	保育者と幼児における人間関係に関して知識を有し、人間関係の構築や配慮について考えることができる。	保育者と幼児における人間関係に関して知識を有してはいるが、人間関係の構築や配慮にまで考えが及ばない場合がある。	保育者と幼児における人間関係に関して知識を有してはいるが、人間関係の構築や配慮にまで考えが及ばない。
知識・理解	２．保育者と保護者の人間関係について理解できている。	保育者と保護者における人間関係に関して高度な知識を有し、人間関係の構築や配慮について具体的に考えることができる。	保育者と保護者における人間関係に関して高度な知識を有し、人間関係の構築や配慮について考えることができる。	保育者と保護者における人間関係に関して知識を有し、人間関係の構築や配慮について考えることができる。	保育者と保護者における人間関係に関して知識を有してはいるが、人間関係の構築や配慮にまで考えが及ばない場合がある。	保育者と保護者における人間関係に関して知識を有してはいるが、人間関係の構築や配慮にまで考えが及ばない。
知識・理解	３．幼児同士の人間関係について理解できている。	幼児同士の人間関係に関して高度な知識を有し、幼児が人間関係を構築する際の援助法について具体的に考えることができる。	幼児同士の人間関係に関して高度な知識を有し、幼児が人間関係を構築する際の援助法について考えることができる。	幼児同士の人間関係に関して知識を有し、幼児が人間関係を構築する際の援助法について考えることができる。	幼児同士の人間関係に関して知識を有してはいるが、幼児が人間関係を構築する際の援助法にまで考えが及ばない場合がある。	幼児同士の人間関係に関して知識を有してはいるが、幼児が人間関係を構築する際の援助法にまで考えが及ばない。
知識・理解	４．幼児と保護者の人間関係について理解できている。	幼児と保護者における人間関係に関して高度な知識を有し、良好な関係の支え方について具体的に考えることができる。	幼児と保護者における人間関係に関して高度な知識を有し、良好な関係の支え方について考えることができる。	幼児と保護者における人間関係に関して知識を有し、良好な関係の支え方について考えることができる。	幼児と保護者における人間関係に関して知識を有しているが、良好な関係の支え方にまで考えが及ばない場合がある。	幼児と保護者における人間関係に関して知識を有しているが、良好な関係の支え方にまで考えが及ばない。
思考・問題解決能力	１．適切な情報処理と知識の応用に基づく有機的な判断ができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、高度な知識を活用して具体的な応対策を考えることができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、高度な知識を活用して応対策を考えることができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、知識を活用して応対策を考えることができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を理解した上で、知識を活用して応対策を考えることができる。	人間関係を取り巻く数多の情報を精査し、状況を理解しているものの、応対策を考えるには至らない。
技能	１．適切な言葉の活用ができる。	自身の表現活動において、豊かな語彙力を携えた上で文法への理解を十分示し、相手に伝わる文章の構成ができる。	自身の表現活動において、豊かな語彙力を携えた上で文法への理解を示し、相手に伝わる文章の構成ができる。	自身の表現活動において、文法への理解を示し、相手に伝わる文章の構成ができる。	自身の表現活動において、文法への理解はあるものの、相手に自身の意図が伝わらない場合がある。	自身の表現活動において、文法への理解はあるものの、相手に自身の意図が伝わらない。
技能	２．手遊びや手話歌の実践ができる。	その場の雰囲気や文脈に沿う手遊び等を、表情豊かに正しい音程やリズムで実践できる。	手遊び等を、表情豊かに正しい音程やリズムで実践できる。	手遊び等を、表情豊かに正しい音程やリズムで実践できる。	手遊び等を、正しい音程やリズムで実践できる。	手遊び等の音程やリズムが曖昧なまま実践している。
技能	３．対人的なコミュニケーションが円滑にできる。	高度な知識に基づいた言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	知識に基づいた言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と意思の疎通ができる。	言語・非言語コミュニケーション能力が不十分であり、相手との意思疎通を図ることが難しい。

科目名	（保育内容）環境 1クラス			授業番号	EE205A	サブタイトル			
教員	清水　憲志								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	子どもの発達を環境とかかわる力の側面から学ぶ。実践例，ビデオ視聴，保育現場の観察，ネイチャーゲーム等を通して幼児が周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもってかかわり，それを生活に取り入れていこうとする力を養うための保育の展開について学び，指導力・実践力を身につけることを目指す。								
到達目標	子どもと環境とのかかわりや子どもの育ちを理解し，具体的な保育の環境のあり方とその考え方，教師の援助のあり方について学ぶことで，環境にかかわることを通して幼児に気付かせたいことや学ばせたいことを理解できるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育と環境 …保育における環境をの意味を理解しよう。	
第2回	領域「環境」の捉え方と考え方 …領域「環境」について考えてみよう。	
第3回	保育環境の構成 …環境を構成する理由を知ろう。	
第4回	人的環境について …保育現場（園長・クラス担任等）の先生から話を聞いて人的環境の意味を知ろう。	
第5回	豊かな生活を育む環境をデザインする …様々な環境（自然）を知ろう。	
第6回	泥団子を作ろう …泥団子を作って楽しもう。	
第7回	泥団子を極めよう …泥団子の理論を理解して，実践してみよう。	
第8回	ごっこ遊びについて …ごっこ遊びの重要性を知ろう。	
第9回	遊びにかかわる指導を考えよう …指導案を立案して保育の実践をイメージしよう。	
第10回	生き物や植物，自然の事象に関心を持つ食育，栽培活動について …食育及び栽培計画を作成しよう。	
第11回	作品展について …子どもの色々な作品を見て，感性を磨こう。	
第12回	フォトブック鑑賞会 …それぞれが作ったフォトブックを見ながら，感性を高めよう	
第13回	砂・水遊びの指導を考えよう(1)実践編 …水遊びを実践してみよう。	
第14回	砂・水遊びの指導を考えよう(2)理論編 …砂・水遊びの意味を知ろう。	
第15回	子どもを守る安全な環境について …保育における安全な環境ついて考えよう。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度，話し合いへの参加の状況や態度などにより評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	60	最終的な理解度を評価する。
その他	30	フォトブックの作成（自然物）

評価の方法：自由記載	フォトブックについて ・写真１０枚以上（１０種類以上）（１点） ・表紙にタイトルをつける（１点） ・裏表紙に学籍番号・名前を書く（１点） ・本形式であること（閉じ紐，リング，ファイル，リボン，ノートetc）（１点） ・大きさ15cm×18cm以上（１点） ◎ポイント ・子どもがみてわかりやすいこと（10点） ・統一感を持って作成してあること（5点） ・自分なりの工夫がされていること（10点） ※採点後，成績を個別に開示し，授業内で振り返りを行う。
受講の心得	日頃の生活の中で，四季を意識して五感で感じて楽しむようにすること。 地域の自然に興味を持ち，色合いや生長を楽しむこと。
授業外学修	1. 復習として，ノートの整理を行う。 2. 授業内で紹介した参考文献や資料を読む。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜レジュメを配布します。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	保育所保育指針解説（平成30年３月　厚生労働省） 幼稚園教育要領解説（平成30年３月　文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　（平成30年３月　内閣府，文部科学省，厚生労働省）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立保育所保育士（8年），附属幼稚園教諭（1年）,ネイチャーゲームリーダー（3年）,ネイチャゲームインストラクター（2年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	保育所園長及びこども園長等
実務経験をいかした教育内容	子どもの育ちを豊かにする環境について，実務経験【公立保育所保育士（8年），附属幼稚園教諭（1年）】を生かして，実践事例を取り入れ，幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領と結びつけ，指導の大切さを学ぶとともに，学生自身が実体験することで感動体験を味わい，保育者としての資質が向上できるような援助する。また，自然への興味関心を高めるためネイチャーゲーム【ネイチャーゲームリーダー（3年）、ネイチャゲームインストラクター（2年）】を行い，自然を身近なものとして捉えられるようにする。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．環境が及ぼす影響を理解し、想像力豊かに構成できる。	発達の連続性を意識して、子どもと共に環境を構成するイメージができる。	発達の連続性を意識して、環境を構成するイメージができる。	年齢に応じた環境を構成するイメージができる。	年齢に応じた環境を構成するイメージがあまりできる。	年齢に応じた環境を構成するイメージがしにくい。
知識・理解	２．人的環境として相応しい、自然への知識・興味・関心を持ち、発達に応じて援助できる。	自然への興味・関心を持ち、五感を使って触れ合い、子どもの気持ちを考え、子どもの興味関心に繋げようとする。	自然への興味・関心を持ち、五感を使って触れ合っており、子どもの興味関心に繋げようとする。	自然への興味・関心がなく、五感を使ってあまり触れ合っていない。	自然への興味・関心がなく、五感を使ってあまり触れ合っていない。	自然への興味・関心がない。

科目名	（保育内容）言葉 1クラス	授業番号	EE206A	サブタイトル			
教員	山本　房子						
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	子どもの言葉の発達に関する知識及び保育内容における領域「言葉」について理解する。子どもの言葉を育てる児童文化財について知るとともに、絵本の読み聞かせをしたり、紙芝居、ペープサートなどを体験し作成したりすることで，子どもの言葉の育ちを支える環境構成や保育者のかかわりについて学ぶ。								
到達目標	・「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された領域「言葉」における，ねらい・内容・留意事項を理解できる。 ・乳幼児の言葉の発達や獲得のための保育者のかかわりについての知識や技術を修得する。 ・絵本，ペープサートなどの児童文化財の実践を行うことができる。 ・言葉にかかわる諸問題についての知識を修得する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもと言葉① 言葉の意義と主な機能（コミュニケーション・思考・行動調整）について理解する	
第2回	子どもと言葉② 言葉を獲得するために必要な基礎について理解する	
第3回	子どもと言葉③ 前言語期における身近な大人の関わりの重要性及び乳児の言葉の特徴と発達について理解する	
第4回	子どもと言葉④ 幼児の言葉の特徴と発達について理解する	
第5回	幼児教育における言葉 領域「言葉」のねらいと内容について理解する	
第6回	子どもの言葉を豊かにする児童文化財① 児童文化財の保育における役割について理解する 身近な児童文化財である絵本や紙芝居の特性について知る	
第7回	絵本の読み聞かせをする（模擬保育をする）	
第8回	子どもの言葉を豊かにする児童文化財② 様々な児童文化財があることを知る。 ペープサート，エプロンシアター，パネルシアターなどを体験する	
第9回	言葉に対する感覚とは 様々な言葉遊びや日本語の表現に触れ，言葉そのもののもつ面白さや楽しさを知る	
第10回	保育で用いるペープサートを作る① ペープサートの基本的な作り方を知り，題材を選ぶ	
第11回	保育で用いるペープサートを作る② 保育現場での実践を想定し，作ったペープサートが子どもにどのように見えるかを意識しながら工夫して作る	
第12回	ペープサートを演じる（模擬保育をする）	
第13回	子どもの言葉を育む保育の実際について映像資料から考える	
第14回	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「言葉による伝え合い」の視点から小学校との接続について考える	
第15回	特別支援，多文化共生の視点から言葉の発達に関わる諸問題について考える	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	30	授業における発表や参加態度など，ルーブリックをもとに評価する。
定期試験	50	到達目標に関する基本的な知識について試験を行い，理解度を評価する。
その他	20	絵本の読み聞かせに必要な技術や知識に気付けたかどうかを評価する。（10%）ペープサートを作成し演じる。 保育現場での実践を想定し，子どもの発達段階や興味関心，子どもの見え方等を意識して作成，演じることができたかどうかを評価する。（10%）

評価の方法：自由記載	
受講の心得	絵本の読み聞かせやペープサート等の実践発表については，授業時間外における教材研究，発表練習が必要となってくるが，積極的に取り組むこと。
授業外学修	1　予習として教科書の授業にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2　復習としてノートの記入や資料の整理をする。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献や資料を読む。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
指導法もいっしょに学ぶ保育内容「言葉」	浅井　拓久也　編著	教育情報出版	978-4-909378-74-3	定価2090円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領　保育所保育指針　幼保連携型認定こども園教育・保育要領	文部科学省　厚生労働省　内閣府	チャイルド本社	978-4805402580	500円＋税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（18年）としての実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭として実務経験（18年）をもつ教員が，事例や実践をもとに領域「言葉」における保育内容等について演習授業を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．言葉の意義や機能	人間にとっての言葉の意義や機能について,乳幼児の言葉の発達過程への気付きも含めて,具体的かつ論理的に説明することができる。	人間にとっての言葉の意義や機能について,乳幼児の言葉の発達過程への気付きも含めて説明することができる。	人間にとっての言葉の意義や機能について具体的に説明することができる。	人間にとっての言葉の意義や機能について,説明することができる。	人間にとっての言葉の意義や機能について,説明することができにくい。
知識・理解	2．領域「言葉」に関する知識	領域「言葉」に関する具体的な知識を深く修得している。	領域「言葉」に関する具体的な知識を修得している。	領域「言葉」に関する知識を修得している。	領域「言葉」に関する知識の習得が不十分である。	領域「言葉」に関する知識の習得ができていない。
知識・理解	3．保育者の姿勢や援助	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本について理解し,具体的,建設的に述べることができる。	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本について理解し,具体的に述べることができる。	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本について理解し,適切に述べることができる。	乳幼児の言葉の発達や獲得を支える保育者の姿勢や援助の基本についての理解が不十分であるため,適切に述べることができにくい。	乳幼児の言葉の発達や獲得のを支える保育者の姿勢や援助の基本について理解できていないため述べることができない。
技能	1．絵本の読み聞かせ	絵本の選書の理由,読み聞かせのねらい,導入方法など,保育における読み聞かせのポイントをふまえ,かつ,事前に繰り返し練習した上で,適切に読み聞かせをすることができる。	絵本の選書の理由,読み聞かせのねらい,導入方法など,保育における読み聞かせのポイントをふまえ,かつ事前に繰り返し練習した上で読み聞かせをすることができる。	絵本の選書の理由,読み聞かせのねらい,導入方法など,保育における読み聞かせのポイントをふまえ,かつ事前に練習した上で読み聞かせをすることができる。	絵本の選書の理由,読み聞かせのねらい,導入方法など,保育における読み聞かせのポイントをふまえて読み聞かせをしているが,事前の練習が不十分である。	保育における読み聞かせのポイントの理解が不十分であるとともに,事前の練習をしていない。
技能	2．ペープサートの作成,発表	ペープサートの題材の理由,ねらい,導入方法などのポイントをふまえ,かつ,事前に繰り返し練習した上で,適切にペープサートを演じることができる。	ペープサートの題材の理由,ねらい,導入方法などのポイントをふまえ,かつ事前に繰り返し練習した上で演じることができる。	ペープサートの題材の理由,ねらい,導入方法などポイントをふまえ,かつ事前に練習した上で演じることができる。	ペープサートの題材の理由,ねらい,導入方法などポイントをふまえて演じているが,事前の練習が不十分である。	ペープサートの題材の理由,ねらい,導入方法などポイントの理解が不十分であるとともに,事前の練習をしていない。

科目名	（保育内容）表現 1クラス			授業番号	EE207A	サブタイトル			
教員	鳥越　亜矢、武田　恵美								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	子どもの成長過程における多様な表現に関して，幅広く表現の意義とその必要性を理解する。幼児期の発達特性をふまえながら，創造性豊かに楽しく表現し，創作体験を重ねることにより，保育者としての豊かな感性を磨くとともに創造性を高め，協働性・指導力・実践力を身につけるための講義と演習を行う。								
到達目標	感じたことを色や形で表現することができること，制作物を使った表現ができること。また，音や音楽に合わせて身体を動かすなどの楽しさを味わい，幼児の発達特性に応じた指導ができるようになること，保育者としての豊かな感性を磨くとともに創造性を高め，協働性・指導力・実践力を身につけることなどを目的とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	1回～3回　朗読劇と音環境3回～9回　ブラックライトを使った音・光・形の競演10回～13回　手作り教材で音やリズムを表現する14回～15回　音との出会いを楽しみ，感じ，表す体験 授業への主体的な参加および協働性を養う目的でグループ活動を行なう。また，この授業の経験は2年次後期の「保育内容の理解と方法D」における課題作成の土台になる。								

回	概要	担当
第1回	朗読劇と音環境1 幼児を対象にした朗読劇にふさわしい音作りをするために，絵本の分析を行う。ストーリーを音で表現するために必要になるものを，場面ごとにオノマトペ，実際の音，音楽などに分類する。	鳥越　亜矢、武田　恵美
第2回	朗読劇と音環境２ 幼児を対象にした朗読劇にふさわしい音作りをするために，モノを使った効果音作りや，アプリケーションを用いてフリー素材の楽曲の編集作業を行う。	鳥越　亜矢、武田　恵美
第3回	朗読劇の音環境３ 本の朗読に合わせて編集した楽曲や物を使った効果音を流し，グループ相互に作成した朗読劇を鑑賞する。	鳥越　亜矢、武田　恵美
第4回	ブラックライトを使った音・光・形の競演1：　概要の理解 ブラックライトやそれを使った舞台表現について参考資料を視聴し，構想・制作・練習・発表までの説明を受けて概要を理解する。	鳥越　亜矢、武田　恵美
第5回	ブラックライトを使った音・光・形の競演2：制作・練習 音楽ホールにブラックライトを設置して，光るものをもって舞台に立って動く経験をする。教室で製作を行い，練習は音楽ホールで行う。舞台上での動きや小道具類の動かし方などをいろいろと試行する。	鳥越　亜矢、武田　恵美
第6回	ブラックライトを使った音・光・形の競演３：製作と練習 第5回目の経験を踏まえて教室での製作の仕上げと随時音楽ホールでの練習を行う。舞台上での動きや小道具類の動かし方などのさらなる検討を行う。	鳥越　亜矢、武田　恵美
第7回	ブラックライトを使った音・光・形の競演４：中間発表・手直し 音楽ホールにて全グループによる通し練習を行った後，上演に向けた改善点を見出す。	鳥越　亜矢、武田　恵美
第8回	ブラックライトを使った音・光・形の競演５：リハーサル・手直し 音楽ホールにてリハーサルを行う。グループごとに最終調整や練習を行い，表現に磨きをかける。	鳥越　亜矢、武田　恵美
第9回	ブラックライトを使った音・光・形の競演６：上演（音楽ホール）と振り返り 音楽ホールにて上演する。振り返りについては以下の項目に従って自分たちの活動を振り返る。 ・工夫したところ，自他の発表で面白いと感じたこととその理由，改善点など。	鳥越　亜矢、武田　恵美
第10回	手作り教材で音やリズムを表現する　１保育教材「タップリン」の素材さがしと作成 ブラックライトを使った音・光・形の競演の振り返りについて総評としてのコメントを教員から聞く。 音やリズム遊びを楽しむ保育教材について紹介し，手袋の指先にボタンなどを縫い付けるなどして固いものを取り付ける。	鳥越　亜矢、武田　恵美
第11回	手作り教材で音やリズムを表現する　２タップリンの作成と演奏に向けて 作成の続きのほかに，何をたたくか素材を探したりたたき方を試したりするほか，リズムや曲に合わせた練習をする。	鳥越　亜矢、武田　恵美
第12回	手作り教材で音やリズムを表現する　３タップリンを用いた演奏に向けて 曲に合わせたステージへの入退場方法を考えたり，たたくものやたたき方を工夫したりして表現としての質が高まるよう練習する。	鳥越　亜矢、武田　恵美
第13回	手作り教材で音やリズムを表現する　４タップリンを用いた演奏と振り返り リハーサル後に上演する。振り返りについては以下の項目に従って自分たちの活動を振り返る。 ・工夫したところ，自他の発表で面白いと感じたこととその理由，改善点。	鳥越　亜矢、武田　恵美
第14回	音を楽しむ体験 音との意外な出会いを楽しみ，様々な楽器や物を使い，簡単な曲を演奏する。	鳥越　亜矢、武田　恵美
第15回	音を重ねて楽しむ体験 今まで使った様々な楽器や物を使い，リズムや音を重ねて簡単な曲を演奏する。	鳥越　亜矢、武田　恵美
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	授業中の課題活動について，ルーブリックに基づき評価する。
小テスト（舞台等における発表）	40	舞台等におけるグループ発表について，主題・構成・表現・製作物の観点から評価する。発表後には総評として教員がコメントする。
その他（製作した成果物の評価）	20	個人で制作した課題については、課題意図の理解、丁寧さ、発想、工夫等の観点から評価する。

評価の方法：自由記載	授業の流れの中でも終始受け身の姿勢に留まらず，個人として率先して，意見や発表を行う姿勢を示すことも大切な評価とする。また，実技発表においては準備段階からの全体の流れを振り返り，評価をフィードバックする。
受講の心得	課題に対して主体的・創造的な姿勢で，意欲的な態度で製作すること。事前告知の材料や準備物を忘れないこと。使用した道具・用具の片付け，清掃をきちんとすること。 また，発表の場に対し積極的に取り組み，音楽の感性を広げていく姿勢を持って臨むこと。
授業外学修	授業で学んだ成果を元に，週当たり１時間以上予習復習すること。 予習として授業内容に関連する情報収集を行い，他者に還元する姿勢を持ち，復習としては授業内容の取組を反省し深める姿勢を持つこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要に応じてプリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児の発達特性に応じた表現活動	幼児の発達特性をよく理解して，それに応じた表現活動を具体的に考えることができる。	幼児の発達特性をよく理解して，それに応じた表現活動を考えることができる。	幼児の発達特性を理解して，表現活動を考えることができる。	幼児の発達特性を理解しているが，それに応じた表現活動を考えるに至らない場合がある。	幼児の発達特性の理解が浅く，それに応じた表現活動を考えるに至らない。
思考・問題解決能力	１．視覚的・聴覚的情報を活用した表現活動	様々な視覚的・聴覚的情報を収集する能力に長けており，それらを効果的に活用して，新たな表現の創造ができる。	様々な視覚的・聴覚的情報を収集する能力があり，それらを活用して，新たな表現の創造ができる。	視覚的・聴覚的情報を収集する能力があり，それらを活用して，表現の創造ができる。	視覚的・聴覚的情報を収集する能力はあるが，表現においては他者を模倣することが多い。	視覚的・聴覚的情報をうまく活用できず，表現に結びつかない。
技能	１．感じたことの表現	感じた色々なことを，示された表現方法に加えて様々な方法で十分に表現することができる。	感じた色々なことを，示された表現方法に加えて様々な方法で表現することができる。	示された表現方法で感じたことを表現することができる。	示された表現方法ではないが，何らかの形で感じたことを表現することができる。	表現方法が示されていても，感じたことを表現することに結びつかない。
態度	１．課題への向き合い方	課題意図を十分理解して取り組み，ほぼ毎回自分なりの知見や深く考えた意見を発表，または記述できる。	課題意図を十分理解して取り組み，毎回ではないが，自分なりの知見や深く考えた意見を発表，または記述できる。	課題意図を大体理解して取り組み，時折は自分なりの知見や考えた意見を発表，または記述できる。	課題意図の理解はある程度できるが，自分なりの知見や考えた意見を発表したり，記述することがやや不十分である。	課題意図の理解ができないまま取り組み，自分なりの知見や考えた意見を発表，また記述できない。
態度	２．グループ活動での行動	リーダーシップ，メンバーシップを適切に発揮できる。また，グループで達成するべき目標に対して率先して積極的に取り組むことができる。	リーダーシップ，メンバーシップを発揮できる。また，グループで達成するべき目標に対して積極的に取り組むことができる。	リーダーシップ，メンバーシップを概ね発揮できる。また，グループで達成するべき目標に対して取り組むことができる。	リーダーシップ，メンバーシップの発揮がやや不十分。グループで達成するべき目標への取り組みもやや不十分。	リーダーシップ，メンバーシップのどちらも発揮しない。そのうえ，グループで達成するべき目標に取り組まない。

科目名	保育内容の理解と方法A 1クラス			授業番号	EE208A	サブタイトル			
教員	鳥越　亜矢								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	身近な素材や道具，技法の特性を理解して表現活動を行う。								
到達目標	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等を踏まえて子どもの生活と遊びにおける環境を構成する力を養い，身近な素材や道具，技法の特性を理解した表現活動を行えるようになるとともに，それらの活用を保育実践として具体的に考えるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「面白い」を捉える「5Cの力」とは カプラで遊んだ時に発揮している力や経験を『子どもの造形表現』第1章，第8章を中心に保育の視点として機能する「5Cの力」や、「幼児教育において育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を中心に振り返ることにより，実践を理論で裏付けて遊びや表現について深く理解をする。	
第2回	保育内容5領域と領域「表現」 資料や教科書，講義を通して保育学科で学ぶ保育内容について理解する。	
第3回	幼児の造形表現の発達 教科書の第2章の内容を中心に，発達について造形表現を切り口として学ぶ。	
第4回	かく材料の教材研究I　画材類／基底材 ／身近なものが道具になる 水溶性絵具や固形絵具の特徴や着色する各種基底材との関係を演習を通して理解するとともに，身の回りにあるものを使った描線の面白さや描き心地を味わうことで，幼児の表現活動にふさわしい画材や道具について理解する。	
第5回	かく材料の教材研究II　パス類の比較 各種固形絵具を比較し，環境へのらくがき体験をする。活動を通して描くことや環境が描画活動に様々な影響を与えることを理解する。	
第6回	パスの技法遊び　カラーカーボン・スクラッチ 線描や面描に適したパス類があることを理解し，画材の特性を生かした活動の重要性や同じ画材を使った様々な活動展開の可能性を理解する。	
第7回	環境への表現活動 画材の抽象的な形を生かして「貼る」という行為で環境に絵画的な表現を行う。抽象的な形が集合することで意味ある形を成すことを体験的に理解する。	
第8回	偶然の色と形の技法遊びI　偶然と対称 偶然の表現や対称の表現になる技法あそびを体験し，できた色や形から新たなイメージを付加する見立て活動を行う。	
第9回	偶然の色と形の技法遊びII　模様の遊び→見立てや活用 様々な方法で二度と作ることのできない模様を生み出す体験をする。また，その模様から新しい造形イメージを見出したり，保育現場や家庭における活用法を考えたりする。	
第10回	色を使った様々な遊び 染料を使って紙を染める模様の遊びを体験後，その染液を活用して光を生かした色水遊びを行う。	
第11回	廃材を使った造形表現活動：発想・構想 建築廃材や生活廃材を触ったり加工したりしながら，その良さを生かしたモノづくりに向けてアイデアを出し合ったり，試作をしたりする。	
第12回	廃材を使った造形表現活動：制作・完成 第10回の続きを行い完成させる。また，作品タイトルや工夫点や見どころを書いて作品とともに提出する。	
第13回	可塑性のある素材［紙］1　切り紙（2つ折り・4つ折り） 折り紙を使って2つ折り・4つ折りをする。全員同じ方法で行う創作活動が世界に1つだけの形を生み出すことを理解し，楽しむ。	
第14回	可塑性のある素材［紙］2　切り紙（5つ折り） 折り紙を使って5つ折りをする。全員同じ方法で行う創作活動が世界に1つだけの形を生み出すことを理解し，楽しむ。授業中に実技試験を行い，正しい折り方とイメージ通りの形になるように鋏を使うことができるかを評価する。	
第15回	可塑性のある素材［紙］3　切り紙（6つ折り） 折り紙を使って6つ折りをする。全員同じ方法で行う創作活動が世界に1つだけの形を生み出すことを理解し，楽しむ。また，一人一人の作品を持ち寄り，黒板に海の世界を作り出すことにより，個人作品が集合作品に活用できることを理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	演習記録シートの記載内容や授業中の活動や発言について，以下の観点に沿ったものであるかどうかを評価する。 (1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。 (2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。 (3)創造性を発揮したり，主体的な意思決定をしたりして行動している。 (4)体や心，道具をコントロールする力などを発揮している。 (5)(1)～(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり，新たな知見を得たりしている。 なお，観点(1)～(5)は「面白い」をとらえる「5Cの力」にもとづいている。
その他	70	スケッチブックとGoogleクラスルームに投稿された課題を評価する。素材や道具，技法の特性を理解した表現活動であるかどうか， また，「面白い」をとらえる「5Cの力」の発揮やそれに言及した内容であるかどうかを主な評価基準とする。スケッチブックには各種確認印等を，Googleクラスルームに投稿された課題にはコメント等を付けることによるフィードバックを行う。

評価の方法：自由記載	スケッチブックの課題については基本的には課題の理解度や丁寧さを評価するが，発想に独自性が見られる場合も評価する。また，スケッチブックへ方法等を図示したり写真を貼ったりして，あとから見てもわかるように演習を記録していることも評価する。

受講の心得	造形活動に支障のない服装や身だしなみで受講すること。日ごろから造形活動に使えそうな生活廃材や自然物を集めておくこと。 指定した回までにA４サイズのスケッチブック（紙の素材は白い画用紙であること）と「なんでもボックス」を用意しておくこと。内容によっては材料や用具を各自で準備するよう指示することがある。詳細は授業中に説明する。 授業中はスマートフォン等の端末機器は荷物にいれておくこと。しかし，情報検索や記録等の目的で使用を指示することがある。
授業外学修	予習として，テキストの該当箇所を熟読すること。スケッチブック等への演習記録の時間は授業中に取らないため，復習として時間外に記述すること。そのため，週に４時間程度は時間外学修にあてること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの造形表現　第3版	北沢昌代　畠山智宏　中村光絵	開成出版	978-4-87603-553-3	2500
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新版　遊びの指導	幼少年教育研究所	同文書院	978-4-8103-0037-6	3200
参考書：自由記載				

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県教育センター(4年) 幼稚園・保育園における研修講師（14年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	各種の演習内容や「面白い」を捉える「5Cの力」は幼稚園や保育園等における造形研修で紹介している内容である。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児の発達や特性を理解した演習記録	幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と具体的に結びつけて授業中の活動を振り返る詳細な演習記録を作成できる。	幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と具体的に結びつけて授業中の活動を振り返る演習記録を作成できる。	幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と結びつけて授業中の活動を振り返る演習記録を作成できる。	授業回数の1／3程度は、幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と結びつけて、授業中の活動を振り返る演習記録を作成できる。	演習内容の手順の記述に終始しており、幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と結びつけて、授業中の活動を振り返る演習記録の作成ができない。
知識・理解	２．演習内容における保育者に必要な造形表現の知識とその活用	色彩については中学校の美術科で学習する内容以上の知識があり、小学校の図画工作科で経験する素材の種類や加工方法に関する知識がある。また、それらを保育者に必要な基礎知識であると理解したうえで、存分に表現活動できる。	色彩については中学校の美術科で学習する内容の知識があり、小学校の図画工作科で経験する素材の種類や加工方法に関する知識がある。また、それらを保育者に必要な基礎知識と理解したうえで、表現活動できる。	色彩については中学校の美術科での学習内容であること、素材や加工方法は小学校で経験する内容であることを保育者に必要な基礎知識として再認識しながら、得た知識や経験を生かして表現活動できる。	色彩については、中学校の美術科での学習内容であること、素材や加工方法については、小学校で経験する内容であること、それらが保育者に必要な基礎知識であるという理解がないままに、得た知識や経験を生かして表現活動している。	保育者に必要な造形表現の知識が中学校の美術科での学習内容であることや、小学校で経験する内容であることが、授業の体験を通じても理解できない。また、得た知識や経験を生かした表現活動になっていない。
思考・問題解決能力	１．授業の説明に基づく演習準備のあり方や、演習記録における活動の環境構成に関する記述	授業中の説明を聞いて、自分たちでやりやすい環境を考えながら準備して造形活動することができる。また、それを踏まえて、演習記録に幼児が活動しやすい環境構成を考えて具体的かつ詳細に記述できる。	授業中の説明を聞いて、自分たちでやりやすい環境を考えながら準備して造形活動することができる。また、それを踏まえて、演習記録に幼児が活動しやすい環境構成を考えて具体的に記述できる。	授業中の説明を聞いて、自分たちでやりやすい環境を考えながら準備して造形活動することができる。また、それを踏まえて、演習記録に幼児が活動しやすい環境構成を考えて記述することができる。	授業中の説明以外に教師から個別にアドバイスを受けながらやりやすい環境を考えながら準備して造形活動できる。また、それを踏まえて、演習記録に幼児が活動しやすい環境構成を考えて記述することができる。	授業中の説明以外に教師から個別にアドバイスを受けてもやりやすい環境を考えて造形活動することができない。また、演習記録に幼児が活動しやすい環境構成を考えて記述することができない。
思考・問題解決能力	２．感性と表現イメージの醸成における他者とのコミュニケーションや五感を駆使して得た情報の活用	他者といろいろな情報交換をしたり、自らの五感を駆使して活動や環境からいろいろなことを感じたり、情報を得たりすることを大切にしており、すぐにそこから様々なイメージを豊かに想起して自他の経験を踏まえながら表現活動することができる。	他者といろいろな情報交換をしたり、自らの五感を駆使して活動や環境からいろいろなことを感じたり、情報を得たりすることを大切にしており、様々なイメージを豊かに想起して、自分の経験を踏まえながら表現活動することができる。	他者といろいろな情報交換をしたり、自らの五感を駆使して活動や環境から感じたり、情報を得たりすることを通じてイメージを想起して、自分の経験を踏まえながら表現活動することができる。	他者との情報交換や、自らの五感を使って活動や環境から感じたり、情報を得たりするほか、教師から具体的なアドバイスを受けることを通じて、なんとかイメージを想起して、表現活動することができる。	他者と情報交換をしたり、自らの五感で活動や環境から感じたり、得たりした情報を活用することが難しく、教師から具体的なアドバイスを受けてもイメージを想起して表現活動することができない。
技能	１．道具や素材、技法の特性を理解し、これまでの経験を踏まえた表現活動	素材の特徴や道具の扱い方を正しく理解し、技法の特性や手順を十分理解したうえで、これまでの自分の経験も踏まえながら独創的な表現活動できる。	素材の特徴や道具の扱い方を正しく理解し、技法の特性や手順を理解したうえで、これまでの自分の経験も踏まえながら表現活動できる。	素材の特徴をとらえ、道具を正しく使える。技法の特性や手順を理解して表現活動できており、自分の経験と結びつけることができる。	素材の特徴をとらえ、道具を使って、技法の手順に沿った活動がどうにかできる。また、教師の助言により、これまでの経験と演習内容を結びつけて考えることができる。	素材の特徴が分からず、道具の正しい操作ができない。また、技法の特性や手順の理解ができない。また、教師の助言があっても、これまでの経験と演習内容を結びつけて考えることができない。

科目名	保育内容の理解と方法B 1クラス			授業番号	EE209A	サブタイトル			
教員	鳥越　亜矢								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	前期開講の保育内容の理解と方法Aの学習内容を踏まえつつ，素材と関わりながら色や形，リズム，感触等を意識して様々な表現活動を行う。								
到達目標	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等を踏まえて，子どもの生活と遊びにおける環境を構成する力を養うとともに，自らの感性を養い，表現イメージを豊かにする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	素材との直接体験(1) 同じ素材に対する様々な関わり方 「破ってびりびり」からの「パルプ粘土」というタイトルで，生活の中にある紙素材を用いた素材と戯れる体験の後，ゲーム性のある遊びで環境を変えて次の活動に移り，紙素材の特徴を体感する。一連の活動を通じ，活動の展開の仕方と，紙素材が様々に変容することを理解する。	
第2回	素材との直接体験(2) 粘土のいろいろ 油粘土 様々な粘土があることを知り，3歳以上児を対象とした油粘土の活動を行う。	
第3回	素材との直接体験(3) 同じものをたくさん使って遊ぶ 楽しく遊ぶ前提となるルールと基本的な素材の扱い方を知り，1万個以上の紙コップで遊ぶ。単一の素材でどのような遊びが展開するかを試行しながら遊ぶ。また、前期に実施したカプラを使った遊びとの相違点などを意識して遊びを振り返る。	
第4回	版画のいろいろ・幼児の発達に応じた表現活動（1）ものや手形によるスタンピング 体や物を使ったとスタンピング を行う中で表出と表現の往来を楽しむ。また，幼児でもモノを使うことにより形の合成ができることや，構成を考えながら絵画的な表現をすることを理解する。	
第5回	幼児の発達に応じた表現活動（2）環境への関わりを意識して フロッタージュ（こすりだし）を行い，何をこすったのかを当てるスライドづくりを行う。この活動を通じて環境に内在している造形的な面白さに気づく体験をする。また，フロッタージュ（こすりだし）したものを造形素材として活用し，コラージュすることにより，新たな造形表現になることを体験的に理解する。	
第6回	幼児の発達に応じた表現活動（3）　環境への関わりを意識して 第5回でGoogleスライドを使って作成したフロッタージュのクイズを出しあい，環境に対するそれぞれの着眼点の違いを実感する。また，スチレン版画のフレームづくりとフレーム遊びでは，生活廃材のアップサイクルと，アップサイクルしたものを使ってそれぞれの興味関心に従って環境を切り取る活動を行う。こうした活動を通じて，環境への様々なかかわり方や，それによって身近な環境が特別なものに変化する面白さを理解する。	
第7回	幼児の発達に応じた表現活動（4）　スチレン版画：凹ませて作る凸版印刷 版の様式について理解し，スチレン版画が凹ませて作る凸版印刷であることと，幼児にも簡単にできる版づくりであることを踏まえて版づくりを行い，印刷・額装までを行う。印刷では幼児でもできる凸版印刷の方法と版画用具の正しい使い方を理解する。	
第8回	幼児の発達に応じた表現活動(5) 貼り重ねて作る凸版印刷／同じ原版による転写版画 紙版画には貼り絵の方法による版づくりの工程と印刷する工程があることを理解する。また，幼児に扱いやすい紙素材の提供の仕方や，糊付けの指導内容について理解する。版づくりでは紙の意大きさと貼る順序を意識して版を作ることにより，多様な表現（刷り上がり）になることを理解する。印刷では同じ原版を凸版印刷と平版印刷の方法で印刷した場合の効果について理解する。	
第9回	色彩に興味を持つ活動(1) 色が生まれる 見えない色を見る 光の混色（加法混色），絵の具の混色（減法混色），実際の様子とは異なる認知をする色の体験（並置混色，回転混色，補色残像）をし，色は見て認識する以外に，現実にはそこにない色を認知する場合があることや，光と絵具の混色の関係性について理解する。演習ではコーヒー用のペーパーフィルターと水性マーカーを用いてペーパークロマトグラフィーという手法による，色を取り出す活動をする。この活動では，色が混色されてできていることを体感する。	
第10回	色彩に興味を持つ活動(2) 偶然の色と形を生かした創作ほか 第9回に行った活動で乾燥したペーパーフィルターに，偶然に現れた色と形を生かして創作貼り絵をする。貼り絵には筆記用具での加筆もできる。紙版画の時に行った糊付け指導の内容を意識して貼り絵をする。また，画材ではなく落ち葉や花などの身の回りのものをスケッチブックにこすりつけ，身の回りにあるものが出す色を見つけてその良さを味わう。	
第11回	色彩に興味を持つ活動(3) 減法混色と回転混色の活動 スケッチブックに減法混色による色相のあそびを行う。みんな同じ色の絵具を使うけれども，混色してできる色はその時にしかできない自分だけの色であることを体感する。また，廃材とタコ糸，マーカーを使ったブンブンゴマを作って回し，回転混色遊びをする。	
第12回	色を知る 色の属性（色相・明度・彩度）や，有彩色と無彩色・清色と濁色について知り，それぞれの関係性を理解する。また，３色（白・黒・純色）で色のつながりを作る活動でその知識を具現化することにより，色についての理解を深める。	
第13回	教材制作とその活用１　基本形 ソックスを使って口がパクパクと動く手遣い人形の基本形までを作る。作る人形には名前や性格付けを行い，どのような保育場面で活用するかを考えて活用シートに記述する。	
第14回	教材制作とその活用２　完成と発表 パクパク人形の仕上げを行い，完成した人形を使って簡単な劇や歌などの発表をする。	
第15回	身近な素材で楽しむ探究的な遊び 牛乳パックとストローを使い，飛ぶおもちゃを作る。あそびで子どもが培う思考力や心や体，モノをコントロールする力を意識し，自分たちで「遊びを生み出して楽しみ，展開する」経験をする。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	授業中の活動や発言について，以下の観点に沿った活動や発言であるかどうかを評価する。 (1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。 (2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。 (3)創造性を発揮したり，主体的な意思決定をしたりして行動している。 (4)体や心，道具をコントロールする力などを発揮している。 (5)(1)～(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり，新たな知見を得たりしている。 なお，観点(1)～(5)は保育内容の理解と方法Aと同様に，「面白い」をとらえる「5Cの力」にもとづいている。
クラスルーム等への投稿	15	活動結果が写真や動画でなければならないものについてはクラスルームへの投稿を求める。その内容が当該授業内容に合致していることを評価する。
その他	70	製作した保育教材，スケッチブックとGoogleクラスルームに投稿された課題を評価する。素材や道具，技法の特性を理解した表現活動であるかどうか，また，「面白い」をとらえる「5Cの力」の発揮やそれに言及した内容であるかどうかを主な評価基準とする。提出物返却に当たり，各種チェックサインやコメントなどを付けてフィードバックを行う。

評価の方法：自由記載	スケッチブックの課題については基本的には課題の理解度や丁寧さを評価するが，発想に独自性が見られる場合も評価する。また，スケッチブックへの演習記録内容の充実度も評価する。制作した保育教材については発表内容も併せて評価の対象とする。
受講の心得	造形活動に支障のない服装や身だしなみで受講すること。日ごろから造形活動に使えそうな生活廃材や自然物を集めておくこと。 前期開講の保育内容の理解と方法Aで使用している「なんでもボックス」，スケッチブックを引き続き使用して構わない。内容によっては材料や用具を各自で準備するよう指示するが詳細は授業中に説明する。
授業外学修	予習として，テキストの該当箇所を熟読すること。スケッチブック等への演習記録の時間は授業中に取らないため，復習として時間外に記述すること。そのため，週に４時間程度は時間外学修にあてること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	前期開講の保育内容の理解と方法Aで使用しているテキスト（『子どもの造形表現　第３版』『新版　遊びの指導』）を引き続き使用する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県教育センター研究講師（3年），幼稚園・保育園における研修講師（14年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	岡山県教育センター研究講師（3年），幼稚園・保育園における研修講師（14年）のような保育者を対象にした様々な研修講師の経験を活かし，幼児の発達に応じた様々な造形表現技法とそのポイントなどについて演習を通して指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児の発達や特性を理解した演習記録	幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と具体的に結びつけて授業中の活動を振り返る詳細な演習記録を作成できる。	幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と具体的に結びつけて授業中の活動を振り返る演習記録を作成できる。	幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と結びつけて授業中の活動を振り返る演習記録を作成できる。	授業回数の1／3程度は、幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と結びつけて、授業中の活動を振り返る演習記録を作成できる。	演習内容の手順の記述に終始しており、幼児の身体的発達やそれに応じた特性を経験する表現活動と結びつけて、授業中の活動を振り返る演習記録の作成ができない。
知識・理解	２．保育者に必要な造形表現の知識とその活用	色彩については中学校の美術科で学習する内容以上の知識があり、小学校の図画工作科で経験する素材の種類や加工方法に関する知識がある。また、それらを保育者に必要な基礎知識であると理解したうえで、存分に表現活動できる。	色彩については中学校の美術科で学習する内容の知識があり、小学校の図画工作科で経験する素材の種類や加工方法に関する知識がある。また、それらを保育者に必要な基礎知識と理解したうえで、表現活動できる。	色彩については中学校の美術科での学習内容であること、素材や加工方法は小学校で経験する内容であることを保育者に必要な基礎知識として再認識しながら、得た知識や経験を生かして表現活動できる。	色彩については、中学校の美術科での学習内容であること、素材や加工方法については、小学校で経験する内容であること、それらが保育者に必要な基礎知識であるという理解がないままに、得た知識や経験を生かして表現活動している。	保育者に必要な造形表現の知識が中学校の美術科での学習内容であることや、小学校で経験する内容であることが、授業の体験を通じても理解できない。また、得た知識や経験を生かした表現活動になっていない。
思考・問題解決能力	１．演習記録における活動の環境構成に対する記述	授業中、自分たちでやりやすい環境を考えて造形活動しており、それを踏まえて、幼児が活動しやすい環境構成を考えるようとしている。また、幼児の実態把握に努める必要性も感じ始めている。	授業中、自分たちでやりやすい環境を考えて造形活動しており、それを踏まえて、幼児が活動しやすい環境構成を考えるようとしている。	授業中、自分たちでやりやすい環境を考えて造形活動しており、それを踏まえて、幼児が活動しやすい環境構成を考える必要性を理解している。	授業中、自分たちでやりやすい環境を考えて造形活動しようとするが、それを踏まえて、幼児が活動しやすい環境構成を考える必要性の理解には至っていない。	授業中、自分たちでやりやすい環境を考えて造形活動しようとしておらず、幼児が活動しやすい環境構成を考える必要性も感じていない。
思考・問題解決能力	２．感性と表現イメージの醸成における他者とのコミュニケーションや五感を駆使して得た情報の活用	他者といろいろな情報交換をしたり、自らの五感を駆使して活動や環境からいろいろなことを感じたり、情報を得たりすることを大切にしており、すぐにそこから様々なイメージを豊かに想起して表現活動することができる。	他者といろいろな情報交換をしたり、自らの五感を駆使して活動や環境からいろいろなことを感じたり、情報を得たりすることを大切にしており、様々なイメージを豊かに想起して、自分の経験を踏まえながら表現活動することができる。	他者といろいろな情報交換をしたり、自らの五感を駆使して活動や環境から感じたり、情報を得たりすることを通じてイメージを想起して、自分の経験を踏まえながら表現活動することができる。	他者との情報交換や、自らの五感を使って活動や環境から感じたり、情報を得たりするほか、アドバイスを受けることを通じて、なんとかイメージを想起して、自分の経験を踏まえながら表現活動することができる。	他者と情報交換をしたり、自らの五感で活動や環境から感じたり、得られた情報を活用することが難しく、イメージを想起することも、自分の経験を踏まえながら表現活動することもできない。
技能	１．道具や素材、技法の特性を理解し、これまでの経験を踏まえた表現活動	素材の特徴や道具の扱い方を正しく理解し、技法の特性や手順を十分理解したうえで、これまでの自分の経験も踏まえながら独創的な表現活動できる。	素材の特徴や道具の扱い方を正しく理解し、技法の特性や手順を理解したうえで、これまでの自分の経験も踏まえながら表現活動できる。	素材の特徴をとらえ、道具を正しく使える。技法の特性や手順を理解して表現活動できており、自分の経験と結びつけることができる。	素材の特徴をとらえ、道具を使って、技法の手順に沿った活動がどうにかできる。また、教師の助言により、これまでの経験と演習内容を結びつけて考えることができる。	素材の特徴が分からず、道具の正しい操作ができない。また、技法の特性や手順の理解ができない。また、教師の助言があっても、これまでの経験と演習内容を結びつけて考えることができない。
技能	２．素材の特徴や教材としての特性を生かした教材作成とその活用	素材の特徴や教材としての特性を生かした完成度の高い造形になっている。また、活用のねらいやそれに応じた活用方法を3つ以上具体的に考えて作成している。	素材の特徴や教材としての特性を生かした完成度の高い造形になっている。また、活用のねらいやそれに応じた活用方法を2つ程度具体的に考えて作成している。	素材の特徴や教材としての特性を生かした造形になっている。また、活用のねらいやそれに応じた活用方法を具体的に考えて作成している。	素材の特徴や教材としての特性を理解した造形になっている。しかし、活用はできるが、活用のねらいを具体的に定めることができない。	素材の特徴や教材としての特性を理解した造形になっていない。また、活動のねらいやそれに応じた活用方法を全く考えていない。

科目名	乳児保育Ⅰ			授業番号	EE210	サブタイトル			
教員	岡本　美幸								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	乳児保育の目的・役割，及び歴史的変遷について解説し，多様な乳児保育の場の現状・課題について理解する。そのうえで，日々保育所等で乳児保育に携わる保育者が実践している保育内容や保育方法，運営体制について知識・理解を深め，保育を行うことのできる技能を身につけていく。								
到達目標	・乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割等について理解する。 ・保育所，乳児院等の多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ・3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と人的・物的環境のあり方，運営体制について理解する。 ・乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する 。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げや学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈思考・問題解決能力〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	乳児保育及び子育て家庭に関する社会的状況とその課題 乳児保育はなぜ必要なのか，乳児保育の歴史的変遷や実際の乳児保育の現状など，社会的背景から保育及び子育て支援のあり方を考える。	
第2回	乳児保育の基本 乳児保育で大切にされている基本的な考え方について理解する。	
第3回	乳児保育における子育て支援 乳児保育の視点から保護者を支えていくための子育て支援について，また，保育所以外の施設や家庭的保育等における多様な乳児保育について理解する。	
第4回	「保育所保育指針」とは 保育所保育指針における乳児保育のポイントや養護的側面の重要性について理解する。	
第5回	乳幼児期の身心の発達① 身体および運動の発達（からだの育ち）について理解する。	
第6回	乳幼児期の身心の発達② 認知の発達（見る・聞く・考えること）について理解する。	
第7回	乳幼児期の身心の発達③ 人間関係の発達（まわりの人々とのかかわり）について理解する。	
第8回	乳幼児期の身心の発達④ 言葉とコミュニケーションの発達（言葉を話すようになること）について理解する。	
第9回	乳幼児期の身心の発達⑤ 自己認識の発達（自分への気づき）について理解する。	
第10回	0歳児の保育～生活面（食事・排泄・睡眠・着脱・清潔）について～ 0歳児の生活や遊びの考え方と，生活面における人的・物的環境について理解する。	
第11回	0歳児の発達と遊びの意義 0歳児の発育・発達を踏まえた遊びの環境と保育者の関わりについて理解する。	
第12回	1，２歳児の発達と生活（食事・排泄・睡眠・着脱・清潔）の環境 1歳児の生活や遊びの考え方と，生活面における人的・物的環境について理解する。	
第13回	1，2歳児の発達と遊びの意義 1歳児の発育・発達を踏まえた遊びの環境と保育者の関わりと，3歳以上児の保育に移行する時期の子どもの育ちの連続性を支える保育者あり方を理解する。	
第14回	乳児保育における計画・記録・評価とその意義 乳児保育の具体的な計画を作成する視点を理解する。	
第15回	一人一人を健やかに育んでいくために（総括） 一人一人の乳児を丁寧に保育をするための連携と乳児保育の重要性について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	15	授業への参加・貢献度，受講態度，授業の振り返りシート提出等を，総合的に評価する。
レポート・課題	15	3回の課題レポートを行う。テーマに沿って，理解度を評価する。コメントをつけてそれぞれに返却する。
小テスト	20	「知識」・理解」「思考・問題解決能力」の理解を深めるために，ルーブリックを踏まえて2回の小テストを行う。返却時に授業内で復習を兼ねて解説する。
定期試験	50	授業全般の内容について，理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	乳児保育の基本は，子どもも保育者も人間として向き合い学びあうことである。授業の取り組みも同様で，全員が主体者であり学びあいの場となるように取り組むこと。
授業外学修	学んだことを振り返り，保育の現場等での実践に重ね合わせて試みることで，学修の定着を図ること。授業において，乳児の発育・発達を踏まえた生活や遊びに必要な環境作りを検討する。そのために休日や放課後等を利用した週2時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
『？〈ハテナ〉から考える乳児保育Ⅰ・Ⅱ』	入江　慶太	教育情報出版	978-4-909378-84-2	2,640円
0・1・2歳児の発達と保育 乳幼児の遊びと生活	乳幼児の発達と保育研究会（著／文）田知子・柳井郁子・小柳康子・宇都弘美(著者)	郁洋舎	978-4-910467-07-8	2,200円+税

使用テキスト：自由記載	『保育所保育指針解説』厚生労働省 (編集)，フレーベル館，2018.　320円+税 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 』内閣府 (著)， 文部科学省 (著)， 厚生労働省 (著)，フレーベル館，2018.　350円+税 その他，授業中に適宜資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
日本が誇る! ていねいな保育: 0・1・2歳児クラスの現場から	大豆生田啓友・おおえだけいこ（著）	小学館	978-4091050830	2,090円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	※使用テキスト『見る・考える・創りだす乳児保育Ⅰ・Ⅱ』は、乳児保育Ⅱでも引き続き使用する。
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立保育所における保育士の実務経験を有する。（15年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	保育士の経験（15年）を活かして，具体的な事例を交えながら，3歳未満児の発育・発達を踏まえ保育について解説し，保育実践するための専門的知識や実践する能力を身につけられるように授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．乳児の発達についての理解	乳児の成長や発達について理解した発言や記述が十分にできる。	乳児の成長や発達について理解した発言や記述ができる。	乳児の成長や発達について理解した発言や記述がおおむねできる。	乳児の成長や発達について理解した発言や記述があまりできない。	乳児の成長や発達について理解した発言や記述が全くできない。
知識・理解	2．乳児保育のねらいおよび内容とチームで保育する方法の理解	発達に応じた保育のねらいや内容を踏まえ，チームで保育をする方法を十分に理解している。	発達に応じた保育のねらいや内容を踏まえ，チームで保育をする方法を理解している。	発達に応じた保育のねらいや内容を踏まえ，チームで保育をする方法をおおむね理解している。	年齢毎の保育のねらい、配慮、チーム保育をあまり理解していないが、保育の計画はできる。	発達に応じた保育のねらいや内容もわからず，チームで保育の在り方を全く理解していない。
思考・問題解決能力	1．子どもを理解し，一人一人の発達に応じた援助及び環境構成	乳児一人一人の発達を十分に理解し，他の保育者と連携する意味が分かったうえで適切な援助や環境構成を行うことができる。	乳児一人一人の発達を理解し，他の保育者と連携する意味が分かったうえで適切な援助や環境構成を行うことができる。	乳児の発達を理解し，他の保育者と連携する意味が分かったうえで適切な援助や環境構成を行うことができる。	他の保育者と連携して保育する意味があまり分かっていないが，乳児の発達を理解したうえで，援助や環境構成ができる。	他の保育者と連携して保育する意味が分かっていないうえ，乳児の発達の理解もしていないため，適切な援助や環境構成を行うことができない。
思考・問題解決能力	2．これからの保育の現状や課題	乳児保育の歴史的変遷や実際の乳児保育の現状など，社会的背景から保育及び子育て支援のあり方を考察し，十分な理解を深めている。	乳児保育の歴史的変遷や実際の乳児保育の現状など，社会的背景から保育及び子育て支援のあり方を考察し，理解を深めている。	乳児保育の歴史的変遷や実際の乳児保育の現状など，社会的背景から保育及び子育て支援のあり方を考察し，おおむね理解を深めている。	乳児保育の歴史的変遷や実際の乳児保育の現状など，社会的背景から保育及び子育て支援のあり方を考察し，あまり理解できていない。	乳児保育の歴史的変遷や実際の乳児保育の現状など，社会的背景から保育及び子育て支援のあり方を，全く理解していない。
技能	1．乳児の基本的な考え方を踏まえた，日々の保育を計画や保育実践	乳児保育の基本的な考え方を十分に理解した上で保育を計画し，主体的に保育をする技能を身に付けていくことが十分にできる。	乳児保育の基本的な考え方を十分に理解した上で保育を計画し，主体的に保育をする技能を身に付けていくことができる。	乳児保育の基本的な考え方を十分に理解した上で保育を計画し，主体的に保育をする技能を身に付けていくことがおおむねできる。	乳児保育の基本的な考え方を十分に理解した上で保育を計画し，主体的に保育をする技能を身に付けていく基礎が十分でない。	乳児保育の基本的な考え方が理解できず，保育を計画や主体的に保育をする技能を身に付けていく基礎が全くない。

科目名	子どもの健康と安全 1クラス			授業番号	EE211A	サブタイトル			
教員	荒谷　友里恵								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	「保健活動の計画及び評価」「心身の健康に関する保健活動や環境」「体調不良等に対する適切な対応」「感染症対策」「衛生管理並びに安全管理」の各分野についての知識をどのように実践していくか，自分自身や仲間と考える課題や事例を通じて実践力を身につける								
到達目標	１．子どもの健康の保持増進に関する保健活動を理解して，自分の意見を言える。 ２．子どもに起こりやすい病気の予防法と適切な対応方法，救急蘇生法を理解して，的確に演習できる。 ３．現代社会における心の健康問題や地域保健活動について理解して，自分の意見を言える。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。 子どもの健康を守り，健全な発育，発達を支援する役割を担う保育者として子どもの保健の基礎知識と科学的根拠に基づいた技術を修得する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもの健康と安全の必要性　本教科のすすめ方・目的・目標・内容・方法	
第2回	子どもの発育　正しい身体計測の方法と発育の評価の仕方を理解する	
第3回	子どもの健康状態　生理機能の発達を理解する	
第4回	子どもの養護　抱き方，寝かせ方，衣着脱，身体の清潔法などの実習	
第5回	子どもの生活習慣と心身の健康　生活習慣の基本となる生活リズムを理解する	
第6回	子どもの養護　食育について　食事の与え方などの実習	
第7回	子どもの養護　口腔内の衛生　歯みがきなどの実習	
第8回	子どもの病気　体調不良時の対応や看護の仕方を理解する（発熱・嘔吐・下痢等）	
第9回	子どもの事故と応急処置　事故・けがに対応する技能の習得 応急処置に習熟する実習	
第10回	衛生管理・安全教育と安全管理　・子どもに起こりやすり事故と原因、その対処法について学ぶ。・学内における危険箇所を探す。	
第11回	救命処置について理解する　・出血、火傷、熱中症、アナフィラキシーショックに対する対応を実践を通して学ぶ	
第12回	心肺蘇生法　心肺蘇生法の技能を習得　・心肺蘇生法、窒息時の対応を実践を通して学ぶ	
第13回	「救急シミュレーションの発表」①　緊急時の対応（嘔吐、窒息、心肺停止、頭部打撲、アナフィラキシー、熱中症、熱傷等）について、グループで話し合い、資料を作成する	
第14回	「救急シミュレーションの発表」②　緊急時の対応（嘔吐、窒息、心肺停止、頭部打撲、アナフィラキシー、熱中症、熱傷等）について、作成した資料をもとに発表を行う	
第15回	全体総括　授業のまとめ　・授業全体のまとめと振り返り（保育者として子どもの健康と安全を守るためにできることを、グループで話し合い発表する。）	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的に取り組んでいるか、予習復習、意見発表等の授業参加態度で評価する。
レポート	10	レポートは提出期日が守れているか、内容が一致しているか、具体的に記述できているかを評価し，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	60	到達目標１・２・３について，理解度・定着度を評価する。
その他	20	救急シミュレーションの発表

評価の方法：自由記載	
受講の心得	健康教育を実施する体験学習やグループワーク等を取り入れる グループ演習の際，メンバー同士で技術を高められるよう協力すること グループワークでは自分の意見をもち，積極的に発表すること
授業外学修	毎回，授業後は復習しておくこと 毎回の授業前までには，教育内容の範囲についてテキストを読んでおくこと 次回授業計画の範囲を予習し専門用語の意味を理解しておくこと 新聞等の保健情報をよく読んでおくこと

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの保健と安全演習ブック	松本峰雄	ミネルヴァ書房	978-4-623-08910-1	2,500円＋税

使用テキスト：自由記載	一年次に購入済み

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義中に提示する
その他	授業の進行度により授業内容を変更することがある。
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師（10年）としての実務経験の中で小児病棟勤務の実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	小児病棟勤務での看護の経験から、保育の現場に必要な基礎的知識を教授する。また、子どもに起こりやすい症状とその対応について、具体的にわかりやすく教授する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．保健活動の理解	子どもに対する保健活動について正しい知識を十分もっている。また、子どもの心の健康問題と地域の保健活動について正しい知識を十分もっている。保健活動にPDCAサイクルを活用する意義を十分理解し、具体的な事例を使った内容に、自分の意見が言える。	子どもに対する保健活動について正しい知識を十分もっている。また、子どもの心の健康問題と地域の保健活動について正しい知識を十分もっている。保健活動にPDCAサイクルを活用する意義を理解し、具体的な事例を使った内容に、自分の意見を言おうと努力する。	子どもに対する保健活動について正しい知識を大体もっている。また、子どもの心の健康問題と地域の保健活動について正しい知識を大体もっている。保健活動にPDCAサイクルを活用する意義は理解できるが、具体的な事例を使った内容について、自分の意見が言えない。	子どもに対する保健活動についての知識が乏しい。また、子どもの心の健康問題と地域の保健活動について正しい知識が乏しい。保健活動にPDCAサイクルを活用する意義や、具体的な事例を使った内容について、積極的に考えない。	子どもに対する保健活動についての知識をもとうと努力しない。また、子どもの心の健康問題と地域の保健活動についての知識をもとうと努力しない。保健活動にPDCAサイクルを活用する意義や、具体的な事例を使った内容を理解しようと努力しない。
知識・理解	2．病気と怪我の対応の理解	発熱・嘔吐・下痢・怪我・火傷など症状別の対応方法をすべて正しく理解できる。また、その科学的根拠についてすべて正確な知識がある。	発熱・嘔吐・下痢・怪我・火傷など症状別の対応方法をほとんど正しく理解できる。また、その科学的根拠についてほとんど正確な知識がある。	発熱・嘔吐・下痢・怪我・火傷など症状別の対応方法を半分以上正しく理解できる。また、その科学的根拠について半分以上正確な知識がある。	発熱・嘔吐・下痢・怪我・火傷など症状別の対応方法を半分以上正確な知識がある。しかし、その科学的根拠について考えられていない。	発熱・嘔吐・下痢・怪我・火傷など症状別の対応方法と災害時と緊急時の対応方法について正確な知識を得ようとしない。また、その科学的根拠について考えようとしない。
知識・理解	3．心の健康問題・地域の保健活動の理解	心の健康問題・地域の保健活動について、すべて正しい知識がある。それについて、自分の意見が言える。	心の健康問題・地域の保健活動について、ほとんど正しい知識がある。それについて、自分の意見が言える。	心の健康問題・地域の保健活動について、半分以上正しい知識がある。	心の健康問題・地域の保健活動について、部分的に正しい知識がある。	心の健康問題・地域の保健活動について、正しい知識が全くない。
思考・問題解決能力	1．事例検討	すべてのグループ討議に積極的に参加し、アレルギーのある子・障害のある子・医療的ケア児の事例を的確に理解し、それぞれ適切な対応について自分の意見を率先して言える。	すべてのグループ討議に積極的に参加し、アレルギーのある子・障害のある子・医療的ケア児の事例を的確に理解し、それぞれ適切な対応について自分の意見を言える。	ほとんどのグループ討議に参加し、アレルギーのある子・障害のある子・医療的ケア児の事例を理解し、それぞれ適切な対応について自分の意見を言える。	ほとんどのグループ討議に参加し、アレルギーのある子・障害のある子・医療的ケア児の事例を理解できず、それぞれ適切な対応についてグループメンバーの意見を聞くことはできるが言うことに消極的である。	グループ討議に欠席して、事例検討に参加しない。
技能	1．病気と怪我の対処法の技術習得	すべての演習で、説明のポイントを押さえて正しい手順で技術を習得できる。すべての演習で、グループメンバーの技術について十分観察し、的確なアドバイスをすることができる。	ほとんどの演習で、説明のポイントを押さえて正しい手順で技術を習得できる。ほとんどの演習で、グループメンバーの技術について十分観察し、的確なアドバイスをすることができる。	演習で、説明のポイントを押さえて正しい手順で技術を習得しようと努力する。演習で、グループメンバーの技術について観察し、アドバイスをしようと努力する。	演習で、グループメンバーからアドバイスをもらって技術を習得しようと努力する。グループメンバーにアドバイスすることはほとんどない。	演習の欠席が重なり、出席しても説明や演習に集中できず、正しい手順の習得ができない。
技能	2．救急蘇生法の技術習得（テスト）	幼児の救急蘇生法の手順一つひとつの意味を十分理解したうえで、的確に迅速に行うことができる。	幼児の救急蘇生法の手順一つひとつの意味を十分理解したうえで、的確に行うことができる。	幼児の救急蘇生法の手順一つひとつの意味を十分理解したうえで、的確に行うことができる。蘇生の効果を高めるために一部改善すべき手順がある。	幼児の救急蘇生法をひととおり行うが、危険な行為があり早急に改善すべき手順がある。	練習不足で時間内に乳児の救急蘇生法・幼児の救急蘇生法をひととおり行うことができない。
態度	1．課題への取り組み	毎回意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を的確に述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。毎回演習に集中して取り組み、グループでリーダーシップがとれる。	ほぼ毎回意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。毎回演習に集中して取り組むことができる。	意欲的に取り組み、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、知識の定着が見られる。ほとんどの演習に集中して取り組むことができる。	テーマに沿った内容で意見・感想を述べることができる。また、やや知識の定着が見られる。演習に集中して取り組めていないことがある。	意欲的な態度が見られず、テーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができない。また、知識の定着も見られない。演習の取り組みが消極的で、集中できていない。
態度	2．服装身だしなみ	演習の授業で毎回、実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみが完璧にできる。	演習の授業でほとんど、実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみが完璧にできる。	演習の授業で半分以上、実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみが完璧にできる。	演習の授業で実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみを心がけるが、完璧にはできないことが多い。	演習の授業に普段着で参加することが1回以上ある。

科目名	特別支援教育入門 1クラス			授業番号	EE212A	サブタイトル			
教員	平尾　太亮								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	特別支援教育を支える理念に関して理解を深めるとともに，教育・保育をする上で必要な様々な障がいについて知り，個別の教育的ニーズを把握，他の教員や関係機関と連携等の技術を習得することを目的とする。								
到達目標	・障がい等，特別な支援を要する事柄についての知識を獲得する。 ・特別な支援を要する子どもへの教育や保育，支援の方法を知り，実際に支援する際の方策を提示し，実施することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	特別支援教育とは ノーマライゼーションやインクルーシブ教育などを中心に、「特別支援教育」の意義と目的について理解する。	
第2回	障がいの意味と理解，特別支援教育の歴史的変遷 「障がい」について我が国と国際的な捉え（ICF）を理解し，特別支援教育の歴史的変遷について知る。 ICD-10やDSM-5に基づく、障がいの意味について理解する。	
第3回	身体障がい児への理解と支援 身体障がいや重度・重複障がい（重症心身障がい）の定義を知り，支援方法を具体的に理解する。	
第4回	知的障がいの理解 知的障がいの定義と具体的な特徴を知る。	
第5回	知的障がい児への支援 知的障がい児（ダウン症含む）に対する支援方法を具体的に理解する。	
第6回	発達障害の理解，ASDの理解 発達障がいとASDの定義と具体的な特徴を知る。	
第7回	ASD児への支援 ASD児に対する支援方法を具体的に理解する。	
第8回	ADHDの理解，ADHD児への支援 ADHDの定義を知り，支援方法を具体的に理解する。	
第9回	LDの理解，LD児への支援 LD（ディスレキシア等含む）の定義を知り，支援方法を具体的に理解する。	
第10回	個別指導計画の作成と記録および評価 個別指導計画の作成や，記録及び評価のポイントを理解する。 学習支援や行動支援、対人関係の支援や生活支援の視点を踏まえながら、子どもの長期目標や短期目標をたてられるようになる。	
第11回	子どもの発達をうながす生活や遊びの環境 障がいを持つ子どもの発達をうながす環境の作り方を理解する。	
第12回	地域の専門機関や小学校との連携 特別支援学校や特別支援学級、通級による指導等の内容を通して、多職種との連携について知る。	
第13回	保護者や家族に対する理解と支援 保護者や家族の障がいの受容プロセスや支援方法について理解する。	
第14回	特別な配慮を必要とする様々な子ども 貧困児や母国語の異なる子どもなど，特別な配慮を必要とする様々な子どもの現状について理解する。 医療的ケア児や二次障がい等、多様な状況を理解する。	
第15回	まとめ 全講義を振り返り、障がい等，特別な支援を要する事柄についての知識の定着を図る。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	5	授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。
レポート		
小テスト	35	講義内容の理解度，定着度を評価する。
定期試験	35	全講義終了後，障害児保育における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる。
その他	25	Googleクラスルーム内で課題を実施し到達度を評価する（5%×5回） 課題については、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。
授業外学修	1．授業内で学修した，障害児保育に関わる基礎理論を復習すること。 2．授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。 3．教科書のうち，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要に応じて資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療型障害児入所施設職員（3年），スクールカウンセラー（14年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	施設職員の経験（3年）を活かし，各障がいに対して具体的な事例を交えながら教示する。 カウンセリング経験（14年）から，様々な困難感を抱え，特別な支援を必要としている子どもや，特別な支援を必要をする子どもを持つ保護者の気持ちへの寄り添い方について，具体的な事例を通して考えることで，実践力を養う.

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．特別支援に関する知識	特別支援に関する具体的な知識を深く習得している。	特別支援に関する知識を習得している。	特別支援に関する知識を習得している。	特別支援に関する知識の習得が不十分である。	特別支援に関する知識が習得できていない。
技能	1．特別支援に関する技能	個々の状態や特性に合わせた支援方法を具体的に論述・実施することができる。	個々の状態や特性に合わせた支援方法を論述・実施することができる。	個々の状態や特性に合わせた支援方法を論述することができる。もしくは、支援方法を実施することができる。	個々の状態や特性に合わせた支援方法を具体的に論述・実施することができない。	個々の状態や特性に合わせた支援方法を論述・実施することができない。

科目名	社会的養護Ⅱ 1クラス			授業番号	EE213A	サブタイトル			
教員	津嶋 悟								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	保育士は児童福祉施設において援助者（直接処遇職員・ケアワーカー）としての大切な役割を担っており，その支援のあり方によって子どもたちの人生が左右されてしまうと言っても過言ではない。 この「社会的養護II」は，児童福祉施設で社会的養護を必要とする子どもやその保護者に対して日々実践されている養育や支援のあり方について，現状を広く理解し考察を深めていくものである。 なお授業は，主に講義とグループワークをもってすすめられる。								
到達目標	講義においては，施設において展開されている子どもたちの日々の生活の実際，養育のあり方や援助者の支援方法について理解し，子どもの心身の成長や発達を保障するために必要な知識や技能を習得し，適切な子ども観や養育観を獲得する。 またグループワークにおいては，相手に伝える力（文をまとめる，適切な言葉選び，相手の視点に立った話の仕方）と，傾聴（相手の話を聞く態度，相手が話しやすい雰囲気）等，社会人として必要とされるコミュニケーション能力の向上を目指す。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	「児童養護施設におけるこどもたちの暮らし」	
第2回	「児童養護施設におけるこどもたちの暮らし」をもっと理解する	
第3回	「社会的養護の理解とそこで働くひとたち」	
第4回	「社会的養護の源流をたどる」	
第5回	「受け継がれる先人の魂と児童養護施設の現状」	
第6回	「社会的養護を必要とするこどもの理解①」	
第7回	「社会的養護を必要とするこどもの理解②」	
第8回	「社会的養護施設と関係機関の理解①」	
第9回	「社会的養護施設と関係機関の理解②」	
第10回	「こどもたちへの支援①」～基本的な心がまえ～	
第11回	「こどもたちへの支援②」～日常生活（衣食住）の大切さ～	
第12回	「こどもたちへの支援③」～家族支援・アフターケア・その他関連すること～	
第13回	「こどもたちへの支援④」～効果的な支援方法の基礎と実際～	
第14回	「こどもの権利擁護について理解する」～こどもの安全・安心をまもるために～	
第15回	「さいごに伝えたいこと」	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	毎授業時に提出するコメントペーパーや意欲的な授業態度により評価する。
コメントペーパー		
小テスト		
定期試験	40	15回の講義を通しての理解度と主体性の伸びを評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	講義中は頭と心の両方を使うよう意識すること。 社会情勢や自分自身の日常生活にリンクさせて物事を捉え考えること。 講義後にコメント（感想や気づき）を記入することにより，感じたことや気持ちを文章で表現できるようになること。 学習したことを活かし，「社会の一員として自分にできることは何か」を探し行動しようと努力すること。
授業外学修	１．テキストや授業で配布した資料を，発展学習として読んで理解を深める。 ２．講義で学んだ事柄の中から，実習に生かせる部分を取り出し，２月に行われる施設実習の現場での実践に活かす。 ３．グループワークにおけるコミュニケーションについての学びを，日常生活の中で意識的に実行していく。 ４．講義での学びから，社会の中における自身の役割に気づき，自分にできることから行動を起こそうと努める。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	児童養護施設［施設長］
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	児童養護施設で出会った子どもたちの具体的な事例を紹介することにより，社会的養護を必要とする子どもの現状や児童虐待などへの理解を深める。 また管理職（施設長）としての経験を活かし，施設実習におけるポイントや注意点を伝え，講義での学びを総合的に現場実践につなげていく。 人材育成の観点から，グループワークを目的をもって積極的に行う姿勢を獲得できるよう支援し，他者と対話し連携することの大切さを体得させ成長の実感を掴む。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．社会的養護の基礎的な内容を理解している。	学習した社会的養護に関する知識について、的確に理解し述べることができる。	学習した社会的養護に関する知識について、的確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学習した社会的養護に関する知識について、大体述べることができる。	学習した社会的養護に関する知識について、的確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した社会的養護に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	２．児童養護施設の現状と課題についての基礎的な内容を理解している。	学習した児童養護施設の現状と課題に関する知識について、的確に理解し述べることができる。	学習した児童養護施設の現状と課題に関する知識について、的確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学習した児童養護施設の現状と課題に関する知識について、大体述べることができる。	学習した児童養護施設の現状と課題に関する知識について、的確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した児童養護施設の現状と課題に関する知識について、全く表現することができない。
知識・理解	３．児童虐待の現状についての基礎的な内容を理解している。	学習した児童虐待の現状に関する知識について、的確に理解し述べることができる。	学習した児童虐待の現状に関する知識について、的確ではないがほぼ理解し述べることができる。	学習した児童虐待の現状に関する知識について、大体述べることができる。	学習した児童虐待の現状に関する知識について、的確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した児童虐待の現状に関する知識について、全く表現することができない。
思考・問題解決能力	１．社会的養護を必要とするこどもたちへの支援のあり方について考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
思考・問題解決能力	２．社会的養護を必要とするこどもたちに対する社会のあり方について考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
思考・問題解決能力	３．児童虐待を含む社会問題に対し自分自身に出来ることを考えることができる。	課題に対し、論理的整合性を持ち、多角的に考察をしている。	課題に対し、ほぼ論理的整合性を持った考察を加えている。	課題に対し、自分の考えを述べることができる。	課題に対する結果を述べることができる。	課題を作成したが指示事項に沿っていない。
技能	１．社会的養護の分野において活かせる自らのスキルを理解する。	自分を知り、分析したうえで自らの活かせるスキルを十分に理解している。	自分を知り、分析したうえで自らの活かせるスキルをほぼ理解している。	自分を知り、分析したうえで自らの活かせるスキルを大体理解している。	自分を知り、分析したうえで自らの活かせるスキルについて理解が十分でない。	自らの活かせるスキルについて全く理解していない。
態度	１．演習に積極的に参加できる。	質問など積極的に行い、疑問を解決し、演習内容を理解したうえで、適切なコメントペーパーを提出している。	演習に前向きに取り組む姿勢が見受けられ、演習内容を理解したうえで、コメントペーパーを提出している。	演習に出席し、演習の内容を理解したうえでコメントペーパーを提出している。	演習に出席し、コメントペーパーを提出しているが、理解が十分ではない。	演習に出席しているが、コメントペーパーの提出をしていない。

科目名	子育て支援 1クラス			授業番号	EE214A	サブタイトル			
教員	平尾　太亮								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談，助言，情報提供，行動見本の提示等の支援（子育て支援）の意義や基本について学び，保育士の専門性を生かした支援とは何かを考える。また，保育現場や児童福祉施設での支援の実際を通して，保育士として保護者を支援するために必要な視点について学ぶ。								
到達目標	・子育て支援について，その特性と展開を具体的に理解できる。 ・保育士の行う子育て支援について，様々な立場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を，実践事例等を通して具体的に理解し修得する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育士の行う子育て支援の特性 保育士の行う子育て支援について理解することができる。	
第2回	日常的・継続的な関わりを通じた保護者との相互理解と信頼関係の形成 保育士の業務を通した、子育て支援について知ることができる。	
第3回	保護者や家庭の抱える支援のニーズへの気づきと多面的な理解 保護者や家庭の多様なニーズを知り、困難感に理解を深めることができる。	
第4回	子育て支援の方法と技術 実際の子育て支援の方法と技術について知り身につけることができる。	
第5回	子ども及び保護者の状況・状態の把握 実際のアセスメント方法について知り、子どもや保護者の状況・状態を把握することができる。	
第6回	支援の計画と環境の構成 支援計画の方法や環境構成の方法について知ることができる。	
第7回	支援の実践・記録・評価・カンファレンス 記録や評価、カンファレンス方法の実際と実施方法を知ることができる。	
第8回	職員間の連携・協働 連携と協働について理解し、重要性を理解することができる。	
第9回	地域資源・関係機関の種類と機能と，関係機関との連携・協力 地域資源や関係機関の種類と機能、関係機関との連携・協力について知ることができる。	
第10回	保育所における保育士の行う子育て支援とその実際 実際の事例を通して、子育て支援の実際を知ることができる。	
第11回	地域の子育て対する支援とその実際 実際の事例を通して、地域の子育てに対する支援について知る。	
第12回	障害のある子ども及びその家庭等に対する支援とその実際 障害のある子どもや家庭に対する支援とその実際について知ることができる。	
第13回	特別な配慮を要する子ども及びその家庭に対する支援とその実際 特別な配慮を要する子どもや家庭に対する支援と実際について知ることができる。	
第14回	子ども虐待の予防と対応，要保護児童等の家庭に対する支援とその実際 子ども虐待の予防と対応，要保護児童等の家庭に対する支援とその実際について知ることができる。	
第15回	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解 その他の多様なニーズについて知り、子育て支援の重要性について考えることができる。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト	70	毎講義内で実施する事例について，子育て支援で学修した内容を踏まえながら，様々な視点で支援方法を具体的に提案することができる。課題やレポートついてはコメントと併せて返却する。（５%×14回）
定期試験	20	全講義終了後，保育相談支援における知識と視点をふまえて，総合的に論じることができる。
その他	10	事例検討やロールプレイに積極的に参加し，意見を出すことができる。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	様々な気づきを得られるよう，積極的な態度で授業に臨むこと。
授業外学修	１．授業内で学修した，子育て支援に関わる基礎理論を復習すること。 ２．毎授業内で事例検討を行うため，事例について読み深めること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要であれば，その都度プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	スクールカウンセラー（14年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	カウンセリング経験（14年）から得られた，様々な困難感を抱える保護者の気持ちへの寄り添い方や支援方法について教示し，保育士における子育て支援の重要性について，実践的に考える。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．子育て支援に関する知識	子育て支援に関する具体的な知識を深く習得している。	子育て支援に関する具体的な知識を習得している。	子育て支援に関する知識を習得している。	子育て支援に関する知識の習得が不十分である。	子育て支援に関する知識が習得できていない。
技能	１．相談支援の技術	子育て支援の知識を踏まえながら、具体的に行動にうつすことができる。子育て支援の知識に即しながら、自分なりの新たな取組を提案/実践することができる。	子育て支援の知識を踏まえながら、具体的に行動にうつすことができる。	子育て支援の知識を踏まえながら、行動にうつすことができる。	子育て支援の知識を踏まえずに、行動にうつしている。	子育て支援の行動に移すことができない。

科目名	健康の指導法 1クラス			授業番号	EE215A	サブタイトル			
教員	荒谷　友里恵、土田　豊								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	幼児の心身の健康と安全，遊びと生活に関する指導法について具体的に学ぶ。食育や健康領域の問題点を含め，グループワークなどで意見交換を積極的に行う。								
到達目標	幼児の発達や学びの過程を理解し，日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し，具体策を考えることができる。 幼児の発達や学びの過程を理解し，生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し，具体策を考えることができる。 幼児の発達や学びの過程を理解し，発達を促し安全に配慮した遊びの指導法正しく理解し，具体策を考えることができる。 幼児の興味を引き出し指導の効果をより高くするため，様々なツールを用いた指導法を計画できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「食事・食育に関する指導法について」 乳幼児にとって食事をすることの必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	荒谷　友里恵
第2回	「着脱に関する指導法について」 幼児が自分で着脱することの意味について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	荒谷　友里恵
第3回	「清潔に関する指導法について」 乳幼児のからだや生活周辺を清潔に保つことの必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	荒谷　友里恵
第4回	「排泄・睡眠に関する指導法について」 乳幼児にとって排泄・睡眠の必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	荒谷　友里恵
第5回	「生活面の安全に関する指導法について」 乳幼児にとって生活面における安全な環境づくりについて学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	荒谷　友里恵
第6回	「交通面の安全に関する指導法について」 乳幼児にとって交通面における安全な環境づくりについて学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	荒谷　友里恵
第7回	「災害面の安全に関する指導法について」 乳幼児にとって災害面における安全な環境づくりについて学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	荒谷　友里恵
第8回	「平衡性・移動性・操作性を高める運動遊びに関する指導法について」 乳幼児にとって運動遊びの必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	土田　豊
第9回	「食事・食育・着脱に関する指導法について」 乳幼児にとって食事・食育・着脱することの必要性について配慮事項を含めた学びを活かし，指導案を作成する。	荒谷　友里恵
第10回	「清潔・排泄・睡眠に関する指導法について」 乳幼児にとって清潔・排泄・睡眠の必要性について配慮事項を含めた学びを活かし，指導案を作成する。	荒谷　友里恵
第11回	「生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法について」 乳幼児にとって生活面・交通面・災害面の安全の必要性について配慮事項を含めた学びを活かし，指導案を作成する。	荒谷　友里恵
第12回	「指導案を活用した健康指導を行う」 対象年齢を設定し、ねらいどおりに健康教育を行う。	荒谷　友里恵
第13回	「表現遊びに関する指導法について」 乳幼児期における身体表現活動の必要性について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	荒谷　友里恵
第14回	「幼児の遊びと生活の場面で動きを引き出す環境構成について」 乳幼児の生活場面で体を動かしたくなる環境構成について学び，配慮事項を含めた指導法を考える。	荒谷　友里恵
第15回	「小学校との接続を考慮した指導法について」 小学校との接続を考慮し，幼児期に身につけておく必要のある力ついて考え，指導法をまとめる。	荒谷　友里恵
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	学ぶ意欲があり，集中して授業に取り組んでいるかをノートの作成状況から評価する
レポート	10	課題のテーマに沿い，幼児にあった指導法が具体的に記述できているかを評価し，コメントを記入して返却する。
小テスト		
定期試験	60	到達目標について，知識・理解の到達度を評価する
その他	20	指導案を使用した「健康の指導」 ねらいに沿った指導案を時間通りに展開できるか評価表を用いて評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	授業計画に応じて予習・復習し，1回の授業で4時間の学修を行う。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの保健と安全演習ブック	松本峰雄	ミネルヴァ書房	978-4-623-08910-9	2,500円＋税

使用テキスト：自由記載	一年次に購入済み

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	平成29年告示幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本（平成29年6月チャイルド社） 幼稚園教育要領解説（平成30年3月 文部科学省）
その他	授業の進行度により授業内容を変更することがある。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小学校教諭（10年）の実務経験を有する。（土田 豊） 看護師（10年）としての実務経験の中で、小児科病棟勤務の実務経験を有する。（荒谷 友里恵）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	小学校での勤務経験を活かした運動指導を教授する。（土田 豊） 小児科病棟勤務での看護経験から、保育の現場に必要な基礎的知識を教授する。（荒谷 友里恵）

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．日常生活習慣に関する指導法の理解	領域「健康」のレディネスが十分定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	領域「健康」のレディネスが定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考えることが難しい。	幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を理解できないため、具体策も考えられない。
知識・理解	２．生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法の理解	領域「健康」のレディネスが十分定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	領域「健康」のレディネスが定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解でし、具体策を考える。	幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法を正しく理解し、具体策を考えることが難しい。	幼児の発達に即した生活面・交通面・災害面の安全に関する指導法は、まったく理解できないため、具体策も考えられない。
知識・理解	３．発達を促し安全に配慮した遊びの指導法の理解	領域「健康」のレディネスが十分定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	領域「健康」のレディネスが定着しており、それをもとに学習でき、幼児の発達に即した日常生活習慣に関する指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達を促し安全に配慮した遊びの指導法を正しく理解し、具体策を考える。	幼児の発達を促し安全に配慮した遊びの指導法を正しく理解し、具体策を考えることが難しい。	幼児の発達を促し安全に配慮した遊びの指導法は、まったく理解できないため、具体策も考えられない。
思考・問題解決能力	１．幼児の興味を引きだし効果を高めるツールを使った指導法の計画	目的に合わせた指導法について、ICTを含め多様なツールを収集、十分な比較検討をした上でツールを決めることができる。また、発達に応じた的確な指導法を考察することができる。	目的に合わせた指導法について、ICTを含め多様なツールを収集・比較検討した上でツールを決めることができる。また、発達に応じた指導法を考察することができる。	目的に合わせた指導法について複数を比較検討した上でツールを決め、指導法を考察することができる。	目的に合わせた指導法について複数を比較検討した上でツールを決めたが、的確な指導法の考察が十分ではない。	目的を十分理解しておらず、ツールを比較検討しないまま指導法を考察するため、的確な指導法を作成できない。
技能	1. 健康教育の指導	指導案が十分に完成され、指導案通りにねらいに沿った的確な指導が時間内に行える。対象者の発達・発育に合わせた指導内容で、対象者の興味・関心を引く十分な健康教育ができる。	指導案が十分に完成され、指導案通りにねらいに沿った指導が時間内に行える。対象者の発達・発育に合わせた指導内容である。	指導案通りにねらいに沿った指導が時間内に行えるが、指導内容が一部不十分である。対象者の発達・発育に合わせた指導内容である。	健康教育は一通り行えるが、指導案通りにねらいにからそれた指導となり、対象者の興味・関心を十分に引くことができない。	指導案が不十分で、ねらいが定まっておらず、内容が適切ではない。対象者の発達・発育に合わせた内容ではない。
態度	１．課題への取り組み	毎回意欲的に取り組み、グループワークなどでテーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を的確に述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。	ほぼ毎回意欲的に取り組み、グループワークなどでテーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、正しい知識の定着が見られる。	意欲的に取り組み、グループワークなどでテーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることができる。また、知識の定着が見られる。	意欲が十分とはいえないが、グループワークなどで少しはテーマに沿った内容で意見・感想を述べることがある。また、知識の定着が少ない。	意欲的な態度が見られず、グループワークなどでテーマに沿った内容で自分なりの意見・感想を述べることが全くできない。また、知識の定着も見られない。

科目名	人間関係の指導法			授業番号	EE216	サブタイトル			
教員	岡本　美幸								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子どもが他者と親しみ支え合って生活するために，領域「人間関係」のねらい及び内容について，子どもの姿と保育実践とを関連させて理解を理解を深めることを目指す。そのうえで，自立心を育てるとともに，道徳心や規範意識の芽生えを育み，他者とかかわり，協力して物事に取り組んでいく力の育ちにふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育の具体的な知識および指導法を学習する。								
到達目標	・領域「人間関係」のねらいと内容を踏まえて，子どもが人と関わる力を養うために必要な，子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解する。 ・子どもの発達や遊びの過程を理解し，領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法を身につける。 ・グループワーク，事例検討等の演習の実践およびその振り返りを通して，具体的な指導案の作成や保育を改善する視点を身につける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げや学士力の内容のうち，〈知識・理解〉〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	幼稚園教育要領における領域「人間関係」の全体像 「人間関係」のねらいと内容を踏まえ，遊びや生活を通して他者を理解し調整する力を環境を通して培うことを理解する。	
第2回	乳幼児期における人とのかかわりの発達と保育 人とのかかわりの重要性と個と集団の育ちについて理解する。	
第3回	保育者の様々な役割 人とかかわる力を育む保育者の役割について理解する。	
第4回	0歳児における人とのかかわりの発達と保育者の援助 0歳児の人とのかかわりに重要となる，人的環境について理解する。	
第5回	1，2歳児における人とのかかわりの発達と保育者の援助 1，2歳児における人間関係の意義と，その発達を支える保育者の援助について理解する。	
第6回	3，4，5歳児における人とのかかわりの発達と保育者の援助 各歳児の特徴を踏まえながら，人間関係の発達を育む保育者の援助について理解する。	
第7回	人とのかかわりが難しい子どもへの支援 障がいのある子どもや外国製の子ども等，多様性を尊重した保育のあり方や，支援の工夫を理解する。	
第8回	発達や学びの連続性を踏まえた幼児教育 子どもの発達や学びの連続性を踏まえた，乳児期，幼児期，学童期への連携・接続について理解する。	
第9回	幼児期に育みたい資質・能力と領域「人間関係」① 「自立心」を育むために，幼稚園教育要領や保育保育指針を読み解く。	
第10回	幼児期に育みたい資質・能力と領域「人間関係」② 「道徳心や規範意識の芽生え」を育むために，幼稚園教育要領や保育保育指針を読み解く。	
第11回	幼児期に育みたい資質・能力と領域「人間関係」③ 「協同性」を育むために，幼稚園教育要領や保育保育指針を読み解く。	
第12回	幼児期に育みたい資質・能力と領域「人間関係」④ 「社会生活との関わり」を育むために，幼稚園教育要領や保育保育指針を読み解く。	
第13回	子どもの人間関係の発達を支える保育者の同僚性 保育の相互理解を促すためにどのように，言語化・可視化を行うか，保育を読み取る視点について理解する。	
第14回	子ども理解から保育をつくる 子ども理解から始まる保育について改めて考え，その視点を踏まえた指導案の作成方法を理解する。	
第15回	領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題・まとめ 子どもを取り巻く人間関係の状況と現代に求められる保育内容「人間関係」について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業への参加・貢献度，受講態度，授業の振り返りシート提出等を，総合的に評価する。
レポート・課題	20	3回の課題レポートを行う。テーマに沿って，理解度を評価する。コメントをつけてそれぞれに返却する。
小テスト	20	「知識」・理解」「思考・問題解決能力」の理解を深めるために，ルーブリックを踏まえて2回の小テストを行う。返却時に授業内で復習を兼ねて解説する。
定期試験	50	授業全般の内容について，理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・グループワーク等に積極的に参加し，自身も円滑な人間関係を築けるように主体的に授業に取り組むこと。 ・日ごろから乳幼児や子育てに関わるニュースや新聞記事等に目を通す習慣をつけ，人間関係のあり方について探究し，想像力を広げるようにすること。
授業外学修	・毎回，授業終了時に本授業における学びを確認するための，振り返りレポートを課す。 ・事前・事後学習として，テキストや配布資料の指定範囲を週あたり2時間以上の予習・復習すること。 ・課題提出は必ず行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領解説	文部科学省 (著)	フレーベル館	978-4577814475	240円+税
保育所保育指針解説	厚生労働省 (編集)	フレーベル館	978-4577814482	320円+税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
領域「人間関係」乳幼児期にふさわしい生活で育む	河合優子(編著)・大澤洋美(編著)・佐々木 晃(編著)	ミネルヴァ書房	978-4-623-09605-3	2，420円
新訂　事例で学ぶ保育内容〈領域〉人間関係	無藤隆（監修）／ 岩立京子（編者代表）	萌文書林	978-4-89347-257-0	2，200円
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	内閣府 (著), 文部科学省 (著), 厚生労働省 (著)	フレーベル館	978-4577814499	350円+税

参考書：自由記載	
その他	その他，授業中に適宜資料を配付する。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立保育所における保育士の実務経験を有する。（15年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	公立保育所における保育士の経験（15年）を活かして，具体的な事例を交えながら，保育者として身につけておくべき領域「人間関係」関する知識と指導法，基礎的な技能を習得できるように授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.領域「人間関係」の理解	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえた子どもが人と関わる力を養うために必要な，子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点を大変よく理解している。	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえた子どもが人と関わる力を養うために必要な，子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点を理解している。	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえた子どもが人と関わる力を養うために必要な，子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点をおおむね理解している。	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえた子どもが人と関わる力を養うために必要な，子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点をあまり理解していない。	領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえた子どもが人と関わる力を養うために必要な，子どもが経験し身につけていく内容と指導上の留意点を全く理解していない。
知識・理解	2.保育現場での「人間関係」の理解	これまでの実習や授業での演習を踏まえ，幼児の「人間関係」を振り返り，その時の状況から具体的な関係性の読み取りと対応方法の考察が大変よくできる。	これまでの実習や授業での演習を踏まえ，幼児の「人間関係」を振り返り，その時の状況から具体的な関係性の読み取りと対応方法の考察ができる。	これまでの実習や授業での演習を踏まえ，幼児の「人間関係」を振り返り，その時の状況から具体的な関係性の読み取りと対応方法の考察がおおむねできる。	これまでの実習や授業での演習を踏まえ，幼児の「人間関係」を振り返り，その時の状況から具体的な関係性の読み取りと対応方法の考察があまりできない。	これまでの実習や授業での演習を踏まえ，幼児の「人間関係」を振り返り，その時の状況から具体的な関係性の読み取りと対応方法の考察が全くできない。
技能	1.保育技術に関する理解	子どもの発達や遊びの過程を理解し，領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法を十分に身につけている。	子どもの発達や遊びの過程を理解し，領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法を身につけている。	子どもの発達や遊びの過程を理解し，領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法をおおむね身につけている。	子どもの発達や遊びの過程を理解し，領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法をあまり身につけていない。	子どもの発達や遊びの過程を理解し，領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構成する方法を全く身につけていない。

科目名	環境の指導法 1クラス			授業番号	EE217A	サブタイトル			
教員	清水　憲志								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園教育要領に示されている領域「環境」のねらい及び内容を理解するとともに，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた，具体的な環境とのかかわりを想定して，保育構想をたて，子どもの豊かな学びを育む力を身に付ける。								
到達目標	・環境についての知識や技術について理解し，修得することができる。 ・具体的な環境とのかかわりを想定して，保育構想をたてることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	領域「環境」のねらいと内容からみる指導の方向性 …環境が持つ意味を捉え，指導法を考える。	
第2回	発達にふさわしい人的・物的環境 …発達を促すための環境を理解する。	
第3回	植物や生き物に触れる中で学び …どんぐりやまつぼっくりなど秋の自然物の理解を深めよう。	
第4回	自然物を使った保育指導案の作成 …自然物を活用できる指導案を作成しよう。	
第5回	自然物を使った保育の実践 …自然物を使って作品を作ろう。	
第6回	乳児の保育環境について …乳児の環境について知識を深めよう。	
第7回	幼児の保育環境について …幼児の環境について知識を深めよう。	
第8回	秋の自然物に触れ，深めよう（どんぐりゴマづくり） …ツリーやドングリゴマを作ろう。	
第9回	自然環境と子どもの育ち …自然について理解し，子どもの育ちに与える影響を理解する。	
第10回	遊びや生活の中で文字や数量への興味関心を養うために …生活を通して，文字や数量を理解しよう。	
第11回	気になる子どもへの環境について …子どもの特性を知り，生活しやすい環境を考えよう。	
第12回	ドキュメンテーションの作品鑑賞会 …それぞれの作品を見て，感性を高めよう。	
第13回	保護者に向けた情報発信のツールとしての活用 …様々なツールについて理解し，現場の実践例（園長及び現役保育者）に触れながら検討する。	
第14回	多国籍な子どもと共生する保育環境について …外国のルーツを持つ子どもについて理解し，対応を考えよう。	
第15回	幼児期の心を育てる保育環境について …子どもの最善の利益を守るための保育について考えよう。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	学ぶ意欲があり，集中して授業に取り組んでいるかを評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	60	知識・理解の到達度を評価する。
その他	30	ドキュメンテーション作成

評価の方法：自由記載	ドキュメンテーションの評価の観点 ・A4の紙2枚分（A３・１枚）に写真を用いて，記録が見られるものをつくろう。(1点) ・写真は活動の軌跡が見られるだけの枚数。(1点) ・裏に学籍番号・名前・テーマを書く(1点) ・写真についてのコメント・見出し・イラスト等があること(1点) ・１つの文章が短いこと。（。までが３０文字）(1点) （※補足のイラストなどで，誰が見ても同じ理解ができるなら，説明文を入れる必要はありません。） ・子どもがみてわかりやすい内容であること（5点） ・自分なりの工夫がされていること（5点） ・誰が見ても変化（経過）していることが分かること（5点） ・見出し等に工夫がされていること（5点） ・前期でした「フォトブック」の経験が生かされていること（5点） ※採点後，成績を個別に開示し，授業内で振り返りを行う。
受講の心得	・日頃の生活の中で，四季を意識して五感で感じて楽しむようにすること。 ・地域の自然に興味を持ち，色合いや生長を楽しむこと。 ・絵画や写真などを見たり，音楽を聞いたり，友人や家族と話したりしながら日々感性を磨くこと。
授業外学修	1. 復習として，ノートの整理を行う。 2. 授業内で紹介した参考文献や資料を読む。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜レジュメを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	保育所保育指針解説（平成30年３月　厚生労働省） 幼稚園教育要領解説（平成30年３月　文部科学省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説　（平成30年３月　内閣府，文部科学省，厚生労働省）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立保育園保育士（8年），幼稚園教諭（1年）,ネイチャーゲームリーダー（3年）,ネイチャゲームインストラクター（2年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	保育所園長及びこども園長等
実務経験をいかした教育内容	実務経験（公立保育園保育士（8年），幼稚園教諭（1年）,ネイチャーゲームリーダー（3年）,ネイチャゲームインストラクター（2年））を生かして環境の領域と他領域との関係を理解し，総合的に指導ができるよう具体的な活動を通して，ねらい，内容，指導案，保育実践など指導する。また、自然への興味関心を高めるためネイチャーゲーム【ネイチャーゲームリーダー（3年）】を行い,自然を身近なものとして捉えられるようにする。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．発達段階に基づいた、環境構成	発達の連続性を意識して、子どもと共に環境を構成しようとする。	発達の連続性を意識して、環境を構成できる。	年齢に応じた環境が構成できる。	年齢に応じた環境があまり構成できる。	年齢に応じた環境が構成しにくい。
知識・理解	２．人的環境としての意味を理解し、勤勉かつ主体的に行動	人的環境として、協働性や主体的な学びを意識して行動できる。	人的環境として、子ども一人一人に応じて行動できる。	人的環境として、意識して行動できる。	人的環境として、あまり意識して行動できない。	人的環境として、意識して行動できない。
知識・理解	3．植物の特性を知り、食育が持つ意味への理解力	野菜や植物の特性や育てる季節を理解し、積極的に保育に取り入れようとする。	野菜や植物の特性を理解し、保育に取り入れる。	野菜や植物の名前を理解している。	野菜や植物の名前をあまり知らない。	野菜や植物の名前をほぼ知らない。
思考・問題解決能力	１．子ども一人一人やクラスの課題を意識し、環境を構成できる。	子ども一人一人の特性やクラスで共に育ち合って生活することを十分に理解して、援助できる。	子ども一人一人の特性を十分に理解して、援助できる。	子ども一人一人の特性を理解して、援助できる。	子ども一人一人の特性をあまり理解できず、適切な援助がしにくい。	子ども一人一人の特性を理解できず、適切な援助ができない。
思考・問題解決能力	２．生活の中で季節感に親しみ、良さを感じて計画しようとする。	四季の特徴を十分に意識して保育の年間計画を立案できる。	四季の特徴を意識して保育の年間計画を立案できる。	四季を意識して保育の年間計画を立案できる。	四季を意識して保育の年間計画があまり立案できない。	四季を意識して保育の年間計画を立案できない。

科目名	言葉の指導法			授業番号	EE218	サブタイトル			
教員	福澤　惇也								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で，幼稚園教育要領に示されている「言葉」のねらい及び内容を理解するとともに，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえた具体的な指導場面を想定し，保育を構想し実践する力を身に付ける。								
到達目標	幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で，幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。その上で，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて，具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育における「言葉」の意義と指導の重要性を学ぶ	
第2回	子どもの言葉の発達過程（１）－発達の道筋を事例に基づいて学ぶ－	
第3回	子どもの言葉の発達過程（２）－小学校への接続をふまえた年長児段階の言葉の重要性を学ぶ－	
第4回	言葉を育む環境構成と援助（１）－話したい，聞きたい意欲が湧き出る環境のあり方を考える－	
第5回	言葉を育む環境構成と援助（２）－生活に必要な言葉の習得と大人の関わりを学ぶ－	
第6回	言葉を育む環境構成と援助（３）－すれ違いやいざこざ場面等のもどかしさへの援助を事例から学ぶ－	
第7回	言葉を豊かにする環境構成と援助（１）－子ども同士の言葉による伝え合いを事例から学ぶ－	
第8回	言葉を豊かにする環境構成と援助（２）－文字などで伝える楽しさを深掘りする－	
第9回	子どもの言葉を豊かにする教材（絵本・物語・紙芝居・ICTなど）の活用法を学ぶ	
第10回	言葉に対する感覚を豊かにする実践（情報機器を活用した言葉遊びを含む）のあり方を考える	
第11回	子どもの言葉を育む保育の実際（情報機器を活用した教材研究を含む）を学ぶ	
第12回	子どもの言葉を育む保育の構想を指導案作成を通して学ぶ	
第13回	子どもの言葉を育む保育の実践を模擬保育の実践から学ぶ	
第14回	子どもの言葉を育む保育の評価と改善を模擬保育の振り返りから学ぶ	
第15回	「言葉」をめぐる現代的課題と特別に配慮が必要な子どもに対する配慮を学ぶ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的かつ主体的な受講態度，課題に対して協働する態度，講義内容に関する積極的な質疑によって評価する。
レポート	10	講義の最後に与えられた課題について， 様式に従った上で個人の考えや疑問が丁寧に述べられているかについて評価する。疑問点については， 次回の講義冒頭で解説を加える。
小テスト		
定期試験	80	子どもの姿を捉えて考えられていること。保育者の援助について講義の内容を踏まえて考えられていること。論述の内容に独創性や試行錯誤の跡が認められること。以上の点に沿って評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	講義に対して自分なりの考えを持って臨むこと。講義の中で課題や疑問を積極的にみつけること。 「自分が保育者だったら」という想定で講義の内容や講義中の課題に取り組むよう努めること。
授業外学修	テキストや配布資料の該当箇所を次回授業までに読んでおき，疑問点を明白にしておくこと。 講義後はテキストや配布された資料をよく読み，知識を整理すること。質問をするなどして疑問を残さないこと。 課題発表の資料を準備すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる！保育士エクササイズ11 子どもの文化演習ブック	松本峰雄ほか	ミネルヴァ書房	978-4-623-09277-2	2，750円

参考書：自由記載	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本 （平成29年６月　チャイルド社） 幼稚園教育要領解説（平成30年３月　文部科学省）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	幼稚園教諭/子育て支援コーディネーター/専門学校非常勤講師
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭の経験を生かし，現場の実際を反映させた授業を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児期の言葉の発達を理解できている	幼児期の言葉の発達に関して高度な知識を有し、言葉の指導法における保育計画を具体的に考えることができる。	幼児期の言葉の発達に関して高度な知識を有し、言葉の指導法における保育計画を考えることができる。	幼児期の言葉の発達に関して知識を有し、言葉の指導法における保育計画を考えることができる。	幼児期の言葉の発達に関して知識を有してはいるが、言葉の指導法における保育計画を考えるまでには至らない場合がある。	幼児期の言葉の発達に関して知識を有してはいるが、言葉の指導法における保育計画を考えるまでには至らない。
知識・理解	２．幼児の言葉の発達を促す援助の方法を理解できている	幼児の言葉の発達を促す援助法に関して高度な知識を有し、言葉の指導法における保育計画を具体的に考えることができる。	幼児の言葉の発達を促す援助法に関して高度な知識を有し、言葉の指導法における保育計画を考えることができる。	幼児の言葉の発達を促す援助法に関して知識を有し、言葉の指導法における保育計画を考えることができる。	幼児の言葉の発達を促す援助法に関して知識を有してはいるが、言葉の指導法における保育計画を考えるまでには至らない場合がある。	幼児の言葉の発達を促す援助法に関して知識を有してはいるが、言葉の指導法における保育計画を考えるまでには至らない。
知識・理解	３．幼児期の言葉の発達に関する課題について理解できている	幼児期の言葉の発達に関する課題について高度な知識を有し、保育の中での具体的な援助法を考えることができる。	幼児期の言葉の発達に関する課題について高度な知識を有し、保育における援助法を考えることができる。	幼児期の言葉の発達に関する課題について知識を有し、保育における援助法を考えることができる。	幼児期の言葉の発達に関する課題について知識を有してはいるが、保育における援助法を考えるまでには至らない場合がある。	幼児期の言葉の発達に関する課題について知識を有してはいるが、保育における援助法を考えるまでには至らない。
知識・理解	４．幼児を取り巻く児童文化について理解できている	幼児を取り巻く児童文化に関して高度な知識を有し、児童文化を扱う保育計画を具体的に考えることができる。	幼児を取り巻く児童文化に関して高度な知識を有し、児童文化を扱う保育計画を考えることができる。	幼児を取り巻く児童文化に関して知識を有し、児童文化を扱う保育計画を考えることができる。	幼児を取り巻く児童文化に関して知識を有してはいるが、児童文化を扱う保育計画を考えるまでには至らない場合がある。	幼児を取り巻く児童文化に関して知識を有してはいるが、児童文化を扱う保育計画を考えるまでには至らない。
知識・理解	５．就学後教育をふまえた幼児期の言葉の指導法について理解できている	就学後教育をふまえた幼児期の言葉の指導法に関して高度な知識を有し、保育計画を具体的に考えることができる。	就学後教育をふまえた幼児期の言葉の指導法に関して高度な知識を有し、保育計画を考えることができる。	就学後教育をふまえた幼児期の言葉の指導法に関して知識を有し、保育計画を考えることができる。	就学後教育をふまえた幼児期の言葉の指導法に関して知識を有してはいるが、保育計画を考えるまでには至らない場合がある。	就学後教育をふまえた幼児期の言葉の指導法に関して知識を有してはいるが、保育計画を考えるまでには至らない。
思考・問題解決能力	１．適切な情報処理と知識の応用に基づく有機的な判断ができる	保育内容に関する数多の情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解した上で、高度な知識を活用して具体的な保育計画を考えることができる。	保育内容に関する数多の情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解した上で、高度な知識を活用して保育計画を考えることができる。	保育内容に関する数多の情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解した上で、知識を活用して保育計画を考えることができる。	保育内容に関する情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解してはいるが、保育の計画を考えるには至らない場合がある。	保育内容に関する情報を精査し、子どもの利益とは何かを理解してはいるが、保育の計画を考えるには至らない。
技能	１．指導案が立案できる	幼児期の言葉の発達を十分理解した上で、子どもの姿に即した指導案の立案ができる。	幼児期の言葉の発達を理解した上で、子どもの姿に即した指導案の立案ができる。	幼児期の言葉の発達を理解した上で、指導案の立案ができる。	幼児期の言葉の発達を理解してはいるが、指導案の立案は難しい。	幼児期の言葉の発達に関する理解が不十分であり、指導案の立案が難しい。
技能	２．幼児の言葉の発達を促す援助ができる	幼児期の言葉の発達を十分理解した上で、子どもの成長や日々の姿に即した適切な援助とかかわり方ができる。	幼児期の言葉の発達を理解した上で、子どもの成長や日々の姿に即した適切な援助とかかわり方ができる。	幼児期の言葉の発達を理解した上で、幼児に適切な援助を行い、かかわることができる。	幼児期の言葉の発達を理解してはいるが、幼児への適切な援助を行うことが難しい。	幼児期の言葉の発達に関する理解が不十分であり、幼児への適切な援助を行うことが難しい。
技能	３．言葉の指導における保育環境の構成ができる	幼児期の言葉の発達を十分理解した上で、幼児が言葉を獲得して使用できる環境を具体的に構成することができる。	幼児期の言葉の発達を十分理解した上で、幼児が言葉を獲得して使用できる環境を構成することができる。	幼児期の言葉の発達を理解した上で、幼児が言葉を獲得して使用できる環境を構成することができる。	幼児期の言葉の発達を理解してはいるが、幼児が言葉を獲得して使用できる環境を構成することが難しい。	幼児期の言葉の発達に関する理解が不十分であり、幼児が言葉を獲得して使用できる環境を構成することが難しい。

科目名	表現の指導法			授業番号	EE219	サブタイトル			
教員	武田　恵美								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	領域「表現」に関する知識や技能，指導法を講義する。教育要領，保育指針，教育・保育要領に基づき，領域「表現」のねらいや内容を説明する。音楽，身体，造形等による表現活動を通じ，子どもの発達を踏まえた適切な援助や指導法を理解するとともに，具体的な指導場面を想定して保育を構想する力を養う。指導案作成や模擬保育の実践を通し，保育者に求められる専門的な知識および技能を修得し，実践力を身につける。								
到達目標	教育要領等に基づき，領域「表現」のねらいや内容を理解し説明できるようになる。子どもの発達に応じた環境構成や援助を検討し，指導案の作成や楽器奏法，模擬保育の実践を通して，保育現場で活用できる具体的な指導技術を身につける。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	子どもにとっての表現とは（１） 子どもの表現を自己実現やコミュニケーションの視点から捉え，その意義と保育者の関わりや環境構成について理解する。	
第2回	子どもにとっての表現とは（２） 子どものイメージが表出・模倣を経て表現へと発展していく過程を，子どもの表現の特質を踏まえて理解する。	
第3回	発達と子どもの表現 子どもの発達と表現との関係を，発達の特徴や個人差を踏まえて理解する。また，保育内容の構造について，領域「表現」に焦点を当てて理解する。	
第4回	領域「表現」の変遷（１） 「幼稚園教育要領」の変遷から領域「表現」について考える。幼児教育において育みたい資質・能力および「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解する。	
第5回	領域「表現」の変遷（２） 「保育所保育指針」，「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の変遷と内容について理解する。また，領域「表現」の成立および改訂（改定）の概要について理解する。	
第6回	領域「表現」とは（１） 乳児期から3歳以上児の，発達段階に応じた領域「表現」の「ねらい」を理解する。また，発達に応じた表現の育ちと保育の関わりについて考える。	
第7回	領域「表現」とは（２） 領域「表現」の「内容」，「内容の取り扱い」を理解する。また，領域「表現」の指導および指導における留意点について考える。	
第8回	子どものさまざまな表現を探る（１） 子どもにとっての身体表現・音楽表現の意味について理解する。また，子どもの発達，保育者の受容，子どもを取り巻く現状との関係から表現の特徴について理解する。	
第9回	子どものさまざまな表現を探る（２） 子どもにとっての音楽表現・言語表現の意味について理解する。また，子どもの発達，保育者の受容，子どもを取り巻く現状との関係から表現の特徴について理解する。	
第10回	子どもの主体性と保育者の専門性について考える 一般的な保育実践をもとに，子どもの表現に見られる主体性の捉え方を理解し，子どもの表現を支える保育者の専門的な関わりについて考える。	
第11回	子どもの発達段階に応じた指導計画を考える 子どもの発達段階や表現の姿を踏まえ，ねらいと内容，環境構成，保育者の援助について検討し，指導計画の構想について考える。指導計画の構想を行い，指導案を作成する。	
第12回	子どもの楽器の取り扱いおよび奏法 無音程・有音程打楽器の取り扱いと演奏方法について，実践を通して理解を深める。	
第13回	子どもの楽器あそびの指導と展開 子どもの楽器あそびを通した表現活動の広がりについて理解する。また，アンサンブル活動における援助や基本的な指揮法について，実践を通して理解を深める。	
第14回	指導案に基づく模擬保育を行う（１） 作成した指導案に基づき模擬保育を行い，その実践を通して保育構想や保育者の関わりを中心に振り返る（タブレット等の情報機器の活用を含む）。	
第15回	指導案に基づく模擬保育を行う（２）およびまとめ 作成した指導案に基づき模擬保育を行い，その実践を通して保育構想や保育者の関わりを中心に振り返る（タブレット等の情報機器の活用を含む）。 今後の保育実践への課題を整理する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業に対する意欲的な取り組み，合奏やグループ活動，模擬保育等への主体的かつ積極的な参加態度を評価する。授業内での講評や随時の助言によりフィードバックを行う。
レポート	20	学修内容を整理した「授業振り返りシート」の内容に基づき，授業の主要なポイントの理解度を評価する。提出されたシートにコメント等を記入して返却する。
小テスト	20	打楽器の奏法や弾き歌い等の実技演奏により，技術の習得度を評価する。演奏後に口頭で個別に講評や助言を行う。
定期試験		
その他	40	子どもの発達段階を踏まえた指導案の作成，それに基づく模擬保育の実践によって評価する。模擬保育後に口頭で講評や助言を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回の授業や課題には，主体的な姿勢で取り組んで下さい。授業内でのグループ活動や演習活動においては，お互いの表現を尊重し合い，協力しながら学びを深められるよう取り組んで下さい。また，子どもたちの豊かな表現を支える技術を磨くために，楽器演奏や手あそびなどの練習を継続し，実践力を身に付けていくことを期待します。
授業外学修	1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点や不明点を明確にする。 2 復習として，授業内容を振り返り，「授業振り返りシート」を作成する。 3 楽器の演奏技術および弾き歌い，手あそび等の技術習得のために，継続的な練習を行う。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
楽しい音楽表現	高御堂愛子・植田光子・木許隆	圭文社	9784874460672	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Basic and Variations	木許隆，武田恵美，長井典子	圭文社	9784874460917	
うたうソルフェージュ	木許隆	圭文社	9784874460931	
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	9784577814475	
保育所保育指針解説	厚生労働省	フレーベル館	9784577814482	
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	内閣府・文部科学省・厚生労働省	フレーベル館	9784577814499	

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	音楽大学附属音楽アカデミー講師（10年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	音楽大学附属音楽アカデミーにおける講師（10年）としての実務経験を生かし，保育現場で必要とされるピアノ演奏や弾き歌いについて，保育者が子どもに対してどのように関わり，指導すべきであるかという実践的な知識と技術の修得を支援していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	領域「表現」のねらいと内容の理解	教育要領等に基づき，領域「表現」のねらいや内容，発達との関連を十分理解して，説明できる。	教育要領等に基づき，領域「表現」のねらいや内容，発達との関連を理解して，説明できる。	教育要領等に基づき，領域「表現」のねらいや内容について，概ね理解して，説明できる。	領域「表現」の内容や発達に関する理解が不十分であり，説明するまでには至らない。	領域「表現」の内容について，理解することができず，説明もできない。
思考・問題解決能力	環境構成の検討と指導案の作成	子どもの主体性を踏まえ，発達段階に応じた環境構成や援助を詳細に想定し，指導案を作成できる。	子どもの発達段階に応じた環境構成や援助を具体的に想定し，指導案を作成できる。	指導案の形式を整え，発達段階に応じた活動内容を想定し，指導案を作成できる。	子どもの姿と活動内容の対応が不十分であり，発達段階に応じた指導案を作成することができない。	保育の構想を立てることができず，指導案を作成することができない。

科目名	教育・保育技術論 1クラス			授業番号	EE220A	サブタイトル			
教員	鳥越　亜矢								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	取り扱う内容は担当教員の専門性に基づいた造形表現活動を中心とするが，活動を考える方法，活動を評価する（ほめる・振り返る）視点や方法のほか，保育における直接的，間接的コミュニケーションなどについて講義する。また，1年次の学習に基づいた保育内容のドキュメンテーションづくりやその発表などを通じ，主体的で対話的な学習を積み重ねながら授業目標の達成を目指す。								
到達目標	子どもの特性を考慮して，子どもの資質・能力形成にふさわしい教育及び保育内容の計画や，その実施を目指す基礎的な方法を獲得する。また，ICTを活用して保育内容のドキュメンテーションを中心とした保育情報の作成と提供ができるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	ドキュメンテーションの内容は，1年次の授業科目「保育内容の理解と方法A」「保育内容の理解と方法B」のスケッチブックや写真データを活用する。 ドキュメンテーションはパワーポイント等のデジタルデータとする。 補講の回は1・2組で合同行うが，それ以外の回はクラス別に行う予定。								

回	概要	担当
第1回	教育・保育におけるエビデンス 5Cの力と幼児期の終わりまでに沿ってほしい10の姿との関係性を理解するため，実際に保育現場で5Cの力を視点活用した事例を知り，教育・保育におけるエビデンスの重要性を理解する。	
第2回	保育内容を考える方法①ものとの出会いと行為から保育内容を考える～〇で　□を／□に　△する～ “もの”と出会い，子どもが好奇心いっぱいに“！？♡”なことが起きる五感を駆使する行為や，そのような行為が起きる安全・安心な環境，生活に内在する保育内容の芽について考える。	
第3回	保育内容を考える法②同じ活動の意味を考える 「たっぷり」「のびのび」「何度でも」をキーワードにして，同じ活動でも年齢や姿勢，場所，画材，道具，基底材などによって生じる変容や，活動の持つ意味について考える。	
第4回	保育内容を考える方法③課題と題材（発達に応じた行為を表現に活かす） 発達上の課題とそれに適した保育内容の題材を考えるため，1年次の「保育内容の理解と方法A」で配布した資料に基づき，発達に応じた行為を表現活動に活かすことや育ちの上での表現活動の意味を考え，理解する。	
第5回	教育・保育の技術①導入・展開・評価における思考・意欲・行動を引き出す仕掛け 子どもの思考・意欲・行動を引き出す仕掛けを情報と位置づけ，動機付けになる情報とは何か，また情報を提供するタイミングが保育環境・環境構成・導入・展開・評価などのそれぞれの保育場面にあることを理解する。	
第6回	教育・保育の技術②様々な子どもに対応する活動とは：結果やプロセスの多様性 自分が実習する園にいてほしい子どもの特徴とその反対の特徴を短い言葉で表し，多様な子どもがいることを意識する。また，画一的な活動としてのスモールステップと多様な子どもに応じるためのスモールステップについて考える。	
第7回	教育・保育の技術③伝わる言葉・伝わらない言葉　幼児編 子どもに言いがちな仲良くする・ちゃんとする（きちんとする）・しっかりするなどの言葉は実はとても抽象的である。保育者の意図が子どもに届く表現について，事例を通じて理解する。その中で保育行為におけるオノマトペについても触れる。	
第8回	教育・保育の技術④伝わる言葉・伝わらない言葉　保護者編 保護者に対する保育者の言葉は時として保護者を不安にさせたり，担任や園に対する不信感につながったりすることを理解する。事実を伝えるだけでなくそこに子どもの気持ちを添えることや，指導より提案のかたちをとること，伝えたその後のフォローをすることにより，保護者ともに子どもをはぐくむ保育姿勢や関係性の構築につながることを理解する。	
第9回	教育・保育の技術⑤保育の評価：振り返り　振り返るために必要なものが「ねらい」であることを理解する。また，保育者の「褒める」言葉がもたらす結果について考え，何をどう褒めることが子どもの育ちにつながるのかを理解する。その際，1年次の「保育内容の理解と方法A/B」のスケッチブックに行った課題作品を褒め合う体験をする。これらを通じ，上手下手で捉えない保育姿勢について学ぶ。	
第10回	保育現場におけるICTの活用－研修と保護者に向けた保育ドキュメンテーション 保育者の業務内容におけるICT機器やシステムの活用について知る。また，具体的な事例を通じて園内・園外研修のほか，保護者への情報提供とそれを通じた信頼関係構築に寄与するといった，ICTの活用を含めた保育ドキュメンテーションの持つ意味について理解する。	
第11回	保育ドキュメンテーション作成に向けて グループ作りと取り上げる保育内容の選定を行う。グループ数は偶数で最大8グループとする。保育対象は０歳児から５歳児までがそろうようにする。取り上げる保育内容は1年次の「保育内容の理解と方法A/B」で取り上げた内容とし，様々な子どもに対応した活動や援助を行うことを具体的に考える。	
第12回	ドキュメンテーションの作成 グループごとに保育内容の追体験を行うなどしてドキュメンテーションのプレゼンテーションに用いる素材を集める。取り上げた保育内容をするにあたり、５Cの力の発揮や子どもが好奇心いっぱいに“！？♡”なことが起きる五感を駆使する行為がどこでどんな風に見ることができるのかということや，そのような行為が起きる安全・安心な環境や援助についても具体的に考える。	
第13回	ドキュメンテーションの作成・プレゼンテーションの練習 12回目と同様。進度に応じてプレゼンテーション内容の整理や練習をする。プレゼンテーションの順番を決める。 13回目の週のうちにプレゼンテーションデータをクラスルームに投稿する。	
第14回	プレゼンテーションとその講評　前半グループ パワーポイントを用いて作成したドキュメンテーションを発表する。その際、他グループとの質疑応答を行う。また、その質疑応答を踏まえて発表について講評する。	
第15回	プレゼンテーションとその講評　後半グループ パワーポイントを用いて作成したドキュメンテーションを発表する。その際、他グループとの質疑応答を行う。また、その質疑応答を踏まえて発表について講評する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	毎回の授業における学びの振り返りから，1年次の学習内容を振り返りつつ活動に主体的に取り組んでいる様子を評価するほか，授業中のワークへの参加や発言についても加点評価の対象とする。
レポート・提出課題	20	保育内容のドキュメンテーションの内容をSDGｓの普遍的目標とSTEAM教育の観点，5Cの力，幼児期の終わりまでに育って欲しい姿（10の姿）との具体的な関連性があるなど，保育のエビデンスとなる知識を活用して作成及び発表していることを加点評価する。また，ドキュメンテーションの発表後に総評としてコメントする。
筆記試験	50	グループで作成した保育のドキュメンテーションのスライド内容について，保育所保育指針や，幼稚園教育要領，教育保育要領など内容との関係性を具体的に記述できていることを評価する。また，環境としての保育者の役割を理解しているかどうかを評価する。

その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業の振り返りとして行うディスカッションには積極的に取り組むこと。 ドキュメンテーションに関する内容の時には，1年次の授業科目「保育内容の理解と方法A」「保育内容の理解と方法B」のスケッチブックや写真データを持参すること。
授業外学修	保育教材の製作およびドキュメンテーションの作成が授業時間内に完成しない場合には，時間外に行い各自あるいは各グループで完成させること。1年次の授業科目の学習記録を読み込むこと。以上のことを時間外学修として毎週４時間程度行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	ワークシートで学ぶ子どもの造形表現　第3版　（1年次の授業で購入済み）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	新版　遊びの指導　入・幼児編（1年次の授業で購入済み） 幼稚園教育指導要領(平成29年告示)フレーベル社 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)フレーベル社 保育所保育指針(平成29年告示)フレーベル社
その他	
備考	令和4年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県教育センター及び，幼稚園・保育園における研修講師（14年），岡山県保育協議会保育会研究紀要の指導助言者（2年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	岡山県保育協議会保育会研究紀要における指導助および保育者研修等で，大人にも子どもにも備わっている非認知能力である「5C」の力，すなわち「感知する」Catch，「創造する」Create，「コントロールする」Control ，「コミュニケーションする」Communicate ，「理解する」Comprehendを意識した保育をすることにより，幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿に自然とつながっていくことを講演している。実際にその視点を活用することにより，子どもの活動が豊かに展開し，噛みつきやひっかきが減少した保育園があるので，エビデンスのある教育を行うことを目的として，そうした成果や園が作成したドキュメンテーションを学生に紹介する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．1年次の授業内容の振り返りにおける保育のエビデンスとなる知識の活用の様子	5Cの力の発揮と、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関係性を踏まえて、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」の内容を詳細に振り返ることができる。また、活動に多くのSTEAM教育的価値を見出すことができる。	5Cの力の発揮と、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関係性を踏まえて、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」の内容を詳細に振り返ることができる。また、活動にSTEAM教育的価値を見出すことができる。	5Cの力の発揮と、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関係性を踏まえて、1年次の「保育内容の理解と法A/B」の内容を振り返ることができる。また、STEAM教育的な活動かどうかを判断することができる。	5Cの力の発揮と、幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿との関係性を踏まえて、1年次の「保育内容の理解と法A/B」の内容を振り返ることができる。また、教師の助言によってSTEAM教育的な活動かどうかを判断することができる。	1年次に学習した５Cの力のことをほとんど覚えておらず、1年次の「保育内容の理解と方法A/B」の内容を５Cの力の発揮という視点で振り返ることができない。教師の助言があっても、STEAM教育的な活動かどうかを判断することができない。
知識・理解	２．保育内容のドキュメンテーションにおいて子どもの特性や多様性の考慮や、子どもの資質・能力形成にふさわしい教育及び保育方法が示されていること	子どもの特性を十分理解し、多様な子どもの存在を想定した、子どもの資質・能力形成を図る柔軟性のある具体的な保育内容をドキュメンテーションに示すことができる。	子どもの特性を十分理解し、多様な子どもの存在を想定した、子どもの資質・能力形成を図る具体的な保育内容をドキュメンテーションに明確に示すことができる。	子どもの特性を理解し、多様な子どもの存在を想定した、子どもの資質・能力形成を図る保育内容をドキュメンテーションに明確に示すことができる。	子どもの特性を理解し、多様な子どもの存在を想定した、子どもの資質・能力形成を図る保育内容をドキュメンテーションに示すことができる。	ドキュメンテーションの内容が子どもの特性や多様な子どもがいることに触れられていないうえ、実践的なドキュメンテーションを作ることができない。
思考・問題解決能力	１．問題点とその解決方法を見出す過程における他者との共同や知識・情報・手段の活用	自分の知識や経験、考えを他者と十分意見交換している。参考資料やインターネットを活用して様々な情報を集め、他者と共同して情報を検証したうえで、問題点とその解決方法を見出し、共同して課題解決に当たれる。	自分の知識や経験、考えを他者と十分意見交換している。参考資料やインターネットを活用して情報を集めることができる。意見交換や集めた情報に基づき、問題点とその解決方法を見出し、共同して課題解決に当たれる。	自分の知識や経験、考えを他者と意見交換している。参考資料やインターネットを活用して情報を集めることができる。意見交換や集めた情報に基づき、問題点とその解決方法を見出し、共同して課題解決に当たれる。	自分の知識や経験、考えを他者と意見交換している。参考資料やインターネットを活用して情報を集めることができる。意見交換や集めた情報に基づき、問題点とその解決方法を見出すこと、または、共同で課題解決に当たることが難しい。	自分の知識や経験、考えを他者と意見交換している。参考資料やインターネットを活用して情報を集めることができる。意見交換や集めた情報に基づき、問題点とその解決方法を見出すことや共同で課題解決に当たることができない。
技能	１．授業中のICT活用	GoogleスライドやAIを使いこなし、多くの意見や考えを明確に表明できる。	GoogleスライドやAIを使いこなし、意見や考えを明確に表明できる。	GoogleスライドやAIを使い、意見や考えを表明できる。	GoogleスライドまたはAIのどちらかを使い、意見や考えを表明できる。	GoogleスライドやAIのどちらも使うことができないうえ、意見や考えを表明できない。
技能	２．グループで協力して作るプレゼンテーション資料とその発表及び質疑応答	グループで協力し、分かりやすい効果的な視覚資料を作成し、堂々とプレゼンテーションして時間内に発表を終えるほか、質疑に十分応答することができる。	グループで協力し、分かりやすい効果的な視覚資料を作成し、堂々とプレゼンテーションして時間内に発表を終えるほか、質疑に応答することができる。	グループで協力し、分かりやすい視覚資料を作成し、時間内に発表を終えることができる上、質疑に応答することができる。	グループで協力して視覚資料を作成し、時間内に発表を終えることができる。また、質疑にはかろうじて応答することができる。	グループ内で協力して発表する様子が見られない。また、時間内に発表を終えることができないうえ、質疑にも応答できない。

科目名	音楽基礎演習A 1クラス			授業番号	EE221A	サブタイトル			
教員	武田 恵美、河田 健二、廣畑 まゆ美								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	ピアノ基礎技法を学ぶとともに，ML教室，7205教室を用いて，音楽の基礎的な知識を習得する。								
到達目標	個人のレベルにあったピアノ技術を学ぶとともに，楽譜を読むために必要な基本的な知識を身につけ，童謡のレパートリーを増やすことを目的とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ピアノ基礎技術確認 楽典・歌唱指導	全担当教員
第2回	バイエル30番までの楽譜を読み、両手で弾けるようにする。 楽典・歌唱指導	全担当教員
第3回	バイエル30番までの楽譜を読み、両手で弾けるようにする 楽典・歌唱指導	全担当教員
第4回	バイエル30番までの楽譜を読み、両手で弾けるようにする 楽典・歌唱指導	全担当教員
第5回	バイエル30番までの楽譜を読み、両手で弾けるようにする 楽典・歌唱指導	全担当教員
第6回	バイエル30番までの楽譜を読み、両手で弾けるようにする 楽典・歌唱指導	全担当教員
第7回	今までに行ったことの確認（楽譜が読めているか、両手の指が自在に動くかなど） 楽典・歌唱指導	全担当教員
第8回	バイエル60番までの楽譜を読み、両手で弾けるようにする 楽典・歌唱指導	全担当教員
第9回	バイエル60番までの楽譜を読み、両手で弾けるようにする 楽典・歌唱指導	全担当教員
第10回	バイエル60番までの楽譜を読み、両手で弾けるようにする 楽典・歌唱指導	全担当教員
第11回	バイエル60番までの楽譜を読み、両手で弾けるようにする 楽典・歌唱指導	全担当教員
第12回	バイエル60番までの楽譜を読み、両手で弾けるようにする 楽典・歌唱指導	全担当教員
第13回	バイエル60番までの楽譜を読み、両手で弾けるようにする 楽典・歌唱指導	全担当教員
第14回	バイエル60番までの楽譜を読み、両手で弾けるようにする 楽典・歌唱指導	全担当教員
第15回	バイエル60番までの楽譜を読み、両手で弾けるようにする 楽典・歌唱指導	全担当教員
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢/態度	60	技術習得のための練習方法を身に付けられるように，努力しているか， 予習復習の積み上げの状況，意欲的な態度によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	20	最終的な理解度と演習課題の完成度，到達度を評価する。
その他	20	個人のレベルに合わせた到達技術，練習の成果が積み上げられているかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。 毎日の練習を怠らないで出来ることを積み上げていく。 きちんとした身だしなみで授業を受講するように心がける。
授業外学修	授業の予習，復習を必ず行うこと。週あたり2～4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	個人の進度に応じたテキストを担当教員と相談の上，決める。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	武田：音楽大学付属音楽アカデミー講師（10年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	音楽大学附属音楽アカデミーにおける講師（10年）としての実務経験を生かし，保育現場において必要とされるピアノ演奏技術および音楽に関する基礎知識について，個々の習熟度に応じた実践的な指導を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．ピアノ技術習得のための理解	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、ほぼ毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、ほぼ整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができておらず、それに応じた準備を、整えることができない。
知識・理解	2．基本的な楽典の理解	楽典の理解ができており、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができる。	楽典の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ毎回整えることができる。	楽典の理解ができており、技術習得に必要な準備を、整えることができる。	楽典の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ整えることができる。	楽典の理解ができておらず、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができない。
思考・問題解決能力	1．課題の完成度	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、毎回実践できる。	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ毎回実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ実践できる。	課題の完成度を、意識しておらず、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げることができない。
技能	1．楽典	楽典において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を毎回発揮できる。	楽典において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ毎回発揮できる。	楽典において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を発揮できる。	楽典において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ発揮できる。	楽典において、理論を正しく学ぶ姿勢がなく、予習復習の成果を毎回発揮できない。
技能	2．ピアノ技術	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身につけ、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身につけ、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身につけ、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身につけ、実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身につけることができず、実践できない。
技能	3．童謡のレパートリー	個人のレベルにあった童謡を選択し、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、ほぼ正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択できず、正確に実践できない。
態度	1．課題への取り組み	課題意図を理解して取り組み、予習復習の成果を毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果をほぼ毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果を提示できる。	課題意図を理解して取り組み、成果を提示できる。	課題意図の理解不足のまま取り組み、成果を提示できない。

科目名	音楽基礎演習Ｂ 1ｸﾗｽ			授業番号	EE222A	サブタイトル			
教員	武田　恵美、河田　健二、廣畑　まゆ美								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	音楽基礎演習Ａを発展させたピアノ基礎技法を習得する。さらに，ML教室，7205室を用いて，保育の現場で必要なコード奏や弾き歌いについても，個人のレベルにあった技術を習得する。								
到達目標	よりよい音楽表現を行うための基本的な技術や，保育の現場で必要な弾き歌いの技術が身につくことを目的とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	マーチの曲２曲を弾けるようにする。ピアノ曲１曲の右手の譜読み確認 コードの理解と弾き歌い	全担当教員
第2回	マーチの曲２曲を弾けるようにする。ピアノ曲１曲の右手の譜読み確認 コードの理解と弾き歌い	全担当教員
第3回	マーチの曲２曲の確認 コードの理解と弾き歌い	全担当教員
第4回	ピアノ曲１曲を両手で弾けるようにする コードの理解と弾き歌い	全担当教員
第5回	ピアノ曲１曲を両手で弾けるようにする コードの理解と弾き歌い	全担当教員
第6回	ピアノ曲１曲を両手で弾けるようにする コードの理解と弾き歌い	全担当教員
第7回	ピアノ曲１曲を両手で弾けるようにする コードの理解と弾き歌い	全担当教員
第8回	ピアノ曲１曲を両手で弾けるようにする コードの理解と弾き歌い	全担当教員
第9回	ピアノ曲１曲を両手で弾けるようにする コードの理解と弾き歌い	全担当教員
第10回	ピアノ曲１曲を両手で弾けるようにする コードの理解と弾き歌い	全担当教員
第11回	ピアノ曲１曲を両手で弾けるようにする コードの理解と弾き歌い	全担当教員
第12回	ピアノ曲１曲を両手で弾けるようにする コードの理解と弾き歌い	全担当教員
第13回	ピアノ曲１曲を両手で弾けるようにする コードの理解と弾き歌い	全担当教員
第14回	ピアノ曲１曲を両手で弾けるようにする コードの理解と弾き歌い	全担当教員
第15回	ピアノ曲１曲を両手で通す演奏確認（完成度の確認） コードの理解と弾き歌い	全担当教員
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	技術習得のための努力の姿勢，意欲的な態度によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	20	最終的な理解度と演習課題の完成度，到達度を評価する。
その他	20	個人のレベルに合わせた到達技術，練習の成果が積み上げられているかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。 毎日の練習を怠らないで出来ることを積み上げていく。 きちんとした身だしなみで授業を受講するように心がける。
授業外学修	授業の予習，復習を必ず行うこと。週あたり2～4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	個人の進度に応じたテキストを担当教員と相談の上，決める。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	武田：音楽大学附属音楽アカデミー講師（10年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	音楽大学附属音楽アカデミーにおける講師（10年）としての実務経験を生かし，保育現場において必要とされるピアノ演奏技術および音楽に関する基礎知識について，個々の習熟度に応じた実践的な指導を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．ピアノ技術習得のための理解	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、ほぼ毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、ほぼ整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができておらず、それに応じた準備を、整えることができない。
知識・理解	2．コードネームとコード進行の理解	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ毎回整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができておらず、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができない。
思考・問題解決能力	1．課題の完成度	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、毎回実践できる。	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ毎回実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ実践できる。	課題の完成度を、意識しておらず、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げることができない。
技能	1．コードネームとコード進行	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を毎回発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ毎回発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢がなく、予習復習の成果を毎回発揮できない。
技能	2．ピアノ技術	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着けることができず、実践できない。
技能	3．童謡のレパートリー	個人のレベルにあった童謡を選択し、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、ほぼ正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択できず、正確に実践できない。
態度	1．課題への取り組み	課題意図を理解して取り組み、予習復習の成果を毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果をほぼ毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果を提示できる。	課題意図を理解して取り組み、成果を提示できる。	課題意図の理解不足のまま取り組み、成果を提示できない。

科目名	保育内容の理解と方法C 1クラス			授業番号	EE301A	サブタイトル			
教員	土田　豊、清水　憲志								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等を踏まえて，子どもの生活と遊びにおける体験と保育の環境を捉え，他者との関係や集団の中での育ちの理解と援助に関わる知識および技術を学び，表現活動を行なう。								
到達目標	子どもの心身の発達や興味関心を踏まえ、主体的に身体表現に関わる技術を身につけたり、劇遊びの活動を通して音楽と表現を組み合わせるスキルを高めたりすることを目的とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考	学習効果を期待できる人数で授業を進めていくため，１クラス２クラスを前半後半にグループ分けを行う。								

回	概要	担当
第1回	舞台での表現をイメージする。 前年度の保育学科発表会の映像を見ながら、どんな表現手法が使われているかを確認し、自分たちの舞台表現をイメージする。	土`田 豊 清水憲志
第2回	「歩く」動きを中心とした表現 音楽に合わせ、「歩く」という動作を自由に表現する。	土`田 豊
第3回	動物の動きを取り入れた表現 様々な動物の動きの特徴を想起しながら、動物になりきって表現する。	土`田 豊
第4回	身体を用いた物語の表現体験 音楽に合わせ、1分間で物語を表現する。	土`田 豊
第5回	バルーンダンス表現（１） バルーンを使った表現方法に関する映像資料を参考にし、実際にどのような表現手法があるのかを理解する。	土`田 豊
第6回	バルーンダンス表現（２） 課題曲を聴きながら、保育現場で子どもたちとともにバルーンダンスすることを想像しながら動きを組み立てていく。	土`田 豊
第7回	バルーンダンス表現（3） 全体の一体感や観客へのアピールポイント等も考えながら発表会に向け、グループごとで練習する。	土`田 豊
第8回	バルーンダンス表現（4） これまでの取り組みを発表し合い、お互いの優れている点について意見交換したり、保育現場で展開する上での留意点等についての話し合いをする。	土`田 豊
第9回	劇遊びの基礎 状況描写及び音楽とはいかなるものかを実践の中で理解する。	清水憲志
第10回	劇遊びの表現について チーム毎に絵本の世界観を共有し、個々の登場人物の背景を踏まえながら表現をイメージする。	清水憲志
第11回	劇遊びの計画 チーム毎に最終発表を意識しながら、中間発表でどこを発表するのかを決めて、そこまでに間に合うよう計画を行い、役割毎に実施する。	清水憲志
第12回	劇遊びの音楽について それぞれ場面でBGMや効果音等をどのように組み合わせると表現のイメージを引き出せるのかを検討し、音楽を探す。	清水憲志
第13回	劇遊びの表現（１） 中間発表を行い、再度情景描写及び音楽を検討し、登場人物の心情や姿をよりよく表現できるようにする。	清水憲志
第14回	劇遊びの表現（２） 中間発表を踏まえて、役割分担を再検討し、絵本の世界観を広げ、その世界観が相手に最大限伝わるようにする表現を練る。	清水憲志
第15回	劇遊びの発表と振り返り チーム毎に発表し、それぞれの表現から、自己の表現へと生かせるように振り返りを行う。	清水憲志
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	授業中の活動や発言について，以下の観点に基づき観点に沿った活動や発言であるかどうかを評価する。(1)五感を駆使して活動や環境からいろいろな情報を得ている。(2)他者と(1)(3)(4)(5)などに言及したコミュニケーションを取りながら活動している。(3)創造性を発揮したり，主体的な意思決定をしたりして行動している。(4)体や心，道具をコントロールする力などを発揮している。(5)(1)～(4)を通じて過去の知識・経験と学習内容が結びついたり，あらたな知見を得たりしている。なお，観点(1)～(5)は保育内容の理解と方法A・Bと同様に，「面白い」をとらえる５つの力「５Cの力」に基づいている。
レポート	20	課題を明確に把握できているか提出内容によって評価する。毎回授業後に振り返りやほかのグループの表現を見ての感想等をまとめるレポートを課し，記述内容に応じて得点化する。レポートは、コメントを記入して返却することで、学習のフィードバックとする。
小テスト	20	表現としての伝達力を実技テストによって評価する。最終課題のバルーンダンスもしくは劇遊びの表現方法や構成を，子ども目線で考えることができているかや，グループの一体感が得られているか，観客を意識した表現が盛り込まれているか等を評価の観点として得点化する。
定期試験		
その他	20	準備段階の段取り力や，製作の完成度，また，五感を刺激する意識，創造性があるかによって評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	

授業外学修	授業で学んだ成果を元に，週あたり２時間～４時間は予習復習すること。 予習で授業内容に関連した情報収集を行い，表現のイメージ，知識を広げたりしてより良い表現ができるように内容を準備しておくこと。 また，復習では発表の改善点，気づきなどをまとめておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要に応じてプリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校教諭（土`田 豊　10年）、保育士（清水憲志　8年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を生かした技術指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．幼児の発達特性に応じた身体表現活動	幼児の発達特性をよく理解して、それに応じた身体表現活動を具体的に考えることができる。	幼児の発達特性をよく理解して、それに応じた身体表現活動を考えることができる。	幼児の発達特性を理解して、身体表現活動を考えることができる。	幼児の発達特性を理解しているが、それに応じた身体表現活動を考えるに至らない場合がある。	幼児の発達特性の理解が浅く、それに応じた身体表現活動を考えるに至らない。
知識・理解	２．情景描写に適した表現を伴う劇遊び活動	他者に伝えるための情景を十分に理解し、それに最適の音楽を用い、表現を行うことができる。	他者に伝えるための情景を理解し、それに合った音楽を用い、表現を行うことができる。	相手に伝わるように、音楽を用い、表現を行うことができる。	相手に伝えようとするが、音楽と表現を模倣に頼ることが多い。	相手に伝える意識が低く、音楽や表現が不十分である。
思考・問題解決能力	１．課題の完成度	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、毎回実践できる。	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ毎回実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ実践できる。	課題の完成度を、意識しておらず、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げることができない。
技能	１．身体運動における感じたことの表現	身体運動において幼児の発達を考慮した上で、効果的にいろいろな方法で表現することができる。	身体運動において幼児の発達を考慮した上で、いろいろな方法で表現することができる。	身体運動において幼児の発達を考慮した上で表現することができる。	身体運動において幼児の発達を考慮した上で、ほぼ表現することができる。	身体運動において幼児の発達を考慮できず、表現することができない。
技能	２．絵本の世界観を理解した上での表現活動	絵本の世界観を十分に理解した上で、幼児の発達を考慮し、効果的に色々な表現を行うことができる。	絵本の世界観を理解した上で、幼児の発達を考慮し、色々な表現を行うことができる。	絵本の世界観を概ね理解した上で、幼児の発達を模索しながら、色々な表現を行うことができる。	絵本の世界観の理解が不十分だが、色々な表現を行おうとする。	絵本の世界観の理解が不十分であり、色々な表現ができない。
態度	１．課題への向き合い方	課題意図を理解して取り組み、自分なりの知見や深く考えた意見をほぼ毎回発表，または記述できる。	課題意図を理解して取り組み、毎回ではないが、自分なりの知見や深く考えた意見を発表，または記述できる。	課題意図を理解して取り組み、自分なりの知見や考えた意見を発表，または記述できる。	課題意図の理解はできているが、自分なりの知見や考えた意見を発表したり、記述することがやや不十分である。	課題意図の理解ができないまま取り組み、自分なりの知見や考えた意見を発表，または記述できない。
態度	２．グループ活動での行動	リーダーシップ、メンバーシップをどちらも十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかは十分発揮できている状態。グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮していない。グループでやるべき目標には取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮していない。そのうえ、グループでやるべき目標に取り組めていない。

科目名	乳児保育Ⅱ 1クラス			授業番号	EE302A	サブタイトル			
教員	岡本 美幸、荒谷 友里恵								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業では，乳児保育Ⅰにおいて修得した知識に基づき，具体的な援助や環境構成，計画の方法などの演習を通して学び，乳児保育の実際について理解を深めるとともに，保育実践の基礎を修得する。さらに，多様化する乳児保育の現場に求められる保育士の職能について理解を深める。そのために，小グループに分かれ，テーマや事例を検討したり，乳児人形を用いた具体的な演習を行ったり，指導計画を作成したり，グループワークを通して理解を深めることも行う。								
到達目標	・乳児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関りの基本的な考え方について理解する。 ・養護及び教育の一体性を踏まえ，３歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について，具体的に理解する。 ・乳児保育保における配慮の実際や計画の作成について，具体的に理解する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション 乳児保育Ⅰの振り返り 授業の進め方等の説明と乳児保育Ⅰの学びを振り返る。	岡本美幸
第2回	乳児保育の意義 これからの社会を生きる乳児を対象とした乳児保育の意義を学ぶ。	岡本美幸
第3回	0歳児の保育内容と遊び 0歳児が遊ぶ具体的な姿から保育内容と子どもの育ちを考える。	岡本美幸
第4回	1歳児の保育内容と遊び 1歳児が遊ぶ具体的な姿から保育内容と子どもの育ちを考える。	岡本美幸
第5回	2歳児の保育内容と遊び 2歳児が遊ぶ具体的な姿から保育内容と子どもの育ちを考える。	岡本美幸
第6回	乳児との絆を深めるための遊びの実践 手あそびやわらべ歌，手作りおもちゃ，絵本，乳児向けシアターなどについて学ぶ。	岡本美幸
第7回	多様化する乳児保育を支える連携 乳児保育を支える連携について事例検討を通して学ぶ。	岡本美幸
第8回	食事の援助と環境（調乳・授乳） 調乳・授乳の演習を行い，適度な温度や授乳の仕方を理解する。	荒谷友里恵
第9回	排泄の援助と環境① 子どものオムツ交換や排泄に関する保育者の援助や配慮について学ぶ。	荒谷友里恵
第10回	着脱・清拭に関する援助と環境 子どもの着脱・清潔に関する保育者の援助や配慮について学ぶ。	荒谷友里恵
第11回	沐浴に関する援助と環境 子どもの沐浴の仕方について学ぶ。	荒谷友里恵
第12回	乳児保育における計画と評価（１）グループワーク 乳児保育における計画の実際を学び，グループワークを行う。	岡本美幸
第13回	乳児保育における計画と評価（２）グループ発表 前回のグループワークを踏まえて，グループ発表を行う。	岡本美幸
第14回	排泄の援助と環境② 子どものオムツ交換や排泄に関する保育者の援助や配慮について学ぶ。（実技試験）	荒谷友里恵
第15回	まとめ 子ども一人一人に寄り添う乳児保育を実現する保育士について考える。	岡本美幸
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業への参加・貢献度，受講態度，授業の振り返りシート提出等を，総合的に評価する。
レポート・課題	10	乳児保育の理解を深めるために，レポートや制作課題を実施する。レポートは提出期日が守れているか，内容が一致しているか，具体的に記述できているかを評価し，コメントを記入して返却する。
実技テスト	20	オムツ交換実技試験 技能，援助者としての態度が習得できているかを，評価表に沿って評価する。
グループ演習	10	発表やプレゼンテーションの参加・貢献度，態度も含み総合的に評価する。
定期試験	50	授業全般の内容について，理解度を評価する。

評価の方法：自由記載	※ 総合評価は，「定期試験」を受けることが前提条件であり，その上にその他の評価を加える。
受講の心得	本授業は演習科目であるので，乳児をとりまく様々な課題に普段から興味関心を持って，情報収集する姿勢をもつ，共に学び合うことのできる場となるように取り組むこと。また，実際に演習する授業においては，学外実習と同様の衛生的で動きやすい服装と身だしなみで参加すること。
授業外学修	１．授業の振り返りや予習を週2時間以上行い，学習内容の理解を深めること。 ２．乳児の発育・発達を踏まえながら必要な教材研究を主体的に取り組み，保育士としての資質・能力の向上に努めること。 これらを通して，週２時間以上の授業外学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
見る・考える・創りだす乳児保育Ⅰ・Ⅱ	ChaCha Children & Co. 編集	萌文書林	78-4-89347-399-8	2，090円

使用テキスト：自由記載	『保育所保育指針解説』厚生労働省 (編集)，フレーベル館，2018.　320円 ※ 本授業の教科書は乳児保育Ⅰで使用した教科書を使用する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	その他，授業中に適宜資料を配付する。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡本美幸；公立保育所における保育士の実務経験を有する。（15年） 荒谷友里恵；看護師としての実務経験を有する。（10年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を活かして，具体的な事例等を交えながら実践につながる保育技術の修得を目指すことができるように授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．援助や関わりの基本的な考え方	乳児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を，自分なりに十分説明できる。	乳児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を，自分なりに十分説明できる。	乳児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を，自分なりにおおむね説明できる。	乳児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方を，あまり説明できない。	乳児の発育・発達の過程や特性，援助や関わりの基本的な考え方を，理解していない。
思考・問題解決能力	1．養護及び教育の一体性を踏まえた乳児保育	テーマ・課題に沿ってグループワークを行いながら，他者と協同的に活動し考察することが大変よくできる。	テーマ・課題に沿ってグループワークを行いながら，他者と協同的に活動し考察することがよくできる。	テーマ・課題に沿ってグループワークを行いながら，他者と協同的に活動し考察することがおおむねできる。	グループにはいるが，協力する姿勢が十分でなく，協働的な考察ができない。	グループワークに全く参加しない。
思考・問題解決能力	2．乳児保育の実際	多様化する乳児保育の現状を踏まえ，それを支える連携や保護者支援の在り方を理解し十分な説明できる。	多様化する乳児保育の現状を踏まえ，それを支える連携や保護者支援の在り方を理解し説明できる。	多様化する乳児保育の現状を踏まえ，それを支える連携や保護者支援の在り方を理解しおおむね説明できる。	多様化する乳児保育の現状を踏まえ，それを支える連携や保護者支援の在り方の理解と説明があまりできない。	乳児保育の現状理解が十分でなく，連携や保護者支援の在り方が理解できない。
技能	1．環境構成と援助	子どもの発達を理解し，環境構成をしたり適切な援助ができたりして主体的に保育ができる。	子どもの発達を理解し，環境構成をしたり適切な援助ができたりして保育ができる。	子どもの発達を理解し，環境構成をしたり適切な援助ができたりして保育がおおむねできる。	子どもの発達を理解しているが，環境構成や適切な援助などの保育があまりできない。	子どもの発達を理解し，環境構成や適切な援助などの保育ができない。
技能	2．技術テスト	時間内に正しくできる。発達に応じた配慮・援助が大変行き届いている。	時間内に正しくできる。発達に応じた配慮・援助が十分にできる。	時間内に正しくできる。発達に応じた配慮・援助ができる。	時間内にできない。発達に応じた配慮・援助が欠けている。	明らかな練習不足で，時間内にできない。手順も配慮・援助も努力に欠ける。
態度	1．テーマに沿った取り組み	テーマに沿って，意欲・態度・内容等，総合的に十分に取り組むことができる。	テーマに沿って，意欲・態度・内容等，総合的に取り組むことができる。	テーマに沿って，意欲・態度・内容等，総合的におおむね取り組むことができる。	テーマに沿って，意欲・態度・内容等，総合的にあまり良く取り組むことができない。	テーマに沿って，意欲・態度・内容等，不十分であり全く取り組むことができない。
態度	2．服装身だしなみ	演習の授業の全てにおいて，実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみが整えられている。	演習の授業のほとんどにおいて，実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみが整えられている。	演習の授業のうち半数回は，実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみが整えられている。	演習の授業のうち数回のみ，実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみが整えられている。	全ての演習の授業に，実習に準じて安全で衛生的な服装身だしなみが整えられない。

科目名	親子ふれあい演習Ａ			授業番号	EE303	サブタイトル			
教員	土田　豊、清水　憲志、福澤　惇也								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	保育施設には，地域の子育て支援拠点となって子育て中の親子をサポートしていく役割があること，どのような支援活動が求められているのかということなどを理解し，実際に子育て支援活動を企画，運営，振り返りをしながら実践的に学ぶ。								
到達目標	子育て支援活動を実施する上でのねらいや活動の展開の仕方，留意点などを計画書にまとめ，実践することができるようにすることを目的とする。仲間との信頼関係や参加してくださる親子との信頼関係を，子育て支援活動を展開しながら築いていくことを目的とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	様々な子育て支援活動を知る 岡山市で実践されている子育て支援活動を参考に，子育て支援活動の実際を学びます。	土田豊、清水憲志、福澤惇也
第2回	活動の企画の立て方やPDCAの手法について学ぶ 企画を立てる際のねらい設定の仕方や配慮する点等について講義を受け実際に企画を立てます。	土田豊、清水憲志、福澤惇也
第3回	11月の企画共有 11月担当グループの企画を全体で共有し，みんなで検討します。	土田豊、清水憲志、福澤惇也
第4回	11月の企画の事前準備とリハーサル 11月企画の内容に合わせて活動グループごとで準備を進め，リハーサルを行います。	土田豊、清水憲志、福澤惇也
第5回	11月の子育て支援活動の実施1 地域の乳幼児とその保護者を招き，11月の企画を実践します。	土田豊、清水憲志、福澤惇也
第6回	11月の子育て支援活動の実施2 地域の乳幼児とその保護者を招き，11月の企画を実践します。	土田豊、清水憲志、福澤惇也
第7回	11月の活動の振り返り・12月の企画共有 PDCAサイクルに従って，11月の企画について振り返り，発表します。その後，12月の企画を全体で共有し，みんなで検討します。	土田豊、清水憲志、福澤惇也
第8回	12月の企画の事前準備とリハーサル 12月企画の内容に合わせて活動グループごとで準備を進め，リハーサルを行います。	土田豊、清水憲志、福澤惇也
第9回	12月の子育て支援活動の実施1 地域の乳幼児とその保護者を招き，12月の企画を実践します。	土田豊、清水憲志、福澤惇也
第10回	12月の子育て支援活動の実施2 地域の乳幼児とその保護者を招き，12月の企画を実践します。	土田豊、清水憲志、福澤惇也
第11回	12月の活動の振り返り・1月の企画共有 PDCAサイクルに従って，12月の企画について振り返り，発表します。その後，1月の企画を全体で共有し，みんなで検討します。	土田豊、清水憲志、福澤惇也
第12回	1月の企画の事前準備とリハーサル 1月企画の内容に合わせて活動グループごとで準備を進め，リハーサルを行います。	土田豊、清水憲志、福澤惇也
第13回	1月の子育て支援活動の実施1 地域の乳幼児とその保護者を招き，1月の企画を実践します。	土田豊、清水憲志、福澤惇也
第14回	1月の子育て支援活動の実施2 地域の乳幼児とその保護者を招き，1月の企画を実践します。	土田豊、清水憲志、福澤惇也
第15回	1月の活動の振り返り及び全体の振り返り PDCAサイクルに従って，12月の企画について振り返り，発表します。その後，この授業での学びについてまとめます。	土田豊、清水憲志、福澤惇也
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度・発表・グループでの活動への参加状況を評価する。グループ内で企画の提案や企画を具現化する提案等ができれば加点対象とする。
レポート	50	子育て支援活動を通して学んだことや課題として明らかになったこと等を具体的に述べている度合いに応じて得点化する。レポートは，コメントを記入して返却することで，学びのフィードバックとする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子育て支援活動中は，節度ある行動をすること。 一人ひとりが役割を自覚し，意欲的に取り組むこと。
授業外学修	１．子育て支援活動に参加してくださる親子にとって快適で，思い出に残る場を提供するために必要な環境についてグループで考え，計画的に準備を進めること。 ２．実施後の反省や参加者の要望を次の活動に反映するために必要な知識や手立てについて考え，実践する。 ３．自分の住んでいる自治体や保育関連施設で実施されている子育て支援事業について調べ，自分たちの活動に反映すること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	随時プリントを配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校教諭（土田豊　10年），保育士（清水憲志　8年），幼稚園教諭（福澤惇也　1年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	それぞれの各方面での実務経験を生かした技術指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1.活動のねらいに沿った活動計画の立案	子育て支援の現状を踏まえつつ、自分で考えた解決策を友だちと共有しながら活動に反映し、計画書を作成することができている。	子育て支援の現状を踏まえつつ、自分の意見も反映した活動計画を立てることができている。	子育て支援の現状を踏まえつつ、活動計画を立てることができている。	子育て支援の現状を踏まえることはできているが、活動計画を立てることができていない。	子育て支援の現状を踏まえた、活動計画書を作成することができない。
思考・問題解決能力	2.参加者の実態に合わせた活動プログラムづくり	子どもの発達段階と発達段階に合わせたねらいを理解し、活動プログラムを具体的に考え、実践することができている。	子どもの発達段階と発達段階に合わせたねらいを理解し、活動プログラムを組み立てることができている。	子どもの発達段階に合わせた活動プログラムを、組み立てることができている。	子どもの発達段階に合わせた活動プログラムを考えることはできているが、プログラムを考えることができていない。	子どもの発達段階に対する理解が浅く、活動プログラムも考えることもできていない。
態度	1.グループ活動への取り組み姿勢	リーダーシップ、メンバーシップをどちらも十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮できていないが、グループでやるべき目標には取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮することができず、グループでやるべき目標に取り組めていない。
態度	2.参加者への配慮	参加してくれた親子と積極的にコミュニケーションを図り、楽しく有意義な時間になるような配慮ができている。	参加してくれた親子とコミュニケーションを図り、楽しく有意義な時間になるような配慮ができている。	参加してくれた親子とコミュニケーションを図り、戸惑うことなく活動できるような配慮ができている。	参加してくれた親子とコミュニケーションを図ることはできているが、配慮が十分できていない。	参加してくれた親子とコミュニケーションを図ることはできず、活動に対する配慮ができていない。

科目名	親子ふれあい演習 B			授業番号	EE304	サブタイトル			
教員	土田　豊、藤井　裕士、福澤　惇也								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	保育施設には，地域の子育て支援拠点となって子育て中の親子をサポートしていく役割があること，どのような支援活動が求められるのかということなどを理解し，実際に子育て支援活動を企画，運営，振り返りをしながら実践的に学ぶ。また，保育実習等での経験を子育て支援活動の場に反映しながら学びを深める。								
到達目標	保育現場や各自治体で実施されている子育て支援活動を把握し，活動を実施する上でのねらいや活動の展開の仕方，留意点などを計画書にまとめ，実践することができるようにすることを目的とする。仲間との信頼関係や参加してくださる親子との信頼関係を，子育て支援活動を展開しながら築いていくことを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	自治体で行われている子育て支援活動について学ぶ	土田豊、藤井裕士、福澤惇也
第2回	子育て環境に潜むリスクについて学ぶ	土田豊、藤井裕士、福澤惇也
第3回	活動の企画の立て方やPDCAの手法について学ぶ	土田豊、藤井裕士、福澤惇也
第4回	活動グループづくりと企画検討会	土田豊、藤井裕士、福澤惇也
第5回	6月の企画共有と事前準備	土田豊、藤井裕士、福澤惇也
第6回	6月の企画の事前準備とリハーサル	土田豊、藤井裕士、福澤惇也
第7回	6月の子育て支援活動の実施1	土田豊、藤井裕士、福澤惇也
第8回	6月の子育て支援活動の実施2	土田豊、藤井裕士、福澤惇也
第9回	6月の活動の振り返り・7月の企画共有	土田豊、藤井裕士、福澤惇也
第10回	7月の企画の事前準備	土田豊、藤井裕士、福澤惇也
第11回	7月の企画のリハーサル	土田豊、藤井裕士、福澤惇也
第12回	7月の子育て支援活動の実施1	土田豊、藤井裕士、福澤惇也
第13回	7月の子育て支援活動の実施2	土田豊、藤井裕士、福澤惇也
第14回	7月の活動の振り返り	土田豊、藤井裕士、福澤惇也
第15回	子育て支援活動を全体の振り返り	土田豊、藤井裕士、福澤惇也
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度・発表・グループでの活動への参加状況を評価する。グループ内で企画の提案や企画を具現化する提案等ができれば加点対象とする。
レポート	50	子育て支援活動を通して学んだことや課題として明らかになったこと等を具体的に述べている度合いに応じて得点化する。レポートは，コメントを記入して返却することで，学びのフィードバックとする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子育て支援活動中は，節度ある行動をすること。 一人ひとりが役割を自覚し，意欲的に取り組むこと。
授業外学修	１．子育て支援活動に参加してくださる親子にとって快適で，思い出に残る場を提供するために必要な環境についてグループで考え，計画的に準備を進めること。 ２．実施後の反省や参加者の要望を次の活動に反映するために必要な知識や手立てについて考え，実践する。 ３．自分の住んでいる自治体や保育関連施設で実施されている子育て支援事業について調べ，自分たちの活動に反映すること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	随時プリントを配布

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校教諭（土田豊　10年），幼稚園教諭（山本房子　19年），特別支援学校（藤井裕士　17年），幼稚園教諭（福澤惇也　1年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	それぞれの各方面での実務経験を生かした技術指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	子育て支援活動の必要性に対する理解	子育てに関する問題に興味・関心を持ち、それらの問題を踏まえて、どんな子育て支援が必要かを具体的に考え、活動できている。	子育てに関する問題に興味・関心を持ち、それらの問題を踏まえて、どんな子育て支援が必要かを考え、活動できている。	子育て支援活動の必要性をある程度理解し、自分なりの解決方法を考え、活動できている。	子育て支援活動の必要性はある程度理解できているが、解決策について考え、活動することができていない。	子育て支援活動の必要性に対する理解ができず、活動することもできない。
思考・問題解決能力	1.活動のねらいに沿った活動計画の立案	子育て支援の現状や実習での経験も踏まえつつ、自分で考えた解決策を友だちと共有しながら活動に反映し、計画書を作成することができている。	子育て支援の現状や実習での経験も踏まえつつ、自分の意見も反映した活動計画を立てることができている。	子育て支援の現状を踏まえつつ、活動計画を立てることができている。	子育て支援の現状を踏まえることはできているが、活動計画を立てることができていない。	子育て支援の現状を踏まえた、活動計画書を作成することができない。
思考・問題解決能力	2.参加者の実態に合わせた活動プログラムづくり	子どもの発達段階と発達段階に合わせたねらいを理解し、実習の反省も生かしながら活動プログラムを具体的に考え、実践することができている。	子どもの発達段階と発達段階に合わせたねらいを理解し、活動プログラムを組み立てることができている。	子どもの発達段階に合わせた活動プログラムを、組み立てることができている。	子どもの発達段階に合わせた活動プログラムを考えることはできているが、プログラムを考えることができていない。	子どもの発達段階にたいする理解が浅く、活動プログラムも考えることもできていない。
技能	計画に基づいた保育スキルの活用	参加者の実態を想像し、手遊びや読み聞かせなどの保育スキルを活用し、参加者の反応を見ながら活動内容を工夫できる。	参加者の実態を想像し、手遊びや読み聞かせなどの保育スキルを活用し、活動内容を工夫できる。	参加者の実態を想像し、手遊びや読み聞かせなどの保育スキルを活用した活動ができる。	参加者の実態を想像することはできているが、手遊びや読み聞かせなどの保育スキルの活用が十分できない。	参加者の実態を想像することができず、手遊びや読み聞かせなどの保育スキルの活用もできない。
態度	1.グループ活動への取り組み姿勢	リーダーシップ、メンバーシップをどちらも十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を率先して取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを十分発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップを発揮し、グループでやるべき目標に対して積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮できていないが、グループでやるべき目標には取り組むことができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮することができず、グループでやるべき目標に取り組めていない。
態度	2.参加者への配慮	参加してくれた親子と積極的にコミュニケーションを図り、楽しく有意義な時間になるような配慮ができている。	参加してくれた親子とコミュニケーションを図り、楽しく有意義な時間になるような配慮ができている。	参加してくれた親子とコミュニケーションを図り、戸惑うことなく活動できるような配慮ができている。	参加してくれた親子とコミュニケーションを図ることはできているが、配慮が十分できていない。	参加してくれた親子とコミュニケーションを図ることはできず、活動に対する配慮ができていない。

科目名	音楽実践演習Ａ 1ｸﾗｽ			授業番号	EE305A	サブタイトル			
教員	武田　恵美、廣畑　まゆ美								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	音楽基礎演習Ａ・Ｂで学んだ内容を発展させ現場で応用できる力をつける。ML教室を用いてピアノに関する基本的な知識や技術の向上を個別指導で行うとともに，ピアノレッスン室を用いて，個人の能力別に音楽に関する保育教材の内容研究の指導法を習得する。								
到達目標	基本的なピアノ演奏技術を身につけるとともに，保育現場において使用する童謡，子どもの歌等の伴奏法ができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
第2回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
第3回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
第4回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
第5回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
第6回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
第7回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
第8回	中間のまとめ 童謡の弾き歌い３曲・ピアノ曲１曲が仕上がっているかどうか	全担当教員
第9回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
第10回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
第11回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
第12回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
第13回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
第14回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
第15回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な授業態度，練習ができているかなどの予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	40	童謡の弾き歌いを行うことにより，個人のレベルに合わせた歌唱技術や演奏技術が習得できているかを評価する。
その他	40	ピアノ教則本を練習することにより，個人のレベルに合わせた演奏技術の向上を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。 実習に向けて積極的に練習をしておくようにする。 きちんとした身だしなみで授業を受講すること。
授業外学修	毎日15分以上ピアノ教則本及び弾き歌いの練習をしておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	持っているピアノ教則本 童謡本

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	武田：音楽大学附属音楽アカデミー講師（10年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	音楽大学附属音楽アカデミーにおける講師（10年）としての実務経験を生かし，保育現場において必要とされるピアノ演奏技術および弾き歌いの技術について，個々の習熟度に応じた実践的な指導を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．ピアノ技術習得のための理解	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、ほぼ毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、ほぼ整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができておらず、それに応じた準備を、整えることができない。
知識・理解	2．コードネームとコード進行の理解	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ毎回整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができておらず、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができない。
思考・問題解決能力	1．課題の完成度	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、毎回実践できる。	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ毎回実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ実践できる。	課題の完成度を、意識しておらず、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げることができない。
技能	1．コードネームとコード進行	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を毎回発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ毎回発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢がなく、予習復習の成果を毎回発揮できない。
技能	2．ピアノ技術	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着けることができず、実践できない。
技能	3．童謡のレパートリー	個人のレベルにあった童謡を選択し、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、ほぼ正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択できず、正確に実践できない。
態度	1．課題への取り組み	課題意図を理解して取り組み、予習復習の成果を毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果をほぼ毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果を提示できる。	課題意図を理解して取り組み、成果を提示できる。	課題意図の理解不足のまま取り組み、成果を提示できない。

科目名	音楽実践演習Ｂ 1ｸﾗｽ			授業番号	EE306A	サブタイトル			
教員	武田　恵美、廣畑　まゆ美								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	音楽基礎演習Ａ・Ｂで学んだ内容を発展させ現場で応用できる力をつける。ML教室を用いてピアノに関する基本的な知識や技術の向上を個別指導で行うとともに，ピアノ以外の楽器の奏法などを学ぶ								
到達目標	基本的なピアノ演奏技術を身につけるとともに，保育現場において使用する童謡，子どもの歌等の伴奏法ができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
第2回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
第3回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
第4回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
第5回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
第6回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
第7回	弾き歌い個人指導及びピアノ個別指導（ピアノレッスン室，ML教室を使用）	全担当教員
第8回	中間のまとめ 童謡の弾き歌いおよびピアノ曲がきちんと弾けているかの確認	全担当教員
第9回	保育の現場でつかう他の楽器の演奏法を知る	全担当教員
第10回	保育の現場でつかう他の楽器の演奏法を知る	全担当教員
第11回	保育の現場でつかう他の楽器の演奏法を知る	全担当教員
第12回	保育の現場でつかう他の楽器の演奏法を知る	全担当教員
第13回	保育の現場でつかう他の楽器の演奏法を知る	全担当教員
第14回	保育の現場でつかう他の楽器の演奏法を知る	全担当教員
第15回	保育の現場でつかう他の楽器の演奏法を知る	全担当教員
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な授業態度，練習ができているかなどの予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	40	童謡の弾き歌いを行うことにより，個人のレベルに合わせた歌唱技術や演奏技術が習得できているかを評価する。
その他	40	ピアノ教則本を練習することにより，個人のレベルに合わせた演奏技術の向上を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	出席番号によっては授業の順番が入れ替わることがある。 実習に向けて積極的に練習をしておくようにする。 きちんとした身だしなみで授業を受講すること。
授業外学修	毎日15分以上ピアノ教則本及び弾き歌いの練習をしておくこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	持っているピアノ教則本 童謡本

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	武田：音楽大学附属音楽アカデミー講師（10年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	音楽大学附属音楽アカデミーにおける講師（10年）としての実務経験を生かし，保育現場において必要とされるピアノ演奏技術および弾き歌いの技術について，個々の習熟度に応じた実践的な指導を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．ピアノ技術習得のための理解	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解がよくできており、それに応じた準備を、ほぼ毎回整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができており、それに応じた準備を、ほぼ整えることができる。	ピアノ技術習得に必要な理解ができておらず、それに応じた準備を、整えることができない。
知識・理解	2．コードネームとコード進行の理解	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ毎回整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができており、技術習得に必要な準備を、ほぼ整えることができる。	コードネームとコード進行の理解ができておらず、技術習得に必要な準備を、毎回整えることができない。
思考・問題解決能力	1．課題の完成度	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、毎回実践できる。	課題の完成度を、高いレベルで意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ毎回実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、実践できる。	課題の完成度を意識し、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げ、ほぼ実践できる。	課題の完成度を、意識しておらず、適切な取り組みにより、確実な成果を積み上げることができない。
技能	1．コードネームとコード進行	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を毎回発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ毎回発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果を発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢があり、予習復習の成果をほぼ発揮できる。	コードネームとコード進行において、理論を正しく学ぶ姿勢がなく、予習復習の成果を毎回発揮できない。
技能	2．ピアノ技術	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、表情豊かに、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、正確に実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着け、実践できる。	ピアノ技術において、個人のレベルにあった段階を身に着けることができず、実践できない。
技能	3．童謡のレパートリー	個人のレベルにあった童謡を選択し、適切な表現で、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、表情豊かに、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択し、ほぼ正確に実践できる。	個人のレベルにあった童謡を選択できず、正確に実践できない。
態度	1．課題への取り組み	課題意図を理解して取り組み、予習復習の成果を毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果をほぼ毎回提示できる。	課題意図を理解して取り組み、復習の成果を提示できる。	課題意図を理解して取り組み、成果を提示できる。	課題意図の理解不足のまま取り組み、成果を提示できない。

科目名	保育者対話実践演習 (全8回)	授業番号	EE307	サブタイトル	
教員	藤井　裕士				

単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択

授業概要	この世界には正解のない問題が溢れている。保育現場では,こうした問題（課題，トラブルなど）に対して他者との対話を通して納得解を創り対応していく必要がある。本授業では,講義とグループ演習（対話）を通して他者と共に納得解を創る作法を学ぶ。また、こどもかいぎ（子ども同士の対話）のファシリテーションの方法論を体験的に学修する。
到達目標	対話のルールや作法を理解し，問題に対する対話による合意形成能力やファシリテーターとしての資質を高める。また，参加者の多様な価値観に触れる中で，「子どもの立場」「保護者の立場」「同僚の立場」など多角的な視点をもつと共に，他者の立場に立って考える力，自他を尊重し思いやる態度を養う。なお，本科目は，カリキュラムポリシーにおける「子どもの世界や保護者の気持ちに深くアプローチすることができる演習科目」として位置づけられる。また，ディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。
授業計画　備考	

回	概要	担当
第1回	対話の重要性対話の重要性について理解する。	
第2回	対話演習① モラルジレンマ課題に関する対話を行い,対話の難しさについて体験的に理解する。	
第3回	対話の作法 対話の作法（ワークシートや話し合いのルール）について理解する。	
第4回	対話演習②：対話の作法対話の作法を活用して,モラルジレンマ課題に関する対話を行い,対話の作法や合意形成の技術を身に付ける。	
第5回	こどもかいぎ（子ども同士の対話）こどもかいぎ（子ども同士の対話）について,理論的な側面を理解する。	
第6回	こどもかいぎ（子ども同士の対話）演習こどもかいぎ（子ども同士の対話）について,演習を行いファシリテーターとしての技術を身に付ける 。	
第7回	保育現場の課題に関する対話演習① 保育現場における正解のない課題について,「子どもの立場」,「保護者の立場」,「同僚の立場」など様々な視点から考え,対話し対応策に関する合意形成を行う方法を演習を通して身に付ける。	
第8回	保育現場の課題に関する対話演習② 保育現場における正解のない課題について,「子どもの立場」,「保護者の立場」,「同僚の立場」など様々な視点から考え,対話し対応策に関する合意形成を行う技術を演習を通して身に付ける。	
第9回		
第10回		
第11回		
第12回		
第13回		
第14回		
第15回		
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	演習を含めた,意欲的な受講態度によって評価する。
ワークシート	30	演習で記述するワークシートによって評価する。ワークシートはチェックを行ったのち,全体的な傾向について授業の中でフィードバックを行う。
振り返りシート	40	毎回の授業の終盤に,授業の振り返りシートを記入し,提出を行う。振り返りシートはチェックを行い,全体的な傾向について授業の中でフィードバックを行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1　事前・事後に参考文献を読むこと。 2　発表や討議に積極的に取り組むこと。 3　配付する資料を整理しておくこと。
授業外学修	1　予習として，保育にまつわるニュースなどの情報を集め，自身の考えを整理する。 2　復習として，ノート，資料を読み直す。 3　発展学修として，授業で紹介された参考文献を読む。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．子ども,保護者,同僚の立場から問題を多角的に分析し,実践的な提案ができる。	子ども,保護者,同僚の視点から問題を深く分析し,実践的かつ創造的な提案ができる。	様々な視点を考慮に入れた問題分析を行い,適切な提案ができる。	基本的な多角的分析は可能だが,提案の質にバラつきがある。	限られた視点からの分析しかできず,提案が一般的であるか,非実践的である。	問題分析や提案を行う能力が不足しており,多角的視点を取り入れることができない。
技能	２．実際の保育現場で遭遇する問題に対し,対話を通じて合意形成を図ることができる。	効果的な対話を通じて,複雑な問題に対しても合意形成を図ることができる。	一般的な問題に対して対話を用いて合意形成を達成できる。	基本的な問題に対する合意形成は可能だが,より複雑な状況では課題がある。	合意形成の過程において,適切な対話の実施に苦労する。	対話による合意形成の基本的なスキルが欠けている。

科目名	保育教材および表現の研究			授業番号	EE308	サブタイトル			
教員	鳥越　亜矢								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	保育内容の理解と方法A/Bで取り扱う内容をさらに探求し，身近な素材や道具，技法の特性と子どもの造形表現行為とを関係づけながら保育教材や表現活動の研究を行う。なお，表現活動の一部は2年生後期開講の授業科目「保育内容の理解と方法D」として学ぶストーリーの舞台表現に繋がる基礎的な内容とする。その際，体育館を使用するが体育館の使用状況によっては授業の順番を変更して実施する。履修人数は40名を上限とする。								
到達目標	子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等を踏まえて子どもの生活と遊びにおける環境を構成する力を養う。さらに，表現活動に繋がる行為や身近な素材や道具，技法について探求し，その特性を理解した表現活動を行えるようになる。また，それらの活用を0歳児から5歳児の表現活動の保育実践として具体的かつ実践的に考えることができるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	つくる活動における行為の探求（切る・くっつける）：素材と戯れ表現する 「切る」行為とその前段階における，分ける・折る・破く・割くといった行為や，「くっつける」活動における，持つ・置く・並べる・積む・組み合わせるといった行為を意識してどんな活動ができるか探求する。その過程で自分なりに課題（やりたいこと）や，自分が気に入る表現や素材を見つけたり，子どもに適した素材や子どもの行為や表現，子どもの育ちにおける意味について考えたりする。	
第2回	表現がもたらすものを考える 表現する側と、表現を見る側の双方の点から表現がもたらすものについて考える。その際，ミラーニューロンやミラーリングを考える視点の1つとする。	
第3回	お話の世界の具現化①　表現方法とストーリー展開・演出と脚本 「あるところに1本の木がありました。そこに○○がやってきました。すると・・・」から始まる短く単純なお話を作り，表現方法や表現媒体によるストーリー展開や，話の膨らませ方，場面イメージを具体化するために必要な脚本と演出について理解する。	
第4回	お話の世界の具現化②　絵コンテと脚本づくり・大道具（木）の造形１ これまでの授業経験を活かして段ボールなどの紙素材を様々な方法で加工・着色し，絵コンテと脚本に基づいた大道具づくりの体験をする。また，登場するキャラクターの性格や風貌，癖などを考えることによって状況表現が豊かになることを理解する。	
第5回	お話の世界の具現化③　大道具（木）の造形２・○○（キャラクター）の造形 これまでの授業経験を活かして段ボールなどの紙素材を様々な方法で加工・着色し，表現イメージに合致した大道具づくりの体験をする。また，登場するキャラクターの性格や風貌，癖などを考えることによって状況表現が豊かになることを理解する。	
第6回	お話の世界の具現化④　大道具（木）の造形３・場面の表現や転換にふさわしい照明効果と音響効果を考える 舞台の上手や下手について理解して場面表現を考えるとともに，場面にふさわしい音楽や切れ目のない場面転換を行うための音響効果について理解する。	
第7回	お話の世界の具現化⑤ 場面の表現や転換にふさわしい照明効果と音響効果を試す 製作した大道具を持ち込んで舞台に設置し，体育館の放送室にある照明装置を操作して，様々な表現効果があることを理解するとともに，場面転換のタイミングに合わせた音楽を流すなどして音響効果を試す。 脚本は舞台完成の直前まで変更することが前提であるので，音響効果や照明効果を盛り込んだ演出メモを加筆した脚本と絵コンテを修正する。	
第8回	お話の世界の具現化⑥ 音舞台表現 音響効果や照明効果を盛り込んだ演出メモを加筆した脚本と絵コンテに基づいて舞台表現してみる。	
第9回	お話の世界の具現化⑦　舞台表現の修正と実践 前回の舞台表現から改点を見出し，修正する。	
第10回	紙素材を用いた立体表現① 基本的なPOP UPカードの仕組みを系統的に理解する。また，理解した仕組みと造形イメージを組み合わせて子どもが喜ぶPOP UPカードを作る。基本的な造形技法として，折り紙を使って連続切り・組み紙をする。同じ方法で行う創作活動が世界に1つだけの模様を生み出すことを理解し，楽しむ。	
第11回	紙素材を用いた立体表現②／「うつす」表現の探求① 理解した仕組みと造形イメージを組み合わせて子どもが喜ぶPOP UPカードを完成させる。フィンガーペインティング・モノプリント・デカルコマニー：0歳児からできるフィンガーペインティングは手指の動きや感触を味わうだけでなく，モノプリントという版画表現で残せることを理解する。2色以上使う場合には混色が起きることを想定し，色彩に興味を持つ展開が起きることを理解する。また，紙で行うことが通常のデカルコマニー（合わせ絵）に透明な下敷きやフィルムを使うことで，デカルコマニーの最中に絵具がどのように動いているのかを見て楽しめる点が新たな造形表現の面白さとして付加することを理解する。	
第12回	「うつす」表現の探求②：マーブリング 転写版画の一種であるマーブリングは通常3歳児以上の造形活動として行われることが多いが，3歳未満児でも楽しめるようにするにはどうすればよいかを考えて素材や方法を探求する。	
第13回	同じ技法でできる様々な表現の探求①　ステンシル 型を使い，内刷りと外刷り，何を使ってステンシルすると面白い効果が得られるか，また子どもにとって使いやすい道具や方法は何かなどを明らかにするために教材研究する。	
第14回	同じ素材でできる様々な技法遊びの探求②：糸であれこれ 保育内容の理解と方法Aで経験する糸と絵の具を用いた技法やそれとは異なる技法遊びを体験し，糸の材質や長さ，絵の具の状態や道具の配置などについていろいろと試すことにより，その技法や活動に最適な環境構成や活動のあり方を見つける。	
第15回	素材の用途や機能，扱い方を問い直す造形表現活動の探求：幼児と素材～糸や釘を中心に～ 素材の特徴を踏まえつつ，意外な遊び方や使い方を探求する。 例えば糸や釘を中心にして，用途や機能，扱い方を改めて見直して様々に試行して幼児でも楽しめる活動を探求する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的かつ主体的な行動および意見交換などの事実を評価する。
フォーム	10	回答の事実を評価するとともに，その内容については活動における課題が発見されていることと，その課題解決に向けたプロセスにおいて取得知識やアイデアの活用があることを評価する。実践のまとめと課題における意見交換中に教員がコメントすることにより，回答内容に対するフィードバックを行う。

発表や提出物などの成果物	70	発表の事実や提出物があることを評価する。 提出物の内容については、以下の点を評価する。①保育教材の研究における視点を有した活動や成果物（視点の例：５Cの力の発揮、子どもの発達と道具や技法との関係性など）であること。②表現技法や活動環境・素材の効果に関する探求の様子が確認できること。 ③活動目的や意味と合致した表現活動であること。 発表の内容については、以下の点を評価する。①単純なストーリーを舞台表現として豊かに展開するための活動における課題を発見していること。 ②その課題解決に向けたプロセスにおいて取得知識やアイデアの活用があること。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	造形活動に支障のない服装や身だしなみで受講すること。日ごろから造形活動に使えそうな生活廃材や自然物を集めておくこと。 前期開講の保育内容の理解と方法A／Bで使用している「なんでもボックス」持参すること。内容によっては材料や用具を各自で準備するよう指示するが詳細は授業中に説明する。
授業外学修	予習として，テキストの該当箇所を熟読すること。スケッチブック等への演習記録の時間は授業中に取らないため，復習として時間外に記述すること。そのため，週に２時間程度は時間外学修にあてること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
子どもの造形表現　第3版	北沢昌代　畠山智宏　中村光絵	開成出版	978-4-87603-553-3	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	岡山県教育センターにおける研修講師（４年） 幼稚園・保育園における研修講師（14年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	保育教材の研究における視点の一つである5Cの力については，岡山県教育センターにおける研修講師（４年）や幼稚園・保育園における研修講師（14年）において取り上げてきた内容であり，令和3年度4年度岡山県保育協議会保育会　表現保育研究部における研究の視点としても活用されている。これらの経験を活かし，学生が視点を持った保育実践ができるよう授業を展開する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育教材の研究における視点を有した活動や成果物（視点の例：５Cの力発揮、子どもの発達のと道具や技法との関係性など）	教材研究の視点を獲得し、表現活動で発揮される子どもの５Cの力のことや、子どもの発達と道具や技法との関係について、具体的に詳述することができる。また、それに基づいた充実した成果物を作ることができる。	教材研究の視点を獲得し、表現活動で発揮される子どもの５Cの力のことや、子どもの発達と道具道具や技法との関係について、具体的に述べることができる。また、それに基づいて成果物を作ることができる。	教材研究の視点を意識し、表現活動で発揮される子どもの５Cの力を理解している言動や成果物を作ることができる。また子どもの発達と道具や技法との関係について理解した言動ができ、成果物を作ることができる。	表現活動で発揮される子どもの５Cの力を理解している言動ができ，成果物を作ることができる。もしくは子どもの発達と道具や技法との関係について理解した言動ができ，成果物を作ることができる。	５Cの力の発揮，子どもの発達と道具や技法との関係性などといった保育教材の研究の視点を全く意識することができない。
思考・問題解決能力	１．単純なストーリーを舞台表現として豊かに展開するための活動における課題発見と、その課題解決に向けたプロセスにおける取得知識やアイデアの活用	単純なストーリーを舞台表現として豊かに展開するための課題を発見することができる。その解決のプロセスにおいて，修得した数多くの知識やアイデアを活用し，独創的で面白い表現活動ができる。	単純なストーリーを舞台表現として豊かに展開するための課題を発見することができる。その解決のプロセスにおいて，修得した知識やアイデアを活用し，面白い表現活動ができる。	単純なストーリーを舞台表現として豊かに展開するための課題を発見することができる。その解決のプロセスにおいて，修得した知識やアイデアを活用した表現活動ができる。	単純なストーリーを舞台表現として豊かに展開するための課題を発見することができる。しかし，その解決のプロセスにおいて，修得した知識やアイデアを活用しようと試みることはできる。	単純なストーリーを舞台表現として豊かに展開するための課題を発見することができず，表現活動もできない。
技能	１表現技法や活動環境・素材の効果に関する探求と、活動目的や意味と合致した表現活動	表現技法や活動環境・素材の効果について探求し，その効果を存分に活用して活動の目的や意味と合致した，独創的で豊かな造形表現活動をすることができる。	表現技法や活動環境・素材の効果について探求し，その効果を意識しつつ，活動目的や意味と合致した造形表現活動をすることができる。	表現技法や活動環境・素材の効果について探求し，その効果を意識して造形表現活動を実践することができている。目的や意味と表現との合致については多少なりとも意識することができる。	表現技法や活動環境・素材の探求はすることはできる。しかし，活動目的と表現の関係を意識した造形表現活動はできない。	表現技法や活動環境・素材の効果の探求ができないうえ，造形表現活動もできない。

科目名	保育内容の理解と方法D			授業番号	EE401	サブタイトル			
教員	鳥越　亜矢、土田　豊、福澤　惇也、武田　恵美								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	「保育内容の理解と方法A・B・C」および「（保育内容）表現」等で学んだことを元にして，多様な表現にあふれた子どもの生活と遊びを豊かに実践するために必要な知識や技術，保育の環境の構成および具体的展開のための多種多様な表現技術を総合的に習得する。								
到達目標	子どもの生活と遊びにおける多種多様な表現活動を実践するために必要な知識や技術，保育の環境の構成および具体的展開のための技術を習得し，実践できる力を身につけることができる。 課題の本質を理解し，課題を自分事として，メンバーシップとリーダーシップをお互いに発揮しながら，保育業務に欠かせない報告・連絡・相談を積み重ねて，物事に粘り強く取り組む姿勢を身に付ける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	児童文化等の内容を含んだテーマの設定(1) 課題への取り組み姿勢や15回の概要を説明する。それらを理解したうえでテーマ設定を行い，グループを作る。	（担当：全教員）
第2回	児童文化等の内容を含んだテーマの設定(2) テーマの深め方及び発表に必要な考え方や技術について講義する。講義内容を理解したうえで，グループごとに各自の役割分担を決める。	（担当：全教員）
第3回	テーマ別討論(1) テーマの深め方及び発表に必要な考え方や技術について理解したうえで，設定したテーマに関する各種資料を集めて役割ごとに検討するとともに，グループ内で検討結果の共有を行う。	（担当：全教員）
第4回	テーマ別討論(2) 設定したテーマにふさわしい発表をするために必要な知識・技術の活用についてグループ内で討論する。	（担当：全教員）
第5回	テーマ別討論(3) 設定したテーマにふさわしい発表をするために必要な知識・技術の活用についてグループ内でより具体的に討論し，テーマ発表の具体像を探る。	（担当：全教員）
第6回	テーマ別に環境構成を行う(1) テーマに応じた環境構成に必要なものやその作成および構成する方法について具体的に考え，役割やグループごとに計画を立てる。	（担当：全教員）
第7回	テーマ別に環境構成を行う(2) 計画に沿って，環境構成に必要なものを用意して環境構成を試行する。	（担当：全教員）
第8回	テーマ別に環境構成を行う(3) 必要に応じて計画の見直しを柔軟に行い，試行を繰り返しながらテーマの表現にふさわしい環境構成を具現化する。	（担当：全教員）
第9回	テーマに沿った保育技術の習得(1) 環境構成を活かしたテーマの表現にふさわしい表現技術について考える。	（担当：全教員）
第10回	テーマに沿った保育技術の習得(2) 場面ごとに考えた表現を練習する。	（担当：全教員）
第11回	テーマに沿った保育技術の習得(3) 中間発表を行うなどして，テーマの表現にふさわしい表現であるかどうかグループ間で意見交換する。また，意見交換を通じてテーマごとの課題を明らかにする。	（担当：全教員）
第12回	テーマに沿った環境構成と保育技術の習得(1) 意見交換で明らかになった課題を修正する。	（担当：全教員）
第13回	テーマに沿った環境構成と保育技術の習得(2) 課題を修正したうえで役割に応じて練習を重ねる。	（担当：全教員）
第14回	テーマ別発表(1) テーマにふさわしい環境を協力して構成し，発表する。	（担当：全教員）
第15回	テーマ別発表(2) テーマにふさわしい環境を協力して構成し，発表する。また，異なる環境で発表する場合について検討する。	（担当：全教員）
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	60	授業にかわわるフォームの回答内容のほか，授業中の活動パフォーマンスを上げるために事前に行ったことの記録の提出および内容をもって評価する。提出・回答内容については後日教員から総評としてコメントすることでフィードバックを行う。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	40	グループ別に行う発表を評価対象とする。課題の本質をとらえたグループ発表であること，条件に合わせて計画的に遂行した活動であることをもってグループ活動として評価する。また，その場にふさわしい表現を獲得して表現活動を実施しているかどうかをもって個人個人の発表内容としても評価する。グループごとに教員からコメントを述べることでフィードバックとする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	テーマの途中変更を認めない。グループのメンバー間で自分の役割を果たすこと。 課題についてグループで積極的かつ建設的に討議すること。 発表に向けて意欲的に参加すること。
授業外学修	早期にテーマを決め討議を始めること。グループの時間外活動に積極的に参加すること。 グループ内・グループ間で円滑なコミュニケーションをしっかりとりながら、課題について週当たり２時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要に応じて各テーマ別にプリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	小学校教諭（土田　豊）10年　保育士（岡本　美幸）15年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	各教員の経験を活かし，保育者に求められる専門的な知識・技術を学習し，実践的能力を身につけるように指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	保育者に必要な表現の総合的な知識とその活用	「保育内容の理解と方法A・B・C」および「（保育内容）表現」等で学んだことを元にして，表現活動を総合的にとらえ，年齢，発達に応じた知識をもって，充実した子どもの表現活動を実践することができる。	「保育内容の理解と方法A・B・C」および「（保育内容）表現」等で学んだことを元にして，表現活動を総合的にとらえ，年齢，発達に応じた知識をもって，子どもの表現活動を実践することができる。	「保育内容の理解と方法A・B・C」および「（保育内容）表現」等で学んだことを元にして，表現活動を総合的にとらえて子どもの表現活動を実践することができる。	「保育内容の理解と方法A・B・C」および「（保育内容）表現」等のいずれかで学んだことを元にして，表現活動をとらえて，子どもの表現活動を考えることができる。	「保育内容の理解と方法A・B・C」および「（保育内容）表現」等で学んだことを元にして，表現活動を総合的にとらえることができないうえ，子どもの表現活動を考えることができない。
思考・問題解決能力	課題の本質をとらえた活動	課題の本質を高いレベルでとらえることにより，場面ごとの重みづけや意味・関係性を十分考え，より楽しみながら表現活動をすることができる。	課題の本質をとらえて取り組むことにより，場面ごとの重みづけや意味・関係性を考え、楽しみながら表現活動をすることができる。	課題の本質をとらえて取り組むことにより，各場面の意味を理解した表現活動を楽しみながらすることができる。	課題の本質をとらえようとする姿勢に乏しいが，ある程度各場面の意味を理解した表現活動をする。	課題の本質をとらえようとする姿勢がなく，場面の意味を考えることもできない。
技能	表現活動に必要な技術の修得及び活用	子どもの活動を豊かに展開するために必要な様々な表現技術を身に付け，多様な表現活動をすることができる。	子どもの活動を豊かに展開するために必要な様々な表現技術を身に付け，表現活動することができる。	子どもの活動を豊かに展開するために必要な技術を身に付けて表現活動することができる。	子どもの活動を豊かに展開するために必要な技術を身に付けて表現活動しようと努力することができる。	子どもの活動を豊かに展開するために必要な技術を身に付けて表現活動しようと努力することができない。
態度	１．課題達成に関する役割意識	課題達成に向けた自分の役割を深く理解して，自分なりの知見や考えたことなどをグループや教員に相談，連絡，報告しながら粘り強く課題に取り組むことができる。	課題達成に向けた自分の役割を理解して，自分なりの知見や考えたことなどをグループや教員に相談，連絡，報告しながら粘り強く課題に取り組むことができる。	課題達成に向けた自分の役割を理解して，自分なりの知見や考えたことなどをグループ内で相談，連絡，報告しながら粘り強く課題に取り組むことができる。	課題達成に向けた自分の役割を理解してはいるが，自分なりの知見や考えたことなどを相談，連 絡，報告しながら課題に取り組むことがやや不十分である。	課題達成に向けた自分の役割を理解できないうえ，自分なりの知見や考えたことなどを相談，連 絡，報告しながら課題に取り組む態度がみられない。
態度	２．グループ活動への貢献	リーダーシップ，メンバーシップを適切に発揮できる。また，グループで達成するべき目標に対して率先して積極的かつ継続的に取り組むことができる。	リーダーシップ，メンバーシップを発揮できる。また、グループで達成するべき目標に対して積極的に取り組むことができる。	リーダーシップ，メンバーシップを概ね発揮できる。また，グループで達成するべき目標に対して取り組むことができる。	リーダーシップ，メンバーシップの発揮がやや不十分。グループで達成するべき目標への取り組みもやや不十分。	リーダーシップ，メンバーシップのどちらも発揮しない。そのうえ，グループで達成するべき目標に取り組まない。

科目名	保育実習指導Ａ 1クラス			授業番号	EF301A	サブタイトル			
教員	平尾　太亮								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	保育士資格の取得に必要な乳児院，児童養護施設や知的障害児・者施設などでの実習を万全なものにするために児童福祉施設について学び，児童福祉施設に関する知識を修得するとともに，実習生としての姿勢や態度，実習について学ぶことを目的とする。 実習中に日誌をつけることは重要な資料であるため，実習中の具体的な目標の定め方や記録の仕方，考察方法についても学び。実習後は実習の課題と反省点について研究発表をおこない，保育所保育実習につながることを目的とする。								
到達目標	・児童福祉施設ついて，基礎的な知識を獲得する。 ・具体的な目標設定の仕方を修得し，目標について考察し課題を得る力を獲得する。 ・グループディスカッションを通して，協働する力の重要性に気づくことができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	施設実習の意義と目標１ 施設実習の意義と目標について理解する。	
第2回	施設実習の意義と目標２ 施設実習の意義と目標について理解する。	
第3回	施設実習準備：事前学習と実習課題 施設実習に望むために必要な事前学習と，実習中に取り組む実習課題について理解する。	
第4回	施設実習の心得，人権教育 施設実習に望むために必要な心構えについて理解する。	
第5回	実習先施設調べ発表１：乳児院・児童養護施設 施設実習先である，乳児院と児童養護施設について調べ発表し，施設の特徴や役割について理解する。	
第6回	実習先施設調べ発表２：児童心理治療施設・児童自立支援施設 施設実習先である児童心理治療施設と児童自立支援施設について調べ発表し，施設の特徴や役割について理解する。	
第7回	実習先施設調べ発表３：児童発達支援センター・障害児入所施設・障害者支援施設 施設実習先である，児童発達支援センター，障害児入所施設，障害者支援施設について調べ発表し，施設の特徴や役割について理解する。	
第8回	実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点１ 実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点を理解する。	
第9回	実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点２ 実習日誌や記録の意義や使い方，及びその配慮点を理解する。	
第10回	先輩による事前指導 現役の施設職員から施設や支援の現状について聞き，理解する。	
第11回	お楽しみ会企画・立案・実施 施設の利用児/者を対象にしたお楽しみ会を企画・立案し，実施していく中でお楽しみ会運営のポイントを理解する。	
第12回	食事介助体験・車いす体験 食事介助や車いす介助体験を通して，支援のポイントを理解する。	
第13回	施設実習直前まとめ 実習指導全体を振り返り、実習前の最終確認をおこない、実習の意義を再度理解する。	
第14回	施設実習のまとめ 実習終了後、実習を通して得た知識や技術を踏まえたうえで振り返りを実施し、自己の変容を実感する。	
第15回	施設実習報告会 実習先以外の施設について理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。
レポート	30	実習終了後，実習自己課題について具体的な事例を踏まえながら考察し，総合的に論じることができる。 レポートについては、評価後フィードバックをおこなう。
講義内課題	30	講義内容の理解度，定着度を評価する。課題については、課題提出後の授業で全体的な傾向についてコメントをする。
定期試験		
その他	20	事例検討やロールプレイに積極的に参加し，意見を出すことができる。これらについては、授業内で全体的な傾向についてコメントをする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・施設実習の意義をよく理解すること。 ・事前学習が不十分な学生は施設実習に参加できない場合もあるので，積極的に取り組むこと。
授業外学修	１．授業内で学修した，児童福祉施設等に関わる知識を復習すること。 ２．授業内で授業内容の小テストがあるため，その準備をすること。 ３．実習手引の，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。 ４．学修した支援方法を獲得するために，繰り返し練習すること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要であれば，その都度プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療型障害児入所施設職員（3年），スクールカウンセラー（14年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	施設職員経験（3年）から，施設の実際を伝えるとともに，利用児・者への理解，支援方法，日誌の記入方法など，実践から得られた知見を伝える。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．児童福祉施設に関する知識	児童福祉施設に関する具体的な知識を深く習得している。	児童福祉施設に関する具体的な知識を習得している。	児童福祉施設に関する知識を習得している。	児童福祉施設に関する知識の習得が不十分である。	児童福祉施設に関する知識が習得できていない。
知識・理解	2．施設実習に関する知識	施設実習に関する具体的な知識を深く習得している。	施設実習に関する具体的な知識を習得している。	施設実習に関する知識を習得している。	施設実習に関する知識の習得が不十分である。	施設実習に関する知識が習得できていない。
知識・理解	3．自己課題の設定と取り組み	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。自己課題を通して得られた今後の課題について、省察できている。	自己課題を具体的に設定できている。	自己課題を設定できているが、具体性が乏しい。
思考・問題解決能力	1．課題への対処	施設実習中の課題について、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、背景を論述することができる。施設実習中の課題について、具体的かつ適切な解決策を提案することができる。	施設実習中の課題について、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、背景を論述することができる。施設実習中の課題について、具体的な解決策を提案することができる。	施設実習中の課題について背景を推察し、解決策を提案することができる。	施設実習中の課題について背景を推察し、解決策を提案することが、不十分である。	施設実習中の課題について背景を推察し、解決策を提案することができない。
技能	1．施設実習に関する技術	施設種別、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、具体的な行動/関わりを提案することができる。施設実習に関する知識に即しながら、自分なりの新たな行動/関わりを提案することができる。	施設種別、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、具体的な行動/関わりを提案することができる。	施設種別、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、行動/関わりを提案することができる。	施設種別、利用児/者の特性や状態像を踏まえずに、行動/関わりを考えている。	利用児/者に対して行動/関わりを考えることができない。
技能	2．自己評価	実習での自己評価を、他者の評価と照らし合わせながら、自身の次の学習課題を見出すことができる。	実習での自己評価を整理し、他者の評価と照らし合わせることができる。	実習を振り返り、内容を整理して記入することができる。	実習を振り返り、内容を整理して記入することができが不十分である。	実習を振り返り、内容を整理して記入できない。
態度	1．課題への取り組み	課題の意図を理解し、児童福祉施設/施設実習の知識を踏まえながら具体的に自分の意見を記述することができる。児童福祉施設/施設実習の知識に即しながら、自分なりの新たな意見を記述することができる。	課題の意図を理解し、具体的に自分の意見を記述することができる。	課題の意図を理解し自分の意見を述べられるが、具体的に記述することができない。	課題の意図は理解できているが自分の意見は記述できない。もしくは課題の意図は理解できていないが、自分の意見は記述できる。	課題の意図が理解できていない。自分の意見が記述できてない。
態度	2．グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を具体的に述べることができる。グループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を述べることができる。もしくはグループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて取り組むことができている。	グループ活動に参加しているが、消極的である。	グループ活動に参加していない。
態度	3．主体的な取り組み	実習園や担当職員の指示だけでなく、実習に向けて問題意識をもち、様々な可能性を考えながら実習準備に取り組むことができる。	実習園や担当職員の指示だけでなく、実習に向けて問題意識をもち、実習準備に取り組むことができる。	実習園や担当職員の指示に沿って実習準備をおこなうことができる。	実習園や担当職員の指示に沿って実習準備をおこなうが不十分である。	実習園や担当職員の指示があっても、実習準備に取り組むことが難しい。

科目名	保育実習指導Ｂ			授業番号	EF302A	サブタイトル			
教員	岡本　美幸								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	保育所実習の意義・目的，内容，方法を理解し，保育者としての振る舞いやマナーを学び，課題をもって実習に臨むことができるように，基本的な知識・技能・態度を身に付ける。								
到達目標	保育実習の意義，目的を踏まえ，保育所実習に臨む姿勢や態度等の心得を理解する。 子どもの発育・発達や保育の基本を理解し，子どもを中心とした指導案や実習日誌の書き方を習得する。 実習の事前・事後の学習や実習体験を振り返り，それぞれの自己課題や目標を明確にすることができるようにする。 なお，本学科はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	保育所実習とは 保育実習の意義と目的，内容について理解する。	
第2回	実習に必要な手続きと準備 実習書類作成したり自己紹介を考えたりして，実習のイメージを高める。	
第3回	実習の心構えと準備 実習の心構え・マナー，保育士の倫理綱領，基本事項の確認	
第4回	保育所の目的と概要 保育所の社会的役割 保育士の資格と業務，保育所の1日の流れ等，保育所の理解を深める。	
第5回	子ども理解（3歳未満児） 0歳～2歳児の発達の理解をし，保育所保育指針から援助の観点を考える。	
第6回	子ども理解（3歳以上児） 3歳以上の子どもの発達の理解をし，保育所保育指針から援助の観点を考える。	
第7回	保育内容の展開と保育計画の理解 デイリープログラムと月・週指導計画，保育実技・教材研究の方法について理解する。	
第8回	指導計画と指導案の関係性 指導計画の中にある，実習日誌，指導案との関連を理解する。	
第9回	保育日誌の意義と内容の理解 記録することの意義 実際にメモの取り方，記録の書き方・留意点を理解し，日々省察を行えるようにする。	
第10回	実際の観察記録 観察記録をもとに，実際に日誌を記入し理解する。	
第11回	指導計画の立案① グループ別での活動の検討・立案	
第12回	指導計画の立案② グループ別での実践・評価・反省	
第13回	指導計画の立案③ 実践を踏まえた各課題の明確化・再構成の検討	
第14回	指導計画の立案④　実習に対する課題の作成 グループ検討を踏まえた指導案と実習に対する自己課題を各自作成	
第15回	保育所実習についてのまとめ 自己課題の検討と今度の展望を整理する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	毎回の提出物・発表状況、活動への参加状況により評価する。
レポート	20	レポートの課題に合った書き方が出来ているか，誤字脱字，表現方法，提出期限が守れているかによって評価する ※採点後，成績を個別に開示し，授業内で振り返りを行う。
保育実技・製作物	20	・意図が明確であるか・適切な声の大きさ及び抑揚があるか・表情や仕草は内容と合っているか・年齢に合った内容であるか・提出期限を厳守で来ているか ・提出物は丁寧に仕上げているか ※授業内で振り返りを行う。
日誌および指導案	30	指導案及び日誌の書き方の理解を、提出期限および提出物の内容等の状況によって評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実習の必要書類作成なども行います。授業へは全出席すること。 受講態度や，書類提出状況により保育実習Bの履修ができなくなることがある。
授業外学修	実習の目的を明確し、手遊びや絵本の読み聞かせなどの練習や作成をしたり、指導案作成に必要な教材研究を行ったりし、実習準備を万全にすること。概ね30時間の自主学修が必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
これからの時代の保育者養成・実習ガイド: 学生・養成校・実習園がともに学ぶ	大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜 (編著)	中央法規出版	978-4-8058-8222-1	1，980円
保育所保育指針解説	厚生労働省 (編集)	フレーベル館	978-4577814482	320円+税

使用テキスト：自由記載	岡山県保育士養成協議会発行の「保育所実習の手引」と「保育所実習日誌」 その他，授業中に適宜資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立保育所における保育士の実務経験を有する。（15年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	担当教員の実務経験を活かし，事前準備・実習中の留意点や日誌の書き方等，実習の実際を理解しやすいように授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．保育所の子どもに関する知識	保育所にはどのような子どもが入所しているのか十分理解し，適切な対応の仕方を明確に論述できる。	保育所にはどのような子どもが入所しているのか理解し，適切な対応の仕方を明確に論述できる。	保育所にはどのような子どもが入所しているのか理解し，対応の仕方を論述できる。	保育所にはどのような子どもが入所しているのか理解しているが，適切な対応の仕方までは論述できない。	保育所にはどのような子どもが入所しているのか理解できにくく，適切な対応の仕方まではわからず，論述できない。
知識・理解	2．保育所実習の意義・目的	保育所実習の意義・目的が十分に理解でき，実習にむけて意識を高くもつことができ，それらを論述できる。	保育所実習の意義・目的が理解でき，実習にむけて意識を高くもつことができ，それらを論述できる。	保育所実習の意義・目的が理解でき，実習にむけて意識を表明することができる。	保育所実習の意義・目的が理解でき，実習にむけて意識をもつことができるがその表明が不十分である。	保育所実習の意義・目的が理解できておらず，実習にむけて意識をもつことができないので，意識の表明もできない。
技能	1．保育実習に関する技術	園の特徴，子どもの特性や状況を踏まえながら，具体的な関わりを提案することができる。保育所実習に関する知識に即しながら，自分なりの新たな関わりを提案することができる。	園の特徴，子どもの特性や状況を踏まえながら，具体的な関わりを提案することができる。	園の特徴，子どもの特性や状況を踏まえながら，関わりを提案することができる。	園の特徴，子どもの特性や状況を踏まえずに，関わりを考えた提案をする。	子どもに対して関わりを考えることができないので，提案もできない。
技能	2．日誌・指導案の作成	日誌・指導案の記入する箇所に何をどのように記入するかがわかり，丁寧に間違いなく記入することができる。また，場面を想像することができ，適切な表現を使用して記入することができる。	日誌・指導案の記入する箇所に記入方法がわかり，間違いなく記入することができる。また，場面を想像することができ，適切な表現を使用して記入することができる。	日誌・指導案の記入する箇所に間違いなく記入することができる。また，場面を想像することができ，適切な表現を使用して記入することができる。	日誌・指導案の記入する箇所に間違いなく記入することができる。また，場面を想像することができにくく，誤った表現を記入する。	日誌・指導案の記入する箇所を間違い，場面を想像することができにくく，誤った表現を記入する。

科目名	保育実習指導C 1クラス			授業番号	EF303A	サブタイトル			
教員	岡本 美幸								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	保育実習指導Bで学習したことを踏まえ，実習の心構えや望ましい実習態度を身に付け，保育所保育の基本，園児の実情に応じた保育士の援助や環境構成の在り方，立案・実践の方法などを総合的に理解する。実習事後においてはグループ討議や反省会を行うことを通して実習事前学習や保育所実習を振り返り，実習成果と自己課題の認識や解決方法について学習を深める。								
到達目標	保育実習の意義，目的を理解した上で，保育実習Cの課題を明確にする。 保育実技や教材研究，保護者対応，保育者としての意識や態度を身につける。 実習で使用する指導案，実習日誌の書き方を習得し，実際に立案することができる。 実習後はテーマレポートの作成を行い，自己課題に対する振り返りや今後の課題を明確にする。 なお，本学科はディプロマ・ポリシーに揚げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	保育実習IIの意義・目的，内容，心構え，自己課題 「保育所実習の手引き」に基づいて再度確認・理解する。	
第2回	保育所の実際 連携と職業倫理，保護者の理解と保護者対応，保護者支援について復習する。	
第3回	実習日誌の理解と実際 実習日誌を実際に記入にし，理解する。	
第4回	年齢や発育・発達に応じた保育 自分が担当する年齢の子どもを理解する。	
第5回	指導案に関する理解 ねらいや援助について具体例を用いながら，自ら作成することで理解する。	
第6回	援助の意味を考える 子どもの成長に応じた援助がいかに大切かを理解する。	
第7回	保育現場の先輩による事前指導 実際の保育現場で働いている保育士から話を聞き，保育現場を理解する。	
第8回	指導案の実際(1) 実際に指導案を記入することで理解する。	
第9回	指導案の実際(2) 実際に指導案を記入することで理解する。	
第10回	保育の方法 保育実技の研究・発表	
第11回	実習の心構えと準備 実習の心構え・マナー，保育士の倫理綱領，基本事項の確認	
第12回	自己課題に対する振り返り 自己課題が適切であったかを自分なりに振り返り・評価する。	
第13回	グループ討議(1) グループでの実習体験を報告・交流・共有化により，子ども理解をする。	
第14回	グループ討議(2) グループでの実習体験を報告・交流・共有化により，子ども理解をする。	
第15回	保育所実習のまとめ 保育実習を履修者全体で振り返り，他者の体験を聞きながら自己課題の検討と今度の展望について省察する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業態度，グループ発表への参加態度・発表内容などについて総合的に評価する。
レポート	40	本授業の到達目標に応じたレポートを，実習事後に行う。レポートは、コメントを添えて日誌と共に返却する。レポートの提出が期限内に提出できなければ，評価はしない。
実習準備	20	指導案及び日誌の作成・準備の取り組み状況を，課題や書類などの提出期限と内容により評価する。添削後，各自にコメントを添えて返却する。
実習事後指導・実習報告会	20	実習後の振り返りを文書化・言語化した内容を評価する。実習報告会においては、事前準備・当日の発表や参加態度を評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	子どもが育ち合うように，保育者も相互関係の中で常に学び続けている。この授業においても同様に，目的意識をもって取り組むこと。受講態度や，書類提出状況により保育実習Cの履修ができなくなることがある。
授業外学修	実習の目的をもち，実習園オリエンテーションなどの事前訪問から実習への意識を高め，指導案作成に必要な教材研究を行ったり既習の学修を復習したりして，実習準備を万全にすること。概ね30時間の自主学修が必要である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
これからの時代の保育者養成・実習ガイド: 学生・養成校・実習園がともに学ぶ	大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜 (編著)	中央法規出版	978-4-8058-8222-1	1，980円
保育所保育指針解説	厚生労働省 (編集)	フレーベル館	978-4577814482	320円+税

使用テキスト：自由記載	岡山県保育士養成協議会発行の「保育所実習の手引」と「保育所実習日誌」 その他，授業中に適宜資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立保育所における保育士の実務経験を有する。（15年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	担当教員の実務経験を活かし，事前準備・実習中の留意点や日誌の書き方等，実習の実際を理解しやすいように授業を展開していく。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育所/こども園に関する知識	保育所/こども園に関する具体的な知識を深く習得し，授業や試験に対応できる。	保育所/子ども園に関する具体的な知識を習得し授業や試験に対応できる。	保育所/子ども園に関する知識を習得し授業や試験に対応できる。	保育所/子ども園に関する知識の習得が不十分であり，授業や試験で力が発揮できにくい。	保育所/子ども園に関する知識が習得できていないため，授業や試験で力が発揮できない。
知識・理解	２．保育所実習日誌及び指導案に関する知識	保育所実習日誌及び指導案に関する具体的な知識を深く習得し，記述し，遂行できる。	保育所実習日誌及び指導案に関する具体的な知識を習得し，記述し，遂行できる。	保育所実習日誌及び指導案に関する具体的な知識を習得し，記述できる。	保育所実習日誌及び指導案に関する知識の習得が不十分である。	保育所実習日誌及び指導案に関する知識が習得できていない。
知識・理解	３．自己課題の設定と取り組み	実習での自己課題を具体的に設定し，自己課題を通して得られた今後の課題について，具体的かつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し，自己課題を通して得られた今後の課題について，具体的かつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。自己課題を通して得られた今後の課題について，省察できる。	自己課題を設定しているが抽象的である。	自己課題を設定できているが，著しく具体性が乏しい。
知識・理解	４．レポートの作成	実習での課題について，事例をわかりやすく示し，考察に自分の考えを根拠を示しながら論理的に書くことができる。	実習での課題について，事例をわかりやすく示している。考察に自分の考えを根拠を示しながら十分書くことができる。	実習での課題について，事例をわかりやすく示している。考察に自分の考えが書ける。	実習での課題について，事例を示すことができるが，考察において自分の考えの述べ方が不十分である。	レポートの体裁が整っておらず，内容も不十分である。
技能	１．保育実習に関する技術	園の特徴，子どもの特性や状態像を踏まえながら，具体的な行動/関わりを提案することができる。保育所実習に関する知識に即しながら，自分なりの新たな行動/関わりを提案することができる。	園の特徴，子どもの特性や状態像を踏まえながら，具体的な行動/関わりを提案することができる。	園の特徴，子どもの特性や状態像を踏まえながら，行動/関わりを提案することができる。	園の特徴，子どもの特性や状態像を踏まえないままであるが，行動/関わりを考えて示すことができる。	幼児に対して行動/関わりを考えることができないため，その提案もできない。
技能	２．自己評価	実習での自己評価を，他者の評価と照らし合わせながら，自身の次の学習課題を見出すことができる。	実習での自己評価を整理し，他者の評価と照らし合わせることができる。	実習を振り返り，内容を整理して記入することができる。	実習を振り返り，内容を整理して記入することができが不十分である。	実習を振り返り，内容を整理して記入できない。

科目名	保育実習指導Ｄ			授業番号	EF304	サブタイトル			
教員	荒谷　友里恵								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	施設での実習を万全なものにするために児童福祉施設について学び，児童福祉施設に関する知識を修得するとともに，実習生としての姿勢や態度，実習について学ぶことを目的とする。 実習中に日誌をつけることは重要な資料であるため，実習中の具体的な目標の定め方や記録の仕方，考察方法について学ぶ。 利用児・者に対して個々に合った支援を実施するために，個別支援計画の意義や立案・作成の方法を学ぶ。 実習後は実習の課題と反省点について研究発表をおこなう。								
到達目標	・児童福祉施設ついて，発展的な知識を獲得する。 ・具体的な目標設定の仕方を習得し，目標について考察し課題を得る力を獲得する。 ・グループディスカッションを通して，協働する力の重要性に気づくことができる。 ・個別支援計画を立案・作成することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	施設実習の目的と意義　・学習してきた理論、知識、技術を実践に応用するために必要なことを学ぶ。	
第2回	施設実習先種別の理解　・各施設の設置目的と対象児（者）について学ぶ・利用児（者）の施設での状況について学ぶ。	
第3回	専門職の役割と援助・各施設における保育士の役割と利用児（者）に対する支援方法について学ぶ。	
第4回	実習日誌の書き方　・日誌の記載項目、日誌記載上の重要事項、留意事項、記載方法、守秘義務について学ぶ。	
第5回	実習に対する課題作成　・実習Ｉを振り返り、自身の課題と目標を設定する。	
第6回	個別支援計画の意義　・利用児（者）に合わせた、それぞれの個別支援計画の必要性について学ぶ。	
第7回	個別支援計画の立案　・事例を用いて利用児（者）に合わせた、それぞれの個別支援計画の立案を行う。	
第8回	施設職員，先輩による事前指導　・施設職員による施設での実際の業務、利用児（者）との関わりを説明いただき、施設実習の具体的な指導をいただく。	
第9回	事例研究1　・自閉スペクトラム障害を持つ児に対する関わりを学び、個別支援計画を作成する。	
第10回	事例研究2　・重症心身障害児に対する関わりを学び、個別支援計画を作成する。	
第11回	施設研究　・児童養護施設について調べ学習を行い、施設の概要と利用児の特性について学ぶ。	
第12回	レクリエーション①　・レクリエーションの意義と目的を学ぶ。　・施設実習で実施できるレクリエーションを考える。	
第13回	レクリエーション②　・考えたレクリエーションを発表し、他者から意見を受ける。	
第14回	実習のまとめ　・実習先での利用児（者）との自身の関わりを考察し、今後の課題を明確にする。	
第15回	実習反省会　・実習先での経験を振り返り返り、まとめ発表する。　・次年度に実習に行く学生に対しての模範を示す。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業に積極的に参加し，意見や疑問を表現することができる。
レポート	30	事前に決めた実習課題に沿って実習中に調査を実施し，具体的かつ考察を踏まえながら作成することができる。
小テスト		
定期試験		
その他	50	事前学習の内容を精査し，日誌にまとめて記入することができる（20%）事例検討やロールプレイに積極的に参加し，意見を出すことができる（30%）

評価の方法：自由記載	実習内容を60%，報告書レポート等を40%の割合で評価する。 レポートについては、コメントを付けて返却する。
受講の心得	・施設実習の意義をよく理解すること。 ・事前学習が不十分な学生は施設実習に参加できない場合もあるので，積極的に取り組むこと。
授業外学修	１．授業内で学修した，児童福祉施設等に関わる知識を復習すること。 ２．実習手引の，次の講義内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにすること。 ３．学修した支援方法を獲得するために，繰り返し練習すること。 ４．実際の利用児・者を想定しながら，個別支援計画を作成すること。 以上の内容を，週当たり１時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	授業内容によって，随時プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業で必要に応じて，紹介する。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	看護師経験（10年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	看護師経験（10年）から，利用児・者への理解，支援方法，日誌の記入方法など，実践から得られた知見を伝える。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.児童福祉施設に関する知識	児童福祉施設に関する具体的な知識を深く習得している。	児童福祉施設に関する具体的な知識を習得している。	児童福祉施設に関する知識を習得している。	児童福祉施設に関する知識の習得が不十分である。	児童福祉施設に関する知識が習得できていない。
知識・理解	2.施設実習に関する知識	施設実習に関する具体的な知識を深く習得している。	施設実習に関する具体的な知識を習得している。	施設実習に関する知識を習得している。	施設実習に関する知識の習得が不十分である。	施設実習に関する知識が習得できていない。
知識・理解	3.自己課題の設定と取り組み	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。 自己課題を通して得られた今後の課題について、省察できている。	自己課題を具体的に設定できている。	自己課題を設定できているが、具体性が乏しい。
知識・理解	4.課題への取り組み	課題の意図を理解し、児童福祉施設/施設実習の知識を踏まえながら具体的に自分の意見を記述することができる。 児童福祉施設/施設実習の知識に即しながら、自分なりの新たな意見を記述することができる。	課題の意図を理解し、具体的に自分の意見を記述することができる。	課題の意図を理解し自分の意見を述べられるが、具体的に記述することができない。	課題の意図は理解できているが自分の意見は記述できない。 もしくは課題の意図は理解できていないが、自分の意見は記述できる。	課題の意図が理解できていない。 自分の意見が記述できてない。
知識・理解	5.グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を具体的に述べることができる。 グループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて自分の意見を述べることができる。 もしくはグループメンバーの意見を取り入れながら、目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し、目標達成に向けて取り組むことができている。	グループ活動に参加しているが、消極的である。	グループ活動に参加していない。
技能	1.施設実習に関する技術	施設種別、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、具体的な行動/関わりを提案することができる。 施設実習に関する知識に即しながら、自分なりの新たな行動/関わりを提案することができる。	施設種別、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、具体的な行動/関わりを提案することができる。	施設種別、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、行動/関わりを提案することができる。	施設種別、利用児/者の特性や状態像を踏まえずに、行動/関わりを考えている。	利用児/者に対して行動/関わりを考えることができない。
技能	2. 自己評価	実習での自己評価を、他者の評価と照らし合わせながら、自身の次の学習課題を見出すことができる。	実習での自己評価を整理し、他者の評価と照らし合わせることができる。	実習を振り返り、内容を整理して記入することができる。	実習を振り返り、内容を整理して記入することができが不十分である。	実習を振り返り、内容を整理して記入できない。
技能	3.課題への対処	施設実習中の課題について、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、背景を論述することができる。 施設実習中の課題について、具体的かつ適切な解決策を提案することができる。	施設実習中の課題について、利用児/者の特性や状態像を踏まえながら、背景を論述することができる。 施設実習中の課題について、具体的な解決策を提案することができる。	施設実習中の課題について背景を推察し、解決策を提案することができる。	施設実習中の課題について背景を推察し、解決策を提案することが、不十分である。	施設実習中の課題について背景を推察し、解決策を提案することができない。
技能	4.主体的な取り組み	実習園や担当職員の指示だけでなく、実習に向けて問題意識をもち、様々な可能性を考えながら実習準備に取り組むことができる。	実習園や担当職員の指示だけでなく、実習に向けて問題意識をもち、実習準備に取り組むことができる。	実習園や担当職員の指示に沿って実習準備をおこなうことができる。	実習園や担当職員の指示に沿って実習準備をおこなうが不十分である。	実習園や担当職員の指示があっても、実習準備に取り組むことが難しい。

科目名	保育実習Ａ			授業番号	EF305	サブタイトル			
教員	平尾　太亮、荒谷　友里恵								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	保育所以外の児童福祉施設や障害児・者施設などにおいて，諸教科で学んだ理論や技術がいかに具体化・統合化されているかを実地で学習する。 そして，実習を通してその施設の養護の目的や内容を体験的に理解することを目的とする。								
到達目標	・児童福祉施設における保育者の立場を理解する。 ・児童福祉施設などで生活する利用児・者を理解する。 ・施設実習を通して，保育者としての知見を得る。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	実習生といえども，社会人及び保育士としての自覚を持って実習に臨むこと。また，実習に先立ち児童福祉施設や障害児・者に関する本を数冊読んでおくこと。 １）利用児・者への理解 ・利用児・者との生活を通しての理解をする。 ・利用児・者のとらえ方を深める。 ２）養護活動と養護技術への理解 ・各施設の目標に沿った養護の実際を理解する。 ・保育士の職務内容，役割について理解する。 ・技術を学ぶ。 ３）施設への理解 ・施設の役割と機能について理解する。 ・体験的理解と施設観の変革・再編成をする。 ４）自己啓発と福祉観の深化 ・実習での体験や学びをもとに自己啓発を進める ・福祉の現場に触れることにより，福祉観・援助観を深化させる。 通常特定の施設に10日間宿泊してその施設の処遇を見学したり，援助活動に参加させてもらい基礎的な内容を学習する。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	20	報告書の施設概要を詳細に記載し，学んだことについて具体的かつ考察を踏まえながら記述することができる。 全体に対してコメントする。
小テスト		
定期試験		
その他	80	実習先施設による評価（50%）と実習日誌（30%）

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・実習の目標を把握しておくこと。 ・施設ごとに方針が異なるため，実習施設のプログラムに従うこと。 ・課題設定をし，目標を達成できるようにする。
授業外学修	１．利用児・者の活動と施設職員，実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を日誌に記入する。 ２．利用児・者とのかかわりを通して考えたことについて，具体的にエピソードを記入し，それらを考察しながら記述する。 ３．その日の実習課題をふまえながら1日を振り返り，次の日の実習課題を検討する。 ４．1日の流れを振り返り，施設職員の声かけや支援方法をリハーサルし，獲得できるようにする。 以上の内容を，毎日２時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	『施設実習日誌』『施設実習の手引き』岡山県保育士養成協議会

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療型障害児入所施設職員（3年），スクールカウンセラー（14年）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	

実務経験をいかした教育内容	施設職員経験（3年）から、利用児・者への理解，支援方法，日誌の記入方法など，実践から得られた知見を伝える。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.実習の流れの理解	生活リズムや日課、1日の流れを理解できており、流れに合わせた支援を積極的に実施することができる。	生活リズムや日課、1日の流れを理解できており、流れに合わせた支援を実施することができる。	生活リズムや日課、1日の流れを理解できている。	生活リズムや日課、1日の流れは理解できているが不十分である。	生活リズムや日課、1日の流れを理解できていない。
知識・理解	2.利用児/者の特性やニーズの理解	利用児/者の特性やニーズを深く理解することができる。	利用児/者の特性やニーズを理解することができる。	利用児/者の特性やニーズが、職員のサポートがあれば理解することができる。	利用児/者の特性やニーズが理解が不十分である。	利用児/者の特性やニーズが理解できていない。
知識・理解	3.生活環境整備や安全への配慮	生活空間における配慮を理解し、安全に配慮した生活空間の構成を検討/提案することができる。	生活空間における配慮を理解し、安全に配慮した生活空間の構成を考えることができる。	生活空間における配慮が理解できている。	生活空間における配慮の理解が不十分である。	生活空間における配慮を理解できていない。
知識・理解	4.職員の役割や連携の理解	施設保育士の役割やチームワーク、多職種連携について深く理解し、実践することができる。	施設保育士の役割やチームワーク、多職種連携について深く理解している。	施設保育士の役割やチームワーク、多職種連携について理解できている。	施設保育士の役割やチームワーク、多職種連携の理解が不十分である。	施設保育士の役割やチームワーク、多職種連携について理解できていない。
思考・問題解決能力	1.客観的な観察にもとづく実習記録と省察	客観的な観察にもとづき実習記録を記述し内容を省察し、翌日の実習に課題として反映することができる。	客観的な観察にもとづき実習記録を記述し、内容を省察することができる。	客観的な観察にもとづき実習記録を記述することができる。	客観的な観察にもとづく実習記録と省察の記述が不十分である。	客観的な観察にもとづく実習記録と省察が記述できない。
思考・問題解決能力	2.具体的な課題設定と実践	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。自己課題を通して得られた今後の課題について、省察できている。	自己課題を具体的に設定できている。	自己課題を設定できているが、具体性が乏しい。
技能	1.利用児/者の特性やニーズに応じた支援や関わり	利用児/者の特性やニーズに応じた適切な支援や関わりができる。	利用児/者の特性やニーズに応じた支援や関わりができる。	利用児/者の特性やニーズに応じた支援が、職員のサポートがあれば実施することができる。	利用児/者の特性やニーズに応じた支援や関わりが不十分である。	利用児/者の特性やニーズに応じた支援や関わりができない。
技能	2.利用児/者との人間関係形成	利用児/者に対して、共感的対応や公平かつ温和な態度で接し、多様なコミュニケーションを活用しながら人間関係を形成することができる。	利用児/者に対して、公平かつ温和な態度で接し人間関係を形成することができる。	利用児/者との人間関係の形成ができる。	利用児/者との人間関係の形成が不十分である。	利用児/者との人間関係の形成ができない。
技能	3.職員との関係形成	報告、連絡相談や質問、意見の交換を通して職員との関係を形成することができる。	報告、連絡相談や質問を通して職員との関係を形成することができる。	報告、連絡相談や質問をすることができる。	報告、連絡相談や質問をすることができない。	職員との関係を形成することができない。
態度	1.実習生としてのマナーやモラル	職員から留意された事項を遵守、利用児/者への配慮など、実習意義や実習生としての立場を十分理解し、責任をもって実習をすることができる。	職員から留意された事項を遵守し実習に取り組むことができる。守秘義務や利用児/者の尊重など、利用児/者に配慮した実習ができる。	実習生として、適切な言葉遣いや身だしなみ等、職員の指示に沿って実習に取り組むことができる。	実習生としてのマナーやモラルが不十分である。	実習生としてのマナーやモラルがない。
態度	2.テーマレポートの作成	具体的な事例をふまえながら自己課題の内容、取り組み、結果について記述されている。内容を省察し、実習を通して得られた新たな課題を記述することができる。	具体的な事例をふまえながら自己課題の内容、取り組み、結果について記述されている。実習を通して得られた新たな課題を記述することができる。	具体的な事例をふまえながら自己課題の内容、取り組み、結果について記述されている。	自己課題の内容、取り組み、結果についての記述が不十分である。	自己課題の内容、取り組み、結果についての記述ができていない。

科目名	保育実習Ｂ			授業番号	EF306	サブタイトル			
教員	岡本　美幸、清水　憲志								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	保育所等での10日間の実習を行い，実習園の指導のもとで，観察・参加実習を中心に総合的な学習を行う。これまでに学んだ基礎理論や専門的理論と技術を保育の実践を通して具体的に学び，保育士の役割や専門性を知り必要な知識や技術を習得する。また，乳幼児とのかかわりを通し，子ども理解を深めたり，保育者としてふさわしい人格形成を計る。								
到達目標	実際に保育所において観察や子どもとのかかわりを通し，保育者の役割や機能を理解したり，子ども理解を深めたりする中で，保育士になるための実践力を高める。 保育の計画，観察，記録及び自己評価等について具体的に理解する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに揚げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	保育所の生活と一日の流れを理解する 保育所保育指針の理解と保育の展開を理解する 子どもの観察とその記録による理解 子どもの発達過程の理解をする 子どもへの援助やかかわりを実際に行い，理解する 保育の計画に基づく保育内容を理解し，実際に立案し実施する 子どもの発達過程に応じた保育内容を理解し，実際に実施する 子どもの生活やあそびと保育環境を理解し，保育をする 子どもの健康と安全に留意し，理解を深める 保育課程と指導計画の理解と活用 記録に基づく省察・自己評価をする 保育士の業務内容を理解する 職員間の役割分担や連携を理解する 保育士の役割と職業倫理を理解する 以上のような内容を，10日間の実習において，保育の現場で総合的に学ぶ。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	90	実習園からの評価，実習態度・連絡，実習日誌や指導案について実習施設と合算して評価する。 日誌はコメントを記入して、返却する。
その他	10	巡回指導時の様子や実習園への提出物等により評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	社会人としてのマナーと自覚をもって，現場保育士から学ぶ姿勢で臨み，積極的かつ意欲的に多くを吸収するように努める。また，十分にコミュニケーションをとりながら，子どもの良いモデルとなれるような言葉遣い，態度，ふるまいに注意すること。
授業外学修	オリエンテーションなどの事前訪問により実習への意欲を高め，様々な保育実技を生かすことができるよう，既習の学習内容を復習したり，教材研究や保育準備など十分に準備したりして臨むこと。帰宅後は，実習内容を十分に振り返り，日誌を記入や反省・考察を行うこと。上記の準備や振り返りなどに概ね30時間程度の自主学修が必要。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育所保育指針解説	厚生労働省 (編集)	フレーベル館	978-4577814482	320円+税
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	内閣府 (著)， 文部科学省 (著)， 厚生労働省 (著)	フレーベル館	978-4577814499	350円+税
これからの時代の保育者養成・実習ガイド: 学生・養成校・実習園がともに学ぶ	大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜 (編著)	中央法規出版	978-4-8058-8222-1	1，980円

使用テキスト：自由記載	岡山県保育士養成協議会発行の「保育所実習の手引き」「保育所実習日誌」 授業内で適宜資料を配付した資料

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立保育所における保育士の実務経験を有する。

担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	保育現場の保育士等
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.保育所の流れの理解	保育所等の1日の流れを十分理解できており，流れに合わせた援助を積極的に実施することができる。	保育所等の1日の流れを十分理解できており，流れに合わせた援助を実施することができる。	保育所等の1日の流れが理解できているが，援助の実施は不十分である。	保育所等の1日の流れを理解して行動できる。	保育所等の1日の流れが理解できていないため，適切な行動ができない。
知識・理解	2.保育士の役割の理解	保育士の役割を十分に理解し，その一員として保育に参加することができる。また，良好な人間関係が構築できる。	保育士の役割が理解でき，その一員として保育に参加することができる。また，良好な人間関係が構築できる。	保育士の役割が理解でき，その一員として保育に参加することができる。また，保育上の人間関係が構築できる。	保育士の役割が理解でき，保育に参加することができる。	保育士の役割が理解できない。また，保育に参加することができない。
知識・理解	3.保育内容の理解	保育内容を十分理解したうえで，指導案を書くことができ，保育の実践ができる。その後省察をすることで，次に生かすことができる。	保育内容を理解したうえで指導案を書くことができ，保育の実践ができる。その後省察をすることで，次に生かすことができる。	保育内容を理解し，指導案を書くことができる。保育の実践ができる。その後省察をすることができる。	保育内容がやや理解でき，指導案を書くことができるが十分ではない。保育の実践がなんとかできる。	保育内容が理解できておらず，指導案を書くことが難しい。保育の実践が難しい。
思考・問題解決能力	1.観察に基づく日誌・指導案	子どもの観察を行い，丁寧に日誌に記録ができ，自らの保育を省察でき，次の日の保育に反映することができる。	子どもの観察を行い日誌に記録ができる。自らの保育を省察でき，次の日の保育に反映することができる。	子どもの観察を行い日誌に記録ができる。また，自らの保育を省察することができる。	子どもの観察を行い日誌に記録ができるが，不十分である。また，訂正された箇所の直しが不十分である。	子どもの観察を行い日誌に記録ができるが，不十分である。また，訂正された箇所の直しが理解できていない。
思考・問題解決能力	2.具体的な課題設定と実践	実習での自己課題を具体的に設定し，自己課題を通して得られた今後の課題について，具体的かつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し，自己課題を通して得られた今後の課題について，具体的かつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。自己課題を通して得られた今後の課題について，省察できている。	自己課題を具体的に設定できている。	自己課題を設定できているが，具体性が乏しい。
技能	1.保育実習に関する技術	子どもの特性や状態を踏まえながら，具体的な関わりが積極的にできる。	子どもの特性や状態を踏まえながら，具体的な関わりができる。	子どもの状態を踏まえながら，具体的な関わりができる。	子どもの状態を踏まえながら，関わりができる。	子どもの特性や状態を踏まえながら，具体的な関わりができない。
技能	2.保育技術に関する理解	保育実技を活かした指導実習を展開し，子どもと楽しんで活動できる。また，今後に向けて十分な省察ができる。	保育実技を活かした指導実習を展開し，子どもと楽しんで活動できる。また，今後に向けて十分な省察ができる。	保育実技を活かした指導実習をある程度展開することができ，子どもと活動できる。また，今後に向けて省察ができる。	保育実技を活かした指導実習をある程度展開することができ，子どもと活動できるが不十分である。	保育実技を活かした指導実習を行うことが全くできない。子どもと活動するが不十分である。
態度	1.実習に対する態度	実習園から伝えられた事項が遵守でき，子どもに対する配慮など，実習の意義や実習生としての立場を十分理解し，責任をもって実習をすることができる。	実習園から伝えられた事項が遵守でき，子どもに対する配慮など，実習の意義や実習生としての立場を理解し，責任をもって実習をすることができる。	実習園から伝えられた事項が遵守でき，子どもに対する配慮など実習生としての立場を理解し，責任をもって実習をすることができる。	子どもに対する配慮など実習の意義や実習生としての立場を理解し，もって実習をすることができる。	子どもに対する配慮など実習の意義が理解できておらず，実習内容が乏しい。

科目名	保育実習Ｃ			授業番号	EF307	サブタイトル			
教員	岡本　美幸、清水　憲志								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	実習園の指導のもとで，10日間の実習を行う。保育実習Bの経験を活かしてさらに学びが深まるように，観察・参加実習で子どもへの理解を深め，指導実習（部分実習や半日実習，全日実習）により様々な保育場面の展開を経験し，保育力の向上を図るよう，総合的な学習を行う。								
到達目標	・実際の保育現場で観察や指導実習において子どもとのかかわり，子どもへの理解を深めながら保育士に必要とされる実践的な指導力を身に付ける。 ・保育士相互の連携や子どもの保育及び保護者支援等，保育者の役割や専門性について総合的に学ぶ。 ・実習を通して，保育の計画，観察，記録及び自己評価等について実践的に理解し，実習の振り返りにより自己の課題を明確化する。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに揚げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	養護と教育が一体となって行われる保育について理解する。 保育所の社会的役割と責任について具体的に理解する。 子どもの心身の状態や保育の活動を，観察 を通して理解する。 保育士等の動きや実践を，観察を通して理解する。 保育所の生活の流れや展開を，観察を通して把握する。 ３．子どもの保育及び保護者・家庭への支援と地域社会等との連携 環境を通して行う保育，生活や遊びを通して総合的に行う保育について理解する。 入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援 について理解する。 保護者との連携や地域社会との連携について理解する。 保育課程と指導計画の理解を深め，指導実習において活用する。 観察や記録に基づく省察・自己評価について実践を通して理解する。 保育士の業務内容について理解する。 職員間の役割分担や連携について理解する。 専門職としての保育士の役割と職業倫理について理解する。 以上のような内容を１０日間の実習を通して，保育の現場で総合的に学ぶ。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	90	実習園からの評価，実習態度・連絡，実習日誌や指導案について実習施設と合算して評価する。実習園からの評価により評価する。 日誌はコメントを記入して、返却する。
その他	10	巡回指導時の様子や実習園への提出物等により評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	社会人としてのマナーと自覚をもって，現場保育士から学ぶ姿勢で臨み，積極的かつ意欲的に多くを吸収するように努める。また，十分にコミュニケーションをとりながら，子どもの良いモデルとなれるような言葉遣い，態度，ふるまいに注意すること。
授業外学修	オリエンテーションなどの事前訪問により，本実習への意欲を高め，様々な保育実技を生かすことができるよう，教材研究や保育準備など十分に準備して臨むこと。帰宅後は，実習内容を振り返り日誌の記入し，反省や考察を行うこと。上記の準備や振り返りなどに概ね30時間程度の自主学修が必要。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
保育所保育指針解説	厚生労働省 (編集)	フレーベル館	978-4577814482	320円+税
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説	内閣府 (著), 文部科学省 (著), 厚生労働省 (著)	フレーベル館	978-4577814499	350円+税
これからの時代の保育者養成・実習ガイド: 学生・養成校・実習園がともに学ぶ	大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜 (編著)	中央法規出版	978-4-8058-8222-1	1，980円

使用テキスト：自由記載	岡山県保育士養成協議会発行の「保育所実習の手引き」「保育所実習日誌」 授業内で適宜資料を配付した資料

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立保育所における保育士の実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	保育現場の保育士等
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.保育士の役割や機能の理解	保育士等の役割や機能を十分に理解し，その一員として保育に参加することができる。また，保育所保育の実際が理解でき実習ができる。	保育士等の役割や機能が理解でき，その一員として保育に参加することができる。また，保育所保育の実際が理解でき実習ができる。	保育士等の役割や機能が理解でき，その一員として保育に参加することができる。また，保育所保育の実際が理解でき実習ができる。	保育士等の役割や機能が理解でき，保育に参加することができる。	保育士等の役割や機能が理解できない。また，保育に参加することができない。
知識・理解	2.保育内容の理解	保育内容を十分理解したうえで，指導案を書くことができ，保育の実践ができる。その後省察をすることで，次に生かすことができる。	保育内容を理解したうえで指導案を書くことができ，保育の実践ができる。その後省察をすることで，次に生かすことができる。	保育内容を理解し，指導案を書くことができる。保育の実践ができる。その後省察をすることができる。	保育内容がやや理解でき，指導案を書くことができるが十分ではない。保育の実践がなんとかできる。	保育内容が理解できておらず，指導案を書くことが難しい。保育の実践が難しい。
思考・問題解決能力	1.保育計画・保育記録	子どもの観察を行い，丁寧に日誌に記録ができ，自らの保育を省察でき，次の日の保育に反映することができる。また，保育方法や環境設定についても工夫できる。	子どもの観察を行い日誌に記録ができる。自らの保育を省察でき，次の日の保育に反映することができる。また，保育方法や環境設定についても工夫できる。	子どもの観察を行い日誌に記録ができる。また，自らの保育を省察することができる。また，保育方法や環境設定についても工夫できる。	子どもの観察を行い日誌に記録ができるが，不十分である。また，訂正された箇所の直しが不十分である。	子どもの観察を行い日誌に記録ができるが，不十分である。また，訂正された箇所の直しが理解できていない。
思考・問題解決能力	2.具体的な課題設定と実践	実習での自己課題を具体的に設定し，自己課題を通して得られた今後の課題について，具体的かつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し，自己課題を通して得られた今後の課題について，具体的かつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。自己課題を通して得られた今後の課題について，省察できている。	自己課題を具体的に設定できている。	自己課題を設定できているが，具体性が乏しい。
技能	1.子どもへの関わりと理解	子どもたちの遊びや活動に積極的にかかわり，子どもの心や発達の特性についての理解を深めることができる。	子どもたちの遊びや活動にかかわり，子どもの心や発達の特性についての理解を深めることができる。	子どもたちの遊びや活動にかかわり，子どもの発達の特性についての理解を深めることができる。	子どもたちの遊びや活動にかかわりにくく，子どもの発達の特性についての理解が難しい。	子どもたちの遊びや活動にかかわれず，子どもの発達の特性についての理解が乏しい。
技能	2.保育技術に関する理解	保育実技を活かした指導実習を展開し，子どもと楽しんで活動できる。また，今後に向けて十分な省察ができる。	保育実技を活かした指導実習を展開し，子どもと楽しんで活動できる。また，今後に向けて十分な省察ができる。	保育実技を活かした指導実習を展開し，子どもと活動できる。また，今後に向けて省察ができる。	保育実技を活かした指導実習を展開し，子どもと活動できるが不十分である。	保育実技を活かした指導実習を展開することができない。子どもと活動するが不十分である。
態度	1.実習に対する意欲・学びの態度	実習園から伝えられた事項が遵守でき，子どもに対する配慮など，実習の意義や実習生としての立場を十分理解し，責任をもって実習をすることができる。	実習園から伝えられた事項が遵守でき，子どもに対する配慮など，実習の意義や実習生としての立場を理解し，責任をもって実習をすることができる。	実習園から伝えられた事項が遵守でき，子どもに対する配慮など実習生としての立場を理解し，責任をもって実習をすることができる。	子どもに対する配慮など実習の意義や実習生としての立場を理解し，もって実習をすることができる。	子どもに対する配慮など実習の意義が理解できておらず，実習内容が乏しい。
態度	2.実習態度	実習に対して，誠実さと責任感をもって保育にあたることができる。また，保育士の指導・助言を謙虚に受け止め，今後の保育に生かすことができる。	実習に対して，誠実さと責任感をもって保育にあたることができる。また，保育士の指導・助言を謙虚に受け止めることができる。	実習に対して，誠実さと責任感をもって保育することができる。また，保育士の指導・助言を謙虚に受け止めることができる。	実習に対して，責任をもって保育しようとするが不十分である。また，保育士の指導・助言を聞くことができる。	保育しようとするが不十分である。また，保育士の指導・助言を聞くが理解できない。

科目名	保育実習D			授業番号	EF308	サブタイトル			
教員	荒谷　友里恵								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	保育所以外の児童福祉施設や，知的障害児・者施設で施設実習での参加観察実習でそれぞれの段階を積み上げた仕上げの実習である。利用児・者の機能，保育士の役割，指導計画など支援の内容をより詳細に体験する。								
到達目標	・実習を通してその施設の養護の目的や内容を体験的に理解することができる。 ・児童福祉施設における保育者の立場を理解する。 ・児童福祉施設などで生活する利用児・者の姿を理解する。 ・施設実習を通して，保育者としての知見を得る。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	基礎的な実習を終えた後，次の段階の処遇活動への参加として計画的援助活動の実施，関わる処遇部門の拡大などもう一段上の実習課題を持つこと。 １）援助計画の理解 ・利用児・者の発達段階や年齢に対して配慮する。 ・個々の利用児・者のもつ問題に対応する援助計画，日常的支援，専門的支援を理解する。 ２）援助プログラムの立案 ・日常的支援の時間配分や生活，教育，訓練，治療，矯正などの重点のおき方から援助プログラムへの生かし方を理解する。 ・施設の援助計画と実習指導担当者の方針を理解し，その助言を受けて立案する。 ３）援助プログラムによる援助実践 ・利用児・者の心身の状況によって臨機応変に対応する。 ・実習指導担当者の助言，実習場面の立会い，事後の批評等を受ける。 ４）保育士の態度と技術の習得 ・受容と共感という人間的触れ合いの中で信頼関係を体得する。 ・必要な援助を機能的に行っている保育士の態度や技能を学ぶ。 ・援助計画の中にどのように利用児・者の参加を進めようとしているかを学ぶ。 ５）多様性と共通性の理解 ・個々の異なるニーズに対応するサービスあるいはサポートシステムを具体的に学習する。 ・種別ごとの特徴と共通する課題が存在することを，施設で実践することで学習する。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート	30	事前に決めた実習課題に沿って実習中に調査を実施し，具体的かつ考察を踏まえながら作成することができる。 全体に対してコメントする。
小テスト		
定期試験		
その他	70	実習先施設による評価（40%）と実習日誌（30%）

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・実習の目標を把握しておくこと。 ・施設ごとに方針が異なるため，実習施設のプログラムに従うこと。 ・課題設定をし，目標を達成できるようにする。
授業外学修	１．利用児・者の活動と施設職員，実習生の活動及び配慮事項を時系列に沿って事実を日誌に記入する。 ２．利用児・者とのかかわりを通して考えたことについて，具体的にエピソードを記入し，それらを考察しながら記述する。 ３．その日の実習課題をふまえながら1日を振り返り，次の日の実習課題を検討する。 ４．1日の流れを振り返り，施設職員の声かけや支援方法をリハーサルし，獲得できるようにする。 以上の内容を，毎日２時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	『施設実習日誌』『施設実習の手引き』，岡山県保育士養成協議会

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学生が保育士に必要な能力を身につけるため，実習指導者の指導の下，利用児・者を理解し支援ができる技能を修得させる。 実習訪問時に，課題や記録について指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.実習の流れの理解	生活リズムや日課、1日の流れを理解できており、流れに合わせた支援を積極的に実施することができる。	生活リズムや日課、1日の流れを理解できており、流れに合わせた支援を実施することができる。	生活リズムや日課、1日の流れを理解できている。	生活リズムや日課、1日の流れは理解できているが不十分である。	生活リズムや日課、1日の流れを理解できていない。
知識・理解	2.利用児/者の特性やニーズの理解	利用児/者の特性やニーズを深く理解することができる。	利用児/者の特性やニーズを理解することができる。	利用児/者の特性やニーズが、職員のサポートがあれば理解することができる。	利用児/者の特性やニーズが理解が不十分である。	利用児/者の特性やニーズが理解できていない。
知識・理解	3.生活環境整備や安全への配慮	生活空間における配慮を理解し、安全に配慮した生活空間の構成を検討/提案することができる。	生活空間における配慮を理解し、安全に配慮した生活空間の構成を考えることができる。	生活空間における配慮が理解できている。	生活空間における配慮の理解が不十分である。	生活空間における配慮を理解できていない。
知識・理解	4.職員の役割や連携の理解	施設保育士の役割やチームワーク、多職種連携について深く理解し、実践することができる。	施設保育士の役割やチームワーク、多職種連携について深く理解している。	施設保育士の役割やチームワーク、多職種連携について理解できている。	施設保育士の役割やチームワーク、多職種連携の理解が不十分である。	施設保育士の役割やチームワーク、多職種連携について理解できていない。
思考・問題解決能力	1.客観的な観察にもとづく実習記録と省察	客観的な観察にもとづき実習記録を記述し内容を省察し、翌日の実習に課題として反映することができる。	客観的な観察にもとづき実習記録を記述し、内容を省察することができる。	客観的な観察にもとづき実習記録を記述することができる。	客観的な観察にもとづく実習記録と省察の記述が不十分である。	客観的な観察にもとづく実習記録と省察が記述できない。
思考・問題解決能力	2.具体的な課題設定と実践	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し、自己課題を通して得られた今後の課題について、具体的かつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。 自己課題を通して得られた今後の課題について、省察できている。	自己課題を具体的に設定できている。	自己課題を設定できているが、具体性が乏しい。
技能	1.利用児/者の特性やニーズに応じた支援や関わり	利用児/者の特性やニーズに応じた適切な支援や関わりができる。	利用児/者の特性やニーズに応じた支援や関わりができる。	利用児/者の特性やニーズに応じた支援が、職員のサポートがあれば実施することができる。	利用児/者の特性やニーズに応じた支援や関わりが不十分である。	利用児/者の特性やニーズに応じた支援や関わりができない。
技能	2.利用児/者との人間関係形成	利用児/者に対して、共感的対応や公平かつ温和な態度で接し、多様なコミュニケーションを活用しながら人間関係を形成することができる。	利用児/者に対して、公平かつ温和な態度で接し人間関係を形成することができる。	利用児/者との人間関係の形成ができる	利用児/者との人間関係の形成が不十分である。	利用児/者との人間関係の形成ができない。
技能	3.職員との関係形成	報告、連絡相談や質問、意見の交換を通して職員との関係を形成することができる。	報告、連絡相談や質問を通して職員との関係を形成することができる。	報告、連絡相談や質問をすることができる。	報告、連絡相談や質問をすることができない。	職員との関係を形成することができない。
態度	1.実習生としてのマナーやモラル	職員から留意された事項を遵守、利用児/者への配慮など、実習意義や実習生としての立場を十分理解し、責任をもって実習をすることができる。	職員から留意された事項を遵守し実習に取り組むことができる。 守秘義務や利用児/者の尊重など、利用児/者に配慮した実習ができる。	実習生として、適切な言葉遣いや身だしなみ等、職員の指示に沿って実習に取り組むことができる。	実習生としてのマナーやモラルが不十分である。	実習生としてのマナーやモラルがない。
態度	2.テーマレポートの作成	具体的な事例をふまえながら自己課題の内容、取り組み、結果について記述されている。内容を省察し、実習を通して得られた新たな課題を記述することができる。	具体的な事例をふまえながら自己課題の内容、取り組み、結果について記述されている。実習を通して得られた新たな課題を記述することができる。	具体的な事例をふまえながら自己課題の内容、取り組み、結果について記述されている。	自己課題の内容、取り組み、結果についての記述が不十分である。	自己課題の内容、取り組み、結果についての記述ができていない。

科目名	教育実習			授業番号	EF309	サブタイトル			
教員	山本　房子、福澤　惇也								
単位数	4単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	実習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園教育（幼稚園・幼保連携型認定こども園）の現場で4週間の実習経験をする。								
到達目標	幼児とその教育を正しく理解する力，幼児を受容しかつ指導する力，事務的な事柄を処理する能力等を身につける。 優しさや思いやりある保育者の姿に触れ，信頼される保育者に必要な豊かな人間性について知り，実践出来る力を身に付ける。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									
授業計画 自由記載	観察・参加・指導実習（部分指導・全日指導）とおよそ３段階で進められる。 観察実習 ・幼稚園教育実践の場を実際に観察し，幼児の実態や指導に対する理解を深める。 ・幼稚園教育環境のおおよそを理解する。 参加実習 ・教育実習担当教諭の計画に基づき，保育指導の展開と方法を体験的に学ぶ。 ・幼児に親しみ，その接し方に慣れる。 指導実習 ・部分指導 幼児の生活全体を把握し，担当教諭の指導計画に基づいて，1日のうちの１部分（1活動）を担当する。園の月案・週案等をふまえ，実習生自らが立案した指導計画により指導を行い，保育指導の基礎的実践を経験する。一人一人の幼児の言動等を観察することにより幼児理解を深める。 ・全日指導 最終段階の実習である。幼児の生活全体を把握し，１日の保育を実践する。 部分指導と同様，幼稚園の月案・週案等をふまえ実習生自ら立案した指導計画により指導を行い保育指導の応用的実践を経験する。								
授業計画　備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	教育実習園からの評価（大学が示した評価項目，実習への意欲・責任感・研究的態度・協調性・指導計画立案・指導技術・事務処理）に基づいて評価する。実習後面談の中で，園からの評価をフィードバックし，自己評価とのすりあわせを行う。
実習日誌	30	教育実習園での実習日誌・指導案等の提出物について，記述内容や提出期限をふまえて評価する。実習後面談で個別にフィードバックを行うとともに，日誌にはコメントを添付して返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	体調管理に努め実習の課題をもち，積極的に実習に参加すること。社会人，保育者としての生活態度を自覚すること。実習の心得を守って行動すること。実習日誌等の取り扱い，提出物の期限に留意すること。
授業外学修	１．幼児の活動と教師の配慮の関係性や実習生としての自分の動き等を日誌に記入する。 ２．その日の実習のねらいについて一日を振り返り，実習日誌に記入するとともに，次の日の実習のねらいを立てる。 ３．指導案等の実習指導計画を作成する。 以上の内容を，毎日2時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
詳説　幼稚園教育実習	森元 眞紀子・小野 順子 編著	ふくろう出版	978-4-86186-761-3	2090円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4577814475	264円

参考書：自由記載	
その他	
備考	令和4年度改訂
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	幼稚園教諭としての実務経験（18年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	幼稚園教諭・園長代理としての実務経験（7年）を有する。

実務経験をいかした教育内容	幼稚園での実務経験（18年）をもつ教員を中心に，実習の巡回指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．幼児理解	保育現場での課題等を踏まえながら,幼児を理解することの意義と重要性について適切に述べることができる。	幼児を理解することの意義と重要性について,自分の考えも取り入れて述べることができる。	幼児を理解することの意義と重要性について具体的に述べることができる。	幼児を理解することの意義と重要性について述べることができる。	幼児を理解することの意義と重要性について述べることができない。
知識・理解	2．幼児教育・保育に対する理解	保育現場での課題等も踏まえながら,幼児教育・保育の意義と重要性について保育現場での課題等も踏まえながら適切に述べることができる。	幼児教育・保育の意義と重要性について,自分の考えも取り入れて述べることができる。	幼児教育・保育の意義と重要性について具体的に述べることができる。	幼児教育・保育の意義と重要性について述べることができる。	幼児教育・保育の意義と重要性について述べることができない。
知識・理解	3．実習日誌・指導案等の記述	実習日誌,指導案等に,担当教員の指導を踏まえた上で,発展的に記述できている。	実習日誌,指導案等に,担当教員の指導を取り入れ,適切に記述できている。	実習日誌,指導案等に,担当教員の指導も取り入れて記述できている。	実習園での実習日誌,指導案等を丁寧に記述している。	実習園での実習日誌,指導案等の記述が不十分である。
思考・問題解決能力	1．指導の計画	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で,環境構成や援助について具体的的かつ適切に記した指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で,環境構成や援助について具体的に記した指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で,環境構成や援助を記した指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえた上で,指導計画を立案する。	保育をする上での知識及び幼児の姿を踏まえて指導計画を立案することができにくい。
技能	1．指導の技術	幼児の興味や発達を考慮した環境の構成や幼児一人ひとりへ配慮した適切な援助ができる。	幼児の興味や発達を考慮した環境の構成や幼児一人ひとりへ配慮した適切な援助をしようとする。	幼児の興味や発達を考慮した環境の構成や幼児一人ひとりへ配慮した援助をしようとする。	担当教員の指示のもと,幼児の興味や発達を考慮した環境の構成や幼児一人ひとりへ配慮した援助をしようとする。	担当教員の指示があっても,環境構成や配慮,援助をしようとしない。
技能	2．事務処理	日誌等を期限を守って提出するなど,事務的な事柄を的確かつ迅速に処理する能力が身に付いている。	日誌等を期限を守って提出するなど,事務的な事柄を迅速に処理する能力が身に付いている。	日誌等を期限を守って提出するなど,事務的な事柄を処理する能力が身に付いている。	日誌等を期限を守って提出することができる。	日誌等を期限を守って提出することができない。
態度	1．実習態度	実習意義や実習生としての立場を十分理解し,責任をもって実習をすることができる。	実習意義や実習生としての立場を理解し,責任をもって実習をすることができる。	守秘義務等,実習生として留意する事項を遵守して実習をすることができる。	担当教員の指示を受けて,守秘義務等,実習生として留意する事項を遵守して実習をすることができる。	守秘義務等,実習生として留意する事項を遵守できない。
態度	2．実習意欲	積極的に幼児の中に入っていき,意欲的・主体的に実習に取り組むことができる。	積極的に幼児の中に入っていき,意欲的に実習に取り組むことができる。	積極的に幼児の中に入っていって実習に取り組むことができる。	担当教員の指示のもと,幼児の中に入っていって実習に取り組む。	担当教員の指示があっても,幼児の中に入っていって実習に取り組むことができにくい。
態度	3．協調性	積極的に周りの動きや状況を察知し,自分の役割を考えながら担当教員等と協力して行動することができる。	積極的に周りの動きや状況を察知し,担当教員等と協力して行動することができる。	担当教員等と協力して行動することができる。	担当教員等と一緒に行動することができる。	担当教員等と一緒に行動することができにくい。

科目名	教育実習指導 1クラス			授業番号	EF310A	サブタイトル			
教員	山本 房子								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	幼稚園教育実習への意欲を高め，これまで学修した知識・技術等を生かしよりよい実践をしようとする態度や実習生としての心構えについて説明する。 実習中の生活を学生がイメージできるよう，実習に向けての準備，実習中の生活の流れ，提出書類（日誌や指導案）の作成方法等に具体的に教授する。 実習についての基礎・基本を大切にしながらも，実習園や実習地域によって実習の実態等が異なることもふまえ，学生個々の学習進度や到達目標等に合わせた指導を行う。 実習終了後は実習の振り返りやグループ討議，報告会，事後面談を行い，幼稚園教諭としての資質向上のための課題と解決方法を明らかにする。								
到達目標	実習前には実習生としての態度や心構え，指導案や日誌の書き方，教材の準備の方法についての知識・技術を習得する。 実習終了後はテーマレポートと自己評価表を作成できるとともに，実習での学習の成果のまとめと発表をし，自己課題を明確にできる。 以上のことを目的とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	教育実習の目標と意義を理解し，教育実習に向けての計画と準備を行う	
第2回	幼稚園教育，教師の役割，幼児の実態について理解する	
第3回	実習に対する課題を作成する	
第4回	園長先生・先輩による事前指導（先輩講演）を受ける	
第5回	教育実習日誌について① 日誌を書くこと（記録をとること）の目的を理解する 時系列型の日誌について、目標の立て方，一日の流れ，反省・考察等の記入方法や留意点を知る	
第6回	教育実習日誌について② 時系列型以外の日誌について、主にエピソード型、ドキュメンテーション型の日誌の記入方法や留意点を知る	
第7回	指導案について① 指導案を作成する意味を理解する 絵本の読み聞かせ・昼食場面の部分指導案を作成する	
第8回	指導案について② 学級別活動の部分指導案を作成する 全日指導案の書き方を知る	
第9回	実習の実際について 園での実習生としての生活の流れ，出勤から退勤までの流れを知る	
第10回	教育実習直前オリエンテーションを受け，実習への意欲を高める	
第11回	実習を振り返る① 幼稚園教育の特質・一日の流れ・学級経営について理解する	
第12回	実習を振り返る② 幼稚園教諭の役割と援助について理解する	
第13回	実習を振り返る③ 反省及び自己評価を行う	
第14回	実習を振り返る④ 実習での学びや課題をもとにテーマレポートを作成する	
第15回	教育実習のまとめ 実習報告会を行う 事後面談を通して自己課題を明確化する	
授業計画 備考2	注）第2～10回の授業のうち，時間の関係で授業時間以外の時間で授業をする回もある	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，協力する態度，授業時間外学修(準備)の状況によって評価する。
レポート	80	実習での学びに関する課題を，決められた様式に従い分かりやすく述べていること。提出期限を守っていること。 実習後面談の中でレポートの評価等についてはフィードバックする。

評価の方法：自由記載	テーマレポートの評価を80%，授業態度を20%の割合で評価する。
受講の心得	実習に取り組むに当たっての課題を決定し，その準備をする。 提出物が多いので，提出方法等の指示をよく理解し期限を厳守する。
授業外学修	教科書の該当箇所を事前に読んでおき，疑問点を明白にしておくこと。 授業後は教科書や配布された資料をよく読み，知識を整理すること。 これまでの実習等の経験もふまえ、弾き歌いのためのピアノ練習，保育教材の作成，指導案作成等を積極的に行うこと。 その他、実習に向けての準備を主体的及び計画的に行うこと。 以上の内容を1コマの授業について1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
段階を追ってポイントが分かる必携 幼稚園教育実習	森元 眞紀子・小野 順子 編著	ふくろう出版	978-4-86186-880-1	2100円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
幼稚園教育要領解説	文部科学省	フレーベル館	978-4577814475	264円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（18年）としての実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	幼稚園教諭としての実務経験（18年）及び実習生を指導した経験（16年）を生かし，教育実習に向けての心構えや準備，日誌の書き方等について実践的かつ具体的な指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．幼児教育施設（幼稚園・幼保連携型認定こども園）に関する知識	幼児教育施設に関する具体的な知識を深く習得している。	幼児教育施設に関する具体的な知識を習得している。	幼児教育施設に関する知識を習得している。	幼児教育施設に関する知識の習得が不十分である。	幼児教育施設に関する知識が習得できていない。
知識・理解	2．教育実習に関する知識	教育実習に関する具体的な知識を深く習得している。	教育実習に関する具体的な知識を習得している。	教育実習に関する知識を習得している。	教育実習に関する知識の習得が不十分である。	教育実習に関する知識が習得できていない。
知識・理解	3．自己課題の設定と取り組み	実習での自己課題を具体的に設定し,自己課題を通して得られた今後の課題について,具体的かつ発展的に省察できる。	実習での自己課題を具体的に設定し,自己課題を通して得られた今後の課題について,具体的かつ適切に省察できる。	自己課題を具体的に設定できている。自己課題を通して得られた今後の課題について,省察できている。	自己課題を具体的に設定できている。	自己課題を設定できているが,具体性が乏しい。
思考・問題解決能力	1．課題への対処	教育実習中の課題について,幼児の特性や状態像を踏まえながら,背景を論述することができる。教育実習中の課題について,具体的かつ適切な解決策を提案することができる。	教育実習中の課題について,幼児の特性や状態像を踏まえながら,背景を論述することができる。教育実習中の課題について,具体的な解決策を提案することができる。	教育実習中の課題について背景を推察し,解決策を提案することができる。	教育実習中の課題について背景を推察し,解決策を提案することが,不十分である。	教育実習中の課題について背景を推察し,解決策を提案することができない。
技能	1．レポートの作成・提出	提出期限を守り,決められた様式に従い論理的なレポートを作成するとともに,他者に分かりやすく発表することができる。	提出期限を守り,決められた様式に従ってレポートを論理的に作成できる。	提出期限を守り,決められた様式に従ってレポートを作成することができる。	レポートを作成し期限を守って提出しているが,誤字脱字が見られたり,決められた様式と異なった様式で作成している。	提出期限を守ることができない。
技能	2．自己評価	実習での自己評価を,他者の評価と照らし合わせながら,自身の次の学習課題を見出すことができる。	実習での自己評価を整理し,他者の評価と照らし合わせることができる。	実習を振り返り,内容を整理して記入することができる。	実習を振り返り,内容を整理して記入することができるが不十分である。	実習を振り返り,内容を整理して記入できない。
態度	1．課題への取り組み	課題の意図を理解し,幼児教育施設/教育実習の知識を踏まえながら具体的に自分の意見を記述することができる。幼児教育施設/教育実習の知識に即しながら,自分なりの新たな意見を記述することができる。	課題の意図を理解し,具体的に自分の意見を記述することができる。	課題の意図を理解し自分の意見を述べられるが,具体的に記述することができない。	課題の意図は理解できているが自分の意見は記述できない。もしくは,課題の意図は理解できていないが,自分の意見は記述できる。	課題の意図が理解できていない。自分の意見が記述できてない。
態度	2．グループ活動への取り組み	グループ活動に参加し,目標達成に向けて自分の意見を具体的に述べることができる。グループメンバーの意見を取り入れながら,目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し,目標達成に向けて自分の意見を述べることができる。もしくはグループメンバーの意見を取り入れながら,目標達成に向けて意見をまとめることができる。	グループ活動に参加し,目標達成に向けて取り組むことができている。	グループ活動に参加しているが,消極的である。	グループ活動に参加していない。
態度	3．主体的な取り組み	実習園や担当教員の指示だけでなく,実習に向けて問題意識をもち,様々な可能性を考えながら実習準備に取り組むことができる。	実習園や担当教員の指示だけでなく,実習に向けて問題意識をもち,実習準備に取り組むことができる。	実習園や担当教員の指示に沿って実習準備をおこなうことができる。	実習園や担当教員の指示に沿って実習準備をおこなうが不十分である。	実習園や担当教員の指示があっても,実習準備に取り組むことが難しい。

科目名	保育･教職実践演習（幼稚園）			授業番号	EG401A	サブタイトル			
教員	土田　豊、藤井　裕士、清水　憲志、荒谷　友里恵、福澤　惇也								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修･選択	選択
授業概要	2年間にわたる専門的な履修科目や実習等を通して，学生が修得してきた知識･技能を点検･確認するとともに，不足している知識･技能を補完･向上させ，保育･教育現場で生きて働く知識や技能を教授する。								
到達目標	1　保育者としての使命感や責任感をもつことができる。 2　保育者に必要な専門的知識をもつことができる。 3　保育を取り巻く環境の変化について理解し，実践的に保育に生かすことができる。 4　仲間と協力して模擬保育を実施する協働性を理解し，実行できる。 なお，本科目はディプロマ･ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識･理解＞＜思考･問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	今までの授業を振り返り保育者としての自分の課題を確認する 履修カルテ自己評価表を基に自分に不足している点について確認し、本授業における目標を設定する。	土田 豊　藤井 裕士　清水 憲志　荒谷 友里恵　福澤 惇也
第2回	保育者の役割について考える 保育者の専門的な援助を知った上で、現在の社会状況を鑑み、保育者の役割を問い直し、実践の在り方を再考する。	清水 憲志
第3回	災害時の対応について考える 保育時に起こりうる危険について考え、災害への事前の備え･災害発生時の対応について理解する。	荒谷友里恵
第4回	保護者支援のあり方について考える 保護者を取り巻く社会課題をふまえて保育現場の観点から実践的に保護者への応対の仕方を考える。	福澤惇也
第5回	地域連携のあり方を考える 現代の子育てにおける地域連携の必要性について考え、園や自治体が実施している子育て支援についての理解を深める。	土田 豊
第6回	教諭としてのあり方を考える 教諭として自分に足りない資質･能力を明確にし、その資質･能力を高めるための具体的かつ実行可能な計画を考える。	藤井裕士
第7回	障害児の理解について考える 療育や児童相談支援の専門家とともに事例を交えて特別支援のあり方を学ぶ。	NKM(外部講師)
第8回	小学校への連携について考える 小学校１年生の授業風景を観察することで就学前後の連携･接続を考える。	福澤惇也
第9回	模擬保育準備（1） 模擬保育に向けてグループごとで役割分担し、計画的に準備を進める。	土田 豊　藤井 裕士　清水 憲志　荒谷 友里恵　福澤 惇也
第10回	模擬保育準備（2） 模擬保育に向けてグループごとで役割分担し、計画的に準備を進める。	土田 豊　藤井 裕士　清水 憲志　荒谷 友里恵　福澤 惇也
第11回	模擬保育準備（3） 模擬保育に向けてグループごとでリハーサルを行い、流れを確認する。	土田 豊　藤井 裕士　清水 憲志　荒谷 友里恵　福澤 惇也
第12回	模擬保育準備（4） 模擬保育に向けてグループごとでリハーサルを行い、流れを確認する。	土田 豊　藤井 裕士　清水 憲志　荒谷 友里恵　福澤 惇也
第13回	模擬保育実施 準備してきた模擬保育をお互いに発表し合い、保育現場の先生に参観していただく。	土田 豊　藤井 裕士　清水 憲志　荒谷 友里恵　福澤 惇也
第14回	模擬保育振り返り 参観していただいた先生方から講評をいただいたり、学生同士で感想を述べあいながら、模擬保育を振り返る。	土田 豊　藤井 裕士　清水 憲志　荒谷 友里恵　福澤 惇也
第15回	本授業の振り返りとまとめをする 今までの授業を振り返り保育者としての自分の課題を確認する。	土田 豊　藤井 裕士　清水 憲志　荒谷 友里恵　福澤 惇也
授業計画　備考2	実践演習全体の反省･評価･第1回目にもった課題の達成度を振り返る　　担当：土田 豊　藤井 裕士　清水 憲志　荒谷 友里恵　福澤 惇也	

評価の方法

種別	割合	評価基準･その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	グループ討議には意欲的に参加し，友人と協力しようとする態度で授業に参加している。
レポート	50	授業ごとに学びをまとめ，時間内に提出できる。レポートは担当教員が読み返却する。15回目の授業で，すべての授業の資料とレポートを専用のファイルに綴じて提出できる。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業は演習形式で行われるので，学生一人ひとりが自分自身の課題を設定し，保育士･幼稚園教諭として求められる諸資質について，グループ討論･ロールプレイ等を通して，自ら主体的に考えていくようにする。受講前には，履習カルテ(2)を必ず記入しておくこと。
授業外学修	授業ごとに紹介する参考文献を次回授業までに読んでおくこと。 授業後は配布された資料をよく読み，知識を整理すること。 演習について必要な準備を仲間と協力して行うこと。 以上の内容を1コマの授業について4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜，参考資料をプリントし，配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『幼稚園教育要領』，文部科学省，平成29年度版 『保育所保育指針』，厚生労働省，平成29年度版
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	幼稚園教諭（福澤惇也）　特別支援学校教諭（藤井裕士）
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	小学校教諭
実務経験をいかした教育内容	保育所・幼稚園と小学校の連携に関して，学生の疑問に答え指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．保育場面における災害時の対応について理解できている。	保育場面における災害時の対応に関して高度な知識を有し、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保について具体的に考えることができる。	保育場面における災害時の対応に関して高度な知識を有し、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保について考えることができる。	保育場面における災害時の対応に関して知識を有し、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保について考えることができる。	保育場面における災害時の対応に関して知識を有してはいるが、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保にまで考えが及ばない場合がある。	保育場面における災害時の対応に関して十分な知識を有しておらず、子どもや保育者、保護者や地域の安全の確保にまで考えが及ばない。
知識・理解	２．現代における保育者の役割について理解できている。	現代における保育者の役割に関して高度な知識を有し、子どもへの援助法について具体的に考えることができる。	現代における保育者の役割に関して高度な知識を有し、子どもへの援助法について考えることができる。	現代における保育者の役割に関して知識を有し、子どもへの援助法について考えることができる。	現代における保育者の役割に関して知識を有してはいるが、子どもへの援助法について考えるに至らない場合がある。	現代における保育者の役割に関して十分な知識を有しておらず、子どもへの援助法にまで考えが及ばない。
知識・理解	３．保護者支援のあり方について理解できている。	保護者支援に活用できる高度な知識を有し、個別性に配慮した応対策について具体的に考えることができる。	保護者支援に活用できる高度な知識を有し、個別性に配慮した応対策について考えることができる。	保護者支援に活用できる知識を有し、個別性に配慮した応対策について考えることができる。	保護者支援に活用できる知識を有してはいるが、個別性に配慮した応対策についてまで考えるには至らない場合がある。	保護者支援に活用できる知識を十分に有しておらず、個別性に配慮した応対策について考えが及ばない。
知識・理解	４．地域との連携の仕方について理解できている。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して高度な知識を有し、良好な関係の築き方および地域資源の活用について具体的に考えることができる。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して高度な知識を有し、良好な関係の築き方および地域資源の活用について考えることができる。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して知識を有し、良好な関係の築き方および地域資源の活用について考えることができる。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して知識を有してはいるが、良好な関係の築き方および地域資源の活用について考えるには至らない場合がある。	園や子どもを取り巻く地域との連携に関して十分な知識を有しておらず、良好な関係の築き方および地域資源の活用について考えるには至らない場合がある。
知識・理解	５．就学後教育（小学校）への接続と連携について理解できている。	就学後教育（小学校）への接続や連携に関して高度な知識を有し、子どもの利益に繋がる援助の方法について具体的に考えることができる。	就学後教育（小学校）への接続や連携に関して高度な知識を有し、子どもの利益に繋がる援助の方法について考えることができる。	就学後教育（小学校）への接続や連携に関して知識を有し、子どもの利益に繋がる援助の方法について考えることができる。	就学後教育（小学校）への接続や連携に関して知識を有してはいるが、子どもの利益に繋がる援助の方法について考えるには至らない場合がある。	就学後教育（小学校）への接続や連携に関して十分な知識を有しておらず、子どもの利益に繋がる援助の方法について考えるには至らない。
思考・問題解決能力	１．適切な情報処理と知識の応用に基づく有機的な判断ができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、高度な知識を活用して具体的な応対策を考えることができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、高度な知識を活用して応対策を考えることができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を適切に理解した上で、知識を活用して応対策を考えることができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を理解した上で、知識を活用して応対策を考えることができる。	保育の現場で発生する数多の情報を精査し、状況を理解しているものの、応対策を考えるには至らない。
技能	１．災害対策の環境構成ができる。	災害時の対策において、豊富な知識と情報を携えた上で保育現場への理解を十分示し、適切な環境構成ができる。	災害時の対策において、知識と情報を携えた上で保育現場への理解を十分示し、適切な環境構成ができる。	災害時の対策において、知識と情報を携えた上で保育現場への理解を示し、適切な環境構成ができる。	災害時の対策において、知識と情報を携えた上で保育現場への理解を示してはいるが、適切な環境構成が困難な場合がある。	災害時の対策において、知識と情報を携えた上で保育現場への理解を示しておらず、適切な環境構成を行うには至らない。
技能	２．対人的なコミュニケーションが円滑にできる。	高度な知識に基づいた言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	知識に基づいた言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と良好な人間関係を結ぶことができる。	言語・非言語コミュニケーションの実践を通して、相手と意思の疎通ができる。	言語・非言語コミュニケーション能力が不十分であり、相手との意思疎通を図ることが難しい。
技能	３．子どもの成長に関して就学後を見据えた長期的な計画を立案できる。	子どもの成長や発達に関して高度な知識を有し、就学後までを長期的に見据えて、子ども一人ひとりにあった保育計画を具体的に立てることができる。	子どもの成長や発達に関して高度な知識を有し、就学後までを長期的に見据えて、子ども一人ひとりにあった保育計画を立てることができる。	子どもの成長や発達に関して知識を有し、就学後までを長期的に見据えて、子ども一人ひとりにあった保育計画を立てることができる。	子どもの成長や発達に関して知識を有し、就学後までを長期的に見据えてはいるが、子ども一人ひとりにあった保育計画を立てるには至らない場合がある。	子どもの成長や発達に関して十分な知識を有しておらず、就学後までを長期的に見据えることが困難である。そのため、子ども一人ひとりにあった保育計画を立てるには至らない。
態度	１．授業や課題に対して真摯に向き合うことができる。	授業内容や課題の意図を十分理解し、自分なりの知見や意見を発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を理解し、自分なりの知見や意見を発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図を理解し、自分なりの意見を発表もしくは記述できる。	授業内容や課題の意図は理解しているが、自分なりの意見をもつことが難しい場合がある。	授業内容や課題の意図を理解できておらず、自分なりの意見もない。
態度	２．グループ活動の中で自身の役割を全うできる。	リーダーシップやメンバーシップを十分に発揮し、目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかは十分に発揮し、目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップやメンバーシップを発揮し、目標や目的に向かって積極的な姿勢を取ることができる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらかしか発揮していないが、目標や目的に向かって取り組むことはできる。	リーダーシップ、メンバーシップのどちらも発揮しておらず、目標や目的に向かって取り組むこともできていない。

中国短期大学　情報ビジネス学科　シラバス

科目授業名	授業代表教員氏名	ページ数
フレッシャーズセミナー	五百竹　宏明／平井　安久／河田　健二／倉田　致知／古谷　俊爾／脇坂　基徳	1
韓国語	宋　娘沃	3
中国語	杉山　明	5
日本事情（外国人留学生対象科目）	小西　達也／杉山　明	7
アカデミック・ジャパニーズⅠ（外国人留学生対象科目）	小西　達也／赫連　茹玉	10
アカデミック・ジャパニーズⅡ（外国人留学生対象科目）	小西　達也／杉山　明	13
日本語表現	太田　憲孝	16
芸術	河田　健二	18
法学概論	馬場　幸三 他	20
社会福祉概論	松井　圭三	22
時事問題	倉田　致知	24
社会学	中田　周作	26
遊びの中の数学	平井　安久	28
数理･データサイエンス･AI	平井　安久	30
体育実技	梶谷　信之	32
英語A	藤代　昇丈	34
秘書学	仁宮　崇	36
プレゼンテーション概論	脇坂　基徳	38
ビジネス実務A	倉田　致知	40
ビジネス実務B	倉田　致知	42
実践学修の学び方	倉田　致知	44
キャリアプランニング	五百竹　宏明／平井　安久／河田　健二／倉田　致知／古谷　俊爾／脇坂　基徳	46
プレゼンテーション演習	脇坂　基徳	48
地域創生学	倉田　致知	50
情報処理論	古谷　俊爾	52
情報処理演習	古谷　俊爾	54
文書処理 1クラス	脇坂　基徳	56
ビジネスコンピューティングA 1クラス	平井　安久	58
プログラミング概論	古谷　俊爾	60
通信ネットワーク	古谷　俊爾	62
コンピュータ科学	古谷　俊爾	64
ITパスポート特別講義	古谷　俊爾／倉田　致知	66
ITパスポート特別演習	古谷　俊爾	68
ビジネスコンピューティングB	平井　安久	70
データベース	古谷　俊爾	72
プログラミング演習	古谷　俊爾	74
アルゴリズムとデータ構造	古谷　俊爾	76
データサイエンスA 1クラス	平井　安久	78
データサイエンスB	平井　安久	80
社会調査論	平井　安久	82
社会調査演習	平井　安久	84
マルチメディア 1クラス	脇坂　基徳	86
音響メディア論	河田　健二	88
ウェブデザインA	脇坂　基徳	90
コンピュータグラフィックス	脇坂　基徳	92
映像制作	脇坂　基徳	94
コンピュータミュージック	河田　健二	96
ウェブデザインB	脇坂　基徳	98
情報メディア論	脇坂　基徳	100
ソーシャルメディア	脇坂　基徳	102
クロスリアリティ	古谷　俊爾	104
ウェブデザイン演習	脇坂　基徳	106
ウェブアプリ開発	古谷　俊爾	108
経営学概論	倉田　致知	110
基礎簿記A	五百竹　宏明	112
基礎簿記演習A	五百竹　宏明	114
現代企業論	倉田　致知	116
マーケティング	倉田　致知	118
基礎簿記B	五百竹　宏明	120
基礎簿記演習B	五百竹　宏明	122

簿記特別演習	五百竹　宏明	・・・・・・・・	124
ファイナンシャルプラン	五百竹　宏明	・・・・・・・・	126
ファイナンシャルプラン演習	五百竹　宏明	・・・・・・・・	128
簿記論A	五百竹　宏明	・・・・・・・・	130
簿記演習A	五百竹　宏明	・・・・・・・・	132
簿記論B	五百竹　宏明	・・・・・・・・	134
簿記演習B	五百竹　宏明	・・・・・・・・	136
コンピュータ会計	五百竹　宏明	・・・・・・・・	138
対人関係の心理学	疋田　基道	・・・・・・・・	140
心の健康の心理学	疋田　基道	・・・・・・・・	142
産業・ビジネスの心理学	倉田　致知	・・・・・・・・	144
ゼミナールA シラバス用	五百竹　宏明／平井　安久／河田　健二／倉田　致知／古谷　俊爾／脇坂　基徳	・・・・・・・・	146
ゼミナールB シラバス用	五百竹　宏明／平井　安久／河田　健二／倉田　致知／古谷　俊爾／脇坂　基徳	・・・・・・・・	147

科目名	フレッシャーズセミナー			授業番号	SA151	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明、平井　安久、河田　健二、倉田　致知、古谷　俊爾、脇坂　基徳								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	導入教育を目的として開講された科目であり，入学直後の学生生活の環境に慣れて，今後の大学生活を有意義なものにするために，大学生活において必要な知識や心構えについて学ぶ。また，各種オリエンテーションや研修，イベントなど，様々な活動を通じて，教職員と学生，学生相互のコミュニケーションも図る。								
到達目標	大学生活について理解を深め，スムーズに大学生活を過ごせるようになることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	数学能力検査 数学の能力検査を行う	（平井）
第2回	図書館ガイダンス 図書館の利用法等を理解する	（平井、図書館職員）
第3回	マイナビ・就職セミナー① 就職に関して準備を始めます	（脇坂、古谷、外部講師）
第4回	音で遊ぼう 世界共通の音楽を使って、親睦を深めます	（河田）
第5回	社会の中に隠れた数学をみつけよう いろんなところにある「数学」をみつけましょう	（平井）
第6回	自己紹介・出身国紹介 ちょっと遅くなりましたが、自己紹介をしてお互いをより深く知りましょう	（全教員）
第7回	工場見学バスツアー① 社会見学を通して親睦を深めます	（全教員）
第8回	リクナビ・就職セミナー 就活の準備をします（登録）	（全教員）
第9回	学生支援セミナー（6月10日）	（外部講師）
第10回	マイナビ・就職セミナー② 就活の準備をします（登録）	（全教員）
第11回	ここから始める仕事研究・インターンシップ 仕事についての理解を深めましょう	（脇坂、古谷、外部講師）
第12回	人権教育ー多様性とインクルーシブー 人権問題について理解を深める	（古谷、脇坂）
第13回	学生支援セミナー（7月8日）	（外部講師）
第14回	工場見学バスツアー② 社会見学を通して親睦を深めます	（全教員）
第15回	「変われる人になる」 前期中の成果について発表します	（全教員）
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	100	ディスカッションへの参加状況により評価を行う。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本科目の性質上，時間を変更して行う場合もあるので，各自で実施日程を確認すること。遅刻欠席のないよう注意すること。
授業外学修	毎回の授業で得た知識を学生生活において意識し，可能な限り活用する。 以上のことに，毎週4時間以上の授業外学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし 入学当初のガイダンスには，【学生便覧・授業概要】を持参すること。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	

担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	大学生として学ぶ姿勢と思考力を身につけているか	卒業後の進路までを考慮に入れて能動的に思考できる	卒業後の進路までを考慮に入れて思考できる	大学生として学ぶための思考を身につけている	大学生として学ぶ姿勢と思考力が受身的である	大学生としての学ぶ思考力が身についていない

科目名	韓国語			授業番号	SA181	サブタイトル	(韓国語の基礎を学ぶ)		
教員	宋　娘沃								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	近年韓国の映画、音楽、食べ物などの文化や社会生活が世界から注目され，韓国への関心が一層高まっている。こうした関心は韓国語の習得につながり，韓国語はどのような仕組みで作られているのかを知っていく必要がある。韓国語と日本語は文法が類似していると同時に，言葉にとって大切な語順がほとんど一致している。本講義は，前半では韓国語学習を習い始める初歩の段階としてハングルの基礎から始まり，韓国語のごく短い文の読み書き，聞き取りを学習する。後半では日常会話として自己紹介，挨拶の言葉，韓国旅行のための簡単な会話など，基本的なやり取りの実践的な力を身につける。また、韓国の若者の意識，大学生活，エンターテインメント，社会への理解を深めるために，ビデオ鑑賞を行う。								
到達目標	・韓国語の基礎的な文字，発音を理解して活用できる。 ・簡単な韓国語の読み書きができる。 ・韓国語の挨拶や簡単な会話ができるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	韓国語とは 韓国語はいつ作られ，どのように作られたのかをハングルの由来，歴史的な経緯を学習する。	
第2回	文字と発音・母音 韓国語の特徴や文字の基本構成を学習する。	
第3回	文字と発音・子音 韓国語の特徴や文字の基本構成を学習する。	
第4回	激音と農音，パッチム 基本母音字と子音字から表れる激音と濃音の発音の違いについて学習する。	
第5回	韓国語の助詞・動詞 韓国語の一文を完成するための助詞と動詞の仕組みについて学習する。	
第6回	基本文型の過去形の作り方 基本文型の現在，過去，みらいはどのように表現されているのかを学習する。	
第7回	感嘆文・疑問文の形式 韓国語の感嘆文・疑問文を簡単な言葉を用いて学習する。	
第8回	基本文型の指示代名詞・助数詞 指示代名詞を事例の文章から説明し，一つの文章を作るようにする。	
第9回	用語の丁寧形や尊敬語 韓国語の丁寧形や尊敬語を具体例から学び，理解する。	
第10回	会話練習・表現 文章の基礎的な仕組みをから短い表現を理解する。	
第11回	挨拶・訪問の言葉 基本的な挨拶の言葉を学習する。	
第12回	韓国の大学と若者 韓国の大学と日本の大学との近い，若者の意識について理解する。	
第13回	韓国の食生活と食べ物 韓国の食生活・食文化や近年関心が高まっている食べ物について学習する。	
第14回	韓国の映画と文化 韓国のエンターテインメントや映画について理解する。	
第15回	韓国の音楽と日常会話 近年のKポップや音楽について，日常会話を用いて学習する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢や態度	20	授業への意欲，質問，課題を積極的に取り組んでいるのかを評価する。
小テスト	40	授業の中間時点で，どの程度内容を理解しているのかを確認する。また，小テストは次週で解説する。
期末テスト	40	授業全体の理解度や言葉の習得ができているのかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・毎回教科書の授業内容に相当する部分を前もって読み，予習をやって来ること。 ・課題を充実に行うこと。
授業外学修	・予習として，教科書の授業内容に相当する部分を前もって読むこと。 ・復習として，課題をノートに書いて来ること。 ・韓国語の教科書のCDを聞くようにして，言葉に慣れること。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
ゼロから学べる韓国語［文法］トレーニング	木内　明	髙橋書店	978-4-471-11270-7	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．外国語や韓国語の必要性を十分に認識している。	韓国語の必要性をほぼ理解している。	韓国語の文法の仕組みや会話の基本構造をほぼ理解している。	韓国語の文法の仕組みをほぼ理解している。	韓国語は理解しているが，具体的な知識が十分ではない。	あまり外国語に対して興味を持っていない。
知識・理解	2．新しい知識として外国語の必要性を十分に認識している。	言葉の仕組みや子音・母音を十分に理解している。	知識として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる。	基礎として韓国語の発音や会話の仕組みが理解できる。	韓国語の文字体系を理解しようとしていない。	外国語や他の国のことを理解していない
知識・理解	3．韓国語の学ぶ上での韓国の文化や社会のことを認識している。	韓国で起こっている諸問題から対応策を考えられる。	最近の韓国文化に興味を持って勉強に取り組んでいる。	学生自ら進んで韓国語を学習する能力が備えている。	あまり外国の文化や言葉を理解しようとしていない。	韓国のことや韓国語にあまり関心を持っていない。
技能	1．新しい言葉を身につけることで自分の知識が深まる。	韓国語の基礎が出来ており，自ら進んで韓国の文化に関しても勉強している。	韓国語の会話や発音の子音・母音の体系が理解できている。	韓国語の発音の仕組み，会話の基礎が出来ている。	韓国語を学習する目的や基礎知識が理解できていない。	韓国語の内容や発音の体系が理解できていない。
技能	2．外国語を学ぶことで一層他文化に対する理解が深まる。	韓国語の基礎知識は十分に備え，自ら進んで韓国の文化を勉強している。	韓国語の基礎知識を備えられ，その国のことまで把握できる。	韓国語の会話がほぼ理解でき，韓国の社会に関しても知ろうとしている。	外国語を修得し、１つでも自分の知識を増やすことの重要性が認識できていない。	韓国語を学ぶことの意味と目的が明確ではない。
技能	3．外国語や海外の人や文化を通じて，自国のことや自分のことを再考することになる。	韓国語の学習が十分にでき，今日のグローバル社会が理解できる。	韓国語の学習を通じて他の国のことが理解できる。	韓国語の基礎知識が勉強でき，他の語学にも興味を持つことが可能になる。	韓国語の基本の発音体系や会話を身につける意味が認識できていない。	韓国語の内容や発音の体系をどのように理解し，勉強しようかという認識ができていない。

科目名	中国語			授業番号	SA183	サブタイトル			
教員	杉山　明								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この授業では中国語の発音・基礎文法に重点を置く。日本人にとって親しみのある漢字を中国語でどう発音するかのなぞを解きながら，基礎的な会話と文型を学んでいくものとする。実践的な「使える中国語」を目指す。								
到達目標	既習内容の発音や単語の定着を目指して基本文型を理解する。いざ中国語による会話をする時，趣味などについて語れる基礎的なコミュニケーション能力を身に付けている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	発音練習と授業計画 学習の進め方を理解し，発音の基礎となる四声，単母音を理解する。テキスト発音編第一課 授業後はテキストの音声教材を使って、よく復習する。	
第2回	発音　ピンイン　複母音　数字 ピンインの読み方を知るとともに，発音編第２課により複母音の発音を練習する。また本文編第１課により数字の読み方を学ぶ。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第3回	発音　鼻母音　子音　「有」の用法 発音編第２課により鼻母音，子音の練習。本文編第１課により動詞「有」の用法を学ぶ。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第4回	発音　有気音と無気音　日付けの言い方　動詞「是」の用法 テキス発音編第２課を見て有気音と無気音の練習，本文編第２課を使いA是Bの構文を学ぶ。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第5回	声調の変化　r化音　曜日の言い方 テキスト発音編第３課により声調の変化，r化音を練習，本文編第３課により曜日の言い方を学習。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第6回	動詞「叫」「姓」の用法　疑問詞の用法 テキスト第３課により動詞文，動作動詞「叫」「姓」の用法及び疑問詞の用法を学ぶ。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第7回	SVOの文型　指示語の学習 テキスト第４課SVOの文型を学び、さらに指示語（こそあど言葉）の使い方を知る。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第8回	中間考査 ここまでの学習を振り返り，中間考査を実施する。次時に返却、解説を行う。	
第9回	中間考査返却と解説　お金の言い方 中間考査の結果を見て，自己の部分を未理解部分を確認する。 また中国のお金の言い方を学ぶ。 授業後は解説を聞き、自分の間違い箇所を訂正する。	
第10回	「在」の用法　重さ，長さの言い方 テキスト第５課により動詞「在」の用法を学び，また重さ，長さの言い方を知る。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第11回	反復疑問文　形容詞の用法 テキスト第５課により反復疑問文の使い方，第６課により形容詞の用法を学ぶ。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第12回	助動詞の用法　時間の言い方 テキスト第６課により助動詞「想」「要」の用法を学び，第７課により時間の言い方を知る。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第13回	可能の助動詞の用法　介詞 テキスト第７課により可能の助動詞「会」「能」「可以」の使い方を学び，さらに介詞「在」「対」の用法を学習する。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第14回	時間量の言い方　完了時制 テキスト第８課により時間量の言い方を知り，さらに完了時制を学習する。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
第15回	介詞の用法　定期試験に向けて 第８課により介詞「離」「従」の用法を学び，さらに期末試験へ向けて復習を行う。 授業後はテキストの音声教材を使って反復練習を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組み	30	意欲的な学習態度・発話・聞き取り・予復習の状況によって評価
小テスト	20	20点満点で毎時間実施 返却時に、解説する。
中間・期末試験	50	中間考査・期末考査の平均点の50%

評価の方法：自由記載	
受講の心得	予習，復習をしっかりすること。テキストを必ず持ってくること。 発音練習では声を出して練習すること。音声教材を積極的に利用すること。
授業外学修	1　予習として，次の授業に出る新出単語を覚えておくこと，テキストの問題に目を通しておくこと。 2　復習として，学んだ本文内容や文法を再確認し，発音練習を繰り返すこと。 以上の内容を，週当たり3時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
理系のための中国語・入門	杉山明	好文出版	978-4-87220-202-1	
使用テキスト：自由記載	テキストについては教学・アドミッション課より別途指示			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
中国語学習＆異文化理解ハンドブック	杉山明・石下景教	アルク	978-4757420915	
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	有			
担当教員の実務経験	高等学校での漢文授業（9年）			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．語彙の使用法	幅広い語彙を会話の中で正確かつ効果的に活用できる	語彙の使用の多様性を示しすが、時折不正確である	基本的な語彙は概ね理解しているが、表現の種類は限られている	語彙の範囲が狭く、単語の選択に苦労する	最小限の語彙しか使用せず、コミュニケーション効果を妨げている
知識・理解	2．文法	文法規則をしっかりと理解し、それらをスピーチなどで正確に適用している	一般的に正しい文法を使用し、理解を妨げない程度の軽微な誤りがある	文法の誤りが目立ち、文の構造と明瞭さにかける	基本的な文法の概念に苦労し、比較的ミスが多い	文法規則の理解が乏しい

科目名	日本事情 (外国人留学生対象科目)			授業番号	SA191	サブタイトル			
教員	小西　達也、杉山　明								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	『初中級からはじめる日本語プロジェクト・ワーク』（くろしお出版）のテーマを参照し，日本の社会的，文化的，習慣的なテーマについて幅広く学習し，日本人のものの見方，考え方を知ることによって日本での生活に適応できる能力を身につける。また，個人やグループで文章作成，発表などを行い，日本語でアウトプットし，発信できる能力を養う。								
到達目標	１．日本の文化や社会について自国の事情と比較しつつ知識を深めることができる。 ２．日本や日本人を正しく理解することができる。 ３．日本や日本人が関わるコミュニティーに参加できるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	自己紹介・自国紹介 これから日本事情を学ぶにあたって，自分がどのような人間で，どのような立場に立ち物事を考えているのかを自己分析しながら，グループで伝え合う。また，今後日本と自国を比較できるように，自国のことを分析し，他者にわかりやすく伝えることを目指す。 ・課題：「アニメから日本の生活を見てみる」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第2回	自己紹介・自国紹介 これから日本事情を学ぶにあたって，自分がどのような人間で，どのような立場に立ち物事を考えているのかを自己分析しながら，グループで伝え合う。また，今後日本と自国を比較できるように，自国のことを分析し，他者にわかりやすく伝えることを目指す。 ・課題：「アニメから日本の生活を見てみる」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第3回	アニメから日本の生活を見てみる（1） 日本の家や生活について，時代ごとに比較をしながら説明する。また，自国の家や生活についてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国の家や生活を比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第4回	アニメから日本の生活を見てみる（1） 日本の家や生活について，時代ごとに比較をしながら説明する。また，自国の家や生活についてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国の家や生活を比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第5回	アニメから日本の生活を見てみる（2） 日本と自国の家や生活について，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本の家や生活を知るために，グループで日本の家や生活について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 ・課題：「日本の伝統文化にふれる」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第6回	アニメから日本の生活を見てみる（2） 日本と自国の家や生活について，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本の家や生活を知るために，グループで日本の家や生活について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 ・課題：「日本の伝統文化にふれる」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第7回	日本の伝統文化にふれる（1） 日本の伝統文化について，伝統文化ごとに背景や歴史などを交えながら説明する。また，自国の伝統文化についてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国の伝統文化を比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第8回	日本の伝統文化にふれる（1） 日本の伝統文化について，伝統文化ごとに背景や歴史などを交えながら説明する。また，自国の伝統文化についてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国の伝統文化を比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第9回	日本の伝統文化にふれる（2） 日本と自国の伝統文化について，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本の伝統文化を知るために，グループで日本の家や生活について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 ・課題：日本人に日本の伝統文化に関するインタビューを行う。	小西　達也、杉山　明
第10回	日本の伝統文化にふれる（2） 日本と自国の伝統文化について，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本の伝統文化を知るために，グループで日本の家や生活について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 ・課題：日本人に日本の伝統文化に関するインタビューを行う。	小西　達也、杉山　明
第11回	日本の伝統文化にふれる（3） 日本の伝統文化について，日本人にインタビューした内容・結果を全体でグループ発表をする。グループ発表後，全体で議論を行う。 ・課題：「いろいろな食文化を知る」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第12回	日本の伝統文化にふれる（3） 日本の伝統文化について，日本人にインタビューした内容・結果を全体でグループ発表をする。グループ発表後，全体で議論を行う。 ・課題：「いろいろな食文化を知る」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第13回	いろいろな食文化を知る（1） 日本の食文化について，料理や食材から理解が深められるように説明する。また，自国の食文化についてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国の食文化を比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第14回	いろいろな食文化を知る（1） 日本の食文化について，料理や食材から理解が深められるように説明する。また，自国の食文化についてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国の食文化を比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第15回	いろいろな食文化を知る（2） 日本と自国の食文化について，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本の食文化を知るために，グループで食文化について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 ・課題：「地震から身を守る」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明

第16回	いろいろな食文化を知る（2） 日本と自国の食文化について，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本の食文化を知るために，グループで食文化について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 ・課題：「地震から身を守る」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第17回	地震から身を守る（1） 地震について，地震に備える方法や地震が起きたときの困難点などを説明する。また，地震やその他の災害についてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国の地震やその他の災害を比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第18回	地震から身を守る（1） 地震について，地震に備える方法や地震が起きたときの困難点などを説明する。また，地震やその他の災害についてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国の地震やその他の災害を比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第19回	地震から身を守る（2） 日本と自国の地震やその他の災害について，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本の地震やその他の災害を知るために，グループで地震やその他の災害について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 ・課題：「教育を考える」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第20回	地震から身を守る（2） 日本と自国の地震やその他の災害について，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本の地震やその他の災害を知るために，グループで地震やその他の災害について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 ・課題：「教育を考える」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第21回	教育を考える（1） 日本の教育について，問題点や自己肯定感を高める教育などを説明する。また，日本の教育についてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国の教育を比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第22回	教育を考える（1） 日本の教育について，問題点や自己肯定感を高める教育などを説明する。また，日本の教育についてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国の教育を比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第23回	教育を考える（2） 日本の教育について，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本の教育を知るために，グループで教育について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 課題：日本人に日本の教育に関するインタビューを行う。	小西　達也、杉山　明
第24回	教育を考える（2） 日本の教育について，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本の教育を知るために，グループで教育について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 課題：日本人に日本の教育に関するインタビューを行う。	小西　達也、杉山　明
第25回	教育を考える（3） 日本の教育について，日本人にインタビューした内容・結果を全体でグループ発表をする。グループ発表後，見つかった「教育の問題点」について全体で解決案を出すための議論を行う。 ・課題：「リサイクルを考える」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第26回	教育を考える（3） 日本の教育について，日本人にインタビューした内容・結果を全体でグループ発表をする。グループ発表後，見つかった「教育の問題点」について全体で解決案を出すための議論を行う。 ・課題：「リサイクルを考える」ことばを理解しておくこと	小西　達也、杉山　明
第27回	リサイクルを考える（1） 日本のリサイクルについて，ゴミを減らす方法や歴史などを説明する。また，日本のリサイクルについてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国のリサイクルを比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第28回	リサイクルを考える（1） 日本のリサイクルについて，ゴミを減らす方法や歴史などを説明する。また，日本のリサイクルについてグループで話し合うとともに，日本と自国を比較したり，日本の特徴をまとめられるようにする。 ・課題：日本と自国のリサイクルを比較した文章を書く。	小西　達也、杉山　明
第29回	リサイクルを考える（2） 日本のリサイクルについて，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本のリサイクルを知るために，グループで教育について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 最終課題：これまでに学んだ日本事情，あるいは自身が関心ある日本事情に関して調べ，日本人にインタビューした内容も含めてスライドに内容をまとめて、音声もそのスライドに入れる。	小西　達也、杉山　明
第30回	リサイクルを考える（2） 日本のリサイクルについて，発表する際に必要な語彙，表現を学ぶ。各自書いてきた文章をもとにグループ発表を行う。発表後，発表された内容からさらに詳しく日本のリサイクルを知るために，グループで教育について，日本人に聞いてみたいことをまとめる。 最終課題：これまでに学んだ日本事情，あるいは自身が関心ある日本事情に関して調べ，日本人にインタビューした内容も含めてスライドに内容をまとめて、音声もそのスライドに入れる。	小西　達也、杉山　明
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢・態度	20	積極的な受講態度，グループワークへの参加で評価する。
事後課題	40	・文章作成の課題がテーマに沿った内容になっており，指示の内容を理解し適切に文章が書かれているかで評価する。 課題提出後に，コメントを加え，授業内でグループで共有する。 ・インタビューの課題は指示の内容を理解し適切にインタビューが実施できたかで評価する。 インタビュー実施後に，授業内で共有する。
小テスト	20	学習内容を理解しているかどうかで評価する。必要に応じて，適宜授業でフィードバックを行う。
最終課題	20	指示の内容を理解し適切にスライド，音声録音授業内ができているかで評価する。課題提出後，必要に応じてコメントをし，返却する。

評価の方法：自由記載	

受講の心得	1.資料を読んだり，グループで話し合いをしたりするので，積極的に発言すること。 2.テーマに関することばを事前に調べておくこと。 3.グループ発表の準備をよくしておくこと。
授業外学修	1.テーマに関する語彙を調べておくこと。 2.テキストの内容を資料などを使って調べておくこと。 3.学習した内容と自分の考えなどをまとめて文章にすること。 4.資料を探し，発表の練習をすること。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	その他，適宜プリントも配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
初中級からはじめる日本語プロジェクトワーク	幸松英恵，渡辺陽子	くろしお出版	978-4-87424-939-0	

参考書：自由記載	適宜，プリントを配布する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	日本語教員(18年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	日本語教員(18年)での経験から外国人に対して日本事情を日本の生活に役立てるように指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	日本や日本人について正しく理解することができる。	日本や日本人について自身の意見を述べながら他者との協働を通して正しく理解することができる。	日本や日本人について自身の意見を述べることができ，他者の意見を聞きながら正しく理解することができる。	日本や日本人についてある程度自分の意見を述べることができ，他者の意見を聞きながら正しく理解することができる。	日本や日本人について何かを拠り所にしなければ，あまり理解することができない。	日本や日本人について何を拠り所にしても，ほとんど理解することができない。
思考・問題解決能力	日本の文化的・社会的・習慣的な事情について自国の事情と比較しつつ，知識を深めることができる	自らの問題意識に基づいて日本の文化的・社会的・習慣的な事情について十分に理解し，自国の事情と比較しながら他者と議論できる。	自らの問題意識に基づいて日本の文化的・社会的・習慣的な事情について理解し，自国の事情と比較しながら他者に伝えることができる。	自らの問題意識に基づいているものの，日本の文化的・社会的・習慣的な事情について何かを拠り所にすれば，自国の事情を他者に伝えることができる。	自らの問題意識に基づいてはいるものの，日本の文化的・社会的・習慣的な事情について十分に理解できておらず，自国の事情と比較することができない。	自らの問題意識を設定することができず，日本の文化や社会，習慣について理解できていない。自国の事情とも比較することができない。
技能	日本や日本人が関わるコミュニティに参加できる。	自分から話題を提供し，日本や日本人が関わるコミュニティに参加することができる。	他者から話題を提供されれば，日本や日本人が関わるコミュニティに参加できる。	他者の誘いがあれば，日本や日本人が関わるコミュニティに参加できる。	他者から話題を提供され，話題を提供されれば，日本や日本人が関わるコミュニティに何とか参加できる。	日本や日本人が関わるコミュニティに参加できない。

科目名	アカデミック・ジャパニーズⅠ（外国人留学生対象科目）	授業番号	SA192	サブタイトル			
教員	小西　達也、赫連　茹玉						
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	『できる日本語　中級』又は『できる日本語　初中級』（アルク）を習熟度に合わせて教科書として使用し，日本語の基礎的な四技能（聞く・話す・読む・書く）の力を総合的に伸ばしていく。また，日本で生活したり，大学生活を送るために必要な考えや行動も身につけることを目的とする。								
到達目標	１．初中級レベルの日本語能力（聞く・話す・読む・書く）を身につける。 ２．一連の易しい質問に，ある程度流暢に，対応ができる。話を聞く，あるいは話をする際に聞き手にも自分にもあまり負荷をかけることがないようにする。 ３．自己で学習目標を立て，その目標に沿って計画を遂行できるようにするために，学習者オートノミーを発揮できるようにする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	第１課「新たな出会い」（1） ・初めて会った人に丁寧に自己紹介したり，印象よく問い合わせしたりすることができる。 スモールトピック1： アルバイトを探す アルバイトの問い合わせをしたり，面接での簡単なやりとりをしたりすることができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第2回	第１課「新たな出会い」（1） ・初めて会った人に丁寧に自己紹介したり，印象よく問い合わせしたりすることができる。 スモールトピック1： アルバイトを探す アルバイトの問い合わせをしたり，面接での簡単なやりとりをしたりすることができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第3回	第１課「新たな出会い」（2） ・初めて会った人に丁寧に自己紹介したり，印象よく問い合わせしたりすることができる。 スモールトピック2： 新しい友達 アルバイト先やサークルで初めて会った人と趣味や日本での生活について話すことができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第4回	第１課「新たな出会い」（2） ・初めて会った人に丁寧に自己紹介したり，印象よく問い合わせしたりすることができる。 スモールトピック2： 新しい友達 アルバイト先やサークルで初めて会った人と趣味や日本での生活について話すことができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第5回	第2課「楽しいショッピング」（1） ・お店やレストランで友達と商品やメニューについて話したり，お店の人と話しながら買い物したりすることができる。 スモールトピック1： 上手に買い物 何か買うときに，その物を見てどんな様子かを友達と話したり，お店の人に自分が知りたい情報を聞いたりして，自分の行動を決めることができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第6回	第2課「楽しいショッピング」（1） ・お店やレストランで友達と商品やメニューについて話したり，お店の人と話しながら買い物したりすることができる。 スモールトピック1： 上手に買い物 何か買うときに，その物を見てどんな様子かを友達と話したり，お店の人に自分が知りたい情報を聞いたりして，自分の行動を決めることができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第7回	第2課「楽しいショッピング」（2） ・お店やレストランで友達と商品やメニューについて話したり，お店の人と話しながら買い物したりすることができる。 スモールトピック2： 一緒に食事 レストランなどで食事をする際に，一緒に行った友達や店の人などとやりとりすることができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第8回	第2課「楽しいショッピング」（2） ・お店やレストランで友達と商品やメニューについて話したり，お店の人と話しながら買い物したりすることができる。 スモールトピック2： 一緒に食事 レストランなどで食事をする際に，一緒に行った友達や店の人などとやりとりすることができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第9回	第3課「私の目標」（1） ・自分の目標や計画を話したり進路の参考のために周りの人から話を聞いたりすることができる。 スモールトピック1： これからの計画 来日の目的や今後の目標，計画などを話すことができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第10回	第3課「私の目標」（1） ・自分の目標や計画を話したり進路の参考のために周りの人から話を聞いたりすることができる。 スモールトピック1： これからの計画 来日の目的や今後の目標，計画などを話すことができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第11回	第3課「私の目標」（2） ・自分の目標や計画を話したり進路の参考のために周りの人から話を聞いたりすることができる。 スモールトピック2： 夢に向かって 自分の将来のことで興味があることについて，周りの人に話したり質問したりすることができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第12回	第3課「私の目標」（2） ・自分の目標や計画を話したり進路の参考のために周りの人から話を聞いたりすることができる。 スモールトピック2： 夢に向かって 自分の将来のことで興味があることについて，周りの人に話したり質問したりすることができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第13回	第4課「住んでいる町で」（1） ・日本の生活を楽しむために住んでいる町の情報を教え合って，その情報をもとに行動することができる。 スモールトピック1： 生活を楽しむ 住んでいる町の施設やお店の情報を聞いたり教えたりすることができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第14回	第4課「住んでいる町で」（1） ・日本の生活を楽しむために住んでいる町の情報を教え合って，その情報をもとに行動することができる。 スモールトピック1： 生活を楽しむ 住んでいる町の施設やお店の情報を聞いたり教えたりすることができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第15回	第4課「住んでいる町で」（2） ・日本の生活を楽しむために住んでいる町の情報を教え合って，その情報をもとに行動することができる。 スモールトピック2： 行き方を教える 道案内をしたり道に迷ったとき道を聞いたりすることができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第16回	第4課「住んでいる町で」（2） ・日本の生活を楽しむために住んでいる町の情報を教え合って，その情報をもとに行動することができる。 スモールトピック2： 行き方を教える 道案内をしたり道に迷ったとき道を聞いたりすることができる。	小西　達也、赫連　茹玉

第17回	第1課～第4課復習、アカデミックライティング	小西　達也、赫連　茹玉
第18回	第1課～第4課復習、アカデミックライティング	小西　達也、赫連　茹玉
第19回	第5課「大変な１日」(1) ・突然のハプニングにあったとき、簡単なことなら事情を説明して，対処することができる。 スモールトピック1： 困ったな…… 困った状況を説明したり，なくしたものの特徴やなくしたときの状況について説明したりすることができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第20回	第5課「大変な１日」(1) ・突然のハプニングにあったとき、簡単なことなら事情を説明して，対処することができる。 スモールトピック1： 困ったな…… 困った状況を説明したり，なくしたものの特徴やなくしたときの状況について説明したりすることができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第21回	第5課「大変な１日」(2) ・突然のハプニングにあったとき、簡単なことなら事情を説明して，対処することができる。 スモールトピック2： 駅で 駅や道で困ったとき，簡単に事情を説明して，頼んだり謝ったりすることができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第22回	第5課「大変な１日」(2) ・突然のハプニングにあったとき、簡単なことなら事情を説明して，対処することができる。 スモールトピック2： 駅で 駅や道で困ったとき，簡単に事情を説明して，頼んだり謝ったりすることができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第23回	第6課「旅行に行こう」(1) ・旅行に行くために事前に情報を収集したり相談したりして，旅行に行く前の準備ができる。 スモールトピック1： 旅行の計画 どこへ旅行に行きたいか，理由とともに提案することができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第24回	第6課「旅行に行こう」(1) ・旅行に行くために事前に情報を収集したり相談したりして，旅行に行く前の準備ができる。 スモールトピック1： 旅行の計画 どこへ旅行に行きたいか，理由とともに提案することができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第25回	第6課「旅行に行こう」(2) ・旅行に行くために事前に情報を収集したり相談したりして，旅行に行く前の準備ができる。 スモールトピック2： 旅行の準備 旅行の前に何をしておくか話すことができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第26回	第6課「旅行に行こう」(2) ・旅行に行くために事前に情報を収集したり相談したりして，旅行に行く前の準備ができる。 スモールトピック2： 旅行の準備 旅行の前に何をしておくか話すことができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第27回	第7課「西川さんの家へ」(1) ・日本人の家へ行ったとき、場面と関係性を考えながら，その家の人との交流を楽しむことができる。 スモールトピック1： 初めての訪問 初めて会った人と，丁寧な日本語を使って話すことができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第28回	第7課「西川さんの家へ」(1) ・日本人の家へ行ったとき、場面と関係性を考えながら，その家の人との交流を楽しむことができる。 スモールトピック1： 初めての訪問 初めて会った人と，丁寧な日本語を使って話すことができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第29回	第7課「西川さんの家へ」(2) ・日本人の家へ行ったとき、場面と関係性を考えながら，その家の人との交流を楽しむことができる。 スモールトピック2： 一緒に作りましょう よく知っている料理について簡単に作り方を説明することができる。	小西　達也、赫連　茹玉
第30回	第7課「西川さんの家へ」(2) ・日本人の家へ行ったとき、場面と関係性を考えながら，その家の人との交流を楽しむことができる。 スモールトピック2： 一緒に作りましょう よく知っている料理について簡単に作り方を説明することができる。	小西　達也、赫連　茹玉
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢・態度	20	積極的な受講態度，ペアワークやグループワークへの参加度合，予習復習の成果で評価する。
小テスト	60	・語彙小テスト（課が始まるとき） これから学修する課の語彙を意味，使い方を予習し，理解できているかで評価する。 ・文法小テスト（課が終わるとき） 学修した文法・表現の正確な理解ができているかで評価する。 ・漢字小テスト（第1課～第4課が終わった後，第5課～第7課が終わった後） 学修した漢字の正確な理解ができているか，適切に使用できるかで評価する。 いずれの小テストも修正し，コメントを加え，返却する。返却後，必要に応じて全体でフィードバックをする。
自主課題ノート	20	学期開始時に自分の目標を立て，それに沿った学習課題を自身で設定する。その課題の達成度によって評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前にわからない語彙の意味・用法を調べておくこと。 自ら学習目標を立て，それを実行しようとする姿勢が必要となる。
授業外学修	1.課ごとの語彙・表現を事前に調べておくこと。 2.授業時に配布した教材を復習として課ごとに取り組むこと。 3.授業の内容とは別に学習目標を立て，それが達成できるように取り組むこと。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
できる日本語　中級本冊	できる日本語教材開発プロジェクト	アルク	978-4-7574-4267-2	クラス分けによって使用する教科書が異なります。
できる日本語　初中級本冊	できる日本語教材開発プロジェクト	アルク	978-4-7574-4266-5	クラス分けによって使用する教科書が異なります。

使用テキスト：自由記載	適宜，プリントを配布する予定。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
漢字たまご　初中級	有山優樹，落合知春 など	凡人社	978-4-89358-832-6	
わたしのことばノート	できる日本語教材開発プロジェクト	凡人社	978-4-89358-848-7	
わたしの文法ノート	できる日本語教材開発プロジェクト	凡人社	978-4-89358-837-1	

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	日本語教員(18年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	日本語教員(18年)の経験から学生が大学生活，日常生活で日本語を使用してコミュニケーションが取れるように指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	日本で大学生活，日常生活を送る上で，初中級レベル以上に相応しい日本語の語彙・表現を使うことができる。	日本で大学生活，日常生活を送る上で，初中級レベル以上に相応しい日本語の語彙・表現を十分に使うことができる。	日本で大学生，日本生活を送る上で，初中級レベル以上に相応しい日本語の語彙・表現をおおよそ使うことができる。	日本で大学生活，日常生活を送る上で，初中級レベル以上に相応しい日本語の語彙・表現をある程度使うことができる。	日本で大学生活，日常生活を送る上で，初中級レベル以上に相応しい日本語の語彙・表現をあまり使うことができない。	日本で大学生活，日常生活を送る上で，初中級レベル以上に相応しい日本語の語彙・表現をほとんど使うことができない。
技能	初中級以上の漢字語彙を用いながら，自分の考えていることを文章で表現したり，初中級以上の表現を用いて意思を表明したりできる。	初中級以上の漢字語彙を用いながら，自分の考えていることをわかりやすく文章で表現したり，初中級以上の表現を用いて明確に意思を表明したりできる。	初中級以上の漢字語彙を用いながら，自分の考えていることを文章で表現したり，初中級以上の表現を用いて意思を表明したりすることがおおよそできる。	初中級以上の漢字語彙を用いながら，自分の考えていることを文章で表現したり，初中級以上の表現を用いて意思を表明したりすることがある程度できる。	初中級以上の漢字語彙を用いながら，自分の考えていることを文章で表現することがあまりできない。また，初中級以上の表現を用いて意思を表明したりすることもやや難しい。	初中級以上の漢字語彙を用いながら，自分の考えていることを文章で表現することがほとんどできない。また，初中級以上の表現を用いて意思を表明したりすることも困難である。

科目名	アカデミック・ジャパニーズⅡ（外国人留学生対象科目）			授業番号	SA193	サブタイトル			
教員	小西　達也、杉山　明								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	『できる日本語　中級』又は『できる日本語　初中級』（アルク）を習熟度に合わせて教科書として使用し，日本語の基礎的な四技能（聞く・話す・読む・書く）の力を総合的に伸ばしていく。また，日本で生活したり，大学生活を送るために必要な考えや行動も身につけることを目的とする。								
到達目標	１．初中級レベルの日本語能力（聞く・話す・読む・書く）を身につける。 ２．一連の易しい質問に，ある程度流暢に，対応ができる。話を聞く，あるいは話をする際に聞き手にも自分にもあまり負荷をかけることがないようにする。 ３．自己で学習目標を立て，その目標に沿って計画を遂行できるようにするために，学習者オートノミーを発揮できるようにする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	第8課「ありがとう」（1） ・これまでの経験の中でしてもらってうれしかったことについて感謝の気持ちを表現することができる。 スモールトピック1：うれしい出来事 親切にされた経験を話したり親しい人に手助けを申し出たりすることができる。	小西　達也、杉山　明
第2回	第8課「ありがとう」（1） ・これまでの経験の中でしてもらってうれしかったことについて感謝の気持ちを表現することができる。 スモールトピック1：うれしい出来事 親切にされた経験を話したり親しい人に手助けを申し出たりすることができる。	小西　達也、杉山　明
第3回	第8課「ありがとう」（2） ・これまでの経験の中でしてもらってうれしかったことについて感謝の気持ちを表現することができる。 スモールトピック2：お世話になりました 自分がお世話になったことを他の人に話すことができる。お世話になった人にお礼を言うことができる。	小西　達也、杉山　明
第4回	第8課「ありがとう」（2） ・これまでの経験の中でしてもらってうれしかったことについて感謝の気持ちを表現することができる。 スモールトピック2：お世話になりました 自分がお世話になったことを他の人に話すことができる。お世話になった人にお礼を言うことができる。	小西　達也、杉山　明
第5回	第9課「アルバイト先で」（1） ・集団の中で気持ちよく仕事ができるように，周りの人のことを考えながら，会話することができる。 スモールトピック1：アドバイス先のルール 先輩からアドバイス先のルールを聞いたり，後輩に説明したりすることができる。	小西　達也、杉山　明
第6回	第9課「アルバイト先で」（1） ・集団の中で気持ちよく仕事ができるように，周りの人のことを考えながら，会話することができる。 スモールトピック1：アドバイス先のルール 先輩からアドバイス先のルールを聞いたり，後輩に説明したりすることができる。	小西　達也、杉山　明
第7回	第9課「アルバイト先で」（2） ・集団の中で気持ちよく仕事ができるように，周りの人のことを考えながら，会話することができる。 スモールトピック2：楽しいアルバイト スムーズに仕事ができるように，お互いに声をかけ合うことができる。	小西　達也、杉山　明
第8回	第9課「アルバイト先で」（2） ・集団の中で気持ちよく仕事ができるように，周りの人のことを考えながら，会話することができる。 スモールトピック2：楽しいアルバイト スムーズに仕事ができるように，お互いに声をかけ合うことができる。	小西　達也、杉山　明
第9回	第10課「旅行に行って」（1） ・集団の中で気持ちよく仕事ができるように，周りの人のことを考えながら，会話することができる。 スモールトピック1：ハプニング！ 旅行先で予期できない状況や不利益な状況になったとき，その状況や問題点などを簡単に説明することができる。	小西　達也、杉山　明
第10回	第10課「旅行に行って」（1） ・集団の中で気持ちよく仕事ができるように，周りの人のことを考えながら，会話することができる。 スモールトピック1：ハプニング！ 旅行先で予期できない状況や不利益な状況になったとき，その状況や問題点などを簡単に説明することができる。	小西　達也、杉山　明
第11回	第10課「旅行に行って」（2） ・集団の中で気持ちよく仕事ができるように，周りの人のことを考えながら，会話することができる。 スモールトピック1：ガイドブックを片手に 現在の自分の状況や目前のものなどについて簡単に説明することができる。	小西　達也、杉山　明
第12回	第10課「旅行に行って」（2） ・集団の中で気持ちよく仕事ができるように，周りの人のことを考えながら，会話することができる。 スモールトピック1：ガイドブックを片手に 現在の自分の状況や目前のものなどについて簡単に説明することができる。	小西　達也、杉山　明
第13回	第11課「地域社会の中で」（1） ・地域の日本人に、自分の最近の生活や今困っていることなどについて話したり，地域の活動に参加したりすることができる。 スモールトピック1：慣れてくると 自分の習慣の変化や困っていることなどを話すことができる。	小西　達也、杉山　明
第14回	第11課「地域社会の中で」（1） ・地域の日本人に、自分の最近の生活や今困っていることなどについて話したり，地域の活動に参加したりすることができる。 スモールトピック1：慣れてくると 自分の習慣の変化や困っていることなどを話すことができる。	小西　達也、杉山　明
第15回	第11課「地域社会の中で」（2） ・地域の日本人に、自分の最近の生活や今困っていることなどについて話したり，地域の活動に参加したりすることができる。 スモールトピック2：スポーツチームに入って 人から聞いたことを伝えることができる。また，スポーツの応援ができる。	小西　達也、杉山　明
第16回	第11課「地域社会の中で」（2） ・地域の日本人に、自分の最近の生活や今困っていることなどについて話したり，地域の活動に参加したりすることができる。 スモールトピック2：スポーツチームに入って 人から聞いたことを伝えることができる。また，スポーツの応援ができる。	小西　達也、杉山　明

第17回	第8課～第11課復習，アカデミックライティング	小西 達也、杉山 明
第18回	第8課～第11課復習，アカデミックライティング	小西 達也、杉山 明
第19回	第12課「私の健康法」(1) ・健康を維持するための方法や体調がよくないときの対処法について，周囲の人と情報を交換することができる。 スモールトピック1：体調不良 体調がよくないとき，症状や原因，対処法などを話すことができる。	小西 達也、杉山 明
第20回	第12課「私の健康法」(1) ・健康を維持するための方法や体調がよくないときの対処法について，周囲の人と情報を交換することができる。 スモールトピック1：体調不良 体調がよくないとき，症状や原因，対処法などを話すことができる。	小西 達也、杉山 明
第21回	第12課「私の健康法」(2) ・健康を維持するための方法や体調がよくないときの対処法について，周囲の人と情報を交換することができる。 スモールトピック2：毎日，元気に！ 健康維持のために普段していることや使っているものについて話すことができる。	小西 達也、杉山 明
第22回	第12課「私の健康法」(2) ・健康を維持するための方法や体調がよくないときの対処法について，周囲の人と情報を交換することができる。 スモールトピック2：毎日，元気に！ 健康維持のために普段していることや使っているものについて話すことができる。	小西 達也、杉山 明
第23回	第13課「親の気持ち・子の気持ち」(1) ・テレビや街中で気になることを見かけたとき、それについて意見を言ったり，それに関する自分の経験を話したりすることができる。 スモールトピック1：町で見かけた子どもたち 自分の子どものころの経験を交えながら，簡単に意見を言うことができる。	小西 達也、杉山 明
第24回	第13課「親の気持ち・子の気持ち」(1) ・テレビや街中で気になることを見かけたとき、それについて意見を言ったり，それに関する自分の経験を話したりすることができる。 スモールトピック1：町で見かけた子どもたち 自分の子どものころの経験を交えながら，簡単に意見を言うことができる。	小西 達也、杉山 明
第25回	第13課「親の気持ち・子の気持ち」(2) ・テレビや街中で気になることを見かけたとき，それについて意見を言ったり，それに関する自分の経験を話したりすることができる。 スモールトピック2：思い出すと 子どものころ受けた教育で今の自分に影響を与えていることについて話すことができる。	小西 達也、杉山 明
第26回	第13課「親の気持ち・子の気持ち」(2) ・テレビや街中で気になることを見かけたとき，それについて意見を言ったり，それに関する自分の経験を話したりすることができる。 スモールトピック2：思い出すと 子どものころ受けた教育で今の自分に影響を与えていることについて話すことができる。	小西 達也、杉山 明
第27回	第14課「イベント・行事」(1) ・周りの日本人に自分の国・町についてより知ってもらうために，自分の国・町の行事や習慣について説明することができる。 スモールトピック1：私の国・町の行事 国・町の行事や行事に関することについて，簡単に説明したり聞いたりすることができる。	小西 達也、杉山 明
第28回	第14課「イベント・行事」(1) ・周りの日本人に自分の国・町についてより知ってもらうために，自分の国・町の行事や習慣について説明することができる。 スモールトピック1：私の国・町の行事 国・町の行事や行事に関することについて，簡単に説明したり聞いたりすることができる。	小西 達也、杉山 明
第29回	第14課「イベント・行事」(2) ・周りの日本人に自分の国・町についてより知ってもらうために，自分の国・町の行事や習慣について説明することができる。 スモールトピック2：贈り物の習慣 贈り物の習慣や相手の好みに配慮して，プレゼントの相談をすることができる。	小西 達也、杉山 明
第30回	第14課「イベント・行事」(2) ・周りの日本人に自分の国・町についてより知ってもらうために，自分の国・町の行事や習慣について説明することができる。 スモールトピック2：贈り物の習慣 贈り物の習慣や相手の好みに配慮して，プレゼントの相談をすることができる。	小西 達也、杉山 明
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢・態度	20	積極的な受講態度，ペアワークやグループワークへの参加度合，予習復習の成果で評価する。
小テスト	60	・語彙小テスト（課が始まるとき） これから学修する課の語彙を意味，使い方を予習し，理解できているかで評価する。 ・文法小テスト（課が終わるとき） 学修した文法・表現の正確な理解ができているかで評価する。 ・漢字小テスト（第8課～第11課が終わった後，第12課～第14課が終わった後） 学修した漢字の正確な理解ができているか，適切に使用できるかで評価する。 いずれの小テストも修正し，コメントを加え，返却する。返却後，必要に応じて全体でフィードバックをする。
レポート	20	学期開始時に自分の目標を立て，それに沿った学習課題を自身で設定する。その課題の達成度によって評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	事前にわからない語彙の意味・用法を調べておくこと。 自ら学習目標を立て，それを実行しようとする姿勢が必要となる。

授業外学修	1.課ごとの語彙・表現を事前に調べておくこと。 2.授業時に配布した教材を復習として課ごとに取り組むこと。 3.授業の内容とは別に学習目標を立て，それが達成できるように取り組むこと。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
できる日本語　中級本冊	できる日本語教材開発プロジェクト	アルク	978-4-7574-2278-0	クラス分けによって使用する教科書が異なります。
できる日本語　初中級本冊	できる日本語教材開発プロジェクト	アルク	978-4-7574-2084-7	クラス分けによって使用する教科書が異なります。

使用テキスト：自由記載	適宜，プリントを配布する予定。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
漢字たまご　初中級	有山優樹，落合知春　など	凡人社	978-4-89359-932-6	
わたしのことばノート	できる日本語教材開発プロジェクト	凡人社	978-4-89359-848-7	
わたしの文法ノート	できる日本語教材開発プロジェクト	凡人社	978-4-89359-837-1	

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	日本語教員(18年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	日本語教員(18年)の経験から学生が大学生活，日常生活で日本語を使用してコミュニケーションが取れるように指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	日本で大学生活，日常生活を送る上で，初中級レベル以上に相応しい日本語の語彙・表現を使うことができる。	日本で大学生活，日常生活を送る上で，初中級レベル以上に相応しい日本語の語彙・表現を使うことが十分にできる。	日本で大学生活，日常生活を送る上で，初中級レベル以上に相応しい日本語の語彙・表現を使うことがおおよそできる。	日本で大学生活，日常生活を送る上で，初中級レベル以上に相応しい日本語の語彙・表現を使うことがある程度できる。	日本で大学生活，日常生活を送る上で，初中級レベル以上に相応しい日本語の語彙・表現をあまり使うことができない。	日本で大学生活，日常生活を送る上で，初中級レベル以上に相応しい日本語の語彙・表現をほとんど使うことができない。
思考・問題解決能力	自分自身で日本語の学習目標を設定し，その目標に対して学習計画を立て，日本語学習の向上・維持ができる。	自分自身で日本語の学習目標を設定し，その目標に対して学習計画を立て，日本語学習の向上・維持が十分にできる。	自分自身で日本語の学習目標を設定し，その目標に対して学習計画を立て，日本語学習の向上・維持がおおよそできる。	自分自身で日本語の学習目標を設定し，その目標に対して学習計画を立て，日本語学習の向上・維持がある程度できる。	自分自身で日本語の学習目標を設定し，その目標に対して学習計画を立て，日本語学習の向上・維持させることはやや困難である。	自分自身で日本語の学習目標を設定し，その目標に対して学習計画を立て，日本語学習の向上・維持させることはほとんど不可能である。
技能	初中級以上の漢字語彙を用いながら，自分の考えていることを文章で表現したり，初中級以上の表現を用いて意思を表明したりできる。	初中級以上の漢字語彙を用いながら，自分の考えていることをわかりやすく文章で表現したり，初中級以上の表現を用いて明確に意思を表明したりできる。	初中級以上の漢字語彙を用いながら，自分の考えていることを文章で表現したり，初中級以上の表現を用いて意思を表明したりすることがおおよそできる。	初中級以上の漢字語彙を用いながら，自分の考えていることを文章で表現したり，初中級以上の表現を用いて意思を表明したりすることがある程度できる。	初中級以上の漢字語彙を用いながら，自分の考えていることを文章で表現することがあまりできない。また，初中級以上の表現を用いて意思を表明したりすることもやや難しい。	初中級以上の漢字語彙を用いながら，自分の考えていることを文章で表現することがほとんどできない。また，初中級以上の表現を用いて意思を表明したりすることも困難である。

科目名	日本語表現			授業番号	SA211	サブタイトル	（音声言語と文章表現）		
教員	太田　憲孝								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	この授業では，「文章表現」を中心に絵本や物語，説明的文章等の言語表現の面白さや特徴を分析し，毎日の生活で使用している日本語表現に対する理解を深めるとともに，日本語表現への関心を高める授業を行う。								
到達目標	絵本や物語，説明的文章等の表現方法を分析し，その特徴を理解することを通して，日本語表現についての基礎的な知識を身に付けるとともに，日本語表現に対する関心を高めることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	身の周りにある様々な日本語表現 「身の周りにある日本語表現を探したり分類したりすることを通して，日本語表現に対して関心をもつ」	
第2回	乳幼児の日本語獲得 「満１歳頃までに行われる「クーイング」「視線」「指さし」などの非言語コミュニケーションについてその意味を理解する。」	
第3回	伝統的な日本語表現 「俳句の約束や魅力について理解する。」	
第4回	読者を引きつける絵本のひみつ（１） 「絵本を取り上げ，乳幼児を引き付ける「丸い正面顔」「主人公の位置」等の仕掛けを理解する。」	
第5回	読者を引きつける絵本のひみつ（２） 「絵本の文章の魅力と謎について理解する。」	
第6回	読者を引きつける物語の仕掛け 「教科書に取り上げられている物語を分析し，「物語の構造」や「虚構」等の読者を引き付ける物語の特徴を理解する。」	
第7回	読者を引きつける物語の表現 「前時に使用した物語を細部の表現について分析し，読者に想像を促す文学的表現のおもしろさを理解する。」	
第8回	主題に迫る物語表現の仕掛け 「前時に使用した物語の終末部を分析し，作者の想を表現した仕掛けのおもしろさを理解する。」	
第9回	身の周りにある説明的表現（広告）の工夫 「身の周りにある広告の表現を分析し，読み手に対する「写真」「色」「キャッチコピー」「レイアウト」等の作り手の工夫を理解する。」	
第10回	身の周りにある説明的表現（取り扱い説明書）の工夫 「身の周りにある「取り扱い説明書」の表現を分析し、読み手に対する「イラスト」「レイアウト」等の作り手の工夫を理解する。」	
第11回	読者を説得する説明的文章の仕掛け 「教科書に取り上げられている説明的文章について分析し，読者を説得しようとする「段落」「結論」「事例」等の仕掛けの工夫を理解する。」	
第12回	読者を説得する説明的文章の表現 「前時に取り上げた説明的文章の事例の表現を分析し，読者にイメージをもたらす文学的表現の工夫を理解する。」	
第13回	言葉を味わう詩的表現 詩を読み味わい，「比喩表現」「象徴的表現」等の詩的表現のおもしろさを理解する。」	
第14回	読者の「予測」を利用した読み物（１） 怪談の表現や仕掛けを分析し，「予測→不安→緊張→出現」という怪談の仕掛けを理解する。」	
第15回	読者の予測を利用した読み物（２） ショート・ショート等の表現や仕掛けを分析し，「予測→タメ→オチ」という予測を外すおもしろさを理解する。」	

授業計画　備考2	補講や天候等により授業内容が前後したり変更になる場合がある。

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な学習態度，授業中の課題への取り組みや提出状況などを評価する。
レポート	30	授業ごとの学習内容の定着度を評価する。提出されたレポートにはコメントを記載して返却し，学習の深まりを確認できるようにする。
小テスト	40	学習内容のまとまりごとにその定着度を評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	授業ごとにまとめ提出するレポートは，配布した資料を写すのではなく，自分で考えたことや深まったことを記述するように努める。
受講の心得	配付資料及びレポートをファイルしておくこと。 学生相互による話し合い活動では，積極的に参加し互いに考えを深めること。
授業外学修	１．事前に配布した資料は目を通し，授業に臨むこと。 ２．授業を通して理解した日本語表現の特徴や面白さをもとに，身の周りの日本語表現に関心を広げること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回プリント資料を配付する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	公立小中学校・小中一貫校国語科教員(27年)，国立附属中学校国語科教員(4年)，市教育委員会指導主事(3年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	絵本，物語や説明的文章等の表現分析

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．文章のジャンルに合せて，日本語表現の特徴を捉え，そのおもしろさを理解している。	・様々なジャンルの文章を比較しながら，日本語表現の特徴を捉え，そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について，多様な視点から日本語表現の特徴を捉え，そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を捉え，そのおもしろさを理解している。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を見つけることはできるが，そのおもしろさを感じるには至らない。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を見つけることが難しい。
知識・理解	２．様々なジャンルにおける日本語表現の特徴を捉え，日本語表現についての基礎的な知識を身に付けている。	・様々なジャンルにおける日本語表現の特徴を捉え，日本語表現についての基礎的な知識を十分に身に付けている。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を捉え，日本語表現についての基礎的な知識を十分身に付けている。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を捉え，日本語表現についての基礎的な知識を身に付けている。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を捉え，日本語表現についての基礎的な知識の定着がやや不十分である。	・取り上げた文種について，日本語表現の特徴を捉え，日本語表現についての基礎的な知識の定着が不十分である。
技能	3．文章のジャンルに合せて，日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・様々なジャンルにおける文章の特徴を踏まえて，日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・取り上げた文種の特徴を踏まえて，日本語表現のおもしろさに関係する様々な工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・取り上げた文種の特徴を踏まえ，日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけている。	・日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけることがやや不十分である。	・日本語表現のおもしろさに関係する工夫された表現や仕掛けを見つけること不十分である。
態度	4．日本語表現に興味・関心をもち，様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫を理解して表現活動に生かそうとしている。	・様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫を十分に身に付け，創意工夫して表現活動を行っている。	・様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫を十分に身に付け，適切な分量の文章で表現活動を行っている。	・様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫を身に付け，それを生かした表現活動を行っている。	・様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫を身に付けることと，それを踏まえた表現活動がやや不十分である。	・様々なジャンルにおける特徴的な表現や仕掛けの工夫を身に付けることと，それを踏まえた表現活動を行うことが難しい。

科目名	芸術			授業番号	SA212	サブタイトル	(音楽)		
教員	河田　健二								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	音楽の様々な要素を取り出し，紹介する。音楽とは切っても切り離せないキリスト教との関わり合いや，器楽・声楽の各分野について学修する。また，実際に声を出して歌唱をする。								
到達目標	音楽について深く理解し，また人前で堂々と歌唱できるようになることを目標とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	キリスト教と音楽１ キリスト教音楽成立以前の音楽	
第2回	キリスト教と音楽２ キリスト教成立～中世の音楽	
第3回	キリスト教と音楽３ 宗教改革～古典派の時代	
第4回	キリスト教と音楽４ ロマン派から近・現代	
第5回	歌曲について１（発声法を含む） 大きな声を出してみよう	
第6回	歌曲について２（歌唱の方法について） 音の高低のコントロールと響きについて	
第7回	オペラへの誘い１ オペラの成立と発展について	
第8回	オペラへの誘い２ 他の舞台芸術とオペラとの比較	
第9回	オペラへの誘い３ 実際の作品の鑑賞と解説	
第10回	器楽の魅力１ 弦楽器について，独奏曲とアンサンブル	
第11回	器楽の魅力２ 独奏楽器としてのピアノ・オルガン	
第12回	器楽の魅力３ オーケストラの成立と発展	
第13回	器楽の魅力４ 電子の力・電気の力による音楽について	
第14回	音楽の現在，そしてこれから 現在音楽というものがどのような立ち位置にあるのか，また今後について考える	
第15回	歌唱発表会 各受講者の選んだ楽曲を歌唱する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	授業への積極的な参加，熱心な受講態度を評価する。
レポート	50	与えられたテーマに対して自分の考えを表現できていることを評価する。（最終レポート）
小テスト		
定期試験		
その他	40	上手下手ではなく，歌唱に対する真剣な取り組み方について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	幅広く音楽に興味を持つこと。決してある特定の分野のみに偏らないよう注意すること。
授業外学修	予習は必ずしも必要ではないが，学習した内容が定着するように各回の内容を自分の言葉で再定義すること。また，歌曲の回については実際に声を出すので，要領をつかめるまで各自で反復練習をすること。また，最終回では受講生全員の前で歌っていただくので，そのための準備を怠らないこと。以上の内容を週４時間程度行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用しないが，必要な文献については各回プリントを配布する予定。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．キリスト教と音楽の関わりについての理解	キリスト教と音楽の関わりについて完全に理解している	キリスト教と音楽の関わりについてほぼ理解している	キリスト教と音楽の関わりについて大まかに理解している	キリスト教と音楽の関わりについてあまり理解していない	キリスト教と音楽の関わりについてほぼ理解していない
知識・理解	２．各分野の音楽についての理解	各分野の音楽について完全に理解している	各分野の音楽についてほぼ理解している	各分野の音楽について大まかに理解している	各分野の音楽についてあまり理解していない	各分野の音楽についてほぼ理解していない
知識・理解	３．発声・歌唱についての理解	発声・歌唱について完全に理解している	発声・歌唱についてほぼ理解している	発声・歌唱について大まかに理解している	発声・歌唱についてあまり理解していない	発声・歌唱についてほぼ理解していない

科目名	法学概論			授業番号	SA221	サブタイトル	(学生のための法律)		
教員	馬場　幸三 他								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	弁護士による学生のための法律の授業である。身近な問題を通じて、法によって権利・義務が発生することを理解し、法を使うことのできる社会人となってもらうために行う。授業の中で、裁判手続きを深めるために、実際に裁判を傍聴してもらう予定である（その関係で授業計画が変更することがあるが、その場合は事前に知らせるものとする）。								
到達目標	受講により、大学生の身の回りで起こる問題について、法的問題として深く考える法的思考を養成し、社会人となったときにも役立つ法的知識を修得している。なお、本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち、＜知識・理解＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション。 法学の総論。法律とは何か、なぜ法律を学ぶのかについて考える。 テキスト「本書を読む前に（ⅳ頁）」、第14章	馬場　幸三　弁護士
第2回	大学・授業でのトラブルとサークルでのトラブルについて、気をつけるべき点を学ぶ。 テキスト　第1章	福田　力希斗　弁護士
第3回	日常生活で発生しうるお金のトラブルを知り、日常生活の中での気を付けるべき点を学ぶ。 テキスト　第2章	谷口　怜司　弁護士
第4回	日常生活において特に身近な事象（アパートの賃借やＳＮＳトラブル）に関する諸問題を学ぶ。 テキスト　第3章1、3	馬場　幸三　弁護士
第5回	著作権について学ぶ。	髙瀬　鈴香　弁護士
第6回	交際相手等とのトラブルについての知識、対処法を学ぶ。	髙瀬　鈴香　弁護士
第7回	我が国の民法における家族関係の規律のなかから、夫婦関係（婚姻、離婚）、子どもの権利等について学ぶ。	青田　夢　弁護士
第8回	働くとはなにか。アルバイトや正社員などの労働契約の成立から終了までを学ぶ。 テキスト　第3章2、第4章、第6章	谷口　怜司　弁護士
第9回	旅行トラブルと就職活動でのトラブルに対する対処法について学ぶ。 テキスト　第5章	山本　愛子　弁護士
第10回	裁判傍聴を通じて、実際の裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。 テキスト　第10章	玉井　康太郎　弁護士
第11回	裁判傍聴を通じて、実際の裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。 テキスト　第10章	玉井　康太郎　弁護士
第12回	刑事裁判手続き（裁判員裁判、被害者参加を含む）の流れ及びその内容について学ぶ。 テキスト　第10章【裁判傍聴予備日】	玉井　康太郎　弁護士
第13回	民事裁判手続きの流れ及びその内容について学ぶ。	青田　夢　弁護士
第14回	交通事故に遭遇した場合の3つの責任（民事責任・刑事責任・行政責任）等について学ぶ。 テキスト　第11章	福田　力希斗　弁護士
第15回	我が国の民法における家族関係の規律のなかから、相続について学ぶ。 テキスト　第13章	髙瀬　鈴香　弁護士
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講態度、発表・討議への参加等によって評価する。
レポート	50	毎回提示するレポート（400字以上）の内容・提出期限・最低字数の厳守等によって評価する。 レポートについては、課題提出後の授業で全体的な傾向等についてコメントする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業時の携帯電話等の使用は禁止する。
授業外学修	(1)予習として、テキストの内容にかかわる部分を読み、疑問点を明らかにしておくこと。 (2)予習・復習として配布するプリントをよく読むこと。 (3)日常的に新聞・テレビニュースによく接しておくこと。 以上(1)～(3)を、週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新版　学生が知っておきたい生活の中の法律	細川幸一	慶応義塾大学出版社	978-4-7664-2815-5	1800円＋税
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	弁護士(馬場幸三17年),弁護士(谷口怜司15年),弁護士(山本愛子15年),弁護士（青田夢10年）,弁護士(髙瀬鈴香5年),弁護士(福田力希斗3年),弁護士(玉井康太郎2年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	法律事務所に勤務する弁護士が、実際の事例や相談内容を踏まえた講義を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	各授業のテーマに関わる法律の基本的な内容を理解している。	学習した法律に関する知識について、正確に理解し述べることができる。	学習した法律に関する知識について、正確ではないがほぼ理解し述べることができる	学習した法律に関する知識について、概ね述べることができる。	学習した法律に関する知識について、正確に述べることができないが、自分の言葉では表現できる。	学習した法律に関する知識について、理解が乏しく自分の言葉で表現することができない。
態度	授業に積極的に参加できる。	自ら発言し、疑問を解決するなど授業に積極的に臨む姿勢が見受けられる。	授業に前向きに臨む姿勢が見受けられる。	授業に出席し、授業内容を理解しようとしている。	授業に出席しているが、授業内容を理解しようとする態度が不十分である。	授業に出席しているが、授業内容を理解しようとする意欲が感じられない。

科目名	社会福祉概論			授業番号	SA223	サブタイトル	(広義の社会福祉とは何かについて明らかにする。)		
教員	松井　圭三								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	社会福祉は，私たちの生活問題を対象としているのでその概念は広い。そのため，社会福祉の本質を理解しようと思えば，歴史的変遷や思想，制度，政策を見ていく必要がある。加えて，社会福祉は実践学問であるので自然科学や人文科学・社会科学との関連についても学習をすることが肝要である。また，対人援助技術が現場では問われるのでソーシャルワークの概念についても言及しなければならない。 本講義では，福祉現場や地域社会で課題となっている福祉トピックスをとりあげながら社会福祉の本質と現状及びこれからの展望について考察していく。授業形式としては，講義，ビデオ視聴を主とする。また，最近の新聞等を教材にディスカッションできる機会を設定したいと考えている。								
到達目標	・社会福祉実践能力を修得し説明できる。 ・社会福祉の幅広い知識と教養を修得し，説明できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	社会福祉とは（社会福祉の本質を中心に）のポイントを抑える。 社会福祉の概念、理念について学ぶ。	
第2回	社会福祉の視点（社会福祉の役割を中心に）のポイントを抑える。 現在の少子高齢化と社会福祉の関係を学ぶ。	
第3回	社会福祉の動向（1980年代から今日までの福祉政策を中心に）のポイント 1980年代から現在までの社会福祉の動向を概観する。を抑える。	
第4回	社会福祉の発展（英国，日本の社会福祉の歴史を中心に）のポイントを抑える。 イギリスの社会福祉の沿革、わが国の社会福祉の沿革について学ぶ。	
第5回	社会福祉の法制と機構（厚生労働省，地方自治体の社会福祉行政を中心に）のポイントを抑える。 社会福祉の行政、財政の現状と課題について学ぶ。	
第6回	社会福祉従事者（福祉マンパワーの課題を中心に）のポイントを抑える。 社会福祉専門職の資格の特徴と課題について学ぶ。	
第7回	社会福祉施設（社会福祉施設の概要と課題を中心に）のポイントを抑える。 社会福祉施設の概要と課題について学ぶ。	
第8回	低所得福祉（生活保護制度の意義，種類を中心に）のポイントを抑える。 「生活保護法」、「生活困窮者自立支援法」の概要と課題について学ぶ。	
第9回	高齢者福祉（高齢者に関する福祉サービスを中心に）のポイントを抑える。 年金、医療、介護の制度の概要と課題について学ぶ。	
第10回	障害者福祉（障害の概念と障害者の実態を中心に）のポイントを抑える。 障害の概念と「障害者総合支援法」の概要と課題について学ぶ。	
第11回	児童家庭福祉（児童福祉の歴史と理念，制度を中心に）のポイントを抑える。 「児童福祉法」、「児童福祉関連法」の概要と課題について学ぶ。	
第12回	医療福祉（医療，保健，福祉の連携を中心に）のポイントを抑える。 医療、保健、福祉の連携と課題について概観する。	
第13回	地域福祉（地域を支える機関や人々を中心に）のポイントを抑える。 地域福祉の概念、理念、現状と課題について学ぶ。	
第14回	社会福祉援助技術（対人援助技術を中心に）のポイントを抑える。 ケースワーク、グループワーク、コミュニティワーク等の社会福祉の方法について学ぶ。	
第15回	社会福祉の展望と課題のポイントを抑える。 社会福祉のこれからとこれまで学んだ社会福祉の総括を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	意欲的な受講態度・発表・グループワークでの参加，予習，復習，課題提出によって評価する。
レポート	90	課題が的確に解答しているかに評価する。またレポートの内容を点検し、コメントを標記の上返却する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	本講義は講義形式とグループ討議で進めます。 ・予習と授業中の積極的参加を求めます。 ・自ら考える姿勢で授業に臨んでください。
授業外学修	・予習として，教科書のうち，授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 ・復習として，課題のレポートを書く。 ・授業で紹介された参考文献を精読する。 本講義では，週4時間程度の授業外学習が必要となる。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新編社会福祉概論	今井慶宗他	大学教育出版	978-4-86692-190-7	2200円
NIE社会福祉演習	今井慶宗ほか	大学教育出版	978-4-86692-247-8	2400円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業において，随時紹介します。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	観音寺市シルバー人材センター3年，観音寺市福祉事務所身体障害者福祉司2年
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	実務経験を「高齢者福祉」，「障害者福祉」に活かす。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．社会福祉制度を理解する。	社会福祉制度をすべて理解できる。	社会福祉制度を概ね理解できる。	社会福祉制度を理解できる。	社会福祉制度をほとんど理解できない。	社会福祉制度を理解できない。
思考・問題解決能力	１．利用者本位の支援について理解する。	利用者本位のすべてを理解できる。	利用者本位を概ね理解できる。	利用者本位を理解できる。	利用者本位をほとんど理解できない。	利用者本位を理解できない。

科目名	時事問題			授業番号	SA224	サブタイトル			
教員	倉田　致知								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	ラジオ、新聞、テレビ、SNS、などを通して、政治、経済、経営、などについてのニュースが日々流れている。本講義では、これらの領域におけるニュースを取り上げ、その状況ならびにその背景や理由を解説する。基礎的な専門用語のみならず、ニュースの背景や理由を理解することにより、社会現象を多角的に捉えることができ、且つ予測できない時代において人生を切り開いていくために必要な力の涵養に繋がる。								
到達目標	政治、経済、経営に関する時事について関心を持ち、社会と自己の接点を見出しながら、専門用語、背景や理由、解決策の内容、などについて客観的に説明できるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	物価と税について理解しよう①：GDP、GNI、デフレーション、インフレーション、スタグネーション、スタグフレーション、名目と実質、消費税、所得税、住民税、社会保険料、消費者物価指数、企業物価指数、東京一極集中、物価上昇率推移、可処分所得の推移、など。	
第2回	物価と税について理解しよう②：GDP、GNI、デフレーション、インフレーション、スタグネーション、スタグフレーション、名目と実質、消費税、所得税、住民税、社会保険料、消費者物価指数、企業物価指数、東京一極集中、物価上昇率推移、可処分所得の推移、など。	
第3回	選挙、議員、公務員について知ろう①：政治、衆議院と参議院、比例代表、小選挙区、選挙権、被選挙権、直接民主制と間接民主制、政党政治、1票の格差、公職選挙法、期日前投票、贈収賄（収賄、贈賄、賄賂）、地方選挙、地方議員、議員の報酬、世襲議員、国会の役割、三権分立、衆議院の優越、国家公務員、官僚、地方公務員、など。	
第4回	選挙、議員、公務員について知ろう②：政治、衆議院と参議院、比例代表、小選挙区、選挙権、被選挙権、直接民主制と間接民主制、政党政治、1票の格差、公職選挙法、期日前投票、贈収賄（収賄、贈賄、賄賂）、地方選挙、地方議員、議員の報酬、世襲議員、国会の役割、三権分立、衆議院の優越、国家公務員、官僚、地方公務員、など。	
第5回	世界を見よう①：国際収支、経常収支、金融収支、資本移転等収支、誤差漏洩、対外資産負債残高、逆輸入、直接投資、ボーン・グローバル企業、ＥＵ、NATO、WTO、FTAとEPA、ASEAN、APEC、RCEP、TPP、CPTPP、BRICS、PKO、PKF、NGO、SDGs、JICA、など。	
第6回	世界を見よう②：国際収支、経常収支、金融収支、資本移転等収支、誤差漏洩、対外資産負債残高、逆輸入、直接投資、ボーン・グローバル企業、ＥＵ、NATO、WTO、FTAとEPA、ASEAN、APEC、RCEP、TPP、CPTPP、BRICS、PKO、PKF、NGO、SDGs、JICA、など。	
第7回	世界を見よう③：国際収支、経常収支、金融収支、資本移転等収支、誤差漏洩、対外資産負債残高、逆輸入、直接投資、ボーン・グローバル企業、ＥＵ、NATO、WTO、FTAとEPA、ASEAN、APEC、RCEP、TPP、CPTPP、BRICS、PKO、PKF、NGO、SDGs、JICA、など。	
第8回	失われた30年について把捉しよう①　：財政、国債、債務残高、国の一般会計と特別会計、バブル経済とその崩壊：昔の公定歩合、昔の預金利息、プラザ合意、円高ドル安、投機、デフレスパイラル、不良債権、貸し渋り、貸しはがし、土地神話、失われた30年、など。	
第9回	失われた30年について把捉しよう②　：財政、国債、債務残高、国の一般会計と特別会計、バブル経済とその崩壊：昔の公定歩合、昔の預金利息、プラザ合意、円高ドル安、投機、デフレスパイラル、不良債権、貸し渋り、貸しはがし、土地神話、失われた30年、など。	
第10回	格差や労働市場について知ろう①。中央値と平均値、金融資産、金融資産格差、世代別資産格差、ローレンツ曲線、ジニ係数、実質賃金、名目賃金、賃金収入格差、男女間賃金格差、企業規模別賃金収入格差、氷河期世代、派遣労働、失業率、失業の定義、物価上昇率、消費税、所得税、住民税、社会保険料、手取りと額面、など。	
第11回	格差や労働市場について知ろう②。中央値と平均値、金融資産、金融資産格差、世代別資産格差、ローレンツ曲線、ジニ係数、実質賃金、名目賃金、賃金収入格差、男女間賃金格差、企業規模別賃金収入格差、氷河期世代、派遣労働、失業率、失業の定義、物価上昇率、消費税、所得税、住民税、社会保険料、手取りと額面、など。	
第12回	証券市場を理解しよう①。日経平均、TOPIX、通貨、為替、円高と円安、上場企業と非上場企業、株式取引、証券取引所、証券会社、配当、株主優待、プライム、スタンダード、グロース、Tokyo Pro、ダウ・ジョーンズ工業株価平均、ナスダック総合指数、など。	
第13回	証券市場を理解しよう②。日経平均、TOPIX、通貨、為替、円高と円安、上場企業と非上場企業、株式取引、証券取引所、証券会社、配当、株主優待、プライム、スタンダード、グロース、Tokyo Pro、ダウ・ジョーンズ工業株価平均、ナスダック総合指数、など。	
第14回	投資を考えよう①。若年層の資産形成の現状、現物取引、信用取引、ETF・ETN、REIT、投資信託の仕組み、FX（Foreign Exchange：外国為替証拠金取引）、暗号資産(仮想通過)、ビットコイン、ブロックチェーン、債券と金利の関係、アクティブファンドとインデックスファンド、信託報酬の意味、インカムゲインとキャピタルゲイン、複利効果、新NISA投資、iDeCo、など。	
第15回	投資を考えよう②。若年層の資産形成の現状、現物取引、信用取引、ETF・ETN、REIT、投資信託の仕組み、FX（Foreign Exchange：外国為替証拠金取引）、暗号資産(仮想通過)、ビットコイン、ブロックチェーン、債券と金利の関係、アクティブファンドとインデックスファンド、信託報酬の意味、インカムゲインとキャピタルゲイン、複利効果、新NISA投資、iDeCo、など。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業や小テストへの取り組みの姿勢・態度	10	小テストの取り組み姿勢、予習・復習、提出物の状況、授業資料のファイリング状況、など。
小テスト	60	単元毎あるいは毎回、専門用語の理解度やニュースの背景について小テストが実施される。ユニパのテスト機能を使う。
学期末課題	30	専門用語そのものの意味、解決策の内容やその影響、理由や背景などの把握を目的とした学期末課題（ニュース時事能力検定試験の3級レベルを想定）に取り組む。

評価の方法：自由記載	項目ごとの評価の割合は変更することがある。
受講の心得	1．日頃より環境問題，政治・経済に関する時事ニュースに関心を持って目を通しておくこと。 2．授業態度は，礼儀正しい態度で臨むこと。 3．授業資料を適時、配布する。かなりの量になるので必ずファイルリングすること。

授業外学修	1．予習として，授業ごとに該当する項目を熟読し，疑問点を明らかにしておく。 2．復習として，授業で学んだことを教科書を見て再度学修しておく。 3．授業で紹介した事例を新聞・インターネット等で確認する。 以上の内容を，週当たり４時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要に応じ，授業に際しプリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要の都度，随時紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	『政治・経済・経営における基礎的な専門用語の理解度』	政治・経済・経営における基礎的な専門用語を完全に理解している。	政治・経済・経営における基礎的な専門用語をある程度理解している。	偏りは気になるが、特定の領域については、専門用語を完全に理解している。	偏りは気になるが、特定の領域については、専門用語をある程度理解している。	どの領域についても基礎的な専門用語を理解していない、あるいはそもそも読めない。
知識・理解	『背景や理由の理解度』	政治、経済、経営の領域におけるニュースの背景や理由を完全に理解している。	政治、経済、経営の領域におけるニュースの背景や理由をある程度理解している。	偏りは気になるが、特定の領域については、ニュースの背景や理由を完全に理解している。	偏りは気になるが、特定の領域については、ニュースの背景や理由をある程度理解している。	どの領域についても背景や理由に関心が無い。
思考・問題解決能力	『対策や影響の把握』	講じられた対策の内容やその効果、あるいは副作用的な影響を十分に説明できる。	講じられた対策の内容やその効果、あるいは副作用的な影響をある程度説明できる。	偏りがあるが、特定の領域については、少なくとも講じられた対策の内容を完全に説明できる。	偏りがあるが、特定の領域については、少なくとも講じられた対策の内容をある程度説明できる。	講じられた対策の内容やその効果、あるいは副作用的な影響などに関心が無い。
思考・問題解決能力	『解決手法適用能力』	資料を見ずに、解決手法を完全に適用てきている。	資料を見ながら、解決手法を完全に適用てきている。	資料を見るだけでは難しいが、教員や友人に確認しつつならば、解決手法を完全に適用てきている。	資料を見るだけでは難しいが、教員や友人に確認しつつならば、ある程度解決手法を適用てきている。	資料さえ見ない。解決手法を適用する気も無い。
態度	『授業や課題への姿勢や意欲』	予習や復習に十分に時間を費やし、課題に対して計画的に取り組んでいる。	予習や復習に十分に時間を費やし、課題に対してある程度計画的に取り組んでいる。	予習や復習の領域と時間に偏りがあるが、課題に対してある程度計画的に取り組んでいる。	予習や復習の領域と時間に偏りがあり、どこの何を見れば良いのかが十分には分かってはいないが、定められた日時までに課題に取り組んでいる。	予習や復習に時間を費やしていない。そもそも授業資料さえも持っていない。何が課題か分かっていない。

科目名	社会学			授業番号	SA225	サブタイトル	(配偶者の選択と家族編成の社会的規則)		
教員	中田 周作								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義では，社会学の方法によって家族を理解するための枠組みを学習する。 現代社会における家族の姿は，多元化する価値意識のもとで，その形態や機能が多様化している。 そのため，本講義では家族の中核をなす夫婦関係に焦点をあて，家族編成に関する社会的規則について講義する。								
到達目標	現代社会の家族集団を，より深く理解するためには社会学的な枠組みを活用すると有効である。 これにより，地域社会の中に存する様々な家族を理解し，実践活動に実際に資することができる知識や分析の視角を身につけることを目標とする。 なお，本科目は，ディプロマポリシーに掲げた学士力のうち＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	配偶者選択をめぐる社会状況の変化 現代社会の現状	
第2回	家族社会学における「家族」の定義 家族集団の特徴と世帯	
第3回	家族を対象とした社会学的アプローチの方法 家族をいかにとらえるか 漫画・映画などに描かれた家族のかたち	
第4回	家族の類型と分類 夫婦家族制・直系家族制・複合家族制の理解	
第5回	青年期の異性交際に関する社会学的意味の考察 日本における青年期の異性交際の現状と国際比較	
第6回	青年期の異性交際の実態 出生力調査にみる実態	
第7回	家族編成の社会的ルールとは何か 配偶者の選択はいかにして行われるか	
第8回	配偶者選択の社会的メカニズム 配偶者の選択と結婚	
第9回	配偶者選択のプロセス 出生力調査における独身者調査と夫婦調査の比較	
第10回	結婚の社会的意味 結婚はどのような意味をもつのか	
第11回	結婚の社会的機能 結婚するとどのようになるのか	
第12回	離婚の社会的意味と機能 離婚に関する意味付け 離婚の現状に関するデータ	
第13回	家族の新しい形 変貌する家族像 多元化する価値観	
第14回	子どもの養育 家族集団における子どもの社会化	
第15回	老親の介護 高齢化社会の中の家族集団	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
最終試験レポート	70	各自で最終レポートを作成し提出する。
コメントペーパー	30	基本的には、毎回、提出する。理解の状況の確認を行う。提出物については、次回の授業の冒頭で共有し、コメントする。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	自らの配偶者選択や，家族集団に興味・関心があることが望ましい。 しかしながら，あまりにも身近で現実的な問題であるため，ある程度，客観視できる受講態度が望ましい。
授業外学修	1．配付資料を事前に読んでくること。 文章を読むだけではなく，掲載されている図表の意味するところを考える。 具体的なアプローチの方法は，授業時間内に指示する。 2．最終レポートの課題を探しながら受講すること。 テーマに関するニュースや，身近な出来事に関心をもつこと。 両方の課題を合わせて，週当たり4時間以上，取り組むこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	講義の進行にあわせて適宜紹介する。
その他	特になし。
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．家族社会学における基礎的な概念を理解できている。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解しており、自分の言葉で説明することができる。	家族社会学における基礎的な概念について、その社会背景を踏まえて理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、その関係を理解している。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えている。	家族社会学における基礎的な概念について、キーワードを覚えていない。
知識・理解	２．結婚の社会的機能と配偶者選択の規則について理解できている。	教育の歴史に係る重要事項について、その展開と社会的背景について理解している。	教育の歴史に係る重要事項の展開について理解している。	教育の歴史に係る重要事項について理解している。	教育の歴史に係るキーワードを覚えている。	教育の歴史に係るキーワードを覚えていない。
知識・理解	３．青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	関連するデータを踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	社会背景を踏まえて、青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができる。	青年期の異性交際に関するデータを、ほとんど読み解くことができない。	青年期の異性交際に関するデータを読み解くことができない。
思考・問題解決能力	１．データに基づき、家族に関する現状を考察することができる。	家族に関する現状を、複数のデータと社会背景を踏まえて考察を深め、説明することができる。	家族に関する現状を、複数のデータに基づき考察し、説明することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解し、考察することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができる。	家族に関する現状を、データに基づき理解することができない。

科目名	遊びの中の数学			授業番号	SA231	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	数学を抽象的なレベルでの理解のみでなく，具体的な事象や操作から数学的な規則を理解使用とすることも重要である．本授業では，遊びやゲームとして世の中で確立している話題を用いて，操作的活動を通じて数学の規則や概念を学習する．								
到達目標	１）遊びやゲーム等の具体的な話題の中に潜む数学的な考え方や規則を理解する． ２）問題解決の方法がもつ意外性について評価する． ３）手作業を含めた操作的活動により解決方法の理解を深める． なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	玉は何回跳ね返るか "ビリヤード"の台をモデルとした碁盤目状の長方形で，球を45度の角度で打ち出して，跳ね返りながらスミの穴に落ちるまでの跳ね返る回数を考える．シンプルな最終解が出るまでの理論的な説明の流れのおもしろさを解説する．	
第2回	2枚の正方形：くるくるピタッ！ 2枚の正方形の紙をずらした状態で重ねて，どこか１点にピンをたてて回転させると2枚がぴったり重なる方法を考える．解法の各ステップを理論的に考えることで，興味ある特徴が見えてくることを解説する．	
第3回	・サイコロの不思議 碁盤目状の枠にはまるサイズのサイコロを，前後左右に倒しながら，指定した位置に指定した番号の目を出す方法を考える．単純な最終解へ到達するまでの解決過程を議論する． ・一本道をつくろう マトリックス状に並んだブロックをあるルールに沿って"一筆書き"的な動きを試みる．すべてのブロックを通過できるか否かを決める要因は何かを考察し，そこから見えてくる一般的な性質を説明する．	
第4回	本当はいくら 連立方程式の応用問題として，ガソリンと軽油の本当の値段を未知数として，数人の購入者のデータをもとにガソリンと軽油の本当の値段を調べようとする話題に取り組む．解法を考える中で，連立方程式と1次関数のグラフとの対応を考えて，本当の値に近づく工夫とは何かを解説する．	
第5回	正方形を集めて正方形を作ろう 大小さまざまな正方形を敷き詰めていきながら全体として1つの正方形となるようにする方法を考える．正攻法的な方法・根拠を理論的に解説した上で，特殊な方法による結果等と比較する．	
第6回	倍数を裏返しにしていくと何が見えるかな 1から30までの数を書いたカードを並べ，2の倍数を裏返し，次に3の倍数を裏返し，・・・と続けることで最終的にどの番号カードが表向き(裏向き)になるかを実際に確かめる．結果を確認した上で，そのようになる理由を理論的に解説する．	
第7回	正方形から長方形へ作り替えよう 方眼紙上で作られた正方形をあるルールでタテ・ヨコ・斜めに切断して並べ替えて長方形を組み立てる試みをする．わずかな隙間が生じるが，そのことをいろいろなサイズの正方形で考えると，「フィボナッチ数」が見えてくるという話を解説する．	
第8回	円のスキマに円を 2つの同じ大きさの円のスキマに小さい円をはめる，さらにその時生じたスキマに小さい円をはめる，という仕事を繰り返すことで作られた大小の円の水平位置はどのようになるかという課題を考える．結果的に得られたシンプルな関係式のおもしろさを説明する．	
第9回	分数は美しい？ 方眼紙上で作られた長方形からあるルールで正方形を切り取っていくという仕事が「連分数」表現と対応することを解説する．さらに無理数を連分数表現すると極めて特殊な特徴が見られることを説明する．	
第10回	あなたの知らない因数分解 中学校・高校レベルの通常教育では学習しないスタイルの因数分解の方法を紹介する．各ステップのおもしろさを見せるとともに，2次多項式を2次関数とみなしてグラフ表示してみるとその特徴に関係性が見えてくることも解説する．	
第11回	長方形から正方形を取り出そう 方眼紙上で作られた長方形からあるルールで正方形を切り取っていく．各ステップで同じ大きさが何個切り取られるかの情報が「ユークリッドの互除法」と対応することを解説する．	
第12回	油分け算 目盛りのない容器3つを用いて，容器内の油から指定した数値の量を取り出す（古典的な）話題に取り組む．複雑な手順を図的表現で容易に解決する方法を紹介してその根拠を解説する．	
第13回	一人消えた トリックの分野で有名な，紙を動かす（円盤を回転させる）と「人が1人消えて見える」話題である．このトリックが上手くできる図の配置を考えることで，数学的な規則が見えてくることを解説する．	
第14回	トリックカード 第7回の「正方形から長方形へ作り替えよう」と本質は共通する話題であるが，こちらは，長方形の切断位置が異なっていて，その結果"単位正方形"１個分が余ってしまう現象を生み出すことを示す．最終的に，そのような現象をうまくつくるためには切断の際の長さをどうするかが重要であることを解説する．	
第15回	モエッスナーの数 1から順に整数を並べ，その中から２の倍数を除外する．残った整数の値を累加していくと何が見えてくるかを具体的操作で確認する．次に３の倍数を除外するとどうなるか等を順に操作で確認することで見えてくる法則性を解説する．	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する
レポート	60	レポート課題への取り組み状況を評価する レポートの解説をしながら、進めていく。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	

受講の心得	遊びレベルの活動の中にも数学的内容が見えることを知ってもらいたい.
授業外学修	1）特定の予習は必要としないが，授業で用いた用語や概念については必要に応じて復習する. 2）必要に応じて課題に取り組むこと.

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特定のテキストは使用しない．必要に応じてプリントを配布する.

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．数式と具体的場面の対応付けができるか	十分できる	かなりできる	基本的な形でできる	補助があればできる	できない
知識・理解	2．帰納的・演繹的な考え方ができるか	十分できる	かなりできる	基本的な形でできる	補助があればできる	できない
知識・理解	3．計算領域・図形領域の基礎的知識があるか	十分ある	かなりある	平均的にある	部分的にある	不十分である
思考・問題解決能力	1．教師から提示される解法を理解できる	十分理解している	かなり理解している	必要性を理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	2．解法手順の見通しをもつことができる	十分できる	かなりできる	基本的な形でできる	補助があればできる	できない
思考・問題解決能力	3．問題内容がもつ法則に気づくことができる	十分できる	かなりできる	基本的な形でできる	補助があればできる	できない

科目名	数理・データサイエンス・AI			授業番号	SA232	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得するという政府発表の目標を掲げた。この講義では，プログラミング，データサイエンス（社会調査）・AI，データベース（表計算）などの様々な情報分野を学ぶ上で必要とされる基本的な数理的な考え方について学習する。								
到達目標	社会の中でのAIの役割を理解する. データの特徴を読み解き，データの中に潜む特徴を理解できる. データに応じた可視化の手法を選択し，適切に説明ができる. 代表値や統計的検定等の基本的な知識を用いることができる. スプレッドシートを用いてデータの適切な集計・分析をすることができる. なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	社会で起きている変化(1) 情報を使いこなす社会，IoTとは，ビッグデータ	
第2回	社会で起きている変化(2) 多変量解析の手法	
第3回	AI時代の到来(1) AIとは，AIを使いこなす，AI社会	
第4回	AI時代の到来(2) 機械学習の仕組み	
第5回	データを守るための留意事項 情報セキュリティとは，セキュリティの注意点，個人情報の管理	
第6回	データ活用と必要なスキル データと分析結果を対応づける，分析結果の利用，Excelの活用	
第7回	データの準備とデータのタイプ ネットでデータを探す，分析用データと分析結果データ，母集団と標本	
第8回	アンケートデータを要約しよう データの要約とは，Excelで要約，グラフでデータを視覚化する	
第9回	データを比較して仮説を考えよう(1) 質的データを比較する，仮説をもとう，ファインディングを伝える，仮説の検証	
第10回	データを比較して仮説を考えよう(2) 統計的仮説検定とは	
第11回	データを代表値で要約する 平均値を活用する，平均値の計算で分布も確認する，ヒストグラムを活用する	
第12回	量的変数をばらつきで要約する ばらつきを数値化する，売り上げデータを分析する，誤差を加味する	
第13回	平均と標準偏差を活用しよう 新しい変数を作る，異なる単位の変数を比較する，大きなずれに着目する，外れ値を活用する	
第14回	散布図を活用して関係性を分析する 人事評価データを分析する，散布図から似ている評価を特定する，相関分析を応用する	
第15回	データ分析を活用するために知っておきたいポイント データ分析結果を伝える，分析手法の全体像を知る，さらなる学習へ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
課題	30	課題は毎回出される．課題の解説をしながら、進めていく。
定期試験	30	試験により指導内容に関する到達度を評価する.
レポート		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	積み重ねが重要なので復習を十分行い，分からないところは放置しておかないようにする。
授業外学修	毎週4時間以上，予習・復習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
はじめて学ぶ 数理・データサイエンス・AI	富士通ラーニングメディア	富士通ラーニングメディア	978-4-86775-081-0	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．代表値の概念を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	２．２変数間の相関の意味を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	３．仮説検定の概念を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	１．回帰分析を適用する場面を判断できる	十分判断できる	かなり判断できる	平均的に判断できる	部分的に判断できる	判断が不十分である
思考・問題解決能力	２．量的変数のばらつきを数値化する場面を判断できる	十分判断できる	かなり判断できる	平均的に判断できる	部分的に判断できる	判断が不十分である
思考・問題解決能力	３．解決のためのプロセスが見通せる	十分見通せる	かなり見通せる	平均的に見通せる	部分的に見通せる	見通しが不十分である
技能	１．元データから代表値を計算することができる	十分計算できる	かなり計算できる	基本的な形で計算できる	補助があれば計算できる	計算できない
技能	２．元データからヒストグラムを作成することができる	十分作成できる	かなり作成できる	基本的な部分は作成できる	補助があれば作成できる	作成できない
技能	３．元データから散布図が作成できる	十分作成できる	かなり作成できる	基本的な形で作成できる	補助があれば作成できる	作成できない

科目名	体育実技			授業番号	SA241	サブタイトル	（スポーツに親しもう）		
教員	梶谷　信之								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	実技（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	各チームの課題を基にメンバーで協力しながら，各種のスポーツ（集団的スポーツ・個人的スポーツ）の練習や試合に取り組む。								
到達目標	健康的な生活を送るために，運動の大切さ・楽しさなど実践を通して体得することをねらいとするとともに，集団でのコミュニケーション能力の向上や基本的なルールの理解・運動技能の習得を図ることを目標とする。 なお本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	卓球I（シングルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） シングルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にシングルス・ゲームを行います。 1対1で対戦し，リーグ戦方式でゲームを行います。	
第2回	卓球II（シングルスの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） シングルスの基本技術を反復しつつ，シングルス・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第3回	卓球III（ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルスの成績でペアを組み，2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。	
第4回	卓球IV（ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） ダブルスの基本技術を反復しつつ，ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第5回	バドミントンI（シングルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） シングルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にシングルス・ゲームを行います。 1対1で対戦し，リーグ戦方式でゲームを行います。	
第6回	バドミントンII（シングルスの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） シングルスの基本技術を反復しつつ，シングルス・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第7回	バドミントンIII（ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルスの成績でペアを組み，2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。	
第8回	バドミントンIV（ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） ダブルスの基本技術を反復しつつ，ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第9回	ソフトバレーボールI（ルールと基本技術の理解およびゲームの導入） 基本的なルールの確認と基本技術の練習を行います。 練習後にグループを作ってゲームを行います。	
第10回	ソフトバレーボールII（基本技術の習得とゲームの導入） 基本技術を反復しつつ，戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第11回	ソフトバレーボールIII（ゲームの展開） 基本技術を反復しつつ，各チームで戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第12回	室内ミニテニスI（シングルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） シングルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に、実際にシングルス・ゲームを行います。 1対1で対戦し，リーグ戦方式でゲームを行います。	
第13回	室内ミニテニスII（シングルスの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） シングルスの基本技術を反復しつつ，シングルス・ゲームにおける戦略を検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
第14回	室内ミニテニスIII（ダブルスのルールと基本技術の理解およびゲームの導入） ダブルスの基本的なルールの確認と基本技術の練習後に，実際にダブルス・ゲームを行います。 シングルスの成績でペアを組み，2対2の対戦をリーグ戦方式で行います。	
第15回	室内ミニテニスIV（ダブルスゲームの基本技術の習得とゲーム戦略の導入） ダブルスの基本技術を反復しつつ，ダブルス・ゲームにおける戦略をペアと検討しながらゲームを行います。 前週の試合結果でグループを作り，グループごとのリーグ戦方式でゲームを行います。	
授業計画　備考2	受講人数により，他のスポーツ種目に変更することがある。 （バレーボール，バスケットボール，グラウンドゴルフ，など）	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	70	授業の準備や後片付けに率先して取り組んだり，自らのスキルアップやメンバーと協力してゲームに参加する等積極的に授業参加している。 フィードバックは，その時その場で行う。体操服や体育館シューズを忘れた人は見学となり，減点される。授業中に携帯電話を見ていると減点される。
レポート		
小テスト	30	各競技ごとに実施した試合成績を参考にする。 フィードバックは，その時その場で行う。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	運動着を着用し，体育館シューズを使用する。 全員協力の上，準備・片付けをする。 携帯電話は見ない。（すぐに手の届く所へ置かない）

授業外学修	・日頃から自らの健康に対する興味関心や体力向上に努め，日常生活の中で自主的に身体を動かす習慣づくりを心がける。 ・各種目のルールやスキルアップを図るため，書籍や映像を活用して準備すること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特に使用しない。（作成資料を活用）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、基本的なルールを理解できている。	健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、ルールを細かく理解できている。	健康的な生活を送るために、運動の大切さを理解し、ほぼ基本的なルールを理解できている。	運動の大切さを理解し、基本的なルールを理解できている。	運動の大切さを理解しているが、基本的なルールの理解が十分ではない。	運動の大切さや、ルールを理解できていない。
技能	１．運動技能が優れている。	運動技能が優れている。	基本的な運動技能が優れている。	基本的な運動技能が身についている。	基本的な運動技能が十分ではない。	基本的な運動技能が身についていない。

科目名	英語A			授業番号	SA282	サブタイトル	(英語を楽しみながら学ぼう)		
教員	藤代 昇丈								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	英語の4技能の力を高めると同時に身近な話題についての英語を通して理解が深まるように演習を通して講義する。ペアやグループ活動も取り入れ，最終的には，社会的な話題について簡単な英語で発表できる力の養成を目指している。								
到達目標	・英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。 ・対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。 ・英文で扱われている題材について知識を得ることができる。 ・英語の４技能を駆使して情報を収集し発信できる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	Unit1 Goals in College Life 「充実した大学生活を送るには」という内容の英文を読み理解する。 語アクセントについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第2回	Unit2 Totoro Travels to Nepal 「ネパールでの国際交流の体験」という内容の英文を読み理解する。 文アクセントについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第3回	Unit3 Sightseeing in London 「国際観光都市ロンドン」という内容の英文を読み理解する。 聞こえなくなる音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第4回	Unit4 Sushi 「世界に誇る和食文化」という内容の英文を読み理解する。 聞こえなくなる音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第5回	Unit5 Fashion Trends 「ファッションを考える」という内容の英文を読み理解する。 弱形と強形について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第6回	Unit6 Shodo 「書道は昔の教養科目」という内容の英文を読み理解する。 音の同化について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第7回	Unit7 The Mississippi River 「アメリカ最長の河」という内容の英文を読み理解する。 無声化と有音化について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第8回	Unit8 Ocean Blue 「洞窟ダイビングの人気スポット」という内容の英文を読み理解する。 連結発音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第9回	Unit9 Studying Abroad及び到達度テスト 「留学する前に考えておくべきことは」という内容の英文を読み理解する。 音のリズムについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第10回	Unit10 The Northern Lights 「カナダのオーロラ観光」という内容の英文を読み理解する。 イントネーションについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第11回	Unit11 The Sound of the Saxophone 「サキソフォンの魅力的な音色」という内容の英文を読み理解する。 紛らわしい音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第12回	Unit12 Communication Tips 「良好な人間関係を築くには」という内容の英文を読み理解する。 半母音について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第13回	Unit13 Seasonal Festivals(Sekku) 「9月9日は菊のお節句」という内容の英文を読み理解する。 英語らしい響き(日本語と英語の違い)について理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第14回	Unit14 Electric Cars 「環境にやさしい車」という内容の英文を読み理解する。 数字の聞き取りについて理解しリスニング演習する。 穴埋めや並べ替え、自由英作文演習問題に解答し理解を深める。	
第15回	Unit15 The Amazing Brain 及び到達度テスト 「驚異的な脳の働き」という内容の英文を読み理解する。 意味のまとまりで展開を予想して聞くについて理解しリスニング演習する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予習の状況及び授業への貢献度を評価する。
レポート	20	課題のテーマについて調査し，整理・分析し，具体的かつ適切にまとめてあるかを評価する。 課題提出後の授業で、グループワークを通して発表及び相互評価を行い、内容についてコメントし、フィードバックを行う。
小テスト	40	各回の内容において有用な語彙・表現の理解度を評価する。講義の中間期，期末に授業内容の理解度を評価する。
定期試験		
その他	10	積極的に自分の考えや学習内容について発表できるかを評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・予習と復習を心がけ，辞書や資料等で調べるなど自主的な学習に努めること。 ・授業中にはペアやグループでの発話活動を実施するので積極的に参加すること。
授業外学修	1　テキスト内容については授業までに２時間以上予習すること。 2　毎回前時の授業内容についての小テストを実施するので２時間以上復習しておくこと。 3　課題については十分に調査してレポートを作成すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Amazing Visions of the Future -Aspects of Human Activity- 国際社会への英語の扉ーインプットからアウトプットで学ぶ四技能ー	伊與田洋之，赤塚麻里，土井峻，梶浦眞由美，マリキットG.マナラング，室淳子	南雲堂	9784523178880	2,310
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	県情報教育センター(3年)・県総合教育センター(4年)・県立高等学校英語科教諭(17年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	高校の学校現場に勤務し，英語科の指導に当たった経験から，学生のニーズを的確に把握し，わかりやすい解説や指導をすることができる。また，大学生として身につけておくべき語彙や表現などをペアやグループ活動などを取り入れアクティブかつ実践的な指導ができる。また，県情報教育センター及び県総合教育センター情報教育部の指導主事として，教職員の研修や指導業務に当たった経験から，ICTを活用して動画や音声を提示しわかりやすい授業を行うことができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.英語の基礎的な文法及び英文の構成方法を理解できる。	英語の基礎的な文法に則って，一定分量の英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで90%以上得点することができる。	英語の基礎的な文法に則って，短い英文を読んだり，聞いたりして内容を理解することができる。到達度テストで80%程度得点することができる。	短い英文を読んだり，聞いたりしておおよその内容を理解することができる。到達度テストで70%程度得点することができる。	英語の基礎的な文法は理解しているものの，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することが困難である。到達度テストで60%程度の得点である。	英語の基礎的な単語や文法の理解が不十分で，短い英文を読んだり，聞いたりしても内容を理解することができない。到達度テストで50%未満の得点である。
知識・理解	2.対話でよく使われる英語表現を実際に用いることができる。	既習の英単語や英語表現を自由に用いて，相手と話したり，文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を応用して，相手と話したり，短い文章を書いたりして，自らの意志を伝えることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて，相手と対話を口頭で再現したり，書いたりすることができる。	テキストで用いられている英語表現を用いて，相手と音読対話練習することはできるが，十分に理解し応用することはできない。	テキストで用いられている英語表現を音読することが難しく，対話練習することも困難である。
知識・理解	3.様々なテーマについて知識を得ることができる	テキストでテーマとなっている世の中の出来事について理解し，自ら調べ，英文で紹介したり，発表することができる。	テキストでテーマとなっている世の中の出来事について理解し，まとめることができる。	テキストでテーマとなっている世の中の出来事について，講義を通して関心をもって議論することができる。	テキストの英文の内容の理解にとどまり，テーマとなっている世の中の出来事について自ら知ろうとしない。	テキストの英文内容のみならず，テーマとなっている世の中の出来事について，全く関心を持たない。

科目名	秘書学			授業番号	SB111	サブタイトル			
教員	仁宮 崇								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	秘書という職種に限らず，上司を補佐することは社会人の重要な仕事の一つである。秘書業務を通して社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇，技能について学ぶ。テキストやDVD教材を用いて接遇の視覚的な学修にも重点を置く。								
到達目標	・社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇，技能を学び，秘書検定2級程度の知識を身に付ける。 ・医療機関を事例にした接遇を学ぶことで，来客応対，電話応対の基礎知識を理解する。 ・秘書業務や接遇事例で学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜態度＞ の修得に貢献する。								
授業計画 備考									

回	概要	担当
第1回	ビジネスマナーの基礎（1） 社会人としての服装，身だしなみ，挨拶，言葉づかいについて理解する。	
第2回	ビジネスマナーの基礎（2） 社会人としての電話，社内，訪問先，接客におけるマナーについて理解する。	
第3回	秘書業務の基本 秘書業務に携わる時の心構え，秘書業務の内容と進め方について理解する。	
第4回	秘書に必要とされる資質（1） 後輩の指導，秘書の仕事の限界，秘書の高度な判断力，企業機密，秘書のパーソナリティー，秘書業務に携わる時の心構えについて理解する。	
第5回	秘書に必要とされる資質（2） 上司の指示の受け方，秘書の身だしなみ，業務の引き継ぎ，心遣い，必要な能力と資質について理解する。	
第6回	職務知識 補佐機能の本質，上司の出張，不意の客の対応，予約のある客の対応について理解する。	
第7回	接遇表現，話し方・電話応対の実際 好感を与える話し方，信頼される電話応対，尊敬語，謙譲語，言葉づかいについて理解する。	
第8回	秘書のマナー・接遇 席次，来客応対，弔辞のマナーと上書き，慶事などの上書きと贈答マナーについて理解する。	
第9回	秘書の技能（1） 宛名，書類の分類方法，弔事，敬称，時候の挨拶，ビジネス文書の慣用句，年齢について秘書検定の問題を解きながら理解する。	
第10回	秘書の技能（2） 社交文書，尊敬語と謙譲語，表書きについて秘書検定の問題を解きながら理解する。	
第11回	秘書の技能（3） 敬語，接遇，社内文書，慣用句，上書き，社外文書，グラフ作成について秘書検定の問題を解きながら理解する。	
第12回	医療機関を事例にした接遇（1） あいさつ，表情，態度，身だしなみ，言葉づかいの事例を見て接遇について理解する。	
第13回	医療機関を事例にした接遇（2） 電話応対，受付応対等の事例を見て接遇について理解する。	
第14回	医療機関を事例にした接遇（3） 感じの良い態度や表情，心配りを示す言葉づかいの事例を見て接遇について理解する。	
第15回	医療機関を事例にした接遇（4） クレームへの対応等の事例を見て接遇について理解する。	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	受講態度，毎回提出する感想の量と質で評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	70	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	試験は持込不可である。
受講の心得	仕事をする上でのビジネスマナー，接遇の基本を身に付ける気持ちで取り組む。日常生活においても気持ちの良い挨拶，行動を心がけること。一般事務，営業・販売，サービス，医療事務等で就職を考えている学生は，参考になる事例が多い。秘書検定に関心のある学生は，6月，11月，2月に行われる秘書検定3級，2級の試験対策でもあることを意識する。すでに秘書検定2級に合格している学生は，知識や理解をさらに深めて上位級に挑戦することを推奨する。資格試験のみならず，就職試験にも出題されることがあるため，就職試験対策にもつながることを意識して受講すること。
授業外学修	1. テキスト，講義資料を読み，問題を復習する。 2. 会話の中で，尊敬語，謙譲語，丁寧語を意識して正しく使用する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
改訂2版 出る順問題集 秘書検定2級に面白いほど受かる本	佐藤 一明	KADOKAWA/中経出版	978-4046041029	1，400 + 税

使用テキスト：自由記載	講義資料

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	秘書検定2級実問題集（実務技能検定協会） 秘書検定準1級実問題集（実務技能検定協会） マンガでわかる秘書検定2級直前対策（トレンドプロ） 秘書業務入門（DVD：日本経済新聞出版社） 秘書検定準1級面接合格マニュアル （DVD：実務技能検定協会） 秘書検定1級面接合格マニュアル （DVD：実務技能検定協会） 病医院職員のための接遇マナー講座(DVD：日経ヘルスケア21） 医療スタッフの接遇マニュアル（DVD：日本経済新聞出版社）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	医療機関で事務職員として経験（5年）を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	医療機関での患者・来客応対，電話応対等の接遇経験，上司や医師から指示を受けて業務をしてきた経験をもとに、社会人としてのビジネスマナーを理解できるように授業を展開する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇，技能を学び，秘書検定2級程度の知識を身に付ける。	社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇において大変よく知識が身に付けている。	社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇において十分な知識が身に付いている。	社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇において知識が身に付いている。	社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇において知識が不十分である。	社会人として必要な業務知識，ビジネスマナー，接遇において知識がない。
知識・理解	2. 医療機関を事例にした接遇を学ぶことで，来客応対，電話応対の基礎知識を理解する。	来客応対，電話応対の基礎知識を大変よく理解している。	来客応対，電話応対の基礎知識においてだいたいの流れは十分理解している。	来客応対，電話応対の基礎知識において，理解している。	来客応対，電話応対の基礎知識において，理解が不十分である。	来客応対，電話応対の基礎知識において，応対の流れを理解できていない。
態度	1. 秘書業務や接遇事例で学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることができる。	秘書業務や接遇事例で学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることが大変よくできる。	秘書業務や接遇事例で学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることが十分できる。	秘書業務や接遇事例で学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることができる。	秘書業務や接遇事例で学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることがあまりできない。	秘書業務や接遇事例で学んだおもてなしの心を今後の人生に活かそうと努めることができない。

科目名	プレゼンテーション概論			授業番号	SB121	サブタイトル			
教員	脇坂　基徳								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本講義はPCを使わず、対人コミュニケーションの原点である「論理構成」と「伝達技術」を演習主体で学ぶ。 毎回のペアワークを通じて「他者に伝える」実技演習を繰り返すため、他者との対話や相互評価への主体的な参加が不可欠となる。 デジタルツールに頼らず、自身の言葉と身体表現のみで相手を納得させる本質的なスキルの習得を目指す。								
到達目標	講義全体を通して，プレゼンテーションの意義，目的，手法等の基本的な考え方を体系的に理解するため，以下の3点を到達目標とする。 論理性と構成力：PREP法等のフレームワークを用い，聞き手を納得させる論理的なシナリオを自力で構築できる。 実践的伝達能力：声，表情，および視覚資料（資料・配布物）を効果的に駆使し，自身の意図を的確に伝える表現力を身につけている。 提案と応答の遂行：現状分析に基づいた改善提案を行い、質疑に対しても根拠を持って誠実に応答できる。また，本科目はプレゼンテーション実務士の資格認定を受けるための必修科目であり，実務的レベルの知識を習得するものとする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	オリエンテーション & 基礎知識 「 なぜ人前で話すのが怖いのか」を理解し，ペアを作りワークを行う。	
第2回	目的設定と聞き手の分析「誰に」「どう行動してほしいか」を明確にする3P分析を学び，ワークを行う。	
第3回	情報の収集と分析 思考ツールロジックツリーによって思考の整理整頓を行い，ワークを行う。	
第4回	話の組み立て(論理構成) PREP法を身に付け「結論から話す」型を習得し，ペアでのワークを行う。	
第5回	スライドデザインの理論 デザインの4原則を身に付け，手書きで資料を作成し，ワークを行う。	
第6回	情報の可視化(図解・構成) 言葉を図やグラフに変換するアナログスキルを磨き，ワークを行う。	
第7回	シナリオとコンテ作成 中間発表（ショートスピーチ）に向けた「構成案（絵コンテ）」を完成させる。	
第8回	デリバリー技術 メラビアンの法則を理解し、アイコンタクトとジェスチャーの練習を行う。	
第9回	中間発表（ショートスピーチ）その1 中間発表（ショートスピーチ）その1を行う。	
第10回	中間発表（ショートスピーチ）その2・KPT法による振り返り 中間発表（ショートスピーチ）その2，またKPT法による振り返りを行う。	
第11回	説得のレトリック 言葉の魔術「レトリック(修辞技法)」を理解し，ワークを行う。	
第12回	企画書と配布資料の作成 期末発表(提案型)に向けた企画書を作成し，ワークを行う。	
第13回	質疑応答とリハーサル プレゼンの本番はむしろ終わってから。予期せぬ質問への対応力をつけるため，ワークを行う。	
第14回	期末プレゼンテーション その1 半年間の集大成を見せるため，全員が1人ずつ最終成果発表のプレゼンを行う。	
第15回	期末プレゼンテーション その2 半年間の集大成を見せるため，全員が1人ずつ最終成果発表のプレゼンを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢／態度	30	積極的な受講姿勢・参加度・態度によって評価する。
ワークへの参加および最終プレゼンテーション	70	毎回のワークへの参加と最終プレゼンテーションによって評価する。質問があれば、解説コメントを返す。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業はワークシートを使用したペアでのワークが基本になるため，知識や技能だけでなく，主体性・協働性を持ち積極的に参加する姿勢が必須である。
授業外学修	事前学習については特に要しない。 ただし，各回の講義に関し，それぞれ関連性があることが多いことから，講義終了後学んだ知識を確認し，十分な事後学習を行い，次回以降の講義に備えておくこと。 週当たりの授業外学習時間は〔予習・復習等〕4時間以上とする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	講師のブログ「WEBCRE8TOR」（https://webcre8tor.com/）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる 改訂2版 自信がつくプレゼンテーション　オンラインでも引きつけて離さないテクニック	株式会社富士通ラーニングメディア	FOM出版	978-4-938927-37-0	

参考書：自由記載	授業の中で，適宜紹介していく。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．プレゼンテーションの目的について理解している	プレゼンテーションの目的を十分に理解している	プレゼンテーションの目的の基本的な部分を十分に理解している	プレゼンテーションの目的の基本的な部分を理解している	プレゼンテーションの目的の基本的な部分を十分に理解していない	プレゼンテーションの目的の基本的な部分を理解していない
知識・理解	２．プレゼンテーションを形成する要素について理解している	プレゼンテーションの要素を十分に理解している	プレゼンテーションの基本的な要素を十分に理解している	プレゼンテーションの基本的な要素を理解している	プレゼンテーションの基本的な要素を十分に理解していない	プレゼンテーションの基本的な要素を理解していない
知識・理解	３．プレゼンテーションの技法について理解している	多様なプレゼンテーションの技術を理解している	プレゼンテーションの技術を十分に理解している	プレゼンテーションの技術を理解している	プレゼンテーションの技術を十分に理解していない	プレゼンテーションの技術を理解していない
思考・問題解決能力	１．プレゼンテーションを計画できる	プレゼンテーションの計画が十分にできる	基本的なプレゼンテーションの計画が十分にできる	基本的なプレゼンテーションの計画ができる	基本的なプレゼンテーションの計画が十分にできない	基本的なプレゼンテーションの計画ができない
思考・問題解決能力	２．プレゼンテーションの技術を場面に応じて考えられる	多様な場面に応じたプレゼンテーションの技術を考えられる	基本的な場面でのプレゼンテーションの技術を十分に考えられる	基本的な場面でのプレゼンテーションの技術を考えられる	基本的な場面でのプレゼンテーションの技術を十分に考えられない	基本的な場面でのプレゼンテーションの技術を考えられない

科目名	ビジネス実務A			授業番号	SB211	サブタイトル			
教員	倉田　致知								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	挨拶，ビジネス文章，などを含みビジネスの基本は本当に幅広い。社会人・職業人として必要な知識と問題解決力を理解しつつ，即戦力となれるよう本講義では実務において必要な知識と問題解決力を身につける。								
到達目標	「ビジネス実務士」資格取得のための必修科目である本講義において、受講者は下記の修得が目指される。 ＊用語を正しく理解した上で、ビジネス文章におけるポイントを適切に説明できる。 ＊データを、適切に立式化したり、計算したりすることができ、ならびに図表や資料を適切に読み取り、解説できる。 ＊企業が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。 ＊各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。 ＊授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	社外文書の基本①：前付け、本文、後付け、頭語と結語、時候の挨拶、個人へ使用可能な言葉と、企業・団体・組織へ使用可能な言葉、御社と貴社、就活の場合の送付状（添え状）、親展と信書、見積書、納品書、請求書、領収書、収入印紙、インボイス、督促状、催促状、目論見書、内容証明郵便、様と御中の使い分け、など。	
第2回	社外文書の基本②：前付け、本文、後付け、頭語と結語、時候の挨拶、個人へ使用可能な言葉と、企業・団体・組織へ使用可能な言葉、御社と貴社、就活の場合の送付状（添え状）、親展と信書、見積書、納品書、請求書、領収書、収入印紙、インボイス、督促状、催促状、目論見書、内容証明郵便、様と御中の使い分け、など。	
第3回	社内文書と社交文書の基本①、基本的レイアウト、稟議書決裁者と決済者、お礼状、感謝状、挨拶状（葉書で送る場合）、慶事、弔事、訃報、近年は用いられなくなったが往復葉書、続柄の記載の仕方、 和封筒と洋封筒、表面と裏目の書き方、封緘、ならびにこれらで使用される漢字の読み、など。	
第4回	社内文書と社交文書の基本②、基本的レイアウト、稟議書決裁者と決済者、お礼状、感謝状、挨拶状（葉書で送る場合）、慶事、弔事、訃報、近年は用いられなくなったが往復葉書、続柄の記載の仕方、 和封筒と洋封筒、表面と裏目の書き方、封緘、ならびにこれらで使用される漢字の読み、など。	
第5回	学習を妨げる要因の克服：略語の氾濫①…相違を理解しながら覚える。UNSC 、UNGA、ICJ、ECOSOC、UNCTAD、UNICEF、UNEP、UNHCR、ILO、UNESCO、WHO、PKOとPKF、WFP、IMF、WTO 、IAEA、NGO、MSF、SDGs、そもそも国際連合とは？、など。EU、NATO、FTA、EPA、ASEAN、RCEP、AFTA、TPP、CPTPP、APEC、IPEF、ODA、OECD、JICA、OPEC、OPEC+、MIKTA、BRICS、G７、G20、など。	
第6回	学習を妨げる要因の克服：略語の氾濫②…相違を理解しながら覚える。UNSC 、UNGA、ICJ、ECOSOC、UNCTAD、UNICEF、UNEP、UNHCR、ILO、UNESCO、WHO、PKOとPKF、WFP、IMF、WTO 、IAEA、NGO、MSF、SDGs、そもそも国際連合とは？、など。EU、NATO、FTA、EPA、ASEAN、RCEP、AFTA、TPP、CPTPP、APEC、IPEF、ODA、OECD、JICA、OPEC、OPEC+、MIKTA、BRICS、G７、G20、など。	
第7回	学習を妨げる要因の克服：略語の氾濫③…相違を理解しながら覚える。GDP、GNI、R&D、CSR、BSC、BCP、KPI、JIS、IEC、ISO、PDCA cycle、BYOD、ERP 、MRP、ISMS、RPA、AI、CAD、CAM、CAE、NC、MC、FMC、FA、FMS、CIM、SCM、CALS、EC、ECR、SFA、EDI、など。	
第8回	学習を妨げる要因の克服：略語の氾濫④…相違を理解しながら覚える。GDP、GNI、R&D、CSR、BSC、BCP、KPI、JIS、IEC、ISO、PDCA cycle、BYOD、ERP 、MRP、ISMS、RPA、AI、CAD、CAM、CAE、NC、MC、FMC、FA、FMS、CIM、SCM、CALS、EC、ECR、SFA、EDI、など。	
第9回	学習を妨げる要因の克服：カタカナの氾濫①…領域や文脈によって同じ用語でも意味が異なってくるものもある。相違を理解しながら覚える。アジェンダ、アライアンス、イニシアチブ、インバウンド、インフラストラクチャー(インフラ)、コンペティター、シェアリングエコノミー、シナジー、アナジー、スキーム、ダイナミック・プライシング、デファクト・スタンダード、デフォルト、バッファ、パブリシティ、プライオリティ、ブレー(イ)ンストーミング、マイクロプラスチック、リコール、リストラクチャリング、インカムゲイン、キャピタルゲイン、テレワーク、サテライトオフィス、リデュース、リユース、リサイクル、ノーマライゼーション、ユーザビリティ、ユニバーサルデザイン、リース、レンタル、サブスクリプション、など。	)
第10回	学習を妨げる要因の克服：カタカナの氾濫②…領域や文脈によって同じ用語でも意味が異なってくるものもある。相違を理解しながら覚える。アジェンダ、アライアンス、イニシアチブ、インバウンド、インフラストラクチャー(インフラ)、コンペティター、シェアリングエコノミー、シナジー、アナジー、スキーム、ダイナミック・プライシング、デファクト・スタンダード、デフォルト、バッファ、パブリシティ、プライオリティ、ブレー(イ)ンストーミング、マイクロプラスチック、リコール、リストラクチャリング、インカムゲイン、キャピタルゲイン、テレワーク、サテライトオフィス、リデュース、リユース、リサイクル、ノーマライゼーション、ユーザビリティ、ユニバーサルデザイン、リース、レンタル、サブスクリプション、など。	
第11回	若年労働市場の点検：日本企業における採用方法①　…インターンシップ、エントリー、エントリーシート、ガクチカ、長所・短所、、能力検査、性格検査、適性検査、SPI3-G、-H、-U、-R、-NU？、GAB、CAB, 内田クレペリン検査、デザイン思考テスト、IMAGES(イメジス)、TG-WEB、SCOA、TAP (タップ)、N1、N2、TOEIC、時事問題、一般常識、個人面接、グループディスカッション、集団面接、最終面接、など。	
第12回	若年労働市場の点検：日本企業における採用方法②　…インターンシップ、エントリー、エントリーシート、ガクチカ、長所・短所、、能力検査、性格検査、適性検査、SPI3-G、-H、-U、-R、-NU？、GAB、CAB, 内田クレペリン検査、デザイン思考テスト、IMAGES(イメジス)、TG-WEB、SCOA、TAP、一般常識、N1、N2、資格、一般常識、個人面接、グループディスカッション、集団面接、最終面接、など。	
第13回	若年労働市場の点検：日本企業における採用方法③　…インターンシップ、エントリー、エントリーシート、ガクチカ、長所・短所、、能力検査、性格検査、適性検査、SPI3-G、-H、-U、-R、-NU？、GAB、CAB, 内田クレペリン検査、デザイン思考テスト、IMAGES(イメジス)、TG-WEB、SCOA、TAP、一般常識、N1、N2、資格、個人面接、グループディスカッション、集団面接、最終面接、など。	
第14回	若年労働市場の点検：「ミスマッチ」と「相違」①　…ミスマッチとは、内定率、決定率、産業別新卒者の就業状況、離職率、志望業界、第２新卒、転職、求人倍率、内定先やエントリー先の状況、失業、フリーター、ニート、20代の賃金収入格差や金融資産格差、理系と文系の相違、公務員志向、転勤や海外勤務に対する志向、事務職、営業職、専門職、などの職種の志向、など。	
第15回	若年労働市場の点検：「ミスマッチ」と「相違」②　…ミスマッチとは、内定率、決定率、産業別新卒者の就業状況、離職率、志望業界、第２新卒、転職、求人倍率、内定先やエントリー先の状況、失業、フリーター、ニート、20代の賃金収入格差や金融資産格差、理系と文系の相違、公務員志向、転勤や海外勤務に対する志向、事務職、営業職、専門職、などの職種の志向、など。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組み姿勢／態度	10	小テストへの取り組み姿勢、ファイリング，ノート，予習・復習，スケジュール管理・時間管理，提出回数、などにおける状況。
レポート		
小テスト	40	単元ごとに小テストを行い，理解度を評価する。なお、点数や間違った箇所などは、ユニパから確認できる。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・私語をしない，など受講に際して最低限のマナーは厳守すること。 ・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。 ・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。 ・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。
授業外学修	復習）教科書を読み返し，ノートを整理すること。なお，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲を指示する。 予習）授業の終わり際に，次回に向けて教科書のどこまでを読むべきかを指示する。 以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団監修『2023年版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式テキスト』日本能率協会マネジメントセンター，2023年。 一般財団法人職業教育・キャリア教育財団監修『2023年版 ビジネス能力検定ジョブパス3級公式試験問題集』日本能率協会マネジメントセンター,2023年。 日本能率協会マネジメントセンター（編集)『やさしい・かんたん ビジネス文書』日本能率協会マネジメントセンター,2023年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．用語を正しく理解した上で、ビジネス文章におけるポイントを適切に説明できる。	用語を正しく理解した上で、ビジネス文章におけるポイントを適切に説明できる。	用語を正しく理解した上で、ビジネス文章におけるポイントを概ね適切に説明できる。	用語の理解度は高くはないが、ビジネス文章におけるポイントを概ね適切に説明できる。	用語の理解度は高くはないが、ビジネス文章における必要最低限のポイントを概ね適切に説明できる。	用語が読めない、理解できていない。
知識・理解	２．データを、適切に立式化したり、計算したりすることができ、ならびに図表や資料を適切に読み取り、解説できる。	データを、適切に立式化したり、計算したりすることができ、ならびに図表や資料を適切に読み取り、解説できる。	データを、適切に立式化したり、計算したりすることができ、ならびに図表や資料を概ね適切に読み取り、解説できる。	データを、概ね適切に立式化したり、計算したりすることができ、ならびに図表や資料を概ね適切に読み取り、解説できる。	他者に聞きながらならば、データを、概ね適切に立式化したり、計算したりすることがで、ならびに図表や資料を概ね適切に読み取り、解説できる。	立式化や計算ができない。あるいは図表や資料の読み取りが全くできない。
知識・理解	３．各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	設問の意味を他者へ確認することもあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでほぼ自力で正解を導くことができる。	設問の意味や解法を他者へ確認することはよくあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでなんとか正解することができる。	設問の意味や解法を他者へ確認すること無しでは難しいが、また授業資料を見ながらではあるが、種資格・検定試験で出題される問題をなんとか正解することができる。	設問の意味を他者へ確認することさえない。不正解のまま放置し、分からないところを理解しようとする姿勢が見られない。（あるいはそもそも問題を解いてもいない）。
思考・問題解決能力	１．企業が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを概ね客観的に説明できる。	問題解決については若干認識不足であるが、企業が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	問題解決についてはほとんど言及されていないが、企業が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	企業において何が問題とされてきたかを全く説明できない。あるいは主観的または直観的に問題点や解決を語っている。
態度	1．授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが概ねできている。	読み返しの頻度や仕方については改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は概ねできている。	読み返しの頻度や仕方についてはかなり改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は必要最低限のことはできている。	授業資料のファイリングは行われておらず、ノートも作成されていない。読み返しもない。

科目名	ビジネス実務Ｂ			授業番号	SB212	サブタイトル			
教員	倉田　致知								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	企業の役割や責任などを理解するとともに、効率的な業務の進め方、問題解決のための基本的なコミュニケーション、情報活用の実践知識 、などを学ぶ。								
到達目標	＊専門用語を正しく理解した上で、企画書や報告書を適切に作成できる。 ＊データ分析と可視化ができ、ならびに分析結果を適切に説明できる。 ＊企業が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。 ＊各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。 ＊授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	職場において重視される意識や仕事の流れ①：客の種類、顧客満足、事前期待と実績評価の関係、8つの意識、5S、3M、QCD、PQCDSME、ＺＤ運動、ECRS、PDCA、コンプライアンス、テクニカル・スキル、ヒューマンスキル、コンセプチュアル・スキル、ロバート・カッツ・モデル、提案営業またはコンサルティングセールス、など。	
第2回	職場において重視される意識や仕事の流れ②：客の種類、顧客満足、事前期待と実績評価の関係、8つの意識、5S、3M、QCD、PQCDSME、ＺＤ運動、ECRS、PDCA、コンプライアンス、テクニカル・スキル、ヒューマンスキル、コンセプチュアル・スキル、ロバート・カッツ・モデル、提案営業またはコンサルティングセールス、など。	
第3回	運営管理とQCの手法①：平均値と最頻値と中央値、分散と標準偏差、QCと新QCの相違、QC７つ道具、グラフ、ヒストグラム、チェックシート、パレート図、特性要因図、散布図、管理図、新QC７つ道具、親和（図）法またはK・J法、連関図法、マトリックス（matrix）図法、マトリックスデータ解析、系統図法、PDPC法 、アローダイヤグラム法、など。	
第4回	運営管理とQCの手法②：平均値と最頻値と中央値、分散と標準偏差、QCと新QCの相違、QC７つ道具、グラフ、ヒストグラム、チェックシート、パレート図、特性要因図、散布図、管理図、新QC７つ道具、親和（図）法またはK・J法、連関図法、マトリックス（matrix）図法、マトリックスデータ解析、系統図法、PDPC法 、アローダイヤグラム法、など。	
第5回	生産形態とものづくり①：見込生産、受注生産、プッシュシステム、プルシステム、JIT、コア・コンピタンス、インテグラル型生産方式、モジュール生産方式、ライン生産方式とセル生産方式、アウトソーシング（業務委託）と人材派遣、「集中」と「選択」、TQC、TQM、OEM生産とODM生産、など。	
第6回	生産形態とものづくり②：見込生産、受注生産、プッシュシステム、プルシステム、JIT、コア・コンピタンス、インテグラル型生産方式、モジュール生産方式、ライン生産方式とセル生産方式、アウトソーシング（業務委託）と人材派遣、「集中」と「選択」、TQC、TQM、OEM生産とODM生産、など。	
第7回	次の一手に向けて①：データと分析、定性と定量、質的と量的、相関分析、偏相関、単回帰分析、重回帰分析、決定係数の確認、有意性、F値、P値、t値の確認、評点尺度法、SD(Semantic Differential)法、因子分析、暗黙知と形式知の相違と関係性、社内会議や社内ミーティングに関する実態調査、ブレイン・ストーミング、マインドマップ、マンダラート発想法、スキャンパー法、SWOT分析、など。	
第8回	次の一手に向けて②：データと分析、定性と定量、質的と量的、相関分析、偏相関、単回帰分析、重回帰分析、決定係数の確認、有意性、F値、P値、t値の確認、評点尺度法、SD(Semantic Differential)法、因子分析、暗黙知と形式知の相違と関係性、社内会議や社内ミーティングに関する実態調査、ブレイン・ストーミング、マインドマップ、マンダラート発想法、スキャンパー法、SWOT分析、など。	
第9回	次の一手に向けて③：データと分析、定性と定量、質的と量的、相関分析、偏相関、単回帰分析、重回帰分析、決定係数の確認、有意性、F値、P値、t値の確認、評点尺度法、SD(Semantic Differential)法、因子分析、暗黙知と形式知の相違、社内会議や社内ミーティングに関する実態調査、ブレイン・ストーミング、マインドマップ、マンダラート発想法、スキャンパー法、SWOT分析、など。	
第10回	能力？　強み？　イノベーション？　①：コアコンピタンス、VRIOフレームワーク、ケイパビリティ、ダイナミック・ケイパビリティ、コンピテンシー、キー・コンピテンシー、暗黙知・形式知、プロセス・イノベーション、プロダクトイノベーション、ドミナント・デザイン、持続的 (存続的)イノベーション、破滅的イノベーション、ローエンド型破壊的イノベーション新市場型破壊的イノベーションイノベーションのジレンマ、オープン・イノベーション、クローズド・イノベーションなど。	
第11回	能力？　強み？　イノベーション？　②：コアコンピタンス、VRIOフレームワーク、ケイパビリティ、ダイナミック・ケイパビリティ、コンピテンシー、キー・コンピテンシー、暗黙知・形式知、プロセス・イノベーション、プロダクトイノベーション、ドミナント・デザイン、持続的 (存続的)イノベーション、破滅的イノベーション、ローエンド型破壊的イノベーション新市場型破壊的イノベーションイノベーションのジレンマ、オープン・イノベーション、クローズド・イノベーションなど。	
第12回	グローバルって何？①：変動為替相場制、輸出額・輸入額の推移、逆輸入、海外進出日系企業拠点数、海外勤務者数、他国における大学への入学、留学、社内公用語、TOEIC、他国での就業、海外永住者、グローバル型、インターナショナル型、マルチナショナル型、トランスナショナル型、メタナショナル型、ボーン・グローバル企業、外国人労働者、など。	
第13回	グローバルって何？②：変動為替相場制、輸出額・輸入額の推移、逆輸入、海外進出日系企業拠点数、海外勤務者数、他国における大学への入学、留学、社内公用語、TOEIC、他国での就業、海外永住者、グローバル型、インターナショナル型、マルチナショナル型、トランスナショナル型、メタナショナル型、ボーン・グローバル企業、外国人労働者、など。	
第14回	成員の構成と多様な働き方①：組織と人、労働力人口の推移、賃金と賃金収入格差、正規社員と非正規社員、裁量労働制、派遣、ダイバーシティー、ワーク・ライフ・バランス、知識社会、不労所得、FIRE(Financial Independence, Retire Early)、資産運用、インデックス投信とアクティブ投信、NISA、iDeCo、確定拠出年金、確定給付年金、20代の投資状況、これからの時代のキャリアマネジメント、など。	
第15回	成員の構成と多様な働き方②：組織と人、労働力人口の推移、賃金と賃金収入格差、正規社員と非正規社員、裁量労働制、派遣、ダイバーシティー、ワーク・ライフ・バランス、知識社会、不労所得、FIRE(Financial Independence, Retire Early)、資産運用、インデックス投信とアクティブ投信、NISA、iDeCo、確定拠出年金、確定給付年金、20代の投資状況、これからの時代のキャリアマネジメント、など。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組み姿勢／態度	10	小テストへの取り組み姿勢，ファイリング，ノート，予習・復習，スケジュール管理・時間管理，提出回数、などにおける状況。
学期末課題	30	理解度，内容の妥当性や信憑性，書き方，構成，誤字脱字の度合，データ収集力，などの観点から評価する。なお、評価はユニバから確認できる。
小テスト	60	単元毎に行う。理解度を確認する。なお、点数や間違った箇所などは、ユニバから確認できる。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・私語をしない，など受講に際して最低限のマナーは厳守すること。 ・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。 ・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。 ・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。
授業外学修	復習）配布するプリントを読み返し，ノートを整理すること。なお，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲やポイントを授業の終わり際に指示する。 予習）授業の終わり際に，次回に向けて配布プリントのどこまでを読むべきかを指示する。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	一般財団法人職業教育・キャリア教育財団 (監修)「キャリア教育財団ビジネス能力検定ジョブパス２級公式テキスト」日本能率協会マネジメントセンター,2024年。 一般財団法人職業教育・キャリア教育財団 (監修)「ビジネス能力検定ジョブパス２級公式試験問題集」日本能率協会マネジメントセンター,2023年。 一般財団法人職業教育・キャリア教育財団 (監修)「改訂版 ビジネス能力検定ジョブパス1級公式試験問題集」日本能率協会マネジメントセンター,2022年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	設問の意味を他者へ確認することもあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでほぼ自力で正解を導くことができる。	設問の意味や解法を他者へ確認することはよくあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでなんとか正解することができる。	設問の意味や解法を他者へ確認すること無しでは難しいが、また授業資料を見ながらではあるが、各種資格・検定試験で出題される問題をなんとか正解することができる。	設問の意味を他者へ確認することさえない。不正解のまま放置し、分からないところを理解しようとする姿勢が見られない。（あるいはそもそも問題を解いてもいない）。
知識・理解	1．学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を概ね適切に説明できる。	学説や研究の背景や影響あるいは限界については若干認識不足であるが、内容自体の理解はできている。	学説や研究の背景や影響あるいは限界については若干認識不足であるが、内容自体の理解は概ねできている。	学説や研究のポイントを全く説明できない。
思考・問題解決能力	１．企業が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを概ね客観的に説明できる。	問題解決についてはほとんど言及されていないが、企業が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	問題解決についてはほとんど言及されていないが、企業が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	企業において何が問題とされてきたかを全く説明できない。あるいは主観的または直観的に問題点や解決を語っている。
技能	１．データ分析と可視化ができ、ならびに分析結果を適切に説明できる。	データ分析と可視化ができ、ならびに分析結果を適切に説明できる。	データ分析と可視化ができ、ならびに分析結果を概ね適切に説明できる。	分析結果を適切に説明しているとは言えないが、データ分析と可視化はできている。	分析結果を適切に説明しているとは言えないが、データ分析と可視化は他者に聞きながらではあるができている。	データ分析や可視化を行っていない。
態度	１．授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが概ねできている。	読み返しの頻度や仕方については改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は概ねできている。	読み返しの頻度や仕方についてはかなり改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は必要最低限のことはできている。	授業資料のファイリングは行われておらず、ノートも作成されていない。読み返しもない。

科目名	実践学修の学び方			授業番号	SB213	サブタイトル			
教員	倉田　致知								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	学んだ知識・技術等を活かして社会に参画したり、直面する様々な課題を主体的に解決したりすることが求められる。本授業では、これまでに学んだ知識・技術等を活かしつつ、またさらに新たなそれらを身につけつつ、問題解決力や問題発見力を伸ばす課題解決型学習が行われる。授業の進め方は座学では無い。PCを使いながら、『テーマ』に沿って、所定の期間内に発見や解決や提出などをすることが、幾度となく求められる。								
到達目標	＊専門用語を正しく理解した上で、企画書や報告書を適切に作成できる。 ＊組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。 ＊データ分析と可視化ができ、ならびに分析結果を適切に説明できる。 ＊基礎的なPCのアプリケーションを手順書無しで使用できるだけでなく、操作等が分からない人へも教えることができる。 ＊授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	(下記の進行は、順番的に書かれているが、本科目はPBL的な内容であるので、同時並行的に行われることもある。) 「問題解決型学習」や「課題解決型学習」について把握する。また、教室や書籍で学べる「形式知」と、今はまだうまくは伝えられないがあなたが知っている「暗黙知」、の違いと両者の重要性を理解する。また、基礎的なPCのアプリケーションの操作を復習する。なお、授業の進め方は座学では無いので、注意事項も併せて説明する。	
第2回	「問題解決型学習」や「課題解決型学習」について把握する。また、教室や書籍で学べる「形式知」と、今はまだうまくは伝えられないがあなたが知っている「暗黙知」、の違いと両者の重要性を理解する。また、基礎的なPCのアプリケーションの操作を復習する。なお、授業の進め方は座学では無いので、注意事項も併せて説明する。 ②	
第3回	課題・問題発見の重要性とその仕方①：多面的かつ論理的にポイントを整理する。ならびに問題あるいは解決について仮説を立てる。ゼロベース思考、クリティカルシンキング（批判的思考）、を用いて、ならびに現在生じているのか、それとも未発生だが生じそうそうな問題なのか、などの観点から発見する。	
第4回	課題・問題発見の重要性とその仕方②：多面的かつ論理的にポイントを整理する。ならびに問題あるいは解決について仮説を立てる。ゼロベース思考、クリティカルシンキング（批判的思考）、を用いて、ならびに現在生じているのか、それとも未発生だが生じそうそうな問題なのか、などの観点から発見する。	
第5回	課題・問題発見の重要性とその仕方③：多面的かつ論理的にポイントを整理する。ならびに問題あるいは解決について仮説を立てる。ゼロベース思考、クリティカルシンキング（批判的思考）、を用いて、ならびに現在生じているのか、それとも未発生だが生じそうそうな問題なのか、などの観点から発見する。	
第6回	データや情報の収集の仕方①：定量データと定性データの相違、比較や対照の仕方、相互関係や因果関係の捉え方、信憑性の高低、母集団・標本、などについて理解するとともに、いかなる目的で、どのようなデータを、ならびにどうやって収集するかを考える。併せて、データ収集の時間が時折捨象されているので、スケジュールを立てる。	
第7回	データや情報の収集の仕方②：定量データと定性データの相違、比較や対照の仕方、相互関係や因果関係の捉え方、信憑性の高低、母集団・標本、などについて理解するとともに、いかなる目的で、どのようなデータを、ならびにどうやって収集するかを考える。併せて、データ収集の時間が時折捨象されているので、スケジュールを立てる。	
第8回	データ分析と可視化の仕方①：　分析し、その結果を確認する。折れ線グラフ、縦棒／横棒グラフ、積み上げ縦棒グラフ、円グラフ、エリアチャート、散布図と近似直線や回帰線、バブルチャート、ウォーターフォールチャート、ヒートマップ、箱ひげ図、レーダーチャート、ツリーマップ、など見方や用途や作成の仕方を理解する。	
第9回	データ分析と可視化の仕方②：　分析し、その結果を確認する。折れ線グラフ、縦棒／横棒グラフ、積み上げ縦棒グラフ、円グラフ、エリアチャート、散布図と近似直線や回帰線、バブルチャート、ウォーターフォールチャート、ヒートマップ、箱ひげ図、レーダーチャート、ツリーマップ、など見方や用途や作成の仕方を理解する。	
第10回	データ分析と可視化の仕方③：　分析し、その結果を確認する。折れ線グラフ、縦棒／横棒グラフ、積み上げ縦棒グラフ、円グラフ、エリアチャート、散布図と近似直線や回帰線、バブルチャート、ウォーターフォールチャート、ヒートマップ、箱ひげ図、レーダーチャート、ツリーマップ、など見方や用途や作成の仕方を理解する。	
第11回	報告書、企画書、提案書の作成の仕方①：STP【Segmentation（市場細分化）、Targeting（標的市場の選定）、Positioning（立ち位置の明確化）】、書き方、仕様(フォーム）を理解する。論理的な流れを意識する、相手目線・誰に伝えたいのかを意識して作成する、数値を入れて具体性を出す、図表で相手の理解度や関心度を高める、ストーリー性が無い羅列を止める、企画の「限界」や想定される「質問」を考える。	
第12回	報告書、企画書、提案書の作成の仕方②：STP【Segmentation（市場細分化）、Targeting（標的市場の選定）、Positioning（立ち位置の明確化）】、書き方、仕様(フォーム）を理解する。論理的な流れを意識する、相手目線・誰に伝えたいのかを意識して作成する、数値を入れて具体性を出す、図表で相手の理解度や関心度を高める、ストーリー性が無い羅列を止める、企画の「限界」や想定される「質問」を考える。	
第13回	報告書、企画書、提案書の作成の仕方③：STP【Segmentation（市場細分化）、Targeting（標的市場の選定）、Positioning（立ち位置の明確化）】、書き方、仕様(フォーム）を理解する。論理的な流れを意識する、相手目線・誰に伝えたいのかを意識して作成する、数値を入れて具体性を出す、図表で相手の理解度や関心度を高める、ストーリー性が無い羅列を止める、企画の「限界」や想定される「質問」を考える。	
第14回	評価と修正①：360度評価【上司・部下・同僚・他部署など、仕事で関わる様々な立場の人から一人の従業員を多角的に評価する評価手法】、自己の理想との相違(自己評価)、PDCA【Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、ActionまたはAct（改善）】の繰り返し、肯定的評価と批判的評価、などを理解した上で、他者からの指摘を参考にして修正を行う。	
第15回	評価と修正②：360度評価【上司・部下・同僚・他部署など、仕事で関わる様々な立場の人から一人の従業員を多角的に評価する評価手法】、自己の理想との相違(自己評価)、PDCA【Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、ActionまたはAct（改善）】の繰り返し、肯定的評価と批判的評価、などを理解した上で、他者からの指摘を参考にして修正を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組み姿勢／態度／提出物の内容	70	ファイリング，ノート，予習・復習，スケジュール管理・時間管理，提出回数，などにおける状況。5～7回は成果物の提出が求められる。
学期末課題(データの整理や分析をしていただきます)	30	理解度，読解力，妥当性や信憑性，書き方，構成，誤字脱字の度合，データ収集力，などの観点から評価する。 評価においては，他の学生による評価も含める場合がある。なお，評価はユニパから確認できる。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	実践学修の現場では，与えられたことを与えられた通りにするだけでは気づきを得られない。教員は学生をサポートするが，学びを深めていくのは学生自身の能動的な行動に委ねられる。本授業は実践の場あるいは社会に出る前段階の学びであるが，学生たち自身が自分たちで準備し，考えて行動することを期待する。
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2）復習として，学んだ内容の整理を行う。 3）「課題研究による提案」においては，情報収集・資料作成など必要な準備を行う。 4）発展として，自ら課題を見つけてスキルを向上させる。 以上の内容に対して，毎週4時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜資料を配布する。教科書の指定はないが，実践学修に関する内容について自主的に知見を広めてほしい。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．専門用語を正しく理解した上で、企画書や報告書を適切に作成できる。	専門用語を正しく理解した上で、企画書や報告書を適切に作成できる。	専門用語を正しく理解した上で、企画書や報告書を概ね適切に作成できる。	用語の理解度は高くはないが、企画書や報告書を概ね適切に作成できる。	用語の理解度は高くはないが、企画書や報告書を概ね適切に作成できる。	用語が読めない、理解できていない。企画書や報告書を作成しない。
思考・問題解決能力	1．組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを概ね客観的に説明できる。	問題解決については若干認識不足であるが、組織が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	問題解決についてはほとんど言及されていないが、組織が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	組織において何が問題とされてきたかを全く説明できない。あるいは主観的または直観的に問題点や解決を語っている。
技能	1．データ分析と可視化ができ、ならびに分析結果を適切に説明できる。	データ分析と可視化ができ、ならびに分析結果を適切に説明できる。	データ分析と可視化ができ、ならびに分析結果を概ね適切に説明できる。	分析結果を適切に説明しているとは言えないが、データ分析と可視化はできている。	分析結果を適切に説明しているとは言えないが、データ分析と可視化は他者に聞きながらではあるができている。	データ分析や可視化を行っていない。
技能	2．基礎的なPCのアプリケーションを手順書無しで使用できるだけでなく、操作等が分からない人へも教えることができる。	基礎的なPCのアプリケーションを手順書無しで使用できるだけでなく、操作等が分からない人へも教えることができる。	操作等が分からない人へ助言することは無いが、基礎的なPCのアプリケーションを手順書無しで使用できる。	手順書を時折見ながらならば、基礎的なPCのアプリケーションを使用できる。	手順書を見ながら、且つ他者へ確認しながらならば、基礎的なPCのアプリケーションを何とか使用できる。	手順書を見ることもなく、誰かに聞いてばかりいる。あるいは、操作を覚えようと姿勢が欠けている。
態度	1．授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが概ねできている。	読み返しの頻度や仕方については改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は概ねできている。	読み返しの頻度や仕方についてはかなり改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は必要最低限のことはできている。	授業資料のファイリングは行われておらず、ノートも作成されていない。読み返しもない。

科目名	キャリアプランニング			授業番号	SB216	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明、平井　安久、河田　健二、倉田　致知、古谷　俊爾、脇坂　基徳								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	就職活動のスタート時期に合わせ，情報提供と共に具体的な準備と行動について学ぶ。また本講座では，社会人として必要な常識やマナー，また人生設計を行う上で必要とされる基礎知識や能力の習得も目標とし，自分にあったキャリアプランニングができるように支援する。								
到達目標	「なりたい自分」に向け，目標を設定し，トライ＆エラーの実践から「力」をつける。 就活スイッチを入れ，「自立」と「挑戦」の気持ちを持って，行動に移す。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	キャリアプランニングの考え方 　就活スタートに向けて，就活サイトの活用とセミナー利用法	全教員
第2回	一般常識力のアップ	全教員
第3回	就職活動サイト 　主な就職活動サイト，エントリーシート記入のポイント	全教員
第4回	ハローワークの活用	全教員，外部講師
第5回	履歴書・自己紹介書	全教員
第6回	キャリア形成とは 　（1）キャリアの理論（2）自分の適性・志向を考えることの意味（3）自分の過去を振り返る	全教員
第7回	大学生活とキャリア 　（1）キャリアデザインの意味（2）キャリア形成の事例	全教員
第8回	社会性とは 　（1）なぜ社会性が必要か（2）自分に社会性はあるか（3）事例から学ぶ	全教員
第9回	コミュニケーション 　（1）社会から求められる能力（2）コミュニケーションの重要性（3）事例から学ぶ	全教員
第10回	企業が求める能力 　（1）社会人基礎力（2）仕事のやりがいの意味（3）企業でのキャリア形成	全教員
第11回	人生とキャリア 　（1）自分の強みと志向（2）自分にとってのキャリアプラン（3）学生時代の過ごし方	全教員
第12回	企業分析データの見方	全教員
第13回	働き方について考える	全教員，外部講師
第14回	面接パワーアップ(1)（個人面接）	全教員
第15回	面接パワーアップ(2)（グループ面接，グループディスカッション）	全教員
授業計画　備考2	外部講師の都合により順不同です。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，授業外学修の状況によって評価する。
レポート	60	授業で学んだ内容が理解できているか。自己のキャリアプランを真剣に考えているか。回収後，コメントして返却する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	授業の予復習・発展学習として，以下のことを週4時間以上行うこと。 ・毎回の授業で得た知識を就職活動に活用し，実践する。 ・履歴書・就職活動サイトのエントリーシートを作成する。 ・就職支援センター主催の就職ガイダンスに参加する。 ・就職支援センターで自己分析や企業研究を行う。 ・就職活動サイト等が主催する就職活動セミナーに参加する。 ・「インターンシップ」授業とは別にインターンシップに参加する。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	必要に応じてプリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜指示する。
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	古谷：システムエンジニア
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	有
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	ハローワーク職員他
実務経験をいかした教育内容	各々の実務経験を生かして，IT業界でのキャリアプラン，就職実務，求人情報の理解，労働者の為の法規，仕事の探し方，外部機関の活用などの内容について指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
態度	1.他者と議論・協力・協調できる。	他者と活発に議論し、リーダーとして協力・協調しながら物事を発展させることができる。	他者と議論し、協力・協調しながら物事を発展させることができる。	他者と議論し、協力・協調しながら物事を進行することができる。	他者と協力・協調して物事を進行することができる。	他者と協力・協調して物事を進行することができない。

科目名	プレゼンテーション演習			授業番号	SB222	サブタイトル			
教員	脇坂　基徳								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	Microsoft社製プレゼンテーションソフトPowerPointの基本操作から実務で役立つ活用法を中心に演習を行う。またプレゼンテーションを行う際の特性と留意点，魅せる資料作り等についても学修する。								
到達目標	コンピュータなどの情報機器を利用したプレゼンテーションにおいては，情報機器が持つ特性を利用し，いかに効果的なプレゼンテーションを行うかという点が重要となる。本講義においては，プレゼンテーションソフト等の特徴や技法を習得し，効果的な・効率的なプレゼンテーションが実践できるようになることをその目標とする。また，より高度で実践的な情報リテラシーの獲得をめざす。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞ および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	プレゼンテーション演習の講義紹介とPowerPointについて 講義紹介，またPowerPointの役割や機能の概要を紹介する。	
第2回	第1章 PowerPointの基本操作を知ろう PowerPointのファイル操作などの基本を理解する。	
第3回	第2章 スライド作成の基本を覚えよう スライドとプレゼンテーションの基本操作を理解する。	
第4回	第3章 スライドのデザインを変えよう PowerPointのデザインの変更機能を理解する。	
第5回	第4章 文字の書式設定をしよう PowerPointの書式設定の方法を理解する。	
第6回	第5章 図形を作成しよう 前編 PowerPointで作成できる図形の前編の解説。	
第7回	第5章 図形を作成しよう 後編 PowerPointで作成できる図形の後編の解説。	
第8回	第6章 表やグラフを挿入しよう 前編 PowerPointでの表やグラフの活用方法の前編の解説。	
第9回	第6章 表やグラフを挿入しよう 後編 PowerPointでの表やグラフの活用方法の後編の解説。	
第10回	第7章 画像や動画を挿入しよう 前編 PowerPointでの画像や動画の活用方法の前編の解説。	
第11回	第7章 画像や動画を挿入しよう 後編 PowerPointでの画像や動画の活用方法の後編の解説。	
第12回	第8章 アニメーションを利用しよう PowerPointでのアニメーションの活用方法を理解する。	
第13回	第9章 プレゼンテーションを実行しよう PowerPointでのプレゼンテーション実行の流れを理解する。	
第14回	Googleスライドについて 前編 スライド作成ツールであるGoogleスライドの使用方法を理解する。	
第15回	Googleスライドについて 後編 スライド作成ツールであるGoogleスライドの使用方法を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢／態度	30	積極的な受講姿勢・参加度・態度によって評価する。
小テストおよび課題提出	70	複数回の小テストと授業課題によって各回の理解度を評価する。質問があれば、解説コメントを返す。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	情報機器の活用法を中心に扱うため，「プレゼンテーション概論」を履修していることが望ましい。また演習科目であるため，遅刻・欠席は厳禁である。やむを得ず欠席（公欠を含む）する場合は，必ず放課後等を利用し自習しておくこと。さらに授業のみでの習得は難しいことから，授業後の復習が非常に重要である。
授業外学修	プレゼンテーションにおけるスライド作成は記述方法などの知識を増やすことで自らの手段を増やすことができる。 そのため，授業開始前までに2時間程度，授業終了後に2時間程度，各々が時間をとってまとめサイトや動画サイトを閲覧し，スライド作成の予備知識を得ること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
今すぐ使えるかんたん PowerPoint 2024	AYURA	技術評論社	978-4297145736	
使用テキスト：自由記載	講師のブログ「WEBCRE8TOR」（https://webcre8tor.com/）			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．思考の一貫性・説得力	問題の本質を的確に捉え、深い洞察と独自性のある分析を行い、根拠の明確な最適解を提示している。論理も一貫して説得力が高い。	問題を正確に理解し、論理的な分析と妥当な解決策を示している。一貫した構成で質の高い思考が見られる。	問題の把握と基本的な分析・解決策の提示ができている。多少の弱さはあるが、主張は理解でき、基準を満たしている。	問題理解や分析が不十分で、解決策が曖昧または根拠が弱い。論理に飛躍があり、改善が必要。	問題理解が不十分で分析も成立していない。論理構成が欠如し、思考過程が示されていないため大幅な改善が必要。
技能	1．スライドによる資料作成ができる。	場面に応じた効果的なスライドの作成ができる。	場面に応じたスライドの作成ができる。	基本的なスライドの作成ができる。	基本的なスライドの作成が十分にはできない。	基本的なスライドの作成ができない。
技能	2．発表の技術が修得できている。	多様な場面で発表することができる。	基本的な場面で発表することができる。	限られた場面で発表することができる。	限られた場面でうまく発表することができない。	限られた場面で発表することができない。

科目名	地域創生学			授業番号	SB314	サブタイトル			
教員	倉田　致知								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	日本は世界においても類を見ない速さで少子高齢化が進み、『超』少子高齢社会となった。東京一極集中を是正し、地方の人口減少に歯止めをかけ、日本全体の活力を上げることを目的とした様々な地域創生への取り組みについて、その政策や具体的な事例をまじえながら，且つ地域の現状を客観的に把握しながら、地域の現状と課題について多面的に捉える。								
到達目標	＊地域創造に関する学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景を適切に説明できる。 ＊地域創造に関する法や政策について、そのポイント、ならびにそれらの背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。 ＊地域あるいは都市が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。 ＊各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。 ＊授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	「地域」が意味するところ(1)：「都市」と「地域」の比較で用いられる場合の問題点や「地域」間の比較で指摘される問題点の整理、地域の「活性化」や地域「創生」に向けての話が展開されてきた背景。地理的・地政学的な背景と住居や労働の場所；日本の人口の約60%が、ならびに日本の工業の総出荷額(生産額)のうち約60～70%が、「太平洋ベルト」に集中する現状、各国の陸地面積に対する森林面積の比率、など。	
第2回	「地域」が意味するところ(2)：「都市」と「地域」の比較で用いられる場合の問題点や「地域」間の比較で指摘される問題点の整理、地域の「活性化」や地域「創生」に向けての話が展開されてきた背景。地理的・地政学的な背景と住居や労働の場所；日本の人口の約60%が、ならびに日本の工業の総出荷額(生産額)のうち約60～70%が、「太平洋ベルト」に集中する現状、各国の陸地面積に対する森林面積の比率、など。	
第3回	地方財政の把握(1)：歳入の内訳とその意味［地方税(うち法人二税)、地方譲与税(譲与金）、地方交付税(交付金)、国庫支出金、使用料・手数料、地方債、地方消費税、など]、『歳出』の内訳とその意味[義務的経費(人件費、扶助費、公債費）、投資的経費(普通建設事業費、災害復旧事業費、災害復旧事業費）、など]、収支の現状、一般会計、特別会計、ならびに地方公共団体の破綻可能性など。	
第4回	地方財政の把握(2)：歳入の内訳とその意味［地方税(うち法人二税)、地方譲与税(譲与金）、地方交付税(交付金)、国庫支出金、使用料・手数料、地方債、地方消費税、など]、『歳出』の内訳とその意味[義務的経費(人件費、扶助費、公債費）、投資的経費(普通建設事業費、災害復旧事業費、災害復旧事業費）、など]、収支の現状、一般会計、特別会計、ならびに地方公共団体の破綻可能性など。	
第5回	過疎化の現状(1)：「持続的発展法」の前身とその経緯、過疎地域の範疇、過疎市町村、一部過疎地域および一部過疎地域を有する一部過疎市町村、みなし過疎市町村、人口要件、財政力要件、国土面積の観点からの過疎地域の比率、過疎地域における年齢階層別人口構成比の推移、過疎地域における就業者数と産業別就業数の推移、無医地区、過疎地域における財政力指数、など。	
第6回	過疎化の現状(2)：「持続的発展法」の前身とその経緯、過疎地域の範疇、過疎市町村、一部過疎地域および一部過疎地域を有する一部過疎市町村、みなし過疎市町村、人口要件、財政力要件、国土面積の観点からの過疎地域の比率、過疎地域における年齢階層別人口構成比の推移、過疎地域における就業者数と産業別就業数の推移、無医地区、過疎地域における財政力指数、など。	
第7回	限界集落の概念とその特長(1)：調査研究の経緯、社会的共同生活の維持が困難な状態、存続集落、準限界集落、限界集落、消滅集落、65歳以上が50%以上を占める市町村、高齢化比率、高齢化比率が低い市町村、日本における高齢者数、日本に住む人々の平均年齢、高齢化比率の海外比較、など。	
第8回	限界集落の概念とその特長(2)：調査研究の経緯、社会的共同生活の維持が困難な状態、存続集落、準限界集落、限界集落、消滅集落、65歳以上が50%以上を占める市町村、高齢化比率、高齢化比率が低い市町村、日本における高齢者数、日本に住む人々の平均年齢、高齢化比率の海外比較、など。	
第9回	東京一極集中の現状(1)：東京圏の転入超過(性別・世代別）、三大都市圏の推移、各都道府県の転出・転入状況、東京都の人口推移、どこから東京都へ来ているのか、東京圏における産業別の雇用者数（就業者数）の推移、他の都道府県における産業別の雇用者数（就業者数）の推移、東京都と全国の有効求人倍率の比較、東京都にある大学への進学者数と進学理由、都道府県別学校数(高専、短大、4年制大学）と在籍者数、都市の集積効果、など。	
第10回	東京一極集中の現状(2)：東京圏の転入超過(性別・世代別）、三大都市圏の推移、各都道府県の転出・転入状況、東京都の人口推移、どこから東京都へ来ているのか、東京圏における産業別の雇用者数（就業者数）の推移、他の都道府県における産業別の雇用者数（就業者数）の推移、東京都と全国の有効求人倍率の比較、東京都にある大学への進学者数と進学理由、都道府県別学校数(高専、短大、4年制大学）と在籍者数、都市の集積効果、など。	
第11回	東京圏からの流出(1)：東京圏からの流出人数とその特長、テレワークの効果？、物価高、東京圏在住者の地方移住への関心、地域おこし協力隊、移住ならびに定住者数と今後の可能性、東京23区の大学定員規制に対する賛否、産業と都市（「産業が都市を育てる」のか、それとも「都市が産業を育てる」のか）など。	
第12回	東京圏からの流出(2)：東京圏からの流出人数とその特長、テレワークの効果？、物価高、東京圏在住者の地方移住への関心、地域おこし協力隊、移住ならびに定住者数と今後の可能性、東京23区の大学定員規制に対する賛否、産業と都市（「産業が都市を育てる」のか、それとも「都市が産業を育てる」のか）など。	
第13回	地域おこしと関連する法や支援(1)：「まち・ひと・しごと創生法」「デジタル田園都市国家構想」「地方創生2.0と「新しい地方経済・生活環境創生交付金」」、新しい地方経済・生活環境創生交付金、起業支援金、移住支援金、地方就職支援金、プロフェッショナル人材事業、デジタル実装型の概要、地域防災緊急整備型の概要、地域産業構造転換インフラ整備推進型の概要、地方拠点強化税制（オフィス減税・雇用促進税制）、地域未来投資促進法、など	
第14回	地域おこしと関連する法や支援(2)：「まち・ひと・しごと創生法」「デジタル田園都市国家構想」「地方創生2.0と「新しい地方経済・生活環境創生交付金」」、新しい地方経済・生活環境創生交付金、起業支援金、移住支援金、地方就職支援金、プロフェッショナル人材事業、デジタル実装型の概要、地域防災緊急整備型の概要、地域産業構造転換インフラ整備推進型の概要、地方拠点強化税制（オフィス減税・雇用促進税制）、地域未来投資促進法、など	
第15回	地域創生と起業支援：アントレプレナー、イントレプレナー、起業が重視されてきた背景と実態、各都道府県における倒産、休業、廃業、解散、起業・開業の状況、ベンチャーやユニコーンの数と国際比較、低い起業意欲と他方で大企業での就意向や公務員志望者が多い現状、総合起業活動指数、大学生の起業意識に関する国際調査（GUESSS）、日本政策金融公庫による起業に向けての支援制度、各都道府県および市町村における起業・創業支援制度、事業計画書の主な記載内容、など。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組み姿勢／態度	10	小テストへの取り組み姿勢，ファイリング，ノート，予習・復習，スケジュール管理・時間管理，提出回数、などにおける状況。

学期末課題	30	理解度，読解力，妥当性や信憑性，書き方，構成，誤字脱字の度合，データ収集力，などの観点から評価する。なお、評価はユニパから確認できる。
小テスト	60	単元毎に行う。理解度を確認する。なお、点数や間違った箇所などは、ユニパから確認できる。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・私語をしない，など受講に際して最低限のマナーは厳守すること。 ・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。 ・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。 ・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。
授業外学修	授業中に紹介する用語，概念についてインターネットから利用できる関連情報および参考文献などを参照して，理解を深める。授業中に紹介する次回の授業で取り上げる主なトピックスについて，事前に調べておく。以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業のなかで適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．地域創造に関する学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景を適切に説明できる。	地域創造に関する学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景を適切に説明できる。	地域創造に関する学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景を概ね適切に説明できる。	地域創造に関する学説や研究の背景については若干認識不足であるが、学説や研究のポイントは概ね適切に説明できる。	地域創造に関する学説や研究の背景については若干認識不足であるが、学説や研究のポイントは概ね説明できる。	地域創造に関する学説や研究のポイントを全く説明できない。
知識・理解	２．地域創造に関する法や政策について、そのポイント、ならびにそれらの背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	地域創造に関する法や政策について、そのポイント、ならびにそれらの背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	地域創造に関する法や政策について、そのポイント、ならびにそれらの背景や影響あるいは限界を概ね適切に説明できる。	地域創造に関する法や政策の背景や影響あるいは限界については若干認識不足であるが、法や政策のポイントは概ね適切に説明できる。	地域創造に関する法や政策の背景や影響あるいは限界についてはほとんど言及されていないが、学説や研究のポイントは概ね説明できる。	地域創造に関する法や政策のポイントを全く説明できない。
思考・問題解決能力	１．各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	設問の意味を他者へ確認することもあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでほぼ自力で正解を導くことができる。	設問の意味や解法を他者へ確認することはよくあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでなんとか正解することができる。	設問の意味や解法を他者へ確認すること無しでは難しいが、また授業資料を見ながらではあるが、種資格・検定試験で出題される問題をなんとか正解することができる。	設問の意味を他者へ確認することさえない。不正解のまま放置し、分からないところを理解しようとする姿勢が見られない。（あるいはそもそも問題を解いてもいない）。
態度	１．授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが概ねできている。	読み返しの頻度や仕方については改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は概ねできている。	読み返しの頻度や仕方についてはかなり改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は必要最低限のことはできている。	授業資料のファイリングは行われておらず、ノートも作成されていない。読み返しもない。

科目名	情報処理論			授業番号	SC111	サブタイトル			
教員	古谷　俊爾								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	本授業では，パソコンのハードウェア，ソフトウェアの基礎知識，ならびにそれらの適切な利用（ネットワーク・マルチメディア・情報セキュリティ関連）に関する基礎知識について説明する。更に当該分野の情報処理技術者試験における過去問題により知識を深める。 ITパスポート試験の「テクノロジ系」分野を念頭において授業を進める。もちろん基本情報技術者試験にも深く関わる内容である。								
到達目標	1. コンピュータ技術の基礎理論を身につける。 2. アルゴリズムとプログラミングの基礎知識を身につける。 3. コンピュータ構成要素の基礎知識を身につける。 4. システム構成要素の基礎知識を身につける。 5. ソフトウェアとその適切な利用に関する基礎知識を身につける。 6. ハードウェアとその適切な利用に関する基礎知識を身につける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	数と表現 コンピュータで扱う数値の（基数による）表現を，2進数を中心に8，16進数についても理解する。	
第2回	基数変換 基数を変換する方法を理解する。 2進数，8進数，10進数，16進数を相互に変換する方法を理解する。	
第3回	符号付き2進数，2進数の加減算，集合 負の2進数の表現方法，2進数の加算や減算，表現可能な数値の範囲を理解する。 集合と論理演算の関係を理解する。	
第4回	応用数学 確率の基本（順列，組み合わせ，確率）を理解する。 統計（データの代表値，データの散布度，正規分布）の基本的な考え方を理解する。	
第5回	情報量の単位とデジタル化，AI 情報量の表し方（ビットとバイト，情報量の単位，処理速度の単位）を理解する。 デジタル化の考え方や文字の表現について理解する。 AI技術（機械学習，ディープラーニング）を知る。	
第6回	プログラミングとデータ構造 プログラミングの目的，データ構造（変数，フィールドタイプ，配列，リスト，スタックとキュー，木構造）の基本的な考え方を理解する。	
第7回	アルゴリズムとプログラム言語 流れ図（フローチャート）による表現方法を理解する。 アルゴリズム（合計，探索，併合，整列）の基本的な考え方と，プログラミング言語の種類・特徴を理解する。	
第8回	ハードウェアの仕組み１（CPU，メモリ，記録媒体） コンピュータを構成する基本的な構成要素を理解する。プロセッサの基本的な仕組み，機能及び性能の考え方を理解する。メモリの種類と特徴を理解する。記録媒体の種類と特徴を理解する。	
第9回	ハードウェアの仕組み２（入出力インタフェース） 入出力インタフェースの種類（有線，無線）の特徴を理解する。 データ転送方式（シリアル，パラレル）の特徴を理解する。	
第10回	ハードウェアの仕組み３（IoT，デバイスドライバ），システムの構成 IoTシステムにおけるIoTデバイスの役割や構成要素，特徴を理解する。デバイスドライバとプラグアンドプレイの機能を理解する。システム構成の基本的な特徴を理解する。	
第11回	システムの評価指標 システムの性能，信頼性，経済性を測るための評価指標（レスポンス，ターンアラウンドタイム，稼働率，TCO）について理解する。	
第12回	ソフトウェアの仕組み1 オペレーティングシステム(OS)の必要性，機能，種類を理解する。ファイル管理の考え方を理解する。バックアップの基本的な考え方を理解する。	
第13回	ソフトウェアの仕組み2，ハードウェア オフィスツールなどのソフトウェアパッケージの特徴と基本操作を理解する。オープンソースソフトウェアの特徴を理解する。 コンピュータの種類と特徴を理解する。入出力装置の種類と特徴を理解する。	
第14回	マルチメディアとインターネット コンピュータ上で文字，音声，画像などの情報を統合的に扱えることを理解する。インターネット上で利用される様々なサービスの特徴と利用に関する留意点を理解する。	
第15回	セキュリティ，モバイルデバイスの普及，著作権 脅威と脆弱性，サイバー犯罪の事例，著作権，BYOD，公衆無線LANについて理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講姿勢，予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	80	テキスト・過去問題の内容が正しく理解できているかによって評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. 情報関連の授業の基礎となる重要な授業であるため，興味を持って受講していただきたい。 2. ITパスポート試験は全ての社会人向けの「ITを利活用するための共通的基礎知識」を問う資格であり，近年では就職活動の為に学生が取得するケースも増えている。本講義をきっかけに資格取得を目指してもらいたい。 3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。

授業外学修	予習は，授業計画に記述した内容について教科書の該当する部分を熟読し，必要に応じてインターネットの情報も調べること。 復習は毎回の授業内容に対応するテキスト・過去問題の問題演習を行うとともに他人に説明できるまで理解を深めておくこと。 予習・復習をあわせて週4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかるマスター　令和8-9年度版 ITパスポート試験　対策テキスト＆過去問題集	FOM出版	FOM出版	978-4-86775-190-9	2530円

使用テキスト：自由記載	このテキストは，2年間にわたって複数の授業(「通信ネットワーク」，「コンピュータ科学」，「ITパスポート特別○○」など)で使用する予定なので，この授業が終わっても保管しておくこと。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	Webサイト：「ITパスポート試験」情報処理推進機構(IPA)（ https://www3.jitec.ipa.go.jp/JitesCbt/ ） Webサイト：「ITパスポート試験ドットコム」（ https://www.itpassportsiken.com/ ）
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアの職務経験(7年)から，実践に基づいたコンピュータ，情報システムおよび情報通信技術の仕組み・活用・留意点を指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. コンピュータ技術の基礎理論を身につける。	離散数学・応用数学・情報に関する理論に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	離散数学・応用数学・情報に関する理論に関する授業内容を十分理解している。	離散数学・応用数学・情報に関する理論に関して授業内容をおおむね理解している。	離散数学・応用数学・情報に関する理論に関して最低限の内容は理解している	離散数学・応用数学・情報に関する理論に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2. アルゴリズムとプログラミングの基礎知識を身につける。	データ構造・アルゴリズムとプログラミング・プログラム言語・その他の言語に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	データ構造・アルゴリズムとプログラミング・プログラム言語・その他の言語に関する授業内容を十分理解している。	データ構造・アルゴリズムとプログラミング・プログラム言語・その他の言語に関して授業内容をおおむね理解している。	データ構造・アルゴリズムとプログラミング・プログラム言語・その他の言語に関して最低限の内容は理解している	データ構造・アルゴリズムとプログラミング・プログラム言語・その他の言語に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	3. コンピュータ構成要素の基礎知識を身につける。	プロセッサ・メモリ・入出力デバイスに関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	プロセッサ・メモリ・入出力デバイスに関する授業内容を十分理解している。	プロセッサ・メモリ・入出力デバイスに関して授業内容をおおむね理解している。	プロセッサ・メモリ・入出力デバイスに関して最低限の内容は理解している	プロセッサ・メモリ・入出力デバイスに関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	4. システム構成要素の基礎知識を身につける。	システムの構成・システムの評価指標に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	システムの構成・システムの評価指標に関する授業内容を十分理解している。	システムの構成・システムの評価指標に関して授業内容をおおむね理解している。	システムの構成・システムの評価指標に関して最低限の内容は理解している	システムの構成・システムの評価指標に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	5. ソフトウェアの基礎知識を身につける。	オペレーティングシステム・ファイルシステム・オフィスツール・オープンソースソフトウェアに関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	オペレーティングシステム・ファイルシステム・オフィスツール・オープンソースソフトウェアに関する授業内容を十分理解している。	オペレーティングシステム・ファイルシステム・オフィスツール・オープンソースソフトウェアに関して授業内容をおおむね理解している。	オペレーティングシステム・ファイルシステム・オフィスツール・オープンソースソフトウェアに関して最低限の内容は理解している	オペレーティングシステム・ファイルシステム・オフィスツール・オープンソースソフトウェアに関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	6. ハードウェアの基礎知識を身につける。	ハードウェア（コンピュータ・入出力装置)に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	ハードウェア（コンピュータ・入出力装置)に関する授業内容を十分理解している。	ハードウェア（コンピュータ・入出力装置)に関して授業内容をおおむね理解している。	ハードウェア（コンピュータ・入出力装置)に関して最低限の内容は理解している	ハードウェア（コンピュータ・入出力装置)に関して最低限の内容の理解が認められない。

科目名	情報処理演習			授業番号	SC112A	サブタイトル			
教員	古谷　俊爾								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	本授業では，本学科で2年間の授業で必要なパソコン利用技術の基礎演習を行う。 具体的には，Windows（入力・ファイル操作ほか），Webブラウジング，学務情報システム，Webビジネスアプリとコラボレーションツール(オフィスソフト，電子メール，LMS，CMSなど)の演習により，データの収集・作成・共有・発信技術を正しく活用できるよう学ぶ。								
到達目標	Windows OS，学務情報システム，Webビジネスアプリとコラボレーションツールの利用技術を修得し，それらを正しくかつ有効に活用できるようになる。 具体的には次の項目である。 1. 情報処理演習室の使い方と注意点を理解している。 2. Windowsの機能(タイピング・ファイル操作・マルチメディアの利用)を活用できる。 3. UNIPAの機能を活用できる。 4. Google Workspaceの機能を活用できる。 5. Microsoft365の機能を活用できる。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	本学におけるPC利用 本学で利用するシステムおよびサイトの，サインイン方法や留意点の概要を理解する。 インターネット利用におけるセキュリティ上の留意点の概要を理解する。	
第2回	Windowsの基本操作 タッチタイプ（キーボードを見ないで入力する打ち方）をフリーソフトMIKATYPEを使用して演習する。その他，Windowsの操作の基本を演習する。	
第3回	Windowsのプレインストールソフトの利用 Windowsにはじめからインストールされているソフトウェア（電卓・ペイントなど）の便利さを理解し，Windowsソフトの操作方法を会得する。	
第4回	Windowsのファイル操作 Windowsファイルシステムを理解し，ファイルのコピー・移動・削除の演習を行う。ファイルやフォルダを圧縮および展開する演習を行う。	
第5回	Google Workspaceの基本操作1 Gmailにより，宛先指定の違い(To，CC，BCC)，署名，添付ファイルなど，基本的な電子メールの仕組みと使い方を学ぶ。Chat，Spacesサービスを理解する。	
第6回	Google Workspaceの基本操作2 Classroomの基本操作を理解し，ロールプレイングによりストリームの相互コミュニケーション機能や課題提出の方法を学ぶ。	
第7回	Google Workspaceの基本操作3 GoogleDriveの基本操作を学ぶ，Googleドキュメント・スプレッドシート・スライドといったオフィスツールの基本操作を学ぶ。	
第8回	Google Workspaceの基本操作4 Googleフォームの基本機能を理解し，フォームを作成して情報を取得できるようになる。	
第9回	Google Workspaceの基本操作5 Googleサイトの基本機能を理解し，自身で部品を配置して実際にWebページを作成する演習を行う。	
第10回	Microsoft365，Office365(1) Microsoft 365 Apps for Students，Office 365 A1から，利用価値の高い機能をピックアップして演習し使いこなせるようになる。	
第11回	Microsoft365，Office365(2) Microsoft 365 Apps for Students，Office 365 A1から，利用価値の高い機能をピックアップして演習し使いこなせるようになる。	
第12回	Microsoft365，Office365(3) Microsoft 365 Apps for Students，Office 365 A1から，利用価値の高い機能をピックアップして演習し使いこなせるようになる。	
第13回	UNIVERSAL PASSPORT（通称UNIPA）1 コース学修・課題提出・小テスト・クリッカー・授業資料の配布等，多種多様な教育手法に対応できる豊富な機能をピックアップして演習する。	
第14回	UNIVERSAL PASSPORT（通称UNIPA）2 コース学修・課題提出・小テスト・クリッカー・授業資料の配布等，多種多様な教育手法に対応できる豊富な機能をピックアップして演習する。	
第15回	UNIVERSAL PASSPORT（通称UNIPA）3 コース学修・課題提出・小テスト・クリッカー・授業資料の配布等，多種多様な教育手法に対応できる豊富な機能をピックアップして演習する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	40	作品，自作マニュアルなどの出来栄えにより評価する。授業内で総評することによりフィードバックする。更に細かなフィードバックを希望する場合は個別に担当教員へ問い合わせる。
小テスト	30	タッチタイピング，ファイル操作などが速やかに正しく行えるかにより評価する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. 必携ノートパソコンを，使用できる状態で授業に参加しなければ出席とはみなさない。 2. 本授業内容の習熟は，短大で授業を受ける期間すべてに影響を与えるので，しっかりと利用技術を身につけるべく学修に励んでもらいたい。 3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。
授業外学修	1. 予習が必要な際には，事前に指示する（本授業では，予習よりも復習を大切に考えている）。 2. 復習として，学んだ内容の整理を行い理解を深める。また，繰り返し復習することにより学んだことの定着をはかる。 3. 発展として，自ら課題を見つけてスキルを向上させる。 以上の内容に対して，毎週１時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用せず，必要に応じて資料を配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアの職務経験(7年)から，システム設計，ソフトウェア開発の経験を活かして分かりやすくしくみや使い方を解説する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 本学におけるPCの使い方と注意点を理解している。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
技能	1. Windowsの機能(タイピング・ファイル操作・マルチメディアの利用)を活用できる。	MIKATYPEのローマ字単語練習で200文字/分以上で，他の評価の観点に関して授業内容を超えて応用することができる。	MIKATYPEのローマ字単語練習で160文字/分以上で，他の評価の観点に関して適切に行うことができる。	MIKATYPEのローマ字単語練習で120文字/分以上で，他の評価の観点に関しておおむね適切に行うことができる。	MIKATYPEのローマ字単語練習で80文字/分以上で，他の評価の観点に関して行うことができる。	評価の観点に関して最低限の内容まで行うことができない。
技能	2. UNIPAの機能を活用できる。	評価の観点に関して授業内容を超えて応用することができる。	評価の観点に関して適切に行うことができる。	評価の観点に関しておおむね適切に行うことができる。	評価の観点に関して行うことができる。	評価の観点に関して最低限の内容まで行うことができない。
技能	3. Google Workspaceの機能を活用できる。	評価の観点に関して授業内容を超えて応用することができる。	評価の観点に関して適切に行うことができる。	評価の観点に関しておおむね適切に行うことができる。	評価の観点に関して行うことができる。	評価の観点に関して最低限の内容まで行うことができない。
技能	4. Microsoft365の機能を活用できる。	評価の観点に関して授業内容を超えて応用することができる。	評価の観点に関して適切に行うことができる。	評価の観点に関しておおむね適切に行うことができる。	評価の観点に関して行うことができる。	評価の観点に関して最低限の内容まで行うことができない。

科目名	文書処理 1クラス			授業番号	SC121A	サブタイトル			
教員	脇坂　基徳								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	広く普及している文書処理ソフト「Microsoft Word 」の基本的な使用法を学習する。コンピュータを使用した演習を通して実践的なスキルを身に付け，実務に応用できる技能を習得する。								
到達目標	文書処理ソフト「Microsoft Word 365」活用のためのスキルを身に付けることを目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	科目のオリエンテーション Wordの紹介，またメリットや活用された実例などを確認し，Webサービスを活用してタイピング練習を行う。	
第2回	ビジネス文書やビジネスメールの基本やポイント・注意点について ビジネス文書の基本やビジネスメールの書き方・マナーについて理解する。	
第3回	第1章 Wordの基本操作を知ろう Word文書の作成や保存，操作と表示モードなどの基本になる操作を理解する。	
第4回	第2章 文字入力をマスターしよう 文字の入力・変換，また文字の削除やカーソルの移動など，キーボードに割り当てられた機能を理解する。	
第5回	第3章 基本的な文書を作成しよう 文書のページ設定，定型文書などを活用した入力，印刷の設定などを理解する。	
第6回	第4章 文章を編集しよう 文字列の選択や削除・コピー・移動などの操作，操作をもとに戻す・やり直すなどの既存の文書の編集について理解する。	
第7回	第5章 文字を装飾しよう 文字や段落，図表などに設定する書式や，あらかじめWordに用意されている書式設定であるスタイルについて理解する。	
第8回	第6章 文字を配置しよう 文字や段落の文字配置の基本と，インデントやタブ，セクションについて理解する。	
第9回	第7章 表を作成しよう Word内に表を作成・挿入・編集する方法，またExcelの表をWordに貼り付ける方法について理解する。	
第10回	第8章 図形を作成・編集しよう Wordで描くことのできる様々な図形やテキストボックスの作成について理解する。	
第11回	第9章 写真・イラスト・複雑な図を使ってみよう 写真・イラスト・複雑な図などのオブジェクトを挿入する方法や，サイズや書式の変更について理解する。	
第12回	第10章 便利な機能を使いこなそう Wordを使用して文書を作成する際に便利になる機能を使いこなすためのポイントの前編の解説を行う。	
第13回	第10章 便利な機能を使いこなそう Wordを使用して文書を作成する際に便利になる機能を使いこなすためのポイントの後編の解説を行う。	
第14回	動画を使ったビジネス文書の作成演習 前編 「 Wordでお知らせの社内文書を作る方法」「Wordで価格変更のお知らせ文書を作る方法」の作成演習を行う。	
第15回	動画を使ったビジネス文書の作成演習 後編 「Wordで教室案内のチラシを作る方法」「Wordでお店のPOPを作る方法」「Wordで名刺サイズの商品プライスカードを作る方法」の作成演習を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢／態度	30	積極的な受講姿勢・参加度・態度によって評価する。
課題提出	70	複数回の授業課題によって各回の理解度を評価する。質問があれば、解説コメントを返す。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	文書作成・編集の手順や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。
授業外学修	Wordは広く普及しているアプリケーションである，文書作成・編集の知識を修得することで就職後に即戦力での活躍が期待できる。 そのため，授業開始前までに30分程度，授業終了後に30分程度，各々が時間をとってテキスト・動画を参考に文書作成の応用を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
今すぐ使えるかんたん Word2024 Office2024／Microsoft365	AYURA	技術評論社	9784297145750	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で，適宜紹介していく。
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．PCの知識を身につけている	一般的なPCの操作に関する知識を身につけている	一般的なPCの操作に関する常識的な知識を身につけている	一般的なPCの操作に関する基本的な知識を身につけている	一般的なPCの操作に関する基本的な知識を十分には身につけていない	一般的なPCの操作に関する基本的な知識を身につけていない
知識・理解	２．文書処理ソフトの知識を身につけている	文書処理ソフトの操作に関する十分な理解がある	文書処理ソフトの操作に関する理解がある	文書処理ソフトの操作に関する基本的な理解がある	文書処理ソフトの操作に関する理解が十分ではない	文書処理ソフトの操作に関する理解がない
技能	１．文書処理ソフトの操作ができる	文書処理ソフトの応用操作ができる	文書処理ソフトの操作ができる	基本的な文書処理ソフトの操作ができる	基本的な文書処理ソフトの操作が十分にできない	基本的な文書処理ソフトの操作ができない

科目名	ビジネスコンピューティング A 1クラス	授業番号	SC122A	サブタイトル	
教員	平井 安久				
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期
授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択		
授業概要	広く普及している表計算ソフト「Microsoft Office 365(Excel)」の基本的な使用法を学習する。コンピュータを使った演習を通して実践的なスキルを身に付ける。総合演習としてMOS Excel 365 模擬試験用の問題に取り組む。 なお，本科目は「上級情報処理士」（全国大学実務教育教会認定資格）の必修科目である。				
到達目標	表計算ソフト「Microsoft Office 365(Excel)」による基本的な情報処理のスキルを身に付けることを目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。				
授業計画 備考					

回	概要	担当
第1回	ワークシートやブックの管理(1) ブックにデータをインポートする，ブック内を移動する	
第2回	ワークシートやブックの管理(2) ワークシートやブックの書式を設定する，オプションと表示をカスタマイズする，共同作業と配布のためにブックを準備する.	
第3回	セルやセル範囲のデータの管理(1) シートのデータを操作する，セルやセル範囲の書式を設定する	
第4回	セルやセル範囲のデータの管理(2) 名前付き範囲を定義する，参照する，データを視覚的にまとめる	
第5回	テーブルとテーブルのデータの管理(1) テーブルを作成する，書式設定する テーブルを変更する	
第6回	テーブルとテーブルのデータの管理(2) テーブルのデータをフィルターする，並べ替える	
第7回	数式や関数を使用した演算の実行(1) 参照を追加する，データを計算する・加工する	
第8回	数式や関数を使用した演算の実行(2) 文字列を変更する，書式設定する	
第9回	グラフの管理(1) グラフを作成する，グラフを変更する	
第10回	グラフの管理(2) グラフを書式設定する	
第11回	総合演習１（模擬試験） 実施画面，レビューページ，解答動画画面，試験結果画面，再挑戦画面，試験履歴画面の操作説明	
第12回	総合演習２（模擬試験） 実施画面，レビューページ，解答動画画面，試験結果画面，再挑戦画面，試験履歴画面の操作説明	
第13回	総合演習３（模擬試験） 実施画面，レビューページ，解答動画画面，試験結果画面，再挑戦画面，試験履歴画面の操作説明	
第14回	総合演習４（模擬試験） 実施画面，レビューページ，解答動画画面，試験結果画面，再挑戦画面，試験履歴画面の操作説明	
第15回	総合演習５（模擬試験） 実施画面，レビューページ，解答動画画面，試験結果画面，再挑戦画面，試験履歴画面の操作説明	
授業計画 備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
課題	60	毎週課題が出される 課題の解説をしながら、進めていく。
その他		

評価の方法：自由記載	MOS Excel合格者は評価に加える。
受講の心得	情報フィールド（オフィス利用技術）の導入にあたる科目であるので今後の為にしっかり理解できるまで学習すること。 また，情報フィールド（データ分析ユニット）および経営／ビジネスフィールド（医療事務ユニット）にも関係している。また複数の資格にも関連していることも頭に入れておくこと。
授業外学修	1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，授業内容を教科書・参考資料の参照をしなくてもできるようになるまで繰り返し演習しておく。 3 発展学習として資格試験の準備を行い受験・合格する（余裕があれば）。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
Microsoft Office Specialist MOS Excel 365 対策テキスト＆問題集	富士通エフオーエム株式会社	FOM	978-4-86775-056-8	2100円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	無
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．データの入力方法についての意味・用法を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
知識・理解	2．レイアウトの設定の意味・用法を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
知識・理解	3．テーブルの作成・扱いの意味・用法を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
知識・理解	4．グラフ表示についての意味・用法を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
知識・理解	5．数式・関数についての意味・用法を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
技能	1．WordやPowerPoint等の役割・有用性についての関連を理解している.	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない

科目名	プログラミング概論			授業番号	SC131	サブタイトル			
教員	古谷　俊爾								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	プログラミングは，現代の社会で必要なスキルである「アイデアを形にする能力」や「複雑な問題に立ち向かう方策を自分で考え，それを実際に試して期待どおりの結果にならなければ何度でもやり直して問題を解決する能力」を身につけることができる為，将来の職業と関係無く学ぶことが推奨されている。本科目はプログラミング入門と位置づけプログラミングの概念を講義と演習をとおして明らかにする。 ビジュアルプログラミング言語（命令ブロックをドラッグ&ドロップといった簡単な操作でプログラミングが可能な言語）であるGoogle BlocklyとMIT Scratchを使用してゲーム制作も題材に取り入れながら学んだ後，本格的な開発言語であるPythonに触れる。								
到達目標	プログラミングの概念の根幹である「実現したいことを処理のステップに分けること」が可能になり，自分のアイデアをプログラミングで実現できるようになる。具体的には基本的な次のことを身につける。 1.ビジュアルプログラミングにおける知識 2.テキストプログラミングにおける知識 3.プログラムの作成能力 4.プログラムによるアイデアの実現能力なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	プログラミング概説 ビジュアルプログラミング言語(Blockly Games)で，はじめてのプログラミングを体験する。 迷路をスタート地点からゴール地点まで，どのような処理の手順でたどり着けるかを学ぶ。 予習：Blockly Gamesについて様々なWebサイト記事を参照，復習：Blockly Games	
第2回	Scratch(1) 更に高度なことができるMITが開発したビジュアルプログラミング言語環境「Scratch」を紹介する。 シューティングゲームの作成例をもとに，キーボード操作・アニメーション・繰り返し・条件分岐・音に関するプログラミング技術を学ぶ。	
第3回	Scratch(2) シューティングゲームの作成例をもとに，変数・乱数・マルチスレッド・メッセージ・イベントに関するプログラミング技術を学ぶ。	
第4回	Scratch(3) アルゴリズムとデータ構造の概略について理解する。 目的を実現するフローチャートを考えプログラムを作成する。	
第5回	Scratch(4) 線形探索アルゴリズムを題材に，配列データ構造を学びフローチャートからプログラム作成の実践を行う。	
第6回	Scratch(5) 自ら学ぶ為に必要なこと（他人のコードを読み解き利用する）を学ぶ。 オリジナル作品制作課題について説明する。	
第7回	Python:概要を理解する プログラムとは，プログラミング言語とは，プログラムを開発する流れを理解する。 Pythonとは，様々な利用シーンについて理解する。	
第8回	Python:開発環境の理解 Pythonプログラムの開発に必要なものを理解する。 Python言語開発環境(Visual Studio Code)を準備する。	
第9回	Python:記述規約とデータの保持 Pythonの書き方，プログラムを読みやすくするための規則を理解する。 変数とは，関数の呼び出しとデータ入力について理解する。	
第10回	Python:データをまとめて扱う リストと多次元リストについて理解する。 タプル，辞書，集合というリストに似た構造を理解する。	
第11回	Python:演算子 演算子とは何か，どのような種類があるのかを理解する。 算術演算子，累算代入演算子，文字列を連結する演算子，比較演算子，論理演算子をそれぞれ理解する。	
第12回	Python:制御構造(1) 制御構造が3種類ありどのようなものか理解する。 条件分岐の制御構造と基本文法を理解する。	
第13回	Python:制御構造(2) 繰返し(for文，while文)の制御構造と基本文法を理解する。 繰返し処理の制御を理解する。	
第14回	Python:関数 関数とは何かを理解する。 関数の定義(関数名，戻り値，仮引数)するための基本文法を理解する。	
第15回	Python:例外処理 例外処理とは何かを理解する。 例外処理を実装するための基本文法を理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講姿勢，予・復習の状況によって評価する。
レポート	40	Scratch作品制作（学んだ内容が十分に活かせているか，作品のドキュメントがきちんと整備されているか） 課題提出後に全体的な傾向についてコメントをする。個々の詳細なコメントを希望する学生は研究室にお越しいただきたい。
小テスト		
定期試験	30	指示した処理を制限時間内に実現できるかによって評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. 必携ノートパソコンを，使用できる状態で授業に参加しなければ出席とはみなさない。 2. 情報フィールド（プログラミング）の入門レベル科目であるが，当然ながら十分な授業外学修がなされていることを前提に授業を進める。 3. プログラミングに関わる授業全般に言えるが，解答を待つ・写すでは得るものはほとんど無く受講する意味が無い。自らアイデアを練り自ら問題に立ち向かう姿勢が要求される。 4. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。 5. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。

授業外学修	1. 予習として授業にかかわる内容（資料が必要な場合は事前に配布する）をプログラミング環境で実際にさわってみて疑問点を明らかにする。 2. 復習として授業で扱った内容を参考資料を見ずにプログラミングできるようにする。 3. 発展学修として，インターネット上の公開されている作品・チュートリアルを参照して技法を学び，それらを活用して自分のアイデアでプログラムを作る。 4. オリジナル作品の制作時期は予・復習をその制作にあてる。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかるPython入門	FOM出版	FOM出版	978-4-938927-99-8	2,100円

使用テキスト：自由記載	Google BlocklyとMIT Scratchについては，適宜資料配布やWebサイト紹介を行う。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアの職務経験(7年)から，実践に基づいたプログラミング的思考およびソフトウェア制作の指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. ビジュアルプログラミングにおける知識	ビジュアルプログラミング言語に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	ビジュアルプログラミング言語に関する授業内容を十分理解している。	ビジュアルプログラミング言語に関して授業内容をおおむね理解している。	ビジュアルプログラミング言語に関して最低限の内容は理解している	ビジュアルプログラミング言語に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2. テキストプログラミングにおける知識	テキストプログラミング言語に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	テキストプログラミング言語に関する授業内容を十分理解している。	テキストプログラミング言語に関して授業内容をおおむね理解している。	テキストプログラミング言語に関して最低限の内容は理解している	テキストプログラミング言語に関して最低限の内容の理解が認められない。
思考・問題解決能力	1. プログラムの作成能力	Pythonプログラムを作成・修正でき，エラーやバグの原因を特定し，解決するプロセスを導くことができる。	Pythonプログラムを作成・修正できる。	簡単なPythonプログラムを作成・修正できる。	簡単なPythonプログラムを作成できる。	簡単なPythonプログラムを作成できない。
思考・問題解決能力	2. プログラムによるアイデアの実現能力	自分のアイデアをScratchの高度な技術や特徴を活かして実現・説明できる。	自分のアイデアをScratchの特徴を活かして実現・説明できる。	自分のアイデアをScratchの特徴を活かして実現できる。	自分のアイデアをScratchで表現できる。	自分のアイデアをScratchで実現できない。

科目名	通信ネットワーク			授業番号	SC213	サブタイトル			
教員	古谷　俊爾								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	通信ネットワークに関わる，ヒューマンインタフェースの特徴やマルチメディア技術の特徴，データベース設計やネットワークの知識，セキュリティ対策などについて解説します。 ITパスポート試験の技術要素分野を念頭に置いて，問題演習も取り入れながら授業を進める。								
到達目標	1. 情報デザインの知識を身につける。 2. 情報メディアの知識を身につける。 3. データベースの知識を身につける。 4. ネットワークの知識を身につける。 5. セキュリティの知識を身につける。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	情報デザイン 情報を可視化し，構造化して，構成する要素間の関係を分かりやすく整理する考え方（Webデザイン，ユニバーサルデザイン）を理解する。 ヒューマンインタフェース，インタフェース設計を理解する。	
第2回	情報メディア マルチメディアのファイル形式，情報の圧縮と伸張について理解する。 グラフィックス処理，マルチメディア技術の応用例(VR，ARなど)を理解する。	
第3回	データベース1：データベースの基本 データベースの特徴・モデル，データベース管理システム，データベース設計（データの分析，データの設計，コードの設計）を理解する。	
第4回	データベース2：正規化 データベース設計のうち，正規化をとりあげ理解する。 E-R図による設計も紹介する。	
第5回	データベース3：データ操作・トランザクション処理 データ操作の関係演算と集合演算について理解する。 同時実行制御（排他制御），バックアップ，障害回復の方法を理解する。	
第6回	ネットワーク1：ネットワーク方式 ネットワークの形態（LAN，WAN，インターネット），ネットワークの構成要素（機器・規格・中継装置）について理解する。	
第7回	ネットワーク2：IoTネットワーク，通信プロトコル1 IoTネットワークの構成要素，用途に応じた通信手段の使い分けを理解する。 通信プロトコル(TCP/IP)の概要について理解する。	
第8回	ネットワーク3：通信プロトコル2 IPプロトコルについて，特にIPアドレスを中心にIPv4とIPv6の違いやアドレッシングの仕組みについて理解を進める。	
第9回	ネットワーク4：インターネットの仕組みとサービス IPアドレス，ドメイン名，DNSとその関係を理解する。 WWW，電子メール，ファイル転送のサービスを理解する。	
第10回	ネットワーク5：通信サービス データ通信サービスの種類，モバイル通信について，また課金方式の種類と伝送時間の計算方法を理解する。	
第11回	セキュリティ1：情報セキュリティ 情報セキュリティの目的，情報資産，脅威と脆弱性，不正行為が発生するメカニズムのそれぞれについて理解する。	
第12回	セキュリティ2：管理 リスクマネジメント，情報セキュリティの要素，ISMS，情報セキュリティポリシ，個人情報保護，情報セキュリティ組織・機関のそれぞれを理解する。	
第13回	セキュリティ3：対策と実装技術1 人的セキュリティ対策の種類，技術的セキュリティ対策の種類，物理的セキュリティ対策の種類，利用者認証技術のそれぞれを理解する。	
第14回	セキュリティ4：対策と実装技術2 暗号技術（共通鍵暗号方式，公開鍵暗号方式），認証技術（ディジタル署名ほか），IoTのセキュリティについて理解する。	
第15回	表計算 表計算ソフトの機能，ワークシートの基本構成，算術演算子とセル参照，関数の使い方・種類のそれぞれを理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	80	当該分野の内容が正しく理解できているかを，主にITパスポート試験の過去問題を利用して評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. 情報フィールド（情報処理）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。 2. 授業では，当該分野の重点部分を解説する。授業外学修にて必ず当該分野を網羅する必要がある。 3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。

授業外学修	予習は，授業計画に記述した内容について教科書の該当する部分を熟読し，必要に応じてインターネットの情報も調べること。 復習は毎回の授業内容に対応するテキスト・過去問題の問題演習を行うとともに他人に説明できるまで理解を深めておくこと。 予習・復習をあわせて週4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかるマスター　令和8-9年度版 ITパスポート試験　対策テキスト＆過去問題集	FOM出版	FOM出版	978-4-86775-190-9	2530円

使用テキスト：自由記載	必須科目「情報処理論」で使用した上記テキストを使用する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	『ITパスポート試験ドットコム』（https://www.itpassportsiken.com/） 『情報通信白書 for Kids』（http://www.soumu.go.jp/joho_tsusin/kids/），総務省 『初歩からのネットワーク』，森川　恵　著，実教出版 『絶対わかる！新・ネットワーク超入門』，日経ネットワーク，日経BP
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアの職務経験(7年)から，実践に基づいたネットワーク構築，サーバ構築，セキュリティ対策およびシステム開発に基づく通信ネットワークの知識・技術を指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 情報デザインの知識を身につける。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2. 情報メディアの知識を身につける。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	3. データベースの知識を身につける。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	4. ネットワークの知識を身につける。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	5. セキュリティの知識を身につける。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。

科目名	コンピュータ科学			授業番号	SC214	サブタイトル			
教員	古谷　俊爾								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	システム開発技術（システム開発のプロセスやテスト手法，ソフトウェア開発のプロセスや開発手法），プロジェクトマネジメント，サービスマネジメントおよびシステム監査について解説する。 ITパスポート試験「マネジメント系」分野が授業の中心になる。もちろん基本情報技術者試験にも関わる内容である。								
到達目標	次の項目を理解することを目的とする。 システム開発のプロセスの基本的な流れと見積りの考え方 代表的なソフトウェア開発手法に関する概要と意義及び目的 プロジェクトマネジメントの意義，目的及び考え方，プロセスの基本的な流れ サービスマネジメントの意義・目的・考え方，サービスマネジメントシステムの概要やサービスデスクなどの関連項目，システム環境整備に関する考え方 システム監査の意義・目的・考え方・対象や基本的な流れ，企業などにおける内部統制やIT ガバナンスの目的・考え方なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	システム開発のプロセス (1) システム開発における基本的な流れとプロセスの種類を今回と次回の2回にわたり解説する。 （システム要件定義・ソフトウェア要件定義 ， 設計 ）	
第2回	システム開発のプロセス (2) システム開発におけるプロセスの種類を解説する。 （プログラミング・単体テスト，統合・テスト ， 導入・受入れ ， 保守）	
第3回	ソフトウェアの見積り 開発規模，開発環境などに基づいて，開発工数，開発期間などの見積りを行うときの基本的な考え方を解説する。	
第4回	ソフトウェア開発プロセス・手法(1) 代表的なソフトウェア開発手法の特徴，代表的なソフトウェア開発モデルの特徴について解説する。	
第5回	ソフトウェア開発プロセス・手法(2) 迅速かつ適応的にソフトウェア開発を行う軽量な開発手法であるアジャイルの特徴と基本的な用語，開発プロセスに関する代表的なフレームワークの特徴について解説する。	
第6回	開発技術の問題演習 教科書の予想問題と過去問題から代表的な問題を取り上げ解説する。	
第7回	プロジェクトマネジメント(1) システム開発プロジェクトを円滑に推進するために，プロジェクトマネジメント全般 の基本的な知識を今回と次回の2回にわたり解説する。	
第8回	プロジェクトマネジメント(2) プロジェクトを立ち上げ，計画に基づいてプロジェクトを進め，レビューなどを通じて 進捗，コスト，品質及び資源を管理し，目標を達成する流れを解説する。	
第9回	プロジェクトマネジメントの問題演習 教科書の予想問題と過去問題から代表的な問題を取り上げ解説する。	
第10回	サービスマネジメント 価値を提供するため，サービスの計画立案，設計，移行，提供及び改善のための組織の活動及び資源を，指揮し，管理する，一連の能力及びプロセスとしてサービスマネジメントがあることを解説する。	
第11回	サービスマネジメントシステム サービスマネジメントシステムの概要とサービスデスク（ヘルプデスク）の基本的な役割と概要を解説する。	
第12回	ファシリティマネジメント 企業などがシステム環境を最善の状態に保つための考え方として，ファシリティマネ ジメントがあることを解説する。	
第13回	システム監査 企業などにおける監査業務について目的と主な種類を，情報システムを対象に実施するシステム監査について意義・目的・基本的な流れを解説する。	
第14回	内部統制 企業などの健全な運営を実現するために，内部統制や IT ガバナンスがあることを知り，その目的と考え方を解説する。	
第15回	サービスマネジメントの問題演習 教科書の予想問題と過去問題から代表的な問題を取り上げ解説する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講姿勢，予・復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	80	テキスト・過去問題の内容が正しく理解できているかによって評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. 情報フィールド（情報処理）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。 2. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。 3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。
授業外学修	1. 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2. 復習として，教科書の問題演習や情報処理技術者試験の過去問の確認を行う。 3. 発展学修として，情報処理技術者試験の対策を行う。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかるマスター 令和6-7年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集	FOM出版	FOM出版	978-4-86775-070-4	2200

使用テキスト：自由記載	必須科目「情報処理論」で使用したテキストと同一である。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	ITパスポート試験ドットコム(https://www.itpassportsiken.com/)
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアの職務経験(7年)から，実践に基づいたシステムの企画・開発・運用・保守の考え方について指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. システム開発のプロセスの基本的な流れと見積りの考え方を理解する。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2. 代表的なソフトウェア開発手法に関する概要と意義及び目的を理解する。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	3. プロジェクトマネジメントの意義，目的及び考え方，プロセスの基本的な流れを理解する。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	4. サービスマネジメントの意義・目的・考え方，サービスマネジメントシステムの概要やサービスデスクなどの関連項目，システム環境整備に関する考え方を理解する。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	5. システム監査の意義・目的・考え方・対象や基本的な流れ，企業などにおける内部統制やIT ガバナンスの目的・考え方を理解する。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。

科目名	ITパスポート特別講義			授業番号	SC215	サブタイトル			
教員	倉田　致知、古谷　俊爾								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	現代では，IT（ICT)は私たちの社会の隅々まで深く浸透し，どのようなビジネスにおいてもITなくして成立しえないという状況にある。 すなわち，どのような業種・職種でも，ITと経営全般に関する総合的知識が不可欠となっている。それは，事務系・技術系，文系・理系を問わず，ITの基礎知識を持ち合わせていなければ，企業の戦力にはなりえないともいえる。 今後，グローバル化，ITの高度化はますます加速し，「IT力」を持った人材を企業は求めることと考えられる。 以上から，ITリテラシーを具体的に証明することのできるITパスポート試験が着目されているところである。 本講義では，企業と法務，業務分析・データ活用，及びシステム戦略の面からITを理解していく。また，本講義における目標は，ITパスポート試験の合格を目指すことであり，これから社会人となる学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識を証明できることとする。								
到達目標	「ITパスポート特別演習」科目と合わせ，ITパスポート試験に合格することを目標とする。 本講義においては，企業を取り巻く環境を理解することを前提に，さらに経営戦略を学ぶ。経営基盤として現代では情報システムは不可欠のものであり，ITパスポート試験の合格だけでなく，情報システムを深く理解することを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	はじめに 情報処理技術の高度化と普及について	倉田致知
第2回	経営と組織 企業活動におけるデータ	倉田致知
第3回	業務分析・データ利活用 業務分析の方法	倉田致知
第4回	会計・財務 会計データの利用	倉田致知
第5回	企業法務 知的財産権・セキュリティ保護・労働関連法等，企業活動にかかわる法令	倉田致知
第6回	倫理と標準化 企業活動の倫理とISO	倉田致知
第7回	企業と法務に関する内容の演習 これまでの復習として演習を実施	倉田致知
第8回	経営戦略 経営戦略と企業活動	倉田致知
第9回	ビジネス戦略 経営戦略とビジネス上の戦略との関連	古谷俊爾
第10回	技術戦略マネジメント 経営戦略と技術戦略との関連	古谷俊爾
第11回	ビジネスインダストリ ビジネスにおける多様なシステム	古谷俊爾
第12回	経営戦略のまとめと経営戦略に関する内容の演習 これまでの学修の復習として演習を実施	古谷俊爾
第13回	システム戦略 情報システム戦略とプロセス	古谷俊爾
第14回	システム企画 システム化に関する計画から実施	古谷俊爾
第15回	まとめとシステム戦略に関する内容の演習	古谷俊爾
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	授業参加の程度
レポート		
小テスト	50	随時行う小テストの点数による。実施の都度全体の評価を行う。
最終試験	30	最後に実施し講義全体を通じた理解の確認を行う
その他		

評価の方法：自由記載	評価については，授業への取り組みの姿勢/態度，小テスト及び定期試験の結果を総合的に評価する。
受講の心得	わからない点は積極的に質問等をすることにより解消すること。 本講義はITパスポート試験の合格を目的としていることから，予習は必ず行うことで授業に備え，講義内容を十分理解し修得するように心がけること。
授業外学修	予習及び復習は必ず行うこと。 週当たり予習・復習に際しては，予習・復習を合わせて4時間学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかるマスター　令和4-5年度版ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集		FOM出版	9784938927424	2420円

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．企業活動と法務に関する知識を理解している。	企業活動と法務に関する内容を十分理解している。	企業活動と法務に関する内容をほぼ理解している。	企業活動と法務に関する基本的な内容を理解している。	企業活動と法務に関する基本的な内容の理解が不十分である。	企業活動と法務に関する基本的な内容の理解ができていない。
知識・理解	2．経営戦略の知識を理解している。	経営戦略に関する内容を十分理解している。	経営戦略に関する内容をほぼ理解している。	経営戦略に関する基本的な内容を理解している。	経営戦略に関する基本的な内容の理解が不十分である。	経営戦略に関する基本的な内容の理解ができていない。
知識・理解	3．システム戦略に関する知識を理解している。	システム戦略に関する内容を十分理解している。	システム戦略に関する内容をほぼ理解している。	システム戦略に関する基本的な内容を理解している。	システム戦略に関する基本的な内容の理解が不十分である。	システム戦略に関する基本的な内容の理解ができていない。
思考・問題解決能力	1．企業活動と法務に関する知識を応用することができる。	企業活動と法務に関する内容を応用することができる。	企業活動と法務に関する内容をほぼ応用することができる。	企業活動と法務に関する基本的な内容をあまり応用することができない。	企業活動と法務に関する基本的な内容を応用することができる。	企業活動と法務に関する基本的な内容を応用することができない。
思考・問題解決能力	2．経営戦略の知識を応用することができる。	経営戦略に関する内容を応用することができる。	経営戦略に関する内容をほぼ応用することができる。	経営戦略に関する基本的な内容をあまり応用することができない。	経営戦略に関する基本的な内容を応用することができる。	経営戦略に関する基本的な内容を応用することができない。
思考・問題解決能力	3．システム戦略に関する知識を応用することができる。	システム戦略に関する内容を応用することができる。	システム戦略に関する内容をほぼ応用することができる。	システム戦略に関する基本的な内容をあまり応用することができない。	システム戦略に関する基本的な内容を応用することができる。	システム戦略に関する基本的な内容を応用することができない。

科目名	ITパスポート特別演習			授業番号	SC216	サブタイトル			
教員	古谷　俊爾								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	ITを利活用するすべての社会人・これから社会人となる学生が備えておくべき，ITに関する基礎的な知識が証明できる国家試験である。本授業は集中講義で実施し，ITパスポート試験3分野のうち，1年前後期に学んだテクノロジ系（IT技術）の問題演習を徹底的に行う。テクノロジ系は試験で約45%の出題数を占める(※R3～R5調べ)重点分野である。								
到達目標	大分類「基礎理論」分野を理解し正しく解答できるようになる。 大分類「コンピュータシステム」分野を理解し正しく解答できるようになる。 大分類「技術要素」分野を理解し正しく解答できるようになる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	大分類：基礎理論(1) 基礎理論(中分類)における「離散数学」・「応用数学」・「情報に関する理論」の過去問題演習	
第2回	大分類：基礎理論(2) アルゴリズムとプログラミング(中分類)における「データ構造」・「アルゴリズムとプログラミング」・「プログラム言語」・「その他の言語」の過去問題演習	
第3回	大分類：基礎理論(3) 大分類(基礎理論)全般の過去問題演習	
第4回	大分類：コンピュータシステム(1) コンピュータ構成要素(中分類)における「プロセッサ」・「メモリ」・「入出力デバイス」の過去問題演習	
第5回	大分類：コンピュータシステム(2) システム構成要素(中分類)における「システムの構成」・「システムの評価指標」の過去問題演習	
第6回	大分類：コンピュータシステム(3) ソフトウェア(中分類)における「オペレーティングシステム 」・「ファイルシステム 」・「オフィスツール」・「オープンソースソフトウェア」の過去問題演習	
第7回	大分類：コンピュータシステム(4) ハードウェア(中分類)における「ハードウェア（コンピュータ・入出力装置） 」の過去問題演習	
第8回	大分類：コンピュータシステム(5) 大分類(コンピュータシステム)全般の過去問題演習	
第9回	大分類：技術要素(1) 情報デザイン(中分類)における「情報デザイン」・「インタフェース設計」の過去問題演習 情報メディア(中分類)における「マルチメディア技術」・「マルチメディア応用」の過去問題演習	
第10回	大分類：技術要素(2) データベース(中分類)における「データベース方式」・「データベース設計」・「データ操作」・「トランザクション処理」の過去問題演習	
第11回	大分類：技術要素(3) ネットワーク(中分類)における「ネットワーク方式」・「通信プロトコル」の過去問題演習	
第12回	大分類：技術要素(4) ネットワーク(中分類)における「ネットワーク応用」の過去問題演習	
第13回	大分類：技術要素(5) セキュリティ(中分類)における「情報セキュリティ」・「情報セキュリティ管理」の過去問題演習	
第14回	大分類：技術要素(6) セキュリティ(中分類)における「情報セキュリティ対策・実装技術」の過去問題演習	
第15回	大分類：技術要素(7) 大分類(技術要素)全般の過去問題演習	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	100	過去問題が正しく解答出来るかにより評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1.「情報処理論」「ITパスポート特別講義」「通信ネットワーク」の単位取得ができているか，同等程度の理解がある事を前提に授業を進める。 2. 授業では，予習により要望のあった過去問題を解説するが，要望が無ければ問題演習を行う。 3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。
授業外学修	1.予習として，該当範囲の過去問題を行い，理解できていない過去問題を明らかにしておく。 2.復習として，授業で行った内容を元に再度過去問題を復習し，理解を深める。 以上を，1回の授業あたり1時間以上行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかるマスター　令和8-9年度版 ITパスポート試験　対策テキスト＆過去問題集	FOM出版	FOM出版	978-4-86775-190-9	2530円

使用テキスト：自由記載	必須科目「情報処理論」等で使用した上記テキストを使用する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアとしてシステム設計・ソフトウェア開発を行った職務経験(7年)をもとに，実践に基づいたITの利活用を伝える。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 大分類「基礎理論」分野を理解し正しく解答できるようになる。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している。	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2. 大分類「コンピュータシステム」分野を理解し正しく解答できるようになる。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している。	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	3. 大分類「技術要素」分野を理解し正しく解答できるようになる。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している。	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。

科目名	ビジネスコンピューティングB			授業番号	SC222	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	広く普及している表計算ソフト「Microsoft Office 365(Excel)」の活用法を学習する。ビジネスコンピューティングAで習得したスキルを基礎知識に，さらにより深く実践的なスキルを身に付ける。データベースや統計処理などの関数の使用して実践的なビジネス（事務・営業）やデータサイエンスに役立つ技術を習得する。総合演習として，サーティファイExcel表計算処理技能認定試験1級やMOS Excel 2019模擬試験用の問題にも取り組む。								
到達目標	広く普及している表計算ソフト「Microsoft Office 365(Excel)」のビジネスで活用できる実践的なスキルを習得することを目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	関数の活用（請求書） 請求書の内容の確認，事例と処理の流れを確認，参照用の表を準備，ユーザー定義の表示形式を設定，連番を自動入力，参照用の表からデータを検索，総額を計算，請求金額と支払い期日を表示.	
第2回	関数の活用（売上データの集計） 事例と処理の流れを確認，外部データを取り込む，商品別の売上集計を作成，商品カテゴリー別の売上集計表を作成，商品カテゴリー・カラー別の売上集計表を作成.	
第3回	関数の活用（住所録） 事例と処理の流れを確認する，顧客名の表記を整える，郵便番号・電話番号の表記を整える，担当者名の表記を整える.	
第4回	関数の活用（顧客住所録） 住所を分割する，重複データを削除する，新しい顧客住所録を作成する，ブックにパスワードを設定する.	
第5回	関数の活用（賃金計算書） 賃金計算書を確認する，事例と処理の流れを確認する，日付を自動的に入力する，実働時間を計算する，実働時間を合計する，給与を計算する，シートを保護する.	
第6回	関数の活用（社員情報の統計） 事例と処理の流れを確認する，日付を計算する，人数をカウントする，平均年齢・平均勤続年月を計算する，年代別の基本給の最大値・最小値・平均を求める.	
第7回	関数の活用（出張旅費伝票） 出張旅費伝票を確認する，事例と処理の流れを確認する，出張期間を入力する，出張手当を表示する，精算金額を合計する.	
第8回	関数の活用（様々な関数の利用） Excelの新しい関数で集計する，金種表を作成する，年齢の頻度分布を求める，偏差値を求める，毎月の返済金額を求める，預金満期金額を求める.	
第9回	総合問題１ ファイル「見積書」で，テキストの要求内容にあった内容を完成する.	
第10回	総合問題２ ファイル「セミナー実施集計」で，テキストの要求内容にあった内容を完成する.	
第11回	総合問題３ ファイル「月間予定表」で，テキストの要求内容にあった内容を完成する.	
第12回	総合問題４ ファイル「集計」で，テキストの要求内容にあった内容を完成する.	
第13回	総合問題５ ファイル「会員名簿」で，テキストの要求内容にあった内容を完成する.	
第14回	応用問題１ 応用レベルで用意されたファイルについて，やや高度な指示に従って内容を完成する.	
第15回	応用問題２ 応用レベルで用意されたファイルについて，やや高度な指示に従って内容を完成する.	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
課題	60	毎回課題が出される 課題の解説をしながら、進めていく。

評価の方法：自由記載	MOS Excel合格者は評価に加える。
受講の心得	情報フィールド（オフィス利用技術）の科目であり，1年前期科目である「文書処理演習」と「ビジネスコンピューティングA」の内容が理解できていることを前提に授業を行う。 また，情報フィールド（データ分析）にも関係しており，資格にも関連していることも頭に入れておくこと。
授業外学修	1 予習として，教科書のうち，授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 2 復習として，授業内容を教科書・参考資料の参照をしなくてもできるようになるまで繰り返し演習しておく。 3 発展学習として資格試験の準備を行い受験・合格する（余裕があれば）。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる Excel関数テクニック	富士通エフ・オー・エム株式会社	FOM	978-4-86775-033-9	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	無
実務経験をいかした教育内容	無

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．数学関数についての意味・用法を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
知識・理解	２．文字列関数についての意味・用法を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
知識・理解	３．統計関数についての意味・用法を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
知識・理解	４．財務関数についての意味・用法を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
知識・理解	５．ピボットテーブルについての意味・用法を理解している	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない
技能	１．WordやPowerPoint等の役割・有用性についての関連を理解している.	十分理解している	かなり理解している	基本レベルで理解している	不十分ながら理解している	理解できていない

科目名	データベース			授業番号	SC223	サブタイトル			
教員	古谷　俊爾								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	データベースソフトウェアは，大量のデータを蓄積し必要に応じてデータを抽出したり集計したりできる機能を有しており，企業活動におけるデータ管理の中核的役割を果たしている。 本科目では，データベースソフトウェア初心者を対象として，企業におけるリレーショナルデータベース活用例をもとに，テーブル・クエリ・フォーム・レポート・リレーションシップ機能の演習を行う。データベースソフトウェアはリレーショナルデータベースのMicrosoft Accessを使用する。								
到達目標	リレーショナルデータベースについて理解し，自らの設計をAccessデータベースで実現し説明できるようになることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉および〈技能〉の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	Accessの基礎知識 データベースとデータベースソフト，リレーショナルデータベース，Accessの基本操作・データベースオブジェクトを理解する。 予・復習：第1章	
第2回	データベースの設計と作成 データベース構築の流れ，データベースの設計，テーブルの設計，新規データベース（ファイル）の作成方法を理解する。 予・復習：第2章	
第3回	テーブルの作成とデータの格納１（商品マスター） テーブルの概要，用語（レコード・フィールド・主キー・外部キー），テーブルの設計，デザインビューによるテーブルの作成方法，データの入力方法を理解する。 予・復習：第3章Step3まで	
第4回	テーブルの作成とデータの格納２（得意先マスター，売上データ） 前回の知識をもとに，他の必要なテーブルを作成する。データをインポートする方法を理解する。 予・復習：第3章	
第5回	リレーションシップ 主キーと外部キーの関係，参照整合性，テーブル間のリレーションシップの作成方法を理解・実践する。 予・復習：第4章	
第6回	クエリによるデータの加工１ クエリで何が出来るかを理解する。フィールドの加工を行うクエリ（射影・結合・演算）を理解する。 予・復習：第5章	
第7回	クエリによるデータの加工２（問題演習） 前回の知識をもとに，フィールドの加工を行うクエリの作成方法を理解・実践する。 予・復習：第5章	
第8回	フォームによるデータ入力１（商品マスター，得意先マスター） フォームで何が出来るかを理解する。フォームウィザードでフォームを作成する。フォームを構成するコントロールの調整ができる。 予・復習：第6章Step4まで	
第9回	フォームによるデータ入力２（売上データ，担当者マスター） 前回の知識をもとに，より複雑なフォームの作成を引き続き行う。簡易的なフォーム作成方法についても理解する。 予・復習：第6章	
第10回	クエリによるデータの抽出と集計１ レコードの加工を行うクエリを理解する。レコードを選択する条件の設定方法を理解する。集計クエリの作成方法を理解する。 予・復習：第7章	
第11回	クエリによるデータの抽出と集計２（問題演習） 前回の知識をもとに，演習をおこないより理解を深める。 予・復習：第7章	
第12回	レポートによるデータの印刷１（商品マスター，得意先マスター） レポートで何が出来るかを理解する。レポートウィザードでレポートを作成する。レポートを構成するコントロールの調整ができる。 予・復習：第8章Step4まで	
第13回	レポートによるデータの印刷２（宛名ラベル，売上一覧表） 前回の知識をもとに，より複雑なレポートを作成する。宛名ラベル印刷するレポートの作成方法を理解する。 予・復習：第8章	
第14回	ナビゲーションフォーム，オブジェクトの依存関係，テンプレートの利用 知っておくとより便利になる機能について，メニューとなるナビゲーションフォームや，オブジェクトの依存関係を表示する機能などを理解する。 予・復習：第9章	
第15回	問題演習 今までの全ての知識をもとに，総合的な問題演習を行い理解を深める。 予・復習：総合問題	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講姿勢，予・復習の状況によって評価する。
レポート	70	オリジナルデータベース制作により主要オブジェクト(テーブル，クエリ，フォーム，レポート)を正しく理解・活用し，ドキュメントも整備できるかによって評価する。 課題提出後に全体的な傾向についてコメントをする。個別に質問があれば，個々についてより詳細にコメントする。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	

受講の心得	1. 対象はAccess初心者を想定している。 2. 情報フィールド（オフィス利用技術）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。 3. 演習に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWebページ参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行うので注意すること。 4. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。
授業外学修	1. 予習として次回の授業内容にあたるテキストを読んでおくこと。 2. 授業で行った演習内容を復習し理解を深めておくこと。 3. 最終課題としてオリジナルデータベースおよびドキュメントを提出してもらう。 以上の内容に必要な時間の目安は，各人の理解度によるが週当たり1時間である。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかる Microsoft Access 2021基礎	FOM	FOM出版	978-4-86775-028-5	2100
使用テキスト：自由記載	進捗状況により，情報処理論で使用した「よくわかるマスター 令和4-5年度版 ITパスポート試験対策テキスト&過去問題集」テキストも活用するが使用時は授業で指示する。			

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアの職務経験(7年)から，実践に対応できるデータベース設計・構築の知識と技能を身につけられるよう授業を展開する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. リレーショナルデータベースに関する用語・設計の知識を身につけ説明することができる。	自身が設計・制作したデータベースを専門的知識にもとづいて十分に説明・考察することができる。	自身が設計・制作したデータベースを適切にわかりやすく十分に説明することができる。	自身が設計・制作したデータベースを説明することができる。	自身が設計・制作したデータベースの最低限の説明をすることができる。	自身が設計・制作したデータベースの最低限の説明をすることができない。
技能	1. 基本的なデータベースを自身で設計でき，その実現のためにAccessのテーブル・リレーションシップを活用することができる。	テーブル・リレーションシップの設計・制作が適切に行われ，授業内容を超えて応用することができる。	テーブル・リレーションシップの設計・制作が適切に行うことができる。	テーブル・リレーションシップの設計・制作がおおむね適切に行うことができる。	テーブル・リレーションシップの設計・制作を行うことができる。	テーブル・リレーションシップの設計・制作を最低限の内容まで行うことができない。
技能	2. 自身が設計したデータベースの実現のために，Accessのクエリ機能を適切に活用することができる。	クエリ機能を適切に活用でき，授業内容を超えて応用することができる。	クエリ機能を適切に活用できる。	クエリ機能をおおむね適切に活用できる。	クエリ機能を活用できる。	クエリ機能を最低限の活用ができない。
技能	3. 自身が設計したデータベースの実現のために，Accessのフォーム機能を適切に活用することができる。	フォーム機能を適切に活用でき，授業内容を超えて応用することができる。	フォーム機能を適切に活用できる。	フォーム機能をおおむね適切に活用できる。	フォーム機能を活用できる。	フォーム機能を最低限の活用ができない。
技能	4. 自身が設計したデータベースの実現のために，Accessのレポート機能を適切に活用することができる。	レポート機能を適切に活用でき，授業内容を超えて応用することができる。	レポート機能を適切に活用できる。	レポート機能をおおむね適切に活用できる。	レポート機能を活用できる。	レポート機能を最低限の活用ができない。

科目名	プログラミング演習			授業番号	SC232	サブタイトル			
教員	古谷　俊爾								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	Python言語は，Webアプリケーションをはじめデスクトップアプリケーションやゲーム，人工知能，ビッグデータ解析など様々な分野で活用されており，最も注目を集めているプログラミング言語のひとつである。 また，シンプルな言語であるが故にコードが読みやすく，プログラミング初心者にもおすすめな言語とされている。 本科目では，プログラミング概論を学んだ学生を対象に，Python言語を用いてプログラミングに必要な考え方を身に付ける。								
到達目標	Python言語を使用して簡単な文字ベースのプログラムを自ら作成できるようになることを目的とする。具体的には次のことを身につける。 1.プログラムの作成能力 2.コーディング技能 3.テスト技能 4.デバッグ技能なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	プログラムの構造の復習1 プログラムの構造の順次実行・条件分岐・繰り返しを，問題演習により復習する。	
第2回	プログラムの構造の復習2 プログラムの構造の順次実行・条件分岐・繰り返しを，問題演習により復習する。	
第3回	外部プログラムの呼び出し方(1) ライブラリとは何か，ライブラリの管理ツールを理解する。 モジュール関数の呼び出し方法，標準ライブラリモジュールの利用方法を理解する。	
第4回	外部プログラムの呼び出し方(2) 標準ライブラリ以外のモジュールを利用する方法を理解する。	
第5回	ファイルの入出力(1) アプリケーションとやりとりするデータの形式(JSON，XML，CSV)を理解する。 テキストファイルの読み書きを理解する。	
第6回	ファイルの入出力(2) JSONの読み書きを理解する。 XMLの読み書きを理解する。 CSVの読み書きを理解する。	
第7回	オブジェクト指向プログラミング(1) オブジェクトとクラスの概要を理解する。 クラスの生成方法，オブジェクトの生成方法を理解する。	
第8回	オブジェクト指向プログラミング(2) オブジェクト指向の継承を理解する。 オブジェクト指向のアクセス制御を理解する。	
第9回	PythonによるExcelの操作(1) Excel操作のために必要な外部ライブラリを理解する。 Excelシートのセルに対する値の読み書きを理解する。	
第10回	PythonによるExcelの操作(2) Excelを操作する演習問題により理解を深める。 マクロ(VBA)の存在を理解する。	
第11回	総合問題演習(1) プログラミング概論と本演習で解説した内容に関するプログラミングの演習を通じて，正確な知識の定着と持っている知識を応用する訓練を行う。	
第12回	総合問題演習(2) プログラミング概論と本演習で解説した内容に関するプログラミングの演習を通じて，正確な知識の定着と持っている知識を応用する訓練を行う。	
第13回	プログラミングスキルチェックサイトの利用(1) Webサイトpaizaでプログラミングスキルチェックを実施する方法を学び，自身でプログラミング技術の向上・確認ができるようになる。	
第14回	プログラミングスキルチェックサイトの利用(2) Webサイトpaizaで，可能な限り多くの問題に挑戦する。また，ランクについても可能な限り上げる。	
第15回	プログラミングスキルチェックサイトの利用(3) Webサイトpaizaで，可能な限り多くの問題に挑戦する。また，ランクについても可能な限り上げる。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	意欲的な受講姿勢，予復習の状況によって評価する。
レポート		
小テスト		
定期試験	50	提示した問題に対して時間内に意図した動作をするプログラムを作成できること。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. 必携ノートパソコンを，使用できる状態で授業に参加しなければ出席とはみなさない。 2. 情報フィールド（プログラミング）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。 3. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。 4. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。
授業外学修	1. 授業計画に示した内容をネットで調べ，疑問点を明らかにしておくこと。 2. 授業で扱ったプログラム及びテキスト内の例題・演習問題を何も参照しなくてもプログラミングできるようにしておくこと。 3. 発展学修として，paizaサイトを利用してスキルを高めること。 以上の内容を，週当たり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
よくわかるPython入門	FOM出版	FOM出版	978-4-938927-99-8	2,100円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアの職務経験(7年)から，Python言語によるプログラミングを通して，実践的なプログラミング技能とプログラミング的思考を身につけさせる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. プログラムの作成能力	仕様を満たしユーザのことを考えた，効率的なプログラムを作成できる。	仕様を満たしユーザのことを考えた，プログラムを作成できる。	仕様を満たすプログラムを作成できる。	仕様の最低限は動作するプログラムが作成できる。	仕様の最低限の動作が確認できない。
技能	1. コーディング技能	統合環境を設定し，効率的に可読性の高いコーディングができ，それを実行できる。	統合環境を設定し，効率的にコーディングでき，それを実行できる。	設定された統合環境で，効率的にコーディング・実行できる。	コーディング・実行できる。	コーディング・実行の少なくとも一方ができない。
技能	2. テスト技能	特別な条件で発生するバグを発見できる。	境界値を考慮してバグを発見できる。	正常系のバグを発見できる。	正常系・異常系それぞれのデータを区別できる。	実行結果が正しいか判断できない。
技能	3. デバッグ技能	アルゴリズムのバグを修正できる。	境界値のバグを修正できる。	統合開発環境が指摘する文法のバグを修正できる。	統合開発環境が指摘する文法のバグを発見できる。	バグを発見・修正できない。

科目名	アルゴリズムとデータ構造			授業番号	SC333	サブタイトル			
教員	古谷　俊爾								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本科目はプログラミングに必要とされる代表的なアルゴリズムとデータ構造を説明する。アルゴリズムおよびデータ構造の重要性を認識すると共に，しくみを理解し効率のよいプログラム設計ができるよう演習も交え授業を進める。プログラム言語はPythonを使用するので，Python言語の習熟にもつながる。								
到達目標	1.代表的なアルゴリズムとデータ構造，アルゴリズムによる効率の違いを理解できる。 2.問題解決のために思考し，既知のアルゴリズム適用を検討できる。 3.既存のプログラムをトレースし結果を推測し，未完成なものは完成できる。 4.代表的なアルゴリズムとデータ構造をPython言語により実装することができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞，＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	フローチャート（流れ図） 目的の動作を実現するためのフローチャートを作成して処理の流れを考える。 予・復習　フローチャートの記号とその意味を理解する	
第2回	データ構造と配列1 複数のデータをまとめて扱うことができるリスト・タプルとその活用方法。 予・復習　リストとタプルのあつかい，最大・最小・合計値・平均値・素数の求め方を理解する	
第3回	データ構造と配列2 リストを活用して基数変換のプログラムに挑戦する。 予・復習　基数変換のアルゴリズムを理解する	
第4回	線形探索と2分探索，計算量 主要な探索方法のアルゴリズムと計算量の違いを確かめる。 予・復習　線形探索と2分探索，sortメソッドの使い方を理解する	
第5回	探索までの問題演習・計算量 学んだデータ構造・アルゴリズムを活用でき，効率も考えられるようになるよう問題演習を行う。 復習　問題演習で扱った内容	
第6回	スタックとキュー スタック構造とは何か，キュー構造とは何か，それらの構造に該当する事例は何か。 予・復習　スタックとキューの考え方を理解する	
第7回	スタックとキューの実現 スタックとキューを実現するプログラムを作成する。 予・復習　スタックとキューの実現方法を理解する	
第8回	スタックとキューの問題演習 学んだデータ構造・アルゴリズムを活用でき，効率も考えられるようになるよう問題演習を行う。 復習　問題演習で扱った内容	
第9回	再帰 再帰の考え方・仕組みを理解し，それによりプログラムが単純化できることを知る。 予・復習　再帰アルゴリズムを理解する。	
第10回	再帰（ハノイの塔） 有名なパズル「ハノイの塔」を解く為に再帰アルゴリズムを利用する。 予・復習　再帰アルゴリズムでパズル「ハノイの塔」を解く	
第11回	再帰の問題演習 学んだデータ構造・アルゴリズムを活用でき，効率も考えられるようになるよう問題演習を行う。 復習　問題演習で扱った内容	
第12回	バブルソート ソートプログラムの中でも単純なバブルソートを理解し実現する。 予・復習　バブルソートを理解する	
第13回	クイックソート クイックソートを理解し実現する。バブルソートとの計算量の違いを理解する。　予・復習　クイックソートを理解する	
第14回	ソートの問題演習 学んだデータ構造・アルゴリズムを活用でき，効率も考えられるようになるよう問題演習を行う。 復習　問題演習で扱った内容	
第15回	線形リスト 線形リストのデータ構造を理解し実現する。データの挿入・削除方法を理解する。 復習　線形リストを理解する	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	20	意欲的な受講姿勢，授業外学修の状況によって評価する。
レポート	40	アルゴリズムを実装でき理解しているかによって評価する。総評は授業等で伝えるが，個別に改善点等が知りたい場合は問い合わせにより回答する。
小テスト		
定期試験	40	アルゴリズムとデータ構造の理解の程度によって評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. 応用レベルの科目であるので，自発的な学修活動が必要である。当然であるが十分な授業外学修がなされていることを前提に授業を進める。 2. 情報フィールド（プログラミング）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。 3. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。 4. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。
授業外学修	1. 授業計画の予習で示した内容をWebで検索し，概要を理解する。 2. 授業計画の復習で示した授業で扱ったプログラムを何も参照しなくてもプログラミングできるようにしておくこと。 3. レポート（主に授業で説明したアルゴリズム・データ構造をPythonで実装・説明する）を完成・提出する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
新・明解Pythonで学ぶアルゴリズムとデータ構造	柴田望洋	SBクリエイティブ(株)	978-4-8156-0319-9	2400円

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアの職務経験(7年)から，Python言語による実際のプログラミングを通して，実践的なデータ構造およびアルゴリズムの知識・思考ならびにそれらを活用したプログラミング技能を指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 代表的なアルゴリズムとデータ構造，アルゴリズムによる効率の違いを理解できる。	代表的なアルゴリズムとデータ構造，アルゴリズムによる効率の違いに関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	代表的なアルゴリズムとデータ構造，アルゴリズムによる効率の違いに関する授業内容を十分理解している。	代表的なアルゴリズムとデータ構造，アルゴリズムによる効率の違いに関して授業内容をおおむね理解している。	代表的なアルゴリズムとデータ構造，アルゴリズムによる効率の違いに関して最低限の内容は理解している	代表的なアルゴリズムとデータ構造，アルゴリズムによる効率の違いに関して最低限の内容の理解が認められない。
思考・問題解決能力	1. 問題解決のために思考し，既知のアルゴリズム適用を検討できる。	自分で解決のための課題を発見・考察して，より効率的な方法を工夫できる。また，その方法を説明できる。	自分で既知のアルゴリズムを適用し問題を解決できる。また，効率など問題点を指摘できる。	自分で既知のアルゴリズムを適用し問題を解決できる。効率など問題点は把握しきれない。	完全ではないが主要なケースにおいて問題解決できる。	問題解決の糸口が見つけられない。
思考・問題解決能力	2. 既存のプログラムをトレースし結果を推測し，未完成なものは完成できる。	既存のプログラムをトレースし結果を推測し，未完成なものは完成できる。また，改善点と理由を専門的知識にもとづいて説明できる。	既存のプログラムをトレースし結果を推測し，未完成なものは完成できる。また，改善点を指摘できる。	既存のプログラムをトレースし結果を推測し，未完成なものは完成できる。	既存のプログラムをトレースし結果を推測できる	既存のプログラムをほぼトレースできない。
技能	1. 代表的なアルゴリズムとデータ構造を実装することができる。	授業で扱ったアルゴリズムやデータ構造を自分でPython言語により正しく実装できる。変数や制御についてコメント文をつけ，専門的知識にもとづいて説明することができる。	授業で扱ったアルゴリズムやデータ構造を自分でPython言語により実装できる。十分なテストケースによりプログラムの正しさを示すことができる。	授業で扱ったアルゴリズムやデータ構造を自分でPython言語により実装できる。	授業で扱ったアルゴリズムやデータ構造のいくつかを自分でPython言語により実装できる。	授業で扱ったアルゴリズムやデータ構造をPython言語で最低限の実装ができない。

科目名	データサイエンスA 1クラス			授業番号	SD111A	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	本講義は，データサイエンスの入門として，データの意味，データから得られる情報の大切さについて学ぶ。 また，調査，実験，観測などから得られたデータから有益な情報を引き出すための統計的な考え方と手法について学ぶ。 なお，統計手法を適用する際に，統計ソフトも使用する。								
到達目標	１）量的・質的データを分析するための統計的な考え方を理解する。 ２）データサイエンス入門として，データの基本統計量，分布，統計的検定の考え方を理解する。 ３）具体的な分析方法についてパソコンで結果を算出し，その結果をみて考察を行う。 以上を到達目標とする。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	データの整理・度数分布表 以下の内容を扱う：度数分布表,階級の数の決め方（スタージェスの方法，平方根の方法ほか） 累積度数，累積相対度数	
第2回	ヒストグラム 以下の内容を扱う：ヒストグラムの作成方法．ヒストグラムの読みとり方．	
第3回	代表値・分散・箱ひげ図 以下の内容を扱う：平均値，中央値，四分位数，最頻度，平均偏差，分散，標準偏差，歪度，尖度．箱ひげ図の作り方・読み方．相関係数．	
第4回	事象と確率 以下の内容を扱う：試行，事象，標本空間，全事象，積事象，和事象，余事象など．数学的確率と統計的確率．	
第5回	確率と確率分布 以下の内容を扱う：確率変数とは．離散的確率変数と連続的確率変数．	
第6回	離散的確率分布 以下の内容を扱う：離散的確率分布の事例．2項分布とは．ポアソン分布とは．離散的確率分布の平均と分散．	
第7回	連続的確率分布 以下の内容を扱う：連続的確率分布の事例．一様分布とは．指数分布とは．正規分布とは．連続的確率分布の平均と分散．	
第8回	確率変数の標準化 以下の内容を扱う：正規分布での確率変数の標準化．標準化をすることが何と関係するか．	
第9回	標本分布 標本平均の分布(1) 以下の内容を扱う：母集団と標本．母平均と標本平均とは．標本平均の分布の性質．カイ2乗分布，ｔ分布，Ｆ分布	
第10回	標本分布 標本平均の分布(2) 以下の内容を扱う：チェビシェフの不等式，中心極限定理とその有用性．	
第11回	区間推定 母平均の推定（母分散が既知の場合） 以下の内容を扱う：「推定」とは．点推定と区間推定．信頼係数，信頼区間，信頼限界．母平均の推定の手順（母分散が既知の場合）．	
第12回	区間推定 母平均の推定（母分散が未知の場合） 以下の内容を扱う：母平均の推定の手順（母分散が未知の場合）．	
第13回	仮説検定のイメージ 以下の内容を扱う：「検定」の考え方．帰無仮説，対立仮説とは．統計量．統計量の実現値．有意水準．検定の手順とは．	
第14回	仮説検定 母平均の検定（母分散が既知の場合） 以下の内容を扱う：母分散が既知の場合の検定の手順．	
第15回	仮説検定 母平均の検定（母分散が未知の場合） 以下の内容を扱う：母分散が未知の場合の検定の手順．	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
課題	30	課題は毎回出される．課題の解説をしながら、進めていく。
定期試験	30	試験により指導内容に関する到達度を評価する．

評価の方法：自由記載	
受講の心得	いろいろな現実のデータについての見方・考え方を理解し，得られた結果に対して自分なりの解釈をおこなうことを重要さを知っていただきたい.
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2）復習として，学んだ内容の整理を行い，レポート課題の作成を行う。 3）発展として，自ら課題を見つけて，分析の適用を行い，考察を行う。 以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
身につく統計学 第１版第３刷	伊藤公紀・伊藤裕康	森北出版	978-4-627-08211-3	
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載	参考書は授業の中で適宜紹介する。			
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．記述統計に関する知識を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	2．確率分布の概念を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	3．推測統計に関する知識を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	1．具体的事例で問題点に気づいている	十分気づいている	かなり気づいている	平均的に気づいている	部分的に気づいている	不十分な気づきである
思考・問題解決能力	2．議論すべき点を理解できる	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	3．解決のためのプロセスが見通せる	十分見通せる	かなり見通せる	平均的に見通せる	部分的に見通せる	見通しが不十分である
技能	1．ヒストグラム，箱ひげ図等を表現できる	十分表現できる	かなり表現できる	基本的な形で表現できる	補助があれば表現できる	表現できない
技能	2．統計プログラムを適切に使うことができる	十分使用できる	かなり使用できる	基本的な形で使用できる	補助があれば使用できる	使用できない
技能	3．推定・検定の具体的処理ができる	十分理解している	かなり理解している	必要性を理解している	部分的に理解している	理解が不十分である

科目名	データサイエンスB			授業番号	SD212	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	日常生活に関係するデータは見かけ上は種々の形をしている．具体的なデータを用いて分析と結果解釈をおこない，典型的な分析スタイルを理解する．								
到達目標	本授業の到達目標は次の通りである。 １．統計分析の具体的な考え方を理解する。 ２．Pythonプログラムを用いて，実際のデータに適用し，結果を正しく解釈することができる。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	データビジュアライゼーション１ 実際のデータを視覚的に表現することで，ビジュアライゼーションの機能と目的を説明する．	
第2回	データビジュアライゼーション２ データを視覚化するステップと注意点について説明する．	
第3回	多変量データのグループ分け：クラスター分析 クラスター分析で階層的方法と非階層的方法を扱う．非階層的方法では，デンドログラム表示とその見方などを説明する．非階層的方法では，kMeans法のアルゴリズムや結果の解釈方法を説明する．	
第4回	ローレンツ曲線とジニ係数 複数の地区について，所得が平等に分布しているかどうかを視覚的に比較する手段としてローレンツ曲線を説明する．具体的データにも適用する．	
第5回	アソシエーション分析 商品分析やアンケート分析で，大量のデータからどの２つの事柄が同時に起こりやすいかを見つける手法の構造を説明する．	
第6回	多変量データの特徴：主成分分析 量的データの特徴をさぐる方法として歴史的に長く定評のある主成分分析を扱う．数理的構造や実際場面への応用事例を説明する．	
第7回	多変量カテゴリカルデータの特徴：コレスポンデンス分析 カテゴリカルデータの特徴をさぐる手法としてよく使用されるコレスポンデンス分析を扱う．数理的構造や実際場面への応用事例を説明する．	
第8回	多変量データの特徴(潜在変数)：因子分析 量的データの内容から潜在変数の状態を探る手法である因子分析を扱う．数理的構造や実際場面への応用事例を説明する．	
第9回	重回帰分析の考え方と結果の解釈１ 目的変数と独立変数という関係にある連続量データの構造を探る重回帰分析を扱う．数理的構造や実際場面への応用事例を説明する．	
第10回	重回帰分析の考え方と結果の解釈２ 重回帰分析のより応用的な使い方（評価，予測）や分析事例を説明する．	
第11回	3つ以上の平均の差の検定1(一元配置分散分析) 数理的構造と実用例	
第12回	統計的仮説検定のまとめ t検定，カイ2乗検定など	
第13回	データを説明する力をみにつける データを可視化することでデータから見えてくる課題を分析する．適切なグラフ表現や比較すべき項目を見つける方法を説明する．	
第14回	データを分類する力をみにつける 大量のデータをいくつかのグループに分けて，各グループの特徴をみつけて，次の行動を考える．	
第15回	データから予測しよう 数値データからいろいろな規則性や関係を見出し予測をする方法について説明する．	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
課題	60	毎時間課題が出される 課題の解説をしながら、進めていく。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	日常生活に関係するデータを扱いながら分析と結果解釈をおこなうことで，データサイエンスの重要さを具体的に理解してほしい.
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2）復習として，学んだ内容の整理を行い，レポート課題の作成を行う。 3）発展として，自ら課題を見つけて，分析の適用を行い，考察を行う。 以上の内容に対して，週4時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	特定のテキストは使用しない. 必要に応じて授業担当者が資料を用意する.

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	参考書は授業の中で適宜紹介する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．記述統計に関する知識を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	2．種々の確率分布を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	3．予測に関する知識を理解している	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	1．具体的事例で問題点に気づいている	十分気づいている	かなり気づいている	平均的に気づいている	部分的に気づいている	不十分な気づきである
思考・問題解決能力	2．議論すべき点を理解できる	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	3．解決のためのプロセスが見通せる	十分見通せる	かなり見通せる	平均的に見通せる	部分的に見通せる	見通しが不十分である
技能	1．回帰分析を具体的に適用できる	十分適用できる	かなり適用できる	基本的な形で適用できる	補助があれば適用できる	適用できない
技能	2．統計プログラムを適切に使うことができる	十分使用できる	かなり使用できる	基本的な形で使用できる	補助があれば使用できる	使用できない
技能	3．推定・検定の具体的処理ができる	十分できる	かなりできる	基本的な形でできる	部分的にできる	不十分である

科目名	社会調査論			授業番号	SD214	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	情報化社会としての現代社会は，おびただしい数の社会調査の行われる社会である。変動の激しい，多極化・複雑化の進む社会的現実をとらえ，生起するさまざまな社会問題への対応と解決を図っていくうえで，社会調査は不可欠の方法である。 本講義では，歴史的背景や事例について踏まえつつ，社会調査の一連の進め方について学習する。具体的には，調査内容・対象の決定，調査の実施方法，結果の分析法とまとめ方について学習する。学習を通して，社会を見通すスキルとしての社会調査に関わる基礎的な知識の習得を目指す。								
到達目標	1）社会調査の意義・背景・方法に関わる基本的知識を習得する。 2）量的・質的データを分析するための統計的な考え方を理解する。 以上を到達目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	アンケート調査とは アメリカ大統領選挙の番狂わせ，原因となった調査方法とは. アンケート調査の種類，電話調査とはどのような調査か.	
第2回	アンケート調査は社会調査の１つ 社会事象を理解するための社会調査，なぜ社会調査を行うのか，社会調査は何を対象としているか，社会科学としての社会調査，社会調査のルーツ，社会調査と実証主義との関係，日本の社会調査史をひもとく，社会調査にはどのような背景があるか	
第3回	社会調査としてのアンケート調査 社会調査やアンケート調査についてなぜ知らなければならないか，社会調査にはどのような種類があるか，どのような調査方法があるか，量的調査と質的調査の違い，パネル調査と継続調査の違い，全数調査とサンプリング調査の違い，新しい調査方法	
第4回	アンケート調査のアプローチ データには定量データと定性データがある，結果を導く帰納と演繹，アンケート調査の対象をどうとらえるか，アンケート調査では倫理を守ろう	
第5回	アンケート調査の方法 アンケート調査を定義する，アンケート調査の方法，回答者に配慮しよう，アンケートを依頼し回収する方法	
第6回	参与観察の事例 参与観察とは：事例１.和歌山県田辺市の田辺祭，事例２.千葉市稲毛町の「夜灯し」祭り	
第7回	アンケート調査の種類 アンケート調査にはどのような種類があるか，面接調査とはどのような調査か，留置き調査とはどのような調査か，郵送調査とはどのような調査か，電話調査とはどのような調査か，インターネット調査とはどのような調査か，集合調査とはどのような調査か，簡易調査とはどのような調査か，そのほかの調査にはどのようなものがあるか	
第8回	調査情報を発掘する アンケート調査の設計前の発掘調査，図書館で発掘調査する，インターネットで発掘調査する，先行研究にアクセスしてみる，統計情報にアクセスしてみる，「政府統計の総合窓口」を利用してみる.	
第9回	国勢調査 国勢調査とは，調査時期，調査書類，調査項目，調査結果	
第10回	アンケートの質問文を作るために 質問をつくるときのワーディングの問題：１.あいまいな表現・むつかしい用語，２.ステレオタイプ，３.ダブルバーレル質問，４.パーソナル質問とインパーソナル質問，５.キャリーオーバー効果，６.バイアス質問	
第11回	サンプリングのための標本数 全数調査とサンプリング調査，サンプリングにはどのような方法があるか,無作為抽出法の種類,そのほかのサンプリングの方法,標本の数はどのようにして決めるか.	
第12回	インタビュー調査 インタビュー調査での重要なポイント：１.どのようなインタビューを行うか，２.事前準備や下調べが大切，３.依頼状を作成する/アポイントを取る，４.インタビューの実際，５.インタビューが終わった後	
第13回	調査における問題点を考える １.調査主体による相違：【事例１】内閣の支持率，２.前提が不明瞭な調査：【事例２】人気の大統領，【事例３】携帯電話会社の人口カバー率，３.バイアスがある調査：【事例４】調査員による質問内容，【事例５】アンケート調査での質問文の内容	
第14回	写真観察法 ビジュアル調査法とは，集合的写真観察法	
第15回	データ解析 データ解析するための基本的な知識，データの整理と簡約化：[1]ヒストグラム，[2] 代表値 散布度，[3] 箱ひげ図	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
レポート	60	毎回レポート課題を課す。レポートの解説をしながら、進めていく。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2）復習として，学んだ内容を整理し，理解する。 3）発展として，自ら課題を見つけて，理解を深める。 以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析 第3版	安藤明之	日本評論社	978-4-535-58760-1	2，600円+税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．社会調査の必要性を理解している	十分理解している	かなり理解している	必要性を理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	2．調査の形態や特徴を理解している	十分理解している	かなり理解している	必要性を理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	3．調査結果を分析・解釈する方法の知識がある	どのような調査でも高度なデータ分析をすることができる	調査の種類によっては高度なデータ分析ができる	基本的な分析が正しくできる.	調査の種類によっては正しい分析方法が使える	分析方法の判断ができない
態度	1．身近な問題に向き合える	十分向き合える	かなり向き合える	基本的な形で向き合える	補助があれば向き合える	向き合えない
態度	2．調査の段階の行動の仕方を理解している	十分理解している	かなり理解している	必要性を理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
態度	3．調査結果から今後すべきことを議論できる	十分議論できる	かなり議論できる	基本的な形で議論できる	補助があれば議論できる	議論できない

科目名	社会調査演習			授業番号	SD315	サブタイトル			
教員	平井　安久								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	２年前期開講の『社会調査論』で学習した内容を踏まえて，アンケート調査等のデータを分析するいろいろな手法および適用場面について学習する。								
到達目標	１）社会調査の基本的な考えを理解し，実践することができる。 ２）量的・質的データを統計手法を適用し，得られた結果の考察を行うことができる。 ３）パソコンの統計ソフトウェアを活用して結果を算出することができる。 以上を到達目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	データ解析前のデータ集計	
第2回	データの度数分布を調べる 度数分布表，ヒストグラム，単一回答の度数分布，複数回答の度数分布	
第3回	計量とはどのようなものか 代表値，散布度，分散，標準偏差，平均の取り扱い	
第4回	２変数の相関を見るクロス集計 ２変数の相関の意味，クロス集計表の作成	
第5回	２変数の相関を求めるクロス分析 どのようなときに使うか，散布図を作成，共分散を求める，相関係数を求める	
第6回	確率を基礎から学ぶ 事象と確率，期待値・分散・標準偏差を求める，正規分布とは	
第7回	推定とはどのようなものか 推定とは何か，推定をいつ用いるか，推定の種類，区間推定，母比率の区間推定，母平均の区間推定	
第8回	検定とはどのようなものか 検定とは何か，検定をいつ用いるか，仮説とは，母比率の検定方法，母平均の検定方法	
第9回	2つのグループの差を検定する 平均値との差を検定するｔ検定，ｔ値による有意差，３つ以上のグループの検定	
第10回	ソフトウェアで基本統計量を求める	
第11回	回帰分析を行う 多変量解析とは，単回帰分析はどのようなときに使うか，実際のデータへ適用する.	
第12回	重回帰分析を行う 重回帰分析はどのようなときに使うか，実際のデータへ適用する．説明変数を選ぶ	
第13回	その他のデータ解析の事例１ 具体的な社会の問題事例をとりあげて，どのような問題点があるかを議論し，調査すべき内容を取り上げて議論する.	
第14回	その他のデータ解析の事例２ 具体的な社会の問題事例をとりあげて，どのような問題点があるかを議論し，調査すべき内容を取り上げて議論する.	
第15回	その他のデータ解析の事例３ 具体的な社会の問題事例をとりあげて，どのような問題点があるかを議論し，調査すべき内容を取り上げて議論する.	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	40	意欲的な受講態度，予・復習の状況によって評価する。
課題	60	毎時間課題が出ます 課題の解説をしながら、進めていく。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	『社会調査論』・『社会調査演習』を通して，社会調査の手法を身に付ける演習であるため，２年前期開講の『社会調査論』を履修しておくこと。 授業の最中に内容を理解できるように努める。
授業外学修	１）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 ２）復習として，学んだ内容を整理し，理解する。 ３）データの分析方法や解釈の方法が中心的な仕事となる. 以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
初めてでもできる社会調査・アンケート調査とデータ解析 第３版	安藤明之	日本評論社	978-4-535-58760-1	

使用テキスト：自由記載	教科書は前期の「社会調査論」で使用した本である.

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	無
実務経験をいかした教育内容	無

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．身近な問題に向き合える	十分向き合える	かなり向き合える	基本的な形で向き合える	補助があれば向き合える	向き合えない
知識・理解	２．調査の段階の行動の仕方を理解している	十分理解している	かなり理解している	必要性を理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
知識・理解	３．調査結果から今後すべきことを議論できる	十分議論できる	かなり議論できる	基本的な形で議論できる	補助があれば議論できる	議論できない
思考・問題解決能力	１．現実世界での問題点に気づいている	十分気づいている	部分的に気づいている	指摘された問題点を理解できる	限定された話題について理解できる	問題点を認識できない
思考・問題解決能力	２．問題ある状況を理解できる	問題点の本質に気づくことができる	一部の話題の問題点の本質に気づくことができる	指摘されると理解できる	指摘されると部分的に理解できる	状況に気づくことができない
思考・問題解決能力	３．解決のためのプロセスが見通せる	洞察力をもって解決のためのプロセスが見通せる	おおむね解決のためのプロセスが見通せる	話題によっては解決のためのプロセスが見通せる	解決へのプロセスを部分的に考えられる	解決へのプロセスが考えられない
技能	１．調査項目を構成できる	十分構成できる	かなり構成できる	基本的な形で構成できる	補助があれば構成できる	構成できない
技能	２．調査時に必要な行動を整理している	詳細に整理できている	ほぼ整理できている	基本的に整理できている	部分的に整理できている	整理できていない
技能	３．調査結果の分析の手順を理解している	十分理解している	かなり理解している	必要性を理解している	部分的に理解している	理解が不十分である

科目名	マルチメディア 1クラス			授業番号	SG111A	サブタイトル			
教員	脇坂　基徳								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	本授業では，Adobe Photoshopを使用し，デジタル画像の加工技術，アニメーション制作，3Dグラフィックスなどの基礎技術について演習を行う。								
到達目標	デジタル画像，アニメーション，3Dグラフィックスなどの演習を通して，マルチメディア技法に関するスキルアップはもとより，マルチメディア技術への理解を深めることを目標とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	マルチメディアとは 「マルチメディアとは何か」について解説する。	
第2回	Pinterest・Feedlyについて デザイン参考資料などの収集に有効なツール「Pinterest」について解説， また情報収集の効率向上のためのWebサービス「Feedly」について解説を行う。	
第3回	Chapter 1 Photoshopの基本操作を身に付けよう ファイルや画面の操作など，基本操作を身に付ける。	
第4回	Chapter 2 レイヤーを操作しよう レイヤーの種類と役割を理解して効率的な作業を身に付け，復習として演習課題を行う。	
第5回	Chapter 3 色や明るさを調整しよう 調整レイヤーを使って、画像の印象を変える方法を解説し，復習として演習課題を行う。	
第6回	情ビ学生写真コンテストについて その1情ビ学生写真コンテストの開催の概要の案内や，スマートフォンでの撮影のコツ，Googleドライブを使ったデータのやり取りなどの解説する。	
第7回	情ビ学生写真コンテストについて その2撮影した写真を使い，様々な手法での加工を行い、課題を提出する。	
第8回	Chapter 4 選択範囲を使いこなそう 色調補正や画像合成で必要な選択範囲を作成する方法を解説し，復習として演習課題を行う。	
第9回	Chapter 5 レタッチできれいにしよう 画像内の不要物を消去したり、角度補正や切り抜きで整える方法を解説し，復習として演習課題を行う。	
第10回	Chapter 6 画像合成で作品に仕上げよう その1 マスクや描画モードを使って画像合成の表現力を高める方法を解説し，復習として演習課題を行う。	
第11回	Chapter 6 画像合成で作品に仕上げよう その2 引き続き，マスクや描画モードを使って画像合成の表現力を高める方法を解説し，復習として演習課題を行う。	
第12回	Chapter 7 フィルターとレイヤースタイルを上手に使おう その1 フィルターとレイヤースタイルを使って画像合成の表現を高める方法を解説し，復習として演習課題を行う。	
第13回	Chapter 7 フィルターとレイヤースタイルを上手に使おう その2 引き続き，フィルターとレイヤースタイルを使って画像合成の表現を高める方法を解説し，復習として演習課題を行う。	
第14回	Chapter 8 ペイント機能を使いこなそう ペイント機能をによる描画や消去の方法を解説し，復習として演習課題を行う。	
第15回	Chapter 10 文字を編集しよう 文字の入力・編集をマスターし，復習として演習課題を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢／態度	30	積極的な受講姿勢・参加度・態度によって評価する。
小テストおよび課題提出	70	複数回の小テストと授業課題によって各回の理解度を評価する。質問があれば、解説コメントを返す。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。
授業外学修	Photoshopでの画像加工技術や用途は多岐にわたっており，知識を増やすことで自らの手段を増やすことができる。 そのため，授業開始前までに30分程度，授業終了後に30分程度，各々が時間をとって様々なイラストの制作手法を検索・閲覧し，種類や予備知識を得ること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
今すぐ使えるかんたん Photoshop　やさしい入門	まきの ゆみ	技術評論社	978-4297131203	

使用テキスト：自由記載	講師のブログ「WEBCRE8TOR」（https://webcre8tor.com/）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で，適宜紹介していく。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	Webデザイナー（16年）、グラフィックデザイナー（16年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	フリーランスとして行ってきたウェブデザイン制作活動の経験を活かして，企画から制作完了までの指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 目的の作品を完成するための専門的知識や加工ごとの結果の違いを理解し、手順・機能活用を考察し、達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を、授業内容を超えて主体的に考察し、達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、十分に達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、おおよそ達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、最低限達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、最低限の達成が確認できない。
知識・理解	2. 作品制作において、思い通りの効果が得られない事象の解決や、より高い完成度にするために、専門的知識や加工ごとの結果の違いを理解し、工夫を施すことができる。	専門的知識や加工ごとの結果の違いを理解し、授業内容を超えて主体的に工夫を施すことができる。	専門的知識や加工ごとの結果の違いを理解し、十分に工夫を施すことができる。	専門的知識や加工ごとの結果の違いを理解し、おおよそ工夫を施すことができる。	専門的知識や加工ごとの結果の違いを理解し、助言を得ながら工夫を施すことができる。	専門的知識や加工ごとの結果の違いを理解せず、工夫を施すこともできない。
技能	1. フォトレタッチ・ロゴデザイン・フォトコラージュの技能	フォトレタッチ・ロゴデザイン・フォトコラージュに関して授業内容を超えてPhotoshopの機能を活用できる。	フォトレタッチ・ロゴデザイン・フォトコラージュに関して十分にPhotoshopの機能を活用できる。	フォトレタッチ・ロゴデザイン・フォトコラージュに関しておおむねPhotoshopの機能を活用できる。	フォトレタッチ・ロゴデザイン・フォトコラージュに関して最低限の基本的なPhotoshopの機能を活用できる。	フォトレタッチ・ロゴデザイン・フォトコラージュに関して最低限の基本的なPhotoshopの機能も活用できない。
技能	2. カード・ステーショナリー制作の技能	カード・ステーショナリー制作に関して授業内容を超えてPhotoshopの機能を活用できる。	カード・ステーショナリー制作に関して十分にPhotoshopの機能を活用できる。	カード・ステーショナリー制作に関しておおむねPhotoshopの機能を活用できる。	カード・ステーショナリー制作に関して最低限の基本的なPhotoshopの機能を活用できる。	カード・ステーショナリー制作に関して最低限の基本的なPhotoshopの機能も活用できない。
技能	3. Webサイト制作に活用する技能	Webサイト制作に関して授業内容を超えてPhotoshopの機能を活用できる。	Webサイト制作に関して十分にPhotoshopの機能を活用できる。	Webサイト制作に関しておおむねPhotoshopの機能を活用できる。	Webサイト制作に関して最低限の基本的なPhotoshopの機能を活用できる。	Webサイト制作に関して最低限の基本的なPhotoshopの機能も活用できない。

科目名	音響メディア論			授業番号	SG121	サブタイトル			
教員	河田　健二								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	音を記録・保存する技術は近年高度な発達を見せている。この授業ではそのような記録・保存媒体としてのディジタル機器やその周辺機器について解説する。また，音を発するための装置、即ち楽器や声も広い意味では音響メディアと言える。最近のディジタル楽器だけでなく，その発展過程の様々な機器や，楽器も含めて，その魅力や特徴について解説する。								
到達目標	音響機器・楽器について幅広く知識を持ってもらうことを到達目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈知識・理解〉の習得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	音と音響について 音現象をどのように捉えるのかを物理的な視野から見る	
第2回	各種メディアについての概要 音響に関する機器について大まかな概要を説明する	
第3回	記録・保存媒体としての機器・メディア1 過去のメディア（アナログ機器）について	
第4回	記録・保存媒体としての機器・メディア2 ディジタルということについて	
第5回	記録・保存媒体としての機器・メディア3 CD・LD・DVDについて	
第6回	記録・保存媒体としての機器・メディア4 圧縮・ハイレゾについて	
第7回	PAについて1 入力のためのマイクロフォンについて	
第8回	PAについて2 音の出口スピーカーシステムについて	
第9回	PAについて3 聞こえる音圧を出力するためのアンプリファイアについて	
第10回	PAについて4 ミキシング・配線について	
第11回	楽器について1 主として弦の振動を使用するもの	
第12回	楽器について2 主として管を使用するもの	
第13回	楽器について3 その他の楽器について	
第14回	声・声楽について 他の楽器には真似のできない言語を表現できる声について	
第15回	その他，音響に関することと全体のまとめ 14回の授業で説明しきれなかったことの補足とまとめ	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	熱心な受講態度。
レポート	50	レポートのテーマに対して調べた内容を自分の言葉で表現できていること。レポートについてはコメントを記入して返却する。
小テスト	40	それぞれの分野毎に理解度を確認する。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	扱うジャンルの幅が広いので，思考を柔軟にして受講すること。
授業外学修	新しい知識が多いと思うので，授業内で解説したことが定着するように復習することが大切である。以上の内容について週４時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	なし

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて授業内で紹介する。また，必要に応じて資料を配布する。
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．記録・保存媒体の機器についての理解	記録・保存媒体の機器について完全に理解している	記録・保存媒体の機器についてほぼ理解している	記録・保存媒体の機器について大まかにに理解している	記録・保存媒体の機器についてあまり理解していない	記録・保存媒体の機器についてほぼ理解していない
知識・理解	２．PAについての理解	PAについて完全に理解している	PAについてほぼ理解している	PAについて大まかに理解している	PAについてあまり理解していない	PAについてほぼ理解していない
知識・理解	３．楽器・声についての理解	楽器・声について完全に理解している	楽器・声についてほぼ理解している	楽器・声について大まかに理解している	楽器・声についてあまり理解していない	楽器・声についてほぼ理解していない

科目名	ウェブデザインA			授業番号	SG131	サブタイトル			
教員	脇坂　基徳								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	ウェブサイト制作のために必須であるHTML・CSSのコーディングの実践を行う。中でもマークアップ言語として実用的なHTML Living Standard・CSS3の知識を学び，実際にウェブサイトの構築を行う。なお，本講義は「ウェブデザイン実務士」を取得するための必須科目であるため，「ウェブデザイン実務士」の取得および，実務可能なスキル取得を目指す。								
到達目標	HTML・CSSのコーディングを実務レベルで習得することを目標とする。なお，本科目はデイプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	Webデザインの基礎知識 Webサイトの構成・表示の仕組み・作成方法を理解する。	
第2回	コーディングの基礎 その1 それぞれの言語の役割，クライアントサイドとサーバーサイド，htmlタグについて理解する。	
第3回	コーディングの基礎 その2 cssの基本的な考え方と記述方法について理解する。 またWebサービスCodePenを紹介し，アカウントの開設や課題の提出方法を解説する。	
第4回	コーディングの基礎 その3 「内側・外側」「親要素・子要素」「囲う」という言葉の意味を理解する。 またコーディングにおいて有効な省略記法であるEmmet記法について解説する。	
第5回	コーディングの基礎 その4 html文書ファイルの基本的な構成をコーディングを行いながら理解する。	
第6回	コーディングの基礎 その5 htmlタグの属性「id」「class」について，ブラウザ幅とコンテンツ幅について理解する。	
第7回	コーディングの基礎 その6 インライン要素とブロック要素について解説する。 また最も基礎的なコーディング課題「Webサイトコーディング[BASIC] 」を行う。	
第8回	コーディングの基礎 その7 marginとpaddingについて解説する。 またコーディング課題「Webサイトコーディング[BASIC] 」を完成させる。	
第9回	コーディングの応用 その1 レイアウトを簡単に組む方法「Flexbox」の重点解説を行う。	
第10回	コーディングの応用 その2 CodePenを使った課題を通し重点解説を行ったFlexboxの練習の練習を行う。	
第11回	Webサイトコーディング[LEVEL EASY] その1 また基礎的なコーディング課題「Webサイトコーディング[LEVEL EASY] 」を行う。	
第12回	Webサイトコーディング[LEVEL EASY] その2 引き続きコーディング課題「Webサイトコーディング[LEVEL EASY] 」を行う。	
第13回	Webサイトコーディング[LEVEL EASY] その3 コーディング課題「Webサイトコーディング[LEVEL EASY] 」を完成させる。	
第14回	Webサイトコーディング[LEVEL NORMAL] その1 実用的なコーディング課題「Webサイトコーディング[LEVEL NORMAL] 」を行い， モバイル対応として主流なレスポンシブWebデザインを修得する。	
第15回	Webサイトコーディング[LEVEL NORMAL] その2 実用的なコーディング課題「Webサイトコーディング[LEVEL NORMAL] 」を行い， スライドショーの実装を修得し，完成させる。	

授業計画　備考2	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢／態度	30	積極的な受講姿勢・参加度・態度によって評価する。
小テストおよび課題提出	70	複数回の小テストと授業課題によって各回の理解度を評価する。質問があれば、解説コメントを返す。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。
授業外学修	HTML・CSSは記述方法などの知識を増やすことで自らの手段を増やすことができる。そのため，授業開始前までに2時間程度，授業終了後に2時間程度，各々が時間をとってHTMLタグのまとめサイトを閲覧し，ウェブサイトコーディングの予備知識を得ること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	講師のブログ「WEBCRE8TOR」（https://webcre8tor.com/）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で，適宜紹介していく。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	ウェブデザイナー（16年）、グラフィックデザイナー（16年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	フリーランスとして行ってきたウェブデザイン制作活動の経験を活かして，企画から制作完了までの指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. ウェブデザイン実務の理解	ウェブデザイン実務に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	ウェブデザイン実務に関する授業内容を十分理解している。	ウェブデザイン実務に関して授業内容をおおむね理解している。	ウェブデザイン実務に関して最低限の内容は理解している	ウェブデザイン実務に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2. HTML・CSSの知識	HTML・CSSの知識に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	HTML・CSSの知識に関する授業内容を十分理解している。	HTML・CSSの知識に関して授業内容をおおむね理解している。	HTML・CSSの知識に関して最低限の内容は理解している	HTML・CSSの知識に関して最低限の内容の理解が認められない。
技能	1. ウェブサイト構築の技能	HTML・CSSを適切に活用でき、授業内容を超えて応用することができる。	HTML・CSSを適切に活用できる。	HTML・CSSをおおむね適切に活用できる。	HTMLを最低限活用できる。	HTMLの最低限の活用ができない。
技能	2. 構築したウェブサイトの説明技能	専門的知識にもとづいて十分に説明・考察することができる。	適切にわかりやすく且つ十分に説明することができる。	おおむね適切に説明することができる。	最低限の説明をすることができる。	最低限の説明をすることができない。

科目名	コンピュータグラフィックス			授業番号	SG213	サブタイトル			
教員	脇坂　基徳								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	グラフィックデザイン制作で最も使用されるツールであるAdobe Illustratorの基礎技術習得および実践を行う。具体的にはイラスト制作や画像のパーツ制作，さらに印刷物などデジタル画像を表現するテクニックについて習得する。								
到達目標	イラスト制作・画像のパーツ制作，さらに印刷物制作などのコンピュータグラフィックス技術を実務レベルで習得することを目標とする。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	Illustratorができるコト・作るモノ・就くシゴト Illustratorができるコト・作るモノ・就くシゴトの解説を行う。 また簡単なイラストを作成する。	
第2回	レイヤーについて Illustratorの「レイヤー」について理解する。 また前回よりも少しだけ難易度の高い人物イラストを作成する。	
第3回	Illustratorの基本操作や画面の見方，ツールの場所 ファイルや画面の操作など、基本操作を身に付ける。	
第4回	オブジェクトの操作方法 オブジェクトの選択やコピーなどの基本操作について理解し、復習として演習課題を行う。	
第5回	オブジェクトの描画方法 パスの構造を理解し，効率よくオブジェクトを描画する方法を理解し、復習として演習課題を行う。	
第6回	オブジェクトの配色や線の設定の前編 塗りと線や配色の種類や，破線や点線の使い方を理解し、復習として演習課題を行う。	
第7回	オブジェクトの配色や線の設定の後編 パターンやスウォッチ，ライブペイントなどの，より高度な配色方法を理解し、復習として演習課題を行う。	
第8回	オブジェクトの変形 パスファインダーパネルを使った結合や分割の方法や，変形系ツールを使った変形方法を理解し、復習として演習課題を行う。	
第9回	ペンツールでオブジェクトを描画する ペンツールを使って自由度の高いイラストを描く方法を理解し、復習として演習課題を行う。	
第10回	文字の入力・編集の方法 文字ツールを使っての入力や編集方法，読みやすくする調整方法などを理解し、復習として演習課題を行う。	
第11回	効果・アピアランス・グラフィックスタイル アピアランスの機能を使って複雑なグラフィックを作成する方法を理解し、復習として演習課題を行う。	
第12回	シンボル・ブレンド・ブラシ グラフィックの表現のバリエーションのUPのためにシンボル・ブレンド・ブラシの使い方を理解し、復習として演習課題を行う。	
第13回	Illustratorを使って最速でおしゃれな名刺 作ってみよう 前編 名刺表面の制作工程を紹介して制作を行い，準備物や構成の確認，アートボードの各ラインの意味を理解する。	
第14回	Illustratorを使って最速でおしゃれな名刺 作ってみよう 後編 名刺表面の制作続きを行い、よりクオリティを高めるためブラッシュアップを行う。 また裏面も制作して名刺を完成させ、印刷が可能な状態にする。	
第15回	Illustratorを使った3D表現 Illustratorの機能を使い様々な3Dグラフィックの制作をし、作品作りを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢／態度	30	積極的な受講姿勢・参加度・態度によって評価する。
小テストおよび課題提出	70	複数回の小テストと授業課題によって各回の理解度を評価する。質問があれば、解説コメントを返す。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。
授業外学修	Illustratorでの制作用途は多岐にわたっており，知識を増やすことで自らの手段を増やすことができる。そのため，授業開始前までに2時間程度，授業終了後に2時間程度，各々が時間をとって様々なイラストの制作手法を検索・閲覧し，種類や予備知識を得ること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
今すぐ使えるかんたん Illustrator　やさしい入門	まきの ゆみ	技術評論社	978-4297131241	

使用テキスト：自由記載	講師のブログ「WEBCRE8TOR」（https://webcre8tor.com/）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で，適宜紹介していく。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	Webデザイナー（16年）、グラフィックデザイナー（16年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	フリーランスとして行ってきたウェブデザイン制作活動の経験を活かして，企画から制作完了までの指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を、授業内容を超えて主体的に考察し、達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、十分に達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、おおよそ達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、最低限達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、最低限の達成が確認できない。
知識・理解	2. 作品制作において、思い通りの効果が得られない事象の解決や、より高い完成度にするために、工夫を施すことができる。	授業内容を超えて主体的に工夫を施すことができる。	十分に工夫を施すことができる。	おおよそ工夫を施すことができる。	助言を得ながら工夫を施すことができる。	工夫を施すことができない。
技能	1. イラストレーション・ロゴデザイン・フライヤーデザインの技能	イラストレーション・ロゴデザイン・フライヤーデザインに関して授業内容を超えてIllustratorの機能を活用できる。	イラストレーション・ロゴデザイン・フライヤーデザインに関して十分にIllustratorの機能を活用できる。	イラストレーション・ロゴデザイン・フライヤーデザインに関しておおむねIllustratorの機能を活用できる。	イラストレーション・ロゴデザイン・フライヤーデザインに関して最低限の基本的なIllustratorの機能を活用できる。	イラストレーション・ロゴデザイン・フライヤーデザインに関して最低限の基本的なIllustratorの機能も活用できない。
技能	2. 印刷物制作の技能	印刷物制作に関して授業内容を超えてIllustratorの機能を活用できる。	印刷物制作に関して十分にIllustratorの機能を活用できる。	印刷物制作に関しておおむねIllustratorの機能を活用できる。	印刷物制作に関して最低限の基本的なIllustratorの機能を活用できる。	印刷物制作に関して最低限の基本的なIllustratorの機能も活用できない。
技能	3. Webサイト制作に活用する技能	Webサイト制作に関して授業内容を超えてIllustratorの機能を活用できる。	Webサイト制作に関して十分にIllustratorの機能を活用できる。	Webサイト制作に関しておおむねIllustratorの機能を活用できる。	Webサイト制作に関して最低限の基本的なIllustratorの機能を活用できる。	Webサイト制作に関して最低限の基本的なIllustratorの機能も活用できない。

科目名	映像制作			授業番号	SG214	サブタイトル			
教員	脇坂　基徳								
単位数	1単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	前期	授業形態		必修・選択	選択
授業概要	Adobe Premiere Proを用いて映像編集の演習を行ない，企画，構成，撮影，編集，サウンドなど映像制作に必要な知識・技術について学修する。								
到達目標	Adobe Premiere Proを用いて，動画編集の基本的なスキルおよび企画・構成やシナリオ作成の知識を修得する。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	Adobe Premiere Proでできること テキストの紹介，Premiere Proでできることや After Effectsとの違いについて解説する。	
第2回	Chapter 1 Premiere Proの基本操作を身に付けよう その1 まずはファイルや画面の操作などの基本操作を身に付ける。 またmp4動画書き出しの演習を行う。	
第3回	Chapter 1 Premiere Proの基本操作を身に付けよう その2 引き続きファイルや画面の操作などの基本操作を身に付ける。 またmp4動画書き出しの演習の復習を行う。	
第4回	Chapter 2 動画素材をカット編集しよう その1 クリップの配置と並べ替え、トリミングの方法を身に付ける。 またクリップの並び替えおよびインサートの演習を行う。	
第5回	Chapter 2 動画素材をカット編集しよう その2 引き続きクリップの配置と並べ替え、トリミングの方法を身に付ける。 またクリップの分割と写真のトリミングの演習を行う。	
第6回	Chapter 3 トランジションやエフェクトでクリップを演出しよう その1 トランジションとエフェクトを使い、動画を効果的に演出する方法を身に付ける。 また少し高度な編集テクニックである多重露光加工の演習を行う。	
第7回	Chapter 3 トランジションやエフェクトでクリップを演出しよう その2 トランジションとエフェクトを使い、動画を効果的に演出する方法を身に付ける。 また少し高度な編集テクニックであるデジタルグリッチエフェクトの演習を行う。	
第8回	Chapter 4 テロップを完成しよう その1 テキストを利用した動画編集テクニックを身に付ける。 またオリジナル映像作品課題の条件などを案内し制作を進める。	
第9回	Chapter 4 テロップを完成しよう その2 テキストを利用した動画編集テクニックを身に付ける。 また少し高度な編集テクニックであるタイピング風テロップの演習を行う。	
第10回	Chapter 5 音声やBGMを追加／編集しよう オーディオデータの基本操作を覚え、様々な加工方法を身に付ける。 また少し高度な編集テクニックであるボイスチェンジエフェクトの演習を行う。	
第11回	少し高度な編集テクニックであるスピードランプエフェクトの演習を行う。 また引き続きオリジナル映像作品課題の制作を進める。	
第12回	オリジナル映像作品の制作 また引き続きオリジナル映像作品課題の制作を進める。	
第13回	オリジナル映像作品の制作 また引き続きオリジナル映像作品課題の制作を進める。	
第14回	オリジナル映像作品発表会 その1 履修者全員でオリジナル映像作品課題のプレゼンテーションを行う。	
第15回	オリジナル映像作品発表会 その2 履修者全員でオリジナル映像作品課題のプレゼンテーション，また科目総括を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢／態度	30	意欲的な受講態度，課題提出の状況によって評価する。
小テストおよび課題提出	70	複数回の小テストと授業課題によって各回の理解度を評価する。質問があれば、解説コメントを返す。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2）復習として，学んだ内容の整理を行い，作品課題の制作を行う。 3）発展として，自ら課題を見つけて，作品の制作スキルを向上させる。 以上の内容に対して，毎週 1 時間以上の学修を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
今すぐ使えるかんたん Premiere Pro　やさしい入門	阿部 信行	技術評論社	978-4297135478	

使用テキスト：自由記載	講師のブログ「WEBCRE8TOR」（https://webcre8tor.com/）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で，適宜紹介していく。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. 映像作品を制作するための手順・機能活用を考察し、達成することができる。	映像作品の制作に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	映像作品の制作に関する授業内容を十分理解している。	映像作品の制作に関して授業内容をおおむね理解している。	映像作品の制作に関して最低限の内容は理解している	映像作品の制作に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2. 映像作品の制作で必要なAdobe Premiere Proの知識を活用し目的の作品を実現することができる。	Adobe Premiere Proの知識に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	Adobe Premiere Proの知識に関する授業内容を十分理解している。	Adobe Premiere Proの知識に関して授業内容をおおむね理解している。	Adobe Premiere Proの知識に関して最低限の内容は理解している	Adobe Premiere Proの知識に関して最低限の内容の理解が認められない。
技能	1. Adobe Premiere Proを活用した映像制作の技能	Adobe Premiere Proを適切に活用でき、授業内容を超えて応用することができる。	Adobe Premiere Proを適切に活用できる。	Adobe Premiere Proをおおむね適切に活用できる。	Adobe Premiere Proを最低限活用できる。	Adobe Premiere Proの最低限の活用ができない。
技能	2. 制作した映像作品の説明技能	専門的知識にもとづいて十分に説明・考察することができる。	適切にわかりやすく且つ十分に説明することができる。	おおむね適切に説明することができる。	最低限の説明をすることができる。	最低限の説明をすることができない。

科目名	コンピュータミュージック			授業番号	SG222	サブタイトル			
教員	河田　健二								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	かつて曲を作ることは限られた一部の人だけのものであった。現在ではコンピュータを使用することで，誰でも気軽に曲を作り楽しむことが出来るようになった。この授業ではコンピュータ上で音楽を作成することを学習する。具体的にはSinger song writerおよびボーカロイドの２種類のソフトウエアを使用し音楽を作成する。とは言え必要最小限の音楽的知識は必要であるので，音楽の知識（音楽理論）についても毎回少しずつ解説する。								
到達目標	自分の力で何らかの楽曲を作成出来ることを到達目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，〈技能〉の習得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	音（音楽）と楽譜の関係・楽譜の基礎知識 物理的な音を視覚的にとらえる様々な方法について	
第2回	使用するソフトウエアについての基礎知識 授業で使用するSinger song writerとボーカロイドの概要について	
第3回	Singer song writerを使用した音楽作成1・音楽理論の解説1 とにかく入力してみよう（簡単な単旋律）	
第4回	Singer song writerを使用した音楽作成2・音楽理論の解説2 少し複雑な単旋律の入力	
第5回	Singer song writerを使用した音楽作成3・音楽理論の解説3 複数パートの入力	
第6回	Singer song writerを使用した音楽作成4・音楽理論の解説4 音楽表現のための様々な機能について	
第7回	Singer song writerを使用した音楽作成5・音楽理論の解説5 アレンジデータ機能を使った伴奏入力	
第8回	Singer song writerを使用した音楽作成6・音楽理論の解説6 オーディオデータの取り扱いについて	
第9回	ボーカロイドを使用した音楽作成1・音楽理論の解説7 簡単な楽曲の入力	
第10回	ボーカロイドを使用した音楽作成２・音楽理論の解説8 少し複雑な楽曲の入力	
第11回	ボーカロイドを使用した音楽作成3・音楽理論の解説9 複数パートの処理について	
第12回	ボーカロイドを使用した音楽作成4・音楽理論の解説10 音楽表現のための様々な機能について	
第13回	Singer song writerとボーカロイドのデータ連結1 これまでに作成したデータを結合する（1回目）	
第14回	Singer song writerとボーカロイドのデータ連結2 これまでに作成したデータを結合する（2回目）	
第15回	完成した作品の試演会 完成した楽曲を受講生同士で聞きあう	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度		
レポート		
小テスト		
定期試験	50	音楽理論の理解度を評価する。
その他	50	作品提出とし，提出された作品の完成度について評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	毎回の積み重ねで演習を行うため遅刻・欠席をしないよう気をつけること。やむを得ず遅刻・欠席をした場合は担当教員に聞くなどし，抜けている個所がないよう努力すること。
授業外学修	授業で配布する楽曲を，指定する範囲までを次回の授業までに完了させること。また，自由課題については授業外での学習（入力・編集作業）が多くなるため多くの時間を必要とする。以上の内容について週４時間以上の学習を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
楽譜がよめる！　大人のための音楽ワーク　テキスト	須田直治	株式会社ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス	9784636801552	

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて授業内で紹介する。また，打ち込みの素材となる楽曲を配布する。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
技能	１．シンガーソングライターを使用した楽曲を作成できる	細かな所まで音楽のニュアンスを再現した楽曲を作成できる	音楽のニュアンス等を含めた楽曲を作成できる	正しい楽曲を作成できる	ソフトは扱えるが正しい楽曲が作成できない	楽曲が作成できない
技能	２．ボーカロイドを使用した楽曲を作成できる	細かな所まで音楽のニュアンスを再現した楽曲を作成できる	音楽のニュアンス等を含めた楽曲を作成できる	正しい楽曲を作成できる	ソフトは扱えるが正しい楽曲が作成できない	楽曲が作成できない
技能	３．シンガーソングライターで作成したデータとボーカロイドで作成したデータを連動して一つの楽曲にまとめることができる	自分の力でシンガーソングライターとボーカロイドのデータを連動できる	自分の力でシンガーソングライターとボーカロイドのデータを連動できる	教員や友人に聞きながらシンガーソングライターとボーカロイドのデータを連動できる	シンガーソングライターとボーカロイドのデータを連動できない	該当なし

科目名	ウェブデザインB			授業番号	SG232	サブタイトル			
教員	脇坂　基徳								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	実際の制作現場を想定し，より実践的なスキル習得を実現するため，Photoshop・Illustratorを使用したデザインをトレースする技術・知識の習得を行う。また習得したトレース技術をウェブデザイン制作に活用し作品の企画・制作を行う。なお本講義は「ウェブデザイン実務士」を取得するための必須科目であるため，「ウェブデザイン実務士」の取得および，実務可能なスキル取得を目指す。								
到達目標	ウェブデザインの現場における，企画からデザインまでの流れを理解し，実践できるようになる。また，Photoshop・Illustratorを用いてトレースおよびデザイン制作を行うことができる。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	トレース・模写・オリジナル制作について 「トレース・模写の目的」を解説し，なぜトレースが技術習得に有効なのかを理解する。	
第2回	トレース演習基本編「ほしのふるまち」の演習 簡単なトレース作業を通し，トレースの流れを大まかに把握する。	
第3回	演習01 デザイントレース「写真展のチラシ」の演習 その1 「主役と脇役の差」をポイントととして企画・デザイン制作の流れの理解およびトレース作業を行う。	
第4回	演習01 デザイントレース「写真展のチラシ」の演習 その2 引き続き「主役と脇役の差」をポイントととして企画・デザイン制作の流れの理解およびトレース作業を行う。	
第5回	演習02 デザイントレース「不動産会社の名刺」の演習 「揃えの基準」をポイントととして企画・デザイン制作の流れの理解およびトレース作業を行う。	
第6回	演習03 デザイントレース「キャンペーンのDM」の演習 その1 「視覚的な重さ」をポイントととして企画・デザイン制作の流れの理解およびトレース作業を行う。	
第7回	演習03 デザイントレース「キャンペーンのDM」の演習 その2 引き続き「視覚的な重さ」をポイントととして企画・デザイン制作の流れの理解およびトレース作業を行う。	
第8回	演習05 デザイントレース「ドーナッツ屋のポスター」の演習 その1 「コントラスト」をポイントととして企画・デザイン制作の流れの理解およびトレース作業を行う。	
第9回	演習05 デザイントレース「ドーナッツ屋のポスター」の演習 その2 引き続き「コントラスト」をポイントととして企画・デザイン制作の流れの理解およびトレース作業を行う。	
第10回	演習Web02 オリジナルデザイントレース「情ビInstagramバナー」の演習 その1 「縦書き文字の作り方と縦書き文字の文字詰め」をポイントととしてトレース作業を行う。	
第11回	演習Web02 オリジナルデザイントレース「情ビInstagramバナー」の演習 その2 引き続き「縦書き文字の作り方と縦書き文字の文字詰め」をポイントととしてトレース作業を行う。	
第12回	演習15 デザイントレース「キャンペーンのバナー」の演習 「シンプルに飾る」をポイントととして企画・デザイン制作の流れの理解およびトレース作業を行う。	
第13回	演習Web01 デザイントレース「デザイン会社のWebサイト」の演習 その1 「ブロック分けの背景」と「部分的な背景」の使い方をポイントととして企画・デザイン制作の流れの理解およびトレース作業を行う。	
第14回	演習Web01 デザイントレース「デザイン会社のWebサイト」の演習 その2 引き続き「ブロック分けの背景」と「部分的な背景」の使い方をポイントととして企画・デザイン制作の流れの理解およびトレース作業を行う。	
第15回	演習Web01 デザイントレース「デザイン会社のWebサイト」の演習 その3 引き続き「ブロック分けの背景」と「部分的な背景」の使い方をポイントととして企画・デザイン制作の流れの理解およびトレース作業を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢／態度	30	積極的な受講姿勢・参加度・態度によって評価する。
課題提出	70	複数回の授業課題によって各回の理解度を評価する。質問があれば、解説コメントを返す。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。
授業外学修	Photoshop・Illustratorを使用したトレース技術は日々アップデートされ続けているため，トライ&エラーを繰り返すことで自らの知識・手段を増やすことができる。そのため，授業開始前までに2時間程度，授業終了後に2時間程度，各々が時間をとって自らテーマとなるウェブサイトを探しトレース作業を行うこと。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
トレース&模写で学ぶ デザインのドリル	Power Design Inc. (著)	ソシム	978-4802612579	

使用テキスト：自由記載	講師のブログ「WEBCRE8TOR」（https://webcre8tor.com/）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で，適宜紹介していく。
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	Webデザイナー（16年）、グラフィックデザイナー（16年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	フリーランスとして行ってきたウェブデザイン制作活動の経験を活かして，企画から制作完了までの指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. Photoshop・Illustratorを使用したデザインをトレースする知識。	Photoshop・Illustratorを使用したトレース技術の知識に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	Photoshop・Illustratorを使用したトレース技術の知識に関する授業内容を十分理解している。	Photoshop・Illustratorを使用したトレース技術の知識に関する授業内容をおおむね理解している。	Photoshop・Illustratorを使用したトレース技術の知識に関する最低限の内容は理解している。	Photoshop・Illustratorを使用したトレース技術の知識に関する最低限の内容の理解が認められない。
思考・問題解決能力	2. Webデザイン作品制作において、思い通りの効果が得られない事象の解決や、より高い完成度にするために、工夫を施すことができる。	授業内容を超えて主体的に工夫を施すことができる。	十分に工夫を施すことができる。	おおよそ工夫を施すことができる。	助言を得ながら工夫を施すことができる。	工夫を施すことができない。
技能	1. Photoshop・Illustratorを使用したデザインをトレースする技術の習得。	Photoshop・Illustratorを使用した非常に高度なトレース技術を習得し、クオリティの高いデザインをトレースできる。	Photoshop・Illustratorを使用したより高度なトレース技術を習得し、クオリティの高いデザインをトレースできる。	Photoshop・Illustratorを使用した高度なトレース技術を習得し、クオリティの高いデザインをトレースできる。	Photoshop・Illustratorを使用してデザインをトレースできる。	Photoshop・Illustratorを使用したトレース技術を理解しているが、実践的なスキルには至っていない。
技能	2. 習得したトレース技術によってWebページのデザインを制作実現する技能。	習得したトレース技術を授業内容を超えてWebデザイン制作に活用できる。	習得したトレース技術を十分にWebデザイン制作に活用できる。	習得したトレース技術をおおむねWebデザイン制作に活用できる。	習得したトレース技術を最低限のWebデザイン制作に活用できる。	習得したトレース技術を最低限のWebデザイン制作にも活用できない。

科目名	情報メディア論			授業番号	SG315	サブタイトル			
教員	脇坂　基徳								
単位数	2単位	開講年次	カリキュラムにより異なります。	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	本授業は，「情報」や「メディア」に関して正しい知識も用いて常にシーン・ケースにふさわしい「読み取り」や「発信」ができるようなメディアリテラシーの育成を目的とし，「インターネット」「SNS」「ロボット」「人工知能」「知的財産権」「サイバー犯罪」「マルウェア」「情報技術の発展」についても解説していく。								
到達目標	「情報」や「メディア」に関して正しい知識を得ることで，便利なものを活用する知識や危険なものから身を守るため，自分のみならず他人にも伝えられるリテラシーを身に付けてほしい。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	情報とは 「なぜ情報について学ぶのか?」「情報とは何か」「情報の特性」などを理解する。	
第2回	メディアとは メディアの意味や範囲・種類についてや，メディアリテラシーについてなどを理解する。	
第3回	メディアリテラシー「第1章 まだわからないよね」「第2章 意見・印象じゃないかな」 第1章では「結論をソク断するな」「情報にも三密が必要」「デマを流す人」の理解， 第2章では「ごっちゃにしてウのみにするな」などを理解する。	
第4回	メディアリテラシー「第3章 他の見方もないかな」「第4章 隠れているものはないかな」 第3章では「一つの見方にカタよるな」の理解，第4章では「スポットライトの中だけ見るな」などを理解する。	
第5回	メディアリテラシーまとめ・情報の整理ツール マインドマップ メディアリテラシーまとめでは「デマに感染しないための4つのワクチン」の理解、 情報の整理ツール マインドマップでは，マインドマップのメリット・使い方のコツ・活用事例などを理解する。	
第6回	知っておきたいビジネス用語・カタカナ語 仕事をする上で覚えておきたいビジネス用語・カタカナ語や， ニュースをチェックする上で覚えておきたいビジネス用語・カタカナ語などを理解する。	
第7回	検索について「第1章 インフォデミックへの対応」 第1章では「インフォデミック(情報汚染)」への対応を理解する。	
第8回	検索について「第2章 検索の仕方」 第2章では基本・応用の検索の仕方，検索で注意すべきことなどを理解する。	
第9回	知的財産権について 「知的財産権とは」「産業財産権」「著作権」「著作物利用時の注意点」などを理解する。	
第10回	個人情報について 「個人情報とは」「プライバシーと肖像権」「個人情報の流出」「個人情報保護法」について理解する。	
第11回	サイバー犯罪について 「サイバー犯罪とは」「フィッシング詐欺」「ワンクリック詐欺」「ショッピング詐欺」などを理解する。	
第12回	マルウェアについて 「マルウェアとは」「マルウェアの分類」「流入のきっかけと兆候」「感染したらやるべきこと」「5つの感染予防策」などを理解する。	
第13回	コミュニケーションの歴史 – 手段と多様化とSNS 「コミュニケーション」では分類方法や歴史を，「ソーシャルメディア」では定義やSNSとの違い・利用率などを理解する。	
第14回	人工知能の歴史と未来 「機械は考えることができるのか」「Artificial Intelligence(AI)」や， 「第1次人工知能ブーム」「第2次人工知能ブーム」「第3次人工知能ブーム」をなど理解する。	
第15回	情報技術の発展 「Society 1.0 狩猟社会」から「Society 4.0 情報社会」までの変化や， 「Society 5.0 新しい社会」で未来に何が起ころうとしているかを理解する。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢／態度	30	積極的な受講姿勢・参加度・態度によって評価する。
小テストおよび定期試験	70	複数回の小テストと定期試験よって授業での解説を正しく理解できているかを評価する。質問があれば、解説コメントを返す。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	授業は講師が作成したマインドマップツールを使用して進めていく。豊富かつ多岐にわたる内容であるため，専用のノートを用意し受講する必要がある。
授業外学修	情報メディアに関する内容を理解するため，授業開始前までに2時間程度，授業終了後に2時間程度，各々が時間をとって「インターネット」「SNS」「ロボット」「人工知能」「知的財産権」「サイバー犯罪」「マルウェア」「情報技術の発展」のカテゴリのニュース記事などを検索・閲覧し，種類や予備知識を得ること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	講師のブログ「WEBCRE8TOR」（https://webcre8tor.com/）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で，適宜紹介していく。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1.「情報・メディア」および「メディアリテラシー」に関して正しい知識を用いて常にシーン・ケースにふさわしい「読み取り」や「発信」をすることができる。	「情報・メディア」および「メディアリテラシー」に関して授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	「情報・メディア」および「メディアリテラシー」に関して授業内容を十分理解している。	「情報・メディア」および「メディアリテラシー」に関して授業内容をおおむね理解している。	「情報・メディア」および「メディアリテラシー」に関して最低限の内容は理解している	「情報・メディア」および「メディアリテラシー」に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2.「知的財産権」「サイバー犯罪」「マルウェア」「情報技術の発展」などの重要項目について正しく理解している。	「知的財産権」「サイバー犯罪」「マルウェア」「情報技術の発展」などの重要項目に関して授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	「知的財産権」「サイバー犯罪」「マルウェア」「情報技術の発展」などの重要項目に関して授業内容を十分理解している。	「知的財産権」「サイバー犯罪」「マルウェア」「情報技術の発展」などの重要項目に関して授業内容をおおむね理解している。	「知的財産権」「サイバー犯罪」「マルウェア」「情報技術の発展」などの重要項目に関して最低限の内容は理解している	「知的財産権」「サイバー犯罪」「マルウェア」「情報技術の発展」などの重要項目に関して最低限の内容の理解が認められない。

科目名	ソーシャルメディア			授業番号	SG316	サブタイトル			
教員	脇坂　基徳								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態		必修・選択	選択
授業概要	Adobe After Effectsの体系的な知識・操作を身に付けることを目的とし，全15回の授業の前半では基礎・応用的な内容の理解を深め，動画制作の基本を身に付ける。後半ではオリジナル作品の制作を行い，Youtube等のソーシャルメディアのチャンネル作成や，主にアップロード動画の管理・運営などを行う。								
到達目標	モーショングラフィックスなどのやや高度な応用的な技術の習得を目標とする。また作品制作を通して，実践的なスキルアップを目指す。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	AfterEffectsでできること テキストの紹介を行い，AfterEffectsでできること・Premiere Proとの違いについて理解する。 また簡単なエフェクトである動画のテキストマスクの方法を解説する。	
第2回	Chapter 1 After Effectsを使う前の準備 動画制作の流れの理解から保存までを理解する。	
第3回	Chapter 2 背景を作ろう 画像の配置からアニメーションの方法，質感の追加方法などを理解する。	
第4回	Chapter 3 タイトルを作ろう テキスト配置からフォント・文字サイズの変更，テキストアニメーションの方法などを理解する。	
第5回	Chapter 4 テロップを作ろう 画像やテキストを配置し，テロップをアニメーションさせる方法を理解する。	
第6回	Chapter 5 場面転換を作ろう 場面を切り替える効果であるトランジションなどを理解する。	
第7回	Chapter 6 立体的なアニメーションを作ろう・Chapter 7 動画を書き出そう 3Dレイヤー機能を使用した立体的なアニメーションの作り方を理解する。 また動画を一つにまとめ編集を行い，最後に動画ファイルとして書き出す。	
第8回	グリーンバックのキーアウトとSaberによる合成 グリーンバックのキーアウト（透明化）とSaberによる合成の方法について解説する。 また，同技術を使ったオリジナル作品作りを行う。	
第9回	3Dトラッカーカメラを使った合成 3Dトラッカーカメラを使った合成の方法について解説する。 また，同技術を使ったオリジナル作品作りを行う。	
第10回	簡単なホログラムエフェクト その1 簡単なホログラムエフェクトの方法について解説する。	
第11回	簡単なホログラムエフェクト その2 前回解説した簡単なホログラムエフェクトの方法を使ったオリジナル作品作りを行う。	
第12回	mochaで標識アニメーション その1mochaで標識アニメーションの方法について解説する。	
第13回	mochaで標識アニメーション その2 前回解説したmochaで標識アニメーションの方法を使ったオリジナル作品作りを行う。	
第14回	ロトブラシで動く被写体との背景合成 ロトブラシで動く被写体との背景合成の方法について解説する。 また，同技術を使ったオリジナル作品作りを行う。	
第15回	Youtubeチャンネルの管理 Youtubeでのチャンネル開設を行い，ログイン，各種操作方法について解説する。 また現在までに編集した動画をアップし作品集を作り、科目の総括を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢／態度	30	積極的な受講姿勢・参加度・態度によって評価する。
小テストおよび課題提出	70	複数回の小テストと授業課題によって各回の理解度を評価する。質問があれば、解説コメントを返す。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。
授業外学修	After Effectsはモーション・グラフィックス，タイトル制作などを得意としたツールであるため、参考となる作品はYoutubeをはじめとした動画アーカイブサイトに多数存在している。そのため授業開始前までに30分程度，授業終了後に30分程度，各々が時間をとって様々な動画制作手法を検索・閲覧し，種類や予備知識を得ること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
デザインの学校 これからはじめる After Effectsの本 [改訂2版]	マウンテンスタジオ 佐藤太郎・中薗洸太 (著), ロクナナワークショップ (監修)	技術評論社	978-4297124151	

使用テキスト：自由記載	講師のブログ「WEB CRE8TOR」（https://webcre8tor.com/）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で，適宜紹介していく。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. 目的の動画作品を完成するための手順・機能活用を考察し、達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を、授業内容を超えて主体的に考察し、達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、十分に達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、おおよそ達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、最低限達成することができる。	目的の作品を完成するための手順・機能活用を考察し、最低限の達成が確認できない。
思考・問題解決能力	2. 動画作品制作において、思い通りの効果が得られない事象の解決や、より高い完成度にするために、工夫を施すことができる。	授業内容を超えて主体的に工夫を施すことができる。	十分に工夫を施すことができる。	おおよそ工夫を施すことができる。	助言を得ながら工夫を施すことができる。	工夫を施すことができない。
思考・問題解決能力	3. Youtubeチャンネルの管理・運営において、動画メディア等の有効な活用方法の考察や工夫を施すことができる。	授業内容を超えて主体的に工夫を施すことができる。	十分に工夫を施すことができる。	おおよそ工夫を施すことができる。	助言を得ながら工夫を施すことができる。	工夫を施すことができない。
技能	1. Adobe After Effectsを活用した動画制作の技能	動画作品の制作に関して授業内容を超えてAdobe After Effectsの機能を活用できる。	動画作品の制作に関して十分にAdobe After Effectsの機能を活用できる。	動画作品の制作に関しておおむねAdobe After Effectsの機能を活用できる。	動画作品の制作に関して最低限の基本的なAdobe After Effectsの機能を活用できる。	動画作品の制作に関して最低限の基本的なAdobe After Effectsの機能も活用できない。

科目名	クロスリアリティ			授業番号	SG317	サブタイトル			
教員	古谷　俊爾								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	近年，XR（クロスリアリティ）という言葉を耳にする機会が増えてきた。 XRは，VR(仮想現実)・AR(拡張現実)・MR(複合現実)・SR(代替現実)など，現実世界と仮想世界を融合して新しい体験を作り出す技術の総称である。 本授業では，XRを構成する各々の技術を知り，HMD(ヘッドマウントディスプレイ)の活用やメタバースを体験する。この体験にはグループ学修が含まれる。								
到達目標	XRを構成する各々の技術の区別ができる。 XRを構成する各々の技術の事例が挙げられる。 HMDとメタバースがどういうもので現在何ができるのかを理解する。 HMDを自身で利用できるようになる。 メタバースが制作できるようになる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力のうち，＜知識・理解＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	XR（クロスリアリティ）とは VR(仮想現実)・AR(拡張現実)・MR(複合現実)・SR(代替現実)それぞれの違いを理解する。	
第2回	XR（クロスリアリティ）の事例 VR(仮想現実)・AR(拡張現実)・MR(複合現実)・SR(代替現実)それぞれの事例を調べる。	
第3回	HMD(ヘッドマウントディスプレイ)を知る HMDにどのような製品がありどのように活用できるのかを調べる。 グループ学修のチームを結成する。	
第4回	HMDに触れる 各チームでHMDを装着し，VR(仮想現実)技術を体験する。具体的にはCGや360度カメラによって作成された映像を体験する。	
第5回	HMD体験(1) 各チームでHMDコンテンツを調査し，実際に体験してみる。 体験内容は資料にまとめる。	
第6回	HMD体験(2) 各チームでHMDコンテンツを調査し，実際に体験してみる。 体験内容は資料にまとめる。	
第7回	HMD体験(3) 各チームでHMDコンテンツを調査し，実際に体験してみる。 体験内容は資料にまとめる。	
第8回	HMD体験発表 チームごとにHMD体験について発表する。 他チームでの体験を理解する。	
第9回	HMD体験(チーム間交流) 他チームとの交流により，自チームで体験しなかった様々なコンテンツを体験する。	
第10回	メタバースで交流 チームでメタバース参加の準備を行い，HMVとPCそれぞれで実体験してみる。 他チームとメタバース空間で交流してみる。	
第11回	メタバースの作り方 メタバースの作り方を学び試行錯誤してみる。 チーム内で教え合うことを期待する。	
第12回	メタバースの設計 各自でメタバースの設計を行う。 設計できた学生から作成を始める。	
第13回	メタバースの作成(1) 各自でメタバースの作成を行う。 チーム内外で教え合うことを期待する。	
第14回	メタバースの作成(2) 各自でメタバースの作成を行う。 チーム内外で教え合うことを期待する。	
第15回	メタバース展示会 各自のメタバースに招待して展示会を行う。 メタバース内で感想を作者に伝えるなど交流する。	

授業計画　備考2	メタバースはCluster(クラスター)を想定しているが，変更もありうる。

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講姿勢，発表・討議への参加，予復習の状況によって評価する。
レポート	30	XRを構成する各技術の違いと事例が具体的に述べられていること。授業で全体的な傾向についてコメントをする。個々の詳細なコメントを希望する学生は研究室にお越しいただきたい。
小テスト		
定期試験		
その他	40	発表，作品により評価する。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. チームによりデバイスを共有し学修を進める。自分勝手な行動やチーム活動へ消極的な態度は厳に慎むこと。 2. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。 3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。
授業外学修	1. 予習として授業にかかわる内容をインターネットで調べ疑問点を明らかにする。 2. 復習として授業で扱った内容を振り返るほかインターネット等で調べ更に知識を深める。 3. レポートを作成する。 4. メタバース作品課題を作る。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	参考となるWebサイト等を授業で紹介する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. XRを構成する各々の技術の区別ができる。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2. XRを構成する各々の技術の事例が挙げられる。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	3. HMDとメタバースがどういうもので現在何ができるのかを理解する。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容を十分理解している。	評価の観点に関して授業内容をおおむね理解している。	評価の観点に関して最低限の内容は理解している	評価の観点に関して最低限の内容の理解が認められない。
技能	1. HMDを自身で利用できるようになる。	評価の観点に関して授業内容を超えて応用することができる。	評価の観点に関して適切に行うことができる。	評価の観点に関しておおむね適切に行うことができる。	評価の観点に関して行うことができる。	評価の観点に関して最低限の内容まで行うことができない。
技能	2. メタバースが制作できるようになる。	評価の観点に関して授業内容を超えて応用することができる。	評価の観点に関して適切に行うことができる。	評価の観点に関しておおむね適切に行うことができる。	評価の観点に関して行うことができる。	評価の観点に関して最低限の内容まで行うことができない。

科目名	ウェブデザイン演習			授業番号	SG333	サブタイトル			
教員	脇坂　基徳								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	WebデザインツールのFigmaを使用し，ウェブサイトのデザイン制作を効率よく進めるための実践を行う。なお，本講義は「ウェブデザイン実務士」を取得するための必須科目であるため，「ウェブデザイン実務士」の取得および，実務可能なスキル取得を目指す。								
到達目標	WebデザインツールのFigmaを使ったウェブサイトデザインの際に各々がクオリティの高いデザインを作るための効率の向上を目指す。なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜技能＞ の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	Webデザインツール「Figma」について Figmaとは，Figmaができること，Figmaの特徴，Webデザイナー視点のFigmaを理解する。	
第2回	デザインとアートの違い，ウェブデザインでするべきこと・流れについて デザインとアートの違い，またウェブデザインにおいてするべきことや制作の流れなどを理解する。	
第3回	Figmaのアカウント開設・課題の提出方法について Figmaのアカウント開設や各画面の解説，また課題提出の流れを理解する。	
第4回	チームの作り方，インターフェイスについて Figmaでのチームの作り方やデザインファイル編集画面のインターフェイスの解説を行い，ツールバー実践演習を行う。	
第5回	配色やフォント関連指定のスタイル登録について デザインファイルへの配色やフォント関連指定のスタイルの登録について解説を行い，色スタイル・テキストスタイル登録の実践演習を行う。	
第6回	デザインルールを決める重要性について デザインの中心に据えるルールである「デザインルール」を決める重要性について解説する。 また実践課題のファイルであるWebページデザイン演習にアートボードを作成しガイドを引き，実践の準備を行う。	
第7回	Webページデザイン演習 その1 ～header・mainimg作成編～ Figmaを使ってheaderブロックおよびmainimgブロックのWebページデザインの実践を行う。	
第8回	Webページデザイン演習 その2 ～header・mainimg作成編～ Figmaを使ってserviceブロックのWebページデザインの実践を行う。	
第9回	Webページデザイン演習 その3 ～news・footer作成編～ Figmaを使ってnewsブロックおよびfooterブロックのWebページデザインの実践を行い，完成した課題を提出する。	
第10回	レイアウトの手法やコツ，ルールについての解説 誰しもが頭を悩ませるレイアウトのテクニックやルールを理解し，レイアウトの実践演習を行う。	
第11回	配色の手法やコツ，ルールについての解説 誰しもが頭を悩ませる配色のテクニックやルールを理解し，配色の実践演習を行う。	
第12回	タイポグラフィについての解説 Webデザインの中で非常に多くの割合を占めるタイポグラフィのテクニックやルールを理解し， オリジナルWebページデザイン作品課題の案内を行い制作を進める。	
第13回	オリジナルWebページデザインの制作 その1 オリジナルWebページデザイン作品課題の案内を行い制作を進める。	
第14回	オリジナルWebページデザインの制作 その2 引き続きオリジナルWebページデザイン作品課題の案内を行い制作を進める。	
第15回	オリジナルWebページデザインの制作 その3 オリジナルのWebページデザイン演習課題を完成させ課題を提出する。 また科目の総括も行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取組姿勢／態度	30	積極的な受講姿勢・参加度・態度によって評価する。
小テストおよび課題提出	70	複数回の小テストと授業課題によって各回の理解度を評価する。質問があれば、解説コメントを返す。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	制作物の工程や結果を意識し，それを実現するための手段を考えながら受講すること。
授業外学修	デザインは知識を増やすことで自らの手段を増やすことができる。そのため，授業開始前までに2時間程度，授業終了後に2時間程度，各々が時間をとってウェブデザインのアーカイブサイトを閲覧し，ウェブサイトデザインの予備知識を得ること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	講師のブログ「WEBCRE8TOR」（https://webcre8tor.com/）

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	授業の中で，適宜紹介していく。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	Webデザイナー（16年）、グラフィックデザイナー（16年）での実務経験を有する。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	フリーランスとして行ってきたウェブデザイン制作活動の経験を活かして，企画から制作完了までの指導を行う。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1. ウェブページをデザイン制作するための手順・機能活用を考察し、達成することができる。	ウェブページのデザイン制作に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	ウェブページのデザイン制作に関する授業内容を十分理解している。	ウェブページのデザイン制作に関して授業内容をおおむね理解している。	ウェブページのデザイン制作に関して最低限の内容は理解している。	ウェブページのデザイン制作に関して最低限の内容の理解が認められない。
知識・理解	2. ウェブデザイン実務上で必要なFigmaの実務的知識を活用し目的のデザインを実現することができる。	ウェブデザイン実務上で必要なFigmaの知識に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	ウェブデザイン実務上で必要なFigmaの知識に関する授業内容を十分理解している。	ウェブデザイン実務上で必要なFigmaの知識に関する授業内容をおおむね理解している。	ウェブデザイン実務上で必要なFigmaの知識に関して最低限の内容は理解している。	ウェブデザイン実務上で必要なFigmaの知識に関して最低限の内容の理解が認められない。
思考・問題解決能力	目的のウェブデザインを実現するためのツールの選択、またデザイン表現を実現するための手段の思考。	目的のウェブデザインを最大限に実現可能なツールの最適な選択ができ、またデザイン表現を最大限に実現する思考ができ、その手段を最適に選択できる。	目的のウェブデザインをほぼ実現可能なツールの的確な選択ができ、また表現をほぼ実現する思考ができ、その手段を的確に選択できる。	目的のウェブデザインを概ね実現可能なツールの選択ができ、また表現を概ね実現する思考ができ、その手段を選択できる。	目的のウェブデザインを実現するためのツールを認識しているが、表現を実現する思考ができない。	目的のウェブデザインを実現するためのツールを認識しておらず、表現を実現する思考もできない。
技能	1. Webサイト制作に活用する技能	Webサイト制作に関して授業内容を超えてFigmaの機能を活用できる。	Webサイト制作に関して十分にFigmaの機能を活用できる。	Webサイト制作に関しておおむねFigmaの機能を活用できる。	Webサイト制作に関して最低限の基本的なFigmaの機能を活用できる。	Webサイト制作に関して最低限の基本的なFigmaの機能も活用できない。
技能	2. 構築したウェブサイトの説明技能	専門的知識にもとづいて十分に説明・考察することができる。	適切にわかりやすく且つ十分に説明することができる。	おおむね適切に説明することができる。	最低限の説明をすることができる。	最低限の説明をすることができない。

科目名	ウェブアプリ開発			授業番号	SG334	サブタイトル			
教員	古谷　俊爾								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	ウェブ技術を活用した，動的表現（インタラクティブ性）をもつアプリケーションの実現方法を学ぶ。フロントエンド（クライアントサイド）とバックエンド（サーバサイド）の両方のプログラミング技術を，事例演習により説明し課題演習によりスキルを高める。使用言語は，Webの基本であるHTML・CSSに加えJavaScript・Pythonを使用する。								
到達目標	1.アプリケーションに必要な機能および実現方法を考察することができる。 2.機能の不具合を発見，原因を究明，解決するという一連のプロセスを踏むことができる。 3.ウェブサイトにおいて，動的表現のためのフロントエンド技術を活用できる。 4.ウェブサイトにおいて，動的表現のためのバックエンドの技術を活用できる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞および＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	ウェブサイトにおける動的表現 動的表現（インタラクティブ性）で実現されている事例を理解する。 フロントエンド（クライアントサイド）技術とバックエンド（サーバサイド）技術の違いを理解する。 開発環境（Visual Studio Code）を確認する。	
第2回	フロントエンド：CSSアニメーション CSSだけでアニメーションを実現する方法を理解する。	
第3回	フロントエンド：CSSトランジション CSSでアニメーションと同様に動きのある表現ができるCSSトランジションを実現する方法を理解する。	
第4回	フロントエンド：CSSで動きを実現する CSSアニメーション・トランジションの技法を使って，動きのあるページを実現してみる。	
第5回	フロントエンド：ウェブフォーム（概要） フォームとは何か，フォームの構築方法の基本，HTMLの記載方法を理解する。	
第6回	フロントエンド：ウェブフォーム（基本的なネイティブフォームコントロール） テキスト入力フィールド，チェックボックスとラジオボタン，ボタン，ファイルピッカーの作成方法を理解する。	
第7回	フロントエンド：ウェブフォーム（その他のネイティブフォームコントロール） メールアドレス，電話番号，URL，数値など，様々なコントロールの作成方法を理解する。	
第8回	フロントエンド：JavaScriptによるフォーム入力値の利用1 JavaScript言語でフォーム部品(テキスト入力欄)に入力された値を利用する方法を理解する(DOMの理解)。計算アプリなどの作成。	
第9回	フロントエンド：JavaScriptによるフォーム入力値の利用2 JavaScript言語でテキスト入力欄以外のフォーム部品に入力された値を利用する方法を理解する。	
第10回	フロントエンド：JavaScriptによるタイマーの利用 JavaScript言語のタイマー機能の活用方法を理解する。アニメーションアプリなどの作成。	
第11回	バックエンド：開発環境の構築 Visual Studio CodeとPython言語による開発環境の構築を行う。また，PythonのWebアプリケーションフレームワーク「Flask」（フラスク）を利用可能にする。	
第12回	バックエンド：Flaskの基本 Flaskを利用するための最低限のPythonコーディングを理解する。ルーティングの設定，Webサーバの起動方法，Webブラウザでの確認方法を理解する。	
第13回	バックエンド：テンプレートと静的ファイル Flaskにおけるtemplatesフォルダとstaticフォルダの意味，テンプレートの活用方法を理解する。	
第14回	バックエンド：フォームデータの取得 フォームデータを取得し，別ページに表示したりファイルに保存したり出来ることを理解する。	
第15回	総合：更に学ぶ為の材料 Javascriptライブラリ「jQuery」，JQueryプラグイン「slick」など，フロントエンドフレームワーク 「Bootstrap」，Webアプリケーションフレームワーク「Django」，データベース活用「データベースサーバ」 「SQLAlchemy」など，更に学ぶ際に必要となる情報を知る。	
授業計画　備考2	変化がはやい分野なので必要に応じてライブラリやフレームワークを変更する。	

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講姿勢，予復習の状況によって評価する。
レポート	70	提示した問題に対して意図した動作をするWebページを作成しレポートにまとめられること。総評は授業で伝えるが，個別に改善点が知りたい場合は問い合わせにより回答する。
小テスト		
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	1. メディアフィールド（ウェブデザイン）の科目であり，同分類のこれまでの開講科目を履修し理解している事を前提に授業を進める。 2. 学修に取り組まない場合はもちろんであるが，私語・音楽他を聞く・動画を参照・関係無いWeb参照・モバイルデバイスを操作等の「ながら勉強」についても「授業への取り組みの姿勢／態度」において大幅なマイナス評価を行う。 3. 授業中において担当教員の注意もしくは指示に従わない場合には退室を命じ，その出席を無効とする。
授業外学修	1. 予習として，授業計画で示した内容をWebで事前に調べておくこと。余力があれば，「入門」「チュートリアル」などのキーワードとともに検索し実際にコーディングしてみることをお勧めする。個人差はあるが予習の目安は各回につき2時間である。 2. 復習として，授業で行った内容を再度自分で作成すること。余力があれば，改良を施したり設計から行ってみることをお勧めする。個人差はあるが復習の目安は各回につき2時間である。 3. 複数回のレポート課す。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	使用しない。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	必要に応じて授業で示す。

その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	システムエンジニア(7年)
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	システムエンジニアの職務経験(7年)から，実践に対応できるインタラクティブなウェブページを実現するプログラミング技術を指導する。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1. アプリケーションに必要な機能および実現方法を考察することができる。	アプリケーションに必要な機能および実現方法を，授業内容を超えて主体的に考察することができる。	アプリケーションに必要な機能および実現方法を，十分に考察することができる。	アプリケーションに必要な機能および実現方法を，考察することができる。	アプリケーションに必要な機能および実現方法に関して，最低限は考察することができる。	アプリケーションに必要な機能および実現方法に関して，最低限の考察が認められない。
思考・問題解決能力	2. 機能の不具合を発見，原因を究明，解決するという一連のプロセスを踏むことができる。	機能の不具合を発見，原因を究明，解決するという一連のプロセスにより主体的に目的の機能を達成できる。	機能の不具合を発見，原因を究明，解決するという一連のプロセスにより十分に目的の機能を達成できる。	機能の不具合を発見，原因を究明，解決するという一連のプロセスによりおおよそ目的の機能を達成できる。	機能の不具合を発見，原因を究明，解決するというプロセスを助言を得ながら踏むことができる。	機能の不具合を発見，原因を究明，解決するというプロセスを踏むことができない。
技能	1. ウェブサイトにおいて，動的表現のためのフロントエンド技術を活用できる。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容の活用が十分認められる。	評価の観点に関して授業内容の活用がおおむね認められる。	評価の観点に関して最低限の内容の活用は認められる。	評価の観点に関して最低限の内容の活用が認められない。
技能	2. ウェブサイトにおいて，動的表現のためのバックエンドの技術を活用できる。	評価の観点に関する授業内容を超えた主体的な学修が認められる。	評価の観点に関する授業内容の活用が十分認められる。	評価の観点に関して授業内容の活用がおおむね認められる。	評価の観点に関して最低限の内容の活用は認められる。	評価の観点に関して最低限の内容の活用が認められない。

科目名	経営学概論			授業番号	SM111	サブタイトル			
教員	倉田　致知								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	経営学の基礎を学ぶ。経営に必要な諸資源は，ヒト，モノ，カネ，情報，であると言われるように，これらの諸資源をどう活用するかが成功の鍵となる。本講義では，この点の基礎を学びつつ，企業がいかなる問題に直面してきたかを，またそれに向けてどう取り組んできたかを学ぶ。また，基礎的な知識の修得のみならず多面的に捉えることの重要性やその醍醐味を理解することができる。								
到達目標	＊専門用語の意味を正しく理解した上で、人、モノ、金、情報、などの経営諸資源の重要性を適切に説明できる。 ＊学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響を適切に説明できる。 ＊企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。 ＊各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。 ＊授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	法人の分類と会社の形態，株式と株式会社(1)：法人、営利法人、株式会社、合名会社、合資会社、合同会社の相違(有限会社を含んで解説)、無限責任社員と有限責任社員の相違、株、株式会社で雇用されている人数、上場と非上場、証券取引所の役割、プライム、スタンダード、グロースの相違、証券会社の役割、中小企業の定義と数、損益計算書、貸借対照表の基本、など。	
第2回	法人の分類と会社の形態，株式と株式会社(2)：法人、営利法人、株式会社、合名会社、合資会社、合同会社の相違(有限会社を含んで解説)、無限責任社員と有限責任社員の相違、株、株式会社で雇用されている人数、上場と非上場、証券取引所の役割、プライム、スタンダード、グロースの相違、証券会社の役割、中小企業の定義と数、損益計算書、貸借対照表の基本、など。	
第3回	会社法における機関設計とその特徴(1)：株主、株主総会、取締役、取締役会、監査役、監査役会、会計監査人、などの役割や関係、ならびに議決権の仕組み、など。会社は誰ものか？：株主、債権者、創業者、経営者、従業員、利害関係者、などの視点から。	
第4回	会社法における機関設計とその特徴(1)：株主、株主総会、取締役、取締役会、監査役、監査役会、会計監査人、などの役割や関係、ならびに議決権の仕組み、など。会社は誰ものか？：株主、債権者、創業者、経営者、従業員、利害関係者、などの視点から。	
第5回	組織(1)：組織て何だ？、官僚制組織、フォーマル組織とインフォーマル組織、近代組織論，階層制組織、ステークホルダー、誘因と貢献、合理性の限界、意思決定、ライン組織、機能別組織、ライン・アンド・スタッフ組織、事業部制組織、マトリックス組織、タスクフォース、プロジェクトチーム、など。	
第6回	組織(2)：組織て何だ？、官僚制組織、フォーマル組織とインフォーマル組織、近代組織論，階層制組織、ステークホルダー、誘因と貢献、組織均衡、合理性の限界、意思決定、ライン組織、機能別組織、ライン・アンド・スタッフ組織、事業部制組織、マトリックス組織、タスクフォース、プロジェクトチーム、など。	
第7回	仕事と人(1)：テイラーの科学的管理、執行(現業)と計画の分離、動作・時間研究、課業、フォードとT型自動車とベルトコンベア、細分化・標準化・専門化、など。そもそも仕事で何を得たいのか。生理的欲求、安全欲求、帰属・所属欲求、承認欲求、自己実現欲求、高次欲求の充足可能性、など。	
第8回	仕事と人(2)：テイラーの科学的管理、執行(現業)と計画の分離、動作・時間研究、課業、フォードとT型自動車とベルトコンベア、細分化・標準化・専門化、など。そもそも仕事で何を得たいのか。生理的欲求、安全欲求、帰属・所属欲求、承認欲求、自己実現欲求、高次欲求の充足可能性、など。	
第9回	人と仕事(1)：人事労務管理・人的資源管理、人的資本経営、労働三法と労働三権、コース制、総合職や一般職、勤務地限定制度、職種(営業職、事務職、技能職・現業職、技術職、など）、複線型人事制度、職能資格(給)制度、職能給と職務給の相違、昇格、昇進、昇給、ベア、出向、転籍、週休2日制と完全週休2日制の相違、など。	
第10回	人と仕事(2)：人事労務管理・人的資源管理、人的資本経営、労働三法と労働三権、コース制、総合職や一般職、勤務地限定制度、職種(営業職、事務職、技能職・現業職、技術職、など）、複線型人事制度、職能資格(給)制度、職能給と職務給の相違、昇格、昇進、昇給、ベア、出向、転籍、週休2日制と完全週休2日制の相違、など。	
第11回	経営戦略(1)：戦略の概念（経営理念、ミッション、ビジョン、戦術、方針、計画との相違）、全社戦略、機能戦略、事業戦略、多角化戦略と組織、成長マトリックス(市場浸透戦略、新製品開発戦略、新市場開拓戦略、多角化戦略）、ポジショニングの戦略論：コストリーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略の内容と事例。ファイブフォース、バリューチェーン、資源ベースの戦略論、など。	
第12回	経営戦略(2)：戦略の概念（経営理念、ミッション、ビジョン、戦術、方針、計画との相違）、全社戦略、機能戦略、事業戦略、多角化戦略と組織、成長マトリックス(市場浸透戦略、新製品開発戦略、新市場開拓戦略、多角化戦略）、ポジショニングの戦略論：コストリーダーシップ戦略、差別化戦略、集中戦略の内容と事例。ファイブフォース、バリューチェーン、資源ベースの戦略論、など。	
第13回	マーケティング(1)：顧客志向、社会志向、プロダクト(製品)・ライフサイクル：導入期、成長期、成熟期(リーダー、チャレンジャー、ニッチャー、フォロワー）、衰退期、など。マーケティング・ミックス(4つのCと４つのP)、流通の仕組み(消費者へ商品が届くまでの過程を考える)、卸とは商社とは？、サービスマーケティング(7つのP）、ブランドとは、など。	
第14回	マーケティング(2)：顧客志向、社会志向、プロダクト(製品)・ライフサイクル：導入期、成長期、成熟期(リーダー、チャレンジャー、ニッチャー、フォロワー）、衰退期、など。マーケティング・ミックス(4つのCと４つのP)、流通の仕組み(消費者へ商品が届くまでの過程を考える)、卸とは商社とは？、サービスマーケティング(7つのP）、ブランドとは、など。	
第15回	情報…狭義の「情報」からはじめる…基本的な用語と意味(英語表記の略記と発音を表記したカタカナの氾濫への対応）、セキュリティ、クラウド、Society 5.0、DX（Digital Transformation：デジタルトランスフォーメーション)、AI、IoT、ビッグデータ、そもそも何が変わるのか？、誰が創るのか？、情報業界とその職種、など。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組み姿勢／態度	10	小テストへの取り組み姿勢，ファイリング，ノート，予習・復習，スケジュール管理・時間管理，提出回数，などにおける状況。
レポート		
小テスト	40	単元毎に行う。理解度を確認する。なお、点数や間違った箇所などは、ユニパから確認できる。
定期試験	50	最終的な理解度を評価する。
その他		

評価の方法：自由記載	

受講の心得	・私語をしない，など受講に際して最低限のマナーは厳守すること。 ・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。 ・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。 ・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。
授業外学修	復習）配布するプリントを読み返し，ノートを整理すること。なお，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲やポイントを授業の終わり際に指示する。 予習）授業の終わり際に，次回に向けて配布プリントのどこまでを読むべきかを指示する。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時，プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・上林憲雄，他編『経験から学ぶ経営学入門 第2版』有斐閣ブックス，2018年。 ・「よくわかる現代経営」編集委員会，編『よくわかる現代経営[第6版] (やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ)』ミネルヴァ書房，2021年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．専門用語の意味を正しく理解した上で、人、モノ、金、情報、などの経営諸資源の重要性を適切に説明できる。	専門用語の意味を正しく理解した上で、人、モノ、金、情報、などの経営諸資源の重要性を適切に説明できる。	専門用語の意味を正しく理解した上で、人、モノ、金、情報、などの経営諸資源の重要性を概ね適切に説明できる。	専門用語の理解度は高くはないが、人、モノ、金、情報、などの経営諸資源の重要性を概ね適切に説明できる。	専門用語の理解度はまだまだ低いが、人、モノ、金、情報、などの経営諸資源の重要性をなんとか説明できる。	基礎的な概念や用語の意味を全く説明できない。あるいは、経営諸資源の重要性を主観的または直観的に説明している。
知識・理解	２．学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響を適切に説明できる。	学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響を適切に説明できる。	学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響を概ね適切に説明できる。	学説や研究の背景や影響については若干認識不足であるが、学説や研究のポイントは概ね適切に説明できる。	学説や研究の背景についてはほとんど言及されていないが、学説や研究のポイントは概ね説明できる。	学説や研究のポイントを全く説明できない。
知識・理解	３．各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	設問の意味を他者へ確認することもあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでほぼ自力で正解を導くことができる。	設問の意味や解法を他者へ確認することはよくあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでなんとか正解することができる。	設問の意味や解法を他者へ確認すること無しでは難しいが、また授業資料を見ながらではあるが、種資格・検定試験で出題される問題をなんとか正解することができる。	設問の意味を他者へ確認することさえない。不正解のまま放置し、分からないところを理解しようとする姿勢が見られない。（あるいはそもそも問題を解いてもいない）。
思考・問題解決能力	１．企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを概ね客観的に説明できる。	問題解決については若干認識不足であるが、企業組織が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	問題解決についてはほとんど言及されていないが、企業組織が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	企業において何が問題とされてきたかを全く説明できない。あるいは主観的または直観的に企業組織の問題点を語っている。
態度	１．授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが概ねできている。	読み返しの頻度や仕方については改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は概ねできている。	読み返しの頻度や仕方についてはかなり改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は必要最低限のことはできている。	授業資料のファイリングは行われておらず、ノートも作成されていない。読み返しもない。

科目名	基礎簿記Ａ			授業番号	SM121	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	簿記会計を初めて学ぶ学生を対象に，社会や企業における会計の役割と簿記の基本的なルールを講義する。 本科目と「基礎簿記演習Ａ」とのセットで日商簿記検定3級の「仕訳」に関連する出題範囲を説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，基本的な経済取引の仕組みと，それらの会計処理方法を理解できるようになる。 具体的には，日商簿記検定3級の合格に必要となる知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【商業の発達と簿記会計】 簿記会計と株式会社の起源について理解する。	
第2回	【簿記会計の基礎】 簿記会計の目的，役割を理解する。	
第3回	【仕訳の基本】 取引の記録法である仕訳のルールを理解する。	
第4回	【商品売買】 三分法，掛取引，返品・値引き，諸掛かりなどの会計処理について理解する。	
第5回	【現金】 現金，現金過不足，小切手などの会計処理について理解する。	
第6回	【預金】 各種預金，当座借越などの会計処理について理解する。	
第7回	【小口現金】 小口現金の役割と会計処理について理解する。	
第8回	【手形と電子記録債権債務】 手形と電子記録債権・債務の会計処理について理解する。	
第9回	【小テスト（１）】 これまでに学修した内容についての小テストを行う。	
第10回	【貸付金・借入金，手形貸付金・手形借入金】 金銭貸借の会計処理について理解する。	
第11回	【有価証券】 株式，公社債などの有価証券についての会計処理を理解する。	
第12回	【その他の債権債務（１）】 前払金・前受金，仮払金・仮受金についての会計処理を理解する。	
第13回	【その他の債権債務（２）】 立替金，預り金，給料の支払いについての会計処理を理解する。	
第14回	【その他の債権債務（３）】 商品券，保証金などの会計処理について理解する。	
第15回	【小テスト（２）】 これまでに学修した内容についての小テストを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト（50点×2回）	100	小テスト（１）：仕訳ルールの理解度について評価する。 小テスト（２）：通常取引の会計処理方法の理解度について評価する。 フィードバックとして、授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「基礎簿記演習A」を同時に履修登録すること。 これまでに簿記を学修したことがあっても「日商簿記３級」を取得していなければ，この授業を履修登録することが望ましい。
授業外学修	予習として，テキストのうち授業内容に関わる部分を読み疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの問題を確認する。 以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
合格テキスト日商簿記3級	TAC簿記検定講座編著	TAC出版		
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．簿記の目的，種類を理解している	簿記の目的と種類を情報利用者との関連で理解している	簿記の目的を簿記の種類ごとに理解している	簿記の目的と種類の基本を理解している	簿記の目的は理解しているが種類を理解していない	簿記の目的と種類を理解してない
知識・理解	２．財務諸表と簿記の5要素を理解している	財務諸表と簿記の5要素の増減関係を理解している	財務諸表と簿記の5要素の関連性を理解している	財務諸表と簿記の5要素の基本を理解している	財務諸表は理解しているが簿記の5要素を理解していない	財務諸表と簿記の5要素を理解していない
技能	１．取引の仕訳と勘定への転記ができる	高度に複雑な取引の仕訳と転記ができる	複雑な取引の仕訳と転記ができる	基本的な取引の仕訳と転記ができる	基本的な取引の仕訳はできるが転記ができない	取引の仕訳と転記ができない
技能	２．仕訳と勘定から取引を類推できる	高度に複雑な取引であっても仕訳と勘定から類推できる	複雑な取引であっても仕訳と勘定から類推できる	基本的な取引であれば仕訳と勘定から類推できる	仕訳から取引を類推できるが勘定からはできない	仕訳と勘定から取引を類推できない

科目名	基礎簿記演習Ａ			授業番号	SM122	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	簿記会計を初めて学ぶ学生を対象に，社会や企業における会計の役割と簿記の基本的なルールを講義する。 本科目と「基礎簿記A」とのセットで日商簿記検定3級の「仕訳」に関連する出題範囲を説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，基本的な経済取引の仕組みと，それらの会計処理方法を理解できるようになる。 具体的には，日商簿記検定3級の合格に必要となる知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【商業の発達と簿記会計】 簿記会計と株式会社の起源について理解する。 上記の内容について，ワークおよびディスカッションをして理解を深める。	
第2回	【簿記会計の基礎】 簿記会計の目的，役割を理解する。 上記の内容について，ワークおよびディスカッションをして理解を深める。	
第3回	【仕訳の基本】 取引の記録法である仕訳のルールを理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第4回	【商品売買】 三分法，掛取引，返品・値引き，諸掛かりなどの会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第5回	【現金】 現金，現金過不足，小切手などの会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第6回	【預金】 各種預金，当座借越などの会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第7回	【小口現金】 小口現金の役割と会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第8回	【手形と電子記録債権債務】 手形と電子記録債権・債務の会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第9回	【小テスト（１）の解答解説】 「基礎簿記A」で行った小テスト（１）の解答解説を行い，これまでの学修内容の理解を深める。	
第10回	【貸付金・借入金，手形貸付金・手形借入金】 金銭貸借の会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第11回	【有価証券】 株式、公社債などの有価証券についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第12回	【その他の債権債務（１）】 前払金・前受金，仮払金・仮受金についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第13回	【その他の債権債務（２）】 立替金，預り金，給料の支払いについての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第14回	【その他の債権債務（３）】 商品券，保証金などの会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第15回	【小テスト（２）の解答解説】 「基礎簿記A」で行った小テスト（２）の解答解説を行い，これまでの学修内容の理解を深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト（50点×2回）	100	小テスト（１）：仕訳ルールの理解度について評価する。 小テスト（２）：通常取引の会計処理方法の理解度について評価する。 フィードバックとして，授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「基礎簿記A」を同時に履修登録すること。 これまでに簿記を学修したことがあっても「日商簿記3級」を取得していなければ，この授業を履修登録することが望ましい。
授業外学修	予習として，テキストの授業内容に関わる部分を読み疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの問題を確認する。 以上の内容を，週あたり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
合格テキスト日商簿記3級	TAC簿記検定講座編著	TAC出版		

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．簿記の目的，種類を理解している	簿記の目的と種類を情報利用者との関連で理解している	簿記の目的を簿記の種類ごとに理解している	簿記の目的と種類の基本を理解している	簿記の目的は理解しているが種類を理解していない	簿記の目的と種類を理解してない
知識・理解	２．財務諸表と簿記の5要素を理解している	財務諸表と簿記の5要素の増減関係を理解している	財務諸表と簿記の5要素の関連性を理解している	財務諸表と簿記の5要素の基本を理解している	財務諸表は理解しているが簿記の5要素を理解していない	財務諸表と簿記の5要素を理解していない
技能	１．取引の仕訳と勘定への転記ができる	高度に複雑な取引の仕訳と転記ができる	複雑な取引の仕訳と転記ができる	基本的な取引の仕訳と転記ができる	基本的な取引の仕訳はできるが転記ができない	取引の仕訳と転記ができない
技能	２．仕訳と勘定から取引を類推できる	高度に複雑な取引であっても仕訳と勘定から類推できる	複雑な取引であっても仕訳と勘定から類推できる	基本的な取引であれば仕訳と勘定から類推できる	仕訳から取引を類推できるが勘定からはできない	仕訳と勘定から取引を類推できない

科目名	現代企業論			授業番号	SM212	サブタイトル			
教員	倉田　致知								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	「株式会社とは何か」 極めて多くの人が株式会社に雇用され，生計の糧を得ている。また，ほぼ全ての人がそこで生み出された財やサービスを使っている。言い換えると，株式会社の経営の良し悪しが多くの人々の暮らしに影響を与えている。本講義は，受講者が現代企業の仕組みと影響を法的または学術的に捉えつつ，ならびにそれらと実態を比較しつつ，受講者が株式会社を多面的に説明できることを目的としている。								
到達目標	＊専門用語の意味を正しく理解した上で、株式会社やコーポレートガバナンスの仕組みを適切に説明できる。 ＊アライアンスやコーポレートガバナンスに関する学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。 ＊企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。 ＊各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。 ＊授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	法人の分類と株式会社の特徴(1)：法人とは、社団法人と財団法人、営利法人（株式会社、合名会社、合資会社、合同会社の相違(有限会社含む)）、有限責任社員と無限責任社員の相違、証券取引所の役割、渋沢栄一、証券会社の役割、株式について、日経平均とTOPIX、プライム、スタンダード、グロース、TPM、の相違、非上場株式会社、中小企業の定義、ベンチャーやユニコーン、など。	
第2回	法人の分類と株式会社の特徴(2)：法人とは、社団法人と財団法人、営利法人（株式会社、合名会社、合資会社、合同会社の相違(有限会社含む)）、有限責任社員と無限責任社員の相違、証券取引所の役割、渋沢栄一、証券会社の役割、株式について、日経平均とTOPIX、プライム、スタンダード、グロース、TPM、の相違、非上場株式会社、中小企業の定義、ベンチャーやユニコーン、など。	
第3回	会社法における機関設計(1)：株主、株主総会、取締役、取締役会、監査役、監査役会、などの役割と関係。かつてのコーポレートガバナンス：各種機関の形骸化、常務会、しゃんしゃん総会、内部昇進、株式の相互持合、株安定株主工作、委任状、金融機関の筆頭株主、など。コーポレートガバナンス・コード、会社法の内容や背景、など。	
第4回	会社法における機関設計(2)：株主、株主総会、取締役、取締役会、監査役、監査役会、などの役割と関係。かつてのコーポレートガバナンス：各種機関の形骸化、常務会、しゃんしゃん総会、内部昇進、株式の相互持合、株(安定株主工作、委任状、金融機関の筆頭株主、など。コーポレートガバナンス・コード、会社法の内容や背景、など。	
第5回	アライアンスと買収や防御(1)について：子会社、親会社、関連会社、関係会社、系列(ケイレツ)、グループ、下請け、純粋持株会社、事業持株会社、新設合併と吸収合併、友好的買収と敵対的買収など。M&Aと「OUT−IN」、「IN−OUT」、「IN−IN」の現状、TOB、LBO、グリーン・メール、ポイズンピル、ホワイトナイト、パックマンディフェンス、ゴールデンパラシュート、ゴールデンベンション、焦土作戦・クラウン・ジュエル、など。	
第6回	アライアンスと買収や防御(2)について：子会社、親会社、関連会社、関係会社、系列(ケイレツ)、グループ、下請け、純粋持株会社、事業持株会社、新設合併と吸収合併、友好的買収と敵対的買収など。M&Aと「OUT−IN」、「IN−OUT」、「IN−IN」の現状、TOB、LBO、グリーン・メール、ポイズンピル、ホワイトナイト、パックマンディフェンス、ゴールデンパラシュート、ゴールデンベンション、焦土作戦・クラウン・ジュエル、など。	
第7回	人と会社：賃金、職種、勤務地、転勤、出向・転籍、離職率、大学生のエントリー先や志望先、留学生の採用状況、など。業界研究の進め方について。メーカーとは：素材メーカー、部品メーカー（中流工程）、加工メーカー（下流工程）、総合メーカー、製造品出荷額等の全国市町村順位、産業別就業者数、など。）	
第8回	メーカーの仕組みと業界研究(1)：自動車・輸送用機器、自動車部品、精密・医療機器、家電,、印刷、文具・事務機器、スポーツ用品、玩具・ゲーム製品, 楽器、食品、アパレル・服飾関連、 化学、薬品、化粧品、ガラス、セラミックス、ファインセラミックス、ゴム、機械、鉄鋼、高炉、金属製品、非鉄金属、特殊鋼、半導体、半導体製造装置、工場を持たない製造業、など。	
第9回	メーカーの仕組みと業界研究(2)：自動車・輸送用機器、自動車部品、精密・医療機器、家電,、印刷、文具・事務機器、スポーツ用品、玩具・ゲーム製品, 楽器、食品、アパレル・服飾関連、 化学、薬品、化粧品、ガラス、セラミックス、ファインセラミックス、ゴム、機械、鉄鋼、高炉、金属製品、非鉄金属、特殊鋼、半導体、半導体製造装置、工場を持たない製造業、など。	
第10回	メーカーの仕組みと業界研究(3)：自動車・輸送用機器、自動車部品、精密・医療機器、家電,、印刷、文具・事務機器、スポーツ用品、玩具・ゲーム製品, 楽器、食品、アパレル・服飾関連、 化学、薬品、化粧品、ガラス、セラミックス、ファインセラミックス、ゴム、機械、鉄鋼、高炉、金属製品、非鉄金属、特殊鋼、半導体、半導体製造装置、工場を持たない製造業、など。	
第11回	広義のサービス産業と業界研究(1)：不動産、ゼネコン、デヴェロッパー、鉄道・航空、物流,倉庫、電力・ガス,、ホテル・旅行、鉄道・航空、陸運、海運、倉庫、業界電力・ガス、宿泊・旅行、病院・診療所、調剤薬局・ドラッグストア、教育、レジャー・アミューズメント、インターネットライブビデオストリーミング、動画配信・コンテンツ提供会社、出版、出版取次、など。	
第12回	広義のサービス産業と業界研究(2)：不動産、ゼネコン、デヴェロッパー、鉄道・航空、物流,倉庫、電力・ガス,、ホテル・旅行、鉄道・航空、陸運、海運、倉庫、業界電力・ガス、宿泊・旅行、病院・診療所、調剤薬局・ドラッグストア、教育、レジャー・アミューズメント、インターネットライブビデオストリーミング、動画配信・コンテンツ提供会社、出版、出版取次、など。	
第13回	広義のサービス産業と業界研究(3)：不動産、ゼネコン、デヴェロッパー、鉄道・航空、物流,倉庫、電力・ガス,、ホテル・旅行、鉄道・航空、陸運、海運、倉庫、業界電力・ガス、宿泊・旅行、病院・診療所、調剤薬局・ドラッグストア、教育、レジャー・アミューズメント、インターネットライブビデオストリーミング、動画配信・コンテンツ提供会社、出版、出版取次、など。	
第14回	広義のサービス産業と業界研究(4)：自動車ディーラー、美容部員、テレビ局、地方テレビ局、ラジオ局、新聞、広告代理店、アドネットワーク、メディアレップ、ソフトウエア、システムインテグレーター（SIer）、ECポータルサイト、卸と小売りの関係、百貨店、外食、中食、国家公務員、地方公務員、 教育、など。	
第15回	広義のサービス産業と業界研究(5)：自動車ディーラー、美容部員、テレビ局、地方テレビ局、ラジオ局、新聞、広告代理店、アドネットワーク、メディアレップ、ソフトウエア、システムインテグレーター（SIer）、ECポータルサイト、卸と小売りの関係、百貨店、外食、中食、国家公務員、地方公務員、 教育、など。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組み姿勢／態度	10	小テストへの取り組み姿勢，ファイリング，ノート，予習・復習，スケジュール管理・時間管理，提出回数、などにおける状況。
学期末課題	30	理解度，読解力，妥当性や信憑性，書き方，構成，誤字脱字の度合，データ収集力，などの観点から評価する。なお、評価はユニパから確認できる。
小テスト	60	単元毎に行う。理解度を確認する。なお、点数や間違った箇所などは、ユニパから確認できる。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・私語をしない，など受講に際して最低限のマナーは厳守すること。 ・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。 ・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。 ・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。
授業外学修	復習）配布するプリントを読み返し，ノートを整理すること。また，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲を指示する。 予習）授業の終わり際に，次回に向けて配布プリントのどこまでを読むべきかを指示する。 以上の内容を，週当たり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時，プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・坂本恒夫，大坂良宏，鳥居陽介『テキスト 現代企業論(第4版) 』同文舘出版。 ・三戸浩，池内秀己勝部伸夫，『企業論 第4版』有斐閣アルマ，2018年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．専門用語の意味を正しく理解した上で、株式会社やコーポレートガバナンスの仕組みを適切に説明できる。	専門用語の意味を正しく理解した上で、株式会社やコーポレートガバナンスの仕組みを適切に説明できる。	専門用語の意味を正しく理解した上で、株式会社やコーポレートガバナンスの仕組みを概ね適切に説明できる。	専門用語の理解度は高くはないが、株式会社やコーポレートガバナンスの仕組みを概ね適切に説明できる。	専門用語の理解度はまだまだ低いが、株式会社やコーポレートガバナンスの仕組みをなんとか説明できる。	基礎的な概念や用語の意味を全く説明できない。あるいは、会社の仕組みを主観的または直観的に説明している。
知識・理解	２．アライアンスやコーポレートガバナンスに関する学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	アライアンスやコーポレートガバナンスに関する学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を概ね適切に説明できる。	アライアンスやコーポレートガバナンスに関する学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を概ね適切に説明できる。	アライアンスやコーポレートガバナンスに関する学説や研究の背景や影響あるいは限界については若干認識不足であるが、学説や研究のポイントは概ね適切に説明できる。	アライアンスやコーポレートガバナンスに関する学説や研究の背景や影響あるいは限界についてはほとんど言及されていないが、学説や研究のポイントは概ね説明できる。	学説や研究のポイントを全く説明できない。
知識・理解	３．各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	設問の意味を他者へ確認することもあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでほぼ自力で正解を導くことができる。	設問の意味や解法を他者へ確認することはよくあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでなんとか正解することができる。	設問の意味や解法を他者へ確認すること無しでは難しいが、また授業資料を見ながらではあるが、種資格・検定試験で出題される問題をなんとか正解することができる。	設問の意味を他者へ確認することさえない。不正解のまま放置し、分からないところを理解しようとする姿勢が見られない。（あるいはそもそも問題を解いてもいない）。
思考・問題解決能力	1．企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを概ね客観的に説明できる。	問題解決については若干認識不足であるが、企業組織が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	問題解決についてはほとんど言及されていないが、企業組織が直面している（直面した）問題を概ね客観的に説明できる。	企業において何が問題とされてきたかを全く説明できない。あるいは主観的または直観的に企業組織の問題点を語っている。
態度	1．授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが概ねできている。	読み返しの頻度や仕方については改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は概ねできている。	読み返しの頻度や仕方についてはかなり改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は必要最低限のことはできている。	授業資料のファイリングは行われておらず、ノートも作成されていない。読み返しもない。

科目名	マーケティング			授業番号	SM213	サブタイトル			
教員	倉田　致知								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	マーケティングの定義は時代とともに変遷し，その指す領域や次元は極めて広い。マーケティングの重要性を論理的に説明でき，且つ特定の問題に対してマーケティングの手法を適用できるように，マーケティングの学説のみならず企業で行われているマーケティングの実際を学ぶ。								
到達目標	＊専門用語の意味を正しく理解した上で、マーケティングの重要性や手法を適切に説明できる。 ＊マーケティングの学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。 ＊企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。 ＊各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。 ＊授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。 なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞ ＜思考・問題解決能力＞ ＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	マーケティングの概念・志向の変遷(シーズ志向、セリング志向、顧客志向や顧客の創造、社会志向、４つのP【Product（製品）、Price（価格）、Place（流通）、Promotion（販売促進）】と4つのC【Customer Value（顧客価値）、Cost（コスト）、Communication（コミュニケーション）、Convenience（利便性）】、マーケティングミックス、など。	
第2回	「機能」とプロダクト・ライフ・サイクル説(1)：VA・VEの考え方、機能系統図、使用機能、魅力機能、プロダクト・ライフ・サイクルにおける各期の特徴、リーダー,チャレンジャー,ニッチャー,フォロワーの相違、ならびにイノベーター,アーリーアダプター,アーリーマジョリティ,レイトマジョリティ,ラガードの相違、キャズム、など。	
第3回	「機能」とプロダクト・ライフ・サイクル説(2)：VA・VEの考え方、機能系統図、使用機能、魅力機能、プロダクト・ライフ・サイクルにおける各期の特徴、リーダー,チャレンジャー,ニッチャー,フォロワーの相違、ならびにイノベーター,アーリーアダプター,アーリーマジョリティ,レイトマジョリティ,ラガードの相違、キャズム、など。	
第4回	認知と行動(1)：精緻化見込みモデル（情報処理の動機,情報処理の能力,中心的(処理)ルート,周辺的(処理)ルート）、アサエルの購買行動類型(複雑な情報処理型,バラエティ・シーキング型,認知的不協和低減型,慣性型）、AIDA、AIDMA、DAGMARあるいはコミュニケーション・スペクトラム、AISAS、SIPS、レシプロシティー、アンカリング、ピグマリオン効果、恐怖指数（VIX指数）、など。	
第5回	認知と行動(2)：精緻化見込みモデル（情報処理の動機,情報処理の能力,中心的(処理)ルート,周辺的(処理)ルート）、アサエルの購買行動類型(複雑な情報処理型,バラエティ・シーキング型,認知的不協和低減型,慣性型）、AIDA、AIDMA、DAGMARあるいはコミュニケーション・スペクトラム、AISAS、SIPS、レシプロシティー、アンカリング、ピグマリオン効果、恐怖指数（VIX指数）、など。	
第6回	ブランド(1) ：ブランドエクイティ、ブランドロイヤルティ、プライベートブランド、ナショナルブランド 、 コーポレート・ブランド、ファミリー・ブランド、アイテムブランド、などについて。ブランド・カテゴライゼーション(知名集合、非知名集合、処理集合、フォギー集合、想起集合、保留集合、拒否集合、第1位選択）、コトラーのブランド戦略論(ライン拡張、ブランド拡張、マルチブランド、新ブランド）、など。	
第7回	ブランド(2) ：ブランドエクイティ、ブランドロイヤルティ、プライベートブランド、ナショナルブランド 、 コーポレート・ブランド、ファミリー・ブランド、アイテムブランド、などについて。ブランド・カテゴライゼーション(知名集合、非知名集合、処理集合、フォギー集合、想起集合、保留集合、拒否集合、第1位選択）、コトラーのブランド戦略論(ライン拡張、ブランド拡張、マルチブランド、新ブランド）、など。	
第8回	プロモーション(1)：広告業界、広告代理店とテレビ局と制作会社の関係、広告の種類、効果測定の方法、CPM(Cost Per Mile)，CPC(Cost Per Click)，CPV(Cost Per View)、広告予算設定方法、リスティング広告、パブリック・リレーションズ、IR（Iインベスター・リレーションズ)、デジタルマーケティング 、アドネットワーク事業者、メディアレップ、など。	
第9回	プロモーション(2)：広告業界、広告代理店とテレビ局と制作会社の関係、広告の種類、効果測定の方法、CPM(Cost Per Mile)，CPC(Cost Per Click)，CPV(Cost Per View)、広告予算設定方法、リスティング広告、パブリック・リレーションズ、IR（Iインベスター・リレーションズ)、デジタルマーケティング 、アドネットワーク事業者、メディアレップ、など。	
第10回	流通とレイアウト(1)：小売業の分類、マーチャンダイジング、マーチャンダイザー、卸と小売の相違、卸と商社の相違、SCM(サプライチェーンマネジメント)、セルフサービス方式、フランチャイズ、ハフモデル(修正ハフモデル含む)、商圏、商圏商業力指数、ライリーの法則、ライリー&コンバースの法則、コンバースの法則、逆L字型、T型、I型、買上高、「反時計回り（左回り）の法則」、縦陳列、横陳列。島陳列、エンド陳列、ジャンブル陳列、など。	
第11回	流通とレイアウト(2)：小売業の分類、マーチャンダイジング、マーチャンダイザー、卸と小売の相違、卸と商社の相違、SCM(サプライチェーンマネジメント)、セルフサービス方式、フランチャイズ、ハフモデル(修正ハフモデル含む)、商圏、商圏商業力指数、ライリーの法則、ライリー&コンバースの法則、コンバースの法則、逆L字型、T型、I型、買上高、「反時計回り（左回り）の法則」、縦陳列、横陳列。島陳列、エンド陳列、ジャンブル陳列、など。	
第12回	価格(1)：需要予測、コストプラス法、固定費と変動費、損益分岐点、抱き合わせ価格、端数価格あるいは大台割れの価格、段階価格、プライスリーダー追随法、均一価格、ドロシーレーンの法則、ＰＳＭ(価格感応度調査)、ダイナミックプライシング、二重価格表示といつも安売りやバーゲンセールにおける違法性、など。	
第13回	価格(2)：需要予測、コストプラス法、固定費と変動費、損益分岐点、抱き合わせ価格、端数価格あるいは大台割れの価格、段階価格、プライスリーダー追随法、均一価格、ドロシーレーンの法則、ＰＳＭ(価格感応度調査)、ダイナミックプライシング、二重価格表示といつも安売りやバーゲンセールにおける違法性、など。	
第14回	サービスマーケティングと次の一手のために(1)。サービス・マーケティング：7つのP、無形性/非有形性、不可分性/同時性、消滅性/非貯蔵性、異質性/変動性、など。マーケティング・リサーチやSTP：標本(サンプル)、標本抽出(サンプリング)、定量データと定性データ、インタビューの種類、新奇事象調査、ラダリング、投影法、違背実験、プロトコル法、などについて。	
第15回	サービスマーケティングと次の一手のために(2)。サービス・マーケティング：7つのP、無形性/非有形性、不可分性/同時性、消滅性/非貯蔵性、異質性/変動性、など。マーケティング・リサーチやSTP：標本(サンプル)、標本抽出(サンプリング)、定量データと定性データ、インタビューの種類、新奇事象調査、ラダリング、投影法、違背実験、プロトコル法、などについて。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組み姿勢／態度	10	小テストへの取り組み姿勢，ファイリング，ノート，予習・復習，スケジュール管理・時間管理，提出回数、などにおける状況。
学期末課題	30	理解度，読解力，妥当性や信憑性，書き方，構成，誤字脱字の度合，データ収集力，などの観点から評価する。なお、評価はユニパから確認できる。
小テスト	60	単元毎に行う。理解度を確認する。なお、点数や間違った箇所などは、ユニパから確認できる。
定期試験		

その他		
評価の方法：自由記載		
受講の心得	・私語をしない，など受講に際して最低限のマナーは厳守すること。 ・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。 ・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。 ・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。	
授業外学修	復習）配布するプリントを読み返し，ノートを整理すること。なお，小テストを次回行う場合は，読み返すべき範囲やポイントを授業の終わり際に指示する。 予習）授業の終わり際に，次回に向けて配布プリントのどこまでを読むべきかを指示する。 以上の内容を週当たり4時間以上学修すること。	

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適時，プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	・廣田章光・石井淳蔵，編『１からのマーケティング』中央経済社，2004年。 ・伊藤宗彦，編『1からのサービス経営』中央経済社，2010年。 ・(公社)日本マーケティング協会 (監修) 『ベーシック・マーケティング(第2版)』同文舘出版，2019年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．専門用語の意味を正しく理解した上で、マーケティングの重要性や手法を適切に説明できる。	専門用語の意味を正しく理解した上で、マーケティングの重要性や手法を適切に説明できる。	専門用語の意味を正しく理解した上で、マーケティングの重要性や手法を概ね適切に説明できる。	専門用語の理解度は高くはないが、マーケティングの重要性や手法を概ね適切に説明できる。	専門用語の理解度はまだまだ低いが、マーケティングの重要性や手法を概ね適切に説明できる。	基礎的な概念や用語の意味を全く説明できない。あるいは、マーケティングの重要性や手法を主観的または直観的に説明している。
知識・理解	２．マーケティングの学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	マーケティングの学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	マーケティングの学説や研究のポイント、ならびにそれら研究の背景や影響あるいは限界を概ね適切に説明できる。	マーケティングの学説や研究の背景や影響あるいは限界については若干認識不足であるが、学説や研究のポイントは概ね適切に説明できる。	マーケティングの学説や研究の背景や影響あるいは限界についてはほとんど言及されていないが、学説や研究のポイントは概ね説明できる。	マーケティングの学説や研究のポイントを全く説明できない。
知識・理解	３．各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	設問の意味を他者へ確認することもあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでほぼ自力で正解を導くことができる。	設問の意味や解法を他者へ確認することはよくあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでなんとか正解することができる。	設問の意味や解法を他者へ確認すること無しでは難しいが、また授業資料を見ながらではあるが、種資格・検定試験で出題される問題をなんとか正解することができる。	設問の意味を他者へ確認することさえない。不正解のまま放置し、分からないところを理解しようとする姿勢が見られない。（あるいはそもそも問題を解いてもいない）。
思考・問題解決能力	１．企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを概ね客観的に説明できる。	問題解決については若干認識不足であるが、企業組織が直面している（直面した）問題を概ね客観的に説明できる。	問題解決についてはほとんど言及されていないが、企業組織が直面している（直面した）問題を概ね客観的に説明できる。	企業において何が問題とされてきたかを全く説明できない。あるいは主観的または直観的に企業組織の問題点を語っている。
態度	１．授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが概ねできている。	読み返しの頻度や仕方については改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は概ねできている。	読み返しの頻度や仕方についてはかなり改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は必要最低限のことはできている。	授業資料のファイリングは行われておらず、ノートも作成されていない。読み返しもない。

科目名	基礎簿記Ｂ			授業番号	SM221	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	簿記会計を初めて学ぶ学生を対象に，社会や企業における会計の役割と簿記の基本的なルールを講義する。 内容としては，本科目と「基礎簿記演習B」とのセットで日商簿記検定3級の「決算手続」に関連する出題範囲を説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，基本的な経済取引の仕組みと，それらの会計処理方法を理解できるようになる。 具体的には，日商簿記検定3級の合格に必要となる知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【「基礎簿記A」の復習と訂正仕訳】 「基礎簿記A」で学修したことを復習する。 また，誤った仕訳の訂正方法について理解する。	
第2回	【その他の費用】 消耗品，租税公課，福利厚生費などの会計処理について理解する。	
第3回	【貸倒れと貸倒引当】 貸倒れと貸倒引当金についての会計処理を理解する。	
第4回	【有形固定資産と減価償却】 固定資産の購入と減価償却についての会計処理を理解する。	
第5回	【株式の発行，剰余金の配当と処分】 株式会社設立，剰余金の処分などについての会計処理を理解する。	
第6回	【法人税等と消費税】 法人税等と消費税についての会計処理を理解する。	
第7回	【経過勘定（１）】 費用・収益の前払い，前受けについての会計処理を理解する。	
第8回	【経過勘定（２）】 費用・収益の未払，未収についての会計処理を理解する。	
第9回	【帳簿への記入】 主要簿，補助簿への記入法について理解する。	
第10回	【試算表】 三種類の試算表について理解する。	
第11回	【伝票と証ひょう】 伝票および証ひょうをもとにした会計処理について理解する。	
第12回	【精算表】 決算整理事項の精算表での会計処理について理解する。	
第13回	【財務諸表】 決算整理事項の会計処理をもとに財務諸表の作成方法を理解する。	
第14回	【帳簿の締め切りと期首の再振替仕訳】 帳簿の締め切り法と再振替仕訳の会計処理について理解する。	
第15回	【小テスト】 決算手続きについての小テストを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	100	日商簿記3級の検定試験に準ずる決算手続きの問題をもとに，理解度を評価する。フィードバックとして，授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「基礎簿記演習B」を同時に履修登録すること。 また，「基礎簿記A」「基礎簿記演習A」を履修済みであること。
授業外学修	予習として，テキストの授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの基本例題を解く。 以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
合格テキスト日商簿記3級	TAC簿記検定講座編著	TAC出版		

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．簿記システムによって作成される財務諸表の種類を理解している	財務諸表の種類とそれぞれのステートメントの関係性を正確に理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書の関係を正確に理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書について理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書の存在･名前は知っている	財務諸表の意味を理解していない
知識・理解	２．財務諸表の種類と情報内容を理解している	財務諸表の種類とそれぞれのステートメントの情報内容を正確に理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書の情報内容を正確に理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書の情報内容を理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書の情報内容を部分的に理解している	財務諸表の情報内容を全く理解していない
技能	１．決算整理事項の仕訳ができる	高度に複雑な決算整理事項でも仕訳ができる	複雑な決算整理事項でも仕訳ができる	基本的な決算整理事項の仕訳ができる	単純な決算整理事項の仕訳はできる	決算整理事項の仕訳ができない
技能	２．決算の会計処理ができる	決算整理後の試算表，外部報告用の財務諸表，精算表のすべての会計処理ができる	外部報告用の財務諸表，精算表の会計処理ができる	精算表の会計処理ができる	修正記入への会計処理ができる	決算整理の会計処理ができない

科目名	基礎簿記演習Ｂ			授業番号	SM222	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	簿記会計を初めて学ぶ学生を対象に，社会や企業における会計の役割と簿記の基本的なルールを講義する。 内容としては，本科目と「基礎簿記B」とのセットで日商簿記検定3級の「決算手続」に関連する出題範囲を説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，基本的な経済取引の仕組みと，それらの会計処理方法を理解できるようになる。 具体的には，日商簿記検定3級の合格に必要となる知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【「基礎簿記A」の復習と訂正仕訳】 「基礎簿記A」で学修したことを復習する。また，誤った仕訳の訂正方法について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第2回	【その他の費用】 消耗品，租税公課，福利厚生費などの会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第3回	【貸倒れと貸倒引当金】 貸倒れと貸倒引当金についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第4回	【有形固定資産と減価償却】 固定資産の購入と減価償却についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第5回	【株式の発行，剰余金の配当と処分】 株式会社設立，剰余金の処分などについての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第6回	【法人税等と消費税】 法人税等と消費税についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第7回	【経過勘定（１）】 費用・収益の前払い，前受けについての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第8回	【経過勘定（２）】 費用・収益の未払，未収についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第9回	【帳簿への記入】 主要簿，補助簿への記入法について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第10回	【試算表】 三種類の試算表について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第11回	【伝票と証ひょう】 伝票および証ひょうをもとにした会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第12回	【精算表】 決算整理事項の精算表での会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第13回	【財務諸表】 決算整理事項の会計処理をもとに財務諸表の作成方法を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第14回	【帳簿の締め切りと期首の再振替仕訳】 帳簿の締め切り法と再振替仕訳の会計処理について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第15回	【小テストの解答解説】 「基礎簿記B」で行った小テストの解答解説を行い，これまでの学修内容の理解を深める。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	100	日商簿記3級の検定試験に準ずる決算手続きの問題をもとに，理解度を評価する。フィードバックとして，授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「基礎簿記B」を同時に履修登録すること。 また，「基礎簿記A」「基礎簿記演習A」を履修済みであること。
授業外学修	予習として，テキストの授業内容にかかわる部分を読み，疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの基本例題を解く。 以上の内容を，週あたり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
合格テキスト日商簿記3級	TAC簿記検定講座編著	TAC出版		

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．簿記システムによって作成される財務諸表の種類を理解している	財務諸表の種類とそれぞれのステートメントの関係性を正確に理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書の関係を正確に理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書について理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書の存在・名前は知っている	財務諸表の意味を理解していない
知識・理解	2．財務諸表の種類と情報内容を理解している	財務諸表の種類とそれぞれのステートメントの情報内容を正確に理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書の情報内容を正確に理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書の情報内容を理解している	財務諸表のうち貸借対照表と損益計算書の情報内容を部分的に理解している	財務諸表の情報内容を全く理解していない
技能	1．決算整理事項の仕訳ができる	高度に複雑な決算整理事項でも仕訳ができる	複雑な決算整理事項でも仕訳ができる	基本的な決算整理事項の仕訳ができる	単純な決算整理事項の仕訳はできる	決算整理事項の仕訳ができない
技能	2．決算の会計処理ができる	決算整理後の試算表，外部報告用の財務諸表，精算表のすべての会計処理ができる	外部報告用の財務諸表，精算表の会計処理ができる	精算表の会計処理ができる	修正記入への会計処理ができる	決算整理の会計処理ができない

科目名	簿記特別演習			授業番号	SM223	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	日商簿記検定3級の合格に必要となる知識とhow toを説明する。								
到達目標	日商簿記検定3級に準じた演習問題に取り組むことにより，実際の試験に対応するための応用力を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【日商簿記検定試験とは】 日商簿記検定試験について理解する。	
第2回	【第１問対策（１）】 第１問の仕訳問題に解答するための会計処理を理解する。	
第3回	【第１問対策（２）】 第１問の仕訳問題に解答するための会計処理を理解する。	
第4回	【第１問対策（３）】 第１問の仕訳問題に解答するための会計処理を理解する。	
第5回	【第１問対策（４）】 第１問の仕訳問題に解答するための会計処理を理解する。	
第6回	【第１問対策（５）】 第１問の仕訳問題に解答するための会計処理を理解する。	
第7回	【第３問対策（１）】 第３問の決算整理問題に解答するための会計処理を理解する。	
第8回	【第３問対策（２）】 第３問の決算整理問題に解答するための会計処理を理解する。	
第9回	【第３問対策（３）】 第３問の決算整理問題に解答するための会計処理を理解する。	
第10回	【第３問対策（４）】 第３問の決算整理問題に解答するための会計処理を理解する。	
第11回	【第３問対策（５）】 第３問の決算整理問題に解答するための会計処理を理解する。	
第12回	【第３問対策（６）】 第３問の決算整理問題に解答するための会計処理を理解する。	
第13回	【第２問対策（１）】 第２問のアラカルト問題に解答するための会計処理を理解する。	
第14回	【第２問対策（２）】 第２問のアラカルト問題に解答するための会計処理を理解する。	
第15回	【小テスト（総合問題）】 検定試験に準じた小テストを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	100	検定試験に準じた問題を出題し、理解度を評価する。フィードバックとして、授業時間に解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「基礎簿記A」「基礎簿記演習A」，「基礎簿記B」「基礎簿記演習B」を履修済みであること。
授業外学修	予習として，テキストのうち，授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの基本例題と配布プリントの演習問題を解く。 以上の内容を，週あたり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	毎回，演習問題のプリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
				2200

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．日商簿記3級の出題範囲の簿記会計知識を理解している	日商簿記3級の出題範囲の簿記会計知識を正確に理解している	日商簿記3級の出題範囲の簿記会計知識をほぼ正確に理解している	日商簿記3級の出題範囲の簿記会計知識の基本を理解している	日商簿記3級の出題範囲の簿記会計知識を部分的に理解している	日商簿記3級の出題範囲の簿記会計知識を理解していない
技能	１．日商簿記3級の検定試験に対応できる会計力を身につけている	日商簿記3級の検定試験に対応できる必要にして十分な会計力を身につけている	日商簿記3級の検定試験に対応できる必要な会計力を身につけている	日商簿記3級の検定試験に対応できる基本的な会計力を身につけている	日商簿記3級の検定試験に対応できる会計力を部分的に身につけている	日商簿記3級の検定試験に対応できる会計力を身につけていない

科目名	ファイナンシャルプラン			授業番号	SM231	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	ファイナンシャルプランとは，人生設計（ライフプラン）の経済的側面を計画することであるといえる。 本科目では，年金，保険，ローン，金融資産，不動産，税金，相続等，ファイナンシャルプランに関連する基礎的な知識を説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，ファイナンシャルプランに関する基本的な知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【ライフプランニングと資金計画（１）】 FPについての概要を理解する。	
第2回	【ライフプランニングと資金（２）】 人生の三大資金について理解する。医療保険制度について理解する。	
第3回	【ライフプランニングと資金（３）】 医療保険制度について理解する。	
第4回	【ライフプランニングと資金（４）】 公的年金制度について理解する。企業年金制度について理解する。	
第5回	【ライフプランニングと資金（５）】 企業年金などについて理解する。	
第6回	【リスクマネジメント（１）】 保険の基本を理解する。	
第7回	【リスクマネジメント（２）】 生命保険について理解する。	
第8回	【リスクマネジメント（３）】 損害保険について理解する。	
第9回	【リスクマネジメント（４）】 第三分野の保険について理解する。	
第10回	【リスクマネジメント（５）】 保険に関連する税金について理解する。	
第11回	【金融資産運用（１）】 金融・経済の基本について理解する。	
第12回	【金融資産運用（２）】 金融商品（預貯金、債券，株式など）について理解する。	
第13回	【金融資産運用（３）】 投資理論の基礎を理解する。	
第14回	【金融資産運用（４）】 金融商品に関連する税金について理解する。	
第15回	【小テスト】 これまでに学修した内容について小テストを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	100	小テストでFP技能士3級検定と同程度の問題を出題し，理解度を評価する。フィードバックとして，授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	予習として，テキストのうち授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの指定した問題を解く。 以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
FPの教科書３級	滝澤ななみ	TAC出版		

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．人生の3大資金について理解している	ライフプランと関連させて教育資金，住宅取得取得資金，老後資金の制度を正確に理解している	教育資金，住宅取得取得資金，老後資金の制度を正確に理解している	教育資金，住宅取得取得資金，老後資金の基本を理解している	教育資金，住宅取得取得資金，老後資金について一部を理解している	教育資金，住宅取得取得資金，老後資金について理解していない
知識・理解	２．リスクマネジメントについて理解している	ライフプランと関連させて生命保険，損害保険、第三の保険の制度を正確に理解している	生命保険，損害保険、第三の保険の制度を正確に理解している	生命保険，損害保険、第三の保険の基本を理解している	生命保険，損害保険、第三の保険の一部を理解している	生命保険，損害保険、第三の保険について理解していない
技能	１．資金計画に必要な6つの係数を用いて計算できる	終価係数・年金終価係数と現価係数・年金現価係数，減債基金係数，資本回収係数を理解して正確な計算できる	終価係数・年金終価係数と現価係数・年金現価係数を理解して正確な計算できる	終価係数と現価係数を理解して正確な計算できる	終価係数と現価係数を理解しているが正確な計算ができない	終価係数と現価係数の意味を理解していない
技能	２．金融資産運用の技法を理解している	景気を判断する経済指標，金融商品の種類，ポートフォリオ理論について理解している	金融商品の種類とポートフォリオ理論について理解している	金融商品の種類について理解している	金融商品の一部について理解している	金融商品について理解していない

科目名	ファイナンシャルプラン演習			授業番号	SM232	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	ファイナンシャルプランとは，人生設計（ライフプラン）の経済的側面を計画することであるといえる。 本科目では，年金，保険，ローン，金融資産，不動産，税金，相続等，ファイナンシャルプランに関連する基礎的な知識を説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，ファイナンシャルプランに関する基本的な知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【ライフプランニングと資金計画（１）】 FP資格とライフプランニングの手法を理解する。	
第2回	【ライフプランニングと資金計画（２）】 社会保険（公的年金、企業年金等）について理解する。	
第3回	【リスクマネジメント（１）】 保険の基本と生命保険について理解する。	
第4回	【リスクマネジメント（２）】 損害保険と第三分野の保険について理解する。	
第5回	【金融資産運用（１）】 金融経済の基本、セーフティネットと関連法規、貯蓄型金融商品について理解する。	
第6回	【金融資産運用（２）】 債券、株式、投資信託について理解する。	
第7回	【金融資産運用（３）】 外貨建て金融商品、金融商品と税金、ポートフォリオとデリバティブについて理解する。	
第8回	【タックスプランニング（１）】 所得税の基本、各所得の計算について理解する。	
第9回	【タックスプランニング（２）】 課税標準の計算、所得控除について理解する。	
第10回	【タックスプランニング（３）】 税額の計算と税額控除、所得税の申告と納付について理解する。	
第11回	【不動産（１）】 不動産の基本、不動産の取引について理解する。	
第12回	【不動産（２）】 不動産に関する法令、不動産の税金、不動産の有効活用について理解する。	
第13回	【相続・事業継承（１）】 相続税の基本、相続税について理解する。	
第14回	【相続・事業継承（２）】 贈与税、財産の評価について理解する。	
第15回	【小テスト】 これまでに学修した内容について小テストを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	100	小テストでFP技能士3級検定と同程度の問題を出題し、理解度を評価する。フィードバックとして、授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	予習として，テキストのうち授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの指定した問題を解く。 以上の内容を，週あたり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
FPの教科書3級	滝澤ななみ	TAC出版		

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	

注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．不動産に関する法律と税金について理解している	不動産に関する法律と税金を正確に理解し，不動産取引についてアドバイスができる	不動産に関する法律と税金を正確に理解している	不動産に関する法律と税金の基本を理解している	不動産に関する法律と税金の一部を理解している	不動産に関する法律と税金を理解していない
知識・理解	２．相続・事業承継について理解している	相続・事業承継について財産の評価や税額の計算法も理解している	相続・事業承継についての税金の基本も理解している	相続・事業承継の基本を理解している	相続・事業承継の一部を理解している	相続・事業承継を理解していない
技能	１．所得税について理解している	10種類の所得を理解し，納付税額の計算と青色申告ができる	10種類の所得を理解し，納付税額の計算ができる	所得税の基本を理解している	所得税の一部を理解している	所得税について理解していない
技能	２．タックスプランニングについて理解している	金融商品，不動産，所得，相続に関する税金を理解し，タックスプランについてアドバイスができる	金融商品，不動産，所得，相続に関する税金を理解し，税額計算ができる	金融商品，不動産，所得，相続に関する税金の基本を理解している	金融商品，不動産，所得，相続に関する税金の一部を理解している	金融商品，不動産，所得，相続に関する税金を理解していない
態度	演習に真摯に取り組んでいるか	演習に十分真摯に取り組んでいる	演習に真摯に取り組んでいる	演習に取り組んでいる	演習に取り組んでいない	演習に全く取り組もうとしない

科目名	簿記論A			授業番号	SM321	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	中規模程度以上の株式会社において行われる，複雑で高度な経済取引の仕組みと，それらの会計処理方法を講義する。 内容としては，本科目と「簿記演習A」とのセットで日商簿記検定2級（商業簿記）の出題範囲を説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，中規模程度以上の株式会社の会計実務を理解できるようになる。 具体的には，日商簿記検定2級（商業簿記）の合格に必要となる知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【株式の発行、剰余金の配当と処分】 株式会社（中規模程度以上）の株式発行と剰余金の配当・処分についての会計処理を理解する。	
第2回	【合併と無形固定資産，法人税等と消費税】 株式会社（中規模程度以上）の合併と無形固定資産，法人税等と消費税についての会計処理を理解する。	
第3回	【商品売買等，手形と電子記録債権・債務，その他の債権譲渡】 株式会社（中規模程度以上）の商品売買等，手形と電子記録債権・債務，その他の債権譲渡についての会計処理を理解する。	
第4回	【銀行勘定調整表，固定資産】 株式会社（中規模程度以上）の銀行勘定調整表，固定資産についての会計処理を理解する。	
第5回	【リース取引，研究開発費とソフトウェア】 株式会社（中規模程度以上）のリース取引，研究開発費とソフトウェアについての会計処理を理解する。	
第6回	【引当金，外貨換算会計】 株式会社（中規模程度以上）の引当金，外貨換算会計についての会計処理を理解する。	
第7回	【税効果会計】 株式会社（中規模程度以上）の税効果会計についての会計処理を理解する。	
第8回	【収益認識の基準】 株式会社（中規模程度以上）の収益認識の基準についての会計処理を理解する。	
第9回	【本支店会計】 株式会社（中規模程度以上）の本支店会計についての会計処理を理解する。	
第10回	【連結会計（１）連結財務諸表とは】 株式会社（中規模程度以上）の連結会計についての会計処理を理解する。	
第11回	【連結会計（２）連結財務諸表の開始仕訳と2年目以降の連結会計】 株式会社（中規模程度以上）の連結会計についての会計処理を理解する。	
第12回	【連結会計（３）内部取引高と債権債務の相殺消去】 株式会社（中規模程度以上）の連結会計についての会計処理を理解する。	
第13回	【連結会計（４）未実現利益の消去】 株式会社（中規模程度以上）の連結会計についての会計処理を理解する。	
第14回	【製造業会計】 株式会社（中規模程度以上）の製造業会計についての会計処理を理解する。	
第15回	【小テスト】 これまでに学修した内容についての小テストを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	100	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に準ずる問題をもとに，理解度を評価する。フィードバックとして，授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「簿記演習A」を同時に履修登録すること。 日商簿記3級に合格しているか，同等の知識があることを前提として授業を進める。 日商簿記2級（商業簿記）の検定試験は難易度が高く，合格レベルに達するにはかなりの勉強量（350～500時間程度）が必要となる。
授業外学修	予習として，テキストの授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの基本例題を解く。 以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
スッキリわかる日商簿記2級商業簿記	滝澤ななみ	TAC出版		

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を理解している	日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を正確に理解している	日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識をほぼ正確に理解している	日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識の基本を理解している	日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を部分的に理解している	日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を理解していない
技能	1．日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる会計力を身につけている	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる必要にして十分な会計力を身につけている	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる必要な会計力を身につけている	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる基本的な会計力を身につけている	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる会計力を部分的に身につけている	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる会計力を身につけていない

科目名	簿記演習Ａ			授業番号	SM322	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	中規模程度以上の株式会社において行われる，複雑で高度な経済取引の仕組みと，それらの会計処理方法を講義する。 内容としては，本科目と「簿記論Ａ」とのセットで日商簿記検定2級（商業簿記）の出題範囲を説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，中規模程度以上の株式会社の会計実務を理解できるようになる。 具体的には，日商簿記検定2級（商業簿記）の合格に必要となる知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【株式の発行、剰余金の配当と処分】 株式会社（中規模程度以上）の株式発行と剰余金の配当・処分についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第2回	【合併と無形固定資産，法人税等と消費税】 株式会社（中規模程度以上）の合併と無形固定資産，法人税等と消費税についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第3回	【商品売買等，手形と電子記録債権・債務，その他の債権譲渡】 株式会社（中規模程度以上）の商品売買等，手形と電子記録債権・債務，その他の債権譲渡についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第4回	【銀行勘定調整表，　固定資産】 株式会社（中規模程度以上）の銀行勘定調整表，　固定資産についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第5回	【リース取引，研究開発費とソフトウェア】 株式会社（中規模程度以上）のリース取引，研究開発費とソフトウェアについての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第6回	【引当金，外貨換算会計】 株式会社（中規模程度以上）の引当金，外貨換算会計についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第7回	【税効果会計】 株式会社（中規模程度以上）の税効果会計についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第8回	【収益認識の基準】 株式会社（中規模程度以上）の収益認識の基準についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第9回	【本支店会計】 株式会社（中規模程度以上）の本支店会計についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第10回	【連結会計（１）連結財務諸表とは】 株式会社（中規模程度以上）の連結会計についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第11回	【連結会計（２）連結財務諸表の開始仕訳と2年目以降の連結会計】 株式会社（中規模程度以上）の連結会計についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第12回	【連結会計（３）内部取引高と債権債務の相殺消去】 株式会社（中規模程度以上）の連結会計についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第13回	【連結会計（４）未実現利益の消去】 株式会社（中規模程度以上）の連結会計についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第14回	【製造業会計】 株式会社（中規模程度以上）の製造業会計についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第15回	【小テストの解答解説】 「簿記論Ａ」で行った小テストの解答解説を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	100	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に準ずる問題をもとに，理解度を評価する。フィードバックとして，授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「簿記論Ａ」を同時に履修登録すること。 日商簿記3級に合格しているか，同等の知識があることを前提として授業を進める。 日商簿記2級（商業簿記）の検定試験は難易度が高く、合格レベルに達するにはかなりの勉強量（350～500時間程度）が必要となる。
授業外学修	予習として，テキストの授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの基本例題を解く。 以上の内容を，週あたり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
スッキリわかる日商簿記2級商業簿記	滝澤ななみ	TAC出版	9784300110027	1,650円（税込）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を理解している	日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を正確に理解している	日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識をほぼ正確に理解している	日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識の基本を理解している	日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を部分的に理解している	日商簿記2級（商業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を理解していない
技能	１．日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる会計力を身につけている	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる必要にして十分な会計力を身につけている	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる必要な会計力を身につけている	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる基本的な会計力を身につけている	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる会計力を部分的に身につけている	日商簿記2級（商業簿記）の検定試験に対応できる会計力を身につけていない

科目名	簿記論B			授業番号	SM323	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	製造業における製品原価を計算するための一連の簿記手続きを講義する。 内容としては，本科目「簿記演習B」とのセットで日商簿記検定2級（工業簿記）の出題範囲を説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，製品の原価計算の仕組みと，原価を計算するための簿記手続きを理解できるようになる。 具体的には，日商簿記検定2級（工業簿記）の合格に必要となる知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【工業簿記の基礎】 工業簿記（原価計算）の流れを理解する。	
第2回	【材料費】 材料費の分類と購入・消費についての会計処理を理解する。	
第3回	【労務費】 労務費の分類と賃金・給料についての会計処理を理解する。	
第4回	【経費】 経費の内訳と消費についての会計処理を理解する。	
第5回	【個別原価計算】 個別原価計算における製造直接費と製造間接費についての会計処理を理解する。	
第6回	【部門別個別原価計算】 製造間接費の部門配賦についての会計処理を理解する。	
第7回	【総合原価計算（１）】 総合原価計算における仕掛品についての会計処理を理解する。	
第8回	【総合原価計算（２）】 工程別・組別・等級別総合原価計算についての会計処理を理解する。	
第9回	【総合原価計算（３）】 総合原価計算における仕損と減損についての会計処理を理解する。	
第10回	【工業簿記における財務諸表】 工業簿記における損益計算書，貸借対照表，製造原価報告書の作成法を理解する。	
第11回	【本社工場会計】 本社と工場間の取引についての会計処理を理解する。	
第12回	【標準原価計算（１）】 標準原価計算による会計処理を理解する。	
第13回	【標準原価計算（２）】 標準原価計算における原価差異の会計処理を理解する。	
第14回	【直接原価計算】 損益分岐点分析について理解する。	
第15回	【小テスト】 これまで学修した内容についての小テストを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	100	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に準ずる問題をもとに，理解度を評価する。フィードバックとして，授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「簿記演習B」を同時に履修登録すること。 日商簿記3級に合格しているか，同等の知識があることを前提として授業を進める。 日商簿記2級（工業簿記）の検定試験は難易度が高く、合格レベルに達するにはかなりの勉強量（350～500時間程度）が必要となる。
授業外学修	予習として，テキストのうち授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの基本例題を解く。 以上の内容を，週あたり4時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
スッキリわかる日商簿記２級　工業簿記	滝澤ななみ	TAC出版	9784300110034	1,650円（税込）

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	

備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を理解している	日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を正確に理解している	日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識をほぼ正確に理解している	日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識の基本を理解している	日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を部分的に理解している	日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を理解していない
技能	1．日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる会計力を身につけている	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる必要にして十分な会計力を身につけている	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる必要な会計力を身につけている	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる基本的な会計力を身につけている	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる会計力を部分的に身につけている	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる会計力を身につけていない

科目名	簿記演習Ｂ			授業番号	SM324	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	1単位	開講年次	1年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	製造業における製品原価を計算するための一連の簿記手続きを講義する。 内容としては，本科目「簿記演習B」とのセットで日商簿記検定2級（工業簿記）の出題範囲を説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，製品の原価計算の仕組みと，原価を計算するための簿記手続きを理解できるようになる。 具体的には，日商簿記検定2級（工業簿記）の合格に必要となる知識を身に付けることができる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【工業簿記の基礎】 工業簿記（原価計算）の流れを理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第2回	【材料費】 材料費の分類と購入・消費についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第3回	【労務費】 労務費の分類と賃金・給料についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第4回	【経費】 経費の内訳と消費についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第5回	【個別原価計算】 個別原価計算における製造直接費と製造間接費についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第6回	【部門別個別原価計算】 製造間接費の部門配賦についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第7回	【総合原価計算（１）】 総合原価計算における仕掛品についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第8回	【総合原価計算（２）】 工程別・組別・等級別総合原価計算についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第9回	【総合原価計算（３）】 総合原価計算における仕損と減損についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第10回	【工業簿記における財務諸表】 工業簿記における損益計算書，貸借対照表，製造原価報告書の作成法を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第11回	【本社工場会計】 本社と工場間の取引についての会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第12回	【標準原価計算（１）】 標準原価計算による会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第13回	【標準原価計算（２）】 標準原価計算における原価差異の会計処理を理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第14回	【直接原価計算】 損益分岐点分析について理解する。 上記の内容についての演習問題を解き，理解を深める。	
第15回	【小テストの解答解説】 「簿記論B」で行った小テストの解答解説を行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト	100	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に準ずる問題をもとに，理解度を評価する。 フィードバックとして，授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「簿記論B」を同時に履修登録すること。 日商簿記3級に合格しているか，同等の知識があることを前提として授業を進める。 日商簿記2級（工業簿記）の検定試験は難易度が高く，合格レベルに達するにはかなりの勉強量（350～500時間程度）が必要となる。

授業外学修	予習として，テキストのうち授業内容に関わる部分を読み，疑問点を明らかにする。 復習として，テキストの基本例題を解く。 以上の内容を，週あたり1時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
スッキリわかる日商簿記２級工業簿記	滝澤ななみ	TAC出版	9784300110034	1,650円（税込）
使用テキスト：自由記載				

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
参考書：自由記載				
その他				
備考				
注意事項				
担当教員の実務経験の有無	無			
担当教員の実務経験				
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無			
担当教員以外で指導に関わる実務経験者				
実務経験をいかした教育内容				

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を理解している	日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を正確に理解している	日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識をほぼ正確に理解している	日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識の基本を理解している	日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を部分的に理解している	日商簿記2級（工業簿記）の出題範囲の簿記会計知識を理解していない
技能	１．日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる会計力を身につけている	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる必要にして十分な会計力を身につけている	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる必要な会計力を身につけている	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる基本的な会計力を身につけている	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる会計力を部分的に身につけている	日商簿記2級（工業簿記）の検定試験に対応できる会計力を身につけていない

科目名	コンピュータ会計			授業番号	SM325	サブタイトル			
教員	五百竹　宏明								
単位数	1単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	企業経営における会計処理業務のコンピュータ化について理解する。無料の体験ソフトを利用して会計処理業務を体験をする。並行して、経済社会や組織運営における会計情報の役割について説明する。								
到達目標	本科目を学修することにより，企業経営における会計情報および経理部門の役割の理解がより深くなる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜技能＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	【会計業務とコンピュータ】 会計実務におけるコンピュータ利用の実態を理解する。	
第2回	【経済社会及び組織における会計の役割】 受託責任会計，意思決定会計，利害調整会計の視点から会計の役割・機能を理解する。	
第3回	【ディスクロージャー制度】 会計に関する法的規制の基礎を理解する。	
第4回	【有価証券報告書・アニュアルレポート・統合報告書など】 企業が開示している会計情報について，読み方の基礎を理解する。	
第5回	【小テスト（１）】 これまでの授業内容をもとに，わが国の会計制度についての小テストを行う。	
第6回	【複式簿記の基礎】 取引 → 仕訳 → 転記 → 試算表 → 精算表 → 財務諸表という，簿記の一連な流れを理解（復習）する。	
第7回	【会計ソフトの体験（1）】 入力環境，事業所データ，消費税の情報などについて理解する。	
第8回	【会計ソフトの体験（2）】 基本画面の使い方，勘定科目と補助科目などの設定を行う。	
第9回	【会計ソフトの体験（3）】 部門，開始残高などの設定を行う。 また，設定環境の変更，不要データの削除方法などについて理解する。	
第10回	【会計ソフトの体験（4）】 仕訳入力について，帳簿から入力する基本操作を理解する。	
第11回	【会計ソフトの体験（5）】 仕訳入力について，伝票から入力する基本操作を理解する。	
第12回	【会計ソフトの体験（6）】 仕訳入力について，伝票から入力する基本操作を理解する。	
第13回	【決算準備】 決算整理仕訳の入力方法を理解する。	
第14回	【決算作業】 決算書の作成と会計データの繰越処理について理解する。	
第15回	【小テスト（２）】 会計ソフト関する知識の小テストを口頭で行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
小テスト（50点×2回）	100	小テスト（１）：わが国の会計制度の理解度について50点満点で評価する。 小テスト（２）：会計ソフト操作の理解度を50点満点で評価する。 フィードバックとして、授業時間に小テストの解答解説を行う。

評価の方法：自由記載	
受講の心得	日商簿記検定3級に合格しているか，同程度の知識があることが望ましい。
授業外学修	予習と復習として，週あたり3時間以上学修すること。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	経済社会や企業における会計情報の役割を理解しているか	経済社会や企業における会計情報の役割を情報利用者との関係で理解し，追加的に必要な情報内容を提言できる	経済社会や企業における会計情報の役割を情報利用者との関係で理解している	経済社会や企業における会計情報の役割の基本的な事項を理解している	経済社会や企業における会計情報の役割の一部を理解している	経済社会や企業における会計情報の役割を理解していない
技能	会計ソフトを使いこなせるか	会計実務を理解したうえで複数の会計ソフトを使いこなせる	複数の会計ソフトを使いこなせる	特定の会計ソフトを使いこなせる	会計ソフトを十分に使いこなせない	会計ソフトをまったく使えない

科目名	対人関係の心理学			授業番号	SP111	サブタイトル			
教員	疋田　基道								
単位数	2単位	開講年次	1年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	社会で生きていくためには，人との関わりを避けることはできない。職場では，上司・同僚との関わりは大切であり，場合によっては大きなストレスを引き起こすこともある。また，友人・家族などの対人関係を円滑に保つことや、SNS等でのコミュニケーション、さらには消費行動に関することも生活するうえで大切なことであり，できるだけトラブルは避けたいものである。本講義では，心理学の理論的な視点から，さまざまな対人関係について考察し、心理学的な考え方が実社会でどのように応用されているかについて解説する。そのことを通して、対人関係上のストレスやトラブルへの対処法、予防法を考えられるようにする。さらにそれらの知識を応用した場面に応じた心理的援助について学ぶ。								
到達目標	対人関係の社会心理学的な諸問題について心理学の理論に沿って正しく理解できるようになることを到達目標とする。なお，本科目はディプロマポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞および＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	社会心理学について 心理学の一分野である社会心理学について概観し、対人関係に関する社会心理学の知見を学ぶ。	
第2回	見た目や行動・しぐさと心理学 見た目やしぐさが他者に与える影響やそこから読み取れる心理について学ぶ。	
第3回	コミュニケーションと人付き合いの心理学 コミュニケーションや人付き合いに関する心理学的な知見について学び，事例を通し人付き合いに関する心理学的援助について学ぶ。	
第4回	ビジネスにおける心理学、人を動かすための心理学 職場での人間関係に関する心理学的な知見や，相手の心を動かす対話術などを学び，職場に関する事例を通して心理学的援助について学ぶ。	
第5回	家族との関係や友人関係に関する心理学 家族との関係や友人，恋人との関係を円満に保つための心理学的な知見について学び，事例を通して家族や友人関係に関する心理学的援助について学ぶ。	
第6回	聴くことの大切さと質問の仕方 人付き合いでの聴くことの大切さや会話を上手に進めるための質問の仕方について学び，心理学的援助の技術について学ぶ。	
第7回	欺瞞や噂について 対人関係の中で生じる欺瞞や噂について心理的な影響を含めて学ぶ。	
第8回	前半の授業の振り返りとまとめ 7回目までの授業の振り返りを行い、知識の定着を図る。	
第9回	消費者行動について 企業と消費者の間で行われるコミュニケーションを心理学の視点から学ぶ。	
第10回	コンピューターを介したコミュニケーション コンピューターを介したコミュニケーションの特徴や心理的影響について学び，コンピューターを介した心理学的援助について学ぶ。	
第11回	批判的思考力について 広告や勧誘に対して批判的に分析・吟味し，判断できる力を身に着ける。	
第12回	笑顔と孤独について 孤独についてのリスクと笑顔の効果について心理学的な視点から学ぶ。	
第13回	傷つきやハラスメント 対人関係で生じる心理的な傷つきやハラスメントについて学び，ハラスメント等に関する心理学的援助について学ぶ。	
第14回	役割分担と将来設計 組織の中での役割分担と，先が見えない社会で生きていく姿勢を学ぶ。	
第15回	後半のまとめと全体の振り返り 後半のまとめと授業全体の振り返りを行い、知識の定着を図る。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な受講態度によって評価する。
レポート	40	授業内容の理解度・修得度を評価する。実施後、UNIPA等にて全体的な傾向についてコメントする。
小テスト	30	授業内容の理解度を評価する。小テスト実施後に、全体的な傾向についてコメントする。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2）復習として，学んだ内容の整理を行う。 3）発展として，自ら課題を見つけて，考察を行う。 以上の内容に対して，週4時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	テキストは使用せず，パワーポイントにより授業を進める。また，必要に応じて適宜プリントを配布する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考
今日から使える人間関係の心理学	渋谷昌三	ナツメ社	978-4-8163-5733-6	1,300円＋税
コミュニケーションの社会心理学	岡本真一郎編	ナカニシヤ出版	978-4-7795-1714-3	3200円＋税

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤、18年），大学での学生相談（非常勤、フルタイム計20年）等の実務経験を有する。実務経験の総計は22年。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学生が心理学を学ぶため、臨床現場での経験（22年）から様々な場面や年代での特徴と対応を具体的に紹介、検討することができ、心理学の理解と実践に即した対応を考える力を習得させることができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	１．内容を正しく理解している。	内容に関して疑問や自分の意見を持っている。	内容を十分に理解できている。	内容をほぼ理解できている。	十分とは言えないが，ある程度は内容を理解できている。	全く理解できていない，または誤った理解をしている
態度	1．知識を実生活に発展・応用することができる。	学んだ知識を発展させ，実場面で応用することができる。	実場面のさまざまな現象を心理学的に解釈し，説明できる。	実場面のさまざまな現象を心理学的視点でとらえることができる。	実場面のさまざまな現象を心理学的視点で把握できない。	心理学的な視点を理解していない，または心理学的視点を持たない。

科目名	心の健康の心理学			授業番号	SP213	サブタイトル			
教員	疋田　基道								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	本授業では，心の健康について，さまざまな場面やライフサイクルにおけるストレスやそのマネジメント，心の不調や精神障害，心理療法などの心理学的側面から取り上げる。心の健康に関する基本的知識だけではなく，心理学的援助の各援助法を学ぶ。また受講者自身が自己理解を深め，ストレスの対処能力を身に付ける機会とする。								
到達目標	１．心の健康に関する基本的な知識と心理学的援助の各援助法を学ぶ。 ２．自分自身の心の状態の理解とストレス対処能力を向上させる。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞および＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	臨床心理学とは 臨床心理学とは何かについて学ぶ。	
第2回	こころの基本的な働き① 知覚、認知、感情、動機付け、記憶について学ぶ	
第3回	こころの基本的な働き② 知能、パーソナリティ、関係性、愛着について学ぶ	
第4回	心理学的援助① 行動療法、認知行動療法について学ぶ	
第5回	心理学的援助② 深層心理学的心理療法について学ぶ	
第6回	心理学的援助③ ヒューマニスティックアプローチ、グループアプローチについて学ぶ	
第7回	心理学的援助④ その他の様々なアプローチについて学ぶ	
第8回	こころのアセスメント① 見立てについて学ぶ	
第9回	こころのアセスメント② 心理検査について学ぶ	
第10回	おもな支援対象① 発達障害や児童期・青年期の支援対象などについて学ぶ	
第11回	おもな支援対象② うつ病や不安障害、PTSDなどについて学ぶ	
第12回	おもな支援対象③ パーソナリティ障害、認知症などについて学ぶ	
第13回	臨床心理学を社会に役立てる 心理職の活動領域について学ぶ	
第14回	カウンセリングの実際 カウンセリングの初回からその後のプロセス、終結について学ぶ	
第15回	総括 学んできたことの振り返り、まとめを行う。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	30	意欲的な授業態度によって評価する。
レポート	40	授業内の理解度・修得度を評価する。
小テスト	30	授業内容の理解度を評価する。小テスト実施後に、全体的な傾向についてコメントする。
定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	「心の健康」は全ての人に関わる大切な問題です．この授業では，「心の健康」に関する様々なテーマを取り上げますが，それらを通じて，「自分自身（わたし）のこころの健康を維持，向上させるにはどのようなことができるか」を一緒に考えていきましょう．
授業外学修	１）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 ２）復習として，学んだ内容の整理を行う。 ３）発展として，自ら課題を見つけて，考察を行う。 以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考
図解でわかる臨床心理学	井上嘉孝　編著	中央法規出版株式会社	978-4-8058-8959-6	2,200円＋税

使用テキスト：自由記載	

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	臨床心理士，公認心理師。心療内科クリニック（常勤18年），小学校・中学校等でのスクールカウンセラー（非常勤18年），大学での学生相談（非常勤，フルタイム計20年）の実務経験を有する。実務経験の合計は22年。
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	学生が心の健康についてを学ぶため，臨床現場での経験（22年）から様々な事例や年代での特徴と対応を具体的に紹介，検討することができ，臨床心理学に基づいた実践に即した理解力，対応力を習得させることができる。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	心の健康に関する基本的な知識を修得し、心理学的援助の対処法について考えることができる。	学修した心の健康について，正確に理解し，述べることができ、具体的な状況でどう対処するか考えることができる。	学修した心の健康について，正確ではないが，ほぼ理解し，対処法について述べることができる。	学修した心の健康について、対処法を含め概ね述べることができる。	学修した心の健康について，正確に述べることはできないが，自分の言葉で表現できる。	学修した心の健康について表現することができない。
態度	自分自身の心の状態の理解とストレス対処能力を向上させる	自身の心の状態に目を向け、ストレス対処能力の向上に向けて，考察できる。	自身の心の状態・ストレス状態とその対処方法について考察できる。	自身の心の状態について考察できる。	自身のストレス状態について考察できる。	自身の心の状態やストレス対処方法について考察できない。

科目名	産業・ビジネスの心理学			授業番号	SP214	サブタイトル			
教員	倉田　致知								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	講義（対面授業科目）	必修・選択	選択
授業概要	経営(学）と心理学はかなり緊密な関係にある。人はなぜ働くのか，働く意欲はいかにして引き出されるのか、良い職場環境を作るために何をしたらよいのか，優れたリーダーとはどんな特性を持っているのか，あるいは消費者や市場における動きが活発になるのはいかなるときか、などについての研究において心理学が援用されることは少なくない。受講者は、本講義を通して学説の系譜、ならびに経営(学）と心理(学)の関係について多面的に説明できるようになるだけでなく、自身の行動や態度を振り返ることができる。								
到達目標	＊上司や同僚との関係についての学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。 ＊仕事と人の関係についての学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。 ＊労働や製品・サービス市場において生じている（生じた）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。 ＊各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。 ＊授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜知識・理解＞＜思考・問題解決能力＞＜態度＞の修得に貢献する。								
授業計画　備考									

回	概要	担当
第1回	産業・ビジネスの心理学とは…経営(学）において心理学が重視されるようになった背景：成り行き的管理、官僚制組織、テイラー、フォード、科学的管理、現業(執行）と計画の分離、 マニュアル、動作・時間研究、職務の細分化・専門化・標準化、など。	
第2回	ホーソン実験と人間関係論①：照明実験、継電器組立作業実験 、面接実験、バンク配線作業観察実験、相互監視、集団出来高給制と生産性、帰属欲求の充足、メイヨー、経済人と社会人、アノミー、レスリスバーガー、非公式組織、これまでの人事管理、人間関係論の限界、など。	
第3回	ホーソン実験と人間関係論②：照明実験、継電器組立作業実験 、面接実験、バンク配線作業観察実験、相互監視、集団出来高給制と生産性、帰属欲求の充足、メイヨー、経済人と社会人、アノミー、レスリスバーガー、非公式組織、これまでの人事管理、人間関係論の限界、など。	
第4回	モチベーション研究における内容説①：行動主義、精神分析学、ゲシュタルト心理学、人間主義心理学、内容説、マズローの欲求階層説、自己実現欲求、アルダファーのERG理論、マグレガーのX理論とY理論、ハーズバーグの二要因理論、職務充実論、アージリスの未成熟・成熟理論、職務拡大と参加的リーダーシップ、など。	
第5回	モチベーション研究における内容説②：行動主義、精神分析学、ゲシュタルト心理学、人間主義心理学、内容説、マズローの欲求階層説、自己実現欲求、アルダファーのERG理論、マグレガーのX理論とY理論、ハーズバーグの二要因理論、職務充実論、アージリスの未成熟・成熟理論、職務拡大と参加的リーダーシップ、など。	
第6回	モチベーション研究における過程説①：アダムスの公平理論、ロックの目標設定理論、ブルームの期待理論、ポーター＆ローラーの期待理論、ローラーの期待理論、主観的獲得確率、誘意性、道具性、Σの意味、職務再設計論、モチベーション×能力、など。	
第7回	モチベーション研究における過程説②：アダムスの公平理論、ロックの目標設定理論、ブルームの期待理論、ポーター＆ローラーの期待理論、ローラーの期待理論、主観的獲得確率、誘意性、道具性、Σの意味、職務再設計論、モチベーション×能力、など。	
第8回	組織開発論の系譜と展開①：レヴィンの場の理論、Tグループ、社会技術システム論、ベッカード やシャイン の定義、組織文化との関係、人事との関係、組織開発と人材開発の違い、診断型と対話型、スリップ・ミステイク・ラプス、安全文化、組織学習、シングル・ループの学習とダブル・ループ学習、チームビルディングとチームエラー、など。	
第9回	組織開発論の系譜と展開②：レヴィンの場の理論、Tグループ、社会技術システム論、ベッカードやシャイン の概念・見解、組織文化との関係、人事との関係、組織開発と人材開発の違い、診断型と対話型、スリップ・ミステイク・ラプス、安全文化、組織学習、シングル・ループの学習とダブル・ループ学習、チームビルディングとチームエラー、など。	
第10回	リーダーシップ研究①：特性理論、行動理論、リッカートのシステム4、重複集団型組織、連結ピン、ブレイク＆ムートンのマネジリアル・グリッド理論、三隅のPM理論、状況適合論あるいは条件適合型リーダーシップ論、パス・ゴール理論（Path - Goal Theory）、フィードラーのLPCとリーダーシップ論、ハーシー＆ブランチャードのリーダーシップ状況適合論、変革型リーダーシップ、バーンズの交換型と変革型、パスのの交換型と変革型、ティシーの変革型、コッターの変革型変革型、など。	
第11回	リーダーシップ研究②：特性理論、行動理論、リッカートのシステム4、重複集団型組織、連結ピン、ブレイク＆ムートンのマネジリアル・グリッド理論、三隅のPM理論、状況適合論あるいは条件適合型リーダーシップ論、パス・ゴール理論（Path - Goal Theory）、フィードラーのLPCとリーダーシップ論、ハーシー＆ブランチャードのリーダーシップ状況適合論、変革型リーダーシップ、バーンズの交換型と変革型、パスのの交換型と変革型、ティシーの変革型、コッターの変革型変革型、など。	
第12回	組織と健康①：労働時間の状況、労働安全衛生法、会社人間、ストレス、ストレッサー、ストレスと業績、過労と過労死、労働災害、組織の論理と個人の論理、 ヒヤリハット、ヒューマンエラー、プレゼンティーズム、ワーク・ライフ・バランス、健康経営、など。	
第13回	組織と健康②：労働時間の状況、労働安全衛生法、会社人間、ストレス、ストレッサー、ストレスと業績、過労と過労死、労働災害、組織の論理と個人の論理、 ヒヤリハット、ヒューマンエラー、プレゼンティーズム、ワーク・ライフ・バランス、健康経営、など。	
第14回	キャリア①：ローの早期決定論、本来の意味のキャリア、パーソンズの職業選択、特性因子理論、ウィリアムソンによる職業選択とその指導・カウンセリング、ホランドによる個人の職業興味、6角形の職業興味、各傾向尺度の意味、プレディガーのワーク・タスク・ディメンション、ワールド・オブ・ワークマップ、職業レディネステスト、など。	
第15回	キャリア②：ギンズバーグによる発達過程、エリクソンのライフサイクル理論とアイデンティティ、発達段階と発達課題、シャインの発達段階（キャリア・サイクル・モデル）、外的キャリアと内的キャリア、キャリアコーンとキャリアアンカー、職務と役割の戦略的プランニング、スーパーの自己概念とライフ・ステージ、ライフ・キャリア・レインボー、アーチ・モデル、ハンセンの統合的生涯設計、など。	
授業計画　備考2		

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	10	ファイリング，ノート，予習・復習，スケジュール管理・時間管理，提出回数、小テストへの取り組み姿勢、などにおける状況。
学期末課題	30	理解度、内容の妥当性や信憑性、構成、書き方、誤字脱字の度合、データ収集力，などの観点から評価する。評価はユニバから確認できる。
小テスト	60	単元毎に行う。理解度を確認する。なお、点数や間違った箇所などは、ユニバから確認できる。

定期試験		
その他		

評価の方法：自由記載	
受講の心得	・私語はしない，などの受講に際して最低限のマナーは厳守すること。 ・日頃から経済新聞や経済・経営に関する雑誌などに目を通しておくこと。 ・授業の進行の詳細は，最初の授業で説明する。 ・授業スケジュールは，理解度に応じて変更する場合がある。
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2）復習として，学んだ内容の整理を行う。 3）発展として，自ら課題を見つけて，考察を行う。 以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜プリントを配布する。テキストは使用せず，プリントや板書等により授業を進める。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	山口 裕幸, 髙橋 潔, 芳賀 繁, 竹村 和久 (著)『経営とワークライフに生かそう! 産業・組織心理学 改訂版 』有斐閣アルマ,2020年。 幸田 達郎 (著)『基礎から学ぶ産業・組織心理学』勁草書房,2020年。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	無
担当教員の実務経験	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
知識・理解	1．上司や同僚との関係についての学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	上司や同僚との関係についての学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	上司や同僚との関係についての学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を概ね適切に説明できる。	上司や同僚との関係についての学説や研究の背景や影響あるいは限界は若干認識不足であるが、上司や同僚との関係についての学説や研究を概ね適切に説明できる。	上司や同僚との関係についての学説や研究の背景や影響あるいは限界はほとんど言及されていないが、上司や同僚との関係についての学説や研究を概ね適切に説明できる。	上司や同僚との関係についての学説や研究のポイントを全く説明できない。
知識・理解	2．仕事と人の関係についての学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	仕事と人の関係についての学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を適切に説明できる。	仕事と人の関係についての学説や研究のポイント、ならびにそれら学説や研究の背景や影響あるいは限界を概ね適切に説明できる。	仕事と人の関係についての学説や研究の背景や影響あるいは限界は若干認識不足であるが、仕事と人の関係についての学説や研究を概ね適切に説明できる。	仕事と人の関係についての学説や研究の背景や影響あるいは限界はほとんど言及されていないが、学説や研究のポイントは概ね説明できる。	仕事と人の関係についての学説や研究のポイントを全く説明できない。
知識・理解	3．各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しで自力で正解を導くことができる。	設問の意味を他者へ確認することもあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでほぼ自力で正解を導くことができる。	設問の意味や解法を他者へ確認することはよくあるが、各種資格・検定試験で出題される問題を授業資料無しでなんとか正解することができる。	設問の意味や解法を他者へ確認すること無しでは難しいが、また授業資料を見ながらではあるが、種資格・検定試験で出題される問題をなんとか正解することができる。	設問の意味を他者へ確認することさえない。不正解のまま放置し、分からないところを理解しようとする姿勢が見られない。（あるいはそもそも問題を解いてもいない）。
態度	1．授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが十分にできている。	授業資料のファイリングやノート作成、ならびにそれらの読み返しが概ねできている。	読み返しの頻度や仕方については改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は概ねできている。	読み返しの頻度や仕方についてはかなり改善の余地があるが、授業資料のファイリングやノート作成は必要最低限のことはできている。	授業資料のファイリングは行われておらず、ノートも作成されていない。読み返しもない。
思考・問題解決能力	1．企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを客観的に説明できる。	企業組織が直面している（直面した）問題、ならびにその問題解決がいかにして行われている（行われてきたか）かを概ね客観的に説明できる。	問題解決については若干認識不足であるが、企業組織が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	問題解決についてはほとんど言及されていないが、企業組織が直面している（直面した）問題、を概ね客観的に説明できる。	企業において何が問題とされてきたかを全く説明できない。あるいは主観的または直観的に企業組織の問題点を語っている。

科目名	ゼミナールA シラバス用			授業番号	SS411	サブタイトル			
教員	五百竹 宏明、平井 安久、河田 健二、倉田 致知、古谷 俊爾、脇坂 基徳								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	前期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	ゼミナールは，教員の専門領域を参考に，学生自身が教員を選び，所属した教員のもとで指導を受けながら研究を行うものである。１年次の後期にゼミのしおりを配布し，希望調査を行う。 ゼミの内容は教員によって異なるため，ゼミ決定までに十分に希望教員とコミュニケーションをとり，納得した上で，ゼミナールを選択することが望ましい。 ゼミナールを通して，専門的な学修はもちろん，個別の指導や助言を受けることで，社会に貢献できる人材となるべく知・情・意の全てにおいて成長することを目的とする。								
到達目標	大学の基礎教育や専門分野で学んだ学修成果を総合的実践の場で活用することができるようになることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1回 各ゼミでのオリエンテーション 第2回～13回 ゼミ担当教員の指導による学修・研究 第14回～15回 研究成果報告会								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	ディスカッションへの参加状況により評価を行う。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50	卒業研究または作品により評価を行う。

評価の方法：自由記載	評価の方法は担当教員によって異なる。 卒業研究の成果は，論文形式だけではなく，作品でも良いこととする。
受講の心得	
授業外学修	１）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 ２）復習として，学んだ内容の整理を行う。 ３）最終的な卒業研究として，自らテーマを決めて研究論文の作成または作品制作に取り組む。 以上の内容に対して，週4時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜指示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜指示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	古谷：システムエンジニア
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	経験をいかしたソフトウェア開発ほか。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	１．具体的事例で問題点に気づいている	十分気づいている	かなり気づいている	平均的に気づいている	部分的に気づいている	不十分な気づきである
思考・問題解決能力	２．議論すべき点を理解できる	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	３．解決のためのプロセスが見通せる	十分見通せる	かなり見通せる	平均的に見通せる	部分的に見通せる	見通しが不十分である

科目名	ゼミナールB シラバス用			授業番号	SS412	サブタイトル			
教員	五百竹 宏明、平井 安久、河田 健二、倉田 致知、古谷 俊爾、脇坂 基徳								
単位数	2単位	開講年次	2年	開講期	後期	授業形態	演習（対面授業科目）	必修・選択	必修
授業概要	ゼミナールAに引き続き，同一ゼミ担当教員のもとで，さらに研究を深める。 原則として，ゼミナールAと同一の担当教員とするが，特別な事情がある場合は，十分に相談をしたうえで，変更をみとめる場合がある。								
到達目標	自ら課題を設定し，専門的な学修を通して，課題解決を行うことができること，また，課題解決のプロセスにおいて，自分の能力の問題に気づき，能力を高める行動ができることを目標とする。 なお，本科目はディプロマ・ポリシーに掲げた学士力の内容のうち，＜思考・問題解決能力＞の修得に貢献する。								
授業計画 備考									
授業計画 自由記載	第1回～第13回　各ゼミの担当教員の指導のもとでの学修・研究 第14回～第15回　ゼミナールの研究成果発表会								
授業計画 備考2									

評価の方法

種別	割合	評価基準・その他備考
授業への取り組みの姿勢／態度	50	ディスカッションへの参加状況により評価を行う。
レポート		
小テスト		
定期試験		
その他	50	卒業研究または作品により評価を行う。

評価の方法：自由記載	評価の方法は担当教員によって異なる。 卒業研究の成果は，論文形式だけではなく，作品でも良いこととする。
受講の心得	
授業外学修	1）予習として，次回に学ぶ予定の内容について，書籍・プリント・ネットなどを用いてあらかじめ整理をしておく。 2）復習として，学んだ内容の整理を行う。 3）最終的な卒業研究として，自らテーマを決めて研究論文の作成または作品制作に取り組む。 以上の内容に対して，週４時間以上の学修を行うこととする。

使用テキスト

書名	著者	出版社	ISBN	備考

使用テキスト：自由記載	適宜指示する。

参考図書

書名	著者	出版社	ISBN	備考

参考書：自由記載	適宜指示する。
その他	
備考	
注意事項	
担当教員の実務経験の有無	有
担当教員の実務経験	古谷：システムエンジニア
担当教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	無
担当教員以外で指導に関わる実務経験者	
実務経験をいかした教育内容	経験をいかしたソフトウェア開発ほか。

ルーブリック

評価の基準（ディプロマポリシー・学士力）	評価の観点（到達目標に基づく評価項目）	A.非常に優れている	B.優れている	C.十分なレベルである	D.やや劣っている	E.非常に劣っている
思考・問題解決能力	1．具体的事例で問題点に気づいている	十分気づいている	かなり気づいている	平均的に気づいている	部分的に気づいている	不十分な気づきである
思考・問題解決能力	2．議論すべき点を理解できる	十分理解している	かなり理解している	平均的に理解している	部分的に理解している	理解が不十分である
思考・問題解決能力	3．解決のためのプロセスが見通せる	十分見通せる	かなり見通せる	平均的に見通せる	部分的に見通せる	見通しが不十分である